1.授業コード（ナンバリング）	21110	2.科目名	心理学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	リアルタイム型		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 基礎心理学についての最新の知見を学ぶ。 【概要】 授業の前半では、知覚・認知・学習・言語・感情・人格についての最新の知見を紹介する。 授業の後半では、受講生が関心のあるテーマを発表し、全員で討議を行う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 (1)知覚・認知・学習・言語・感情・人格について概説できる。 (2)特定のテーマについて文献を批判的に読むことができる。 (3)特定のテーマについて自分なりの解決策を提案することができる。 【関連するディプロマポリシー】 (1)専門知識・技能 (2)問題発見力 (5)課題解決策への提案力 (6)コミュニケーション能力				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	(1)発表内容　50% (2)期末レポート　50%				
22.コメント	知覚・認知心理学を履修しておくと、授業内容を理解しやすくなります。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜昼休み ＊メールで事前に連絡をしてください。上記時間以外も対応可です。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション	
【第 2 回】	知覚・認知（1）	授業内容の復習
【第 3 回】	知覚・認知（2）	授業内容の復習
【第 4 回】	学習・言語（1）	授業内容の復習
【第 5 回】	学習・言語（2）	授業内容の復習
【第 6 回】	感情・人格（1）	授業内容の復習
【第 7 回】	感情・人格（2）	授業内容の復習
【第 8 回】	文献発表（1）	発表準備
【第 9 回】	文献発表（2）	発表準備
【第 10 回】	文献発表（3）	発表準備
【第 11 回】	研究発表（1）	発表準備
【第 12 回】	研究発表（2）	発表準備
【第 13 回】	研究発表（3）	発表準備
【第 14 回】	総括（1）	期末レポートの作成
【第 15 回】	総括（2）	期末レポートの作成

1.授業コード（ナンバリング）	21120	2.科目名	心理学研究法特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	板山昂				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	大学院			9.履修学年	1･2
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本講義では、人間の行動を理解するために心理学で用いられている手法について理解することを目的とする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）問題発見力（2）調査分析能力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①心理学研究の方法論の概略が理解できる。 ② 質的研究と量的研究の特徴と違いが理解できる。				
19.教科書・教材	・適宜資料を配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	個人発表：３０点 中間レポート３０点 最終レポート　：４０点				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	＜オリエンテーション＞ ・シラバスの説明 ・授業方法等について ・心理学研究とは何か	◆　ノート PC 利用◆ 〇予習　教科書ｐ.ｐ.1-30 を読み、わからないところをチェックする。(120 分)
2	テーマ ・リサーチクエスチョン ・先行研究 ・文献 ・ルーブリック、チェックリストを参照する。	〇復習　学んだことを整理する。(120 分)
3	文献探索 ・読み方 ・タイトル ・サマリー	〇文献検索（120 分）
4	文献紹介 ・リサーチクエスチョンは何か？ ・どんな目的で何が得られたのか？ ・その結果が得られたことの意味は何か？	〇予習　教科書ｐ.ｐ.1-30 を読み、わからないところをチェックする。(120 分)

5	質的調査その 1 ・質的調査とは何か ・質的調査の特徴その 1	○復習　質的研究の特徴と留意点について、整理する。(120 分) ○予習　教科書 p.p.30--62 を読み、わからないところをチェックする。(120 分)
6	質的調査その 2 ・質的調査の特徴その 2	○復習　学んだことを整理してみる。(180 分)
7	質的調査その 3 ・質的調査の特徴その 3	○復習　学んだことを整理する。(120 分) ○課題　中間レポートを作成する。(200 分)
8	中間まとめ 振り返りと学び	○復習　研究の展開について考える。(180 分)
9	量的調査その 1 ・量的調査とは何か ・量的調査の特徴	○復習　量的研究を各自の研究への応用について考えてみる。(120 分) ○予習　教科書 p.p.93-121 を読み、わからないところをチェックする。(120 分)
10	量的調査その 2 ＜質問紙法①＞	○復習　質的研究を各自の研究への応用について考えてみる。(120 分)
11	量的調査その 2 ＜質問紙法②＞	○復習　質的研究を各自の研究への応用について考えてみる。(120 分) ○予習　教科書 p.p.93-121 を読み、わからないところをチェックする。(120 分)
12	実験の論理と方法 　＜実験計画法＞ ・実験計画法について	◆ノート PC 利用◆ ○復習　本日学んだことを振り返り、修論について構想する。(180 分)
13	心理統計法について ・心理統計法について ノート PC 利用	◆ ノート PC 利用◆ ○復習　本日扱った検定に関するデータを作成し、SPSS で検定する。(180 分)
14	研究の展開 ・論文作成 ・論文とは何か ・修士論文作成について ・発表技術 ・プレゼンテーションソフトについて ・心理系学会における発表技術について	◆ ノート PC 利用◆ ○課題　最終レポートを作成する。(400 分)
15	まとめ	◆ノート PC 利用◆

	振り返り	

1.授業コード（ナンバリング）	21130	2.科目名	発達心理学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美				
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	大学院　人間行動学研究科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	公認心理師・臨床心理士受験資格取得	11.先修条件	学部の発達心理学		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義(遠隔オンライン)		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	本科目では、生涯発達心理学の立場から、乳児期、幼児期、児童期、青年前期、青年後期、成人初期、成人中期、成人後期における各発達期の心理的課題と支援のあり方を理解することを目的とする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標には DP(ディプロマポリシー)の 7 つ、専門知識・技能、問題発見力、調査分析能力、論文作成能力、課題解決策への提案力、コミュニケーション能力、倫理観が関わる。 公認心理師・臨床心理士受験資格取得を目指す大学院生として、授業での課題に自律的に関わり、問題発見し、その問題について調査分析し、その結果を基に課題解決策への提案をレポートにまとめ、授業中に倫理観をもって発表する。 本科目の学習目標は、以下の 3 つである。 ①各発達期に生じやすい心理的課題を説明できる。 ②その心理的課題にどのような要因が関与している可能性があるかについて説明できる。 ③その心理的課題に対してどのような支援が可能かを説明できる。				
19.教科書・教材	教科書：発達心理学をアクティブに学ぶ 山本真由美編著 北大路書房　2,200 円＋税、他に教材として power point(遠隔オンライン：神戸山手 C 発信）と webclass を使用する。				
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。				
21.成績評価	・webclass を利用した授業回毎の課題レポート 200 字程度（授業課題について考えたこと）@2 点×13 ・当該授業後 Web Class にレポート報告（課題について話し合ったことから新たに考えたこと）@3 点×13、 ・12 の課題から 1 つを選び，最終レポートを第 14 回授業までに完成させる。14 回に半数，15 回に半数発表する。他の受講者は，発表について意見を述べる。30 点				
22.コメント	本授業は、教員が遠隔オンラインで実施し、受講生は三木 C の教室で受講する形式となります。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：神戸山手 C 水曜日昼休み、センターオフィスアワー：同 C 火曜日昼休み 希望者は、事前にメールで予約を取って欲しい。Zoom での相談，木曜日の対面での相談も可。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	イントロダクション 授業の目的、学習目標と DP との関連、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法	PC，予習：シラバスを読む。 復習：小テスト解答

第 2 回	第 3 章 発達・発達段階・発達心理学研究法	PC,予習：第 3 章(p41-58)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 3 回	第 4 章 発達要因	PC,予習：第 4 章(p59-64)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 4 回	第 4 章 発達の一般的傾向	PC，予習：第 4 章(p64-67) を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 5 回	第 4 章 発達理論	PC，予習：第 4 章(p67-76)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 6 回	第 5 章 身体と運動の発達	PC，予習：第 5 章(p79-90)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 7 回	第 6 章 感覚・知覚・認知発達	PC,予習：第 6 章(p93-104)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 8 回	第 7 章 注意・記憶の発達	PC,予習：第 7 章(p107-116)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 9 回	第 8 章 動機づけ・学習の発達	PC,予習：第 8 章（p119-133）を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 10 回	第 9 章 言語の発達	PC,予習：第 9 章(p137-144)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 11 回	第 9 章 思考・知能の発達	PC,予習：第 9 章(p144-153)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 12 回	第 10 章 感情・パーソナリティの発達	PC,予習：第 10 章(p155-169)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 13 回	第 11 章 コミュニケーション・社会性の発達	PC,予習：第 11 章(p173-187)を読み，課題について webclass にレポート

		復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 14 回	課題レポート発表と分かち合い	PC,作成レポート,復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 15 回	課題レポート発表と分かち合い	PC, 作成レポート,復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート,授業アンケート

1.授業コード（ナンバリング）	21220	2.科目名	社会調査法	3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	大学院　人間行動学研究科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	専門社会調査士（必修）		11.先修条件	原則として、「社会調査士」資格を取得済であること	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義＋演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会調査の実践的な知識と能力を取得するため、自らテーマをもって調査の企画・設計から分析までを演習形式でおこない、実践的な知識と能力を身につけることを目的とします。 【概要】 調査方法の決定、調査の企画と設計、仮説構成、質問紙の作成、対象者の選定、実査、調査データの整理、計量的分析と図表の作成を行い、報告書にまとめます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目は、DP（ディプロマ・ポリシー）の「専門知識・技能」「調査分析能力」の学修に関連しています。 ①質問紙調査を立案し調査企画書を作成できる。 ②テーマにふさわしい質問紙を作成することができる。 ③調査結果を報告書としてまとめることができる.				
19.教科書・教材	大谷信介他編『新・社会調査へのアプローチ:理論と方法』ミネルヴァ書房、2013 年				
20.参考文献					
21.成績評価	・調査企画書⇒20%（学習目標①） ・調査票⇒30%（学習目標②） ・調査報告書⇒40%（学習目標③） ・プレゼンテーション⇒10%（学習目標③）				
22.コメント	・「専門社会調査士」は、「社会調査士」資格を取得済みであることを前提とした資格です。したがって、この科目も、社会調査の基礎的知識を持っていることが前提となります。ただし、「社会調査士」「専門社会調査士」の資格を、大学院終了後に同時申請することも可能です。そのためには、①もしくは②のの条件をクリアしなければなりません。 ①人間心理学科開講の「社会調査論Ⅰ」「社会調査論Ⅱ」「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」（4 科目）、および「データ解析」「質的調査法」のうち 1 科目以上を、科目等履修で修得する。 ②社会調査協会が開講する社会調査士資格科目に関する講座（集中）を受講し、試験に合格する。				
23.オフィスアワー	○センターオフィスアワー⇒木曜昼休み（神戸山手キャンパス 1 号館メディアライブラリー） ○研究室オフィスアワー⇒水曜昼休み（神戸山手キャンパス 1320 研究室） ※質問等は Zoom でも受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション：授業の目的およびスケジュール	持参するもの：教科書およびノートＰＣ（以後、毎回持参）
第 2 回	社会調査の理論：社会調査の諸タイプ	
第 3 回	社会調査の意義、調査倫理：学術調査を中心に	
第 4 回	調査の企画①：仮説・検証･サンプリング理論、演習	

第５回	調査の企画②：論理的整合性、演習	提出物：調査企画書
第６回	調査の設計①：尺度構成、ワーディング、演習	
第７回	調査の設計②：質的質問（文書挿入法)、演習	
第８回	実査①：調査票の配付と回収、演習	提出物：調査票
第９回	実査②：検票、コードブックの作成、演習	
第１０回	集計・分析①：データ入力、コーディング、データクリーニング、演習	
第１１回	集計・分析②：データ分析（統計ソフトＳＰＳＳ使用)、演習	
第１２回	集計・分析③：データ分析（統計ソフトＳＰＳＳ使用)、演習	
第１３回	報告書の作成①：目的、方法、仮説、結果を中心に、演習	
第１４回	報告書の作成②：結果の考察を中心に、演習	
第１５回	調査結果の報告（プレゼンテーション）	提出物：調査報告書

1.授業コード（ナンバリング）	21230	2.科目名	人間行動学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	中山誠				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	大学院　人間行動学研究科			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	成人の犯罪と少年非行の背景となる要因、および精神疾患の影響について理解する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①　少年非行におよぼす児童虐待の影響、および成人が起こした虐待による児童の死亡事件について理解する ②　薬物依存からの矯正について理解する ③　公判廷で採用された精神鑑定の結果について討議する 関係する事件としては、2019 年に千葉市で発生した栗原心愛ちゃん被害の虐待による傷害致死事件（被告人には懲役 16 年の判決） 2016 年に相模原市の津久井ヤマユリ園で発生した 19 人殺害事件の被告は、事件前に大麻や脱法ハーブを使用、措置入院になっている　また、犯行動機は優生思想からくるものとのべているが、責任能力を認め 2020 年に死刑判決 等が挙げられる				
19.教科書・教材	授業について 参加 Zoom ミーティング *** ミーティング ID: *** パスコード: ***				
20.参考文献	適宜紹介し、必要な資料も配布する				
21.成績評価	１ 文献講読と発表、討議への参加　　50% 毎回のテーマに関する解説あるいは意見や疑問の表明、事例や補足情報の提供 ２．最終レポート　　50% 合計 100%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 本特論のねらいや内容、講義の進め方などについて説明を行う。	次回取り上げる文献資料の精読および疑問点の下調べ（以下第 14 回まで同様）
第 2 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 3 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 4 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	

第 5 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 6 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 7 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 8 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 9 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 10 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 11 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 12 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 13 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 14 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 15 回	振返りとまとめ	

1.授業コード（ナンバリング）	21240	2.科目名	臨床心理学特論Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	松井幸太				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	１年
10.取得資格の要件	臨床心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	臨床心理に関する基本的な知識と考え方の修得が目的。 教科書を輪読するとともに、受講生同士のディスカッションを通して、臨床心理学に関する理解を深めていく。				
18.学習目標とＤＰとの関連	心理臨床面接に関する基本的な専門知識を習得する				
19.教科書・教材	特に指定しない				
20.参考文献	「面接法」　熊倉伸宏　新興医学出版社（2002）ほか、 必要に応じて随時提示する				
21.成績評価	授業内のコメント　　３０％ 小レポート　　５０％ 総括試験に代わるレポート　２０％				
22.コメント	秋学期以降に行う学内・学外の実習の基礎となるものです。「素人」ではない状態で実習に臨めるよう、しっかりと学んでいきましょう。				
23.オフィスアワー	遠隔：火曜１限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	オリエンテーション 臨床心理学の概要	
	臨床心理学の基礎 ・理論と実践	
	臨床心理学の理論① ・人間性心理学（ロジャース）	
	臨床心理学の理論② ・精神分析（フロイト）	
	臨床心理学の理論③ ・ナラティヴアプローチ	
	臨床心理学の理論④－１ ・子どもの面接（遊戯療法）	
	臨床心理学の理論④－２ ・親面接	
	臨床心理学の理論⑤ ・家族療法	
	臨床心理の方法①－１ ・心理臨床面接	
	臨床心理の方法①－２ ・心理臨床面接	
	臨床心理の方法①－３	

	・心理臨床面接	
	臨床心理の方法①－４ ・心理臨床面接	
	臨床心理の方法①－５ ・臨床心理面接	
	臨床心理の方法② ・職種間連携 ・倫理	
	まとめ・ふりかえり ・実習に向けて	

1.授業コード（ナンバリング）	21410	2.科目名	臨床心理基礎実習	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美、松井幸太、山本喜晴				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	臨床心理学コース			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	臨床心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	臨床心理基礎実習は、臨床心理実習の基礎に位置づけられ、その他の講義科目と関連した構成がなされている。 心理療法の実践においては、単に心理療法の理論を習得するのみでは充分ではなく、実際にクライエントに心理療法の場において会うことを通して実践的な訓練をすることが不可欠である。本授業は、この理論と実践をつなぐ際に必要な基礎を、初回面接実習のロールプレイと、陪席実習の経験および内部実習としてのセンター内の電話受付などの体験をとおして学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①ロールプレイの逐語とカンファレンス内の発表を行うことができる ②陪席実習のインテーク報告を行うことができる ③センター内の電話受付を担当することができる				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜、紹介する。				
21.成績評価	授業内発表（ロールプレイ、陪席など）40% 授業内課題（レポート、インテーク報告書など）３0% 心理臨床センター内の内部実習（電話受付など）１０％ カンファレンスでの発言　20%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：金曜日昼休み（松井幸太）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	オリエンテーション　心理実習の基礎（内部実習と外部実習）	
第 3 回 第 4 回	事例検討会 初回面接実習に先立って　1）初回面接とは	
第 5 回 第 6 回	事例検討会 初回面接実習に先立って　2）誰が面接を行うか	
第 7 回 第 8 回	事例検討会 初回面接実習に先立って　3）誰がクライエントか	
第 9 回 第 10 回	初回面接実習　ロールプレイ事例の検討	
第 11 回 第 12 回	初回面接実習　ロールプレイ事例の検討	
第 13 回 第 14 回	初回面接実習　ロールプレイ事例の検討	
第 15 回 第 16 回	事例検討会	
第 17 回 第 18 回	電話受付オリエンテーション	
第 19 回	電話受付オリエンテーション	

第 20 回		
第 21 回 第 22 回	事例検討会 陪席実習のインテーク報告	
第 23 回 第 24 回	事例検討会 陪席実習のインテーク報告	
第 25 回 第 26 回	事例検討会 陪席実習のインテーク報告	
第 27 回 第 28 回	事例検討会 陪席実習のインテーク報告	
第 29 回 第 30 回	事例検討会 陪席実習のインテーク報告	

1.授業コード（ナンバリング）	21411	2.科目名	臨床心理実習Ⅰ	3.単位数	1
4.授業担当教員	横川滋章、田中亜裕子				
5.授業科目の区分	【展開科目】	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	修士課程　2 年
10.取得資格の要件	臨床心理士、公認心理師			11.先修条件	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本授業は、学内施設（心理臨床センター）における相談事例のカンファレンス参加を通して、実際の臨床ケース等についての理解を深めることを目的としている。複数教員による指導により、多面的な視点を身につけることを目指す。これまでに学んだ専門的知識を土台として、多職種連携やコンサルテーションあり方を含む事例の見立てとかかわりについて学ぶことを目標としている。 また、自らの学内実習、学外実習の報告を通して、専門的知識を実践に結びつける力を培う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	事例検討への参加を通じて、臨床心理実践の基礎を確実に身に付ける				
19.教科書・教材	なし 必要に応じて随時紹介する				
20.参考文献					
21.成績評価	授業内での発言　30% 学内実習発表　15% 学外実習発表　15% 実習内容　40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 実習（学内・学外）について	
第 2 回	事例検討	
第 3 回	事例検討	
第 4 回	事例検討	
第 5 回	事例検討	
第 6 回	事例検討	
第 7 回	事例検討	
第 8 回	事例検討	
第 9 回	事例検討	
第 10 回	事例検討	
第 11 回	事例検討	
第 12 回	事例検討	
第 13 回	事例検討	
第 14 回	事例検討	
第 15 回	事例検討	

1.授業コード（ナンバリング）	21420	2.科目名	臨床心理実習 II	3.単位数	1
4.授業担当教員	横川滋章、田中亜裕子				
5.授業科目の区分	【展開科目】	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	修士課程　2 年
10.取得資格の要件	臨床心理士			11.先修条件	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本授業は、学内施設（心理臨床センター）における相談事例のカンファレンス参加、および自身の担当ケースについてのスーパーヴィジョンを通して、個別の臨床ケース等についての理解を深めることを目的としている。受講生には個人スーパーヴィジョンを受けることを求め、複数教員による指導およびスーパーヴィジョンにより、多面的な視点を身につけることを目指す。これまでに学んだ専門的知識を土台として、個別の事例について見立てとかかわりに学ぶことを目標としている。				
18.学習目標とＤＰとの関連	事例検討およびスーパーヴィジョンを通じて、臨床心理実践の基礎を確実に身に付ける。				
19.教科書・教材	なし 必要に応じて随時紹介する				
20.参考文献					
21.成績評価	授業内での発言　30% 学内実習発表　15% 個人スーパーヴィジョン　15% 実習内容　40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 学内実習およびスーパーヴィジョンについて	
第 2 回	事例検討	
第 3 回	事例検討	
第 4 回	事例検討	
第 5 回	事例検討	
第 6 回	事例検討	
第 7 回	事例検討	
第 8 回	事例検討	
第 9 回	事例検討	
第 10 回	事例検討	
第 11 回	事例検討	
第 12 回	事例検討	
第 13 回	事例検討	
第 14 回	事例検討	
第 15 回	事例検討	

1.授業コード（ナンバリング）	21430	2.科目名	人間行動学演習	3.単位数	4
4.授業担当教員	山本真由美、道免逸子、松井幸太、横川滋章				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	人間行動学研究科臨床心理学コース			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	臨床心理学の修士論文作成のための授業である。担当者によるオリエンテーションの後、受講者全員が順次、各自の取り上げたい具体的なテーマについて報告し、問題の設定、先行研究の検索、研究手段などについての発表を通して、テーマを絞り込む作業を行う。実践的研究を主とする修士論文の準備を支援する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	修士論文テーマ、研究計画書を作成することができる。				
19.教科書・教材	なし。各自のテーマに即した参考文献を適宜紹介する。				
20.参考文献	「レポートの組み立て方」　木下是雄　ちくま学芸文庫 「初心者のための臨床心理学研究実践マニュアル（第２版)」　津川律子、遠藤裕乃　金剛出版 「研究計画書の考え方」　妹尾堅一郎　ダイヤモンド社 「論文の教室（第２版)」　戸田山和久　ＮＨＫブックス　（日本放送出版協会） 「創造的論文の書き方」　伊丹敬之　有斐閣 ●　参考書は、早い時期にすべて通読しておくことが望ましい。				
21.成績評価	発表（レジュメ、プレゼン、質疑応答を含む）　４０％ レポート　６０％ レポートⅠ　１０％ レポートⅡ　１０％ レポートⅢ　２０％ レポートⅣ　２０％				
22.コメント					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：金曜昼休み（松井幸太）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回目	オリエンテーション 授業の内容、進め方について、履修指導、研究倫理について	
第２回目	研究テーマの整理① ・修士論文の研究テーマにつながる興味・関心を整理し、共有する ●　課題レポートⅠ：修士論文の研究のテーマにつながる興味・関心とその理由・背景をまとめる ・Ａ４縦　４０字×３０行　１枚程度	
第３回目	：研究テーマの整理② ・修士論文の研究テーマにつながる興味・関心を整理し、共有する	
第４回目	資料の検索① ・文献の検索方法について学ぶ ●課題レポートⅡ：研究テーマに関する文献を検索	

	し、今後、取り上げる文献の候補の一覧を作成する	
第 5 回目	：資料の検索② ・文献検索結果の発表、精読する文献の選定	
第 6 回目	研究テーマの設定に向けた準備① ・検索した文献を精読し、研究テーマに関して理解を深める。	
第 7 回目	研究テーマの設定に向けた準備② ・方法等は第 06 回に同じ	
第 8 回目	研究テーマの設定に向けた準備③	
第 9 回目	研究テーマの設定に向けた準備④	
第 10 回目	研究テーマの設定に向けた準備⑤	
第 11 回目	研究テーマの設定に向けた準備⑥	
第 12 回目	研究テーマの設定に向けた準備⑦	
第 13 回目	研究テーマの設定に向けた準備⑧	
第 14 回目	研究テーマの設定に向けた準備⑨	
第 15 回目	前半のまとめ ○　課題レポートⅢ：ここまでの先行研究の精査に基づいて、研究テーマ の到達点、課題についてまとめる ※　様式等の詳細については、別途指示する	

1.授業コード（ナンバリング）	21440	2.科目名	臨床心理査定演習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	横川滋章				
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1・2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	◇臨床心理査定についての理論、実施方法の基本を学ぶことを目的とする。 ◇心理査定（アセスメント）の意義とバックグランドについての講義による理解を踏まえて、演習Ⅰでは Rorschach テストを中心に進めてゆく。 ◇Rorschach テストの実施法、スコアリング、解釈法の講義。 ◇受講者がそれぞれに実施、レポートを作成する。 ◇症例についてのディスカッションを行う。 ◇テスト・バッテリーや報告書のまとめ方など、体験をまじえながら学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目では以下のベンチマークを重視する。 ①　自律性：公認心理師・臨床心理士を目指す ②　論理的思考/判断力：検査および面接技術力 ③　情報収集/活用力 そのため以下の具体的な学習目標を設定している。 ①　実践における心理的アセスメントの意義を理解する。 ②心理的アセスメントに関する理論と方法を理解する。 ③心理に関する相談、助言、指導などへの①②の応用について理解する。 ②　Rorschach 法の施行法を習得する。 ③　Rorschach 法の解釈法の基本を理解、習得する。				
19.教科書・教材	片口安史著 『新・心理診断法』 金子書房				
20.参考文献	小野和雄著『ロールシャッハ・テスト　その実施・解釈・臨床例』川島書店				
21.成績評価	○　中間課題：プロトコルの提出　50% ○　最終課題：解釈レポートの作成　50%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：　曜　限 研究室オフィスアワー：　曜　限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	ガイダンス ・公認心理師・臨床心理士の実践における心理的アセスメントの意義。 ・心理的アセスメントに関する理論と方法。 ・心理に関する相談、助言、指導などへの応用。 ・講義の進め方について説明する。	
	心理テストについて ・心理テストについて概観。 ・テストの性質とバッテリーの組み方。 ・クライエントへの導入と施行上の諸注意。	
	Rorschach テストとは何か ・Rorschach テストの成立と発展。	

	・日本への導入と展開。 ・臨床場面・心理査定における意義。	
	Rorschach 法① ・Rorschach 法の実施法について、片口法を中心に講義。	
	Rorschach 法② ・プロトコルの記号化と意味、その集計の仕方。	
	Rorschach 法③ ・プロトコルの記号化と意味、その集計の仕方。	
	Rorschach 法④ ・プロトコルの記号化と意味、その集計の仕方。	
	Rorschach 法⑤ ・プロトコルと記号化・集計されたデータの解釈。	プロトコルの提出
	Rorschach 法⑥ ・プロトコルと記号化・集計されたデータの解釈。	
	Rorschach 法⑦ ・受講者がそれぞれ検査を実施、プロトコルをまとめ、集計する。	
	Rorschach 法⑧ ・受講者がそれぞれ検査を実施、プロトコルをまとめ、集計する。	
	事例検討① ・実際の事例を題材に見立てと報告の仕方についてのディスカッションを行う。	
	事例検討② ・実際の事例を題材に見立てと報告の仕方についてのディスカッションを行う。	
	事例検討③ ・実際の事例を題材に見立てと報告の仕方についてのディスカッションを行う。	
	まとめ 〇最終課題：解釈レポートの提出	解釈レポートの提出

1.授業コード（ナンバリング）	21450	2.科目名	投影法特論Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	横川滋章				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	大学院　人間行動学研究科			9.履修学年	1･2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、事例検討		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	この科目は臨床心理学を専攻する大学院生のみを対象としている。 投影法の中でも Rorschach の試行と解釈について扱い 数量解釈に加え、継起分析や内容分析などを学ぶ。 実際のケースを通じて、理解を深めてゆく。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①　投影法との代表的な技法について説明できる。 ②　Rorschach の施行法を修得し、解釈レポートをまとめることができる。				
19.教科書・教材	片口安史著 『新・心理診断法』 金子書房 ＊春学期/ 臨床心理査定演習Ⅰのテキスト				
20.参考文献	氏原寛編　　『心理査定実践ハンドブック』　創元社				
21.成績評価	①受講者全員が Rorschach の事例を提供する　５０％ ②事例検討の結果を踏まえて、解釈のレポートを作成する　５０％				
22.コメント					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：　曜　限 研究室オフィスアワー：　曜　限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	オリエンテーション 事例検討 A①　　実際の事例から Rorschach について学ぶ	
	事例検討 A②　　実際の事例から Rorschach について学ぶ	
	事例検討 A③　　実際の事例から Rorschach について学ぶ	
	事例検討 B①　　実際の事例から Rorschach について学ぶ	
	事例検討 B②　　実際の事例から Rorschach について学ぶ	
	事例検討 B③　実際の事例から Rorschach について学ぶ	
	事例検討 C①　　実際の事例から Rorschach について学ぶ	
	事例検討 C②　実際の事例から Rorschach について学ぶ	
	事例検討 C③　実際の事例から Rorschach について学ぶ	
	事例検討 D①　実際の事例から Rorschach について学ぶ	

	事例検討 D②　実際の事例から Rorschach について学ぶ	
	事例検討 D③　実際の事例から Rorschach について学ぶ	
	事例検討 E①　実際の事例から Rorschach について学ぶ	
	事例検討 E②　実際の事例から Rorschach について学ぶ	
	事例検討 E③　実際の事例から Rorschach について学ぶ	解釈レポートの提出

1.授業コード（ナンバリング）	21510	2.科目名	臨床心理実践実習	3.単位数	6
4.授業担当教員	横川滋章、田中亜裕子、松井幸太、山本喜晴				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～冬学期
8.履修可能な専攻	人間行動学専攻臨床心理学コース			9.履修学年	2
10.取得資格の要件	公認心理師	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	大学段階での実習を通じて得た公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に，次の（ア）から（オ）までに掲げる事項について，学内外における実習施設における実習を通して、心理に関する支援を要する者等に対して支援を行うことができるようになることを目的とする。授業の概要としては、各実習先での実習と学内でのふりかえりが中心となる。 （ア）心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション，心理検査，心理面接，地域支援等の知識及び技能の修得 （イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作				
18.学習目標とＤＰとの関連	各実習先において、（ア）から（オ）までに掲げる事項を実践できる力を身につける。 （ア）心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション，心理検査，心理面接，地域支援等の知識及び技能の修得する （イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成する （ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチができる （エ）多職種連携及び地域連携ができる （オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解がある				
19.教科書・教材	なし				
20.参考文献	授業内で適宜紹介する				
21.成績評価	①医療領域での実習の取り組み（事前・期中・事後）20% ②福祉領域での実習の取り組み（事前・期中・事後）20% ③教育領域での実習の取り組み（事前・期中・事後）20% ④カンファレンスでの発表（3 領域） 15% ⑤カンファレンスでのディスカッション 5% ⑥学内実習での取り組み 20%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	春学期オリエンテーション	
第 2-14 回	実習の状況報告(学内実習・学外実習・SV)	
第 15 回	春学期ふりかえり	
8－9 月	夏季カンファレンス（隔週） 3 時間×4 回＝12 時間	
第 16 回	秋学期オリエンテーション	
第 16-29 回	学外実習カンファレンス	
第 30 回	秋学期ふりかえり	
2-3 月	冬季カンファレンス（隔週） 3 時間×4 回＝12 時間	
通年	学内実習（心理臨床センターこころの相談室）	

	①運営実習（大掃除・おもちゃ買い・運営会議） 22.5 時間 ②電話受付実習 4 時間×35 週 ②ケース担当　1 時間×20 回×4 ケース＝80 時間 ＊複数の面接形態のケースを担当する ・子どもとの遊戯療法面接担当 ・母子並行面接の親面接担当 ・成人との言語面接担当	
通年	学外実習 ①医療領域　8 時間×10 回＝80 時間 ②教育領域　8 時間×10 回＝80 時間 ③福祉領域　8 時間×10 回＝80 時間	

1.授業コード（ナンバリング）	21530	2.科目名	学校臨床心理学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	臨床心理学コース			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	臨床心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本授業では、学校臨床の基礎について学ぶとともに、子どもの心理的援助の方法して、遊戯療法の基礎的スキルを身に着けることを目的とする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 ①遊戯療法に関する基礎的知識を身に着ける。 ②プレイセラピーにおけるセラピストの基本的態度を身に着ける。 ③学校臨床の基礎的知識を身に着ける。				
19.教科書・教材	「新版・プレイセラピー: 関係性の営み 」 2014/7/16 ゲリー・L. ランドレス（著)、山中 康裕（翻訳), 江城 望（翻訳), 勅使川原 学（翻訳） 日本評論社				
20.参考文献	適宜、紹介する。				
21.成績評価	課題シートの作成・・・50 点（学習目標の①に対応） 遊戯療法のロールプレイにおけるセラピストとしてのスキルの向上・・・50 点				
22.コメント	事前準備をしっかりと行ってください。 ?テキストを読み、不明なところ、皆の意見をきいてみたいところを箇条書きにして、Webclass にあげること ②ロールプレイで演じる子どもの役作りをすること。				
23.オフィスアワー	火曜日　お昼休み　　メディアライブラリー 水曜日　お昼休み　研究室				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 遊戯療法室の見学	「遊戯療法」を読み進めておくこと。
第 2 回	テキストの輪読	ロールプレイで演じる子どもの役作りをすること。
第 3 回	テキストの輪読	
第 4 回	テキストの輪読	
第 5 回	テキストの輪読	
第 6 回	テキストの輪読	
第 7 回	遊戯療法のスキルを身に着ける ロールプレイを通して、セラピストとしての基本的態度を学ぶ。 ※一人 30 分	ロールプレイふり返りシートの作成と印刷（人数分）
第 8 回	遊戯療法のスキルを身に着ける	

	ロールプレイを通して、セラピストとしての基本的態度を学ぶ。 ※一人 30 分	
第 9 回	ロールプレイふりかえり	
第 10 回	ロールプレイのふりかえり	
第 11 回	学校臨床：学校という場の特徴	
第 12 回	いじめ	
第 13 回	不登校	
第 14 回	発達障害	
第 15 回	まとめ	

1.授業コード（ナンバリング）	21532	2.科目名	修士論文指導	3.単位数	8
4.授業担当教員	松井幸太				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	プレゼンテーション、講義、グループワーク		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	修士論文は、科学的視点に基づき結論を論じることが求められる。そのためには、文献研究により問題の明確化、本研究の目的の明示とともに、仮説の検証及び仮説の生成のどちらかに立脚し、論を進める必要がある。常に、自分の主観と客観を相対化しながら、社会的に意味のある研究を行ってもらいたい。提出したものの、最終報告会ならびに口頭試問により、修士論文の質・量ともに不備がある場合には、不可となることもある。覚悟と信念を持ってしっかりと取り組んでほしい。 尚、授業では、受講者が取り上げる研究テーマについての発表に基づいて討				
18.学習目標とＤＰとの関連	①修士論文において、研究テーマを明確化できる。 ②先行研究の概要についてまとめ、テーマに関する問題点、課題を発見し、解決のための研究方法を 　　選択できる。 ③修士論文に関わる研究方法を実行できる。 ④修士論文を作成できる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜、紹介する。				
21.成績評価	修士論文作成への取組　（50%） 修士論文　（50%）				
22.コメント					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：金曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目 第 2 回目	オリエンテーション・・・修士論文、授業の進め方について ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 修了論文の構成 目次の作成	
第 3 回目 第 4 回目	目次の作成 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 問題・目的の検討	
第 5 回目 第 6 回目	題・方法の検討 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 方法の検討（対象者・調査等の内容・分析方法）	
第 7 回目 第 8 回目	修士論文中間発表会準備（配布資料構成） ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 修士論文中間発表会準備（配布資料作成）	
第 9 回目 第 10 回目	修士論文中間発表会準備（プレゼンテーション） ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ＿	

	修士論文中間発表会準備（プレゼンテーション）	
第 11 回目 第 12 回目	修士論文中間発表会ふりかえり 発表会の質疑で指摘された事項を踏まえて修正する ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 調査等の準備 研究倫理委員会資料の準備	
第 13 回目 第 14 回目	調査等の準備 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ＿＿＿ 調査等の準備	
第 15 回目 第 16 回目	調査等実施 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ＿＿＿ 考察（データの解釈）に関する討議	
第 17 回目 第 18 回目	考察（データの解釈）の検討 中間報告会（プレゼンテーション） ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 修士論文中間発表会ふりかえり 発表会の質疑で指摘された事項を踏まえて修正する	
第 19 回目 第 20 回目	第一稿作成の準備 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ＿＿＿ 第 1 稿の検討	
第 21 回目 第 22 回目	第 1 稿（問題と目的）の作成 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 第 1 稿（方法）の作成	
第 23 回目 第 24 回目	第二稿（結果）の作成 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 第二稿（考察）の作成	
第 25 回目 第 26 回目	第二稿の提出 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 第二稿の検討	
第 27 回目 第 28 回目	修士論文ゼミ内仮提出 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 修士論文最終点検	
第 29 回目 第 30 回目	修論発表会・口頭試問準備 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 修論発表会・口頭試問準備	

1.授業コード（ナンバリング）	21533	2.科目名	修士論文指導	3.単位数	8
4.授業担当教員	山本真由美				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	プレゼンテーション、講義、グループワーク		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	修士論文は、科学的視点に基づき結論を論じることが求められる。そのためには、文献研究により問題の明確化、本研究の目的の明示とともに、仮説の検証及び仮説の生成のどちらかに立脚し、論を進める必要がある。常に、自分の主観と客観を相対化しながら、社会的に意味のある研究を行ってもらいたい。提出したものの、最終報告会ならびに口頭試問により、修士論文の質・量ともに不備がある場合には、不可となることもある。覚悟と信念を持ってしっかりと取り組んでほしい。 尚、授業では、受講者が取り上げる研究テーマについての発表に基づいて討				
18.学習目標とＤＰとの関連	①修士論文において、研究テーマを明確化できる。 ②先行研究の概要についてまとめ、テーマに関する問題点、課題を発見し、解決のための研究方法を 　　選択できる。 ③修士論文に関わる研究方法を実行できる。 ④修士論文を作成できる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜、紹介する。				
21.成績評価	修士論文作成への取組　（50%） 修士論文　（50%）				
22.コメント					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：神戸山手Ｃ水曜日昼休み、センターオフィスアワー：同Ｃ火曜日昼休み 希望者は、事前にメールで予約を取って欲しい。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目 第 2 回目	オリエンテーション・・・修士論文、授業の進め方について ――――――――――――――――――――― 修了論文の構成 目次の作成	
第 3 回目 第 4 回目	目次の作成 ――――――――――――――――――――― 問題・目的の検討	
第 5 回目 第 6 回目	題・方法の検討 ――――――――――――――――――――― 方法の検討（対象者・調査等の内容・分析方法）	
第 7 回目 第 8 回目	修士論文中間発表会準備（配布資料構成） ――――――――――――――――――――― 修士論文中間発表会準備（配布資料作成）	

第 9 回目 第 10 回目	修士論文中間発表会準備（プレゼンテーション） ＿＿＿

1.授業コード（ナンバリング）	21540	2.科目名	臨床心理面接特論Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	横川滋章、松井幸太				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間行動学専攻臨床心理学コース			9.履修学年	1
10.取得資格の要件	臨床心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、実習		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	本授業では、臨床心理面接を実施するために必要な力を身につけることを目的としている。学内の心理臨床センターでの実習に向けた準備として、新規申込の際の電話対応のロールプレイから始まり、実際に来談された想定でのインテーク面接のロールプレイを実施する。ロールプレイを通して、ケースマネジメントを学ぶとともに、カウンセラーとしての対応についてディスカッションしながら、理解を深めていく。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業では、臨床心理面接を実施するために必要な力を身につけることを目的としている。具体的には以下の内容を身につけることを目標としている。 ①新規相談申込の応対をし、受付票を書くことができる ②インテーク面接のインテーカーをとして、何をするべきか理解できる。 ③カウンセラーとしての対応について、理解をできる。				
19.教科書・教材	なし				
20.参考文献	授業内で適宜紹介する				
21.成績評価	①新規相談申込の電話応対（ロールプレイ） 20% ②新規相談申込の受付票の作成 20% ③インテーク面接のロールプレイ 20% ④インテーク面接後の記録の作成 20% ⑤インテーク面接に関するディスカッション 20%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション	
第 2 回	ロールプレイ CL 設定の確認	
第 3 回	電話受付ロールプレイ、電話受付票の説明	
第 4 回	電話受付票の検討、相談申込票の説明	
第 5 回	インテーク面接のロールプレイとディスカッション	
第 6 回	インテーク面接の逐語とインテーク報告書の検討	
第 7 回	インテーク面接のロールプレイとディスカッション	
第 8 回	インテーク面接の逐語とインテーク報告書の検討	
第 9 回	インテーク面接のロールプレイとディスカッション	
第 10 回	インテーク面接の逐語とインテーク報告書の検討	
第 11 回	インテーク面接のロールプレイとディスカッション	
第 12 回	インテーク面接の逐語とインテーク報告書の検討	
第 13 回	インテーク面接のロールプレイとディスカッション	
第 14 回	インテーク面接の逐語とインテーク報告書の検討	
第 15 回	ふりかえり	

1.授業コード（ナンバリング）	21550	2.科目名	臨床心理実践基礎実習	3.単位数	3
4.授業担当教員	横川滋章、松井幸太				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	人間行動学専攻臨床心理学コース			9.履修学年	1
10.取得資格の要件	公認心理師			11.先修条件	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	大学段階での実習を通じて得た公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に，次の（ア）から（オ）までに掲げる事項について，主に学内における実習施設における実習を通して、心理に関する支援を要する者等に対して支援を行うことができるようになることを目的とする。授業の概要としては、各実習先での実習と学内でのふりかえりが中心となる。 （ア）心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション，心理検査，心理面接，地域支援等の知識及び技能の修得 （イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の				
18.学習目標とＤＰとの関連	主に学内の実習先において、（ア）から（オ）までに掲げる事項を実践できる力を身につける。 （ア）心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション，心理検査，心理面接，地域支援等の知識及び技能の修得する （イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成する （ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチができる （エ）多職種連携及び地域連携ができる （オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解がある				
19.教科書・教材	なし				
20.参考文献	授業内で適宜紹介する				
21.成績評価	①心理臨床センターの機能や役割について説明できる　20% ②心理臨床センターでの電話対応ができる　20% ③カウンリング（継続面接）の機能やカウンセラーの役割について説明できる　20% ④学外実習の分野と施設ごとの特徴について説明できる　20% ⑤心理臨床センターの運営補助ができる。20%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	春学期オリエンテーション	
第 2 回	心理臨床センター全体ガイダンス	
第 3 回	電話受付ガイダンス	
第 4 回	電話見習実習の説明	
	電話見習実習 ＊5 月以降、10 週間（1 回/週） 1.5 時間×10 回＝15 時間	
第 5－9 回	電話受付の対応について	
第 10 回	継続面接ロールプレイの説明	
	継続面接ロールプレイ 1.5 時間×4＝6 時間	
第 11-15 回	継続面接ロールプレイの検討	

8－9 月	夏季カンファレンス ＊8-9 月隔週 3 時間×4 回＝12 時間	
第 16 回	秋学期オリエンテーション	
第 17-29 回	学外実習カンファレンス	
第 30 回	ふりかえり	
2-3 月	冬季カンファレンス ＊2-3 月隔週 3 時間×4 回＝12 時間	
通年	センター運営実習 ＊通年 大掃除・おもちゃ買い・運営会議	

1.授業コード（ナンバリング）	25230	2.科目名	環境心理学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	太田裕彦				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間行動学専攻			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	生きて行動する「人間」を理解する上で忘れがちなのが「環境」である。「人間」と「環境」が二つで一つの切り離せないものであるからこそ、かえって「環境」の存在が特別には意識されないことになる。本講義では「環境」の存在を院生自身が意識的に探索する機会を作り、自身の専攻領域における研究課題に「環境」の視点を加えることによって、課題そのものをより広い視点から捉え直すことを目ざす。				
18.学習目標とＤＰとの関連	人間と環境の関係性を具体的に捉える視点や方法に関する理解。および環境に対する視点の涵養。				
19.教科書・教材	指定せず				
20.参考文献	適宜紹介し、必要な資料も配布する				
21.成績評価	文献収集及び概要発表　60% 最終レポート　40% 合計　100%				
22.コメント	人間とは何かという基本的問いを常に抱きながら，人間と環境との関係性をさまざまな角度から捉え、自身の専攻領域における視点を広めかつ深めてください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 本特論のねらいや内容、講義の進め方などについて説明を行う。	
第 2 回	現状確認（1） 履修生が進めているあるいは進めようとしている研究テーマについて、他者に理解できる程度に概略の説明をしてもらい、今の時点における課題対象の捉え方を確認しておく。	具体的な研究事例を論文検索によって探し、文献を読み解く。
第 3 回	現状確認（2） 同上	
第 4 回	環境心理学の基本的視点（1） これまでの環境心理学の短い歴史の中で構築されてきた代表的な視点について理解する。	具体的な研究事例を論文検索によって探し、文献を読み解く。
第 5 回	環境心理学の基本的視点（2） 同上	
第 6 回	参考文献読解（1） 心理学的に人間を理解する際に、対象者の「環境」を考えることが理解を深める。関連する文献を取り上げて読解をしていく。	具体的な研究事例を論文検索によって探し、文献を読み解く。
第 7 回	参考文献読解（２）	

	同上	
第 8 回	参考文献読解（3） 同上	具体的な研究事例を論文検索によって探し、文献を読み解く。
第 9 回	捉え直し（1） 環境の視点を新たに加えることで履修者自身の研究テーマにおける「対象となるもの」を捉え直すことを試みる。	
第 10 回	捉え直し（2） 同上	具体的な研究事例を論文検索によって探し、文献を読み解く。
第 11 回	文献読解（1） 履修生なりに選定した環境視点につながる先行研究例を紹介・解説してもらう。	
第 12 回	文献読解（2） 同上	具体的な研究事例を論文検索によって探し、文献を読み解く。
第 13 回	文献読解（3） 同上	
第 14 回	文献読解（4） 同上	
第 15 回	まとめと補足 全体を振り返りまとめと補足を行う。	

1.授業コード（ナンバリング）	27000	2.科目名	臨床心理学研究法特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	松井幸太				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	大学院　人間行動学研究科			9.履修学年	1・2 年
10.取得資格の要件	臨床心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義　プレゼンテーション		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】臨床心理学領域におけるさまざまな研究を行う上での方法論と、研究の重要性、および困難さを理解することを目標にする。 【概要】臨床心理学においては、臨床実践や調査研究とプライバシーを含む倫理面の問題および研究から得られる公共性との両立と相克が重要なテーマとなるが、究極的には、クライエントの利益に還元されることが優先される。これらの点について留意しながら、臨床心理学研究法について学修する。 臨床心理学の専門家としては、実践力だけではなく、科学的な素養を有していることも重要である。この科目は、最終的な成果				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目は DP のうち，調査分析力，コミュニケーション力，倫理観と関連する 【学習目標】 ①量的研究，質的研究，事例研究の意義をそれぞれ説明できる。 ②臨床心理学の研究論文の書き方を説明することができる。 ③論文の内容を相手にわかるように説明できる。				
19.教科書・教材	適宜、紹介する				
20.参考文献	適宜、紹介する。				
21.成績評価	研究法に関するレポート 40%（目標①，②に該当） 口頭発表・プレゼンテーション等の報告会 40%（目標③に該当） 発表に対する質疑応答（目標③に該当）				
22.コメント					
23.オフィスアワー	夏学期のため、随時メール連絡のうえ個別設定				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目	臨床心理学の領域と研究法① 臨床心理学研究の特徴として、クライエントの利益を優先すること、プライバシーや倫理的な問題を常に念頭におくことを十分理解しておくことがあげられる。 【キーワード】 臨床心理学の研究領域、臨床研究	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 2 回目	臨床心理学の領域と研究法② 量的研究，質的研究，事例研究の違いと意義を理解する。	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 3 回目	臨床心理学の領域と研究法③ 量的研究，質的研究，事例研究の違いと意義を理解する。	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 4 回目	質的研究法について①	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 5 回目	質的研究法について②	復習：授業の内容をノートにまとめる

		予習：授業の資料をよく読む
第 6 回目	質的研究法について③	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 7 回目	事例研究について①	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 8 回目	事例研究について②	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 9 回目	事例研究について③	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 10 回目	研究法としての事例研究法① 事例研究法は臨床心理学において最も重要な研究法の１つである。本講では、知識伝達と技術習得のちがい、概念的知識と手続き的知識のちがいに注目しながら、臨床の場において人間を統合的にとらえる実践的方法として洗練されてきたこの事例研究法の意義と限界について検討したい。 【キーワード】 事例研究、臨床の知、事例検討	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 11 回目	研究法としての事例研究法②	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 12 回目	臨床心理学に関する研究論文のプレゼン①	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 13 回目	臨床心理学に関する研究論文のプレゼン②	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 14 回目	臨床心理学に関する研究論文のプレゼン③	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 15 回目	臨床心理学研究法における倫理問題 臨床心理学研究の難しさは、しばしばクライエントのプライバシーや利益など研究において二律背反性に直面することがあげられる。これらの点について考える。 【キーワード】 倫理、インフォームド・コンセント、プライバシー保護	

1.授業コード（ナンバリング）	27001	2.科目名	臨床心理査定演習 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	臨床心理査定法には，クライエントの査定（見立て・アセスメント）をするための観察，面接，心理検査が含まれる。 前半は，新版 K 式発達検査を用いて，認知的，発達的な適応のアセスメントについて学ぶ。近年，軽度発達障害に関わる特別支援教育への社会的関心が高まっているが，その際にも，発達検査によって得られるデータが重要視される。ロールプレイや実習を通して主たる発達検査の使用法，テスターとしての基本的態度，所見の書き方を学ぶ。 後半は，インテーク面接を中心に，テストバッテリー，面接法を含めた，綜合的なアセスメントにつ				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 【学習目標】 ・臨床心理査定が実際に実施できるようになる。 ・検査用具をもちいた心理査定の技術に習熟する。 ・個々の心理査定法の技術だけでなく、見立てる力を養う。				
19.教科書・教材	発達相談と新版 K 式発達検査　子ども・家族支援に役立つ知恵と工夫　大島剛　他　明石書店				
20.参考文献	①「新版 K 式発達検査にもどづく発達研究の方法　操作的定義による発達測定」　中瀬淳　ナカニシヤ出版 ②「新版 K 式発達検査法 2001 年版　標準化資料と実施方法」新版 K 式発達検査研究会　ナカニシヤ出版 ③「発達相談と援助　新版 K 式発達検査 2001 を用いた心理臨床」川畑隆				
21.成績評価	臨床心理査定に関する実技　50% 有用な所見を書くスキル　50%				
22.コメント	この授業を受講する前に、新版 K 式発達検査の 4 葉にある検査項目の実施方法を覚えておきましょう。 参考文献の①②を使用しながら、夏休み中に自習してください。				
23.オフィスアワー	火曜日　お昼休み　　メディアライブラリー 水曜日　お昼休み　研究室				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 6/21（火） 5 限	ガイダンス 新版 K 式発達検査　検査項目の理解と検査方法の確認	【持参するもの】 ?新版 K 式発達検査（3 台）②実施マニュアル（人数分） ※?②は毎回持参してください。 【アサインメント】 8 月 27 日(金）までに ?第 4 葉が実施できるように練習すること ?5 歳前後の子ども役を演じられるように準備

		すること 【アサインメント】 8/31 までに テキストの担当部分のレジュメを作成し、科目担当者を含めた人数分印刷して 8/31（火）に持参すること。
第 2 回 6/28（火）5 限	新版 K 式発達検査　検査項目の理解と検査方法の確認	
第 3 回 7/5（火）5 限	新版 K 式発達検査　ロールプレイ	【持参するもの】 ビデオカメラ 1 台（教務課で借りること） 【アサインメント】 8/30（月）までに 検査者役のときのロールプレイについて、陪席者の記述とビデオをもとに検査時の様子について、時系列で文章化すること（A4, 2 枚以内）。 レポートと記録用紙は科目担当者を含めた人数分印刷して 8/30（月）に持参すること。
第 4 回 8/27（金） 2 限	新版 K 式発達検査　ロールプレイ	【持参するもの】 ビデオカメラ 1 台（教務課で借りること）
8/27（金）3 限	新版 K 式発達検査　ロールプレイ	【持参するもの】 ビデオカメラ 1 台（教務課で借りること）
第 6 回 8/27（金）4 限	新版 K 式発達検査　ロールプレイのふりかえり	【持参するもの】 ビデオカメラ 1 台（教務課で借りること）
第 7 回 8/30（月） 1 限	新版 K 式発達検査　検査結果の整理	【持参するもの】 ?レポートと記録用紙を科目担当者を含めた人数分印刷して持参すること。 ②録画記録
第 8 回 8/30（月） 2 限	新版 K 式発達検査　検査結果の整理	【持参するもの】 ?レポートと記録用紙を科目担当者を含めた人数分印刷して持参すること。 ②録画記録。
第 9 回 8/30（月） 3 限	新版 K 式発達検査　検査結果の整理	【持参するもの】 ?レポートと記録用紙を科目担当者を含めた人数分印刷して持参すること。 ②録画記録。
第 10 回 8/31（火） 1 限	テキスト輪読	【持参するもの】 ?テキスト ②担当部分のレジュメを人数分印刷して持参

		すること。 【アサインメント】 9/13（月）までに 所見を書き終えること。所見は科目担当者分も含めて人数分印刷し、9/13（月）に持参すること。
第 11 回 8/31（火） 2 限	テキスト輪読	【持参するもの】 ?テキスト ②レジュメ
第 12 回 8/31（火） 3 限	テキスト輪読	【持参するもの】 ?テキスト ②レジュメ
第 13 回 9/13（月） 1 限	所見の添削	【持参するもの】 ?所見を人数分印刷して持参すること。 ②これまでの配付資料一式。
第 14 回 9/13（月） 2 限	所見の添削	【持参するもの】 ?所見を人数分印刷して持参すること。 ②これまでの配付資料一式。
第 15 回 9/13（月） 3 限	所見の添削	【持参するもの】 ?所見を人数分印刷して持参すること。 ②これまでの配付資料一式。

1.授業コード（ナンバリング）	27002	2.科目名	グループアプローチ特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	松井幸太				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期～秋学期
8.履修可能な専攻	人間行動学研究科			9.履修学年	1,2 年
10.取得資格の要件	公認心理師	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グループアプローチとは、個人の心理的治療・教育・成長、個人間のコミュニケーションと対人関係の発展と改善、および組織の開発と変革などを目的として行われるものである。本授業では、グループアプローチの基礎的知識をおさえたうえで、実際のグループアプローチの実践を通して、体験的な学修を行う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①集団心理療法の特徴について説明できる ②ベーシック・エンカウンターグループの体験過程について説明できる				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜紹介する				
21.成績評価	1. 授業に対するコミットメント（調べ学習・質問・発言など） 40% 2. グループアプローチに関するレポート 30% 3. エンカウンターグループに関するレポート 30%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：金曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 授業の概要と進め方について	
第 2 回	グループアプローチについて	
第 3 回	サイコドラマ概論	
第 4 回	サイコドラマの実際	
第 5 回	ベーシック・エンカウンター・グループ	
第 6 回	ベーシック・エンカウンター・グループの実践	
第 7 回	オープン・ダイアログ	
第 8 回	オープン・ダイアログの実際	
第 9 回	PCA グループ	
第 10 回	PCA グループの実際	
第 11 回	グループにおけるファシリテーター①	
第 12 回	グループにおけるファシリテーター②	
第 13 回	集団心理療法の特徴①	
第 14 回	集団心理療法の特徴②	
第 15 回	まとめ	最終レポート

1.授業コード（ナンバリング）	30011	2.科目名	発達心理学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美				
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	大学院　人間行動学研究科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	BP 科目	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義(遠隔オンライン)		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	本科目では、生涯発達心理学の立場から、乳児期、幼児期、児童期、青年前期、青年後期、成人初期、成人中期、成人後期における各発達期の心理的課題と支援のあり方を理解することを目的とする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標には DP(ディプロマポリシー)の 7 つ、専門知識・技能、問題発見力、調査分析能力、論文作成能力、課題解決策への提案力、コミュニケーション能力、倫理観が関わる。 公認心理師・臨床心理士受験資格取得を目指す大学院生として、授業での課題に自律的に関わり、問題発見し、その問題について調査分析し、その結果を基に課題解決策への提案をレポートにまとめ、授業中に倫理観をもって発表する。 本科目の学習目標は、以下の 3 つである。 ①各発達期に生じやすい心理的課題を説明できる。 ②その心理的課題にどのような要因が関与している可能性があるかについて説明できる。 ③その心理的課題に対してどのような支援が可能かを説明できる。				
19.教科書・教材	教科書：発達心理学をアクティブに学ぶ 山本真由美編著 北大路書房　2,200 円＋税、他に教材として power point(遠隔オンライン：神戸山手Ｃ発信）と webclass を使用する。				
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。				
21.成績評価	・webclass を利用した授業回毎の課題レポート 200 字程度（授業課題について考えたこと）@2 点×13 ・当該授業後 Web Class にレポート報告（課題について話し合ったことから新たに考えたこと）@3 点×13、 ・12 の課題から 1 つを選び，最終レポートを第 14 回授業までに完成させる。14 回に半数，15 回に半数発表する。他の受講者は，発表について意見を述べる。30 点				
22.コメント	本授業は、教員が遠隔オンラインで実施し、受講生は三木 C の教室で受講する形式となります。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：神戸山手Ｃ水曜日昼休み、センターオフィスアワー：同 C 火曜日昼休み 希望者は、事前にメールで予約を取って欲しい。Zoom での相談可。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	イントロダクション 授業の目的、学習目標と DP との関連、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法	PC，予習：シラバスを読む。 復習：小テスト解答
第 2 回	第 3 章 発達・発達段階・発達心理学研究法	PC,予習：第 3 章(p41-58)を読み，課題につい

		て webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 3 回	第 4 章 発達要因	PC,予習：第 4 章(p59-64)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 4 回	第 4 章 発達の一般的傾向	PC，予習：第 4 章(p64-67) を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 5 回	第 4 章 発達理論	PC，予習：第 4 章(p67-76)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 6 回	第 5 章 身体と運動の発達	PC，予習：第 5 章(p79-90)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 7 回	第 6 章 感覚・知覚・認知発達	PC,予習：第 6 章(p93-104)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 8 回	第 7 章 注意・記憶の発達	PC,予習：第 7 章(p107-116)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 9 回	第 8 章 動機づけ・学習の発達	PC,予習：第 8 章（p119-133）を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 10 回	第 9 章 言語の発達	PC,予習：第 9 章(p137-144)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 11 回	第 9 章 思考・知能の発達	PC,予習：第 9 章(p144-153)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 12 回	第 10 章 感情・パーソナリティの発達	PC,予習：第 10 章(p155-169)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 13 回	第 11 章 コミュニケーション・社会性の発達	PC,予習：第 11 章(p173-187)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたこと

		を webclass にレポート
第 14 回	課題レポート発表と分かち合い	PC,作成レポート,復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 15 回	課題レポート発表と分かち合い	PC, 作成レポート,復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート,授業アンケート

1.授業コード（ナンバリング）	30012	2.科目名	スクールインターンシップ	3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹、百瀬和夫				
5.授業科目の区分	展開 小学校・特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	大学院　人間行動学研究科			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	授業の概要 1　院生もしくは院生の所属する学校が直面している教育実践上の課題について，理論と実践の融合を念頭に，実践と省察を繰り返しながら課題解決を図る実践的研究（アクション・リサーチ）のための事前指導を行う。 2　インターンシップ実践校での，①　課題確定，②　予備調査，③　仮説の設定，④　実践研究⑤　研究結果の分析と検証，研究報告書の作成と言った一連の研究活動の省察をワークショップの手法を用いて協同的に行い，研究論文作成のための中間，事後の指導を行う。 3　研究の手法　実践的研究（アクション・リ				
18.学習目標とＤＰとの関連	【本学のベンチマーク】 1.研究課題遂行能力　　レベル 4 自ら積極的に研究課題に取り組むことができる。 2.問題解決能力　　レベル 4 総合的な視点から課題と目標を把握して解決策を立案し、それを実行することができる。 3.情報処理能力　レベル 4 データや現象を正確に解析・分析して考察できる。 4.プレゼンテーション能力　レベル 3 研究成果を効果的に発表することができる。 5.コミュニケーション能力　レベル 3 他の研究者と協力し、協議できる。 これらのベンチマークを達成するため。本授業は以下の到達目標を定める。 〇授業の到達目標及びテーマ ・学校が直面している教育実践上の課題について、理論と実践の融合を念頭に、実践と省察を繰り返しながら課題解決を図る実践的研究を進める。 ・専門的知識・技能をこの科目より統合し、実践者としての資質能力を伸ばし、学校における実践的研究のリーダー養成を最終的なねらいとする。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	二杉孝司、藤川大祐、上條晴夫編著：「授業分析の基礎技術」学事出版 2002 渡辺洋著：『心理・教育のための統計学入門」金子書房　1996 吉田健正：「大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方」【第 2 版】ナカニシヤ出版 2006 秋田喜代美/恒吉僚子/佐藤学：教育研究のメソドロジー」東京大学出版会　2006 柴山真琴：「子どもエスノグラフィー入門」新曜社　2007 佐藤郁哉：「質的データ分析法」新曜社　2011				

21.成績評価	1 授業毎の学修成果をリフレクトする。　30% 2　質的，量的研究への取り組　データの入手と処理　30% 3　リサーチ成果物の発表　40%
22.コメント	
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	?スクール・インターンシップの研究方法についての概要 　教育実践研究（アクション・リサーチ）の方法についての研究手順について ?データ収集の方法 ①　観察によるデータ収集 ②　言葉によるデータ収集 ③　数量的データ収集	
第 3 回 第 4 回	?データ収集法の検討 ・実践校におけるデータ収集の事例報告を通じて研究対象課題のデータ収集法を検討する。 ?質的なデータの収集法 ・従来型（VTR，IC レコーダー，観察記録等）の発話記録によるディスコース分析。	○実践校における研究対象課題をまとめる。レポート（120 分） ○過去の教育実践のディスコース分析の事例を報告する。レポート（120 分）
第 5 回 第 6 回	質的なデータの収集法 ・フレームワーク型ワークショップ（クロス法，概念化シート法，ロジックツリー法等）によるディスコース分析。 ?量的なデータ収集法と分析 1　質問紙作成のポイント 2　データの集計 　①　単純集計 　②　クロス集計	○クロス法，概念化シート法，ロジックツリー法等について報告する。レポート（120 分） ◆ノート PC　必携◆
第 7 回 第 8 回	?量的なデータ収集法と分析 II 3　データの分析 　①　効果的なグラフ化 　②　2 変数間の関係把握（共分散，相関係数） 　③　統計解析のためのツール　ピボッタテーブル，エクセル・アドインソフト 　④　統計的仮説検定 ?量的なデータ収集法と分析 III 　①　主な検定方法　t 検定，F 検定，カイ 2 乗検定等	◆ノート PC　必携◆
第 9 回 第 10 回	?課題の確定 ・実践校の教育課題（研究テーマ）について各自提案	○研究テーマの絞り込みを行い，まとめる。レポート（120 分）

	し，課題解決の所在を明らかにし，各自の教育課題から研究テーマの絞り込みを行う。 ?研究方法，研究仮説，研究計画の検討 ・各自の研究テーマに沿った研究方法，研究仮説，研究計画をグループで検討する。	
第 11 回 第 12 回	?先行研究，参考文献についての検討 I ・各自の研究テーマに沿った研究方法を確立するため，先行研究や参考文献についてグループで検討する。 ?先行研究，参考文献についての検討 II ・先行研究や参考文献について，それぞれの研究テーマに沿ったプレゼンとグループ協議を行う。	○各自の研究のための先行研究，参考文献リストを作成する。レポート（120 分）
第 13 回 第 14 回	?予備調査の準備 ・各自の予備調査，予備教育実践研究の方法，計画について発表し，それぞれについて研究協議を行う。（データの収集方法，指導案，教材・教具の工夫等についての協議・検討） ?予備調査の実施報告 ・予備調査，予備教育実践研究の省察を行う。	○予備調査のまとめを作成する。レポート（120 分）
第 15 回 第 16 回	?予備調査，予備教育実践研究のデータ収集法の検討 ・データ収集の方法としての観察記録，インタビュー，質問紙，VTR，IC レコーダー等について検討する。 ?予備調査，予備教育実践研究のデータ収集法の検討 ・量的なデータの分析について検討する。	
第 17 回 第 18 回	?予備調査，予備実践研究の結果について省察し，仮説の修正を行う。 ?予備調査結果の反省に基づき，本調査，本教育実践研究の方法，計画についての研究協議（データの収集方法，指導案，教材・教具の工夫等についての協議・検討）	○予備調査の反省と本調査の方法，計画についてまとめる。レポート（120 分）
第 19 回 第 20 回	本調査の実施 I ?本調査の実施 II	○本調査結果をまとめる。レポート（120 分）
第 21 回 第 22 回	?データの収集と分析 I ・発話記録やワークシート等質的データによるディスコース分析 ?データの収集と分析 II ・フレームワーク型ワークショップによるディスコース分析	○ディスコース分析についてまとめる。レポート（120 分）

第 23 回 第 24 回	?データの収集と分析III ・単純集計とクロス集計，表・グラフ化 ?データの収集と分析IV ・変数間の関係把握（共分散，相関係数） ・ピボッタテーブル，エクセル・アドインソフト等による解析	以下全授業◆ノート PC　必携◆
第 25 回 第 26 回	?研究結果のまとめ I ・プレゼン資料作り ?研究結果のまとめ II ・プレゼン資料作り	
第 27 回 第 28 回	実践的研究成果の発表 I ?実践的研究成果の発表 II	
第 29 回 第 30 回	?実践的研究成果の発表III ?実践的研究全体についての省察	

1.授業コード（ナンバリング）	30013	2.科目名	教育制度学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武大				
5.授業科目の区分	教職に関する科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間行動学研究科人間行動学専攻			9.履修学年	1・2 年
10.取得資格の要件	専修免許取得に際しての選択科目			11.先修条件	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、教育制度の構造を理解し、教育制度をめぐる問題の改善・解決に向けた方途を考えることを目的とします。 【概要】 学習権の保障を目的として存立している教育制度の構造と機能について、関連文献（主として『教育制度学研究』の特集テーマ論文や公開シンポジウム、課題別セッション）の検討を通じて理解を深めていきます。 具体的には、次の 3 点について理解を深めていきます。 第 1 に、学習権、義務性、無償性、中立性といった教育制度の構造を理解します。 第 2 に、教育制度の構造がどのように制度化				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性、(4)問題発見・解決力、の学修に関連しています。 この授業では次の 2 点を身につけることを目標としています。 (1)関連文献の購読を通じて、教育制度の構造について説明することができます。 (2)教育制度の構造的理解を踏まえて、既存の教育制度を批判的に捉えるとともに、問題の改善・解決に向けた方途を提案することができます。				
19.教科書・教材	主に『教育制度学研究』を使用することとし、適宜コピーを配布します。				
20.参考文献	村田翼夫・上田学編『現代日本の教育課題』東信堂、2013 年 市川昭午『臨教審以後の教育政策』教育開発研究所、1995 年				
21.成績評価	次の 2 つに基づいて評価します。 ・レジュメ作成　70% ・ディスカッション　30%				
22.コメント	関連文献の検討においては、論点および争点となっていることについて、報告者がレジュメを作成し、受講者間でディスカッションを行います。積極的な参加が期待されます。				
23.オフィスアワー	月曜 5 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション（文献紹介、分担決め等）	
【第 2 回】	【講義】教育制度の基本原理	○第 3 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 3 回】	教育制度研究の課題 1（研究の意味、制度概念、対象と課題）	○第 4 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 4 回】	教育制度研究の課題 2（対象と方法、福祉からみた教育制度、生涯学習と学校制度）	○第 5 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 5 回】	生涯学習社会における学校制度のあり方	○第 6 回までに、担当論文や関連文献を読

		む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 6 回】	学校教育における選択の自由	○第 7 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 7 回】	人間社会の展望・課題と教育制度改革研究	○第 8 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 8 回】	変革期における学校教育制度の課題	○第 9 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 9 回】	教育制度をめぐる関係性	○第 10 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 10 回】	教育制度における公共性の変容と質の確保	○第 11 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 11 回】	学校教育制度の意義	○第 12 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 12 回】	揺らぐ教育の機会均等	○第 13 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 13 回】	諸外国における教育制度改革の争点	○第 14 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 14 回】	教育制度のアーティキュレーション	○第 15 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 15 回】	義務教育制度の分権化・弾力化と授業のまとめ	

1.授業コード（ナンバリング）	30021	2.科目名	学級経営学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	大学院　人間行動学研究科			9.履修学年	1・2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】様々な視点に基づく学級（ホームルーム）経営ついて多面的に考察することを通して、現場における実践力の向上を図る。 【概要】〇議論と対話、思索を通して、柔軟な思考力と多角的な視座を形成するとともに、リーダーシップの重要な要素であるコミュニケーション能力の向上を図る。 〇学級経営に係る諸課題とその克服のための方策について考究する。 ・学校は社会的な教育機関であるという特性のため、その社会の変化の影響を少なからず受ける。そしてそこから生じる課題とそれに対応するための柔軟な対応力が必要とされる。現在学校を取				
18.学習目標とＤＰとの関連	学修目標 ①　学級経営の基本概念と研究方法論を知る。 ②　研究課題に沿った、エビデンスと実践での情報収集及び分析を行う。 ③　学級におけるアセスメントの構造について、困っている子どもたちの特性から説明することができる。 ④　生徒指導上の諸問題について、困っている子どもたちの特性から説明することができる。 ⑤　教科指導と学級経営の課題について、説明することができる。 ⑥　AI や IT 技術に関する STEM（科学・技術・工学・数学）教育の世界と日本の現状について理解しマネジメントすることができる。 DP・ベンチマーク ①　専門分野における専門知識および研究法を理解することができる。 ②　専門分野における主要な分析方法を理解することができる。 ③　研究課題を企画し遂行することができる。				
19.教科書・教材	特別支援教育士認定協会編（2023）特別支援教育の理論と実践　第 4 版、金剛出版 第 3 巻　特別支援教育士の役割・実習				
20.参考文献					
21.成績評価	授業内の対話・交流・議論・発表等への参加姿勢　30% 課題の発見と解決に向けた幅広い行動力　30% 課題に対する読解力・思考力・判断力・表現力等の言語能力　40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 学級経営とは何か(文科省方針を踏まえて)	毎回の課題に対して、事前に考察し、文字化しておく。
第 2 回	学級におけるアセスメント①	
第 3 回	学級におけるアセスメント②	
第 4 回	学校園における学級経営の具体的方策①	

	学校・園における支援体制 I:通常の学級における支援 ①基礎的環境整備 ②合理的配慮	
第 5 回	学校園における学級経営の具体的方策② 学校・園における支援体制 I:通常の学級における支援 ①学習指導要領 ②教育課程 ③学級経営 AI や IT 技術に関する STEM（科学・技術・工学・数学）教育の世界と日本の現状について	
第 6 回	「いじめ」「不登校」についての理解と対応①　・講義：「いじめ」「不登校」の現状と理解	
第 7 回	「いじめ」についての理解と対応②　・講義：「いじめ」の具体的対応	
第 8 回	「不登校」についての理解と対応②　・講義：「不登校」の具体的対応	
第 9 回	学校・園における支援体制 II :通級による指導 ①通級による指導の制度の変遷 ②自立活動 ③自校通級・他校通級・巡回による指導	
第 10 回	学校・園における支援体制 II :通級による指導 ①通常の学級との連携 ②専門機関との連携 AI や IT 技術に関する STEM（科学・技術・工学・数学）教育の世界と日本の現状について	
第 11 回	生徒指導上の諸問題の理解と対応①　・講義：生徒指導上の諸問題と子どもたちの発達特性、困り感	
第 12 回	生徒指導上の諸問題の理解と対応②　・討議：発達特性に応じた生徒指導とは？	
第 13 回	保護者対応	
第 14 回	学校・園における支援体制 III :コーテ?ィネーターの役割とリソースの活用 ①チーム学校 ②特別支援教育コーディネーター ③校内委員会	
第 15 回	学校・園における支援体制 III :コーテ?ィネーターの役割とリソースの活用 ①特別支援教育支援員 ②地域リソースの活用	

1.授業コード（ナンバリング）	30022	2.科目名	臨床教育学特論Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	鳥居深雪				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	大学院　人間行動学研究科			9.履修学年	
10.取得資格の要件	この授業は、特別支援教育士養成セミナーポイント振替対象科目です	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	現在、特別な支援はすべての教育の場で取り組まれています。本授業では、発達の基礎理論を学んだ上で、発達障害に関する概論とアセスメントの基本について学びます。発達障害に関連して利用されることの多い、ウェクスラー系の知能検査や KABC-II などの特徴、検査結果の意味を理解できるようにします。多様な子どものニーズを把握するための包括的アセスメントを理解し、教育実践に活かすための理論を学びます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の (1)専門的知識 ・ 技能，(2)問題発見力，（3）調査分析能力，(5)問題解決策への提案力，（6）コミュニケーション能力，(7)倫理観，の学修に関連しています。				
19.教科書・教材	一般財団法人特別支援教育士資格認定協会　編（2023）特別支援教育の理論と実践　第 4 版 第 1 巻　概論・アセスメント、金剛出版 鳥居深雪（2020）改訂　脳からわかる発達障害　多様な脳・多様な発達・多様な学び、中央法規出版				
20.参考文献	関連する参考文献は授業の中で紹介します。				
21.成績評価	① 授業内での討論 40% ② 小レポート 30% ③ 最終試験 30%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 1 回　　オリエンテーション 授業の概要の説明 第 2 回　　発達理論の基礎 第 3 回　　アセスメント：生育歴・環境の把握 第 4 回　　アセスメント：発達と心理 第 5 回　　学力のアセスメント：読み書き、算数・数学 第 6 回　　学力のつまずき：LD のある子どもたち、評価のための検査 LD-SKAIP 等 第 7 回　　知的水準の評価：CHC 理論とウェクスラー式知能検査 第 8 回　　ウェクスラー式知能検査の結果の解釈 第 9 回　　KABC-II の基本的理解 第 10 回　検査結果から指導へ 第 11	教科書、PC その他,授業の中で指定します

1.授業コード（ナンバリング）	30023	2.科目名	言語習得特論Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	長瀬慶來				
5.授業科目の区分	【展開科目】	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	大学院人間行動学研究科 臨床教育学専攻			9.履修学年	M1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	多様化する社会、文化、言語 ：母語（L1）から複数の第二言語（L2×2）へ ～EU の CEFR（言語の学習、教授、評価のための欧州共通参照枠）にみられる 複言語・複文化主義に相応しい言語観・言語教育へ～				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 ①複言語主義・複文化主義について説明することができる。多様性理解 ②言語習得についての調査分析を実際に行うことができる。課題発見・課題解決能力 ③言語習得研究の成果を報告書としてまとめることができる。専門的知識・技能の活用力 複言語化および複文化化が進むグローバル化世界で、スタンダードとなりつつある、EU の 1＋2 の言語政策（L1＋L2×2 すなわち、母語に加えて外国語 2 カ国語を教授する EU の言語政策）は、日本の教育現場でも進行中の、子供たちの多様なニーズ、外国人子女・帰国子女の増加等、への対応のためのキー・コンセプトである。通常の言語指導から特別支援教育（特に、インクルーシブ教育）を含めた言語教育・言語習得の諸課題について社会文化的アプローチにより考察する。				
19.教科書・教材	教科書は受講者と相談したうえで指定する。				
20.参考文献	佐野富士子ほか『第二言語習得』大修館，1992. ビアリストク＆ハクタ『外国語はなぜなかなか身につかないか』新曜社，2000. スミス＆アロット　『チョムスキーの言語理論』新曜社，2019. その他の文献、参考図書は適宜授業中に紹介する。				
21.成績評価	担当時の発表　25%×2 回 最終レポート　50%				
22.コメント	言語習得論についての調査分析法を自分のものにするために、しっかりと課題に取り組んでください。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー　水曜日昼休み 研究室オフィスアワー　　木曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション 多様化する社会、文化、言語 ：母語（L1）から 複数の第二言語（L2×2）へ	○各回の授業におけるふりかえりを行う。
【第 2 回】	EU の CEFR（言語の学習、教授、評価のための欧州共通参照枠）にみられる複言語・複文化主義	
【第 3 回】	第一言語習得 1．母語の習得の特徴、プラトンの問題	
【第 4 回】	第一言語習得 2．母語の習得の特徴、臨界期仮説	
【第 5 回】	第一言語習得と第二言語習得 1．　類似点と相違点	

【第 6 回】	第一言語習得と第二言語習得 2．　普遍文法と言語習得装置	
【第 7 回】	インプット仮説、 アウトプット仮説、 インプット・アウトプット相互作用仮説	
【第 8 回】	言語習得における二角氷山仮説（Cummins）	
【第 9 回】	言語習得における障害　Genie の言語研究で分かったこと	
【第 10 回】	構音障害に対処するための Praat による音響・音声学的訓練 イントロダクション	課題 最終レポートの題目提出
【第 11 回】	構音障害に対処するための Praat による音響・音声学的訓練： ①母音	
【第 12 回】	構音障害に対処するための Praat による音響・音声学的訓練： ②子音	
【第 13 回】	構音障害に対処するための Praat による音響・音声学的訓練： ③リズム	
【第 14 回】	構音障害に対処するための Praat による音響・音声学的訓練： ④アクセント	
【第 15 回】	ふりかえり ①実技試験および最終レポートの提出	最終レポートの提出

1.授業コード（ナンバリング）	30024	2.科目名	フィールド演習 II	3.単位数	4
4.授業担当教員	川村光				
5.授業科目の区分	【展開科目】	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	調査研究の技法を修得するために、理論的に学習するとともにその技法を理解し、実際に量的調査を行ったり、質的調査を行ったりする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①量的・質的調査の基本知識について説明することができる。 ②調査表調査、観察、インタビュー、フィールドワークを実際に行うことができる。 ③調査の成果を報告書としてまとめることができる。 該当する専攻 DP ①専門知識・技能　②問題発見力　③調査分析能力　④論文作成能力　⑤課題解決への提案力 ⑥コミュニケーション力　⑦倫理観				
19.教科書・教材	教科書は受講者と相談したうえで指定する場合がある。				
20.参考文献	佐藤郁哉『社会調査の考え方〈上〉』東京大学出版会、2015 佐藤郁哉『社会調査の考え方〈下〉』東京大学出版会、2015 ※修士論文作成にあたり量的調査を行う場合は、上記２冊の内容を理解する必要があります（「フィールド演習Ｉ」履修者は学修済）。 佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992. 佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002. その他の文献、参考図書は適宜授業中に紹介する。				
21.成績評価	担当時の発表　25%×2 回 最終レポート　50%				
22.コメント	調査スキルを自分のものにするために、しっかりと課題に取り組んでください。				
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション ・授業の進め方、評価方法等のガイダンス	○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。（120 分）
【第 2-4 回】	社会調査におけるフィールドワーク ・第 2 回　フィールドワークとは何か ・第 3 回　フィールドワークの論理 ・第 4 回　フィールドワークの実際	○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。（各回 120 分）
【第 5-6 回】	観察する技術 ・第 5 回　対象との出会い、方法・技法の模索 ・第 6 回　問題発見	○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。（各回 120 分）
【第 7-8 回】	インタビューの技術 ・インタビューの技法についての学修	○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。（各回 120 分）
【第 9-10 回】	記録する技術 ・フィールドノーツの取り方など	○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。

		（各回 120 分）
【第 11-12 回】	記録から分析へ ・フィールドワークの記録の整理、分析手法	○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。（各回 120 分）
【第 13-14 回】	伝える技術 ・エスノグラフィーの技法	○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。（各回 120 分）
【第 15 回】	フィールドワークとは ・中間まとめ	○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。（120 分）
【第 16-27 回】	フィールドワーク ・フィールドワークとその検討	○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。（各回 120 分）
【第 28-30 回】	研究成果のまとめ ・第 28-29 回　研究成果報告の準備 ・第 30 回　研究成果の報告	○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。（各回 120 分） ★最終レポート提出

1.授業コード（ナンバリング）	30025	2.科目名	教職特別研究特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光				
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1・2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	教師のおかれている現状と彼らの抱える課題について実証的に考察し、教職について理解を深めるとともに、今後の学校教育の方向性について検討することができるようになるために、教職の意義、教師の役割、職務内容、力量形成、教師を取り巻く教育政策について、文献購読を行う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①教職の意義、教師の役割、仕事内容、力量形成のあり方、教師を取り巻く社会的状況について説明することができる。 ②論文の構造を理解し、それにもとづいたレポートを書くことができる。 該当する専攻 DP ①専門知識・技能　②問題発見力　④論文作成能力　⑤課題解決への提案力　⑥コミュニケーション力				
19.教科書・教材	テキストは使用しない。受講者と相談のうえ、輪読文献は適宜示す。				
20.参考文献	参考書・参考資料等は適宜授業中に紹介する。				
21.成績評価	担当時の発表　25%×2 回 最終レポート　50%				
22.コメント	毎回、課題論文について議論するので、事前にしっかりと課題論文を読んでおきましょう。				
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	授業の進め方、評価方法等のガイダンス	○次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 2 回】	教師のライフヒストリー	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 3 回】	教師の実践的思考とその伝承	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 4 回】	教職に何がおこっているのか？	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 5 回】	教師は何を期待されてきたか	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 6 回】	医療化としての「発達障害」	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 7 回】	協働の同僚性としての＜チーム＞	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 8 回】	教員集団内における教職アイデンティティの確保戦略	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 9 回】	学校への新しい専門職の配置と教師役割	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 10 回】	「教員の資質低下」という幻想	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表

		者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 11 回】	日本の教師と現代の教員制度改革	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 12 回】	教師教育改革の課題	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 13 回】	教育改革は本当に必要だったのか	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 14 回】	グローバリゼーションとカリキュラム	○復習を行う。(120 分) また次回の発表準備を行う。(360 分) また、最終発表に関する調査・データ整理を行う。(360 分)
【第 15 回】	これまでの復習と総括 調査分析結果の発表	○復習を行う。(120 分) ★最終レポート提出

1.授業コード（ナンバリング）	30026	2.科目名	発達障害教育特別演習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹				
5.授業科目の区分	展開科目 特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	大学院人間行動学研究科			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】具体的なテーマに沿った実践研究を行うことにより、発達障害に関する分野での実践・研究に必要となる現場体験及び文献講読による実践分析力と研究方法のと習得をめざす。 【概要】発達障害児における現場での課題と心理・教育学的に検討するための具体的方法論を知り、また最新の研究動向を知る中で、現在の発達障害教育の教育課題に対するエビデンスの収集と問題のたて方と研究方法を学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	学修目標 ①　発達障害教育学の基本概念と研究方法論を知る。 ②　研究課題に沿った、エビデンスと実践での情報収集及び分析を行う。 ③　修士論文に向けた研究課題設定を行うことができる。 DP・ベンチマーク ①　専門分野における専門知識および研究法を理解することができる。 ②　専門分野における主要な分析方法を理解することができる。 ③　研究課題を企画し遂行することができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	実践での分析結果の発表：50% 最終レポート　：50%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・オリエンテーション　・授業の進め方	★次回までに、自身の研究主題にあった発達障害に関する海外文献を 3 つ探索し、日本の論文と比較するための準備
第 2 回	・実践体験と分析(1)　・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表①	★実践体験及び調査のためのフィールドを確保し、課題の分析を行う。
第 3 回	・実践体験と分析(2)　・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表②	★実践体験及び調査のためのフィールドを確保し、課題の分析を行う。
第 4 回	・実践体験と分析(3)　・特別支援教育現場での実践報告	★実践体験及び調査のためのフィールドを確

	と分析 ○海外論文発表③	保し、課題の分析を行う。
第 5 回	・実践体験と分析(4) ・特別支援教育現場での実践 ○海外論文発表④	★実践体験及び調査結果等の報告のまとめを次回までに行う。
第 6 回	・実践体験と分析(5) ・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑤	★実践体験及び調査結果等の報告のまとめを次回までに行う。
第 7 回	・実践体験と分析(6) ・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑥	★実践体験及び調査結果等の中間報告のまとめを次回までにＰＰＴで準備する。
第 8 回	・実践体験と分析(7) ・中間報告 ○中間報告会と議論、検討、課題と問題解決	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。
第 9 回	・実践体験と分析(8) ・特別支援教育現場での実践報告 ○海外論文発表⑦	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。
第 10 回	・実践体験と分析(9) ・特別支援教育現場での実践報告 ○海外論文発表⑧	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。
第 11 回	・実践体験と分析(10) ・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑨	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。
第 12 回	・実践体験と分析(11) ・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑩	★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。
第 13 回	・個人の発表と討議(12) ・分析結果のまとめ	★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。
第 14 回	・個人の発表と討議(13)　・分析結果のまとめ	★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。
第 15 回	・個人の発表と討議(14) ・最終報告	

1.授業コード（ナンバリング）	30031	2.科目名	特別支援教育特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	花熊暁				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	大学院　人間行動学研究科			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	我が国ではいま、誰もが相互に人格と個性を尊重しあい、人々の多様なあり方を相互に認め合える全員参加型の社会である「共生社会」の形成が国家的な目標とされています。そうした社会を形成していくためには、学校教育においてインクルーシブ教育システムを構築することが重要であり、そのためには特別支援教育を着実に進めていく必要があります。 本授業では、障がいの捉え方の歴史的変遷と現在の障たいの捉え方の理解をもとに、特別支援教育が求められた背景、特別支援教育のシステムと支援の基本（基礎的環境整備と合理的配慮）、特別支援教				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ）の（1） 専門的知識・技能、(2) 問題発見力、(5) 問題解決策への提案力、(7) 倫理観、の学修に関連しています。 （１） 障がいの捉え方の歴史的変遷と現在の障がいの捉え方（ICF,2001）を述べることができる。 （２） 特別支援教育が求められた背景と特別支援教育の最新の動向について説明できる。 （３） インクルーシブ教育システムの理念と基礎的環境整備、合理的配慮について説明できる。 （４） 学校・園における特別支援教育の体制づくりと支援者の役割、支援者に必要な専門性と倫理について説明できる。 （５） LD、ADHD、ASD、DCD 等の発達障害の定義と状態像と支援の基本を述べることができる。 （６） 長期的な観点に立った支援と移行支援の必要性について説明できる。 （７） 特別支援教育と発達障害支援の今後の課題を述べることができる。				
19.教科書・教材	特別支援教育の理論と実践　第１巻「概論・アセスメント」　金剛出版　2023 年. このほか、教員が作成した資料を、毎回の授業で配布します。				
20.参考文献	必要に応じて、授業で文献を紹介します。				
21.成績評価	① 授業内の討論　30% ② 内容理解確認のための小テスト　40% ④ 最終ｔレポート　30%				
22.コメント	特別支援教育の理念、システム、対象児、具体的な支援内容を理解する上での基礎となる授業内容なので、それらの基本概念をしっかり把握してください。				
23.オフィスアワー	非常勤講師のためオフィスアワーなし。質問等は、授業時及びメールで受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	◇ 障がい支援の動向 ・講義　①「障害」の捉え方の歴史的変遷 ②　いま、障がい支援に求められること	
【第２回】	◇ 学校教育の今日的課題	

	・講義　①特別支援教育の理念 ②特別支援教育が求められる背景 ③特別支援教育と通常の教育の関連性	
【第 3 回】	◇「特殊教育」から「特別支援教育」へ ・講義　特別支援教育の歴史	
【第 4 回】	◇ 特別支援教育の理念とシステム ・講義　①特別支援教育の理念と意義 ②特別支援教育のシステムの全体像	
【第 5 回】	◇ 特別支援教育の展開　その 1 ・講義　①学校における特別な教育ニーズの実態把握 ②個に応じた支援を必要とする子どものアセスメント	
【第 6 回】	◇ 特別支援教育の展開　その 2 ・講義　学校・園における支援体制	
【第 7 回】	◇ 特別支援教育の展開　その 3 ・講義　個別の指導計画の作成	
【第 8 回】	◇ 特別支援教育の展開　その 4 ・講義　個別の教育支援計画の作成 ・討論　個別の教育支援計画がなぜ必要なのか	
【第 9 回】	◇ 特別支援教育の展開　その 5 ・講義　① 関係機関（医療、福祉、労働）との連携 ② 移行支援	
【第 10 回】	◇ 発達障害の理解 ・講義　①発達障害とは ②発達障害の歴史 ③発達障害を巡る動向	
【第 11 回】	◇ LD（学習障害）概論 講義　① LD の定義 ② LD の状態像と支援の基本	
【第 12 回】	11-2.授業内容 ◇ ADHD（注意欠如多動症）概論 講義　① ADHD の定義と状態像 ② ADHD の支援の基本	
【第 13 回】	◇ ASD（自閉スペクトラム症）概論 講義　① ASD のの定義と状態像 ② ADHD の支援の基本	

【第 14 回】	◇ DCD（発達性協調運動症） 及び、発達障害の周辺にいる子どもたち 講義　① DCD の理解と支援 ② 発達障害の周辺にいる子どもたちの理解と支援	
【第 15 回】	◇ まとめ：特別支援教育と発達障害支援の今後の課題 ① 支援対象の拡大（ギフテッド、２E 等） ② 支援システム面の課題	

1.授業コード（ナンバリング）	30032	2.科目名	修士論文指導	3.単位数	8
4.授業担当教員	中尾繁樹				
5.授業科目の区分	展開	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	大学院人間学行動科			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					

17.授業の目的と概要

修論のテーマに関する先行研究について年表を作成する。
テーマを絞り込んで未解決の問題を明確化する。
先行研究の文献をもとに仮説を検討する。
仮説を検証する方法（または目的を達成する方法、問題を解明する方法）を絞り込む。
修論提出までの修論の計画を明確にする。
データを収集する手続きを記述する。
手続に従ってデータ収集を行う。
データの処理計画を立案する。
データ処理をしながら問題と目的、方法を書き始める。
作成した文章について、校閲、訂正、提出する。
データの入力と統計処理等を行う。研究の目的に合致した結

18.学習目標とＤＰとの関連

＜学習目標＞　＜目標とするベンチマーク＞

１．研究テーマに関する先行研究のレビューをする力をつける。（①知、②情、③思、④プ、⑤話）

２．解明したい問題と目的を絞り込んで明確化する力をつける。（②情　）

３．目的を達成するための科学的方法論を修得する。（①知、③思　）

４．科学的なデータを収集する方法を修得する。（①知、③思　）

５．データを処理し、分析する方法を習得する。（①知、③思　）

６．処理し、分析したデータを目的に沿って整理する方法を習得する。（①知、③思　）

７．整理したデータを問題と目的に照らして解釈し、なぜそのような結果が得られたのか、考察する力を修得する。そして、研究上の問題点や今後の課題を明確にする力を修得する。（①知、③思　）

８．問題と目的、方法、結果、考察、今後の課題、要約、引用文献の論文構成にしたがって、論理的論文を書く力を修得する。（③思、④プ、⑤話、⑥書く　）

９．与えられた時間内で発表できるプレゼンテーション用パワポの資料と、発表用の原稿をまとめる力を修得する。（③思、④プ　）

１０．原稿を見ないで発表する力を修得する。（④プ、⑤話　）

１１．質疑に応答する力を修得する。（⑤話　）

①知的好奇心、②情報収集／発見力、③思考／判断力、④プレゼンテーション／表現力、⑤聞く・話す力／意見交換力、⑥論理的な文章を書く力を習得する。

19.教科書・教材	
20.参考文献	
21.成績評価	1．先行研究のレビューがきちんとできているか 2．問題から目的までの記述が論理的であるか 3．目的を達成する方法とその記述が適切か 4．結果の処理は間違いないか 5．結果の表現方法は適切か 6．考察は「なぜその結果が得られたか」の論理的説明が先行研究との関連の中で記述されているか 7．まとめ（要約）は、問題と目的、結果、考察が簡潔に記述されているか 8．引用文献が記載ルールに従って記載されているか 9．謝辞がきちんと記述されているか ★論文のレベルが修論として認められるレベルに達しているか 修士論文　6
22.コメント	
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス（修論が完成するまでの課題と作業），修論の位置づけ，科学とは？研究とは？	課題 A－1（次週まで）＞次回までに研究したいこと（研究テーマ）とそれに関係する先行研究の年表（1）の作成と発表の準備。 ＜課題 B－1（次週まで）＞自閉症の睡眠に関する英論文（1）を手渡すので、次週までに訳せるところまで訳して発表する準備。
第 2 回	①＜課題（1）＞と＜課題（2）＞の発表と討論，②先行研究のレビューの意味とその重要性、③研究の方法論	＜課題 A－2（次週まで）＞先行研究の年表の作成（2）の作成と発表の準備。 ＜課題 B－2＞英論文（1）の残りの部分の翻訳と発表原稿の作成。
第 3 回	①＜課題（3）＞と＜課題（4）＞の発表と討論，②研究の方法論，③何を研究したいのか？研究の意義は？	＜課題 A－3＞先行研究の年表の作成（3）の作成と発表の準備。 ＜課題 B－3＞英論文（1）の残りの部分の翻訳と発表原稿の作成。
第 4 回	①＜課題（3）＞と＜課題（4）＞の発表と討論，②研究の方法論，③テーマの絞り込みと未解決の問題の明確化。 　自閉症に特有の睡眠障害があるのか？あるとすればその理由は？他の障害にも類似の睡眠障害はないのか？あるかないかを明らかにする方法は？clumsy のある自閉症はない自閉症より睡眠障害が多い事実は見つかっているのか？そういう先行研究はあるのか？もし、先行研究があるなら、研究の新規性は？もしまだ、誰も気づいていないとするなら、その事実は臨床経験的なものか、それとも一定数のデータが収集されているのか？もし、	＜課題 A－4＞先行研究の年表の作成（4）の作成と発表の準備。 ＜課題 B－4＞英論文（1）の完訳原稿の作成。 ＜課題 C－1＞英論文（1）の要約原稿の作成（◎◎参照） ＜課題 C－2＞英論文（2）を手渡すので、「アブストラクト」の翻訳原稿を作成。

第 5 回	①英論文（１）について、＜課題 C－１＞の資料をもとに、問題と目的、方法、結果、考察について討論する。 ②＜課題 C－２＞の英論文（２）のアブストラクトを発表し、研究を推測する。③自己の研究テーマを先行研究と関連付ける。	＜課題 A－５＞先行研究の年表作成。 ＜課題 B－５＞英論文（２）の翻訳原稿の作成。
第 6 回	①＜課題 B－５＞の英論文（２）の翻訳原稿をもとに研究の討論を行う。②自閉症の睡眠に関して何を調べるのかを絞り込み、データを入手する方法を検討する。	＜課題 B－６＞英論文（２）の翻訳を完成する。次週発表。 ＜課題 C－４＞英論文（２）の要約原稿の作成。
第 7 回	①＜課題 B－６＞の英論文（２）と＜課題 C－４＞の英論文（２）の要約をもとに研究を紹介し、研究の内容について討論し自己の研究と関連付ける。②自己の研究のデータ収集の方法を検討する。	
第 8 回~第 15 回	【8 回】～【15 回】第２回～第７回までやってきたことを中心に実施していく。①先行研究を読み続けて、まとめ、先行研究の年表に位置づける。②英論文を全訳するのは３論文までで良い。４論文目からは読んだ先行研究は A４用紙１～２枚に「発表者（自分の名前）と発表年月日、論文の著者名、発表年、論文名、掲載学術誌名、巻(号)、頁、問題と目的、方法、結果、考察、主要文献」をまとめる。③英論文をめとめて、それを発表するたびに、研究の方法と論文構成・の書き方を習得する。④先行研究をもとに自分の研究の仮説を検討する。④仮説を検証	データ整理
第 16 回~第 30 回	【16 回】～【30 回】 ①先行研究の文献を読み続け、１編読みこなすたびに、その論文を自分の研究テーマに関する研究の年表に付け加える。 ②修論の提出までの課題と作業をそれをこなしていくスケジュールを確認する。 ②データ収集の手続に従ってデータ収集を続ける。 ④データの処理計画を立案し、データをエクセルか SPSS のシートに入力し続ける。できれば統計処理の準備もしておく。 ⑤データ処理をしながら問題と目的、方法を書き始める。書いたところから持ってくる。 ⑥書いて持ってきた文章に手を入れて返却する。手を入れられた	データのまとめと執筆

1.授業コード（ナンバリング）	30036	2.科目名	実践課題研究指導		3.単位数	8
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院人間学行動科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	実践課題のテーマに関する先行研究について年表を作成する。 テーマを絞り込んで未解決の問題を明確化する。 先行研究の文献をもとに仮説を検討する。 仮説を検証する方法（または目的を達成する方法、問題を解明する方法）を絞り込む。 課題研究提出までの計画を明確にする。 データを収集する手続きを記述する。 手続に従ってデータ収集を行う。 問題と目的、方法を書き始める。 作成した文章について、校閲、訂正、提出する。 研究の目的に合致した結果を残し、グラフ等を作成する。 他の実践研究と比較しながら、なぜその結果が得られ					
18.学習目標とＤＰとの関連	＜学習目標＞ ＜目標とするベンチマーク＞ １．研究テーマに関する先行研究のレビューをする力をつける。①知、②情、③思、④プ、⑤話） ２．解明したい問題と目的を絞り込んで明確化する力をつける。　（②情　　） ３．目的を達成するための科学的方法論を修得する。　（①知、③思　　） 4．データを処理し、分析する方法を習得する。　（①知、③思　　） 5．整理したデータを問題と目的に照らして解釈し、なぜそのような結果が得られたのか、考察する力を修得する。そして、研究上の問題点や今後の課題を明確にする力を修得する。（①知） 6．問題と目的、方法、結果、考察、今後の課題、要約、引用文献の論文構成にしたがって、論理的論文を書く力を修得する。　（③思、④プ、⑤話、⑥書く　） 7．与えられた時間内で発表できるプレゼンテーション用パワポの資料と、発表用の原稿をまとめる力を修得する。　（③思、④プ　） 8．質疑に応答する力を修得する。　（⑤話　）					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	１．先行研究のレビューがきちんとできているか ２．問題から目的までの記述が論理的であるか ３．目的を達成する方法とその記述が適切か ４．結果の処理は間違いないか ５．結果の表現方法は適切か ６．考察は「なぜその結果が得られたか」の論理的説明が先行研究との関連の中で記述されているか					

	7．まとめ（要約）は、問題と目的、結果、考察が簡潔に記述されているか 8．引用文献が記載ルールに従って記載されているか 9．謝辞がきちんと記述されているか 実践課題研究のまとめ　６０％ 発表　　３０％ 研究計画他１０％
22.コメント	
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス（実践課題研究が完成するまでの課題と作業），実践課題研究の位置づけ，科学とは？研究とは？	課題 A－１（次週まで）＞次回までに研究したいこと（研究テーマ）とそれに関係する先行研究の年表（１）の作成と発表の準備。
第 2 回	①＜課題（１）＞と＜課題（２）＞の発表と討論，②先行研究のレビューの意味とその重要性、③研究の方法論	＜課題 A－２（次週まで）＞先行研究の年表の作成（２）の作成と発表の準備。
第 3 回	①＜課題（３）＞と＜課題（４）＞の発表と討論，②研究の方法論，③何を研究したいのか？研究の意義は？	＜課題 A－３＞先行研究の年表の作成（３）の作成と発表の準備。
第 4 回	①＜課題（３）＞と＜課題（４）＞の発表と討論，②研究の方法論，③テーマの絞り込みと未解決の問題の明確化。	＜課題 A－４＞先行研究の年表の作成（４）の作成と発表の準備。
第 5 回	①実践内容（１）について、問題と目的、方法、結果、考察について討論する。	＜課題 A－５＞先行研究の年表作成。
第 6 回	①実践内容について（２）実践研究のテーマに関して何を調べるのかを絞り込み、データを入手する方法を検討する。	
第 7 回	①実践内容の検討①研究の内容について討論し自己の研究と関連付ける。②自己の研究のデータ収集の方法を検討する。	
第 8 回~第 15 回	【8 回】～【15 回】第 2 回～第 7 回までやってきたことを中心に実施していく。①先行研究をもとに自分の研究の仮説を検討する。②仮説を検証する方法（または目的を達成する方法、問題を解明する方法）を絞り込む。③実践課題提出までの計画を明確にする。④課題に沿った実践を行う。⑦データ処理の方法を記述する。データ収集を開始する。⑧実践家だ研究の中間発表に向けて問題と目的、方法まで（データの収集が進んでいる場合には結果まで）をパワーポイントでプレゼンテーション用のスライド資料と読みの原稿を作成し、提出する。中間発表で指摘	データ整理
第 16 回~第 30 回	【16 回】～【30 回】 ①先行研究の文献を読み続け、１編読みこなすたび	データのまとめと執筆

	に、その論文を自分の研究テーマに関する研究の年表に付け加える。 ②実践課題研究の提出までの課題と作業をそれをこなしていくスケジュールを確認する。 ②データ収集の手続に従ってデータ収集を続ける。 ④データの処理計画を立案し、データをエクセルかSPSS のシートに入力し続ける。できれば統計処理の準備もしておく。 ⑤データ処理をしながら問題と目的、方法を書き始める。書いたところから持ってくる。 ⑥書いて持ってきた文章に手を入れて返却する。手を入	

1.授業コード（ナンバリング）	30041	2.科目名	人間行動学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	大学院人間行動学研究科			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	この授業は、特別支援教育士養成セミナーポイント振替対象科目です	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義及び演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	特別な教育ニーズがあり，個に応じた配慮 ・ 支援を必要とする幼児児童生徒の教育支援にあたると き，最初に課題となるのが行動面の困難への対応です。子どもたちが様々な行動上の問題を引き起こすとき、大人から見た「困った行動」は子どもにとってどのような意味があるのかを考える必要があります。本授業では、さまざまな子どもの行動について、その理解と支援の基本について学びます。さらに、発達障害を中心に，行動面の困難に対して適切に支援できる力を身につけていくようにします。そのような子どもたちの支援の方法として、UD,ABA				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の(1)専門的知識 ・ 技能，(2)問題発見力，（3）調査分析能力，(5)問題解決策への提案力，（6）コミュニケーション能力，(7)倫理観、の学修に関連しています。 (1)　行動面の問題の具体像について知る。 (2)　行動面の問題が生じるメカニズムについて述べることができる。 (3)　応用行動分析の基本的な考え方について説明できる。 (4)　行動面の問題への基本的な指導について述べることができる。 (5)　LD，ADHD，ASD，DCD 等の行動上の困難と支援の基本を説明できる。 (6)　行動面の問題の具体的事例について、支援方法を考えることができる。				
19.教科書・教材	一般財団法人特別支援教育士資格認定協会　編（2023）特別支援教育の理論と実践　第 4 版、第 2 巻　指導、金剛出版				
20.参考文献	関連する参考文献は授業の中で紹介します。				
21.成績評価	①　授業内での討論及び事前学習 40% ②　小課題　30% ③　最終課題　30%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	木曜 4 限（研究室）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 「行動面の困難」とは何か	◆ノートパソコン◆ 教科書 第 2 回以降は授業の中で指定します
第 2 回	行動面の困難の包括的アセスメント	
第 3 回	応用行動分析（ABA）の基本	
第 4 回	「強化」と機能的アセスメント	
第 5 回	行動変容の方法	
第 6 回	脳機能から理解する ADHD のある子どもたち	
第 7 回	脳機能から理解する ASD のある子どもたち	

第８回	発達障害のある子どもたちへの支援：学校場面における環境調整と関わり方	
第９回	個に応じた支援と合理的配慮：UD の教育	
第１０回	個に応じた支援と合理的配慮：ICT の活用	
第１１回	保護者や関係機関との連携	
第１２回	ライフサイクルから見た発達障害	
第１３回	社会的自立・就労の指導	
第１４回	セルフアドボカシー	
第１５回	授業全体の振り返り まとめ	

1.授業コード（ナンバリング）	30042	2.科目名	人間行動学演習	3.単位数	4
4.授業担当教員	中尾繁樹				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	大学院人間行動学研究科			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】具体的なテーマに沿った文献購読を行うことにより、特別支援教育学の分野での研究に必要となる概念と研究方法論のと習得をめざす。 【概要】特別支援教育学の基本的な文献の輪読と、独学の系譜に関する文献の購読を通し、「特別支援教育」を心理・教育学的に検討するための方法論を知り、また最新の研究動向を知る中で、現在の特別支援教育の教育課題に対する教育学からの問題のたて方と研究方法を学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	１．学習目標 ①　特別支援教育学の基本概念と研究方法論を知る。 ②　先行研究の概要についてまとめ、具体的で明確に発表することができる。 ③　修士論文に向けた研究課題設定を行うことができる。 ２．DP/ベンチマーク 「論文理解能力」 ①　専門分野における専門知識および研究法を理解することができる。 ②　専門分野における主要な論文を理解することができる。 「研究課題遂行能力」 ③　研究課題を企画し遂行することができる。 「批判能力」 ①関連する学術論文を批判的に読むことができる。				
19.教科書・教材	教科書は使用しない。適宜文献を紹介する。				
20.参考文献					
21.成績評価	文献の発表：20％ 中間（春学期終了時）レポート：30％ 最終レポート　：50％				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回、第 2 回	オリエンテーション　・授業の進め方 ・海外文献の読み方	研究計画書の作成を進める
第 3 回、第 4 回	・個人の発表と討議(1) (2)・特別支援教育学の文献購読	研究内容に関する文献を探し、発表の準備をする。
第 5 回、第 6 回	・個人の発表と討議(3)(4) ・特別支援教育学の文献購読	研究内容に関する文献を探し、発表の準備をする。
第 7 回、第 8 回	・個人の発表と討議(5)(6) ・特別支援教育学の文献購読	研究内容に関する文献を探し、発表の準備をする。

第 9 回、第 10 回	・個人の発表と討議(7)(8) ・特別支援教育学の文献購読	研究内容に関する文献を探し、発表の準備をする。
第 11 回、第 12 回	・個人の発表と討議(9)(10) ・特別支援教育学の文献購読	研究内容に関する文献を探し、発表の準備をする。
第 13 回、第 14 回	・個人の発表と討議(11)(12) ・特別支援教育学の文献購読	研究内容に関する文献を探し、発表の準備をする。
第 15 回、第 16 回	・研究計画書の見直しと個人のテーマの確定に関する指導	研究内容に関する文献を探し、発表の準備をする。
第 17 回、第 18 回	・研究計画書の見直しと個人のテーマの確定に関する指導	研究内容に関する文献を探し、発表の準備をする。
第 19 回、第 20 回	・個人の発表と討議(13)(14) ・特別支援教育学の文献購読	研究内容に関する文献を探し、発表の準備をする。
第 21 回、第 22 回	・個人の発表と討議(15)(16) ・特別支援教育学の文献購読	研究内容に関する文献を探し、発表の準備をする。
第 23 回、第 24 回	・個人の発表と討議(17)(18) ・特別支援教育学の文献購読	研究内容に関する文献を探し、発表の準備をする。
第 25 回、第 26 回	・個人の発表と討議(19)(20) ・特別支援教育学の文献購読	研究内容に関する文献を探し、発表の準備をする。
第 27 回、第 28 回	・個人の発表と討議(21)(22) ・特別支援教育学の文献購読	研究内容に関する文献を探し、発表の準備をする。
第 29 回、第 30 回	・個人の発表と討議 ・個人のテーマにそって発表を行い。修士論文に向けての最終調整を行う。	

1.授業コード（ナンバリング）	30051	2.科目名	教育学特論Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子				
5.授業科目の区分	【基礎科目】	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	教育学の領域のうち、とくに人間発達の初期にある子どもを対象とする家庭教育や家族の問題を扱います。 具体的には次の内容を扱います。 ①近代家族及び教育家族の特徴とその成立過程 ②現代日本の子どもの育ちの困難の実態とその背景 ③現代日本の家族の実態と問題				
18.学習目標とＤＰとの関連	①教育の最初の段階である家庭教育の歴史に関して社会史的な理解ができる。 ②教育家族の成立が、現代日本の子どもの育ちの困難とどのように関係しているかを分析できる。 ③現代日本の幼児・初等教育の実態と問題を説明し、解決の道筋を示すことができる。				
19.教科書・教材	輪読文献を適宜示します。				
20.参考文献	参考文献、参考図書は適宜授業中に紹介します。				
21.成績評価	最終レポート　50% 担当時の発表　50%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法等のガイダンスを行う	○輪読文献を読んでくる（240 分）
【第２回】	Ⅰ近代家族とは何か；近代家族とはどのような特徴をもった家族かを知る	○輪読文献を読んでくる（240 分）
【第３回】	Ⅰ近代家族の誕生と変化；日本で近代家族がどのように成立してきたかを知る	○輪読文献を読んでくる（240 分）
【第４回】	Ⅰ近代家族と教育家族；日本における近代家族の成立が、教育家族となっていくプロセスを知る	○輪読文献を読んでくる（240 分）
【第５回】	Ⅰ教育家族の問題；教育家族が現代の教育にどのような影響を与えているかを知る	○輪読文献を読んでくる（240 分）
【第６回】	Ⅱ現代日本の子どもの育ちの問題の現状を知る（不登校、少年非行、引きこもり等）	○輪読文献を読んでくる（240 分）
【第７回】	Ⅱ現代日本の子どもの育ちの問題の現状を知る（不登校、少年非行、引きこもり等）	○輪読文献を読んでくる（240 分）
【第８回】	Ⅱ現代日本の子どもの育ちの問題の現状を知る（不登校、少年非行、引きこもり等）	○輪読文献を読んでくる（240 分）

【第９回】	Ⅲ現代日本の子どもの育ちの困難に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでくる（240 分）
【第１０回】	Ⅲ現代日本の子どもの育ちの困難に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでくる（240 分）
【第１１回】	Ⅲ現代日本の子どもの育ちの困難に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでくる（240 分）
【第１２回】	Ⅳ現代日本の家族問題に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでくる（240 分）
【第１３回】	Ⅳ現代日本の家族問題に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでくる（240 分）
【第１４回】	Ⅳ現代日本の家族問題に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでくる（240 分）
【第１５回】	子どもの育ちの困難と家庭教育の問題に関するまとめを行う	○最終レポートに向けてまとめを行う（240 分）

1.授業コード（ナンバリング）	30061	2.科目名	幼小連携・持続特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹、椋田善之、百瀬和夫				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	「小１プロブレム」という言葉で指摘されるように、保育所や幼稚園から小学校に進学した１年生が座って勉強することができずに立ち歩いたり教師に入れなかったりして学校生活になじめない状況が生まれています。これらの課題を改善していくためには、入学当初の「スタートプログラム」の工夫や学校生活へのスムーズな適応のために生活習慣の育成をどのように行っていくかなど、教科学習への橋渡しを目指しつつ幼児教育との学びの連続性を図るためには、幼小の連携なくしてできることはありません。そしてその連携のために、子どもたちの発達と特性の				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ）の（1） 専門的知識・技能、(2) 問題発見力、(5) 問題解決策への提案力、の学修に関連しています。 （１） 「小１プロブレム」について説明することができる。 （２） 困っている子どもたちの特性について理解し、説明することができる。 （３） 幼児教育の目的と目標、小学校教育の目的と目標、それぞれ立場から説明することができる。 （４） 幼児教育と小学校教育との連携に関して、その諸課題について理解しマネジメントすることができる。				
19.教科書・教材	特定の教科書は用いません。独自に作成した資料や参考資料を授業の度ごとに配布します。 （参考文献）授業の内容に沿って、参考図書を紹介します				
20.参考文献					
21.成績評価	① 授業内の討論 40% ② 内容理解確認のための課題 20% ③ 小レポート（討議の準備） 20% ④ 最終課題 20%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
中尾担当	◇子どもたちの発達の理解① ・講義：幼児（０～２歳）の発達について＜感覚と愛着他＞	
中尾担当	◇子どもたちの発達の理解② ・講義：幼児（３～４歳）の発達について<粗大運動と微細運動他>	
中尾担当	◇子どもたちの発達の理解③ ・講義：幼児（５～６歳）の発達について＜感覚の統合と協調他＞	
中尾担当	◇子どもたちの発達と学校生活への適応 ・講義：支援の必要な子どもの理解と学校生活への適応	
中尾担当	◇子どもたちの発達と教科学習 ・講義 支援の必要	

	な子どもの理解と教科学習の工夫	
椋田担当	◇子どもたちの発達と援助の在り方：乳幼児（０～２歳）の保育について	
椋田担当	◇子どもたちの発達と援助の在り方：幼児（３～４歳）の保育について	
椋田担当	◇子どもたちの発達と援助の在り方：幼児（5~6 歳）の保育について	
椋田担当	◇幼・小連携のポイントについて①　・討議：幼児教育から見た連携のポイントとは？	
椋田担当	◇幼児教育の目的と目標　・講義：保育指針・幼稚園学習指導要領を読み解く	
百瀬担当	◇「小１プロブレム」について①　・講義：「小１プロブレム」の実態と背景	
百瀬担当	◇「小１プロブレム」について②　・討議：「小１プロブレム」への対応をいかに進めるか？（幼児教育でできること小学校教育でできること）	
百瀬担当	◇幼、小連携のポイントについて②　・討議：小学校教育から見た連携のポイントとは？	
百瀬担当	◇小学校教育の目的と目標　・講義：小学校学習指導要領を読み解く	
百瀬担当	◇まとめ：ふり返り＆幼小連携今後の課題	

1.授業コード（ナンバリング）	41001	2.科目名	看護研究方法論	3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子、松尾ひとみ				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士前期課程			9.履修学年	大学院 1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 看護実践を行う上での看護研究の意義を学び、看護実践の開発に向けた研究課題を明確にする視点を養う。 【概要】 看護学研究の特徴と倫理性を理解し、研究活動に必要な研究方法を学修する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学修目標】 1.看護研究の意義と研究プロセスを説明できる。 2.因子探索研究・関係探索研究・実験研究の研究デザインを説明できる。 3.調査方法を説明できる。 4.研究論文のクリティークができる。 5.看護研究に必要な倫理的配慮を説明できる。 本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(5)課題解決への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。				
19.教科書・教材	D.F.ホーリット、B.F.ハングラー(近藤潤子監訳)、看護研究-原理と方法-、医学書院 ホロウェイ、ウィラー(野口美和子監訳)、ナースのための質的研究入門				
20.参考文献	講義野中で適宜紹介する。 北素子,谷津裕子,質的研究の実践と評価のためのサブストラクション,医学書院.				
21.成績評価	プレゼンテーション３０％ 課題レポート５０％(授業内容に※印で記載した課題) 演習２０％				
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。事前学習に真摯に取り組み、研究計画書の作成方法を習得していきましょう。				
23.オフィスアワー	高見沢恵美子：火曜日 12:10～13:10　メディアライブラリー				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 4 月 6 日(木)3 限	看護研究のプロセス・研究のエビデンスと Evidence-based practice(EBP)(高見沢)	◇ノートパソコンを持参すること。 〇5 章
第 2 回 4 月 4 日(木)3	国内外のデータベース検索・文献リストの作成(藪本)	

限		
第 3 回 4 月 4 日(木)4 限	国内外のデータベース検索・文献リストの作成(藪本)	○3 章・27 章
第 4 回 4 月 13 日(土)3 限	＊研究デザイン①因子探索研究(高見沢) 【webclass ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ授業】因子探索研究(高見沢) 【ZOOM 遠隔授業】因子探索研究プレゼンテーション・ディスカッション	○8 章
第 5 回 4 月 27 日(土)3 限	＊研究デザイン②関係探索研究(高見沢) 【webclass ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ授業】関係探索研究(高見沢) 【ZOOM 遠隔授業】関係探索研究プレゼンテーション・ディスカッション	
第 6 回 4 月 27 日(土)4 限	＊研究デザイン③実験・準実験研究(高見沢) 【webclass ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ授業】実験・準実験研究(高見沢) 【ZOOM 遠隔授業】実験・準実験研究プレゼンテーション・ディスカッション	○10 章
第 7 回 5 月 11 日(土)3 限	＊調査方法(高見沢)	○15 章･16 章･17 章･18 章
第 8 回 5 月 11 日(土)4 限	＊研究論文のクリティーク(高見沢)	○26 章
第 9 回 5 月 25 日(土)3 限	研究計画書作成の基本(高見沢)	○25 章
第１０回 5 月 30 日(木)3 限	質的研究とは何か　(松尾) １）　質的研究と量的研究の違い ２）　(看護)現象と概念	
第１１回 6 月 8 日(土)3 限	質的研究の種類　(松尾) １）　研究疑問の違い ２）　データ収集方法の違い ３）　分析の違い	
第１２回 6 月 13 日(木)3 限	質的研究の妥当性(松尾) 質的研究のクリティーク	
第１３回 6 月 22 日(土)3 限	質的研究における看護倫理(松尾)	

第１４回 6 月 27 日(木)3 限	質的研究のクリティーク(松尾) 　　グループワーク	
第１５回 7 月 6 日(土)3 限	質的研究のクリティーク(松尾) 　　グループワーク	

1.授業コード（ナンバリング）	41002	2.科目名	看護理論	3.単位数	2
4.授業担当教員	蛭子真澄、畑吉節未				
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	看護理論が看護実践の言語化（他者への説明）や看護学の知識体系の発展に必要である理由を深く理解し、看護理論の歴史、類型、内容に関する知識を獲得する。さらに学生は、関心領域において特定の概念を説明することができ、関心のある少なくとも１つの理論を自らの実践を説明する道具として正しく使うことができ、看護実践の改善に活用できる。				
18.学習目標とＤＰとの関連	高度看護専門職業人としての看護学についての知識を深め、研究への基盤を構築する。				
19.教科書・教材	授業前に配布する				
20.参考文献					
21.成績評価	発表や討議の内容（50%）およびレポート提出（50%）を総合して評価する。				
22.コメント	１．各種看護理論について関心を持ち、理論の違いを理解し、今後進めていく修士論文の基盤として活用する。 ２．プレゼンテーションのために文献検索、レビュー、まとめを学生は自律的に行う				
23.オフィスアワー	畑　：センターオフィスアワー木曜日　昼休み 蛭子：センターオフィスアワー　水曜日　Ⅲ時間目 　　他研究室在室時は対応可能				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	看護の知、知の創造、Theorization　（畑）	
2 回目	２．理論とは：理論の機能、概念、モデル、命題、理論、理論構築　（畑）	
3 回目	３．理論の類型、レベル（grand theory 大理論、Mid-Range Theories 中範囲理論、Situation-Specific Theories 状況特定理論 ）（畑）	
4 回目	看護理論の歴史的展望、歴史批判文献検討（畑）	ベナーの看護理論を事前に読んでくる
5 回目	看護理論を一つ選択し、理論分析する（畑）	
6 回目	研究計画につながる重要概念について（フリーディスカッション）（畑）	
7 回目	臨床現象を理論によって説明する（プレゼン）（畑）	
8 回目	学んだ看護理論を今後の研究にどのように生かすか討議する（畑）	
9 回目	看護実践に有用と考えられる中範囲理論について学修し、事例に適用する。 ・自己概念、自己効力感、エンパワーメント、ヘルスプロモーション	9～15 回目：担当蛭子 アサイメント等については、都度、指示する。
10 回目	看護実践に有用と考えられる中範囲理論について学修し、事例に適用する。	

	・自己概念、自己効力感、エンパワーメント、ヘルスプロモーション	
11 回目	看護実践に有用と考えられる中範囲理論について学修し、事例に適用する。 ・自己概念、自己効力感、エンパワーメント、ヘルスプロモーション	
12 回目	看護実践に有用と考えられる中範囲理論について学修し、事例に適用する。 ・自己概念、自己効力感、エンパワーメント、ヘルスプロモーション	
13 回目	看護実践に有用と考えられる中範囲理論について学修し、事例に適用する。 ・自己概念、自己効力感、エンパワーメント、ヘルスプロモーション	
14 回目	看護実践に有用と考えられる中範囲理論について学修し、事例に適用する。 ・自己概念、自己効力感、エンパワーメント、ヘルスプロモーション	
15 回目	看護実践に有用と考えられる中範囲理論について学修し、事例に適用する。 ・自己概念、自己効力感、エンパワーメント、ヘルスプロモーション	

1.授業コード（ナンバリング）	41003	2.科目名	看護倫理	3.単位数	2
4.授業担当教員	吉沢豊子、櫻井信人				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	大学院 1 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	高度看護専門職業人として人の生命と尊厳を守り権利を擁護する上で必要な概念や知識を学ぶ。そのうえで保健・医療・福祉の様々な場面で起こる倫理的課題・ジレンマを調整できる能力を養う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	DP1　自律的で主体的な態度 DP4　問題発見・解決力 DP6　専門的知識・技能の活用 1. 患者・家族の人権擁護について説明できる。 2. 患者・家族の意思決定を支える看護のあり方を検討できる。 3. 精神・母性のアドボケイトを事例を通して理解し、倫理的課題・倫理的ジレンマを解決する方略を検討できる。 4. 自らの倫理的判断が必要な体験を省察し、支援のあり方を検討できる。 5.人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 についても理解し、臨床で行われる臨床研究についても検討することができる ６．専門職として職業的倫理観を省察する。				
19.教科書・教材	、授業内容に応じて、文献の紹介、資料の配布を行う。				
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。				
21.成績評価	講義内容への参加度（30%） プレゼンテーション（30%） 課題レポート（40%）				
22.コメント					
23.オフィスアワー	事前にメール予約すること				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目 4 /6（土）	授業展開　及び授業内容 1.人の生命の尊厳と権利の尊重（吉沢） 看護の特性として看護倫理の本質を考究する	
第 2 回目 4 月 13 日 （土）	. 生命倫理、医療倫理、アドボケイトの役割（吉沢） 生命倫理に関わる人権侵害、医療倫理の四原則、看護に特徴的な 倫理機能について	
第 3 回 4 月 18 日 （木）	生殖看護や母性・助産を取り巻く倫理的課題（吉沢）	
第 4 回 4 月 27 日 （土）	事例を用いた母性のアドボケイトの検討①倫理的課題と課題に関 わる人々の価値観、意図する調整の方向性（吉沢）	
第 5 回 5 月 2 日	事例を用いた母性のアドボケイトの検討②看護の倫理原則と課題	

（木）	解決のための方略の検討（吉沢）	
第 6 回 5 月 11 日 （土）	研究倫理と臨床活動と看護師の役割について（吉沢）	
第 7 回目 5 月 16 日 （木）	患者・家族の人権擁護やインフォームドコンセント（吉沢） 臨床現場で重視すべき人権擁護と治療の承諾の意味を探求する	
第 8 回 5 月 25 日 （土）	.患者・家族の意思決定をささえる看護（吉沢） 患者が主体である意思決定について、一単位としての家族の視点 から支援する看護を追及する	
第 9 回目 5 月 30 日 （木）	事例を用いた精神のアドボケイトの検討①看護の倫理原則と課題 解決のための方略の検討（櫻井）	
第 10 回目 6 月 8 日 （土）	事例を用いた精神のアドボケイトの検討②看護の倫理原則と課題 解決のための方略の検討（櫻井）	
第 11 回目 6 月 13 日 （木）	事例を用いた精神のアドボケイトの検討③看護の倫理原則と課題 解決のための方略の検討（櫻井）	
第 12 回目 6 月 22 日 （土）	事例を用いた精神のアドボケイトの検討④看護の倫理原則と課題 解決のための方略の検討（櫻井）	
第 13 回目 6 月 27 日 （木）	事例を用いた精神のアドボケイトの検討⑤看護の倫理原則と課題 解決のための方略の検討（櫻井）	
7 月 6 日 （土）	事例を用いた精神のアドボケイトの検討⑥看護の倫理原則と課題 解決のための方略の検討（櫻井）	
第 15 回 7 月 6 日 （土）	学生が体験した臨床上の倫理的判断を必要とする場面での体験を 振り返り、倫理的課題・倫理的ジレンマを分析し課題に関わる人々 の価値観を理解し、意図する調整の方向性及び課題を解決するため の方略を検討する。多面的なものの考え方や専門職者としての規律 と態度,責務,倫理的支援の在り方を学修する(吉沢)	

1.授業コード（ナンバリング）	41009	2.科目名	フィジカルアセスメントⅠ	3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子、櫻井信人、山内豊明				
5.授業科目の区分	共通科目 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	大学院 1 年
10.取得資格の要件	専門看護師共通科目 B		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限	看護学研究科				
17.授業の目的と概要	【目的】 複雑な健康問題をもった対象の全身状況について、系統的に診査し臨床看護判断を行うために必要な知識を学修する。 【概要】 対象の全身状態を知識に基づき理解し、フィジカルアセスメントに必要な技術を習得し、対象者の身体状態をアセスメントする能力を養う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(6)コミュニケーション能力と関連しています。 【学修目標】 1.系統的に診察・検査・症候が説明できる。 2.系統的なフィジカルアセスメントを行える。				
19.教科書・教材	山之内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック、医学書院				
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。				
21.成績評価	プレゼンテーション３０％ 課題レポート５０％(各授業内容についての自己学習資料) 技術演習２０％				
22.コメント	第 4 回～第 12 回以外の授業では、各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。				
23.オフィスアワー	高見沢恵美子：センター木曜日 12:10～13:10				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	呼吸器系の診査・検査・症候(高見沢) ラーニングコモンズ A	
第 2 回	心血管系の診査・検査・症候(高見沢) ラーニングコモンズ A	
第 3 回	神経系の診査・検査・症候(高見沢) ラーニングコモンズ A	
第 4 回	呼吸器系フィジカルアセスメント(山内) スキルスラボ	
第 5 回	呼吸器系フィジカルアセスメント(山内) スキルスラボ	
第 6 回	循環器系フィジカルアセスメント(山内)	

	スキルスラボ	
第 7 回	循環器系フィジカルアセスメント(山内) スキルスラボ	
第 8 回	消化器系フィジカルアセスメント(山内) スキルスラボ	
第 9 回	中枢神経系フィジカルアセスメント(山内) スキルスラボ	
第 10 回	脳神経系･感覚器系フィジカルアセスメント(山内)　スキルスラボ	
第 11 回	腎泌尿器系フィジカルアセスメント(山内) スキルスラボ	
第 12 回	筋骨格系フィジカルアセスメント(山内) スキルスラボ	
第 13 回	がん患者のフィジカルアセスメント(岡光)　スキルスラボ	
第 14 回	高齢者のフィジカルアセスメント(沼本)　スキルスラボ	
第 15 回	精神医学系フィジカルアセスメント(櫻井)　ラーニングコモンズ A	

1.授業コード（ナンバリング）	41013	2.科目名	統計学	3.単位数	2
4.授業担当教員	藤木清				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義（パソコンの演習あり）		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目では、看護研究のなかでも基礎的な統計的分析手法の理論的背景についての理解を深めるとともに、よく利用される分析手法を、SPSS を用いた演習により修得することを目的とする。 【概要】 政策や対策を実施するためには、「根拠」にもとづくことが重要である。その根拠を導き出す手法の一つが統計的分析手法である。本科目では、統計学の基礎理論、推定と検定の基礎とよく利用される手法について演習やディスカッションを交えながら講義を行う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	＜学修目標＞ １．統計学の基礎理論を理解する。 ２．推定および検定手法の理論的背景を理解する。 ３．目的に見合った推定あるいは検定手法を選択でき、利用できる。				
19.教科書・教材	適宜プリントを配付する。				
20.参考文献	牧本清子 他著 『疫学・保健統計学 第 3 版（標準保健師講座)』 医学書院 2015 年 豊田修一・星山佳治・宮崎有紀子『看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理』実教出版 2020 年 高木晴良『統計学 第 7 版（系統看護学講座 基礎分野)』医学書院 2016 年 杉原左右一「統計学（増補第 3 版)」晃洋書房				
21.成績評価	授業での発言等 50%・・・学修目標１、２ レポート 50%・・・学修目標３				
22.コメント					
23.オフィスアワー	※質問などがあれば、メール等で問い合わせてください				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	統計学の基礎的概念 記述統計と推測統計、仮説検証型と問題発見型、変数と尺度について	第 1 回の復習 （目安 90 分）
第 2 回	記述統計 質的データ、量的データのまとめ方、代表値と散布度について	第 2 回の復習 （目安 90 分）
第 3 回	事象と確率 事象と確率の基本概念について	第 3 回の復習 （目安 90 分）
第 4 回	確率変数と確率分布	第 4 回の復習

	離散型及び連続型の確率変数と確率分布の特徴について	（目安 90 分）
第 5 回	母集団と標本 母集団と標本の基本概念について	第 5 回の復習 （目安 90 分）
第 6 回	標本分布 標本分布の性質について	第 6 回の復習 （目安 90 分）
第 7 回	中心極限定理と大数の法則 中心極限定理と大数の法則の概念について	第 7 回の復習 （目安 90 分）
第 8 回	推定 点推定と区間推定	第 8 回の復習 （目安 90 分）
第 9 回	検定 統計的仮説検定の基本概念、2 種類の過誤について	第 9 回の復習 （目安 90 分）
第 10 回	平均値の差の検定 SPSS による平均値の差の検定の方法	第 10 回の復習 （目安 90 分）
第 11 回	分散分析 SPSS による一元配置分散分析の方法	第 11 回の復習 （目安 90 分）
第 12 回	相関分析 SPSS による相関分析の方法	第 12 回の復習 （目安 90 分）
第 13 回	回帰分析 回帰分析の基本概念	第 13 回の復習 （目安 90 分）
第 14 回	回帰分析 SPSS による回帰分析の方法	第 14 回の復習 （目安 90 分）
第 15 回	総括 授業全体のまとめ	第 15 回の復習 最終レポート （目安：8 時間）

1.授業コード（ナンバリング）	41214	2.科目名	基礎看護学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	蛭子真澄				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	看護実践の基盤となる看護理論と看護倫理の学びを通して、患者・看護師の相互作用や科学的根拠に基づいた看護技術、看護過程について体系的に学修する。また、健康現象やその援助方法など各自の関心と研究課題を明確にするために文献検討、ディスカッションを行う。				
18.学習目標とＤＰとの関連					
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	発表や討議の内容及びレポート提出を総合して判断する。				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	看護理論をメタパラダイムにそって、整理・検討する。 看護理論を事例に適用し、分析し、看護の本質を探究する。	

1.授業コード（ナンバリング）	41220	2.科目名	急性看護学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子				
5.授業科目の区分	療養支援看護学 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	大学院 1 年
10.取得資格の要件	急性・重症患者看護専門看護師	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	看護学研究科院生				
17.授業の目的と概要	【目的】 危機状態にある人をアセスメントし、危機状態の変化の過程に適した援助を危機理論に基づいて計画する。 【概要】 危機理論および関連する概念から、危機状態にある人の反応と変化の過程について学修する。さらに、危機理論に基づき危機状態からの回復を促す援助について考察を深める。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力と関連しています。 【学修目標】 1.危機理論および関連する概念から、危機状態にある人の反応と変化の過程を説明できる。 2.危機理論に基づいて、危機状態からの回復を促す援助を説明できる。				
19.教科書・教材	必要時印刷物を配布する。				
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。				
21.成績評価	プレゼンテーション　４０％ 課題レポート　６０％(第 1 回～第 15 回の授業内容についての資料)				
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。				
23.オフィスアワー	高見沢恵美子：センター木曜日 12:10～13:10				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	看護のメタパラダイムと看護理論(高見沢)	
第 2 回	看護モデル(高見沢)	
第 3 回	危機理論の実践・研究の変遷と動向(高見沢)	
第 4 回	危機介入(高見沢)	
第 5 回	危機に関連する理論・概念①Stress・Coping(高見沢)	
第 6 回	危機に関連する理論・概念②Stress・Coping(高見沢)	
第 7 回	危機に関連する理論・概念③Loss・Crisis(高見沢)	
第 8 回	急性期看護介入モデルの分析と評価①(高見沢)	
第 9 回	急性期看護介入モデルの分析と評価②(高見沢)	
第 10 回	危機に関連する理論概念④Social Support(高見沢)	
第 11 回	危機に関連する理論概念⑤Body Image(Self Concept)(高見沢)	

第 12 回	危機的な状況にある患者・家族の看護モデルの探求 ①(高見沢)	
第 13 回	危機的な状況にある患者・家族の看護モデルの探求 ②(高見沢)	
第 14 回	危機的な状況にある患者・家族の看護モデルの探求 ③(高見沢)	
第 15 回	危機的な状況にある患者・家族の看護モデルの探求 ④(高見沢)	

1.授業コード（ナンバリング）	41221	2.科目名	急性看護学援助特論Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子				
5.授業科目の区分	看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科クリティカルケア専門看護師コース			9.履修学年	１年
10.取得資格の要件	専門看護師認定試験受験資格(急性・重症患者看護)	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 クリティカル状況にある急性期患者・家族を身体面、心理・社会面から総合的に理解し、患者・家族のアセスメントと看護援助の在り方、評価の在り方を探求するとともに、患者の状況に衝撃を受ける家族のアセスメントと看護援助の在り方を探求する。 【概要】 急性呼吸障害・循環障害・中枢障害の患者のアセスメントと援助を学修する。さらに、人工呼吸器、パルンパンピング・人工心肺などの補助循環、PCPS・血液浄化法、低体温療法等のクリティカル治療管理と患者の援助を学修する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力と関連しています。 １．クリティカル状況にある患者・家族の看護に必要な看護判断、評価方法について理解する。 ２．クリティカルケア治療管理を受ける患者・家族に必要な看護援助について理解する。				
19.教科書・教材	特に指定しない。				
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。				
21.成績評価	課題７０％(第１回～第 15 回の授業内容の資料) プレゼンテーション３０％				
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。				
23.オフィスアワー	センター：木曜日１２：１０～１３：１０				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと援助（１）(高見沢) 急性呼吸障害（１）	
第２回	クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと援助（２）(高見沢) 急性呼吸障害（２）	
第３回	クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと援助（３）(高見沢) 急性中枢障害（１）	

第４回	クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと援助（４）(高見沢) 急性中枢障害（２）	
第５回	クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと援助（５）(高見沢) 急性循環障害（１）	
第６回	クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと援助（６）(高見沢) 急性循環障害（２）	
第７回	クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと援助（７）(高見沢) 援助関係と家族看護（１）	
第８回	クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと援助（８）(高見沢) 援助関係と家族看護（２）	
第９回	クリティカル治療管理を受ける患者・家族に必要な看護援助（１）(高見沢) 人工呼吸器装着患者の援助（１）	
第１０回	クリティカル治療管理を受ける患者・家族に必要な看護援助（２）(高見沢) 人工呼吸器装着患者の援助（２）	
第１１回	クリティカル治療管理を受ける患者・家族に必要な看護援助（３）(高見沢) 大動脈内バルーンパンピング装着患者の援助	
第１２回	クリティカル治療管理を受ける患者・家族に必要な看護援助（４）(高見沢) 人工心肺装着患者の援助	
第１３回	クリティカル治療管理を受ける患者・家族に必要な看護援助（５）(高見沢) ＰＣＰＳ装着患者の援助	
第１４回	クリティカル治療管理を受ける患者・家族に必要な看護援助（６）(高見沢) 血液浄化法を受ける患者の援助	
第１５回	クリティカル治療管理を受ける患者・家族に必要な看護援助（７）(高見沢)	

	低体温療法を受ける患者の援助	

1.授業コード（ナンバリング）	41224	2.科目名	急性看護学演習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科クリティカルケア専門看護師コース			9.履修学年	看護学研究科博士前期課程１年
10.取得資格の要件	専門看護師認定試験受験資格(急性・重症患者看護)	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科大学院生				
17.授業の目的と概要	【目的】 クリティカル状況にある患者・家族の全人的苦痛を理解し、必要な援助を計画できる能力を養う。 【概要】 疼痛緩和のためのケア、処置の原則、方法、効果判定などについてディスカッションを行い検討し、チームアプローチの方略について理解を深める。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力と関連しています。 １．クリティカル状況にある患者・家族に生じる身体的・心理・社会的苦痛をアセスメントできる知識を習得する。 ２．クリティカル状況にある患者・家族に生じる苦痛を緩和する技術を習得する。				
19.教科書・教材	特に指定しない。				
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。				
21.成績評価	課題７０％ プレゼンテーション３０％				
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。				
23.オフィスアワー	センター：木曜日１２：１０～１３：１０				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	急性重症患者看護専門看護師とクリティカルケア(高見沢)	
第２回	クリティカル状況にある患者のトータルペインと看護援助（１）(高見沢)	
第３回	クリティカル状況にある患者のトータルペインと看護援助（２）(高見沢)	
第４回	ペインコントロールの実際と効果判定(高見沢)	
第５回－１１回	リティカル状況にある患者・家族の心身の苦痛緩和の分析についてのディスカッション(高見沢)	
第 12 回－17 回	クリティカル状況にある患者・家族の心身の苦痛緩和の援助計画についてのディスカッション(高見沢)	
第 18 回－22 回	クリティカル状況にある患者・家族の身体的苦痛緩和の援助の評価についてのディスカッション(高見沢)	

第 23 回－25 回	クリティカル状況にある患者・家族に実践した心理・社会的苦痛緩和の援助の評価についてのディスカッション(高見沢)	
第 26 回	クリティカル状況にある患者・家族の心身の苦痛緩和の援助とチームアプローチの在り方についてのディスカッション(高見沢)	
第 27 回	クリティカル状況にある患者・家族のクリティカル治療・管理に伴う苦痛の緩和（１）(高見沢)	
第 28 回	クリティカル状況にある患者・家族のクリティカル治療・管理に伴う苦痛の緩和（２）(高見沢)	
第 29 回	クリティカル状況にある患者・家族の心理・社会的苦痛の緩和（１） (高見沢)	
第 30 回	クリティカル状況にある患者・家族の心理・社会的苦痛の緩和（２）(高見沢)	

1.授業コード（ナンバリング）	41226	2.科目名	急性看護学実習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科クリティカルケア専門看護師コース			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	専門看護師認定試験受験資格(急性・重症患者看護)	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限	看護学研究科博士前期課程大学院生				
17.授業の目的と概要	【目的】 ICU 病棟において、集中治療を受ける患者・家族のケアについて臨地実習を通して全人的な苦痛を緩和するために必要な実践、調整、コンサルテーション、教育などの能力を養う。 【概要】 ICU 病棟において集中治療を受ける苦痛のある患者を受け持ち、患者・家族の差状態をアセスメントし、看護計画を立案・実施し評価する。実践した援助をケーススタディーにまとめ、よりよい援助について考察する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1．クリティカル期の患者の身体状態について高度な知識に基づいた看護判断・診断ができる。 2．クリティカル期の患者及び家族の全人的な苦痛を緩和するために、高度な看護判断・診断に基づく看護実践を提供することができる。 3．看護識者を含むケアの提供者に対して専門看護師相当のものが行っているコンサルテーション、調整、教育、研究などの専門職看護師としての役割を理解し、援助を考えることができる。				
19.教科書・教材	特に指定しない。				
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。				
21.成績評価	課題７０％ プレゼンテーション３０％				
22.コメント					
23.オフィスアワー	センター：木曜日１２：１０～１３：１０				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1．実習期間：2017 年 7～8 月 2．実習施設：神戸市立医療センター中央市民病院・兵庫医科大学病院・ 国立循環器病研究センター・東宝塚さとう病院 ICU・救急 ICU・CCU・HCU クリティカル期 3．実習体制：実習指導は、教員（高見沢）と専門看護師または専門看護師相当の者と協力して教育を行う。 4．実習方法： 1）目標を達成するために、ICU 病棟でクリティカルケアを受けている患者を受け持ち看護を実践する。 2）必要時、実習中に患者の身体状況、全人的苦痛、	

1.授業コード（ナンバリング）	41228	2.科目名	急性看護学実習Ⅲ	3.単位数	6
4.授業担当教員	高見沢恵美子				
5.授業科目の区分	専門科目 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	急性看護学専門看護師コース			9.履修学年	大学院 2 年
10.取得資格の要件	急性・重症患者看護専門看護師	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限	看護学研究科大学院生				
17.授業の目的と概要	【目的】 急性・重症患者看護専門看護師としての活動に必要な実践、調整、コンサルテーション、倫理調整、教育、研究などの能力を養う。 【概要】 集中治療を受けるクリティカル期およびポストクリティカル期の患者・家族のケアについて、臨地で患者を受け持ち患者・家族をアセスメントし必要な援助を計画・実施・評価する。実習終了後ケーススタディーを作成し、よりよい看護を検討する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1. 複雑な問題を持つクリティカル期の患者の身体状態について高度な知識に基づいた看護判断・診断・実践ができる。 2. クリティカル期の患者及び家族の全人的な苦痛を緩和するために、高度な看護判断・診断に基づく看護実践を提供することができる。 3. クリティカル期の患者及び家族が持つ倫理的問題について分析し、多様な価値観を尊重できる倫理的判断を説明できる。 4. 看護識者を含むケアの提供者に対して専門看護師相当のものとともにコンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究などの専門職看護師としての役割を実践することができる。 5. 実習している ICU・関連するポストクリティカル期の病棟等の集中治療環境を、総合的に管理する方略を説明できる。				
19.教科書・教材	特に指定しない。				
20.参考文献	必要時適宜紹介する。				
21.成績評価	実習目標の達成度４０％ 出席状況１０％ ケーススタディーの内容５０％				
22.コメント	院生が希望する実習施設を決め、実習 3 か月前に実習施設と実習対象患者について教員に相談し、アドバイスを受けた上で実習施設を決定します。実習施設には、教員と共に実習依頼に行きます。				
23.オフィスアワー	高見沢　木曜 12:15～13:15　ラーニングコモンズ				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1. 実習期間：5 月～7 月 2. 実習施設：神戸市立医療センター中央市民病院・兵庫医科大学病院・ 国立循環器病研究センター・東宝塚さとう病院 ICU・救急 ICU・CCU・HCU	

	クリティカル期 心臓血管外科・心臓内科病棟　　ポストクリティカル期 消化器一般外科病棟 ポストクリティカル期 脳神経外科・脳神経内科病棟 ポストクリティカル期 3. 実習体制：実習指導は、教員（高見沢）と専門看護師または専門看護師相当の者と協力して教育を	

1.授業コード（ナンバリング）	41230	2.科目名	慢性看護学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	岩下真由美、房間美恵				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	療養支援看護学　慢性看護学			9.履修学年	1 年次
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	【目的】慢性疾患や障がいをもつ人と家族への看護に主として用いられる概念・理論について探求するとともに、実践及び研究への適用について検討する。 【概要】慢性疾患や障がいをもつ人と家族への看護に主として用いられる病みの軌跡、セルフケア、自己効力感、患者教育などについて探求し、実践及び研究への適用について検討する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの 1.専門知識・技能、2.問題発見力、3.調査分析能力、4. 論文作成能力、5.課題解決策への提案力、6.コミュニケーション能力、7.倫理観と関連しています。 【学習目標】 1. 慢性疾患や障がいのある患者とその家族の看護に用いられる概念・理論について説明できる。 2. 慢性疾患や障がいのある患者とその家族の看護の実践及び研究への適用を説明できる。				
19.教科書・教材	特になし				
20.参考文献	適宜、提示します。				
21.成績評価	1. 各自の課題達成状況（70%） 2. 学習した以外の理論・概念を一つ取り上げ、慢性看護にどのように適用できるかについて考察したレポートを提出（30%）				
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。授業内容でわからないことは積極的に質問し、この科目での学びをもとに主体的に学びを深めていきましょう。この科目の内容は、慢性看護学演習、特別研究へとつながっていく科目ですので、皆さんの積極的な参加を期待します。				
23.オフィスアワー	岩下真由美：センター水曜日 12：15～13：15				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	看護モデルについて	
第 2 回	看護モデルの分析と評価	
第 3 回	慢性看護介入モデルの分析と評価 1-研究論文を用いて	
第 4 回	慢性看護介入モデルの分析と評価 2-研究論文を用いて	
第 5 回	慢性看護介入モデルの分析と評価 3-研究論文を用いて	
第 6 回～第 15 回	慢性看護に用いられる概念・理論の理解と分析・評価 1. Stress & Coping, Adaptation 2. 危機理論 3. 病みの軌跡モデル 4. 健康信念モデル 5. セルフケア理論 6. 自己効力理論 7. QOL	

	8. 希望 9. コンプライアンス・アドヒアランス 10. レジリエンス	

1.授業コード（ナンバリング）	41240	2.科目名	がん看護学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	岩下真由美、房間美恵				
5.授業科目の区分	療養支援看護学	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科（前期課程）			9.履修学年	看護学研究科（前期課程）1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	看護学研究科大学院生				
17.授業の目的と概要	【目的】 ・がん看護・緩和ケア領域の実践・教育・研究について最新の動向を理解し分析する。 ・がん患者とその家族の特徴を理解し、専門的な看護を提供する上で必要な概念・理論および看護モデルについて探求する。 【概要】 がん看護・緩和ケア領域の実践の最新の動向を理解し分析します。また、がん患者とその家族の特徴を理解したうえで、専門的な看護を提供するのに必要な概念・理論および看護モデルについて探求します。これらの内容を踏まえた上で、がん看護における看護独自の介入について文献をもとにクリティークします。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)専門地位ｓ気・能力の修得、(2)問題発見力、(3)課題解決策への提案力、(5)コミュニケーション能力と関連しています。 【学修目標】 1. がん看護・緩和ケア領域の最新の動向と課題を説明することができる。 2. がんによる健康障害と患者・家族に及ぼす影響や特徴を説明することができる。 3. がん看護・緩和ケアを受ける人々のもつ療養上の問題を解決するために効果的な援助方法に関連する理論について説明することができる。				
19.教科書・教材	特に指定なし。必要時には資料を配布する。				
20.参考文献	興銀の中で適宜紹介する。				
21.成績評価	プレゼンテーション　50% 課題レポート　50%				
22.コメント	各授業について担当する院生を決めます。担当者が文献を検索して資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をして下さい。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー　水曜日　12：15～13：15				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	がん看護・緩和ケア領域における実践の最新の動向	
第 2 回	がん看護・緩和ケア領域における教育・研究の最新の動向	
第 3 回～第 10 回	がん患者とその家族への看護に有用な基本概念・理論 1.Stress ＆ Coping Adaptation 2. Social Support 3. Loss ＆ Crisis 4. Grief 5. Body Image	

	6. Self Concept 7. Self-Care 8. Uncertainty	
第 11 回～第 15 回	がん看護介入モデルの分析（1）～（5）	

1.授業コード（ナンバリング）	41250	2.科目名	精神看護学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	櫻井信人					
5.授業科目の区分	看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択（精神看護が専門領域のものは必須）	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	1 年次春学期	
10.取得資格の要件	看護学特演科目は 2 科目（4 単位）以上必要			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【本授業の目的】 精神医療の歴史的変遷、精神保健医療福祉制度の動向について理解を深め、看護師に求められる役割、今後の展望について考察することを目的とする。 【本授業の概要】 精神医療の歴史的変遷、精神保健医療福祉制度の動向に加え、心の理論やセルフケア理論、リカバリーなどの概念を学び、支援方法を検討していく。					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	その都度指示します。					
21.成績評価						
22.コメント	自らが調べてまとめ、発表し、議論するスタイルです。頑張りましょう。					
23.オフィスアワー	（櫻井）センターオフィスアワー水曜日１時間目、研究室オフィスアワー水曜日昼休み					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	ガイダンス	
2 回目	我が国および欧米の精神障碍者への処遇と精神保健福祉の歴史・施策の歴史的動向について調べる。そして、精神看護における倫理的問題や精神障碍者の人権擁護について検討する。	
3 回目	現在の精神科医療の課題及び今後の展望について、自分なりにまとめて発表を行う。（ディスカッション）	○課題・情報についてまとめてくる。★資料提出
4 回目	精神力動理論、人間発達論、ストレス対処モデルなどの基本的理論（講義）	
5 回目	精神力動理論、人間発達論、ストレス対処モデルなどの基本的理論（ディスカッション）	○事前に授業内容について調べてくる。★資料提出
6 回目	セルフケアモデル＜オレム・アンダーウッドモデル＞の理論について調べる。	
7 回目	セルフケア理論の事例への適用し、対象者の理解と支援について検討する。	○セルフケア理論についてまとめる。 ★事例へセルフケア理論を適用をし、支援方法について述べる。（レポート提出）
8 回目	プロセスレコード（再構成）を用い、ロールプレイを行うなどして、自己の治療的活用に関する訓練方法を学ぶ。	○理論について事前に本を読みまとめる。★資料提出 ○プロセスレコードを書いてくる
9 回目	災害や犯罪による心的外傷について、調べる。	
１０回目	災害や犯罪による心的外傷へのケアについて、調べ	

	る。	
１１回目	まとめの発表、議論	○事前に文献等を読み、まとめる。★2について、課題をまとめたものを提出する
１２回目	医学モデルとリカバリー・ストレングスモデルとの違いについて議論する。	
１３回目	リカバリー・ストレングスモデルモデルを用いた精神障害者の地域生活支援の方法を検討する。	○自分自身の興味のある事例や看護ケアなどの文献を探しておく。
１４回目	オープンダイヤローグについて理解する。	
１５回目	学びの発表	

1.授業コード（ナンバリング）	41290	2.科目名	在宅看護学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	畑吉節未				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科博士前期課程			9.履修学年	1 年次生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、プレゼンテーション、討議		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	在宅看護の概念や、訪問看護の理論、質確保に関する考え方を修得する。また、あわせて、地域包括ケアシステムにおける多職種連携と看護師の役割から、在宅看護のあり方を追及する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 １．在宅看護および在宅看護に関連する概念について理解する。 ２．在宅看護の歴史と法制度からみた在宅看護の位置づけについて理解する。 ３．訪問看護に関する社会ニーズ、課題について理解する。 ４．訪問看護の理論や考え方、質確保について理解する。 ５．ケアマネジメント、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について理解する。 ６．在宅看護のあり方について考察する。 本科目の学習目標は、ディプロマプリシーの 1.専門知識・技術、2.問題発見力、3.調査分析能力、5.課題解決策への提案力、6.コミュニケーション能力、7.倫理感と関連しています。				
19.教科書・教材	適宜、資料を配布または提示する。				
20.参考文献	適宜、資料を配布または提示する。				
21.成績評価	授業への参加状況（10%）、資料作成（30%）、プレゼンテーション（30%）、ディスカッション（30%）				
22.コメント	事前に提示された課題について、学修して臨むこと。				
23.オフィスアワー	木曜日：昼休憩時間				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	１．在宅看護の概念 Florence Nightingale における在宅看護の概念	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第２回	１．在宅看護の概念 １）近年の在宅看護の歴史（1） ・在宅看護に関係する我が国の社会の変遷	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。 ・国民衛生の動向（最新版）持参
第３回	１）近年の在宅看護の歴史（2） ・訪問看護活動の推移と訪問看護制度 ・訪問看護の現状	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第４回	２）法制度からみた在宅看護の位置づけ ・医療法、健康保険法、介護保険法、報酬制度、看護師養成所指定規則等	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第５回	３）在宅看護に関連する概念（訪問看護、在宅医療、在宅ケア等）	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第６回	４）在宅看護の特性 ５）現在の訪問看護に関する社会ニーズ、報酬制度、課題	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第７回	３．在宅看護における倫理	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。

第 8 回	4．外国の医療制度、訪問看護	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第 9 回	5．訪問看護の理論や考え方（1） ・Robyn Rice Model	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第 10 回	5．訪問看護の理論や考え方（2） ・Roper-Logan-Tierney Model	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第 11 回	6．訪問看護における質の確保 1)訪問看護が提供するサービスの特徴 2)医療の質評価 Dona-bedian Model	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第 12 回	(1)Structure：訪問看護事業所の管理 ・経営管理、人材育成	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第 13 回	(2)Process・Outcome：The Omaha System	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第 14 回	7．社会資源とケアマネジメント	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第 15 回	8．地域包括ケアシステムにおける多職種連携、看護師の役割 9．在宅看護の展望と課題	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。

1.授業コード（ナンバリング）	41292	2.科目名	公衆衛生看護学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	藤原和美、中世古恵美、久井志保				
5.授業科目の区分	特別研究	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科　博士前期課程			9.履修学年	博士前期課程　1 年　2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	ゼミ形式		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	自己の研究課題を明確にし、公衆衛生看護学に関する課題をテーマに探求する。 研究テーマの選択、研究計画の作成、実施、論文作成をめざす。				
18.学習目標とＤＰとの関連	自己の研究課題を明確にし、公衆衛生看護学に関する研究をテーマに探求する。				
19.教科書・教材	適宜指示する。				
20.参考文献	適宜指示する。				
21.成績評価	提出された研究計画書および研究発表会での発表・質疑応答により審査する。評価は看護学研究科の複数の教員によって行われる。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜日　12：30～13：00				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回	1.授業のガイダンスと研究計画についての説明 2.研究課題の明確化（研究の方向性について発表する）	
2 回・3 回	研究テーマの明確化を行う。 先行研究のクリティークを行う。	先行研究
4 回～6 回	研究計画書の作成を行う。 （ゼミで助言を受け、修正する）	研究計画書案
7 回・8 回	倫理的配慮を記述し、倫理審査を受け、審査を通過する。	倫理審査書類
9 回	中間発表会にて、研究の進め方についての助言をいただく。	収集したデータおよび分析結果
10～11 回	中間発表会でのコメントを基に研究方法についての修正を行う。 具体的な研究計画を立てる。	中間発表会資料
12～14 回	データの収集と分析を行う。	中間発表会資料
15～20 回	分析したデータを基に論文の作成を行う。	
21～23 回	研究発表の準備を行う。	
24 回	研究発表を行う。（予演会）	
25 回	研究発表の実施。	

1.授業コード（ナンバリング）	41394	2.科目名	国際看護学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤尚子				
5.授業科目の区分	専門科目 生活支援看護学	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：世界の健康問題と戦略・課題を知り、日本と異なる国・地域において看護を展開する際に必要とされる知識と手法を修得する。日本に在留する外国人への支援に必要な知識と手法を修得する。 概要：グローバルヘルスと国際看護の概念を学習し、世界における健康問題とそれに対する戦略の潮流を理解したうえで、実際の国際看護活動に必要な知識を得る。さらに日本国内における国際看護として在日外国人への支援について学習する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①看護による国際協力の意義、活動の場所と対象を説明できる。 →DP：(1)専門知識・技能　(6) コミュニケーション能力 ②世界の健康問題とそれらに対する戦略、および課題を説明できる。 →DP：(1)専門知識・技能　(2)問題発見力　(6) コミュニケーション能力 ③日本の国際協力の歴史と実際を説明できる。 →DP：(1)専門知識・技能　(6) コミュニケーション能力 ④異文化看護の理論を説明できる。 →DP：(1)専門知識・技能（5）課題解決策への提案力　(6) コミュニケーション能力 ⑤日本における在留外国人の背景と看護による支援を説明できる。 →DP：(1)専門知識・技能（5）課題解決策への提案力　(6) コミュニケーション能力				
19.教科書・教材	特になし				
20.参考文献	講義の中で適宜紹介				
21.成績評価	プレゼンテーション　40% 課題レポート　60%				
22.コメント	各回、自分で調べてきた内容および考察と課題・解決策をプレゼンテーション（30 分程度）してください。 その後教員による解説を行い、ディスカッションを深めます。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜日　昼休み センターオフィスアワー：火曜日　昼休み　（図書館）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	グローバルヘルスと国際看護	アサインメントと課題： 「グローバルヘルスと国際看護」、それぞれの定義について複数調べまとめプレゼンテーションする。
第 2 回	世界の健康問題	アサインメントと課題： 「世界の健康問題」を示すサイトを複数（全体的なもの、個別な問題に特化したもの）調べてまとめプレゼンテーションする。

第 3 回	世界の健康問題における戦略の潮流 1	アサインメントと課題： Health for All、プライマリーヘルスケアについて調べてまとめプレゼンテーションする。
第 4 回	世界の健康問題における戦略の潮流 2	アサインメントと課題：MDGs、SDGs、Universal Health coverage（UHC）について調べまとめてプレゼンテーションする。
第 5 回	世界の健康問題における戦略の潮流 3	アサインメントと課題： スフィア基準について調べまとめてプレゼンテーションする。
第 6 回	日本の国際協力	アサインメントと課題： 「日本の国際協力」の歴史と現状を調べてまとめプレゼンテーションする。
第 7 回	異文化理解と異文化看護論	アサインメントと課題： レイニンガーの異文化看護理論について調べまとめてプレゼンテーションする。 異文化適応過程について調べまとめてプレゼンテーションする。
第 8 回	異文化看護アセスメントモデル	アサインメントと課題： ガイガーらの「異文化看護アセスメントモデル」を調べてまとめてプレゼンテーションする。
第 9 回	ヘルスプロモーションの概念と実際	アサインメントと課題： ヘルスプロモーションの概念、介入と戦略について調べまとめてプレゼンテーションする。
第 10 回	疫学的調査	アサインメントと課題： 疫学調査の概念と手法について調べまとめてプレゼンテーションする。
第 11 回	グローバルヘルスにおける問題解決手法	アサインメントと課題： PDM、PCM の概要や特徴を調べまとめてプレゼンテーションする。
第 12 回	日本における在留外国人	アサインメントと課題： 日本で暮らす外国人の背景を調べまとめてプレゼンテーションする。
第 13 回	日本における在留外国人の健康問題	アサインメントと課題： 日本で暮らす外国人の健康問題（フィジカル、メンタル、ソーシャル）について調べまとめてプレゼンテーションする。
第 14 回	日本における在留外国人への支援 1	アサインメントと課題： 日本で暮らす外国人の、受療行動を阻害する要因を調べまとめてプレゼンテーションする。
第 15 回	日本における在留外国人への支援 2	アサインメントと課題： 医療現場における外国人患者のためのサポー

		トについて、制度と実際を調べまとめてプレゼンテーションする。

1.授業コード（ナンバリング）	41415	2.科目名	基礎看護学演習	3.単位数	8
4.授業担当教員	蛭子真澄				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	基礎看護学特論で学修した知識を基に、学生の興味関心のある健康現象やその援助方法などについて、国内外の文献を検討し文献レビュー、クリティーク、ディスカッションを行い研究課題の明確化を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①情報収集・活用力（レベル 3：多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を収集して、要点を整理・保存しながら自分の主張やアイディアを裏づけることができる。学科目標③（レベル 3：看護の対象となる人々の潜在的・顕在的な力を見出し、援助へのニードを論理的に考えることができる） ②知的好奇心（レベル 3：修得した知識・技能と社会の現象を関連づけて、新たな疑問や関心について積極的に学ぶ意欲を持つことができる。）学科目標③（レベル 3：看護の対象となる人々の潜在的・顕在的な力を見出し、援助へのニードを論理的に考えることができる） ③意見交換・調整力（レベル 3：他者の主張を理解して、自分の意見や考えと他者の意見を調整して、互いに納得できる結論を得ることができる。）学科目標⑤（レベル 3：チームの一員として、報告・連絡・相談の必要性を理解し、実施することができる）				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	発表や討議の内容およびレポート提出を総合して評価する。				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1．基礎看護学に必要な研究方法について整理する。 2．日ごろから感じている看護上の疑問・課題について、文献を検索・検討し、課題を明確にする。 研究計画書の作成、倫理審査申請書を作成する。 計画書に基づき、データ収集・分析を実施し、修士論文作成に向けての準備を整える。	

1.授業コード（ナンバリング）	41423	2.科目名	急性看護学演習	3.単位数	8
4.授業担当教員	高見沢恵美子				
5.授業科目の区分	療養支援看護学 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科　修士論文コース			9.履修学年	1．２年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科院生				
17.授業の目的と概要	【目的】 急性看護学で学修した知識をもとに、急性期患者・家族に必要な看護援助について理解を深め、自らの研究課題を明確にする。 【概要】 国内外の文献を検討し、文献レビュー・クリティーク・プレゼンテーション・ディスカッションにより最新の急性看護学に関する研究の動向と課題を明確にする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力と関連しています。 【学修目標】 1.急性期の患者・家族に必要な看護援助について、文献レビューし文献検討を作成できる。 2.急性期の患者・家族に必要な看護援助について、研究論文をクリティークできる。 3.急性看護学に関する文献検討結果に基づき、問題点を指摘し自らの研究疑問を明確にすることができる。 4.学生の研究課題に関する文献検討に基づき、急性看護学における援助のあり方を考察することができる。				
19.教科書・教材	演習の中で適宜紹介する。				
20.参考文献	演習の中で適宜紹介する。				
21.成績評価	プレゼンテーション４０％ 課題レポート６０％(第１回～第 60 回の授業内容に関する資料)				
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。				
23.オフィスアワー	高見沢恵美子：センター木曜日 12:10～13:10				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回～第５回	急性期にある患者・家族に必要な周手術期看護学、クリティカルケア看護学、救急看護学などの内容を取り上げ、文献をクリティークする。	
第６回～第１０回	急性期にある患者・家族に必要な周手術期看護学、クリティカルケア看護学、救急看護学などの文献をクリティークの結果に基づき、急性看護学における援助を考察する。	
第１１回～第	トータルペインとペインコントロールについて文献を	

１５回	クリティークする。	
第１６回～第２０回	トータルペインとペインコントロールについて文献に基づき、急性期患者・家族の苦痛のアセスメントとペインコントロール・苦痛を緩和する援助のあり方について考察を深める。	
第２１回～第２５回	代理意思決定、身体拘束、終末期医療の決定など、急性看護学で領域で起こりやすい倫理的課題と倫理調整の在り方について学修する	
第２６回～第３０回	代理意思決定、身体拘束、終末期医療の決定など、急性看護学で領域で起こりやすい倫理的課題と倫理調整の在り方について学修する。	
第３１回～第３５回	急性看護学特論及び急性看護学演習での学修をもとに、学生自らの研究課題を焦点化するために、国内外の文献を検討する。	
第３６回～第４０回	学生自らの研究課題について、国内外の文献を検討し、研究の動向と課題を明らかにする。	
第４１回～第４５回	学生自らの研究課題について、国内外の文献に基づき研究の動向と課題について文献検討結果をまとめる。	
第４６回～第５０回	学生自らの研究課題について、国内外の文献に基づき研究の動向と課題について文献検討を作成する。	
第５１回～第５５回	学生の研究課題にそった文献レビュー・クリティーク・プレゼンテーションディスカッションにより、急性看護学における援助のあり方を考察する。	
第５６回～第６０回	学生の研究課題にそった文献レビュー・クリティーク・プレゼンテーションディスカッションにより、急性看護学における援助のあり方を考察する。	

1.授業コード（ナンバリング）	41431	2.科目名	慢性看護学演習	3.単位数	8
4.授業担当教員	岩下真由美、房間美恵				
5.授業科目の区分	療養支援看護学 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科　修士論文コース			9.履修学年	１．２年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【概要】 慢性看護学で学修した知識をもとに、慢性期患者・家族に必要な看護援助について理解を深め、自らの研究課題を明確にするために国内外の文献を検討し、文献レビュー・クリティーク・プレゼンテーション・ディスカッションにより急性看護の課題を明確にする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学修目標】 1.慢性期の患者・家族に必要な看護援助について、文献レビューし文献検討を作成できる。 2.慢性期の患者・家族に必要な看護援助について、研究論文をクリティークできる。 3.慢性看護学に関する文献検討結果に基づき、問題点を指摘し自らの研究疑問を明確にすることができる。 4.学生の研究課題に関する文献検討に基づき、慢性看護学における援助のあり方を考察することができる。				
19.教科書・教材	演習の中で適宜紹介する。				
20.参考文献	演習の中で適宜紹介する。				
21.成績評価	プレゼンテーション４０％ 課題レポート６０％(各授業についての資料)				
22.コメント					
23.オフィスアワー	岩下真由美：センター水曜日 12:15～13:15				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回～第５回	慢性期にある患者・家族に必要な慢性期看護学の内容を取り上げ、文献をクリティークする。	
第６回～第１０回	慢性期にある患者・家族に必要な慢性期看護学の文献をクリティークの結果に基づき、慢性看護学における援助を考察する。	
第１１回～第１５回	トータルペインとペインコントロールについて文献をクリティークする。	
第１６回～第２０回	トータルペインとペインコントロールについて文献に基づき、慢性期患者・家族の苦痛のアセスメントとペインコントロール・苦痛を緩和する援助のあり方について考察を深める。	
第２１回～第２５回	代理意思決定、身体拘束、終末期医療の決定など、慢性看護学で領域で起こりやすい倫理的課題と倫理調整の在り方について学修する	

第２６回～第３０回	代理意思決定、身体拘束、終末期医療の決定など、慢性看護学で領域で起こりやすい倫理的課題と倫理調整の在り方について学修する。	
第３１回～第３５回	慢性看護学特論及び慢性看護学演習での学修をもとに、学生自らの研究課題を焦点化するために、国内外の文献を検討する。	
第３６回～第４０回	学生自らの研究課題について、国内外の文献を検討し、研究の動向と課題を明らかにする。	
第４１回～第４５回	学生自らの研究課題について、国内外の文献に基づき研究の動向と課題について文献検討結果をまとめる。	
第４６回～第５０回	学生自らの研究課題について、国内外の文献に基づき研究の動向と課題について文献検討を作成する。	
第５１回～第５５回	学生の研究課題にそった文献レビュー・クリティーク・プレゼンテーションディスカッションにより、慢性看護学における援助のあり方を考察する。	
第５６回～第６０回	学生の研究課題にそった文献レビュー・クリティーク・プレゼンテーションディスカッションにより、慢性看護学における援助のあり方を考察する。	

1.授業コード（ナンバリング）	41441	2.科目名	がん看護学演習	3.単位数	8
4.授業担当教員	岩下真由美、房間美恵				
5.授業科目の区分	療養支援看護学 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科　修士論文コース			9.履修学年	看護学研究科 1 年・2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 がんの様々な状況に伴う患者とその家族の意思決定を支援し、主要な健康上の問題を理解し、在宅ケアや地域医療を含めた治療前から終末期までの一貫した援助を探求する。 がん治療によってもたらされる身体の器質的・機能的な変化に対して、身体・心理・社会的な働きかけと患者や家族が自ら、QOL を高めることができる援助を探求する。 【概要】 がん看護学で学修した知識をもとに、がんに罹患した患者とその家族に必要な看護援助について理解を深め、自らの研究課題を明確にするために国内外の文献を検討し、文献レビュー・クリティー				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの（1）専門知識・技能、（2）問題発見力、（3）調査分析能力、（5）課題解決策への提案力、（7）倫理観が関連している。 【学修目標】 1 がんに罹患した患者とその家族に必要な看護援助について、文献レビューし文献検討を作成できる。 2.がんに罹患した患者とその家族に必要な看護援助について、研究論文をクリティークできる。 3.がん看護学に関する文献検討結果に基づき、問題点を指摘し自らの研究疑問を明確にすることができる。 4.学生の研究課題に関する文献検討に基づき、がん看護学における援助のあり方を考察することができる。				
19.教科書・教材	特に指定なし。				
20.参考文献	演習の中で適宜紹介する。				
21.成績評価	プレゼンテーション 50% 課題レポート 50%				
22.コメント	がん看護に関する主要な概念やケアについて文献レビューを行い、がん看護学における自らの興味あるテーマについての研究の動向と研究課題を広く明らかにしていきましょう。				
23.オフィスアワー	水曜日：研究室オフィスアワー　10:45～12:15 センター・オフィス・アワー　12:15～13:15				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回～第 5 回	がんの予防・早期発見のための教育・啓発活動および相談活動などの内容を取り上げ、文献をクリティークする。	①プレゼンテーションで担当する授業のテーマについて授業開始前に課題についてまとめたものを提出する。 ②授業では各テーマについて関連した周辺領域のトピックスを調べて参加する。また、プレゼンテーションや質疑を主体的に行えるよう準備する。

		③授業時間中に明らかになった課題について授業終了後、整理してまとめて提出する。 ＊以下の演習でも同様の準備を行なう。
第 6 回～第 10 回	がんの予防・早期発見のための教育・啓発活動および相談活動などの内容を取り上げ、文献をクリティークの結果に基づき、がん看護学における援助を考察する。	
第 11 回～第 15 回	意思決定を支える看護援助（治療選択、再発時の治療の選択、療養の場の選択、終末期の意思決定、緩和ケアなど）について文献をクリティークする。	
第 16 回～第 20 回	意思決定を支える看護援助（治療選択、再発時の治療の選択、療養の場の選択、終末期の意思決定、緩和ケアなど）について文献をクリティークを基に、がん看護学領域で起こりやすい倫理的課題と倫理調整について学修する。	
第 21 回～第 25 回	意思決定を支える看護援助（治療選択、再発時の治療の選択、療養の場の選択、終末期の意思決定、緩和ケアなど）について文献をクリティークを基に、がん看護学領域で起こりやすい倫理的課題と倫理調整について学修した成果を基に看護援助の方法を考察する。	
第 26 回～第 30 回	がんとの共生に対する支援、サポートグループ、再発・転移を経験した患者への看護援助（身体的支援、心理・社会的支援､）について文献をクリティークする。	
第 31 回～第 35 回	終末期がん患者への看護援助（身体・心理・社会的支援、家族への支援)、代替・相補療法と看護について文献をクリティークする。	
第 36 回～第 40 回	がん治療・看護における地域との連携と社会資源の活用と家族への支援、がん医療・終末期医療の動向と課題について文献をクリティークする。	
第 41 回～第 45 回	学生自らの研究課題について、国内外の文献に基づき研究の動向と課題について文献検討結果を明らかにし、成果をまとめる。	
第 46 回～第 50 回	学生自らの研究課題について、国内外の文献に基づき研究の動向と課題について文献検討を作成する。	
第 51 回～第 55 回	学生自らの研究課題について、国内外の文献に基づき研究の動向と課題について文献検討を作成し、研究課題を明確化する。	
第 56 回～第 60 回	学生の研究課題にそった文献レビュー・クリティーク・プレゼンテーションディスカッションにより、がん看護学における援助のあり方を考察する。	

1.授業コード（ナンバリング）	41451	2.科目名	精神看護学演習	3.単位数	8
4.授業担当教員	櫻井信人				
5.授業科目の区分	療養支援看護学	6.必修・選択の区分	選択（精神看護が専門領域のものは必須）	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	1 年次春学期～2 年次秋学期
10.取得資格の要件	看護学特演科目は 2 科目（4 単位）以上必要	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 精神看護学に関連した研究課題に取り組み、研究の面から精神看護学の社会貢献に寄与する。 【概要】 精神看護学特論で学修した知識や概念などを活用して、自らの研究課題を明確にするために、文献レビュー、クリティーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。これらの演習を通して、研究方法を学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（2）社会的貢献性、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 【精神看護学演習の学習目標】 自ら自律し、専門的な知識を活用し、課題探求・解決などの研究活動を通じて、社会に貢献できる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	文献、資料および課題の提示を行う。				
21.成績評価	プレゼンテーション（40%）課題レポート（20%）フィールドワークの成果（20%）最終レポート（20%）の配分で 4 学期 2 単位ごとに採点し、最終レポートを足して総合的に評価する。				
22.コメント	修士論文を取り組む際に必要な研究方法などを学ぶ科目であり、積極的、継続的に取り組んでいってください。				
23.オフィスアワー	（櫻井）センターオフィスアワー水曜日 1 時間目、研究室オフィスアワー水曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年春学期 15 回（90 分×15 回）	1. 精神看護学に必要な研究方法について学ぶ。（研究の依頼、データの収集方法、分析および結果・報告） 2. 参加観察、グループインタビュー、調査などデータを収集方法について学ぶ。 3. 学生自らが日頃から感じている看護的課題に関して、文献を検索、クリティーク、ディスカッションすることによって、看護研究について理解を深める。	
1 年秋学期 15 回（90 分×15 回）	4. 精神看護学特論、および 1 年春学期の精神看護学演習での学修をもとに学生自らの研究課題を明確にする。 5. 課題の焦点化するために各内外の文献を検討し、自身の課題についての概念やこれまでの研究を整理する。 6. 倫理的配慮、研究計画立案方法を学び、倫理審査申	

	請書を作成あうる。	
2 年春学期 15 回 （90 分×15 回）	7.自己の研究計画にそって、データ収集に向けて準備する。 8. データ収集の実施する。 9. データ分析を始める。	
2 年秋学期 15 回 （90 分×15 回）	10.データの分析結果を修士論文として、まとめる。	

1.授業コード（ナンバリング）	41491	2.科目名	在宅看護学演習		3.単位数	8
4.授業担当教員	畑吉節未					
5.授業科目の区分	生活支援看護学	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科博士前期課程			9.履修学年	１年、２年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、討議、プレゼンテーション、フィールドワーク		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 １．在宅看護学に関わる国内外の文献のクリティークを行い、在宅看護学研究について理解を深める。 ２．在宅看護学に必要なフィールドワークにおける研究課題と研究方法を学ぶ。 【概要】 関心のある在宅看護実践の現状と動向について文献学修し、在宅看護活動関連のフィールドワークを通じて、研究課題と研究方法を探求する。					
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 1）関心のある在宅看護実践に関するテーマを決定し、在宅看護実践の現状と動向を文献学習する。 2）関心のある在宅看護活動関連のフィールドワークを通じて、看護実践のあり方を考察する。 3）フィールドワークを通じて、研究の課題と研究方法を探求する。 【DP との関連】 自律し、専門性をもって社会に貢献できる人間になる。問題解決能力を身につける。					
19.教科書・教材	適宜、資料を提示、配布する。					
20.参考文献	適宜提示する。					
21.成績評価	授業、フィールドワークへの参加（10%）、資料作成（30%）およびプレゼンテーション（30%）、ディスカッション（30%）					
22.コメント	・修士論文の基となる科目であるため、自主的に取り組んでいきましょう。 ・関心のある在宅看護実践の現状と動向について文献学習し、フィールドワークのプランを作成しましょう。 ・フィールドワークで修得した内容をもとに、自己の研究課題を探求し、研究ノートに整理しましょう。					
23.オフィスアワー	畑：水曜日昼休み 中野・今福：木曜日昼休み					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
１年春学期 15 回	1.在宅看護学に必要なフィールドワークにおける研究方法を学ぶ。 （研究の依頼、データの収集方法、分析方法） 2.参加観察法、インタビュー、調査などのデータ収集方法について学ぶ。 3.在宅看護学に関わる国内外の文献のクリティークを行い、在宅看護学研究について理解を深める。 4.概念分析について学ぶ。	

1 年生秋学期 15 回	1.フィールドワークのプランニングと実施。 2.在宅看護実践のあり方と研究課題を明確化する。 3.研究計画の立案方法を学ぶ。	
2 年春学期 15 回	1.自己の研究計画に沿ってデータ収集の準備を行う（倫理委員会審査を含む)。 2.データ収集を実施する。 3.データの分析を行う。	
2 年秋学期 15 回	データの分析結果をまとめ、考察する。	

1.授業コード（ナンバリング）	41493	2.科目名	公衆衛生看護学演習	3.単位数	8
4.授業担当教員	藤原和美、中世古恵美、久井志保				
5.授業科目の区分	生活支援看護学	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	１・２年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	ゼミ形式		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	公衆衛生看護学概論での理論や概念などを活用して、公衆衛生看護学研究（修士論文）に必要な研究方法をフィールドワークおよび演習を通して学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	自律し、専門性をもって社会に貢献できる人間になる。				
19.教科書・教材	文献、資料および課題の提示を行う。				
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する。				
21.成績評価	プレゼンテーション（４０%）、課題レポート（２０%）、フィールドワークの成果（２０%）、最終レポート（２０%）の配分で４学期２単位ごとに採点し、最終レポートを足して総合点で評価する。				
22.コメント	修士論文を取り組む際に必要な研究方法などを学ぶ科目であり、自ら積極的に地道に積み上げていってほしい。				
23.オフィスアワー	以下の時間に質問及び相談に応じます。但し、可能な限り事前にアポイントメントをとってください。（急な対応で時間の取れない場合もあります） 藤原：研究室　水曜日昼休み、センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 久井：研究室　水曜日昼休み、センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 中世古：研究室　水曜日昼休み、センターオフィスアワー　（図書館）火曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
１年春学期 15 回（90 分 15 回）	１．公衆衛生看護学に関わる国内外の文献のクリティークを行い、公衆衛生看護学研究について理解を深める。文献検討を発表する。 ２．公衆衛生看護学に必要なフィールドワークにおける研究方法の概要を学ぶ。 ３．演習：事例を用いて参加観察、グループインタビュー、調査などデータ収集の方法の演習。	
１年秋学期 15 回（90 分 15 回）	４．概念分析の文献を通して概念分析の方法を学ぶ ５．自己の研究課題に関わる概念分析を行い、発表する。 ６．研究計画の立案方法を学ぶ。	
2 年春学期 15 回（90 分 15 回）	７．自己の研究計画にそってデータ収集に向けて準備する。 １）量的研究方法：統計ソフト SPSS の活用の操作を学ぶ ２）調査票の作成（質的・量的研究） ３）調査フィールドの確定、依頼文書の作成	

2 年秋学期 15 回（90 分 15 回）	8．データの分析計画立案 9．データ分析を行う	

1.授業コード（ナンバリング）	41495	2.科目名	国際看護学演習			3.単位数	8
4.授業担当教員	伊藤尚子						
5.授業科目の区分	専門科目 生活支援看護学	6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	目的：異文化看護および国際協力の実践に必要な理論を理解し、理論を活用した看護活動の手法を修得する。国際看護学研究における文献クリティークを行い、研究の動向を理解したうえで、研究課題を明確化させる。 概要：授業目的に応じ事前学習した内容についてプレゼンテーションを行い、教員による補足や解説により更なる考察を深化させる。また、プロジェクトマネジメント手法では、具体例からプロジェクトデザインを展開する。国際看護学研究における文献クリティークを行い、研究の動向を理解しつつ研究課題とディスカッションする。							
18.学習目標とＤＰとの関連	①異文化看護および国際協力の実践に必要な理論を理解し説明できる。 →DP：(1)専門知識・技能　(6) コミュニケーション能力 ②エスノグラフィーによる研究方法を理解し説明できる。 →DP：(1)専門知識・技能　(2)問題発見力　(6) コミュニケーション能力 ③国際看護活動におけるプロジェクトデザインを展開できる。 →DP：(1)専門知識・技能　(2)問題発見力　(3) 調査・分析能力　(5) 課題解決策への提案力　(6) コミュニケーション能力 ④異文化看護に関連する研究論文の文献クリティークができる。 →DP：(1)専門知識・技能（3）調査・分析能力（5）課題解決策への提案力（6）コミュニケーション能力 ⑤日本における在留外国人支援に関連する研究論文の文献クリティークができる。 →DP：(1)専門知識・技能（3）調査・分析能力（5）課題解決策への提案力　(6) コミュニケーション能力							
19.教科書・教材	資料を配布						
20.参考文献	講義の中で適宜紹介						
21.成績評価	プレゼンテーション　40% 課題レポート　60%						
22.コメント							
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜日　昼休み センターオフィスアワー：火曜日　昼休み						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1～8 回	M.M.Leininger「Culture Care Diversity and Universality: A Worldwide Nursing Theory」 上記文献の指定した章をサマライズしプレゼンテーションを行う。	
第 9～15 回	Giger, Joyce Newman「 Transcultural Nursing」 上記文献の指定した章をサマライズしプレゼンテーシ	

	ョンを行う。	
第 16～20 回	国際看護活動におけるプロジェクトマネジメント手法	
第 21～26 回	エスノグラフィーによる看護研究	
第 27～30 回	異文化間看護に関連する研究の動向	
第 31～36 回	異文化間看護に関連する文献クリティーク	
第 37～42 回	異文化間看護に関連する文献クリティークの結果に基づき、自身の研究課題とのディスカッションを行う。	
第 43～48 回	在留外国人支援に関連する研究の動向	
第 49～54 回	在留外国人支援に関連する文献クリティーク	
第 55～60 回	在留外国人支援に関連する文献クリティークの結果に基づき、自身の研究課題とのディスカッションを行う。	

1.授業コード（ナンバリング）	42400	2.科目名	特別研究（修士論文）	3.単位数	8
4.授業担当教員	高見沢恵美子				
5.授業科目の区分	特別研究（修士論文）	6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 冬学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士前期課程　修士論文コース			9.履修学年	1.2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科　療養支援分野であること				
17.授業の目的と概要	【目的】 自己の研究課題を明確にし、精神看護学に関する研究テーマを探求し研究する。 【概要】 研究計画書立案・研究実施・論文作成・プレゼンテーションなど、高度専門書職業人として必要な基礎的な研究の知識・技法を学修する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(4)論文作成能力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1.研究の意義と研究目的を記述できる。 2.研究課題に関する文献検討を記述できる。 3.研究目的に適合する対象・調査内容・調査方法・分析方法を吟味し記述できる。 4.研究遂行に必要な倫理的配慮を計画できる。 5.看護学研究科委員会で承認された研究計画に従い、調査を実施できる。 6.調査から得られたデータを、研究目的にそって分析できる。 7.分析結果に基づき、研究目的に沿って考察できる。 8.研究成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションできる。				
19.教科書・教材	特に指定しない。				
20.参考文献	必要時適宜紹介する。				
21.成績評価	提出された修士論文および論文審査会での発表・質疑応答により審査を行う。評価は、研究科委員会によって選出された審査委員（主査・副査）が協議し決定する。 研究計画の立案・内容、修士論文の完成度を総合して評価する。				
22.コメント	臨床で解決が難しかった自分自身が興味を持っている内容を課題として取り上げ、研究を行います。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：木曜日 12:10～13:10				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年春/夏	＜研究課題の明確化＞ 急性看護学特論、急性看護学演習の内容を参考にし、自らの研究疑問・関心を絞り込みながら研究課題を明確にする。研究課題に関する質的・量的研究論文の検索・クリティークを行い研究方法の理解を深める。研究課題に沿った文献レビューを作成する。	
1 年秋/冬	＜研究課題・方法の具体化、研究計画書の作成・研究倫理審査申請＞ 研究課題を明確にし、研究デザイン、研究の概念枠組み、研究方法を検討する。また、研究対象・実施施設	

	に応じて研究の倫理的配慮を具体化する。 中間報告会を行い研究科教員全員参加のもとで研究計画及び研究の進行状況について助言・研究計画書の審査を受け、必要に応じ研究計画書の修正を行う。 大学・研究実施施設の倫理的審査委員会に申請し、承認を受ける。調査実施施設に、研究計画書および具体的倫理的配所に基づき研究計画書を説明し、研究協力の承諾を得る。	
2 年春/夏	<研究の実施・データ分析> 研究計画書に基づいて調査を実施する。プレ調査終了後、調査状況及びデータ収集内容について検討し、調査方法を検討する。 研究対象者から得られたデータを研究計画書にそって分析する。そして、研究結果をまとめていく。	
2 年秋/冬	<研究論文の作成・発表・審査> 分析結果に基づき研究論文の結果を記述する。研究目的および研究意義に関して考察を記述する。 論文審査会でのプレゼンテーションを行い、審査を受ける。	

1.授業コード（ナンバリング）	42401	2.科目名	特別研究（修士論文）		3.単位数	8
4.授業担当教員	伊藤尚子					
5.授業科目の区分	専門科目 特別研究（修士論文）	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	1-2 年	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：国際看護活動に関する研究課題を設定して、研究計画立案／データ収集と分析／研究論文の作成を行う。 概要：文献検討（和文・英文）を行って研究課題を焦点化し、研究の概念枠組みを定め、取り組む研究の意義を明文化する。倫理審査に必要な資料を作成して審査委員会の承認を得たのち、データの収集を行い、適切な理論・方法・手段を用いて分析をする。結果から考察し、結論づける。					
18.学習目標とＤＰとの関連	学習目標 １．研究の意義と目的を理解し説明できる。 ２．必要十分な文献検討を行い、研究課題を明確化できる。 ３．研究目的が達成されるに必要な研究方法（研究デザイン、対象、調査内容と方法、分析方法など）を明確化できる。 ４．研究遂行に必要な倫理的配慮を明文化でき、倫理審査委員会の承認を得ることができる。 ５．研究計画に沿い定められた機関で調査を実施できる。 ６．得られたデータを適切な理論・方法・手段を用いて分析をする。 ７．データから得られた結果をまとめ、研究目的に応じた考察ができる。 ８．研究目的に呼応した結論を導き出せる。 ９．研究成果を論文としてまとめ、発表・投稿できる DP との関連 （1）専門知識・技能 （2）問題発見力 （3）調査分析能力 （4）論文作成能力 （5）課題解決策への提案力 （6）コミュニケーション能力 （7）倫理観					
19.教科書・教材	授業において資料を配布する。					
20.参考文献	必要時適宜紹介する。					
21.成績評価	論文審査会での審査による。					
22.コメント	国際看護活動としての、活動の内容／国の内外／対象は問いません。ご自身の興味・関心のある事に取り組んでください。					
23.オフィスアワー	研究室ｵﾌｨｽｱﾜｰ：水曜日昼休み、センターｵﾌｨｽｱﾜｰ：木曜日昼休み（図書館）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
１年春・夏学期	文献検討（和文・英文）を行って研究課題を焦点化し、研究の概念枠組みを定め、取り組む研究の意義を明文化する。	
１年秋・冬学期	研究計画書の作成を行う。 中間報告会を経て、倫理審査委員会へ研究計画書を提	

	出し承認を得るための申請する。	
2年春・夏学期	倫理審査委員会の承認後、承認を受けた研究計画書に沿って調査を実施し、必要なデータを収集する。得られたデータを結果として整理し記述する。	
2年秋・冬学期	調査結果を分析し、研究目的に応じた考察を行って、研究目的に呼応した結論を導き出す。研究成果を論文としてまとめ、論文審査会で発表し審査を受ける。	

1.授業コード（ナンバリング）	42407	2.科目名	特別研究（修士論文）	3.単位数	8
4.授業担当教員	岩下真由美				
5.授業科目の区分	特別研究（修士論文）	6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 冬学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士前期課程　修士論文コース			9.履修学年	1.2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科　療養支援分野であること				
17.授業の目的と概要	【目的】 自己の研究課題を明確にし、精神看護学に関する研究テーマを探求し研究する。 【概要】 研究計画書立案・研究実施・論文作成・プレゼンテーションなど、高度専門書職業人として必要な基礎的な研究の知識・技法を学修する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(4)論文作成能力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1.研究の意義と研究目的を記述できる。 2.研究課題に関する文献検討を記述できる。 3.研究目的に適合する対象・調査内容・調査方法・分析方法を吟味し記述できる。 4.研究遂行に必要な倫理的配慮を計画できる。 5.看護学研究科委員会で承認された研究計画に従い、調査を実施できる。 6.調査から得られたデータを、研究目的にそって分析できる。 7.分析結果に基づき、研究目的に沿って考察できる。 8.研究成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションできる。				
19.教科書・教材	特に指定しない。				
20.参考文献	必要時適宜紹介する。				
21.成績評価	提出された修士論文および論文審査会での発表・質疑応答により審査を行う。評価は、研究科委員会によって選出された審査委員（主査・副査）が協議し決定する。 研究計画の立案・内容、修士論文の完成度を総合して評価する。				
22.コメント	臨床で解決が難しかった自分自身が興味を持っている内容を課題として取り上げ、研究を行います。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜日 12:10～13:10				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年春/夏	＜研究課題の明確化＞ 慢性看護学特論、慢性看護学演習の内容を参考にし、自らの研究疑問・関心を絞り込みながら研究課題を明確にする。研究課題に関する質的・量的研究論文の検索・クリティークを行い研究方法の理解を深める。研究課題に沿った文献レビューを作成する。	
1 年秋/冬	＜研究課題・方法の具体化、研究計画書の作成・研究倫理審査申請＞ 研究課題を明確にし、研究デザイン、研究の概念枠組み、研究方法を検討する。また、研究対象・実施施設	

	に応じて研究の倫理的配慮を具体化する。 中間報告会を行い研究科教員全員参加のもとで研究計画及び研究の進行状況について助言・研究計画書の審査を受け、必要に応じ研究計画書の修正を行う。 大学・研究実施施設の倫理的審査委員会に申請し、承認を受ける。調査実施施設に、研究計画書および具体的倫理的配所に基づき研究計画書を説明し、研究協力の承諾を得る。	
2 年春/夏	<研究の実施・データ分析> 研究計画書に基づいて調査を実施する。プレ調査終了後、調査状況及びデータ収集内容について検討し、調査方法を検討する。 研究対象者から得られたデータを研究計画書にそって分析する。そして、研究結果をまとめていく。	
2 年秋/冬	<研究論文の作成・発表・審査> 分析結果に基づき研究論文の結果を記述する。研究目的および研究意義に関して考察を記述する。 論文審査会でのプレゼンテーションを行い、審査を受ける。	

1.授業コード（ナンバリング）	42408	2.科目名	特別研究（修士論文）	3.単位数	8
4.授業担当教員	中世古恵美				
5.授業科目の区分	特別研究（修士論文）	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 冬学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	1～2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	ゼミ形式で研究課題に沿って研究を進めて行き、修士論文を作成していく。		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】修士論文の作成ができる。 【概要】研究課題を明確にする。研究計画書を作成し、研究倫理委員会に提出し、審査を受ける。審査で承認後研究を開始し、データー分析を行い、結果をまとめ、論文を作成する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	修士論文を完成させる。				
19.教科書・教材	適宜授業の中で文献などの資料を示す。				
20.参考文献					
21.成績評価	中間発表、修士論文、修士論文発表会などで評価する。				
22.コメント	自律して研究を進めて行く。				
23.オフィスアワー	研究室　水曜日昼休み センターオフィスアワー　火曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年次　春期	文献検討を行い、研究課題を明確にする	
1 年次　秋期	研究計画を作成し、研究倫理委員会へ申請する。	
2 年次　春期	研究を実施し、データの分析を行う。	
2 年次　秋期	論文の作成を行う。	

1.授業コード（ナンバリング）	42412	2.科目名	特別研究（修士論文）		3.単位数	8
4.授業担当教員	畑吉節未					
5.授業科目の区分	特別研究（修士論文）	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士前期課程　修士論文コース			9.履修学年	1～2 年	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	ゼミ形式で研究課題に沿って研究を進めて行き、修士論文を作成していく。			
16.履修制限	看護学研究科　生活支援看護学分野であること					
17.授業の目的と概要	在宅看護学分野における研究の動向を理解し、自己のテーマに沿って研究計画書を作成し、研究を実施できる。 ①研究テーマの精選ができる 　リサーチクエスチョンを練り、自分の研究目的を明らかにする。 ②研究目的を達成できる研究方法の選定ができる 　質的・量的研究方法の進め方を理解したうえで自分の研究方法を選定する。 ③在宅看護学学分野における研究の動向を理解し、自己のテーマに沿って研究計画書を作成し、研 　究倫理委員会に提出し、審査を受ける。研究を実施できる。 ④研究の実施ができる 　適切な協力者を得て研究を実施					
18.学習目標と ＤＰとの関連	修士論文を完成させる。 本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(4)論文作成能力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1.研究の意義と研究目的を記述できる。 2.研究課題に関する文献検討を記述できる。 3.研究目的に適合する対象・調査内容・調査方法・分析方法を吟味し記述できる。 4.研究遂行に必要な倫理的配慮を計画できる。 5.看護学研究科委員会で承認された研究計画に従い、調査を実施できる。 6.調査から得られたデータを、研究目的にそって分析できる。 7.分析結果に基づき、研究目的に沿って考察できる。 8.研究成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションできる。					
19.教科書・教材	適宜授業の中で文献などの資料を示す。					
20.参考文献						
21.成績評価	中間発表、修士論文、修士論文発表会などで評価する。					
22.コメント	自律して研究を進めて行く。					
23.オフィスアワー	水曜日昼休み					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年次　春期/夏期	【研究課題を明確にする】 ①在宅看護学特論、在宅看護学演習の内容を参考に、自らのリサーチ 　クエスチョンを絞り込みながら研究課題を明確にする。 ②リサーチクエスチョンに基づき、研究課題に関する	

	論文を検索し、 　クリティークを行い研究方法の理解を深める。 　できれば文献検討だけでなく文献研究（マトリックス法）を行う。	
1 年次　秋期	【研究計画を作成し、研究倫理委員会へ申請する】 ①研究課題を明確にし、研究デザイン、研究の概念枠組み、研究方法 　を検討する。 ②研究対象者・実施施設に応じた研究の倫理的配慮を具体化する。 ③中韓報告会を行い、研究家教員全員参加のもとで研究計画および研 　究の進行状況を助言・研究計画の審査を受け、必要に応じて研究計 　画の修正を行う。 ④大学倫理委員会・研究実施施設の倫理審査委員会に申請し、承認を 　受ける。 ⑤研究実施施設・研究協力者にに、研究計画書および具体的な研究の 　倫路的配慮に基づき研究計画書を	
2 年次　春期/夏期	【研究の実施・データの分析を行う】 ①研究計画に基づき、研究を実施する。 ②研究対象者から得られたデータを研究計画書にそって分析し、研究 　結果としてまとめる。	
2 年次　秋期	【研究論文の作成を行う】 ①分析結果に基づき、研究論文の結果を記述する。 ②研究目的および研究の意義に関して考察を行う。	
2 年次秋/冬学期	【研究論文の作成・審査会で発表を行い審査を受ける】 論文審査としてのプレゼンテーションを行い、審査委員会での審査を受ける。	

1.授業コード（ナンバリング）	42413	2.科目名	特別研究（修士論文）	3.単位数	8
4.授業担当教員	櫻井信人				
5.授業科目の区分	特別研究（修士論文）	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 冬学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士前期課程　修士論文コース			9.履修学年	1・2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科　療養支援分野の精神看護学領域であること				
17.授業の目的と概要	【目的】 自己の研究課題を明確にし、精神看護学に関する研究テーマを探求し研究する。 【概要】 研究計画書立案・研究実施・論文作成・プレゼンテーションなど、高度専門書職業人として必要な基礎的な研究の知識・技法を学修する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	ＤＰとの関連 本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(4)論文作成能力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1.研究の意義と研究目的を記述できる。 2.研究課題に関する文献検討を記述できる。 3.研究目的に適合する対象・調査内容・調査方法・分析方法を吟味し記述できる。 4.研究遂行に必要な倫理的配慮を計画できる。 5.看護学研究科委員会で承認された研究計画に従い、調査を実施できる。 6.調査から得られたデータを、研究目的にそって分析できる。 7.分析結果に基づき、研究目的に沿って考察できる。 8.研究成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションできる。				
19.教科書・教材	特に指定はしない。				
20.参考文献	適宜説明する。				
21.成績評価	提出された修士論文および論文審査会での発表・質疑応答により審査を行う。評価は、研究科委員会によって選出された審査委員（主査・副査）が協議し決定する。研究計画の立案・内容、修士論文の完成度を総合して評価する。				
22.コメント	研究疑問を明確にしてテーマを見つけ、主体的に研究を進めましょう。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー火曜日１時間目、研究室オフィスアワー水曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年春/夏	＜研究課題の明確化＞ 自らの研究疑問・関心を絞り込みながら研究課題を明確にする。研究課題に関する質的・量的研究論文の検索・クリティークを行い研究方法の理解を深める。研究課題に沿った文献レビューを作成する。	
1 年秋/冬	＜研究課題・方法の具体化、研究計画書の作成・研究倫理審査申請＞ 研究課題を明確にし、研究デザイン、研究の概念枠組み、研究方法を検討する。また、研究対象・実施施設に応じて研究の倫理的配慮を具体化する。 中間報告会で発表を行う。研究計画及び研究の進行状	

	況について助言・研究計画書の審査を受け、必要に応じ研究計画書の修正を行う。 大学・研究実施施設の倫理審査委員会に申請し、承認を受ける。調査実施施設に、研究計画書および具体的な倫理的配慮を説明し、研究協力の承諾を得る。	
2 年春/夏	<研究の実施・データ分析> 研究計画書に基づいて調査を実施する。プレ調査終了後、調査状況及びデータ収集内容について検討し、調査方法を検討する。 研究対象者から得られたデータを研究計画書に沿って分析する。そして、研究結果をまとめていく。	
2 年秋/冬	<研究論文の作成・発表・審査> 分析結果に基づき研究論文の結果を記述する。研究目的および研究意義に関して考察を記述する。 論文審査会でのプレゼンテーションを行い、審査を受ける。	

1.授業コード（ナンバリング）	42414	2.科目名	特別研究（修士論文）	3.単位数	8
4.授業担当教員	久井志保				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 冬学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1～2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	対面及び遠隔		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	修士論文を完成させるべく、研究方法についての講義と実際の作成を行う。				
18.学習目標とＤＰとの関連					
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価					
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)

1.授業コード（ナンバリング）	71000	2.科目名	看護学研究方法論	3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子、今野理恵、松尾ひとみ				
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科　博士後期課程			9.履修学年	博士後期課程 1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	看護実践を行う上での看護研究の意義を学び、看護上の課題発掘や看護実践の開発に向けた研究課題を明確にする視点を養う。また看護学研究の特殊性・倫理性を理解し、研究活動に必要な知識と高度な研究手法を習得する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学修目標】 1.看護研究の意義と研究プロセスを説明できる。 2.因子探索研究・関係探索研究・実験研究の研究デザインを説明できる。 3.調査方法を説明できる。 4.研究論文のクリティークが説明できる。 5.看護研究に必要な倫理的配慮を説明できる。 本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(5)課題解決への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。				
19.教科書・教材	D.F.ポーリット、B.F.ハングラー(近藤潤子監訳),看護研究-原理と方法-,医学書院				
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。 北素子,谷津裕子,質的研究の実践と評価のためのサブストラクション,医学書院.				
21.成績評価	課題レポート６０％(各授業内容についての資料) プレゼンテーション４０％				
22.コメント					
23.オフィスアワー	高見沢：火曜日 12:10～13:10　メディアライブラリー				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回 ４月６日(土)1限	看護研究のプロセス・研究のエビデンスと Evidence-based practice(EBP)(高見沢恵美子)	
第２回 ４月１３日(土)1 限	国内外のデータベース検索・文献リストの作成(今野理恵)	
第３回 ４月 13 日(土)2 限	システマティクレビュー(今野理恵)	
第４回 ４月２0(土)1限	研究デザイン①因子探索研究(高見沢恵美子)	
第５回４月 20 日(土)2 限	研究デザイン②関係探索研究(高見沢恵美子)	
第６回 5 月 11 日(土)1限	研究デザイン③実験・準実験研究(高見沢恵美子)	

第 7 回 5 月 11 日(土)2 限	調査方法(観察法・面接法・質問紙法)(高見沢恵美子)	
第 8 回 5 月 25 日(土)1 限	サブストラクション(高見沢恵美子)	
第 9 回 5 月 25 日(土)2 限	統計的研究論文のクリティーク(高見沢恵美子)	
第 1 0 回 6 月 8 日(土)1 限	質的研究と量的研究の違い(松尾ひとみ)	
第 1 1 回 6 月 8 日(土)2 限	質的研究の種類の違い(研究疑問、分析方法) (松尾ひとみ)	
第 1 2 回 6 月 22 日(土)1 限	質的研究における妥当性の確保と研究倫理 (松尾ひとみ)	
第 1 3 回 6 月 22 日(土)2 限	質的研究におけるクリティーク (松尾ひとみ)	
第 1 4 回 7 月 6 日(土)1 限	クリティークの実践(2 つの論文を選びクリティークする) (松尾ひとみ)	
第 1 5 回 7 月 6 日(土)2 限	研究計画書作成と研究に必要な倫理的配慮(高見沢恵美子)	

1.授業コード（ナンバリング）	71002	2.科目名	看護学教育論	3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子、卯川久美、細田泰子				
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～夏学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科　博士後期課程			9.履修学年	博士後期課程 1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	看護学研究科博士後期課程大学院生				
17.授業の目的と概要	看護学教育に必要な知識を身につけ、自分が関心をもつ現象について、理論と実証的研究の両方から学修することで、現象に対する包括的理解を目指す。このプロセスにおいて、看護学教育を発展させていく方策を探究する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(5)コミュニケーション能力と関連しています。 1.看護学教育に関わる諸理論を理解し、自分の関心のある現象と関連づける。 2.自分の関心のある看護学教育に関わる現象について文献検討を行い、研究の必要性を明らかにする。 3.自分が選択した現象について、理論とエビデンスの統合を行う。				
19.教科書・教材	特に指定しない。				
20.参考文献	Billings, D. M. & Halstead, J. A. (2019). Teaching in Nursing: A Guide for Faculty, 6th ed., Elsevier. Billings, D. M. & Halstead, J. A.著, 佐々木幾美, 奥宮暁子, 小林美子 監訳 (2021). 看護を教授すること：大学教員のためのガイド（原著 第 6 版), 医歯薬出版.				
21.成績評価	課題レポート 60% プレゼンテーション 40%				
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。				
23.オフィスアワー	高見沢：木曜日 12:10～13:10　メディアライブラリー				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション、看護学教育の定義　（細田）	参考文献の UNIT1（教員と学生）を読んで臨む
第 2 回	カリキュラム開発・評価、3 つのポリシー　（細田）	参考文献の UNIT2（プロセスとしてのカリキュラム）を読んで臨む
第 3 回	教授と学習に関する理論（細田）	参考文献の UNIT3（教授と学習）を読んで臨む
第 4 回	看護基礎教育における現状と課題、自身の関心のある現象の検討（細田）	テーマに関する文献を収集し、知識を整理してプレゼンテーションの準備をして臨む
第 5 回	看護基礎教育における自身の関心のある現象についての文献検討 1（細田）	テーマに関する文献を収集し、知識を整理してプレゼンテーションの準備をして臨む
第 6 回	看護基礎教育における自身の関心のある現象についての文献検討 2（細田）	テーマに関する文献を収集し、知識を整理してプレゼンテーションの準備をして臨む
第 7 回	自身の関心のある現象についての理論とエビデンスの整理と体系化（細田）	テーマに関する文献を収集し、知識を整理してプレゼンテーションの準備をして臨む
第 8 回	看護専門職の生涯学習としての継続教育の現状と課題、自身の関心のある現象の検討（卯川）	日本看護協会　継続教育の基準 Ver.2 を読んで臨む

第９回	看護における生涯学習、生涯発達とは、変容的学習理論の検討（卯川）	生涯学習、生涯発達について調べて臨む
第１０回	看護における生涯学習、生涯発達とは、変容的学習理論の検討（卯川）	変容的学習理論について調べて臨む
第１１回	経験からの学習に関する理論の検討（卯川）	テーマに関する文献を収集し、知識を整理してプレゼンテーションの準備をして臨む
第１２回	看護継続教育の観点からの文献検討（卯川）	テーマに関する文献を収集し、知識を整理してプレゼンテーションの準備をして臨む
第１３回	看護生涯学習の観点からの文献検討（卯川）	テーマに関する文献を収集し、知識を整理してプレゼンテーションの準備をして臨む
第１４回	自身の関心のある現象に関連する理論を基に文献検討から得られたエビデンスの整理と体系化（卯川）	テーマに関する文献を収集し、知識を整理してプレゼンテーションの準備をして臨む
第１５回	まとめ：理論とエビデンスの統合（細田、卯川）	レポート（テーマ：看護学教育における理論とエビデンスの統合）を作成し、プレゼンテーションの準備をして臨む

1.授業コード（ナンバリング）	71004	2.科目名	療養支援看護学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科　博士後期課程			9.履修学年	博士後期課程 1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	看護学研究科博士後期課程大学院生				
17.授業の目的と概要	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力(5)コミュニケーション能力と関連しています。 【目的】 周手術期看護、クリティカルケア、救急看護、がん看護の視点を重視した専門分野における研究の最新の動向と課題を明確にする。 【概要】 療養生活の支援に必要な専門的看護援助・患者教育方法などの看護実践や患者教育について研究論文について文献レビューを行い、専門分野における教育研究能力を培う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	1.療養支援看護学分野における課題を説明できる。 2.学生の関心領域の課題に関連する概念や理論について説明できる 3.学生の関心領域の課題に関する研究の動向をプレゼンテーションできる。				
19.教科書・教材	特に指定しない。				
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。				
21.成績評価	課題レポート 70%(第 1 回～第 15 回の授業内容の資料) プレゼンテーション 30%				
22.コメント	関心のあるテーマについて文献検索を行い、最新の研究の動向と今後必要な研究についての考えをまとめてください。				
23.オフィスアワー	高見沢：木曜日 12:10～13:10　メディアライブラリー				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	療養支援看護学における理論・概念と研究の動向①(高見沢恵美子)	
第２回	療養支援看護学における理論・概念と研究の動向②(高見沢恵美子)	
第３回	クリティカルケアを受ける患者の療養生活に関する課題の明確化①(高見沢恵美子)	
第４回	クリティカルケアを受ける患者の療養生活に関する課題の明確化②(高見沢恵美子)	
第５回	周手術期患者の療養生活に関する課題①(高見沢恵美子)	
第６回	周手術期患者の療養生活に関する課題②(高見沢恵美子)	
第７回	救命救急患者の療養生活に関する課題 ①(高見沢恵美子)	
第８回	救命救急患者の療養生活に関する課題② (高見沢恵美子)	
第９回	がん看患者の療養生活に関する課題①(高見沢恵美子)	
第１０回	がん看患者の療養生活に関する課題②(高見沢恵美子)	
第１１回	ターミナルケア看護における課題①(高見沢恵美子)	
第１２回	ターミナルケア看護における課題②(高見沢恵美子)	

第１３回	患者の療養支援に携わる医療従事者の課題の明確化 ①(高見沢恵美子)	
第１４回	患者の療養支援に携わる医療従事者の課題の明確化 ②(高見沢恵美子)	
第１５回	研究課題についてのプレゼンテーション(高見沢恵美子) 学生の関心ある課題について、研究の動向と関連する 概念や理論についてプレゼンテーションする。	

1.授業コード（ナンバリング）	71006	2.科目名	生活支援看護学特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	畑吉節未、藤原和美				
5.授業科目の区分	生活支援看護学	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科博士後期課程			9.履修学年	1 年秋期～3 年冬期通年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義およびプレゼンテーション		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	生活支援看護学特論では、人々の生活の継続性を保障し、生活の質の向上に寄与すること、人々の生活を継続的・包括的にとらえ、人々やコミュニティと協働しながら看護を探究し、健康で安全な地域社会を構築するという観点から研究課題を明確にし、在宅看護学の専門分野における教育研究能力を培う。公衆衛生看護学分野では取り組む博士研究のための基礎的知識について学び、活用できる方法を取得する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	１．生活支援看護学分野における課題を明確にできる。 ２．学生の関心領域の課題に対する概念や理論について説明できる。 ３．学生の関心領域の課題に対する研究の動向をプレゼンテーションできる。				
19.教科書・教材	授業内容に応じて文献の紹介、参考資料の配布を行う				
20.参考文献	授業前に配布する				
21.成績評価	課題レポート　70% プレゼンテーション　30%				
22.コメント	主体的に取り組むことが必要です				
23.オフィスアワー	畑　：センターオフィイスアワー（図書館）木曜日昼休み　研究室　水曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	在宅看護における健康危機への対応（畑）	
第 2 回	在宅看護の特徴と潮流（畑）	
第 3 回	変容する在宅看護の場と主体（畑）	
第 4 回	多様な生活支援の枠組みと多職種連携（畑）	
第 5 回	在療養者中心の在宅看護のあり方（畑）	
第 6 回	在宅看護学・教育に関する研究のクリティーク（畑）	
第 7 回	在宅看護学・教育に関する研究のクリティーク（畑）	
第 8 回	健康の社会的決定要因（藤原）	
第 9 回	公衆衛生に関する健康指標の健康への影響と保健師（看護師）役割（藤原）	
第 10 回	公衆衛生に関する健康指標の健康への影響と保健師（看護師）役割（藤原）	
第 11 回	公衆衛生看護学・教育に関する研究のクリティーク（藤原）	
第 12 回	公衆衛生看護学・教育に関する研究のクリティーク（藤原）	
第 13 回	学生の研究関心、研究課題に関連した文献をもとにプレゼンテーションを行う（藤原）	

第 14 回	学生の研究関心、研究課題に関連した文献をもとにプレゼンテーションを行う（藤原）	
第 15 回	学生の研究関心、研究課題に関連した文献をもとにプレゼンテーションを行う（畑）	

1.授業コード（ナンバリング）	72400	2.科目名	特別研究Ⅰ			3.単位数	4
4.授業担当教員	高見沢恵美子						
5.授業科目の区分	特別研究	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期～2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科　博士後期課程				9.履修学年	博士後期課程　１年・２年	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科博士後期課程大学院生						
17.授業の目的と概要	専門分野における課題を分析・解決するため、研究計画立案に関する応用能力を修得する。学生個々の専門分野において、文献レビュー等により研究状況を明らかにし、テーマの選択、研究意義、研究目的、概念枠組み、調査方法、分析方法を吟味し、研究デザインを明確にする。						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(5)コミュニケーション能力・(6)社会変革への挑戦力・(7)倫理観と関連しています。 1.自らの専門分野における課題を明確にできる。 2.研究の意義と研究目的を記述できる。 3.研究課題に関する文献検討を記述できる。 4.研究目的に適合する対象・調査内容・調査方法・分析方法を吟味し記述できる。 5.研究遂行に必要な倫理的配慮を計画できる。						
19.教科書・教材	特に指定しない。						
20.参考文献	演習の中で適宜紹介する。						
21.成績評価	提出された研究計画書及び研究計画書発表会での発表・質疑応答により審査する。評価は、看護学研究科博士後期課程部会によって選出された研究指導教員１名、研究補助教員２名以上が、研究の意義・目的・文献検討・研究方法について協議し決定する。						
22.コメント	関心のあるテーマについて文献検索を行い、研究の意義と研究目的を明確にしたうえで研究計画書を作成し、主指導教員・副指導教員の指導・アドバイスを受け修正してください。修正した研究計画書の内容に基づき研究計画書発表会の資料とパワーポイント原稿を作成します。発表会に先立ち、作成した資料とパワーポイントを用いて、主指導教員・副指導教員参加のもと予演会を行い、発表・質疑応答の練習をすると共に資料等の修正意見をもらい修正した後実際の計画書発表会に臨んでください。						
23.オフィスアワー	高見沢：木曜日 12:10～13:10　メディアライブラリー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回～第６０回	【授業の進め方】 1.関心領域における課題について、先行研究、実践報告のレビュー、フィールドワークから研究課題及び方法論を明確化する。 2.研究計画書を作成する。 3.研究遂行に必要な具体的倫理的配慮内容を計画する。 4.研究計画書の審査及び研究倫理審査を受ける。 5. 各年度末に、実施した研究活動と次年度の研究計画について記載した報告書を提出し、研究指導教員と共に検討する。教員と共に検討した報告書をｅポートフォリオに保存し、自らの研究活動についてリフレクションを記録し、研究遂行に関する課題を明	

1.授業コード（ナンバリング）	72404	2.科目名	特別研究Ⅰ			3.単位数	4
4.授業担当教員	畑吉節未						
5.授業科目の区分	特別研究	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期～2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科　博士後期課程				9.履修学年	博士後期課程　１年・２年	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科博士後期課程大学院生						
17.授業の目的と概要	専門分野における課題を分析・解決するため、研究計画立案に関する応用能力を修得する。学生個々の専門分野において、文献レビュー等により研究状況を明らかにし、テーマの選択、研究意義、研究目的、概念枠組み、調査方法、分析方法を吟味し、研究デザインを明確にする。						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(5)コミュニケーション能力・(6)社会変革への挑戦力・(7)倫理観と関連しています。 1.自らの専門分野における課題を明確にできる。 2.研究の意義と研究目的を記述できる。 3.研究課題に関する文献検討を記述できる。 4.研究目的に適合する対象・調査内容・調査方法・分析方法を吟味し記述できる。 5.研究遂行に必要な倫理的配慮を計画できる。						
19.教科書・教材	特に指定しない。						
20.参考文献	演習の中で適宜紹介する。						
21.成績評価	提出された研究計画書及び研究計画書発表会での発表・質疑応答により審査する。評価は、看護学研究科博士後期課程部会によって選出された研究指導教員１名、研究補助教員２名以上が、研究の意義・目的・文献検討・研究方法について協議し決定する。						
22.コメント	関心のあるテーマについて文献検索を行い、研究の意義と研究目的を明確にしたうえで研究計画書を作成し、主指導教員・副指導教員の指導・アドバイスを受け修正してください。修正した研究計画書の内容に基づき研究計画書発表会の資料とパワーポイント原稿を作成します。発表会に先立ち、作成した資料とパワーポイントを用いて、主指導教員・副指導教員参加のもと予演会を行い、発表・質疑応答の練習をすると共に資料等の修正意見をもらい修正した後実際の計画書発表会に臨んでください。						
23.オフィスアワー	水曜日 12:10～13:10						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回～第６０回	【授業の進め方】 1.関心領域における課題について、先行研究、実践報告のレビュー、 　フィールドワークから研究課題及び方法論を明確化する。 2.研究計画書を作成する。 3.研究遂行に必要な具体的倫理的配慮内容を計画する。 4.研究計画書の審査及び研究倫理審査を受ける。 5. 各年度末に、実施した研究活動と次年度の研究計画について記載し 　た報告書を提出し、研究指導教員と共に検討する。 教員と共に検討 　した報告書をｅポートフォリオに保存し、自らの研	

	究活動について 　リフレクションを記録し、研究遂行に関する課	

1.授業コード（ナンバリング）	72408	2.科目名	特別研究Ⅰ	3.単位数	4
4.授業担当教員	伊藤尚子				
5.授業科目の区分	特別研究Ⅰ	6.必修・選択の区分	選択科目	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期～2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科　博士後期課程			9.履修学年	博士後期課程 1 年夏ー 2 年春
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	専門分野における課題を分析・解決するために、研究計画に関する能力を習得する。専門分野における文献レビューとまとめを行い、テーマの決定、研究の意義、目的、概念枠組み、調査方法。分析方法を検討する。デザインの決定へと結びつける				
18.学習目標とＤＰとの関連	研究者としての自律と問題発見能力とその解決・対応能力を培う 専門職者としての知識・技術・その能力を活用することを可能とする				
19.教科書・教材	適宜文献の紹介、書籍の紹介を行う				
20.参考文献	適宜文献の紹介、書籍の紹介を行う				
21.成績評価	提出された研究計画書および研究計画書発表会における質疑応答により審査する。評価は看護学研究科後期部会によって選出された研究指導教員 1 名、補佐教員 2 名が研究の意義・目的・文献検討・研究方法について協議し決定する。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	適宜アポイントメントを取ってください				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	関心領域において課題における先行研究。報告のレビュー等により研究課題を明確にする 研究計画書の作成 研究遂行に必要な倫理的配慮内容の検討 研究計画書。倫理審査委員会による審査を受ける 各年度末に研究活動報告書を提出し指導教員とともに進捗状況を検討	
	研究指導体制 研究指導教員と研究指導補助教員の複数指導体制 研究計画書の審査会において計画書の審査を受け計画書の完成度を高める 各年度に実施した研究活動の報告と次年度への課題を明確にし、報告書にまとめ指導教員とともに検討する 自らのリフレクションとポートフォーリオにまとめておく	

1.授業コード（ナンバリング）	72420	2.科目名	特別研究 II	3.単位数	4
4.授業担当教員	高見沢恵美子				
5.授業科目の区分	特別研究	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期～2025 年度 冬学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	2 年・3 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	特別研究Ⅰの単位取得者				
17.授業の目的と概要	「特別研究Ⅰ」において作成し看護学研究科委員会の承認を得た研究計画に基づき、調査を実施し収集したデータを分析し、結果をまとめ考察する一連のプロセスを実施し研究実践能力を養う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(4)論文作成能力・(5)コミュニケーション能力・(6)社会変革への挑戦力・(7)倫理観と関連しています。 1.看護学研究科委員会で承認された研究計画に従い、調査を実施できる。 2.調査から得られたデータを、研究目的にそって分析できる。 3.分析結果に基づき、研究目的に沿って考察できる。 4.研究成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションできる。				
19.教科書・教材	授業で適宜紹介する。				
20.参考文献	授業で適宜紹介する。				
21.成績評価	提出された博士論文及び博士論文公開発表会での発表・質疑応答により審査する。評価は、看護学研究科博士後期委員会によって選出された学位論文審査委員(主査 1 名・副査 2 名)が、博士論文としての学術的価値・研究成果の独創性・論理的学術的整合性・副論文の研究業績について協議し決定する。				
22.コメント	研究実施の中間で得られたデータをまとめ今後の研究予定と共に中間報告会で発表し、質疑応答を通し会場から意見をもらいます。作成した博士論文案は、主指導教員・副指導教員の指導・アドバイスを受け修正してください。修正した論文を予備審査論文として提出し、資料とパワーポイント原稿を作成し発表し審査を受けます。予備審査で承認された論文を博士論文として提出し博士論文審査を受けます。博士論文審査で発表会に臨むことが可となった院生は、博士論文の内容に基づき博士論文発表会の資料とパワーポイント原稿を作成します。発表会に先立ち、作成した資料とパワーポイントを用いて、主指導教員・副指導教員参加のもと予演会を行い、発表・質疑応答の練習をすると共に資料等の修正意見をもらい修正した後実際の発表会に臨んでください。				
23.オフィスアワー	高見沢：センター 水曜日昼休み、研究室 月曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1～第 60 回	【授業の進め方】 1.研究計画書の審査及び研究倫理審査の結果を受けて、研究実施に向け準備する。 2.研究計画に従いデータ収集を行う。 3.得られたデータを分析し、研究目的に基づいて分析結果をまとめ解釈を深める。 4.分析結果に基づき、研究目的と意義に沿って考察する。 5.研究を、学位論文として執筆する。	

	6.研究成果をまとめ、プレゼンテーションする。 7. 各年度末に、実施した研究活動と次年度の研究計画について記載した報告書を提出し、研究指導教員と共に検討する。教員と共に検討した報告書を e ポートフォリオに	

1.授業コード（ナンバリング）	72424	2.科目名	特別研究 II	3.単位数	4
4.授業担当教員	畑吉節未				
5.授業科目の区分	特別研究（博士論文）	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期～2025 年度 冬学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	2 年、3 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	ゼミ形式で研究課題に沿って研究を進め博士論文を作成していく。		
16.履修制限	「特別研究 I 」の単位修得者				
17.授業の目的と概要	「特別研究 I 」において作成し看護学研究科委員会の承認を得た研究計画に基づき、調査を実施し収集したデータを分析し、結果をまとめ考察する一連のプロセスを実施し研究実践能力を養う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(4)論文作成能力・(5)コミュニケーション能力・(6)社会変革への挑戦力・(7)倫理観と関連しています。 1.看護学研究科委員会で承認された研究計画に従い、調査を実施できる。 2.調査から得られたデータを、研究目的にそって分析できる。 3.分析結果に基づき、研究目的に沿って考察できる。 4.研究成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションできる。				
19.教科書・教材	適宜授業の中で文献などの資料を示す。				
20.参考文献	看護研究（ポリット）、看護研究（バーンズ＆グローブ）、概念分析（ロジャース）				
21.成績評価	提出された博士論文及び博士論文公開発表会での発表・質疑応答により審査する。評価は、看護学研究科博士後期委員会によって選出された学位論文審査委員(主査 1 名・副査 2 名)が、博士論文としての学術的価値・研究成果の独創性・論理的学術的整合性・副論文の研究業績について協議し決定する。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	水曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2 年～3 年	【授業の進め方】 1.研究計画書の審査及び研究倫理審査の結果を受けて、研究実施に向 け準備する。 2.研究計画に従いデータ収集を行う。 3.得られたデータを分析し、研究目的に基づいて分析結果をまとめ解 釈を深める。 4.分析結果に基づき、研究目的と意義に沿って考察する。 5.研究を、学位論文として執筆する。 6.研究成果をまとめ、プレゼンテーションする。 7. 各年度末に、実施した研究活動と次年度の研究計画について記載し た報告書を提出し、研究指導教員と共に検討す	

	る。教員と共に検討	

1.授業コード（ナンバリング）	72428	2.科目名	特別研究 II	3.単位数	4
4.授業担当教員	伊藤尚子				
5.授業科目の区分	特別研究	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期～2025 年度 冬学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科　博士後期課程			9.履修学年	博士後期課程２・３年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	「特別研究Ⅰ」において作成し看護学研究科委員会の承認を得た研究計画に基づき、調査を実施し収集したデータを分析し、結果をまとめ考察する一連のプロセスを実施研究実践能力を養う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	１．看護学研究科委員会で承認された研究計画に従い、調査を実施できる。 ２．調査から得られたデータを、研究目的に沿って分析できる。 ３．分析結果に基づき、研究目的に沿って考察できる。 ４．研究成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションできる。				
19.教科書・教材	適宜紹介し、必要に応じ選択				
20.参考文献	必要に応じて助言します				
21.成績評価	提出された博士論文及び博士論文公開発表会での発表・質疑応答により審査する。 評価は、看護学研究科博士後期課程委員会によって選出された学位論文審査委員（主査１名・副査２名）が博士論文として学術的価値・研究成果の独創性・論理的学術的整合性・副論文の研究業績について協議し決定する。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	適宜アポイントメントを取ってください				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 -60 回	1.研究計画書の審査及び研究倫理審査の結果を受けて、研究実施に向け準備する。 2.研究計画に従いデータ収集を行う。 3.得られたデータを分析し、研究目的に基づいて分析結果をまとめ解釈を深める。 4.分析結果に基づき、研究目的と意義に沿って考察する。 5.研究を、学位論文として執筆する。 6.研究成果をまとめ、プレゼンテーションする。 7. 各年度末に、実施した研究活動と次年度の研究計画について記載した報告書を提出し、研究指導教員と共に検討する。教員と共に検討した報告書をｅポートフォリオに保	

1.授業コード（ナンバリング）	ACC101-Y01	2.科目名	ファイナンス		3.単位数	2
4.授業担当教員	玉木慶介					
5.授業科目の区分	ファイナンス・アカウンティング分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部観光学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ・お金は人生にとって切っても切れない存在です。ファイナンスはお金にまつわる学問です。 職場での事業推進、個人の資産運用、様々な場面でファイナンスの知識は必要になります。 一部の金融専門職を除き、難解な計算式を理解する必要はありません。 基礎的な考え方を理解することが肝要で、その点を重視しています。 ・学術面の知見を深めるとともに、社会に出た後に気をつけたいお金との付き合い方、 注意点について理解を深めることも目指していきます。 【概要】 ・社会人としての実体験を通じ必要性が高いと感じる内容を中心					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 ①ファイナンス理論（会計・諸制度含む）の基礎的な考え方を理解し、議論することができる。 ②実務で使うことの多いツールを EXCEL を用いて実際に計算し、構造を知る。 ③お金にまつわる基本的なルールを理解し、資産運用等、社会に出てからのお金との付き合い方 を合理的に考えられるようになる。 【関連するディプロマポリシー】 (4)問題発見・解決力、(6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	適宜、レジュメを公開・配布します。					
20.参考文献	①「資本市場とコーポレートファイナンス」 著者：新井富雄、渡辺茂、太田智之 発行所：中央出版 ②「コーポレートファイナンス」上下巻 著者：リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、フランクリン・アレン 監訳：藤井眞理子、国枝繁樹、発行所：日経 BP 社 ③「財務会計の機能」 著者：須田一幸 発行所：白桃書房 その他、授業中に適宜指示します。					
21.成績評価	【評価の方法・成績の配分】 A)授業への貢献（積極的な発言、意欲・態度等） 40 点					

	→学習目標①・③に対応 B)授業における演習レポート（小課題提出） 30 点 →学習目標②に対応 C)期末テスト 30 点 →学習目標①・③に対応 【単位認定の要件】 ・ 各講義への貢献度、演習レポートを重視する。 ・ 期末テストは点数だけでなく、思考プロセス（考え方を理解しているか）を重視する。 →内容重視。
22.コメント	
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション →授業の内容、目標、方法、評価、進め方等の説明 ・ファイナンスを学ぶ意義 →学ぶと何がわかるのか（どのようなメリットがある？） ・投資シミュレーション体験 →100 万円持っていると仮定して、実際に投資戦略を考える。 →第 13 回で各人の仮想投資戦略の結果を議論する。 ・【コラム】：人生の 3 大支出とは？？	・授業内で説明するルールに従って仮想投資戦略を作る。
【第 2 回】	・会社とは？ →株式会社等、会社の構造について ・資金調達の手法 →会社はどのようにして事業資金を集めているのか？負債と資本の違い等の解説 ・【コラム】：資格を取ることのメリットは？	講義やコラムで学んだことの中に、自らの生活に関係する事項がないか考えてみる。
【第 3 回】	・会社は誰のもの？ →株主と経営者間の緊張関係 →プリンシパル・エージェント問題とは？ ・【コラム】：サラリーマンと個人事業主、どちらがお得？	講義やコラムで学んだことの中に、自らの生活に関係する事項がないか考えてみる。
【第 4 回】	・ガバナンスと SDGs →モニタリングとインセンティブ →企業を取り巻く世界の潮流は？ ・投資の意思決定 →会社ではどのようにして投資の是非を判定しているのか？ ・【コラム】：資産運用時に気をつけたい投資のセオリー →リスクと聞いて何を思い浮かべる？ →ファイナンス理論におけるリスクとは？	講義やコラムで学んだことの中に、自らの生活に関係する事項がないか考えてみる。
【第 5 回】	・ファイナンス理論の基礎を学ぼう →複利って何？単利との違いとその影響。 →将来価値を計算してみよう。 →将来価値の問題点。 ・【コラム】：NISA のメリット解説。NISA は何が得な	講義やコラムで学んだことの中に、自らの生活に関係する事項がないか考えてみる。

	のか？	
【第 6 回】	・これだけは知っておきたいファイナンス理論の基礎 →何故、現在価値の推定が必要なのか？ →将来価値と現在価値の関係 →割引現在価値の算定方法 ・【演習①-1】：現在価値を EXCEL で計算してみよう。	PC 持参の上、授業中に EXCEL を利用して計算。その後、計算したファイルを提出。
【第 7 回】	・ビジネスにおける割引現在価値 →実務上、どうして割引現在価値の算定が必要なのか？ ・純現在価値の考え方 →純現在価値がプラスの意味は？マイナスの意味は？ ・【演習①-2】：割引現在価値、純現在価値の計算をしてみよう →割引現在価値計算の応用 →純現在価値の計算（＋内部収益率）はどのように行うのか？	PC 持参の上、授業中に EXCEL を利用して計算。その後、計算したファイルを提出。
【第 8 回】	・財務諸表（会計）に関する基礎知識① →財務諸表が作られるようになった背景、歴史。 →B/S、P/L を見ると何がわかるのか？ ・【コラム】：保険との付き合い方 →保険に入る意味は？入るべき保険を考えてみよう。	講義やコラムで学んだことの中に、自らの生活に関係する事項がないか考えてみる。
【第 9 回】	・財務諸表（会計）に関する基礎知識② →貸借対照表の概要、用途 →損益計算書、CF 計算書の概要、用途 →その他の財務諸表 ・【コラム】：なぜ宝くじを買うのか？当選金に税金はかかる？	講義やコラムで学んだことの中に、自らの生活に関係する事項がないか考えてみる。
【第 10 回】	・財務諸表（会計）に関する基礎知識③ →会計処理と Cash flow の相違 （例）減価償却費 評価損 前受金、未払金 ・P/L から Cash flow を導き出すには →直接法と間接法 →Cash flow を算出するための調整項目 ・【演習②】：実際に財務データから CF を導き出してみよう	PC 持参の上、授業中に EXCEL を利用して計算。その後、計算したファイルを提出。
【第 11 回】	・新しいファイナンス理論 →伝統的ファイナンスとその限界 →人はいつでも合理的に判断するわけではない？ 認知バイアスによる非合理的決断 ・プロスペクト理論の概要 →設問に答えてみよう。その回答は合理的なのか？ ・行動ファイナンスの効果と限界 ・【コラム】：認知バイアスを知ると勝負事に勝てる？	講義やコラムで学んだことの中に、自らの生活に関係する事項がないか考えてみる。
【第 12 回】	・ファイナンスの活用事例 ①M&A	講義やコラムで学んだことの中に、自らの生活に関係する

	→M&A はどのような時に起こるのか？ →具体的な手法の紹介。 ②IR（Investor Relations：インベスター・リレーションズ） →投資家向け広報を企業はなぜ行うのか？ →IR の日々はどのようなものか？ ・【コラム】：個人の資産運用戦略の基礎 →公務員と芸能人では持つべき資産が変わってくる？ →自分自身の将来像と資産運用戦略の関係。	事項がないか考えてみる。
【第 13 回】	・第 1 回授業で行った投資シミュレーションの結果を見てみよう →第 1 回で決定した投資の結果を見てみよう。 その後の市場変動により利益は出たのか？損失が出たのか？ ・株式市場他、市場構造の解説 ・【演習③】：自分の投資戦略を振り返ってみよう。 →良かったところは？足りなかったところは？ →グループでディスカッションし、理解を深めよう。	・第 1 回に実施した投資戦略と、直近までのパフォーマンスを各自計算。グループディスカッションにより、投資戦略の良かった点、改善すべきだった点を議論。議論した内容をメモにして提出する。
【第 14 回】	・選択の自由度に価値はあるか？ →中途解約ができる契約とできない契約。どちらが良い？ →解約できることの価値をどのように計算する？ （リアル・オプションの考え方） ・選択の自由度を捨てることが価値を生むことも。 →背水の陣が価値を生むこともある。どのようなケース？ （戦略的コミットメントの考え方） ・【コラム】：資産評価モデルと人生の幸せの関係 →資産価値を算定するファイナンス理論は人生にも応用できる？	講義やコラムで学んだことの中に、自らの生活に関係する事項がないか考えてみる。
【第 15 回】	・期末試験とその振り返り →期末試験を実施。 →回答提出後、出題のポイント解説。 ・全講義を踏まえた感想、質問	講義やコラムで学んだことの中に、自らの生活に関係する事項がないか考えてみる。

1.授業コード（ナンバリング）	ACC201-A01	2.科目名	商業簿記	3.単位数	2
4.授業担当教員	河内山潔				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件	ファイナンスの単位を修得済みであることが望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 ビジネスの基礎である簿記処理の理解を深めるために、前半では日商簿記検定 3 級レベルの内容を学習する。 【概要】 ファイナンスで学んだ簿記一巡の仕組みを復習し、より多くの取引に関して仕訳を行い、試算表、精算表、貸借対照表と損益計算書を作成する。6 月の日商簿記検定の出題形式に合わせた形で講義と練習問題を繰り返し、模擬問題や過去問題によって、最近の出題傾向を把握し、検定の合格を目指す。　後半では、さらに株式会社を想定した簿記処理に関する日商簿記検定 2 級レベルにステップアップする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（5）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています 。 〇日商簿記検定 2 級の範囲の取引について、仕訳ができる。 〇試算表が作成できる。 〇日商簿記検定 3 級の範囲の決算整理事項について、適切な処理ができる。 〇精算表、貸借対照表、損益計算書が作成できる。				
19.教科書・教材	桑原知之著「サクッとうかる日商簿記 2 級商業簿記 テキスト+問題集」ネットスクール ISBN987-4-7810-1232-2				
20.参考文献	桑原知之著「サクッとうかる日商簿記 3 級商業簿記 テキスト＋問題集」　ネットスクール 版 2016 年（ファイナンスのテキスト） 検定対策問題集など				
21.成績評価	各評価では、学習目標について総合的に問う。 平常課題　（仕訳問題、試算表、精算表）　30%（仕訳、試算表、精算表の作成を問う） 中間試験　30%（総合的な問題を問う） 総括試験　40%　（総合的な問題を問う）				
22.コメント	6 月、11 月、2 月の日商簿記検定を目指す学生を対象とする。 授業中にできる問題数は限られているので、自主的な学習が必要である。 授業には、必ず電卓を持参すること（電卓以外は不可）。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室オフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	3 級レベルの復習問題 ・個別取引の処理の重要論点確認	◆電卓◆ 〇復習問題（120 分） 〇完成していない問題を完答する（90 分）
第 2 回	試算表の作成①	◆電卓◆

	・合計試算表、残高試算表の作成	○復習問題（120 分）　　○完成していない問題を完答する（90 分）
第 3 回	試算表の作成② ・合計残高試算表の作成	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 4 階	決算手続① ・決算整理仕訳	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 5 回	決算手続② ・精算表の作成	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 6 回	決算手続③ ・損益計算書、貸借対照表の作成	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 7 回	日商 3 級レベルの答案練習① ・検定模擬問題へのチャレンジ	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 8 回	日商 3 級レベルの答案練習② ・検定模擬問題へのチャレンジ	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 9 回	（中間試験）　決算の総合問題 ・検定問題の解説	◆電卓◆ テキスト p2~p61 を予習する（90 分）
第 10 回	個別取引の処理① ・2 級レベルの前提 ・現金預金・手形・その他の債権・債務・有価証券	◆電卓◆ ○中間試験の復習（90 分） ○完成していない問題を完答する。（90 分） テキスト p62～p87 を予習する。（90 分）
第 11 回	個別取引の処理② ・固定資産	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分） テキスト p88～p107 を予習する。（90 分）
第 12 回	個別取引の処理③ ・商品売買	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分） テキスト p108～p165 を予習する。（90 分）
第 13 回	個別取引の処理④ ・株式の発行、合併、剰余金の処分、税金、引当金	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 14 回	2 級レベルの個別取引の処理まとめ	◆電卓◆ 総括試験の準備（240 分）
第 15 回	・総括試験（日商簿記 2 級レベルの仕訳問題と 3 級レベルの決算問題）	◆電卓◆

1.授業コード（ナンバリング）	ACC201-M01	2.科目名	商業簿記	3.単位数	2
4.授業担当教員	浮田泉				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件	ファイナンスの単位を修得済みであることが望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】この科目は、ビジネスの基礎である簿記処理の理解を深めることを目的とします。 【概要】最初に、日商簿記検定 3 級レベルの内容を復習します。具体的には、ファイナンスで学んだ簿記一巡の仕組みを復習し、より多くの取引に関して仕訳を行い、試算表、精算表、貸借対照表と損益計算書を作成します。6 月の日商簿記検定の出題形式に合わせた形で講義と練習問題を繰り返し、模擬問題や過去問題によって、最近の出題傾向を把握し、検定の合格を目指します。次に、株式会社を想定した簿記処理に関する日商簿記検定 2 級レベルにステップアップ				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の(6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ①日商簿記検定 2 級の範囲の取引について、仕訳ができる。 ②試算表が作成できる。 ③決算整理事項について、適切な処理ができる。 ④精算表、貸借対照表、損益計算書が作成できる。				
19.教科書・教材	桑原知之著「サクッとうかる日商 2 級 商業簿記 テキスト【第 2 版】」ネットスクール出版 ISBN：9784781012445				
20.参考文献	桑原知之著「サクッとうかる日商簿記 3 級商業簿記テキスト」　ネットスクール 版（2023 年度ファイナンスのテキスト） 検定対策問題集など				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・平常課題（第 7 回、第 15 回を除く各授業回）（仕訳問題、試算表、精算表など）・・・30 点（学習目標①、②、③、④に対応） ・中間試験（第 7 回）・・・30 点（学習目標①、②に対応） ・総括試験（第 15 回）・・・40 点（学習目標①、②、③、④に対応） ※総括試験を受験することが単位認定の前提となります。				
22.コメント	6 月、11 月、2 月の日商簿記検定の受験を推奨する。 授業中にできる問題数は限られているので、自主的な学習が必要である。 授業には、必ず電卓を持参すること（電卓以外は不可）。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜昼休み センターオフィスアワー（センタープログラム）：月曜 4 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 4/9	ディスカッション「個別取引の処理の重要論点確認」 ・3 級レベルの復習問題	◆電卓◆ 〇復習問題（120 分） 〇完成していない問題を完答する（90 分）
第 2 回 4/16	グループワーク「試算表の作成」 ・合計試算表、残高試算表の作成	◆電卓◆ 〇復習問題（120 分） 〇完成していない問題を完答する（90 分）

第 3 回 4/23	ディスカッション「決算手続について」 決算手続① ・精算表の作成	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 4 回 4/30	グループワーク「損益計算書、貸借対照表の作成」 ・決算手続②	◆電卓◆ ○復習問題（60 分） ○完成していない問題を完答する（90 分） ○テキスト第 1 章を予習する（60 分）
第 5 回 5/7	個別取引の処理①（2 級レベル） ・現金と預金	◆電卓◆ ○復習問題（60 分） ○完成していない問題を完答する（90 分） ○テキスト第 2 章を予習する（60 分）
第 6 回 5/14	個別取引の処理② ・商品売買取引	◆電卓◆ ○完成していない問題を完答する（90 分） ○中間試験の準備（270 分）
第 7 回 5/21	中間試験 ・日商 3 級レベルの決算総合問題	◆電卓◆ ○テキスト第 3 章を予習する（60 分）
第 8 回 5/28	個別取引の処理③ ・手形取引	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 9 回 6/4	個別取引の処理④ ・その他の債権・債務取引	◆電卓◆ ○復習問題（60 分） ○完成していない問題を完答する（90 分） ○テキスト第 4 章を予習する（60 分）
第 10 回 6/11	個別取引の処理⑤ ・固定資産取引	◆電卓◆ ○復習問題（60 分） ○完成していない問題を完答する（90 分） ○テキスト第 5 章を予習する（60 分）
第 11 回 6/18	個別取引の処理⑥ ・有価証券取引	◆電卓◆ ○復習問題（60 分） ○完成していない問題を完答する（90 分） ○テキスト第 7 章を予習する（60 分）
第 12 回 6/25	個別取引の処理⑦ ・引当金	◆電卓◆ ○復習問題（60 分） ○完成していない問題を完答する（90 分） ○テキスト第 8 章を予習する（60 分）
第 13 回 7/2	純資産会計 ・株式の発行、合併、剰余金の処分、税金	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 14 回 7/9	ディスカッション「2 級レベルの個別取引の処理まとめ」	◆電卓◆ 総括試験の準備（240 分）
第 15 回 7/23	・総括試験（日商簿記 2 級レベルの仕訳問題と 3 級レベルの決算問題）	◆電卓◆

1.授業コード（ナンバリング）	ACC301-A01	2.科目名	原価会計	3.単位数	2
4.授業担当教員	河内山潔				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択科目	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年生以上
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	必須ではないが、ファイナンス、商業簿記の単位を習得済みであることが望ましい。あるいは、日商簿記検定 3 級を合格済みであることが望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	企業の経営管理を適正に行うために、製品やサービスに関する正確な原価情報は、非常に重要である。原価を計算する目的は、経営意思決定、予算編成・管理、財務諸表作成など多岐にわたるが、原価計算の実践は、原価の要素を分類、測定、集計、分析する一連の手続きである。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 〇製品やサービスの原価を適切に計算する方法と手続きを実践できる。 〇経営管理上の目的に応じて、適切な原価計算を利用できる。				
19.教科書・教材	岡本清・廣本敏郎編著　『検定簿記講義／２級工業簿記』　中央経済社 ISBN:978-4-502-89553-1 (学内での教科書販売時に必ず入手すること) その他、必要に応じてプリントを配布する予定である。				
20.参考文献	山本・小倉・尾畑・小菅・中村編著『スタンダードテキスト管理会計論』中央経済社 野口由美子著『初めてでもよくわかる原価計算』日本実業出版社 岡本清著『原価計算（六訂版)』国元書房 その他、授業時に適宜指示する。				
21.成績評価	課題提出（授業時に配布するプリント）：20% 中間試験①（費目別計算）：15% 中間試験②（個別原価計算・総合原価計算）：25% 総括試験（標準原価計算・直接原価計算）：40%				
22.コメント	日商簿記検定 3 級レベルの商業簿記に関する理解が不可欠である。同程度の学習歴を前提に授業運営がなされることを理解し、理解が不十分な場合は授業前に相応の準備することを求める。また、毎時計算問題を課す予定であり、そのために授業には必ず電卓を携行すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室オフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス　講義の進め方、達成目標、評価方法について説明する。 第 1 章　工業簿記とは何か（テキスト pp.1～8） 製造企業における経営活動の特徴、工業簿記と原価計算、原価計算について学習する。	〇復習としてテキスト pp.1～8 を読む。(60 分) 〇予習として、テキスト pp.9～24 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 2 回	第 2 章　工業簿記のしくみ（テキスト pp.9～24） 工業簿記の勘定科目とその記入法、帳簿組織、工業簿記の決算と財務諸表について学習する。	〇復習としてテキスト pp.9～24 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。

		○予習として、テキスト pp.25～43 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 3 回	第 3 章　材料費計算（テキスト pp.25～43） 材料費の定義と分類、材料購入の計算と記帳、材料費の計算と記帳について学習する。	○復習としてテキスト pp.25～43 を読む。(60 分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.44～56 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 4 回	第 4 章　労務費計算（テキスト pp.44～56） 労務費の定義と分類、支払賃金の計算、消費賃金の計算、労務費の記帳などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.44～56 を読む。(60 分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.57～64 を読み、わからないところをチェックする。(60 分) ○次回、中間試験①を実施予定。これまでの復習をする。
第 5 回	第 5 章　経費計算（テキスト pp.57～64） 経費の定義と分類、経費の計算と記帳について学習する。 中間試験①を実施。(20 分程度)	○復習としてテキスト pp.57～64 を読む。(60 分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.65～79 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 6 回	第 6 章　製造間接費計算（テキスト pp.65～79） 製造間接費の定義、製造間接費の製品への配賦、固定予算と変動予算、配賦差異の原因分析などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.65～79 を読む。(60 分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.80～95 を読み、わからないところをチェックする。(60 分) ○中間試験①を返却。答案を見直し、完答状態にして再提出する準備を行う。
第 7 回	第 7 章　部門別計算（テキスト pp.80～95） 部門費計算の意義と目的、原価部門の設定、部門費の集計、部門個別費と部門共通費、補助部門費の製造部門への配賦について学習する。	○復習としてテキスト pp.80～95 を読む。(60 分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.96～111 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 8 回	第 8 章　個別原価計算（テキスト pp.96~111） 個別原価計算の意義、製造指図書と原価計算表、個別原価計算の方法、個別原価計算の記帳などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.96～111 を読む。(60 分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.112～139 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 9 回	第 9 章　総合原価計算（テキスト pp.112～139） 総合原価計算の特徴、月末仕掛品原価と完成品総合原価の計算、総合原価計算の記帳などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.112～139 を読む。(60 分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.140～158 を読

		み、わからないところをチェックする。(60分) ○次回、中間試験②を実施予定。これまでの総体的な復習をする。
第10回	第10章　標準原価計算（テキストpp.140～159） 標準原価計算の意義・手続き、原価標準の設定と標準原価カード、標準・実際原価の差異計算などについて学習する。 中間試験②を実施。(20分程度)	○復習としてテキストpp.140～159を読む。(60分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキストpp.160～175を読み、わからないところをチェックする。(60分)
第11回	第11章　原価・営業量・利益関係の分析（テキストpp.160～175） CVP分析の意義、CVP図表、CVP分析の基本公式、貢献利益概念などについて学習する。	○復習としてテキストpp.160～175を読む。(60分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキストpp.176～185を読み、わからないところをチェックする。(60分) ○中間試験②を返却。答案を見直し、完答して再提出する準備を行う。
第12回	第12章　原価予測の方法（テキストpp.176～185） 原価態様による分類、費目別精査法、高低点法について学習する。	○復習としてテキストpp.175～185を読む。(60分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキストpp.186～204を読み、わからないところをチェックする。(60分)
第13回	第13章　直接原価計算（テキストpp.186～204） 直接原価計算の意義・目的・方法、期間損益計算の改善、実際 配賦と予定配賦、CVP分析などについて学習する。	○復習としてテキストpp.186～204を読む。(60分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、特殊原価調査について指示された文献を読み、わからないところをチェックする。(60分)
第14回	原価計算と意思決定（配布プリント） 差額原価概念を用いた意思決定、設備投資の経済性計算（非DCF法）などについて学習する。	これまでの学習を総括する。 ○復習として配布プリントを読む。　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。(60分) ○次回実施予定の期末試験の準備を行う。(180分)
第15回	総括試験を実施する。 これまでの学習について、総括する。	

1.授業コード（ナンバリング）	ACC301-m01	2.科目名	原価会計	3.単位数	2
4.授業担当教員	河内山潔				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択科目	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年生以上
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	必須ではないが、ファイナンス、商業簿記の単位を習得済みであることが望ましい。あるいは、日商簿記検定 3 級を合格済みであることが望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義（尼崎キャンパスからの遠隔授業になる）		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	企業の経営管理を適正に行うために、製品やサービスに関する正確な原価情報は、非常に重要である。原価を計算する目的は、経営意思決定、予算編成・管理、財務諸表作成など多岐にわたるが、原価計算の実践は、原価の要素を分類、測定、集計、分析する一連の手続きである。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 〇製品やサービスの原価を適切に計算する方法と手続きを実践できる。 〇経営管理上の目的に応じて、適切な原価計算を利用できる。				
19.教科書・教材	岡本清・廣本敏郎編著　『検定簿記講義／２級工業簿記』　中央経済社 ISBN:978-4-502-89553-1 (学内での教科書販売時に必ず入手すること) その他、必要に応じてプリントを配布する予定である。				
20.参考文献	山本・小倉・尾畑・小菅・中村編著『スタンダードテキスト管理会計論』中央経済社 野口由美子著『初めてでもよくわかる原価計算』日本実業出版社 岡本清著『原価計算（六訂版)』国元書房 その他、授業時に適宜指示する。				
21.成績評価	課題提出（授業時配布するプリント）：20% 中間試験①（費目別計算）：15% 中間試験②（個別原価計算・総合原価計算）：25% 総括試験（標準原価計算・直接原価計算）：40%				
22.コメント	日商簿記検定 3 級レベルの商業簿記に関する理解が不可欠である。同程度の学習歴を前提に授業運営がなされることを理解し、理解が不十分な場合は授業前に相応の準備することを求める。また、毎時計算問題を課す予定であり、そのために授業には必ず電卓を携行すること。 なお、授業はすべてオンラインでの提供になるが、毎時間教室での学修を想定している。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室オフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス　講義の進め方、達成目標、評価方法について説明する。 第 1 章　工業簿記とは何か（テキスト pp.1～8） 製造企業における経営活動の特徴、工業簿記と原価計算、原価計算について学習する。	〇復習としてテキスト pp.1～8 を読む。(60 分) 〇予習として、テキスト pp.9～24 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 2 回	第 2 章　工業簿記のしくみ（テキスト pp.9～24） 工業簿記の勘定科目とその記入法、帳簿組織、工業簿	〇復習としてテキスト pp.9～24 を読む。(60 分)

	記の決算と財務諸表について学習する。	授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.25～43 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 3 回	第 3 章　材料費計算（テキスト pp.25～43） 材料費の定義と分類、材料購入の計算と記帳、材料費の計算と記帳について学習する。	○復習としてテキスト pp.25～43 を読む。(60 分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.44～56 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 4 回	第 4 章　労務費計算（テキスト pp.44～56） 労務費の定義と分類、支払賃金の計算、消費賃金の計算、労務費の記帳などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.44～56 を読む。(60 分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.57～64 を読み、わからないところをチェックする。(60 分) ○次回、中間試験①を実施予定。これまでの復習をする。
第 5 回	第 5 章　経費計算（テキスト pp.57～64） 経費の定義と分類、経費の計算と記帳について学習する。 中間試験①を実施。(20 分程度)	○復習としてテキスト pp.57～64 を読む。(60 分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.65～79 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 6 回	第 6 章　製造間接費計算（テキスト pp.65～79） 製造間接費の定義、製造間接費の製品への配賦、固定予算と変動予算、配賦差異の原因分析などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.65～79 を読む。(60 分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.80～95 を読み、わからないところをチェックする。(60 分) ○中間試験①を返却。答案を見直し、完答状態にして再提出する準備を行う。
第 7 回	第 7 章　部門別計算（テキスト pp.80～95） 部門費計算の意義と目的、原価部門の設定、部門費の集計、部門個別費と部門共通費、補助部門費の製造部門への配賦について学習する。	○復習としてテキスト pp.80～95 を読む。(60 分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.96～111 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 8 回	第 8 章　個別原価計算（テキスト pp.96~111） 個別原価計算の意義、製造指図書と原価計算表、個別原価計算の方法、個別原価計算の記帳などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.96～111 を読む。(60 分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.112～139 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 9 回	第 9 章　総合原価計算（テキスト pp.112～139） 総合原価計算の特徴、月末仕掛品原価と完成品総合原価の計算、総合原価計算の記帳などについて学習す	○復習としてテキスト pp.112～139 を読む。(60 分) 　授業時に終了していない問題があれば宿題

	る。	として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.140～158 を読み、わからないところをチェックする。（60 分） ○次回、中間試験②を実施予定。これまでの総体的な復習をする。
第 10 回	第 10 章　標準原価計算（テキスト pp.140～159） 標準原価計算の意義・手続き、原価標準の設定と標準原価カード、標準・実際原価の差異計算などについて学習する。 中間試験②を実施。（20 分程度）	○復習としてテキスト pp.140～159 を読む。（60 分） 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.160～175 を読み、わからないところをチェックする。（60 分）
第 11 回	第 11 章　原価・営業量・利益関係の分析（テキスト pp.160～175） CVP 分析の意義、CVP 図表、CVP 分析の基本公式、貢献利益概念などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.160～175 を読む。（60 分） 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.176～185 を読み、わからないところをチェックする。（60 分） ○中間試験②を返却。答案を見直し、完答して再提出する準備を行う。
第 12 回	第 12 章　原価予測の方法（テキスト pp.176～185） 原価態様による分類、費目別精査法、高低点法について学習する。	○復習としてテキスト pp.175～185 を読む。（60 分） 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.186～204 を読み、わからないところをチェックする。（60 分）
第 13 回	第 13 章　直接原価計算（テキスト pp.186～204） 直接原価計算の意義・目的・方法、期間損益計算の改善、実際 配賦と予定配賦、CVP 分析などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.186～204 を読む。（60 分） 　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、特殊原価調査について指示された文献を読み、わからないところをチェックする。（60 分）
第 14 回	原価計算と意思決定（配布プリント） 差額原価概念を用いた意思決定、設備投資の経済性計算（非 DCF 法）などについて学習する。	これまでの学習を総括する。 ○復習として配布プリントを読む。　授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。（60 分） ○次回実施予定の期末試験の準備を行う。（180 分）
第 15 回	総括試験を実施する。 これまでの学習について、総括する。	

1.授業コード（ナンバリング）	ANT102-Y01	2.科目名	文化人類学	3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬				
5.授業科目の区分	基礎科目（2019 年度以降入学生）/専門共通科目（2018 年度以前入学生）	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学部の科目ですが、他学科からの履修も歓迎します。 履修登録画面を「一覧表示」にして、科目コードに ANT102-Y01 と入力してください。			9.履修学年	1 年次～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 前半（第 1～7 回）では異文化理解の基礎となる「文化相対主義」の視点を、後半（第 8～15 回）では現代における民族の解読や多文化共生に不可欠な「構築主義」の視点を学びます。 【概要】 「異文化理解は重要だ」と言われますが、そもそも異文化理解とは何をどうすることなのでしょうか？　またそれはなぜ、何のために「重要」なのでしょうか？ この問題提起に答えるかたちで、第 2 回から第 6 回では、20 世紀前半の文化人類学者たちがフィールドワークを通じて作り上げた「システム論的な文化観」と、そこから導き出される異文化				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業の学習目標は DP の（3）多様性の理解と（2）問題解決力の学修に関連しています。 ①文化を体系的にとらえるための諸理論を説明することができる ②文化の変化をとらえるための諸理論を説明することができる ③それらの理論を使い、様々な文化的事象を分析することができる				
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）				
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト（15 回）　… 45%（学習目標①②に対応） ・期末レポート　… 55%（学習目標①②③に対応）				
22.コメント					
23.オフィスアワー	金曜 4 限（学修支援センター）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	異文化理解とは何か？ ― 授業ガイダンス ＋ 相対主義編 1 ：イントロダクション	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 2 回】	不思議の国の昼休み ― 相対主義編 2 ：自文化の相対化と異文化理解	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 3 回】	人類はイネ科植物に支配されている ― 相対主義編 3 ：文化の多様性と 19 世紀の文化理論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 4 回】	狩猟採集民はどこから来たのか？ ― 相対主義編 4 ：19 世紀の理論の問題点	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 5 回】	お父さんのいない島 ― 相対主義編 5 ：参与観察型フィールドワークと新しい文化理論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 6 回】	父を弔うための冗談 ― 相対主義編 6 ：文化の内的論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

	理と異文化理解	
【第 7 回】	魂を落とした話を理解する ― 相対主義編７：文化相対主義と多文化主義	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 8 回】	そうだ、カッパのせいにしよう。 ― 構築主義編１：解釈を通じた自文化の変化	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 9 回】	日本の寿司とアメリカの SUSHI ― 構築主義編２：解釈を通じた異文化の受容（１）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	呪術になったキリスト教とキリストになった呪術師 ― 構築主義編３：解釈を通じた異文化の受容（２）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	「白人の呪術」をめぐるうわさ ― 構築主義編４：ポストコロニアル状況における文化の語り	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	千と千尋の観光地 ― 構築主義編５：観光開発と自文化の解釈	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	イスラームの中心で打倒アメリカを叫んだミッキーマウス ― 構築主義編６：ポップカルチャーの政治性	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	南の島のもつれたアイデンティティー ― 構築主義編７：イデオロギーの再生産と「大きな物語」	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	民族が紛争を作るのか、紛争が民族を作るのか ― 構築主義編８：民族概念の脱構築にむけて	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード（ナンバリング）	ANT102-a01	2.科目名	文化人類学	3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬				
5.授業科目の区分	教職科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 前半（第 1〜7 回）では異文化理解の基礎となる「文化相対主義」の視点を、後半（第 8〜15 回）では現代における民族の解読や多文化共生に不可欠な「構築主義」の視点を学びます。 【概要】 「異文化理解は重要だ」と言われますが、そもそも異文化理解とは何をどうすることなのでしょうか？　またそれはなぜ、何のために「重要」なのでしょうか？ 第 1 回で提起したこの問題に答えるかたちで、第 2 回から第 6 回では、20 世紀前半の文化人類学者たちがフィールドワークを通じて作り上げた「システム論的な文化観」と、そこから導き出				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業の学習目標は DP の（3）多様性の理解と（2）問題解決力の学修に関連しています。 ①文化を体系的にとらえるための諸理論を説明することができる ②文化の変化をとらえるための諸理論を説明することができる ③それらの理論を使い、様々な文化的事象を分析することができる				
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）				
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト（15 回）　… 45%（学習目標①②に対応） ・期末レポート　… 55%（学習目標①②③に対応）				
22.コメント					
23.オフィスアワー	金曜 4 限（学修支援センター）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	異文化理解とは何か？ ― 授業ガイダンス ＋ 相対主義編 1 ：イントロダクション	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 2 回】	不思議の国の昼休み ― 相対主義編 2 ：自文化の相対化と異文化理解	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 3 回】	人類はイネ科植物に支配されている ― 相対主義編 3 ：文化の多様性と 19 世紀の文化理論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 4 回】	狩猟採集民はどこから来たのか？ ― 相対主義編 4 ：19 世紀の理論の問題点	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 5 回】	お父さんのいない島 ― 相対主義編 5 ：参与観察型フィールドワークと新しい文化理論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 6 回】	父を弔うための冗談 ― 相対主義編 6 ：文化の内的論理と異文化理解	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 7 回】	魂を落とした話を理解する ― 相対主義編 7 ：文化相対主義と多文化主義	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 8 回】	そうだ、カッパのせいにしよう。 ― 構築主義編 1 ：解釈を通じた自文化の変化	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

【第 9 回】	日本の寿司とアメリカの SUSHI ― 構築主義編２：解釈を通じた異文化の受容（１）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	呪術になったキリスト教とキリストになった呪術師 ― 構築主義編３：解釈を通じた異文化の受容（２）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	「白人の呪術」をめぐるうわさ ― 構築主義編４：ポストコロニアル状況における文化の語り	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	千と千尋の観光地 ― 構築主義編５：観光開発と自文化の解釈	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	イスラームの中心で打倒アメリカを叫んだミッキーマウス ― 構築主義編６：ポップカルチャーの政治性	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	南の島のもつれたアイデンティティー ― 構築主義編７：イデオロギーの再生産と「大きな物語」	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	民族が紛争を作るのか、紛争が民族を作るのか ― 構築主義編８：民族概念の脱構築にむけて	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード（ナンバリング）	ASL203-y71	2.科目名	マレー語	3.単位数	1
4.授業担当教員	飯島葉月				
5.授業科目の区分	基盤教育科目 コモンベーシックス 第２外国語（その他の外国語） マレー語分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択/必修 ※基本的にはマレーシア等のマレー語圏に留学する予定の学生の必修を前提とするが、その他の学生も選択可	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科 のマレーシア等のマレー語圏へ留学する学生の履修と前提とするが、 他学部・他学科からの履修も歓迎 ＊一部学科はシステムが異なるため自身で履修・単位・システム等の確認の上で履修すること：講師としてはどの学科の学生も歓迎です 過去の年度でも英コミ以外の学科の学生も多く受講しています（観光学科、人間心理学科、心理学科、社会学科、経営学科等）			9.履修学年	留学前の１年・２年次を想定としているが、他学年からの履修も歓迎 ＊すでに留学から帰ってきた学生も過去の年度で履修しています、留学後の復習の場となっているようです
10.取得資格の要件	-	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	遠隔オンライン/リモートでの講義・演習 Zoom・WebClass をメインに使用します		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	【目的】 マレーシアをはじめとしたマレー語圏への留学に向けて、はじめてマレー語を学ぶ学生や、あらためてマレー語を基礎から学びたい学生を対象に、マレー語やマレー語圏の文化や社会等をゼロから学び・親しむことを目的とする。 【概要】 テキスト『はじめてのマレーシア語』を中心として、マレー語の基礎文法から基本的な語彙やフレーズを学んでいく。ただ教科書に沿うだけでなく、教科書から派生してマレーシアをはじめとしたマレー語圏の文化や社会等への理解も深めていく。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 ①読む：簡単なマレー語の文章を読むことができる ②書く：基礎文法、語彙やフレーズを使用し、簡単なマレー語の作文ができる ③聞く：簡単なマレー語の会話を聞き取ることができる ④話す：基礎文法、語彙やフレーズを使用し、簡単なマレー語の会話ができる ⑤ほか：少しでもマレー語圏の文化や社会等を知り、ある程度の知識を身につけた状態で現地での生活がスタートできる 【DP との関連】 (3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				

19.教科書・教材	テキスト 書名:『はじめてのマレーシア語』 著者等名:ファリダ・モハメッド 出版社名:明日香出版社 発行年:2019/7/16 IISBN-10 : 4756920403 ISBN-13 : 978-4756920409 ※ほぼ毎回の授業で使用しますので、早めに購入し授業時は常に手元における状態にしておいてください ※試験の際に持ち込み可能な教科書として許可するものになります、過去本科目を受講した先輩方も皆口を揃えて「教科書は早めに用意しとくべき」とアンケートで回答していますので、履修を決めたら早めに教
20.参考文献	授業内で適宜紹介
21.成績評価	・平常点(授業内におけるワークやディスカッションへの提出・貢献等)　：４０％　[学習目標①②③④⑤、関連 DP (3)（５）に対応] ・小テスト(2~5 日目：各日 1 回 5%の合計 4 回)：　20%　[学習目標①②③④、関連 DP（6）に対応] ・統括試験(5 日目:最終コマ）：40% [学習目標①②③④⑤、関連 DP(3)(5)(6)に対応]
22.コメント	「マレーシアって英語使えるんでしょ？ならマレー語学ぶ必要なくない？」そんな声を聞くこともあるでしょう。しかし、言語と文化は密接に関係していると私は考えています。一見、必要ない、そう思えるマレー語でも、ひとたび現地で Sudah makan?と話し始めれば、英語では得られないであろう現地の方のリアクションをもらえることでしょう。日本でマレー語の授業を取れる大学はそう多くありません。この関西国際大学でもやっと設置できた科目だそうです。ぜひ一人でも多くの学生の皆さんにマレー語の楽しさに触れていただければ嬉しく思います。 ※各回の授業内容は進捗によって多少前後・増減する可能性がございます、あらかじめご了承ください。 ※全回遠隔オンライン/リモートでの講義・演習です。オンライン/リモート授業に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）で授業に臨んでください。語学の授業の特性上、基本的にはビデオオンの状態で授業に参加するようにしてください。適宜マイクオンも求められますので、対応可能な状態で受講してください（履修人数や進捗にもよりますが、適宜チャット・発言・発表・グループワークなども予定しています） ※主な使用媒体は Zoom・WebClass です。それぞれ使用できる状態にしておいてください。
23.オフィスアワー	・授業（遠隔オンライン）終了後に必要に応じて受け付けます。 ・メールや Web Class に設置した質問箱でも可能です。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回（1 日目）	・はじめに ・基本の言葉 ・文字と発音	【授業にあたって】 ・全回オンライン講義・演習ですので、オンライン授業に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）にして授業に臨んでください。 ・指定の教科書は全回手元にあるようにしてください。 【予習】 ・ざっくりでも構わないので、事前に教科書に目を通しておくのが良いでしょう。 ・小テストや試験を見据えて予習しましょう。

		【復習】 ・授業で出てきた文法を再度確認し、単語やフレーズを覚えましょう。 ・小テストや試験に備えて復習しましょう。
第 2 回（1 日目）	・名詞の修飾 ・基本文系 ・名詞の否定	【授業にあたって】 ・全回オンライン講義・演習ですので、オンライン授業に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）にして授業に臨んでください。 ・指定の教科書は全回手元にあるようにしてください。 【予習】 ・ざっくりでも構わないので、事前に教科書に目を通しておくのが良いでしょう。 ・小テストや試験を見据えて予習しましょう。 【復習】 ・授業で出てきた文法を再度確認し、単語やフレーズを覚えましょう。 ・小テストや試験に備えて復習しましょう。
第 3 回（1 日目）	・指示代名詞 ・「この」「あの、その」 ・形容詞の否定 ・pun/juga「〜もまた」、pula「一方、〜の場合は」	【授業にあたって】 ・全回オンライン講義・演習ですので、オンライン授業に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）にして授業に臨んでください。 ・指定の教科書は全回手元にあるようにしてください。 【予習】 ・ざっくりでも構わないので、事前に教科書に目を通しておくのが良いでしょう。 ・小テストや試験を見据えて予習しましょう。 【復習】 ・授業で出てきた文法を再度確認し、単語やフレーズを覚えましょう。 ・小テストや試験に備えて復習しましょう。
第 4 回（2 日目）	・小テスト① ・疑問文の作り方 ・疑問文の答え方	【授業にあたって】 ・全回オンライン講義・演習ですので、オンライン授業に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）にして授業に臨んでください。 ・指定の教科書は全回手元にあるようにしてください。 【予習】 ・ざっくりでも構わないので、事前に教科書に目を通しておくのが良いでしょう。 ・小テストや試験を見据えて予習しましょう。

		【復習】 ・授業で出てきた文法を再度確認し、単語やフレーズを覚えましょう。 ・小テストや試験に備えて復習しましょう。
第 5 回（2 日目）	・方向を表す前置詞と場所代名詞 ・「主語+動詞」の文	【授業にあたって】 ・全回オンライン講義・演習ですので、オンライン授業に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）にして授業に臨んでください。 ・指定の教科書は全回手元にあるようにしてください。 【予習】 ・ざっくりでも構わないので、事前に教科書に目を通しておくのが良いでしょう。 ・小テストや試験を見据えて予習しましょう。 【復習】 ・授業で出てきた文法を再度確認し、単語やフレーズを覚えましょう。 ・小テストや試験に備えて復習しましょう。
第 6 回（2 日目）	・助動詞 -時制 -希望・可能・義務	【授業にあたって】 ・全回オンライン講義・演習ですので、オンライン授業に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）にして授業に臨んでください。 ・指定の教科書は全回手元にあるようにしてください。 【予習】 ・ざっくりでも構わないので、事前に教科書に目を通しておくのが良いでしょう。 ・小テストや試験を見据えて予習しましょう。 【復習】 ・授業で出てきた文法を再度確認し、単語やフレーズを覚えましょう。 ・小テストや試験に備えて復習しましょう。
第 7 回（3 日目）	・小テスト② ・疑問詞 -誰、何 -どこ、どのように	【授業にあたって】 ・全回オンライン講義・演習ですので、オンライン授業に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）にして授業に臨んでください。 ・指定の教科書は全回手元にあるようにしてください。 【予習】 ・ざっくりでも構わないので、事前に教科書に目を通しておくのが良いでしょう。 ・小テストや試験を見据えて予習しましょう。

		【復習】 ・授業で出てきた文法を再度確認し、単語やフレーズを覚えましょう。 ・小テストや試験に備えて復習しましょう。
第 8 回（3 日目）	・数字 ・疑問詞 -いつ、いくら、何時 -どうして、なぜ ・助動詞を使った疑問文	【授業にあたって】 ・全回オンライン講義・演習ですので、オンライン授業に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）にして授業に臨んでください。 ・指定の教科書は全回手元にあるようにしてください。 【予習】 ・ざっくりでも構わないので、事前に教科書に目を通しておくのが良いでしょう。 ・小テストや試験を見据えて予習しましょう。 【復習】 ・授業で出てきた文法を再度確認し、単語やフレーズを覚えましょう。 ・小テストや試験に備えて復習しましょう。
第 9 回（3 日目）	・日常生活のやさしいフレーズ（1） -出会いのあいさつ等	【授業にあたって】 ・全回オンライン講義・演習ですので、オンライン授業に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）にして授業に臨んでください。 ・指定の教科書は全回手元にあるようにしてください。 【予習】 ・ざっくりでも構わないので、事前に教科書に目を通しておくのが良いでしょう。 ・小テストや試験を見据えて予習しましょう。 【復習】 ・授業で出てきた文法を再度確認し、単語やフレーズを覚えましょう。 ・小テストや試験に備えて復習しましょう。
第 10 回（4 日目）	・小テスト③ ・日常生活のやさしいフレーズ（2） -お祝いを述べる等	【授業にあたって】 ・全回オンライン講義・演習ですので、オンライン授業に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）にして授業に臨んでください。 ・指定の教科書は全回手元にあるようにしてください。 【予習】 ・ざっくりでも構わないので、事前に教科書に目を通しておくのが良いでしょう。 ・小テストや試験を見据えて予習しましょう。

		【復習】 ・授業で出てきた文法を再度確認し、単語やフレーズを覚えましょう。 ・小テストや試験に備えて復習しましょう。
第 11 回（4 日目）	・交流のフレーズ(1) -出身はどちらですか？等	【授業にあたって】 ・全回オンライン講義・演習ですので、オンライン授業に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）にして授業に臨んでください。 ・指定の教科書は全回手元にあるようにしてください。 【予習】 ・ざっくりでも構わないので、事前に教科書に目を通しておくのが良いでしょう。 ・小テストや試験を見据えて予習しましょう。 【復習】 ・授業で出てきた文法を再度確認し、単語やフレーズを覚えましょう。 ・小テストや試験に備えて復習しましょう。
第 12 回（4 日目）	・交流のフレーズ(2) - 感謝しています等	【授業にあたって】 ・全回オンライン講義・演習ですので、オンライン授業に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）にして授業に臨んでください。 ・指定の教科書は全回手元にあるようにしてください。 【予習】 ・ざっくりでも構わないので、事前に教科書に目を通しておくのが良いでしょう。 ・小テストや試験を見据えて予習しましょう。 【復習】 ・授業で出てきた文法を再度確認し、単語やフレーズを覚えましょう。 ・小テストや試験に備えて復習しましょう。
第 13 回（5 日目:最終日）	・小テスト④ ・困ったときのフレーズ	【授業にあたって】 ・全回オンライン講義・演習ですので、オンライン授業に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）にして授業に臨んでください。 ・指定の教科書は全回手元にあるようにしてください。 【予習】 ・ざっくりでも構わないので、事前に教科書に目を通しておくのが良いでしょう。 ・小テストや試験を見据えて予習しましょう。

		【復習】 ・授業で出てきた文法を再度確認し、単語やフレーズを覚えましょう。 ・小テストや試験に備えて復習しましょう。
第 14 回（5 日目：最終日）	・重要フレーズと単語の使い方 ・総まとめ	【授業にあたって】 ・全回オンライン講義・演習ですので、オンライン授業に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）にして授業に臨んでください。 ・指定の教科書は全回手元にあるようにしてください。 【予習】 ・ざっくりでも構わないので、事前に教科書に目を通しておくのが良いでしょう。 ・小テストや試験を見据えて予習しましょう。 【復習】 ・授業で出てきた文法を再度確認し、単語やフレーズを覚えましょう。 ・小テストや試験に備えて復習しましょう。
第 15 回（5 日目:最終日）	統括試験	【試験にあたって】 ・オンライン試験ですので、オンライン試験に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）にして試験に臨んでください。 ・指定の教科書は手元にあるようにしてください。 【予習】 ・試験を見据えて予習しましょう。 【復習】 ・試験を振り返って復習しましょう。

1.授業コード（ナンバリング）	ASL204-Y01	2.科目名	インドネシア語 【観光学科用】	3.単位数	2
4.授業担当教員	富永泰代				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～夏学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 インドネシア語の学習を通じて、多民族国家の人々の暮らしと歴史文化を学ぶ。 【概要】 東南アジアは日本とかかわりの深い地域ですが、人々が話す言葉すら知らず知識の欠如が意味する事に気付かず社会へ出てしまう、それが実状です。インドネシア語は東南アジアのなかでマレーシア、シンガポール、ブルネイでも通用し、約 3 億の人々によって使われている言葉(BAHASA)です。このように、文字はアルファベットを用います。授業では読解力を身に付けることを目指し、接辞法を集中的に学習し動詞を活用して表現の幅を広げていきま				
18.学習目標と ＤＰとの関連	【学習目標】 ①日常生活における基本的な文章が読解できる。 ②日常会話が出来るようになる。 ③外国語学習を通じて文化の多様性を学ぶ。 【関連するディプロマシー】 インドネシア語の学習を通じてコミュケーションスキルを高め、学習言語圏の多様性を理解し、知識・情報を深めるとともに、問題に気づき自律的に解決に取り組み、社会に貢献する姿勢を身に付けます。				
19.教科書・教材	ドミニクス・バタオネ『バタオネのインドネシア語語講座・初級』めこん、2022 年				
20.参考文献					
21.成績評価	(1) 授業中の翻訳発表、練習問題解答発表、確認シート、授業への貢献等、平常点 50% (2) 学期末学習到達度アセスメント 50%				
22.コメント	・履修に当たり何より大切な事は、授業に出席するだけでなく積極的に授業に参加することです。 ・教室で授業の前に学習全般の質問、相談に対応します。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
春学期 1 2	ガイダンス： ・「本講義テキスト『バタオネのインドネシア語講座初級』の効果的な使い方」 ・準備学習とアサイメントについて ・春学期到達度アセスメントについて 挨拶、時の表現（年月日・曜日）等の学習	シラバスで予定されている授業内容を確認します。
3 4	接頭辞を伴わない動詞の学習：Saya pergi ke universitas. （私は大学へ行く。） 接頭辞 ber-を伴う動詞の学習：Saya bermain tenis.（私はテニスをする。）	講義内容をまとめたノートを見直し不明点がないか確認します。
5	接頭辞 me-を伴う動詞の学習:	接頭辞の付かない動詞をすべて覚えます（第 8

6	Saya melihat foto-foto.（私は写真を見る。）melihat の語幹は何？ Saya membeli album.（私はアルバムを買う。）membeli の語幹は何？	課）
7 8	接頭辞 me-を伴う動詞の学習総括 第 3 回―第 7 回学習のフィードバック	テキストの接頭辞 ber-が付く動詞を全て覚えます。
9 １０	第 8 回課題解説 ベ-シックなインドネシア語の文章を読解する①	テキストの接頭辞 me-が付く動詞を全て覚えます。
１１ １２	ベ-シックなインドネシア語の文章を読解する② ベ-シックなインドネシア語の文章を読解する③	テキストの接頭辞 me-が付く動詞を全て覚えます。
１３ １４	春学期学習フィードバック 春学期到達度アセスメント	講義内容をまとめたノートを見直し不明点がないか確認します。
春学期１５ 夏学期１	春学期到達度アセスメント解説 春学期学習フィードバック	講義内容をまとめたノートを見直し不明点がないか確認します。
2 3	春学期学習フィードバック 接頭辞 me-と接尾辞-kan を伴う動詞の学習①：Saya membelikan Ali buku.（ 私はアリに本を買ってあげる。）	講義内容をまとめたノートを見直し不明点がないか確認します。
4 5	接頭辞 me-と接尾辞-kan を伴う動詞の学習②： Ibu saya membangunkan saya pada 6 jam pagi.（母は私を朝 6 時に起こす。） Q&A：応用問題等	講義内容をまとめたノートを見直し不明点がないか確認します。
6 7	接頭辞 me-と接尾辞-i を伴う動詞の学習①： Saya mengunjungi pulau Bali.（私はバリ島を訪れる。） 接頭辞 me-と接尾辞-i を伴う動詞の学習②：Saya bisa mengikuti pelajaran bahasa Indonesia di kelas ini.（ 私はこのクラスのインドネシア語の授業についていくことが出来る。）	講義内容をまとめたノートを見直し不明点がないか確認します。
8 9	第 3 回－第 6 回講義フィードバック 丁寧表現の学習第 3 回－第 6 回講義フィードバック①：受動態を学習し、丁寧な表現と社会生活で多用される標記の読解を習得する。	講義内容をまとめたノートを見直し不明点がないか確認します。
１０ １１	丁寧表現の学習第 3 回－第 6 回講義フィードバック②－③：受動態を学習し、丁寧な表現と社会生活で多用される標記の読解を習得する。	講義内容をまとめたノートを見直し不明点がないか確認します。
１２ １３	読解①－②：CANDI BOROBUDUR （世界文化遺産「ﾎﾞﾛﾌﾞﾄﾞｩｰﾙ遺跡」について）	これまでの学びを定着させます。
１４ 夏学期１５	夏学期学習総括 夏学期到達度アセスメント	学習の定着度を自己確認します。

1.授業コード（ナンバリング）	ASL204-Y02	2.科目名	インドネシア語	3.単位数	1
4.授業担当教員	富永泰代				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件	インドネシア留学予定者を主な履修生とする授業です。特別研究 I（インドネシア語 II）を履修希望の方は必ず受講してください。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 インドネシア語の学習を通じて、多民族国家の人々の暮らしと歴史文化を学ぶ。 【概要】 東南アジアは日本とかかわりの深い地域ですが、人々が話す言葉すら知らず知識の欠如が意味する事に気付かず社会へ出てしまう、それが実状です。インドネシア語は東南アジアのなかでマレーシア、シンガポール、ブルネイでも通用し、約 3 億の人々によって使われている言葉(BAHASA)です。このように、文字はアルファベットを用います。授業では読解力を身に付けることを目指し、接辞法を集中的に学習し動詞を活用して表現の幅を広げていきま				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 ①日常生活における基本的な文章が読解できる。 ②日常会話が出来るようになる。 ③外国語学習を通じて文化の多様性を学ぶ。 【関連するディプロマシー】 インドネシア語の学習を通じてコミュケーションスキルを高め、学習言語圏の多様性を理解し、知識・情報を深めるとともに、問題に気づき自律的に解決に取り組み、社会に貢献する姿勢を身に付けます。				
19.教科書・教材	ドミニクス・バタオネ『バタオネのインドネシア語語講座・初級』めこん、2022 年				
20.参考文献	授業の進度に応じて適宜紹介します。				
21.成績評価	(1) 授業中の翻訳発表、練習問題解答発表、確認シート、授業への貢献等、平常点 50% (2) 学期末学習到達度アセスメント 50%				
22.コメント	・履修に当たり何より大切な事は、授業に出席するだけでなく積極的に授業に参加することです。 ・教室で授業の前に学習全般の質問、相談に対応します。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	ガイダンス： ・「本講義テキスト『バタオネのインドネシア語講座初級』の効果的な使い方」 ・準備学習とアサイメントについて ・春学期到達度アセスメントについて	シラバスで予定されている授業内容を確認します。
2	挨拶、時の表現（年月日・曜日）等の学習	講義内容をまとめたノートを見直し不明点がないか確認します。
3	接頭辞を伴わない動詞の学習：Saya pergi ke universitas. （私は大学へ行く。）	接頭辞の付かない動詞をすべて覚えます（第 8 課）

4	接頭辞 ber-を伴う動詞の学習：Saya bermain tenis.（私はテニスをする。）	テキストの接頭辞 ber-が付く動詞を全て覚えます。
5	接頭辞 me-を伴う動詞の学習①: Saya melihat foto-foto.（私は写真を見る。）melihat の語幹は何？ Saya membeli album.（私はアルバムを買う。）membeli の語幹は何？	テキストの接頭辞 me-が付く動詞を全て覚えます。
6	接頭辞 me-を伴う動詞の学習②: Saya menonton acara TV di rumah saya.（私は自宅でテレビを観る。）menonton の語幹は何？―語幹の頭文字が欠落しています。アルファベットの文字は何？	テキストの接頭辞 me-が付く動詞を全て覚えます。
7	接頭辞 me-を伴う動詞の学習総括	講義内容をまとめたノートを見直し不明点がないか確認します。
8	第 3 回―第 7 回学習のフィードバック	講義内容をまとめたノートを見直し不明点がないか確認します。
9	第 8 回課題解説	講義内容をまとめたノートを見直し不明点がないか確認します。
10	ベ-シックなインドネシア語の文章を読解する①	接頭辞と語幹の関係が理解できているか自己確認します。
11	ベ-シックなインドネシア語の文章を読解する②	接頭辞と語幹の関係が理解できているか自己確認します。
12	ベ-シックなインドネシア語の文章を読解する③	講義内容をまとめたノートを見直し不明点がないか確認します。
13	春学期学習フィードバック	春学期到達度アセスメントに備えます。
14	春学期到達度アセスメント	自己理解度を確かめます。
15	春学期学習総括	春学期の学びを定着させます。

1.授業コード（ナンバリング）	ASL205-Y01	2.科目名	ベトナム語	3.単位数	2
4.授業担当教員	Vu Thi Thu Thao				
5.授業科目の区分	ベトナム語基礎	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～夏学期
8.履修可能な専攻	英語			9.履修学年	一年生から
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習、フィールドワーク
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	ベトナム語の特殊の発音や声調（声の上がり下がり）人称代名詞などを覚えながら、日常会話によく使われる表現・語彙を増やして、各場面の「基本会話」と「応用会話」を習得する。 基礎：ベトナム語の音節、符号、声調と発音 文法：ベトナム語の仕組み、ベトナム語の会話に不可欠な人称代名詞の使い方、基礎文型・基本表現や疑問視の使い方など 語彙：日常会話でよく使われる語彙や表現 会話：みんなのベトナム語、ビジネス、旅行や仕事など、各場面の基本会話と応用会話				
18.学習目標とＤＰとの関連	ベトナム語らしい発音がしっかり身に付く。 単語の意味を覚えるだけでなく、用法もしっかりマスター 楽しく簡単な会話ができる。 留学する場合、ベトナムでの生活で困らないように基礎知識を身に付く				
19.教科書・教材	キクタン　ベトナム語　　【初級編】 キクタン　ベトナム語会話　【入門編】 講師の独自のテキスト				
20.参考文献	ベトナム小学生１年生の国語の教科書 授業の中で指示する				
21.成績評価	宿題提出 20%授業への参加度 40%＋期末テスト 40%で評価する				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１週	ベトナム語の紹介 文字の特徴と覚え方 簡単な挨拶 ベトナム語での自己紹介 初対面の会話の練習	書き物
第２週	符号について 母音と子音 声調 語彙：親族名 会話の練習：出身はどこですか？	前回に配られたプリントと宿題
第３週	符号について 母音と子音 声調 語彙：親族名 挨拶→会話の練習	前回に配られたプリントと宿題
第４週	符号について 母音と子音	前回に配られたプリントと宿題

	声調 相手の呼び方、自分の呼び方→挨拶→会話の練習	
第 5 週	符号について 母音と子音 声調 語彙：一人称・二人称の複数の言い方、三人称の言い方 相手の呼び方、自分の呼び方→他人の紹介→会話の練習	前回に配られたプリントと宿題
第 6 週	基本表現：～は～（名詞）です。 肯定文、否定文、疑問文 語彙：数字、職業、国の名前 →年齢、自己紹介、他人紹介→会話の練習	前回に配られたプリントと宿題
第 7 週	基本表現：～は～（形容詞）です。 肯定文、否定文、疑問文 語彙：形容詞 →物事、家族、住んでいるところなどの特徴の紹介→会話の練習	前回に配られたプリントと宿題
第 8 週	基本表現：～は～します。 疑問視を使う文：いつ？ 1.現在の行動について尋ねる 2.過去の行動について尋ねる 3.将来の行動について尋ねる 肯定文、否定文、疑問文 語彙：動詞 →文型の練習→会話の練習	前回に配られたプリントと宿題
第 9 週	基本表現：所有・存在を表すときの文型 肯定文、否定文、疑問文 家族等の関係を表す言い方→会話の練習	前回に配られたプリントと宿題
第 10 週	疑問視を使う文：何？どれくらい？ 1.仕事について尋ねる 2.行動について尋ねる 3.ものについて尋ねる 5.金額について尋ねる →応用会話の練習	前回に配られたプリントと宿題
第 11 週	基本表現：要求・命令・意思を表すときの文型 肯定文、否定文、疑問文 文型の練習→会話の練習	前回に配られたプリントと宿題
第 12 週	基本表現：可能・許可を表す文型 肯定文、否定文、疑問文 文型の練習→会話の練習→読解　（簡単な文章	前回に配られたプリントと宿題
第 13 週	疑問視を使う文：どの／どのような／どのように 1.状態について尋ねる 2.行動について尋ねる 3.人・ものについて尋ねる →応用表現→会話の練習　→読解、聴解	前回に配られたプリントと宿題
第 14 週	疑問視を使う文：どの／どのような／どのように	前回に配られたプリントと宿題

	1.状態について尋ねる 2.行動について尋ねる 3.人・ものについて尋ねる →応用表現→会話の練習　→読解、聴解 復習	
第 15 週	期末試験 結果確認 試験問題の回答に基いて今までの勉強の復習	前回に配られたプリントと宿題

1.授業コード（ナンバリング）	ASM101-A08	2.科目名	評価と実践Ⅰ（尼 経営_2024 年度生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	田中智子、大西洋史、越山泰子、杉林弘仁、福本哲也、本田あけみ				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	1 年～2 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本授業は、学生一人ひとりの自己評価能力を向上させ、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。具体的には、大学及び各学科のディプロマポリシーに掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外での経験学習プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己点検能力を高めていきます。また、さまざまな評価方法や社会で求められている能力観に関する概念について学びます。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 １．本学の教育目標に掲げる力・資質の理解 ２．評価方法や能力観に関する概念の知識獲得 ３．主体的に目標をもち、計画を立てて実行する力の涵養 ４．PDCA（Plan 計画 DO 実行 Check 確認 Act 改善）サイクルにもとづく自己点検能力の向上 ５．自分のことを客観的に説明する力の向上				
19.教科書・教材	授業中に配付します。				
20.参考文献	スペンサー ジョンソン（著), 門田 美鈴（翻訳）『チーズはどこへ消えた?』扶桑社 2000 年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか？ 自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。				
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、以下の通りです。（認定科目のため成績評価は行いません） 〇全学共通で指定する要件 ①ｅポートフォリオの成長確認シートを入力する。 「2023 年度春・夏学期」「2023 年度秋・冬学期」「2024 年度春・夏学期」「2024 年度秋・冬学期」 ②ｅポートフォリオのベンチマークのチェック登録を行う。 「2023 秋リフレクション」「2024 春リフレクション」「2024 秋リフレクション」 〇その他、学科で指定する要件がある場合は別途指定します。				
22.コメント	評価と実践Ⅰは 2 年間（1 年～2 年）の認定科目です。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 研究室オフィスアワー ※質問や問い合わせは、まず自分のアドバイザーの先生にしてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2023 年春学期	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅰ」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、ア	☆この授業には、各自のノート PC と 1 回目の授業で配付する「学びの成長実感ガイド」を毎回持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授

	ドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（　）内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※春学期第 1 週目は基礎学力診断テストです。 第 1 回 科目の説明ほか（第 2 週） 第 2 回 客観的な見方、表現の仕方（第 9 週） 第 3 回 ポートフォリオ（第 10 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 4 回 ポートフォ	業中に指示します。また、単位要件となるベンチマークチェックと成長確認シートの入力は左の「授業内容」欄に記載します。 ☆この授業では e ポートフォリオを使用します。e ポートフォリオに、学びの経験を言葉にして蓄積していきましょう。レポートや発表資料などの学習成果物、また写真なども、e ポートフォリオに一緒に蓄積してください。 ☆次学期以降も同様です。
2021 年 9 月末リフレクションデイ＋秋学期	第 6 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 7 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ☆ベンチマーク「2021 秋リフレクション」チェック登録 ☆成長確認シート「2021 年度春・夏学期」ふりかえり入力 ☆成長確認シート「2021 年度秋・冬学期」目標設定入力 第 8 回 学びのゴールとプロセス（第 8 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・成長確認シートとベンチマークチェックの登録を確認する ・この大学で身につける力と方法を理解する ・ラーニング・ルートマップの作成	☆【第 8 回 宿題】e ポートフォリオでラーニング・ルートマップを作成し、保存してください。
（次年度予定） 2022 年 3 月末リフレクション・デイ＋春学期	第 11 回 リフレクションガイダンス（3 月末リフレクション・デイ） 第 12 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ☆ベンチマーク「2022 春リフレクション」チェック登録 ☆成長確認シート「2021 年度秋・冬学期」のふりかえり入力 ☆成長確認シート「2022 年度春・夏学期」の目標設定入力 ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 13 回 社会で求められる力（第 8 週） ◇ノート PC 持参◇ ・成長確認シートとベンチマークチェックの登録を確認する ・社会で活躍するために必要とされ	☆【第 12 回 宿題】e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正し、保存してください。
（次年度予定） 2022 年 9 月末リフレクション・デイ＋秋	第 15 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 16 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ☆ベンチマーク「2022 秋リフレクション」チェック	☆【第 16 回 宿題】e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正し、保存します。

学期	登録 　☆成長確認シート「2022 年度春・夏学期」ふりかえり入力 　☆成長確認シート「2022 年度秋・冬学期」目標設定入力 　・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 17 回 ポートフォリオコンテストに向けて 1（第 7 週目） ◇ノート PC 持参◇ 　・成長確認シートとベンチマークチェックの登録を確認する 　・1 年半の学びと経験	

1.授業コード（ナンバリング）	ASM101-A09	2.科目名	評価と実践Ⅰ（教育福祉_2024 年度生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	上原昭三、岩本裕子、下里里枝、馬場住子				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	1 年～2 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己評価能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科のディプロマポリシーに掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外での経験学習プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、さまざまな評価方法や社会で求めら				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 本学の教育目標に掲げる力・資質について説明できる 2. 評価方法や能力観について説明できる 3. PDCA（Plan 計画 Do 実行 Check 確認 Act 改善）サイクルについて説明できる 4. PDCA の考え方を学習状況の自己点検に適用することができる 5. 客観的に自分の現状を記述することができる				
19.教科書・教材	授業中に配付します。				
20.参考文献	スペンサー ジョンソン（著), 門田 美鈴（翻訳）『チーズはどこへ消えた?』扶桑社 2000 年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか？ 自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。				
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック				
22.コメント	評価と実践Ⅰは 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 研究室オフィスアワー ※質問や問い合わせは、まず自分のアドバイザーの先生にしてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年春学期	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間	☆この授業には、各自のノート PC と 1 回目の

	帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅰ」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（　）内の週は目安です。1 回目の授業で配付するウィークリーアワー日程表で確認してください。 ※春学期第 1 週目は基礎学力診断テストを実施します。 第 1 回 科目の説明ほか（第 2 週） 第 2 回 学修ポートフォリオ 1（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ ・学修ポート	授業で配付する「学びの成長実感ガイド」を毎回持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 ☆この授業では、WebClass 学習と振り返りの記録を使用します。学びの経験を言葉にして蓄積していきましょう。レポートや発表資料などの学習成果物、また写真なども、一緒に保存してください。 ☆次学期以降も同様です。
1 年秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 6 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 7 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える 第 8 回 学びのゴールとプロセス（第 8 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・この大学で身につける力と方法を理解する ・ラーニング・ルートマップの作成 第 9 回 学びの評価（第 9 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・評価の種類と方法を理解す	【第 7 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 【第 8 回 宿題】 ☆ ラーニング・ルートマップを作成し、WebClass に保存。
（次年度予定） 2 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	第 11 回 リフレクションガイダンス（3 月末リフレクション・デイ） 第 12 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、前年度秋・冬学期のふりかえりを行い、今年度春・夏学期の目標と計画を考える ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 13 回 学修ポートフォリオ点検 1（第 8 週） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・1 年半の学びと経験を整理する 第 14 回 学修ポートフォリオ点検 2（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇	【第 12 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に保存。
（次年度予定） 2 年秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 16 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 17 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える	【第 17 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 秋ベンチマーク」 「2025 年度春・夏学期結果」 「2025 年度秋・冬学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正

	・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 18 回 KUISs 学びのショーケースの作成 1（第 7 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・これまでの学びと経験、それらから修得したことを要約する 第 19 回 KUISs 学びのショーケースの作成 2（第 9 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・KU	し、WebClass に保存。

1.授業コード（ナンバリング）	ASM101-M03	2.科目名	評価と実践Ⅰ（三木 経営_2024 年度生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	百濟正和、上村和美、浮田泉、樋田大二郎				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	1 年～2 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己評価能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科のディプロマポリシーに掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外での経験学習プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、さまざまな評価方法や社会で求めら				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 本学の教育目標に掲げる力・資質について説明できる 2. 評価方法や能力観について説明できる 3. PDCA（Plan 計画 Do 実行 Check 確認 Act 改善）サイクルについて説明できる 4. PDCA の考え方を学習状況の自己点検に適用することができる 5. 客観的に自分の現状を記述することができる				
19.教科書・教材	授業中に配付します。				
20.参考文献	スペンサー ジョンソン（著), 門田 美鈴（翻訳）『チーズはどこへ消えた?』扶桑社 2000 年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか？ 自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。				
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック				
22.コメント	評価と実践Ⅰは 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 研究室オフィスアワー ※質問や問い合わせは、まず自分のアドバイザーの先生にしてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年春学期	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間	☆この授業には、各自のノート PC と 1 回目の

	帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅰ」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（　）内の週は目安です。1 回目の授業で配付するウィークリーアワー日程表で確認してください。 ※春学期第 1 週目は基礎学力診断テストを実施します。 第 1 回 科目の説明ほか（第 2 週） 第 2 回 学修ポートフォリオ 1（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ ・学修ポート	授業で配付する「学びの成長実感ガイド」を毎回持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 ☆この授業では、WebClass 学習と振り返りの記録を使用します。学びの経験を言葉にして蓄積していきましょう。レポートや発表資料などの学習成果物、また写真なども、一緒に保存してください。 ☆次学期以降も同様です。
1 年秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 6 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 7 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える 第 8 回 学びのゴールとプロセス（第 8 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・この大学で身につける力と方法を理解する ・ラーニング・ルートマップの作成 第 9 回 学びの評価（第 9 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・評価の種類と方法を理解す	【第 7 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 【第 8 回 宿題】 ☆ ラーニング・ルートマップを作成し、WebClass に保存。
（次年度予定） 2 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	第 11 回 リフレクションガイダンス（3 月末リフレクション・デイ） 第 12 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、前年度秋・冬学期のふりかえりを行い、今年度春・夏学期の目標と計画を考える ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 13 回 学修ポートフォリオ点検 1（第 8 週） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・1 年半の学びと経験を整理する 第 14 回 学修ポートフォリオ点検 2（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇	【第 12 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に保存。
（次年度予定） 2 年秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 16 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 17 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える	【第 17 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 秋ベンチマーク」 「2025 年度春・夏学期結果」 「2025 年度秋・冬学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正

	・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 18 回 学修成果サマリーの作成 1（第 7 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・これまでの学びと経験、それらから修得したことを要約する 第 19 回 学修成果サマリーの作成 2（第 9 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・学修成果サマリーを使って他者	し、WebClass に保存。

1.授業コード（ナンバリング）	ASM101-M04	2.科目名	評価と実践Ⅰ　（看護_2024 年度生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	蛭子真澄、鵜飼知鶴、紀ノ岡浩美、黒川麻里、杉野美礼、高見沢恵美子、西村美登里、藤原和美、房間美恵				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	1 年～2 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己評価能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科のディプロマポリシーに掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外での経験学習プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、さまざまな評価方法や社会で求めら				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 本学の教育目標に掲げる力・資質について説明できる 2. 評価方法や能力観について説明できる 3. PDCA（Plan 計画 Do 実行 Check 確認 Act 改善）サイクルについて説明できる 4. PDCA の考え方を学習状況の自己点検に適用することができる 5. 客観的に自分の現状を記述することができる				
19.教科書・教材	授業中に配付します。				
20.参考文献	スペンサー ジョンソン（著), 門田 美鈴（翻訳）『チーズはどこへ消えた?』扶桑社 2000 年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか？ 自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。				
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック				
22.コメント	評価と実践Ⅰは 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 研究室オフィスアワー ※質問や問い合わせは、まず自分のアドバイザーの先生にしてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)

1 年春学期	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅰ」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（　）内の週は目安です。1 回目の授業で配付するウィークリーアワー日程表で確認してください。 ※春学期第 1 週目は基礎学力診断テストを実施します。 第 1 回 科目の説明ほか（第 2 週） 第 2 回 学修ポートフォリオ 1（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ ・学修ポート	☆この授業には、各自のノート PC と 1 回目の授業で配付する「学びの成長実感ガイド」を毎回持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 ☆この授業では、WebClass 学習と振り返りの記録を使用します。学びの経験を言葉にして蓄積していきましょう。レポートや発表資料などの学習成果物、また写真なども、一緒に保存してください。 ☆次学期以降も同様です。
1 年秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 6 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 7 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える 第 8 回 学びのゴールとプロセス（第 8 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・この大学で身につける力と方法を理解する ・ラーニング・ルートマップの作成 第 9 回 学びの評価（第 9 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・評価の種類と方法を理解す	【第 7 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 【第 8 回 宿題】 ☆ ラーニング・ルートマップを作成し、WebClass に保存。
（次年度予定） 2 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	第 11 回 リフレクションガイダンス（3 月末リフレクション・デイ） 第 12 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、前年度秋・冬学期のふりかえりを行い、今年度春・夏学期の目標と計画を考える ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 13 回 学修ポートフォリオ点検 1（第 8 週） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・1 年半の学びと経験を整理する 第 14 回 学修ポートフォリオ点検 2（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇	【第 12 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に保存。
（次年度予定） 2 年秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 16 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 17 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を	【第 17 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 秋ベンチマーク」 「2025 年度春・夏学期結果」 「2025 年度秋・冬学期目標」

	考える ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 18 回 KUISs 学びのショーケースの作成 1（第 7 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・これまでの学びと経験、それらから修得したことを要約する 第 19 回 KUISs 学びのショーケースの作成 2（第 9 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・KU	☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に保存。

1.授業コード（ナンバリング）	ASM101-Y07	2.科目名	評価と実践Ⅰ （社会_2024 生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	行木敬、疋田浩一、永井純一				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	1 年～2 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己評価能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科のディプロマポリシーに掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外での経験学習プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、さまざまな評価方法や社会で求めら				
18.学習目標と ＤＰとの関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 本学の教育目標に掲げる力・資質について説明できる 2. 評価方法や能力観について説明できる 3. PDCA（Plan 計画 Do 実行 Check 確認 Act 改善）サイクルについて説明できる 4. PDCA の考え方を学習状況の自己点検に適用することができる 5. 客観的に自分の現状を記述することができる				
19.教科書・教材	授業中に配付します。				
20.参考文献	スペンサー ジョンソン（著), 門田 美鈴（翻訳）『チーズはどこへ消えた?』扶桑社 2000 年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか？ 自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。				
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック				
22.コメント	評価と実践Ⅰは 2 年間（1 年～2 年）の認定科目です。				
23.オフィスアワー	質問、問い合わせは自分のゼミのアドバイザーに				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年生春学期	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅰ」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（ ）内の週は目安です。1 回目の授業で配	☆この授業には、各自のノート PC と 1 回目の授業で配付する「学びの成長実感ガイド」を毎回持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 ☆この授業では、WebClass 学習と振り返りの

	付するウィークリーアワー日程表で確認してください。 ※春学期第 1 週目は基礎学力診断テストを実施します。 第 1 回 科目の説明ほか（第 2 週） 第 2 回 学修ポートフォリオ 1（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ ・学修ポートフ	記録を使用 します。学びの経験を言葉にして蓄積していきましょう。レポートや発表資料などの学習成果物、また写真なども、一緒に保存してください。 ☆次学期以降も同様です。
1 年生秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 6 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 7 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える 第 8 回 学びのゴールとプロセス（第 8 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・この大学で身につける力と方法を理解する ・ラーニング・ルートマップの作成 第 9 回 学びの評価（第 9 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・評価の種類と方法を理解する 第 1	【第 7 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 【第 8 回 宿題】 ☆ ラーニング・ルートマップを作成し、WebClass に保存。
（次年度予定） 2 年生春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	第 11 回 リフレクションガイダンス（3 月末リフレクション・デイ） 第 12 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、前年度秋・冬学期のふりかえりを行い、今年度春・夏学期の目標と計画を考える ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 13 回 学修ポートフォリオ点検 1（第 8 週） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・1 年半の学びと経験を整理する 第 14 回 学修ポートフォリオ点検 2（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ ・どのよう	【第 12 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に保存。
（次年度予定） 2 年生秋学期（9 月末リフレクリフレクション・デイ含む）	第 16 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 17 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 18 回 KUISs 学びのショーケースの作成 1（第 7 週目） ◇ノート PC 持参◇	【第 17 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 秋ベンチマーク」 「2025 年度春・夏学期結果」 「2025 年度秋・冬学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に保存。

	・これまでの学びと経験、それらから修得したことを要約する 第 19 回 KUISs 学びのショーケースの作成 2（第 9 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・KUISs 学	

1.授業コード（ナンバリング）	ASM101-Y08	2.科目名	評価と実践Ⅰ　（観光_2024 年度生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	劉争、橘セツ、前田哲男				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	1 年～2 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己評価能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科のディプロマポリシーに掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外での経験学習プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、さまざまな評価方法や社会で求めら				
18.学習目標と ＤＰとの関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 本学の教育目標に掲げる力・資質について説明できる 2. 評価方法や能力観について説明できる 3. PDCA（Plan 計画 Do 実行 Check 確認 Act 改善）サイクルについて説明できる 4. PDCA の考え方を学習状況の自己点検に適用することができる 5. 客観的に自分の現状を記述することができる				
19.教科書・教材	授業中に配付します。				
20.参考文献	スペンサー ジョンソン（著), 門田 美鈴（翻訳）『チーズはどこへ消えた?』扶桑社 2000 年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか？ 自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。				
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック				
22.コメント	評価と実践Ⅰは 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 研究室オフィスアワー ※質問や問い合わせは、まず自分のアドバイザーの先生にしてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年春学期	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間	☆この授業には、各自のノート PC と 1 回目の

	帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅰ」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（　）内の週は目安です。1 回目の授業で配付するウィークリーアワー日程表で確認してください。 ※春学期第 1 週目は基礎学力診断テストを実施します。 第 1 回 科目の説明ほか（第 2 週） 第 2 回 学修ポートフォリオ 1（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ ・学修ポート	授業で配付する「学びの成長実感ガイド」を毎回持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 ☆この授業では、WebClass 学習と振り返りの記録を使用します。学びの経験を言葉にして蓄積していきましょう。レポートや発表資料などの学習成果物、また写真なども、一緒に保存してください。 ☆次学期以降も同様です。
1 年秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 6 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 7 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える 第 8 回 学びのゴールとプロセス（第 8 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・この大学で身につける力と方法を理解する ・ラーニング・ルートマップの作成 第 9 回 学びの評価（第 9 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・評価の種類と方法を理解す	【第 7 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 【第 8 回 宿題】 ☆ ラーニング・ルートマップを作成し、WebClass に保存。
（次年度予定） 2 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	第 11 回 リフレクションガイダンス（3 月末リフレクション・デイ） 第 12 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、前年度秋・冬学期のふりかえりを行い、今年度春・夏学期の目標と計画を考える ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 13 回 学修ポートフォリオ点検 1（第 8 週） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・1 年半の学びと経験を整理する 第 14 回 学修ポートフォリオ点検 2（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇	【第 12 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に保存。
（次年度予定） 2 年秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 16 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 17 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える	【第 17 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 秋ベンチマーク」 「2025 年度春・夏学期結果」 「2025 年度秋・冬学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正

	・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 18 回 KUISs 学びのショーケースの作成 1（第 7 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・これまでの学びと経験、それらから修得したことを要約する 第 19 回 KUISs 学びのショーケースの作成 2（第 9 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・KU	し、WebClass に保存。

1.授業コード（ナンバリング）	ASM101-Y09	2.科目名	評価と実践Ⅰ　（心理_2024 年度生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	山本喜晴、大松光寿、斎藤元幸、道免逸子、藤木清、村田昌彦、横川滋章				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	1 年～2 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己評価能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科のディプロマポリシーに掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外での経験学習プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、さまざまな評価方法や社会で求めら				
18.学習目標と ＤＰとの関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 本学の教育目標に掲げる力・資質について説明できる 2. 評価方法や能力観について説明できる 3. PDCA（Plan 計画 Do 実行 Check 確認 Act 改善）サイクルについて説明できる 4. PDCA の考え方を学習状況の自己点検に適用することができる 5. 客観的に自分の現状を記述することができる				
19.教科書・教材	授業中に配付します。				
20.参考文献	スペンサー ジョンソン（著), 門田 美鈴（翻訳）『チーズはどこへ消えた?』扶桑社 2000 年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか？ 自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。				
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック				
22.コメント	評価と実践Ⅰは 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 研究室オフィスアワー ※質問や問い合わせは、まず自分のアドバイザーの先生にしてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年春学期	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間	☆この授業には、各自のノート PC と 1 回目の

	帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅰ」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（　）内の週は目安です。1 回目の授業で配付するウィークリーアワー日程表で確認してください。 ※春学期第 1 週目は基礎学力診断テストを実施します。 第 1 回 科目の説明ほか（第 2 週） 第 2 回 学修ポートフォリオ 1（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ ・学修ポート	授業で配付する「学びの成長実感ガイド」を毎回持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 ☆この授業では、WebClass 学習と振り返りの記録を使用します。学びの経験を言葉にして蓄積していきましょう。レポートや発表資料などの学習成果物、また写真なども、一緒に保存してください。 ☆次学期以降も同様です。
1 年秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 6 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 7 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える 第 8 回 学びのゴールとプロセス（第 8 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・この大学で身につける力と方法を理解する ・ラーニング・ルートマップの作成 第 9 回 学びの評価（第 9 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・評価の種類と方法を理解す	【第 7 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 【第 8 回 宿題】 ☆ ラーニング・ルートマップを作成し、WebClass に保存。
（次年度予定） 2 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	第 11 回 リフレクションガイダンス（3 月末リフレクション・デイ） 第 12 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、前年度秋・冬学期のふりかえりを行い、今年度春・夏学期の目標と計画を考える ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 13 回 学修ポートフォリオ点検 1（第 8 週） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・1 年半の学びと経験を整理する 第 14 回 学修ポートフォリオ点検 2（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇	【第 12 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に保存。
（次年度予定） 2 年秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 16 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 17 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える	【第 17 回　宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 秋ベンチマーク」 「2025 年度春・夏学期結果」 「2025 年度秋・冬学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正

	・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 18 回 KUISs 学びのショーケースの作成 1（第 7 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・これまでの学びと経験、それらから修得したことを要約する 第 19 回 KUISs 学びのショーケースの作成 2（第 9 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・KU	し、WebClass に保存。

1.授業コード（ナンバリング）	ASM101-Y10	2.科目名	評価と実践Ⅰ （G コミ_2024 生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤創、Jonathan Aliponga、片山真理				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	1 年～2 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【?的】?本授業は、学???ひとりの??評価能?を向上させ、?律的に学習ができるようになる?を涵養し、?々の学習?活を充実させていくことを?的にしています。 【概要】?本授業では、?学及び各学科のディプロマポリシーに掲げる?・資質について理解を深め、?学での学修や学外での経験学習プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を?い、次の?標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく??評価能?を?めていきます。また、さまざまな評価?法や社会で求められて				
18.学習目標と ＤＰとの関連	?この科?の学習?標は、DP（ディプロマポリシー）の「?律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習?標は以下の通りです。 1. 本学の教育?標に掲げる?・資質について説明できる 2. 評価?法や能?観について説明できる 3. PDCA（Plan 計画 Do 実? Check 確認 Act 改善）サイクルについて説明できる 4. PDCA の考え?を学習状況の??点検に適?することができる 5. 客観的に?分の現状を記述することができる				
19.教科書・教材	授業中に配付します。				
20.参考文献	スペンサー ジョンソン（著), 門田 美鈴（翻訳）『チーズはどこへ消えた?』扶桑社 2000 年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか？ 自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。				
21.成績評価	この科?の単位認定条件は、次の通りです。（この科?は単位認定科?です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成?確認シート」の以下の??状況 ①?標?2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「?標」 ②結果?2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック?2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック				
22.コメント	評価と実践Ⅰは 2 年間（1 年～2 年）の認定科目です。				
23.オフィスアワー	片山：月曜 4 限（秋学期は 3 限）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年次　春学期	※この科?は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に?います。この時間帯では、「評価と実践Ⅰ」以外に、調査・テスト、?談、説明会、学科?事などが開催されます。WebClass、ユニバーサルパスート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（?）内の週は?安です。1 回?の授業で配付するウィークリーアワー?程表で確認してください。 ※春学期第 1 週?は基礎学?診断テストを実施します。 第 1 回 科?の説明ほか（第 2 週） 第 2 回 学修ポートフォリオ 1（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇?	☆この授業には、各自のノート PC と 1 回目の授業で配付する「学びの成長実感ガイド」を毎回持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指?します。☆この授業では、WebClass 学習と振り返りの記録を使?します。学びの経験を?葉にして蓄積していきましょう。レポートや発表資料などの学習成果物、また写真なども、?緒に保存してください。 ☆次学期以降も同様です。

	・学修ポートフォリ	
1 年次秋学期（9 月末リフレクションデイ含む）	第 6 回 リフレクションガイダンス（9?末リフレクション・デイ） 第 7 回 リフレクションワーク（第 1 週?） ◇ノート PC 持参◇? ・リフレクション・ワークシートを?いて、春・夏学期のふりかえりを?い、秋・冬学期の?標と計画を考える 第 8 回 学びのゴールとプロセス（第 8 週?） ◇ノート PC 持参◇? ・ベンチマーク・成?確認シートの登録を確認する? ・この?学で?につける?と?法を理解する? ・ラーニング・ルートマップの作成 第 9 回 学びの評価（第 9 週?） ◇ノート PC 持参◇? ・評価の種類と?法を理解す	【第 7 回?宿題】 ☆ アドバイザーの?談後、W ebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成?確認シート「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期?標」 【第 8 回 宿題】 ☆ ラーニング・ルートマップを作成し、WebClass に保存。?
（次年度予定）2 年春学期（3?末リフレクション・デイ含む）?	第 11 回 リフレクションガイダンス（3 月末リフレクション・デイ） 第 12 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ☆ベンチマーク「2022 春リフレクション」チェック登録 ☆成長確認シート「2021 年度秋・冬学期」のふりかえり入力 ☆成長確認シート「2022 年度春・夏学期」の目標設定入力 ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 13 回 社会で求められる力（第 8 週） ◇ノート PC 持参◇ ・成長確認シートとベンチマークチェックの登録を確認する ・社会で活躍するために必要とされ	【第 12 回?宿題】 ☆ アドバイザーの?談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成?確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期?標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に保存。?
（次年度予定） 2 年次秋学期 2022 年（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 16 回 リフレクションガイダンス（9?末リフレクション・デイ） 第 17 回 リフレクションワーク（第 1 週?） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを?いて、春・夏学期のふりかえりを?い、秋・冬学期の?標と計画を考える ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 18 回 KUISs 学びのショーケースの作成 1（第 7 週?） ◇ノート PC 持参◇ ・これまでの学びと経験、それらから修得したことを要約する 第 19 回 KUISs 学びのショーケースの作成 2（第 9 週?） ◇ノート PC 持参◇ ・KUISs 学	【第 17 回?宿題】☆ アドバイザーの?談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成?確認シート 「2025 秋ベンチマーク」 「2025 年度春・夏学期結果」 「2025 年度秋・冬学期?標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に保存。?

1.授業コード（ナンバリング）	ASM301-A04	2.科目名	評価と実践 II（こども学_2022 年度生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	椋田善之、大平誠也、谷口一也、長瀬慶來、松尾和宣、吉田武大、吉田裕彦				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	3 年～4 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己点検能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、日本の社会や世界で使われている能力観や評価制度に関する概念				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 自分の学習状況を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる 2. PDCA に基づいて自分の現状と「出口」までの工程を自己点検することができる 3. エビデンスに基づいた自己アピールを表現（記述とプレゼンテーション）することができる				
19.教科書・教材	授業中に配付します。				
20.参考文献	ドミニク・S. ライチェン（著), ローラ・H. サルガニク（著), 立田 慶裕（監訳)『キー・コンピテンシー』明石書店 2006 年 ※キー・コンピテンシーは経済協力開発機構（OECD）が提唱する社会で活躍するために必要な能力です。世界でどのような能力が必要とされているか、確認してみましょう。				
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック				
22.コメント	評価と実践 II は 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。				
23.オフィスアワー	質問、問い合わせ等は各アドバイザーにしてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
3 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践 II」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、ア	☆この授業には、各自のノート PC を持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。

	ドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（　）内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※秋学期以降も同様です。 第 1 回 リフレクションガイダンス(リフクレション・デイ) 第 2 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期	【第 2 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2023 春ベンチマーク」 「2022 年度秋・冬学期結果」 「2023 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。 ☆ 学修成果サマリーに入れる記事やベンチマーク項目を決めておきましょう。 【随
3 年秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 6 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 7 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。 第 8 回 学修成果の統合 1（第 7 週） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する 第 9 回 学修成果の統合 2（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 10 回 3 年秋学期のふりかえり（第 15 週目）◇ノート PC 持参◇ ・秋学期の学びと経験を整理する ・冬学期の計画	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2023 秋ベンチマーク」 「2023 年度春・夏学期結果」 「2023 年度秋・冬学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。
（次年度予定） 4 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	第 11 回 リフレクションガイダンス（3 月末リフレクション・デイ） 第 12 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期のふりかえりと今年度春・夏学期の目標設定を行います。 第 13 回 企業等の業績評価（第 7 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 14 回 SDGs に掲げられている課題に対して世界市民として何ができるかを考える。（第 8 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 15 回 4 年春学期のふりかえり（第 15 週） ◇ノート PC 持参◇ ・春学期の学びや経験を	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 春ベンチマーク」 「2023 年度秋・冬学期結果」 「2024 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。
（次年度予定） 4 年秋学期（9 月末リフレクション・	第 16 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 17 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学	【第 17 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート

デイ含む）	期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。	「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。

1.授業コード（ナンバリング）	ASM301-A05	2.科目名	評価と実践 II（福祉学_2022 年度生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	山本秀樹、春木裕美				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科・福祉学専攻			9.履修学年	3 年～4 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己点検能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、日本の社会や世界で使われている能力観や評価制度に関する概念				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 自分の学習状況を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる 2. PDCA に基づいて自分の現状と「出口」までの工程を自己点検することができる 3. エビデンスに基づいた自己アピールを表現（記述とプレゼンテーション）することができる				
19.教科書・教材	授業中に配付します。				
20.参考文献	ドミニク・S. ライチェン（著), ローラ・H. サルガニク（著), 立田 慶裕（監訳)『キー・コンピテンシー』明石書店 2006 年 ※キー・コンピテンシーは経済協力開発機構（OECD）が提唱する社会で活躍するために必要な能力です。世界でどのような能力が必要とされているか、確認してみましょう。				
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック				
22.コメント	評価と実践 II は 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。				
23.オフィスアワー	質問、問い合わせ等は各アドバイザーにしてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
3 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践 II」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、ア	☆この授業には、各自のノート PC を持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。

	ドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（　）内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※秋学期以降も同様です。 第 1 回 リフレクションガイダンス(リフクレション・デイ) 第 2 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期	【第 2 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 春ベンチマーク」 「2023 年度秋・冬学期結果」 「2024 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。 ☆ KUISs 学びのショーケースに取り上げる記事やベンチマーク項目を決めておきましょう。
3 年秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 6 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 7 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。 第 8 回 学修成果の統合 1（第 7 週） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する 第 9 回 学修成果の統合 2（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 10 回 3 年秋学期のふりかえり（第 15 週目）◇ノート PC 持参◇ ・秋学期の学びと経験を整理する ・冬学期の計画	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
（次年度予定） 4 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	第 11 回 リフレクションガイダンス（3 月末リフレクション・デイ） 第 12 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期のふりかえりと今年度春・夏学期の目標設定を行います。 第 13 回 社会における評価と実践（第 7 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 14 回 SDGs に掲げられている課題に対して世界市民として何ができるかを考える（第 8 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 15 回 4 年春学期のふりかえり（第 15 週） ◇ノート PC 持参◇ ・春学期の学びや経	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
（次年度予定） 4 年秋学期（9 月末リフレクション・	第 16 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 17 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学	【第 17 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート

デイ含む）	期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。	「2025 秋ベンチマーク」 「2025 年度春・夏学期結果」 「2025 年度秋・冬学期目標」 ☆ｅポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。

1.授業コード（ナンバリング）	ASM301-A06	2.科目名	評価と実践 II（尼 経営_2022 年度生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	杉林弘仁、河内山潔、陳那森、林万平、福本哲也				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	3 年～4 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己点検能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、日本の社会や世界で使われている能力観や評価制度に関する概念				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 自分の学習状況を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる 2. PDCA に基づいて自分の現状と「出口」までの工程を自己点検することができる 3. エビデンスに基づいた自己アピールを表現（記述とプレゼンテーション）することができる				
19.教科書・教材	授業中に配付します。				
20.参考文献	ドミニク・S. ライチェン（著), ローラ・H. サルガニク（著), 立田 慶裕（監訳)『キー・コンピテンシー』明石書店 2006 年 ※キー・コンピテンシーは経済協力開発機構（OECD）が提唱する社会で活躍するために必要な能力です。世界でどのような能力が必要とされているか、確認してみましょう。				
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック				
22.コメント	評価と実践 II は 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。				
23.オフィスアワー	質問、問い合わせ等は各アドバイザーにしてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
3 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践 II」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、ア	☆この授業には、各自のノート PC を持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。

	ドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（　）内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※秋学期以降も同様です。 第 1 回 リフレクションガイダンス(リフクレション・デイ) 第 2 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期	【第 2 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 春ベンチマーク」 「2023 年度秋・冬学期結果」 「2024 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。 ☆ KUISs 学びのショーケースに取り上げる記事やベンチマーク項目を決めておきましょう。
3 年秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 6 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 7 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。 第 8 回 学修成果の統合 1（第 7 週） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する 第 9 回 学修成果の統合 2（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 10 回 3 年秋学期のふりかえり（第 15 週目）◇ノート PC 持参◇ ・秋学期の学びと経験を整理する ・冬学期の計画	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
（次年度予定） 4 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	第 11 回 リフレクションガイダンス（3 月末リフレクション・デイ） 第 12 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期のふりかえりと今年度春・夏学期の目標設定を行います。 第 13 回 社会における評価と実践（第 7 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 14 回 SDGs に掲げられている課題に対して世界市民として何ができるかを考える（第 8 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 15 回 4 年春学期のふりかえり（第 15 週） ◇ノート PC 持参◇ ・春学期の学びや経	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
（次年度予定） 4 年秋学期（9 月末リフレクション・	第 16 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 17 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学	【第 17 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート

デイ含む）	期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。	「2025 秋ベンチマーク」 「2025 年度春・夏学期結果」 「2025 年度秋・冬学期目標」 ☆ｅポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。

1.授業コード（ナンバリング）	ASM301-M04	2.科目名	評価と実践 II （経営_2022 年度生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	肖威、齋藤勝洋、高見彰、田中綾子、樋田大二郎				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	3 年～4 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己点検能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、日本の社会や世界で使われている能力観や評価制度に関する概念				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 自分の学習状況を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる 2. PDCA に基づいて自分の現状と「出口」までの工程を自己点検することができる 3. エビデンスに基づいた自己アピールを表現（記述とプレゼンテーション）することができる				
19.教科書・教材	授業中に配付します。				
20.参考文献	ドミニク・S. ライチェン（著), ローラ・H. サルガニク（著), 立田 慶裕（監訳)『キー・コンピテンシー』明石書店 2006 年 ※キー・コンピテンシーは経済協力開発機構（OECD）が提唱する社会で活躍するために必要な能力です。世界でどのような能力が必要とされているか、確認してみましょう。				
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック				
22.コメント	評価と実践 II は 2 年間（3 年～4 年）の単位認定科目です。				
23.オフィスアワー	質問、問い合わせ等は各アドバイザーにしてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
3 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践 II」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、ア	☆この授業には、各自のノート PC を持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。

	ドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（　）内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※秋学期以降も同様です。 第 1 回 リフレクションガイダンス(リフクレション・デイ) 第 2 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期	【第 2 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 春ベンチマーク」 「2023 年度秋・冬学期結果」 「2024 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。 ☆ KUISs 学びのショーケースに取り上げる記事やベンチマーク項目を決めておきましょう。
3 年秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 6 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 7 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。 第 8 回 学修成果の統合 1（第 7 週） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する 第 9 回 学修成果の統合 2（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 10 回 3 年秋学期のふりかえり（第 15 週目）◇ノート PC 持参◇ ・秋学期の学びと経験を整理する ・冬学期の計画	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
（次年度予定） 4 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	第 11 回 リフレクションガイダンス（3 月末リフレクション・デイ） 第 12 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期のふりかえりと今年度春・夏学期の目標設定を行います。 第 13 回 社会における評価と実践（第 7 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 14 回 SDGs に掲げられている課題に対して世界市民として何ができるかを考える（第 8 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 15 回 4 年春学期のふりかえり（第 15 週） ◇ノート PC 持参◇ ・春学期の学びや経	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
（次年度予定） 4 年秋学期（9 月末リフレクション・	第 16 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 17 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学	【第 17 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート

デイ含む）	期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。	「2025 秋ベンチマーク」 「2025 年度春・夏学期結果」 「2025 年度秋・冬学期目標」 ☆ｅポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。

1.授業コード（ナンバリング）	ASM301-M05	2.科目名	評価と実践Ⅱ （看護_2022 年度生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	吉沢豊子、有本梨花、伊藤尚子、櫻井信人、志保田幸子、野村浩、畑吉節未、久井志保、松尾ひとみ、八木良子				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	3 年～4 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	原則対面、実習中で参加できない学生は、ＺＯＯＭの録画を視聴する		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己点検能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、日本の社会や世界で使われている能力観や評価制度に関する概念				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 自分の学習状況を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる 2. PDCA に基づいて自分の現状と「出口」までの工程を自己点検することができる 3. エビデンスに基づいた自己アピールを表現（記述とプレゼンテーション）することができる				
19.教科書・教材	授業中に配付します。				
20.参考文献	ドミニク・S. ライチェン（著), ローラ・H. サルガニク（著), 立田 慶裕（監訳)『キー・コンピテンシー』明石書店 2006 年 ※キー・コンピテンシーは経済協力開発機構（OECD）が提唱する社会で活躍するために必要な能力です。世界でどのような能力が必要とされているか、確認してみましょう。				
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック				
22.コメント	評価と実践Ⅱは 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。				
23.オフィスアワー	質問、問い合わせ等は各アドバイザーにしてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
3 年春学期（3 月末リフ	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅱ」以外	☆この授業には、各自のノート PC を持参してください。

レクション・デイ含む）	に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（　）内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※秋学期以降も同様です。 第 1 回 リフレクションガイダンス(リフクレション・デイ) 第 2 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期	☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 【第 2 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2023 春ベンチマーク」 「2022 年度秋・冬学期結果」 「2023 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。 ☆ 学修成果サマリーに入れる記事やベンチマーク項目を決めておきましょう。 【随
3 年秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 6 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 7 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。 第 8 回 学修成果の統合 1（第 7 週） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する 第 9 回 学修成果の統合 2（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 10 回 3 年秋学期のふりかえり（第 15 週目）◇ノート PC 持参◇ ・秋学期の学びと経験を整理する ・冬学期の計画	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2023 秋ベンチマーク」 「2023 年度春・夏学期結果」 「2023 年度秋・冬学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。
（次年度予定） 4 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	第 11 回 リフレクションガイダンス（3 月末リフレクション・デイ） 第 12 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期のふりかえりと今年度春・夏学期の目標設定を行います。 第 13 回 企業等の業績評価（第 7 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 14 回 SDGs に掲げられている課題に対して世界市民として何ができるかを考える。（第 8 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 15 回 4 年春学期のふりかえり（第 15 週） ◇ノート PC 持参◇ ・春学期の学びや経験を	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 春ベンチマーク」 「2023 年度秋・冬学期結果」 「2024 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。
（次年度予定） 4 年秋学期	第 16 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 17 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート	【第 17 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を

（9 月末リフレクション・デイ含む）	PC 持参◇ 　・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。	登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。

1.授業コード（ナンバリング）	ASM301-Y05	2.科目名	評価と実践 II （観光_2022 生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	安藤正裕、小磯学、高根沢均				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	3 年～4 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己点検能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、日本の社会や世界で使われている能力観や評価制度に関する概念				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 自分の学習状況を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる 2. PDCA に基づいて自分の現状と「出口」までの工程を自己点検することができる 3. エビデンスに基づいた自己アピールを表現（記述とプレゼンテーション）することができる				
19.教科書・教材	授業中に配付します。				
20.参考文献	ドミニク・S. ライチェン（著), ローラ・H. サルガニク（著), 立田 慶裕（監訳)『キー・コンピテンシー』明石書店 2006 年 ※キー・コンピテンシーは経済協力開発機構（OECD）が提唱する社会で活躍するために必要な能力です。世界でどのような能力が必要とされているか、確認してみましょう。				
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック				
22.コメント	評価と実践 II は 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。				
23.オフィスアワー	質問、問い合わせ等は各アドバイザーにしてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
3 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践 II 」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、ア	☆この授業には、各自のノート PC を持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。

	ドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（　）内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※秋学期以降も同様です。 第 1 回 リフレクションガイダンス(リフクレション・デイ) 第 2 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期	【第 2 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 春ベンチマーク」 「2023 年度秋・冬学期結果」 「2024 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。 ☆ KUISs 学びのショーケースに取り上げる記事やベンチマーク項目を決めておきましょう。
3 年秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 6 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 7 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。 第 8 回 学修成果の統合 1（第 7 週） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する 第 9 回 学修成果の統合 2（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 10 回 3 年秋学期のふりかえり（第 15 週目）◇ノート PC 持参◇ ・秋学期の学びと経験を整理する ・冬学期の計画	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
（次年度予定） 4 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	第 11 回 リフレクションガイダンス（3 月末リフレクション・デイ） 第 12 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期のふりかえりと今年度春・夏学期の目標設定を行います。 第 13 回 社会における評価と実践（第 7 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 14 回 SDGs に掲げられている課題に対して世界市民として何ができるかを考える（第 8 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 15 回 4 年春学期のふりかえり（第 15 週） ◇ノート PC 持参◇ ・春学期の学びや経	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
（次年度予定） 4 年秋学期（9 月末リフレクション・	第 16 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 17 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学	【第 17 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート

デイ含む）	期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。	「2025 秋ベンチマーク」 「2025 年度春・夏学期結果」 「2025 年度秋・冬学期目標」 ☆ｅポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。

1.授業コード（ナンバリング）	ASM301-Y06	2.科目名	評価と実践 II （心理_2022 生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	松井幸太、板山昂、川脇康生、田中亜裕子、髙橋浩樹、中山誠、沼田真美				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	3 年～4 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己点検能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、日本の社会や世界で使われている能力観や評価制度に関する概念				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 自分の学習状況を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる 2. PDCA に基づいて自分の現状と「出口」までの工程を自己点検することができる 3. エビデンスに基づいた自己アピールを表現（記述とプレゼンテーション）することができる				
19.教科書・教材	授業中に配付します。				
20.参考文献	ドミニク・S. ライチェン（著), ローラ・H. サルガニク（著), 立田 慶裕（監訳)『キー・コンピテンシー』明石書店 2006 年 ※キー・コンピテンシーは経済協力開発機構（OECD）が提唱する社会で活躍するために必要な能力です。世界でどのような能力が必要とされているか、確認してみましょう。				
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック				
22.コメント	評価と実践 II は 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。				
23.オフィスアワー	質問、問い合わせ等は各アドバイザーにしてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
3 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践 II」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、ア	☆この授業には、各自のノート PC を持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。

	ドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（　）内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※秋学期以降も同様です。 第 1 回 リフレクションガイダンス(リフクレション・デイ) 第 2 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期	【第 2 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 春ベンチマーク」 「2023 年度秋・冬学期結果」 「2024 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。 ☆ KUISs 学びのショーケースに取り上げる記事やベンチマーク項目を決めておきましょう。
3 年秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 6 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 7 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。 第 8 回 学修成果の統合 1（第 7 週） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する 第 9 回 学修成果の統合 2（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 10 回 3 年秋学期のふりかえり（第 15 週目）◇ノート PC 持参◇ ・秋学期の学びと経験を整理する ・冬学期の計画	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
（次年度予定） 4 年春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	第 11 回 リフレクションガイダンス（3 月末リフレクション・デイ） 第 12 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期のふりかえりと今年度春・夏学期の目標設定を行います。 第 13 回 社会における評価と実践（第 7 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 14 回 SDGs に掲げられている課題に対して世界市民として何ができるかを考える（第 8 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 15 回 4 年春学期のふりかえり（第 15 週） ◇ノート PC 持参◇ ・春学期の学びや経	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
（次年度予定） 4 年秋学期（9 月末リフレクション・	第 16 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 17 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学	【第 17 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート

デイ含む）	期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。	「2025 秋ベンチマーク」 「2025 年度春・夏学期結果」 「2025 年度秋・冬学期目標」 ☆ｅポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。

1.授業コード（ナンバリング）	ASM301-Y07	2.科目名	評価と実践 II （社会_2022 生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	山本敏幸、岡本久、行木敬				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	3 年～4 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己点検能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、日本の社会や世界で使われている能力観や評価制度に関する概				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 自分の学習状況を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる 2. PDCA に基づいて自分の現状と「出口」までの工程を自己点検することができる 3. エビデンスに基づいた自己アピールを表現（記述とプレゼンテーション）することができる				
19.教科書・教材	授業中に配付します。				
20.参考文献	ドミニク・S. ライチェン（著), ローラ・H. サルガニク（著), 立田 慶裕（監訳)『キー・コンピテンシー』明石書店 2006 年 ※キー・コンピテンシーは経済協力開発機構（OECD）が提唱する社会で活躍するために必要な能力です。世界でどのような能力が必要とされているか、確認してみましょう。				
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック				
22.コメント	評価と実践 II は 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。				
23.オフィスアワー	質問、問い合わせは自分のゼミのアドバイザーに				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
3 年生春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践 II」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、ア	☆この授業には、各自のノート PC を持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。

	ドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（　）内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※秋学期以降も同様です。 第 1 回 リフレクションガイダンス(リフクレション・デイ) 第 2 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期	【第 2 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2023 春ベンチマーク」 「2022 年度秋・冬学期結果」 「2023 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。 ☆ 学修成果サマリーに入れる記事やベンチマーク項目を決めておきましょう。 【随
3 年生秋学期（9 月末リフレクション・デイ含む）	第 6 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 7 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。 第 8 回 学修成果の統合 1（第 7 週） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する 第 9 回 学修成果の統合 2（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 10 回 3 年秋学期のふりかえり（第 15 週目）◇ノート PC 持参◇ ・秋学期の学びと経験を整理する ・冬学期の計画	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2023 秋ベンチマーク」 「2023 年度春・夏学期結果」 「2023 年度秋・冬学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。
（次年度予定） 4 年生春学期（3 月末リフレクション・デイ含む）	第 11 回 リフレクションガイダンス（3 月末リフレクション・デイ） 第 12 回 リフレクションワーク（第 1 週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期のふりかえりと今年度春・夏学期の目標設定を行います。 第 13 回 企業等の業績評価（第 7 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 14 回 SDGs に掲げられている課題に対して世界市民として何ができるかを考える。（第 8 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 15 回 4 年春学期のふりかえり（第 15 週） ◇ノート PC 持参◇ ・春学期の学びや経験を	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 春ベンチマーク」 「2023 年度秋・冬学期結果」 「2024 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。
（次年度予定） 4 年生秋学期（9 月末リフレクション・	第 16 回 リフレクションガイダンス（9 月末リフレクション・デイ） 第 17 回 リフレクションワーク（第 1 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学	【第 17 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート

デイ含む）	期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。	「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。

1.授業コード（ナンバリング）	ASM301-Y08	2.科目名	評価と実践Ⅱ （英コミ_2022 生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	Patrick Shorb、伊藤創、遠藤泰生				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本授業は、学生一人ひとりの自己評価能力を向上させ、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。具体的には、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、さまざまな評価方法や社会で求められている能力観に関する概念について学びます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	１．評価や能力観に関する概念、評価方法を理解する。 ２．大学及び各学科の教育目標の理解を深める。 ３．教育目標にかかげる力・資質、及び教養等の修得に関する自己評価能力を高める。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	授業中に配付します。				
20.参考文献	スペンサー ジョンソン（著), 門田 美鈴（翻訳）『チーズはどこへ消えた?』扶桑社 2000 年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか？ 自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。				
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、以下の通りです。 （認定科目のため成績評価は行いません） 〇全学共通で指定する要件 ①ｅポートフォリオの成長確認シートを入力する。 「2020 年度春・夏学期」「2020 年度秋・冬学期」「2021 年度春・夏学期」「2021 年度秋・冬学期」 ②ｅポートフォリオのベンチマークのチェック登録を行う。 「2020 秋リフレクション」「2021 春リフレクション」「2021 秋リフレクション」 ※認定要件を追加することがあります。 〇その他、学科で指定する要件がある場合は別途指定しま				
22.コメント					
23.オフィスアワー	オフィスアワー　　木 5 センター・アワー　木 4				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2021 年度春学期	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅱ」以外に、3 年生ゼミ、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。掲示、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。	☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。また、単位要件となるベンチマークチェックと成長確認シートの入力は左の「授業内容」欄に記載します。 ☆この授業ではｅポートフォリオを使用しま

	※この欄の（　）内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※春学期第 1 週目は基礎学力診断テストです。 第 1 回 科目の説明ほか（第 2 週） 第 2 回 キャリアガイダンス（第 9 週） 第 3 回 ポートフォリオ（第 10 週） ◇ノート PC 持参◇ 第 4 回 ポートフォリオ 2	す。e ポートフォリオに、学びの経験を言葉にして蓄積していきましょう。レポートや発表資料などの学習成果物、また写真なども、e ポートフォリオに一緒に蓄積してください。 ☆夏学期以降も同様です。

1.授業コード（ナンバリング）	B001-Y01	2.科目名	文法Ⅰ　（中級）	3.単位数	4
4.授業担当教員	佐々木雅美				
5.授業科目の区分	別科科目	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	別科			9.履修学年	1 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 文法は「聞く・話す・読む・書く」の基礎になるものです。この授業では文法をきちんと整理して 基礎の部分をしっかり身につけます。 【概要】 授業では以下のことに注目して学びましょう。 ①実際のコミュニケーションの中でその文法がどのように使われているかを知る。 ②基本的な練習で慣れる。 ③まとめの問題で話を聞いたり、日本語の文章を読んだりする運用練習をする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	学習目標 ①日常生活の様々な場面と結びつけて、日本語がどのように使われているかを見ることができるようになる。 ②会話やスピーチ、読解の中で使われている文法項目に自然になじむことができるようになる。 ③日本語能力試験 N3 に挑戦する（TRY する）力をつけることができるようになる。				
19.教科書・教材	1「TRY！N3 文法」 2「初級日本語文法総まとめポイント２０」				
20.参考文献	「日本語総まとめ文法 N3」				
21.成績評価	以下の点を合計し、６０点以上が合格。 点数配分 ①小テスト：40％ ②期末テスト：60％				
22.コメント	下記のオフィスアワー以外にもいつでも質問を受け付けています。 メールでも大丈夫です。				
23.オフィスアワー	毎週　月～木（４限目）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1.2.3.4.	１：テキスト１（文法１～３）、テキスト２（１課） ２：テキスト１（文法４～６）、テキスト２（１課） ３：テキスト１（文法７～９）、テキスト２（１課） ４：テキスト１（文法１０～１２）、テキスト２（２課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
5.6.7.8	５：テキスト１（文法１３～１５）、テキスト２（２課） ６：テキスト１（文法１６～１８）、テキスト２（２課） ７：テキスト１（文法１９～２１）、テキスト２（３課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。

	８：テキスト１（文法２２～２４)、テキスト２（３課）	
9.10.11.12	９：テキスト１（文法 25～27)、テキスト２（３課） 10：テキスト１（文法 28～30)、テキスト２（４課） 11：テキスト１（文法 31～33)、テキスト２（４課） 12：テキスト１（文法 34～36)、テキスト２（４課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
13.14.15.16	13：テキスト１（文法 37～３9)、テキスト２（５課） 14：テキスト１（文法 40～42)、テキスト２（５課） 15：テキスト１（文法 43～45)、テキスト２（５課） 16：テキスト１（文法 46～48)、テキスト２（６課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
17.18.19.20	17：テキスト１（文法 49～50)、テキスト２（６課） 18：テキスト１（文法 51～52)、テキスト２（６課） 19：テキスト１（文法 53～54)、テキスト２（７課） 20：テキスト１（文法 55～56)、テキスト２（７課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
21.22.23.24	21：テキスト１（文法 57～５８)、テキスト２（７課） 22：テキスト１（文法 59～60)、テキスト２（８課） 23：テキスト１（文法 61～62)、テキスト２（８課） 24：テキスト１（復習)、テキスト２（８課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
25.26.27.28	25：テキスト１（文法 63～64)、テキスト２（9 課） 26：テキスト１（文法 65～66)、テキスト２（9 課） ２７：テキスト１（文法 67～68)、テキスト２（９課） 28：テキスト１（復習)、テキスト２（10 課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
29.30.31.32	29：テキスト１（文法 69～70)、テキスト２（10 課） 30：テキスト１（文法 71～72)、テキスト２（10 課） 31：テキスト１（文法 73～74)、テキスト２（11 課） 32：テキスト１（復習)、テキスト２（11 課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
33.34.35.36	33：テキスト１（文法 75～76)、テキスト２（11 課） 34：テキスト１（文法 77～78)、テキスト２（12 課） 35：テキスト１（文法 79～80)、テキスト２（12 課） 36：テキスト１（復習)、テキスト２（12 課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
37.38.39.40	37：テキスト１（文法 81～82)、テキスト２（13 課） 38：テキスト１（文法 83～84)、テキスト２（13 課） 39：テキスト１（文法 85～86)、テキスト２（13 課） 40：テキスト１（復習)、テキスト２（14 課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
41.42.43.44	41：テキスト１（文法 87～88)、テキスト２（14 課） 42：テキスト１（文法 89～90)、テキスト２（14 課） 43：テキスト１（文法 91～92)、テキスト２（15 課） 44：テキスト１（復習)、テキスト２（15 課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。

45.46.47.48	45：テキスト 1（文法 93～94)、テキスト 2（15 課） 46：テキスト 1（文法 95～96)、テキスト 2（16 課） 47：テキスト 1（文法 97～98)、テキスト 2（17 課） 48：テキスト 1（復習)、テキスト 2（17 課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
49.50.51.52	49：テキスト 1（文法 99～100)、テキスト 2（17 課） 50：テキスト 1（文法 101～102)、テキスト 2（18 課） 51：テキスト 1（文法 103～104)、テキスト 2（18 課） 52：テキスト 1（復習)、テキスト 2（1８課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
53.54.55.56	53：テキスト 1（文法 105～106)、テキスト 2（19 課） 54：テキスト 1（文法 107～108)、テキスト 2（19 課） 55：テキスト 1（文法 109～110)、テキスト 2（19 課） 56：テキスト 1（復習)、テキスト 2（復習）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
57.58.59.60	57：テキスト 1（文法 111～112)、テキスト 2（20 課） 58：テキスト 1（文法 113)、テキスト 2（20 課） 59：テキスト 1（復習)、テキスト 2（復習） 60：テスト	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。

1.授業コード（ナンバリング）	B001-Y03	2.科目名	文法Ⅰ　（中級）（正課学生用、聴講扱）	3.単位数	4
4.授業担当教員	佐々木雅美				
5.授業科目の区分	別科科目	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	別科			9.履修学年	１年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 文法は「聞く・話す・読む・書く」の基礎になるものです。この授業では文法をきちんと整理して 基礎の部分をしっかり身につけます。 【概要】 授業では以下のことに注目して学びましょう。 ①実際のコミュニケーションの中でその文法がどのように使われているかを知る。 ②基本的な練習で慣れる。 ③まとめの問題で話を聞いたり、日本語の文章を読んだりする運用練習をする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	学習目標 ①日常生活の様々な場面と結びつけて、日本語がどのように使われているかを見ることができるようになる。 ②会話やスピーチ、読解の中で使われている文法項目に自然になじむことができるようになる。 ③日本語能力試験 N3 に挑戦する（TRY する）力をつけることができるようになる。				
19.教科書・教材	１「TRY！N3 文法」 ２「初級日本語文法総まとめポイント２０」				
20.参考文献	「日本語総まとめ文法 N3」				
21.成績評価	以下の点を合計し、６０点以上が合格。 点数配分 ①小テスト：40％ ②期末テスト：60％				
22.コメント	下記のオフィスアワー以外にもいつでも質問を受け付けています。 メールでも大丈夫です。				
23.オフィスアワー	毎週　月～木（４限目）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1.2.3.4.	１：テキスト１（文法１～３）、テキスト２（１課） ２：テキスト１（文法４～６）、テキスト２（１課） ３：テキスト１（文法７～９）、テキスト２（１課） ４：テキスト１（文法１０～１２）、テキスト２（２課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
5.6.7.8	５：テキスト１（文法１３～１５）、テキスト２（２課） ６：テキスト１（文法１６～１８）、テキスト２（２課） ７：テキスト１（文法１９～２１）、テキスト２（３課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。

	８：テキスト１（文法２２～２４)、テキスト２（３課）	
9.10.11.12	９：テキスト１（文法 25～27)、テキスト２（３課） 10：テキスト１（文法 28～30)、テキスト２（４課） 11：テキスト１（文法 31～33)、テキスト２（４課） 12：テキスト１（文法 34～36)、テキスト２（４課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
13.14.15.16	13：テキスト１（文法 37～３9)、テキスト２（５課） 14：テキスト１（文法 40～42)、テキスト２（５課） 15：テキスト１（文法 43～45)、テキスト２（５課） 16：テキスト１（文法 46～48)、テキスト２（６課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
17.18.19.20	17：テキスト１（文法 49～50)、テキスト２（６課） 18：テキスト１（文法 51～52)、テキスト２（６課） 19：テキスト１（文法 53～54)、テキスト２（７課） 20：テキスト１（文法 55～56)、テキスト２（７課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
21.22.23.24	21：テキスト１（文法 57～５８)、テキスト２（７課） 22：テキスト１（文法 59～60)、テキスト２（８課） 23：テキスト１（文法 61～62)、テキスト２（８課） 24：テキスト１（復習)、テキスト２（８課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
25.26.27.28	25：テキスト１（文法 63～64)、テキスト２（9 課） 26：テキスト１（文法 65～66)、テキスト２（9 課） ２７：テキスト１（文法 67～68)、テキスト２（９課） 28：テキスト１（復習)、テキスト２（10 課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
29.30.31.32	29：テキスト１（文法 69～70)、テキスト２（10 課） 30：テキスト１（文法 71～72)、テキスト２（10 課） 31：テキスト１（文法 73～74)、テキスト２（11 課） 32：テキスト１（復習)、テキスト２（11 課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
33.34.35.36	33：テキスト１（文法 75～76)、テキスト２（11 課） 34：テキスト１（文法 77～78)、テキスト２（12 課） 35：テキスト１（文法 79～80)、テキスト２（12 課） 36：テキスト１（復習)、テキスト２（12 課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
37.38.39.40	37：テキスト１（文法 81～82)、テキスト２（13 課） 38：テキスト１（文法 83～84)、テキスト２（13 課） 39：テキスト１（文法 85～86)、テキスト２（13 課） 40：テキスト１（復習)、テキスト２（14 課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
41.42.43.44	41：テキスト１（文法 87～88)、テキスト２（14 課） 42：テキスト１（文法 89～90)、テキスト２（14 課） 43：テキスト１（文法 91～92)、テキスト２（15 課） 44：テキスト１（復習)、テキスト２（15 課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。

45.46.47.48	45：テキスト 1（文法 93～94)、テキスト 2（15 課） 46：テキスト 1（文法 95～96)、テキスト 2（16 課） 47：テキスト 1（文法 97～98)、テキスト 2（17 課） 48：テキスト 1（復習)、テキスト 2（17 課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
49.50.51.52	49：テキスト 1（文法 99～100)、テキスト 2（17 課） 50：テキスト 1（文法 101～102)、テキスト 2（18 課） 51：テキスト 1（文法 103～104)、テキスト 2（18 課） 52：テキスト 1（復習)、テキスト 2（1８課）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
53.54.55.56	53：テキスト 1（文法 105～106)、テキスト 2（19 課） 54：テキスト 1（文法 107～108)、テキスト 2（19 課） 55：テキスト 1（文法 109～110)、テキスト 2（19 課） 56：テキスト 1（復習)、テキスト 2（復習）	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。
57.58.59.60	57：テキスト 1（文法 111～112)、テキスト 2（20 課） 58：テキスト 1（文法 113)、テキスト 2（20 課） 59：テキスト 1（復習)、テキスト 2（復習） 60：テスト	毎回出される宿題、復習を忘れないようにしてください。

1.授業コード（ナンバリング）	BRI201-Y01	2.科目名	セレモニー産業論	3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	専攻必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	セレモニー産業(冠婚葬祭業）の歴史的経緯を踏まえつつ、文化人類学、民俗学、宗教学などさまざまな学問門における研究成果も取り入れて、全体的に外観できるように修得することを目的とする。 従来、冠婚葬祭は個人・家族・地域のイベントとして催されてきた。近年の日本社会においては、冠婚葬祭の社会的意義の変化とともに、サービス産業としてのセレモニー産業が活性化している。 この授業では、日本社会における冠婚葬祭の社会的意義について明らかにしていくとともに、現在のセレモニー産業の成立の背景および今後の展開等について考察				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）と（5）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 〇セレモニー産業の基礎知識を理解できる。 〇セレモニービジネス業界の歴史・現状を理解できる。 〇セレモニー業界の歴史時間軸の核心と現状の全体を横断的、縦断的にイメージできる。				
19.教科書・教材	徳江順一郎・二村祐輔・広重紫『セレモニー・イベント学への招待　儀礼・儀式とまつり・イベントなど』晃洋書房、２０１９年				
20.参考文献	教科書各章の後に掲載				
21.成績評価	授業ワークシート①～⑨　５％×9 回計 45％ 中間レポート（又はグループワーク成果報告）　25％ 最終レポート　30％				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	セレモニーとイベントの概略	授業ワークシート①
	宗教とセレモニー	授業ワークシート②
	世界のセレモニーとイベント	授業ワークシート③
	日本の公的なセレモニーとイベント	授業ワークシート④
	日本の私的なセレモニー	授業ワークシート⑤
	振り返りワーク①	中間まとめ、 又はグループワーク
	振り返りワーク②	中間まとめ、 又はグループワーク
	ブライダルにおけるセレモニー①	授業ワークシート⑥
	ブライダルにおけるセレモニー②	ワークシートの修正
	フューネラルとセレモニー①	授業ワークシート⑦
	フューネラルとセレモニー②	ワークシートの修正
	メモリアルとセレモニー①	授業ワークシート⑧

	メモリアルとセレモニー②	ワークシートの修正
	これからのセレモニーとイベント	授業ワークシート⑨
	振り返りとまとめ	最終レポート

1.授業コード（ナンバリング）	BRI203-A01	2.科目名	ビューティビジネス論	3.単位数	2
4.授業担当教員	本田あけみ				
5.授業科目の区分	美容分野における実務経験のある教員による科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	授業の目的 　9 兆円と推定されるビューティビジネスの市場規模（ビューティサロンビジネス、コスメティックビジネス、ブライダルビジネス）における美容業界について理解するとともに、その 1/3 を占める、ヘア・メイク・ネイル・エステ等のビューティビジネスについてサロン経営の視点から解明する。 授業の概要 　ビューティビジネスの視点からビューティの各分野における専門的なビジネス内容及び技術者評価指標としての各種免許制度・検定制度、および人材育成について理解する。 また、日本以外のビューティビジネス事情を知ることで				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の?専門知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①「ビューティビジネス」とは何か？ビューティビジネスの業種別市場規模とその内容を理解すること。 ②ビューティサロンビジネスにおけるメーカー、ディラーの役割を理解すること。 ③さらに、サロン経営の視点からビューティサロンビジネス（ヘア・メイク・ネイル・エステ等）への理解を深め,客観的な判断ができるようにする。 ④トータルビューティ―としてのブライダルビジネスについても基礎知識を理解すること。 ⑤グループワークや発表を通してプレゼンテーション力を向上させる。				
19.教科書・教材	各回ごとに資料配布				
20.参考文献	「ビューティビジネス」ジェフリー・ジョーンズ著　中央経済社 「サロンマネジメントーサービス業の成功心理学―」マーク・ディフォーレ著　同友館 「成功するビューティサロン経営」ティザック・エドワード著　同友館 四季報 月刊誌「国際商業」				
21.成績評価	・ビューティ業界についての理解度確認のレポート　①④⑥　：30%（3 回×10 点） ・グループワーク発表：発表及びレポート　②③⑤⑦　20%（4 回×5 点） ・最終課題：50%				
22.コメント	美容業界に興味のある方、メイクやネイル、エステティックやコスメ、ヘアに関心のある方、美容業界で働いてみたと考えている方、ぜひ、ビューティビジネスへの扉を開いてみませんか？ 「美容」への理解が深まります。				

23.オフィスアワー	水曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1.4/8	ガイダンス ・シラバスをベースに本講義の内容、学習目標、目指す KUIS ベンチマーク、アサインメント、評価方法についての説明する。 講義内容 ・美容業界とは？　ビューティビジネスとは？　概要説明	
2.4/15	ビューティビジネスの構成 －メーカー・ディーラーの役割―	
3. 4/22	・個人発表　－メーカー・ディーラーの役割―	レポート①
4. 5/13	ヘアサロンにおけるビューティビジネス ―規模、技術内容、人材育成から経営を探るー	
5. 5/20	グループワーク・発表 ヘアサロンについて理解・探求したことをまとめて発表する	レポート②
6.5/27	・ネイルサロン、まつ毛エクステサロン、エステティックサロンにおけるビューティビジネス －ネイル技術の紹介、資格と教育等についてー	
7.6/3	ネイルサロン、まつ毛エクステサロン、エステティックサロンのいずれかについて理解・探求したことをまとめて発表する	レポート③
8. 6/10	・特別招聘講師による講義 ーメイクアップの技術のデモンストレーションと最新トレンドー	レポート④
9. 6/17	コスメティックビジネス（化粧品業界）におけるビューティビジネス －巨大化とプライベート化を通してのマーケット概況ー	

10. 6/24	コスメティックビジネス（化粧品業界）におけるビューティビジネス グループ発表	レポート⑤
11. 7/1	ブライダルビジネス基礎知識	レポート⑥
12. 7/8	・・ビューティビジネスの将来 　－ビューティビジネスと高齢化社会―	★高齢化社会におけるビューティビジネスについて考えをまとめる
13. 7/15	・高齢化社会におけるビューティビジネスについて理解・探求したことをまとめて発表する。 　グループ発表	レポート⑦
14. 7/22	・最終課題 　－ビューティビジネスについて学んだことー ・授業アンケート	最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。
15. 7/29	・最終課題提出（web クラス） ・授業アンケート	

1.授業コード（ナンバリング）	BRI301-A01	2.科目名	セレモニー産業特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	河内山潔				
5.授業科目の区分	専門教育 展開科目	6.必修・選択の区分	コース選択必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件	セレモニー産業論を履修済みであることを前提とする。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 セレモニー産業(冠婚葬祭業）の現場での様々な課題について、事例を通して考察し、実際の現場で必要となる知識及び対処方法等について修得することを目的とする。 【概要】 関連する企業をケースとして取り上げ、様々なビジネスフレームワークに基づいた分析や考察を、個人ワークおよびグループワークで行う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ①業界の現状を分析し、基本的な事業計画書を作成することができる。 ②業界の現状を分析し、成功と失敗の要因を評価できる。				
19.教科書・教材	特に指定せず。必要に応じて資料を配布する予定である。				
20.参考文献	中村典義著『新版　ずっと幸せが続く「魔法の結婚式」』株式会社ごま書房新社				
21.成績評価	レポート（@5 点×5 回）　25%　（学習目標①） 発表用資料（@10 点×3 回）　30%　（学習目標②） 最終レポート　45%（学習目標②）				
22.コメント	冠婚葬祭は、社会人として生きていく上で常にかかわるものです。昔を知る人からの情報や、冠婚葬祭に関する文献などから、基本的な事項については把握しておきましょう。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室オフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス シラバスをベースに本講義の内容、学習目標、アサインメント、評価方法について案内する。 講義内容　：　セレモニー産業論で学んだことの復習	○個人ワーク　：　セレモニー産業論で学んだ祭事を年表にまとめる（次回提出レポート①）
第 2 回	一般の祝い事（多彩な年中行事） 講義内容　：　日常の中のセレモニー要素、初詣・お宮参り・七五三など　神社	◎グループワーク　：　自分たちの体験した祝い事をまとめグループで年表にまとめる（次回提出レポート②）
第 3 回	婚礼の儀式 講義内容　：　結納の意味・しきたり・スタイル・形式	○個人ワーク　：　古い慣習と今の慣習の変化を理解し時代背景による要因を考察する（次回提出レポート③）

第 4 回	結婚の準備 講義内容　：　新生活の準備の今と昔	◎グループワーク　：　新生活の準備の変化について、GW で発表の準備をする（次回発表）
第 5 回	慣習の変化の発表 （グループ発表プレゼン①）※プレゼンルーブリック使用 講義内容　：　婚礼の儀式・結婚の準備の慣習の変化の考察内容をグループ別に発表し、他グループの内容を評価する	○個人ワーク　：　日本の神社の中から課題とする神社をみつけ特徴を多様な視点から調査する
第 6 回	ビジネスとしての神社 講義内容　：　ビジネスとしての神社のありかた	◎グループワーク　：　個人ワークのデータを共有し、共通点と特異点をみつけてまとめる
第 7 回	ビジネスとしての神社の問題点 講義内容　：　取り上げた神社について、問題点を考察。改善提案をグループごとにまとめ、発表の準備をする	◎グループワーク　：　次回発表用の資料を作成し、読み原稿を含めた準備をする
第 8 回	ビジネスとしての神社の発表 講義内容　：　取り上げた神社について、ビジネスとしての問題点や課題、さらに改善提案を行う。（プレゼン②）	○個人ワーク　：　それぞれの宗教における葬祭の特徴を調べる（次回提出レポート④）
第 9 回	葬祭 講義内容　：　仏式・神式・キリスト式の拝礼マナーと法要のしきたり	◎グループで調査内容を共有しまとめる（次回提出レポート⑤）
第 10 回	葬祭 講義内容　：　葬祭に関して、ビジネスとしての課題を探る	○個人ワーク　：　自分が分析したいセレモニー企業を選択し、企業情報を調べる
第 11 回	経営分析の基礎 講義内容　：　経営分析の基礎的な方法について説明し、担当企業について WS を用いて実践する。	○個人ワーク　：　WS を完成させる（次回提出 WS①）
第 12 回	SWOT 分析① 講義内容　：　ビジネスフレームワークを用いて企業の分析を行う。	○個人ワーク　：　WS を完成させるための情報収集を行う
第 13 回	SWOT 分析② 講義内容　：　企業の内部環境分析を行い、強みと弱みの要因を調べる	○個人ワーク　：　WS を完成させるための情報収集を行う
第 14 回	SWOT 分析③ 講義内容　：　内部要因と外部要因をクロスし、提案を考える。	○個人ワーク　：　プレゼン用資料作成
第 15 回	発表 講義内容　　：　分析結果から得られた課題を検証し問題解決の提案をする。（プレゼン③）	○個人ワーク　：　資料を修正して最終レポートとして提出する

1.授業コード（ナンバリング）	BSS101-Y01	2.科目名	発想法	3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均				
5.授業科目の区分	専門基幹科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	特になし。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【科目の目的】 本科目では、常識や既存の枠組みにとらわれず、新しく創造的な発想を生み出すためのマインドセットおよび発想の手法を身につけることを目的としています。 【科目の概要】 SDGs やウエルビーイングといった価値観だけでなく、少子高齢化や経済不況、さらに天災やコロナ禍などの災害も含めて、現代社会はさまざまな要素に影響されながら急速に変化し続けています。そうした社会において観光は従来の枠組みにとらわれない「新しい価値の提供」がかつてなく求められるようになってきました。この授業では、皆さん一人ひとりのモ				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP と関連しています。 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力 （多様性理解） (6) 専門的知識・技能の活用力 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①新しいアイディアを生み出す発想法とロジカルシンキングの違いを説明できる。 ②個人でのアイディアの発想法を実践できる。 ③グループでのアイディアの発想法を実践できる。				
19.教科書・教材	特に指定しない。				
20.参考文献	佐宗邦威『直感と論理をつなぐ思考法』ダイヤモンド社、2019 年 加藤昌治『考具 ―考えるための道具、持っていますか?』CCC メディアハウス、2003 年 木村尚義『ずるい考え方　カタい頭がやわらかくなる発想トレーニング』あさ出版、2011 年 細谷功『アナロジー思考』東洋経済新報社、2011 年				
21.成績評価	本科目の成績評価は以下の観点で行います。 個人課題　・・・30%　【学習目標①②に対応】 グループ課題　・・・30%　【学習目標①③に対応】 最終課題　・・・40%　【学習目標①②③に対応】 ※ルーブリック評価表を使用します。				
22.コメント	社会に出ると、既存の常識にとらわれない新しいアイディアが求められることがあります。しかし「新しいアイディア」とはいったいどのようにして生み出されるのでしょうか。皆さんのなかには、新しいアイディアを思いつくことが苦手だ、という人は多いのではないかと思います。この授業では、できるだけ頭をリラックスさせてください。「これはあり得ないだろう」という『線引き』を取り払うところからスタートしましょう。この授業で楽しく豊かな発想力を育ててください。				
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 5 限（春） 学修支援センター：金曜昼休み（春）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め 方の確認、受講上の留意点などについて）	予習：シラバスをよく読んでおくこと

	・個人ワーク：頭の体操 ・グループワーク：『新しいアイディア』とは？	
第 2 回	ロジカルシンキングとラテラルシンキング ・個人＆グループワーク：ラテラルシンキングを試してみよう	予習：ロジカルシンキングとラテラルシンキングについて調べてくる。
第 3 回	ビジネス現場で求められる発想力	予習：ビジネスでの独創的なアイディア事例について調べてくる。 復習：類似語連想を毎日数回実践する
第 4 回	さまざまな発想法の類型 ①類似発想法 ・個人ワーク＋グループワーク	予習：類似発想法について調べてくる。 復習：前回の外部講師の講演の内容で勉強になった点を振り返る。
第 5 回	さまざまな発想法の類型 ②強制発想法 ・個人ワーク＋グループワーク	予習：強制発想法について調べてくる。 復習：類似発想法を練習し、課題シートを提出する。 ・・・個人課題①
第 6 回	さまざまな発想法の類型 ③図による発想法 ・個人ワーク＋グループワーク	予習：図による発想法について調べてくる。 復習：強制発想法を練習し、課題シートを提出する。・・・個人課題②
第 7 回	さまざまな発想法の類型 ④整理分析による発想法 ・個人ワーク＋グループワーク	予習：整理分析による発想法について調べてくる。 復習：図による発想法を練習し、課題シートを提出する・・・個人課題③
第 8 回	個人アイディア発表と振り返り ・各自のアイディアを全体で共有します。 ・さまざまなアイディアをみて、自身の参考になることをまとめます。	課題⑤：個人アイディアコンテストのためのアイディアをまとめてくる。 復習：整理分析による発想法を練習し、課題シートを提出する・・・個人課題④
第 9 回	グループでの発想法の活用 ①発散的手法 ・グループワーク	予習：ブレインストーミングやゴードン法などの発散的手法について調べてくる。 復習：前回の個人アイディア発表について気づきをまとめる。
第 10 回	グループでの発想法の活用 ②収束的手法 ・グループワーク	予習：KJ 法やセブンクロス法などの情報の整理法について調べてくる。 復習：発散的手法のグループワークでできたこと・できなかったことをまとめておく。
第 11 回	グループでの発想法の活用 ③強制的発想法 ・グループワーク	予習：はちのすノートやエクスカーションなど強制的なアイディア発想法について調べてくる。 復習：収束的な手法グループワークでできたこと・できなかったことをまとめておく。
第 12 回	最終アイディア発表に向けた準備① ・グループごとに分かれ、与えられたテーマに基づいて独創的なアイディアを構想する。	復習：これまでに学んだ発想法のポイントを振り返っておく。
第 13 回	最終アイディア発表に向けた予備発表会 ・グループごとにアイディア原案を発表 ・参加者による評価	予習：最終アイディアの仮案についてプレゼン資料をまとめてくる。 復習：授業で学んだ発想法を振り返り、練習

		してくる。
第 14 回	アイディア発表の準備作業② ・グループに分かれて最終発表の準備をします。	予習：最終発表のアイディアをグループで議論し、まとめてくる。 復習：発表を振り返り、ブラッシュアップのためのポイントを整理する。
第 15 回	アイディア発表と振り返り ①各グループで考えたアイディアの発表 　それぞれのアイディアについて参加者全員で評価をします。 ②授業全体の振り返り	課題⑥：最終アイディアをまとめてくる。

1.授業コード（ナンバリング）	BSS201-A01	2.科目名	ビジネスコミュニケーション技法	3.単位数	2
4.授業担当教員	上村和美				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	専攻推奨科目	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本講義では、コミュニケーションの基礎から学び、実践に役立つようワークショップ形式でビジネスコミュニケーションの技を身につけます。 【概要】 　ビジネスコミュニケーションとは、仕事上の思考や知識を意思伝達するもので、人間関係力の強化を目指すものです。具体的には、ビジネスマナー、コーチング、ファシリテーション等がそれにあたります。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 ①ビジネスマナーの基本を知り、実践できるようになる。 ②ビジネスの場面におけるコミュニケーションの必要性を知る。 ③グループワークのメリットを理解し、活用できるようになる。 ④インターンシップの心構えができるようになる。 【経営学部 DP との関連】 （2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 社会のルールを守り、他者と協働しながら、組織や集団の目的達成に貢献することができる。 （5）コミュニケーションスキル 組織や集団の内外で、他者と意見を交わし調整することができる。				
19.教科書・教材	WebClass から配付する。				
20.参考文献	「特別講義　コミュニケーション学」　藤巻幸夫　実業之日本社　2010 年　ISBN:978-4-408-10830-8				
21.成績評価	ワークシート：20%、 社会人マナーまとめテスト：30% PowerPoint によるプレゼンテーションの作成、発表、評価：20% 総括レポートの作成：20% WebClass「社会人マナー」での予復習時間：10% ※トータル時間が 1 時間以下は評価しない。				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 4/10	・ガイダンス ・コミュニケーション力チェック	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コース＜1-1,1-2＞で予習する。（60 分）→次回ビジネスマナーチェック①
【第 2 回】 4/17	コミュニケーションとは？（1） ・ビジネスマナーチェック①、ワークシート①	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜1-3 から 1-5＞/復習する。（120 分）→次回ビジネスマナーチェック②
【第 3 回】 4/24	コミュニケーションとは？（2） ・ビジネスマナーチェック②、ワークシート②	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜1-6＞/復習する。（120 分）→次

		回ビジネスマナーチェック③ 〇返却されたワークシートで復習する。(30分)
【第4回】 5/1	人間関係を築く（1） ・ビジネスマナーチェック③、ワークシート③	〇WebClass全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜2-1から2-3＞/復習する。(120分）→次回ビジネスマナーチェック④ 〇返却されたワークシートで復習する。(30分)
【第5回】 5/8	人間関係を築く（2） ・ビジネスマナーチェック④、ワークシート④	〇WebClass全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜3-1から3-3＞/復習する。(120分）→次回ビジネスマナーチェック⑤ 〇返却されたワークシートで復習する。(30分)
【第6回】 5/15	人間関係を築く（3） ・ビジネスマナーチェック⑤、ワークシート⑤	〇WebClass全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜3-4から3-7＞/復習する。(120分）→次回ビジネスマナーチェック⑥ 〇返却されたワークシートで復習する。(30分)
【第7回】 5/22	コラボレーションする（1） ・ビジネスマナーチェック⑥、ワークシート⑥	〇WebClass全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜3-8、3-9＞/復習する。(120分）→次回ビジネスマナーチェック⑦ 〇返却されたワークシートで復習する。(30分)
【第8回】 5/29	コラボレーションする（2） ・ビジネスマナーチェック⑦、ワークシート⑦	〇WebClass全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜4-1から4-7＞/復習する。(120分）→次回ビジネスマナーチェック⑧ 〇WebClass全学共通「正しい日本語入門」コース＜第3章＞予習（60分） 〇返却されたワークシートで復習する。(30分)
【第9回】 6/5	プレゼン・交渉する（1） ・ビジネスマナーチェック⑧、ワークシート⑧	〇WebClass全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜4-9から4-11＞/復習する。(120分）→次回ビジネスマナーチェック⑨ 〇返却されたワークシートで復習する。(30分)
【第10回】 6/12	プレゼン・交渉する（2） ・ビジネスマナーチェック⑨、ワークシート⑨	〇WebClass全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜5-1＞/復習する。(120分）→次回ビジネスマナーチェック⑩ 〇返却されたワークシートで復習する。(30分)
【第11回】 6/19	プレゼン・交渉する（3） ・ビジネスマナーチェック⑩、PPTでプレゼンテーションを作成する	◆ノートパソコン持参 〇返却されたワークシートで復習する。(30分) 〇プレゼンテーション課題を作成し、発表練習する。(300分)
【第12回】 6/26	プレゼン・交渉する（4） ・第11回で作成したプレゼンテーションをグループ内で発表する。	◆ノートパソコン持参 〇WebClass全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜6-1＞/復習する。(120分）→次

		回ビジネスマナーチェック⑪ 〇返却されたワークシートで復習する。(30分)
【第 13 回】 7/3	教える・導く ・ビジネスマナーチェック⑪、ワークシート⑩	〇WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜6-2＞/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック⑫ 〇返却されたワークシートで復習する。(30分)
【第 14 回】 7/10	感謝を伝える：お礼状の書き方 ・ビジネスマナーチェック⑫、ワークシート⑪ ・総括レポートに関する説明	〇WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで復習する。(120 分) 〇「総括レポート」を作成して、WebClass に提出する。(300 分) 〇お礼状を完成させる。(120 分) 〇返却されたワークシートで復習する。(30分)
【第 15 回】 7/17	まとめ ・ビジネスマナーチェックまとめテストの実施 ・授業アンケートの実施	〇「総括レポート」を作成して、WebClass に提出する。(300 分)

1.授業コード（ナンバリング）	BSS201-M01	2.科目名	ビジネスコミュニケーション技法	3.単位数	2
4.授業担当教員	上村和美				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択科目	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本講義では、コミュニケーションの基礎から学び、実践に役立つようワークショップ形式でビジネスコミュニケーションの技を身につけます。 【概要】 　ビジネスコミュニケーションとは、仕事上の思考や知識を意思伝達するもので、人間関係力の強化を目指すものです。具体的には、ビジネスマナー、コーチング、ファシリテーション等がそれにあたります。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 ①ビジネスマナーの基本を知り、実践できるようになる。 ②ビジネスの場面におけるコミュニケーションの必要性を知る。 ③グループワークのメリットを理解し、活用できるようになる。 ④インターンシップの心構えができるようになる。 【経営学部 DP との関連】 （2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 社会のルールを守り、他者と協働しながら、組織や集団の目的達成に貢献することができる。 （5）コミュニケーションスキル 組織や集団の内外で、他者と意見を交わし調整することができる。				
19.教科書・教材	WebClass から配付する。				
20.参考文献	「特別講義　コミュニケーション学」　藤巻幸夫　実業之日本社　2010 年　ISBN:978-4-408-10830-8				
21.成績評価	ワークシート：20%、 社会人マナーまとめテスト：30% PowerPoint によるプレゼンテーションの作成、発表、評価：20% 総括レポートの作成：20% WebClass「社会人マナー」での予復習時間：10% ※トータル時間が 1 時間以下は評価しない。				
22.コメント	インターンシップ参加予定の学生のみなさんには履修を薦めます。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜日昼休み センターオフィスアワー：火曜日 4 限（水棹館 2 階 ALR）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 4/11	・ガイダンス ・コミュニケーション力チェック	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コース＜1-1,1-2＞で予習する。（60 分）→次回ビジネスマナーチェック①
【第 2 回】 4/18	コミュニケーションとは？（1） ・ビジネスマナーチェック①、ワークシート①	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜1-3 から 1-5＞/復習する。（120 分）→次回ビジネスマナーチェック②
【第 3 回】	コミュニケーションとは？（2）	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コ

4/25	・ビジネスマナーチェック②、ワークシート②	ースで予習＜1-6＞/復習する。(120 分）→次回ビジネスマナーチェック③ 〇返却されたワークシートで復習する。(30 分）
【第 4 回】 5/2	人間関係を築く（1） ・ビジネスマナーチェック③、ワークシート③	〇WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜2-1 から 2-3＞/復習する。(120 分）→次回ビジネスマナーチェック④ 〇返却されたワークシートで復習する。(30 分）
【第 5 回】 5/9	人間関係を築く（2） ・ビジネスマナーチェック④、ワークシート④	〇WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜3-1 から 3-3＞/復習する。(120 分）→次回ビジネスマナーチェック⑤ 〇返却されたワークシートで復習する。(30 分）
【第 6 回】 5/16	人間関係を築く（3） ・ビジネスマナーチェック⑤、ワークシート⑤	〇WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜3-4 から 3-7＞/復習する。(120 分）→次回ビジネスマナーチェック⑥ 〇返却されたワークシートで復習する。(30 分）
【第 7 回】 5/23	コラボレーションする（1） ・ビジネスマナーチェック⑥、ワークシート⑥	〇WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜3-8、3-9＞/復習する。(120 分）→次回ビジネスマナーチェック⑦ 〇返却されたワークシートで復習する。(30 分）
【第 8 回】 5/30	コラボレーションする（2） ・ビジネスマナーチェック⑦、ワークシート⑦	〇WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜4-1 から 4-7＞/復習する。(120 分）→次回ビジネスマナーチェック⑧ 〇WebClass 全学共通「正しい日本語入門」コース＜第 3 章＞予習（60 分） 〇返却されたワークシートで復習する。(30 分）
【第 9 回】 6/6	プレゼン・交渉する（1） ・ビジネスマナーチェック⑧、ワークシート⑧	〇WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜4-9 から 4-11＞/復習する。(120 分）→次回ビジネスマナーチェック⑨ 〇返却されたワークシートで復習する。(30 分）
【第 10 回】 6/13	プレゼン・交渉する（2） ・ビジネスマナーチェック⑨、ワークシート⑨	〇WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜5-1＞/復習する。(120 分）→次回ビジネスマナーチェック⑩ 〇返却されたワークシートで復習する。(30 分）
【第 11 回】 6/20	プレゼン・交渉する（3） ・ビジネスマナーチェック⑩、PPT でプレゼンテーションを作成する	◆ノートパソコン持参 〇返却されたワークシートで復習する。(30 分） 〇プレゼンテーション課題を作成し、発表練習する。(300 分）
【第 12 回】 6/27	プレゼン・交渉する（4） ・第 11 回で作成したプレゼンテーションをグループ内	◆ノートパソコン持参 〇WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コ

	で発表する。	ースで予習＜6-1＞/復習する。(120 分）→次回ビジネスマナーチェック⑪ 〇返却されたワークシートで復習する。(30 分）
【第 13 回】 7/4	教える・導く ・ビジネスマナーチェック⑪、ワークシート⑩	〇WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習＜6-2＞/復習する。(120 分）→次回ビジネスマナーチェック⑫ 〇返却されたワークシートで復習する。(30 分）
【第 14 回】 7/11	感謝を伝える：お礼状の書き方 ・ビジネスマナーチェック⑫、ワークシート⑪ ・総括レポートに関する説明	〇WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで復習する。(120 分） 〇「総括レポート」を作成して、WebClass に提出する。(300 分） 〇お礼状を完成させる。(120 分） 〇返却されたワークシートで復習する。(30 分）
【第 15 回】 7/18	まとめ ・ビジネスマナーチェックまとめテストの実施 ・授業アンケートの実施	〇「総括レポート」を作成して、WebClass に提出する。(300 分）

1.授業コード（ナンバリング）	BSS202-M01	2.科目名	コミュニティビジネス		3.単位数	2
4.授業担当教員	上山修一					
5.授業科目の区分	基幹科目 地域マネジメント分野の実務経験のある教員による授業	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	コミュニティビジネスとは、地域資源を生かしながら、地域課題の解決を「ビジネス」の手法で取り組むもので、国内だけ でなく世界中で発展していく可能性がある。（発展しつつある）これを経営モデルのひとつとして理解するとともに具体的なイメージを持つことを目的とする。 地域の人材やノウハウ、施設、資金を活用することにより、地域における新たな創業や雇用の創出、働きがい、生きがいを生み出し、地域コミュニティや、地域産業の活性化に寄与し、少子高齢化、過疎化、地域産業の 衰退など複雑で多様な課題を解決できることを学修する。					
18.学習目標とＤＰとの関連	コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスを理解し、その社会的重要性を学ぶ。 実際にコミュニティビジネスの事業計画を立てて、ビジネスモデルを作りあげることを目標とする。 学習目標① コミュニティビジネスについて、多様な背景から基本的な内容を説明できる。 学習目標② コミュティビジネスの基本的課題について説明できる。 学習目標③ 簡単な、「コミュニティビジネス」を企画できるようになる。					
19.教科書・教材	適宜、簡単なレジメを授業中に配布する。					
20.参考文献	必要に応じて、適宜紹介をします。					
21.成績評価	原則、 ① コミュニティビジネスについて、基本的な内容や基本的課題を説明できる：?中間レポート５０％ ②コミュニティビジネス（CB）に影響を与える環境や、CB を成長させていくための方法などが説明できる： ?最終総括試験：５０％ ※最終総括試験は、感染症の状況等により、場合により、レポート課題に変更する可能性もある。					
22.コメント						
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	【第１回】・ガイダンス ・コミュニティビジネス（CB）とは何かについて（CBの概要について） 社会的、地域的な問題解決を図る手段として有効なコミュニティビジネスの概要を把握します。 ・主として貧困を抱える開発途上国で急速に発展しつつあるコミュニティビジネスが、なぜ必要とされ、進	

	展しつつあるのか、コミュニティビジネスの世界の潮流も理解します。	
	【第 2 回】コミュニティビジネスの基本ポイント① コミュニティビジネスの基本的な要件について、多様な角度から理解を深めま す。	
	【第 3 回】ミュティビジネスの基本ポイント② 前回に続いて、コミュニティビジネスの基本的な要件について、多様な角度から　理解を深めます。	
	【第 4 回】コミュニティビジネスの事例 について コミュティビジネスの主要分野の事例を把握し、どのような具体的な事例があるか。	
	【第 5 回】コミュニティビジネスの成功と評価ポイント コミュティビジネスが成功するポイントとその評価ポイントについて、事例等をも とに理解します。	
	【第 6 回】住民主導による地域づくり 地域主体の地域づくりは、農山村部、都市部、観光地などの各地で展開されていいる活動を事業の視点から課題を学ぶ。	
	【第 7 回】コミュティビジネスの展望と課題 コミュティビジネスの起業に向けた取り組みとともに、働き方のユニバーサルデザイン、ソーシャルインクルージョン(社会的内包)を踏まえた次世代を担う社会的企業のあり方について考える。	
	【第 8 回】新しい公共のあり方 新たな公共の構築に向けて、コミュニティビジネスを基軸にコミュニティ戦略を構築していくことが重要、そのため社会変革の視点を提示し 21 世紀のコミニティについて考える。 ★中間レポート課題を提示予定（課題テーマは適宜設定する）	
	【第 9 回】コミュニティをつくる方法と、ビジネスへの展開について① それらを活かしたビジネスへの発展の仕方を学ぶ。	
	【第 10 回】コミュニティをつくる方法とビジネスへの展開について② 具体的なコミュニティをつくる上での個人的な考え方から方法論を学ぶとともに、それらを活かしたビジネ	

	スへの発展の仕方を学びます	
	【第 11 回】SDGs と、クラウドファンディングについて コミュニティビジネスと SDGs とクラウドファンディング概要について理解し、今後のグローバルな課題の解決に向けて、コミュニティビジネスが果たす役割を考える。	
	【第 12 回】 ・地域資源バンク構想について	
	【第 13 回】 ・SDGs の内容について解説することと、それが社会に与える影響を解説する。	討議後において、各自は、パワーポイントを素案を完成させる。
	【第 14 回】 ・クラウドファンディングの内容・具体事例を理解し、今後のグローバルな課題の解決に向けて、コミュニティビジネスが果たす役割を考える。 ・ソーシャルビジネスとは何かを解説する。	各自は、パワーポイントをブラッ シュアップ(改善修正追記等）します。
	【第 15 回】総括試験 １４回までの講義内容や、事例内容を踏まえて、総括試験を実施します。	

1.授業コード（ナンバリング）	BSS203-Y01	2.科目名	ビジネスプレゼンテーション		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山美佐子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	グループワーク・講義・演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目はビジネスにおける基本的なプレゼンテーション能力を修得することを目的とする。 【概要】 ●プレゼンテーションの基本を学び、構造・話し方・ビジュアル・巻き込みスキルをアップし、視覚・聴覚・言語情報からのアピールを工夫して、相手を動かすプレゼンテーションをめざす。 ●プレゼン内容をつくることと、その場をハンドリングすることの 2 方向の充実をはかる。 ●大勢の前でのプレゼンテーションだけでなく、会議場面など、少人数に対してのアサーティブコミュニケーションや商品説明などの営業場面もふくめ、あらゆ					
18.学習目標とＤＰとの関連	【関連する DP】 本科目の学習目標は、（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力に関連する。 【学習目標と関連する DP】 ①プレゼンターションの対象者の研究と考察を学ぶ→（4）問題発見・解決力、(6）専門的知識・技能の活用力 ②プレゼンテーションのコンテンツについての論理的構築手法を獲得する→（1）自律性、（4）問題発見・解決力 ③提案の論拠や課題の検証を行えるようになる→（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル ④説得力のあるプレゼンテーションを実施するとともに、聴取者からの質疑への的確な対応力を身に付ける→（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	●教材として「全員転職時代のポータブルスキル大全」　株式会社 KADOKAWA　を使用します。 ●その他、必要な教材は Webclass で共有します。					
20.参考文献	●千葉大学　「大学生のためのプレゼンテーション基礎」 https://www.gshpa.chiba-u.jp/content/files/textbook/textbook_presentation2017.pdf ●立教大学　「プレゼンテーションとは」 https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf ●「アカデミック・スキルズ プレゼンテーション入門:学生					
21.成績評価	1．講義レポート・及び発表（20%） 2．ワークへの参加態度・発表内容（20%） 3．授業内プレゼンテーション（30%） 4．最終課題（30%） ※それぞれの内容については、授業内で説明します。					
22.コメント	情報収集・ワーク・資料作成に使用するので毎回 PC を持参すること					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1・2 回	1.　オリエンテーション 2.　自己紹介 3.　声の表現力を上げる「はぁ？というゲーム」	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 3・4 回	1．　話すことを楽しむ「つっこみかるた」 2．　プレゼンテーションの基本　「PREP 法」「SDS 法」 3．　「PREP 法」「SDS 法」の実習	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 5・6 回	1.　2 種類のプレゼン「報告型プレゼン」「説得型プレゼン」 2.　目的を手放さない 3.　オーディエンスは誰か 1.2.3 の実習	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 7・8 回	1.　プレゼンの 3 要素「誰が」「何を」「どう話す」 2.　プレゼンのゴールを明確にする 3.　相手中心に考えるポイント 6 つ 1.2.3 の実習	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 9・10 回	1.　左脳と右脳に訴えかけるプレゼン 　　左脳で理解し、右脳で共感を得る 2.　1 週目から 4 週目までの学習ポイントを押さえて 　テーマ（仮）「自分が良いと思って勧めたいコトやモノを、 　　クラスのメンバーにプレゼンする」 発表＆フィードバック	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する ・「ポータブルスキル大全」第 1 章より、1 つ選択して説明できるように準備しておく
第 11・12 回	1.　説明のスキル 　　構造的に説明するために 2..「報告型（説明型）プレゼン」の実習① 　　発表＆フィードバック	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する ・「ポータブルスキル大全」第 2 章より、1 つ選択して説明できるように準備しておく
第 13・14 回	1.　プレゼン資料の作り方 　　パワーポイントを使って、ロジカルな資料を作成する 2.　「報告型（説明型）プレゼンの実習② 　　発表＆フィードバック	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 15・16 回	1.　論理思考力と、仮説検証力 　提案内容を筋道立てて構成していくための技術と、 　相手の疑問を打ち消していく技術 2.　「報告型（説明型）プレゼン③ 　発表＆フィードバック	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 17・18 回	●　6 週目～8 週目の復習と 　学びを生かした「説得型」プレゼンテーション	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する

	「プレゼンテーションを成功させるために」（仮） 発表＆フィードバック	
第 19・20 回	1. 「報告型（説明型）プレゼン」④ ・アウトライン説明 ・事例紹介 発表＆フィードバック 2. 「話題提供型プレゼンテーション」 ・最近のニュースより ・自分の考えをまとめて話す	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 21・22 回	1. 「報告型プレゼンテーション」⑤ ・アウトライン説明 ・事例紹介 発表＆フィードバック 2. プレゼンテーションをリファインする リファインしたプレゼンを再発表	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 23・24 回	1. 「報告型プレゼンテーション」⑥ ・アウトライン説明 ・事例紹介 発表＆フィードバック 2. 同じテーマで、事例を考え合う 発表＆フィードバック	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 25・26 回	● 最終課題（仮）「後輩に勧める授業」 メッセージを決める 内容と構成を考える チャート化する プレゼン資料を作成する	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 27・28 回	●最終課題の仮発表 ・発表＆フィードバック ・リファインのモミ会 ・チャートと内容の見直し ・修正していく	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する ・最終発表の準備
第 29・30 回	●最終課題プレゼンテーション ・発表＆フィードバック	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する

1.授業コード（ナンバリング）	BSS206-Y01	2.科目名	ビジネスモデル・デザイン		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	ＵＳＪのマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	観光ビジネス専攻必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義 アクティブ・ラーニング導入科目（グループディスカッション、プレゼンテーション）	
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	目的：ビジネスモデルとは何か？その意味を理解し、フレームワークを活用してビジネスモデルを読み解き、改善し、新たに構築する力を身に付けます 概要：ビジネスモデルは、大きく「コンセプト」「事業戦略」「スキーム」「収支」によって語られます。それぞれの要素について、皆さんの身近なビジネス・サービス・商品の実例を用いながら、グループワークなどの演習を交えて具体的に理解を深めます。また、世の中の主なビジネスモデルについて、その内容を具体例を交えて解説していきます。					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連しています。ビジネスモデルに関して、新規ビジネスの構築・運営や、既存ビジネスの分析・改善に広く活用できる汎用的なフレームワークを習得し、さまざまな場面で活用できるようになります。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 23 点（各回 2 点×9 回、15 回目のみ 5 点） ?グループワークのプレゼンテーション 27 点 （各回 9 点×3 回） グループ得点（5 点満点）、グループ MVP（4 点） グループワークのディスカッションを欠席した場合は 0 点となります。 ?総括試験 50 点 ＊総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。					
22.コメント	遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。（厳守）					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	講義：ビジネスモデルとは ビジネスモデルは、大きく「コンセプト」「事業戦略」「スキーム」「収支計画」によって語られます。（もっと細かい要素に分けたり、違う切り口で分析されることもあります） 皆さんは、Youtube を見たことがありますよね？例えば Youtube のビジネスモデルを例にとって、ビジネスモデルとはどのようなものかを体感します。	予習：Youtube の収益源は何かを調べて書き出してくる。 授業のまとめシート：提出 復習：Youtube のコンセプトが他にないか考えてみる。
第 2 回	講義：コンセプトとは ビジネスモデルの基本的な構成要素を一つ一つ理解していきます。まずは「コンセプト」について解説します。	予習：「コンセプトとは何か」を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行

	グループワークを始めます。皆さんがよくご存知の商品やサービスを題材として、そのコンセプトを読み解いていただきます。	
第 3 回	グループワーク：コンセプトを読み解こう グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 4 回	プレゼンテーション：コンセプトを読み解こう 講義： コンセプトの具体例 世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸なコンセプトの例を紹介し、理解を深めます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 5 回	講義： 戦略とは もっとも重要な要素である「戦略」について、解説します。 ２回目のグループワークを始めます。皆さんがよくご存知の商品やサービスを題材として、その事業戦略を読み解いていただきます。	予習：「戦略とは何か」を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 6 回	グループワーク：事業戦略を読み解こう グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 7 回	プレゼンテーション：事業戦略を読み解こう 講義： 戦略の具体例 世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸な戦略の例を紹介し、理解を深めます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 8 回	講義： スキームとは ビジネスモデルの構成要素の一つである「スキーム」について、解説します。 ３回目のグループワークを始めます。皆さんがよくご存知の商品やサービスを題材として、その売上を増やすための戦略を構築していただきます。	予習：「ビジネススキームとは何か」を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 9 回	グループワーク：売上を増やそう　前半 事業環境分析から、ターゲットの設定、届ける価値の仮説まで。グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 10 回	グループワーク：売上を増やそう　後半 売上を増やすための具体的手法の検討。グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 11 回	講義： プラットフォームビジネス 長年プラットフォームビジネスに携わって来た方から、ビジネスモデルの現場と実践についてお話いただきます。	予習：プラットフォームビジネスについて、調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 12 回	プレゼンテーション：売上を増やそう　後半	予習：グループで課題を発表できる状態にす

	講義： 収支計画の具体例 世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸な収支計画の例を紹介し、理解を深めます。	る 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 13 回	講義： ビジネスモデルデザイン まとめ ビジネスモデルとは何かを振り返り、世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸なビジネスモデルの例を紹介し、理解を深めます。	予習：ビジネスモデルとは何かを改めて振り返って書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：総括試験へ向けて、全体の学びの整理
第 14 回	まとめと総括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	総括試験結果返却 全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	予習：講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード（ナンバリング）	BSS304-Y01	2.科目名	ビジネスマナー	3.単位数	2
4.授業担当教員	中山美佐子				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科 国際コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、実技、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション		
16.履修制限	本講座は、主に実習を中心に「身につける」トレーニングをしますので、履修人数を 30 人までに制限します。 30 名を超えた場合は、第 1 回目の初講を受講した学生から選考しますので、受講希望学生は、第一回目の講義に必ず出席してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】ビジネスマナーは、社会人がビジネスシーンで普通に使っている言葉や行動であり、いわば社会人として当たり前の常識でもある。本講座では、「学生と社会人の違い」を知り、インターンシップ先や実習先で社会人として振る舞えるレベル、就職活動や就職後にも役立つ社会人のためのビジネスマナーの基本を学び、身につけることを目的とする。 【概要】 ○　マナーは『見せかけ』ではない。マナーの本質は、『相手を大切に思う心づかい』にある。しかし、「心」や「内面での思い」は言葉や行動など、相手に伝わる「形」に『表現』しないと人				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本授業では、ビジネスマナーの意義や背景を理解し、社会人としての基本のマナーやルールを身につけるために学ぶ。知識として知るだけにとどまらず、大学内外の生活の中で実行できることで成果を出す。また、職場実習・インターンシップ先で、その場・その時・その相手に適切なマナーコミュニケーションを意識し、仕事の場にふさわしい立ち居振る舞いができることをめざす。 本科目の学習目標は、次のとおりです。 ①社会人として、正しい言葉づかい・ビジネス応対用語・敬語を話す ②話し言葉との違いを知り、ビジネス文書・ビジネスメールを正しい様式と言葉づかいで書ける ③ビジネス電話の基本を知り、電話を受け、担当者に取り次ぐことができる。また、就活やインターンシップなどに必要な電話での会話ができる。 ③ビジネス場面でのお迎え・案内・名刺交換・お茶接待・お見送りの一連の立ち居振る舞いができる ④食事のマナーか和のマナーについて、自らが関心を持ったテーマで研究し、インストラクションする。				
19.教科書・教材	Webclass、または紙で、適宜資料を配布します。				
20.参考文献	●「入社 1 年目ビジネスマナーの教科書」金森たかこ著　プレジデント社 ●「入社 1 年目ビジネス文書の教科書」西出ひろ子著　プレジデント社 ●「人は話し方が 9 割」永松茂久著　すばる舎 ●「敬語再入門」菊池康人著　講談社学術文庫 他にも多数ありますので、授業内で紹介します。				

21.成績評価	○　小テスト　30%　【学習目標①③】 ○　提出物　10%　【学習目標②】 ○　実技テスト（ご案内・名刺交換、お茶接待など）　30%　【学習目標①③】 ○　レポート&プレゼンテーション　30%【学習目標①④】 ※それぞれのテーマ・課題内容については、授業内か Webclass で伝えます。
22.コメント	『知っているマナー』から『できるマナー』をめざします。実習学習が主になります。実技やプレゼンテーションが多い講座を楽しみに受講ください。
23.オフィスアワー	○授業中に質疑応答の時間が取れなかった場合は、Webclass のメッセージなどで、授業の内容についての質問に対応します。 ○授業についての連絡事項は、webclass の「お知らせ」「タイムライン」などで連絡します。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	「ビジネスマナーとは」 ・　基本姿勢「立ち方、座り方、立ち姿勢、座り姿勢、お辞儀」の練習 ○ガイダンス・・・講座の進め方、講座受講の留意事項などの説明	※授業シラバスを必携のこと ※教材は 15 回とも、主に Webclass にアップします。
【第 2 回】	「社会人としてのビジネスマナー」 ・基本姿勢の復習実習 ・マナー度チェック・・・今現在の自身のマナー度に気づく ・学内のマナー、公共の場でのマナー	●前回までの復習（知識・実習）
【第 3 回】	「ことばづかい」① ・丁寧語、尊敬語、謙譲語の使い分け ・3 種類の敬語の例文づくり ・間違いやすい敬語・・・ファミコン言葉、差別用語、失礼な言葉	●前回までの復習（知識・実習） ●レポート課題に必要な本を探す（食事のマナー：詳細は講座内でお伝えします）
【第 4 回】	「ことばづかい」② ・接客応対用語 ・ワンランクアップの言葉づかい・・・・クッション言葉、否定形、命令形の言い換え ・人、会社の呼び方 ※3 種類の敬語小テスト	●前回までの復習（知識・実習） ●言葉づかい小テストの準備
【第 5 回】	※言葉づかい小テスト 「ビジネス文書①」 宛名（様・御中・各位・等の使い分け）について ・　はがきの書き方（実習） ・　往復はがきの書き方（実習） ・　封筒の書き方（実習）	●前回までの復習（知識・実習）
【第 6 回】	「ビジネス文書②」 ・　書き言葉と、話し言葉の違い ・　ビジネス文書の種類と様式について ・　社外文書と、社内文書　の違い	●前回までの復習（知識・実習）
【第 7 回】	「ビジネス文書③」 ・　社外文書に使う、時候の挨拶・言葉について ・　頭語と結語	●前回までの復習（知識・実習） ●就職活動に使用するカバーレター作成

	・　初めての社外文書 　　就職活動に使う「カバーレター」の作成（宿題） 「ビジネスメール」のマナー ・　スマホアプリ（ラインなど）のプライベートチャットや、プライベートメールと、ビジネスメールとの違い ・　社会人として通用するビジネスメールの書き方	
【第 8 回】	「ビジネス電話のマナー」 ・　基本の受け方・かけ方 ・　在席者への取次ぎ ・　不在の場合の対応と処理業務 ・　様々な場合の電話対応 「就職活動での電話マナー」 ・　就活期間に気を付けること ・　問い合わせの電話など、就活シーンの電話練習	●ビジネス文書　小テストの準備 ●前回までの復習
【第 9 回】	※ビジネス文書　小テスト 「訪問と案内マナー①」 ・　席次のマナー 　　応接室・会議室・和室・乗り物・エレベータ・階段など 　　いろいろなビジネスシーンでの席次について学ぶ。	●前回までの復習（知識・実習）
【第 10 回】	「訪問と案内のマナー②」 ・　名刺のマナー 　　名刺の扱い方１０の注意点 ・　名刺交換のマナー 　　基本の名刺交換と、同時交換	●名刺入れ（または名刺入れの形状の代わりのもの） ●レポート提出 ●前回までの復習（知識・実習）
【第 11 回】	「訪問と案内のマナー③」 ・　受付のマナー ・　案内のマナー ・　応接室でのマナー ・　辞去のマナー ・　お茶出しと、お茶をいただくマナー	●名刺入れ ●ビジネスカバン ●湯飲み・茶たく・お盆・ふきん（あればお持ちください） ●前回までの復習（知識・実習）
【第 12 回】	「訪問と案内のマナー④」 ・　訪問→受付→案内→応接室→名刺交換→お茶接待→辞去→お見送り 　　訪問側と、案内側のロールプレイ。一連のマナー実習	第 11 回と同じ ●プレゼンテーションの準備
【第 13 回】	「食事のマナー」① ・各自がレポート課題からプレゼンテーションする。（和食、箸、洋食、接待、パーティ、お酒、ワイン、スィーツ、その他） ※講評と追加説明	●前回までの復習（知識・実習） ●各自、プレゼンテーションに必要なもの
【第 14 回】	「食事のマナー」② ・各自がレポート課題からプレゼンテーションする。（和食、箸、洋食、接待、パーティ、お酒、ワイン、スィーツ、その他）	●前回までの復習（知識・実習） ●各自、プレゼンテーションに必要なもの

	※講評と追加説明	
【第 15 回】	総括試験 ・実技テスト ・知識習得チェック試験	●前回までの復習（知識・実習）

1.授業コード（ナンバリング）	BSS306-Y51	2.科目名	ベンチャービジネス論	3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択科目	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	観光学科、他			9.履修学年	3 年以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	特にありません				
17.授業の目的と概要	【目的】この講義ではベンチャービジネス界の現状を理解し、課題に対してどのように取り組むべきかを考える力を養うことが目的です。 【概要】ベンチャービジネスの発展には、独創性と冒険性に富んだ企業家または起業家が必要です。そのため、ベンチャービジネスの構想づくりや経営に必要な実践的な知識・技能を修得するための方法について学びます。 具体的には、地域社会の課題解決を行うために重要とされる起業や社会的起業について学び、考えることを通じて、地域の活性化の中心となる人材を育てます。 15 回の中で、講義と実習を繰り返し				
18.学習目標とＤＰとの関連	・起業や資金調達の基本的な仕組みを説明することが出来る。（知識） ・事業価値評価の基礎を学びどのように事業を評価すべきか説明することが出来る（知識） ・ビジネスプランについての評価や作成をすることが出来る。（技能） ・起業のリスクと起業することの意義を理解し起業を、企業のもつ意味を感じることが出来る。（態度・習慣）				
19.教科書・教材	特定のテキストは指定しないが適宜文献を紹介する				
20.参考文献	20.参考文献　　講義資料として、ウェブクラスに資料をアップするので各自印刷して授業に持参して下さい				
21.成績評価	・基準 期末試験による知識の習得度合いと理解度を評価する。また、期末試験における評価基準として、文章のわかりやすさ論理一貫性もその評価基準とする。 ・方法 定期試験において講義で紹介した概念並びに概念間のつながりを理解できるかによって評価する。また場合によりレポート等を課すばあいがある。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜 3 コース（研究室/3-308）、火曜 2 コース(学修支援センター)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	イントロダクション ベンチャー企業とは何かを知り、実際に活躍している様子を調べる	
第 2 回	なぜベンチャーが必要なのか？ 社会的企業について学び、実際の社会課題を整理し、今創出できるビジネスの形を考える。	
第 3 回	イノベーションと経営組織 日本の製造業ではイノベーションが継続的に起こり、その歴史が日本の工業技術の体系でもある。では、サービス産業ではどのようなイノベーションがあったかを調べる。	
第 4 回	イノベーションの諸類型	

	イノベーションの体系的把握を活かし、さらに類型に入る事例を収集、自分なりのベンチャー企業マップを作成する	
第 5 回	イノベーションのジレンマ イノベーションは常に追い越される。また、普及すれば発明利益は薄まる。当然、製造コストは下がり、場合によってはその産業分野が消えることもある。こうしたイノベーションの限界を見つけ検討する。	
第 6 回	イノベーションのプロセスモデル イノベーションのステップモデルを知り、実際に応用してみる。社会起業のための設計を考える。	
第 7 回	ビジネスエコシステム 産官学にわたる多様な組織が一体となって、新しい技術やイノベーションを生み出すサイクルをエコシステムとして取り上げ、神戸市と本学が進める産学プラットフォームを事例に、起業の可能性を考える	
第 8 回	スタートアップにおける大学の役割 上記、神戸市産官学プラットフォームの成功事例を学ぶため、用意された訪問先を、各自に訪ねてインタビューし、エコシステムを描き出す	
第 9 回	ベンチャーと資金調達 政策金融の体系を理解し、資金計画のエスキースをまとめる	
第 10 回	ビジネスモデルと企業価値評価 ビジネスモデルの中でも、プロダクト革新を取り上げ、革新によって企業価値がどう上がったかの事例を整理する	
第 11 回	ビジネスプランとその評価 イノベーションを軸に、ビジネスプランを描き出す練習を続ける。グループでプランを相互に批判し、より練れた内容にする	
第 12 回	制度的企業家 授業の最後に、理論としてのベンチャー研究を理解するために古典的企業家論を紹介する。参考文献をもとにベンチャー企業論を体系的に把握し、卒業研究に備える	
第 13 回	技術の社会的構成 授業の最後に、理論としてのベンチャー研究を理解するために古典的企業家論を紹介する。参考文献をもとにベンチャー企業論を体系的に把握し、卒業研究に備える。	
第 14 回	日本におけるベンチャー政策と失敗の歴史 1980 年代に始まる日本のベンチャー企業の歴史を探り、経済産業省のベンチャー政策、横浜市など自治体の政策を紹介し、その成否を考える。	
第 15 回	まとめとテスト 簡単な到達テストを行い、最終レポートの内容を指示	

	する。	

1.授業コード（ナンバリング）	CB0101-Y52	2.科目名	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ･ﾘﾃﾗｼｰⅠ （再）（4 月 11 日～5 月 31 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	疋田浩一				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されています。このクラスでは、留学生のみ受講対象としますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	【リファレンス動画付き】つくりたい!がカタチになる 学生のための Office スキル活用&情報モラル、noa 出版、ISBN： 9784908434457 その他、ワークシートや視聴コンテンツ資料など必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)） 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成 15 点 ? 【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成 15 点 ? 【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー （水曜）昼休み 研究室オフィスアワー （火曜） 5 限				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	

第 1 回	授業計画について説明 　各自のノート PC の環境について確認 講義 　「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section4Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	[授業外学習] 　各自の PC 環境整備 　セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 　「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） 　WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section4Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 　各自の PC 環境整備 　セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 15 回授業日〆切）
第 3 回	第 3 回　　Windows の基礎＋クラウド利用 　・Windows の基本操作 　・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1 Lesson1-4）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す ※ 操作で分からないところがあれば、レファレンス動画を活用しましょう。
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから；アクセス先は同じことを説明） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録させる。ブレイクアウト	[授業外学習] 図書検索に関する説明動画を視聴しておくこと 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと
第 5 回	第 5 回　　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section1 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復

	プルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step1 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	習すること） ※ 操作で分からないところがあれば、レファレンス動画を活用しましょう。
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（P62 応用） ※ 操作で分からないところがあれば、レファレンス動画を活用しましょう。
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section1 Step2 Lesson2）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力、オートフィルを演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） ※ 操作で分からないところがあれば、レファレンス動画を活用しましょう。
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・別シートのデータを利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （成績データの資料化（教科書 Section2 Step2 Lesson2） 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、 数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]:指定された体裁の図表・グラフの作成（P94 応用） ※ 操作で分からないところがあれば、レファレンス動画を活用しましょう。
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出 ※ 操作で分からないところがあれば、レファレンス動画を活用しましょう。
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項：	課題[4]:指定された体裁の発表スライドの作成（P115 応用） ※ 操作で分からないところがあれば、レファレンス動画を活用しましょう。

	・教科書（Section1 Step2 Lesson3）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、文字の大きさに注意、文章に注意、図解表現の利用、色の使い過ぎに注意の解説 ・プレゼンテーション課題の提示	
第 13 回	・プレゼンテーション作成② スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[4]を WebClass で提出 課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成 ※ 操作で分からないところがあれば、レファレンス動画を活用しましょう。
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section4Step2 Lesson4-5）をスライドで解説 ・データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CB0108-Y51	2.科目名	総合英語IV （再）	3.単位数	2
4.授業担当教員	友繁義典、Enoch Chan				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半	Activity: Unit 07 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半	Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半	
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半	Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半	
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③	Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語

	Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar：054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity：Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity：Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習（語彙)
第 10 週	Grammar：060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity：Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar：063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity：Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習（語彙)
第 12 週	Grammar：066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity：Unit 12 ”I'm going to go by car.”前半	
第 13 週	Grammar：069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity：Unit 12 ”I'm going to go by car.”後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar：072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity：BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	CB0119-Y01	2.科目名	ハングル・コリア文化Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	高秀美				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	現代社会学部			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	入門クラスなので、はじめて韓国語を学ぶ学生が望ましいです。				
17.授業の目的と概要	様々な形で韓国語と韓国の生活文化を学びながら基礎的な文法、日常会話などの学習を進めて行きます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の３．多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力、S1．修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、K4．異なる価値観を理解意し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーションを備える、の学修に関連しています。 ①ハングル文字の仕組みを理解し説明できる。 ②自由に文章を組み立て、会話に生かすことができる。 ③韓国の生活文化を学ぶ。				
19.教科書・教材	『できる韓国語 初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院				
20.参考文献	授業時に紹介します。				
21.成績評価	時間ごとのワークシート　10%　（学習目標の①④に対応） 課題の提出　10%　（学習目標の①④に対応） 時間ごとの会話練習　10%　（学習目標の②③に対応） 単語テスト　10%　（学習目標の①に対応） 発音チェックテスト　10%　（学習目標の②に対応） 総合テスト　50%　（学習目標の①～④に対応）				
22.コメント	どの国の言葉もそれを共に学ぶ人たちの心を結ぶリボンの役割をすると信じています。一つの単語を知り、少しずつ韓国語で会話できる楽しさをぜひ感じてほしいです。韓国語の最初の一歩でつまずかないように少しでも疑問があれば授業終了後に質問するようにこころがけましょう。 ※スケジュールは変更することがあるます。				
23.オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】 【第２回】	【第１回】 ・オリエンテーション：春学期授業の流れや成績評価についての説明 ・韓国語について［教科書 pp.6］・ワークシート 【第２回】 ・Lesson1　基本母音［教科書 pp.8-9］・ワークシート	【第１回】 ○シラバスの確認 【第２回】 ○次回の授業までに基本母音を読めて書けるように練習すること
【第３回】 【第４回】	【第３回】 ・Lesson2　子音①：平音［教科書 pp.10-14］・ワークシート	【第３回】 ○基本子音を読めて書けるように練習すること

	●母音暗唱テスト 【第４回】 ・Lesson2　子音②：激音［教科書 pp.15-16］・ワークシート	【第４回】 ○次回の授業までに基本子音を読めて書けるように練習すること
【第５回】 【第６回】	【第５回】 ・Lesson2　子音③：濃音［教科書 pp.17-19］・ワークシート 【第６回】 ・Lesson2　子音まとめ［教科書 pp.10-19］ ●単語テスト ●暗唱テスト（子音）	【第５回】 ○基本子音を読めて書けるように練習すること 【第６回】 ○次回の授業までに基本子音を読めて書けるように練習すること
【第７回】 【第８回】	【第７回】 ・Lesson3　パッチム［教科書 pp.20-24］・ワークシート 【第８回】 ・Lesson4　合成母音［教科書 pp.25-28］・ワークシート ●単語テスト	【第７回】 ○パッチムを読めて書けるように練習すること 【第８回】 ○次回の授業までに合成母音、パッチムを読めて書けるように練習すること
【第９回】 【第 10 回】	【第９回】 ・文字の復習［教科書 pp.29-30］・ワークシート 【第 10 回】 ・日本語のハングル表記の練習［教科書 pp.32］・ワークシート	【第９回】 ○ハングルを読めて書けるように練習すること 【第 10 回】 ○次回の授業までに日本語のハングル表記ができるように練習すること
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・発音の変化　有声音化/連音化/鼻音化/「?」の弱音化［教科書 pp.172-175］・ワークシート 【第 12 回】 ・発音の変化　激音化/濃音化/流音化/口蓋音化［教科書 pp.176-181］・ワークシート	【第 11 回】 ○発音の変化を読めて書けるように練習すること 【第 12 回】 ○次回の授業までに発音の変化を読めて書けるように練習すること
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・第１課　私は日本人です（１）［教科書 pp.40-43］・ワークシート 【第 14 回】 ・第１課　私は日本人です（２）［教科書 pp.40-43］・ワークシート ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 13 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること 【第 14 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ・第２課　日本人ではありません（１）［教科書 pp.44-49］・ワークシート 【第 16 回】 ・第２課　日本人ではありません（２）［教科書 pp.44-49］・ワークシート ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 15 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること 【第 16 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること
【第 17 回】	【第 17 回】	【第 17 回】

【第 18 課】	・第 3 課　それは何ですか（1）[教科書 pp.50-55]・ワークシート 【第 18 回】 ・第 3 課　それは何ですか（2）[教科書 pp.50-55]・ワークシート ●単語テスト ●暗唱テスト	○本文を音読し、読めて書けるように練習すること 【第 18 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること
【第 19 回】 【第 20 課】	【第 19 回】 ・第 4 課　約束があります（1）[教科書 pp.56-61]・ワークシート 【第 20 回】 ・第 4 課　約束があります（2）[教科書 pp.56-61]・ワークシート ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 19 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること 【第 20 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・第 5 課　会社はどこにありますか（1）[教科書 pp.62-67]・ワークシート 【第 22 回】 ・第 5 課　会社はどこにありますか（2）[教科書 pp..62-67]・ワークシート ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 21 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること 【第 22 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・第 6 課　週末は何をしますか（1）[教科書 pp.68-73]・ワークシート 【第 24 回】 ・第 6 課　週末は何をしますか（2）[教科書 pp.68-73]・ワークシート ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 23 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること 【第 24 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・第 7 課　そんなに遠くありません（1）[教科書 pp.74-79]・ワークシート 【第 26 回】 ・第 7 課　そんなに遠くありません（2）[教科書 pp.74-79]・ワークシート ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 25 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること 【第 26 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・第 8 課　いつ行きますか（1）[教科書 pp.80-85]・ワークシート 【第 28 回】 ・第 8 課　いつ行きますか（2）[教科書 pp.80-85]・ワークシート ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 27 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること 【第 28 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること
【第 29 回】	【第 29 回】	【第 29 課】

【第 30 回】	●総復習 【第 30 回】 ●総括試験	○総復習

1.授業コード（ナンバリング）	CB0121-Y01	2.科目名	中国語・中国文化Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年（全くの初心者でも履修できます。中国語Ⅱが未履修でも履修できます。） ただし、中国語を母語とする中国の留学生は履修が出来ません
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	基本的には講義中心に進めますが、映画やドラマや音楽ビデオなどの映像資料も時々使用します。また、必要に応じてグループタスクやディスカッションなども行います。		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本授業は、初めて中国語を学ぶ入門者のためのコースであり、発音やイントネーションや文法などの基礎事項の習得を重視します。と同時に、実用性も重視して、旅行や留学などの実際場面で使える実用的な中国語表現の習得をはかります。授業内容でも書いていますが、実際に中国に行った時に遭遇するいろいろな場面で使える表現を具体的に勉強していきます。（秋学期の中国語Ⅱを先に受講した人も受講できます。中国語Ⅱとは、また内容が違います。）				
18.学習目標とＤＰとの関連	●授業内容に対して、新たな興味や関心をもつことができる ●基本的な中国語力を身に着けることができる ●中国社会や文化に対する理解が深まる (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	授業の時に教材を配布します。				
20.参考文献	NHK ラジオ中国語 Duolingo 中国語学習アプリ				
21.成績評価	①2，3 週間ごとに行うウェブクラスの小テスト（計 4 回：1 回 10 点）40%、②最終試験 30%、③タスクシート＋Duolingo での課題 20%、④中国語スピーチ 10%				
22.コメント	中国語は日本人にとって、とても習得しやすい外国語のひとつです。発音などが少し難しいと言われていますが、特に英語を勉強したことのある日本人にとってはとても勉強しやすいです。なぜなら、英語と文法構造がとても似ており、しかも動詞の変化などは、現在完了形や過去完了形などまである英語ほど複雑ではありません。また、書き言葉で漢字を使用するのも、小さいころから漢字を学んでいる日本人には勉強しやすい理由のひとつです。 中国には 13 億の人がいると言われており、海外に散らばっている華僑の多くも中国語を話します。話者の数だけを見ると、中国語を話す人の人口は世界で最も多いです。また、日本にとって中国は、経済・文化・政治面でもいろいろと関わりが深い隣国です。そういう国の言葉である中国語を習得することは、非常に重要です。特に、真の国際人になることをめざしている人にとって、中国語の習得は今後ますます重要になってくると思います。 この授業では、映画などの映像資料を時々用いながら、できるだけ楽しめる形で実用的な中国				

	語を確実に身につけていくことをめざしています。空港や観光地や買い物の時の会話など、実際に中国に行った時に遭遇するいろいろな場面で使える表現を具体的に勉強していきます。中国語を初めて学ぶ初心者のための授業ですので、履修しようか迷っている方も気軽に見学に来てください。中国語を一から学べる授業ですし、秋学期の「中国語Ⅱ」を履修してなくても大丈夫ですし、中国語が全く初心者の方でも履修できる授業です。 授業では、就職活動の時にも役に立つ、中国語検定試験（英語検定試験に該当）や HSK 試験（TOEIC 試験に該当）の資格取得のための情報提供もします。英語関連の語学の資格だけでなく、社会的ニーズの高い中国語関連の語学の資格も持っていると、就職活動の時に良いアピールができるので、こうした語学試験に挑戦する方を全力でサポートします。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	発音や声調の練習、挨拶と自己紹介に関する表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 2 回	数字とお金に関する表現の練習、一年と天気に関する表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 3 回	買い物や食事の時に使う表現（値段を尋ねたり、値段交渉したり、料理を注文する時に使う表現）の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 4 回	時間・月日に関する表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 5 回	学校訪問・会社訪問などで使う表現の練習、ホテルなどで使う表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 6 回	中国の友達と交流を深めるための表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 7 回	恋愛・結婚などに関する表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 8 回	健康・エステ関連の表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 9 回	観光などで使う表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 10 回	中国映画の鑑賞	
第 11 回	旧正月を過ごす時などに使う表現の練習、中国伝統文化に関する表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 12 回	別れを告げる時などに使う表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 13 回	乗り物（タクシーやバスなど）に乗る時に使う表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 14 回	授業のまとめと復習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 15 回	期末テスト	各自で発音練習や文法の復習をする。

1.授業コード（ナンバリング）	CB0153-Y01	2.科目名	文化人類学	3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬				
5.授業科目の区分	基礎科目（2019 年度以降入学生）/専門共通科目（2018 年度以前入学生）	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	現代社会学部			9.履修学年	1 年次～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	17.授業の目的と概要（新） 【目的】 前半（第 1～7 回）では異文化理解の基礎となる「文化相対主義」の視点を、後半（第 8～15 回）では現代における民族の解読や多文化共生に不可欠な「構築主義」の視点を学びます。 【概要】 「異文化理解は重要だ」と言われますが、そもそも異文化理解とは何をどうすることなのでしょうか？　またそれはなぜ、何のために「重要」なのでしょうか？ 第 1 回で提起したこの問題に答えるかたちで、第 2 回から第 6 回では、20 世紀前半の文化人類学者たちがフィールドワークを通じて作り上げた「システム論				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業の学習目標は DP の（3）多様性の理解と（2）問題解決力の学修に関連しています。 ①文化を体系的にとらえるための諸理論を説明することができる ②文化の変化をとらえるための諸理論を説明することができる ③それらの理論を使い、様々な文化的事象を分析することができる				
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）				
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト（15 回）　… 45%（学習目標①②に対応） ・期末レポート　… 55%（学習目標①②③に対応）				
22.コメント					
23.オフィスアワー	金曜 4 限（学修支援センター）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	異文化理解とは何か？ ― 授業ガイダンス ＋ 相対主義編 1 ：イントロダクション	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 2 回】	不思議の国の昼休み ― 相対主義編 2 ：自文化の相対化と異文化理解	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 3 回】	人類はイネ科植物に支配されている ― 相対主義編 3 ：文化の多様性と初期理論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 4 回】	狩猟採集民はどこから来たのか？ ― 相対主義編 4 ：19 世紀の理論の問題点	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 5 回】	お父さんのいない島 ― 相対主義編 5 ：参与観察型フィールドワークがもたらした新しい文化観	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 6 回】	父を弔うための冗談 ― 相対主義編 6 ：文化のシステムと異文化理解	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 7 回】	魂を落とした話を理解する ― 相対主義編 7 ：文化相対主義と多文化主義	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

【第 8 回】	そうだ、カッパのせいにしよう。 ― 構築主義編１：解釈を通じた自文化の変化	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 9 回】	日本の寿司とアメリカの SUSHI ― 構築主義編２：解釈を通じた異文化の受容（１）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	呪術になったキリスト教とキリストになった呪術師 ― 構築主義編３：解釈を通じた異文化の受容（２）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	「白人の呪術」にかんするうわさ ― 構築主義編４：ポストコロニアル状況における文化	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	千と千尋の観光地 ― 構築主義編５：観光開発と自文化の解釈	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	イスラームの中心で打倒アメリカを叫んだミッキーマウス ― 構築主義編６：ポップカルチャーの政治性	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	南の島のもつれたアイデンティティー ― 構築主義編７：イデオロギーの再生産と「大きな物語」	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	民族が紛争を作るのか、紛争が民族を作るのか ― 構築主義編８：民族概念の脱構築にむけて	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード（ナンバリング）	CB0155-Y01	2.科目名	法学	3.単位数	2
4.授業担当教員	出嶋陽介				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および講義前演習		
16.履修制限	特に設けないが、日本国憲法を既に履修したか、または同時並行的に履修していることが望ましい。				
17.授業の目的と概要	本科目は、日本国憲法で履修する基本的人権の知識を基礎に、我々が日常生活を送るうえで直面する様々な場面（誕生～就労～死亡）において、必要とされる法律知識とその根拠となる権利・自由について理解を深め、将来その知識を活用できるようにすることを目的としている。 具体的な一例をあげると、就職して退職するまで一労働者として勤務するが、労働者は雇用される立場にあるので、どうしても立場が弱くなりがちである。そこで、労働者の立場を守る様々な法律が制定され、労働者が不当な目に遭わないよう、法的な保護がなされている。それを踏				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマ・ポリシーの（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力に関連している。 具体的な学習目標は、以下のとおりである。 ①様々な生活場面における法律問題を理解し、法律的に適切な対処ができるようになる。 ②法律の条文に慣れ親しみ、条文の意味内容を理解できるようにする。 ③他者に対する人権や自由を尊重できるようにする。				
19.教科書・教材	副田隆重・浜村彰・棚村政行・武田万里子　『ライフステージと法 第 8 版』　有斐閣アルマ				
20.参考文献	講義資料等は、WebClass を通じて配布する。				
21.成績評価	成績評価については、以下の全ての評価対象を実施した上で、合計が 60%以上の場合に、合格とする。 ①　小テスト（2 回）　50%（各 25%の 2 回分で最大）　・・・学習目標①に対応 ②　総括試験　50%（最大）　・・・学修目標②と③に対応 ※　2 回分の小テストは、5 回目と 10 回目の講義時間を使い、WebClass で実施するので（15 分程度）、少なくとも当日はパソコンを必携することを求める。　※ ※　出席点および平常点の評価は一				
22.コメント	法律は独特の用語が目立ち、難解と思えそうだが、条文を読むことに慣れてしまうと苦にならない。講義を通じて、基本的な考えを理解することは大切であるが、分からないことがあれば積極的に質問してほしい。				
23.オフィスアワー	研究室を持っていないので、質問や要望等があれば、講義の前後に受け付ける。また、WebClass のメール機能で問い合わせも可。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション（シラバス内容についての補足説明、受講上の注意点、講義の進め方など） （講義）本格的な講義を始める前に、講義の理解をスムーズにするために必要とされる法律概念や予備知識を説明する。	（予習） テキスト ⅰ -ⅵページ（プレリュード）を読んでおくこと。 （復習） 講義ノートの整理
第 2 回	（講義）テキスト stage1「社会人へのパスポート」をテーマに、年齢と法律との関係を見つつ、どのような	（予習） テキスト 2-11 ページを読んで、法律が年齢に

	場面で年齢が法律と関わってくるのかを理解する。また、法律によって個人に与えられた権利をどこで主張できるのか、誰によって守ってもらえるのかも講義する。テキスト 2-11 ページ該当 （講義前演習）年齢と法律に関する確認テスト	よって異なる扱いをするのはなぜかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 3 回	（講義）テキスト stage2「働く自由・女であることの自由」をテーマに、男女平等の時代にあっても、女性が見えないガラス張りの雇用環境によって劣遇されている現実を裁判例から見ていく。それを踏まえて、女性を法的に救済する立法にどのようなものがあるのかを講義する。ひいては、女性差別解消の方策を一緒に考えていきたい。テキスト 14-40 ページ該当 （講義前演習）女性差別を解消する法律に関する確認テスト	（予習） テキスト 14-40 ページを読んで、女性が差別される背景がどこにあるのか、また立法上の対応にどのようなものがあるかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 4 回	（講義）テキスト stage3「働きかたいろいろ」をテーマに、勤労の自己決定、非正規労働者の法律的保護とその限界を講義する。テキスト 42-68 ページ該当 （講義前演習）労働法に関する確認テスト	（予習） テキスト 42-68 ページを読んで、労働者が法律的にどのような保護を受けているのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 5 回	（講義）テキスト stage4「スマートな消費者をめざして」をテーマに、消費者保護立法の基本的知識を習得する。そして、消費者はなぜ弱い立場に立たされるのかを説明していきたい。テキスト 70-111 ページ該当 （講義前演習）契約など民法の基本的知識に関する確認テスト ※　WebClass を利用した小テスト（1 回目）の実施※	（予習） テキスト 70-111 ページを読んで、消費者保護が求められる場面と法律的対応との関係を理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理
第 6 回	（講義）テキスト stage4「スマートな消費者をめざして」をテーマに、損害賠償制度について講義する。契約違反や法律上の権利や利益を侵害された場合に、どのように損害を賠償させるのかを説明していきたい。テキスト 70-111 ページ該当 （講義前演習）損害賠償制度に関する確認テスト	（予習） テキスト 70-111 ページを読んで、損害賠償制度について理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理
第 7 回	（講義）テキスト stage5「恋愛のルール」をテーマに、恋人間で成立する法律問題、特に性的暴力、婚約、不倫など一般的なトピックを題材に、どのような法律的責任が発生するのかを説明していきたい。テキスト 114-135 ページ該当 （講義前演習）男女間に適用される法律に関する確認テスト	（予習） テキスト 114-135 ページを読んで、恋人間で適用される法律にどのようなものがあるか理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理
第 8 回	（講義）テキスト stage6「結婚の夢と現実」をテーマに、結婚に関する法律を講義する。特に法律婚と事実婚の法律的な違い、夫婦別姓、相続など一般的なトピックを題材に、成立要件や効果を説明する予定である。テキスト 138-159 ページ該当 （講義前演習）婚姻など夫婦間に適用される法律に関する確認テスト	（予習） テキスト 138-159 ページを読んで、婚姻が成立するための条件や婚姻後夫婦にどのような権利義務が発生するのか確認する。 （復習） 講義ノートの整理

第 9 回	（講義）第 8 回までで講義できないトピック、特にテキストに言及されている Column のうち、幾つかを取り上げて、余録的なアプローチから「法律の別の顔」を講義する。	（予習） 第 1 回から第 8 回までの講義内容を整理し、中間確認テストに備える。 （復習） 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 10 回	（講義）テキスト stage7「子どもを産む・産まない」をテーマに、出産に関する自己決定（堕胎を含む。）、代理出産、生殖医療と法律・倫理について説明する。テキスト 162-181 ページ該当 （講義前演習）出産や子供の権利についての確認テスト ※　WebClass を利用した小テスト（2 回目）の実施 ※	（予習） テキスト 162-181 ページを読んで、女性の自己決定を中心に出産の自由について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 11 回	（講義）テキスト stage8「子どもと親のビミョーな関係」をテーマに、法律的な親子関係、特に親権や養育・監護権、虐待など親子間で起こりうる法律的な問題について講義する。テキスト 184-210 ページ該当 （講義前演習）親子関係の法律に関する確認テスト	（予習） テキスト 184-210 ページを読んで、親子関係に関する法律について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 12 回	（講義）テキスト stage9「ふたたびの出発」をテーマに、離婚にまつわる法律について講義する。特に、離婚の成立要件、離婚の効果などを中心に扱うことにする。テキスト 212-230 ページ該当 （講義前演習）離婚の法律に関する確認テスト	（予習） テキスト 212-230 ページを読んで、どのような場合に離婚が成立し、離婚成立後の元夫婦間の法律関係について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 13 回	テキスト stage10「親の介護はだれが？」をテーマに、介護保険を軸とした法律問題について講義する。テキスト 232-251 ページ該当 （講義前演習）介護保険に関する確認テスト	（予習） テキスト 232-251 ページを読んで、介護保険制度の基本的な構造について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 14 回	（講義）テキスト stage11「親が死んだら、夫が死んだら、自分が死んだら」をテーマに、法的な死亡の定義、遺言と相続、生存親族の義務などについて講義する。テキスト 254-273 ページ該当 （講義前演習）相続に関する確認テスト	（予習） テキスト 254-273 ページを読んで、相続制度の基本的な構造について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 15 回	総括試験の実施	

1.授業コード（ナンバリング）	CB0161-Y01	2.科目名	統計学　【現社観光】	3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度　春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	社会調査士 D 科目			11.先修条件	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、データを定量的に分析するための統計学の基礎知識を修得することを目的とします。具体的には、データの集計と可視化のための基本的手法、代表値や散らばりを表す量、確率の基本定理、集団の推定や検定についての基本的な考え方、などを例題を通して理解し、基本問題を独力で解けるようになることを目指します。 【概要】 出来るだけ実際のデータにふれ、処理をすることで、社会における統計の役割について理解を深めることも目指します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(4)問題発見・解決力、(6)専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①統計学の基本事項を理解し、説明できる。 ②統計学の問題を独力で解くことができる。 ③実際のデータを使った基本的な分析ができる。				
19.教科書・教材	授業内で資料を配布します。				
20.参考文献	授業内に適宜紹介します。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・ワークシート　25 点　　[学習目標①に対応] ・計算課題　30 点　　[学習目標②に対応] ・小テスト　45 点　　[学習目標③に対応]				
22.コメント	授業初回時に、より詳しいスケジュール等を説明しますので、必ず出席してください。				
23.オフィスアワー	毎週木曜日 3 限目：個人研究室 毎週金曜日 3 限目：学修支援室				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション・確率の計算	復習：授業ノートの整理 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 2 回】	ランダム・サンプリングの意義	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 3 回】	確率分布	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 4 回】	確率論の振り返り・小テスト①	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 5 回】	推定の考え方：点推定と区間推定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 6 回】	母集団の推定：中心極限定理	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)

【第 7 回】	母比率の推定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 8 回】	推定の振り返り・小テスト②	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 9 回】	相関係数の区間推定 検定の考え方・無相関の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 10 回】	平均値の差の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 11 回】	母比率の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 12 回】	クロス表の統計量・独立性の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 13 回】	検定の振り返り・小テスト③	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 14 回】	変数の統制と偏相関係数	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 15 回】	データの予測と回帰分析	復習：授業ノートの整理、課題作成

1.授業コード（ナンバリング）	CB0161-Y02	2.科目名	統計学 【総合社会】	3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	社会調査士 D 科目			11.先修条件	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、データを定量的に分析するための統計学の基礎知識を修得することを目的とします。具体的には、データの集計と可視化のための基本的手法、代表値や散らばりを表す量、確率の基本定理、集団の推定や検定についての基本的な考え方、などを例題を通して理解し、基本問題を独力で解けるようになることを目指します。 【概要】 出来るだけ実際のデータにふれ、処理をすることで、社会における統計の役割について理解を深めることも目指します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(4)問題発見・解決力、(6)専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①統計学の基本事項を理解し、説明できる。 ②統計学の問題を独力で解くことができる。 ③実際のデータを使った基本的な分析ができる。				
19.教科書・教材	授業内で資料を配布します。				
20.参考文献	授業内に適宜紹介します。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・ワークシート　25 点　　[学習目標①に対応] ・計算課題　30 点　　[学習目標②に対応] ・小テスト　45 点　　[学習目標③に対応]				
22.コメント	授業初回時に、より詳しいスケジュール等を説明しますので、必ず出席してください。				
23.オフィスアワー	毎週木曜日 3 限目：個人研究室 毎週金曜日 3 限目：学修支援室				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション・確率の計算	復習：授業ノートの整理 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 2 回】	ランダム・サンプリングの意義	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 3 回】	確率分布	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 4 回】	確率論の振り返り・小テスト①	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 5 回】	推定の考え方：点推定と区間推定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 6 回】	母集団の推定：中心極限定理	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)

【第 7 回】	母比率の推定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 8 回】	推定の振り返り・小テスト②	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 9 回】	相関係数の区間推定 検定の考え方・無相関の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 10 回】	平均値の差の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 11 回】	母比率の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 12 回】	クロス表の統計量・独立性の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 13 回】	検定の振り返り・小テスト③	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 14 回】	変数の統制と偏相関係数	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 15 回】	データの予測と回帰分析	復習：授業ノートの整理、課題作成

1.授業コード（ナンバリング）	CB1581-Y01	2.科目名	経営学	3.単位数	2
4.授業担当教員	井上尚之				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	国際コミ学部 観光学科必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミ学部 観光学科			9.履修学年	1 年以上
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	現代社会を形作る業務管理の方法・新製品の開発手法・モノの売り方などあらゆる仕組みは会社がこの世に誕生したときから、全て今のように準備されていたわけではない。先人たちが様々な問題に直面するたびにどのように対応すればよいのか試行錯誤を繰り返す中から少しずつ整えられてきたのである。そしてその先人達の知恵の集大成が経営学である。本講義ではこの経営学の基礎を習得すことを目的とする。方法として教科書を皆さんに読んでもらい、ディスカッションしながら授業を進める。最終的には皆さんが経営学とは何かをプレゼンできるレベルが				
18.学習目標とＤＰとの関連	（１）健やかで調和のとれた人格と、しなやかで豊かな知性を自ら形成できる人間性、（２）主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力、（３）多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力				
19.教科書・教材	井上尚之『よくわかる基礎経営学ーマーケティング・経営戦略・SDGs』（大阪公立大学出版会、2023）マイクを回して読んでもらうので必ず購入しておくこと。				
20.参考文献					
21.成績評価	積極的授業参加度・発表 45%、総括試験 55%				
22.コメント	授業入中にマイクを回して順に教科書を読んでもらうので、必ず教科書を購入して持参すること。				
23.オフィスアワー	授業終了後又はメール				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	経営学とは何か？ マーケティングの学問化	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 2 回	STP 分析とは何か？ セグメンテーションで使われる分類軸	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 3 回	ターゲティングとポジショニング STP 分析の具体例	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。

		復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 4 回	ターゲティングを決める方法は 3 C 分析 商品販売戦術：４ P （マーケティング・ミックス）	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 5 回	自社は何をすべきか－MVP	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 6 回	事業ドメインとアンゾフ・マトリクス	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 7 回	複数の事業分野には PPM を使う	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 8 回	企業の現状分析の定番ーSWOT 分析	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 9 回	企業の現状分析の定番－クロス SWOT 分析	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 10 回	利益増の戦略－ポーターのファイブフォース分析	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 11 回	競争の基本戦略－ポーターの一般戦略	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。

		復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 12 回	内部資源の分析－バリューチェーン分析	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 13 回	新しい市場を創出－ブルーオーシャン戦略	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 14 回	総復習 総括試験	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 15 回	総復習 総括試験返却	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。

1.授業コード（ナンバリング）	CB2203-Y01	2.科目名	上級日本語Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	小川佐由理				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	概要：大学の講義の理解、教室での活動、文化的な背景を含んだ情報の読み取り、さまざまな状況に 対応する表現などを学ぶ。 目的：日本で生活し、大学で学習するために必要な総合的日本語力の向上を目指す。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①日本で大学生として生活する上で必要な日本語を使うことができる。 ②日本の大学の授業で使用されうる表現を理解し、裏付けを伴った意見を述べることができる。				
19.教科書・教材	初回までに各自、①か②のいずれかを購入してください。 ①『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』　音声ダウンロード版　The Japan Times 佐々木瑞枝、その他　ISBN978-47890-1873-9 ②『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』　CD 付　The Japan Times 佐々木瑞枝、その他　ISBN978-47890-1078-8				
20.参考文献					
21.成績評価	【第 1 回～第 15 回】 授業参加度と教室活動　３０％ 小テスト　３０％ 総括試験　４０％ 【第 16 回～第 30 回】 クラスの参加度・教室活動：30% 小テスト：20% クラス内発表：20 総括試験：30%				
22.コメント	基本的に対面で授業を行います。				
23.オフィスアワー	授業の前後、またはメールで質問等を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ガイダンス　（シラバスを使って授業内容や採点基準の説明） 日本語での自己紹介とウォーミングアップアクティビティ 文体について 【第 2 回】	【第 1 回】 〇予習として、教科書を読んでわからないところをチェックする。(60 分) 【第 2 回】 〇授業を復習し、教科書の問題を解答する。さらに自分の時間割を作成する。(60 分)

	日本の大学で学ぶ：　教科書 pp.2-7 ・時間割、履修申請などで使われる語彙や表現を学ぶ。	
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 語彙、文法の復習 1 ：プリント教材 ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。 【第 4 回】 小テスト① 大学の講義①：　教科書 pp.8-11 ・授業を聞いて、キーワードや数字に注意しながら、内容を理解する。 ・内容を説明したり、まとめたりする。 ・授業内容について、友人と会話する。	【第 3 回】 ○小テストに備えて、復習する。 ◎プリントの問題を解答する。(60 分) 【第 4 回】 ○予習として、教科書を読んでわからないところをチェックする。(60 分)
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 大学の講義②： 教科書 pp.20-23 ・授業を聞いて、内容を表にまとめる。 ・レポートのテーマについて、友人や先生に相談する。 ・資料を集める。 【第 6 回】 語彙、文法の復習 2-1：プリント教材 ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。	【第 5 回】 ○授業を復習して、問題に解答する。(60 分) 【第 6 回】 ◎プリントの問題を解答する。(60 分)
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 情報の読み取り：教科書 pp.24-29 ・連絡や会話を通して、正確な情報を収集する。 ・情報について友人との会話、先生と会話する。 ・情報を簡単な日本語で伝える。 【第 8 回】 語彙、文法の復習 2-2：プリント教材 ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。	【第 7 回】 ○授業を復習して、問題に解答する。(60 分) 【第 8 回】 ○小テストに備えて、復習する。(60 分)
【第 9 回】 【第 10 回】	小テスト② 読み物：プリント教材 日本語で書かれた小説、論説文を読んで内容を理解しながら、日本語らしい表現を学ぶ 【第 10 回】 大学の講義③：教科書 pp.30-33 ・講義内容を理解して、文で表現する。 ・関連資料を読んで、内容を推測したり、自分の考えをまとめたりする。	【第 9 回】 ◎授業でカバーされなかった部分をグループで読んで、内容をまとめる。(60 分) 【第 10 回】 ○授業を復習して、問題に解答する。(60 分)
【第 11 回】	【第 11 回】	【第 11 回】

【第 12 回】	大学の講義④：教科書 pp.34-38 ・講義内容を理解して、文で表現する。 ・関連資料を読んで、内容を推測したり、自分の考えをまとめたりする。 【第 12 回】 大学の講義④：教科書 pp.34-38 ・講義内容を理解して、文で表現する。 ・関連資料を読んで、内容を推測したり、自分の考えをまとめたりする。	○授業を復習して、問題に解答する。（60 分） 【第 12 回】 ○小テストに備えて、復習する。（60 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 語彙、文法の復習 3 ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。 ・総括試験に備えて、要点をまとめる。 【第 14 回】 小テスト③ まとめ ・学期の学習を振り返り、全体をまとめ最終評価のための準備につなげる。	【第 13 回】 ○授業を復習して、分からないところをまとめる。（60 分） 【第 14 回】 ○総括試験に備えて、復習する。（120 分）
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 総括試験 【第 16 回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価についての説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー	【第 15 回】 【第 16 回】 ○予習として、教科書を読んで、分からないところをチェックする（60 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・トラブルへの対処と生活情報①：教科書 pp.74-77 ・わかりやすく伝える表現について知る 【第 18 回】 ・トラブルへの対処と生活情報②：教科書 pp.78-81 ・わかりやすく伝える表現について知る	【第 17 回】 ○授業の復習をする（60 分） 【第 18 回】 ○授業の復習をする（60 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・書き換え練習① 【第 20 回】 ・書き換え練習②	【第 19 回】 ○授業の復習をする（60 分） 【第 20 回】 ○授業の復習をする（60 分） ○小テスト①への準備
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・小テスト① ・E メールによるコミュニケーション①　教科書 pp.86-92 【第 2 2 回】 ・E メールによるコミュニケーション②＋先生宛	【第 21 回】 ○授業の復習をする（60 分） 【第 22 回】 ○小テスト②への準備

【第 23 回】 【第 24 回】	【第 2 3 回】 日本映画鑑賞① ・小テスト② 【第 2 4 回】 日本映画鑑賞② ・映画に関するディスカッション	【第 23 回】 〇映画の後半を予測する 【第 24 回】 〇次週の予習をする（60 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 インターネットビジネス①　教科書 pp.64-73 【第 26 回】 インターネットビジネス②　教科書 pp.64-73	【第 25 回】 〇授業の復習をする（60 分） 【第 26 回】 〇発表準備
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 クラス内発表 【第 28 回】 レポートの書き方①（事実と意見）	【第 27 回】 〇発表の振り返り 【第 28 回】 〇総括試験に備えて、復習する（60 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 レポートの書き方②（内容の整理） 【第 30 回】 総括試験	【第 29 回】 〇総括試験に備えて、復習する（60 分） 【第 30 回】

1.授業コード（ナンバリング）	CC2201-Y01	2.科目名	観光文化論 （再）	3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史				
5.授業科目の区分	展開科目（専門科目）	6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に他学科他学部からも履修できます。			9.履修学年	2 回生～
10.取得資格の要件			11.先修条件	ありません。	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限	ありません。				
17.授業の目的と概要	【目的】観光産業がどのように発展してきたかを学び、その過程で国や自治体がどんな観光政策をとってきたかを理解します。今コロナ禍が終わり、その前に拡大していたインバウンドが戻っています。他方、国際観光の歴史的転換が進んでいると言われます。未来を予測し観光政策を立て、運営する専門家になるための授業です。 「様々な観光現象を分析する視点をもち、観光の未来を考える力をもつ」 【概要】「世界からみた日本観光とその未来－新しい文化観光の創造へ－」を 15 回に分けてお話しします。日本には、世界先進国に負けない長い観光の歴				
18.学習目標とＤＰとの関連	先入観に縛られず、客観的に異文化を理解できる幅広い視野を養うことで、国際コミュニケーションの基礎理解を深めます。				
19.教科書・教材	授業の主な内容を資料として配ります。それをもとに独自の教科書を作ってみて下さい。				
20.参考文献	宗田好史『にぎわいを呼ぶイタリアのまちづくり 歴史的景観の再生と商業政策』学芸出版社 2000 宗田好史『創造都市のための観光振興 小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社 2009 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか 市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社 2012 宗田好史『インバウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社 2020				
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話ししたこと、配付したスライドをよく理解していること。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜 3 コース（研究室/3-308）、火曜 2 コース(学修支援センター)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 4 月 10 日：観光政策のススメ	観光学科で学ぶ皆さんの知識を活かして、観光産業を活かした地域づくり、観光政策を学びます。フランスやイタリア、日本でも京都のような世界で有名な都市には優れた観光政策があります。最近の国際観光旅客（インバウンド）の急増の様々な影響を抑えて、質の高い観光文化を発展させています。しかし、観光客の来ない普通の町が多く、どうすれば観光客に来てらえるか分からずにいます。観光政策には、こうした誘客策もありますが、ポロモーションだけでなく、その町や村を魅力的に演出するまちづくり策、そして観光公害対策があります。この授業では	アサインメント：観光政策にはどんな取り組みがあるか述べて下さい、 事前学習：観光公害と言われるものにはどんな現象があるか述べて下さい。
第 2 回 4 月 17 日：観光政策の歴史、明治日本を訪れた	観光の歴史を振り返ります。江戸時代から旅の習慣、文化が発達し観光関連産業が盛んだった日本では、明治維新後に、外貨を稼ぐために欧米先進国から観光客を集めようと様々な取組みをしました。19 世紀後半、	アサイメント：『ガリバー旅行記』とはどんな物語化調べて下さい。 事前学習：明治時代にできたホテルを二つ挙げて下さい。

外国人観光客	英国の小説『ガリバー旅行記』では、天空の城ラピュタの後、日本にも寄るほど人気の観光地でした。当時、世界旅行事情と開国されたばかりの日本に豊かな欧米人に来てもらい外貨を稼げるかが、日本の観光政策の始まりでした。	
第 3 回 4 月 24 日：戦後の占領軍と外国人観光客、国際観光旅館	明治以降外国人観光客は増えましたが、船の旅は長く、まだインバウンドが少なかったのですが、それでも日光や京都などは、国際的な観光地に成長しました。それが、20 世紀の後半、敗戦後に一気に拡大します。まず、占領軍として日本に滞在したアメリカ人が、日本国内を楽しみます。明治時代から発達した洋風のホテルに泊まり、鉄道やバス、それに専用のハイヤーで有名な観光地を楽しみました。その際、各地の旅館も外国人を泊めようと「国際観光ホテル整備法」ができました。でもホテルとは名ばかりの木造の旅館がまだ多く残っていました。	アサイメント：新幹線が開業する前に、JR（当時の国鉄）を走っていた特急列車の名前を調べて下さい。 事前学習：アメリカ人が好む日本の観光地はどこでしょう。調べてみて下さい。
第 4 回 5 月 1 日：高度経済成長期の観光政策	戦後、比較的早くに鉄道が復旧したため、生活に余裕ができた日本人は、平和な時代をよろこんで全国各地の温泉に出かけ、山や海を楽しみます。まだ貧しかったのですが、鉄道の団体旅行が盛んになりました。修学旅行も盛んでした。その後、各地に観光客用の道路が整備され、鉄道からバスに乗り換えて、団体で回る習慣が始まりました。その振興を進めたのが、昭和の観光政策です。	アサイメント：日本人の団体観光客が訪れたのはどこでしょう。 事前学習：団体旅行は今は減りました。なぜでしょう。
第 5 回 5 月 8 日：万博という観光政策	1964 年には東京で最初のオリンピックが開催され、同じ年に東海道新幹線が開業、その後 1970 年には大阪で万国博覧会が開かれました。ちょうど高度経済成長期で豊かになり始めた人々は盛んに観光に出ました。東京や京都、日光や各地の温泉に人が溢れ、今でもその当時の賑わいを思い出す人がいます。この時期に、カメラが普及し、マイカーが普及し、また観光ビジネスの形が確立し、パッケージツアーもでき、現在の観光産業の形が整いました。これも国を挙げての観光政策の成果です。	アサイメント：1970 年の大阪万博の会場はどこでしょう。その場所が今どうなっているか述べて下さい。 事前学習：1970 年代に発売されたカメラにはどんな機種があったか調べて下さい。
第 6 回 5 月 15 日：ディスカバー・ジャパン・キャンペーンの登場と成功	1970 年の万博が終わり、新幹線がガラガラになった当時の国鉄、今の JR が進めた観光政策が「ディスカバージャパン」というキャンペーンです。それまで田舎から都会に来ることが多かった観光が、都会から田舎に行くようになりました。その理由は、それまでは農村人口の方が、都市人口より多かったからです。それが逆転したのが 1970 年代、現在では 8 割以上が都市人口、農村は過疎高齢化です。当時は、まだ過疎化し始めたばかりの田舎に、古きよき日本を探しに出かけるのが観光となりました。	アサイメント：ディスカバージャパンキャンペーンには、コマーシャル・ソングがありました。その曲名前を調べて下さい。 事前学習：なぜ、当時の若者は田舎を好んだか考えてみて下さい。
第 7 回 5 月 22 日：アンノン族と町並み保存、1970 年代	もう一つの大きな変化が、若者が観光客の中心になったことです。この時代の若者は、女性一人で観光旅行に出かけた最初の世代です。観光地には若者が溢れ、特に女性が熱心でした。高齢者が多い今とは大違いで	アサイメント：今までに訪れたことのある歴史的な町並み保存地区を挙げて下さい。 事前学習：女性の一人旅がそれまでほとんど行われなかったのはなぜでしょう。

の観光政策	す。この女性たちが好んで訪れた先が歴史的な町並み保存地区です。1975 年の文化財保護法改正で、伝統的建造物群保存地区制度が生れ、京都や金沢、倉敷や妻籠、馬籠などの歴史地区が賑わいました。今も人気の観光地です。	
第 8 回 5 月 29 日：大規模開発と観光政策、リゾート法の時代	観光の拡大が一段落した後、バブル期には豊かで働き過ぎの日本人がもっと休むようにと、リゾート整備の観光政策が始まりました。その後、全国の府県がそれぞれに計画を発表し、中には相当に無理な計画があり、ほとんどの計画が失敗に終わりました。バブル経済が崩壊したからだと言われましたが、そもそも日本にはバカンスの習慣がなく、だからリゾートが根付かなかったと言われます。現在もまだバカンスはありません。一方、なかなか変わらないのが、お正月とお盆の休み、それにゴールデンウィークです。	アサイメント：欧米先進国には当時バカンスという長期休暇制度がありました。何日有給休暇があるでしょう。 事前学習：もしあなたが 1 ヵ月のバカンスがあれば、どこに行きますか。その予算はいくらですか応えて下さい。
第 9 回 6 月 5 日：バブル経済の崩壊と観光政策の失敗、夕張市の破綻	夕張市の財政破綻が起こったのが、2004 年です。北海道の夕張市は明治始めに北海道開拓が始まった時代から大きな炭鉱があり、全国から多くの労働者が集まり、豊かに賑わっていました。20 世紀後半のエネルギー革命で炭鉱は閉鎖され、町は衰退しました。地域経済の再生を観光産業でと考えた市長は、「石炭の歴史村」（1983 年）、ロボット大科学館（1988 年）、スキー場などを次々と建てましたが、客が集まらず大赤字、国に隠して公債を発行し、その返済ができなくなりました。大失敗した観光政策の例です。	アサイメント：夕張はその後、どんな再生策を練ったでしょうか。 事前学習：北海道の地図を見て夕張の位置を探して下さい。神戸から行くためにはどんなコースがあるか調べて下さい。
第 10 回 6 月 12 日：1990 年代の観光政策、ロスジェネは旅に出ない？オルターナティブツーリズム	2000 年代後半から少しずつ日本人の観光行動が減少を始めました。人口減少の影響もありますが、1990 年代に大学を卒業したロスジェネ（失われた）世代（1970～1984 年生れ）が観光に行かなくなった影響があります。バブル崩壊の後の不景気な時代で経済的余裕が亡くなったためです。とはいえ、若い内は地味でしたが、ホンモノ志向の賢い観光を楽しみました。こうして、もう一つの観光、オルターナティブツーリズムが生まれた時代です。エコツーリズムやボランティア活動などがこの中に含まれます。	アサイメント：オルターナティブツーリズムにはどんなものがあるか、少なくとも 10 通り書き出して下さい。 事前学習：バブル経済はなぜ崩壊したのか調べて下さい。
第 11 回 6 月 19 日：高齢社会の観光政策、観光はウェルビーイング？	日本の観光市場では高齢化が進んでいます。日本は世界一高齢化しているからです。特に、2020 年代現在、後期高齢者になる人たちは戦争直後に生れた団塊の世代、日本人で初めて若いころから観光を楽しみ、国内でも国外でも新しい観光地を開いてきた人達です。観光をよく知る世代が高齢化し、最後の観光を楽しんでいます。とはいえ、今の観光が本当に幸せなのか？ウェルビーイングになっているのか、議論されています。何か新しい行動をするのでしょうか？	アサイメント：ウェルビーイングについて述べて下さい。 事前学習：高齢者が好む観光にはどんな目的地があり、どんな乗り物（移動手段）を好むか、考えてみて下さい。
第 12 回 6 月 26 日：観光立国日本の推進、インバウ	2003 年「観光立国宣言」を契機に、「観光」は国家的な目標となり、2007 年「観光立国推進基本法」が制定、翌 2008 年に「観光庁」が国土交通省の外局として解説されました。2011 年東日本大震災があり、2019	アサイメント：テーマパークを作っただけでは観光客は来ません。それはなぜでしょう。 事前学習：成功した観光地と失敗した観光地を挙げて下さい。

ンドの登場	年コロナ禍が起こったものの、インバウンドが増え続けています。現在の日本の観光政策は、こうして本格的に始まりました。その背景に、これまで 150 年間の観光政策の積み重ねがあります。観光学を学ぶ皆さんは、その歴史の上に現在の観光政策があることを理解して下さい。素人の思いつきだけでは、政策は立案できません。	
第 13 回 7 月 3 日：京都市の観光政策、京都創生は文化・景観・観光で	京都市は世界的にみても先進的な観光政策を実現してきました。この回は京都を取り上げて、明治、戦前、戦後、1970 年代、バブル期、そしてその崩壊後から現在までの数々の観光政策を解説します。私自身が関わった観光政策です。他では聞けない様々な事情をお話しします。シニア化、女性化、アジア化、デジタル化等の変化を上手に捉えた政策づくりの秘密をお話しします。	アサイメント：今の京都では、どんあインバウンド対策をしているか調べて下さい。 事前学習：京都で訪れたことのある観光地を述べて下さい。
第 14 回 7 月 10 日：中国人観光客に対応する観光政策、インバウンドの制御はできるか？	新しい問題としてインバウンドの増加があります。中国からは膨大な数の観光旅行初心者が日本に押し寄せます。それも当面、おそらく数十年は続きそうです。1970 年代には、日本人が観光初心者として欧米先進国で嫌われていました。今は、その日本人が中国人を見下すような態度をとります。しかし、観光客の行動は直ぐ変容します。短期間で旅慣れ、上手に観光を楽しみ始めます。その変容を促進するのが、インバウンド対策です。	アサイメント：中国人が好む観光地はどこでしょう。 事前学習：訪日中国人観光客数を調べて下さい。
第 15 回 7 月 17 日：観光政策論の様々な手法、交通、土地利用、宿泊施設、飲食店、文化資源の管理	最後に、観光政策の手段として用意された数々の施策をお話しします。観光公害と呼ばれる交通混雑、ゴミ問題、地元住民との対立などの問題は一過性、直ぐに解決できる問題です。ただ、観光政策に慣れていない自治体、それも農村部の自治体にはその施策を知らないでいる場合もあります。観光政策は決して難しいことでなく、常識的なもの。誰もが気づき、実行できることです。細かな内容を整理して詳しく説明します。	アサイメント：授業で述べた施策を列記しなさい。 事前学習：観光公害とは何か述べて下さい。

1.授業コード（ナンバリング）	CC2210-Y01	2.科目名	特殊講義III 旅行業約款	3.単位数	2
4.授業担当教員	松村博之				
5.授業科目の区分	専門科目、旅行業分野の実務経験がある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	全学年
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	履修人数は、１５名までとします。				
17.授業の目的と概要	【目的】 「国内旅行業務取扱管理者」の国家資格取得とします。 国家試験は、毎年９月に実施されます。 この資格は、観光業界、公務員を目指すものにとって有利なものです。 旅行業約款は、旅行業者と旅行者との取り決めであり、ほとんどの旅行業者は標準旅行業約款を基本としています。 【概要】 この約款のポイントとなる「募集型企画旅行契約」「受注型企画旅行契約」「手配旅行契約」の旅行形態を確認し、取扱いの違いを理解することが重要です。 また、「国内旅客運送約款」では航空券・運賃及び料金・手荷物・責任など、「一般貸切旅				
18.学習目標とＤＰとの関連	①国内旅行業務取扱管理者試験の合格基準である６０％以上の得点を確保すること。 ②約款と実務の関連について理解すること。 ③旅行業法との関連について理解すること。 ④旅行業のルールを理解することで、観光関連産業の理解を深める。 関連する DP は、「専門知識・技術の活用力」です。				
19.教科書・教材	＊旅行実務シリーズ「旅行業約款　運送・宿泊約款」　（発行：JTB 総合研究所） ＊資料は、適宜配布します。				
20.参考文献	①観光白書 ②日本旅行業協会（JATA）の HP ③全国旅行業協会（ANTA）の HP ④標準旅行業約款				
21.成績評価	＊総括試験（筆記）　６０％（学習目標の①、②、③に対応） ＊理解度確認テスト（筆記/３回）　３０％（学習目標の①、②、③に対応） ＊練習問題（各授業）　１０％（学習目標の①、②、③に対応）				
22.コメント	①教科書、参考文献などで予習復習をしっかりと行ってください。 ②総括試験は、１５回目の授業で行います。 ③理解度確認テストは、授業中に行います。実施要領は、事前の授業で説明します。 ④出欠確認、資格喪失などは大学のルールどおりです。 ⑤授業中は、帽子の着用は禁止です。				
23.オフィスアワー	講義終了後、教室などで対応します。また、メールによる対応をします。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	オリエンテーション（授業の目的、計画、評価、資格取得などの説明）	
第２回	標準旅行業約款の概要	教科書：標準旅行業約款の部を熟読

第３回	標準旅行業約款・募集型企画旅行契約①	教科書：募集型企画旅行契約の部を熟読
第４回	標準旅行業約款・募集型企画旅行契約②	教科書：標準旅行業約款の部を熟読
第５回	標準旅行業約款・受注型企画旅行契約① 第１回理解度確認テスト	教科書：受注型企画旅行契約の部を熟読
第６回	標準旅行業約款：受注型企画旅行契約②	教科書：受注型企画旅行契約の部を熟読
第７回	標準旅行業約款：特別補償規定	教科書：特別補償規定の部を熟読
第８回	標準旅行業約款：手配旅行契約	教科書：手配旅行契約の部を熟読
第９回	国内旅客運送約款（日本航空例） 第２回理解度確認テスト	教科書：国内旅客運送約款の部を熟読
第１０回	一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款	教科書：一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款の部を熟読
第１１回	フェリー標準運送約款	教科書：フェリー標準運送約款の部を熟読
第１２回	宿泊約款	教科書：モデル宿泊約款の部を熟読
第１３回	国際運送約款（日本航空例）	教科書：国際運送約款の部を熟読
第１４回	第３回理解度確認テスト 重要チェックポイントの解説	教科書：一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款、フェリー標準運送約款、モデル宿泊約款の部を熟読
第１５回	まとめ、総括試験	教科書：約款全分野の復習

1.授業コード（ナンバリング）	CC2211-Y01	2.科目名	特殊講義Ⅳ 旅行業法	3.単位数	2
4.授業担当教員	松村博之				
5.授業科目の区分	専門科目、旅行業分野の実務経験がある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	全学年
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	履修人数は、１５名までとします。				
17.授業の目的と概要	【目的】 「国内旅行業務取扱管理者」の国家資格取得とします。 この資格は、観光業界、公務員を目指すものにとって有利なものです。 国家試験は、毎年９月に実施されます。 旅行業務にかかわる取引の公正の維持、旅行の安全確保、旅行者の利便増進につながるものとして制定された法制度とそれらを遂行するための各ルールがどのようなものであるか理解するものです。 【概要】 講義は、教科書に添ってパワーポイントを使用して行います。また、毎回理解度チェックのための練習問題をしてもらいます。 従って、予習復習は計画的・継続的に				
18.学習目標とＤＰとの関連	①国内旅行業務取扱管理者試験の合格基準である６０％以上の得点を確保すること。 ②法律と旅行業実務の関連について理解すること。 ③旅行業のルールを理解することで、観光関連産業の理解を深める。 関連する DP は、「専門的知識・技能の活用力」です。				
19.教科書・教材	＊旅行実務シリーズ「旅行業法およびこれに基づく命令」（発行：JTB 総合研究所） ＊資料は、適宜配布します。				
20.参考文献	＊観光白書 ＊日本旅行業協会（JATA）の HP ＊全国旅行業協会（ANTA）の HP				
21.成績評価	＊総括試験（筆記）　６０％　（学習目標の①、②、③に対応） ＊理解度確認テスト（筆記/3 回）　３０％　（学習目標の①、②、③に対応） ＊練習問題（各授業）　１０％　（学習目標の①、②、③に対応）				
22.コメント	①教科書、参考文献などで、予習復習をしっかりと行ってください。 ②総括試験は、１５回目の授業で行います。 ③理解度確認テストは、授業中に行います。実施要領は、事前の授業で説明します。 ④出欠確認、資格喪失などは大学のルールどおりです。 ⑤授業中は、帽子の着用は禁止です。				
23.オフィスアワー	講義終了後、教室などで対応します。また、メールによる対応をします。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	オリエンテーション（授業の目的、計画、評価、資格取得などの説明）	
第２回	旅行業法の概要（旅行業約款、各種運賃・料金との関連）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第３回	旅行業法（登録制度）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟

		読
第４回	旅行業法（営業保証金制度）　　第１回理解度確認テスト	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第５回	旅行業法（旅行業務取扱管理者、旅行業務取扱料金）	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第６回	旅行業法（外務員、広告表示など誇大広告の禁止）	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第７回	旅行業法（旅程管理）	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第８回	第２回理解度確認テスト	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第９回	旅行業法（受託契約、旅行業者代理業、禁止行為、登録の取消など）	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第１０回	旅行業法（旅行業協会、役割）	教科書：旅行業及びこれに基づく命令の熟読
第１１回	旅行業法（旅行業協会、取り決め）	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第１２回	旅行業法（雑則・罰則）	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第１３回	第３回理解度確認テスト	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第１４回	重要チェックポイントの解説（旅行業者と旅行業協会など）	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第１５回	まとめ、総括試験	教科書：旅行業法全分野の復習

1.授業コード（ナンバリング）	CC2212-Y01	2.科目名	特殊講義Ⅴ　空港業務論	3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕				
5.授業科目の区分	専門教育科目　基幹科目　専攻コア	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生または 3 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件	エアラインビジネスまたは航空ビジネス論		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】航空産業論を基盤とし、エアラインにおける業務について、具体的なオペレーション上の内容とポイントについて学習し、またその意義について理解する。また、具体的な内容を踏まえ、どのような人材が求められるのか、エアラインを通してサービス・ホスピタリティ産業に求められる人材像を考察する。 【概要】具体的には、販売・予約部門から空港における旅客運送、貨物運送、運航とエアラインのオペレーションに沿って、具体的な業務を学習し、その上で各オペレーションにおいて共通して求められる点を整理して理解する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の【(3)多様性理解】【(4)問題発見・解決力】【(6)専門的知識・技能の活用力】に関連しています。 空港業務の学習目標は、以下のとおりです。 ①エアライン業界を全般的に理解し、一方でその多様性が特徴となるサービス部分に焦点をあわせ、エアラインの業務の構成やサービスに必要な要素について述べることが出来る。 ②エアラインを通じて、サービス・ホスピタリティ産業全体に亘る必要なポイントを理解し、その特徴を述べることが出来る。 ③講義の内容を踏まえ、自身の適正を見極める中、グローバル人財についての関心・意欲を高めキャリアプランを描くことが出来る。				
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。				
20.参考文献	エアラインオペレーション入門【改訂新版】（発行　イカロス出版）				
21.成績評価	①授業理解度（講義内容の理解）・・・40 点　（講義に出席し、配布する資料に要点を記入し、内容の理解を深める。そして毎回設定する課題に対して自分の考えを記述し、提出する。）※学習目標①、②、③に対応 ②個人ワーク＆グループワーク・・・15 点　（講義の中での設問やグループワークにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する。）※学習目標①、②、③に対応 ③確認テスト・・・45 点　（講義全体を通して航空会社のオペレーションのポイントを理解し、考察することができる）※学習目標①、②、③に対応				
22.コメント	空港業務では、エアラインビジネスにおいて学んだ航空業界のビジネスの仕組みを基盤として、空港などにおける航空会社のオペレーションを学びます。尚、航空実務では航空会社の経営戦略を学びます。履修する学生の皆さんの質問を歓迎します。日頃より観光や航空関係の報道を興味をもって履修してください。				
23.オフィスアワー	金曜日　昼休み　神戸山手キャンパス 3 号館　3302 号室				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	講義【オリエンテーション】 担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算出の方法、受講上の留意点について説明する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第 2 回】	講義【空港運送事業の特性】	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

	一機の航空機が飛ぶために様々な業務の役割と専門性が求められている。航空会社の様々な部署を知る	予習：次回の予習
【第３回】	講義【エアラインの提供するサービスⅠ　保安・安全】 公共交通機関であるエアラインは、安全運航のためにどのような取り組みをしているのかなど、保安と安全の重要性を認識する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第４回】	講義【エアラインの提供するサービスⅡ　定時・快適・利便の追求】 顧客が求めるサービス品質を理解し、専門的な業務により高い品質を提供することが求められている。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習　第１回確認テストに備えてここまでの振り返り
第５回	講義【エアラインの業務Ⅰ　販売・予約部門】 エアラインと顧客を結ぶ部門が提供しているサービスについて理解する。 第１回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
第６回	講義【運航①（運航業務）：運航乗務員の業務】 飛行機はどうして飛ぶのか？運航乗務員が顧客に行うサービスとは何かなどについて理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第７回】	講義【運航②（整備業務）：整備士の業務】 航空機の整備の種類や求められる安全上の役割などについて理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第８回】	講義【運航③（運航管理）：オペレーションサポー業務】 気象情報など航空機の運航に欠かせない情報の提供などの業務について理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第９回】	講義【運航④（客室サービス）：客室乗務員の業務】 客室乗務員の業務は多岐に渡り、顧客の目に触れるのはほんの一部分である。客室乗務員が航空機に搭乗する意義を捉えなおす。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習　第１回確認テストに備えてここまでの振り返り
【第１０回】	講義【機内サービスを支える様々な仕事】 ケータリング（機内食）など、快適なフライトを支える部署の役割について理解する。 第２回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１１回】	講義【空港サービス①　グランドハンドリングの業務】 空港で、お客様から見えない場面で業務を実施するオペレーションを支えるグランドハンドリング業務を理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１２回】	講義【空港サービス②　グランドスタッフの業務 】. 空港の様々な場面において、お客様の旅のお手伝いをするグランドスタッフの業務を理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１３回】	講義【空港サービス③　貨物部門】 貨物関連のサービスおよびオペレーションをとりあげる。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１４回】	講義【エアラインのグローバル人財マネジメント戦略】 人財マネジメントの目的を理解し、グローバルに進化	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習　第１回確認テストに備えてここまでの振り返り

	し続けるエアラインが求める人材像を探る。	
【第１５回】	講義【エアラインのオペレーション】 エアラインのオペレーション全体を振り返り、重要なポイントを整理する。 第 3 回小確認テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

1.授業コード（ナンバリング）	CC2214-Y01	2.科目名	特殊講義Ⅶ 仕事とキャリアⅠ	3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。				
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。				
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'25 年版』成美堂出版 2024.4 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2024 年版』2023.8 3）瀧本哲史『2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう』星海社新書　2020.4 4）マイナビ出版編集部『マイナビ 2025　オフィシャル就活 BOOK　内定獲得のメソッド　業界＆職種研究ガイド』マイナビ出版　2023.5 その他、メディア･ライブラリーやキャリア･サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。				
21.成績評価	■ワークシート　40%　（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 ＝自己アピール　（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ　10% 4.ふりかえりワークシート　10%				
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。				

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次)」の受講をすすめます。(学科によっては必修)
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日昼休み 研究室オフィスアワー：金曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施	○ワークシート１－１ 150 分 ○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第２回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1ー２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第３回	職業研究１ ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第４回	職業研究２ ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート３－１、３－２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第５回	企業研究１ ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート４ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第６回	企業研究２ ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ ワークシート５ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分

第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ ワークシート 6ー１、６－２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「 理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7ー１、７－２、７－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8ー１、８－２、８－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9ー１、９－２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいの？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10ー１、10ー２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいの？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11ー１、11ー２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成と発表のリハーサル。	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。	自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。　210 分

	■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CC2220-Y01	2.科目名	観光学特別演習（エアライン特別演習Ⅰ）	3.単位数	1
4.授業担当教員	樫本則子				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件	「航空産業論」を併せて履修することが望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義 グループワーク		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	ホスピたちティについて多角的な視点で捉えて学習していきます。 自信の感性を磨き、良好な人間関係の形成を目指します。 ホスピタリティの行動力を高め、自己成長を目指します。 航空業界を含め、優れたホスピタリティ産業の理念や行動の特徴について学ぶびます。 ホスピタリティ実践に必要なコミュニケーションスキルやマナーについて学びます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①ホスピタリティの歴史や文化について理解し、説明ができる。 ②ホスピタリティやサービスについての概念や定義を理解し、説明ができる。 ③ホスピタリティ産業の経営理念や行動を評価できる視点を身につける。 ④ホスピタリティマインドを実践するためのコミュニケーションスキルやマナーを身につける。 ⑤自身の生活においてホスピタリティマインドの実践ができるようになる。				
19.教科書・教材	テキストは理論編・実践編・企業研究参考資料などを配布します。 その他適宜、関連資料を配布します。 （特に教科書は使用しません）				
20.参考文献	ホスピタリティ学のすすめ　/ 服部勝人　/ 丸善株式会社				
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①学期末試験・・・・40 点【学習目標①～⑤に対応】 ②確認試験　・・・・20 点【学習目標①②に対応】 ③レポート　・・・・20 点【学習目標②③に対応】 ④グループワークおよび発表　・・・・20 点【学習目標④⑤に対応】				
22.コメント	ホスピタリティの目的は相手の立場を尊重し、愉快に、温かく、優しくもてなす心を行動に示すこと です。その基本となる挨拶・言葉遣い・態度・身だしなみなどのマナーを受講に際しても実践していきましょう。 また遅刻や欠席をせず、提出物の期限厳守んどの時間の管理も行いましょう。 個人で講義を受けるだけでなく、グループワーク等ではチームワークも発揮しましょう。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【オリエンテーション】 学習内容・講義の進め方・留意点・評価方法	ホスピタリティを受講する理由と将来の進路選択いついて

		考えをまとめておくこと。
第 2 回	ホスピタリティ理論 1 　　ホスピタリティの起源	テキストの「ホスピタリティの起源」について復習し、理解しておくこと。
第 3 回	ホスピタリティ理論 2 　　ホスピタリティの歴史と文化（西洋）	テキストの「キリスト教、イスラム教におけるホスピタリティ」について理解しておくこと。
第 4 回	ホスピタリティ理論 3 　　ホスピタリティの歴史と文化（東洋・日本）	テキストの「儒教におけるホスピタリティ」「日本のおもてなしについての歴史、各階層、時代においての特徴」について理解しておくこと。
第 5 回	ホスピタリティ理論 4 　　ホスピタリティとサービス	テキストの「ホスピタリティマインドの定義」について理解しておくこと。
第 6 回	ホスピタリティサービス編① 　　顧客心理　（お客様はなぜ買うのか）	テキストの「ホスピタリティとサービスの違い」について 理解し、課題を完成させること。
第 7 回	ホスピタリティサービス編② 　　ホスピタリティの提供 　　さまざまな応対　（応対の技術）	テキストの「顧客心理」について理解しておくこと。
第 8 回	ホスピタリティサービス編③ 　　トータルサービス　（お客様の区分）	接客場面で起きる様々な事例を考えておくこと。 自分自身が顧客となる場合の 心理を考えておくこと。
第 9 回	ホスピタリティ実践 1 　　接客の基本 　　グループワークと発表 　　実際のアルバイト体験から応対事例を考える	今までのアルバイトの体験を思い出し、成功事例と失敗例を挙げてみること。
第 10 回	ホスピタリティ実践 2 　　航空会社ＧＳにおけるホスピタリティ	ホスピタリティ実践いｎ必要な能力やスキルとはどのようなものかまとめておくこと。
第 11 回	ホスピタリティ実践 3 　　航空会社ＣＡにおけるホスピタリティ	航空会社のサービス職のホスピタリティを理解し、利用する側から体験を思い出す。
第 12 回	ホスピタリティ実践 4 　　世界の空港 　　空港運営に関するホスピタリティ	テキストの内容を理解し、空港に必要な要素を考えておくこと。
第 13 回	ホスピタリティ実践 5 　　コミュニケーションの 5 原則 　　　立居振舞・仕草・態度に関して	テキストの内容を理解しておくこと。
第 14 回	ホスピタリティ実践 6 　　言葉遣いと敬語	配布したワークシートを完成しておくこと。
第 15 回	期末試験	

1.授業コード（ナンバリング）	CC2222-Y01	2.科目名	観光学特別演習（観光地域づくり実践Ⅰ）		3.単位数	2	
4.授業担当教員	高根沢均						
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期		
8.履修可能な専攻	特に制限はありません。			9.履修学年	1〜4 年生		
10.取得資格の要件		11.先修条件					
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※				
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習				
16.履修制限	特になし。						
17.授業の目的と概要	〇科目の目的 　この科目は、地域課題の解決につながる手段としての観光について実践的に学ぶ授業です。実際に地域での活動を行い、地域と触れ合いながら観光地域づくりの考え方と手法の基礎を学びます。 〇科目概要 　大都市を除くほとんどの地域では、過疎化や経済の停滞、伝統文化の衰退といった悩みを抱えています。地域の外から人々を呼び込み、賑わいと経済効果をもたらす観光事業は、これらの課題の解決につながる手段の一つとして注目されています。一方で、地域の課題はさまざまな分野に及んでおり、単に観光客を呼び込むことが解決に						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP と関連しています。 （１）自立的で主体的な態度 （２）問題発見・解決力 （３）専門的知識・技能の活用力 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①地域の住民・事業者から的確に情報を収集することができる。 ②地域の課題を的確にとらえることができる。 ③地域の課題に対して、観光の視点から解決策を提案できる。						
19.教科書・教材	特に指定しない。						
20.参考文献	NPO 法人観光力推進ネットワーク・関西/日本観光研究学会関西支部（編）『地域創造のための観光マネジメント講座』学芸出版社、2016 年。 松永安光・徳田光弘（編著）『世界の地方創生　辺境のスタートアップたち』学芸出版社、2017 年 碓井崧・松宮朝編著『食と農のコミュニティ論』創元社、2013 年 その他、授業中に紹介します						
21.成績評価	現地調査レポート・・・50%　　【学習目標①に対応】 活動実践報告・・・50%　　【学習目標②③に対応】						
22.コメント	この授業は集中講義です。予定を調整して全体での活動のほか、グループごとに時間を調整し、地域に実際に行って話を聞き、自分から行動して課題解決に取り組むことになります。いろいろな価値観の人との出会いや、地域の未来を真剣に考える人たちとの出会いを通じて、自らの将来を考えるきっかけも得られると思います。ぜひ積極的に挑戦してみてください。 ※現時点で検討している連携先 ・丹波篠山市福住まちづくり協議会 ・丹波県民局 ・南あわじ市						

	・JTB ・宇治川商店街 ※授業時間：連携先の都合も踏まえて変則的な授業日程となります。また、土日に打ち合わせやフィールドワークが入ることもあります。 ※費用負担：遠距離交通費は補助金がありますが、近距離の交通費等が発生することがあります（実費）。
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 5 限 学修支援センター：金曜昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【オリエンテーション】 ①授業概要の説明：本授業の目標・内容・評定算出の方法・授業日程と進め方の確認、受講上の留意点など ②グループ分け：連携先ごとにグループを決める。 ③ミニ講義：アイディアを生み出す考え方（発想法・デザイン思考 etc.）	予習：デザイン思考および発想法について調べてみる。
第 2 回	活動地域についての調査（１） ・グループ作業：地域の情報を集める。	【予習】自分の活動地域について調べておく。
第 3 回	活動地域についての調査（２） ・グループ作業：地域の課題を整理する。 ・疑問点をまとめ、深掘り調査の準備をする。	【復習】活動地域について調べた内容を見返して、不足する情報があれば追加する。
第 4 回	第 1 回現地フィールドワーク準備 ・グループ作業：調査内容と調査計画を立案し、現地連携先と予定を調整する。	【予習】ビジネスメールの書き方を調べてくる。 ・調査内容に対応する調査手法について調べる。
第 5 回	第 1 回現地フィールドワーク実施	予習：現地調査の手法について確認しておく。 復習：対象地域の調査内容について文献やネットで情報を集める。
第 6 回	現地フィールドワーク振り返りと課題の検討 ・得られた情報を整理し、気づきをまとめる。 ・その地域の問題と解決すべき課題を分析する。	個人課題①：対象地域の調査分析の結果をまとめる。 次回授業時に提出。
第 7 回	第 2 回現地フィールドワーク準備 ・取り上げる課題について、更に現地で集めるべき情報を検討する。	【復習】第 1 回フィールドワークの結果をもう一度読んでおく。
第 8 回	第 2 回現地フィールドワーク実施	【予習】現地情報を振り返っておく。 【復習】フィールドワークで得た情報をまとめておく。
第 9 回	解決案の検討 ・現地フィールドワークを振り返り、新たに得られた情報をもとに、解決案を検討する。	【課題】各自が解決案を一つまとめてくる。
第 10 回	解決案の提案と検討（１）	【予習】地域情報をもう一度振り返ってお

	・連携先と協議し、地域課題の解決案について意見交換をする。	く。
第 11 回	第 3 回フィールドワーク ・解決案について補足調査を行う。	【復習】前回の打ち合わせ内容を整理しておく。
第 12 回	課題解決案の実践（１） ・連携先と協働してプランを実践する。	【活動】活動の記録をきちんと残す。
第 13 回	課題解決案の実践（２） ・連携先と協働してプランを実践する。	【活動】活動の記録をきちんと残す。
第 14 回	課題解決の取り組み報告の準備 ・実際の活動の過程と結果をまとめ、発表資料を作成する。	【活動】活動の記録をきちんと残す。
第 15 回	活動の報告と振り返り	【課題】活動報告をまとめて提出する。（締切：8 月第 1 週金曜 17 時まで。ワードで作成し、メールで提出。詳細は授業時に説明する）

1.授業コード（ナンバリング）	CLI208-Y01	2.科目名	臨床心理学概論　（2022 年度生以前　春秋通年）		3.単位数	4
4.授業担当教員	横川滋章、田中亜裕子					
5.授業科目の区分	基幹科目 臨床心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師　認定心理士　保育士		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】この科目は臨床心理学に関する基本的な知識を身に付けることを目的とします。 【概要】 （横川担当分） 神垣先生の前半を受けて、こころの健康と異常について学び、今日の臨床心理的援助に大きな影響を与えた 3 つの理論・技法として、力動的心理療法と分類される S.フロイトから始まる精神分析、C.G.ユングの分析心理学、そしてパーソンセンタード（来談者中心療法）として知られる C.R.ロジャーズの考えを紹介し、臨床心理学への基礎的理解を進めることを目的とする。 （田中担当分） 　臨床心理学の全体構造を把握し、臨床					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。DP（ディプロマ・ポリシー）のうち，多様性理解，専門的知識・技能の活用力の学修と関連しています。 【横川担当分】 ①臨床心理的理解・援助の前提となるこころの正常・異常について説明することができる。 ②精神分析の基礎的事項について説明することができる。 ③分析心理学の基礎的事項について説明することができる。 ④来談者中心療法の基礎的事項について説明することができる。 ⑤臨床心理的理解・援助について、自分と関連付けて考察することができる。 【田中担当分】 ①臨床心理学の全体構造について説明することができる。 ②カウンセリングの基礎的事項について説明することができる。 ③アセスメントの基礎的事項について説明することができる。 ④その他の臨床心理学の基礎的事項について説明することができる。 ⑤心の病を患う人を理解するために、自分の心理状態と関連付けて考察することができる。					
19.教科書・教材	「改訂版　臨床心理学概説」　馬場禮子著　放送大学教育振興会 「よくわかる臨床心理学　改訂新版」　下山晴彦編　ミネルヴァ書房					
20.参考文献	【横川担当分】 心理臨床大事典（改訂版）　氏原寛他編　培風館　2004 精神分析事典　小此木啓吾編集代表　岩崎学術出版社　2002 改訂 心の臨床家のための精神医学ハンドブック　小此木啓吾他編　創元社　2004 心理療法ハンドブック　乾吉佑他編　創元社　2005 改訂　精神分析的人格理論の基礎　馬場禮子著　岩崎学術出版社　2016 【田中担当分】 適宜、紹介する。					
21.成績評価	【横川担当分】					

	1. コミュニケーションシート…3×12 回=36%（⑤に対応） 2. 中間ふりかえり…24%（①②に対応） 3.総括テスト…40%（①②③④に対応） 【田中担当分】 ◎毎回の感想レポート・・30%（①②③④⑤に対応） ◎中間レポート・・・30%（①②③④に対応） ①あなたはなぜ臨床心理学を学ぼうと思ったのか ②心理的な問題とあなたはどのように向き合うか １つの項目につき 800 字以上 1000 字以内 ◎Webclass テスト・・・40%（①②③④⑤に対応）
22.コメント	
23.オフィスアワー	横川：　曜日　　限（研究室）　　曜日　　限　遠隔（センタープログラム） 田中：月曜日昼休み（研究室）　　月曜日２限（センタープログラム）

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	オリエンテーション　授業の進め方について こころの健康と異常	コミュニケーションシートの提出（10 分） コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 3 回 第 4 回	精神分析 1　S.フロイトと精神分析の成立 精神分析 2　人格理論①　局所論・構造論・力動論・適応論	コミュニケーションシートの提出（10 分） コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 5 回 第 6 回	精神分析 3　人格理論②　防衛機制・発達理論 精神分析 4　人格理論③　エディプスコンプレックス・原始的防衛機制	コミュニケーションシートの提出（10 分） コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 7 回 第 8 回	精神分析 5　人格理論④　エリクソンのライフサイクル論 中間ふりかえり	コミュニケーションシートの提出（10 分） 中間ふりかえり（持ち込み不可）
第 9 回 第 10 回	精神分析 6　技法論 分析心理学 1　タイプ論	コミュニケーションシートの提出（10 分） コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 11 回 第 12 回	分析心理学 2　集合的無意識・元型・自己 総括テストに向けて	コミュニケーションシートの提出（10 分） コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 13 回 第 14 回	総括テスト 来談者中心療法 1　C.ロジャーズと来談者中心療法の成立	総括テスト（持ち込み可） コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 15 回 第 16 回	来談者中心療法 2　来談者中心療法の理論と技法 ********** 以降、田中担当 オリエンテーション　授業の進め方について	コミュニケーションシートの提出（10 分） 予習：次回分のテキストを読む（９０分） 課題：感想レポート提出
第 17 回 第 18 回	臨床心理学とは何か 1　臨床心理学の理念と全体構造について 臨床心理学とは何か 2　臨床心理学の歴史,活動内容	予習：次回分のテキストを読む（９０分）

		課題：感想レポート提出 予習：次回分のテキストを読む（９０分） 課題：感想レポート提出
第 19 回 第 20 回	臨床心理学の基盤となるモデル 各領域における連携の在り方	予習：次回分のテキストを読む（９０分） 課題：感想レポート提出 予習：次回分のテキストを読む（９０分） 課題：感想レポート提出
第 21 回 第 22 回	アセスメント１　面接法、観察法 アセスメント２ 検査法	予習：次回分のテキストを読む（９０分） 課題：感想レポート提出 予習：次回分のテキストを読む（９０分） 課題：感想レポート提出
第 23 回 第 24 回	異常心理学とは 心の病を考える（１） 統合失調症	予習：次回分のテキストを読む（９０分） 課題：感想レポート提出 予習：次回分のテキストを読む（９０分） 課題：感想レポート提出
第 25 回 第 26 回	心の病を考える（２） うつ病 心の病を考える（３） 不安障害	予習：次回分のテキストを読む（９０分） 課題：感想レポート提出 予習：次回分のテキストを読む（９０分） 課題：感想レポート提出
第 27 回 第 28 回	心の病を考える（４） その他の精神障害 心の病を考える（５） 発達障害	予習：次回分のテキストを読む（９０分） 課題：感想レポート提出 予習：次回分のテキストを読む（９０分） 課題：感想レポート提出
第 29 回 第 30 回	不適応行動の理解 まとめと振り返り（テスト）	予習：次回分のテキストを読む（９０分） 課題：感想レポート提出 総括テスト（持ち込み可）

1.授業コード（ナンバリング）	CLI210-Y01	2.科目名	公認心理師の職責	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美				
5.授業科目の区分	基幹科目 臨床心理学	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年
10.取得資格の要件	公認心理師受験資格取得		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限	制限は設けないが、公認心理師を目指す学生を対象と想定して授業を進める。				
17.授業の目的と概要	【目的】 公認心理師としての職責の自覚、問題解決能力と生涯学習、多職種連携・地域連携などを理解する。 【概要】 本科目は、公認心理師（国家資格）養成に必要な 25 科目の中の必須科目である。 シラバスの項目内容を説明し、理解した内容を WebClass で確認する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 ①公認心理師の役割を理解する。 ②公認心理師の法的義務及び倫理を理解する。 ③心理に関する支援を要する者等の安全の確保について説明できる。 ④情報の適切な取扱いを理解する。 ⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務を説明できる。 ⑥自己課題発見・解決能力について理解する。 ⑦生涯学習への準備について理解する。 ⑧多職種連携及び地域連携について説明できる。 【DP(ディプロマポリシー)】 (1)自律性、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能の活用力 公認心理師受験資格取得を目指す学生として、授業での課題に自律的に関わり、専門的知識・技能をどのように活かせるかを考える。				
19.教科書・教材	野島一彦編　公認心理師の基礎と実践①　公認心理師の職責　第 2 版　遠見書房　2,000 円（＋税）				
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。				
21.成績評価	webclass を利用した授業回毎の小テスト@5 点×14 回 webclass を使用した総括試験（全範囲の知識が理解されたか）30 点				
22.コメント	各回で，次回の主要課題を課すので，それぞれ考えて欲しい。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：神戸山手Ｃ水曜日昼休み 希望者は、事前にメールで予約を取って欲しい。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	イントロダクション 授業の目的、学習目標と DP との関連、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法	予習：シラバスを読む。 復習：小レポート報告
第 2 回	公認心理師の役割	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト

第 3 回	公認心理師の法的義務・倫理	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 4 回	心理に関する支援を要する者等の安全の確保	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 5 回	情報の適切な取り扱いについて	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 6 回	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 7 回	福祉分野における公認心理師の具体的な業務	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 8 回	教育分野における公認心理師の具体的な業務	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 9 回	司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 10 回	産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 11 回	支援者としての自己課題発見・解決能力	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 12 回	生涯学習への準備	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 13 回	多職種連携と地域連携	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 14 回	公認心理師の今後の展開，授業のまとめ	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 15 回	総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	CLI213-Y01	2.科目名	臨床心理学概論 II （2023 年度生）	3.単位数	2
4.授業担当教員	横川滋章				
5.授業科目の区分	基幹科目 臨床心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	【目的】この科目は臨床心理学に関する基本的な知識を身に付けることを目的とします。 【概要】 こころの健康と異常について学び、今日の臨床心理的援助に大きな影響を与えた 3 つの理論・技法として、力動的心理療法と分類される S.フロイトから始まる精神分析、C.G.ユングの分析心理学、そしてパーソンセンタード（来談者中心療法）として知られる C.R.ロジャーズの考えを紹介し、臨床心理学への基礎的理解を進めることを目的とする。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。DP（ディプロマ・ポリシー）のうち，多様性理解，専門的知識・技能の活用力の学修と関連しています。 ①臨床心理的理解・援助の前提となるこころの正常・異常について説明することができる。 ②精神分析の基礎的事項について説明することができる。 ③分析心理学の基礎的事項について説明することができる。 ④来談者中心療法の基礎的事項について説明することができる。 ⑤臨床心理的理解・援助について、自分と関連付けて考察することができる。				
19.教科書・教材	「改訂版　臨床心理学概説」　馬場禮子著　放送大学教育振興会				
20.参考文献	心理臨床大事典（改訂版）　氏原寛他編　培風館　2004 精神分析事典　小此木啓吾編集代表　岩崎学術出版社　2002 改訂 心の臨床家のための精神医学ハンドブック　小此木啓吾他編　創元社　2004 心理療法ハンドブック　乾吉佑他編　創元社　2005 改訂　精神分析的人格理論の基礎　馬場禮子著　岩崎学術出版社　2016				
21.成績評価	1. コミュニケーションシート…3×12 回=36%（⑤に対応） 2. 中間ふりかえり…24%（①②に対応） 3.総括テスト…40%（①②③④に対応）				
22.コメント					
23.オフィスアワー	曜日　限（研究室）　曜日　限　遠隔（センタープログラム）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション　授業の進め方について	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 2 回	こころの健康と異常	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 3 回	精神分析 1　S.フロイトと精神分析の成立	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 4 回	精神分析 2　人格理論①　局所論・構造論・力動論・適応論	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 5 回	精神分析 3　人格理論②　防衛機制・発達理論	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 6 回	精神分析 4　人格理論③　エディプスコンプレックス・原始的防衛機制	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 7 回	精神分析 5　人格理論④　エリクソンのライフサイクル論	コミュニケーションシートの提出（10 分）

第 8 回	中間ふりかえり	中間ふりかえり（持ち込み不可）
第 9 回	精神分析 6　技法論	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 10 回	分析心理学 1　タイプ論	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 11 回	分析心理学 2　集合的無意識・元型・自己	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 12 回	総括テストに向けて	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 13 回	総括テスト	総括テスト（持ち込み可）
第 14 回	来談者中心療法 1　C.ロジャーズと来談者中心療法の成立	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 15 回	来談者中心療法 2　来談者中心療法の理論と技法	コミュニケーションシートの提出（10 分）

1.授業コード（ナンバリング）	CLI308-Y01	2.科目名	心理学的支援法	3.単位数	4
4.授業担当教員	松井幸太				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	＜目的＞心理療法にかかわるさまざまな理論や技法の基礎を学び、実際の心理臨床の事例を通して、心と体の変容過程について理解を深めていく。 ＜概要＞心理療法とは、臨床心理学を基盤とした対人援助の一形態であり、特に関係性を重視したアプローチである。物理的な豊かさが満たされ、心の時代と称される現代において、心理療法の果たす役割が注目されている。前半では精神分析，来談者中心療法，認知行動療法といった主要な心理療法を中心として，その基礎を学び，心理療法とは何かを理解する。後半では事例等を用いながら，それぞれの心理療法の				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目は DP のうち，「多様性理解」，「専門的知識・技能の活用力」と関連する。 ①心理療法全般にかかわる基本概念を説明することができる ②心理療法にかかわる各理論の基礎的な内容を説明することができる ③心理療法家の基本的な態度と守秘義務について理解している ④心理学的支援の様々な形について基礎知識を持っている ⑤心の健康教育に必要な知識の基礎を身につけている				
19.教科書・教材					
20.参考文献	・乾　吉佑ほか編（2005）心理療法ハンドブック　創元社 ・氏原　寛（2004）心理臨床大辞典【改訂版】　培風館				
21.成績評価	①各授業における小レポート　2%×30 回（学習目標の????⑤） ②中間試験　20%（学習目標の????⑤） ?最終試験　20%（学習目標の????⑤）				
22.コメント					
23.オフィスアワー	研修室オフィスアワー：火曜 1 限 センターオフィスアワー：火曜昼休み（質問対応可）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 _____ 第 2 回	ガイダンス _____ こころとは 臨床とは	課題：小レポートの提出 復習：授業内容をノートにまとめる
第 3 回 _____ 第 4 回	心理的支援法　概説 _____ 心理療法における基本構造	課題：小レポートの提出 復習：授業内容をノートにまとめる
第 5 回 _____ 第 6 回	精神分析? _____ 精神分析?	課題：小レポートの提出 復習：授業内容をノートにまとめる
第 7 回 _____	来談者中心療法? _____	課題：小レポートの提出 復習：授業内容をノートにまとめる

第 8 回	来談者中心療法?	
第 9 回 ～ 第 10 回	行動療法 ～ 認知行動療法	課題：小レポートの提出 復習：授業内容をノートにまとめる
第 11 回 ～ 第 12 回	ゲシュタルト療法 ～ 『グロリアと 3 人のセラピスト』	課題：小レポートの提出 復習：授業内容をノートにまとめる
第 13 回 ～ 第 14 回	心理療法における個人の尊重と倫理観 ～ 中間試験	課題：小レポートの提出 復習：授業内容をノートにまとめる
第 15 回 ～ 第 16 回	前半のふりかえり ～	課題：小レポートの提出 復習：授業内容をノートにまとめる
第 17 回 ～ 第 18 回	遊戯療法 ～ 表現療法	課題：感想レポートの提出 復習：資料の内容をノートにまとめる。
第 19 回 ～ 第 20 回	サイコドラマ（心理劇） ～ 交流分析	課題：感想レポートの提出 復習：資料の内容をノートにまとめる。
第 21 回 ～ 第 22 回	家族療法 ～ 解決志向（ブリーフセラピー）	課題：感想レポートの提出 復習：資料の内容をノートにまとめる。
第 23 回 ～ 第 24 回	エンカウンターグループ ～ オープン・ダイアログ	課題：感想レポートの提出 復習：資料の内容をノートにまとめる。
第 25 回 ～ 第 26 回	森田療法 ～ 内観療法	課題：感想レポートの提出 復習：資料の内容をノートにまとめる。
第 27 回 ～ 第 28 回	後半のふりかえり ～ 総括試験	課題：感想レポートの提出 復習：資料の内容をノートにまとめる。
第 29 回 ～ 第 30 回	まとめ ～ 確認テスト	復習：今までの授業の内容をまとめ，今後の学習に生かす。

1.授業コード（ナンバリング）	CLI309-Y71	2.科目名	障害者（児）心理学 （オンデマンド）	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美				
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	公認心理師受験資格取得	11.先修条件	特にない。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	オンデマンド		
16.履修制限	制限は設けないが、後半は公認心理師を目指す方を対象と想定して授業を進める。				
17.授業の目的と概要	本科目は、公認心理師（国家資格）養成に必要な 25 科目の中の必須科目である。 【目的】 (1)身体障害、知的障害及ひ?精神障害について概説する。 (2)障害者(児)の心理社会的課題と必要な支援について概説する。 【概要】 各障害の支援のための制度やそれに関わる様々な機関についての基本的知識と支援の在り方について概説する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 ①身体障害、知的障害及び精神障害(発達障害）について説明できる。 ②障害者(児)の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 【DP（デュプロマポリシー)】 (1)　自律性、?多様性理解				
19.教科書・教材	古賀 精治 著　障害者・障害児心理学（放送大学教材 1644） 放送大学教育振興会 2021 2,970 円 power poin 資料は、webclass 上で配付する。				
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。				
21.成績評価	webclass を利用した授業回毎の小テスト（授業内容について）@ 5 ×13 授業態度（質問に対する適切な回答等）を含む (webclass を使用した)総括試験（全範囲の知識が記述されたか）35				
22.コメント	夏学期間：7 月 30 日から 9 月 6 日までに受講してください。 予習課題については、WebClass に課題を記載しています。 授業期間までに調べて、記載しましょう。				
23.オフィスアワー	夏学期にはありません。 質問等があれば，メールで連絡してください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	イントロダクション 授業の目的，学習目標と DP との関連，授業の進め方，シラバス説明，成績評価の方法，心理職に求められる障害への意識	予習：テキストの目次を読む。 復習：出題について WebClass で解答する。
【第 2 回】	1．社会における「障害」の変遷	予習：教科書の該当章を読んで，まとめる。 復習：授業中に出題した課題について webclass に解答する。

【第 3 回】	2．特別支援教育	予習：教科書の該当章を読んで，まとめる。 復習：授業中に出題した課題について webclass に解答する。
【第 4 回】	3．視・聴覚障害者（児）の理解と支援	予習：教科書の該当章を読んで，まとめる。 復習：授業中に出題した課題について webclass に解答する。
【第 5 回】	4．知的障害者（児）の理解と支援	予習：教科書の該当章を読んで，まとめる。 復習：授業中に出題した課題について webclass に解答する。
【第 6 回】	5．肢体不自由者（児）の理解と支援	予習：教科書の該当章を読んで，まとめる。 復習：授業中に出題した課題について webclass に解答する。
【第 7 回】	6．身体疾患のある者（児）の理解と支援	予習：教科書の該当章を読んで，まとめる。 復習：授業中に出題した課題について webclass に解答する。
【第 8 回】	7．精神障害者（児）の理解と支援	予習：教科書の該当章を読んで，まとめる。 復習：授業中に出題した課題について webclass に解答する。
【第 9 回】	8．発達障害児者の理解と支援（1）ADHD	予習：教科書の該当章を読んで，まとめる。 復習：授業中に出題した課題について webclass に解答する。
【第 10 回】	9．発達障害児者の理解と支援（2）SLD	予習：教科書の該当章を読んで，まとめる。 復習：授業中に出題した課題について webclass に解答する。
【第 11 回】	10.　発達障害児者の理解と支援（3）ASD	予習：教科書の該当章を読んで，まとめる。 復習：授業中に出題した課題について webclass に解答する。
【第 12 回】	11. 乳幼児期における障害とその支援	予習：教科書の該当章を読んで，まとめる。 復習：授業中に出題した課題について webclass に解答する。
【第 13 回】	12. 障害の理解・受け止めと家族支援・地域支援	予習：教科書の該当章を読んで，まとめる。 復習：授業中に出題した課題について webclass に解答する。
【第 14 回】	総括試験	
【第 15 回】	まとめと解説	

1.授業コード（ナンバリング）	CLI310-Y52	2.科目名	心理実習　（3 年秋～4 年秋）	3.単位数	3
4.授業担当教員	横川滋章、田中亜裕子、松井幸太、山本喜晴				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～冬学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件	公認心理師	11.先修条件	履修制限を参照		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限	事前のエントリーが必要です。 事前エントリーできる者は、２年終了時点において次の３条件を満たす者のみとします。 （3 年次編入生についてはこの限りではありません） ①累積 GPA が原則 2.75 以上であること ②原則 80 単位以上を修得済みであること ③公認心理師必修科目 25 科目のうち、原則 13 科目以上を修得済みであること エントリー後、選考を行い、最大 15 名まで履修を認めます。 なお、実習の開始前に心理実習履修料 9,000 円と実習委託費、交通費などの諸経費を納める必要がありま				
17.授業の目的と概要	保健医療，福祉，教 育，司法・犯罪，産業・労働の５つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受ける。（ただし，経過措置として当分の間は、医療機関での実習を必須とし、医療機関以外の施設での実習については適宜行う。） 実習は、3 年秋学期から 4 年学期にかけて、80 時間（事前学習、事後学習含む）の見学実習が中心となる。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	学習目標①心理に関する支援を要する者へのチー ムアプローチについて説明できる 学習目標②多職種連携及び地域連携について説明できる 学習目標③公認心理師としての職業倫理及び法的義務について説明できる				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜、紹介する。				
21.成績評価					
22.コメント	実習に取り組みにあたって、ふさわしい身なりと態度が求められます。 実習生として適格を欠く場合には、実習参加の取り止めとなることもあります。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜日・4 限(山本喜晴)、木曜日昼休み（松井幸太） センターオフィスアワー：水曜日・昼休み(山本喜晴)、月曜日 2 限（松井幸太）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス	
第 2-3 回	公認心理師とし ての職業倫理及び法的義務への理解	
第 4 回	関西国際大学大学院人間行動学研究科附属心理臨床センターにおける実習	
第 5-9 回	医療分野：病院（精神科）での実習	
第 10-14 回	司法・犯罪分野：少年鑑別所での実習	
第 15-24 回	教育分野：公立フリースクールでの実習	
第 25-44 回	福祉分野：児童養護施設、社会福祉施設での実習	
第 45 回	ふりかえり	

1.授業コード（ナンバリング）	CLI312-Y01	2.科目名	関係行政論	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本喜晴、道免逸子				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	2 年~
10.取得資格の要件	公認心理師	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	【目的】心理の専門家として社会において活動する上で必要となる施策、法律、制度、そしてその基盤となる考え方について理解することを目的とする。 【概要】医療，教育，福祉，司法，産業の各分野で心理職が働く上で必要な法的枠組みについて解説し，実際の現場で心理職がどのように活躍しているのかイメージをつかんでもらう。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目は DP（ディプロマ・ポリシー）のうち，問題発見解決力，専門的知識技能の活用力の学修に関連します。 ①心の支援に関する全体像を、法律や制度の観点から把握し、国民からの期待や社会的使命を自覚できる。 ②特に、医療保健、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の 5 つの分野における法律や制度を把握する。 ③多職種の専門家や行政、国民と、意義深い協働をするための法律や制度の知識を活用することができる。				
19.教科書・教材	公認心理師の基礎と実践 23　関係行政論　遠見書房　元永拓郎（編）				
20.参考文献	適宜紹介する				
21.成績評価	各分野ごとの小課題　50%（10%×5 分野） 総括試験（レポート課題）　50%				
22.コメント	第 1 回から第 6 回まで山本担当 第 7 回から第 1 5 回まで道免担当				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み（山本喜晴） センターオフィスアワー：水曜日・昼休み　（山本喜晴） センターオフィスアワー：木曜日 2 限（道免） 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み（道免）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	心理支援と関係行政論 教育分野に関する法律・制度（1）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 2 回	教育分野に関する法律・制度（2）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 3 回	教育分野に関する法律・制度（3）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 4 回	司法・犯罪分野に関する法律・制度（1）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 5 回	司法・犯罪分野に関する法律・制度（2）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 6 回	司法・犯罪分野に関する法律・制度（3）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく

第 7 回	産業・労働分野に関する法律・制度（1）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 8 回	産業・労働分野に関する法律・制度（2）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 9 回	産業・労働分野に関する法律・制度（3）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 10 回	保健医療分野に関する法律・制度（1）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 11 回	保健医療分野に関する法律・制度（2）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 12 回	保健医療分野に関する法律・制度（3）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 13 回	福祉分野に関する法律・制度（1）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 14 回	福祉分野に関する法律・制度（2）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 15 回	福祉分野に関する法律・制度（3） 全体のまとめ	

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-A01	2.科目名	ICT リテラシー（4 月 9 日～5 月 28 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	上原昭三				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　?　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　?　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　?　【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　（水曜）昼休み 研究室オフィスアワー　（火曜）５限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-A02	2.科目名	ICT リテラシー（4 月 9 日～5 月 28 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　？　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　？　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　？　【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　（水曜）昼休み 研究室オフィスアワー　（火曜）５限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4〜5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-A03	2.科目名	ICT リテラシー（4 月 9 日～5 月 28 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　？　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　？　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　？　【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　（水曜）昼休み 研究室オフィスアワー　（火曜）５限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-A04	2.科目名	ICT リテラシー（4 月 9 日～5 月 28 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	椋田善之				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　？　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　？　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　？　【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　（水曜）昼休み 研究室オフィスアワー　（火曜）５限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4〜5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-A05	2.科目名	ICT リテラシー（4 月 9 日～5 月 28 日）		3.単位数	2	
4.授業担当教員	吉田武大						
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期		
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～		
10.取得資格の要件		11.先修条件					
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※				
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習				
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス						
18.学習目標と ＤＰとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??						
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。						
20.参考文献							
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)） 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成 15 点 ? 【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成 15 点 ? 【学習?標④に対応						
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと						
23.オフィスアワー	月曜 5 限						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認 講義	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2

	「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成② 　スライドの作成	課題[4]を WebClass で提出 課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用

	プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-A06	2.科目名	ICT リテラシー（1/3)(4 月 8 日～6 月 3 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	杉林弘仁				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　?　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　?　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　?　【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	・センターオフィスアワー：(前期)水曜日第 2 限 10:45～12:15 ・研究室オフィスアワー：(前期)月曜日第 3 限 15:00～16:15(研究室 805)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4〜5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-A07	2.科目名	ICT リテラシー（2/3)(4 月 8 日～6 月 3 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	北村正仁				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　？　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　？　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　？　【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　：火曜日 3 限 研究室オフィスアワー　：火曜日 4 現				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-A08	2.科目名	ICT リテラシー（留)(1/2)	3.単位数	2
4.授業担当教員	陳那森				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標とＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・　指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・　指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・　指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　?　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　?　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　?　【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　（水曜）昼休み 研究室オフィスアワー　（火曜）５限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す 指定されたファイル（担当者で指定：シラバス？）を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4〜5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-A09	2.科目名	ICT リテラシー（留)(2/2)	3.単位数	2
4.授業担当教員	林万平				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　？　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　？　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　？　【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　（水曜）昼休み 研究室オフィスアワー　（火曜）５限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-A10	2.科目名	ICT リテラシー（3/3)(4 月 8 日～6 月 3 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標とＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・　指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・　指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・　指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　?　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　?　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　?　【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　（水曜）昼休み 研究室オフィスアワー　（火曜）５限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4〜5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-M01	2.科目名	ICT リテラシー （経営_1/4）	3.単位数	2
4.授業担当教員	山下泰生				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)） 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成 15 点 ? 【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成 15 点 ? 【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー （月曜）昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認 講義	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2

	「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成② 　スライドの作成	課題[4]を WebClass で提出 課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用

	プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-M02	2.科目名	ICT リテラシー （経営_2/4）	3.単位数	2
4.授業担当教員	百濟正和				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)） 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成 15 点 ? 【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成 15 点 ? 【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー （水曜）昼休み 研究室オフィスアワー （火曜） 5 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4〜5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-M03	2.科目名	ICT リテラシー （経営_4/4）	3.単位数	2
4.授業担当教員	田中綾子				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)） 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成 15 点 ? 【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成 15 点 ? 【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー （火曜）昼休み 研究室オフィスアワー （月曜）昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-M04	2.科目名	ICT リテラシー （経営_3/4）	3.単位数	2
4.授業担当教員	浮田泉				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)） 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成 15 点 ? 【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成 15 点 ? 【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー （月曜）4 限（センタープログラム） 研究室オフィスアワー （木曜）昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回(4/8)	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回(4/11)	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回(4/15)	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回(4/18)	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回(4/22)	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回(4/25)	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回(5/2)	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回(5/9)	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回(5/13)	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回(5/16)	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回(5/20)	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回(5/23)	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回(5/27)	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回(5/30)	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回(6/3)	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-M05	2.科目名	ICT リテラシー（看護）	3.単位数	2
4.授業担当教員	杉野美礼、野村浩				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・　指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・　指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・　指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　?　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　?　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　?　【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　（水曜）昼休み 研究室オフィスアワー　（火曜）５限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-Y01	2.科目名	ICT リテラシー（心理_1/4）（4 月 9 日～5 月 28 日）		3.単位数	2	
4.授業担当教員	有吉美恵						
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス						
18.学習目標と ＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??						
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。						
20.参考文献							
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　?　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　?　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　?　【学習?標④に対応						
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認 講義	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2

	「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成② 　スライドの作成	課題[4]を WebClass で提出 課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用

	プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-Y02	2.科目名	ICT リテラシー（心理_2/4）（4 月 9 日～5 月 28 日）		3.単位数	2	
4.授業担当教員	道免逸子						
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス						
18.学習目標と ＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??						
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。						
20.参考文献							
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　?　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　?　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　?　【学習?標④に対応						
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと						
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー　：木曜日 2 限 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-Y03	2.科目名	ICT リテラシー（心理_3/4）（4 月 9 日～5 月 31 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本喜晴				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　?　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　?　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　?　【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　（水曜）昼休み 研究室オフィスアワー　（火曜）５限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4〜5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-Y04	2.科目名	ICT リテラシー（心理_4/4）（4 月 9 日～5 月 31 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	髙橋浩樹				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・　指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・　指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・　指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　？　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　？　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　？　【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー　：月曜日昼休み 研究室オフィスアワー：金曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-Y05	2.科目名	ICT リテラシー（G コミ_1/2）（4 月 10 日～5 月 31 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤創				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	G コミ学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・　指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・　指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・　指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　?　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　?　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　?　【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　（水曜）昼休み 研究室オフィスアワー　（火曜）５限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4〜5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-Y06	2.科目名	ICT リテラシー（G コミ_2/2）（4 月 10 日～5 月 31 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	G コミ学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・　指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・　指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・　指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　？　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　？　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　？　【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　（水曜）昼休み 研究室オフィスアワー　（火曜）５限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-Y08	2.科目名	ICT リテラシー （心理留学生）	3.単位数	2
4.授業担当教員	川脇康生				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)） 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成 15 点 ? 【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成 15 点 ? 【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー （月曜） 4 限 研究室オフィスアワー （火曜） 昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4〜5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-Y09	2.科目名	ICT リテラシー （観光）(4 月 11 日～5 月 31 日）(1/2)	3.単位数	2
4.授業担当教員	疋田浩一				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)） 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成 15 点 ? 【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成 15 点 ? 【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー （木曜）5 限 研究室オフィスアワー （金曜）昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP103-Y10	2.科目名	ICT リテラシー （観光）(4 月 11 日～5 月 31 日）(2/2)	3.単位数	2
4.授業担当教員	疋田浩一				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)） 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成 15 点 ? 【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成 15 点 ? 【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー （木曜）5 限 研究室オフィスアワー （金曜）昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4〜5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP104-M71	2.科目名	ICT 活用 A (MCAS Word)	3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤勝洋				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　保育士　幼稚園一種	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	教室の席数の関係から、受講予定学生数がこれを超えた場合、抽選になることがある。その場合、掲示するので確認すること。				
17.授業の目的と概要	この講義では Microsoft Office Specialist（MOS）の Word（365&2019）合格を目的としている。その為、受験する学生、受験を考えている学生が対象となる。また、基本的操作方法や用語説明は一切、行なわないのでに十分に注意して欲しい。MOS は一般的な利用方法から高度な編集作業まで含んでおり、一部、マクロも利用する。将来、どのような業種に就いても様々な状況で行かせる IT スキル、特に Microsoft Word のスキルを修得していくことになる。 なお、この講義はテキストに記載され				
18.学習目標とＤＰとの関連	＜スキル＞ ・Microsoft Office Specialist（MOS）Word（365&2019）の検定対策を学習し、合格水準まで操作スキルを上げる。 ・Microsoft Word365&2019）の様々な技術を修得し、自在に利用できるようになる。 ・目的に合った分析方法や利用方法を選択し、最適な成果物を作成できるようになる。 ＜ベンチマーク＞ ・コミュニケーションスキル（情報発信力　（書く・話す・伝える））レベル 3 ・専門的知識・技能の活用力　レベル 3				
19.教科書・教材	FOM 出版『よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Word 365&2019 対策テキスト&問題集』 ISBN：978-4-86510-430-1 価格：2,310 円　（本体 2,100 円） ※2016、365、Expert 等の別バージョン、Excel 等の他のアプリケーションと間違わないように注意！				
20.参考文献	特になし。適時、配布する。				
21.成績評価	中間作品（4 回）10%×5：50% 最終試験：40% e-ポートフォリオ:10%				
22.コメント	この授業は、基礎的なパソコンの技術は習得しているとして、OS の操作方法等については触れないので、不安な学生は事前に基礎的なパソコン操作について学修しておいて欲しい。また、受講人数制限があるので、履修者が多い場合は抽選になる可能性がある。その場合、掲示するので注意すること。まや、毎回、PC を持参する必要があるので準備すること。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回	イントロダクション（授業の進め方、MOS についての説明、セットアップ作業について説明）	
第 02 回	出題範囲 1　文書の管理 1-1　文書内を移動する	

	1-2　文書の書式を設定する 1-3　文書を保存する、共有する 1-4　文書を検査する	
第 03 回	出題範囲 2　文字、段落、セクションの挿入と書式設定 2-1　文字列や段落を挿入する 出題範囲 1　確認問題　解答	提出物：出題範囲 1　確認問題解答
第 04 回	出題範囲 2　文字、段落、セクションの挿入と書式設定 2-2　文字列や段落の書式を設定する 2-3　文書にセクションを作成する、設定する	
第 05 回	出題範囲 2　確認問題　解答 出題範囲 3　表やリストの管理 3-1　表を作成する	提出物：出題範囲 2　確認問題解答
第 06 回	出題範囲 3　表やリストの管理 3-2　表を変更する 3-3　リストを作成する、変更する 出題範囲 3　確認問題　解答	提出物：出題範囲 3　確認問題解答
第 07 回	出題範囲 4　参考資料の作成と管理 4-1　参照のための要素を作成する、管理する 4-2　参照のための一覧を作成する、管理する	
第 08 回	出題範囲 4　確認問題　解答 出題範囲 5　グラフィック要素の挿入と書式設定 5-1　図やテキストボックスを挿入する 5-2　図やテキストボックスを書式設定する	提出物：出題範囲 4　確認問題解答
第 09 回	5-3　グラフィック要素にテキストを追加する 5-4　グラフィック要素を変更する 出題範囲 5　確認問題　解答	提出物：出題範囲 5　確認問題解答
第 10 回	出題範囲 6　文書の共同作業の管理 6-1　コメントを追加する、管理する 6-2　変更履歴を管理する	
第 11 回	出題範囲 6　確認問題　解答 総合練習問題その 1 総合練習問題その 2	提出物：出題範囲 6　確認問題解答
第 12 回	総合練習問題その 3 総合練習問題その 4 総合練習問題その 5	
第 13 回	第 1 回模擬試験	
第 14 回	第 2 回模擬試験	
第 15 回	総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	CMP104-a71	2.科目名	ICT 活用 A （MCAS Word）	3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤勝洋				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　保育士　幼稚園一種	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	教室の席数の関係から、受講予定学生数がこれを超えた場合、抽選になることがある。その場合、掲示するので確認すること。				
17.授業の目的と概要	この講義では Microsoft Office Specialist（MOS）の Word（365&2019）合格を目的としている。その為、受験する学生、受験を考えている学生が対象となる。また、基本的操作方法や用語説明は一切、行なわないのでに十分に注意して欲しい。MOS は一般的な利用方法から高度な編集作業まで含んでおり、一部、マクロも利用する。将来、どのような業種に就いても様々な状況で行かせる IT スキル、特に Microsoft Word のスキルを修得していくことになる。 なお、この講義はテキストに記載され				
18.学習目標とＤＰとの関連	＜スキル＞ ・Microsoft Office Specialist（MOS）Word（365&2019）の検定対策を学習し、合格水準まで操作スキルを上げる。 ・Microsoft Word365&2019）の様々な技術を修得し、自在に利用できるようになる。 ・目的に合った分析方法や利用方法を選択し、最適な成果物を作成できるようになる。 ＜ベンチマーク＞ ・コミュニケーションスキル（情報発信力　（書く・話す・伝える））レベル 3 ・専門的知識・技能の活用力　レベル 3				
19.教科書・教材	FOM 出版『よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Word 365&2019 対策テキスト&問題集』 ISBN：978-4-86510-430-1 価格：2,310 円 （本体 2,100 円） ※2016、365、Expert 等の別バージョン、Excel 等の他のアプリケーションと間違わないように注意！				
20.参考文献	特になし。適時、配布する。				
21.成績評価	中間作品（4 回）10%×5：50% 最終試験：40% e-ポートフォリオ:10%				
22.コメント	この授業は、基礎的なパソコンの技術は習得しているとして、OS の操作方法等については触れないので、不安な学生は事前に基礎的なパソコン操作について学修しておいて欲しい。また、受講人数制限があるので、履修者が多い場合は抽選になる可能性がある。その場合、掲示するので注意すること。まや、毎回、PC を持参する必要があるので準備すること。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回	イントロダクション（授業の進め方、MOS についての説明、セットアップ作業について説明）	
第 02 回	出題範囲 1　文書の管理 1-1　文書内を移動する	

	1-2　文書の書式を設定する 1-3　文書を保存する、共有する 1-4　文書を検査する	
第 03 回	出題範囲 2　文字、段落、セクションの挿入と書式設定 2-1　文字列や段落を挿入する 出題範囲 1　確認問題　解答	提出物：出題範囲 1　確認問題解答
第 04 回	出題範囲 2　文字、段落、セクションの挿入と書式設定 2-2　文字列や段落の書式を設定する 2-3　文書にセクションを作成する、設定する	
第 05 回	出題範囲 2　確認問題　解答 出題範囲 3　表やリストの管理 3-1　表を作成する	提出物：出題範囲 2　確認問題解答
第 06 回	出題範囲 3　表やリストの管理 3-2　表を変更する 3-3　リストを作成する、変更する 出題範囲 3　確認問題　解答	提出物：出題範囲 3　確認問題解答
第 07 回	出題範囲 4　参考資料の作成と管理 4-1　参照のための要素を作成する、管理する 4-2　参照のための一覧を作成する、管理する	
第 08 回	出題範囲 4　確認問題　解答 出題範囲 5　グラフィック要素の挿入と書式設定 5-1　図やテキストボックスを挿入する 5-2　図やテキストボックスを書式設定する	提出物：出題範囲 4　確認問題解答
第 09 回	5-3　グラフィック要素にテキストを追加する 5-4　グラフィック要素を変更する 出題範囲 5　確認問題　解答	提出物：出題範囲 5　確認問題解答
第 10 回	出題範囲 6　文書の共同作業の管理 6-1　コメントを追加する、管理する 6-2　変更履歴を管理する	
第 11 回	出題範囲 6　確認問題　解答 総合練習問題その 1 総合練習問題その 2	提出物：出題範囲 6　確認問題解答
第 12 回	総合練習問題その 3 総合練習問題その 4 総合練習問題その 5	
第 13 回	第 1 回模擬試験	
第 14 回	第 2 回模擬試験	
第 15 回	総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	CMP105-Y02	2.科目名	情報ネットワーク演習　（5 月 30 日～7 月 18 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	中嶌康二				
5.授業科目の区分	専門教育科目 基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	1 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	?的?テーマ?社会の諸問題の解決のための、情報ネットワーク活??を修得する 概要? 情報社会の有効性と問題点を認識し、主体的に判断して?動できる未来社会に貢献できる?財育成のための授業です。情報ネットワーク技術の仕組みと社会における役割を正しく理解し、同学部で詳しく学ぶモデル化とシミュレーションの技法を?いて、問題発?・明確化による定義・分析・検証をおこない、データサイエンスを活?した評価軸を構築することにより、最先端の情報ネットワーク技術を倫理的且つ適切に活?して、未来社会が豊かになるように問題解決にむ				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科?の学習?標（＝?につくスキル）は次の通りです。 1. コンピュータネットワークの種類や構成?式の基本知識を説明できる 2. データ通信と制御の仕組みに関する基本知識について説明できる 3. BYOD で展開する ICT 学習環境全般（LAN とインターネットの構成、?学の情報ネットワーク環境等）について説明できる 4. ネットワークを介したファイル交換、設定、利??法などの基本スキルを場?に応じて適切に実?することができる（ユーザー視点） 5. クラウドを含めた情報ネットワーク技術に関する基本的な設定?法やスキルを場?に応じて適切に実?することができる（情報ネットワーク管理者の視点） [関連するディプロマポリシー] （1）?律性（3）多様性理解（4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	授業中に適宜資料を配付します。				
20.参考文献	『本当にやさしく学びたい人の! 絵解き ネットワーク超入門』増田若奈，技術評論社，2019 年 『クラウド活用テクニック 150　2020 年最新版』河本 亮，スタンダーズ株式会社，2020 年				
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 （1）　学習日誌「今日学んだこと」の投稿×15 回　（?標 1・2・3・4 に対応）　15% （2）　ブロック課題：情報デザインワーク「伝えたいことの整理」　（学習?標 2 に対応）　20% （3）　ブロック課題：フローチャート図作成　（学習?標 3 に対応）　20% （4）　ブロック課題：クラウドサービス紹介スライド作成　（学習目標 4・5 に対応）　20% （5）　最終課題：この授業で学んだことの整理ワーク　（学習?標 1・2・				
22.コメント	・各回の授業で提?される予習・復習は、下表の「26. アサインメント（宿題）など」の欄に記載しています。（個?差はありますが）それぞれ 120 分程度の作業となることを想定しています。				
23.オフィスアワー	月曜日昼休み　学習支援センター（1 号館 2 F） （別途：メール予約で受付）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション	毎回授業終了前_学習日誌「今日やったこと」

	本授業のカリキュラムにおける位置づけ、本授業の概要、到達目標、評価方法、授業の進め方等	を WebClass で投稿×15 回
ブロック 1 第 2 回	メディアとコミュニケーション（レクチャー） ・　コミュニケーションツールのワーク（Outlook・Zoom 活用）	事前：Outlook アプリ準備 事後：Zoom 試行
第 3 回	情報デザイン（レクチャー） ・　抽象化・可視化・構造化のワーク ブロック課題についての解説	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 4 回	情報デザイン（ワークのつづき） ・　抽象化・可視化・構造化のワーク	事前：引き続きブロック課題の実施 事後：引き続きブロック課題の実施
第 5 回	情報のデジタル化（レクチャー） ・　文字のデジタル化ワーク	事前：引き続きブロック課題の実施 事後：引き続きブロック課題の実施 ブロック課題①：情報デザインワーク成果物提出
ブロック 2 第 6 回	コンピュータの仕組み（レクチャー） ブロック課題についての解説	事前：配付資料の精読 事後：学習内容の復習
第 7 回	アルゴリズムとプログラム（レクチャー） ・　手順整理ワーク ・　フローチャート・アクティビティ図作成ワーク	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 8 回	アルゴリズムとプログラム（ワークのつづき） ・　フローチャート・アクティビティ図作成ワーク	事前：引き続きワークの作業 事後：引き続きワークの作業
第 9 回	アルゴリズムとプログラム（ワークのつづき） ・　プログラミングワーク（Scratch） モデル化とシミュレーション（レクチャー） ・　モデルを利用した問題解決ワーク	事前：配付資料の精読 事後：ブロック課題の実施 ブロック課題②：フローチャート作成成果物提出
ブロック 3 第 10 回	情報通信ネットワークのしくみ（レクチャー） ・　ネットワーク設定の確認ワーク	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 11 回	情報通信ネットワークのしくみ（レクチャー） ・html 作成ワーク　（簡単な自己紹介 HP 作成）	事前：配付資料の精読 事後：クラウドサービス紹介スライド作成
第 12 回	html 作成ワークと作成した HP の共有	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 13 回	情報システムとデータの活用（レクチャー） ・情報サービスを調べるワーク	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 14 回	情報通信ネットワークのしくみ（レクチャー） ・クラウドサービス活用ワーク	事前：配付資料の精読 事後：ブロック課題の実施 ブロック課題③：クラウドサービス紹介スライド提出
第 15 回	学びの振り返り、自己評価、ポートフォリオ記述　／総評	最終課題：この科目で学習したことを整理して提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP206-Y51	2.科目名	ヒューマンインターフェース		3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華、山本敏幸					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学科 データサイエンス専攻			9.履修学年	2 年春	
10.取得資格の要件	その他教職課程に関連のある科目 「上級情報処理士」「ウェブデザイン実務士」の資格関連科目	11.先修条件	特になし			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義及びハンズオン実践演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 情報機械を介して人間のインタラクションを円滑にし、コミュニケーションを支援するのがヒューマンインタフェースの主要な目的である。情報システムをいかに便利に使えるかは、そのインタフェースの設計に依存する。この科目は、インターフェースの基礎を理解し、関連技術の学習を通して、人間とコンピュータとの関係がどうあるべきか、優れたヒューマンインタフェースの実現を目指すには、技術をどのように活かすべきかなどその課題と動向を学ぶことを目的とする。 概要： 情報システムとしての人間特性の理解から、インタラクションと						
18.学習目標とＤＰとの関連	１．ヒューマンインタフェースの概要およびその重要性を理解している。 ２．人間とコンピュータシステムのそれぞれの特性を理解している。 ３．入力デバイス・出力デバイス・ インタラクション・GUI の設計 の基本を理解している。 ４．ヒューマンインタフェースの分析・評価手法の基本について理解している。 ５．ヒューマンインタフェースの新しい動向と今後の課題について理解している。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発見・解決力（5)コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力						
19.教科書・教材	教科書：『イラストで学ぶ ヒューマンインタフェース 改訂第 2 版』（北原義典(著)） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献	参考書：必要に応じて紹介する。					
21.成績評価	授業の取組やプレゼン(50%)・授業内小テスト(20%)・小課題(30%) ・授業の取組やプレゼンは 授業内容の反転授業資料の作成、グループ発表の取組を判断【学習?標①②③④⑤に対応】 ・授業内小テストは中間テストと期末テスト 2 回 X10＝20 点 【学習?標①②③④⑤に対応】 ・小課題は時間外学習として、 5 回程度 5 回 X6＝30 点 【学習?標①②③④⑤に対応】					
22.コメント	講義では、ほぼ毎回でノート PC を利?しますので，授業前?にきちんと動作確認とバッテリーの充電をしてくることをおすすめします。					
23.オフィスアワー	第一回目の授業で案内します。 センタオフィスアワー __曜__限（神戸山手） 研究室オフィスアワー __曜__限（神戸山手）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

	第 1 回 ヒューマンインタフェース概論 ・科?の概要と?的，到達?標，全体の流れなどの説明 1.1 ユーザインタフェースの概念 1.2 ヒューマンインタフェースの分野 1.3 ヒューマンインタフェース関連研究の歴史 I ー ヨーロッパのエルゴノミクスとアメリカのヒューマンファクタ ー 1.4 ヒューマンインタフェース関連研究の歴史 II	
	第 2 回 コンピュータとヒューマンインタフェース 2.1 コンピュータと人間研究 2.2 GUI の登場によるユーザインタフェース革命 2.3 メディアの分類 2.4 メディア処理 2.5 人工知能研究 《ためしてみよう(ディープラーニング)》	配布資料（ワークシート） 課題①
	第 3 回 人間の情報処理モデル 3.1 人間の感覚 3.2 モデルヒューマンプロセッサと行為の 7 段階モデル 3.3 ヒックの法則,フィッツの法則,キーストロークレベルモデル 3.4 人間の欲求」 3.5 人間の行動発現モデル	配布資料（ワークシート） リグレクションシート①
	第 4 回 ヒューマンエラー 4.1 ヒューマンエラーとは 《ためしてみよう(構え)》 《ためしてみよう(ゲシュタルト特性)》 - 4.2 ヒューマンエラーの種類と原因 4.3 ヒューマンエラーの生起モデル 《知っておこう(メタファ)》 4.4 ヒューマンエラーへの予防的対策 4.5 ヒューマンエラーへの対処的対策 4.6 生産現場の異常管理	配付資料（ワークシート） 課題②
	第 5 回 人間サイドからの設計 5.1 ユーザエクスペリエンス設計 5.2 人間中心設計 - 《ためしてみよう(メンタルモデル)》 5.3 ユーザインタフェース設計原則 5.4 ユーザインタフェース設計工程 5.5 ユーザインタフェース仕様書 5.6 プロトタイピング	配布資料（ワークシート） リグレクションシート②
	第 6 回 入力系設計 6.1 情報入力系の分類 6.2 キーボード/タッチパネル 《知っておこう(デファクトスタンダード)》 6.3 ポインティングデバイス 6.4 音声認識システム 6.5 画像認識システム	配布資料（ワークシート） 課題③

	6.6 文字認識システム	
	第 7 回 出力系設計 7.1 情報出力系の分類 7.2 ディスプレイ 7.3 力覚ディスプレイ 7.4 音声合成システム 《ためしてみよう(立体知覚)》 7.5 コンピュータグラフィックス生成システム	配布資料（ワークシート） リグレクションシート③
	第 8 回 インタラクション系設計 8.1 インタラクション系設計のステップ 8.2 ユーザ分析とタスク分析 8.3 インタラクティブスタイル設計 《ためしてみよう(チャンク,再生と再認)》 8.4 メニューの構造 8.5 メニューの種類 《ためしてみよう(時間知覚)》 8.6 応答時間	配布資料（ワークシート） 小テスト①
	第 9 回 GUI 設計 9.1 GUI 設計の基本 《ためしてみよう(シグニファイアとナッジ)》 9.2 作業効率性 9.3 わかりやすさを高める表示 《ためしてみよう(色彩知覚)》 《ためしてみよう(脳と微分)》 9.4 ユーザ受容性 9.5 頑健性・安全性 9.6 画面レイアウトとウィジェット 9.7 ウィジェットの配置	配布資料（ワークシート） 課題④
	第 10 回 ユーザのアシスト 10.1 ヘルプ 《知っておこう(条件づけ学習と学習曲線)》 10.2 チュートリアル 10.3 マニュアル 10.4 AI インタフェース 10.5 人間とシステムの協調	配布資料（ワークシート） 小テスト 授業感想
	第 11 回 ユーザビリティ評価 11.1 ユーザビリティの評価方法 11.2 ユーザビリティの定量化と指標 11.3 主観指標の尺度 11.4 尺度構成法	配布資料（ワークシート） 課題⑤
	第 12 回 インタラクションの拡張 12.1 バーチャルリアリティ 12.2 オーグメンテッドリアリティ - 12.3 マルチモーダルインタフェ 12.4 ノンバーバルインタフ 12.5 感性インタフェース	配布資料（ワークシート） 授業感想
	第 13 回 モバイルコンピューティングにおけるヒューマンインタフェース 13.1 モバイル情報機器のインタフェース 13.2 スマートフォンアプリのユーザインタフェース 13.3 Web アプリケーションのユーザインタフェース	配布資料（ワークシート） 課題⑥

	《ためしてみよう(メンタルローテーション)》 13.4 空間移動サポート 13.5 ウェアラブルコンピュータ/ウェアラブル端末 13.6 本人認証 《ためしてみよう(スモールワールド現象)》 13.7 ソーシャルメディア	
	第 14 回　ユニバーサルデザイン 14.1 バリアフリーデザインからユニバーサルデザインへ - 《ためしてみよう(障がい者や高齢者の立場で操作)》 14.2 ユニバーサルデザインの設計 14.3 ユニバーサルデザインの例 14.4 情報系のユニバーサルデザイン	配布資料（ワークシート） 参照リンク 小テスト 授業ふりかえり
	第 15 回 ヒューマンインタフェースの新しい動きと諸課題 15.1 実世界指向インタフェース 15.2 アンビエントインタフェース 15.3 ブレインマシンインタフェース 15.4 ヒューマンインタフェースの諸課題	小テスト② アピールシート

1.授業コード（ナンバリング）	CMP208-Y01	2.科目名	ウェブプログラミング演習 I	3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史				
5.授業科目の区分	講義	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年以降
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	対面		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	授業のテーマ及び到達目標 1)　Web ページの記述言語の基本について説明できる 2)　HTML＋CSS に関して全体的な説明ができる 3)　テキストエディタを使って HTML と CSS を記述できる 4)　様々なウェブデザインスキルを演習問題に適用できる 5)　Web クリエイター（エキスパート）能力認定試験に必要な知識を習得する ウェブページは様々なビジネスシーンにおいて、情報共有の基本手段となっており、記述言語 HTML とスタイルシート、画像データなどで構成されている。Web クリエイターは、ウェブサイトをデザイ				
18.学習目標とＤＰとの関連	(6) 専門的知識・技能 の活用力 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際を想定した場面で活用することができます。 HTML/CSS を学ぶ事で、これらの専門的知識・技能の基礎を学びます。				
19.教科書・教材	これだけで基本がしっかり身につく HTML/CSS＆Web デザイン 1 冊目の本,Capybara Design 竹内 直人, 竹内 瑠美 著				
20.参考文献	初心者からちゃんとしたプロになる HTML+CSS 標準入門,おのれいこ, 栗谷 幸助, 相原 典佳, 塩谷 正樹, 中川 隼人				
21.成績評価	毎週の作業および課題 13 回：65% 最終課題の途中報告 2 回：10% 定期試験の代わりに HTML に関する課題を提出：25%				
22.コメント	ノート PC を必ず毎回持ってきてください。 授業は教科書と補助資料を使用しながら進めます。 大切な事は自分で手を動かすことです。 授業を聞いて頭の中で理解したと思っても実際に手を動かすと書けないことが多いかと思います。 そのため、毎回、教科書の復習と関連課題を課します。 1 時半 30 分程度を目安としますので必ず 1 週間の中でどの時間帯に復習と課題を行うのか決めておいてください。 私のオフィスアワーの時間に一緒に復習や課題をするのも良いかと思うので、 その時間に授業がなければオフィスアワーに一緒に復習と課題をしましょう。 また、このような新しい言語を勉強するとよく分からなくて、苦しくなることが多々あります。 一つの解消法は「慣れる」ことです。「理解する」のも大事ですが、慣れるのも大事です。 苦しいと感じたら、毎日、教科書をほんの少しだけ見て、タグに慣れてください。				
23.オフィスアワー	金曜日の昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	環境構築の準備と HTML の基礎知識	第一回で環境構築をするので必ず環境構築を

		終わらせてください。環境構築が授業内で終わらなかった場合はオフィスアワーなども活用してください。
	HTML の基礎知識（1）	教科書の P.61 までの内容を 2 回にかけて行います。そのため、P.61 までの内容を予習・復習してください。
	HTML の基礎知識（2)と演習	教科書の P.61 までの内容を 2 回にかけて行います。そのため、P.61 までの内容を予習・復習してください。
	CSS の基礎（1）	教科書の P.93 までの内容を 3 回にかけて行います。そのため、P.93 までの内容を予習・復習してください。
	CSS の基礎（2）	教科書の P.93 までの内容を 3 回にかけて行います。そのため、P.93 までの内容を予習・復習してください。
	CSS の基礎（3）と CSS の演習	教科書の P.93 までの内容を 3 回にかけて行います。そのため、P.93 までの内容を予習・復習してください。
	HTML+CSS 実践（1）	教科書の P.139 までの内容を 3 回にかけて行います。そのため、P.139 までの内容を予習・復習してください。
	HTML+CSS 実践（2）	教科書の P.139 までの内容を 3 回にかけて行います。そのため、P.139 までの内容を予習・復習してください。
	HTML+CSS 実践（3）	教科書の P.139 までの内容を 3 回にかけて行います。そのため、P.139 までの内容を予習・復習してください。
	HTML+CSS 実践　II（1）	教科書の P.207 までの内容を 4 回にかけて行います。そのため、P.207 までの内容を予習・復習してください。
	HTML+CSS 実践　II（2）	教科書の P.207 までの内容を 4 回にかけて行います。そのため、P.207 までの内容を予習・復習してください。
	HTML+CSS 実践　II（3）	教科書の P.207 までの内容を 4 回にかけて行います。そのため、P.207 までの内容を予習・復習してください。
	HTML+CSS 実践　II（4）	教科書の P.207 までの内容を 4 回にかけて行います。そのため、P.207 までの内容を予習・復習してください。
	自由制作(1)：サイト構成とデザイン案の作成	自由に考え、サイトを作ってください。最終課題として提出します。
	自由制作(2)：HTML と CSS を用いたコーディング	自由に考え、サイトを作ってください。最終課題として提出します。

1.授業コード（ナンバリング）	CMP209-Y01	2.科目名	情報セキュリティ論 （隔週）	3.単位数	2
4.授業担当教員	森井昌克				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件	1 年生春学期開講科目「ICT リテラシー」を履修済であることが望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義科目		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目は DX（デジタルトランスレーション）の時代において、個人として社会生活を生き抜くためのサイバー社会での危機管理能力を身に着け、更には所属するであろう企業や組織をサイバー攻撃から守る方法を与える。 【概要】 学ぶべき項目をキーワードとして挙げる。コンピュータ、スマホ、プライバシーの漏えい、情報漏えい、インターネット、LINE、Twitter、バカッター、誹謗中傷、フィッシング詐欺、SNS、SMS、パスワード、指紋認証、顔認証、バイオメトリック認証、AI、QR コード、電子決済、スマホ決済、ブロ				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の （1）自律的で主体的な態度（自律性） （2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） （4）問題発見・解決力 （6）専門的知識・技能の活用力 の学修に関連しています。本科目の学修目標は以下の通りです。 ①サイバー社会で自分を守る知識と技術を身に付ける。 ②サイバー社会の成り立ちを基にして、その危険性を俯瞰し、危機管理能力を身に付ける。 ③サイバー社会での犯罪行為、その技法、そして対策について概要を理解する。 ④組織において、サイバーセキュリティ対策を企画し、実践することが出来る。				
19.教科書・教材	特に指定しない。				
20.参考文献	森井教授のサイバーフィジカルセキュリティ講座 ～安心・安全な社会を目指して～ https://www.jdsf.gr.jp/security/index.html YAHOO！JAPAN ニュース　オーサーコラム（森井教授の怪奇骨董技術箱） https://news.yahoo.co.jp/byline/moriimasakatsu NHK クローズアップ現代 仕組まれた罠(わな)　～ＰＣ遠隔操作の闇～ https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/3263/index.ht				
21.成績評価	評価の方法と配点は以下のとおりである。 ①講義内容に関する課題レポート　30 点 ②原則毎回講義後に行われる小テスト　20 点 ③最終試験（最終課題レポートに代える場合もある）　50 点				
22.コメント	メールや WebClass に設置した質問箱で質問が出来ます。質問にはできる限り即応しますが、数日後になる可能性もあります。				

23.オフィスアワー	特に指定しませんが、講義後、もしくはメールでアポイントを取ってください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	情報セキュリティとは	
第 2 回	プライバシーを守る	
第 3 回	ネットにおける誹謗中傷とその対策	
第 4 回	インターネットの仕組みとその問題点	
第 5 回	スマホとは何か、そのセキュリティ上の問題点	
第 6 回	パスワード	
第 7 回	個人認証技術（IC カード、バイオメトリック認証）	
第 8 回	AI とそのセキュリティ	
第 9 回	ハッキングとしての不正アクセス	
第 10 回	サイバー攻撃	
第 11 回	マルウェア（コンピュータウイルス）	
第 12 回	ランサムウェア	
第 13 回	QR コード	
第 14 回	無線 LAN セキュリティ	
第 15 回	総論（最近の事件分析とその動向）	

1.授業コード（ナンバリング）	CMP211-Y01	2.科目名	Python プログラミング演習	3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択科目	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	対面授業で自身のノート PC で実習する		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 1)　Python プログラミングの必要性について説明できる 2)　Python の基本環境づくりやインストールができる 3)　Python の基本的な構文について説明でき、どのような動作しているのかを理解できる 4)　Python 簡単なプログラムのコーティングができる 【概要】 Python はシンプルで、可読性と汎用性の高いプログラミング言語である。データの統計解析、AI 応用・機械学習、IoT データ活用など、Python はあらゆる分野のライブラリが充実しており、幅広い応用分野で使われている。本科				
18.学習目標とＤＰとの関連	1) Python プログラミングの必要性について説明できる 2) Python の基本環境づくりやインストールができる 3) Python の基本的な構文について説明でき、どのような動作しているのかを理解できる 4) Python 簡単なプログラムのコーティングができる 上記は専門的知識・技能 の活用力に関連しています。				
19.教科書・教材	スッキリわかる Python 入門, 国本大悟 （著), 須藤秋良 （著), 株式会社フレアリンク（監修）				
20.参考文献					
21.成績評価	各回の演習・確認問題・課題で評価を行う ：50% 小テスト ：50% 小テストはコードを読み、その内容を理解することを問うテストとします。 4 回を予定しています。 小テストの欠席や小テストの点数が 60%を切る学生については、 教室外学習の教科書のノートをまとめる作業の提出を求める。				
22.コメント	後期の ICT 応用 A(データサイエンス実践基礎)を取る事を強くおすすめします。 ICT 応用 A(データサイエンス実践基礎)も Python を使った授業です。 データ解析に関わる内容はそちらに移動させているので、 こちらの授業は文法や基礎的なライブラリ、AI などの演習を中心に実施しています。 授業の後半の内容は進捗に合わせて変化させます。 演習を中心に行いますので、 応用であるライブラリの説明等は ICT 応用 A(データサイエンス実践基礎)に任せることになるかと思います。				
23.オフィスアワー	金曜日の昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第一回	オリエンテーションおよび Python の概要と開発環境	Python を実行できる環境を必ずこの回で作り上げてください。

		教科書 P.30 までを読んでノートにまとめてください。
第二回	四則演算、変数、条件式と分岐、反復処理の文法を学ぶ	教科書 P.34-47 をノートにまとめてください。
第三回	変数、条件式と分岐、反復処理の詳細と演習	教科書 P.48-63 をまとめてください。
第四回	変数、条件式と分岐、反復処理の詳細と演習（2）	教科書 P.64-77 までをノートにまとめよ。
第五回	リスト	
第六回	リストに関する演習	
第七回	変数、条件式と分岐、反復処理、リスト等の演習と小テスト	
第八回	関数	
第九回	関数の演習	
第十回	標準ライブラリとその演習	
第十一回	関数とライブラリに関する演習と小テスト	
第十二回	Stable diffusion の Python での使用方法について	
第十三回	今までの内容の復習および演習（1）	
第十四回	今までの内容の復習および演習（2）	
第十五回	今までの内容の小テストおよびクラス、クラスに関する演習	

1.授業コード（ナンバリング）	CMP301-Y01	2.科目名	クラウドコンピューティング	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本敏幸				
5.授業科目の区分	専門教育科目 基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	3 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件	ICT リテラシー、情報系基礎科目、データサイエンス系科目を履修済みだと理解が深まる。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・ハンズオン演習		
16.履修制限	なし。教職を目指す学生には有用。				
17.授業の目的と概要	概要： 　情報社会の有効性と問題点を認識し、主体的に判断して行動できる未来社会に貢献できる人財育成の基礎となる授業です。 　これまでに人類が培ってきた情報ネットワーク技術の仕組み（クラウドコンピューティング）と社会におけるその役割と有用性を正しく理解して活用できるようになることをめざします。最先端の情報ネットワーク技術を倫理的且つ効率的且つ適切に活用して、未来社会が豊かになるように問題解決にむけた基礎的な実践応用能力を習得していきます。 テーマ： ICT を活用した社会の諸問題の解決のために、これまでに身				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科?の学習?標（＝?につくスキル）は次の通りです。 1.　クラウドコンピューティングの社会的な役割、種類、役割、構成、セキュリティについて説明できる 2.　IaaS, PaaS, SaaS に関する基本概念、活用法について説明できる 3.　ビジネス形態、業種ごとの業務フローの問題解決に向けて、モデル開発のデザインができる 4.　ネットワークを介した情報データフロー、ファイル交換、設定、利用方法などの基本的なクラウドコンピューティングスキルを場面に応じて適切に実行することができる（ユーザー視点） 5.　クラウドを含めた情報ネットワーク技術に関する基本的な設定方法や環境設定、IT スキルを場面に応じて問題解決時に適切に実行することができる（情報ネットワーク管理者の視点） [関連するディプロマポリシー] （1）?律性（3）多様性理解（4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	イラスト図解式 「この一冊で全部わかるクラウドの基本」 第 2 版 単行本 ? 2019/4/20 林雅之 （著） SB Creative 図解まるわかり クラウドのしくみ 単行本（ソフトカバー） ? 2020/9/3 西村 泰洋 （著） 翔泳社 クラウド時代のネットワーク入門 要素技術、設計運用の基本、ネットワークパターン 単行本（ソフトカバー） ? 2021/2/8 翔泳社 図解即戦力 Google Cloud のしくみと技術がこれ 1 冊でしっかりわかる教科書 単行本（ソフトカバー） ? 2021/				

20.参考文献	授業中に適宜資料を配付する。
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 （1） 学習ふりかえりシートの提出×15 回 （?標 1 ・2・3 に対応） 40% →ふりかえりシートの提出は WebClass 上で実施します。 →ふりかえりシートは全項目に回答したもののみ提出と見なします。 →提出期限は、原則授業中です。各回の授業の最後の方で指?します。 （2）協働による学びと成長の促進のためクラスメイトの学びの成果にも関心を示し、思いやりとサポートを実践していきましょう。演習課題への相互コメント （
22.コメント	・各回の授業で提?される予習・復習は、下表の「26. アサインメント（宿題）など」の欄に記載しています。（個?差はありますが）それぞれ 120 分程度の作業となることを想定しています。
23.オフィスアワー	月曜日昼休み 学習支援センター（1 号館 2 F） （別途：メール予約で受付）

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	コース概要と説明、オリエンテーション オリエンテーション：ライフロングラーニングの観点から見た、本授業のカリキュラムにおける位置づけ、本授業の概要、到達目標、評価基準、授業の進め方等 資料 1 ワークシート 1	ふりかえりシートの提出
第 2 回	【学内のネットワーク】 オンプレミス型ネットワークとクラウド型ネットワーク アカデミックな学びを支えるクラウド型情報ネットワークについて： 身近なアカデミックなネットワーク環境からクラウドについて正しく理解する 資料 2 ワークシート 2	学内ネットワークとクラウドの関連性について確認していることをポンチ絵で描いて提出 ◆ふりかえりシート、ワークシートの提出
第 3 回	【クラウドネットワークを活用する】 学内ネットワークで使える様々な学習支援サービス（ユニバーサル・パスポート、WebClass、Microsoft 365、Teams、学内ファイル共有サービスなど） について確認し、クラウドサービスの種類ごとに分類整理してみる。 資料 3 ワークシート 3	学内ネットワーク：クラウドサービスについて確認していることをポンチ絵で描いて提出 ◆ふりかえりシート、ワークシートの提出
第 4 回	【クラウドコンピューティングについて】：クラウドの利用モデル、安全性と信頼性、メリット・ディメリット 資料 4 ワークシート 4	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第 5 回	【クラウドコンピューティングについて】：SaaS, PaaS,IaaS、 & クラウドのサービスとその利用 資料 5 ワークシート 5	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第 6 回	【クラウドコンピューティングについて】：SaaS,	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出

	PaaS,IaaS、＆　クラウドのサービスとその利用（２） 実践演習：SaaS 典型的なサービスを実際に操作しながら、PMI 分析をしていきます 資料６ ワークシート６	
第７回	【クラウドコンピューティングについて】：SaaS, PaaS,IaaS、＆　クラウドのサービスとその利用（３） 実践演習：SaaS　（続き） 資料７ ワークシート７	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第８回	【クラウドコンピューティングについて】：SaaS, PaaS,IaaS、MaaS ＆　クラウドのサービスとその利用（４） 実践演習：PaaS 典型的なサービスを実際に操作しながら、PMI 分析をしていきます 資料８ ワークシート８	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第９回	【クラウドコンピューティングについて】：SaaS, PaaS,IaaS、＆　クラウドのサービスとその利用（５） 実践演習：PaaS　（続き） 資料９ ワークシート９	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第 10 回	【クラウドコンピューティングについて】：SaaS, PaaS,IaaS、＆　クラウドのサービスとその利用（６） 実践演習：IaaS 典型的なサービスを実際に操作しながら、PMI 分析をしていきます 資料１０ ワークシート１０	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第 11 回	【クラウドコンピューティングについて】：SaaS, PaaS,IaaS、＆　クラウドのサービスとその利用（７） 実践演習：IaaS　（続き） 資料１１ ワークシート１１	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第 12 回	演習：クラウドコンピューティングについて、倫理的視点から有効性と問題点を考える 資料１２ ワークシート１２	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第 13 回	実践演習：本演習（第 13～14 回）では、ある特定の業種、サービス、ビジネスモデルを想定し、DX 時代のクラウドサービスによるビジネス展開をシミュレーショ	◆各グループで決めたクラウド開発環境で開発を進める ◆ワークシート、ふりかえりシートの提出

	ンし、最適なクラウドサービス環境を構築提案する。 その際に、これまでに学習し、実践的に活用してきたビジュアル・オーガナイザー（情報検索・収集・整理・分析し、表現・伝達・発信等のシンキングツール）と情報ネットワーク技術を融合する。 そして、総合的な情報ネットワーク（クラウドコンピューティング）のスキルレベルを上げる。 資料１３ ワークシート１３	
第 14 回	実践演習：本演習（第 13～14 回）では、ある特定の業種、サービス、ビジネスモデルを想定し、DX 時代のクラウドサービスによるビジネス展開をシミュレーションし、最適なクラウドサービス環境を構築提案する。 その際に、これまでに学習し、実践的に活用してきたビジュアル・オーガナイザー（情報検索・収集・整理・分析し、表現・伝達・発信等のシンキングツール）と情報ネットワーク技術を融合する。 そして、総合的な情報ネットワーク（クラウドコンピューティング）のスキルレベルを上げる。 資料１４ ワークシート１４	◆Padlet キャンバスで共有 ◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第 15 回	学びのふりかえり、自己評価、ポートフォリオ記述 ／　総評 ◆　授業アンケート	◆ふりかえりシート提出

1.授業コード（ナンバリング）	CMP303-Y01	2.科目名	人工知能の基礎	3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	3 年 春
10.取得資格の要件	DS 教育プログラムの選択科目 G 検定・データサイエンス検定系資格	11.先修条件	Python プログラミングや Jupyter Notebook の基本がわかる		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義＋演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的： 最近，対話型 AI の ChatGPT などの生成 AI が登場して世間の注目を集めており、世界に大きなインパクトを与えている。AI やデータサイエンスの技術は、文系・理系を問わず様々な分野で利活用が可能で、大学生の誰もが身につけるべき基礎的なスキルと考えられている。この講義では、人工知能の基礎として、データを扱う基方法と、機械学習、ディープラーニングなどといった AI 特有のデータ処理技法を、実例を通して実践的に学ぶ。また、 AI の倫理と社会的影響のトッピングもとりあげて学習する。 概要： カリキュラムの内				
18.学習目標とＤＰとの関連	1．AI の基本、AI の種類とその応用、AI の技術と方法について理解している。 2．データサイエンス・機械学習のためのプログラミング環境構築や基本ライブラリを理解している。 3．機械学習の基本、機械学習の典型的モデルおよびその応用について理解している。 4．深層学習の基本、ニューラルネットワークの実装と簡単な応用について理解している。 5．AI における偏見と公平性など、AI の倫理や社会的影響に関わる課題について理解している。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発見・解決力（6）専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	教科書：「AI 機械学習入門」　インフォテック・サーブ社 教　材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する				
20.参考文献	参考書：必要に応じて紹介する。				
21.成績評価	演習課題(60%)、中間テスト(20%)、ワークシート(20%) ・演習課題の取組：10 回 X6＝60 点 【学習?標① ④ ⑤に対応】 ・小テスト：2 回 X20＝20 点 【学習?標①～③、⑤に対応】 中間小テスト・期末小テストの 2 回 ・ワークシート：5 回 X4＝20 点 【学習?標② ③ ⑤に対応】				
22.コメント	ノート PC を利?するので，PC 持参すること				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 木曜 3 限（神戸山手） 研究室オフィスアワー 木曜お昼（神戸山手）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 1 回 ガイダンス ・科?の概要と?的，到達?標，全体の流れなどの説明 1.1　AI の概要 （歴史・第 3 次 AI ブーム） 1.2　AI の種類と応用（推論・探索・知識ベース・機械	★毎回 PC 必携

	学習） 1.3　AI プログラミング環境構築	
	第 2 回　生成系 AIーChatGPT の使用について 2.1　ChatGPT の仕組み 2.2　ChatGPT の要素技術 2.3　ChatGPT の使用方法と標準的プロンプトの書き方 2.4　教育現場での利用を考えよう（学生の場合）	配布資料 課題①
	第 3 回 機械学習の概要と環境構築 3.1 機械学習とビッグデータ解析 3.2 機械学習の分類 3.3 学習環境の構築	配付資料 KPT シート①
	第 4 回 機械学習のライブラリ 4.1　仮想 ML 環境の構築と Jupyter Notebook 4.2　Numpy、matplotlib、pandas のインストールと確認 4.3　scikit-learn、TensorFlow のインストールと確認	配付資料 課題②
	第 5 回　NumPy の基本と応用 5.1　NumPy のデータ型 5.2　配列の変形と生成 5.3　線形代数の復習	配付資料 KPT シート②
	第 6 回　Matplotlib の基本と応用 6.1　Matplotlib とデータの可視化 6.2　１次元データと２次元データグラフ 6.3　データセットで作成演習	配付資料 課題③
	第 7 回　Pandas の基本と応用 7.1　Pandas の主なデータ構造 7.2　DataFrame の基本 7.3　DataFrame とデータの操作	配付資料 KPT シート③
	第 8 回　クラスタリングと教師なし学習 8.1　クラスタリングの基本 8.2　KMeans 法について 8.3　混合分布モデル 中間試験	配付資料 小テスト①
	第 9 回 機械学習と回帰分析 9.1　回帰分析とは 9.2　scikit-learn での線形回帰 9.3　重回帰分析	配付資料 課題④
	第 10 回　深層学習と画像処理 10.1　MINST のデータ構造 10.2　画像データの生成 10.3　画像データの読み込み	配付資料 KPT シート④
	第 11 回　サポートベクトルマシンと分類問題 11.1　SVM の利用 11.2　分析性能の向上 11.3　応用問題	配付資料 課題⑤
	第 12 回　ロジスティクス回帰 12.1　ロジスティック回帰の仕組み	配付資料

	12.2　ロジスティック回帰の利用 12.3　実の分類問題に適応	KPT シート⑤
	第 13 回　深層学習と NLP 13.1　人工ニューロの仕組み 13.2　自然言語処理の基本 13.3　形態素解析、構文解析、意味解析	配付資料 課題⑥
	第 14 回　人工知能の法と倫理 14.1　AI システム開発・運用 14.2　AI における注意点 14.3　設計・開発段階の課題	配付資料 小テスト② 授業感想
	第 15 回　全体のまとめ 15.1　AI の最新動向 15.2　期末テスト 15.3　学習成果のアピールシート	全体の振り返り アピールシート

1.授業コード（ナンバリング）	CNP101-M71	2.科目名	地域ふれあい実習		3.単位数	1
4.授業担当教員	畑吉節未、鵜飼知鶴、楳田恵子					
5.授業科目の区分	看護師国家試験　指定科目	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件	看護師国家試験　必須科目		11.先修条件	地域在宅看護論の単位を取得していること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	臨地実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 地域で生活する人々の中で人と関わる力を養い、人々の生活と生活の場である地域を理解し、その人にとっての健康とは何かを考える。また人々が健康を維持・増進するための支援について考察を深める。					
18.学習目標とＤＰとの関連	【DP との関連】本科目の内容は看護学科 DP：(1) 自律的で主体的な態度（自律性）(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）(4) 問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル　の土台となる科目である。 【到達目標】 １．地域で生活する人々に関心を持ち、相手の立場を考えながら人と関わる力を養う。 1） 対象者や家族を尊重する態度を養う。 2） 対象者や家族の生活に関心を持ち、傾聴する態度を習得する。 3） 対象者の生活を健康の視点から対象者と共に考える姿勢を養う。 4） 対象者や家族の健康を維持・ 増進する活動に積極的に参加する。 ２．地域で生活する人々を健康の維持・増進の視点から理解する。 1） 地域で生活する人々の発達段階と発達課題、その世代の健康状態や健康課題の特徴について知る。 2） 地域で生活する人々が毎日の生活をどのように送っているかを知る。 3） 地域で生活する人々の健康に関する価値観について知り、健康を維持・増進するための生活習慣や健康行動を知る。 ３．地域で生活する人々と家族が生活する場とその地域の特性と社会資源を知る。 1）地域で生活する人々と家族が生活する場とその地域の特性を知る。 2）地域で生活する人々や家族が生活する地域の社会資源について考えることができる。 ４.地域で生活する人々を理解し、健康を維持・増進するための支援について考察する。 1）地域で生活する人々や家族の健康が、生活する地域と関連していることについて理解する。 2） 地域で生活する人々の健康を維持・増進するための支援について考察する。					
19.教科書・教材	臺有桂ほか編著：ナーシンググラフィカ　地域在宅看護論①地域療養を支えるケア第 7 版、メディカ出版　2022					
20.参考文献	随時紹介する					
21.成績評価	事前学習課題（10%）、実習記録（30%）、カンファレンスへの取り組み（10%）、学習成果発表会（20%）、最終レポート課題（20%）、態度（10%）とする。					
22.コメント	本実習は、実習グループのゼミ単位で Program Based Learning として地域活動を行います。先行科目「地域・在宅看護論」で準備した実習計画に基づき、グループメンバーで協力しながら主体的に進めます。					
23.オフィスアワー	オフィスアワー；畑（水曜日昼休み） センターオフィスアワー；畑（木曜日昼休み）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
8/5(月)	事前学習 1）実習オリエンテーション 2）グループ別事前学習、実習計画、インタビューガイド作成	・実習要項 ・地域・在宅看護論で作成した地域マップ、実習計画等、関連資料持参のこと
8/6(火)	〔臨地〕 多様な場、多様な世代・対象とのふれ合い 学生個々が生活している地域 ・地域の特性、地域アセスメントについてのまとめ ・地区探索 ・地域で生活している人々とその家族等へのインタビュー ・「実習計画書」の追加・修正を行う。 この取り組みを通して多様な発達段階にある人々や多様な世代・対象の集いの場に出かけ、場の特徴や、発達段階ごとの健康観、健康行動について理解する。	
9/9(月)	〔臨地〕 大学周辺の地域 ・グループで「地域探索マップ」を作成する。	
9/10(火)	〔臨地〕 午前：大学周辺の地域 ・地区探索および、地域の人々へのインタビュー グループ毎に三木市内の小地区（青山、緑が丘、自由が丘）の探索を行い 、人々の生活と地域の特徴および健康の維持・ 増進との関連について理解を深める。 対象者へのインタビューを通して、対象の生活、暮らし、健康等について考える。 午後：グループワーク ・地区探索についての学びをまとめる	
9/11(水)	〔臨地〕 午前：地区探索および、地域の人々へのインタビュー 対象者へのインタビューを通して、対象の生活、暮らし、健康等について考える。 午後：グループワーク ・地区探索についての学びをまとめる	実習要項、実習記録
9/12（木）	〔臨地〕 午前：グループワーク ・様式３の発表および共有 午後：PM 個別学習 記録およびレポートのまとめ	

1.授業コード（ナンバリング）	CNP102-M71	2.科目名	基礎看護学実習Ⅰ（早期体験実習）	3.単位数	1
4.授業担当教員	蛭子真澄、梅田智子、紀ノ岡浩美、志保田幸子				
5.授業科目の区分	看護分野における実務経験のある教員による専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	早期体験学習として位置づけ、看護専門職者となるための学習の動機づけを図ることをねらいとする。 医療施設において、病棟や外来などの看護実践の場に赴き、療養環境を把握するとともに、対象者の療養・診療の援助、自立の援助などの看護活動を見学・学習し、対象の健康ニーズと対応する看護専門職者の役割・機能について理解を深め、学習の方向性と在り方を探求し、今後の自己の学習目的を定める。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性)、(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解)、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技術の活用力 に対応しています。 １．病院の構造及び機能システムを知る。 ２．病棟の機能・システムおよび病床環境について知る。 ３．入院患者の状況や看護援助の実際及び看護師の役割について知る。 ４．実習内容をもとに、今後の自己の学習課題について考えることができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	実習内容、態度、記録から評価する。 実習内容 70%・実習に取り組む言動・行動 10%・記録 20%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	蛭子：センターオフィスアワー：水曜日 3 時間目（第 1 看護学実習室）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	期間：8 月第 3・4 週予定 別途、オリエンテーション日を設ける 詳細については、基礎看護学実習Ⅰ要項参照	

1.授業コード（ナンバリング）	CNP202-M71	2.科目名	在宅看護学実習Ⅰ	3.単位数	1
4.授業担当教員	畑吉節未、鵜飼知鶴、楳田恵子				
5.授業科目の区分	看護師国家試験　指定科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期～秋学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年生
10.取得資格の要件	看護師国家試験　必須科目	11.先修条件	地域・在宅看護論と地域ふれあい実習の単位を修得していること		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	臨地実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【実習目的】地域包括ケアシステムにおける、介護予防活動、母子保健活動、自助・互助活動を通し、地域で生活する人々の健康課題と地域特性に応じた支援を学び、あらゆる発達段階や健康状態にある人々の生活を支援する基礎的能力を養う。 【実習概要】 地域包括ケアシステムにおける自助・互助・共助・公助の仕組みとそれを支える活動について学び、あらゆる発達段階・健康状態にある対象者に対し、その人らしい健康で安寧な生活をおくるために必要な資源について学ぶ。また、その資源の一つである看護大学の学生として、介護予防活動、認知症予防				
18.学習目標とＤＰとの関連	【DP との関連】本科目の内容は、DP との関連】本科目の内容は看護学科 DP：3)多様性理解、4）問題発見・解決力の基礎力構築の土台となる科目である。GW を主とした授業展開の中で DP:1)自律性、5）コミュニケーションスキルの強化・促進につながり、三木市という身近な地域、地域住民、社会資源について理解を深め、対象者の対象の年齢・健康状態を考慮した、参加者の強みを引き出し、健康的な生活に向けたセルフケア力の発揮を促す企画・運営を行う活動から DP：2)社会に能動的に貢献する力を養う。				
19.教科書・教材	臺有桂ほか編著：ナーシンググラフィカ　地域在宅看護論①地域療養を支えるケア第 7 版、メディカ出版　2022				
20.参考文献	適宜紹介する				
21.成績評価	１）事前学習課題 10%、 ２）活動の評価 30% （１）企画書作成等グループワーク参加度 10%、 （２）活動評価 10% （３）活動報告書 10% ３）実習目標の到達度 60% （１）実習記録 40%（日誌 20%、企画書 20%） （２）課題レポート 20%				
22.コメント	本実習は、地域ふれあい実習と同様に、実習グループのゼミ単位で Program Based Learning として地域活動を行います。グループメンバーで協力しながら主体的に進めます。				
23.オフィスアワー	オフィスアワー；畑（水曜日昼休み） センターオフィスアワー；畑（木曜日昼休み）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
8/20（火） 1～4 限	1 限　実習オリエンテーション（学内実習） 2 限　認知症サポーター養成講座（学内実習） 3 限 4 限　対象者に向けた健康活動の企画案、企画書作成 （教員の助言を受ける）（学内実習）	5 月に説明を受けた事前学習については、8 月 4 日までに担当教員に提出する。

（日程変更あり）8/21(水) 1~4 限	対象者に向けた健康活動の企画案、企画書作成（学内実習） （教員の助言を受ける）	
8/22（木） 1～4 限	対象者に向けた健康活動の企画案、企画書作成（学内実習） （教員の助言を受ける）	
8/23（金） 1～4 限	グループにて企画書・計画書（役割分担）・チラシ作成、必要物品購入、リハーサル	
10 月～1 月	月に 2 回土曜日、各グループ 1 回、絆カフェ・カリヨンにて企画内容の実施。 企画実施日には活動記録の撮影を行い、映像を含めた報告書を作成し、webclass に提出する。	

1.授業コード（ナンバリング）	CNP301-M01	2.科目名	急性看護学実習	3.単位数	3
4.授業担当教員	高見沢恵美子、野村浩、平野通子				
5.授業科目の区分	専門科目 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	3 年生
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限	基礎看護学実習Ⅱ・成人健康看護学概論・急性重症看護援助論・急性慢性看護技術演習、の単位を修得した看護学科学生				
17.授業の目的と概要	【目的】 急性期にある患者・家族が危機状況を乗り越え、治療や症状によってもたらされる心身への侵襲から速やかに回復し、セルフケア能力を発揮できるよう、急性期病棟で臨床患者への看護実践を通して急性看護学に関する援助を学修する。 【概要】 対象者の病態と手術による侵襲を理解し、合併症を予防し、術後変化した形態・機能の回復過程にあった療養生活に患者が主体的に取り組める援助の在り方を、看護過程を用いて学修する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)自律性、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門知識・技術の活用力と関連しています。 【学修目標】 1.手術を受ける術前患者の器質的・機能的障害と心理・社会的な状況を把握し、麻酔・手術の影響を予測し合併症を予防するための援助を行うことができる。 2.術後患者の合併症の予防及び手術により変化した形態・機能の回復段階に合わせて、日常生活の援助ができる。 3.術後患者が 主体的に療養生活に取り組めるよう、援助することができる。 4.手術を受ける患者・家族の健康上の問題を明らかにし、看護過程を展開できる。				
19.教科書・教材	成人健康看護学概論・急性重症看護援助論・疾病治療論Ⅱ等で配布された講義資料。				
20.参考文献	実習中適宜紹介する。				
21.成績評価	事前学習課題２０%(メールで連絡された周手術期看護についての課題) 実習記録３０% 実習での看護実践３０% 実習中学習課題１０%(実習病棟で多い手術とその合併症・検査・治療・看護、関連図、看護計画) 実習態度１０% ※※実習記録及び課題レポートを提出することが単位認定の前提となるので注意すること。				
22.コメント	受け持ち患者様に必要な看護が実施できるよう、主体的に学修する習慣を身につけましょう。				
23.オフィスアワー	実習中は随時相談してください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１週】	学内オリエンテーション	

月曜日		
火曜日	学内演習　記録物整理・患者の看護計画立案に必要な文献検討	
水曜日	病院実習　病棟・手術室・ICU オリエンテーション、情報収集	
木曜日	病院実習　受け持ち患者への看護過程の展開・関連図作成	
金曜日	病院実習　受け持ち患者への看護過程の展開、関連図についてのカファレンス	
【第 2 週】 月曜日	病院実習　受け持ち患者への看護過程の展開	
火曜日	学内演習　看護計画の修正	
水曜日	病院実習　受け持ち患者への看護過程の展開	
木曜日	病院実習　受け持ち患者への看護過程の展開、看護計画の修正	
金曜日	病院実習　受け持ち患者への看護過程の展開、看護計画のカンファレンス	
【第 3 週】 月曜日	病院実習　受け持ち患者への看護過程の展開、看護計画の修正	
火曜日	病院実習　受け持ち患者への看護過程の展開、看護計画の修正	
水曜日	病院実習　受け持ち患者への看護過程の展開、病棟最終カンファレンス	
木曜日	学内演習　記録物の整理、実習自己評価表記入	
金曜日	学内演習　記録物の整理、実習の振り返り	

1.授業コード（ナンバリング）	CNP302-M01	2.科目名	慢性看護学実習	3.単位数	3
4.授業担当教員	岩下真由美、白石夕起子、房間美恵				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	3 年生
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	慢性疾患や障がいをもちながら生活する患者とその家族が自己管理能力を高め、心身の不調と折り合いを付けながらその人らしく療養生活を継続できるよう支援を学修する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1) 自律性(2) 社会に能動的に貢献する姿勢(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力(4) 問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル(6) 専門的知識・技能 の活用力と関連しています。 1.疾病および治療の特徴、発達段階・発達課題、生活背景を踏まえ。患者を多角的・全体的に把握することができる。 2.慢性疾患や障がいをもちながら生活する患者の機能障害の回復と主体的・継続的なセルフケアを支援することができる。 3. 患者に行われる検査、治療、処置の必要性および留意点を踏まえて援助および介助ができる。 4.患者および家族に関わるチームメンバーと連携をとり援助できる。 5.患者の尊厳を重んじる態度、医療チームの一員としての誠実で謙虚な態度、自己研鑽しつづける態度を身につけることができる。				
19.教科書・教材	成人健康看護学概論、慢性看護援助論、急性・慢性看護技術演習、疾病治療論Ⅰなどで配布された講義資料				
20.参考文献	実習中適宜紹介する				
21.成績評価	1. 実習科目の出席時間数が当該科目の時間数の 5 分の 4 以上なければならない。 2. 実習到達目標に基づき作成された実習評価表をもとに評価する。				
22.コメント	主体的に実習に取り組みましょう。				
23.オフィスアワー	実習中は随時相談をしてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 週】 月曜日	【学内】 1. 慢性看護学実習オリエンテーション 2. 事前学習	・実習要綱 ・慢性看護学実習　実習要項
火曜日	【病棟】 1. 病棟オリエンテーション 2. 受け持ち患者の初期情報の収集 3. 受け持ち患者とのコミュニケーションをとりながら情報を集める	
水曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践 2.受け持ち患者のケアを看護師と一緒に行い信頼関係を築く	

木曜日	【学内】 1.受け持ち患者の看護に関する学習 2.実習記録（受け持ち患者の情報。アセスメント）の整理	
金曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践 2．カンファレンス：全体像（関連図)、看護問題の抽出	
【第 2 週】 月曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践	
火曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践 2. カンファレンス：看護計画の立案	
水曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践	
木曜日	【学内】 1. 実習記録（看護問題、短期目標、看護計画）の修正・追加 2. 受け持ち患者の看護の学習 3．中間評価	
金曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践	
【第 3 週】 月曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践	
火曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践	
水曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践 2. カンファレンス：まとめ、学びと課題	
木曜日	【学内】 1.グループごとのまとめ 2.統合カンファレンス 3.評価面接（個別）	
金曜日	【学内】 1.実習記録（全看護過程の展開）の修正・追加	

1.授業コード（ナンバリング）	CNP303-M01	2.科目名	精神看護学実習		3.単位数	2
4.授業担当教員	櫻井信人、西村美登里					
5.授業科目の区分	精神看護学分野における実務経験のある教員による専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師		11.先修条件	基礎看護学実習Ⅱ、精神健康看護学概論、精神看護援助論を修得済みの者		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【精神看護学実習の目的】 1）精神の健康に障害のある人とその家族を対象に、その人のこれまでの人生や生活を理解した上で必要な援助を実践する。 2）精神の健康に障害のある人がその人らしく自立して生活できるために必要なサポートシステムを理解する。 3）関係性を構築していく中で、自分のコミュニケーションパターンを振り返り、強みを生かしながら看護を実践する。 【精神看護学実習の概要】 精神科病院で実習を行なう予定である。実習では、学生は原則として１人の患者を受け持ち、これまでの講義で培った知識と技術を展開する。					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 【精神看護学実習の学習目標】 1）精神科病院の治療環境について述べることができる。 2）精神を病む人とのかかわりを通して、関係性の成立を理解し関係を形成できる。 3）精神を病む人を「人」として理解し看護計画を立案できる。 4） 精神を病むことによって生じる日常生活への影響を把握し、必要なケアを実践することができる。 5）精神を病む人が地域で生活する上で必要な支援の内容を述べることができる。 6）看護を提供するために不可欠な看護倫理に基づいた行動をとることができる。 詳細は精神看護学実習要項を参照すること。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	精神看護学実習要項の評価表を参照 1）精神科病院の治療環境や精神障害者の社会復帰について述べることができる。 ①人間の心の働き、②疾患について、③治療、④法律、⑤精神看護、⑥退院後の社会資源、⑦プロセスレコード A：国家試験問題 WEB は 9 割以上の正答率である。事前学習ノートを提出し、丁寧に記載できている。 B：国家試験問題 WEB は 8 割以上の正答率である。事前学習ノートを提出し、記載できている。 C：国家試験問題 WEB は 7 割以上の正答率である。事前学習ノートを提出している。 D：国家試験問題 WEB は 7 割以					
22.コメント	コロナウイルスの状況により実習内容が変更になることがあります。変更が生じた際はウェブ					

	クラスに掲示しますので、ウェブクラスを必ず確認してください。 実習前より自身の体調管理をしっかりとして、遅刻欠席はしないようにしましょう。 実習前の課題を必ず行い、これまでの学習を振り返り、知識を押さえた上で実習に挑みましょう。 実習形態にかかわらず積極的に学習を行ない、学びを深めていきましょう。
23.オフィスアワー	（櫻井）センターオフィスアワー水曜日１時間目、研究室オフィスアワー水曜日昼休み （西村）センターオフィスアワー水曜日昼休み、研究室オフィスアワー水曜１限時間目

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	精神看護学実習要項の実習スケジュールを参照	

1.授業コード（ナンバリング）	CNP304-M01	2.科目名	小児看護学実習	3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾ひとみ、黒川麻里				
5.授業科目の区分	専門科目 小児看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部　看護学科			9.履修学年	3 年
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格	11.先修条件	小児健康看護学概論 小児看護援助論 基礎看護学実習 II		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	発達過程にある子どもと家族の健康生活を踏まえ、病気や障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、必要な看護を実践できる基礎的能力を修得できる。				
18.学習目標とＤＰとの関連	DP1　自律的で主体的な態度 DP4　問題発見・解決力 DP6　専門的知識・技能の活用 1. 子どもの成長発達の特徴を理解し、関わることができる。 2. 受け持った子どもを総合的に理解し、個別性のある看護が展開できる。 3. 子どもと家族の健康を支えるための医療・福祉等の機能とそれらの連携について理解し、その中での看護の役割を考えることができる。 4. 看護専門職者としてふさわしい態度が修得できる。				
19.教科書・教材	特に指定しない				
20.参考文献					
21.成績評価	実習目標の達成度、出席状況、実習への取り組みから総合的に評価する。 実習目標の達成度の評価は、実習場面、実習記録によって行う。 保育園（所）実習、病院実習をあわせて小児看護学実習としてまとめて評価する。 ★実習レポートは 2 週間の実習を通じて、実習中にもった関心や問題意識、特に学びを深めたこと等からテーマを設定して作成する（詳細は小児看護学実習実習要項を参照する）。 ★実習記録・実習レポートの提出期限は、原則として実習終了翌週の月曜日 17 時までとするが、状況に応じて各グループ個別に指示することもある。				
22.コメント	事前学習を十分に行い、自分なりの目標をもって実習に臨むようにして下さい。 事前学習については、2021 年度 小児看護援助論の授業中に提示し、小児看護学実習の実習要項にも記載しています。学習内容はノートにまとめ、実習開始前の決められた期日までに提出すること（提出期日・場所は別途、指示します）。 なお、実習施設によっては追加での学習が必要とな内容があるため、その内容については別途、説明します。 ＊教科書や文献のコピーを貼っただけのものについては事前学習として認めません。内容が不十分なものについてはやり直しを命じます。				
23.オフィスアワー	中島　未定（決まり次第掲載します） 実習期間中には、必要に応じて適宜、質問や相談を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
実習開始前	小児看護学実習オリエンテーション 小児看護学実習に関する説明を行う。オリエンテーションの日時・場所については、事前に掲示にて連絡す	◆実習要綱 ◆小児看護学実習実習要項 を忘れずに持参すること

	る。 必ず掲示板を確認し、忘れずに出席すること。	
1 週間	【保育園（所）実習】 実習 1 日目、午前中に保育園（所）への事前訪問を行い、午後より学内で健康教育のリハーサルを行う。 実習 2〜3 日目は、三木市内の保育所・認定こども園にて実習を行う。3 日間の実習のうち、2・3 日目に子どもへの健康教育を行う。 実習 5 日目は、学内にて子どもの成長発達や対応についてカンファレンスを実施し、保育園（所）実習のまとめを行う。 （詳細は小児看護学実習実習要項を参照する）	★保育園（所）実習開始 2 週間前に検便検査を提出する（詳細は小児看護学実習オリエンテーションで説明する。検便検査キットは小児看護学実習オリエンテーションで配布する）。 ★毎日、実習目標を立てたうえで実習に臨み、実習終了後は実習記録を記載すること。
1 週間	【病院実習】 入院している 1 名の子どもを受け持ち、看護過程を展開し、看護援助を行う。実習期間中にはカンファレンスを行う。 （詳細は小児看護学実習実習要項を参照する）	★毎日、実習目標と行動計画を立てて実習に臨み、実習終了後には実習記録を記載すること。

1.授業コード（ナンバリング）	CNP305-M01	2.科目名	母性看護学実習	3.単位数	2
4.授業担当教員	有本梨花、吉沢豊子、吉田明莉				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	3 年
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格	11.先修条件	基礎看護学実習 II 母性健康看護学概論 母性看護援助論		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	周産期にある母と子およびその家族の特性を理解し、 よりウェルネスな健康状態の維持・増進のために必要な看護の知識・技術・態度を習得し、母性看護を実践できる基礎的能力を養う。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	１）妊産褥婦と新生児の身体的・心理的特徴が述べられる。 ２）妊産褥婦と新生児に対する、健康の維持・増進のための看護を計画できる。 ３）母子の愛着形成の促進および家族機能の構築のための援助について説明できる。 ４）母子とその家族に対する継続ケアと多職種連携・協働活動のありかたについて説明できる。 ５）将来の看護専門職者としての態度を習得する。 ［DP との関連］ 保健医療学部看護学科の DP である（1）自律的で主体的な態度（自律性）（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）（3）多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力、に関連する科目である。				
19.教科書・教材	母性健康看護学概論および母性看護援助論で使用した教科書 授業で作成した看護過程・関連図				
20.参考文献					
21.成績評価	母性看護学実習評価表を用いて実習記録・母性看護学実習レポート・事前準備学習内容を評価する。 （母性看護学実習ルーブリック評価表を使用） 実習状況 80%・課題レポート 10%・事前準備学習内容 10%				
22.コメント	母性看護学実習は対象者の特性から、展開がとても早いことと、母子両方の視点での看護が必要です。 主体的に事前学習をしっかり行い、効果的な学びができるようにしましょう。				
23.オフィスアワー	吉沢 有本　月曜日　昼休み 吉田 実習期間中には、必要に応じて適宜、質問や相談を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
実習前オリエンテーション	［実習オリエンテーション］ 実習と事前学習に関する説明を行います。 日時、場所等は別途連絡します。 必ず確認して、出席すること。	実習要綱、母性看護学実習要項は、この時に配布します。
1 週目	学内実習：月曜日～金曜日　9：00～16：30	

	臨地実習直前オリエンテーション 模擬事例（母子）展開・模擬実習・技術演習など	
2 週目	病棟実習 (１)1-3 名の学生が母子 1 組～2 組の妊産褥婦を受け持ち、指導のもとで実習する。 (２)受け持ちは、主として、経膣分娩または帝王切開術の褥婦と新生児を 1 組受け持つ。 (３)受け持ちは、臨地指導者と教員で協議の上、選定し、妊産褥婦の承諾を得て決定する。 (４)産婦の承諾が得られた場合、分娩第 1 期から第 4 期までの産婦の看護を指導者とともに実施する。 原則として毎日カンファレンスを行う。	実習終了時には、母性看護学実習を通して、学びを深めたことについて具体的なテーマを設定し、気づきや考えたことなど、自己の課題をレポートにして提出する。 実習記録、レポートは実習最終日１７時に提出するが状況に応じて個別に指示することもある。

1.授業コード（ナンバリング）	CNP306-M01	2.科目名	老年看護学実習	3.単位数	2
4.授業担当教員	原本久美子、髙田美子、八木良子				
5.授業科目の区分	看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部　看護学科			9.履修学年	3 年生
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格	11.先修条件	基礎看護学実習 II 老年健康看護学概論 老年看護援助論		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】病棟での臨地実習を通して老年期にある対象の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化の特徴と、人生の統合期である発達課題を理解し、対象に応じた看護実践能力を養うことを目的とする。 【概要】病院実習では、老年期という発達段階にある受け持ち患者を総合的に理解し、病態と対象者が有する資源とを結び付け、生活機能の再構築の観点からの看護過程を学ぶ。さらに、実習を通して高齢者を取り巻く保健・医療・福祉分野の多職種との連携の実際と看護の役割の理解、及び高齢者の自尊心や価値観を尊重する態度の修得と自己の老年観を養うこと				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 ① 老年期にある対象を総合的に理解することができる。 ② 情報を病態・対象者が有する資源と結び付け生活機能の観点からのアセスメントと看護の焦点化ができる。 ③ 対象者の発達段階に応じた自律と生活機能の再構築を目指した援助を提供することができる。 ④ 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉分野の多職種との連携の実際と看護の役割を理解することができる・ ⑤ 高齢者の自尊心や価値観を尊重する態度と自己の老年観を養う 【DP との関連】 DP1 自律的で主体的な態度 DP3 多様性理解 DP4 問題発見・解決能力 DP5 コミュニケーション能力 DP6 専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	系統看護学講座　専門分野 II　老年看護学　医学書院 リンダ J. カルペニート；看護診断ハンドブック第 12 版，医学書院				
20.参考文献	亀井智子編；根拠と事故防止から見た老年看護技術，医学書院. 山田律子他編；生活機能からみた老年看護過程，医学書院. 藤崎郁；フィジカルアセスメント完全ガイド，Gakken				
21.成績評価	(中間評価、最終評価の方法等) 対象の理解　15% 事学習課題、病院の実習記録と振り返りレポート 65% カンファレンス貢献度・実習態度 20%				

	＊詳細は老年看護学実習要項を参照
22.コメント	事前学習として老年看護学概論や老年看護援助論、および疾病治療論(老年)の内容を復習してから実習に参加しましょう。
23.オフィスアワー	原本火曜日 9：30～10：30（メディアライブラリー） 高田： 八木：

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週 月曜日	老年看護学実習要項を参照 病棟オリエンテーション 受持ち紹介、情報収集 ※実習病院は 5 病院 11 病棟を使用するため、詳細は別紙で説明する。 ※状況によって遠隔となる場合は別紙で対応する。	事前学習は、要項 p.1 を参照する。 事前にリーダー決定 カンファレンス 「患者紹介」
火曜日	ケアに参加しながら受け持ち患者の情報収集 　患者と一緒の行動、コミュニケーション、記録から全体像を把握する フィジカルアセスメント開始	提出:実習記録①②③情報のアセスメント カンファレンス「コミュニケーションについて」
水曜日	ケアに参加しながら受け持ち患者の情報収集 ※実習記録①②③を用いて実習指導者と看護診断のセッション	カンファレンス「看護の方向性について」
木曜日	学内実習　記録の整理 ①～④について立案した計画に沿ったケア計画の検討・修正 看護の方向性について	学内日
金曜日	実習指導者に実習記録③④⑤を提出、ケアに参加しながら受け持ち患者の情報収集 　実習記録③④⑤を提出	中間カンファレンス
第 2 週 月曜日	実習指導者に実習記録④⑤を提出(立案した看護診断のうち 1 つは、介入計画を立案) 立案した計画に沿ったケアを行いながら計画の検討・修正	カンファレンス「介入計画を実施して気づいたこと」
火曜日	実習指導者に実習記録④⑤を提出(立案した看護診断のもう 1 つの介入計画を立案) 立案した計画に沿ったケアを行いながら計画の検討・修正	「老年期の特徴をとらえた関わり方について」
水曜日	立案した計画に沿ったケアを行いながら、計画の検討・修正	カンファレンステーマは、学生が企画する。
木曜日	立案した計画に沿ったケアを行いながら、計画の検討・修正	最終カンファレンス　合同 　実習の学びの振り返り 技術チェックリスト 　指導者にサインをいただく
金曜日	学内	記録提出:最終日の 17:00 まで教務課

	実施・評価の発表 2 週間を振り返って	

1.授業コード（ナンバリング）	CNP307-M01	2.科目名	在宅看護学実習 II	3.単位数	1
4.授業担当教員	畑吉節未、鵜飼知鶴、楳田恵子				
5.授業科目の区分	専門科目 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	3 年生
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件	基礎看護実習 II 在宅看護学概論 在宅看護援助論		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【実習目的】 在宅看護学では、在宅ケア・看護の特徴と在宅療養者および家族について学習し、さらに在宅における看護実践について学習をすすめてきました。本実習では、在宅ケアの対象者やケアチームのメンバーに直接的に関わることを通じて、在宅ケアの対象者について理解を深めると共に、在宅での看護実践から地域包括ケアシステムにおける訪問看護師の果たす役割と継続看護の必要性について、考察を深めることをねらいとします。				
18.学習目標とＤＰとの関連	以下、Ｃ(cognitive;知識)、Ｐ(psychomotor;技術)、Ａ(affective;態度)を示す。 １．在宅療養者とその家族について理解する。 Ｃ１）在宅療養者の日常生活の特徴を理解する。 Ｃ２）在宅療養者の疾病・障害及び発達段階の特徴を理解する。 Ｃ３）生活環境の特徴、介護状況・家族関係について把握し、療養生活への影響を理解する。 Ａ４）在宅療養者および家族の生活スタイルや生活信条に気づくことができる。 ２．「対象者」と「療養の場」の特性に応じた看護援助の実際を理解し、その提供に努める。 Ｐ１）直接的ケア、教育・指導的援助、介護負担の軽減、相談等の看護の実際について記述する。 Ｐ２）実施された援助の意義について考察し、記述する。 Ｐ３）訪問看護師の指導の下、必要な看護援助を実施する。 Ｐ４）上記を通じて、訪問看護師の役割について理解する。 ３．地域包括ケアシステムにおける多職種との協働・連携と看護の役割について理解する。 Ｃ１）実習施設である訪問看護ステーションの設立目的・役割と機能・看護方針・スタッフ構成・利用方法・地域の特性等について理解する。 Ｐ２）在宅療養者の社会資源の利用状況と導入方法を知り、その必要性を理解する。 Ｐ３）関係他者（機関）との連携の方法を知り、その必要性を理解するとともに、看護の役割について説明できる。 ４．専門職業人として人と関わる基本的態度を養う。 Ｐ１）生活の場に出向く看護職に必要なマナーを理解し、実践する。 Ａ２）対象者の意思を尊重した関わりの必要性と援助の実際を理解する。				
19.教科書・教材	在宅看護学概論・在宅看護援助論等で配布された講義資料。テキスト				
20.参考文献	適宜、指示します。				

21.成績評価	事前学習 5%、実習記録 65%、課題レポート 20%、カンファレンス 10%、	
22.コメント	主体的に学習し、行動しましょう。	
23.オフィスアワー	実習中は随時相談してください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
月曜日	事前学習（訪問事例ん看護過程を含む）１週間 施設オリエンテーション、同行訪問	
火曜日	同行訪問	
水曜日	同行訪問	
木曜日	同行訪問、最終カンファレンス	
金曜日	学内カンファレンス、実習記録・レポートのまとめ、 面接等	

1.授業コード（ナンバリング）	CRE201-A01	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ（教育福祉）	3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武大、上原昭三、大西洋史、吉田裕彦				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。				
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 2023.4 あわせて、適宜必要な資料を配布します。				
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'23』成美堂出版 2021.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2022 年版』 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にあたここで会おう」Kindle 版　講談社　2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド　業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版　2021.5 その他、メディア･ライブラリーやキャリア･サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。				
21.成績評価	■ワークシート　40%　（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 ＝自己アピール　（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ 10% 4.成長確認シート（活動結果・目標追加設定）10%				
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。				

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次)」の受講をすすめます。(学科によっては必修)
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～　1 ■ この授業の意義（オリエンテーション） ■ 現代社会において、多くの職業があることを知り、特定の職業について調べる。 テキスト第１章	○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。60 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第２回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～　2 ■ 特定の職業について調べた内容を見せる資料としてまとめる。 ■ 特定の職業について発表する。 テキスト第１章	○ ワークシート１　150 分 ○ テキスト第１章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第３回	職業研究１ ～ライフデザインと職業について～ ■ 人はなぜ働くのか。職業や働き方は多様化し、会社で求められる能力も仕事や立場で変わることを理解する。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。 テキスト第２章	○ ワークシート２　150 分 ○ テキスト第２章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第４回	職業研究２ ～会社の仕事を時間軸で見る～ ■ 仕事はチームで分業と協業によって行われていることを理解する。 ■ 会社の仕事は１日・１週間・１年の時間を単位にして進行する。 ■ 身近な人にインタビューをしてライフと仕事との関係をとらえる。 テキスト第３章	○ ワークシート３　150 分 ○ テキスト第３章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第５回	企業研究１ ～様々な業界を知る～ ■ 世の中にどのような業界があるのか、また、業界を詳しく調べる方法を理解する。 ■ 特定の業界に絞って、業界の特徴を調べる。 テキスト第４章	○ ワークシート４　150 分 ○ テキスト第４章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第６回	企業研究２ ～企業像をとらえる～ ■ 個別の企業の事業内容、経営方針、経営成績などを調べる方法を知る。	テキスト第５章　ノート PC 必要 ○ ワークシート５　150 分 ○ もう一度テキストを読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分

	■ 特定の業界に絞り、代表的な企業を調べ、比較してみる。 テキスト第 5 章	○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会や企業を取り巻く環境（特に IT 革命）がどのように変化してきているのかを理解する。 ■ 業界について将来のシナリオを描いてみる。 テキスト第 6 章	テキスト第 6 章　ノート PC 必要 ○ ワークシート 6　150 分 ○ もう一度テキストを読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ これまでの自分をふりかえり、自己イメージを活性化する。 ■ 職業選択理論の 6 つの職業タイプで自己イメージを描く。 ■ 理想の自己イメージを思い描く。 テキスト第 7 章	テキスト第 7 章 ○ ワークシート 7　150 分 ○配付する追加テキスト第 7 章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 9 回	自分の強み弱みを知る～SWOT 分析～ ■大学での学びや経験を整理して、自分の強み/弱みを把握する。 テキスト第 9 章	○ ワークシート 8　150 分 ○ テキスト第 9 章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■マンダラートを使って、目標をさらに掘り下げる。 ■これまでにどのようなキャリアを積んできたのかを考え、自分の人生で何を大切にしているのかを考える。 配付資料	○ ワークシート 9　150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 11 回	キャリア目標からキャリアプランへ ■ 自分だけのキャリアマップの作り方を学ぶ。 ■ 自己分析マップを描く手法を修得する。 配付資料	○ ワークシート 10　150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 12 回	自分のことを他者に伝える ■ 進路先と自己をつなげる進路先マップをつくる。 ■ 自己 PR を作成する。 配付資料	○ ワークシート 11　150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■プレゼンテーション原稿の作成と発表のリハーサ	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。

	ル。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピールプレゼンテーション資料を作成する。 ■自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。	○ 自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。　210 分
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■グループの代表者は全体で発表する。 ■授業アンケート	○最終課題を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE201-A02	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ（経営 1）	3.単位数	2
4.授業担当教員	河内山潔				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。				
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 2023.4 あわせて、適宜必要な資料を配布します。				
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'23』成美堂出版 2021.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2022 年版』 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう」Kindle 版　講談社　2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド　業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版　2021.5 その他、メディア･ライブラリーやキャリア･サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。				
21.成績評価	■ワークシート　40%　（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 ＝自己アピール　（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ 10% 4.成長確認シート（活動結果・目標追加設定）10%				
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。				

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次)」の受講をすすめます。(学科によっては必修)
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～　1 ■ この授業の意義（オリエンテーション） ■ 現代社会において、多くの職業があることを知り、特定の職業について調べる。 テキスト第１章	○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。60 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第２回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～　2 ■ 特定の職業について調べた内容を見せる資料としてまとめる。 ■ 特定の職業について発表する。 テキスト第１章	○ ワークシート１　150 分 ○ テキスト第１章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第３回	職業研究１ ～ライフデザインと職業について～ ■ 人はなぜ働くのか。職業や働き方は多様化し、会社で求められる能力も仕事や立場で変わることを理解する。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。 テキスト第２章	○ ワークシート２　150 分 ○ テキスト第２章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第４回	職業研究２ ～会社の仕事を時間軸で見る～ ■ 仕事はチームで分業と協業によって行われていることを理解する。 ■ 会社の仕事は１日・１週間・１年の時間を単位にして進行する。 ■ 身近な人にインタビューをしてライフと仕事との関係をとらえる。 テキスト第３章	○ ワークシート３　150 分 ○ テキスト第３章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第５回	企業研究１ ～様々な業界を知る～ ■ 世の中にどのような業界があるのか、また、業界を詳しく調べる方法を理解する。 ■ 特定の業界に絞って、業界の特徴を調べる。 テキスト第４章	○ ワークシート４　150 分 ○ テキスト第４章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第６回	企業研究２ ～企業像をとらえる～ ■ 個別の企業の事業内容、経営方針、経営成績などを調べる方法を知る。	テキスト第５章　ノート PC 必要 ○ ワークシート５　150 分 ○ もう一度テキストを読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分

	■ 特定の業界に絞り、代表的な企業を調べ、比較してみる。 テキスト第 5 章	○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会や企業を取り巻く環境（特に IT 革命）がどのように変化してきているのかを理解する。 ■ 業界について将来のシナリオを描いてみる。 テキスト第 6 章	テキスト第 6 章　ノート PC 必要 ○ ワークシート 6　150 分 ○ もう一度テキストを読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ これまでの自分をふりかえり、自己イメージを活性化する。 ■ 職業選択理論の 6 つの職業タイプで自己イメージを描く。 ■ 理想の自己イメージを思い描く。 テキスト第 7 章	テキスト第 7 章 ○ ワークシート 7　150 分 ○配付する追加テキスト第 7 章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 9 回	自分の強み弱みを知る～SWOT 分析～ ■大学での学びや経験を整理して、自分の強み/弱みを把握する。 テキスト第 9 章	○ ワークシート 8　150 分 ○ テキスト第 9 章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■マンダラートを使って、目標をさらに掘り下げる。 ■これまでにどのようなキャリアを積んできたのかを考え、自分の人生で何を大切にしているのかを考える。 配付資料	○ ワークシート 9　150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 11 回	キャリア目標からキャリアプランへ ■ 自分だけのキャリアマップの作り方を学ぶ。 ■ 自己分析マップを描く手法を修得する。 配付資料	○ ワークシート 10　150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 12 回	自分のことを他者に伝える ■ 進路先と自己をつなげる進路先マップをつくる。 ■ 自己 PR を作成する。 配付資料	○ ワークシート 11　150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■プレゼンテーション原稿の作成と発表のリハーサ	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。

	ル。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピールプレゼンテーション資料を作成する。 ■自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。	○ 自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。　210 分
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■グループの代表者は全体で発表する。 ■授業アンケート	○最終課題を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE201-A03	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ（経営 2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤勝洋				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。				
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。				
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'24』成美堂出版 2022.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2023 年版』2022.8 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう」講談社　2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド　業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版　2021.5 その他、メディア･ライブラリーやキャリア･サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。				
21.成績評価	■ワークシート　40%　（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 ＝自己アピール　（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ　10% 4.ふりかえりワークシート　10%				
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。				

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次)」の受講をすすめます。(学科によっては必修)
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回 (04/11)	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施	○ワークシート１－１ 150 分 ○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 02 回 (04/18)	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1ー２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 03 回 (04/25)	職業研究 1 ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート 2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 04 回 (05/02)	職業研究 2 ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート 3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 05 回 (05/09)	企業研究 1 ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート 4 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第 06 回 (05/16)	企業研究 2 ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ ワークシート 5 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 07 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～	○ ワークシート 6ー１、６－２ 150 分

(05/23)	■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 08 回 (05/30)	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「 理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7ー1、7－2、7－3 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 09 回 (06/06)	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8ー1、8－2、8－3 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 10 回 (06/13)	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9ー1、9－2　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 11 回 (06/20)	キャリアプラン～何から始めればいいの？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10ー1、10ー2　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 12 回 (06/27)	自分のことを人にどう伝えればいいの？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11ー1、11ー2　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 13 回 (07/04)	自己アピール 1 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成と発表のリハーサル。	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 14 回 (07/11)	己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピールプレゼンテーション資料を作成す る。 ■自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿	○ 自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。　210 分

	（1250 字程度）を 作成する。	
第 15 回 (07/18)	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■グループの代表者は全体で発表する。 ■授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE201-A04	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ（経営 3）	3.単位数	2
4.授業担当教員	本田あけみ				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。				
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。				
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'25 年版』成美堂出版 2024.4 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2024 年版』2023.8 3）瀧本哲史『2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう』星海社新書　2020.4 4）マイナビ出版編集部『マイナビ 2025　オフィシャル就活 BOOK　内定獲得のメソッド　業界＆職種研究ガイド』マイナビ出版　2023.5 その他、メディア･ライブラリーやキャリア･サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。				
21.成績評価	■ワークシート　40%　（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 ＝自己アピール　（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ　10% 4.ふりかえりワークシート　10%				
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。				

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次)」の受講をすすめます。(学科によっては必修)
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日昼休み 研究室オフィスアワー：金曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施	○ワークシート１－１ 150 分 ○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第２回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1ー２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第３回	職業研究１ ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第４回	職業研究２ ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート３－１、３－２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第５回	企業研究１ ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート４ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第６回	企業研究２ ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ ワークシート５ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分

第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ ワークシート 6ー１、６－２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「 理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7ー１、７－２、７－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8ー１、８－２、８－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9ー１、９－２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいの？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10ー１、10ー２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいの？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11ー１、11ー２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成と発表のリハーサル。	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。	自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。　210 分

	■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE201-M01	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ　（経営_1/3）	3.単位数	2
4.授業担当教員	林万平				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学部			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。				
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。				
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'25 年版』成美堂出版 2024.4 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2024 年版』2023.8 3）瀧本哲史『2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう』星海社新書　2020.4 4）マイナビ出版編集部『マイナビ 2025　オフィシャル就活 BOOK　内定獲得のメソッド　業界＆職種研究ガイド』マイナビ出版　2023.5 その他、メディア･ライブラリーやキャリア･サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。				
21.成績評価	■ワークシート　40%　（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 ＝自己アピール　（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ　10% 4.ふりかえりワークシート　10%				
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。				

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次)」の受講をすすめます。(学科によっては必修)
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室オフィスアワー：

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施	○ワークシート１－１ 150 分 ○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 2 回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1ー２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 3 回	職業研究 1 ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート 2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 4 回	職業研究 2 ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート３－１、３－２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 5 回	企業研究 1 ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート 4 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第 6 回	企業研究 2 ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ ワークシート 5 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分

第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ ワークシート 6ー１、６－２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「 理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7ー１、７－２、７－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8ー１、８－２、８－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9ー１、９－２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいの？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10ー１、10ー２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいの？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11ー１、11ー２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成と発表のリハーサル。	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。	自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。　210 分

	■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE201-M02	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ　（経営_2/3）	3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。				
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清　編『夢をかなえるキャリアデザイン』くろしお出版　2011 年 あわせて、適宜必要な資料を配布します。				
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'23』成美堂出版 2021.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2022 年版』 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にあたここで会おう」Kindle 版　講談社　2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド　業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版　2021.5 その他、メディア･ライブラリーやキャリア･サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。				
21.成績評価	■ワークシート　40%　（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 ＝自己アピール　（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ 10% 4.成長確認シート（活動結果・目標追加設定）10%				
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。				

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次)」の受講をすすめます。(学科によっては必修)
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～　1 ■ この授業の意義（オリエンテーション） ■ 現代社会において、多くの職業があることを知り、特定の職業について調べる。 テキスト第１章	○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。60 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第２回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～　2 ■ 特定の職業について調べた内容を見せる資料としてまとめる。 ■ 特定の職業について発表する。 テキスト第１章	○ ワークシート１　150 分 ○ テキスト第１章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第３回	職業研究１ ～ライフデザインと職業について～ ■ 人はなぜ働くのか。職業や働き方は多様化し、会社で求められる能力も仕事や立場で変わることを理解する。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。 テキスト第２章	○ ワークシート２　150 分 ○ テキスト第２章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第４回	職業研究２ ～会社の仕事を時間軸で見る～ ■ 仕事はチームで分業と協業によって行われていることを理解する。 ■ 会社の仕事は１日・１週間・１年の時間を単位にして進行する。 ■ 身近な人にインタビューをしてライフと仕事との関係をとらえる。 テキスト第３章	○ ワークシート３　150 分 ○ テキスト第３章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第５回	企業研究１ ～様々な業界を知る～ ■ 世の中にどのような業界があるのか、また、業界を詳しく調べる方法を理解する。 ■ 特定の業界に絞って、業界の特徴を調べる。 テキスト第４章	○ ワークシート４　150 分 ○ テキスト第４章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第６回	企業研究２ ～企業像をとらえる～ ■ 個別の企業の事業内容、経営方針、経営成績などを調べる方法を知る。	テキスト第５章　ノート PC 必要 ○ ワークシート５　150 分 ○ もう一度テキストを読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分

	■ 特定の業界に絞り、代表的な企業を調べ、比較してみる。 テキスト第 5 章	○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会や企業を取り巻く環境（特に IT 革命）がどのように変化してきているのかを理解する。 ■ 業界について将来のシナリオを描いてみる。 テキスト第 6 章	テキスト第 6 章　ノート PC 必要 ○ ワークシート 6　150 分 ○ もう一度テキストを読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ これまでの自分をふりかえり、自己イメージを活性化する。 ■ 職業選択理論の 6 つの職業タイプで自己イメージを描く。 ■ 理想の自己イメージを思い描く。 テキスト第 7 章	テキスト第 7 章 ○ ワークシート 7　150 分 ○配付する追加テキスト第 7 章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 9 回	自分の強み弱みを知る～SWOT 分析～ ■大学での学びや経験を整理して、自分の強み/弱みを把握する。 テキスト第 9 章	○ ワークシート 8　150 分 ○ テキスト第 9 章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■マンダラートを使って、目標をさらに掘り下げる。 ■これまでにどのようなキャリアを積んできたのかを考え、自分の人生で何を大切にしているのかを考える。 配付資料	○ ワークシート 9　150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 11 回	キャリア目標からキャリアプランへ ■ 自分だけのキャリアマップの作り方を学ぶ。 ■ 自己分析マップを描く手法を修得する。 配付資料	○ ワークシート 10　150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 12 回	自分のことを他者に伝える ■ 進路先と自己をつなげる進路先マップをつくる。 ■ 自己 PR を作成する。 配付資料	○ ワークシート 11　150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■プレゼンテーション原稿の作成と発表のリハーサ	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。

	ル。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピールプレゼンテーション資料を作成する。 ■自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。	○ 自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。　210 分
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■グループの代表者は全体で発表する。 ■授業アンケート	○最終課題を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE201-M03	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ　（経営_3/3）	3.単位数	2
4.授業担当教員	百濟正和				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。				
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清　編『夢をかなえるキャリアデザイン』くろしお出版　2011 年 あわせて、適宜必要な資料を配布します。				
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'23』成美堂出版 2021.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2022 年版』 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にあたここで会おう」Kindle 版　講談社　2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド　業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版　2021.5 その他、メディア･ライブラリーやキャリア･サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。				
21.成績評価	■ワークシート　40%　（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 ＝自己アピール　（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ 10% 4.成長確認シート（活動結果・目標追加設定）10%				
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。				

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次)」の受講をすすめます。(学科によっては必修)
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～　1 ■ この授業の意義（オリエンテーション） ■ 現代社会において、多くの職業があることを知り、特定の職業について調べる。 テキスト第１章	○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。60 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第２回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～　2 ■ 特定の職業について調べた内容を見せる資料としてまとめる。 ■ 特定の職業について発表する。 テキスト第１章	○ ワークシート１　150 分 ○ テキスト第１章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第３回	職業研究１ ～ライフデザインと職業について～ ■ 人はなぜ働くのか。職業や働き方は多様化し、会社で求められる能力も仕事や立場で変わることを理解する。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。 テキスト第２章	○ ワークシート２　150 分 ○ テキスト第２章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第４回	職業研究２ ～会社の仕事を時間軸で見る～ ■ 仕事はチームで分業と協業によって行われていることを理解する。 ■ 会社の仕事は１日・１週間・１年の時間を単位にして進行する。 ■ 身近な人にインタビューをしてライフと仕事との関係をとらえる。 テキスト第３章	○ ワークシート３　150 分 ○ テキスト第３章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第５回	企業研究１ ～様々な業界を知る～ ■ 世の中にどのような業界があるのか、また、業界を詳しく調べる方法を理解する。 ■ 特定の業界に絞って、業界の特徴を調べる。 テキスト第４章	○ ワークシート４　150 分 ○ テキスト第４章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第６回	企業研究２ ～企業像をとらえる～ ■ 個別の企業の事業内容、経営方針、経営成績などを調べる方法を知る。	テキスト第５章　ノート PC 必要 ○ ワークシート５　150 分 ○ もう一度テキストを読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分

	■ 特定の業界に絞り、代表的な企業を調べ、比較してみる。 テキスト第 5 章	○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会や企業を取り巻く環境（特に IT 革命）がどのように変化してきているのかを理解する。 ■ 業界について将来のシナリオを描いてみる。 テキスト第 6 章	テキスト第 6 章　ノート PC 必要 ○ ワークシート 6　150 分 ○ もう一度テキストを読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ これまでの自分をふりかえり、自己イメージを活性化する。 ■ 職業選択理論の 6 つの職業タイプで自己イメージを描く。 ■ 理想の自己イメージを思い描く。 テキスト第 7 章	テキスト第 7 章 ○ ワークシート 7　150 分 ○配付する追加テキスト第 7 章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 9 回	自分の強み弱みを知る～SWOT 分析～ ■大学での学びや経験を整理して、自分の強み/弱みを把握する。 テキスト第 9 章	○ ワークシート 8　150 分 ○ テキスト第 9 章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■マンダラートを使って、目標をさらに掘り下げる。 ■これまでにどのようなキャリアを積んできたのかを考え、自分の人生で何を大切にしているのかを考える。 配付資料	○ ワークシート 9　150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 11 回	キャリア目標からキャリアプランへ ■ 自分だけのキャリアマップの作り方を学ぶ。 ■ 自己分析マップを描く手法を修得する。 配付資料	○ ワークシート 10　150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 12 回	自分のことを他者に伝える ■ 進路先と自己をつなげる進路先マップをつくる。 ■ 自己 PR を作成する。 配付資料	○ ワークシート 11　150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■プレゼンテーション原稿の作成と発表のリハーサ	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。

	ル。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピールプレゼンテーション資料を作成する。 ■自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。	○ 自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。　210 分
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■グループの代表者は全体で発表する。 ■授業アンケート	○最終課題を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE201-Y01	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ　（心理_1/3）	3.単位数	2
4.授業担当教員	大松光寿				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。				
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。				
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'25 年版』成美堂出版 2024.4 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2024 年版』2023.8 3）瀧本哲史『2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう』星海社新書　2020.4 4）マイナビ出版編集部『マイナビ 2025　オフィシャル就活 BOOK　内定獲得のメソッド　業界＆職種研究ガイド』マイナビ出版　2023.5 その他、メディア･ライブラリーやキャリア･サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。				
21.成績評価	■ワークシート　40%　（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 ＝自己アピール　（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ　10% 4.ふりかえりワークシート　10%				
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。				

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次)」の受講をすすめます。(学科によっては必修)
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日昼休み 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施	○ワークシート１－１ 150 分 ○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第２回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1ー２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第３回	職業研究１ ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第４回	職業研究２ ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート３－１、３－２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第５回	企業研究１ ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート４ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第６回	企業研究２ ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ ワークシート５ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分

第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ ワークシート 6ー１、６－２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「 理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7ー１、７－２、７－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8ー１、８－２、８－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9ー１、９－２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいの？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10ー１、10ー２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいの？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11ー１、11ー２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成と発表のリハーサル。	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。	自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。　210 分

	■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE201-Y02	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ　（心理_2/3）	3.単位数	2
4.授業担当教員	髙橋浩樹				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。				
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。				
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'25 年版』成美堂出版 2024.4 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2024 年版』2023.8 3）瀧本哲史『2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう』星海社新書　2020.4 4）マイナビ出版編集部『マイナビ 2025　オフィシャル就活 BOOK　内定獲得のメソッド　業界＆職種研究ガイド』マイナビ出版　2023.5 その他、メディア･ライブラリーやキャリア･サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。				
21.成績評価	■ワークシート　40%　（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 ＝自己アピール　（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ　10% 4.ふりかえりワークシート　10%				
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。				

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次)」の受講をすすめます。(学科によっては必修)
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日昼休み 研究室オフィスアワー：金曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施	○ワークシート１－１ 150 分 ○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第２回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1ー２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第３回	職業研究１ ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第４回	職業研究２ ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート３－１、３－２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第５回	企業研究１ ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート４ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第６回	企業研究２ ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ ワークシート５ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分

第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ ワークシート 6ー１、６－２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「 理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7ー１、７－２、７－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8ー１、８－２、８－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9ー１、９－２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいの？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10ー１、10ー２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいの？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11ー１、11ー２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成と発表のリハーサル。	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。	自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。　210 分

	■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE201-Y03	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ　（心理_3/3）	3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。				
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。				
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'25 年版』成美堂出版 2024.4 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2024 年版』2023.8 3）瀧本哲史『2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう』星海社新書　2020.4 4）マイナビ出版編集部『マイナビ 2025　オフィシャル就活 BOOK　内定獲得のメソッド　業界＆職種研究ガイド』マイナビ出版　2023.5 その他、メディア･ライブラリーやキャリア･サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。				
21.成績評価	■ワークシート　40%　（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 ＝自己アピール　（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ　10% 4.ふりかえりワークシート　10%				
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。				

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次)」の受講をすすめます。(学科によっては必修)
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：木曜日２限 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施	○ワークシート１－１ 150 分 ○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第２回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1ー２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第３回	職業研究１ ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第４回	職業研究２ ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート３－１、３－２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第５回	企業研究１ ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート４ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第６回	企業研究２ ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ ワークシート５ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分

第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ ワークシート 6ー１、６－２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「 理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7ー１、７－２、７－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8ー１、８－２、８－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9ー１、９－２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいの？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10ー１、10ー２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいの？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11ー１、11ー２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成と発表のリハーサル。	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。	自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。　210 分

	■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE201-Y04	2.科目名	仕事とキャリア形成 （社会学科 21 年度生用）	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本敏幸				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義(演習含む)		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。				
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清　編『夢をかなえるキャリアデザイン』くろしお出版　2011 年 あわせて、適宜必要な資料を配布します。				
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'23』成美堂出版 2021.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2022 年版』 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にあたここで会おう」Kindle 版　講談社　2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド　業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版　2021.5 その他、メディア･ライブラリーやキャリア･サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。				
21.成績評価	■ワークシート　40%　（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 ＝自己アピール　（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ 10% 4.成長確認シート（活動結果・目標追加設定）10%				
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。				

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次)」の受講をすすめます。(学科によっては必修)
23.オフィスアワー	第１回目の授業でアナウンスします。 __曜日　昼休み　１号館２F（メディアサポートセンター内）

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～　1 ■ この授業の意義（オリエンテーション） ■ 現代社会において、多くの職業があることを知り、特定の職業について調べる。 テキスト第１章	○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。60 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第２回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～　2 ■ 特定の職業について調べた内容を見せる資料としてまとめる。 ■ 特定の職業について発表する。 テキスト第１章	○ ワークシート１　150 分 ○ テキスト第１章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第３回	職業研究１ ～ライフデザインと職業について～ ■ 人はなぜ働くのか。職業や働き方は多様化し、会社で求められる能力も仕事や立場で変わることを理解する。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。 テキスト第２章	○ ワークシート２　150 分 ○ テキスト第２章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第４回	職業研究２ ～会社の仕事を時間軸で見る～ ■ 仕事はチームで分業と協業によって行われていることを理解する。 ■ 会社の仕事は１日・１週間・１年の時間を単位にして進行する。 ■ 身近な人にインタビューをしてライフと仕事との関係をとらえる。 テキスト第３章	○ ワークシート３　150 分 ○ テキスト第３章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第５回	企業研究１ ～様々な業界を知る～ ■ 世の中にどのような業界があるのか、また、業界を詳しく調べる方法を理解する。 ■ 特定の業界に絞って、業界の特徴を調べる。 テキスト第４章	○ ワークシート４　150 分 ○ テキスト第４章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第６回	企業研究２ ～企業像をとらえる～ ■ 個別の企業の事業内容、経営方針、経営成績などを	テキスト第５章　ノート PC 必要 ○ ワークシート５　150 分 ○ もう一度テキストを読み返し、学習した事

	調べる方法を知る。 ■ 特定の業界に絞り、代表的な企業を調べ、比較してみる。 テキスト第 5 章	柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会や企業を取り巻く環境（特に IT 革命）がどのように変化してきているのかを理解する。 ■ 業界について将来のシナリオを描いてみる。 テキスト第 6 章	テキスト第 6 章　ノート PC 必要 ○ ワークシート 6　150 分 ○ もう一度テキストを読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ これまでの自分をふりかえり、自己イメージを活性化する。 ■ 職業選択理論の 6 つの職業タイプで自己イメージを描く。 ■ 理想の自己イメージを思い描く。 テキスト第 7 章	テキスト第 7 章 ○ ワークシート 7　150 分 ○配付する追加テキスト第 7 章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 9 回	自分の強み弱みを知る～SWOT 分析～ ■大学での学びや経験を整理して、自分の強み/弱みを把握する。 テキスト第 9 章	○ ワークシート 8　150 分 ○ テキスト第 9 章を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■マンダラートを使って、目標をさらに掘り下げる。 ■これまでにどのようなキャリアを積んできたのかを考え、自分の人生で何を大切にしているのかを考える。 配付資料	○ ワークシート 9　150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 11 回	キャリア目標からキャリアプランへ ■ 自分だけのキャリアマップの作り方を学ぶ。 ■ 自己分析マップを描く手法を修得する。 配付資料	○ ワークシート 10　150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 12 回	自分のことを他者に伝える ■ 進路先と自己をつなげる進路先マップをつくる。 ■ 自己 PR を作成する。 配付資料	○ ワークシート 11　150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。

	■プレゼンテーション原稿の作成と発表のリハーサル。	・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピールプレゼンテーション資料を作成する。 ■自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。	○ 自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。　210 分
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■グループの代表者は全体で発表する。 ■授業アンケート	○最終課題を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE201-Y08	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ　（G コミ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤創					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	G コミ学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。					
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'24』成美堂出版 2022.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2023 年版』2022.8 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう」講談社　2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド　業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版　2022.5 その他、メディア･ライブラリーやキャリア･サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。					
21.成績評価	■ワークシート　40%　（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 ＝自己アピール　（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ　10% 4.ふりかえりワークシート　10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。					

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次)」の受講をすすめます。(学科によっては必修)
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施	○ワークシート１－１ 150 分 ○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第２回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1ー２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第３回	職業研究１ ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第４回	職業研究２ ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート３ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第５回	企業研究１ ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート４ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第６回	企業研究２ ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ ワークシート５ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第７回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～	○ ワークシート 6ー１、６－２ 150 分

	■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「 理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7ー1、7－2、7－3 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8ー1、8－2、8－3 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9ー1、9－2　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいの？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10ー1、10ー2　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいの？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11ー1、11ー2　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成と発表のリハーサル。	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピールプレゼンテーション資料を作成す る。 ■自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿	○ 自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。　210 分

	（1250 字程度）を 作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■グループの代表者は全体で発表する。 ■授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE201-Y09	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ　（観光）	3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。				
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。				
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'25 年版』成美堂出版 2024.4 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2024 年版』2023.8 3）瀧本哲史『2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう』星海社新書　2020.4 4）マイナビ出版編集部『マイナビ 2025　オフィシャル就活 BOOK　内定獲得のメソッド　業界＆職種研究ガイド』マイナビ出版　2023.5 その他、メディア･ライブラリーやキャリア･サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。				
21.成績評価	■ワークシート　40%　（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 ＝自己アピール　（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ　10% 4.ふりかえりワークシート　10%				
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。				

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次)」の受講をすすめます。(学科によっては必修)
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日昼休み 研究室オフィスアワー：金曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施	○ワークシート１－１ 150 分 ○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第２回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1ー２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第３回	職業研究１ ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第４回	職業研究２ ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート３－１、３－２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第５回	企業研究１ ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート４ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第６回	企業研究２ ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ ワークシート５ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分

第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ ワークシート 6ー１、６－２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「 理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7ー１、７－２、７－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8ー１、８－２、８－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9ー１、９－２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいの？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10ー１、10ー２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいの？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11ー１、11ー２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成と発表のリハーサル。	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。	自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。　210 分

	■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE201-Y10	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ　（社会_A）	3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。				
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。				
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'25 年版』成美堂出版 2024.4 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2024 年版』2023.8 3）瀧本哲史『2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう』星海社新書　2020.4 4）マイナビ出版編集部『マイナビ 2025　オフィシャル就活 BOOK　内定獲得のメソッド　業界＆職種研究ガイド』マイナビ出版　2023.5 その他、メディア･ライブラリーやキャリア･サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。				
21.成績評価	■ワークシート　40%　（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 ＝自己アピール　（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ　10% 4.ふりかえりワークシート　10%				
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。				

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次)」の受講をすすめます。(学科によっては必修)
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センタオフィスアワー：水曜日・昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施	○ワークシート１－１ 150 分 ○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第２回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1ー２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第３回	職業研究１ ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第４回	職業研究２ ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート３－１、３－２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第５回	企業研究１ ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート４ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第６回	企業研究２ ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ ワークシート５ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分

第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ ワークシート 6ー１、６－２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「 理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7ー１、７－２、７－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8ー１、８－２、８－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9ー１、９－２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいの？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10ー１、10ー２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいの？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11ー１、11ー２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成と発表のリハーサル。	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。	自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。　210 分

	■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE201-Y11	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ　（社会_B）	3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。				
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。				
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'25 年版』成美堂出版 2024.4 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2024 年版』2023.8 3）瀧本哲史『2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう』星海社新書　2020.4 4）マイナビ出版編集部『マイナビ 2025　オフィシャル就活 BOOK　内定獲得のメソッド　業界＆職種研究ガイド』マイナビ出版　2023.5 その他、メディア･ライブラリーやキャリア･サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。				
21.成績評価	■ワークシート　40%　（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 ＝自己アピール　（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ　10% 4.ふりかえりワークシート　10%				
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。				

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次)」の受講をすすめます。(学科によっては必修)
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室オフィスアワー：

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施	○ワークシート１－１ 150 分 ○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 2 回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1ー２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 3 回	職業研究 1 ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート 2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 4 回	職業研究 2 ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート３－１、３－２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 5 回	企業研究 1 ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート 4 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第 6 回	企業研究 2 ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ ワークシート 5 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分

第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ ワークシート 6ー１、６－２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「 理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7ー１、７－２、７－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8ー１、８－２、８－３ 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9ー１、９－２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいの？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10ー１、10ー２　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいの？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11ー１、11ー２　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成と発表のリハーサル。	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。	自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。　210 分

	■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE201-Y12	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ　（社会_C）	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本敏幸				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。				
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。				
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'24』成美堂出版 2022.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2023 年版』2022.8 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう」講談社　2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド　業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版　2022.5 その他、メディア･ライブラリーやキャリア･サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。				
21.成績評価	■ワークシート　40%　（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 ＝自己アピール　（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ　10% 4.ふりかえりワークシート　10%				
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。				

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次)」の受講をすすめます。(学科によっては必修)
23.オフィスアワー	第１回目の授業でアナウンスします。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施	○ワークシート１－１ 150 分 ○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第２回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1ー２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第３回	職業研究１ ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート２ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第４回	職業研究２ ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート３ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第５回	企業研究１ ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート４ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第６回	企業研究２ ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ ワークシート５ 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第７回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～	○ ワークシート 6ー１、６－２ 150 分

	■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「 理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7ー1、7－2、7－3 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8ー1、8－2、8－3 150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9ー1、9－2　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいの？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10ー1、10ー2　150 分 ○ 学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいの？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11ー1、11ー2　150 分 ○学習した事柄について整理する。　30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成と発表のリハーサル。	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。　60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピールプレゼンテーション資料を作成す る。 ■自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿	○ 自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。　210 分

	（1250 字程度）を 作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■グループの代表者は全体で発表する。 ■授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE301-Y01	2.科目名	公務員養成演習 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	大松光寿、髙橋浩樹				
5.授業科目の区分	自由科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件	公務員養成演習 I を受講していることが望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、演習		
16.履修制限	特になし。 ただし，資格専門学校 TAC が提供するオンデマンド講座を受講するため，その受講料 66,000 円を負担することが求められる。				
17.授業の目的と概要	＜目的＞ 公務員として稼働することの意味を理解し，その採用試験合格に向けて計画的に学習する習慣を身に付ける。 ＜概要＞ 本学の実務家教員、現職の OB・OG による、警察官・消防官・自衛官・法務教官・地方公務員行政職に関わる現状や望まれる資質、心構え等についての講義を提供する。これらの業種のうち関心のある講義を 1 つ以上受講することに加え，オリエンテーション・総括回を受講する。さらに，資格専門学校 TAC の提供するオンデマンドによる遠隔講座を受講する。毎週新しい教材が提供され、自身のペースで繰り返し学習でき				
18.学習目標と ＤＰとの関連	＜学修目標＞ ①公務員の仕事について理解を深める。 ②公務員採用試験に向けて計画的に取り組む習慣を身に付ける。				
19.教科書・教材	教材は毎週 TAC からオンデマンドで提供される。				
20.参考文献	必要に応じて参考書を紹介する。				
21.成績評価	本科目の評価は単位認定の可否で行われるため GP はつきません。 そのため，本科目の成績は GPA には影響がなく，卒業要件にも含まれません。 単位認定は以下の基準によって判断します。 ①ガイダンス，まとめ回分の感想レポート提出 ②講義 1～5 の中で受講した講義の感想レポート提出 ②TAC の受講料を納付していること（66,000 円）				
22.コメント	受講料は期限内に必ず支払うようにしてください。				
23.オフィスアワー	大松：火曜昼（研究室オフィスアワー），水曜昼（センタープログラム） 高橋：春学期：金曜日昼（研究室オフィスアワー），月曜日昼（センターオフィスアワー） 秋学期：水曜日昼（研究室オフィスアワー），火曜日昼（センターオフィスアワー）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回	ガイダンス	課題：レポートの提出
2 回	実務教員および OB・OG による公務員に関する講義 1（警察官）	課題：レポートの提出（講義 1～5 までの中で出席した講義について提出）
3 回	実務教員および OB・OG による公務員に関する講義 2（消防官）	
4 回	実務教員および OB・OG による公務員に関する講義 3（自衛官）	
5 回	実務教員および OB・OG による公務員に関する講義 4	

	（法務教官・技官）	
6 回	実務教員および OB・OG による公務員に関する講義 3（地方公務員，行政職）	
7 回	全体のまとめ	課題：レポートの提出
	TAC による遠隔ホームルーム 8 回実施	
	毎週公開されるオンデマンド教材によって学習を進める。 必要に応じて Google Classroom による質疑応答	一つの教材につき，3 時間から 6 時間の学習時間を確保する。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE305-Y01	2.科目名	キャリアプランニングⅠ			3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕						
5.授業科目の区分	講義	6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科共通				9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	【目的】本科目では、就職活動に向けた具体的な準備を進めていきます。就職活動においては、「敵を知り、己を知る」ことが大事です。具体的には企業を良く理解し、求めている人材像を把握すると伴に、自分という人間についても思い込みだけではなく、多角的に理解する必要があります。また、社会情勢、特に企業で働く場合には経済に関する基礎的な知識や国際情勢などの政治の分野に関する知識なども習得し、将来に向けた社会動向について考察する力も重要です。 【概要】この講座では、実際の企業において働いた経験を有している講師より、就職活動						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の【(１)自律性】【(5)コミュニケーションスキル】【(4)問題発見・解決力】に関連しています。 キャリアプランニングⅠの講義の学習目標は、以下のとおりです。 ①企業を取り巻く環境について認識し、企業を選ぶ視点を磨く。 ②企業研究の視点を理解し、志望する業界または企業について分析することができる。 ③志望する業界のみならず個人発表の中で、広く業界に関する知識を習得する。						
19.教科書・教材	使用しません。適宜資料を提示、配布します。						
20.参考文献	「なぜ僕らは働くのか」/株式会社学研プラス/2020 年						
21.成績評価	①企業・政治・経済など日本を取り巻く環境について講義やグループワークを通じて理解する。社会情勢については企業・政治・経済のまとめにおいて確認テストを行い、理解度を確認する。 ・・６０点　　※学習目標①から③に対応 ②授業について理解を深める目的で各回の講義において課題を設定し、その課題を通じて社会情勢に関する理解度を評価する。 ・・・４０点　　※学習目標①から③に対応						
22.コメント	2 年生秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ」を担当しました。いよいよインターンシップなど本格的な就職活動に向けた準備を始めますが、春学期においては様々な社会環境についての知識と理解を深め、ますます複雑化する社会、経済、政治についてしっかりとした個人の考えを醸成してもらいたいと思います。						
23.オフィスアワー	金曜日　昼休み　神戸山手キャンパス 3 号館　3302 号室						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	講義【オリエンテーション】安藤担当 担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算出の方法、受講上の留意点について説明する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：企業の役割について自分なりの意見を考える。
【第 2 回】	【企業に関する理解】 企業の社会的役割や形式などについて理解する。また、法的な人格である法人の意味などについて理解する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：企業に関する講義を受けて、自分なりの意見を考え、まとめておく。
【第 3 回】	【企業に関する理解】	復習：レジメの確認および課題への回答

	企業の組織について理解する。また、取締役会など会社法で規定されている会社を運営する規定などについて理解する。	予習：企業に関する講義を受けて、自分なりの意見を考え、まとめておく。
【第 4 回】	【企業に関する理解】 企業の経営について理解する。具体的には日本的経営や今後の見通し、また企業統治の課題などについて理解する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：企業に関する講義を受けて、自分なりの意見を考え、まとめておく。
【第 5 回】	【企業に関する理解】 企業と個人の労働契約である雇用について理解する。具体的には働き方改革の実態や福利厚生の制度、更には労働組合の役割などについて理解する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：企業に関する講義を受けて、自分なりの意見を考え、まとめておく。また企業に関する講義の確認テストに向けて内容を整理しておく。
【第 6 回】	【政治に関する理解】 日本の政治制度について理解する。この回では民主主義などの政治の基本原理について理解し、それが日本においてどのように具現化されているのかを理解する。 第 1 回の確認テストを実施する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：政治に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめておく。
【第 7 回】	【政治に関する理解】 日本の選挙制度について理解する。この回では民主主義の土台となる選挙について歴史より紐解き、また現代において問題とされている一票の重みなどについて理解する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：政治に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめておく。
【第 8 回】	【政治に関する理解】 日本の行政機関としての内閣度について理解する。この回では大統領制と議院内閣制の相違など行政の仕組みの違いを理解すると伴に、政権の推移などから行政の在り方について理解する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：政治に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめておく。
【第 9 回】	【政治に関する理解】 日本の司法制度について理解する。この回では憲法の位置づけや内容、裁判所における裁判の仕組み、更には地方と中央の政治制度の相違や役割について理解する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：政治に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめておくまた政治に関する講義の確認テストに向けて内容を整理しておく。
【第 10 回】	【経済に関する理解】 経済の基本的な仕組みについて理解する。この回では「買う」という行為を通じてどのような経済活動が営まれるのかを理解する。 第 2 回の確認テストを実施する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：経済に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめておく。
【第 11 回】	【経済に関する理解】 経済の基本的な仕組みとして株式会社制度と投資の意義について理解する。この回では「投資」という行為を通じてどのような経済活動が営まれるのかを理解する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：経済に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめておく。
【第 12 回】	【経済に関する理解】 日本経済、世界経済の様々なイベントを円相場を中心に開設する。具体的には、高度経済成長、ニクソンショック、プラザ合意とバブル経済、そしてリーマンショック・アジア通貨危機などについて解説する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：経済に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめておく。

【第 13 回】	【経済に関する理解】 現在の経済状況について、エネルギー問題および食糧問題について理解し、こうした問題が、ウクライナ侵攻などによりどのような状況となっているのかを考える。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：経済に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめておく。
【第 14 回】	【経済に関する理解】 政治と経済の繋がりについて中世からの歴史を振り返り、その関係性を確認する。更に現代の経済政策についてリーマンショックからの日本経済の状況を確認しながらその結びつきを理解する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：経済に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめておく。 また経済に関する講義の確認テストに向けて内容を整理しておく。
【第 15 回】	最終回では、全体のまとめを行い、第 3 回の確認テストを実施する。	予習：講義全体を取りまとめ、整理しておく。 復習：課題についてのレポートをまとめておく。

1.授業コード（ナンバリング）	CRE307-A71	2.科目名	仕事とキャリア形成III（経営）	3.単位数	2
4.授業担当教員	北村正仁				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	仕事とキャリア形成 1 を履修済		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	対面での講義形式		
16.履修制限	特になし（「仕事とキャリア形成Ⅰ」の履修を終えていることが望ましい）				
17.授業の目的と概要	２年次の「仕事とキャリア形成Ⅰ」及び「仕事とキャリア形成Ⅱ」等で得たキャリアに関する知識や各手法を元に各経験学習や専門的学びを整理統合し、これを材料に自己分析や産業・企業研究を行うことで、これから本格化する就職活動への最終的な進捗確認と調整と行っていく。 そのため、本講義では就職活動の実践的スキルと知識の獲得に重点を置いており、模擬面接や模擬グループワーク、新聞読み込み等を行うと共に、企業の採用担当者や早期内定者との交流によってモチベーションと意識も高めていく。 そして、こうした活動を契機として今後				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマ・ポリシーの (1)自律性 (4)問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6)専門知識 に関連し、 ①様々な職業や業界について関心を持ち、自身で調べ幅広い知識を獲得する。 ②自分の視点や価値観を持ち、そこから問題発見と解決する最適解を考察する。 ③将来の目標に向けた今後のキャリアマップを描く。 ④上記を自分の言葉で言語化し、他人に説明し理解を得る。				
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生 編 （2023）『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 ISBN-13：978-4874249451 ※「仕事とキャリア形成Ⅰ」の指定テキストを使用 ※適宜、必要な資料を配布				
20.参考文献	適宜、必要な資料を配布				
21.成績評価	・各日程の課題ワークシート　：5 点×8 回　40% ・面接・グループワーク/ディスカッション　：各 10 点　30% ・振り返りエントリーシート/ライフラインチャート　：20% ・ｅポートフォリオ記事投稿（修学カルテ）　：10%				
22.コメント	受講にあたり、以下の準備を行っておくこと ・マイナビ 2026 への登録とログイン確認 ・現段階での自己 PR を最低 1 個作成 ・現段階での志望業種の確認 ・パソコンの利用可能確認 ・ZOOM の利用環境確認 ・就活用のスーツ等の準備				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 日目 1 限目	オリエンテーション（授業趣旨、進行、就活情報の整理）	オンラインでの合同形式

第 1 日目 2 限目	インターンシップ検索セミナー予約講座 ・効率的な選考企業の探し方・増やし方 ・検索設定の注意事項とポイント ・エントリーとセミナー予約の方法とポイント	ブレンド形式で実施
第 1 日目 3 限目	エントリーシート・面接対策講座（自己ＰＲ・ガクチカ編） ・強み・特性・価値観の言語化 ・自問自答による深化方法	ブレンド形式で実施
第 1 日目 4 限目	企業と社会の「今」を知るための情報収集講座 ・日経新聞の読み込み方 ・様々なニュースサイト紹介と登録 ・Youtube の経済チャンネル紹介と登録 ・その他の情報提供 ※4 限目終了後、学生からの質問やワーク継続希望があれば 5 限目に対応	ブレンド形式で実施 〇各情報源を活かした記事紹介とコメントを提出 〇エントリーとセミナー予約確認票の提出 〇校正した自己 PR・ガクチカの提出
第 2 日目 1 限目	ビジネスマナー＆実践トレーニング講座 ・服装等のチェック ・基本的なビジネスマナー講座 ・ビジネスマナーの実践練習・ロールプレイング	各キャンパスで個別実施
第 2 日目 2 限目	企業採用担当者セッション（パネルディスカッション＆インタビュー） ・企業の採用担当者のパネルディスカッション ・学生と採用担当者へのインタビューと質問	〇ブレンド形式で実施
第 2 日目 3 限目	業界・企業研究講座（各キャンパス 3 社×25 分） ・企業説明会のポイント ・実際の企業説明会と同じ説明を 3 社実施 ・それを聞き、まとめて情報化	〇各キャンパスで実施
第 2 日目 4 限目	エントリーシート・面接対策講座（志望動機・将来の取り組み編） ・企業特長の掴み方 ・志望動機作成のポイント	〇ブレンド形式で実施 宿題：模擬志望動機を提出・マナーと服装確認チェック票を提出
第 3 日目 1・2 限目	先輩・早期内定者セッション ・パネルディスカッション ・インタビュー ・Web 座談会	〇ブレンド形式で実施
第 3 日目 3・4 限目	面接実践講座 ・集団・個人面接とプレゼンのポイント解説 ・模擬集団面接 ・模擬個人面接 ・模擬プレゼン ・振り返りワークシートを提出	〇ブレンド形式で実施 宿題：模擬自己 PR・模擬志望動機を校正して提出
第 4 日目 1・2 限目	グループワーク・ディスカッション講座 ・グループワーク・ディスカッションのポイント解説 ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	〇ブレンド形式で実施
第 4 日目 3 限	模擬 ES 作成・今後の学修・活動計画作成・まとめ/総	〇ブレンド形式で実施

目	括 ・これまでの学びを活かしたエントリーシート作成について説明 ・今後の学修・活動・成長のライフラインチャート作成について説明 ・授業の総括 ・振り返りワークシートを提出	宿題：模擬エントリーシートと模擬ライフラインチャートを提出

1.授業コード（ナンバリング）	CRE307-M71	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅲ （経営）	3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤勝洋				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	xx 学科			9.履修学年	3 年
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	仕事とキャリア形成 1 を履修済
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	対面での講義形式
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	２年次の「仕事とキャリア形成Ⅰ」及び「仕事とキャリア形成Ⅱ」等で得たキャリアに関する知識や各手法を元に各経験学習や専門的学びを整理統合し、これを材料に自己分析や産業・企業研究を行うことで、これから本格化する就職活動への最終的な進捗確認と調整と行っていく。 そのため、本講義では就職活動の実践的スキルと知識の獲得に重点を置いており、模擬面接や模擬グループワーク、新聞読み込み等を行うと共に、企業の採用担当者や早期内定者との交流によってモチベーションと意識も高めていく。 そして、こうした活動を契機として今後				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマ・ポリシーの(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門知識に関連 ①様々な職業や業界について関心を持ち、自身で調べ幅広い知識を獲得する。 ②自分の視点や価値観を持ち、そこから問題発見と解決する最適解を考察する。 ③将来の目標に向けた今後のキャリアマップを描く。 ④上記を自分の言葉で言語化し、他人に説明し理解を得る。				
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生 編 （2023）『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 ISBN-13：978-4874249451 ※「仕事とキャリア形成 1」の指定テキストを使用 ※適宜、必要な資料を配布				
20.参考文献	適宜、必要な資料を配布				
21.成績評価	・各日程の課題ワークシート ：5 点×8 回 40% ・面接・グループワーク/ディスカッション ：各 10 点 30% ・振り返りエントリーシート/ライフラインチャート ：20% ・ｅポートフォリオ記事投稿 ：10%				
22.コメント	受講にあたり、以下の準備を行っておくこと ・マイナビ 2026 への登録とログイン確認 ・現段階での自己 PR を最低 1 個作成 ・現段階での志望業種の確認 ・パソコンの利用可能確認 ・ZOOM の利用環境確認 ・就活用のスーツ等の準備				
23.オフィスアワー	x 曜日 x 限目				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 日目 1 限目	オリエンテーション（授業趣旨、進行、就活情報の整理）	オンラインでの合同形式
第 1 日目 2 限目	インターンシップ検索セミナー予約講座 ・効率的な選考企業の探し方・増やし方 ・検索設定の注意事項とポイント ・エントリーとセミナー予約の方法とポイント	ブレンド形式で実施

第 1 日目 3 限目	エントリーシート・面接対策講座（自己ＰＲ・ガクチカ編） ・強み・特性・価値観の言語化 ・自問自答による深化方法	ブレンド形式で実施
第 1 日目 4 限目	企業と社会の「今」を知るための情報収集講座 ・日経新聞の読み込み方 ・様々なニュースサイト紹介と登録 ・Youtube の経済チャンネル紹介と登録 ・その他の情報提供 ※4 限目終了後、学生からの質問やワーク継続希望があれば 5 限目に対応	ブレンド形式で実施 〇各情報源を活かした記事紹介とコメントを提出 〇エントリーとセミナー予約確認票の提出 〇校正した自己 PR・ガクチカの提出
第 2 日目 1 限目	ビジネスマナー＆実践トレーニング講座 ・服装等のチェック ・基本的なビジネスマナー講座 ・ビジネスマナーの実践練習・ロールプレイング	各キャンパスで個別実施
第 2 日目 2 限目	企業採用担当者セッション（パネルディスカッション＆インタビュー） ・企業の採用担当者のパネルディスカッション ・学生と採用担当者へのインタビューと質問	〇ブレンド形式で実施
第 2 日目 3 限目	業界・企業研究講座（各キャンパス 3 社×25 分） ・企業説明会のポイント ・実際の企業説明会と同じ説明を 3 社実施 ・それを聞き、まとめて情報化	〇各キャンパスで実施
第 2 日目 4 限目	エントリーシート・面接対策講座（志望動機・将来の取り組み編） ・企業特長の掴み方 ・志望動機作成のポイント	〇ブレンド形式で実施 宿題：模擬志望動機を提出・マナーと服装確認チェック票を提出
第 3 日目 1・2 限目	先輩・早期内定者セッション ・パネルディスカッション ・インタビュー ・Web 座談会	〇ブレンド形式で実施
第 3 日目 3・4 限目	面接実践講座 ・集団・個人面接とプレゼンのポイント解説 ・模擬集団面接 ・模擬個人面接 ・模擬プレゼン ・振り返りワークシートを提出	〇ブレンド形式で実施 宿題：模擬自己 PR・模擬志望動機を校正して提出
第 4 日目 1・2 限目	グループワーク・ディスカッション講座 ・グループワーク・ディスカッションのポイント解説 ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	〇ブレンド形式で実施
第 4 日目 3 限目	模擬 ES 作成・今後の学修・活動計画作成・まとめ/総括 ・これまでの学びを活かしたエントリーシート作成について説明 ・今後の学修・活動・成長のライフラインチャート作成について説明	〇ブレンド形式で実施 宿題：模擬エントリーシートと模擬ライフラインチャートを提出

	・授業の総括 ・振り返りワークシートを提出	

1.授業コード（ナンバリング）	CRE307-Y01	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅲ　（社会）	3.単位数	2
4.授業担当教員	阿部忍				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	3 年
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	仕事とキャリア形成 1 を履修済		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	対面での講義形式		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	２年次の「仕事とキャリア形成Ⅰ」及び「仕事とキャリア形成Ⅱ」等で得たキャリアに関する知識や各手法を元に各経験学習や専門的学びを整理統合し、これを材料に自己分析や産業・企業研究を行うことで、これから本格化する就職活動への最終的な進捗確認と調整と行っていく。 そのため、本講義では就職活動の実践的スキルと知識の獲得に重点を置いており、模擬面接や模擬グループワーク、新聞読み込み等を行うと共に、企業の採用担当者や早期内定者との交流によってモチベーションと意識も高めていく。 そして、こうした活動を契機として今後				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマ・ポリシーの(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門知識に関連 ①様々な職業や業界について関心を持ち、自身で調べ幅広い知識を獲得する。 ②自分の視点や価値観を持ち、そこから問題発見と解決する最適解を考察する。 ③将来の目標に向けた今後のキャリアマップを描く。 ④上記を自分の言葉で言語化し、他人に説明し理解を得る。				
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生 編　(2023)『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 ISBN-13：978-4874249451 ※「仕事とキャリア形成 1」の指定テキストを使用 ※適宜、必要な資料を配布				
20.参考文献	適宜、必要な資料を配布				
21.成績評価	・各日程の課題ワークシート　：5 点×8 回　40% ・面接・グループワーク/ディスカッション　：各 10 点　30% ・振り返りエントリーシート/ライフラインチャート　：20% ・ｅポートフォリオ記事投稿　：10%				
22.コメント	受講にあたり、以下の準備を行っておくこと ・マイナビ 2026 への登録とログイン確認 ・現段階での自己 PR を最低 1 個作成 ・現段階での志望業種の確認 ・パソコンの利用可能確認 ・ZOOM の利用環境確認 ・就活用のスーツ等の準備				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日昼休み 研究室オフィスアワー：水曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 日目 1 限目	オリエンテーション（授業趣旨、進行、就活情報の整理）	オンラインでの合同形式
第 1 日目 2 限目	インターンシップ検索セミナー予約講座 ・効率的な選考企業の探し方・増やし方 ・検索設定の注意事項とポイント	ブレンド形式で実施

	・エントリーとセミナー予約の方法とポイント	
第 1 日目 3 限目	エントリーシート・面接対策講座（自己ＰＲ・ガクチカ編） ・強み・特性・価値観の言語化 ・自問自答による深化方法	ブレンド形式で実施
第 1 日目 4 限目	企業と社会の「今」を知るための情報収集講座 ・日経新聞の読み込み方 ・様々なニュースサイト紹介と登録 ・Youtube の経済チャンネル紹介と登録 ・その他の情報提供 ※4 限目終了後、学生からの質問やワーク継続希望があれば 5 限目に対応	ブレンド形式で実施 〇各情報源を活かした記事紹介とコメントを提出 〇エントリーとセミナー予約確認票の提出 〇校正した自己 PR・ガクチカの提出
第 2 日目 1 限目	ビジネスマナー＆実践トレーニング講座 ・服装等のチェック ・基本的なビジネスマナー講座 ・ビジネスマナーの実践練習・ロールプレイング	各キャンパスで個別実施
第 2 日目 2 限目	企業採用担当者セッション（パネルディスカッション＆インタビュー） ・企業の採用担当者のパネルディスカッション ・学生と採用担当者へのインタビューと質問	〇ブレンド形式で実施
第 2 日目 3 限目	業界・企業研究講座（各キャンパス 3 社×25 分） ・企業説明会のポイント ・実際の企業説明会と同じ説明を 3 社実施 ・それを聞き、まとめて情報化	〇各キャンパスで実施
第 2 日目 4 限目	エントリーシート・面接対策講座（志望動機・将来の取り組み編） ・企業特長の掴み方 ・志望動機作成のポイント	〇ブレンド形式で実施 宿題：模擬志望動機を提出・マナーと服装確認チェック票を提出
第 3 日目 1・2 限目	先輩・早期内定者セッション ・パネルディスカッション ・インタビュー ・Web 座談会	〇ブレンド形式で実施
第 3 日目 3・4 限目	面接実践講座 ・集団・個人面接とプレゼンのポイント解説 ・模擬集団面接 ・模擬個人面接 ・模擬プレゼン ・振り返りワークシートを提出	〇ブレンド形式で実施 宿題：模擬自己 PR・模擬志望動機を校正して提出
第 4 日目 1・2 限目	グループワーク・ディスカッション講座 ・グループワーク・ディスカッションのポイント解説 ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	〇ブレンド形式で実施
第 4 日目 3 限目	模擬 ES 作成・今後の学修・活動計画作成・まとめ/総括 ・これまでの学びを活かしたエントリーシート作成について説明	〇ブレンド形式で実施 宿題：模擬エントリーシートと模擬ライフラインチャートを提出

	・今後の学修・活動・成長のライフラインチャート作成について説明 ・授業の総括 ・振り返りワークシートを提出	

1.授業コード（ナンバリング）	CRE307-Y71	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅲ　（心理）	3.単位数	2
4.授業担当教員	髙橋浩樹、斎藤元幸				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	xx 学科			9.履修学年	3 年
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	仕事とキャリア形成 1 を履修済
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	対面での講義形式
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	2 年次の「仕事とキャリア形成Ⅰ」及び「仕事とキャリア形成Ⅱ」等で得たキャリアに関する知識や各手法を元に各経験学習や専門的学びを整理統合し、これを材料に自己分析や産業・企業研究を行うことで、これから本格化する就職活動への最終的な進捗確認と調整と行っていく。 そのため、本講義では就職活動の実践的スキルと知識の獲得に重点を置いており、模擬面接や模擬グループワーク、新聞読み込み等を行うと共に、企業の採用担当者や早期内定者との交流によってモチベーションと意識も高めていく。 そして、こうした活動を契機として今後				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマ・ポリシーの(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門知識に関連 ①様々な職業や業界について関心を持ち、自身で調べ幅広い知識を獲得する。 ②自分の視点や価値観を持ち、そこから問題発見と解決する最適解を考察する。 ③将来の目標に向けた今後のキャリアマップを描く。 ④上記を自分の言葉で言語化し、他人に説明し理解を得る。				
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生 編　(2023)『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 ISBN-13：978-4874249451 ※「仕事とキャリア形成 1」の指定テキストを使用 ※適宜、必要な資料を配布				
20.参考文献	適宜、必要な資料を配布				
21.成績評価	・各日程の課題ワークシート　：5 点×8 回　40% ・面接・グループワーク/ディスカッション　：各 10 点　30% ・振り返りエントリーシート/ライフラインチャート　：20% ・ｅポートフォリオ記事投稿　：10%				
22.コメント	受講にあたり、以下の準備を行っておくこと ・マイナビ 2026 への登録とログイン確認 ・現段階での自己 PR を最低 1 個作成 ・現段階での志望業種の確認 ・パソコンの利用可能確認 ・ZOOM の利用環境確認 ・就活用のスーツ等の準備				
23.オフィスアワー	x 曜日 x 限目				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 日目 1 限目	オリエンテーション（授業趣旨、進行、就活情報の整理）	オンラインでの合同形式
第 1 日目 2 限目	インターンシップ検索セミナー予約講座 ・効率的な選考企業の探し方・増やし方 ・検索設定の注意事項とポイント ・エントリーとセミナー予約の方法とポイント	ブレンド形式で実施

第 1 日目 3 限目	エントリーシート・面接対策講座（自己ＰＲ・ガクチカ編） ・強み・特性・価値観の言語化 ・自問自答による深化方法	ブレンド形式で実施
第 1 日目 4 限目	企業と社会の「今」を知るための情報収集講座 ・日経新聞の読み込み方 ・様々なニュースサイト紹介と登録 ・Youtube の経済チャンネル紹介と登録 ・その他の情報提供 ※4 限目終了後、学生からの質問やワーク継続希望があれば 5 限目に対応	ブレンド形式で実施 〇各情報源を活かした記事紹介とコメントを提出 〇エントリーとセミナー予約確認票の提出 〇校正した自己 PR・ガクチカの提出
第 2 日目 1 限目	ビジネスマナー＆実践トレーニング講座 ・服装等のチェック ・基本的なビジネスマナー講座 ・ビジネスマナーの実践練習・ロールプレイング	各キャンパスで個別実施
第 2 日目 2 限目	企業採用担当者セッション（パネルディスカッション＆インタビュー） ・企業の採用担当者のパネルディスカッション ・学生と採用担当者へのインタビューと質問	〇ブレンド形式で実施
第 2 日目 3 限目	業界・企業研究講座（各キャンパス 3 社×25 分） ・企業説明会のポイント ・実際の企業説明会と同じ説明を 3 社実施 ・それを聞き、まとめて情報化	〇各キャンパスで実施
第 2 日目 4 限目	エントリーシート・面接対策講座（志望動機・将来の取り組み編） ・企業特長の掴み方 ・志望動機作成のポイント	〇ブレンド形式で実施 宿題：模擬志望動機を提出・マナーと服装確認チェック票を提出
第 3 日目 1・2 限目	先輩・早期内定者セッション ・パネルディスカッション ・インタビュー ・Web 座談会	〇ブレンド形式で実施
第 3 日目 3・4 限目	面接実践講座 ・集団・個人面接とプレゼンのポイント解説 ・模擬集団面接 ・模擬個人面接 ・模擬プレゼン ・振り返りワークシートを提出	〇ブレンド形式で実施 宿題：模擬自己 PR・模擬志望動機を校正して提出
第 4 日目 1・2 限目	グループワーク・ディスカッション講座 ・グループワーク・ディスカッションのポイント解説 ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	〇ブレンド形式で実施
第 4 日目 3 限目	模擬 ES 作成・今後の学修・活動計画作成・まとめ/総括 ・これまでの学びを活かしたエントリーシート作成について説明 ・今後の学修・活動・成長のライフラインチャート作成について説明	〇ブレンド形式で実施 宿題：模擬エントリーシートと模擬ライフラインチャートを提出

	・授業の総括 ・振り返りワークシートを提出	

1.授業コード（ナンバリング）	CRE307-Y72	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅲ （英コミ）	3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理、伊藤創				
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	3 年
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	仕事とキャリア形成 1 を履修済	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面での講義形式	
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	２年次の「仕事とキャリア形成Ⅰ」及び「仕事とキャリア形成Ⅱ」等で得たキャリアに関する知識や各手法を元に各経験学習や専門的学びを整理統合し、これを材料に自己分析や産業・企業研究を行うことで、これから本格化する就職活動への最終的な進捗確認と調整と行っていく。 そのため、本講義では就職活動の実践的スキルと知識の獲得に重点を置いており、模擬面接や模擬グループワーク、新聞読み込み等を行うと共に、企業の採用担当者や早期内定者との交流によってモチベーションと意識も高めていく。 そして、こうした活動を契機として今後				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマ・ポリシーの(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門知識に関連 ①様々な職業や業界について関心を持ち、自身で調べ幅広い知識を獲得する。 ②自分の視点や価値観を持ち、そこから問題発見と解決する最適解を考察する。 ③将来の目標に向けた今後のキャリアマップを描く。 ④上記を自分の言葉で言語化し、他人に説明し理解を得る。				
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生 編 （2023）『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 ISBN-13：978-4874249451 ※「仕事とキャリア形成 1」の指定テキストを使用 ※適宜、必要な資料を配布				
20.参考文献	適宜、必要な資料を配布				
21.成績評価	・各日程の課題ワークシート ：5 点×8 回 40% ・面接・グループワーク/ディスカッション ：各 10 点 30% ・振り返りエントリーシート/ライフラインチャート ：20% ・ｅポートフォリオ記事投稿 ：10%				
22.コメント	受講にあたり、以下の準備を行っておくこと ・マイナビ 2026 への登録とログイン確認 ・現段階での自己 PR を最低 1 個作成 ・現段階での志望業種の確認 ・パソコンの利用可能確認 ・ZOOM の利用環境確認 ・就活用のスーツ等の準備				
23.オフィスアワー	x 曜日 x 限目				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 日目 1 限目	オリエンテーション（授業趣旨、進行、就活情報の整理）	オンラインでの合同形式
第 1 日目 2 限目	インターンシップ検索セミナー予約講座 ・効率的な選考企業の探し方・増やし方 ・検索設定の注意事項とポイント ・エントリーとセミナー予約の方法とポイント	ブレンド形式で実施

第 1 日目 3 限目	エントリーシート・面接対策講座（自己ＰＲ・ガクチカ編） ・強み・特性・価値観の言語化 ・自問自答による深化方法	ブレンド形式で実施
第 1 日目 4 限目	企業と社会の「今」を知るための情報収集講座 ・日経新聞の読み込み方 ・様々なニュースサイト紹介と登録 ・Youtube の経済チャンネル紹介と登録 ・その他の情報提供 ※4 限目終了後、学生からの質問やワーク継続希望があれば 5 限目に対応	ブレンド形式で実施 〇各情報源を活かした記事紹介とコメントを提出 〇エントリーとセミナー予約確認票の提出 〇校正した自己 PR・ガクチカの提出
第 2 日目 1 限目	ビジネスマナー＆実践トレーニング講座 ・服装等のチェック ・基本的なビジネスマナー講座 ・ビジネスマナーの実践練習・ロールプレイング	各キャンパスで個別実施
第 2 日目 2 限目	企業採用担当者セッション（パネルディスカッション＆インタビュー） ・企業の採用担当者のパネルディスカッション ・学生と採用担当者へのインタビューと質問	〇ブレンド形式で実施
第 2 日目 3 限目	業界・企業研究講座（各キャンパス 3 社×25 分） ・企業説明会のポイント ・実際の企業説明会と同じ説明を 3 社実施 ・それを聞き、まとめて情報化	〇各キャンパスで実施
第 2 日目 4 限目	エントリーシート・面接対策講座（志望動機・将来の取り組み編） ・企業特長の掴み方 ・志望動機作成のポイント	〇ブレンド形式で実施 宿題：模擬志望動機を提出・マナーと服装確認チェック票を提出
第 3 日目 1・2 限目	先輩・早期内定者セッション ・パネルディスカッション ・インタビュー ・Web 座談会	〇ブレンド形式で実施
第 3 日目 3・4 限目	面接実践講座 ・集団・個人面接とプレゼンのポイント解説 ・模擬集団面接 ・模擬個人面接 ・模擬プレゼン ・振り返りワークシートを提出	〇ブレンド形式で実施 宿題：模擬自己 PR・模擬志望動機を校正して提出
第 4 日目 1・2 限目	グループワーク・ディスカッション講座 ・グループワーク・ディスカッションのポイント解説 ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	〇ブレンド形式で実施
第 4 日目 3 限目	模擬 ES 作成・今後の学修・活動計画作成・まとめ/総括 ・これまでの学びを活かしたエントリーシート作成について説明 ・今後の学修・活動・成長のライフラインチャート作成について説明	〇ブレンド形式で実施 宿題：模擬エントリーシートと模擬ライフラインチャートを提出

	・授業の総括 ・振り返りワークシートを提出	

1.授業コード（ナンバリング）	CRI101-Y01	2.科目名	犯罪学概論			3.単位数	2
4.授業担当教員	大松光寿						
5.授業科目の区分	警察分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科				9.履修学年	１年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	【目的】この科目は、最広義の犯罪学（刑事学）の学びとして、犯罪情勢や警察が行う各種取り組み内容を理解することを目的とします。 【概要】具体的には、犯罪情勢の把握と各種犯罪の問題点や対策について、刑事、生活安全、地域部門に重点をおいた警察活動を通じて学びます。						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ)の(2)社会的貢献性、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです ?　犯罪の発生と対処について理解できるようになる °　　犯罪の抑止活動について理解できるようになる ?　警察活動について理解できるようになる						
19.教科書・教材	○ WebClass で配付する ○ ノートパソコンを毎回持参して下さい						
20.参考文献	令和５年版警察白書(警察庁ホームページからダウンロード可能)						
21.成績評価	・中間効果測定（WebClass テスト）　　３５％ ・総括効果測定（WebClass テスト）　　４５％ ・レポート(治安と安全安心に関するテーマ)　　１０％ ・レポート(指定された犯罪に関するテーマ)　　１０％						
22.コメント							
23.オフィスアワー	月曜昼：センターオフィスアワー 火曜昼：研究室オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	○　オリエンテーション ガイダンス、犯罪学の成り立ちについて	各回ごとに、警察白書の該当箇所を読んでから授業に臨むこと。
第２回	?　日本の治安 日本の犯罪情勢について学びます。	「日本の治安は良いのか」「私たちに出来ることは何か」を考えて授業に臨む
第３回	○　警察本部講義(生活安全部生活安全企画課) 防犯活動の重要性、特殊詐欺について　犯罪の起きにくいまちづくり について学びます。	防犯の重要性や特殊詐欺の現状と対策について理解する。
第４回	○　刑法について 刑法の仕組みや原則について学びます。	刑法の基本的な考え方について理解する
第５回	○　警察本部講義(刑事部組織犯罪対策局薬物銃器対策課) 薬物犯罪の現状、問題点、対策について	薬物犯罪の現状と対策について理解する
第６回	○　総警務警察について	警察組織、１１０番処理、職務質問について

	警察の組織等について学びます。 ○　地域警察について １１０番対応の仕組みや、職務質問の根拠等について学びます。	理解する
第７回	○　警察本部講義（刑事部捜査第一課） 性犯罪の現状と対応について	性犯罪の現状や対応について理解する
第８回	○　中間効果測定	
第９回	○　警察本部講義（刑事部組織犯罪対策局暴力団対策課） 暴力団の現状や排除対策等について学びます。	暴力団の反社会性（悪性）と排除要領について理解する
第１０回	○　刑事警察について 刑事警察の役割りや捜査活動について学びます。 ○　暴力団を考察 暴力団排除対策、私人が心がけるべき事柄などを考えます。	刑事警察の役割りや暴力団排除について理解する
第１１回	○　警察本部講義(刑事部捜査第一課) 捜査や取調べがどのようにして行われているのかを学びます。	捜査や取調べの適正確保方策等について理解する
第１２回	○　警察本部講義（生活安全部少年課） 少年非行や児童虐待の現状、問題点や対策などについて学びます。	少年非行や児童虐待の現状について理解する。
第１３回	○　生活安全警察 少年非行や児童虐待の実態と対策について学びます。	少年非行、児童虐待の実態と対策について理解する
第１４回	?　生活安全警察 ストーカー（ST）やドメスティックバイオレンス（DV）の現状、問題点、対策などについて学びます。	ST や DV の現状や対策について考えてみる
第１５回	○　総括効果測定	

1.授業コード（ナンバリング）	CRI203-Y03	2.科目名	犯罪・災害報道論		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山誠、大松光寿					
5.授業科目の区分	警察分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目で身につける知識・技法 ①　犯罪・災害の報道が理解できる。 ②　マスメディアに関する知識が獲得できる。 ③　マスメディア情報に対する客観的な対応が身に付く。					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ)の(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 マスメディアの犯罪・災害報道のあり方について学ぶ 犯罪・災害報道と人権の問題について学ぶ 犯罪・災害報道が社会に及ぼす作用について学ぶ					
19.教科書・教材	資料を配付する ※ 災害報道論は、WebClass 上での配付					
20.参考文献	資料を配付する					
21.成績評価	①犯罪について　実名報道に関するレポート　10% ②犯罪についての筆記試験　40% ③災害想定に基づいた記者会見資料作成　10% ④災害報道についての筆記試験　40%					
22.コメント	(1)　レポート作成に当たって a. レポートに引用する文献は、図書館にある専門書や学術雑誌を利用し、その際、出典を明確にしておくこと b.　ネットは一次検索として用いるのはかまわないが、なるべく公的機関のホームページなどの情報に基づくこと　出所が不明確、無責任で根拠のない匿名記事は決して引用しないこと c.専門知識＋自分の考え 　前提となる理論を明らかにした上で自分の考えについても述べること　理論に基づかない、自分の単なる思いつきや身勝手な意見を最初から書くと高得点は望めない (2) 試験問題について 　試験は毎回の講義で配付する資料から出題するので、試験前には配付資料をきちんと復習してから受験すること 　記述式の場合には、必ず最初に、講義で習ったことをきちんと書くこと 　その上で、自分の考えを述べるのは良いが、きちんとした理論について触れることなく、勝手な意見を書いても、得点にはならない 　また、制限字数を大幅に下回るような状態で提出された答案は、60 点に満たないと心得ておくこと 　文字が読みにくい、日本語の文章になっていない場合は、内容にかかわらず、単位を取得する権利を放棄したものと見なすので、その点を留意しておくこと					

	(3) 生理心理学の実験に参加した者はボ-ナス加点する 　実験参加は生理心理学の理解のひじょうに役に立つので、任意に参加してくれた学生には、試験の結果に点数を加点する　実験を実施する際にはぜひ協力して欲しい
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	ガイダンス	
第２回	マスコミュニケーションとはなにか 犯罪報道の問題点について（講義）	
第３回	「実名報道について」講義	
第４回	被害者の実名報道、少年の実名報道 実名報道の是非にかかるレポートをまとめる準備を行う	
第５回	報道協定 実名報道に関するグループ討議	
第６回	てるくはのる事件を通じてメディアスクラムの弊害を学ぶ	
第７回	名張毒ぶどう酒事件をめぐる報道について－今後の犯罪報道のあるべき姿ー	
第８回	犯罪報道に関する試験	
第９回	災害とは何か 災害の種別とその概要について 災害時のマスコミの役割について	各回、あらかじめ、情報検索（信頼できるサイト）等で内容を調べてから授業に臨むこと。
第１０回	阪神淡路大震災から学ぶ 初動対応の遅れとマスコミ作用について 被災者の実名報道について	阪神淡路大震災と報道について考える
第１１回	警察本部講義 災害時における警察活動について	災害時の警察活動について理解する
第１２回	東日本大震災から学ぶ 避難報道の評価について	東日本大震災と報道について考える
第１３回	緊急時の広報と記者会見（現役記者による講義、模擬記者会見） 事前準備と適切な報道対応について	災害等緊急時の報道の役割をを考え、記者対応要領の実技訓練を行う
第１４回	事例検討 災害想定に基づいて記者会見資料を策定する	記者会見資料、想定問答の作成
第１５回	災害報道についての筆記試験	

1.授業コード（ナンバリング）	CRI206-Y01	2.科目名	司法・犯罪心理学　（2022 年度生以前　春秋通年）		3.単位数	4
4.授業担当教員	板山昂、神垣一規					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目は、犯罪の発生原因や犯罪捜査、矯正、裁判などに関わる心理学の理論や制度・法律を取りあげ、加害者、被害者、第三者といった様々な側面から、「犯罪」という現象に目を向け、犯罪への理解を深めるとともに、その解決に向けた専門家の関わりや心理学的支援について学習することを目的とする。 犯罪の発生原因に関わる理論や犯罪捜査、近年問題となっている犯罪、裁判などを取りあげる。 本授業では、加害者、被害者、第三者といった様々な側面から、「犯罪」という現象に目を向け、犯罪への理解を深める。					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 2024 春　：神垣 ?一連の司法矯正手続きの中で，心理的介入がどのように役立つのか理解する。 ?犯罪に関連する事象を多面的に捉えることができる。 2024 秋　：板山 ? 犯罪・非行の発生メカニズムを犯罪心理学の視点から説明できるようになる。 ④ 犯罪・非行を繰り返させないための指導や効果的な教育・指導の内容を説明できるようになる。 ⑤ 犯罪・非行の抑止・解決に必要な要因を説明できるようになる。 ④ ①②③の知識をもとに問題を発見し、また、必要な情報を取集し、具体的な解決策を提示することができるようになる。					
19.教科書・教材	・2024 年春 適宜 WEBCLASS にアップする ・2024 年秋 入門 司法・犯罪心理学 -- 理論と現場を学ぶ　法と心理学会／監修(2022).有斐閣. 定価 2,530 円（本体 2,300 円） ISBN 978-4-641-17474-0					
20.参考文献	?安香宏著「犯罪心理学への招待：犯罪・非行を通して人間を考える」サイエンス社　2008 年 ?シャッド・マルナ著「犯罪からの離脱と『人生のやり直し』：元犯罪者のナラティブから学ぶ」明石書店　2013 年 ③森丈弓著「犯罪心理学：再犯防止とリスクアセスメントの科学」ナカニシヤ出版　2017 年 ④藤岡淳子著「非行・犯罪心理臨床におけるグループの活用：治療教育の実践」誠信書房　2014 年					

21.成績評価	・2024 年春学期（矯正心理学） 毎回の感想レポート：1 点×15 回 15%（目標?，?に該当） 最近気になる犯罪非行に関するレポート：5%（目標?に該当） 犯罪者の社会復帰に関するレポート：10%（目標?に該当） 総括試験：20%（目標⑤，⑥に該当） ・2024 年秋学期（司法・犯罪心理学） 授業毎ミニレポート（学習目標?④⑤?を問う）：20% 総括試験（学習目標?④?を問う）　　：30%
22.コメント	2024 年春学期　第 01 回～15 回が神垣担当 2024 年秋学期　第 16 回～30 回が板山担当
23.オフィスアワー	・板山：研究室オフィスアワー　水曜昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 01 回 第 16 回　犯罪心理学が対象とする領域 ・司法・犯罪領域とは何をさすのか。 ・心理職がどのように活躍しているか。 第 02 回　犯罪・非行の移り変わり ・時代背景と犯罪・非行との関係性 ・近年注目されている犯罪	配布資料を熟読し、疑問点を整理する。
	第 03 回　犯罪理論の概要 ・性悪説，性善説 ・原因重視，目的重視 ・発達障害との関係 第 04 回　犯罪行為のアセスメント① ・財産犯	教科書第 2 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 05 回　犯罪行為のアセスメント? ・粗暴犯 第 06 回　犯罪行為のアセスメント③ ・性犯，薬物犯	教科書 第 3 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 07 回　リスクアセスメント ・リスクアセスメントの歴史 ・RNR 原則 第 08 回　介入の実際① ・認知行動療法に基づくアプローチ	教科書 第 4 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 09 回　介入の実際② ・動機づけ面接法 第 10 回　介入の実際? ・社会復帰支援	最近発生した DV 事件について調べる（1 時間）、教科書第 6 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 11 回　介入の効果検証 ・プログラム評価と効果検証の必要性と手法 第 12 回　再犯・再非行に及ぶ理由 生活環境の重要性等	教科書第 7 章に目を通しておく（予習 2 時間）最近発生した虐待に関する事件を調べ、まとめる（2 時間）
	第 13 回　立ち直りの過程 ・グッドライフモデル ・犯罪者のナラティブに関する研究 第 14 回　事例検討	最近発生したストーカー事件を調べまとめる（2 時間）

	・架空の事例を用いて，犯罪に至った背景要因の見立て，支援の方法について考える。	
	第 15 回　前半の総括試験 ・示された事例について，①なぜ犯罪行為に及んだのか，②これからどのような介入が必要なのか考えて記載する。 第 16 回　後半ガイダンス 、犯罪心理学とは何か、犯罪統計 本講義のねらいや、全体の構成について説明する。 犯罪心理学とはどういう学問か、アプローチの仕方によって犯罪・非行についての　切口が異なることを確認する。	教科書 第 8 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 17 回　犯罪の原因論① 犯罪の原因について生物学的要因の観点から説明する。 第 18 回　犯罪の原因論② 犯罪の原因について、性格の要因など心理学的要因の観点から説明する。	教科書 第 9 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 19 回　犯罪の原因論③ 犯罪の原因について、物理的・状況的な「環境」、人間関係などの社会学的観点から説明する。 第 20 回　DV について 親密な関係の中で起こる暴力について説明する。	授業資料を振り返る（60 分）
	第 21 回　虐待について 子ども虐待や高齢者虐待に関する現状を解説するとともに、発生や防止に関わる心理的問題について解説する。 第 22 回　ストーキングについて ストーカー加害者の特徴などについて解説する。	教科書第 11.12 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 23 回　物質・プロセス依存について 物質・プロセス依存の原因や治療について概説する。 第 24 回　窃盗について 窃盗の原因、動機、対策について解説する。	教科書 第 13 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 25 回　犯罪捜査・プロファイリング 犯罪捜査とそれにかかわる心理学的問題について解説する。 第 26 回　聴取・目撃証言 被害者や被疑者への聴取、目撃者の証言に関する心理学的問題について解説する。	教科書 第 14 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 27 回　裁判について学ぶ 裁判について、主に裁判員裁判について解説する。 第 28 回　加害者支援について 再犯リスク低減のための取り組みについて学ぶ。	教科書 第 15 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 29 回　犯罪被害者について 被害者が受ける心理的な問題・被害などについて取りあげる。	これまでの授業を復習し、試験に備える。

	第 30 回　後半の総括テスト ・持ち込み不可	

1.授業コード（ナンバリング）	CRI208-Y01	2.科目名	矯正心理学	3.単位数	2
4.授業担当教員	神垣一規				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	認定心理士	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	【目的】犯罪者の特徴及び立ち直りの過程について理解することを目的とする。 【概要】 司法矯正領域における心理職がどのような役割を担っているのか総合的に理解できるような講義を目指す。特に，犯罪の背景要因のアセスメント，犯罪者個々の問題に焦点を当てた処遇，更生に必要な社会復帰支援を学ぶことに重点を置く。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目は DP のうち，多様性理解，問題発見・解決力，専門知識・技能の活用力と関連する。 【学習目標】 ①一連の司法矯正手続きの中で，心理的介入がどのように役立つのか理解する。 ②犯罪に関連する事象を多面的に捉えることができる。				
19.教科書・教材	適宜 WEBCLASS にアップする				
20.参考文献	①法と心理学会監修「入門　司法・犯罪心理学」有斐閣　2021 年 ②安香宏著「犯罪心理学への招待：犯罪・非行を通して人間を考える」サイエンス社　2008 年 ③森丈弓著「犯罪心理学：再犯防止とリスクアセスメントの科学」ナカニシヤ出版　2017 年 ④藤岡淳子著「非行・犯罪心理臨床におけるグループの活用：治療教育の実践」誠信書房　2014 年 ⑤シャッド・マルナ著「犯罪からの離脱と『人生のやり直し』：元犯罪者のナラティブから学ぶ」明石書店　2013 年				
21.成績評価	毎回の感想レポート：2 点×15 回３０％（目標①，②に該当） 最近気になる犯罪非行に関するレポート：１０％（目標②に該当） 犯罪者の社会復帰に関するレポート：２０％（目標①に該当） 総括試験：４０％（目標①，②に該当）				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	犯罪心理学が対象とする領域 ・司法・犯罪領域とは何をさすのか。 ・心理職がどのように活躍しているか。	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：感想レポート
第２回	犯罪・非行の移り変わり ・時代背景と犯罪・非行との関係性 ・近年注目されている犯罪	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：感想レポート
第３回	犯罪理論の概要 ・性悪説，性善説 ・原因重視，目的重視 ・発達障害との関係	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：①感想レポート ②最近気になる犯罪・非行の記事に関するレポート提出
第４回	犯罪行為のアセスメント① ・財産犯	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：感想レポート

第５回	犯罪行為のアセスメント② ・粗暴犯	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：感想レポート
第６回	犯罪行為のアセスメント③ ・性犯，薬物犯	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：感想レポート
第７回	リスクアセスメント ・リスクアセスメントの歴史 ・RNR 原則	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：感想レポート
第８回	介入の実際① ・認知行動療法に基づくアプローチ	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：感想レポート
第９回	介入の実際② ・動機づけ面接法	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：感想レポート
第１０回	介入の実際③ ・社会復帰支援	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：感想レポート
第１１回	介入の効果検証 ・プログラム評価と効果検証の必要性と手法	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：感想レポート
第１２回	再犯・再非行に及ぶ理由 生活環境の重要性等	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：①感想レポート ②犯罪者の社会復帰のために有効だと思う介入についてのレポート提出
第１３回	立ち直りの過程 ・グッドライフモデル ・犯罪者のナラティブに関する研究	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：感想レポート
第１４回	事例検討 ・架空の事例を用いて，犯罪に至った背景要因の見立て，支援の方法について考える。	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：感想レポート
第１５回	総括テスト 示された事例について，①なぜ犯罪行為に及んだのか，②これからどのような介入が必要なのか考えて記載する。	

1.授業コード（ナンバリング）	CS2302-Y01	2.科目名	専門研究Ⅰ　（再）	3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕				
5.授業科目の区分	専門教育　総合演習科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	各専攻（エアライン・ホテルブライダル・旅行・観光ビジネス専攻（地域コース）など			9.履修学年	3 年生以上
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	①先に単位取得が必須の科目：基礎演習または課題研究Ⅰ・Ⅱのいずれか ②履修を推奨する科目：マーケティング関連科目、エアラインビジネス論、現代航空事情		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ゼミ振り分けの人数				
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目（専攻研究Ⅰ・Ⅱ）の目的は、連携先の企業・団体の提示する問題の解決に他者と協働して取り組むことで、これまで学んできた知識や技術を統合的に活用する力を強化することにあります。具体的には、ものごとの見方や考え方、資料・データの収集と分析の方法、議論の進め方、柔軟な発想力、深く考える力、他者への理解や共感、不足する知識や技術への気づきと自己能動的学習による知識や技術の修得、プレゼンテーション力を強化します。 【概要】 今年度の全学年に共通する学科の学びのテーマは「ウェルビーイング社会の実現につな				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目（専攻研究Ⅰ・Ⅱ）の学習目標はＤＰ（ディプロマ・ポリシー）の(6)「専門的知識・技能の活用力…マーケティングの知識・手法に基づき、観光産業で求められる知識・技能を活用して、既存の課題の解決と新たな企画・提案ができる」に関連しています。 【本科目の学習目標】 ①学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 ② 課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 ③他者貢献の意味を理解し、コミュニケーションを図り、チームビルディングに主体的に参加しチームに貢献することができる。 ④目標達成に向かって組織、工程、資源のマネジメントを効率的に行うことができる。 ⑤学外の関係者と積極的かつ効率的にコミュニケーションを図り、ビジネスマナーを適切に行動化することができる。 ⑥創り上げたアイデアをわかりやすくまとめ、的確かつ効果的に相手に伝えるプレゼンテーションができる。				
19.教科書・教材	適宜、資料を配信します。				
20.参考文献	なし				
21.成績評価	専門研究Ⅰ　個人調査の成果物：50%　・・・学習目標①② 行程表（個人課題で提出したもの）：30%　・・・学習目標④ 専攻課題文献のまとめ（2 本）：20%　・・・学習目標② 専門研究Ⅱ　調査計画表：20%　・・・学習目標②④ 発表 PPT（個人課題で提出したもの）：30%　・・・学習目標③⑤⑥ 調査研究報告書（6000 字以上）：50%　・・・学習目標①② ※成果物の評価にはルーブリック評価表を使用します。授業初回の説明でよく確認してくださ				

	い。 ※本授業は主体的な学習
22.コメント	エアライン専攻ゼミでは、最終ゴールはもちろんのこと、以下についても取り組みます。 ①調査研究レポートの作成、就活に向けて文章力を鍛える。⇒毎回、PC を持参し、課題のテーマについて文章を作成します。また課題図書も設けます。 ②データの収集および分析力を高める。⇒アンケートの作成やデータ化、データの分析から表やグラフの作成をできるようにＩＴリテラシーを身につけます。 ③就活に向けた情報力を高める。⇒具体的な業界や企業について担当者を決めて発表します。（キャリアプランニングでも同じ課題が出されます。同じ内容でかまいません。）
23.オフィスアワー	金曜日　昼休み　神戸山手キャンパス 3 号館　3302 号室

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	第 1 回：オリエンテーション（進め方全体やゼミで目指す方向を確認） 第 2 回：2 年次の研究内容の発表　グループ決定	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 3 回 第 4 回	第 3 回：研究テーマについての検討（前年度の取り組みについて発表を確認） 第 4 回：フィールドワークに向けてテーマから確認すべき事項を取りまとめる。フィールドワークは空港見学を予定しており、開催は 5 月から 6 月の土曜日の予定。	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 5 回 第 6 回 第 7 回	第 5 回：フィールドワーク後のテーマに関する部分をまとめ、更なる調査項目をピックアップ 第 6 回＆第 7 回：フィールドワーク実施により休講	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 8 回 第 9 回	第 8 回：成果計画表の作成 第 9 回：工程表の作成	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 10 回 第 11 回	第 10 回：　合同発表会に向けて準備 第 11 回：テーマ発表会　ANA 総研によるアドバイス	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 12 回～第 14 回 第 15 回	第 12 回～第 14 回：企業からのアドバイスや他大学の発表から最終発表に向けて新たに追加すべき活動や見直すべき活動を再検討 第 15 回：夏休みに向けての課題	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 16 回 第 17 回～第 22 回	第 16 回：研究テーマの確認 第 17 回～第 22 回：中間報告に向けて発表準備（毎回発表を行います）	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 23 回 第 24 回～第 28 回	第 23 回：中間報告会 第 23 回～第 28 回：個人研究作業およびグループ発表作業	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 29 回 第 30 回	第 29 回：合同研究発表会　　ANA 総研による採点 第 30 回：個人課題研究提出	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願い

		します。

1.授業コード（ナンバリング）	CS2302-Y02	2.科目名	専門研究Ⅰ　（再）	3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均				
5.授業科目の区分	専門教育　総合演習科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	指定なし			9.履修学年	3 年生以上（2020 年度以前入学生）
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	①先に単位取得が必須の科目：基礎演習または課題研究Ⅰ・Ⅱのいずれか ②履修を推奨する科目：マーケティング関連科目、および思考法を推奨する。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	20 名				
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目（専門研究Ⅰ・Ⅱ）の目的は、連携先の企業・団体の提示する問題の解決に他者と協働して取り組むことで、これまで学んできた知識や技術を統合的に活用する力を強化することにあります。具体的には、ものごとの見方や考え方、資料・データの収集と分析の方法、議論の進め方、柔軟な発想力、深く考える力、他者への理解や共感、不足する知識や技術への気づきと自己能動的学習による知識や技術の修得、プレゼンテーション力を強化します。 【概要】 3 年次では、「ウェルビーイング社会を実現する観光ビジネスを考える」というテーマ				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目（専門研究Ⅰ・Ⅱ）の学習目標はＤＰ（ディプロマ・ポリシー）の(6)「専門的知識・技能の活用力…マーケティングの知識・手法に基づき、観光産業で求められる知識・技能を活用して、既存の課題の解決と新たな企画・提案ができる」に関連しています。 【本科目の学習目標】 ①学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 ② 課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 ③他者貢献の意味を理解し、コミュニケーションを図り、チームビルディングに主体的に参加しチームに貢献することができる。 ④目標達成に向かって組織、工程、資源のマネジメントを効率的に行うことができる。 ⑤学外の関係者と積極的かつ効率的にコミュニケーションを図り、ビジネスマナーを適切に行動化することができる。 ⑥創り上げたアイディアをわかりやすくまとめ、的確かつ効果的に相手に伝えるプレゼンテーションができる。				
19.教科書・教材	適宜、資料を WEB 配信します。				
20.参考文献	適宜、授業中に指示します。				
21.成績評価	個人調査の成果物：50%　・・・学習目標①② 工程表（個人課題で提出したもの）：30%　　・・・学習目標④ 専攻課題文献のまとめ（2 本）：20%　・・・学習目標② ※成果物の評価にはルーブリック評価表を使用します。授業初回の説明でよく確認してください。 ※本授業は主体的な学習活動を中心として運営されますので、特別な事情の無い欠席については、基本的には認められませんので留意して下さい。				

22.コメント	コロナ禍によって人々の価値観は大きく変動し、観光に求めることもますます多様化しています。これからの観光にとって、ターゲットとなる客層のニーズを把握し、そのニーズに応える観光プロダクトを創り出す力を身につけることが大切です。ゼミでは、連携企業や団体から提示された観光の現場の課題について調査・分析し、その解決に取り組みます。 【注意点】 ※１　ホスピタリティ産業はマナーが第一です。連携先との打ち合わせやインタビューなどの際には常に身なりや行動に注意すること。 ※２　フィールドワークは原則必ず参加してください（実費です）。正当な理由がなく欠席した場合には、評価がマイナスされます。 ※　チームワークを大事にしてください。観光の仕事は相手の気持ちを考えることが大切です。お互いに高めうことができるように、相手を受け止め、働きかけてください。
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 5 限（春） 学修支援センター：金曜昼休み（春）

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	《イントロダクション》 授業の目的、学習目標、成績評価の方法、卒業研究、就活との関係について理解しましょう。 《ブロック１》プロジェクトマネジメントを理解する。 ①講義：「プロジェクトマネジメントとは？」 プロジェクトマネジメントとは何かについて理解し、今後の調査研究活動全体の流れと、求められる主な知識・スキルを理解します。 ②講義：「チーム・ビルディングのマインドセットとスキル」 チームとは何か、チームビルディングに必要なマインド・セットとスキルを学びます。 ③講義：「Learning Communit	【課題１－１】 企画提案書について調べて、PPT にまとめて提出してください（担当割り当て個人ワーク）。
第 2 回	《ブロック１》プロジェクトマネジメントを理解する。 ①ミニ講義+質疑応答+ディスカッション： 課題１についてのミニ講義を行い、質疑応答の後、ディスカッションを行い、企画提案書についての理解を深めます。 ②講義： 発想法、思考法の基本とデザイン思考のスキルについて実践的トレーニングを繰り返し、身につけます。	【課題２】 与えられたテーマについて、たくさんのアイデア出しを行 い、レポートにまとめ、4/26 までに提出して下さい。（全員個人ワーク）
第 3 回	《ブロック２》ミッションを理解するための下準備 ①講義：「連携先企業の分野について」 今回の連携先の企業・団体の事業分野について概説し、基本的な知識を理解します。 ②グループワーク：「連携先の事業分野の現状と課題」 2 人一組に分かれて調べるテーマを分担し、現状と課題について調べる。	【課題３】 各自の担当するテーマについて発表 PPT をまとめ、次週までに提出する（全員個人ワーク）
第 4 回	《ブロック２》ミッションを理解するための下準備 ①発表と質疑 各自で調べてきた連携先の事業分野の現状と課題について報告し、質疑応答をしながら全員で状況の理解を	【課題４】 コロナ以降の観光業界の再生の取り組みについて調べ、レポートにまとめて提出する（全員個人ワーク）

	深める。	
第５回	《ブロック２》目標達成のための課題を発見する。 ①説明会： ミッション（到達目標）及び制約条件について連携先団体から説明して頂き、質疑応答を行います。 ②ディスカッション： ミッションを達成するための課題について話し合い、調査課題を抽出します。（仮説を立てる。）調査担当の役割分担、課題の調査方法について話し合い決定します。	【課題４－１】 整理された課題についての解決策（仮説）を考え、レポートを作成し、次回授業で提出して下さい。（全員個人ワーク） 【課題１－３】 追加調査項目について調査し、レポートを作成、次回授業で提出して下さい。（担当割り当て個人ワーク） 【課題５－１】 工程表を作成し、次回授業で発表します。（グループワーク）
第６回	《ブロック３》計画立案 ①発表とディスカッション：追加調査項目 追加調査項目について発表し、ディスカッションを行い、課題の理解を深めます。 ②発表とディスカッション：課題解決策（仮説） グループに分かれ、個人ワークを基に課題の解決策について検討し、グループ代表が発表、全体で協議し、解決策（仮説）をまとめます。 ③発表とディスカッション：工程表 工程表を発表し、全体協議し、共有化を図ります	【課題１－４】 計画（企画）書の作り方について調べ、資料を作成し、次回授業で発表します。（担当割り当て個人ワーク）
第７回	《ブロック３》計画立案 ①ミニ講義：現地調査計画の立案 現地での調査計画の作り方についての理解を深めます。 ②ディスカッション：調査計画の立案 現地調査で確認すべき事項を洗い出し、各事項について仮説をたて、確認検証するポイント（どのようなデータを収集すべきか）を整理します。	【課題１－５】 調査方法について調べ、資料を作成し、次回授業で発表して下さい。（担当割り当て個人ワーク）
第８回	《ブロック３》計画立案 ①ミニ講義：調査方法 調査方法についての理解を深めます。 ②ミニ講義：行程表の作り方 行 程表の作り方についての理解を深めます。 ②ディスカッション：調査計画（行程と調査方法、役割分担） 現地調査計画を立案します。連携先と十分な協議を行い、実施可能な調査計画を立てることが重要です。 調査計画ができたら、準備段階から実施段階、報告段階までの役割分担を話し合いながら決めていきます。	【課題５－２】 現地調査計画（調査項目、調査方法、調査先、行程表、経費、役割分担）を作成し、次回授業で発表して下さい。（グループワーク）
第９回	《ブロック３》計画立案 ①発表：現地調査計画 調査計画を説明、質疑応答の上、共有します。 ②講義：調査活動における留意点 ビジネスマナー、コミュニケーション、記録・報告、	【課題５－３】 予約、確認などアレンジメント活動を行い、次回授業でその結果と留意点等の情報を共有して下さい。（担当割り当てグループワーク） 【課題１－７】

	情報収集と情報共有など、調査活動において重要なスキル、考え方を理解します。	調査報告書の書き方について調べ、資料を作成し、次回授業で発表・共有して下さい。（担当割り当て個人ワーク）
第 10 回	《ブロック３》計画立案 ①ミニ講義：調査報告書の書き方 調査報告書の書き方について理解します。 ②報告+ディスカッション：アレンジメント結果 アレンジメント結果を報告共有します。行程表等に修正が必要な場合は、変更をします。 ③ディスカッション：準備 準備・持参すべきもの、連絡先に連絡・確認すべきことなどの最終チェックを行います。	【課題５－４】 前回の検討結果を踏まえて、アレンジメント活動の修正を行い、次回授業でその結果と留意点等の情報を共有して下さい。（担当割り当てグループワーク）
第 11 回	《ブロック４》現地調査活動 調査計画に基づき、現地調査を行います。 ※日程等は調査先との協議により決まります。	【フィールドワーク課題】 フィールドワークで調査メモを作成し、まとめる（全員個人ワーク）
第 12 回	《ブッロック４》現地調査活動	【課題６－１】 調査報告書を作成し、次々回の授業で発表して下さい。（全員個人ワーク）
第 13 回	《ブッロック４》現地調査活動 ①発表：調査報告 各自が調査報告を行い、質疑応答を行い、調査結果の共有を図ります。 ②ディスカッション：調査結果分析 調査結果についてとりまとめを行い、分析手法について協議します。 ③講義：調査結果の分析手法 調査結果の分析手法について理解します。	PC を各自持参して下さい。 【課題６－２】 調査結果について、分析を行 い、資料を作成し、次回の授業で発表して下さい。 （担当割り当て個人ワーク
第 14 回	《ブッロク４》現地調査活動 ・ディスカッション+制作：グループに別れ分析結果を個々に発表しディスカッションした上で、分析資料を作成します。	・持参 PC を各自持参して下さい。
第 15 回	《ブロック４》まとめと振り返り ①調査結果発表+講評 連携先の方に来て頂き、調査結果を報告し、講評して頂きます。 ②ふりかえり ＰＢＬ基本ルーブリックに基づき自己評価を行います。	【課題７】 秋学期に向けて、興味のあるテーマについて、先行論文を 3 本読み、情報をまとめておくこと。

1.授業コード（ナンバリング）	CS2401-Y09	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	酒井良二				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	4 年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマ設定・独創的な仮説設定により、卒業論文を完成させる（通年）。春学期は、論文作成の基礎となる文献研究と資料収集を中心となるが、授業では発表・討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	■　経営学的に意味のある研究テーマを設定する。 ■　そのテーマに関する先行研究（文献・資料）をレビューし、必要なフィールド調査を行う。 ■　これらを通して、研究テーマについて独創的な仮説を設定する。 ■　論文作成のプロセスで、ゼミ内での討議や発表を行う。 ■　4 年間の学びの集大成として、卒業論文を完成させる。				
19.教科書・教材	指定なし（毎回プリント資料を配布）				
20.参考文献	講義において都度提示する。				
21.成績評価	研究計画：30% ■　研究テーマ設定と先行研究レビュー ■　研究仮説の設定 中間報告会・最終報告会発表：15% 卒業論文：50% e-ポートフォリオ「振り返り」投稿：5%				
22.コメント	本講義では、講師の 1994 年から 2007 年の 14 年間のアメリカのグローバル企業におけるマネジメント経験と、現在行っているビジネス・コンサルテーション経験をベースに、グローバル・ビジネスの最前線における経営（マネジメント）について、具体的な事例研究を交えて講義する。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回・第 2 回	＜ガイダンス、ｅポートフォリオ、卒論執筆要領＞ ・前学期の振り返り、春学期の目標設定をｅポートフォリオに入力する。 ・授業の進め方、卒論提出までのスケジュールを確認する。 ＜研究計画（1）＞ ・卒論執筆要領を説明する。 ・テーマのねらい、研究方法を検討する。	
第 3 回・第 4 回	＜研究計画（2）＞ ・論文の目的、概要を整理し、テーマを設定する。 ＜研究計画（3）＞ ・資料、参考文献リストを作成する。	○目的、概要を 1,000 字程度にまとめる。 ○資料、参考文献リストを完成させる。
第 5 回・第 6 回	＜研究計画の中間発表（1）＞ ・テーマ、研究方法、資料等について報告する。	★中間発表資料を作成する。 ○研究を進める。

	＜研究計画の中間発表（２）＞ ・ テーマ、研究方法、資料等について報告する。	○研究を進める。
第 7 回・第 8 回	＜論文構成の検討＞ ・研究計画書（目的・研究方法）を見直す。 ＜研究計画書の作成＞ ・資料、参考文献を再検討する。	○研究を進める。 ★研究計画書を指定する期限までに提出する。
第 9 回・第 10 回	＜個別研究報告（１）＞ ・研究テーマについて独創的な仮説を設定する。 ＜個別研究報告（２）＞	○研究を進める。 ○研究を進める。
第 11 回・第 12 回	＜個別研究報告（３）＞ ＜個別研究報告（４）＞	○研究を進める。 ○研究を進める。
第 13 回・第 14 回	＜中間報告会準備＞ ＜中間報告会（１）＞ ・合同で中間報告会を実施する。	○研究を進める。 ★中間報告会資料を作成する。
第 15 回・第 16 回	＜中間報告会（２）＞ ・合同で中間報告会を実施する。 ＜ガイダンス、ｅポートフォリオ、卒論執筆要領＞ ・前学期の振り返り、秋学期の目標設定をｅポートフォリオに入力する。 ・今後のスケジュール、卒論執筆要領を確認する。 ・夏休みの課題を確認する。	★（テーマ変更の場合）研究計画書変更届を指定された期限までに提出する。 ○e ポートフォリオに入力する。
第 17 回・第 18 回	＜夏休みの課題報告＞ ＜後期の計画確認＞	★卒業論文（5,000 字以上）を夏休み期間中に完成させる。 ○研究を進める。
第 19 回・第 20 回	＜個別研究報告（５）＞ ＜個別研究報告（６）＞	○研究を進める。 ○研究を進める。
第 21 回・第 22 回	＜個別研究報告（７）＞ ＜個別研究報告（８）＞	○研究を進める。 ○研究を進める。
第 23 回・第 24 回	＜論文要旨＞ ・論文の要旨をまとめる。 ＜原稿見直し・修正＞	○研究を進める。 ★原稿提出 ○原稿を修正する。
第 25 回・第 26 回	＜卒論提出＞ ＜報告会準備＞	○原稿を修正する。 ★卒論提出期間内に提出する ○卒論報告会資料を作成する。
第 27 回・第 28 回	＜ゼミ内卒論報告会＞	○卒論報告会資料を作成する。
第 29 回・第 30 回	＜ゼミ内卒論報告会＞ ＜最終報告会準備＞	○卒論報告会資料を修正する。 ○e-ポートフォリオに「振り返り」を投稿する。

1.授業コード（ナンバリング）	CS2401-YH1	2.科目名	卒業研究　（春）	3.単位数	4
4.授業担当教員	阿部忍				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	4 年次
10.取得資格の要件		11.先修条件	基礎演習または課題研究、専門演習を履修済みのこと		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 関心のあるテーマについて問いを立て、専門的知識を用いてその問いへの答えを導き出し、論証する能力を養うことを目的とします。 【概要】 自分自身の関心に基づいたテーマを設定し、卒業論文を執筆します。その中で、資料の収集、データの分析の力も身につけます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー）の S1．修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、S2．社会や文化について科学的に理解する力、の学習に関連しています。 本科目の学習目標は以下の通りです。 学習目標は以下の通りです。 ①関心があるテーマから、卒業論文のテーマを具体化し、仮説を立てることができる。 ②科学的で説得力のある論文を執筆できる。				
19.教科書・教材	教科書は指定せず、適宜プリントを配付します。				
20.参考文献	関連する文献情報は初回授業でアナウンスし、授業中にも適宜紹介します。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・卒業研究のための資料収集、分析：30 点【学習目標の①②に対応】 ・卒業論文の執筆: 70 点【学習目標①②に対応】 上記を合計し、60 点以上を取ることが合格基準となります。				
22.コメント	これまでに学んできた知識をベースに研究を進めることになります。関心があるテーマについて卒業研究の方向性を定め、余裕をもって卒業論文を執筆できるよう心掛けてください。				
23.オフィスアワー	学修支援センター：月曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス　・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて説明する　自己紹介を行う）	復習：今回の復習 予習：次回の予習（講義終了時に次回テーマを伝える）
【第 2 回】	研究計画の作成 ・実習　関心があるテーマを探し、研究計画を作成する	課題：研究計画を作成する
【第 3 回】	資料の収集 ・実習　自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第 4 回】	資料の収集 ・実習　自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第 5 回】	資料の収集 ・実習　自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第 6 回】	研究準備 ・調査などの研究手法について決め、その準備を行う	課題：自分の研究テーマに合った研究手法を選びそのための準備を行う
【第 7 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 8 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 9 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 10 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 11 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 12 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 13 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執

		筆を進める。
【第 14 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 15 回】	総括	復習：授業を通して学んだことを整理する

1.授業コード（ナンバリング）	CS2402-Y03	2.科目名	卒業論文・制作・設計	3.単位数	4
4.授業担当教員	酒井良二				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門演習を修得していること		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	4 年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマ設定・独創的な仮説設定により、卒業論文を完成させる（通年）。春学期は、論文作成の基礎となる文献研究と資料収集を中心となるが、授業では発表・討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	■　経営学的に意味のある研究テーマを設定する。 ■　そのテーマに関する先行研究（文献・資料）をレビューし、必要なフィールド調査を行う。 ■　これらを通して、研究テーマについて独創的な仮説を設定する。 ■　論文作成のプロセスで、ゼミ内での討議や発表を行う。 ■　4 年間の学びの集大成として、卒業論文を完成させる。				
19.教科書・教材	指定なし（毎回プリント資料を配布）				
20.参考文献	講義において都度提示する。				
21.成績評価	研究計画：20% 卒業論文：70% 発表：10%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回・第 2 回	＜ガイダンス、ｅポートフォリオ、卒論執筆要領＞ ・前学期の振り返り、春学期の目標設定をｅポートフォリオに入力する。 ・授業の進め方、卒論提出までのスケジュールを確認する。 ＜研究計画（1）＞ ・卒論執筆要領を説明する。 ・テーマのねらい、研究方法を検討する。	
第 3 回・第 4 回	＜研究計画（2）＞ ・論文の目的、概要を整理し、テーマを設定する。 ＜研究計画（3）＞ ・資料、参考文献リストを作成する。	○目的、概要を 1,000 字程度にまとめる。 ○資料、参考文献リストを完成させる。
第 5 回・第 6 回	＜研究計画の中間発表（1）＞ ・テーマ、研究方法、資料等について報告する。 ＜研究計画の中間発表（2）＞ ・　テーマ、研究方法、資料等について報告する。	★中間発表資料を作成する。 ○研究を進める。 ○研究を進める。
第 7 回・第 8 回	＜論文構成の検討＞ ・研究計画書（目的・研究方法）を見直す。 ＜研究計画書の作成＞	○研究を進める。 ★研究計画書を指定する期限までに提出する。

	・資料、参考文献を再検討する。	
第 9 回・第 10 回	＜個別研究報告（１）＞ ・研究テーマについて独創的な仮説を設定する。 ＜個別研究報告（２）＞	○研究を進める。 ○研究を進める。
第 11 回・第 12 回	＜個別研究報告（３）＞ ＜個別研究報告（４）＞	○研究を進める。 ○研究を進める。
第 13 回・第 14 回	＜中間報告会準備＞ ＜中間報告会（１）＞ ・合同で中間報告会を実施する。	○研究を進める。 ★中間報告会資料を作成する。
第 15 回・第 16 回	＜中間報告会（２）＞ ・合同で中間報告会を実施する。 ＜ガイダンス、ｅポートフォリオ、卒論執筆要領＞ ・前学期の振り返り、秋学期の目標設定をｅポートフォリオに入力する。 ・今後のスケジュール、卒論執筆要領を確認する。 ・夏休みの課題を確認する。	★（テーマ変更の場合）研究計画書変更届を指定された期限までに提出する。 ○e ポートフォリオに入力する。
第 17 回・第 18 回	＜夏休みの課題報告＞ ＜後期の計画確認＞	★卒業論文（5,000 字以上）を夏休み期間中に完成させる。 ○研究を進める。
第 19 回・第 20 回	＜個別研究報告（５）＞ ＜個別研究報告（６）＞	○研究を進める。 ○研究を進める。
第 21 回・第 22 回	＜個別研究報告（７）＞ ＜個別研究報告（８）＞	○研究を進める。 ○研究を進める。
第 23 回・第 24 回	＜論文要旨＞ ・論文の要旨をまとめる。 ＜原稿見直し・修正＞	○研究を進める。 ★原稿提出 ○原稿を修正する。
第 25 回・第 26 回	＜卒論提出＞ ＜報告会準備＞	○原稿を修正する。 ★卒論提出期間内に提出する ○卒論報告会資料を作成する。
第 27 回・第 28 回	＜ゼミ内卒論報告会＞	○卒論報告会資料を作成する。
第 29 回・第 30 回	＜ゼミ内卒論報告会＞ ＜最終報告会準備＞	○卒論報告会資料を修正する。 ○e-ポートフォリオに「振り返り」を投稿する。

1.授業コード（ナンバリング）	CS2402-Y05	2.科目名	卒業論文・制作・設計	3.単位数	4
4.授業担当教員	阿部忍				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	4 年次
10.取得資格の要件		11.先修条件	基礎演習または課題研究、専門演習を履修済みのこと		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 関心のあるテーマについて問いを立て、専門的知識を用いてその問いへの答えを導き出し、論証する能力を養うことを目的とします。 【概要】 自分自身の関心に基づいたテーマを設定し、卒業論文を執筆します。その中で、資料の収集、データの分析の力も身につけます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー）の S1．修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、S2．社会や文化について科学的に理解する力、の学習に関連しています。 本科目の学習目標は以下の通りです。 学習目標は以下の通りです。 ①関心があるテーマから、卒業論文のテーマを具体化し、仮説を立てることができる。 ②科学的で説得力のある論文を執筆できる。				
19.教科書・教材	教科書は指定せず、適宜プリントを配付します。				
20.参考文献	関連する文献情報は初回授業でアナウンスし、授業中にも適宜紹介します。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・卒業研究のための資料収集、分析：30 点【学習目標の①②に対応】 ・卒業論文の執筆: 70 点【学習目標①②に対応】 上記を合計し、60 点以上を取ることが合格基準となります。				
22.コメント	これまでに学んできた知識をベースに研究を進めることになります。関心があるテーマについて卒業研究の方向性を定め、余裕をもって卒業論文を執筆できるよう心掛けてください。				
23.オフィスアワー	学修支援センター：月曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス　・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて説明する　自己紹介を行う）	復習：今回の復習 予習：次回の予習（講義終了時に次回テーマを伝える）
【第 2 回】	研究計画の作成 ・実習　関心があるテーマを探し、研究計画を作成する	課題：研究計画を作成する
【第 3 回】	資料の収集 ・実習　自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第 4 回】	資料の収集 ・実習　自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第 5 回】	資料の収集 ・実習　自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第 6 回】	研究準備 ・調査などの研究手法について決め、その準備を行う	課題：自分の研究テーマに合った研究手法を選びそのための準備を行う
【第 7 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 8 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 9 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 10 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 11 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 12 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 13 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執

		筆を進める。
【第 14 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 15 回】	総括	復習：授業を通して学んだことを整理する

1.授業コード（ナンバリング）	CS2402-YH1	2.科目名	卒業論文・制作・設計 （春）	3.単位数	4
4.授業担当教員	阿部忍				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	4 年次
10.取得資格の要件		11.先修条件	基礎演習または課題研究、専門演習を履修済みのこと		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 関心のあるテーマについて問いを立て、専門的知識を用いてその問いへの答えを導き出し、論証する能力を養うことを目的とします。 【概要】 自分自身の関心に基づいたテーマを設定し、卒業論文を執筆します。その中で、資料の収集、データの分析の力も身につけます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー）の S1．修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、S2．社会や文化について科学的に理解する力、の学習に関連しています。 本科目の学習目標は以下の通りです。 学習目標は以下の通りです。 ①関心があるテーマから、卒業論文のテーマを具体化し、仮説を立てることができる。 ②科学的で説得力のある論文を執筆できる。				
19.教科書・教材	教科書は指定せず、適宜プリントを配付します。				
20.参考文献	関連する文献情報は初回授業でアナウンスし、授業中にも適宜紹介します。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・卒業研究のための資料収集、分析：30 点【学習目標の①②に対応】 ・卒業論文の執筆: 70 点【学習目標①②に対応】 上記を合計し、60 点以上を取ることが合格基準となります。				
22.コメント	これまでに学んできた知識をベースに研究を進めることになります。関心があるテーマについて卒業研究の方向性を定め、余裕をもって卒業論文を執筆できるよう心掛けてください。				
23.オフィスアワー	学修支援センター：月曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス　・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて説明する　自己紹介を行う）	復習：今回の復習 予習：次回の予習（講義終了時に次回テーマを伝える）
【第 2 回】	研究計画の作成 ・実習　関心があるテーマを探し、研究計画を作成する	課題：研究計画を作成する
【第 3 回】	資料の収集 ・実習　自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第 4 回】	資料の収集 ・実習　自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第 5 回】	資料の収集 ・実習　自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第 6 回】	研究準備 ・調査などの研究手法について決め、その準備を行う	課題：自分の研究テーマに合った研究手法を選びそのための準備を行う
【第 7 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 8 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 9 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 10 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 11 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 12 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 13 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執

		筆を進める。
【第 14 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 15 回】	総括	復習：授業を通して学んだことを整理する

1.授業コード（ナンバリング）	CS2403-Y02	2.科目名	卒業研究Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	4 年次
10.取得資格の要件		11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門演習を修得していること		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目は、大学での学びと経験の総仕上げである卒業論文を執筆することが目的である。ゼミ形式で進める授業のなかで、論文作成の手順や手続きを学び、自らの関心に基づいて専門分野を探求して課題を設定し、先行研究の精査と多様なデータの分析による客観的な論証を通じて、各自が説得力のある結論を導き出すことを目指す。 なお、この授業は SDG s の以下の目標を目指します。 ９．強くしなやかなインフラ構築，包摂的かつ持続可能な産業化の促進およびイノベーションの促進を図る				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 K1：歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる K2：グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ K4：異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①既存の概念や定説にとらわれず、観光に関わる幅広い分野において批判的思考に基づき課題を見出すことができる。 ②先行研究を論理的に分析することができる。 ③自らの仮説を客観的なデータで論証できる。 ④自らの考えを論理的に説明できる。 ⑤自らの論考を論理的な文章にまとめることができる。				
19.教科書・教材	特に指定しない。				
20.参考文献	戸田山和久『新版　論文の教室　　レポートから卒論まで』NHK ブックス、 2012 年 石黒圭『論文・レポートの基本 ： この 1 冊できちんと書ける!』　日本実業出版社、2012 年 西村克己『論理的な文章の書き方が面白いほど身につく本 ：「わかりやすい 文章」を書くための基本ポイント 35』 KADOKAWA/中経出版　2011 年				
21.成績評価	・ゼミ内での発表〈春学期〉：10%　【学習目標①④に対応】 ・論文構成報告〈春学期終盤〉：20%　【学習目標①②④⑤に対応】 ・中間発表〈10 月中旬〉：20%　【学習目標②③④⑤に対応】 ・ゼミ内での発表〈秋学期〉：10%　【学習目標②③④に対応】 ・口頭試問〈1 月下旬〉：40%　【学習目標②③④に対応】 ※成果物としての卒業論文については、「卒業論文」科目においてルーブリック評価を用いて評価する（100%） 【学習目標①②③⑤に対応】				
22.コメント	自分の取り上げたテーマについて「なぜだろう？」「本当だろうか？」と批判的に問い続け、検証し、文章で論理的に説明する卒業論文の作成は、大変な時間と労力を必要とします。行き詰				

	った時には、指導教官だけではなく、友人たちとも議論してみましょう。お互いに気が付かない点が見えてくることもあります。大学での学びの総決算として、「やり切った」といえる卒論を書きあげてください。
23.オフィスアワー	個人研究室：月曜昼休み 学修支援センター：月曜 4 限目

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1〜2 回】	・春学期オリエンテーション （本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス） ・卒業論文作成のためのガイダンスとスケジュールの確認	○卒業論文作成に関する規則やルールの復習 ○先行研究の収集・精読と発表準備
【第 3〜4 回】	・各自の課題意識と研究テーマの発表、および質疑応答①	○先行研究の収集・精読と発表準備
【第 5〜6 回】	・各自の課題意識と研究テーマの発表、および質疑応答②	○先行研究の収集・精読と発表準備
【第 7〜8 回】	・各自の論文章立ての発表、および質疑応答①	○先行研究の収集・精読と発表準備
【第 9〜10 回】	・各自の論文章立ての発表、および質疑応答②	○先行研究の収集・精読と発表準備
【第 11〜12 回】	・調査手法の検討と準備について、各自の報告と質疑応答①	○調査手法の準備と発表準備
【第 13〜14 回】	・調査手法の検討と準備について、各自の報告と質疑応答②	○調査手法の準備と発表準備 ○夏休み中の作業計画の作成
【第 15〜16 回】	第 15 回：夏休み中の作業計画の提出 論文構成の報告（副査に提出）・・・春学期終了 第 16 回：夏休み中の論文の進行状況報告と初稿提出までのスケジュール確認	○論文構成報告書の作成 ☆夏休み：本文の執筆・調査の実施 ○夏休み中の論文進行状況報告の準備
【第 17〜18 回】	☆10 月中旬：論文の中間発表 ・各自の論考の報告と質疑応答①	○中間報告に向けた発表の準備 ○文献・フィールド調査・データ分析
【第 19〜20 回】	・各自の論考の報告と質疑応答②	○文献・フィールド調査・データ分析 ○本文の執筆
【第 21〜22 回】	・各自の論考の報告と質疑応答③	○文献・フィールド調査・データ分析 ○本文の執筆
【第 23〜24 回】	・各自の論考の報告と質疑応答④	○本文の執筆
【第 25〜26 回】	☆12 月上旬：論文初稿提出（期日は後日指定） ・提出後、副査のコメントをもとに論文の修正について指示	○論文の修正
【第 27〜28 回】	・論文の修正の確認と口頭試問の準備	○論文の修正 ○口頭試問の準備
【第 29〜30 回】	☆1 月中・下旬：口頭試問（2 コマ使用）（各ゼミごとに実施）	○口頭試問の準備

1.授業コード（ナンバリング）	CS2403-Y03	2.科目名	卒業研究 I	3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門研究を修得済みであること。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの学修の集大成として、秋学期末に提出する調査研究成果報告書／企画提案書の準備をすることを目的とする。 これまで学修、修得した知識とスキルを統合的に活用し、調査研究活動を行い、その成果を、報告書／企画提案書としてまとめるための指導を行う。 とくに、研究及び執筆過程において深く思考するという体験をすることに重点を置く。 【概要】各自が設定する研究テーマについての現状調査、先行研究の収集、考察・分析など、秋学期に提出する調査研究成果報告書／企画提案書の執筆の準備作業を進める。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 K1：歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる K2：グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ K4：異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①　国際ビジネスに関わる幅広い分野において批判的視点から課題を発見し研究テーマを設定することができる ②　先行研究を論理的に分析することができる。 ③　研究課題に関する情報の収集・分析を行い、仮説を客観的データに基づき論証することができる。 ④　研究及び論文執筆の計画を作成し、実施することができる。 ⑤　研究成果を既定の書式にそって論文としてまとめることができる。 ⑥　研究成果について論理的に説明でき、意見を交換することができる。				
19.教科書・教材	特に指定しない。適宜資料を配布する。				
20.参考文献	論文 ・明石芳彦（2018）『社会科学系論文の書き方』ミネルバ書房. ・西村克己（2011）『論理的な文章の書き方が面白いほど身につく本 ：「わかりやすい 文章」を書くための基本ポイント 35』 KADOKAWA. ・二通 信子 他（2009）『留学生と日本人学生のためのレポート・論 文表現ハンドブック』東京大学出版会. 報告書 ザ・アール（2018）『これだけは知っておきたい「レポート・報告書」の基本と常識　改訂版』フォレスト出版. ・学研パブリッシング（2012）『【実例 110】レポー				
21.成績評価	【課題１～9】：計 40%（ルーブリックにより評価）				

	【課題 10】研究計画書〔調査の趣旨・目的、調査方法、見込まれる調査結果〕：60%（ルーブリックにより評価） ⇒ 第 15 回目までに提出することが、本科目の単位取得の絶対条件。未提出の場合は再履修、卒業研究 II の履修不可＝本年度の卒業不可。
22.コメント	? 自分の取り上げたテーマについて「なぜだろう？」「本当だろうか？」と批判的に問い続け、検証し、文章で論理的に説明することが大切です。 調査研究成果報告書／企画提案書の作成は、大変な時間と労力を必要とします。行き詰った時には、指導教官だけではなく、友人たちとも議論してみましょう。お互いに気が付かない点が見えてくることもあります。大学での学びの総決算として、「やり切った」といえるモノを書きあげてください。 ・毎回ＰＣを持参使用します。ワード、エクセルのスキルが必要となります。 ・毎回、ノート+筆記用具、または PC を持参して下さい。 ・授業計画に沿って段階を踏みながら取り組むことが重要です。
23.オフィスアワー	金曜日　昼休み　神戸山手キャンパス 3 号館　3302 号室

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション　（本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス） ・調査研究成果報告書／企画提案書のためのガイダンスとスケジュールの確認。	・調査研究、報告書作成に関する規則やルールの復習。 ・卒業論文作成に関する規則やルールの復習。 【課題 1】仮テーマ案を 3 つ程度考え提出する。 【課題 2】先輩の卒業論文を 1 つ読み、概要（テーマ、課題、課題解決方法、結論）についてレポートを提出する。
第 2・3 回	? 【課題 1、2】の提出、発表及び質疑応答 ? 卒論の客観的評価。	【課題 3】テーマについての先行研究を 20 点あげ、年代順に並べるなどして傾向・現状をまとめる。記述方法は執筆要領に従うこと。
第 4・5 回	? 【課題 3】の提出、発表及び質疑応答 ? これまで、また現在どのようなことが議論され課題となっているかを確認する。 ? テーマを徐々に固め、テーマが固まったら仮説を立ててみる。	【課題 4】テーマについて仮説を立て、レポートを提出する。
第 6・7 回	? 【課題 4】の提出、発表及び質疑応答 ? 仮説を検証するために必要な調査課題とその方法を検討。	【課題 5】調査課題と調査方法についてレポートを提出する。
第 8・9 回	? 【課題 5】の提出、発表及び質疑応答。 ? 改めてテーマの課題を整理し、現状と展望について考察する。	【課題 6】調査課題を整理した上で、目次案を作成し提出する。
第 10・11 回	? 【課題 6】の提出、発表及び質疑応答。 ? アンケート、インタビュー、現地踏査などの諸注意。	【課題 7】アンケート、インタビューの質問リストを提出する。
第 12・13 回	? 【課題 7】の提出、発表及び質疑応答。 ? 研究計画書〔調査の趣旨・目的、調査方法、見込まれる調査結果〕の準備。	【課題 8】アンケート、インタビューの質問リストの校正 文献・資料調査の補足。 【課題 9】夏休み中の作業計画書の提出＝第

		15 回目までに提出
第 14・15 回	? 【課題 8、9、10】の提出、発表及び質疑応答。 ? 夏休み中の作業の確認。	【課題１１】夏休み中の進行状況の確認１＝8 月末までに提出 【課題 12】夏休み中の進行状況の確認 2＝秋学期開始前に提出
【第 16 回】	? 【課題 10、11、12】の発表 ? 夏休み中の調査研究成果報告書／企画提案書の進行状況報告と初稿提出までのスケジュール確認。	【課題 11、12】夏休み中に提出
【第 17～18 回】	? 10 月中旬：調査研究成果報告書／企画提案書の中間発表会。 ? 執筆状況の報告と助言・指導	【課題１３】プレンゼンテーションの中間発表会の実施
【第 19～26 回】	★執筆活動 ? 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導 ? 11 月上旬：最終原稿案の提出	【課題１4】最終原稿案の提出 10 月中旬 プレンゼンテーションの準備・練習。
【第 27～28 回】	★調査研究成果報告書／企画提案書の提出＝12 月下旬予定	【課題 15】最終原稿 2 部提出（紙媒体） ? プレンゼンテーションの準備・練習。 ★プレンゼンテーション＝1 月下旬までにゼミごとに実施
【第 29～30 回】	? 調査研究成果報告書／企画提案書の校正作業。 ? 口頭試問の準備・練習。 ★口頭試問＝1 月下旬（ゼミごとに実施）	【課題１６】プレンゼンテーションもしくは口頭試問

1.授業コード（ナンバリング）	CS2403-Y05	2.科目名	卒業研究Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	4 年次
10.取得資格の要件		11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門演習を修得済みであること		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 これまでの学修の集大成として、秋学期末に提出する調査研究成果報告書／企画提案書の準備をすることを目的とする。 　これまで学修、修得した知識とスキルを統合的に活用し、調査研究活動を行い、その成果を、報告書／企画提案書としてまとめるための指導を行う。 　とくに、研究及び執筆過程において深く思考するという体験をすることに重点を置く。 【概要】 各自が設定する研究テーマについての現状調査、先行研究の収集、考察・分析など、秋学期に提出する調査研究成果報告書／企画提案書の執筆の準備作業を進める。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 K1：歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる K2：グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ K4：異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①　国際ビジネスに関わる幅広い分野において批判的視点から課題を発見し研究テーマを設定することができる ②　先行研究を論理的に分析することができる。 ③　研究課題に関する情報の収集・分析を行い、仮説を客観的データに基づき論証することができる。 ④　研究及び論文執筆の計画を作成し、実施することができる。 ⑤　研究成果を既定の書式にそって論文としてまとめることができる。 ⑥　研究成果について論理的に説明でき、意見を交換することができる。				
19.教科書・教材	特に指定しない。適宜資料を配布する。				
20.参考文献	論文 ・明石芳彦（2018）『社会科学系論文の書き方』ミネルバ書房. ・西村克己（2011）『論理的な文章の書き方が面白いほど身につく本 ：「わかりやすい 文章」を書くための基本ポイント 35』 KADOKAWA. ・二通 信子 他（2009）『留学生と日本人学生のためのレポート・論 文表現ハンドブック』東京大学出版会. 報告書 ザ・アール（2018）『これだけは知っておきたい「レポート・報告書」の基本と常識　改訂版』				

	フォレスト出版. ・学研パブリッシング（2012）『【実例 110】レポー
21.成績評価	【課題 1 ～9】：計 40%（ルーブリックにより評価） 【課題 10】研究計画書〔調査の趣旨・目的、調査方法、見込まれる調査結果〕：60%（ルーブリックにより評価） ⇒ 第 15 回目までに提出することが、本科目の単位取得の絶対条件。未提出の場合は再履修、卒業研究 II の履修不可＝本年度の卒業不可。
22.コメント	? 自分の取り上げたテーマについて「なぜだろう？」「本当だろうか？」と批判的に問い続け、検証し、文章で論理的に説明することが大切です。 調査研究成果報告書／企画提案書の作成は、大変な時間と労力を必要とします。行き詰った時には、指導教官だけではなく、友人たちとも議論してみましょう。お互いに気が付かない点が見えてくることもあります。大学での学びの総決算として、「やり切った」といえるモノを書きあげてください。 ・毎回ＰＣを持参使用します。ワード、エクセルのスキルが必要となります。 ・毎回、ノート+筆記用具、または PC を持参して下さい。 ・授業計画に沿って段階を踏みながら取り組むことが重要です。
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 5 限（春） 学修支援センター：金曜昼休み（春）

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション （本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス） ・調査研究成果報告書／企画提案書のためのガイダンスとスケジュールの確認。	・調査研究、報告書作成に関する規則やルールの復習。 ・卒業論文作成に関する規則やルールの復習。 【課題 1】仮テーマ案を 3 つ程度考え提出する。 【課題 2】先輩の卒業論文を 1 つ読み、概要（テーマ、課題、課題解決方法、結論）についてレポートを提出する。
【第 2 回】	? 【課題 1、2】の提出、発表及び質疑応答 ? 卒論の客観的評価。	【課題 3】テーマについての先行研究を 20 点あげ、年代順に並べるなどして傾向・現状をまとめる。記述方法は執筆要領に従うこと。
【第 3 回】	? 【課題 1、2】の提出、発表及び質疑応答 ? 卒論の客観的評価。	【課題 3】テーマについての先行研究を 20 点あげ、年代順に並べるなどして傾向・現状をまとめる。記述方法は執筆要領に従うこと。
【第 4 回】	? 【課題 3】の提出、発表及び質疑応答 ? これまで、また現在どのようなことが議論され課題となっているかを確認する。 ? テーマを徐々に固め、テーマが固まったら仮説を立ててみる。	【課題 4】テーマについて仮説を立て、レポートを提出する。
【第 5 回】	? 【課題 3】の提出、発表及び質疑応答 ? これまで、また現在どのようなことが議論され課題となっているかを確認する。 ? テーマを徐々に固め、テーマが固まったら仮説を立ててみる。	【課題 4】テーマについて仮説を立て、レポートを提出する。

【第 6 回】	? 【課題 4】の提出、発表及び質疑応答 ? 仮説を検証するために必要な調査課題とその方法を検討。	【課題５】調査課題と調査方法についてレポートを提出する。
【第 7 回】	? 【課題 4】の提出、発表及び質疑応答 ? 仮説を検証するために必要な調査課題とその方法を検討。	【課題５】調査課題と調査方法についてレポートを提出する。
【第 8 回】	? 【課題５】の提出、発表及び質疑応答。 ? 改めてテーマの課題を整理し、現状と展望について考察する。	【課題６】調査課題を整理した上で、目次案を作成し提出する。
【第 9 回】	? 【課題５】の提出、発表及び質疑応答。 ? 改めてテーマの課題を整理し、現状と展望について考察する。	【課題６】調査課題を整理した上で、目次案を作成し提出する。
【第 10 回】	? 【課題 6】の提出、発表及び質疑応答。 ? アンケート、インタビュー、現地踏査などの諸注意。	【課題７】アンケート、インタビューの質問リストを提出する。
【第 11 回】	? 【課題 6】の提出、発表及び質疑応答。 ? アンケート、インタビュー、現地踏査などの諸注意。	【課題７】アンケート、インタビューの質問リストを提出する。
【第 12 回】	? 【課題 7】の提出、発表及び質疑応答。 ? 研究計画書〔調査の趣旨・目的、調査方法、見込まれる調査結果〕の準備。	【課題 8】アンケート、インタビューの質問リストの校正、文献・資料調査の補足。 【課題 9】夏休み中の作業計画書の提出＝第 15 回目までに提出 【課題 10】研究計画書の提出＝第 15 回目までに提出〔本科目の絶対条件。未提出の場合は再履修、卒業研究 II の履修不可＝本年度の卒業不可〕
【第 13 回】	? 【課題 7】の提出、発表及び質疑応答。 ? 研究計画書〔調査の趣旨・目的、調査方法、見込まれる調査結果〕の準備。	【課題 8】アンケート、インタビューの質問リストの校正、文献・資料調査の補足。 【課題 9】夏休み中の作業計画書の提出＝第 15 回目までに提出 【課題 10】研究計画書の提出＝第 15 回目までに提出〔本科目の絶対条件。未提出の場合は再履修、卒業研究 II の履修不可＝本年度の卒業不可〕
【第 14 回】	? 【課題 8、9、10】の提出、発表及び質疑応答。 ? 夏休み中の作業の確認。	【課題１１】夏休み中の進行状況の確認１＝8 月末までに提出 【課題 12】夏休み中の進行状況の確認 2＝秋学期開始前に提出
【第 15 回】	? 【課題 8、9、10】の提出、発表及び質疑応答。 ? 夏休み中の作業の確認。	【課題１１】夏休み中の進行状況の確認１＝8 月末までに提出

		【課題 12】夏休み中の進行状況の確認 2＝秋学期開始前に提出

1.授業コード（ナンバリング）	CS2404-Y01	2.科目名	卒業研究 II			3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均						
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科				9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件	卒業研究 I を修得済みであること。		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態			
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	【目的】調査研究成果報告書／企画提案書の提出 【概要】卒業研究 I で学んだことを踏まえ、実地調査、アンケート調査、インタビューなどによって得たデータに基づき分析・考察を行った結果を調査研究成果報告書／企画提案書として執筆する。						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 K1：歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる K2：グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ K4：異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①　国際ビジネスに関わる幅広い分野において批判的視点から課題を発見し研究テーマを設定することができる ②　先行研究を論理的に分析することができる。 ③　研究課題に関する情報の収集・分析を行い、仮説を客観的データに基づき論証することができる。 ④　研究及び論文執筆の計画を作成し、実施することができる。 ⑤　研究成果を既定の書式にそって論文としてまとめることができる。 ⑥　研究成果について論理的に説明でき、意見を交換することができる。						
19.教科書・教材	特に指定しない。適宜資料を配布する。						
20.参考文献	論文 ・明石芳彦（2018）『社会科学系論文の書き方』ミネルバ書房. ・西村克己（2011）『論理的な文章の書き方が面白いほど身につく本 ：「わかりやすい 文章」を書くための基本ポイント 35』 KADOKAWA. ・二通 信子 他（2009）『留学生と日本人学生のためのレポート・論 文表現ハンドブック』東京大学出版会. 報告書 ザ・アール（2018）『これだけは知っておきたい「レポート・報告書」の基本と常識　改訂版』フォレスト出版. ・学研パブリッシング（2012）『【実例 110】レポー						
21.成績評価	【課題 11、12】（10%） 【課題 13】中間発表（20%） 【課題 1 4】最終原稿案の提出（10%） 【課題 15】調査研究成果報告書／企画提案書　（40%） ⇒ これを提出することが、本科目の単位取得かつ卒業の絶対条件。						

	【課題１６】プレンゼンテーションもしくは口頭試問（20%） ※評価についてはルーブリックを用いる。
22.コメント	? 自分の取り上げたテーマについて「なぜだろう？」「本当だろうか？」と批判的に問い続け、検証し、文章で論理的に説明することが大切です。 　調査研究成果報告書／企画提案書の作成は、大変な時間と労力を必要とします。行き詰った時には、指導教官だけではなく、友人たちとも議論してみましょう。お互いに気が付かない点が見えてくることもあります。大学での学びの総決算として、「やり切った」といえるモノを書きあげてください。 ・毎回ＰＣを持参使用します。ワード、エクセルのスキルが必要となります。 ・毎回、ノート+筆記用具、または PC を持参して下さい。 ・授業計画に沿って段階を踏みながら取り組むことが重要です。
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 5 限（秋） 学修支援センター：火曜昼休み（秋）

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	? 【課題 10、11、12】の発表 ? 夏休み中の調査研究成果報告書／企画提案書の進行状況報告と初稿提出までのスケジュール確認。	【課題 11、12】夏休み中に提出
第 2 回	? 10 月中旬：調査研究成果報告書／企画提案書の中間発表会。 ? 執筆状況の報告と助言・指導	【課題１３】中間発表会の実施
第 3 回	? 10 月中旬：調査研究成果報告書／企画提案書の中間発表会。 ? 執筆状況の報告と助言・指導	【課題１３】中間発表会の実施
第 4 回	★執筆活動 ? 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	【課題】 指導・指示に基づき、調査・執筆を進める。
第 5 回	★執筆活動 ? 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	【課題】 指導・指示に基づき、調査・執筆を進める。
第 6 回	★執筆活動 ? 11 月上旬：最終原稿案の提出 ? 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	【課題】 指導・指示に基づき、調査・執筆を進める。
第 7 回	★執筆活動 ? 11 月上旬：最終原稿案の提出 ? 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	【課題１4】最終原稿案の提出
第 8 回	★執筆活動 ・個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	【課題】 指導・指示に基づき、調査・執筆を進める。
第 9 回	★執筆活動 ・個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	【課題】 指導・指示に基づき、調査・執筆を進める。
第 10 回	★執筆活動 ・個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	【課題】 指導・指示に基づき、調査・執筆を進める。
第 11 回	★執筆活動 ・個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	【課題】 指導・指示に基づき、調査・執筆を進める。
第 12 回	? プレンゼンテーションの準備・練習。	【課題 15】最終原稿 2 部提出（紙媒体） 締切：12 月上旬（具体的な日程はあらためて通知します）
第 13 回	? プレンゼンテーションの準備・練習。	【課題】

		提出原稿を再度確認し、口頭試問の準備を進める。
第 14 回	? プレンゼンテーションの準備・練習。 口頭試問は 1 月末に実施予定	【課題１６】プレンゼンテーションもしくは口頭試問
第 15 回	? プレンゼンテーションの準備・練習。 口頭試問は 1 月末に実施予定	口頭試問の指摘事項について修正し、完成原稿を提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	CS2404-Y02	2.科目名	卒業研究 II			3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ						
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科				9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件	基礎演習、課題研究、専門演習、卒業研究 I を履修済であること			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態				
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	【目的】調査研究成果報告書／企画提案書の提出] 【概要】卒業研究 I で学んだことを踏まえ、実地調査、アンケート調査、インタビューなどによって得たデータに基づき分析・考察を行った結果を調査研究成果報告書／企画提案書として執筆する。						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 K1：歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる K2：グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ K4：異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①　国際ビジネスに関わる幅広い分野において批判的視点から課題を発見し研究テーマを設定することができる ②　先行研究を論理的に分析することができる。 ③　研究課題に関する情報の収集・分析を行い、仮説を客観的データに基づき論証することができる。 ④　研究及び論文執筆の計画を作成し、実施することができる。 ⑤　研究成果を既定の書式にそって論文としてまとめることができる。 ⑥　研究成果について論理的に説明でき、意見を交換することができる。						
19.教科書・教材	特に指定しない。適宜資料を配布する。						
20.参考文献	論文 ・明石芳彦（2018）『社会科学系論文の書き方』ミネルバ書房. ・西村克己（2011）『論理的な文章の書き方が面白いほど身につく本 ：「わかりやすい 文章」を書くための基本ポイント 35』 KADOKAWA. ・二通 信子 他（2009）『留学生と日本人学生のためのレポート・論 文表現ハンドブック』東京大学出版会. 報告書 ザ・アール（2018）『これだけは知っておきたい「レポート・報告書」の基本と常識　改訂版』フォレスト出版. ・学研パブリッシング（2012）『【実例 110】レポー						
21.成績評価	【課題 11、12】（10%） 【課題 13】中間発表（20%） 【課題 1 4】最終原稿案の提出（10%） 【課題 15】調査研究成果報告書／企画提案書　（40%）						

	⇒ これを提出することが、本科目の単位取得かつ卒業の絶対条件。 【課題１６】口頭試問（20%） ※評価についてはルーブリックを用いる。
22.コメント	? 自分の取り上げたテーマについて「なぜだろう？」「本当だろうか？」と批判的に問い続け、検証し、文章で論理的に説明することが大切です。 調査研究成果報告書／企画提案書の作成は、大変な時間と労力を必要とします。行き詰った時には、指導教官だけではなく、友人たちとも議論してみましょう。お互いに気が付かない点が見えてくることもあります。大学での学びの総決算として、「やり切った」といえるモノを書きあげてください。 ・毎回ＰＣを持参使用します。ワード、エクセルのスキルが必要となります。 ・毎回、ノート+筆記用具、または PC を持参して下さい。 ・授業計画に沿って段階を踏みながら取り組むことが重要です。
23.オフィスアワー	個人研究室 月昼休み 学習支援センター 金昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	? 【課題 10、11、12】の発表 ? 夏休み中の調査研究成果報告書／企画提案書の進行状況報告と初稿提出までのスケジュール確認。	【課題 11、12】夏休み中に提出
第 2・3 回	? 10 月中旬：調査研究成果報告書／企画提案書の中間発表会。 ? 執筆状況の報告と助言・指導	【課題１３】中間発表会の実施
第 4・5 回	★執筆活動 ? 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	
第 6・7 回	★執筆活動 ? 11 月上旬：最終原稿案の提出 ? 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	【課題１4】最終原稿案の提出
第 8・9 回	★執筆活動 ・個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	
第 10・１1 回	★執筆活動 ・個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	
第 12・13 回	★調査研究成果報告書／企画提案書の提出＝12 月 2 日予定	【課題 15】最終原稿 2 部提出（紙媒体）
第 14・15 回	? 調査研究成果報告書／企画提案書の校正作業。 ? 口頭試問の準備・練習。 ★口頭試問＝1 月下旬（ゼミごとに実施）	【課題１６】口頭試問

1.授業コード（ナンバリング）	ECO103-Y01	2.科目名	経済学	3.単位数	2
4.授業担当教員	川脇康生				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本講義では、今日の経済社会を理解するうえで必要となる経済的知識および経済学的な発想方法を身につけることを目的とする。 本講義の学習内容は以下のとおりである。 ・経済学における基本的な概念や専門用語を説明し、それらの活用の仕方を学習する。 ・身近な事例、新聞記事、統計等を題材として、様々な経済現象をとりあげ、経済学で扱われている主要なテーマを具体的に学習する。 ・個々の経済現象がどのようなメカニズムで起こるのかを理論的に学習する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	・経済学の専門用語の意味を理解し活用することができる ・データから経済現象を読み取ることができる ・身近な経済現象について経済理論に基づいて他人に説明することができる				
19.教科書・教材	伊藤元重　　入門経済学　　日本評論社				
20.参考文献	伊藤元重　はじめての経済学　上・下　日経文庫 マンキュー　入門経済学　第 3 版　東洋経済新報社				
21.成績評価	評価・評定については下記項目をもとに総合的に行う ・授業中の提出物 20% ・小テスト 30% ・総括試験 50%				
22.コメント	経済学は人々の生活や社会のあり方を理解するうえで重要な考え方を教えてくれます。 難しく考えすぎずに取り組んでみることをおすすめします。 わからないことがあれば、そのままにせずに積極的に質問してください。				
23.オフィスアワー	学修支援センターオフィスアワー（神戸山手 1 号館 2 階ラーニングコモンズ）：月、4 限 研究室オフィスアワー（神戸山手 3 号館 2 階 207 室）：火、昼休み ※質問等はメールで問い合わせてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
4/8 4/15	第 1 回　経済学とはどのような学問か 経済をマクロからとらえる 第 2 回　有効需要と乗数メカニズム	アサインメント： ・教科書の該当箇所の復習 ・授業ノートの整理 持参物 ・教科書、ノート ・パソコン
4/22 5/6	第 3 回　貨幣の機能 第 4 回　マクロ経済政策	アサインメント： ・教科書の該当箇所の復習 ・授業ノートの整理 持参物 ・教科書、ノート ・パソコン
5/13	第 5 回　インフレ・デフレと失業	アサインメント：

5/20	第 6 回　高齢社会の財政運営	・教科書の該当箇所の復習 ・授業ノートの整理 持参物 ・教科書、ノート ・パソコン
5/27 6/3	第 7 回　小テスト 第 8 回　国際経済学	アサインメント： ・教科書の該当箇所の復習 ・授業ノートの整理 持参物 ・教科書、ノート ・パソコン
6/10 6/17	第 9 回　需要と供給 第 10 回　需要曲線と消費者行動	アサインメント： ・教科書の該当箇所の復習 ・授業ノートの整理 持参物 ・教科書、ノート ・パソコン
6/24 7/1	第 11 回　費用の構造と供給行動 第 12 回　市場取引と資源配分	アサインメント： ・教科書の該当箇所の復習 ・授業ノートの整理 持参物 ・教科書、ノート ・パソコン
7/8 7/15	第 13 回　小テスト 第 14 回　市場の失敗	アサインメント： ・教科書の該当箇所の復習 ・授業ノートの整理 持参物 ・教科書、ノート ・パソコン
2024/07/22	第 15 回　総括試験	持参物 ・教科書、ノート ・パソコン

1.授業コード（ナンバリング）	ECO201-A01	2.科目名	国際経済論	3.単位数	2
4.授業担当教員	林万平				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本講義では、国の開発と経済発展に関わる理論、発展途上国を中心に海外経済の現状について理解することを目的としている。特に、ここでは近年発展の著しいアジア経済の現状について学ぶ。 学修目標 本講義の学修内容は、以下のとおりである。 第１に、アジア諸国の経済発展の現況ついて理解を深める。 第２に、国際経済学における基本的な概念や 専門用語を理解する。 第３に、アジア諸国の経済発展や開発に関するメカニズムや政策課題についての理解力を養う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①　海外経済の現状について理解する。　（多様性理解と関連） ②　経済発展や開発に伴う理論と政策課題について学修する。　（専門的知識・技能脳活用力と関連） ③　途上国と先進国の政策課題の違いについて理解できるようになる。　（問題発見・解決力と関連）				
19.教科書・教材	後藤健太「アジア経済とは何か」中公新書				
20.参考文献	戸堂康之「開発経済学入門」新世社 伊藤元重「どうなる世界経済入門国際経済学」光文社				
21.成績評価	評価・評定については下記項目を基に総合的に行う。 授業中の提出物 30%　（学習目標①を確認） 中間テスト　30%　（学習目標②、③を確認） 総括試験 40%　（学習目標②、③を確認）				
22.コメント	途上国を中心に経済発展や開発は大きな政策課題となっています。 この授業では、その現状について事例と理論を通じて理解を深めます。 難しく考えすぎずに取り組んでみることをお勧めします。 わからないことがあれば、そのままにせず積極的に質問してください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回 第２回	「日本一極」の２０世紀（１） 「日本一極」の２０世紀（２）	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノー ト 5-1.授業回数

第３回 第４回	アジアの２１世紀はいかに形成されたか（１） アジアの２１世紀はいかに形成されたか（２）	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノー ト 5-1.授業回数
第５回 第６回 第７回	開発途上国の経済発展 新古典派経済成長論 内生的経済成長論	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノー ト 5-1.授業回数
第８回	中間試験	
第９回 第１０回	グローバル・バリューチェーンの時代（１） グローバル・バリューチェーンの時代（２）	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノー ト 5-1.授業回数
第１１回 第１２回	国際貿易・海外直接投資のメカニズム 産業集積、社会関係資本・社会ネットワーク、経済協力	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノー ト 5-1.授業回数
第１３回 第１４回	なぜ日本は後退し、アジア諸国は躍進したか（１） なぜ日本は後退し、アジア諸国は躍進したか（２）	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノー ト 5-1.授業回数
第１５回	総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	ECO201-M01	2.科目名	国際経済論	3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2～
10.取得資格の要件	高校（公民）、中学（社会）	11.先修条件	経済学概論を履修していることが望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	為替レートの変動、インバウンド旅行客など日々のニュースや新聞記事で報道されるものだけではなく、私たちが何気なく通っているカフェやお気に入りのスニーカーなど、国際経済との関係なしには私たちの経済生活は成り立っていかない。こうしたことを理解するために国際経済の知識が必要になるが、「鏡を見て自分の顔がわかる」ように、国際経済学の最も重要な対象は私たちの日本経済である。国際経済の視点を持つことで、はじめて日本経済の姿が明らかになってくる。国際経済の視点を持つことで、はじめて日本経済の姿が明らかになってくる。国境を				
18.学習目標とＤＰとの関連	本講義の学習内容は、以下のとおりである。 （１）国際経済学における基本的な概念や、専門用語を理解する。 （２）資料、統計、新聞や雑誌記事などを用いることで現在の世界経済の動きについて理解する。 （３）（１）および（２）により現在の国際情勢、そして日本経済について自分なりの視点を確立する。 学科の DP の（１）自律性、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル、（６）専門的知識・技能の活用力に関連する。				
19.教科書・教材	授業内に適宜プリントを配布				
20.参考文献	授業内に適宜紹介				
21.成績評価	ミニ課題：２０％、レポート課題：３０％、期末試験：５０％				
22.コメント	ロシアのウクライナへの侵攻などの国際経済や日本経済に及ぼしている影響など、新しいテーマについても、適宜、理解を深めます。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	世界の中の日本	授業の予習・復習
第２回	国際経済の変貌と日本経済	授業の予習・復習
第３回	為替レートと日本経済	授業の予習・復習
第４回	為替レートの決定と変動の理論	授業の予習・復習
第５回	固定相場制	授業の予習・復習
第６回	国際化するマクロ経済	授業の予習・復習
第７回	国際収支	授業の予習・復習
第８回	国際マクロ経済学	授業の予習・復習
第９回	国際金融取引	授業の予習・復習
第１０回	累積債務問題	授業の予習・復習
第１１回	日本経済と国際貿易	授業の予習・復習
第１２回	貿易の基礎理論	授業の予習・復習
第１３回	通商問題の変貌	授業の予習・復習
第１４回	直接投資と企業のグルーバル展開	授業の予習・復習

第１５回	総括試験	授業の予習・復習

1.授業コード（ナンバリング）	ECO201-y01	2.科目名	国際経済論	3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2～
10.取得資格の要件	高校（公民）、中学（社会）	11.先修条件	経済学概論を履修していることが望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	為替レートの変動、インバウンド旅行客など日々のニュースや新聞記事で報道されるものだけではなく、私たちが何気なく通っているカフェやお気に入りのスニーカーなど、国際経済との関係なしには私たちの経済生活は成り立っていかない。こうしたことを理解するために国際経済の知識が必要になるが、「鏡を見て自分の顔がわかる」ように、国際経済学の最も重要な対象は私たちの日本経済である。国際経済の視点を持つことで、はじめて日本経済の姿が明らかになってくる。国際経済の視点を持つことで、はじめて日本経済の姿が明らかになってくる。国境を				
18.学習目標とＤＰとの関連	本講義の学習内容は、以下のとおりである。 （１）国際経済学における基本的な概念や、専門用語を理解する。 （２）資料、統計、新聞や雑誌記事などを用いることで現在の世界経済の動きについて理解する。 （３）（１）および（２）により現在の国際情勢、そして日本経済について自分なりの視点を確立する。 学科の DP の（１）自律性、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル、（６）専門的知識・技能の活用力に関連する。				
19.教科書・教材	授業内に適宜プリントを配布				
20.参考文献	授業内に適宜紹介				
21.成績評価	ミニ課題：２０％、レポート課題：３０％、期末試験：５０％				
22.コメント	ロシアのウクライナへの侵攻などの国際経済や日本経済に及ぼしている影響など、新しいテーマについても、適宜、理解を深めます。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	世界の中の日本	授業の予習・復習
第２回	国際経済の変貌と日本経済	授業の予習・復習
第３回	為替レートと日本経済	授業の予習・復習
第４回	為替レートの決定と変動の理論	授業の予習・復習
第５回	固定相場制	授業の予習・復習
第６回	国際化するマクロ経済	授業の予習・復習
第７回	国際収支	授業の予習・復習
第８回	国際マクロ経済学	授業の予習・復習
第９回	国際金融取引	授業の予習・復習
第１０回	累積債務問題	授業の予習・復習
第１１回	日本経済と国際貿易	授業の予習・復習
第１２回	貿易の基礎理論	授業の予習・復習
第１３回	通商問題の変貌	授業の予習・復習
第１４回	直接投資と企業のグルーバル展開	授業の予習・復習

第１５回	総括試験	授業の予習・復習

1.授業コード（ナンバリング）	EDE201-A01	2.科目名	英語科教育法Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明				
5.授業科目の区分	展開科目 教科及び教科の指導法に関する科目-各教科の指導法	6.必修・選択の区分	選択 教職必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科等			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	中学(英語)　コアカリ対応科目		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	＜目的＞ Students understand the basic concepts about English language teaching and decide to start teacher’s license course. ＜概要＞This is an introductory course on English language teaching (ELT), so that students learn the basic knowledge on the purpose of E				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（１）自律性、（５）コミュニケーションスキル、（６）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①第 2 言語習得理論や中学校外国語科における 4 技能など外国語（英語）を指導する上で必要な知識がわかるようになる。 ②①の知識や理解を実践の中で活用できるようになる。				
19.教科書・教材	１）土屋澄男・秋山朝康・大城賢・千葉克裕・望月正道『最新英語科教育法入門』研究社 ２）　　白畑知彦・冨田?一・村野井仁・若林茂則『英語教育用語辞典　第３版』大修館書店 ３）『中学校学習指導要領解説 -外国語編-』文部科学省(最新版)　　{WEB 資料,https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_010.pdf} ４）『高等学校学習指導要領解説 -外				
20.参考文献	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(中学校英語) {WEB 資料,https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_gaikokg.pdf} 樋口忠彦・高橋一幸（編）（2015）「Q&A　中学英語指導法事典ー現場の悩みに答えるー」教育出版 Reference books will be announced in the class.参考書は授業で指示します。				
21.成績評価	Quiz 10 点 x3 回=30%, Report 10 点 x3 回=30%, 統括試験 40% 英語小テスト 10 点を 3 回で 30 点、レポート 10 点を 3 回で 30 点、総括試験で 40 点				

22.コメント	Attend all the classes if you wish to be a teacher.教員を志望するなら、授業は欠席しないこと
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	Syllabus シラバスの説明 Introduction: Why do you want to be an English Teacher? (Writing) 導入：なぜ英語教師になりたいのか（英作文）	○Read the textbook: Chapter 1 & watch video clip (40 min) 教科書第 1 章を読み、web でビデオ視聴（反転授業用）
第 2 回	Purpose of ELT, Concept of EIL, English as a subject in schools: Chapter 1 第 1 章：英語教育の目的、国際語としての英語の概念、科目としての英語科、グループ討論	○Read the textbook: Chapter 2 & watch video clip (40 min) 教科書第 2 章を読みビデオ視聴
第 3 回	Teaching Goals of ELT, Four Skills & Language Activity, Presentation on reference paper: Chapter 2 第 2 章：英語教育の目標、四技能と言語活動、参考資料の発表	○Prepare for the Discussion (60 min)討論の準備
第 4 回	Discussion 1 (Reflecting your English Classes in high school days), Quiz 1 討論 1 ：中高時代の英語授業を振り返る・発表、小テスト 1	○Read the Course of Study, watch a short video clip　& Write a Report 1 (100 min)学習指導要領（中学）を読みビデオ視聴。レポート 1 作成
第 5 回	The Course of Study by MEXT (given in Japanese): Bring two textbooks. 中高の学習指導要領を読む（日本語で実施）：指導要領を持参する ３）『中学校学習指導要領解説 -外国語編-』文部科学省(最新版)　{WEB 資料,https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_010.pdf}	★Report 1 レポート 1 提出 ○Read the textbook & watch video clip: Chapter 3 (40 min) 教科書第 3 章を読みビデオ視聴
第 6 回	Learner Factors (foreign language learning and age, foreign language aptitude, strategies of good learners) 第 3 章：学習者の要因（外国語学習と年齢、外国語の適性、良い学習者のストラテジー）	○Read the textbook & watch video clip: Chapter 4 (40 min)教科書第 4 章を読みビデオ視聴
第 7 回	Conditions of a good teacher (Role of a teacher, Conditions of a good teacher, Qualifications of an English teacher) 第 4 章　良い教師の条件(教師の役割、良い英語教師の条件、英語教員の資格) グループ討論	○Prepare for the Discussion (60 min)討論の準備
第 8 回	Discussion 2 (Ideal English Teachers), Quiz 2 討論 2 （理想的な英語教師像）と発表、小テスト 2	○Write a Report (90 min) & watch a video clip (10 min)レポート作成、ビデオ視聴
第 9	Present Japanese Situation on ELT 1	★Report 2 レポート提出

回	日本の英語教育の現状１、グループ討論と発表	○Read the textbook: Chapter 5 & watch a video clip （40 min）教科書第５章を読みビデオ視聴
第10回	Theoretical theories of language acquisition (role of first language, grammar learning and communicative competence, input and output, psychological factors: second language learning anxiety and motivation) 第５章　言語習得の理論上の諸問題（第１言語の役割、文法学習とコミュニケーション能力、インプット	○Preparation for Materials (60 min)教材準備
第11回	Teaching Materials: Arrangement of Materials, Teaching with a Textbook, Material Development & its Ideas 教材論：教材の配列、教科書で教える、教材の開発とアイデア、グループ討論	○Preparation for the Discussion (60 min)討論の準備
第12回	Discussion 3 (Teaching English through English), 小テスト３ 討論３：英語で英語の授業を実施する、発表	○Write a Report (90 min)レポート３作成
第13回	Present Japanese Situation on ELT 2 日本の英語教育の現状２、グループ討論	★Report 3 レポート３提出 ○Read the textbook & watch a video clip: Chapter 6 (40 min)教科書第６章を読みビデオ視聴
第14回	Transition of Teaching Method 1: From Grammar Translation Method to Audio Linguistic Method 第６章　指導法の変遷１：文法訳読式からオーディオ・リンガル法まで（日本語で実施)、音読の練習 Transition of Teaching Method 2: Post-Communicative Approach 第７章　指導法の変遷２：コミュニカティブ・アプローチ以降	○Review (70 min)総復習
第15回	Consolidation　総括	

1.授業コード（ナンバリング）	EDE201-y01	2.科目名	英語科教育法Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明				
5.授業科目の区分	展開科目 教科及び教科の指導法に関する科目-各教科の指導法	6.必修・選択の区分	選択 教職必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科等			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	中学(英語)　コアカリ対応科目		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	＜目的＞ Students understand the basic concepts about English language teaching and decide to start teacher’s license course. ＜概要＞This is an introductory course on English language teaching (ELT), so that students learn the basic knowledge on the purpose of E				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（１）自律性、（５）コミュニケーションスキル、（６）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①第 2 言語習得理論や中学校外国語科における 4 技能など外国語（英語）を指導する上で必要な知識がわかるようになる。 ②①の知識や理解を実践の中で活用できるようになる。				
19.教科書・教材	１）土屋澄男・秋山朝康・大城賢・千葉克裕・望月正道『最新英語科教育法入門』研究社 ２）　　白畑知彦・冨田?一・村野井仁・若林茂則『英語教育用語辞典　第３版』大修館書店 ３）『中学校学習指導要領解説 -外国語編-』文部科学省(最新版)　　{WEB 資料,https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_010.pdf} ４）『高等学校学習指導要領解説 -外				
20.参考文献	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(中学校英語) {WEB 資料,https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_gaikokg.pdf} 樋口忠彦・高橋一幸（編）（2015）「Q&A　中学英語指導法事典ー現場の悩みに答えるー」教育出版 Reference books will be announced in the class.参考書は授業で指示します。				
21.成績評価	Quiz 10 点 x3 回=30%, Report 10 点 x3 回=30%, 統括試験 40% 英語小テスト 10 点を 3 回で 30 点、レポート 10 点を 3 回で 30 点、総括試験で 40 点				

22.コメント	Attend all the classes if you wish to be a teacher.教員を志望するなら、授業は欠席しないこと
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー 月 3 限目

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	Syllabus シラバスの説明 Introduction: Why do you want to be an English Teacher? (Writing) 導入：なぜ英語教師になりたいのか（英作文）	○Read the textbook: Chapter 1 & watch video clip (40 min) 教科書第 1 章を読み、web でビデオ視聴（反転授業用）
第 2 回	Purpose of ELT, Concept of EIL, English as a subject in schools: Chapter 1 第 1 章：英語教育の目的、国際語としての英語の概念、科目としての英語科、グループ討論	○Read the textbook: Chapter 2 & watch video clip (40 min) 教科書第 2 章を読みビデオ視聴
第 3 回	Teaching Goals of ELT, Four Skills & Language Activity, Presentation on reference paper: Chapter 2 第 2 章：英語教育の目標、四技能と言語活動、参考資料の発表	○Prepare for the Discussion (60 min)討論の準備
第 4 回	Discussion 1 (Reflecting your English Classes in high school days), Quiz 1 討論 1 ：中高時代の英語授業を振り返る・発表、小テスト 1	○Read the Course of Study, watch a short video clip & Write a Report 1 (100 min)学習指導要領（中学）を読みビデオ視聴。レポート 1 作成
第 5 回	The Course of Study by MEXT (given in Japanese): Bring two textbooks. 中高の学習指導要領を読む（日本語で実施）：指導要領を持参する ３）『中学校学習指導要領解説 -外国語編-』文部科学省(最新版) {WEB 資料,https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_010.pdf}	★Report 1 レポート 1 提出 ○Read the textbook & watch video clip: Chapter 3 (40 min) 教科書第 3 章を読みビデオ視聴
第 6 回	Learner Factors (foreign language learning and age, foreign language aptitude, strategies of good learners) 第 3 章：学習者の要因（外国語学習と年齢、外国語の適性、良い学習者のストラテジー）	○Read the textbook & watch video clip: Chapter 4 (40 min)教科書第 4 章を読みビデオ視聴
第 7 回	Conditions of a good teacher (Role of a teacher, Conditions of a good teacher, Qualifications of an English teacher) 第 4 章 良い教師の条件(教師の役割、良い英語教師の条件、英語教員の資格) グループ討論	○Prepare for the Discussion (60 min)討論の準備
第 8 回	Discussion 2 (Ideal English Teachers), Quiz 2 討論 2 （理想的な英語教師像）と発表、小テスト 2	○Write a Report (90 min) & watch a video clip (10 min)レポート作成、ビデオ視聴
第 9	Present Japanese Situation on ELT 1	★Report 2 レポート提出

回	日本の英語教育の現状１、グループ討論と発表	○Read the textbook: Chapter 5 & watch a video clip （40 min）教科書第５章を読みビデオ視聴
第10回	Theoretical theories of language acquisition (role of first language, grammar learning and communicative competence, input and output, psychological factors: second language learning anxiety and motivation) 第５章　言語習得の理論上の諸問題（第１言語の役割、文法学習とコミュニケーション能力、インプット	○Preparation for Materials (60 min)教材準備
第11回	Teaching Materials: Arrangement of Materials, Teaching with a Textbook, Material Development & its Ideas 教材論：教材の配列、教科書で教える、教材の開発とアイデア、グループ討論	○Preparation for the Discussion (60 min)討論の準備
第12回	Discussion 3 (Teaching English through English), 小テスト３ 討論３：英語で英語の授業を実施する、発表	○Write a Report (90 min)レポート３作成
第13回	Present Japanese Situation on ELT 2 日本の英語教育の現状２、グループ討論	★Report 3 レポート３提出 ○Read the textbook & watch a video clip: Chapter 6 (40 min)教科書第６章を読みビデオ視聴
第14回	Transition of Teaching Method 1: From Grammar Translation Method to Audio Linguistic Method 第６章　指導法の変遷１：文法訳読式からオーディオ・リンガル法まで（日本語で実施)、音読の練習 Transition of Teaching Method 2: Post-Communicative Approach 第７章　指導法の変遷２：コミュニカティブ・アプローチ以降	○Review (70 min)総復習
第15回	Consolidation　総括	

1.授業コード（ナンバリング）	EDE203-A01	2.科目名	英語科教育法III	3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明				
5.授業科目の区分	展開科目 教科及び教科の指導法に関する科目-各教科の指導法	6.必修・選択の区分	選択 教職必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科等			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	中学(英語)　コアカリ対応科目	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	【Goal】 This subject matter is intended for individuals who have the future goal of becoming English language teachers. Through this course, students will acquire an understanding of the current state of foreign language education, specifically English lan				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の(4)問題発見・解決力　(6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 具体的には、教職や英語に関する知識を活かした英語授業の活動を考えたり、活動の問題点を見つけ改善を検討したりします。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①日本の英語教育の流れがわかる ②第二言語習得理論と英語教育の関連がわかる ③学習指導要領での英語教育の目的が説明できる ④各学年の指導計画を目標に従って立てることができる				
19.教科書・教材	１）～５）は英語科教育法 II （尼崎キャンパス開講）と同じ。 １）土屋澄男・秋山朝康・大城賢・千葉克裕・望月正道『最新英語科教育法入門』研究社 ２）　　白畑知彦・冨田?一・村野井仁・若林茂則『英語教育用語辞典　第３版』大修館書店 ３）『中学校学習指導要領解説 -外国語編-』文部科学省(最新版)　　{WEB 資料,https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387				
20.参考文献	村野井仁他　「統合的英語科教育法」（成美堂）ISBN978-4-7919-5094-2 白井恭弘「英語教師のための第二言語習得論入門」（大修館書店）				

	渡邉時夫他「小中連携を意識した中学校英語の改善」(三省堂) 「中学校学習指導要領解説-外国語編一」文部科学省(最新版) 「高等学校学習指導要領解説一外国語編　英語編」文部科学省(最新版) 高校の検定教科書(英語)
21.成績評価	Demonstration class: 20%　(実演) Reading assignments: 30%　(課題の読み取り) In class work: 20%　(授業内課題・語彙確認タスクも含む) Final report :30%（最終レポート)
22.コメント	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	Course Orientation: Objectives and course work オリエンテーション	○Review of the class　(60min.)
第 2 回	Objectives of English Education 英語教育の目的	
第 3 回	English Education in Japan & the world 日本と外国の英語教育	
第 4 回	MEXT guidelines 学習指導要領	○Reading MEXT Guidelines (120min.)
第 5 回	Teaching Methods 指導法の概説	
第 6 回	Teaching Plan 学習指導計画	○Make your own lesson plan (120min.)
第 7 回	Lesson Plan：　Presentation& Discussion on each lesson plan 授業計画：学習指導案の作成と討論	◎Analyze and revise your lesson plan (120min)
第 8 回	Evaluation and Assessment 評価とアセスメント：生徒の評価方法と妥当性	
第 9 回	Evaluation and Assessment 評価とアセスメント：教員評価	
第 10	SLA and EFL	

回	第二言語習得と外国語学習	
第 11 回	Autonomy (Group discussion)　自律的な学習者の育成 Group Discussion　グループ討論 Explanation of the final report　最終レポートの説明	
第 12 回	English Education in Elementary Schools 小学校の英語教育	◎Presentation of Group Discussion (90 min.)
第 13 回	Cross-cultural Education　異文化理解教育：「異文化理解」の意義	◎make a PPT presentation (60 min.)
第 14 回	Preparation for Mock lesson (Micro-teaching) 模擬授業（マイクロティーチング）の準備	
第 15 回	Demonstration class (10 minutes/ student)、Reflection (Group discussion)　振り返り	The submission of the final report

1.授業コード（ナンバリング）	EDE205-A01	2.科目名	英語発音指導法	3.単位数	2
4.授業担当教員	長瀬慶來				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育学部初等英語教育コース、 教育福祉学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	中学教諭１種（英語） 高校教諭１種（英語）	11.先修条件	英語音声学を履修していることが望ましい 音声の学修が初めての学生も歓迎		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、演習		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	＜概要＞受講者の英語発音を矯正し、教室での発音のモデルを提示しできるレベルにまで訓練する。また、児童・生徒に対して発音指導ができるよう、指導法について教授する。また、その指導法を他の受講者に対して実践できる能力を養成する。 ＜目的＞小学校と中学校前半の学習者には発音の導入指導を、中学校後半から高校の生徒対象では発音の矯正指導ができる技術を学び、合わせて発音のモデルを示すことができる発音能力の習得を目指します。 １）英語発音の目標として国際語としての英語（EIL）のレベルに達する ２）英語の発音指導				
18.学習目標とＤＰとの関連	１）自身の発音能力向上の為に継続的な練習ができる　自律性 ２）発音指導において問題点を見つけ、指導に必要な方法を決めることができる　課題発見・課題解決能力 ３）英語音声学で学んだ知識を活用する力を要請する				
19.教科書・教材	片山・長瀬・上斗『英語音声学の基礎』研究社				
20.参考文献	山田・長瀬『小学生からの英語絵辞典』研究社				
21.成績評価	レポート　10+10=20%　（英語音声学に関する課題） 発音テスト 10+10+25=45%　（中間２回と期末で計３回実施） Performance 15%（Jazz chants ＆ 対話文） 発音指導実践 20%　（問題のある発音を聞き、問題点を指摘し、矯正法を示す）				
22.コメント	●教育福祉学科で、小学校教員を目指している学生の受講を勧めます。 ●英語の発音が良い先生は、児童・生徒から信頼と尊敬を得ます。 ●英語教育・英語コミ学科で教職課程を履修する学生は関連科目として英語音声学が必修です。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー　水曜日昼休み 研究室オフィスアワー　　木曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1．10/03	導入（シラバス説明、発音診断ソフト説明)、発音診断、 英語音声学の基礎知識、Jazz Chants 練習	発音評価ソフト(703)および自宅練習（30 分）
2．　10/10	診断テストのフィードバック、英語のリズム、破裂音	発音評価ソフト(703)および自宅練習（30 分）

	の矯正、Jazz Chants 練習	
3． 10/17	英語のイントネーション１，前舌母音の矯正、Jazz Chants 練習	発音評価ソフト(703)および自宅練習（30 分）
4． 10/24	英語のイントネーション２，摩擦音の矯正、Jazz Chants 練習	発音評価ソフト(703)および自宅練習（30 分）
5． 10/31	中間発音テスト１、英語の文強勢、中舌・後舌母音の矯正、Jazz Chants 練習	発音評価ソフト(703)および自宅練習（30 分）
6． 11/07	その他の子音の矯正、Jazz Chants 練習	発音評価ソフト(703)および自宅練習（30 分）
7． 11/14	英語の音声変化、二重母音の矯正、Jazz Chants 練習	発音評価ソフト(703)および自宅練習（30 分）
8． 11/21	日英語の母音比較と英語の母音指導法、Jazz Chants 発表	発音評価ソフト(703)および自宅練習（30 分）
9． 11/28	パフォーマンス振り返り、英語のリズムとイントネーション復習	レポート 1 作成（50 分）
10. 12/05	中間発音テスト 2、日英語の子音比較と英語の子音指導法、対話文練習、レポート 1	発音評価ソフト(703)および自宅練習（30 分）
11. 12/12	日英語のリズムの違いとプロソディの指導法、対話文発表（パフォーマンス）	発音評価ソフト(703)および自宅練習（30 分）
12. 12/19	発音指導実践演習 1	発音評価ソフト(703)および自宅練習（30 分）
13. 1/09	発音指導実践演習 2、指導法テスト	発表練習（45 分）
14. 1/16	最終発音テスト、英語音声表現（発表)、レポート 2 の説明	レポート 2 作成（60 分）
15. 1/23	発音テストフィードバック、授業の振り返り、レポート 2	

1.授業コード（ナンバリング）	EDS201-M01	2.科目名	社会科教育法Ⅰ			3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ						
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・選択の区分	中高必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期		
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	教職 2 年		
10.取得資格の要件	中学（社会）			11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	本授業の目的 中学校の社会科教員として求められる学識や資質を身につけ、さらに高めることをめざして、社会科における地理的分野の授業の方法と実践について学ぶ。 本授業の概要 1　中学校社会科の地理教育の目標を含めた全体像を把握するために、現行の学習指導要領を概観し、教育的課題を考察する。 2　教員は教科指導の専門家として、教材研究及びさまざまな教材開発を工夫し、授業の質を高める資質が求められる。従って、本科目では、対象となる地理学の内容から主要なテーマを取り上げて学ぶことにより、地理学への理解を深めるとと						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目のＤＰは（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連している。 1　中学校社会科の学習の意義を、特に地理的分野の教育的特質を中心に学ぶ。 2　中学校社会科の地理的分野の教育に必要となる地理に関する専門的学識を学ぶ。 3　社会科教員として、専門的学識をもって生徒の価値観や社会認識を育成するための教育を実践する資質を高めることをめざして、社会科授業の理論と実践を学ぶ。						
19.教科書・教材	必要なものがあれば講義中に配布する。						
20.参考文献	中学校用社会科教科書『新しい社会　地理』（東京書籍） 『新しい社会科地図』（東京書籍） その他、必要に応じて講義の中で指示する。						
21.成績評価	評価については、以下の項目に基づいて総合的に行う。 講義内容についてのレポート（20%）：各回のレポートは地理学の専門的内容を教材として工夫する試みを中心とする。 模擬授業について、指導案の作成（10%）、模擬授業の実施（30%） 総括試験（40%）：専門的内容の教材化の可能性を総括的に考察するために実施する。						
22.コメント	教育の重要性を理解し、教育者として社会貢献をしたいという志の高い人、知的好奇心が旺盛で、学的探究の意欲の高い人を期待する。 教科教育の趣旨から、深い教材研究の能力とともに、授業実践に際しての教材開発や指導方法の工夫に取り組む力が必要となる。そのために地理学の専門的学識が地理教育の前提となることに留意して欲しい。 本科目では模擬授業を演習として重視するので、受講生の人数によっては模擬授業を行う回数に変更があり、その場合は講義内容にも変更を行うことがある。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス、地理教育論総説：地理教育の意義、学習指導要領に基づく教育目標と課題	

第 2 回	地域学習の方法と課題：地誌的学習に関する留意点、地理的条件から見る国際関係	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ★模擬授業希望調査票提出
	諸資料に基づく地理学習の方法：地形図の読み取り（課題作業を含む）	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ★レポート提出
第 4 回	地域学習の視点と教材開発Ⅰ：「産業を中核とした考察」（学習指導要領）を中心に、系統地理から経済地理の教材化	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 5 回	地域学習の視点と教材開発Ⅱ：「人口や都市・村落を中核とした考察」（学習指導要領）を中心に、系統地理から人口地理・都市地理の教材化	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 6 回	地域学習の視点と教材開発Ⅲ：「生活・文化を中核とした考察」（学習指導要領）を中心に、文化地理の教材化（課題作業を含む）	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ★レポート提出
第 7 回	日本の諸地域の学習指導：近畿地方を例として	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 8 回	世界の諸地域の学習指導：ヨーロッパを例として	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 9 回	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅰ：学習指導案及び関連教材に関する説明（教育機器の活用を含む）、作成	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ◆ノートパソコン◆
第 10 回	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅱ：作成の継続と手直し、各担当内容の教材研究についての指導・助言	○学習指導案の作成と関連教材の準備（360 分） ◆ノートパソコン◆
第 11 回	模擬授業Ⅰ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改善・向上に向けての指導	○学習指導案の作成及び完成、関連教材の準備、各自担当授業の予習（360 分）
第 12 回	模擬授業Ⅱ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改善・向上に向けての指導	○各自担当授業の予習（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 13 回	模擬授業Ⅲ：同上	○各自担当授業の予習（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 14 回	模擬授業Ⅳ：同上	○総括試験の準備（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 15 回	地理教育論の総括：模擬授業の総括的評価、地理教育の課題及び関連知識に関する確認する総括試験	○総括試験の準備（360 分）

1.授業コード（ナンバリング）	EDS201-Y01	2.科目名	社会科教育法Ⅰ			3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ						
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・選択の区分	中高必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期		
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	教職 2 年		
10.取得資格の要件	中学（社会）			11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	本授業の目的 中学校の社会科教員として求められる学識や資質を身につけ、さらに高めることをめざして、社会科における地理的分野の授業の方法と実践について学ぶ。 本授業の概要 1　中学校社会科の地理教育の目標を含めた全体像を把握するために、現行の学習指導要領を概観し、教育的課題を考察する。 2　教員は教科指導の専門家として、教材研究及びさまざまな教材開発を工夫し、授業の質を高める資質が求められる。従って、本科目では、対象となる地理学の内容から主要なテーマを取り上げて学ぶことにより、地理学への理解を深めるとと						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目のＤＰは（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連している。 1　中学校社会科の学習の意義を、特に地理的分野の教育的特質を中心に学ぶ。 2　中学校社会科の地理的分野の教育に必要となる地理に関する専門的学識を学ぶ。 3　社会科教員として、専門的学識をもって生徒の価値観や社会認識を育成するための教育を実践する資質を高めることをめざして、社会科授業の理論と実践を学ぶ。						
19.教科書・教材	必要なものがあれば講義中に配布する。						
20.参考文献	中学校用社会科教科書『新しい社会　地理』（東京書籍） 『新しい社会科地図』（東京書籍） その他、必要に応じて講義の中で指示する。						
21.成績評価	評価については、以下の項目に基づいて総合的に行う。 講義内容についてのレポート（20%）：各回のレポートは地理学の専門的内容を教材として工夫する試みを中心とする。 模擬授業について、指導案の作成（10%）、模擬授業の実施（30%） 総括試験（40%）：専門的内容の教材化の可能性を総括的に考察するために実施する。						
22.コメント	教育の重要性を理解し、教育者として社会貢献をしたいという志の高い人、知的好奇心が旺盛で、学的探究の意欲の高い人を期待する。 教科教育の趣旨から、深い教材研究の能力とともに、授業実践に際しての教材開発や指導方法の工夫に取り組む力が必要となる。そのために地理学の専門的学識が地理教育の前提となることに留意して欲しい。 本科目では模擬授業を演習として重視するので、受講生の人数によっては模擬授業を行う回数に変更があり、その場合は講義内容にも変更を行うことがある。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス、地理教育論総説：地理教育の意義、学習指導要領に基づく教育目標と課題	

第 2 回	地域学習の方法と課題：地誌的学習に関する留意点、地理的条件から見る国際関係	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ★模擬授業希望調査票提出
	諸資料に基づく地理学習の方法：地形図の読み取り（課題作業を含む）	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ★レポート提出
第 4 回	地域学習の視点と教材開発Ⅰ：「産業を中核とした考察」（学習指導要領）を中心に、系統地理から経済地理の教材化	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 5 回	地域学習の視点と教材開発Ⅱ：「人口や都市・村落を中核とした考察」（学習指導要領）を中心に、系統地理から人口地理・都市地理の教材化	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 6 回	地域学習の視点と教材開発Ⅲ：「生活・文化を中核とした考察」（学習指導要領）を中心に、文化地理の教材化（課題作業を含む）	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ★レポート提出
第 7 回	日本の諸地域の学習指導：近畿地方を例として	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 8 回	世界の諸地域の学習指導：ヨーロッパを例として	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 9 回	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅰ：学習指導案及び関連教材に関する説明（教育機器の活用を含む）、作成	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ◆ノートパソコン◆
第 10 回	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅱ：作成の継続と手直し、各担当内容の教材研究についての指導・助言	○学習指導案の作成と関連教材の準備（360 分） ◆ノートパソコン◆
第 11 回	模擬授業Ⅰ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改善・向上に向けての指導	○学習指導案の作成及び完成、関連教材の準備、各自担当授業の予習（360 分）
第 12 回	模擬授業Ⅱ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改善・向上に向けての指導	○各自担当授業の予習（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 13 回	模擬授業Ⅲ：同上	○各自担当授業の予習（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 14 回	模擬授業Ⅳ：同上	○総括試験の準備（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 15 回	地理教育論の総括：模擬授業の総括的評価、地理教育の課題及び関連知識に関する確認する総括試験	○総括試験の準備（360 分）

1.授業コード（ナンバリング）	EDS301-Y01	2.科目名	社会科･公民科教育法Ⅰ			3.単位数	2
4.授業担当教員	小松郁夫						
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・選択の区分	中高必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期		
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	教職（３年）		
10.取得資格の要件	高校（公民）、中学（社会）			11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習		
16.履修制限	教職課程履修者のみが履修してください。						
17.授業の目的と概要	本授業の目的 高校の公民科教員及び中学校の社会科教員として求められる学識や資質を身につけ、さらに高めることをめざして、高校公民科及び中学校社会科の公民的分野の授業の方法と実践について学ぶ。 本授業の概要 １　高校公民科及び中学校社会科の公民教育の目標を含めた全体像を把握するために、現行の学習指導要領を概観し、教育的課題を考察することができる。 ２　教員は教科指導の専門家として、教材研究及びさまざまな教材開発を工夫し、授業の質を高める資質が求められる。従って、本科目では、対象となる公民的分野の教科内容に						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目は DP の（1）自律的で主体的な態度（4）問題発見・解決力と（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。 １　高校公民科の学習の意義、及び中学校社会科の学習の意義については、特に公民的分野の教育的特質を理解し説明することができる。 ２　高校公民科及び中学校社会科の公民的分野の教育に必要となるような、人文・社会科学に関する専門的学識が習得できている。 ３　高校公民科及び中学校社会科教員として、専門的学識をもって生徒の価値観や社会認識を育成するための教育を実践する資質を高めることをめざして、公民科及び社会科授業の理論と実践ができる。						
19.教科書・教材	講義レジュメ及び資料のプリント その他、必要なものがあれば講義中に配布する。						
20.参考文献	高校公民科教科書『現代社会』（東京書籍）、中学校用社会科教科書『新しい社会　公民』（東京書籍） その他、必要に応じて講義の中で指示する。						
21.成績評価	評価については、以下の項目に基づいて総合的に行う。 講義内容についてのレポート（20%）：各回のレポートは人文・社会科学の専門的内容を教材として工夫する試みを中心とする。 模擬授業について、指導案の作成（10%）、模擬授業の実施（30%） 総括試験（40%）：専門的内容の教材化の可能性を総括的に考察するために実施する。						
22.コメント	神戸山手キャンパスと三木キャンパスで教職課程履修者向けの授業 　2 キャンパス対象のため、対面授業と遠隔授業を交互に実施予定。 遠隔対応があるため、授業を ZOOM などで録画して授業内の WEB　CLASS で公開することがある。 ★第 1 回目の授業は　神戸山手キャンパスから配信 　三木キャンパスで受講用　ZOOM 案内						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	ガイダンス、公民科教育論総説：公民科教育の課題と	

	方法、学習指導要領（中・高校）の教育目標と課題、シティズンシップの確立をめざす教育について	
第 2 回	「政治」分野の方法と教材開発Ⅰ：民主政治の学習課題と方法、主権者教育に求められること	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 3 回	「政治」分野の方法と教材開発Ⅱ：現代政治の特質の理解、政治参加の意義、国際政治を理解する視点の育成	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 4 回	「政治」分野の方法と教材開発Ⅲ：憲法教育の方法と課題（自由権的基本権を中心に)、日本国憲法の教材化の工夫について	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ○レポート作成（360 分）
第 5 回	「政治」分野の方法と教材開発Ⅳ：憲法教育の方法と課題（社会権的基本権を中心に)、日本国憲法の教材化の工夫について	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ★レポート提出
第 6 回 5/25	「経済」分野の方法と教材開発Ⅰ：経済の基本原理に関する教育課題、日本経済についうての学習方法と教材の工夫	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 7 回 6/1	「経済」分野の方法と教材開発Ⅱ：社会問題（国際社会を含む）と経済活動に関する教育の課題	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 8 回 6/8	主題学習の課題と方法：「現代日本の政治」を考えさせる授業の課題設定の仕方と工夫（資料読解及び社会科学的思考を養う発展的学習として）	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ○レポート作成（360 分） ★模擬授業希望調査票提出
第 9 回 6/15	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅰ：学習指導案及び関連教材に関する説明（教育機器の活用を含む)、作成	○学習指導案の作成と関連教材の準備（360 分） ★レポート提出 ◆ノートパソコン◆
第 10 回 6/22	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅱ：作成の継続と手直し、各担当内容の教材研究についての指導・助言	○学習指導案の作成と関連教材の準備（360 分） ★レポート提出 ◆ノートパソコン◆
第 11 回 6/29	模擬授業Ⅰ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改善・向上に向けての指導	○各自担当授業の予習（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 12 回 7/6	模擬授業Ⅱ：同上	○各自担当授業の予習（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 13 回 7/13	模擬授業Ⅲ：同上	○各自担当授業の予習（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 14 回	模擬授業Ⅳ：同上	○総括試験の準備（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 15 回	公民科教育論の総括：模擬授業の総括的評価、公民科教育の課題及び関連知識に関する確認の総括試験	○総括試験の準備（360 分）

1.授業コード（ナンバリング）	EDS301-m01	2.科目名	社会科･公民科教育法Ⅰ			3.単位数	2
4.授業担当教員	小松郁夫						
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・選択の区分	中高必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期		
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	教職（３年）		
10.取得資格の要件	高校（公民）、中学（社会）			11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習		
16.履修制限	教職課程履修者のみが履修してください。						
17.授業の目的と概要	本授業の目的 高校の公民科教員及び中学校の社会科教員として求められる学識や資質を身につけ、さらに高めることをめざして、高校公民科及び中学校社会科の公民的分野の授業の方法と実践について学ぶ。 本授業の概要 １　高校公民科及び中学校社会科の公民教育の目標を含めた全体像を把握するために、現行の学習指導要領を概観し、教育的課題を考察することができる。 ２　教員は教科指導の専門家として、教材研究及びさまざまな教材開発を工夫し、授業の質を高める資質が求められる。従って、本科目では、対象となる公民的分野の教科内容に						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目は DP の（1）自律的で主体的な態度（4）問題発見・解決力と（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。 １　高校公民科の学習の意義、及び中学校社会科の学習の意義については、特に公民的分野の教育的特質を理解し説明することができる。 ２　高校公民科及び中学校社会科の公民的分野の教育に必要となるような、人文・社会科学に関する専門的学識が習得できている。 ３　高校公民科及び中学校社会科教員として、専門的学識をもって生徒の価値観や社会認識を育成するための教育を実践する資質を高めることをめざして、公民科及び社会科授業の理論と実践ができる。						
19.教科書・教材	講義レジュメ及び資料のプリント その他、必要なものがあれば講義中に配布する。						
20.参考文献	高校公民科教科書『現代社会』（東京書籍）、中学校用社会科教科書『新しい社会　公民』（東京書籍） その他、必要に応じて講義の中で指示する。						
21.成績評価	評価については、以下の項目に基づいて総合的に行う。 講義内容についてのレポート（20%）：各回のレポートは人文・社会科学の専門的内容を教材として工夫する試みを中心とする。 模擬授業について、指導案の作成（10%）、模擬授業の実施（30%） 総括試験（40%）：専門的内容の教材化の可能性を総括的に考察するために実施する。						
22.コメント	神戸山手キャンパスと三木キャンパスで教職課程履修者向けの授業 　2 キャンパス対象のため、対面授業と遠隔授業を交互に実施予定。 遠隔対応があるため、授業を ZOOM などで録画して授業内の WEB　CLASS で公開することがある。 ★第 1 回目の授業は　神戸山手キャンパスから配信 　三木キャンパスで受講用　ZOOM 案内						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	ガイダンス、公民科教育論総説：公民科教育の課題と	

	方法、学習指導要領（中・高校）の教育目標と課題、シティズンシップの確立をめざす教育について	
第 2 回	「政治」分野の方法と教材開発Ⅰ：民主政治の学習課題と方法、主権者教育に求められること	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 3 回	「政治」分野の方法と教材開発Ⅱ：現代政治の特質の理解、政治参加の意義、国際政治を理解する視点の育成	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 4 回	「政治」分野の方法と教材開発Ⅲ：憲法教育の方法と課題（自由権的基本権を中心に)、日本国憲法の教材化の工夫について	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ○レポート作成（360 分）
第 5 回	「政治」分野の方法と教材開発Ⅳ：憲法教育の方法と課題（社会権的基本権を中心に)、日本国憲法の教材化の工夫について	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ★レポート提出
第 6 回 5/25	「経済」分野の方法と教材開発Ⅰ：経済の基本原理に関する教育課題、日本経済についうての学習方法と教材の工夫	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 7 回 6/1	「経済」分野の方法と教材開発Ⅱ：社会問題（国際社会を含む）と経済活動に関する教育の課題	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 8 回 6/8	主題学習の課題と方法：「現代日本の政治」を考えさせる授業の課題設定の仕方と工夫（資料読解及び社会科学的思考を養う発展的学習として）	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ○レポート作成（360 分） ★模擬授業希望調査票提出
第 9 回 6/15	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅰ：学習指導案及び関連教材に関する説明（教育機器の活用を含む)、作成	○学習指導案の作成と関連教材の準備（360 分） ★レポート提出 ◆ノートパソコン◆
第 10 回 6/22	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅱ：作成の継続と手直し、各担当内容の教材研究についての指導・助言	○学習指導案の作成と関連教材の準備（360 分） ★レポート提出 ◆ノートパソコン◆
第 11 回 6/29	模擬授業Ⅰ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改善・向上に向けての指導	○各自担当授業の予習（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 12 回 7/6	模擬授業Ⅱ：同上	○各自担当授業の予習（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 13 回 7/13	模擬授業Ⅲ：同上	○各自担当授業の予習（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 14 回	模擬授業Ⅳ：同上	○総括試験の準備（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 15 回	公民科教育論の総括：模擬授業の総括的評価、公民科教育の課題及び関連知識に関する確認の総括試験	○総括試験の準備（360 分）

1.授業コード（ナンバリング）	EDU101-A01	2.科目名	教育学概論　（5 月 30 日～7 月 18 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育学部教育福祉学科			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件	保育士資格 小学校教諭一種免許 幼稚園教諭一種免許 中学校教諭一種免許（英語）	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	この授業は、「教育」という営みに関して基本的な知識を獲得したうえで、「教育とはなにか」ということに関する自分なりの考えを確立することを最終目標とします。 　そのためのステップとして、これまでの教育思想、教育の歴史、教育の制度、教育の理念・目的、教育内容、生涯学習と社会教育、現代の教育問題に関する基本的な理解と知識の獲得をめざします。				
18.学習目標と　ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（5）コミュニケーションスキル　の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の下記のとおりです。 ①「教育とはなにか」という問題への関心をもつこと、②代表的な教育思想、教育の歴史、教育の制度、教育目的・教育内容・教育方法、生涯学習と社会教育、現代日本の教育問題に関して説明できるようになること、⑧教育に関するトピックに関し、自分で情報を収集し、自分の意見を持ち、他の学生と意見交換ができること				
19.教科書・教材	使用しません。各授業時に教材としてプリントと資料を配布するので、それをきちんとファイルすることが必要です。				
20.参考文献	授業時に随時紹介します。				
21.成績評価	下記の 4 項目についてすべて取り組んだうえで、合計 60 点以上で単位修得となる。 ①総括試験　50%　→　学習目標の①と② ②中間レポート　20%　→　学習目標の①と② ③グループワーク時のワークシート（10%×２回）　20%　→　学習目標の③ ④宿題提出　10%　→　学習目標の①と②				
22.コメント	この科目は、教育学部の 1 年生対象の学部共通必修科目です。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法等についてのオリエンテーション Ⅰ　教育とは何か：①人間形成と教育；人間の育ち方の特徴と教えるという行為	○・「教育」と「発達」という言葉の語源を調べてくる（120 分） ・各国の合計特殊出生率を調べてくる（120 分）
【第 2 回】	Ⅰ　教育とは何か：②子どもの生活：社会の変容に伴う子どもの生活の変化 ③近代教育思想の系譜；西洋に	○指定された教育思想家について調べてくる（240 分）

	おける教育思想の歩み（その１）	
【第 3 回】	Ⅰ　教育とは何か：③近代教育思想の系譜；西洋における教育思想の歩み（その２）	○・「日本国憲法」と「教育基本法」で、義務教育について書かれている条文を調べてくる（90 分） ・第 1 回グループワークに向けて、指定された事項をについて調べてくる（150 分）
【第 4 回】	Ⅰ　教育とは何か：④義務教育の制度と課題：公教育はどのように成立したか、義務教育の成立過程 ◎グループワーク１：義務教育学校の選択制をどう考える？	○・第 1 回グループワークのワークシートを完成させる（150 分） ★第 1 回グループワークのワークシート提出 ・「教育基本法」で教育の目的が書かれている箇所を調べてくる(90 分)
【第 5 回】	Ⅱ　教育の目的・内容・方法：①日本の教育目的：日本の教育目的、各学校の教育目的はどうなっているか	○・日本の学習指導要領の変遷を調べてくる（240 分）
【第 6 回】	Ⅱ教育の目的・内容・方法：②日本の教育課程；教育課程とは何か、教育課程の類型、日本の教育課程の基準とその変遷 小学校から高校まで自分が使用した教科書を使い、グループワークを行う	○江戸時代の学校について調べてくる（240 分）
【第 7 回】	Ⅱ　教育の目的・内容・方法：③教育の方法	第 9 回までに、中間レポート：テーマ「寺子屋の教育の特徴と現代教育への示唆」を書いてくる（240 分）
【第 8 回】	Ⅱ　教育の目的・内容・方法：③教育の方法；教育方法の類型	○・「小学校指導要録」について調べてくる（120 分） ・「大村はま」さんの詩を読んで感想を書いてくる（120 分）
【第 9 回】	Ⅱ 教育の目的・内容・方法：④教育評価；教育評価とは何か、教育評価の実際	○中間レポートを仕上げる（240 分） ★中間レポート提出
【第 10 回】	Ⅲ　現代社会と教育：①日本の世界の教育制度；教育制度の類型、日本の学校制度の問題	○「義務教育学校」と「認定こども園」について調べてくる（240 分）
【第 11 回】	Ⅲ　現代社会と教育：②幼児教育と初等中等教育；日本の幼児教育、初等中等教育の制度と現状	○指定された事項、人物について調べてくる（240 分）
【第 12 回】	Ⅲ　現代社会と教育：③日本の教育制度の歴史；明治維新前後から現代までの学校制度の歴史	○「ミッションレポート」の内容をワークシートにまとめてくる（240 分）
【第 13 回】	Ⅲ　現代社会と教育：④生涯学習と社会教育；生涯学習の考え方と日本の社会教育の現状」 ⑤現代日本の教育問題；主な教育問題に関する基本的な理解（その１）	○第 2 回グループワークに向けて、指定された事項について調べてくる（240 分）
【第 14 回】	Ⅲ　現代社会と教育：⑤現代日本の教育問題；主な教	○・第 2 回グループワークのワークシートを

	育問題に関する基本的な理解（その２） ◎グループワーク２：「教育機会基本法」と夜間中学校について	完成させる（240 分） ★第 2 回グループワークのワークシート提出
【第 15 回】	Ⅲ　総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	EDU102-M01	2.科目名	教職概論	3.単位数	2
4.授業担当教員	佐藤広志				
5.授業科目の区分	自由科目(教職)	6.必修・選択の区分	教職必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　幼稚園一種	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	教職課程の履修登録をする必要がある。				
17.授業の目的と概要	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身につけ、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	（１）教職の意義：我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する (1-1)公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 (1-2)進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。 （２）教員の役割：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 (2-1)教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。 (2-2)今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。 （３）教員の職務内容：教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 (3-1)生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の服務の全体像を理解している。 (3-2)教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 (3-3)教員に課せられる服務上及び身分上の義務及び身分保障を理解している。 （４）チーム学校への対応：学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。 (4-1)校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。				
19.教科書・教材	特になし。その都度、資料を配布。				
20.参考文献	田中耕二郎・井ノ口淳三編『教職概論　教師になるには』(ミネルヴァ書房、2008) 教育技術 MOOK『中学校・高校版　新任教師のしごと』(小学館、2007) 吉川寿一・中谷静夫編『教育法規の解説各年度版』(大阪教育図書株式会社) 時事通信社、内外教育研究会編『教職教養の過去問（各年)』(時事通信社)				
21.成績評価	模擬授業（教材研究の発表)・・・20% 法規編のまとめテスト・・・30% 各討論回のショートペーパー・・・30% 最終回のリフレクション・レポート・・・20%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	

	教職課程ガイダンスと教育職員免許法の要点を知る （学年配当した科目の意義、採用試験スケジュール、免許更新制等）	○自分自身の教職課程履修計画をシミュレーションしてみること(1-2h、以下同様想定)
	公教育の目的と教員の存在意義を理解する (教育基本法と学校教育法の記述から基本理念を抽出する)	○各法規条文を予習する (事前配布した範囲)
	教職の職業的特徴（公務員としての要件のほか、他の職業と何が違うのかを考える） 職業イメージを相互確認するためのディスカッションワークを含む	○学校教育法と地方公務員法の該当部分を予習
	教職観の変遷と今日の教員に求められる役割 (小説や映画、ドラマに描かれた教師像を手掛かりに、討論を進める)	○教師が描かれた文学作品、ドラマ等の情報収集
	今日の教員に求められる基礎的な資質能力を知る (時代を超えて求められるものと、現代的課題に応じるものを考える)	
	教師のしごとの多様性を知る (授業、生徒指導、対生徒以外の校務等、教員の職務の全体像を俯瞰する) 自分の学校体験からどこまでイメージを広げられるか、討論	
	研修の意義と制度上の位置づけについて学ぶ	○教育基本法、教育公務員特例法等の対応条文を予習
	教材研究の重要性を知る （生涯にわたって学び続けることの必要性を理解する）	
	教員の服務上、身分上の義務と身分保障について知る （地方公務員法、教育公務員特例法その他の解説）	○地方公務員法、教育公務員特例法の該当箇所を予習
	教師の日常業務にかかわるその他の法的要点について知る （授業実践や生徒指導上知っておくべき法的知識をおさらいする） 教育法規編の復習テスト	○教育基本法、学校教育法の該当部分を予習
	チーム学校への対応 （内外の専門家等、多様な専門性を持つ人材との効果的連携とはどういうものかを知り、さらに今後の可能性について自由にアイディアを出し合う）	
	模擬授業体験と相互評価 （短い時間で模擬授業を展開、そのための教材研究も	○◎模擬授業の準備と教材研究

	事前し十分準備し、相互に評価しあう。受講生数によって、持ち時間を調整)	
	模擬授業体験と相互評価(続き)	
	模擬授業体験と相互評価(続き) 先輩の教育実習体験を聞く	
	今後の学習計画と自己の教職適性に関する自己分析をまとめる	

1.授業コード（ナンバリング）	EDU102-Y01	2.科目名	教職概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	平井正朗					
5.授業科目の区分	教育の基礎的理解に関する科目 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応含む。）	6.必修・選択の区分	教職必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件	なし			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、グループワーク			
16.履修制限	教職課程の履修登録					
17.授業の目的と概要	本授業の目的は、教師という職業の意義・役割・職務内容等に関する学修を進め、将来、教育現場で活躍できる資質・能力を養うことです。同時に、「チーム学校」の一員として協働する姿勢を涵養します。具体的には、教職観の変遷、教員養成の歴史、教職に関する法・制度、職場環境、教育現場の現状課題等を扱いつつ、新学習指導要領において求められる教師像についても外観します。さらに。事例研究を通じて、教職についての背景知識を強化します。					
18.学習目標とＤＰとの関連	①大項目　「問題解決能力を身につける」 中項目　「問題発見力　レベル２　〈現状を認識し、生じている問題に気付き、解決のための課題を見つける。〉」 教育現場では、「チーム学校」の下、教職員がそれぞれの役割を意識しながら保護者や地域の人々、産業界も巻き込みつつ、協働的に生徒の成長に関わることで不可欠です。その上で、教職員一人ひとりが、各自の課題解決に向けて具体的な目標を設定し、その実現に向けて PDCA サイクルを展開することが健全な学校運営とつながるという認識を深めていただきたいと思います。 ②大項目　「社会に貢献できる人間になる」 中項目　「社会的能動性　レベル２　〈集団の中で、他のメンバーと協働しながら行動できる。〉」 一人一人の教師が、課題解決に向けての自己の役割を自覚しながら、チーム学校のスピリッツの下、同僚と協働する資質を育成することが重要です。そのような資質を本授業を通して養います。 学校では日々、様々な課題が発生します。それぞれの事象に対し、教職員は情報を共有、解決に向けて合意形成の下、説明責任を意識しながら解決に向けて取り組まなければなりません。 授業改善については、教員の学び合いを基調とする効果的な OJT や Off-JT を例示しつつ、スキル・アップの方法論も紹介します。					
19.教科書・教材	教材として資料等を配布するので、それをきちんとファイルすることが必要です。					
20.参考文献	佐藤晴雄　「教職概論　第 5 次改訂版」学陽書房					
21.成績評価	① 教職概論に関する事例へのコメント１０回×３＝３０％ ② 中間課題１回×３０＝３０％ ③ 最終課題１回×４０＝４０％ 最終評価は、①から③の合計とし、１００点満点とする。					
22.コメント	学校現場では、安心・安全の下、各自が設定した目標に向けて、地域と連携しつつ、人的・物的資源を有効活用し、「生きる力」となる確かな学力（知）、豊かな心（徳）、健やかな体（体）　をバランスよく育てることが必須です。その中で、学力の３要素となる基礎的な知識・					

	技能の習得、思考・判断・表現する力の育成、学習に取り組む意欲の涵養が求められます。本授業では、実践事例も明示し、現場に役立つスキルを身につける授業でありたいと思います。現代社会は移り変わりが激しく、予測不能と言われる時代ですが、教師の”あるべき姿”について探究的に考えていきましょう。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	・オリエンテーション （本授業の目標、内容、成績評価、授業を受ける上での留意点） ・事例研究 ・教職論を学ぶ必要性について－今、教師に求められるもの	配布されたプリントは各自でファイルし、毎回、持参すること。（以下、同様）
2 回目	・講義：「日本の伝統的な教師像」（教職観） ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
3 回目	・講義：「教師と教員養成の歴史」 ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
4 回目	・講義：「新学習指導要領において求められる教師像」 ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
5 回目	・講義「教員の任用と服務」 ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
6 回目	・講義「教師の役割と仕事」「管理職・主任の役割」 ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
7 回目	・講義「教材研究」「生涯教育」 ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
8 回目	・講義「教師の職場環境」 ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	中間課題の提示

9 回目	・中間課題のグループ・プレゼンテーション （パワーポイント等を使用して、発表する）	中間課題の提出
10 回目	・講義「教育現場の課題」 ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
11 回目	・講義「チーム学校」（新学習指導要領に対応する事例研究） ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
12 回目	・講義「教師の資質向上と研修」（新学習指導要領に対応する事例研究） ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
13 回目	・講義「ICT 活用の個別最適化学習」（新学習指導要領に対応する事例研究） ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
14 回目	・模擬授業／模擬 HR 体験と相互評価 （時間制限付きで模擬授業・模擬 HR を展開、相互評価しあう）	最終課題の提示
15 回目	・模擬授業／模擬 HR 体験と相互評価（続き） （現場教員の話を録画で視聴）	最終課題の提出

1.授業コード（ナンバリング）	EDU202-A01	2.科目名	教職特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	幼稚園一種　小学校一種	11.先修条件	1 年生秋学期開講の「教職概論」を履修済みであることが望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	専門職としての教職について理解を深めるために、教師の教育実践に関する DVD を視聴したり、グループワークを行ったりして、授業を検討するうえでの視点を獲得するとともに、教師としての態度を身に付ける。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①授業を観察する視点を身に付ける。 ②教師としての態度を身に付ける。 ③大学で学修した概念や理論と、実習やインターンシップなどで経験したことを用いて、他者の教育実践を分析できるとともに、自分自身の実践のあり方を振り返ることができる。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律的で主体的な態度（自律性）(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）(4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	必要に応じて印刷資料を配布する。				
20.参考文献	必要に応じて印刷物の配布や文献等の紹介を行う。				
21.成績評価	１．課題ａ　２５％【学習目標②】 教師集団の取り組みから学んだことをまとめる。 ２．課題ｂ　２５％【学習目標①②③】 教育実践のカンファレンスを通して学んだことについて論じる。 ３．総括試験　５０％【学習目標①②③】				
22.コメント	グループ討議を取り入れた授業のため、他者のことを考えつつ、積極的に意見を述べること。また、小学校教師に関するテーマを中心に扱うので、それに関心のある学生が受講することが望ましい。				
23.オフィスアワー	木曜日３時間目				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション ・講義の概要について理解する。また、自身の教職志望度について確認する。	○今回の授業の復習をする。(60 分)
【第 2 回】	教師の専門性① ・教職の特徴について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。また、教師の専門性について検討する。(240 分)
【第 3 回】	教師の専門性② ・学びの共同体とチーム学校について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。また、教師の専門性について検討する。(240 分)
【第 4 回】	教師の専門性③ ・教師文化の変容について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。また、教師の専門性について検討する。(240 分)

【第 5 回】	教師の専門性④ ・教師集団に関する事例の検討を通して、教師の専門性について考える。	○【課題】「ＤＶＤから学んだことをまとめる」（240 分） ○今回の授業の復習をする。また、教師の専門性について検討する。（240 分）
【第 6 回】	授業のカンファレンス ・前回のＤＶＤで学んだことを発表する。また，授業のカンファレンスの意義と方法について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。また、教師の専門性について検討する。（240 分） ★課題提出
【第 7 回】	教育実践のカンファレンス① ・国語の授業実践の DVD 視聴とそのカンファレンスを行う。	○今回の授業の復習をする。また、教育実践のカンファレンスについて検討する。（240 分）
【第 8 回】	教育実践のカンファレンス② ・道徳の授業実践の DVD 視聴とそのカンファレンスを行う。	○今回の授業の復習をする。また、教育実践のカンファレンスについて検討する。（240 分）
【第 9 回】	教育実践のカンファレンス③ ・いじめ対策の DVD 視聴とそのカンファレンスを行う。	○復習（360 分）
【第 10 回】	教育実践を取り巻く環境の変化① ・良妻賢母に関する DVD 視聴とそのカンファレンスを行う。	○今回の授業の復習をする。（240 分）
【第 11 回】	教育実践を取り巻く環境の変化② ・教育ママに関する DVD 視聴とそのカンファレンスを行う。	○今回の授業の復習をする。また、カンファレンスの意義について検討する。（240 分）
【第 12 回】	教育実践を取り巻く環境の変化③ ・1990 年代の子育てに関する DVD 視聴とそのカンファレンスを行う。	○今回の授業の復習をする。また、カンファレンスの意義について検討する。（240 分）
【第 13 回】	教育実践を取り巻く環境の変化④ ・三歳児神話に関する DVD 視聴とそのカンファレンスを行う。	○今回の授業の復習をする。また、カンファレンスの意義について検討する。（120 分） ○これまでの学修内容の復習（300 分）
【第 14 回】	これまでのまとめ	○今回の授業の復習をする。（60 分）
【第 15 回】	総括試験	○今回の授業の復習をする。（60 分）

1.授業コード（ナンバリング）	EDU204-m01	2.科目名	教育制度論	3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武大				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　幼稚園一種	11.先修条件	「日本国憲法」をあらかじめ履修しておくことが望ましいです。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、教育制度に関する基本的な知識を理解し、よりよい教育制度にするための提案力を身につけることを目的とします。 【概要】 この授業では、現代教育に関するさまざまなトピックを取り上げ、日々の学校教育の営みと教育に関する法規などの制度がどのように関わっているのかを理解します。これによって、教師として必須の教育制度に関する基礎知識を習得するとともに、教育制度の現状を批判的に検討しながら、いかに現状を改善・改革するかというデザイン力を身につけることもめざします。なお、教育の事例や制度に対して受				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目は、本学の「卒業認定・学位授与の方針（DP)」の(1) 自律的で主体的な態度（自律性：自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができます。)、(6) 専門的知識・技能 の活用力（自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際を想定した場面で活用することができます。）の 2 点を重点的に育成することを意図しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 1.教育制度の基本原理について説明できる。 2.学校現場に関する教育制度の基礎知識について説明できる。 3.教育行政に関する教育制度の基礎知識について説明できる。 4.教育制度の改善・改革案を提案することができる。				
19.教科書・教材	資料を適宜配布します。				
20.参考文献	坂田仰/黒川雅子共著『補訂版　事例で学ぶ”学校の法律問題”』教育開発研究所、2013 年。 篠原清昭編著『教育のための法学～子ども・親の権利を守る教育法～』ミネルヴァ書房、2013 年。 坂野慎二・湯藤定宗・福本みちよ編『学校教育制度概論【第 2 版】』玉川大学出版部、2017 年				
21.成績評価	評価・評定については、以下のすべての課題を、提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。配点は次の通りです。 〇ふりかえり　12 回×2 点＝24 点　（学習目標の 1、2、3 に対応） 〇中間確認試験　26 点　（学習目標の 2 に対応） 〇総括試験　50 点　（学習目標の 1、2、3、4 に対応）				
22.コメント	教職科目であるため、休まずまじめに授業を受講するとともに、授業時間外でも予習・復習など自主的な学習に取り組む姿勢を期待します。				
23.オフィスアワー	月曜 5 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション（授業の目標・内容、成績評	〇予習：参考書を活用して懲戒・体罰、出席

	価、授業の進め方、受講マナー等受講上の留意点） ・法律―教育行政―学校教育という制度の構造	停止の概要について学ぶ。（240 分）
【第 2 回】	・懲戒・体罰 ・出席停止 ・第 1 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 2 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用していじめと就学義務について学ぶ。（60 分）
【第 3 回】	・いじめ ・就学義務 ・第 2 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 3 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用して児童虐待と特別支援教育について学ぶ。（60 分）
【第 4 回】	・児童虐待 ・特別支援教育 ・第 3 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 4 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用して教員の服務について学ぶ。（60 分）
【第 5 回】	・教員の服務 ・第 4 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 5 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用して分限処分、著作権について学ぶ。（60 分）
【第 6 回】	・分限処分 ・著作権 ・第 5 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 6 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用して教育課程の基準、教科書等の使用について学ぶ。（60 分）
【第 7 回】	・教育課程の基準 ・教科書等の使用 ・第 6 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 7 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用して学校安全、学校事故について学ぶ。（60 分）
【第 8 回】	・学校安全 ・学校事故 ・第 7 回のふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 8 回の復習を行う。（180 分） ○復習：配付資料に基づいて、初回から第 8 回の総復習を行い、中間確認試験に備える。（180 分） ○予習：参考書を活用して学校組織について学ぶ。（60 分）
【第 9 回】	・中間確認試験 ・学校組織 ・第 8 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 9 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用して学校評価と情報公開、開かれた学校について学ぶ。（60 分）
【第 10 回】	・学校評価と情報公開 ・開かれた学校 ・第 9 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 10 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用して教育の市場化について学ぶ。（60 分）
【第 11 回】	・教育の市場化 ・第 10 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 11 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用して教育行政制度について学ぶ。（60 分）
【第 12 回】	・教育行政制度	○復習：配付資料に基づいて、第 12 回の復習

	・第 11 回ふりかえり	を行う。(180 分) 〇予習：参考書を活用して教育制度の基本原理について学ぶ。(60 分)
【第 13 回】	・教育制度の基本原理 ・第 12 回ふりかえり	〇復習：配付資料に基づいて、第 13 回の復習を行う。(180 分) 〇予習：参考書を活用して学校体系について学ぶ。(60 分)
【第 14 回】	・学校体系	〇復習：配付資料や参考書に基づいて、これまでの復習を行い、総括試験に備える。(300 分)
【第 15 回】	・教育制度のまとめ（総括試験と講評）	〇これまでの総復習（240 分）

1.授業コード（ナンバリング）	EDU204-y01	2.科目名	教育制度論	3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武大				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　幼稚園一種	11.先修条件	「日本国憲法」をあらかじめ履修しておくことが望ましいです。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、教育制度に関する基本的な知識を理解し、よりよい教育制度にするための提案力を身につけることを目的とします。 【概要】 この授業では、現代教育に関するさまざまなトピックを取り上げ、日々の学校教育の営みと教育に関する法規などの制度がどのように関わっているのかを理解します。これによって、教師として必須の教育制度に関する基礎知識を習得するとともに、教育制度の現状を批判的に検討しながら、いかに現状を改善・改革するかというデザイン力を身につけることもめざします。 なお、教育の事例や制度に対して受				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目は、本学の「卒業認定・学位授与の方針（DP)」の(1) 自律的で主体的な態度（自律性：自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができます。)、(6) 専門的知識・技能 の活用力（自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際を想定した場面で活用することができます。）の 2 点を重点的に育成することを意図しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 1.教育制度の基本原理について説明できる。 2.学校現場に関する教育制度の基礎知識について説明できる。 3.教育行政に関する教育制度の基礎知識について説明できる。 4.教育制度の改善・改革案を提案することができる。				
19.教科書・教材	資料を適宜配布します。				
20.参考文献	坂田仰/黒川雅子共著『補訂版　事例で学ぶ"学校の法律問題"』教育開発研究所、2013 年。 篠原清昭編著『教育のための法学～子ども・親の権利を守る教育法～』ミネルヴァ書房、2013 年。 坂野慎二・湯藤定宗・福本みちよ編『学校教育制度概論【第 2 版】』玉川大学出版部、2017 年				
21.成績評価	評価・評定については、以下のすべての課題を、提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。配点は次の通りです。 〇ふりかえり　12 回×2 点＝24 点　（学習目標の 1、2、3 に対応） 〇中間確認試験　26 点　（学習目標の 2 に対応） 〇総括試験　50 点　（学習目標の 1、2、3、4 に対応）				
22.コメント	教職科目であるため、休まずまじめに授業を受講するとともに、授業時間外でも予習・復習など自主的な学習に取り組む姿勢を期待します。				
23.オフィスアワー	月曜 5 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション（授業の目標・内容、成績評	〇予習：参考書を活用して懲戒・体罰、出席

	価、授業の進め方、受講マナー等受講上の留意点） ・法律―教育行政―学校教育という制度の構造	停止の概要について学ぶ。（240 分）
【第 2 回】	・懲戒・体罰 ・出席停止 ・第 1 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 2 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用していじめと就学義務について学ぶ。（60 分）
【第 3 回】	・いじめ ・就学義務 ・第 2 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 3 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用して児童虐待と特別支援教育について学ぶ。（60 分）
【第 4 回】	・児童虐待 ・特別支援教育 ・第 3 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 4 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用して教員の服務について学ぶ。（60 分）
【第 5 回】	・教員の服務 ・第 4 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 5 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用して分限処分、著作権について学ぶ。（60 分）
【第 6 回】	・分限処分 ・著作権 ・第 5 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 6 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用して教育課程の基準、教科書等の使用について学ぶ。（60 分）
【第 7 回】	・教育課程の基準 ・教科書等の使用 ・第 6 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 7 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用して学校安全、学校事故について学ぶ。（60 分）
【第 8 回】	・学校安全 ・学校事故 ・第 7 回のふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 8 回の復習を行う。（180 分） ○復習：配付資料に基づいて、初回から第 8 回の総復習を行い、中間確認試験に備える。（180 分） ○予習：参考書を活用して学校組織について学ぶ。（60 分）
【第 9 回】	・中間確認試験 ・学校組織 ・第 8 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 9 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用して学校評価と情報公開、開かれた学校について学ぶ。（60 分）
【第 10 回】	・学校評価と情報公開 ・開かれた学校 ・第 9 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 10 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用して教育の市場化について学ぶ。（60 分）
【第 11 回】	・教育の市場化 ・第 10 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 11 回の復習を行う。（180 分） ○予習：参考書を活用して教育行政制度について学ぶ。（60 分）
【第 12 回】	・教育行政制度	○復習：配付資料に基づいて、第 12 回の復習

	・第 11 回ふりかえり	を行う。(180 分) 〇予習：参考書を活用して教育制度の基本原理について学ぶ。(60 分)
【第 13 回】	・教育制度の基本原理 ・第 12 回ふりかえり	〇復習：配付資料に基づいて、第 13 回の復習を行う。(180 分) 〇予習：参考書を活用して学校体系について学ぶ。(60 分)
【第 14 回】	・学校体系	〇復習：配付資料や参考書に基づいて、これまでの復習を行い、総括試験に備える。(300 分)
【第 15 回】	・教育制度のまとめ（総括試験と講評）	〇これまでの総復習（240 分）

1.授業コード（ナンバリング）	EDU205-A01	2.科目名	教育課程論	3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）　小学校一種幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解するために、教育課程の意義、編成方法、カリキュラム・マネジメントを学習する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 ②教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 ③教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律的で主体的な態度（自律性）(4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	『教育課程論　第二版』山田雅彦編　学文社（※昨年度までのテキストと異なるので注意すること） ISBN9784762027932				
20.参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』最新版 文部科学省『小学校学習指導要領』最新版 文部科学省『中学校学習指導要領』最新版 文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版 必要に応じて印刷物の配布や文献等の紹介を行う。				
21.成績評価	１．中間課題　２０％【学習目標①に対応】 ＤＶＤの内容をまとめるとともに、それについての自分の意見を書く。 ２．中間レポート　４０％【学習目標②に対応】 自分が経験してきた教育内容や学校生活を、学習指導要領の変遷（教科書 pp.85-100 など）をもとに考察し、学校経験の自分史を書く。 ３．総括試験　４０％【学習目標①②③に対応】				
22.コメント	子どもたちのお手本となるような授業態度で受講すること。				
23.オフィスアワー	木曜日３時間目				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション　…　教科書 pp.15-20 ・講義の進め方、講義内容について理解する。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.21-23 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 2 回】	教育課程の概念と構造①　…　教科書 pp.21-23 ・教育課程の概念、役割、機能について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.24-31 を読んで、わからないところをチェックする。(120

		分）
【第 3 回】	教育課程の概念と構造②　…　教科書 pp.24-31 ・教育課程の構造と基本原理について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.23-24 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 4 回】	隠れたカリキュラム　…　教科書 pp.23-24 ・これまでの学校生活を振り返り、カリキュラムとして学んできたものを考える。 ・ワークショップ「学校で学んできたもの」	○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.32-38 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 5 回】	現行の学習指導要領・幼稚園教育要領　…　教科書 pp.32-38 ・学習指導要領の基本構造について理解する。	○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.97-100 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 6 回】	学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷①　…　教科書 pp.97-100 ・「総合的な学習（探求）の時間」について検討する。	○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.85-87 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 7 回】	学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷②　…　教科書 pp.85-87 ・小学校・中学校・高等学校学習指導要領の変遷（前半）を理解する。	○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.88-100 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 8 回】	学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷③　…　教科書 pp.88-100 ・小学校・中学校・高等学校学習指導要領の変遷（後半）を理解する。	○今回の授業の復習をする。（120 分）
【第 9 回】	学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷④ ・学習指導要領の変遷と学力との関連について考察する。	※【中間課題】ＤＶＤの内容をまとめるとともに、それについての自分の意見を書く。 ※【中間レポート】自分史を書く。（360 分） ○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.39-44 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 10 回】	学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷⑤ ・幼稚園教育要領の変遷を理解する。	○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.45-50 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 11 回】	教育課程の法と行政①　…　教科書 pp.39-44 ・教育課程編成について学ぶ。 ・子どもの実態や地域の実態などをふまえた教育課程を検討することの重要性について理解する。 ・教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.45-50 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 12 回】	教育課程の法と行政②　…　教科書 pp.45-50 ・教科書制度の歴史と概要について理解する。	○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.54-69 を読ん

		で、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 13 回】	教育課程の経営と評価　…　教科書 pp.54-69 ・カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価について理解する。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○これまでの学修内容について復習をする。(360 分)
【第 14 回】	総括試験	○これまでの学習内容について復習をする。(240 分)
【第 15 回】	まとめ ・これまでの復習を行い、本科目での学修到達度を認識する。	○総括試験の結果や中間レポートの評価などをふまえて、これまでの総復習をする。(120 分)

1.授業コード（ナンバリング）	EED101-A71	2.科目名	保育実践観察法	3.単位数	1
4.授業担当教員	椋田善之				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	保育士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	保育は、子どもたちと保育者の生活での営みである。 保育のフィールドの中で、乳幼児とはどのように発達の姿を見せているのか？ 乳幼児の発達の姿と同じ発達年齢であっても、一人一人個別な存在である。そんな乳幼児の発達の多様性を学ぶ。 また、保育者が年齢や個性や様々な状況に応じて、どのように保育をしているのか。 専門的な対応について学ぶ。 保育の一日の生活の流れの組み立て方、環境構成のあり方、幼児への対応の仕方、指導と援助考え方などを観点を決めつぶさに観察することで、幼児理解と保育について理解を深める。				
18.学習目標とＤＰとの関連	学科 DP との関連 （1）自律的で主体的な態度（自律性） 教員・社会福祉従事者としての使命と目標を明確に持ち、教育・社会福祉業務に自律的・意欲的に取り組むことができる。 （2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 教員・社会福祉従事者として社会の動向をふまえ、教育や福祉の現場において必要とされる実践力を身につけ、地域社会や他者のために責任ある行動をとることができる。 学修目標 ○　乳幼児の発達についての理解を深める。 ○　保育者の仕事内容を理解し、その専門性について知る。 ○　保育の流れ、乳幼児の理解、幼児の発達とその特徴、保育者の動きと意図、環境構成のあり方な　　どを理解する。 ○幼児の行動観察を行い、行動から幼児の気持ちを推し量り、幼児理解を深める。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書				
21.成績評価	実習先でのワークシートなどによる評価　60　% レポート課題　　40　%				
22.コメント	幼稚園・保育所実習、インターンシップに行く前に、保育を学ぶ学生として是非とも履修してもらいたい。 乳幼児を大切に思い、愛を以ってクラス運営（園）をしていくかかわりを学びましょう。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	【日程】 1 日目　1・2 限目　事前講義 2 日目　認定こども園立花愛の園幼稚園（尼崎市）で	

	の保育観察実習（９時～１５時）４コマ分 ３日目　認定こども園立花愛の園幼稚園（尼崎市）での保育観察実習（９時～１７時）４コマ分 ４日目　認定こども園立花愛の園幼稚園（尼崎市）での保育観察実習（９時～１７時）５コマ分 （※なお、大学での教室は授業前に掲示板にて報告する） 【概要】 この授業は、幼稚園・保育園で，子どもたちとのかかわりと観察（保育実践を観察する）を行います。 そのための事前講義として，子どもたちや保育実践に	
	保育場面での保育者のあり方　：　乳幼児にとっての保育者の存在の意味	・記録用バインダー ・筆記用具 ・昼食 ・お茶 ・上靴 ・下運動靴 ・学校用ジャージ ・名札 ○　園に行く際には，スーツ着用（上着は不要） ○　園内では，学校のジャージ ○　髪の毛は，基本的は実習としてふさわしい状況。 ○　ピアス，ネックレス，指輪などは，はずしておく。
	保育実践観察　：　３歳未満児のクラスの保育に参加し、保育者と乳児とかかわりながら観察する。	
	保育実践観察　：　３歳未満児のクラスの保育に参加し、保育者と乳児とかかわりながら観察する。	
	保育実践観察　：　３歳未満児のクラスの保育に参加し、保育者と乳児とかかわりながら観察する。	
	保育観察　：　３歳未満児の乳幼児を観察し、発達を理解する。	
	保育観察　：　幼稚園にて幼児を観察し、発達と個人差を理解する。	
	保育観察　:保育に参加し、幼児とかかわりのなかで、発達や個人差を理解する。	
	保育観察の振り返り　：　保育後に、保育と幼児を観察したことがらの振り返りと評価を行なう。	
	保育実践行動観察　：　特定の幼児を抽出し、行動観察を行なう。	
	保育実践観察　：　幼稚園のクラスの保育に参加し、保育者と幼児とかかわりながら観察する。	
	保育実践観察　：　幼稚園のクラスの保育に参加し、保育者と幼児とかかわりながら観察する。	
	保育実践観察　：　幼稚園のクラスの保育に参加し、	

	保育者と幼児とかかわりながら観察する。	
	保育実践観察　：　保育後に、保育と幼児を観察したことがらの振り返りを行なう。	
	保育実践観察　：　保育後に、保育と乳児を観察したことがらの振り返りと評価を行なう。	

1.授業コード（ナンバリング）	EED201-A01	2.科目名	保育原理	3.単位数	2
4.授業担当教員	馬場住子				
5.授業科目の区分	基幹	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育学部教育福祉学科こども学専攻教育・保育コース			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	保育士資格必修		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 保育に保育に関する法令および制度を知ることから、保育の基本および保育の思想の歴史的変遷、現代の保育の現状と課題について理解することを目的とする。 【授業の概要】 テキストを基に保育の意義および目的、保育に関する制度、保育の基本について解説する。また、保育の歴史的変遷における人物(西洋・日本）調べについては各自で教材研究などの課題に取り組み、それぞれの学びを共有する。特殊な保育方法については視聴覚資料などを用いて理解を深める。さらに、保育の現状と課題については現場の具体的事例を提示し、考察に				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 1.保育の原点である保育の思想史および保育の基本的理念を理解するため、自ら努力することができる(学科 DP6)。 2.保育に関する法令及び制度、保育の意義と目的、子育て支援の在り方についても理解し、専門的知識を保育現場で活用することができる力を身に付ける(学科 DP5)。 3.保育の現状および世界にも視野を広げ、子どもの問題についてその課題解決のために自ら考察することができる(学科 DP4)。 【関連する学科 DP】 （4）問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見･理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 （5）コミュニケーションスキル 教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 （6）専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。				
19.教科書・教材	「保育の学びファーストステップ」　瀧川光治　小栗正裕　宮地あゆみ　編著　青踏社　ISBN 902636-60-4				
20.参考文献	授業内で適宜紹介します。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ・課題①：保育の歴史的変遷における人物(西洋）調べとカルタづくり　15 点(15%)　〔学習目標①に対応〕 ・課題②：保育の歴史的変遷における人物(日本）調べとカルタづくり　15 点(15%)　〔学習目標①に対応〕 ・課題③：世界における保育の課題調べ　10 点(10%)　〔学習目標③に対応〕 ・総括テスト：60 点(60%)　〔学習目標①～③に対応〕				

22.コメント	保育原理の基礎的な専門知識を身に付けていただきたいと思っています。できれば楽しみながら意欲的に学習していただければと思います。尚、総括テスト(筆記試験)は 15 コマ終了後試験期間中に実施します。テストの日程日時は予定を空けておいてください。教材作成時は費用がかかることがあります。授業についての連絡は Web Class よりのメール配信で行います。(欠席された方は特に)連絡事項については必ずみておくようにお願いします。また、担当教員へのご連絡は***までお願いします。
23.オフィスアワー	金曜日　昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	保育の理念と概念-保育の基本について-	個人作業 ・復習：テキスト第 1 章を読んでおく。(60 分) ・予習：テキスト第 2 章を読んでおく。(60 分)
2 回目	子育て支援・保護者支援-その現状と課題から-	個人作業 ・復習：子育て支援(その具体的方法について各自で調べたこと、考えたこと）についてまとめておく。(60 分) ・予習：テキスト第 16 章を読んでおく。(60 分)
3 回目	さまざまな配慮を必要とする子どもへの保育-配慮を必要とする子どもへの具体的支援の方法-	個人作業 ・復習：さまざまな配慮を必要とする子ども(その具体的支援の方法について各自で調べたこと、考えたこと）についてまとめておく。(60 分) ・予習：テキスト第 10 章を読んでおく。(60 分)
4 回目	保育の方法-就学前保育の特質を基に-	個人作業 ・復習：就学前保育(その特徴について各自で調べたこと、考えたこと）についてまとめておく。(60 分) ・予習：テキスト第 10 章を読んでおく。(60 分)
5 回目	保育の環境-環境を通した保育事例から-	個人作業 ・復習：環境を通した保育(その具体的保育方法について各自で調べたこと、考えたこと）をまとめておく。(60 分) ・予習：テキスト第 7 章を読んでおく。(60 分)
6 回目	保育の基盤としての養護-生命の保持と情緒の安定-	個人作業 ・復習：保育の基盤としての養護(各自で調べたこと、考えたこと）をまとめておく。(60

		分） ・予習：テキスト第 7 章を読んでおく。(60 分)
7 回目	乳児の保育-低年齢児の保育の基本-	個人作業 ・復習：低年齢児の保育の基本(その具体的保育方法について各自で調べたこと、考えたこと）をまとめておく。(60 分) ・予習：テキスト第 7 章を読んでおく。(60 分)
8 回目	保育の目標-各園の目標比較から-	個人作業 ・復習：各園の目標（各自で調べた具体的事例、保育の目標について考えたこと）をまとめておく。(60 分) ・予習：テキスト第 20 章を読んでおく。(60 分)
9 回目	保育に関する法令および制度-保育所・幼稚園・認定こども園に関する法令と制度-	個人作業 ・復習：保育に関する法令および制度（各自で調べたこと、考えたこと）をまとめておく。(60 分) ・予習：テキスト第 20 章を読んでおく。(60 分)
10 回目	保育の思想と歴史的変遷(1)-西洋の保育史-	個人作業 ・復習：西洋の保育史上の人物について調べ、カルタづくりの準備をする。(60 分) ・予習：テキスト第 21 章を読んでおく。(60 分)
11 回目	保育の思想と歴史的変遷(2)-日本の保育史-	個人作業 ・復習：日本の保育史上の人物について調べ、カルタづくりの準備をする。。(60 分) ・予習：テキスト第 22 章を読んでおく。(60 分)
12 回目	保育の思想と歴史的変遷(3)-保育内容史-	個人作業 ・復習：総括テストのための準備①テスト範囲後半の復習をする。(60 分) ・予習：特殊な保育方法について調べる。(60 分)
13 回目	特殊な保育思想と保育方法-フレーベル幼稚園・モンテッソーリ幼稚園を例に-	個人作業 ・復習：総括テストのための準備②テスト範囲後半の復習をする。(60 分) ・予習：世界の子どもの課題について調べる。(60 分)
14 回目	保育の現状と課題-世界の子どもの問題-	個人作業 ・復習：総括テストのための準備③今までの授業で習ったことを復習する。(60 分) ・予習：保育の現状と課題について考える。

		(60 分)
15 回目	総括-保育の現状と課題への考察など-	個人作業 授業全体を振り返り、習ったことを復習する。(120 分)

1.授業コード（ナンバリング）	EED202-A01	2.科目名	社会的養護		3.単位数	2
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	基幹科目 障害児福祉施設における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻 教育福祉学科福祉学専攻 福祉・保育コース			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 社会的養護とは、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに養育困難を抱える家庭への支援を行うことである。現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷を学び、社会的養護と子ども家庭福祉の関連及び子どもの権利擁護について理解を深める。社会的養護の制度や実施体系を学び、現状と課題について考察し、社会的養護のあり方を学ぶ。 【概要】 ・貧困や虐待から子どもの命と人権を守るためにはどうすれば良いのか、子どもにとっての最善の利益とはどのようなことなのだろうかを常に問いながら学んでいく。 ・社会的養護の歴史的					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の目的をを達成するために、以下の学習目標を設定する。 １、現代社会における社会的養護の意義について説明できる。 ２、社会的養護の制度や実施体系について説明できる。 ３、社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について説明できる。 ４、社会的養護の現状と課題について指摘できる。 本授業は、学位授与方針（DP）の(2)社会的貢献性、(5)問題発見・解決力に関連しています。					
19.教科書・教材	『よりそい支える社会的養護Ⅰ』 中山正雄（監修） 浦田雅夫（編著）教育情報出版 【第 2 版】2023 年					
20.参考文献						
21.成績評価	①ワークシート（14 回）=60%：学習目標①②③④⑤ ②期末レポート=30%：学習目標⑤ レポート課題「社会問題となった社会的養護に関する記事を 1 つ選び、自分なりに考察し、その課題にどのように対応していけば良いのか論じてください」1600 字以上、参考文献を 2 本以上示しながら書くこと。 ③期末ふりかえりシート=10%：①②③④					
22.コメント	・資料の配布や成果物の提出は webclass を使います。 ・毎回ノートパソコンを持ってきてください。 ・日頃から児童養護に関するニュースに関心をもち、ニュース記事をスクラップし、自分のコメントを書いていきましょう。随時、授業でも使うので、記事を集めておいてください。					
23.オフィスアワー	火曜日の昼休み					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション、社会的養護とは ・社会的養護についてのイメージを出し合う ・児童養護に関するニュース記事をスクラップし、自	○【予習】社会的養護について調べておくこと ○【課題】ワークシート①（90 分）

	分のコメントを書く	
第２回	社会的養護の理念と概念 ・社会的養護の理念、原理を理解する ・児童の権利条約を理解する ・児童養護に関するニュース記事についてグループ討議する	○【予習】社会的養護の理念と概念について教科書を読んでおくこと ○【課題】ワークシート②（90 分）
第３回	社会的養護の歴史 ・戦前・戦後と社会的養護の必要な子どもがおかれていた状況を理解する。 ・家庭的養護が推進されるようになった経緯と意義を理解する。 ・「児童福祉」から「子ども家庭福祉」へと変化してきた背景を知り、子育て世帯を支える意義を理解する。	○【予習】社会的養護の歴史について調べておくこと ○【課題】ワークシート③（90 分）
第４回	児童虐待と子どもの貧困 ・児童虐待の定義を理解する ・子どもの貧困について理解する ・児童虐待に関するニュース記事についてグループ討議する	○【予習】児童虐待と貧困について調べる ○【課題】ワークシート④（90 分）
第５回	児童養護施設について ・児童養護施設の役割と意義について理解する ・児童養護施設で暮らす子どもを理解する	○【予習】児童養護施設について調べておくこと ○【課題】ワークシート⑤（90 分）
第６回	乳児院について ・乳児院の役割と意義について理解する ・乳児院で暮らす子どもを理解する	○【予習】乳児院について調べておくこと ○【課題】ワークシート⑥（90 分）
第７回	里親について ・里親の役割と意義について理解する ・里親家庭で暮らす子どもを理解する	○【予習】里親について調べておくこと ○【課題】ワークシート⑦（90 分）
第８回	母子生活支援施設について ・母子生活支援施設の役割と意義について理解する ・母子生活支援施設で暮らす子どもと母親を理解する ・DV（ドメスティックバイオレンス）に関するニュース記事についてグループ討議する	○【予習】DV（ドメスティックバイオレンス）に関するニュース記事を探しておくこと ○【課題】ワークシート⑧（90 分）
第９回	ファミリーホームについて ・ファミリーホームの役割と意義について理解する ・ファミリーホームで暮らす子どもを理解する	○【予習】ファミリーホームについて調べておくこと ○【課題】ワークシート⑨（90 分）
第１０回	児童心理治療施設について ・児童心理治療施設の役割と意義について理解する ・児童心理治療施設で暮らす子どもを理解する	○【予習】児童心理治療施設について調べておくこと ○【課題】ワークシート⑩（90 分）
第１１回	障害児施設について ・障害児施設の施設体系を理解する ・施設の役割と意義について理解する ・知的障害児入所施設で暮らす子どもを理解する ・障害児への虐待に関するニュース記事についてグル	○【予習】障害児の施設について調べておくこと ・障害児への虐待に関するニュース記事を探しておくこと ○【課題】ワークシート⑪（90 分）

	ープ討議する	
第１２回	児童発達支援センターについて ・児童発達支援センターの役割と意義について理解する ・児童発達支援センターと児童発達支援事業所の違いを理解する	○【予習】児童発達支援センターについて調べておくこと ○【課題】ワークシート⑫（90 分）
第１３回	児童自立支援施設について ・児童自立支援の役割と意義について理解する ・児童自立支援で暮らす子どもを理解する	○【予習】児童自立支援施設について調べておくこと ○【課題】ワークシート⑬（90 分）
第１４回	自立援助ホームについて ・自立援助ホームの役割と意義について理解する ・自立援助ホームで暮らす若者を理解する ・施設を退所した若者の抱える困難についてグループ討議する	○【予習】自立援助ホームについて調べておくこと ・施設を退所した若者の抱える困難について記事をさがしておくこと ○【課題】ワークシート⑭（90 分）
第１５回	・学習のまとめ ・ふりかえりシート	

1.授業コード（ナンバリング）	EED203-A01	2.科目名	保育内容総論		3.単位数	1
4.授業担当教員	下里里枝					
5.授業科目の区分	乳幼児教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	２年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 　この科目は、保育の基本的な理念や目的、幼児の発達や保育・教育の原理、保育環境の整備など、保育に関する幅広い内容をカバーする科目である。 【概要】 １、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「保育の目標」[育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 ２、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 ３、子どもの発達や生活を取り巻					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 ①0 歳児から 5 歳児の身体的、認知的、社会的、感情的な発達を理解し、保育活動に活かすことができる。 ②保育所保育指針や幼稚園教育要領を理解し、保育の全体的な構造を理解する。 ③子ども一人一人を理解し、多様な子どもたちに対応するための支援方法を学ぶ。 ④これからの保育の課題を考えたり調べたりすることができる。 　関連するディプロマポリシーは、 　（１）自律性（４）問題発見・解決力（６）専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 ※購入できなければネットでダウンロードしておいてください。					
20.参考文献	適宜資料を配布する					
21.成績評価	・振り返りシート　　8 回　　40 点（学習目標①②④に対応） ・課題レポート　　１０点（学習目（）標①②④に対応） ・総括試験　　５０点（学習目標①②③に対応） 　※振り返りシート、ワークシート、課題レポートなどは提出期限を守ること。期限が過ぎたら受け取りません。					
22.コメント	・就学前教育施設が多様化してきています。運営する国の所管も３つあります。 　どのような施設でも自信を持って、総合的に、創造的に実践できる保育者になれるように、主体的に学んでくれることを期待しています。 ・保育者になるための大切な授業です。遅刻、欠席はしないようにしてください。 ・提出物は期日を守って提出してください。 ・授業の資料は、事前に見れるようにウエブクラスに掲載しているので、予習してのぞむこ					

	と。
23.オフィスアワー	月曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	・講義のオリエンテーション(授業の目標、進め方、評価など) ・「保育内容総論」とは何か ・「５領域」について	○今日の学びの復習と次週の予習（120 分）
2 回目	・講義 乳幼児を取り巻く環境の変化 多様な就学前教育・保育施設と役割について ・振り返りシート① 幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園の違いについて講義内容を踏まえてまとめる。	○振り返りシー①ウエブクラスに提出。 （120 分）
3 回目	・講義 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿ー１ ※変更があるかもしれません。	○復習（120 分）
4 回目	・講義 「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」について ー２ ・振り返りシート②ウエブクラスに提出 ※変更があるかもしれません。	○振り返りシート②ウエブクラスに提出（120 分）
5 回目	・講義 ３歳児の保育内容 振り返りシート③ ※変更があるかもしれません。	○振り返りシート③作成。ウエブクラスに提出（120 分）
6 回目	・講義 ４歳児の保育内容 振り返りシート④作成、 ※変更があるかもしれません。	○振り返りシート④作成。ウエブクラスに提出（120 分）
7 回目	・講義 ５歳児の保育内容 ・ 振り返りシート⑤ ※変更があるかもしれません。	○振り返りシート⑤作成、ウエブクラスに提出 （120 分）
8 回目	・講義 ゲストテーチャーのお話 ワークシート作成 ※変更があるかもしれません。	○ワークシートを書いて次週までにウエブクラスに提出 ○年齢に応じた絵本を整理しておく（実習で活かせるように）（120 分）
9 回目	・講義・体験活動	○これからの保育課題について調べておく

	おもちゃが保育に果たす役割	（120 分）
１０回目	・講義 これからの保育内容の課題 ①異年齢児保育について ②食育について ③多文化共生保育について ※変更があるかもしれません	○安全・安心な保育について予習する（120 分）
１１回目	・これらの保育内容の課題 ④安全・安心な保育について ⑤子どもの人権を大切にした保育について ※課題レポート作成 「これからの保育内容の課題①～⑤」から授業で学んだ中で、興味を持ったテーマについて自分で調べて書きなさい。 ※変更があるかもしれません	○グループワーク（絵本の読み聞かせ、と手遊び練習） ○課題レポート、ウエブクラスに１３回目までにウエブクラスに提出。（120 分）
１２回目	・講義 SDG s と保育について 保育内容の変遷 ・グループワークと発表（絵本の読み聞かせ、手遊び） ・グループワークシート記入 ※変更があるかもしれません	○グループワークシートをウエブクラスに提出（120 分）
１３回目	講義 子育て支援、保護者支援について 小学校との接続について ※変更があるかもしれません	○今日の学びの振り返り（120 分）
１４回目	・講義 ICT と保育。 病児保育、一時預かり事業、長時間保育など保護者のニーズに応じた支援を知る。 ごっこ遊びの子どもの育ちについて。 ※変更があるかもしれません	○今までの授業の資料とワークシートを見やすく閉じておく。１５回目に持参。（120 分）
１５回目	・講義まとめ ・総括試験	○授業の復習（120 分）

1.授業コード（ナンバリング）	EED206-A01	2.科目名	保育内容・環境　（2021 年度生以前）			3.単位数	1
4.授業担当教員	椋田善之						
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻				9.履修学年	２年～	
10.取得資格の要件	小学校一種保育士　幼稚園一種			11.先修条件	２年生春学期の保育内容５領域の全ての科目を履修すること		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」は「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」観点から子どもの育ちを考えていく領域である。そのためには乳幼児自身の活動を通して好奇心・探究心がどのように育ち、保育者はどのように援助していけばよいかを理解しなければならない。この授業では、乳幼児自身の好奇心・探究心の育ちと、それを育てるための保育者の援助・指導法について理解を深める。 ＜「保育内容・環境」で学ぶ主な内容＞ ■幼稚園教育要領・保育所保育指針における「							
18.学習目標とＤＰとの関連	【関連する学科 DP】 （4）問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見･理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 （5）コミュニケーションスキル 教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 （6）専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。 【本授業の学修目標】 ・5 領域の中の「環境」の位置づけ、その目標と内容について理解します。 ・乳幼児特有の思考と表現の過程を学んだり、追体験したりすることを通して、乳幼児期の思考や表現をトータルに捉えることができるようにします。 ・保育実践を進めていくことの重要性及び具体的な指導方法や環境構成について把握します。							
19.教科書・教材	配布物で資料を配るため、特に必要はありません。						
20.参考文献	・瀧川光治・小栗正裕編『改編　保育の考え方と実践』久美出版、２０１２年 ・「保育所保育指針」 ・「幼稚園教育要領」						
21.成績評価	（１）　乳幼児特有の思考と表現の過程を学んだり、追体験することを把握し、説明できるようになる。5 領域の中の「環境」の位置づけ、その目標と内容について説明できるようになる。 ワークシートや感想（毎回）・・・３点×１５回＝４５点 Webclass で提出 （２）　乳幼児期の思考や表現をトータルに捉えて、保育実践（落ち葉図鑑や絵本の作成）を進めていくことができるようになる。 課題（落ち葉図鑑・フォトブック）（第１３回まで）・・・２０点						

	Webclass で提出 （３）　乳幼児期の思考や表現をトータルに捉えて、保
22.コメント	１．プリント（ワークシート等）を配布するので、ノートは要りません。プリントの中に重要事項、メモ等を記入してください。また、欠席などで、プリント類を受け取っていない場合は、翌週に申し出ること。 ２．【学びの記録シート】の「学習目標に対しての気づき・学び」は授業の中での新たな気づきや学びを書き、「今日の感想・質問」は感想や質問・疑問事項を記入する。２行半にまとめる（１行程度は不可）。 また、＜自己チェック＞欄の集中度・学習目標到達度は、５段階で自己評価する。 ３．演習としてグループワーク、ロールプレイングを行います。 ２回目までは ZOOM にて遠隔授業を実施します。それ以降は変更の可能性があるため、Webclas・Universalpassport をよく見ておいてください。
23.オフィスアワー	火曜日お昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	NO.1：ガイダンス／保育内容「環境」の意義 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容を取り上げつつ「環境」の意義を説明する。 「環境」領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。 ZOOM での講義と WS の提出	○HW-WS①を実施する。(120 分)
第２回	NO.2：保育内容「環境」と幼児理解 「環境」領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。 保育内容「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した上で、パワーポイント・Excel で環境構成を仕上げる。 ZOOM での講義と WS の提出	●　課題１「落ち葉図鑑 or フォトブックつくり」の説明（１２０分） ○HW-WS②を実施する。(120 分)
第３回	NO.3：好奇心・探求心を育てる指導方法 「環境」領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用していく。 保育内容「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した上で、パワーポイント・Excel で環境構成を仕上げる。	○HW-WS③を実施する。(120 分)
第４回	NO.4：思考力の芽生えをはぐくむ指導 「環境」領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 思考力の芽生えをはぐぐむ指導実践を考えた後、幼稚園教育における評価の考え方を理解する。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS④を実施する。(120 分)

第５回	NO.5：人的環境として友だち、保育者 保育内容「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した上で、パワーポイント・Excel で環境構成図を仕上げる。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS⑤を実施する。（120 分）
第６回	NO.6：物的環境としての園具・遊具・素材 保育内容「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した上で、パワーポイント・Excel で環境構成図を仕上げる。 写真を使った保育展開を学ぶ。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS⑥を実施する。（120 分）
第７回	NO.7：自然環境としての動植物 保育内容「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した上で、パワーポイント・Excel で環境構成図を仕上げる。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS⑦を実施する。（120 分）
第８回	NO.8：日常生活のなかでの興味や関心 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容を取り上げつつ「環境」の意義を説明する。 日常生活の興味関心が小学校の教科等とどのようにつながっているかを理解する。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS⑧を実施する。（120 分）
第９回	NO.9：地域（小学校など）・行事とのかかわり、保育実践の具体例－いろいろな糸電話の教材研究 幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。	○HW-WS⑨を実施する。（120 分）
第１０回	NO.10：「環境」からみた道徳性の芽生えを培う、保育実践の具体例－糸電話、音の教材の教材研究 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。	○HW-WS⑩を実施する。（120 分）
第１１回	NO.11：乳幼児の安全環境 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS⑪を実施する。（120 分）

第１２回	NO.12：保育内容「環境」からみた実践的課題 行われた実践についての評価を行う。 保育で行われた実践が小学校の教科等とのつながりを持っているか、確認していく。 振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。	○HW-WS⑫を実施する。（120 分）
第１３回	NO.13：自然・動植物や季節の変化に触れる保育実践－「落ち葉図鑑」「フォトブック」の作品鑑賞会 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解した上で自然・動植物や季節の変化に触れる保育実践を考える。 幼稚園教育における保育実践の振り返りを行う際の評価の考え方を理解する。	○HW-WS⑬を実施する。（120 分）
第１４回	NO.14：保育における環境（物的環境、自然環境、環境構成）とは？ 幼稚園教育における環境構成などについての評価の考え方を理解する。	○HW-WS⑭を実施する。（120 分）
第１５回	NO.15：まとめ（授業内での「最終まとめ」プリント） これまで身に付けた力を総括して確認する。	○HW-WS⑬を実施する。（120 分） ○最終回まとめのレポートを実施する。（120 分）

1.授業コード（ナンバリング）	EED207-A01	2.科目名	保育内容・言葉　（2021 年度生以前）	3.単位数	1
4.授業担当教員	馬場住子				
5.授業科目の区分	基幹	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻教育・保育コース			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	保育士資格必修 幼稚園教員免許必修	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 幼稚園教育要領に示された基本を踏まえ、領域「言葉」のねらいおよび内容を理解する。幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な場面を想定した保育を構想する力を身に付ける。 【授業の概要】 保育内容・領域「言葉」についてテキストを基に解説する。言葉の獲得の道筋について考えることから、言葉の発達に対する援助のあり方や子どもの生活における言葉について学んでいく。また、遊びの中で育つことばの実践や言葉にかかわるさまざまな文化材についての調べ学習を通して、具体的な遊びと教材づくりを				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 1.領域「言葉」のねらいおよび内容並びに全体構造を理解することができる(学科 DP6)。 2.保育内容「言葉」において、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解することができる(学科 DP6)。 3.保育内容「言葉」の基本的事項を踏まえ、言葉にかかわるさまざまな文化財について自ら調べ、手作り教材の作成に取り組むことができる(学科 DP5)。 4.保育内容「言葉」の領域における指導案を立案し、模擬保育に取り組むことができる。(学科 DP4)。 【関連する学科 DP】 （4）問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見･理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 （5）コミュニケーションスキル 教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 （6）専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。				
19.教科書・教材	久富陽子編著　『実践例から学びを深める保育内容・領域　言葉指導法』わかば社				
20.参考文献	授業内で適宜紹介します。				
21.成績評価	課題①「絵本調べ」：各年齢の発達に即した言葉にかかわる絵本を分類的に調べる。「絵本調べ」15 点、発表 5 点(20%)　〔学習目標の①、③に対応〕 課題②「伝承遊び」：伝承遊びについて調べ、実践する。「伝承遊び調べ」15 点、発表 5 点(20%)　〔学習目標の③に対応〕 課題③「言葉遊び」：言葉遊びのカードを制作する。「言葉遊びカード」：15 点、発表 5 点(20%)　〔学習目標の③に対応〕				

	課題④「保育実践」：領域言葉に関する保育指導案の立案：指導案 20 点、模擬保育の実践 20 点(40%)〔学習目標の②、④に対応〕
22.コメント	さまざまな演習を通して基礎的な専門知識とともに保育実践力を身に付けていただきたいと思っています。できれば楽しみながら意欲的に頑張ってください。※一部教材づくりで各自準備していただくものがあります。適宜授業内でご案内します。
23.オフィスアワー	金曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	子どもと言葉について-保育における子どもの言葉-	教室外学習（予習、復習） テキスト Part1　第 1 章を読む。子どもと言葉について-保育における子どもの言葉-について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
2 回目	保育内容・領域「言葉」について-保育・幼児教育の基本・保育内容の全体構成と領域「言葉」-	教室外学習（予習、復習） テキスト Part1.　第 2 章を読む。保育内容・領域「言葉」について-保育・幼児教育の基本・保育内容の全体構成と領域「言葉」-について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
3 回目	保育内容・領域「言葉」の展開について-乳児・1 歳以上 3 歳未満児・3 歳以上児における領域「言葉」の展開-	教室外学習（予習、復習） テキスト Part1.　第 3 章を読む。保育内容・領域「言葉」の各年齢における展開について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
4 回目	保育の過程について-保育における計画・指導計画の作成・保育の評価と改善-	教室外学習（予習、復習） テキスト Part1.　第 4 章を読む。保育の過程について-保育における計画・指導計画の作成・保育の評価と改善-について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
5 回目	言葉の獲得の道筋について-乳児期・幼児期の言葉の発達に対する援助-	教室外学習（予習、復習） テキスト Part2.　第 1 章を読む。言葉の獲得の道筋について-乳児期・幼児期の言葉の発達に対する援助-について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
6 回目	子どもの生活と言葉について-遊びの中から育まれる言葉へのかかわり-	教室外学習（予習、復習） テキスト Part2.　第 2 章を読む。子どもの生活と言葉について-遊びの中から育まれる言葉へのかかわり-について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
7 回目	言葉を使うことで広がる世界の実践について-能動的で自主的な活動である言葉の獲得-	教室外学習（予習、復習） テキスト Part2.　第 3 章を読む。言葉を使うことで広がる世界の実践について-能動的で自主的な活動である言葉の獲得-について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
8 回目	遊びの中で育つ言葉の実践について-遊びの中で自分なりの言葉で話す-	教室外学習（予習、復習） テキスト Part2.　第 4 章を読む。遊びの中で育つ言葉の実践について-遊びの中で自分なりの言葉で話す-について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)

9回目	言葉にかかわるさまざまな文化財について-児童文化財と領域「言葉」-	教室外学習（予習、復習） テキスト Part2.　第 5 章を読む。言葉にかかわるさまざまな文化財について-児童文化財と領域「言葉」-について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
１０回目	言葉の獲得にむずしさを抱える子どもの実態について-言葉の遅れや発音、言葉の理解や表出にむずかしさをかかえる子どもとのかかわり-	教室外学習（予習、復習） テキスト Part2.　第 6 章を読む。言葉の獲得にむずしさを抱える子どもの実態について-言葉の遅れや発音、言葉の理解や表出にむずかしさをかかえる子どもとのかかわり-について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
１１回目	複数の言語の中で育つ子どもの実践について-日本で暮らす外国人・多様性を認めるかかわり-	教室外学習（予習、復習）テキスト Part2. 第 7 章を読む。複数の言語の中で育つ子どもの実践について-日本で暮らす外国人・多様性を認めるかかわり-について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
１２回目	領域「言葉」と就学後の成果通夜学び-5 歳児の話し言葉や書き言葉への援助-	教室外学習（予習、復習） テキスト Part2.　第 8 章を読む。領域「言葉」と就学後の成果通夜学び-5 歳児の話し言葉や書き言葉への援助-について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
１３回目	遊びを通した総合的な指導の展開について-子どもの遊びと保育内容 5 領域-	教室外学習（予習、復習） テキスト Part3.　第 1 章を読む。遊びを通した総合的な指導の展開について-子どもの遊びと保育内容 5 領域-について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
１４回目	小学校との連携・接続の実践について-接続期カリキュラムとその実践-	教室外学習（予習、復習） テキスト Part3.　第 2 章を読む。小学校との連携・接続の実践について-接続期カリキュラムとその実践-について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
１５回目	総括-領域「言葉」にかかわる現代的課題-	教室外学習（予習、復習）テキスト Part3. 第 3 章を読む。総括-領域「言葉」にかかわる現代的課題-について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)

1.授業コード（ナンバリング）	EED208-A01	2.科目名	保育内容・表現Ⅰ　(2021 年度生以前)	3.単位数	1
4.授業担当教員	大西洋史				
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	小学校一種　保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習(講義・実技を含む) 模擬保育などは、集中講義になる可能性あり		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目では、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針及び幼稚園教育要領における領域「表現」について考察し、幼児の未分化な表現とその指導についての理解 を深めます。 本授業では特に、幼児の造形について取り扱い、幼児の造形作品を鑑賞したり、幼児の造形に関する研究に触れたりすることを通して幼児理解を進めるとともに、幼児と造形の関わり及びその活動 の意義を学び、併せて基礎的指導力を養います。また描いたり、つくったり、みたりする活動を通して、互 いの「違い」の面白さに気づき、色や形を介してのコミュニケー				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律的で主体的な態度（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・5 領域の中の「表現」の位置づけ、その目標と内容について理解します。 ・幼児特有の表現過程を追体験することを通して、未分化な幼児期の表現を理解し、表現をトータルに捉えて指導することの重要性及び具体的指導方法について把握します。 ・特に幼児の造形について 4 つの側面(発達的、特徴的、心理的、美的)からアプローチし、幼児の表現を 受容、共感、反応していくことの重要性について理解し、保育者としての基礎的姿勢と基本的指導技術を身につけます。				
19.教科書・教材	大橋功『美術教育概論（新訂版)』2018. ISBN978-4536601030 本書は「造形Ⅰ」(1 年春学期)で購入したものです。また、「図画工作Ⅰ」(2 年春学期)、「図画工作Ⅱ」(2 年秋学期)、「初等図画工作科教育法」(2 年秋学期)、「造形Ⅱ」(4 年秋学期)、「教職実践演習(幼)」(4 年 秋学期)と共通の教科書です。				
20.参考文献	槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 2008.ISBN 978-4893471314 厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド社 厚生労働省『保育所指針解説』フレーベル社 厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル社 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル社				
21.成績評価	①受講ノート=10%（毎回の授業について感想や質問などを 200 字程度でまとめる） ②グループワーク（①～③）＝20% ③個人ワーク（活動①～⑦）=10% ④作成した保育案・模擬授業=40% ⑤e ポートフォリオの内容=20% ・それぞれの評価基準は，1 回目の授業で配布します。 ・①③④⑤は学科の学習目標達成，②は KUIS 学習ベンチマーク達成の評価に用いる。				
22.コメント	幼児の未分化な表現を豊かに引き出すにあたって、指導者自身が描いたり、つくったりする力				

	量は必要ではありません。幼児の世界観を理解し受容し反応するできること、つまり幼児の表現を”みとる力”が必要なのです。 屈託のない無限の可能性が感じられる幼児の表現世界を体験しましょう。 そして、仲間と一緒に表現することの楽しさを味わっていきましょう。 そうすることで、魅力ある指導者への第一歩を踏み出せるでしょう。 ※遠隔授業で対応できない内容については、集中講義になる可能性があります。 ※遠隔授業の場合、必要な用具（絵の具、クレパス、色鉛筆、用紙など）については自分で用意することになります。
23.オフィスアワー	木曜昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、e ポートフォリオのアップ、 受講上の留意点などについて） グループづくり 保育所指針・幼稚園要領における「表現」とは	○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 2 回	子どもの造形活動を捉える視点 「遊びから捉える幼児の表現～自分たちの経験をもとに～」 活動①「新聞で遊ぼう」（素材を体験する 1） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 3 回	活動②「自然物で遊ぼう」（素材を体験する 2） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 4 回	活動③「絵本をつくろう」（子どもと楽しむために 1） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 5 回	活動④「絵本をつくろう 2」（子どもと楽しむために 2） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 6 回	活動⑤「たらしこみで遊ぼう」（技法を体験する 1） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 7 回	活動⑥「パステルで遊ぼう」（技法を体験する 2） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 8 回	活動⑦「クレパスで遊ぼう」（技法を体験する 3） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	◆ノートパソコン◆ ★◎保育案の作成 ○復習と授業ノートの整理（60 分）

第 9 回	幼児の造形への特徴的側面からのアプローチ 保育所指針・幼稚園要領における「表現」のねらい・内容の理解 保育指導案の構成を理解し、保育案を作成する 情報機器・教材の活用法の理解 「遊びからの表現活動を考える（保育案の作成)」	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 10 回	幼児の造形への特徴的側面からのアプローチ 「遊びからの表現活動を考える」指導案検討グループワーク	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 11 回	造形表現という側面から 活動⑦「名場面を探そう～私のおすすめ絵本～」	◆おすすめの絵本 1 冊◆ ○復習と授業ノートの整理（60 分
第 12 回	造形表現という側面から グループワーク③「絵本からの表現活動～保育案をつくろう～」 保育指導案の構成を理解し、保育案を作成する 情報機器・教材の活用法の理解	★◎保育案作成（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分
第 13 回	造形表現という側面から 「絵本からの表現活動」模擬授業・リフレクション①	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 14 回	造形表現という側面から 「絵本からの表現活動」模擬授業・リフレクション②	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 15 回	造形表現という側面から 「絵本からの表現活動」模擬授業・リフレクション③ 保育実践の動向を知り、保育構想の向上を図る	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）

1.授業コード（ナンバリング）	EED209-A01	2.科目名	保育内容・表現Ⅱ　(2021 年度生以前)	3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	小学校一種保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	日常の身の回りの音に耳を傾け、そこから音楽を知覚・感受した内容を手遊び、身体表現(リトミック)や音楽表現に結びつける。お話の内容を理解し、場面にふさわしい音楽の挿入や即興表現する。演習を通して、保育現場で使われる行事・季節・生活の歌、リズム曲、合奏を実践する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP①自律的で主体的な態度（自律性に関連しています。 ・「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」という幼稚園教育要領・保育所保育指針、「表現」領域の基本を理解する。 ・「いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性」「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」を体得するための演習に意欲的に取り組むことができる。 ・演習を通して、幼児の認識・思考・動き等を視野に、指導上の留意点を理解する。 ・幼児の表現活動(音楽)の指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成する。				
19.教科書・教材	楽譜及び資料は、必要に応じてプリントを配布する。				
20.参考文献					
21.成績評価	発表 音表現６％　手遊び６％　音楽づくり１２％　合奏１２％ 活動の様子 音表現４％　音楽づくり８％ 小テスト 歌唱６％＋伴奏６％＝１２％ 身体表現６％＋伴奏６％＝１２％ グループワークシート５％＋個人ワークシート１０％＝１５％ 保育指導案作成１３％				
22.コメント	授業での演習が、子どもたちとの現場に生かせる実践となるよう取り組む。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
43199	■オリエンテーション　授業の組み立て(15 回)を通して、「表現」領域の基本となる演習の目的を理解する。 ■身近な音を探してみよう・歌ってみよう・弾いてみよう 　生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ活動として、 　身近に感じることのできる音を探して、音日記をつける。	○いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として、歌の旋律と伴奏パートを練習する。1h

	音のイメージに合う楽器を選択し、グループで表現する。 幼児の認識・思考を視野に、指導上の留意点に結びつける活動として グループワークシート記入する いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として、 季節・行事	
43206	■音表現発表 音日記でつけた音のイメージに合う楽器を選択、グループで音表現を発表する。 ■歌ってみよう・弾いてみよう 季節・行事・生活の歌を歌う。歌の伴奏パートを鍵盤楽器で演奏する。 グループワークシート提出	○いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として、歌の旋律と伴奏パートを練習する。1h
43213	■歌ってみよう・弾いてみよう ヘッドホンを使用して、歌に合わせて伴奏パートを演奏する。 ■手遊びしてみよう ペアまたは 3 人で、手遊びする。	◎いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として、歌の伴奏と手遊びをパートナーと合わせて練習する。1h
43227	■小テスト 歌唱パートと伴奏をパートを交替して小テストを実施する。 ■手遊び発表 ペアまたは 3 人で、手遊びを発表する。	
43234	■音楽劇をつくろう① 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、 こども人形劇場のお話の内容を理解しお話にふさわしい音楽劇を検討する。 語り手・登場人物・音楽表現等の役割を決める。 鍵盤楽器、打楽器を使って表現をグループで工夫する。 幼児の認識・思考・動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動として ワークシートに記入する	◎感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、グループで音楽劇の役割・内容を話し合う　1.5h
43241	■音楽劇をつくろう② お話にふさわしい音楽劇を検討し、歌唱、身体表現、 鍵盤楽器、打楽器を使って表現をグループで工夫する。 幼児の認識・思考・動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動とし	◎感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、グループで音楽劇の役割・内容を話し合う　1.5h

	てワークシート記入	
43248	■音楽劇をつくろう③ お話にふさわしい音楽劇を検討し、歌唱、身体表現、 鍵盤楽器、打楽器を使って表現をグループで工夫する。 幼児の認識・思考・動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動とし てワークシート記入	◎感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、グループで音楽劇の役割・内容を話し合う　1.5h
43255	■音楽劇をつくろう④ お話にふさわしい音楽劇を検討し、歌唱、身体表現、 鍵盤楽器、打楽器を使って表現をグループで工夫する。 幼児の認識・思考・動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動とし てワークシート記入	◎感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、グループで音楽劇の役割・内容を話し合う　1.5h
43262	■音楽劇を発表しよう グループごとに作成した音楽劇を発表する ワークシート記入・提出	
43269	■乳幼児の発達と楽器の奏法を理解しよう 合奏課題曲の練習に向け、楽器の奏法(カスタネット・タンプリン・すず・ 木琴・鉄琴・ハンドベル・電子ピアノ)を理解する。 楽曲の担当パートを決定し、読譜する。	○いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として担当パートを練習する。1.5h
43276	■合奏しよう グループに分かれ合奏する。 ■保育指導案の構成をグループで考える。	○いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として担当パートを練習する。1.5h
43283	■合奏グループ発表 ■保育指導案の構成をグループで考える。	
43290	■音楽にあわせて身体表現しよう 演習を通して、リトミック、ボディパーカッション等を身体表現する。 ピアノ演奏にあわせて身体表現をペアまたは 3 人で工夫する。 ■保育指導案の構成をグループで考える。	◎幼児の動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動としてパートナーと身体表現を工夫して練習する。1h
43297	■音楽にあわせて身体表現しよう 演習を通して、リトミック、ボディパーカッション等を身体表現する。	◎幼児の動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動としてパートナーと身体表現を工夫して練習する。1h

	ピアノ演奏にあわせて身体表現をペアまたは 3 人で工夫する。 ■保育指導案の構成をグループで考える。	
43304	■身体表現を発表しよう 工夫した身体表現をペアまたは 3 人で発表する。 ■保育指導案の構成をグループで考える。	★ 保育指導案提出

1.授業コード（ナンバリング）	EED212-A01	2.科目名	乳児保育Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	土谷長子				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	保育士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】日本の乳児保育について理解を深め、乳児保育の実践家としての基礎事項を身につける。 【概要】乳児保育の歴史的変遷と理念及び役割を踏まえた上で、乳児の育ちについて学ぶとともに、保育所・乳児院における乳児保育の現状を理解する。現状を踏まえ、3 歳未満児の発達に即した乳児保育の実践技術を理解し、実践をイメージできるようにする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	3 歳未満児保育についての知識・技能の基礎を身につけることをめざします。 ①3 歳までの発達の様子を説明することができる。 ②乳児の発達に応じた生活や遊びの実践を具体的に説明することができる。 ③乳児保育の専門性について説明することができる。 ④日本における保護者支援について説明することができる。 本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（2）社会的貢献性と（6）の専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。				
19.教科書・教材	高内正子他編著「健やかな育ちを支える乳児保育Ⅰ・Ⅱ」　建帛社				
20.参考文献	厚生労働省「保育所保育指針解説（平成 29 年告示)」フレーベル館 内閣府他「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 29 年告示)」フレーベル館				
21.成績評価	①授業のまとめシート（10%）（webclass） 当日の学びのポイントを定められた期間内に 150 字程度でまとめるとともに、感想や質問を記入する。「まとめ」は指定された字数のおおむね 8 割である 120 字以上書かれていること、書かれた内容が重複していないこと、授業の内容と整合性があることなどを求めます。「感想及び質問」は評価の対象としません。授業内容に関わる質問には必ずお答えします。 ②最終試験（40%）乳児保育で学んだことをもとに、示されたテーマについて記述する。評価は「コモンルーブリック（ライティング）2				
22.コメント	保育の現場では豊かな人間性が求められます。乳児保育に携わる人としてふさわしい態度で授業に参加してください。授業中に行うグループワークについては、協調性とともに学び会う姿勢を大切にしましょう。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応を行う。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目	・オリエンテーション ・0 歳児から 2 歳児対象の手づくりおもちゃの製作についての説明を行う。 ・産育儀礼のレポートについて説明を行う。 ・乳児保育とは	予習：教科書第 1 章を通読する。 復習：教科書第 14 章を通読するとともに、他の参考書等でどのようなおもちゃがあるのかについて調べ、製作に向けての計画を立て実践を始める。
第 2 回目	・乳児を保育する～新人保育者のビデオを通して＝ ・ディスカッション 新人保育者のビデオを視聴し、乳児の保育について、いまの自らのレベルから考えていく。自分自身のいま	予習：教科書第 2 章を通読する。 復習：教科書第 2 章を再度読み、3 歳未満児の保育をするにあたっての保育者の資質について自分自身と照らし合わせ、望ましい保育者

	を振り返り、グループディスカッションを通してどのような保育者になりたいかを具体的に明文化し、意識する。	の在り方、なりたい保育者の在り方を今回のまとめシートで提出。
第 3 回目	ディスカッション 乳児の育ち①胎児期～命の発生について考える～ 胎児の様子を記録したビデオを視聴し、生命の発生と畏敬についてディスカッションを通して考える。	予習：第 1 回で配布された産育儀礼のレポートを完成し、授業中に提出（自らの成長過程で、どのような産育儀礼を経験したのか、家族等から話を聞いてまとめる。同時に特に就学前の自らの様子と子育ての話を保護者等から聞く子とを通して自らの育ちを振り返る機会を持つ)。 復習：生命の発生について学んだこと、考えたことをまとめレポートで提出する。
第 4 回	乳児の育ち②運動・身体発達 おおむね 2 歳までの運動・身体発達について、視聴覚教材を視聴し、発達経過を理解する。	予習：教科書 pp.36-40　pp.48-54　pp.58-64 を読む。 復習：授業中に学んだ運動発達について、月年齢毎に表にまとめて提出する（webclass)。
第 5 回目	乳児の育ち③認知・社会性の発達 おおむね 2 歳までの認知・社会性の発達について、視聴覚教材を視聴し発達経過を理解する。	予習：教科書 pp.36-40　pp.48-54　pp.58-64 を読む。 復習：授業中に学んだ認知・社会性の発達について月年齢毎に表にまとめて提出する（webclass)。
第 6 回目	保育の中で行われている行事について。 提出した産育儀礼のレポートを資料として、それぞれの産育儀礼の意味や在り方を知り、保育の中で行われる行事について理解を深め、保護者や子どもたちへ説明できるようにする。	予習：保育の中でお粉和割れる行事について調べる。 復習：授業の中で示された行事について、レポートで説明する（webclass)。
第 7 回目	グループワーク、ディスカッション 手づくりおもちゃの紹介 各自が製作した手づくりおもちゃをレポートに基づいて年齢に適したものであるか、製作上の工夫などについて紹介し合う。 乳児にとってふさわしいおもちゃについてディスカッションを行う。	予習:第 1 回目のときに節 j 瞑した 0～2 歳児を対象とした手づくりおもちゃを完成させる。1 回目のときに配布した手づくりおもちゃレポートを添付する（授業時間に提出)。 復習：紹介されたおもちゃの中から一番印象に残った人のおもちゃを選び、評価レポートを記述する（webclass)。
第 8 回目	乳児保育の実際①6 ヶ月まで 6 ヶ月までの保育の様子をビデオ等を視聴し具体的に乳児の特性を踏まえた保育の実際や哺乳瓶やおむつ等について理解する。	予習：教科書第 4 章を読む。 復習：webclass での確認テスト。
第 9 回目	乳児保育の実際②6 ヶ月まで 6 ヶ月までの保育の様子をビデオ等を視聴し、具体的に乳児の特性を踏まえた保育の実際や哺乳瓶やおむつ等について理解する。	予習：教科書第 4 章を読む。 復習：webclass での確認テスト。
第 10 回目	乳児保育の実際③1 歳 3 ヶ月まで 6 ヶ月から 1 歳 3 ヶ月までの保育の様子をビデオ等を視聴し、具体的に乳児の特性を踏まえた保育の実際や離乳食や発達に即した玩具の在り方や用い方等について理解する。	予習：教科書第 5 章を読む。 復習：webclass での確認テスト。
第 11 回目	乳児保育の実際④1 歳 3 ヶ月まで 6 ヶ月から 1 歳 3 ヶ月までの保育の様子をビデオ等を	予習：教科書第 5 章を読む。 復習：webclass での確認テスト。

	視聴し、具体的に乳児の特性を踏まえた保育の実際や離乳食や発達に即した玩具の在り方や用い方等について理解する。	
第 12 回目	乳児保育の実際⑤2 歳児 2 歳児の保育の様子をビデオ等で視聴し、具体的に乳児の特性を踏まえた保育の実際について理解する。	予習：教科書第 6 章を読む。 復習：webclass での確認テスト。
第 13 回目	・手づくりおもちゃでの遊びを通して 自らが製作したおもちゃを子どもが使って遊んでいる様子を動画で視聴するとともに、子どもが遊んだ後のおもちゃがどのように変化しているのかを調べる。 ・ディスカッション 子どもの発達段階にあわせた玩具として適切なものを作るためには、何が必要かを考えて提案する。	予習：教科書第 16 章を読む。 復習：自らのおもちゃの改良点についてのレポート（webclass)。
第 14 回目	・ディスカッション 作成した乳児の指導計画を元に、月年齢別にディスカッションを通して考察する。 発達を踏まえた指導計画案を作るにあたっての配慮について理解する。	予習：手づくりおもちゃを使った遊びの指導計画を立てる（指導計画は手づくりおもちゃの提出時に配布・説明)。 復習：指導計画のリライト。
第 15 回目	・リライトした指導計画のプレゼンテーション ・ディスカッション 指導計画と保育者の意図、使用する玩具（手づくりおもちゃ)、保育の計画上のねらい・目的と実践についてディスカッションを行う。 ・まとめ 乳児保育の授業で学んだことを確認。	予習：指導計画立案にあたってのねらい・目的に基づいた実践上の保育者の意図について考え，説明ができるようにしておく。 復習：最終試験（webclass)。

1.授業コード（ナンバリング）	EED212-A02	2.科目名	乳児保育Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	土谷長子				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	保育士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】日本の乳児保育について理解を深め、乳児保育の実践家としての基礎事項を身につける。 【概要】乳児保育の歴史的変遷と理念及び役割を踏まえた上で、乳児の育ちについて学ぶとともに、保育所・乳児院における乳児保育の現状を理解する。現状を踏まえ、3 歳未満児の発達に即した乳児保育の実践技術を理解し、実践をイメージできるようにする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	3 歳未満児保育についての知識・技能の基礎を身につけることをめざします。 ①3 歳までの発達の様子を説明することができる。 ②乳児の発達に応じた生活や遊びの実践を具体的に説明することができる。 ③乳児保育の専門性について説明することができる。 ④日本における保護者支援について説明することができる。 本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（2）社会的貢献性と（6）の専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。				
19.教科書・教材	高内正子他編著「健やかな育ちを支える乳児保育Ⅰ・Ⅱ」　建帛社				
20.参考文献	厚生労働省「保育所保育指針解説（平成 29 年告示)」フレーベル館 内閣府他「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 29 年告示)」フレーベル館				
21.成績評価	①授業のまとめシート（10%）（webclass） 当日の学びのポイントを定められた期間内に 150 字程度でまとめるとともに、感想や質問を記入する。「まとめ」は指定された字数のおおむね 8 割である 120 字以上書かれていること、書かれた内容が重複していないこと、授業の内容と整合性があることなどを求めます。「感想及び質問」は評価の対象としません。授業内容に関わる質問には必ずお答えします。 ②最終試験（40%）乳児保育で学んだことをもとに、示されたテーマについて記述する。評価は「コモンルーブリック（ライティング）2				
22.コメント	保育の現場では豊かな人間性が求められます。乳児保育に携わる人としてふさわしい態度で授業に参加してください。授業中に行うグループワークについては、協調性とともに学び会う姿勢を大切にしましょう。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応を行う。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目	・オリエンテーション ・0 歳児から 2 歳児対象の手づくりおもちゃの製作についての説明を行う。 ・産育儀礼のレポートについて説明を行う。 ・乳児保育とは	予習：教科書第 1 章を通読する。 復習：教科書第 14 章を通読するとともに、他の参考書等でどのようなおもちゃがあるのかについて調べ、製作に向けての計画を立て実践を始める。
第 2 回目	・乳児を保育する～新人保育者のビデオを通して＝ ・ディスカッション 新人保育者のビデオを視聴し、乳児の保育について、いまの自らのレベルから考えていく。自分自身のいま	予習：教科書第 2 章を通読する。 復習：教科書第 2 章を再度読み、3 歳未満児の保育をするにあたっての保育者の資質について自分自身と照らし合わせ、望ましい保育者

	を振り返り、グループディスカッションを通してどのような保育者になりたいかを具体的に明文化し、意識する。	の在り方、なりたい保育者の在り方を今回のまとめシートで提出。
第 3 回目	ディスカッション 乳児の育ち①胎児期～命の発生について考える～ 胎児の様子を記録したビデオを視聴し、生命の発生と畏敬についてディスカッションを通して考える。	予習：第 1 回で配布された産育儀礼のレポートを完成し、授業中に提出（自らの成長過程で、どのような産育儀礼を経験したのか、家族等から話を聞いてまとめる。同時に特に就学前の自らの様子と子育ての話を保護者等から聞く子とを通して自らの育ちを振り返る機会を持つ)。 復習：生命の発生について学んだこと、考えたことをまとめレポートで提出する。
第 4 回	乳児の育ち②運動・身体発達 おおむね 2 歳までの運動・身体発達について、視聴覚教材を視聴し、発達経過を理解する。	予習：教科書 pp.36-40　pp.48-54　pp.58-64 を読む。 復習：授業中に学んだ運動発達について、月年齢毎に表にまとめて提出する（webclass)。
第 5 回目	乳児の育ち③認知・社会性の発達 おおむね 2 歳までの認知・社会性の発達について、視聴覚教材を視聴し発達経過を理解する。	予習：教科書 pp.36-40　pp.48-54　pp.58-64 を読む。 復習：授業中に学んだ認知・社会性の発達について月年齢毎に表にまとめて提出する（webclass)。
第 6 回目	保育の中で行われている行事について。 提出した産育儀礼のレポートを資料として、それぞれの産育儀礼の意味や在り方を知り、保育の中で行われる行事について理解を深め、保護者や子どもたちへ説明できるようにする。	予習：保育の中でお粉和割れる行事について調べる。 復習：授業の中で示された行事について、レポートで説明する（webclass)。
第 7 回目	グループワーク、ディスカッション 手づくりおもちゃの紹介 各自が製作した手づくりおもちゃをレポートに基づいて年齢に適したものであるか、製作上の工夫などについて紹介し合う。 乳児にとってふさわしいおもちゃについてディスカッションを行う。	予習:第 1 回目のときに節 j 瞑した 0～2 歳児を対象とした手づくりおもちゃを完成させる。1 回目のときに配布した手づくりおもちゃレポートを添付する（授業時間に提出)。 復習：紹介されたおもちゃの中から一番印象に残った人のおもちゃを選び、評価レポートを記述する（webclass)。
第 8 回目	乳児保育の実際①6 ヶ月まで 6 ヶ月までの保育の様子をビデオ等を視聴し具体的に乳児の特性を踏まえた保育の実際や哺乳瓶やおむつ等について理解する。	予習：教科書第 4 章を読む。 復習：webclass での確認テスト。
第 9 回目	乳児保育の実際②6 ヶ月まで 6 ヶ月までの保育の様子をビデオ等を視聴し、具体的に乳児の特性を踏まえた保育の実際や哺乳瓶やおむつ等について理解する。	予習：教科書第 4 章を読む。 復習：webclass での確認テスト。
第 10 回目	乳児保育の実際③1 歳 3 ヶ月まで 6 ヶ月から 1 歳 3 ヶ月までの保育の様子をビデオ等を視聴し、具体的に乳児の特性を踏まえた保育の実際や離乳食や発達に即した玩具の在り方や用い方等について理解する。	予習：教科書第 5 章を読む。 復習：webclass での確認テスト。
第 11 回目	乳児保育の実際④1 歳 3 ヶ月まで 6 ヶ月から 1 歳 3 ヶ月までの保育の様子をビデオ等を	予習：教科書第 5 章を読む。 復習：webclass での確認テスト。

	視聴し、具体的に乳児の特性を踏まえた保育の実際や離乳食や発達に即した玩具の在り方や用い方等について理解する。	
第 12 回目	乳児保育の実際⑤2 歳児 2 歳児の保育の様子をビデオ等で視聴し、具体的に乳児の特性を踏まえた保育の実際について理解する。	予習：教科書第 6 章を読む。 復習：webclass での確認テスト。
第 13 回目	・手づくりおもちゃでの遊びを通して 自らが製作したおもちゃを子どもが使って遊んでいる様子を動画で視聴するとともに、子どもが遊んだ後のおもちゃがどのように変化しているのかを調べる。 ・ディスカッション 子どもの発達段階にあわせた玩具として適切なものを作るためには、何が必要かを考えて提案する。	予習：教科書第 16 章を読む。 復習：自らのおもちゃの改良点についてのレポート（webclass)。
第 14 回目	・ディスカッション 作成した乳児の指導計画を元に、月年齢別にディスカッションを通して考察する。 発達を踏まえた指導計画案を作るにあたっての配慮について理解する。	予習：手づくりおもちゃを使った遊びの指導計画を立てる（指導計画は手づくりおもちゃの提出時に配布・説明)。 復習：指導計画のリライト。
第 15 回目	・リライトした指導計画のプレゼンテーション ・ディスカッション 指導計画と保育者の意図、使用する玩具（手づくりおもちゃ)、保育の計画上のねらい・目的と実践についてディスカッションを行う。 ・まとめ 乳児保育の授業で学んだことを確認。	予習：指導計画立案にあたってのねらい・目的に基づいた実践上の保育者の意図について考え，説明ができるようにしておく。 復習：最終試験（webclass)。

1.授業コード（ナンバリング）	EED212-A03	2.科目名	乳児保育Ⅰ　（2018 年度生以前）	3.単位数	1
4.授業担当教員	土谷長子				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	保育士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】日本の乳児保育について理解を深め、乳児保育の実践家としての基礎事項を身につける。 【概要】乳児保育の歴史的変遷と理念及び役割を踏まえた上で、乳児の育ちについて学ぶとともに、保育所・乳児院における乳児保育の現状を理解する。現状を踏まえ、3 歳未満児の発達に即した乳児保育の実践技術を理解し、実践をイメージできるようにする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	3 歳未満児保育についての知識・技能の基礎を身につけることをめざします。 ①3 歳までの発達の様子を説明することができる。 ②乳児の発達に応じた生活や遊びの実践を具体的に説明することができる。 ③乳児保育の専門性について説明することができる。 ④日本における保護者支援について説明することができる。 本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（2）社会的貢献性と（6）の専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。				
19.教科書・教材	高内正子他編著「健やかな育ちを支える乳児保育Ⅰ・Ⅱ」　建帛社				
20.参考文献	厚生労働省「保育所保育指針解説（平成 29 年告示)」フレーベル館 内閣府他「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 29 年告示)」フレーベル館				
21.成績評価	①授業のまとめシート（10%）（webclass） 当日の学びのポイントを定められた期間内に 150 字程度でまとめるとともに、感想や質問を記入する。「まとめ」は指定された字数のおおむね 8 割である 120 字以上書かれていること、書かれた内容が重複していないこと、授業の内容と整合性があることなどを求めます。「感想及び質問」は評価の対象としません。授業内容に関わる質問には必ずお答えします。 ②最終試験（40%）乳児保育で学んだことをもとに、示されたテーマについて記述する。評価は「コモンルーブリック（ライティング）2				
22.コメント	保育の現場では豊かな人間性が求められます。乳児保育に携わる人としてふさわしい態度で授業に参加してください。授業中に行うグループワークについては、協調性とともに学び会う姿勢を大切にしましょう。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応を行う。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目	・オリエンテーション ・0 歳児から 2 歳児対象の手づくりおもちゃの製作についての説明を行う。 ・産育儀礼のレポートについて説明を行う。 ・乳児保育とは	予習：教科書第 1 章を通読する。 復習：教科書第 14 章を通読するとともに、他の参考書等でどのようなおもちゃがあるのかについて調べ、製作に向けての計画を立て実践を始める。
第 2 回目	・乳児を保育する～新人保育者のビデオを通して＝ ・ディスカッション 新人保育者のビデオを視聴し、乳児の保育について、いまの自らのレベルから考えていく。自分自身のいま	予習：教科書第 2 章を通読する。 復習：教科書第 2 章を再度読み、3 歳未満児の保育をするにあたっての保育者の資質について自分自身と照らし合わせ、望ましい保育者

	を振り返り、グループディスカッションを通してどのような保育者になりたいかを具体的に明文化し、意識する。	の在り方、なりたい保育者の在り方を今回のまとめシートで提出。
第 3 回目	ディスカッション 乳児の育ち①胎児期～命の発生について考える～ 胎児の様子を記録したビデオを視聴し、生命の発生と畏敬についてディスカッションを通して考える。	予習：第 1 回で配布された産育儀礼のレポートを完成し、授業中に提出（自らの成長過程で、どのような産育儀礼を経験したのか、家族等から話を聞いてまとめる。同時に特に就学前の自らの様子と子育ての話を保護者等から聞く子とを通して自らの育ちを振り返る機会を持つ)。 復習：生命の発生について学んだこと、考えたことをまとめレポートで提出する。
第 4 回	乳児の育ち②運動・身体発達 おおむね 2 歳までの運動・身体発達について、視聴覚教材を視聴し、発達経過を理解する。	予習：教科書 pp.36-40　pp.48-54　pp.58-64 を読む。 復習：授業中に学んだ運動発達について、月年齢毎に表にまとめて提出する（webclass)。
第 5 回目	乳児の育ち③認知・社会性の発達 おおむね 2 歳までの認知・社会性の発達について、視聴覚教材を視聴し発達経過を理解する。	予習：教科書 pp.36-40　pp.48-54　pp.58-64 を読む。 復習：授業中に学んだ認知・社会性の発達について月年齢毎に表にまとめて提出する（webclass)。
第 6 回目	保育の中で行われている行事について。 提出した産育儀礼のレポートを資料として、それぞれの産育儀礼の意味や在り方を知り、保育の中で行われる行事について理解を深め、保護者や子どもたちへ説明できるようにする。	予習：保育の中でお粉和割れる行事について調べる。 復習：授業の中で示された行事について、レポートで説明する（webclass)。
第 7 回目	グループワーク、ディスカッション 手づくりおもちゃの紹介 各自が製作した手づくりおもちゃをレポートに基づいて年齢に適したものであるか、製作上の工夫などについて紹介し合う。 乳児にとってふさわしいおもちゃについてディスカッションを行う。	予習:第 1 回目のときに節 j 瞑した 0～2 歳児を対象とした手づくりおもちゃを完成させる。1 回目のときに配布した手づくりおもちゃレポートを添付する（授業時間に提出)。 復習：紹介されたおもちゃの中から一番印象に残った人のおもちゃを選び、評価レポートを記述する（webclass)。
第 8 回目	乳児保育の実際①6 ヶ月まで 6 ヶ月までの保育の様子をビデオ等を視聴し具体的に乳児の特性を踏まえた保育の実際や哺乳瓶やおむつ等について理解する。	予習：教科書第 4 章を読む。 復習：webclass での確認テスト。
第 9 回目	乳児保育の実際②6 ヶ月まで 6 ヶ月までの保育の様子をビデオ等を視聴し、具体的に乳児の特性を踏まえた保育の実際や哺乳瓶やおむつ等について理解する。	予習：教科書第 4 章を読む。 復習：webclass での確認テスト。
第 10 回目	乳児保育の実際③1 歳 3 ヶ月まで 6 ヶ月から 1 歳 3 ヶ月までの保育の様子をビデオ等を視聴し、具体的に乳児の特性を踏まえた保育の実際や離乳食や発達に即した玩具の在り方や用い方等について理解する。	予習：教科書第 5 章を読む。 復習：webclass での確認テスト。
第 11 回目	乳児保育の実際④1 歳 3 ヶ月まで 6 ヶ月から 1 歳 3 ヶ月までの保育の様子をビデオ等を	予習：教科書第 5 章を読む。 復習：webclass での確認テスト。

	視聴し、具体的に乳児の特性を踏まえた保育の実際や離乳食や発達に即した玩具の在り方や用い方等について理解する。	
第 12 回目	乳児保育の実際⑤2 歳児 2 歳児の保育の様子をビデオ等で視聴し、具体的に乳児の特性を踏まえた保育の実際について理解する。	予習：教科書第 6 章を読む。 復習：webclass での確認テスト。
第 13 回目	・手づくりおもちゃでの遊びを通して 自らが製作したおもちゃを子どもが使って遊んでいる様子を動画で視聴するとともに、子どもが遊んだ後のおもちゃがどのように変化しているのかを調べる。 ・ディスカッション 子どもの発達段階にあわせた玩具として適切なものを作るためには、何が必要かを考えて提案する。	予習：教科書第 16 章を読む。 復習：自らのおもちゃの改良点についてのレポート（webclass)。
第 14 回目	・ディスカッション 作成した乳児の指導計画を元に、月年齢別にディスカッションを通して考察する。 発達を踏まえた指導計画案を作るにあたっての配慮について理解する。	予習：手づくりおもちゃを使った遊びの指導計画を立てる（指導計画は手づくりおもちゃの提出時に配布・説明)。 復習：指導計画のリライト。
第 15 回目	・リライトした指導計画のプレゼンテーション ・ディスカッション 指導計画と保育者の意図、使用する玩具（手づくりおもちゃ)、保育の計画上のねらい・目的と実践についてディスカッションを行う。 ・まとめ 乳児保育の授業で学んだことを確認。	予習：指導計画立案にあたってのねらい・目的に基づいた実践上の保育者の意図について考え，説明ができるようにしておく。 復習：最終試験（webclass)。

1.授業コード（ナンバリング）	EED214-A01	2.科目名	障害児保育Ⅰ	3.単位数	1
4.授業担当教員	春木裕美				
5.授業科目の区分	基幹科目 障害児福祉施設における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻 教育福祉学科福祉学専攻 福祉・保育コース			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	保育士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義と演習（うち 7 回はオンデマンドで実施）		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】障害児保育の理念や概要、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の現状と課題について理解し、保育士に求められる障害児保育に必要な基本的姿勢や基本的知識、保育方法・技術について学ぶことを目的とする。 【概要】 ・障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学ぶことにより、どのようにして、現在の障害児保育に至っているのかを理解する。 ・それぞれの障害特性、子どもの発達レベルを理解しつつも、「ひとりの子ども」として成長を支えていくための支援方法を獲得する。 ・対象となる子どもの保護者の心情を理解し、子				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の目的をを達成するために、以下の学習目標を設定する。 ①障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について説明できる。 ②個々の障害特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について説明できる。 ③障害児やその他の特別な配慮を要する子どもの保育における援助の具体的な方法について説明できる。 ④障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について指摘できる。 本科目は DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性、(3)多様性理解に関連している。				
19.教科書・教材	特に指定しません。				
20.参考文献					
21.成績評価	①ワークシート（14 回）=60％：学習目標①②③ ②期末レポート=30％：学習目標④ 「保育現場における障害児保育の現状と課題」1600 字以上、引用・参考文献を 2 つ以上含めること。 ③期末ふりかえりシート=10％：学習目標①②③④				
22.コメント	・資料の配布や成果物の提出は webclass を使います。 ・毎回ノートパソコンを持ってきてください。 ・ゲストスピーチは先方との日程調整によって、実施日が多少変動することもありますが、事前に必ずアナウンスします。 ・各障害の理解と支援（第５～１０回）と第 14 回はオンデマンド授業になります。オンデマンド回分の学習の確認は、課題ワークシートの WebClass 提出によって行います（出欠確認に相当します）。繰り返し、何度も視聴し、勉強してください。				

23.オフィスアワー	火曜日の昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	①オリエンテーション　②障害児保育の理念と役割	○【課題】ワークシート①（90 分）
第２回	障害児保育の歴史	○【課題】ワークシート②（90 分）
第３回	ことば・コミュニケーションの発達	○【課題】ワークシート③（90 分）
第４回	知的障害児の理解と支援①（ダウン症児）	○【課題】ワークシート④（90 分）
第５回（オンデマンド授業）	身体障害児の理解と支援②（視覚障害児・聴覚障害児）	○【課題】ワークシート⑤（90 分）
第６回（オンデマンド授業）	身体障害児の理解と支援③（肢体不自由児）	○【課題】ワークシート⑥（90 分）
第７回（オンデマンド授業）	発達障害児の理解と支援①（ADHD）	○【課題】ワークシート⑦（90 分）
第８回（オンデマンド授業）	発達障害児の理解と支援②（LD）	○【課題】ワークシート⑧（90 分）
第９回（オンデマンド授業）	発達障害児の理解と支援③（ASD）	○【課題】ワークシート⑨（90 分）
第１０回（オンデマンド授業）	発達障害児の理解と支援④（ASD）	○【課題】ワークシート⑩（90 分）
第１１回	環境の設定と視覚的支援	○【課題】ワークシート⑪（90 分）
第１２回	教材研究①	○【課題】ワークシート⑫（90 分）
第１３回	教材研究②（グループ発表）	○【課題】ワークシート⑬（90 分）
第１４回（オンデマンド授業）	障害受容と保護者支援	○【課題】ワークシート⑭（90 分）
第１５回	・学習のまとめ ・ふりかえりシート ・レポートの提出	

1.授業コード（ナンバリング）	EED214-A02	2.科目名	障害児保育Ⅰ		3.単位数	1
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	基幹科目 障害児福祉施設おける実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻 教育福祉学科福祉学専攻 福祉・保育コース			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士			11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義と演習（うち 7 回はオンデマンドで実施）	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】障害児保育の理念や概要、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の現状と課題について理解し、保育士に求められる障害児保育に必要な基本的姿勢や基本的知識、保育方法・技術について学ぶことを目的とする。 【概要】 ・障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学ぶことにより、どのようにして、現在の障害児保育に至っているのかを理解する。 ・それぞれの障害特性、子どもの発達レベルを理解しつつも、「ひとりの子ども」として成長を支えていくための支援方法を獲得する。 ・対象となる子どもの保護者の心情を理解し、子					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の目的をを達成するために、以下の学習目標を設定する。 ①障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について説明できる。 ②個々の障害特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について説明できる。 ③障害児やその他の特別な配慮を要する子どもの保育における援助の具体的な方法について説明できる。 ④障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について指摘できる。 本科目は DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性、(3)多様性理解に関連している。					
19.教科書・教材	特に指定しません。					
20.参考文献						
21.成績評価	①ワークシート（14 回）=60％：学習目標①②③ ②期末レポート=30％：学習目標④ 「保育現場における障害児保育の現状と課題」1600 字以上、引用・参考文献を 2 つ以上含めること。 ③期末ふりかえりシート=10％：学習目標①②③④					
22.コメント	・資料の配布や成果物の提出は webclass を使います。 ・毎回ノートパソコンを持ってきてください。 ・ゲストスピーチは先方との日程調整によって、実施日が多少変動することもありますが、事前に必ずアナウンスします。 ・各障害の理解と支援（第５～１０回）と第 14 回はオンデマンド授業になります。オンデマンド回分の学習の確認は、課題ワークシートの WebClass 提出によって行います（出欠確認に相当します）。繰り返し、何度も視聴し、勉強してください。					

23.オフィスアワー	火曜日の昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	①オリエンテーション　②障害児保育の理念と役割	○【課題】ワークシート①（90 分）
第２回	障害児保育の歴史	○【課題】ワークシート②（90 分）
第３回	ことば・コミュニケーションの発達	○【課題】ワークシート③（90 分）
第４回	知的障害児の理解と支援①（ダウン症児）	○【課題】ワークシート④（90 分）
第５回（オンデマンド授業）	身体障害児の理解と支援②（視覚障害児・聴覚障害児）	○【課題】ワークシート⑤（90 分）
第６回（オンデマンド授業）	身体障害児の理解と支援③（肢体不自由児）	○【課題】ワークシート⑥（90 分）
第７回（オンデマンド授業）	発達障害児の理解と支援①（ADHD）	○【課題】ワークシート⑦（90 分）
第８回（オンデマンド授業）	発達障害児の理解と支援②（LD）	○【課題】ワークシート⑧（90 分）
第９回（オンデマンド授業）	発達障害児の理解と支援③（ASD）	○【課題】ワークシート⑨（90 分）
第１０回（オンデマンド授業）	発達障害児の理解と支援④（ASD）	○【課題】ワークシート⑩（90 分）
第１１回	環境の設定と視覚的支援	○【課題】ワークシート⑪（90 分）
第１２回	教材研究①	○【課題】ワークシート⑫（90 分）
第１３回	教材研究②（グループ発表）	○【課題】ワークシート⑬（90 分）
第１４回（オンデマンド授業）	障害受容と保護者支援	○【課題】ワークシート⑭（90 分）
第１５回	・学習のまとめ ・ふりかえりシート ・レポートの提出	

1.授業コード（ナンバリング）	EED218-A01	2.科目名	保育実習Ⅰ事前事後指導①（保育所）	3.単位数	1
4.授業担当教員	下里里枝、椋田善之				
5.授業科目の区分	乳幼児教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	保育士資格：必修		11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	【目的】　保育実習の意義・目的を理解する。 【概要】 1 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 2　実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 3　実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 4　実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の（2）（4）（5）の学修に関連している。 1 保育所実習の意義を知る ・実習の目的 ・実習の概要 2　実習の内容と課題の明確化 3　実習に際しての留意事項 ・子どもの人権と最善の利益の考慮 ・プライバシーの保護と守秘義務 ・実習生としての心構え 4　保育所実習の指導計画と実習記録の書き方を学ぶ 5　事後指導における実習の総括と課題の明確化 ※これからの社会で求められる人材を育成していくため、本授業では、ICT を活用した保育の展開方法の検討や、DX 教材の 360 度カメラを用いた、振り返りを実施します。				
19.教科書・教材	名須川　知子 監修・大方　美香 監修・亀山　秀郎 編著（2018）『保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園実習』ミネルヴァ書房				
20.参考文献	関西国際大学の保育所実習ハンドブック（配布する）				
21.成績評価	・ワークシート・絵本、手遊びのリスト作成　25 点（学習目標　①に対応） ・保育記録作成　20 点（学習目標　②に対応） ・保育指導案作成　10 点（学習目標④に対応） ・ちびっこウエルカム指導案作成　5 点学習目標④に対応） ・ゲストティーチャーの感想　5 点（学習目標②③に対応） ・先輩の話を聞いての感想　5 点（学習目標②③に対応） ・実習課題（目標）　10 点（学習目標②③				
22.コメント	この科目は、事前指導 13 回、事後指導 2 回の計 15 回です。 実習で戸惑わないようにこの授業でしっかりと事前学習しましょう。 そのためにも、休んだり、遅刻しないということは大原則です。 提出物はウエブクラスに期日を守って提出すること。				
23.オフィスアワー	月曜日の昼休み（下里）				

	火曜日お昼休み（椋田）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1回目 4月10日	・授業のオリエンテーション ・保育実習1履修登録の確認 ・保育実習Ⅰの意義・目的 ・グループワーク（実習のルールを決める。） ・ワークシート① Webclassにてワークシート①を次週までに提出する。	○ワークシート①作成、2回目までに提出（120分）
2回目	・絵本・手遊びリスト作成について ・保育所ってどんなとこ？ ・保育所実習の1日の流れについて	○絵本・手遊びリスト作成 6月26日までに提出（120分）
3回目	・実習記録の書き方について① ・事前にPowerPointや資料をWebclassにて配布する。 ※変更があるかもしれません。	○実習記録①作成、5月8日までに提出（120分）
4回目	・実習記録の書き方について② ・事前にPowerPointや資料をWebclassにて配布する。 ※変更があるかもしれません。	○実習記録②作成、15日までに提出（120分）
5回目	・実習記録の書き方について③ ・事前にPowerPointや資料をWebclassにて配布する。 ※変更があるかもしれません。	○指導案作成①、22日までに提出（120分）
6回目	・指導案の書き方 ※変更があるかもしれません。	○指導案の書き方復習（120分）
7回目	・3年生の実習の話を聞く。質問する。 。感想を記入 ※変更があるかもしれません。	○感想を次週までにウエブクラスに提出（120分）
8回目	・ゲストテーチャーの話を聞く。 ・感想を書く。 ※変更があるかもしれません。	○模擬保育の準備（120分）
9回目	・保育所実習の関係書類作成 ・ハンドブックの説明 個人票の作成 誓約書の作成（印鑑持参のこと） ・学修支援室からのお知らせ（書類、検便等） ・ちびっこウエルカム学校探検準備 ※変更があるかもしれません。	○個人票清書、写真用意、実習ハンドブック復習（120分）
10回目	・ウェルカム学校探検準備 ※変更があるかもしれません。	○指導案作成120分）
11回目	・ウェルカム学校探検 ※変更があるかもしれません。	○指導案の修正を次週提出（120分）
12回目	・ウェウカム学校探検の振り返り ・保育記録、指導案の復習 ※変更があるかもしれません。	○実習に向けて授業の振り返り（120分）
13回目	・実習直前最終指導	○実習ハンドブックを復習（120分）

	オリエンテーションについて 巡回指導の先生への依頼 お礼状の書き方 ※変更があるかもしれません。	
14 回目	・事後指導 面談 報告書作成 ・事前に PowerPoint や資料を Webclass にて配布する。 ※変更があるかもしれません。	○実習振り返り、4 コマ漫画作成、実習報告書をウエブクラスに１２月末までに提出（120 分）
15 回目	・事後指導 ・今後の実習について ・事前に PowerPoint や資料を Webclass にて配布する。 ※変更があるかもしれません。	○保育所実習記録整理、提出（120 分）

1.授業コード（ナンバリング）	EED218-A02	2.科目名	保育実習Ⅰ事前事後指導②（施設）	3.単位数	1
4.授業担当教員	松本恵美子、馬場住子				
5.授業科目の区分	専攻選択基幹	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	教育・保育コース			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	保育士資格：必修	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	この科目は、保育実習（施設）の意義・目的と内容を理解し、自らの課題を明確いする力を身につけることを目的とします。 事前指導では、施設実習に合わせた事前準備を行うとともに、実習課題の整理を行います。 事後指導では、実習の総括と自己課題を確認し、施設における保育士の役割についての考察を深めます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（2）社会的貢献性（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 事前指導 ①児童福祉施設実習の目的と意義を理解する。 ②児童福祉施設実習の内容を踏まえ、実習での自己課題を明確にする。 ③実習施設における児童・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 ④実習施設における支援について適切に記録する方法を理解する。 事後指導 ⑤実習経験を振り返り、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能を理解する。				
19.教科書・教材	特に指定しない。				
20.参考文献	保育実習・施設実習ハンドブック（配布します）				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 実習事前指導：70％ ・課題Ⅰ～Ⅵ　（各 10 点）　〔学習目標①、③、④に対応〕 ワークシートの中から指定した 6 点を提出 ・自己紹介書（10 点）　〔学習目標②に対応〕 実習事後指導：30％　〔学習目標⑤に対応〕 詳細は授業中に示します。				
22.コメント	実習で戸惑わないようにこの授業でしっかりと事前学習しましょう。				
23.オフィスアワー	月曜日　月曜日（馬場） 木曜日　昼休み（センタープログラム） 木曜日　4 限（研究室）　（松本）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	実習全体の注意 施設実習の概要	○指定したワークシート
2 回目	施設の特徴と実習の内容①	○指定したワークシート
3 回目	施設の特徴と実習の内容②	○指定したワークシート
4 回目	施設長の講話を聴く①	○指定したワークシート

5回目	施設長の講話を聴く②	○指定したワークシート
6回目	実習先別グループワーク	○指定したワークシート
7回目	個人票の作成	○指定したワークシート
8回目	記録の書き方	○指定したワークシート
9回目	発達について	○指定したワークシート
１０回目	障害のある子どもの遊ばせ方・かかわり方	○指定したワークシート
１１回目	実習直前指導	○指定したワークシート
１２回目	実習の振り返りと課題の明確化（個別面談） 面談を待つ間に実習で学んだ事についてレポートにまとめる	○指定したワークシート
１３回目	実習の振り返りと課題の明確化（個別面談） 面談を待つ間に実習で学んだ事についてレポートにまとめる	○指定したワークシート
１４回目	全体での実習報告 ・一人ずつ、まとめたレポートをもとに、実習での学びと課題について発表 ・全員で実習の振り返りと課題を共有する	○指定したワークシート
１５回目	実習の総括	○指定したワークシート

1.授業コード（ナンバリング）	EED220-A01	2.科目名	保育実習Ⅰ（保育所）	3.単位数	2
4.授業担当教員	下里里枝、椋田善之、森田健				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	１．保育所の役割や機能を具体的に理解する。 ２．観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。 ３．既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 ４．保育の計画、観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ５、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の（２）（４）（５）の学修に関連している。 ①大学で学んだ知識と、現場実習の経験を結び付けて、保育者としての実践力を身につけるための自分の課題を明確にする。 ②現場での子どもとの関わりから子ども理解を深めるとともに、保育所の役割などを知る。 ③現場で、保育者などと、コミュニケーションをとりながら責任ある行動をとり、実習を行うことができる。 ④実習を振り返り、課題を見つけ、課題解決取り組もうとする。				
19.教科書・教材	・関西国際大学の保育所実習ハンドブック（授業にて配布する） ・関西国際大学の保育記録（実習前に配布）				
20.参考文献	・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
21.成績評価	１　保育所の役割や機能を具体的に理解する。 ・.保育の計画、観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ・実習日誌の記述、整理など （50 点・・・学習目標①②に対応） ２　・観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。 ・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者との関わりについて総合的に学ぶ。 ・実習園からの評価 ・				
22.コメント	・実習では、保育者の意図が読み取れるように、何事にも主体的、意欲的に取り組んでいきましょう。 ・当大学の学びのテーマである「安全・安心」について、実習先で子どもの命を守るためにどのような取り組みをされているかも、学んできましょう。				
23.オフィスアワー	月曜日昼休み（下里） 火曜日昼休み（椋田）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	・主に観察実習（夏学期１０日間　８０時間以上） 保育所実習の内容 保育所の役割と機能を学ぶ 子どもの理解を学ぶ 保育内容・保育環境を学ぶ	・その日の記録や、指導計画の作成（２０時間）

	保育の計画・観察・記録を学ぶ 専門職としての保育士の役割と職業倫理を学ぶ	

1.授業コード（ナンバリング）	EED221-A01	2.科目名	保育実習Ⅰ（施設）	3.単位数	2
4.授業担当教員	松本恵美子、馬場住子、森田健				
5.授業科目の区分	専攻選択基幹	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	教育・保育コース			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	保育士資格：必修	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	この科目は、保育実習（施設）の意義・目的と内容を理解し、自らの課題を明確いする力を身につけることを目的とします。 事前指導では、施設実習に合わせた事前準備を行うとともに、実習課題の整理を行います。 事後指導では、実習の総括と自己課題を確認し、施設における保育士の役割についての考察を深めます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（2）社会的貢献性（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 事前指導 ①児童福祉施設実習の目的と意義を理解する。 ②児童福祉施設実習の内容を踏まえ、実習での自己課題を明確にする。 ③実習施設における児童・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 ④実習施設における支援について適切に記録する方法を理解する。 事後指導 ⑤実習経験を振り返り、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能を理解する。				
19.教科書・教材	特に指定しない。				
20.参考文献	保育実習・施設実習ハンドブック（配布します）				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 実習事前指導：70％ ・課題Ⅰ～Ⅵ　（各 10 点）　〔学習目標①、③、④に対応〕 ワークシートの中から指定した 6 点を提出 ・自己紹介書（10 点）　〔学習目標②に対応〕 実習事後指導：30％　〔学習目標⑤に対応〕 詳細は授業中に示します。				
22.コメント	実習で戸惑わないようにこの授業でしっかりと事前学習しましょう。				
23.オフィスアワー	金曜日（馬場） 木曜日　昼休み（センタープログラム）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	実習全体の注意 施設実習の概要	○指定したワークシート
2 回目	施設の特徴と実習の内容①	○指定したワークシート
3 回目	施設の特徴と実習の内容②	○指定したワークシート
4 回目	施設長の講話を聴く①	○指定したワークシート

5回目	施設長の講話を聴く②	○指定したワークシート
6回目	実習先別グループワーク	○指定したワークシート
7回目	個人票の作成	○指定したワークシート
8回目	記録の書き方	○指定したワークシート
9回目	発達について	○指定したワークシート
１０回目	障害のある子どもの遊ばせ方・かかわり方	○指定したワークシート
１１回目	実習直前指導	○指定したワークシート
１２回目	実習の振り返りと課題の明確化（個別面談） 面談を待つ間に実習で学んだ事についてレポートにまとめる	○指定したワークシート
１３回目	実習の振り返りと課題の明確化（個別面談） 面談を待つ間に実習で学んだ事についてレポートにまとめる	○指定したワークシート
１４回目	全体での実習報告 ・一人ずつ、まとめたレポートをもとに、実習での学びと課題について発表 ・全員で実習の振り返りと課題を共有する	○指定したワークシート
１５回目	実習の総括	○指定したワークシート

1.授業コード（ナンバリング）	EED226-A01	2.科目名	こどもと環境	3.単位数	1
4.授業担当教員	馬場住子				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	小学校一種保育士　幼稚園一種		11.先修条件	2 年生春学期の保育内容 5 領域の全ての科目を履修すること	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 現代の子どもを取り巻く環境について知り、子どもがどのように環境とかかわりながら育つことが望ましいかを踏まえた上で、保育施設における環境構成を考える力を身に付けることを目的とする。 【授業の概要】 現代の子どもを取り巻く環境やその課題についてテキストを基に解説する。子どもと環境とのかかわりについての専門的事項を踏まえ、子どもの発達に即した環境の在り方について具体例を挙げながら説明する。また、さまざまな環境における各年齢にふさわしい指導方法を考えていくことから、教材作成や指導案立案などの演習に				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 1.現代の子どもを取り巻く環境について知り、子どもがどのように環境とかかわりながら育つことが望ましいかを理解できるようにする(学科 DP4)。 2.保育施設における物的環境を捉え、さまざまな環境構成を考えることができるようにする(学科 DP4)。 3.子ども理解に基づく環境を通した保育実践計画を立てることができるようにする(学科 DP4)。 4.さまざまな素材でイメージを広げるための遊びにおける教材見本を作成することができる(学科 DP6)。 5.保育における環境の重要性および具体的な指導方法や環境構成について説明することができる(学科 DP5)。 【関連する学科 DP】 （4）問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見･理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 （5）コミュニケーションスキル 教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 （6）専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。				
19.教科書・教材	小櫃智子編著『実践例から学びを深める　保育内容・領域　環境指導法』わかば社				
20.参考文献	授業内で適宜紹介します。				
21.成績評価	（1）具体的な保育実践について学び、自らも調べ、知識の獲得に向かって努力することができる。 「科学する心を育てる保育実践に必要な知識調べ」知識のノート作成、発表：知識のノート 15 点×2、発表 5 点×2 回(40%)				

	（２）保育施設の環境について知ることから、どのような環境が子どもたちにふさわしいかを考えることができる。 「保育室、園庭マップ」保育室の環境構成図作成、園庭マップの作成、発表：保育室の環境構成図 10 点、園庭マップ 10 点(20%) （３）　現代の子どもを取り巻く環境について学ぶことから、子ど
22.コメント	実際の保育現場にての演習を行います。できればお休みされませんようにお願いします。さまざまな演習を通して基礎的な専門知識とともに保育実践力を身に付けていただきたいと思っています。できれば楽しみながら意欲的に頑張ってください。教材見本づくりによっては作成費用がかかることがあります。保育施設の見学などにおいては保育者を目指す学生としてふさわしい身なりが求められることをご承知おきください。授業についての連絡は Web Class よりのメール配信で行います。(欠席された方は特に)連絡事項については必ずみておくようにお願いします。また、担当教員へのご連絡は***までお願いします。
23.オフィスアワー	金曜日　昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	子どもと環境-環境とは何か-	教室外学習（予習、復習） テキスト　Part1 を読む。「科学する心を育てる保育実践に必要な知識調べ」知識ノートを作成する。(120 分)
第２回	保育の展開と指導法(１)-ものとのかかわり-	教室外学習（予習、復習） テキスト　Part2　第１章を読む。「科学する心を育てる保育実践に必要な知識調べ」知識ノートを作成する。(120 分)
第３回	保育の展開と指導法(２)-自然とのかかわり-	教室外学習（予習、復習） テキスト　Part2　第２章を読む。「科学する心を育てる保育実践に必要な知識調べ」知識ノートの発表準備をする。(120 分)
第４回	保育の展開と指導法(３)-数量・図形とのかかわり- 保育の展開と指導法(４)-標識・文字とのかかわり-	教室外学習（予習、復習） テキスト　Part2　第３章を読む。「科学する心を育てる保育実践に必要な知識調べ」知識ノートの発表準備をする。(120 分)
第５回	保育園見学(園庭)-実際の園庭を見学し、環境マップ作製の演習をする-	教室外学習（予習、復習） テキスト　Part2　第４章を読む。「保育室、園庭マップ」作成をする。(120 分)
第６回	保育園の見学(保育室など)-実際の保育室の環境構成図を描く演習をする-	教室外学習（予習、復習） テキスト　Part2　第５章を読む。指導案作成、教材見本の作成準備をする。(120 分)
第７回	保育の展開と指導法(６)-身近な施設・地域、さまざまな文化とのかかわり-	教室外学習（予習、復習） テキスト　Part2　第６章を読む。指導案作成、教材見本の作成準備をする。(120 分)
第８回	保育の展開と指導法(７)-保育施設における行事とのかかわり-	教室外学習（予習、復習） テキスト　Part2　第７章を読む。指導案作成、教材見本の作成をする。(120 分)
第９回	保育の展開と指導法(８)-子どもと遊びと環境のかかわり-	教室外学習（予習、復習） テキスト　Part3　第１章を読む。指導案作成、教材見本の作成をする。(120 分)
第１０回	保育の展開と指導法(９)-小学校との連携・接続における環境を通したかかわり-	教室外学習（予習、復習） テキスト　Part3　第２章を読む。指導案作

		成、教材見本の作成をする。(120 分)
第１１回	環境にかかわる現代の課題(１)ESD と保育	教室外学習（予習、復習） テキスト　Part3　第 3 章 1.を読む。指導案作成、教材見本の発表準備をする。(120 分)
第１２回	環境にかかわる現代の課題(２)多文化共生と保育	教室外学習（予習、復習） テキスト　Part3　第 3 章 2.を読む。指導案作成、教材見本の発表準備をする。(120 分)
第１３回	環境にかかわる現代の課題(３)ユニバーサルデザインと保育	教室外学習（予習、復習） テキスト　Part3　第 3 章 3.を読む。指導案作成、教材見本の発表の振り返りをする。(120 分)
第１４回	環境にかかわる現代の課題(４)インクルーシブ保育	教室外学習（予習、復習） テキスト　Part3　第 3 章 4.を読む。最終レポート作成の準備をする。(120 分)
第１５回	総括-これまでの学びを振り返り、確認する-	教室外学習（予習、復習） 最終レポートを作成する。(120 分)

1.授業コード（ナンバリング）	EED227-A01	2.科目名	こどもと言葉	3.単位数	1
4.授業担当教員	中西一彦				
5.授業科目の区分	展開　言語表現分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育学部教育福祉学科こども学専攻教育・保育コース			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	保育士			11.先修条件	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	［目的］ 領域「言葉」の内容に関する基礎的知識について学修することを目的とする。 ［概要］ 幼児が言葉を獲得する意義について理解する。 幼児の発達に対して果たす言葉の役割について考える。 多様な児童文化財の内容と価値について知る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の （5）コミュニケーションスキル （6）専門的知識・技能の活用力に関連する。 ?言葉のもつ意義について、幼児の言葉獲得の視点から説明することができる。 ?児童文化財の特徴を知り、工夫して活用することができる。 ?言葉の果たす役割について多様な面から考察することができる。				
19.教科書・教材	適宜授業中に資料プリントを配布する。				
20.参考文献	幼稚園教育要領解説（平成 30 年）文部科学省 保育所保育指針解説（平成 30 年）厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 30 年）内閣府、文部科学省、厚生労働省				
21.成績評価	レポート?「言葉の不思議」（第 3 回提出）１０％ レポート②「言葉遊び」グループ実践案（第 8 回提出）１０％ レポート?「言語獲得の環境」調べ（第 11 回提出）１０％ 総合レポート（第 14 回授業時作成提出）４０％				
22.コメント	言葉に対する意識を新たにするとともに、言葉に興味・関心を持ち、言葉を育てることの魅力を実感しましょう。				
23.オフィスアワー	月 4 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	授業の概要説明 「言葉の不思議」について ワークショップ（グループワーク）を行う。	「言葉の不思議」レポートを作成する。(120 分
2	言葉の意義と機能 言語と非言語との比較を通して、 言葉の意義と役割について考える。	身の回りにある「オノマトペ」を２０集める。(120 分)
3	幼児の言葉の獲得 オノマトペに着目して、 言葉の獲得について考える。	?「言葉の不思議」レポート提出。 「美しい言葉」を収集する。(120 分)

4	言葉に対する感覚を確かめる。 「美しい言葉」を身近な言語生活から収集し、 「言葉の美しさ」について考える。	これまでに学習・体験した「言葉遊び」を思い出しメモする。(120 分)
5	言葉に対する感覚を豊かにする。 いろいろな「言葉遊び」を体験する。	新たに知った「言葉遊び」をふり返り整理する。(120 分)
6	幼児に対する言葉遊びの実践を計画する。 グループに分かれて、実践案を検討計画する。	◎グループで実践案を練る。(120 分
7	「言葉遊び」実践発表会? 実践案をもとに実際に行う。	◎発表を終えたグループは反省会を開く。次回発表グループは今回のグループの発表を踏まえて実践案を再考する。(120 分)
8	「言葉遊び」実践発表会? 実践案をもとに実際に行う。	「言語獲得の環境」について、下調べを行う。(120 分)
9	言葉獲得の環境について調べる。 幼児の言語獲得時に必要な環境とはどのようなものかを調べる。	「言語獲得の環境」について追加調べを行う。(120 分)
10	言葉獲得の環境について調べたことを発表する。 発表内容を相互交流し、 言語獲得の環境についての 知見を広げる。	「児童文化財」の推移について調べる。(120 分
11	児童文化財の意義 児童文化財とは何かについて知る。	?「言語獲得の環境」レポート提出。 「児童文化財」の具体を調べる。(120 分)
12	児童文化財の実際 児童文化財の実際について知る。	「児童文化財」の活用場を調べる。(120 分
13	児童文化財の有効活用について考える。 自らの体験を基に、児童文化財の有効活用について 意見交流する。	総合レポート作成のための準備(これまでの学修内容の復習を行う。(120 分)
14	総合レポートを授業内に作成する。 テーマは 「児童文化財が幼児の言語獲得に果たす役割と意義について」	総合レポートについて自らのふり返りをまとめる。(120 分
15	総合レポートを踏まえての意見交流を通して、 改めて「こどもと言葉」をふり返る	意見交流を自分なりにまとめ、「こどもと言葉」の学修全体をふり返る。(120 分)

1.授業コード（ナンバリング）	EED228-A01	2.科目名	こどもと表現	3.単位数	1
4.授業担当教員	大西洋史、島川香織				
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	保育士　幼稚園	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習(講義・実技を含む) 模擬保育などは、集中講義になる可能性あり		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目では、幼児が表現する姿や、その発達を理解します。また、様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、幼児の表現を支えるための感性を豊かにします。それに加えて、その過程を通して?ら表現する喜びを味わい、保育者に必要とされる豊かな感性を??の中に育てます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科?の学習?標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）?律的で主体的な態度（6）専?的知識・技能の活??、の学修に関連しています。 本科?の学習?標は次のとおりです。 ・幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明でき、表現を生成する過程について理解します。 ・幼児の素朴な表現を見つけ出し、受け止め、共感することができ、様々な表現を感じたり、見たり、楽しむことを通してイメージを豊かに保ち、身のまわりのものを身体感覚でとらえ、素材の特性を生かして表現することを身につけます。 ・表現することの楽しさを感じ、楽しみを生み出す要因について分析し、協働して表現する体験を通して、他者の表現を受け止めて共感し、より豊かな表現につなげていくことができるようにします。また、それらの体験をもとに表現の基礎的な知識技能を生かして、幼児の表現活動に展開できるようにします。				
19.教科書・教材	?橋功『美術教育概論（新訂版)』2018. ISBN978-4536601030 本書は「造形 I」(1 年春学期)で購?したものです。 無藤隆監修浜口順子編者代表『新訂事例で学ぶ保育内容＜領域＞表現』　2019. 萌文書林				
20.参考文献	槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 2008.ISBN 978-4893471314 厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド社 厚生労働省『保育所指針解説』フレーベル社 厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル社 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル社				
21.成績評価	担当教員 2 名が 50%ずつ評価します。 【大西】①受講ノート=10%（毎回の授業について感想や質問などを 200 字程度でまとめる） ②個?ワーク（活動①～④e ポートフォリオの内容）=30% ③グループワーク 10% 【島川】①子どもの音楽表現①～④　振り返りレポート　200 字程度　20%				

	②子どもの音楽表現⑤～⑦　振り返りレポート　150 字程度　15% ③グループワーク　5% ④音楽表現(実技)10% ・それ
22.コメント	幼児の未分化な表現を豊かに引き出すにあたって、指導者??が表現する?量は必要ではありません。幼児の世界観を理解し受容し反応するできること、つまり幼児の表現を”みとる?”が必要なのです。屈託のない無限の可能性が感じられる幼児の表現世界を体験しましょう。そして、仲間と?緒に表現することの楽しさを味わっていきましょう。 そうすることで、魅?ある指導者への第?歩を踏み出せるでしょう。 ※遠隔授業で対応できない内容については、集中講義になる可能性があります。 ※遠隔授業の場合、必要な?具（絵の具、クレパス、?鉛筆、?紙など）については?分で?意することになります。
23.オフィスアワー	木曜昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス（本授業の?標・内容・評定算出の?法・進め?の確認、e ポートフォリオのアップ、 受講上の留意点などについて） 保育所指針・幼稚園要領における「表現」とは	
第 2 回	子どもの造形表現―造形表現の源（伝え合い受け止め合う）に気づき、領域「表現」のねらい及び、内容について理解する。（グループワーク）	○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 3 回	乳幼児期の造形表現に関わる発達について理解する。	○復習及び授業ノートの整理（60 分） ○提出課題作成と画像整理（60 分）
第 4 回	子どもの造形表現の体験①「まぜまぜ～色水あそび～」 子どもの表現を考えながらイメージを膨らませ、色や形の多様性を楽しむ。	○復習及び授業ノートの整理（60 分） ○提出課題作成と画像整理（60 分）
第 5 回	子どもの造形表現の体験②「ぬったくりおえかき～こむぎこえのぐであそぼう～」 子どもの表現を考えながらイメージを膨らませ、色や形の多様性を楽しむ。	○復習及び授業ノートの整理（60 分） ○提出課題作成と画像整理（60 分）
第 6 回	子どもの造形表現の体験③「すみながし～マーブリングであそぼう～」 子どもの表現を考えながらイメージを膨らませ、色や形の多様性を楽しむ。	○復習及び授業ノートの整理（60 分） ○提出課題作成と画像整理（60 分）
第 7 回	子どもの造形表現の体験④「ちょきちょきかざり～おり紙であそぼう～」 子どもの表現を考えながらイメージを膨らませ、色や形の多様性を楽しむ。	○復習及び授業ノートの整理（60 分） ○提出課題作成と画像整理（60 分）
第 8 回	子どもの造形表現の体験⑤「まるめて、みがいて～ぴかぴか泥粘土づくり～」 子どもの表現を考えながらイメージを膨らませ、色や	○復習及び授業ノートの整理（60 分） ○提出課題作成と画像整理（60 分）

	形の多様性を楽しむ。	
第 9 回	子どもの音楽表現① 「発達に応じた音遊びをしよう」 乳幼児期の発達を理解したうえで、感性と創造性につながる遊びを考えよう。	
第 10 回	子どもの音楽表現② 「自然や生活のなかにあるもの味わって表現しよう」 季節や動物との触れ合いを通して感じたことを音や動きで表現することの意味を考えよう。	
第 11 回	子どもの音楽表現③ 「コミュニケーションを通して表現しよう」 他者とのかかわりから表現に結びつける援助や環境を考えよう。 SA: 604 音楽室	○子どもの音楽表現①～③振り返りレポート(120 分)
第 12 回	子どもの音楽表現④ 「音楽に関わる活動を通して表現しよう」 表現活動における「感じる・考える・工夫する」意味を考えよう。 SA: 604 音楽室	
第 13 回	子どもの音楽表現⑤ 「楽器を通して表現しよう」 教育用楽器について理解しよう。 SA: 604 音楽室	
第 14 回	子どもの音楽表現⑥ 「言葉とリズムを通して表現しよう」 日本語のリズムを知ったうえでリズム遊びを楽しもう。 SA: 604 音楽室	
第 15 回	子どもの音楽表現⑦ 「身体を通して表現しよう」 基本的な運動を理解して表現を理解してみよう。 SA: 604 音楽室	○子どもの音楽表現④～⑦振り返りレポート(120 分)

1.授業コード（ナンバリング）	EED303-A01	2.科目名	子どもの保健Ⅰ　（4 月 8 日～6 月 10 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	細川愛美				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	保育士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義形式		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	人の生涯の健康活動において，胎児期から幼児期や学童期，思春期の心身の発育・発達を生理学を中心に理解し，子どもの保健活動の役割の意義を理解する。子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解し，子どもが成長段階で自己実現していくための基礎として養護と教育の意識の向上を目指す。子どもの疾病やその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	保育士として子どもの心身の健康増進を図る保健活動を進めるため，日常生活の中で子どもを取り巻く環境としての社会や地域，家庭の在り方について考えることのできる基礎の知識の習得を目指す。 ①専門分野を学んでいる意識を持ち、新しい知識を意欲的に学ぶ。 ②子どもの心身の健康の概念と保健の意義について説明できる。 ③子どもの疾病の予防及適切な対応を理解し，母子保健対策を考える。 ④子どもの身体的発育・発達と保健について関連を説明できる。 ⑤疾患のある子どもの保護者理解を深め，支援の方法を考える。 ⑥保健・健康に関心を持ち，自ら調べ探求する意欲を高める。 ⑦現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を知り，地域における保健活動を考える。 ⑧将来の就職に向けて，グループ討議，発表等を通じて必要な準備、行動化ができるようにする。				
19.教科書・教材	・授業で現場で役に立つ　子どもの保健テキスト　小林美由紀　編著　　診断と治療社 授業中に印刷した資料を配付します。WebClass にて資料等配付することもあります。				
20.参考文献	・保育を学ぶ人のための子どもの保健　　堀浩樹・梶美保編著　　建帛社 ・おかあさんに伝えたい「子どもの病気・ホームケアガイド」 日本外来小児科学研究会編著　医歯薬出版 ・幼児と健康　日常生活・運動発達・こころとからだの基礎知識　　小野次朗・榊原洋一編著 ジアース教育新社				
21.成績評価	１．課題レポート・授業中の課題レポート　　４０％ ２．授業中の小テスト　　４０％ ３．授業内確認プリント・振り返りシート等　２０％				
22.コメント	専門職として、子どもに関わるうえで基礎基本となる講義です。知的好奇心をもって参加して				

	ください。命の大切さ，子どもの周囲の他の人たちとの関係についても考えていきましょう。 自分自身の健康、自己管理についても学びましょう。 ☆1日に2コマの8日間（4月～6月）で実施します。できるだけ欠席しないようにしてください。 ☆質問等などあれば授業後声をかけてください。あるいは e-mail でご連絡ください。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 4月8日 （月） 5限	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価の方法・進め方の確認・受講上の留意点など） 講義「子どもの健康と保健」教科書 P1 ～P13 行動「子どもの区分を理解し，関連法及び理念から子どもについて考える」	準備：教科書持参 授業内課題レポート提出
第2回 4月8日 （月） 6限	講義「現代社会における子どもの健康に関する現状と課題」 活動「年齢別死因順位から保育所等で保育をするときどんな知識が必要かを考える」教科書 P21～P29	準備：教科書持参 授業内課題レポート提出 小テスト
第3回 4月15日 （月）5限	講義「地域における保健活動と子ども虐待防止」 活動「児童虐待の具体的な対応を調べる」教科書 P53～P61	準備：教科書持参 児童虐待のレポート提出 小テスト
第4回 4月15日 （月）6限	講義「子どもの身体的発育・発達と保健」教科書P30～P37	準備：教科書持参 授業内課題提出 小テスト
第5回 4月22日 （月）5限	講義「乳幼児の発育曲線，運動機能の発達」教科書 P38～P43	準備：教科書持参 小テスト
第6回 4月22日 （月）6限	講義「生理機能の発達と保健」教科書 P44～P52 行動「生理機能と関連する生活習慣をまとめる」	準備：教科書持参 授業内課題レポート提出 小テスト
第7回 5月13日 （月）5限	講義「子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握」教科書 P62～P66 行動「体調不良時の主な症状とその評価、対応をまとめる」	準備：教科書持参 授業内課題レポート提出 小テスト
第8回 5月13日 （月）6限	講義「子どもの健康診断とその把握」教科書 P132～P141 行動「健診の内容と意義、関係機関との連携の実際をまとめる」	準備：教科書持参 小テスト
第9回 5月20日 （月）5限	講義「子どもの病気　子どもの免疫の発達と感染症の特徴　P67～P75 」	準備：教科書持参 小テスト
第10回 5月20日 （月）6限	講義「子どもの疾病の予防及び適切な対応」教科書 P76～P83 行動「予防接種の計画を立てる」	準備：教科書持参 小テスト

第１１回 5 月 27 日 （月）5 限	講義「救急疾患の特徴と適切な対応」教科書Ｐ84～P93	準備：教科書持参 授業内課題レポート提出 小テスト
第１２回 5 月 27 日 （月）6 限	講義「新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応」教科書Ｐ94～P100	準備：教科書持参 小テスト
第１３回 6 月 3 日 （月）5 限	講義「アレルギー疾患の特徴と適切な対応」教科書Ｐ101～P108	準備：教科書持参 （WebClass にて確認） 小テスト
第１４回 6 月 3 日 （月）6 限	講義「慢性疾患の特徴と適切な対応」教科書Ｐ109 行動「保護者の役割や病気のある子どもの保護者への対応を考える」	準備：教科書持参 疾病のある子どもの保護者への対応についての課題レポート提出 小テスト （WebClass にて確認）
第１５回 6 月 10 日 （月）5 限	講義「保護者との情報共有と家族の支援」 行動「まとめの最終課題，小テスト」	まとめの課題レポート提出 小テスト （WebClass にて確認）

1.授業コード（ナンバリング）	EED305-A01	2.科目名	子どもの食と栄養（教育･保育 B)(福祉・保育）	3.単位数	2
4.授業担当教員	水野和代				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	保育士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	＜目的＞ 生涯にわたり心身の健康に影響を与える子どもたちの食生活について、子どもの生活の場である保育所等で食生活支援ができるように、保育士等に必要とされる食に関する基礎知識を身に付ける。 ＜概要＞ 食生活と健康の関りを理解し、栄養に関する基礎知識を習得する。人生 100 年時代の各ライフステージにおける健康・栄養課題と関連性を学ぶことで、子どもの食の大切さを理解する。グループワーク、実習などを通じて、保育の現場で、子どもの発育に合わせた効果的な取り組みが実践できる力を身に付ける。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本課目の学習目標は次の通りです。 ①栄養に関する基本的な知識を取得し、子どもの食・栄養と生涯の健康との関りを理解して説明できる。 ②自らの食生活を、健康的な習慣として実践できる。 ③保護者の食への負担感、不安感に寄り添えるような支援の方法を習得する。 ④子どもの食・栄養の特徴を理解し、実習や演習を通じて実践できるようにする。 ⑤グループワークにより、他の人の考えも取り入れながら総合的にまとめる能力を身につける。 [関連するディプロマポリシー] （1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	子どもの食と栄養　第 2 版　保育現場で活かせる食の基本　太田百合子他編著　羊土社 ISBN 978-4-7581-0911-6				
20.参考文献	授業で配布する資料				
21.成績評価	（1）各回の授業で出された課題に、グループワークなどに取り組み提出する。　30% （2）社会見学、調理実習のレポート　20% （3）食育活動の企画作成と発表　10% （4）期末試験　40%				
22.コメント	食を取り巻く社会情勢や変化に興味をもち、新聞、図書、インターネットなどから新しい情報を収集するようにしてください。				
23.オフィスアワー	教室、講師控室で応じる。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 4/6 【第 2 回】 4/6	○オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方 の確認、受講上の留意点などについて） ○自分自身の食生活をチェックする ○現在の日本人の食と栄養の問題点を考える ○食事と健康の関連性を考える	・教科書 ・ノートパソコン

	○子どもの発育・発達の過程を理解し、栄養との関係性を理解する 教科書 P.10～P.21	
【第 3 回】 4/13 【第 4 回】 4/13	○栄養に関する基礎知識① ・栄養素の種類と働きを理解し、それぞれの栄養素の過不足によって生じる健康上の問題を理解する ・栄養素の消化・吸収・代謝を理解する ・体内での水分代謝を理解し、水分補給の重要性を理解する 教科書 P.22～P.35	・教科書 ・ノートパソコン
【第 5 回】 4/20 【第 6 回】 4/20	○栄養に関する基礎知識① ・栄養素の種類と働きを理解し、それぞれの栄養素の過不足によって生じる健康上の問題を理解する ・栄養素の消化・吸収・代謝を理解する ・体内での水分代謝を理解し、水分補給の重要性を理解する 教科書 P.22～P.35	・教科書 ・ノートパソコン
【第 7 回】 4/27 【第 8 回】 4/27	○栄養に関する制度 ・食事・栄養摂取量の目安と評価 　食事バランスガイド、日本人の食事摂取基準 ・献立、調理への展開 ・食品表示の見方 ○食中毒予防を衛生管理 教科書 P.36～P.47	・教科書 ・ノートパソコン
【第 9 回】 5/11 【第 10 回】 5/11	○妊娠期と授乳期の食生活 ・妊娠前の食生活での問題点と注意点 ・妊娠期、授乳期の身体的変化と食生活の特徴　食生活での注意点 教科書 P.48～P.61	・教科書 ・ノートパソコン
【第 11 回】 5/18 【第 12 回】 5/18	○乳児期の食生活 ・乳汁栄養（母乳栄養と人工栄養）について ・離乳の意義とその実践 　乳児期の口腔機能の発達に対応した食の進め方 　保護者の悩みを知り、支援を考える 教科書 P.62～P.75	・教科書 ・ノートパソコン
【第 13 回】 5/25 【第 14 回】 5/25	○幼児期の発育・発達と食生活 ・咀嚼機能、食べ方の機能の発達を理解し、食事の形態や食事環境への配慮と支援方法を学ぶ ・食事や間食の適量、与え方などを学び、正しい食習慣がにつく方法を考える 教科書 P.76～P.89	・教科書 ・ノートパソコン
【第 15 回】 6/1 【第 16 回】 6/1	○調理実習 　離乳食（保護者の食事からの展開） 　幼児のおやつ	・エプロン ・三角巾 ・布巾 ・手拭き
【第 17 回】	○学外見学	・エプロン

6/8 【第 18 回】 6/8	・大阪卸売市場見学 　食品の流通を学ぶ 　調理実習	・三角巾 ・布巾 ・手拭き
【第 19 回】 6/15 【第 20 回】 6/15	○学童期・思春期の発育・発達と食生活 ・学童期・思春期の心身の発達の特徴を理解し、その年代特有の問題点を見つけて対処方法を考える ・学校給食の役割、食育について学ぶ 教科書 P.90～P.105	・前々回調理実習のレポート ・前回学外実習のレポート ・教科書 ・ノートパソコン
【第 21 回】 6/22 【第 22 回】 6/22	○生涯発達と食生活 ・成人期、高齢期の健康上の課題と対策を理解する ・人生 100 年時代の健康をマネジメントするために必要なことを考える ・超高齢社会における高齢者支援の実態を学ぶ 教科書 P.106～P.116	・前回学外見学のレポート ・教科書 ・ノートパソコン
【第 23 回】 【第 24 回】	○特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ・急な体調不良、障害をもつ子どもの特性と支援方法を理解する 教科書 P.144～P.160 ○アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養 ・食物アレルギーの定義、疫学、症状、対処方法を学ぶ ・保育の現場での具体的な食品の選択や提供方法を知る 教科書 P.161～P.170 ○窒息。誤嚥 ○災害支援	・教科書 ・ノートパソコン
【第 25 回】 7/6 【第 26 回】 7/6	○食育の基本と内容 ・食育とは何か、そのねらいと取り組みを学ぶ ・様々な場所、様々な職種で、すべての年代を対象に行われている食育の制度と取り組みを学ぶ 教科書 P.117～P.143	・教科書 ・ノートパソコン
【第 27 回】 7/13 【第 28 回】 7/13	○食育の実践 ・食育媒体作成 　テーマを検討し、媒体を作成、取り組みの PDCA サイクルを確認する。 教科書 P117～P.130	・媒体作成に必要な文具など
【第 29 回】 7/20 【第 30 回】 7/20	○食育媒体発表（グループ単位） ○期末試験	・筆記用具

1.授業コード（ナンバリング）	EED305-A02	2.科目名	子どもの食と栄養（教育･保育 A）	3.単位数	2
4.授業担当教員	水野和代				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	保育士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	＜目的＞ 生涯にわたり心身の健康に影響を与える子どもたちの食生活について、子どもの生活の場である保育所等で食生活支援ができるように、保育士等に必要とされる食に関する基礎知識を身に付ける。 ＜概要＞ 食生活と健康の関りを理解し、栄養に関する基礎知識を習得する。人生 100 年時代の各ライフステージにおける健康・栄養課題と関連性を学ぶことで、子どもの食の大切さを理解する。グループワーク、実習などを通じて、保育の現場で、子どもの発育に合わせた効果的な取り組みが実践できる力を身に付ける。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本課目の学習目標は次の通りです。 ①栄養に関する基本的な知識を取得し、子どもの食・栄養と生涯の健康との関りを理解して説明できる。 ②自らの食生活を、健康的な習慣として実践できる。 ③保護者の食への負担感、不安感に寄り添えるような支援の方法を習得する。 ④子どもの食・栄養の特徴を理解し、実習や演習を通じて実践できるようにする。 ⑤グループワークにより、他の人の考えも取り入れながら総合的にまとめる能力を身につける。 [関連するディプロマポリシー] （1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	子どもの食と栄養　第 2 版　保育現場で活かせる食の基本　太田百合子他編著　羊土社 ISBN 978-4-7581-0911-6				
20.参考文献	授業で配布する資料				
21.成績評価	（1）各回の授業で出された課題に、グループワークなどに取り組み提出する。　30% （2）社会見学、調理実習のレポート　20% （3）食育活動の企画作成と発表　10% （4）期末試験　40%				
22.コメント	食を取り巻く社会情勢や変化に興味をもち、新聞、図書、インターネットなどから新しい情報を収集するようにしてください。				
23.オフィスアワー	教室、講師控室で応じる。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 4/6 【第 2 回】 4/6	○オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方 の確認、受講上の留意点などについて） ○自分自身の食生活をチェックする ○現在の日本人の食と栄養の問題点を考える ○食事と健康の関連性を考える	・教科書 ・ノートパソコン

	○子どもの発育・発達の過程を理解し、栄養との関係性を理解する 教科書 P.10～P.21	
【第 3 回】 4/13 【第 4 回】 4/13	○栄養に関する基礎知識① ・栄養素の種類と働きを理解し、それぞれの栄養素の過不足によって生じる健康上の問題を理解する ・栄養素の消化・吸収・代謝を理解する ・体内での水分代謝を理解し、水分補給の重要性を理解する 教科書 P.22～P.35	・教科書 ・ノートパソコン
【第 5 回】 4/20 【第 6 回】 4/20	○栄養に関する基礎知識① ・栄養素の種類と働きを理解し、それぞれの栄養素の過不足によって生じる健康上の問題を理解する ・栄養素の消化・吸収・代謝を理解する ・体内での水分代謝を理解し、水分補給の重要性を理解する 教科書 P.22～P.35	・教科書 ・ノートパソコン
【第 7 回】 4/27 【第 8 回】 4/27	○栄養に関する制度 ・食事・栄養摂取量の目安と評価 　食事バランスガイド、日本人の食事摂取基準 ・献立、調理への展開 ・食品表示の見方 ○食中毒予防を衛生管理 教科書 P.36～P.47	・教科書 ・ノートパソコン
【第 9 回】 5/11 【第 10 回】 5/11	○妊娠期と授乳期の食生活 ・妊娠前の食生活での問題点と注意点 ・妊娠期、授乳期の身体的変化と食生活の特徴　食生活での注意点 教科書 P.48～P.61	・教科書 ・ノートパソコン
【第 11 回】 5/18 【第 12 回】 5/18	○乳児期の食生活 ・乳汁栄養（母乳栄養と人工栄養）について ・離乳の意義とその実践 　乳児期の口腔機能の発達に対応した食の進め方 　保護者の悩みを知り、支援を考える 教科書 P.62～P.75	・教科書 ・ノートパソコン
【第 13 回】 5/25 【第 14 回】 5/25	○幼児期の発育・発達と食生活 ・咀嚼機能、食べ方の機能の発達を理解し、食事の形態や食事環境への配慮と支援方法を学ぶ ・食事や間食の適量、与え方などを学び、正しい食習慣がにつく方法を考える 教科書 P.76～P.89	・教科書 ・ノートパソコン
【第 15 回】 6/1 【第 16 回】 6/1	○調理実習 　離乳食（保護者の食事からの展開） 　幼児のおやつ	・エプロン ・三角巾 ・布巾 ・手拭き
【第 17 回】	○学童期・思春期の発育・発達と食生活	・前回調理実習のレポート

【第 18 回】	・学童期・思春期の心身の発達の特徴を理解し、その年代特有の問題点を見つけて対処方法を考える ・学校給食の役割、食育について学ぶ 教科書 P.90～P.105	・教科書 ・ノートパソコン
【第 19 回】 6/15 【第 20 回】 6/15	○生涯発達と食生活 ・成人期、高齢期の健康上の課題と対策を理解する ・人生 100 年時代の健康をマネジメントするために必要なことを考える ・超高齢社会における高齢者支援の実態を学ぶ 教科書 P.106～P.116	・教科書 ・ノートパソコン
【第 21 回】 6/22 【第 22 回】 6/22	○特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ・急な体調不良、障害をもつ子どもの特性と支援方法を理解する 教科書 P.144～P.160 ○アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養 ・食物アレルギーの定義、疫学、症状、対処方法を学ぶ ・保育の現場での具体的な食品の選択や提供方法を知る 教科書 P.161～P.170 ○窒息。誤嚥 ○災害支援	・教科書 ・ノートパソコン
【第 23 回】 6/29 【第 24 回】 6/29	○学外見学 ・大阪卸売市場見学 　食品の流通を学ぶ 　調理実習	・エプロン ・三角巾 ・布巾 ・手拭き
【第 25 回】 7/6 【第 26 回】 7/6	○食育の基本と内容 ・食育とは何か、そのねらいと取り組みを学ぶ ・様々な場所、様々な職種で、すべての年代を対象に行われている食育の制度と取り組みを学ぶ 教科書 P.117～P.143	・前回学外実習のレポート ・教科書 ・ノートパソコン
【第 27 回】 7/13 【第 28 回】 7/13	○食育の実践 ・食育媒体作成 　テーマを検討し、媒体を作成、取り組みの PDCA サイクルを確認する。 教科書 P.117～P.130	・媒体作成に必要な文具など
【第 29 回】 7/20 【第 30 回】 7/20	○食育媒体発表（グループ単位） ○期末試験	・筆記用具

1.授業コード（ナンバリング）	EED307-A01	2.科目名	保育実習Ⅱ事前事後指導		3.単位数	1
4.授業担当教員	下里里枝					
5.授業科目の区分	乳幼児教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件	保育実習Ⅰ　保育実習Ⅰ事前事後指導			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 【概要】 1　実習や既習の教科目の内容や、その関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 2　保育の観察、保育記録及び保育指導案の書き方などを学び、保育実践や事例を通して理解する。 3　保育士の専門性と職業倫理について理解する。 4　実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 ①保育実習Ⅰを振り返り、自分自身の課題を明らかにし、それを乗り越えるための技能を身に付ける。 ②模擬保育を通して、具体的に保育内容を考え、指導計画が作成できる。 ③模擬保育後の振り返りを行い、実習Ⅱのイメージを持つことができる。 ④実習に際して必要な知識・技能を様々な場面を想定し、そこで取るべき行動や子どもへの影響などを深く考えることができる。 ⑤実習後の振り返りを行い自分の今後の課題を明確にする。 関連する DP 2（社会的貢献性）3（多様性理解）4（問題発見・解決力）5（コミュニケーションスキル） 6（専門的知識・技能の活用力）					
19.教科書・教材	保育実習ハンドブックを授業にて配布する 適宜資料を配布する					
20.参考文献	「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」					
21.成績評価	◆ワークシート（５×７）　35 点・・・学習目標④に対応 ◆模擬保育　（指導案含む）　30 点・・・学習目標②③に対応 ◆課題レポート　10 点・・・学習目標①に対応 ◆実習後の評価と、振り返りレポート　20 点・・・学習目標①⑤に対応 ★関西国際大学グレード検定（折り紙・手遊び）1 級合格者　5 点・・・学習目標②③に対応 ※ワークシート、課題レポートは期日までに提出すること。期日を過ぎたら受け取りません。ワ					
22.コメント	・この授業は、春学期の事前指導が 13 回、秋学期の事後指導が 2 回の計 15 回からなります。 ・実習のための大切なアナウンスや手続きがあるので、遅刻や欠席は原則として認めません。また、ウエブクラスで連絡事項などを知らせることもあるのでよく見る癖をつけましょう。					

	・有意義な実習ができるように事前指導でしっかりと学びましょう。 ・実習は、社会へ踏み出すスタートです。実習現場では、社会人としての自覚や行動が求められます ・日頃からの学習態度も重要視します。 ・ピアノの練習もしておきましょう。
23.オフィスアワー	・月曜日の昼休みです。 ・実習前の手遊びの獲得、部分実習の相談など何でも聞きに来てください。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・ガイダンス・ ・・「保育実習 II 事前事後指導」の授業の進め方・評価について ・実習 II に向けて ★授業の資料やワークシートは webclass にて配布する 〇webclass にてワークシート①を提出する。 テーマ「実習 I と実習 II の違いについて」 〇保育所実習 1 ファイル返却	〇ワークシート①作成、次週までにウエブクラスに提出 (120 分)
2 回目	・１回目の資料を復習 履修登録の確認（保育実習 II と保育実習 II 事前事後指導を履修登録） ・保育実習 I の振り返り ・webclass にてワークシート②を実施、作成し提出する。	〇ワークシート②作成、次週までにウエブクラスに提出 ◎手遊び、絵本リスト次回持参（120 分）
3 回目	・安全・安心な保育について グループワーク ワークシート③作成 ※変更があるかもしれません	★ワークシート③は次週までにウエブクラスに提出（120 分）
4 回目	・　保育士の社会的役割と保育倫理 ワークシート④の作成と提出 ※変更があるかもしれません	〇ワークシート④作成、次週までに提出（120 分）
5 回目	・「絵本リスト・手遊びリスト」復習 ・夏の遊びを考える ※変更があるかもしれません	〇ワークシート⑤作成、次週までに提出 〇手遊び練習（120 分）
6 回目	・手遊び披露 ・保育実習関係の書類について ・個人票・誓約書 ※変更があるかもしれません。	〇絵本、手遊びリストは 9 回目までに提出 〇個人票・誓約書の作成（120 分）
7 回目	・指導案の書き方の復習 保育日誌の書き方の復習 資料は weblass にて事前配布するワークシート⑥ ※変更があるかもしれません。	〇ワークシート⑥（指導案作成、提出） ★個人票下書き提出 ★写真を用意しておく（120 分）
8 回目	・模擬保育の実施の仕方について ・模擬保育の指導案作成（ワークシート⑦） ※変更があるかもしれません。	〇指導案作成（ワークシート⑦）作成、提出 ・各自模擬保育の指導案作成 ・模擬保育実施後、振り返りレポート、修正

		指導案作成等 （120 分）
9 回目	・模擬保育の実施 ・学修支援室より、実習について連絡、配布資料 ※変更することがあります。	★写真を貼った個人票提出 ★誓約書提出 ☆模擬保育振り返り（120 分）
10 回目	模擬保育の実施 ※変更があるかもしれません。	○実習先へのアポイントをとる ☆模擬保育振り返り（120 分）
11 回目	模擬保育の実施 ※変更があるかもしれません。	○実習先へオリエンテーションに行く準備 ☆模擬保育振り返り（120 分）
12 回目	模擬保育の実施 ※変更があるかもしれません。	○模擬保育の振り返り ○実習の準備（120 分）
13 回目	○実習直前指導 実習ハンドブックを確認 ・実習後、実習園へのお礼状の書き方について ・実習記録の提出について ・巡回教員へのあいさつ ・オリエンテーションの確認 ※変更があるかもしれません。	○実習先の確認 ○実習ハンドブックを見て、準備物など確認しておく。（120 分）
14 回目と 15 回目の日時と教室は後日掲示する（秋学期）	○事後指導 面談 自己評価 実習の総括	★課題レポート作成、１５回目終了までにウエブクラスに提出（120 分）
15 回目	○事後指導（面談と、課題レポート作成）	★実習ファイルを整理して提出 （120 分）

1.授業コード（ナンバリング）	EED308-A11	2.科目名	保育実習Ⅲ事前事後指導	3.単位数	1
4.授業担当教員	松本恵美子、馬場住子				
5.授業科目の区分	展開科目 児童家庭福祉分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	保育士	11.先修条件	保育実習Ⅰを履修済みであること		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	①さまざまな種類の施設の子ども達の抱える問題と、その生活を知り、理解をする。 ②さまざまな種類の施設の果たしている役割を理解する。 ③施設の子ども達の支援の方法を学び、一人一人の子どもに合わせたコミュニケーションの取り方を学ぶ。 ④施設職員の仕事内容を知り、保育士の専門性について学ぶ				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの 1）自律的で主体的な態度、４）問題発見力・解決力、6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連している ①保育の専門性を身に付けることで、児童問題や障害者問題に積極的に取り組める力を身に付ける。 ②保育士として、子ども達が抱える問題に対する援助の見通しを立て、援助の在り方を論理的に組み立てることができる様になる。 ③障害や虐待による心の傷など、子ども求めるに応じた専門的な保育支援を行える様になる。				
19.教科書・教材	保育実習・施設実習ハンドブック(配布する)				
20.参考文献	適時紹介する				
21.成績評価	①実習施設からの評価　　４０％（学習目標①③に関連する） ②実習観察記録記述　　３０％（学習目標②に関連する） ③各資料整理・提出　　３０％（学習目標①②③に関連する）				
22.コメント	実習Ⅰで学んだことを住まえて、施設における保育者の役割とその専門性について、考察を深めてください。そして何より、子どもが施設というところで生活することの意義をしっかりと理解し、子どもの気持ちに寄り添い、支えることの意味を自分なりに考え、行動できるようになってください。				
23.オフィスアワー	火曜日　昼休み（馬場）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	＊実習Ⅲで学ぶことの概要説明 ●実習Ⅰで学んだことを振り返る ●実習Ⅲで学びを深める点について 確認する	?レポート① 子どもが、児童養護施設で暮らすことを、どのように感じるか、Web でレポート提出。 （次週までに提出） ◯ゲストスピーカに対する質問を２個以上考えておく
第２回	＊児童養護施設職員の話を聞く ●実習Ⅰと実習Ⅲの学びの違い ●入所児童に対する関わり方を深めるためのポイ	?レポート② ゲストスピーカーの話から学んだことと、実際に実習で実践してみたいと思ったこと等に

	ント ●保育士が、施設で仕事をするために持つべき専門性とは？ 等について、現場の話を聞かせて頂く ★レポート①Web で提出締め切り	ついてまとめ、Web でレポート提出。 （次週までに提出）
第 3 回	＊施設実習の意義と目的 ●施設がなぜ、存続を求められるのかその背景と意義について学ぶ ●施設の保育者になるために必要な知識とは何かを学ぶ ●施設という現場で、保育体験をすることの意味について学ぶ 以上のことを理解したうえで子どもの心を理解し、適切な支援をするための専門性について学ぶ。 ★レポート②　Web で提出締め切り	◯グループワーク・ディスカッション 決められたグループで、ZOOM 会議を開く 実習先での施設入所児に対する自分の態度や言動で、注意すべき点について、話し合ってまとめておく。 （次週発表）
第 4 回	★プレゼンテーション 施設入所児童に対する態度や接し方について話し合ったことを発表し、皆で、情報を共有し学びを深める。 (発表：グループ) ＊実習中の態度について 実習中の子どもに対して、職員対して、保護者に対して、職業倫理に 照らして、どの様にあるべきかについて学ぶ ＊実習計画の作成 施設実習の課題を考え、実際に施設実習計画を書いてみる	?実習計画を作る 授業の続きを書きあげ、Web で提出 （次週提出） ◯児童養護施設について調べ学習をしておく。 （第 7 回目の授業で発表を する）
第 5 回	＊実習日誌の書き方 ●実習日誌を記録する目的 ●日誌に記録する内容 ●実習日誌の留意点 について学ぶ ?実際の記録をもとに、いい記録の書き方について学ぶ ★実習計画 Web 提出締め切り	?提示した事例に添って実習日誌を Web で書く （次週提出） ◯バイスティックの 7 原則について、復習しておく
第 6 回	＊保育士の仕事とソーシャルワーク ●施設におけるソーシャルワークについて学ぶ ●対人援助技術の原理・原則がどのように施設内の支援場面で使われ ているのかについて学ぶ ★実習日誌　Web で提出締め切り	◯乳児院の概要について調べておくこと （次週発表）

第７回	★プレゼンテーション 乳児院について調べてきたことを発表する（3 名） ＊乳児院での実習について ●ＤＶＤを見て乳児院について理解する ●乳児院での実習の準備と実際 ●記録の書き方 ★プレゼンテーション 児童養護施設について調べたことを発表(３名) ＊児童養護施設での実習について ●児童養護施設での実習準備と実習の実際 ●児童養護施設実習における記録の書き方について	?自己紹介カード 自分で記入してみる （１２０分） カードは配付する
第８回	＊実習前の事務手続きなどの準備作業 ★自己紹介カードの添削⇒清書 ●オリエンテーションのガイダンス ●実習にかかる書類の整理　　等 ★実習ノートブックを必ず持参すること	?母子生活支援施設、児童自立支援施設について調べておく （次週発表）
第９回	★プレゼンテーション 母子生活支援施設について調べたことを発表(3 人) ＊母子生活支援施設での実習について ●母子生活支援施設での実習準備と実習の実際 ●母子生活支援施設における記録の書き方について ★プレゼンテーション 児童自立支援施設について調べたことを発表(3 人) ＊児童自立支援施設での実習について ●児童自立支援施設での実習準備と実習の実際 ●児童自立支援施設における記録の書き方について	?知的障害児施設、重症心身障害児施設の概要について、調べておく （次週発表）
第１０回	★プレゼンテーション 知的障害児施設の概要について調べたことを発表（3 人） ＊知的障害児施設での実習について ●知的障害児施設での実習準備と実習の実際 ●知的障害児施設における記録の書き方について ★プレゼンテーション 重症心身障害児施設の概要について調べたことを発表 ＊重症心身障害児施設での実習について ●重症心身障害児施設での実習準備と実習の実	?絵本の概説ノート作成 １～５歳の各年齢に適した絵本を、年齢ごとに２冊ずつ選び、合計１０冊の概説ノートを作る。 （次週提出） このアサイメントについては手書きで作成。実物を提出。 （状況によっては Web で写真撮影した物を提出する）

	際 ●重症心身障害児施設におけ	
第１１回	＊実習後の提出物、報告について 日誌の実習先への提出にあたっての留意点 実習終了後の御礼状について ＊施設の保育現場で楽しむ遊び 特に知的障害児を想定しての簡単な遊びをやってみる ★絵本の概説ノートを提出	?御礼状作成 実習終了後すぐに、(１週間以内)お礼状に下書きをする ⇒でき次第提出 ⇒添削後返却 ⇒すぐに清書してポストへ ＊研究室の扉の投函ボックスを通じて、やりとりするので、必ず提出・受け取りをしに来ること ＊状況によっては WEB でのやり取りになる ?レポート③ 実習から学んだこと、今後の課題と思ったことなどについてレポートにまとめる （提出は、事後指導開始時）
第１２回 １２回以降、時期的には２０１９年２月末～３月初め頃になります	＊施設実習から学んだことと今後の課題 ★発表　施設実習から学んだことや感じたことを各自が発表 ★レポート③Web で提出	
第 13～14 回	＊個別事後指導面接の実施 状況によっては ZOOM 面談になる） ＊実習中、子ども達が喜んだ遊びや本についてまとめる 個別面談実施中、待機している者は、実習中の子ども達が喜んだ遊びや　本、あるいはこんな遊びを提供したかったと思った創作遊び・創作絵本についてファイリングノートを作成する。	ファイリングノートを作る （最終講義時に提出） これも実物を提出。 状況によっては Web で提出
第 15 回	＊実習Ⅲについての振り返り 実習での経験を今後の糧と課題に ★ファイリングノートの提出 （状況によっては Web で提出）	

1.授業コード（ナンバリング）	EED309-A01	2.科目名	保育実習 II			3.単位数	2
4.授業担当教員	下里里枝、森田健						
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科				9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	１．保育所の役割や機能について,,具体的な実践を通して理解を深める。 ２、子どもの観察や関りの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ３、既習の教科や保育実習Ｉの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に学ぶ。 ４、保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 ５、保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解する。 ６、保育士としての自己の課題を明確化する。						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の(2)（４）（５）（６）の学修に関連している。 ①保育所の役割や機能の具体的展開。 ②観察に基づく保育理解。 ③子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携。 ④指導計画の作成、実践、観察、記録、評価。 ⑤保育士の業務と職業倫理を理解する。 ⑥自己の課題の明確化						
19.教科書・教材	大学の保育所実習ハンドブック 大学の実習記録						
20.参考文献	保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領						
21.成績評価	・実習園からの評価　　（60 点・・・学習目標①②③⑤に対応　） ・実習記録記述　　（30 点・・・学習目標④⑤に対応） ・実習振り返り、資料整理　（１０点・・・学習目標⑥に対応）						
22.コメント	保育園での 2 回めの実習です。自分の実習目標を持ってのぞみ、子ども達と積極的に関わり実践力をつけましょう。						
23.オフィスアワー	・月曜日昼休み						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
10 日間 80 時間の実習	★部分実習 ★責任実習 ・保育所の役割や機能について学ぶ。 ・子どもの心身の状態や活動の観察、保育士の動きや実践の観察、保育所生活や流れや展開の把握。 ・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解。 ・指導計画などを作成し、可能な範囲で部分実習、半日実習、全日実習を行う。実施後、評価をする。 ・保育士の業務と職業倫理を理解する。	その日の記録や指導計画の作成（20 時間）

	・保護者への対応について学ぶ。 ・保育者間の連携、家庭との連携、地域との連携などについて学ぶ。 ・保育所の子育て支援について理解する。	

1.授業コード（ナンバリング）	EED310-A01	2.科目名	保育実習Ⅲ	3.単位数	2
4.授業担当教員	松本恵美子				
5.授業科目の区分	展開科目 児童家庭福祉分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	保育士	11.先修条件	保育実習Ⅰを履修済みであること		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	①さまざまな種類の施設の子ども達の抱える問題と、その生活を知り、理解をする。 ②さまざまな種類の施設の果たしている役割を理解する。 ③施設の子ども達の支援の方法を学び、一人一人の子どもに合わせたコミュニケーションの取り方を学ぶ。 ④施設職員の仕事内容を知り、保育士の専門性について学ぶ				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの 1）自律的で主体的な態度、４）問題発見力・解決力、6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連している ①保育の専門性を身に付けることで、児童問題や障害者問題に積極的に取り組める力を身に付ける。 ②保育士として、子ども達が抱える問題に対する援助の見通しを立て、援助の在り方を論理的に組み立てることができる様になる。 ③障害や虐待による心の傷など、子ども求めるに応じた専門的な保育支援を行える様になる。				
19.教科書・教材	保育実習・施設実習ハンドブック(配布する)				
20.参考文献	適時紹介する				
21.成績評価	①実習施設からの評価　　４０％（学習目標①③に関連する） ②実習観察記録記述　　３０％（学習目標②に関連する） ③各資料整理・提出　　３０％（学習目標①②③に関連する）				
22.コメント	実習Ⅰで学んだことを住まえて、施設における保育者の役割とその専門性について、考察を深めてください。そして何より、子どもが施設というところで生活することの意義をしっかりと理解し、子どもの気持ちに寄り添い、支えることの意味を自分なりに考え、行動できるようになってください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	・主に観察実習（夏学期１０日間　８０時間以上） ＜児童福祉施設等(保育所以外）における実習＞ ・施設の役割と機能、子どもの理解、施設における子どもの生活と 環境等、実習Ⅰで学んだことを、現場での実践に反映させながら、実習に取り組む。 ・計画と記録を学びの通り、公益な記録として適切に表記できるようになる	・その日の記録や、指導計画の作成（２０時間）

	・専門職としての保育士の役割と倫理を実習の中に反映させて行動 する	
第２回		
第３回		
第４回		
第５回	＊	
第６回		
第７回		
第８回		
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回 １２回以降、時期的には２０１９年２月末～３月初め頃になります		
第 13～14 回		
第 15 回		

1.授業コード（ナンバリング）	EED317-A01	2.科目名	環境（指導法）		3.単位数	2
4.授業担当教員	椋田善之					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種保育士　幼稚園一種		11.先修条件	2 年生春学期の保育内容 5 領域の全ての科目を履修すること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」は「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」観点から子どもの育ちを考えていく領域である。そのためには乳幼児自身の活動を通して好奇心・探究心がどのように育ち、保育者はどのように援助していけばよいかを理解しなければならない。この授業では、乳幼児自身の好奇心・探究心の育ちと、それを育てるための保育者の援助・指導法について理解を深める。 ＜「保育内容・環境」で学ぶ主な内容＞ ■幼稚園教育要領・保育所保育指針における「						
18.学習目標とＤＰとの関連	【関連する学科 DP】 （4）問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見･理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 （5）コミュニケーションスキル 教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 （6）専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。 【本授業の学修目標】 ・5 領域の中の「環境」の位置づけ、その目標と内容について理解します。 ・乳幼児特有の思考と表現の過程を学んだり、追体験したりすることを通して、乳幼児期の思考や表現をトータルに捉えることができるようにします。 ・保育実践を進めていくことの重要性及び具体的な指導方法や環境構成について把握します。						
19.教科書・教材	配布物で資料を配るため、特に必要はありません。					
20.参考文献	・瀧川光治・小栗正裕編『改編　保育の考え方と実践』久美出版、２０１２年 ・「保育所保育指針」 ・「幼稚園教育要領」					
21.成績評価	（1）　乳幼児特有の思考と表現の過程を学んだり、追体験することを把握し、説明できるようになる。5 領域の中の「環境」の位置づけ、その目標と内容について説明できるようになる。 ワークシートや感想（毎回）・・・３点×１５回＝４５点 Webclass で提出 （2）　乳幼児期の思考や表現をトータルに捉えて、保育実践（落ち葉図鑑や絵本の作成）を進めていくことができるようになる。 課題（落ち葉図鑑・フォトブック）（第１３回まで）・・・２０点					

	Webclass で提出 （３）　乳幼児期の思考や表現をトータルに捉えて、保
22.コメント	１．プリント（ワークシート等）を配布するので、ノートは要りません。プリントの中に重要事項、メモ等を記入してください。また、欠席などで、プリント類を受け取っていない場合は、翌週に申し出ること。 ２．【学びの記録シート】の「学習目標に対しての気づき・学び」は授業の中での新たな気づきや学びを書き、「今日の感想・質問」は感想や質問・疑問事項を記入する。２行半にまとめる（１行程度は不可）。 また、＜自己チェック＞欄の集中度・学習目標到達度は、５段階で自己評価する。 ３．演習としてグループワーク、ロールプレイングを行います。 ２回目までは ZOOM にて遠隔授業を実施します。それ以降は変更の可能性があるため、Webclas・Universalpassport をよく見ておいてください。
23.オフィスアワー	火曜日お昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	NO.1：ガイダンス／保育内容「環境」の意義 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容を取り上げつつ「環境」の意義を説明する。 「環境」領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。 ZOOM での講義と WS の提出	○HW-WS①を実施する。(120 分)
第２回	NO.2：保育内容「環境」と幼児理解 「環境」領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。 保育内容「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した上で、パワーポイント・Excel で環境構成を仕上げる。 ZOOM での講義と WS の提出	●　課題１「落ち葉図鑑 or フォトブックつくり」の説明（１２０分） ○HW-WS②を実施する。(120 分)
第３回	NO.3：好奇心・探求心を育てる指導方法 「環境」領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用していく。 保育内容「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した上で、パワーポイント・Excel で環境構成を仕上げる。	○HW-WS③を実施する。(120 分)
第４回	NO.4：思考力の芽生えをはぐくむ指導 「環境」領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 思考力の芽生えをはぐぐむ指導実践を考えた後、幼稚園教育における評価の考え方を理解する。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS④を実施する。(120 分)

第５回	NO.5：人的環境として友だち、保育者 保育内容「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した上で、パワーポイント・Excel で環境構成図を仕上げる。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS⑤を実施する。（120 分）
第６回	NO.6：物的環境としての園具・遊具・素材 保育内容「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した上で、パワーポイント・Excel で環境構成図を仕上げる。 写真を使った保育展開を学ぶ。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS⑥を実施する。（120 分）
第７回	NO.7：自然環境としての動植物 保育内容「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した上で、パワーポイント・Excel で環境構成図を仕上げる。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS⑦を実施する。（120 分）
第８回	NO.8：日常生活のなかでの興味や関心 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容を取り上げつつ「環境」の意義を説明する。 日常生活の興味関心が小学校の教科等とどのようにつながっているかを理解する。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS⑧を実施する。（120 分）
第９回	NO.9：地域（小学校など）・行事とのかかわり、保育実践の具体例－いろいろな糸電話の教材研究 幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。	○HW-WS⑨を実施する。（120 分）
第１０回	NO.10：「環境」からみた道徳性の芽生えを培う、保育実践の具体例－糸電話、音の教材の教材研究 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。	○HW-WS⑩を実施する。（120 分）
第１１回	NO.11：乳幼児の安全環境 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS⑪を実施する。（120 分）

第１２回	NO.12：保育内容「環境」からみた実践的課題 行われた実践についての評価を行う。 保育で行われた実践が小学校の教科等とのつながりを持っているか、確認していく。 振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。	○HW-WS⑫を実施する。（120 分）
第１３回	NO.13：自然・動植物や季節の変化に触れる保育実践－「落ち葉図鑑」「フォトブック」の作品鑑賞会 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解した上で自然・動植物や季節の変化に触れる保育実践を考える。 幼稚園教育における保育実践の振り返りを行う際の評価の考え方を理解する。	○HW-WS⑬を実施する。（120 分）
第１４回	NO.14：保育における環境（物的環境、自然環境、環境構成）とは？ 幼稚園教育における環境構成などについての評価の考え方を理解する。	○HW-WS⑭を実施する。（120 分）
第１５回	NO.15：まとめ（授業内での「最終まとめ」プリント） これまで身に付けた力を総括して確認する。	○HW-WS⑬を実施する。（120 分） ○最終回まとめのレポートを実施する。（120 分）

1.授業コード（ナンバリング）	EED318-A01	2.科目名	言葉（指導法）	3.単位数	2
4.授業担当教員	馬場住子				
5.授業科目の区分	基幹	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻教育・保育コース			9.履修学年	3 年
10.取得資格の要件	保育士資格必修 幼稚園教員免許必修	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 領域「言葉」に関する専門的事項とその指導法を理解すること、および、保育内容「言葉」の基本的事項を踏まえて、児童文化財を用いた教材を創意工夫し、その作成に取り組むことを目的とする。 【授業の概要】 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「言葉」の指導において必要な専門的事項と指導法をテキストを基に解説する。また、乳幼児期の言語の発達過程や児童文化材について学び、保育者が言葉の発達をどのように援助していくかを考え、保育実践力を身に付けるためさまざまな演習に				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 1.領域「言葉」に関する専門的事項を理解することができる(学科 DP6)。 2.保育内容「言葉」の指導法について理解することができる(学科 DP6)。 3.保育内容「言葉」の基本的事項を踏まえて、児童文化財を用いた教材の作成に取り組むことができる(学科 DP5)。 4.保育内容「言葉」の領域より、指導案の立案、模擬保育に取り組むことができる。(学科 DP4)。 【関連する学科 DP】 （4）問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見･理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 （5）コミュニケーションスキル 教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 （6）専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。				
19.教科書・教材	秋田喜美代　三宅茂夫監　秋田喜美代　砂上史子編　『子どもの姿から始める領域・言葉』みらい				
20.参考文献	授業内で適宜紹介します。				
21.成績評価	教材研究「絵本の POP カード」：作品 15 点、発表 5 点(20%)　〔学習目標の③に対応〕 教材研究「電子紙芝居」：作品 20 点、発表 5 点(25%)　〔学習目標の③に対応〕 教材研究「紙皿シアター」：作品 20 点(20%)〔学習目標の③に対応〕 保育実践：紙皿シアターを使った保育指導案の立案、模擬保育の実践 指導案 20 点、模擬保育実践 5 点(25%)〔学習目標の②、④に対応〕 総括レポート：10 点(10%)　〔学習目標の①に対応〕				

22.コメント	さまざまな演習を通して基礎的な専門知識とともに保育実践力を身に付けていただきたいと思っています。できれば楽しみながら意欲的に頑張ってください。※一部教材づくりで各自準備していただくものがあります。適宜授業内でご案内します。
23.オフィスアワー	金曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1回目	言葉の働きと言葉を育むもの 「絵本の POP カードづくり」(1)	教室外学習（予習、復習） テキスト第 1 部 第 1 章を読む。 絵本の POP カードづくりの準備をする。(120 分)
2回目	乳幼児期の言語発達 「絵本の POP カードづくり」(2)	教室外学習（予習、復習） テキスト第 1 部 第 2 章を読む。 絵本の POP カードづくりをする。(120 分)
3回目	言葉の楽しさ・美しさ 「絵本の POP カード」発表(3)	教室外学習（予習、復習） テキスト第 1 部 第 3 章を読む。 絵本の POP カードの発表準備をする。(120 分)
4回目	発達段階や場面などに応じた絵本・紙芝居の読み聞かせ 「POP カード」で紹介した絵本の読み聞かせ(4)	教室外学習（予習、復習） テキスト第 1 部 第 4 章 第 1,2 節を読む。電子紙芝居の作成準備をする。(120 分)
5回目	児童文化財の世界 「電子紙芝居づくり」(1)	教室外学習（予習、復習） テキスト第 1 部 第 4 章 第 3・4 節を読む。電子紙芝居の作成をする。(120 分)
6回目	児童文化財の世界 「電子紙芝居」づくり(2)	教室外学習（予習、復習） テキスト第 1 部 第 5 章 を読む。電子紙芝居の発表準備をする。(120 分)
7回目	児童文化財の世界 「電子紙芝居」発表(3)	教室外学習（予習、復習） テキスト第 1 部 第 6 章 を読む。電子紙芝居の発表を振り返る。(120 分)
8回目	児童文化財の世界 「電子紙芝居」発表(4)	教室外学習（予習、復習） テキスト第 1 部 第 7 章 を読む。紙皿シアターづくりの準備をする。(120 分)
9回目	文字や記号に対する感覚や興味・関心をはぐくむ保育実践	教室外学習（予習、復習） テキスト第 1 部 第 8 章 を読む。紙皿シアターづくりをする。(120 分)
10回目	遊びの実践(1)「紙皿シアターづくり」乳児保育における言葉を育む保育実践	教室外学習（予習、復習） テキスト第 1 部 第 9 章 を読む。紙皿シアターを使った指導案作成の準備をする。(120 分)
11回目	遊びの実践(2)「紙皿シアターづくり」1 歳以上 3 歳未満児の保育における言葉を育む保育実践	教室外学習（予習、復習） テキスト第 1 部 第 10 章第 1.2 節 を読む。紙皿シアターを使った指導案の作成をする。 (120 分)
12回目	3 歳以上児の保育における言葉のやり取りを育む保育実践 遊びの実践(3)紙皿シアターを使った指導案の作成	教室外学習（予習、復習） テキスト第 1 部 第 10 章 第 3 節を読む。紙皿シアターを使った模擬保育の準備をする。 (120 分)
13回目	言葉の感覚やイメージをはぐくむ保育の構想	教室外学習（予習、復習）

	遊びの実践(４)紙皿シアターを使った模擬保育の実践	テキスト第 1 部 第 11 章 を読む。紙皿シアターを使った模擬保育をする。(120 分)
１４回目	領域「言葉」と 10 の姿・小学校教育との連携・特別なニーズを持つ子ども	教室外学習（予習、復習） テキスト第 1 部 第 12 章 を読む。紙皿シアターを使った模擬保育の振り返りをする。(120 分)
１５回目	総括-保育内容「言葉」の指導法-	授業で習ったこと全般を振り返り、復習する。(120 分)

1.授業コード （ナンバリング）	EED319-A01	2.科目名	表現（指導法） Ⅰ	3.単位数	1
4.授業担当教員	大西洋史				
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	小学校一種　保育士　幼稚園一種		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習(講義・実技を含む) 模擬保育などは、集中講義になる可能性あり	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目では、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針及び幼稚園教育要領における領域「表現」について考察し、幼児の未分化な表現とその指導についての理解 を深めます。 本授業では特に、幼児の造形について取り扱い、幼児の造形作品を鑑賞したり、幼児の造形に関する研究に触れたりすることを通して幼児理解を進めるとともに、幼児と造形の関わり及びその活動 の意義を学び、併せて基礎的指導力を養います。また描いたり、つくったり、みたりする活動を通して、互 いの「違い」の面白さに気づき、色や形を介してのコミュニケー				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律的で主体的な態度（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・5 領域の中の「表現」の位置づけ、その目標と内容について理解します。 ・幼児特有の表現過程を追体験することを通して、未分化な幼児期の表現を理解し、表現をトータルに捉えて指導することの重要性及び具体的指導方法について把握します。 ・特に幼児の造形について 4 つの側面(発達的、特徴的、心理的、美的)からアプローチし、幼児の表現を 受容、共感、反応していくことの重要性について理解し、保育者としての基礎的姿勢と基本的指導技術を身につけます。				
19.教科書・教材	大橋功『美術教育概論（新訂版)』2018. ISBN978-4536601030 本書は「造形 I」(1 年春学期)で購入したものです。また、「図画工作 I」(2 年春学期)、「図画工作 II」(2 年秋学期)、「初等図画工作科教育法」(2 年秋学期)、「造形 II」(4 年秋学期)、「教職実践演習(幼)」(4 年 秋学期)と共通の教科書です。				
20.参考文献	槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 2008.ISBN 978-4893471314 厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド社 厚生労働省『保育所指針解説』フレーベル社 厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル社 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル社				
21.成績評価	①受講ノート=10%（毎回の授業について感想や質問などを 200 字程度でまとめる） ②グループワーク（①～③）＝20% ③個人ワーク（活動①～⑦）=10% ④作成した保育案・模擬授業=40% ⑤e ポートフォリオの内容=20% ・それぞれの評価基準は，1 回目の授業で配布します。 ・①③④⑤は学科の学習目標達成，②は KUIS 学習ベンチマーク達成の評価に用いる。				
22.コメント	幼児の未分化な表現を豊かに引き出すにあたって、指導者自身が描いたり、つくったりする力				

	量は必要ではありません。幼児の世界観を理解し受容し反応するできること、つまり幼児の表現を”みとる力”が必要なのです。 屈託のない無限の可能性が感じられる幼児の表現世界を体験しましょう。 そして、仲間と一緒に表現することの楽しさを味わっていきましょう。 そうすることで、魅力ある指導者への第一歩を踏み出せるでしょう。 ※遠隔授業で対応できない内容については、集中講義になる可能性があります。 ※遠隔授業の場合、必要な用具（絵の具、クレパス、色鉛筆、用紙など）については自分で用意することになります。
23.オフィスアワー	木曜昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、e ポートフォリオのアップ、 受講上の留意点などについて） グループづくり 保育所指針・幼稚園要領における「表現」とは	○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 2 回	子どもの造形活動を捉える視点 「遊びから捉える幼児の表現～自分たちの経験をもとに～」 活動①「新聞で遊ぼう」（素材を体験する 1） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 3 回	活動②「自然物で遊ぼう」（素材を体験する 2） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 4 回	活動③「絵本をつくろう」（子どもと楽しむために 1） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 5 回	活動④「絵本をつくろう 2」（子どもと楽しむために 2） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 6 回	活動⑤「たらしこみで遊ぼう」（技法を体験する 1） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 7 回	活動⑥「パステルで遊ぼう」（技法を体験する 2） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 8 回	活動⑦「クレパスで遊ぼう」（技法を体験する 3） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	◆ノートパソコン◆ ★◎保育案の作成 ○復習と授業ノートの整理（60 分）

第 9 回	幼児の造形への特徴的側面からのアプローチ 保育所指針・幼稚園要領における「表現」のねらい・内容の理解 保育指導案の構成を理解し、保育案を作成する 情報機器・教材の活用法の理解 「遊びからの表現活動を考える（保育案の作成)」	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 10 回	幼児の造形への特徴的側面からのアプローチ 「遊びからの表現活動を考える」指導案検討グループワーク	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 11 回	造形表現という側面から 活動⑦「名場面を探そう～私のおすすめ絵本～」	◆おすすめの絵本 1 冊◆ ○復習と授業ノートの整理（60 分
第 12 回	造形表現という側面から グループワーク③「絵本からの表現活動～保育案をつくろう～」 保育指導案の構成を理解し、保育案を作成する 情報機器・教材の活用法の理解	★◎保育案作成（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分
第 13 回	造形表現という側面から 「絵本からの表現活動」模擬授業・リフレクション①	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 14 回	造形表現という側面から 「絵本からの表現活動」模擬授業・リフレクション②	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 15 回	造形表現という側面から 「絵本からの表現活動」模擬授業・リフレクション③ 保育実践の動向を知り、保育構想の向上を図る	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）

1.授業コード（ナンバリング）	EED320-A01	2.科目名	表現（指導法）Ⅱ	3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	小学校一種保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	日常の身の回りの音に耳を傾け、そこから音楽を知覚・感受した内容を手遊び、身体表現(リトミック)や音楽表現に結びつける。お話の内容を理解し、場面にふさわしい音楽の挿入や即興表現する。演習を通して、保育現場で使われる行事・季節・生活の歌、リズム曲、合奏を実践する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP①自律的で主体的な態度（自律性)に関連しています。 ・「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」という幼稚園教育要領・保育所保育指針、「表現」領域の基本を理解する。 ・「いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性」「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」を体得するための演習に意欲的に取り組むことができる。 ・演習を通して、幼児の認識・思考・動き等を視野に、指導上の留意点を理解する。 ・幼児の表現活動(音楽)の指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成する。				
19.教科書・教材	楽譜及び資料は、必要に応じてプリントを配布する。				
20.参考文献					
21.成績評価	発表 音表現６％　手遊び６％　音楽づくり１２％　合奏１２％ 活動の様子 音表現４％　音楽づくり８％ 小テスト 歌唱６％＋伴奏６％＝１２％ 身体表現６％＋伴奏６％＝１２％ グループワークシート５％＋個人ワークシート１０％＝１５％ 保育指導案作成１３％				
22.コメント	授業での演習が、子どもたちとの現場に生かせる実践となるよう取り組む。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
43199	■オリエンテーション　授業の組み立て(15 回)を通して、「表現」領域の基本となる演習の目的を理解する。 ■身近な音を探してみよう・歌ってみよう・弾いてみよう 　生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ活動として、 　身近に感じることのできる音を探して、音日記をつける。	○いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として、歌の旋律と伴奏パートを練習する。1h

	音のイメージに合う楽器を選択し、グループで表現する。 幼児の認識・思考を視野に、指導上の留意点に結びつける活動として グループワークシート記入する いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として、 季節・行事	
43206	■音表現発表 音日記でつけた音のイメージに合う楽器を選択、グループで音表現を発表する。 ■歌ってみよう・弾いてみよう 季節・行事・生活の歌を歌う。歌の伴奏パートを鍵盤楽器で演奏する。 グループワークシート提出	○いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として、歌の旋律と伴奏パートを練習する。1h
43213	■歌ってみよう・弾いてみよう ヘッドホンを使用して、歌に合わせて伴奏パートを演奏する。 ■手遊びしてみよう ペアまたは 3 人で、手遊びする。	◎いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として、歌の伴奏と手遊びをパートナーと合わせて練習する。1h
43227	■小テスト 歌唱パートと伴奏をパートを交替して小テストを実施する。 ■手遊び発表 ペアまたは 3 人で、手遊びを発表する。	
43234	■音楽劇をつくろう① 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、 こども人形劇場のお話の内容を理解しお話にふさわしい音楽劇を検討する。 語り手・登場人物・音楽表現等の役割を決める。 鍵盤楽器、打楽器を使って表現をグループで工夫する。 幼児の認識・思考・動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動として ワークシートに記入する	◎感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、グループで音楽劇の役割・内容を話し合う　1.5h
43241	■音楽劇をつくろう② お話にふさわしい音楽劇を検討し、歌唱、身体表現、 鍵盤楽器、打楽器を使って表現をグループで工夫する。 幼児の認識・思考・動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動とし	◎感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、グループで音楽劇の役割・内容を話し合う　1.5h

	てワークシート記入	
43248	■音楽劇をつくろう③ お話にふさわしい音楽劇を検討し、歌唱、身体表現、 鍵盤楽器、打楽器を使って表現をグループで工夫する。 幼児の認識・思考・動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動とし てワークシート記入	◎感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、グループで音楽劇の役割・内容を話し合う　1.5h
43255	■音楽劇をつくろう④ お話にふさわしい音楽劇を検討し、歌唱、身体表現、 鍵盤楽器、打楽器を使って表現をグループで工夫する。 幼児の認識・思考・動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動とし てワークシート記入	◎感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、グループで音楽劇の役割・内容を話し合う　1.5h
43262	■音楽劇を発表しよう グループごとに作成した音楽劇を発表する ワークシート記入・提出	
43269	■乳幼児の発達と楽器の奏法を理解しよう 合奏課題曲の練習に向け、楽器の奏法(カスタネット・タンプリン・すず・ 木琴・鉄琴・ハンドベル・電子ピアノ)を理解する。 楽曲の担当パートを決定し、読譜する。	○いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として担当パートを練習する。1.5h
43276	■合奏しよう グループに分かれ合奏する。 ■保育指導案の構成をグループで考える。	○いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として担当パートを練習する。1.5h
43283	■合奏グループ発表 ■保育指導案の構成をグループで考える。	
43290	■音楽にあわせて身体表現しよう 演習を通して、リトミック、ボディパーカッション等を身体表現する。 ピアノ演奏にあわせて身体表現をペアまたは 3 人で工夫する。 ■保育指導案の構成をグループで考える。	◎幼児の動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動としてパートナーと身体表現を工夫して練習する。1h
43297	■音楽にあわせて身体表現しよう 演習を通して、リトミック、ボディパーカッション等を身体表現する。	◎幼児の動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動としてパートナーと身体表現を工夫して練習する。1h

	ピアノ演奏にあわせて身体表現をペアまたは 3 人で工夫する。 ■保育指導案の構成をグループで考える。	
43304	■身体表現を発表しよう 工夫した身体表現をペアまたは 3 人で発表する。 ■保育指導案の構成をグループで考える。	★ 保育指導案提出

1.授業コード（ナンバリング）	EED320-A02	2.科目名	表現（指導法）Ⅱ	3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	小学校一種保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	日常の身の回りの音に耳を傾け、そこから音楽を知覚・感受した内容を手遊び、身体表現(リトミック)や音楽表現に結びつける。お話の内容を理解し、場面にふさわしい音楽の挿入や即興表現する。演習を通して、保育現場で使われる行事・季節・生活の歌、リズム曲、合奏を実践する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP①自律的で主体的な態度（自律性)に関連しています。 ・「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」という幼稚園教育要領・保育所保育指針、「表現」領域の基本を理解する。 ・「いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性」「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」を体得するための演習に意欲的に取り組むことができる。 ・演習を通して、幼児の認識・思考・動き等を視野に、指導上の留意点を理解する。 ・幼児の表現活動(音楽)の指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成する。				
19.教科書・教材	楽譜及び資料は、必要に応じてプリントを配布する。				
20.参考文献					
21.成績評価	発表 音表現６％　手遊び６％　音楽づくり１２％　合奏１２％ 活動の様子 音表現４％　音楽づくり８％ 小テスト 歌唱６％＋伴奏６％＝１２％ 身体表現６％＋伴奏６％＝１２％ グループワークシート５％＋個人ワークシート１０％＝１５％ 保育指導案作成１３％				
22.コメント	授業での演習が、子どもたちとの現場に生かせる実践となるよう取り組む。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
43199	■オリエンテーション　授業の組み立て(15 回)を通して、「表現」領域の基本となる演習の目的を理解する。 ■身近な音を探してみよう・歌ってみよう・弾いてみよう 　生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ活動として、 　身近に感じることのできる音を探して、音日記をつける。	○いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として、歌の旋律と伴奏パートを練習する。1h

	音のイメージに合う楽器を選択し、グループで表現する。 幼児の認識・思考を視野に、指導上の留意点に結びつける活動として グループワークシート記入する いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として、 季節・行事	
43206	■音表現発表 音日記でつけた音のイメージに合う楽器を選択、グループで音表現を発表する。 ■歌ってみよう・弾いてみよう 季節・行事・生活の歌を歌う。歌の伴奏パートを鍵盤楽器で演奏する。 グループワークシート提出	○いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として、歌の旋律と伴奏パートを練習する。1h
43213	■歌ってみよう・弾いてみよう ヘッドホンを使用して、歌に合わせて伴奏パートを演奏する。 ■手遊びしてみよう ペアまたは 3 人で、手遊びする。	◎いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として、歌の伴奏と手遊びをパートナーと合わせて練習する。1h
43227	■小テスト 歌唱パートと伴奏をパートを交替して小テストを実施する。 ■手遊び発表 ペアまたは 3 人で、手遊びを発表する。	
43234	■音楽劇をつくろう① 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、 こども人形劇場のお話の内容を理解しお話にふさわしい音楽劇を検討する。 語り手・登場人物・音楽表現等の役割を決める。 鍵盤楽器、打楽器を使って表現をグループで工夫する。 幼児の認識・思考・動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動として ワークシートに記入する	◎感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、グループで音楽劇の役割・内容を話し合う　1.5h
43241	■音楽劇をつくろう② お話にふさわしい音楽劇を検討し、歌唱、身体表現、 鍵盤楽器、打楽器を使って表現をグループで工夫する。 幼児の認識・思考・動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動とし	◎感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、グループで音楽劇の役割・内容を話し合う　1.5h

	てワークシート記入	
43248	■音楽劇をつくろう③ お話にふさわしい音楽劇を検討し、歌唱、身体表現、 鍵盤楽器、打楽器を使って表現をグループで工夫する。 幼児の認識・思考・動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動とし てワークシート記入	◎感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、グループで音楽劇の役割・内容を話し合う　1.5h
43255	■音楽劇をつくろう④ お話にふさわしい音楽劇を検討し、歌唱、身体表現、 鍵盤楽器、打楽器を使って表現をグループで工夫する。 幼児の認識・思考・動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動とし てワークシート記入	◎感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、グループで音楽劇の役割・内容を話し合う　1.5h
43262	■音楽劇を発表しよう グループごとに作成した音楽劇を発表する ワークシート記入・提出	
43269	■乳幼児の発達と楽器の奏法を理解しよう 合奏課題曲の練習に向け、楽器の奏法(カスタネット・タンプリン・すず・ 木琴・鉄琴・ハンドベル・電子ピアノ)を理解する。 楽曲の担当パートを決定し、読譜する。	○いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として担当パートを練習する。1.5h
43276	■合奏しよう グループに分かれ合奏する。 ■保育指導案の構成をグループで考える。	○いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として担当パートを練習する。1.5h
43283	■合奏グループ発表 ■保育指導案の構成をグループで考える。	
43290	■音楽にあわせて身体表現しよう 演習を通して、リトミック、ボディパーカッション等を身体表現する。 ピアノ演奏にあわせて身体表現をペアまたは 3 人で工夫する。 ■保育指導案の構成をグループで考える。	◎幼児の動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動としてパートナーと身体表現を工夫して練習する。1h
43297	■音楽にあわせて身体表現しよう 演習を通して、リトミック、ボディパーカッション等を身体表現する。	◎幼児の動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動としてパートナーと身体表現を工夫して練習する。1h

	ピアノ演奏にあわせて身体表現をペアまたは 3 人で工夫する。 ■保育指導案の構成をグループで考える。	
43304	■身体表現を発表しよう 工夫した身体表現をペアまたは 3 人で発表する。 ■保育指導案の構成をグループで考える。	★ 保育指導案提出

1.授業コード（ナンバリング）	EED401-A01	2.科目名	幼稚園教育実習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	下里里枝、椋田善之				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	小学校一種、幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	・幼稚園教育実習は、幼稚園教諭の免許取得に必要な単位である。 ・幼稚園教育実習では、幼稚園教諭としての在り方を学ぶ。 ・ここでは、クラス担任の意図を把握して助手的な役割を務めるとともに、部分的に（部分実習）あるいは、1 日中の（責任実習）指導計画の立案・実践を行う。 ・これらを通じて、幼児期の子ども達の発達の過程や遊びの様子、友達との関わり方など具体的に学ぶ。また、幼稚園教諭として、記録の取り方、指導計画の書き方、環境構成や援助のあり方、保育の振り返り方等を具体的に学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の （4）問題発見・解決力 （5）コミュニケーションスキル （6）専門的知識・技能の活用力 それぞれの学修に関連している。 【本授業の学修目標】 （１）幼稚園教諭の役割を知り、仕事内容（実習記録など）を体験的に理解し、実践できるようになる。 （２）子どもについての理解を深め、年齢に応じた子どもへの対応をすることできる。 （３）幼稚園の家庭や地域社会への対応について理解し、説明することができる。 （４）保育者としての自らの資質を高め、保育者と具体的な事例から振り返ることができる。				
19.教科書・教材	幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 関西国際大学の「幼稚園教育実習ハンドブック」「実習記録」				
20.参考文献					
21.成績評価	・実習園の評価　50 点 ・実習記録記述　40 点 ・各資料整理　　10 点				
22.コメント	・大学で学んだことを活かし、現場で具体的に学ぶこと。 ・積極的に実習に取り組み、実りの多い実習にすること。 ・常に自分を振り返りながら、考えて行動すること。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
10 日間の実習	○本学関連の、難波愛の園幼稚園、立花愛の園幼稚園、武庫愛の園幼稚園で実習する。 ○実習前には実習園にオリエンテーションに行く。 ○観察実習 主に保育の実際を観察し、具体的な理解を深める。 ・指導教師の意図的な関わりを、詳細に記録する。	○その日の実習記録や、部分実習をするときの指導計画の作成

	・指導教師の意図に則して、子どもとかかわる。 ・子どもとかかわる中で、実習生の気づきや学びを振り返って記録する。 ・幼稚園教諭としての様々な仕事を体験する。 ※これらの活動を通して幼稚園教諭としてのありかたを学ぶ。	

1.授業コード（ナンバリング）	EED402-A02	2.科目名	幼稚園教育実習 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	下里里枝、椋田善之				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	小学校一種、幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	・幼稚園教育実習は、幼稚園教諭の免許取得に必要な単位である。 ・幼稚園教育実習では、幼稚園教諭としての在り方を学ぶ。 ・ここでは、クラス担任の意図を把握して助手的な役割を務めるとともに、部分的に（部分実習）あるいは、1 日中の（責任実習）指導計画の立案・実践を行う。 ・これらを通じて、幼児期の子ども達の発達の過程や遊びの様子、友達との関わり方など具体的に学ぶ。また、幼稚園教諭として、記録の取り方、指導計画の書き方、環境構成や援助のあり方、保育の振り返り方等を具体的に学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の （4）問題発見・解決力 （5）コミュニケーションスキル （6）専門的知識・技能の活用力 それぞれの学修に関連している。 【本授業の学修目標】 （１）幼稚園教諭の役割を知り、仕事内容（実習記録など）を体験的に理解し、実践できるようになる。 （２）子どもについての理解を深め、年齢に応じた子どもへの対応をすることできる。 （３）幼稚園の家庭や地域社会への対応について理解し、説明することができる。 （４）保育者としての自らの資質を高め、保育者と具体的な事例から振り返ることができる。				
19.教科書・教材	幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 関西国際大学の「幼稚園教育実習ハンドブック」「実習記録」				
20.参考文献					
21.成績評価	・実習園の評価　50 点 ・実習記録記述　40 点 ・各資料整理　　10 点				
22.コメント	・大学で学んだことを活かし、現場で具体的に学ぶこと。 ・積極的に実習に取り組み、実りの多い実習にすること。 ・常に自分を振り返りながら、考えて行動すること。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
10 日間の実習	○2 回目の幼稚園教育実習 自分で選んだ希望する幼稚園で実習する。 ○実習前には実習園にオリエンテーションに行く。 ○部分実習・責任実習 主に保育の実際を観察し、具体的な理解を深める。 ・指導教師の意図的な関わりを、詳細に記録する。	○その日の実習記録や、部分実習をするときの指導計画の作成

	・指導教師の意図に則して、子どもとかかわる。 ・子どもとかかわる中で、実習生の気づきや学びを振り返って記録する。 ・幼稚園教諭としての様々な仕事を体験する。 ※これらの活動を通して幼稚園教諭としてのありかたを学ぶ。	

1.授業コード（ナンバリング）	ELT101-Y71	2.科目名	英米文学概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	徳久久美子					
5.授業科目の区分	展開科目 教科及び教科の指導に関する科目-教科に関する専門的事項-英語文学	6.必修・選択の区分	選択 教職の必修	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	英語教育学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校（英語）中学　（英語）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義とグループワーク 最後に生徒による発表		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Understand and apply theories of literary analysis. Students will demonstrate an understanding of different cultures, and lifestyles and the universal reality by analyzing the stories used in the course. 英米文学の代表的な作品を読み、その表現や時代背景、文化などに理解を深める。授業ではシェイクスピアの作品					
18.学習目標とＤＰとの関連	①多様な文化を理解し尊重できる。 ②自律できる人間になる：知的好奇心(Intellectual curiosity) ③新しい知識や技能を学ぶことに関心や意欲をもつことができる。 ④コミュニケーション能力を身につける：話す・聴く力/ 意見交換力 ⑤他者の発表や文章を傾聴し、読解して、その内容の要点をとらえ、自分の疑問や意見をまとめ、 　建設的な意見交換をすることができる。					
19.教科書・教材	適宜、資料を配布します。（教科書は使用しません）					
20.参考文献						
21.成績評価	Quiz 1 =　30% Quiz 2　= 30% assignments =　20% class participation (group activities & class work) 20% TOTAL 100%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	Orientation: History of British Literature and Shakespeare オリエンテーション：英文学の流れとシェイクスピア	★Preparation for next class 次回の授業の予習：『ヴェニスの商人』の一部を日本語でもいいから読んでくる。
	Merchant of Venice 『ヴェニスの商人』の分析（グループ討論）	★Review 復習

	Merchant of Venice 『ヴェニスの商人』DVD 視聴と分析（グループ討論）	★Worksheet 次回の授業でワークシートを提出してもらうので、それを完成させる。
	Romeo and Juliet 『ロミオとジュリエット』の分析　（グループ討論） ＊『ヴェニスの商人』のワークシート提出	★Review 復習
	Modern British Short Novels 現代イギリス短編小説（D. H. Lawrence, E. M. Forster, and Kazuo Ishiguro）	★Preparation for next class 復習
	前回の続き	★Review 復習
	Introduction of British Poems イギリスの名詩選の紹介 シェイクスピア、ワーズワース、ブレイク、キーツ、ハーディー、ロレンスなどの詩を分析する。声に出して朗読し、暗唱する。	★Preparation for recitation of a poem 詩の暗唱テストのための準備
	Recitation and presentation 詩の一節を暗唱し、詩の解釈を発表する。	★Preparation for review quiz 復習テスト１のため勉強
	Review quiz１　（復習テスト 1） Introduction of　History of American Literature アメリカ文学の流れ	★Preparation for next class 『グレート・ギャッツビー』の一部を読んで、内容理解する。
	The Great Gatsby 『グレート・ギャツビー』の分析　（グループ討論）	★Review 復習
	The Great Gatsby 『グレート・ギャツビー』のＤＶＤ視聴と分析（グループ討論）	★Worksheet ワークシートを完成させる。次回の授業で提出する。
	Introduction of American poems アメリカの代表的な詩一つを選んで、グループごとに作者、時代背景を調べ、詩の解釈を発表するために討論する。 ＊『グレート・ギャッツビー』のワークシート提出	★Preparation for presentation 発表のための準備
	Presentation of American Poems 詩の作者、時代背景、解釈の発表	★Review 復習
	British & American popular songs or rock music イギリス・アメリカのポップス、ロック音楽の分析	★Preparation for review quiz 2 復習テスト２のための勉強
	Review Quiz and Conclusion 復習テストと総括	

1.授業コード（ナンバリング）	EPE101-A01	2.科目名	体育指導Ⅰ（1/4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	今中洋				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 回生～
10.取得資格の要件	小学校一種保育士　幼稚園一種	11.先修条件	3 回生・4 回生秋学期開講の「幼児指導法」を履修することで、より深く実技と理論の両方を学ぶことが出来る。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習＆講義		
16.履修制限	履修の制限制として、実技を含みますので最大 50 名までとします。				
17.授業の目的と概要	幼児期の子どもたちに相応しい運動プログラムやふれあいゲームの内容を講義・実技を通して学びます。また、幼児の特性を理解した指導上の「展開」「配慮」「適切な援助やかかわり」など、指導者として必要な資質を身につけます。その他、幼児の運動プログラムを通して、子どもの発育・発達などに触れ、身体面・精神面での特徴（子ども理解）などの知識を深めます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	※この科目では、講義やグループでの演習（実技）にて共に活動を体験し、考えや意見を出し合いながら、以下の事柄を学びます。 主に【専門的知識・技術活用力】・【コミュニケーションスキル】を身に着けます。 具体的には… ①幼児に相応しい運動プログラムの理論と実践を学ぶ。 ②幼児の発育発達を理解し、それを踏まえた指導法を学ぶ。 ③幼児の特性を理解し、適切な配慮と援助（かかわり方）を学ぶ。				
19.教科書・教材	授業内に適宜プリント・テキストを配布。（Web クラスにて配信）				
20.参考文献	幼児期運動指針（文部科学省より）				
21.成績評価	①授業の振り返りレポート＝30％ （実技演習の際、授業の振り返りレポートを A4 レポート用紙にまとめ翌週に提出。） ②グループワークシート（2 回）＝20％ （グループワークを行った授業の際、もしくは翌週に提出。） ③総括試験＝50％				
22.コメント	■「実技演習」の際には、必ず大学指定のジャージ上下を着用のこと。毎回、インシューズを持参。 また、アクセサリー類（ピアス・指輪・ネックレス）などは、事前にはずしておくこと。 ■コミュニケーション力・リーダーシップ・メンバーシップを高める為に、授業の中にグループワークを取り入れる。 ■演習（実技）では、自ら学ぶことと楽しむことを忘れず、仲間と共に積極的に参加すること。				
23.オフィスアワー	金曜日 2 限目・3 限目の時間帯に講師控室にて質問などを受け付けています。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目 4/12	春学期オリエンテーション＝「講義」 ※年間授業のテーマと概要の説明。 ※春学期授業の具体的な内容とテーマの解説。 ※授業シラバス持参。	○幼児の運動プログラムについて自分なりに調べる（120 分） ○シラバスの内容を事前に確認しておく。

第 2 回目 4/19	ふれあいあそび/ゲーム＝「実技」 ※手具・道具などを使わない様々なふれあいあそび/ゲームの指導展開。 ※子ども同士がふれあう場面を生み出す指導展開。	○ふれあいあそび/ゲームの復習としてポイントやねらい書き出して資料としてまとめておく。(60 分) ○ふれあいあそび/ゲームの指導展開方法を実践できるようにイメージを深める。(60 分)
第 3 回目 4/26	マットを使った運動あそび/ゲーム＝「実技」 ※マットの特性を活かした運動あそびの指導法。 ※マットを使った運動種目、あそび/ゲームの紹介。	○マットを使った運動あそび/ゲームの復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。(60 分) ○マットを使った運動あそび/ゲームの指導展開方法を実践できるようにイメージを深める（60 分）
第 4 回目 5/10	イスなどを使った保育室（室内）でも楽しめる運動あそび/ゲーム＝「実技」 ※イスなどを使って子ども同士が主体的に活動できるあそびの指導展開。 ※保育室（室内）でも十分に満足できるあそびの指導展開。	○イスなどを使った運動あそび/ゲームの復習とポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○イスなどを使った運動あそび/ゲームの指導展開補法を実践できるようにイメージを深めておく。(60 分)
第 5 回目 5/17	フープを使った運動あそび/ゲーム＝「実技」 ※フープあそびを通したふれあいあそび/ゲームの指導展開。 ※フープの特性を活かし、操作性を高めるあそびの指導法。	○フープを使った運動あそび/ゲームの復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○フープを使った運動あそび/ゲームの指導展開方法を実践できるようにイメージを深める（60 分）
第 6 回目 5/24	子どもたちを取り巻く環境と発育発達＝「講義」 ※幼児期の子どもたちの現状と発育発達について理解を深める。 ※幼児期の現状や発育発達を踏まえた、幼児期に相応しい運プログラムを考察。	○幼児期の子どもたちの現状やカラダの仕組みなどを事前に調べておく（120 分） ○幼児期に相応しい運動あそびを復習としてポイントやねらいをまとめておく。(60 分) ※ノート PC を持参。
第 7 回目 5/31	技能指導Ⅰ＝「実技」 ※マットの技能指導、段階指導（幼児） ※マットの技能指導、安全な補助法（幼児）	○マットの技能指導、安全な補助法の復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○マットの技能指導、安全な補助法を実践できるようにイメージを深める（60 分）
第 8 回目 6/7	技能指導Ⅱ＝「実技」 ※跳び箱の技能指導、段階指導（幼児） ※跳び箱の技能指導の安全な補助法（幼児）	○跳び箱の技能指導、安全な補助法の復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○跳び箱の技能指導、安全な補助法を実践できるようにイメージを深める（60 分）
第 9 回目 6/14	技能指導Ⅲ＝「実技」 ※鉄棒の技能指導、段階指導（幼児）	○鉄棒の技能指導、安全な補助法の復習としてポイントやねらいを書きだして資料として

	※鉄棒の技能指導の安全な補助法（幼児）	まとめておく。(60 分) 〇鉄棒の技能指導、安全な補助法を実践できるようにイメージを深める（60 分）
第 10 回目 6/21	技能指導Ⅳ＝「講義」 ※マット/跳び箱/鉄棒の技能指導・段階指導・安全な補助法の振り返り＆まとめ ※体操づくりの内容説明・グループ決め。	〇すべての技能指導・安全な補助法の復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) 〇グループ内での検討・イメージして体操を創作する。(60 分) 13 回目の授業にて発表。 ※ノート PC 持参。
第 11 回目 6/28	ボールを使った運動あそび＝「実技」 ※ボールあそびを通したふれあいあそび/ゲームの指導展開。 ※ボールの特性を活かし、操作性を高めるあそびの指導法。	〇ボールを使った運動あそび/ゲームの復習復としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) 〇ボールを使った運動あそび〔/ゲームの指導展開を実践できるようにイメージを深める。（60 分）
第 12 回目 7/5	バルーンあそび～バルーン演技＝「実技」 ※バルーンを使ったふれあいあそび/ゲームの指導展開。 ※バルーンあそび、演技の紹介。	〇バルーンを使った運動あそび/ゲームの復習復としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) 〇バルーンを使った運動あそび〔/ゲームの指導展開を実践できるようにイメージを深める。(60 分)
第 13 回目 7/12	体操づくり＝「実技」 ※グループごとで創作した「リズム体操」の発表。 ※「リズム体操」づくりの復習としてポイントねらいを書きだして資料としてまとめておく。	〇いろんな体操を実践できるようにイメージを深める（60 分） 〇グループ内で検討、イメージして体操を創作する。(60 分)
第 14 回目 7/19	幼児のプールあそび＆指導法「講義」 春学期の振り返り＆まとめ ※幼稚園・保育園の園生活におけるプールあそびの指導展開。 ※プールあそびでの安全の配慮と注意点。 ※春学期の実技・講義のまとめ＆振り返り。	資料としてまとめておく。(60 分) 〇プール指導展開方法を実践できるようにイメージを深めておく。 〇春学期の実技・講義を振り返り、まとめておく。 ◆ノート PC 持参。
第 15 回目 7/26	総括試験（春学期）	

1.授業コード（ナンバリング）	EPE101-A02	2.科目名	体育指導Ⅰ（2/4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	大平誠也				
5.授業科目の区分	展開科目 保健体育科教育分野における実務経験のある教員の授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	小学校一種 保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	仲間との協同学修を通して、各種目の運動技能を高めるとともに、小学校における楽しい体育学習のあり方について実践的に学修し、不安感を改善する。 ・ボール運動プログラム ・体つくり運動プログラム（主として縄を使って） ・陸上運動プログラム 小学校の体育指導の問題点は、低学年の指導にあることから想定される課題解決に取り組む。				
18.学習目標とＤＰとの関連	DP との関連 ③コミュニケーション力の獲得・実践 ④知識と経験の総合化 ・小学校体育への接続を理解することができる（知識） ・子どもに寄り添う支援・指導の技術を習得することができる（技能） ・健康・安全に配慮し、意欲的に運動に取り組むことができる（態度）				
19.教科書・教材	使用しない。				
20.参考文献	「小学校学習指導要領　体育編」 「体育科教育（月刊雑誌）」（大修館書店） 「やってみる　ひろげる　ふかめる」（光文書院）				
21.成績評価	①授業の振り返りレポート　　30％ （毎時間記入し、授業終了時に提出） ②グループワークシート（2 回）　30％ （各運動プログラム後にグループワークを行い、授業後もしくは翌週に提出） ③総括試験　　40％ 実技科目なので、①、②は出席が前提です。				
22.コメント	■注意事項 ・感染予防の観点から、専用のマスクと手袋などを準備すること。 ・実技の受講にあたっては、指定の体操服、体育館シューズを着用すること。 ・安全のため、長髪はまとめ、爪は切ること。装飾品（ピアス、ネックレス等）は、禁止。 ・補給用の水分を持参し、運動中の水分補給には気をつけること。 ■場所 ・教室（尼崎キャンパス） ・体育館 ＊体育館の使用時は、挨拶等のマナーを守り行動すること。				
23.オフィスアワー	火曜日（12：10～13：10）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)

【第 1 回】(4/12) (SA)	■オリエンテーション ・体育指導Ⅰについて ・授業参加についての注意事項 ・仲間づくり（自己紹介に変更） ・新聞紙ボールづくり ・新聞紙フリスビーづくり	○ストレッチについて調べておく　50 分 ○新聞紙ボールについて調べておく　30 分
【第 2 回】対面授業 体育館 (SA)	ボール運動プログラム① ・ボール運動につながる動きの習得と新聞紙ボールによるゲーム ・緊急事態宣言等の場合、遠隔など変更になる場合があります。	○新聞紙ボールを使った準備運動について調べておく。　50 分
【第 3 回】対面授業 体育館 (SA)	ボール運動プログラム② ・ポートボールをしよう	○3 オン 3 について調べておく。５０分 ○ボールを持たない動きについて調べておく。　５０分
【第 4 回】対面授業 体育館（SA）	ボール運動プログラム? ・ゴール型ゲーム（バスケットボール）をしよう 　タスクゲームについて学ぼう	○バスケットボールのルールについて調べておく。　40 分 ○タスクゲームについて調べておく。　50 分
【第 5 回】対面授業 体育館（SA）	ボール運動プログラム? ・ゴール型ゲーム（バスケットボール　大会とその運営） 　生涯にわたって楽しむために	○大会運営について企画しておく。　40 分。
【第 6 回】教室(SA)	ボール運動プログラムのまとめ（グループワーク１） 　まとめ 　幼稚園、保育所、小学校でボール運動を進めるには	○ＰＣ持参。付箋、マジック等の準備。 ○幼稚園、保育所、小学校でボール遊びを指導する際の留意点について調べておく。50 分
【第 7 回】対面授業 体育館　(SA)	体つくり運動プログラム① ・バランスボールを使った体つくり運動	○バランスボールの効果的な活用について調べておく。 50 分
【第 8 回】対面授業 体育館(SA)	体つくり運動プログラム② ・縄を使った体つくり運動（主として小学校低学年）	○自らの経験を振り返りつつ、低学年児童の特徴についてまとめておく。50 分 ○ふりかえりを踏まえ、高学年児童が取り組む縄跳びについて調べておく　50 分
【第 9 回】対面授業 体育館　(SA)	体つくり運動プログラム? ・縄を使った体つくり運動（主として小学校高学年）	○学習カードに個人の学習成果を記入し、まとめておく。　40 分 ○集団で楽しむ縄跳びについて調べておく。 50 分
【第 10 回】対面授業 体育館　(SA)	体つくり運動プログラム? ・縄を使った体つくり運動（集団型）	○集団で楽しむ縄跳びについてまとめておく。　40 分 ○支援・指導の観点から縄跳びについてまとめておく。　50 分

【第 11 回】教室(SA)	体つくり運動のまとめ（グループワーク２） 縄を使った体つくり運動についてまとめる。 活用方法についてまとめ、グループで交流する。	○さまざまなかけっこについて調べておく。 50 分
【第 12 回】対面授業 体育館 (SA)	陸上運動プログラム ・さまざまなかけっこ（幼保小　低学年向き）	○体験したさまざまなかけっこについてまとめておく。　50 分
【第 13 回】対面授業 体育館 (SA)	陸上運動プログラム② ・さまざまな障害走	○さまざまな障害走についてまとめておく。 50 分
【第 14 回】体育館 (SA)	陸上運動プログラム? ・さまざまなリレー	○さまざまなリレーについてまとめておく。 40 分 ○体育指導Ⅰを受講して、体育に対する考え方がどのように変化したのかについてまとめておく。　50 分
【第 15 回】教室(SA)	体育指導Ⅰのまとめ・レポート課題	

1.授業コード（ナンバリング）	EPE101-A03	2.科目名	体育指導Ⅰ（3/4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	大平誠也				
5.授業科目の区分	展開科目 保健体育科教育分野における実務経験のある教員の授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	小学校一種 保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	仲間との協同学修を通して、各種目の運動技能を高めるとともに、小学校における楽しい体育学習のあり方について実践的に学修し、不安感を改善する。 ・ボール運動プログラム ・体つくり運動プログラム（主として縄を使って） ・陸上運動プログラム 小学校の体育指導の問題点は、低学年の指導にあることから想定される課題解決に取り組む。				
18.学習目標とＤＰとの関連	DP との関連 ③コミュニケーション力の獲得・実践 ④知識と経験の総合化 ・小学校体育への接続を理解することができる（知識） ・子どもに寄り添う支援・指導の技術を習得することができる（技能） ・健康・安全に配慮し、意欲的に運動に取り組むことができる（態度）				
19.教科書・教材	使用しない。				
20.参考文献	「小学校学習指導要領　体育編」 「体育科教育（月刊雑誌）」（大修館書店） 「やってみる　ひろげる　ふかめる」（光文書院）				
21.成績評価	①授業の振り返りレポート　　30％ （毎時間記入し、授業終了時に提出） ②グループワークシート（2 回）　30％ （各運動プログラム後にグループワークを行い、授業後もしくは翌週に提出） ③総括試験　　40％ 実技科目なので、①、②は出席が前提です。				
22.コメント	■注意事項 ・感染予防の観点から、専用のマスクと手袋などを準備すること。 ・実技の受講にあたっては、指定の体操服、体育館シューズを着用すること。 ・安全のため、長髪はまとめ、爪は切ること。装飾品（ピアス、ネックレス等）は、禁止。 ・補給用の水分を持参し、運動中の水分補給には気をつけること。 ■場所 ・教室（尼崎キャンパス） ・体育館 ＊体育館の使用時は、挨拶等のマナーを守り行動すること。				
23.オフィスアワー	火曜日（12：10～13：10）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)

【第 1 回】(4/12) (SA)	■オリエンテーション ・体育指導Ⅰについて ・授業参加についての注意事項 ・仲間づくり（自己紹介に変更） ・新聞紙ボールづくり ・新聞紙フリスビーづくり	○ストレッチについて調べておく　50 分 ○新聞紙ボールについて調べておく　30 分
【第 2 回】対面授業 体育館 (SA)	ボール運動プログラム① ・ボール運動につながる動きの習得と新聞紙ボールによるゲーム ・緊急事態宣言等の場合、遠隔など変更になる場合があります。	○新聞紙ボールを使った準備運動について調べておく。　50 分
【第 3 回】対面授業 体育館 (SA)	ボール運動プログラム② ・ポートボールをしよう	○3 オン 3 について調べておく。５０分 ○ボールを持たない動きについて調べておく。　５０分
【第 4 回】対面授業 体育館（SA）	ボール運動プログラム? ・ゴール型ゲーム（バスケットボール）をしよう 　タスクゲームについて学ぼう	○バスケットボールのルールについて調べておく。　40 分 ○タスクゲームについて調べておく。　50 分
【第 5 回】対面授業 体育館（SA）	ボール運動プログラム? ・ゴール型ゲーム（バスケットボール　大会とその運営） 　生涯にわたって楽しむために	○大会運営について企画しておく。　40 分。
【第 6 回】教室(SA)	ボール運動プログラムのまとめ（グループワーク１） 　まとめ 　幼稚園、保育所、小学校でボール運動を進めるには	○ＰＣ持参。付箋、マジック等の準備。 ○幼稚園、保育所、小学校でボール遊びを指導する際の留意点について調べておく。50 分
【第 7 回】対面授業 体育館　(SA)	体つくり運動プログラム① ・バランスボールを使った体つくり運動	○バランスボールの効果的な活用について調べておく。 50 分
【第 8 回】対面授業 体育館(SA)	体つくり運動プログラム② ・縄を使った体つくり運動（主として小学校低学年）	○自らの経験を振り返りつつ、低学年児童の特徴についてまとめておく。50 分 ○ふりかえりを踏まえ、高学年児童が取り組む縄跳びについて調べておく　50 分
【第 9 回】対面授業 体育館　(SA)	体つくり運動プログラム? ・縄を使った体つくり運動（主として小学校高学年）	○学習カードに個人の学習成果を記入し、まとめておく。　40 分 ○集団で楽しむ縄跳びについて調べておく。 50 分
【第 10 回】対面授業 体育館　(SA)	体つくり運動プログラム? ・縄を使った体つくり運動（集団型）	○集団で楽しむ縄跳びについてまとめておく。　40 分 ○支援・指導の観点から縄跳びについてまとめておく。　50 分

【第 11 回】教室(SA)	体つくり運動のまとめ（グループワーク２） 縄を使った体つくり運動についてまとめる。 活用方法についてまとめ、グループで交流する。	○さまざまなかけっこについて調べておく。 50 分
【第 12 回】対面授業 体育館 (SA)	陸上運動プログラム ・さまざまなかけっこ（幼保小　低学年向き）	○体験したさまざまなかけっこについてまとめておく。　50 分
【第 13 回】対面授業 体育館 (SA)	陸上運動プログラム② ・さまざまな障害走	○さまざまな障害走についてまとめておく。 50 分
【第 14 回】体育館 (SA)	陸上運動プログラム? ・さまざまなリレー	○さまざまなリレーについてまとめておく。 40 分 ○体育指導Ⅰを受講して、体育に対する考え方がどのように変化したのかについてまとめておく。　50 分
【第 15 回】教室(SA)	体育指導Ⅰのまとめ・レポート課題	

1.授業コード（ナンバリング）	EPE101-A04	2.科目名	体育指導Ⅰ（4/4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	今中洋				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 回生～
10.取得資格の要件	小学校一種保育士　幼稚園一種	11.先修条件	3 回生・4 回生秋学期開講の「幼児指導法」を履修することで、より深く実技と理論の両方を学ぶことが出来る。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習＆講義		
16.履修制限	履修の制限制として、実技を含みますので最大 50 名までとします。				
17.授業の目的と概要	幼児期の子どもたちに相応しい運動プログラムやふれあいゲームの内容を講義・実技を通して学びます。また、幼児の特性を理解した指導上の「展開」「配慮」「適切な援助やかかわり」など、指導者として必要な資質を身につけます。その他、幼児の運動プログラムを通して、子どもの発育・発達などに触れ、身体面・精神面での特徴（子ども理解）などの知識を深めます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	※この科目では、講義やグループでの演習（実技）にて共に活動を体験し、考えや意見を出し合いながら、以下の事柄を学びます。 主に【専門的知識・技術活用力】・【コミュニケーションスキル】を身に着けます。 具体的には… ①幼児に相応しい運動プログラムの理論と実践を学ぶ。 ②幼児の発育発達を理解し、それを踏まえた指導法を学ぶ。 ③幼児の特性を理解し、適切な配慮と援助（かかわり方）を学ぶ。				
19.教科書・教材	授業内に適宜プリント・テキストを配布。（Web クラスにて配信）				
20.参考文献	幼児期運動指針（文部科学省より）				
21.成績評価	①授業の振り返りレポート＝30％ （実技演習の際、授業の振り返りレポートを A4 レポート用紙にまとめ翌週に提出。） ②グループワークシート（2 回）＝20％ （グループワークを行った授業の際、もしくは翌週に提出。） ③総括試験＝50％				
22.コメント	■「実技演習」の際には、必ず大学指定のジャージ上下を着用のこと。毎回、インシューズを持参。 また、アクセサリー類（ピアス・指輪・ネックレス）などは、事前にはずしておくこと。 ■コミュニケーション力・リーダーシップ・メンバーシップを高める為に、授業の中にグループワークを取り入れる。 ■演習（実技）では、自ら学ぶことと楽しむことを忘れず、仲間と共に積極的に参加すること。				
23.オフィスアワー	金曜日 2 限目・3 限目の時間帯に講師控室にて質問などを受け付けています。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目 4/12	春学期オリエンテーション＝「講義」 ※年間授業のテーマと概要の説明。 ※春学期授業の具体的な内容とテーマの解説。 ※授業シラバス持参。	○幼児の運動プログラムについて自分なりに調べる（120 分） ○シラバスの内容を事前に確認しておく。

第 2 回目 4/19	ふれあいあそび/ゲーム＝「実技」 ※手具・道具などを使わない様々なふれあいあそび/ゲームの指導展開。 ※子ども同士がふれあう場面を生み出す指導展開。	○ふれあいあそび/ゲームの復習としてポイントやねらい書き出して資料としてまとめておく。(60 分) ○ふれあいあそび/ゲームの指導展開方法を実践できるようにイメージを深める。(60 分)
第 3 回目 4/26	マットを使った運動あそび/ゲーム＝「実技」 ※マットの特性を活かした運動あそびの指導法。 ※マットを使った運動種目、あそび/ゲームの紹介。	○マットを使った運動あそび/ゲームの復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。(60 分) ○マットを使った運動あそび/ゲームの指導展開方法を実践できるようにイメージを深める（60 分）
第 4 回目 5/10	イスなどを使った保育室（室内）でも楽しめる運動あそび/ゲーム＝「実技」 ※イスなどを使って子ども同士が主体的に活動できるあそびの指導展開。 ※保育室（室内）でも十分に満足できるあそびの指導展開。	○イスなどを使った運動あそび/ゲームの復習とポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○イスなどを使った運動あそび/ゲームの指導展開補法を実践できるようにイメージを深めておく。(60 分)
第 5 回目 5/17	フープを使った運動あそび/ゲーム＝「実技」 ※フープあそびを通したふれあいあそび/ゲームの指導展開。 ※フープの特性を活かし、操作性を高めるあそびの指導法。	○フープを使った運動あそび/ゲームの復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○フープを使った運動あそび/ゲームの指導展開方法を実践できるようにイメージを深める（60 分）
第 6 回目 5/24	子どもたちを取り巻く環境と発育発達＝「講義」 ※幼児期の子どもたちの現状と発育発達について理解を深める。 ※幼児期の現状や発育発達を踏まえた、幼児期に相応しい運プログラムを考察。	○幼児期の子どもたちの現状やカラダの仕組みなどを事前に調べておく（120 分） ○幼児期に相応しい運動あそびを復習としてポイントやねらいをまとめておく。(60 分) ※ノート PC を持参。
第 7 回目 5/31	技能指導Ⅰ＝「実技」 ※マットの技能指導、段階指導（幼児） ※マットの技能指導、安全な補助法（幼児）	○マットの技能指導、安全な補助法の復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○マットの技能指導、安全な補助法を実践できるようにイメージを深める（60 分）
第 8 回目 6/7	技能指導Ⅱ＝「実技」 ※跳び箱の技能指導、段階指導（幼児） ※跳び箱の技能指導の安全な補助法（幼児）	○跳び箱の技能指導、安全な補助法の復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○跳び箱の技能指導、安全な補助法を実践できるようにイメージを深める（60 分）
第 9 回目 6/14	技能指導Ⅲ＝「実技」 ※鉄棒の技能指導、段階指導（幼児）	○鉄棒の技能指導、安全な補助法の復習としてポイントやねらいを書きだして資料として

	※鉄棒の技能指導の安全な補助法（幼児）	まとめておく。(60 分) 〇鉄棒の技能指導、安全な補助法を実践できるようにイメージを深める（60 分）
第 10 回目 6/21	技能指導Ⅳ＝「講義」 ※マット/跳び箱/鉄棒の技能指導・段階指導・安全な補助法の振り返り＆まとめ ※体操づくりの内容説明・グループ決め。	〇すべての技能指導・安全な補助法の復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) 〇グループ内での検討・イメージして体操を創作する。(60 分) 13 回目の授業にて発表。 ※ノート PC 持参。
第 11 回目 6/28	ボールを使った運動あそび＝「実技」 ※ボールあそびを通したふれあいあそび/ゲームの指導展開。 ※ボールの特性を活かし、操作性を高めるあそびの指導法。	〇ボールを使った運動あそび/ゲームの復習復としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) 〇ボールを使った運動あそび〔/ゲームの指導展開を実践できるようにイメージを深める。（60 分）
第 12 回目 7/5	バルーンあそび～バルーン演技＝「実技」 ※バルーンを使ったふれあいあそび/ゲームの指導展開。 ※バルーンあそび、演技の紹介。	〇バルーンを使った運動あそび/ゲームの復習復としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) 〇バルーンを使った運動あそび〔/ゲームの指導展開を実践できるようにイメージを深める。(60 分)
第 13 回目 7/12	体操づくり＝「実技」 ※グループごとで創作した「リズム体操」の発表。 ※「リズム体操」づくりの復習としてポイントねらいを書きだして資料としてまとめておく。	〇いろんな体操を実践できるようにイメージを深める（60 分） 〇グループ内で検討、イメージして体操を創作する。(60 分)
第 14 回目 7/19	幼児のプールあそび＆指導法「講義」 春学期の振り返り＆まとめ ※幼稚園・保育園の園生活におけるプールあそびの指導展開。 ※プールあそびでの安全の配慮と注意点。 ※春学期の実技・講義のまとめ＆振り返り。	資料としてまとめておく。(60 分) 〇プール指導展開方法を実践できるようにイメージを深めておく。 〇春学期の実技・講義を振り返り、まとめておく。 ◆ノート PC 持参。
第 15 回目 7/26	総括試験（春学期）	

1.授業コード（ナンバリング）	EPE103-A01	2.科目名	造形Ⅰ（1/3）	3.単位数	1
4.授業担当教員	山口由紀子				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	小学校二種(通信) 小学校一種 保育士 幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習(講義・実技を含む)		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】幼保連携型こども園教育・保育要領、保育所保育指針及び幼稚園教育要領における領域「表現」について考察し、幼児の未分化な表現とその指導についての理解を深めます。 【概要】本授業では特に幼児造形について取り扱い、造形表現活動の援助についての基礎的な理論や方法、所謂その環境について考察します。個人や仲間と共同で取り組む作品制作を通して、さまざまな材料や画材、表現方法に触れ、つくる・かく・みる・感じる等の活動を通して互いの「違い」の面白さに気づき、色や形を介してのコミュニケーションの意義を認識します。それ				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ①５領域の中の「表現」の位置付けと、その目標と内容について理解することができる。 ②幼児の造形の発達や特性について理解することができる。 ③様々な素材、道具や画材等に触れてその特性を理解し、造形表現の基礎的な知識や技能を身につけることができる。 ④個人や仲間と共同で作品制作に取り組み、造形表現活動に関心を持つことができる。				
19.教科書・教材	大橋功『美術教育概論(改訂版)』 2019.ISBN978-4-536-60021-7				
20.参考文献	厚生労働省・文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド社 厚生労働省『保育所指針解説』 フレーベル社 厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル社 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル社 文部科学省『小学校学習指導要領解説図画工作編』 日本文教出版				
21.成績評価	評価の方法は、下記の３項目を基に総合的に判断します。 課題１：制作活動・その過程と作品 40%［学習目標③④に対応］ 課題２：各課題のワークシート作成・授業ファイル 40% ［学習目標①②③④に対応］ 課題３：課題レポート２０%［学習目標①②に対応］ ※全てについて提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。				
22.コメント	結果よりもそれまでの過程を大切に、丁寧に経験しながらそれぞれが関わっているそのまわりに存在するモノとの面白いコトを、みんなで一緒に発見して感じていきたいと思います。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室で質問を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	オリエンテーション （本授業の目標・内容・評価の方法・進め方の確認、受講における留意点について） ・活動１　ミニディスカッション「表現すること」 領域「表現」の目標と内容について	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認） ノートパソコンを持参すること

		各授業内課題が未完了の場合は次回までに達成させておくこと
第 2 回	・活動 2　「こどもの表現との対話」 こどもの表現の姿-描画の発達	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 3 回	・活動 3　「イロと対話する」様々な画材を知る	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 4 回	・活動 4　「センやメンやイロと対話する」技法あそびの展開 1 手足の感覚を通して関わる技法あそび	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 5 回	・活動 5　「センやメンやイロやオトと対話する」技法あそびの展開 2	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 6 回	・活動 6　「文化との対話」児童文化財-絵本の活用 技法遊びの展開 3	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 7 回	・活動 7　「空間と対話する」 空間を諸感覚で楽しむ活動 情報機器の活用-教材研究のあり方	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 8 回	・活動 8　グループワーク「まわりとの対話」	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 9 回	・活動 9　「素材を感じてみよう」	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 10 回	・活動 10　「素材との対話」	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認） ノートパソコンを持参すること
第 11 回	・活動 11　「カミを感じてみよう」 うつして表現する版画活動	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 12 回	・活動 12　「カミとの対話」 空間を使った身体表現活動 「モノで遊ぶ」の発想を大切にした教材研究	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）

第 13 回	・活動 13　「自然を感じてみよう」 自然の色や形に触れる活動 生活と造形-染色活動	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 14 回	・活動 14　「自然との対話」 生活と造形-鑑賞	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 15 回	・活動 15　こどもの造形表現活動の支援について 学びや鑑賞、活動のまとめ	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 課題提出　まとめ ノートパソコンを持参すること

1.授業コード（ナンバリング）	EPE103-A02	2.科目名	造形Ⅰ（3/3）	3.単位数	1
4.授業担当教員	山口由紀子				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	小学校二種(通信) 小学校一種 保育士 幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習(講義・実技を含む)		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】幼保連携型こども園教育・保育要領、保育所保育指針及び幼稚園教育要領における領域「表現」について考察し、幼児の未分化な表現とその指導についての理解を深めます。 【概要】本授業では特に幼児造形について取り扱い、造形表現活動の援助についての基礎的な理論や方法、所謂その環境について考察します。個人や仲間と共同で取り組む作品制作を通して、さまざまな材料や画材、表現方法に触れ、つくる・かく・みる・感じる等の活動を通して互いの「違い」の面白さに気づき、色や形を介してのコミュニケーションの意義を認識します。それ				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ①５領域の中の「表現」の位置付けと、その目標と内容について理解することができる。 ②幼児の造形の発達や特性について理解することができる。 ③様々な素材、道具や画材等に触れてその特性を理解し、造形表現の基礎的な知識や技能を身につけることができる。 ④個人や仲間と共同で作品制作に取り組み、造形表現活動に関心を持つことができる。				
19.教科書・教材	大橋功『美術教育概論(改訂版)』 2019.ISBN978-4-536-60021-7				
20.参考文献	厚生労働省・文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド社 厚生労働省『保育所指針解説』 フレーベル社 厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル社 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル社 文部科学省『小学校学習指導要領解説図画工作編』 日本文教出版				
21.成績評価	評価の方法は、下記の３項目を基に総合的に判断します。 課題１：制作活動・その過程と作品 40%［学習目標③④に対応］ 課題２：各課題のワークシート作成・授業ファイル 40% ［学習目標①②③④に対応］ 課題３：課題レポート２０%［学習目標①②に対応］ ※全てについて提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。				
22.コメント	結果よりもそれまでの過程を大切に、丁寧に経験しながらそれぞれが関わっているそのまわりに存在するモノとの面白いコトを、みんなで一緒に発見して感じていきたいと思います。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室で質問を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	オリエンテーション （本授業の目標・内容・評価の方法・進め方の確認、受講における留意点について） ・活動１ ミニディスカッション「表現すること」 領域「表現」の目標と内容について	復習；今回の復習及び活動の記録・ ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認） ノートパソコンを持参すること

		各授業内課題が未完了の場合は次回までに達成させておくこと
第 2 回	・活動 2　「こどもの表現との対話」 こどもの表現の姿-描画の発達	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 3 回	・活動 3　「イロと対話する」様々な画材を知る	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 4 回	・活動 4　「センやメンやイロと対話する」技法あそびの展開 1 手足の感覚を通して関わる技法あそび	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 5 回	・活動 5　「センやメンやイロやオトと対話する」技法あそびの展開 2	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 6 回	・活動 6　「文化との対話」児童文化財-絵本の活用 技法遊びの展開 3	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 7 回	・活動 7　「空間と対話する」 空間を諸感覚で楽しむ活動 情報機器の活用-教材研究のあり方	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 8 回	・活動 8　グループワーク「まわりとの対話」	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 9 回	・活動 9　「素材を感じてみよう」	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 10 回	・活動 10　「素材との対話」	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認） ノートパソコンを持参すること
第 11 回	・活動 11　「カミを感じてみよう」 うつして表現する版画活動	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 12 回	・活動 12　「カミとの対話」 空間を使った身体表現活動 「モノで遊ぶ」の発想を大切にした教材研究	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）

第 13 回	・活動 13　「自然を感じてみよう」 自然の色や形に触れる活動 生活と造形-染色活動	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 14 回	・活動 14　「自然との対話」 生活と造形-鑑賞	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 予習；次回の予習 （Web Class の確認）
第 15 回	・活動 15　こどもの造形表現活動の支援について 学びや鑑賞、活動のまとめ	復習；今回の復習及び活動の記録・　ワークシートの整理 課題提出　まとめ ノートパソコンを持参すること

1.授業コード（ナンバリング）	EPE103-A03	2.科目名	造形Ⅰ（2/3）	3.単位数	1
4.授業担当教員	辻田美和				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）　小学校一種 保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習(講義・実技を含む)		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目では、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針及び幼稚園教育要領における領域「表現」の造形表現について学び、作品制作活動などの実技を通して、幼児の未分化な表現とその指導についての理解を深めます。 【概要】 幼保連携型認定こども園教育・保育指導についての理解を深めます。本授業では特に、幼児の造形について取り扱い、造形表現活動の支援についての基礎的な理論と方法、技術を学びます。個人や仲間と共同で取り組む作品制作活動を通して、様々な材料や、画材、表現方法に触れ、実践に活かすことので				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学修目標は次の通りです。 ①5 領域の中の「表現」について、その目標と内容について理解することができる。 ②幼児の造形の発達や特性について理解することができる。 ③様々な材料、画材、表現方法に触れ、その特性を理解し、造形表現の基礎的な知識や技能を身につけることができる。 ④個人や仲間と共同で、作品制作に取り組み、造形表現活動に関心を持つことができる。 [関連するディプロマ・ポリシー] (5)コミュニケーションスキル　(6)専門的知識・技術の活用力				
19.教科書・教材	大橋功『美術教育概論（改訂版）』2009．ISBN978-4-536-60021-7				
20.参考文献	厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領保育所保育指 針』チャイルド社 厚生労働省『保育所指針解説』フレーベル社 厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル社 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル社				
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。全ての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1)テーマごとのワークシート作成とポートフォリオとしての授業ファイル（学習目標①②③④に対応）40% (2)制作活動への取り組みと作品（学習目標③④に対応）40% (3)課題レポート（学習目標①②に対応）20%				

22.コメント	みなさんの中には、造形表現は、「苦手」という不安があるかもしれませんが、「上手に描く、上手に作る」ことではなく、「表現する」ということを、仲間とともに楽しんで体験してください。積極的な取り組みを歓迎します。 「SDGs（持続可能な開発目標）12.持続可能な消費と生産の形態を確保する」への取り組みとして、画用紙などの画材の再利用に取り組んでいきます。 授業内に作品が仕上がらなかった場合は、教室外学習として、次の回までに取り組んでおいてください。
23.オフィスアワー	授業の前後に教室にて

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
[第 1 回]	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて） 講義「表現するって、何をすること？」 ミニディスカッション「表現とは」 領域『表現』の目標と内容について	復習：今回の復習及びワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング 予習：次回の予習
[第 2 回]	講義　画材を知ろう　～えんぴつ・パス・絵具～	復習：今回の復習及びワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング 予習：次回の予習
[第 3 回]	活動　パスを使って表現してみよう 児童文化財・絵本の活用	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング ・作品が未完成の場合は、次回授業までに完成させておこう 予習：次回の予習
[第 4 回]	講義　色彩について・色を混ぜるとどうなるのか？	復習：今回の復習及びワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング 予習：次回の予習
[第 5 回]	活動　色を混ぜて表現してみよう	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング ・作品が未完成の場合は、次回授業までに完成させておこう 予習：次回の予習
[第 6 回]	活動　絵具で遊ぼう、表現しよう 児童文化財・絵本の活用	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング ・作品が未完成の場合は、次回授業までに完成させておこう 予習：次回の予習
[第 7 回]	活動　紙を切る・折る・はる・織る	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング ・作品が未完成の場合は、次回授業までに完成させておこう 予習：次回の予習
[第 8 回]	講義　うつして表現しよう①版画について	復習：今回の復習及びワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング 予習：次回の予習

[第 9 回]	活動　うつして表現することを楽しもう②凸凹をうつそう	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング ・作品が未完成の場合は、次回授業までに完成させておこう 予習：次回の予習
[第 10 回]	活動　うつして表現することを楽しもう③絵具でうつそう リサイクル材料を活かしてみよう	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング 持参するもの：リサイクル材料 ・作品が未完成の場合は、次回授業までに完成させておこう 予習：次回の予習
[第 11 回]	講義・活動　子どもの造形表現活動を観察して、保育を構想しよう 課題レポートについて	復習：今回の復習及びワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング 予習：次回の予習
[第 12 回]	活動　粘土の感触を楽しもう	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング ・作品が未完成の場合は、完成させておこう 予習：次回の予習 ・レポート課題の提出（期日までに Web Class から提出
[第 13 回]	活動　グループワーク　作品を展示しよう・作品の鑑賞を楽しもう	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング ・作品が未完成の場合は、次回授業までに完成させておこう 予習：次回の予習
[第 14 回]	活動　手のひらで感じて作ろう　ころころフェルトボール	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング ・作品が未完成の場合は、次回授業までに完成させておこう 予習：次回の予習
[第 15 回]	活動　子どもの造形表現活動支援について、学びと活動の振り返り	ポートフォリオとしての授業ファイルの持参及び提出

1.授業コード（ナンバリング）	EPE107-A01	2.科目名	音楽Ⅰ・器楽（1/4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、青山洋子、井手智佳子、田中慈子、森玉美穂				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）　小学校一種保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の 2 つのコースから一つを選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A 確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 ちょうちょう、チューリップから 1 曲 中間テスト: バイエル 70 番　ドレミ読み(音高)テスト 期末テスト:　原				
18.学習目標とＤＰとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 コース A ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・ちょうちょう、チューリップ、バイエル等の作品について、 楽譜の形式を理解したうえで、内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。 コース B ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・自由曲、バイエルから任意に選択した作品について、楽譜の形式を理解したうえで、 内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。				
19.教科書・教材	バイエル上・下巻 こどものうた１００				
20.参考文献	こどものうた 200				
21.成績評価	コース A:　確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 12% ちょうちょう、チューリップから 1 曲 12% 中間テスト: バイエル 70 番 12%　ドレミ読みテスト 8% 期末テスト:原則としてバイエル 83 番　12% 弾き歌い課題曲(おかえりのうた) 12% web class 学修 4%×7＝28% 表現のための学修意欲 4% コース B: 確認テスト: ちょうちょう　5% チューリップ　5%				

	中間テスト:将来の専攻・進路に即した バイエル 70 番 10%
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2024/04/08	オリエンテーション 今までの音楽及び鍵盤楽器経験について、担当教官と面談を行い 各自の問題点を話し合い、学習コースを決定する。 確認テスト課題を学修する	○学修時間　60 分 ソロ曲、弾き歌い曲の練習
2024/04/15	確認テスト課題を学修する 4/22 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/04/22	【オンデマンド学修 1】 web　class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2024/05/13	確認テスト 課題の確認 5/20,5/27 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/05/20	【オンデマンド学修 2】 web　class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2024/05/27	【オンデマンド学修 3】 web　class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2024/06/03	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/06/10	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分

		「弾き歌い曲」30 分
2024/06/17	中間テスト＆個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/06/24	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/01	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/08	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/15	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/22	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/29	期末テスト(ソロ曲・弾き歌い曲)	

1.授業コード（ナンバリング）	EPE107-A02	2.科目名	音楽Ⅰ・器楽（2/4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、青山洋子、井手智佳子、田中慈子、森玉美穂				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）　小学校一種保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の 2 つのコースから一つを選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A 確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 ちょうちょう、チューリップから 1 曲 中間テスト: バイエル 70 番　ドレミ読み(音高)テスト 期末テスト:　原				
18.学習目標とＤＰとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 コース A ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・ちょうちょう、チューリップ、バイエル等の作品について、 楽譜の形式を理解したうえで、内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。 コース B ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・自由曲、バイエルから任意に選択した作品について、楽譜の形式を理解したうえで、 内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。				
19.教科書・教材	バイエル上・下巻 こどものうた１００				
20.参考文献	こどものうた 200				
21.成績評価	コース A:　確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 12% ちょうちょう、チューリップから 1 曲 12% 中間テスト: バイエル 70 番 12%　ドレミ読みテスト 8% 期末テスト:原則としてバイエル 83 番　12% 弾き歌い課題曲(おかえりのうた) 12% web class 学修 4%×7＝28% 表現のための学修意欲 4% コース B: 確認テスト: ちょうちょう　5% チューリップ　5%				

	中間テスト:将来の専攻・進路に即した バイエル 70 番 10%
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2024/04/08	オリエンテーション 今までの音楽及び鍵盤楽器経験について、担当教官と面談を行い 各自の問題点を話し合い、学習コースを決定する。 確認テスト課題を学修する	○学修時間　60 分 ソロ曲、弾き歌い曲の練習
2024/04/15	確認テスト課題を学修する 4/22 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/04/22	【オンデマンド学修 1】 web　class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2024/05/13	確認テスト 課題の確認 5/20,5/27 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/05/20	【オンデマンド学修 2】 web　class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2024/05/27	【オンデマンド学修 3】 web　class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2024/06/03	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/06/10	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分

		「弾き歌い曲」30 分
2024/06/17	中間テスト＆個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/06/24	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/01	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/08	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/15	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/22	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/29	期末テスト(ソロ曲・弾き歌い曲)	

1.授業コード（ナンバリング）	EPE107-A03	2.科目名	音楽Ⅰ・器楽（3/4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、田中慈子				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）　小学校一種保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の 2 つのコースから一つを選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A 確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 ちょうちょう、チューリップから 1 曲 中間テスト: バイエル 70 番　ドレミ読み(音高)テスト 期末テスト:　原				
18.学習目標とＤＰとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 コース A ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・ちょうちょう、チューリップ、バイエル等の作品について、 楽譜の形式を理解したうえで、内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。 コース B ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・自由曲、バイエルから任意に選択した作品について、楽譜の形式を理解したうえで、 内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。				
19.教科書・教材	バイエル上・下巻 こどものうた１００				
20.参考文献	こどものうた 200				
21.成績評価	コース A:　確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 12% ちょうちょう、チューリップから 1 曲 12% 中間テスト: バイエル 70 番 12%　ドレミ読みテスト 8% 期末テスト:原則としてバイエル 83 番　12% 弾き歌い課題曲(おかえりのうた) 12% web class 学修 4%×7＝28% 表現のための学修意欲 4% コース B: 確認テスト: ちょうちょう　5% チューリップ　5%				

	中間テスト:将来の専攻・進路に即した バイエル 70 番 10%
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2024/04/08	オリエンテーション 今までの音楽及び鍵盤楽器経験について、担当教官と面談を行い 各自の問題点を話し合い、学習コースを決定する。 確認テスト課題を学修する	○学修時間　60 分 ソロ曲、弾き歌い曲の練習
2024/04/15	確認テスト課題を学修する 4/22 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/04/22	【オンデマンド学修 1】 web　class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2024/05/13	確認テスト 課題の確認 5/20,5/27 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/05/20	【オンデマンド学修 2】 web　class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2024/05/27	【オンデマンド学修 3】 web　class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2024/06/03	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/06/10	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分

		「弾き歌い曲」30 分
2024/06/17	中間テスト＆個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/06/24	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/01	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/08	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/15	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/22	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/29	期末テスト(ソロ曲・弾き歌い曲)	

1.授業コード（ナンバリング）	EPE107-A04	2.科目名	音楽Ⅰ・器楽（4/4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、田中慈子、森玉美穂				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）　小学校一種保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の 2 つのコースから一つを選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A 確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 ちょうちょう、チューリップから 1 曲 中間テスト: バイエル 70 番　ドレミ読み(音高)テスト 期末テスト:　原				
18.学習目標とＤＰとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 コース A ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・ちょうちょう、チューリップ、バイエル等の作品について、 楽譜の形式を理解したうえで、内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。 コース B ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・自由曲、バイエルから任意に選択した作品について、楽譜の形式を理解したうえで、 内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。				
19.教科書・教材	バイエル上・下巻 こどものうた１００				
20.参考文献	こどものうた 200				
21.成績評価	コース A:　確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 12% ちょうちょう、チューリップから 1 曲 12% 中間テスト: バイエル 70 番 12%　ドレミ読みテスト 8% 期末テスト:原則としてバイエル 83 番　12% 弾き歌い課題曲(おかえりのうた) 12% web class 学修 4%×7＝28% 表現のための学修意欲 4% コース B: 確認テスト: ちょうちょう　5% チューリップ　5%				

	中間テスト:将来の専攻・進路に即した バイエル 70 番 10%
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2024/04/08	オリエンテーション 今までの音楽及び鍵盤楽器経験について、担当教官と面談を行い 各自の問題点を話し合い、学習コースを決定する。 確認テスト課題を学修する	○学修時間　60 分 ソロ曲、弾き歌い曲の練習
2024/04/15	確認テスト課題を学修する 4/22 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/04/22	【オンデマンド学修 1】 web　class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2024/05/13	確認テスト 課題の確認 5/20,5/27 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/05/20	【オンデマンド学修 2】 web　class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2024/05/27	【オンデマンド学修 3】 web　class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2024/06/03	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/06/10	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分

		「弾き歌い曲」30 分
2024/06/17	中間テスト＆個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/06/24	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/01	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/08	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/15	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/22	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/29	期末テスト(ソロ曲・弾き歌い曲)	

1.授業コード（ナンバリング）	EPE202-A01	2.科目名	音楽Ⅳ・器楽	3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	保育士			11.先修条件	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	講義概要 「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の 2 つのコースから一つを音楽Ⅱから継続して選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コースＡ： 中間テスト:ブルグミュラー25 番練習曲またはブルグミュラー１８番練習曲またはソナチネアルバムⅠⅡ巻（緩徐楽章を除く）、ソナタアルバムⅠ巻か				
18.学習目標とＤＰとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 ・中級レベル程度の作品のピアノ独奏ができる。 ・中級レベル程度の作品の弾き歌いができる。 ・音楽的知識を活用することができる。 ・初見演奏ができる。				
19.教科書・教材	バイエル上・下巻 ブルグミュラー２５番・１８番・１２番練習曲 ソナチネアルバムⅠ・Ⅱ巻 ソナタアルバムⅠ・Ⅱ巻 より自分の演奏レベルに適した教則本 こどものうた１００				
20.参考文献	こどものうた 200				
21.成績評価	既習曲［ソロ曲］ 6%×3 曲＝18% ［弾き歌い］3%×7 曲＝21% ［弾き歌い］中間テスト 6%（1 曲）＋期末テスト 6%×（3 曲）＝24% ［ソロ曲］中間テスト（1 曲）＝12% 最終テスト［ソロ曲］12% ［初見テスト］(B コースのみ)5% ［自主練習発表］(A コースのみ)5% ［ワークシート］8%				
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	個人レッスン コースＡ，Ｂから、自分の鍵盤楽器経験にふさわしい	○学修時間【予習】 「ソロ曲」予習 30 分　「弾き歌い曲」予習

	コースを選択する。 次回授業での「ソロ曲」「弾き歌い曲」を各自決定する。 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスンを行う。	30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	「弾き歌い」「ソロ曲」中間テスト 「弾き歌い自由曲」「ソロ自由曲」を各自暗譜で発表する。	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分

	ソロ曲・弾き歌い・最終テスト 「ソロ曲」「弾き歌い」の最終テストを実施する。	

1.授業コード（ナンバリング）	EPE302-A71	2.科目名	音楽Ⅵ・器楽及び指導法	3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	音楽Ⅰから Ⅴで学んだ声楽・理論・ピアノ演奏法の知識・技能を基に、まとめ、教育現場に向けた取り組みとして、一斉授業・グループワーク・個人レッスンを行う。 授業以外においても、空き時間を利用して、しっかりと予習・復習を行い、演奏技術の向上に向けて努力すること				
18.学習目標とＤＰとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 ・教育現場に向けた弾き歌いの計画・準備・実技ができる。 ・中級レベル作品のピアノ独奏ができる。 ・中級レベル作品の弾き歌いができる。 ・パートナーとディスカッションしながら、連弾作品を完成させることができる。				
19.教科書・教材	・こどものうた 100 ・バイエル上下巻、ブルグミュラー25 番練習曲、ブルグミュラー18 番練習曲、 ソナチネⅠⅡ巻、ソナタ等の教則本から自分の演奏レベルに適したもの				
20.参考文献					
21.成績評価	弾き歌い基礎テスト１０％ 弾き歌いセッション活動１０％ 弾き歌いセッション振り返りシート１０％ 連弾発表１０％ 弾き歌いテスト１０％×２＝２０％ ソロ曲自主発表テスト１０％×２＝２０％ ワークシート (連弾)１０％(弾き歌い)１０％				
22.コメント	授業以外の自主練習が不可欠です。練習に励んでください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	オリエンテーション「音楽Ⅳ」の授業構成について ピアノのグループレッスンとして、電子ピアノによる一斉授業とグループセッション、ヘッドホンを使用した自主学習、 グランドピアノを使用した個人レッスンを組み合わせた授業構成を認識する。 ソロ曲教則本の選択 ペアまたは３人になり、連弾曲の担当パートを相談。 一斉授業で、連弾曲の担当パートを読譜。	○［予・復習］　ソロ曲＆弾き歌い曲＆連弾曲の担当パートを試奏する。０．５ｈ

	弾き歌い曲を決定し、グループセッションで、弾き歌い曲基礎テストに向けた取り組みを検討する。 弾き歌いセッション振り返りシートの記入	
	グループセッションで、弾き歌い曲基礎テストに向けた取り組みを確認・検討する。 ソロ曲個人指導 相互評価およびルーブリックに基く弾き歌い学習を認識する。 一斉授業＆ヘッドホンを使用した自主学習で、連弾曲担当パートを演奏 弾き歌いセッション振り返りシートの記入	○［予・復習］ソロ曲＆弾き歌い曲＆連弾曲の担当パートを練習　１ｈ
	グループセッションで、弾き歌い曲基礎テストに向けた取り組みを確認・検討する。 ソロ曲個人指導 一斉授業＆ヘッドホンを使用した自主学習で、連弾曲担当パートを演奏 弾き歌いセッション振り返りシートの記入	○［予・復習］ソロ曲＆弾き歌い曲＆連弾曲の担当パートを練習　１ｈ
	グループセッション＆弾き歌い曲基礎テストに向けた個人レッスン ソロ曲個人指導 ヘッドホンを使用した自主学習で、連弾曲担当パート個人指導。 弾き歌いセッション振り返りシートの記入	○［予・復習］ソロ曲＆弾き歌い曲＆連弾曲の担当パートを練習　１ｈ
	グループセッション＆弾き歌い曲基礎テストに向けた個人レッスン ソロ曲個人指導 ヘッドホンを使用した自主学習で、連弾曲担当パート個人指導。 弾き歌いセッション振り返りシートの記入	○［予・復習］ソロ曲＆弾き歌い曲＆連弾曲の担当パートを練習　１ｈ
	グループセッション＆弾き歌い曲基礎テストに向けた個人レッスン ソロ曲個人指導 ヘッドホンを使用した自主学習で、連弾曲担当パート個人指導。 弾き歌いセッション振り返りシートの記入	★弾き歌いセッション振り返りシート提出 ○［予・復習］ソロ曲＆弾き歌い曲＆連弾曲の担当パートを練習　１ｈ
	弾き歌い課題基礎テスト 弾き歌い曲＆ソロ曲個人レッスン。 ヘッドホンを使用した自主学習で、連弾曲パートナーと合わせ練習。 ワークシートの記入。	○［予・復習］ソロ曲＆弾き歌い曲＆連弾曲の担当パートを練習　１ｈ
	弾き歌い曲、クリッカーを使用した相互批評学習。	○［予・復習］ソロ曲＆弾き歌い曲＆連弾曲

	ソロ曲個人指導 ヘッドホンを使用した自主学習で、連弾曲パートナーと合わせ練習。 ワークシートの記入。	の担当パートを練習　１ｈ
	弾き歌い曲＆ソロ曲個人レッスン。 随時ソロ曲自主発表 ヘッドホンを使用した自主学習で、連弾曲パートナーと合わせ練習。 ワークシートの記入。	○［予・復習］ソロ曲＆弾き歌い曲＆連弾曲の担当パートを練習　１ｈ
	弾き歌い曲、ルーブリックに基く歌唱パートとの合わせ練習 ソロ曲個人レッスン 随時ソロ曲自主発表 ヘッドホンを使用した自主学習で、連弾曲パートナーと合わせ練習。 ワークシートの記入。	○［予・復習］ソロ曲＆弾き歌い曲＆連弾曲の担当パートを練習　１ｈ
	弾き歌い曲、クリッカーを使用した相互批評学習。 ソロ曲個人指導 ヘッドホンを使用した自主学習で、連弾曲パートナーと合わせ練習。 ワークシートの記入。	○［予・復習］ソロ曲＆弾き歌い曲練習 0.5h ◎連弾曲パートナーと合わせ練習 0.5ｈ
	弾き歌い曲＆ソロ曲個人レッスン。 随時ソロ曲自主発表 ヘッドホンを使用した自主学習で、連弾曲パートナーと合わせ練習。 ワークシートの記入。	○［予・復習］ソロ曲＆弾き歌い曲練習 0.5h ◎連弾曲パートナーと合わせ練習 0.5ｈ
	弾き歌い曲、ルーブリックに基く歌唱パートとの合わせ練習 ソロ曲個人レッスン 随時ソロ曲自主発表 ヘッドホンを使用した自主学習で、連弾曲パートナーと合わせ練習。 ワークシートの記入。	○［予・復習］ソロ曲＆弾き歌い曲練習 0.5h ◎連弾曲パートナーと合わせ練習 0.5ｈ
	ソロ曲＆弾き歌い曲個人レッスン 随時ソロ曲自主発表	○［予・復習］ソロ曲＆弾き歌い曲練習 0.5h ◎連弾曲パートナーと合わせ練習 0.5ｈ
	弾き歌い曲(1 番以上を暗譜)　発表 連弾発表 随時ソロ曲自主発表	

1.授業コード（ナンバリング）	FLC101-A01	2.科目名	中国語 I	3.単位数	2
4.授業担当教員	田中智子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年（全くの初心者でも履修できます。中国語 II が未履修でも履修できます。） ただし、中国語（華語、北京語）を母語とする留学生は履修が出来ません
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	基本的には講義中心に進めますが、映画やドラマや音楽ビデオなどの映像資料も時々使用します。また、必要に応じてグループタスクを行ったり、e-learning アプリを利用した学習なども行います。		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業では、中国語の発音やイントネーションや文法などの基礎事項の習得を目的とします。と同時に、旅行や留学などで簡単なコミュニケーションができるようになることも目的とします。 【概要】 本授業は、初めて中国語を学ぶ入門者のためのコースです。まず発音をしっかりと身に着けた後、実際に中国に行った時に遭遇するいろいろな場面で使える表現を具体的に勉強していきます。（秋学期の中国語 II を先に受講した人も受講できます。中国語 II とは、また内容が違います。）				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、次のとおりです。 １）ローマ字発音表記と発音を結びつけることができる。 ２）簡単な挨拶や自己紹介ができる。 ３）相手の年齢や国籍、時間などに関する簡単な質問ができる。 ４）基本的な文が簡体字を使って書ける。 ５）中国社会や文化に対する理解が深まる 本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の、下記の学修に関連しています。 (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	『かんたん楽ショウ！初級中国語入門編』 （朝日出版社）				
20.参考文献					
21.成績評価	①2，３週間ごとに行う小テスト（計 4 回：1 回 10 点）40%（学習目標①、②、③に対応） ②総括試験 30%（学習目標①、②、③、④に対応） ③Quizlet での課題 20%（学習目標①、②、③、④に対応） ④映画感想レポート 10%（学習目標⑤に対応） 全部の成績の合計が６０点以上の場合、合格とする。				

22.コメント	中国語は日本人にとって、とても習得しやすい外国語のひとつです。発音などが少し難しいと言われていますが、特に英語を勉強したことのある日本人にとってはとても勉強しやすいです。なぜなら、英語と文法構造がとても似ており、しかも動詞の変化などは、現在完了形や過去完了形などまである英語ほど複雑ではありません。また、書き言葉で漢字を使用するのも、小さいころから漢字を学んでいる日本人には勉強しやすい理由のひとつです。 中国には 13 億の人がいると言われており、海外に散らばっている華僑の多くも中国語を話します。話者の数だけを見ると、中国語を話す人の人口は世界で最も多いです。また、日本にとって中国は、経済・文化・政治面でもいろいろと関わりが深い隣国です。そういう国の言葉である中国語を習得することは、非常に重要です。特に、真の国際人になることをめざしている人にとって、中国語の習得は今後ますます重要になってくると思います。 授業では、就職活動の時にも役に立つ、中国語検定試験（英語検定試験に該当）や HSK 試験（TOEIC 試験に該当）の資格取得のための情報提供もします。英語関連の語学の資格だけでなく、社会的ニーズの高い中国語関連の語学の資格も持っていると、就職活動の時に良いアピールができるので、ぜひこうした資格試験にもチャレンジしてください。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回 第２回	【講義と演習】 ・オリエンテーション ・中国語とは ・第１課　発音や声調、コミュニケーション表現の練習①	発音や練習問題の復習をする。
第３回 第４回	【講義と演習】 第２課　　発音や声調、コミュニケーション表現の練習②	発音や練習問題の復習をする。
第５回 第６回	【講義と演習】 第３課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習③	発音や練習問題の復習をする。
第７回 第８回	映画鑑賞『KANO』	映画の感想小レポート （指定された期日までに Webclass から提出。）
第９回 第１０回	【講義と演習】 第４課　　発音や声調、コミュニケーション表現の練習④ 第１回小テスト	発音や練習問題の復習をする。
第１１回 第１２回	第５課　自己紹介（名前の言い方） オンライン辞書の使い方の説明	各自で発音練習や文法の復習をする。
第１３回 第１４回	第６課　自己紹介②（国籍、身分、職業の言い方） ・Quizlet の使い方の説明	・各自で教科書の発音練習や練習の復習をする。 ・Quizlet を使って単語を復習する。
第１５回 第１６回	第７課　食べたいものや、飲みたいものをいう言い方	・各自で教科書の発音練習や練習の復習をする。 ・Quizlet を使って単語を復習する。
第１７回 第１８回	第２回小テスト 第８課　好きなものを言う言い方	・各自で教科書の発音練習や練習の復習をする。 ・Quizlet を使って単語を復習する。
第１９回 第２０回	第９課　場所を表す表現	・各自で教科書の発音練習や練習の復習をする。 ・Quizlet を使って単語を復習する。

第２１回 第２２回	第３回　小テスト 第１０課　数の言い方	・各自で教科書の発音練習や練習の復習をする。 ・Quizlet を使って単語を復習する。
第２３回 第２４回	第１１課　依頼の表現	・各自で教科書の発音練習や練習の復習をする。 ・Quizlet を使って単語を復習する。
第２５回 第２６回	第４回　小テスト 第１２課　年月日、曜日、年齢の言い方	・各自で教科書の発音練習や練習の復習をする。 ・Quizlet を使って単語を復習する。
第２７回 第２８回	第１３課　時間の言い方	・各自で教科書の発音練習や練習の復習をする。 ・Quizlet を使って単語を復習する。
第２９回 第３０回	第１４課　時間の長さを表す言い方 総括試験（～第１３課まで）	各自で発音練習や文法の復習をする。

1.授業コード（ナンバリング）	FLC101-M01	2.科目名	中国語 I	3.単位数	2
4.授業担当教員	田中智子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年（全くの初心者でも履修できます。中国語 II が未履修でも履修できます。） ただし、中国語（華語、北京語）を母語とする留学生は履修が出来ません
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	基本的には講義中心に進めますが、映画やドラマや音楽ビデオなどの映像資料も時々使用します。また、必要に応じてグループタスクを行ったり、e-learning アプリを利用した学習なども行います。		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業では、中国語の発音やイントネーションや文法などの基礎事項の習得を目的とします。と同時に、旅行や留学などで簡単なコミュニケーションができるようになることも目的とします。 【概要】 本授業は、初めて中国語を学ぶ入門者のためのコースです。まず発音をしっかりと身に着けた後、実際に中国に行った時に遭遇するいろいろな場面で使える表現を具体的に勉強していきます。（秋学期の中国語 II を先に受講した人も受講できます。中国語 II とは、また内容が違います。）				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、次のとおりです。 １）ローマ字発音表記と発音を結びつけることができる。 ２）簡単な挨拶や自己紹介ができる。 ３）相手の年齢や国籍、時間などに関する簡単な質問ができる。 ４）基本的な文が簡体字を使って書ける。 ５）中国社会や文化に対する理解が深まる 本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の、下記の学修に関連しています。 (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	『かんたん楽ショウ！初級中国語入門編』 （朝日出版社）				
20.参考文献					
21.成績評価	①２，３週間ごとに行う小テスト（計 4 回：1 回 10 点）40%（学習目標①、②、③に対応） ②総括試験 30%（学習目標①、②、③、④に対応） ③Quizlet での課題 20%（学習目標①、②、③、④に対応） ④映画感想レポート 10%（学習目標⑤に対応） 全部の成績の合計が６０点以上の場合、合格とする。				

22.コメント	中国語は日本人にとって、とても習得しやすい外国語のひとつです。発音などが少し難しいと言われていますが、特に英語を勉強したことのある日本人にとってはとても勉強しやすいです。なぜなら、英語と文法構造がとても似ており、しかも動詞の変化などは、現在完了形や過去完了形などまである英語ほど複雑ではありません。また、書き言葉で漢字を使用するのも、小さいころから漢字を学んでいる日本人には勉強しやすい理由のひとつです。 中国には 13 億の人がいると言われており、海外に散らばっている華僑の多くも中国語を話します。話者の数だけを見ると、中国語を話す人の人口は世界で最も多いです。また、日本にとって中国は、経済・文化・政治面でもいろいろと関わりが深い隣国です。そういう国の言葉である中国語を習得することは、非常に重要です。特に、真の国際人になることをめざしている人にとって、中国語の習得は今後ますます重要になってくると思います。 授業では、就職活動の時にも役に立つ、中国語検定試験（英語検定試験に該当）や HSK 試験（TOEIC 試験に該当）の資格取得のための情報提供もします。英語関連の語学の資格だけでなく、社会的ニーズの高い中国語関連の語学の資格も持っていると、就職活動の時に良いアピールができるので、ぜひこうした資格試験にもチャレンジしてください。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回 第２回	【講義と演習】 ・オリエンテーション ・中国語とは ・第１課　発音や声調、コミュニケーション表現の練習①	発音や練習問題の復習をする。
第３回 第４回	【講義と演習】 第２課　　発音や声調、コミュニケーション表現の練習②	発音や練習問題の復習をする。
第５回 第６回	【講義と演習】 第３課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習③	発音や練習問題の復習をする。
第７回 第８回	映画鑑賞『KANO』	映画の感想小レポート （指定された期日までに Webclass から提出。）
第９回 第１０回	【講義と演習】 第４課　　発音や声調、コミュニケーション表現の練習④ 第１回小テスト	発音や練習問題の復習をする。
第１１回 第１２回	第５課　自己紹介（名前の言い方） オンライン辞書の使い方の説明	各自で発音練習や文法の復習をする。
第１３回 第１４回	第６課　自己紹介②（国籍、身分、職業の言い方） ・Quizlet の使い方の説明	・各自で教科書の発音練習や練習の復習をする。 ・Quizlet を使って単語を復習する。
第１５回 第１６回	第７課　食べたいものや、飲みたいものをいう言い方	・各自で教科書の発音練習や練習の復習をする。 ・Quizlet を使って単語を復習する。
第１７回 第１８回	第２回小テスト 第８課　好きなものを言う言い方	・各自で教科書の発音練習や練習の復習をする。 ・Quizlet を使って単語を復習する。
第１９回 第２０回	第９課　場所を表す表現	・各自で教科書の発音練習や練習の復習をする。 ・Quizlet を使って単語を復習する。

第２１回 第２２回	第３回　小テスト 第１０課　数の言い方	・各自で教科書の発音練習や練習の復習をする。 ・Quizlet を使って単語を復習する。
第２３回 第２４回	第１１課　依頼の表現	・各自で教科書の発音練習や練習の復習をする。 ・Quizlet を使って単語を復習する。
第２５回 第２６回	第４回　小テスト 第１２課　年月日、曜日、年齢の言い方	・各自で教科書の発音練習や練習の復習をする。 ・Quizlet を使って単語を復習する。
第２７回 第２８回	第１３課　時間の言い方	・各自で教科書の発音練習や練習の復習をする。 ・Quizlet を使って単語を復習する。
第２９回 第３０回	第１４課　時間の長さを表す言い方 総括試験（～第１３課まで）	各自で発音練習や文法の復習をする。

1.授業コード（ナンバリング）	FLC101-Y01	2.科目名	中国語 I	3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年（全くの初心者でも履修できます。中国語 II が未履修でも履修できます。） ただし、中国語を母語とする中国の留学生は履修が出来ません
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	基本的には講義中心に進めますが、映画やドラマや音楽ビデオなどの映像資料も時々使用します。また、必要に応じてグループタスクやディスカッションなども行います。		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本授業は、初めて中国語を学ぶ入門者のためのコースであり、発音やイントネーションや文法などの基礎事項の習得を重視します。と同時に、実用性も重視して、旅行や留学などの実際場面で使える実用的な中国語表現の習得をはかります。授業内容でも書いていますが、実際に中国に行った時に遭遇するいろいろな場面で使える表現を具体的に勉強していきます。（秋学期の中国語 II を先に受講した人も受講できます。中国語 II とは、また内容が違います。）				
18.学習目標とＤＰとの関連	●授業内容に対して、新たな興味や関心をもつことができる ●基本的な中国語力を身に着けることができる ●中国社会や文化に対する理解が深まる (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	授業の時に教材を配布します。				
20.参考文献	NHK ラジオ中国語 Duolingo 中国語学習アプリ				
21.成績評価	①2， 3 週間ごとに行うウェブクラスの小テスト（計 4 回：1 回 10 点）40%、②最終試験 30%、③タスクシート＋Duolingo での課題 20%、④中国語スピーチ 10%				
22.コメント	中国語は日本人にとって、とても習得しやすい外国語のひとつです。発音などが少し難しいと言われていますが、特に英語を勉強したことのある日本人にとってはとても勉強しやすいです。なぜなら、英語と文法構造がとても似ており、しかも動詞の変化などは、現在完了形や過去完了形などまである英語ほど複雑ではありません。また、書き言葉で漢字を使用するのも、小さいころから漢字を学んでいる日本人には勉強しやすい理由のひとつです。 中国には 13 億の人がいると言われており、海外に散らばっている華僑の多くも中国語を話します。話者の数だけを見ると、中国語を話す人の人口は世界で最も多いです。また、日本にとって中国は、経済・文化・政治面でもいろいろと関わりが深い隣国です。そういう国の言葉である中国語を習得することは、非常に重要です。特に、真の国際人になることをめざしている人にとって、中国語の習得は今後ますます重要になってくると思います。 この授業では、映画などの映像資料を時々用いながら、できるだけ楽しめる形で実用的な中国				

	語を確実に身につけていくことをめざしています。空港や観光地や買い物の時の会話など、実際に中国に行った時に遭遇するいろいろな場面で使える表現を具体的に勉強していきます。中国語を初めて学ぶ初心者のための授業ですので、履修しようか迷っている方も気軽に見学に来てください。中国語を一から学べる授業ですし、秋学期の「中国語Ⅱ」を履修してなくても大丈夫ですし、中国語が全く初心者の方でも履修できる授業です。 授業では、就職活動の時にも役に立つ、中国語検定試験（英語検定試験に該当）や HSK 試験（TOEIC 試験に該当）の資格取得のための情報提供もします。英語関連の語学の資格だけでなく、社会的ニーズの高い中国語関連の語学の資格も持っていると、就職活動の時に良いアピールができるので、こうした語学試験に挑戦する方を全力でサポートします。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	発音や声調の練習、挨拶と自己紹介に関する表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 2 回	数字とお金に関する表現の練習、一年と天気に関する表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 3 回	買い物や食事の時に使う表現（値段を尋ねたり、値段交渉したり、料理を注文する時に使う表現）の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 4 回	時間・月日に関する表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 5 回	学校訪問・会社訪問などで使う表現の練習、ホテルなどで使う表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 6 回	中国の友達と交流を深めるための表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 7 回	恋愛・結婚などに関する表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 8 回	健康・エステ関連の表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 9 回	観光などで使う表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 10 回	中国映画の鑑賞	
第 11 回	旧正月を過ごす時などに使う表現の練習、中国伝統文化に関する表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 12 回	別れを告げる時などに使う表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 13 回	乗り物（タクシーやバスなど）に乗る時に使う表現の練習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 14 回	授業のまとめと復習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 15 回	期末テスト	各自で発音練習や文法の復習をする。

1.授業コード（ナンバリング）	FLC202-Y01	2.科目名	中国語基礎１	3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争				
5.授業科目の区分	展開（第二外国語）	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	２年～
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	先行して履修すべき科目はないが、秋学期には引き続き中国語基礎２を履修すること。また、「中国語基礎１」の内容の理解をより深め、中国語の実践力を身につけるためには、並行して「中国語コミュニケーション１」を履修することが望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	原則として対面演習の形式。		
16.履修制限	中国語初心者向けの授業であるため、中国語を母国語とするものは、履修対象外となります。履修希望者が２０名を超える場合は、前学期までの累積 GPA や出席状況、履修動機に基づいて選抜を行うこともあります。				
17.授業の目的と概要	【目的】本科目では、中国語の発音（ピンイン）を身につけた上で、自己紹介、学校、買い物、道を尋ねるなどとった場面で使う中国語の学習を目的とします。 【概要】 積極的な授業参加を促すアクティブ・ラーニングの授業を展開します。履修登録者が授業中で習った新しい中国語の単語や文法を活用しながら会話できることを目指します。また、将来、中国関連の仕事や中国語の資格取得などのための長期的な中国語学習に向けて、基礎をしっかり固めます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 ①中国語の発音基礎（ピンイン）を覚える ②中国語で簡単な自己紹介から生活などの場面までコミュニケーションを取ることができる ③自分で中国語の勉強ができるような学習法を取得する 【関連するディプロマポリシー】 （4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	『新実用漢語課本 1』劉珣（編）第３版、北京語言大学出版社、2002 年 上記のテキストについては授業中に印刷物を配布するなど、第一回目のオリエンテーションの際、詳しく説明します。				
20.参考文献	関連する文献は、授業中適宜紹介します。				
21.成績評価	評価の配分は次の通りです。 ・評価の方法：平常評価（小テストなど）＋期末テスト（学習目標の①②③） ・成績の配分：平常評価 50%＋期末テスト 50%（学習目標の①②③） 成績合計 60 点以上を合格とします。				
22.コメント	言葉は生きているものです。習った中国語がすぐに言えるようになって、外国語学習の楽しさを一緒に味わいましょう！				
23.オフィスアワー	授業前後に質問などを受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	・オリエンテーション（本科目の学習目標や成績評	宿題：第１課の復習と練習問題

	価、授業内容と進め方などを説明する） ・第１課の「?好」（こんにちは）ピンインと本文 習うピンイン：b p m n l h a o e i u ? ao en ie in ing uo	
【第２回】	第１課練習問題の解説と発音練習	宿題：第１課の語彙と発音の復習と第２課の予習
【第３回】	・小テスト ・第２課「?忙?」（あなたは忙しいですか）ピンインと本文 習うピンイン：d t g k f ei ou an ang eng iao iou(-iu)	宿題：第２課の復習と練習問題
【第４回】	第２課の練習問題の解説と発音練習	宿題：第２課の語彙と発音の復習と第３課の予習
【第５回】	・小テスト ・第３課「?是?国人」（彼女はどこの国の人ですか）ピンインと本文 習うピンイン：zh ch sh r -i　ai uai ong	宿題：第３課の復習と練習問題
【第６回】	第３課の練習問題の解説と発音練習	宿題：第１～３課の語彙とピンインの復習と第４課の予習
【第７回】	・（第１～３課）小テスト ・第４課「???很高?」（はじめまして）ピンインと本文 習うピンイン：　j　q　x ia ian iang uei(-ui) uen(-un) ?e ?an	宿題：第４課の復習と練習問題
【第８回】	第４課の練習問題の解説と発音練習	宿題：第４課の語彙とピンインの復習と第５課の予習
【第９回】	・小テストと解説 ・第５課「餐?在?儿」（レストランはどこですか）ピンインと本文 習うピンイン：z c s -i　er iong ua uan uang ?n	宿題：第５課の復習と練習問題
【第 10 回】	第５課の練習問題の解説と発音練習	宿題：第５課の語彙とピンインの復習と第６課の予習
【第 11 回】	・小テスト ・第６課「我?去游泳，好?」（水泳に行きましょうか） ピンインの総復習と本文	宿題：第６課ピンインの復習と練習問題
【第 12 回】	第６課の練習問題の解説と発音練習	宿題：第４～６課の復習（語彙と本文）
【第 13 回】	（第４～６課）小テストと解説	第１～６課の語彙と本文の復習
【第 14 回】	全体の復習	宿題：期末テストの準備
【第 15 回】	・期末テスト ・試験問題の解説	全体の振り返り

1.授業コード（ナンバリング）	FLC204-Y01	2.科目名	中国語コミュニケーション 1	3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	総合社会学科・観光学科			9.履修学年	1 年次～
10.取得資格の要件	HSK3 級～	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	中国語の学習経験のない人は履修できません。中国経験のある人、留学した人、第二外国語として学んできた人、中国語履修者（HSK 3 ～4 級レベルの中国語科目）が対象です。				
17.授業の目的と概要	本講義は「聴く・話す・書く・訳す・調べる」能力の向上に重点を置きながら、中国ビジネスでは常識といえるフレーズ、日中間ビジネスの最前線で活躍する上で必要不可欠とされる「言葉・表現」を、シチュエーション別に受講者とともに確認し、シミュレーションなどを通してその応用力の養成を目指します。また、メールなどを含む中国語ビジネス文章の「構成・表現」を、実例を取り上げながら紹介し、その基本的な書き方の習得を目標とします。日中ビジネス慣習の差異を、社会的、文化的、心理的な側面から解説し、中国人ビジネスマンとの円滑なコミュ				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の２．主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力。K2．グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関 心を持つ。 K4．異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える、に関連しています。 １．社内で使われる①上司とのやりとり、②同僚とのやりとり、などのビジネス中国語を身に付けます。 ２．取引先に対する①電話応対、②ビジネスメール、③面談、などのビジネスシーンの基本を身につけます。				
19.教科書・教材	『ストーリーで学ぶビジネス中国語』　山田留里子ほか　駿河台出版社				
20.参考文献	特になし				
21.成績評価	授業ノートの提出 30 点（学習目標１、２に対応） 授業課題の完成度 30 点（学習目標１、２に対応） 総括レポート 40 点（学習目標１、２に対応）				
22.コメント	第一線で活躍するビジネスマンの姿を常に想像しながら授業に臨んでほしいと思います。授業は進行状況に応じて順序を前後したり、内容を変更する場合があります。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	あいさつ	場面練習できるように会話を暗誦する
【第 2 回】	電話連絡	場面練習できるように会話を暗誦する
【第 3 回】	ランチタイム	場面練習できるように会話を暗誦する
【第 4 回】	アポイントメント	場面練習できるように会話を暗誦する
【第 5 回】	電子メール	中国語で電子メールを作成する
【第 6 回】	出張	場面練習できるように会話を暗誦する
【第 7 回】	空港	場面練習できるように会話を暗誦する
【第 8 回】	宴会	場面練習できるように会話を暗誦する
【第 9 回】	工場見学	場面練習できるように会話を暗誦する
【第 10 回】	ビジネスレター	中国語でビジネスレターを作成する
【第 11 回】	交渉	場面練習できるように会話を暗誦する

【第 12 回】	クレーム	場面練習できるように会話を暗誦する
【第 13 回】	総合練習①	レポート課題について調べる
【第 14 回】	総合練習②	レポート課題を作成する
【第 15 回】	総合練習③	レポート課題を作成する

1.授業コード（ナンバリング）	FLC301-Y01	2.科目名	中国語リーディングⅠ	3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生は履修できません。				
17.授業の目的と概要	この科目は、中国語や中国文化の基礎知識と、中国語の学習スキルを身につけることを目的にします。 具体的には、次のことを学びます。 １）発音を中心とした中国語の基礎知識 ２）また、インターネットを活用した中国語の学習スキル ３）中国圏の人々の習慣や文化 アジア圏、特に中国語を公用語とする中国、台湾、香港の人にとって、日本は人気のある観光地です。中国語の基礎だけでなく、文化や習慣、日本人との考え方の違いについて少しでも知識があると、円滑なコミュニケーションができます。また、中国語は発音が大変重要ですので、「通				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の、K4. 異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える、に関連しています。 １）中国語の発音方法がわかる。 ２）中国語で簡単な挨拶や自己紹介ができる。 ３）基本的な文が簡体字を使って書ける ４）中国語圏の人々の習慣や文化について、日本との相違点を考えて説明ができる。 ５）インターネットを利用した中国語学習の方法がわかる。				
19.教科書・教材	リーディング素材のプリントを配布する				
20.参考文献					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通り。 ・第 1 課～8 課のドリルおよび 5，6 課、7，8 課の復習ドリル・・・各 5 点×10 回＝50 点（学習目標①、③に対応） ・暗唱「5，６課と 7，８課の本文の朗読」　・・・各 5 点×2 回＝10 点（学習目標①、②に対応） （学習目標①、⑥に対応） ・中間レポート・・・15 点（学習目標④に対応） ・関連小テスト・・・5 点（学習目標④に対応） ・最終レポート・・・20 点（学習目標⑤に対応）				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーションと第 1 課（単母音、複母音）	
【第 2 回】	第 2 課　いろいろな子音の発音	教科書の該当箇所を復習し、発音練習を繰り返す。
【第 3 回】	第 3 課　鼻音	教科書の該当箇所を復習し、発音練習を繰り

		返す。
【第 4 回】	第 4 課　注意すべき声調	教科書の該当箇所を復習し、発音練習を繰り返す。
【第 5 回】	中国文化理解	復習と予習
【第 6 回】	中国文化理解	
【第 7 回】	第 5 課　人称代名詞、姓名の言い方	教科書の該当箇所を復習し、発音練習を繰り返す。
【第 8 回】	第 6 課　動詞"是"、疑問文	教科書の該当箇所を復習し、発音練習を繰り返す。
【第 9 回】	5 課と 6 課の復習	5 課と 6 課本文の暗唱
【第 10 回】	1）暗唱チェック 2）中国文化理解	復習と予習
【第 11 回】	中国文化理解	
【第 12 回】	第 7 課　動詞が述語になる文、形容詞が述語になる文	教科書の該当箇所を復習し、発音練習を繰り返す。
【第 13 回】	8 課　指示代詞、疑問詞疑問文	教科書の該当箇所を復習し、発音練習を繰り返す。
【第 14 回】	7 課と 8 課の復習	7 課と 8 課本文の暗唱
【第 15 回】	発音のまとめ、文法のまとめ、総括試験	復習　これまでのノートをまとめる。 　　これまで学んだ文の読み方を復習する。

1.授業コード（ナンバリング）	FLC302-Y01	2.科目名	中国語ライティングⅠ	3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	総合社会学科・観光学科			9.履修学年	1 年次～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	中国語や中国文化の応用知識と中国語の話すスキルを身につけることを目的にします。 具体的には、①流暢な発音を中心に中国語のコミュニケーションに役立つ会話を学びます。②実用的な文法を中心に中国語会話の応用方法を学びます。③中国語の聞く力を身に付けます。 授業は中国人講師が担当します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の３．多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく 力、K4．異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える、に関連しています。 ①中国語でコミュニケーションが可能なレベルの議論や主張ができる。 ②HSK３級～４級レベルの文法項目の文が聞き取れて理解できる。 ③HSK３級～４級レベルの内容について中国語で作文できる。				
19.教科書・教材	新谷秀明、王宇南『赤シート付　読み書き話す＋聴く　中国語の基本　ステップアップ編』朝日出版社				
20.参考文献					
21.成績評価	課題の提出　５０点（学習目標①②③に対応）授業各回の課題の完成度を評価します。１５回の課題のうち、完成度の高い回の１０回分を対象とします。配点５０点（１０回×５点）。 総括試験　５０点（学習目標①②③に対応）　総括試験は中国語で文章を作成するレポートで評価します。配点５０点（内容１０点、文法１０点、漢字１０点、表現力１０点、発音１０点）。				
22.コメント	１．授業の進行は予定の内容を前後したりすることがあります。 ２．リスニング・トレーナーという音声再生アプリを使います。無料でダウンロードできます。ダウンロード方法は授業内で案内します。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	音声で方言の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳します。	第１、２課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第２回】	音声で民族の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳します。	第３課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第３回】	音声で伝統的祝祭日の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳します。	第４、５課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第４回】	音声で南方と北方の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳します。	第６課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第５回】	音声で中華料理の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳します。	第７課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第６回】	音声で中国茶の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳します。	第８、９課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第７回】	ジャイアントパンダの内容を聞き取ります。関連の短	第１０課を復習し、教科書の練習を完成しま

	文を翻訳します。	す。
【第 8 回】	音声で京劇の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳します。	第１１課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第 9 回】	音声で武術の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳します。	第１２課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第 10 回】	音声で万里の長城の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳します。	第１３課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第 11 回】	音声で故宮の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳します。	第１３課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第 12 回】	音声で四大名著の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳します。	第１４課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第 13 回】	中国語で事象、現象について作文して説明します。	第１４課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第 14 回】	中国語作文を発表します。	第１５課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第 15 回】	一学期の授業振り返りをします。	第１５課を復習し、教科書の練習を完成します。

1.授業コード（ナンバリング）	FLC303-Y71	2.科目名	中国語リスニングⅠ	3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	観光学科（2018 年度以前入学生）			9.履修学年	3 年次～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	この科目は中国人の歴史、文化、現代生活を学ぶことを通して、伝統と対照的な現代生活を知ることができます。 具体的にはさまざまな角度から中国人の民族アイデンティティと日本観、アジア観を理解していきます。将来は国際社会に立脚する際に有用な学習となります。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の３．多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく 力。 、K4．異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュ ニケーション力を備える、の学習に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①中国人の生活様式を理解し説明できる。 ②中国人の価値観を説明できる。 ③③中国人と日本人の政治に対する態度、社会生活の態度を比較し、分析できる。				
19.教科書・教材	適宜、資料を配布します（教科書は使用しません)。				
20.参考文献	特になし				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 授業課題の提出 50 点（学習目標①②③に対応） 総括試験 50 点（学習目標①②③に対応） 授業課題を提出要件に満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することと総括試験の合格を合格基準とします。				
22.コメント	授業の進行について内容を変更する場合があります。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション	中国に関する情報を収集する
【第 2 回】	漢族と少数民族の歴史、各地の地域特色について	少数民族の情報を収集する
【第 3 回】	「一国両制」の新中国と改革開放について	香港、マカオの情報を収集する
【第 4 回】	中国人のアジア観と日本観	アジア主義について調べる
【第 5 回】	中国人の社会生活①　８０年代～９０年代	80 年代の中国について調べる
【第 6 回】	中国人の社会生活②　２０００年以降～	2000 年以降の中国について調べる
【第 7 回】	多民族国家の課題	中国の西部地方と西部政策について調べる
【第 8 回】	一国両制の現状について	香港問題を考える
【第 9 回】	中国文化の内と外の構造	ケーススダティを理解し、応用できる。
【第 10 回】	人民代表と民主主義	中国の政治制度と民意の反映について考える
【第 11 回】	微信、支付宝とキャッシュレス社会	APP の使い方を身に付ける
【第 12 回】	伝統と現代	伝統とは何か自分の意見を発表できるようにまとめる
【第 13 回】	中国人の観光マーケットと日本のインバウンド	海外旅行についての日中両国の国内市場を調べる

【第 14 回】	「一帯一路」の実現に向けての取り組み	将来の中国を予測できるような情報を調べる
【第 15 回】	振り返り	与えられた課題を完成する

1.授業コード（ナンバリング）	FLC304-Y01	2.科目名	中国語アドバンスト・コミュニケーションⅠ	3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	演習	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件	中国語の科目を履修したことがある。 または、 中国語学習歴がある。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	講義は観光関連業界での就職を目指す中国語履修者のための特設講座としたい。中国の観光事情、データ、概略を把握すると同時に、中国人観光客に人気のスポットで使える接客の「言葉・表現」を学習するとともに、ホスピタリティーに関する日中間のマナーや文化の差異なども確認する。また、添乗員、ツアーガイド、ホテルマンなど各業種の基本的な業界用語・表現を学習する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	・中国の観光事情、データを把握する。 ・観光現場の課題を理解する。 ・中国語で接客できる				
19.教科書・教材	プリント配布				
20.参考文献					
21.成績評価	受講態度（出席、ロールプレイの達成度）５０％、レポート５０％				
22.コメント	※授業は進行状況に応じて内容を変更したり前後したりして行う場合があります。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	オリエンテーション	
	中国語の基礎の復習	難しい発音と重要な文法を整理する
	八大接客用語	授業内容を復習する
	場面練習	ロールプレイのフレーズを暗記する
	物販接客用語	授業内容を復習する
	場面練習	ロールプレイのフレーズを暗記する
	レストラン接客用語	
	場面練習	
	ホテル接客用語	
	場面練習	
	道案内の用語	
	場面練習	
	フィールドワーク又は実習	
	フィールドワークまたは実習	
	振り返りとレポート課題	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-A01	2.科目名	基礎英語 T1			3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Jasper von Meerheimb						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity： Smart Choice 1 Student Book - Fourth Edition（Oxford University Press）ISBN 978-0-19-406099-8						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	

第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-A02	2.科目名	基礎英語 T2			3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Jason Conrad Beaton						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-A03	2.科目名	基礎英語 T3	3.単位数	2
4.授業担当教員	酒嶋恭平、Colin Rogers				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-A04	2.科目名	基礎英語 T4			3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Jasper von Meerheimb						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity： Smart Choice 1 Student Book - Fourth Edition（Oxford University Press）ISBN 978-0-19-406099-8						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	

第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-A05	2.科目名	基礎英語 T5	3.単位数	2
4.授業担当教員	岡田房子、Jason Conrad Beaton				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-A06	2.科目名	基礎英語 T6			3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Ian Matthew Allensworth						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-A07	2.科目名	基礎英語 T7			3.単位数	2
4.授業担当教員	坂本晃平、Colin Rogers						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-M01	2.科目名	基礎英語 経営 T1			3.単位数	2
4.授業担当教員	山縣節子、Colin Rogers						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-M02	2.科目名	基礎英語 経営 T2			3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Michael Heller						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-M03	2.科目名	基礎英語 経営 T3			3.単位数	2
4.授業担当教員	Colin Rogers、丸橋良雄						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-M04	2.科目名	基礎英語 経営 T4			3.単位数	2
4.授業担当教員	Duane Edward Rowe、家村雅子						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-M05	2.科目名	基礎英語 看護 T1	3.単位数	2
4.授業担当教員	山縣節子、Colin Rogers				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-M06	2.科目名	基礎英語 看護 T2			3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Michael Heller						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-M07	2.科目名	基礎英語 看護 T3			3.単位数	2
4.授業担当教員	Colin Rogers、丸橋良雄						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-M08	2.科目名	基礎英語 看護 T4	3.単位数	2
4.授業担当教員	Duane Edward Rowe、家村雅子				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-Y01	2.科目名	基礎英語 T1			3.単位数	2
4.授業担当教員	川部純巳、Louisa Green						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-Y02	2.科目名	基礎英語 T2			3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Michael Heller						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-Y03	2.科目名	基礎英語 T3	3.単位数	2
4.授業担当教員	友繁義典、Binondo Fairlynn Dulla				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー	Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	

第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-Y04	2.科目名	基礎英語 T4	3.単位数	2
4.授業担当教員	和泉有香、Jason Conrad Beaton				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	Grammar: 中間テスト準備
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	Grammar: 中間テスト復習
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	Grammar: 期末テスト準備
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-Y05	2.科目名	基礎英語 T5	3.単位数	2
4.授業担当教員	和泉有香、Louisa Green				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	Grammar: 中間テストの準備
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	Grammar: 中間テストの復習
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	Grammar: 期末テストの準備
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-Y06	2.科目名	基礎英語 T6			3.単位数	2
4.授業担当教員	平井尚生、Daniel David Scott						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-Y07	2.科目名	基礎英語 T7			3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Jason Conrad Beaton						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE101-Y08	2.科目名	基礎英語 T8			3.単位数	2
4.授業担当教員	権延ジュ、Ian Matthew Allensworth						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半	Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半	
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	① Activity：Unit 02 "What do you do?" 後半	彙）
第 5 週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar：012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity：Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity：Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity：Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar：024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity：Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar：030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity：Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity：BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE102-A01	2.科目名	総合英語Ⅰ（再)※再履修の学生のみが履修	3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Jason Conrad Beaton				
5.授業科目の区分	必修	6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	Grammar:高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識をスピーキングで運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、記述文法を学び、オーディオ・リンガル・メッソドによるパターン・プラクティスを通して、実際に口頭で運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar:　『英語のハノン／初級』筑摩書房 Activity:　Smart Choice 1（Oxford University Press）［※※仮設定。別途正式に決定する※※］				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト 20 点・期末テスト 20 点・平常点 10 点） Activity：50 点（中間テスト 20 点・期末テスト 20 点・平常点 10 点）				
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とします。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：Unit 10　現在完了形(1)〈継続〉／現在完了進行形 授業で扱うドリル：Track No. Unit 10.1 / Unit 10.2 / Unit 10.3 / Unit 10.4 Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?"　前半	
第 2 週	Grammar：Unit 11　現在完了形(2)〈完了（結果）・経験〉 授業で扱うドリル：Track No. Unit 11.1 / Unit 11.2 / Unit 11.3 Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?"　後半 （b,c クラスは Writing は任意）	

第 3 週	Grammar：Unit 11　現在完了形(2)〈完了（結果）・経験〉 授業で扱うドリル：Track No. Unit 11.4 / Unit 11.5 / Unit 11.6 Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半	
第 4 週	Grammar：Unit 12　命令文・否定疑問文・付加疑問文 授業で扱うドリル：Track No. Unit 12.1 / Unit 12.2 / Unit 12.3 / Unit 12.7 Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半 （b,c クラスは writing は任意）	
第 5 週	Grammar：Unit 13　不定詞(1)名詞的用法 授業で扱うドリル：Track No. Unit 13.1 / Unit 13.2 / Unit 13.4 Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半	
第 6 週	Grammar：Unit 14　不定詞(1)名詞的用法 授業で扱うドリル：Track No. Unit 13.5 / Unit 13.6 / Unit 13.7 Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 （b,c クラスは writing は任意）	
第 7 週	Grammar：中間テスト Activity：BONUS（Units 7-9）	
第 8 週	Grammar：Unit 13　不定詞(2)不定詞と動名詞 授業で扱うドリル：Track No. Unit 14.1 / Unit 14.2 / Unit 14.3 Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：Unit 13　不定詞(2)不定詞と動名詞 授業で扱うドリル：Track No. Unit 14.4 / Unit 14.5 / Unit 14.6 Activity：Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 10 週	Grammar：Unit 15　不定詞(3)形容詞的用法 授業で扱うドリル：Track No. Unit 15.1 / Unit 15.2 / Unit 15.3 Activity：Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半 （b,c クラスは writing は任意）	
第 11 週	Grammar：Unit 16　不定詞(4)副詞的用法 授業で扱うドリル：Track No. Unit 16.1 / Unit 16.4 / Unit 16.6 Activity：Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 12 週	Grammar：Unit 17　分詞(1)形容詞的用法 授業で扱うドリル：Track No. Unit 17.1 / Unit 17.2 / Unit 17.3 Activity：Unit 11 "I had a good time." 後半 （b,c クラスは writing は任意）	
第 13 週	Grammar：Unit 18　分詞(2)副詞的用法（分詞構文）① 授業で扱うドリル：Track No. Unit 18.1 / Unit 18.2 / Unit 18.3	

	Activity：Unit 12 ”I'm going to go by car.”前半	
第 14 週	Grammar：Unit 19　期末テスト Activity：Unit 12 ”I'm going to go by car.”後半 （b,c クラスは writing は任意）	
第 15 週	Grammar：Unit 19　分詞(2)副詞的用法（分詞構文）② 授業で扱うドリル：Track No. Unit 19.1 / Unit 19.2 / Unit 19.3 Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE102-M01	2.科目名	総合英語Ⅰ（再）	3.単位数	2
4.授業担当教員	Colin Rogers、丸橋良雄				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。 ＊他のしい授業ですから良かったら受講してください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半	Activity: Unit 07 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半	Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半	
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半	Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半	

第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity：Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity：Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity：Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar：063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity：Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity：Unit 12 ”I'm going to go by car.”前半	
第 13 週	Grammar：069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity：Unit 12 ”I'm going to go by car.”後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar：072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity：BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE102-Y01	2.科目名	総合英語Ⅰ （再）	3.単位数	2
4.授業担当教員	友繁義典、Michael Heller				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半	Activity: Unit 07 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半	Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半	
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半	Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半	
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③	Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語

	Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar：054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity：Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity：Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity：Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar：063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity：Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity：Unit 12 ”I'm going to go by car.”前半	
第 13 週	Grammar：069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity：Unit 12 ”I'm going to go by car.”後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar：072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity：BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE102-Y02	2.科目名	総合英語Ⅰ　【観光 2 年】	3.単位数	2
4.授業担当教員	前田哲男				
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	2 学年
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、記述文法を学び、オーディオ・リンガル・メソッドによるパターン・プラクティスを通して、実際に口頭で運用できるようになることを学習目標とする。 また、１学年で学んだ英語基礎の内容に加え、複文、重文などのより複雑な文章を運用できることを目指す。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語を母国語とする文化圏の文化やその地域を理解することにつながり、またグローバルなコミュニケーションスキルを身に付けることに直結するものである。				
19.教科書・教材	英語のハノン（中級）　筑摩書房				
20.参考文献	なし				
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 通常点 40 点（各ユニット終了後に実施する小テスト、授業参加姿勢等）				
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。 教科書の次の部分については、ポイントの簡単な説明のみとし、授業ではほとんど扱いません。 U12(後半), Unit 13(後半)				
23.オフィスアワー	決まった時間は設定しませんが、質問や相談があれば、研究室（3310）に来てください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	第 1 回：オリエンテーション Unit 1 接続詞(1) 第 2 回：Unit 1 接続詞(1)	
第 2 週	第 3 回：Unit 1 接続詞(1) 第 4 回：Unit 2 接続詞(2)	
第 3 週	第 5 回：Unit 3 接続詞(3) 第 6 回：Unit 3 接続詞(3)	
第 4 週	第 7 回：Unit 4 接続詞(4) 第 8 回：Unit 5 接続詞(5)	
第 5 週	第 9 回：Unit 6 接続詞(6) 第 10 回 ：Unit 6 接続詞(6)	
第 6 週	第 11 回：Unit 7 同格節	

	第 12 回 ：Unit 8 過去完了形・未来完了形	
第 7 週	第 13 回：Unit 8 過去完了形・未来完了形 第 14 回：Unit 9 間接話法	
第 8 週	第 15 回：Unit 9 間接話法 第 16 回：中間テスト	
第 9 週	第 17 回：Unit 10 疑問詞節 第 18 回：Unit 11 比較(1)原級	
第 10 週	第 19 回：Unit 11 比較(1)原級 第 20 回：Unit 11 比較(1)原級	
第 11 週	第 21 回：Unit 12 比較(2) 比較級 第 22 回：Unit 12 比較(2) 比較級	
第 12 週	第 23 回：Unit 12 比較(2) 比較級（P164-180 の部分は授業では扱いません） 第 24 回：Unit 13 比較(3) 最上級	
第 13 週	第 25 回：Unit 13 比較(3) 最上級 第 26 回：Unit 13 比較(3) 最上級（P195-203 の部分は、授業では扱いません）	
第 14 週	第 27 回：Unit 14 倒置 第 28 回：Unit 14 倒置	
第 15 週	第 29 回：TOEIC IP Test（授業時に行う） 第 30 回：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE103-A01	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ（再))※再履修の学生のみが履修	3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄				
5.授業科目の区分	必修	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] （桐原書店）				
20.参考文献					
21.成績評価	平常点：50 点 授業への貢献度：20 点 期末テスト：30 点				
22.コメント	＊前年度使用した教科書と同じものなので、毎回持参してください。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。 ＊楽しい授業ですから良かったら受講してください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション Unit 01	
第 2 回	Unit 02	
第 3 回	Unit 03	
第 4 回	Unit 04	
第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	

第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE103-Y01	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ （再）	3.単位数	1
4.授業担当教員	友繁義典				
5.授業科目の区分	必修	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] （桐原書店）				
20.参考文献					
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション Unit 01	
第 2 回	Unit 02	
第 3 回	Unit 03	
第 4 回	Unit 04	
第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	

第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE104-A71	2.科目名	ｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ ｲﾝｸﾞ ﾘｯｼｭ I	3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤恵一				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件	以下のいずれかに当てはまること 「TOEIC の受験経験があり、400 点を目標に学習したい」 「TOEIC の受験予定があり、準備学習をしたい」		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的 この科目は、英文法の基礎を習得し、TOEIC で合計スコア 400 点以上を取得できるような基礎的な英語力を身につけることを目的とします。 概要 ただ問題を解くだけではなく、英文法を理解し、正しく英文を読むための基礎力を身につけます。学習した英文法を使っての作文や音読などのアウトプット活動も行い、理解の深化と身体化も目指します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	① 実用的な語学力 ② 他者と協働するコミュニケーションスキル				
19.教科書・教材	Key Strategies for Success on the TOEIC L&R Test [Level 400] （朝日出版社）				
20.参考文献	授業内で適宜紹介、必要な場合はプリントを配布				
21.成績評価	授業参加度　30 点…学習目標②に対応 小テスト　30 点…学習目標①に対応 最終試験　40 点…学習目標①に対応 合計 60 点以上で合格となる				
22.コメント	・授業の進度や内容は受講生の理解度に合わせて変更する場合があります。 ・ペアワーク、グループワークを使って授業を進めます。積極的な参加を求めます。				
23.オフィスアワー	授業前後に教室や講師控え室で。もしくは e-mail での対応とする。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	コースガイダンスとプレテスト	必ず教科書を持参すること。プレテストの結果を分析し、自分の弱点を客観的に把握する。
第 2 回	Unit R-1：品詞（名詞・形容詞） Unit R-2：品詞（動詞・副詞）	単語の予習、文法事項の復習、例文の音読
第 3 回	Unit L-1：写真問題（人物が写っている写真） Unit L-2：写真問題（人物が写っていない写真）	単語の予習、文法事項の復習、例文の音読
第 4 回	Unit R-3：代名詞・動詞のかたち 1（受動態／能動態） Unit R-4：動詞のかたち 2（時制、その他）	単語の予習、文法事項の復習、例文の音読
第 5 回	Unit L-3：疑問詞で始まる疑問文 Unit L-4：機能別疑問文	単語の予習、文法事項の復習、例文の音読
第 6 回	Unit R-5：前置詞／接続詞 Unit R-6：長文穴埋め問題	単語の予習、文法事項の復習、例文の音読
第 7 回	Unit L-5：選択疑問文、Yes/No 疑問文	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の

	Unit L-6：応答問題の総合演習	音読
第 8 回	読解問題の学習 Unit R-7：広告 Unit R-8：チャット、E メール 1 Unit R-9：E メール 2	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 9 回	会話問題の学習 Unit L-7：全体問題と詳細問題 Unit L-8：職業、提案、次の行動を問う問題 Unit L-9：トピック、目的、依頼を問う問題	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 10 回	読解問題の学習 Unit R-10：手紙 Unit R-11：告知、社内回覧	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 11 回	スピーチ問題の学習 Unit L-10：録音メッセージ、広告 Unit L-11：アナウンス、トーク、ニュース	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 12 回	読解問題の学習 Unit R-12：ダブルパッセージ リスニングの学習 Unit L-12：図表がついた問題	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 13 回	総復習 1 Unit R-13：穴埋め問題の復習 Unit L-13：写真問題と会話問題の復習	単語の予習、不確かな文法事項の復習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 14 回	Unit R-14：読解問題の復習 Unit L-14：応答問題とスピーチ問題の復習	単語の予習、不確かな文法事項の復習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 15 回	まとめと授業内試験	総復習をして試験に臨む、試験終了後は自分の学習を振り返り今後の学習計画の指針とする

1.授業コード（ナンバリング）	FLE104-M71	2.科目名	ｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ I	3.単位数	1
4.授業担当教員	上仲淳				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	概要：この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じる。 目的：TOEIC テストの得点向上を目指す。				
18.学習目標とＤＰとの関連	TOEIC L&R400 点以上を取得する。 DP ④問題発見・解決力　⑤コミュニケーションスキルに関連する。				
19.教科書・教材	『KEY STRATEGIES FOR SUCCESS ON THE TOEIC L&R TEST Level 400』朝日出版社				
20.参考文献					
21.成績評価	平常点 30 点 小テスト 20 点 最終テスト 50 点				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション Unit L-1 Unit R-1	
第 2 回	Unit L-2 Unit R-2	
第 3 回	Unit L-3 Unit R-3	
第 4 回	Unit L-4 Unit R-4	
第 5 回	Unit L-5 Unit R-5	
第 6 回	Unit L-6 Unit R-6	
第 7 回	Unit L-7 Unit R-7	
第 8 回	Unit L-8 Unit R-8	
第 9 回	Unit L-9 Unit R-9	
第 10 回	Unit L-10 Unit R-10	
第 11 回	Unit L-11 Unit R-11	
第 12 回	Unit L-12 Unit R-12	

第 13 回	Unit L-13 Unit R-13	
第 14 回	Unit L-14 Unit R-14	
第 15 回	模擬テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE104-Y71	2.科目名	ｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ ｲﾝｸﾞ ﾘｯｼｭ Ⅰ	3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤恵一				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件	以下のいずれかに当てはまること 「TOEIC の受験経験があり、400 点を目標に学習したい」 「TOEIC の受験予定があり、準備学習をしたい」		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的 この科目は、英文法の基礎を習得し、TOEIC で合計スコア 400 点以上を取得できるような基礎的な英語力を身につけることを目的とします。 概要 ただ問題を解くだけではなく、英文法を理解し、正しく英文を読むための基礎力を身につけます。学習した英文法を使っての作文や音読などのアウトプット活動も行い、理解の深化と身体化も目指します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	① 実用的な語学力 ② 他者と協働するコミュニケーションスキル				
19.教科書・教材	Key Strategies for Success on the TOEIC L&R Test [Level 400] （朝日出版社）				
20.参考文献	授業内で適宜紹介、必要な場合はプリントを配布				
21.成績評価	授業参加度　30 点…学習目標②に対応 小テスト　30 点…学習目標①に対応 最終試験　40 点…学習目標①に対応 合計 60 点以上で合格となる				
22.コメント	・授業の進度や内容は受講生の理解度に合わせて変更する場合があります。 ・ペアワーク、グループワークを使って授業を進めます。積極的な参加を求めます。				
23.オフィスアワー	授業前後に教室や講師控え室で。もしくは e-mail での対応とする。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	コースガイダンスとプレテスト	必ず教科書を持参すること。プレテストの結果を分析し、自分の弱点を客観的に把握する。
第 2 回	Unit R-1：品詞（名詞・形容詞） Unit R-2：品詞（動詞・副詞）	単語の予習、文法事項の復習、例文の音読
第 3 回	Unit L-1：写真問題（人物が写っている写真） Unit L-2：写真問題（人物が写っていない写真）	単語の予習、文法事項の復習、例文の音読
第 4 回	Unit R-3：代名詞・動詞のかたち 1（受動態／能動態） Unit R-4：動詞のかたち 2（時制、その他）	単語の予習、文法事項の復習、例文の音読
第 5 回	Unit L-3：疑問詞で始まる疑問文 Unit L-4：機能別疑問文	単語の予習、文法事項の復習、例文の音読
第 6 回	Unit R-5：前置詞／接続詞 Unit R-6：長文穴埋め問題	単語の予習、文法事項の復習、例文の音読
第 7 回	Unit L-5：選択疑問文、Yes/No 疑問文	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の

	Unit L-6：応答問題の総合演習	音読
第 8 回	読解問題の学習 Unit R-7：広告 Unit R-8：チャット、E メール 1 Unit R-9：E メール 2	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 9 回	会話問題の学習 Unit L-7：全体問題と詳細問題 Unit L-8：職業、提案、次の行動を問う問題 Unit L-9：トピック、目的、依頼を問う問題	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 10 回	読解問題の学習 Unit R-10：手紙 Unit R-11：告知、社内回覧	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 11 回	スピーチ問題の学習 Unit L-10：録音メッセージ、広告 Unit L-11：アナウンス、トーク、ニュース	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 12 回	読解問題の学習 Unit R-12：ダブルパッセージ リスニングの学習 Unit L-12：図表がついた問題	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 13 回	総復習 1 Unit R-13：穴埋め問題の復習 Unit L-13：写真問題と会話問題の復習	単語の予習、不確かな文法事項の復習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 14 回	Unit R-14：読解問題の復習 Unit L-14：応答問題とスピーチ問題の復習	単語の予習、不確かな文法事項の復習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 15 回	まとめと授業内試験	総復習をして試験に臨む、試験終了後は自分の学習を振り返り今後の学習計画の指針とする

1.授業コード（ナンバリング）	FLE106-Y01	2.科目名	英語 I	3.単位数	4
4.授業担当教員	横山雅彦				
5.授業科目の区分	英語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	いわゆる学校文法を整理し、さらにそのスピーキングでの運用能力を養成する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、記述文法を学び、オーディオ・リンガル・メッソドによるパターン・プラクティスを通して、実際に口頭で運用できるようになることを学習目標とする。この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	『英語のハノン――やりなおし英文法スーパードリル／初級』筑摩書房 『英語のハノン――やりなおし英文法スーパードリル／中級』筑摩書房 ＊購入については、第 1 回の授業で指示する（書店で直接購入）。				
20.参考文献					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 小テスト 20 点 平常点 20 点				
22.コメント	教科書は、必ず指定の方法で事前に購入すること。予習は不要であるが、教科書を持参していない学生は、他の学生の迷惑となるため、出席を認めない（教科書を忘れて出席しても、その回は欠席扱いとする）。また、必ずノートテイキングと作業用のルーズリーフ（またはノートブック）を持参すること。 課題を怠った学生、居眠りしたり雑談したりする学生には、退席を求め、欠席扱いとする。また、原則として欠席・途中参加は認めない。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	第 1-2 回　初級／Unit 0 第 3-4 回　初級／Unit 1	
第 2 週	第 5-6 回　初級／Unit 2 第 7-8 回　初級／Unit 3	
第 3 週	第 9-10 回　初級／Unit 4 第 11-12 回　初級／Unit 5	
第 4 週	第 13-14 回　初級／Unit 6 第 15-16 回　初級／Unit 7	
第 5 週	第 17-18 回　初級／Unit 8	

	第 19-20 回　初級／Unit 9	
第 6 週	第 21-22 回　初級／Unit 10 第 23-24 回　初級／Unit 11	
第 7 週	第 25-26 回　初級／Unit 12 第 27-28 回　初級／Unit 13	
第 8 週	第 29-30 回　初級／Unit 14 第 31-32 回　初級／Unit 15	
第 9 週	第 33-34 回　初級／Unit 16 第 35-36 回　初級／Unit 17	
第 10 週	第 37-38 回　初級／Unit 18 第 39-40 回　初級／Unit 19	
第 11 週	第 41-42 回　中級／Unit 1 第 43-44 回　中級／Unit 2	
第 12 週	第 45-46 回　中級／Unit 3 第 47-48 回　中級／Unit 4	
第 13 週	第 49-50 回　中級／Unit 5 第 51-52 回　中級／Unit 6	
第 14 週	第 53-54 回　中級／ Unit 7 第 55-56 回　中級／ Unit 8	
第 15 週	第 57-58 回　中級／Unit 9 第 59-60 回　中級／Unit 10	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE108-Y01	2.科目名	英語基礎１　【G コミ】L1（1/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理				
5.授業科目の区分	共通選択　基礎	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科（または英語コミュニケーション学科）で指定された学生			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習＆講義		
16.履修制限	クラス分けテストにより、このクラスを指定された学生に限る。				
17.授業の目的と概要	【目的】CEFR　A1 レベルに必要なスキルのうち、特に文法造の理解に焦点を当てますが、文法知識を総合的に用いることができるよう様々な練習問題を通して、英語力を養います。 【概要】文法項目を復習し、英語の構造を学びます。また実際に活用できるように、練習問題に取り組みながら、知識の定着を図ります。授業外での e-learning を求めます。 This course focuses on grammar knowledge of CEFR A1 Level. You will learn the followi				
18.学習目標と　ＤＰとの関連	1) Can understand everyday expressions and basic phrases (2) Can do introductions and answer questions about personal details (3) Can interact in a simple ways in graded conversation tasks DP(1) 自律性：基礎力養成のため繰り返す基礎練習等により学習習慣をつけ、自分で学習をコントロールできるようにします。				
19.教科書・教材	インターネット上の教材「総合英語コース」(￥3080)を用います。授業の 1 週目に、登録・支払いについて説明します。そのほか、授業で資料などを配布します。 中辞典以上の英和辞典を持参すること（電子辞書 OK）				
20.参考文献	世界一わかりやすい英文法の授業　（関正生　中経出版） ひとりで学ぶ書き込み英文法ノート(田中健一　学研） 英文法基礎 10 題ドリル(田中健一　駿台文庫） ネイティブスピーカーの英語感覚(大西泰斗　/　ポール・マクベイ　研究社）				
21.成績評価	以下の合計で 100%となりますが、そのうち 60%に到達したら合格です。 ・e-learning　40%（50 レッスン中 40 レッスン合格していること、各レッスンごとにテストがありますが、繰り返し挑戦できます。） ・中間テスト　20% ・総括テスト　20% ・授業中の小テストおよび提出物　20% 中間・総括・小テストは授業中に実施します。1 回のみで再チャレンジはありません。				
22.コメント	・授業外で、少しずつ計画的に各レッスンの学習を進めてください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週（1・2 回）	オリエンテーション ・e-learning について（登録・購入方法、使い方） ・レベルチェック	ノート PC/タブレット/スマートフォンのいずれか、インターネットにつないで教材が見られるものが毎回必要
第 2 週	学習手順の確認 全体把握ー重要表現ー語彙ー演習ーテスト テストで合格点に到達しないときは繰り返し復習して再チャレンジ	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 3 週	英文の構造と文の要素	PE の 4 レッスン（各 45 分）

	日本語との違いを理解し、英文の基本構造を学ぶことにより、意味理解や作文に役立てる。理解に必要な文の要素について学ぶ。	表現の復習（45 分）
第 4 週	品詞 品詞とは何か、各品詞の役割	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 5 週	動詞 動詞の役割と活用、時制	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 6 週	動詞 2 変化する動詞（不定詞、動名詞）	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 7 週	形容詞 修飾の仕方、形容詞句・節	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 8 週	中間テスト・弱点分析	PE の 4 レッスン（各 45 分） 復習（90 分）
第 9 週	副詞 副詞の役割と位置	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 10 週	前置詞 前置詞の役割と種類、前置詞句	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 11 週	接続詞 接続詞の役割と位置、ディスコースマーカーとは何か	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 12 週	関係詞 関係詞の種類、関係詞節の役割	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 13 週	比較 比較の種類、日本語との違い、慣用表現	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 14 週	否定 否定の仕方、否定語の位置、日本語との相違点	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 15 週	総括テスト、総括・分析	PE の 4 レッスン（各 45 分） 復習（90 分）

1.授業コード（ナンバリング）	FLE108-Y02	2.科目名	英語基礎１　【G コミ】L1（2/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本由紀子				
5.授業科目の区分	共通選択　基礎	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科（または英語コミュニケーション学科）で指定された学生			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習＆講義		
16.履修制限	クラス分けテストにより、このクラスを指定された学生に限る。				
17.授業の目的と概要	CEFR　A1 レベルに必要なスキルのうち、特に文法造の理解に焦点を当てますが、文法知識を総合的に用いることができるよう様々な練習問題を通して、英語力を養います。 This course focuses on grammar knowledge of CEFR A1 Level. You will learn the following ; 1) Parts of Speech				
18.学習目標とＤＰとの関連	1) Can understand everyday expressions and basic phrases (2) Can do introductions and answer questions about personal details (3) Can interact in a simple ways in graded conversation tasks DP(1) 自律性：基礎力養成のため繰り返す基礎練習等により学習習慣をつけ、自分で学習をコントロールできるようにします。				
19.教科書・教材	インターネット上の教材(Practical English)を用います。授業の 1 週目に、登録・支払いについて説明します。 中辞典以上の英和辞典を持参すること（電子辞書 OK）				
20.参考文献	世界一わかりやすい英文法の授業　（関正生　中経出版） ひとりで学ぶ書き込み英文法ノート(田中健一　学研） 英文法基礎 10 題ドリル(田中健一　駿台文庫） ネイティブスピーカーの英語感覚(大西泰斗　/　ポール・マクベイ　研究社）				
21.成績評価	・e-learning　40%（50 レッスン中 40 レッスン合格していること） ・中間テスト　20% ・総括テスト　20% ・授業中の小テストおよび提出物　20%				
22.コメント	・授業外で、少しずつ計画的に各レッスンの学習を進めてください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週（1・2 回）	オリエンテーション ・e-learning について（登録・購入方法、使い方） ・レベルチェック	ノート PC/タブレット/スマートフォンのいずれか、インターネットにつないで教材が見られるものが毎回必要
第 2 週	学習手順の確認 全体把握ー重要表現ー語彙ー演習ーテスト テストで合格点に到達しないときは繰り返し復習して再チャレンジ	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 3 週	・英文の構造と文の要素	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 4 週	品詞	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）

第 5 週	動詞	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 6 週	動詞 2	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 7 週	形容詞	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 8 週	中間テスト・弱点分析	PE の 4 レッスン（各 45 分） 復習（90 分）
第 9 週	副詞	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 10 週	前置詞	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 11 週	接続詞	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 12 週	関係詞	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 13 週	比較	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 14 週	否定	PE の 4 レッスン（各 45 分） 表現の復習（45 分）
第 15 週	総括テスト、総括	PE の 4 レッスン（各 45 分） 復習（90 分）

1.授業コード（ナンバリング）	FLE108-Y03	2.科目名	英語基礎１　【観光】a	3.単位数	2
4.授業担当教員	権延ジュ				
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	１学年
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	高校までに学んだ学校文法を体系的に総整理しながら、文法の知識にとどまらず、パターン・プラクティスやペアワーク等を通して、何度も自ら発話する機会を多く設け、実際に口頭で運用できるようになることを学習目標とする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語を母国語とする文化圏の文化やその地域を理解することにつながり、またグローバルなコミュニケーションスキルを身に付けることに直結するものである。				
19.教科書・教材	英文法授業ノート（ぺりかん社）				
20.参考文献	なし				
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 通常点 40 点（各５ユニット終了後に実施する小テスト、授業参加姿勢等）				
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１週	第１回：オリエンテーション 054 文型④ 第２回：055 原形不定詞、056 完了形①	
第２週	第３回：057 完了形②、058 完了形③ 第４回：059 完了形④、060 完了形⑤	
第３週	第５回：061 完了形⑥、062 時制の一致 第６回：063 分詞①、064 分詞②	
第４週	第７回：065 分詞③、066 分詞④ 第８回：067 分詞⑤、068 分詞⑥	
第５週	第９回：069 分詞構文①、070 分詞構文② 第 10 回：071 分詞構文③、072 分詞構文④	
第６週	第 11 回：073 分詞構文⑤、074 関係詞① 第 12 回：075 関係詞②、076 関係詞③	
第７週	第 13 回：077 関係詞④、078 関係詞⑤ 第 14 回：079 関係詞⑥、080 接続詞①	
第８週	第 15 回：081 接続詞②、082 否定文① 第 16 回：中間テスト	

第 9 週	第 17 回：083 否定文②、084 否定文③ 第 18 回：085 否定文④、086 否定文⑤	
第 10 週	第 19 回：087 疑問文①、088 疑問文② 第 20 回：089 疑問文③、090 疑問文④	
第 11 週	第 21 回：091 付加疑問①、092 付加疑問② 第 22 回：093 話法①、094 話法②	
第 12 週	第 23 回：095 仮定法①、096 仮定法② 第 24 回：097 仮定法③、098 代名詞①	
第 13 週	第 25 回：099 代名詞②、100 代名詞③ 第 26 回：101 代名詞④、102 数詞①	
第 14 週	第 27 回：103 数詞②、104 数詞③ 第 28 回：105 前置詞①、106 前置詞②	
第 15 週	第 29 回：107 前置詞③、108 前置詞④ 第 30 回：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE108-Y04	2.科目名	英語基礎１　【観光】b	3.単位数	2
4.授業担当教員	前田哲男				
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	１学年
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	高校までに学んだ学校文法を体系的に総整理しながら、文法の知識にとどまらず、パターン・プラクティスやペアワーク等を通して、何度も自ら発話する機会を多く設け、実際に口頭で運用できるようになることを学習目標とする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語を母国語とする文化圏の文化やその地域を理解することにつながり、またグローバルなコミュニケーションスキルを身に付けることに直結するものである。				
19.教科書・教材	英文法授業ノート（ぺりかん社）				
20.参考文献	なし				
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 通常点 40 点（各５ユニット終了後に実施する小テスト、授業参加姿勢等）				
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。 第３回目の授業で行う TOEIC IP Test は、この科目の成績評価に反映させることはしませんが、入学時の自らの英語力を把握するための大切なテストであり、今後の TOEIC のスコアとして活用するための重要なテストです。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１週	第１回：オリエンテーション 001 進行形 第２回：002 助動詞①　003 助動詞②	
第２週	第３回：004 助動詞③　005 助動詞④ 第４回：006 助動詞⑤　007 助動詞⑥	
第３週	第５回：TOEIC IP TEST (授業の中で実施) 第６回：008 不定詞①　009 不定詞②	
第４週	第７回：010 不定詞③　011 不定詞④ 第８回：012 不定詞⑤　013 不定詞⑥	
第５週	第９回：014 不定詞⑦　015 不定詞⑧ 第 10 回：016 動名詞①　017 動名詞②	
第６週	第 11 回：018 動名詞③　019 動名詞④ 第 12 回：020 動名詞⑤　021 名詞①	
第７週	第 13 回：022 名詞②　023 名詞③	

	第 14 回：024 名詞④　025 名詞⑤	
第 8 週	第 15 回：026 名詞⑥　027 冠詞 第 16 回：中間テスト	
第 9 週	第 17 回：028 比較①　029 比較② 第 18 回：030 比較③　031 比較④	
第 10 週	第 19 回：032 比較⑤　033 比較⑥ 第 20 回：034 比較⑦　035 比較⑧	
第 11 週	第 21 回：036 比較⑨　037 形容詞① 第 22 回：038 形容詞②　039 形容詞③	
第 12 週	第 23 回：040 副詞①　041 副詞② 第 24 回：042 副詞③　043 副詞④	
第 13 週	第 25 回：044 副詞⑤　045 動詞① 第 26 回：046 動詞②　047 動詞③	
第 14 週	第 27 回：048 受動態①　049 受動態② 第 28 回：050 受動態③　051 文型①	
第 15 週	第 29 回：052 文型②　053 文型③ 第 30 回：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE109-Y01	2.科目名	英語基礎２ 【G コミ】L2	3.単位数	2
4.授業担当教員	川部純巳				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	１年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	At the end of the semester, students are expected acquire both business and everyday conversational English skills. Specifically, they: 1) learn how English is used naturally in a variety of work environments through dialogues between clients, employers,				
18.学習目標とＤＰとの関連	At the end of the semester, students are expected to successfully achieve the following abilities set by the Department: 1）自律的で主体的な態度（自律性） Autonomous and independent attitude (autonomy) 2）問題発見・解決力 Problem finding and solving ability 3）コミュニケーションスキル Communication skills 4)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（Understanding Diversity）				
19.教科書・教材	Work Advantage 1 by K.A. Wright ISBN 9789865840624				
20.参考文献					
21.成績評価	平常点 40 点、English Only 10 点、 小テスト 20 点、総括試験(Final test) 30 点				
22.コメント	＊授業中の携帯電話の使用を禁止します。 ＊テキスト忘れや、授業に参加していない(携帯を見ている/居眠り/私語など)、宿題をしていない等の場合には、欠席扱いとなることがあります。 ＊授業内での活動及び assignments を重視している為、欠席しないように十分に注意してください。 ＊提出期限が過ぎた assignments、エッセイなどは受理しないので点数はゼロである。 ＊翻訳機の使用や剽窃が疑われるエッセイの点数はゼロである。 ＊やむ終えず欠席してしまった場合、必ず次の授業までに担当教員より学習内容及び宿題を確認し、次の授業に臨んでください。 ＊授業は主に教科書に沿って進めていきますが、授業内活動としてペアやグループによるタスク等を行います。したがって、積極的な参加姿勢で授業に臨んでください。				
23.オフィスアワー	質問は授業の前と後、もしくはメールにて受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	DAY 1: Course Orientation: Syllabus DAY 2: UNIT 1	
Week 2	DAY 3: UNIT 1 DAY 4: UNIT 2	
Week 3	DAY 5: UNIT 2 DAY 6: UNIT 3	
Week 4	DAY 7: UNIT 3 DAY 8: Review (Unit 1-3)	
Week 5	DAY 9: UNIT 4	

	DAY 10: UNIT 4	
Week 6	DAY 11: UNIT 5 DAY 12: UNIT 5	
Week 7	DAY 13: UNIT 6 DAY 14: UNIT 6	
Week 8	DAY 15: Review (Unit 4-6) DAY 16: UNIT 7	
Week 9	DAY 17: UNIT 7 DAY 18: UNIT 8	
Week 10	DAY 19: UNIT 8 DAY 20: UNIT 9	
Week 11	DAY 21: UNIT 9 DAY 22: Review (Unit 7-9)	
Week 12	DAY 23: UNIT 10 DAY 24: UNIT 10	
Week 13	DAY 25: Unit 11 DAY 26: Unit 11	
Week 14	DAY 27: Unit 12 DAY 28: Unit 12	
Week 15	DAY 29: Review (Unit 10-12) DAY 30: Final Test	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE110-Y01	2.科目名	オーラル・コミュニケーション１　【観光】a			3.単位数	2
4.授業担当教員	Stelen E.Siagto						
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科				9.履修学年	1 学年	
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	Lecture, Group discussions, Student Presentations, Worksheets, Videos and other media, Online Applications, on demand lessons		
16.履修制限	Class A						
17.授業の目的と概要	The purpose of this course is for students to develop communicative skills in English (listening and reading comprehension and written and oral expression).						
18.学習目標とＤＰとの関連	At the end of the course, the students will be able to: 1. Develop interpersonal skills by participating in group work and group projects. 2. Develop independent learning by using learning applications with some monitoring on the lecturer's part. 3. Acquire the ability to design and write reports and presentations in English by listening to lectures and applying the appropriate knowledge and tools required for the presentation delivery with monitoring on the part of the lecturer. 4. Learn and explore topics and ideas from around the world by reading　short articles and watching videos during and outside class hours.						
19.教科書・教材	Title: Smart Choice 1 (Oxford, 4Th Edition)) Author: Ken Wilson						
20.参考文献	Additional references will be provided during the class.						
21.成績評価	Worksheets/ Quizzes 30% Class Participation 10% Midterm Test 20% Final Test 30% Homework 10% Total 100%						
22.コメント	1. This course is conducted in English 2. Always bring your textbooks in class. 3. If you have any questions or problems, it is important to see me as soon as possible so we can appropriately address the situation.						
23.オフィスアワー	The instructor is on campus from Mondays to Fridays and can also be contacted via email.						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	Day 1: Greetings, Syllabus Discussion, Learning Applications Day 2: Unit 1	Textbook Homework: Flipgrid

	Day 3: Unit 1 Day 4: Unit 2	Textbook Homework: Flipgrid
	Day 5: Unit 2 Day 6: Unit 3	Textbook Homework: Flipgrid
	Day 7: Unit 3 Day 8: Unit 4	Textbook Homework: Flipgrid
	Day 9: Unit 4 Day 10: Unit 5	Textbook Homework: Flipgrid
	Day 11: Unit 5 Day 12: Unit 6	Textbook Homework: Flipgrid
	Day 13: Unit 6 Day 14: Review (Unit 1 - Unit 6)	Textbook Homework: Flipgrid
	Day 15: Midterm Test Day 16: Unit 7	
	Day 17: Unit 7 Day 18: Unit 8	Textbook Homework: Flipgrid
	Day 19: Unit 8 Day 20: Unit 9	Textbook Homework: Flipgrid
	Day 21: Unit 9 Day 22: Unit 10	Textbook Homework: Flipgrid
	Day 23: Unit 10 Day 24: Unit 11	Textbook Homework: Flipgrid
	Day 25: Unit 11 Day 26: Unit 12	Textbook Homework: Flipgrid
	Day 27: Unit 12 Day 28: Review (Unit 7-Unit 12)	Textbook Homework: Flipgrid
	Day 29: Preparation for the final test Day 30: Final Test	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE110-Y02	2.科目名	オーラル・コミュニケーション１　【観光】b	3.単位数	2
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade				
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1st year students
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	Lecture, presentation and 演習
16.履修制限	First year students should take the placement test.				
17.授業の目的と概要	The aim of this course is to enable students to communicate their thoughts, present ideas and share information through in-class activities and presentation.				
18.学習目標とＤＰとの関連	1. Enable students to express their goals in class through effective oral communication. 2. Enable students to understand English topics and statements. 3. Enable students to create a comprehensive presentation about a topic that will be given to each of them.				
19.教科書・教材	Textbook title: Smart Choice 1 (Student Book) Publisher: Oxford University Press Author: Ken Wilson ISBN: 978-0-19-406099-8				
20.参考文献					
21.成績評価	1. In-class activities (points) 20% 2. Group Task　20% 3. Flipgrid Homework 10% 4. Midterm Task 20% 5. Final Task 30%				
22.コメント	Note: Additional points will be given to students who will participate in English Private Lesson sessions this semester.				
23.オフィスアワー	Kobe Yamate Campus Building 3 Global Gakushu Plaza Rm 016 Monday-Friday				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	Course Introduction Unit 1: Nice to meet you! Grammar: Statements and questions Class room task	
	Unit 2: What do you do? Grammar: The simple present Class room task	
	Unit 3: Do you like noodles? Grammar: The simple present: Questions with 'do'	

	Class room task	
	Unit 4: How often do you exercise? Grammar: Frequency adverbs Class room task	
	Unit 5: I'm listening to music Grammar: The present continuous Class room task	
	Unit 6: Where were you yesterday? Grammar: The past tense of 'be' Class room task	
	Midterm Task Midterm Test	
	Unit 7: Which one is cheaper? Grammar: Comparative Adjectives Class room task	
	Unit 8: They're very friendly Grammar: be like/ look like Class room task	
	Unit 9: You can visit the zoo Grammar: can and can't Class room task	
	Unit 10: Is there a coffee shop? Grammar: There is and There are Class room task	
	Unit 11: I had a good time Grammar:The simple past Class room task	
	Unit 12: I'm going to go by car. Grammar: be going to+ verb Class room task	
	Final Presentation	
	Final Test	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE110-Y04	2.科目名	オーラル・コミュニケーション１　【G コミ】L1（1/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	Jonathan Aliponga				
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	Department of Global Communication			9.履修学年	1st year
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	This course aims to develop the students' ability in speaking and listening comprehension.				
18.学習目標とＤＰとの関連	At the end of the semester, 1. The students will be able to develop their speaking skills through the help of lesson materials provided in class. 2. The students will be able to comprehensively express their insights on given important information and statements in class. 3. The students will be able to create an effective speech presentation about the topic they will choose/receive in class.				
19.教科書・教材	Textbook title: English Firsthand ACCESS Student Book with MyMobileWorld (5th Edition) Publisher: Pearson Educaion Authors: Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown ISBN: 9789813132757				
20.参考文献					
21.成績評価	Activities on PADLET　and Shared Word File (Speaking, Written, etc): 30% Quizzes: 30% Final Test: 40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	Course Introduction Unit 1: How are you? Speaking Task In-class activities	Listening Homework 1
	Unit 2: Do you understand? Speaking Task In-class activities	Speaking Report 1 Listening Homework 1
	Unit 3: This is my room. Speaking Task In-class activities	Speaking Report 2 Listening Homework 2
		Speaking Report 3

	Unit 4: When do you get up? Speaking Task In-class activities	Listening Homework 3
	Unit 5: Who's that? Speaking Task In-class activities	Speaking Report 4 Listening Homework 4
	Unit 6: That's a great shirt! Speaking Task In-class activities	Speaking Report 5 Listening Homework 5
	Midterm Task	Speaking Report 6 Listening Homework 6
	Unit 7:I love weekends! Speaking Task In-class activities	Speaking Report 7 Listening Homework 7
	Unit 8:Let's eat! Speaking Task In-class activities	Speaking Report 8 Listening Homework 8
	Unit 9:I really enjoy it! Speaking Task In-class activities	Speaking Report 9 Listening Homework 9
	Unit 10:Welcome to my home! Speaking Task In-class activities	Speaking Report 10 Listening Homework 10
	Unit 11:I love weekends! Speaking Task In-class activities	Speaking Report 11 Listening Homework 11
	Unit 12: Will I be famous? Speaking Task In-class activities	Speaking Report 12 Listening Homework 12
	Final Test	Class survey questionnaire
	Checklist: Return of quizzes: assessment of requirements	Follow up Class survey questionnaire

1.授業コード（ナンバリング）	FLE110-Y05	2.科目名	オーラル・コミュニケーション１　【G コミ】L1（2/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade				
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	Department of Global Communication			9.履修学年	1st year students
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	Lecture, presentation and 演習
16.履修制限	Students should take the placement test before the semester begins to check their English ability.				
17.授業の目的と概要	This course aims to develop the students' ability in speaking and listening comprehension.				
18.学習目標とＤＰとの関連	At the end of the semester, 1. The students will be able to develop their speaking skills through the help of lesson materials provided in class. 2. The students will be able to comprehensively express their insights on given important information and statements in class. 3. The students will be able to create an effective speech presentation about the topic they will choose/receive in class.				
19.教科書・教材	Textbook title: Stretch (Starter) Publisher: Oxford University Press Author: Susan Stempleski ISBN: 9780194603119				
20.参考文献					
21.成績評価	1. In-class activities (points) 20% 2. Group Task (cooperation and attitude) 20% 3. Homework: Flipgrid activities 10% 3. Midterm Task: 20% 4. Final Task: 30%				
22.コメント	Note: Additional points will be given to students who will participate in English Private Lesson sessions this semester.				
23.オフィスアワー	Monday-Friday Global Gakushu Plaza Kobe Yamate Building 3 Room 016				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	Course Introduction and Orientation Unit 1: Lesson Introduction Class activity	
	Unit 2: Lesson Introduction, discussion and practice	
	Unit 3: Lesson Introduction, discussion and practice	
	Unit 4: Lesson Introduction, discussion and practice	
	Unit 5: Lesson Introduction, discussion and practice	

	Unit 6: Lesson Introduction, discussion and practice	
	Midterm Task and Midterm Test	
	Unit 7: Lesson Introduction, discussion and practice	
	Unit 8: Lesson Introduction, discussion and practice	
	Unit 9: Lesson Introduction, discussion and practice	
	Unit 10: Lesson Introduction, discussion and practice	
	Unit 11: Lesson Introduction, discussion and practice	
	Unit 12: Lesson Introduction, discussion and practice	
	Final Task	
	Final Test	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE111-Y01	2.科目名	オーラル・コミュニケーション２ 【G コミ】 L2	3.単位数	2
4.授業担当教員	Jonathan Aliponga				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション			9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	Students of Oral Communication 2 will: Develop the ability to speak in brief monologues and dialogues that include: -frequently used expressions -exchanging information -talking about one's own background and experiences Develop intensive listening skills				
18.学習目標とＤＰとの関連					
19.教科書・教材	Smart Choice 2 (Oxford), Ken Wilson, Thomas Healey, ISBN: 9780194602730 *Purchase this through the Maruzen website only. この本にはいくつかの異なる版があるので、学生はこの教科書を UNIPA[丸善]からのみ購入する必要があります。 先生は授業初日に丸善のウェブサイトで正しい教科書を生徒に見せます。丸善以外の店で教科書を購入した生徒は、間違ったバージョンの教科書を購入するリスクがあります				
20.参考文献	Using a dictionary is recommended. Translation software is not permitted for the purpose of classroom communication or homework.				
21.成績評価	Activities on PADLET (Speaking, Written, etc): 20% Weekly Homework: 20% Daily Classroom Tasks (from textbook): 20% Final Speaking: 40%				
22.コメント	Some aspects of the syllabus may be subject to change. シラバスの一部の側面は変更される可能性があります。				
23.オフィスアワー	The instructor may be contacted by email. ***				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Course Introduction Tech check Instructions on purchasing the textbook Unit 1 - Vocabulary and listening focus	Review course information
Week 2	Unit 1 - Speaking focus Unit 2 - Vocabulary and listening focus	Speaking Report 1 Listening Homework 1
Week 3	Unit 2 - Speaking focus Unit 3 - Vocabulary and listening focus	Speaking Report 1
Week 4	Unit 3 - Speaking focus Test 1 (Units 1~3)	Speaking Report 1
Week 5	Unit 4 - Vocabulary and listening focus	Listening Homework 2

	Unit 4 - Speaking focus	Speaking Report 2
Week 6	Unit 5 - Vocabulary and listening focus Unit 5 - Speaking focus	Speaking Report 2
Week 7	Unit 6 - Vocabulary and listening focus Unit 6 - Speaking focus	Speaking Report 2
Week 8	Test 2 (Units 4~6) Unit 7 - Vocabulary and listening focus	Listening Homework 3 Speaking Report 3
Week 9	Unit 7 - Speaking focus Unit 8 - Vocabulary and listening focus	Speaking Report 3
Week 10	Unit 8 - Speaking focus Unit 9 - Vocabulary and listening focus	Speaking Report 3
Week 11	Unit 9 - Speaking focus Test 3 (Units 7~9)	Speaking Report 3 Listening Homework 4
Week 12	Unit 10 - Speaking focus Unit 10 - Vocabulary and listening focus	Speaking Report 4
Week 13	Unit 11 - Speaking focus Unit 11 - Vocabulary and listening focus	Speaking Report 4
Week 14	Unit 12 - Speaking focus Unit 12 - Vocabulary and listening focus	Listening Homework 5 Speaking Report 4
Week 15	Test 4 (Units 10~12) Feedback and course wrap-up	Make-up assignments

1.授業コード（ナンバリング）	FLE112-Y01	2.科目名	総合英語Ⅰ 【Gコミ】	3.単位数	2
4.授業担当教員	Binondo Fairlynn Dulla				
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	Department of Global Communication			9.履修学年	1 年生
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義,演習, および グループワーク
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 The goal of this course is to improve students' overall communication skills: grammar, listening, speaking, reading, and writing. This approach aims to instill confidence and create opportunities for expressive communication in English.				
18.学習目標とＤＰとの関連	By the end of the semester, students are expected to effectively communicate in English, engage in thoughtful discussions, understand spoken and written texts, express their thoughts and ideas accurately, and use the language correctly and appropriately in various contexts. At the end of the semester, students are expected to acquire and cultivate the following abilities: 1. 自律的で主体的な態度（自律性） Autonomous and independent attitude (autonomy) 2. 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）(Understanding Diversity) 3. 問題発見・解決力 Problem finding and solving ability 4. コミュニケーションスキル Communication skills				
19.教科書・教材	Textbook: Live Escalate Book 1: Base Camp Author: Teruhiko Kadoyama Publisher: Seibido ISBN: 9784791972210				
20.参考文献					
21.成績評価	Classroom activities, Quizzes, Homework - 25% Midterm Task - 10% Midterm Test - 25% Final Task - 10% Final Test - 30%				
22.コメント	- Students are encouraged to attend class regularly and actively participate in activities. - Always bring your textbooks to class. - The use of smartphones in class is prohibited unless directed by the teacher. - Students who participate in English programs this semester, such as the English Lounge and English Private Lesson sessions, will be given additional points.				
23.オフィスアワー	Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	I. Course Introduction Unit 1: Meeting New People	
Week 2	Unit 2: School Life	
Week 3	Unit 3: Seeing a Doctor	
Week 4	Unit 4: Expressing Yourself	
Week 5	Unit 5: Getting Around	

Week 6	Unit 6: Talking about the Time Review: Units 1-6	Midterm Task
Week 7	Midterm Test: Units 1-6	
Week 8	Unit 7: Eating Out	
Week 9	Unit 8: At the Supermarket	
Week 10	Unit 9: Hobbies	
Week 11	Unit 10: Shop Till You Drop	
Week 12	Unit 11: Going on Vacation	
Week 13	Unit 12: Sports	
Week 14	Review: Units 7-12 Final Task	
Week 15	Final Test	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE116-Y01	2.科目名	インテンシブイングリッシュⅠ 【Gコミ】（6月5日～7月26日）	3.単位数	1
4.授業担当教員	横山雅彦				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 TOEIC L&R400 点以上を取得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	TOEIC? L&R TEST への総合アプローチ -ベーシック-（TESTUDY 対応版） BEST PRACTICE FOR THE TOEIC? L&R TEST -BASIC- (TESTUDY edition) （成美堂） https://shop.seibido.co.jp/s1.html?w0uJ/oDf+u0Z5C6SfkyHkA== ＊TESTUDY というオンライン学習システムにより、課題やテストを行います。教科書を購入しなければ、TESTUDY が利用できませんので、必ず上記のページから購				
20.参考文献					
21.成績評価	小テスト：60 点 Final Test：40 点				
22.コメント	教科書は、必ず指定の方法で事前に購入すること（出版社からの直接購入）。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション Unit 1	
第 2 回	Unit 2	
第 3 回	Unit 3	
第 4 回	Unit 4	
第 5 回	Unit 5	
第 6 回	Unit 6	

第 7 回	Unit 7	
第 8 回	Unit 8	
第 9 回	Unit 9	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	Final Test	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE116-Y71	2.科目名	インテンシブイングリッシュⅠ 【観光】	3.単位数	1
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade、Stelen E.Siagto				
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・選択の区分	選択の区分	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1st year ~
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	Lecture and exercises
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	The purpose of this course is to enable students to have a grasp of the fundamentals of all the skill areas: grammar, reading, writing, speaking and listening. In this way, students will become indispensable for communication in English.				
18.学習目標とＤＰとの関連	The learning objectives (skills to acquire) of this subject are as follows. ① Students will be able to learn essential expressions in hospitality situations through actual conversations. ② Students will be able to improve their vocabulary in hospitality industry and management. able to develop skills in hospitality such as; teamwork, flexibility, time management, communication, interpersonal skills, and problem-solving.				
19.教科書・教材	Title: Hospitality on the Scene Publisher: Kinseido Publishing Co., Ltd. Authors: Megumi Uesugi, Kay Abe, Chikae Ito, Yasuhiko Matsushima, Takehiko Kozue and Jacob Schere ISBN: 978-4-7647-4067-9				
20.参考文献					
21.成績評価	1. Classroom Activities 40% (Discussions, presentations and skits) 2. Quizzes and Drills 30% 3. Final Tasks 30%				
22.コメント	Attendance and active participation of students in classroom activities are highly encouraged. 23. Monday-Friday				
23.オフィスアワー	Monday-Friday Kobe Yamate Campus Bldg. 3 Global Gakushu Plaza Rm 016				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	Course Introduction Unit 1: Transportation In-class activity	
	Unit 2: At a Check-in Counter (hotel) In-class activity	

	Unit 3: Facilities and Services In-class activity	
	Unit 4: Giving Directions In-class activity	
	Unit 5: Recommending a Trip In-class activity	
	Unit 6: Dining in Japan In-class activity	
	Unit 7: Dining in Japan 2 In-class activity	
	Unit 8: Arranging a Tour In-class activity	
	Unit 9: Staying at a Ryokan In-class activity	
	Unit 10: Culture Experience in Japan In-class activity	
	Unit 11: Culture Experience in Japan 2 In-class activity	
	Unit 12: Japanese Souvenirs In-class activity	
	Unit 13: Dealing with Health Problems and Emergencies In-class activity	
	Unit 14: Dealing with Complaints and Accidents In-class activity	
	Unit 15: Upon Departure In-class activity Final Task	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE117-Y71	2.科目名	インテンシブイングリッシュⅡ 【G コミ】	3.単位数	1
4.授業担当教員	横山雅彦				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&				
18.学習目標と ＤＰとの関連	【学習目標】 TOEIC L&R400 点以上を取得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	頻出表現と頻出単語でつかむ TOEIC? L&R TEST 400 点 AN AMAZING AVENUE FOR THE TOEIC? L&R TEST 400 （成美堂） https://shop.seibido.co.jp/s1.html?ID=623 ＊TESTUDY というオンライン学習システムにより、課題やテストを行います。教科書を購入しなければ、TESTUDY が利用できませんので、必ず上記のページから購入をすませてください。				
20.参考文献					
21.成績評価	小テスト：60 点 Final Test：40 点				
22.コメント	教科書は、必ず指定の方法で事前に購入すること（出版社からの直接購入）。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション Unit 1	
第 2 回	Unit 2	
第 3 回	Unit 3	
第 4 回	Unit 4	
第 5 回	Unit 5	
第 6 回	Unit 6	

第 7 回	Unit 7	
第 8 回	Unit 8	
第 9 回	Unit 9	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	Final Test	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE118-Y71	2.科目名	インテンシブイングリッシュIII 【観光】	3.単位数	1
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade、Stelen E.Siagto				
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・選択の区分	選択の区分	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2nd year ~
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	Lecture, discussion and exercises		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	The purpose of this course is to enable students to have a grasp of the fundamentals of all the skill areas: grammar, reading, writing, speaking and listening. In this way, students will become indispensable for communication in English.				
18.学習目標とＤＰとの関連	The learning objectives (skills to acquire) of this subject are as follows. ① Students will be able to learn essential expressions in hospitality situations through actual conversations. ② Students will be able to improve their vocabulary in hospitality industry and management. able to develop skills in hospitality such as; teamwork, flexibility, time management, communication, interpersonal skills, and problem-solving.				
19.教科書・教材	Title: Hospitality on the Scene Publisher: Kinseido Publishing Co., Ltd. Authors: Megumi Uesugi, Kay Abe, Chikae Ito, Yasuhiko Matsushima, Takehiko Kozue and Jacob Schere ISBN: 978-4-7647-4067-9				
20.参考文献					
21.成績評価	1. Classroom Activities 40% (Discussions, presentations and skits) 2. Quizzes and Drills 30% 3. Final Tasks 30%				
22.コメント	Attendance and active participation of students in classroom activities are highly encouraged.				
23.オフィスアワー	Monday-Friday Kobe Yamate Campus Bldg. 3 Global Gakushu Plaza Rm 016				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	Course Introduction Unit 1: Transportation In-class activity	
	Unit 2: At a Check-in Counter (hotel) In-class activity	
	Unit 3: Facilities and Services	

	In-class activity	
	Unit 4: Giving Directions In-class activity	
	Unit 5: Recommending a Trip In-class activity	
	Unit 6: Dining in Japan In-class activity	
	Unit 7: Dining in Japan 2 In-class activity	
	Unit 8: Arranging a Tour In-class activity	
	Unit 9: Staying at a Ryokan In-class activity	
	Unit 10: Culture Experience in Japan In-class activity	
	Unit 11: Culture Experience in Japan 2 In-class activity	
	Unit 12: Japanese Souvenirs In-class activity	
	Unit 13: Dealing with Health Problems and Emergencies In-class activity	
	Unit 14: Dealing with Complaints and Accidents In-class activity	
	Unit 15: Upon Departure In-class activity Final Task	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE119-A01	2.科目名	英語総合１	3.単位数	2
4.授業担当教員	有本純				
5.授業科目の区分	基礎	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	２年
10.取得資格の要件	高校教諭１・２種(英語)　中学教諭１・２種(英語)	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	pair work, presentation		
16.履修制限	クラス指定あり				
17.授業の目的と概要	目的：英語プレゼンテーションの基礎として、英語で原稿を書き、パワーポイントファイルを作成し、短いプレゼンテーションができる能力を習得します。 概要：５つのテーマ毎に発表内容を考えて、文法的に正しい英文を作成すること、映像資料(ppt ファイル)を作成し、プレ ゼンテーションの補助として活用すること、および英語の発音・音声表現・アイコンタクトなどが学習できます。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	学習目標：プレゼン原稿の基礎的な構成を理解し作成できる。 プレゼンで使用する基本表現を使えるようになる。 数枚のパワーポイントファイルを作成できる。 プレゼンの手法や表現を学び、人前で発表できる。 DP(4) 問題発見・解決力、コミュニケーション・スキル				
19.教科書・教材	教科書は使用せず、Web Class で教材や資料・Worksheet を配付します。				
20.参考文献	文法チェックを行うために Grammarly（無料アプリ）を PC にインストールしてください。				
21.成績評価	Homework：　４点×５＋５点×２　=30　　学習目標１・２・３に対応 Presentation：　６点+7 点×２＋10 点×２=40　　学習目標４に対応 Report：　６点×5＝30　　学習目標１・２・３に対応 ＊５回のプレゼンを行い、５回レポートを提出し、合計が 60 点以上で合格です。 ＊宿題は、レポートとプレゼンの準備段階で作成するので、宿題の提出が少ないとレポートの評価は低くなります。 ＊総括試験はありません。				
22.コメント	1）授業は水曜の３・４限連続のため、授業中に原稿・ppt 作成や発表の練習時間を確保します。 2）必ず、PC と英語の辞書を授業に持参し使用してください（スマホ辞書は不可)。PC がないと、授業に参加できません。 3）宿題とレポートの提出と返却は、Web Class を通じて行います。提出期限に遅れた場合は、受け取りません。 4）担当者への連絡は、WebClass のメッセージを使用すること。それ以外のメールは受け取りません。 5）交通機関の障害、その他の災害などにより、対面授業が困難な場合は、可能な限り遠隔授業を実施します。 その場合は、Zoom の URL を WebClass のメッセージで早朝に送信するので、必ず確認してください。 本人の確認ミスで遠隔授業に参加できない場合は、欠席扱いになります。 ６）授業中のスマホ使用は禁止します。				
23.オフィスアワー	なし				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	

1. 2.	1. Introduction（シラバス説明、Web Class の説明、使用アプリ・提出用フォーマットの説明)、教材 1 説明とグループワーク、プレゼンについての説明 2. Self-introduction 1(英文作成), ppt 作成法の説明	1. 毎回、PC を持参すること 2. HWK 1(英語で下書き) 毎回 PC を持参する。
3. 4.	3. Self-introduction 2（英文完成・ppt 作成・プレゼン評価基準説明) 4. Self-introduction 3（相互評価: pair work, 英文・ppt 完成）, Practice	4. 発表練習
5. 6.	5. Presentation 1（相互評価）・Report 評価基準説明 6. Hometown 1（教材 2 ）	6. Report 1 作成
7. 8.	7. Report 1（相互評価: pair work）, Hometown 2（英文作成） 8. Hometown 3（相互評価: pair work, 英文修正・ppt 作成)、評価基準説明	8. HWK 2（英語で下書き）
9. 10.	9. Practice Presentation 2（英文・ppt 完成)、最終確認 10. Presentation 2（相互評価: pair work)、Report 評価基準説明	9. 発表練習 10. Report 2 作成
11. 12.	11. Report 2（相互評価: pair work）, Sightseeing Spots 1（教材 3 ） 12. Sightseeing Spots 2 （英文作成）	12. HWK 3（英文追加・修正）
13. 14.	13. Sightseeing Spots 3（相互評価: pair work, 英文修正, ppt 作成） 14. Sightseeing Spots 4（英文・ppt 完成・practice)、評価基準説明	14. 発表練習
15. 16.	15. Practice Presentation 3、最終確認 16. Presentation 3（相互評価: pair work）・Report 評価基準説明	16. Report 3 作成
17. 18.	17. Report 3（相互評価）, Free Time 1（教材 4 ） 18. Free Time 2（英文作成）	18. HWK 4（英文追加・修正）
19. 20.	19. Free Time 3（相互評価: pair work, 英文修正・ppt 作成） 20. Free Time 4（英文・ppt 完成)、評価基準説明	20. HWK 5 （英文追加・修正）
21. 22.	21. Practice Presentation 4、最終確認 22. Presentation 4（相互評価: pair work)、Report 評価基準説明	22. Report 4 作成
23. 24.	23. Report 4（相互評価）, In my Opinion 1（教材 5 ） 24. In my Opinion 2（下書き作成）	24. HWK 6 （英語で下書き）
25. 26.	25. In my Opinion 3（相互評価: pair work, 下書き修正） 26. In my Opinion 4（下書き修正・ppt 作成・Excel 説明）	26. HWK 7 （英文加筆・修正）
27. 28.	27. In my Opinion 5（相互評価: pair work, 下書き・ppt 完成） 28. Practice Presentation 5、評価基準説明、最終確認	28. 発表練習・ppt 確認
29. 30.	29. Presentation 5（相互評価: pair work） 30. Report 5 評価基準説明、 ふり返り	30. Report 5 作成

		提出期限に注意

1.授業コード（ナンバリング）	FLE119-Y01	2.科目名	英語総合１　【観光】a	3.単位数	2
4.授業担当教員	前田哲男				
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	２学年
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	この授業では、英語によく使われるチャンク（単語のかたまり）表現をスラスラ言えるようになることを目指し、チャンク表現を繰り返し口頭トレーニングしていきます。またそのトレーニングをするにあたり、必要最低限の文法事項についても随所に解説をしますので、1 年生の時に学んだ文法項目を思い出しながらパターン・プラクティスすることで、よりそのチャンク表現の定着と応用を図ります。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語を母国語とする文化圏の文化やその地域を理解することにつながり、またグローバルなコミュニケーションスキルを身に付けることに直結するものである。				
19.教科書・教材	英語のハノン　フレーズ編　筑摩書房				
20.参考文献	なし				
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 通常点 40 点（各ユニット終了後に実施する小テスト、授業参加姿勢等）				
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。 第 29 回目の授業時に行う TOEIC IP Test は、成績評価には反映させませんが、入学後必修科目として学んできた英語基礎、総合英語等の総まとめとして、２学年春学期末の自身の英語力を測る重要なテストと位置付けます。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１週	第１回：オリエンテーション　Unit 1 Is this seat taken? 第２回：Unit 1 Is this seat taken?	
第２週	第３回：Unit 2 Would you like to join us? 第４回：Unit 3 I appreciate your advice	
第３週	第５回：Unit 3 終了までの進度調整 第６回：Unit 4 What kind of movies do you watch?	
第４週	第７回：Unit 5 You could visit Furano in Hokkaido 第８回：Unit 6 I applied for the internship program for this spring	
第５週	第９回：Unit 7 Are you familiar with audio equipment?	

	第 10 回 ：Unit 7 終了までの進度調整	
第 6 週	第 11 回：Unit 8 What if you happen to see Steven Lucas? 第 12 回 ：Unit 9 I might have a fever	
第 7 週	第 13 回：Unit 10 You're meant to be here 第 14 回：Unit 10 終了までの進度調整	
第 8 週	第 15 回：中間テスト 第 16 回：Unit 11 How about if we have a big lunch today?	
第 9 週	第 17 回：Unit 12 If you ask me, Megaflix is the best 第 18 回：Unit 13 Company employees usually retire at the age of 65	
第 10 週	第 19 回：Unit 13 終了までの進度調整 第 20 回：Unit 14 I'm having trouble downloading the audio file	
第 11 週	第 21 回：Unit 15 I was wondering if you could help me 第 22 回：Unit 16 How many more tickets can you buy?	
第 12 週	第 23 回：Unit 17 You remind me of my first year here 第 24 回：Unit 17 終了までの進度調整	
第 13 週	第 25 回：Unit 18 How can we make a fantasy movie with as little as 500 dollars? 第 26 回：Unit 19 I didn't think my dad joke would crack them up	
第 14 週	第 27 回：Unit 20 Working with you means a lot to me 第 28 回：Unit 20 終了までの進度調整	
第 15 週	第 29 回：TOEIC IP Test（授業時に行う） 第 30 回：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE119-Y02	2.科目名	英語総合１　【観光】b	3.単位数	2
4.授業担当教員	和泉有香				
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	2 学年
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	この授業では、英語によく使われるチャンク（単語のかたまり）表現をスラスラ言えるようになることを目指し、チャンク表現を繰り返し口頭トレーニングしていきます。またそのトレーニングをするにあたり、必要最低限の文法事項についても随所に解説をしますので、1 年生の時に学んだ文法項目を思い出しながらパターン・プラクティスすることで、よりそのチャンク表現の定着と応用を図ります。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 　外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語を母国語とする文化圏の文化やその地域を理解することにつながり、またグローバルなコミュニケーションスキルを身に付けることに直結するものである。				
19.教科書・教材	英語のハノン　フレーズ編　筑摩書房				
20.参考文献	なし				
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 通常点 40 点（各ユニット終了後に実施する小テスト、授業参加姿勢等）				
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。 第 29 回目の授業時に行う TOEIC IP Test は、成績評価には反映させませんが、入学後必修科目として学んできた英語基礎、総合英語等の総まとめとして、２学年春学期末の自身の英語力を測る重要なテストと位置付けます。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１週	第１回：オリエンテーション　Unit 1 Is this seat taken? 第２回：Unit 1 Is this seat taken?	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
第２週	第３回：Unit 2 Would you like to join us? 第４回：Unit 3 I appreciate your advice	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
第３週	第５回：Unit 3 終了までの進度調整 第６回：Unit 4 What kind of movies do you watch?	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
第４週	第７回：Unit 5 You could visit Furano in Hokkaido 第８回：Unit 6 I applied for the internship program for this spring	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読

第 5 週	第 9 回：Unit 7 Are you familiar with audio equipment? 第 10 回 ：Unit 7 終了までの進度調整	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
第 6 週	第 11 回：Unit 8 What if you happen to see Steven Lucas? 第 12 回 ：Unit 9 I might have a fever	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
第 7 週	第 13 回：Unit 10 You're meant to be here 第 14 回：Unit 10 終了までの進度調整	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読　／中間テスト準備
第 8 週	第 15 回：中間テスト 第 16 回：Unit 11 How about if we have a big lunch today?	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
第 9 週	第 17 回：Unit 12 If you ask me, Megaflix is the best 第 18 回：Unit 13 Company employees usually retire at the age of 65	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
第 10 週	第 19 回：Unit 13 終了までの進度調整 第 20 回：Unit 14 I'm having trouble downloading the audio file	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
第 11 週	第 21 回：Unit 15 I was wondering if you could help me 第 22 回：Unit 16 How many more tickets can you buy?	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
第 12 週	第 23 回：Unit 17 You remind me of my first year here 第 24 回：Unit 17 終了までの進度調整	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
第 13 週	第 25 回：Unit 18 How can we make a fantasy movie with as little as 500 dollars? 第 26 回：Unit 19 I didn't think my dad joke would crack them up	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
第 14 週	第 27 回：Unit 20 Working with you means a lot to me 第 28 回：Unit 20 終了までの進度調整	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
第 15 週	第 29 回：TOEIC IP Test（授業時に行う） 第 30 回：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE119-Y04	2.科目名	英語総合１　【G コミ】L3（1/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	有本純				
5.授業科目の区分	基礎	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	２年　Ｌ３
10.取得資格の要件	高校教諭１種(英語)　中学教諭１種(英語)	11.先修条件	受講レベル、トラックについては、受講クラス指定表に従うこと。 ３年生以上以外の者で受講が必要な場合は英語コーディネイター（Aliponga 先生または Shorb 先生）の許可を得ること。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	pair work, presentation		
16.履修制限	クラス指定あり				
17.授業の目的と概要	目的：英語プレゼンテーションの基礎として、英語で原稿を書き、パワーポイントファイルを作成し、短いプレゼンテーションができる能力を習得します。 概要：５つのテーマ毎に発表内容を考えて、文法的に正しい英文を作成すること、映像資料(ppt ファイル)を作成し、プレゼンテーションの補助として活用すること、および英語の発音・音声表現・アイコンタクトなどが学習できます。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	学習目標： １）プレゼン原稿の基礎的な構成を理解し作成できる。 ２）プレゼンで使用する基本表現を使えるようになる。 ３）数枚のパワーポイントファイルを作成できる。 ４）プレゼンの手法や表現を学び、人前で発表できる。 DP(4) 問題発見・解決力、コミュニケーション・スキル				
19.教科書・教材	教科書は使用せず、Web Class で教材や資料・Worksheet を配付します。				
20.参考文献	文法チェックを行うために Grammarly を PC にインストールしてください。				
21.成績評価	Homework：　2 点×8+3 点×５　=31　学習目標１・２・３に対応 Presentation：　6 点+7 点×２+9 点+10 点=39　　学習目標４に対応 Report：　6 点×５=30　　学習目標１・２・３に対応 ＊５回のプレゼンを行い、５回レポートを提出し、合計が 60 点以上で合格です。 ＊宿題は、レポートとプレゼンの準備段階で作成するので、宿題の提出が少ないとレポートの評価は低くなります。				
22.コメント	１）　必ず英語の辞書を授業に持参し使用してください（スマホ辞書は不可）。 2）普通教室の場合は必ず PC を持参して下さい（ＰＣ教室の場合は不要）。 3）宿題とレポートの提出と返却は、Web Class を通じて行います。提出期限に遅れた場合は、受け取りません。 4）担当者への連絡は、WebClass のメッセージを使用すること。それ以外のメールは受け取りません。 5）交通機関の障害、その他の災害などにより、対面授業が困難な場合は、可能な限り遠隔授業を実施します。 その場合は、Zoom の URL を WebClass のメッセージで早朝に送信するので、必ず確認してください。 本人の確認ミスで遠隔授業に参加できない場合は、欠席扱いになります。 ６）授業中のスマホ使用は禁止します。				
23.オフィスアワー	なし				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1. 2.	1. Introduction（シラバス説明、Web Class の説明、使用アプリ・提出用フォーマットの説明)、教材 1 説明とグループワーク、プレゼンについての説明 2. Self-introduction 1(英文作成), ppt 作成法の説明	2. HWK 1(英語で下書き)
3. 4.	3. Self-introduction 2（英文完成・ppt 作成・プレゼン評価基準説明) 4. Self-introduction 3（相互評価: pair work, 英文・ppt 完成）, Practice	3. HWK 2（ppt 作成） 4. 発表練習
5. 6.	5. Presentation 1（相互評価）・Report 評価基準説明 6. Report 1（相互評価: pair work）, Hometown（教材 2）	5. Report 1 作成 6. HWK 3（英語で下書き）
7. 8.	7. Hometown 2（英文作成） 8. Hometown 3（相互評価: pair work, 英文修正・ppt 作成)、評価基準説明	7. HWK 4（英文追加） 8. 復習
9. 10.	9. Practice Presentation 2（英文・ppt 完成)、最終確認 10. Presentation 2（相互評価)、Report 評価基準説明	9. 発表練習 10. Report 2 作成
11. 12.	11. Report 2（相互評価: pair work）, Sightseeing Spots 1（教材 3） 12. Sightseeing Spots 2（英文作成）	11. HWK 5（英語で下書き） 12. HWK 6（英文追加・修正）
13. 14.	13. Sightseeing Spots 3（相互評価: pair work, 英文修正, ppt 作成） 14. Sightseeing Spots 4（英文・ppt 完成・practice)、評価基準説明	13. HWK 7（ppt 作成） 14. 発表練習
15. 16.	15. Practice Presentation 3、最終確認 16. Presentation 3（相互評価）・Report 評価基準説明	15. 発表練習 16. Report 3 作成
17. 18.	17. Report 3（相互評価）, Free Time 1（教材 4） 18. Free Time 2（英文作成）	17. HWK 8（英語で下書き） 18. HWK 9（英文追加・修正）
19. 20.	19. Free Time 3（相互評価: pair work, 英文修正・ppt 作成） 20. Free Time 4（英文・ppt 完成)、評価基準説明	19. HWK 10（英文完成） 20. 発表練習
21. 22.	21. Practice Presentation 4、最終確認 22. Presentation 4（相互評価)、Report 評価基準説明	21. 発表練習 22. Report 4 作成
23. 24.	23. Report 4（相互評価: pair work）, In my Opinion 1（教材 5） 24. In my Opinion 2（下書き作成）	23. 復習 24. HWK 11（英語で下書き）
25. 26.	25. In my Opinion 3（相互評価: pair work, 下書き修正） 26. In my Opinion 4（下書き修正・ppt 作成・Excel 説明）	25. HWK 12（英文加筆・修正） 26. HWK 13（英文加筆・修正）
27. 28.	27. In my Opinion 5（相互評価: pair work, 下書き・ppt 完成） 28. Practice Presentation 5、評価基準説明、最終確認	27. 発表練習 28. 発表練習・ppt 確認
29. 30.	29. Presentation 5（相互評価）・Report 5 評価基準説明 30. Report 5（相互評価: pair work）, Reflection （ふ	29. Report 5 作成

	り返り）	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE119-Y05	2.科目名	英語総合１　【G コミ】L3		3.単位数	2
4.授業担当教員	Patrick Shorb					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択 教職必修	7.開講学期・年度	2024 年度　春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習　単独			
16.履修制限	Determined by department English Placement Test					
17.授業の目的と概要	This class is intended to raise student's English Communication Abilities to the B1 CEFR Band, ie. as an independent user of the English language. It is to help students become comfortable speaking with others on an increasingly wide array of topics. Over					
18.学習目標とＤＰとの関連	This course is intended to help students approach the CEFR B1 band. According to the Council of Europe, this mastery includes the following abilities: "Can understand the main points of clear standard input on familiar matters regularly encountered in work, school, leisure, etc. Can deal with most situations likely to arise whilst travelling in an area where the language is spoken.　Can produce simple connected text on topics which are familiar or of personal interest. Can describe experiences and events, dreams, hopes & ambitions and briefly give reasons and explanations for opinions and plans." https://www.coe.int/en/web/common-european-framework-reference-languages/table-1-cefr-3.3-common-reference-levels-global-scale Specifically, goals are: 1) Listening for main ideas and details 2) Conversation strategies (Interrupting, Giving Advice, Confrimation Questions, etc.) 3) Discussion strategies (Summarizing, Asking for more details, Eliciting Opinions) 4) Writing to express thoughts, ideas, and opinions In keeping with the Kansai University of International Studies' Diploma Policy, this course will enable students to do the following: 1. Can deliver effective presentations on one's own, thereby demonstrating intermediate-level self-initiative. 2. Can talk to people from other cultures by using diverse speaking pragmatics approaches and dialogue cues, thereby demonstrating intermediate-level intercultural understanding. 3. Can express opinions in English effectively and politely disagree with others in multiple academic contexts, thereby demonstrating intermediate-level communication skills.					
19.教科書・教材	"Contemporary Topics"-vol. 1 by Helen Sol?rzano, and Lauren Frazier (4th Edition) will be the textbook will be assigned for this course.					
20.参考文献						
21.成績評価	Conversation and Discussion Activities 40% Listening and Presentation assessments: 40% Final project (Debate): 20%					
22.コメント	Students are expected to bring a computer to every class.					
23.オフィスアワー	Usually every Friday, during lunch hour.					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

Week 1	Introduction of Course Psychology of Happiness	Preparation for Class Discussion
Week 2	Psychology of Happiness	Preparation for Class Discussion
Week 3	Learning Languages	Preparation for Class Discussion
Week 4	Learning Languages	Preparation for Class Discussion
Week 5	Public Health and Sleep	Preparation for Class Debate
Week 6	Public Health and Sleep	Preparation for Class Discussion
Week 7	Business and Negotiations	Preparation for Class Discussion
Week 8	Business and Negotiations	Preparation for Class Discussion
Week 9	Media Studies and Interactive Games	Preparation for Class Discussion
Week 10	Media Studies and Interactive Games	Preparation for Class Presentations
Week 11	Philosophy and Ethics	Preparation for Class Discussion
Week 12	Philosophy and Ethics	Preparation for Class Discussion
Week 13	Debate Preparation	Preparation for Class Discussion
Week 14	Debate	Preparation for Class Discussion
Week 15	Debate	Preparation for Final Assessment

1.授業コード（ナンバリング）	FLE119-Y06	2.科目名	英語総合１　【G コミ】L3（2/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本由紀子				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習＆講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	(1) Can understand main ideas of complex texts including texts in specialized areas (2) Can interact with fluency & spontaneity with native speakers (3) Can produce clear & detailed texts; explain viewpoints and advantages/disad				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はＤＰ（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 1) find answers with classmate 2) discuss matters related with business 3) practice words and phrases related business				
19.教科書・教材	Purpose Companies for Social Good 英語で学ぶ社会における企業の存在意義 原田寛子 / 土屋麻衣子 / Samantha Hawkins 著 金星堂				
20.参考文献					
21.成績評価	・Quiz & Mid-term test　40% ・Final Test　20% ・assignment & task　40%				
22.コメント	Bring your computer and the textbook.				
23.オフィスアワー	月・木の授業の前後で教室や講師控室で対応する				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Orientation	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Unit 1　Unit 1　　7-ELEVEN	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Unit 2　LINE	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Unit 3　　NISSIN FOODS	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Unit 4　　McDonald’s	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Unit 5　　TOYOTA	Check vocabulary

		Listening Task Review questions
	Unit 6 STARBUCKS	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Unit 7 AEON	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Unit 8 NIKE	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Unit 9 MUJI	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Unit 10 Apple	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Unit 11 Rakuten Group	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Unit 12 Amazon	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Unit 13 IKEA	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Unit 14 Dyson Review Final Test	Check vocabulary Listening Task Review questions

1.授業コード（ナンバリング）	FLE120-Y01	2.科目名	英語総合２　【G コミ】L4	3.単位数	2
4.授業担当教員	Binondo Fairlynn Dulla				
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	Department of Global Communication			9.履修学年	２年生
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義,演習，および グループワーク
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 The goal of this course is to improve students' overall communication skills: grammar, listening, speaking, reading, and writing. This approach aims to instill confidence and create opportunities for expressive communication in English.				
18.学習目標とＤＰとの関連	By the end of the semester, L4 students are expected to acquire business and relevant language skills applicable in professional settings. At the end of the semester,　students are expected to acquire and cultivate the following abilities: 1. 自律的で主体的な態度（自律性） Autonomous and independent attitude (autonomy) 2. 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）(Understanding Diversity) 3. 問題発見・解決力 Problem finding and solving ability 4. コミュニケーションスキル Communication skills				
19.教科書・教材	Textbook: CLIL Business Management Author:　Shigeru Sasashima, Ikuko Ueno, Tae Funakoshi, Brandon Kramer Publisher: Sanshusha ISBN: 978-4-384-33524-8				
20.参考文献					
21.成績評価	Classroom activities, Quizzes, Homework - 25% Midterm Task - 10% Midterm Test - 25% Final Task - 10% Final Test - 30%				
22.コメント	- Students are encouraged to attend class regularly and actively participate in activities. - Always bring your textbooks to class. - The use of smartphones in class is prohibited unless directed by the teacher. - Students who participate in English programs this semester, such as the English Lounge and English Private Lesson sessions, will be given additional points.				
23.オフィスアワー	Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Course Introduction Chapter 1: Business and our lives	
Week 2	Chapter　2: Enterprises and companies	
Week 3	Chapter　3: Strategy 1: The PESTLE analysis	
Week 4	Chapter　4: Strategy 2: The SWOT Analysis	
Week 5	Chapter　4: Strategy 2: The SWOT Analysis Chapter 5: Resource Management	
Week 6	Chapter 5: Resource Management	

	Chapter　6: Team management	
Week 7	Chapter　6: Team management Review Test of Chapters 1-6	
Week 8	Midterm Task: Presentation Midterm Test	
Week 9	Chapter 7: The Japanese HRM System	
Week 10	Chapter　8: What is marketing?	
Week 11	Chapter 9: The marketing mix	
Week 12	Chapter 10: Financial Statements	
Week 13	Chapter　11: Digital Technology and business	
Week 14	Chapter 12: Including SDGs in business Review of Chapters 7-12	
Week 15	Final Task: Presentation Final Test	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE120-Y02	2.科目名	英語総合２　【G コミ】L4	3.単位数	2
4.授業担当教員	稲葉皐				
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	Department of Global Communication			9.履修学年	2 学年
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	In this English comprehensive course, the students will be able to have a grasp of the fundamentals of all the skill areas: grammar, reading, writing, speaking and listening. These things will enable students to significantly improve their chances for adv				
18.学習目標とＤＰとの関連	At the end of the semester, the students will be able to acquire the following: 1. The students will be able to develop their comprehension skills to communicate more effectively in various situations. 2. The students will be able to improve their fluency in speaking. 3. The students will be able to polish their writing skills and targeting specific skills they need for a particular social or professional environment.				
19.教科書・教材	Textbook: CLIL Business Management Author: Ikuko Ueno, Tae Funakoshi and Brandon Kramer Publisher: Sanshusha ISBN: 9784384335248				
20.参考文献					
21.成績評価	Classroom activities (points) 30% Group task (cooperation and attitude) 20% Midterm Task 20% Final Task 30%				
22.コメント	1. Attendance and active participation of students in classroom activities are highly encouraged. 2. Always bring your textbooks to class. 3. The use of smartphones in class is prohibited unless directed by the teacher. シラバスの一部の側面は変更される可能性があります。 また、障がい等により、本講義の受講の際に特別な配慮が必要な場合は事前に担当教員に申し出てください。基本は対面授業を行いますが、新型コロナウイルスの感染等特別な事情がある場合には適宜 zoom によるオンラインでの受講も認めます。その場合は事前に担当教員に申し出てください。				
23.オフィスアワー	Please contact your Teacher at above email address.				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	Course Introduction Unit 1: Business and our lives In-class activity (task)	
	Unit 2: Enterprises and companies In-class activity (task)	
	Unit 3: Strategy 1: The PESTLE analysis In-class activity (task)	

	Unit 4:Strategy 2: The SWOT Analysis In-class activity (task)	
	Unit 5: Resource Management In-class activity (task)	
	Unit 6: Team management In-class activity (task)	
	Midterm Task	
	Unit 7: The Japanese HRM system In-class activity (task)	
	Unit 8: What is marketing? In-class activity (task)	
	Unit 9: The marketing mix In-class activity (task)	
	Unit 10: Financial Statements In-class activity (task)	
	Unit 11: Digital Technology and business In-class activity (task)	
	Unit 12: Including SDGs in business	
	Final Task	
	Course Checklist Assessment consultation: Requirements	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE121-Y01	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション１　【観光】a	3.単位数	2
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade				
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度　春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2nd year
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	Lecture, presentation and 演習
16.履修制限	This course is offered to 2nd year Tourism department students who pass the section A placement test at the beginning of the semester.				
17.授業の目的と概要	The aim of this course is to enable students to become more effective communicators that could connect people and build relationships with them. This enables every student to be empowering individuals of the society.				
18.学習目標とＤＰとの関連	At the end of the semester the students will be able to: 1. To efficiently and effectively use the four major skills of the English Language: Speaking, Listening, Reading and Writing. 2. To develop communication skills in a wide range situations. To confidently express their thoughts and feelings on topics such as life, education, success, motivation, etc.				
19.教科書・教材	Title: Stretch 2 Publisher: Oxford University Press Author: Susan Stempleski ISBN: 978-0-19-460313-3				
20.参考文献					
21.成績評価	1. In-class activities (points) 20% 2. Group Task (cooperation and attitude) 20% 3. Homework: Flipgrid Activities 10% 3. Midterm Task: 20% 4. Final Task: 30%				
22.コメント	Note: Additional points will be given to students who will participate in English Private Lesson sessions this semester.				
23.オフィスアワー	23. Monday-Friday Global Gakushu Plaza, Room 016 Kobe Yamate Building 3				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	Course Introduction and Orientation Unit 1: Lesson Introducation and Discussion	
	Unit 2: Lesson Introducation and Discussion	
	Unit 3: Lesson Introducation and Discussion	
	Unit 4: Lesson Introducation and Discussion	
	Unit 5: Lesson Introducation and Discussion	
	Unit 6: Lesson Introducation and Discussion	

	Midterm Task and Midterm Test	
	Unit 7: Lesson Introducation and Discussion	
	Unit 8: Lesson Introducation and Discussion	
	Unit 9: Lesson Introducation and Discussion	
	Unit 10: Lesson Introducation and Discussion	
	Unit 11: Lesson Introducation and Discussion	
	Unit 12: Lesson Introducation and Discussion	
	Final Task Presentation	
	Final Test	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE121-Y02	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション１　【観光】b	3.単位数	2
4.授業担当教員	Stelen E.Siagto				
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度　春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 学年
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	Discussion based, Pair/Group work, Student Presentation, On-demand Lessons
16.履修制限	Class B				
17.授業の目的と概要	This is a four skills course designed to improve and enhance oral skills that are relevant to establishing and maintaining direct conversation and communication with native and non-native speakers of English.				
18.学習目標とＤＰとの関連	At the end of the course, the students will be able to: 1. Improve fluency through regular pair and group work practice on a wide range of topics from around the world. 2. Upgrade their listening, reading, and writing with better English grammar structures and comprehension through individual and group worksheet activities. 3. Track their progress through online practice activities included in the textbook. 4. Become better public speakers through regular presentation practice of presentation skills.				
19.教科書・教材	Title: Stretch 2 (Oxford University Press) ISBN: 978-0-19-460313-3				
20.参考文献	Additional references will be provided during the class.				
21.成績評価	Worksheets / Quizzes: 30% Class Participation: 15% Homework: 5 % Midterm Test: 20% Final Test: 30%				
22.コメント	1. This course is conducted in English 2. Always bring your textbooks to class. (no textbook, no final test.) 3. The use of smartphones in class is prohibited unless directed by the teacher. 3. If you have any questions or problems, it is important to see me as soon as possible so we can appropriately address the situation.				
23.オフィスアワー	The instructor is on campus from Mondays to Fridays and can also be contacted via email.				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	Introduction, Syllabus Discussion, Unit 1 (Hobbies)	
	Unit 2 (Clothes and Colors)	
	Unit 3 (An Active Life)	
	Unit 4 (Getting Around)	
	Unit 5 (Personality)	
	Unit 6 (Cooking)	
	Review & Midterm Test	
	Unit 7 (Weather)	

	Unit 8 (Everyday Activities)	
	Unit 9 (Math, History, and Art)	
	Unit 10 (A Busy Semester)	
	Unit 11 (Favors and Requests)	
	Unit 12 (Before You travel)	
	Review/ Project	
	Final test	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE121-Y04	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション１ L3	3.単位数	2
4.授業担当教員	實川眞理子				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	Students will make successsful presentations by learning the following: delivery. preparation, good content, planning, visual aids and performance.				
18.学習目標とＤＰとの関連	At Semester's end, students are expected to successfully achieve the following abilities set by the Department: 1) Autonomous and independent attitude (autonomy); 2) Problem finding and solving skills; 3) Communication skills				
19.教科書・教材	Successful Presentations - An Interactive Guide 1 (Mark D. Stafford) ISBN 9784863124134				
20.参考文献					
21.成績評価	TWO Presentations (1 in MAY & 1 in JUNE) - 40%; Mini presentations and other tasks - 20%; Problem Based Learning (PBL: think of business-related issue). Final presentation: the top 3 best presentations will join the all Second Year Presentation Competiti				
22.コメント	PC を持参してください。 クラスメートと近い距離で会話をします。感染症にかからない・感染症をうつさない、その双方向の観点から必要に応じて各自で対応をお願いいたします。 この授業は他のアドバンスト・コミュニケーション講義と共通のシラバスで準備されていますが、 たとえば、世界展開力に関心がある履修生が多数である、といった場合には、その必要に応じて内容を再考することがあります。変更に際しては、必ず履修生と相談しますので、心配しないでください。 また、皆さんからの積極的な提案をお待ちしています。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Meeting 1: Introductions, ice breaker, course requirements, assessment Meeting 2: UNIT 1: self introduction, first impressions Skills: Delivery - Posture, Content Introduction, Visual Aids, Title Slide	Prepare for mini presentation 1
Week 2	Meeting 3: Mini presentations 1 in groups of 3 or 4, and giving feedback. UNIT 2: Hometown, No Place like Home Skills: Delivery - Eye Contact, Content overview, Visual Aids, Overside Slide Meeting 4: Continue UNIT 2, Mini Presentations, 3 preparation	Prepare for mini presentation 2
Week 3	Meeting 5: Mini presentations 2 (in groups of 3 or 4 &	Prepare for mini presentation 3

	giving feedback) UNIT 3: Family, All in Family Skills: Delivery - Gestures Content Details, Visual Aids, Detail Slides Meeting 6: Continue UNIT 3, Mini presentations 3 preparation	
Week 4	Meeting 7: Mini presentation 3 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 4: Pastimes, Personality Skills Delivery: Stage position, Content-conclusion, Visual Aids, Conclusion slide Meeting 8: Continue UNIT 4, mini presentation 4 preparation	Prepare for mini presentation 4
Week 5	Meeting 9: Mini presentation 4 in groups of 3 or 4, giving feedback Prepare for the first PBL presentation Choose 1 topic on page 33 and make it a problem based learning topic for your presentation Meeting 10: Continue preparing for first PBL presentation	Prepare for the first PBL presentation
Week 6	Meeting 11: First PBL presentation Meeting 12: UNIT 5 - Education, An A for Effort Skills: Delivery - Projection, Content-Introductory Phrases, Visual Aids: layout	Prepare for mini presentation 5
Week 7	Meeting 13: Mini presentation 5 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 6: Culture shock, When in Rome Skills: Delivery - Enunciation, Content - signpost expressions, Visual Aids: Presenting Meeting 14: Continue UNIT 6, Mini presentation 6 preparation	Prepare for mini presentation 6
Week 8	Meeting 15: Mini presentation 6 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 7: Stereotypes, What is Your Blood type? Skills: Delivery - Intonation, Content - Facts and Opinions, Visual Aids: Explaining Meeting 16: Continue UNIT 7, mini presentation 7 prepar	Prepare for mini presentation 7
Week 9	Meeting 17: Mini presentation 7 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 8: Population, What is this World coming to? Skills: Delivery - Phrasing, Content - supporting Evidence, Visual Aids: varieties Meeting 18: Continue UNIT 8, mini presentation 8 prep	Prepare for mini presentation 8
Week 10	Meeting 19: Mini presentation 8 in groups of 3 or 4, giving feedback. Prepare for the Second PBL presentation	Prepare for second PBL presentation

	Choose one topic on page 61, and make it a PBL topic for the presentation Meeting 20: Continue preparing for second PBL presentation, practice	
Week 11	Meeting 21: Second PBL presentation Meeting 22: UNIT 9 - Events, a Special Occasion Skills: Delivery - Anticipating questions, Informing, Visual aids: Graphs	Prepare for mini presentation 9
Week 12	Meeting 23: Mini presentation 9 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 10: Places, Location X 3 Skills: Delivery - Understanding Questions, Content - Describing, Visual Aids: Images Meeting 24: Continue UNIT 10, mini presentation 10 preparation	Prepare for mini presentation 10
Week 13	Meeting 25: Mini presentation 10 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 12: Opinions, In My Own Opinion Skills: Delivery - Staying in Control, Conent - Persuading, Visual aids: Strategies Meeting 26: Prepare for the final presentation PBL	Prepare for the final PBL presentation
Week 14	Meeting 27: Final presentation of PBL (first groups) Meeting 28: Final presentation PBL (second groups) CHOOSE THE TOP 3 BEST out of ALL the 2nd year PBL presentations!	Prepare for the final PBL presentation
Week 15	Meeting 29: All Second Year PBL presentations! Choose the 3 winners Meeting 30: Class evaluation, consultation about progress and grades, absences and EXTRA WORK to do if absent, etc	Online consultation for further questions

1.授業コード（ナンバリング）	FLE121-Y05	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション１ L3 (2/2)	3.単位数	2
4.授業担当教員	Jonathan Aliponga				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択 教職必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	教科及び教科の指導に関する科目-教科に関する専門的事項-英語コミュニケーション	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習　単独		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	Students will　make successful presentations by learning the following: delivery, preparation, good content, planning, visual aids and performance.				
18.学習目標とＤＰとの関連	At the end of the semester, students are expected to successfully achieve the following abilities set by the Department: 1）自律的で主体的な態度（自律性） Autonomous and independent attitude (autonomy) 2）問題発見・解決力 Problem finding and solving ability 3）コミュニケーションスキル Communication skills				
19.教科書・教材	Successful Presentations An Interactive Guide　1(Mark D. Stafford)　ISBN 978-4-86312-212-3				
20.参考文献					
21.成績評価	Speak English Only policy: 10 Mini/weekly presentations　= 50% Problem-Based final presentation (Any local or international social issue) = 40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	Tuesday: 12:30~13:10　Zoom available (pls contact me a day before)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Meeting 1: Course Orientation: Syllabus Meeting 2: UNIT 1: Self Introduction, First Impressions Skills: Delivery - Posture, Content-Introduction, Visual Aids: Title Slide	Prepare for Mini presentation1
Week 2	Meeting 3: Mini presentations 1 in groups of 3 or 4 and giving feedback UNIT 2: Hometown, No Place Like Home Skills: Delivery - Eye Contact, Content-Overview, Visual Aids: Overview Slide Meeting 4: Continue UNIT 2, Mini presentation 2 preparation	Prepare for Mini presentation 2
Week 3	Meeting 5: Mini presentations 2 in groups of 3 or 4 and giving feedback UNIT 3: Family, All in Family Skills: Delivery - Gestures, Content-Details, Visual	Prepare for Mini presentation 3

	Aids: Detail Slides Meeting 6: Continue Unit 3, Mini presentations 3 preparation	
Week 4	Meeting 7: Mini presentations 3 in groups of 3 or 4 and giving feedback UNIT 4: Pastimes Prove, Personality Skills: Delivery - Stage Position, Content-Conclusion, Visual Aids: Conclusion Slide Meeting 8: Continue UNIT 4, Mini presentation 4 preparation	Prepare for Mini presentation 4
Week 5	Meeting 9: Mini presentations 4 in groups of 3 or 4 and giving feedback Prepare for the first PBL presentation Choose 1 topic on Page 33 and make it a problem based learning topic for the presentation Meeting 10: Continue preparing for first PBL presentat	Prepare for first PBL presentation
Week 6	Meeting 11: First PBL presentation Meeting 12: UNIT 5: Education, An A for Effort Skills: Delivery - Projection, Content-Introductory Phrases, Visual Aids: Layout	Prepare for Mini presentation 5
Week 7	Meeting 13: Mini presentations 5 in groups of 3 or 4 and giving feedback UNIT 6: Culture Shock, When in Rome Skills: Delivery - Enunciation, Content- Signpost expressions, Visual Aids: Presenting Meeting 14: Continue UNIT 6, Mini presentation 6 preparati	Prepare for Mini presentation 6
Week 8	Meeting 15: Mini presentations 6 in groups of 3 or 4 and giving feedback UNIT 7: Stereotypes, What is Your Blood Type? Skills: Delivery - Intonation, Content- Facts and Opinions, Visual Aids: Explaining Meeting 16: Continue UNIT 7, Mini presentation 7 pr	Prepare for Mini presentation 7
Week 9	Meeting 17: Mini presentations 7 in groups of 3 or 4 and giving feedback UNIT 8: Population, What is This World Coming To? Skills: Delivery - Phrasing, Content- Supporting Evidence, Visual Aids: Varieties Meeting 18: Continue UNIT 8, Mini presentation 8	Prepare for Mini presentation 8
Week 10	Meeting 19: Mini presentations 8 in groups of 3 or 4 and giving feedback Prepare for the second PBL presentation Choose 1 topic on Page 61 and make it a problem based learning topic for the presentation Meeting 20: Continue preparing for second PBL	Prepare for second PBL presentation

	presen	
Week 11	Meeting 21: Second PBL presentation Meeting 22: UNIT 9: Events, A Special Occasion Skills: Delivery - Anticipating Questions, Informing, Visual Aids: Graphs	Prepare for Mini presentation 9
Week 12	Meeting 23: Mini presentations 9 in groups of 3 or 4 and giving feedback UNIT 10: Places, Location, Location, Location Skills: Delivery - Understanding Questions, Content-Describing, Visual Aids: Images Meeting 24: Continue UNIT 10, Mini presentation 10	Prepare for Mini presentation 10
Week 13	Meeting 25: Mini presentations 10 in groups of 3 or 4 and giving feedback UNIT 12: Opinions, In My Own Opinion Skills: Delivery - Staying Control, Content-Persuading, Visual Aids: Strategies Meeting 26: Prepare for the final presentation PBL	Prepare for the Final PBL presentation
Week 14	Meeting 27: Final Presentation PBL (first groups) Meeting 28: Final Presentation PBL (second groups groups) CHOOSE THE TOP 3 best for the all second year PBL presentation	Prepare for the Final PBL presentation
Week 15	Meeting 29: All 2nd year PBL presentations! Choose the three winners Meeting 30: Class evaluation, Consultation about grades, absences, etc	Online consultation for further questions

1.授業コード（ナンバリング）	FLE121-Y06	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション１ L3 （1/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	實川眞理子				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択 教職必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教科及び教科の指導に関する科目-教科に関する専門的事項-英語コミュニケーション			9.履修学年	2
10.取得資格の要件	教科及び教科の指導に関する科目-教科に関する専門的事項-英語コミュニケーション	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	Students will make successsful presentations by learning the following:　delivery. preparation,　 good content, planning, visual aids and performance.				
18.学習目標とＤＰとの関連	At the end of the semester, students are expected to successfully achieve the following abilities set by the Department: 1）自律的で主体的な態度（自律性） Autonomous and independent attitude (autonomy) 2）問題発見・解決力 Problem finding and solving ability 3）コミュニケーションスキル Communication skills				
19.教科書・教材	Successful Presentations - An Interactive Guide 1 (Mark D. Stafford) ISBN　 9784863124134				
20.参考文献					
21.成績評価	Presentations (Details to be announce in class) - 40%; Weekly tasks and class contributions - 20%; Finals　(Details to be announce in class)- 40%				
22.コメント	PC を持参してください。 クラスメートと近い距離で会話をします。感染症にかからない・感染症をうつさない、その双方向の観点から、必要と考えられる対応を各自でとってください。 この授業は Aliponga 先生の授業と共通シラバスで実施する予定ですが、進捗状況や履修生との話合いなどで、学ぶ順番を入れ替えたりすることがあります。必ず事前にお知らせしますので、心配しないでください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Meeting 1: Introductions, ice breaker, course requirements, assessment Meeting 2: UNIT 1:　self introduction, first impressions Skills: Delivery - Posture, Content Introduction, Visual Aids, Title Slide	Prepare for mini presentation 1
Week 2	Meeting 3: Mini presentations 1 in groups of 3 or 4, and giving feedback. UNIT 2: Hometown, No Place like Home Skills: Delivery - Eye Contact, Content overview, Visual Aids, Overside Slide Meeting 4: Continue UNIT 2, Mini Presentations, 3 preparation	Prepare for mini presentation 2

Week 3	Meeting 5: Mini presentations 2 (in groups of 3 or 4 & giving feedback) UNIT 3: Family, All in Family Skills: Delivery - Gestures Content Details, Visual Aids, Detail Slides Meeting 6: Continue UNIT 3, Mini presentations 3 preparation	Prepare for mini presentation 3
Week 4	Meeting 7: Mini presentation 3 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 4: Pastimes, Personality Skills Delivery: Stage position, Content-conclusion, Visual Aids, Conclusion slide Meeting 8: Continue UNIT 4, mini presentation 4 preparation	Prepare for mini presentation 4
Week 5	Meeting 9: Mini presentation 4 in groups of 3 or 4, giving feedback Prepare for the first PBL presentation Choose 1 topic on page 33 and make it a problem based learning topic for your presentation Meeting 10: Continue preparing for first PBL presentation	Prepare for the first PBL presentation
Week 6	Meeting 11: First PBL presentation Meeting 12: UNIT 5 - Education, An A for Effort Skills: Delivery - Projection, Content-Introductory Phrases, Visual Aids: layout	Prepare for mini presentation 5
Week 7	Meeting 13: Mini presentation 5 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 6: Culture shock, When in Rome Skills: Delivery - Enunciation, Content - signpost expressions, Visual Aids: Presenting Meeting 14: Continue UNIT 6, Mini presentation 6 preparation	Prepare for mini presentation 6
Week 8	Meeting 15: Mini presentation 6 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 7: Stereotypes, What is Your Blood type? Skills: Delivery - Intonation, Content - Facts and Opinions, Visual Aids: Explaining Meeting 16: Continue UNIT 7, mini presentation 7 prepar	Prepare for mini presentation 7
Week 9	Meeting 17: Mini presentation 7 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 8: Population, What is this World coming to? Skills: Delivery - Phrasing, Content - supporting Evidence, Visual Aids: varieties Meeting 18: Continue UNIT 8, mini presentation 8 prep	Prepare for mini presentation 8
Week 10	Meeting 19: Mini presentation 8 in groups of 3 or 4, giving feedback.	Prepare for second PBL presentation

	Prepare for the Second PBL presentation Choose one topic on page 61, and make it a PBL topic for the presentation Meeting 20: Continue preparing for second PBL presentation, practice	
Week 11	Meeting 21: Second PBL presentation Meeting 22: UNIT 9 - Events, a Special Occasion Skills: Delivery - Anticipating questions, Informing, Visual aids: Graphs	Prepare for mini presentation 9
Week 12	Meeting 23: Mini presentation 9 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 10: Places, Location X 3 Skills: Delivery - Understanding Questions, Content - Describing, Visual Aids: Images Meeting 24: Continue UNIT 10, mini presentation 10 preparation	Prepare for mini presentation 10
Week 13	Meeting 25: Mini presentation 10 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 12: Opinions, In My Own Opinion Skills: Delivery - Staying in Control, Conent - Persuading, Visual aids: Strategies Meeting 26: Prepare for the final presentation PBL	Prepare for the final PBL presentation
Week 14	Meeting 27: Final presentation of PBL (first groups) Meeting 28: Final presentation PBL (second groups) CHOOSE THE TOP 3 BEST out of ALL the 2nd year PBL presentations!	Prepare for the final PBL presentation
Week 15	Meeting 29: All Second Year PBL presentations! Choose the 3 winners Meeting 30: Class evaluation, consultation about progress and grades, absences and EXTRA WORK to do if absent, etc	Online consultation for further questions

1.授業コード（ナンバリング）	FLE122-Y01	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション２ L4			3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田ひと美						
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択 教職必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教科及び教科の指導に関する科目-教科に関する専門的事項-英語コミュニケーション				9.履修学年		
10.取得資格の要件	教科及び教科の指導に関する科目-教科に関する専門的事項-英語コミュニケーション		11.先修条件				
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態				
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	Students will make successsful presentations by learning the following:　delivery. preparation,　 good content, planning, visual aids and performance.						
18.学習目標とＤＰとの関連	At the end of the semester, students are expected to successfully achieve the following abilities set by the Department: 1）自律的で主体的な態度（自律性） Autonomous and independent attitude (autonomy) 2）問題発見・解決力 Problem finding and solving ability 3）コミュニケーションスキル Communication skills						
19.教科書・教材	Successful Presentations - An Interactive Guide 1 (Mark D. Stafford) ISBN　 9784863124134						
20.参考文献							
21.成績評価	Presentations (Details to be announce in class) - 40%; Weekly tasks and class contributions - 20%; Finals　(Details to be announce in class)- 40%						
22.コメント	PC を持参してください。 クラスメートと近い距離で会話をします。感染症にかからない・感染症をうつさない、その双方向の観点から、この授業では、当座、マスク着用を強く勧めます。 この授業は Aliponga 先生の授業と共通シラバスで実施する予定ですが、進捗状況や履修生との話合いなどで、学ぶ順番を入れ替えたりすることがあります。必ず事前にお知らせしますので、心配しないでください。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Meeting 1: Introductions, ice breaker, course requirements, assessment Meeting 2: UNIT 1:　self introduction, first impressions Skills: Delivery - Posture, Content Introduction, Visual Aids, Title Slide	Prepare for mini presentation 1
Week 2	Meeting 3: Mini presentations 1 in groups of 3 or 4, and giving feedback. UNIT 2: Hometown, No Place like Home Skills: Delivery - Eye Contact, Content overview, Visual Aids, Overside Slide Meeting 4: Continue UNIT 2, Mini Presentations, 3 preparation	Prepare for mini presentation 2

Week 3	Meeting 5: Mini presentations 2 (in groups of 3 or 4 & giving feedback) UNIT 3: Family, All in Family Skills: Delivery - Gestures Content Details, Visual Aids, Detail Slides Meeting 6: Continue UNIT 3, Mini presentations 3 preparation	Prepare for mini presentation 3
Week 4	Meeting 7: Mini presentation 3 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 4: Pastimes, Personality Skills Delivery: Stage position, Content-conclusion, Visual Aids, Conclusion slide Meeting 8: Continue UNIT 4, mini presentation 4 preparation	Prepare for mini presentation 4
Week 5	Meeting 9: Mini presentation 4 in groups of 3 or 4, giving feedback Prepare for the first PBL presentation Choose 1 topic on page 33 and make it a problem based learning topic for your presentation Meeting 10: Continue preparing for first PBL presentation	Prepare for the first PBL presentation
Week 6	Meeting 11: First PBL presentation Meeting 12: UNIT 5 - Education, An A for Effort Skills: Delivery - Projection, Content-Introductory Phrases, Visual Aids: layout	Prepare for mini presentation 5
Week 7	Meeting 13: Mini presentation 5 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 6: Culture shock, When in Rome Skills: Delivery - Enunciation, Content - signpost expressions, Visual Aids: Presenting Meeting 14: Continue UNIT 6, Mini presentation 6 preparation	Prepare for mini presentation 6
Week 8	Meeting 15: Mini presentation 6 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 7: Stereotypes, What is Your Blood type? Skills: Delivery - Intonation, Content - Facts and Opinions, Visual Aids: Explaining Meeting 16: Continue UNIT 7, mini presentation 7 prepar	Prepare for mini presentation 7
Week 9	Meeting 17: Mini presentation 7 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 8: Population, What is this World coming to? Skills: Delivery - Phrasing, Content - supporting Evidence, Visual Aids: varieties Meeting 18: Continue UNIT 8, mini presentation 8 prep	Prepare for mini presentation 8
Week 10	Meeting 19: Mini presentation 8 in groups of 3 or 4, giving feedback.	Prepare for second PBL presentation

	Prepare for the Second PBL presentation Choose one topic on page 61, and make it a PBL topic for the presentation Meeting 20: Continue preparing for second PBL presentation, practice	
Week 11	Meeting 21: Second PBL presentation Meeting 22: UNIT 9 - Events, a Special Occasion Skills: Delivery - Anticipating questions, Informing, Visual aids: Graphs	Prepare for mini presentation 9
Week 12	Meeting 23: Mini presentation 9 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 10: Places, Location X 3 Skills: Delivery - Understanding Questions, Content - Describing, Visual Aids: Images Meeting 24: Continue UNIT 10, mini presentation 10 preparation	Prepare for mini presentation 10
Week 13	Meeting 25: Mini presentation 10 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 12: Opinions, In My Own Opinion Skills: Delivery - Staying in Control, Conent - Persuading, Visual aids: Strategies Meeting 26: Prepare for the final presentation PBL	Prepare for the final PBL presentation
Week 14	Meeting 27: Final presentation of PBL (first groups) Meeting 28: Final presentation PBL (second groups) CHOOSE THE TOP 3 BEST out of ALL the 2nd year PBL presentations!	Prepare for the final PBL presentation
Week 15	Meeting 29: All Second Year PBL presentations! Choose the 3 winners Meeting 30: Class evaluation, consultation about progress and grades, absences and EXTRA WORK to do if absent, etc	Online consultation for further questions

1.授業コード（ナンバリング）	FLE122-Y02	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション２ L4	3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田ひと美				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択 教職必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教科及び教科の指導に関する科目-教科に関する専門的事項-英語コミュニケーション			9.履修学年	
10.取得資格の要件	教科及び教科の指導に関する科目-教科に関する専門的事項-英語コミュニケーション	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	Students will make successsful presentations by learning the following:　delivery. preparation,　good content, planning, visual aids and performance.				
18.学習目標とＤＰとの関連	At the end of the semester, students are expected to successfully achieve the following abilities set by the Department: 1）自律的で主体的な態度（自律性） Autonomous and independent attitude (autonomy) 2）問題発見・解決力 Problem finding and solving ability 3）コミュニケーションスキル Communication skills				
19.教科書・教材	Successful Presentations - An Interactive Guide 1 (Mark D. Stafford) ISBN　9784863124134				
20.参考文献					
21.成績評価	Presentations (Details to be announce in class) - 40%; Weekly tasks and class contributions - 20%; Finals　(Details to be announce in class)- 40%				
22.コメント	PC を持参してください。 クラスメートと近い距離で会話をします。感染症にかからない・感染症をうつさない、その双方向の観点から、この授業では、当座、マスク着用を強く勧めます。 この授業は Aliponga 先生の授業と共通シラバスで実施する予定ですが、進捗状況や履修生との話合いなどで、学ぶ順番を入れ替えたりすることがあります。必ず事前にお知らせしますので、心配しないでください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Meeting 1: Introductions, ice breaker, course requirements, assessment Meeting 2: UNIT 1:　self introduction, first impressions Skills: Delivery - Posture, Content Introduction, Visual Aids, Title Slide	Prepare for mini presentation 1
Week 2	Meeting 3: Mini presentations 1 in groups of 3 or 4, and giving feedback. UNIT 2: Hometown, No Place like Home Skills: Delivery - Eye Contact, Content overview, Visual Aids, Overside Slide Meeting 4: Continue UNIT 2, Mini Presentations, 3 preparation	Prepare for mini presentation 2

Week 3	Meeting 5: Mini presentations 2 (in groups of 3 or 4 & giving feedback) UNIT 3: Family, All in Family Skills: Delivery - Gestures Content Details, Visual Aids, Detail Slides Meeting 6: Continue UNIT 3, Mini presentations 3 preparation	Prepare for mini presentation 3
Week 4	Meeting 7: Mini presentation 3 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 4: Pastimes, Personality Skills Delivery: Stage position, Content-conclusion, Visual Aids, Conclusion slide Meeting 8: Continue UNIT 4, mini presentation 4 preparation	Prepare for mini presentation 4
Week 5	Meeting 9: Mini presentation 4 in groups of 3 or 4, giving feedback Prepare for the first PBL presentation Choose 1 topic on page 33 and make it a problem based learning topic for your presentation Meeting 10: Continue preparing for first PBL presentation	Prepare for the first PBL presentation
Week 6	Meeting 11: First PBL presentation Meeting 12: UNIT 5 - Education, An A for Effort Skills: Delivery - Projection, Content-Introductory Phrases, Visual Aids: layout	Prepare for mini presentation 5
Week 7	Meeting 13: Mini presentation 5 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 6: Culture shock, When in Rome Skills: Delivery - Enunciation, Content - signpost expressions, Visual Aids: Presenting Meeting 14: Continue UNIT 6, Mini presentation 6 preparation	Prepare for mini presentation 6
Week 8	Meeting 15: Mini presentation 6 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 7: Stereotypes, What is Your Blood type? Skills: Delivery - Intonation, Content - Facts and Opinions, Visual Aids: Explaining Meeting 16: Continue UNIT 7, mini presentation 7 prepar	Prepare for mini presentation 7
Week 9	Meeting 17: Mini presentation 7 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 8: Population, What is this World coming to? Skills: Delivery - Phrasing, Content - supporting Evidence, Visual Aids: varieties Meeting 18: Continue UNIT 8, mini presentation 8 prep	Prepare for mini presentation 8
Week 10	Meeting 19: Mini presentation 8 in groups of 3 or 4, giving feedback.	Prepare for second PBL presentation

	Prepare for the Second PBL presentation Choose one topic on page 61, and make it a PBL topic for the presentation Meeting 20: Continue preparing for second PBL presentation, practice	
Week 11	Meeting 21: Second PBL presentation Meeting 22: UNIT 9 - Events, a Special Occasion Skills: Delivery - Anticipating questions, Informing, Visual aids: Graphs	Prepare for mini presentation 9
Week 12	Meeting 23: Mini presentation 9 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 10: Places, Location X 3 Skills: Delivery - Understanding Questions, Content - Describing, Visual Aids: Images Meeting 24: Continue UNIT 10, mini presentation 10 preparation	Prepare for mini presentation 10
Week 13	Meeting 25: Mini presentation 10 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 12: Opinions, In My Own Opinion Skills: Delivery - Staying in Control, Conent - Persuading, Visual aids: Strategies Meeting 26: Prepare for the final presentation PBL	Prepare for the final PBL presentation
Week 14	Meeting 27: Final presentation of PBL (first groups) Meeting 28: Final presentation PBL (second groups) CHOOSE THE TOP 3 BEST out of ALL the 2nd year PBL presentations!	Prepare for the final PBL presentation
Week 15	Meeting 29: All Second Year PBL presentations! Choose the 3 winners Meeting 30: Class evaluation, consultation about progress and grades, absences and EXTRA WORK to do if absent, etc	Online consultation for further questions

1.授業コード（ナンバリング）	FLE123-Y71	2.科目名	リーディング・ライティング 1	3.単位数	1
4.授業担当教員	和泉有香				
5.授業科目の区分	共通	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年生
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	目的 TOEIC(R) L&R テストに関する全般的な知識を身につけ、「基礎英語力＋テスト知識」を以て TOEIC（R)L&R テストで 400 点以上のスコア取得を目指します。 概要 リスニング対策とリーディング対策をバランス良く行うことにより、両分野でスコアに直結する英語力を付けます。授業では大量のリスニングを行い、同時に発音と音読も重視します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 【学習目標】 ① 実用的な語学力 ② 他者と協働するコミュニケーションスキル ・ ただ与えられた問題を解くだけではなく、「聞く人（読む人）が理解しやすい情報の提示法」を意識し、習得する。 ・ 今現在必要な英語力・コミュニケーション力と同時に、社会人になってからも役立つ知識と英語力を身につける。				
19.教科書・教材	SMART ROUTE TO THE TOEIC (R) L&R TEST（センゲージ ラーニング）				
20.参考文献	必要に応じて授業内で紹介する。				
21.成績評価	・ 授業参加度： 30 点（学習目標②に対応） ・ 小テスト： 30 点（学習目標①に対応） ・ 期末テスト： 40 点（学習目標①に対応）				
22.コメント	・ 教科書を購入していない学生は、評価の対象外とすることがあります。 ・ 音読に力を入れます。 ・ 発表・発言など、積極的な授業態度を求めます。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室等で、受講生からの質問等への対応をします。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 日目	ガイダンス、Unit 1 Shopping Unit 2 Office Work 単語テスト 1	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
2 日目	単語テスト 2, 3 Unit 2 Office Work Unit 3 Transportation	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
3 日目	単語テスト 4, 5 Unit 3 Transportation Unit 4 Travel & Eating Out	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
4 日目	単語テスト 6, 7 Unit 4 Travel & Eating Out	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全

	Unit 5 Meetings	ての音読
5 日目	単語テスト 8 Unit 5 Meetings 期末テスト	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-A01	2.科目名	総合英語 II T1	3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Jasper von Meerheimb				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity： Smart Choice 2A Multi-Pack, Student Book/Workbook - Fourth Edition （Oxford University Press) ISBN 978-0-19-406110-0				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	

第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-A02	2.科目名	総合英語 II T2	3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Jason Conrad Beaton				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-A03	2.科目名	総合英語 II T3	3.単位数	2
4.授業担当教員	酒嶋恭平、Colin Rogers				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-A04	2.科目名	総合英語 II T4	3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Jasper von Meerheimb				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity： Smart Choice 2A Multi-Pack, Student Book/Workbook - Fourth Edition （Oxford University Press) ISBN 978-0-19-406110-0				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	

第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-A05	2.科目名	総合英語 II T5			3.単位数	2
4.授業担当教員	岡田房子、Jason Conrad Beaton						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-A06	2.科目名	総合英語 II T6	3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Ian Matthew Allensworth				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-A07	2.科目名	総合英語 II T7			3.単位数	2
4.授業担当教員	坂本晃平、Colin Rogers						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-M01	2.科目名	総合英語 II 経営 T1	3.単位数	2
4.授業担当教員	山縣節子、Colin Rogers				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-M02	2.科目名	総合英語 II 経営 T2	3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Michael Heller				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-M03	2.科目名	総合英語 II 経営 T3			3.単位数	2
4.授業担当教員	Colin Rogers、丸橋良雄						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-M04	2.科目名	総合英語 II 経営 T4	3.単位数	2
4.授業担当教員	Duane Edward Rowe、家村雅子				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-M05	2.科目名	総合英語 II　看護 T1	3.単位数	2
4.授業担当教員	横山雅彦、Colin Rogers				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-M06	2.科目名	総合英語 II 看護 T2			3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Michael Heller						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-M07	2.科目名	総合英語 II　看護 T3			3.単位数	2
4.授業担当教員	Colin Rogers、丸橋良雄						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-M08	2.科目名	総合英語 II　看護 T4	3.単位数	2
4.授業担当教員	Duane Edward Rowe、家村雅子				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-Y01	2.科目名	総合英語 II T1	3.単位数	2
4.授業担当教員	川部純巳、Louisa Green				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-Y02	2.科目名	総合英語 II T2			3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Michael Heller						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-Y03	2.科目名	総合英語 II T3			3.単位数	2
4.授業担当教員	友繁義典、Binondo Fairlynn Dulla						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー	Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	

第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-Y04	2.科目名	総合英語 II T4	3.単位数	2
4.授業担当教員	和泉有香、Jason Conrad Beaton				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	Grammar: 中間テスト準備
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	Grammar: 期末テストの準備
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-Y05	2.科目名	総合英語 II T5	3.単位数	2
4.授業担当教員	和泉有香、Louisa Green				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	Grammar: 中間テストの準備
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	Grammar: 中間テストの復習
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	Grammar: 期末テストの準備
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-Y06	2.科目名	総合英語 II T6			3.単位数	2
4.授業担当教員	平井尚生、Daniel David Scott						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-Y07	2.科目名	総合英語 II T7			3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Jason Conrad Beaton						
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。						
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）						
20.参考文献							
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）						
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE201-Y08	2.科目名	総合英語 II T8	3.単位数	2
4.授業担当教員	権延ジュ、Ian Matthew Allensworth				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。				
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテクストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテクストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ぺりかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）				
20.参考文献					
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：　50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）				
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半	Activity: Unit 01 の予習（語彙）
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半	Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半	
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語

	③ Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙）
第 5 週	Grammar：085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar：088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity：Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar：091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 9 週	Grammar：094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity：Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar：100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity：Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity：Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar：106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity：Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE202-A01	2.科目名	オーラルイングリッシュ II	3.単位数	1
4.授業担当教員	Jasper von Meerheimb				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	1. このクラスは、あらゆる学習レベルにとって楽しくてアクティブなクラスです。 2. ぜひクラスに参加して、人との出会いを楽しんでください。 3. 学生は実践的な英語でスピーキングとリスニングを練習します。 4. すべてのレッスンには、ペアでの作業、英語の歌や音楽が含まれます。 5. 教科書も宿題もありません。				
18.学習目標とＤＰとの関連	1. 集中して明確に考えることができます。 2. 自分のアイデアや意見を表現できます。 3. 世界について考えてみましょう。				
19.教科書・教材	該当なし				
20.参考文献	英語の辞書（紙か電気）を必ず教室に持参して下さい。				
21.成績評価	1) 33.3% = レッスン活動 2) 33.3% = 中間試験 3) 33.3% = 期末試験				
22.コメント					
23.オフィスアワー	なし（授業前後に教室で質問受付/ メールで質問して下さい）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	1. レッスンのプリント 1 2. オリエンテーションと学生ガイド 3. コミュニケーション学習課題 4. ペアワーク（会話と面接） 5. 教師からのフィードバック	教科書も宿題もありません。
第 2 週	1. レッスンのプリント 2 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題もありません。
第 3 週	1. レッスンのプリント 3 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題もありません。
第 4 週	1. レッスンのプリント 4 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題もありません。
第 5 週	1. レッスンのプリント 5 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題もありません。

第 6 週	1. レッスンのプリント 6 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題もありません。
第 7 週	1. レッスンのプリント 7 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題もありません。
第 8 週	中間試験 1. テストタスク 2. ペアワーク（会話と面接） 3. テストを提出する	教科書も宿題もありません。
第 9 週	1. レッスンのプリント 9 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題もありません。
第 10 週	1. レッスンのプリント１０ 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題もありません。
第 11 週	1. レッスンのプリント１１ 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題もありません。
第 12 週	1. レッスンのプリント１２ 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題もありません。
第 13 週	1. レッスンのプリント１３ 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題もありません。
第 14 週	1. レッスンのプリント１４ 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題もありません。
第 15 週	期末試験 1. テストタスク 2. ペアワーク（会話と面接） 3. テストを提出する	教科書も宿題もありません。

1.授業コード（ナンバリング）	FLE202-M01	2.科目名	オーラルイングリッシュ II	3.単位数	1
4.授業担当教員	横山雅彦				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&				
18.学習目標と ＤＰとの関連	【学習目標】 TOEIC L&R400 点以上を取得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	頻出表現と頻出単語でつかむ TOEIC? L&R TEST 400 点 AN AMAZING AVENUE FOR THE TOEIC? L&R TEST 400 （成美堂） https://www.seibido.co.jp/np/code/9784791972906/				
20.参考文献					
21.成績評価	単語 Quiz：60 点（5 点×12 回） Mid-term Test：20 点 Final Test：20 点				
22.コメント	教科書は、必ず指定の方法で事前に購入すること（出版社からの直接購入）。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション Unit 1	
第 2 回	Unit 2	
第 3 回	Unit 3	
第 4 回	Unit 4	
第 5 回	Unit 5	
第 6 回	Unit 6	
第 7 回	Unit 7	

第 8 回	Unit 8	
第 9 回	Unit 9	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	Final Test	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE202-Y01	2.科目名	オーラルイングリッシュⅡ	3.単位数	1
4.授業担当教員	前田哲男				
5.授業科目の区分	共通教育	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	【目的】 TOEIC L&R 対策を始めたばかりの人、もしくはこれから始めようとしている人を対象に、英語への関心を高めながら、結果としてスコアアップにつなげることを目的とします。 【概要】 TOEIC L&R 対策用に編集された教材を扱い、問題を解いていくというプロセスを進めながら、しかしその中で語彙への興味を高める工夫や、問題を解く上での考え方に触れながら、可能な範囲で英語に対する興味を高める活動を通して、結果的にスコアアップにつながる学習を目指す。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業は、本学のディプロマポリシーのうち、とりわけ（3）の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、及び（5）のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語圏地域研究に直結するものであると言える。				
19.教科書・教材	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST (センゲージラーニング株式会社)				
20.参考文献	なし				
21.成績評価	・各 UNIT 終了後に行う確認小テスト　40 点 ・期末テスト　40 点 ・授業への取組・姿勢　20 点				
22.コメント	・授業に際しては、その時間に扱う予定の問題をあらかじめ解いておくこと。 ・各ユニットの確認小テストは、ユニットが終わった次の授業の最初に行います。 ・この授業で使用する教科書は、学内のセンタープログラムや観光学科の集中講座等で使用されている可能性があるため、自分が他の場面ですでにこの教科書を学習していないか、確認をお願いします。すでに学習した教材であれば、他の講座を履修してください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	オリエンテーション UNIT 1　Shopping	授業前に自力で問題を解いておくこと。
第 2 週	UNIT 2　Office Work	授業前に自力で問題を解いておくこと。終了したユニットの確認小テスト調べ。
第 3 週	UNIT 3　Transportation	授業前に自力で問題を解いておくこと。終了したユニットの確認小テスト調べ。
第 4 週	UNIT 4　Travel & Eating Out	授業前に自力で問題を解いておくこと。終了したユニットの確認小テスト調べ。
第 5 週	UNIT 5　Meetings	授業前に自力で問題を解いておくこと。終了したユニットの確認小テスト調べ。
第 6 週	UNIT 6　Web Sites	授業前に自力で問題を解いておくこと。終了

		したユニットの確認小テスト調べ。
第 7 週	UNIT 7　Advertising	授業前に自力で問題を解いておくこと。終了したユニットの確認小テスト調べ。
第 8 週	UNIT 8　Information Technology	授業前に自力で問題を解いておくこと。終了したユニットの確認小テスト調べ。
第 9 週	UNIT 9　Phone Calls	授業前に自力で問題を解いておくこと。終了したユニットの確認小テスト調べ。
第 10 週	UNIT 10　Construction & Landscaping	授業前に自力で問題を解いておくこと。終了したユニットの確認小テスト調べ。
第 11 週	UNIT 11　Personnel	授業前に自力で問題を解いておくこと。終了したユニットの確認小テスト調べ。
第 12 週	UNIT 12　Business Ventures	授業前に自力で問題を解いておくこと。終了したユニットの確認小テスト調べ。
第 13 週	UNIT 13　Media	授業前に自力で問題を解いておくこと。終了したユニットの確認小テスト調べ。
第 14 週	UNIT 14　Entertainment	授業前に自力で問題を解いておくこと。終了したユニットの確認小テスト調べ。
第 15 週	期末テスト（実力問題も少し含める可能性あり）	期末テスト準備

1.授業コード（ナンバリング）	FLE206-Y01	2.科目名	アカデミック英語 L5	3.単位数	2
4.授業担当教員	Richard　Leckie				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 Students will learn how to organize and develop their ideas in academic writing from paragraph to essay level. They will learn how to write in well-structured paragraphs with a clear main idea, supporting details and a conclusion. 【概要】 Using the te				
18.学習目標とＤＰとの関連	1. Students will become able to plan, revise and edit their academic writing effectively. 2. Students will become aware of weaknesses in their writing, which will lead to improvement of their grammar, vocabulary, spelling and punctuation. 3. Students will improve their ability to research academic topics and write about them in their own words. 【関連する DP】 (1)自律性 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	Basic Steps to Academic Writing from Paragraph to Essay (Matthew Taylor and David Kluge) Cengage Learning, ISBN:　978-4-86312-2093				
20.参考文献	None				
21.成績評価	Students' scores will be calculated as follows. In addition to completing all assignments on time and attending at least 2/3 of classes, students must achieve a total of 60 or more in order to pass. (1) Classroom Participation 30% (2) Textbook Paragraph				
22.コメント	Students should bring their textbook and have access to a dictionary every class. Paragraphs and essays can be submitted on paper or digitally. However, students should always bring loose leaf paper to use for in-class activities.				
23.オフィスアワー	Speak to the instructor before or after class, or contact by email				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Meeting 1: Course explanation, overview of Units 1-2 Meeting 2: Unit 3 Paragraph About Self (Preparation)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 2	Meeting 1: Unit 3 Paragraph About Self (Planning) Meeting 2: Unit 3 Paragraph About Self (Writing & Feedback)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 3	Meeting 1: Unit 4 Descriptive Paragraph (Preparation) Meeting 2: Unit 4 Descriptive Paragraph (Planning)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 4	Meeting 1: Unit 4 Descriptive Paragraph (Writing) Meeting 2: Unit 4 Descriptive Paragraph (Feedback)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 5	Meeting 1: Unit 5 Comparison and Contrast	Assigned textbook tasks and paragraph

	Paragraph (Preparation) Meeting 2: Unit 5 Comparison and Contrast Paragraph (Planning)	writing (4hrs/week)
Week 6	Meeting 1: Unit 5 Comparison and Contrast Paragraph (Writing) Meeting 2: Unit 5 Comparison and Contrast Paragraph (Feedback)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 7	Meeting 1: Unit 6 Process Paragraph (Preparation) Meeting 2: Unit 6 Process Paragraph (Planning)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 8	Meeting 1: Unit 6 Process Paragraph (Writing & Feedback) Meeting 2: Unit 7 Narrative Paragraph (Preparation)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 9	Meeting 1: Unit 7 Narrative Paragraph (Planning) Meeting 2: Unit 7 Narrative Paragraph (Writing & Feedback)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 10	Meeting 1: Unit 8 Summary Paragraph (Preparation & Planning) Meeting 2: Unit 8 Summary Paragraph (Writing & Feedback)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 11	Meeting 1: Unit 9 Analysis Paragraph (Preparation & Planning) Meeting 2: Unit 9 Analysis Paragraph (Writing & Feedback)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 12	Meeting 1: Essay Workshop (preparation for final essay) Meeting 2: Unit 10 Cause and Effect Paragraph (Preparation & Planning)	Assigned textbook tasks and essay writing (4hrs/week)
Week 13	Meeting 1: Unit 10 Cause and Effect Paragraph (Writing & Feedback) Meeting 2: Unit 11 Persuasive Paragraph (Preparation & Planning)	Assigned textbook tasks and essay writing (4hrs/week)
Week 14	Meeting 1: Unit 11 Persuasive Paragraph (Writing & Feedback), submit essays Meeting 2: Unit 12 Problem-Solution Paragraph (Preparation & Planning)	Assigned textbook tasks and essay writing (4hrs/week)
Week 15	Meeting 1: Unit 12 Problem-Solution Paragraph (Writing & Feedback) Meeting 2: Final feedback and sum-up of course	Assigned textbook tasks and review (4hrs/week)

1.授業コード（ナンバリング）	FLE208-A71	2.科目名	実用英語 B	3.単位数	2
4.授業担当教員	百濟正和				
5.授業科目の区分	専門教育／実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	制限なし			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義+演習		
16.履修制限	40 名程度 *ただし履修希望者多数の場合は対応を検討する。				
17.授業の目的と概要	コロナによる中断はあったものの、訪日旅行客が戻ってきており、日本国内の様々な観光地では、外国人観光客を目にすることが多くなってきた。 私たちが日常生活で英語を使う可能性が高いのは、外国人観光客に対してである。この授業では、日本国内の観光地を英語で説明する教科書を用い、知識を得るのはもちろん、英語で日本の歴史や文化を説明できるようにすることを目的とする。また、「読む、聞く、話す」は教科書を用いて、「書く」は演習形式にて実践し、バランスよく英語を習得できるようにする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	DP(5)「コミュニケーションスキル」、(3)「多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）に関連し、外国人旅行客へ観光地への行き方や、名所旧跡、日本文化、飲食店で注文の受付や料理の説明など、簡単であっても英語で説明できるようにすること。また各授業前に提出する英語のエッセイや説明文の作成を通じ、英語のお知らせ等の書類作成ができるようにする。				
19.教科書・教材	Hospitality English 「おもてなしの観光英語」三修社 2016 年				
20.参考文献	特になし。適宜講義中に紹介する。				
21.成績評価	①毎日最終コマで提出するレポート　33%（4 回予定、授業中に Web Class へ提出） ②小テスト　33%（各日ごとに 4 回実施） ③各講義時の発表　33%（事前予習、発表内容などを総合評価）				
22.コメント	①各講義の内容や順序は、9 月時点のものであり、履修人数、学生諸君の理解度、進捗状況により、適宜変更されることがある。 ②授業の進め方 【各日 1～3 時間目】※最終日のみ 1～2 時間目 教科書の 1 単元を 1 コマで、日により 2～3 単元を進める。各単元の進め方は下記の通り。 1, 読み合わせ （段落ごとに 指名する。その段落について、意味の通る訳をすること ） 2, True False クイズ （本文の内容と説明文があっているか回答する） 3, リスニング（単語の穴埋め。予習は不要） 4, 選択問題 1 （予習は不要） 5, 英訳（正確な訳というより、意味が通じる訳を） 6, 選択問題 2、 3 【各日 4 時間目】※最終日は 3 時間目 ・当日学習した 3 単元（最終日は 2 単元）のまとめテストを Webclass で行う ・日替わりのミニセッションと、残り時間は英作文の時間となり、時間内に Webclass に提出する。 ③予習・復習 ・この授業は、『予習が必須』である。授業前日までに、A,本文の読み合わせ、B,不明単語の意				

	味調べ、C,日本語による内容の説明（翻訳ではない）を行っておくこと。授業では、当てられた者が速やかに答えていかねばならない。自宅では、翌日の予習の時間をきっちり取り（目安 60～90 分)、準備を怠らないこと。(予習ができていない学生は、出席しても授業についていけず、単位の取得が困難になる） ・なお、各日に当日行った項目の小テストがあるので、帰宅後の「復習」は必須ではない。 ④注意事項 ・机の上には、授業と関係のないものは乗せないこと。(スマートフォン、飲み物、菓子等） ・教科書の Lesson は、コマ数の関係上、飛ばしているものがあるので、誤った項目を予習しないように、十分に注意すること。 ・予習のため、電子辞書や、翻訳サイトの使用しても構わないが、文章を翻訳させたものをそのまま授業に使用することは推奨しない。自身で必ず内容の意味が通るかを確認し、内容を頭に入れてから受講すること。 ・授業中も、単語の意味調べなどで電子辞書や、翻訳サイトの使用しても構わないが、同じく自身で説明ができていない場合は、予習がされていないとみなすこともあるので、注意すること。 ・各日には Webclass でのテストがあるため、PC/タブレットを持参すること。スマートフォンによる受験は認めない。 ⑤留学生対応 本講義は日本語を用い、英語を学習する。よって日本語が母国語でない場合は、英語の意味を日本語で説明する（外国語同士の訳）必要がある。しかしながら、実用的な英語を学ぶだけでなく、日本語学習の面でもプラスになるので、頑張って勉強してほしい。
23.オフィスアワー	授業の前・後に適宜対応する。また、E メールでの質問は随時受け付ける。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 日目（2/5）	Introduction and Orientation ・講師紹介 ・授業中のルール ・この授業のねらい 事前講義 ・英作文　エッセイと説明文の違い、書き方 ・注意が必要な英語表現	【予習必須】 Lesson 1. An Attitude of Hospitality / Welcome to Japan Lesson 4. Sapporo Snow Festival 以上の各項の本文を予習し、分からない単語を調べ、日本語で意味が説明できるようにすること。 聞き取りや、穴埋め問題などは、授業中に行うので、予習は必須ではない。
1 日目（2/5）	Lesson 1. An Attitude of Hospitality / Welcome to Japan	
1 日目（2/5）	Lesson 4. Sapporo Snow Festival ☆★☆★☆注意！Lesson 2、Lesson 3 は飛ばします！☆★☆★☆	
1 日目（2/5）	・1 日目　まとめテスト ・Mini Session　「交通関係の英語」 ・Writing Workshop エッセイの書き方を練習し、特定のトピックについて、自身の意見について英語で作文してみよう	
2 日目（2/6）	Lesson 6. Yokohama Port	【予習必須】 Lesson 6. Yokohama Port Lesson 7. Mt. Fuji Lesson 9. The Deer in Nara 以上の各項の本文を予習し、分からない単語を調べ、日本語で意味が説明できるようにす

		ること。 聞き取りや、穴埋め問題などは、授業中に行うので、予習は必須ではない。
2 日目（2/6）	Lesson 7. Mt. Fuji	
2 日目（2/6）	Lesson 9. The Deer in Nara ☆★☆★☆注意！Lesson 8 は飛ばします！☆★☆★☆	
2 日目（2/6）	・2 日目　まとめテスト ・Mini Session「レストランやお店での英語」 ・Writing Workshop 説明文の書き方を練習し、特定のトピックについて、中立的立場から英語で作文してみよう	
3 日目（2/7）	Lesson 10. Kyoto Station	【予習必須】 Lesson 10. Kyoto Station Lesson 11. Let's explore Osaka Lesson 12. Port City Kobe: Phoenix Rises 以上の各項の本文を予習し、分からない単語を調べ、日本語で意味が説明できるようにすること。 聞き取りや、穴埋め問題などは、授業中に行うので、予習は必須ではない。
3 日目（2/7）	Lesson 11. Let's explore Osaka	
3 日目（2/7）	Lesson 12. Port City Kobe: Phoenix Rises	
3 日目（2/7）	・3 日目　まとめテスト ・Mini Session「ホテルや観光地での英語」 ・Writing Workshop 特定のトピックについて、自身の意見について英語で作文してみよう	
4 日目（2/8）	Lesson 14. The Atomic Bomb Dome ☆★☆★☆注意！Lesson 13 は飛ばします！ ☆★☆★☆	【予習必須】 Lesson 14. The Atomic Bomb Dome Lesson 15. Dazaifu 以上の各項の本文を予習し、分からない単語を調べ、日本語で意味が説明できるようにすること。 聞き取りや、穴埋め問題などは、授業中に行うので、予習は必須ではない。
4 日目（2/8）	Lesson 15. Dazaifu	
4 日目（2/8）	・4 日目まとめテスト ・Mini Session「学校での英語」 ・Writing Workshop 特定のトピックについて、中立的立場から英語で作文してみよう	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE209-Y71	2.科目名	リーディング・ライティング 3	3.単位数	1
4.授業担当教員	和泉有香				
5.授業科目の区分	共通	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的 TOEIC(R) L&R テストに関する全般的な知識を身につけ、「基礎英語力＋テスト知識」を以て TOEIC（R)L&R テスト 500 点以上のスコア取得を目指します。 概要 リスニング対策とリーディング対策をバランス良く行うことにより、両分野でスコアに直結する英語力を付けます。授業では大量のリスニングを行い、同時に発音と音読も重視します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 【学習目標】 ① 実用的な語学力 ② 他者と協働するコミュニケーションスキル ・ ただ与えられた問題を解くだけではなく、「聞く人（読む人）が理解しやすい情報の提示法」を意識し、習得する。 ・ 今現在必要な英語力・コミュニケーション力と同時に、社会人になってからも役立つ知識と英語力を身につける。				
19.教科書・教材	SMART ROUTE TO THE TOEIC (R) L&R TEST（センゲージ ラーニング）				
20.参考文献	必要に応じて授業内で紹介する。				
21.成績評価	・ 授業参加度： 30 点（学習目標②に対応） ・ 小テスト： 30 点（学習目標①に対応） ・ 期末テスト： 40 点（学習目標①に対応）				
22.コメント	・ 教科書を購入していない学生は、評価の対象外とすることがあります。 ・ 音読に力を入れます。 ・ 発表・発言など、積極的な授業態度を求めます。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室等で、受講生からの質問等への対応をする。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 日目	Unit 11 Personnel 単語テスト 1	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
2 日目	Unit 12 Business Ventures 単語テスト 2, 3	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
3 日目	Unit 13 Media 単語テスト 4, 5	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読
4 日目	Unit 14 Entertainment 単語テスト 6, 7	授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全

		ての音読
5 日目	Unit 15 Publishing 期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE303-Y01	2.科目名	リーディング・ライティング総合 1	3.単位数	1
4.授業担当教員	権延ジュ				
5.授業科目の区分	共通選択	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3 学年以上
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	目的 この科目は、１，２学年で学んできた事柄を基礎とし、TOEIC でスコア 500 点以上を取得できるような英語力を身につけることを目的とします。 ただ問題を解くだけではなく、ポイントとなる英文法や語彙を確認し、様々な音声や英文にも触れながら、英語を聞いて理解したり、英文を読解するための力を身につけます。学習した表現を使っての作文や音読などのアウトプット活動も行い、理解の深化と身体化も目指します。 すでに TOEIC スコア 600 以上を取得している人にもプラスになるような授業を目指します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業は、本学のディプロマポリシーのうち、とりわけ（３）の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、及び（５）のコミュニケーションスキルに関連するものである。 　外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語圏地域研究に直結するものであると言える。				
19.教科書・教材	Key Strategies for Success on the TOEIC L&R Test [Level 500] （朝日出版社）				
20.参考文献	授業内で適宜紹介、必要な場合はプリントを配布				
21.成績評価	確認小テスト 30 点（2L ユニット＋2R ユニット毎の小テスト） 授業参加点等の平常点 20 点 期末テスト 50 点				
22.コメント	・授業内で自発的に発言した場合は、授業態度参加度等に加点します。 ・特別に指示のあった場合を除いては、スマートフォンの使用を禁止します。 ・教科書を購入していない学生については、出席数が基準を越えていても評価点は不合格とします。				
23.オフィスアワー	特に時間は指定しません。相談、質問がある場合は、メールで連絡下さい。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション Unit L-1, R-1	
第 2 回	Unit L-2, R-2	
第 3 回	Unit L-3, R-3	L-1,2 及び R-1,2 の確認小テスト
第 4 回	Unit L-4, R-4	
第 5 回	Unit L-5, R-5	L-3,4 及び R-3,4 の確認小テスト
第 6 回	Unit L-6,R-6	
第 7 回	Unit L-7, R-7	L-5,6 及び R-5,6 の確認小テスト
第 8 回	Unit L-8, R-8	
第 9 回	Unit L-9, R-9	L-7,8 及び R-7,8 の確認小テスト
第 10 回	Unit L-10, R-10	
第 11 回	Unit L-11, R-11	L-9,10 及び R-9,10 の確認小テスト
第 12 回	Unit L-12, R-12	

第 13 回	Unit L-13, R-13	L-11,12 及び R-11,12 の確認小テスト
第 14 回	Unit L-14, R-14	
第 15 回	期末テスト まとめ	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE305-Y01	2.科目名	ホテル実務英語Ⅰ	3.単位数	1
4.授業担当教員	権延ジュ				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	総合社会学科・観光学科			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	初回の授業に、レベル確認テストを受けてもらうので、履修を希望する人は必ず出席すること。				
17.授業の目的と概要	本授業は、訪日外国人観光客に英語で対応する際の基本的な英語表現や説明の仕方を学ぶことを目的とします。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の K4.異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える、に関連しています。 １．観光及び接客のさまざまな場面で使用される基本的な英語表現と重要語句を学ぶ事ができる。 ２．会話やロールプレイなどの活動を通して、自然な文脈で使用される実践的な英語コミュニケーション能力を養うことができる。 ３．学んだ表現を使って、十分に自己表現（プレゼンテーション）することができる。				
19.教科書・教材	HOSPITALITY ON THE SCENE"（金星堂）"				
20.参考文献					
21.成績評価	・授業内活動及び単語・小テスト（発表等）20%（学習目標①に対応） ・第 9 回　中間試験　20%（学習目標①、②、③に対応） ・第 15 回　総括試験　60%（学習目標①、②、③に対応）				
22.コメント	授業中の携帯電話の使用を禁止します。 ・テキストを忘れや、授業に参加していない、宿題をしていない等の場合には、欠席扱いとなることがあります。 ・授業内での活動及び homework を重視している為、欠席しないように十分に注意してください。 ・やむ終えず欠席してしまった場合、必ず次の授業までに担当教員より学習内容及び宿題を確認し、次週の授業に臨んでください。 ・授業は主に教科書に沿って進めていきますが、授業内活動としてペアやグループによるタスクと、プレゼンテーション（発表）等を行います。したがって、積極的な参加姿勢で授業に臨んでください。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	Introduction Unit 1 Transportation　交通案内	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 2 回】	Unit 1 Transportation　交通案内	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 3 回】	Unit 2 At a Check- in Counter　ホテルでのチェックイン	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 4 回】	Unit 2 At a Check- in Counter　ホテルでのチェックイ	予習：Key Expressions& Vocaburary Check

	ン	復習：Conversation & Reading for information
【第 5 回】	Unit 3 Facilities and Services　ホテル内の施設やサービス案内	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 6 回】	Unit 3 Facilities and Services　ホテル内の施設やサービス案内	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 7 回】	Unit 4 Giving Directions　街歩きのための道案内	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 8 回】	Unit 4 Giving Directions　街歩きのための道案内	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 9 回】	到達確認テスト	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 10 回】	Unit 5 Recommending a Trip　観光スポットを薦め	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 11 回】	Unit 5 Recommending a Trip　観光スポットを薦め	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 12 回】	Unit 6 Dining in Japan　日本食の紹介	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 13 回】	Unit 7 Dining in Japan　日本食の紹介	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 14 回】	Unit 7 Dining in Japan　日本食の紹介	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 15 回】	まとめと総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE307-Y01	2.科目名	エアライン実務英語 I	3.単位数	1
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択の区分	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3rd year
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	Lecture, presentation and exercises		
16.履修制限	This course is for the 3rd year Tourism students who plan to plan to pursue a career in the airline industry.				
17.授業の目的と概要	This course aims to develop students' English skills in airport ground staff roles as well as in-flight communication in the airline industry.				
18.学習目標とＤＰとの関連	1. The students will be able to develop confidence and competence in the use of the English language in hospitality roles. 2. Students will be able to communicate effectively and accurately with future colleagues and guests through role-play exercises, audio-visual materials and discussion in class. 3. The students will be able to have a grasp of the kind of hospitality that is required in the services provided by airlines.				
19.教科書・教材	TBA				
20.参考文献					
21.成績評価	1. In-class activities 30% 2.Group task, Speaking task and Presentation 20% 3. Midterm Task 20% 4. Final Task 30%				
22.コメント	Note: Additional points will be given to students who will participate in English Private Lesson sessions this semester.				
23.オフィスアワー	Kobe Yamate Campus Building 3 Global Gakushu Plaza Rm 016 Monday-Friday				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1. Day 1 Course Introduction Lesson Discussion: Ground Staff Unit 1: Lesson Introduction In-class activity	
	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 1: Practical Training	
	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 2: Lesson Introduction In-class activity	

	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 2: Practical Training	
	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 3: Lesson Introduction In-class activity	
	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 3: Practical Training	
	Midterm Task and Midterm Test	
	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 4: Lesson Introduction In-class activity	
	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 4: Practical Training In-class activity	
	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 5: Lesson Introduction In-class activity	
	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 5: Practical Training In-class activity	
	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 6: Lesson Introduction In-class activity	
	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 6: Practical Training In-class activity	
	Final Speaking Task: Airline Announcement	
	Final Test	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE309-Y01	2.科目名	旅行業実務英語Ⅰ	3.単位数	1
4.授業担当教員	前田哲男				
5.授業科目の区分	共通選択	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	3 学年以上
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	2学年までに学んだ英文法や英会話の学びを基礎として、将来主に旅行業関連のビジネスの世界で使う英語を導入段階から学び、学んだ表現を活用する場面設定をしながら、実際に口頭で運用できるようになることを学習目標とする。 使用教材は、旅行業務を意識しながらも、より広い範囲のビジネス英語を見据えたものを使用する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語を母国語とする文化圏の文化やその地域を理解することにつながり、またグローバルなコミュニケーションスキルを身に付けることに直結するものである。				
19.教科書・教材	Go Global　グローバル時代のビジネスコミュニケーション（成美堂）				
20.参考文献	なし				
21.成績評価	総括テスト 40 点 通常点 60 点（2 日目、3 日目、4 日目に実施する小テスト、授業参加姿勢等）				
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。				
23.オフィスアワー	決まった時間は設定しませんが、質問や相談があれば、研究室（3310）に来てください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 時間目	第 1 回：オリエンテーション Unit 1 Introducing Yourself	
第 2 時間目	Unit 1　Introducing Yourself	
第 3 時間目	Unit 2　Introducing Companies	
第 4 時間目	Unit 2　Introducing Companies	
第 5 時間目	Unit 3　Explaining Your Role	
第 6 時間目	Unit 3　Explaining Your Role	
第 7 時間目	Unit 4　Introducing Products	
第 8 時間目	Unit 4　Introducing Products	
第 9 時間目	Unit 5　Checking Information	
第 10 時間目	Unit 5　Checking Information	
第 11 時間目	Unit 6　Giving Your Opinion	
第 12 時間目	Unit 6　Giving Your Opinion	
第 13 時間目	Unit 7　Making Requests	
第 14 時間目	Unit 7　Making Requests	
第 15 時間目	第 30 回：総括テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE311-Y01	2.科目名	観光ビジネス英語 I	3.単位数	1
4.授業担当教員	権延ジュ				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	観光ビジネスの現場で使われる必須語彙、表現などを習得する。さまざまな形式のタスクを繰り返し行うことで、無理なく必要な表現を身につけていく。				
18.学習目標とＤＰとの関連					
19.教科書・教材	Travel English at Your Fingertips [Seibido]				
20.参考文献					
21.成績評価	Homework and participation: 30% (学習目標の①、②に対応) Mid-term test: 30% (学習目標の①、②に対応) Final exam: 40% (学習目標の①、②に対応)				
22.コメント					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	[1] In-Flight Announcements	
	[2] In-Flight Announcements	
	[3] At Immigration and Customs	
	[4] At Immigration and Customs	
	[5] Getting to a Hotel	
	[6] Getting to a Hotel	
	[7] Checking into a Hotel	
	[8] Checking into a Hotel	
	中間テスト	
	[10] Checking in without a Reservation	
	[11] At a Restaurant	
	[12] Taking the Subway	
	[13] At a Fast-Food Restaurant	
	[14] At a Fast-Food Restaurant	
	期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLE401-Y01	2.科目名	リーディング・ライティング総合 3	3.単位数	1
4.授業担当教員	和泉有香				
5.授業科目の区分	共通	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	4 学年
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義ならびに演習		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	英語力を測るかなり正確な指標として評価が高い TOEIC(R) L&R TEST の公式問題集を使用し、実際の問題への取り組み方、解答順序、正解へのたどり着き方など、実践的な演習を繰り返し行う。 簡単にスコアを伸ばす方法は存在しないが、傾向と対策を正しく知ることによって 1)英語分野に限らず一生役に立つ Test Taking Skills と、2)自分の英語力を正確にスコアに反映させるための現実的な方策を身につける。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 　外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語を母国語とする文化圏の文化やその地域を理解することにつながり、またグローバルなコミュニケーションスキルを身に付けることに直結するものである。				
19.教科書・教材	公式 TOEIC Listening &Reading TEST 問題集 9 (IIBC 刊)				
20.参考文献	授業中に必要に応じて紹介する。				
21.成績評価	中間、期末テスト 60 点 平常点 40 点（小テスト、授業参加姿勢など）				
22.コメント	・指定のテキストを購入することが受講の必須条件となります。 ・受講開始時の TOEIC スコアは問いませんが、アサインメントをしっかりこなしてください。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室等で、受講生からの質問等への対応をします。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	ガイダンス 【TEST 1 使用】 Part1 対策、Part7（1 つの文書）対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解
第 2 週	Part2 対策、Part7（1 つの文書）対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解
第 3 週	Part2 対策、Part5 対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解
第 4 週	Part3 対策、Part5 対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解
第 5 週	Part3 対策、Part7（複数文書）対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解
第 6 週	Part4 対策、Part6 対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解
第 7 週	Part4 対策、Part6 対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解、中間テスト準備
第 8 週	中間（単語）テスト	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用

	【TEST2 使用】Part1 対策、Part7（1 つの文書）対策	した問題の完全理解
第 9 週	Part2 対策、Part7（1 つの文書）対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解
第 10 週	Part2 対策、Part5 対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解
第 11 週	Part3 対策、Part5 対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解
第 12 週	Part3 対策、Part7（複数文書）対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解
第 13 週	Part4 対策、Part6 対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解
第 14 週	Part4 対策、Part6 対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解、期末テスト準備
第 15 週	期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	FLK101-A01	2.科目名	韓国・朝鮮語Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	入門クラスなので、韓国語をはじめて学ぶ学生が望ましいです。それ以外の学生で履修を希望する場合は、必ずメールでお尋ねください。 履修希望者が多数の場合は抽選を行います。必ず初回の授業に出席してください。				
17.授業の目的と概要	授業の目的：①ハングルの読み書きの習得②基礎的な会話ができるようになること③言葉の学習を通して、韓国の文化に関心を持つことです。 概要：韓国語をはじめて学ぶ学生のための入門クラスです。ハングル文字の読み書きを中心に学びながら、基礎的な会話もできるように学習していきます。また、韓国の文化を身近に感じてもらうために視聴覚教材を取り入れた授業も行います。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の(3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）(5)コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①ハングルの読み書きの習得 ②ペアやグループ活動を通して、基礎的な会話ができるようになること ③言葉の学習を通して、韓国の文化に関心を持つこと				
19.教科書・教材	『基礎から学ぶ韓国語講座　初級　改訂版』国書刊行会				
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。				
21.成績評価	クラス活動：10%　　ワークシート：10%　　ノート　：10% 単語テスト：10%　　暗唱テスト　：20%　　総括試験：40%				
22.コメント	韓国語は日本語の語順とほぼ同じで、最も習得しやすい外国語だと思います。 授業中は発話することが多いので、積極的に学ぶ姿勢が求められますが、 その分基礎的な会話ができるようになります。 初回から授業を進めますので、履修希望者は必ず初回から出席するようにしてください。 この授業は韓国語をはじめて学ぶ学生を対象にしています。				
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・オリエンテーション［主に授業の流れや成績評価についての説明］ ・基礎第 1 課　韓国語について［教科書 pp.6-9］・ワークシート 【第 2 回】 ・基礎第 2 課　基本母音［教科書 pp.10-13］・ワークシート	【第 1 回】 ○教科書の予習（30 分） 【第 2 回】 ○次回の授業までに基本母音を読めて書けるように練習すること（60 分）
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・基礎第 3 課　基本子音①［教科書 pp.14］・ワークシート ●母音暗唱テスト	【第 3 回】 ○基本子音を読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 4 回】

	【第 4 回】 ・基礎第 3 課　基本子音②［教科書 pp.14］・ワークシート ●単語テスト	○次回の授業までに基本子音を読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・基礎第 3 課　基本子音③［教科書 pp.14］・ワークシート 【第 6 回】 ・基礎第 3 課　基本子音④［教科書 pp.15］・ワークシート ●単語テスト	【第 5 回】 ○基本子音を読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 6 回】 ○次回の授業までに基本子音を読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・基礎第 3 課　基本子音⑤濃音［教科書 pp.15-19］・ワークシート ●子音暗唱テスト 【第 8 回】 ・基礎第 4 課　複合母音［教科書 pp.20-23］・ワークシート ●単語テスト ●母音スギテスト	【第 7 回】 ○基本子音を読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 8 回】 ○次回の授業までに複合母音を読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・基礎第 5 課　パッチム［教科書 pp.24-29］・ワークシート ●ノート確認 【第 10 回】 ・基礎第 6 課　発音の変化/有声音化/連音化［教科書 pp.30-31］ ・ワークシート ●単語テスト	【第 9 回】 ○パッチムを読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 10 回】 ○次回の授業までに発音の変化を読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・基礎第 6 課　発音の変化/流音化/濃音化/口蓋音化［教科書 pp.32-34］・ワークシート 【第 12 回】 ・基礎第 6 課　発音の変化/h の音変化/鼻音化［教科書 pp.32-34］ ・ワークシート ●子音スギテスト	【第 11 回】 ○発音の変化を読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 12 回】 ○次回の授業までに発音の変化を読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・第 1 課　私は浅井ゆかりです（1）［教科書 pp.40-45］ ・ワークシート 【第 14 回】 ・第 1 課　私は浅井ゆかりです（2）［教科書 pp.40-45］ ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 13 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 14 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）

【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ・第２課　出身はソウルです（１）［教科書 pp.46-51］ ・ワークシート 【第 16 回】 ・第２課　出身はソウルです（２）［教科書 pp.46-51］ ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 15 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 16 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 17 回】 【第 18 課】	【第 17 回】 ・第３課　図書館ではありません（１）［教科書 pp.52-57］ ・ワークシート 【第 18 回】 ・第３課　図書館ではありません（２）［教科書 pp.52-57］ ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 17 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 18 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 19 回】 【第 20 課】	【第 19 回】 ・第４課　時間がありますか（１）［教科書 pp.58-63］ ・ワークシート 【第 20 回】 ・第４課　時間がありますか（２）［教科書 pp.58-63］ ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 19 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 20 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・第５課　何をしますか（１）［教科書 pp.64-69］・ワークシート 【第 22 回】 ・第５課　何をしますか（２）［教科書 pp.64-69］ ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 21 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 22 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・第６課　貿易会社で働いています（１）［教科書 pp.70-75］ ・ワークシート ●ノート確認 【第 24 回】 ・第６課　貿易会社で働いています（２）［教科書 pp.70-75］ ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 23 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 24 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・第７課　服を買います（１）［教科書 pp.76-81］・ワークシート 【第 26 回】 ・第７課　服を買います（２）［教科書 pp.76-81］ ●単語テスト ●本文暗唱テスト	【第 25 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 26 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 27 回】	【第 27 回】	【第 27 回】

【第 28 回】	・第 8 課　スーパーでよく買います（1）［教科書 pp.82-89］ ・ワークシート 【第 28 回】 ・第 8 課　スーパーでよく買います（2）［教科書 pp.82-89］ ・総復習［まとめプリントを持参すること］ ●本文暗唱テスト	○本文を音読し、読めて書けるように練習すること・まとめプリント（30 分） 【第 28 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること・まとめプリント（120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・総復習［まとめプリントを持参すること］ 【第 30 回】 ●総括試験	【第 29 課】 ○総復習（60 分）

1.授業コード（ナンバリング）	FLK101-M01	2.科目名	韓国・朝鮮語Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	入門クラスなので、韓国語をはじめて学ぶ学生が望ましいです。それ以外の学生で履修を希望する場合は、必ずメールでお尋ねください。 履修希望者が多数の場合は抽選を行います。必ず初回の授業に出席してください。				
17.授業の目的と概要	授業の目的：①ハングルの読み書きの習得②基礎的な会話ができるようになること③言葉の学習を通して、韓国の文化に関心を持つことです。 概要：韓国語をはじめて学ぶ学生のための入門クラスです。ハングル文字の読み書きを中心に学びながら、基礎的な会話もできるように学習していきます。また、韓国の文化を身近に感じてもらうために視聴覚教材を取り入れた授業も行います。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の(3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）(5)コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①ハングルの読み書きの習得 ②ペアやグループ活動を通して、基礎的な会話ができるようになること ③言葉の学習を通して、韓国の文化に関心を持つこと				
19.教科書・教材	『基礎から学ぶ韓国語講座　初級　改訂版』国書刊行会				
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。				
21.成績評価	クラス活動：10%　　ワークシート：10%　　ノート　：10% 単語テスト：10%　　暗唱テスト　：20%　　総括試験：40%				
22.コメント	韓国語は日本語の語順とほぼ同じで、最も習得しやすい外国語だと思います。 授業中は発話することが多いので、積極的に学ぶ姿勢が求められますが、 その分基礎的な会話ができるようになります。 初回から授業を進めますので、履修希望者は必ず初回から出席するようにしてください。 この授業は韓国語をはじめて学ぶ学生を対象にしています。				
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・オリエンテーション［主に授業の流れや成績評価についての説明］ ・基礎第 1 課　韓国語について［教科書 pp.6-9］・ワークシート 【第 2 回】 ・基礎第 2 課　基本母音［教科書 pp.10-13］・ワークシート	【第 1 回】 ○教科書の予習（30 分） 【第 2 回】 ○次回の授業までに基本母音を読めて書けるように練習すること（60 分）
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・基礎第 3 課　基本子音①［教科書 pp.14］・ワークシート ●母音暗唱テスト	【第 3 回】 ○基本子音を読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 4 回】

	【第 4 回】 ・基礎第 3 課　基本子音②［教科書 pp.14］・ワークシート ●単語テスト	○次回の授業までに基本子音を読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・基礎第 3 課　基本子音③［教科書 pp.14］・ワークシート 【第 6 回】 ・基礎第 3 課　基本子音④［教科書 pp.15］・ワークシート ●単語テスト	【第 5 回】 ○基本子音を読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 6 回】 ○次回の授業までに基本子音を読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・基礎第 3 課　基本子音⑤濃音［教科書 pp.15-19］・ワークシート ●子音暗唱テスト 【第 8 回】 ・基礎第 4 課　複合母音［教科書 pp.20-23］・ワークシート ●単語テスト ●母音スギテスト	【第 7 回】 ○基本子音を読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 8 回】 ○次回の授業までに複合母音を読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・基礎第 5 課　パッチム［教科書 pp.24-29］・ワークシート ●ノート確認 【第 10 回】 ・基礎第 6 課　発音の変化/有声音化/連音化［教科書 pp.30-31］ ・ワークシート ●単語テスト	【第 9 回】 ○パッチムを読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 10 回】 ○次回の授業までに発音の変化を読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・基礎第 6 課　発音の変化/流音化/濃音化/口蓋音化［教科書 pp.32-34］・ワークシート 【第 12 回】 ・基礎第 6 課　発音の変化/h の音変化/鼻音化［教科書 pp.32-34］ ・ワークシート ●子音スギテスト	【第 11 回】 ○発音の変化を読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 12 回】 ○次回の授業までに発音の変化を読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・第 1 課　私は浅井ゆかりです（1）［教科書 pp.40-45］ ・ワークシート 【第 14 回】 ・第 1 課　私は浅井ゆかりです（2）［教科書 pp.40-45］ ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 13 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 14 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）

【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ・第２課　出身はソウルです（１）［教科書 pp.46-51］ ・ワークシート 【第 16 回】 ・第２課　出身はソウルです（２）［教科書 pp.46-51］ ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 15 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 16 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 17 回】 【第 18 課】	【第 17 回】 ・第３課　図書館ではありません（１）［教科書 pp.52-57］ ・ワークシート 【第 18 回】 ・第３課　図書館ではありません（２）［教科書 pp.52-57］ ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 17 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 18 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 19 回】 【第 20 課】	【第 19 回】 ・第４課　時間がありますか（１）［教科書 pp.58-63］ ・ワークシート 【第 20 回】 ・第４課　時間がありますか（２）［教科書 pp.58-63］ ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 19 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 20 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・第５課　何をしますか（１）［教科書 pp.64-69］・ワークシート 【第 22 回】 ・第５課　何をしますか（２）［教科書 pp.64-69］ ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 21 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 22 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・第６課　貿易会社で働いています（１）［教科書 pp.70-75］ ・ワークシート ●ノート確認 【第 24 回】 ・第６課　貿易会社で働いています（２）［教科書 pp.70-75］ ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 23 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 24 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・第７課　服を買います（１）［教科書 pp.76-81］・ワークシート 【第 26 回】 ・第７課　服を買います（２）［教科書 pp.76-81］ ●単語テスト ●本文暗唱テスト	【第 25 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30 分） 【第 26 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 27 回】	【第 27 回】	【第 27 回】

【第 28 回】	・第 8 課　スーパーでよく買います（1）［教科書 pp.82-89］ ・ワークシート 【第 28 回】 ・第 8 課　スーパーでよく買います（2）［教科書 pp.82-89］ ・総復習［まとめプリントを持参すること］ ●本文暗唱テスト	○本文を音読し、読めて書けるように練習すること・まとめプリント（30 分） 【第 28 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること・まとめプリント（120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・総復習［まとめプリントを持参すること］ 【第 30 回】 ●総括試験	【第 29 課】 ○総復習（60 分）

1.授業コード（ナンバリング）	FLK101-Y01	2.科目名	韓国・朝鮮語Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	高秀美				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学生（現代社会学部生除く）			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	入門クラスなので、はじめて韓国語を学ぶ学生が望ましいです。				
17.授業の目的と概要	様々な形で韓国語と韓国の生活文化を学びながら基礎的な文法、日常会話などの学習を進めて行きます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の３．多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力、S1．修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、K4．異なる価値観を理解意し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーションを備える、の学修に関連しています。 ①ハングル文字の仕組みを理解し説明できる。 ②自由に文章を組み立て、会話に生かすことができる。 ③韓国の生活文化を学ぶ。				
19.教科書・教材	『できる韓国語 初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院				
20.参考文献	授業時に紹介します。				
21.成績評価	時間ごとのワークシート　10%　（学習目標の①④に対応） 課題の提出　10%　（学習目標の①④に対応） 時間ごとの会話練習　10%　（学習目標の②③に対応） 単語テスト　10%　（学習目標の①に対応） 発音チェックテスト　10%　（学習目標の②に対応） 総合テスト　50%　（学習目標の①～④に対応）				
22.コメント	どの国の言葉もそれを共に学ぶ人たちの心を結ぶリボンの役割をすると信じています。一つの単語を知り、少しずつ韓国語で会話できる楽しさをぜひ感じてほしいです。韓国語の最初の一歩でつまずかないように少しでも疑問があれば授業終了後に質問するようにこころがけましょう。 ※スケジュールは変更することがあるます。				
23.オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】 【第２回】	【第１回】 ・オリエンテーション：春学期授業の流れや成績評価についての説明 ・韓国語について［教科書 pp.6］・ワークシート 【第２回】 ・Lesson1　基本母音［教科書 pp.8-9］・ワークシート	【第１回】 ○シラバスの確認 【第２回】 ○次回の授業までに基本母音を読めて書けるように練習すること
【第３回】 【第４回】	【第３回】 ・Lesson2　子音①：平音［教科書 pp.10-14］・ワークシート	【第３回】 ○基本子音を読めて書けるように練習すること

	●母音暗唱テスト 【第４回】 ・Lesson2　子音②：激音［教科書 pp.15-16］・ワークシート	【第４回】 ○次回の授業までに基本子音を読めて書けるように練習すること
【第５回】 【第６回】	【第５回】 ・Lesson2　子音③：濃音［教科書 pp.17-19］・ワークシート 【第６回】 ・Lesson2　子音まとめ［教科書 pp.10-19］ ●単語テスト ●暗唱テスト（子音）	【第５回】 ○基本子音を読めて書けるように練習すること 【第６回】 ○次回の授業までに基本子音を読めて書けるように練習すること
【第７回】 【第８回】	【第７回】 ・Lesson3　パッチム［教科書 pp.20-24］・ワークシート 【第８回】 ・Lesson4　合成母音［教科書 pp.25-28］・ワークシート ●単語テスト	【第７回】 ○パッチムを読めて書けるように練習すること 【第８回】 ○次回の授業までに合成母音、パッチムを読めて書けるように練習すること
【第９回】 【第 10 回】	【第９回】 ・文字の復習［教科書 pp.29-30］・ワークシート 【第 10 回】 ・日本語のハングル表記の練習［教科書 pp.32］・ワークシート	【第９回】 ○ハングルを読めて書けるように練習すること 【第 10 回】 ○次回の授業までに日本語のハングル表記ができるように練習すること
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・発音の変化　有声音化/連音化/鼻音化/「?」の弱音化［教科書 pp.172-175］・ワークシート 【第 12 回】 ・発音の変化　激音化/濃音化/流音化/口蓋音化［教科書 pp.176-181］・ワークシート	【第 11 回】 ○発音の変化を読めて書けるように練習すること 【第 12 回】 ○次回の授業までに発音の変化を読めて書けるように練習すること
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・第１課　私は日本人です（１）［教科書 pp.40-43］・ワークシート 【第 14 回】 ・第１課　私は日本人です（２）［教科書 pp.40-43］・ワークシート ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 13 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること 【第 14 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ・第２課　日本人ではありません（１）［教科書 pp.44-49］・ワークシート 【第 16 回】 ・第２課　日本人ではありません（２）［教科書 pp.44-49］・ワークシート ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 15 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること 【第 16 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること
【第 17 回】	【第 17 回】	【第 17 回】

【第 18 課】	・第 3 課　それは何ですか（1）[教科書 pp.50-55]・ワークシート 【第 18 回】 ・第 3 課　それは何ですか（2）[教科書 pp.50-55]・ワークシート ●単語テスト ●暗唱テスト	○本文を音読し、読めて書けるように練習すること 【第 18 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること
【第 19 回】 【第 20 課】	【第 19 回】 ・第 4 課　約束があります（1）[教科書 pp.56-61]・ワークシート 【第 20 回】 ・第 4 課　約束があります（2）[教科書 pp.56-61]・ワークシート ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 19 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること 【第 20 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・第 5 課　会社はどこにありますか（1）[教科書 pp.62-67]・ワークシート 【第 22 回】 ・第 5 課　会社はどこにありますか（2）[教科書 pp..62-67]・ワークシート ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 21 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること 【第 22 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・第 6 課　週末は何をしますか（1）[教科書 pp.68-73]・ワークシート 【第 24 回】 ・第 6 課　週末は何をしますか（2）[教科書 pp.68-73]・ワークシート ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 23 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること 【第 24 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・第 7 課　そんなに遠くありません（1）[教科書 pp.74-79]・ワークシート 【第 26 回】 ・第 7 課　そんなに遠くありません（2）[教科書 pp.74-79]・ワークシート ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 25 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること 【第 26 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・第 8 課　いつ行きますか（1）[教科書 pp.80-85]・ワークシート 【第 28 回】 ・第 8 課　いつ行きますか（2）[教科書 pp.80-85]・ワークシート ●単語テスト ●暗唱テスト	【第 27 回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること 【第 28 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること
【第 29 回】	【第 29 回】	【第 29 課】

【第 30 回】	●総復習 【第 30 回】 ●総括試験	○総復習

1.授業コード（ナンバリング）	FOD305-Y51	2.科目名	食品衛生管理	3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択科目	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 回生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件	高校で生物、化学を履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	特にありません				
17.授業の目的と概要	近年、食の安全を脅かす事件が多発し、食の安全への関心は高まっている。この授業では、食中毒・食品添加物など、従来の食品衛生事項の他に、ＢＳＥ（海綿状脳症)、ノロウイルスなど、食品衛生法違反事件や食品衛生行政の食の安全に対する取り組みなど、最近の話題を中心に分かりやすく､身近な危険を学んでいく。 食品の安全性の確保とは、食品加工、流通、販売など食品関連業界の責任であるが、国と地方自治体の保健衛生行政であり、国民自身が責任と高い関心を持って実現できる。 日本の食品の現状を把握し、食品衛生の様々な問題を知り、食品				
18.学習目標とＤＰとの関連					
19.教科書・教材	小栗重行他著『イラスト 食品の安全性』小塚諭編（東京教学社） 他、教員配布資料				
20.参考文献					
21.成績評価	12 回以上の主体的授業参加、授業中の態度、定期試験の結果を総合的に判断する。 「成績評価の方法・基準」に、「期末試験が実施出来ない場合は、別途検討する」				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜 3 コース（研究室/3-308)、火曜 2 コース(学修支援センター)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	食品衛生学の概念と新しい展開	
第 2 回	食品衛生行政のしくみ	
第 3 回	食中毒の概念	
第 4 回	食中毒の分類・統計	
第 5 回	自然毒食中毒　(植物性)	
第 6 回	自然毒食中毒　(動物性化学物質食中毒)	
第 7 回	微生物食中毒　(感染侵入型)	
第 8 回	微生物食中毒　(生体内毒素型)	
第 9 回	微生物食中毒　(食品内毒素型)	
第 10 回	ウイルス性食中毒	
第 11 回	原虫・寄生虫による食中毒	
第 12 回	食品による感染症　(経口感染症)	
第 13 回	食品による感染症　(人畜共通感染症)	
第 14 回	海綿状脳症	
第 15 回	まとめ 「教材の学習、課題提出、自習等を含め、単位取得に必要な学修時間を確保する計画である。	

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-A01	2.科目名	初年次セミナー	3.単位数	1
4.授業担当教員	馬場住子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。 地域の子どもたちと触れ合う活動においては保育者を目指す学生としてふさわしい身なりが求められることをご承知おきください。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：木曜日昼休み 研究室ーオフィスアワー：金曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス』 ①本科目の内容、ねらいについてのガイダンス ②入学前課題の確認 ③履修登録の確認 ④新入生アンケートへの回答 ⑤個別面談の予約調整	【教室外学習】 他者インタビューの確認 履修登録の確認 新入生アンケートへの回答 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項

第 2 回	キャリアビジョン『大学生活をイメージしよう-先輩たちへのインタビューをもとに-』 ①先輩にインタビューする ②インタビュー内容のチーム内共有 ③インタビュー内容の全体共有 ④大学生活の過ごし方(1 年次)(WebClass への記事投稿) ⑤人間関係構築(講義)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回	キャリアビジョン『大学生活で実現したいことは何？』 ①目標(実現したいこと)設定 ②目標発表(チーム) ③取り組み計画の立案 ④取り組み計画の発表(チーム) ⑤全体共有(もっともよい取り組み計画) ⑥人間関係構築(アイスブレイク)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【教室外学習：次週までに】 取り組み計画の立案と共有
第 4 回	キャリアビジョン『夢を実現するために(タイムマネジメント)』 ①タイムマネジメントについて学ぶ ②1 週間の予定を可視化する(ワークシート) ③やりたいことを組み込む ④人間関係構築(関係づくり)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【教室外学習：次週までに】 提出物：1 週間の予定ワークシート（以後、ワークは WebClass に提出すること）
第 5 回	『情報検索学習』 メディアライブラリーにて実施	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 6 回	考える力『現象から問題を発見する-地域の問題を発見する-』 ①実施までの計画の共有 ②計画に必要なものを考える(個人) ③計画に必要なものを共有(チーム)、作成方法を考える	【教室外学習：次週までに】 作成に必要なものを準備する
第 7 回	考える力『赤ちゃんはいはいオリンピック実施の仮説を立てる』 ①『赤ちゃんはいはいオリンピック』地域の課題解決について考える(個人) ②地域の課題解決についての発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 地域の課題解決についての結果をまとめる ◎記事投稿 「赤ちゃんはいはいおりんぴっくに向けての抱負」
第 8 回	考える力『赤ちゃんはいはいオリンピック実施の準備をする(個人ワーク)』 ①準備物作成への準備と取り組み(個人) ②準備物作成への準備と取り組み(チーム)	【教室外学習：次週までに】 準備物作成への準備
第 9 回	人間関係の構築『仲間とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの準備をする(グループワーク)』 ①実践準備物の作成(チーム) ②実践準備物の発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 準備物作成
第 10 回	人間関係の構築『仲間や地域の人とともに赤ちゃんは	【教室外学習：次週までに】

	いはいオリンピックの実践をする（１）(グループワーク)』 ①地域の人との交流(１) ②仲間との連携(１)	◎記事投稿の準備
第 11 回	人間関係の構築『仲間や地域の人とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの実践をする（２）(グループワーク)』 ①地域の人との交流(２) ②仲間との連携(２)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「赤ちゃんはいはいおりんぴっくを実践して」
第 12 回	人間関係の構築　活動を振り返り、今後の学生生活や学びにどう活かすか、活かせるかを考える ①1 週間の計画を立てる ②実行計画の作成(個人) ③実行計画の発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 実行計画の作成
第 13 回	プレゼン『チーム内発表と発表資料の作成』 ①チーム内発表 ②発表資料の作成	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	プレゼン『チーム内発表とゼミ内発表』 ①チーム内発表とチーム代表の決定 ②チーム代表の発表	
第 15 回	プレゼン『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり(WebClass 記事投稿)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「初年次セミナーを振り返って」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-A02	2.科目名	初年次セミナー	3.単位数	1
4.授業担当教員	上原昭三				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	研究室ーオフィスアワー：火曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス』 ①本科目の内容、ねらいについてのガイダンス ②入学前課題の確認 ③履修登録の確認 ④新入生アンケートへの回答 ⑤個別面談の予約調整	【教室外学習】 他者インタビューの確認 履修登録の確認 新入生アンケートへの回答 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回	キャリアビジョン『大学生活をイメージしよう-先輩たちへのインタビューをもとに-』	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿

	①先輩にインタビューする ②インタビュー内容のチーム内共有 ③インタビュー内容の全体共有 ④大学生活の過ごし方(1 年次)(WebClass への記事投稿) ⑤人間関係構築(講義)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回	キャリアビジョン『大学生活で実現したいことは何？』 ①目標(実現したいこと)設定 ②目標発表(チーム) ③取り組み計画の立案 ④取り組み計画の発表(チーム) ⑤全体共有(もっともよい取り組み計画) ⑥人間関係構築(アイスブレイク)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【教室外学習：次週までに】 取り組み計画の立案と共有
第 4 回	キャリアビジョン『夢を実現するために(タイムマネジメント)』 ①タイムマネジメントについて学ぶ ②1 週間の予定を可視化する(ワークシート) ③やりたいことを組み込む ④人間関係構築(関係づくり)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【教室外学習：次週までに】 提出物：1 週間の予定ワークシート（以後、ワークは WebClass に提出すること）
第 5 回	『情報検索学習』 メディアライブラリーにて実施	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 6 回	考える力『現象から問題を発見する-地域の問題を発見する-』 ①実施までの計画の共有 ②計画に必要なものを考える(個人) ③計画に必要なものを共有(チーム)、作成方法を考える	【教室外学習：次週までに】 作成に必要なものを準備する
第 7 回	考える力『赤ちゃんはいはいオリンピック実施の仮説を立てる』 ①『赤ちゃんはいはいオリンピック』地域の課題解決について考える(個人) ②地域の課題解決についての発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 地域の課題解決についての結果をまとめる ◎記事投稿 「赤ちゃんはいはいおりんぴっくに向けての抱負」
第 8 回	考える力『赤ちゃんはいはいオリンピック実施の準備をする(個人ワーク)』 ①準備物作成への準備と取り組み(個人) ②準備物作成への準備と取り組み(チーム)	【教室外学習：次週までに】 準備物作成への準備
第 9 回	人間関係の構築『仲間とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの準備をする(グループワーク)』 ①実践準備物の作成(チーム) ②実践準備物の発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 準備物作成
第 10 回	人間関係の構築『仲間や地域の人とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの実践をする（１）(グループワーク)』 ①地域の人との交流(１)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿の準備

	②仲間との連携(１)	
第 11 回	人間関係の構築『仲間や地域の人とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの実践をする（２）(グループワーク)』 ①地域の人との交流(２) ②仲間との連携(２)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「赤ちゃんはいはいおりんぴっくを実践して」
第 12 回	人間関係の構築　活動を振り返り、今後の学生生活や学びにどう活かすか、活かせるかを考える ①1 週間の計画を立てる ②実行計画の作成(個人) ③実行計画の発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 実行計画の作成
第 13 回	プレゼン『チーム内発表と発表資料の作成』 ①チーム内発表 ②発表資料の作成	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	プレゼン『チーム内発表とゼミ内発表』 ①チーム内発表とチーム代表の決定 ②チーム代表の発表	
第 15 回	プレゼン『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり(WebClass 記事投稿)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「初年次セミナーを振り返って」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-A03	2.科目名	初年次セミナー	3.単位数	1
4.授業担当教員	下里里枝				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：木曜日昼休み 研究室ーオフィスアワー：金曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス』 ①本科目の内容、ねらいについてのガイダンス ②入学前課題の確認 ③履修登録の確認 ④新入生アンケートへの回答 ⑤個別面談の予約調整	【教室外学習】 他者インタビューの確認 履修登録の確認 新入生アンケートへの回答 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回	キャリアビジョン『大学生活をイメージしよう-先輩た	【教室外学習：次週までに】

	ちへのインタビューをもとに-』 ①先輩にインタビューする ②インタビュー内容のチーム内共有 ③インタビュー内容の全体共有 ④大学生活の過ごし方(1 年次)(WebClass への記事投稿) ⑤人間関係構築(講義)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	◎記事投稿 【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回	キャリアビジョン『大学生活で実現したいことは何？』 ①目標(実現したいこと)設定 ②目標発表(チーム) ③取り組み計画の立案 ④取り組み計画の発表(チーム) ⑤全体共有(もっともよい取り組み計画) ⑥人間関係構築(アイスブレイク)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【教室外学習：次週までに】 取り組み計画の立案と共有
第 4 回	キャリアビジョン『夢を実現するために(タイムマネジメント)』 ①タイムマネジメントについて学ぶ ②1 週間の予定を可視化する(ワークシート) ③やりたいことを組み込む ④人間関係構築(関係づくり)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【教室外学習：次週までに】 提出物：1 週間の予定ワークシート（以後、ワークは WebClass に提出すること）
第 5 回	『情報検索学習』 メディアライブラリーにて実施	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 6 回	考える力『現象から問題を発見する-地域の問題を発見する-』 ①実施までの計画の共有 ②計画に必要なものを考える(個人) ③計画に必要なものを共有(チーム)、作成方法を考える	【教室外学習：次週までに】 作成に必要なものを準備する
第 7 回	考える力『赤ちゃんはいはいオリンピック実施の仮説を立てる』 ①『赤ちゃんはいはいオリンピック』地域の課題解決について考える(個人) ②地域の課題解決についての発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 地域の課題解決についての結果をまとめる ◎記事投稿 「赤ちゃんはいはいおりんぴっくに向けての抱負」
第 8 回	考える力『赤ちゃんはいはいオリンピック実施の準備をする(個人ワーク)』 ①準備物作成への準備と取り組み(個人) ②準備物作成への準備と取り組み(チーム)	【教室外学習：次週までに】 準備物作成への準備
第 9 回	人間関係の構築『仲間とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの準備をする(グループワーク)』 ①実践準備物の作成(チーム) ②実践準備物の発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 準備物作成
第 10 回	人間関係の構築『仲間や地域の人とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの実践をする（１）(グループワーク)』	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿の準備

	①地域の人との交流(１) ②仲間との連携(１)	
第 11 回	人間関係の構築『仲間や地域の人とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの実践をする（２）(グループワーク)』 ①地域の人との交流(２) ②仲間との連携(２)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「赤ちゃんはいはいおりんぴっくを実践して」
第 12 回	人間関係の構築　活動を振り返り、今後の学生生活や学びにどう活かすか、活かせるかを考える ①1 週間の計画を立てる ②実行計画の作成(個人) ③実行計画の発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 実行計画の作成
第 13 回	プレゼン『チーム内発表と発表資料の作成』 ①チーム内発表 ②発表資料の作成	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	プレゼン『チーム内発表とゼミ内発表』 ①チーム内発表とチーム代表の決定 ②チーム代表の発表	
第 15 回	プレゼン『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり(WebClass 記事投稿)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「初年次セミナーを振り返って」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-A04	2.科目名	初年次セミナー	3.単位数	1
4.授業担当教員	岩本裕子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：木曜日昼休み 研究室ーオフィスアワー：金曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス』 ①本科目の内容、ねらいについてのガイダンス ②入学前課題の確認 ③履修登録の確認 ④新入生アンケートへの回答 ⑤個別面談の予約調整	【教室外学習】 他者インタビューの確認 履修登録の確認 新入生アンケートへの回答 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回	キャリアビジョン『大学生活をイメージしよう-先輩た	【教室外学習：次週までに】

	ちへのインタビューをもとに-』 ①先輩にインタビューする ②インタビュー内容のチーム内共有 ③インタビュー内容の全体共有 ④大学生活の過ごし方(1 年次)(WebClass への記事投稿) ⑤人間関係構築(講義)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	◎記事投稿 【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回	キャリアビジョン『大学生活で実現したいことは何？』 ①目標(実現したいこと)設定 ②目標発表(チーム) ③取り組み計画の立案 ④取り組み計画の発表(チーム) ⑤全体共有(もっともよい取り組み計画) ⑥人間関係構築(アイスブレイク)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【教室外学習：次週までに】 取り組み計画の立案と共有
第 4 回	キャリアビジョン『夢を実現するために(タイムマネジメント)』 ①タイムマネジメントについて学ぶ ②1 週間の予定を可視化する(ワークシート) ③やりたいことを組み込む ④人間関係構築(関係づくり)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【教室外学習：次週までに】 提出物：1 週間の予定ワークシート（以後、ワークは WebClass に提出すること）
第 5 回	『情報検索学習』 メディアライブラリーにて実施	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 6 回	考える力『現象から問題を発見する-地域の問題を発見する-』 ①実施までの計画の共有 ②計画に必要なものを考える(個人) ③計画に必要なものを共有(チーム)、作成方法を考える	【教室外学習：次週までに】 作成に必要なものを準備する
第 7 回	考える力『赤ちゃんはいはいオリンピック実施の仮説を立てる』 ①『赤ちゃんはいはいオリンピック』地域の課題解決について考える(個人) ②地域の課題解決についての発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 地域の課題解決についての結果をまとめる ◎記事投稿 「赤ちゃんはいはいおりんぴっくに向けての抱負」
第 8 回	考える力『赤ちゃんはいはいオリンピック実施の準備をする(個人ワーク)』 ①準備物作成への準備と取り組み(個人) ②準備物作成への準備と取り組み(チーム)	【教室外学習：次週までに】 準備物作成への準備
第 9 回	人間関係の構築『仲間とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの準備をする(グループワーク)』 ①実践準備物の作成(チーム) ②実践準備物の発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 準備物作成
第 10 回	人間関係の構築『仲間や地域の人とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの実践をする（１）(グループワーク)』	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿の準備

	①地域の人との交流(１) ②仲間との連携(１)	
第 11 回	人間関係の構築『仲間や地域の人とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの実践をする（２）(グループワーク)』 ①地域の人との交流(２) ②仲間との連携(２)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「赤ちゃんはいはいおりんぴっくを実践して」
第 12 回	人間関係の構築　活動を振り返り、今後の学生生活や学びにどう活かすか、活かせるかを考える ①1 週間の計画を立てる ②実行計画の作成(個人) ③実行計画の発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 実行計画の作成
第 13 回	プレゼン『チーム内発表と発表資料の作成』 ①チーム内発表 ②発表資料の作成	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	プレゼン『チーム内発表とゼミ内発表』 ①チーム内発表とチーム代表の決定 ②チーム代表の発表	
第 15 回	プレゼン『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり(WebClass 記事投稿)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「初年次セミナーを振り返って」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-A07	2.科目名	初年次セミナー（経営尼 1）	3.単位数	1
4.授業担当教員	田中智子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室ーオフィスアワー：水曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 （4/11）	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する 1 年次の科目の履修を確定する	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回 （4/18）	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】

		ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第 3 回 （4/25）	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回（5/2）	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	
第 5 回（5/9）	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	
第 6 回(5/16）	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます	
第 7 回 （5/23）	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第 8 回 （5/30）	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	
第 9 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 10 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます	
第 11 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます	
第 12 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます	
第 13 回	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-A08	2.科目名	初年次セミナー（経営尼 2）	3.単位数	1
4.授業担当教員	杉林弘仁				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30％ WebClass への記事投稿　30％ 期末レポート　40％				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	・センターオフィスアワー：(前期)水曜日第 2 限 10:45～12:15 ・研究室オフィスアワー：(前期)月曜日第 3 限 15:00～16:15(研究室 805)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する 1 年次の科目の履修を確定する	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」

		【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第 3 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	
第 5 回	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	
第 6 回	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます	
第 7 回	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	
第 9 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 10 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます	
第 11 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます	
第 12 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます	
第 13 回	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-A09	2.科目名	初年次セミナー（経営尼 3）	3.単位数	1
4.授業担当教員	福本哲也				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室ーオフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する 1 年次の科目の履修を確定する	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】

		ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第 3 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	
第 5 回	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	
第 6 回	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます	
第 7 回	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	
第 9 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 10 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます	
第 11 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます	
第 12 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます	
第 13 回	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-A10	2.科目名	初年次セミナー（経営尼 4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	越山泰子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	研究室ーオフィスアワー：　木曜日 3 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する 1 年次の科目の履修を確定する	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

		【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第 3 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	
第 5 回	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	
第 6 回	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます	
第 7 回	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	
第 9 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 10 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます	
第 11 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます	
第 12 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます	
第 13 回	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-A11	2.科目名	初年次セミナー（経営尼 5）	3.単位数	1
4.授業担当教員	大西洋史				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室ーオフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する 1 年次の科目の履修を確定する	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】

		ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第 3 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	
第 5 回	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	
第 6 回	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます	
第 7 回	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	
第 9 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 10 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます	
第 11 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます	
第 12 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます	
第 13 回	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-A12	2.科目名	初年次セミナー（経営尼 6）	3.単位数	1
4.授業担当教員	本田あけみ				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	研究室ーオフィスアワー：月曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する 1 年次の科目の履修を確定する	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

		【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第 3 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	
第 5 回	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	
第 6 回	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます	
第 7 回	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	
第 9 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 10 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます	
第 11 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます	
第 12 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます	
第 13 回	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-M01	2.科目名	初年次セミナー（経営三木 1）	3.単位数	1
4.授業担当教員	上村和美				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火 4（水棹館 2 階学修支援室 ALR） 研究室オフィスアワー：火昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回：4/9	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する 1 年次の科目の履修を確定する	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回：4/16	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】

		ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第 3 回：4/23	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回：4/30	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	
第 5 回：5/7	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	
第 6 回：5/14	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます	
第 7 回：5/21	情報検索実習 教室は 1-201 に変更、上村ゼミ、樋田ゼミ合同での実施。	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第 8 回：5/28	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	
第 9 回：6/4	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 10 回： 6/11	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます	
第 11 回： 6/18	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます	
第 12 回： 6/25	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます	
第 13 回：7/2	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回：7/9	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第 15 回： 7/16	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-M02	2.科目名	初年次セミナー（経営三木 2）	3.単位数	1
4.授業担当教員	百濟正和				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30％ WebClass への記事投稿　30％ 期末レポート　40％				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜 4 限〔15:00～16:30〕 研究室ーオフィスアワー：火曜 5 限〔16:45～18:15〕				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する 1 年次の科目の履修を確定する	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】

		ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第 3 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	
第 5 回	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	
第 6 回	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます	
第 7 回	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	
第 9 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 10 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます	
第 11 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます	
第 12 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます	
第 13 回	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-M03	2.科目名	初年次セミナー（経営三木 3）	3.単位数	1
4.授業担当教員	浮田泉				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜 4 限（センタープログラム） 研究室ーオフィスアワー：木曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回(4/9)	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する 1 年次の科目の履修を確定する	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回(4/16)	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】

		ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第 3 回(4/23)	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回(4/30)	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	
第 5 回(5/7)	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	
第 6 回(5/14)	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます	
第 7 回(5/21)	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第 8 回(5/28)	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	
第 9 回(6/4)	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 10 回(6/11)	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます	
第 11 回(6/18)	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます	
第 12 回(6/25)	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます	
第 13 回(7/2)	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回(7/9)	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第 15 回(7/16)	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-M04	2.科目名	初年次セミナー（経営三木 4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	樋田大二郎				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回（4／9）	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する 1 年次の科目の履修を確定する	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回(4/16)	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること

第 3 回(4/25)	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回(5/2)	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	
第 5 回(5/9)	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	
第 6 回(5/16)	情報検索演習 【教室変更：〇ー〇〇〇に集合】	
第 7 回(5/23)	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます	
第 8 回(5/30)	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第 9 回(6/6)	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 10 回(6/13)	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます	
第 11 回(6/20)	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます	
第 12 回(6/27)	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます	
第 13 回(7/4)	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回(7/11)	『ゼミ内プレゼンと優秀プレゼンの決定』 ゼミ内優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第 15 回 （7/16）	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-M06	2.科目名	初年次セミナー（看護 1）		3.単位数	1
4.授業担当教員	西村美登里、藤原和美					
5.授業科目の区分	KUISs ベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・グループワーク		
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、以下の課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。自分が専門職と					
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンとイヤホンマイクを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	【ワークシートの完成と提出　30%】 ・目標達成のための取り組み計画 100 ポイント ・週間予定ワークシート 100 ポイント ・行動実験ワークシート 1、2　合わせて 100 ポイント 【WebClass への記事投稿】 20% ・「私の価値観 2023 年 4 月」100 ポイント ・「大学生活過ごし方（1 年次）2024 年 4 月 」大学生活 100 ポイント 【レポート】30% ・新聞の記事を検索し、その記事に対して自分の考えをまとめ word で webclass に提出する（1200 字程度）100 ポイント ・「看護職に求められる接					
22.コメント	大学で学修していくために必要なスキルの獲得をいたします。 またグループワークをおこない、グループで発表資料を作成します。遅刻・欠席は原則厳禁です。 出席カードを忘れり、磁気不良で使用できない場合は、西村から出席票をもらい提出下さい。 授業回により授業場所や時間がことなりますので、シラバスをよく確認した上でご参加下さい。					

	授業についての質問や問い合わせは授業回の担当教員もしくは、科目担当の西村に e-mail でお願いいたします。 毎回の授業では、全員がノートパソコンとイヤホンマイクを持参して下さい。
23.オフィスアワー	【西村】 センターオフィスアワー：水曜日昼休み 研究室ーオフィスアワー：木曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 4 月 8 日 （月）4 限 教室 4-101 担当：西村	■Zoom への招待 ■webclass・universal passport について ■「初年次セミナー」ガイダンス ・授業 1 回目のガイダンスについて、シラバスの活用方法 ・講義中に配布された資料のファイリング方法について ・他者インタビュー（入学前の課題）の確認 ■新入生アンケートへの回答 ■履修登録の確認 1 年次の科目の履修を確定する ■個別面談の予約調整	【アサイメント】 インタビュー身近な人 3 名 1．長所（短所）は？2．その理由 ※インタビューはメモ書きや音声データとしてのこす。 期限：2 回目の授業までにおこなう。
【第 2 回】 4 月 12 日 （金）2 限 教室：2-401 担当:高見沢・鵜飼	■Out look メール設定・Out look アプリインストール ■メールの出し方、研究室訪室のマナー ・アドバイザーの先生にメールを出してみましょう 『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます ■zoom ブレークアウトルームについて ■Web Class での資料のダウンロードと提出方法 ■webclass 記事投稿機能について	【アサインメント】 ・授業を受けて、アドバイザーの先生にメールを送信する（アドバイザーから OK の返事が来るまで） ・教室外学習：上級生インタビュー4/19 に授業で使います。 ・「自己紹介 2024 年 4 月」というタイトルで webclass に記事投稿する（400 字以上）期限：4 月 15 日　9:00 まで
【第 3 回】 4 月 15 日 （月） 4 限 教室：4-101 担当:鵜飼・西村	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します ■webclass 記事投稿機能について	◎【アサインメント】 ・「私の価値観 2024 年 4 月」というタイトルで自分が今後何を大切にしていきたいと考えているかを文章化し、webclass に記事投稿する　（400 字以上）期限：4 月 19 日 9:00 まで
【第 4 回】 4 月 19 日 （金）2 限 教室：2-401 担当:高見沢・鵜飼	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします ■zoom ホワイトボード機能について ■webclass 記事投稿機能について	◎【アサインメント】 ・「大学生活過ごし方（1 年次）2024 年 4 月)」、どのような大学生活を送りたいか、学修面とプライベート面に分けて webclass に記事投稿する　（400 字以上）期限：4 月 22 日 9:00 まで
【第 5 回】 4 月 22 日 （月）4 限 教室：4-101 担当:黒川・房間	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	◎【アサインメント】 ・目標達成のための取り組み計画
【第 6 回】	『夢を実現するために』	◎【アサインメント】

4 月 26 日 （金）2 限 教室：2-401 担当:黒川・房間	タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます WEB クラスコンテンツ ■タイムマネジメント	第 6 回目習慣予定ワークシート（期限：5 月 10 日 9：00 まで
【第 7 回】 5 月 10 日 （金）2 限 教室：2-401 担当：黒川・西村	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	◎【アサインメント】 ・教室外学習として行動実験を行い、結果をまとめる ・行動実験ワークシート 1（期限：5 月 17 日 9：00 まで） ・第 7 回週間予定ワークシート（期限：5 月 17 日 9：00 まで） ・行動実験ワークシート 2（期限：5 月 17 日 9：00 まで）
【第 8 回】 5 月 14 日 （火）3 限 4 限（1-201） グループにより時間割異なります。 3 限 1～5G 4 限 6～9G 担当:藪本・藤原・西村	『文献検索学習（reading　writing)』 ・図書館の利用の仕方・新聞記事検索方法 WEB クラスコンテンツ ■レポートの書き方（引用・参考文献の標記の仕方）	◎【アサインメント】新聞の記事レポート 新聞の記事を検索し、その記事に対して自分の考えを「レポートの書き方」のコンテンツを視聴し、それを参考にして Word にまとめ webclass に提出する（1200 字程度）期限：5 月 27 日 9:00 まで
【第 9 回】 5 月 17 日 （金）2 限 教室：2-401 担当:蛭子・西村	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します。	【アサインメント】 第 9 回目【課題】原因の根拠を収集する。 WEB クラス提出 期限：5 月 20 日 9:00 要因に影響を与えていたり、要因が影響を与えているとおもわれる事象やデータを検索して、次回持参する。
【第 10 回】 5 月 20 日 （月）4 限 教室：4-101 担当：杉野・藤原	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます	【アサインメント】 仮説について情報を収集し、補強しましょう。 新たな仮設が見つかったら、追加しましょう。
【第 11 回】 5 月 24 日 （金）2 限 教室：2-401 担当:杉野・藤原	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます	
【第 12 回】 5 月 27（月）4 限	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます	【アサイメント】 仮説の補強（情報収集の追加）とグループ発表の準備

教室:4-101 担当:杉野・藤原		詳細は別資料配布
【第 13 回】 5 月 31 日 （金）2 限 2-401 2-402 ※グループにより教室が異なります。	『ゼミごとのプレゼンと最優秀プレゼンの決定』 2 教室に分かれて発表をおこないます。	◎発表は評価対象
【第 14 回】 6 月 3 日 （月）4 限 教室：4-101 担当:蛭子・西村	「看護職にもとめられる接遇」＋初年次セミナー振り返り（WEB クラス記事投稿）	◎【アサインメント】看護職に求められる接遇レポート 講義を聞いて感じたとこや考えたことを述べた上で、看護職を目指す自分が今後とる行動について（1200 字以上）を Word にまとめ、webclass 提出箱にに提出する 6 月 7 日 9:00 まで
【第 15 回】 6 月 7 日 （金）2 限 教室：2-401 担当:蛭子	『自分のなりたい姿を考える』 ・先輩看護職の話をきく 　看護師 　助産師 　保健師	◎【アサインメント】 感想・考えたこと（1200 字以上）を Word にまとめ、webclass 提出箱にに提出する 6 月 10 日 9:00 まで

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-Y01	2.科目名	初年次セミナー	3.単位数	1
4.授業担当教員	Jonathan Aliponga、伊藤創、片山真理				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室ーオフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する 1 年次の科目の履修を確定する	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】

		ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第 3 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	
第 5 回	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	
第 6 回	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます	
第 7 回	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	
第 9 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 10 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます	
第 11 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます	
第 12 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます	
第 13 回	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-Y03	2.科目名	初年次セミナー	3.単位数	1
4.授業担当教員	永井純一				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室ーオフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する 1 年次の科目の履修を確定する	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】

		ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第 3 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	
第 5 回	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	
第 6 回	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます	
第 7 回	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	
第 9 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 10 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます	
第 11 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます	
第 12 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます	
第 13 回	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-Y04	2.科目名	初年次セミナー	3.単位数	1
4.授業担当教員	行木敬				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：金曜 4 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する 1 年次の科目の履修を確定する	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

		【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第 3 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	
第 5 回	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	
第 6 回	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます	
第 7 回	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	
第 9 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 10 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます	
第 11 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます	
第 12 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます	
第 13 回	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-Y08	2.科目名	初年次セミナー	3.単位数	1
4.授業担当教員	斎藤元幸				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　20% Kuis ドリルの取組成果（ベーシックコース：英数国）　10% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜昼休み ＊メールで事前に連絡をしてください。上記時間以外も対応可です。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する。 1 年次の科目の履修を確定する。	【持参するもの　：第 1 回】 ノートパソコン、履修要綱等 FMW で使用したデータファイル
第 2 回	アイスブレイク：『バースデー・チェーン」『意外な共通点探し』 仲間を知ろう。	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

	講義：「よい人間関係を築くには」	
第 3 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	WebClass への記事投稿
第 4 回	『他己紹介』 他人を知り、紹介しよう	
第 5 回	『NASA で行われた人材教育』 宇宙船の不時着事例について 自ら考え、グループで自分の考えを説明し、討議します。	
第 6 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します。	○先輩への事前インタビュー ○WebClass への記事投稿
第 7 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	WebClass への記事投稿
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	【教室外学習】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 9 回	『大学生活で実現したいことは何？』 実現に向けた取組計画を考えましょう	
第 10 回	『夢を実現するために』 実現に向けたタイムマネジメントを考えよう	
第 11 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します。	
第 12 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。	
第 13 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。	
第 14 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます。	【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第 15 回	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-Y09	2.科目名	初年次セミナー （社会留学生）	3.単位数	1
4.授業担当教員	疋田浩一、杉本泰子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	1．ワークシートの完成と提出　20% 2．WebClass への記事投稿　20% 3．リーディング・ポイント　20% 4．KUIS s ドリル・ベーシック　10% 5．期末レポート　30%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜昼休み 研究室ーオフィスアワー：金曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する 1 年次の科目の履修を確定する	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』	【教室外学習：次週までに】

	他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます	◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第 3 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	
第 5 回	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	
第 6 回	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます	【教室外学習：次週までに】 リーディング・ポイント１・２の提出
第 7 回	情報検索実習 第 5 回～7 回までに実施します。	【教室外学習：次週までに】 リーディング・ポイント１・２の再提出
第 8 回	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第 9 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 10 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます	【教室外学習：次週までに】 リーディング・ポイント３・４の提出
第 11 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます	【教室外学習：次週までに】 リーディング・ポイント３・４の再提出
第 12 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます	
第 13 回	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-Y10	2.科目名	初年次セミナー	3.単位数	1
4.授業担当教員	大松光寿				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　20% Kuis ドリルの取組成果（ベーシックコース：英数国）　10% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜昼休み 研究室ーオフィスアワー：火曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する。 1 年次の科目の履修を確定する。	【持参するもの　：第 1 回】 ノートパソコン、履修要綱等 FMW で使用したデータファイル
第 2 回	アイスブレイク：『バースデー・チェーン」『意外な共通点探し』 仲間を知ろう。	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

	講義：「よい人間関係を築くには」	
第 3 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	WebClass への記事投稿
第 4 回	『他己紹介』 他人を知り、紹介しよう	
第 5 回	『NASA で行われた人材教育』 宇宙船の不時着事例について 自ら考え、グループで自分の考えを説明し、討議します。	
第 6 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します。	○先輩への事前インタビュー ○WebClass への記事投稿
第 7 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	WebClass への記事投稿
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	【教室外学習】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 9 回	『大学生活で実現したいことは何？』 実現に向けた取組計画を考えましょう	
第 10 回	『夢を実現するために』 実現に向けたタイムマネジメントを考えよう	
第 11 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します。	
第 12 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。	
第 13 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。	
第 14 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます。	【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第 15 回	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-Y12	2.科目名	初年次セミナー	3.単位数	1
4.授業担当教員	道免逸子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　20% Kuis ドリルの取組成果（ベーシックコース：英数国）　10% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：木曜 2 限 研究室ーオフィスアワー：火曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する。 1 年次の科目の履修を確定する。	【持参するもの　：第 1 回】 ノートパソコン、履修要綱等 FMW で使用したデータファイル
第 2 回	アイスブレイク：『バースデー・チェーン」『意外な共通点探し』 仲間を知ろう。	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

	講義：「よい人間関係を築くには」	
第 3 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	WebClass への記事投稿
第 4 回	『他己紹介』 他人を知り、紹介しよう	
第 5 回	『NASA で行われた人材教育』 宇宙船の不時着事例について 自ら考え、グループで自分の考えを説明し、討議します。	
第 6 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します。	○先輩への事前インタビュー ○WebClass への記事投稿
第 7 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	WebClass への記事投稿
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	【教室外学習】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 9 回	『大学生活で実現したいことは何？』 実現に向けた取組計画を考えましょう	
第 10 回	『夢を実現するために』 実現に向けたタイムマネジメントを考えよう	
第 11 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します。	
第 12 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。	
第 13 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。	
第 14 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます。	【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第 15 回	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-Y13	2.科目名	初年次セミナー	3.単位数	1
4.授業担当教員	村田昌彦				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　20% Kuis ドリルの取組成果（ベーシックコース：英数国）　10% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜昼休み 研究室ーオフィスアワー：火曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する。 1 年次の科目の履修を確定する。	【持参するもの　：第 1 回】 ノートパソコン、履修要綱等 FMW で使用したデータファイル
第 2 回	アイスブレイク：『バースデー・チェーン」『意外な共通点探し』 仲間を知ろう。	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

	講義：「よい人間関係を築くには」	
第 3 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	WebClass への記事投稿
第 4 回	『他己紹介』 他人を知り、紹介しよう	
第 5 回	『NASA で行われた人材教育』 宇宙船の不時着事例について 自ら考え、グループで自分の考えを説明し、討議します。	
第 6 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します。	○先輩への事前インタビュー ○WebClass への記事投稿
第 7 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	WebClass への記事投稿
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	【教室外学習】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 9 回	『大学生活で実現したいことは何？』 実現に向けた取組計画を考えましょう	
第 10 回	『夢を実現するために』 実現に向けたタイムマネジメントを考えよう	
第 11 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します。	
第 12 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。	
第 13 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。	
第 14 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます。	【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第 15 回	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-Y14	2.科目名	初年次セミナー	3.単位数	1
4.授業担当教員	山本喜晴				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　20% Kuis ドリルの取組成果（ベーシックコース：英数国）　10% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜昼休み 研究室ーオフィスアワー：火曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する。 1 年次の科目の履修を確定する。	【持参するもの　：第 1 回】 ノートパソコン、履修要綱等 FMW で使用したデータファイル
第 2 回	アイスブレイク：『バースデー・チェーン」『意外な共通点探し』 仲間を知ろう。	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

	講義：「よい人間関係を築くには」	
第 3 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	WebClass への記事投稿
第 4 回	『他己紹介』 他人を知り、紹介しよう	
第 5 回	『NASA で行われた人材教育』 宇宙船の不時着事例について 自ら考え、グループで自分の考えを説明し、討議します。	
第 6 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します。	○先輩への事前インタビュー ○WebClass への記事投稿
第 7 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	WebClass への記事投稿
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	【教室外学習】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 9 回	『大学生活で実現したいことは何？』 実現に向けた取組計画を考えましょう	
第 10 回	『夢を実現するために』 実現に向けたタイムマネジメントを考えよう	
第 11 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します。	
第 12 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。	
第 13 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。	
第 14 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます。	【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第 15 回	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-Y15	2.科目名	初年次セミナー	3.単位数	1
4.授業担当教員	藤木清				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　20% Kuis ドリルの取組成果（ベーシックコース：英数国）　10% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	研究室ーオフィスアワー：火曜昼休み センターオフィスアワー：水曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する。 1 年次の科目の履修を確定する。	【持参するもの　：第 1 回】 ノートパソコン、履修要綱等 FMW で使用したデータファイル
第 2 回	アイスブレイク：『バースデー・チェーン」『意外な共通点探し』	【持参するもの：第 2 回以降】

	仲間を知ろう。 講義：「よい人間関係を築くには」	ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	WebClass への記事投稿
第 4 回	『他己紹介』 他人を知り、紹介しよう	
第 5 回	『NASA で行われた人材教育』 宇宙船の不時着事例について 自ら考え、グループで自分の考えを説明し、討議します。	
第 6 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します。	○先輩への事前インタビュー ○WebClass への記事投稿
第 7 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	WebClass への記事投稿
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	【教室外学習】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 9 回	『大学生活で実現したいことは何？』 実現に向けた取組計画を考えましょう	
第 10 回	『夢を実現するために』 実現に向けたタイムマネジメントを考えよう	
第 11 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します。	
第 12 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。	
第 13 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。	
第 14 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます。	【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第 15 回	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-Y16	2.科目名	初年次セミナー	3.単位数	1
4.授業担当教員	横川滋章				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　20% Kuis ドリルの取組成果（ベーシックコース：英数国）　10% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室ーオフィスアワー：月曜 4 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する。 1 年次の科目の履修を確定する。	【持参するもの　：第 1 回】 ノートパソコン、履修要綱等 FMW で使用したデータファイル
第 2 回	アイスブレイク：『バースデー・チェーン」『意外な共通点探し』 仲間を知ろう。	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

	講義：「よい人間関係を築くには」	
第 3 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	WebClass への記事投稿
第 4 回	『他己紹介』 他人を知り、紹介しよう	
第 5 回	『NASA で行われた人材教育』 宇宙船の不時着事例について 自ら考え、グループで自分の考えを説明し、討議します。	
第 6 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します。	○先輩への事前インタビュー ○WebClass への記事投稿
第 7 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	WebClass への記事投稿
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	【教室外学習】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 9 回	『大学生活で実現したいことは何？』 実現に向けた取組計画を考えましょう	
第 10 回	『夢を実現するために』 実現に向けたタイムマネジメントを考えよう	
第 11 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します。	
第 12 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。	
第 13 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。	
第 14 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます。	【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第 15 回	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-Y17	2.科目名	初年次セミナー	3.単位数	1
4.授業担当教員	橘セツ				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：金曜昼休み 研究室ーオフィスアワー：月曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する 1 年次の科目の履修を確定する	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】

		ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第 3 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	①インタビュー内容（事前課題）のチーム内共有 ②インタビュー内容の全体共有 ③「大学生活の過ごし方（１年次)」（WebClass 記事投稿）
第 5 回	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	①目標（実現したいこと）設定 ②目標発表（チーム） ③取組計画の立案 ④取組計画の発表（チーム） ⑤全体共有（もっともよい取組計画）
第 6 回	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます	①タイムマネジメントについて学ぶ ②１週間の予定を可視化する（ワークシート） ③やりたいことを組み込む
第 7 回	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 9 回	現象から問題を発見する：『観光亡国論』の概要と課題の４テーマ（A.ホテルと民泊、B.交通問題、C.オーバーキャパシティとホスピタリティ、D.看板と文化） 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します	①テーマの共有 ②テーマの現状を描き出す（個人、マインドマップ） ③マインドマップを共有（チーム）し、原因を考える（拡散的思考） ④問題の本質について考える（個人、収束的思考）
第 10 回	問題設定の仮説を立てる：『観光亡国論』テーマ別グループワーク① 問題設定の仮説を立てます	①情報を図式化する ②問題設定の仮説を立てる（個人） ③問題設定の仮説を共有する（チーム）
第 11 回	問題解決の仮説を立てる：『観光亡国論』テーマ別グループワーク② 問題解決の仮説を立てます	①問題解決の仮説を立てる（個人） ②仮説の共有（チーム）
第 12 回	主張を定める：：『観光亡国論』テーマ別グループワーク③ 自分の主張を明確に定めます	①仮説採用の理由を明確にする（個人） ②メンバーへの報告（チーム）
第 13 回	グループ内発表と発表資料の作成：：『観光亡国論』テーマ別グループワーク④ あなたの主張をグループ内で発表します	①チーム内発表 ②発表資料の作成 【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定：『観光亡国	①チーム内発表とチーム代表の決定

	論』グループプレゼンテーション ゼミ内最優秀発表を決めます	②チーム代表の発表 レポート：私の主張 【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	①「初年次セミナーふりかえり」（WebClass記事投稿） 記事投稿：初年次セミナーふりかえり 【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-Y18	2.科目名	初年次セミナー	3.単位数	1
4.授業担当教員	劉争				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する 1 年次の科目の履修を確定する	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

		【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第 3 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	①インタビュー内容（事前課題）のチーム内共有 ②インタビュー内容の全体共有 ③「大学生活の過ごし方（１年次)」（WebClass 記事投稿）
第 5 回	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	①目標（実現したいこと）設定 ②目標発表（チーム） ③取組計画の立案 ④取組計画の発表（チーム） ⑤全体共有（もっともよい取組計画）
第 6 回	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます	①タイムマネジメントについて学ぶ ②１週間の予定を可視化する（ワークシート） ③やりたいことを組み込む
第 7 回	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 9 回	現象から問題を発見する：『観光亡国論』の概要と課題の４テーマ（A.ホテルと民泊、B.交通問題、C.オーバーキャパシティとホスピタリティ、D.看板と文化） 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します	①テーマの共有 ②テーマの現状を描き出す（個人、マインドマップ） ③マインドマップを共有（チーム）し、原因を考える（拡散的思考） ④問題の本質について考える（個人、収束的思考）
第 10 回	問題設定の仮説を立てる：『観光亡国論』テーマ別グループワーク① 問題設定の仮説を立てます	①情報を図式化する ②問題設定の仮説を立てる（個人） ③問題設定の仮説を共有する（チーム）
第 11 回	問題解決の仮説を立てる：『観光亡国論』テーマ別グループワーク② 問題解決の仮説を立てます	①問題解決の仮説を立てる（個人） ②仮説の共有（チーム）
第 12 回	主張を定める：：『観光亡国論』テーマ別グループワーク③ 自分の主張を明確に定めます	①仮説採用の理由を明確にする（個人） ②メンバーへの報告（チーム）
第 13 回	グループ内発表と発表資料の作成：：『観光亡国論』テーマ別グループワーク④ あなたの主張をグループ内で発表します	①チーム内発表 ②発表資料の作成 【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定：『観光亡国論』グループプレゼンテーション	①チーム内発表とチーム代表の決定 ②チーム代表の発表

	ゼミ内最優秀発表を決めます	レポート：私の主張 【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	①「初年次セミナーふりかえり」（WebClass記事投稿） 記事投稿：初年次セミナーふりかえり 【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE101-Y19	2.科目名	初年次セミナー	3.単位数	1
4.授業担当教員	前田哲男				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修				
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2 つの課題に取り組みます。 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地)」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一歩を踏み出しましょう。 2 つ目は「				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。				
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。				
20.参考文献	特にありません。				
21.成績評価	ワークシートの完成と提出　30% WebClass への記事投稿　30% 期末レポート　40%				
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：金曜昼休み 研究室ーオフィスアワー：月曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する 1 年次の科目の履修を確定する	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの　：第 1 回】 履修要項
第 2 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】

		ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第 3 回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします	①インタビュー内容（事前課題）のチーム内共有 ②インタビュー内容の全体共有 ③「大学生活の過ごし方（１年次)」（WebClass 記事投稿）
第 5 回	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します	①目標（実現したいこと）設定 ②目標発表（チーム） ③取組計画の立案 ④取組計画の発表（チーム） ⑤全体共有（もっともよい取組計画）
第 6 回	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます	①タイムマネジメントについて学ぶ ②１週間の予定を可視化する（ワークシート） ③やりたいことを組み込む
第 7 回	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 9 回	現象から問題を発見する：『観光亡国論』の概要と課題の４テーマ（A.ホテルと民泊、B.交通問題、C.オーバーキャパシティとホスピタリティ、D.看板と文化） 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します	①テーマの共有 ②テーマの現状を描き出す（個人、マインドマップ） ③マインドマップを共有（チーム）し、原因を考える（拡散的思考） ④問題の本質について考える（個人、収束的思考）
第 10 回	問題設定の仮説を立てる：『観光亡国論』テーマ別グループワーク① 問題設定の仮説を立てます	①情報を図式化する ②問題設定の仮説を立てる（個人） ③問題設定の仮説を共有する（チーム）
第 11 回	問題解決の仮説を立てる：『観光亡国論』テーマ別グループワーク② 問題解決の仮説を立てます	①問題解決の仮説を立てる（個人） ②仮説の共有（チーム）
第 12 回	主張を定める：：『観光亡国論』テーマ別グループワーク③ 自分の主張を明確に定めます	①仮説採用の理由を明確にする（個人） ②メンバーへの報告（チーム）
第 13 回	グループ内発表と発表資料の作成：：『観光亡国論』テーマ別グループワーク④ あなたの主張をグループ内で発表します	①チーム内発表 ②発表資料の作成 【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定：『観光亡国	①チーム内発表とチーム代表の決定

	論』グループプレゼンテーション ゼミ内最優秀発表を決めます	②チーム代表の発表 レポート：私の主張 【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	①「初年次セミナーふりかえり」（WebClass記事投稿） 記事投稿：初年次セミナーふりかえり 【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-A01	2.科目名	学習技術	3.単位数	1
4.授業担当教員	上原昭三				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版)』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

4/11	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/18	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/25	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】5/2	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/9	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/16	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/23	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/30	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/6	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/13	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/20	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/27	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/4	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/11	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/18	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-A02	2.科目名	学習技術	3.単位数	1
4.授業担当教員	馬場住子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版)』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：金曜日昼休み センターオフィスアワー：木曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

4/11	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/18	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/25	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】5/2	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/9	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/16	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/23	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/30	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/6	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/13	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/20	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/27	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/4	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/11	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/18	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-A03	2.科目名	学習技術	3.単位数	1
4.授業担当教員	吉田裕彦				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版)』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜 4 限 センターオフィスアワー：木曜 3 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

4/10	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/17	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】5/1	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/8	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/15	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/22	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/29	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/13	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/20	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/27	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/17	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-A04	2.科目名	学習技術	3.単位数	1
4.授業担当教員	三好徹明				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版)』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40％　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10％　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50％　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

4/10	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/17	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】5/1	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/8	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/15	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/22	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/29	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/12	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/19	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/26	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/17	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-A05	2.科目名	学習技術	3.単位数	1
4.授業担当教員	岩本裕子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版）』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

4/10	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/17	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】5/1	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/8	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/15	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/22	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/29	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/12	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/19	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/26	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/17	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-A06	2.科目名	学習技術（1/3）	3.単位数	1
4.授業担当教員	北村正仁				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版）』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日 3 限 研究室オフィスアワー：火曜日 4 限				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	

【第 1 回】4/8	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/15	学習技術とは　＜テキスト第 1 章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/22	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第 2 章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 5/13	概要・要点をよみとる　＜テキスト第 3 章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/20	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/27	情報収集（1）（2）　＜テキスト第 5 ・ 6 章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】6/3	情報収集（3）・情報の整理　＜テキスト第 7 章・ワー	◆ノートパソコン使用◆

	クシート No.6＞ ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 6/10	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/17	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/24	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 7/1	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)

【第 12 回】 7/8	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/15	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/22	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/29	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-A07	2.科目名	学習技術（2/3）	3.単位数	1
4.授業担当教員	福本哲也				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版）』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】4/8	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/15	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/22	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 5/13	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/20	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/16	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/27	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】6/3	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/10	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/17	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/24	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

7/1	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/8	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/15	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/22	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-A08	2.科目名	学習技術（3/3）	3.単位数	1
4.授業担当教員	大平誠也				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版）』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

4/11	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/18	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/25	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】5/2	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/9	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/16	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/23	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/30	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/6	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/13	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/20	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/27	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/4	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/11	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/18	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-A10	2.科目名	学習技術（留）	3.単位数	1
4.授業担当教員	田中智子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版）』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

4/10	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/17	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】5/1	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/8	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/15	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/22	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/29	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/12	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/19	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/26	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/17	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-M01	2.科目名	学習技術　（経営_1/4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	上村和美				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標と　ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版)』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

4/11	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/18	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/25	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】5/2	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/9	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/16	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/23	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/30	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/6	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/13	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/20	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/27	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/4	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/11	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/18	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-M02	2.科目名	学習技術　（経営_4/4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	浮田泉				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版）』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜昼休み センターオフィスアワー：月曜 4 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

4/11	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/18	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/25	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】5/2	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/9	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/16	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/23	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/30	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/6	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/13	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/20	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/27	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/4	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/11	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/18	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-M03	2.科目名	学習技術　（経営_2/4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	佐藤広志				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標と　ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版）』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

4/11	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/18	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/25	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】5/2	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/9	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/16	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/23	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/30	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/6	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/13	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/20	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/27	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/4	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/11	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/18	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-M04	2.科目名	学習技術　（経営_3/4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	百濟正和				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期（FYE170-Y71）または冬学期（FYE103-A81）の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標と　ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版)』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜日・2 限 センターオフィスアワー：火曜日・4 限				
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)		

【第 1 回】 4/11	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/14	学習技術とは　＜テキスト第 1 章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/18	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第 2 章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 4/21	概要・要点をよみとる　＜テキスト第 3 章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 4/25	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 4/28	情報収集（1）（2）　＜テキスト第 5 ・ 6 章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】5/2	情報収集（3）・情報の整理　＜テキスト第 7 章・ワー	◆ノートパソコン使用◆

	クシート No.6＞ ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】5/9	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 5/12	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 5/16	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 5/19	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)

【第 12 回】 5/23	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 5/26	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 5/30	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 6/2	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（教務課へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-M05	2.科目名	学習技術（看護）	3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤尚子、梅田智子、志保田幸子、久井志保、八木良子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版)』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】4/8	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/15	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/22	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 5/13	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/20	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/27	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】6/3	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 6/10	レポートを書く　＜テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/17	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/24	わかりやすい表現＜テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 7/1	パソコンによるライティング・スキル（1）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（2）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

7/8	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/15	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/22	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/29	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-M71	2.科目名	学習技術　（再）	3.単位数	1
4.授業担当教員	上村和美				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	再履修者のみ履修可能（全学部対象：どのキャンパス所属の学生でも履修可能）。3 キャンパス同時に開講し、キャンパス間は ZOOM で接続する。受講者は所属キャンパスの指定教室で受講すること。授業には「知へのステップ」を持参すること。持っていない学生は、初回授業で購入すること（1,600 円）。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5) コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版）』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-487424789 ※教科書を持っていない場合は、初回授業で￥1,600 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	■ワークシート：40% ■小課題：10%　第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ■最終課題：50%　本シラバスの[13.アサイントメント及びレポート課題]の項目を参照のこと。				
22.コメント	※授業日時の詳細は、夏学期の時間割で確認してください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
◇第 1 日目 【第 1 回】 ※授業日時の詳細は、夏学	ガイダンスおよび講義を聴いてノート・テイキング＜テキスト第 2 章＞ ・授業のねらいと運用についての説明 ・事前調査の実施	★事前調査

期の時間割で確認してください。	・講義ノートをとる技術	
【第 2 回】	概要・要点を読みとる＜テキスト第３章＞ ・文献を読む技術	
【第 3 回】	要約から感想・意見を書く＜テキスト第４章＞ ・文献の内容の要約や自分の意見をまとめる技術 ・最終課題についての説明	
◇2 日目 【第 4 回】	情報収集(1)(2)＜テキスト第５・６章＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術 ・最終課題ワークシートの提出	★最終課題ワークシート
【第 5 回】	情報収集(3) ・図書館にて資料収集の実習	
【第 6 回】	情報収集(4) ・情報の整理＜テキスト第７章＞ ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（MS-Excel を使用）	
◇3 日目 【第 7 回】	レポートを書く(1)＜テキスト第８章＞ ・レポート・論文執筆のための基礎的技術	
【第 8 回】	レポートを書く(2)＜テキスト第８章＞ ・注、引用などの論文作法	
【第 9 回】	わかりやすい表現(1)＜テキスト第９章＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	
◇4 日目 【第 10 回】	わかりやすい表現＜テキスト第９章＞ ・わかりやすい表現技術の実践	
【第 11 回】	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキスト第１０章＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	★小課題の提出
◇5 日目 【第 13 回】	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１・１２章＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	
【第 14 回】	最終課題に関する個別指導 ・各自の最終課題（レポート）作成を行う	
【第 15 回】	全体のまとめ ・これまでの授業のまとめ ・事後調査の実施 ・授業アンケートの実施 ・各自のレポート課題を作成する	★事後調査

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-Y01	2.科目名	学習技術（1/2）	3.単位数	1
4.授業担当教員	片山真理				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版)』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

4/10	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/17	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】5/1	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/8	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/15	情報収集（1）（2）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/22	情報収集（3）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/29	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/12	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/19	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/26	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/17	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-Y02	2.科目名	学習技術（2/2）	3.単位数	1
4.授業担当教員	遠藤泰生				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版）』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木 5 センターオフィスアワー：木 4				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

4/10	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/17	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】5/1	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/8	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/15	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/22	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/29	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/12	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/19	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/26	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/17	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-Y06	2.科目名	学習技術（1/3）	3.単位数	1
4.授業担当教員	疋田浩一				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版）』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40％　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10％　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50％　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜 5 限 センターオフィスアワー：金曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

4/11	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/18	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/25	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】5/2	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/9	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/16	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/23	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/30	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/6	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/13	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/20	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/27	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/4	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/11	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/18	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-Y07	2.科目名	学習技術（2/3）	3.単位数	1
4.授業担当教員	岡本久				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版）』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センターオフィスアワー：水曜日・昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

4/11	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/18	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/25	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】5/2	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/9	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/16	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/23	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/30	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/6	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/13	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/20	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/27	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/4	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/11	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/18	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-Y08	2.科目名	学習技術（3/3）	3.単位数	1
4.授業担当教員	八木寛之				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版）』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】4/9	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/16	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/23	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 4/30	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/7	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/14	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/21	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/28	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/4	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/11	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/18	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/25	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/2	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/9	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/16	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-Y09	2.科目名	学習技術（1/4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	有吉美恵				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版）』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40％　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10％　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50％　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】4/9	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/16	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/23	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 4/30	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/7	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/14	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/21	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/28	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/4	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/11	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/18	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/25	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/2	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/9	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/16	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-Y10	2.科目名	学習技術（2/4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	斎藤元幸				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版)』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜昼休み ＊メールで事前に連絡をしてください。上記時間以外も対応可です。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】4/9	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/16	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/23	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 4/30	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/7	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/14	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/21	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/28	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/4	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/11	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/18	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/25	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/2	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/9	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/16	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-Y11	2.科目名	学習技術（3/4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	道免逸子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版)』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜日昼休　204 センターオフィスアワー：木曜日 2 限　学修支援センター				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】4/9	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/16	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/23	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 4/30	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/7	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/14	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/21	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/28	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/4	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/11	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/18	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/25	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/2	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/9	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/16	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-Y12	2.科目名	学習技術（4/4）	3.単位数	1
4.授業担当教員	山本喜晴				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版）』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

4/11	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/18	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/25	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】5/2	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】5/9	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/16	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/23	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/30	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/6	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/13	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/20	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/27	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/4	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/11	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/18	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-Y13	2.科目名	学習技術 b	3.単位数	1
4.授業担当教員	小磯学				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1 年次
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行うものとします。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版）』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に教務課で販売する。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①?⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に１点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] ※本シラバスの[13.アサイントメント及びレポート課題]の項目を参照のこと。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	初回授業時に伝えます				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 9/29（岡本・櫻井） 9/30(疋田) 10/1（小磯） 10/2（安川）	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタデ

10/6（岡本・櫻井） 10/7(疋田) 10/8（小磯） 10/9（安川）	＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	ィ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 10/13（岡本・櫻井） 10/14(疋田) 10/15（小磯） 10/16（安川）	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第 2 章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 9/29（岡本・櫻井） 9/30(疋田) 10/1（小磯） 10/2（安川）	概要・要点をよみとる　＜テキスト第 3 章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 10/27（岡本・櫻井） 10/28(疋田) 10/29（小磯） 10/30（安川）	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 11/10（岡本・櫻井） 11/4(疋田) 11/5（小磯） 11/6（安川）	情報収集（1）（2）　＜テキスト第 5 ・ 6 章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 11/17（岡本・櫻井）	情報収集（3）・情報の整理　＜テキスト第 7 章・ワークシート No.6＞ ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認す

11/11(疋田) 11/12（小磯） 11/13（安川）	理する技術（Excel を使用）	る。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 11/24（岡本・櫻井） 11/18(疋田) 11/19（小磯） 11/20（安川）	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 12/1（岡本・櫻井） 11/25(疋田) 11/26（小磯） 11/27（安川）	最終課題についての説明 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 12/8（岡本・櫻井） 12/2(疋田) 12/3（小磯） 12/4（安川）	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 12/15（岡本・櫻井） 12/9(疋田) 12/10（小磯） 12/11（安川）	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop?Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1?4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリン

		グする。(5 分)
【第 12 回】 12/22（岡本・櫻井） 12/16(疋田) 12/17（小磯） 12/18（安川）	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5?最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5?10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 1/12（岡本・櫻井） 12/23(疋田) 1/7（小磯） 1/8（安川）	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 1/19（岡本・櫻井） 1/6 疋田) 1/14（小磯） 1/22（安川）	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 1/26（岡本・櫻井） 1/13(疋田) 1/28（小磯） 1/29（安川）	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（教務課へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-Y14	2.科目名	学習技術 a	3.単位数	1
4.授業担当教員	橘セツ				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版)』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG' s（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から 1 つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG' s への理解を				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜昼休み センターオフィスアワー：金曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

4/12	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/19	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/26	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 5/10	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/17	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/24	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/31	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】6/7	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	〇ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】6/6	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	〇授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/21	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート 〇ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/28	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ 〇ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) 〇テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) 〇Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 〇スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) 〇返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

7/5	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/12	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/19	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/26	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-Y15	2.科目名	学習技術　（留）	3.単位数	1
4.授業担当教員	小磯学				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1 年次
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、１回の授業につき１章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行うものとします。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版）』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に教務課で販売する。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①?⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に１点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] ※本シラバスの[13.アサイントメント及びレポート課題]の項目を参照のこと。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	初回授業時に伝えます				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 9/29（岡本・櫻井） 9/30(疋田) 10/1（小磯） 10/2（安川）	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタデ

10/6（岡本・櫻井） 10/7(疋田) 10/8（小磯） 10/9（安川）	＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	ィ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 10/13（岡本・櫻井） 10/14(疋田) 10/15（小磯） 10/16（安川）	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第 2 章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 9/29（岡本・櫻井） 9/30(疋田) 10/1（小磯） 10/2（安川）	概要・要点をよみとる　＜テキスト第 3 章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 10/27（岡本・櫻井） 10/28(疋田) 10/29（小磯） 10/30（安川）	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 11/10（岡本・櫻井） 11/4(疋田) 11/5（小磯） 11/6（安川）	情報収集（1）（2）　＜テキスト第 5 ・ 6 章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 11/17（岡本・櫻井）	情報収集（3）・情報の整理　＜テキスト第 7 章・ワークシート No.6＞ ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認す

11/11(疋田) 11/12（小磯） 11/13（安川）	理する技術（Excel を使用）	る。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 11/24（岡本・櫻井） 11/18(疋田) 11/19（小磯） 11/20（安川）	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 12/1（岡本・櫻井） 11/25(疋田) 11/26（小磯） 11/27（安川）	最終課題についての説明 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 12/8（岡本・櫻井） 12/2(疋田) 12/3（小磯） 12/4（安川）	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 12/15（岡本・櫻井） 12/9(疋田) 12/10（小磯） 12/11（安川）	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop?Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1?4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリン

		グする。(5 分)
【第 12 回】 12/22（岡本・櫻井） 12/16(疋田) 12/17（小磯） 12/18（安川）	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5?最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5?10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 1/12（岡本・櫻井） 12/23(疋田) 1/7（小磯） 1/8（安川）	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 1/19（岡本・櫻井） 1/6 疋田) 1/14（小磯） 1/22（安川）	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 1/26（岡本・櫻井） 1/13(疋田) 1/28（小磯） 1/29（安川）	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（教務課へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	FYE103-Y16	2.科目名	学習技術 c	3.単位数	1
4.授業担当教員	宗田好史				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期（FYE170-Y71）または冬学期（FYE103-A81）の再履修クラスを履修してください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要なる能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1 回の授業につき 1 章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。　具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる.。				
19.教科書・教材	＜教科書＞『知へのステップ（第 5 版）』　学習技術研究会編　くろしお出版　2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自￥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	○ワークシート：40%　[学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10%　[学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50%　[学習目標③④に対応] ※本シラバスの[26.アサイントメント及びレポート課題]の項目を参照のこと。				
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日・2 限 研究室オフィスアワー：火曜日・3 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	○次回までにテキスト『知へのステップ』の

4/12	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 （上記と合わせて 20 分）
【第 2 回】 4/19	学習技術とは　＜テキスト第１章・ワークシート No.1＞ ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/26	講義を聴いてノート・テイキング　＜テキスト第２章・ワークシート No.2＞ ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 5/10	概要・要点をよみとる　＜テキスト第３章・ワークシート No.3＞ ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/17	要約から感想・意見を書く　＜テキスト第４章・ワークシート No.4(1)(2)＞ ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/24	情報収集（１）（２）　＜テキスト第５・６章・ワークシート No.5＞ ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
第 7 回 5/31	情報収集（３）・情報の整理　＜テキスト第７章・ワークシート No.6＞	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】6/7	レポートを書く　＜テキスト第８章・ワークシート No.7(1)(2)＞ ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/14	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG' s に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/21	わかりやすい表現＜テキスト第９章・ワークシート No.8(1)(2)＞ ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/28	パソコンによるライティング・スキル（１）＜テキスト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキス	◆ノートパソコン使用◆

7/5	ト第１０章・ワークシート No.9＞ ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/12	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第１１章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/19	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第１２章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/26	全体のまとめ ・第１４回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（教務課へ提出）

1.授業コード（ナンバリング）	GEO101-Y01	2.科目名	地理学	3.単位数	2
4.授業担当教員	水谷彰伸				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義(対面)		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	［目的］地理的基礎を養い，地形･気候など自然環境の成立の様相を理解する。 ［概要］地表面で展開するさまざまな現象は地域ごとに異なる。こうした差異を生み出すのが地理的条件で，諸現象と自然･人文環境との関係性を描出するというのが地理学の基本的思想である。一般に地理学は諸現象に主眼をおく系統地理学と地域を中心にまとめる地誌学に大別され，前者はさらに人文地理学と自然地理学に分類される。人文地理学については別の講義で学ぶため，本講義では地理的特徴に関する基礎知識を学習した上で，主に自然地理学の分野を取扱う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①中学校社会科の指導にあたり必要な知識と理論を習得する。 ②地理学とくに自然地理学の知識を通して現代社会におけるものの見方や考え方を養う。 ③地理的現象の成り立ちを把握して身近な自然環境についての理解を深める。				
19.教科書・教材	適宜参考プリントを配布する。 授業内作業で定規を使用するので携帯してほしい。				
20.参考文献	田林明･浅川俊夫･榎本康司･久保純子『最新世界地図』東京書籍　※他の高校地理学習用地図帳でも可 杉谷隆･平井幸弘･松本淳『風景のなかの自然地理』古今書院 山岡信幸『忘れてしまった高校の地理を復習する本』中経出版 ※上記に加え，自宅周辺や通学途中の車窓など，身近な風景がすべて参考教材である。				
21.成績評価	総括試験 50%･小テスト(各章終了後に実施)35%･課題等 15%とする。 ※学習内容の復習･実践および地理的現象の具体的把握のための課題を主に授業時間内に適宜課す。				
22.コメント	教員資格取得を目標とする者はとくにその自覚を持って講義に臨むこと。 履修者の意向によっては任意参加の学外巡検(エクスカーション)も実施したい。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で，受講生からの質問等に対応する。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション Ⅰ　地理学と世界のしくみ　(1)地理学の目的と体系	復習：ノート整理
第 2 回	Ⅰ　地理学と世界のしくみ　(2)経緯度と時差	復習：ノート整理
第 3 回	Ⅰ　地理学と世界のしくみ　(3)世界の地域区分と地誌学の課題	復習：ノート整理
第 4 回	Ⅱ　地図について (1)地図の特性と図法	復習：ノート整理
第 5 回	Ⅱ　地図について (2)地形図とその利用	定規を持参する 復習：ノート整理
第 6 回	Ⅲ　地形と生活 (1)プレートテクトニクスと大地形の形成	復習：ノート整理･地名確認
第 7 回	Ⅲ　地形と生活 (2)氷河性海面変動と地形	復習：ノート整理･地名確認
第 8 回	Ⅲ　地形と生活 (3)河川の地形と営力	復習：ノート整理･地名確認
第 9 回	Ⅲ　地形と生活 (4)気候と特殊地形	復習：ノート整理･地名確認

第 10 回	III　地形と生活 (5)地形図から読み解く地形と生活	復習：ノート整理･地名確認
第 11 回	IV　気候と生活 (1)気候要素と気候因子	復習：ノート整理･地名確認
第 12 回	IV　気候と生活 (2)気候因子と気候の地域性	定規を持参する 復習：ノート整理･地名確認
第 13 回	IV　気候と生活 (3)気候区分と植生･土壌―熱帯･乾燥帯―	課題提出 復習：ノート整理･地名確認
第 14 回	IV　気候と生活 (4)気候区分と植生･土壌―温帯･亜寒帯･寒帯―	復習：ノート整理･地名確認
第 15 回	総括試験	復習：試験内容復習

1.授業コード（ナンバリング）	GEO101-m51	2.科目名	地理学	3.単位数	2
4.授業担当教員	水谷彰伸				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義(対面)		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	［目的］地理的基礎を養い，地形･気候など自然環境の成立の様相を理解する。 ［概要］地表面で展開するさまざまな現象は地域ごとに異なる。こうした差異を生み出すのが地理的条件で，諸現象と自然･人文環境との関係性を描出するというのが地理学の基本的思想である。一般に地理学は諸現象に主眼をおく系統地理学と地域を中心にまとめる地誌学に大別され，前者はさらに人文地理学と自然地理学に分類される。人文地理学については別の講義で学ぶため，本講義では地理的特徴に関する基礎知識を学習した上で，主に自然地理学の分野を取扱う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①中学校社会科の指導にあたり必要な知識と理論を習得する。 ②地理学とくに自然地理学の知識を通して現代社会におけるものの見方や考え方を養う。 ③地理的現象の成り立ちを把握して身近な自然環境についての理解を深める。				
19.教科書・教材	適宜参考プリントを配布する。 授業内作業で定規を使用するので携帯してほしい。				
20.参考文献	田林明･浅川俊夫･榎本康司･久保純子『最新世界地図』東京書籍　※他の高校地理学習用地図帳でも可 杉谷隆･平井幸弘･松本淳『風景のなかの自然地理』古今書院 山岡信幸『忘れてしまった高校の地理を復習する本』中経出版 ※上記に加え，自宅周辺や通学途中の車窓など，身近な風景がすべて参考教材である。				
21.成績評価	総括試験 50%･小テスト(各章終了後に実施)35%･課題等 15%とする。 ※学習内容の復習･実践および地理的現象の具体的把握のための課題を主に授業時間内に適宜課す。				
22.コメント	教員資格取得を目標とする者はとくにその自覚を持って講義に臨むこと。 履修者の意向によっては任意参加の学外巡検(エクスカーション)も実施したい。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で，受講生からの質問等に対応する。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション Ⅰ　地理学と世界のしくみ　(1)地理学の目的と体系	復習：ノート整理
第 2 回	Ⅰ　地理学と世界のしくみ　(2)経緯度と時差	復習：ノート整理
第 3 回	Ⅰ　地理学と世界のしくみ　(3)世界の地域区分と地誌学の課題	復習：ノート整理
第 4 回	Ⅱ　地図について (1)地図の特性と図法	復習：ノート整理
第 5 回	Ⅱ　地図について (2)地形図とその利用	定規を持参する 復習：ノート整理
第 6 回	Ⅲ　地形と生活 (1)プレートテクトニクスと大地形の形成	復習：ノート整理･地名確認
第 7 回	Ⅲ　地形と生活 (2)氷河性海面変動と地形	復習：ノート整理･地名確認
第 8 回	Ⅲ　地形と生活 (3)河川の地形と営力	復習：ノート整理･地名確認
第 9 回	Ⅲ　地形と生活 (4)気候と特殊地形	復習：ノート整理･地名確認

第 10 回	III　地形と生活 (5)地形図から読み解く地形と生活	復習：ノート整理･地名確認
第 11 回	IV　気候と生活 (1)気候要素と気候因子	復習：ノート整理･地名確認
第 12 回	IV　気候と生活 (2)気候因子と気候の地域性	定規を持参する 復習：ノート整理･地名確認
第 13 回	IV　気候と生活 (3)気候区分と植生･土壌―熱帯･乾燥帯―	課題提出 復習：ノート整理･地名確認
第 14 回	IV　気候と生活 (4)気候区分と植生･土壌―温帯･亜寒帯･寒帯―	復習：ノート整理･地名確認
第 15 回	総括試験	復習：試験内容復習

1.授業コード（ナンバリング）	GLB101-Y01	2.科目名	言語と文化	3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　中学(英語)	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義やディスカッションなどを中心に行う授業です。映像資料も適時使用します。また、プレゼンテーションも行います。 This class will proceed with lectures and discussions. Visual materials such as movies will be used occasionally. There will be a presentation by students as well.		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	この授業は、言語と文化の関係について考え、世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題に対する理解を深めるための授業です。とりわけ、英語圏の国や地域の歴史、社会、文化についての基本的な状況を踏まえつつ、英語がどのように話されているかを体験的に学んでいきます。より具体的には、歌の歌詞やスピーチや映画のセリフやＣＭ広告のセリフなどにも目をむけて、言語の重要性や魅力について様々な角度から比較文化的に考えていきます。また、異文化コミュニケーション（異文化交流）における言語の役割や、メディアにおける言語				
18.学習目標とＤＰとの関連	●言語と文化の関係について考え、世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題に対する理解を深めることができる ●英語圏の国や地域の歴史、社会、文化についての基本的な状況を踏まえつつ、歌の歌詞やスピーチや映画のセリフやＣＭ広告のセリフなどにおいて、英語がどのように話されているかを具体的に理解することができる ●言語の重要性や魅力について、様々な角度から比較文化的に考えることができるとともに、異文化コミュニケーション（異文化交流）における言語の役割や、メディアにおける言語の使用のあり方などについても理解を深めることができる (1) 自律的で主体的な態度（自律性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル				
19.教科書・教材	Some printed materials will be distributed in class　（教材資料などを授業中に配布します）				
20.参考文献					
21.成績評価	Assignments（授業内の課題）30%, Final Report（期末レポート）40%, Presentation（プレゼンテーション）20%, Reaction Paper（授業内容のまとめと感想を書いて提出するリアクションペーパー）10%				
22.コメント	この授業では、言葉というものを多様な観点から様々な文化の中で捉えていきます。普段のコミュニケーションの中で使われる言葉についてだけではなく、外国人とのコミュニケーションで気をつけるべき言葉の特徴についても考えていきます。また、映画のセリフやＣＭのセリフ、歌の歌詞やスピーチの言葉などについても幅広く取り上げ、言葉の重要性について理解を深めていきます。もし言葉に興味があったら、この授業を楽しめると思います。				

23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	Course Introduction（授業の紹介）	
第２回	Introduction of various functions and features of language（言葉の様々な特徴と機能についての紹介）	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120 minutes)
第３回	Introduction of history and culture of English speaking countries/Comparison of English spoken in different countries （英語圏の国や地域の歴史、社会、文化についての紹介と世界の異なる英語の比較）	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120 minutes)
第４回	Introduction of cultural diversity and importance of intercultural communication （世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの課題についての紹介）	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120 minutes)
第５回	Experiential learning by using on-line language learning system （オンライン語学学習システムを使った体験学習）	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120 minutes)
第６回	language and songs in the world （歌における言葉についての紹介：様々な国の歌を取り上げ比べます）: Experiential learning through a group task （グループワークを通した体験学習）	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120 minutes)
第７回	language and TV commercials in the world （CM などにおける言葉について紹介：様々な国の CM を取り上げ比べます）	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120 minutes)
第８回	movie appreciation and discussion（言葉と文化に関する映画鑑賞とディスカッション）	
第９回	movie appreciation and discussion（言葉と文化に関する映画鑑賞とディスカッション）	
第１０回	language and speech in the world （スピーチにおける言葉の紹介：様々な国のスピーチを取り上げ比べます）: Experiential learning through a group task （グループワークを通した体験学習）	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120 minutes)
第１１回	language and intercultural communication（異文化コミュニケーションと言葉の関係についての紹介）: Experiential learning through a group task （グループワークを通した体験学習）	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120 minutes)
第１２回	Presentation（プレゼンテーション）	
第１３回	Presentation（プレゼンテーション）	
第１４回	Presentation（プレゼンテーション）	
第１５回	Course conclusion（まとめ）	

1.授業コード（ナンバリング）	GLB102-A71	2.科目名	異文化理解	3.単位数	2
4.授業担当教員	フィゴーニ啓子				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年生~
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	lecture		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	This course aims to foster cross-cultural understanding by observing what culture is, identifying aspects of cultural diversity, researching the surface culture and deep culture of English-speaking countries, and appreciating people and cultures in other				
18.学習目標とＤＰとの関連	You can... 1. observe and identify what culture and cultural diversity are. 2. understand the society, cultures and communication styles of English-speaking countries 3. appreciate people and cultures in other countries. 4. identify the important attitudes of a multi-cultural society DP:　多様性理解				
19.教科書・教材	How Culture Affects Communication,　Kinseido,　Paul Stapleton,　￥1400				
20.参考文献					
21.成績評価	試験（小テスト、エッセイ）：40%　　平常点（課題、レポート提出、プレゼンテーション）:60% ＊毎授業の課題（in-class report)やホームワークレポートが未提出の場合は、 平常点から－５％ずつ引かれる。 ＊課題(in-class report)は、各 10 点満点で評価される。 ＊英語圏の国家のリサーチレポート、プレゼンテーションは各 10 点満点で評価される。 提出期限に間に合わなかったレポートは受理されない。 ＊全授業出席が単位認定の条件である。				
22.コメント	１．毎授業、B5 サイズルースリーフ、コンピューター，USB を持参すること。 ２．コロナ等の諸事情で急遽オンラインになった場合は、WebClass で 連絡事項を確認し、Zoom でオンライン授業に参加すること。 ３．体調不良等で出席停止になった場合は、速やかにメールで連絡を入れること。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室または講師控室にて対応する。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Day 1-1	Orientation: Self-Introduction, syllabus, class rules, etc 1. What is culture?　"Surface culture and Deep culture" "Culture Shock"　Discussion	
Day1-2	2. Stereotype and Generalization Lecture,　pair/group discussion Writing in-class report	

Day 1-3	3. Verbal and Nonverbal Communication Lecture, pair/group discussion role play Writing in-class report	
Day 1-4	4. English Speaking Countries Lecture, Group research	Homework: Review Day 1 and prepare for Quiz 1
Day 2-1	5. Nonverbal Communication : Bow Quiz 1 (review quiz) Lecture, Reading. Writing in-class report pair/group discussion Quiz 2 (reading quiz)	
Day 2- 2	6. Verbal Communication : Small Talk Lecture, role play, pair/group discussion Writing in-class report	
Day 2- 3	7. Nonverbal Communication : Facial Expressions Lecture, Reading, Quiz 3 (reading quiz) pair/group discussion Writing in-class report	
Day 2 -4	8. English Speaking Countries Group research Prepare for presentation	Homework: Review Day 2 Prepare for the presentation
Day 3 - 1	9. Nonverbal Communication : Personal Space Lecture, Reading, Quiz 4 (reading quiz) pair/group discussion Writing in-class report	
Day 3 -2	10. Political Correctness Lecture, Reading, Quiz 5 (reading quiz) pair/group discussion Research Writing in-class report	
Day3 - 3	11. Cultural Stereotypes, Prejudice, Discrimination Lecture, pair/group discussion Research Writing in-class report	
Day 3 -4	12. English Speaking Countries Prepare for the presentation Submit power point material	Submit power point material Homework Review Day 3 Prepare for presentation and final essay exam
Day 4 -1	13. Group Presentation Writing in-class report	
Day 4 - 2	14. Writing research report Group work	

	Prepare for the final essay exam	
Day 4 - 3	15. Essay exam and Consolidation Essay exam review Writing reflection paper	

1.授業コード（ナンバリング）	GLB103-Y01	2.科目名	国際コミュニケーション概論	3.単位数	2
4.授業担当教員	芦沢真五				
5.授業科目の区分	基礎	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	グローバル・コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	なし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	レクチャーおよびディスカッション
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	本講座は、グローバル社会で通用する人材に求められるコミュニケーション能力について論じるとともに、コミュニケーションを形成するための基本的な考え方、姿勢、文化背景、そして異文化コミュニケーションの基本的な理論についても学習する。また、授業の中では、留学、移民、難民、多文化共生、外国人との協働、グルーバルビジネス、起業など国際社会における具体的なテーマと実例、歴史について学ぶ。こうした学習を通じて、異なる文化的背景を理解したうえでコミュニケーションをとることの重要性について理解を深める。さらに、非言語コミュニ				
18.学習目標とＤＰとの関連	異文化理解の基礎知識を修得するとともに、グローバル社会でにおけるコミュニケーションを円滑におこなえるような適応能力の涵養につながるような基礎的な能力を身につける。 本科目を通した学びは、社会、文化の多様性（多文化共生）を理解し、思考力や判断力を身につけ、世界市民として社会に貢献するための基盤となるようなものです。 ・DP(2)社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・DP(3)多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） ・DP(4)問題発見・解決力の内容も含みます。 ・DP(5)コミュニケーションスキル ＜SDGs の 17 の目標との対応＞ 以下の項目と対応しています。 10） 人や国の不平等をなくそう 16）平和と公正をすべての人に				
19.教科書・教材	吉田 修一「横道世之介 」(文春文庫)				
20.参考文献	「移民時代」の多文化共生論　松尾知明（明石書店）				
21.成績評価	毎回授業の小テスト、クラス内ワークなどを評価する（60%)。 中間レポート、最終レポートを評価する（40%)。				
22.コメント	体調不良などで出席できない場合はメールで連絡すること。				
23.オフィスアワー	授業終了後（昼休み）または木曜 2 限に対応する。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	導入：授業概要および目的、課題などの説明	ノートなど
Week 2	日常の中で体験しうる異文化との出会いについて、ケーススタディーをもとにディスカッションをおこなう。具体的なケースを通じて、人がどのような状況で、異文化や文化的摩擦を感じることがありうるか、について考え、異文化環境に関する認識を深めることを目標とする。	配布したケーススタディーを読み、個々の考えをまとめてくること。
Week 3	異文化コミュニケーションの基礎理論：異文化適応プロセスおよびカルチャーショックについて学ぶ。異文化適応にかかわるルーブリックなどを使って自己の意	配布した事前学習資料を読んでくること

	識を客観的に考察する。	
Week 4	留学のすすめ（1）：留学が異文化適応力を高めるためにいかに寄与するか、について、実例と理論に基づいて考察する。	指定された資料を読んでくること。
Week 5	留学のすすめ（2）：ゲスト・スピーカーによる留学体験	指定された資料を読んでくること。
Week 6	留学生と日本社会：様々な目的で来日する留学生が、日本の社会でどのように適応しようとしているか、について学ぶ。また「国際共修」の意義について考察する。	指定された資料を読んでくること。
Week 7	吉田 修一著「横道世之介 」という小説につき、各自が作成した読書ノートをもとに、主人公が学生生活の中で、どのような異文化体験をしているか、についてディスカッションする。この授業を通じて、日常生活の中で生起する異文化との出会いについて学ぶ。	指定された小説「横道世之介」を読み、読書ノートを作成してくること。
Week 8	日本人と外国人：概念としての「日本人」「外国人」というカテゴリーが存在することでコミュニケーションにどのような課題が生じているかをケーススタディーを通じて考える。	指定されたケースを読んでくること。
Week 9	日系アメリカ人社会の歴史に学ぶ：かつて日本も多くに移民を海外に送り出していた。日系アメリカ人社会がどうやって成立し、どのような苦難を体験したかを学ぶ。また、この移民史が現代の日本社会に与える示唆について考える。	指定されたケースを読んでくること。
Week 10	定住外国人コミュニティー―との対話：在日コリアン社会との歴史的な対話をテーマとして、京都の東九条まちづくりサポートセンター(まめもやし)の取り組みを事例として学び、この事例から現代社会への示唆となる課題について意見交換する。	指定された資料を読んでくること。
Week 11	定住外国人コミュニティー―との対話：浜松の日系ブラジル人コミュニティーを事例として学ぶ。また、segregation（社会的分離）が起こっている実情について学び、将来の課題を考察する。	指定された資料を読んでくること。
Week 12	多文化協働を目指す国の国際比較：カナダ、オーストラリアを事例として多様な文化的背景を持つ人々（移民、難民など）を受け入れてきた社会の特質や社会インフラについて学ぶ。	指定された資料を読んでくること。
Week 13	多文化協働コミュニケーション：国際ビジネスにおけるコミュニケーションの課題について、実際の多国籍企業における社内コミュニケーションのケーススタディーを考える。	指定された資料を読んでくること。
Week 14	起業家精神と多文化協働：グローバル社会で起業を目指すものは必然的に高い異文化適応力が求められている。具体的なケース・スタディーを通じていかに異文化適応力やコミュンケーション力が求められるかを考察する。	指定された資料を読んでくること。
Week 15	異文化適応にプロセスについて、基礎的理論を振り返	指定された資料を読んでくること。

	り、ルーブリックに基づいて、自己の文化的コンピテンシーについて、自己分析を試みる。また、最終レポートの到達目標について確認をおこなう。さらに、授業のとりまとめとして、4 年間の学生生活において異文化適応力を高めていく意義および手法、個々の目標設定について意見交換する。	

1.授業コード（ナンバリング）	GLB207-Y01	2.科目名	グローバル事情	3.単位数	2
4.授業担当教員	遠藤泰生				
5.授業科目の区分	専門基礎	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	無し			11.先修条件	無し
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習、グループワーク
16.履修制限	無し				
17.授業の目的と概要	目的：専門性を含んだ英文図書を精読し、その内容を英語で要約、批判する力を養う。 概要：共生グローバル社会の構築に必須の「国際労働力移動」への理解を専門入門書により培う。具体的作業としては、各章ごとの要約を担当者が行い、その報告に対するコメントを学生と教員が共有することで、英語でのディスカッションに必要なスキルを学生は習得する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①　自分の考えを自立的に表現するコミュニケーション・スキルを身に付ける。 ②　教員免許その他の英語資格を取得するための専門知識と技能を取得する。 ③　英語文化圏における文化の多様性を理解する。				
19.教科書・教材	Khalid Koser, International Migration: a Very Short Introduction, 2nd Edition (Oxford University Press,2016).　および教室で配布する補助教材				
20.参考文献	教室で適宜支持する				
21.成績評価	Routine Oral Report　(30%)　　学習目標①② Assigned　Comment and Discussion　(20%)　　学習目標①② Final Review Essay　(50%)　　学習目標①②③ 合算で 60%以上の得点を合格とする。				
22.コメント	グローバル化した世界における文化の多様性や経済格差に関する基礎知識がないと専門図書は読み進められない。英文を精読するとともに、邦文基本図書の勉強も必要になる。推奨図書は学生の学習進度に合わせて適宜、指示する。				
23.オフィスアワー	水曜昼休み、もしくは、事前に予約した時間。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	Introducing　Yourself	In-class exercise of self-introduction in English
第 2 回	Chapter 1　Why migration matters: Part 1	Report in English and class discussion
第 3 回	Chapter 1　Why migration matters: Part 2	Report in English and class discussion
第 4 回	Chapter 2：Who is a Migrant?　Part 1	Report in English and class discussion
第 5 回	Chapter 2：Who is a Migrant?　Part 2	Report in English and class discussion
第 6 回	Chapter 3: Migration and globalization　Part 1	Report in English and class discussion
第 7 回	Chapter 3: Migration and globalization　Part 2	Report in English and class discussion
第 8 回	Chapter 4: Migration and development　Part 1	Report in English and class discussion
第 9 回	Chapter 4: Migration and development　Part 2	Report in English and class discussion
第 10 回	Chapter 5: Irregular Migration	Report in English and class discussion
第 11 回	Chapter 6: Refugees and asylum-seekers	Report in English and class discussion
第 12 回	Chapter 7: Migrants in society	Report in English and class discussion
第 13 回	Chapter 8: The future of international migration	Report in English and class discussion
第 14 回	Review paper: proposal of structure	Peer review of ideal maps of review essays
第 15 回	Review paper: completion	Due: Final class

1.授業コード（ナンバリング）	GLB208-Y01	2.科目名	国際関係		3.単位数	2
4.授業担当教員	實川眞理子					
5.授業科目の区分	Basic education	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	Open to All departments			9.履修学年	the second year and above	
10.取得資格の要件	None		11.先修条件	None		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	lecture-style course (two-way interactions expected)		
16.履修制限	none					
17.授業の目的と概要	To become capable of explaining, for example, "Why Tik-Tok should be/should not be banned". Once you learn how to relate the big picture and your life, the newly acquired skill will further enable you to open up your horizon, helping you to act on your wi					
18.学習目標とＤＰとの関連	This course takes the CLIL format of learning English while studying theories and topics of international relations. Students are expected to develop attitudes and skills to relate international relations to themselves in as concrete a way as possible. Through the exercise, it is expected to contribute to developing capabilities to objectively recognize the current situation, a prerequisite for acting as a global citizen, and to propose and act on problem-solving proposals shared with people and organizations from different backgrounds (DP ② Social contribution, ③ Understanding diversity, ④ Problem finding and solving skills) このコースは、国際関係の理論やトピックを学びながら英語を学ぶという CLIL の形式をとり、履修者は国際関係を自分自身にできるだけ具体的に関連付ける態度とスキルを身につけることが期待される。これを通して、地球市民として行動するための前提条件である現状を客観的に認識し、異なる背景を持つ人々や組織と共有する問題解決案を提案し行動する能力の育成に寄与することが期待される（DP ②社会貢献、③多様性の理解、④問題発見・解決力)。					
19.教科書・教材	International Relations (2016) Stephen McGlinchey,　ISBN 13: 9781910814185 （下記どちらからでもダウンロードできます） https://open.umn.edu/opentextbooks/textbooks/448 https://www.e-ir.info/publication/beginners-textbook-international-relations/ Download the textbook in the P					
20.参考文献	国際ニュースを見聞きして、事象が生起している現場の「地理」と「歴史」を思い浮かべることができるか試してみてください。まったく分からないならば、それはこれから社会に出るときに最低限必要なレベルの知識を身につけておかなければならない気づきの第一歩です。中高で履修したとかしなかったとかに関わらず、社会人として活動できる基礎として、高校レベルの社会科科目の教科書の内容を確認しておきましょう。 授業ではそのときどきのニュースに触れることがあります。日常的にニュースをフォローしておいてください。					
21.成績評価	The following activities will be discussed on the 1st day. Preview & Review（WebClass で課される課題を期日までに仕上げて提出する）30% Contribution to Classes　(Active participation in discussions, Raising Informed Questions, etc.) 20% The end-of-term examination constitutes 50%					
22.コメント	この授業科目は、英語で実施する科目と指定されています。 授業を英語で実施するか、日本語で実施するか、あるいは、折衷とするか、第 1 回で皆さんに					

	伺いますので、教科書をざっと最後まで見たあとで、どういう割合がよいか考えておいてください。 ただし、多数決ですべて決めることはいたしません。一人でも反対意見があれば、その意見を反映させる努力をします。 また、アメリカ大統領選挙やウクライナ―ロシア、パレスチナ―イスラエルなど、現実世界の動きに注目していくので、授業内容をシラバスから変更することがあります。授業内、または、WebClass でお知らせします。
23.オフィスアワー	To be announced 調整中

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	Depending on the real life/real world situation, change(s) in the following plan may be proposed. You are requested to follow current international affairs so that you could make informed decision if/when such　a proposal is given. What is international	
第 2 回	International Laws and me, you, and us. ・Universal Declaration on Human Rights (1948) ・Convention on the Rights of the Child　子どもの権利条約 ・Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination against Women　女子差別撤廃条約 References: Chapter 5."INTERNATION	WebClass に掲載されている課題を実施し、期日内に提出しておくこと。第 3 回以降の講義も同じ。
第 3 回	International Theories: "Realism" and "Liberalism" Chapter 4. "INTERNATIONAL RELATIONS THEORY" Chapter 1. "THE MAKING OF THE MODERN WORLD"	
第 4 回	International Theories 2: Using theories Chapter 4. "INTERNATIONAL RELATIONS THEORY" Chapter 1. "THE MAKING OF THE MODERN WORLD" Chapter 2. "DIPLOMACY"	
第 5 回	Conflicts on the Eurasian Continent, Middle East, and Japan Chapter 2. "DIPLOMACY" Chapter 4. "INTERNATIONAL RELATIONS THEORY" Chapter 5. "INTERNATIONAL LAW"	
第 6 回	Security and Human Security 1 Chapter 11. "PROTECTING PEOPLE"	
第 7 回	Security and Human Security 2 Chapter 8 "GLOBAL POLITICAL ECONOMY" Chapter 10 "GLOBAL POVERTY AND WEALTH"	
第 8 回	Security and Human Security 3	

	Chapter 15. "THE ENVIRONMENT" Chapter 16. "FEEDING THE WORLD"	
第 9 回	Security and Human Security 4 Chapter 7. "GLOBAL CIVIL SOCIETY" Chapter 13."VOICES OF THE PEOPLE" Reference to Chapter 3. "ONE WORLD, MANY ACTORS" Chapter 6. "INTERNATIONAL ORGANISATIONS"	
第 10 回	GAFA, Echo-Chamber and Filter Bubble Chapter 12. "CONNECTIVITY, COMMUNICATIONS AND TECHNOLOGY" Chapter 8　"GLOBAL POLITICAL ECONOMY"	
第 11 回	Security and Human Security 5 Chapter 14. "TRANSNATIONAL TERRORISM" Chapter 9. "RELIGION AND CULTURE" Chapter 10 "GLOBAL POVERTY AND WEALTH"	
第 12 回	Chapter 13. "VOICES OF THE PEOPLE" Reference to: Chapter 12. "CONNECTIVITY, COMMUNICATIONS AND TECHNOLOGY" Chapter 5."INTERNATIONAL LAW" Chapter 6. "INTERNATIONAL ORGANISATIONS" Chapter 7. "GLOBAL CIVIL SOCIETY"	
第 13 回	Poverty, Health, Fairness Discussion on the Covid-19 Experiences through IR perspectives	
第 14 回	Sovereignty and Human Rights Chapter 17. "MANAGING GLOBAL SECURITY BEYOND ‘PAX AMERICANA’"	
第 15 回	My interests, my objectives, and my roles in international relations Chapter 18. "CROSSINGS AND CANDLES"	

1.授業コード（ナンバリング）	GLB211-Y01	2.科目名	グローバルアントレプレナー論	3.単位数	2
4.授業担当教員	芦沢真五				
5.授業科目の区分	基礎	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	グローバル・コミュニケーション学科 英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2， 3
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	レクチャーおよびディスカッション		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	国際的に活躍しうる人材に求められる能力の中で、リスクを取りながらも創造的なビジネス、社会事業を実現する力はますます重視されている。こうした起業家に必要なマインド（起業家精神）は、実際に起業する人材にだけ求められているのではない。既存の企業や NPO においても組織内で起業家精神をもった取り組みを展開することが期待されている。本授業においては、受講者は起業家精神について学ぶことに加えて、社会的に意義のあるビジネスや非営利活動を実際にグループワークを通じて構想し、事業プランを発表する。このプロセスを通じて、起業家				
18.学習目標とＤＰとの関連	起業をおこすうえで求められる資質、知識、経験則、人的ネットワークなどを学ぶことを通じて、起業家マインドの醸成のための基盤となる知見を獲得する。 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・DP(2)社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・DP(3)多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） ・DP(4)問題発見・解決力の内容も含みます。 ＜SDGs の 17 の目標との対応＞ 本授業は以下の項目に対応している。 3.すべての人に健康と福祉を 9.産業と技術革新の基盤をつくろう 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう				
19.教科書・教材	特に定めない				
20.参考文献	Business Model Generation: A Handbook for Visionaries, Game Changers, and Challengers (Osterwalder and Pigneur) , 2010, Wiley 授業の進捗にあわせてオンラインで配布する。				
21.成績評価	毎回授業の小テスト、クラス内ワークなどを評価する（60%)。 中間レポート、最終レポートを評価する（40%)。				
22.コメント	体調不良などで出席できない場合はメールで連絡すること。				
23.オフィスアワー	授業後（木曜 2 限）に実施する。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	導入：授業概要および目的、課題などの説明	ノートなどを持参
Week 2	イノベーションがなぜ必要なのか？社会的ニーズについて学ぶ。	指定された資料を読んでくること
Week 3	起業という概念：起業は決して新しい概念ではなく、歴史的にも多くの起業家が存在してきた。この歴史を学ぶとともに第 4 次産業革命を迎えた現代において、起業家精神を持つことの意義が高まっていることを学	指定された事前学習資料を読んでくること

	習する。	
Week 4	Customer Segment（マーケティング入門） 顧客がその商品を手に入れることで顧客にもたらされる明確で実証可能な利益とその基本概念について学ぶ。	指定された事前学習資料を読んでくること
Week 5	Value Proposition 顧客に提供する価値を明示し、製品やサービスのメリット、自社の存在価値や独自性を顧客に伝えるために、どのような手法があるかを考え、具体例から基本概念を学ぶ。	指定された事前学習資料を読んでくること
Week 6	起業のためのリソース調達（資金：多様な調達方法）	指定された事前学習資料を読んでくること
Week 7	起業のためのリソース調達（人・モノ）：他の機関とのリソースシェアリングなど	指定された事前学習資料を読んでくること
Week 8	組織デザインとリーダーシップ	指定された事前学習資料を読んでくること
Week 9	ソーシャルビジネス（ゲスト・スピーカー１）	グループワークの準備をしてくること。
Week 10	ビジネス構想への展開（グループワーク１）	グループワークの準備をしてくること
Week 11	起業の理論とベンチャー・エコについて学ぶ。スタートアップ起業が誕生して成熟するまでのプロセスについては、生態系になぞらえて「ベンチャー・エコ」と呼ばれてきた。参考文献を手掛かりにベンチャー・エコのメカニズムについて学ぶ。	グループワークの準備をしてくること
Week 12	企業内アントレプレナーシップ（ゲスト・スピーカー２）	指定された事前学習資料を読んでくること
Week 13	NPO・行政機関と起業家精神（ゲスト・スピーカー３）	指定された事前学習資料を読んでくること
Week 14	ビジネス提案（グループワーク２）	ビジネス提案の発表準備をしてくるとともに、他の学生の発表に対して評価コメントをまとめる。
Week 15	ビジネス提案（グループワーク３）	ビジネス提案の発表準備をしてくるとともに、他の学生の発表に対して評価コメントをまとめる。

1.授業コード（ナンバリング）	GLB212-Y01	2.科目名	共生社会論	3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史、實川眞理子				
5.授業科目の区分	専門教育科目 基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション、グローバルコミュにケーション学科の科目です。観光学科を始め、他学科他学部の受講を勧めます。			9.履修学年	2 回生からとしますが、1 回生でも大丈夫です。
10.取得資格の要件		11.先修条件	特にありません。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	特にありません。				
17.授業の目的と概要	目的：グローバル化する日本国内で、また海外でに多国籍の仲間と暮らし働く術を知る 概要：グローバル化が進むとはいえ日本の外国人はまだ全人口の２％、でも今後急速に増えると言われます。多くの自治体で、すでに異なる文化で育った人々が共に暮らす多文化共生策が始まり、社会的包摂という日本社会に溶け込む外国人が徐々に増えています。一方、日本人の働き方・暮らしぶりも多様化、地域社会でのつながりは薄れています。また、障碍者や高齢者、ジェンダーやセクシュアリティ、所得や健康の格差も現代社会の共生の課題です。関西国際大学国際コ				
18.学習目標とＤＰとの関連	神戸のような歴史ある国際都市に暮らしていても身近な異文化には気づきにくいものです。ご年配の外国生まれ市民の皆さんは昔の神戸にも詳しく、その異文化は見えません。一方、最近日本にきたアジアの留学生、日系労働者、技能実習生が増え、学内やアルバイト先で接する機会が増えています。そんな経験から共生社会を考えはじめ、その背景に広がる現代社会の課題、さらには３億人もの移民・難民が動く世界の大変化をしることが学習目標、到達目標は異文化コミュニケーションの達人です。				
19.教科書・教材	教科書に代わる読みやすい資料を用意します。毎回の授業スライドを PDF で配ります。				
20.参考文献	小山 望, 勅使河原 隆行他『これからの「共生社会」を考える 多様性を受容するインクルーシブな社会づくり』福村出版、2020 年 宮島 喬多文化共生の社会への条件:日本とヨーロッパ,移民政策を問いなおす』東京大学出版会、2021 年 永吉 希久子『移民と日本社会-データで読み解く実態と将来像』中公新書、2021 年				
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話ししたこと、配付したスライドをよく理解していること。				
22.コメント	社会で生起するリアルな出来事を反映させて、授業内容を変更することがあります。履修生には事前にお話しします。				
23.オフィスアワー	宗田：火曜 3 コース（研究室/3-308)、火曜 2 コース(学修支援センター)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回：4 月 11 日 グローバル化と現代日本社会	在留外国人は都市部でも農村部でも増加し、我々日本人の暮らしも仕事も彼らの労働に大きく依存しています。しかし、多くの日本人は外国人を見ることもなく、その問題に無関心です。しかし、国際コミュニケーションを学ぶ皆さんは、多文化共生の現実と問題点を考え、日本の政府や自治体の政策を学びます。そして、世界各国の取組みを知り、未来の日本社会を変える力を付けます。	○アサイメント：身近に見た仕事をしている在留外国人を二人ほど上げて下さい ○事前学習：日本以外で盛んに移民を送り出した国を一つ上げて下さい。
第 2 回：4 月	人口減少が進む EU 諸国、特にイタリアやドイツでは人	○アサイメント：外国籍でありながら日本人

18 日 欧米で進む多文化共生への取組み、移民から市民へ	口の 2 割以上を占める外国人抜きには産業経済も地域社会も成り立たなくなっています。外国人労働者はもはや少数派ではなく、社会の重要な一部、移民ではなく地元市民として活躍しています。その実態を知り、日本の共生社会の進路を考えます。	以上に日本人だと思う人はどんな人か述べて下さい。 〇事前学習：今年はウクライナ難民がよく語られますが、これ以外の難民の例を一つ上げて下さい。
第 3 回：4 月 25 日 移民が市民に変わるプロセスを知る。どうすれば共生社会は進むか	近年世界中で大規模な自然災害や武力紛争が続き、難民や避難民が欧米先進国に押し寄せています。国連機関や EU、各国政府、NGO が人道支援を進めますが、民族対立は激化し、テロは深刻化、共生社会は危機に瀕しています。一方、一部の先進国では多様性を認めあう共生段階から社会的包括を経て社会的同化の段階に進んだ地域があり、多様なルーツを持つ二世三世が共生社会をリードし、寛容な社会づくりを進めています。EU の共生のまちづくりの様子を詳しく見ていきます。	〇アサイメント：地域社会の中で地元の人々が移民を嫌う理由は何か、気付いたことを上げて下さい。 〇事前学習：神戸で会った中国人を思い出して、どこで会ったか、看たか、書き出して下さい。
第 4 回：5 月 2 日移民が市民に変わるプロセスを知る。どうすれば共生社会は進むか	国際都市神戸の多文化共生、神戸中国人コミュニティ 150 年史（神戸華僑歴史博物館） EU 先進国の共生社会を日本で最初に実現したのは国際都市神戸です。平安時代から大陸や半島との交流の拠点でしたが、1868 年の開港以来日本最大の貿易港に成長、すでに 154 年の歴史があります。大学から居留地、異人館街、南京町に出かけ、共生社会がどう形成されたかを探しに行きましょう。	〇アサイメント：南京町で今でも営まれている中国系の文化的伝統を一つ上げて下さい。 〇事前学習：神戸市の 9 行政区別の在留外国人数を調べて下さい。また、各区で最も在留人数の多い国を挙げて下さい。
第 5 回：5 月 9 日定住する外国人、神戸の新たな国際化と共生社会、長田区の経験	定住する外国人、神戸の新たな国際化と共生社会、長田区の経験 震災被害の甚大さで知られる長田区は、今や神戸の下町、長田マダンや芸術祭が開かれます。一方、ベトナム人集住地区でもあり、ローカルとグローバルが出会う場所です。実は、世界の大都市には長田区に似たグローバルな下町が多く、共生社会が形成されています。昔から長田区には出稼ぎの人が多く住み、自分たちの経験を新住民と共有することでまちづくりを進めてきたのです。その仕組みを現地で探ります。	〇アサイメント：日本が朝鮮王国を併合したのは何時ですか、それはいつまで続いたか、できるだけ詳しく述べて下さい。 〇事前学習：関西には神戸の他に大阪市など外国籍市民が多く住む町があります。外国人の多い地区を上げて下さい。
第 6 回：5 月 16 日関西の国際社会、大阪とその周辺	隣の大阪も国際都市、最近も日本で最もインバウンド人気の高いの街でした。居住外国人数も大阪市で全人口の 5.3%、大阪府全体でも 2.9%。神戸市の 3.0%と同様に全国平均を大きく上回ります。その半分近くを韓国籍、26%が中国籍、中でも生野区は外国籍市民の 2 割以上が暮らします。また今は、ベトナムやフィリピン籍が増えています。皆さんのよく知る大阪の町の共生社会を見に行きます。	〇アサイメント：この授業の受講中に、関西の中で外国籍市民が多くすむ地区を一つ訪れ、報告して下さい。 〇事前学習：外国籍市民には日本に永住する人が多くいます。なぜ自国に戻らないのか理由を想像して書きだして下さい。
第 7 回：5 月 23 日：日本のエスニック・マイノリティの多様性	日本のエスニック・マイノリティの多様性 移住者にとって日本社会は当面の生活拠点であるだけでなく定着の地にもなる。永住権をえた外国籍市民は定着の傍ら盛んに移動し、母国やアジア諸国とのビジネスを始めている。関西各地を中心にオールド・タイマーズとニューカマーズも分れる中国系の人々の活動	〇アサイメント：外国籍市民の集まる街について、皆さんが感じる魅力を述べて下さい。 〇事前学習：皆さんの知っている日系人を思い出して書き出して下さい。

	を紹介し，多様化を深める定住外国人の様子を見ます。南京町や鶴橋は今後どう面白くなるかを語り合います。	
第 8 回：5 月 30 日グローバル共生社会と行政	グローバル共生社会と行政 神戸や大阪と違い中国人も韓国人も少なかった全国の工業都市では、1990 年代に急増した日系人労働者の様々な課題に直面し、多文化共生政策を進めてきました。豊田市や浜松市がよく知られます。反面、神戸市・大阪市政の共生社会対策にも長い歴史と成果があります。行政が何をなし、何ができないかったかを整理し、行政の限界を知るとともに市民社会の役割を考えます。	○アサイメント：日系人はなぜ急に増加したか、その理由を 3 点あげて下さい。 ○事前学習：外国に暮らすと子供の教育は大きな課題です。皆さんがそんな状況の場合、子供に日本語を教えますか。それとも現地の言葉を教えますか。
第 9 回：6 月 6 日地域社会の外国人問題、国際コミュニケーションの役割	地域社会の外国人問題、国際コミュニケーションの役割 日本政府は移民政策をとらない立場ながら、1990 年代に日系人が急増した自治体では教育や医療など独自の共生策を進めました。外国籍の子供は義務教育の対象外ですが、全員小学校に受入れ未就学ゼロとして事例（浜松市）や NPO の教育支援活動など、日本語教育を担いコミュニティ能力を高める取組みの数々を見ていきます。	○アサイメント：日本の小学校で学ぶ日系人の子供たちの困難はどんな点にあるか述べて下さい。 ○事前学習：日系人が最も多く暮らす国と都市を調べて下さい。
第 10 回：6 月 13 日日本人移民の歴史を知るための「海外移住と文化の交流センター」見学	日本人移民の歴史を知るための「海外移住と文化の交流センター」見学 1928 年開設のされた国立移民収容所（現在の神戸市立「海外移住と文化の交流センター」）は 1971 年までの半世紀、主に南米に移住する日本人のための訓練センターでした。貧しい日本の農村から豊かさを夢見て海外を目指した日系人一世の思いを探り、多文化共生を考えます。	○アサイメント：各自でセンターを訪れ学んだ日本人が移民した時代のことを自由に述べて下さい。 ○事前学習：日本の介護施設は今後増えますが、そのピークはいつ頃でしょう。調べて下さい。
第 11 回：6 月 20 日現代日本のケアコミュニティ、東南アジア女性の労働力	現代日本のケアコミュニティ、東南アジア女性の労働力 介護保険制度が始まって四半世紀がたつ日本では急増する高齢者を前に深刻な介護人材不足に陥り、東南アジアの女性に大きな期待が集まっています。	○アサイメント：特定技能と技能実習生の違いを述べて下さい。 ○事前学習：なぜ同性愛を否定的にみる人が多いのか調べて下さい。
第 12 回：6 月 27 日セクシュアリティの多様性：ゲイ・レズビアン運動、性同一性障害	セクシュアリティの多様性：ゲイ・レズビアン運動、性同一性障害 不用意で無知な発言は、多様な性のあり方（セクシュアリティ）を受容れる現代社会では許されないハラスメントとされます。学校だけでなく､会社や地域社会でも適切な配慮が不可欠です。排除でなく包摂する話し方は、国際コミュニケーションを学び共生社会を担う皆さんが身に着け、人々に伝えるべき内容です。	○アサイメント：LGDP の人々が生きやすい社会とはどうあるべきか、述べて下さい。 ○事前学習：キプロス戦争について事前に調べて下さい。

第 13 回：7 月 4 日グローバル共生社会と日本	グローバル共生社会と日本 世界各地では、まだ民族や宗教の違いによる紛争や差別は解消しません。グローバル化が進んでも共生社会は簡単に実現しません。対立の現場それぞれで様々な多大な努力が続き、成果も少なくありません。イスラム教徒のトルコ系とギリシャ正教系の住民が対立したキプロス紛争は、国連や EU の介入で再統合に向かっています。こうした平和のための国際社会の取組みを学びます。	○アサイメント：宗教対立とはどんな対立か簡単に述べて下さい。 ○事前学習：やさしい日本語とはどんな話し方か、簡単に述べて下さい。
第 14 回：7 月 11 日グローバル化と日本の共生社会の行方、生活支援から活躍支援へ	グローバル化と日本の共生社会の行方、生活支援から活躍支援へ 文化的多様性が乏しく、閉鎖的だった日本の地域社会がグローバル化に対応するために海外人材の活躍が期待されます。総務省の「多文化共生推進プラン」で制度改革が進み、「やさしい日本語」ガイドラインなど共生社会への施策が進みます。その担い手となり海外人材の活躍を支援する皆さんの役割、就職先を考えていきます。	○アサイメント：海外人材を必要とする産業部門を一つ上げて、その課題を書き出して下さい。 ○事前学習：これまで学んだ共生社会論の中で関心を持った課題を一つ上げて下さい。
第 15 回:7 月 18 日排除と共生、包摂の未来、内なるグローバル化を支える力	排除と共生、包摂の未来、内なるグローバル化を支える力 最終回はこの科目で学んだことをまとめ、共生社会の実現に向けた具体的なキャリアパスを考えます。民族紛争の難民キャンプで働く、国内で移民労働者の子弟の就学支援、日本語を教えるなど様々な活動の根底で、この共生社会論での学びが活かし役立てるために、自分の言葉で問題を掘り下げ、解決方法を探ります。グループで話し合いブラッシュアップしてレポートにまとめて下さい。	○アサイメント：最終課題を別途発表します。 ○事前学習（最終回なので事前学習はありません。）

1.授業コード（ナンバリング）	GLB303-Y01	2.科目名	グローバル歴史		3.単位数	4
4.授業担当教員	Patrick Shorb					
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	Anyone			9.履修学年	2nd and 3rd year students	
10.取得資格の要件	TOEIC 550 recommended or willing to study hard while improving their English!	11.先修条件	None			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態				
16.履修制限	Anyone can join after 1st year; first year students can join if have TOEIC 550					
17.授業の目的と概要	This course will introduce students to the history of the modern world. Specifically, it will focus on the increasingly intense trans-regional interactions between Eurasia, Africa and the Americas after 1500 CE. This course will be preoccupied with four a					
18.学習目標とＤＰとの関連	Upon the successful completion of this course, students will be able to: A. Recognize and summarize important trends in global history; B. Use scholarly concepts (e.g. “the nation,” “class” “gender,” “race”) to organize historical knowledge and facilitate analyses of such historical change; C. Evaluate primary texts critically and effectively by understanding different points of view, appraising their use of logic and evidence, and identifying biases and assumptions; D. Compose effective arguments by integrating relevant historical evidence from multiple primary sources and draw new insights through the use of chronological and cross-cultural comparisons. E. Read course-related texts quickly and still understand key points and arguments; F. Write academic essays that have a clear thesis, are well-structured, and make persuasive arguments through textual evidence; G. Contribute to group activities and collaborate productively with class peers who share different viewpoints; H. Present in front of others in an organized, engaging way; I. Recognize that issues are not always clear-cut: the best arguments are often nuanced and based on a careful weighing of the best-available evidence. J. Learn how to learn by reflecting on the strengths and weaknesses of one’s own performance and those of class peers. In keeping with the Kansai University of International Studies' Diploma Policy, this course will enable students to do the following: 1. Can compose effective history essays on one's own through the draft and revision process, thereby demonstrating advanced-level self-initiative. 2. Can understand peoples from other cultures and times thereby demonstrating advanced-level intercultural understanding. 3. Can use textual evidence from primary sources to advance historical analysis and interpretations, thereby demonstrating advanced problem identifying and problem solving skills. 4. Can express opinions in English effectively through discussion and debate, thereby demonstrating advanced-level communication skills.					
19.教科書・教材	The Earth and Its Peoples, Brief Volume II: Since 1500: A Global History,6th Edition Cengage【 ISBN 】 9781285445533					

20.参考文献	
21.成績評価	Class Activity Participation 30% Quizzes 30% Reading Responses 40%
22.コメント	
23.オフィスアワー	Fridays during Lunch hour

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Class #1 Personal Goals, Group Rules, Objectives; Skills Workshop #1 ?Reading Textbooks Class #2 “Reoriented World and the Rise of the ‘West’”; Skills Workshop #2 ?Taking Lecture Notes;	
Week 2	Class #3 “What Does it Mean to be Reoriented?”; Skills Workshop #3 ?Reading Primary Sources Class #4 Encounters with “Barbarians;” Skills Workshop #4 ?Designing Group-work Activities	
Week 3	Class #5 Reorienting the European Mind; Skills Workshop #5 ?Chronological Analysis Class #6 Reorienting European State & Society, 1500-1750	
Week 4	Class #7 Atlantic System’s Winners and Losers; Skills Workshop #6 ?Thinking about Point of View Class #8 Change and Continuity in Eurasia, 1500-1750	
Week 5	Class #9 Reorientations in East Asia, 1500-1750; Class #10 Skills Workshop #7 Creating an Argument	
Week 6	Class #11 Skills Workshop #8 ?Revising the Comparison-Contrast Essay Class #12 The Revolutions of the “Western” World, 1750-1900	
Week 7	Class #13 A “Revolution” of Liberty and Progress, 1750-1815 Class #14 Transformations in Society, 1750-1850	
Week 8	Class #15 Understanding the “Nation” in World History, 1800-1850 Class #16 Defining Status in “Modern” “Nations,” 1850-1900	
Week 9	Class #17 Skills Workshop #9? Preparing for 2nd Essay	

	Class #18 Confronting “Nation” and “Modern” in Eurasia, 1750-1900	
Week 10	Class #19 Modernity in East Asia, Nationalism in East Asia, 1750-1900 Class #20 “New” Imperialism in Americas, Africa and Asia	
Week 11	Class #21 Reinventions: “’War! What is it Good For?,’” 1900-present Class #22 Skills Workshop #10 ?Revising the Chronological Analysis Essay	
Week 12	Class #23 World War I & its Aftermath, 1900-1930 Class #24 Early Anti-Colonialism, 1900-1940	
Week 13	Class #25 Crisis and Authoritarianism, 1930-1945 Class #26 “Whose Globalization? Whose Community?,” 1945-2020	
Week 14	Class #27 The Cold War and Decolonization, 1945-1990 Class #28 New Forces, New Participants, 1950-1980	
Week 15	Class #29 Globalization & its Discontents, 1990-2020 Class #30 Skills Workshop #11?Writing the Integrative Essay	

1.授業コード（ナンバリング）	GLS101-A71	2.科目名	リサーチ入門（再）	3.単位数	1
4.授業担当教員	尾河　勇太				
5.授業科目の区分	共通教育科目 コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	指定されたクラスで受講すること				
17.授業の目的と概要	この授業では、おもにグローバルスタディをはじめ、体験型プログラムで必要な定性型の調査方法の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	具体的な調査方法として、観察調査法を取り上げ、調査の基礎、仮説の設定、観察力、分析を演習形式で身につける。 ・問題発見力 ＝ 社会の中で問題になっていることを、理解することができる →　本授業では観察調査を実施する。調査対象に関する様々な問題に気づいてほしい。（調査の企画および実施を通して） ・論理的思考／判断力 ＝ 根拠を?しつつ意?や判断を?すことができる →　調査を通して根拠を示す方法を経験して学んでほしい。（仮説の設定から検証、考察まで→観察調査の発表資料で表現）				
19.教科書・教材	・竹田茂生・藤木清 著　『知的な論文・レポートのための　リサーチ入門』　くろしお出版 2013 ※教科書は下記 URL で購入指定ください（詳細はユニパの「夏学期教科書販売についてのお知らせ」参照）。 https://smarts.maruzen.co.jp/myapp/TOS20100/9323/xp53gnvHD6lfBL9N ・学習技術研究会 編　『知へのステップ第 3 版』　くろしお出版 2011 ※1 年春学期の「学修技術」で使用した教科書を持参してください。 （発表用資料作成時に参照）				
20.参考文献	・大谷信介 他編著　『社会調査へのアプローチ（第 2 版）』　ミネルヴァ書房　2005 ISBN 4623041042 ・佐藤郁哉 著　『フィールドワーク―書を持って街へ出よう（ワードマップ）』増訂版　新曜社 2006 ISBN 4788510308				
21.成績評価	・ワークシート１：　１５％ ・ワークシート３：　１５％ ・調査研究計画書：　２０％ ・プレゼンテーション：　４０％ ・ふりかえり：１０％				
22.コメント	・調査に必要な費用は各自負担（商品の購入など） ・実査時を除き、ノートパソコンを使用します。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)

◇第１日目◇ 【１限目】	≪科学する心、調査する意義を学ぶ≫ ・シラバスに基づいて、本授業の説明を行う。 ・テキスト第１章 ・ワークシート１：個人ワーク	※この授業では、実査を除き、すべての時間でノートパソコンを使用します。
【２限目】	≪調査の基本概念を知る≫ ・テキスト第２章、第３章 ・ワークシート３：個人ワーク＋グループ又は全体ワーク	
【３限目】	≪観察調査の理解と仮説さがし≫ ・テキスト第４章 ・事前調査：グループ又は全体ワーク ①観察する店舗を決める ②変化を見る	
【４限目】	≪調査研究計画書の作成≫ ・ワークシート４：グループ又は全体ワーク 仮説、調査時間、調査場所を確認する ・調査研究計画書：個人ワーク 構成を考え、書く内容を下書き	○ワードで調査研究計画書の作成
◇第２日目◇ 【１限目】	≪調査研究計画書の作成と発表≫ ・調査研究計画書の作成（つづき）：個人ワーク ・発表	
【２限目】	≪調査研究計画書の発表と観察シートの作成≫ ・観察シートの作成：個人ワーク	
【3限目】	実査	
【4限目】	実査	
◇第３日目◇ 【１限目】	≪調査結果の整理≫ ・テキスト第６章 ・仮説検証の確認、定性データの整理、評価得点の集計：グループ又は全体ワーク	
【２限目】	≪調査結果の分析≫ ・定性データの整理、評価得点の分析：個人ワーク	
【３限目】	≪発表用資料≫ ・パワーポイントで、発表用資料を作成：個人ワーク	
【４限目】	≪読み原稿の作成≫ ・ワードで、読み原稿を作成（1,000～1,250 字）：個人ワーク	○発表用資料と読み原稿の完成
◇第４日目◇	≪他者の発表を聞き、自ら発表する≫	

【1 限目】	・クラス内で発表＝一人５分	
【2 限目】	≪他者の発表を聞き、自ら発表する≫ ・クラス内で発表＝一人５分 ・全体発表	
【3 限目】	≪ふりかえり≫ ・この授業で身に付いたこと ・総括	

1.授業コード（ナンバリング）	GLS102-A71	2.科目名	グローバルスタディⅠ　（ブラジル/2024 夏）	3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、大平誠也				
5.授業科目の区分	体験学修	6.必修・選択の区分	必修あるいは選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～夏学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件	・「リサーチ入門」修得済み		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、演習、調査		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	・ブラジル移民の歴史、ブラジルでの日系人の活躍と現在の状況、在日のブラジルを含む外国人の状況と課題、NPO 法人関西ブラジル人コミュニティ CBK の活動内容とその意義ならびにこれまでの実績、受け入れ側の日本社会に対して望むことを、事前学習、施設での経験学修を通して、理解する。 ・日本で生まれ、ブラジルと日本、どちらの文化も、十分にわからないまま育っている日系ブラジル人の子どもたちに対するポルトガル語と日本語、算数、社会、理科の学修支援教室に参加し、日本文化を紹介する音楽を通した身体表現活動の学修支援を行う。				
18.学習目標と　ＤＰとの関連	【多様な文化やその背景を理解し受け入れる能力(多様性理解)】 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め世界市民として行動する 　ブラジルと日本における移住の歴史や現状に関心をもち、必要な知識を習得し、活動先の現状と課題が理解いたうえで、グループメンバーと協働して活動をすることを通して、教育・福祉的観点から、多文化共生としての文化交流の在り方について、貢献可能性を考える。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	・ワークシート①　ブラジルと日本における地理、歴史、季候、風土、文化の基礎知識 10% ・ワークシート②　グループでの活動計画 10% ・グループによるプレゼン(PPT＋発表)　10% ・ブラジルと日本の移住の歴史や現状を理解したうえでの施設での活動の主旨、目的、方法を 800 字～1000 字でワード原稿にまとめる。15% ・施設の活動の振り返り　4 日間　5%×4＝20% ・施設での活動通して、学修支援と多文化共生としての文化交流の在り方を考える 　グループによるプレゼン(ポスター＋発表)　10%～15				
22.コメント	・移民をテーマとした海外や国内でのボランティアへの参加等、体験学修で学んだことを、自身の今後の活動に結びつける認識をもって参画すること。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
＜事前学習＞ 【第 1 回】	オリエンテーション 1 ・授業のねらいと今後の予定の確認	
【第 2 回】	・グループ編成 　ブラジルと日本の移住について ・先行研究の整理	◎ブラジルと日本の移住の歴史と現状をまとめる（120 分）
【第 3 回】	・先行研究の整理と施設での学修支援の在り方を検討	◆ノートＰＣ持参◆ ◎施設での活動について検討する（120 分）

	する	
【第 4 回】	子どもたちへの学修支援の方法・構成をグループで考案し、指導案を作成する	◆ノートＰＣ持参◆ ◎施設で活動をまとめ、PPT を作成する。(60 分) ◎グループ発表の準備を行う。(60 分)
【第 5 回】	施設での子どもたちへの学修支援の具体的指導案を作成する 事前学習のまとめとしての PPT を作成する	◆ノートＰＣ持参◆ ◎学修支援の指導案作成し プレゼンテーションの準備をする。(60 分) ◎グループ発表の準備を行う。(60 分)
【第 6 回】	事前学習のまとめとして PPT を使用し、グループで発表を行う	◆ノートＰＣ持参◆ ★PPT データ提出
＜施設での活動＞ 1 日目	施設での活動	◆ノートＰＣ持参◆ ★活動の振り返りをまとめる (60 分)
2 日目	施設での活動	◆ノートＰＣ持参◆ ★活動の振り返りをまとめる (60 分)
3 日目	施設での活動	◆ノートＰＣ持参◆ ★活動の振り返りをまとめる (60 分)
4 日目	施設での活動 子どもたちへの学修支援を実施する	◆ノートＰＣ持参◆ ★活動の振り返りをまとめる (60 分)
【第 7 回】	施設での活動の前半グループによる報告	◆ノートＰＣ持参◆ ★前半グループの報告と後半グループの活動内容の再検討 (60 分)
＜事後学習＞ 【第 1 回】	活動結果の分析とまとめ 1 ・活動内容を振り返り、発表の準備を行う。	◆ノートＰＣ持参◆ ◎各グループ、活動内容を振り返り分析する。(240 分)
【第 2 回】	活動結果の分析とまとめ 2 ・活動内容を振り返り、発表の準備を行う。	◆ノートＰＣ持参◆ ◎各グループ、活動内容を振り返り分析する。(240 分)
【第 3 回】	活動結果の分析とまとめ 3 ・活動内容を振り返り、発表の準備を行う。	◆ノートＰＣ持参◆ ◎各グループ、活動内容を振り返り分析する。(240 分)
【第 4 回】	報告会 ・各グループによるプレゼンテーション。	★各グループのプレゼンテーション ★最終レポート作成・提出（事前学修時に提示）(270 分) ◆ノートＰＣ持参◆ ◎グローバルウィークでの報告会準備

1.授業コード（ナンバリング）	GLS102-A72	2.科目名	グローバルスタディⅠ　（中国/2024 冬青島）	3.単位数	1
4.授業担当教員	陳那森				
5.授業科目の区分	体験学習	6.必修・選択の区分	必修あるいは選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～夏学期
8.履修可能な専攻	特に制限なし			9.履修学年	2 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件	・「リサーチ入門」修得済み（この科目で学んだ調査研究計画の立て方が活用できること） ※現代社会学部総合社会学科学生は「リサーチ入門」または「フィールドワーク」を修得済みであること		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、演習、調査		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	テーマ:　AI テクノロジーをコロナ後の私たちの社会にどう活かすか ー 顔認証、ドローン、自動運転などの有効な活用について考えてみよう ー 事前学習] ? 国内外の、社会における AI テクノロジーの活用の様子について学ぶ。 [調査活動] ? 調査①：コロナ後の社会の問題課題の解決に貢献できるような AI テクノロジー活用のアイデアについて、濱海学院からの参加学生との協働でグループ調査活動を行い、案出しをする（調査計画・報告書作成） ? 調査②：グループで案出ししたアイデアが実現するとどこでど				
18.学習目標とＤＰとの関連	本プログラムに参加すると以下のことができるようになります。 1 社会における AI テクノロジーの活用の様子について説明できる。 2 コロナ後の社会の問題課題の解決に貢献できるような AI テクノロジー活用のアイデアを出せる。 3 起案したアイデアが実現するとどこでどのように活かされるかをまとめられる。				
19.教科書・教材	特に使用しない。 必要に応じて関係の記事やデータ等を配布する。				
20.参考文献	必要に応じて指示する。				
21.成績評価	本科目は、以下の方法で評価します。それぞれの課題で提示される「要件」を満たしたうえで、合計が 60 点以上であれば合格となります。 （1）個人事前レポートの提出　・・・10% （2）社会における AI テクノロジーの活用に関する小テスト（WebClass 利用）＜学習目標①に対応＞・・・20% →　満点で合格。 （3）調査計画書（※）の提出　＜学習目標?に対応＞　・・・30% →　様式に適切な記述があることが要件 （4）調査実施報告・発表（※）　＜学習目標③に対応＞　・・・30% →　報告には				
22.コメント	【注意事項】 （1）時間表記はすべて日本時間となります。日本と中国の間には 1 時間の時差があります。 例えば、日本の 16:30 は、中国では 15:30 となります。				

	（２）この授業は、Zoom を利用したオンラインでの実施となります。 オンラインでの講義やグループ活動などにおいては、ビデオをオンの状態にし、 服装や姿勢なども含め、きちんとした態度で積極的に参加することを求めます。
23.オフィスアワー	必要に応じて、また、指示に従って、適宜担当教員とコンタクトを取って助言を仰ぎつつ、プログラムを進めましょう。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回 12/04（金） 12:20～13:00 ★ ★　日時は昨年のものであり、協定校からの参加学生が確定次第、調整の上更新する。以下同。	■オリエンテーション ・授業の目的・概要、学習目標、評価方法等の説明 ・今後の予定の確認	オリエンテーションでの説明を受けて、本 GS でやりたいことやグループ活動において果たしたい役割等について、個人事前レポートとしてまとめる。 課題(１)　個人事前レポート（WebClass から提出：12/10（木）17:00〆切）
第２回 12/18（金） 16:30～18:00	■両大学参加学生による顔合わせ会 前半は、本プログラムに関する全体説明を行い、なるべく両大学の参加学生が同一レベルの問題意識を持って活動に臨めるように工夫する。 後半は、参加学生による自己紹介の後、Zoom のブレイクアウトセッション機能を用いた混成チームによるグループ活動を試行し、同世代の若者としての連帯感を高める。	・各グループの連絡手段の確保 ・グループ別の社会における AI テクノロジーの活用が急速に進んでいる状況についてのリサーチクエスチョンの予備的検討
第３回 01/08（金） 16:30～18:00	■事前学習 ・現状の知識レクチャー ・社会における AI テクノロジーの活用が急速に進んでいることについてのリサーチクエスチョンを検討する ・調査研究計画の作成について	課題(２)　WebClass 知識テスト（満点合格／個人、〆切：第５回前） 課題(3)リサーチクエスチョンシート／調査研究計画書（グループ）の提出（グループ） 〆切：1 月 15 日（金）9:00am @Webclass
第４回 1/15（金） 16:30～18:00	■事前学習 ・調査研究計画書の発表（グループ） ・この後のグループ活動についての確認	
第５～７回	■グループによる調査活動 ・　社会問題解決と AI テクノロジー活用に関する文献調査 ・　グループのアイデアの中で活用される AI テクノロジーについて、現実の場面における具体活用に至った経緯を関係者に取材（インタビュー調査など） ・　取り上げた社会問題に関わるステークホルダーに聞き取り調査（インタビュー調査・アンケート調査など）	課題(4)　グループによる調査実施報告・発表資料のまとめ　（提出：第 14 回目） ＊毎週決まった時間に Zoom で進捗状況報告
第８～１０回	■国際ワークショップの発表準備 グループによる調査報告書に基づき、発表資料の準備	＊毎週決まった時間に Zoom で進捗状況報告
第１１、１２回	■　＜国際ワークショップ＞	

3/5（金） 16:00～19:00	・両大学関係者による挨拶 ・両大学の学生グループによる調査成果発表と質疑応答 ・総括、講評	
第 13 回 3/12（金） 16:30～18:00	■事後学習 ・グループによる調査報告書のブラッシュアップ 　グループによる調査結果に、国際ワークショップを通して得られた知見を加味し、各グループ独自の対応策としてまとめる。	
第 14 回 3/12（金） 18:10～19:40	■事後学習 ・個人のリフレクション 　本プログラム参加のリフレクションを行う。	課題(5)　個人のリフレクション（WebClass から提出すると同時に e ポートフォリオに記事投稿） （提出日時：後日案内）
第 15 回 日時後日案内	■学内での最終プレゼンテーション 　大学祭（アジアン祭）期間中にポスター発表	ポスターの作成要領や発表者などは後日案内

1.授業コード（ナンバリング）	GLS102-Y72	2.科目名	グローバルスタディⅠ　（韓国/2024 夏ソウル）	3.単位数	1
4.授業担当教員	李容淑、寺井太郎				
5.授業科目の区分	2024 年度 夏学期開講 海外渡航	6.必修・選択の区分	選択必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～夏学期
8.履修可能な専攻	専門型プログラムとして、観光・社会問題であるので、観光関連授業の履修者が望ましい。			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件	・観光学科２年生以上で、担当教員による説明動画を視聴していること ・所定の学費を納入していること ・事前・事後学習、ならびに学内、学外に向けた活動報告会に参加すること	11.先修条件	このプログラムでは、観光戦略について議論・考察するため、以下を先修条件とする。 ・「リサーチ入門」を修得済みであること ・観光系科目を習得済みまたは履修中であること		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	学外学習（海外学習）　定員：20 人		
16.履修制限	一定の GPA に満たしていて、エントリシートを提出後、選抜された学生。希望する学生が多い時は面接を行う。				
17.授業の目的と概要	このプログラムの目的の一つ目は、少子化が進む韓国における先進的な観光政策を学び、その現場に直に触れることで、日本における観光戦略の方向性と具体案を見極めることである。合計特殊出生率 0.72、日本をはるかに上回るスピードで少子化が進行している韓国。国家戦略の柱として「観光大国」を目指しており、官民共同で様々なマーケティング活動を展開している。これら韓国の観光戦略を学び体験することで、今後さらに少子化が進行する日本における課題解決に役立てる。 このプログラムの目的の二つ目は、主に欧米などアジア圏外からの観光客				
18.学習目標とＤＰとの関連	このプログラムのテーマでは「少子化先進国」韓国から学ぶ今後の観光戦略と、インバウンド観光客向け日韓協業の可能性探求」て韓国の提携校教授・学生とともに、観光戦略を通じた社会問題の解決策や、観光産業における日韓協業について議論を行うことで下記のことができることを目標にする。 ① 少子化などの社会課題に強い関心を持ち、観光戦略と結び付けて思考することができる ② 日韓をはじめとする東アジアの歴史・文化に強い関心を持ち、基本的な知識を有する ③ 客観的な根拠を元にした自らの主体的意見を持ち、他者と建設的な議論ができる				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	事前学習・現場学習・事後学習・報告会、全てに１００％出席する状況で ４段階の振り返りのレポート、ディスカッション、PPT 資料作成、報告会での発表を合算して評価する。 事前学習 25％ 現場学習４０％ 事後学習２５％ 報告会　１０％				
22.コメント	国際的な感覚を持ち、貢献心、自発的、積極性、リーダーシップ、団体行動のルールを守るなど模範的な学生は 大歓迎します。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	9 月 9 日　事前学習　1 日目	全授業、パソコン持参
	9 月 10 日　事前学習　2 日目（国際交流課と HIS 旅行者からの出国前の説明など）	パソコン持参
	現場学習 9 月 1 1 日関西国際空港出発～ソウル着 （ソウル泊）　東横インソウル江南店 21 時日程と企画点検などの全体集合（門限）	パソコン持参
	現場学習　1 日目 9 月 13 日金 祥明（サンミョン）大学 ●訪問予定提携校と想定プログラム例（各 1 日、今後調整） ・祥明（サンミョン）大学 日韓コンテンツ学科 祥明大学の授業に参加し、韓国の観光戦略について理解を深める フィールドワークで、観光戦略関連施設を見学する（MICE・IR 施設など） 21 時全体集合（門限）1 日の振り返りとディスカッション	パソコン持参
	現場学習　2 日目 9 月 13 日金仁徳（インドク）大学 本学の参加学生が 4 人× 5 グループに分かれ、各グループに提携校から最低一人ずつ入っていただき、欧米からのインバウンド向け観光協業プランを企画立案する 21 時全体集合（門限）1 日の振り返りとディスカッション	
	現場学習　3 日目 9 月 1 4 日（土） DMZ（南北軍事分界線）ツアー （ソウル泊）東横インソウル江南店 ●DMZ（南北軍事分界線）ツアー（現地日帰りツアーに参加予定） 以下の施設を訪問し、南北分断の歴史と現状を体感するツアー ・南北分界線を流れる『臨津江（イムジンガン)』と、そこに架かる鉄道鉄橋『自由の橋』 ・南北分界線の向こう側、北朝鮮を望む『トラサン統一展望台』 ・北朝鮮が韓国侵攻のために掘った秘密トンネル『第 3 トンネル』 21 時全体集合（門限）1 日の振り返りとディスカッション	
	現場学習　4 日目 9 月 15 日（日）ロッテワールド　（ソウル泊） 東横インソウル江南店 ●韓国最大の屋内型テーマパークを体験し、韓国のテーマパークの現状を知る 21 日門限	

	現場学習　5 日目 9 月 16 日（月）ソウル市内観光ミッション （ソウル泊）東横インソウル江南店 ●自らソウル市内を移動して、韓国の歴史・文化・観光施設を訪問・体験する ２１時門限	
	現場学習　　帰国日 9 月 17 日（火）　　ソウル発、関西国際空港着　解散	
	事後学習　1 日目（3 限～5 限） 9 月 18 日（水）現場学習で学んだこと、失敗したこと、体験したこと、現場での調査内容、協定大学との交流会、DMZ 体験、テーマパークの体験など 振り返り、グループで発表資料作成	パソコン持参
	事後学習 2 日目 9 月 20 日金 PPT 作成分の発表し、10 月 26 日の報告会発表の練習と準備をする。	パソコン持参
	GS 報告会 10 月 26 日　報告会で発表実施（全員参加）	

1.授業コード（ナンバリング）	GLS103-A01	2.科目名	地域研究（北米圏）	3.単位数	2
4.授業担当教員	服部聡				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	１年～
10.取得資格の要件	副専攻（世界と日本を考える）	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	日本と比較しながら、アメリカという国の特徴を多面的に理解します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	アメリカについての基本的知識と理解のしかたを修得することを狙います。				
19.教科書・教材	久保文明ほか編『アメリカ政治　第３版』（有斐閣）				
20.参考文献					
21.成績評価	毎回の授業で提出するサマリーペーパーをＡＢＣの三段階で評価します。（合計４５点） 最後に筆記試験を課します。（合計５５点） 両方のスコアを合計して、１００点満点で最終的な成績評価を算出します。				
22.コメント	クラスの静粛と秩序を維持するために、私語に対しては厳しく対処します。改善が見られない場合は、出席取り消しや履修取り消しも検討します。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	アメリカ植民地の形成	プリントを配ります
第２回	アメリカの独立	プリントを配ります。
第３回	アメリカの連邦制　－連邦と州の関係	教科書の第９章を読んでくること。
第４回	アメリカの連邦制　－州内政治と州と州の関係	教科書の第９章を読んでくること。
第５回	大統領制のしくみ	教科書の第６章を読んでくること。
第６回	アメリカの議会制度　－上院と下院の関係	教科書の第７章を読んでくること。
第７回	司法の政治的役割	教科書の第８章を読んでくること。
第８回	アメリカの政党と利益集団について	教科書の第４章を読んでくること。
第９回	アメリカにおける移民問題	プリントを配ります。
第１０回	アメリカにおける黒人問題	教科書の第１２章を読んでくること。
第１１回	アメリカにおける女性問題	教科書の第 12 章を読んでくること。
第１２回	アメリカにおける環境問題	プリントを配ります。
第１３回	アメリカにおける宗教　－キリスト教の影響	教科書の第１１章を読んでくること。
第１４回	アメリカにおける政策形成過程	教科書の第５章を読んでくること。
第１５回	アメリカ外交と安全保障	教科書の第 13 章を読んでくること。

1.授業コード（ナンバリング）	GLS103-Y01	2.科目名	地域研究（北米圏）	3.単位数	2
4.授業担当教員	遠藤泰生				
5.授業科目の区分	基盤科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全専攻			9.履修学年	指定無し
10.取得資格の要件		11.先修条件	無し		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、アクティブ・ラーニング		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 植民地時代から現代までのアメリカ合衆国の歴史と文化を概観し、現代アメリカ社会を形づくる社会規範の生成と変成を学ぶ。2023 年度は、とくに、アメリカ社会を今なお強く規定する人種規範の歴史に注意を払いながら、アメリカの近代史を学ぶ。 【概要】 2020 年以来アメリカ社会を揺るがし世界の注目を集めた BLM(Black Lives Matter)運動の起源を、18、19 世紀の歴史に学ぶ。政治文書にとどまらず、文学表象、絵画、映画など多様なメディアに刻まれた時代の息吹に触れることで、立体的で奥行きの				
18.学習目標とＤＰとの関連	人種をめぐる問題が切迫した問題として意識されにくい日本社会に私たちは生きている。そのため、アメリカ合衆国の問題をともすれば遠い国の問題として捉えがちになる。しかし、グローバル化が進む 21 世紀を生きるには、そのような意識をあらため、異なる文化を持つ異なる民族と共生する姿勢を積極的に学ぶ必要がある。その意味で、学術上の知識を単なる書物の中の知識としてでなく、私たちが世界の人々と共に生きる実践的な知に繋げることが授業の学習目標となる。より具体的な目標は以下となる。 ①　18 世紀、19 世紀における合衆国の歴史と文化を学び、問題を発見する能力を培う。 ②　異なる文化を持つ多くの民族が共生するうえでの困難や問題点を理解し、問題を解決する視野をひろげる。 ③　黒人奴隷制度が合衆国に根付いた歴史とその遺産を学ぶ。 ④　①から③を学ぶことで、異文化と共生するのに必要な多様性の理解を深める。				
19.教科書・教材	遠藤泰生・小田悠生編『はじめて学ぶ　アメリカの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2023）				
20.参考文献	1　フレデリック・ダグラス著/専修大学文学部歴史学科南北アメリカ史研究会訳『アメリカの奴隷制を生きるーーフレデリック・ダグラス自伝』（彩流社、2016） 2　その他、授業のテーマを理解するのに助けとなる資料を事前に Webclass で指示、配布する。				
21.成績評価	学期中に複数回求める歴史地図の提出　　ーー　30 点（目標①に対応） 教科書の指定箇所を対象とする小テストとリアクション・ペーパー　ーー　20 点（目標②③に対応） 学期中に鑑賞する映画の感想文　　ーー　10 点（目標②③に対応） 総括試験　　ーー　40 点　（目標④に対応） すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計 60％以上の評価で合格となる。				
22.コメント	授業中に疑問に思ったこと、驚いたことなど、積極的に質問、発言してくれて構わない。講義の間に課題読書を素材にさまざまの問いかけをするので、ためらわずに答えること。 映画感想等は、自分の言葉で必ず綴ること。ネットからの無断引用が見つかった場合、理由の如何によらず、履修単位は取得できない。日本語の正しい表記が、評価の重要な基準となる。				
23.オフィスアワー	授業直後の昼休み、または事前に予約した時間。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	講義　「導入：アメリカ合衆国の歴史と文化を学ぶ視点」	予習：教科書『歴史と文化』「歴史の扉 1 」 復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 2 回	講義　「先住民社会とアメリカ：First Nation の多様性」	予習：教科書『歴史と文化』「第 1 章」 復習：今回の復習および授業ノートの整理 提出：「アメリカ 50 州の州名記入図」（白地図データは Webclass で配布）
第 3 回	講義　「ピューリタニズムの神話」	予習：教科書『歴史と文化』「第 2 章」「歴史の扉 2 」 復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 4 回	講義　「近代アメリカにおける寛容の発生：政教分離」	予習：教科書『歴史と文化』「歴史の扉 6」 復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 5 回	講義　「独立戦争の神話：独立と相互承認」	予習：教科書『歴史と文化』「第 3 章」 復習：今回の復習および授業ノートの整理 提出：「独立 13 植民地図」（白地図データは Webclass で配布）
第 6 回	講義　「合衆国連邦憲法の成立：三権分立と大共和国論」	予習：教科書『歴史と文化』「第 4 章」 復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 7 回	講義　「南北アメリカにおける黒人奴隷制社会の誕生」	予習：教科書『歴史と文化』「歴史の扉 3 」 復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 8 回	講義　「近代アメリカにおける黒人奴隷制社会の発展」	予習：トマス・ジェファソン『ヴァージニア覚え書き』指定箇所。資料は Webclass で配布。 復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 9 回	映画鑑賞　「アメリカ南部社会論の系譜ーー映画『それでも夜は明ける』鑑賞」	予習：なし 復習：今回の復習および授業ノートの整理 提出：『それでも夜は明ける』の感想文を次週までに Webclass で提出。日本語で 1200 字以内。(Within 500 Words in English.)
第 10 回	講義　「アメリカ女権運動の黎明」	予習：教科書『歴史と文化』「第 5 章」「歴史の扉 9 」 復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 11 回	講義　「セクショナリズムの時代」	予習：教科書『歴史と文化』 「第 5 章」「歴史の扉 7」 復習：今回の復習および授業ノートの整理 提出：「歴史地図ー1850 年における奴隷州と自由州の色別図示」（白地図データは Webclass で配布）
第 12 回	講義　「南北戦争の勃発と新しい国民の誕生」	予習：教科書『歴史と文化』 「第 6 章」 復習：今回の復習および授業ノートの整理

第 13 回	講義　「占領と再建：人種正義の試練」	予習：教科書『歴史と文化』「第 7 章」 復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 14 回	講義　「二つのゲティスバーグ演説：BLM の淵源」	予習：教科書『歴史と文化』「第 8 章」 復習：総括試験に備え、今学期のノート全体をあらためて読み返す。
第 15 回	総括と理解の確認　「総括テスト」	予習：教科書『歴史と文化』の内容確認。今学期指定された箇所を読み直す。

1.授業コード（ナンバリング）	GLS103-m01	2.科目名	地域研究（北米圏）	3.単位数	2
4.授業担当教員	服部聡				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	１年～
10.取得資格の要件	副専攻（世界と日本を考える）	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	日本と比較しながら、アメリカという国の特徴を多面的に理解します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	アメリカについての基本的知識と理解のしかたを修得することを狙います。				
19.教科書・教材	久保文明ほか編『アメリカ政治　第３版』（有斐閣）				
20.参考文献					
21.成績評価	毎回の授業で提出するサマリーペーパーをＡＢＣの三段階で評価します。（合計４５点） 最後に筆記試験を課します。（合計５５点） 両方のスコアを合計して、１００点満点で最終的な成績評価を算出します。				
22.コメント	クラスの静粛と秩序を維持するために、私語に対しては厳しく対処します。改善が見られない場合は、出席取り消しや履修取り消しも検討します。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	アメリカ植民地の形成	プリントを配ります
第２回	アメリカの独立	プリントを配ります。
第３回	アメリカの連邦制　－連邦と州の関係	教科書の第９章を読んでくること。
第４回	アメリカの連邦制　－州内政治と州と州の関係	教科書の第９章を読んでくること。
第５回	大統領制のしくみ	教科書の第６章を読んでくること。
第６回	アメリカの議会制度　－上院と下院の関係	教科書の第７章を読んでくること。
第７回	司法の政治的役割	教科書の第８章を読んでくること。
第８回	アメリカの政党と利益集団について	教科書の第４章を読んでくること。
第９回	アメリカにおける移民問題	プリントを配ります。
第１０回	アメリカにおける黒人問題	教科書の第１２章を読んでくること。
第１１回	アメリカにおける女性問題	教科書の第 12 章を読んでくること。
第１２回	アメリカにおける環境問題	プリントを配ります。
第１３回	アメリカにおける宗教　－キリスト教の影響	教科書の第１１章を読んでくること。
第１４回	アメリカにおける政策形成過程	教科書の第５章を読んでくること。
第１５回	アメリカ外交と安全保障	教科書の第 13 章を読んでくること。

1.授業コード（ナンバリング）	GLS106-A01	2.科目名	日本文化論	3.単位数	2
4.授業担当教員	西川真理子				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、文学作品と伝統芸能から日本文化にアプローチし、時代が移り変わっても感動を覚える「普遍性」について考える。 【概要】前半では、古典文学、芸能について学び、視聴覚資料も用いて理解を深める。また、後半は指定テキストを用いて芥川龍之介の作品について学び、映画などの現代芸術にも触れる。これらのことから、日本における文化的歴史的特性を知ると同時に、真の国際人となるための視野を養う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①文化の普遍性について理解できる。 ②日本の伝統芸能についての理解を深め、知識が持てる。 ③文化に対する視点を養うことができる。 ④特定のトピックの日本文化について説明ができる。				
19.教科書・教材	プリントを授業中に配付する。				
20.参考文献	新潮文庫『文豪ナビ　芥川龍之介』（新潮社）2004　ISBN:4-10-102500-2 C0195 その他、随時、授業の中で紹介する。				
21.成績評価	①小課題：２０％（川柳：5 点、映画『羅生門』：5 点、特別講演会：10 点）） ②小テスト：１０％（２回実施） ③中間テスト：２５％（100 点満点を 20%に換算） ④総括テスト：３５％（100 点満点を 35%に換算） ⑤学外見学レポート：１０％				
22.コメント	授業で使用した PPT や、配付資料は WebClass で随時公開していきます。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 4/8	ガイダンス ・授業のねらいと運用について説明する。	
【第 2 回】 4/15	川柳を知る・作る ・韻文と散文の違い、短歌と川柳の違い、川柳とはどのようなものかについて学ぶ。 ・自身の大学生活を見つめなおし、川柳を作る。●＜小課題 1 ＞ ・学外見学について	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ★期日までに指定された Webclass へ 1～2 句の川柳を投稿する。：＜小課題 1＞（60 分） ★期日までに学外見学を実施し、所定のレポートを提出する。：＜学外見学レポート＞（予備学習＋現地での活動＋レポート作成：(300 分）
【第 3 回】 4/22	作品の舞台を知る ・王朝文学の傑作である『源氏物語』が書かれた時代背景を知る。 ・身近な場所を舞台として描かれた巻について学ぶ。 ・学外見学について	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○第 5 回授業で実施する＜小テスト①＞（源氏物語・巻の名）の準備を行う。(30 分) ○中間テストに向けての準備を行う。(30 分)

【第 4 回】 5/13	語りの文学とは ・『平家物語』を琵琶の語りによって鑑賞する。 ・『平家物語』の基礎知識について学ぶ。	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○第 5 回授業で実施する＜小テスト①＞（源氏物語・巻の名）の準備を行う。(30 分) ○中間テストに向けての準備を行う。(30 分)
【第 5 回】 5/20	古典芸能（１） 能を鑑賞しながら、能の基礎知識について学ぶ。●＜小テスト①＞	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○中間テストに向けての準備を行う。(30 分)
【第 6 回】 5/27	古典芸能（２） 文楽を鑑賞しながら、文楽の基礎知識について学ぶ。	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○中間テストに向けての準備を行う。(60 分)
【第 7 回】 6/1 6/3 の振替	【特別講義】文楽　講師：桐竹勘十郎先生 ※この回のみ、6/1（土）午後（時間は 3 限か 4 限で調整中）尼崎キャンパスで開講。	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○中間テストに向けての準備を行う。(60 分) ★期日までに指定された様式で提出する。：＜小課題 2 ＞（60 分）
【第 8 回】 6/10	古典芸能（３） 歌舞伎を鑑賞しながら、歌舞伎の基礎知識について学ぶ。 ・中間テストについて	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○中間テストの内容について復習する。(60 分)
【第 9 回】 6/17	中間テスト これまでの内容を再確認し、評価する。 ・＜小テスト②＞の範囲について（プリント配付）	○第 12 回授業で実施する＜小テスト②＞（月の異名、十二支）の準備を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/24	古典芸能（４） ・落語の歴史について学び、落語を鑑賞する。	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○第 12 回授業で実施する＜小テスト②＞（月の異名、十二支）の準備を行う。(90 分) ○総括テストに向けての準備を行う。(30 分)
【第 11 回】 7/1	現代の芸術（１） ・演劇やミュージカルとは一線を画す宝塚歌劇の特徴について、上演作品を鑑賞しながら考える。	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○第 12 回授業で実施する＜小テスト②＞（月の異名、十二支）の準備を行う。(90 分)○総括テストに向けての準備を行う。(30 分)
【第 12 回】 7/8	現代の芸術（２） 芥川龍之介の小説『藪の中』をモチーフとする映画『羅生門』(監督：黒澤明）を見るための事前学修。 ●小テスト②	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○総括テストに向けての準備を行う。(60 分)
【第 13 回】 7/15	現代の芸術（３）－① 芥川龍之介の小説『藪の中』をモチーフとする映画『羅生門』(監督：黒澤明）を鑑賞する。●＜小課題 3 ＞	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○総括テストに向けての準備を行う。(60 分) ★期日までに指定された様式で提出する。：＜小課題 3＞（60 分）
【第 14 回】 7/22	現代の芸術（３）-② ・芥川龍之介の人生と人物像について学ぶ。 ・総括テストについて ・課題提出状況について	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○総括テストに向けての準備を行う。(60 分)
【第 15 回】 7/29	総括テスト：理解度を確認し、評価する。 ・授業アンケートの実施。	

1.授業コード（ナンバリング）	GLS106-M01	2.科目名	日本文化論	3.単位数	2
4.授業担当教員	上村和美				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、文学作品と伝統芸能から日本文化にアプローチし、時代が移り変わっても感動を覚える「普遍性」について考える。 【概要】前半では、古典文学、芸能について学び、視聴覚資料も用いて理解を深める。また、後半は指定テキストを用いて芥川龍之介の作品について学び、映画などの現代芸術にも触れる。これらのことから、日本における文化的歴史的特性を知ると同時に、真の国際人となるための視野を養う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①文化の普遍性について理解できる。 ②日本の伝統芸能についての理解を深め、知識が持てる。 ③文化に対する視点を養うことができる。 ④特定のトピックの日本文化について説明ができる。				
19.教科書・教材	プリントを授業中に配付する。				
20.参考文献	新潮文庫『文豪ナビ　芥川龍之介』（新潮社）2004　ISBN:4-10-102500-2 C0195 その他、随時、授業の中で紹介する。				
21.成績評価	①小課題：１０％（川柳：3 点、映画『羅生門』：3 点、特別講演会：4 点）） ②小テスト：１０％（２回実施） ③中間テスト：２5%（100 点満点を 20%に換算） ④作品の暗誦：１０％ ⑤総括テスト：３５％（100 点満点を 35%に換算） ⑥学外見学レポート：１０％				
22.コメント	授業で使用した PPT や、配付資料は WebClass で随時公開していきます。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：曜日・限 センターオフィスアワー：曜日・限（水竿館 2 階 ALR）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 4/9	ガイダンス ・授業のねらいと運用について説明する。	
【第 2 回】 4/16	作品の舞台を知る ・王朝文学の傑作である『源氏物語』が書かれた時代背景を知る。 ・身近な場所を舞台として描かれた巻について学ぶ。 ・学外見学について	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ★期日までに指定された Webclass へ 1～2 句の川柳を投稿する。：＜小課題 1＞（60 分） ★期日までに学外見学を実施し、所定のレポートを提出する。：＜学外見学レポート＞（予備学習＋現地での活動＋レポート作成：(300 分） ○4 作品中から暗誦課題を選び、7 月末までに暗誦を完成する。(300 分)
【第 3 回】 4/23	川柳を知る・作る ・韻文と散文の違い、短歌と川柳の違い、川柳とはど	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○第 5 回授業で実施する＜小テスト①＞（源

	のようなものかについて学ぶ。 ・自身の大学生活を見つめなおし、川柳を作る。●＜小課題１＞	氏物語・巻の名）の準備を行う。(30 分) ○中間テストに向けての準備を行う。(30 分)
【第 4 回】 4/30	語りの文学とは ・『平家物語』を琵琶の語りによって鑑賞する。 ・『平家物語』の基礎知識について学ぶ。	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○第 5 回授業で実施する＜小テスト①＞（源氏物語・巻の名）の準備を行う。(30 分) ○中間テストに向けての準備を行う。(30 分)
【第 5 回】 5/7	古典芸能（１） 能を鑑賞しながら、能の基礎知識について学ぶ。●＜小テスト①＞	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○第 5 回授業で実施する＜小テスト①＞（源氏物語・巻の名）の準備を行う。(30 分) ○中間テストに向けての準備を行う。(30 分)
【第 6 回】 5/14	古典芸能（２） 歌舞伎を鑑賞しながら、歌舞伎の基礎知識について学ぶ。 ・中間テストについて	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○中間テストに向けての準備を行う。(60 分)
【第 7 回】 5/21	古典芸能（３） ・落語の歴史について学び、落語を鑑賞する。	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○中間テストに向けての準備を行う。(60 分)
【第 8 回】 5/28	古典芸能（４） ・文楽を鑑賞しながら、文楽の基礎知識について学ぶ。	○第 11 回授業で実施する＜小テスト②＞（月の異名、十二支）の準備を行う。(60 分)
【第 9 回】 6/1 ※特別講義を尼崎キャンパスで実施。6/4 の振替。	【特別講義】文楽　講師：桐竹勘十郎先生 ※この回のみ、6/1（土）午後（時間は 3 限か 4 限で調整中）尼崎キャンパスで開講。	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○中間テストの内容について復習する。(60 分) ○第 11 回授業で実施する＜小テスト②＞（月の異名、十二支）の準備を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/11	中間テスト これまでの内容を再確認し、評価する。 ・＜小テスト②＞の範囲について（プリント配付）	★＜小課題２＞を総括テスト実施日（7/30）までに提出する。(60 分) ○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○テキスト『文豪ナビ　芥川龍之介』全体に目を通して、印象に残った個所にマーキングしておく。(90 分) ○第 11 回授業で実施する＜小テスト②＞（月の異名、十二支）の準備を行う。(90 分) ○総括テストに向けての準備を行う。(60 分)
【第 11 回】 6/18	現代の芸術（１） ・演劇やミュージカルとは一線を画す宝塚歌劇の特徴について、上演作品を鑑賞しながら考える。	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○総括テストに向けての準備を行う。(30 分)
【第 12 回】 6/25	現代の芸術（２） 芥川龍之介の小説『藪の中』をモチーフとする映画『羅生門』（監督：黒澤明）を見るための事前学修。 ●小テスト②	○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○総括テストに向けての準備を行う。(30 分)
【第 13 回】	現代の芸術（３）－①	○配付された資料を見て、復習する。(15 分)

7/2	芥川龍之介の小説『藪の中』をモチーフとする映画『羅生門』（監督：黒澤明）を鑑賞する。●＜小課題２＞	○総括テストに向けての準備を行う。（60 分）
【第 14 回】 7/9	現代の芸術（３）-② ・芥川龍之介の人生と人物像について学ぶ。 ・総括テストについて ・課題提出状況について	○配付された資料を見て、復習する。（15 分） ○総括テストに向けての準備を行う。（60 分）
【第 15 回】 7/16	総括テスト：理解度を確認し、評価する。 ・授業アンケートの実施。	

1.授業コード（ナンバリング）	HET101-A01	2.科目名	生涯ｽﾎﾟｰﾂⅠ		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　保育士　幼稚園一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実技			
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・13 回実技評価：66 点→学習目標①～④に対応 第 8 回課題：10 点→学習目標①～④に対応 第 15 回課題：16 点→学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グランドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると 見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	【オリエンテーション　】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成	【持参物】筆記用具

	(受講希望者が２０名を越える場合は、第１回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第 2 回】	【実技】 「インディアカ」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 3 回】	【実技】 「バドミントン(1) 」 ・種目紹介　・ルールの理解 ・ペアのコミュニケーションドリル　・ダブルスゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 4 回】	【実技】 「バドミントン(2)」　・ショットの打ち分け　・シングルスゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 5 回】	【実技】 「卓球」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 6 回】	【実技】 「バレーボール(1)」　・種目紹介　・肩慣らしからパスワーク ・サーブを確実に　・ルール説明　・ゲームシュミレーション	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 7 回】	【実技】 「バレーボール(2)」　・基本スキルの確認　・レシーブドリル ・アタックとブロックモーション　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 8 回】	【講義】 「中間レポート 」　課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具 ★レポート提出
【第 9 回】	【実技】 「ドッチビー」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレー

		ニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 10 回】	【実技】 「アルティメット」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 11 回】	【実技】 「フットサル」　・種目紹介　　・基本スキルを習得 ・ルールの理解　　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 12 回】	【実技】 「バスケットボール(1)」　・種目紹介　　・基本スキルを習得 ・ルールの理解　　・ゲームシュミレーション	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 13 回】	【実技】 「バスケットボール(2)」　・基本スキルの確認　・応用ドリル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技種目の振り返りとまとめ」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第 15 回】	【講義】 「学期末レポート」　課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、 映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード（ナンバリング）	HET101-A02	2.科目名	生涯ｽﾎﾟｰﾂⅠ	3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。				
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。				
19.教科書・教材	教科書は使いません。				
20.参考文献	必要に応じて紹介します。				
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・13 回実技評価：66 点→学習目標①～④に対応 第 8 回課題：10 点→学習目標①～④に対応 第 15 回課題：16 点→学習目標①～④に対応				
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グランドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると 見なします。装着の場合は、減点対象となります。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	【オリエンテーション　】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成	【持参物】筆記用具

	(受講希望者が２０名を越える場合は、第１回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第 2 回】	【実技】 「インディアカ」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 3 回】	【実技】 「バドミントン(1) 」 ・種目紹介　・ルールの理解 ・ペアのコミュニケーションドリル　・ダブルスゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 4 回】	【実技】 「バドミントン(2)」　・ショットの打ち分け　・シングルスゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 5 回】	【実技】 「卓球」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 6 回】	【実技】 「バレーボール(1)」　・種目紹介　・肩慣らしからパスワーク ・サーブを確実に　・ルール説明　・ゲームシュミレーション	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 7 回】	【実技】 「バレーボール(2)」　・基本スキルの確認　・レシーブドリル ・アタックとブロックモーション　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 8 回】	【講義】 「中間レポート 」　課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具 ★レポート提出
【第 9 回】	【実技】 「ドッチビー」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレー

		ニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 10 回】	【実技】 「アルティメット」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 11 回】	【実技】 「フットサル」　・種目紹介　　・基本スキルを習得 ・ルールの理解　　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 12 回】	【実技】 「バスケットボール(1)」　・種目紹介　　・基本スキルを習得 ・ルールの理解　　・ゲームシュミレーション	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 13 回】	【実技】 「バスケットボール(2)」　・基本スキルの確認　・応用ドリル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技種目の振り返りとまとめ」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第 15 回】	【講義】 「学期末レポート」　課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、 映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード（ナンバリング）	HET101-A71	2.科目名	生涯ｽﾎﾟｰﾂⅠ	3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。				
17.授業の目的と概要	目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。				
18.学習目標と　ＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。				
19.教科書・教材	教科書は使いません。				
20.参考文献	必要に応じて紹介します。				
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・5・6・8・9・11・12・13 回実技評価：54 点→学習目標①～④に対応 第 4・7・10 回課題:24 点→学習目標①に対応 第 14・15 回課題：14 点→学習目標①～④に対応				
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると 見なします。装着の場合は、減点対象となります。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	【オリエンテーション　】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成	◆筆記用具◆
【第 2 回】	【実技　】 「インディアカ」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲ	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。

	ーム形式	【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 3 回】	【実技　】 「バドミントン」 ・種目紹介　　・ルールの理解 ・ペアのコミュニケーションドリル　・ダブルスゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 4 回】	【講義】 「健康管理（救急法・救急搬送を含む）について考える」 ・講義概要をまとめ、感想を加え課題を作成	★課題提出 ◆筆記用具◆
【第 5 回】	【実技　】 「卓球」　・種目紹介　・基本スキル　・ダブルスゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 6 回】	【実技　】 「バレーボール」　・種目紹介　・肩慣らしからパスワーク ・サーブを確実に　・ルール説明　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 7 回】	【講義】 「中間レポート 」　課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	★レポート提出 ◆筆記用具◆
【第 8 回】	【実技　】 『ドッチビー」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 9 回】	【実技　】 「アルティメット」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 10 回】	【講義】 『大学スポーツの組織育成について」 ・講義概要をまとめ、感想を加え課題を作成	★課題提出 ◆筆記用具◆
【第 11 回】	【実技　】 「屋内ペタンク」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 12 回】	【実技　】 「フットサル」　・種目紹介　　・基本スキルを習得 ・ルールの理解　　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技　】 「バスケットボール」　・基本スキル　・応用ドリル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「振り返りとまとめ」	◆筆記用具◆
【第 15 回】	【講義】 「学期末レポート」　課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、 映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	★レポート提出 ◆筆記用具◆

1.授業コード（ナンバリング）	HET101-M01	2.科目名	生涯ｽﾎﾟｰﾂⅠ	3.単位数	1
4.授業担当教員	土肥隆				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　保育士　幼稚園一種	11.先修条件	秋学期開講科目「生涯スポーツⅡ」を合わせて履修することがのぞましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実技		
16.履修制限	20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。				
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。				
19.教科書・教材	教科書は使いません。				
20.参考文献	必要に応じて紹介します。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 第 1 回:受講理由と目標：5 点　・・・　学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・13・14 回実技評価：55 点　・・・　学習目標①～④に対応 第 8 回：中間レポート：10 点　・・・　学習目標①に対応 第 12 回：最終レポート：20 点・・・　学習目標①～④に対応 第 15 回：ふりかえりシート：10 点・・・　学習目標①～④に対応				
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グランドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。				
23.オフィスアワー	月曜日・昼休み 体育館教員控え室				
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)		

【第 1 回】	【オリエンテーション】 　授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 「受講理由と目標」作成	提出物：「受講理由と目標」 持参物：筆記用具
【第 2 回】	【実技】 バレーボール-1 ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 3 回】	【実技】 バレーボール-2 ウォーミングアップ、グループごとで練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 4 回】	【実技】 ソフトボール又はフットサル-1 ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 5 回】	【実技】 ソフトボール又はフットサル-2 ウォーミングアップ、グループごとで練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 6 回】	【実技】 アルティメット-1 ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 7 回】	【実技】 アルティメット-2 ウォーミングアップ、グループごとで練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 8 回】	【講義】 中間レポート テーマは当日発表する	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第 9 回】	【実技】 バドミントン-1 シングルス ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 10 回】	【実技】 バドミントン-2 ダブルス ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ

【第 11 回】	【実技】 バドミントン-3 団体戦 ウォーミングアップ、グループごとで練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 12 回】	【講義】 最終レポートのテーマ、作成方法、書式等に関する講義	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第 13 回】	【実技】 ニュースポーツ又はバスケットボール-1 ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 14 回】	【実技】 ニュースポーツ又はバスケットボール-2 ウォーミングアップ、グループごとで練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦） 最終レポート提出	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 15 回】	【講義】 今期のふりかえり ふりかえりシート提出	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具

1.授業コード（ナンバリング）	HET101-M02	2.科目名	生涯ｽﾎﾟｰﾂⅠ	3.単位数	1
4.授業担当教員	土肥隆				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　保育士　幼稚園一種	11.先修条件	秋学期開講科目「生涯スポーツⅡ」を合わせて履修することがのぞましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実技		
16.履修制限	20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。				
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。				
19.教科書・教材	教科書は使いません。				
20.参考文献	必要に応じて紹介します。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 第 1 回:受講理由と目標：5 点　・・・　学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・13・14 回実技評価：55 点　・・・　学習目標①～④に対応 第 8 回：中間レポート：10 点　・・・　学習目標①に対応 第 12 回：最終レポート：20 点・・・　学習目標①～④に対応 第 15 回：ふりかえりシート：10 点・・・　学習目標①～④に対応				
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グランドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。				
23.オフィスアワー	月曜日・昼休み 体育館教員控え室				
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)		

【第 1 回】	【オリエンテーション】 　授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 「受講理由と目標」作成	提出物：「受講理由と目標」 持参物：筆記用具
【第 2 回】	【実技】 バレーボール-1 ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 3 回】	【実技】 バレーボール-2 ウォーミングアップ、グループごとで練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 4 回】	【実技】 ソフトボール又はフットサル-1 ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 5 回】	【実技】 ソフトボール又はフットサル-2 ウォーミングアップ、グループごとで練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 6 回】	【実技】 アルティメット-1 ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 7 回】	【実技】 アルティメット-2 ウォーミングアップ、グループごとで練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 8 回】	【講義】 中間レポート テーマは当日発表する	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第 9 回】	【実技】 バドミントン-1 シングルス ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 10 回】	【実技】 バドミントン-2 ダブルス ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ

【第 11 回】	【実技】 バドミントン-3 団体戦 ウォーミングアップ、グループごとで練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 12 回】	【講義】 最終レポートのテーマ、作成方法、書式等に関する講義	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第 13 回】	【実技】 ニュースポーツ又はバスケットボール-1 ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 14 回】	【実技】 ニュースポーツ又はバスケットボール-2 ウォーミングアップ、グループごとで練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦） 最終レポート提出	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 15 回】	【講義】 今期のふりかえり ふりかえりシート提出	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具

1.授業コード（ナンバリング）	HET101-M03	2.科目名	生涯ｽﾎﾟｰﾂⅠ		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　保育士　幼稚園一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実技			
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・13 回実技評価：66 点→学習目標①～④に対応 第 8 回課題：10 点→学習目標①～④に対応 第 15 回課題：16 点→学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グランドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると 見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	【オリエンテーション　】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成	◆筆記用具◆

	(受講希望者が２０名を越える場合は、第１回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第 2 回】	【実技】 「インディアカ」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 3 回】	【実技】 「バドミントン(1) 」 ・種目紹介　・ルールの理解 ・ペアのコミュニケーションドリル　・ダブルスゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 4 回】	【実技】 「バドミントン(2)」　・ショットの打ち分け　・シングルスゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 5 回】	【実技】 「卓球」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 6 回】	【実技】 「バレーボール(1)」　・種目紹介　・肩慣らしからパスワーク ・サーブを確実に　・ルール説明　・ゲームシュミレーション	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 7 回】	【実技】 「バレーボール(2)」　・基本スキルの確認　・レシーブドリル ・アタックとブロックモーション　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 8 回】	【講義】 「中間レポート 」　課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具 ★レポート提出
【第 9 回】	【実技】 「ドッチビー」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレー

		ニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ◆
【第 10 回】	【実技】 「アルティメット」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・運動場用シューズ
【第 11 回】	【実技】 「フットサル」　・種目紹介　　・基本スキルを習得 ・ルールの理解　　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・運動場用シューズ
【第 12 回】	【実技】 「バスケットボール(1)」　・種目紹介　　・基本スキルを習得 ・ルールの理解　　・ゲームシュミレーション	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 13 回】	【実技】 「バスケットボール(2)」　・基本スキルの確認　・応用ドリル　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技種目の振り返りとまとめ」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第 15 回】	【講義】 「学期末レポート」　課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、 映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード（ナンバリング）	HET101-M71	2.科目名	生涯ｽﾎﾟｰﾂⅠ	3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。				
17.授業の目的と概要	目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。				
19.教科書・教材	教科書は使いません。				
20.参考文献	必要に応じて紹介します。				
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・5・6・8・9・11・12・13 回実技評価：54 点→学習目標①～④に対応 第 4・7・10 回課題:24 点→学習目標①に対応 第 14・15 回課題：14 点→学習目標①～④に対応				
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると 見なします。装着の場合は、減点対象となります。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	【オリエンテーション　】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成	◆筆記用具◆
【第 2 回】	【実技　】 「インディアカ」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲ	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。

	ーム形式	【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 3 回】	【実技　】 「バドミントン」 ・種目紹介　　・ルールの理解 ・ペアのコミュニケーションドリル　・ダブルスゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 4 回】	【講義】 「健康管理（救急法・救急搬送を含む）について考える」 ・講義概要をまとめ、感想を加え課題を作成	★課題提出 ◆筆記用具◆
【第 5 回】	【実技　】 「卓球」　・種目紹介　・基本スキル　・ダブルスゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 6 回】	【実技　】 「バレーボール」　・種目紹介　・肩慣らしからパスワーク ・サーブを確実に　・ルール説明　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 7 回】	【講義】 「中間レポート 」　課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	★レポート提出 ◆筆記用具◆
【第 8 回】	【実技　】 『ドッチビー」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 9 回】	【実技　】 「アルティメット」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 10 回】	【講義】 『大学スポーツの組織育成について」 ・講義概要をまとめ、感想を加え課題を作成	★課題提出 ◆筆記用具◆
【第 11 回】	【実技　】 「屋内ペタンク」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 12 回】	【実技　】 「フットサル」　・種目紹介　　・基本スキルを習得 ・ルールの理解　　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技　】 「バスケットボール」　・基本スキル　・応用ドリル　・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「振り返りとまとめ」	◆筆記用具◆
【第 15 回】	【講義】 「学期末レポート」　課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、 映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	★レポート提出 ◆筆記用具◆

1.授業コード（ナンバリング）	HET101-Y01	2.科目名	生涯ｽﾎﾟｰﾂⅠ	3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。				
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。				
19.教科書・教材	教科書は使いません。				
20.参考文献	必要に応じて紹介します。				
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・13 回実技評価：66 点→学習目標①～④に対応 第 8 回課題：10 点→学習目標①～④に対応 第 15 回課題：16 点→学習目標①～④に対応				
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グランドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると 見なします。装着の場合は、減点対象となります。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	【オリエンテーション　】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成	◆筆記用具◆

	(受講希望者が２０名を越える場合は、第１回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第２回】	【実技】 「インディアカ」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第３回】	【実技】 「バドミントン(1) 」 ・種目紹介　・ルールの理解 ・ペアのコミュニケーションドリル　・ダブルスゲーム	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第４回】	【実技】 「バドミントン(2)」　・ショットの打ち分け　・シングルスゲーム	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第５回】	【実技】 「屋内ペタンク」・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第６回】	【実技】 「バレーボール(1)」　・種目紹介　・肩慣らしからパスワーク ・サーブを確実に　・ルール説明　・ゲームシュミレーション	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第７回】	【実技】 「バレーボール(2)」　・基本スキルの確認　・レシーブドリル ・アタックとブロックモーション　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第８回】	【講義】 「中間レポート 」　課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具◆ ★レポート提出
【第９回】	【実技】 「ドッチビー」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレー

		ニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 10 回】	【実技】 「アルティメット」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 11 回】	【実技】 「フットサル」　・種目紹介　　・基本スキルを習得 ・ルールの理解　　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 12 回】	【実技】 「バスケットボール(1)」　・種目紹介　　・基本スキルを習得 ・ルールの理解　　・ゲームシュミレーション	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 13 回】	【実技】 「バスケットボール(2)」　・基本スキルの確認　・応用ドリル　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技種目の振り返りとまとめ」	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具◆
【第 15 回】	【講義】 「学期末レポート」　課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、 映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具◆ ★レポート提出

1.授業コード（ナンバリング）	HET101-Y02	2.科目名	生涯ｽﾎﾟｰﾂⅠ	3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。				
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。				
19.教科書・教材	教科書は使いません。				
20.参考文献	必要に応じて紹介します。				
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・13 回実技評価：66 点→学習目標①～④に対応 第 8 回課題：10 点→学習目標①～④に対応 第 15 回課題：16 点→学習目標①～④に対応				
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グランドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると 見なします。装着の場合は、減点対象となります。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	【オリエンテーション　】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成	◆筆記用具◆

	(受講希望者が２０名を越える場合は、第１回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第２回】	【実技】 「インディアカ」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第３回】	【実技】 「バドミントン(1) 」 ・種目紹介　・ルールの理解 ・ペアのコミュニケーションドリル　・ダブルスゲーム	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第４回】	【実技】 「バドミントン(2)」　・ショットの打ち分け　・シングルスゲーム	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第５回】	【実技】 「屋内ペタンク」・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第６回】	【実技】 「バレーボール(1)」　・種目紹介　・肩慣らしからパスワーク ・サーブを確実に　・ルール説明　・ゲームシュミレーション	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第７回】	【実技】 「バレーボール(2)」　・基本スキルの確認　・レシーブドリル ・アタックとブロックモーション　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第８回】	【講義】 「中間レポート 」　課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具◆ ★レポート提出
【第９回】	【実技】 「ドッチビー」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレー

		ニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 10 回】	【実技】 「アルティメット」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 11 回】	【実技】 「フットサル」　・種目紹介　　・基本スキルを習得 ・ルールの理解　　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 12 回】	【実技】 「バスケットボール(1)」　・種目紹介　　・基本スキルを習得 ・ルールの理解　　・ゲームシュミレーション	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 13 回】	【実技】 「バスケットボール(2)」　・基本スキルの確認　・応用ドリル　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技種目の振り返りとまとめ」	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具◆
【第 15 回】	【講義】 「学期末レポート」　課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、 映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具◆ ★レポート提出

1.授業コード（ナンバリング）	HET101-Y03	2.科目名	生涯ｽﾎﾟｰﾂⅠ	3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。				
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。				
19.教科書・教材	教科書は使いません。				
20.参考文献	必要に応じて紹介します。				
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・13 回実技評価：66 点→学習目標①～④に対応 第 8 回課題：10 点→学習目標①～④に対応 第 15 回課題：16 点→学習目標①～④に対応				
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グランドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると 見なします。装着の場合は、減点対象となります。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	【オリエンテーション　】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成	◆筆記用具◆

	(受講希望者が２０名を越える場合は、第１回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第２回】	【実技】 「インディアカ」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第３回】	【実技】 「バドミントン(1) 」 ・種目紹介　・ルールの理解 ・ペアのコミュニケーションドリル　・ダブルスゲーム	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第４回】	【実技】 「バドミントン(2)」　・ショットの打ち分け　・シングルスゲーム	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第５回】	【実技】 「屋内ペタンク」・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第６回】	【実技】 「バレーボール(1)」　・種目紹介　・肩慣らしからパスワーク ・サーブを確実に　・ルール説明　・ゲームシュミレーション	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第７回】	【実技】 「バレーボール(2)」　・基本スキルの確認　・レシーブドリル ・アタックとブロックモーション　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第８回】	【講義】 「中間レポート 」　課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具◆ ★レポート提出
【第９回】	【実技】 「ドッチビー」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレー

		ニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 10 回】	【実技】 「アルティメット」　・種目紹介　・基本スキル　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 11 回】	【実技】 「フットサル」　・種目紹介　　・基本スキルを習得 ・ルールの理解　　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 12 回】	【実技】 「バスケットボール(1)」　・種目紹介　　・基本スキルを習得 ・ルールの理解　　・ゲームシュミレーション	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 13 回】	【実技】 「バスケットボール(2)」　・基本スキルの確認　・応用ドリル　・ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技種目の振り返りとまとめ」	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具◆
【第 15 回】	【講義】 「学期末レポート」　課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、 映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具◆ ★レポート提出

1.授業コード（ナンバリング）	HET102-M01	2.科目名	生涯ｽﾎﾟｰﾂII		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　保育士　幼稚園一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実技			
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越えた場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回 j 授業時課題：8 点　→　学習目標①に対応 第 3 回：企画書：10 点　→　学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・ 7 ・8・9・10・11・12・13 回実技：66 点　→　学習目標①～④に対応 第 15 回：最終レポート：16 点　→　学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グランドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	【オリエンテーション　】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成	◆筆記用具◆

	(受講希望者が 20 名を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第 2 回】	【実技】 企画事例の紹介 「インディアカ」 ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦)、クールダウン、後片付け	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 3 回】	【講義】 「 実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介　・企画書作成	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具 ★企画書提出
【第 4 回】	【実技】 「 企画種目 1」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 5 回】	【実技】 「 企画種目 2」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 6 回】	【実技】 「 企画種目 3」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 7 回】	【実技】 『企画種目 4」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 8 回】	【実技】 「 企画種目 5」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 9 回】	【実技】 「 企画種目 6」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 10 回】	【実技】 「 企画種目 7」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレー

		ニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 11 回】	【実技】 「 企画種目 8」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 12 回】	【実技】 「 企画種目 9」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「 企画種目 10」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技の振り返りとまとめ」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第 15 回】	【講義】 学期末レポート　課題：「トップアスリートから学ぶこと」と題して、映像資料からアスリートが直面する問題を分析し、まとめる。	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード（ナンバリング）	HIS104-Y01	2.科目名	近代社会論	3.単位数	2
4.授業担当教員	石井大輔				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目では、オーストリアの首都ウィーンの歴史をたどりながら、近代社会の発展を見ていきます。 私たちの社会の基礎となっている近代社会は、おおよそ 19 世紀のヨーロッパにおいて形作られました。ヨーロッパ各地では、都市の発展にともない、政治体制、経済システム、文化、宗教において様々な変化が生じました。ハプスブルク家の宮廷都市として発展し、様々な人々が集まっていたウィーンも、19 世紀に大きな発展を遂げます。ウィーンという一都市を通じて、近代社会の成り立ちや構造を学んでいきます。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 具体的な学習目標は以下の通りです。 ①ヨーロッパにおける近代社会の成り立ちを理解できる ②近代社会においてどのような課題があったのか。 ③上記の目標を通じて、自分たちの社会への理解を深める。				
19.教科書・教材	毎回プリントを配布して、授業を進めます。				
20.参考文献	必要に応じて適宜指示します。				
21.成績評価	・コメントペーパーの作成 30% （毎回の授業終了時に感想や質問などを記?してもらいます。担当教員が次回授業時に質問に答えます。） ・授業への参加度 20% （担当教員の質問に対する積極性） ・総括試験テスト 50% （授業内容に関する論述問題を出題します。）				
22.コメント	授業では、ウィーンを中心にオーストリアの街を映像を交えて紹介します。実際の街の様子や人々の暮らしぶりを通じて、近代社会について理解を深めてください。				
23.オフィスアワー	授業前後、教室にて。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・ガイダンス ・講義「イントロダクション：世紀末のウィーンから」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 2 回	・質問への回答 ・講義「前近代社会①：宮廷都市ウィーン」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 3 回	・質問への回答 ・講義「前近代社会②：信仰の場としての都市」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理

第 4 回	・質問への回答 ・講義「前近代社会③：包囲される都市」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 5 回	・質問への回答 ・講義「近代社会の萌芽：啓蒙思想の広がり」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 6 回	・質問への回答 ・講義「近代社会の萌芽②：都市における余暇と娯楽」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 7 回	・質問への回答 ・講義「近代社会の成立①：フランス革命後のウィーン」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 8 回	・質問への回答 ・講義「近代社会の成立②：市民文化の時代「ビーダーマイヤー」」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 9 回	・質問への回答 ・講義「近代社会の転機①：ウィーンの 3 月革命」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 10 回	・質問への回答 ・講義「近代社会の転機②：都市の拡大と経済の発展」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 11 回	・質問への回答 ・講義「近代社会の発展①：リベラリズムとナショナリズム」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 12 回	・質問への回答 ・講義「近代社会の発展②：ウィーン黄金時代」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 13 回	・質問への回答 ・講義「大戦間期の社会：「赤いウィーン」からナチズムへ」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 14 回	・質問への回答 ・講義「まとめ：近代社会の日欧比較」	・復習および授業ノートの整理
第 15 回	総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	HIS104-m01	2.科目名	近代社会論	3.単位数	2
4.授業担当教員	石井大輔				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	オンライン授業（リンクは、e-class で公開します。）		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目では、オーストリアの首都ウィーンの歴史をたどりながら、近代社会の発展を見ていきます。 私たちの社会の基礎となっている近代社会は、おおよそ 19 世紀のヨーロッパにおいて形作られました。ヨーロッパ各地では、都市の発展にともない、政治体制、経済システム、文化、宗教において様々な変化が生じました。ハプスブルク家の宮廷都市として発展し、様々な人々が集まっていたウィーンも、19 世紀に大きな発展を遂げます。ウィーンという一都市を通じて、近代社会の成り立ちや構造を学んでいきます。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 具体的な学習目標は以下の通りです。 ①ヨーロッパにおける近代社会の成り立ちを理解できる ②近代社会においてどのような課題があったのか。 ③上記の目標を通じて、自分たちの社会への理解を深める。				
19.教科書・教材	毎回プリントを配布して、授業を進めます。				
20.参考文献	必要に応じて適宜指示します。				
21.成績評価	・コメントペーパーの作成 30% （毎回の授業終了時に感想や質問などを記?してもらいます。担当教員が次回授業時に質問に答えます。） ・授業への参加度 20% （担当教員の質問に対する積極性） ・総括試験テスト 50% （授業内容に関する論述問題を出題します。）				
22.コメント	授業では、ウィーンを中心にオーストリアの街を映像を交えて紹介します。実際の街の様子や人々の暮らしぶりを通じて、近代社会について理解を深めてください。				
23.オフィスアワー	授業前後、教室もしくは非常勤控室にて。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・ガイダンス ・講義「イントロダクション：世紀末のウィーンから」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 2 回	・質問への回答 ・講義「前近代社会①：宮廷都市ウィーン」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 3 回	・質問への回答 ・講義「前近代社会②：信仰の場としての都市」	・復習および授業ノートの整理

	・コメントペーパーの作成	
第 4 回	・質問への回答 ・講義「前近代社会③：包囲される都市」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 5 回	・質問への回答 ・講義「近代社会の萌芽：啓蒙思想の広がり」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 6 回	・質問への回答 ・講義「近代社会の萌芽②：都市における余暇と娯楽」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 7 回	・質問への回答 ・講義「近代社会の成立①：フランス革命後のウィーン」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 8 回	・質問への回答 ・講義「近代社会の成立②：市民文化の時代「ビーダーマイヤー」」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 9 回	・質問への回答 ・講義「近代社会の転機①：ウィーンの 3 月革命」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 10 回	・質問への回答 ・講義「近代社会の転機②：都市の拡大と経済の発展」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 11 回	・質問への回答 ・講義「近代社会の発展①：リベラリズムとナショナリズム」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 12 回	・質問への回答 ・講義「近代社会の発展②：ウィーン黄金時代」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 13 回	・質問への回答 ・講義「大戦間期の社会：「赤いウィーン」からナチズムへ」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 14 回	・質問への回答 ・講義「まとめ：近代社会の日欧比較」	・復習および授業ノートの整理
第 15 回	総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	HIS105-M01	2.科目名	近現代の歴史 （歴史学）	3.単位数	2
4.授業担当教員	石井大輔				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目は、中央ヨーロッパ地域の歴史を中心に、近現代におきた歴史的な出来事を学ぶことを目的とします。 ハプスブルク家が長く統治した中央ヨーロッパ地域では、宗教や民族をめぐって様々な対立があり、その中で大きな戦争や体制転換が繰り返されてきました。なぜ人々は対立し、どのようにして対立を克服しようとしてきたのでしょうか。また、どのような対立が現在でも残されているのでしょうか。これらの問題に焦点を当てることで、日本を含めたグローバルな視点を獲得することを目指します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の具体的な学習目標を以下の通りです。 ①近現代の歴史に関する基本的な知識を身につける。 ②外国史に関する知識を身につける。 ③上記の知識に基づいて、異なる文化や価値観に対する理解を深める。				
19.教科書・教材	毎回プリントを配布して、授業を進めます。				
20.参考文献	必要に応じて適宜指示します。				
21.成績評価	・コメントペーパーの作成 30% （毎回の授業終了時に感想や質問などを記?してもらいます。担当教員が次回授業時に質問に答えます。） ・授業への参加度 20% （担当教員の質問に対する積極性） ・総括試験テスト 50% （授業内容に関する論述問題を出題します。）				
22.コメント	この授業では、高校までの世界史の知識を前提とはしませんが、分からないことがある場合は、まずは自分で調べてみてください。そのうえで分からないことがあれば積極的に質問してください。				
23.オフィスアワー	授業前後、教室もしくは非常勤控室にて。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・ガイダンス ・講義「イントロダクション：ハプスブルク家とヨーロッパ」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 2 回	・質問への回答 ・講義「神聖ローマ帝国とハプスブルク君主国」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 3 回	・質問への回答	・復習および授業ノートの整理

	・講義「フランス革命と戦争」 ・コメントペーパーの作成	
第 4 回	・質問への回答 ・講義「ウィーン体制下のヨーロッパ」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 5 回	・質問への回答 ・講義「国民国家の形成：ドイツの統一」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 6 回	・質問への回答 ・講義「多民族国家ハプスブルク帝国：アウスグライヒ体制の成立」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 7 回	・質問への回答 ・講義「第一次世界大戦の勃発」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 8 回	・質問への回答 ・講義「第一次世界大戦と日本：日本における捕虜収容所」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 9 回	・質問への回答 ・講義「ポスト・ハプスブルクの国々」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 10 回	・質問への回答 ・講義「ナチ化するドイツ」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 11 回	・質問への回答 ・講義「オーストリア合邦から第二次世界大戦へ」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 12 回	・質問への回答 ・講義「ナチスの経験とその克服」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 13 回	・質問への回答 ・講義「東欧革命と EU 拡大」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 14 回	・質問への回答 ・講義「 まとめ：対立と融和の近現代史」	・復習および授業ノートの整理
第 15 回	総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	HIS105-Y01	2.科目名	近現代の歴史	3.単位数	2
4.授業担当教員	石井大輔				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目は、中央ヨーロッパ地域の歴史を中心に、近現代におきた歴史的な出来事を学ぶことを目的とします。 ハプスブルク家が長く統治した中央ヨーロッパ地域では、宗教や民族をめぐって様々な対立があり、その中で大きな戦争や体制転換が繰り返されてきました。なぜ人々は対立し、どのようにして対立を克服しようとしてきたのでしょうか。また、どのような対立が現在でも残されているのでしょうか。これらの問題に焦点を当てることで、日本を含めたグローバルな視点を獲得することを目指します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の具体的な学習目標を以下の通りです。 ①近現代の歴史に関する基本的な知識を身につける。 ②外国史に関する知識を身につける。 ③上記の知識に基づいて、異なる文化や価値観に対する理解を深める。				
19.教科書・教材	毎回プリントを配布して、授業を進めます。				
20.参考文献	必要に応じて適宜指示します。				
21.成績評価	・コメントペーパーの作成 30% （毎回の授業終了時に感想や質問などを記?してもらいます。担当教員が次回授業時に質問に答えます。） ・授業への参加度 20% （担当教員の質問に対する積極性） ・総括試験テスト 50% （授業内容に関する論述問題を出題します。）				
22.コメント	この授業では、高校までの世界史の知識を前提とはしませんが、分からないことがある場合は、まずは自分で調べてみてください。そのうえで分からないことがあれば積極的に質問してください。				
23.オフィスアワー	授業前後、教室にて。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・ガイダンス ・講義「イントロダクション：ハプスブルク家とヨーロッパ」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 2 回	・質問への回答 ・講義「神聖ローマ帝国とハプスブルク君主国」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 3 回	・質問への回答	・復習および授業ノートの整理

	・講義「フランス革命と戦争」 ・コメントペーパーの作成	
第 4 回	・質問への回答 ・講義「ウィーン体制下のヨーロッパ」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 5 回	・質問への回答 ・講義「国民国家の形成：ドイツの統一」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 6 回	・質問への回答 ・講義「多民族国家ハプスブルク帝国：アウスグライヒ体制の成立」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 7 回	・質問への回答 ・講義「第一次世界大戦の勃発」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 8 回	・質問への回答 ・講義「第一次世界大戦と日本：日本における捕虜収容所」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 9 回	・質問への回答 ・講義「ポスト・ハプスブルクの国々」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 10 回	・質問への回答 ・講義「ナチ化するドイツ」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 11 回	・質問への回答 ・講義「オーストリア合邦から第二次世界大戦へ」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 12 回	・質問への回答 ・講義「ナチスの経験とその克服」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 13 回	・質問への回答 ・講義「東欧革命と EU 拡大」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 14 回	・質問への回答 ・講義「 まとめ：対立と融和の近現代史」	・復習および授業ノートの整理
第 15 回	総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	HUM101-M01	2.科目名	人間学Ⅰ　（A グループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、櫻井信人、濱名篤					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	１年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	３人の教員による輪講形式			
16.履修制限	留学生は、入学後少なくとも半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	目的：　科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 概要：人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋３本ずつのクールレポートと、１本ずつ					
18.学習目標とＤＰとの関連	＜DP との関連性＞ 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・DP（２）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・DP（３）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 ＊各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 ＜SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応＞ ３すべての人に健康と福祉を、４質の高い教育をみんなに、５ジェンダー平等を実現しよう、８働きがいも経済成長も ＜平等・職業＞　濱名　篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで５回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この５回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに 2006 年からは人口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。 これに加え、現代は第４次産業革命の到来と言われ、M・オズボーン＆K・フライの予測によれば、AI やロボット技術の進歩によりこれから 10～20 年の間に”消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、職業生活の内容が大きく変化していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。 こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。自らの人生の“幸せ Well-being”と職業との関係を考えることは、学生生活のうちに考え始めておく必					

	要がある課題である。 　この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第 4 次産業革命、AI などをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 ＜学び＞　濱名陽子 　私の分担分では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。 ＜生きる＞　櫻井信人 　ここでは、人間学、大学で学ぶ意味を考えたうえで、人の健康、生命、こころについて考える。授業内容は一つの解を求めるものではない。議論を通して思考力を高め、視点を広げていくことを目的としている。そのため受講者全員が主体的に発言することが求められる。授業を通して学んだことは、今後の様々な課題に対して、自身の考えを持ち、他者と意見交換できる力につながる。
19.教科書・教材	
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から 1 冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） ＜濱名　篤＞ ◎野口悠紀雄『2040 年の日本』幻冬舎新書，2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書，2014 ◎濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書，2015 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つ－「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」－』光文社新書，2017 ◎山田 昌弘『 底辺への競争 格差放置社会ニッポンの末路 』 朝日新書，2017 ◎吉川 徹 『 日本の分断－切り離される非大卒若者（レッグ
21.成績評価	3 名の担当者のクール小課題レポート（800 字以上）　18 点×3＝54 点 最終レポート（3 名の担当教員のうち 1 名を選び課題図書を読んだ上で、2000 字以上のレポートを提出する）　48 点 最終課題（共通課題）：予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの教員が説明する。
22.コメント	一人の教員が 5 回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノート PC を使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。
23.オフィスアワー	未定

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講　1－1	＜濱名　篤＞ 第 1 回　日本社会にはどのような社会的格差や不平等があるのかを、各自の予習してきた内容を参考に考えてみる。その上で、自分の将来の進路について考えてみる。その上で、職業とはどのようなものなのかについて社会学的な説明を行う。 　何のために職業につくのか、就職する上で不安な	【アサインメント】 ①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人種、民族、性、年齢・世代、職業、正規雇用－非正規雇用、学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どのような地位による格差が、何故気になるのかを 400 字程度にまとめる。【所要時間 30 分】

	ことは何かについて ZOOM ディスカッションを実施する。	②就職する際に、採用する側は大卒者の”何を”評価すると思うか。【所要時間　20 分】 ③なぜ本学のこの学部･学科に入学したのですか。 【所要時間 10 分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ回
輪講　1－2	第 2 回　社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか　（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 　若者を取り巻く社会的格差のうち、学歴、正規労働者と非正規労働者の格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなものなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなものなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいうの	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目から 1 つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的のどのように身につけていこうと思うのかをまとめる（200 字程度）【所要時間 30 分】 ②自分が就こうとしている職業に AI（生成 AI を含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（4 00 字程度)。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに
輪講　1－3	第 3 回　　職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか？～ 　就職活動をしていっても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなくなった場合に、自分はどのようにするだろう？また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろうか？ 　コロナ禍に加え、少子化、高齢化、AI やロボットの発達などのよって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されている職業はどのようなものなのかを知り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とならない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える。併	【アサインメント】 ①コロナや第 4 次産業革命で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできる こと、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60 分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また”自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間　60 分】 ※指定する期日までに Webcl
輪講　1－4	第 4 回　少子高齢社会の職業生活と男女共生 　少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考えてみる。女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子 高齢化の原因とみなされ,「働き方改革」が検討されている。共働き・共育てが標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考えてみる。 　少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような形	【アサインメント】 ① 日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか (400 字)。【所要時間 20 分】 ②「人生 100 年時代」になると、現在の両親の世代と比べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならなくなると予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60 分】

	で	※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第 5
輪講　1－5	第 5 回　「働き方改革」と社会人の学び直し 　”2024 年問題”や”2025 年問題”が問題になり、日本社会では「働き方改革」が求められています。他方、AI 等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょう。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 　男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM のブレークアウトセッションでグループディスカッションを実施しま	【アサインメント】なし
輪講　2－1	＜濱名陽子＞ 第 1 回　人間の育ちの特質 　人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。。【所要時間 60 分】
輪講　2－2	第 2 回　家庭教育と親 　人間が生まれてはじめて所属する集団である「家族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードからペアワークで考える。	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間　60 分】
輪講　2－3	第 3 回　学校教育と教育機会の平等（その 1） 　家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァスタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうか自分の意見を書いてくる。【所要時間　60 分】
輪講　2－4	第 4 回　学校教育と教育機会の平等（その 2） 　第 3 回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 　次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第 4 回の授業の際に説明する）。 【所要時間　360 分】 課題 A：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を踏まえ、自分の考えを述べなさい。 課題 B：現在の日本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏ま	○クールレポート課題を作成する。 【所要時間 360 分】
輪講　2－5	第 5 回　生涯学習と自分の人生	

	「生涯学習」という考え方がうまれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	
輪講 3-1	＜櫻井信人＞ 第１回　人間学とは何か 人間学とは何か。生きる意味について考える。 「善く生きる」とはどういうことか。グループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：大学で学ぶ意味について調べてくる。【所要時間　60 分】
輪講 3-2	第２回　大学で学ぶ意味について考える 日本国憲法 23 条について考え、大学で学ぶことについての理解を深める。学問の自由についてグループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：健康とは何かについて、説明できるように調べてくる。【所要時間　60 分】
輪講 3-3	第３回　健康とは何か。 WHO の健康の定義から、健康について考える。 健康という視点から、障がい者、マイノリティ、高齢者など、様々な人の健康についてグループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間　30 分】 ○本日の課題：尊厳死、安楽死について調べ、説明できるようにしておく。【所要時間 60 分】
輪講 3-4	第４回　尊厳死、安楽死について考える。 尊厳死および安楽死について、世界および日本の現状を学ぶ。事例を通してグループワークを行い、尊厳死や安楽死についての考えを深める。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：クール小課題を行う。【所要時間　60 分】
輪講 3-5	第５回　こころについて考える。 こころとは何か。こころはどこにあるのか。相手のこころを理解することはできるのか。グループワークを通して学びを深める。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第４回の授業で説明する）。【所要時間　360 分】 課題Ａ：大学で学ぶ意味を考えたうえで、あなたが４年間の大学生活でやるべきことを述べなさい。 課題Ｂ：尊厳死や安楽死について調べたうえで、あなたの考えを述べなさい。 課題Ｃ：健康について調べたうえで、他者の健康を維持する	

1.授業コード（ナンバリング）	HUM101-M02	2.科目名	人間学Ⅰ　（B グループ）	3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、櫻井信人、濱名篤				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、入学後少なくとも半年経過してから履修すること				
17.授業の目的と概要	目的：　科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 概要：人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋 3 本ずつのクールレポートと、 1 本ずつ				
18.学習目標と ＤＰとの関連	＜DP との関連性＞ 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・DP（２）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・DP（３）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 ＊各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 ＜SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応＞ ３すべての人に健康と福祉を、４質の高い教育をみんなに、５ジェンダー平等を実現しよう、８働きがいも経済成長も ＜平等・職業＞　濱名　篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで 5 回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この 5 回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに 2006 年からは人口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。 これに加え、現代は第 4 次産業革命の到来と言われ、M・オズボーン＆K・フライの予測によれば、AI やロボット技術の進歩によりこれから 10～20 年の間に”消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、職業生活の内容が大きく変化していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。 こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。自らの人生の“幸せ Well-being”と職業との関係を考えることは、学生生活のうちに考え始めておく必				

	要がある課題である。 　この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第 4 次産業革命、AI などをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 ＜学び＞　濱名陽子 　私の分担分では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。 ＜生きる＞　櫻井信人 　ここでは、人間学、大学で学ぶ意味を考えたうえで、人の健康、生命、こころについて考える。授業内容は一つの解を求めるものではない。議論を通して思考力を高め、視点を広げていくことを目的としている。そのため受講者全員が主体的に発言することが求められる。授業を通して学んだことは、今後の様々な課題に対して、自身の考えを持ち、他者と意見交換できる力につながる。
19.教科書・教材	
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から 1 冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） ＜濱名　篤＞ ◎野口悠紀雄『2040 年の日本』幻冬舎新書，2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書，2014 ◎濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書，2015 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つ－「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」－』光文社新書，2017 ◎山田 昌弘『 底辺への競争 格差放置社会ニッポンの末路 』 朝日新書，2017 ◎吉川 徹 『 日本の分断－切り離される非大卒若者（レッグ
21.成績評価	3 名の担当者のクール小課題レポート（800 字以上）　18 点×3＝54 点 最終レポート（3 名の担当教員のうち 1 名を選び課題図書を読んだ上で、2000 字以上のレポートを提出する）　48 点 最終課題（共通課題）：予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの教員が説明する。
22.コメント	一人の教員が 5 回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノート PC を使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。
23.オフィスアワー	未定

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講　1－1	＜濱名　篤＞ 第 1 回　日本社会にはどのような社会的格差や不平等があるのかを、各自の予習してきた内容を参考に考えてみる。その上で、自分の将来の進路について考えてみる。その上で、職業とはどのようなものなのかについて社会学的な説明を行う。 　何のために職業につくのか、就職する上で不安な	【アサインメント】 ①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人種、民族、性、年齢・世代、職業、正規雇用－非正規雇用、学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どのような地位による格差が、何故気になるのかを 400 字程度にまとめる。【所要時間 30 分】

	ことは何かについて ZOOM ディスカッションを実施する。	②就職する際に、採用する側は大卒者の”何を”評価すると思うか。【所要時間　20 分】 ③なぜ本学のこの学部･学科に入学したのですか。 【所要時間 10 分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ回
輪講　1－2	第 2 回　社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか　（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 　若者を取り巻く社会的格差のうち、学歴、正規労働者と非正規労働者の格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなものなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなものなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいうの	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目から 1 つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的のどのように身につけていこうと思うのかをまとめる（200 字程度）【所要時間 30 分】 ②自分が就こうとしている職業に AI（生成 AI を含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（4 00 字程度)。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに
輪講　1－3	第 3 回　　職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか？～ 　就職活動をしていっても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなくなった場合に、自分はどのようにするだろう？また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろうか？ 　コロナ禍に加え、少子化、高齢化、AI やロボットの発達などのよって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されている職業はどのようなものなのかを知り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とならない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える。併	【アサインメント】 ①コロナや第 4 次産業革命で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできる こと、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60 分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また”自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間　60 分】 ※指定する期日までに Webcl
輪講　1－4	第 4 回　少子高齢社会の職業生活と男女共生 　少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考えてみる。女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子 高齢化の原因とみなされ,「働き方改革」が検討されている。共働き・共育てが標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考えてみる。 　少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような形	【アサインメント】 ① 日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか (400 字)。【所要時間 20 分】 ②「人生 100 年時代」になると、現在の両親の世代と比べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならなくなると予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60 分】

	で	※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第 5
輪講　1－5	第 5 回　「働き方改革」と社会人の学び直し 　”2024 年問題”や”2025 年問題”が問題になり、日本社会では「働き方改革」が求められています。他方、AI 等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょう。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 　男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM のブレークアウトセッションでグループディスカッションを実施しま	【アサインメント】なし
輪講　2－1	＜濱名陽子＞ 第 1 回　人間の育ちの特質 　人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。。【所要時間 60 分】
輪講　2－2	第 2 回　家庭教育と親 　人間が生まれてはじめて所属する集団である「家族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードからペアワークで考える。	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間　60 分】
輪講　2－3	第 3 回　学校教育と教育機会の平等（その 1） 　家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァスタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうか自分の意見を書いてくる。【所要時間　60 分】
輪講　2－4	第 4 回　学校教育と教育機会の平等（その 2） 　第 3 回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 　次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第 4 回の授業の際に説明する）。 【所要時間　360 分】 課題 A：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を踏まえ、自分の考えを述べなさい。 課題 B：現在の日本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏ま	○クールレポート課題を作成する。 【所要時間 360 分】
輪講　2－5	第 5 回　生涯学習と自分の人生	

	「生涯学習」という考え方がうまれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	
輪講 3-1	＜櫻井信人＞ 第１回　人間学とは何か 人間学とは何か。生きる意味について考える。 「善く生きる」とはどういうことか。グループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：大学で学ぶ意味について調べてくる。【所要時間　60 分】
輪講 3-2	第２回　大学で学ぶ意味について考える 日本国憲法 23 条について考え、大学で学ぶことについての理解を深める。学問の自由についてグループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：健康とは何かについて、説明できるように調べてくる。【所要時間　60 分】
輪講 3-3	第３回　健康とは何か。 WHO の健康の定義から、健康について考える。 健康という視点から、障がい者、マイノリティ、高齢者など、様々な人の健康についてグループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間　30 分】 ○本日の課題：尊厳死、安楽死について調べ、説明できるようにしておく。【所要時間 60 分】
輪講 3-4	第４回　尊厳死、安楽死について考える。 尊厳死および安楽死について、世界および日本の現状を学ぶ。事例を通してグループワークを行い、尊厳死や安楽死についての考えを深める。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：クール小課題を行う。【所要時間　60 分】
輪講 3-5	第５回　こころについて考える。 こころとは何か。こころはどこにあるのか。相手のこころを理解することはできるのか。グループワークを通して学びを深める。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第４回の授業で説明する）。【所要時間　360 分】 課題Ａ：大学で学ぶ意味を考えたうえで、あなたが４年間の大学生活でやるべきことを述べなさい。 課題Ｂ：尊厳死や安楽死について調べたうえで、あなたの考えを述べなさい。 課題Ｃ：健康について調べたうえで、他者の健康を維持する	

1.授業コード（ナンバリング）	HUM101-M03	2.科目名	人間学Ⅰ　（C グループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、櫻井信人、濱名篤					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	3 人の教員による輪講形式			
16.履修制限	留学生は、入学後少なくとも半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	目的：　科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 概要：人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋 3 本ずつのクールレポートと、 1 本ずつ					
18.学習目標と ＤＰとの関連	＜DP との関連性＞ 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・DP（２）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・DP（３）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 ＊各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 ＜SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応＞ ３すべての人に健康と福祉を、４質の高い教育をみんなに、５ジェンダー平等を実現しよう、８働きがいも経済成長も ＜平等・職業＞　濱名　篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで 5 回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この 5 回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに 2006 年からは人口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。 これに加え、現代は第 4 次産業革命の到来と言われ、M・オズボーン＆K・フライの予測によれば、AI やロボット技術の進歩によりこれから 10～20 年の間に”消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、職業生活の内容が大きく変化していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。 こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。自らの人生の“幸せ Well-being”と職業との関係を考えることは、学生生活のうちに考え始めておく必					

	要がある課題である。 　この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第 4 次産業革命、AI などをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 ＜学び＞　濱名陽子 　私の分担分では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。 ＜生きる＞　櫻井信人 　ここでは、人間学、大学で学ぶ意味を考えたうえで、人の健康、生命、こころについて考える。授業内容は一つの解を求めるものではない。議論を通して思考力を高め、視点を広げていくことを目的としている。そのため受講者全員が主体的に発言することが求められる。授業を通して学んだことは、今後の様々な課題に対して、自身の考えを持ち、他者と意見交換できる力につながる。
19.教科書・教材	
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から 1 冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） ＜濱名　篤＞ ◎野口悠紀雄『2040 年の日本』幻冬舎新書，2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書，2014 ◎濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書，2015 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つ－「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」－』光文社新書，2017 ◎山田 昌弘『 底辺への競争 格差放置社会ニッポンの末路 』 朝日新書，2017 ◎吉川 徹 『 日本の分断－切り離される非大卒若者（レッグ
21.成績評価	3 名の担当者のクール小課題レポート（800 字以上）　18 点×3＝54 点 最終レポート（3 名の担当教員のうち 1 名を選び課題図書を読んだ上で、2000 字以上のレポートを提出する）　48 点 最終課題（共通課題）：予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの教員が説明する。
22.コメント	一人の教員が 5 回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノート PC を使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。
23.オフィスアワー	未定

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講　1－1	＜濱名　篤＞ 第 1 回　日本社会にはどのような社会的格差や不平等があるのかを、各自の予習してきた内容を参考に考えてみる。その上で、自分の将来の進路について考えてみる。その上で、職業とはどのようなものなのかについて社会学的な説明を行う。 　何のために職業につくのか、就職する上で不安な	【アサインメント】 ①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人種、民族、性、年齢・世代、職業、正規雇用－非正規雇用、学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どのような地位による格差が、何故気になるのかを 400 字程度にまとめる。【所要時間 30 分】

	ことは何かについて ZOOM ディスカッションを実施する。	②就職する際に、採用する側は大卒者の”何を”評価すると思うか。【所要時間　20 分】 ③なぜ本学のこの学部･学科に入学したのですか。 【所要時間 10 分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ回
輪講　1－2	第 2 回　社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか　（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 　若者を取り巻く社会的格差のうち、学歴、正規労働者と非正規労働者の格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなものなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなものなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいうの	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目から 1 つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的のどのように身につけていこうと思うのかをまとめる（200 字程度）【所要時間 30 分】 ②自分が就こうとしている職業に AI（生成 AI を含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（4 00 字程度)。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに
輪講　1－3	第 3 回　　職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか？～ 　就職活動をしていっても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなくなった場合に、自分はどのようにするだろう？また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろうか？ 　コロナ禍に加え、少子化、高齢化、AI やロボットの発達などのよって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されている職業はどのようなものなのかを知り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とならない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える。併	【アサインメント】 ①コロナや第 4 次産業革命で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできる こと、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60 分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また”自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間　60 分】 ※指定する期日までに Webcl
輪講　1－4	第 4 回　少子高齢社会の職業生活と男女共生 　少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考えてみる。女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子 高齢化の原因とみなされ,「働き方改革」が検討されている。共働き・共育てが標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考えてみる。 　少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような形	【アサインメント】 ① 日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか (400 字)。【所要時間 20 分】 ②「人生 100 年時代」になると、現在の両親の世代と比べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならなくなると予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60 分】

	で	※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第 5
輪講　1－5	第 5 回　「働き方改革」と社会人の学び直し 　”2024 年問題”や”2025 年問題”が問題になり、日本社会では「働き方改革」が求められています。他方、AI 等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょう。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 　男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM のブレークアウトセッションでグループディスカッションを実施しま	【アサインメント】なし
輪講　2－1	＜濱名陽子＞ 第 1 回　人間の育ちの特質 　人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。。【所要時間 60 分】
輪講　2－2	第 2 回　家庭教育と親 　人間が生まれてはじめて所属する集団である「家族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードからペアワークで考える。	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間　60 分】
輪講　2－3	第 3 回　学校教育と教育機会の平等（その 1） 　家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァスタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうか自分の意見を書いてくる。【所要時間　60 分】
輪講　2－4	第 4 回　学校教育と教育機会の平等（その 2） 　第 3 回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 　次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第 4 回の授業の際に説明する）。 【所要時間　360 分】 課題 A：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を踏まえ、自分の考えを述べなさい。 課題 B：現在の日本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏ま	○クールレポート課題を作成する。 【所要時間 360 分】
輪講　2－5	第 5 回　生涯学習と自分の人生	

	「生涯学習」という考え方がうまれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	
輪講 3-1	＜櫻井信人＞ 第１回　人間学とは何か 人間学とは何か。生きる意味について考える。 「善く生きる」とはどういうことか。グループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：大学で学ぶ意味について調べてくる。【所要時間　60 分】
輪講 3-2	第２回　大学で学ぶ意味について考える 日本国憲法 23 条について考え、大学で学ぶことについての理解を深める。学問の自由についてグループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：健康とは何かについて、説明できるように調べてくる。【所要時間　60 分】
輪講 3-3	第３回　健康とは何か。 WHO の健康の定義から、健康について考える。 健康という視点から、障がい者、マイノリティ、高齢者など、様々な人の健康についてグループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間　30 分】 ○本日の課題：尊厳死、安楽死について調べ、説明できるようにしておく。【所要時間 60 分】
輪講 3-4	第４回　尊厳死、安楽死について考える。 尊厳死および安楽死について、世界および日本の現状を学ぶ。事例を通してグループワークを行い、尊厳死や安楽死についての考えを深める。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間　30 分】 ○次回授業の準備：クール小課題を行う。【所要時間　60 分】
輪講 3-5	第５回　こころについて考える。 こころとは何か。こころはどこにあるのか。相手のこころを理解することはできるのか。グループワークを通して学びを深める。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第４回の授業で説明する）。【所要時間　360 分】 課題Ａ：大学で学ぶ意味を考えたうえで、あなたが４年間の大学生活でやるべきことを述べなさい。 課題Ｂ：尊厳死や安楽死について調べたうえで、あなたの考えを述べなさい。 課題Ｃ：健康について調べたうえで、他者の健康を維持する	

1.授業コード（ナンバリング）	HUM101-Y01	2.科目名	人間学Ⅰ　（A グループ）	3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、鍛治澤千重子、濱名篤				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度　春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること				
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋３本ずつのクールレポートと、１本ずつの最終レポ				
18.学習目標と　ＤＰとの関連	＜DP との関連性＞ 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・DP（２）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・DP（３）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 ＊各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。				

	＜SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応＞ ３すべての人に健康と福祉を、４質の高い教育をみんなに、５ジェンダー平等を実現しよう、８働きがいも経済成長も ＜平等・職業＞　濱名　篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで５回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この５回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに 2006 年からは人 口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。 これに加え、現代は第４次産業革命の到来と言われ、M・オズボーン＆K・フライの予測によれば、AI やロボット技術の進歩によりこれから 10～20 年の間に”消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、職業生活の内容が大きく変化していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。　こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。自らの人生 の“幸せ Well-being”と職業との関係を考えることは、学生生活のうちに考え始めておく必要がある課題である。 この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第４次産業革命、AI などをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 ＜SDGs＞　　鍛治澤千重子 気候変動、感染症、貧困、紛争、飢餓、高齢化など世界には様々な課題が存在している。国際社会や日本はこれらの課題をどのようにとらえ、どのように解決しようとしているのか。そして、私たちはどのように考え、どのように行動していくべきなのか。SDGs と国際協力に関する講義から、履修者自身が自ら考えるための視点を得ることを目標とする。 ＜学び＞　濱名陽子 私の分担分では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。
19.教科書・教材	各担当教員が紹介する。
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から１冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） ＜濱名　篤＞ ◎野口悠紀雄『2040 年の日本』幻冬舎新書，2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書，2014 ◎濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書，2015 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つ－「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」－』光文社新書，2017 ◎山田 昌弘『 底辺への競争 格差放置社会ニッポンの末路 』 朝日新書，2017 ◎吉川 徹 『 日本の分断－切り離される非大卒若者（レッグ
21.成績評価	３名の担当者の小課題レポート（800 字以上）　18 点×３＝54 点 最終レポート（3 名の担当教員のうち 1 名を選び課題図書を読んだ上で、2000 字以上のレポートを提出する）48 点

	最終課題（共通課題）予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの担当者が説明する。	
22.コメント	一人の教員が５回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノート PC を使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	＜濱名　篤＞ 第１回　日本社会にはどのような社会的格差や不平等があるのかを、各自の予習してきた内容を参考に考えてみる。その上で、自分の将来の進路について考えてみる。その上で、職業とはどのようなものなのかについて社会学的な説明を行う。 何のために職業につくのか、就職する上で不安なことは何かについて ZOOM ディスカッションを実施する。	【アサインメント】 ①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人 種、民族、性、年齢・世代、職業、正規雇用－非正規雇用、学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どのような地位による格差が、何故気になるのかを 400 字程度にまとめる。【所要時間 30 分】 ②就職する際に、採用する側は大卒者の”何を”評価すると思うか。【所要時間　20 分】 ③なぜ本学のこの学部･学科に入学したのですか。 【所要時間 10 分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ
【第 2 回】	第２回　社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか　（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 若者を取り巻く社会的格差のうち、学歴、正規労働者と非正規労働者の	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目 から１つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的のどのように身 につけていこうと思うのかをまとめる（200 字程度）【所要時間 30 分】 ②自分が就こうとしている職業に AI（生成 AI を含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（４00 字程度)。【所要時間 60 分】 ※指定する期日ま

	格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなものなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなものなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいう	
【第 3 回】	第 3 回　　職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか？～ 就職活動をしていっても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなくなった場合に、自分はどのようにするだろう？また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろうか？ コロナ禍に加え、少子化、高齢化、AI やロボットの発達などのよって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されている職業はどのようなものなのかを知	【アサインメント】 ①コロナや第 4 次産業革命で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできる こと、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60 分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また”自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間　60 分】 ※指定する期日までに Webcl

	り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とならない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える	
【第 4 回】	第 4 回　少子高齢社会の職業生活と男女共生 少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考えてみる。女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子 高齢化の原因とみなされ，「働き方改革」が検討されている。共働き・共育てが標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考えてみる。 少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような形で影	【アサインメント】 ① 日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか(400 字)。【所要時間 20 分】 ②「人生 100 年時代」になると、現在の両親の世代と比 べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならなくなると予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第
【第 5 回】	第 5 回　「働き方改革」と社会人の学び直し ”2024 年問題”や”2025 年問題”が問題になり、日本社会では「働き	アサインメント】なし

	方 改革」が求められています。他方、AI 等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょう。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 　男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM のブレークアウトセッションでグループディスカッションを実施し	
【第 6 回】	＜鍛治澤千重子＞ 第 1 回　SDGs とは何か？ 持続的な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）は、2030 年までに日本を含む国際社会全体が取り組むべき目標を定めたものである。日本では、私たちの暮らしに身近になっている SDGs であるが、私たちは正しく SDGs を理解しているだろうか。この講義では、SDGs が定められた背景（国際社会	【アサインメント】 ・SDGs の 17 の目標のうち、自分自身の関心のある目標を 1 つ挙げ、その理由を 400 字程度でまとめて持参して下さい。 https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

	と持続可能な開発)、SDGs の概要、SDGs の 17 の目標、国際社会と日本の取組みについて説明し、SDGs とは何かについての理解を深	
【第 7 回】	第 2 回　SDGs 達成に向けた日本の国際協力 ・日本の政府開発援助（ODA）の実施機関として、独立行政法人国際協力機構（JICA）は途上国の「人間の安全保障」と質の高い成長の実現を目指している。なぜ日本が途上国の支援を行っているのかを理解するため、ODA の歴史を振り返り、今後 2030 年の SDGs 達成に向けた JICA の取組みを紹介する。	【アサインメント】 ・以下の映像を見て、SDGs の実現に向け、JICA がどんな取り組みを行っているのか、その取り組みに対するその自分自身の感想を 400 字程度でまとめ持参して下さい。 https://www.youtube.com/watch?v=5sxOY8sUKks（約 6 分）
【第 8 回】	第 3 回　SDGs を考える（1）「健康」 ・第 3 回目、第 4 回目、第 5 回目の講義では、国際社会の課題の中から「人」に関するトピックを取り上げる。 まずは、健康。SDGs3「すべての人に健康と福祉を」というゴールについて、世界の人々の健康に関するデータから現状を読み解き、	【アサインメント】 ・以下の映像を視聴ください。 【JICA-Net ライブラリ】母子手帳を世界に～途上国における導入と普及～ https://www.youtube.com/watch?v=jB1DooUEDao　（約 30 分）

	SDGs で掲げられている目標との関係性を整理・理解する。人々の健康を守るために JICA が行っているアプローチの中から、「母子健康手帳」を活用した母子の健康を守る取り組みと、みんなが病院に通える取組みを紹介する。	
【第 9 回】	第 4 回　SDGs を考える（2）「高齢化」 第 4 回目の講義では、「高齢化」をトピックとして取り上げる。日本は超高齢社会であり、高齢化は日本にとっても課題が多い。世界に目を向けると、欧米諸国のみならず、アジア、中南米、アフリカでも高齢化が進行している。これらの状況をデータから現状を読み解き、SDGs で掲げられている目標との関係性を整理・理解する。高齢化が進むタイにおいて、JICA が実施した国際協力を事例に紹介しながら、日本がどう貢献できるのかを考える。 クール小課題 ・講義の中で取り上げた①健康、②高齢化、	【アサインメント】 以下の映像を視聴ください。 【JICA-Net ライブラリ】アジアの高齢化に挑む　JICA の高齢者介護・福祉への取組み https://www.youtube.com/watch?v=CDr9Uqe9nxU&list=PLSQ54HoCvj5jw15JJOtc87YdXKMkRBoVc&index=2　（約 30 分）

【第10回】	第5回　SDGsを考える（3）「栄養」、2030年以降の未来に向けて ・「栄養」をテーマに、SDGsを考える。健康な未来へ導くために、適切な栄養をすべての人々に届ける必要があるが、途上国の子どもを中心に栄養に関する課題が多く存在する。この講義では、世界の栄養の現状について、データから理解する。そして、SDGsで掲げられている目標との関係性を理解し、課題を改善するために必要なアプローチについて理解を深める。 ・SDGsは2030年の国際社会の姿を現したものであるが、その未来の社会において、自分はどのような人	【アサインメント】なし
【第11回】	＜濱名陽子＞ 第1回　人間の育ちの特質 　人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間　30分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。。【所要時間60分】
【第12回】	第2回　　家庭教育と親 　人間が生まれてはじめて所属する集団である「家	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間　30分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間　60分】

	族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードから、ペアワークで考える。	
【第13回】	第３回　学校教育と教育機会の平等（その１） 　家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァスタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうか自分の意見を書いてくる。【所要時間　60 分】
【第14回】	第４回　学校教育と教育機会の平等（その２） 　第３回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 　次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第４回の授業の際に説明する）。 【所要時間　360 分】 課題Ａ：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を踏まえ、自分の考えを述べなさい。 課題Ｂ：現在の日	○クールレポート課題を作成する。 【所要時間 360 分】

	本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏まえ、	
【第15回】	第５回　生涯学習と自分の人生 「生涯学習」という考え方がうまれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	○アサインメント　　なし

1.授業コード（ナンバリング）	HUM101-Y02	2.科目名	人間学Ⅰ　（B グループ）	3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、鍛治澤千重子、濱名篤				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度　春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること				
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋３本ずつのクールレポートと、１本ずつの最終レポ				
18.学習目標と　ＤＰとの関連	＜DP との関連性＞ 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・DP（２）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・DP（３）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 ＊各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。				

	＜SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応＞ ３すべての人に健康と福祉を、４質の高い教育をみんなに、５ジェンダー平等を実現しよう、８働きがいも経済成長も ＜平等・職業＞　濱名　篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで５回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この５回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに 2006 年からは人 口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。 これに加え、現代は第４次産業革命の到来と言われ、M・オズボーン＆K・フライの予測によれば、AI やロボット技術の進歩によりこれから 10～20 年の間に”消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、職業生活の内容が大きく変化していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。　こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。自らの人生 の“幸せ Well-being”と職業との関係を考えることは、学生生活のうちに考え始めておく必要がある課題である。 この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第４次産業革命、AI などをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 ＜SDGs＞　　鍛治澤千重子 気候変動、感染症、貧困、紛争、飢餓、高齢化など世界には様々な課題が存在している。国際社会や日本はこれらの課題をどのようにとらえ、どのように解決しようとしているのか。そして、私たちはどのように考え、どのように行動していくべきなのか。SDGs と国際協力に関する講義から、履修者自身が自ら考えるための視点を得ることを目標とする。 ＜学び＞　濱名陽子 私の分担分では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。
19.教科書・教材	各担当教員が紹介する。
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から１冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） ＜濱名　篤＞ ◎野口悠紀雄『2040 年の日本』幻冬舎新書，2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書，2014 ◎濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書，2015 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つ－「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」－』光文社新書，2017 ◎山田 昌弘『 底辺への競争 格差放置社会ニッポンの末路 』 朝日新書，2017 ◎吉川 徹 『 日本の分断－切り離される非大卒若者（レッグ
21.成績評価	３名の担当者の小課題レポート（800 字以上）　18 点×３＝54 点 最終レポート（3 名の担当教員のうち 1 名を選び課題図書を読んだ上で、2000 字以上のレポートを提出する）48 点

	最終課題（共通課題）予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの担当者が説明する。	
22.コメント	一人の教員が５回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノート PC を使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	＜濱名　篤＞ 第１回　日本社会にはどのような社会的格差や不平等があるのかを、各自の予習してきた内容を参考に考えてみる。その上で、自分の将来の進路について考えてみる。その上で、職業とはどのようなものなのかについて社会学的な説明を行う。 何のために職業につくのか、就職する上で不安なことは何かについて ZOOM ディスカッションを実施する。	【アサインメント】 ①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人 種、民族、性、年齢・世代、職業、正規雇用－非正規雇用、学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どのような地位による格差が、何故気になるのかを 400 字程度にまとめる。【所要時間 30 分】 ②就職する際に、採用する側は大卒者の”何を”評価すると思うか。【所要時間　20 分】 ③なぜ本学のこの学部･学科に入学したのですか。 【所要時間 10 分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ
【第 2 回】	第２回　社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか　（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 若者を取り巻く社会的格差のうち、学歴、正規労働者と非正規労働者の	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目 から１つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的のどのように身 につけていこうと思うのかをまとめる（200 字程度）【所要時間 30 分】 ②自分が就こうとしている職業に AI（生成 AI を含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（４00 字程度)。【所要時間 60 分】 ※指定する期日ま

	格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなものなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなものなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいう	
【第 3 回】	第 3 回　　職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか？～ 就職活動をしていっても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなくなった場合に、自分はどのようにするだろう？また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろうか？ コロナ禍に加え、少子化、高齢化、AI やロボットの発達などのよって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されている職業はどのようなものなのかを知	【アサインメント】 ①コロナや第 4 次産業革命で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできる こと、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60 分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また”自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間　60 分】 ※指定する期日までに Webcl

	り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とならない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える	
【第 4 回】	第 4 回　少子高齢社会の職業生活と男女共生 少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考えてみる。女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子 高齢化の原因とみなされ，「働き方改革」が検討されている。共働き・共育てが標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考えてみる。 少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような形で影	【アサインメント】 ① 日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか(400 字)。【所要時間 20 分】 ②「人生 100 年時代」になると、現在の両親の世代と比 べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならなくなると予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第
【第 5 回】	第 5 回　「働き方改革」と社会人の学び直し ”2024 年問題”や”2025 年問題”が問題になり、日本社会では「働き	アサインメント】なし

	方 改革」が求められています。他方、AI 等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょう。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 　男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM のブレークアウトセッションでグループディスカッションを実施し	
【第 6 回】	＜鍛治澤千重子＞ 第 1 回　SDGs とは何か？ 持続的な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）は、2030 年までに日本を含む国際社会全体が取り組むべき目標を定めたものである。日本では、私たちの暮らしに身近になっている SDGs であるが、私たちは正しく SDGs を理解しているだろうか。この講義では、SDGs が定められた背景（国際社会	【アサインメント】 ・SDGs の 17 の目標のうち、自分自身の関心のある目標を 1 つ挙げ、その理由を 400 字程度でまとめて持参して下さい。 https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

	と持続可能な開発)、SDGs の概要、SDGs の 17 の目標、国際社会と日本の取組みについて説明し、SDGs とは何かについての理解を深	
【第 7 回】	第 2 回　SDGs 達成に向けた日本の国際協力 ・日本の政府開発援助（ODA）の実施機関として、独立行政法人国際協力機構（JICA）は途上国の「人間の安全保障」と質の高い成長の実現を目指している。なぜ日本が途上国の支援を行っているのかを理解するため、ODA の歴史を振り返り、今後 2030 年の SDGs 達成に向けた JICA の取組みを紹介する。	【アサインメント】 ・以下の映像を見て、SDGs の実現に向け、JICA がどんな取り組みを行っているのか、その取り組みに対するその自分自身の感想を 400 字程度でまとめ持参して下さい。 https://www.youtube.com/watch?v=5sxOY8sUKks（約 6 分）
【第 8 回】	第 3 回　SDGs を考える（1）「健康」 ・第 3 回目、第 4 回目、第 5 回目の講義では、国際社会の課題の中から「人」に関するトピックを取り上げる。 まずは、健康。SDGs3「すべての人に健康と福祉を」というゴールについて、世界の人々の健康に関するデータから現状を読み解き、	【アサインメント】 ・以下の映像を視聴ください。 【JICA-Net ライブラリ】母子手帳を世界に～途上国における導入と普及～ https://www.youtube.com/watch?v=jB1DooUEDao　（約 30 分）

	SDGs で掲げられている目標との関係性を整理・理解する。人々の健康を守るために JICA が行っているアプローチの中から、「母子健康手帳」を活用した母子の健康を守る取り組みと、みんなが病院に通える取組みを紹介する。	
【第 9 回】	第 4 回　SDGs を考える（2）「高齢化」 第 4 回目の講義では、「高齢化」をトピックとして取り上げる。日本は超高齢社会であり、高齢化は日本にとっても課題が多い。世界に目を向けると、欧米諸国のみならず、アジア、中南米、アフリカでも高齢化が進行している。これらの状況をデータから現状を読み解き、SDGs で掲げられている目標との関係性を整理・理解する。高齢化が進むタイにおいて、JICA が実施した国際協力を事例に紹介しながら、日本がどう貢献できるのかを考える。 クール小課題 ・講義の中で取り上げた①健康、②高齢化、	【アサインメント】 以下の映像を視聴ください。 【JICA-Net ライブラリ】アジアの高齢化に挑む　JICA の高齢者介護・福祉への取組み https://www.youtube.com/watch?v=CDr9Uqe9nxU&list=PLSQ54HoCvj5jw15JJOtc87YdXKMkRBoVc&index=2　（約 30 分）

【第10回】	第5回　SDGsを考える（3）「栄養」、2030年以降の未来に向けて ・「栄養」をテーマに、SDGsを考える。健康な未来へ導くために、適切な栄養をすべての人々に届ける必要があるが、途上国の子どもを中心に栄養に関する課題が多く存在する。この講義では、世界の栄養の現状について、データから理解する。そして、SDGsで掲げられている目標との関係性を理解し、課題を改善するために必要なアプローチについて理解を深める。 ・SDGsは2030年の国際社会の姿を現したものであるが、その未来の社会において、自分はどのような人	【アサインメント】なし
【第11回】	＜濱名陽子＞ 第1回　人間の育ちの特質 　人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間　30分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。。【所要時間60分】
【第12回】	第2回　　家庭教育と親 　人間が生まれてはじめて所属する集団である「家	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間　30分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間　60分】

	族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードから、ペアワークで考える。	
【第13回】	第３回　学校教育と教育機会の平等（その１） 　家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァスタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうか自分の意見を書いてくる。【所要時間　60 分】
【第14回】	第４回　学校教育と教育機会の平等（その２） 　第３回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 　次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第４回の授業の際に説明する）。 【所要時間　360 分】 課題Ａ：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を踏まえ、自分の考えを述べなさい。 課題Ｂ：現在の日	○クールレポート課題を作成する。 【所要時間 360 分】

	本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏まえ、	
【第15回】	第５回　生涯学習と自分の人生 「生涯学習」という考え方がうまれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	○アサインメント　　なし

1.授業コード（ナンバリング）	HUM101-Y03	2.科目名	人間学Ⅰ　（C グループ）	3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、鍛治澤千重子、濱名篤				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度　春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること				
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋３本ずつのクールレポートと、１本ずつの最終レポ				
18.学習目標と　ＤＰとの関連	＜DP との関連性＞ 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・DP（２）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・DP（３）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 ＊各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。				

	＜SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応＞ ３すべての人に健康と福祉を、４質の高い教育をみんなに、５ジェンダー平等を実現しよう、８働きがいも経済成長も ＜平等・職業＞　濱名　篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで５回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この５回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに 2006 年からは人 口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。 これに加え、現代は第４次産業革命の到来と言われ、M・オズボーン＆K・フライの予測によれば、AI やロボット技術の進歩によりこれから 10～20 年の間に”消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、職業生活の内容が大きく変化していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。　こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。自らの人生 の“幸せ Well-being”と職業との関係を考えることは、学生生活のうちに考え始めておく必要がある課題である。 この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第４次産業革命、AI などをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 ＜SDGs＞　　鍛治澤千重子 気候変動、感染症、貧困、紛争、飢餓、高齢化など世界には様々な課題が存在している。国際社会や日本はこれらの課題をどのようにとらえ、どのように解決しようとしているのか。そして、私たちはどのように考え、どのように行動していくべきなのか。SDGs と国際協力に関する講義から、履修者自身が自ら考えるための視点を得ることを目標とする。 ＜学び＞　濱名陽子 私の分担分では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。
19.教科書・教材	各担当教員が紹介する。
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から１冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） ＜濱名　篤＞ ◎野口悠紀雄『2040 年の日本』幻冬舎新書，2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書，2014 ◎濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書，2015 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つ－「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」－』光文社新書，2017 ◎山田 昌弘『 底辺への競争 格差放置社会ニッポンの末路 』 朝日新書，2017 ◎吉川 徹 『 日本の分断－切り離される非大卒若者（レッグ
21.成績評価	３名の担当者の小課題レポート（800 字以上）　18 点×３＝54 点 最終レポート（3 名の担当教員のうち 1 名を選び課題図書を読んだ上で、2000 字以上のレポートを提出する）48 点

	最終課題（共通課題）予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの担当者が説明する。	
22.コメント	一人の教員が５回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノート PC を使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	＜濱名　篤＞ 第１回　日本社会にはどのような社会的格差や不平等があるのかを、各自の予習してきた内容を参考に考えてみる。その上で、自分の将来の進路について考えてみる。その上で、職業とはどのようなものなのかについて社会学的な説明を行う。 何のために職業につくのか、就職する上で不安なことは何かについて ZOOM ディスカッションを実施する。	【アサインメント】 ①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人 種、民族、性、年齢・世代、職業、正規雇用－非正規雇用、学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どのような地位による格差が、何故気になるのかを 400 字程度にまとめる。【所要時間 30 分】 ②就職する際に、採用する側は大卒者の”何を”評価すると思うか。【所要時間　20 分】 ③なぜ本学のこの学部･学科に入学したのですか。 【所要時間 10 分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ
【第 2 回】	第２回　社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか　（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 若者を取り巻く社会的格差のうち、学歴、正規労働者と非正規労働者の	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目 から１つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的のどのように身 につけていこうと思うのかをまとめる（200 字程度）【所要時間 30 分】 ②自分が就こうとしている職業に AI（生成 AI を含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（４00 字程度)。【所要時間 60 分】 ※指定する期日ま

	格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなものなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなものなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいう	
【第 3 回】	第 3 回　　職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか？～ 就職活動をしていっても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなくなった場合に、自分はどのようにするだろう？また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろうか？ コロナ禍に加え、少子化、高齢化、AI やロボットの発達などのよって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されている職業はどのようなものなのかを知	【アサインメント】 ①コロナや第 4 次産業革命で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできる こと、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60 分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また”自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間　60 分】 ※指定する期日までに Webcl

	り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とならない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える	
【第 4 回】	第 4 回　少子高齢社会の職業生活と男女共生 少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考えてみる。女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子 高齢化の原因とみなされ，「働き方改革」が検討されている。共働き・共育てが標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考えてみる。 少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような形で影	【アサインメント】 ① 日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか(400 字)。【所要時間 20 分】 ②「人生 100 年時代」になると、現在の両親の世代と比 べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならなくなると予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第
【第 5 回】	第 5 回　「働き方改革」と社会人の学び直し ”2024 年問題”や”2025 年問題”が問題になり、日本社会では「働き	アサインメント】なし

	方 改革」が求められています。他方、AI 等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょう。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 　男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM のブレークアウトセッションでグループディスカッションを実施し	
【第 6 回】	＜鍛治澤千重子＞ 第 1 回　SDGs とは何か？ 持続的な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）は、2030 年までに日本を含む国際社会全体が取り組むべき目標を定めたものである。日本では、私たちの暮らしに身近になっている SDGs であるが、私たちは正しく SDGs を理解しているだろうか。この講義では、SDGs が定められた背景（国際社会	【アサインメント】 ・SDGs の 17 の目標のうち、自分自身の関心のある目標を 1 つ挙げ、その理由を 400 字程度でまとめて持参して下さい。 https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

	と持続可能な開発)、SDGs の概要、SDGs の 17 の目標、国際社会と日本の取組みについて説明し、SDGs とは何かについての理解を深	
【第 7 回】	第 2 回　SDGs 達成に向けた日本の国際協力 ・日本の政府開発援助（ODA）の実施機関として、独立行政法人国際協力機構（JICA）は途上国の「人間の安全保障」と質の高い成長の実現を目指している。なぜ日本が途上国の支援を行っているのかを理解するため、ODA の歴史を振り返り、今後 2030 年の SDGs 達成に向けた JICA の取組みを紹介する。	【アサインメント】 ・以下の映像を見て、SDGs の実現に向け、JICA がどんな取り組みを行っているのか、その取り組みに対するその自分自身の感想を 400 字程度でまとめ持参して下さい。 https://www.youtube.com/watch?v=5sxOY8sUKks（約 6 分）
【第 8 回】	第 3 回　SDGs を考える（1）「健康」 ・第 3 回目、第 4 回目、第 5 回目の講義では、国際社会の課題の中から「人」に関するトピックを取り上げる。 まずは、健康。SDGs3「すべての人に健康と福祉を」というゴールについて、世界の人々の健康に関するデータから現状を読み解き、	【アサインメント】 ・以下の映像を視聴ください。 【JICA-Net ライブラリ】母子手帳を世界に～途上国における導入と普及～ https://www.youtube.com/watch?v=jB1DooUEDao　（約 30 分）

	SDGs で掲げられている目標との関係性を整理・理解する。人々の健康を守るために JICA が行っているアプローチの中から、「母子健康手帳」を活用した母子の健康を守る取り組みと、みんなが病院に通える取組みを紹介する。	
【第 9 回】	第 4 回　SDGs を考える（2）「高齢化」 第 4 回目の講義では、「高齢化」をトピックとして取り上げる。日本は超高齢社会であり、高齢化は日本にとっても課題が多い。世界に目を向けると、欧米諸国のみならず、アジア、中南米、アフリカでも高齢化が進行している。これらの状況をデータから現状を読み解き、SDGs で掲げられている目標との関係性を整理・理解する。高齢化が進むタイにおいて、JICA が実施した国際協力を事例に紹介しながら、日本がどう貢献できるのかを考える。 クール小課題 ・講義の中で取り上げた①健康、②高齢化、	【アサインメント】 以下の映像を視聴ください。 【JICA-Net ライブラリ】アジアの高齢化に挑む　JICA の高齢者介護・福祉への取組み https://www.youtube.com/watch?v=CDr9Uqe9nxU&list=PLSQ54HoCvj5jw15JJOtc87YdXKMkRBoVc&index=2　（約 30 分）

【第10回】	第5回　SDGsを考える（3）「栄養」、2030年以降の未来に向けて ・「栄養」をテーマに、SDGsを考える。健康な未来へ導くために、適切な栄養をすべての人々に届ける必要があるが、途上国の子どもを中心に栄養に関する課題が多く存在する。この講義では、世界の栄養の現状について、データから理解する。そして、SDGsで掲げられている目標との関係性を理解し、課題を改善するために必要なアプローチについて理解を深める。 ・SDGsは2030年の国際社会の姿を現したものであるが、その未来の社会において、自分はどのような人	【アサインメント】なし
【第11回】	＜濱名陽子＞ 第1回　人間の育ちの特質 　人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間　30分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。。【所要時間60分】
【第12回】	第2回　　家庭教育と親 　人間が生まれてはじめて所属する集団である「家	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間　30分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間　60分】

	族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードから、ペアワークで考える。	
【第13回】	第３回　学校教育と教育機会の平等（その１） 　家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァスタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうか自分の意見を書いてくる。【所要時間　60 分】
【第14回】	第４回　学校教育と教育機会の平等（その２） 　第３回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 　次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第４回の授業の際に説明する）。 【所要時間　360 分】 課題Ａ：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を踏まえ、自分の考えを述べなさい。 課題Ｂ：現在の日	○クールレポート課題を作成する。 【所要時間 360 分】

	本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏まえ、	
【第15回】	第５回　生涯学習と自分の人生 「生涯学習」という考え方がうまれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	○アサインメント　　なし

1.授業コード（ナンバリング）	HUM102-A01	2.科目名	人間学 II（A グループ）	3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、川脇康生、北村正仁、田中綾子				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目 実務家教員(防災分野:川脇)	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	保育士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること				
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋 3 本ずつのクールレポートと、 1 本ずつの最終レポ				
18.学習目標とＤＰとの関連	＜DP との関連性＞ 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・DP（２）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・DP（３）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 ＊各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 ＜SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応＞ ３すべての人に健康と福祉を、９産業と技術革新の基盤をつくろう、１０ 人や国の不平等をなくそう、１６平和と公正をすべての人に、１７パートナーシップで目標を達成しよう ＜国際社会と公共政策＞　（川脇康生） 20 世紀に入り交通や通信手段が急速に発達し、人類が自由に地球規模で交流し、友好を深めたり、事業を始めたりすることが盛んになってきた。一方、国家の枠を超えて、地球全体を対象に取り組む必要のある人類共通の課題も生まれてきた。本講義では公共政策とは何かについて学ぶとともに、人類が協力して解決すべき環境問題や大災害への対応について具体的な事例をもとに考え、これからを生き抜くうえで必要となるグローバルな視点を身につける。 ＜災害を生き抜くために＞　（田中綾子） 私たち人間は有史以前より、自然の豊かさから恩恵を受けると同時に、自然の厳しさと向き合ってきた。とりわけ、四季があり温泉や美味しい食物に恵まれる日本は、多様な災害に多くみまわれることから災害のデパートともいわれている。 この５回の授業では、災害が多発する今を生き抜き、社会や暮らしを守っていくために何が必要なのかを学ぶ。 具体的には、①国内の地震を中心に、過去の代表的な災害事例から発生メカニズムと被害および対策について知る。そして、②都市化やグローバル化によって急速に変わりつつある災害の様相から、今後求められる災害対応を考える。さらに、③さまざまなライフステージや役割において、身近にできることから行動してみる。これらを通じて、防災に関する「知識」「意				

	識」「行動」の基礎的な力を身につけることを目標とする。 ＜論理的思考とイノベーション＞　（北村正仁） 　私たちは、日々の生活や社会活動の中で様々な問題に直面し、色々な迷いや悩みを抱え、数多くの判断や意思決定をしている。この「意思決定」を少しでも論理的・合理的に行う方法が「論理的思考」である。さらに、より良い生活や人生を送るためには、直面する課題を解決し、新たな価値を生み出す「イノベーション」も重要といえる。ここでは、この「論理的思考」や「イノベーション」について、皆さんと共に考えていく。 　授業では、悩み・迷い・問題・課題 などを整理し、「論理的思考」（ロジカルシンキング）の考え方や手法を学ぶ。つぎに、社会課題などを解決して新たな革新的な価値を生み出し、新しい未来を創る「イノベーション」について、企業活動やリーダーの「人間学」の視点から考える。
19.教科書・教材	
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から 1 冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） ＜川脇康生＞ ◎庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆編著『新グローバル公共政策』晃洋書房 2016 年 ◎「大災害と国際協力」研究会著、明石康・大島賢三監修『大災害に立ち向かう世界と日本 災害と国際協力』佐伯印刷株式会社出版事業部 2013 年 ◎山本民次編『「里海」としての沿岸域の新たな利用』恒星社厚生閣 2010 年 ◎井上恭介・NHK「里海」取材班『里海資本論 日本社会は「共生の原理」で動く 』角川新書 2015 年 ◎世
21.成績評価	3 名の担当者のクール小課題レポート（800 字以上）　18 点×3＝54 点 最終レポート（3 名の担当教員のうち 1 名を選び課題図書を読んだ上で、2000 字以上のレポートを提出する）　48 点 最終課題（共通課題）予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終クールの担当教員が、詳細を連絡する
22.コメント	一人の教員が 5 回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。
23.オフィスアワー	未定

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講　1－1	＜北村正仁＞ 第 1 回　人間はなぜ悩むのか？ 現代社会に生きる私たちは数多くの「悩み」や「迷い」を抱えている。私たち「人類」は「動物」から進化したと言われている。また、私たちは誰しも「子供」から「大人」へと成長して行く。この人類の「進化」、人間としての「成長」から、何故人間は悩むのかを考えていく。	〔事前準備〕 なぜ人間は悩むのか？「悩み」と「迷い」の違いを考える。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講　1－2	第 2 回　物事を構造的に捉える（ロジックツリー） 論理的に思考するためには、物事を「構造的」に捉えることが必要である。この物事を構造的に捉える基盤となる考え方が「MECE」である。 MECE は、論理的思考（ロジカル･シンキング）のベースとなるもので、数多くのビジネス･フレームワークでも活用されている。	〔事前準備〕 自分自身や身近な悩み事や迷い事の内容と、その結論や結果を整理し、最終的になぜそう決めたのかを考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】

	この「MECE」をベースとして、思考を構造化する「ロジックツリー」（ピラミッド･ストラクチャー）の枠組みについて学ぶ。	
輪講　1－3	第３回　行動の選択・理想と目標 「ロジックツリー」によって問題分析と解説策を導き出す。その解決策を実行するため、資源管理や時間管理の方法を学ぶ。その上で、「問題」と「課題」の違いを理解し、人間が掲げる「理想」と「目標」の重要性を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の問題や身近な社会課題について、その課題の解決策を導き出す方法について考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講　1－4	第４回　新しい未来を創る（イノベーション） マズローの５段階欲求説から、人間は「あるべき姿」を掲げることが出来る、その意味を考える。その上で、理想の世界・新しい未来を創る「イノベーション」を学ぶ。	〔事前準備〕自分自身の身近な問題について、「ロジックツリー」を使い、原因の分析や解決策の導出を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】 〔クール小課題〕【所要時間 180 分】
輪講　1－5	第５回　イノベーション・視座を高める イノベーションをどのように生み出すのか、知識と知恵、形式知と暗黙知の違いや関係性を考える。その上で「知識創造理論」（SECI モデル）を学ぶ。その上で、視座を高める重要性を考え、５回の授業を振り返る。 〔クール小課題〕 次の小課題レポートを作成する。 課題：イノベーションによる新しい未来の創造・社会課題の解決の視点から、あなたが魅力的だと感ずる人物を一人挙げ、その理由と自分自身が学ぶべき点について考察して下さい。	〔事前準備〕新しい未来を創りあげた事例（イノベーション事例）を考えてみる。 【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講　2－1	＜川脇康生＞ 第１回　グローバル社会と公共政策 グローバル化の進展とそれがもたらすメリット・デメリットについて理解したうえで、国際社会における公共の利益とは何か、それを実現するための諸政策がどのように形成されるか具体的な事例を題材にして考察する。	[事前準備]：特になし。 [アサインメント]：講義内容を整理し、グローバル化社会の課題についてまとめる。 （計 60 分） 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講　2－2	第２回：国際社会のアクター 国際社会で「公共政策」をリードしている国家以外の様々なアクターについて学ぶとともに、国際連合、EU、多国籍企業や NGO などにおいて、どのように公共政策が形成され、実行されているのかを学ぶ。	[事前準備]：国際社会にどのようなアクターが存在するのか調べる。 [アサインメント]：講義内容を整理し、国際連合、EU、多国籍企業、NGO などの活動をまとめる。 （計 60 分）

		毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講　２－３	第３回：国際社会の課題（大災害） 国際社会は持続的発展を目指しているが、その前に立ちはだかる阻害要因の一つが自然災害である。災害発生件数や災害による経済的な損失や損害は増大の一途にある。これらがもたらす脅威に対処するために国際社会はどのような活動を行っているのか、国際協力の現状と課題を学ぶ。	[事前準備]：近年、世界で発生した大災害について調べる。 [アサインメント]：講義内容を整理し、災害発生要因と人間活動との関係をまとめる。 （計 60 分） 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講　２－４	第４回：国際社会の課題（環境問題） 国際社会が直面する最も深刻な課題の一つが環境問題である。人口集中が進み経済活動が拡大することにより、沿岸海域の汚染が進展しているほか、プラスティックごみによる深刻な環境問題が発生している。沿岸海域の環境保全を目的にしたグローバルネットワークや「里海」づくりなど人と自然の共生に向けた取り組みを学ぶ。	[事前準備]：世界の海洋汚染について調べる。 [アサインメント]：講義内容を整理し、環境保全に向けた国際的な取り組みをまとめる。 （計 60 分） 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講　２－５	第５回：国際社会と公共政策まとめ 国際社会では絶えず様々な紛争が発生している。人類全体が共生への道を歩むためには、多様な価値観を相互に理解し合うことが重要となる。世界全体の共通課題の解決に向けてどのような国際協力が可能か、これまでの議論を踏まえ総括する。 クール小課題 現在学んでいる専門領域（経営学、教育学）または自らの将来の職業（経営者、教師など）を念頭に置き、以下の①～⑤の国際課題の中のいずれか一つを選んで、その専門分野からの対応策を提案してください。 ?貧困、②大災害、③海洋汚染、④気候変動、⑤森	[事前準備]：講義で示したレポートの書き方についての注意事項を踏まえてクール小課題をまとめ、授業開始時に提出する。 （計 180 分） [アサインメント]：特になし。 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講　3-1	＜田中綾子＞ 第１回：人間社会と災害 　日本の風土や自然観に触れながら、これまでの大きな災害について知り、災害とは何かを考える。 ＜各回共通＞アサインメントをテーマにペアワークを 3 分行う。また、電子掲示板 Padlet と web クラスを用いてアンケートやコメント、質問等による対話的な共有を並行して進める。	事前準備してくること：最も印象深かった災害について、種類と発生日時と被害について web 等で調べる【所要時間３０分】 アサインメント：日本における災害の特徴について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】
輪講　3-2	第２回：災害のメカニズムと被害 　突然発生する地震のメカニズムと被害について知り、今起きた場合の被害を検討する。また、被災者のさまざまな痛みについて考える。	事前準備してくること：地震とその他の災害の相違点や類似点について考える【所要時間３０分】 アサインメント：地震による被害について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間６０分】
輪講　3-3	第３回：災害への対応と対策 　災害後の緊急対応、復旧、復興、次の災害への対策	事前準備してくること：自宅あるいは帰省先のハザードマップを確認する【所要時間３０

	について、さまざまな立場の人の取り組みを知る。また備えの障害となる事柄について考える。	分】 アサインメント：発生の時間や季節によってどのように被害が変化するかについて、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間６０分】
輪講　3 - 4	第４回：災害の教訓と伝承 　過去の災害に学び、その教訓を活かすことの重要性について考える。また、伝承が途絶える要因について分析する。	事前準備してくること：防災教育教材や伝承の事例について web クラスの資料を閲覧する【所要時間３０分】 アサインメント：さまざまな防災教育・啓発のあり方について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間６０分】 クール小課題【所要時間３００分】
輪講　3 - 5	第５回：わたしたちの役割（SDGs 住み続けられるまちづくり） 　懸念される地震災害の想定を知り、どのような取り組みができるかについて考える。また、災害時の協力・連携について考える。 クール小課題 2024 年１月１日に発生した能登半島地震の被害と復旧・復興について、①阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓が生かされた点と、②依然として、あるいは新たな課題となっている点を、それぞれ１つ以上具体例やデータを示して説明しなさい。	事前準備してくること：地震災害に対する備えについて、個人として、さらに職業人として何が必要か考える【所要時間３０分】 アサインメント：災害時における地域連携と広域連携、さらに同業種・異業種間の連携について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間６０分】

1.授業コード（ナンバリング）	HUM102-A02	2.科目名	人間学 II（B グループ）	3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、川脇康生、北村正仁、田中綾子				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目 実務家教員(防災分野:川脇)	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	保育士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること				
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋 3 本ずつのクールレポートと、 1 本ずつの最終レポ				
18.学習目標とＤＰとの関連	＜DP との関連性＞ 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・DP（２）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・DP（３）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 ＊各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 ＜SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応＞ ３すべての人に健康と福祉を、９産業と技術革新の基盤をつくろう、１０ 人や国の不平等をなくそう、１６平和と公正をすべての人に、１７パートナーシップで目標を達成しよう ＜国際社会と公共政策＞　（川脇康生） 20 世紀に入り交通や通信手段が急速に発達し、人類が自由に地球規模で交流し、友好を深めたり、事業を始めたりすることが盛んになってきた。一方、国家の枠を超えて、地球全体を対象に取り組む必要のある人類共通の課題も生まれてきた。本講義では公共政策とは何かについて学ぶとともに、人類が協力して解決すべき環境問題や大災害への対応について具体的な事例をもとに考え、これからを生き抜くうえで必要となるグローバルな視点を身につける。 ＜災害を生き抜くために＞　（田中綾子） 私たち人間は有史以前より、自然の豊かさから恩恵を受けると同時に、自然の厳しさと向き合ってきた。とりわけ、四季があり温泉や美味しい食物に恵まれる日本は、多様な災害に多くみまわれることから災害のデパートともいわれている。 この５回の授業では、災害が多発する今を生き抜き、社会や暮らしを守っていくために何が必要なのかを学ぶ。 具体的には、①国内の地震を中心に、過去の代表的な災害事例から発生メカニズムと被害および対策について知る。そして、②都市化やグローバル化によって急速に変わりつつある災害の様相から、今後求められる災害対応を考える。さらに、③さまざまなライフステージや役割において、身近にできることから行動してみる。これらを通じて、防災に関する「知識」「意				

	識」「行動」の基礎的な力を身につけることを目標とする。 ＜論理的思考とイノベーション＞　（北村正仁） 　私たちは、日々の生活や社会活動の中で様々な問題に直面し、色々な迷いや悩みを抱え、数多くの判断や意思決定をしている。この「意思決定」を少しでも論理的・合理的に行う方法が「論理的思考」である。さらに、より良い生活や人生を送るためには、直面する課題を解決し、新たな価値を生み出す「イノベーション」も重要といえる。ここでは、この「論理的思考」や「イノベーション」について、皆さんと共に考えていく。 　授業では、悩み・迷い・問題・課題 などを整理し、「論理的思考」（ロジカルシンキング）の考え方や手法を学ぶ。つぎに、社会課題などを解決して新たな革新的な価値を生み出し、新しい未来を創る「イノベーション」について、企業活動やリーダーの「人間学」の視点から考える。
19.教科書・教材	
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から 1 冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） ＜川脇康生＞ ◎庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆編著『新グローバル公共政策』晃洋書房 2016 年 ◎「大災害と国際協力」研究会著、明石康・大島賢三監修『大災害に立ち向かう世界と日本 災害と国際協力』佐伯印刷株式会社出版事業部 2013 年 ◎山本民次編『「里海」としての沿岸域の新たな利用』恒星社厚生閣 2010 年 ◎井上恭介・NHK「里海」取材班『里海資本論 日本社会は「共生の原理」で動く 』角川新書 2015 年 ◎世
21.成績評価	3 名の担当者のクール小課題レポート（800 字以上）　18 点×3＝54 点 最終レポート（3 名の担当教員のうち 1 名を選び課題図書を読んだ上で、2000 字以上のレポートを提出する）　48 点 最終課題（共通課題）予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終クールの担当教員が、詳細を連絡する
22.コメント	一人の教員が 5 回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。
23.オフィスアワー	未定

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講　1－1	＜北村正仁＞ 第 1 回　人間はなぜ悩むのか？ 現代社会に生きる私たちは数多くの「悩み」や「迷い」を抱えている。私たち「人類」は「動物」から進化したと言われている。また、私たちは誰しも「子供」から「大人」へと成長して行く。この人類の「進化」、人間としての「成長」から、何故人間は悩むのかを考えていく。	〔事前準備〕 なぜ人間は悩むのか？「悩み」と「迷い」の違いを考える。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講　1－2	第 2 回　物事を構造的に捉える（ロジックツリー） 論理的に思考するためには、物事を「構造的」に捉えることが必要である。この物事を構造的に捉える基盤となる考え方が「MECE」である。 MECE は、論理的思考（ロジカル･シンキング）のベースとなるもので、数多くのビジネス･フレームワークでも活用されている。	〔事前準備〕 自分自身や身近な悩み事や迷い事の内容と、その結論や結果を整理し、最終的になぜそう決めたのかを考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】

	この「MECE」をベースとして、思考を構造化する「ロジックツリー」（ピラミッド･ストラクチャー）の枠組みについて学ぶ。	
輪講　1－3	第３回　行動の選択・理想と目標 「ロジックツリー」によって問題分析と解説策を導き出す。その解決策を実行するため、資源管理や時間管理の方法を学ぶ。その上で、「問題」と「課題」の違いを理解し、人間が掲げる「理想」と「目標」の重要性を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の問題や身近な社会課題について、その課題の解決策を導き出す方法について考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講　1－4	第４回　新しい未来を創る（イノベーション） マズローの５段階欲求説から、人間は「あるべき姿」を掲げることが出来る、その意味を考える。その上で、理想の世界・新しい未来を創る「イノベーション」を学ぶ。	〔事前準備〕自分自身の身近な問題について、「ロジックツリー」を使い、原因の分析や解決策の導出を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】 〔クール小課題〕【所要時間 180 分】
輪講　1－5	第５回　イノベーション・視座を高める イノベーションをどのように生み出すのか、知識と知恵、形式知と暗黙知の違いや関係性を考える。その上で「知識創造理論」（SECI モデル）を学ぶ。その上で、視座を高める重要性を考え、５回の授業を振り返る。 〔クール小課題〕 次の小課題レポートを作成する。 課題：イノベーションによる新しい未来の創造・社会課題の解決の視点から、あなたが魅力的だと感ずる人物を一人挙げ、その理由と自分自身が学ぶべき点について考察して下さい。	〔事前準備〕新しい未来を創りあげた事例（イノベーション事例）を考えてみる。 【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講　2－1	＜川脇康生＞ 第１回　グローバル社会と公共政策 グローバル化の進展とそれがもたらすメリット・デメリットについて理解したうえで、国際社会における公共の利益とは何か、それを実現するための諸政策がどのように形成されるか具体的な事例を題材にして考察する。	[事前準備]：特になし。 [アサインメント]：講義内容を整理し、グローバル化社会の課題についてまとめる。 （計 60 分） 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講　2－2	第２回：国際社会のアクター 国際社会で「公共政策」をリードしている国家以外の様々なアクターについて学ぶとともに、国際連合、EU、多国籍企業や NGO などにおいて、どのように公共政策が形成され、実行されているのかを学ぶ。	[事前準備]：国際社会にどのようなアクターが存在するのか調べる。 [アサインメント]：講義内容を整理し、国際連合、EU、多国籍企業、NGO などの活動をまとめる。 （計 60 分）

		毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講　２－３	第３回：国際社会の課題（大災害） 国際社会は持続的発展を目指しているが、その前に立ちはだかる阻害要因の一つが自然災害である。災害発生件数や災害による経済的な損失や損害は増大の一途にある。これらがもたらす脅威に対処するために国際社会はどのような活動を行っているのか、国際協力の現状と課題を学ぶ。	[事前準備]：近年、世界で発生した大災害について調べる。 [アサインメント]：講義内容を整理し、災害発生要因と人間活動との関係をまとめる。 （計 60 分） 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講　２－４	第４回：国際社会の課題（環境問題） 国際社会が直面する最も深刻な課題の一つが環境問題である。人口集中が進み経済活動が拡大することにより、沿岸海域の汚染が進展しているほか、プラスティックごみによる深刻な環境問題が発生している。沿岸海域の環境保全を目的にしたグローバルネットワークや「里海」づくりなど人と自然の共生に向けた取り組みを学ぶ。	[事前準備]：世界の海洋汚染について調べる。 [アサインメント]：講義内容を整理し、環境保全に向けた国際的な取り組みをまとめる。 （計 60 分） 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講　２－５	第５回：国際社会と公共政策まとめ 国際社会では絶えず様々な紛争が発生している。人類全体が共生への道を歩むためには、多様な価値観を相互に理解し合うことが重要となる。世界全体の共通課題の解決に向けてどのような国際協力が可能か、これまでの議論を踏まえ総括する。 クール小課題 現在学んでいる専門領域（経営学、教育学）または自らの将来の職業（経営者、教師など）を念頭に置き、以下の①～⑤の国際課題の中のいずれか一つを選んで、その専門分野からの対応策を提案してください。 ?貧困、②大災害、③海洋汚染、④気候変動、⑤森	[事前準備]：講義で示したレポートの書き方についての注意事項を踏まえてクール小課題をまとめ、授業開始時に提出する。 （計 180 分） [アサインメント]：特になし。 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講　3-1	＜田中綾子＞ 第１回：人間社会と災害 　日本の風土や自然観に触れながら、これまでの大きな災害について知り、災害とは何かを考える。 ＜各回共通＞アサインメントをテーマにペアワークを 3 分行う。また、電子掲示板 Padlet と web クラスを用いてアンケートやコメント、質問等による対話的な共有を並行して進める。	事前準備してくること：最も印象深かった災害について、種類と発生日時と被害について web 等で調べる【所要時間３０分】 アサインメント：日本における災害の特徴について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】
輪講　3-2	第２回：災害のメカニズムと被害 　突然発生する地震のメカニズムと被害について知り、今起きた場合の被害を検討する。また、被災者のさまざまな痛みについて考える。	事前準備してくること：地震とその他の災害の相違点や類似点について考える【所要時間３０分】 アサインメント：地震による被害について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間６０分】
輪講　3-3	第３回：災害への対応と対策 　災害後の緊急対応、復旧、復興、次の災害への対策	事前準備してくること：自宅あるいは帰省先のハザードマップを確認する【所要時間３０

	について、さまざまな立場の人の取り組みを知る。また備えの障害となる事柄について考える。	分】 アサインメント：発生の時間や季節によってどのように被害が変化するかについて、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間６０分】
輪講　3 - 4	第４回：災害の教訓と伝承 　過去の災害に学び、その教訓を活かすことの重要性について考える。また、伝承が途絶える要因について分析する。	事前準備してくること：防災教育教材や伝承の事例について web クラスの資料を閲覧する【所要時間３０分】 アサインメント：さまざまな防災教育・啓発のあり方について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間６０分】 クール小課題【所要時間３００分】
輪講　3 - 5	第５回：わたしたちの役割（SDGs 住み続けられるまちづくり） 　懸念される地震災害の想定を知り、どのような取り組みができるかについて考える。また、災害時の協力・連携について考える。 クール小課題 2024 年１月１日に発生した能登半島地震の被害と復旧・復興について、①阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓が生かされた点と、②依然として、あるいは新たな課題となっている点を、それぞれ１つ以上具体例やデータを示して説明しなさい。	事前準備してくること：地震災害に対する備えについて、個人として、さらに職業人として何が必要か考える【所要時間３０分】 アサインメント：災害時における地域連携と広域連携、さらに同業種・異業種間の連携について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間６０分】

1.授業コード（ナンバリング）	HUM102-A03	2.科目名	人間学 II（C グループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、川脇康生、北村正仁、田中綾子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目 実務家教員(防災分野:川脇)	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋 3 本ずつのクールレポートと、 1 本ずつの最終レポ					
18.学習目標とＤＰとの関連	＜DP との関連性＞ 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・DP（２）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・DP（３）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 ＊各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 ＜SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応＞ ３すべての人に健康と福祉を、９産業と技術革新の基盤をつくろう、１０ 人や国の不平等をなくそう、１６平和と公正をすべての人に、１７パートナーシップで目標を達成しよう ＜国際社会と公共政策＞　（川脇康生） 20 世紀に入り交通や通信手段が急速に発達し、人類が自由に地球規模で交流し、友好を深めたり、事業を始めたりすることが盛んになってきた。一方、国家の枠を超えて、地球全体を対象に取り組む必要のある人類共通の課題も生まれてきた。本講義では公共政策とは何かについて学ぶとともに、人類が協力して解決すべき環境問題や大災害への対応について具体的な事例をもとに考え、これからを生き抜くうえで必要となるグローバルな視点を身につける。 ＜災害を生き抜くために＞　（田中綾子） 私たち人間は有史以前より、自然の豊かさから恩恵を受けると同時に、自然の厳しさと向き合ってきた。とりわけ、四季があり温泉や美味しい食物に恵まれる日本は、多様な災害に多くみまわれることから災害のデパートともいわれている。 この５回の授業では、災害が多発する今を生き抜き、社会や暮らしを守っていくために何が必要なのかを学ぶ。 具体的には、①国内の地震を中心に、過去の代表的な災害事例から発生メカニズムと被害および対策について知る。そして、②都市化やグローバル化によって急速に変わりつつある災害の様相から、今後求められる災害対応を考える。さらに、③さまざまなライフステージや役割において、身近にできることから行動してみる。これらを通じて、防災に関する「知識」「意					

	識」「行動」の基礎的な力を身につけることを目標とする。 ＜論理的思考とイノベーション＞　（北村正仁） 　私たちは、日々の生活や社会活動の中で様々な問題に直面し、色々な迷いや悩みを抱え、数多くの判断や意思決定をしている。この「意思決定」を少しでも論理的・合理的に行う方法が「論理的思考」である。さらに、より良い生活や人生を送るためには、直面する課題を解決し、新たな価値を生み出す「イノベーション」も重要といえる。ここでは、この「論理的思考」や「イノベーション」について、皆さんと共に考えていく。 　授業では、悩み・迷い・問題・課題 などを整理し、「論理的思考」（ロジカルシンキング）の考え方や手法を学ぶ。つぎに、社会課題などを解決して新たな革新的な価値を生み出し、新しい未来を創る「イノベーション」について、企業活動やリーダーの「人間学」の視点から考える。
19.教科書・教材	
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から 1 冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） ＜川脇康生＞ ◎庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆編著『新グローバル公共政策』晃洋書房 2016 年 ◎「大災害と国際協力」研究会著、明石康・大島賢三監修『大災害に立ち向かう世界と日本 災害と国際協力』佐伯印刷株式会社出版事業部 2013 年 ◎山本民次編『「里海」としての沿岸域の新たな利用』恒星社厚生閣 2010 年 ◎井上恭介・NHK「里海」取材班『里海資本論 日本社会は「共生の原理」で動く 』角川新書 2015 年 ◎世
21.成績評価	3 名の担当者のクール小課題レポート（800 字以上）　18 点×3＝54 点 最終レポート（3 名の担当教員のうち 1 名を選び課題図書を読んだ上で、2000 字以上のレポートを提出する）　48 点 最終課題（共通課題）予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終クールの担当教員が、詳細を連絡する
22.コメント	一人の教員が 5 回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。
23.オフィスアワー	未定

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講　1－1	＜北村正仁＞ 第 1 回　人間はなぜ悩むのか？ 現代社会に生きる私たちは数多くの「悩み」や「迷い」を抱えている。私たち「人類」は「動物」から進化したと言われている。また、私たちは誰しも「子供」から「大人」へと成長して行く。この人類の「進化」、人間としての「成長」から、何故人間は悩むのかを考えていく。	〔事前準備〕 なぜ人間は悩むのか？「悩み」と「迷い」の違いを考える。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講　1－2	第 2 回　物事を構造的に捉える（ロジックツリー） 論理的に思考するためには、物事を「構造的」に捉えることが必要である。この物事を構造的に捉える基盤となる考え方が「MECE」である。 MECE は、論理的思考（ロジカル･シンキング）のベースとなるもので、数多くのビジネス･フレームワークでも活用されている。	〔事前準備〕 自分自身や身近な悩み事や迷い事の内容と、その結論や結果を整理し、最終的になぜそう決めたのかを考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】

	この「MECE」をベースとして、思考を構造化する「ロジックツリー」（ピラミッド･ストラクチャー）の枠組みについて学ぶ。	
輪講　1－3	第３回　行動の選択・理想と目標 「ロジックツリー」によって問題分析と解説策を導き出す。その解決策を実行するため、資源管理や時間管理の方法を学ぶ。その上で、「問題」と「課題」の違いを理解し、人間が掲げる「理想」と「目標」の重要性を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の問題や身近な社会課題について、その課題の解決策を導き出す方法について考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講　1－4	第４回　新しい未来を創る（イノベーション） マズローの５段階欲求説から、人間は「あるべき姿」を掲げることが出来る、その意味を考える。その上で、理想の世界・新しい未来を創る「イノベーション」を学ぶ。	〔事前準備〕自分自身の身近な問題について、「ロジックツリー」を使い、原因の分析や解決策の導出を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】 〔クール小課題〕【所要時間 180 分】
輪講　1－5	第５回　イノベーション・視座を高める イノベーションをどのように生み出すのか、知識と知恵、形式知と暗黙知の違いや関係性を考える。その上で「知識創造理論」（SECI モデル）を学ぶ。その上で、視座を高める重要性を考え、５回の授業を振り返る。 〔クール小課題〕 次の小課題レポートを作成する。 課題：イノベーションによる新しい未来の創造・社会課題の解決の視点から、あなたが魅力的だと感ずる人物を一人挙げ、その理由と自分自身が学ぶべき点について考察して下さい。	〔事前準備〕新しい未来を創りあげた事例（イノベーション事例）を考えてみる。 【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講　2－1	＜川脇康生＞ 第１回　グローバル社会と公共政策 グローバル化の進展とそれがもたらすメリット・デメリットについて理解したうえで、国際社会における公共の利益とは何か、それを実現するための諸政策がどのように形成されるか具体的な事例を題材にして考察する。	[事前準備]：特になし。 [アサインメント]：講義内容を整理し、グローバル化社会の課題についてまとめる。 （計 60 分） 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講　2－2	第２回：国際社会のアクター 国際社会で「公共政策」をリードしている国家以外の様々なアクターについて学ぶとともに、国際連合、EU、多国籍企業や NGO などにおいて、どのように公共政策が形成され、実行されているのかを学ぶ。	[事前準備]：国際社会にどのようなアクターが存在するのか調べる。 [アサインメント]：講義内容を整理し、国際連合、EU、多国籍企業、NGO などの活動をまとめる。 （計 60 分）

		毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講　２－３	第３回：国際社会の課題（大災害） 国際社会は持続的発展を目指しているが、その前に立ちはだかる阻害要因の一つが自然災害である。災害発生件数や災害による経済的な損失や損害は増大の一途にある。これらがもたらす脅威に対処するために国際社会はどのような活動を行っているのか、国際協力の現状と課題を学ぶ。	[事前準備]：近年、世界で発生した大災害について調べる。 [アサインメント]：講義内容を整理し、災害発生要因と人間活動との関係をまとめる。 （計 60 分） 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講　２－４	第４回：国際社会の課題（環境問題） 国際社会が直面する最も深刻な課題の一つが環境問題である。人口集中が進み経済活動が拡大することにより、沿岸海域の汚染が進展しているほか、プラスティックごみによる深刻な環境問題が発生している。沿岸海域の環境保全を目的にしたグローバルネットワークや「里海」づくりなど人と自然の共生に向けた取り組みを学ぶ。	[事前準備]：世界の海洋汚染について調べる。 [アサインメント]：講義内容を整理し、環境保全に向けた国際的な取り組みをまとめる。 （計 60 分） 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講　２－５	第５回：国際社会と公共政策まとめ 国際社会では絶えず様々な紛争が発生している。人類全体が共生への道を歩むためには、多様な価値観を相互に理解し合うことが重要となる。世界全体の共通課題の解決に向けてどのような国際協力が可能か、これまでの議論を踏まえ総括する。 クール小課題 現在学んでいる専門領域（経営学、教育学）または自らの将来の職業（経営者、教師など）を念頭に置き、以下の①～⑤の国際課題の中のいずれか一つを選んで、その専門分野からの対応策を提案してください。 ?貧困、②大災害、③海洋汚染、④気候変動、⑤森	[事前準備]：講義で示したレポートの書き方についての注意事項を踏まえてクール小課題をまとめ、授業開始時に提出する。 （計 180 分） [アサインメント]：特になし。 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講　3-1	＜田中綾子＞ 第１回：人間社会と災害 　日本の風土や自然観に触れながら、これまでの大きな災害について知り、災害とは何かを考える。 ＜各回共通＞アサインメントをテーマにペアワークを 3 分行う。また、電子掲示板 Padlet と web クラスを用いてアンケートやコメント、質問等による対話的な共有を並行して進める。	事前準備してくること：最も印象深かった災害について、種類と発生日時と被害について web 等で調べる【所要時間３０分】 アサインメント：日本における災害の特徴について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】
輪講　3-2	第２回：災害のメカニズムと被害 　突然発生する地震のメカニズムと被害について知り、今起きた場合の被害を検討する。また、被災者のさまざまな痛みについて考える。	事前準備してくること：地震とその他の災害の相違点や類似点について考える【所要時間３０分】 アサインメント：地震による被害について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間６０分】
輪講　3-3	第３回：災害への対応と対策 　災害後の緊急対応、復旧、復興、次の災害への対策	事前準備してくること：自宅あるいは帰省先のハザードマップを確認する【所要時間３０

	について、さまざまな立場の人の取り組みを知る。また備えの障害となる事柄について考える。	分】 アサインメント：発生の時間や季節によってどのように被害が変化するかについて、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間６０分】
輪講　3 - 4	第４回：災害の教訓と伝承 　過去の災害に学び、その教訓を活かすことの重要性について考える。また、伝承が途絶える要因について分析する。	事前準備してくること：防災教育教材や伝承の事例について web クラスの資料を閲覧する【所要時間３０分】 アサインメント：さまざまな防災教育・啓発のあり方について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間６０分】 クール小課題【所要時間３００分】
輪講　3 - 5	第５回：わたしたちの役割（SDGs 住み続けられるまちづくり） 　懸念される地震災害の想定を知り、どのような取り組みができるかについて考える。また、災害時の協力・連携について考える。 クール小課題 2024 年１月１日に発生した能登半島地震の被害と復旧・復興について、①阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓が生かされた点と、②依然として、あるいは新たな課題となっている点を、それぞれ１つ以上具体例やデータを示して説明しなさい。	事前準備してくること：地震災害に対する備えについて、個人として、さらに職業人として何が必要か考える【所要時間３０分】 アサインメント：災害時における地域連携と広域連携、さらに同業種・異業種間の連携について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間６０分】

1.授業コード（ナンバリング）	HUM103-M01	2.科目名	倫理と社会生活 （倫理学）	3.単位数	2
4.授業担当教員	Bartneck Tobias				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校（公民）中学（社会）副専攻（生命と生活を考える）	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	【目的】 本講義では、倫理理論の基礎を学び、現代社会における様々な倫理的問題に対する意識を高めることを目的とします。 【概要】 本講義では、倫理学の基礎概念と代表的理論を紹介します。現代社会における「人工妊娠中絶」、「動物の権利」、「環境破壊」、「多様性」や「戦争」などのような諸問題を取り上げながら、 それぞれの倫理理論が日常生活にどのように応用できるかを探っていきます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 日常生活における倫理的問題に気づき、倫理的概念を用いてその問題にいかに対処すべきかを学ぶこと。 自分自身が当たり前に思っていることを疑い、社会の常識を問い直す力を身につけること。 また、さまざまな考え方や価値観を理解し、多角的に問題をとらえ、倫理学的な知識を用いて自分の疑問や意見を明確に表現する能力を養うこと。 【関連するディプロマポリシー】 (1)自律性 (3)多様性理解 (4)問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	毎回、資料を配布し、WebClass で公開します(教科書は使用しません)。				
20.参考文献	適宜、授業中に紹介します。				
21.成績評価	二回のレポート（400～1200 字）と毎回のコメントシートで評価します。 毎回のコメントシート （全 15 回合計）30 点 中間レポート（第 8 回講義）30 点 期末レポート（第 15 回講義）40 点 出席確認は、コメントシートで行います。 詳しい内容は授業で説明します。				
22.コメント	本講義は、単に情報を伝えたり、決まった答えを示したりするのではなく、自分なりに自由に考え、問いを立てることの楽しさ・有意義さをお伝えできればと思います。				
23.オフィスアワー	質問等は、授業の前後で対応します。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	【ガイダンス】 本授業の進め方、成績評価の方法などの確認、授業目的・概要の解説	【以下第 15 回講義まで共通】 Web Class を使うので、パソコンを持参してください。 予習:Web Class 上にアップロードされる授業資料を事前に目を通しておいてください。

		復習:授業ノートを整理し、わからないところがないか確認してください。 毎回授業後にコメントシートを書いてもらいます。
【第 2 回】	【倫理・倫理学とはなにか】 道徳・倫理・法の違い、「善さとはなにか」、「正義とは何か」について	
【第 3 回】	【倫理学の代表的理論①】 徳倫理学について	
【第 4 回】	【倫理学の代表的理論②】 義務倫理学について	
【第 5 回】	【倫理学の代表的理論③】 功利主義の倫理学について	
【第 6 回】	【生命倫理①】 出生前診断や人工妊娠中絶をめぐる議論	
【第 7 回】	【生命倫理②】 安楽死・尊厳死をめぐる議論	
【第 8 回】	【レポート書き方講座・相談会】	中間レポート提出（Web Class）
【第 9 回】	【動物倫理①】 動物の権利をめぐる議論	
【第 10 回】	【動物倫理②】 人間中心主義・種差別をめぐる議論	
【第 11 回】	【環境倫理①】 環境破壊と環境活動について	
【第 12 回】	【環境倫理②】 自然の生存権と持続可能性をめぐる議論	
【第 13 回】	【社会倫理①】 多様性社会の倫理	
【第 14 回】	【社会倫理②】 「正しい戦争」あるいは「正戦」をめぐる議論	
【第 15 回】	【まとめと振り返り・レポート相談会】	期末レポート提出（Web Class）

1.授業コード（ナンバリング）	HUM105-A01	2.科目名	比較宗教論	3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬				
5.授業科目の区分	基礎科目（2019 年度以降入学生）/専門共通科目（2018 年度以前入学生）	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年次～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 多文化共生の実現には相手文化の「内的な論理」の把握が絶対の条件となります。この授業では、特に誤解と衝突の多い「宗教」について、その内的論理を把握するための諸概念・諸理論を、豊富な具体例とその分析を通じて解説します。 【概要】 ユダヤ教やイスラム教などの一神教は「一人しか神様がいない宗教」ではありません。彼らが「神」と呼んでいるものは世界の原理や掟といった、もっと抽象的な概念です。そこからはじまって「祈り」の意味も、聖典の扱いも、他宗教のとらえ方も、すべてが私たちとは異なる論理に編み込まれていま				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業の学習目標は DP の（3）多様性の理解と（2）問題解決力の学修に関連しています。 ①宗教のあり方を社会的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる ②社会のあり方を宗教的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる。 ③それらの理論を使い、様々な文化事象を分析することができる。				
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）				
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト（15 回） … 45%（学習目標①②に対応） ・期末レポート … 55%（学習目標①②③に対応）				
22.コメント					
23.オフィスアワー	金曜 2 限（学修支援センター）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	授業ガイダンス ― 多文化共生と宗教の「理解」	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 2 回】	「神」とは何か ― ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の基本論理	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 3 回】	精霊たちが来る季節 ― キリスト教が排除したもうひとつのヨーロッパ世界	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 4 回】	私は世界で世界は私 ― 仏教、ヒンドゥー教の基本論理	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 5 回】	「運」という観念の発明 ― 道教の基本論理	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 6 回】	魔法少女とメラネシア ― 呪力マナに関する報告と 19 世紀の理論の崩壊	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 7 回】	お父さんのいない島 ― フィールドワークと近代人類学の成立（１）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 8 回】	異文化の内的論理を把握する ― フィールドワークと近代人類学の成立（２）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

【第 9 回】	妖術師ルイスの告白 ― 機能主義とその限界	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	アスディワルの奇妙な冒険 ― 構造主義と神話分析	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	境界とタブーと非日常 ― ダグラスの境界論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	死と再生、あるいは儀礼的な逆転 ― リーチの境界論、ターナーの境界論、トリックスター論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	病を投げ捨てる方法 ― 治癒儀礼の論理１：象徴論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	呪医は何を治したのか？― 治癒儀礼の論理２：社会関係の組み立て直しとしての癒し	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	痛みと説明 ― 治癒儀礼の論理３：災因論・物語論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード（ナンバリング）	INF102-Y01	2.科目名	情報倫理		3.単位数	2
4.授業担当教員	中嶌康二					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 絶えず変化し続ける情報社会において、適切な情報技術の利活?ができるようになるための判断と?構えを?動に移すことができるようになることを?指します。 概要： 本科?では、情報社会で活動する上で適切な判断と態度を取るために必要になる知識とスキルを事例調査などの学習を通して?に付けます。インターネット等の技術は日々進歩しており、情報社会は常に変化を続けています。このため、知識とスキルを?分でアップデートしていけるようになることを?指して、技術?、法律?、倫理?それぞれにおいて、データを参照しながら情報					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科?の学習?標（＝?につくスキル）は次の通りです。 1. インターネット上での情報発信が他者に及ぼしうる影響について説明できる 2. プライバシー権、知的財産権など?他の権利について説明できる 3. 情報社会において、危機回避など安全な利活?のための?法について説明できる 4. データ・AI 活用上の課題について説明できる 5. 情報モラルに関する知識に基づいた適切な意思決定ができる [関連する DP（ディプロマポリシー）] （1）?律性（3）多様性理解（4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『情報倫理_ネット時代のソーシャル・リテラシー』髙橋 慈子ほか，技術評論社，2020 年					
20.参考文献	『事例でわかる情報モラル&セキュリティ』実教出版，2022 年 『教養としてのデータサイエンス』内田誠一ほか，講談社，2021 年 その他、授業中に適宜資料を配付する。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 （1）知識テスト （学習?標１・2・3・4 に対応）10% →各テストは「満点」で合格です。（何度でもチャレンジできます） →実施時期は、授業の中で指?します。 （2）各ブロックに関する小レポート×４ （学習?標１・２・３・４・５に対応）60% （3）情報倫理啓発チラシ（学習?標１・２・３・４・５に対応） 15% （4）ふりかえりシート（学習?標１・２・３・４・５に対応） 15%					
22.コメント	・各回の授業で提?される予習・復習は、下表の「26. アサインメント（宿題）など」の欄に記載しています。（個?差はありますが）それぞれ 120 分程度の作業となることを想定しています。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワーは、月曜日昼休みです。 質問や相談がある場合はこの時間を活用してください。その他、授業期間中は随時質問を受け付けます。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・授業概要説明／ICT ツールの利用環境確認	授業外学習：

	・「情報倫理」の理解度確認ワーク：これまでに学んだ「情報倫理（モラル・セキュリティ）」についてグループディスカッション	シラバスの内容確認 教科書を概観して全体像をつかむ
第 2 回	ブロック(1)他者への影響① SNS と情報モラルについて考える	事前学習：教科書（第 3・4・5・13・14 章のうち指定の範囲）を読んでくる 事後学習：本日の内容を復習
第 3 回	ブロック(1)他者への影響② SNS と情報モラルに関する事例を調べてみる →グループワークで共有	授業外学習： 授業中の調査ワークのつづき
第 4 回	ブロック(1)のまとめ 自分自身の生活とどう関わるのかを考えて発信する	授業外学習： ◆小レポート（1）作成 WebClass から提出
第 5 回	ブロック(2)自他の権利① プライバシー権や個人情報保護について考える	事前学習：教科書（第 8・9 章）を読んでくる 事後学習：本日の内容を復習
第 6 回	ブロック(2)自他の権利② プライバシー権や個人情報保護に関する事例を調べてみる →グループワークで共有	授業外学習： 授業中の調査ワークのつづき
第 7 回	ブロック(2)のまとめ 自分自身の生活とどう関わるのかを考えて発信する	授業外学習： ◆小レポート（2）作成 WebClass から提出
第 8 回	ブロック(3)情報セキュリティ① 情報技術とセキュリティについて考える	授業外学習： 本日の内容を復習 ◆知識テスト　の実施
第 9 回	ブロック(3)情報セキュリティ② 情報技術とセキュリティに関する事例を調べてみる →グループワークで共有	事前学習：教科書（第 6・7 章）を読んでくる 事後学習：本日の内容を復習
第 10 回	ブロック(3)のまとめ 自分自身の生活とどう関わるのかを考えて発信する	授業外学習： ◆小レポート（3）作成 WebClass から提出
第 11 回	ブロック(4)データ・AI 活用上の課題① データ倫理や「AI と倫理」について考える	事前学習：教科書（第 10・11・12 章）を読んでくる 事後学習：本日の内容を復習
第 12 回	ブロック(4)データ・AI 活用上の課題② データ倫理や「AI と倫理」に関する事例を調べてみる →グループワークで共有	授業外学習： 授業中の調査ワークのつづき
第 13 回	ブロック(4)のまとめ 自分自身の生活とどう関わるのかを考えて発信する	授業外学習： ◆小レポート（4）作成 WebClass から提出
第 14 回	情報倫理啓発チラシ作成と共有	授業外学習： ◆作成したチラシの提出 事後学習：ここまでの学習内容を振り返り、自身の「態度」にどのような変化があったか考えてみる
第 15 回	学びのふりかえり、??評価、ポートフォリオ記述 ／	◆ふりかえりシート提出（WebClass：授業中

	総評	提出）

1.授業コード（ナンバリング）	INF103-Y01	2.科目名	情報リテラシー（1/2）（4 月 9 日～5 月 28 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　？　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　？　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　？　【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　（金曜）3 限 研究室オフィスアワー　（金曜）4 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4〜5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	INF103-Y02	2.科目名	情報リテラシー （留）	3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久				
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス				
18.学習目標と ＤＰとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)） 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成 15 点 ? 【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成 15 点 ? 【学習?標④に対応				
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センタオフィスアワー：水曜日・昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4〜5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	INF103-Y03	2.科目名	情報リテラシー（2/2）（4 月 9 日～5 月 28 日）		3.単位数	2	
4.授業担当教員	中嶌康二						
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学科				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されています。履修登録の際には注意してください。						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。　具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass（学習?援システム）などの学内ネットワークやクラウドサービス						
18.学習目標と ＤＰとの関連	?　情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ②　クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③　インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④　学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・　指定された体裁の?書を作成できる。（レポート作成の作法） ・　指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・　指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??						
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。						
20.参考文献							
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（〆切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)）　10 点　【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート　?10 点　?　【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成　15 点　?　【学習?標④に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む） 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成　15 点　?　【学習?標④に対応						
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと						
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　（月曜）２限						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認	[授業外学習] 各自の PC 環境整備

	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル）（続きは第 14 回） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00〆切）
第 3 回	第 3 回　Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回　レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サン	課題[1]　データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② 　レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2]　指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① 　Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 　成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、 数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17　P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] 　Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word＆Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] 　Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① 　・PowerPoint 準備問題 　・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]:　指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22　P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4〜5）をスライドで解説 ・　データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード（ナンバリング）	INF201-Y01	2.科目名	システム思考		3.単位数	2
4.授業担当教員	中嶌康二					
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義と演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：「システム思考」の考え方、活用方法について学び、今後の問題発見・解決を試みる場面で使えるようになることを目指します。 「システム思考」とは、「現実の複雑性を理解するために、ものごとのつながりや全体像を見て、その本質について考える」ための理論や技術を指します。 概要： 「システム思考」を使うことにより、「個々の行動の背景にある、問題となっている現象を起こりやすくしている構造」に目を向け、その構造を理解することによって、小さな力でも大きく動かせる「レバレッジ・ポイント」を見出すことができるようになりま					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科?の学習?標（＝?につくスキル）は次の通りです。 1.「システム思考」の考え方について説明できるようになる。 2. 物事の流れをつくる構造を「ループ図」に描画できるようになる。 3. 授業で指定された事例について、システム思考を使って情報を整理することができるようになる。 4. システム思考で整理した情報を基にして、事例の問題点を抽出できるようになる。 [関連する DP（ディプロマポリシー）] （1）?律性（3）多様性理解（4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『「学習する組織」入門』小田理一郎著，英治出版，2017 年					
20.参考文献	関連する文献を授業中に紹介します。以下、主な関連文献です。 『学習する組織』ピーター・M.センゲ著，英治出版，2011 年 『世界はシステムで動く』ドネラ・H・メドウズ著，英治出版，2015 年 『社会変革のためにシステム思考実践ガイド』デイビッド・ピーター・ストロー著，英治出版，2018 年					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 （1）毎回の学習日誌「何を学んだか」を WebClass で投稿×15 回　15%　［学習目標 1・2・3・4 に対応］ （2）「システム思考」に関わる小テスト 10%　［学習目標 1 に対応］ （〆切：第 15 回授業日まで／満点で合格） （3）指定されたテーマで「ループ図」作成　20%　［学習目標 1・2 に対応］ （4）指定されたテーマに関して情報整理したレポート作成　25%　［学習目標 1・2・3 に対応］ （5）情報整理レポ					
22.コメント	・ノート PC を使用します。必ず持参してください。 ・各回の授業で提?される予習・復習は、下表の「26. アサインメント（宿題）など」の欄に記載しています。（個?差はありますが）それぞれ 120 分程度の作業となることを想定しています。					

23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 毎週月曜日 2 限 学修支援センター（1 号館 2 階） 質問や相談がある場合はこの時間を活用してください。その他、授業期間中は随時質問を受け付けます。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション 本授業のカリキュラムにおける位置づけ、本授業の概要、到達目標、評価方法、授業の進め方等 「システム思考」とは（レクチャー）	毎回授業終了前_学習日誌「今日やったこと」を WebClass で投稿×15 回
ブロック 1 【第 2 回】	「システム」と因果関係について考えるワーク	事前：教科書の指定箇所精読 事後：ワークの成果整理
【第 3 回】	「深い学習サイクル」について考えるワーク	事前：教科書の指定箇所精読 事後：ワークの成果整理
【第 4 回】	システム思考の 5 つの要素について考えるワーク	事前：教科書の指定箇所精読 事後：ワークの成果整理
【第 5 回】	システムを「ループ図」として描くワーク	事前：教科書の指定箇所精読 事後：①指定されたテーマで「ループ図」作成・提出 ②小テストの実施 小テスト：「システム思考」についての知識テスト（〆切第 15 回授業日まで／全問正解で合格）
ブロック 2 【第 6 回】	事例について、システム思考で考える① 人口減少など様々な問題について解決のための取り組みを行っている自治体を取り上げる。まず現状調査・情報収集ワーク	事前：指定された事例についての事前調査 事後：ワークのつづき
【第 7 回】	事例について、システム思考で考える② 調査・収集した情報をもとに分析・考察ワーク	事前：引き続き情報収集 事後：ワークのつづき
【第 8 回】	事例について、システム思考で考える③ システム思考を適用して、分析・考察した結果をさらに考察するワーク	事前：教科書の当該箇所を精読 事後：ワークのつづき
【第 9 回】	事例について、システム思考で考える④ 考察ワークの成果をグループ等で共有 成果のブラッシュアップワーク→発表の準備	事前：引き続き考察作業 事後：ワークのつづき
【第 10 回】	事例について、システム思考で考える⑤ 成果発表	事前：引き続き発表の準備 事後：ブロック課題の実施 ブロック課題：指定されたテーマでレポート作成・提出
ブロック 3 【第 11 回】	自分の事例を題材に、システム思考で考える① 自分の事例について、現状調査・情報取集	事前：指定された自分の事例についての事前調査 事後：ワークのつづき
【第 12 回】	自分の事例を題材に、システム思考で考える② 調査・収集した情報をもとに分析・考察ワーク	事前：引き続き情報収集 事後：ワークのつづき
【第 13 回】	自分の事例を題材に、システム思考で考える③ システム思考を適用して、分析・考察した結果をさら	事前：引き続き考察作業 事後：ワークのつづき（発表スライド作成）

	に考察する＋成果をまとめるワーク	
【第 14 回】	自分の事例を題材に、システム思考で考える④ 成果発表	事前：発表の準備 事後：ブロック課題の実施 ブロック課題：発表スライドの作成・提出
【第 15 回】	総括・ふりかえり	最終課題：この科目で学習したことを整理して提出

1.授業コード（ナンバリング）	INF203-Y01	2.科目名	情報科学	3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 情報社会を支える基本技術や概念を理解し、説明できるようになることを目指します。 【概要】 情報社会において、コンピュータは欠かせない道具で、ハードウェアとソフトウェアの組み合わせにより動作を実現する装置である。この科目では、情報とその表現、ハードウェアの仕組みと周辺装置、基本ソフトウェアの機能とアプリケーションの体系、情報処理システムとネットワークなどを学習し、コンピュータの基本構造とソフトウェアの基本原理に関する知識を身につける。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①　情報科学の基礎として、情報とその表現に関する知識を説明できる ②　コンピュータハードウェアの仕組みと周辺装置の基本について説明できる ③　基本ソフトウェアの機能とアプリケーションの体系について説明できる ④　ネットワークの基本的仕組みについて説明できる ⑤　応用事例に情報処理システムの基本的な知識を適用できる [関連するディプロマポリシー] （4）問題発?・解決?（6）専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	指定しない				
20.参考文献	IT パスポート試験のシラバス、解説テキスト				
21.成績評価	1. KPT シート(理解できたこと、できなかったこと、質問などをまとめる)　25% 2. 毎回の授業の確認問題(25 点) 3. 総括試験(50 点)				
22.コメント	・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートＰＣを持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと)				
23.オフィスアワー	毎週木曜日 3 限目：個人研究室 毎週金曜日 3 限目：学修支援室				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	イントロダクション	今回の復習：配布資料の復習
【第 2 回】	ハードウェア(1)　コンピュータの構成	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 3 回】	ハードウェア(2)　基礎理論	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 4 回】	ソフトウェア(1)　基本ソフト	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 5 回】	ソフトウェア(2)　アプリケーションソフト	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 6 回】	ソフトウェア(3)　マルチメディア	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出

【第 7 回】	システム構成	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 8 回】	ネットワーク(1)　ネットワークの方式	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 9 回】	ネットワーク(2)　通信サービス	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 10 回】	セキュリティ(1)　マルウェア	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 11 回】	セキュリティ(2)　暗号化技術	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 12 回】	データベース(1)　データベース設計	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 13 回】	データベース(2)　データベース処理	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 14 回】	アルゴリズムとプログラミング	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 15 回】	まとめ・総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	INF302-Y01	2.科目名	情報科指導法Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	常陰則之				
5.授業科目の区分	自由科目	6.必修・選択の区分	教職必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	3 年生以上
10.取得資格の要件	高校情報一種免許		11.先修条件	教職課程に関する科目	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限	高校情報一種免許取得希望者				
17.授業の目的と概要	平成 30 年度告示の学習指導要領で新設された「情報Ⅰ」の内容について、講義と事例研究、各自作成の学習指導案（教材作成を含む）による複数回の模擬授業実践、小テスト作成・採点実習等で、教職に必要な理論とスキルの両面を学ぶ。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践のために、様々なグループ活動と個人活動を組み合わせる。				
18.学習目標とＤＰとの関連	高等学校の情報科教員として求められる学識や資質を身につけ、高めることをめざして、情報科における「情報Ⅰ」の授業の方法と実践について学ぶ。教員の中心業務である教科指導に関して、教育実習を念頭に、以下の基礎・基本を培うことを到達目標とする。 (1)　学校教育関連諸法令及び高等学校学習指導要領等に基づき、高等学校情報科の教科指導に関する基礎知識を学修・研究する。 (2)　高等学校情報科の授業実践に向けて、事例研究･模擬授業、情報機器及び教材の効果的な活用法等を通して、多様な指導方法の基礎を身につける。 (3)　高校生の発達段階に応じた教科指導の精選や教科外の関連学習指導、小中高の関連に加えて、生徒の生活･進路指導や教育相談等、教員の職務に関する基本的事項についても学修することとする。				
19.教科書・教材	自作教材（第 01 講～第 15 講）				
20.参考文献	・出版社は問いませんが、高等学校「情報Ⅰ」の教科書を各自ご準備ください。講義では、主として「文部科学省検定済教科書 104 数研 情Ⅰ／708」を使います。 ・{高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　情報編,https://www.mext.go.jp/content/1407073_11_1_2.pdf}　（以下、情報解説と表記する） ・{高等学校情報科「情報Ⅰ」教員研修用教材,https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416746.				
21.成績評価	確認テスト、学習指導案、作成した小テスト、模擬授業などで評価する。 模擬授業・講評・参加態度・リアクションシート（40%）、学習指導案・作成した小テスト・採点基準・採点結果（40%）、確認テスト(20%)				
22.コメント	能動的な学修を期待します。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション、普通教科情報のねらいと課題 この教科の内容と概要について説明し、社会環境の変化に伴う普通教科情報、「情報Ⅰ」のねらいとその課題について議論する。	（予習） 自作教材第 01 講に目を通しておくこと。 情報解説 p.1～p.8 をよく読んでおくこと。 （復習） 講義の復習 （持参物） ノート PC 持参。
第 2 回	学習指導要領のねらいと内容について 情報教育の縦の連携と横の連携、高等学校学習指導要領の教育目標と課題について解説する。	（予習） 自作教材第 02 講に目を通しておくこと。 情報解説 p.9～p.21 をよく読んでおくこと。

		（復習） 講義の復習 （持参物） ノート PC 持参。
第 3 回	「情報社会の問題解決」について 情報やメディアの特性を踏まえ、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する学習活動を通して、問題を発見・解決する方法を理解するとともに、情報技術が人や社会に果たす役割と影響、情報モラルなどについて理解し、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決し、望ましい情報社会の構築に寄与する力を養うための指導案と教材の開発。	（予習） 自作教材第 03 講に目を通しておくこと。 情報解説 p.22～p.26 をよく読んでおくこと。 （復習） 講義の復習 （持参物） ノート PC 持参。
第 4 回	「コミュニケーションと情報デザイン」について 目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通じて、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、メディアの特性やコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解するとともに、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し、コンテンツを表現し、評価し改善する力を養うための指導案と教材の開発。	（予習） 自作教材第 04 講に目を通しておくこと。 情報解説 p.27～p.30 をよく読んでおくこと。 （復習） 講義の復習 （持参物） ノート PC 持参。
第 5 回	「コンピュータとプログラミング」について 問題解決にコンピュータや外部装置を活用する活動を通して情報の科学的な見方・考え方を働かせて、コンピュータの仕組みとコンピュータでの内部表現、計算に関する限界などを理解し、アルゴリズムを表現しプログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークの機能を使う方法や技能を身に付けるようにし、モデル化やシミュレーションなどの目的に応じてコンピュータの能力を引き出す力を養うための指導案と教材の開発。	（予習） 自作教材第 05 講に目を通しておくこと。 情報解説 p.31～p.34 をよく読んでおくこと。 （復習） 講義の復習 （持参物） ノート PC 持参。
第 6 回	「情報通信ネットワークとデータの活用」について 情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを活用する活動を通して情報の科学的な見方・考え方を働かせて、情報通信ネットワークや情報システムの仕組みを理解するとともに、データを蓄積、管理、提供する方法、データを収集、整理、分析する方法、情報セキュリティを確保する方法を身に付けるようにし、目的に応じて情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを安全かつ効率的に活用する力やデータを問題の発見・解決に活用する力を養うための指導案と教材の	（予習） 自作教材第 06 講に目を通しておくこと。 情報解説 p.35～p.40 をよく読んでおくこと。 （復習） 講義の復習 （持参物） ノート PC 持参。
第 7 回	中間まとめと知識及び実技の確認テスト 〇知識の確認テスト 第 01 講～第 06 講までの講義内容から出題　50 点満点 〇実技の確認テスト	（予習） 第 1 講から第 6 講までを振り返っておく。 （復習） 第 1 講から第 6 講までを振り返っておく。

	Excel、Word、PowerPoint の基本操作技能に関する出題　50 点満点	（持参物） ノート PC 持参。
第 8 回	学習指導案の作成と模擬授業の展開と実技小テスト・座学小テストの作成及び採点の検討 情報Ⅰ　①情報社会の問題解決、②コミュニケーションと情報デザイン、③コンピュータとプログラミング、④情報通信ネットワークとデータの活用 以上の分野より 1 つの分野を重複しないように選択し、学習指導案、板書計画（プレゼンテーション計画)、教材開発を行い、同時に実技小テスト・座学小テスト（各 30 点満点）を作成し、採点基準を検討する。	（予習） 自作教材第 08 講に目を通しておくこと。 情報解説 p.60～p.69 をよく読んでおくこと。 （復習） 講義の復習 （持参物） ノート PC 持参。
第 9 回	模擬授業・小テストの実践Ⅰ 模擬授業（20 分）講評（5 分）小テスト（5 分）を繰り返す。	（予習） 学習指導案・小テストの作成 （復習） 小テストの採点、講評の確認と授業の改善 （持参物） ノート PC 持参。
第 10 回	模擬授業・小テストの実践Ⅱ 模擬授業（20 分）講評（5 分）小テスト（5 分）を繰り返す。	（予習） 学習指導案・小テストの作成 （復習） 小テストの採点、講評の確認と授業の改善 （持参物） ノート PC 持参。
第 11 回	模擬授業・小テストの実践Ⅲ 模擬授業（20 分）講評（5 分）小テスト（5 分）を繰り返す。	（予習） 学習指導案・小テストの作成 （復習） 小テストの採点、講評の確認と授業の改善 （持参物） ノート PC 持参。
第 12 回	アクティブ・ラーニングの視点にたった授業改善 様々なグループワークと情報教育への応用	（予習） 自作教材第 12 講に目を通しておくこと。 情報解説 p.174～p.180 をよく読んでおくこと。 （復習） 講義の復習 （持参物） ノート PC 持参。
第 13 回	小テストの分析と学習指導案の改善Ⅰ 小テストの分析と授業の改善 模擬授業の講評、小テストの分析をもとに学習指導案を改善する。	（予習） 自作教材第 13 講に目を通しておくこと。 情報解説 p.181～p.188 をよく読んでおくこと。 （復習） 講義の復習 （持参物） ノート PC 持参。
第 14 回	小テストの分析と学習指導案の改善Ⅱ	（予習）

	模擬授業の講評、小テストの分析をもとに学習指導案を改善する。 改善された学習指導案での模擬授業の実施 〇プログラミング言語の実技試験　50 点満点	学習指導案・小テストの改善 （復習） 小テストの採点、講評の確認と授業の改善 （持参物） ノート PC 持参。
第 15 回	今後の情報教育の展望と課題 小中での学習内容・程度を踏まえた学習計画、ならびに生徒の生活･進路指導や教育相談等、教員の職務に関する基本的事項についても学修することとする。 授業アンケートの実施。	（予習） 自作教材第 15 講に目を通しておくこと。 （復習） 第 08 講から第 15 講の振り返り （持参物） ノート PC 持参。

1.授業コード（ナンバリング）	INT103-Y71	2.科目名	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ Ⅰ(産学協議会の分類上『タイプ２』相当)	3.単位数	1
4.授業担当教員	李容淑、小林弘二				
5.授業科目の区分	観光学科	6.必修・選択の区分	選択必須	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	観光学科全専攻対象			9.履修学年	2 年以上
10.取得資格の要件	観光学科 2 年生	11.先修条件	原則として以下の条件とする。尚、個別の企業の要望により別の条件が課される場合もあります。 ・2 年生 PM1 履修者 ・全学生：TOEIC400 点以上（選考審査までに）が望ましい。 ・留学生：N2 以上（選考審査までに）が望ましい。 ・2 年生：選考審査までに 32 単位以上取得していること。 ・3 年生：選考審査までに 64 単位以上取得していること。 また、次の科目を履修し、単位取得済であることが望ましい。 ①観光学概論、②観光産業論、③経営学概論、④リサーチ入門、⑤マーケティング論、⑥異文化理解、⑦ホスピタリティマネ		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	事前学習、学外学習、事後学習		
16.履修制限	夏学期期間 2023 年 8 月～9 月中				
17.授業の目的と概要	授業では、事前学習、現場学習、事後学習などを通じて専門課程で学修した観光ビジネスに関する基本的な知識の理解・技能などの統合的活用力を高めるとともに、不足する知識や技能に気づき、事後の学修へとつなげることを目的としている。 《本プログラムの目的と概要》 COVID19 によりパンデミックが生じ、世界は大きく変化した。このような状況下で、特に観光産業においては、多大な影響を受けたが、一方でニューノーマル時代（コロナ禍後）における新たなビジネスモデルの構築に向けた展開が始まっている。このような流れの中で、２０				
18.学習目標とＤＰとの関連	『学習の目標』と DP との関連は、下記の通りである。 ・ディプロマポリシーの(1) 自律的で主体的な態度 （自律性)、(2) 社会に能動的に貢献する姿勢 （社会的貢献性)、(3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力 （多様性理解)、(4) 問題発見・解決力、 (5) コミュニケーションスキル、 (6) 専門的知識・技能の活用力に関連している。 ①事前学習および調査に基づき、インターンシップ期間中に有効な実習計画を立て、計画に基づ いたインターンシップ先において活動を行うことができる。 ②主体的、自律的な取り組みと臨機応変な対応により実習体験における課題を解決しながら業務 を遂行することができる。 ③ビジネスマナー、コミュニケーションスキルを適切に実践することができる。 ④必要に応じて、インターンシップ先などからの調査研究課題について、調査結果、経験学習に 基づき、多角的かつ重層的に思考し、独自の視点から論理的かつ斬新な提案を行うことがで				

	き る。 ⑤調査報告書及びプレゼンテーション資料を作成し、簡潔かつ論理的に報告することができる。
19.教科書・教材	特になし、担当教員の指示に従う。
20.参考文献	特になし、
21.成績評価	学外学習に当たるルーブリックによる。
22.コメント	・現場学習実施に当たって、交通費などが発生するが、原則として自己負担である。 ・希望者が多い場合は、成績（ＧＰＡ）、英語能力、日本語能力、参加希望理由により、選考する。 ・コミュニケーション能力があり、責任感が強く、積極的に授業に参加できる学生が求められる。 ・特に現場学習では、積極的に対応態度が、求められる。 ・協力観光事業体の都合により、時間日程など変更する場合がある。
23.オフィスアワー	山手キャンパス 3-306 研究室で実施する。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回~第 4 回	事前学習（8 月 19 日）（2 限～5 限） ①インターンシップの概要・目標の説明。 ・グループライン設定・資料・情報収集・事前準備 ・ミッション設定とグループ別の企画書を作成 ・昨年度の作品の分析と改善点をグループワークで実施 ・派遣される地域の事前調査の内容に基づいて、 コンテンツのテーマに沿ったシナリオ作成や必要備品などをチェック ②取組み地域（DMO）の説明や地域との事前ミーティング。 ・プロジェクトマネジメント 1 で学んだ内容の再認識と準備作業の実施。	ノートパソコン持参
第 5 回~第 12 回	現場学習①（8 月 20 日） 関連機関でのセミナーや現場学習実施 ?近畿運輸局でのセミナー実施 （コロナ禍後の政府のインバウンド観光政策などの学習） 現場学習②（8 月 20 日） 関西国際空港　見学と視察 インバウンド観光の状況、空港運営、安全対策など 現場学習③（8 月 21 日） ホテル見学と視察　淡路島　ホテル　ニュー淡路（候補検討中） ホテル運営、仕組み、最近の状況、従業員の働き状況、 就職可能性など 現場学習④（8 月 21 日） 観光 DMO への現場セミナー 淡路島観光協会訪問、地域観光状況調査など	機関や企業訪問に相応しい服装で集合

第 13 回~第 15 回	事後学習（振り返り）（8 月 22 日、23 日）（3 限～5 限） ・現場学習について、レポートにまとまる。 ・発表用（プレゼンテーション用）の資料として、スライドを作成。 ・発表の練習など。	報告会の準備と成果物の発表会、振り返り ノートパソコン持参
	報告会　（諏訪山祭で一般客参加）（1 限～3 限） 10 月 27 日報告会での発表（全員参加）	

1.授業コード（ナンバリング）	INT103-Y72	2.科目名	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ Ⅰ(産学協議会の分類上『タイプ２』相当)(心理)	3.単位数	1
4.授業担当教員	道免逸子、村田昌彦、山本喜晴				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	２年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限	エントリーシートを提出し、選考（書類選考、面接など）に合格した者に限り履修を認める。				
17.授業の目的と概要	学内での学修成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 　授業は「事前学習」、「実習」と事後のリフレクションという３つの内容からなる。 ・事前学習　・・受入企業及び業務の内容を理解し、実習の現				
18.学習目標と　ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・企業の組織や業務を理解できる。 ・組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ・与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ・実習を通じて自己の課題を発見し、学習に生かすことができる。				
19.教科書・教材	教科書は使用せず。資料は適宜、配布する。				
20.参考文献	必要に応じて紹介する。				
21.成績評価	・事前学修時のビジネスマナー及びリフレクションカレッジの活動状況　10% ・リフレクションカレッジによる日報の作成　40% ・実習評価書（受入担当者からの評価）20% ・実習報告書及びポスター作成　30%				
22.コメント	事前学習５コマ（7 月 10 日Ⅰ～Ⅴ限）と事後学習２コマ（9 月 11 日Ⅰ～Ⅱ限）にすべて出席できる人のみ履修してください（事前学習の補講はありません）。 各企業は、学生の将来に期待し、貴重な時間を割いてくれます。感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元気よく実習に励んでください。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー　学修支援室　水曜１限（道免） 研究室オフィスアワー　水曜昼休み（道免）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回（7/10）	オリエンテーション ・ 本プログラムの意義と理解 実習を通して、企業への理解を深めると同時に自分自身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命の実感、社会で働くことに対する興味や意欲喚起ができる。（＊インターンシップ経験者の話を聞く）	
第２回（7/10）	実習生としての心構え 実習はアルバイトと異なり、社員同様の身分で終業することになる。そのために守るべきルールである就業	

	規則や職場の規定、慣習等について理解し、遵守や適応する必要がある。 自己目標設定の考え方について説明（実際の目標設定は、受け入れ企業への事前訪問後に行う）	
第 3 回（7/10）	ビジネスマナー研修 1 ・ ルールとマナーの違い ・ ビジネスマナー ・ 職場におけるコミュニケーション	
第 4 回（710）	ビジネスマナー研修 2 ・ 前回の復習と強化 ・ 実習日誌の書き方について ・実習期間内の事故、器物損壊、営業の妨害や損失の発生、機密情報の社外漏洩、セクシャルハラスメント、宗教や文化の違いによるトラブルなど、様々な起こりうるリスクを理解し、しかるべき対応と心構えを理解する。	
第 5 回（7/10）	リフレクションカレッジの活用について 社会人基礎力をもとにインターンシップ中の目標設定ならびにウェークな部分の自己認識を行い、改善に向けての工夫を考える。 ＊ 実習先に提出する「誓約書」に署名し提出する。	提出物：目標設定及びアセスメントテスト
第 6 回から 第 14 回	受入企業にて実習 （おおよそ 1 週間のインタ-ンシップ） 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	提出物： 〇実習日誌（実習中） 〇実習報告書及びアセスメントテスト（実習終了後）
第 15 回 (9/11)	事後学習 1 実習を通して学んだことをグループで共有する。	
第 16 回 (9/11)	事後学習 2 実習を通して見えてきた自己の強みと弱み（課題）を整理し、発表する。	提出物： 〇礼状コピー 〇ふりかえりレポート（事後学習終了後、締切 12 月 22 日）

1.授業コード（ナンバリング）	INT103-Y73	2.科目名	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ Ⅰ(産学協議会の分類上『タイプ２』相当)			3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤創、片山真理						
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	英語コミ学科				9.履修学年	１年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習		
16.履修制限	インターンシップへの参加を認められた者						
17.授業の目的と概要	学内での学習成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 授業は「事前学習」、「実習」と事後のリフレクションという３つの内容からなる。 ・事前学習 ・・受入企業及び業務の内容を理解し、実習の							
18.学習目標とＤＰとの関連	・企業の組織や業務を理解できる。 ・組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ・与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ・実習を通じて自己の課題を発見し、学習に生かすことができる。						
19.教科書・教材							
20.参考文献							
21.成績評価	・事前学修 ・インターンシップ中のリフレクションカレッジ投稿 ・事後学修 ・e- ポートフォリオへの記入 以上をすべて総合した上で評価する。 なお、以上の 4 点をすべて参加、実施しない場合には単位を認定しない。						
22.コメント	各企業には、業務の時間を割いてインターンシップを受け入れていただきました。学生の将来に期待し、貴重な時間を割いてくれます。感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元気よく実習に励んでください。						
23.オフィスアワー	越山：火曜日 3 時間目（研究室）、木曜日 4 時間目（学習支援センター）						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	オリエンテーション ・ 本プログラムの意義と理解 実習を通して、企業への理解を深めると同時に自分自身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命の実感、社会で働くことに対する興味や意欲喚起ができる。 （＊インターンシップ経験者の話を聞く） 実習生としての心構え 実習はアルバイトと異なり、社員同様の身分で終業することになる。そのために守るべきルールである就業	実習先についての情報を調査し、まとめる

	規則や職場の規定、慣習等について理解し、遵守や適応する必要がある 自己目標設定の考え方につい	
【第 2 回】	ビジネスマナー研修 ・ ルールとマナーの違い ・ ビジネスマナー ・ 職場におけるコミュニケーション ・ 実習日誌の書き方について	実習先にむけて、見出しなみ・注意事項・服装チェックその他準備
【第 3 回】	リスクマネジメント研修・実習に向けての準備 実習期間内の事故、器物損壊、営業の妨害や損失の発生、機密情報の社外漏洩、セクシャルハラスメント、宗教や文化の違いによるトラブルなど、様々な起こりうるリスクを理解し、しかるべき対応と心構えを理解する。 ＊ 実習先に提出する「誓約書」に署名し提出する。	実習先への質問事項まとめ（その意図を明確に）
【第 4 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 5 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 6 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 7 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 8 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 9 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 10 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 11 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づ	実習企業の指示により対応する

	き、現場で実習する。	
【第 12 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 13 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	お礼状の作成
【第 14 回】	リフレクション 実習日誌と実習報告書に基づき、振り返りを行ない、実習を通じて身につけたことや学んだこと、今後の課題と行動計画を整理したうえ、報告会に向けた資料作成を行なう	グループワーク：PPT の完成と読み原稿の完成 パフォーマンスの確認
【第 15 回】	学内報告会の発表準備（開催）（実習先協力者＆担当者を招く） 実習報告書の作成	

1.授業コード（ナンバリング）	INT104-Y71	2.科目名	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ Ⅱ（産学協議会の分類上『タイプ２』相当）	3.単位数	2
4.授業担当教員	李容淑、小林弘二				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択必修	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	観光学科　全専攻			9.履修学年	2 年生以上（2020 年度以前入学生）
10.取得資格の要件		11.先修条件	原則として以下の条件とする。尚、個別の企業の要望により別の条件が課される場合もあります。 ・全学生：TOEIC400 点以上（選考審査までに）が望ましい。 ・留学生：N2 以上（選考審査までに）が望ましい。 ・2 年生：選考審査までに 32 単位以上取得していること。 ・3 年生：選考審査までに 64 単位以上取得していること。 また、次の科目を履修し、単位取得済であることが望ましい。 ①観光学概論、②観光産業論、③経営学概論、④リサーチ入門、⑤マーケティング論、⑥異文化理解、⑦ホスピタリティマネジメント、⑧ビジネスマ		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	事前学習、学外学習、事後学習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本授業では、事前学習、就業体験、事後学習などを通じて専門課程で学修した観光ビジネスに関する知識の理解・技能の統合的活用力を高めるとともに、不足する知識や技能に気づき、事後の学修へとつなげることを目的としている。 《本プログラムの目的と概要》 COVID19 によるパンデミックが生じ、世界は大きく変化している。こうした中、観光産業は大きな影響を受けているが、一方でニューノーマル時代における新たなビジネスモデルの構築に向けた模索が始まっている。 今般、インターンシップとして観光業界の様々な分野の企業に協力を頂				
18.学習目標とＤＰとの関連	学習の目標は下記の通り。ディプロマポリシーの(1) 自律的で主体的な態度 （自律性)、(2) 社会に能動的に貢献する姿勢 （社会的貢献性)、(3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力 （多様性理解)、 (4) 問題発見・解決力、 (5) コミュニケーションスキル、 (6) 専門的知識・技能の活用力に関連している。 ①事前学習および調査に基づき、インターンシップ期間中に有効な実習計画を立て、計画に基づいたインターンシップ先において活動を行うことができる。 ②主体的、自律的な取り組みと臨機応変な対応により実習体験における課題を解決しながら業務を遂行することができる。 ③ビジネスマナー、コミュニケーションスキルを適切に実践することができる。 ④必要に応じて、インターンシップ先などからの調査研究課題について、調査結果、経験学習に基づき、多角的かつ重層的に思考し、独自の視点から論理的かつ斬新な提案を行うことができる。 ⑤調査報告書及びプレゼンテーション資料を作成し、簡潔かつ論理的に報告することができ				

	る。
19.教科書・教材	適宜、資料等を指示する。
20.参考文献	なし
21.成績評価	成績評価の方法は下記の通り。 ①課題１　説明会および事前研修…20 点【学修目標の①に対応（ルーブリックにより評価)】 ②課題２　日報+総括表…30 点【学修目標の②③に対応（ルーブリック及び受け入れ先講評により評価)】 ③課題３　調査報告書+プレゼンテーション…50 点【学修目標の④⑤に対応（ルーブリックにより評価)】
22.コメント	・インターンシップ先によっては、交通費または宿泊代が発生する場合がある。また、無償が原則となるが、有償となる場合もある。 ・希望者が多い場合は、成績（ＧＰＡ)、英語能力、日本語能力、参加希望理由により、選考する。 ・新型コロナウイルス感染対策について受け入れ先は万全の体制をとっているが、個人としても十分注意すること。ＣＯＶＩＤ19 の影響で、中止または延期となる場合がある。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	《事前説明会》 プログラム説明： インターンシップのプログラムの説明を行いますので、授業目的、学習目標、調査研究課題、評価方法、プログラム内容、参加要件、エントリー方法等について理解する。	・エントリー用紙の記入・提出、アドバイザー面談、面接審査
第 2 回	《事前学習》 インターンシップ先の業種により各担当の講師より、当該業界の現状と学習のポイントについて説明する。	・持参 ノートと筆記用具 【課題１】 受け入れ先及び受け入れ先周辺地域に関する調査を行い、レポートを作成し、提出する。
第 3 回	《事前学習》 インターンシップに先立ち、マナー研修を行います。身だしなみ、挨拶などインターンシップ先においてビジネスの最前線で必要となる基本的なマナーを学習または再確認する。	・持参 ノートと筆記用具 ・スーツ着用で出席する。
第 4 回から第 29 回	《現地学習》 インターンシップ受入先においける実習 インターンシップ 1 では、39 時間以上の現地における実習となる。 ※1 日 7 時間のインターンシップの場合、6 日間以上となる。	・持参 ノートと筆記用具 ・日報の作成および報告 ・発表会に向けた資料作成
第 30 回	《事後学習》 プレゼンテーション インターンシップに関わる報告書を作成し、発表会においてプレゼンテーションを行い、審査を受ける。	・持参 ノートと筆記用具 ・発表用のプレゼンテーション資料については、事前にアドバイザーまたは各インターンシップ担当講師と事前に打ち合わせする。

1.授業コード（ナンバリング）	INT104-Y72	2.科目名	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ Ⅱ(産学協議会の分類上『タイプ２』相当)(心理)	3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子、山本喜晴				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	２年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限	エントリーシートを提出し、選考（書類選考、面接など）に合格した者に限り履修を認める。				
17.授業の目的と概要	【目的】学内での学修成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 【概要】　授業は「事前学習」、「実習」と事後のリフレクションという３つの内容からなる。 ○事前学習　・・受入企業及び業務の内容				
18.学習目標とＤＰとの関連	○企業の組織や業務について理解できる。 ○組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ○与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ○実習を通じて自己の課題を発見し、その後の学びに活かすことができる。				
19.教科書・教材	教科書は使用せず。資料は適宜、配布する。				
20.参考文献	必要に応じて紹介する。				
21.成績評価	○評価は①～⑤に基づき総合的に行う。 ①事前学習時のビジネスマナー及びリフレクションカレッジの活動状況　10% ②リフレクションカレッジによる日報の作成　30% ③実習先への礼状　10% ④実習評価書（受入担当者からの評価）20% ⑤実習報告書及びふりかえりレポート　30%				
22.コメント	○事前学習５コマ（7 月 14 日Ⅰ～Ⅴ限）と事後学習２コマ（9 月 22 日Ⅰ～Ⅱ限）にすべて出席できる人のみ履修してください（事前学習の補講はありません）。 ○各企業は、学生の将来に期待し、貴重な時間を割いてくれます。感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元気よく実習に励んでください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回(7/14)	オリエンテーション ・ 本プログラムの意義と理解 実習を通して、企業への理解を深めると同時に自分自身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命の実感、社会で働くことに対する興味や意欲喚起ができる。（＊インターンシップ経験者の話を聞く）	
第 2 回（7/14）	実習生としての心構え 実習はアルバイトと異なり、社員同様の身分で終業することになる。そのために守るべきルールである就業規則や職場の規定、慣習等について理解し、遵守や適応する必要がある。	

	自己目標設定の考え方について説明（実際の目標設定は、受け入れ企業への事前訪問後に行う）	
第 3 回 （7/14）	ビジネスマナー研修 1 ・ ルールとマナーの違い ・ ビジネスマナー ・ 職場におけるコミュニケーション	
第 4 回 （7/14）	ビジネスマナー研修 2 ・ 前回の復習と強化 ・ 実習日誌の書き方について ・実習期間内の事故、器物損壊、営業の妨害や損失の発生、機密情報の社外漏洩、セクシャルハラスメント、宗教や文化の違いによるトラブルなど、様々な起こりうるリスクを理解し、しかるべき対応と心構えを理解する。	
第 5 回 （7/14）	リフレクションカレッジの活用について 社会人基礎力をもとにインターンシップ中の目標設定ならびにウェークな部分の自己認識を行い、改善に向けての工夫を考える。 ＊ 実習先に提出する「誓約書」に署名し提出する。	提出物：目標設定及びアセスメントテスト
第 6 回から 第 19 回	受入企業にて実習 （おおよそ 2 週間のインターンシップ） 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	提出物： 〇実習日誌（実習中） 〇実習報告書及びアセスメントテスト（実習終了後）
第 20 回 （9/22）	事後学習 1 実習を通して学んだことをグループで共有する。	
第 21 回 （9/22）	事後学習 2 実習を通して見えてきた自己の強みと弱み（課題）を整理し、発表する。	提出物： 〇礼状コピー 〇ふりかえりレポート（事後学習終了後、締切 12 月 22 日）

1.授業コード（ナンバリング）	INT104-Y73	2.科目名	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ Ⅱ(産学協議会の分類上『タイプ２』相当)			3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理、伊藤創						
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	英語コミ学科				9.履修学年	１年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習		
16.履修制限	インターンシップへの参加を認められた者						
17.授業の目的と概要	学内での学習成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 授業は「事前学習」、「実習」と事後のリフレクションという３つの内容からなる。 ・事前学習 ・・受入企業及び業務の内容を理解し、実習の							
18.学習目標とＤＰとの関連	・企業の組織や業務を理解できる。 ・組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ・与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ・実習を通じて自己の課題を発見し、学習に生かすことができる。						
19.教科書・教材							
20.参考文献							
21.成績評価	・事前学修 ・インターンシップ中のリフレクションカレッジ投稿 ・事後学修 ・e- ポートフォリオへの記入 以上をすべて総合した上で評価する。 なお、以上の 4 点をすべて参加、実施しない場合には単位を認定しない。						
22.コメント	各企業には、業務の時間を割いてインターンシップを受け入れていただきました。学生の将来に期待し、貴重な時間を割いてくれます。感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元気よく実習に励んでください。						
23.オフィスアワー	月曜 3 限						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	オリエンテーション ・ 本プログラムの意義と理解 実習を通して、企業への理解を深めると同時に自分自身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命の実感、社会で働くことに対する興味や意欲喚起ができる。 （＊インターンシップ経験者の話を聞く） 実習生としての心構え 実習はアルバイトと異なり、社員同様の身分で終業することになる。そのために守るべきルールである就業	実習先についての情報を調査し、まとめる

	規則や職場の規定、慣習等について理解し、遵守や適応する必要がある 自己目標設定の考え方につい	
【第 2 回】	ビジネスマナー研修 ・ ルールとマナーの違い ・ ビジネスマナー ・ 職場におけるコミュニケーション ・ 実習日誌の書き方について	実習先にむけて、見出しなみ・注意事項・服装チェックその他準備
【第 3 回】	リスクマネジメント研修・実習に向けての準備 実習期間内の事故、器物損壊、営業の妨害や損失の発生、機密情報の社外漏洩、セクシャルハラスメント、宗教や文化の違いによるトラブルなど、様々な起こりうるリスクを理解し、しかるべき対応と心構えを理解する。 ＊ 実習先に提出する「誓約書」に署名し提出する。	実習先への質問事項まとめ（その意図を明確に）
【第 4 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 5 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 6 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 7 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 8 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 9 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 10 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 11 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づ	実習企業の指示により対応する

	き、現場で実習する。	
【第 12 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 13~28 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	お礼状の作成
【第 29 回】	リフレクション 実習日誌と実習報告書に基づき、振り返りを行ない、実習を通じて身につけたことや学んだこと、今後の課題と行動計画を整理したうえ、報告会に向けた資料作成を行なう	グループワーク：PPT の完成と読み原稿の完成 パフォーマンスの確認
【第 30 回】	学内報告会の発表準備（開催）（実習先協力者＆担当者を招く） 実習報告書の作成	

1.授業コード（ナンバリング）	INT105-Y71	2.科目名	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ III(産学協議会の分類上『タイプ２』相当) (心理)			3.単位数	4
4.授業担当教員	道免逸子、山本喜晴						
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	心理学科				9.履修学年	２年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習		
16.履修制限	エントリーシートを提出し、選考（書類選考、面接など）に合格した者に限り履修を認める。						
17.授業の目的と概要	【目的】学内での学修成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 【概要】　授業は「事前学習」、「実習」と事後のリフレクションという３つの内容からなる。 ○事前学習　・・受入企業及び業務の内容						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ○企業の組織や業務について理解できる。 ○組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ○与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ○実習を通じて自己の課題を発見し、その後の学びに活かすことができる。						
19.教科書・教材	教科書は使用せず。資料は適宜、配布する。						
20.参考文献	必要に応じて紹介する。						
21.成績評価	○評価は①～⑤に基づき総合的に行う。 ①事前学習時のビジネスマナー及びリフレクションカレッジの活動状況　10% ②リフレクションカレッジによる日報の作成　30% ③実習先への礼状　10% ④実習評価書（受入担当者からの評価）20% ⑤実習報告書及びふりかえりレポート　30%						
22.コメント	○事前学習５コマ（7 月 10 日Ⅰ～Ⅴ限）と事後学習２コマ（9 月 11 日Ⅰ～Ⅱ限）にすべて出席できる人のみ履修してください（事前学習の補講はありません）。 ○各企業は、学生の将来に期待し、貴重な時間を割いてくれます。感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元気よく実習に励んでください。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回(7/10)	オリエンテーション ・ 本プログラムの意義と理解 実習を通して、企業への理解を深めると同時に自分自身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命の実感、社会で働くことに対する興味や意欲喚起ができる。（＊インターンシップ経験者の話を聞く）	
第 2 回（7/10）	実習生としての心構え 実習はアルバイトと異なり、社員同様の身分で終業す	

	ることになる。そのために守るべきルールである就業規則や職場の規定、慣習等について理解し、遵守や適応する必要がある。 自己目標設定の考え方について説明（実際の目標設定は、受け入れ企業への事前訪問後に行う）	
第 3 回 （7/10）	ビジネスマナー研修 1 ・ ルールとマナーの違い ・ ビジネスマナー ・ 職場におけるコミュニケーション	
第 4 回 （7/10）	ビジネスマナー研修 2 ・ 前回の復習と強化 ・ 実習日誌の書き方について ・実習期間内の事故、器物損壊、営業の妨害や損失の発生、機密情報の社外漏洩、セクシャルハラスメント、宗教や文化の違いによるトラブルなど、様々な起こりうるリスクを理解し、しかるべき対応と心構えを理解する。	
第 5 回 （7/10）	リフレクションカレッジの活用について 社会人基礎力をもとにインターンシップ中の目標設定ならびにウェークな部分の自己認識を行い、改善に向けての工夫を考える。 ＊ 実習先に提出する「誓約書」に署名し提出する。	提出物：目標設定及びアセスメントテスト
第 6 回から 第 33 回	受入企業にて実習 （おおよそ 4 週間のインターンシップ） 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	提出物： 〇実習日誌（実習中） 〇実習報告書及びアセスメントテスト（実習終了後）
第 34 回 （9/11）	事後学習 1 実習を通して学んだことをグループで共有する。	
第 35 回 （9/11）	事後学習 2 実習を通して見えてきた自己の強みと弱み（課題）を整理し、発表する。	提出物： 〇礼状コピー 〇ふりかえりレポート（事後学習終了後、締切 12 月 22 日）

1.授業コード（ナンバリング）	INT107-A02	2.科目名	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ Ⅰ(産学協議会の分類上『タイプ２』相当)	3.単位数	2
4.授業担当教員	下里里枝、谷口一也				
5.授業科目の区分	乳幼児教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～冬学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	１年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	・2 年次からの保育実習Ⅰや、教育保育インターンシップⅡ」に備え、職場体験の基礎・基本を学ぶ。 ・大学生活の課題や自分の適性について考える機会とする。 ・社会人としてのマナー、法令遵守、守秘義務などについての理解をする。 ・保育現場を実際に体験することで保育者の仕事について理解をする。 ・保育現場の安心・安全について学ぶ。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は教育学部 DP の（２）（５）の学修に関連しています。 ・現場において必要とされる実践力を身につけ、地域社会や他者のために責任ある行動をとることができる。 ・現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 ①授業やインターンシップ１を通して、保育の現場における「生命の保持」・「子どもの理解」・「職員の職務」な　どについて理解することができる。 ②職場体験を通して、社会のマナーや集団でのルールを守ることができる。 ③子どもや保育者とのかかわりを通して自分の思いや考えを表現することができる。				
19.教科書・教材	特に定めず必要に応じて資料を配布する。				
20.参考文献	平成 29 年告示 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
21.成績評価	ワークシート　2 回　　20 点（学習目標①に対応） 課題レポート（報告発表も含む）　2 回　 20 点（学習目標①③に対応） 活動記録　　3 日分　　60 点（学習目標②③に対応） ※必ず 3 日分提出すること。				
22.コメント	職場体験をすることで、社会の一員として働くことの意味を考えます。また、将来の職業として選んだ保育者が、自分にとっての適性があるのかどうかを考えるきっかけになります。				
23.オフィスアワー	下里・・・月曜日の昼休み 谷口・・・センタープログラム（理科）の他、研究室にいるときに問い合わせ等お願いします。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目 2 回目	1 回目 ・オリエンテーション(授業の進め方、課題、評価など) ・「教育保育インターンシップの手引き」配布。 ・教育保育インターンシップ 1 について。 2 回目 ・保育者の仕事と役割について学ぶ	○「教育保育インターンシップの手引き」を復習しておく。 ○ワークシート①をウエブクラスに提出。

	・DVD を見てワークシート①の記入	
3 回目 4 回目	3 回目 ・多様化する就学前施設について ・手遊びを覚える、実践する 4 回目 ・活動記録の書き方 ・０歳から 5 歳児の発達の特徴について	○活動記録の書き方を復習する ○手遊び練習
5 回目 6 回目	5 回目 ・安全・安心な保育について 6 回目 ・ゲストテーチャーの話を聞く ・学んだことをワークシート②に書く	○ワークシート②を次週までにウエブクラスに提出
7 回目 8 回目	7 回目 ・個人票の下書き ・誓約書記入（印鑑持参） ・目標カード作成 8 回目 ・個人票完成（写真を貼る） ・インターンシップ 1 の活動内容とその意義及び目的について。イン　ターンシップ 1 で学びたいことを（目標）明確化する	○課題レポート①「私のインターンシップ 1 の目標」をウエブクラスに次回までに提出 ○名札作成
9 回目 10 回目	9 回目 ・インターンシップ先発表 ・インターンシップ 1 の心得を確認 ・インターンシップで使用する名札を作って持ってくる（手作り、安全ピンは使用しない） 10 回目 ・インターンシップ先を事前訪問 ※写真を貼った個人票は教員がまとめて事前訪問時にインターンシップ先に持参する。	○訪問先の情報収集 ○インターンシップの心得を復習する
11 回目・12 回目・13 回目	・インターンシップ体験 ・活動記録作成 （※活動記録は 3 日間が終わったら、速やかにウエブクラスの提出ボックスに提出すること。1 週間以内に提出すること）	○3 日分の活動記録をウエブクラスにインターンシップが終わって 1 週間以内に提出すること。
14 回目 15 回目 16 回目 17 回目 ※これ以降については後日知らせる	14 回目以降 ・事後指導 グループワーク（インターンシップでの学び） グループでまとめて、パワーポイントで発表 質疑応答 感想 発表会に向けてポスター作成 最終課題レポート②	○課題レポート②をウエブクラスに提出

1.授業コード（ナンバリング）	INT109-A01	2.科目名	コーオプ・プログラムⅡA		3.単位数	2
4.授業担当教員	上原昭三、馬場住子					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～冬学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	１年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	授業の概要 　小学校の教育現場において、夏学期中（主に９月）に、各職場の通常業務を体験する。また、それに向けての事前学習および事後学習（体験の振り返り、発表など）を行う。具体的な内容は以下の通り。 ・小学校での体験活動の目的、ねらい、内容を学びます。 ・夏学期に行う「現場体験」に向けての準備と予備知識の獲得を目指します。 ・小学校の概要と、そこでの１日の生活内容、教師としての仕事の内容を学びます ・職場体験の基礎・基本を学びます。 ・社会人としてのマナー、法令遵守、守秘義務などについての理解を深めます。					
18.学習目標とＤＰとの関連	ＤＰとの関連：自律性、コミュニケーションスキル、専門的知識・技術の活用力 ①現場での体験活動に参加する目的（学びたいこと）を持ち、自らの進路や大学での学び（春学期の科目など）と関連付けながら説明することができる。 ②目的意識をもって小学校現場での体験活動に参加し、そこで得た知識・経験を記録としてまとめ、自己分析することができる。 ③学校の教職員との対応や子どもたちとの交流の際、教師としての自覚・責任を意識して行動することができる。 ④現場での活動を振り返り、そこから得た自己の課題について、その後の大学での学修と関連付けて説明することができる。					
19.教科書・教材	・特に定めず、必要に応じて資料を配布する。					
20.参考文献	小学校学習指導要領					
21.成績評価	・ワークシートの記述　１０％・・・① ・小レポート①　　２０％・・・① ・小レポート②　　２０％・・・① ・活動記録　　３０％・・・②③ ・最終レポート　　２０％・・・④					
22.コメント	・小学校教諭をめざす学生で、３年生からの本実習を前に現場体験をしてみたいと希望する者の受講を希望します。 ・特にボランティア活動に興味・関心の強い学生の参加を待っています。 ・実習現場は、こどもたちが主役となるところです。学生気分を捨て責任ある大人として行動できることが求められます。自分を厳しく律する覚悟が必要です。 ・実習先への事前の連絡や訪問（挨拶・打ち合わせ）等、時間や費用（交通費など）が必要となることもあります。 ・ボランティア保険への加入や実習先で必要となる諸費用（たとえば給食費、実習中の交通費など）は自己負担となります。 ・春学期の教職科目（教育学概論や発達心理学など）の理論をしっかり学び、小学校での教育					

	活動にどのように活かされるのかを自分なりに考察してください。　（それらの科目で学んだことについて発表を求めることもあります。）
23.オフィスアワー	火曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	・オリエンテーション 　シラバスについて、この科での学習の意義、内容、体験活動、教育実習と の違いについて	○「教育保育インターンシップ手引き」を読み内容を理解しておく ○インターンシップに向けて春学期の教職科目で学んでおきたいこと （240 分）
	・小学校の概要 　小学校とは？　小学校の目的、教育内容、学校で働く人々、教師の仕事、小学校の１日　等について概略的に学ぶ ・活動先希望調査（基本的には母校）	○文部科学省・学校等について調査し、理解したことを要約する（240 分）
	・インターシップまでの予定や個人で行うことなどについて ・電話連絡や挨拶の仕方、言葉遣い等について…解説と練習 ・個人票の記入の仕方について…下書きを作成し提出	○個人票の下書き未提出者は、完成させ次回に提出（120 分）
	・個人票下書き返却。 ・体験先とのオリエンテーションや挨拶の仕方について聞き、グループでまとめる ・グループで話し合ったことを、全体の中で発表する	○個人票の清書（60 分）　次回に提出
	・体験マナーについて話を聞く ・手引きを参考に、グループで必要事項を書きとめる ・グループで話し合ったことを、全体の中で発表する	●個人票の清書提出 ○小レポート①作成「体験実習で何を学ぶのか？」5/31 までに WebClass へ提出
	・体験時期決定 ・「体験実習で何を学ぶのか？」について、書いたことをもとにグループで話し合う ・話し合ったことを、全体の中で発表する	○小レポート②作成…全体で聞いたことから、自分のレポートを見直して修正する（240 分）　7/18 までに WebClass へ提出
	・現場体験直前ガイド　「体験実習で特に注意すべきこと、心構え」 ・活動記録シートの書き方を聞く ・インターンシップに向けて、学内の学修で学べたこと。それを、どのように活かすか。について話し合う。	○第 7 回で学んだことをまとめる（120 分）
	・体験実習　（夏学期開始日からリフレクションデーの前日までの範囲で、3～5 日間の職場体験）を行う。	○各体験実習日の活動記録・指導計画等を書（各体験日につき、240×4 分） 　1 事後指導で、体験を発表できるよう準備をおこなう　（資料や発表原稿など）　（240 分）
	・体験実習　（夏学期開始日からリフレクションデーの前日までの範囲で、3～5 日間の職場体験）を行う。	○各体験実習日の活動記録・指導計画等を書（各体験日につき、240×4 分） 　1 事後指導で、体験を発表できるよう準備をおこなう　（資料や発表原稿など）　（240 分）

	・体験実習 （夏学期開始日からリフレクションデーの前日までの範囲で、3～5 日間の職場体験）を行う。	○各体験実習日の活動記録・指導計画等を書（各体験日につき、240×4 分） １事後指導で、体験を発表できるよう準備をおこなう （資料や発表原稿など） （240分）
	・体験実習 （夏学期開始日からリフレクションデーの前日までの範囲で、3～5 日間の職場体験）を行う。	○各体験実習日の活動記録・指導計画等を書（各体験日につき、240×4 分） １事後指導で、体験を発表できるよう準備をおこなう （資料や発表原稿など） （240分）
	・体験実習 （夏学期開始日からリフレクションデーの前日までの範囲で、3～5 日間の職場体験）を行う。	○各体験実習日の活動記録・指導計画等を書（各体験日につき、240×4 分） １事後指導で、体験を発表できるよう準備をおこなう （資料や発表原稿など） （240分）
	・体験実習 （夏学期開始日からリフレクションデーの前日までの範囲で、3～5 日間の職場体験）を行う。	○各体験実習日の活動記録・指導計画等を書（各体験日につき、240×4 分） １事後指導で、体験を発表できるよう準備をおこなう （資料や発表原稿など） （240分）
	・体験実習 （夏学期開始日からリフレクションデーの前日までの範囲で、3～5 日間の職場体験）を行う。	○各体験実習日の活動記録・指導計画等を書（各体験日につき、240×4 分） １事後指導で、体験を発表できるよう準備をおこなう （資料や発表原稿など） （240分）
	振り返り ・「体験学習で学んだこと、印象に残ったこと、見つけた自分の課題　等」についてグループで交流する。 ・話し合ったことを発表する。	●活動記録提出 ○最終レポート「今回の体験実習で学んだこと」を作成し 10/31 までにＷｅｂＣｌａｓｓへ提出。

1.授業コード（ナンバリング）	INT109-A02	2.科目名	コーオプ・プログラムⅡA	3.単位数	2
4.授業担当教員	下里里枝、谷口一也				
5.授業科目の区分	乳幼児教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～冬学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 2 年次からの保育実習Ⅰや、教育保育インターンシップⅡ」に備え、職場体験の基礎・基本を学ぶ。 【概要】 ・大学生活の課題や自分の適性について考える機会とする。 ・社会人としてのマナー、法令遵守、守秘義務などについての理解をする。 ・保育現場を実際に体験することで保育者の仕事について理解をする。 ・保育現場の安心・安全について学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は教育学部 DP の（2）（5）の学修に関連しています。 ・現場において必要とされる実践力を身につけ、地域社会や他者のために責任ある行動をとることができる。 ・現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 ①授業やインターンシップ 1 を通して、保育の現場における「生命の保持」・「子どもの理解」・「職員の職務」な　どについて理解することができる。 ②職場体験を通して、社会のマナーや集団でのルールを守ることができる。 ③子どもや保育者とのかかわりを通して自分の思いや考えを表現することができる。				
19.教科書・教材	特に定めず必要に応じて資料を配布する。				
20.参考文献	平成 29 年告示 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
21.成績評価	ワークシート　2 回　　20 点（学習目標①に対応） 課題レポート（報告発表も含む）　2 回　20 点（学習目標①③に対応） 活動記録　　3 日分　　60 点（学習目標②③に対応） ※必ず 3 日分提出すること。				
22.コメント	職場体験をすることで、社会の一員として働くことの意味を考えます。また、将来の職業として選んだ保育者が、自分にとっての適性があるのかどうかを考えるきっかけになります。				
23.オフィスアワー	下里・・・月曜日の昼休み 谷口・・・センタープログラム（理科）の他、研究室にいるときに問い合わせ等お願いします。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目 2 回目	1 回目 ・オリエンテーション(授業の進め方、課題、評価など) ・「教育保育インターンシップの手引き」配布。 ・教育保育インターンシップ 1 について。	○「教育保育インターンシップの手引き」を復習しておく。 ○ワークシート①をウエブクラスに提出。

	2回目 ・保育者の仕事と役割について学ぶ ・DVD を見てワークシート①の記入	
3 回目 4 回目	3回目 ・多様化する就学前施設について ・手遊びを覚える、実践する 4 回目 ・活動記録の書き方 ・０歳から５歳児の発達の特徴について	○活動記録の書き方を復習する ○手遊び練習
5 回目 6 回目	5 回目 ・安全・安心な保育について 6 回目 ・ゲストテーチャーの話を聞く ・学んだことをワークシート②に書く	○ワークシート②を次週までにウエブクラスに提出
7 回目 8 回目	7 回目 ・個人票の下書き ・誓約書記入（印鑑持参） ・目標カード作成 8 回目 ・個人票完成（写真を貼る） ・インターンシップ１の活動内容とその意義及び目的について。イン　ターンシップ１で学びたいことを（目標）明確化する	○課題レポート①「私のインターンシップ１の目標」をウエブクラスに次回までに提出 ○名札作成
9 回目 10 回目	9 回目 ・インターンシップ先発表 ・インターンシップ１の心得を確認 ・インターンシップで使用する名札を作って持ってくる（手作り、安全ピンは使用しない） 10 回目 ・インターンシップ先を事前訪問 ※写真を貼った個人票は教員がまとめて事前訪問時にインターンシップ先に持参する。	○訪問先の情報収集 ○インターンシップの心得を復習する
11 回目・12 回目・13 回目	・インターンシップ体験 ・活動記録作成 （※活動記録は 3 日間が終わったら、速やかにウエブクラスの提出ボックスに提出すること。1 週間以内に提出すること）	○3 日分の活動記録をウエブクラスにインターンシップが終わって 1 週間以内に提出すること。
14 回目 15 回目 16 回目 17 回目 ※これ以降については後日知らせる	14 回目以降 ・事後指導 グループワーク（インターンシップでの学び） グループでまとめて、パワーポイントで発表 質疑応答 感想 発表会に向けてポスター作成 最終課題レポート②	○課題レポート②をウエブクラスに提出

1.授業コード（ナンバリング）	INT109-A03	2.科目名	コーオプ・プログラムⅡA	3.単位数	2
4.授業担当教員	春木裕美				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～冬学期
8.履修可能な専攻	教育学部教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	尼崎市内の高齢者施設等を訪問し、そこで生活している地域の高齢者支援に関わることを通して、安全・安心の暮らしあり方を考えていきます。 ・高齢者が求める安全・安心な暮らしのあり方について考えます。 ・専門職が支援する安全・安心な暮らしのあり方について考えます。 本プログラムは、教育福祉学科 1 年生が参加することを想定しています。初年次セミナーのクリティカルシンキングのテーマである「安全・安心」を実際的に学ぶため、地域の高齢者施設等で活動します。活動での経験は、秋学期の基礎演習の学習内容へと接続していきます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の「社会的貢献性」「多様性理解」に関連しています。 ①高齢者が求める安全・安心な暮らしのあり方について説明することができる。 ②専門職が支援する安全・安心な暮らしのあり方について説明することができる。				
19.教科書・教材	資料を配付します。				
20.参考文献	適宜紹介していきます。 「昔の文化・風俗」に関する学びは重要です。図書館で高齢者関連の書籍を検索してみましょう。				
21.成績評価	■事前学習　20％×2 回　学習目標①③ ＊個人によるレポート作成 ■期中活動　20％　学習目標①② ・ふりかえりシート（活動日誌）の作成 ■事後学習　40％　学習目標①② ・ポスター発表 ・テーマ：高齢者施設等における安全・安心な暮らしのあり方を提案する ・発表の際にはステークホルダー関係者も参加予定 ＊成果物はすべて webclass に提出します。				
22.コメント	実習は地域の高齢者が生活している場で活動します。他者を尊重し謙虚で誠実な態度で話を根気強く聴くことができる学生を求めます。活動先へは尼崎キャンパスにある大学所有の自転車を利用（自転車保険に加入していることが必要）、もしくは徒歩（15 分程度）で移動してください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	■事前学習　5 コマ	

	1 回目：オリエンテーション（授業の概要説明） 2 回目：高齢者の生活施設を知る① 3 回目：高齢者の生活施設を知る② 4 回目：活動先における高齢者理解①（身体・精神・社会面からの理解） 5 回目：活動先における高齢者理解②（生活場面における安全・安心の工夫） ■期中活動　3 日以上かつ 24 時間以上の活動 現地活動：3 日以上かつ 24 時間以上従事する（どちらかの条件を満たすこと）。 活動内容：活動先職員の業務に準じる内容、事前学習時のマッチングの際に確認した活動。 ■事後学習　4 コマ １回目	

1.授業コード（ナンバリング）	INT203-A72	2.科目名	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ Ⅰ(産学協議会の分類上『タイプ２』相当)(経営)			3.単位数	2
4.授業担当教員	田中智子						
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	経営学科				9.履修学年	２年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	【目的】 学内での学習成果としての専門知識やスキルについて、インターンシップを通して特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。 【概要】 授業は「事前学習」、「実習」、「事後学修」という３つの内容からなる。 ・事前学習 ・・受入企業及び業務の内容を調べて理解し、実習の現場で必要とされるビジネスマナー、その他必要なスキルを習得する。また、実習により達成すべき課題を作成する。 ・実習 ・・各企業の受入担当者の						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（2）社会的貢献性（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ・企業の組織や業務を理解できる。 ・組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ・与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ・実習を通じて自己や演習中の課題を発見し、対応をまとめて後の学習に生かすことができる。						
19.教科書・教材							
20.参考文献							
21.成績評価	・実習日に毎日作成する日報　40% ・受け入れ企業の実習生評価　20% ・実習後の個人報告書　30% ・インターンシップ記事投稿　10%						
22.コメント	・シラバスは受入れ組織や企業の都合等で内容を変更する場合がある。 ・受入れ組織や企業によっては、他大学学生と合同のインターンシップ説明会や発表会に参加が必要になることがある。 ・参加企業や組織の実習、研修に参加する交通費（その他諸費用）は原則学生負担になる。 ・参加企業や組織に対しての実習中の責任を記した誓約書を書いてもらうことがある。 ・受入企業は経営学科２年生の将来に期待し、貴重な時間を割いてくれます。皆さんは関西国際大学の代表として、感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元気よく実習に励んでください。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	「オリエンテーション」 ・本プログラムの意義と理解 実習を通して、企業への理解を深めると同時に自分自	実習先についての情報を調査し、まとめる。

	身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命の実感、社会で働くことに対する興味や意欲喚起ができる。	
第 2 回	ビジネスマナー研修 ・ ルールとマナーの違い ・ ビジネスマナー ・ 職場におけるコミュニケーション ・ 実習日誌の書き方について	実習にむけて、実習先に適した身だしなみ・注意事項・服装チェック・その他準備。
第 3 回	実習に向けての準備 実習期間内の事故、器物損壊、営業の妨害や損失の発生、機密情報の社外漏洩、セクシャルハラスメント、宗教や文化の違いによるトラブルなど、様々な起こりうるリスクを理解し、しかるべき対応と心構えを理解する。 業務上必要な英会話、外国のお客様に使用するやさしい日本語について学ぶ。	実習先への質問事項まとめ（質問の意図を明確にすること）
第 4 回	「受入企業にて実習」 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する。
第 5 回	「受入企業にて実習」 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	
第 6 回	「受入企業にて実習」 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	
第 7 回	「受入企業にて実習」 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	
第 8 回	「受入企業にて実習」 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	
第 9 回	「受入企業にて実習」 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	
第 10 回	「受入企業にて実習」 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	
第 11 回	「受入企業にて実習」 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	
第 12 回	「受入企業にて実習」 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	
第 13 回	「受入企業にて実習」 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づ	お礼状を作成する。

	き、現場で実習する。	
第 14 回	「リフレクション」 実習日誌と実習報告書に基づき、振り返りを行ない、実習を通じて身につけたことや学んだこと、今後の課題と行動計画を整理したうえ、プレゼン作成に取り組む。	グループワーク：報告用 PPT の作成
第 15 回	「授業のまとめ」 グループワーク：報告会に向けての報告資料の作成、記事投稿、授業のまとめ	

1.授業コード（ナンバリング）	INT203-M72	2.科目名	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ Ⅰ(産学協議会の分類上『タイプ２』相当)(経営)		3.単位数	2	
4.授業担当教員	百濟正和						
5.授業科目の区分	展開科目 「防災・減災分野における実務経験のある教員による授業科目」	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期		
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	２年～		
10.取得資格の要件		11.先修条件					
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※				
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習				
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	学内での学習成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 授業は「事前学習」、「実習」、「事後のリフレクション」という３つの内容からなる。 ・事前学習　・・受入企業及び業務の内容を理解し、実						
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 ・企業の組織や業務を理解できる。 ・組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ・与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ・実習を通じて自己の課題を発見し、学習に生かすことができる。 【ベンチマーク】 ・協働的な活動などで、自分の役割を理解し、最後までやり遂げたことについて、改善点を整理できる（自律性:L2） ・社会や組織との間で不正や偏見、無理な強要に対して批判的に捉え、それに屈することがないように行動することができる（規範順守:L2） ・コミュニケーションのための意見交換調整力（L2）						
19.教科書・教材	指定無し						
20.参考文献	指定無し						
21.成績評価	・事前学修 ・インターンシップ中の wbclass への実習日誌の記入 ・事後学修 ・e- ポートフォリオへの記入 以上をすべて総合した上で評価する。						
22.コメント	各企業には、業務の時間を割いてインターンシップを受け入れていただきました。学生の将来に期待し、貴重な時間を割いてくれます。感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元気よく実習に励んでください。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第１回 オリエンテーション ・ 本プログラムの意義と理解 実習を通して、実習先への理解を深めると同時に自分	履修登録は教務課でまとめて行うので、学生は、履修登録の変更などをしないようにしてください。

	自身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命の実感、社会で働くことに対する興味や意欲喚起ができる。 実習生としての心構え 実習はアルバイトと異なり、社員同様の身分で終業することになる。そのために守るべきルールである就業規則や職場の規定、慣習等について理解し、遵守や適応する必要がある。 自己目標設定の考え方について説明 第２回 　ビジ	

1.授業コード（ナンバリング）	INT203-M73	2.科目名	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ Ⅰ(産学協議会の分類上『タイプ２』相当)(経営)	3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	２年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	学内での学習成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 授業は「事前学習」、「実習」、「事後のリフレクション」という３つの内容からなる。 ・事前学習：受入企業及び業界の内容を理解し、実習の現場				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 ・企業の知識や業務を理解できる。 ・組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ・与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ・実習を通じて自己の課題を発見し、学習に生かすことができる。 【ベンチマーク】 ・協働的な活動などで、自分の役割を理解し、最後までやり遂げたことについて、改善点を整理できる。 ・社会や組織との間で不正や偏見、無理な強要に対して批判的に捉え、それに屈することがないように行動することができる。 ・コミュニケーションのための意見交換調整力				
19.教科書・教材	授業内で適宜プリントを配布する				
20.参考文献	授業内に適宜紹介する				
21.成績評価	・事前学習 ・インターンシップ中の WebClass 投稿 ・事後学習 ・e-ポートフォリオへの記入 以上をすべて総合したうえで評価する。				
22.コメント	受入企業への感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元気よく実習に励んでください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第１回 オリエンテーション ・本プログラムの意義と理解 実習を通して、実習先への理解を深めると同時に自分自身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命の実感、社会で働くことに対する興味や意欲喚起ができる。	

	実習生としての心構え ・実習はアリバイととは異なり、社員同様の身分で就業することになる。そのために守るべきルールである就業規則や職場の規定、慣習等について理解し、遵守や適応する必要がある。 自己目標設定の考え方について説明 第２回 ビジネスマナ	

1.授業コード（ナンバリング）	INT212-A01	2.科目名	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ Ⅱ(産学協議会の分類上『タイプ２』相当)	3.単位数	2
4.授業担当教員	下里里枝、中西一彦、吉田武大				
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	２年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 教育・保育現場における活動を中心として、教育現場への理解を深めることを目指す。 【概要】 教育保育インターンシップⅡでは、教育現場における現状と課題を学習する。一人ひとりが課題を　　持ち、多様な体験することを通して問題解決の糸口を探ることができれば、教育・保育実習につながる。 また、グループワークを通して情報の共有を図り、研究を進めていくことにより、教育・保育現場理解という目的達成をより確かなものにする。 さらに毎回の活動記録を書くことや、担当教員の指導を受け、疑問や問題を解決し、実				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目は DP の(1)自律性、(2) 社会的貢献性に関連しています。 ①学内での科目と関連させて、職場体験を行うことにより、教員や保育者に必要な実践的能力を高める。 ②自らの社会性や人間性を培うこと。				
19.教科書・教材	適宜必要な資料配布				
20.参考文献	適宜配布				
21.成績評価	毎回の活動記録（25 回分）　６０点（学習目標の①に対応） 課題レポート（A.B の２つ）　４０点（学習目標の①②に対応）				
22.コメント	年間を通じて開講する。継続した現場体験となることで、実践力が身につくことを期待している。 授業に関するワークシートや、連絡事項などはウエブクラスにてお知らせします。				
23.オフィスアワー	下里：未定（後日確定後連絡） 中西：未定（後日確定後連絡） 吉田：未定（後日確定後連絡）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】 【第２回】	第１回　オリエンテーション 授業の進め方、評価について インターンシップ（教育現場体験活動）について 「インターンシップの手引き」を配布して説明。 第２回　　講義（学内活動）・活動記録の書き方について 実習先の選定・確定（担当教員決定）	【第１回】 ○「インターンシップの手引き」をよく読んでおく。 【第２回】 ◎課題Ａ「教育現場にある種々の仕事について調べ、まとめる」（60 分）

	体験活動に向けて、学習計画をたてる。 実習種別によるグループワーク 連絡網作成	
【第 3 回】 【第 4 回】	第３回　　教育・保育現場活動体験 第４回　　教育・保育現場活動体験	【第 3 回】および【第 4 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日）に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課題を見つける。（120 分）
【第 5 回】 【第 6 回】	第５回　　教育・保育現場活動体験 第６回　　教育・保育現場活動体験	【第 5 回】および【第 6 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日）に提出。　　○返却された活動記録を踏まえて、次週の課題を見つける。（120 分）
【第 7 回】 【第 8 回】	第７回　教育・保育現場活動体験 第８回　　教育・保育現場活動体験	【第 7 回】および【第 8 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日）に提出。　　○返却された活動記録を踏まえて、次週の課題を見つける。（120 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	第９回　　教育・保育現場活動体験 第１０回　　教育・保育現場活動体験	【第 9 回】および【第 10 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日）に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課題を見つける。（120 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	第１１回　　教育・保育現場活動体験 第１２回　　教育・保育現場活動体験	【第 11 回】および【第 12 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日）に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課題を見付ける。（120 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	第１３回　　教育・保育現場活動体験 第１４回　　教育・保育現場活動体験 ※小学校現場が夏休み中でも、、プール指導等お手伝いできる　　ことはないか申し出る。	【第 13 回】 ○ 秋学期からの活動に向けて新たな課題 B を考えておく。（240 分） 【第 14 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日）に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課題を見つける。（120 分）
【第 15 回】 ７月２９日 大学で授業 詳細はウエブクラスで知ら	第１５回　学内講義（春学期の振り返り・課題 B を考える） 課題 B・・・・ 「1 学期間の体験において学んだことや自分の課題をまとめる」	【第 16 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日）に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課題を見つける。（120 分）

せる 【第 16 回】 １０月７日 大学で授業 詳細はウエブクラスで知らせる	第１６回　　学内講義 2 学期の目標など	
【第 17 回】 【第 18 回】	第１７回　教育・保育現場体験活動 第１８回　教育・保育現場体験活動	【第 17 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日）に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次回の課題を見つける。（120 分） 【第 18 回】 ●課題 B を考察する
【第 19 回】 【第 20 回】	第１９回　　教育・保育現場活動体験 第２０回　　教育・保育現場活動体験	【第 19 回】および【第 20 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日）に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課題を見つける。（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	第２１回　　教育・保育現場活動体験 第２２回　　教育・保育現場活動体験	【第 21 回】 ●課題 B 確認 【第 22 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日）に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課題を見つける。（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	第２3 回　　教育・保育現場活動体験 第２4 回　　教育・保育現場活動体験	【第 23 回】および【第 24 回】 ○活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日）に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課題を見つける。（120 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	第 25 回　　教育・保育現場活動体験 第 26 回　　教育・保育現場活動体験	【第 25 回】および【第 26 回】 ○活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日）に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課題を見つける。（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	第２７回　　教育・保育現場活動体験 第２８回　　教育・保育現場活動体験	【第 27 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日）に提出。 ○グループ課題Ｂレポートをまとめる（120 分） 【第 28 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日）

		に提出。 〇返却された活動記録を踏まえて、次週の課題を見つける。（120 分）
【第 29 回】 インターンシップ最後です 【第 30 回】 大学において授業 詳細はウエブクラスで知らせる	第２９回　　教育・保育現場活動体験 （最終の活動日となる） 第３０回　　講義 体験活動の振り返り、まとめ、発表 ※2，3 月のインターンシップ先の継続についても実習先と協議する	【第 29 回】 〇 活動記録作成（120 分）☆今までの活動記録未提出分は仕上げて提出。 （120 分） 【第 30 回】 ☆課題Ｂレポートウエブクラスに提出 〇ワークシート「インターンシップを終えて、学んだこと・気付いたこと」をウエブクラスに提出（240 分）

1.授業コード（ナンバリング）	INT212-A02	2.科目名	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ Ⅱ(産学協議会の分類上『タイプ２』相当)	3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本授業は、潮江（小田地区）および三和本通商店街周辺（中央地区）をフィールドに、地域住民との協働活動をとおして、住民主体の視点、地域特性の把握方法、地域問題の発見方法などの習得をめざします。また、多角的・多元的な視点をもち、座学での学習（既有知識）を血肉化していくために、活動のふりかえりを重視します。 地域住民にとって安全・安心のまちづくりを基本コンセプトに、高齢者の防災、障害者/子育て世帯のつながりづくり、を具体的な活動テーマとして進めていきます。 活動趣旨：2015 年国連サミットにおいて、SDGs(持				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は、以下の学習目標を設定します。 ①専門演習Ⅰ活動企画書作成に向けた基礎データを収集できる ②活動企画書をもとに活動を実行できる ③活動における問題点を抽出できる ④問題の改善提案ができる ⑤活動報告書をまとめることができる 本授業は、DP（ディプロマポリシー）の（2）社会的貢献性、（4）コミュニケーション力、（5）問題発見・解決力と関連しています。				
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。				
20.参考文献	早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター編集（2018）『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂				
21.成績評価	【課題 1】フィード概要ノート 40%　学習目標①に対応 ・活動企画書作成事前準備のために、各地域/団体をフィールドワークしたり対象者と関わったりし、その内容をまとめる。 【課題 2】活動報告書 50%　学習目標②③④⑤に対応 ・所定に様式に活動内容をまとめる。 【活動 3】ふりかえり ・活動を通した気づきをｅポートフォリオに記録する。				
22.コメント	・本授業は、「地域や実践現場の多様な課題に基づいた教育・福祉の安全・安心とは（地域住民によって安全・安心のまちづくり）」を学習テーマとし、専門演習ⅠおよびⅡと関連させて実施します。 ・本授業は、1 年間を通じて、事前-期中-事後活動を展開します。現地での活動日程は、受入団体との調整のうえ、決定します。 ・活動先訪問のために大学所有の自転車を利用する場合、損害賠償保険加入を証明する必要があります。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	・オリエンテーション	
	・活動地域の学習①	○第 5 回目までに【課題 1】を作成（各回で 60 分）

	・活動地域の学習②	
	・活動地域の学習③	
	・活動地域の学習④	
	・企画実行準備①	○活動準備
	・企画実行準備②	
	・企画実行準備③	
	・企画実施	
	・企画実施	
	・企画実施	◎【課題 2】の作成（提出までの週で各 120 分）
	・活動後の問題点整理①	
	・活動後の問題点整理②	
	・活動後の問題点整理③	
	・プログラムのまとめ 【課題 3】の作成	★【課題 2】の提出 ★【課題 3】の提出

1.授業コード（ナンバリング）	INT303-A71	2.科目名	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ Ⅱ(産学協議会の分類上『タイプ２』相当)	3.単位数	4
4.授業担当教員	齋藤勝洋				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	本演習は、これまでのインターンシップⅠと様々な専門的学習による専門知識を活かし、より高度な知識の統合と活用を行うスキル獲得を目的に実施される。そのため、このインターンシップは問題解決型として実施され、一般的な仕事体験型、問題発見型とは異なり、より積極的且つ能動的な行動が求められることに注意する必要がある。 この演習は基本的な知識の獲得を行う前期と、より専門的研究を行う後期に分類される。前期はレクチャーとプレゼンを行い、ビジネスの現場で必要な知識、企業に関する知識、そして企業分析、業界分析のスキルを獲得				
18.学習目標とＤＰとの関連	＜ベンチマーク＞ 問題発見・解決力（問題発見力）レベル４ 問題発見・解決力?（論理的思考/判断力）レベル４ 問題発見・解決力??（問題解決力）レベル４ 専門的知識・技能の活用力レベル４				
19.教科書・教材	特になし。必要な場合は適時、配布する。				
20.参考文献	特になし。必要な場合は適時、配布する。				
21.成績評価	前期プレゼンテーション（銘柄プレゼン）40% 後期プレゼンテーション（研究発表）50% e ポートフォリオ 10%				
22.コメント	自律的且つ積極的な活動と学習が求められるため、その点を意識した学生に参加して欲しい。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回／第 02 回	○オリエンテーション ・授業の進め方 ・日程 ・詳細の説明 ・インターンシップへの心構えと準備 ○事前学習その① ・事前講座「株式会社の仕組み」	
第 03 回/第 04 回	○事前講座「証券業界とは」 ○事前講座「承継会社の役割」 ○事前講座「SDGs と企業戦略」	
第 05 回/第 06 回	○事前講座「日経新聞とは」 ○事前講座「日経新聞の読み合わせ方法」 ○事前講座「日経新聞の読み合わせ」	
第 07 回/第 08	前期現地活動 1 日目	

回/第 09 回		
第 10 回	前期現地活動 2 日目	
第 11 回	前期現地活動 3 日目	
第 12 回	前期現地活動 4 日目	
第 13 回	前期現地活動 5 日目	
第 14 回	前期事後学修 〇前期の学習のまとめ	
第 15 回	前期事後学修 〇研究テーマの設定	
第 16 回～第 28 回	〇大学での個人研究と野村證券訪問を繰り返す 〇研究成果プレゼン作成	〇研究成果資料完成／提出
第 29 回	研究成果発表	
第 30 回	後期事後学修 〇後期研究活動振り返り 〇e ポートフォリオ入力	

1.授業コード（ナンバリング）	INT303-M71	2.科目名	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ II（産学協議会の分類上『タイプ２』相当）	3.単位数	4
4.授業担当教員	齋藤勝洋				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	本演習は、これまでのインターンシップⅠと様々な専門的学習による専門知識を活かし、より高度な知識の統合と活用を行うスキル獲得を目的に実施される。そのため、このインターンシップは問題解決型として実施され、一般的な仕事体験型、問題発見型とは異なり、より積極的且つ能動的な行動が求められることに注意する必要がある。 この演習は基本的な知識の獲得を行う前期と、より専門的研究を行う後期に分類される。前期はレクチャーとプレゼンを行い、ビジネスの現場で必要な知識、企業に関する知識、そして企業分析、業界分析のスキルを獲得				
18.学習目標とＤＰとの関連	＜ベンチマーク＞ 問題発見・解決力（問題発見力）レベル４ 問題発見・解決力?（論理的思考/判断力）レベル４ 問題発見・解決力??（問題解決力）レベル４ 専門的知識・技能の活用力レベル４				
19.教科書・教材	特になし。必要な場合は適時、配布する。				
20.参考文献	特になし。必要な場合は適時、配布する。				
21.成績評価	前期プレゼンテーション（銘柄プレゼン）40% 後期プレゼンテーション（研究発表）50% e ポートフォリオ 10%				
22.コメント	自律的且つ積極的な活動と学習が求められるため、その点を意識した学生に参加して欲しい。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回／第 02 回	○オリエンテーション ・授業の進め方 ・日程 ・詳細の説明 ・インターンシップへの心構えと準備 ○事前学習その① ・事前講座「株式会社の仕組み」	
第 03 回/第 04 回	○事前講座「証券業界とは」 ○事前講座「承継会社の役割」 ○事前講座「SDGs と企業戦略」	
第 05 回/第 06 回	○事前講座「日経新聞とは」 ○事前講座「日経新聞の読み合わせ方法」 ○事前講座「日経新聞の読み合わせ」	
第 07 回/第 08	前期現地活動 1 日目	

回/第 09 回		
第 10 回	前期現地活動 2 日目	
第 11 回	前期現地活動 3 日目	
第 12 回	前期現地活動 4 日目	
第 13 回	前期現地活動 5 日目	
第 14 回	前期事後学修 〇前期の学習のまとめ	
第 15 回	前期事後学修 〇研究テーマの設定	
第 16 回～第 28 回	〇大学での個人研究と野村證券訪問を繰り返す 〇研究成果プレゼン作成	〇研究成果資料完成／提出
第 29 回	研究成果発表	
第 30 回	後期事後学修 〇後期研究活動振り返り 〇e ポートフォリオ入力	

1.授業コード（ナンバリング）	JAL110-A01	2.科目名	日本語Ⅰ　（留）	3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	１年～４年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	N１取得者は履修できません。単位認定を受けるようにしてください。				
17.授業の目的と概要	授業の目的：N２の取得とN２レベルの文法を使って自分の意見や考えをまとめて説明できること 概要：N２の文法項目を網羅している教科書を使用して、文法の意味を理解し文作りを通して日本語力の向上を目指します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目的はDPの(1) 自律的で主体的な態度（自律性）(4)問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 学習目的は次のとおりです。 ①N２文法を理解し、まとまった内容の文章を読み書きできること ②場面に応じて、適切な語彙や表現が使い分けられること ③自分の意見や考えをまとめて効率よく説明できること				
19.教科書・教材	『テーマ別中級から学ぶ日本語　三訂版』				
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。				
21.成績評価	クラス活動：10%　　課題提出：10%　　N２文法発表：10% 短作文発表：10%　　中間試験：30%　　総括試験　　：30%				
22.コメント	初回の授業からテキストを持参してください。 欠席するときは連絡してください。				
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】 【第２回】	【第１回】 ・オリエンテーション［主に授業の流れや成績評価についての説明］ ・初級文法復習 ・第１課「まなぶ」［教科書 pp.1-6］文法練習 【第２回】 ・第１課「まなぶ」［教科書 pp.1-6］文法練習	【第１回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第２回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第３回】 【第４回】	【第３回】 ・初級文法復習 ・第２課「みつける」［教科書 pp.7-12］文法練習 【第４回】 ・第２課「みつける」［教科書 pp.7-12］文法練習 ・第３課「食べる」［教科書 pp.13-16］文法練習	【第３回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第４回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第５回】 【第６回】	【第５回】 ・第３課「たべる」［教科書 pp.17］文法練習	【第５回】 ○本文音読、次回の予習（60 分）

	【第 6 回】 ・第 4 課「たとえる」［教科書 pp.21-23］文法練習	【第 6 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4，5）提出
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ●N 2 文法発表 ・第 5 課「あきれる」［教科書 pp.27-29］文法練習 【第 8 回】 ・第 6 課「つたえる」［教科書 pp.33-34］文法練習	【第 7 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 8 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4，5）提出
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ●N 2 文法発表 ・第 6 課「つたえる」［教科書 pp.35-36］文法練習 【第 10 回】 ・第 7 課「かざる」［教科書 pp.40-42］文法練習 ・短作文作成	【第 9 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 10 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4，5）提出
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ●N 2 文法発表 ・第 8 課「おもいこむ」［教科書 pp.46-49］文法練習 【第 12 回】 ・第 9 課「まもる」［教科書 pp.53-54］文法練習 ・短作文作成	【第 11 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 12 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4，5）提出
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ●N 2 文法発表 ・第 9 課「まもる」［教科書 pp.54-55］文法練習 【第 14 回】 ・第 10 課「なれる」［教科書 pp.59-61］文法練習	【第 13 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 14 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4，5）提出
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●N2 文法発表 ・第 11 課「つながる」［教科書 pp.65-67］文法練習 【第 16 回】 ・N2 文法プリント	【第 15 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 16 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分）
【第 17 回】 【第 18 課】	【第 17 回】 ・第 12 課「わける」［教科書 pp.71-73］文法練習 【第 18 回】 ●中間試験［第 1 課～第 10 課］	【第 17 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 18 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4，5）提出
【第 19 回】 【第 20 課】	【第 19 回】 ・中間試験返却、解説 ・第 13 課「おもいだす」［教科書 pp.77-79］文法練習 【第 20 回】 ・N 2 文法プリント	【第 19 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 20 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4，5）提出
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●N 2 文法発表	【第 21 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分）

	・第 14 課「みなおす」［教科書 pp.83-85］文法練習 【第 22 回】 ・第 15 課「ふれあう」［教科書 pp.89-91］文法練習	【第 22 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●N２文法発表 ・第 15 課「ふれあう」［教科書 pp.89-91］文法練習 【第 24 回】 ・第 16 課「うたう」［教科書 pp.95-99］文法練習	【第 23 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 24 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・第 17 課「なおす」［教科書 pp.103-105］文法練習 【第 26 回】 ・第 18 課「はなれる」［教科書 pp.109-110］文法練習	【第 25 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 26 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・第 18 課「はなれる」［教科書 pp.110-111］文法練習 ・第 19 課「かなえる」［教科書 pp.115-116］文法練習 【第 28 回】 ・第 19 課「かなえる」［教科書 pp.116-117］文法練習	【第 27 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 28 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・第 20 課「おぼえる」［教科書 pp.121-123］文法練習 【第 30 回】 ●総括試験［第 11 課～第 19 課］	【第 29 課】 ○復習（60 分）

1.授業コード（ナンバリング）	JAL110-Y01	2.科目名	日本語Ⅰ　(1/2)	3.単位数	2
4.授業担当教員	松本亮				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	日本語の中級の教科書を使用して、日常の出来事や社会的な話題について学びます。N２レベルの文法を使って自分の意見や考えをまとめて説明できることを目的とします。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①N２文法を理解し、まとまった内容の文章を読み書きできること。 ②場面に応じて、適切な語彙や表現が使い分けられること。 ③自分の意見や考えをまとめて効率よく説明できること。				
19.教科書・教材	『テーマ別中級から学ぶ日本語　三訂版』				
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。				
21.成績評価	クラス活動：10%　　課題提出：10% N２文法発表：10%　　短作文発表：10% 中間試験：20%　　総括試験：20% N２文法試験：20%				
22.コメント	教科書の購入については、初回の授業時に指示します。 シラバスのコピーを必ず持参してください。				
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】 【第２回】	【第１回】 ・オリエンテーション［主に授業の流れや成績評価についての説明］ ・初級文法復習 ・第１課「まなぶ」［教科書 pp.1-6］文法練習 【第２回】 ・第１課「まなぶ」［教科書 pp.1-6］文法練習 ・N２文法プリント	【第１回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第２回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第３回】 【第４回】	【第３回】 ・初級文法復習 ・第２課「みつける」［教科書 pp.7-12］文法練習 ・N２文法プリント 【第４回】 ・第２課「みつける」［教科書 pp.7-12］文法練習 ・第３課「食べる」［教科書 pp.13-16］文法 AB 練習	【第３回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第４回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第５回】 【第６回】	【第５回】 ・第３課「たべる」［教科書 pp.17］文法 C 練習 ・N２文法プリント 【第６回】 ・第４課「たとえる」［教科書 pp.21-23］文法練習	【第５回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第６回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出

【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ●N 2 文法発表 ・第 5 課「あきれる」［教科書 pp.27-29］文法練習 ・N 2 文法プリント 【第 8 回】 ・第 6 課「つたえる」［教科書 pp.33-34］文法 AB 練習 ・短作文作成	【第 7 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 8 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4，5）提出
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ●N 2 文法発表 ・第 6 課「つたえる」［教科書 pp.35-36］文法 CD 練習 ・N 2 文法プリント 【第 10 回】 ・第 7 課「かざる」［教科書 pp.40-42］文法練習 ・短作文作成	【第 9 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 10 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4，5）提出
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ●N 2 文法発表 ・第 8 課「おもいこむ」［教科書 pp.46-49］文法練習 【第 12 回】 ・第 9 課「まもる」［教科書 pp.53-54］文法 AB 練習 ・N 2 文法プリント	【第 11 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 12 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4，5）提出
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ●N 2 文法発表 ・第 9 課「まもる」［教科書 pp.54-55］文法練習 【第 14 回】 ・第 10 課「なれる」［教科書 pp.59-61］文法練習 ・N 2 文法プリント	【第 13 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 14 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4，5）提出
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●N 2 文法発表 ・第 11 課「つながる」［教科書 pp.65-66］文法 AB 練習 【第 16 回】 ・N 2 文法プリント ・短作文作成	【第 15 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 16 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分）
【第 17 回】 【第 18 課】	【第 17 回】 ・第 12 課「わける」［教科書 pp.71-76］文法練習 ・N 2 文法プリント 【第 18 回】 ●中間試験［第 1 課～第 10 課］	【第 17 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 18 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4，5）提出
【第 19 回】 【第 20 課】	【第 19 回】 ・中間試験返却、解説 ・第 13 課「おもいだす」［教科書 pp.77-79］文法練習 【第 20 回】 ・N 2 文法プリント	【第 19 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 20 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4，5）提出
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●N 2 文法発表 ・第 14 課「みなおす」［教科書 pp.83-85］文法練習	【第 21 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 22 回】

	【第 22 回】 ・第 15 課「ふれあう」［教科書 pp.89-91］文法練習 ・N２文法プリント	○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●N２文法発表 ・第 15 課「ふれあう」［教科書 pp.89-91］文法練習 【第 24 回】 ・第 16 課「うたう」［教科書 pp.95-99］文法練習 ・N２文法プリント	【第 23 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 24 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・第 17 課「なおす」［教科書 pp.103-105］文法練習 ・N２文法プリント 【第 26 回】 ・第 18 課「はなれる」［教科書 pp.109-110］文法 AB 練習 ・短作文作成	【第 25 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 26 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・第 18 課「はなれる」［教科書 pp.110-111］文法 CD 練習 ・第 19 課「かなえる」［教科書 pp.115-116］文法 AB 練習 【第 28 回】 ・第 19 課「かなえる」［教科書 pp.116-117］文法 CD 練習 ●N２文法試験	【第 27 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 28 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・第 20 課「おぼえる」［教科書 pp.121-123］文法練習 【第 30 回】 ・N２文法試験返却、解説 ●総括試験［第 11 課～第 19 課］	【第 29 課】 ○復習（60 分）

1.授業コード（ナンバリング）	JAL110-Y02	2.科目名	日本語Ⅰ　(2/2)	3.単位数	2
4.授業担当教員	阿部忍				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】N 2 レベルの文法を使って自分の意見や考えをまとめて説明できることを目的とします。 【概要】日本語の中級の教科書を使用して、日常の出来事や社会的な話題について学びます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性と（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①N 2 文法を理解し、まとまった内容の文章を読み書きできること。 ②場面に応じて、適切な語彙や表現が使い分けられること。 ③自分の意見や考えをまとめて効率よく説明できること。				
19.教科書・教材	『テーマ別中級から学ぶ日本語　三訂版』				
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。				
21.成績評価	クラス活動：10%　　課題提出：10% N 2 文法発表：10%　　短作文発表：10% 中間試験：20%　　総括試験：20% N 2 文法試験：20%				
22.コメント	教科書の購入については、初回の授業時に指示します。 シラバスのコピーを必ず持参してください。 入国が遅れている学生は Zoom を用いて下記のリンクからミーティングに入室してください。 *** ミーティング ID: *** パスコード: ***				
23.オフィスアワー	学修支援センター：月曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・オリエンテーション［主に授業の流れや成績評価についての説明］ ・初級文法復習 ・第 1 課「まなぶ」［教科書 pp.1-6］文法練習 【第 2 回】 ・第 1 課「まなぶ」［教科書 pp.1-6］文法練習 ・N 2 文法プリント	【第 1 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 2 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4，5）提出
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・初級文法復習 ・第 2 課「みつける」［教科書 pp.7-12］文法練習 ・N 2 文法プリント 【第 4 回】	【第 3 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 4 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分）

	・第２課「みつける」［教科書 pp.7-12］文法練習 ・第３課「食べる」［教科書 pp.13-16］文法 AB 練習	★使いましょう（練習４，５）提出
【第５回】 【第６回】	【第５回】 ・第３課「たべる」［教科書 pp.17］文法 C 練習 ・Ｎ２文法プリント 【第６回】 ・第４課「たとえる」［教科書 pp.21-23］文法練習	【第５回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第６回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第７回】 【第８回】	【第７回】 ●Ｎ２文法発表 ・第５課「あきれる」［教科書 pp.27-29］文法練習 ・Ｎ２文法プリント 【第８回】 ・第６課「つたえる」［教科書 pp.33-34］文法 AB 練習 ・短作文作成	【第７回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第８回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第９回】 【第 10 回】	【第９回】 ●Ｎ２文法発表 ・第６課「つたえる」［教科書 pp.35-36］文法 CD 練習 ・Ｎ２文法プリント 【第 10 回】 ・第７課「かざる」［教科書 pp.40-42］文法練習 ・短作文作成	【第９回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 10 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ●Ｎ２文法発表 ・第８課「おもいこむ」［教科書 pp.46-49］文法練習 【第 12 回】 ・第９課「まもる」［教科書 pp.53-54］文法 AB 練習 ・Ｎ２文法プリント	【第 11 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 12 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ●Ｎ２文法発表 ・第９課「まもる」［教科書 pp.54-55］文法練習 【第 14 回】 ・第 10 課「なれる」［教科書 pp.59-61］文法練習 ・Ｎ２文法プリント	【第 13 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 14 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●Ｎ２文法発表 ・第 11 課「つながる」［教科書 pp.65-66］文法 AB 練習 【第 16 回】 ・Ｎ２文法プリント ・短作文作成	【第 15 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 16 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分）
【第 17 回】 【第 18 課】	【第 17 回】 ・第 12 課「わける」［教科書 pp.71-76］文法練習 ・Ｎ２文法プリント 【第 18 回】 ●中間試験［第１課～第 10 課］	【第 17 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 18 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出

【第 19 回】 【第 20 課】	【第 19 回】 ・中間試験返却、解説 ・第 13 課「おもいだす」［教科書 pp.77-79］文法練習 【第 20 回】 ・N２文法プリント	【第 19 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 20 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●N２文法発表 ・第 14 課「みなおす」［教科書 pp.83-85］文法練習 【第 22 回】 ・第 15 課「ふれあう」［教科書 pp.89-91］文法練習 ・N２文法プリント	【第 21 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 22 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●N２文法発表 ・第 15 課「ふれあう」［教科書 pp.89-91］文法練習 【第 24 回】 ・第 16 課「うたう」［教科書 pp.95-99］文法練習 ・N２文法プリント	【第 23 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 24 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・第 17 課「なおす」［教科書 pp.103-105］文法練習 ・N２文法プリント 【第 26 回】 ・第 18 課「はなれる」［教科書 pp.109-110］文法 AB 練習 ・短作文作成	【第 25 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 26 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・第 18 課「はなれる」［教科書 pp.110-111］文法 CD 練習 ・第 19 課「かなえる」［教科書 pp.115-116］文法 AB 練習 【第 28 回】 ・第 19 課「かなえる」［教科書 pp.116-117］文法 CD 練習 ●N２文法試験	【第 27 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 28 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習４，５）提出
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・第 20 課「おぼえる」［教科書 pp.121-123］文法練習 【第 30 回】 ・N２文法試験返却、解説 ●総括試験［第 11 課～第 19 課］	【第 29 課】 ○復習（60 分）

1.授業コード（ナンバリング）	JAL111-A01	2.科目名	日本語 II （留）T1	3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの				
17.授業の目的と概要	授業の目的：大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図ること 概要：N2 文字語彙の模擬問題の練習を行うことで N2 の取得を目指します。一方、教科書の各テーマに沿って学習した語彙を使用してロールプレイや発表を行うことで表現力を豊かにすることを目指します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目的は DP の(1) 自律的で主体的な態度（自律性）(4)問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 学習目的は次のとおりです。 ①語彙を拡充することで、表現力を高めること ②グループ活動を通して、学んだ語彙の応用力を身につけること				
19.教科書・教材	『にほんご語彙力アップトレーニング』ASK プリント（N２文字語彙）				
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。				
21.成績評価	クラス活動：10%　課題　：10%　発表　：20% 小テスト　：20%　最終発表：30%　文字語彙試験：10% ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意				
22.コメント	初回の授業からテキストを持参してください。 欠席するときは連絡してください。				
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】 【第２回】	【第１回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価について説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー ・プリント（N２文字語彙）学習 【第２回】 ・第１課「料理」[教科書 pp.13-20] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第１回】 〇授業の復習（60 分） 【第２回】 〇授業の復習（60 分）
【第３回】 【第４回】	【第３回】 ・模擬試験（N２文字語彙）の解説 ・第１課「料理」[教科書 pp.13-20] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N２文字語彙）学習 【第４回】 ・第２課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第３回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第４回】 〇授業の復習、発表の練習（60 分）

【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ●第 1 課の発表テスト ・第 2 課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 6 回】 ・第 3 課「服選び」[教科書 pp.29-36] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 5 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 6 回】 〇授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ●第 2 課のロールプレイテスト ・第 3 課「服選び」[教科書 pp.29-36] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 8 回】 ・第 4 課「性格」[教科書 pp.37-44] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 7 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 8 回】 〇授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ●第 3 課のロールプレイテスト ・第 4 課「性格」[教科書 pp.37-44] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 10 回】 ・第 5 課「家探し」[教科書 pp.45-52] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 9 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 10 回】 〇授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ●第 4 課のロールプレイテスト ・第 5 課「家探し」[教科書 pp.45-52] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第 12 回】 ・プリント（N 2 文字語彙）学習	【第 11 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 12 回】 〇授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ●第 1 課～第 5 課の小テスト 【第 14 回】 ・プリント（N 2 文字語彙）学習	【第 13 回】 〇授業の復習（60 分） 【第 14 回】 〇授業の復習（60 分）
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●第 5 課のロールプレイテスト ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 16 回】 ・第 6 課「結婚」[教科書 pp.53-60] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 15 回】 〇授業の復習（60 分） 【第 16 回】 〇授業の復習（60 分）
【第 17 回】 【第 18 課】	【第 17 回】 ・第 6 課「結婚」[教科書 pp.53-60] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 18 回】 ・第 7 課「季節」[教科書 pp.61-68] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 17 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 18 回】 〇授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 19 回】	【第 19 回】	【第 19 回】

【第 20 課】	●第 6 課のロールプレイテスト ・第 7 課「季節」［教科書 pp.61-68］ 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 20 回】 ・第 8 課「慣用句・ことわざ」［教科書 pp.69-78］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 20 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 8 課「慣用句・ことわざ」［教科書 pp.69-78］ 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 22 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」［教科書 pp.79-89］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 21 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 22 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」［教科書 pp.79-89］応用練習→発表の原稿スライド作成（パソコン、USB 持参） 【第 24 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」［教科書 pp.79-89］発表のスライド作成	【第 23 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 24 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分） ★スライド提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ●第 8 課の発表テスト ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 26 回】 ・第 10 課「グラフ」［教科書 pp.91-99］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 25 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 26 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】【第 28 回】 ●第 9 課の発表テスト ●第 6 課～第 9 課の小テスト	【第 27 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 28 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・第 10 課「グラフ」［教科書 pp.91-99］ 応用練習 ●N2 文字語彙試験 【第 30 回】 ・生活の語彙、今期の振り返り	

1.授業コード（ナンバリング）	JAL111-Y01	2.科目名	日本語 II （1/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	福井武司				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの				
17.授業の目的と概要	大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図ります。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①語彙を拡充することで、表現力を高めること ②グループ活動を通して、学んだ語彙の応用力を身につけること				
19.教科書・教材	『にほんご語彙力アップトレーニング』ASK プリント（N２文字語彙）				
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。				
21.成績評価	クラス活動：30％ 課題・発表：30％ 中間試験：20％、総括試験：20％ ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意。				
22.コメント	日本での生活や大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を学びます。語彙の丸暗記ではなく、ロールプレイや発表を通して、豊かな表現力を身につけることを目指します。				
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】 【第２回】	【第１回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価について説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー ・プリント（N２文字語彙）学習 【第２回】 ・第１課「料理」[教科書 pp.13-20] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第１回】 〇授業の復習（60 分） 【第２回】 〇授業の復習（60 分）
【第３回】 【第４回】	【第３回】 ・模擬試験（N２文字語彙）の解説 ・第１課「料理」[教科書 pp.13-20] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N２文字語彙）学習 【第４回】 ・第２課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第３回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第４回】 〇授業の復習、発表の練習（60 分）
【第５回】 【第６回】	【第５回】 ●第１課の発表テスト ・第２課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N２文字語彙）学習	【第５回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第６回】 〇授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）

	【第 6 回】 ・第 3 課「服選び」［教科書 pp.29-36］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ●第 2 課のロールプレイテスト ・第 3 課「服選び」［教科書 pp.29-36］ 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 8 回】 ・第 4 課「性格」［教科書 pp.37-44］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 7 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 8 回】 〇授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ●第 3 課のロールプレイテスト ・第 4 課「性格」［教科書 pp.37-44］ 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 10 回】 ・第 5 課「家探し」［教科書 pp.45-52］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 9 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 10 回】 〇授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ●第 4 課のロールプレイテスト ・第 5 課「家探し」［教科書 pp.45-52］ 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第 12 回】 ・プリント（N 2 文字語彙）学習	【第 11 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 12 回】 〇授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・第 1 課～第 5 課の復習 【第 14 回】 ●中間試験	【第 13 回】 〇授業の復習（60 分） 【第 14 回】 〇授業の復習（60 分）
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●第 5 課のロールプレイテスト ・中間試験の振り返り ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 16 回】 ・第 6 課「結婚」［教科書 pp.53-60］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 15 回】 〇授業の復習（60 分） 【第 16 回】 〇授業の復習（60 分）
【第 17 回】 【第 18 課】	【第 17 回】 ・第 6 課「結婚」［教科書 pp.53-60］ 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 18 回】 ・第 7 課「季節」［教科書 pp.61-68］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 17 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 18 回】 〇授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 19 回】 【第 20 課】	【第 19 回】 ●第 6 課のロールプレイテスト ・第 7 課「季節」［教科書 pp.61-68］ 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N 2 文字語彙）学習	【第 19 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 20 回】 〇授業の復習、発表の練習（60 分）

	【第 20 回】 ・第 8 課「慣用句・ことわざ」［教科書 pp.69-78］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 8 課「慣用句・ことわざ」［教科書 pp.69-78］ 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 22 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」［教科書 pp.79-89］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 21 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 22 回】 〇授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」［教科書 pp.79-89］応用練習→発表の原稿スライド作成（パソコン、USB 持参） 【第 24 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」［教科書 pp.79-89］発表のスライド作成	【第 23 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 24 回】 〇授業の復習、発表の練習（60 分） ★スライド提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ●第 8 課の発表テスト ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 26 回】 ・第 10 課「グラフ」［教科書 pp.91-99］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 25 回】 〇授業の復習（60 分） 【第 26 回】 〇授業の復習（60 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ●第 9 課の発表テスト ・第 10 課「グラフ」［教科書 pp.91-99］ 応用練習 【第 28 回】 ・第 6 課～第 10 課の復習 ●N 2 試験	【第 27 回】 〇授業の復習（60 分） 【第 28 回】 〇授業の復習（60 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ●総括試験 【第 30 回】 ・N2 試験、総括試験の振り返り	

1.授業コード（ナンバリング）	JAL111-Y02	2.科目名	日本語 II （2/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	小川佐由理				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの				
17.授業の目的と概要	大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図ります。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①語彙を拡充することで、表現力を高めること ②グループ活動を通して、学んだ語彙の応用力を身につけること				
19.教科書・教材	『にほんご語彙力アップトレーニング』ASK プリント（N２文字語彙）				
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。				
21.成績評価	クラス活動：30％ 課題・発表：30％ 中間試験：20％、総括試験：20％ ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意。				
22.コメント	日本での生活や大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を学びます。語彙の丸暗記ではなく、ロールプレイや発表を通して、豊かな表現力を身につけることを目指します。				
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】 【第２回】	【第１回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価について説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー ・プリント（N２文字語彙）学習 【第２回】 ・第１課「料理」[教科書 pp.13-20] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第１回】 〇授業の復習（60 分） 【第２回】 〇授業の復習（60 分）
【第３回】 【第４回】	【第３回】 ・模擬試験（N２文字語彙）の解説 ・第１課「料理」[教科書 pp.13-20] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N２文字語彙）学習 【第４回】 ・第２課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第３回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第４回】 〇授業の復習、発表の練習（60 分）
【第５回】 【第６回】	【第５回】 ●第１課の発表テスト ・第２課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N２文字語彙）学習	【第５回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第６回】 〇授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）

	【第 6 回】 ・第 3 課「服選び」［教科書 pp.29-36］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ●第 2 課のロールプレイテスト ・第 3 課「服選び」［教科書 pp.29-36］ 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 8 回】 ・第 4 課「性格」［教科書 pp.37-44］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 7 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 8 回】 〇授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ●第 3 課のロールプレイテスト ・第 4 課「性格」［教科書 pp.37-44］ 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 10 回】 ・第 5 課「家探し」［教科書 pp.45-52］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 9 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 10 回】 〇授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ●第 4 課のロールプレイテスト ・第 5 課「家探し」［教科書 pp.45-52］ 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第 12 回】 ・プリント（N 2 文字語彙）学習	【第 11 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 12 回】 〇授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・第 1 課～第 5 課の復習 【第 14 回】 ●中間試験	【第 13 回】 〇授業の復習（60 分） 【第 14 回】 〇授業の復習（60 分）
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●第 5 課のロールプレイテスト ・中間試験の振り返り ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 16 回】 ・第 6 課「結婚」［教科書 pp.53-60］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 15 回】 〇授業の復習（60 分） 【第 16 回】 〇授業の復習（60 分）
【第 17 回】 【第 18 課】	【第 17 回】 ・第 6 課「結婚」［教科書 pp.53-60］ 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 18 回】 ・第 7 課「季節」［教科書 pp.61-68］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 17 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 18 回】 〇授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 19 回】 【第 20 課】	【第 19 回】 ●第 6 課のロールプレイテスト ・第 7 課「季節」［教科書 pp.61-68］ 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N 2 文字語彙）学習	【第 19 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 20 回】 〇授業の復習、発表の練習（60 分）

	【第 20 回】 ・第 8 課「慣用句・ことわざ」［教科書 pp.69-78］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 8 課「慣用句・ことわざ」［教科書 pp.69-78］ 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 22 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」［教科書 pp.79-89］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 21 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 22 回】 〇授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」［教科書 pp.79-89］応用練習→発表の原稿スライド作成（パソコン、USB 持参） 【第 24 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」［教科書 pp.79-89］発表のスライド作成	【第 23 回】 〇授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 24 回】 〇授業の復習、発表の練習（60 分） ★スライド提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ●第 8 課の発表テスト ・プリント（N 2 文字語彙）学習 【第 26 回】 ・第 10 課「グラフ」［教科書 pp.91-99］ 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 25 回】 〇授業の復習（60 分） 【第 26 回】 〇授業の復習（60 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ●第 9 課の発表テスト ・第 10 課「グラフ」［教科書 pp.91-99］ 応用練習 【第 28 回】 ・第 6 課～第 10 課の復習 ●N 2 試験	【第 27 回】 〇授業の復習（60 分） 【第 28 回】 〇授業の復習（60 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ●総括試験 【第 30 回】 ・N2 試験、総括試験の振り返り	

1.授業コード（ナンバリング）	JAL112-A01	2.科目名	日本語III （留）T1	3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの				
17.授業の目的と概要	授業の目的：あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学び、テキスト単位のライティング力を養成することです。 概要：教科書は 10 課で構成され、大きく 3 つのレベルに分かれています。やさしい項目から難しい項目へと進むうちに自然に書く力が身につくように工夫されています。書き方を段階的に積み上げていきながら、最終的にはアカデミックレベルの文章を書く技術が身につくようになっています。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目的は DP の(1) 自律的で主体的な態度（自律性）(4)問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 学習目的は次のとおりです。 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学び、テキスト単位のライティング力を養成することです。				
19.教科書・教材	『大学で学ぶための日本語ライティング』　The Japan Times 佐々木瑞枝他　ISBN 4-7890-1221-2				
20.参考文献	授業中に適宜指示します。				
21.成績評価	①学習状況（宿題、授業参加）　20% ②中間試験（作文含む）　20% ③作文 2 回（課題①②）　30% ④総括試験（作文含む）　30%				
22.コメント	初回の授業からテキストを用意してください。 欠席するときは連絡してください。				
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 第 1 課　簡潔に回答する 　〇表現の練習 　〇短く答える練習 　〇簡潔に回答する 教室活動：テーマを決めてアンケートを作成する→発表（課題）	
第 2 回	第 2 課　情報を文章にする 　〇表現の練習 　〇情報を文章にする 教室活動：クラスで出かける計画を作成する→発表（課題）	

第３回	第３課　状況を説明し、意見を述べる 　〇表現の練習 　〇状況を説明し、意見を述べる 教室活動：街で感じたことについてまとめる→発表 （課題）	
第４回	第４課　中心文と支持文で段落を作る練習 　〇中心文と支持文で段落を作る練習 　〇文や段落をつなぐ練習 　〇段落を作る 作文①を書く（課題）	作文①を完成させる。翌週提出
第５回	作文①の提出 第５課　体験したことを報告する文を書く 　〇表現の練習 　〇体験したことを報告する文を書く 　教室活動：見学の報告書を書く	
第６回	作文①のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習（１） プリント教材	
第７回	第６課　テーマに沿った意見文を書く 　〇表現の練習 　〇テーマに沿った意見文を書く	
第８回	中間試験（作文含む）	
第９回	中間試験のフィードバック 第７課　自分をアピールする文を書く 　〇表現の練習 　〇自分をアピールする文を書く	
第１０回	第８課 レポートを書くための基礎知識	
第１１回	第８課　順序立てて、レポートを書く 　〇表現の練習 　〇レポートで使われる表現の練習 　〇順序立てて、レポートを書く だ体・である体の練習	
第１２回	第９課　引用して、レポートを書く 　〇表現の練習 　〇語や文を名詞化する練習 　〇引用して、レポートを書く 作文②を書く（課題）	作文②を完成させる。翌週提出
第１３回	作文②の提出 第10課　資料を整理して、レポートを書く 　〇表現の練習 　〇グラフの読み方 　〇資料を利用して、レポートを書く	
第１４回	作文②のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習	

	（2） プリント教材	
第１５回	総括試験（発表含む）	

1.授業コード（ナンバリング）	JAL112-A02	2.科目名	日本語III （留）T2	3.単位数	2
4.授業担当教員	久次米都				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語III、日本語IV、日本語Ⅴは、それぞれ週 2 コマずつの授業で、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、日本語能力の四技能（聞く、話す、読む、書く）を高めることを目的とする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語III」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語IV」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。				
19.教科書・教材	『大学で学ぶための日本語ライティング』　The Japan Times 佐々木瑞枝他　ISBN 4-7890-1221-2				
20.参考文献	授業中に適宜指示する。				
21.成績評価	①学習状況（授業参加度、学習態度など）　20% ②中間テスト　20% ③期末テスト　20% ④オンデマンド教材の提出と内容による評価　40%				
22.コメント	対面授業は火曜の 5 限のみ行います。 もう一コマはオンデマンドですので、オンデマンド教材や課題の提出によって出席となります。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 第 1 課　簡潔に回答する 〇表現の練習 〇短く答える練習 〇簡潔に回答する オンデマンド：テーマを決めてアンケートを作成する	
第 2 回	第 2 課　情報を文章にする 〇表現の練習	

	○情報を文章にする オンデマンド：クラスで出かける計画を作成する	
第３回	第３課　状況を説明し、意見を述べる ○表現の練習 ○状況を説明し、意見を述べる オンデマンド：街で感じたことについてまとめる	
第４回	第４課　中心文と支持文で段落を作る練習 ○中心文と支持文で段落を作る練習 ○文や段落をつなぐ練習 ○段落を作る オンデマンド：作文①を書く	作文①を完成させる。翌週提出
第５回	作文①の提出 第５課　体験したことを報告する文を書く ○表現の練習 ○体験したことを報告する文を書く オンデマンド：見学の報告書を書く	
第６回	作文①のフィードバックを受ける オンデマンド： アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習（１） プリント教材	
第７回	第６課　テーマに沿った意見文を書く ○表現の練習 オンデマンド：テーマに沿った意見文を書く	
第８回	中間テスト（作文含む）	
第９回	中間テストのフィードバック 第７課　自分をアピールする文を書く ○表現の練習 オンデマンド：自分をアピールする文を書く	
第１０回	第８課 レポートを書くための基礎知識 オンデマンド：練習問題	
第１１回	第８課　順序立てて、レポートを書く ○表現の練習 ○レポートで使われる表現の練習 ○順序立てて、レポートを書く オンデマンド：だ体・である体の練習	
第１２回	第９課　引用して、レポートを書く ○表現の練習 ○語や文を名詞化する練習 ○引用して、レポートを書く オンデマンド：作文②を書く	作文②を完成させる。翌週提出
第１３回	作文②の提出 第10課　資料を整理して、レポートを書く ○表現の練習	

	○グラフの読み方 オンデマンド：資料を利用して、レポートを書く	
第１４回	作文②のフィードバックを受ける オンデマンド： アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習（２） プリント教材	
第１５回	期末テスト（作文含む）	

1.授業コード（ナンバリング）	JAL112-Y01	2.科目名	日本語III　(2/2)	3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの				
17.授業の目的と概要	授業の目的：あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学び、テキスト単位のライティング力を養成することです。 概要：教科書は 10 課で構成され、大きく 3 つのレベルに分かれています。やさしい項目から難しい項目へと進むうちに自然に書く力が身につくように工夫されています。書き方を段階的に積み上げていきながら、最終的にはアカデミックレベルの文章を書く技術が身につくようになっています。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目的は DP の(1) 自律的で主体的な態度（自律性）(4)問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 学習目的は次のとおりです。 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学び、テキスト単位のライティング力を養成することです。				
19.教科書・教材	『大学で学ぶための日本語ライティング』　The Japan Times 佐々木瑞枝他　ISBN 4-7890-1221-2				
20.参考文献	授業中に適宜指示します。				
21.成績評価	①学習状況（宿題、授業参加）　20% ②中間試験（作文含む）　20% ③作文 2 回（課題①②）　30% ④総括試験（作文含む）　30%				
22.コメント	初回の授業からテキストを用意してください。 欠席するときは連絡してください。				
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 第 1 課　簡潔に回答する 　〇表現の練習 　〇短く答える練習 　〇簡潔に回答する 教室活動：テーマを決めてアンケートを作成する→発表（課題）	
第 2 回	第 2 課　情報を文章にする 　〇表現の練習 　〇情報を文章にする 教室活動：クラスで出かける計画を作成する→発表（課題）	

第３回	第３課　状況を説明し、意見を述べる 　〇表現の練習 　〇状況を説明し、意見を述べる 教室活動：街で感じたことについてまとめる→発表 （課題）	
第４回	第４課　中心文と支持文で段落を作る練習 　〇中心文と支持文で段落を作る練習 　〇文や段落をつなぐ練習 　〇段落を作る 作文①を書く（課題）	作文①を完成させる。翌週提出
第５回	作文①の提出 第５課　体験したことを報告する文を書く 　〇表現の練習 　〇体験したことを報告する文を書く 　教室活動：見学の報告書を書く	
第６回	作文①のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習（１） プリント教材	
第７回	第６課　テーマに沿った意見文を書く 　〇表現の練習 　〇テーマに沿った意見文を書く	
第８回	中間試験（作文含む）	
第９回	中間試験のフィードバック 第７課　自分をアピールする文を書く 　〇表現の練習 　〇自分をアピールする文を書く	
第１０回	第８課 レポートを書くための基礎知識	
第１１回	第８課　順序立てて、レポートを書く 　〇表現の練習 　〇レポートで使われる表現の練習 　〇順序立てて、レポートを書く だ体・である体の練習	
第１２回	第９課　引用して、レポートを書く 　〇表現の練習 　〇語や文を名詞化する練習 　〇引用して、レポートを書く 作文②を書く（課題）	作文②を完成させる。翌週提出
第１３回	作文②の提出 第10課　資料を整理して、レポートを書く 　〇表現の練習 　〇グラフの読み方 　〇資料を利用して、レポートを書く	
第１４回	作文②のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習	

	（2） プリント教材	
第１５回	総括試験（発表含む）	

1.授業コード（ナンバリング）	JAL112-Y02	2.科目名	日本語III　(1/2)	3.単位数	2
4.授業担当教員	福井武司				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの				
17.授業の目的と概要	授業の目的：あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学び、テキスト単位のライティング力を養成することです。 概要：教科書は 10 課で構成され、大きく 3 つのレベルに分かれています。やさしい項目から難しい項目へと進むうちに自然に書く力が身につくように工夫されています。書き方を段階的に積み上げていきながら、最終的にはアカデミックレベルの文章を書く技術が身につくようになっています。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目的は DP の(1) 自律的で主体的な態度（自律性）(4)問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 学習目的は次のとおりです。 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学び、テキスト単位のライティング力を養成することです。				
19.教科書・教材	『大学で学ぶための日本語ライティング』　The Japan Times 佐々木瑞枝他　ISBN 4-7890-1221-2				
20.参考文献	授業中に適宜指示します。				
21.成績評価	①学習状況（宿題、授業参加）　20% ②中間試験（作文含む）　20% ③作文 2 回（課題①②）　30% ④総括試験（作文含む）　30%				
22.コメント	初回の授業からテキストを用意してください。 欠席するときは連絡してください。				
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 第 1 課　簡潔に回答する 　〇表現の練習 　〇短く答える練習 　〇簡潔に回答する 教室活動：テーマを決めてアンケートを作成する→発表（課題）	
第 2 回	第 2 課　情報を文章にする 　〇表現の練習 　〇情報を文章にする 教室活動：クラスで出かける計画を作成する→発表（課題）	

第３回	第３課　状況を説明し、意見を述べる 　〇表現の練習 　〇状況を説明し、意見を述べる 教室活動：街で感じたことについてまとめる→発表 （課題）	
第４回	第４課　中心文と支持文で段落を作る練習 　〇中心文と支持文で段落を作る練習 　〇文や段落をつなぐ練習 　〇段落を作る 作文①を書く（課題）	作文①を完成させる。翌週提出
第５回	作文①の提出 第５課　体験したことを報告する文を書く 　〇表現の練習 　〇体験したことを報告する文を書く 　教室活動：見学の報告書を書く	
第６回	作文①のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習（１） プリント教材	
第７回	第６課　テーマに沿った意見文を書く 　〇表現の練習 　〇テーマに沿った意見文を書く	
第８回	中間試験（作文含む）	
第９回	中間試験のフィードバック 第７課　自分をアピールする文を書く 　〇表現の練習 　〇自分をアピールする文を書く	
第１０回	第８課 レポートを書くための基礎知識	
第１１回	第８課　順序立てて、レポートを書く 　〇表現の練習 　〇レポートで使われる表現の練習 　〇順序立てて、レポートを書く だ体・である体の練習	
第１２回	第９課　引用して、レポートを書く 　〇表現の練習 　〇語や文を名詞化する練習 　〇引用して、レポートを書く 作文②を書く（課題）	作文②を完成させる。翌週提出
第１３回	作文②の提出 第10課　資料を整理して、レポートを書く 　〇表現の練習 　〇グラフの読み方 　〇資料を利用して、レポートを書く	
第１４回	作文②のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習	

	（2） プリント教材	
第１５回	総括試験（発表含む）	

1.授業コード（ナンバリング）	JAL113-A01	2.科目名	日本語IV （留）	3.単位数	2
4.授業担当教員	前田達朗				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、それぞれ週 2 コマずつの授業で、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、日本語能力の四技能（聞く、話す、読む、書く）を高めることを目的とする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。				
19.教科書・教材	『大学で学ぶための日本語ライティング』　The Japan Times 佐々木瑞枝他　ISBN 4-7890-1221-2				
20.参考文献	授業中に適宜指示する。				
21.成績評価	①学習状況（宿題、授業参加）　20% ②中間テスト（作文含む）　20% ③作文 2 回　30% ④期末テスト（作文含む）　30%				
22.コメント	初回の授業からテキストを用意してください。 欠席するときは連絡してください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 第 1 課　簡潔に回答する 〇表現の練習 〇短く答える練習 〇簡潔に回答する 教室活動：テーマを決めてアンケートを作成する→発表	
第 2 回	第 2 課　情報を文章にする 〇表現の練習	

	○情報を文章にする 教室活動：クラスで出かける計画を作成する→発表	
第３回	第３課　状況を説明し、意見を述べる ○表現の練習 ○状況を説明し、意見を述べる 教室活動：街で感じたことについてまとめる→発表	
第４回	第４課　中心文と支持文で段落を作る練習 ○中心文と支持文で段落を作る練習 ○文や段落をつなぐ練習 ○段落を作る 作文①を書く	作文①を完成させる。翌週提出
第５回	作文①の提出 第５課　体験したことを報告する文を書く ○表現の練習 ○体験したことを報告する文を書く 教室活動：見学の報告書を書く	
第６回	作文①のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習（１） プリント教材	
第７回	第６課　テーマに沿った意見文を書く ○表現の練習 ○テーマに沿った意見文を書く	
第８回	中間テスト（作文含む）	
第９回	中間テストのフィードバック 第７課　自分をアピールする文を書く ○表現の練習 ○自分をアピールする文を書く	
第１０回	第８課 レポートを書くための基礎知識	
第１１回	第８課　順序立てて、レポートを書く ○表現の練習 ○レポートで使われる表現の練習 ○順序立てて、レポートを書く だ体・である体の練習	
第１２回	第９課　引用して、レポートを書く ○表現の練習 ○語や文を名詞化する練習 ○引用して、レポートを書く 作文②を書く	作文②を完成させる。翌週提出
第１３回	作文②の提出 第10課　資料を整理して、レポートを書く ○表現の練習 ○グラフの読み方 ○資料を利用して、レポートを書く	
第１４回	作文②のフィードバックを受ける	

	アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習（2） プリント教材	
第１５回	期末テスト（作文含む）	

1.授業コード（ナンバリング）	JAL113-Y01	2.科目名	日本語IV （1/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	阿部忍				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通（留学生のみ）			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、それぞれ週 2 コマずつの授業で、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、日本語能力の四技能（聞く、話す、読む、書く）を高めることを目的とする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。				
19.教科書・教材	新完全マスター読解 日本語能力試験 N2 田代 ひとみ（著）, 初鹿野 阿れ（著）, 清水 知子（著）, 福岡 理恵子（著）, 中村 則子（著） ISBN-13: 978-4883195725 ※教科書販売サイトで入手できない場合は、各自 Amazon 等で購入すること。				
20.参考文献					
21.成績評価	学習状況(出席、学習態度)30% 小テスト(2 回)20% 中間テスト 20% 期末テスト 30%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	学修支援センター：月曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ［対比］ほかのものと比べる ○ 教科書の解説と練習問題 ○ 多様な分野の素材の読解 （N2 および N1 レベルの読解問題） ○ ディスカッション （読解した内容について整理し、理解を確認した上で、学生間で意見を述べ合う。）	
第 2 回	［言い換え］ほかの言葉で言いかえる	

第３回	［比喩］ほかのものにたとえる	
第４回	［疑問提示文］疑問文を使って話題を提示する	小テスト①
第５回	［主張表現］自分の意見であることを示す	
第６回	指示語を使う	
第７回	中間テスト ＋クラス活動①（詳細は指示する）	
第８回	「だれが」「何が」「何を」などを問う	
第９回	下線部の意味を問う	
第１０回	理由を問う	
第１１回	例を問う	小テスト②
第１２回	内容理解（中文：長めの文章を読む練習）	
第１３回	主張理解（長文：長い文章を読む練習）	
第１４回	期末テスト	
第１５回	期末テストのフィードバック ＋クラス活動②（詳細は指示する）	

1.授業コード（ナンバリング）	JAL113-Y02	2.科目名	日本語IV （2/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	小川佐由理				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通（留学生のみ）			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、それぞれ週 2 コマずつの授業で、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、日本語能力の四技能（聞く、話す、読む、書く）を高めることを目的とする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。				
19.教科書・教材	新完全マスター読解 日本語能力試験 N2 田代 ひとみ（著）, 初鹿野 阿れ（著）, 清水 知子（著）, 福岡 理恵子（著）, 中村 則子（著） ISBN-13: 978-4883195725				
20.参考文献					
21.成績評価	学習状況(学習態度)30% 小テスト(2 回)20% 中間テスト 20% 期末テスト 30%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	授業の前後				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ［対比］ほかのものと比べる ○ 教科書の解説と練習問題 ○ 多様な分野の素材の読解 （N2 および N1 レベルの読解問題） ○ ディスカッション （読解した内容について整理し、理解を確認した上で、学生間で意見を述べ合う。）	
第 2 回	［言い換え］ほかの言葉で言いかえる	
第 3 回	［比喩］ほかのものにたとえる	

第４回	［疑問提示文］疑問文を使って話題を提示する	小テスト①
第５回	［主張表現］自分の意見であることを示す	
第６回	指示語を使う	
第７回	中間テスト ＋クラス活動①（詳細は指示する）	
第８回	「だれが」「何が」「何を」などを問う	
第９回	下線部の意味を問う	
第１０回	理由を問う	
第１１回	例を問う	小テスト②
第１２回	内容理解（中文：長めの文章を読む練習）	
第１３回	主張理解（長文：長い文章を読む練習）	
第１４回	期末テスト	
第１５回	期末テストのフィードバック ＋クラス活動②（詳細は指示する）	

1.授業コード（ナンバリング）	JAL114-A01	2.科目名	日本語Ｖ　（留）	3.単位数	2
4.授業担当教員	上仲淳				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	概要：読みやすいテキストやその他の資料を使って、日常の出来事や社会的な話題について学び、それらにつ いて、スピーチ、口頭発表をする。 目的：日本語力の中での特に〈話す力〉を身につけることを目標 とする。				
18.学習目標とＤＰとの関連					
19.教科書・教材	トピックによる日本語総合演習―テーマ探しから発表へ 中級後期				
20.参考文献	授業時に適宜紹介します				
21.成績評価	(1) 各課の発表 20% (2) 小テスト 30% (3) 学期末発表と提出物 30% (4) 学習状況（授業への参加・パフォーマンス)20%				
22.コメント	この授業は教室活動を重視し、個人発表やグループ発表を学期中に複数回行います。よって、履修者は 10 数名が理想的です。 そのため履修人数の上限を 20 名とし、もしそれを超えた場合は先着順もしくは抽選とします。 ※先輩から譲り受けたような既に書き込みのある教科書を使うことはできません。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】　オリエンテーション、自己紹介等　教育導入 【第 2 回】　グラフを用いて、自国の教育について話し合い	
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 教育の文法・語彙 【第 4 回 】 教育の読解	
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】日本の教育問題 【第 6 回】　自国の教育・教育の問題点などについて話し合い。 各自の発表テーマ決定	発表準備（原稿作成・スライド作成）
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】　自国の教育の問題点に関するミニスピーチ①（発表１） 【第 8 回】　自国の教育の問題点に関するミニスピーチ②	
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】　ことば導入 【第 10 回】　慣用表現・擬音語擬態語など	
【第 11 回】	【第 11 回】　文法表現	自国の昔話について発表準備

【第 12 回】	【第 12 回】ことば読解 1（読み練習）	
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】ことば読解 2 【第 14 回】自国のことわざ・名言について紹介（グループ発表）	○小テストにむけて復習(90 分)
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 小テスト①（教育・ことば） コミュニケーション導入　図表の説明のしかた 【第 16 回】文法表現	
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 コミュニケーション語彙、読解 1 【第 18 回】読解 2	
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 昔話 導入 【第 20 回】 動画視聴	
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 文法表現 【第 22 回】 自国の昔話 を説明 （発表２）	
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 読解 【第 24 回】 住宅導入 アカデミック・プレゼンテーションについて （学期末発表の説明）	○小テストにむけて復習(90 分)
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 小テスト②（コミュニケーション・昔話） 住宅 【第 26 回】 学期末発表への導入と話し合い。 各自テーマを考える	
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】　発表の構成と発表順など 【第 28 回】　最終発表準備	発表準備
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】　学期末発表① 【第 30 回】　学期末発表②	最終プレゼンのスライド提出

1.授業コード（ナンバリング）	JAL114-Y01	2.科目名	日本語Ｖ　(2/2)	3.単位数	2
4.授業担当教員	阿部忍				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】自国のこと、自分の考えを日本語で話す力を身に付けることを目的とします。 【概要】テキストやその他の資料を使って、日常の出来事や社会的な話題について学び、それらにつ いてディスカッションします。また、自分でテーマを探し、調査し、考察して発表します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性と（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①語彙や文法表現を身に付け、表現力を高める。 ②自分でテーマを見つけ、計画を立てて発表等の準備を進めることができる。 ③他者の考えを理解するとともに自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。 ④聞き手を意識して、スピーチ・発表することができる。				
19.教科書・教材	『 トピックによる日本語総合演習―テーマ探しから発表へ 中級後期』				
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。				
21.成績評価	(1) 各課の課題(宿題、漢字クイズ等)　20% (2) 各課の発表 20% (3) 小テスト 20% (4) 学期末発表/レポート 20% (5) 学習状況（授業への参加・パフォーマンス)20%				
22.コメント	入国が遅れている学生は Zoom を用いて下記のリンクからミーティングに入室してください。 *** ミーティング ID: *** パスコード: ***				
23.オフィスアワー	学修支援センター：月曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・オリエンテーション、自己紹介、「1 課教育」漢字・語彙 【第 2 回】 ・ ディスカッション：グラフを用いて、自国の教育について話し合い	【第 1 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 2 回】 授業の復習
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ●「1 課教育」漢字クイズ ・「1 課教育」表現・本文 【第 4 回 】 ・プレゼンテーションの基本、数字、比較表現等について ・活動：「教育」についてアンケート	【第 3 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 4 回】 授業の復習

【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・「1 課教育」本文 【第 6 回】 ・グループワーク：アンケートの結果からわかることを考察する	【第 5 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 6 回】 授業の復習
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ●「1 課教育」小テスト ・「2 課言葉」漢字・語彙 【第 8 回】 ・発表：アンケートの結果からわかること ・グループワーク：オノマトペ、大阪弁等について	【第 7 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 8 回】 授業の復習
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ●「2 課言葉」 漢字クイズ ・「2 課言葉」表現・本文 【第 10 回】 ・発表準備：自国のことわざ、名言について紹介	【第 9 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 10 回】 ・授業の復習 ・発表の準備
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・「2 課言葉」本文 【第 12 回】 ・発表練習：自国のことわざ・名言について紹介	【第 11 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 12 回】 ・授業の復習 ・発表の準備
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ●「2 課言葉」小テスト ・「3 課コミュニケーション」漢字・語彙 【第 14 回】 ・発表：自国のことわざ、名言について紹介	【第 13 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 14 回】 授業の復習
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●「3 課コミュニケーション」漢字クイズ ・「3 課コミュニケーション」表現・本文 【第 16 回】 ・ディスカッション：コミュニケーションに関するテーマ	【第 15 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 16 回】 授業の復習
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・「3 課コミュニケーション」本文 【第 18 回】 ・ディスカッション	【第 17 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 18 回】 授業の復習
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ●「3 課コミュニケーション」小テスト ・「4 課昔話」漢字・語彙 【第 20 回】 ・ストーリー 説明練習	【第 19 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 20 回】 授業の復習
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●「4 課昔話」漢字クイズ ・「4 課昔話」表現・本文 【第 22 回】	【第 21 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 22 回】 授業の復習

	・発表：ストーリー	
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・「4 課昔話」本文 【第 24 回】 ・期末発表（発表実例、構成等）について説明	【第 23 回】 授業の復習 【第 24 回】 発表準備
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ●「4 課昔話」小テスト ・グループワーク：自国の風土、住まい等について 【第 26 回】 ・期末発表準備	【第 25 回】 期末発表準備 【第 26 回】 期末発表準備
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・期末発表準備：修正 【第 28 回】 ・期末発表準備：読む練習	【第 27 回】 期末発表準備 【第 28 回】 期末発表準備
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・発表：期末発表 【第 30 回】 ・発表：期末発表 ・振り返りレポート提出	期末発表について振り返りレポートを書く

1.授業コード（ナンバリング）	JAL114-Y02	2.科目名	日本語Ⅴ　(1/2)	3.単位数	2
4.授業担当教員	播摩優香				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】自国のこと、自分の考えを日本語で話す力を身に付けることを目的とします。 【概要】テキストやその他の資料を使って、日常の出来事や社会的な話題について学び、それらにつ いてディスカッションします。また、自分でテーマを探し、調査し、考察して発表します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性と（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①語彙や文法表現を身に付け、表現力を高める。 ②自分でテーマを見つけ、計画を立てて発表等の準備を進めることができる。 ③他者の考えを理解するとともに自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。 ④聞き手を意識して、スピーチ・発表することができる。				
19.教科書・教材	『 トピックによる日本語総合演習―テーマ探しから発表へ 中級後期』				
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。				
21.成績評価	(1) 各課の課題(宿題、漢字クイズ等)　20% (2) 各課の発表 20% (3) 小テスト 20% (4) 学期末発表/レポート 20% (5) 学習状況（授業への参加・パフォーマンス)20%				
22.コメント	入国が遅れている学生は Zoom を用いて下記のリンクからミーティングに入室してください。 *** ミーティング ID: *** パスコード: ***				
23.オフィスアワー	学修支援センター：月曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・オリエンテーション、自己紹介、「1 課教育」漢字・語彙 【第 2 回】 ・ ディスカッション：グラフを用いて、自国の教育について話し合い	【第 1 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 2 回】 授業の復習
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ●「1 課教育」漢字クイズ ・「1 課教育」表現・本文 【第 4 回 】 ・プレゼンテーションの基本、数字、比較表現等について	【第 3 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 4 回】 授業の復習

	・活動：「教育」についてアンケート	
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・「1 課教育」本文 【第 6 回】 ・グループワーク：アンケートの結果からわかることを考察する	【第 5 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 6 回】 授業の復習
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ●「1 課教育」小テスト ・「2 課言葉」漢字・語彙 【第 8 回】 ・発表：アンケートの結果からわかること ・グループワーク：オノマトペ、大阪弁等について	【第 7 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 8 回】 授業の復習
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ●「2 課言葉」 漢字クイズ ・「2 課言葉」表現・本文 【第 10 回】 ・発表準備：自国のことわざ、名言について紹介	【第 9 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 10 回】 ・授業の復習 ・発表の準備
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・「2 課言葉」本文 【第 12 回】 ・発表練習：自国のことわざ・名言について紹介	【第 11 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 12 回】 ・授業の復習 ・発表の準備
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ●「2 課言葉」小テスト ・「3 課コミュニケーション」漢字・語彙 【第 14 回】 ・発表：自国のことわざ、名言について紹介	【第 13 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 14 回】 授業の復習
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●「3 課コミュニケーション」漢字クイズ ・「3 課コミュニケーション」表現・本文 【第 16 回】 ・ディスカッション：コミュニケーションに関するテーマ	【第 15 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 16 回】 授業の復習
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・「3 課コミュニケーション」本文 【第 18 回】 ・ディスカッション	【第 17 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 18 回】 授業の復習
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ●「3 課コミュニケーション」小テスト ・「4 課昔話」漢字・語彙 【第 20 回】 ・ストーリー 説明練習	【第 19 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 20 回】 授業の復習
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●「4 課昔話」漢字クイズ ・「4 課昔話」表現・本文	【第 21 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 22 回】 授業の復習

	【第 22 回】 ・発表：ストーリー	
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・「4 課昔話」本文 【第 24 回】 ・期末発表（発表実例、構成等）について説明	【第 23 回】 授業の復習 【第 24 回】 発表準備
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ●「4 課昔話」小テスト ・グループワーク：自国の風土、住まい等について 【第 26 回】 ・期末発表準備	【第 25 回】 期末発表準備 【第 26 回】 期末発表準備
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・期末発表準備：修正 【第 28 回】 ・期末発表準備：読む練習	【第 27 回】 期末発表準備 【第 28 回】 期末発表準備
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・発表：期末発表 【第 30 回】 ・発表：期末発表 ・振り返りレポート提出	期末発表について振り返りレポートを書く

1.授業コード（ナンバリング）	JAL201-A01	2.科目名	アカデミック日本語Ⅰ　（留）	3.単位数	1
4.授業担当教員	越山泰子				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	（目的）大学の講義の理解、教室での活動、文化的な背景を含んだ情報の読み取る。 （概要）さまざまな状況に対応する表現など、日本で生活し、大学で学習するために必要な総合的日本語力の向上を目指す。				
18.学習目標とＤＰとの関連	日本で大学生として生活する上で必要な日本語を使うことができる。日本の大学の授業で使用される表現を理解し、裏付けを伴った意見を述べることができる。 DP: (3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 (5) コミュニケーションスキル　国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。				
19.教科書・教材	『大学で学ぶためのアカデミックジャパニーズ』　The Japan Times 佐々木瑞枝　その他 ISBN4-7890-1078-3				
20.参考文献					
21.成績評価	クラスでの活動（個人、ペア、グループワーク）１０％ 宿題　２０％　（翌週の授業で提出、または発表） 小テスト３０％ 総括試験　４０％				
22.コメント					
23.オフィスアワー	授業の前後に受け付けます。またはメールでアポをとってください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	ガイダンス　（シラバスを使って授業内容や採点基準の説明） 日本語での自己紹介とウォーミングアップアクティビティ	○予習として、教科書を読んでわからないところをチェックする。(60 分)
第２回	日本の大学で学ぶ：　教科書 pp.2-7 ・時間割、履修申請などで使われる語彙や表現を学ぶ。	○授業を復習し、教科書の問題を解答する。さらに自分の時間割を作成する。(60 分)
第３回	語彙、文法の復習：プリント教材 ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。	○小テストに備えて、復習する。 ◎プリントの問題を解答する。(60 分)
第４回	小テスト① 大学の講義①：　教科書 pp.8-11 ・授業を聞いて、キーワードや数字に注意しながら、内容を理解する。 ・内容を説明したり、まとめたりする。 ・授業内容について、友人と会話する。	○予習として、教科書を読んでわからないところをチェックする。(60 分)

第５回	大学の講義②： 教科書 pp.20-23 ・授業を聞いて、内容を表にまとめる。 ・レポートのテーマについて、友人や先生に相談する。 ・資料を集める。	○授業を復習して、問題に解答する。(60 分)
第６回	語彙、文法の復習：プリント教材 ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。	◎プリントの問題を解答する。(60 分)
第７回	情報の読み取り： 教科書 pp.24-29 ・連絡や会話を通して、正確な情報を収集する。 ・情報について友人との会話、先生と会話する。 ・情報を簡単な日本語で伝える。	○授業を復習して、問題に解答する。(60 分)
第８回	読み物： プリント教材 ・日本語で書かれた小説、論説文を読んで内容を理解しながら、日本語らしい表現を学ぶ。	○小テストに備えて、復習する。(60 分)
第９回	小テスト② 読み物： プリント教材 日本語で書かれた小説、論説文を読んで内容を理解しながら、日本語らしい表現を学ぶ	◎授業でカバーされなかった部分をグループで読んで、内容をまとめる。(60 分)
第１０回	大学の講義③： 教科書 pp.30-33 ・講義内容を理解して、文で表現する。 ・関連資料を読んで、内容を推測したり、自分の考えをまとめたりする。	○授業を復習して、問題に解答する。(60 分)
第１１回	大学の講義④：教科書 pp.34-38 ・講義内容を理解して、文で表現する。 ・関連資料を読んで、内容を推測したり、自分の考えをまとめたりする。	○授業を復習して、問題に解答する。(60 分)
第１２回	大学の講義④：教科書 pp.34-38 ・講義内容を理解して、文で表現する。 ・関連資料を読んで、内容を推測したり、自分の考えをまとめたりする。	○小テストに備えて、復習する。(60 分)
第１３回	小テスト③ 語彙、文法の復習： ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。 ・総括試験に備えて、要点をまとめる。	○授業を復習して、分からないところをまとめる。(60 分)
第１４回	まとめ ・学期の学習を振り返り、全体をまとめ最終評価のための準備につなげる。	○総括試験に備えて、復習する。(120 分)
第１５回	総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	JAL201-Y01	2.科目名	アカデミック日本語 I	3.単位数	1
4.授業担当教員	小川佐由理				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	概要：大学の講義の理解、教室での活動、文化的な背景を含んだ情報の読み取り、さまざまな状況に対応する表現などを学ぶ。 目的：日本で生活し、大学で学習するために必要な総合的日本語力の向上を目指す。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①日本で大学生として生活する上で必要な日本語を使うことができる。 ②日本の大学の授業で使用されうる表現を理解し、裏付けを伴った意見を述べることができる。				
19.教科書・教材	初回までに各自、①か②のいずれかを購入してください。 ①『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』　音声ダウンロード版　　The Japan Times 佐々木瑞枝、その他　　ISBN978-47890-1873-9 ②『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』　CD 付　　The Japan Times 佐々木瑞枝、その他　　ISBN978-47890-1078-8				
20.参考文献					
21.成績評価	授業参加度と教室活動　３０％ 小テスト　３０％ 総括試験　４０％				
22.コメント	基本的に対面で授業を行います。				
23.オフィスアワー	授業の前後、またはメールで質問等を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	ガイダンス　（シラバスを使って授業内容や採点基準の説明） 日本語での自己紹介とウォーミングアップアクティビティ 文体について	○予習として、教科書を読んでわからないところをチェックする。(60 分)
第２回	日本の大学で学ぶ：　教科書 pp.2-7 ・時間割、履修申請などで使われる語彙や表現を学ぶ。	○授業を復習し、教科書の問題を解答する。さらに自分の時間割を作成する。(60 分)
第３回	語彙、文法の復習１：プリント教材 ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。	○小テストに備えて、復習する。 ◎プリントの問題を解答する。(60 分)
第４回	小テスト① 大学の講義①：　教科書 pp.8-11 ・授業を聞いて、キーワードや数字に注意しながら、内容を理解する。 ・内容を説明したり、まとめたりする。 ・授業内容について、友人と会話する。	○予習として、教科書を読んでわからないところをチェックする。(60 分)
第５回	大学の講義②：　教科書 pp.20-23	○授業を復習して、問題に解答する。(60 分)

	・授業を聞いて、内容を表にまとめる。 ・レポートのテーマについて、友人や先生に相談する。 ・資料を集める。	
第６回	語彙、文法の復習 2-1：プリント教材 ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。	◎プリントの問題を解答する。(60 分)
第７回	情報の読み取り：　教科書 pp.24-29 ・連絡や会話を通して、正確な情報を収集する。 ・情報について友人との会話、先生と会話する。 ・情報を簡単な日本語で伝える。	○授業を復習して、問題に解答する。(60 分)
第８回	語彙、文法の復習 2-2：プリント教材 ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。	○小テストに備えて、復習する。(60 分)
第９回	小テスト② 読み物：　プリント教材 日本語で書かれた小説、論説文を読んで内容を理解しながら、日本語らしい表現を学ぶ	◎授業でカバーされなかった部分をグループで読んで、内容をまとめる。(60 分)
第１０回	大学の講義③：　教科書 pp.30-33 ・講義内容を理解して、文で表現する。 ・関連資料を読んで、内容を推測したり、自分の考えをまとめたりする。	○授業を復習して、問題に解答する。(60 分)
第１１回	大学の講義④：教科書 pp.34-38 ・講義内容を理解して、文で表現する。 ・関連資料を読んで、内容を推測したり、自分の考えをまとめたりする。	○授業を復習して、問題に解答する。(60 分)
第１２回	大学の講義④：教科書 pp.34-38 ・講義内容を理解して、文で表現する。 ・関連資料を読んで、内容を推測したり、自分の考えをまとめたりする。	○小テストに備えて、復習する。(60 分)
第１３回	語彙、文法の復習 3 ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。 ・総括試験に備えて、要点をまとめる。	○授業を復習して、分からないところをまとめる。(60 分)
第１４回	小テスト③ まとめ ・学期の学習を振り返り、全体をまとめ最終評価のための準備につなげる。	○総括試験に備えて、復習する。(120 分)
第１５回	総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	JAL203-A01	2.科目名	日本語ライティングⅠ （留）	3.単位数	1
4.授業担当教員	前田達朗				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年生以上の留学生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	レポートや論文作成など大学で学ぶのに必要な文章が書けることを目的とし、基本的な文章から論理的な文章の書き方や論理的思考の組み立て方などを体系的に学んでいきます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①レポートや論文作成において必要な文章が書けること ②論理的な文章が書けること 本科目では、本学 DP のうち、特に以下の二つの力を涵養します。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 (5) コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。				
19.教科書・教材	特になし。 自分で学びたい人は、参考図書として指定しているテキストを購入してください。				
20.参考文献	二通信子・佐藤不二子著 『新訂版　留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク				
21.成績評価	授業内・後の課題/小テスト：20% 中間テスト等：30% 総括試験：40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	金曜 3 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション［主に授業の流れや成績評価についての説明］ ・レポートに使われる文体	【第 1 回】 ○適切な文体への変換（60 分）
【第 2 回】	対象・動作主に焦点をあてた文。 動詞の自他・態	【第 2 回】 ○練習問題（動詞の自他）（60 分）
【第 3 回】	「は」と「が」 名詞化 「段落」の構成	○復習テストに向けての練習、準備（90 分）
【第 4 回】	仕組みの説明（あたらしい概念の説明）	○復習テストに向けての練習、準備（90 分）
【第 5 回】	歴史的な経過の説明	○復習テストに向けての練習、準備（90 分）
【第 6 回】	分類	○復習テストに向けての練習、準備（90 分）
【第 7 回】	定義	中間テストの準備（120 分）

【第 8 回】	中間テスト （ここまでのまとめ）	中間テストの振り返り
【第 9 回】	・比較・対照	○復習テストに向けての練習、準備（90 分）
【第 10 回】	・因果関係	○復習テストに向けての練習、準備（90 分）
【第 11 回】	意見・根拠	○復習テストに向けての練習、準備（90 分）
【第 12 回】	資料の利用・引用	○復習テストに向けての練習、準備（90 分）
【第 13 回】	総括レポートの作成	総括試験準備、復習（180 分）
【第 14 回】	総括試験とふりかえり	【第 14 回】 総括試験の振り返り
【第 15 回】	試験の返却・解説 これまでの総括	

1.授業コード（ナンバリング）	JAL203-Y01	2.科目名	日本語ライティングⅠ	3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤創				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年生以上の留学生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	レポートや論文作成など大学で学ぶのに必要な文章が書けることを目的とし、基本的な文章から論理的な文章の書き方や論理的思考の組み立て方などを体系的に学んでいきます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①レポートや論文作成において必要な文章が書けること ②論理的な文章が書けること 本科目では、本学 DP のうち、特に以下の二つの力を涵養します。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 (5) コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。				
19.教科書・教材	二通信子・佐藤不二子著 『新訂版　留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク				
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。				
21.成績評価	授業内外課題 30% 小テスト等：40%（中間テスト含む） 総括レポート（実技試験）：30%				
22.コメント	初回の授業から、シラバスのコピーと指定の教科書を持参してください。 授業中のスマホ等の使用は、減点対象になりますので注意してください。 やむを得ず授業を欠席する場合は、必ずその授業のフォローを行ってください。 入国ができていない留学生のみ、 Zoom からの参加を認める。 該当する学生は伊藤までメールで連絡すること。				
23.オフィスアワー	金曜 3 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	【第 1 回】 ・オリエンテーション［主に授業の流れや成績評価についての説明］ ・レポートに使われる文体：教科書 pp.6-10	【第 1 回】 ○適切な文体への変換（60 分）
【第 2 回】	【第 2 回】 ・文の基本 1 対象に焦点をあてた文、動作主に焦点をあてた文。 特に動詞の自他・態を中心に扱う。	【第 2 回】 ○練習問題（動詞の自他）（60 分）
【第 3 回】	【第 3 回】 「は」と「が」、名詞化、 第 1 課「段落」	

【第 4 回】	【第 4 回】 ・仕組みの説明 　読み手の立場に立った理解しやすい構造での段落構成を学ぶ。	【第 4 回】 ○教科書の練習問題（60 分）
【第 5 回】	【第 5 回】 ・歴史的な経過の説明：教科書 pp.51-55 ・分類：教科書 pp.56-60	【第 5 回】 ○教科書の練習問題（60 分） ★小レポート①提出
【第 6 回】	【第 6 回】 ・定義	【第 6 回】 ○教科書の練習問題（60 分） ○小レポート②作成（60 分）
【第 7 回】	【第 7 回】 ・要約：教科書 pp.69-74 ・総括レポートのタイトル決定	【第 7 回】 ○総括レポートの準備（60 分） ★小レポート②提出
【第 8 回】	【第 8 回】 ・比較・対照：教科書 pp.75-81 ・総括レポートのアウトライン作成	【第 8 回】 ○教科書の練習問題（60 分）
【第 9 回】	【第 9 回】 ・因果関係：教科書 pp.82-87 ・総括レポート作成準備	【第 9 回】 ○教科書の練習問題（60 分）
【第 10 回】	【第 10 回】 ・論説文：教科書 pp.88-97 ・総括レポート作成準備	【第 10 回】 ○教科書の練習問題（60 分）
【第 11 回】	【第 11 回】 ・資料の利用：教科書 pp.98-106 ・総括レポートの作成	【第 11 回】 ○教科書の練習問題（60 分） ◆ノート PC◆
【第 12 回】	【第 12 回】 ・レポートの作成：教科書 pp.107-117 ・総括レポートの作成	【第 12 回】 ○総括レポート作成準備（60 分） ◆ノート PC◆
【第 13 回】	【第 13 回】 ・総括レポートの作成 ・発表の準備	【第 13 回】 ○総括レポート作成準備（60 分） ◆ノート PC◆
【第 14 回】	【第 14 回】 ・発表の準備	【第 14 回】 ○発表の準備（60 分） ★総括レポート提出
【第 15 回】	【第 15 回】 ・総括レポート返却、振り返り ・実技試験	

1.授業コード（ナンバリング）	JAL206-A01	2.科目名	ビジネス日本語Ⅱ （留）	3.単位数	1
4.授業担当教員	前田達朗				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの				
17.授業の目的と概要	日本語科目の卒業に必要な単位を満たした学生で、更なる日本語の向上を目指す学生向けの科目です。特に日本国内、あるいは日系の企業に就職を希望する留学生について、ビジネスシーンで必要とされる高度な日本語力を涵養することを目的とします。				
18.学習目標とＤＰとの関連	日本で働くために必要なビジネスシーンに適したマナーや言葉遣い、文書の作成などを身につけること				
19.教科書・教材	授業時にプリントを配布します。				
20.参考文献	『ビジネス日本語②＜新入社員編＞』凡人社				
21.成績評価	クラス活動：10% 課題：10% ロールプレイ：20% 中間試験：30% 総括試験：30%				
22.コメント	日本語初級後半で学んだ尊敬語や謙譲語を知識としてだけでなく、応用できるようにロールプレイなどを通して実践的に身につけていきます。日本で就職、あるいは日系企業への就職を希望する留学生に役立つ内容です。				
23.オフィスアワー	月曜３限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	【第１回】 ・オリエンテーション［主に授業の流れや成績評価についての説明］ ・ウォーミングアップアクティビティ	【第１回】 ○予習として、教科書を読んでわからないところをチェック（60 分）
【第２回】	【第２回】 ・ビジネス電話（受ける①）：教科書 pp.10-24 ・ロールプレイ	【第２回】 ○復習（60 分）
【第３回】	【第３回】 ・ビジネス電話（受ける②）：教科書 pp.25-43 ・ロールプレイ	【第３回】 ○復習（60 分）
【第４回】	【第４回】 ・ビジネス電話Ⅱ（受ける）：教科書 pp.45-73 ・ロールプレイ	【第４回】 ○復習（60 分）
【第５回】	【第５回】 ・ビジネス電話Ⅲ（かける）：教科書 pp.75-107 ・ロールプレイ	【第５回】 ○復習（60 分）
【第６回】	【第６回】 ・訪問のマナー①：教科書 pp.110-126 ・ロールプレイ	【第６回】 ○復習（60 分）

【第 7 回】	【第 7 回】 ・訪問のマナー①：教科書 pp.127-149 ・ロールプレイ	【第 7 回】 〇復習（60 分）
【第 8 回】	【第 8 回】 中間試験	【第 8 回】
【第 9 回】	【第 9 回】 ・中間試験の振り返り ・訪問者を応接する①：教科書 pp.152-163 ・ロールプレイ	【第 9 回】 〇復習（60 分）
【第 10 回】	【第 10 回】 ・訪問者を応接する②：教科書 pp.165-180 ・ロールプレイ	【第 10 回】 〇復習（60 分）
【第 11 回】	【第 11 回】 ・社内コミュニケーション①（報告・連絡） ・ロールプレイ	【第 11 回】 〇復習（60 分）
【第 12 回】	【第 12 回】 ・社内コミュニケーション②（相談・会議） ・ロールプレイ	【第 12 回】 〇復習（60 分）
【第 13 回】	【第 13 回】 ・いろいろなビジネス文書 ・文書作成	【第 13 回】 〇復習（60 分）
【第 14 回】	【第 14 回】 ・学期の総まとめ	【第 14 回】 〇復習（60 分）
【第 15 回】	【第 15 回】 ・総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	JAL206-Y01	2.科目名	ビジネス日本語 II	3.単位数	1
4.授業担当教員	福井武司				
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの				
17.授業の目的と概要	日本語科目の卒業に必要な単位を満たした学生で、更なる日本語の向上を目指す学生向けの科目です。特に日本国内、あるいは日系の企業に就職を希望する留学生について、ビジネスシーンで必要とされる高度な日本語力を涵養することを目的とします。				
18.学習目標とＤＰとの関連	日本で働くために必要なビジネスシーンに適したマナーや言葉遣い、文書の作成などを身につけること				
19.教科書・教材	授業時にプリントを配布します。				
20.参考文献	『ビジネス日本語②＜新入社員編＞』凡人社				
21.成績評価	クラス活動：20% 課題：10% ロールプレイ：20% 中間試験：25% 総括試験：25%				
22.コメント	日本語初級後半で学んだ尊敬語や謙譲語を知識としてだけでなく、応用できるようにロールプレイなどを通して実践的に身につけていきます。日本で就職、あるいは日系企業への就職を希望する留学生に役立つ内容です。				
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	【第１回】 ・オリエンテーション［主に授業の流れや成績評価についての説明］ ・ウォーミングアップアクティビティ	【第１回】 ○予習として、教科書を読んでわからないところをチェック（60 分）
【第２回】	【第２回】 ・ビジネス電話（受ける①）：教科書 pp.10-24 ・ロールプレイ	【第２回】 ○復習（60 分）
【第３回】	【第３回】 ・ビジネス電話（受ける②）：教科書 pp.25-43 ・ロールプレイ	【第３回】 ○復習（60 分）
【第４回】	【第４回】 ・ビジネス電話 II（受ける）：教科書 pp.45-73 ・ロールプレイ	【第４回】 ○復習（60 分）
【第５回】	【第５回】 ・ビジネス電話 III（かける）：教科書 pp.75-107 ・ロールプレイ	【第５回】 ○復習（60 分）
【第６回】	【第６回】 ・訪問のマナー①：教科書 pp.110-126 ・ロールプレイ	【第６回】 ○復習（60 分）

【第 7 回】	【第 7 回】 ・訪問のマナー①：教科書 pp.127-149 ・ロールプレイ	【第 7 回】 〇復習（60 分）
【第 8 回】	【第 8 回】 中間試験	【第 8 回】
【第 9 回】	【第 9 回】 ・中間試験の振り返り ・訪問者を応接する①：教科書 pp.152-163 ・ロールプレイ	【第 9 回】 〇復習（60 分）
【第 10 回】	【第 10 回】 ・訪問者を応接する②：教科書 pp.165-180 ・ロールプレイ	【第 10 回】 〇復習（60 分）
【第 11 回】	【第 11 回】 ・社内コミュニケーション①（報告・連絡） ・ロールプレイ	【第 11 回】 〇復習（60 分）
【第 12 回】	【第 12 回】 ・社内コミュニケーション②（相談・会議） ・ロールプレイ	【第 12 回】 〇復習（60 分）
【第 13 回】	【第 13 回】 ・いろいろなビジネス文書 ・文書作成	【第 13 回】 〇復習（60 分）
【第 14 回】	【第 14 回】 ・学期の総まとめ	【第 14 回】 〇復習（60 分）
【第 15 回】	【第 15 回】 ・総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	JAL211-Y01	2.科目名	観光日本語 I	3.単位数	1
4.授業担当教員	前田哲男				
5.授業科目の区分	展開科目（留学生）	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部観光学科			9.履修学年	2 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	・観光学で用いる用語について理解し、観光関連の文献を読めるようになる ・観光の場面における実践的な日本語力を身につける				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP3（多様性理解）と DP5（コミュニケーションスキル）と関連しています。 ①観光用語を理解し、説明できる ②日本文化、日本の観光資源について理解し、日本語で説明できる ③自国の観光資源について日本語で説明できる ④実践的なリスニング力とスピーキング力を身につける				
19.教科書・教材	授業中に指示します				
20.参考文献	授業中に指示します				
21.成績評価	・小テスト　40 点 ・作文・スピーチ　30 点 ・期末テスト　30 点				
22.コメント					
23.オフィスアワー	特に時間は定めませんが、質問があるときは、前日までにメールで連絡後、研究室に来てください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション（授業の内容、目標、方法、評価方法について）	
【第 2 回】	・読解 ・聴解またはスピーキング	復習 小テストの準備
【第 3 回】	・小テスト ・読解 ・聴解またはスピーキング	復習 小テストの準備
【第 4 回】	・小テスト ・読解資料に関連する作文 ・聴解またはスピーキング	復習 作文の完成
【第 5 回】	・作文の修正 ・聴解またはスピーキング ・読解	スピーチの準備
【第 6 回】	・スピーチ ・読解 ・聴解またはスピーキング	復習 小テストの準備
【第 7 回】	・小テスト ・読解	復習 小テストの準備

	・聴解またはスピーキング	
【第 8 回】	・小テスト ・読解 ・聴解またはスピーキング	復習 小テストの準備
【第 9 回】	・小テスト ・読解資料に関連する作文 ・聴解またはスピーキング	復習 作文の完成
【第 10 回】	・作文の修正 ・聴解またはスピーキング ・読解	スピーチの準備
【第 11 回】	・スピーチ ・読解 ・聴解またはスピーキング	復習 小テストの準備
【第 12 回】	・小テスト ・読解 ・聴解またはスピーキング	復習 小テストの準備
【第 13 回】	・小テスト ・読解 ・聴解またはスピーキング	復習 小テストの準備
【第 14 回】	・小テスト ・期末テストに関する模擬試験	・期末テストの準備
【第 15 回】	・期末テスト ・まとめ	テストの復習

1.授業コード（ナンバリング）	JPE101-Y01	2.科目名	日本語の構造Ⅰ （オンデマンド）	3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤創				
5.授業科目の区分	日本語教育分野における実務経験のある教員による授業科目 展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本講義では、日本語の構造、体系を、様々な観点から捉え直すこ とによって、日本語(ひいては言語そのもの)に対する知識を深め、また柔軟で論理的な思考を養うことを目的とする。特に、日本語が話せない外国人の視点から見た日本語とはどのようなものなのか、つまり 「外国語としての日本語」の特徴を理解することを目的とする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	（1）自律的で主体的な態度（自律性） 自ら主体的に計画を立てて実行し、 ふりかえりを行いながら取り組むことができる。 （レベル３） （3）多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 自分とは考え方や価値観の異なる人たちを尊重し、地域、人種、宗教など様々な多様性を受け容れながら行動できる。 （レベル２）				
19.教科書・教材	特になし(適宜レジュメを配布する)				
20.参考文献	『よくわかる言語学（日本語教師・分野別マスターシリーズ)』 定延利之 著 アルク 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 庵功雄 他 著 スリーエーネットワーク 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 庵功雄 他 著 スリーエーネットワーク				
21.成績評価	授業内課題 30% 中間テスト 30% 総括試験 40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	金曜 2 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【オリエンテーション】 授業の進め方についてのオリエンテー ション 外国語としての日本語 学習者が日本語を学ぶ際の困難 母語話者・日本語教師による指導のあり方	
第 2 回	【文法とは(国語と日本語教育)】 「文法」とは何か 「国語教育においての文法」と「日本語教育においての文法」	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 3 回	【品詞、カテゴリー】 語の分類	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）

	日本語の基本的な品詞 「品詞分類」の曖昧性・段階性	
第 4 回	【動詞・事態の描き方】 述語の核となる動詞 動詞の活用、活用の種類	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 5 回	【名詞・形容詞】 名詞、形容詞	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 6 回	【副詞・助詞】 動詞、名詞、形容詞を関係づける助詞 「格」の概念 分類不能なカテゴリーとしての副詞	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 7 回	【直示・やりもらい】 「ウチ/ソト」の概念(情報のなわばり) 直示表現 授受表現とやりもらい	○これまでの復習 中間テストにむけての準備（120~180 分）
第 8 回	これまでの振り返り 中間テスト	中間テストを受けての復習（90 分）
第 9 回	中間テスト解説（ここまでの振り返り）	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 10 回	【テンス/アスペクトについて】 出来事の時間に関する情報 テンス アスペクト	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 11 回	【埋め込み文】 名詞修飾節 埋め込み文	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 12 回	【複文】 文と文の独立度 理由・条件・逆接	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 13 回	【主語と主題/新情報と旧情報】 「は」と「が」 情報の提示のあり方と語順	総括試験準備（180 分）
第 14 回	これまでのふりかえり 総括試験	試験結果を受けての復習(90 分)
第 15 回	【総括・総括試験解説】	

1.授業コード（ナンバリング）	JPE201-Y01	2.科目名	日本語教育事情	3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤創				
5.授業科目の区分	日本語教育分野における実務経験のある教員による授業科目 展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本講義では以下の項目を学ぶ。 ■日本語がどのように教えられているのか、あるいは教えられてきたのか、日本語教育の現在の状況と 歴史について学ぶ。 ■現在の日本にいる留学生や外国人労働者がどのような状況にあるのか、その実情と彼らが(ひいては 日本が)抱える課題について学ぶ。 ■上記と関連して、そもそも、どのようにして日本語が今のような形になったのか、その成り立ちや日本 語位置づけなどについても学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	（3）多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 自分とは考え方や価値観の異なる人たちを尊重し、地域、人種、宗教など様々な多様性を受け容れながら行動できる。 （レベル２） （4）問題発見・解決力 様々な社会的・文化的な現象について科学的な視点から理解し、根拠にもとづいた解決のための提案ができる。 （レベル２）				
19.教科書・教材	特になし(適宜レジュメを配布する)				
20.参考文献	『日本語教育能力検定試験に合格するための世界と日本』16　岡田英夫 著 『日本語教育の過去・現在・未来 』 第一巻(社会) 水谷修 監修 凡人社 『日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド』 第 2 版 翔泳社 『歴史と文字表記』 石村卓雄 著 ヒューマンアカデミー 文化庁 日本語教育実態調査 http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/jittaichousa/index.html				
21.成績評価	小課題・グループワーク等 30% 中間テスト 30% 総括試験 40%				
22.コメント	資料等は Web class 等で、pdf、word 形式で配布します。 必ず PC を持参すること。				
23.オフィスアワー	金曜 4 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【オリエンテーション/日本語教育の現状】 世界の中の「日本語」の位置付け 国内外の日本語の学習者の推移と日本語学習の動機	
第 2 回	【国内の日本語学習者について】 日本国内の日本語教育の外観 日本語学習者の抱える課題	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 3 回	【日本在住の学国人】	○個人ワーク

	日本在住の外国人の在留資格・歴史的背景	次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 4 回	【言語に関わる政策等】 日本在住の外国人の抱える様々な問題 各国の言語政策	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 5 回	【日本語教育機関/日本語試験/外国語試験】 日本語教育機関・外国語教育機関 外国語の能力とその評価	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 6 回	【日本語教育史 1】 台湾における日本語教育	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 7 回	【日本語教育史 2】 朝鮮半島・満州国・南洋諸島における日本語教育 日本語教育史のまとめ	○中間テストに向けての復習、整理(120～180 分)
第 8 回	中間テスト これまでのまとめ	中間テストの復習（90 分）
第 9 回	【現在の仮名遣い/常用漢字表・国語の位置付け】 仮名や漢字の成り立ちやその変遷 現代仮名遣いやロ ーマ字表記 常用漢字表	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 10 回	【日本語の音韻体系・表記法・文体】 日本語の音韻体系、 表記体系（文体）とその変化	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 11 回	【ローマ字表記や文体史】 ヘボン式・訓令式・日本式ローマ字 文体の歴史	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 12 回	【日本語学史(文法学史)】 日本語学、国語学の歴史	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 13 回	【まとめと展望】 今後の日本語教育・外国語教育のあり方 ICT 教育と著作権	○総括試験に向けた復習(120 分～180 分)
第 14 回	総括試験	総括試験結果を受けての復習(90 分)
第 15 回	【これまでの総括と総括試験解説】	

1.授業コード（ナンバリング）	JPE303-Y01	2.科目名	日本語教授法	3.単位数	2
4.授業担当教員	越山泰子				
5.授業科目の区分	日本語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	日本語教師養成	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	（目的）この授業では、外国語として日本語を教えるための基礎知識について学びます。 （概要）日本語の特徴を理解しながら、教案の組み立て方、授業の流れ、教材分析を通して、ことばを効果的に教える方法を学びます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	1）　外国語としての日本語基礎知識が日本語教育で使えるようになる。 2）　日本語を教えるための授業運営ができる。 3）　日本語教授の実践力を持つことができる。 （学科の教育目標） 教室内外で学習した知識と実習などの経験を結び付けて振り返り、定められた形式でまとめることができる。				
19.教科書・教材	特になし				
20.参考文献					
21.成績評価	宿題　20% インクラス・アクティビティー　20 % ティーチング 20% 最終レポート　40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	越山：火曜日 3 時間目（研究室）、木曜日 4 時間目（学習支援センター）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・ガイダンス:（授業の内容、評価基準について説明） ・日本語ウォームアップアクティビティー ・外国語としての日本語とは？日本語教師に求められる資質は？	○授業の復習とノートの整理（120 分）
第 2 回	日本語基礎知識① ・日本語の基礎知識について学ぶ。	○授業の復習とノートの整理（120 分） ○問題に答える。（60 分）
第 3 回	日本語基礎知知識② ・日本語の基礎知識について学ぶ。	○授業の復習とノートの整理（120 分） ○問題に答える。（60 分）
第 4 回	日本語基礎知識③ ・日本語の基礎知識について学ぶ。	○授業の復習とノートの整理（60 分） ○問題に答える。（60 分）
第 5 回	カリキュラムと全体の流れ ・何をどう教えるか。 ・コースデザインとシラバスデザインについて知る。	○授業の復習とノートの整理（60 分） ○問題に答える。（60 分）
第 6 回	教材の種類と選択 ・さまざまな教材についてその特徴と使い方を学ぶ。	○授業の復習とノートの整理（60 分） ○問題に答える。（60 分） ○教材分析（360 分）
第 7 回	ティーチングの実例 ・実際の日本語教育の現場のビデオを鑑賞し、モデル	○授業の復習とノートの整理（60 分） ○問題に答える。（60 分）

	授業から効果的な教え方について考える。	★レッスンプランの作成（360 分）
第 8 回	日本語の文字指導 ・日本語で使われる文字の指導方法について学ぶ。	○授業の復習とノートの整理（60 分） ○問題に答える。（60 分）
第 9 回	初級クラスの指導 ・日本語学習の初級者を教えるための方法や活動について学ぶ。	○授業の復習とノートの整理（60 分） ○問題に答える。（60 分）
第１０回	中・上級クラスの指導 ・読解力を向上させる指導方法について学ぶ。	○授業の復習とノートの整理（60 分） ○問題に答える。（60 分）
伊１１回	コミュニケーションの指導 ・コミュニケーション力を向上させる指導方法について学ぶ。 授業の進め方と教案の作成 ・授業の進め方とレッスンプラン	○授業の復習とノートの整理（120 分） ★レッスンプランの変更・修正（360 分）
第１２回	ティーチング・デモンストレーションの準備 ・来るティーチングに備えて、ティーチング・プランを修正し、教材を選択してデモンストレーションに備える。	○授業の復習とノートの整理（60 分） ○最終レポートの整備（180 分） ○ティーチング・デモンストレーションの準備（360 分）
第１３回	ティーチング・デモンストレーション	○授業の復習とノートの整理（60 分） ○最終レポートの整備（180 分）
第１４回	ティーチング・デモンストレーション	○授業の復習とノートの整理（60 分） ○最終レポートの整備（180 分）
第１５回	まとめ、、最終レポート提出	最終レポート

1.授業コード（ナンバリング）	JPN108-Y01	2.科目名	日本の文化 （6 月 5 日～7 月 26 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	小磯学				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件		11.先修条件	とくになし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義（人数によっては演習方式も取り入れる）		
16.履修制限	とくになし				
17.授業の目的と概要	本授業の目的と概要 ・和食がユネスコ無形文化世界遺産となり、伝統建築や着物、茶道、アニメや映画など、日本のあらゆる文化は「クール・ジャパン」と総称され今世紀に入りさらに注目度を増しており、2010 年には経済産業省に「クール・ジャパン室」が設けられてもいる。海外の人々を魅了するこうした文化を維持し継承していくためにも、まずは各々についてその歴史的背景とともにしっかりと理解しておく必要がある。 それは日本人にとっては自分をより深く知り、また他国の人々にとっても日本をより深く知る作業にほかならず、真の国際人と				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本授業の学習目標は、観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）のうちとくに下記に関連しています。 ・自律的で主体的な態度（自律性） ・多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） ・問題発見･解決力 本授業の学習目標＝以下を説明できるようになること。 ?日本の文化を担う「日本人」 ?日本の文化（全般的な）の特色 ?日本の歴史の概略 ?アジアの中の日本の位置づけと関係性、そして将来的な展望				
19.教科書・教材	特定の教科書は使わない。WebClass 上の授業資料の確認・復習を怠らないこと。				
20.参考文献	石毛直道（2015）『日本の食文化史――旧石器時代から現代まで』岩波書店 トーマス、ロックリー（2019）『英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史』東京書籍 森田正康、カン・アンドリュー・ハシモト（2018）『外国人から日本についてよく聞かれる質問200』クロスメディア・ランゲージ 山本 素子 （2019）『日本文化 ビジュアル解体新書』SB クリエイティブ など				
21.成績評価	課題の提出：30%（上記学習目標?～?） 中間試験：30%（学習目標?～?） 期末試験：40%（上記学習目標?～?）				
22.コメント	・最重要事項＝やる気、本気、根気、好奇心と情熱。 ・自分自身で調べ、考えること。				
23.オフィスアワー	春学期				

	個人研究室：金曜 3 限 学習支援センター：水曜昼休み 秋学期 個人研究室：金曜 3 限 学習支援センター：水曜 1 限

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	イントロダクション：文化とは？ 日本人とは？	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 2 回】	世界とアジアの中での日本の位置づけ：地理・歴史	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 3 回】	歴史的背景（1）：先史～古代	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 4 回】	歴史的背景（2）：中世～近世	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 5 回】	歴史的背景（3）：近世～現代	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 6 回】	宗教：神道と仏教	今日の人類の 99.999%を支える歴史的分岐点。
【第 7 回】	衣食住	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 8 回】	中間試験	前半の振返り
【第 9 回】	和食	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 10 回】	茶道、華道	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 11 回】	武士道	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 12 回】	ポップカルチャー：マンガ、アニメ、コスプレ、ゲーム、ライトノベル、アイドル…	WebClass 上の授業資料の確認・復習。
【第 13 回】	工業製品：車、バイク、電気製品…	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 14 回】	国策としてのクール・ジャパンと観光促進	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 15 回】	総括試験	総括

1.授業コード（ナンバリング）	JPN205-Y01	2.科目名	アジア研究	3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本授業は、中国、台湾、香港、韓国などの東アジアやカンボジア、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシアなどの東南アジアの国や地域について紹介する授業です。日本と関係の深いこうしたアジア諸国について理解を深めるとともに、将来こういう国や地域に行ったり、これらの国や地域の人たちと接したりする時に必要となる予備知識をつけることを目的としています。In this course, students will learn about Asian countries such as China, Korea, Taiwa				
18.学習目標とＤＰとの関連	●授業内容に対して、新たな興味や関心をもつことができる ●自分の持つ価値観とは異なる価値観を持つ人がいるということを理解できる ●自分の考え方や行動の仕方について振り返ることができる Can develop an interest in other cultures through the coursework. Can understand and respect the cultural differences between these Asian countries and Japan. Can reflect upon one's thoughts and actions. (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (4)問題発見・解決力				
19.教科書・教材	授業時に適宜配布します				
20.参考文献	授業時に適宜配布します				
21.成績評価	①授業内タスク（ミニテスト＆課題など）２0%、②プレゼンテーション 30%、③リアクションペーパー（授業内容のまとめを書いて授業後に毎週提出するもの）20%、④期末レポート 30% Course evaluation will be based on 1. assignments (20%), 2. presentation (30%), 3. reaction paper (２0%), and 4. final report (30%)				
22.コメント	アジアの隣国の人たちは、日本のことをよく知っているのに、日本の多くの学生は、彼ら・彼女らのことを十分によく知りません。この授業では、グローバルリサーチでも関わりの深いアジア諸国について、基本的なことを幅広く学びます。グローバル思考を持つにしても、まずは隣国のアジア諸国の事情に詳しくなる必要があります。ぜひアジアに対する理解を深めましょう。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	授業の紹介、講師の紹介など Course Introduction	
	中国についての紹介（中国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します。	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）

	Lecture on China (history, culture, politics etc.)	
	香港についての紹介（香港の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します） Lecture on Hong Kong (history, politics, and culture)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）
	台湾についての紹介（台湾と香港の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します） Lecture on Taiwan (history, politics, and culture)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）
	韓国についての紹介（韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します） Lecture on Korea (history, politics, and culture)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）
	韓国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション Appreciation of Korean movie and discussion.	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）
	韓国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション Appreciation of Korean movie and discussion.	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）
	カンボジアとフィリピンについての紹介（韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します） Lecture on Cambodia and Philippines （history, politics, and culture）	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）
	ベトナム、タイについての紹介（韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します） Lecture on Vietnam and Thailand （history, politics, and culture）	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）
	マレーシア、インドネシアについての紹介（韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します） Lecture on Malaysia and Indonesia （history, politics, and culture）	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）
	受講生によるプレゼンテーション（自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表） Presentation on a country in Asia of students' choice.	
	受講生によるプレゼンテーション（自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表） Presentation on a country in Asia of students' choice.	
	受講生によるプレゼンテーション（自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表） Presentation on a country in Asia of students' choice.	
	受講生によるプレゼンテーション（自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表） Presentation on a country in Asia of students' choice.	
	授業のまとめと復習 Course Conclusion	

1.授業コード（ナンバリング）	JPN206-Y01	2.科目名	日本のポップカルチャー		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義やディスカッションなどを中心に行う授業です。映像資料も適時使用します。また、プレゼンテーションも行います。 This class will proceed with lectures and discussions. Visual materials such as movies will be used occasionally. There will be a presentation by students as well.			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業は、日本のポピュラーカルチャー（現代文化）について学ぶ授業です。アニメや漫画やゲームや音楽やスポーツなど、日本のポピュラーカルチャーをいろいろと取りあげて比較し、その歴史について学ぶとともに、ポピュラーカルチャーを通して日本社会についての理解を深めることを目的とします。授業では、アニメ作品も鑑賞する予定です。 This survey course introduces the range of Japanese popular cultures such as animation, comics					
18.学習目標とＤＰとの関連	異なる文化や言語、自分と異なった考え方や行動する人たちがいる多様な社会を理解し大切に考え、国際的な視点や環境保護の視点から世界市民として行動することができる よりよい問題解決のために、偏った判断をしない公正さを保ち、その時・その場の状況に応じて、判断したり、アプローチの仕方を変えたりしながら、道筋を立てて論理的に考えることができる (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (4)問題発見・解決力					
19.教科書・教材	授業で教材を配布します。 Some reference materials will be distributed in class					
20.参考文献						
21.成績評価	Assignments（授業内の課題）30%, Final Report（期末レポート）30%, Presentation（プレゼンテーション）20%, Participation（平常点：リアクションペーパー）20%					
22.コメント	この授業では、日本の様々なポピュラーカルチャー（現代文化）を多様な観点から捉えていきます。日本の歴史や政治や伝統文化について学ぶ授業は多々ありますが、こうしたポピュラーカルチャー（現代文化）について学ぶ授業はそれほど多くありません。しかし、ポピュラーカルチャー（現代文化）も日本文化の重要な一部です。それについて理解を深めることは、日本社会について理解を深めることにもつながってきます。また、日本文化を外国人に紹介する時にも、こうしたポピュラーカルチャー（現代文化）についての知識は重要です。 もしアニメや漫画やゲームや音楽やスポーツなどを含むポピュラーカルチャーに興味があったら、この授業を楽しめると思います。ぜひ気軽に見学にきてください。 In this class, you will learn about Japanese popular culture from various angles. If you are interested in Japanese popular culture including manga, animation, music, sport, and game, I am sure you will enjoy this class. Looking forward to seeing you in class!					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	Course Introduction（授業の紹介）	
第２回	Introduction of Japanese popular culture: overview（日本のポピュラーカルチャーについての概要の紹介）	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（60 minutes）
第３回	about manga culture（漫画文化について）	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（60 minutes）
第４回	about convenience store and part-time job（コンビニ文化について、および、アルバイトについて）	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（60 minutes）
第５回	about cell phone and internet（携帯文化について、および、ネットについて）	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（60 minutes）
第６回	about animation culture（アニメ文化について）	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（60 minutes）
第７回	movie appreciation and discussion（日本のポピュラーカルチャーに関する映画鑑賞とディスカッション）	
第８回	movie appreciation and discussion（日本のポピュラーカルチャーに関する映画鑑賞とディスカッション）	
第９回	about sport（スポーツについて）	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（60 minutes）
第１０回	about music and movie（音楽と映画について）	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（60 minutes）
第１１回	about music and movie（音楽と映画について）	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（60 minutes）
第１２回	Presentation（プレゼンテーション）	
第１３回	Presentation（プレゼンテーション）	
第１４回	Presentation（プレゼンテーション）	
第１５回	Course conclusion（まとめ）	

1.授業コード（ナンバリング）	JPN207-Y01	2.科目名	日本文学	3.単位数	2
4.授業担当教員	Richard　Leckie				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語教育学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 This course will provide an overview of trends in modern and contemporary Japanese literary expression and help students become familiar with literary works published from the early Meiji period to the present day, as well as works published in Engli				
18.学習目標とＤＰとの関連	1. Improve knowledge of modern and contemporary Japanese literature. 2. Read works from a variety of eras and literary movements. 3. Select what they want to read for homework. 4. Develop other skills such as speaking and writing. 5. Work both individually and cooperatively in pairs and groups. 6. Keep a weekly reading journal. 【関連する DP】 (1)自律性（3)多様性理解（5)コミュニケーションスキル（6)専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	Course materials provided by teacher				
20.参考文献	None				
21.成績評価	Students' scores will be calculated as follows. In addition to completing all assignments on time and attending at least 2/3 of classes, students must achieve a total of 60 or more in order to pass. (1) Reading journal　30% (2) Written assignment　20%				
22.コメント	Bring your laptop to all class meetings				
23.オフィスアワー	Speak to the instructor before or after class, or contact by email				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1 (4/11)	Explanation of Course, Overview of Pre-Modern Literature	Reading Journal + Homework Presentation (Due 4/20, 4hrs/week)
Week 2 (4/18)	From Pre-Modern to Modern: Transitional Authors	Reading Journal + Homework Presentation (Due 4/27, 4hrs/week)
Week 3 (4/25)	Naturalism (shizenshugi) and Anti-Naturalism	Reading Journal + Homework Presentation (Due 5/11, 4hrs/week)
Week 4 (5/2)	The “I Novel”	Reading Journal + Homework Presentation (Due 5/18, 4hrs/week)
Week 5 (5/9)	The Shirakaba School	Reading Journal + Homework Presentation (Due 5/25, 4hrs/week)
Week 6 (5/16)	Other Taisho Era Writers	Reading Journal + Homework Presentation (Due 6/1, 4hrs/week)
Week 7 (5/23)	Proletarian Literature	Reading Journal + Homework Presentation (Due 6/8, 4hrs/week)
Week 8	Modernist Literature	Reading Journal + Homework Presentation

(5/30)		(Due 6/15, 4hrs/week)
Week 9 (6/6)	Conversion Literature and War Literature	Reading Journal + Homework Presentation (Due 6/22, 4hrs/week)
Week 10 (6/13)	Women Writers	Reading Journal + Homework Presentation (Due 6/29, 4hrs/week)
Week 11 (6/20)	Popular Literature	Homework Presentation (Due 7/6, 4hrs/week)
Week 12 (6/27)	The Decadent School (buraiha)	Homework Presentation (Due 7/13, 4hrs/week)
Week 13 (7/4)	First and Second Generation of Postwar Writers	Homework Presentation (Due 7/20, 4hrs/week), Final Report (Due 7/20, 4hrs/week)
Week 14 (7/11)	Third Generation of Postwar Writers	Homework Presentation (Due 7/27, 4hrs/week)
Week 15 (7/25)	Important Contemporary Writers	

1.授業コード（ナンバリング）	JPN208-Y01	2.科目名	日本の伝統文化	3.単位数	2
4.授業担当教員	小磯学				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件	とくになし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義（人数によっては演習方式も取り入れる）		
16.履修制限	とくになし				
17.授業の目的と概要	本授業の目的と概要：下記の学修 日本は、歴史的・文化的影響を絶えず海を隔てた大陸から受けつつ、それを醸成しながら自らの文化を育んできた。そのため、東・東南アジア世界の中で多くの共通点を持ちながらも独自の特徴的な文化が継承されている。 そうした伝統文化を育んだ気候風土、歴史、海外との関係について学ぶとともに、日本の行く末を考える糧とする。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本授業の学習目標は、観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）のうちとくに下記に関連しています。 ・自律的で主体的な態度（自律性） ・多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） ・問題発見･解決力 本授業の学習目標：以下を説明できること。 ?日本の歴史の概略 ?日本と外国との歴史上の関わり ?20 世紀後半～現代の変化 ?外国から見た日本文化				
19.教科書・教材	特定の教科書は使わない。WebClass 上の授業資料の確認・復習を怠らないこと。				
20.参考文献	家永 三郎（1982）『日本文化史』 第 2 版岩波書店 大隈和雄（2017）『日本文化史講義』吉川弘文館 尾藤 正英（2000）『日本文化の歴史』岩波書店 など				
21.成績評価	課題の提出：30%（上記学習目標?～?） 中間試験：30%（学習目標?～?） 期末試験：40%（上記学習目標?～?）				
22.コメント	・最重要事項＝やる気、本気、根気、好奇心と情熱。 ・自分自身で調べ、考えること。				
23.オフィスアワー	春学期 個人研究室：金曜 3 限 学習支援センター：水曜 3 限 秋学期 個人研究室：金曜 3 限				

	学習支援センター：水曜 1 限

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	イントロダクション：世界史のなかの日本史・日本人とは？	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 2 回】	気候風土と衣食住と民族	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 3 回】	縄文時代から弥生文化へ：日本の基層文化（1）	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 4 回】	縄文時代から弥生文化へ：日本の基層文化（2）	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 5 回】	日本神話：『古事記』『日本書記』と天皇制	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 6 回】	世界と日本との接点	今日の人類の 99.999%を支える歴史的分岐点。
【第 7 回】	土着の宗教・外来の宗教	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 8 回】	中間試験	前半の振返り
【第 9 回】	外国人から見た日本文化（1）：宣教師・研究者の記述	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 10 回】	外国人から見た日本文化（2）：ジャポニズム	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 11 回】	外国人から見た日本文化（3）：ステロタイプから真の理解へ	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 12 回】	20 世紀後半～現在（1）：戦後の復興と高度経済成長	WebClass 上の授業資料の確認・復習。
【第 13 回】	20 世紀後半～現在（2）：経済のグローバル化と産業空洞化問題	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 14 回】	20 世紀後半～現在（3）：大規模災害と危機管理、少子化、インターネット・SNS・IT 産業の普及	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 15 回】	総括試験	総括

1.授業コード（ナンバリング）	LAW102-A01	2.科目名	人権と法	3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件	必須ではありませんが、興味のある学生には、「法律学概論」を併せて受講することを勧めます。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：現代社会の様々な現象や問題に対して、近代法の基本原理を踏まえたうえで、自立して取り組めることを目的とします。 概要：「法と道徳の違い」「正義とは何か」「国家の存立基盤」「人権の基礎」など、現代国家の基礎を成す発想を学びます。講義では受講者に対して様々な質問を提起し、質疑応答を取り入れます。積極的な参加を期待します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	現代社会学部の DP2（主体的な問題解決）、S1（現代社会の諸問題を理解）、S2（社会に対する科学的な理解）、K1（歴史・文化の理解）と関連します。具体的な到達目標は： (1)現代社会の様々な現象や問題に対して、近代法の基本原理を踏まえたうえで、意見形成できる。 (2)現代社会のさまざまな社会制度や法領域について、必要な背景知識を踏まえて論じられる。 (3)「権利」「国家」「正義」等の法的概念について、既往の議論を踏まえて取り組むことができる。				
19.教科書・教材	定期的に資料を配付します。教科書は使用しません。なお、レジュメや関連資料を、オンラインでも公開していく予定です。予習復習に活用して下さい。				
20.参考文献	講義中に適宜紹介します。				
21.成績評価	1. 講義中に、アンケートや簡単なテストを定期的に行います。また、講義中に質疑を行いますので、その際の応答や参加姿勢も考慮します。主に到達目標(1)、(2)に関連します。…合わせて 40 点満点 2. 講義内容の理解度を確認するための期末試験を実施します。主に到達目標(2)(3)に関連します。…60 点満点 いずれも、そこまでの講義内容全体をカバーするかたちで行います。 全体で 60 点以上が単位認定となります。アンケートは、4 回中 3 回以上の提出を必要とします。				
22.コメント	社会的に重要な事件や出来事が、日々報道されています。そうした問題について考えるうえで、「何が正しいか」「正しいとはどういうことか」「何を基準にして判断すればよいか」を考えるうえで、法学は非常に有益な道具立てを提供してくれます。社会制度とその動きについて、日頃から関心をもって見聞を広めて下さい。				
23.オフィスアワー	質問や相談は、講義前後の時間に受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	イントロダクション（本講義の目標、概要、評価方式等について)。 講義：生活の中の法（※以下、ことわりのない限り講義形式)。 アンケート。	復習：今回の復習（授業ノートの整理)。 予習：次回の予習（講義内で指示する)。
2	ディスカッションと解説（アンケートに関して)。	復習：今回の復習（授業ノートの整理)。

	法の基本的性質 I （そもそも「法」とは何か)。	予習：次回の予習（講義内で指示する)。
3	ディスカッションと解説（アンケートに関して)。 法の基本的性質 II（近代法が備える 4 つの基本的性質)。	復習：今回の復習（授業ノートの整理)。 予習：次回の予習（講義内で指示する)。
4	法の基本的性質 III（社会規範、制裁)。	復習：今回の復習（授業ノートの整理)。 予習：次回の予習（講義内で指示する)。
5	法システムの社会的機能 I（社会統制、活動促進)。	復習：今回の復習（授業ノートの整理)。 予習：次回の予習（講義内で指示する)。
6	法システムの社会的機能 II（紛争解決、資源配分)。	復習：今回の復習（授業ノートの整理)。 予習：次回の予習（講義内で指示する)。
7	法と道徳 I （相互の異同と関係について)。 アンケート。	復習：今回の復習（授業ノートの整理)。 予習：次回の予習（講義内で指示する)。
8	法と道徳 II（具体的事例に即した検討)。 ディスカッションと解説（アンケートに関して)。	復習：今回の復習（授業ノートの整理)。 予習：次回の予習（講義内で指示する)。
9	法と道徳 III（アンケートに対する解説)。 ディスカッションと解説（アンケートに関して)。	復習：今回の復習（授業ノートの整理)。 予習：次回の予習（講義内で指示する)。
10	法と強制（法の実効性や強制の根拠)。	復習：今回の復習（授業ノートの整理)。 予習：次回の予習（講義内で指示する)。
11	法と正義 I （正しさの様々な基準：適法的正義、形式的正義)。	復習：今回の復習（授業ノートの整理)。 予習：次回の予習（講義内で指示する)。
12	法と正義 II（実質的正義、手続的正義)。 アンケート。	復習：今回の復習（授業ノートの整理)。 予習：次回の予習（講義内で指示する)。
13	法と正義 III（具体的事例に則した検討)。 ディスカッションと解説（アンケートに関して)。	復習：今回の復習（授業ノートの整理)。 予習：次回の予習（講義内で指示する)。
14	期末試験（※オンライン授業になった場合は、レポート課題に変更する可能性がある）	復習：今回の復習（授業ノートの整理)。 予習：次回の予習（講義内で指示する)。
15	期末試験の解説。 各国の法（法の多様性)。 アンケート。	復習：今回の復習（授業ノートの整理)。 予習：次回の予習（講義内で指示する)。

1.授業コード（ナンバリング）	LAW102-Y01	2.科目名	人権と法	3.単位数	2
4.授業担当教員	出嶋陽介				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および講義前演習		
16.履修制限	特に設けないが、日本国憲法を既に履修したか、または同時並行的に履修していることが望ましい。				
17.授業の目的と概要	本科目は、日本国憲法で履修する基本的人権の知識を基礎に、我々が日常生活を送るうえで直面する様々な場面（誕生～就労～死亡）において、必要とされる法律知識とその根拠となる権利・自由について理解を深め、将来その知識を活用できるようにすることを目的としている。 具体的な一例をあげると、就職して退職するまで一労働者として勤務するが、労働者は雇用される立場にあるので、どうしても立場が弱くなりがちである。そこで、労働者の立場を守る様々な法律が制定され、労働者が不当な目に遭わないよう、法的な保護がなされている。それを踏				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマ・ポリシーの（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力に関連している。 具体的な学習目標は、以下のとおりである。 ①様々な生活場面における法律問題を理解し、法律的に適切な対処ができるようになる。 ②法律の条文に慣れ親しみ、条文の意味内容を理解できるようにする。 ③他者に対する人権や自由を尊重できるようにする。				
19.教科書・教材	副田隆重・浜村彰・棚村政行・武田万里子　『ライフステージと法 第 8 版』　有斐閣アルマ				
20.参考文献	講義資料等は、WebClass を通じて配布する。				
21.成績評価	成績評価については、以下の全ての評価対象を実施した上で、合計が 60%以上の場合に、合格とする。 ①　小テスト（2 回）　50%（各 25%の 2 回分で最大）　・・・学習目標①に対応 ②　総括試験　50%（最大）　・・・学修目標②と③に対応 ※　2 回分の小テストは、5 回目と 10 回目の講義時間を使い、WebClass で実施するので（15 分程度）、少なくとも当日はパソコンを必携することを求める。　※ ※　出席点および平常点の評価は一				
22.コメント	法律は独特の用語が目立ち、難解と思えそうだが、条文を読むことに慣れてしまうと苦にならない。講義を通じて、基本的な考えを理解することは大切であるが、分からないことがあれば積極的に質問してほしい。				
23.オフィスアワー	研究室を持っていないので、質問や要望等があれば、講義の前後に受け付ける。また、WebClass のメール機能で問い合わせも可。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション（シラバス内容についての補足説明、受講上の注意点、講義の進め方など） （講義）本格的な講義を始める前に、講義の理解をスムーズにするために必要とされる法律概念や予備知識を説明する。	（予習） テキスト ⅰ-ⅵページ（プレリュード）を読んでおくこと。 （復習） 講義ノートの整理
第 2 回	（講義）テキスト stage1「社会人へのパスポート」をテーマに、年齢と法律との関係を見つつ、どのような	（予習） テキスト 2-11 ページを読んで、法律が年齢に

	場面で年齢が法律と関わってくるのかを理解する。また、法律によって個人に与えられた権利をどこで主張できるのか、誰によって守ってもらえるのかも講義する。テキスト 2-11 ページ該当 （講義前演習）年齢と法律に関する確認テスト	よって異なる扱いをするのはなぜかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 3 回	（講義）テキスト stage2「働く自由・女であることの自由」をテーマに、男女平等の時代にあっても、女性が見えないガラス張りの雇用環境によって劣遇されている現実を裁判例から見ていく。それを踏まえて、女性を法的に救済する立法にどのようなものがあるのかを講義する。ひいては、女性差別解消の方策を一緒に考えていきたい。テキスト 14-40 ページ該当 （講義前演習）女性差別を解消する法律に関する確認テスト	（予習） テキスト 14-40 ページを読んで、女性が差別される背景がどこにあるのか、また立法上の対応にどのようなものがあるかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 4 回	（講義）テキスト stage3「働きかたいろいろ」をテーマに、勤労の自己決定、非正規労働者の法律的保護とその限界を講義する。テキスト 42-68 ページ該当 （講義前演習）労働法に関する確認テスト	（予習） テキスト 42-68 ページを読んで、労働者が法律的にどのような保護を受けているのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 5 回	（講義）テキスト stage4「スマートな消費者をめざして」をテーマに、消費者保護立法の基本的知識を習得する。そして、消費者はなぜ弱い立場に立たされるのかを説明していきたい。テキスト 70-111 ページ該当 （講義前演習）契約など民法の基本的知識に関する確認テスト ※　WebClass を利用した小テスト（1 回目）の実施※	（予習） テキスト 70-111 ページを読んで、消費者保護が求められる場面と法律的対応との関係を理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理
第 6 回	（講義）テキスト stage4「スマートな消費者をめざして」をテーマに、損害賠償制度について講義する。契約違反や法律上の権利や利益を侵害された場合に、どのように損害を賠償させるのかを説明していきたい。テキスト 70-111 ページ該当 （講義前演習）損害賠償制度に関する確認テスト	（予習） テキスト 70-111 ページを読んで、損害賠償制度について理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理
第 7 回	（講義）テキスト stage5「恋愛のルール」をテーマに、恋人間で成立する法律問題、特に性的暴力、婚約、不倫など一般的なトピックを題材に、どのような法律的責任が発生するのかを説明していきたい。テキスト 114-135 ページ該当 （講義前演習）男女間に適用される法律に関する確認テスト	（予習） テキスト 114-135 ページを読んで、恋人間で適用される法律にどのようなものがあるか理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理
第 8 回	（講義）テキスト stage6「結婚の夢と現実」をテーマに、結婚に関する法律を講義する。特に法律婚と事実婚の法律的な違い、夫婦別姓、相続など一般的なトピックを題材に、成立要件や効果を説明する予定である。テキスト 138-159 ページ該当 （講義前演習）婚姻など夫婦間に適用される法律に関する確認テスト	（予習） テキスト 138-159 ページを読んで、婚姻が成立するための条件や婚姻後夫婦にどのような権利義務が発生するのか確認する。 （復習） 講義ノートの整理

第 9 回	（講義）第 8 回までで講義できないトピック、特にテキストに言及されている Column のうち、幾つかを取り上げて、余録的なアプローチから「法律の別の顔」を講義する。	（予習） 第 1 回から第 8 回までの講義内容を整理し、中間確認テストに備える。 （復習） 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 10 回	（講義）テキスト stage7「子どもを産む・産まない」をテーマに、出産に関する自己決定（堕胎を含む。）、代理出産、生殖医療と法律・倫理について説明する。テキスト 162-181 ページ該当 （講義前演習）出産や子供の権利についての確認テスト ※　WebClass を利用した小テスト（2 回目）の実施 ※	（予習） テキスト 162-181 ページを読んで、女性の自己決定を中心に出産の自由について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 11 回	（講義）テキスト stage8「子どもと親のビミョーな関係」をテーマに、法律的な親子関係、特に親権や養育・監護権、虐待など親子間で起こりうる法律的な問題について講義する。テキスト 184-210 ページ該当 （講義前演習）親子関係の法律に関する確認テスト	（予習） テキスト 184-210 ページを読んで、親子関係に関する法律について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 12 回	（講義）テキスト stage9「ふたたびの出発」をテーマに、離婚にまつわる法律について講義する。特に、離婚の成立要件、離婚の効果などを中心に扱うことにする。テキスト 212-230 ページ該当 （講義前演習）離婚の法律に関する確認テスト	（予習） テキスト 212-230 ページを読んで、どのような場合に離婚が成立し、離婚成立後の元夫婦間の法律関係について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 13 回	テキスト stage10「親の介護はだれが？」をテーマに、介護保険を軸とした法律問題について講義する。テキスト 232-251 ページ該当 （講義前演習）介護保険に関する確認テスト	（予習） テキスト 232-251 ページを読んで、介護保険制度の基本的な構造について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 14 回	（講義）テキスト stage11「親が死んだら、夫が死んだら、自分が死んだら」をテーマに、法的な死亡の定義、遺言と相続、生存親族の義務などについて講義する。テキスト 254-273 ページ該当 （講義前演習）相続に関する確認テスト	（予習） テキスト 254-273 ページを読んで、相続制度の基本的な構造について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 15 回	総括試験の実施	

1.授業コード（ナンバリング）	LAW104-A01	2.科目名	日本国憲法	3.単位数	2
4.授業担当教員	出嶋陽介				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　副専攻（世界と日本を考える）　副専攻（平等を考える）　幼稚園一種	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および講義前演習		
16.履修制限	特に設けない。				
17.授業の目的と概要	本科目の目的は、国家の基礎法である日本国憲法を通じて、人権感覚と憲法が目指すところを修得することにある。 憲法の成立経緯は講義で詳細に話す予定であるが、我々の自由が確保され、また権力の濫用を封じるための歯止めとなっている非常に重要な国法である。それゆえに、憲法の理解なくして、自由や人権を語るわけには行かないのである。 加えて、これからの時代は、豊かな人権感覚を備えた人材が求められている。それは、政治家や公務員だけに限られず、一般市民にも必要な教養なのである。 また、教職課程の科目でもあるため、教員を				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマ・ポリシーの（2）社会的貢献性、(6）専門的知識・技能の活用に関連している。 具体的な学習目標は、以下のとおりである。 ①権利や自由がなぜ必要なのかを説明できるようになる。 ②憲法規範に従って、問題を解決できる思考ができるようになる。 ③人権感覚を身に付け、法的に解決できるようになる。				
19.教科書・教材	吉田仁美（編）　『スタート憲法　第 3 版』(2020 年）　成文堂				
20.参考文献	必要に応じて配布する。				
21.成績評価	評価方法と配点は次のとおりである。 ①小テスト 1 回目（第 5 回目の講義時に実施）　最大 25%　〈学習目標①および③に対応〉 ②小テスト 2 回目（第 10 回目の講義時に実施）　最大 25%　〈学習目標①および③に対応〉 ③総括試験　（第 15 回目に実施）　最大 50%　〈学習目標②に対応〉 以上の評価対象を実施した上で、合計 60%以上となった場合に、合格（単位認定）とする。 ※　小テストは、各回 15 分程度のものを予定しており、かつ講義中に WebClass のテスト機能を利用する。したがって				
22.コメント	①WebClass を利用して、講義資料配布や小テスト実施を行うので、パソコンを積極的に活用してもらう予定となっている。 ②憲法を中心に社会を見つめ、人権を尊重するということはどのような意味を持つものなのかを考えながら、講義に参加して欲しい。				
23.オフィスアワー	研究室を持っていないので、質問や要望等があれば、講義の前後に受け付ける。また、WebClass のメール機能を使った問い合わせも可（ただし毎日チェックしていないので、回答には数日を要することもある)。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	（講義）講義の進め方と憲法の概念についての説明を行なう。第 1 回目は履修者確定の時期ではないので、	（復習） 講義ノートの整理

	憲法総論として日常生活と憲法との関係について講義するつもりである。	
第 2 回	（講義）憲法史 憲法が成立する背景として存在する近代人権宣言について説明する。ここでは、憲法の成立由来ならびに明治憲法及び日本国憲法についての説明をし、憲法の基礎的性格を明らかにする。テキスト 1〜7 ページ該当 （講義前演習）憲法の基本知識に関する確認テスト	（予習） テキスト 1-7 ページを読んで、憲法の基本原理、大日本帝国憲法と日本国憲法の相違について確認する。
第 3 回	（講義）人権享有主体性（外国人の人権保障） 基本的人権総論と題して、外国人に対する人権保障について説明する。とりわけ、日本人と同等同質の生活を送る定住外国人に、憲法はどこまで人権を保障するのか解説する。テキスト 12〜13 ページ該当 （講義前演習）人権享有主体に関する確認テスト	（予習） テキスト 12-13 ページを読んで、外国人の人権保障について、憲法がどのような態度をとっているのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 4 回	（講義）幸福追求権（新しい人権） 人権の一般規定である 13 条では、幸福追求権が保障されている。そこで、近年新しい人権として主張されるようになった、特に、新しい人権や自己決定権の意義と限界についての説明をしていくことにする。テキスト 22,24〜29 ページ該当 （講義前演習）新しい人権に関する確認テスト	（予習） テキスト 22-29 ページを読んで、特に幸福追求権と自己決定権との関係を理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 5 回	（講義）平等権 近代人権宣言は、自由と平等を御旗としているが、そのうちの平等権について説明する。その中で、差別の問題と平等の意義及び平等権が争われた事例についての講義する。テキスト 32〜33,36-37 ページ該当 （講義前演習）平等権に関する確認テスト ※　WebClass を利用した小テスト（第 1 回目）を実施するので、パソコンを持参すること。　※	（予習） テキスト 32-37 ページを読んで、特に差別と平等権との関係を理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理
第 6 回	（講義）思想良心の自由、信教の自由 憲法は精神的自由を保障し、思想良心の自由、信教の自由、表現の自由を保障する。ここでは、前二者について講義をし、なぜ個人の内心の自由を保障する必要があるのか、戦前の状況との比較を通じて解説する。テキスト 38〜39,42〜45 ページ該当 （講義前演習）精神的自由、特に思想信条の自由と信教の自由についての確認テスト	（予習） テキスト 38-45 ページを読んで、内心の自由とはどのようなものか、なぜ精神領域への自由を保障すべきなのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 7 回	（講義）表現の自由 前回に引き続き、精神的自由の中でもコアな人権である表現の自由について講義をし、なぜ表現の自由を手厚く保障する必要があるのか、戦前の状況との比較を通じて解説する。テキスト 46〜49,52-55 ページ該当 （講義前演習）表現の自由についての確認テスト	（予習） テキスト 46-49,52-55 ページを読んで、内心の自由とはどのようなものか、なぜ精神領域への自由を保障すべきなのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 8 回	（講義）人身の自由① 人身の自由とは、かつて国家権力が人民を不当に処罰したところから、刑罰権の濫用がなされないよう、憲法上のルールとして保障されたものである。ここで	（予習） テキスト 64-71 ページを読んで、適正手続の保障、令状主義について理解する。 （復習）

	は、奴隷的拘束の禁止、適正手続の保障、令状主義を説明する。テキスト 64～71 ページ該当 （講義前演習）人身の自由（予習該当範囲）に関する確認テスト	講義ノートの整理
第 9 回	（講義）人身の自由② 前週に引き続き、公平の裁判所による迅速な裁判を受ける権利、証人審問権・喚問権、弁護人依頼権、残虐な刑罰の禁止を講義する。テキスト 64～67 ページ該当 （講義前演習）人身の自由（予習該当部分）に関する確認テスト	（予習） テキスト 64-71 ページを読んで、公平な裁判所の迅速な裁判を受ける権利、証人審問権、証人喚問権、弁護人依頼権、残虐刑の禁止について理解する。 （復習） 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 10 回	（講義）生存権 弱者救済の人権である生存権を講義する。生存権は近年の社会情勢から注目されており、国家がいかに弱者を救済するべきか、議論が立たなされている。この点から、生存権が必要とされる意義や限界、生存権の将来について一緒に考えていきたい。 （講義前演習）生存権について確認テスト ※　WebClass を利用した小テスト（第 2 回目）を実施するので、パソコンを持参すること。　※	（予習） テキスト 76-77 ページを読んで、生存権が必要とされた背景について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 11 回	（講義）国会① 憲法は統治機構に関する規定も置いているが、その中でも第 11 回目は国会について講義をする。特に、民主政治の基盤となる国会、そしてそもそも民主主義や民主政治とは何かを考えていきたい。その他にも、衆議院の優越、国会議員の特権などにも目を向けていくことにする。テキスト 98～109 ページ該当 （講義前演習）国会、内閣に関する確認テスト	（予習） テキスト 90-91,98-109 ページを読んで、国会の性格、国会の権限について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 12 回	（講義）国会②、内閣 前回に引き続き、国会の権能や議院内閣制、内閣について講義をする。そして、行政権を担当する内閣の権限や機能を説明をする。テキスト 98～109 ページ該当 （講義前演習）国会、内閣に関する確認テスト	（予習） テキスト 90-91,98-109 ページを読んで、議院内閣制の仕組み、内閣の権限について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 13 回	（講義）裁判所① 国会、内閣に次いで、統治機構の三本柱の一角を占める裁判所について講義をする。裁判所は基本的人権の砦として、国民の権利や自由を守る役割を果たしている。また、中立的な裁判を実現するために、司法権の独立という仕組みも導入されている。このような点から、裁判所が憲法を頂点とした法の支配を実現するために果たす役割、第 13 回では、司法権という概念、三審制（司法制度）、司法権の独立を説明をする。テキスト 110～117 ページ該当 （講義前演習）裁判所に関する確認テスト	（予習） テキスト 110-117 ページを読んで、司法権の概念、司法権の独立について理解する。 （復習） 講義ノートの整理

第 14 回	（講義）裁判所② 前回に引き続き、司法権の講義をする。裁判所に重要な役割の一つに、違憲審査権（違憲立法審査権）が憲法によって定められている。これは法の支配を実現する手段として、国会や内閣に対する裁判所の抑制機能となっている。そこで、国民の基本的人権を守るために機能する違憲審査権が政治的権力である国会や内閣に対して、どのような抑制機能を果たすのかを説明していくことにする。テキスト 110〜117 ページ該当 （講義前演習）裁判所に関する確認テスト	（予習） テキスト 110-117 ページを読んで、三権分立の構造の中で、違憲審査権が占める役割について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 15 回	総括試験の実施	

1.授業コード（ナンバリング）	LAW104-M01	2.科目名	日本国憲法　（法学）	3.単位数	2
4.授業担当教員	出嶋陽介				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　副専攻（世界と日本を考える）　副専攻（平等を考える）　幼稚園一種	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および講義前演習		
16.履修制限	特に設けない。				
17.授業の目的と概要	本科目の目的は、国家の基礎法である日本国憲法を通じて、人権感覚と憲法が目指すところを修得することにある。 憲法の成立経緯は講義で詳細に話す予定であるが、我々の自由が確保され、また権力の濫用を封じるための歯止めとなっている非常に重要な国法である。それゆえに、憲法の理解なくして、自由や人権を語るわけには行かないのである。 加えて、これからの時代は、豊かな人権感覚を備えた人材が求められている。それは、政治家や公務員だけに限られず、一般市民にも必要な教養なのである。 また、教職課程の科目でもあるため、教員を				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマ・ポリシーの（2）社会的貢献性、（6）専門的知識・技能の活用に関連している。 具体的な学習目標は、以下のとおりである。 ①権利や自由がなぜ必要なのかを説明できるようになる。 ②憲法規範に従って、問題を解決できる思考ができるようになる。 ③人権感覚を身に付け、法的に解決できるようになる。				
19.教科書・教材	吉田仁美（編）　『スタート憲法　第 3 版』（2020 年）　成文堂				
20.参考文献	必要に応じて配布する。				
21.成績評価	評価方法と配点は次のとおりである。 ①小テスト 1 回目（第 5 回目の講義時に実施）　最大 25%　〈学習目標①および③に対応〉 ②小テスト 2 回目（第 10 回目の講義時に実施）　最大 25%　〈学習目標①および③に対応〉 ③総括試験　（第 15 回目に実施）　最大 50%　〈学習目標②に対応〉 以上の評価対象を実施した上で、合計 60%以上となった場合に、合格（単位認定）とする。 ※　小テストは、各回 15 分程度のものを予定しており、かつ講義中に WebClass のテスト機能を利用する。したがって				
22.コメント	①WebClass を利用して、講義資料配布や小テスト実施を行うので、パソコンを積極的に活用してもらう予定となっている。 ②憲法を中心に社会を見つめ、人権を尊重するということはどのような意味を持つものなのかを考えながら、講義に参加して欲しい。				
23.オフィスアワー	研究室を持っていないので、質問や要望等があれば、講義の前後に受け付ける。また、WebClass のメール機能を使った問い合わせも可（ただし毎日チェックしていないので、回答には数日を要することもある）。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	（講義）講義の進め方と憲法の概念についての説明を行なう。第 1 回目は履修者確定の時期ではないので、	（復習） 講義ノートの整理

	憲法総論として日常生活と憲法との関係について講義するつもりである。	
第 2 回	（講義）憲法史 憲法が成立する背景として存在する近代人権宣言について説明する。ここでは、憲法の成立由来ならびに明治憲法及び日本国憲法についての説明をし、憲法の基礎的性格を明らかにする。テキスト 1〜7 ページ該当 （講義前演習）憲法の基本知識に関する確認テスト	（予習） テキスト 1-7 ページを読んで、憲法の基本原理、大日本帝国憲法と日本国憲法の相違について確認する。
第 3 回	（講義）人権享有主体性（外国人の人権保障） 基本的人権総論と題して、外国人に対する人権保障について説明する。とりわけ、日本人と同等同質の生活を送る定住外国人に、憲法はどこまで人権を保障するのか解説する。テキスト 12〜13 ページ該当 （講義前演習）人権享有主体に関する確認テスト	（予習） テキスト 12-13 ページを読んで、外国人の人権保障について、憲法がどのような態度をとっているのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 4 回	（講義）幸福追求権（新しい人権） 人権の一般規定である 13 条では、幸福追求権が保障されている。そこで、近年新しい人権として主張されるようになった、特に、新しい人権や自己決定権の意義と限界についての説明をしていくことにする。テキスト 22,24〜29 ページ該当 （講義前演習）新しい人権に関する確認テスト	（予習） テキスト 22-29 ページを読んで、特に幸福追求権と自己決定権との関係を理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 5 回	（講義）平等権 近代人権宣言は、自由と平等を御旗としているが、そのうちの平等権について説明する。その中で、差別の問題と平等の意義及び平等権が争われた事例についての講義する。テキスト 32〜33,36-37 ページ該当 （講義前演習）平等権に関する確認テスト ※　WebClass を利用した小テスト（第 1 回目）を実施するので、パソコンを持参すること。　※	（予習） テキスト 32-37 ページを読んで、特に差別と平等権との関係を理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理
第 6 回	（講義）思想良心の自由、信教の自由 憲法は精神的自由を保障し、思想良心の自由、信教の自由、表現の自由を保障する。ここでは、前二者について講義をし、なぜ個人の内心の自由を保障する必要があるのか、戦前の状況との比較を通じて解説する。テキスト 38〜39,42〜45 ページ該当 （講義前演習）精神的自由、特に思想信条の自由と信教の自由についての確認テスト	（予習） テキスト 38-45 ページを読んで、内心の自由とはどのようなものか、なぜ精神領域への自由を保障すべきなのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 7 回	（講義）表現の自由 前回に引き続き、精神的自由の中でもコアな人権である表現の自由について講義をし、なぜ表現の自由を手厚く保障する必要があるのか、戦前の状況との比較を通じて解説する。テキスト 46〜49,52-55 ページ該当 （講義前演習）表現の自由についての確認テスト	（予習） テキスト 46-49,52-55 ページを読んで、内心の自由とはどのようなものか、なぜ精神領域への自由を保障すべきなのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 8 回	（講義）人身の自由① 人身の自由とは、かつて国家権力が人民を不当に処罰したところから、刑罰権の濫用がなされないよう、憲法上のルールとして保障されたものである。ここで	（予習） テキスト 64-71 ページを読んで、適正手続の保障、令状主義について理解する。 （復習）

	は、奴隷的拘束の禁止、適正手続の保障、令状主義を説明する。テキスト 64～71 ページ該当 （講義前演習）人身の自由（予習該当範囲）に関する確認テスト	講義ノートの整理
第 9 回	（講義）人身の自由② 前週に引き続き、公平の裁判所による迅速な裁判を受ける権利、証人審問権・喚問権、弁護人依頼権、残虐な刑罰の禁止を講義する。テキスト 64～67 ページ該当 （講義前演習）人身の自由（予習該当部分）に関する確認テスト	（予習） テキスト 64-71 ページを読んで、公平な裁判所の迅速な裁判を受ける権利、証人審問権、証人喚問権、弁護人依頼権、残虐刑の禁止について理解する。 （復習） 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 10 回	（講義）生存権 弱者救済の人権である生存権を講義する。生存権は近年の社会情勢から注目されており、国家がいかに弱者を救済するべきか、議論が立たなされている。この点から、生存権が必要とされる意義や限界、生存権の将来について一緒に考えていきたい。 （講義前演習）生存権について確認テスト ※　WebClass を利用した小テスト（第 2 回目）を実施するので、パソコンを持参すること。　※	（予習） テキスト 76-77 ページを読んで、生存権が必要とされた背景について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 11 回	（講義）国会① 憲法は統治機構に関する規定も置いているが、その中でも第 11 回目は国会について講義をする。特に、民主政治の基盤となる国会、そしてそもそも民主主義や民主政治とは何かを考えていきたい。その他にも、衆議院の優越、国会議員の特権などにも目を向けていくことにする。テキスト 98～109 ページ該当 （講義前演習）国会、内閣に関する確認テスト	（予習） テキスト 90-91,98-109 ページを読んで、国会の性格、国会の権限について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 12 回	（講義）国会②、内閣 前回に引き続き、国会の権能や議院内閣制、内閣について講義をする。そして、行政権を担当する内閣の権限や機能を説明をする。テキスト 98～109 ページ該当 （講義前演習）国会、内閣に関する確認テスト	（予習） テキスト 90-91,98-109 ページを読んで、議院内閣制の仕組み、内閣の権限について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 13 回	（講義）裁判所① 国会、内閣に次いで、統治機構の三本柱の一角を占める裁判所について講義をする。裁判所は基本的人権の砦として、国民の権利や自由を守る役割を果たしている。また、中立的な裁判を実現するために、司法権の独立という仕組みも導入されている。このような点から、裁判所が憲法を頂点とした法の支配を実現するために果たす役割、第 13 回では、司法権という概念、三審制（司法制度）、司法権の独立を説明をする。テキスト 110～117 ページ該当 （講義前演習）裁判所に関する確認テスト	（予習） テキスト 110-117 ページを読んで、司法権の概念、司法権の独立について理解する。 （復習） 講義ノートの整理

第 14 回	（講義）裁判所② 前回に引き続き、司法権の講義をする。裁判所に重要な役割の一つに、違憲審査権（違憲立法審査権）が憲法によって定められている。これは法の支配を実現する手段として、国会や内閣に対する裁判所の抑制機能となっている。そこで、国民の基本的人権を守るために機能する違憲審査権が政治的権力である国会や内閣に対して、どのような抑制機能を果たすのかを説明していくことにする。テキスト 110〜117 ページ該当 （講義前演習）裁判所に関する確認テスト	（予習） テキスト 110-117 ページを読んで、三権分立の構造の中で、違憲審査権が占める役割について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 15 回	総括試験の実施	

1.授業コード（ナンバリング）	LAW303-Y01	2.科目名	政治社会学	3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤理史				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目は、社会学的な立場から「政治」について考えるための枠組みとしての、政治社会学について学習することを目的とする。最終的に、政治と社会の間の様々な関係（政治／社会問題）について、政治社会学的な立場から解釈・考察できるようになることを目指す。 【概要】 本科目では、講義形式により、権力、民主主義、階級・階層、福祉国家やナショナリズムなどの理論や概念について学ぶとともに、主に日本の有権者の政治参加や政治文化、世論の実態についてもデータを元に確認していく。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標 ①政治社会学についての様々な理論や概念、実態に関する専門知識を習得できる。 ②様々な政治／社会問題について、政治社会学的な立場から解釈・考察できる。 ③根拠となる統計データにアクセスし、適切に解釈・考察できる。 ［関連するディプロマポリシー］ （3）多様性理解（4）問題発見・解決力（6）専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	教科書は指定しない。授業資料は WebClass 上で配布する。				
20.参考文献	参考書は毎回の授業中に紹介する。				
21.成績評価	小テスト：60% 最終試験：40%（未受験の場合は不可）				
22.コメント	［連絡方法］ 授業についての質問や相談は、授業終了後またはメールで対応する。 連絡先：授業資料に記載するメールアドレス ［履修上の注意］ ①授業内容や順番は諸事情により変更する可能性がある。 ②臨時試験の方法については授業内で説明する。 ③私語は厳禁とする。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回	ガイダンス（政治社会学とは何か） 授業の進め方、学習目標や成績評価について説明した後、政治社会学とは何かについて学習する。	［事前学習］授業資料の確認 ［事後学習］授業内容の復習 ［評価］オンライン小テストの受験
第 02 回	権力 Weber による古典的な権力概念を出発点として、様々な権力概念等について学習する。	［事前学習］授業資料の確認 ［事後学習］授業内容の復習 ［評価］オンライン小テストの受験
第 03 回	民主主義 民主主義とは何か、様々な民主主義の概念等について学習する。	［事前学習］授業資料の確認 ［事後学習］授業内容の復習 ［評価］オンライン小テストの受験

第 04 回	階級・階層 Marx と Weber の階級論、階級と階層の違いや政治との関係、測定方法等について学習する。	［事前学習］授業資料の確認 ［事後学習］授業内容の復習 ［評価］オンライン小テストの受験
第 05 回	福祉国家 福祉国家とは何か、福祉国家の歴史的展開、福祉国家のバリエーション（福祉国家レジーム論）や、福祉国家としての日本の現状等について学習する。	［事前学習］授業資料の確認 ［事後学習］授業内容の復習 ［評価］オンライン小テストの受験
第 06 回	ナショナリズム ナショナリズムとは何か、ナショナリズムの多様な側面とその帰結等について学習する。	［事前学習］授業資料の確認 ［事後学習］授業内容の復習 ［評価］オンライン小テストの受験
第 07 回	世論と政治 世論とは何か、世論の測定方法、世論が政治において果たす役割等について学習する。	［事前学習］授業資料の確認 ［事後学習］授業内容の復習 ［評価］オンライン小テストの受験
第 08 回	政治参加（投票参加） 政治参加とは何か、また政治参加のうち、最も一般的な投票参加の実態等について学習する。	［事前学習］授業資料の確認 ［事後学習］授業内容の復習 ［評価］オンライン小テストの受験
第 09 回	政治参加（投票外参加） 政治参加のうち、投票参加以外の様々な政治参加の実態等について学習する。	［事前学習］授業資料の確認 ［事後学習］授業内容の復習 ［評価］オンライン小テストの受験
第 10 回	政治文化 政治文化論とは何か、脱物資主義化という価値観変容やその政治的帰結等について学習する。	［事前学習］授業資料の確認 ［事後学習］授業内容の復習 ［評価］オンライン小テストの受験
第 11 回	ジェンダーと政治 政治におけるジェンダー不平等について、女性議員数や有権者の政治参加の実態等から学習する。	［事前学習］授業資料の確認 ［事後学習］授業内容の復習 ［評価］オンライン小テストの受験
第 12 回	福祉国家と世論 福祉国家と世論の関係について、理論や実証研究の流れを整理するとともに、日本の現状等についても学習する。	［事前学習］授業資料の確認 ［事後学習］授業内容の復習 ［評価］オンライン小テストの受験
第 13 回	生活保護と世論 生活保護（制度・受給者）と世論の関係について、理論や実証研究の流れを整理するとともに、日本の現状についても学習する。	［事前学習］授業資料の確認 ［事後学習］授業内容の復習 ［評価］オンライン小テストの受験
第 14 回	復習 今までの授業の復習と授業に関連する映画を視聴し、理解を深める。	今までの授業の復習
第 15 回	最終試験	最終試験の受験

1.授業コード（ナンバリング）	LIN101-A01	2.科目名	英語学Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	長瀬慶來				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻 初等英語教育コース			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	高校教諭１種(英語)　中学教諭１種(英語) 中学教諭２種（英語）	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および実習		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	英語学の基礎知識を音声音韻から始め、形態論、統語論、意味・語用論等の分野に進んでいく。 併せて、英語の歴史をその成り立ちから、世界に広がっていった過程とその結果生じた様々な方言・アクセントについて検討していく。同時に、言語習得の観点から、英語教育と第２言語習得についても見ていく。				
18.学習目標とＤＰとの関連	1.　コミュニケーション能力 2.　課題発見・課題解決能力 3.　第２言語習得に関する専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	長谷川 瑞穂　編著『はじめての英語学 改訂版』2014　研究社				
20.参考文献	講義内で指示する予定です。				
21.成績評価	小課題　10% パフォーマンス・プレゼンテーション　30% レポート　20% 試験　40%				
22.コメント	積極的な参加と英語によるパフォーマンスの向上を期待します。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー　水曜日昼休み 研究室オフィスアワー　　木曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回：４月12日：イントロダクション	１．ことばの起源 ２．言語研究（教科書第１章＆第２章）	第１章および第２章の課題
第２回：第３章、第４章	３．英語の発音とスペリング ４．英語の語彙の多様性	第３章及び第４章の課題
第３回：第５章、第６章	５．標準英語の成立 ６．英語のバリエーション	第５章及び第６章の課題
第４回：第７章	７．言葉の変化	第７章の課題
第５回：第８章、第９章	８．ことばと音声 ９．音の組み合わせとアクセント	第８章、及び第９章の課題
第６回：第10	10．単語ができるしくみ	第10章の課題

章		
第 7 回：第 11 章、第 12 章	11. 文ができるしくみ 12. 文の内部構造	第 11 章、及び第 12 章の課題
第 8 回：第 13 章、第 14 章	13. 言葉の意味とは何だろう 14. 語の間の意味関係	第 13 章、及び第 14 章の課題
第 9 回：第 15 章、第 16 章	15. 意味の拡張 16. 言葉の意味に見られる主観性	第 15 章、及び第 16 章の課題
第 10 回：第 17 章、第 18 章	17. 言葉の意味とコンテクスト 18. まとまりのある文章	第 17 章、及び第 18 章の課題
第 11 回：第 19 章、第 20 章	19. 文章中の情報構造 20. ことばのやりとりにおけるルール	第 19 章、及び第 20 章の課題
第 12 回：第 21 章	21. コミュニケーションの民族誌	第 21 章の課題
第 13 回：第 22 章	22. 英語と文化	第 22 章の課題
第 14 回：第 23 章 第 15 回：ふりかえりと試験	23. ことばと社会 全体のふりかえりと試験	第 23 章の課題 全体のふりかえりと試験
		最終レポートの持参

1.授業コード（ナンバリング）	LIN101-Y01	2.科目名	英語学Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	有本純				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科、英語教育学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校教諭 1 種(英語)　中学教諭 1 種(英語)	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	lecture, group work, presentation		
16.履修制限	none				
17.授業の目的と概要	目的：It is necessary for the students to acquire knowledge and concepts of English linguistics to apply the knowledge for communication and to know much about the English language. 概要：　This is an introductory course in English linguistics so that the studen				
18.学習目標とＤＰとの関連	DP(4) 問題発見・解決力の学修に関連しています。 1) Students will be able to understand phonetics and morphology to analyze language data. 2) Students will be able to get used to using an English-English dictionary for paraphrasing. 3) Students will be able to give a short presentation of the assignment.				
19.教科書・教材	None. Handouts are given in each class (All the handouts are on the Web Class).				
20.参考文献	Need an English-English Dictionary such as Longman (LDCE), or Oxford (OALD) for weeks 8-15, either a paper or an electronic one.　（7 回目の授業から「英英辞典」が必要です）				
21.成績評価	1) Homework：4 点×8 回=32%　学習目標 1 ・ 2 に対応 2) Quiz：　6 点×3 回=18% (review questions)　学習目標 1 ・ 2 に対応 3) Presentation & Report: 10% (short presentation:5 & its summary:5 <loan words>)　学習目標 3 に対応 4) Exam 40% (how you understand this course)　（配付資料・辞書参照可）　学習目標 1 ・ 2 に対応 ＊合格基準：H				
22.コメント	1. Understanding is the key to this course, no memorizing work. For the final exam, y o u　c a n　bring a dictionary and the handout given to the Web Class. （総括試験は配布資料、辞書の持ち込み可です。理解することが重要で、暗記は必要ありません） 2. Your submission after the deadline will not be accepted except due to unavoidable circumstances. （締切期限を過ぎた提出は、やむを得ない場合を除いて、受け取りません） ３．　Ｕｓｅ　the format for your all submissions. If you do not use the format, you will lose points. （提出物は、決められた書式を用いて下さい。守れない場合は減点します。） 4. Use "Message" in the WebClass when you send an email to me. （担当者への連絡は、WebClass のメッセージを使用すること。それ以外のメールは受け取りません。） 5. Ask any question in the class or write a question on the attendance card. If you do not write anything, you are treated as leaving the class early. （出席カードの裏面に、質問あるいは感想を必ず書いて下さい。記入がない場合は早退扱				

	い） 6. Even in bad weather or when train service is temporarily stopped, we have a class via Zoom. In that case, please check “Message on Web Class.” I will send you the Zoom information (URL) in the early morning. （対面授業が困難な状況になった場合は、遠隔授業出対応します。早朝に Zoom の URL を WebClass から送信するので、必ず確認して下さい。本人の確認ミスで参加できない場合は、欠席扱いとします。） 7. Do not use your smartphones in class! （授業中のスマホ使用禁止）
23.オフィスアワー	なし

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	Introduction (Class Rules, Syllabus, Course Objectives) What is linguistics? Try to make a rule (group/pair work)	WHK 1 (Who use English in the world?)
2	World Englishes, Differences between American & British English	HWK 2 (UK vs. USA words)
3	English Sounds 1 (speech organs, phonetic symbols)	review
4	English Sounds 2 (prosody: stress, rhythm, intonation & sound change) Group Activity: Jazz Chants	Prepare for the Short Presentation on loan words
5	Syllable & Mora (English vs. Japanese, syllable structure) Presentation & Discussion: Loan Words in English	HWK 3 (syllable structure)
6	History of English Language (three main eras: sound, word, grammar, etc.)	Write a report on your presentation, Submit Report 1 （Ｗｅｂ Ｃｌａｓｓ）
7	Lecture & Activity: Dictionary Work 1 (How to use E-E dictionary as a tool for communication)	Bring an E-E dictionary either paper or electronic one in every class. ＊以後、英英辞書なしでは授業に参加させない
8	Lecture & Activity: Dictionary Work 2 (two ways of using E-E dictionary), Quiz 1	Bring an E-E dictionary either paper or electronic one.
9	Activity: Dictionary Work 3 (practice 1)	・Bring an E-E dictionary ・HWK 4 dictionary work practice
10	Activity: Dictionary Work 4 (practice 2), Quiz 2	・Bring an E-E dictionary ・HWK 5 dictionary work practice
11	Lecture: Morphology 1 (morpheme, DA & IA)	・Bring an E-E dictionary ・HWK 6 dictionary work practice
12	Lecture & Activity: Morphology 2 (stem, base, derivation, inflection)	HWK 7 analyzing words
13	Activity: Morphology 3 (analyzing words into morphemes), Quiz 3	HWK 8 analyzing words, review
14.	Activity: Morphology 4 (Practice 3) , Review (Q&A)	Review for the Exam
15	Final Exam: You can use a dictionary and handouts but no computers or smartphones. （総括試験：配付	

	資料・辞書参照可、PC・スマホ不可）	

1.授業コード（ナンバリング）	LIN201-A01	2.科目名	英語音声学	3.単位数	2
4.授業担当教員	長瀬慶來				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育学部（初等英語教育コース） 国際コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	高校教諭１種(英語)、中学教諭１種(英語)	11.先修条件	英語学１を履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	lecture, activity		
16.履修制限	教職課程の学生は必修 PC 教室は間を空けて着席するため、最大 24 名までとし、それ以上の場合は抽選をします。受講を希望する学生は、第１回目の授業に必ず出てください。				
17.授業の目的と概要	目的：英語音声学の理論的側面を学び、自身の発音を改善して EIL（国際語としての英語）を基準とするレベル以上に発音能力を引き上げることを目的としている。 概要：調音音声学の各分野、即ち、prosody と呼ばれる強勢、リズム、イントネーションに関する理論と発音指導による矯正を行い、合わせて子音・母音といった個別音についても、同様に理論と実践の両面を扱う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	DP(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 1)日本語の音声と比較し、英語音声学の理論を説明できる ２）英語発音が英語指導者レベルにまで達する				
19.教科書・教材	片山、長瀬、上斗『英語音声学の基礎』研究社　ISBN9784327421342				
20.参考文献	必要に応じて、授業中に指示する。				
21.成績評価	１）発音テスト：８点×５回=40 点　（文強勢、イントネーション、音声変化、子音、母音）学習目標２に対応 ２）レポート：10 点×２回=20 点　（母音および子音に関する課題）学習目標１に対応 ３）総括試験：40 点　（筆記および発音実技） ＊合格基準：発音テスト３回以上受験、レポートは２回とも提出、総括試験を受験				
22.コメント	発音ソフトを使用する。 必要な資料は Web Class で配布する。 ＊オンライン授業になった場合は、録音用アプリの使い方について、別途説明する。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み センターオフィスアワー：木曜日お昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	導入（シラバス説明、発音評価アプリの使用説明)、発音診断テスト 、 発音器官の構造と名称、子音・母音の分類基準と発音記号について	予習：教科書　第７章（45 分）
2	発音診断テストの返却と説明、第７章 語強勢、文強勢、リズム（発音練習）	予習：教科書　第６章、発音練習（60 分）
3	第６章 弱形（聞き取りと発音)、音節、音節構造、音節主音	予習：教科書　第８章、発音練習（60 分）
4	第８章 イントネーション１（ピッチ、音調核、種類と文法・話者の心的態度との関係）	予習：教科書　第８章、発音練習（60 分）
5.	第８章 イントネーション２（発音練習)、発音テスト	予習：教科書　第５章、発音練習（60 分）

	1（文強勢）	
6	第5章 音声変化（連結、脱落、同化、弱化）、発音テスト1の返却と説明	予習：教科書　第3章、発音練習（60分）
7	第3章 子音1（破裂音、鼻音、摩擦音）、発音テスト2（イントネーション）	予習：教科書　第3章、発音練習（60分）
8	第3章子音2（破擦音、側音、接近音、子音群）、発音テスト2の返却と説明	予習：教科書　第4章、発音練習（30分）、レポート1作成（60分）
9	第4章 母音1（前舌）、発音練習、発音テスト2の返却と説明 レポート1　Web Classへ提出	予習：教科書　第4章、発音練習（60分）
10	第4章 母音2（中舌、後舌）、子音の復習、発音テスト3（音声変化）	予習：教科書　第4章、発音練習（60分）
11	第4章 母音3（二重母音）、発音練習、発音テスト3の返却と説明	レポート2作成（60）、発音練習（30分）
12	第4章 母音の復習、パラグラフの音読、発音テスト4（子音） レポート2：　Web Classへ提出	復習、発音練習（50分）
13	パラグラフの音読、発音テスト4の返却と説明、発音テスト5（母音）	復習、音読練習（90分）
14	パラグラフの音読、全体の復習、発音テスト5の返却と説明	復習、音読練習（90分）
15	総括試験（筆記と発音実技）	

1.授業コード（ナンバリング）	LIN202-A01	2.科目名	英語音声学 I	3.単位数	2
4.授業担当教員	長瀬慶來				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育学部（初等英語教育コース） 国際コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	高校教諭 1 種(英語)、中学教諭 1 種(英語)	11.先修条件	英語学 1 を履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	lecture, activity		
16.履修制限	教職課程の学生は必修 PC 教室は間を空けて着席するため、最大 24 名までとし、それ以上の場合は抽選をします。受講を希望する学生は、第 1 回目の授業に必ず出てください。				
17.授業の目的と概要	目的：英語音声学の理論的側面を学び、自身の発音を改善して EIL（国際語としての英語）を基準とするレベル以上に発音能力を引き上げることを目的としている。 概要：調音音声学の各分野、即ち、prosody と呼ばれる強勢、リズム、イントネーションに関する理論と発音指導による矯正を行い、合わせて子音・母音といった個別音についても、同様に理論と実践の両面を扱う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	DP(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 1)日本語の音声と比較し、英語音声学の理論を説明できる ２）英語発音が英語指導者レベルにまで達する				
19.教科書・教材	片山、長瀬、上斗『英語音声学の基礎』研究社　ISBN9784327421342				
20.参考文献	必要に応じて、授業中に指示する。				
21.成績評価	１）発音テスト：８点×５回=40 点　（文強勢、イントネーション、音声変化、子音、母音）学習目標２に対応 ２）レポート：10 点×２回=20 点　（母音および子音に関する課題）学習目標１に対応 ３）総括試験：40 点　（筆記および発音実技） ＊合格基準：発音テスト３回以上受験、レポートは２回とも提出、総括試験を受験				
22.コメント	発音ソフトを使用する。 必要な資料は Web Class で配布する。 ＊オンライン授業になった場合は、録音用アプリの使い方について、別途説明する。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み センターオフィスアワー：木曜日お昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	導入（シラバス説明、発音評価アプリの使用説明)、発音診断テスト 、 発音器官の構造と名称、子音・母音の分類基準と発音記号について	予習：教科書　第 7 章（45 分）
2	発音診断テストの返却と説明、第 7 章 語強勢、文強勢、リズム（発音練習）	予習：教科書　第 6 章、発音練習（60 分）
3	第 6 章 弱形（聞き取りと発音)、音節、音節構造、音節主音	予習：教科書　第 8 章、発音練習（60 分）
4	第 8 章 イントネーション 1 （ピッチ、音調核、種類と文法・話者の心的態度との関係）	予習：教科書　第 8 章、発音練習（60 分）
5.	第 8 章 イントネーション 2 （発音練習)、発音テスト	予習：教科書　第 5 章、発音練習（60 分）

	1（文強勢）	
6	第5章 音声変化（連結、脱落、同化、弱化）、発音テスト1の返却と説明	予習：教科書　第3章、発音練習（60分）
7	第3章 子音1（破裂音、鼻音、摩擦音）、発音テスト2（イントネーション）	予習：教科書　第3章、発音練習（60分）
8	第3章子音2（破擦音、側音、接近音、子音群）、発音テスト2の返却と説明	予習：教科書　第4章、発音練習（30分）、レポート1作成（60分）
9	第4章 母音1（前舌）、発音練習、発音テスト2の返却と説明 レポート1　Web Classへ提出	予習：教科書　第4章、発音練習（60分）
10	第4章 母音2（中舌、後舌）、子音の復習、発音テスト3（音声変化）	予習：教科書　第4章、発音練習（60分）
11	第4章 母音3（二重母音）、発音練習、発音テスト3の返却と説明	レポート2作成（60）、発音練習（30分）
12	第4章 母音の復習、パラグラフの音読、発音テスト4（子音） レポート2：　Web Classへ提出	復習、発音練習（50分）
13	パラグラフの音読、発音テスト4の返却と説明、発音テスト5（母音）	復習、音読練習（90分）
14	パラグラフの音読、全体の復習、発音テスト5の返却と説明	復習、音読練習（90分）
15	総括試験（筆記と発音実技）	

1.授業コード（ナンバリング）	MED101-M01	2.科目名	形態機能学Ⅰ（運動器・神経系）	3.単位数	2
4.授業担当教員	藤永竜太郎				
5.授業科目の区分	人間と健康	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	この科目は、形態機能学Ⅱと共に医療従事者として活動する際の基本となる人体の構造と機能に関する知識を身につけることを目的とします。講義では、人体の見方や人体の階層性を含む概論的な内容に加え、各器官系の中でも特に運動器系、内分泌系、神経系の構造とその機能について解説します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①人体の構造や機能について、適切な言葉を用いて説明できる。 ②人体の構造や機能について、個別的にではなく、全体を統合的に理解できる。				
19.教科書・教材	教科書：坂井健雄・岡田隆夫：「系統看護学講座・解剖生理学」医学書院（形態機能学Ⅱと共通） 講義は毎回パワーポイントで行い、そのスライドを講義資料として配付します。				
20.参考文献	藤田恒夫 著：「入門人体解剖学」：南江堂 牛木辰男 著：「入門組織学」：南江堂 林正健二：「ナーシンググラフィカ・解剖生理学」メディカ出版 坂井健雄/河原克雅：「人体の正常構造と機能」日本医事新報社 J. W. Rohen/横地千/E. L.-Drecoll：「解剖学カラーアトラス」医学書院 A. R. Crossman/D. Neary 著；野村嶬/水野昇　訳：「神経解剖カラーテキスト」医学書院				
21.成績評価	① 評価の方法（期末テスト） ② 成績の配分（テスト 95%、学習態度 5%） ③ 合格基準（60％以上の評価で合格となる）				
22.コメント	カリキュラム後に他の科目などの中でキーワードに出会う度に復習すること、また、日常生活の中で自分の体の構造や機能を意識するとよいかもしれません。その繰り返しが重要です。				
23.オフィスアワー	メールで連絡してください。いつでもどうぞ。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 〜2 回	細胞から個体への階層性、人体の見方	
第 3〜4 回	皮膚、骨組織、全身の骨格系	
第 5〜6 回	筋組織、全身の筋系	
第 7〜8 回	内分泌系	
第 9〜13 回	神経系（神経組織、中枢神経と末梢神経)、感覚器系	
第 14 回	まとめ	
第 15 回	試験	

1.授業コード（ナンバリング）	MED102-M01	2.科目名	形態機能学 II （循環器・内臓系）	3.単位数	2
4.授業担当教員	南和光、蛭子真澄				
5.授業科目の区分	人間と健康	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	正常な人体の構造とはたらきの習得は、異常(疾病)を理解するうえでの前提となる。 本講は解剖学・生理学を統合した形態機能学との形で講義を進めていきます。 具体的には本講で循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系および生殖器系の構造とその機能の知識を臨床との関わり交えながら論じていきます。生殖器系については助産師国家試験受験資格の取得(別表 2)に必要な助産診断学・技術学の基本となる内容を含んでいます。 なお、本科目の授業は、オンデマンド方式と対面方式の授業をブレンドして実施します。 オンデマンド方式の授業で				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目で学ぶと次の学習目標に到達することができます。 まず、 1）循環器系、2）呼吸器系、3）消化器系、4）泌尿器系、5）生殖器系 …の正常な状態と機能についての基礎知識を習得し説明できるようになります。(別表 2 含む) そして、 その系の統合された人体のホメオスターシスについて理解できるようになります。 本科目の学習目標に関連する学科 DP（ディプロマポリシー）は、(6）専門的知識・技術の活用力です。				
19.教科書・教材	坂井建雄，岡田隆夫（2014）．系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能[1]　解剖生理学　第 11 版．　東京．医学書院.				
20.参考文献					
21.成績評価	本科目では、以下の学習成果にもとづいて成績評価します。 （1）毎回のコメントシートの投稿×15 回（30%） （2）練習テスト（10%） （3）最終テスト（60%）				
22.コメント	解剖・生理学はほぼ暗記です。従って面白いものでは有りません。しかし今後学習してゆく看護学（医学）の総ての基本マップです。正しく納得して理解していないと、将来、現場に出た時の職務遂行に支障を来します。健闘を期待します。 レジメが重要です。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	本科目では、5・6・7 月の木曜日の 4 限が対面方式の授業実施となります。 つまり、以下の授業回・期日が対面授業です。 第 4 回　5/2 第 8 回　5/30 第 12 回　6/27 第 15 回　7/18 ※予定が変更になる場合は別途連絡をします。	
第 1 回から第	本科目の授業で学ぶ学習教材は、WebClass に掲載しま	本科目では、各回で定められた期間のうちに

15 回の主な授業内容	す。 掲載する教材のテーマは以下のとおりです。 ---- （1）細胞組織の形態と機能 （2）受精、胎児発育の形態と機能 （3）循環器系??液の成分・機能、?臓の構造と機能、?管の構造と機能、全?の動脈系、全?の静脈系、胎児循環、リンパ管とリンパ性器官 （4）呼吸器系?気道・肺の構造と機能、呼吸の?理 （5）消化器系??腔・咽頭・?道・胃・?腸・? 腸・肝臓・膵臓の構造と機能、栄養と代謝 （6）泌尿器系?腎臓の構造と機能、尿路の構造、 体液・酸塩基平衡	学んだことを、WebClass から投稿する、「コメント投稿」を各授業回の課題とします。 上述のとおり、コメント投稿は【成績評価の対象】となっています。必ず各回の〆切を守って、期間中に投稿しましょう。 なお、このコメント投稿は【出席のカウント】にも利用されます。 期限内の投稿を怠ることが【5 回】を超えると「資格喪失」となり、成績評価されないことになります。あらかじめ注意しておいてください。

1.授業コード（ナンバリング）	MED103-M01	2.科目名	薬理学	3.単位数	1
4.授業担当教員	小茂池潤太				
5.授業科目の区分	人間と健康	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】本講義では、看護学を学ぶうえで必要不可欠な「薬理学」に関する基礎的知識の習得をねらいとします。【概要】具体的には、疾病の予防あるいは治療に有益なアイテムとしての薬物の効果、作用機序、有害作用などについて学習するとともに、薬物の臨床的応用と使用上の注意・禁忌・倫理的配慮について学びます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 学習目標：「薬理学」に関する基礎的知識の習得				
19.教科書・教材	「わかりやすい薬理学　第 4 版」安原一、小口勝司　編集：ヌーヴェルヒロカワ　ISBN 978-4-86174-054-1				
20.参考文献	なし				
21.成績評価	各講義の小テスト　10 点×8 回　80 点（解答期間：講義終了後～次回の講義の前日まで） 講義以外の小テスト　20 点（解答期間：最終講義終了後～7 月 31 日） 合計：100 点満点とします。 各講義の小テスト問題は、講義の際に配布する過去の国家試験問題を中心に出題します。 講義以外の小テスト問題は、別途配布する過去の国家試験問題を中心に出題します。				
22.コメント	教科書に沿った授業展開を原則とします。加えて、必要に応じて追加資料を配布するなど知識の定着に努めます。				
23.オフィスアワー	講義開始前 30 分、講義終了後 30 分程度、講義控室での質問を受け付けます。また、メールでの質問を随時、受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	第 1 章　総論 Ⅰ　薬理学の概念 Ⅱ　小児、妊婦、高齢者の薬物治療 Ⅲ　医薬品の管理	
第 2 回	第 2 章　末梢神経系作用薬 Ⅰ　自律神経作用薬 Ⅱ　筋弛緩剤 Ⅲ　局所麻酔薬 第 3 章　中枢神経系作用薬	
第 3 回	第 4 章　心臓・血管作用薬 Ⅰ　抗高血圧薬（降圧薬） Ⅱ　心臓作用薬	
第 4 回	第 4 章　心臓・血管作用薬 Ⅲ　輸液・腎臓作用薬 Ⅳ　血液・造血器系作用薬	
第 5 回	第 5 章　抗炎症薬	
第 6 回	第 6 章　呼吸器系作用薬	

	第 7 章　消化器系作用薬	
第 7 回	第 8 章　ホルモン系・生殖器系作用薬 　Ⅰ　ホルモン系作用薬 　Ⅱ　生殖器系作用薬	
第 8 回	第 9 章　抗感染症薬 　Ⅰ　抗感染症薬 　Ⅱ　消毒薬 第 10 章　抗悪性腫瘍薬 第 11 章　漢方薬	

1.授業コード（ナンバリング）	MED105-M01	2.科目名	免疫学	3.単位数	1
4.授業担当教員	上田晴康				
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	専門基礎科目			9.履修学年	看護学科
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	【目的】医療職者として必要な免疫学的基礎知識を習得する。これらを通じて、SDGs 4 「すべての人に包摂的かつ公平な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」ものとする。 【概要】病原体に対する生体防御機構としての免疫の仕組み、免疫の破綻・異常がもたらす疾患（アレルギーや自己免疫疾患、免疫不全など）について学ぶ。その他、がんに対する免疫応答や臓器移植に関わる免疫応答などについて学習する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（６）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①生体防御の仕組みとしての免疫を理解する。 ②感染症やがん、アレルギーなどの疾患のメカニズムを説明することができる。				
19.教科書・教材	授業開始時にオリジナルテキストを配布				
20.参考文献	『インテグレーテッドシリーズ２　免疫学・微生物学』　JEFFREY K. ACTOR 著　東京化学同人 『初めの一歩は絵で学ぶ　免疫学　「わたしの体」をまもる仕組み』　田中稔之著　じほう				
21.成績評価	提出課題（50%）、本試験（50%）				
22.コメント	大学で初めて学ぶ「免疫学」は、耳慣れない言葉や用語も多く難解に思えるだろうが、知らない言葉が出てきたら、スルーせずにその都度、意味を調べて理解することに努めて欲しい。もちろん、質問は随時受け付ける。				
23.オフィスアワー	講義終了時あるいはメール（***）にて対応する。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	免疫を構成する要素（免疫組織と免疫担当細胞／自己と非自己の識別）	★課題提出 復習：授業ノートの整理
第２回	抗原抗体反応とその利用（検査・診断／予防接種と血清療法）	★課題提出 復習：授業ノートの整理
第３回	免疫システム（１）～自然免疫と獲得免疫／免疫記憶	復習：授業ノートの整理
第４回	免疫システム（２）～細胞性免疫と液性免疫／サイトカイン	復習：授業ノートの整理
第５回	感染防御免疫／腫瘍免疫／分子標的薬	★課題提出 復習：授業ノートの整理
第６回	移植免疫（移植片拒絶と移植片対宿主病）	★課題提出 復習：授業ノートの整理
第７回	正常な免疫応答による疾患（炎症とアレルギー）	★課題提出 復習：授業ノートの整理
第８回	免疫の異常と破綻による疾患（自己免疫疾患と免疫不全）	復習：授業ノートの整理

1.授業コード（ナンバリング）	MED206-Y01	2.科目名	精神疾患とその治療	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	公認心理師	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	【目的】 ①代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援 ②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化 ③医療機関との連携 【概要】 授業を通して、公認心理師として上記の 3 つの目的を理解する必要性について考える。 WebClass を使用し、目的の理解を進める。				
18.学習目標とＤＰとの関連	公認心理師受験資格取得を目指す学生として、授業での課題に自律的に関わり、他職種の人とどのように関わるか、心理的支援を要する者とその関係者などとのコミュニケーションスキルを高める。 本科目の学習目標は、以下の 4 つである。 ①代表的な精神疾患について説明できる。 ②精神疾患と関わる薬物、心理療法について説明できる。 ③コンサルテーション・リエゾンについて理解する。 ④チーム医療について理解する。 【関連する DP(ディプロマポリシー)】 (1)自律性、(3)多様性理解、(5) コミュニケーションスキル				
19.教科書・教材	webclass に提示する。				
20.参考文献	公認心理師カリキュラム準拠 精神疾患とその治療 三村將他編著医歯薬出版　3,200 円＋税。その他、授業中に適宜紹介する。				
21.成績評価	webclass を利用した授業回毎の小テスト、レポート@5×13 点 webclass を使用した総括試験（全範囲の知識が獲得されたか）35 点				
22.コメント	何が課題なのかを考えながら、受講して欲しい。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：神戸山手Ｃ水曜日昼休み、センターオフィスアワー：同Ｃ火曜日昼休み 希望者は、事前にメールで予約を取って欲しい。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	イントロダクション 授業の目的、学習目標と DP との関連、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法、心理学と精神医学の関連	予習：心理学と精神医学の関係を考える。 復習：授業内容をレポートとして報告する。
第 2 回	精神疾患と精神医学	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 3 回	精神疾患の診断と診断基準	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト

第 4 回	精神疾患の治療	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 5 回	統合失調症	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 6 回	うつ病と双極性障害	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 7 回	不安障害と強迫性障害	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 8 回	ストレスとストレス関連障害	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 9 回	心身症	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 10 回	アルコールと薬物	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 11 回	発達障害	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 12 回	摂食障害とパーソナリティ障害	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 13 回	認知症	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 14 回	総括試験	
第 15 回	まとめと解説	授業アンケート

1.授業コード（ナンバリング）	MNG101-A01	2.科目名	経営学概論		3.単位数	4
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件		11.先修条件	なし			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	●目的 私たちのいる社会は企業の活動がなくて存在し得ません。経営学を学ぶことは，これから皆さんが社会にはじめて踏み出すうえで，とても役立つ知識です。経営学は「お金儲け」の道具ではありません。「良い経営をするための方法を研究する学問」ですが，経営学がうみだしてきた知識は膨大です。それだけに経営学の範囲は広く，内容も複雑です。 まず，この講義の目的は，まず，はじめて経営学を学ぶ受講生に，企業経営の根幹にある経営学がどういうものであるのか，経営学の全体像を理解してもらいます。そして，これから 4 年間をかけて経営学					
18.学習目標とＤＰとの関連	科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学習に関連しています。 (1)経営学の基礎的な知識を理解します。 (2) 自分の考えを，整理して他者に伝えることができようにします。 (3)現実企業経営の問題に対して，経営学のフレームを通して，その見方を説明する力をつけます。					
19.教科書・教材	・加護野忠男･吉村典久(2021)『1 からの経営学(第 3 版)』碩学舎/中央経済。 ISBN：978-4-502-37521-7					
20.参考文献	・伊丹敬之･加護野忠男(2022)『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版。 ISBN-978-4-532-13526-3（中古で多く出回っている「ゼミナール経営学入門第 3 版」でも同じです。） ・遠藤功(2020)『ビジネス新･教養講座　企業経営の教科書』日本経済新聞出版。 ISBN：978-4-532-11431-2(今日的な事例をあげて，経営を解説しています) ・日本経営協会(2023)『マネジメント検定試験公式テキスト(Ⅲ級）－経営学の基本』中央経済社。ISBN：978-4-502-43511－9					
21.成績評価	・毎回の授業の振り返りアンケート：20%(授業への貢献度として評価します) －学習目標の(2)に対応します。 ・小テストを 6 回おこないます。30%　－学習目標の(1)に対応します。 ・グループによる課題発表：15%　　－学習目標の(3)に対応します。 ・総括試験(最終テスト)：35%　　－学習目標の(1)と(2)に対応します。					
22.コメント	・経営学は企業の現実を扱いますから，時代に応じて新しいテーマがたくさん生まれてきます。それに惑わされることなく現実の経営実践を理解するためには，理論的に依拠する基礎学問をもたなければならなりません。既存の基礎学問が作り上げてきた知識の基本をしっかり身につけることが大切です。 ・参考書に指定している『ゼミナール経営学入門』は厚い本ですが，心配しないでください。その中から基礎的な部分を取り出して講義します。他の部分はこの後の経営科目でも使って学					

	習していきます。4 年間をかけて，『ゼミナール経営学入門』の 1 冊をしっかり読み込んで経営学を理解していくイメージです。「4 年間をかけて社会に入る前に経営学の知識を自分のものにするんだ」と考えてください。この 1 冊をやり切ったことは，これから皆さんが，道を切り開いてくうえで，大きな自信と指標になります。 ・毎回テキストを読んでくる箇所を指定します。決して多くありませんので，必ず「読む」という習慣をつけましょう。テキストには，どんどん書き込んで，自分だけのオリジナルのテキストにしていってください。 そして，授業を通じて，思ったこと，考えたことを大切にしてメモするようにしてください。この蓄積があなたを変えていきます。考えながら学ぶことを続ければ，その時わからなかったことも，4 年後にはわかるようになり，自らの成長を実感できると思います。困ったことがあれば相談ください。
23.オフィスアワー	・センターオフィスアワー：(前期)水曜日第 2 限 10:45～12:15 ・研究室オフィスアワー：(前期)水曜日第 4 限 15:00～16:15(研究室 805)

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	●第 1 回：「オリエンテーション：経営学で学ぶことを学ぶ」 内容：これから使うテキストと授業の進め方の説明をします。最初にペア・ワークをおこなって，皆さんの「学び」の意識をはっきりさせます。その上で，「経営」という言葉について考えます。 2 回目以降は，このペアで学習していきます。 ●第 2 回：「企業とは何だろう」 企業とは何か，社会と経済，市場と流通，消費者の大きな視点から捉えて，世の中の構造を理解します。前回のペアで考えた課題を，今度はグループになってディスカッションします。経営学を学ぶとどのようなことに	・アサインメント 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに前回設定した 2 人のペアでしっかり読んでおいてください。
第 3 回 第 4 回	●第 3 回：「経営学の全体像①：まず大枠をつかむ。」 皆さんは，これから経営学の森に入っていきます。森の中の一本一本の木が，経営学の各科目分野です。経営学という森を作っているイメージです。木を見て森を見なければ迷子になります。経営学とは何かについて全体像をつかみます。経営学(広義:広い見方の経営学)には，どんな分野があるのか，広義の経営学の 3 本柱(経営学(狭義)，商学(マーケティング)，会計学)があることをつかみます 。 ●第 4 回：「経営学の全体像②：もう少し詳しく経営学に接近してみる」 ・最初に大枠をつ	・アサインメント 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに，2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 5 回 第 6 回	●5 回：「経営学はいつからはじまったのか」 ・経営学は，そんなに古い学問ではありません。20 世紀のはじめあたりです。しかし，それ以前にも経営するという行為はあったはずです。当時の時代背景から，経営学が何故，生まれたのかを理解します。経営学の始まりを知ればその体系がわかります。「経営」と「経営学」について考えてみましょう。 ●6 回：「会社には，どんなかたちがあるのか，企業形態を知る」	・アサインメント 2 人のペアでこれまでの知識を整理してください。経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに，2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。

	私たちの周りには多くの会社があります。我々の社会にはそれにはどんな形態の会社があるのでしょうか。そのなかでも，現代社会の	
第 7 回 第 8 回	●第 7 回：「会社は，誰のものか，所有と経営を考える」 ・私たちの周りには，多くの会社があります。我々の社会にはそれにはどんな形態の会社があるのでしょうか。そのなかでも，現代社会の発展に大きく寄与したのが株式会社という制度で，人類最大の発明ともいわれます。その株式会社の仕組みとその発展をみていきます。 ●第 8 回：「経営はだれにでもできるのか，マネジメントについて考える」 ・マネジメントとは何かを考えていきます。そして，内側のマネジメントと外側のマネジメントの 2 つのマネジメントにわけて経営学の中に入っていき	・アサインメント 2 人のペアでこれまでの知識を整理してください。経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。簡単な「読みもの」を伝えます。次回までに，しっかり読んで，自分の考えをまとめておいてください。
第 9 回 第 10 回	●第 9 回：「市場を理解しよう。外部環境のマネジメントについて考える」 ・カネを集めてくる(金融市場)，ヒトを集めてくる(労働市場)，製品･サービスを作って販売する（製品市場)，これらの市場との関係をどうマネジメントするのか，企業と市場との関わりを理解します。ここからの 4 回は，外部環境のマネジメントについて考えていきます ●第 10 回：「外部の環境のマネジメントについて考える①　経営戦略論」 ・経営戦略論は経営学の中心的な分野のひとつです。経営戦略は，長期的な視野にたって，組織のヒト，モノ，カネを使って，未	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 11 回 第 12 回	●第 11 回：「外部の環境のマネジメントについて考える②　競争戦略」 ・前回に引き続いて戦略論のその代表的なものを学習します。市場にいるのは自社の私たちだけでありません。そこには競争企業がいることを考えなければなりません。競争によって大きく企業の方向付けが変わることになります。事例から競争戦略について考えます。 ●12 回：「外部の環境のマネジメントについて考える③製品市場戦略」 ・製品には誕生してから，市場から消えるまでのライフ･サイクルがあります。製品ライフ･サイクルという視点で，経営戦略を捉えてみま	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 13 回 第 14 回	●13 回：「人々は何をしているのか，内部の組織のマネジメントを考える」 ・ここからは，内部のマネジメントに目をむけます。前回までの企業の「外部」環境に対して「内部」の位置づけにある組織を対象にします。これは，さらに組織という視点と，その組織を構成する人の視点からわ	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。

	けていきます。組織とは何か，という議論から考えていきます。 ●14 回：「組織のマネジメントを考える①　どのような組織が作られてきたのか」1-10 章 ・組織のかたち（組織構造）は様々にあります。これまでの企業の歴史的な経緯から，どのような組織が作	テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 15 回 第 16 回	●第 15 回：「組織のマネジメントを考える②　どのような組織の形がいいのか」 ・前回に学習した組織構造のバリエーションをベースにして，その組織の利点や問題点を確認し，唯一ひとつの正しい組織構造があるのかを，議論します。 ●第 16 回：「組織のマネジメントを考える③　人は労働力じゃない」 ・この回から組織を構成する「人」の内部に入っていきます。企業にとって従業員の活用はなぜ重要なのでしょうか，また，何によって動かされるのでしょうか。「やる気」を高めるにはどうすればいいでしょうか。動機づけ（モチベーション）の諸	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 17 回 第 18 回	●第 17 回：「組織のマネジメント④　リーダーシップとは何か」 ・優れたリーダーとはどういう人でしょう。リーダーの資質はその人固有のものでしょうか。リーダーの役割とリーダーシップの概念を学びます。組織のマネジメントのなかでリーダーシップの位置づけを理解します。 ●第 18 回：「組織のマネジメント⑤　学びをキャリア・デザインに応用する」(1:12 章) これまでの学びから，自らのキャリアをどうデザインするか。過去も未来もキャリアの一部です。「流されるままの人生でいいのか」主体的にキャリアを考えるには，これまでの	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 19 回 第 20 回	●第 19 回「イノベーションと経営者の役割を考える」 ・ここで，企業を動かす経営者の役割を考えます。そもそも経営者の範囲はどこまでを指すのでしょうか。経営者は何をしているのでしょうか。事例をみながら，企業が生む出すイノベーション（革新）とともに経営者の役割を考えます。 ●第 20 回「理念はなぜ重要なのか，経営理念と組織文化について考える」 ・組織を構成しているのは感情や違う考え方をもった生身の人間です。そういう企業組織の経営には，経営者がしっかり経営の理念を表明し，組織の文化を形成していくことが必要です。こ	アサインメント： 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 21 回 第 22 回	●第 21 回：「利益の追求は正しいことなのか，企業の社会的責任を考える。」 経営の目的は何でしょうか。経営者の役割は，利益を上げることや，株主に報いることだけではありません。もっと社会性を帯びたもので，今日の SDG s にも	アサインメント： 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass に

	つながります。そこに経営の規律づけとそのチェックの問題があらわれます。これはコーポレート･ガバナンス（企業統治）の問題として扱われます。事例をもとにしてこの問題を考えてみましょう。 ●第 22 回：「マーケティングのない企業に未来はない。マーケティングを学ぶ」 ・ここからは経営学の分野にある他	アップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 23 回 第 24 回	●第 23 回：「マーケティングとは何か，その基本概念を身につける」 ・前回に引き続きマーケティングはどのようなステップで進めていくのかを，理解します。マーケティングの基本的な理解が得られるよう皆さんに馴染みのある企業や製品を使って進めていきます。マーケティングを覚えるための知識ではなく，マーケティングという思考を日常に取り込むことを意識します。 ●第 24 回：「企業の状況を数字から読んでみよう。経営と会計の関係を理解する」 ・企業活動を会計の面から捉えておくことはとても重要です。会計の指標なく経営することは	アサインメント： 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 25 回 第 26 回	●第 25 回：「企業の状況を数字から読んでみよう。経営分析」 ・企業活動の結果である財務諸表はどんなものかをその構造を理解します。皆さんは就職活動のときに目にするものですから，経営の実体を数値で読みとく把握する練習をしてみます。 ・アサインメント： 来週は経営・マーケティング・会計の小テストです。第 3 回も見直しておきましょう。これらの内容やその関係が理解できているか確認します。経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感	経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 27 回 第 28 回	●第 27 回：「日本は世界で最も長寿企業が多いのはなぜか。ファミリー･ビジネスを考える」 ・日本は世界になかで，断トツに長寿企業が多い国で，海外からも注目されています。 何故，日本には，長寿企業が多いのでしょうか。それはファミリー･ビジネスにヒントがあります。いくつかのファミリー･ビジネスの事例をみて，その経営を考えてみます。 ●第 28 回：「国際化は決して遠い国の話ではない。国際経営について考える」(1:9 章) ・今日，グローバル化は避けて通りようがありません。企業活動のグローバルでの地理的な拡大とつなが	経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 29 回 第 30 回	●第 29 回：「まとめと総括：テストと経営学を通じて学んだこと」 ・ようやく経営学の入口が終わりました。経営学にはどんな分野があって，その各論でどのようなことを学	・アサインメント 今日のテストを振り返って，経営学概論のノートを見直して補強してください。毎回のように感想や思ったことは簡単に WebClass に

	習したのか，テストをおこない，経営学概論で学んだ内容を確認します。 ●第 30 回：「テストのフィードバックとこれからの経営学について」 ・テストの結果を全体で講評します。をディスカッションします。経営学を全体的にとらえるアプローチには，経営管理論，経営組織論，経営戦略論があります。また，個別的，専門的には人的資源管理，マーケティング論，財務･会計学	アップしおいてください。 ・アサインメント 次の経営学の学習にむけて，経営学概論のノートを完成させます。どこにつまずいたのか，さらにどの分野を伸ばしたいのか，印象に残ったことは何か，自らの考えを整理してください。

1.授業コード（ナンバリング）	MNG101-M01	2.科目名	経営学概論	3.単位数	4
4.授業担当教員	肖威				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	無し				
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 本科目はマネジメントの基本を学び、企業経営の仕組や基本的な経営戦略を理解することを目的とします。 【授業概要】 ・経営学はどんな学問なのか ・金儲けは正しいことなのか ・現代社会の中にどんな企業があって、企業経営はどのように成り立っているか ・どの業界でもたくさんの企業があり、競争が繰り広げられているが、その競争の中で経営がうまくできている会社とうまくいかない企業の違いは何か 以上のことを具体的な事例を通して学修し、就職や起業の知識の土台を築いていきます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連している。 具体的には、 ①経営学の領域と特徴を説明できる ②経営資源の意義を理解し、特徴を説明できる ③株式会社の仕組みを理解し、株主の責任や株主総会について説明できる ④経営戦略とは何か、基本的な競争戦略はどのようなものがあるかを把握することができる ⑤学修した知識を応用し、自分の興味を持つ業界や企業の競争戦略について、情報を収集し分析することができる				
19.教科書・教材	加護野忠男等編著『1 からの経営学』(第 3 版)碩学社（電子版）				
20.参考文献	伊丹敬之、加護野忠男著『ゼミナール　経営学入門』（第 3 版）日本経済新聞社、2004 年				
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 ・ワークシート・・・10 点　〈学習目標⑤に対応〉 ・第 1～3 章の小テスト・・・20 点〈学習目標①～④に対応〉 ・第 4～6 章を対象に小テスト・・・20 点　〈学習目標⑤に対応〉 ・第 7～9 章のテスト・・・20 点〈学習目標①～⑤に対応 ・グループ・ワーク・・・30 点（グループワーク 20 点、個人ワーク 10 点）　〈学習目標⑤に対応〉				
22.コメント	・経営学は主に企業を研究対象とする生きた学問です。日頃から企業や経済に関する様々な情報に関心を持ちましょう。 ・経営学概論は、秋学期に開講する『ファイナンス』と連携します。両科目では共通したグループワークを展開し、同じ業界や企業分析を行います。				
23.オフィスアワー	春学期：				

	毎週木曜日昼休み　図書館閲覧ブース（1 号館 3F） 毎週火曜日昼休み　研究室オフィスアワー

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	オリエンテーション ■ 講義内容、学習目標、目指す KUINS ベンチマーク、アサインメント、教科書及び参考書、評価方法 ■ Web class の説明 ■ 企業のことを知ろう 〇ワークシート-01 図書館で気になる企業に関する記事を一つ読んで、その内容を 300 字程度にまとめよう。	★ワークシート-01 提出 〇第 1 章の予習
2-3	〇グループ分け ・役割分担を決める ・グループ単位で各自調べた結果(ワークシート-01)について発表 →グループ代表の発表 第 1 章　企業経営とは ■ 企業、企業と各市場、情報的経営資源 ■ ケーススタディ：ユニクロ ★個人ワーク＆グループワーク ・グループ研究対象業界＆個人の研究対象企業を決める 個人ワーク＆グループワーク用のファイルを作る ・企業の HP などで情報を収集してください。 各自の研究対象企業について最寄り 3 年間の売上、利益、店舗数 or 従業員数を調べて、その結果を個人研究ノート（P2）に	〇企業の HP などで情報を収集してください。 各自の研究対象企業について最寄り 3 年間の売上、利益、店舗数 or 従業員数を調べて、その結果を個人研究ノート P2 にまとめてください。 〇第 2 章の事例を予習
4-5	第 2 章　経営学とは ■ 広義・狭義の経営学 ■ 心理学などとの関係 ■ 経営学の面白さ・実践性 ■ 科学的管理・テイラー *もしドラの鑑賞→ワークシート-02（感想文） ◎GW：業界 4 社の概要比較表を作成してください。	〇第 1 章の復習 〇第 3 章の予習 ◆次回も PC 持参
2024/06/08	第 3 章　企業と会社 ■ GW1 の発表 ■ 会社の形態 ■ 株式会社の基本的な仕組み ■ 株主総会	★ワークシート-02 （Web class に提出） 〇第 1 章から第 3 章までの復習 〇各自で研究対象企業の筆頭株主について調べよう →個人研究ノートに追加（P3） ◎GW:業界 4 社の比較表を作ろう
2024/09/11	第 4 章　企業とインプット市場との関わり ■ 金融資本市場 ■ NISA ■ 労働市場（日本的経営の三種の神器）	◆PC 〇GW:4 社筆頭株主一覧表の作成

	■12 回目の授業に 第 1 ～3 章の小テスト（Web class にて実施）	
2024/12/13	第 5 章　経営戦略とは ■ 製品サービス市場 ■ 経営戦略の定義・階層性 ■ ケーススタディ：富士フィルム	○第 5 章の復習 ○各自の研究対象企業の経営戦略について調べよう。 →個人研究ノートに追加（P4）
14-16	第 6 章　競争戦略のマネジメント（1） ■ ポーター：5 つの競争要因 ■ ３Ｃ分析 ■ ケーススタディ：ソフトバンクモバイル	◆PC ○第 6 章の復習 ◎GW2　各グループの研究対象の業界競争構造について分析しよう →各自担当分を個人研究ノートに追加（P5,6）
17-18	◎ＧＷの中間発表（予定）	◆PC ○第 4-6 章の復習 →翌週小テストあり
19-20	○第 7 章　競争戦略のマネジメント ■ 3 つの基本戦略 ■ 事業システム ■ ケーススタディ：スターバックス＆ドトールコーヒー	◆PC ○第 8 章の予習 →個人研究ノートに追加（P7）
21-22	第 8 章　多角化戦略のマネジメント ■ 多角化戦略(市場のライフサイクル) ■ M&A と提携 ■ 第 4-6 章の小テスト	◆PC ○第 8 章の復習 →個人研究ノートに追加（P8）
23-24	第 9 章　国際化のマネジメント ■ グローバリゼーション ■ 国際化の進展 ■ ケーススターディ：HONDA	○第 9 章の復習 各自の研究対象企業の国際経営について調べよう。 →個人研究ノートに追加（P9）
25-26	・復習 ・グループワークの集約	○個人研究ノートの集約
27-28	■ 第 7-9 章の小テスト ＧW3　最終プレゼンの作成と総まとめ	○　今学期の総復習 ●　プレゼン資料の作成
29	プレゼンテーション	・ＧＷプレゼン資料の修正と提出 ・個人研究ノートを PDF に変換し、Web class から提出
30	■プレゼンテーション（２）	

1.授業コード（ナンバリング）	MNG101-Y02	2.科目名	経営学概論 【観光】	3.単位数	2
4.授業担当教員	井上尚之				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	国際コミ学部 観光学科必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミ学部 観光学科			9.履修学年	1 年以上
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	現代社会を形作る業務管理の方法・新製品の開発手法・モノの売り方などあらゆる仕組みは会社がこの世に誕生したときから、全て今のように準備されていたわけではない。先人たちが様々な問題に直面するたびにどのように対応すればよいのか試行錯誤を繰り返す中から少しずつ整えられてきたのである。そしてその先人達の知恵の集大成が経営学である。本講義ではこの経営学の基礎を習得することを目的とする。方法として教科書を皆さんに読んでもらい、ディスカッションしながら授業を進める。最終的には皆さんが経営学とは何かをプレゼンできるレベルが				
18.学習目標とＤＰとの関連	（１）健やかで調和のとれた人格と、しなやかで豊かな知性を自ら形成できる人間性、（２）主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力、（３）多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力				
19.教科書・教材	井上尚之『よくわかる基礎経営学ーマーケティング・経営戦略・SDGs』（大阪公立大学出版会、2023）マイクを回して読んでもらうので必ず購入しておくこと。				
20.参考文献					
21.成績評価	積極的授業参加度・発表 45%、総括試験 55%				
22.コメント	授業入中にマイクを回して順に教科書を読んでもらうので、必ず教科書を購入して持参すること。				
23.オフィスアワー	授業終了後又はメール				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	経営学とは何か？ マーケティングの学問化	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 2 回	STP 分析とは何か？ セグメンテーションで使われる分類軸	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 3 回	ターゲティングとポジショニング STP 分析の具体例	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。

		復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 4 回	ターゲティングを決める方法は 3 C 分析 商品販売戦術：４ P （マーケティング・ミックス）	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 5 回	自社は何をすべきか－MVP	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 6 回	事業ドメインとアンゾフ・マトリクス	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 7 回	複数の事業分野には PPM を使う	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 8 回	企業の現状分析の定番ーSWOT 分析	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 9 回	企業の現状分析の定番－クロス SWOT 分析	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 10 回	利益増の戦略－ポーターのファイブフォース分析	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 11 回	競争の基本戦略－ポーターの一般戦略	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。

		復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 12 回	内部資源の分析－バリューチェーン分析	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 13 回	新しい市場を創出－ブルーオーシャン戦略	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 14 回	総復習 総括試験	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 15 回	総復習 総括試験返却	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。

1.授業コード（ナンバリング）	MNG101-Y03	2.科目名	経営学概論 【G コミ 2023 年度以降入学生】		3.単位数	2	
4.授業担当教員	井上尚之						
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	国際コミ学部 観光学科必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期		
8.履修可能な専攻	国際コミ学部 観光学科			9.履修学年	1 年以上		
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義			
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	現代社会を形作る業務管理の方法・新製品の開発手法・モノの売り方などあらゆる仕組みは会社がこの世に誕生したときから、全て今のように準備されていたわけではない。先人たちが様々な問題に直面するたびにどのように対応すればよいのか試行錯誤を繰り返す中から少しずつ整えられてきたのである。そしてその先人達の知恵の集大成が経営学である。本講義ではこの経営学の基礎を習得すことを目的とする。方法として教科書を皆さんに読んでもらい、ディスカッションしながら授業を進める。最終的には皆さんが経営学とは何かをプレゼンできるレベルが							
18.学習目標とＤＰとの関連	（１）健やかで調和のとれた人格と、しなやかで豊かな知性を自ら形成できる人間性、（２）主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力、（３）多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力						
19.教科書・教材	井上尚之『よくわかる基礎経営学ーマーケティング・経営戦略・SDGs』（大阪公立大学出版会、2023）マイクを回して読んでもらうので必ず購入しておくこと。						
20.参考文献							
21.成績評価	積極的授業参加度・発表 45%、総括試験 55%						
22.コメント	授業入中にマイクを回して順に教科書を読んでもらうので、必ず教科書を購入して持参すること。						
23.オフィスアワー	授業終了後又はメール						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	経営学とは何か？ マーケティングの学問化	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 2 回	STP 分析とは何か？ セグメンテーションで使われる分類軸	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 3 回	ターゲティングとポジショニング STP 分析の具体例	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。

		復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 4 回	ターゲティングを決める方法は 3 C 分析 商品販売戦術：４ P （マーケティング・ミックス）	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 5 回	自社は何をすべきか－MVP	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 6 回	事業ドメインとアンゾフ・マトリクス	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 7 回	複数の事業分野には PPM を使う	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 8 回	企業の現状分析の定番ーSWOT 分析	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 9 回	企業の現状分析の定番－クロス SWOT 分析	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 10 回	利益増の戦略－ポーターのファイブフォース分析	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 11 回	競争の基本戦略－ポーターの一般戦略	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。

		復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 12 回	内部資源の分析－バリューチェーン分析	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 13 回	新しい市場を創出－ブルーオーシャン戦略	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 14 回	総復習 総括試験	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 15 回	総復習 総括試験返却	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。

1.授業コード（ナンバリング）	MNG101-y01	2.科目名	経営学概論 【英コミ 2022 年度以前入学生】		3.単位数	4	
4.授業担当教員	杉林弘仁						
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科				9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	なし			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義			
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	●目的 私たちのいる社会は企業の活動がなくて存在し得ません。経営学を学ぶことは，これから皆さんが社会にはじめて踏み出すうえで，とても役立つ知識です。経営学は「お金儲け」の道具ではありません。「良い経営をするための方法を研究する学問」ですが，経営学がうみだしてきた知識は膨大です。それだけに経営学の範囲は広く，内容も複雑です。 まず，この講義の目的は，まず，はじめて経営学を学ぶ受講生に，企業経営の根幹にある経営学がどういうものであるのか，経営学の全体像を理解してもらいます。そして，これから 4 年間をかけて経営学						
18.学習目標とＤＰとの関連	科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学習に関連しています。 (1)経営学の基礎的な知識を理解します。 (2) 自分の考えを，整理して他者に伝えることができようにします。 (3)現実企業経営の問題に対して，経営学のフレームを通して，その見方を説明する力をつけます。						
19.教科書・教材	・加護野忠男･吉村典久(2021)『1 からの経営学(第 3 版)』碩学舎/中央経済。 ISBN：978-4-502-37521-7						
20.参考文献	・伊丹敬之･加護野忠男(2022)『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版。 ISBN-978-4-532-13526-3（中古で多く出回っている「ゼミナール経営学入門第 3 版」でも同じです。） ・遠藤功(2020)『ビジネス新･教養講座　企業経営の教科書』日本経済新聞出版。 ISBN：978-4-532-11431-2(今日的な事例をあげて，経営を解説しています) ・日本経営協会(2023)『マネジメント検定試験公式テキスト(Ⅲ級）－経営学の基本』中央経済社。ISBN：978-4-502-43511－9						
21.成績評価	・毎回の授業の振り返りアンケート：20%(授業への貢献度として評価します) －学習目標の(2)に対応します。 ・小テストを 6 回おこないます。30%　－学習目標の(1)に対応します。 ・グループによる課題発表：15%　　－学習目標の(3)に対応します。 ・総括試験(最終テスト)：35%　　－学習目標の(1)と(2)に対応します。						
22.コメント	・経営学は企業の現実を扱いますから，時代に応じて新しいテーマがたくさん生まれてきます。それに惑わされることなく現実の経営実践を理解するためには，理論的に依拠する基礎学問をもたなければならなりません。既存の基礎学問が作り上げてきた知識の基本をしっかり身につけることが大切です。 ・参考書に指定している『ゼミナール経営学入門』は厚い本ですが，心配しないでください。その中から基礎的な部分を取り出して講義します。他の部分はこの後の経営科目でも使って学						

	習していきます。4 年間をかけて，『ゼミナール経営学入門』の 1 冊をしっかり読み込んで経営学を理解していくイメージです。「4 年間をかけて社会に入る前に経営学の知識を自分のものにするんだ」と考えてください。この 1 冊をやり切ったことは，これから皆さんが，道を切り開いてくうえで，大きな自信と指標になります。 ・毎回テキストを読んでくる箇所を指定します。決して多くありませんので，必ず「読む」という習慣をつけましょう。テキストには，どんどん書き込んで，自分だけのオリジナルのテキストにしていってください。 そして，授業を通じて，思ったこと，考えたことを大切にしてメモするようにしてください。この蓄積があなたを変えていきます。考えながら学ぶことを続ければ，その時わからなかったことも，4 年後にはわかるようになり，自らの成長を実感できると思います。困ったことがあれば相談ください。
23.オフィスアワー	・センターオフィスアワー：(前期)水曜日第 2 限 10:45～12:15 ・研究室オフィスアワー：(前期)水曜日第 4 限 15:00～16:15(研究室 805)

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	●第 1 回：「オリエンテーション：経営学で学ぶことを学ぶ」 内容：これから使うテキストと授業の進め方の説明をします。最初にペア・ワークをおこなって，皆さんの「学び」の意識をはっきりさせます。その上で，「経営」という言葉について考えます。 2 回目以降は，このペアで学習していきます。 ●第 2 回：「企業とは何だろう」 企業とは何か，社会と経済，市場と流通，消費者の大きな視点から捉えて，世の中の構造を理解します。前回のペアで考えた課題を，今度はグループになってディスカッションします。経営学を学ぶとどのようなことに	・アサインメント 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに前回設定した 2 人のペアでしっかり読んでおいてください。
第 3 回 第 4 回	●第 3 回：「経営学の全体像①：まず大枠をつかむ。」 皆さんは，これから経営学の森に入っていきます。森の中の一本一本の木が，経営学の各科目分野です。経営学という森を作っているイメージです。木を見て森を見なければ迷子になります。経営学とは何かについて全体像をつかみます。経営学(広義:広い見方の経営学)には，どんな分野があるのか，広義の経営学の 3 本柱(経営学(狭義)，商学(マーケティング)，会計学)があることをつかみます 。 ●第 4 回：「経営学の全体像②：もう少し詳しく経営学に接近してみる」 ・最初に大枠をつ	・アサインメント 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに，2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 5 回 第 6 回	●5 回：「経営学はいつからはじまったのか」 ・経営学は，そんなに古い学問ではありません。20 世紀のはじめあたりです。しかし，それ以前にも経営するという行為はあったはずです。当時の時代背景から，経営学が何故，生まれたのかを理解します。経営学の始まりを知ればその体系がわかります。「経営」と「経営学」について考えてみましょう。 ●6 回：「会社には，どんなかたちがあるのか，企業形態を知る」	・アサインメント 2 人のペアでこれまでの知識を整理してください。経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに，2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。

	私たちの周りには多くの会社があります。我々の社会にはそれにはどんな形態の会社があるのでしょうか。そのなかでも，現代社会の	
第 7 回 第 8 回	●第 7 回：「会社は，誰のものか，所有と経営を考える」 ・私たちの周りには，多くの会社があります。我々の社会にはそれにはどんな形態の会社があるのでしょうか。そのなかでも，現代社会の発展に大きく寄与したのが株式会社という制度で，人類最大の発明ともいわれます。その株式会社の仕組みとその発展をみていきます。 ●第 8 回：「経営はだれにでもできるのか，マネジメントについて考える」 ・マネジメントとは何かを考えていきます。そして，内側のマネジメントと外側のマネジメントの 2 つのマネジメントにわけて経営学の中に入っていき	・アサインメント 2 人のペアでこれまでの知識を整理してください。経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。簡単な「読みもの」を伝えます。次回までに，しっかり読んで，自分の考えをまとめておいてください。
第 9 回 第 10 回	●第 9 回：「市場を理解しよう。外部環境のマネジメントについて考える」 ・カネを集めてくる(金融市場)，ヒトを集めてくる(労働市場)，製品･サービスを作って販売する（製品市場)，これらの市場との関係をどうマネジメントするのか，企業と市場との関わりを理解します。ここからの 4 回は，外部環境のマネジメントについて考えていきます ●第 10 回：「外部の環境のマネジメントについて考える①　経営戦略論」 ・経営戦略論は経営学の中心的な分野のひとつです。経営戦略は，長期的な視野にたって，組織のヒト，モノ，カネを使って，未	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 11 回 第 12 回	●第 11 回：「外部の環境のマネジメントについて考える②　競争戦略」 ・前回に引き続いて戦略論のその代表的なものを学習します。市場にいるのは自社の私たちだけでありません。そこには競争企業がいることを考えなければなりません。競争によって大きく企業の方向付けが変わることになります。事例から競争戦略について考えます。 ●12 回：「外部の環境のマネジメントについて考える③製品市場戦略」 ・製品には誕生してから，市場から消えるまでのライフ･サイクルがあります。製品ライフ･サイクルという視点で，経営戦略を捉えてみま	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 13 回 第 14 回	●13 回：「人々は何をしているのか，内部の組織のマネジメントを考える」 ・ここからは，内部のマネジメントに目をむけます。前回までの企業の「外部」環境に対して「内部」の位置づけにある組織を対象にします。これは，さらに組織という視点と，その組織を構成する人の視点からわ	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。

	けていきます。組織とは何か，という議論から考えていきます。 ●14 回：「組織のマネジメントを考える①　どのような組織が作られてきたのか」1-10 章 ・組織のかたち（組織構造）は様々にあります。これまでの企業の歴史的な経緯から，どのような組織が作	テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 15 回 第 16 回	●第 15 回：「組織のマネジメントを考える②　どのような組織の形がいいのか」 ・前回に学習した組織構造のバリエーションをベースにして，その組織の利点や問題点を確認し，唯一ひとつの正しい組織構造があるのかを，議論します。 ●第 16 回：「組織のマネジメントを考える③　人は労働力じゃない」 ・この回から組織を構成する「人」の内部に入っていきます。企業にとって従業員の活用はなぜ重要なのでしょうか，また，何によって動かされるのでしょうか。「やる気」を高めるにはどうすればいいでしょうか。動機づけ（モチベーション）の諸	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 17 回 第 18 回	●第 17 回：「組織のマネジメント④　リーダーシップとは何か」 ・優れたリーダーとはどういう人でしょう。リーダーの資質はその人固有のものでしょうか。リーダーの役割とリーダーシップの概念を学びます。組織のマネジメントのなかでリーダーシップの位置づけを理解します。 ●第 18 回：「組織のマネジメント⑤　学びをキャリア・デザインに応用する」(1:12 章) これまでの学びから，自らのキャリアをどうデザインするか。過去も未来もキャリアの一部です。「流されるままの人生でいいのか」主体的にキャリアを考えるには，これまでの	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 19 回 第 20 回	●第 19 回「イノベーションと経営者の役割を考える」 ・ここで，企業を動かす経営者の役割を考えます。そもそも経営者の範囲はどこまでを指すのでしょうか。経営者は何をしているのでしょうか。事例をみながら，企業が生む出すイノベーション（革新）とともに経営者の役割を考えます。 ●第 20 回「理念はなぜ重要なのか，経営理念と組織文化について考える」 ・組織を構成しているのは感情や違う考え方をもった生身の人間です。そういう企業組織の経営には，経営者がしっかり経営の理念を表明し，組織の文化を形成していくことが必要です。こ	アサインメント： 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 21 回 第 22 回	●第 21 回：「利益の追求は正しいことなのか，企業の社会的責任を考える。」 経営の目的は何でしょうか。経営者の役割は，利益を上げることや，株主に報いることだけではありません。もっと社会性を帯びたもので，今日の SDG s にも	アサインメント： 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass に

	つながります。そこに経営の規律づけとそのチェックの問題があらわれます。これはコーポレート･ガバナンス（企業統治）の問題として扱われます。事例をもとにしてこの問題を考えてみましょう。 ●第 22 回：「マーケティングのない企業に未来はない。マーケティングを学ぶ」 ・ここからは経営学の分野にある他	アップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 23 回 第 24 回	●第 23 回：「マーケティングとは何か，その基本概念を身につける」 ・前回に引き続きマーケティングはどのようなステップで進めていくのかを，理解します。マーケティングの基本的な理解が得られるよう皆さんに馴染みのある企業や製品を使って進めていきます。マーケティングを覚えるための知識ではなく，マーケティングという思考を日常に取り込むことを意識します。 ●第 24 回：「企業の状況を数字から読んでみよう。経営と会計の関係を理解する」 ・企業活動を会計の面から捉えておくことはとても重要です。会計の指標なく経営することは	アサインメント： 経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 25 回 第 26 回	●第 25 回：「企業の状況を数字から読んでみよう。経営分析」 ・企業活動の結果である財務諸表はどんなものかをその構造を理解します。皆さんは就職活動のときに目にするものですから，経営の実体を数値で読みとく把握する練習をしてみます。 ・アサインメント： 来週は経営・マーケティング・会計の小テストです。第 3 回も見直しておきましょう。これらの内容やその関係が理解できているか確認します。経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感	経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 27 回 第 28 回	●第 27 回：「日本は世界で最も長寿企業が多いのはなぜか。ファミリー･ビジネスを考える」 ・日本は世界になかで，断トツに長寿企業が多い国で，海外からも注目されています。 何故，日本には，長寿企業が多いのでしょうか。それはファミリー･ビジネスにヒントがあります。いくつかのファミリー･ビジネスの事例をみて，その経営を考えてみます。 ●第 28 回：「国際化は決して遠い国の話ではない。国際経営について考える」(1:9 章) ・今日，グローバル化は避けて通りようがありません。企業活動のグローバルでの地理的な拡大とつなが	経営学概論のノートの続きに，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして，短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに 2 人のペアでしっかり読んで，内容を確認しておいてください。
第 29 回 第 30 回	●第 29 回：「まとめと総括：テストと経営学を通じて学んだこと」 ・ようやく経営学の入口が終わりました。経営学にはどんな分野があって，その各論でどのようなことを学	・アサインメント 今日のテストを振り返って，経営学概論のノートを見直して補強してください。毎回のように感想や思ったことは簡単に WebClass に

	習したのか，テストをおこない，経営学概論で学んだ内容を確認します。 ●第 30 回：「テストのフィードバックとこれからの経営学について」 ・テストの結果を全体で講評します。をディスカッションします。経営学を全体的にとらえるアプローチには，経営管理論，経営組織論，経営戦略論があります。また，個別的，専門的には人的資源管理，マーケティング論，財務･会計学	アップしおいてください。 ・アサインメント 次の経営学の学習にむけて，経営学概論のノートを完成させます。どこにつまずいたのか，さらにどの分野を伸ばしたいのか，印象に残ったことは何か，自らの考えを整理してください。

1.授業コード（ナンバリング）	MNG201-M01	2.科目名	経営戦略論	3.単位数	2
4.授業担当教員	肖威				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	「経営学概論」の修得		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 身近な企業の事例を通して、ビジネスの基礎知識として知っておくべき経営戦略を学習していく。 【授業概要】 経営戦略の定義および要素、自社の競争力や業界の競争構造を分析する手法として 3 C 分析と SWOT 分析、ファイブフォーシズ分析、事業戦略としてのコスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略、更に、製品のライフサイクル別の戦略や市場ポジショニング戦略、自社競争力を高めるためのコア・コンピタンスの構築、事業ドメインの考え方、経営資源の戦略的配分（PPM)など、戦略の基本ツールや枠組みにつ				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連している。 具体的には、 ①企業の情報収集、分析ができる ②経営環境の変化が企業に与える影響を理解することができる ③経営戦略の基本ツールや枠組みを理解することができる				
19.教科書・教材	『一からの戦略論』（第 2 版）嶋口充輝他、中央経済社、2010 年 5 月（電子版）				
20.参考文献	1.競争戦略論〈1〉（単行本） マイケル・E. ポーター（著), Michael E. Porter (原著), 竹内 弘高（翻訳） ダイヤモンド社 2.ゼミナール 経営学入門 ゼミナールシリーズ（単行本） 伊丹 敬之（著), 加護野 忠男（著） 日本経済新聞社 3.経営戦略論（単行本） 石井 淳蔵（著), 加護野 忠男（著), 奥村 昭博（著), 野中 郁次郎（著） 有斐閣				
21.成績評価	①グループワーク：20 点 ②個人ワーク：30 点(WS 3 点/枚×10 枚) ③総括試験：50 点				
22.コメント	「経営学概論」の上位科目になります。自分の関心を持っている業界や企業の動向を常にチェックしてください。				
23.オフィスアワー	春学期： 水曜日昼休み　センターオフィスアワー 水曜日 3 限　研究室オフィスアワー 秋学期： 木曜日昼休み　センターオフィスアワー 木曜日 3 限　研究室オフィスアワー				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)

1	オリエンテーション ・経営戦略とは何か ・授業の狙いと流れについて説明する	○サイクルベースあさひについて調べよう（120 分） ○テキスト P2-11 の予習　（120 分）
2	【講義】序章 戦略とは ・ケース：あさひ ・戦略の定義 ・戦略の要素 【GW グループ】 　グループを編成し、各グループの対象業界を決めたうえ、個人の研究対象企業を決める。	・序章復習 ・研究対象企業を決めたうえ、WS-1 を作成。
3	第 1 章 業界の構造（1） ・ケース：シャープ ・ファイブ・フォーシズ	・予習　第 1 章　90 分 ・ワークシート 2
4	第 1 章（2） ・戦略グループ ・移動障壁 GW: ファイブ・フォーシーズ 　　トピックの要約	・PC 持参 ・復習 ・次章の予習 ・研究対象企業の 3 年分データ
5	第 2 章 取り巻く環境（1） ・ケース：トヨタ自動車 ・PEST 分析 GW:PEST 分析	・PC 持参 ・復習
6	第 2 章（2）3C 分析と SWOT 分析 ・ 3C 分析 ・SWOT 分析 ・KFS の導出と経営資源の展開 Column2-1　かんばん方式 Column2-2　カイゼン	・グループワーク ・次章の予習
7	第 3 章 基本戦略（1） ・ケース：しまむら ・基本戦略 コスト・リーダーシップ戦略 差別化戦略 集中戦略	・グループワーク ・復習
8	ＧW中間発表	・プレゼン内容の修正 ・次章の予習
9	第 4 章 製品ライフサイクル別戦略 ・ケース：富士ゼロックス ・製品ライフサイクル ・製品ライフサイクル別の戦略定石 Column4-1　さまざまな製品ライフサイクル Column4-2　採用者カテゴリー	・復習
10	第 5 章 市場地位別戦略	・PC 持参

	・ケース：アサヒビール ・市場地位の捉え方 ・市場地位別の戦略 Column5-1　市場地位の逆転が起こる条件 Column5-2　対象となる市場の選定	・グループワーク ・復習＆予習
11	第 6 章 リソース・ベースト・ビュー ・ケース：富士フイルム ・社内の経営資源の捉え方 ・コア・コンピタンス Column6-1　見えざる資産 Column6-2　暗黙知と形式知	・復習＆予習
12	第 7 章 事業システム ・ケース：アスクル ・事業システムに関わる諸概念 ・戦略的事業システムの構築 Column7-1　価値連鎖 Column7-2　専属的販売代理店	・復習＆予習
13	第 8 章 事業領域 ・ケース：ふくや ・事業領域 ・ドメイン定義の考え方	・PC 持参 ・グループワーク ・復習＆予習
14	GW2 最終発表	・PC 持参 ・グループワーク ・復習＆予習
15	総括試験	レポート提出

1.授業コード（ナンバリング）	MNG212-A01	2.科目名	中小企業論	3.単位数	2
4.授業担当教員	北村正仁				
5.授業科目の区分	専門科目（実務経験のある教員による授業）	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	無し（経営学概論の履修済が望ましい）
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義 （尼崎 C と神戸山手 C の合同授業） （尼崎は対面、神戸山手は遠隔授業）
16.履修制限	無し				
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、日本の中小企業の経営をマネジメントの視点から捉えることを目的とします。 【概要】 皆さんは「中小企業」と聞いて、どのようなイメージを持ちますか？ 実は、日本の企業数の 99.7%が中小企業で、66.0%の人が中小企業で働いています。つまり、中小企業は日本経済にとってとても大きな役割を果たしています。その中小企業の経営を、経営学（マネジメント）の視点から考えながら学修します。 ・中小企業とは ・中小企業の環境適応マネジメント ・中小企業の資源統合マネジメント 日本の中小企業の概況を理解し				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の次の 3 つに関連しています。 （1）自律性 （4）問題発見・解決力 （6）専門的知識・技能の活用力、 本科目の学習目標は次の通りです。 ① 日本の中小企業の概況を説明できる。 ② 中小企業経営における社外環境適応マネジメントについて説明できる。 ③ 中小企業経営における社内資源統合マネジメントについて説明できる。 ④ 日本の中小企業の特徴・課題・可能性を説明できる。				
19.教科書・教材	『中小企業経営入門』（第 2 版）井上善海・木村弘・瀬戸正則（編著）中央経済社 2022 年				
20.参考文献	無し（授業の中で、必要に応じて紹介します）				
21.成績評価	・毎回の授業後の課題（39 点）（毎回 3 点×13 回）〈学習目標①～④に対応〉 ・各部ごとの小テストによる理解度（30 点）（小テスト 1 回 10 点× 3 回）〈学習目標①～③に対応〉 ・総括試験（40 点）〈学習目標①～④に対応〉				
22.コメント	・「経営学概論」の内容を再度確認しておくこと。 ・教科書を使用するので、毎回予習をしっかり行い授業に臨むこと。 ・予習で感じた疑問や興味を、授業を通じて積極的にディスカッションして理解につなげる。 ・授業に積極的に参加することで自らの考えをまとめていくこと。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日 3 限 研究室オフィスアワー：火曜日 4 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)

【第 1 回】	・オリエンテーション ・「マネジメント」とは？ ・「経営学概論」の振り返り	準備学習：「経営学概論」で学んだことを振り返り、「マネジメント」とはどのようなものなのか、自分なりの考え方をノートに書いてくる。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 2 回】	第Ⅰ部：中小企業とは 第 1 章：中小企業の特性	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 3 回】	第Ⅰ部：中小企業とは 第 2 章：中小企業の歴史	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 4 回】	第Ⅰ部：中小企業とは 第 4 章：中小企業問題と中小企業政策	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 5 回】	第Ⅱ部：中小企業の環境適応マネジメント 第 5 章：経営環境の変容と戦略マネジメント ◆小テスト（第Ⅰ部：中小企業とは）	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 ◆授業後半に小テストを実施 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 6 回】	第Ⅱ部：中小企業の環境適応マネジメント 第 6 章：分業構造の変容と下請マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 7 回】	第Ⅱ部：中小企業の環境適応マネジメント 第 7 章：企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を

		解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 8 回】	第 II 部：中小企業の環境適応マネジメント 第 8 章：産業構造の変容と地域産業マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 9 回】	第 II 部：中小企業の環境適応マネジメント 第 9 章：世界市場の変容とグローバル・マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 10 回】	第III部：中小企業の資源統合マネジメント 第 10 章：人材難と組織・人材マネジメント ◆小テスト（第 II 部：中小企業の環境適応マネジメント）	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 ◆授業後半に小テストを実施 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 11 回】	第III部：中小企業の資源統合マネジメント 第 11 章：後継者難と事業継承マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 12 回】	第III部：中小企業の資源統合マネジメント 第 12 章：研究開発力不足と製品開発マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 13 回】	第III部：中小企業の資源統合マネジメント 第 13 章：既存事業の衰退と事業開発マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 14 回】	第III部：中小企業の資源統合マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授

	第 14 章：資金難と財務マネジメント ◆小テスト（第Ⅲ部：中小企業の資源統合マネジメント）	業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 ◆授業後半に小テストを実施 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 15 回】	・総括試験（教科書・手書きノートのみ持ち込みを認める） ・まとめと振り返り	準備学習：自作ノートを利用して 14 回の授業内容を再確認する。 総括試験では、教科書・各自が作成した手書きノート等の持ち込みを認める。

1.授業コード（ナンバリング）	MNG301-A01	2.科目名	国際経営論	3.単位数	2
4.授業担当教員	酒井良二				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	■　経済のグローバル化の進展に伴い、企業の経営活動の範囲がますます拡がり、ヒト・モノ・カネ・情報の国境を超えた交流(流れ)が盛んに行われている。 ■　多国籍企業による対外直接投資は、本国だけではなく、進出先の国や地域に経済、文化、政治などさまざまな影響を与えている。また、企業の経営も国内にとどまった時と大きく変化している。 ■　COVID-19 感染拡大の終息が見通せない中、自然環境の大きな変化、ウクライナ情勢など政治・経済の混迷等により、「VUCA な時代」がつづくと思われる。 ■　本講義では、近年の激動す				
18.学習目標と ＤＰとの関連	企業の国際経営に関わる基本的な理論を理解し、国境を越えて経営活動を行う際に起こり得る問題及びその対応策について考察し、将来のビジネス現場で、臨機応変的な対応ができるようなる。				
19.教科書・教材	はじめての国際経営（初版）　有斐閣　2015 年 中川 功一（著), 林 正（著),多田 和美（著),大木 清弘(著)				
20.参考文献	講義において都度提示する				
21.成績評価	■　講義ノート提出　・・・・・　20% 「国際経営論」専用のノート（A4 版）を準備して、毎回の講義ノートを以下の項目に従って作成する。 1)　Expectation（予習を通じての講義への期待） 2)　Summary & Key Words（講義内容のまとめ） 3)　Reflection & Questions（振り返り：分かったこと、分からなかったこと。よかったこと、よくなかったこと。） 4)　アサインメント（宿題） ■　研究対象企業の国際事業展開に関する ppt 資料作成　・・・・・　25% ■				
22.コメント	本講義では、講師の 1994 年から 2007 年の 14 年間のアメリカのグローバル企業におけるマネジメント経験と、現在行っているビジネス・コンサルテーション経験をベースに、グローバル・ビジネスの最前線における経営（マネジメント）について、具体的な事例研究を交えて講義する。				
23.オフィスアワー	月曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	■　オリエンテーション ■　講義内容：講義概要、学習目標、評価方法等	■「国際経営論」専用のノート（A4・横書き）を準備し、毎回の授業に持参する。 ■　毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■　PC は毎回の授業に持参する。 ■　課題：グローバルに事業展開を行っている上場企業の中から興味がある 1 社を研究対

		象企業として選ぶ。その企業概要を調べ、ノートにまとめる。
【第 2 回】	■　国際経営の基礎(1) 第 1 章：国際経営とは何か	■　課題：本日の講義内容を踏まえて、研究対象企業の国際事業展開について分析する(1)
【第 3 回】	■　国際経営の基礎(2) 第 2 章：海外直接投資の理論	■　課題：本日の講義内容を踏まえて、研究対象企業の国際事業展開について分析する(2)
【第 4 回】	■　国際経営の基礎(3) 第 3 章：多国籍企業による国際競争の歴史	■　課題：本日の講義内容を踏まえて、研究対象企業の国際事業展開について分析する(3)
【第 5 回】	■　国際経営の基礎(4) 第 4 章：多国籍企業の組織デザイン	■　課題：本日の講義内容を踏まえて、研究対象企業の国際事業展開について分析する(4)
【第 6 回】	■　国際経営の基礎(5) 第 5 章：トランスナショナル経営	■　課題：本日の講義内容を踏まえて、研究対象企業の国際事業展開について分析する(5)
【第 7 回】	■　国際経営の基礎(6) 第 6 章：海外子会社の経営	■　課題：本日の講義内容を踏まえて、研究対象企業の国際事業展開について分析する(6)
【第 8 回】	■　前半講義の振り返り：国際経営の基礎	■　課題：研究対象企業の「国際事業展開」について、PowerPoint プレゼンテーション資料を作成し、WebClass に提出する（詳細は講義で指示する）。
【第 9 回】	■　国際経営の実践(1) 第 7 章：国際マーケティング	■　課題：本日の講義内容を踏まえて、研究対象企業のさらなる国際化に向けて提言する(1)
【第 10 回】	■　国際経営の実践(2) 第 8 章：ものづくりの国際拠点展開	■　課題：本日の講義内容を踏まえて、研究対象企業のさらなる国際化に向けて提言する(2)
【第 11 回】	■　国際経営の実践(3) 第 9 章：研究開発の国際化	■　課題：本日の講義内容を踏まえて、研究対象企業のさらなる国際化に向けて提言する(3)
【第 12 回】	■　国際経営の実践(4) 第 10 章：国際的な人的資源管理	■　課題：本日の講義内容を踏まえて、研究対象企業のさらなる国際化に向けて提言する(4)
【第 13 回】	■　国際経営の実践(5) 第 11 章：国際パートナーシップ	■　課題：研究対象企業の「さらなる国際化」に向けてのこれまでの提言を、レポートとしてノートにまとめる。 ■　ノート提出・評価
【第 14 回】	■　国際経営の実践(6) 第 12 章：日本企業のさらなる国際化のために	■　e-Portfolio に「振り返り」を投稿する。
【第 15 回】	■　総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	MNG301-M01	2.科目名	国際経営論	3.単位数	2
4.授業担当教員	肖威				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件	「経営学概論」の修得		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 ○経済のグローバル化の進展に伴い、企業の経営活動の範囲がますます拡がり、ヒト・モノ・カネ・情報の国境を超えた交流(流れ)が盛んに行われている。 ○多国籍企業による対外直接投資は、本国だけではなく、進出先の国や地域に経済、文化、政治などさまざまな影響を与えている。また、企業の経営も国内にとどまった時と大きく変化している。 ○本講義では、近年の激動する国際環境のトレンドを踏まえながら、できるだけ事例の解説を通じて、企業の国際経営に関わる基本的理論と最新課題について体系的に説明する。 【授業の概				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解、の学修に関連している。 具体的には、 ・国際ビジネスの歴史的推移と現状を把握する ・企業の国際経営に関わる基本的な理論を理解できる ・国境を越えて経営活動を行う際に起こり得る問題を想定できる ・将来のビジネス現場で、臨機応変的な対応ができるようになる				
19.教科書・教材	理論とケースで学ぶ国際ビジネス（4 訂版） 江夏 健一（著）, 桑名 義晴（著）, IBI 国際ビジネス研究センター（著）				
20.参考文献	授業中適宜紹介する。				
21.成績評価	ワークシート：40 点 GW プレゼンテーション：30 点 期末レポート：30 点				
22.コメント					
23.オフィスアワー	春学期： 水曜日昼休み　センターオフィスアワー 水曜日 3 限　研究室オフィスアワー 秋学期： 木曜日昼休み　センターオフィスアワー 木曜日 3 限　研究室オフィスアワー				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	オリエンテーション 講義内容：講義概要、学習目標、評価方法等	○個人ワーク：①講義ノート、教科書を用意する。②興味ある多国籍企業を 1 社選び、HP などでその会社の国際事業展開について調べてみよう。　（120 分）

	国際ビジネスとは(1) 講義内容：グローバル時代、海外直接投資 ワークシート 1	○個人ワーク： 教科書 P16-Review & Discussion (1)　*各自の研究対象企業について分析しよう。(90 分)
	国際ビジネスとは(2) 講義内容：多国籍企業の定義	○個人ワーク： 教科書 P16-Review & Discussion (3)　*各自の研究対象企業について分析しよう。(90 分)
	国際ビジネスの歴史（1） 講義内容：多国籍企業の成立と海外展開	○ 個人ワーク：教科書 P17-24 を読んで、P30 の Review & Discussion(1)について考えよう。(90 分)
	多国籍企業と国家(1) 講義内容：多国籍企業と国家の関係 ワークシート 2	○ 個人ワーク：第 3 章の内容を復習し、教科書 P40-Review & Discussion の①について、自分の研究対象企業、もしくはその企業の属する業界について考えよう。(90 分)
	多国籍企業と国家(2) 講義内容：立地優位性とバーゲニング	○ 個人ワーク：第 3 章の内容を復習し、教科書 P40-Review & Discussion の②について、自分の研究対象企業、もしくはその企業の属する業界について考えよう。(90 分)
	多国籍企業の CSR 講義内容：グローバルな CSR とは、多国籍企業の CSR ワークシート 3	○ 個人ワーク：教科書 P66-72 を一読し、それを参考に研究対象企業の CSR を調べてみよう。(120 分)
	グローバル競争戦略(1) 講義内容：市場のグローバル化、競争優位の源泉	○個人ワーク：教科書 P87-Review & Discussion（1）*各自の研究企業を対象に　（90 分）
	グローバル競争戦略(2) 講義内容：グローバル戦略の立案と構築 ワークシート 4	○個人ワーク：教科書 P87-Review & Discussion（2）*各自の研究企業を対象に（90 分）
	国際マーケティング-1 講義内容：国際市場細分化戦略と標的市場の設定	◎グループワーク：日本に進出している外国企業（グループごとに 1 社）のマーケティング戦略についてまとめよう。(120 分) プレゼン＆レポート：『○○社の国際マーケティング戦略』、詳細用件は Web class 参照。
	国際マーケティング-2 講義内容：国際市場参入方式の選択、製品戦略	◎グループワーク（続き）(120 分)
	国際戦略提携と M&A(1) 講義内容：競争と協調、戦略提携のタイプ	○個人ワーク：教科書 P99-Review & Discussion（1）　(90 分)
	国際戦略提携と M&A(2) 講義内容：国際戦略提携のマネジメント	◎グループワーク（続き） （120 分）
	・復習	・発表資料の修正と提出

	・グループワークまとめ	・個人レポート作成（240 分）
	プレゼンテーション	○個人レポート提出

1.授業コード（ナンバリング）	MNG301-Y01	2.科目名	国際経営論	3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史				
5.授業科目の区分	講義	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に他学部他学科を受け入れます。			9.履修学年	1 回生～
10.取得資格の要件		11.先修条件	特にありません。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	特にありません。				
17.授業の目的と概要	目的：グローバル化する日本と諸外国の交流を地理・歴史と政治学から考える 概要：国際地政学（Geopolitics）は、グローバルスタディに出かける皆さんが、訪問先の国々と日本との関わりを探るために、欧米や東アジア、極東、南アジア地域の地理と歴史、そして政治の流れを広く学ぶ授業です。この地政学は、19 世紀から 20 世紀初期、アジアやアフリカの未開の地を、イギリスやドイツ、アメリカや日本が征服し、植民地として経営するために発達しました。これらの強国が自国の国民経済の利益最大化のための学問でした。その侵略的な考え				
18.学習目標とＤＰとの関連	神戸のような歴史ある国際都市に暮らしていても身近な異文化には気づきにくいものです。ご年配の外国生まれ市民の皆さんは昔の神戸にも詳しく、その異文化は見えません。一方、最近日本にきたアジアの留学生、日系労働者、技能実習生が増え、学内やアルバイト先で接する機会が増えています。そんな経験から共生社会を考えはじめ、その背景に広がる現代社会の課題、さらには 3 億人もの移民・難民が動く世界の大変化をしることが学習目標、到達目標は異文化コミュニケーションの達人です。				
19.教科書・教材	教科書に代わる読みやすい資料を用意します。毎回の授業スライドを PDF で配ります。				
20.参考文献	小山 望, 勅使河原 隆行他『これからの「共生社会」を考える 多様性を受容するインクルーシブな社会づくり』福村出版、2020 年 宮島 喬多文化共生の社会への条件:日本とヨーロッパ,移民政策を問いなおす』東京大学出版会、2021 年 永吉 希久子『移民と日本社会-データで読み解く実態と将来像』中公新書、2021 年				
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話ししたこと、配付したスライドをよく理解していること。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜 3 コース（研究室/3-308）、火曜 2 コース(学修支援センター)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回：9 月 28 日 世界の国々を学び、国際関係を知る。グローバルスタディのための世界観	授業の主な内容と進め方をお話しします。「国際地政学」とはたいそうタイトルですが、ネットやテレビでもよく話題にされるお話しです。観光や留学、国際キャリアを目指す皆さんが渡航前に知っておくと何かと便利な世界の常識の話です。グローバルスタディでも、韓国、中国、台湾、マレーシア、そしてインドネシアがあり、アメリカやオーストラリアもあります。どう違い、それにはどんな理由、背景があるのか。分かりやすい世界史のお話を聞かせます。	○アサイメント：将来留学するとしたらどの国ですか？グローバルスタディではどの国に行きますか？ ○事前学習：皆さんが行ってみたい国を 3 つ挙げてください。その国では日本にどんなイメージを持っているか考えて下さい。
第 2 回：10 月 5 日 日本を取り巻く国際政治、	さて、海外の人々から日本と日本人はどう見られているのでしょう。何かと騒がしい韓国や中国と親日と言われる台湾の違いはなぜ生じたのか、マスコミもよく話題にしますが、19 世紀末から 20 世紀前半の植民地	○アサイメント：日本を好きな国を一つ上げて下さい。またその逆の例も一つ上げて下さい。 ○事前学習：今年はウクライナ難民がよく語

世界経済	支配と戦争の歴史があったからです。また、神戸を始め関西には在日朝鮮韓国人や華僑が多く、皆さんの中にもいるはずです。もちろん留学生もいます。こうした戦前戦後の歴史を韓国や中国ではどう学んだのか、これも国際地政学の重要なテーマです。身近な隣国で自分がどう見られるかを学びます。	られますが、これ以外の難民の例を一つ上げて下さい。
第 3 回：10 月 12 日 日本史と世界史、どちらを学ぶ？	日本人の皆さんは当たり前のように、世界史と日本史、高校時代に選び、入試でどちらか選択してきました。では、韓国や中国ではどうでしょう。また、マレーシアやインドネシアではどうか、そもそもその国はいつ成立し、何世紀分の歴史があるのでしょう。さらに、世界史というのは日本固有の授業科目です。西洋史と中国史を中心に、最近ではアジアや中南米の歴史も教えますが、アフリカやオセアニアにはほとんど触れません。どちらの科目も現代の国際情勢を知るためには決して十分ではないのです。地政学は、その足りない部分を繋ぎ、埋める学問として	○アサイメント：世界史と日本史、どちらを勉強し、印象的だったことを書き出してください。 ○事前学習：神戸に住む中国人を思い出して、いつ頃来た人か考えてみて下さい。
第 4 回：10 月 19 日グローバルヒストリー（地球史）から見た日本の歴史	日本は中国文化圏の一部、東夷と呼ばれた太平洋の島々からなる辺境の国でした。文明は中国からもたらされていましたが、世界史との関係で三回の大きな地政学的変化を体験しました。最初は 16 世紀、スペイン、ポルトガルの進出です。鉄砲やキリスト教が伝来した時代です。二回目が 19 世紀明治維新、三回目が 20 世紀の敗戦です。皆さんがよく知る日本史や世界史では教えない国際地政学からみた世界と日本の関係、その見方を学びます。	○アサイメント：南京町で今でも営まれている中国系の文化的伝統を一つ上げて下さい。 ○事前学習：神戸市の 9 行政区別の在留外国人数を調べて下さい。また、各区で最も在留人数の多い国を挙げて下さい。
第 5 回：10 月 26 日身近な国々、韓国/北朝鮮、中国/台湾の戦後史を知る	1945 年に連合国（後の国際連合）と日本の戦争は終わりましたが、1950 年には朝鮮戦争が始まり、南北に別れた朝鮮と韓国軍を支えるためにアメリカ軍、北を支援した当時ソビエト連合といったロシアと中国の人民解放軍が、朝鮮半島で熾烈な戦いを繰り広げました。その前から台湾に逃れた中国の国民党政府と、中華人民共和国政府は台湾海峡を挟んで緊張関係を続け、今も台湾有事に備えて日本の自衛隊の配備が進んでいます。これも日本史や世界史で教えませんが、国際地政学の重要なテーマです。ぜひ詳しく学んでみてください。	○アサイメント：日本が朝鮮王国を併合したのは何時ですか、それはいつまで続いたか、できるだけ詳しく述べて下さい。 ○事前学習：関西には神戸の他に大阪市など外国籍市民が多く住む町があります。外国人の多い地区を上げて下さい。
第 6 回：11 月 2 日、もう一つの隣国ロシア、地政学的理解の勧め	ロシアによるウクライナ侵略が起き、防衛戦争が今も続いています。多くの日本人から見るとロシアは不思議な国、世界の大半の国々の人も異端視しています。1904～1905 年に日露戦争があり、太平洋戦争（第二次世界大戦）末期の 1945 年には、当時の満州や朝鮮にソ連軍が侵攻し、北方領土と呼ぶ北海道の北東沖の島々が占領されました。日本は何とかロシアと友好関係を回復しようとしましたが失敗続き、ソ連がロシアに代わっても同じでした。国際地政学者、特に周辺国の学者は、昔からロシアという国とその国民、領土を研究してきました。分か	○アサイメント：この授業の受講中に、関西の中で外国籍市民が多くすむ地区を一つ訪れ、報告して下さい。 ○事前学習：外国籍市民には日本に永住する人が多くいます。なぜ自国に戻らないのか理由を想像して書きだして下さい。

第 7 回：11 月 9 日、高校世界史で習ったアジアの歴史を超えた 20 世紀後半の東アジアと東南アジア	ロシアとの関係ではロシア革命の結果、1922 年に生あれ、1991 年に解体したソビエト連邦という国とその共産党の国際的な影響をお話しました。続いて 1945 年以降、東と東南アジアの国々に、そのどんな影響が及んだかを学びます。アメリカとソ連、東西冷戦の時代です。そこに中国共産党が加わった三大国の代理戦争が、朝鮮戦争とベトナム戦争です。カンボジアやラオス、ミャンマーだけでなく、マレーシアやインドネシアにもその影響が及びました。皆さんが訪れるこれらの国々の若い人は、その歴史をどう感じているのでしょう。	○アサイメント：ロシアのまちで知っている都市を上げて下さい。その街には、どんな歴史と文化があるか述べて下さい。 ○事前学習：ベトナム戦争について調べて、簡単にまとめて下さい。
第 8 回：11 月 16 日イエズス会の地政学	講義の後半は東アジアを離れ、より広い世界を見ていきます。ヨーロッパと中南米、ちょっと北米とアフリカの歴史です。まず、16 世紀に生れたイエズス会は世界布教を目指し、我々の極東だけでなく、中南米に進出しました。多くの日本人が移民し、今では何万人もの日系人還流移民するペルーやブラジルは、その結果生まれた国々です。カトリックのイエズス会だから「ラテン・アメリカ」、スペイン（イスパノ）とポルトガルの植民地だから「イベリア。アメリカ」と言われます。実際には、進出（侵略）で滅ぼされたインカやアステカなどの国々の人人とイ	○アサイメント：日系人はなぜ急に増加したか、その理由を 3 点あげて下さい。 ○事前学習：皆さんはキリスト教のカソリックと接点がありましたか？近くに教会がある、カソリック系の学校がある、通った、信者を知っているなど教えて下さい。
第 9 回：11 月 30 日旧地政学の時代、イギリスとオランダの東インド会社と南アジア、東南アジア	地政学は植民地争奪戦の中で発達した学問です。1588 年のアルマダ海戦に勝ったイギリスとオランは徐々にスペインの植民地を、特にアジアとアフリカで奪い始めます。中南米ほどにスペイン化されていなかったからです。植民地経営にあたったのが東インド会社、英国のインド植民地、マレーシアとシンガポール、オランダ領インドと呼ばれた現在のインドネシアは、徐々にスペインやポルトガルの勢力が追い出され、18 世紀以降に開発が進みました。そのパワーバランスを知り、合理的な植民地経営を検討したのが地政学です。その手法はインドで試され、	○アサイメント：日本の植民地だった国々を一つ上げて、今どんな日本の影響が残っているか述べて下さい。 ○事前学習：なぜ、スペインやイギリスは植民地を欲しがったか調べて下さい。
第 10 回：12 月 7 日地政学の発展、帝国主義と植民地の歴史	日本が植民地獲得を始めた 10 世紀初頭は、すでに欧米諸国が世界中の発展途上国を分割支配していました。日露戦争でロシアを破り、その権益を手に入れ、第一次世界大戦に参戦し、中国のドイツの権益を奪い、最後はアメリカがスペインや英国から譲渡された太平洋の島々を信託統治しました。朝鮮と台湾の総督府、東洋殖産、南満州鉄道などの国策会社は、インフラを整備しただけでなく、社会制度を改革し、鉱工業を整備し経済を発展させました。鉄道や建築土木技術を始め、品種改良で暑さや寒さに強いイネが食糧増産を実現しました。こうした日本の帝国	○アサイメント：皆さんがアジアの国々に行くとしたら、どんな仕事をしたいか自由に述べて下さい。 ○事前学習：日本はなぜ植民地を必要としたのか調べて下さい。
第 11 回：12 月 14 日 19 世紀の東アジア、明治維新	日清戦争、日露戦争で東アジアは大きく変わりました。大日本帝国による植民地の支配と経営の背後で、支配された国々の人々の暮らし、地域社会も変わっていました。反日・独立運動が知られていますが、変化	○アサイメント：日清戦争と日露戦争の違いを述べて下さい。 ○事前学習：なぜ、清国政府（今の中国）は、日本に敗れ、またその領土で日本とロシ

と中国、朝鮮	はそれだけではありません。日本ではあまり紹介されない、当時の中国や朝鮮半島の社会の様子を見ていきます。是非は別として、日本の文化が深く浸透していった様子がよくわかります。	アが戦争るのを許したのか調べて下さい。
第 12 回：12 月 21 日 国際連盟と国際連合、日本の戦前と戦後	第一次世界大戦に参戦した日本は、国際連盟の成立に関与しました。その結果、国際連盟では常任理事国として、様々な利権だけでなく、国際協調を担う大国としての義務を負いました。近代化に遅れながらも、半世紀で先進工業大国の仲間入りをした日本は、こうして手に入れた常任理事国としての特権を大切にするだろうと、当時の欧米先進国は考えました。でも、日本政府は国司連盟を脱退、日中戦争を続け、太平洋戦争に向かいました。そして敗戦、今度は経済的には成功しますたが、国際政治の中では大きな発言権はありません。その結果、国際地政学の上	○アサイメント：国際連盟に参加した国を調べて下さい。 ○事前学習：国際連盟を日本脱退した理由を事前に調べて下さい。
第 13 回：1 月 11 日極東とアメリカ、ベトナム戦争後の 50 年と中国の台頭	皆さんが生まれる前、20 世紀後半の東アジアでは戦争が続いていました。その時代、敗戦から立ち直った日本は平和を謳歌していましたが、中国の国共内戦と台湾への移動があり、韓国、ベトナム、カンボジアは戦乱が対照的に続きました。フィリピンやインドネシアでもクーデターや社会的混乱が続きました。今はすっかり平和になり、観光客も行き来しています。現地には、数々の戦争の遺跡が残されています。そして、世界第二位の超大国になった中国が、国際地政学の上で大きな存在感を見せています。この回は、東アジアの戦後を詳しく見ていきます	○アサイメント：ベトナム戦争の原因となった南北の政治対立とはどんな対立か簡単に述べて下さい。 ○事前学習：ベトコンとは何か、簡単に述べて下さい。
第 14 回：1 月 18 日日米と中露、世界史の転換点に生きる	20 世紀後半から現在まで、日本は最重要同盟国であるアメリカの支援のもと国際政治に参加してきました。アメリカとの経済、社会的な関係も拡大し続けてきました。一方、アメリカに遅れて 1972 年に漸く国交正常化した中国とは、この半世紀の間、貿易は最大に拡大したものの、多くの懸案事項が残り、近くて遠い国だと言われます。今後も中国の経済力は拡大を続けます。密接な関係を保ちつつも、アメリカとは違う関係ができつつあります。やがて、アメリカ一強の時代は終わり、中国が派遣を握る時が来ると思われます。その時に備えて、何を学ぶか	○アサイメント：今の日本で、海外からの人材を必要とする産業部門を一つ上げて、その課題を書き出して下さい。 ○事前学習：これまで学んだ国際地政学の中で関心を持った課題を一つ上げて下さい。
第 15 回:1 月 25 日　国際大学から留学して学ぶアジアの地政学	最後に、グローバルスタディに出る皆さんが、留学先で出会った人々と、東アジアや東南アジアの歴史について語ることができるように、英語で戦後の歴史を話してみましょう。留学生の皆さん囲んでワークショップで、小学校から高校まで学んだ歴史の知識を語り合ってみましょう。それは、もちろん皆さんが外国に出た時の会話に備えたものです。留学生の皆さんと少し話すだけでも、歴史観の違いが分かるはずです。例えば、日本にアメリカ軍はなぜ駐屯しているのかについて。話してみて下さい。日本を外国の侵略から守るた	○アサイメント：最終課題を別途発表します。 ○事前学習（最終回なので事前学習はありません。）

	め、アジアの国々に日本が侵略し	

1.授業コード（ナンバリング）	MNG302-M51	2.科目名	コンプライアンス	3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	どの企業でも重要視されているコンプライアンスですが、法令だけではなく、社会的規範などの順守も求められています。また、最近のコンプライアンス違反事例にあるように、その推進体制が適切なものでなければ、企業が倒産に追い込まれてしまう危険性もあります。授業では、コンプライアンスの意味をはじめ、重要性、違反事例から対策方法まで網羅的に解説します。また、個人としても、コンプライアンスについて十分に理解していなければ、無知によってコンプライアンス違反を起こすことにもなります。自分自身を守るためにも、コンプライアンスの基				
18.学習目標とＤＰとの関連	（1）コンプライアンスについて説明できる。 （2）パワハラ・セクハラについて説明できる。 （3）自分自身を守ることについて実践できる。 DP の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力に関連する。				
19.教科書・教材	授業内に適宜プリントを配布				
20.参考文献	授業内に適宜紹介				
21.成績評価	ノートテイク：５０％ 中間レポート：２５％ 期末レポート：２５％				
22.コメント	コンプライアンスは、あらゆる業種のあらゆる場面で必要とされるので、しっかりを理解しておきましょう。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	コンプライアンスとは	授業の予習・復習
第２回	公私混同	授業の予習・復習
第３回	消費者保護	授業の予習・復習
第４回	不正競争	授業の予習・復習
第５回	粉飾決算	授業の予習・復習
第６回	脱税	授業の予習・復習
第７回	中間レポート	中間レポート
第８回	企業倫理	授業の予習・復習
第９回	知的財産保護	授業の予習・復習
第１０回	労使関係	授業の予習・復習
第１１回	パワハラ	授業の予習・復習
第１２回	セクハラ	授業の予習・復習
第１３回	アカハラ	授業の予習・復習
第１４回	期末レポート	期末レポート
第１５回	総括	期末レポート

1.授業コード（ナンバリング）	MNG305-M01	2.科目名	セーフティマネジメント論	3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦				
5.授業科目の区分	展開科目「防災・減災分野における実務経験のある教員による授業科目」	6.必修・選択の区分	選択(防災･危機ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻、災害心理学専攻　ｺｱ科目)	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間科学部、経営学科、心理学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	防災士資格取得希望者(春学期地域防災減災論履修)が望ましい。	11.先修条件	3・4 年生は、人間学 II および「地域防災減災論」単位取得が望ましい。「地域防災減災論」未受講の学生（主に 2 年生）は、今学期金曜 2 限の地域防災減災論との同時受講が望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、ワークショップ		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	具体的な各種の危機事案対応などを通じて、「地域防災減災論」で学んだ防災・減災についての体系的な知識をさらに深め、災害をイメージする力をより高めることにより、様々な危機に対する事前対策、予防、対応など、社会のいかなる分野においても有効となる安全・安心を担保する力を身につける。				
18.学習目標とＤＰとの関連	安全・安心社会の実現に向けて必要となる法体制、組織体制、自助・共助・公助の関係など、防災・減災の総合的な知識、技量を身につける				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	各回提出物（WebClass）：50% 総括試験(レポート)：50%				
22.コメント	地域防災減災論で学んだ基礎的な自然災害に対する知識に加えて、犯罪や事故など、他の危機事象も含めた災害対応経験者からの話により、様々な危機事象を人ごとではなく自分の身にも起こりうることであることを感じてください。そして、様々な危機をイメージして、果敢に立ち向かう力を身につけてください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【金曜 3 限】 第 1 回 (4/12)	＜講師名は 2022 年度のもの。現在調整中＞ ---主に三木 C から発信して山手 C は遠隔で教室受講になります--- セーフティマネジメント総論 <安全安心を脅かすリスク> 講師：関西国際大学教授　村田昌彦<三木>	☆毎回、WebClass により履修内容の確認をします。 授業資料は WebClass で電子配布するので、ノート PC かタブレットを持参のこと(スマホでも可) ※　2～14 回も同様
第 2 回 (4/19)	防災法制度① <災害対策基本法/災害救助法> 講師：関西国際大学　村田昌彦	
第 3 回 (4/26)	防災法制度② <災害法制度の運用他> 講師：関西国際大学教授　村田昌彦（三木）	

第 4 回 (5/10)	災害時避難行動要支援者対策<障がい者、高齢者、外国人など> 講師：関西国際大学客員教授　斉藤容子<山手> 関西国際大学　村田昌彦（コメント：三木）	
第 5 回 (5/17)	災害ボランティア <災害事例をベースに、望ましいボランティア活動の仕組み、活動内容について学ぶ> 講師：関西国際大学客員教授　斉藤容子<山手> 関西国際大学　村田昌彦（コメント）	
第 6 回 (5/24)	災害とマスメディア<災害発生時におけるマスコミと行政との効果的な協力による情報収集や広報について、実際の災害報道などから学ぶ> 講師：関西国際大学教授　村田昌彦＜三木＞	
第 7 回 (5/31)	消防と救命救急体制<平時における安全･安心の確保、災害時の被災地、被災者対応に重要な役割を担う消防防災のシステムについて学ぶ> 講師：現代社会学部社会防災学科教授　松山 雅洋　＜山手> 村田昌彦（コメント：三木）	
第 8 回 (6/7)	こころのケア<災害被災者、救助者に対するこころのケアについて学ぶ> 講師：関西国際大学人間心理学科教授　道免 逸子<遠隔> 村田昌彦（コメント）	
第 9 回 (6/14)	身近な犯罪と防犯<日常生活の安全・安心を突然脅かす、身近に忍び寄る犯罪とその防止策を学ぶ> 講師：関西国際大学　心理学科教授　大松 光寿（山手） 心理学科教授　村田 昌彦（三木：コメント）	
第 10 回 (6/21)	犯罪心理について<安全安心を脅かす犯罪者の心理、災害発生時の犯罪の増加傾向と、その有効な対策について学ぶ> 講師：関西国際大学 人間心理学科教授　髙橋浩樹<山手> 村田昌彦（コメント）	
第 11 回 (6/28)	兵庫県の防災危機管理 講師；兵庫県広域防災センター長　　<三木>、 関西国際大学　村田昌彦（コメント）	
第 12 回	大規模事故ほかの危機事案対策<災害対策基本法が所管	

(7/5)	する大規模事故災害ほか、新型インフルエンザ、国民保護事案などの危機事案について実例などから学ぶ> 講師：兵庫県危機管理部災害対策課　津田副課長<山手> 　　村田昌彦（コメント：三木）	
第 13 回 (7/12)	被災者心理について<災害発生時における被災者の心理状況、パニック発生、風評被害、警報が出てもなかなか避難しない人々をいかに避難させるか、また、災害時の犯罪発生などについて学ぶ> 講師：元関西国際大学人間心理学科教授　西岡敏成<三木> 　　関西国際大学　村田昌彦（コメント）	
第 14 回 (7/19)	セーフティマネジメント演習 <自然災害に対するﾊｻﾞｰﾄﾞﾏｯﾌﾟを確認して、自宅・実家等の潜在リスクを各自で調べる。避難所に避難した際に、どのような困難に直面するか、グループで議論する。> 講師：関西国際大学　村田昌彦<三木>	
第 15 回 (7/26)	総括レポートの提出 講師：関西国際大学　村田昌彦<三木>	

1.授業コード（ナンバリング）	MNG305-y01	2.科目名	セーフティマネジメント論	3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦				
5.授業科目の区分	展開科目「防災・減災分野における実務経験のある教員による授業科目」	6.必修・選択の区分	選択(防災･危機ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻、災害心理学専攻　ｺｱ科目)	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間科学部、経営学科、心理学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	防災士資格取得希望者(春学期地域防災減災論履修)が望ましい。	11.先修条件	3・4 年生は、人間学 II および「地域防災減災論」単位取得が望ましい。 「地域防災減災論」未受講の学生（主に 2 年生）は、今学期金曜 2 限の地域防災減災論との同時受講が望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、ワークショップ		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	具体的な各種の危機事案対応などを通じて、「地域防災減災論」で学んだ防災・減災についての体系的な知識をさらに深め、災害をイメージする力をより高めることにより、様々な危機に対する事前対策、予防、対応など、社会のいかなる分野においても有効となる安全・安心を担保する力を身につける。				
18.学習目標とＤＰとの関連	安全・安心社会の実現に向けて必要となる法体制、組織体制、自助・共助・公助の関係など、防災・減災の総合的な知識、技量を身につける				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	各回提出物（WebClass）：50% 総括試験(レポート)：50%				
22.コメント	地域防災減災論で学んだ基礎的な自然災害に対する知識に加えて、犯罪や事故など、他の危機事象も含めた災害対応経験者からの話により、様々な危機事象を人ごとではなく自分の身にも起こりうることであることを感じてください。そして、様々な危機をイメージして、果敢に立ち向かう力を身につけてください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【金曜 3 限】 第 1 回 (4/14)	＜講師名は 2022 年度のもの。現在調整中＞ ---主に三木 C から発信して山手 C は遠隔で教室受講になります--- セーフティマネジメント総論 <安全安心を脅かすリスク> 講師：関西国際大学教授　村田昌彦<三木>	☆毎回、WebClass により履修内容の確認をします。 授業資料は WebClass で電子配布するので、ノート PC かタブレットを持参のこと(スマホでも可) ※　2～14 回も同様
第 2 回 (4/21)	防災法制度① <災害対策基本法/災害救助法> 講師：関西国際大学　村田昌彦	
第 3 回 (4/28)	防災法制度② <災害法制度の運用他> 講師：関西国際大学教授　村田昌彦（三木）	

第 4 回 (5/12)	災害時避難行動要支援者対策<障がい者、高齢者、外国人など> 講師：関西国際大学客員教授　斉藤容子<山手> 関西国際大学　村田昌彦（コメント：三木）	
第 5 回 (5/19)	災害ボランティア <災害事例をベースに、望ましいボランティア活動の仕組み、活動内容について学ぶ> 講師：関西国際大学客員教授　斉藤容子<山手> 関西国際大学　村田昌彦（コメント）	
第 6 回 (5/26)	兵庫県の防災危機管理 講師；兵庫県広域防災センター長　河本　要 <三木>、 関西国際大学　村田昌彦（コメント）	
第 7 回 (6 /2)	消防と救命救急体制<平時における安全･安心の確保、災害時の被災地、被災者対応に重要な役割を担う消防防災のシステムについて学ぶ> 講師：現代社会学部社会防災学科教授　松山 雅洋　<山手> 村田昌彦（コメント：三木）	
第 8 回 (6/9)	こころのケア<災害被災者、救助者に対するこころのケアについて学ぶ> 講師：関西国際大学人間心理学科教授　道免 逸子<遠隔> 村田昌彦（コメント）	
第 9 回 (6/16)	身近な犯罪と防犯<日常生活の安全・安心を突然脅かす、身近に忍び寄る犯罪とその防止策を学ぶ> 講師：関西国際大学　心理学科教授　髙橋浩樹（山手） 心理学科教授　村田昌彦（三木：コメント）	
第 10 回 (6/23)	犯罪心理について<安全安心を脅かす犯罪者の心理、災害発生時の犯罪の増加傾向と、その有効な対策について学ぶ> 講師：関西国際大学 人間心理学科教授　髙橋浩樹<山手> 村田昌彦（コメント）	
第 11 回 (6/30)	災害とマスメディア<災害発生時におけるマスコミと行政との効果的な協力による情報収集や広報について、実際の災害報道などから学ぶ> 講師：関西国際大学教授　村田昌彦＜三木＞	
第 12 回	大規模事故ほかの危機事案対策<災害対策基本法が所管	

(7/7)	する大規模事故災害ほか、新型インフルエンザ、国民保護事案などの危機事案について実例などから学ぶ> 講師：兵庫県危機管理部災害対策課　津田副課長<山手> 　　村田昌彦（コメント：三木）	
第 13 回 (7/14)	被災者心理について<災害発生時における被災者の心理状況、パニック発生、風評被害、警報が出てもなかなか避難しない人々をいかに避難させるか、また、災害時の犯罪発生などについて学ぶ> 講師：元関西国際大学人間心理学科教授　西岡敏成<三木> 　　関西国際大学　村田昌彦（コメント）	
第 14 回 (7/21)	セーフティマネジメント演習 <自然災害に対するﾊｻﾞｰﾄﾞﾏｯﾌﾟを確認して、自宅・実家等の潜在リスクを各自で調べる。避難所に避難した際に、どのような困難に直面するか、グループで議論する。> 講師：関西国際大学　村田昌彦<三木>	
第 15 回 (7/28)	総括レポートの提出 講師：関西国際大学　村田昌彦<三木>	

1.授業コード（ナンバリング）	MNG306-Y01	2.科目名	e コマース	3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択科目	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 ～4 回生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本講義は、観光産業の構造的イノベーションの先導的役割を果たしている e コマース に関する具体的事例を基に e コマースのビジネスの仕組み、考え方、その効果、課 題、既存ビジネスや市場への影響等について基本的に理解し、とりわけ、プラット フォーム・システム及び e コマースと物流との関係については、今後の展開につい考え させることにより、ビジネス・イノベーションの意味、あり方、観光産業の構造的変化に つながる可能性等について考えさせる。 本講義の到達目標は、受講生が、e-ビジネスの基本的な枠組みを分析し、様々な形態				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）と（5）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 〇E コマースの基礎知識と仕組みを理解できる。 〇E コマースの現状を理解できる。 〇E コマースの現代社会における価値を生かした未来の提案ができる。				
19.教科書・教材	永野修『リアル店舗生き残りの「答え」コロナ・E コマース時代の商業のあり方』幻冬舎、2020 年				
20.参考文献					
21.成績評価	総合評価は、ケーススタディと小テスト、学期末に行うテストで評価する。 ケーススタディと小テスト 40%、レポート 20%、期末試験 40%				
22.コメント	授業内容は前後したり変更する場合があります。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	教材の紹介とオリエンテーション	
	商業不動産の現在の展開について	ワークシート作成＆提出
	日本全体の市場規模とその苦境について	ワークシート作成＆提出
	スマホと E コマースの伸長の加速について	ワークシート作成＆提出
	事業スキームについて	ワークシート作成＆提出
	E コマースとリアル店舗の比較について	ワークシート作成＆提出
	顧客満足づくり、顧客満足と顧客価値の関係	ワークシート作成＆提出
	KOT 消費行動について	ワークシート作成＆提出
	新しいライフスタイルの時代を考える①	トピックス別レポート作成＆提出
	新しいライフスタイルの時代を考える②	トピックス別レポート作成＆提出
	新しいライフスタイルの時代を考える③	トピックス別レポート作成＆提出
	コミュニティとしてのショッピングセンター	ワークシート作成＆提出
	EC サイト運営チャンネル別攻略法①	プレゼンテーション準備
	EC サイト運営チャンネル別攻略法②	プレゼンテーション準備
	EC サイト運営チャンネル別攻略法③	プレゼンテーション発表

1.授業コード（ナンバリング）	MNG307-Y51	2.科目名	ビジネスプレゼンテーション 2	3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3～4 年
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・演習
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	目的：企業において新商品の紹介や新たな事業への進出など様々なビジネス上のプレゼンテーションが求められる。その対応について、効果的かつ説得力のあるプレゼンテーションの具体的な手法を修得する。 概要：ビジネスプレゼンテーションについて具体例を交えて、そのポイントを理解する。特にプレゼンにおける重要事項の事前準備や相手が納得するために欠かせないストーリーの作成などについて講義とケーススタディにより学ぶ。また、例題について具体的なプレゼンテーション資料を作成し、発表を行い、実践の中で重要なポイントを確認する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、学科 DP における（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力に該当する。 本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の【(4)問題発見・解決力】【(5)コミュニケーションスキル】【(6)専門的知識・技能の活用】に関連しています。 本科目の学習目標は、以下のとおりです。 ①プレゼンテーションにおける効果などを理論的に理解することができる。 ②プレゼンテーションにおいてメッセージの純化やスライド作成における留意点やスキルを学修できる。 ③自己の就活におけるプレゼンテーションを題材に、実践を通して①、②を体感する中で学び、理解を深める。				
19.教科書・教材	特になし				
20.参考文献	ロジカルプレゼンテーション　高田貴久 プレゼンテーションの技術　グロービス				
21.成績評価	①授業理解度・・・４０点　（講義の要点を的確に掴んで、その理解した内容を記述する。また自発的にケーススタディに取り組む）※学習目標①、②、③に対応 ②例題によるプレゼンテーション・・・30 点　（ケーススタディにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する。ルーブリック-チームワークを評価基準とする。）※学習目標①、②、③に対応に対応 ③確認テスト・・・30 点　※学習目標①、②、③に対応				
22.コメント					
23.オフィスアワー	金曜日　昼休み　神戸山手キャンパス 3 号館　3302 号室				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション 授業の概要や成績評価の方法について詳述する。	講義レビュー・次回の予習
【第 2 回】	プレゼンテーションの効果 「聴き手が動きたくなるプレゼン」とは？ プレゼンテーションの概要と効果について講義する。 また、履修生は自分自身のプレゼンテーションを実施する。	講義レビュー・次回の予習

【第 3 回】	提案の前に考えること① 論理思考力（話をつなぐスキル）について理解する。	講義レビュー・次回の予習
【第 4 回】	提案の前に考えること② 仮説検証力（疑問に答えるステップ）について理解する。	講義レビュー・次回の予習
【第 5 回】	提案の前に考えること③ 会議設計力（議論をまとめるスキル）について理解する。	講義レビュー・次回の予習
【第 6 回】	提案の前に考えること④ 資料作成力①（説得力ある文章や図表を作成するスキル）について理解する。	講義レビュー・次回の予習
【第 7 回】	提案の前に考えること⑤ 資料作成力②（説得力ある文章や図表を作成するスキル）について理解する。メッセージ編	講義レビュー・次回の予習
【第 8 回】	提案の前に考えること⑥ 資料作成力③（説得力ある文章や図表を作成するスキル）について理解する。チャート編	講義レビュー・次回の予習
【第 9 回】	提案の前に考えること⑦ 資料作成力④（説得力ある文章や図表を作成するスキル）について理解する。スライド編	講義レビュー・次回の予習
【第 10 回】	提案の前に考えること⑧ ビジネスプレゼンテーションにおけるストーリーの重要性を理解する。	講義レビュー・次回の予習
【第 11 回】	提案の前に考えること⑨ 自分自身のストーリーを作成のポイントを踏まえて作成する。	講義レビュー・次回の予習
【第 12 回】	プレゼンテーションの効果とリハーサル プレゼンのスライド以外の効果について学習する。また、状況に応じた対応など直前のリハーサルの心構えを理解する。	講義レビュー・次回の予習
【第 13 回】	プレゼンテーションの実践① 例題に対するプレゼンテーション	プレゼンテーションの反省点をとりまとめ、復習する。
【第 14 回】	プレゼンテーションの実践② 例題に対するプレゼンテーション	プレゼンテーションの反省点をとりまとめ、復習する。

【第 15 回】	講義全体のまとめと振り返り	

1.授業コード（ナンバリング）	MOR101-A01	2.科目名	生命と倫理	3.単位数	2
4.授業担当教員	森本誠一				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(公民)　中学(社会)　副専攻（生命と生活を考える）	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は低いでしょう。授業の終わりには毎回リアクションペーパーを提出してもらい、次の授業の冒頭でそれを取り上げます。また、授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世の中で何が起こっているのか知らなければ倫理的な判断のしようがありません。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業は、医療者としてだけでなく、患者やその家族としても直面する可能性の高い生命・医療倫理学上の問題を知り、そうした問題に対して私たちがどのように考え、対処したり振る舞ったりしたらよいのかを理解し実践できるようになることを目的としています。 【概要】 以上の目的を達成するために、この授業では倫理学の基本的な考え方を学んだ上で、安楽死・尊厳死、脳死・臓器移植、生殖補助医療といった生命・医療倫理学上の諸問題を概観しつつ、具体的な事例に基づいた事例検討をグループで行います。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 （1）事実の問題と価値の問題を区別して考えられる （2）倫理学の基本的な概念と代表的な倫理理論を理解し説明できる （3）生命倫理学上の基本的なテーマとその論点について理解し説明できる [関連するディプロマポリシー] （1）自律性 （3）多様性理解 （4）問題発見・解決力 （5）コミュニケーションスキル （6）専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	霜田求（編著）『テキストブック 生命倫理〔第 2 版〕』法律文化社、2022 年				
20.参考文献	柘植尚則『プレップ倫理学 増補版』弘文堂、2021 年 徳永哲也『ベーシック 生命・環境倫理――「生命圏の倫理学」序説』世界思想社、2013 年 児玉聡『功利主義入門――はじめての倫理学』ちくま新書、2012 年 ピーター・シンガー（山内友三郎、樫則章・監訳）『グローバリゼーションの倫理学』昭和堂、2005 年				

	ジェームズ・レイチェルズ（次田 憲和・訳）『新版 現実をみつめる道徳哲学』晃洋書房、2017年 江口聡（監訳）『妊娠中絶の生命倫理――哲学者たちは何を議論したか』勁草書房、2011 年
21.成績評価	授業中課題（WebClass でのリフレクション提出） 15% グループワークのワークシート前半 20% グループワークのワークシート後半 20% 授業内容に関する課題調査 15% 定期試験 30%
22.コメント	この授業では、みなさんが常識だと思っていること、当たり前だと思っていることを疑い、それらが本当に当たり前なのかどうかをみなさんに問いかけながら授業を進めていきます。一つ一つの問いかけはすぐには答えられないような難しい問題かもしれませんが、決して堅苦しい雰囲気の授業ではありませんので、ぜひ肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。
23.オフィスアワー	履修上の相談がある場合には授業の前後に声をかけてください。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回「イントロダクション」	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日 12 分）84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 2 回「現代社会の諸問題」	現代社会の倫理的問題について、写真などを交えて学修します。「なぜ倫理学を学ばなければならないのか」「なぜ倫理学が必要なのか」という疑問に答えるべく、現代社会で私たちが考えるべき倫理的諸問題を確認します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日 12 分）84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 3 回「生命・医療倫理学」	古典的な医の倫理とされるヒポクラテスの誓いから医療倫理の四原則まで、生命・医療倫理学の歴史を大まかに学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日 12 分）84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 4 回「患者中心の医療」	インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイス、セカンド・オピニオンといった患者中心の医療を特徴づける生命・医療倫理学上の基本的な概念を学修します。	◆ノートパソコン持参◆ ◎グループで発表へ向けて準備 150 分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日 12 分）84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 5 回「事例検討 1 回目前半」	生命・医療倫理学および倫理理論についての具体的な講義を受ける前に、まずはみなさんが漠然と抱いている倫理観・道徳観に基いて生命・医療倫理に関する事例をグループで検討します。第 13 回、14 回の授業で再び同様の事例を検討することで、この講義を受講することによってみなさんがどのように成長したのかを実感します。事例検討は 2 回に分けて行います。 ・グループ内でブレインストーミング（頭の体操、意見を自由に出し合うこと）を行います。 ・グループ内で出し合った意見に基いて議論します。 ・グループで話し合った内容を発表に向け	◆ノートパソコン持参◆ ◎グループで発表後の反省会 120 分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日 12 分）84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 6 回「事例検討 1 回目後	生命・医療倫理学に関する事例検討の後半です。 ・グループで発表に向けた最終的な調整を行います。	◆ノートパソコン持参◆ ◎グループで発表へ向けて準備 150 分

半」	・グループで発表を行います。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日 12 分）84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 7 回「安楽死・尊厳死」	国内外の安楽死・尊厳死をめぐる歴史を概観した上で、安楽死・尊厳死に対する倫理学的な考え方を学習します。授業の中で尊厳死に関わる映像資料を視聴します。	★グループワークのワークシート ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日 12 分）84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 8 回「脳死・臓器移植」	脳死がどのようなものなのか、遷延性意識障害（植物状態）との比較で確認した上で、日本における法制度の要点に触れながら脳死・臓器移植に対する倫理学的な考え方を学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日 12 分）84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 9 回「生殖に関する倫理学（1)」	人工授精・体外受精・顕微授精、受精卵・精子・卵子の提供、および代理母ががどのようなものか確認した上で、それらがはらむ倫理的問題について学修します。また、私たちが素朴に抱きがちな「自然である」「不自然である」という感情が何なのかを授業を通して反省します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日 12 分）84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 10 回「生殖に関する倫理学（2)」	着床前診断、出生前診断がどのようなものか確認したうえで、それらがはらむ倫理的問題について学修します。また、近年の高性能なエコー検査が投げかける新たな倫理的問題についても学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日 12 分）84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 11 回「選択的人工妊娠中絶」	胎児に何らかの障害がある（かもしれない）ということが、妊娠している女性にとって中絶を決断するきっかけとなることがあります。この決断をするまでの過程でパートナーや家族の意見が影響をおよぼすこともあれば、彼女たちを取り囲む社会の状況が影響することもあるでしょう。さて、胎児に障害があるという理由で中絶を決断することは、何か倫理的問題を引き起こすのでしょうか。また、受精卵、胎児、母体などを検査して胎児に障害があるかどうかを調べることやそうした技術を開発して世に出していくことには何か倫理的問題があるのでしょうか。今	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日 12 分）84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 12 回「人工妊娠中絶」	現在、日本で行われている人工妊娠中絶の根拠となっている母体保護法について要点を確認しながら、日本の中絶を取り巻く社会的状況について概観します。また、中絶に関する倫理学上の議論を学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日 12 分）84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 13 回「事例検討 2 回目前半」	生命・医療倫理学および倫理理論についての一通りの授業を受けた結果どのような成長をしたのか確かめるため、生命・医療倫理に関する事例をグループで検討します。事例検討は 2 回に分けて行います。 ・グループ内でブレインストーミング（頭の体操、意見を自由に出し合うこと）を行います。 ・グループ内で出し合った意見に基いて議論します。 ・グループで話し合った内容を発表に向けて模造紙にまとめます。	◆ノートパソコン持参◆ ◎グループで発表へ向けて準備 150 分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日 12 分）84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 14 回「事例	生命・医療倫理学に関する事例検討の後半です。	◆ノートパソコン持参◆

検討 2 回目後半」	・グループで発表に向けた最終的な調整を行います。 ・グループで発表を行います。	◎グループで発表へ向けて準備 150 分 〇新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日 12 分）84 分 〇予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 15 回「総括試験、まとめ、全体のふり返り」	総括試験を行います。試験が終わったあとには試験問題について解説します。その際、授業全体をふり返りながら、これまで何を学修してきたのか一緒に確認します。さらに、成績評価の方法・基準についても再確認します。授業に対する質問や意見を出す時間も設けます。	★グループワークのワークシート 〇新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日 12 分）84 分 〇授業ノートの整理をしながら復習 120 分

1.授業コード（ナンバリング）	MRK101-A01	2.科目名	マーケティング	3.単位数	4
4.授業担当教員	福本哲也				
5.授業科目の区分	基礎科目 マーケティング分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	高校（公民）　中学（社会）	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	[目的] 本講義では、マーケティングの基礎理論、特にマーケティングの視点を体得することを目的としている。マーケティングは、様々な製品やサービス、そして企業戦略の重要な指針であり、活動であ り、今後の様々な学修に大きく影響する。 [概要」 本講義では、マーケティング理論を実感できる事例紹介を交えながら、できるだけ分かり易く説明を行う。また、講義では単なる座学に終わることなく、マーケティングを実際に使える技術にまで高めるため、ほぼ毎回、個ワークまたグループワークを行い、実践的でメリハリのついた学習ができる				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は次のとおりです。 ①マーケティングの理論や専門用語が理解でき、その意味を説明できる=知的好奇心 ②社会やビジネスの課題について情報収集ができ、マーケティング視点で分析できる=情報収集/分析力 ③マーケティング技術を高め、プランニングの為のツールとして活用できる＝思考/構想 [関連するディプロマポリシー] （１）自立性　（2）社会的貢献　(4)問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6)専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	石井 淳蔵・ 廣田 章光 『1 からのマーケティング(第 4 版)』碩学舎 ,2019 年 ISBN:978-4-502-32771-1 定価:本体 2,400 円+税 *確認テスト等は、このテキストから出題されます。				
20.参考文献	都度、紹介する。				
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1)授業中の課題、小テスト:15 点 (2)授業中のワーク:15 点 (3)中間レポート「課題テーマは別途発表」:20 点 (4)総括試験「マーケティングの概念を理解していること、それを用いた企業や商品事例の分析」:40 点 (5)e-ポートフォリオ「マーケティングで学んだことを自分の言葉と考え方で表現できる」: 10 点				
22.コメント	マーケティングは、生活者や街・お店を観察すること、また、私達の身近な様々な製品やサービス、情報に興味を持つことから始まります。少し注意をすればその微妙な変化や違い、またその理由が見えてきます。その視点と行動がマーケティングの技術獲得の一歩となります。人や街、企業活動や製品、サービスに関心を持って受講することを期待しています。				

23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	第 1 回 〇オリエンテーション ・講義の概要、講義の流れ 〇教員自己紹介 ●学生を知る ・各自の興味、関心を知る 第 2 回 〇マーケティングとは ・マーケティングの意味、マーケティングとは何か 継続的に「価値」を生み出すこと ・マーケティングはプランニングの為のツール	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 3 回 第 4 回	第 3 回 〇 マーケティング事例を学ぶ①ロフト ・プランニングの意味、コンセプトのカタチ（触媒型と射抜き型） 第 4 回 〇マーケティング事例を学ぶ②ZARA とユニクロ ・ビジネスモデルとファッションビジネスの現場	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 5 回 第 6 回	第 5 回 〇マーケティング事例を学ぶ③ファションビジネスの課題と古着の可能性 ・SDGs、PEST 分析 第 6 回 〇マーケティング事例を学ぶ④キーアイテム ・4P とは ・Product の意味	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 7 回 第 8 回	第 7 回 〇マーケティング事例を学ぶ⑤シャネル研究 ・ブランドビジネス 第 8 回 〇注目される直近のマーケティング領域： マーケティングの教科書、業界地図 ・どんな課題、業界に興味があるか	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 9 回 第 10 回	第 9 回 〇自分をマーケティングする ・福本式就活法 → 自己分析 → 勝ち筋の発見 ・自己の価値の発見し、目標化する 第 10 回 〇マーケティングプロセス ・興味のある開発テーマを選択し、プランニングする	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 11 回 第 12 回	第 11 回 〇マーケティングフレーム ： フレームワークの色々	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分）

	・必要な情報を収集して整理する、そして活用する為のフレーム 　PEST 分析、3C 分析、SWOT 分析、5 フォース分析　など 第 12 回 〇STP ・限られた経営資源を有効に投資する為の STP ・色んなセグメント手法 　デモグラフィック、ライフステージ、世代（Z 世代)、心理的セグメンテーション 　顧客ピラミッド（5 セグ))、イノベーター理論　など ・ポジショニングマップの種類	[復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 13 回 第 14 回	13 回 〇MM　戦術構築の要「4P」 ・4P「What」と C「Who」の組み合わせ　＝　「価値」 〇最も重要な P　＝「Product」 ・キーアイテム ・製品のマネージメント 第 14 回 〇Price ・価格のマネージメント ・価格の決め方	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 15 回 第 16 回	第 15 回 〇Place ・チャネル、流通の進化 ・チャネルのマネージメント 第 16 回 〇Promotion ・プロモーションの全体像 ・広告のマネージメント ・コミュニケーションデザインへ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する [中間レポート] 作成と提出
第 17 回 第 18 回	第 17 回 〇コミュニケーションデザイン ・コミュニケーション戦略、時代の主役の変遷 ・What to Say × How to Say ・コミュニケーションアイデア、プロダクトアイデア 4 象限別対応 第 18 回 〇今注目されるメディア 　・マスコミから WEB マーケティングへ ・注目されているアドテクノロジー 　SEO SEM リスティング広告　KPI	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 19 回 第 20 回	第 19 回 〇SNS とインフルエンサー ・Z 世代と SNS ・インフルエンサー事例	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習]

	・AIDMA → AISAS モデルへ 第 20 回 ○クリエイティブワーク ・What to Say × How to Say プロダクト「アイデア」 × コミュニケーション「アイデア」 ○ロジカル × エモーショナル ・媒体の選択 ・キャッチコピー ボディコピー ・ショート動画	授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 21 回 第 22 回	第 21 回 ○ブランド論 ・ブランドとは 記憶の小箱 ： プロダクトに価値を見出した便益と独自性を記憶として残す ・ブランド論の変遷 ・ブランド構築のマネージメント 第 22 回 ○5 つ目 P Platform ・新しいビジネスモデル D2C(SHEIN)、楽天、amazon	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 23 回 第 24 回	第 23 回 ○マーケティングリサーチ ：調査 ・定量と定性の違い ・定量調査とは ：クロス集計、誤差 第 24 回 ・定性調査とは： エスノグラフィ 顕在化していないニーズを発見してモノをつくる WALKMAN IPod IPhone	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 25 回 第 26 回	第 25 回 ○今注目の事業・商品開発手法 ・マスマーケティングから・顧客起点マーケティング（N＝1）へ ・N＝1 の重要性 9 セグマップから戦略を導く 第 26 回 ○商品開発ワークショップ ： グループワーク ＊選択式の課題を提示 授業時間以外でもグループで発表に向けた活動を自主的に行うことを勧める	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 27 回 第 28 回	第 27 回 ○商品開発ワークショップ ： グループワーク 第 28 回 ○商品開発ワークショップ ： グループワーク	[予習][復習] グループワークを見直し完成させる
第 29 回 第 30 回	第 29 回 クループワーク発表 第 30 回 ○総括試験	[予習] 総括試験の準備 グループワークを見直し完成させ発表準備を

		する

1.授業コード（ナンバリング）	MRK101-M01	2.科目名	マーケティング	3.単位数	4
4.授業担当教員	齋藤勝洋				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(公民)　中学(社会)			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	本講義では、マーケティングの基礎理論、特にマーケティングの視点を体得することを目的としている。マーケティングは、様々な製品やサービス、そして企業戦略の重要な指針であり、活動であり、今後の様々な学修に大きく影響する。 そのため、授業中は事例紹介を交えながらできるだけ、分かり易く説明を行う。また、講義では単なる座学ではなく、ほぼ毎回、グループワークや個ワーク本講義は、３つの構成要素が盛り込み、学びの目標を明確して、多面的にメリハリのついた学習できるようになっている。 なお、テキストは毎回、次週の章を読み				
18.学習目標とＤＰとの関連	１．マーケティングの専門用語が理解できる＝知的好奇心 ２．　組織の課題について、マーケティングの視点で分析できる＝思考／判断力 ３．マーケティングのテーマ（社会現象）について理解できる＝情報収集／発見力				
19.教科書・教材	石井 淳蔵・ 廣田 章光 『1 からのマーケティング（第 4 版)』碩学舎 ,2019 年 ISBN：978-4-502-32771-1 定価：本体 2,400 円＋税 ＊確認テスト等は、このテキストから出題されます				
20.参考文献	別途、紹介する。				
21.成績評価	本講義の到達目標を確認するため、下の 4 つの方法と視点から理解度を計り、単位を出し評価を行う。 (1)授業中の振り返り問題：15 点 (2)授業中のワーク：15 点 (3)中間レポート「光ライティングシステムの分析」：20 点 (4)総括試験「マーケティングの概念を理解していることと、それを用いた企業や商品の分析」：40 点 (5)e-ポートフォリオ「マーケティングで学んだことを自分の言葉と考え方で表現できる」：10 点				
22.コメント	マーケティングは、私達の身近な様々な製品やサービス、情報と密接に関連しています。少し、注意をすればその違いや理由が見えてきます。その視点と行動がマーケティングであり、企業活動や製品、サービスに関心を持って受講することを期待しています。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回（04/09） 第 02 回（04/12）	第 01 回：04 月 09 日：オリエンテーション 授業の進め方、評価方法、テキスト等について説明を行う。また、　これから学んでいくマーケティングについて身近な製品やサービスを事例として個人ワークとグループワークを行い、実感して貰う。 第 02 回：04 月 12 日：「マーケティングの発想」（第 1 章：マーケティング発想の経営） マーケティングが身近な製品やサービスに大きく関係	○テキスト第 2 章を読んでくる。（60 分）

	しており、その目的や意図、定義について理解する。また、マーケティングの視点から特定の商品を採り上げ、それを個人で分析する体験を行う。	
第 03 回 （04/16） 第 04 回 （04/19）	第 03 回：04 月 16 日：「マーケティングの誕生の歴史」（第 2 章：マーケティング論のなりたち） 歴史的なマーケティングの発生を学び、その存在理由を理解する。また、マーケティングと経営学の違いを知るため、マーケティングの目的と機能を自分の生活に置き換えて考え、理解する。 第 04 回：04 月 19 日：「顧客の理解と 4P s」（第 3 章：マーケティングの基本概念）前半 マーケシングでの「顧客」という概念と、重要な視点である 4Ps について理解する。また、学んだ 4P s の視点を活かし、4K テレビやチキンラーメン、アリエール	○テキスト第 3 章を読んでくる。（60 分）
第 05 回 （04/23） 第 06 回 （04/26）	第 05 回：04 月 23 日：「顧客の理解と 4P s」（第 3 章：マーケティングの基本概念）後半 マーケシングでの「顧客」という概念と、重要な視点である 4Ps について理解する。また、学んだ 4P s の視点を活かし、4K テレビやチキンラーメン、アリエール等を分析してみる。 第 06 回：04 月 26 日：「製品戦略」（第 4 章：製品のマネジメント）前半 4P s の製品戦略を差別化戦略、市場細分化戦略、多様化戦略、計画的陳腐化戦略に分けて学ぶ。事例として商品を一つ採り上げ、それを元に戦略を分析してみる。	○テキスト第 4 章を読んでくる。（60 分）
第 07 回 （04/30） 第 08 回 （05/07）	第 07 回：04 月 30 日「製品戦略」（第 4 章：製品のマネジメント）後半 4P s の製品戦略を差別化戦略、市場細分化戦略、多様化戦略、計画的陳腐化戦略に分けて学ぶ。事例として商品を一つ採り上げ、それを元に戦略を分析してみる。 第 08 回：05 月 07 日：「価格戦略」（テキスト：第 5 章価格のマネジメント）前半 4P s の価格戦略、特に均衡価格体系の形成と非価格競争と流通戦略への移行を学ぶ。身近な価格の違い、理由を考察する。	○テキスト第 5 章を読んでくる。（60 分）
第 09 回 （05/10） 第 10 回 （05/14）	第 09 回：05 月 10 日：「価格戦略」（テキスト：第 5 章価格のマネジメント）前半 4P s の価格戦略、特に均衡価格体系の形成と非価格競争と流通戦略への移行を学ぶ。身近な価格の違い、理由を考察する。 第 10 回：05 月 14 日：「販売促進戦略」（第 6 章：広告のマネジメント）前半 4P s の販売促進戦略をメディアミックス戦略毎に分けて学ぶ。また、好きな商品を採り上げ、その販売促進戦略を考察する。	○テキスト第 6 章を読んでくる。（60 分）

第 11 回 （05/17） 第 12 回 （05/21）	第 11 回：05 月 17 日：「販売促進戦略」（第 6 章：広告のマネジメント）後半 　4P s の販売促進戦略をメディアミックス戦略毎に分けて学ぶ。また、好きな商品を採り上げ、その販売促進戦略を考察する。 第 12 回：05 月 21 日：「流通戦略」（第 7 章：チャネルのマネジメント）前半 4P s の流通戦略を、「流通系列化」、「販売価格維持制度」、そして商業とマーケティングの対立について学ぶ。身近な商品の流通を探し、まとめてみる。	○テキスト第 7 章を読んでくる。（60 分）
第 13 回 （05/24） 第 14 回 （05/28）	第 13 回：05 月 24 日：「流通戦略」（第 7 章：チャネルのマネジメント）後半 4P s の流通戦略を、「流通系列化」、「販売価格維持制度」、そして商業とマーケティングの対立について学ぶ。身近な商品の流通を探し、まとめてみる。 第 14 回：05 月 28 日：これまでのまとめ	
第 15 回 （05/31） 第 16 回 （06/04）	第 15 回：05 月 31 日：中間試験 第 16 回：06 月 04 日：中間試験総括	○テキスト第 8 章を読んでくる。（60 分） レポート課題提示
第 17 回 （06/07） 第 18 回 （06/11）	第 17 回：06 月 07 日：「企業間、企業内でのサプライチェーン」（第 8 章：サプライチェーンのマネジメント）前半 企業間、企業内でのサプライチェーンについて、資生堂を事例に在庫からキャッシュの管理、同期化について学ぶ。各自で知っている大手企業を採り上げ、そのサプライチェーンについて調べて報告する 第 18 回：06 月 11 日：「企業間、企業内でのサプライチェーン」（第 8 章：サプライチェーンのマネジメント）後半 企業間、企業内でのサプライチェーンについて、資生堂を事例に在庫からキャッシュの管理、同期化について学ぶ。各	○テキスト第 9 章を読んでくる。（60 分）
第 19 回 （06/14） 第 20 回 （06/18）	第 19 回：06 月 14 日：「営業とは何か」（第 9 章：営業のマネジメント）前半 企業活動で最も重要な営業活動の本質と共に、その活動のマネジメント方法を学ぶ。また、好きな製品を一つ採り上げ、その営業戦略を検討する。 第 20 回：06 月 18 日：「営業とは何か」（第 9 章：営業のマネジメント）後半 企業活動で最も重要な営業活動の本質と共に、その活動のマネジメント方法を学ぶ。また、好きな製品を一つ採り上げ、その営業戦略を検討する。	○テキスト１０章を読んでくる。（90 分） レポート提出日
第 21 回 （06/21） 第 22 回 （06/25）	第 21 回：06 月 21 日：「顧客関係の理解とマネジメント」（第 10 章：顧客関係のマネジメント） 　マーケティングでの顧客の再確認と共に、顧客と企業の関係性の理解、そしてマネジメント方法を学ぶ。 第 22 回 06 月 25 日：「顧客関係の理解とマネジメン	○テキスト第 11 章を読んでくる。（90 分）

	ト」（第 10 章：顧客関係のマネジメント） 　マーケティングでの顧客の再確認と共に、顧客と企業の関係性の理解、そしてマネジメント方法を学ぶ。	
第 23 回 （06/28） 第 24 回 （07/02）	第 23 回：06 月 28 日：「顧客関係の理解とマネジメント」（第 11 章：ビジネスモデルのマネジメント）前半 ヒット商品を生み出すだけでは生き残れないのはなぜか、ビジネスモデルのマネジメント（工夫）とは何かについて、ビジネスモデルの重要性と競争優位性を理解する。 第 24 回：07 月 02 日：「顧客関係の理解とマネジメント」（第 11 章：ビジネスモデルのマネジメント）後半 ヒット商品を生み出すだけでは生き残れないのはなぜか、ビジネスモデルのマネジメント（工夫）とは何かについて、ビジネスモデルの重要性と競争優位性を理解す	○テキスト第 12 章を読んでくる。（60 分）
第 25 回 （07/05） 第 26 回 （07/09）	第 25 回：07 月 05 日：「顧客の変化とその測定」（第 12 章：顧客理解のマネジメント）前半 　顧客、特に顧客ニーズは変化しやすいという特性があることの理解と、それを如何に測定し理解するかを学ぶ。 第 26 回：07 月 09 日：「顧客の変化とその測定」（第 12 章：顧客理解のマネジメント）後半 　顧客、特に顧客ニーズは変化しやすいという特性があることの理解と、それを如何に測定し理解するかを学ぶ。	○テキスト 13 章を読んでくる。（60 分）
第 27 回 （07/12） 第 28 回 （07/16）	第 27 回：07 月 12 日：「ブランド構築の論理」（第 13 章：「ブランド構築のマネジメント」） 顧客のブランド認知、深化を行うことで強力な競争優位であるブランドイクイティを形成する、その理論と仕組みをを学ぶ。 第 28 回：07 月 16 日：（第 13 章：「ブランド構築のマネジメント」） 顧客のブランド認知、深化を行うことで強力な競争優位であるブランドイクイティを形成する、その理論と仕組みをを学ぶ。	○e-ポートフォリオ「これまでの学修を使い、成功していると考えル企業や商品を一つ選び、その成功要因を分析して投稿しなさい。」
第 29 回 （07/19） 第 30 回 （07/26）	第 29 回：07 月 19 日：「企業の社会的責任と義務」（第 14 章：「社会責任のマネジメント」）これまでの総括 第 30 回：07 月 26 日：総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	MRK101-y02	2.科目名	マーケティング	3.単位数	4
4.授業担当教員	齋藤勝洋				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(公民)　中学(社会)			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	本講義では、マーケティングの基礎理論、特にマーケティングの視点を体得することを目的としている。マーケティングは、様々な製品やサービス、そして企業戦略の重要な指針であり、活動であり、今後の様々な学修に大きく影響する。 そのため、授業中は事例紹介を交えながらできるだけ、分かり易く説明を行う。また、講義では単なる座学ではなく、ほぼ毎回、グループワークや個ワーク本講義は、３つの構成要素が盛り込み、学びの目標を明確して、多面的にメリハリのついた学習できるようになっている。 なお、テキストは毎回、次週の章を読み				
18.学習目標とＤＰとの関連	１．マーケティングの専門用語が理解できる＝知的好奇心 ２．　組織の課題について、マーケティングの視点で分析できる＝思考／判断力 ３．マーケティングのテーマ（社会現象）について理解できる＝情報収集／発見力				
19.教科書・教材	石井 淳蔵・ 廣田 章光 『1 からのマーケティング（第 4 版)』碩学舎 ,2019 年 ISBN：978-4-502-32771-1 定価：本体 2,400 円＋税 ＊確認テスト等は、このテキストから出題されます				
20.参考文献	別途、紹介する。				
21.成績評価	本講義の到達目標を確認するため、下の 4 つの方法と視点から理解度を計り、単位を出し評価を行う。 (1)授業中の振り返り問題：15 点 (2)授業中のワーク：15 点 (3)中間レポート「光ライティングシステムの分析」：20 点 (4)総括試験「マーケティングの概念を理解していることと、それを用いた企業や商品の分析」：40 点 (5)e-ポートフォリオ「マーケティングで学んだことを自分の言葉と考え方で表現できる」：10 点				
22.コメント	マーケティングは、私達の身近な様々な製品やサービス、情報と密接に関連しています。少し、注意をすればその違いや理由が見えてきます。その視点と行動がマーケティングであり、企業活動や製品、サービスに関心を持って受講することを期待しています。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回（04/09） 第 02 回（04/12）	第 01 回：04 月 09 日：オリエンテーション 授業の進め方、評価方法、テキスト等について説明を行う。また、　これから学んでいくマーケティングについて身近な製品やサービスを事例として個人ワークとグループワークを行い、実感して貰う。 第 02 回：04 月 12 日：「マーケティングの発想」（第 1 章：マーケティング発想の経営） マーケティングが身近な製品やサービスに大きく関係	○テキスト第 2 章を読んでくる。（60 分）

	しており、その目的や意図、定義について理解する。また、マーケティングの視点から特定の商品を採り上げ、それを個人で分析する体験を行う。	
第 03 回 （04/16） 第 04 回 （04/19）	第 03 回：04 月 16 日：「マーケティングの誕生の歴史」（第 2 章：マーケティング論のなりたち） 歴史的なマーケティングの発生を学び、その存在理由を理解する。また、マーケティングと経営学の違いを知るため、マーケティングの目的と機能を自分の生活に置き換えて考え、理解する。 第 04 回：04 月 19 日：「顧客の理解と 4P s」（第 3 章：マーケティングの基本概念）前半 マーケシングでの「顧客」という概念と、重要な視点である 4Ps について理解する。また、学んだ 4P s の視点を活かし、4K テレビやチキンラーメン、アリエール	○テキスト第 3 章を読んでくる。（60 分）
第 05 回 （04/23） 第 06 回 （04/26）	第 05 回：04 月 23 日：「顧客の理解と 4P s」（第 3 章：マーケティングの基本概念）後半 マーケシングでの「顧客」という概念と、重要な視点である 4Ps について理解する。また、学んだ 4P s の視点を活かし、4K テレビやチキンラーメン、アリエール等を分析してみる。 第 06 回：04 月 26 日：「製品戦略」（第 4 章：製品のマネジメント）前半 4P s の製品戦略を差別化戦略、市場細分化戦略、多様化戦略、計画的陳腐化戦略に分けて学ぶ。事例として商品を一つ採り上げ、それを元に戦略を分析してみる。	○テキスト第 4 章を読んでくる。（60 分）
第 07 回 （04/30） 第 08 回 （05/07）	第 07 回：04 月 30 日：「製品戦略」（第 4 章：製品のマネジメント）後半 4P s の製品戦略を差別化戦略、市場細分化戦略、多様化戦略、計画的陳腐化戦略に分けて学ぶ。事例として商品を一つ採り上げ、それを元に戦略を分析してみる。 第 08 回：05 月 07 日：「価格戦略」（テキスト：第 5 章 価格のマネジメント）前半 4P s の価格戦略、特に均衡価格体系の形成と非価格競争と流通戦略への移行を学ぶ。身近な価格の違い、理由を考察する。	○テキスト第 5 章を読んでくる。（60 分）
第 09 回 （05/10） 第 10 回 （05/14）	第 09 回：05 月 10 日：「価格戦略」（テキスト：第 5 章 価格のマネジメント）前半 4P s の価格戦略、特に均衡価格体系の形成と非価格競争と流通戦略への移行を学ぶ。身近な価格の違い、理由を考察する。 第 10 回：05 月 14 日：「販売促進戦略」（第 6 章：広告のマネジメント）前半 4P s の販売促進戦略をメディアミックス戦略毎に分けて学ぶ。また、好きな商品を採り上げ、その販売促進戦略を考察する。	○テキスト第 6 章を読んでくる。（60 分）

第 11 回 （05/17） 第 12 回 （05/21）	第 11 回：05 月 17 日：「販売促進戦略」（第 6 章：広告のマネジメント）後半 　4P s の販売促進戦略をメディアミックス戦略毎に分けて学ぶ。また、好きな商品を採り上げ、その販売促進戦略を考察する。 第 12 回：05 月 21 日：「流通戦略」（第 7 章：チャネルのマネジメント）前半 4P s の流通戦略を、「流通系列化」、「販売価格維持制度」、そして商業とマーケティングの対立について学ぶ。身近な商品の流通を探し、まとめてみる。	○テキスト第 7 章を読んでくる。（60 分）
第 13 回 （05/24） 第 14 回 （05/28）	第 13 回：05 月 24 日：「流通戦略」（第 7 章：チャネルのマネジメント）後半 4P s の流通戦略を、「流通系列化」、「販売価格維持制度」、そして商業とマーケティングの対立について学ぶ。身近な商品の流通を探し、まとめてみる。 第 14 回：05 月 28 日：これまでのまとめ	
第 15 回 （05/31） 第 16 回 （06/04）	第 15 回：06 月 31 日：中間試験 第 16 回：06 月 04 日：中間試験総括	○テキスト第 8 章を読んでくる。（60 分） レポート課題提示
第 17 回 （06/07） 第 18 回 （06/11）	第 17 回：06 月 07 日：「企業間、企業内でのサプライチェーン」（第 8 章：サプライチェーンのマネジメント）前半 企業間、企業内でのサプライチェーンについて、資生堂を事例に在庫からキャッシュの管理、同期化について学ぶ。各自で知っている大手企業を採り上げ、そのサプライチェーンについて調べて報告する 第 18 回：06 月 11 日：「企業間、企業内でのサプライチェーン」（第 8 章：サプライチェーンのマネジメント）後半 企業間、企業内でのサプライチェーンについて、資生堂を事例に在庫からキャッシュの管理、同期化について学ぶ。各	○テキスト第 9 章を読んでくる。（60 分）
第 19 回 （06/14） 第 20 回 （06/18）	第 19 回：06 月 14 日：「営業とは何か」（第 9 章：営業のマネジメント）前半 企業活動で最も重要な営業活動の本質と共に、その活動のマネジメント方法を学ぶ。また、好きな製品を一つ採り上げ、その営業戦略を検討する。 第 20 回：06 月 18 日：「営業とは何か」（第 9 章：営業のマネジメント）後半 企業活動で最も重要な営業活動の本質と共に、その活動のマネジメント方法を学ぶ。また、好きな製品を一つ採り上げ、その営業戦略を検討する。	○テキスト１０章を読んでくる。（90 分） レポート提出日
第 21 回 （06/21） 第 22 回 （06/25）	第 21 回：06 月 21 日：「顧客関係の理解とマネジメント」（第 10 章：顧客関係のマネジメント） 　マーケティングでの顧客の再確認と共に、顧客と企業の関係性の理解、そしてマネジメント方法を学ぶ。 第 22 回 06 月 25 日：「顧客関係の理解とマネジメン	○テキスト第 11 章を読んでくる。（90 分）

	ト」（第 10 章：顧客関係のマネジメント） 　マーケティングでの顧客の再確認と共に、顧客と企業の関係性の理解、そしてマネジメント方法を学ぶ。	
第 23 回 （06/28） 第 24 回 （07/02）	第 23 回：06 月 28 日：「顧客関係の理解とマネジメント」（第 11 章：ビジネスモデルのマネジメント）前半 ヒット商品を生み出すだけでは生き残れないのはなぜか、ビジネスモデルのマネジメント（工夫）とは何かについて、ビジネスモデルの重要性と競争優位性を理解する。 第 24 回：07 月 02 日：「顧客関係の理解とマネジメント」（第 11 章：ビジネスモデルのマネジメント）後半 ヒット商品を生み出すだけでは生き残れないのはなぜか、ビジネスモデルのマネジメント（工夫）とは何かについて、ビジネスモデルの重要性と競争優位性を理解す	○テキスト第 12 章を読んでくる。（60 分）
第 25 回 （07/05） 第 26 回 （07/09）	第 25 回：07 月 05 日：「顧客の変化とその測定」（第 12 章：顧客理解のマネジメント）前半 　顧客、特に顧客ニーズは変化しやすいという特性があることの理解と、それを如何に測定し理解するかを学ぶ。 第 26 回：07 月 09 日：「顧客の変化とその測定」（第 12 章：顧客理解のマネジメント）後半 　顧客、特に顧客ニーズは変化しやすいという特性があることの理解と、それを如何に測定し理解するかを学ぶ。	○テキスト 13 章を読んでくる。（60 分）
第 27 回 （07/12） 第 28 回 （07/16）	第 27 回：07 月 12 日：「ブランド構築の論理」（第 13 章：「ブランド構築のマネジメント」） 顧客のブランド認知、深化を行うことで強力な競争優位であるブランドイクイティを形成する、その理論と仕組みをを学ぶ。 第 28 回：07 月 16 日：（第 13 章：「ブランド構築のマネジメント」） 顧客のブランド認知、深化を行うことで強力な競争優位であるブランドイクイティを形成する、その理論と仕組みをを学ぶ。	○e-ポートフォリオ「これまでの学修を使い、成功していると考えル企業や商品を一つ選び、その成功要因を分析して投稿しなさい。」
第 29 回 （07/19） 第 30 回 （07/26）	第 29 回：07 月 19 日：「企業の社会的責任と義務」（第 14 章：「社会責任のマネジメント」）これまでの総括 第 30 回：07 月 26 日：総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	MRK202-Y01	2.科目名	マーケットリサーチ	3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎				
5.授業科目の区分	ＵＳＪのマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全専攻			9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義 アクティブ・ラーニング導入科目（グループディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	目的：ビジネスの戦略立案→実行→検証のためには、「消費者の声に耳を傾ける」ことが必須です。この科目は、さまざまな手法を用いて消費者の声を客観的に収集・分析できるようになることを目的とします。 概要：戦略の成功のために必須となるマーケットリサーチの目的とやり方を、具体例に基づいて実践しながら習得します。数字やエクセル関数が苦手な方も、ご安心ください。数字をいじることが目的ではなく、ビジネスを成功させるためのマーケットリサーチの位置づけを理解することを目的として授業を設計しています。 授業中、Google F				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(6)専門的知識・技能の活用力の習得をいちばんの目的としつつ、(4)問題発見・解決力を磨き上げることを視野に入れています。				
19.教科書・教材	資料は webclass で配布				
20.参考文献	適宜紹介				
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 23 点（各回 2 点×9 回、15 回目のみ 5 点） ?グループワークのプレゼンテーション 27 点 （各回 9 点×3 回） グループ得点（5 点満点）、グループ MVP（4 点） グループワークのディスカッションを欠席した場合は 0 点となります。 ?総括試験 50 点 ＊総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。				
22.コメント	遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。（厳守）				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	講義：ガイダンス マーケットリサーチとは マーケットリサーチの意義	予習：なし 授業のまとめシート：提出 復習：マーケットリサーチの意義をまとめる
第 2 回	講義：戦略構築とは マーケットリサーチは、ビジネス戦略の立案→実行→検証のためのツールです。マーケットリサーチとビジネス戦略の関係性について、ビジネス現場の実例を交えて講義します。	予習：なし 授業のまとめシート：提出 復習：戦略のフレームワークについてまとめる
第 3 回	講義：市場分析 第 3 回以降は、実際のビジネスの例として「関西国際大学の学生募集」をテーマとして進行します。まずは、戦略のフレームワークのうち、市場分析について	予習：18 歳人口の最近の傾向と今後の予測について調べる 授業のまとめシート：提出 復習：大学の学生募集市場の状況についてま

	皆さん一緒にリサーチしていきます。	とめる
第 4 回	講義：競合分析 「大学の学生募集」について、競合の定義をするためのリサーチの準備をします。また、各種調査に有用な「Google Form」の基本的な使い方を習得します。 個人ワーク：競合を定義するための定性・定量調査を設計し、次回までに実際に実施します。そのための調査設計と Google Form の設定を行います。必ずノート PC を持参してください。	予習：関西国際大学の競合と思われる大学をリストアップする 授業のまとめシート：提出 復習：設計した定性・定量調査を実行する
第 5 回	講義： リサーチ結果発表、定性調査設計 各自で実施・提出したリサーチ結果を集約し、競合を定義します。 グループワーク：志望校選びのポイントをデスクリサーチし、グループで仮説を立案します。仮説立案のための定性調査を設計し、次回までに実際に実施します。	予習：実施した定性・定量調査の結果をまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：設計した定性調査を実行する
第 6 回	講義： 定量調査設計 グループワーク：定性調査の結果を持ち寄り、志望校選びのポイントを厳選して、定量調査を設計します。設計した定量調査は、次回までに実際に実施します。必ずノート PC を持参してください。	予習：実行した定性調査のまとめ 授業のまとめシート：提出 復習：設計した定量調査を実行する
第 7 回	グループワーク：「志望校選びのポイントを見抜く」 定量調査の結果をまとめて、志望校選びのポイントの厳選と、重みづけを行います。次回のプレゼンテーションの準備を進めます	予習：実行した定量調査のまとめ 授業のまとめシート：不要 復習：グループでワークを進行
第 8 回	プレゼンテーション：「志望校選びのポイントを見抜く」 講義：ここまでのまとめ、クロス定量調査設計、Google Form の使い方（条件分岐)。 グループワーク：「大学の強みと弱みを見極める」 競合と比較し強みと弱みを見つけるための定量調査を設計します。設計した定量調査は、次回までに実際に実施します。必ずノート PC を持参してください。	予習：プレゼンテーションの準備 授業のまとめシート：提出 復習：設計した定量調査を実行する
第 9 回	グループワーク：「大学の強みと弱みを見極める」 定量調査の結果をまとめて、大学の強みと弱みを見極めます。次回のプレゼンテーションの準備を進めます	予習：実行した定量調査のまとめ 授業のまとめシート：不要 復習：グループでワークを進行
第 10 回	プレゼンテーション：「大学の強みと弱みを見極める」 グループワーク：「オープンキャンパスの企画」 見出した強み、弱みを踏まえ、オープンキャンパスのコンセプト候補を 3 つ作ります。	予習：プレゼンテーションの準備 授業のまとめシート：提出 復習：グループでワークを進行
第 11 回	講義：コンセプト調査設計 グループワーク：「オープンキャンパスの企画」 オープンキャンパスのコンセプト候補比較するためのコンセプト調査を設計し、次回までに実際に実施します。	予習：コンセプトの候補をまとめる 授業のまとめシート：不要 復習：設計したコンセプト調査を実施する
第 12 回	グループワーク：「オープンキャンパスの企画」 実施したコンセプト調査の結果をまとめて、オープンキャンパスのコンセプトを確定します。次回のプレゼ	予習：実施したコンセプト調査のまとめ 授業のまとめシート：不要 復習：グループでワークを進行

	ンテーションの準備を進めます。	
第 13 回	プレゼンテーション：「オープンキャンパスの企画」 講義：ここまでのまとめ、総括試験に向けて	予習：プレゼンテーションの準備 授業のまとめシート：提出 復習：総括試験へ向けて、全体の学びの整理
第 14 回	まとめと総括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	総括試験結果返却 全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	予習：講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード（ナンバリング）	MRK206-Y01	2.科目名	マーケティング	3.単位数	2
4.授業担当教員	上瀬昭司				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目では、マーケティングが世の中でどのような役割を果たしているのか、そしてマーケティングをうまくやるために理論がどのように役立つのかを学びます。そのようなことを学ぶことは、さらに深くマーケティングを学ぶきっかけとなり、うまくマーケティングを行うための手がかりを得ることになるはずです。 【概要】 １回の授業で、テキストの１章分を進みます。初回は 2 つの章を進み、第 15 回に総括試験を行います。 授業の最初に、各回のテーマに沿った企業のマーケティング活動（事例）を説明しながら、そのマーケティングを				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプローマ・ポリシー）の(1)自律性(2)問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①マーケティングについての基本的概念を理解できる。 ②新聞報道等で目にした企業のマーケティング行動について、理論的に整理できる。 ③企業のマーケティング行動について自分の考えを論理的に組み立て、他人に説明できる。				
19.教科書・教材	石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『１からのマーケティング〈第４版〉』2020 年、碩学舎				
20.参考文献	授業で使用した資料については、授業中に適宜指示する。 テキストの各章末に「参考文献」と「次に読んで欲しい本」が掲載されているので、授業内容に興味を持ち、もっと深く学びたいと思う学生は、それらの文献に当たってほしい。				
21.成績評価	成績評価の方法と配点は以下の通りです。 ・ディスカッションへの参加　・・・30 点　〔学習目標③に対応〕 ・レポート　・・・30 点　〔学習目標②に対応〕 ・総括試験　・・・40 点　〔学習目標①に対応〕				
22.コメント	ディスカッションのテーマについては、以下のことに注意して、あらかじめ自分の意見をまとめておくとよい。 ディスカッションのテーマは、当該章の内容に沿ったものであることに注意すると、的外れな発言をすることがない。 あらかじめ考えてきた意見であっても、先に述べた人とまったく同じものならば、述べてはいけない。似たような意見の場合は、違いを明らかにすることで、別の意見とみなされる。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	マーケティング発想の経営 ・アサヒビールのスーパードライ開発のケースを通して、マーケティング発想の第一は、消費者志向であることを理解する。	テキスト第１章および第２章についてあらかじめ読んでおき、ディスカッションのテーマについて自分なりの考えをまとめておく。

	・４分の１インチのドリルのケースを通して、消費者の本当のニーズは製品そのものではなく製品が果たす機能にあることを理解する。 ・ハーレーダビッドソンとコカ・コーラ「ニューコーク」のケースを通して、消費者が本当に欲しいものは何かについて考える。 テキスト第１章 ディスカッションのテーマ ・幾つかの製品を取り上げ、その製品が果たす機能とその製品を購入する目的について考えて	
第２回	マーケティングの基本概念 ・サントリー食品の「クラフトボス」のケースを通じて、マーケティングの基本概念（STP と４P）について学ぶ。 テキスト第３章 ディスカッションのテーマ ・特定の製品市場を想定し、そこがどのようなセグメントに分けられるのか、考えてみよう。 ・それらの製品市場における幾つかの具体的な製品を取り上げて、それぞれで組み合わされている４P の共通点や相違点について、考えてみよう。 ・それらの製品が４P の統合として何を目指していると思われるか、考えてみよう。	テキスト第３章をあらかじめ読んでおく
第３回	製品のマネジメント ・日清食品の「カレーメシ」の開発のケースを通して、マーケティングの４P の１つである製品のマネジメントについて学ぶ。 テキストの第４章 ディスカッションのテーマ ・特定の製品の製品コンセプトについて調べてみよう。 ・カップ飯のライン拡張の方向について考えてみよう。 ・特定の製品のヒットの理由について、製品のマネい面との観点から考えてみよう。	テキスト第４章をあらかじめ読んでおく
第４回	価格のマネジメント ・明治　ザ・チョコレートのケースを通じて、価格設定のマネジメントにおいて、需要とその価格弾力性、代替品（競合製品）との関係性、マーケティング・ミックスとの一貫性を考慮しなければならないことを学ぶ。 テキスト第５章 ディスカッションのテーマ ・競合製品よりも高い価格設定を行った高付加価値のヒット商品の事例を見つけ、どうしてそのような価格設定が妥当であるのかを「需要」と「競合製品」との関係から考える。 ・バンドリング製品の具体的な事例を見つけ、どのよ	テキスト第５章をあらかじめ読んでおく

	うな価格設定がなされているのか、売手に	
第5回	広告のマネジメント ファブリーズの事例を通して広告表現における3つの対応（消費者対応、競争対応、ブランド対応)、そして、プロモーション・ミックスの中で広告の役割と他との連携、さらには、広告媒体それぞれの特性とその組み合わせに6ついて学ぶ。 テキスト第6章 ディスカッションのテーマ ・今現在、携帯電話事業に参入しているすべての企業の主要な製品を挙げ、それらの具体的な広告表現の要素（ヘッドライン、キャッチコピー、タレント）を比較し、それぞれの広告マネジメント（消費者対応、競争対応、ブランド対応）を考えてみよ	テキスト第6章をあらかじめ読んでおく ※レポート課題を出します。提出は3週間後のこの授業の前日までに、UNIVERSAL PASSPORT上にアップすること。
第6回	チャネルのマネジメント ・資生堂が創り上げてきたチャネル別ブランド戦略を取り上げ、チャネル・マネジメント（チャネル選択とチャネル管理）という内容を中心に学ぶ。 テキスト第7章 ディスカッションのテーマ ・アネッサの主なチャネルとして、ドラッグストアを選択した理由を考えてみよう。 ・化粧品メーカーは、大きく精度品メーカーと一般品メーカーと訪販品メーカーに分けられる。チャネルの違いを中心に両者の違いを考えてみよう。 ・インターネットやスマートフォンなどの活用が当たり前となった現代における、化粧品メーカーのチ	テキスト第7章をあらかじめ読んでおく
第7回	サプライチェーンのマネジメント ・赤城乳業の事例を手がかりに、マーケティングとSCMのかかわりを学ぶ。 テキスト第8章 ディスカッションのテーマ ・企業が在庫を削減することのメリットとデメリットを整理してみよう。その上で、企業がSCMを導入すると、どのような効果が出るのかを考えてみよう。 ・SCMを導入している企業であっても、欠品を起こしたり、製品を販売中止にしたりすることがある。どういう原因でそうなるのかを考えてみよう。	テキスト第8章をあらかじめ読んでおく
第8回	営業のマネジメント ・サントリーのウイスキー事業の事例を取り上げ、営業部門がどのようにして人気商品を支えているのかを学ぶ。 テキスト第9章 ディスカッションのテーマ ・サントリーのウイスキー事業と同じように、製品ジャンルそのものを普及させなければならないような製品ジャンルを挙げてみよう。 ・上記で挙げた業界では、どんな営業活動が必要か考	テキスト第9章をあらかじめ読んでおく

	えてみよう。 ※３週間前に出したレポートの内容について幾人かに報告してもらう。	
第 9 回	顧客関係のマネジメント ・アウトドアブランド「スノーピーク」の事例を通して、この企業と顧客との良好な関係づくりについて学ぶ。 テキスト第 10 章 ディスカッションのテーマ ・１回ごとの交換を中心とした取引と、継続的な関係の構築を中心とした取引の具体例を挙げ、それぞれにどのような特徴があるか考えてみよう。 ・顧客をロイヤルカスタマーにするための取り組みについて具体例を挙げてみよう。 ・顧客との価値共創について、顧客が商品を使うことで新しい価値を創り出す事例と、顧客参加型の商品開発で新しい価値を創り出す事例を	テキスト第 10 章をあらかじめ読んでおく
第 10 回	ビジネスモデルのマネジメント ・谷田の製品開発の事例を通して、このビジネスモデルについて考える。 テキスト第 11 章 ディスカッションのテーマ ・ヒット商品を出しながら、最近はあまり業績がよくない企業を一つ取り上げ、その原因を調べよう。 ・何か一つ、製品とサービスを組み合わせたビジネスモデルの例を挙げてみよう。 ・ビジネスモデルを考えるとき、消費者向け（BtoC）と企業向け（CtoC）で異なる点は何かを考えてみよう。	テキスト第 11 章をあらかじめ読んでおく
第 11 回	顧客理解のマネジメント マツダの CX シリーズの事例を通して、企業の多岐にわたる顧客理解の手法とそれらのよう点について学ぶ。 テキスト第 12 章 ディスカッションのテーマ ・商品の改善点をグループにアンケートを取りまとめるのと、インタビューを通じて意見を聴くのとでは、得られるデータにどういった違いがあるのだろうか。比較して違いをまとめて見よう。 ・徹底した顧客理解を元に開発されたと思われる商品を挙げてみよう。その商品が顧客を理解していると実感できるのは、一体どの部分だろうか。	テキスト第 12 章をあらかじめ読んでおく
第 12 回	ブランド構築のマネジメント ・キットカットの事例を通して、ブランド構築のマネジメントについて学ぶ。 テキスト第 13 章 ディスカッションのテーマ ・ブランドの機能や効能について考えてみよう。 ・特定の商品のブランド連想イメージを考えてみよ	テキスト第 13 章をあらかじめ読んでおく

	う。 ・ブランドの連想イメージと企業によるコミュニケーション活動の関係について考えてみよう。	
第 13 回	ブランド組織のマネジメント コカ・コーラの事例を通して、ブランドを成長させるための組織の仕組みについて、ブランド・ポジショニング、ブランド拡張の観点から考える。 テキスト第 14 章 ディスカッションのテーマ ・コーラ市場において展開されるブランドにはそれぞれあなたのどのような体験が関与し、どのような印象を持っているのかを考えてみよう。 ・コーラ市場において展開される個々のブランドは、誰のどのような場面で飲用することをターゲットにしているのか。	テキスト第 14 章をあらかじめ読んでおく
第 14 回	社会的責任のマネジメント キリン CSV の取り組みから社会的責任のマネジメントについて学ぶ。 テキスト第 15 章 ディスカッションのテーマ ・キリンの公式サイトで CSV の取り組みを調べ、CSR と事業がどのように結びついているのかを考えてみよう。 ・企業の公共性とはどのような考えか、どのような問題があるのかを考えてみよう。 ・知っている企業のウェブサイトでベンチャー型 CSR の取り組みが紹介されているかを調べ、取り組んでいる場合、どのような公共性を保つ工夫をしているのかを考えてみよう。	テキスト第 15 章をあらかじめ読んでおく
第 15 回	総括試験	筆記用具以外の持ち込みを禁止する。

1.授業コード（ナンバリング）	MRK207-Y01	2.科目名	商品企画論	3.単位数	2
4.授業担当教員	上瀬昭司				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 ・ケースを通して商品企画や、そのプロセスを理解する。 ・多様な市場調査の手法や理論を数多く理解する。 ・商品企画プロセスに関連付けて、マーケティングを理解する。 ・商品企画プロセスの実践的な進め方を理解する。 【概要】 1 回の授業で、だいたいテキストの 1 章分を進みます。教科書は 15 章構成なので、初めの 4 章は 2 章ずつ進み、 8 回目（中間報告）と 15 回目（最終報告）にプレゼンテーションの時間を確保します。 授業の最初に、各回のテーマに沿った企業の商品企画における 1 プロセスに焦点を当てたケース（事例）				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプローマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①商品企画プロセスの各段階における進め方と気をつけることについて説明できる。 ②商品企画プロセスに従って商品企画書を作成できる。 ③商品企画についてプレゼンできる。				
19.教科書・教材	西川英彦・廣田章光『１からの商品企画』2012 年、碩学舎				
20.参考文献	各章末に参考文献が掲載されている。 講義内容に興味を持った学生は、「次に読んで欲しい本」を手がかりにして発展的に学習することも可能である。 商品企画書作成上必要となる資料・文献等については、インターネット等を活用して各自で調べること。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 授業への貢献（発言）　　・・・20 点　〔学習目標の①に対応〕 グループワークの成果　　・・・30 点　〔学習目標の③に対応〕 グループワーク内での貢献・・・50 点　〔学習目標の②に対応〕				
22.コメント	グループワークでは、各自が積極的に意見を述べるとともに、役割分担して課題に取り組むこと。 授業の各回ごとにテーマがあるので、それに沿って作業を進めると、最終的にプロセスに沿った商品企画書ができ上る。 授業中に予定の作業が終わらない場合は、次回までにやってくることを決めておくと、作業がスムーズに進む。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	商品企画プロセス	テキストの第 1 章および第 2 章をあらかじめ

	・ライオン「トップ　ナノックス」の商品企画プロセスのケースを通じて、商品企画プロセスの進め方と商品企画プロセスで気をつけることについて学ぶ。 テキスト第１章 インタビュー法 ・資生堂「マジョリカマジョルカ」のインタビュー法のケースを通じて、インタビュー法の進め方とインタビュー法で気をつけることについて学ぶ。 テキスト第２章	読んでおくこと。
第２回	観察法 ・IDEO「ATM」の観察法のケースを通じて、観察法の進め方と、観察法で気をつけることについて学ぶ。 テキスト第３章 リード・ユーザー法 ・フェリシモ「生活雑貨大賞」のリード・ユーザー法のケースを通じて、リード・ユーザー法の進め方と、リードユーザー法で気をつけることについて学ぶ。 テキスト第４章	テキストの第３章および第４章をあらかじめ読んでおくこと。
第３回	アイデア創出 ・TOTO「クラッソ」のアイデア創出のケースを通じて、アイデア創出の進め方と、アイデア創出で気を付けることを学ぶ。 テキスト第５章 グループに分かれ、実際に新商品のアイデアの創出を行う。	テキスト第５章をあらかじめ読んでおくこと。 ここからグループワークが加わります。調べ物をしたり、メモを共有する上で、スマホの電池残量を事前に確認しておいてください。
第４回	コンセプト開発 ・エースコック「JANJAN ソース焼きそば」のコンセプト開発のケースを通じて、コンセプト開発の進め方とコンセプト開発で気を付けることを学ぶ。 テキスト第６章 グループワークで、知覚マップを作成し、新商品のコンセプトを開発する。	テキスト第６章をあらかじめ読んでおくこと
第５回	プロトタイピング（商品コンセプトを具現化して試作品を開発すること） ・IDEO「ショッピング・カート」のプロトタイピングのケースを通して、プロトタイピングの進め方とプロトタイピングで気を付けることについて学ぶ。 テキスト第７章 グループワークでは、さすがに試作品の作成まで行う時間的余裕はないであろうから、コンセプト実現のアイデアをもとに商品の設計図を描き、必要となる原材料や技術、克服すべき問題点について考えてみる。製作に幾らぐらいコストがかかるのかを見積もっておくと、後で価格設定の際に役立つ。	テキスト第７章をあらかじめ読んでおくこと
第６回	中間報告 ・これまでの成果をもとに、チームごとに中間報告を行う。 他のチームの報告をよく聞き、問題点があれば指摘	授業が始まる前に、報告資料を提出すること。 Microsoft ならワードかパワーポイントで、Google ならドキュメントかジャムボードで整

	し、改良点があれば提案する。	理したものを使用すると、聞き手が理解しやすいですが、この段階ではメモ書きしたものを写メでとり、プロジェククターに投影してもかまいません。
第 7 回	市場規模の確認 ・ロッテ「Fit's」に見る、市場規模の確認を通じて、市場規模の確認の進め方と市場規模の確認で気を付けることについて学ぶ。 テキスト第 8 章 グループワークで、類似性に基づく推定と比率連鎖法を用いて市場規模の確認を行う。	テキスト第 8 章をあらかじめ読んでおくこと。
第 8 回	競合・技術の確認 ・ホンダ「CR-Z」の競合・技術の確認のケースを通じて競合・技術の確認の進め方と、競合・技術の確認で気を付けることを学ぶ。 テキスト第 9 章 グループワークでは、 3C 分析とポジショニング・マップの作成を通じて競合・技術の確認を行う。	テキスト第 9 章をあらかじめ読んでおくこと。
第 9 回	顧客ニーズの確認 ・ハウス「C1000 ビタミンレモンコラーゲン」の顧客ニーズの確認のケースを通して、顧客ニーズの確認進め方と顧客ニーズ確認で気をつけることについて学ぶ。 テキスト第 10 章 グループワークでは、商品コンセプトが受け入れられるかどうか、パッケージの形状やラベル、商品名が当該商品のベネフィットをイメージするのにふさわしいかどうかを考えてみよう。自分たちだけでなく、他のチームのメンバーにも確認してもらうとよい。	テキスト第 10 章をあらかじめ読んでおくこと
第 10 回	販促提案 ・サントリー「ハイボール」の販促提案のケースを通じて、販促提案の進め方と販促提案で気を付けることについて学ぶ。 グループワークでは、メディアの選択とメッセージの考案を行う。ターゲットは誰なのかを確認し、ターゲットにメッセージが届く方法を考える。	テキスト第 11 章をあらかじめ読んでおくこと
第 11 回	価格提案 ・パステル「なめらかプリン」のケースを通して、価格提案の進め方と価格提案で気を付けることについて学ぶ。 テキスト第 12 章 グループワークでは、売って儲かる価格と、顧客が買ってもよいと思う価格と、競合他社の提示する価格を確認しながら、価格提案を行う。	テキスト第 12 章をあらかじめ読んでおくこと。
第 12 回	チャネル提案 ・花王「ヘルシア緑茶」のチャネル提案のケースを通して、チャネル提案の進め方とチャネル提案で気を付けることについて学ぶ。	テキスト第 13 章をあらかじめ読んでおくこと。

	テキスト第 13 章 グループワークでは、各チャネルのメリット・デメリットを考えながら、チャネル提案を行う。	
第 13 回	企画書作成 ・フジッコ「フルーツセラピー」の企画書作成のケースを通して、企画書作成の進め方と企画書で気を付けることについて学ぶ。 テキスト第 14 章 グループワークで、企画書を作成する	テキスト第 14 章をあらかじめ読んでおくこと。
第 14 回	プレゼンテーション ・グリコ「メンズポッキー」のプレゼンテーションのケースを通じてプレゼンテーションの進め方とプレゼンテーションで気をつけることについて学ぶ。 テキスト第 15 章 グループワークでは、これまでに学んだことに注意して、翌週の最終報告に備えてプレゼンテーションの準備をする。	テキスト第 15 章をあらかじめ読んでおくこと。
第 15 回	グループごとに全員の前で最終報告を行う。 報告後、グループワークに対するチームメンバーの貢献度を、自分の貢献度も含めて評価する。	授業開始前までに企画書を提出すること。最終報告は、提出された企画書をプロジェクターに投影しながら行う。 他のチームの発表はしっかり聞くこと。

1.授業コード（ナンバリング）	MRK308-Y01	2.科目名	流通産業論	3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史				
5.授業科目の区分	専門教育科目 展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に他学部他学科からの履修を歓迎します。			9.履修学年	2 回生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件	特にありません		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	特にありません				
17.授業の目的と概要	流通産業とは、主に小売と卸売の商業のことです。そこに物流と倉庫業が加わります。皆さんの消費生活を取り巻く環境は、近年急速に変化しました。大型ショッピングと各種の量販店、そしてコンビニで買物する人が多いと思います。しばらく前には、デパートとか商店街がにぎわった時代がありました。今は、ネットショッピングが広がり、スマホで選んだ商品が翌日に届きます。その分、お店が減り、商品を届ける物流業界が忙しくなりました。この授業では、こうして急速に変化が進む流通産業の全体像を知り、過去と現在、そして未来を考えます。求人の多				
18.学習目標とＤＰとの関連	日本の食文化を体系的に知り、現代日本で暮らす自分の食文化がどう形成されたものかを考える。多様な文化を理解する上で和食を原点に置き、歴史的な視点で広く世界を捉える視点を養う。				
19.教科書・教材	授業の主な内容を資料として配ります。それをもとに独自の教科書を作ってみて下さい。				
20.参考文献	宗田好史『中心市街地の創造力』顎堤出版社、2007 年				
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話ししたこと、配付したスライドをよく理解していること。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜 3 コース（研究室/3-308）、火曜 2 コース(学修支援センター)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 4 月 12 日	流通産業を知ろう。 「ショッピング」はどこでしますか？皆さんはどんなところで買物していますか？皆さんのご家族はどこがお好きでしょう。一人の消費者である皆さんの買物行動は「流通産業」の一部、安い店やきれいな店、大きな店舗や高級ブランドショップ、いろいろありますが、その違いの裏にはどのような仕組みあるのでしょうか。 最初に皆さんの買物の様子を知り、様々なお店を分けて調べ、その多様ア世界を考えてみます。そこから、流通産業の特徴を学び始めます。	〈アサイメント〉 皆さんが知っているお店を書き出して提出して下さい。(例えば、イオン、ローソンなど) 〈事前学習〉 皆さんの洋服を 5 着ほど選び、それをどこにあるどの店で買ったか書いて下さい。
第 2 回 4 月 19 日	「商業（流通）とその歴史」、流通産業は、農産物や食品、衣料薬品、電化製品など様々な品物を、生産者から消費者に届ける仕事、あるいは仕組みです。その仕事はとても多様、それもいろいろな変化を続けてきました。2 回目では、流通産業の歴史を簡単に振り返ります。関西と関東、日本の東西南北で、都市と田舎で、その歴史も少し違います。 歴史をたどる中で、市場、楽市楽座、商都大阪と城下	〈アサイメント〉 都会と田舎では買物はどう違うか 〈事前学習〉身近な流通業を調べてみよう。 家族で出かけるショッピング、一人で楽しむお買い物、皆さん自身のこの 1 週間の買物を振り返り、回数と何を買ったかを調べて表にして下さい。

	町、問屋の発達、商店街、百貨店、スーパーマーケット、チェーンストア、ショッピングセンター、量販店、e-コマースなど、一つずつ簡単に紹介し、これか	
第 3 回 4 月 26 日	「大きな店舗と小さなお店」、商店街には小さな店が、盛場や観光地にもっと小さな屋台もあります。フリマはとっても小さな店の集まりです。一方、一日では見て回れないような大型店があります。郊外のはショッピングセンターには巨大なスーパーと量販店、フードコートやゲームセンター、シネコンもあります。ちょっと遠くにはアウトレットモールもあります。 どの店が安く、どの店の品揃えがいいか、皆さんもお店を選んで買物に出かけます。安い高い、商品選びやその展示、店づくりはどう違うのでしょう。どこの誰から仕入れて、どんなお客さんに売	〈アサイメント〉 皆さんが今まで行った大型店の中で一番大きな店を上げて紹介して下さい。 〈事前学習〉 大型店を三つ上げて、どんな店があるかリストにしてみて下さい。
第 4 回 5 月 10 日	「百貨店の登場」、今回はデパート、百貨店のお話しです。日本では江戸時代から明治時代へ近代都市に変わった東京や大阪に百貨店が生まれました。1904 年、三井呉服店（着物）が「三越」百貨店になりました。大阪でも、大丸、高島屋、そごうが続きました。 世界初は 1852 年、フランス・パリの「ボン・マルシェ」やはり織物屋でした。続いてパリではプランタンとラファイエット、ロンドンではハロッズ、セルフリッジなど、ニューヨークではメイシーズやシアーズが有名です。 19 世紀末から 20 世紀後半まで、このデパートが華やかなファッシ	〈アサイメント〉 これまで訪れたことのあるデパートを上げ、何を買ったか思い出してリストにして下さい。 〈事前学習〉 大阪、京都、神戸の三都にあるデパートをリストにして下さい。あわせて、デパートのようなファッションビルも挙げてみて下さい。
第 5 回 5 月 17 日	「スーパーマーケットの誕生」：デパートに少し遅れて、アメリカではスーパーマーケットが生まれました。着物など織物が中心の店が始めた百貨店と違い、グロサリーストア、食品店が大型化したものです。 1859 年ニューヨークのマンハッタンに生まれた食品店 A＆P が、1910 年代に巨大店になったのが始まりです。その後またたく間に全米各地に広がり、大恐慌前のアメリカの繁栄の象徴でした。 日本でスーパーが生まれたのは 1952 年、大阪京橋の「京阪ストア」です。今では当たり前のセルフサービス、といっても店員がレジを打っていましたが	〈アサイメント〉 スーパーマーケットの歴史を調べ、特に神戸生まれで全国を制覇したダイエーがどこに店を開いたかを述べて下さい。 〈事前学習〉 皆さんの自宅の近くのスーパーを 3 つ挙げて下さい。どの資本系列化も調べて下さい。
第 6 回 5 月 24 日	「コンビニエンスストア」、スーパーマーケットに続いてアメリカで誕生したのが、コンビニエンスストア、1927 年テキサスでした。実は「氷」のお店、夏に「週 7 日毎日 16 時間」営業したので「セブン・イレブン」と名乗りました。1939 年にはオハイオで「ミルク」を売る「ローソン」が、そこから「デイリーマート」生まれ、M＆A で「サークル K」に転換しました。 日本でコンビニが生まれたのは戦後、1970 年大阪十三の K マート、1971 年愛知県春日井のココストアなどが早く、1973 年に「ファミリーマート」が日本生まれのコンビニ	〈アサイメント〉 皆さんはどのコンビニが好きですか？それぞれの店の特徴を上げて下さい。 〈事前学習〉 アメリカ生まれのコンビニは日本で独自に発達しました。特に、スイーツや総菜が発達し、競争も激しいのですが、好きな商品を一つ上げて下さい。

第 7 回 5 月 31 日	「量販店の拡大」、家電製品、パソコン/カメラ、カジュアル系衣料品、紳士服、カー用品、家具と建具、工具などのホームセンター、靴など、それぞれの商品分野で全国展開している店舗があります。少し遅れて広がったのが、ドラッグストア、薬中心の量販店です。とても安くて大助かりですが、1970 年代に全国に広がったスーパーマーケット以上に価格破壊を引き起こしました。「バーゲニング・パワー」と呼ぶ購買力を発揮するからです。これは、価格決定力となって、生産者を支配する力でもあります。つまり、生産者と消費者の間に立つ流通企業が、	〈アサイメント〉 いつもと同じように、皆さんの近くの量販店を上げてみて下さい。概要欄に載せたすべての種類のお店を探してリストにして下さい。 〈事前学習〉 それぞれの店で一番安いと思った商品を上げて下さい。
第 8 回 6 月 7 日	「Amazon：ネット通販サイトを支配」、Amazon はもちろん国際的、世界の流通産業の王者です。今日はそのお話し、いよいよ流通産業論の革新部分です。とはいえ、Amazon は 1993 年生まれ、今年で 30 歳になるとても若い企業です。急成長したのです。 この Amazon はネット通販と呼ばれますが、それまでの通信販売とどう違うのでしょう。そして、我々の消費生活をどう変えたのか、またネット通販が当たり前な近未来社会はどう変わるのでしょう。 創業時の Amazon のビジネスモデルは独創的でした。e-コマース（電子商取	〈アサイメント〉 アマゾンで頼むとどんなルートで商品が届くか、考えて下さい。 〈事前学習〉 Amazon で買ったことがありますか？何を買った教えて下さい。ない場合は家族や友人の話を聞いて下さい。
第 9 回 6 月 14 日	「流通産業と商業政策」、流通産業は市場の発達とともに拡大を続けてきました。その過程で、市民生活を便利にしただけでなく、いろいろな問題を引き起こしてきました。買物客、消費者には安く、早く、豊かにそして便利に発達したとはいえ、百貨店やスーパーが登場するたびに、小さなお店は寂れ、閉店に追い込まれました。そんな店が集まる地方都市の都心はすっかりさびれ、デパートも撤退しました。シャッター通りとか中心市街地の空洞化と言われます。 この問題に対処するのが、1990 年代から 2000 年にかけての「まちづくり三法」です。国や	〈アサイメント〉 「まちづくり三法」の三つの法律を上げて、その役割を簡単に述べなさい。 〈事前学習〉 寂れた商店街と聞いて思い浮かぶ町を簡単に紹介して下さい。
第 10 回 6 月 21 日	「流通革命を支えた交通機関と道路」、人口増加、特に都市集中で国民の消費は飛躍的に拡大した。これまで述べたように、生産と消費を結ぶ流通産業が急速に発達、その仕組みは大きく変化した。メーカーは販売店を系列化した。卸売業者などの中間業者が排除され、流通経路は短縮された。小売業者は大規模化し、POS などを導入し販売技術を革新させた。こうした革新を支えたのが、この間のインフラストラクチャーの目覚ましいの発展、特に高速道路網の整備だった。国内の農産地や漁港と年が直接結ばれただけでなく、国際港湾には大型コンテナ船が大量	〈アサイメント〉 神戸港から高速道路で長野市まで行く道筋を調べ、その所用時間を割り出して下さい。 〈事前学習〉 身近な食品の中で、海外から運ばれたものを調べてみて下さい。
第 11 回 6 月 28 日	「商業集積ガイドライン」、1990 年代には道路整備が進み、大歳の郊外に環状線や都心を迂回するバイパスが整備されました。その道沿いに、大規模小売店舗や量販店が並び、ロードサイド店が出揃いました。消費	〈アサイメント〉 皆さんが知っている商店街を教えて下さい。そこには、閉められた店はありますか。あればどんな商店だったか調べて下さい。

	者は車で買物に行き、便利な暮らしを楽しみましたが、その反動で都心の商業施設は寂れ、空洞化が進みました。都心には、高齢者が遺され、商店街の店は減り、地方都市ではデパートも撤退しました。これを中心市街地の衰退、シャッター商店街問題といいます。そのため、主要な都市では商業集積ガイドラインを定め、郊外の大型店の増加を規	〈事前学習〉 商店街が栄えたのは何時頃でしょうか。その頃には、どんな店があったか調べて下さい。
第 12 回 7 月 5 日	「ヨーロッパの流通産業」、英国やフランス、ドイツ、イタリアにも大型商業施設、スーパーより大きなハイパーマーケットがあります。一方、都心には世界的なブランドの贅沢なブティックが集まっています。また、地方の小さな町でも都心の商店が残っています。こうして、様々な規模の小売店がバランスよく揃っています。しかし、日本のような多様な量販店はありません。ホームセンターもなければ、ドラッグストアも少ない、ワインやウィスキー等お酒の量販店があるくらいです。これは、西欧諸国と日本の流通産業の発展の歴史と現在の仕組みが違うから	〈アサイメント〉 ヨーロッパの有名なデパートとスーパーの名前を調べて下さい。 〈事前学習〉 皆さんの知っている Fashion Brand を三つ挙げて下さい。その出身国も調べて下さい
第 13 日 7 月 12 日	「アメリカの流通産業」、アメリカはスーパー、コンビニが生まれた国です。大規模小売店舗では、昔はカルフールが有名、その後コストコも日本に進出しました。とはいえ、アマゾンもアメリカの企業、今や世界中に広がっています。人口も日本の二倍、消費量はそれ以上に大きく、流通産業の変化のスピートも世界一です。そのアメリカと日本は、1960 年代から日米貿易摩擦を起こしました。最初は繊維産業、次が自動車産業、そしてハイテク、1980 年代後半には流通産業が争点になりました。その背景には日米の流通産業の違いがあり、アメリカ政府の	〈アサイメント〉 アメリカの食品で一番好きなものを挙げて下さい。それは日本ではどんな店で買えますヵ？ 〈事前学習〉 アメリカを旅行したら見てみたいお店はありますか？ アメリカらしい巨大なスーパーを調べてみて下さい。
第 14 回 7 月 19 日	「アウトレットモールの登場は流通産業をどう変えたか？」もう一つのアメリカ生まれが Outlet Store 日本でいうアウトレットモールです。1930 年代アメリカ東部で生まれたのは、傷モノや出荷できない商品を従業員に捨値で（安く）売った工場直営の店でした。直ぐに一般客も買いに来るようになり、次に紳士服ブランドが独立した店を街中にオープンしたのです。この傷物だけを売るアウトレットは、1974 年、VF（バニティフェア）が工場から出荷したばかりの商品を売るアウトレットセンターを始め、1990 年代にかけて米国内で急速	〈アサイメント〉 アウトレットモールでは、どんなものが売られているか調べて下さい。 〈事前学習〉 今まで行ったことのあるアウトレットモールを上げ、何を買ったかリストにして下さい。その店がいつ頃できたをご家族に尋ねて下さい。
第 15 回 7 月 26 日	「日本の世界の流通産業：世界に広がる日本の流通産業、流通業界に就職するなら」、ウォルマートやアウトレットが日本に進出しただけでなく。、日本の流通業界も世界に進出しています。特に中国市場、東南アジアにも出ています。国際コミュニケーション学部を卒業し、海外に進出した日系流通産業に就職するなら、どんな会社がるあるか見てみましょう。販売額、事業所数、従業者数など、どれを見ても流通産業は大きく、	〈アサイメント〉 最終課題です。もし流通関係に就職先を考えるなら、いろいろある企業の中で、どんな仕事がいいか述べて下さい。

	今では製造業より大きくなりました。でも多くの人はその実態を知りません。特に関西には海外展開する流通大手が集まっています。就	

1.授業コード（ナンバリング）	NAD401-M01	2.科目名	代替療法看護論	3.単位数	1
4.授業担当教員	岡田朱民、山本加奈子、米澤紗智江				
5.授業科目の区分	講義（演習等）	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	近年、医療に対する考え方が西洋医学のみならず、未来型医療として統合医療の方向に変わりつつある中で、補完代替医療/療法（Complementary＆Alternative Medicine/Therapy：CAM/CAT）の概要と背景、看護への導入とホリスティックナーシングについて学び考える。 本授業では、主に自然治癒力・免疫力・癒し・安楽を意識した補完代替療法としての「リラセーション法」「ナーシングマッサージ」「ヨーガ療法」「アロマセラピー」を中心にその理論と実際について学び、ホリスティックナーシング				
18.学習目標とＤＰとの関連	1.補完代替療法及び、ホリスティックナーシングの概念を理解し、必要性について考え、述べることができる。 2.リラクセーション法の理論と実際を学び、セルフケアへの導入について考え、述べることができる。 3.ヨーガ療法の理論と実際を学び、セルフケアへの導入について考え、述べることができる。 4.ナーシングマッサージの理論と実際を学び、看護への導入について考え、述べることができる。 5.アロマセラピーの理論と実際について学び、セルフケア、看護への導入について考え、述べることができる。 6.補完代替療法の看護への導入、及びホリスティックナーシングの看護実践への活用の可能性について考え、述べることができる。				
19.教科書・教材	教科書なし 教材は資料と CD 及び DVD、アロマオイル等				
20.参考文献	1）ルース・リンクス、マラヤ・スナイダー他著、尾崎フサ子他監訳：ケアの中の癒し、看護の科学社、2016 2）Mariah Snyder 編、野島良子、富川貴子監訳：心とからだの調和を生むケア、へるす出版、2006 3）小板橋喜久代・荒川唱子編：リラクセーション法入門、日本看護協会出版会、2013 4）小板橋喜久代・河内香久子編：ナーシングマッサージ入門、日本看護協会出版会、2016 5）川嶋みどり編：触れる・癒す・あいだをつなぐ手、TE-ARTE 学入門。看護の科学社、2011 6）日本アロマセラピー学会看				
21.成績評価	成績評価の方法は、事前学習、講義・演習への取り組み、レポート等とし、総合的に判断する。 （岡田 50 点・山本 25 点・米澤 25 点）				
22.コメント	ホリスティックナーシングとは、身体（body）だけでなく心（mind）と魂（Spirit）をも包括し、社会や自然環境の中で生きている全体的＝ホリスティックな存在としてケアする看護です。看護師自身がまず、癒された健康状態を保つことがホリスティックナーシングにおいて重要です。そこで、セルフケアとこれからの看護実践の方法として活用ができる「リラセーション法」「ナーシングマッサージ」「ヨーガ療法」「アロマセラピー」を中心に、体験を通して楽しく学びましょう！				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室、また mail 等で、受講生からの質問等への対応する				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 4 /16(火) 3 限 （岡田）	・オリエンテーション（本授業の目標・内容・進め方・評価の方法、受講上の留意点などについて） ・ホリスティックナーシングの概念 ・補完代替医療/療法の概念	【①事前課題】 1．講義が始まる前に日本ホリスティックナーシング研究会のホームページ内にある 2016～2023 年のニューズレターを読み、学びと感想を述べてください。 2．本科目選択の理由を述べてください。上記 1， 2 について word を使用し、A4 1 枚にまとめ、4 月 13 日（土）17 時までに Web class に提出してください。
【第 2 回】 4 /16(火) 4 限 （岡田）	・補完代替療法の知識と実際（1） ストレスマネージメントとリラクセーション法 ＜演習＞リラクセーション法：呼吸法・筋弛緩法	【②事後課題レポート】 1．演習記録、2．ストレスマネジメントとリラクセーションについての学びと自己の考えについて、所定の課題レポートに記載し、4 月 20 日（土）17 時までに Web class へ提出。
【第 3 回】 4/18(木) 3 限 （米澤）	・補完代替療法の知識と実際（2） ヨーガ療法に関する基礎知識 ヨーガ療法と心身相関について	【レポート】 授業中に配布。医療現場において、ヨーガ療法導入の効果が期待できる仮想の事例をひとつ挙げ、その患者の①疾患名、②抱えている問題点、③ヨーガ療法を実施する目的を踏まえた上で、④期待できる効果について明記の上、授業中に提出。評価の 25%とする。
【第 4 回】 4/18(木) 4 限 （米澤）	＜演習＞看護に活かすヨーガ療法（セルフケアと対象者への援助）	体験と考察
【第 5 回】 4/22(月) 4 限 （山本）	・補完代替療法の知識と実際（3） アロマセラピーに関する基礎知識	事前課題：アロマセラピーに関する看護研究論文を 1 本読み、「Ⅰ．研究成果のまとめ（取り上げる論文のタイトルを含む)」、「Ⅱ．今後の看護への活用の可能性について」（考察としてⅠに基づき、自身の考えを述べる)、「文献リスト」の順に、A4 用紙 1 枚にまとめ授業に持参。表紙は不要、出席番号と氏名は冒頭に記載。本課題の提出をもって評価の 22%とする。 課題の評価の視点は、①課題の目的に沿った研究を取りあげている。(2%)②研究結果を客観的に、かつわかりやすくまとめている。(5%)③看護への活用の可能性について、研究結果
【第 6 回】 4/22(月) 5 限 （山本）	＜演習＞看護に活かすアロマセラピー（セルフケアと対象者への援助）まとめ	
【第 7 回】 4/23(火) 3 限 （岡田）	・補完代替療法の知識と実際（4） 看護に活かすナーシングマッサージの基礎知識	【③課題レポート】 1．演習記録、2．ナーシングマッサージについての学びと自己の考えについて、所定の

		課題レポートに記載し、4 月 27 日（土）17 時までに、Web class へ提出。
【第 8 回】 4/23(火) 4 限 （岡田）	＜演習＞看護に活かすナーシングマッサージ 手のナーシングマッサージの方法	【④課題レポート】 全授業を受け、補完代替療法の看護への導入、及びホリスティックナーシングについて自己の考えをレポートし、5 月 31 日（金）17 時までに Web class へ提出。書式等、詳細は講義で説明する。

1.授業コード（ナンバリング）	NAD402-M01	2.科目名	災害看護論	3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤尚子				
5.授業科目の区分	専門科目　総合看護	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	災害が健康と生活に及ぼす影響を知り、看護師としての役割を学ぶ。災害の種類やサイクル、法・制度・支援体制、看護の対象と活動の場などの基本的知識と、災害サイクル各期における人々の状況、および看護の役割と機能を理解し、被災者を身体的・精神的・社会的に支援する知識と技術を修得する。さらに看護師としての防災・減災対策を考察する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 1.災害の種類やサイクル、法・制度・支援体制、看護の対象と活動の場などの基本的な知識について説明できる。?授業内課題・定期試験 2.災害が人々の健康と生活に及ぼす影響を知り、看護師としての役割を説明できる。?授業内課題・定期試験 3.被災者を身体的・精神的・社会的に支援する知識を理解し、適切な技術を修得する。?第 8 回演習 【DP との関連】 （1）自律性:被災者が体験する困難さを理解し、自ら考え判断し行動できる。 （2）社会的貢献性：人々の安全・安心を確保するための知識と技術を習得する。 （3）多様性理解：あらゆる背景を持つ被災者の特徴を理解し説明できる。 （4）問題発見・解決力：災害が健康と生活に及ぼす影響を理解し、被災者の安全・安心を提供する看護を考察できる。 （5）コミュニケーションスキル：被災者に対する傾聴の意義と手法を理解し実践できる。 （6）専門的知識・技能の活用力：被災者を看護の対象として理解し、生命・健康・生活を護る支援を考察できる。				
19.教科書・教材	授業時に資料を配布				
20.参考文献	授業時に示す。				
21.成績評価	定期試験（筆記試験）＝60%,　授業内課題＝40%				
22.コメント	国内外で発生した災害に興味を持ち、それらに関するニュースや新聞、本に触れてください。あるいは被災した方のお話を聞いてみるのもよいでしょう。 いつ起こるかわからない災害に備え、自他を守る能力を身につける心づもりで授業に参加してください。 予習復習を怠らないようにしましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜日　昼休み センターオフィスアワー：火曜日　昼休み（三木キャンパス図書館）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 4 月 9 日(火)1	1. 災害及び災害看護の概念 1）災害とは	【アサインメント】 災害時に看護ができることは何か考えてきて

限	2）災害の種類 3）災害看護とは	ください。
第 2 回 4 月 9 日(火)2 限	2.災害の種類別疾病構造 1）自然災害 2）人為災害 3）NBC 災害	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 3 回 4 月 16 日(火)1 限	3.災害各期の看護 1）急性期の看護 2）亜急性期の看護 3）慢性期・復興期の看護 4）静穏期（備えの時期）の看護	【アサインメント】 今後来る災害に備えあなたが準備していることを記載してきてください。
第 4 回 4 月 16 日(火)2 限	4. 災害看護の活動の場と被災者の生活 1）救護所での被災者の生活と看護活動 2）避難所での被災者の生活と看護活動 3）仮設住宅での被災者の生活と看護活動 4）自助・共助・公助	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 5 回 4 月 23 日(火)1 限	5. 被災者特性に応じた看護 1）被災者の定義と概念 2）災害時要配慮者の特性 3）小児・母性への災害看護 4）高齢者への災害看護 5）障がい者への災害看護 6）慢性疾患患者に対する災害看護 7）外国人に対する災害看護	【アサインメント】 災害が発生したときに、あなたの目の前にいる要配慮者に何ができるか考えて記載してきてください。
第 6 回 4 月 23 日(火)2 限	6. 災害とメンタルヘルスケア 1）災害ストレス 2）災害ストレスに対する心身の反応 3）こころのトリアージ 4）メンタルヘルスケア実施者の役割 5）救援者の受けるストレス	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 7 回 5 月 7 日(火)1 限	7. 日本における災害医療体制 1）災害拠点病院 2）広域災害救急医療情報システム 3）災害派遣医療チーム 4）広域医療搬送 5）災害に関する法と制度	
第 8 回 5 月 7 日(火)2 限	8. 演習（ペアワーク） 1）三角巾法	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。

1.授業コード（ナンバリング）	NAD403-M01	2.科目名	看護研究方法	3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤いずみ、有本梨花、岩下真由美、伊藤尚子、梅田智子、鵜飼知鶴、楳田恵子、蛭子真澄、紀ノ岡浩美、黒川麻里、櫻井信人、白石夕起子、志保田幸子、杉野美礼、高見沢恵美子、髙田美子、中世古恵美、西村美登里、野村浩、原本久美子、畑吉節未、久井志保、平野通子、藤原和美、房間美恵、松尾ひとみ、八木良子、吉沢豊子、吉田明莉				
5.授業科目の区分	専門科目 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【概要】 看護研究の目的と必要性を理解し、研究に関する基礎的な知識・方法を習得する。看護研究の意義、文献検索方法、研究計画書の作成方法、調査方法について学修する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学修目標】 DP1 自律的で主体的な態度 DP4 問題発見・解決力 1.看護研究の意義、プロセスを説明できる。 2.基礎的な文献検索方法がわかり、実施できる。 3 看護研究で用いられる方法を凡そ理解できる。 4.研究計画書の作成の意義と方法を説明できる。 5.研究疑問を文章化し、研究目的、研究課題(仮）作成を試みる。				
19.教科書・教材	坂下玲子,宮芝智子,小野博史.(2020)系統看護学講座別巻　看護研究(第 1 版、8 刷).医学書院				
20.参考文献	講義中に適宜紹介する。				
21.成績評価	課題への取り組み　40%　提出物①②③④ 研究課題レポート　60%　研究計画書の提出				
22.コメント	自己の研究課題を先行研究の文献検索、批判的読み方、要約について取り組みましょう。この後に続く卒論の「研究の背景」や「目的」につながる第 1 歩です。また、その目的を明らかにするための最適な研究方法については講義で学び、研究計画の要である研究疑問を明らかにしましょう。				
23.オフィスアワー	齋藤いずみ：研究室;水曜日 12：15 分から 13 時まで				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 4 月 8 日(月)1 限	看護研究方法の授業のオリエンテーション 看護における研究の役割、研究のプロセス（担当：齋藤いずみ)	初回、4 月 8 日から教科書を持参すること。該当する章を読んで参加すること。 提出物記述内容等の詳細は、初回に説明する。 提出物は web class に提出すること <1-2 章>
第 2 回 4 月 8 日(月)	文献検討の意義と方法（担当：齋藤いずみ)	<3, 12 章> 提出物①

2限		4月8日の講義内容の理解度について
第3回 4月10日 (水)1限	提出物①取り組みたい研究課題の検討／担当教員毎	
第4回 4月12日 (金)1限	A グループ：文献検索(1-201) (担当：藪本), B グループ：文献講読① (担当：齋藤いずみ)	<3章>
第5回 4月12日 (金) 2限	A グループ：文献講読① (担当：齋藤いずみ)　B グループ：文献検索(1-201) (担当：藪本)	<3章> 提出物②文献検索の結果を箇条書きにする
第6回 4月15日(月) 1限	研究デザイン ＆ 研究方法の選択 (担当：齋藤いずみ)	<5章>
第7回 4月15日(月) 2限	看護研究の方法 ～ 事例研究 (担当：齋藤いずみ)	<10章>
第8回 4月17日 (水)1限	論文講読②／担当教員毎	
第9回 4月19 (金)1限	質的研究方法の紹介（担当：交渉中） 齋藤：公務出張　加東市の高校講義　高大連携事業	<6-7章>
第10回 4月19日 (金)2限	量的研究方法の紹介 (担当：交渉中) 齋藤：公務出張　加東市の高校講義　高大連携事業	<6-7章>
第11回 4月22日 (月)1限	研究における倫理 (担当：齋藤いずみ)	<4章>
第12回 4月22日 (月)2限	研究計画書 (担当：齋藤いずみ)	<8章> 提出物③　4月22日までの講義内容の理解度について 4月23日朝8時までに提出
第13回 4月24日 (水)1限	文献講読③　研究計画書作成／担当教員毎	
第14回 4月26日 (金)1限	研究計画書作成／担当教員毎	

第１５回 4 月２６日(金) ２限	研究計画書作成／担当教員毎	提出物④ 5 月 7 日(火)13 時迄に研究計画書を web class に提出すること 確認　5 月 7 日火曜日

1.授業コード（ナンバリング）	NAD404-M01	2.科目名	実践看護学特演	3.単位数	3
4.授業担当教員	吉沢豊子、有本梨花、岩下真由美、伊藤尚子、梅田智子、鵜飼知鶴、楳田恵子、蛭子真澄、紀ノ岡浩美、黒川麻里、櫻井信人、齋藤いずみ、白石夕起子、志保田幸子、杉野美礼、高見沢恵美子、髙田美子、中世古恵美、西村美登里、野村浩、原本久美子、畑吉節未、久井志保、平野通子、藤原和美、房間美恵、松尾ひとみ、八木良子、吉田明莉				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	看護学専攻 4 年生			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	9 の実践看護学領域(基礎、急性、慢性、がん、精神、小児、母性、老年、在宅)について履修する。既修の看護学の知識・技術を基盤に理論と実践の統合を図り、看護実践能力のさらなる向上を目標とする。授業では、各々の領域における特有な看護問題や看護援助について、講義、グループ討議により学習する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	1.各看護学実習での体験を深めるために、看護に必要な専門基礎知識を再確認する 2.既習の各看護学の知識・技術を再確認しながら、各領域に特有な看護問題と援助の統合を図ることにより、看護実践能力のさらなる向上を目指す. 3.自ら計画を立てて課題に取り組み、期限に間に合うように実行できる。				
19.教科書・教材	過去問完全攻略集（黒本）第Ⅰ章～第Ⅶ章（問題集・解説集） 必修過去問全問解説集				
20.参考文献					
21.成績評価	中間試験 50％　総括試験 50％　尚試験は、11 月および 12 月に行われる看護師国家試験模試とする				
22.コメント	実践看護学特演は秋学期開講科目ですが、1 年間を通じて開講と考えてください。必修科目となっています。4 年生すべての学生が受講できるように設定しています。				
23.オフィスアワー	コンタクトを取りたい先生のオフィスアワー時間を確認すること				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目～2 回目	国家試験対策講義（5 月 18 日）を兼ねる	
3 回～6 回目	全国模試弱点補強講座（6 月 1 日）を兼ねる	
7 回～10 回目	必修模試弱点補強講座（6 月 22 日）を兼ねる	
11～14 回目	全国模試弱点補強講座（11 月未定）を兼ねる	
15 回～26 回目	必修予想 150 問特訓講座 3 日間（12 月 11 日、12 月 12 日、12 月 13 日）を兼ねる	
27 回～45 回目	基礎看護学領域 国際看護学領域 急性看護学領域 慢性看護学領域 老年看護学領域 地域・在宅看護学領域 公衆衛生看護学 精神看護学領域	

	小児看護学領域 母性・助産看護学領域の領域がそれぞれの専門性から特別講義を実施 （12 月から 1 月にかけて実施予定）	

1.授業コード（ナンバリング）	NAD405-M01	2.科目名	統合看護実習　（公衆）	3.単位数	4
4.授業担当教員	藤原和美、中世古恵美、久井志保				
5.授業科目の区分	総合看護	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件	1 年から 4 年春配当必修の専門科目		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 1）　公衆衛生看護学実習での学習を基盤にして、保健師活動（公衆衛生看護）を実践するための支援技術を学ぶ。 2）　これまで学習した看護の知識とスキルの統合ならびに自己の看護観を育成するとともに、看護専門職（特に保健師）としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にする。 【概要】 実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、公衆衛生看護学選択分野のうち、学生個々が関心のある 1 分野（実践看護学選択分野では 1 領域）を選択し、看護実践現場における学習を通して理論と実践の統合、ならびに看護観を育成する				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（1）自律性、（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています 1）既習の知識や技術を応用し、対象者の特性や健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。 2）保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。 3）他職種との協働における看護専門職者の役割・機能と、保健・医療・福祉の総合的ケア提供の在り方について学ぶことができる。 4）看護の専門性を理解し、専門職者としての自覚を高めるとともに、学生から社会人に移行する準備ができる。 5）看護専門職者としての役割、責務、態度について学習を深め、将来に向けての自己課題を明確にできる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	本実習の成績評価の内容と点数配分は、以下のとおりとする。 1．　実習記録：事前レポート、日々の記録、各種事業に関する実習記録の記載内容　30% 2．　家庭訪問：訪問事例の情報収集、アセスメント、訪問計画の立案　20% 3．　健康教育：健康教育の企画書・実施計画書の立案、健康教育の実施　20% 4．　発表：学内報告会での発表　10% 5．総合考察レポート　20%				
22.コメント	保健所・市町村での実習が中心となります。公衆衛生看護分野を選択する学生の必修科目となります。しっかり学んでいきましょう。				
23.オフィスアワー	藤原　：研究室　水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 久井　：研究室　水曜日昼休み、　センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 中世古：研究室　水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）　火曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	各領域の実習要項参照	

1.授業コード（ナンバリング）	NAD405-M02	2.科目名	統合看護実習　（小児）	3.単位数	4
4.授業担当教員	松尾ひとみ、黒川麻里				
5.授業科目の区分	統合看護 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格	11.先修条件	3 年次配当の実習科目		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限	統合看護実習の希望調査に基づき、調整を行う。				
17.授業の目的と概要	【統合看護実習の目的】 　実践看護学選択分野、助産学分野、公衆衛生看護学分野の中から 1 分野を選択し、これまで学習した看護の知識とスキルの統合ならびに看護観を育成するとともに、看護専門職者としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にする。 【統合看護実習（小児看護）の目的】 　疾病や障害をもって生活をしている子どもと家族への看護援助を行うことを通じて、これまでに学習した看護学の知識・技術・態度を統合し、看護観を育成するとともに、看護専門職者としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用の学修に関連しています。 【統合看護実習全体の学習目標】 1. 既習の知識や技術を応用し、対象者の特性や健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。 2. 保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。 3. 他職種との協働における看護専門職者の役割・機能と、保健・医療・福祉の総合的ケア提供の在り方について学ぶことができる。 4. 看護の専門性を理解し、専門職者としての自覚を高めるとともに、学生から社会人に移行する準備ができる。 5. 看護専門職者としての役割、責務、態度について学習を深め、将来に向けての自己課題を明確にできる。 【小児看護分野での学習目標】 1. 小児看護学に関する講義・実習で学んだ知識・技術を応用し、疾病や障害をもって生活する子どもと家族の特性や健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。 2. 疾病や障害をもつ子どもとその家族への計画的・継続的に提供される看護について学ぶことができる。 3. 疾病や障害をもつ子どもとその家族を支える様々な職種、その中での看護職の専門性を理解し、他職種との連携のあり方を考えることができる。 4. 子どもとその家族を支えるための保健・医療・福祉・教育の総合的ケア提供の在り方を学ぶことができる。 5. 実習における学びを踏まえて、自己の看護観を深めるとともに、将来に向けての課題を明らかにすることができる。				
19.教科書・教材	特に指定しない				
20.参考文献	特になし（実習目標の達成に必要となる文献を各自で検索して、活用する）				
21.成績評価	実習目標の達成度、出席状況、実習への取り組みから総合的に評価する。 実習目標の達成度の評価は実習場面と実習記録によって行う。				

	★課題レポート テーマは統合看護実習のねらい・目標をもとに、自分自身が行った看護とその結果を整理し、各自の自分の小児看護に対する考え方（看護観）を述べる。 ★実習記録および自己評価表、課題レポート、自己学習の記録をファイルに綴じ、定められた期限までに提出すること。 （詳細は統合看護実習（小児看護）実習要項を参照する）
22.コメント	4 年間の最後の実習になります。自ら目的をもち、実習施設や指導者との調整を行いながら、主体的に実習を行っていきましょう。
23.オフィスアワー	中島　火曜日昼休み@図書館・水曜日昼休み@研究室 実習期間中には、必要に応じて適宜、質問や相談を受け付けます。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
学内実習（事前） （5 日間）	1. 統合看護実習（小児看護学）のねらいや目的、方法を理解する。 2. これまでの学修や実習体験を振り返り、統合看護実習における自己の課題や目標を明確化する。 3. 実習に向けての準備性を高める。 （詳細は統合看護実習（小児看護）実習要綱を参照する）	◆PC を持参すること ★学内実習期間において、各自で実習目標、実習計画、実習記録、評価表を作成する
病院実習（10 日間）	1. 基本的に 1 名の子どもを受け持ち、子どもや家族との関わり、その子どもにとっての最良の状態を保つための看護援助を計画し、できる範囲において施設のスタッフとともに看護援助を行う。 2. 自身が焦点をあてた現象について、日々の子どもと家族との関わりや看護援助を行った実践を記録に残す。 3. 実習期間中には、各自が学習・経験した事柄を共有し、意見交換を行うことによって、個々の学びを深めること、経験した出来事の意味を考え、解決の手がかりを探し、その結果を日々の実習計画や看護援助に役立てることを目的としてカンファ	
障がい児（者）施設見学実習 （2 日間）	障害児（者）施設における看護専門職者の役割・機能と、保健・医療・福祉の総合的ケア提供の在り方について学ぶことを目的とする。 1. 障害児（者）施設の入所や短期入所、通所、外来、リハビリテーションにおいて、各職種の利用者様への関わりや職種間の連携の様子について見学を主体とした実習を行う。 2. 施設のスタッフより重症心身障害児（者）の医療・看護、福祉制度に関する講義を受ける。 （詳細は統合看護実習（小児看護）実習要項を参照する）	
学内実習（事後） （3 日間）	施設での実習で受け持った子どもと家族への看護についてまとめ、発表とディスカッションを通じ、学びを統合することを目的として行う。 1. 病院実習の終了後、卒業研究を担当する教員を中心に指導を受けながら、自分が焦点をあてた小児看護の現象について振り返って整理する。 2. 最終カンファレンスでは、病院実習において受け持	◆PC を持参すること ★最終カンファレンスまでに発表内容をまとめたスライドを提出する（期限は実習中に説明する） ★すべての実習終了後には実習記録等一式をファイルの綴じて提出する

	った事例について、自身が焦点をあてた小児看護の現象についてまとめた内容を発表し、他の学生とのディスカッションを行う。 （詳細は統合看護実習（小児看護）実習要項を参照する）	

1.授業コード（ナンバリング）	NAD405-M03	2.科目名	統合看護実習 （基盤）		3.単位数	4
4.授業担当教員	蛭子真澄、梅田智子、紀ノ岡浩美、志保田幸子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務経験のある教員による専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件		11.先修条件	必修専門科目の修得			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、公衆衛生看護学選択分野のうち、学生個々が関心のある１分野（実践看護学選択分野では１領域）を選択し、看護実践現場における学習を通して理論と実践の統合、ならびに看護観を育成することをねらいとする。また、看護専門職者としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にすることをねらいとする。 各看護学選択分野の教育内容に適した病院、施設において、既習得の看護学の知識・技術・態度に基づき患者・利用者、集団と関わり、臨地における医療チームの一員として、場に応じた看護援助					
18.学習目標とＤＰとの関連	本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技術の活用力に対応しています。 １．既習の知識や技術を応用し、対象者の特性や健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。 ２．保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。 ３．他職種との協働における看護専門職者の役割・機能と、保健・医療・福祉の総合的ケア提供の在り方について学ぶことができる。 ４．看護の専門性を理解し、専門職者としての自覚を高めるとともに、学生から社会人に移行する準備ができる。 ５．看護専門職者としての役割、責務、態度について学習を深め、将来に向けての自己課題を明確にできる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	実習目標の達成度、出席状況、実習への取り組みから評価する 実習内容 70%・実習に取り組む言動・行動 10%・記録 20%					
22.コメント	4 年間の集大成の実習です。自己を高められるよう積極的に学んでください。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜日 3 時間目（第 1 看護学実習室）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	各分野実習要項参照	

1.授業コード（ナンバリング）	NAD405-M04	2.科目名	統合看護実習　（急性）	3.単位数	4
4.授業担当教員	高見沢恵美子、野村浩、平野通子				
5.授業科目の区分	統合看護 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件	1 年～4 年春配当の必修専門科目の修得		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限	3 年次配当の実習科目の単位取得者				
17.授業の目的と概要	【目的】 実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、公衆衛生看護学選択分野のうち、学生個々が関心のある 1 分野（実践看護学選択分野では 1 領域）を選択し、看護実践現場における学習を通して理論と実践の統合、ならびに看護観を育成することをねらいとする。また、看護専門職者としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にすることをねらいとする。 【概要】 各看護学選択分野の教育内容に適した病院、施設において、既習得の看護学の知識・技術・態度に基づき患者・利用者、集団と関わり、臨地における医療チームの一員として、				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)自律性、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門知識・技術の活用力と関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 1．既習の知識や技術を応用し、対象者の特性や健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。 2．保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。 3．他職種との協働における看護専門職者の役割・機能と、保健・医療・福祉の総合的ケア提供の在り方について学ぶことができる。 4．看護の専門性を理解し、専門職者としての自覚を高めるとともに、学生から社会人に移行する準備ができる。 5．看護専門職者としての役割、責務、態度について学習を深め、将来に向けての自己課題を明確にできる。				
19.教科書・教材	特に指定しない。				
20.参考文献	必要時適宜紹介する。				
21.成績評価	事前学習課題 10%(課題 1.実習病棟で多い手術とその合併症・治療・検査・看護) 実習記録 20% 実習での看護実践 50% 実習中学修課題 10%(課題 2. 統合実習で学んだことと看護師としての課題、課題 3. 医療職者及び他機関との協働や連携) 実習態度 10% ※実習記録及び課題レポートを提出することが単位認定の前提となるので注意すること。				
22.コメント	4 年間の集大成の実習です。自己を高められるよう、積極的に学んでください。				
23.オフィスアワー	高見沢恵美子：センター；火曜日昼休み、研究室；月曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 週】 月曜日	学内オリエンテーション、課題学習	

火曜日	学内演習　患者の看護計画立案に必要な文献検討・関連図作成	
水曜日	病棟実習　1 名の受け持ち患者への看護過程の展開，リーダー看護師の役割見学	
木曜日	病棟実習　1 名の受け持ち患者への看護過程の展開，リーダー看護師の役割見学	
金曜日	病棟実習　1 名の受け持ち患者への看護過程の展開，関連図についてのカンファレンス，新たに受け持つ患者の情報収集	
【第 2 週】 月曜日	病棟実習　2 名の患者を受け持ち看護過程の展開，病棟カンファレンス参加	
火曜日	学内演習　患者の看護計画立案に必要な文献検討・関連図作成	
水曜日	病棟実習　2 名の患者を受け持ち看護過程の展開，病棟カンファレンス参加	
木曜日	病棟実習　2 名の患者を受け持ち看護過程の展開，病棟カンファレンス参加	
金曜日	病棟実習　2 名の患者を受け持ち看護過程の展開，病棟カンファレンス参加，新たに受け持った患者の関連図についてのカンファレンス	
【第 3 週】 月曜日	病棟実習　2 名の患者を受け持ち看護過程の展開，病棟カンファレンス参加	
火曜日	学内演習　患者の看護計画立案に必要な文献検討・関連図作成	
水曜日	病棟実習　2 名の患者を受け持ち看護過程の展開，病棟カンファレンス参加，看護専門職者としての自分自身の課題と目指す看護師像についての最終カンファレンス	
木曜日	病院実習　病院で活動している医療チーム活動(緩和ケア・排尿ケア・感染対策・NEST 等)の見学実習	
金曜日	学内演習　医療職者及び他機関との協働や連携に関するレポート作成，実習記録類の整理・提出	

1.授業コード（ナンバリング）	NAD405-M05	2.科目名	統合看護実習　（慢性）	3.単位数	4
4.授業担当教員	岩下真由美、白石夕起子、房間美恵				
5.授業科目の区分	統合看護	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【本授業の概要】 　実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、公衆衛生看護学選択分野のうち、学生個々が関心のある１分野（実践看護学選択分野では１領域）を選択し、看護実践現場における学習を通して理論と実践の統合、ならびに看護観を育成することをねらいとする。また、看護専門職者としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にすることをねらいとする。 　各看護学選択分野の教育内容に適した病院、施設において、既習得の看護学の知識・技術・態度に基づき患者・利用者、集団と関わり、臨地における医療チームの一員として、場				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1) 自律性(2) 社会に能動的に貢献する姿勢(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力(4) 問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル(6) 専門的知識・技能 の活用力と関連しています。 １．既習の知識や技術を応用し、対象者の特性や健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。 ２．保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。 ３．他職種との協働における看護専門職者の役割・機能と、保健・医療・福祉の総合的ケア提供の在り方について学ぶことができる。 ４．看護の専門性を理解し、専門職者としての自覚を高めるとともに、学生から社会人に移行する準備ができる。 ５．看護専門職者としての役割、責務、態度について学習を深め、将来に向けての自己課題を明確にできる。				
19.教科書・教材	特になし。				
20.参考文献	実習中随時紹介する 。				
21.成績評価	出席状況、実習目標の達成度、実習への取り組みなどから総合的に評価する。				
22.コメント	関心のある分野で主体的に学修を深めることを期待しています。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	各分野別実習要綱参照のこと	

1.授業コード（ナンバリング）	NAD405-M06	2.科目名	統合看護実習　（母性）	3.単位数	4
4.授業担当教員	有本梨花、吉沢豊子、吉田明莉				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格	11.先修条件	3 年次配当の実習科目		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【統合看護実習全体の目的】 実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、公衆衛生看護学選択分野のうち、学生個々が関心のある 1 分野（実践看護学選択分野では 1 領域）を選択し、看護実践現場における学習を通して理論と実践の統合、ならびに看護観を育成することをねらいとする。また、看護専門職者としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にすることをねらいとする。 【統合看護実習の概要】 各看護学選択分野の教育内容に適した病院、施設において、既修得の看護学の知識・技術・態度に基づき患者・利用者・集団と関わり、臨				
18.学習目標と ＤＰとの関連	1.保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。 2.総合周産期センターにおいて、他職種と協働する看護専門職者の役割・機能および、保健・医療・福祉の総合的なケア提供のあり方について学ぶことができる。 3. 女性の健康課題を多様な視点から課題解決のための方策を探求することができる。 4. 看護専門職者としての役割、責務、態度について学習を深め、将来にむけての自己の課題を明確にできる。 ［DP との関連］ 保健医療学部看護学科の DP である（1）自律的で主体的な態度（自律性）（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）（3）多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力、に関連する科目である。				
19.教科書・教材	母性看護学概論および母性看護学援助論で使用した教科書および参考書 3 年生の母性看護学実習で使用した事前学習ノート・記録				
20.参考文献					
21.成績評価	統合看護学実習評価表・実習記録・実習レポート・実習態度を評価する。（統合実習ルーブリック評価表を使用） 実習記録状況 70%・実習態度 10%・課題レポート 10%・事前準備学習内容 10%				
22.コメント	学生最後の実習となります。チームの一員となり、積極的に学んでいきましょう。				
23.オフィスアワー	実習期間中には、必要に応じて適宜、質問や相談を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 週目	統合実習 4 週間（学内実習 1 週間・臨地実習 3 週間） 【学内実習 1 週間】 実習期間：2024 年 7 月 16 日（火）～7 月 19 日（金） 臨地実習直前オリエンテーション 周産期医療システム　子育て地域包括支援システム 周産期医療における看護管理	実習要綱、実習要項、筆記用具。事前学習ノート 記録用紙は、この時に配布します。

	模擬事例（ハイリスク妊婦）展開・模擬実習・技術演習など	
2 週目～4 週目	【臨地実習 3 週間】 ・産科病棟：2 週間 ・NICU/GCU：3 日間 実習期間：2024 年 7 月 22 日（月）～8 月 9 日（金） ・学会・研修会等の参加：1 日 実習期間：2024 年 4 月～10 月 （産科病棟） 総合周産期母子医療センターの役割を学ぶ。 ハイリスクの状態にある妊婦を受け持ち看護展開を行う。 受け持ちの状況によっては 2 事例目を受け持つことがある。 原則として毎日カンファレンスを行い学生が行った看護を振り返り、グループで母性看護学の学びを深める。 カンファレンステーマは学生が主体的に提案すること。	

1.授業コード（ナンバリング）	NAD405-M07	2.科目名	統合看護実習　（精神）	3.単位数	4
4.授業担当教員	櫻井信人、西村美登里				
5.授業科目の区分	精神看護学分野における実務経験のある教員による専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師	11.先修条件	1 年～4 年春配当の必修専門科目の修得		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本実習の目的は、これまで学習した看護の知識とスキルの統合ならびに看護観を育成するとともに、看護専門職者としての自己キャリア開発に向けて個人の課題を明確にすることである。 概要は、2024 年度統合看護実習要項（精神看護学）を参照すること。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（2）社会的貢献性、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 【統合看護実習（精神）の学習目標】 １）　既習の知識や技術を応用し、対象者の特性や健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。 ２）保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。 ３）多職種との協働における看護専門者の役割・機能と、保健・医療・福祉の総合的ケア提供の在り方について学ぶことができる ４）看護の専門性を理解し、専門職者としての自覚を高めるとともに、学生から社会人に移行する準備ができる。 ５）看護専門職者としての役割・責務・態度について学習を深め、将来に向けての自己課題を明確にできる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	実習目標の達成度、記録物、実習への取り組みから総合的に評価する。 詳細は、統合看護実習要項（精神）の評価表を参照すること。 １．　既習の知識や技術を応用展開し、対象者の特性および健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。(20 点) 　１）　既存の知識や技術を応用展開し、精神健康上の問題を抱えた対象者の特性および健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。 ２．保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。(20 点) 　１）　保健医療チームの一員として、対				
22.コメント	コロナウイルスの状況に合わせて、実習内容をその都度調整することになります。臨機応変に対応し、積極的に学びを深めていきましょう。				
23.オフィスアワー	（櫻井）センターオフィスアワー水曜日 1 時間目、研究室オフィスアワー水曜日 2 時間目 （西村）センターオフィスアワー水曜日昼休み、研究室オフィスアワー水曜 1 限時間目				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	2024 年度統合看護実習要項を参照してください。	

1.授業コード（ナンバリング）	NAD405-M08	2.科目名	統合看護実習　（在宅）		3.単位数	4
4.授業担当教員	畑吉節未、鵜飼知鶴、楳田恵子					
5.授業科目の区分	統合看護学実習（在宅看護）在宅看護学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師		11.先修条件	1 年～4 年春配当の必須専門科目を修得していること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	臨地実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	≪目的（全領域共通）≫ これまで学習した看護の知識とスキルの統合ならびに看護観を育成するとともに、看護専門職者としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にする。 ＜目的（在宅看護学領域）＞ 地域包括ケアシステムにおけるチームの一員として、地域で療養している人々に対する支援のあり方を学ぶ。また、看護専門職者として、自己の看護観・課題を明らかにすることができる。 ＜概要（在宅看護学領域）＞ 地域包括ケアシステムの一員として、地域で療養している対象に必要な支援を行う。地域包括ケアシステムにおける多職					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（1）自律性、（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています 1）地域で療養している対象を理解し、訪問看護過程の展開を通して、対象に必要な支援を行うこと 　　ができる（前提）。 2）地域包括ケアシステムと看護専門職者の機能・役割を理解できる（中核）。 3）訪問看護事業所における管理業務と管理者の役割を理解できる（前提）。 4）看護専門職者としての役割、責務、態度について学習を深めることができる（中核）。 5）実習中の学びを踏まえて、看護専門職者としての自己の看護観を明確にできる（中核）。 6）看護専門職としてのキャリア開発に向けて、自己の課題を明確にできる（中核）。					
19.教科書・教材	臺有佳他（2020）.ナーシンググラフィカ在宅看護論　地域を支えるケア，メディカ出版，大阪.					
20.参考文献	適宜紹介する。					
21.成績評価	事前学習 20%、カンファレンス 10%、実習記録 50%、課題レポート 10%、実習態度 10%					
22.コメント	4 年間学んできた知識・技術・態度（各看護学を含む）の統合として実習になります。 病院に就職する方が多いかと思いますが、地域で療養する療養者の多様な価値観や生活をしっかりと身近で捉えることで、病院等でどのような看護が必要なのか（看護の原点）を十分考える機会となると思います。また、多職種との連携（特に介護支援専門員や訪問介護職員との同行訪問、サービス担当者会議等）等を体験できることで、退院調整・支援のあり方を学べる貴重な実習になると思います。 楽しみにしながら実習準備を進めて行ってください。がんばりましょう！					
23.オフィスアワー	オフィスアワー：畑（水曜日昼休み）、鵜飼（水曜日昼休み）、楳田（水曜日昼休み） センターオフィスアワー：畑（木曜日昼休み）鵜飼（木曜日昼休み）、楳田（木曜日昼休み）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
5 月 20 日～6 月 21 日 の 4 週間中の 12 日間	詳細については、統合看護実習（概要）および統合看護実習（在宅看護）要項を参照のこと。 ※状況で遠隔となる場合は別紙で対応する。	

1.授業コード（ナンバリング）	NAD405-M09	2.科目名	統合看護実習　（老年）	3.単位数	4
4.授業担当教員	原本久美子、髙田美子、八木良子				
5.授業科目の区分	統合看護 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 学年
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件	1 年～4 年春配当の必修専門科目の修得		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限	３年次配当の実習科目の単位取得者 統合看護実習の希望調査に基づき調整を行う				
17.授業の目的と概要	【目的】実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、公衆衛生看護学選択分野のうち、学生個々が関心のある１分野（実践看護学選択分野では１領域）を選択し、看護実践現場における学習を通して理論と実践の統合、ならびに看護観を育成することをねらいとする。また、看護専門職者としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にすることをねらいとする。 【概要】各看護学選択分野の教育内容に適した病院、施設において、既習得の看護学の知識・技術・態度に基づき患者・利用者、集団と関わり、臨地における医療チームの一員として、場に応じ				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 ?既習の知識や技術を応用し、対象者の特性や健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。 ２．保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。 ３．他職種との協働における看護専門職者の役割・機能と、保健・医療・福祉の総合的ケア提供の在り方について学ぶことができる。 ４．看護の専門性を理解し、専門職者としての自覚を高めるとともに、学生から社会人に移行する準備ができる。 ５．看護専門職者としての役割、責務、態度について学習を深め、将来に向けての自己課題を明確にできる。 【DP との関連】 DP1　自律的で主体的な態度 DP2　社会的貢献性 DP3　多様性理解 DP4　問題発見・解決能力 DP5　コミュニケーションスキル DP6　専門的知識・技術の活用力				
19.教科書・教材	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院 リンダ J. カルペニート；看護診断ハンドブック第 12 版，医学書院				
20.参考文献	亀井智子編；根拠と事故防止から見た老年看護技術，医学書院. 山田律子他編；生活機能からみた老年看護過程，医学書院. 藤崎郁；フィジカルアセスメント完全ガイド，Gakken				
21.成績評価	実習目標の達成度、出席状況、実習への取り組みから総合的に評価する。				
22.コメント	4 年間の集大成の実習です。自己を高められるよう、積極的に学んでください。 遠隔になった場合は、改めて指示します。				
23.オフィスアワー	原本　曜　限　：　～　：（メディアライブラリー） 高田　曜　限　：　～　：（メディアライブラリー）				

	八木　曜　限　：　～　：（メディアライブラリー）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週 月曜	各分野実習要項参照 ※実習病院は要項に記載された 3 病院の何れかで行う。 詳細は別紙で説明する。 ※状況で遠隔となる場合は別紙で対応する。 9:00 集合　5 号館 4 階研究室 オリエンテーション 受け持ち患者紹介 リーダーに物品貸し出し	※「統合実習で学ぶこととは」を事前学習をもとに確認後に課題提出 課題は、要項ｐ1 に記載
火曜日	病院初日のみ 9:15 病院正面玄関横に集合 病院・病棟オリエンテーション 受け持ち患者の情報収集、コミュニケーション バイタルサイン測定	15:00～16:00 カンファレンス 「患者紹介、本日の学び」 ※明日から、目的、目標に沿って学生がテーマを考える ※所定の場所に記録を提出する
水曜日	2 日目以降、8:20 までに更衣し集合 受け持ち患者 1 名を受け持つ 申し送り、チームでのケアの見学、環境整備、バイタルサイン測定 初めてのケアは見学から実施へ ケア実施にあたっては、事前にバイタルサインを報告し、指導者に許可を得ておく	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する
木曜日	情報収集 環境整備とバイタルサイン測定は自立 初めてのケアは見学から実施へ チームでのケアの見学、実施に向けた調整方法の把握 日課、週のスケジュール、リハビリ、検査等の計画の把握 翌週の予定、指示等の把握(月曜までは確実に) 看護の方向性、看護診断の決定	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する
金曜日	記録の整理 患者紹介 看護診断に沿った介入計画の発表 看護技術の確認	学内 ※朝 9:10 記録を提出 学生が各自で進行し、看護過程を発表する
第 2 週 月曜日	フィジカルアセスメント開始(記録用紙⑦の裏面に記入 病棟毎に学生がチームを組みケアを実施する。(日課や週のスケジュール、関係者への報告、相談、連絡も行う) 学生は協力して環境整備、シーツ交換、ケアの準備、後始末を行う お互いの受け持ち患者とは、環境整備や、朝、夕の挨拶をとおし関係性をとれるようにする。	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する

	来週にかけて受け持ち患者の病棟カンファレンス、多職種カンファレンスの機会があれば事前に申し出て、参加させていただく。	
火曜日	病棟毎に学生がチームを組みケアを実施する。(日課や週のスケジュール、関係者への報告、相談、連絡も行う) 学生は協力して環境整備、シーツ交換、ケアの準備、後始末を行う	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する
水曜日	病棟毎に学生がチームを組み、ケアの優先度を考慮し介入計画実施、評価、修正(日課や週のスケジュール、関係者への報告、相談、連絡) 協力して環境整備、シーツ交換、ケアの準備、後始末を行う	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する
木曜日	病棟毎に学生がチームを組み、ケアを実施する。 学生の休憩時間が異なるときは、引継ぎはないか互いに確認をする。 翌週の予定、指示等の把握(月曜までは確実に)	15:00～16:00 中間カンファレンス　合同 各自、技術チェック
金曜日	記録の整理、実施、評価、修正 受け持ち患者について、病棟毎に補足し、情報を交換する 最終週に向け、申し送りやリーダー業務についての復習を行う。 来週に向けた、ケアの確認、スケジュールを立てる	学内 チーム内での患者の紹介と把握
第３週 月曜日	受け持ち患者のケアについて実施、評価、修正する。 今週の予定の確認 日課、週のスケジュール ※今週中にリーダー業務のシャドーイングと夜勤への申し送りを各１回 実施する 指導者と調整し、未経験のケアの見学など希望があれば申し出る。	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する
火曜日	病棟毎に学生がチームを組み、ケアを実施する。 受け持ち患者のケアについて実施、評価、修正する。 ※今週中にリーダー業務のシャドーイングと夜勤への申し送りを各１回 実施する	15:00～16:00 カンファレンス
水曜日	病棟毎に学生がチームを組み、ケアを実施する。 受け持ち患者のケアについて実施、評価、修正する。 ※今週中にリーダー業務のシャドーイングと夜勤への申し送りを各１回 実施する	15:00～16:00 カンファレンス
木曜日	病棟毎に学生がチームを組み、ケアを実施する。 受け持ち患者のケアについて実施、評価、修正する。 ※今週中にリーダー業務のシャドーイングと夜勤への申し送りを各１回 実施する	15:00～16:00 最終カンファレンス 技術チェックに指導者よりサインをいただく

金曜日	統合実習での学び 専門職業人としての自己の課題 自分の卒後のビジョンと今後の課題について 記録整理	学内 記録提出:教務課 来週月曜 17:00 まで

1.授業コード（ナンバリング）	NAD405-M10	2.科目名	統合看護実習　（助産）	3.単位数	4
4.授業担当教員	齋藤いずみ				
5.授業科目の区分	統合看護	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	看護師・保健師・助産師	11.先修条件	3 年次配当の実習科目		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【統合看護実習全体の目的】 実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、公衆衛生看護学選択分野のうち、学生個々が関心のある 1 分野（実践看護学選択分野では 1 領域）を選択し、看護実践現場における学習を通して理論と実践の統合、ならびに看護観を育成することをねらいとする。また、看護専門職者としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にすることをねらいとする。 【助産看護分野での目的】 助産看護実践現場における学習を通して、理論と実践の統合、ならびに、看護観を育成することをねらいとする。また、助産看護専門職者				
18.学習目標と ＤＰとの関連	【統合看護実習（助産）の学習目標】 1. 既習の知識や技術を応用し、対象者の特性や健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。 2. 保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。 3. 他職種との協働における看護専門職者の役割・機能と、保健・医療・福祉の総合的ケア提供の在り方について学ぶことができる。 4. 助産・看護の専門性を理解し、専門職者としての自覚を高めるとともに、学生から社会人に移行する準備ができる。 5. 看護専門職者としての役割、責務、態度について学習を深め、将来に向けての自己課題を明確にできる。				
19.教科書・教材	適時、提示する。				
20.参考文献	適時、提示する。				
21.成績評価	実習目標の達成度、出席状況、実習への取り組みから総合的に評価する。 実習目標の達成度の評価は実習場面と実習記録によって行う。 ★課題レポート（30%） テーマは統合看護実習のねらい・目標をもとに、自分自身が行った助産・看護とその結果を整理し、各自の自分の助産・看護の考え方（看護観）を述べる。 ★実習記録（30%）および自己評価表（30%）、課題レポート、自己学習の記録をファイルに綴じ、定められた期限までに提出（10%）すること。 （詳細は統合看護実習（助産）実習要項を参照する）				
22.コメント	4 年間の最後の実習です。主体的に実習を行っていきましょう。				
23.オフィスアワー	中島　水曜日　昼休み 齊藤 小河原 水曜日　昼休み 実習期間中には、必要に応じて適宜、質問や相談を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
助産学実習期間中に実施	（詳細は統合看護実習（助産）実習要綱を参照する）	

1.授業コード（ナンバリング）	NAD405-M11	2.科目名	統合看護実習　（国際）		3.単位数	4
4.授業担当教員	伊藤尚子					
5.授業科目の区分	専門教育科目 専門科目 看護学実習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度　春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件		11.先修条件	1 年～4 年春配当の必修専門科目を修得していること			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【統合看護実習】 これまで学習した看護の知識とスキルの統合ならびに看護観を育成するとともに、看護専門職としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にする。 【統合看護実習（国際看護学)】 グローバル社会における看護の機能を理解し、国際看護の対象である在日外国人に対して適切な介入ができるよう、既習の知識や技術を応用し、看護実践現場における学びを通して理論と実践の統合を図る。					
18.学習目標とＤＰとの関連	【統合看護実習】 (1)既習の知識や技術を応用し、対象者の特性や健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。 (2)保健医療チームの一員として、計画的、継続的に提供される看護を学ぶことができる。 (3)他職種との協働における看護専門の役割・機能と、保保健・医療・福祉の総合的ケア提供のあり方について学ぶことができる。 (4)看護の専門性を理解し、専門職としての自覚を高めるとともに、学生から社会人に移行する準備ができる。 (5)看護専門職としての役割、責務、態度について学修を深め、将来に向けての自己課題を明確にできる。 【統合看護実習（国際看護学)】 1）国際看護の対象である在留外国人の特徴を述べることができる。 2）在留外国人に対する安全な医療の提供に向けて、対象に合わせた適切な看護を説明できる。 3）地域で暮らす在留外国人に対する支援の実際を説明できる。 4）地域住民として暮らす在留外国人を支援する組織団体とその役割を説明できる。 5）地域住民として暮らす在留外国人（または中国残留邦人）への健康支援を実践できる。 6）看護職に必要な行動、態度を実践できる。 ※詳細は統合看護実習（国際看護学）の要項を参照					
19.教科書・教材	必要時配布する。					
20.参考文献	適宜提示する。					
21.成績評価	実習記録：80%・・・様式 0 (5%)、様式 1(5%)、様式 2(30%)、様式 3(30%)、様式 4(10%) 健康教育企画・実施：10% 実習の留意事項の厳守：10%					
22.コメント	4 年間の学びの集大成です。積み重ねた看護の知識と技術を駆使して臨んでください。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜日昼休み センターオフィスアワー：火曜日昼休み（図書館）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

	【実習スケジュール】 1 週目：神戸大学医学部附属病院　International Medical Communication Center（IMCC） 2 週目：神戸定住外国人支援センター 3 週目：神戸定住外国人支援センター、たかとりコミュニティセンター 4 週目：たかとりコミュニティセンター 【学内演習】 1. 1）オリエンテーション 2）実習にあたり必要な知識を確認しておく。 3）自己の学修課題を明確にする。 4）神戸大学医学部附属病院での実習に向けての事前学修を行う。 2. 1）神戸大学	実習記録の提出 様式 0「事前学習レポート」…実習開始 1 週間前に提出。 様式 1「　統合看護実習（国際看護）における、自己の目標と課題」…実習開始 1 週間前に提出。 様式 2「本日の実習目標・評価」 …学内演習／臨地実習において毎日提出。 様式 3「施設別実習レポート：学修内容と目標に応じた評価・考察」…施設ごとの実習終了時に提出。 様式 4「統合看護実習（国際看護）レポート：在留外国人への看護と今後の展望」…実習最終日の 1 週間後 17：00 提出期限。

1.授業コード（ナンバリング）	NAH202-M01	2.科目名	急性・重症看護援助論	3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子、野村浩、平野通子				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年生
10.取得資格の要件	看護師・助産師・保健師	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学科				
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、看護師として活動する際に必要な手術を受ける患者・家族への看護に関する基本的能力を身につけることを目的としています。 【概要】 急性・重症看護学の対象となる人々の健康問題の特性、ならびに看護の基盤となる理論や援助方法を学修する。さらに、健康問題・援助方法の知識を活用して、急性期にある患者・家族の事例の看護過程をグループワークを通して学修する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)自律性・(4)問題発見解決力・(6)専門的知識技能の活用力と関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①急性・重症看護学の対象者の健康問題と援助を説明できる。 ②急性・重症看護学の対象者に対する看護過程を説明できる。 ③急性・重症看護学の対象者に対する看護計画を立案できる。				
19.教科書・教材	特に指定しない				
20.参考文献	それぞれの授業で提示する。 林直子、鈴木久美、酒井郁子他(2019) 成人看護学急性期看護Ⅰ　概論・周手術期看護　(改定 3 版) 南江堂				
21.成績評価	事前学習課題：２５％(具体的な課題内容はアサイメントに記載してある通りです) ・ムーアの術後回復過程、術後無気肺と看護、胸腔ドレナージを受けている患者の看護、無気肺があり肺炎に移行するおそれがある患者の関連図と看護計画 看護過程の展開グループワーク成果：２５％(患者情報とアセスメント①～⑦・関連図・看護計画) 中間試験：２０％ 総括試験：３０％ ※事前学習課題及びグループワーク成果を提出することが、単位認定の前提となるので注意してください。				
22.コメント	この科目は、３年生からの急性看護学実習で必要な知識や考え方を学びます。１年生の形態機能Ⅰ・Ⅱ、疾病治療論Ⅰ・Ⅱ、さらに成人看護学での知識を十分活用して、実際の対象者をイメージしながら学んでいきましょう。				
23.オフィスアワー	高見沢恵美子：センター；火曜日昼休み、研究室；月曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 4 月 9 日(火)1	ガイダンス－学修目標、注意事項、授業の進め方など	・資料は教室で配布する。 ・資料と教科書(P6～18、P38～64)を読んで

限 (2-403 教室) 第２回 4 月 9 日(火)5 限 (2-401 教室)	の説明＜高見沢＞ 周手術期看護①　＜高見沢＞	ください。 ・ムーア(Moore)の術後回復過程の 4 相)について説明しなさい(A4×1 枚)。 ・課題レポートを、4 月 28 日(金)に教室で提出してください。 ・課題の提出をもって、第 1 回第 2 回を出席とします
第３回 4 月 16 日(火)1 限 (2-403 教室) 第４回 4 月 16 日(火)5 限 (2-401 教室)	周手術期看護②　＜高見沢＞ 周手術期看護③　＜高見沢＞	・資料と教科書(P66～136)を読んでください。 ・術後無気肺と看護について説明しなさい(A4×1 枚)。 ・課題レポートを、4 月 23 日(火)に提出してください。 ・課題の提出をもって、第 3 回第 4 回周手術期看護②③を出席とします。
第５回 4 月 23 日(火)1 限 (2-403 教室) 第６回 4 月 23 日(火)5 限 (2-401 教室)	胃切除術を受ける患者の看護①　＜野村＞ 胃切除術を受ける患者の看護②　＜野村＞	胃切除（教科書 p231~p248、資料）
第７回 4 月 30 日(火)1 限 (2-403 教室) 第８回 4 月 30 日(火)5 限 (2-401 教室)	ストーマ造設術を受ける患者の看護①　＜平野＞ ストーマ造設術を受ける患者の看護②　＜平野＞	◆ストーマ造設術（教科書ｐ344～ｐ363、資料）
第９回 5 月 7 日(火)1 限 (2-403 教室) 第１０回 5 月 7 日(火)5 限 (2-401 教室)	肺切除術を受ける患者の看護①　＜高見沢＞ 乳房切除術を受ける患者の看護－＜平野＞	◆乳房切除術（教科書ｐ303～ｐ320、資料）
第１１回 5 月 14 日(火)1 限 (2-403 教室) 第１２回	人工股関節置換術を受ける患者の看護①　＜野村＞ 人工股関節置換術を受ける患者の看護②　＜野村＞	◆人工関節置換術（教科書ｐ285～ｐ302、資料） アンケート（授業内容確認）

5 月 14 日(火)5 限 (2-401 教室)		
第１３回 5 月 21 日(火)1 限 (2-403 教室) 第１４回 5 月 21 日(火)5 限 (2-401 教室)	肺切除術を受ける患者の看護②　＜高見沢＞ 急性期の患者・家族への看護に用いる看護過程①　＜高見沢＞	・資料と教科書(P161～177)を読んでください。 ・胸腔ドレナージを受けている患者の看護について、説明しなさい(A4×1 枚) ・課題レポートを、5 月 28 日(火)までに高見沢研究室(2-201)前の提出箱に提出してください。 ・課題の提出をもって、第 9 回第 13 回肺切除術を受ける患者の看護①②を出席とします。 ・資料を読んでください。 ・資料の最後のページの事例を読み、関連図を描いてください(A4×1 枚)。
第１５回 5 月 28 日(火)1 限 (2-403 教室) 第１６回 5 月 28 日(火)5 限 (2-401 教室)	急性期の患者・家族への看護に用いる看護過程②＜高見沢＞ 中間まとめ　＜高見沢・野村・平野＞	・事例の「＃1 無気肺があり肺炎に移行するおそれがある」という看護問題の看護計画を、指示された用紙に書き込みなさい。 ・課題レポートを、6 月 4 日(火)授業開始前に教室で提出してください。 ・課題の提出をもって、第 14 回第 15 回急性期の患者家族の看護過程①②を出席とします。
第１７回 6 月 4 日(火)3 限 (2-401 教室) 第１８回 6 月 4 日(火)4 限 (2-401 教室)	グループワークオリエンテーション＜高見沢＞ (アクティブラーニング) 看護過程の展開－情報分析①　＜高見沢・野村・平野＞ (アクティブラーニング)	
第１９回 6 月 11 日(火)3 限 (2-301/304/305) 第２０回 6 月 11 日(火)4 限 (2-301/304/305)	看護過程の展開－情報分析②　＜高見沢・野村・平野＞ (アクティブラーニング) 看護過程の展開－アセスメント①　＜高見沢・野村・平野＞ (アクティブラーニング)	・課題①～⑦を 6/11（火）4 限終了までに提出してください。 ・課題①～⑦の提出をもって、第 17･18・19・20・21 回を出席とします。
第２１回 6 月 18 日(火)3	看護過程の展開－アセスメント②　＜高見沢・野村・平野＞	・発表を聞きながら、作成した課題①～⑦の足りない部分を各自修正すること。

限 (2-301/304/305) 第２２回 6 月 18 日(火)4 限 (2-401)	(アクティブラーニング) 情報(課題①～⑦)プレゼンテーション＜高見沢・野村・平野＞ 関連図① (アクティブラーニング)	
第２３回 6 月 25 日(火)3 限 (2-301/304/305) 第２４回 6 月 25 日(火)4 限 (2-301/304/305)	看護過程の展開―関連図②＜高見沢・野村・平野＞ (アクティブラーニング) 看護過程の展開―関連図③＜高見沢・野村・平野＞ (アクティブラーニング)	・作成した関連図を 6/25(火)4 限終了までに提出してください。 ・関連図提出をもって、第 22・23･24･25 回を出席とします。
第２５回 7 月 2 日(火)3 限 (2-401) 第２６回 7 月 2 日(火)4 限 (2-301/304/305)	関連図プレゼンテーション＜高見沢・野村・平野＞ (アクティブラーニング) 看護過程の展開―看護問題の抽出＜高見沢・野村・平野＞ (アクティブラーニング)	・発表を聞きながら、作成した関連図の足りない部分を各自修正すること。
第２７回 7 月 9 日(火)3 限 (2-301/304/305) 第２８回 7 月 9(火)4 限 (2-301/304/305)	看護過程の展開―看護計画の立案①＜高見沢・野村・平野＞ (アクティブラーニング) 看護過程の展開―看護計画の立案②＜高見沢・野村・平野＞ (アクティブラーニング)	・優先順位 1 位の問題について看護目標、看護計画を立案し、7/9（火）4 限終了までに提出してください。 ・看護計画の提出をもって、第 26・27・28・29 回を出席とします。
第２９回 7 月 16 日(火)3 限 (2-401) 第３０回 7 月 23 日(火) 試験 3 限 (2-401)	看護計画プレゼンテーション　＜高見沢・野村・平野＞ (アクティブラーニング) まとめ＜高見沢・野村・平野＞	・発表を聞きながら、作成した看護計画の足りない部分を各自修正すること。

1.授業コード（ナンバリング）	NAH203-M01	2.科目名	慢性看護援助論	3.単位数	2
4.授業担当教員	岩下真由美、白石夕起子、藤本美生、房間美恵、村上聖子				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	慢性疾患や障がいとともに生活する成人患者とその家族の健康維持・回復を図るための看護援助について学修することをねらいとする。具体的には機能障害別に慢性期看護の対象となる人々の健康問題の特性、患者の特徴、アセスンメントの視点、基本的援助方法について学修する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1) 自律性(2) 社会に能動的に貢献する姿勢(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力(4) 問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル(6) 専門的知識・技能 の活用力と関連しています。 ①慢性疾患や障がいとともに生活する成人患者とその家族の特徴と看護の役割について説明できる。 ②主要な慢性疾患や障がいについてアセスメントの視点および看護について説明できる。 ③事例を通して慢性疾患患者の看護過程を展開することができる。 ①②については、各援助論ごとに授業の中でお示ししています。				
19.教科書・教材	系統看護学講座専門分野Ⅱ　循環器・呼吸器・消化器・腎泌尿器・膠原病・血液造血器・脳神経・内分泌代謝				
20.参考文献	授業資料に提示する。				
21.成績評価	中間試験（第 1～12 回）総括試験（第 13～18 回）70％ 事前課題・看護過程の展開 30％				
22.コメント	授業でわからないことは積極的に質問し、この科目での学びをもとに他の慢性疾患についても主体的に学びを深めていきましょう。この科目は病を持ちながら生活している方々にケアを提供するためにどのようなことを知っておかなければならないか、どのようなことを考えなければならないかを学び、考えるきっかけになる科目です。また、この科目の内容は 3 年次の慢性看護学実習、国家試験、臨床へとつながっていく科目ですので、皆さんの積極的な参加を期待します。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー水曜 12:15-13:15、研究室オフィスアワー火曜 12:15-13:15				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1・2 回	4/11　　Ⅰ・Ⅱ限目＜岩下＞ ・オリエンテーション、シラバスの説明 ・慢性疾患の種類と特徴 ・慢性疾患における治療の特徴 ・慢性疾患をもつ人をとりまく療養環境の特徴 ・慢性疾患をもつ人に対する看護の役割 ・慢性疾患をもつ人に関わる専門職とチーム医療	成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える　南江堂のテキストを持参
第 3・4 回	4/18Ⅰ・Ⅱ限目　＜岩下＞ 循環器機能障害患者の看護 ・虚血性心疾患患者（回復期）の看護 ・慢性心不全患者の看護	系統看護学講座専門分野Ⅱ循環器　成人看護学③医学書院のテキスト持参 事前学習課題：心臓の機能と働きについて

第 5・6 回	4/25 Ⅰ・Ⅱ限　＜岩下＞ 呼吸器機能障害患者の看護 ・慢性閉塞性肺疾患患者の看護 ・吸入療法・酸素療法・在宅酸素療法を受ける患者の看護	系統看護学講座専門分野Ⅱ呼吸器　成人看護学②　医学書院のテキスト持参 事前学習課題：呼吸器の構造・呼吸の生理について
第 7・8 回	5/2　　Ⅰ・Ⅱ限　＜白石＞ 脳・神経系機能障害患者の看護 ・脳梗塞患者の看護 ・脳・神経系機能障害のアセスメントと日常生活上の看護	系統看護学講座専門分野Ⅱ脳・神経　成人看護学⑦　医学書院のテキスト持参 事前学習課題：脳・神経系の構造と機能
第 9・10 回	5/9　Ⅰ・Ⅱ限　＜岩下＞ 内分泌系機能障害患者の看護 ・糖尿病患者の看護	系統看護学講座専門分野Ⅱ内分泌・代謝　成人看護学⑥医学書院のテキスト持参 事前学習課題：糖尿病の病気・糖尿病の診断・合併症について
第 11・12 回	5/16 Ⅰ・Ⅱ限　＜白石＞ 内部環境調節機能障害患者の看護 ・慢性腎臓病　（ＣＫＤ） ・透析療法に伴う看護	系統看護学講座専門分野Ⅱ腎・泌尿器　成人看護学⑧医学書院のテキスト持参 事前学習課題：腎臓の構造と機能について
第 13・14 回	5/23　Ⅰ・Ⅱ限　＜房間＞ 生態防衛機能障害患者の看護 ・関節リウマチ患者の看護 ・全身性エリテマトーデス患者の看護 ・ステロイド療法を受ける患者の看護	系統看護学講座専門分野Ⅱアレルギー・膠原病・感染症 成人看護学⑪医学書院のテキスト持参 事前学習課題：ステロイド療法の副作用について
第 15・16 回	5/30　Ⅰ・Ⅱ限 ・緩和ケアを受ける患者・家族に対する援助＜村上＞ ・放射線治療を受ける患者の看護＜藤本＞	
第 17・18 回	6/6　　Ⅰ・Ⅱ限 血液・免疫系障害患者の看護＜岩下＞ ・急性白血病 ・がん薬物療法における副作用の看護	系統看護学講座専門分野Ⅱ血液・造血器　成人看護学④医学書院のテキスト持参 事前学習課題：血液の成分と機能について
第 19・20 回	6/13　Ⅰ限　　まとめ：中間試験　＜岩下　白石＞ Ⅱ限　　看護過程について＜岩下＞	
第 21・22 回	6/20　Ⅰ・Ⅱ限　＜岩下＞ 看護過程の展開①　　事例紹介　情報収集・情報の分類	【アサインメント】 ゴードンのアセスメントツールおよび慢性心不全患者の事例を読んでおく
第 23・24 回	6/27　Ⅰ・Ⅱ限　＜岩下＞ 看護過程の展開②　　アセスメント	【アサインメント】 前回の授業までのところ 事例紹介　情報収集・情報の分類
第 25・26 回	7/4　Ⅰ・ Ⅱ限　＜岩下＞ 看護過程の展開③　　アセスメント・関連図	【アサインメント】 前回の授業までのところ アセスメント
第 27・28 回	7/11　Ⅰ・Ⅱ限　＜岩下＞ 看護過程の展開④　看護上の問題　看護計画立案	【アサインメント】 前回の授業までのところ アセスメント・関連図
第 29・30 回	7/18　Ⅰ限　　まとめ：期末試験　＜岩下　房間＞	【アサインメント】

	Ⅱ限　　看護過程の展開⑤　実施・評価＜岩下＞	前回の授業までのところ 看護上の問題　看護計画立案

1.授業コード（ナンバリング）	NAH206-M01	2.科目名	精神健康看護学概論	3.単位数	2
4.授業担当教員	櫻井信人、西村美登里				
5.授業科目の区分	精神看護学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年生
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義（うち 6 回分はオンデマンドで実施）		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業では、精神の健康の概念、精神保健福祉法、精神疾患や精神科医療の現状を理解し、精神看護の実践に向けた基礎的知識を習得することを目的としている。 【概要】 精神看護学Ⅰの教科書を中心に講義を進める。途中、知識の確認として中間テストを実施する。また「こころ」をテーマとしたグループワークと発表を行う。15 回中 6 回はオンデマンドを用いて実施し、毎回知識の確認テストおよび授業ノートの記載を求める。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（3）多様性理解、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 【精神健康看護学概論の学習目標】 １）こころの働きを生物学・心理学・社会学的視点から述べることができる。 ２）精神科医療の現状および歴史的変遷と法制度を理解し説明できる。 ３）精神疾患を持つ人の「生きにくさ」について述べることができる。 ４）精神疾患や治療について説明ができ、精神の病を持つ人を客観的に捉えることができる。				
19.教科書・教材	①系統看護学講座　専門看護分野Ⅱ　精神看護学１　著者代表：武井麻子　医学書院 ②系統看護学講座　専門看護分野Ⅱ　精神看護学２　著者代表：武井麻子　医学書院				
20.参考文献					
21.成績評価	成績評価の配分は以下のとおりです。 合計で 60%以上かつ統括テストで 6 割以上の得点を合格基準（単位認定）とします。 グループワーク（発表評価と振り返り、発表資料）25% 学習ノート 18% 中間テスト 17% 統括テスト 40% オンデマンド回は、動画の視聴、確認テストの実施、ノートのまとめをもって出席登録をします。				
22.コメント	目にみえない、わかりにくい内容が多いですが、精神看護には看護の本質がたくさん入っています。積極的に授業に参加しましょう。授業では教科書の内容をすべて行うことはできません。１度ではわからないことも多いため、予習と復習を必ず実施してください。アクティブラーニングを意識しながら授業に参加してください。また、6 回分オンデマンドで実施します。受講計画を立て、正しく受講をしましょう。				
23.オフィスアワー	（櫻井）センターオフィスアワー火曜日１時間目、研究室オフィスアワー水曜日昼休み （西村）センターオフィスアワー木曜日昼休み、研究室オフィスアワー木曜日２時間目				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】 4 月 9 日 3 限 対面授業	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価方法・進め方の確認、授業上の留意点などについて） 講義　第１章　精神看護学で学ぶこと（教科書①p2～	ノートのまとめ

担当：櫻井	22） 精神看護学の基本的な考え方を学ぶ。精神科医療の現状を理解する。〔学習目標２〕	
【第２回】 4 月 9 日 4 限 対面授業 担当：櫻井	第２章　精神保健の考え方（教科書①p24～53） 健康と不健康、危機介入、ストレス理論、心的外傷などについて学ぶ。〔学習目標１〕	ノートのまとめ 次回授業範囲（第 3・4 章）を読んでおくこと
【第３回】 オンデマンド 視聴及び課題 提出期限：4 月 22 日 17 時まで 担当：櫻井	第３章　心のはたらきと人格の形成（教科書①p56～114） こころの働きを生物学的・心理学的・社会学的側面から理解する。〔学習目標１〕	ノートのまとめ 第 3 章確認テストの実施
【第４回】 オンデマンド 視聴及び課題 提出期限：4 月 22 日 17 時まで 担当：櫻井	第４章　関係のなかの人間（教科書①p116～142） 看護の基本となる人間関係、集団力動について学ぶ。〔学習目標１〕	ノートのまとめ 第 4 章確認テストの実施 次回授業範囲（第 5 章）を読んでおくこと
【第５回】 オンデマンド 視聴及び課題 提出期限：4 月 29 日 17 時まで 担当：西村	第５章　精神科疾患のあらわれ方（教科書①p144～182） 精神障害の診断と分類、統合失調症を中心に学び、疾患や障害について理解する。〔学習目標３・４〕	ノートのまとめ 第 5 章確認テスト①の実施 5 月 7 日のグループワークに向けた準備を行う。
【第６回】 オンデマンド 視聴及び課題 提出期限：4 月 29 日 17 時まで 担当：西村	第５章　精神科疾患のあらわれ方（教科書①p182～234） 気分障害、ストレス関連障害を中心に学び、疾患や障害について理解する。〔学習目標３・４〕	ノートのまとめ 第 5 章確認テスト②の実施 次回授業範囲（第 6 章）を読んでおくこと
【第７・８回】 オンデマンド 視聴及び課題 提出期限：5 月 6 日 17 時まで 担当：西村	第６章　精神科での治療（教科書 p236～296） 精神療法、環境療法、社会療法の特徴を理解する。 長期入院患者の地域移行に向けた具体的方策の概要について理解する。 精神科での治療、治療環境の特性、および薬物療法について理解する。〔学習目標４〕	ノートのまとめ 第 6 章確認テストの実施 次回中間テストに向けた学習をしておくこと
【第９・１０回】 5 月 7 日 3 限 4 限 対面授業	○中間テスト グループワーク	○学習ノートの提出 次回授業範囲（第 7 章）を読んでおくこと

担当：櫻井、西村		
【第 11・12 回】 5 月 14 日 3 限 4 限 対面授業 担当：櫻井	第 7 章　社会のなかの精神障害（教科書①p298～370） 精神障害者の治療と人権問題についての歴史や現状を理解する。また、精神科領域で必要な法律と制度について理解する。〔学習目標 2〕	ノートのまとめ 発表資料とデータは 5 月 20 日 12 時までに提出
【第 13・14 回】 5 月 21 日 3 限 4 限 対面授業 担当：櫻井、西村	グループ発表 〇授業内課題提出（発表評価、振り返り）	統括テストに向けて、テスト範囲の学習を行なう
【第 1 5 回】 5 月 28 日 3 限 対面授業 担当：櫻井、西村	精神看護学概論の復習、まとめ 〇統括テスト（６０分）	

1.授業コード（ナンバリング）	NBS102-M01	2.科目名	生化学		3.単位数	1
4.授業担当教員	岡田太郎					
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本講義では、人体の構造と機能について生化学的に理解することをねらいとする。 【概要】 生体の構成成分である、糖質、脂質、タンパク質の生体における機能と代謝、およびエネルギーの生成過程などについて学ぶとともに、これらの異常がどのように疾患と関連するのかを学習する。また，遺伝子発現のしくみと臨床とのかかわりについて学習する。					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はＤＰ（ディプロマポリシー）の（４）問題発見・解決力，（６）専門的知識・技能の活用力，の学修に関連しています。 本科目の学習目標は以下の通りです。 （１）身体を構成する細胞内で行われている物質代謝の概要を説明できるようになる。 （２）健康と病気について，科学的な見地から理解できるようになる。 （３）得られた専門知識を，一般の人たちにわかりやすい言葉で伝達することができるようになる。					
19.教科書・教材	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ「臨床生化学」第７版 冊子版 業者さんを通じた販売がありますので，購入しておいてください。 （昨年度はオンライン版を指定図書としたのですが，授業期間後のアンケートで冊子版を希望する学生さんの方が多かったので，今年は冊子版を指定図書とします。オンライン版を希望する方はそちらを購入していただいてもかまいません。）					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	成績評価は複数回のレポートの点数を合計して行います。レポートの提出は Web class 上で行います。 レポートの提出がないと 0 点以外つけようがありませんので，忘れずに提出するようにしてください。					
22.コメント	生化学の授業では様々な化学物質の名前と化学反応を学ぶこととなり、糖質、脂質、タンパク質からどのようにエネルギーが取り出されるか、という大きな流れが見えなくなりがちです。こうなると、教えられることがただ無味乾燥な酵素反応の羅列に思えてきて「生化学嫌い」になりかねません。私自身も学生の頃は生化学が得意ではありませんでした。 しかし実際のところ、ひとつひとつの物質名や反応を丸暗記する必要はなく、将来必要となったときに、「そういえば教科書のあのあたりに記述があったような・・・」と思いながら、教科					

	書を調べる、それでいいのです。ただ、１度きちんと学んでおかなければ、教科書のどこを開いたらいいかもわからないでしょう。本授業では、なるべく「全体の流れ」を見失うことなく、みなさんの理解が進むように努力します。また，最新の医学的進歩についての話題も取り入れ，学生さんの学習意欲が高まるような授業にできたらな，と考えています。 教科書はメディカ出版の「臨床生化学」です。この教科書は生化学の教科書としては非常にシンプルで分かりやすいと思います。高校で生物を選択していなかった学生さん、あるいは化学が苦手だった学生さんでも大丈夫です。この８回の授業で，将来必要となる生化学の基礎をしっかり身につけましょう。 授業は黒板に板書する形で進めますが，一部の資料についてはスライドにて提示します。このスライドの内容は WebClass にもアップロードする予定です。 何か質問があればメールで気軽に聞いてください。
23.オフィスアワー	講義の日以外は、神戸大学医学部生化学分野におります。質問等ありましたら、お気軽に e-mail をください。 （上記のアドレス参照） 講義の前後に質問などへの対応が可能です。講義の後はバスの時間が迫っているためあまり長い時間をとれないのですが（すみません），時間がある限り対応します。講義の前でしたら１階の講師控え室に直接来てもらって大丈夫です。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回～第８回	糖質、脂質、タンパク質、核酸といった、私たちの体を形作る基本分子の構造と機能を概説した後で、それらの分子からどのようにエネルギーが取り出されるかについて授業を行います。さらに遺伝情報がタンパク質の形で「発現」するしくみについて学びます。	

1.授業コード（ナンバリング）	NBS103-M01	2.科目名	生物学基礎	3.単位数	1
4.授業担当教員	上田晴康				
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	専門基礎科目			9.履修学年	看護学科
10.取得資格の要件		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	【目的】医療職者として必要不可欠な生物的基礎知識を習得する。これらを通じて、SDGs 4「すべての人に包摂的かつ公平な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」ものとする。 【概要】人体のなりたちを理解するうえで必要な、生物学の基本（細胞レベルでの構造と機能、生命の発生と連続性、遺伝）に加え、感染症を引き起こす病原体の種類やそれらに対する対処法について学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（６）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①生物が持っている機能について説明できる。 ②病原体の種類や特性について概説できる。 ③主な感染症の種類や特徴を説明できる。 ④本邦における感染症対応について概説できる。				
19.教科書・教材	講義開始時にオリジナルテキストを配布				
20.参考文献	特になし				
21.成績評価	提出課題（50%）、本試験（50%）				
22.コメント	高校で習った生物学の振り返りに加え、看護師として是非とも必要な病原微生物に対する知識を補完する講義であり、後に続く免疫学の理解を助ける意味においても重要な科目であるので、選択科目ではあるが本科目を履修しておくことが望ましい。				
23.オフィスアワー	授業後あるいはメール（***）にて対応する。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	生命の起源と進化～生殖・発生と連続性	★課題提出 復習：授業ノートの整理
第２回	生命の設計図～遺伝の法則／遺伝子と染色体／ゲノム／セントラルドグマ	★課題提出 復習：授業ノートの整理
第３回	生物の構成単位～細胞および組織の構造と機能	復習：授業ノートの整理
第４回	生物の種類と生命活動～単細胞細胞と多細胞生物	復習：授業ノートの整理
第５回	病原体の種類と分類１～微生物学の歴史／細菌と真菌	復習：授業ノートの整理
第６回	病原体の種類と分類２～偏性細胞内寄生体（ｸﾗﾐｼﾞｱ､ﾘｹｯﾁｱ､ｳｲﾙｽ）	★課題提出 復習：授業ノートの整理
第７回	感染症～感染と発病／病原因子／感染経路／院内感染／感染症法	★課題提出 復習：授業ノートの整理
第８回	感染症の予防と治療～予防接種／抗生物質／消毒・滅菌	★課題提出 尚、８回目講義後の課題は『免疫学』の第１回目に提出すること 復習：授業ノートの整理

1.授業コード（ナンバリング）	NBS104-M01	2.科目名	化学基礎	3.単位数	1
4.授業担当教員	井上尚之				
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	対面授業		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】本講義では、原?や分?の構造、溶液の濃度と性質、化学変化、?体関連物質の種類と性質などを取り上げ、化学の基本的な定義や法則に基づいた解説をします。ここで、?命現象や医療系専?科?を理解するための助けとなる化学の基礎知識や化学的な思考法を学びます。 【概要】化学は、物の成り?ちや構造や性質を原?や分?のレベルで追求し、未知の物を知り、新しい物を設計し、創造する学問であり、宇宙を含めたすべての物を対象としています。?体の中で起こるすべての化学的変化は、環境や使われ?に違いがあるものの、同じ理論の上に				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力（6）専門的 知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①?近に起こる現象を化学的に分析し、理解できる。 ②化学?語を理解し、使うことができる。 ③?溶液の濃度の計算ができる。 ④酸・塩基の区別や酸化・還元反応を定義に基づいて説明できる。 ⑤分?間?や化学結合について説明できる。 ⑥分?の構造と性質を予測できる。				
19.教科書・教材	①著者：奈良雅之　　系統看護学講座　基礎分野　化学 発行者：医学書院				
20.参考文献	授業内容の中で、教科書以外から引用したものについては、授業中に適宜紹介します。				
21.成績評価	①毎回マイクを回し教科書を皆さんに読んでもらいます。また教科書の内容について皆さんに質問して答えてもらいます。授業中の音読及びこちらの質問への解答を評価に加えます（積極的授業関与）。この点数が 45 点。 ②総括試験 55 点。第 8 回目に実施します。 ①と②を合計して 100 点満点で評価します。 8 回の授業ですので、3 回以上の欠席者は評価を受けることができません。				
22.コメント	世の中に氾濫する化学?語に対応できていますか。?体に良いという触れ込みで、化学?語が使われ た品物が?価な値段で売られているのを良く?にします。安価な物を百倍、千倍で買っていません か。そもそも化学は「化ける」から来ています。古来より「化学」と「えせ化学」が対峙しています から、化かされても不思議ではありません。価格やパッケージで納得するのも良いですが、化かされ ないように勉強するのも良いと思いませんか。医療の専?家を?指す君たちは、「?体に良い」に化 かされないようにして下さい。患者さんのためです。化学物質は毎年膨?な数発?されたり合成				

	され たりしています。覚えきれる数ではありません。必要なときに必要な知識を取り出せる?段(検索?と 判断?)を?につけておけばよいのです。しかし、この?段を?につけるには基礎から応?へ順序よく 積み重ねる必要があります。とびとびに覚えても使い物になりません。このため８回の授業にすべて 参加して下さい。
23.オフィスアワー	授業終了時やメール

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	（１）身の回りの化学 （２）科学の単位と元素の周期表	予習：その日の授業範囲の教科書の部分を読む（教科書の目次通りに進む)。疑問点をノートにまとめておくこと。 授業：授業中に予習での疑問点を解消する。解消しない時は積極的に質問すること。 復習：その日の授業を自分なりにノートにまとめる事。
【第２回】	（１）物質の三態 （２）気体の性質	予習：その日の授業範囲の教科書の部分を読む（教科書の目次通りに進む)。疑問点をノートにまとめておくこと。 授業：授業中に予習での疑問点を解消する。解消しない時は積極的に質問すること。 復習：その日の授業を自分なりにノートにまとめる事。
【第３回】	（１）液体・溶液の性質 （２）化学反応	予習：その日の授業範囲の教科書の部分を読む（教科書の目次通りに進む)。疑問点をノートにまとめておくこと。 授業：授業中に予習での疑問点を解消する。解消しない時は積極的に質問すること。 復習：その日の授業を自分なりにノートにまとめる事。
【第４回】	（１）化学平衡	予習：その日の授業範囲の教科書の部分を読む（教科書の目次通りに進む)。疑問点をノートにまとめておくこと。 授業：授業中に予習での疑問点を解消する。解消しない時は積極的に質問すること。 復習：その日の授業を自分なりにノートにまとめる事。
【第５回】	（１）原子の構造と化学結合	予習：その日の授業範囲の教科書の部分を読む（教科書の目次通りに進む)。疑問点をノートにまとめておくこと。 授業：授業中に予習での疑問点を解消する。解消しない時は積極的に質問すること。 復習：その日の授業を自分なりにノートにまとめる事。
【第６回】	（１）無機化学	予習：その日の授業範囲の教科書の部分を読む（教科書の目次通りに進む)。疑問点をノー

		トにまとめておくこと。 授業：授業中に予習での疑問点を解消する。解消しない時は積極的に質問すること。 復習：その日の授業を自分なりにノートにまとめる事。
【第７回】	（1）有機化学	予習：その日の授業範囲の教科書の部分を読む（教科書の目次通りに進む)。疑問点をノートにまとめておくこと。 授業：授業中に予習での疑問点を解消する。解消しない時は積極的に質問すること。 復習：その日の授業を自分なりにノートにまとめる事。
【第８回】	（1）天然化合物の分類と特性、医薬品への応用 ●総括試験を行います。	予習：その日の授業範囲の教科書の部分を読む（教科書の目次通りに進む)。疑問点をノートにまとめておくこと。 授業：授業中に予習での疑問点を解消する。解消しない時は積極的に質問すること。 復習：その日の授業を自分なりにノートにまとめる事。

1.授業コード（ナンバリング）	NBS302-M01	2.科目名	多職種連携医療論	3.単位数	1
4.授業担当教員	佐藤直美				
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	専門基礎科目			9.履修学年	看護学科 3 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	講義概要　本講義では、保健医療分野で看護実践を行ううえで必要不可欠な多職種連携のあり方について理解することをねらいとする。具体的には、多職種連携の概念を学ぶとともに、保健医療分野で活躍する様々な各専門職の視点から、各々の職種のチーム医療における役割や活動の実際例について学習し、多職種連携上の課題について考察する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	保健医療分野で看護実践を行ううえで必要不可欠な多職種連携のあり方について理解する。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	授業のまとめシート（50%）、最終レポート（50%）				
22.コメント	より良いケアの提供のために、他の専門職との連携は欠かせません。各講師の話をよく聴き、学びを深めてください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	（看護師の活動　　2 回（第 1 回、第 8 回）　担当　佐藤直美） チーム医療とは何か、多職種連携とは何かを学習する機会とする。チーム医療における看護師の活動の実際例を取り上げ、看護師の役割・機能について講義する。	
第 2 回	（栄養士の活動　　1 回　担当　田中悦子） チーム医療における活動の実際例を取り上げ、栄養士の役割・機能について講義する。	
第 3 回	（薬剤師の活動　　1 回　担当　髙橋雅子） チーム医療における活動の実際例を取り上げ、薬剤師の役割・機能について講義する。	
第 4 回	（理学療法士の活動　　1 回　担当　北村和也） チーム医療における活動の実際例を取り上げ、理学療法士の役割・機能について講義する。	
第 5 回	（作業療法士の活動　1 回　担当　古山茂樹） チーム医療における活動の実際例を取り上げ、作業療法士の役割・機能について講義する。	
第 6 回	（医師の活動　　1 回　担当　恒遠剛示） チーム医療における活動の実際例を取り上げ、医師の役割・機能について講義する。	

第 7 回	（ソーシャルワーカーの活動　　1 回　担当　木村亜紀子） チーム医療における活動の実際例を取り上げ、ソーシャルワーカーの役割・機能について講義する。	
第 8 回	まとめでは、討論を通して多職種連携のあり方について検討する。	

1.授業コード（ナンバリング）	NCH101-M01	2.科目名	地域・在宅看護論	3.単位数	2
4.授業担当教員	畑吉節未、鵜飼知鶴、楳田恵子、中世古恵美、藤原和美				
5.授業科目の区分	専門科目（基盤看護学）	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	1 年生
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格　必須科目	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習（グループワーク）		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	地域で暮らす人々の生活習慣や生活様式などの“生活の仕方”に目を向け、人々の生活の仕方や考え方について、様々な健康レベルや発達段階の特性、健康レベルに応じ、地域でどのような資源を活用して暮らしているかについて教授する。 地域で暮らす人々の生活を理解することを通じて、「生活の中の健康」に関する考えを発展させ、看護援助を行う上で基盤となる生活観や健康観を深める。 本科目を通じて、多様な生活の場を理解し、地域包括システムの中で役割を発揮することのできる看護職の基盤となる視点を養うことができる。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【DP との関連】本科目の内容は看護学科 DP：3)多様性理解、4）問題発見・解決力の基礎力構築の土台となる科目である。GW を主とした授業展開の中で DP:1)自律性、5）コミュニケーションスキルの強化・促進につながり、三木市という身近な地域、地域住民について理解を深める活動から DP：2)社会に能動的に貢献する視点を養う。 【到達目標】 １）地域・在宅看護の目的および社会的背景が理解できる。 ２）地域で暮らす人々の健康に関連する要因、生活習慣や生活様式について説明できる。 ３）地域で暮らす人々（個人・家族）の生活の仕方の実際、行動や考え方について、各発達段階にある人を理解し、健康レベルとの関連で考えることができる。 ４）地域における支えあい（自助・互助・共助・公助）の活動、コミュニティについて説明できる。 ５）地域で生活する人々の健康を守るための社会資源（機関と職種）について説明できる。 ６）社会に求められる看護職の機能・役割について考察することができる。				
19.教科書・教材	臺有桂ほか編著：ナーシンググラフィカ地域在宅看護論①地域療養を支えるケア第 7 版、メディカ出版　2022				
20.参考文献	講義時に示す				
21.成績評価	課題レポート（30%）グループワークの取り組み（20%）中間テスト(20%）最終テスト（30%）により評価する。				
22.コメント	グループで課題学習に取り組むアクティブな授業です。 夏学期の「地域ふれあい実習」につながる科目です。 事前課題に主体的に取り組み、授業当日のグループワークの準備学習を行いましょう。				
23.オフィスアワー	畑吉節未：水曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回 5/28(火)　4限 担当　鵜飼	１．人々の暮らしの理解 ・暮らしとは ・暮らしと健康 ・暮らしの中で健康を捉える ・グループワーク　「自分と友人の暮らし」	○テキスト該当ページ（p16-21）の予習　【事前課題】授業までに以下の課題を実施する。 1)自分の一日の過ごし方（平日/休日）についてタイムテーブルを作成し授業後提出　課題提出

	２．地域・在宅看護の役割 ・地域・在宅看護の基盤となる考え方 ・地域・在宅看護に求められる役割 ・グループワーク「 暮らしを支援する看護師の役割」	①【事後課題】 グループワークを通して暮らしを支援する看護師の役割をどのように考えたのか記述し提出 課題提出
第２回 6/4(火)３限 担当　鵜飼	１．暮らしと地域 ・地域とは ・人々暮らす地域の多様性 ・地域の産業構造の多様性 ２．地域・在宅看護の対象者 ・地域による多様性 ・ライフステージによる多様性 ・健康レベルによる多様性 ３．家族の理解 ・我が国における家族の現状 ・我が国における家族とその変遷 ・地域・在宅看護の対象者としての看護 ・グループワーク「家族を理解する」	【事後学修】 暮らしにおける環境の重要性や意味を理解し、環境を整える地域・在宅看護の役割についてまとめる。
第３回 6/4(火)４限 担当　鵜飼	１．地域におけるライフステージに応じた看護 ・ライフステージと人々の暮らし ・ライフステージによる健康課題と予防 ・疾病とライフステージ ・家族とライフステージ	【事前学修】 〇テキスト該当ページ（p56-58）の予習 〇テキスト該当ページ（p66-75）の予習
第４回 6/11(火)３限 担当　鵜飼	１．暮らしを支える地域・在宅看護 ・「暮らしを支える看護」とは ・「暮らしを支える看護」の実践 ２．暮らしの環境を整える看護 ・暮らしに関連する環境 ・暮らしの環境を整える看護とは ・看護師に求められる態度・知識・姿勢 ３．広がる看護の対象者と提供方法 ・健康に対する人々のニーズ ・看護の実践方法の広がり	【事後学修】 各ライフステージにある人々とその家族の多様な健康ニーズと、看護のやくわりについてまとめる。
第５回 6/11(火)４限 担当　鵜飼	１．地域で暮らす人々の健康に関わる生活、健康意識、健康活動の理解 ・インタビュー内容、方法、マナー、個人情報保護等	【事後学習】 インタビュー計画；個人 について考える。 インタビュー時のマナーについてまとめる。
第６回 6/18(火)３限 担当　鵜飼 畑　楳田	地域を理解する ・グループワーク ① 事前課題を発表する ②発表から「暮らしと健康」を支援する目的で地域を知るにはどのようなデータが必要か考える ③考えた成果をもとに大学三木キャンパス地域に住む人々の健康と暮らしを支えるために必要な地域のデー	【事前課題】　②自分の暮らす地域特性とそう考えた理由・根拠を記載し、紹介できるように準備する　課題提出 【事後課題】③決められたデータを次回までに収集する。　課題提出

	タをあげて具体的なデータの収集方法や担当を決める。	
第 7 回 6/18(火) 4 限 担当　鵜飼・楳田・畑	グループワーク ①収集したデータの中から地域の社会資源を地域資源マップにする。②記述しきれなかった地域の特性を整理する ③ ①②を基に地域で健康に暮らすための課題を考える ④ 今までの GW より「健康障害を持つ人が地域で暮らし続けるための課題」を明確にする。 プレゼンテーションの準備をする	【事後課題】プレゼンテーションができるように各グループで準備する。
第 8 回 6/25(火)3 限 担当　鵜飼・楳田・畑	グループワーク プレゼンテーション	グループワークの取り組みとして、プレゼンテーション資料授業終了後に提出
第 9 回 6/ 25(火)4 時限 担当　鵜飼	中間テスト 1．　健康教育の目的・対象 2．　健康教育のプロセス ・健康教育の目標設定 3．　健康教育の方法 ・企画書 ・企画時の検討項目 4．　健康教育の実施 ・計画書の作成及び健康教育の媒体	【事後学修】 健康教育の概要についてまとめる
第 10 回 7/2(火) 3 時限 担当　楳田	1．地域包括ケアシステムと地域共生社会 ・地域包括ケアシステム	【事前学修】 〇テキスト該当ページ（p21-30）の予習 【事後学修】 地域包括支援ケアシステムについて復習しまとめる
第 11 回 7/2(火) 4 限 担当　藤原	地域で暮らす人々の健康生活を支えるしくみ（保健医療福祉） 地域で暮らす人々を支えるための保健・医療施設やシステムについて	【事後学修】 地域で健康を支えるための資源についてまとめる。
第 12 回 7/ 9(火) 3 限 担当　中世古	地域アセスメント ・地域アセスメントとその意義 ・地域アセスメントの活用 ・地域アセスメントの方法 ・包括的なケアシステムを担う地域	【事後学修】 実習地域の地域アセスメントについて考える。
第 13 回 7/9(火)4 限 担当　三木市保健師　鵜飼・楳田・畑	健康とコミュニティ 1．三木市の概要と特徴 三木市の歴史（社会文化的背景)、産業構造、人口・高齢化率・世帯、地域の成り立ち、暮らしを営む社会資源、交通アクセス、健康問題、 2．健康を支える地域の活動とその内容	【事後学習】 三木市の概要、暮らしをささえる資源についてまとめる。

第 14 回 7/16(火) 3 限 担当　公民館の方鵜飼・楳田・畑	・三木市の地域住民活動と場（公民館） （緑が丘町公民館）	【事後学修】 地域で暮らす人々にとって公民館の果たす役割、意義について考え、看護職の果たす役割について考える。
第 15 回 7/16(火)4 限 担当　鵜飼・楳田・畑	・総括試験 ・まとめ ・地域ふれあい実習への導入	【事後学修】 社会に求められる看護職の機能について考える。。

1.授業コード（ナンバリング）	NCH215-M01	2.科目名	老年健康看護学概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	髙田美子、原本久美子、八木良子					
5.授業科目の区分	専門科目／実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部　看護学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 内 7 回をオンデマンド実施		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、老年期を生きる人の理解を深め、その健康と暮らしを支える老年看護の基本となる知識を身につけることを目的とする。 【概要】 高齢者の特徴を身体的、心理・精神的、社会的側面から捉え、それらが高齢者の生活にどのような影響をもたらしているのかを理解する。また、高齢者を取り巻く保健医療福祉の現状と課題を学び、超高齢社会における老年看護の役割と責務について考察する。					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技術の活用力、の学修に関連する。 本科目の学習目標は次のとおりである。 オンデマンド授業 ①加齢に伴う身体的、心理・精神的、社会的変化の特徴と、生活への影響を説明することができる。 ②わが国の高齢化現象の変遷、および高齢者を取り巻く社会の現状や課題を説明することができる。 ③高齢者の健康と暮らしを支える様々な保健医療福祉の活動や多職種連携、看護の役割を説明することができる。 ④高齢者に生じ得る倫理的課題について説明することができる。 対面授業（グループワーク・プレゼンテーション） ⑤高齢者の自尊心や価値観を尊重する態度と自己の老年観を説明することができる。 ⑥高齢者のライフレビューの傾聴を通し、生まれ育った時代背景や生き方の多様性と、それらが高齢者の現在に通ずる信念や価値観にどう反映されているかを考察することができる。 グループワークを通しプレゼンテーションを行い、その過程で課題解決について論理的思考及び話す力、聞き手の反応を見抜く力を備える。					
19.教科書・教材	『系統看護学講座専門分野 II 老年看護学』北川公子他著，医学書院（2018）					
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。					
21.成績評価	オンデマンド授業 毎回小テスト 100 点取るまで実施 中間テスト（1.2.3.4.に対応）30％ グループワーク課題学習レポート（個人）（学習目標５.6 に対応）20％ プレゼンテーション学習　（学習目標５.6 に対応）20％ 最終統括テスト　（学習目標①～⑥に対応）　30％					
22.コメント	本年よりオンデマンド授業が始まります。対面授業と違い自主的に勉強することになります。ある一定期間で勉強してください。皆さんの一つ一つの単元で知識がしっかり身についている					

	か確認のテストを行います。100 点を取るまで次にまないでください。オンデマンド授業での質問は、Webclass を使用して行います。対面授業開始までに、すべてのオンデマンド視聴が終了し小テストが満点となって終わっていることが必要です。対面の授業日に中間テストを実施します。 皆さんが学習者であることを前提に行うものです。学習者としての力に期待しています。 高齢者に関心を持つことが学習の第一歩です。本授業を機会に身近な高齢者と積極的に触れ合い、お話を聴いてみるなど、理解を深めていこうとする態度が望まれます。
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：　水曜日　1 限（図書館） 研究室オフィスアワー：　水曜日お昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 対面 4 月 12 日	対面授業 オンデマンド授業の進め方 オリエンテーション 授業構成と評価について NEWS IN Edcation　課題について　資料あり 課題提出日（6 月 14 日 授業開始日）	ノートパソコン持参 教室内外の予習・復習.課題の進め方（個人・グループ） 及び提出方法を含む 授業シラバス必携 News IN Edcation 資料配布
【第 2 回】 4 月 19 日 オンデマンド授業 のため 4 月 19 日から 6 月 7 日までの間に視聴してください。	オンデマンド 1 回目　20 分× 2 老年看護学とは 1 －① 高齢社会における人口学的特徴 老年看護の理念と役割 1 －②	1 －①　1 －②それぞれの小テストを実施してください。 100 点をとるまで次に進まないでください。
【第 3 回】 4 月 26 日 オンデマンド授業 のため 4 月 19 日から 6 月 7 日までの間に視聴してください。	オンデマンド授業 2 回目 加齢と老化の概念 高齢者をとりまく保健・医療・福祉制度の概要と課題	小テストを実施してください。100 点をとるまで次に進まないでください。
【第 4 回】 5 月 10 日 オンデマンド授業 のため 4 月 19 日から 6 月 7 日までの間に視聴してください。	オンデマンド授業 3 回目 老人福祉法、ゴールドプラン、介護保険制度、医療制度	小テストを実施してください。100 点をとるまで次に進まないでください。
【第 5 回】 オンデマンド授業 のため 4 月 19	オンデマンド授業 4 回目 加齢に伴う心理・精神的変化、老年期の知能と記憶	小テストを実施してください。100 点をとるまで次に進まないでください。

日から 6 月 7 日までの間に視聴してください。		
【第 6 回】 オンデマンド授業 のため 4 月 19 日から 6 月 7 日までの間に視聴してください。	オンデマンド 5 回目 認知症の定義、認知症高齢者の理解	小テストを実施してください。100 点をとるまで次に進まないでください。
【第 7 回】 オンデマンド授業 のため 4 月 19 日から 6 月 7 日までの間に視聴してください。	オンデマンド 6 回目 老年期の衰退と喪失、セクシュアリティ	小テストを実施してください。100 点をとるまで次に進まないでください。
【第 8 回】 オンデマンド授業 のため 4 月 19 日から 6 月 7 日までの間に視聴してください。	オンデマンド 7 回目 高齢者ケアの場の特徴と看護の役割 高齢者の就労と社会参加、経済状況、疾病構造と介護予防	小テストを実施してください。100 点をとるまで次に進まないでください。
【第 9 回】 これより対面授業	オンデマンド授業のまとめと　中間テスト 授業アンケート	中間テスト News in Edcation 課題提出
【第 10 回】	高齢者疑似体験実施	演習は 2 か所で実施計画 必要準備物品等、事前に説明する。
【第 11 回】	引き続き 高齢者疑似体験体験からの学びについて グループワーク、プレゼンテーション	【予習】 教科書の該当箇所の 高齢者総合機能評価（CGA）について熟読 pc 持参してください。
【第 12 回】 7 月 5 日	ライフヒストリー聴講	【予習】教科書の該当箇所の熟読 ゲストスピーカー予定 視聴後のレポート提出は授業内で指示します。
【第 13 回】	課題提出された News in Edcation についてグループワーク・発表	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し pc 持参してください。
【第 14 回】	高齢者の人生とスピリチュアリティの理解	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し

	意思決定への支援 家族への支援	pc 持参してください。
【第 15 回】	まとめ　総括試験	

<table>
<tr><td>1.授業コード
（ナンバリング）</td><td>NCH217-M01</td><td>2.科目名</td><td colspan="2">在宅看護学概論</td><td>3.単位数</td><td>2</td></tr>
<tr><td>4.授業担当教員</td><td colspan="6">畑吉節未、鵜飼知鶴、楳田恵子</td></tr>
<tr><td>5.授業科目の区分</td><td colspan="2">専門科目
在宅看護分野における実務経験のある教員による授業科目</td><td>6.必修・選択の区分</td><td>必修</td><td>7.開講学期・年度</td><td>2024 年度 春学期</td></tr>
<tr><td>8.履修可能な専攻</td><td colspan="4">看護学科</td><td>9.履修学年</td><td>2 年</td></tr>
<tr><td>10.取得資格の要件</td><td colspan="2">看護師</td><td>11.先修条件</td><td colspan="3">以下の地域・在宅看護の科目を修得していること
・地域・在宅看護論
・地域ふれあい実習</td></tr>
<tr><td>12.研究室</td><td colspan="2">※※※</td><td>13.電話番号</td><td colspan="3">※※※</td></tr>
<tr><td>14.E-Mail Address</td><td colspan="2">※※※</td><td>15.授業形態</td><td colspan="3">講義 15 回のうち 7 回はオンデマンド
第 2 ～ 8 講
9 講から対面</td></tr>
<tr><td>16.履修制限</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>17.授業の目的と概要</td><td colspan="6">【目的】
　この科目の目的は、地域の人々の尊厳と権利を守り、生活と健康を支援するための地域・在宅看護の基本的な理念や機能を修得することである。
　さらに、地域全体を支える看護やケアのしくみを理解するとともに、地域で暮らす人々とその家族に看護を提供する際に必要な支援の基本とその根拠を修得することである。
【概要】
・個別性が高く、総合的な看護が求められる「地域・在宅看護」の特徴、地域・在宅看護に求めら
　れる専門性、多職種との連携を含め活動を支える社会システムの中で看護が担う役割と課題を学
　びます。
・</td></tr>
<tr><td>18.学習目標と
ＤＰとの関連</td><td colspan="6">【本科目の学習目標】
1）地域・在宅看護の変遷とその社会的背景について理解できる（前提目標）
2）地域・在宅看護の対象、活動の場、看護活動の特徴について理解できる（中核目標）
3）　地域包括ケアシステムが目指すべきものが理解できる(前提目標)
3）暮らしの場を支える制度やシステムについて理解できる（中核目標）
4）　暮らしの場を支える看護を実践するために身に着けるべき基本的能力を理解できる（中核目標）
（１）尊厳を守る看護
（２）信頼関係を築く看護
（３）意思決定を支える看護
（４）暮らしの場における健康危機と管理
（５）支援体制を構築する看護
5）　地域・在宅看護を将来に向けて発展的に捉え、日本の先進事例や諸外国の在宅ケアの実際に関心
　を持つことが出来る（発展目標)。
【関連するディプロマポリシー】
(1) 自律性　(3)多様性の理解　(4)問題発見・解決力　(5)コミュニケーションスキル
(6)　専門的知識・技能 の活用力</td></tr>
</table>

19.教科書・教材	【教科書】 1)臺有桂他編（2022）.ナーシング・グラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア（第 2 版）,メディカ出版. 2)臺有桂他編（2022）.ナーシング・グラフィカ　地域・在宅看護論②　地域療養を支える技術（第 2 版）,メディカ出版. 【教材】 講義時資料を配布します。
20.参考文献	1）厚生労働 t 統計協会（2022/2023）.国民衛生の動向 ＊この書籍は、日本における様々な統計結果や、本科目で講義する在宅看護の背景などまとめられています。図書館に蔵書があります。適宜参照しましょう。 2）他各講義資料は、適宜紹介します。
21.成績評価	1)試験受験資格；授業回数の 2 / 3 以上の出席者とする。 ・出席（通常開講時）：オンデマンド授業は小テストとレポート、リフレクションシートで確認 対面授業は、カードリーダーとコメント票の双方で確認する。 出席票を提出する場合は、授業開始までとする。 2)試験 60%　　：中間（第 8 回分までに相当）30%、統括（目標 1～5 に対応）40%とする。 3)課題レポート　：30%とする。
22.コメント	・地域・在宅における看護は、超高齢社会のもとで、ますます必要とされる看護を学ぶ機会です。 地域の人々の暮らしの中で、看護を提供することの意義や面白さに気づき、学習を深めてもらうことを期待します。皆さんが成人学習者であることを前提に主体的な学習を期待しています。 ・また在宅看護は日常性のある暮らしの場で展開する看護であり、対象となる人々が持つ力を最大限に引き出し、主体性と満足感のある生活を送ることを重視します。その意味で、在宅看護は看護の本質であり、原点ともいえます。大いに看護を探求しましょう。 ・本年度より、オンデマンド授業が始まります。オンデマンド授業ではより自己で学んでいく姿勢が必要となります。学習目標を明確にし、課題に取り組みましょう。 皆さんが各回（単元）で学習したことが身についたかどうかの確認テストを行います。100 点が取れた段階で次に進んでください。このテストは出席確認に相当します。 対面の授業までにオンデマンドが終了している必要があります。対面の授業の中で中間テストや総括テストを行います。 また遠隔授業では、より自己で学んでいく姿勢が必要となります。学習目標を明確にし、課題に取　り組みましょう。わからないことがあれば、webclass やメール等で畑に問い合わせてください。
23.オフィスアワー	オフィスアワー：畑、鵜飼、楳田（水曜日昼休み)、 センターオフィスアワー：畑、鵜飼、楳田（木曜日昼休み）

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
対面授業 【第 1 回】 4/10 畑	・ガイダンス ・地域・在宅看護の場の広がり ・地域・在宅看護活動の原点とその後の変遷 ナイチンゲールが描いた 21 世紀の看護 ・地域・在宅看護が求められる社会的背景	1．授業開始時提出 ・宅には何が在るのか ・各看護学における位置づけ図 2．授業後　ナイチンゲールに関する文献の課題レポートを 4/15 日 13 時までに畑研究室前のボックスに　提出（★レポート課題 1）
第 2 回 オンデマンド	地域・在宅看護の場と活動の特徴 2-1	【予習】 2-1　2-2　後のレポートと 2-2 後のリフレク

授業のため 4/17 2 限～ 6/5 9 時 までに視聴 畑	・地域・在宅看護の場の広がり ・地域・在宅看護の先駆的取り組み 2-2 ・地域・在宅看護の特活動の特徴 ・地域・在宅看護を「生活モデル」で捉える	ションシートを Webclass で提出してください レポート 2 つ（★★レポート課題 2 ・ 3） リフレクションシート 1 つ 提出期限　4/24 10:44 授業開始時まで
【第 3 回】 オンデマンド 授業のため 4/24　2 限～ 6/5 9 時 までに視聴 畑	地域・在宅看護とは何か ・地域・在宅看護の理念 ・地域看護の概念 ・在宅看護の概念 ・在宅看護の役割・機能 ・在宅療養の成立条件	オンデマンドによって指示されたレポートの提出★ 提出期限 5/1 10:45 まで
【第 4 回 】 オンデマンド 授業のため 5/1　2 限～ 6/5 9 時 までに視聴 鵜飼	地域・在宅看護の対象① 対象者の多様性 ・小児～高齢者、家族 ・生活の場に応じた看護、サービス機関 ・精神障がい者・小児 ・生活の場に応じた看護、制度、サービス機関	小テストを行ってください。 知識が定着するように満点名になるまでチャレンジしてください。次の授業を学ぶための前提となります。 提出期限 5/8 10:44 まで
【第 5 回】 オンデマンド 授業のため 5/8　2 限～ 6/5　9 時 までに視聴 鵜飼	地域・在宅看護の対象② ・家族とは、家族の機能、家族の役割 ・在宅介護における家族の特徴 地域・在宅看護の対象③ ・家族を理解するための技法 ・家族を理解するための基礎理論 ・在宅看護における家族への支援	小テストを行ってください。 知識が定着するように満点名になるまでチャレンジしてください。次の授業を学ぶための前提となります。 提出期限 5/15 10:44 まで
【第 6 回】 オンデマンド 授業のため 5/15　2 時～ 6/5 9 時 までに視聴 楳田	暮らしを支える地域・在宅看護のシステム　1 6-1 ・地域包括ケアシステムの発展の経緯 ・地域包括ケアシステムの具体的内容 ・地域包括ケアシステムにおける在宅ケア 6-2 ・地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメント	6-1,6-2 それぞれ小テストを行ってください。 小テストを行ってください。 知識が定着するように満点名になるまでチャレンジしてください。次の授業を学ぶための前提となります。 提出期限 5/22 10:44 まで
【第 7 回】 オンデマンド 授業のため 5/22～6/ 5 までに視聴	暮らしを支える地域・在宅看護のシステム　2 ・社会資源の活用・医療保険制度・後期高齢者医療制度・介護保険制 度・生活保護 ・対象別の関連法規	小テストを行ってください。 知識が定着するように満点名になるまでチャレンジしてください。次の授業を学ぶための前提となります。 提出期限 5/29 10:44 まで

楳田		
【第 8 回】 オンデマンド授業のため 5/29～6/5 までに視聴 鵜飼	暮らしを支える地域・在宅看護のシステム　2 8-1 ・訪問看護ステーションの仕組み ・在宅看護の変遷と訪問看護制度 8-2 ・訪問看護ステーションにおける利用者の概要 ・訪問看護の実際	8-1,8-2　　それぞれ小テストを行ってください。 小テストを行ってください。 知識が定着するように満点名になるまでチャレンジしてください。次の授業を学ぶための前提となります。 提出期限 6/5 10:44 まで
対面授業 【第 9 回】6/5 中間テスト 畑、鵜飼、楳田 授業　畑	中間評価 暮らしを支える地域・在宅看護の基本　1　尊厳を守る看護（畑） ・価値観の尊重　価値観の調整 ・地域・在宅看護におけるノーマライゼーション、エンパワーメン 　ト、ストレングス、アドボガシー、パートナーシップ ・地域・在宅看護に求められる倫理	中間試験 課題レポートは授業終了時にのみ提出 （★レポート課題 2）
対面授業 【第 10 回】 6/12 畑	暮らしを支える地域・在宅看護の基本　2－1　信頼関係を築く看護 ・生活の場でのコミュニケーション ・家庭訪問マナー	課題レポートは授業終了時にのみ提出 （★レポート課題 3）
対面授業 【第 11 回】 6/19 畑	暮らしを支える地域・在宅看護の基本　2－2（演習）　　信頼関係を築く看護 ・生活の場でのコミュニケーション ・家庭訪問マナー	課題レポートは授業終了時にのみ提出 （★レポート課題 4）
対面授業 【第 12 回】 6/ 26 畑	暮らしを支える地域・在宅看護の基本　3　意思決定を支援する看護 ・地域包括ケアシステムにおける意思決定支援 ・在宅への移行期における意思決定 ・ACP における意思決定	課題レポートは授業終了時にのみ提出 （★レポート課題 5）
対面授業 【第 13 回】 7/3 楳田	暮らしを支える地域・在宅看護の基本　4　暮らしの場における健康危機と管理 ・リスクマネジメントの概念 ・地域・在宅看護のおけるアクシデント・インシデント防止 ・臨地実習の場におけるリスクマネジメント ・24 時間連絡体制からみた危機管理	グループワークでの課題レポートは授業終了時に提出
対面授業 【第 14 回】 7/10 畑	暮らしを支える地域・在宅看護の基本　5．支援体制を構築する看護 ・チーム形成の技術 ・連携・共同の技術 ・合意形成の技術	課題レポートは授業終了時にのみ提出 （★レポート課題 6）

対面授業 【第 15 回】 7/17 試験 畑、鵜飼、棋田 まとめ　畑	統括試験（試験範囲：第 1 回～第 15 回、60 分） 【試験後のまとめ】畑	試験

1.授業コード（ナンバリング）	NCH311-M01	2.科目名	老年看護学実習　(21 生以前)	3.単位数	3
4.授業担当教員	原本久美子、髙田美子、八木良子				
5.授業科目の区分	看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部　看護学科			9.履修学年	3 年生
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格		11.先修条件	基礎看護学実習 II 老年健康看護学概論 老年看護援助論	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】病棟での臨地実習を通して老年期にある対象の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化の特徴と、人生の統合期である発達課題を理解し、対象に応じた看護実践能力を養うことを目的とする。 【概要】病院実習では、老年期という発達段階にある受け持ち患者を総合的に理解し、病態と対象者が有する資源とを結び付け、生活機能の再構築の観点からの看護過程を学ぶ。さらに、実習を通して高齢者を取り巻く保健・医療・福祉分野の多職種との連携の実際と看護の役割の理解、及び高齢者の自尊心や価値観を尊重する態度の修得と自己の老年観を養うこと				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 ① 老年期にある対象を総合的に理解することができる。 ② 情報を病態・対象者が有する資源と結び付け生活機能の観点からのアセスメントと看護の焦点化ができる。 ③ 対象者の発達段階に応じた自律と生活機能の再構築を目指した援助を提供することができる。 ④ 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉分野の多職種との連携の実際と看護の役割を理解することができる・ ⑤ 高齢者の自尊心や価値観を尊重する態度と自己の老年観を養う 【DP との関連】 DP1 自律的で主体的な態度 DP3 多様性理解 DP4 問題発見・解決能力 DP5 コミュニケーション能力 DP6 専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	系統看護学講座　専門分野 II　老年看護学　医学書院 リンダ J. カルペニート；看護診断ハンドブック第 12 版，医学書院				
20.参考文献	亀井智子編；根拠と事故防止から見た老年看護技術，医学書院. 山田律子他編；生活機能からみた老年看護過程，医学書院. 藤崎郁；フィジカルアセスメント完全ガイド，Gakken				
21.成績評価	(中間評価、最終評価の方法等) 高齢者施設　15% 事前学習課題、病院の実習記録と振り返りレポート 65%				

	カンファレンス貢献度・実習態度 20% ＊詳細は老年看護学実習要項を参照
22.コメント	事前学習として老年看護学概論や老年看護援助論、および疾病治療論(老年)の内容を復習してから実習に参加しましょう。
23.オフィスアワー	原本 高田 八木

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	老年看護学実習要項を参照 ※状況によって遠隔となる場合は別紙で対応する。 2024 年度に実習の学生は、2024 年度のローテーションに沿って 2 週間実施し、残る 1 週は 9 月に 1 週間実習する。	※事前学習課題については、要項 p.1 に記載している。

1.授業コード（ナンバリング）	NCH312-M01	2.科目名	在宅看護学実習　（21 生以前）	3.単位数	1
4.授業担当教員	畑吉節未、鵜飼知鶴、楳田恵子				
5.授業科目の区分	専門科目 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	3 年生
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件	基礎看護実習 II 在宅看護学概論 在宅看護援助論		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【実習目的】 在宅看護学では、在宅ケア・看護の特徴と在宅療養者および家族について学習し、さらに在宅における看護実践について学習をすすめてきました。本実習では、在宅ケアの対象者やケアチームのメンバーに直接的に関わることを通じて、在宅ケアの対象者について理解を深めると共に、在宅での看護実践から地域包括ケアシステムにおける訪問看護師の果たす役割と継続看護の必要性について、考察を深めることをねらいとします。				
18.学習目標とＤＰとの関連	以下、Ｃ(cognitive;知識)、Ｐ(psychomotor;技術)、Ａ(affective;態度)を示す。 １．在宅療養者とその家族について理解する。 Ｃ１）在宅療養者の日常生活の特徴を理解する。 Ｃ２）在宅療養者の疾病・障害及び発達段階の特徴を理解する。 Ｃ３）生活環境の特徴、介護状況・家族関係について把握し、療養生活への影響を理解する。 Ａ４）在宅療養者および家族の生活スタイルや生活信条に気づくことができる。 ２．「対象者」と「療養の場」の特性に応じた看護援助の実際を理解し、その提供に努める。 Ｐ１）直接的ケア、教育・指導的援助、介護負担の軽減、相談等の看護の実際について記述する。 Ｐ２）実施された援助の意義について考察し、記述する。 Ｐ３）訪問看護師の指導の下、必要な看護援助を実施する。 Ｐ４）上記を通じて、訪問看護師の役割について理解する。 ３．地域包括ケアシステムにおける多職種との協働・連携と看護の役割について理解する。 Ｃ１）実習施設である訪問看護ステーションの設立目的・役割と機能・看護方針・スタッフ構成・利用方法・地域の特性等について理解する。 Ｐ２）在宅療養者の社会資源の利用状況と導入方法を知り、その必要性を理解する。 Ｐ３）関係他者（機関）との連携の方法を知り、その必要性を理解するとともに、看護の役割について説明できる。 ４．専門職業人として人と関わる基本的態度を養う。 Ｐ１）生活の場に出向く看護職に必要なマナーを理解し、実践する。 Ａ２）対象者の意思を尊重した関わりの必要性と援助の実際を理解する。				
19.教科書・教材	在宅看護学概論・在宅看護援助論等で配布された講義資料。テキスト				
20.参考文献	適宜、指示します。				
21.成績評価	事前学習 20%、カンファレンス 10%、実習記録 50%、課題レポート 10%、実習態度 10%				

22.コメント	主体的に学習し、行動しましょう。
23.オフィスアワー	実習中は随時相談してください。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
月曜日	施設オリエンテーション、同行訪問	
火曜日	同行訪問	
水曜日	同行訪問	
木曜日	同行訪問、最終カンファレンス	
金曜日	学内カンファレンス、実習記録・レポートのまとめ、面接等	

1.授業コード（ナンバリング）	NCH402-M01	2.科目名	公衆衛生看護活動展開演習		3.単位数	3
4.授業担当教員	藤原和美、中世古恵美、久井志保					
5.授業科目の区分	公衆衛生看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択（公衆衛生看護学分野選択の場合は必修）	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	保健師、看護師		11.先修条件	保健師課程を専攻する上で必要な科目全て		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目は主として行政保健師として働く上で必要な知識と技術を獲得することを目的とします。 【概要】 具体的には、保健活動におけ基盤となる法律、政策、制度をまず理解し、それをもとにした保健師活動の基本的知識を学びます。また、後半は、保健師活動上必要な基本的技術の中から主として健康診査、家庭訪問、健康教育に絞って演習を実施し、実習時に個々の学生が実際に適用できるなることを目指します。　加えて、産業保健活動及び養護教諭の活動の基礎を学び産業保健実習及び学校保健実習での学びに必要な知識を獲得することを目指					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（１）自律性、（２）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技術の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標（身につく知識とスキル）は以下の通りです。 1.　各発達段階（母子・成人・高齢者）ならびに健康課題（感染症・精神障害・難病）に対する保健活動の基盤となる法律、政策、制度について説明できる。 2.　発達段階（母子・成人・高齢者）及び健康課題（感染症・精神障害・難病）の特性に応じた保健師の支援方法の要点について説明できる。 3.　産業保健活動及び学校保健活動の基盤となる法律、制度と保健活動の要点について説明できる。 4.　健康診査の理論と技術の要点について述べることができる。 5.　乳幼児健診の問診を実際に展開することができる。 6.　家庭訪問の理論と技術の要点について述べることができる。 7.　新生児訪問の家庭訪問の計画を立案し、実際に展開することができる。 8.　健康教育の理論と技術の要点について述べることができる。 9.　健康教育の企画書を作成し、効果的な媒体を作成することができる。					
19.教科書・教材	公衆衛生看護学.JP 第 5 版　インターメディカル　（公衆衛生看護学概論で使用した教科書） 国民衛生の動向　2023/2024 版　　厚生労働統計協会 標準保健学講座　公衆衛生看護技術　第 5 版　医学書院					
20.参考文献	公衆衛生がみえる 2024/2025　　医療情報科学研究所 井伊久美子他編(2019) 保健師業務要覧　第 4 版　　日本看護協会出版会					
21.成績評価	1）評価内容と配分 ①演習課題　60％（健康診査 20%、家庭訪問 20%、健康教育 20%）（学習目標 5，7，9） ②課題レポート（特別講義事後レポート）10%（学習目標２）					

	③総括試験　30%（学習目標１、２、３、4、６、８） 2）合格基準 演習課題と総括試験を総合して、60%以上の評価で合格とする
22.コメント	臨床看護で学んだ個々の患者に対する看護をする上で培った考え方や行動のあり方を超えて、地域の集団の健康課題を捉え、個人・家族だけではなく、集団や組織、そして地域全体に対する支援（看護）に必要な考え方・行動様式を獲得していくことが必要です。最初は少し戸惑うからもしれませんが、講義、演習に真剣に取り組むこと、そして「なぜ」この内容を学ぶことが必要なのか、常に疑問を持って考えてみてください。そうすることで、「保健師」とは何か、そしてその社会的意義を見つけることができます。このように常にリフレクション（自分や他者との対話）を行うことで、講義、演習、実習が楽しくなると思います。長い道のりですが、一緒に歩んでいきましょう。
23.オフィスアワー	以下の時間に質問及び相談に応じます。但し、可能な限り事前にアポイントメントをとってください。（急な対応で時間の取れない場合もあります） 藤原：研究室　水曜日昼休み、センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 久井：研究室　水曜日昼休み、センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 中世古：研究室　水曜日昼休み、センターオフィスアワー　（図書館）火曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回 第２回 第３回	＜第１回：科目のガイダンス＞　藤原・久井・中世古 ＜第２回：講義　母子保健１＞　中世古 母子保健の政策、制度、保健活動 ＜第３回　講義　母子保健２＞　中世古 発達支援について保健師の役割	事前学習として、乳幼児期の発育・発達の要点についてキーエイジを中心に学習しておくこと（3，4 か月、7 か月、9 か月、1 歳 6 か月児、3 歳児）
第４回 第５回	＜第４回：講義　成人保健１＞中世古 成人保健の法律、政策、制度（歯科保健を含む） ＜第５回：講義　成人保健２＞　中世古 成人期の健康課題(生活習慣病）に対する保健師の活動	事前学習として、3 年秋学期の個人・家族・集団・組織の支援活動論の第 1〜5 回個人への支援で学んだ、保健指導の理論、特定健康診査・特定保健指導の概要、生活習慣病予防に向けた保健指導について復習をしておくこと。
第６回 第７回	＜第６回：講義　高齢者保健福祉１＞藤原 高齢者保健福祉の法律、政策、制度 ＜第７回：講義　高齢者保健福祉２＞藤原 高齢者に対する保健福祉活動	
第８回	＜第８回：講義　市町村保健師活動＞　特別講師（三木市　保健師） 市町の保健師活動の実際	事後課題１　特別講義の学び（WebClass）
第９回 第１０回	第９回: 講義　感染症１＞　久井 感染症に対する法律、政策、制度 ＜第１０回：講義　感染症２＞　久井 感染症に対する保健師活動	事前学習の課題を実施してきてください。 （感染症の分類と疾患）
第１１回 第１２回	＜第１１回：講義　精神保健１＞　藤原 精神保健に関する法律、政策、制度	事後課題２　特別講義の学び（Web Class）

	＜第１２回：講義　精神保健２＞　特別講師（元兵庫県保健師・精神障害者家族） 精神保健活動の実際	
第１３回 第１４回	＜第１３回：講義　難病保健１＞久井 難病に関する法律、政策、制度 ＜第１４回：講義　難病保健２＞　特別講師（健康福祉事務所　保健師） 難病保健活動の実際	事後課題３　特別講義の学び（Web Class）
第１５回	＜第１５回: 講義　国際保健＞　中世古 国際保健の現状、日本の ODA と国際保健医療協力、在日外国人の現状と保健サービス	
第１６回－１９回（全４回）	＜第１６回：講義　　産業保健①＞　久井 産業保健の目的、対象、現状 ＜第１７回：講義　　産業保健②＞　久井 産業保健に関する政策、制度 ＜第１８回:：講義　　産業保健③＞　久井 産業保健に伴う健康問題 ＜第１９回：講義　産業保健④＞　　久井 産業保健活動の実際	
第２０－２３回 （全４回）	＜第２０回　講義：　学校保健①＞藤原 学校保健の理念、政策、制度 ＜第２１回　講義：　学校保健②＞藤原 養護教諭の職務内容 ＜第２２回　講義：　学校保健③＞藤原 学校保健における課題・地域保健との連携 ＜第２３回　講義：　学校保健④＞藤原 学校環境保健	
第２４回－２９回（全６回）	＜第２４回：講義　健康診査?＞　久井 健康診査の理論 ＜第２５回：講義　健康診査②＞　久井 健康診査の技術 ＜第２６回：演習　健康診査③＞　久井 乳幼児健康診査の問診の手技 ＜第２７回：演習　健康診査④＞　久井 １歳６か月児健診の紙上事例のアセスメント ＜第２８回：演習　健康診査⑤＞　久井 １歳６か月児健診の問診・相談のロールプレイ ＜第２９回：演習　健康診査⑥＞　久井 １歳６か月児健診の問診・相談の発表	乳幼児の発育発達について、事前学習をして理解しておくこと。 また、計測の手技について事前学習をしておいてください。 演習を行うため、5 号館 4 階演習室を使用する予定である。
第３０回－３６回 （全７回）	＜第３０回：講義　家庭訪問?＞　中世古 講義：家庭訪問の理論 ＜第３１回：講義　家庭訪問②＞　中世古	新生児訪問の訪問計画は WebClass に提出してもらいます。詳細は授業時間中に提示します。

	講義：新生児訪問計画立案 ＜第３２回：　演習　　家庭訪問③＞　中世古 演習：新生児訪問の評価 ＜第３３回：　演習　　家庭訪問④＞　中世古 演習：新生児訪問　観察・計測の技術 ＜第３４回：演習　　家庭訪問⑤＞　　中世古 演習：新生児訪問のロールプレイ（練習） ＜第３５回：演習　　家庭報恩⑥＞　　中世古 演習：新生児訪問のロールプレイ（発表） ＜第３６回：講義　：家庭訪問⑦＞　　中世古 講	
第３７回ー４４回 （全８回）	＜第３７回；講義　健康教育①＞藤原 講義：健康教育の基本的知識 ＜第３８回：講義　健康教育②＞藤原 講義：保健師の行う健康教育の特徴 ＜第３９回；講義　健康教育③＞藤原 講義：健康教育の企画・立案と効果的な媒体の作成 ＜第４０回：演習　健康教育④＞藤原 演習：　健康教育の企画書の作成 ＜第４１回：　演習　健康教育⑤＞藤原 演習：健康教育の指導案の作成 ＜第４２回：　演習　健康教育⑥＞藤原 演習：健康教育の企画書と指導案の発表 ＜第４３回：　演習　健康教育⑦＞藤原 演習：健康教育の媒体の	健康教育の企画書と指導案はワードで作成し、WebClass に提出してもらいます。必ず一人一台パソコンを持参してください。 指導案と企画書、及び媒体については評価の対象となります。評価基準は別途提示します。
第４５回	＜第45回＞　久井　　中世古 総括試験 範囲：第８回、第１２回、第１５回(特別講師による講義）を除く１－４４回までの講義の内容を範囲とします）	

1.授業コード（ナンバリング）	NCH403-M01	2.科目名	公衆衛生看護管理論		3.単位数	2
4.授業担当教員	藤原和美、中世古恵美、久井志保					
5.授業科目の区分	公衆衛生看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択（公衆衛生看護学分野選択の場合は必修）	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	保健師、看護師		11.先修条件	保健師課程専攻に必要な科目全て		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】本科目は、行政保健師の行う地区診断の基本的考え方・知識・技術を習得することを目的とします。 【概要】 本科目では保健師活動の基礎となる地域診断（コミュニティ・ヘルス・アセスメント）の理論と技術について学びます。 地区診断とは保健所及び市町村などの行政の場で働く保健師に必須の専門技術として位置付けられています。保健師として地域の健康課題を明らかにし、そのニーズにあった保健事業及び保健政策を企画する能力です。本科目ではこの地域診断の技術を獲得するために、講義と演習（個人ワーク・グループワーク）を通し、					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマポリシー）の（１）自律性、（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標（身につく知識とスキル）は次の通りです。 1.　地区診断の意義を説明できる。 2.　地区診断のモデルの要素とそれぞれの意味を説明できる 3.　地域の健康度を説明する指標の種類とその意味を説明できる 4.　保健事業の企画の構成要素を説明できる 5.　地域の健康度を評価する統計学的データを収集し、その意味を解釈できる 6.　地域の健康に関連するリスクファクター（個人の要因）と環境要因を収集し、その意味を解釈できる。 7.　地域の健康課題を明らかにし、その原因を個人と環境の両面から分析し、仮説（推測）を立てることができる。 8.　診断のレベルごとの（優先課題を見つける・課題の原因を明確にする）の意義と方法の特徴を説明できる。 9.　地域集団の地域診断の結果（情報ー診断結果）を第三者に向けて効果的に発表することができる。 10.　公衆衛生看護管理、健康危機管理に対する看護職としての活動の方法とその意義を説明できる					
19.教科書・教材	地域看護診断　第２版　金川克子・田高悦子　編集　東京大学出版会社					
20.参考文献	エリザベス　T.　アンダーソン他編集、金川克子監訳　　コミュニティ　アズ　パートナー　地域看護学の理論と実際　　医学書院 佐伯和子編（2018）地域保健福祉活動のための　地域看護アセスメントガイド　　第２版　地区活動ならびに施策可のアセスメント・活動計画・評価計画の立案　　医歯薬出版株式会社					

	厚生労働統計協会 国民衛生の動向　2022/2023
21.成績評価	1）評価内容と配分 ①モデル地区の地区診断演習（個人ワーク）　30%（学習目標５～9） ②実習地区の地区診断演習（グループワーク）30%（学習目標５～9） ③課題レポート（特別講義事後レポート）　10%（学習目標 10） ④総括試験　30%（学習目標１～４） 2）合格基準　上記全ての評価の合計が 60%以上で合格とする
22.コメント	本科目は保健師課程の要となる技術である地域診断の知識と技術を身につけるものです。病院での個々の患者のアセスメントでは、生物学的な要因（病態生理）や行動学的な要因（食生活など）に関する情報を集め分析し、患者の状態を判断してきたと思います。地域集団を対象とした分析では、これに加えて社会的・環境的要因の情報が必要になります。情報の量が増えることで、アセスメントが複雑になります。しかし、実際の人々の生活は複雑であり、多様な要因が絡み合い健康問題となっていきます。地域診断ではこれらの複雑な背景を情報を整理することで何が原因なのかを浮かび上がらせていく作業となります。Step-by-Setp で進めることで、一人一人がこの技術を獲得できるように一緒に頑張っていきましょう。
23.オフィスアワー	藤原：　研究室　水曜日昼休み　センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 久井：　研究室　水曜日昼休み　センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 中世古：研究室　水曜日昼休み　センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回～第３回	＜第１回＞　講義：　地域診断の理論　藤原 地域診断に活用する理論を学ぶ ＜第２回＞　講義：　健康指標とその見方?　中世古 健康指標のデータの収集、整理、解釈について学ぶ ＜第３回＞　講義：　健康指標とその見方②　中世古 健康指標のデータの収集、整理、解釈について学ぶ	第２回目から第 10 回目までは、モデル地区を活用し個人ワークで学びを深めて行きます。課題は講義中に説明します。 第２回目～11 回目までパソコン上で作業をおこないます。必ず一人一台パソコンを持参してください。
第４回～第７回	＜第４回＞　講義：関連要因１　中世古 物理的環境・経済 ＜第５回＞　講義：関連要因２　中世古 政治と行政、教育 ＜第６回＞ 講義：関連要因３　中世古 安全・交通、コミュニケーション、レクリエーション ＜第７回＞　講義：　関連要因４　中世古 保健医療と社会福祉	モデル地区の地域診断について、コミュニティ・アズ・パートナーモデルに基づき実施する。 課題の提出期限については別途指示する。
第８回 第９回	＜第８回＞ 講義：　情報の統合と推測　中世古 健康課題と要因の明確化　仮説の設定? ＜第９回＞　演習：情報の統合と推測　中世古 健康課題と要因の明確化　仮説の設定②	モデル地区のコミュニティコアとサブシステムの情報を統合し、健康課題の仮説を立案する。課題提出期限は別途指示する。
第１０回 第１１回	＜第 10 回＞ 講義：　保健事業計画の策定?　藤原 事業計画の立案の基礎的知識を学ぶ ＜第１１回＞ 演習：　保健事業計画の策定②　中世古 事業計画の立案の方法を学ぶ	保健所・市町村実習終了後、実習グループで抽出した健康課題に対する保健事業計画を立案する。
第１２回	＜第１２回＞ 演習：　実習地区の情報収集　藤原　・久	各実習担当教員の指導の下に、演習シートを

第１３回 第１４回	井・中世古 実習地区に関する情報収集（地域の優先課題の明確化に向けて） ＜第１３回＞ 演習： 実習地区の情報収集と整理　藤原・久井・中世古 実習地区に関する情報収集と整理（地域の優先課題の明確化に向けて） ＜第１４回＞ 演習： 実習地区の情報収集と整理　藤原・久井・中世古 実習地区に関する情報収集と整理（地域の優先課題の明確化に向けて	活用し演習を進める。
第１５回 第１６回	＜第15回＞演習： 実習地区の優先課題の明確化　藤原・久井・中世古 実習地区の健康に関する優先課題とその根拠を明確にする ＜第16回＞演習： 実習地区の優先課題の表明　藤原・久井・中世古 実習地区の健康に関する優先課題とその根拠について仮説を立て、文章化する	各実習担当教員の指導の下に、演習シートを活用し演習を進める。 提出物 第１５回終了時に演習シートを完成させ実習担当教員へ提出
第１７回 第１８回 第１９回	＜第１７回＞演習： 実習地区の健康指標と関連要因の分析　藤原・久井・中世古 実習地区の優先課題に関する健康指標を読み取る ＜第１８回＞演習： 実習地区の健康指標と関連要因の分析　藤原・久井・中世古 実習地区の優先課題に関する健康指標を読み取る ＜第１９回＞演習： 実習地区の健康指標と関連要因の分析　藤原・久井・中世古 実習地区の優先課題に関する健康指標のリスクファクターを特定する	各実習担当教員の指導の下に、演習シートを活用し演習を進める。 提出物 第１９回終了時に演習シートを完成させ実習担当教員へ提出
第２０回 第２１回 第２２回	＜第２０回＞ 演習： 実習地区の健康指標と関連要因の分析　藤原・久井・中世古 第１９回で特定した実習地区の優先課題に関するリスクファクターに影響するサブシステム（社会環境要因）に関する情報を集める ＜第２１回＞演習： 実習地区の健康指標と関連要因の分析　藤原・久井・中世古 実習地区の優先課題に関するリスクファクターに影響するサブシステム（社会環境要因）に関する情報を集める ＜第２２回＞演習： 実習地区の健康指標と関連要因の分析　藤原・久井・中世古 上記で集めた社会環境要因の情報の整理と解釈をおこなう	各実習担当教員の指導の下に、演習シートを活用し演習を進める。 提出物 第２２回終了時に演習シートを完成させ実習担当教員へ提出
第２３回	＜第２３回＞ 演習： 情報の統合、健康課題の要因の	各実習担当教員の指導の下に、演習シートを

第２４回	推測　藤原・久井・中世古 実習地区の健康課題に関連する要因についてその根拠を提示し推測を行う ＜第２４回＞ 演習： 情報の統合、健康課題の要因の推測　藤原・久井・中世古 上記の結果を第３者を想定し、文章化をおこなう	活用し演習を進める。 提出物 第２４回終了時に演習シートを完成させ実習担当教員へ提出
第２５回 第２６回	＜第２５回＞ 演習： 地区診断の結果の発表の準備　藤原・久井・中世古 発表する内容とその方法について決定する ＜第２６回＞ 演習： 地区診断の結果の発表の準備　藤原・久井・中世古 発表に用いる媒体を作成する（スライド・資料など）	各実習担当教員の指導の下に、演習シートを活用し演習を進める。
第２７回	＜第２７回＞　演習： 地区診断の結果の発表　　藤原・久井・中世古 各グループごとにクラス内で発表し、フィードバックを得る	第２７回終了時に、発表原稿と媒体を実習担当教員へ提出
第２８回	＜第２８回＞　　講義：公衆衛生看護管理　特別講義　外部講師 統括保健師の役割と機能、県庁保健師としての人事管理、人材育成	特別講師による講義終了後、事後レポート提出（Web Class)。成績評価③課題レポートに該当。
第２９回	＜第２９回＞　　講義： 健康危機管理（災害）　特別講義　外部講師 災害時の保健師活動	特別講師による講義終了後、事後レポート提出（Web Class）成績評価③課題レポートに該当。
第３０回	＜第３０回＞ 試験範囲：地区診断、疫学、保健統計に関する問題（国家試験に準ずる内容）を出題 （講義では、１－３、１０の内容が該当）	

1.授業コード（ナンバリング）	NCH404-M01	2.科目名	公衆衛生看護学実習		3.単位数	4
4.授業担当教員	藤原和美、中世古恵美、久井志保					
5.授業科目の区分	公衆衛生看護分野における実務経験のある教員における授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	保健師		11.先修条件	公衆衛生看護学概論、個人・家族・集団・組織の支援活動論、公衆衛生看護活動展開演習、公衆衛生看護管理論の修得		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	公衆衛生看護学分野選択の学生のみ履修可能					
17.授業の目的と概要	公衆衛生看護学実習は主たる活動の場である１）保健所・市町村、２）産業保健、３）学校保健の３箇所で実習を行います。この実習に統合看護実習（公衆衛生看護学分野）を合わせて、保健師として活動する上で必要な実践的知識と技術の獲得を目指します。					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（１）自律性、（３）多様性理解、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル、（６）専門的知識・技能の活用力に関連しています それぞれの実習場所での目標は以下の通りです。 ＜保健所・市町村＞ （１）地域ニーズを把握する方法を理解できる １）　地域における個人・家族、集団、コミュニティの特徴と支援のあり方を理解できる。 ２）　健康レベルの違いよる対象者の特徴とその支援のあり方を理解できる。 ３）　発達段階に応じた対象者の特徴とその支援のあり方を理解できる。 ４）　担当地域における健康の現状とヘルスニーズを明確にすることができる。 ５）　担当地域の保健事業の現状の分析と評価ができる。 （２）　保健師活動の転回方法を理解できる １）　保健事業の法的根拠を理解できる。 ２）　保健事業の目的・意義を理解できる。 ３）　保健事業の対象と把握方法を理解できる。 ４）　保健事業の地域ケアシステムの中で位置づけを理解できる。 ５）　保健事業の企画において保健師の役割を理解できる ６）　保健事業の展開について事前準備から事後評価までの流れを理解できる ７）　保健所と市町村における保健事業の特徴を理解できる。 ＜産業保健＞ １）　働く人々それぞれの労働の特徴を知り、労働と健康の関連について理解できる。 ２）　事業場の組織体制を知るとともに、安全衛生管理体制についてその機能を理解できる。 ３）　事業場で行われている事業について学び、働く人々の健康課題に対して行われている産業保健師の具体的な健康支援及び技術が理解できる ４）　事業ばで行われている、産業保健の５分野（統括管理、健康管理、作業管理、作業環境、労働衛生教育）の遂行のために、行うべき産業保健師の役割が理解できる。 ５）　産業保健分野における多職種連携・協働、産業保健師のコーディネイト機能について考えることができる。 ＜学校保健＞ １）　学校保健教育の中での保健室のあり方や養護教諭の役割が理解できる。 ２）　児童生徒の生活状況や、発達・発育の特徴が理解できる。 ３）　養護教諭の日々の活動を知り、児童生徒の健康問題に対する養護教諭としての指導のあ					

	り方を理解できる。
19.教科書・教材	
20.参考文献	
21.成績評価	本実習は、3 つの実習についてそれぞれ 100 点満点で素点を算出後、保健所・市町村実習 50%、 産業保健実習 25%、学校保健実習 25%の割合で再度 100 点点満点換算で総合得点を算出する。 各実習における評価基準は下記のとおりである。 Ⅰ　保健所・市町村実習　50%（下記で算出した素点×0.5） ＜成績評価の内容と点数配分＞ １．　実習記録：事前レポート、日々の記録、各種事業に関する実習記録の記載内容　30% ２．　地区診断（１）：地区診断の分析結果　30% ３．　地区診断（２）：保健事業の企画書　　10%
22.コメント	公衆衛生の 3 つの領域である一般公衆衛生（保健所・市町村）、産業保健、学校保健での公衆衛生の専門家としての実践に必要な基本的知識と技術を獲得する機会です。保健師とはどういう仕事なのか、社会から求められる役割は何なのか、それぞれの実習でしっかりと学んでください。
23.オフィスアワー	：研究室　水曜昼休み、センターオフィスアワー　（図書館）火曜日昼休み 久井：研究室　水曜昼休み、センターオフィスアワー　（図書館）火曜日昼休み 中世古：研究室　水曜日 3 時限、 センターオフィスアワー　（図書館）火曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	詳細は各実習要項に提示します。	

1.授業コード（ナンバリング）	NFN101-M01	2.科目名	基礎看護学概論	3.単位数	2
4.授業担当教員	蛭子真澄				
5.授業科目の区分	看護分野における実務経験のある教員による専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・グループワーク		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	看護学のメタパラダイムである、人、健康、環境、看護に関する理解を深め、看護観の基盤を構築することをねらいとする。看護の概念、看護の歴史、主要な看護モデル・理論、生命の尊厳と人権の尊重、看護専門職者に求められる役割・機能、倫理的感受性と看護倫理について学習する。また、看護学教育の歴史的・制度的背景をふまえ、看護の質を高め、看護専門職者としてのキャリア発達を促す看護教育の在り方についても学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性)、(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解)、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技術の活用力に対応しています。 １．看護の概念と歴史を学び、その概要を説明できる。 ２．主要な看護モデル・理論を学び、その考え方の基本事項を説明できる。 ３．看護専門職者に求められる生命の尊厳と人権の尊重について学び理解する。 ４．看護専門職者に求められる役割・機能を理解し説明できる。 ５．看護専門職者に求めらえる倫理的感受性と看護倫理について学び理解する。 ６．看護の質を高め、看護専門職者としてのキャリア発達を促す看護教育の在り方と今後の課題について考察する。				
19.教科書・教材	「ナーシング・グラフィカ　基礎看護学①　看護学概論」 河村佐和子・志自岐康子・松尾ミヨ子編、メディカ出版、２０１３ 「看護の基本となるもの」 ヴァージニア・ヘンダーソン著　湯槇ます・小玉香津子訳　日本看護協会出版会 「看護覚え書き」フローレンス・ナイチンゲール　現代社				
20.参考文献	「看護覚え書き」フローレンス・ナイチンゲール　現代社 「臨床看護の本質」アーネスティン・ウィーデンバック、現代社 「オレム看護論」、ドロセア　E. オレム　医学書院 「ペプロウ　人間関係の看護論」ヒルデガード　E.ペプロウ、医学書院 「トラベルビー　人間対人間の看護」ジョイス・トラベルビー、医学書院 「キング看護論」　キング、医学書院 「ザ・ロイ適応看護モデル」、シスター・カリスタ・ロイ、医学書				
21.成績評価	グループワーク 10%、レポート課題１０%、講義整理ノート：40% 筆記試験：40%				
22.コメント	全時間、積極的に授業に参画し、予習復習を確実に行うこと。「自分の看護観」の確立に向けて興味関心をもって取り組むこと。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜日 3 時間目（第 1 看護学実習室）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
4 月 9 日	導入・ガイダンス	「私の持っている看護のイメージ」A4 レポー

		ト用紙（40×30）2 枚以上（90 分） (4 月 9 日授業開始前に提出) 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める（90 分）
4 月 9 日	看護の概念・健康の定義・看護の誕生と歴史的変遷	「講義整理ノート」（90 分） 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める（90 分）
2024/04/16	看護の対象と看護専門職者に求められる役割と機能	「講義整理ノート」（90 分） 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める（90 分）
2024/04/23	保健師助産師看護師法と看護専門職者教育の役割	「講義整理ノート」（90 分） 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める（90 分）
2024/04/30	援助的関係を構築するためのコミュニケーション	「講義整理ノート」（90 分） 次回のグループワークに向けて準備する（270 分）
2024/05/07	主要な看護モデル・理論（グループワーク）	次回のグループワークに向けて準備する（270 分）
2024/05/14	主要な看護モデル・理論（グループワーク）	次回のグループワークに向けて準備する（270 分）
2024/05/21	主要な看護モデル・理論（グループワーク）	次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める（90 分）
6 月 18 日 6 月 25 日	主要な看護モデル・理論（グループ発表・まとめ）	次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める（90 分）
2024/05/28	ライフサイクルと健康	「講義整理ノート」（90 分） 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める（90 分）
2024/06/04	看護活動展開の場と保健・医療・福祉制度	「講義整理ノート」（90 分） 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める（90 分）
2024/06/11	看護の継続性と在宅看護	「講義整理ノート」（90 分） 次回のグループワークに向けて準備する（270 分）
2024/07/02	看護における倫理の必要性・看護実践の基盤となる観察の必要性	「講義整理ノート」（90 分） 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める（90 分）
2024/07/09	看護ケアのマネジメント	「講義整理ノート」（90 分）
2024/07/16	まとめ・総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	NFN106-M01	2.科目名	看護倫理 I	3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤尚子、櫻井信人				
5.授業科目の区分	専門教育科目 専門科目 基礎看護学	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部　看護学科			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	”その人”が生きていくことの意味を理解し、生命および人間の尊厳を守り、かつ安全を保障する看護の意義を倫理的な観点から考察する。 人間として、看護職として、患者として”よりよく生きる”ということを考えていく。 看護倫理の基礎を学び、実際の看護場面において倫理の原則を考え行動できるための基礎的能力を身につけ、看護専門職として、倫理の原則、看護ケアと倫理、日本人の文化・価値などを踏まえて看護と権利、パターナリズム、アドボカシー、インフォームド・コンセント、守秘義務、内的規範と外的規範（法律）、ケアリングと倫理の				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 1.倫理の意味について理解し、説明できる。?授業内課題・総括試験 2.倫理の原則について説明できる。?授業内課題・総括試験 3.看護における倫理の必要性を説明できる。?授業内課題・総括試験 4.ケアリング場面における倫理的行動を具体的に述べることができる。?授業内課題・総括試験 【DP との関連】 本科目と関連する DP は（1）自律性（2）社会的貢献性　（3）多様性理解（5）コミュニケーションスキルである。				
19.教科書・教材	宮坂道夫他：系統看護学講座　別巻　看護倫理（第 2 版）、医学書院、2018				
20.参考文献	日本看護協会監修：看護職の基本的責務 2023 年版、日本看護協会出版会、2023				
21.成績評価	授業内で提示される課題：40% 総括試験（筆記試験）：60%				
22.コメント	教科書の内容に沿いながら各授業で様々なトピックスに触れていきます。哲学や宗教・文化、戦争と平和、コンピューターの世界、臨床の実際の出来事など、人間が生きていく／死んでいく、あるいは幸福／絶望という普遍のテーマに看護職としていかに対峙していくか考えていきましょう。				
23.オフィスアワー	伊藤＝研究室ｵﾌｨｽｱﾜｰ：水曜日昼休み、センターｵﾌｨｽｱﾜｰ：火曜日昼休み（図書館） 櫻井＝研究室ｵﾌｨｽｱﾜｰ：水曜日 2 限、センターｵﾌｨｽｱﾜｰ：水曜日 1 限（図書館）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 4 月 12 日(金)	1．倫理学の基本的な考え方（伊藤） 1）倫理とはなにか 2）倫理理論 3）他者理解と対話のための理論	予習：教科書「序章」「第 1 章」を読んだうえで授業に臨むこと。 課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 2 回 4 月 19 日(金)	2．生命倫理（櫻井） 1）生命倫理とはなにか 2）生命倫理の理論 3）生命倫理と看護職の責務	予習：教科書「第 2 章」を読んだうえで授業に臨むこと。 課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。

第 3 回 4 月 26 日(金)	3．性と生殖の生命倫理（櫻井） 1）性の生命倫理 2）生殖の生命倫理	予習：教科書「第 3 章」を読んだうえで授業に臨むこと。 課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 4 回 5 月 17 日(金)	4．死の生命倫理（伊藤） 1）死について 2）死と医療 3）死についての生命倫理の課題	予習：教科書「第 4 章」を読んだうえで授業に臨むこと。 課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 5 回 5 月 31 日(金)	5．先端医療と制度をめぐる生命倫理（櫻井） 1）移植医療 2）再生医療 3）遺伝子医療 4）医療資源と医療保険制度	予習：事前に教科書（第 5 章）を読んでおくこと。 課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 6 回 6 月 7 日(金)	6．看護倫理とはなにか（伊藤） 1）看護倫理を学ぶ意義 2）看護倫理の歴史 3）看護の倫理原則 4）看護実践上の倫理的概念	予習：教科書「第 6 章」を読んだうえで授業に臨むこと。 課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 7 回 6 月 21 日(金)	7．専門職の倫理（伊藤） 1）社会からみた看護 2）専門職に求められる倫理 3）専門職の倫理綱領 4）看護業務基準と倫理実践 5）保健師助産師看護師法と倫理	予習：教科書「第 7 章」を読んだうえで授業に臨むこと。 課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 8 回 6 月 28 日(金)	【総括試験】とまとめ	総括試験に向けて学習をしておくこと。

1.授業コード（ナンバリング）	NFN203-M01	2.科目名	基礎看護技術Ⅲ（看護過程）	3.単位数	2
4.授業担当教員	蛭子真澄、梅田智子、紀ノ岡浩美、志保田幸子				
5.授業科目の区分	看護分野における実務経験のある教員による専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	健康上の問題や障害をもつ人々の生活上のニーズや諸問題を明らかにし、その解決に向け的確な援助を提供するための系統的思考プロセスである看護過程の意義を理解し、具体的な展開方法の習得を目指す。具体的には、紙上事例をとりあげ、看護実践上の科学的根拠として用いられる代表的な看護理論を用いて、アセスメントから評価に至る一連の看護過程展開技術を学習する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性)、(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解)、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技術の活用力に対応しています。 ①看護過程の概要とプロセスを理解し説明できる。 ②情報を整理し、基本的な意味付け／分析、問題の明確化という一連のプロセスを理解し説明できる。 ③基本的な計画を立案することができる。 ④計画に基づき看護介入することができる。 ⑤看護介入の評価を行うことができる。				
19.教科書・教材	系統看護学講座　基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 藤崎郁　川村治子著　医学書院 「看護の基本となるもの」 ヴァージニア・ヘンダーソン著　湯槇ます・小玉香津子訳　日本看護協会出版会 [看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践」 秋葉公子他著　ヌヴェルヒロカワ 「看護覚え書き」フローレンス・ナイチンゲール　現代社				
20.参考文献					
21.成績評価	グループワーク、レポート課題、講義整理ノート：各 20%　合計 60% 筆記試験：40%				
22.コメント	看護過程展開においては、看護理論や看護観、身体構造や機能、疾病に関する知識などが必要です 。既習の学修を復習し、全時間予習して臨むこと。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜日 3 時間目（第 1 看護学実習室）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
4 月 10 日　Ⅰ	導入・ガイダンス	「私の人間観」A4 レポート用紙（40×30）2 枚以上（90 分） （４月１０日授業開始時に提出） 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、

		自分なりに理解を深める（90 分）
4 月 15 日Ⅰ・Ⅱ	看護過程の概念・看護過程のステップ 情報の種類、情報収集の方法、理論的枠組み、情報の解釈・分析	講義整理ノート（90 分） 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める（90 分）
4 月 22 日Ⅰ・Ⅱ	情報の種類、情報収集の方法、理論的枠組み、情報の解釈・分析 問題・ニーズの明確化	講義整理ノート（90 分） 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める（90 分） 「看護の基本となるもの」を熟読する（180 分）
5 月 13 日Ⅰ・Ⅱ	問題・ニーズの明確化 計画立案	講義整理ノート（90 分） 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める（90 分）
5 月 20 日Ⅰ・Ⅱ	実施・評価 事例による看護過程展開	講義整理ノート（90 分） 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める（90 分）
5 月 27 日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	講義整理ノート（90 分） 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める（90 分）
6 月 3 日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	講義整理ノート（90 分） 事例展開に必要な事項の理解を深める（180 分）
6 月 10 日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	講義整理ノート（90 分） 事例展開に必要な事項の理解を深める（180 分）
6 月 17 日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	事例展開に必要な事項の理解を深める（180 分）
6 月 24 日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	事例展開に必要な事項の理解を深める（180 分）
7 月 1 日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	事例展開に必要な事項の理解を深める（180 分）
7 月 8 日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	事例展開に必要な事項の理解を深める（180 分）
7 月 15 日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	事例展開に必要な事項の理解を深める（180 分）
7 月 22 日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	事例展開に必要な事項の理解を深める（180 分）
7 月 29 日Ⅰ・Ⅱ 7 月 31 日　Ⅰ	事例による看護過程展開 まとめ・総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	NFN303-Y01	2.科目名	セイフティマネジメント	3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕				
5.授業科目の区分	専門教育科目　展開科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件	危機管理論を履修していることが望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】危機管理論においては純粋リスク、特に、経営上のリスクに焦点を当て、観光業における個別事象のリスク管理から事業経営継続におけるリスクマネジメントまで必要となる基本的な知識とスキルを修得しました。このセイフティマネジメントにおいては、危機管理論で習得したリスクマネジメントの基本的な手法や組織としてのリスクマネジメントについて復習した後、更に深くリスクマネジメントについての理解を深めます。 【概要】具体的には組織が抱える問題がリスク管理与える影響などについて、NASA の事例やアメリカの危機管理局などの対				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の【(１)自律性】【(4)問題発見・解決力】【(6)専門的知識・技能の活用】に関連しています。 本科目の学習目標は、以下のとおりです。 ①リスクマネジメントの手法を理解し、その手法を適切に活用することができる。 ②組織的なリスク管理の代表的なケーススタディを通じて組織におけるセイフティマネジメントの本質を把握し、対策案を検討することができる。 ③観光産業を例に②で学んだ組織的なリスク管理の本質から課題の抽出と対策案を検討、提案することができる。				
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。				
20.参考文献					
21.成績評価	①授業理解度・・・４０点　（講義の要点を的確に掴んで、その理解した内容を記述する。また自発的にケーススタディに取り組む）※学習目標①、②、③に対応 ②グループワーク・・・２０点　（ケーススタディにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する。ルーブリック-チームワークを評価基準とする。）※学習目標①、②、③に対応に対応 ③確認テスト・・・４０点　※学習目標①、②、③に対応				
22.コメント	この講義では、セイフティマネジメントを理解するために動画などを含めケーススタディなどを活用していきます。エアラインの安全管理部門において、組織と安全について取り組んだ経験を活かし、履修する学生には、単なるリスクマネジメントだけではなく、会社の組織風土にまで踏み込んで安全の確保に向けた理解をしてもらいたいと考えています。				
23.オフィスアワー	金曜日　昼休み　神戸山手キャンパス 3 号館　3302 号室				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	講義：オリエンテーション 担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算出の方法、受講上の留意点について説明する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第２回】	危機管理論の復習① リスクマネジメントの基本的な手法について復習しま	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習

	す。	
【第３回】	危機管理論の復習② 組織で取り組むリスクマネジメントについて体制やマニュアル管理などについて復習します。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第４回】	危機管理論の復習③ 組織が抱えるハザードについて個別の事案などを踏まえて復習します。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第５回】	ケーススタディ① ＮＡＳＡにおけるスペースシャトルコロンビア号事故を題材に組織としての安全に対する課題について考察していきます。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：ケーススタディの理解
【第６回】	ケーススタディ① 前回に続きＮＡＳＡにおけるスペースシャトルコロンビア号事故を題材に組織としての安全に対する課題について考察していきます。※グループ討論	ケーススタディについてグループで発表のための資料を作成する。
【第７回】	ケーススタディ① 前回に続きＮＡＳＡにおけるスペースシャトルコロンビア号事故を題材に組織としての安全に対する課題について考察していきます。※グループ発表と講評	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第８回】	組織事故に関する講義 事故が発生しやすい組織と事故発生に強い組織の相違について講義を通じて考察します。 危機管理論の復習を含めた確認テスト①	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第９回】	ケーススタディ② FEMA（連邦緊急事態管理庁）におけるハリケーンカトリーナの災害対応を題材に組織としての安全に対する課題について考察していきます。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：ケーススタディの理解
【第１０回】	ケーススタディ② 前回に続き FEMA（連邦緊急事態管理庁）におけるハリケーンカトリーナの災害対応を題材に組織としての安全に対する課題について考察していきます。※グループ討論	ケーススタディについてグループで発表のための資料を作成する。
【第１１回】	ケーススタディ② 前回に続き FEMA（連邦緊急事態管理庁）におけるハリケーンカトリーナの災害対応を題材に組織としての安全に対する課題について考察していきます。※グループ発表と講評	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１２回】	ケーススタディ③ 近年発生した事例についてセイフティマネジメントの視点から、問題点と解決に向けた方策について考える。 事例案：軽井沢スキーバス事故などを予定	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１３回】	ケーススタディ③	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

	近年発生した事例についてセイフティマネジメントの視点から、問題点と解決に向けた方策について考える。 事例案：軽井沢スキーバス事故などを予定	予習：次回の予習
【第１４回】	ケーススタディ③ 近年発生した事例についてセイフティマネジメントの視点から、問題点と解決に向けた方策について考える。 事例案：軽井沢スキーバス事故などを予定	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１５回】	全体の振り返りと確認テスト②	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：確認テストに備えここまでの振り返り

1.授業コード（ナンバリング）	NHF201-M01	2.科目名	小児健康看護学概論	3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾ひとみ、黒川麻里				
5.授業科目の区分	専門科目 小児看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	子どもを理解する上で基礎となる諸理論や、国内外の子どもの実態を以下の点から概観する。 ①人のライフサイクルの観点における子どもという時期の意味、②子ども観の背景となる歴史的変化・文化的な違い、③子どもを看護する上で必要な倫理観、④大人と異なる子どもの生活者としての身体機能の変化（成長）、⑤子どもの思考や心理・社会性の変化（発達）				
18.学習目標とＤＰとの関連	DP1:子どもの目線に沿って、子どもに起こっている状況を考えることができる。 DP2:SDGs の観点から国内外の子どもの課題を理解し、小児医療における看護の役割を説明できる。 DP3：文化・歴史・制度等多角的な視点から子どもを理解し、小児看護の目的を説明できる。 DP4:子どもの解剖・生理の特徴を踏まえ、生活能力の獲得過程とその障害について説明できる。 DP5:子どもと協働し、子どものセルフケア能力を促進することを考えることができる。 DP6:看護倫理のツールを活用し、子どもと家を尊重することができる。				
19.教科書・教材	子どもの生活機能の発達とからだの仕組み―看護形態機能学の視点から―,金芳堂,ISBN978-4-7653-1992-8C3047				
20.参考文献	授業中に紹介する。				
21.成績評価	１.課題 30% 2. 総括試験 70% 事前学習課題の提出は、評価方法１.の必須要件とする。 学習課題提出は 6 月 25 日				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1　(4/9) 担当：松尾	○子どもとは？ 歴史・文化・制度の背景が子どものとらえ方に与える影響を理解する。	
2　(4/16) 担当：松尾	○世界の子ども達 SDGs の観点から国外の子どもの実態と課題を考える。	
3　(4/23) 担当：松尾	○生活者としての子どもの成長・発達（動く） 子どもの神経の発達と運動機能の発達の関係性を理解する。	
4　(4/30) 担当：松尾	○生活者としての子どもの成長・発達（食べる） 大人と異なる子どもの「食べる」機能の獲得過程を理解する	
5　(5/7)	○国内の子どもの実態	

担当：黒川	統計にみる子どもの実態と法による保護の実態を学ぶ。	
6 (5/14) 担当：松尾	○生活者としての子どもの成長・発達（トイレにいく・眠る） 大人と異なる子どもの「トイレに行く」「眠る」機能の獲得過程を理解する	
7 (5/21) 担当：松尾	○生活者としての子どもの成長・発達（お風呂に入る） 大人と異なる子どもの「お風呂に入る」機能の獲得過程を理解する	
8 (5/28) 担当：松尾	○生活者としての子どもの成長・発達（話す・聞く・視る） 大人と異なる子どもの「話す・聞く・視る」機能の獲得過程を理解する	
9 (6/4) 担当：松尾	○生活者としての子どもの成長・発達（子どもを産む） 大人と異なる子どもの「子どもを産む」機能の獲得過程を理解する	
10 (6/11) 担当：松尾	○子どもの社会性の発達 子どもの社会性の発達過程を理解する	
11 (6/18) 担当：松尾	○子どもの認知機能の発達 子どもの認知機能の発達過程を理解する	
12 (6/25) 担当：松尾	○家族の発達過程と小児看護 家族の発達過程と小児看護学に必要な家族看護学の概念を理解する	
13 (7/2) 担当：本田	○生活者としての子どもの成長・発達（息をする・ポンプ機能） 大人と異なる子どもの「息をする・ポンプ機能」の獲得過程を理解する	
14 (7/9) 担当：松尾	○小児看護における看護倫理 小児看護特融の倫理と関わる概念を学ぶ	
15 (7/16) 担当教員	総括試験：試験範囲は 1-14 回	

1.授業コード（ナンバリング）	NHF203-M01	2.科目名	母性健康看護学概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉沢豊子、有本梨花、吉田明莉					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験科目		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習（うち 7 回分はオンデマンドで実施）		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【授業目的】 本科目の目的は、女性やその家族の特性を理解し、多様な性と生殖にかかわる健康課題を支援する専門職として、それらの課題を解決することができるための基礎的知識を身に着けることである。 【概要） 女性の生涯にわたる健康の特徴と健康課題を理解するために、その基盤となるウィメンズヘルス、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念について学ぶ。これらについては、オンデマンド授業で行う。さらにそれらに関する課題を解決するための力を身に着け、それを発信することができるために対面授業では、探究的学習					
18.学習目標とＤＰとの関連	オンデマンド授業により １）生涯における女性の心身の特徴について理解し説明できる。 ２）ライフサイクル各期の健康課題について理解できる。 ３）女性およびその家族がおかれている環境を理解し、それを示す母子保健統計の意味を説明できる。 ４）セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツについて理解できる。 ５）女性とその家族がその子どもの成長発達に必要な、家族中心ケア、コペアレンティング、愛着理論等について理解できる。 対面授業（グループワーク、プレゼンテーション） ６）女性、その家族がおかれている環境から課題を見つけ、その課題解決をグループワークを通し行い、プレゼンテーションを行い、論理的思考および話す力、聞き手の反応を見抜く力を備える。 関連する看護学科 DP（１）自律性、（３）多様性理解、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル（６）専門的知識・の活用力					
19.教科書・教材	1 年時に疾病論（母性）で購入した、医学書院系統看護学講座専門分野 II　母性看護学概論、成人看護学女性生殖器を教科書に指定。よって、2024 年で購入の必要なし。					
20.参考文献	必要時授業（オンデマンド授業中）に紹介予定。					
21.成績評価	オンデマンド授業 毎回小テスト x 7 回・・全小テスト 100 点を取るまで実施 中間テスト（学習目標 1.2.3.4.5 に対応）30% グループワーク課題学習レポート（個人）（学習目標 6 対応）20% グループプレゼンテーション（学習目標 6 対応）20% 最終総括テスト（学習目標 1-6）30%					
22.コメント	本年より、オンデマンド授業が始まります。対面とは違い自主的に勉強することになりますが、ある一定期間で勉強してください。皆さんの一つ一つの単元で知識がしっかり身について					

	いるか確認の小テストを行います。100 点を取るまで、次には進まないでください。オンデマンド授業での質問は、WEBCLASS を使用して、吉沢に連絡をください。 対面の開講時期までに、すべてのオンデマンド視聴が終了し、小テストが満点となって終わっていることが必要です。対面の授業日に中間テスト行います。 皆さんが成人学習者であることを前提に行うものです。皆さんの学習者として力に期待しています。 最終的に、掲げられた学習目標に皆さんが到達できていることを望みます。
23.オフィスアワー	吉沢：水 2 時限 10：45～12：15（吉沢研究室）

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目対面 4 月 11 日	オンデマンド授業の進め方、オリエンテーション	PC を必ず持参すること
オンデマンド授業のため 4 月 18 日から 5 月 30 日の間に視聴してください。	オンデマンド授業 1 回目 母性看護学とウィメンズヘルス看護学 家族中心ケア、コペアレンティング、愛着理論について 家族を作ることの意味について	小テストを行ってください。100 点を取るまで次に進まないでください。
オンデマンド授業のため 4 月 18 日から 5 月 30 日までの間に視聴してください。	オンデマンド授業 2 回目　30 分 X 2 で構成 2－1：日本の少子化（なぜ子供は生まれないのか 日本の母子保健事情 2－2：リプロダクティブヘルスに関する動向、 リプロダクティブヘルスに関する法律 施策、支援	2－1、2－2 それぞれの小テストを行ってください。 100 点を取るまで次に進まないでください。
オンデマンド授業のため 4 月 18 日から 5 月 30 日の間に視聴してください。	オンデマンド授業 3 回目 1．思春期の健康問題 思春期の定義、月経周期と月経に関連する健康 性感染症、人工妊娠中絶	小テストを行ってください。 100 点取るまで次に進まないでください。
オンデマンド授業のため 4 月 18 日から 5 月 30 日までの間に視聴してください。	オンデマンド授業 4 回目 1．性成熟期の健康問題 男女の不妊症について リプロダクティブライフプランと プレコンセプテョンケア 性暴力	小テストを行ってください。 100 点取るまで次に進まないでください。
オンデマンド授業のため 4 月 18 日から 5 月 30 日までの間に視聴してください。	オンデマンド授業 5 回目 1．更年期・老年期の健康問題 閉経のメカニズム　女性ホルモンと健康問題	小テストを行ってください。 100 点取るまで次に進まないでください。
オンデマンド授業のため 4 月 18 日から 5	オンデマンド授業 6 回目 1.セクシュアリティ、セクシュアルヘルス 多様な性を考える	小テストを行ってください。 100 点取るまで次に進まないでください。

月 30 日までの間に視聴してください。		
オンデマンド授業のため 4 月 18 日から 5 月 30 日までの間に視聴してください。	オンデマンド授業 7 回目 1．生殖器疾患を持った女性の健康と看護 子宮内膜症、子宮筋腫、子宮頸がん、子宮体がん	小テストを行ってください。 100 点取るまで次に進まないでください。
対面授業 6 月 6 日	オンデマンド授業のまとめと中間試験 授業アンケート、	出席確認は行います。 PC は常に持参してください。
対面授業 6 月 13 日	1．女性の生涯にわたる健康課題とヘルスプロモーション行動を支援につてのグループワークとプレゼンテーション進め方のオリエンテーションおよび、グループ活動	出席確認は行います。 PC は常に持参してください
対面授業 6 月 20 日	1．女性の生涯にわたる健康課題とヘルスプロモーション行動を支援につてのグループワークとプレゼンテーション進め方のオリエンテーションおよび、グループ活動	出席確認は行います。 PC は常に持参してください
対面授業 6 月 27 日	1．女性の生涯にわたる健康課題とヘルスプロモーション行動を支援につてのグループワークとプレゼンテーションの準備 プレゼンテーションを PPT 声付きを WEBCLASS に UP する	出席確認は行います。 PC は常に持参してください
対面授業 7 月 4 日	1．女性の生涯にわたる健康課題とヘルスプロモーション行動を支援についてのグループワークとプレゼンテーション プレゼンテーションを PPT 声付きを WEBCLASS に UP されたものを評価する。	出席確認は行います。 PC は常に持参してください
対面授業 7 月 11 日	優秀プレゼングループ発表と質疑応答 レポート作成	出席確認は行います。 PC は常に持参してください
対面授業 7 月 18 日	授業のまとめと総括試験	試験

1.授業コード（ナンバリング）	NHF401-M01	2.科目名	助産診断技術学 II	3.単位数	4
4.授業担当教員	齋藤いずみ、有本梨花、松尾博哉、吉沢豊子、吉田明莉				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	助産選択生必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	助産師国家試験受験科目	11.先修条件	助産師選択分野選抜者		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	助産学分野に選抜された者				
17.授業の目的と概要	分娩期にある女性の生理的変化とその逸脱状態を診断するために必要な知識及び診断技法を理解し、分娩各期に必要な助産ケア技術および各種の分娩介助法とその技術を習得する。また、周産期の女性の心理的変化について学び、女性に寄り添う助産実践について探求する能力を養う。 周産期の女性と胎児の異常について学び、異常時の救急処置について理解し、異常の予防に向けた助産ケアの実践やハイリスク妊産婦への対応について考える力を養う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①分娩期における女性と胎児の生理的な変化と生理的状態からの逸脱について理解する。 ②産婦の経過診断、健康生活診断を通して正常からの逸脱状態について診断することができる。 ③科学的根拠に基づいた分娩介助法と助産ケアについて実践することができる。 ④産婦の精神心理的状態に寄り添う助産実践ができる。 ⑤褥婦および新生児の健康状態の維持及び向上に向けた援助方法を理解する。 ⑤育児に必要な技術の習得、親子関係・家族関係形成に向けた援助方法を理解する。 ⑥女性にとって妊娠・出産の持つ意味を考え、周産期における助産師の役割について考察する。				
19.教科書・教材	1.　助産学講座 7　助産診断・技術学 II　分娩期・産褥期　我部山キヨ子　医学書院 2.　今日の助産　　改訂第 4 版　　南江堂 3．図説 CTG テキスト－助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)?レベル III 認証 CTG 必須研修対応テキスト，中井章人 ，メジカルビュー社、2016. 4．マタニティ診断ガイドブック　第 5 版、日本助産診断・実践研究会　（妊娠期使用したもの） 5．産婦人科診療ガイドライン　産科編　，日本産科婦人科学会　2023				
20.参考文献	1．プリンシブル産婦人科学 2、坂元正一他、メディカルビュー社 2．病気が見える　産科　医療情報科学研究所　メディックメディア 3．助産業務ガイドライン　日本助産師会　最新版 4．NCＰＲ新生児蘇生法テキスト，日本周産期・新生児医学会，メジカルビュー社　2020 第 5 版 5．実践 マタニティ診断 第 5 版、日本助産診断実践学会編、医学書院. 6．病気が見える、産科　第 4 版、医療情報科学研究所、メディックメディア. 7．マタニティサイクルの実践保健指導　妊娠期、鈴木由美、丸善プラネット、2013. 8．マタニテ				
21.成績評価	試験は、筆記試験と分娩介助実技試験から構成される 総括試験　分娩介助技術試験　50％　実施　（5 月 16 日 3・4 限　　再試験 5 月 24 日 3・4				

	限） 筆記試験　10%　実施　（6 月 17 日 2 限） 中間試験　筆記試験　40%　実施　（5 月 8 日 2 限）
22.コメント	実習前の大切な科目です。 確実に知識と技術を身につけましょう。
23.オフィスアワー	各担当教員に確認してください 齋藤：水曜日 1215 分から 13 時まで

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1-2 回 4 月 8 日 3 限 1 回　オリエンテーション 2 回　4 月 8 日 4 限 3 回　4 月 8 日 5 限	1-3 回 1 回　オリエンテーション 担当（吉沢・齋藤・有本・吉田　　全員） 2 回　3 回 助産診断技術学の進め方 分娩期における助産師の役割と責任 分娩の生理と管理 （2）分娩の定義、分娩の種類・時期 （3）3 要素　娩出力 担当（齋藤　　）	★★★ 助産師国家試験を受験する方は、医学書院の助産学講座 1 から 10 を教科書として使用しますので、なるべく速やかに準備すること 上記はすでに 3 年時に使用した教科書を含みます。 3 年時にすでに科目としては、終了している分野もありますので、ご注意ください。 4 月 8 日開始から最低必要となるもの★★ ★★1 医学書院　助産学講座 7 助産診断技術学 II　分娩期・産褥期 ★★2 病気が見える　産科　医療情報科学研究所　メディックメディア（すでに母性看護学で購入がすんでいると思います） 3 今日の助産　　改訂第 4 版
4 回　4 月 9 日 3 限 5 回　4 月 9 日 4 限 6 回　4 月 10 日 2 限	分娩の生理と管理（2） 4 回目）分娩の 3 要素　娩出力 5 回目）骨産道　軟産道 6 回目）胎児と付属物 分娩が母体と胎児に及ぼす影響について 担当（　齋藤　　）	教科書に指定ある ●医学書院助産学講座 7、 ●病気が見える　産科 医療情報科学研究所　メディックメディア ●図説 CTG テキスト－助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)?レベル III 認証 CTG 必須研修対応テキスト，中井章人 ，メジカルビュー社、2016. ●今日の助産 ●マタニティ診断ガイドブック　第 5 版、日本助産診断・実践研究会　（妊娠期使用したもの）CTG テキスト
7 回　4 月 11 日 3 限 8 回　4 月 11 日 4 限	7 回目）娩出力と軟産道　分娩機転との関係 8 回目）胎児とその付属物 娩出力と軟産道 胎児とその付属物 代表的な CTG の判読を学ぶ 入院から分娩第 4 期終了までの一連の過程を DVD でイメージ化を図る 担当（　齋藤　　）	CTG　テキスト ★★1 医学書院　助産学講座 7 助産診断技術学 II　分娩期・産褥期 ★★2 病気が見える　産科　医療情報科学研究所　メディックメディア（すでに母性看護学で購入がすんでいると思います） 3 今日の助産　　改訂第 4 版　　南江堂 4．図説 CTG テキスト－助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)?レベル III 認証 CTG 必須研修対応テキスト，中井章人 ，メジカルビ

		ュー社、2016. ５．マタニティ診断ガイドブック　第５版、日本助産診断・実践研究会　（妊娠期使用したもの）CTG テキスト 授業
９回　４月 15 日３限 10 回　４月 15 日４限 11 回　４月 17 日 2.限 12 回　４月 17 日３限 13 回４月 18 日１限	９回目）分娩期の診断　事例展開　助産過程の展開 10 回目）分娩開の診断　事例展開　助産過程の展開 11 回目　分娩開の診断　事例展開　助産過程の展開 12 回目　分娩開の診断　事例展開　助産過程の展開 13 回目　事例の分娩進行に沿った、アセスメント、診断、計画ができる 担当（吉沢　　全員　）	分娩進行の詳細を記述した「事例」を提示する
14－16 回 14 回　４月 22 日３限 15 回　４月 24 日２限 16 回　４月 24 日３限	14 回目）分娩介助の手技を説明　手順書に従う 15 回目）手洗い・手袋・ガウン装着・清潔操作・分娩の準備 16 回目　分娩セットの準備・分娩セット必要物品の整備 分娩期の助産診断（分娩開始、娩出力の診断、骨産道の診断、軟産道の診断）内診技術を含む 上記の、事例の分娩進行に応じた分娩介助は後半に学ぶ。最初に基本的分娩介助手技を学ぶ 担当（　齋藤　全員　　）	復習および授業資料・ノートの整理 分娩介助手順書を提示する 1.　助産学講座７　助産診断・技術学Ⅱ　分娩期・産褥期　我部山キヨ子　医学書院 病気が見える　産科
17－20 回 17 回　４月 25 日１限 18 回　４月 25 日２限 19 回　４月 25 日３限 20 回　４月 25 日４限 21 回　４月 26 日３限 22 回　４月 26 日４限 分娩介助練習 ４月３０日 １・２・３・４限 5 月１日；自己学習　終日 分娩介助 5 月２日；自	17 回 18 回４月 25 日１限２限 清潔野の作り方 19・20 回　４月 25 日３・４限　分娩介助　一連の流れを学ぶ 齋藤：解説　胎児の進行　回旋 吉沢：　同上 有本：デモスト 吉田：ビデオ撮影 （全員） ２１回　内診の実施 ２２回　胎盤の精査 分娩第４期の看護 児娩出後から会陰部外陰部子宮頸部膣内精査までの一連の流れの実施 胎盤の精査　　齋藤 新生児蘇生　インファントウオーマーの準備・初回母子接触・初回哺乳　秋に講義済部分とのこと　（実技確認　テスト後実施） ４月３０日　自己学習　実	以下を提示する 関西国際大学 分娩介助手順書 評価表 分娩進行にともなう助産計画用紙 分娩予測時間の算出に計算機の持参 分娩期の診断、助産計画の立案 産婦人科ガイドライン産科編 2023　購入していれば持参

己学習　終日 分娩介助 ５月７日３限 西脇へ ５月７日４限 西脇へ ２３回５月８日 １限 ２４回５月８日 ２限 25 回５月８日 ３限 26 回５月９日 １限		
２７回から３６回 ２７回５月９日１限 ２８回５月９日３限 ２９回５月９日４限 30 回５月１３日２限 ３１回５月１３日　３限 32 回５月１３日４限 33 回５月１４日３限 ３４回５月１４日４限 ３５回５月１４日５限 →5 月 15 日１限 ３６回５月１６日１限	２７回から２９回　助産診断の実践 27 回５月９日２限　入院時の DVD 28 回５月９日３限　　妊娠末期の診察保健指導結果から入院時のケアに 入院時の診断　技術　診察と経過診断 第１期の経過診断と健康生活診断　計画立案　修正 第２期の経過診断と健康生活診断と計画立案　修正 呼吸法　マッサージ　DVD 分娩進行に応じた分娩介助方法 29 回５月９日４限　　CTG モニターの判読 胎児心拍陣痛図の判読　分娩各期の進行と CTG 所見 分娩監視装置の取り扱い 担当（ 齋藤　　） 30 回　分娩介助	助産計画の立案と修正に必要な記録用紙の持参 マタニティアセスメントガイド 産婦人科ガイドライン産科編 2023　（購入していれば持参）
37 回 38 回 ３７回５月１６日３限 ３８回５月１６日４限	３７.３８回）５月 16 日★★★分娩介助実技試験　　50 点 分娩介助の方法と技術　分娩に必要な機材の取り扱い 清潔野の作成から児娩出・胎盤娩まで 担当（齋藤・吉澤・有本　　）	助産診断技術学　分娩期　７持参 配布資料の持参

39回5月20日2限 40回5月20日3限 41回5月20日4限	5月16日の分娩介助実技試験の結果 適宜強化必要部分など解説・講義　実技 39回5月20日　2限　適宜強化必要部分など解説・講義　実技 40回5月20日　3限　適宜強化必要部分など解説・講義　実技 41回5月20日　4限　異常時のCTGモニターの解説 分娩各期の助産ケア 担当（　齋藤　　）	
42回5月21日2限 43回5月21日3限 44回5月21日4限 45回5月22日1限 46回5月24日3限 47回5月24日4限	42－47回）5月16日の分娩介助実技試験以降に、5月20日の具体的な改善事項の解説の後に、特に強化・再講義・分娩会介助技術演習の必要部分など明らかにし、修正し分娩介助実施する ★★★ 再テスト対象者がいる場合は 全員が、協力し合い、産婦、間接介助薬など協力する 46回47回　5月24日3限4限に実施する 再テストに合格しない場合は、50点分マイナスとなり、単位修得不可能となる	実習着の着用
48回　5月28日2限 49回50回：5月30日3・4限松尾医師 56回57回：6月13日2・3限　松尾医師	48回　　この時点までの講義のまとめ　齋藤 4回　　松尾医師 5月30日（3・4限）6月13日（2・3限） ハイリスク状況にある妊産婦の治療とケア HDPを含む循環器系の異常等 分娩期の異常 分娩遷延（微弱陣痛含む娩出力異常） 産道異常（骨産道、軟産道の異常・軟産道強靭） 異常分娩　帝王切開　吸引分娩　鉗子分娩 胎児の異常　胎児機能不全　CTG判読 早期産・過期産	
51回から56回まで 51回　6月4日3限 52回　6月4日4限 53回　6月5日1限 54回6　月5日2限	51回52回　　産通緩和・ 呼吸法、バランスボールなど　　演習含む 周産期のメンタルヘルス ペリネイタルロス ハイリスク妊娠分娩の管理 53回54回　ハイリスク妊娠・分娩・産褥期・新生児 特に妊娠高血圧症候群　妊娠糖尿病合併妊婦産婦を中心と したハイリスク管理	

55 回 6　月 6 日 2 限 56 回 6 月 13 日 1 限 57 回 6 月 13 日 2 限 58 回 6 月 14 日 3 限 59 回 6 月 14 日 4 限	助産過程の実践 ハイリスクの分娩管理 MFICU とは 55 回　　無痛分娩　分娩管理 51 から 55 回　担当（　　齋藤　　）	
60 回　試験 7 月 4 日　助産二次面接 時間調整中	試験（10 点） ★★★ 6 月 17 日 2 限　期末テスト　筆記１0 点 7 月 4 日　助産二次面接　時間調整中 合格者は、実践的な実習施設に対応した分娩介助保健指導の実施 三田病院・西脇病院の分娩介助方法の説明 実習に向けて 実習病院で使用可能な 指導案・リフレット作成（分娩期の指導案、入院方法、物品　身体の準備・育児用品の準備） これまでの振り返り 実習までの自己練習（演習計画の作成）	

1.授業コード（ナンバリング）	NHF402-M01	2.科目名	助産学実習	3.単位数	7
4.授業担当教員	齋藤いずみ				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	助産師国家試験受験科目	11.先修条件	助産診断技術学 II を履修し、単位を修得していること		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限	助産学選択分野選択者				
17.授業の目的と概要	助産師として対象者を総合的に理解し、正常分娩（ローリスク）を中心とした助産を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を修得することをねらいとする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	1)助産診断及び助産技術を基盤として、妊婦・産婦・褥婦・新生児及びその家族の健康生活を援助する助産師としての基礎的実践能力を修得する。 2)正常分娩介助に必要な助産診断及び助産技術を修得する。 3）母子とその家族の健康生活を援助するために、対象者の主体性や人格を尊重し、権利を擁護する専門職としての倫理観を養う。 4)保健医療福祉チームの役割と機能を理解し、多職種との連携を理解する。 5)産科施設における助産業務管理の実際を理解する。				
19.教科書・教材	・助産診断技術学Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト・資料 ・プリンシブル産婦人科学産科編 ・ベットサイドの新生児の診かた ・産婦人科診療ガイドライン産科編 2017 ・助産業務ガイドライン				
20.参考文献					
21.成績評価	助産学実習評価基準に沿って評価する				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回から 158 回	・妊産褥婦・新生児及び家族に関する助産診断実践過程の展開 ・正常経過にある産婦の分娩介助 ・助産管理 詳細は助産学実習要綱を参照のこと	

1.授業コード（ナンバリング）	NSC108-M81	2.科目名	グローバルヘルス	3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤尚子				
5.授業科目の区分	基盤教育科目 リベラルアーツ 科学と生活	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	保健医療学部　看護学科において看護グローバル専攻を選択する場合は、本科目を修得すること	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義 第 2～7 回、第 13 回はオンデマンド授業 第 1 回、 8～12 回・14 回は対面授業（三木キャンパス）		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	世界における健康格差の実態を知り、世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ国際協力の必要性と意義を理解し、人々の健康や生活を支援する活動を地球的視野で認識する。国際協力の理論と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 1.グローバルヘルスの概念を説明できる。?授業内課題、総括試験 2.人々の健康や生活にかかわる国際協力の必要性と意義を説明できる。?授業内課題、総括試験 3.世界の健康問題がわかり、それらに対する国際的戦略および課題を説明できる。?授業内課題、総括試験 4.グローバルヘルスにおける活動の実践手法を説明できる。?授業内課題、総括試験 5. 異文化コミュニケーションの意義と手法を説明できる。?授業内課題、総括試験 【ＤＰとの関連】 本科目は、以下 5 つの DP に対応する。 （1）自律的で主体的な態度（自律性） （2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） （3）多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） （4）問題発見・解決力 （5）コミュニケーションスキル				
19.教科書・教材	講義において資料を配布する。				
20.参考文献	日本国際保健医療学会（2013）：国際保健医療学、医学書院 スフィアハンドブック 2018 日本語版（2018）、スフィアプロジェクト				
21.成績評価	総括試験（筆記試験）＝50%、　授業内課題＝50%				
22.コメント	世界の 7 割以上の国や地域が、国際協力による支援が必要とされています。世界が平和であるために、すべての人類が安全・安心のうちに生活できるために、日本人の立場として貢献できることを考えていきましょう。そのために必要な国際基準の知識と実践力を高めるための手法を学習します。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜日 センターオフィスアワー：火曜日（三木キャンパス 図書館）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 4 月 12 日(金) ２限	1. グローバルヘルスの概念 1）国際協力の必要性 2）グローバルヘルスの意義	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 2 回	2. グローバルヘルスの展望と課題 1 1）人道憲章 2）スフィアプロジェクト	オンデマンド授業のため、Webclass にて、動画を視聴すること。すべての動画を見たうえで、課題を Webclass の提出箱に提出して下さい。
第 3 回	3. グローバルヘルスの展望と課題 2 1）人道支援の必須基準 2）人間の安全保障	オンデマンド授業のため、Webclass にて、動画を視聴すること。すべての動画を見たうえで、課題を Webclass の提出箱に提出して下さい。
第 4 回	4. グローバルヘルスの歴史と戦略の軌道 1 1）Health for All の概念 2）プライマリーヘルスケアの概念と実際	オンデマンド授業のため、Webclass にて、動画を視聴すること。すべての動画を見たうえで、課題を Webclass の提出箱に提出して下さい。
第 5 回	5. グローバルヘルスの歴史と戦略の軌道 2 1）MDGs 2）SDGs 3）Universal Health coverage（UHC）	オンデマンド授業のため、Webclass にて、動画を視聴すること。すべての動画を見たうえで、課題を Webclass の提出箱に提出して下さい。
第 6 回	6. ヘルスプロモーションの概念と実際 1）ヘルスプロモーションの概念 2）ヘルスプロモーションの介入と戦略 3）ヘルスプロモーションの実際	オンデマンド授業のため、Webclass にて、動画を視聴すること。すべての動画を見たうえで、課題を Webclass の提出箱に提出して下さい。
第 7 回	7. 疫学的調査 1）疫学的調査とは 2）疫学調査の実際	オンデマンド授業のため、Webclass にて、動画を視聴すること。すべての動画を見たうえで、課題を Webclass の提出箱に提出して下さい。
第 8 回 6 月 7 日(金)2 限	8. グローバルヘルスにおける問題解決手法 1）Project Cycle Management(PCM)と PDCA 2）Project Design Matrix(PDM) 3）演習	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 9 回 6 月 14 日(金)2 限	９．異文化理解と異文化コミュニケーション 1）文化の概念 2）文化を形成する集団 3）異文化折衝と異文化理解 4）演習	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 10 回 6 月 21 日(金)2	１０．防災・減災への国際的な取り組み 1）世界における災害の状況	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する

限	2）防災・減災への国際的な取り組み	
第 11 回 6 月 28 日(金)2 限	11. 世界における母子保健とジェンダー 1 1）世界における母子の健康格差と問題 2）世界における母子保健の活動の実際	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 12 回 7 月 5 日(金)2 限	12. 世界における母子保健とジェンダー2 1）世界における男女格差 2）世界におけるジェンダーの問題	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 13 回	13. 感染症への国際的な取り組み 1 1）世界の 3 大感染症 2）世界の 3 大感染症への取り組みと課題 3）顧みられない熱帯病	オンデマンド授業のため、Webclass にて、動画を視聴すること。すべての動画を見たうえで、課題を Webclass の提出箱に提出して下さい。
第 14 回 7 月 19 日(金)2 限	14. 演習 「発展途上国の子どもの暮らし」 「健康格差のしくみ」	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 15 回 7 月 26 日(金)2 限	15. 総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	NUT101-M01	2.科目名	食と健康　（栄養学）	3.単位数	2
4.授業担当教員	橋本堂史				
5.授業科目の区分	基盤教育科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限	教務課の指示に従うこと。				
17.授業の目的と概要	【目的】この科目は、食の成分がヒトの健康や疾病と密接に関わっていることが理解できるようになることを目的とします。 【概要】具体的には、食品の一次機能、二次機能、三次機能の基本的概念を学びます。さらに、それぞれの機能に関わる食品の成分について学ぶと共に疾病について学ぶことで、疾病予防を促す食生活を自ら考え、実施きるようになります。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①　食の基本的な機能性の概念を説明できるようになる。 ②　三大栄養素および五大栄養素の重要性を説明できるようになる。 ③　おいしさの重要性が説明できるようになる。 ④　食の成分が関与する疾病について説明できるようになる。 ⑤　健康のために必要な食生活を実施できるようになる。				
19.教科書・教材	適宜、資料を配布します。				
20.参考文献	・『食と健康』中谷延二他 ・『食品健康学』中谷延二他 ・『食品機能性の科学』産業技術サービスセンター				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・総括試験（第 15 回の講義時に実施）・・・20%［学習目標①～⑤に対応］ ・中間試験（第 8 回の講義時に実施）・・・20%［学習目標①～③に対応］ ・プレゼンテーション・・・10%［学習目標④⑤に対応］ ・小テスト（第 8 回と第 15 回の講義を除き、毎回実施）・・・50%［学習目標①～⑤に対応］ 注意１）評価方法はあくまでも目安であり、講義の進捗状況などにより若干の変更を行うこともあります。 注意２）中間試験および総括試験は WebClass で行います。必ず受験時に充電された				
22.コメント	公欠・欠席・遅刻・早退などは大学の規則に従いますので、個別に特別な理由がある場合には教務課に相談ください。 公欠については必ず大学に申請してください。大学からの公欠連絡以外には受け付けません。				
23.オフィスアワー	キャンパス内での質問は講義時間の前後に教室で受け付けます。 また、メールでの質問などは随時受け付けます。ただし、***宛のメールのみ受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション（シラバスについて） ・講義「食品の機能性について」・・・食品機能の概念を学ぶ。 ・小テスト「食品の機能性について」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第 2 回】	・講義「糖質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「糖質（炭水化物）」について学ぶ。	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。

	・小テスト「糖質の科学」	
【第 3 回】	・講義「脂質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「脂質」について学ぶ。 ・小テスト「脂質の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第 4 回】	・講義「タンパク質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「タンパク質」について学ぶ。 ・小テスト「タンパク質の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第 5 回】	・講義「微量栄養素の科学」・・・微量栄養素である「ビタミン」と「ミネラル」について学ぶ。 ・小テスト「微量栄養素の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第 6 回】	・講義「食品の味・香・色①」・・・味や味覚を中心に食品の二次機能について学ぶ。 ・小テスト「食品の味・香・色①」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第 7 回】	・講義「食品の味・香・色②」・・・香や色を中心に食品の二次機能について学ぶ。 ・小テスト「食品の味・香・色②」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第 8 回】	・中間試験・・・第 1 回から第 7 回までの講義内容についての試験を行う。 ・中間試験の解説・・・試験の模範解答について解説する。	パソコンを持参すること。
【第 9 回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「酸化ストレス」・・・生体内酸化ストレスとそれに関連した疾病について学ぶ。 ・小テスト「酸化ストレス」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第 10 回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「肥満と食生活」・・・肥満に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「肥満と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第 11 回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「糖尿病と食生活」・・・糖尿病に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「糖尿病と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第 12 回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「動脈硬化症と食生活」・・・動脈硬化症に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「動脈硬化症と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第 13 回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「がんと食生活」・・・がんに関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「がんと食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）

【第 14 回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「アレルギーと食生活」・・・アレルギーに関する基礎知識を学ぶと共にそれを関わる食生活について考える。 ・小テスト「アレルギーと食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第 15 回】	・総括試験・・・第 1 回から第 14 回までの講義内容についての試験を行う。 ・総括試験の解説・・・試験の模範解答について解説する。 ・まとめ	パソコンを持参すること。

1.授業コード（ナンバリング）	PED103-A01	2.科目名	国語Ⅰ（1/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	中西一彦				
5.授業科目の区分	展開 国語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育学部			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）　小学校一種 保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	［目的］ 基礎的な国語力を高めることをめざす。 ［概要］ 新聞と読書を中心に「言葉を育てる」ことを学ぶ。 教育現場において行われる「聞く・話す、読む、書く」という言語活動について、文献や事例をもとに学ぶ.。 読書タイムや書取テスト、スピーチの実践を通して、国語の知識と技能について学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目は DP の(5)コミュニケーションスキルと(6)専門的知識・技能の活用力に関連しています。 「聞く・話す、読む、書く」の技能を高めることで基礎的国語力形成をめざす。 ・漢字力は読解力につながること ・読書力は語彙力につながること ・スピーチと新聞はコミュニケーションという点で共通すること を実感し総合して「国語力」を改めて身につけます。				
19.教科書・教材	授業時に適宜プリント等を配布する。				
20.参考文献	メディアライブラリー内にある大村はまの本 学生選書コーナーの本				
21.成績評価	授業記録（毎回の 100 字コメント、書取テスト含む）30% レポート（提出物）30%（10%×3） 「投書」原稿（第 6 回提出） 「動詞人間学新聞」（第 10 回提出） 「はがき新聞」（第 13 回提出） 総合レポート（第 14 回提出）40%				
22.コメント	「書くことを核にする」ことが何よりも大切である。書くことに慣れることから始めましょう。そしてカバンの中には、いつも 1 冊本があることを「あたりまえ」にしてください。				
23.オフィスアワー	後日確定後連絡				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【第 1 回】オリエンテーション 漢字（四字熟語）100 問に挑戦 読書生活スタート（メディアライブラリーで本を 1 冊借りよう） 漢検準 2 級レベル漢字書取プリント確認	○漢字書取 1 練習（60 分） ○読書（100 分）
第 2 回	【第 2 回】書くことのアイデア実践 1 書取 1 実施	○漢字書取 2 練習（60 分） ○読書（100 分）

	ブレーンストーミングを用いた言葉集め	
第 3 回	【第 3 回】書くことのアイデア実践 2 書取 2 実施 イメージマップによる文章構成作り ※今回から第 13 回まで、毎回スピーチ発表あり。 スピーチ 1 回目 （順番、テーマについては第 2 回に予告）	○漢字書取 3 練習（60 分） ○読書（100 分）
第 4 回	【第 4 回】書くことのアイデア実践 3 書取 3 実施 リラックスライティング（ダラダラ書き）による書き出し見つけと結び決め　　スピーチ 2 回目	○読書（60 分） ○原稿下書き（120 分） ○漢字書取 4 練習（60 分）
第 5 回	【第 5 回】書くことのアイデア実践 4 書取 4 実施 音読による下書き推敲から清書原稿提出へ。 スピーチ 3 回目	○読書（60 分） ○原稿清書（120 分） ○漢字書取 5 練習（60 分）
第 6 回	【第 6 回】動詞人間学新聞作り 1 書取 5 実施 特定の動詞が読み取れる新聞記事探し スピーチ 4 回目	○漢字書取 6 練習（60 分） ○読書（100 分） ○新聞記事探し（80 分） ★投書原稿提出
第 7 回	【第 7 回】動詞人間学新聞作り 2 書取 6 実施 選んだ「動詞」に関連する新聞記事集め スピーチ 5 回目	○漢字書取 7 練習（60 分） ○読書（100 分） ○新聞記事探し（80 分）
第 8 回	【第 8 回】動詞人間学新聞作り 3 書取 7 実施 「動詞人間学新聞」紙面下書き作成 スピーチ 6 回目	○漢字書取 8 練習（60 分） ○読書（100 分） ○新聞記事探し（80 分）
第 9 回	【第 9 回】動詞人間学新聞作り 4 書取 8 実施 「動詞人間学新聞」仕上げ スピーチ 7 回目	○読書（100 分） ○動詞人間学新聞作成（140 分）
第 10 回	【第 10 回】レファレンスサービスに挑戦 メディアライブラリー（図書館）を使い倒しましょう。	○漢字書取 9 練習（60 分） ○読書（120 分） ★動詞人間学新聞提出
第 11 回	【第 11 回】読書シークレットブック 1 書取 9 実施 お気に入りの本 1 冊の選定とはがき新聞作り スピーチ 8 回目	○漢字書取 10 練習（60 分） ○シークレットブック準備（100 分） ○読書（80 分）
第 12 回	【第 12 回】読書シークレットブック 2 書取 10 実施 グループ内でのシークレットブック紹介 スピーチ 9 回目	○はがき新聞仕上げ（240 分）
第 13 回	【第 13 回】シークレットブックラリー　　スピーチ 10 回目	○読書（120 分） ○総合レポートに向けてのふり返り（120

	グループ代表者によるシークレットブック書評合戦。	分） ★推薦本はがき新聞提出
第 14 回	【第 14 回】総合レポート作成　　スピーチ 11 回目 「読書と新聞による国語力の習得について」の論述と漢字・視写の基礎的課題を授業内に仕上げて提出する。	○読書＋読書日記仕上げ（240 分） ★総合レポート提出
第 15 回	【第 15 回】総合レポートふり返り　　スピーチ 12 回目 「国語力」についての意見交流 漢字（四字熟語）100 問ふり返り	○総合レポートふり返り（80 分） ○漢字（四字熟語）100 問復習（80 分） ○読書生活ふり返り（80 分）

1.授業コード（ナンバリング）	PED103-A02	2.科目名	国語Ⅰ（2/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	中西一彦				
5.授業科目の区分	展開 国語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育学部			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）　小学校一種 保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	［目的］ 基礎的な国語力を高めることをめざす。 ［概要］ 新聞と読書を中心に「言葉を育てる」ことを学ぶ。 教育現場において行われる「聞く・話す、読む、書く」という言語活動について、文献や事例をもとに学ぶ.。 読書タイムや書取テスト、スピーチの実践を通して、国語の知識と技能について学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目は DP の(5)コミュニケーションスキルと(6)専門的知識・技能の活用力に関連しています。 「聞く・話す、読む、書く」の技能を高めることで基礎的国語力形成をめざす。 ・漢字力は読解力につながること ・読書力は語彙力につながること ・スピーチと新聞はコミュニケーションという点で共通すること を実感し総合して「国語力」を改めて身につけます。				
19.教科書・教材	授業時に適宜プリント等を配布する。				
20.参考文献	メディアライブラリー内にある大村はまの本 学生選書コーナーの本				
21.成績評価	授業記録（毎回の 100 字コメント、書取テスト含む）30% レポート（提出物）30%（10%×3） 「投書」原稿（第 6 回提出） 「動詞人間学新聞」（第 10 回提出） 「はがき新聞」（第 13 回提出） 総合レポート（第 14 回提出）40%				
22.コメント	「書くことを核にする」ことが何よりも大切である。書くことに慣れることから始めましょう。そしてカバンの中には、いつも 1 冊本があることを「あたりまえ」にしてください。				
23.オフィスアワー	月 4 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【第 1 回】オリエンテーション 漢字（四字熟語）100 問に挑戦 読書生活スタート（メディアライブラリーで本を 1 冊借りよう） 漢検準 2 級レベル漢字書取プリント確認	○漢字書取 1 練習（60 分） ○読書（100 分）
第 2 回	【第 2 回】書くことのアイデア実践 1 書取 1 実施	○漢字書取 2 練習（60 分） ○読書（100 分）

	ブレーンストーミングを用いた言葉集め	
第 3 回	【第 3 回】書くことのアイデア実践 2 書取 2 実施 イメージマップによる文章構成作り ※今回から第 13 回まで、毎回スピーチ発表あり。 スピーチ 1 回目 （順番、テーマについては第 2 回に予告）	○漢字書取 3 練習（60 分） ○読書（100 分）
第 4 回	【第 4 回】書くことのアイデア実践 3 書取 3 実施 リラックスライティング（ダラダラ書き）による書き出し見つけと結び決め　　スピーチ 2 回目	○読書（60 分） ○原稿下書き（120 分） ○漢字書取 4 練習（60 分）
第 5 回	【第 5 回】書くことのアイデア実践 4 書取 4 実施 音読による下書き推敲から清書原稿提出へ。 スピーチ 3 回目	○読書（60 分） ○原稿清書（120 分） ○漢字書取 5 練習（60 分）
第 6 回	【第 6 回】動詞人間学新聞作り 1 書取 5 実施 特定の動詞が読み取れる新聞記事探し スピーチ 4 回目	○漢字書取 6 練習（60 分） ○読書（100 分） ○新聞記事探し（80 分） ★投書原稿提出
第 7 回	【第 7 回】動詞人間学新聞作り 2 書取 6 実施 選んだ「動詞」に関連する新聞記事集め スピーチ 5 回目	○漢字書取 7 練習（60 分） ○読書（100 分） ○新聞記事探し（80 分）
第 8 回	【第 8 回】動詞人間学新聞作り 3 書取 7 実施 「動詞人間学新聞」紙面下書き作成 スピーチ 6 回目	○漢字書取 8 練習（60 分） ○読書（100 分） ○新聞記事探し（80 分）
第 9 回	【第 9 回】動詞人間学新聞作り 4 書取 8 実施 「動詞人間学新聞」仕上げ スピーチ 7 回目	○読書（100 分） ○動詞人間学新聞作成（140 分）
第 10 回	【第 10 回】レファレンスサービスに挑戦 メディアライブラリー（図書館）を使い倒しましょう。	○漢字書取 9 練習（60 分） ○読書（120 分） ★動詞人間学新聞提出
第 11 回	【第 11 回】読書シークレットブック 1 書取 9 実施 お気に入りの本 1 冊の選定とはがき新聞作り スピーチ 8 回目	○漢字書取 10 練習（60 分） ○シークレットブック準備（100 分） ○読書（80 分）
第 12 回	【第 12 回】読書シークレットブック 2 書取 10 実施 グループ内でのシークレットブック紹介 スピーチ 9 回目	○はがき新聞仕上げ（240 分）
第 13 回	【第 13 回】シークレットブックラリー　　スピーチ 10 回目	○読書（120 分） ○総合レポートに向けてのふり返り（120

	グループ代表者によるシークレットブック書評合戦。	分） ★推薦本はがき新聞提出
第 14 回	【第 14 回】総合レポート作成　　スピーチ 11 回目 「読書と新聞による国語力の習得について」の論述と漢字・視写の基礎的課題を授業内に仕上げて提出する。	○読書＋読書日記仕上げ（240 分） ★総合レポート提出
第 15 回	【第 15 回】総合レポートふり返り　　スピーチ 12 回目 「国語力」についての意見交流 漢字（四字熟語）100 問ふり返り	○総合レポートふり返り（80 分） ○漢字（四字熟語）100 問復習（80 分） ○読書生活ふり返り（80 分）

1.授業コード（ナンバリング）	PED204-A01	2.科目名	教育相談	3.単位数	2
4.授業担当教員	多田智栄子				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教職福祉学科／教職			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校（福祉） 小学校一種中学（英語）　中学（社会） 認定心理士　保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	・教師や保育士が行う教育相談について学修します。 ・教育や保育の中で教師や保育士が行う教育相談は、各教科と同じように重要とされています。　その重要さは社会全体が求めるところと合致します。したがって、学校や保育と言う教育現場の実践の中で「重要」とされなければなりません。それゆえに、全体のカリキュラムに位置しており、つまり「ミニクリニック」ではなくて教育そのものと考えていきます。 ・教育実践の中で、どのような考えで具体的にどのような形で進められているのでしょうか。また、社会の中で期待されているのでしょうか。実				
18.学習目標とＤＰとの関連	・教育相談の授業での学習目標（身につくスキル）は次の通りです。 ①「教育相談」とは何かを自分の理解の中で説明できるようにします。 …現場で「役に立つ教育相談」について具体的な例を示して説明できるようにします。 ?教育相談の理論的背景を理解することが出来るようにします。 …実践の学、である教育相談の土台となる理論を学びます。また、個々人の適応の問題としての実に注目するのではなく、学校全体の中で、システム的な対応を考えることも大事であり、かつ、必要だということを理解することが出来るようにします。 ③教室で援助できる幼児、児童、生徒をイメージできるようにします。 …個々の幼児、児童、生徒の 1 対 1 の対応の教育相談も大事ですが、更に、学校生活のあらゆる場面（各教科指導も含めて）から生じる課題を考えていくことも重要です。問題の発端となることへの予防・開発的な理解が出来るようにすることを最も重要にしています。すべての幼児、児童、生徒などの課題として考えます。				
19.教科書・教材	大野精一【編著】　長谷川比呂美　橋本千鶴［著］　（2017） 教師・保育者のための教育相談　萌文書林				
20.参考文献	適宜紹介します。 資料も配布もします。				
21.成績評価	以下の内容で評価を行います。 ①中間テスト・・・20 点（学習①に対応します） 2 週間前にお知らせします。 ?課題レポート・・・3 ×10 点（授業の中で行います） レポート１　？　SDG s を保育や学校教育の中で具体的に生かす指導案の作成 レポート２　？　危機管理について、震災を意識した具体的な指導案の作成 レポート３　？　「理想的な教育相談」のポスター作成				

	③期末テスト・・・50 点 学習①と②と③に対応します。
22.コメント	・教育相談は、担当者、係の先生だけが行うものではありません。 ・子ども達に携わるすべての人たちが、すべての場所で、すべての機会を活用してなされることが期待されます。 ・他人事ではなく、実践現場ですぐに役立つ力、スキルとなるように学んでいきましょう。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・授業についてのオリエンテーション 授業の目指すところを、共通理解します。 そのために何をどのようにして学習を進めていくのかを理解します。 ・「教育相談」テキストの中から１５回の説明をします。	[予習] ・テキストｐ１～ｐ１１までを読んで、教育相談の歴史的な整理をしておいてください。
【第 2 回】	・教育相談の考え方 …2 回にわたり歴史的な整理をします。そのあとで、教育相談が今、求められている理由について考えます。 ・教師[保育者]が行う教育相談とは何か、についての概略を学びます。	[復習] /教育相談が歴史的に何を求められていたのかをまとめておきます。 [予習] ・テキストｐ8～ｐ１１までを再度読んでおきます。
【第 3 回】	・教育相談が社会の変化とともに求められることが変わってきました。今の社会やこれからの時代の中では、そのような教育相談が期待されるのでしょうか。イメージしてみましょう。実際の学校の中をイメージしましょう。SDGｓからの理解をします。自分の興味関心がある内容をチェックします。	[復習] ・今回の授業でのまとめをしておきましょう。テキストや経験から「教育相談」とは何かを説明できるようにしておきます。 [予習」 ・日常の中で広報されている SDGｓを調べて来ましょう。
【第 4 回】	・SDGｓについての理解を共有します。 日常の中で展開（広報）されている SDGｓを紹介しながら、教育や保育にどのように落とし込んでいくかを話し合います。	[予習] ・テキストｐ２０～ｐ２７を読んでおいてください。 ・「学校心理学」「アドラー心理学」について調べておきましょう。
【第 5 回】	・教育相談を学ぶにあたっての、基礎的学問の一つである「学校心理学」について学びます。また子供達にかかわるときに参考となる「アドラー心理学」についても学びます。 ・資料を配布します。	[復習] ・配布した資料についてまとめておきましょう。 [予習」 ・テキストｐ４７～ｐ５８までを読んでおいてください。
【第 6 回】	・教師の行う教育相談の進め方…具体的な進め方について学びます。 ・教育相談実践のとらえ方 ⇒今までを見て、これからを考えます。	[復習] ・ 今日の学習を実際の学校・保育現場の中でイメージしてまとめておきましょう。 「予習」 ・テキストｐ５９～６５までを読んできましょう。
【第 7 回】	・教師・保育が行う教育相談…具体的な進め方 ・何をどのように観察するのか	[復習] ・テキストｐ６６～ｐ７７までを読んでおいて

	何をどうやらせるのか⇒アセスメントについても触れます。	ください。
【第 8 回】	・教師・保育者の行う教育相談の進め方…具体的な進め方 何をどう聴いてみるか 面接へのいくつかの視点を考えます。 日常の中からの観察アセスメントの実際を学びます。	[予習」 ・「チーム学校」について調べてきましょう。
【第 9 回】	「チーム学校」と教育相談について考えます。 テキストにはありませんので、資料を配布しします。 ・社会が求めている「チーム学校」についての理解と教育相談の役割について考えましょう。 ・授業と教育相談の関係を紹介します。	「復習」 ・授業の中で教育相談ができる事をまとめておきます。 「予習」 ・テキストｐ７７～８７までを読んでおきましょう。幼児理解を深めておきます。
【第 10 回】	・教師・保育者の行う教育相談の具体的展開 ・幼稚園や保育所における教育相談の考え方について学びます。 子ども理解からの教育相談を意識しながら幼児教育保育の中で独自性や特色などを学びます。	「復習」 ・幼児における教育相談と学校教育相談の違いや相違点を確認しておきましょう。
【第 11 回】	・実践例を学びながら、実際の場面をイメージしていきます。 ・授業と教育相談の関係をさらに詳しくイメージしていきます。 資料の配布をします。 ・実際の３年生、５年生の「算数」や「国語」などの授業を想定して考えます。(3 歳児、5 歳児) ・予防的にも開発的な教育相談としてもかんがえます。	「復習」 ・授業案を作るつもりで、授業との関係を理解して、整理しておきましょう。 「予習」 ・テキストｐ８９～９５を読んでおきます。
【第 12 回】	・保護者支援は大事な教育相談が担う役割です。 保護者支援の理解と実践について学びます。 ・保護者との信頼関係を築いていくための教育相談を考えます。	「予習」 ・テキストｐ１００～１10 をよく読んでおきましょう。
【第 13 回】	・保護者の養育力の向上を図った教育相談…テキストの中から学びます。 学校や園がどこまで家庭に介入できるのか、実際の例から考えてみましょう。保護者の養育力へのアプローチを考えてみます。 ・外部の専門機関との連携も大事です。 学校と他機関の連携について考えましょう。	「予習」 ・今までのテキスト・資料・自分の記録などをよく読んで総括をしておきましょう。
【第 14 回】	・期末テストをします。 ・教師のバーンアウトについて考えます。 教育相談が出来る役割を考えます。	「予習」 ・テキストｐ１２０～１３３を読んできましょう。
【第 15 回】	・教育相談の事例から発展して、クラス全体で取り組むことが目指されます。 つまりは、日々の生活の中で出会う課題や問題に子供たちが自分自身でクラスで解決していく力を育てて行くということにつなげていくことができれば、と考え	[復習」 ・１５回の授業の振り返りをしておきましょう。

	ます。１５回の授業の振り返りをしながら、教育相談を事例の中で確認します。 　学習目標の①・②・③への到達を確認します。	

1.授業コード（ナンバリング）	PED204-A02	2.科目名	教育相談		3.単位数	2
4.授業担当教員	多田智栄子					
5.授業科目の区分	教育福祉学科／こ	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　認定心理士　保育士　幼稚園一種			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	・教師や保育士が行う教育相談について学修します。 ・教育や保育の中で教師や保育士が行う教育相談は、各教科と同じように重要とされています。　その重要さは社会全体が求めるところと合致します。したがって、学校や保育と言う教育現場の実践の中で「重要」とされなければなりません。それゆえに、全体のカリキュラムに位置しており、つまり「ミニクリニック」ではなくて教育そのものと考えていきます。 ・教育実践の中で、どのような考えで具体的にどのような形で進められているのでしょうか。また、社会の中で期待されているのでしょうか。実					
18.学習目標とＤＰとの関連	・教育相談の授業での学習目標（身につくスキル）は次の通りです。 ①「教育相談」とは何かを自分の理解の中で説明できるようにします。 …現場で「役に立つ教育相談」について具体的な例を示して説明できるようにします。 ?教育相談の理論的背景を理解することが出来るようにします。 …実践の学、である教育相談の土台となる理論を学びます。また、個々人の適応の問題としての実に注目するのではなく、学校全体の中で、システム的な対応を考えることも大事であり、かつ、必要だということを理解することが出来るようにします。 ③教室で援助できる幼児、児童、生徒をイメージできるようにします。 …個々の幼児、児童、生徒の 1 対 1 の対応の教育相談も大事ですが、更に、学校生活のあらゆる場面（各教科指導も含めて）から生じる課題を考えていくことも重要です。問題の発端となることへの予防・開発的な理解が出来るようにすることを最も重要にしています。すべての幼児、児童、生徒などの課題として考えます。					
19.教科書・教材	大野精一【編著】　長谷川比呂美　橋本千鶴［著］　（2017） 教師・保育者のための教育相談　萌文書林					
20.参考文献	適宜紹介します。 資料も配布もします。					
21.成績評価	以下の内容で評価を行います。 ①中間テスト・・・20 点（学習①に対応します） 2 週間前にお知らせします。 ?課題レポート・・・3 ×10 点（授業の中で行います） レポート１　？　SDG s を保育や学校教育の中で具体的に生かす指導案の作成 レポート２　？　危機管理について、震災を意識した具体的な指導案の作成 レポート３　？　「理想的な教育相談」のポスター作成 ③期末テスト・・・50 点 学習①と②と③に対応します。					
22.コメント	・教育相談は、担当者、係の先生だけが行うものではありません。					

	・子ども達に携わるすべての人たちが、すべての場所で、すべての機会を活用してなされることが期待されます。 ・他人事ではなく、実践お腹ですぐに役立つ力、スキルとなるように学んでいきましょう。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【1 回目】	・授業についてのオリエンテーション 授業の目指すところを、共通理解します。 そのために何をどのようにして学習を進めていくのかを理解します。 ・「教育相談」テキストの中から１５回の説明をします。	予習] ・テキストｐ１～ｐ１１までを読んで、教育相談の歴史的な整理をしておいてください。
【第 2 回】	・教育相談の考え方 …2 回にわたり歴史的な整理をします。そのあとで、教育相談が今、求められている理由について考えます。 ・教師[保育者]が行う教育相談とは何か、についての概略を学びます。	[復習] /教育相談が歴史的に何を求められていたのかをまとめておきます。 [予習] ・テキストｐ8～ｐ１１までを再度読んでおきます。
【第 3 回】	・教育相談が社会の変化とともに求められることが変わってきました。今の社会やこれからの時代の中では、そのような教育相談が期待されるのでしょうか。イメージしてみましょう。実際の学校の中をイメージしましょう。SDGｓからの理解をします。自分の興味関心がある内容をチェックします。	[復習] ・今回の授業でのまとめをしておきましょう。テキストや経験から「教育相談」とは何かを説明できるようにしておきます。 [予習」 ・日常の中で広報されている SDGｓを調べて来ましょう。
【第 4 回】	・SDGｓについての理解を共有します。 日常の中で展開（広報）されている SDGｓを紹介しながら、教育や保育にどのように落とし込んでいくかを話し合います。	[予習] ・テキストｐ２０～ｐ２７を読んでおいてください。 ・「学校心理学」「アドラー心理学」について調べておきましょう。
【第 5 回】	・教育相談を学ぶにあたっての、基礎的学問の一つである「学校心理学」について学びます。また子供達にかかわるときに参考となる「アドラー心理学」についても学びます。 ・資料を配布します。	[復習] ・配布した資料についてまとめておきましょう。 [予習」 ・テキストｐ４７～ｐ５８までを読んでおいてください。
【第 6 回】	・教師の行う教育相談の進め方…具体的な進め方について学びます。 ・教育相談実践のとらえ方 ⇒今までを見て、これからを考えます。	[復習] ・ 今日の学習を実際の学校・保育現場の中でイメージしてまとめておきましょう。 「予習」 ・テキストｐ５９～６５までを読んできましょう。
【7 回】	・教師・保育が行う教育相談…具体的な進め方 ・何をどのように観察するのか 何をどうやらせるのか⇒アセスメントについても触れます。	[復習] ・テキストｐ６６～ｐ７７までを読んでおいてください。
【第 8 回】	・教師・保育者の行う教育相談の進め方…具体的な進め方	[予習」 ・「チーム学校」について調べてきましょう。

	何をどう聴いてみるか 面接へのいくつかの視点を考えます。 日常の中からの観察アセスメントの実際を学びます。	
【第 9 回】	「チーム学校」と教育相談について考えます。 テキストにはありませんので、資料を配布しします。 ・社会が求めている「チーム学校」についての理解と教育相談の役割について考えましょう。 ・授業と教育相談の関係を紹介します。	「復習」 ・授業の中で教育相談ができる事をまとめておきます。 「予習」 ・テキストｐ７７～８７までを読んでおきましょう。幼児理解を深めておきます。
【第 10】	・教師・保育者の行う教育相談の具体的展開 ・幼稚園や保育所における教育相談の考え方について学びます。 子ども理解からの教育相談を意識しながら幼児教育保育の中で独自性や特色などを学びます。	「復習」 ・幼児における教育相談と学校教育相談の違いや相違点を確認しておきましょう。
【第 11 回】	・実践例を学びながら、実際の場面をイメージしていきます。 ・授業と教育相談の関係をさらに詳しくイメージしていきます。 資料の配布をします。 ・実際の３年生、５年生の「算数」や「国語」などの授業を想定して考えます。(3 歳児、5 歳児) ・予防的にも開発的な教育相談としてもかんがえます。	「復習」 ・授業案を作るつもりで、授業との関係を理解して、整理しておきましょう。 「予習」 ・テキストｐ８９～９５を読んでおきます。
【第 12 回】	・保護者支援は大事な教育相談が担う役割です。 保護者支援の理解と実践について学びます。 ・保護者との信頼関係を築いていくための教育相談を考えます。	「予習」 ・テキストｐ１００～１10 をよく読んでおきましょう。
【第 13 回】	・保護者の養育力の向上を図った教育相談…テキストの中から学びます。 学校や園がどこまで家庭に介入できるのか、実際の例から考えてみましょう。保護者の養育力へのアプローチを考えてみます。 ・外部の専門機関との連携も大事です。 学校と他機関の連携について考えましょう。	「予習」 ・今までのテキスト・資料・自分の記録などをよく読んで総括をしておきましょう。
【第 14 回】	・期末テストをします。 ・教師のバーンアウトについて考えます。 教育相談が出来る役割を考えます。	「予習」 ・テキストｐ１２０～１３３を読んできましょう。
【第 15 回】	・教育相談の事例から発展して、クラス全体で取り組むことが目指されます。 つまりは、日々の生活の中で出会う課題や問題に子供たちが自分自身でクラスで解決していく力を育てて行くということにつなげていくことができれば、と考えます。１５回の授業の振り返りをしながら、教育相談を事例の中で確認します。 学習目標の①・②・③への到達を確認します。	[復習」 ・１５回の授業の振り返りをしておきましょう。

1.授業コード（ナンバリング）	PED204-Y01	2.科目名	教育相談	3.単位数	2
4.授業担当教員	岩岡眞弘				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	2 年-
10.取得資格の要件	高校（英語）　高校（公民）　高校（福祉） 小学校一種 中学（英語）　中学（社会） 認定心理士 保育士 幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、ペアディスカッション		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、教師として活動する際に必要な、カウンセリングの意義・理論や技法を身につけることを目的とする。 【概要】 教育相談は、児童および生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築きながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸?や人格の成?を支援する教育活動である。本授業では、児童・生徒の教育上の問題に関し、教師が、適切な援助を実施するために何が必要かを、理論や事例を通して学修する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 1 学校における教育相談の意義と理論を説明することができる。 2 教育相談を進める際に必要なカウンセリングの基礎知識を説明することができる。 3 教 育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を説明することがで きる。 【関連するディプロマ・ポリシー】 (2)社会的責任性、(3)多様性理解、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能の活用力、				
19.教科書・教材	「現場で役立つ教育相談入門」(2023)春日由美,五十嵐亮(編著),北樹出版 * ISBN-10 ? : ? 4779307279 * ISBN-13 ? : ? 978-4779307270				
20.参考文献	「生徒指導提要」(2023)文部科学省				
21.成績評価	1.平常点(授業に関する発言、質問、毎回のコメントシート） ５０％ 2.期末試験５０％				
22.コメント					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控え室等で、受講生からの質問に対応する。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回	教育相談とは	復習と予習
第 02 回	教育相談で大切なもの	復習と予習

第 03 回	子どもたちを支えるための連携	復習と予習
第 04 回	子どもの発達と大人の関わりの大切さ	復習と予習
第 05 回	不登校への支援	復習と予習
第 06 回	いじめへの対応	復習と予習
第 07 回	問題行動や非行への対応	復習と予習
第 08 回	個別の理解と支援	復習と予習
第 09 回	児童虐待への対応	復習と予習
第 10 回	保護者との関わり	復習と予習
第 11 回	危機場面での対応	復習と予習
第 12 回	心理的不適応と心理アセスメント	復習と予習
第 13 回	心理療法の基礎	復習と予習
第 14 回	開発予防的教育相談	復習と予習
第 15 回	まとめ	復習と予習

1.授業コード（ナンバリング）	PED204-m01	2.科目名	教育相談	3.単位数	2
4.授業担当教員	岩岡眞弘				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	2 年-
10.取得資格の要件	高校（英語）　高校（公民）　高校（福祉） 小学校一種 中学（英語）　中学（社会） 認定心理士 保育士 幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、ペアディスカッション		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、教師として活動する際に必要な、カウンセリングの意義・理論や技法を身につけることを目的とする。 【概要】 教育相談は、児童および生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築きながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸?や人格の成?を支援する教育活動である。本授業では、児童・生徒の教育上の問題に関し、教師が、適切な援助を実施するために何が必要かを、理論や事例を通して学修する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 1 学校における教育相談の意義と理論を説明することができる。 2 教育相談を進める際に必要なカウンセリングの基礎知識を説明することができる。 3 教 育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を説明することがで きる。 【関連するディプロマ・ポリシー】 (2)社会的責任性、(3)多様性理解、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能の活用力、				
19.教科書・教材	「現場で役立つ教育相談入門」(2023)春日由美,五十嵐亮(編著),北樹出版 * ISBN-10 ? : ? 4779307279 * ISBN-13 ? : ? 978-4779307270				
20.参考文献	「生徒指導提要」(2023)文部科学省				
21.成績評価	1.平常点(授業に関する発言、質問、毎回のコメントシート） ５０％ 2.期末試験５０％				
22.コメント					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控え室等で、受講生からの質問に対応する。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回	教育相談とは	予習と復習
第 02 回	教育相談で大切なもの	予習と復習

第 03 回	子どもたちを支えるための連携	予習と復習
第 04 回	子どもの発達と大人の関わりの大切さ	予習と復習
第 05 回	不登校への支援	予習と復習
第 06 回	いじめへの対応	予習と復習
第 07 回	問題行動や非行への対応	予習と復習
第 08 回	個別の理解と支援	予習と復習
第 09 回	児童虐待への対応	予習と復習
第 10 回	保護者との関わり	予習と復習
第 11 回	危機場面での対応	予習と復習
第 12 回	心理的不適応と心理アセスメント	予習と復習
第 13 回	心理療法の基礎	予習と復習
第 14 回	開発予防的教育相談	予習と復習
第 15 回	まとめ	予習と復習

1.授業コード（ナンバリング）	PED208-A01	2.科目名	初等教育課程論（2021 年度生以前）	3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）　小学校一種幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解するために、教育課程の意義、編成方法、カリキュラム・マネジメントを学習する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 ②教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 ③教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律的で主体的な態度（自律性）(4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	『教育課程論　第二版』山田雅彦編　学文社（※昨年度までのテキストと異なるので注意すること） ISBN9784762027932				
20.参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』最新版 文部科学省『小学校学習指導要領』最新版 文部科学省『中学校学習指導要領』最新版 文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版 必要に応じて印刷物の配布や文献等の紹介を行う。				
21.成績評価	１．中間課題　２０％【学習目標①に対応】 ＤＶＤの内容をまとめるとともに、それについての自分の意見を書く。 ２．中間レポート　４０％【学習目標②に対応】 自分が経験してきた教育内容や学校生活を、学習指導要領の変遷（教科書 pp.85-100 など）をもとに考察し、学校経験の自分史を書く。 ３．総括試験　４０％【学習目標①②③に対応】				
22.コメント	子どもたちのお手本となるような授業態度で受講すること。				
23.オフィスアワー	木曜日３時間目				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション　…　教科書 pp.15-20 ・講義の進め方、講義内容について理解する。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.21-23 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 2 回】	教育課程の概念と構造①　…　教科書 pp.21-23 ・教育課程の概念、役割、機能について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.24-31 を読んで、わからないところをチェックする。(120

		分）
【第 3 回】	教育課程の概念と構造②　…　教科書 pp.24-31 ・教育課程の構造と基本原理について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.23-24 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 4 回】	隠れたカリキュラム　…　教科書 pp.23-24 ・これまでの学校生活を振り返り、カリキュラムとして学んできたものを考える。 ・ワークショップ「学校で学んできたもの」	○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.32-38 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 5 回】	現行の学習指導要領・幼稚園教育要領　…　教科書 pp.32-38 ・学習指導要領の基本構造について理解する。	○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.97-100 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 6 回】	学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷①　…　教科書 pp.97-100 ・「総合的な学習（探求）の時間」について検討する。	○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.85-87 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 7 回】	学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷②　…　教科書 pp.85-87 ・小学校・中学校・高等学校学習指導要領の変遷（前半）を理解する。	○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.88-100 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 8 回】	学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷③　…　教科書 pp.88-100 ・小学校・中学校・高等学校学習指導要領の変遷（後半）を理解する。	○今回の授業の復習をする。（120 分）
【第 9 回】	学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷④ ・学習指導要領の変遷と学力との関連について考察する。	※【中間課題】ＤＶＤの内容をまとめるとともに、それについての自分の意見を書く。 ※【中間レポート】自分史を書く。（360 分） ○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.39-44 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 10 回】	学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷⑤ ・幼稚園教育要領の変遷を理解する。	○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.45-50 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 11 回】	教育課程の法と行政①　…　教科書 pp.39-44 ・教育課程編成について学ぶ。 ・子どもの実態や地域の実態などをふまえた教育課程を検討することの重要性について理解する。 ・教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.45-50 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 12 回】	教育課程の法と行政②　…　教科書 pp.45-50 ・教科書制度の歴史と概要について理解する。	○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.54-69 を読ん

		で、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 13 回】	教育課程の経営と評価　…　教科書 pp.54-69 ・カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価について理解する。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○これまでの学修内容について復習をする。(360 分)
【第 14 回】	総括試験	○これまでの学習内容について復習をする。(240 分)
【第 15 回】	まとめ ・これまでの復習を行い、本科目での学修到達度を認識する。	○総括試験の結果や中間レポートの評価などをふまえて、これまでの総復習をする。(120 分)

1.授業コード（ナンバリング）	PED209-A01	2.科目名	図画工作Ⅰ	3.単位数	1
4.授業担当教員	大西洋史				
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）　小学校一種 幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習(講義・実技を含む) 作品制作については、集中講義になる可能性あり		
16.履修制限	造形室の収容人数及び良好な活動環境を確保するために、履修者数を最大 48 人とします。人数が多い場合には、初回の授業で抽選を行います。				
17.授業の目的と概要	本科目では、図画工作科の「目標」「指導内容」「指導方法」「評価」を子どもの成長と表現・製作の発達といった観点や美術教育の歴史的変遷などから捉え直し，この教科の意味や価値についての認識を深めます。 その上で，題材や授業を具体的に構想する力や子どもの自発的・主体的な学習を保障しながら授業を展開する力など，図画工作科に関する理論的・実践的力量の形成をはかります。 特に、「造形遊び」、「絵や立体にあらわす」領域の題材について、製作を通して指導のポイントなどの理解を深め、授業を計画実施できる能力を養います。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律的で主体的な態度（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・図画工作科の指導理念，教材開発の視点，内容について理解を深めます。 ・子どもの視点に立った教科内容の理解を深め，図画工作科の具体的な指導方法の習得を目指します。 ・児童の造形発達の特徴について理解を深め、児童の造形活動や作品に対して受容、共感、反応する 力を養います。				
19.教科書・教材	①大橋功『美術教育概論（新訂版)』2018．ISBN978-4536601030 ②文部科学省『小学校学習指導要領解説図画工作編』日本文教出版 ③『小学校図画工作科教科書 1・2 上，1・2 下，3・4 上，3・4 下，5・6 上，5・6 下』日本文教出版 ①は「造形Ⅰ」(1 年春学期)、「「保育内容・表現Ⅰ」(2 年春学期)、「図画工作科Ⅰ」(2 年春学期)、「図画工作科Ⅱ」(2 年秋学期)、「造形Ⅱ」(4 年秋学期)、「教職実践演習（幼)」(4 年秋学期）と共通の教科書で、必ず購入すること。				
20.参考文献	辻泰秀『造形教育の教材と授業づくり』日本文教出版，2012．ISBN978-4-536-60056-9				
21.成績評価	①　受講ノート=10%（毎回の授業について感想や質問などを 200 字程度でまとめる） ②　グループワーク（模擬授業）＝20% ③　個人ワーク（活動①～⑩）=20% ④　作成した学習指導案=20% ⑤　提出課題の内容=30% ・それぞれの評価基準は，1 回目の授業で配布します。 ・①③④⑤は学科の学習目標達成，②は KUIS 学習ベンチマーク達成の評価に用いる				
22.コメント	○本講義では，実際の小学校での具体的な実践にも触れながら演習型の授業を行います。				

	○受講生を３～４人を基準とするグループに分け，協調自立学習として展開します。したがって，欠席や遅刻は自らの学習効果を損なうだけでなく，グループのメンバーへの迷惑になるということを十分自覚して責任ある態度で学習に参加しましょう。 ○作品を制作しながら学習することが多いので，汚れてもよい服装で参加しましょう。「自分・友達・教室を汚さない」が基本です。 ※受講者数を制限しますが、秋学期開講 の「図画工作 II」と併せて受講登録している人を優先します。 ※遠隔授業で対応できない内容については、集中講義になる可能性があります。 ※遠隔授業の場合、必要な用具（絵の具、クレパス、色鉛筆、用紙など）については自分で用意することになります。
23.オフィスアワー	木曜昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス(本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、 準備物、 課題提出の方法確認、受講上の留意点などについて) グループづくり 活動①「ならべてならべて!」(材料・素材からの造形遊び 1)	○提出課題と画像整理（60 分） ○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 2 回	活動②「つなげてつなげて!」(材料・素材からの造形遊び 2)	○提出課題と画像整理（60 分） ○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 3 回	活動③「こすりだしで遊ぼっ~フロッタージュ~」(技法・道具からの造形遊び 1)	○提出課題と画像整理（60 分） ○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 4 回	活動④「うつして遊ぼ～影遊び～」(技法・道具からの造形遊び 2) 活動⑤「ちぎってはって」(技法・道具からの造形遊び 3)	○提出課題と画像整理（60 分） ○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 5 回	「造形的遊び」のねらいと特徴について　　教科書 pp.122～127 授業づくり①「造形遊び」領域の授業づくり 教科書 p.114～121	★学習指導案の作成（60 分） ○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 6 回	活動⑥「アニメーションをつくろう」(絵や立体にあらわす 1)	○提出課題と画像整理（60 分） ○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 7 回	活動⑧「型紙を使って描こう~ステンシル~」(絵や立体にあらわす 2)	○提出課題と画像整理（60 分） ○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 8 回	活動⑨「おいしいおべんとう～粘土でつくろう」(絵や立体にあらわす 3)	○提出課題と画像整理（60 分） ○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 9 回	活動⑩「回して刷って(回転版画)~3 原色の妙~」(絵や立体にあらわす 4) その 1	○提出課題と画像整理（60 分） ○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 10 回	活動⑩「回して刷って(回転版画)~3 原色の妙~」(絵や立体にあらわす 4) その 2	○提出課題と画像整理（60 分） ○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 11 回	「絵や立体にあらわす」のねらいと特徴について　教科書 pp.128～131 授業づくり②「絵や立体にあらわす」領域の授業づくり	★学習指導案の作成（60 分） ○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 12 回	授業をつくる① 指導案の書き方と留意点について　教科書 pp.112～117	★◎学習指導案の作成（60 分） ○復習及び授業ノートの整理（60 分）

第 13 回	授業をつくる② 模擬授業・リフレクションⅠ	○模擬授業の振り返り（60 分） ○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 14 回	授業をつくる③ 模擬授業・リフレクションⅡ	○模擬授業の振り返り（60 分） ○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 15 回	授業をつくる④ 模擬授業の評価とリフレクション 本講義の振り返り	○復習及び授業ノートの整理（60 分）

1.授業コード（ナンバリング）	PED212-A01	2.科目名	算数Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	上原昭三				
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）　小学校一種幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	＜授業の目的＞ 小学生に興味深い算数指導を行うために、算数科の具体的な内容（教材）について理解を深め、必要な知識や考え方を身につけることを目的としています。 ＜授業の概要＞ この科目では、授業の目的を達成するため、講義、演習を通して次の①～④を行います。 ①算数指導を行うという視点で、算数の内容（知識や概念）について、改めて調べたり考察したりする。 ②児童に興味を持たせ、算数授業を深めるための算数・数学に関する知識や理論について学ぶ。 ③算数で子どもが「つまずきやすい事柄」について、調べたり考察したりす				
18.学習目標とＤＰとの関連	DP との関連：問題発見解決力、専門知識の活用力 【学習目標】 (1)学習指導要領等に記された算数科の具体的な内容に関する知識や概念および指導の工夫や考え方などについて説明することができる。 (2)算数科で指導される課題について、算数的な知識・技能・考え方を活用し解決することができる。また、その過程をわかりやすく説明することができる。 (3)「主体的」で「深い」学びに資する算数の具体的な教材を提案することができる。				
19.教科書・教材	特に指定しない				
20.参考文献	特に指定しない				
21.成績評価	ワークシート：30%・・・（1）（2）（3）に対応 発表の振り返り：30%・・・・（1）（3）に対応 教材作り：40%・・・・（1）（2）（3）に対応				
22.コメント	○ＰＣを常に準備するようにしてください。 ○座席指定です。 ○自ら考え，グループで考え，全員で考え，主体的に「考える」ことを楽しもう。 ○間違いから学ぶことが多いです。間違いをよりよい解決へと高めていくことを，この授業に参加する全員の協同の目的としたいです。 ○よりよい解決に達することを目指しますが，「解けたらいい」「分かったらいい」という自分本意な取り組み方は認めません。「解けること」「分かること」が，同じ授業で学ぶ全体の財産にしようとする態度を求めます。				
23.オフィスアワー	火曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	オリエンテーション ■この講座の学習目標について	◎提示された算数の用語や概念について、事前に調べておく（120 分）

	■この講座の内容・方法・授業計画について ■評価の観点・方法 ■受講上の注意点 ■基礎力診断テスト，アンケート	
	◆算数・数学基礎力診断テスト、アンケート結果について ◆グループワークについて ・班分け ・課題の提示と発表形態、方法について説明 ◆算数指導の基礎知識① 　指導する立場から、算数の内容を考察してみよう。 　　数の構造、演算（加減乗除）	○復習…講義ノートを整理しながら授業内容を再度確認しておく（６０分） ◎提示された算数の用語や概念について、事前に調べておく（120 分）
	◆算数指導の基礎知識② 　指導する立場から、算数の内容を考察してみよう。 　　量と測定、図形	○復習…講義ノートを整理しながら授業内容を再度確認しておく（６０分） ◎提示された算数の用語や概念について、事前に調べておく（120 分）
	◆算数指導の基礎知識③ 　指導する立場から、算数の内容を考察してみよう。 　　関数、資料の活用	○復習…講義ノートを整理しながら授業内容を再度確認しておく（６０分） ◎身の回りにある算数場面を探しておく（120 分）
	◆身近にある「算数」をさがそう。 日常にある、算数場面を見つけ話しあう。 ・身近にある「算数」場面を見つける。 ・説明（どこがどのように算数なのか？）コメントを考える。 ・見つけた「算数」について話し合う。	○復習…講義ノートを整理しながら授業内容を再度確認しておく（６０分） ◎活動の振り返り・・・「身近な事象を算数教材として活用することについて」
	◆小学校プログラミング教育を体験しよう プログラミングソフトを使った、5 年生図形領域の学習を体験し、ソフトの使い方を習得する。さらに、次時でおこなう教材作りの構想を練る。	○復習・・・プログラミングソフトの使い方に慣れておく（６０分） ◎作成たい図形を構想する（120 分）
	◆算数科でのプログラミング教材をつくろう プログラミングを取り入れた授業に使える教材（課題）をつくり、その解説及び授業の流れ（案）を作成する。	◎教材づくりの作業を進めておく、また発表の準備をする（４８０分）
	◆作った教材を発表しよう 作成した教材について、趣旨や狙いなども含めを発表する。	◎発表後の意見や反省を踏まえて教材を修正する。（１８０分）
	◆算数におけるこどもの「つまずき」について考えよう① これまでの算数学習を振り返り、子供がつまずく場面（内容）について話し合う。	○復習…授業での意見交換をもとに子どもの「つまずき」について整理する（120 分） ◎「つまずき」に関する資料を探しておく（120 分）
	◆算数におけるこどもの「つまずき」について考えよう②	○復習…これまでの文献調査や意見交換をもとに子どもの「つまずき」について整理する

	こどもの「つまずき」関する先行研究について調べ、話し合う。	（120 分）
	◆「つまずき」を克服するためにに効果的な教材を作成しよう。 オンラインでも使える学習材と、それについての解説（狙いや工夫など）を作成する。	◎教材づくりの作業を進めておく（４８０分）
	◆「つまずき」を克服するためにに効果的な教材を作成しよう。 オンラインでも使える学習材と、それについての解説（狙いや工夫など）を作成する。	◎教材づくりの作業を完成させ、発表の準備をする（４８０分）
	◆「つまずき」を克服するためにに効果的な教材を作成しよう。 作成した教材についてグループで検討する。	◎　発表後の意見や反省を踏まえて教材を修正の上 WebClass 出する。（１８０分）
	◆「つまずき」を克服するためにに効果的な教材を作成しよう。 作成した教材についてグループで検討する。	◎　発表後の意見や反省を踏まえて教材を修正の上 WebClass 出する。（１８０分）
	◆まとめ 15 回の授業を振り返る。	

1.授業コード（ナンバリング）	PED222-A01	2.科目名	板書技術		3.単位数	2
4.授業担当教員	中西一彦、上原昭三、松尾和宣、吉田武大					
5.授業科目の区分	展開 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育学部			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	［目的］ 教育実習に向かう実践力を身につけることをめざす。 ［概要］ 教育現場において、黒板・電子黒板の活用は必要不可欠である。子供たちの学習指導を支援するのは、効果的な板書である。そこで、黒板の効果的な書き方、電子黒板の使い方を伝授する					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の(6)専門的知識・技能の活用力に関連しています。 板書技術の要領を把握することに努め、実習時に成果を発揮できるようにする。 A　板書縦書き B　　板書横書き C　板書用道具（定規、コンパス等）の使い方 D　電子黒板の使い方 それぞれの知識・技能を習得し、学習場面に応じて適切な板書を行えるようになることを目標とする。					
19.教科書・教材	授業時に適宜プリント等を配布する。					
20.参考文献	関連サイトの URL 等は授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	具体的な板書（3 回）25％×3＝75％ 電子黒板活用（1 回）25％×1＝25％					
22.コメント	教育実習に行った際に「先生、字が上手だね」と子どもたちから言ってもらえましたという先輩受講生の報告もありました。時間を見つけては黒板に向かう姿勢を持って臨んでください。					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	A　板書縦書き　中西先生 B　　板書横書き　松尾先生 C　板書用道具（定規、コンパス等）の使い方　上原先生 D　電子黒板の使い方　吉田先生 以上 4 通りのパターンを、受講者は 4 グループに分かれ、3 回 1 セットのローテーションによって、すべてのパターンを受講する。 1 セットは、模範例および書き方・使い方説明→演習・練習→成果を示す（評価）の形で行う。 全体：オリエンテーション（全体集合場所は WEBCLASS にて連絡）	○板書技術についての説明を記録し、まとめる。(120 分) ○各担当者からの次時への課題を行う。(120 分)

	グループ分け・ローテーション順決定 板書技術を身	
第 2 回	A 板書縦書き 1（主に国語：中西担当）模範例および書き方説明	◎グループによる練習と相互批正（240 分）
第 3 回	A 板書縦書き 2（主に国語：中西担当）演習・練習	○各自実技課題練習（240 分）
第 4 回	A 板書縦書き 3（主に国語：中西担当）実技テスト	○板書縦書きの要領を記録にまとめる。（120 分） ○次期担当者からの課題を行う。（120 分）
第 5 回	B 板書横書き 1（主に社会：松尾担当）模範例および書き方説明	◎グループによる練習と相互批正（240 分）
第 6 回	B 板書横書き 2（主に社会：松尾担当）演習・練習	○各自実技課題練習（240 分）
第 7 回	B 板書横書き 3（主に社会：松尾担当）実技テスト	○板書横書きの要領を記録にまとめる。（120 分） ○次期担当者からの課題を行う。（120 分）
第 8 回	全体：中間ふり返り（指示された教室に全員集合）	○中間のふり返りを受けて不十分な部分を補うとともに、これまでの記録を整理する。（240 分）
第 9 回	C 板書用道具の使い方 1（主に算数：上原担当）定規やコンパス等の使い方説明	◎グループによる練習と相互批正（240 分）
第 10 回	C 板書用道具の使い方 2（主に算数：上原担当）演習・練習	○各自実技課題練習（240 分）
第 11 回	C 板書用道具の使い方 3（主に算数：上原担当）実技テスト	○板書用道具の使い方の要領を記録にまとめる。（120 分） ○次期担当者からの課題を行う。（120 分）
第 12 回	D 電子黒板の使い方 1（吉田担当）使い方の模範例と説明	◎グループによる使い方練習（240 分）時間指定あり
第 13 回	D 電子黒板の使い方 2（吉田担当）活用練習	◎グループによる活用練習（240 分）時間指定あり
第 14 回	D 電子黒板の使い方 3（吉田担当）活用テスト	○電子黒板の使い方の要領を記録にまとめる。（120 分） ○「板書技術からの学び」を考える。（120 分）
第 15 回	全体：リフレクション（指示された教室に全員集合） 「板書技術からの学び」についてグループワーク後に全体発表。	○「板書技術からの学び」について、全体リフレクションをふまえて、記録にまとめる。（240 分）

1.授業コード（ナンバリング）	PED223-A01	2.科目名	生活	3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣				
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校生活科の目標を理解し、指導力の基礎を身に付けることを目的とします 【概要】 〇小学校生活科の成立過程から、幼稚園･保育園所との接続の重要性について学ぶ 〇生活科の単元の概要を捉える 〇学習内容に応じた活動計画の作成・活動案を立案する 〇模擬授業やグループワークなどの体験を通して、授業の奥深さや面白さを体感する				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP①自律性　④問題発見･解決力　⑥専門的知識･技能の活用力に関連しています (1)生活科成立の背景を知り、生活科の目標について説明することができる (2)単元構成を考え、学習活動案を作成することができる (3)生活科の学習評価の在り方を説明できる。 (4)グループ活動を通して、教材開発に取り組むことができる				
19.教科書・教材	〇適宜資料を配布				
20.参考文献	〇文部科学省学習指導要領 〇講義の中で資料を適宜配布				
21.成績評価	評価のｊ方法と配点は次の通りです ・毎時間の授業ワークシートの作成　２０％《学習目標(1)に対応》 ・レポート「小１プロブレムについて　１０％《学習目標(1)に対応》 ・レポート「まちたんけん」について　１０％《学習目標(3)に対応》 ・学習活動案の作成　２０％《学習目標(2)(4)に対応》 ・総括試験　４０％《学習目標（3）に対応、総括》				
22.コメント	〇生活科について学ぶことは、子どもを中心とした授業や指導・支援の原点をまなぶことです。また、みんなと学びあう時間を共有することが大切です。１時間目から１５時間目までしっかりと出席すること。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	オリエンテーション 〇生活科Ｉの学習概要について 〇受講のルールについて 〇シラバスの解説	〇生活科的、自己紹介（子ども向け）を考えてくる（90 分）
【第２回】	生活科の特徴とは 〇『単元名』から考える	〇本時のふり返りと学びのまとめ（90 分）

	○グループワークで情報交換 ○ワークシートの作成	
【第３回】	teacher or educator の問題 ○『身近な生きもの探検』から ○グループワークで情報交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りと学びのまとめ（90 分）
【第４回】	生活科のキーワード ○『気づき』の重要性 ○実践事例：「チューリップの観察」について検討する。 ○グループワークで情報交換 ○ワークシートの作成	○小課題：「小一プロブレム」について調べ、A4；1 枚の小レポート作成をする（180 分）
【第５回】	「小一プロブレム」について考える ○グループワークで情報交換と討議 ●小課題：「小一プロブレム」についての提出 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りと学びのまとめ（90 分）
【第６回】	子どもたちの発達と生活科 ○「絵」を比較検討して、子どもたちの発達と低学年特有の学習意欲について考える ○グループワークで情報交換と討議 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りと学びのまとめ（90 分）
【第７回】	生活科のねらい ○「気付き」とその階層について考える ○グループワークで情報交換と討議 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りと学びのまとめ（90 分）
【第８回】	生活科の教科目標① ○「目標設定」とその背景について考える ○グループワークで情報交換と討議 ○ワークシートの作成	◎小課題：「町探検」と子どもの対応について考えをまとめ、A4；1 枚の小レポート作成をする（240 分）
【第９回】	生活科の教科目標② ○「目標」の分類と特徴 ○グループワークで情報交換と討議 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りと学びのまとめ（90 分）
【第１０回】	生活科と体験活動① ○実践事例：「○○の芽はどこから出るのか？！」について検討する。 ○グループワークで情報交換と討議 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りと学びのまとめ（90 分）
【第１１回】	生活科と体験活動②	◎グループワーク；アンケートの仕上げ（240

	○子どもたちの生活や体験をしるためにアンケートをつくる。 ○グループワークで情報交換と討議 ○ワークシートの作成	分）
【第１２回】	生活科と体験活動③＆内容の全体構成 ○作成したアンケートの発表と討議 ●アンケート用紙の提出（各グループごと） ○ワークシートの作成	○本時のふり返りと学びのまとめ（90 分）
【第１３回】	生活科年間指導計画 ○年間計画作成上の配慮事項 ○グループワークで情報交換と討議 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りと学びのまとめ（90 分）
【第１４回】	○年間計画作成上の配慮事項 ○グループワークで情報交換と討議の続き ○まとめのテスト	○本時のふり返りと学びのまとめ（60 分)）
【第１５回】	これまでの学びの総まとめ ○グループワークで情報交換と討議 ○ワークシートの作成	○学習の総まとめ（180 分）

1.授業コード（ナンバリング）	PED224-Y71	2.科目名	総合的な学習の時間の指導法（中・高）		3.単位数	1	
4.授業担当教員	常陰則之						
5.授業科目の区分	自由科目	6.必修・選択の区分	教職必修	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期		
8.履修可能な専攻	教職			9.履修学年	2 年～		
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　中学(英語)　中学(社会)　高校（情報）		11.先修条件	教職課程に関する科目			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義			
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	【目的】各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。 【概要】「総合的な学習（探求）の時間」は、実社会・実生活の課題を、広範な視野、多様な視点から捉え、各教科等で育まれてきた様々な事物・事象への認識・理解・思考・判断・表現・処理などの諸力を横断的に働かせながら探究し、具体的な解決や実現を目指す学びを通して、よりよい自						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 〇総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割についての説明できる（教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から）。 〇学習指導要領における総合的な学習（探求）の時間の目標並びに、各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点についての説明できる。 〇各教科等との関連性を図りながら総合的な学習（探求）の時間の年間指導計画を作成することの重要性についての、具体的な事例を通して理解し、年間指導計画が作成できる。 〇主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習（探求）の時間の単元計画を作成することの重要性についての、具体的な事例を通して理解し、単元計画が作成できる。 〇探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てについて説明でききる。 〇総合的な学習（探求）の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点についての説明できる。						
19.教科書・教材	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説【総合的な探究の時間編】（文部科学省） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開　高等学校編　―総合的な学習の時間を核とした課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等向上に関する指導資料―（文部科学省、教育出版） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/main14_a2.htm						
20.参考文献	高等学校キャリア教育の手引き（文部科学省） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1312816.htm 改訂版「命の大切さ」を実感させる教育への提言（兵庫県教育委員会） https://www.hyogo-c.ed.jp/~inochi/index.html SSH 研究開発実施報告書（兵庫県立加古川東高等学校） https://www.hyogo-c.ed.jp/~kakohigashi-hs/sciencemath_ssh.html						
21.成績評価	評価方法と配点は以下のとおりですが、「受講態度が好ましくない」「最終個別課題を提出していない」の場合は、評価の対象とならない。 ①各回授業での受講態度（様々なねらいや形態で行われるグループワークやアクティビティー						

	への主体的参加・貢献の様子を含む）＜30%＞ ②各回授業毎のリアクションシートの記述内容＜30%＞ ③「最終個別課題：講義の主題や重点事項を形式や内容に充分反映させた学習（探求）指導単元案（具体的な要件等については最終段階の講義内で説明)」の量的・質的完成度＜40%＞
22.コメント	自らが小・中・高で経験してきた総合的な学習の時間での学びの記憶や実感を想起し、各回の主題や具体的内容に重ねながら、学修課題に主体的に取り組むこと。 授業はアクティブラーニング的に実施するので、授業への積極的な参加を期待します。
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	「総合的な学習（探求）の時間」ガイダンス ○ 意義と目標、学習指導要領とその法的仕組み、各教科・校 務分掌との関連（講義・グループワーク） 目標・内容を定める際の考え方や留意点 ○ 教育課程への位置づけと学習原理（講義・グループワーク） 教科を越えて必要となる資質・能力	ノート PC を持参 【予習】 教科書の該当部分をよく読んで、整理しておく。 【復習】 学修ノート等の整理
第 2 回	全体計画とカリキュラム・マネジメント 「総合的な学習（探求）の時間」の年間指導計画と評価 ○ 年間指導計画、実践、評価の在り方、指導技術のまとめ（講義・グループワーク） 各教科等との関連を図った年間指導計画 生徒の学習状況の分析と評価 ○ アクティブラーニングによる授業改善（講義・グループワーク） グループワークのプロデュースとマネジメント グループワークによる探究サイクルの構築 グループワークにおける論理性の獲得 ○ 実施後の経緯と現状としての諸課題（講義・グループワーク）	ノート PC を持参 【予習】 教科書の該当部分をよく読んで、整理しておく。 【復習】 学修ノート等の整理
第 3 回	単元の指導計画 仮想テーマの設定 ○ 高等学校における「総合的な学習（探求）の時間」（講義・ペアワーク・グループワーク） 「命の大切さ」を実感させる教育 キャリア教育 探究活動 ○ 実社会や実生活の諸課題に基づいてグループで共有する「テーマ」の立ち上げ （グループワーク） 探究諸課題に基づいて、具体的に取り組むべき体験学習や調べ学習などを見極め、役割分担の中に意識化	ノート PC を持参 【予習】 自分の中学校・高等学校時代に受けた総合的な学習の時間を整理しておく。 ★レポート提出（個人） 【復習】 学修ノート等の整理 「テーマ」を実施するための課題の検討
第 4 回	事例の紹介（いじめ・?殺予防、命の?切さ、探求、キャ リア教育、NHK for School） 年間指導計画及び実践案Ⅰ	ノート PC を持参 【予習】 教科書の該当部分をよく読んで、整理しておく

	○ 教科等との連携による「知識・言葉」の学びの学際（横断）化（講義・グループワーク） テーマ設定と各教科・領域との関連、単元構成の在り方、単元構成の具体	年間指導計画案の作成検討 【復習】 学修ノート等の整理 年間指導計画案の作成検討
第 5 回	指導の工夫 年間指導計画及び実践案 II ○ 機能的体験活動による「実際・生活」の学びとの一連化（講義・グループワーク） テーマ設定と展開、地域との連携	ノート PC を持参 【予習】 年間指導計画案の作成検討 【復習】 学修ノート等の整理 ★年間指導計画及び実践案（グループ毎）
第 6 回	評価の在り方 単元案の作成 I ○ ICT の活用（講義・グループワーク） 有効な手立ての選択と活用力の伸長 ○ 単元案の作成（ペアワーク・グループワーク） PDCA サイクルを活用した展開など	ノート PC を持参 【予習】 教科書の該当部分をよく読んで、整理しておく 単元案の構想 【復習】 学修ノート等の整理 単元案プレゼンの検討
第 7 回	単元の紹介と単元の指導計画の作成 単元案の作成 II ○ 単元案の作成（グループワーク） 生徒を意識しながら ○ 単元案プレゼンの作成（グループワーク） 生徒・教師を意識しながら	ノート PC を持参 【予習】 単元案プレゼンの検討 【復習】 学修ノート等の整理 ★単元案の提出（個人） ★単元案プレゼンの提出（個人）
第 8 回	単元の指導計画の作成・発表 プレゼン発表、相互評価 ○ 単元案プレゼン発表(個人またはグループ) ○ 単元案プレゼン相互評価・教員講評 ○ 授業のまとめ	ノート PC を持参 【予習】 単元案プレゼンの検討 【復習】 学修ノート等の整理 ★相互評価の提出（個人）

1.授業コード（ナンバリング）	PED301-A01	2.科目名	初等社会科教育法		3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣					
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校教師として社会科の目標を理解し、授業の基礎を身に付けることを目的とします。 【概要】 〇小学校社会科の基本理念（目標・内容等）について学ぶ。 〇学習内容に応じた指導計画の作成法。指導計画に基づく指導案の作成。 〇作成した指導案の検討・分析などを通して、授業技術について学ぶ。 〇模擬授業やグループワークなどの体験を通して、授業の奥深さ、面白さを体感する。					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、ＤＰの（1）自律的で主体的な態度（6）専門的知識･技能の活用力の学習に関連しています。 ①小学校社会科の全体目標や学年目標、各学年の学習内容などを説明することができる。 ②小学校社会科の目標に則し授業計画を立案することができる。 ③グループワークとして相互に模擬授業を提案する ④知り得た内容に刺激を受けて、新たな疑問や関心をもち教材開発ができる					
19.教科書・教材	①適宜、資料を配布します ②その他関連サイトの URL や関連資料について授業中に適宜紹介します					
20.参考文献	〇文部科学省学習指導要領（社会編） 〇講義の中で適宜提示する					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです ・毎時間の授業ワークシートの作成　２０％【学習目標①に対応】 ・課題１：社会科新聞「わたしのまち自慢」　１０％【学習目標④に対応】 ・課題２：指導略案①　１５％【学習目標②③に対応】 ・課題３：指導略案②　１５％【学習目標②③に対応】 ・総括試験　４０％【学習目標①⑤に対応】					
22.コメント	〇授業とは奥深いものです。この講義を通して、社会科学習のおもしろさ、難しさなどを一緒に体験しましょう。小学校学習指導要領での授業改善の視点として挙げられている「主体的・対話的で深い学び」について皆さんと共に考えを深めていきたいと思います。１時間目から１５時間目までしっかり出席して、仲間と時間と場を共有できる人を待っています。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や研究室等で、受講生からの質問等への対応をします。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)

【第１回】	オリエンテーション ・受講のルールについて　・講義の概要について（シラバス） ・小学校社会科の目標について ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第２回】	社会科指導計画・指導案の作成　具体的な手順・作成方法 ・「一枚の絵」を使った授業（「3・４年生の内容」から） ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第３回】	3.・4 年の学習内容と指導計画づくり ・実践事例研究：「○○施設って」 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○小課題①（120 分） ○本時のふり返りとまとめ（60 分）
【第４回】5/2	3.・4 年の学習内容と指導案づくり① ・実践事例研究：「地図」の授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第５回】	3.・4 年の学習内容と指導案づくり② ・実践事例研究：「都道府県名」の授業① ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第６回】	3.・4 年の学習内容と指導案づくり③ ・実践事例研究：「都道府県名」の授業② ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第７回】	3.・4 年の学習内容と指導案づくり④ ・実践事例研究：「スーパーマーケットで働く人」の授業 ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第８回】	3.・4 年の学習内容と指導案づくり⑤ ・実践事例研究：「スーパーマーケットで働く人」の授業 ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業　・ワークシートの作成	○小課題１「お店の仕事」指導略案作成

【第９回】	3・4 年の学習内容と指導案づくり⑥ ・実践事例研究：「安全なくらし」の授業①～標識あれこれ～ ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第１０回】	3・4 年の学習内容と指導案づくり⑦ ・実践事例研究：「安全なくらし」の授業②～火事を防ぐ～ ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	◎小課題②「写真から指導略案をつくる」（180 分） ○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第１１回】	3・4 年の学習内容と指導案づくり⑧ ・実践事例研究：「安全なくらし」の授業③～尼崎市の火災統計から～ ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第１２回】	指導計画・指導案づくり①（模擬授業に向けて） ・実践事例研究：「健康なくらし」の授業① ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第１３回】	指導計画・指導案づくり②（模擬授業に向けて） ・実践事例研究：「昔のくらし」の授業 ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第１４回】	総括試験 「むかしのくらし」模擬授業ふりかえり	
【第１５回】	総まとめ ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○　全時のふり返りと総まとめ（240 分）

1.授業コード（ナンバリング）	PED302-A01	2.科目名	初等算数科教育法	3.単位数	2
4.授業担当教員	上原昭三				
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）　小学校一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	＜授業の概要＞ 小学校で実際に算数の授業を行うこと（教育実習含む）を念頭に置いて、それに必要な知識・技能・考え方について、学習指導要領等を踏まえて理論的に学ぶとともに、模擬授業づくりなどのグループワークや演習を通して実践的に磨いていく。 ＜授業の目的＞ 算数科における教育目標、目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる数学の理論や法則と関連させて理解を深めるともに算数教育の理論をはじめとしたさまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を				
18.学習目標とＤＰとの関連	DP との関連：問題発見解決力、専門知識の活用力 （学修目標） ①学習指導要領における算数科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 ②学習内容について指導上の留意点や評価の考え方を理解している。　. ③数学の理論や法則（中・高で学ぶ内容を含む）との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 ④子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 ⑤算数の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 ⑥学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 ⑦模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。				
19.教科書・教材	必要に応じて、プリント等を用意します				
20.参考文献	小学校学習指導要領解説（算数編）				
21.成績評価	○ワークシート：15%…①②③④ ○小課題「算数科１単元についての教材観」：10%…①③④ ○ICT を活用した算数教材づくり：15%…①③⑤ ○模擬授業：20%…②④⑤⑦ ○模擬授業の展開例：15%…⑥ ○模擬授業指導案：15%…⑥⑦ ○模擬授業の振り返り：10%…②④⑤⑦				
22.コメント	○グループを組んで学習を進めていきます。座席を指定します。 ○よりよい算数の授業について考えよう。 算数Ⅰおよび、これまでに学んだ教職科目（教育学概論、発達心理学、教育心理学、教職概論　初等教育課程論　初等教育方法論　等）について復習したうえで受講してほしいと考えています。				
23.オフィスアワー	火曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第１回　オリエンテーション ・授業の概要、学修目標、授業の進め方	○小学校学習指導要領解説（算数編）第２章第１節「算数科の目標」と小学校算数教科書（図書館にある）に目を通し、双方に書かれていることがどのようにつながっているのか考えておく。（１２０分）
	第２回　学習指導要領を検討しよう ・算数教育の目標 　具体的な算数科の内容を意識しながら、指導要領に書かれた算数教育の目標の意味するところを解釈し、6年間で児童にどんな学力を身につけさせるべきか検討する。	○指導要領に書かれた「第○学年の目標」が具体的に児童のどのような状態を示しているのか教科書の記述などを参考にしながら具体例を考えておく。（１８０分） ○小学校学習指導要領解説（算数編）第２章、第３章に目を通し、各領域（数と計算、量と測定、図形、数量関係）の系統性を整理し、中・高校の内容にどのようにつながっていくのか考えておく。（１２０分）
	第３回　学習指導要領を検討しよう ・算数教育の内容 学習指導要領解説（算数編）を基にしながら、各学年の内容を検討し 6 年間の算数教育の系統性や指導上の留意点について考察する。また、中学校・高校で学ぶ数学の内容や数学的理論・法則との繋がりについても整理する。	
	第４回　授業づくりの方法を学ぼう ・教材研究の意義と方法 算数授業の作り方、考え方、また教材研究、について学ぶ ・教具、学習の形態・方法について ＩＣＴを活用した、教材作りや授業方法またアクティブラーニングを取り入れた学習形態・方法についての考え方や留意点について実践例を検討しながら学ぶ。	○第４回まで内容踏まえ、指定する算数科単元について教材研究し、教材観としてまとめる。（３６０分）WebClass 提出（詳細は授業で説明）
	第５回　授業づくりの方法を学ぼう ・授業の技術（発問、板書、教具） 発問、板書などの指導技術や教具等、　実際に授業を作っていくうえで必要な具体的知識・技能・考え方について学ぶ。	
	第６回　指導計画・指導案作成の方法 ・指導と評価の一体化を目指した授業計画 学習評価の意義と考え方、観点別の指導目標と評価規準の作り方、評価を見据えた授業の進め方等、指導と評価の一体化の視点に立った単元及び本時の指導案作りについて学ぶ。 ・良い指導案の書き方とそれに向けての考え方 指導案を書く目的や意義やよい授業につながる分かりやすい指導案作成の方法について、具体例を参照しながら学ぶ ・模擬授業に向けて 　グループ分け、担当学年・教材の選択	◎選択した教材を分析し、模擬授業の構想を話しあう（１８０分）
	第７回　授業を見る目を養おう	◎選択した教材を分析し、模擬授業の構想を

	実際に行われた授業の記録（教師の発問と児童の発言）を読みながら、教師の意図やねらい、技術について検討する	話しあう（１８０分）
	第８回　授業を見る目を養おう 達人（経験豊富な教員）の授業映像を観察しその意図やねらい、技術について検討する。	◎模擬授業台本づくりにむけて、具体的な発問や児童の反応を細かく予想しておく（１８０分）
	第９回　算数授業をつくろう① ・前時で行った構想に基づいて、指導と評価の計画、および具体的な授業の台本や板書計画をつくる ・必要に応じて教具なども作成する	◎模擬授業台本、板書計画を完成し、リハーサルを行うなど具体的に準備する（３００分）
	第１０回　算数授業をつくろう② ・前時で行った構想に基づいて、指導と評価の計画、具体的な授業の台本や板書計画をつくる ・必要に応じて教具なども作成する	◎模擬授業台本、板書計画を完成し、リハーサルを行うなど具体的に準備する（３００分）
	第 11 回　模擬授業をしよう ・いくつかの班で 1 つの大きなグループを作り、1 班ずつ残りの班の学生相手に模擬授業を行う。 ・1 班 30 分程度× 2 班が発表する ・発表後、全員で授業について検討を行い優れた点や問題点を出し合う	○模擬授業後の検討を踏まえ、振り返りをまとめる。　（３６０分）WebCiass へ提出
	第 12 回　模擬授業をしよう ・いくつかの班で 1 つの大きなグループを作り、1 班ずつ残りの班の学生相手に模擬授業を行う。 ・1 班 30 分程度× 2 班が発表する ・発表後、全員で授業について検討を行い優れた点や問題点を出し合う	○模擬授業後の検討を踏まえ、振り返りをまとめる。　（３６０分）WebCiass へ提出
	第１3 回　模擬授業をしよう ・いくつかの班で 1 つの大きなグループを作り、1 班ずつ残りの班の学生相手に模擬授業を行う。 ・1 班 30 分程度× 2 班が発表する ・発表後、全員で授業について検討を行い優れた点や問題点を出し合う	○模擬授業後の検討を踏まえ、振り返りをまとめる。　（３６０分）WebCiass へ提出
	第１4 回　模擬授業の振り返り ・班ごとに、模擬授業を振り返り、目標、教材、指導方法、発問、板書、評価などについて再度検討する。 ・検討の結果をもとに、指導案を修正する。	○教材観，本時展開例を修正するともに児童観，指導観，指導と評価の計画等を加筆し、模擬授業指導案を完成させる。（３６０分）WebCiass へ提出する。（詳細は授業で提示）
	第１５回　まとめ 　１４回の授業をふりかえり、児童にとっても教師（自分自身）にとっても「よい」算数の授業を行うために、課題とすべき点についてできるだけ具体的に検	○教材観，本時展開例を修正するともに児童観，指導観，指導と評価の計画等を加筆し、模擬授業指導案を完成させる。（３６０分）WebCiass へ提出する。（詳細は授業で提示）

	討し、交流しあう。	

1.授業コード（ナンバリング）	PED303-A01	2.科目名	初等理科教育法	3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	幼稚園教諭、小学校教諭		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	（目的）小学校理科では、見通しを持って観察、実験などを行い、自然を愛する心情を育てるとともに、科学的な見方や考え方を養うことが目標である。指導にあたっては、①日常生活と関連付けるなど児童が自分なりの考えを持って学習に臨むこと、②自然に親しめるよう楽しく学習できること、が重要である。本講義では、この２点重点を置き、小学校理科の指導に関して、教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、小学校理科の学習内容に関する理解を深めるとともに、評価方法や教材研究の方法を知り、授業設計を行う力を見につけることをねらいとする				
18.学習目標とＤＰとの関連	①小学校理科の目標及び内容を理解し、資料を用いながら説明することができる。 ②小学校理科の指導方法及び安全指導について理解し、その要点を説明することができる。 ③指導計画、指導案の作成方法を理解し、具体的な授業を想定した指導案とＴＰ案を作成することができる。 ④小学校理科の内容理解のために、物理学の基礎的な現象を理解し、授業で取り扱った問題を解くことができる。				
19.教科書・教材	＊下記の教科書を必ず購入してください。ただし、2020 年度以降のものであれば最新版でなくても構いません。 【教科書】・オープンセサミシリーズ教員採用試験対策参考書６小学校全科【教科書販売あり】（授業内の演習で使用します。） 【参考書】・教職教養の要点理解 2025 年度版（時事通信社）【教科書販売あり】採用試験対策として活用してください。 【その他】 ・小学校学習指導要領解説理科編（文部科学省、インターネットからダウンロード可)、小学校理科の観察，実験の手引き詳細（文部科学省、インターネットからダウンロ				
20.参考文献	・小学校の教科書（３、４、５、６学年） ・「今こそ理科の学力を問う」日本理科教育学会、東洋館出版社（2012/8/10） ISBN-13: 978-4491028279 ・「現代理科教育改革の特色とその具現化―世界の科学教育改革を視野に入れて」橋本 健夫、川上 昭吾、鶴岡 義彦、東洋館出版社（2010/08） ISBN-13: 978-4491025803 ・「クラスが元気になる！「学び合い」スタートブック」西川　純、学陽書房 ISBN-13: 978-4313652101				
21.成績評価	１．学習成果レポート（２５％） ワークシートに指示された内容を記述し、期日までに提出する。 ２．模擬授業（１０％）グループ 授業を分かりやすくするための教材準備を行い、模擬授業をグループ員と協力して行うことができる。 ３．中間試験（１５％） 小学校理科の目標、内容、指導方法、安全指導について、資料を閲覧しながら説明でき				

	る。物理学の基礎的な現象について、問題を解くことができる。 ４．学習指導案、TP 案（１０％） 指導案をグループ員と協力して作成することができ、その内容に従い、個人でＴＰ案を作
22.コメント	・科学技術は日々進歩し生活を豊かにしてきましたが、課題も多くさらなる発展が必要です。また、科学的な見方・考え方や理科教育法の教育方法は日常生活のいろいろな場面で役に立つとともに、他の教科の指導にも有効です。身近で楽しい理科授業の実践のために、理科教育法の基礎を楽しみながら学んで下さい。 ・予備実験や試してみたい実験があれば、理科室の利用が可能です。 ＊対面授業が出来ない場合は、授業方法・内容を大きく組み替えます。 成績評価の割合は、別途授業中に示しますが、Webclass への提出物が大きな割合を占めますので、提出物をきちんと提出してください。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ・初等理科教育法の目的、方針について ・成績評価について ・理科教育の目的、歴史	○現行の学習指導要領解説　理科編の第 2 章第 1 節までを読み、理科の目標についてまとめること。(60 分)
第 2 回	学習指導要領と理科の内容 ・現行の学習指導要領の目標と内容 ・学習指導要領の変遷 ・国際比較調査と中央教育審議会の答申	○授業における観察、実験の役割と実験に対する自身の考えをまとめること。(60 分)
第 3 回	理科教育の指導方法 ・理科の指導方法と観察・実験の役割 ・子どもとのコミュニケーション ・理科の評価方法 ・教材研究への取り組み方 1（教育内容・キーワード、ねらい、基本実験、身近な教材、最先端科学、学び合い）	○物理基礎 1 の範囲の予習。(60 分)
第 4 回	授業設計基礎 1 ・単元構成と授業設計 ・物理基礎 1	○物理基礎 2 の範囲の予習。(60 分) ○実験・野外学習の際の安全に関する課題。(90 分)
第 5 回	授業設計基礎 2 ・理科学習指導案の内容と作成方法、情報機器の活用方法 ・教材研究への取り組み方 2 ・物理基礎 2	○物理基礎 3 の範囲の予習。(60 分)
第 6 回	授業設計基礎 3 ・発問の重要性及び TP 案の意義と作成方法 ・教材研究への取り組み方 3 ・物理基礎 3	◎次回までに担当グループは模擬授業の準備を行うこと。(180 分) ○物理基礎 4 の範囲の予習。(60 分)
第 7 回	中間試験 ・中間試験（学習指導要領、理科教育方法及び物理基礎 4 まで） ・安全指導の基本と発展	中間試験の準備をしっかり行うこと。(120 分)
第 8 回	教材研究と実践 1	◎次回までに担当グループは模擬授業の準備

	・理科内容（3 年)、模擬授業 ・物理基礎 4	を行うこと。(180 分) ○物理基礎 5 の範囲の予習。(60 分)
第 9 回	教材研究と実践 2 ・理科内容（4 年)、模擬授業 ・物理基礎 5	◎次回までに担当グループは模擬授業の準備を行うこと。(180 分) ○物理基礎 6 の範囲の予習。(60 分)
第 10 回	教材研究と実践 3 ・理科内容（5 年)、模擬授業 ・物理基礎 6	◎次回までに担当グループは模擬授業の準備を行うこと。(180 分) ○物理基礎 7 の範囲の予習。(60 分)
第 11 回	教材研究と実践 4 ・理科内容（5 年)、模擬授業 ・物理基礎 7	◎次回までに担当グループは模擬授業の準備を行うこと。(180 分) ○物理基礎 8 の範囲の予習
第 12 回	教材研究と実践 5 ・理科内容（6 年)、模擬授業 ・物理基礎 8	◎次回までに担当グループは模擬授業の準備を行うこと。(180 分) ○物理基礎 9 の範囲の予習。(60 分)
第 13 回	教材研究と実践 6 ・理科内容（6 年)、模擬授業 ・物理基礎 9	○物理基礎１０範囲の予習。(60 分)
第 14 回	・理科指導のポイント ・物理基礎１０	・総括試験の準備をしっかりと行うこと。 (120 分)
第 15 回	初等理科教育法の振り返り ・理科の教育目標と理科教育研究 総括試験 試験内容： ・実験や野外活動における安全管理 ・学習指導案に関して ・TP 案 ・物理基礎４～１０	

1.授業コード（ナンバリング）	PED304-A01	2.科目名	初等生活科教育法	3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣				
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校教師として生活科の目標を理解し、指導法の基礎を身に付けることを目的とします 【概要】 〇生活科の基本理念について理解する。 〇生活科の学習指導に必要な基礎知識や教育技術について学ぶ 〇生活科の学習内容に応じた指導計画の作成法。指導計画に基づく指導案の作成法について学ぶ 〇作成した指導案の検討・分析などを通して、授業技術について学ぶ 〇発表活動やグループワークなどを通して、授業のおもしろさ難しさなどの体験をする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はＤＰの（1）自律性　（2）専門的知識･技能の学習に関連しています。 ①生活科の理念や成り立ち、変遷について興味を持ち、生活科の基本理念について説明することができる。 ②生活科の目標に則した授業プランを立案することができる ③グループワークとして相互に模擬授業を提案することができる ④知り得た内容に刺激を受けて、新たな疑問や関心をもち教材開発ができる				
19.教科書・教材	講義の中で適宜提示				
20.参考文献	〇文部科学省小学校学習指導要領（生活） 〇適宜資料を配布				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです ・毎時間の授業ワークの作成　２０％ ・指導作成案①　２０％ ・指導案作成②　２０％ ・総括試験　４０％				
22.コメント	〇毎時間、パソコンとイヤホン（ヘッドフォン）を準備しておきましょう。 〇低学年の子どもたちの発達特性に応じた、「生活科」の学習は、とてもおもしろいですよ。講義と言うものは、出てナンボの世界です。１時間目から１５時間目まで、しっかりと出席する意欲で受講してください。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や研究室等で、受講生からの質問等への対応をします。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	○オリエンテーション　講義の概要と受講のルールについて ・受講のルールについて ・講義の概要についての説明（シラバス）	○小課題：生活科的自己紹介の作成（90 分）
【第２回】	生活科の変遷 ・「単元名クイズ」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第３回】	生活科の基本理念 ・　「生活科ができて一番困ったのは？」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第４回】	生活科設立の背景 ・　実践事例研究：「学校探検」の検討 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第５回】	生活科と幼小の連携～小１ギャップの問題～ ・実践事例研究：「アサガオの栽培①」の検討 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○課題：「アサガオｗぽそだてよう」指導案作成（90 分）
【第６回】	グループでの中間まとめ①（小レポート作成） ・実践事例研究：「アサガオの栽培②」の検討 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第７回】	生活科「ヒト・モノ・コト」を関わる力 ・実践事例研究：「アサガオの栽培③」の検討 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第８回】	生活科の学習内容～生活実態調査から～ ・子どもの生活実態についての意見交換 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90 分） ◎生活調査のアンケート作成（180 分）
【第９回】	生活科授業の指導案づくり① ・実践事例研究：「身近な植物探検」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90 分） ◎「指導案」の作成（180 分）

【第１０回】	生活科授業の指導案づくり② ・実践事例研究：「身近な生き物その①」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90分） ◎「身近な自然」についての調査（180分）
【第１１回】	生活科の内容理解を深める① ・　実践事例研究：「身近な生き物その②」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90分）
【第１２回】	生活科の内容理解を深める② ・実践事例研究：「花や実の汁で遊ぼう」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：指導案作成「身近なものを使ってあそぼう」（90分）
【第１３回】	生活科の内容理解を深める② ・実践事例研究：「石で遊ぼう」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90分） ◎単元計画の作成（180分）
【第１４回】	テスト＆レポート	
【第１５回】	講義の総まとめ ・生活科の内容の階層性	○自己課題：総まとめ（180分）

1.授業コード（ナンバリング）	PED304-A71	2.科目名	初等生活科教育法	3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣				
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校教師として生活科の目標を理解し、指導法の基礎を身に付けることを目的とします 【概要】 〇生活科の基本理念について理解する。 〇生活科の学習指導に必要な基礎知識や教育技術について学ぶ 〇生活科の学習内容に応じた指導計画の作成法。指導計画に基づく指導案の作成法について学ぶ 〇作成した指導案の検討・分析などを通して、授業技術について学ぶ 〇発表活動やグループワークなどを通して、授業のおもしろさ難しさなどの体験をする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はＤＰの（1）自律性　（2）専門的知識･技能の学習に関連しています。 ①生活科の理念や成り立ち、変遷について興味を持ち、生活科の基本理念について説明することができる。 ②生活科の目標に則した授業プランを立案することができる ③グループワークとして相互に模擬授業を提案することができる ④知り得た内容に刺激を受けて、新たな疑問や関心をもち教材開発ができる				
19.教科書・教材	講義の中で適宜提示				
20.参考文献	〇文部科学省小学校学習指導要領（生活） 〇適宜資料を配布				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです ・毎時間の授業ワークの作成　２０％ ・指導作成案①　２０％ ・指導案作成②　２０％ ・総括試験　４０％				
22.コメント	〇毎時間、パソコンとイヤホン（ヘッドフォン）を準備しておきましょう。 〇低学年の子どもたちの発達特性に応じた、「生活科」の学習は、とてもおもしろいですよ。講義と言うものは、出てナンボの世界です。１時間目から１５時間目まで、しっかりと出席する意欲で受講してください。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や研究室等で、受講生からの質問等への対応をします。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	○オリエンテーション　講義の概要と受講のルールについて ・受講のルールについて ・講義の概要についての説明（シラバス）	○小課題：生活科的自己紹介の作成（90 分）
【第２回】	生活科の変遷 ・「単元名クイズ」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第３回】	生活科の基本理念 ・　「生活科ができて一番困ったのは？」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第４回】	生活科設立の背景 ・　実践事例研究：「学校探検」の検討 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第５回】	生活科と幼小の連携～小１ギャップの問題～ ・実践事例研究：「アサガオの栽培①」の検討 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○課題：「アサガオｗぽそだてよう」指導案作成（90 分）
【第６回】	グループでの中間まとめ①（小レポート作成） ・実践事例研究：「アサガオの栽培②」の検討 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第７回】	生活科「ヒト・モノ・コト」を関わる力 ・実践事例研究：「アサガオの栽培③」の検討 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第８回】	生活科の学習内容～生活実態調査から～ ・子どもの生活実態についての意見交換 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90 分） ◎生活調査のアンケート作成（180 分）
【第９回】	生活科授業の指導案づくり① ・実践事例研究：「身近な植物探検」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90 分） ◎「指導案」の作成（180 分）

【第１０回】	生活科授業の指導案づくり② ・実践事例研究：「身近な生き物その①」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90分） ◎「身近な自然」についての調査（180分）
【第１１回】	生活科の内容理解を深める① ・　実践事例研究：「身近な生き物その②」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90分）
【第１２回】	生活科の内容理解を深める② ・実践事例研究：「花や実の汁で遊ぼう」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：指導案作成「身近なものを使ってあそぼう」（90分）
【第１３回】	生活科の内容理解を深める② ・実践事例研究：「石で遊ぼう」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90分） ◎単元計画の作成（180分）
【第１４回】	テスト＆レポート	
【第１５回】	講義の総まとめ ・生活科の内容の階層性	○自己課題：総まとめ（180分）

1.授業コード（ナンバリング）	PED307-A01	2.科目名	理科Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教員免許状取得予定者			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	幼稚園教諭、小学校教諭			11.先修条件	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義、演習、実験
16.履修制限	人数上限：理科室収容人数				
17.授業の目的と概要	本演習では、主として，A　物質・エネルギーの領域で小学校理科の指導を行う上で、教師として習得していなければならない基本的な実験のスキルを中心に学びます。 また、小学校 4，5，6 年生の題材を取り上げ，模擬授業を行います。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	安全に留意し、主体的に実験に取り組む事ができる。 理科学習指導案を作成し、模擬授業を行う事ができる。 化学の基礎について理解できる。				
19.教科書・教材	・小学校理科の観察，実験の手引き詳細（文部科学省、インターネットからダウンロード可)、配布資料				
20.参考文献	・小学校の教科書（４、５、６学年）				
21.成績評価	1　各実験等の後の実験レポートの評価（webclass へ提出）　40% 2　模擬授業の授業づくり（ワークシート，指導案，評価資料及び模擬授業評価）　20% 3　模擬授業（ワークショップによる授業分析）　20% 4　小テスト（化学基礎）　20%				
22.コメント	小学校で行われている実験と模擬授業を中心に行います。小学校教諭志望の学生はぜひ履修してください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション　・理科Ⅰの演習概要（扱う小学校理科教材） ・HG（ホームグループ）編成	
第 2 回	小 4「電気の働き」，小 5「電磁石の働き」，「ものの溶け方」小 6「水溶液の性質」等について、「観察・実験の手引きに基づき，小学校で扱う基本的な理科実験を行い，指導方法，安全指導の在り方を検討し，実験レポートとして提出する。	○小 4　「金属，水，空気と温度」の実験について，実験 1~3 の実験を「観察・実験の手引き」に基づき，小学校で扱う基本的な理科実験を行い，指導方法，安全指導の在り方を検討し，実験レポートとして提出する。（　実験レポート提出　20 分）
第 3 回	小 4「金属，水，空気と温度」の実験について，「観察・実験の手引き」に基づき，小学校で扱う基本的な理科実験を行い，指導方法，安全指導の在り方を検討し，実験レポートとして提出する。	○小 4　「金属，水，空気と温度」の実験について，実験 6~8 の実験を「観察・実験の手引きに基づき，小学校で扱う基本的な理科実験を行い，指導方法，安全指導の在り方を検討し，実験レポートとして提出する。（　実験レポート提出　20 分）
第 4 回	小 4「電気の働き」の実験について，「観察・実験の手引き」に基づき，小学校で扱う基本的な理科実験を行い，指導方法，安全指導の在り方を検討し，実験レポートとして提出する。	○小 4　「電気の働き」の実験について，実験 1~3 の実験を「観察・実験の手引きに基づき，小学校で扱う基本的な理科実験を行い，指導方法，安全指導の在り方を検討し，実験

		レポートとして提出する。（　実験レポート提出　20 分）
第 5 回	小 5「物の溶け方」の実験について，「観察・実験の手引き」に基づき，小学校で扱う基本的な理科実験を行い，指導方法，安全指導の在り方を検討し，実験レポートとして提出する。	○小 5「物の溶け方」の実験について，実験 1~3 の実験を「観察・実験の手引きに基づき，小学校で扱う基本的な理科実験を行い，指導方法，安全指導の在り方を検討し，実験レポートとして提出する。（　実験レポート提出　20 分）
第 6 回	小 5「物の溶け方」の実験について，「観察・実験の手引き」に基づき，小学校で扱う基本的な理科実験を行い，指導方法，安全指導の在り方を検討し，実験レポートとして提出する。	○小 5「物の溶け方」の実験について，実験 4~5 の実験を「観察・実験の手引きに基づき，小学校で扱う基本的な理科実験を行い，指導方法，安全指導の在り方を検討し，実験レポートとして提出する。（　実験レポート提出　20 分）
第 7 回	小 5「電流の働き」の実験について，「観察・実験の手引き」に基づき，小学校で扱う基本的な理科実験を行い，指導方法，安全指導の在り方を検討し，実験レポートとして提出する。	○小 5「電流の働き」の実験について，実験 1~2 の実験を「観察・実験の手引きに基づき，小学校で扱う基本的な理科実験を行い，指導方法，安全指導の在り方を検討し，実験レポートとして提出する。（　実験レポート提出　20 分）
第 8 回	小 6「燃焼の仕組み」の実験について，「観察・実験の手引き」に基づき，小学校で扱う基本的な理科実験を行い，指導方法，安全指導の在り方を検討し，実験レポートとして提出する。	○小 5「燃焼の仕組み」の実験について，実験 1~2 の実験を「観察・実験の手引きに基づき，小学校で扱う基本的な理科実験を行い，指導方法，安全指導の在り方を検討し，実験レポートとして提出する。（　実験レポート提出　20 分）
第 9 回	小 6「水溶液の性質」の実験について，「観察・実験の手引き」に基づき，小学校で扱う基本的な理科実験を行い，指導方法，安全指導の在り方を検討し，実験レポートとして提出する。	○小 5「水溶液の性質」の実験について，実験 1~2 の実験を「観察・実験の手引きに基づき，小学校で扱う基本的な理科実験を行い，指導方法，安全指導の在り方を検討し，実験レポートとして提出する。（　実験レポート提出　20 分）
第 10 回	1 理科実験における安全指導 2 自然と学校における安全・安心	○学習指導案作成のための題材を選定し提出する。（　実験レポート提出　20 分）
第 11 回	指導計画（指導案，ワークシート，その他の教材）を作成し），各自模擬授業の準備をする。	○　授業記録（指導計画案）を作成し，提出する。
第 12 回	小テスト ・化学基礎 ・理科実験の基本と注意事項	
第 13 回	模擬授業を実施し，ワークショップ形式の授業分析を行う。	○　授業分析シート（ワークシート　ワークショップのまとめ）をで提出。 ○　授業分析表を作成し，提出。
第 14 回	模擬授業を実施し，ワークショップ形式の授業分析を行う。	○　授業分析シート（ワークシート　ワークショップのまとめ）をで提出。 ○　授業分析表を作成し，提出。
第 15 回	模擬授業を実施し，ワークショップ形式の授業分析を行う。	○　授業分析シート（ワークシート　ワークショップのまとめ）をで提出。

		○　授業分析表を作成し，提出。

1.授業コード（ナンバリング）	PED311-A01	2.科目名	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習	3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	中学校教職			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	小学校一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	教師としての資質向上をめざす態度を育成し、また、人間尊重について理解するために、実習施設である社会福祉施設や特別支援学校の役割と機能、現状などを理解するとともに、対象者の生活、障害の状況、特性など全体像の把握する。 ★ 体験は社会福祉施設で 5 日間、特別支援学校で 2 日間の計 7 日間実施する。（2024 年度は感染症の影響で特別支援学校での体験のみ）				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①社会福祉施設や特別支援学校の役割と機能、現状を理解する。 ②社会的に弱い立場にいる人、困っている人たちがいることに関心を持ち、感覚や感性を働かせ、相手の立場に立って感じる、考える、想像するなどの共感的な態度や理解ができる。 ③社会福祉施設及び特別支援学校において、現場で求められるニーズに対して、他者と協働して積極的に行動できる。 ④教師としての資質向上する態度を身に付ける。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律的で主体的な態度（自律性）(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）(4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 5 訂版』 現代教師養成研究会編 大修館書店				
20.参考文献	適宜提示する。				
21.成績評価	体験計画書等の以下の提出物と、体験の総合評価による。（※感染症や介護等体験受け入れ先の状況により成績評価が変更になる場合がある） １．講義と体験の振り返りレポート 50%【学習目標①②③④に対応】 ２．計画書（20%×1 回） 20%【学習目標①に対応】 ３．特別支援学校での介護等体験 30%【学習目標①②③④に対応】 ４．授業時のワークシート等が未提出の場合は減点 ５．特別支援教育に関する科目の単位取得（科目の単位を取得できなければボランティア実習の単位は出ないので要注意。まだ特別支援教育に関する科目の単				
22.コメント	1 回目の授業時に授業内容と介護等体験のオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。また、印鑑と昨年度の介護等体験のオリエンテーション時に配布された介護等体験に関するファイル持参すること。 体験証明書は、体験終了後に教職教育推進室（尼崎キャンパス 4 階）に提出しなければならない（小中教員免許申請に必要）。				
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション… 教科書 pp.8-10 ・介護等体験実習の意義、この授業でのベンチマーク	○実習前までに、実習先（特別支援学校、社会福祉施設）の情報を収集するとともに、実

	などについて理解する。	習の目標をたてる。（随時）（240 分） 〇今回の授業の復習をする。（120 分） 〇次回の予習として、教科書 pp.11-29 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 2 回】	教師としての資質　…　教科書 pp.12-17 ・教師として必要な資質・能力について学ぶ。	〇今回の授業の復習をする。（120 分） 〇次回の予習として、教科書 pp.30-47 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 3 回】	介護等体験への臨み方　…　教科書 pp.18-33 ・実習体験と手順、実習課題と自己目標の設定、実習記録の書き方、実習に関する注意について理解する。	〇今回の授業の復習をする。（120 分） 〇次回の予習として、教科書 pp.48-61 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 4 回】	特別支援学校での介護等体験　…　教科書 pp.34-45 ・特別支援教育の歴史、特別支援学校の概要、介護等体験の内容について学ぶ。	〇今回の授業の復習をする。（120 分） 〇次回の予習として、教科書 pp.62-73 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 5 回】	社会福祉施設での介護等体験　…　教科書 pp.46-58 ・社会福祉施設の歴史と概要、介護等体験の内容について学ぶ。	〇今回の授業の復習をする。（120 分）
【第 6 回】	特別支援学校実習① ・特別支援学校での実習（その 1）	〇実習の準備と振り返り（240 分）
【第 7 回】	特別支援学校実習② ・特別支援学校での実習（その 2）	〇実習の準備と振り返り（240 分）
【第 8 回】	社会福祉施設実習① ・社会福祉施設での実習（その 1）	〇実習の準備と振り返り（240 分）
【第 9 回】	社会福祉施設実習② ・社会福祉施設での実習（その 2）	〇実習の準備と振り返り（240 分）
【第 10 回】	社会福祉施設実習③ ・社会福祉施設での実習（その 3）	〇実習の準備と振り返り（240 分）
【第 11 回】	社会福祉施設実習④ ・社会福祉施設での実習（その 4）	〇実習の準備と振り返り（240 分）
【第 12 回】	社会福祉施設実習⑤ ・社会福祉施設での実習（その 5）	〇実習で学んだことを整理し、振り返りを行い、教育実習における課題を設定する。（随時）（120 分）
【第 13 回】	介護等体験についての報告 ・介護等体験の内容と学んだことについて報告する。また、報告者の内容から学ぶ。	〇介護等体験経験者の報告内容を通して、自らの介護等体験を振り返る。あるいは、その内容から学び、自身の介護等体験にいかす。（120 分） 〇次回の予習として、教科書 pp.74-86 を読んで、わからないところをチェックする。（120 分）
【第 14 回】	実習総括、実習課題と自己目標について　…　教科書 pp.60-70 ・実習後の心得を学ぶ。	〇今回の授業の復習をする。（120 分） 〇介護等体験経験者の報告内容を通して、自らの介護等体験を振り返る。あるいは、その

		内容から学び、自身の介護等体験にいかす。（120 分）
【第 15 回】	介護等体験実習のまとめ、実習記録物の提出（実習が終わったときに随時） ・介護等体験と講義の振り返りと提出物の確認をする。	○最終レポートの作成（240 分）

1.授業コード（ナンバリング）	PED311-M01	2.科目名	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習	3.単位数	2
4.授業担当教員	佐藤広志				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	中学校教職			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	中学教員免許取得には必須。 高校教員免許のみの場合は不要。 教職履修登録者以外は不可。 事前に、介護等体験への参加申し込みが必要。	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	教師としての資質向上をめざす態度を育成し、また、人間尊重について理解するために、実習施設である社会福祉施設や特別支援学校の役割と機能、現状などを理解するとともに、対象者の生活、障害の状況、特性など全体像の把握する。 ★ 実習は社会福祉施設で 5 日間、特別支援学校で 2 日間の計 7 日間実施する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①社会福祉施設や特別支援学校の役割と機能、現状を理解する。 ②社会的に弱い立場にいる人、困っている人たちがいることに関心を持ち、感覚や感性を働かせ、相手の立場に立って感じる、考える、想像するなどの共感的な態度や理解ができる。 ③社会福祉施設及び特別支援学校において、現場で求められるニーズに対して、他者と協働して積極的に行動できる。 ④教師としての資質向上する態度を身に付ける。				
19.教科書・教材	『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 5 訂版』 現代教師養成研究会編　大修館書店				
20.参考文献	適宜提示する。				
21.成績評価	実習計画書等の提出物、実習の総合評価による。 １．小課題（4％×5 回）　 20％【学習目標①②③④に対応】 ２．講義と実習の振り返りレポート　20％【学習目標①②③④に対応】 ３．計画書（5％×2 回）　10％【学習目標①に対応】 ４．実習評価（特別支援学校 15％、社会福祉施設 35％）　50％【学習目標①②③④に対応】				
22.コメント	1 回目の授業時に授業内容と介護等体験実習のオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。 また、昨年度の介護等体験のオリエンテーション時に配布された介護等体験に関するファイル持参すること。 各実習証明書、記録日誌は、実習終了後に学修支援センターに提出しなければならない（小中教員免許申請に必要）。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション…　教科書 p11 まで ・介護等体験実習の意義、この授業でのベンチマークなどについて理解する。	○実習前までに、実習先（特別支援学校、社会福祉施設）の情報を収集するとともに、実習の目標をたてる。（随時）（240 分） ○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.11-29 を読ん

		で、わからないところをチェックする。(120分)
【第2回】	教師としての資質　…　教科書 pp.12-17 ・教師として必要な資質・能力について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.30-47 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第3回】	介護等体験への臨み方　…　教科書 pp.18-33 ・実習体験と手順、実習課題と自己目標の設定、実習記録の書き方、実習に関する注意について理解する。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.48-61 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第4回】	特別支援学校での介護等体験　…　教科書 pp.34-45 ・特別支援教育の歴史、特別支援学校の概要、介護等体験の内容について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.62-73 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第5回】	社会福祉施設での介護等体験　…　教科書 pp.46-58 ・社会福祉施設の歴史と概要、介護等体験の内容について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分)
【第6回】	特別支援学校実習① ・特別支援学校での実習（その1）	○実習の準備と振り返り（240分）
【第7回】	特別支援学校実習② ・特別支援学校での実習（その2）	○実習の準備と振り返り（240分）
【第8回】	社会福祉施設実習① ・社会福祉施設での実習（その1）	○実習の準備と振り返り（240分）
【第9回】	社会福祉施設実習② ・社会福祉施設での実習（その2）	○実習の準備と振り返り（240分）
【第10回】	社会福祉施設実習③ ・社会福祉施設での実習（その3）	○実習の準備と振り返り（240分）
【第11回】	社会福祉施設実習④ ・社会福祉施設での実習（その4）	○実習の準備と振り返り（240分）
【第12回】	社会福祉施設実習⑤ ・社会福祉施設での実習（その5）	○実習で学んだことを整理し、振り返りを行い、教育実習における課題を設定する。(随時)(120分)
【第13回】	介護等体験についての報告 ・介護等体験の内容と学んだことについて報告する。また、報告者の内容から学ぶ。	○介護等体験経験者の報告内容を通して、自らの介護等体験を振り返る。あるいは、その内容から学び、自身の介護等体験にいかす。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.74-86 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第14回】	実習総括、実習課題と自己目標について　…　教科書 pp.60-70 ・実習後の心得を学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○介護等体験経験者の報告内容を通して、自らの介護等体験を振り返る。あるいは、その内容から学び、自身の介護等体験にいかす。(120分)
【第15回】	介護等体験実習のまとめ、実習記録物の提出（実習が	○最終レポートの作成（240分）

	終わったときに随時） ・介護等体験と講義の振り返りと提出物の確認をする。	

1.授業コード（ナンバリング）	PED311-y01	2.科目名	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習	3.単位数	2
4.授業担当教員	佐藤広志				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	中学校教職			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	中学校教員免許取得に必須。 高等学校のみの場合は不要。 教職志望者以外は不可（介護等体験の事前申し込みが済んでいることが必須）	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	教師としての資質向上をめざす態度を育成し、また、人間尊重について理解するために、実習施設である社会福祉施設や特別支援学校の役割と機能、現状などを理解するとともに、対象者の生活、障害の状況、特性など全体像の把握する。 ★ 実習は社会福祉施設で 5 日間、特別支援学校で 2 日間の計 7 日間実施する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①社会福祉施設や特別支援学校の役割と機能、現状を理解する。 ②社会的に弱い立場にいる人、困っている人たちがいることに関心を持ち、感覚や感性を働かせ、相手の立場に立って感じる、考える、想像するなどの共感的な態度や理解ができる。 ③社会福祉施設及び特別支援学校において、現場で求められるニーズに対して、他者と協働して積極的に行動できる。 ④教師としての資質向上する態度を身に付ける。				
19.教科書・教材	『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 5 訂版』 現代教師養成研究会編　大修館書店				
20.参考文献	適宜提示する。				
21.成績評価	実習計画書等の提出物、実習の総合評価による。 １．小課題（4％×5 回）　20％【学習目標①②③④に対応】 ２．講義と実習の振り返りレポート　20％【学習目標①②③④に対応】 ３．計画書（5％×2 回）　10％【学習目標①に対応】 ４．実習評価（特別支援学校 15％、社会福祉施設 35％）　50％【学習目標①②③④に対応】				
22.コメント	1 回目の授業時に授業内容と介護等体験実習のオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。 また、昨年度の介護等体験のオリエンテーション時に配布された介護等体験に関するファイル持参すること。 各実習証明書、記録日誌は、実習終了後に学修支援センターに提出しなければならない（小中教員免許申請に必要）。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション…　教科書 p11 まで ・介護等体験実習の意義、この授業でのベンチマークなどについて理解する。	○実習前までに、実習先（特別支援学校、社会福祉施設）の情報を収集するとともに、実習の目標をたてる。（随時）（240 分） ○今回の授業の復習をする。（120 分） ○次回の予習として、教科書 pp.11-29 を読ん

		で、わからないところをチェックする。(120分)
【第2回】	教師としての資質　…　教科書 pp.12-17 ・教師として必要な資質・能力について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.30-47 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第3回】	介護等体験への臨み方　…　教科書 pp.18-33 ・実習体験と手順、実習課題と自己目標の設定、実習記録の書き方、実習に関する注意について理解する。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.48-61 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第4回】	特別支援学校での介護等体験　…　教科書 pp.34-45 ・特別支援教育の歴史、特別支援学校の概要、介護等体験の内容について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.62-73 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第5回】	社会福祉施設での介護等体験　…　教科書 pp.46-58 ・社会福祉施設の歴史と概要、介護等体験の内容について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分)
【第6回】	特別支援学校実習① ・特別支援学校での実習（その1）	○実習の準備と振り返り（240分）
【第7回】	特別支援学校実習② ・特別支援学校での実習（その2）	○実習の準備と振り返り（240分）
【第8回】	社会福祉施設実習① ・社会福祉施設での実習（その1）	○実習の準備と振り返り（240分）
【第9回】	社会福祉施設実習② ・社会福祉施設での実習（その2）	○実習の準備と振り返り（240分）
【第10回】	社会福祉施設実習③ ・社会福祉施設での実習（その3）	○実習の準備と振り返り（240分）
【第11回】	社会福祉施設実習④ ・社会福祉施設での実習（その4）	○実習の準備と振り返り（240分）
【第12回】	社会福祉施設実習⑤ ・社会福祉施設での実習（その5）	○実習で学んだことを整理し、振り返りを行い、教育実習における課題を設定する。(随時)(120分)
【第13回】	介護等体験についての報告 ・介護等体験の内容と学んだことについて報告する。また、報告者の内容から学ぶ。	○介護等体験経験者の報告内容を通して、自らの介護等体験を振り返る。あるいは、その内容から学び、自身の介護等体験にいかす。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.74-86 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第14回】	実習総括、実習課題と自己目標について　…　教科書 pp.60-70 ・実習後の心得を学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○介護等体験経験者の報告内容を通して、自らの介護等体験を振り返る。あるいは、その内容から学び、自身の介護等体験にいかす。(120分)
【第15回】	介護等体験実習のまとめ、実習記録物の提出（実習が	○最終レポートの作成（240分）

	終わったときに随時） ・介護等体験と講義の振り返りと提出物の確認をする。	

1.授業コード（ナンバリング）	PED312-A01	2.科目名	社会Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣				
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、特に小学校３年・４年生の社会科教材について、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業設計の基本を身に付けることを目的とします。 【概要】 〇学習指導要領における小学校社会科教育の目標・内容等のねらいやポイントを理解しつつ社会科の教育実践につなげる。 ・小学校社会科教育の目標・内容と具体的な実践との比較研究 ・社会科教育における資料の活用を中心として学習スキルを検討・研究する ・発表活動、グループワークなどの体験を通した指導法の研究				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、ＤＰ①自律性　④問題発見･解決力　⑥専門的知識･技能の活用力に関連しています （1）3 年･4 年の単元の概要について説明することができる （2）「分かる授業」を目指し、1 時間の学習の構成を立案することができる （3）発問・板書・ノート指導等を効果的に活用し模擬授業を行う （4）グループで模擬授業を実施し、改善策を立てることができる				
19.教科書・教材	講義の中で適宜提示				
20.参考文献	〇文部科学省小学校学習指導要領 〇講義の中で適宜提示				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです ・毎時間の授業ワークシートの作成　２０％《学習目標(1)に対応》 ・学習指導案の作成　２０％《学習目標(2)(4)に対応》 ・模擬授業の実施　２０％《学習目標(3)に対応》 ・総括試験　４０％《総括･ふりかえり》				
22.コメント	学習指導要領を理解し、その上で資料の活用力を高め、実践力に結びつけましょう。アクティブラーニングの講義は集団思考に価値があります。従って、出てナンボの世界です。休むことは講義での時間をみんなと共有できていないことですから、１時間目から１５時間目までしっかりと出席しましょう！！				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や研究室等で、受講生からの質問等への対応する				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	オリエンテーション 〇社会科Ⅰ学習内容の概要と受講のルール 〇シラバスについての詳細な解説	〇社会科的自己紹介クイズの作成（90 分）

【第２回】	新学習指導要領と教育基本法 〇学習指導要領社会科編改正の要点とポイントについて 〇自己紹介クイズの発表と提出 〇ワークシートの作成	〇学習指導要領社会科編の要点についてまとめる（180 分）
【第３回】	社会科学習スキルにおける資料の読み取り指導① 〇資料の読み取りのコツ 〇グループワークで意見交換 〇ワークシートの作成	〇資料の読み取りのコツについてまとめる（180 分）
【第４回】	社会科学習スキルにおける資料の読み取り指導② 〇グラフ資料の読み取りと活用 〇グループワークで意見交換 〇ワークシートの作成	〇グラフ資料の読み取りの演習（180 分）
【第５回】	社会科学習スキルにおける資料の読み取り指導③ 〇写真資料の読み取りと活用 〇グループワークで意見交換 〇ワークシートの作成	◎資料（グラフと写真）を活用した指導略案の作成①（270 分）
【第６回】	指導略案の検討会① 〇各グループの指導案の発表と検討	〇本時のまとめと指導案作成のふり返り（90 分）
【第７回】	社会科学習スキルにおける資料の読み取り指導④ 〇絵資料と写真資料の比較（それぞれの良い点とマイナス面他） 〇グループワークで意見交換 〇ワークシートの作成	〇絵資料と写真資料の違いについてまとめる（180 分）
【第８回】	社会科学習スキルにおける資料の読み取り指導⑤ 〇地図帳の読み取り 〇グループワークで意見交換 〇ワークシートの作成	〇地図の読み取りクイズを考える（180 分）
【第９回】	社会科学習スキルにおける資料の読み取り指導⑥ 〇文章資料の読み取り 〇グループワークで意見交換 〇ワークシートの作成	◎資料（地図と文章資料）を活用した指導略案の作成②（180 分）
【第１０回】	指導略案の検討会② 〇各グループの指導案の発表と検討	〇本時まとめと指導案作成のふり返り（90 分）

【第１１回】	社会科学習スキルにおける資料の読み取り指導⑦ 〇実物資料の活用 〇グループワークで意見交換 〇ワークシート	〇実物資料の活用についてまとめる（180分）
【第１２回】	社会科学習スキルにおける調べ学習のコツ① 〇導入の工夫、発問の工夫 〇グループワークで意見交換 〇ワークシートの作成	〇プチ指導案の作成（90 分）
【第１３回】	社会科学習スキルにおける調べ学習のコツ② 〇オープンエンドの授業 〇グループワークで意見交換 〇ワークシートの作成	〇プチ指導案の作成（90 分）
【第１４回】	まとめのテストと指導案作成	
【第１５回】	これまでの学びのまとめ 〇グループワークで意見交換	〇まとめのシート提出(180 分)

1.授業コード（ナンバリング）	PED314-A01	2.科目名	家庭	3.単位数	2
4.授業担当教員	山口香織				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・実習・演習		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	【目標】 実習や演習を通して、小学校家庭科の意義と指導内容について理解を深め、家庭科の指導者として必要な基礎的・基本的な知識と技能の習得を目指す。また、自分の生活を見直すことによって、豊かな家庭生活を創造し実践しようとする力を養う。 【概要】 家庭科の教科指導に求められる専門知識と技能を中心に学びます。 また、授業では実習や実験を通して、指導上のポイントを実践的に学びます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	1. 小学校家庭科の意義を理解することができる。 2. 実習指導に必要な知識と技能を身に付けることができる。 3. 豊かな家庭生活を創造し実践しようとすることができる。 ［関連する DP］ (1)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	萌文書林『初等家庭科教育法　気づく・考える・実践する力を育む授業づくり』 東京書籍『小学校家庭科(文部科学省認定済教科書)』				
20.参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領解説(家庭編)』				
21.成績評価	評価方法と配点は次の通りです。 ・授業の記録（全 14 回）・・・　20 点［学習目標１・２・３］ ・試験　　・・・30 点［学習目標１・２・３］ ・レポート（実習レート）・・・20 点［学習目標２］ ・実習作品・授業内レポート・・30 点［学習目標２・３］				
22.コメント	実習に必要な材料費の一部は自己負担になる。 実習・実験日に欠席した学生に対して、別課題や補講等は実施しない。 授業のルールや実習・実験で使う用具・材料等は第 1 回目の授業で伝える。 裁縫や調理に苦手意識を持つ人は、この機会に克服しよう。				
23.オフィスアワー	授業開始前・終了後（教室または家庭科室，講師控室）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価方法・留意点）家庭科教育の意義	◆持参物：教科書・Web Class が利用できる端末（ノート PC 等）は毎回持参◆ 教室外学習：復習・予習・ノート整理・学習の記録
第 2 回	小学校家庭科の目標と内容、実習指導について	教室外学習：復習・予習・ノート整理・学習の記録
第 3 回	家庭生活と家族：児童の生活実態と発達課題	教室外学習：復習・予習・ノート整理・学習の記録
第 4 回	食生活（1）食事の役割・栄養	教室外学習：復習・予習・ノート整理・学習の記録

第５回	食生活（2）簡単な調理①　米飯とみそ汁	持参物：エプロン，三角巾，布巾，分担された材料（米・味噌・具材） 教室外学習：復習・予習・ノート整理・学習の記録
第６回	食生活（3）簡単な調理②　一食分の献立	持参物：エプロン，三角巾，布巾，分担された材料 教室外学習：復習・ノート整理・学習の記録
第７回	食生活（4）実習の事後指導と家庭科における食育	教室外学習：復習・予習・ノート整理・学習の記録
第８回	衣生活（1）衣生活の現状と課題	教室外学習：復習・予習・ノート整理・学習の記録
第９回	衣生活（2）生活に役立つ物の製作①　手縫い	持参物：裁縫用具（ボタン・針・手縫い糸・糸切鋏） 教室外学習：復習・予習・ノート整理・学習の記録
第１０回	衣生活（3）生活に役立つ物の製作②　ミシン（採寸と裁断）	持参物：裁縫用具（ボタン・針・手縫い糸・糸切鋏） 教室外学習：復習・予習・ノート整理・学習の記録
第１１回	衣生活（4）生活に役立つ物の製作③　ミシン（縫製と仕上げ）	持参物：裁縫用具（ボタン・針・手縫い糸・糸切鋏） 教室外学習：復習・予習・ノート整理・学習の記録
第１２回	住生活　住生活の現状と課題	講義外学習：復習・予習・ノート整理・学習の記録
第１３回	消費生活と環境（1）ものや金銭の使い方と買い物	教室外学習：復習・予習・ノート整理・学習の記録
第１４回	消費生活と環境（2）環境に配慮した生活、近隣の人々とのかかわり	教室外学習：復習・予習・ノート整理・学習の記録
第１５回	総括：家庭科の授業づくりに向けて	教室外学習：復習・ノート整理

1.授業コード（ナンバリング）	PED316-A01	2.科目名	小学校教育実習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣、上山敏弘、岡修一					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許 小学校教諭二種免許	11.先修条件	教育心理学 発達心理学 心理学概論　を受講済のこと			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 　この科目は、小学校教員になるにあたって実際の教育活動を直に体験･実践するものです。 【概要】 　教育実習は、将来教師になろうとする人が、一定の期間、学校教育の実際の場で、経験豊富な教師の指導を受けながら、児童と直接交流し、実際の教育活動を身をもって体験、実践するものです。 　実習において、小学校の校務や教科指導等全般にわたって理解を深め、教師の生き方や指導する姿に具体的に触れる機会であり、教師としての必要な知識、指導技術、姿勢・態度等を身に付けるための重要な役割を持っています。 　小学校教師					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はＤＰ（1）自律性　（3）多様性理解　（6）専門的知識･活用力 ①様々な教育現場の問題点や課題を知る ②児童理解を深め、学習技術や学級経営を体験的に学ぶなどの実践演習をしっかり積むことができる ③将来へのキャリア形成について考えることができる					
19.教科書・教材	実習校で使用している各教科の教科書及び副読本					
20.参考文献	文部科学省小学校学習指導要領 文部科学省小学校学習指導要領解説書 小学校教育実習ガイド（萌文書林） 関西国際大学小学校教育実習ハンドブック					
21.成績評価	①教育実習校での評価　７０％ ②実習日誌の記述　１０％（評価後に返却） ③授業観察記録　１０％（評価後に返却） ④資料等の整理　１０％（評価後に返却）					
22.コメント	・４週間実習の人は、小学校教育実習Ⅰ　小学校教育実習Ⅱを併せて履修登録してください。 ・教育実習は、学校教育に実際の場で、教育活動を自ら体験するもので、将来得難い経験や体験の宝庫です。教師になるために欠くことのできないものであり、責任を持って積極的に参加してください					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

1.授業コード（ナンバリング）	PED316-A02	2.科目名	小学校教育実習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	大平誠也				
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許 小学校教諭二種免許（通信）	11.先修条件	教育心理学 発達心理学 心理学概論　を受講済のこと		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 　この科目は、小学校教員になるにあたって実際の教育活動を直に体験･実践するものです。 【概要】 　教育実習は、将来教師になろうとする人が、一定の期間、学校教育の実際の場で、経験豊富な教師の指導を受けながら、児童と直接交流し、実際の教育活動を身をもって体験、実践するものです。 　実習において、小学校の校務や教科指導等全般にわたって理解を深め、教師の生き方や指導する姿に具体的に触れる機会であり、教師としての必要な知識、指導技術、姿勢・態度等を身に付けるための重要な役割を持っています。 　小学校教師				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はＤＰ（1）自律性　（3）多様性理解　（6）専門的知識･活用力 ①様々な教育現場の問題点や課題を知る ②児童理解を深め、学習技術や学級経営を体験的に学ぶなどの実践演習をしっかり積むことができる ③将来へのキャリア形成について考えることができる				
19.教科書・教材	実習校で使用している各教科の教科書及び副読本				
20.参考文献	文部科学省小学校学習指導要領 文部科学省小学校学習指導要領解説書 小学校教育実習ガイド（萌文書林） 関西国際大学小学校教育実習ハンドブック				
21.成績評価	①教育実習校での評価　７０％ ②実習日誌の記述　１０％（評価後に返却） ③授業観察記録　１０％（評価後に返却） ④資料等の整理　１０％（評価後に返却）				
22.コメント	教育実習は、学校教育に実際の場で、教育活動を自ら体験するもので、将来得難い経験や体験の宝庫です。教師になるために欠くことのできないものであり、責任を持って積極的に参加してください				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)

1.授業コード（ナンバリング）	PED316-A03	2.科目名	小学校教育実習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	水本隆正				
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許 小学校教諭二種免許	11.先修条件	教育心理学 発達心理学 心理学概論　を受講済のこと		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 　この科目は、小学校教員になるにあたって実際の教育活動を直に体験･実践するものです。 【概要】 　教育実習は、将来教師になろうとする人が、一定の期間、学校教育の実際の場で、経験豊富な教師の指導を受けながら、児童と直接交流し、実際の教育活動を身をもって体験、実践するものです。 　実習において、小学校の校務や教科指導等全般にわたって理解を深め、教師の生き方や指導する姿に具体的に触れる機会であり、教師としての必要な知識、指導技術、姿勢・態度等を身に付けるための重要な役割を持っています。 　小学校教師				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はＤＰ（1）自律性　（3）多様性理解　（6）専門的知識･活用力 ①様々な教育現場の問題点や課題を知る ②児童理解を深め、学習技術や学級経営を体験的に学ぶなどの実践演習をしっかり積むことができる ③将来へのキャリア形成について考えることができる				
19.教科書・教材	実習校で使用している各教科の教科書及び副読本				
20.参考文献	文部科学省小学校学習指導要領 文部科学省小学校学習指導要領解説書 小学校教育実習ガイド（萌文書林） 関西国際大学小学校教育実習ハンドブック				
21.成績評価	①教育実習校での評価　７０％ ②実習日誌の記述　１０％（評価後に返却） ③授業観察記録　１０％（評価後に返却） ④資料等の整理　１０％（評価後に返却）				
22.コメント	・４週間実習の人は、小学校教育実習Ⅰ　小学校教育実習Ⅱを併せて履修登録してください。 ・教育実習は、学校教育に実際の場で、教育活動を自ら体験するもので、将来得難い経験や体験の宝庫です。教師になるために欠くことのできないものであり、責任を持って積極的に参加してください				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)		

1.授業コード（ナンバリング）	PED317-A01	2.科目名	小学校教育実習 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣、上山敏弘、岡修一				
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許 小学校教諭二種免許	11.先修条件	教育心理学 発達心理学 心理学概論　を受講済のこと		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 　この科目は、小学校教員になるにあたって実際の教育活動を直に体験･実践するものです。 【概要】 　教育実習は、将来教師になろうとする人が、一定の期間、学校教育の実際の場で、経験豊富な教師の指導を受けながら、児童と直接交流し、実際の教育活動を身をもって体験、実践するものです。 　実習において、小学校の校務や教科指導等全般にわたって理解を深め、教師の生き方や指導する姿に具体的に触れる機会であり、教師としての必要な知識、指導技術、姿勢・態度等を身に付けるための重要な役割を持っています。 　小学校教師				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はＤＰ（1）自律性　（3）多様性理解　（6）専門的知識･活用力 ①様々な教育現場の問題点や課題を知る ②児童理解を深め、学習技術や学級経営を体験的に学ぶなどの実践演習をしっかり積むことができる ③将来へのキャリア形成について考えることができる				
19.教科書・教材	実習校で使用している各教科の教科書及び副読本				
20.参考文献	文部科学省小学校学習指導要領 文部科学省小学校学習指導要領解説書 小学校教育実習ガイド（萌文書林） 関西国際大学小学校教育実習ハンドブック				
21.成績評価	①教育実習校での評価　７０％ ②実習日誌の記述　１０％（評価後に返却） ③授業観察記録　１０％（評価後に返却） ④資料等の整理　１０％（評価後に返却）				
22.コメント	・小学校４週間実習を希望する人は、小学校教育実習Ⅰ。小学校教育実習 II を併せて履修してください。 ・教育実習は、学校教育に実際の場で、教育活動を自ら体験するもので、将来得難い経験や体験の宝庫です。教師になるために欠くことのできないものであり、責任を持って積極的に参加してください				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)

1.授業コード（ナンバリング）	PED317-A02	2.科目名	小学校教育実習 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	大平誠也				
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許 小学校教諭二種免許（通信）	11.先修条件	教育心理学 発達心理学 心理学概論　を受講済のこと		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 　この科目は、小学校教員になるにあたって実際の教育活動を直に体験･実践するものです。 【概要】 　教育実習は、将来教師になろうとする人が、一定の期間、学校教育の実際の場で、経験豊富な教師の指導を受けながら、児童と直接交流し、実際の教育活動を身をもって体験、実践するものです。 　実習において、小学校の校務や教科指導等全般にわたって理解を深め、教師の生き方や指導する姿に具体的に触れる機会であり、教師としての必要な知識、指導技術、姿勢・態度等を身に付けるための重要な役割を持っています。 　小学校教師				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はＤＰ（1）自律性　（3）多様性理解　（6）専門的知識･活用力 ①様々な教育現場の問題点や課題を知る ②児童理解を深め、学習技術や学級経営を体験的に学ぶなどの実践演習をしっかり積むことができる ③将来へのキャリア形成について考えることができる				
19.教科書・教材	実習校で使用している各教科の教科書及び副読本				
20.参考文献	文部科学省小学校学習指導要領 文部科学省小学校学習指導要領解説書 小学校教育実習ガイド（萌文書林） 関西国際大学小学校教育実習ハンドブック				
21.成績評価	①教育実習校での評価　７０％ ②実習日誌の記述　１０％（評価後に返却） ③授業観察記録　１０％（評価後に返却） ④資料等の整理　１０％（評価後に返却）				
22.コメント	教育実習は、学校教育に実際の場で、教育活動を自ら体験するもので、将来得難い経験や体験の宝庫です。教師になるために欠くことのできないものであり、責任を持って積極的に参加してください				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)

1.授業コード （ナンバリング）	PED317-A03	2.科目名	小学校教育実習 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	水本隆正				
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許 小学校教諭二種免許	11.先修条件	教育心理学 発達心理学 心理学概論　を受講済のこと		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 　この科目は、小学校教員になるにあたって実際の教育活動を直に体験･実践するものです。 【概要】 　教育実習は、将来教師になろうとする人が、一定の期間、学校教育の実際の場で、経験豊富な教師の指導を受けながら、児童と直接交流し、実際の教育活動を身をもって体験、実践するものです。 　実習において、小学校の校務や教科指導等全般にわたって理解を深め、教師の生き方や指導する姿に具体的に触れる機会であり、教師としての必要な知識、指導技術、姿勢・態度等を身に付けるための重要な役割を持っています。 　小学校教師				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標はＤＰ（1）自律性　（3）多様性理解　（6）専門的知識･活用力 ①様々な教育現場の問題点や課題を知る ②児童理解を深め、学習技術や学級経営を体験的に学ぶなどの実践演習をしっかり積むことができる ③将来へのキャリア形成について考えることができる				
19.教科書・教材	実習校で使用している各教科の教科書及び副読本				
20.参考文献	文部科学省小学校学習指導要領 文部科学省小学校学習指導要領解説書 小学校教育実習ガイド（萌文書林） 関西国際大学小学校教育実習ハンドブック				
21.成績評価	①教育実習校での評価　７０％ ②実習日誌の記述　１０％（評価後に返却） ③授業観察記録　１０％（評価後に返却） ④資料等の整理　１０％（評価後に返却）				
22.コメント	・小学校４週間実習を希望する人は、小学校教育実習Ⅰ。小学校教育実習 II を併せて履修してください。 ・教育実習は、学校教育に実際の場で、教育活動を自ら体験するもので、将来得難い経験や体験の宝庫です。教師になるために欠くことのできないものであり、責任を持って積極的に参加してください				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)

1.授業コード（ナンバリング）	PED318-A01	2.科目名	教育実習事前事後指導	3.単位数	1
4.授業担当教員	大平誠也				
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許 小学校教諭二種免許	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校教師として教育現場での研究と指導力を身に付けることを目的とします。 【概要】 教育実習は、教職資格を取得するための必須の専門科目であり、教育の実際場面での研究と指導力を高めることがねらいである。そのため、教育実習にあたっては、その意義や目的、教育指導上基本となる事項等について正しく、深く理解しておかねばならない。さらに、人間を育てていくという学校教育の場で知っておかなければならないルールや守らなければならない規律・規則など事前に学んでおくべきことが多くある。それらを総じ				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（1）自律的で主体的な態度　（3）多様な文化やその背景を理解し受け入れる能力　（6）専門的知識･技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①将来の夢や目標の実現に向けて、様々な教育現場の問題点や課題を知る ②児童理解、学習技術や学級経営を体験的に学ぶことで、実習への期待と意欲がもてるようにする				
19.教科書・教材	・関西国際大学小学校教育実習ハンドブック（無料） ・小学校教育実習ガイド（萌文書林　１８９０円）				
20.参考文献	・文部科学省小学校学習指導要領 ・文部科学省小学校学習指導要領解説書 ・生徒指導提要				
21.成績評価	①各回のワークシート（評価後に返却） 決められた学習終了時に課題を提示する。　課題報告書は次学習時提出する。 ②学習に積極的に、実習のための知識や技能を学ぼうとしているか（意欲・態度・熱意） ③実習で学んだことを、今後に生かそうとしているか ・各回のワークシート　５０％　（１０×5 回） ・グループワーク　２０％ ・発表・レポート　３０％ 中間レポート及び教育実習実施後（12 月）の最終レポート（ふりかえり）も単位認定の前提になるので注意すること。				
22.コメント	この授業は、教育実習を行うための基本的な事項を学習します。この学習で得た知識を正しく理解し、実習で実践するための大切な授業です。積極的に、欠席することなく参加し、ベンチマークを達成してください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目 ４/１４	「第１回」 〇オリエンテーション　学習の進め方・ルール	〇　ワークシート１「子どもたちの発達の姿」

	・評価について　プロローグ　教育実習の意義　・昨年度の教育実習から　小学校教育の概要と役割 ・小学校教員に期待されるもの　・ 事前オリエンテーションについて ・連絡事項	○復習　教育実習　事務手続き　１時間 ○次回予習　学校現場の１日の流れ　１時間
2 回目 ４/２１	「第２回」 ○小学校教育実習全体の流れ ・小学校について ・小学校教育と関係法 ・文部科学省と教育委員会 ・学校現場 ・１日の流れ	○宿題　ワークシート２「特別支援教育について」　２時間
3 回目 ４/２８	「第３回」 ○教育実習中のこころえ ・子どもと先生のかかわり ・学級へのかかわり ・配慮しておきたい事項	○ワークシート３「教育実習最初の挨拶は・・・(職員・全校児童・学級児童)」
4 回目 ５/１２	「第４回」 ○授業記録のとり方（実際の現場の授業風景《動画》を観て） ○実習日誌の書き方（記録例から）	課題○ ワークシート４「授業記録を書こう」(今回は授業後提出)
5 回目 ５/１９	「第５回」 ○学校での活動内容① ・職員会、各委員会、職員研修、学年打合せ、学年研究、学級事務 ワークシート５「教育課程のついて調べよう」	○復習　小学校の活動内容　１時間 ○予習　外国語活動　総合的な学習　特別活動　１時間
第６回 ５/２６	「第６回」 ○学校での活動内容② ・外国語活動、総合的な学習、特別活動	○宿題ワークシート６「人権教育について調べよう」　２時間
第７回 ６/２	「第７回」 ○学習指導の実際① ・指導略案の形式と内容（目標・学習活動・留意点・支援・評価・発問・板書･･･）書き方 ○ワークシート７「授業の実際についてまとめよう」 ○板書練習《グループワーク》	※　６月３日～６月 24 日 ◎宿題　グループワーク グループ課題「指導略案をつくろう」 各グループで２つの指導略案を作成する ５教科のうち　２教科提出　４時間 ◎宿題　挨拶作成　３時間
第８回 ６/９	「第８回」 ○学習指導の実際② ・指導略案の書き方確認　指導略案づくり　板書練習 【連絡】 ※ 次週から２回、特別講義「実習で、わかる授業をする	○ワークシート８「指導略案をつくろう」 ２時間

	には」があります。	
第９回 ７/７	「第９回」 〇学習指導の実際③ ・学習指導案　形式と内容（単元目標・指導にあたって ・趣旨・指導計画・評価計画 ・　教材観・児童観・指導観･･･本時の学習） ・研究授業に向けて	〇ワークシート９「研究会に向けた指導案づくり」　３時間
第１０回 ７/１４	「第１０回」 〇実習日誌・各記録の書き方 〇資料整理の仕方 〇挨拶文作成（はじめと終わり・お礼の手紙）《グループワーク》	〇ワークシート１０「挨拶文　お礼の手紙を書こう」
第１１回 １２/５ １限 （予定）	「第１１回」 〇小学校教育実習報告　振り返り討論 ・最終レポート作成①　（学んだこと・気付いたこと・考えたこと・困ったこと・悩んだこと・感動したこと・印象に残っていることなど） ・小グループでの協議 ・発表	実習日誌、指導案、各種記録の提出 〇各種記録の点検、整理　５時間
第１２回 １２/１２ １限 （予定）	「第１２回」 〇小学校教育実習全体のまとめ ・最終レポート作成②（小学校教員について・自らの将来について・これから目指すこと･･･） ・小グループでの協議 ・教育実習の成績評価について	宿題　最終レポート　　５時間

1.授業コード（ナンバリング）	PED318-A02	2.科目名	教育実習事前事後指導	3.単位数	1
4.授業担当教員	松尾和宣				
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許 小学校教諭二種免許	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	小学校教育判定で許可の出た者に限る。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校教師として教育現場での研究と指導力を身に付けることを目的とします。 【概要】 教育実習は、教職資格を取得するための必須の専門科目であり、教育の実際場面での研究と指導力を高めることがねらいである。そのため、教育実習にあたっては、その意義や目的、教育指導上基本となる事項等について正しく、深く理解しておかねばならない。さらに、人間を育てていくという学校教育の場で知っておかなければならないルールや守らなければならない規律・規則など事前に学んでおくべきことが多くある。それらを総じ				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（1）自律的で主体的な態度　（3）多様な文化やその背景を理解し受け入れる能力　（6）専門的知識･技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①将来の夢や目標の実現に向けて、様々な教育現場の問題点や課題を知る ②児童理解、学習技術や学級経営を体験的に学ぶことで、実習への期待と意欲がもてるようにする				
19.教科書・教材	・関西国際大学小学校教育実習ハンドブック（無料） ・小学校教育実習ガイド（萌文書林　１８９０円）				
20.参考文献	・文部科学省小学校学習指導要領 ・文部科学省小学校学習指導要領解説書 ・生徒指導提要				
21.成績評価	①各回のワークシート（評価後に返却） 決められた学習終了時に課題を提示する。　課題報告書は次学習時提出する。 ②学習に積極的に、実習のための知識や技能を学ぼうとしているか（意欲・態度・熱意） ③実習で学んだことを、今後に生かそうとしているか ・各回のワークシート　５０％　（１０×5 回） ・学習指導略案　２０％　（５×４回） ・中間レポート(実習前レポート)　１５％ ・最終レポート(実習ふりかえり)　１５％ 中間レポート及び教育実習実施後（				
22.コメント	・この授業は、教育実習を行うための基本的な事項を学習します。この学習で得た知識を正しく理解し、実習で実践するための大切な授業です。積極的に、欠席することなく参加し、ベンチマークを達成してください。 ・必ずパソコンを持参してください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	「第 1 回」	○　ワークシート 1 「子どもたちの発達の

4 月 11 日	○オリエンテーション　　学習の進め方・ルール ・評価について　　プロローグ　　教育実習の意義　　・昨年度の教育実習から　小学校教育の概要と役割 ・小学校教員に期待されるもの　　・ 事前オリエンテーションについて ・連絡事項	姿」 ○復習　教育実習　事務手続き　1 時間 ○次回予習　学校現場の 1 日の流れ　1 時間
2 回目 4 月 18 日	「第 2 回」 ○小学校教育実習全体の流れ ・小学校について ・小学校教育と関係法 ・文部科学省と教育委員会 ・学校現場 ・１日の流れ	○宿題　ワークシート 2「特別支援教育について」　2 時間
3 回目 4 月 25 日	「第 3 回」 ○学習指導案を作成しよう? ・算数科の授業の流れ ・３年「大きな数のわり算」教材研究（グループ） ・指導略案作成	○ワークシート 3「教育実習最初の挨拶は・・・(職員・全校児童・学級児童)」
4 回目 5 月 2 日	「第 4 回」 ○算数 3 年「大きな数のわり算」模擬授業 ・授業で大切にしたいこと ・模擬授業の実施 ・授業観察記録の取り方	課題○ ワークシート 4「授業記録を書こう」(今回は授業後提出)
5 回目 5 月 9 日	「第 5 回」 ○学習指導案を作成しよう? ・道徳科の授業の流れ ・４年「すてきな家族に」教材研究（グループ） ・指導略案作成	○復習　小学校の活動内容　1 時間 ○予習　外国語活動　　総合的な学習　特別活動　1 時間
第 6 回 5 月 16 日	「第 6 回」 ○道徳 4 年「すてきな家族に」模擬授業 ・授業で大切にしたいこと ・模擬授業の実施 ・授業観察記録の取り方	○宿題ワークシート 6「人権教育について調べよう」　2 時間
第 7 回 5 月 23 日	「第 7 回」 ○学習指導案を作成しよう? ・国語科の授業の流れ ・３年「修飾語を使って書こう」教材研究（グループ） ・指導略案作成	◎宿題　グループワーク グループ課題「指導略案をつくろう」 各グループで 2 つの指導略案を作成する 5 教科のうち　2 教科提出　　4 時間 ◎宿題　挨拶作成　3 時間
第 8 回 5 月 30 日	「第 8 回」 ○国語 3 年「修飾語を使って書こう」模擬授業 ・授業で大切にしたいこと ・模擬授業の実施	○ワークシート 8「指導略案をつくろう」 2 時間

	・授業観察記録の取り方	
第９回 ６月６日	「第９回」 小学校現場で活躍されている先生の話を聞く。 「学校現場の今～教育実習生に期待すること～」	I 講話からの学び 《レポート》
第１０回 6 月１３日	「第１０回」 〇授業観察記録の取り方 ・授業 DVD 視聴 ・観察記録をとる	〇ワークシート９「研究会に向けた指導案づくり」　３時間
第１１回 ６月２０日	「第１１回」 〇実習日誌・各記録の書き方 〇資料整理の仕方 〇挨拶文作成（はじめと終わり・お礼の手紙）《グループワーク》 【連絡】 今後３回【6 月 27 日　7 月 4 日　7 月 11 日】 ・模擬授業集中講座 ・板書集中講座 いずれかに参加すること	〇ワークシート１０「挨拶文　お礼の手紙を書こう」
第１２回 12 月予定	「第１２回」 〇小学校教育実習報告　振り返り討論 ・最終レポート作成①　（学んだこと・気付いたこと・考えたこと・困ったこと・悩んだこと・感動したこと・印象に残っていることなど） ・小グループでの協議 ・発表	実習日誌、指導案、各種記録の提出 〇各種記録の点検、整理　５時間
第１３回 12 月予定	「第１３回」 〇小学校教育実習全体のまとめ ・最終レポート作成②（小学校教員について・自らの将来について・これから目指すこと･･･） ・小グループでの協議 ・教育実習の成績評価について	課題　最終レポート　　５時間

1.授業コード（ナンバリング）	PED318-A03	2.科目名	教育実習事前事後指導	3.単位数	1
4.授業担当教員	水本隆正				
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許 小学校教諭二種免許	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	小学校教育判定で許可の出た者に限る。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校教師として教育現場での研究と指導力を身に付けることを目的とします。 【概要】 教育実習は、教職資格を取得するための必須の専門科目であり、教育の実際場面での研究と指導力を高めることがねらいである。そのため、教育実習にあたっては、その意義や目的、教育指導上基本となる事項等について正しく、深く理解しておかねばならない。さらに、人間を育てていくという学校教育の場で知っておかなければならないルールや守らなければならない規律・規則など事前に学んでおくべきことが多くある。それらを総じ				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（1）自律的で主体的な態度　（3）多様な文化やその背景を理解し受け入れる能力　（6）専門的知識･技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①将来の夢や目標の実現に向けて、様々な教育現場の問題点や課題を知る ②児童理解、学習技術や学級経営を体験的に学ぶことで、実習への期待と意欲がもてるようにする				
19.教科書・教材	・関西国際大学小学校教育実習ハンドブック（無料） ・小学校教育実習ガイド（萌文書林　１８９０円）				
20.参考文献	・文部科学省小学校学習指導要領 ・文部科学省小学校学習指導要領解説書 ・生徒指導提要				
21.成績評価	①各回のワークシート（評価後に返却） 決められた学習終了時に課題を提示する。　課題報告書は次学習時提出する。 ②学習に積極的に、実習のための知識や技能を学ぼうとしているか（意欲・態度・熱意） ③実習で学んだことを、今後に生かそうとしているか ・各回のワークシート　５０％　（１０×5 回） ・学習指導略案　２０％　（５×４回） ・中間レポート(実習前レポート)　１５％ ・最終レポート(実習ふりかえり)　１５％ 中間レポート及び教育実習実施後（				
22.コメント	・この授業は、教育実習を行うための基本的な事項を学習します。この学習で得た知識を正しく理解し、実習で実践するための大切な授業です。積極的に、欠席することなく参加し、ベンチマークを達成してください。 ・必ずパソコンを持参してください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	「第 1 回」	○　ワークシート 1「子どもたちの発達の

4 月 11 日	○オリエンテーション　　学習の進め方・ルール ・評価について　　プロローグ　　教育実習の意義　　・昨年度の教育実習から　小学校教育の概要と役割 ・小学校教員に期待されるもの　　・ 事前オリエンテーションについて ・連絡事項	姿」 ○復習　教育実習　事務手続き　1 時間 ○次回予習　学校現場の 1 日の流れ　1 時間
2 回目 4 月 18 日	「第 2 回」 ○小学校教育実習全体の流れ ・小学校について ・小学校教育と関係法 ・文部科学省と教育委員会 ・学校現場 ・１日の流れ	○宿題　ワークシート 2「特別支援教育について」　2 時間
3 回目 4 月 25 日	「第 3 回」 ○学習指導案を作成しよう① ・算数科の授業の流れ ・３年「多いな数のわり算」教材研究（グループ） ・指導略案作成	○ワークシート 3「教育実習最初の挨拶は・・・(職員・全校児童・学級児童)」
4 回目 5 月 2 日	「第 4 回」 ○算数 3 年「大きな数のわり算」模擬授業 ・授業で大切にしたいこと ・模擬授業の実施 ・授業観察記録の取り方	課題○ ワークシート 4「授業記録を書こう」(今回は授業後提出)
5 回目 5 月 9 日	「第 5 回」 ○学習指導案を作成しよう② ・道徳科の授業の流れ ・４年「すてきな家族に」教材研究（グループ） ・指導略案作成	○復習　小学校の活動内容　1 時間 ○予習　外国語活動　　総合的な学習　特別活動　1 時間
第 6 回 5 月 16 日	「第 6 回」 ○道徳「すてきな家族に」模擬授業 ・授業で大切にしたいこと ・模擬授業の実施 ・授業観察記録の取り方	○宿題ワークシート 6「人権教育について調べよう」　2 時間
第 7 回 5 月 23 日	「第 7 回」 ○学習指導案を作成しよう③ ・国語科の授業の流れ ・３年「修飾語を使って書こう」教材研究（グループ） ・指導略案作成	※　6 月 3 日～6 月 24 日 ◎宿題　グループワーク グループ課題「指導略案をつくろう」 各グループで 2 つの指導略案を作成する 5 教科のうち　2 教科提出　　4 時間 ◎宿題　挨拶作成　3 時間
第 8 回	「第 8 回」	○ワークシート 8「指導略案をつくろう」

5月30日	○国語「修飾語を使って書こう」模擬授業 ・授業で大切にしたいこと ・模擬授業の実施 ・授業観察記録の取り方	2時間
第9回 6月6日	「第9回」 ○小学校現場で活躍されている先生の話を聞く 「学校現場の今～教育実習生に期待すること～」	○講話からの学び 【レポート】
第10回 6月13日	「第10回」 ○授業観察記録の取り方 ・授業DVD視聴 ・観察記録を取る	○ワークシート9「研究会に向けた指導案作成」 3時間
第11回 6月20日	「第11回」 ○実習日誌、各記録の書き方 ○資料整理の仕方 ○挨拶文作成（はじめと終わり・お礼の手紙）【グループワーク】 【連絡】 今後の3回（6月27日、7月4日、7月11日） ・模擬授業集中講座 ・板書集中講座 いずれかに参加すること	○ワークシート10 「挨拶文、お礼の手紙を 書こう」
第12回 12月予定	「第12回」 ○小学校教育実習報告　振り返り討論 ・最終レポート作成① 学んだこと、気づいたこと、考えたこと、困ったこと 悩んだこと、感動したこと、印象に残っていることなど ・小グループでの協議 ・発表	実習日誌、指導案、各種記録の提出 ・各種記録の点検整理 5時間
第13回 12月予定	「第13回」 ○小学校教育実習全体のまとめ ・最終レポート作成② 小学校教員について、自らの将来について、これから目指すこと など ・小グループでの協議 ・教育実習の成績評価について	課題 最終レポート　5時間

1.授業コード（ナンバリング）	PED320-A01	2.科目名	生徒・進路指導論（小）	3.単位数	2
4.授業担当教員	百瀬和夫				
5.授業科目の区分	基幹科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目　生徒指導の理論及び方法　進路指導（キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。）の理論及び方法を含む）	6.必修・選択の区分	必修 教職必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種 中学(英語)　中学(社会)	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限	小学校免許取得者				
17.授業の目的と概要	【目的】小学校教育現場に即した生徒指導の活動と内容を理解すること。その上で、小学校の生徒指導について、その意義だけでなく、小学校生徒指導の目指す根幹に触れ、健全な人格形成に向けての支援と援助ができる力を身につけるようにする。 【概要】様々な事例研究を通して、受容と共感的理解に基づく生徒指導の方法論や、小学校教育の重要な柱である教師と児童の人間関係づくり、及び組織的に教師が連携して生徒指導を展開する方法など理解し、身に付けることも大きなねらいの一つである。 　大きな社会の変化に伴う、小学校での生徒指導の問題				
18.学習目標とＤＰとの関連	dp（６）専門的知識・技能の活用力 〇一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高め組織的な生徒指導を進めていくために必要な知識・技能を身につける。 dp（５）コミュニケーションスキル 〇ここでの学びが実際の教育現場での実践や指導に繋がり役立てるものである。				
19.教科書・教材	笑育ドリル　晃洋書房 笑育のすすめⅡ（さんだる文庫）＊講義の時に￥500 で販売します。				
20.参考文献	笑育のすすめ　エイチエス出版 文部科学省生徒指導の手引き 生徒指導提要				
21.成績評価	①ワークシートの作成…40％ ②学級通信の作成　　…30％ ③最終テスト……　　30％　（生徒指導のまとめ）				
22.コメント	〇教科書「笑育ドリル」を演習などに活用して進めます。必ず購入してください。 ＊「初等学校経営論」と同じものですから、2 冊購入する必要はありません。 〇「笑育のすすめⅡ」の方は、講義の時間に￥500 で販売します。				

	○小学校教育現場で役に立つ児童理解の基礎を学びます。教育実習や教員採用試験にも役立つので積極的に参加してください。 ○コロナウィルスの影響等を考慮し、ZOOM による遠隔で対応する場合があります。webclass 等を参照することを忘れないようにしてください。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【1 回目】	○小学校生徒指導の目指すもの ・子どもの生活状況と子どもの変化	○社会の変化と生徒指導についての振り返り(2 時間)
【2 回目】	○小学校生徒指導の意義と概観 ・学習指導と生徒指導　学級経営と生徒指導 ・分かる授業、楽しい授業と生徒指導の関係	○学習指導と生徒指導についての考察 t と振り返り（2 時間）
【3 回目】	○児童理解の基本的立場 ・児童理解の方法　子どもを理解するとは…子どもの発達 ・自尊感情を育てるために子どもの内面を深く理解する ・子ども理解のための具体的方策	○子ども理解についての振り返り（2 時間）
【4 回目】	○小学校生活の支援と指導 ・生徒指導の校内体制　全校であたる生徒指導　緊急時の指導体制 ・みんなで協力する生徒指導体制 ・緊急時の対応と危機管理体制	○学校における緊急時の対応についての振り返り（2 時間）
【5 回目】	○教育相談と生徒指児童理解の基本的立場 ・教育相談の基本　養護教諭の役割と連携　関係諸機関との連携 ・温かい児童理解を目指したカウンセリングマインドを通して	○教育相談の基本　養護教諭の役割と連携　関係諸機関との連携等についての振り返り（2 時間）
【6 回目】	○学級経営と生徒指導 ・集団のルールづくり　　個を大切にする集団づくり ・学級経営と生徒指導も関係 ・集団の中で育つ規範意識と個を大切にする集団づくりとは ・ソシオメトリックテストと U-2 テストについて	○学級経営と生徒指導についての振り返り（2 時間）
【7 回目】	○基本的生活習慣と学校生活 ・朝の会、帰りの会、給食、清掃　　係活動、班活動等 ・基本的生活習慣のとは ・学校の役割と家庭との連携	○基本的生活習慣と学校生活、家庭との連携の重要性等についての振り返り（2 時間）
【8 回目】	○様々な問題行動の理解と対応①	○いじめの予防と対処についての振り返り（2

	・いじめを作らない学級づくり　子どもの内面における問題行動 ・いじめの定義　なぜいじめが起こるのか ・子どもの内面の理解 ・いじめの予防とその対策について	時間）
【9 回目】	○様々な問題行動の理解と対応② ・学級が機能しない状況とその対応 ・教師の指示が通らない学級とは ・学級崩壊を未然に防ぐために	○学級が機能しない状況とその対応等についての振り返り（２時間）
【10 回目】	○進路と生徒指導 ・自己の将来に夢や希望を抱き将来の生き方や進路に関する学習 ・各教科とキャリア教育の関係	○進路と生徒指導についての振り返り（2 時間） ※学級通信作成課題の提示
【11 回目】	○学級経営と生徒指導 ・保護者との連携 ・保護者への説明責任	○生徒指導と保護者連携についての振り返り（2 時間）
【12 回目】	○普遍的な人権文化の確立を目指して ・男女共同参画社会　特別支援教育 ・人権の歴史から考える	○普遍的な人権文化から見た生徒指導のあり方についての振り返り（２時間）
【13 回目】	○様々な問題行動とその対応① ・事例研究① ・事例集を基にグループワークで討論する	○事例集を基にした場面指導についての振り返り（1 時間）
【14 回目】	○テスト＆レポート ○様々な問題行動とその対応② ・事例研究② ・事例集を基にグループワークで討論する	○第１回から１３回までのワークシート及び全資料持参のこと ※学級通信づくり
【15 回目】	○小学校生徒指導のまとめ ・小学校生徒指導の実際	・事例集を元に、場面指導、ロールプレイについて復習する。(1 時間） ・全体のまとめ

1.授業コード（ナンバリング）	PED322-A01	2.科目名	外国語	3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明				
5.授業科目の区分	展開	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	小学校教諭（コアカリ科目）	11.先修条件	「外国語の指導」（秋学期）も併せて履修することが望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、英語の言語の音声、文法、語彙についての知識を基盤として、小学校における外国語活動（中学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けることを目的とします 【概要】 具体的には、児童期の第 2 言語習得の特徴、4 技能の指導、評価等の外国語活動や外国語科を指導する上で必要な知識を学び、教材研究や模擬授業の中でそれらの知識や理解を活用します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①児童期の第 2 言語習得理論や小学校外国語における 4 技能など外国語を指導する上で必要な知識がわかるようになる。 ②①の知識や理解を実践の中で活用できるようになる。				
19.教科書・教材	①樋口忠彦（代表）(2023)『最新　小学校英語教育法入門』研究社 ②文部科学省　小学校外国語活動教材「Let's Try! 1 」東京書籍　(3 年生用) ③文部科学省　小学校外国語活動教材「Let's Try! 2 」東京書籍　(4 年生用) ※上記、教科書は全冊購入することになります。				
20.参考文献	樋口忠彦・高橋一幸・加賀田哲也・泉惠美子（2017）『Q&A　小学校英語指導法事典ー教師の質問 112 に答える』教育出版. 小学校学習指導要領　最新版 小学校学習指導要領解説　外国語活動・外国語編　最新版 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　小学校　外国語・外国語活動 東洋館出版社 {WEB 資料,https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_gaikokg.pdf}				
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ・課題１：毎回のコメントと授業貢献度２０％［学習目標①に対応］ ・課題２：小テスト（中間)、課題３０％？[学習目標①に対応] ・課題３：教材研究発表１０％［学習目標②に対応］				

	・課題４：模擬授業発表（学習指導案含む）２０％［学習目標②に対応］ ・課題５：レポート（総括振り返り）２０％［学習目標①、②に対応］
22.コメント	「外国語」（春学期）では小学校英語教育の基礎理論と「外国語活動」（中学年）における実践的な指導方法・評価規準の設定について、「外国語の指導」（秋学期）では、「外国語」（春学期）で学習した内容をふまえて、「外国語」（高学年）における、より実践的な指導方法・評価規準の設定について学びます。
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション ・小学校外国語教育の目的と目標　テキスト pp.2-15 ・小学校英語授業体験	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第 2 回】	・「外国語教育の意義と方向性（児童期の第 2 言語習得の特徴)」 テキスト pp.16-27 ・教室英語	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第 3 回】	・「指導者の役割、資質と研修」テキスト pp.28-41 ・教室英語	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習、スモールトークの準備
【第 4 回】	・「教材の構成と内容」テキスト pp.42-66 ・スモールトーク	復習：今回の復習及びノートの整理 予習：次回の予習、スモールトークの準備
【第 5 回】	・「指導目標、領域別目標、年間指導計画の立て方と具体例」　テキスト pp. 67-81 ・スモールトーク	復習：今回の復習及びノートの整理 予習：次回の予習、 グループワーク：発表者はグループで発表準備
【第 6 回】	・「言語材料と 4 技能の指導」テキスト pp.82-91 ・スモールトーク	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習、 グループワーク：発表者はグループで発表準備
【第 7 回】	・「教材研究①ー慣れ親しむ活動」テキスト pp.92-110 ・スモールトーク	復習：第 1 回から第 7 回までの復習、中間テスト準備
【第 8 回】	・「教材研究②ー生き生きと英語を使う活動」テキスト pp.111-134 ・スモールトーク	復習：今回の復習 予習：次回の予習 中間テスト準備
【第 9 回】	・中間テスト（第 1 回～第 7 回までの内容）　※持ち込み可、対面で実施、PC 持参のこと（60 分）：選択問題＋論述問題 ・「指導方法と指導技術」テキスト pp.135-151 (オンデマンド課題)	復習：今回の復習及びノートの整理 ・「いろいろな教材、教具の活用法」テキスト pp.139-150 を読んでおく。 予習：次回の予習
【第 10 回】	・「授業過程と学習指導案の作り方」　テキスト	復習：今回の復習及びノートの整理

	pp.182-203 ・スモールトーク	予習：次回の予習 グループワーク：学習指導案(第１案）の作成 第１１回に提出
【第 11 回】	・「評価のあり方、進め方」　テキスト pp.167-181 ・スモールトーク	復習：今回の復習及びノートの整理 予習：次回の予習 グループワーク：模擬授業準備
【第 12 回】	・「授業づくりー事前準備から振り返りまで」　テキスト pp.204-217 ・スモールトーク	復習：今回の復習及びノートの整理 グループワーク：模擬授業準備，学習指導案完成
【第 13 回】	・マイクロティーチング（模擬授業）　（１回目） ※自己紹介と授業の導入まで ※相互によるフィードバック	復習：模擬授業に参加して、または模擬授業を行って振り返り記入 グループワーク：模擬授業準備、学習指導案完成 提出物：学習指導案（模擬授業者）
【第 14 回】	・マイクロティーチング（模擬授業）　（２回目） ※自己紹介と授業の導入まで	復習：模擬授業に参加して、または模擬授業を行って振り返り記入 予習：次回の予習,レポート作成 第１５回授業時に提出 提出物：学習指導案（模擬授業者）
【第 15 回】	・「豊かな小学校外国語教育をめざして」pp.218-228 ・まとめ ・リフレクション（振り返り）	提出物：レポート

1.授業コード（ナンバリング）	PED325-M01	2.科目名	生徒・進路指導論（中・高）	3.単位数	2
4.授業担当教員	森啓二				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】・生徒指導の定義、構造と目的、他の各教科等及び教育課程との関連性を理解させる。 ・キャリア教育推進の経緯及びその理論や具体的な指導方法を理解させる。 【概要】・講義で学んだ理論等を踏まえ、具体的な対応例を考えていく。 ・さまざまな事例への対応策を考え、グループで課題等について検討する。 ・これからの生徒指導及びキャリア教育の在り方を自分なりに考えて見る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の（３）多様性理解（５）コミュニケーションスキル（６）専門的知識・技能の活用力の学修に関連します。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①生徒指導の構造や目標を教育活動全体と関連付けながら理解できる。 ②自分なりの生徒指導の具体的な進め方を身に付けることができる。 ③キャリア教育の理論を理解し、具体的な指導手順を身に付けることができる。				
19.教科書・教材	1　「生徒指導提要令和４年１２月年改訂版」（文部科学省ホームページ） 2　「中学校のキャリア教育の手引き」（教育出版）平成 23 年 5 月				
20.参考文献	1．毎回授業プリントを配布。その他の関連資料は授業中にその都度配布や照会します。 2．「中学校学習指導要領」（文部科学省）平成 30 年 3 月				
21.成績評価	○評価の方法と配点 ・課題レポート３回　　40 点 ・授業中の課題発表　10 点 ・最終確認テスト　50 点 専門用語の理解（選択問題及び記述問題）　30 点 課題への論述問題　20 点				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	○オリエンテーション（・本講義の内容、目標、評価の方法・講義の進め方・受講する上での注意点・使用テキストについて） ○生徒指導の定義と目的について ○生徒指導の実践上の視点について ○生徒指導の構造について	復習：今回の復習、 授業プリントの整理 予習　生徒指導体験発表の 準備
第２回	○生徒指導の基礎について	復習　今回の復習及び授業

	・生徒指導の方法（集団指導と個別指導） ・生徒指導の基礎（教職員の協働性） ・生徒指導の取組上の留意点（生徒の権利の理解、ICT の活用）	プリントの整理 予習（課題） 第１回レポートの作成
第３回	○生徒指導と他の教育課程との関連性 ・学習指導要領「総則」と生徒指導について ・生徒の発達をささえる教育課程について ・教科指導と生徒指導の関連性について ・道徳科を要とした道徳教育における生徒指導について	復習　今回の復習及び授業 プリントの整理 予習　次回の予習
第４回	○「総合的な学習の時間」と「特別活動」と生徒指導 ・総合的な学習の時間と生徒指導の関連性について ・特別活動における生徒指導の位置づけについて ・学級活動、HR 活動、生徒会活動、学校行事と生徒指導の関連性 ・特別活動におけるキャリア教育との関連性について	復習　今回の復習及び授業 プリントの整理 予習　次回の予習 第１回レポート持参
第５回	○学校における生徒指導体制１ ・チーム学校における生徒指導について ・学校における生徒指導体制（生徒指導主事、職員研修）について ・教育相談体制について ・生徒指導と教育相談が一体となった学校組織について	復習　今回の復習及び授業 プリントの整理 予習　次回の予習 第２回レポート作成
第６回	○学校における生徒指導体制２ ・危機管理体制（学校安全、安全教育）について ・生徒指導に関する法制度（校則、懲戒等）の運用体制について ・学校・家庭・関係機関との連携・協働について	復習　今回の復習及び授業 プリントの整理 予習　いじめに関する体験 発表の準備
第７回	○個別の課題に対する生徒指導１（いじめの実態と対応） ・いじめの防止対策推進法について ・いじめの防止等の対策のための組織と計画について ・いじめに対する重層的支援構造について ・関係機関との連携体制について	復習　今回の復習及び授業 プリントの整理 視聴 VTR の感想をまとめる 予習　次回の予習 第２回レポート持参
第８回	○個別の課題に対する生徒指導２（暴力行為の実態と対応） ・暴力行為に関する対応指針等について ・学校の組織体制と年間指導計画について ・暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造について	復習　今回の復習及び授業 プリントの整理 予習　次回の予習

	・関係機関との連携体制について	
第９回	○個別の課題に対する生徒指導３（少年非行の実態と対応） ・少年法・児童福祉法等について ・少年非行に対する視点について ・少年非行への対応の基本について ・関係機関との連携体制について ・喫煙・飲酒・薬物乱用について	復習　今回の復習及び授業 プリントの整理 予習　次回の予習 第３回レポート作成
第１０回	○個別の課題に対する生徒指導４（児童虐待） ・児童福祉法・児童虐待の防止に関する法律について ・学校の体罰防止について ・児童虐待生徒の発見について ・児童虐待の通告義務及び関係機関との連携体制について	復習　今回の復習及び授業 プリントの整理 予習　次回の予習
第１１回	○個別の課題に対する生徒指導５（自殺、中途退学、不登校の実態） ・自殺対策基本法について ・自殺防止の学校の組織体制と年間指導計画について ・中途退学の関連法規と中途退学の理解について ・不登校に関する関連法規及び学校の対応や指導計画について	復習　今回の復習及び授業 プリントの整理 学習指導要領の確認 予習　次回の復習 第３回レポート持参
第１２回	○個別の課題に対する生徒指導６（インターネット、携帯電話等） ・インターネットをめぐる課題に対する関係機関との連携体制について ・性に関する法律・方針等及び学校における指導について ・性犯罪等に関する重層的支援構造及び性的マイノリティへの対応について ・発達障害や精神疾患に関する理解と対応について ・健康問題に関する理解と対応について	復習　今回の復習及び授業 プリントの整理 予習　次回の復習 中学時代の進路指導の体験のまとめ
第１３回	○進路指導とキャリア教育について ・キャリア教育と進路指導の違いについて ・キャリア教育推進の背景及びキャリア教育が目指すもの ・「４領域８能力」から「基礎的・汎用的能力」の育成へ ・勤労観・職業観の育成について	復習　今回の復習及び授業 プリントの整理 学習指導要領の確認 予習　次回の予習

第１４回	○小中高等学校におけるキャリア教育の具体的な進め方 ・小中高等学校におけるキャリア発達の違いと目標について ・中学校におけるキャリア教育のポイント及び実践例について ・高等学校におけるキャリア教育のポイント及び実践例について	復習　今回の復習及びこれまでの授業プリントの整理 予習　トライやるウィーク体験の発表準備
第１５回	○これからのキャリア教育の進め方と確認テスト ・キャリア教育における家庭、地域、企業、職能団体との連携について ・これまでの学習内容を踏まえ、生徒指導・キャリア教育に関する基礎的知識の確認。 ・自分なりの生徒指導及びキャリア教育の指導方法をまとめる。	復習　今回の復習及びこれまでの授業プリントの整理

1.授業コード（ナンバリング）	PED401-A01	2.科目名	初等家庭科教育法	3.単位数	2
4.授業担当教員	山口香織				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）　小学校一種		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習	
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	【目的】 １．家庭科教育の歩みについて学び，小学校家庭科の目標や内容について理解する ２．学習指導案の作成，模擬授業の実施と振り返りを通じて，実践的な指導，教材の開発，情報機器の活用，目標に準拠した評価とコメントなど，教師としての資質や能力を養う ３．子どもの主体的な学びを促す授業実践ができる能力を培う				
18.学習目標とＤＰとの関連	１．学習指導要領に示された家庭科の目標や内容を理解する (1)学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している (2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解している (3)家庭科の学習評価の考え方を理解している (4)家庭科と背景となる学問領域との関係を理解し，教材研究に活用することができる ２．基礎的な学習指導理論を理解し，具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける (1)児童の発達課題や生活課題を視野に入れた授業設計の重要性を理解している (2)家庭科の特性に応じた情報機器と教材の効果的な活用法を理解し，授業設計に活用できる (3)学習指導案の構成を理解し，具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成ができる (4)模擬授業の実施とその振り返りを通して，授業改善の視点を身に付けている (5)家庭科における実践研究の動向を知り，授業設計の向上に取り組むことができる ［関連する DP］ （3）多様性理解（4）問題発見・課題解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	１．萌文書林『初等家庭科教育法　気づく・考える・実践する力を育む授業づくり』 ２．東京書籍『小学校家庭科（文部科学省認定済教科書)』 ３．文部科学省『小学校学習指導要領解説　家庭編』（平成 30 年 2 月）				
20.参考文献	その他，関連文献等は授業中に適宜紹介します				
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ・試験・・・50 点　［学習目標 1・2］ ・課題（レポート・小テストを含む）・・・50 点　［学習目標 1・2］ ※課題は，提出要件を満たし，かつ期日中に定められた方法で提出することを合格基準とする				
22.コメント	家庭科は実践的体験的な学びを特徴とし、他教科との関連をはじめ領域横断的な授業展開を通じて「生きる力」を育む科目です。これからの時代を生きる児童に必要な資質・能力とは何か、またそれはどのような授業の中で身につけることができるかを一緒に考えていきましょう。				
23.オフィスアワー	授業開始前・終了後（教室または家庭科室，講師控室）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション（目標・内容・評価方法・留意点）	持参物：教科書・Web Class が使用できる端末（ノート PC など）は毎回持参

	家庭科教育の理念と意義［1-1］	教室外学習：復習・予習・ノート整理・小レポート
第２回	小学校家庭科の学習内容と指導方法	教室外学習：復習・予習・ノート整理・小レポート
第３回	家庭科の授業設計	教室外学習：復習・予習・ノート整理・小レポート
第４回	家庭科の授業評価	教室外学習：復習・予習・ノート整理・小レポート
第５回	指導案作成について	教室外学習：復習・予習・ノート整理・小レポート
第６回	小学校家庭科の実際の授業-ビデオ視聴から学びの特徴を捉える	教室外学習：復習・予習・ノート整理・小レポート
第７回	授業づくり（1）指導案作成①個人	教室外学習：復習・予習・ノート整理・小レポート
第８回	授業づくり（2）指導案作成②グループ	教室外学習：復習・予習・ノート整理・小レポート
第９回	授業づくり（3）情報通信技術を用いた教材作成	教室外学習：復習・予習・ノート整理・小レポート
第１０回	模擬授業(1)家族・家庭生活（情報通信技術の活用）	教室外学習：復習・予習・ノート整理・小レポート
第１１回	模擬授業(2)食生活（情報通信技術の活用）	教室外学習：復習・予習・ノート整理・小レポート
第１２回	模擬授業(3)衣生活・住生活（情報通信技術の活用）	教室外学習：復習・予習・ノート整理・小レポート
第１３回	模擬授業(4)消費生活・環境（情報通信技術の活用）	教室外学習：復習・予習・ノート整理・小レポート
第１４回	PDCA の視点から模擬授業を振り返る（情報通信技術の活用）	教室外学習：復習・予習・ノート整理・小レポート
第１５回	総括：授業改善のポイントと確認テスト	教室外学習：復習・ノート整理・小レポート

1.授業コード（ナンバリング）	PED402-A01	2.科目名	特別活動の指導法　（小）		3.単位数	2
4.授業担当教員	上山敏弘					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	教免取得必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉子ども学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件	教員免許取得のための必修科目		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	新学習指導要領の中で、小学校特別活動が改善された基本方針、具体的事項を知り、この教育活動のめざしているものを確実に理解しておくことは大切である。 また、各活動・学校行事の改善のポイント・教育活動の内容・指導計画の作成・他の教育活動との関連等を具体的に調べることから、特別活動の基本的な性格と教育的意義の理解を深めることをねらいとしている。さらに、今小学校現場で取り組まれている特別活動の情報を収集して、グループワークなどから、具体的な活動計画の作成に取り組んでいきたい。 　また、学校教育全体における特別活動の					
18.学習目標と ＤＰとの関連	①　学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解できる。 ②　教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解できる。 ③　学級活動・ホームルーム活動の特質を理解できる。 ④　児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解できる。 ⑤　教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解できる。 ⑥　特別活動における取組の評価・改善活動の指導の在り方を理解できる。 ⑦　合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 ⑧　特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解できる。					
19.教科書・教材	なし 適宜資料配布					
20.参考文献	小学校学習指導要領,みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）					
21.成績評価	①ワークシート・講義のまとめ　全１５回（６０％）【学修目標①～⑧に対応】 ②小学校特別活動の各活動の指導計画・展開（グループワーク）（20％）【学習目標④⑦に対応】 ③話す・聴く力、意見交換力（グループ討議）（１0％）【学習目標③④⑧に対応】 ④まとめレポート（１０％）【学習目標①⑤⑥に対応】					
22.コメント	小学校特別活動は、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる教育活動です。学校が楽しい、仲間と活動することが楽しいなどと直接結びつく教育活動です。子どもたちが、楽しく、生き生きと活動できるものを一緒に考えましょう。					
23.オフィスアワー	金曜日３限					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	オリエンテーション　　学習の進め方　　グループ作り 特別活動の基本事項 （アンケート　教員になることへの期待と不安）	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 予習：次回の予習（Webclass で資料を事前提示） アンケートを Webclass で提出
【第２回】	「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメ	パソコンを持参

	ント」とは？ 資質能力の３つの視点 （ワークシート　地域との連携案作成）	復習：今回の授業ノートの整理 予習：次回の予習（Webclass で資料を事前提示） ワークシートを Webclass で提出
【第３回】	始業式の一日、学級目標づくり、 みんなの想いを一つにまとめるには？ （ワークシート　学級目標）	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 予習：次回の予習（Webclass で資料を事前提示） ワークシートを Webclass で提出
【第４回】	「自発的・自治的って？」　係と当番の違いは？ 係を考えよう （ワークシート　係の仕事）	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 予習：次回の予習（Webclass で資料を事前提示） ワークシートを Webclass で提出
【第５回】	学級会のもち方、準備から計画・実施まで 誕生日会・お楽しみ会の計画 （ワークシート　コミュニケーション力のつく遊びの案）	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 予習：次回の予習（Webclass で資料を事前提示） ワークシートを Webclass で提出
【第６回】	児童会活動の内容と組織 ６年生を送る会の企画 （ワークシート　委員会の仕事との関係から考えた役割分担）	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 予習：次回の予習（Webclass で資料を事前提示） ワークシートを Webclass で提出
【第７回】	委員会活動の名前と活動計画を考える （ワークシート　委員会活動計画案）	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 予習：次回の予習（Webclass で資料を事前提示） ワークシートを Webclass で提出
【第８回】	クラブ活動も目的と計画 地域との連携も考慮した計画 （ワークシート　クラブ活動計画案）	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 予習：次回の予習（Webclass で資料を事前提示） ワークシートを Webclass で提出
【第９回】	異学年・異校種交流集会の意義、計画・立案 （ワークシート　全学年 or 一部の学年の交流計画）	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 予習：次回の予習（Webclass で資料を事前提示） ワークシートを Webclass で提出
【第 10 回】	学校行事の目的 入学式の役割分担と流れ、１年生を迎える会 （ワークシート　新１年生看護中の出し物を考える）	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 予習：次回の予習（Webclass で資料を事前提示） ワークシートを Webclass で提出
【第 11 回】	運動会の企画・立案 団体競技・団体演技の内容検討 （ワークシート　団体演技 or 競技の案）	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 予習：次回の予習（Webclass で資料を事前提示）

		ワークシートを Webclass で提出
【第 12 回】	宿泊行事の計画・立案 （ワークシート　プログラム案）	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 予習：次回の予習（Webclass で資料を事前提示） ワークシートを Webclass で提出
【第 13 回】	学習発表会の企画・立案、作品展 （ワークシート　発表内容案）	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 予習：次回の予習（Webclass で資料を事前提示） ワークシートを Webclass で提出
【第 14 回】	音楽集会・体育集会の意義、活動例 （ワークシート　音楽 or 体育集会の企画案）	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 予習：次回の予習（Webclass で資料を事前提示） ワークシートを Webclass で提出
【第 15 回】	まとめ 特別活動はキャリア教育の要 （ワークシート　初めて子どもたちを前にして話す言葉）	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 ワークシートを Webclass で提出

1.授業コード（ナンバリング）	PED402-Y01	2.科目名	特別活動の指導法	3.単位数	2
4.授業担当教員	松田忠喜				
5.授業科目の区分	教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科、経営学科、英コミ学科、グローバルコミュニケーション学科、社会学科			9.履修学年	2 年生～
10.取得資格の要件	中学社会、高校公民、中学英語、高校英語、高校情報	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義科目		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 特別活動は、小・中・高・特別支援学校の教育課程に位置付く教育活動です。したがって、学校現場では、自分が担当する教科に関わらず、すべての教師が特別活動の指導にあたることになります。 そこで、本授業では、特別活動の教育的意義や目標・内容、指導法や評価の在り方等について理解し、実践的な指導力を身に付けるとともに、学びを今後の自己の生き方に生かすことができるようにします。 【概要】 近年、情報化・少子高齢化など急速な社会変化の中で、人間関係の希薄化が進み、子どもたちの自主性、社会性などを身に付ける				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 特別活動の教育的意義を理解した上で、特別活動の目標を具現化する方法を明らかにし、実践的な指導力を身に付ける。 ?特別活動の教育的意義や目標・内容を列挙することができる。 ②模擬授業、具体的事例などを通して指導方法の在り方を探求し、実践に生かせる指導力を身に付けることができる。 ③自主的、主体的に授業に参加し、教育の今日的課題の解決に向けて、特別活動の果たすべき役割を説明できる。 【関連するディプロマ・ポリシー】 （1）自律性（4）問題発見・解決力				
19.教科書・教材	21 世紀社会に必要な「生き抜く力」を育む　特別活動の理論と実践　第 3 版 中園大三郎・松田修　編著 学術研究出版　2000 円（税抜）　ISBN 978-4-910733-90-6				
20.参考文献	?文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示)」(東山書房・2017 年) ②文部科学省「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示)」(東山書房・2018 年) ③文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別活動編」(東山書房・2017 年) ④文部科学省「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　特別活動編」(東京書籍・2018 年) ⑤文部科学省「学級・学校文化を創る特別活動　中学校・高等学校編」(東京書籍・2023 年) ⑥杉田洋　「よりよい人間関係を築く特別活動」　(図書文化社 2009 年)				
21.成績評価	評価に当たっては、上記 18 に示した学習目標?②③の達成度を授業中の取り組みも含めて総合				

	的に行います。 １．評価の方法 ・毎回の振り返り内容、小レポート、最終レポート、授業での役割等 ２．成績の配分 ・模擬授業、3 分間スピーチ、グループワーク、役割分担等の主体的な参加（学習目標②③に対応）【15%】 ・授業での提出物（小レポート）（学習目標?②に対応）【20%】 ・毎授業後に記入して提出する「振り返り」の内容（学習目標?②③に対応）【25%】 ・最終レポート（学習目標?②③に対応）【40%】 ３．
22.コメント	学校時代の思い出として特別活動（主に学校行事）を挙げる学生は多くいます。そこで、本授業では特別活動の教育的意義や価値をふまえ、生徒がよりよい学級・学校生活をめざして自主的、実践的に活動できるための効果的な指導・支援の在り方を学生のみなさんとともに考えていきます。 「なすことによって学ぶ」という特別活動の方法原理を理解するためにも授業に自主的、実践的に参加することを期待します。 特別活動を多面的多角的にとらえ、人としての在り方生き方を考えるため、原則として各授業の初めに「私と特別活動」というテーマで「3 分間スピーチ」を実施しますので、自主的な参加を望みます。
23.オフィスアワー	授業前後の教室内 E メールで質問や連絡等ができます。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション（本授業の目標・内容、進め方、評定算出方法の確認、受講上の留意点についてなど） ・3 分間スピーチの実施方法、振り返りカードの記入の仕方など ・特別活動とは（教育課程における特別活動の位置づけとその意義） ・なぜ特別活動が重要なのか ・学級経営や生徒指導と大きく関わる特別活動	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 2 回】	・特別活動の歴史的変遷 ・【グループワーク】子どもたちを取り巻く現状と課題から見た特別活動への期待と役割	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 3 回】	・特別活動に関わる指導理論 ・【グループワーク】特別活動の教育的意義	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 4 回】	・特別活動の目標 ・特別活動の内容（学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示） 【レポート作成】特別活動の目標と内容 ＊手書きで作成し、第 11 回授業までに提出
【第 5 回】	学級活動・ホームルーム活動（1） ・目標・内容、全体計画・年間指導計画、指導上の留意点	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）

		＊次回のディスカッション（話合い）で使用する「学級活動・ホームルーム活動における学級会の議題」を考えておく。
【第 6 回】	学級活動・ホームルーム活動（２） ・「話合い活動」の指導ポイント ・【ディスカッション（話合い)】：次回話し合う学級会の議題決定（合意形成の実際）	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示） 【宿題】学級会プリントの作成 ＊作成したプリントを次回の模擬授業で使用
【第 7 回】	学級活動・ホームルーム活動（３） ・【演習】模擬授業（学級活動・ホームルーム活動：話合い活動「学級会」）	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 8 回】	生徒会活動 ・目標・内容、指導計画、指導上の留意点	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 9 回】	学校行事 ・目標・内容、指導計画、指導上の留意点	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 10 回】	・特別活動と生徒指導 ・学級経営との関連 ・特別活動における人間形成と部活動 ・【グループワーク】生徒指導や学級経営に大きく関わる特別活動のあり方	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 11 回】	・特別活動と各教科との関連 ・特別活動と総合的な学習（探究）の時間との関連 ・特別活動と道徳教育	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 12 回】	・特別活動におけるキャリア教育 ・言語活動の充実 ・学級活動・ホームルーム活動（話合い活動）における指導案作成の実際	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示） 【宿題】学級会プリントの作成 ＊作成したプリントを次回の模擬授業で使用 【レポート作成】指導案作成 ＊第 14 回授業までに WebClass から提出
【第 13 回】	学級活動・ホームルーム活動（４） ・【演習】模擬授業（学級活動・ホームルーム活動：話合い活動とゲーム集会活動） ・最終レポート課題の提示と説明	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示） 【最終レポート作成】レポート課題の提示と作成
【第 14 回】	・特別活動の評価 ・家庭、地域社会、関係機関との連携	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示） 【最終レポート作成】
【第 15 回】	・【グループワーク】これからの学校教育と特別活動 ・特別活動の指導法のまとめ	復習：今回の復習、授業ノートの整理 【最終レポート提出】

1.授業コード（ナンバリング）	PSY106-A01	2.科目名	発達心理学	3.単位数	2
4.授業担当教員	椋田善之				
5.授業科目の区分	専攻必修基幹	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育・保育コース			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	保育士資格：必修 幼稚園教諭、小学校教諭：教職に関する科目必修	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	人は受胎から死に至るまでさまざまに変化していく。その変化の中でも、心や身体の変化については発達ということばを使う。人は発達し続けるが、誕生から児童期にかけての発達的変化は大変大きい。教育の対象である子どもたちは大きな発達的変化の中におり、発達を支援する者はその変化を十分に理解した上で支援活動を行う必要がある。生涯発達という視点を持ちつつ、子どもの発達の理解をめざす。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（２）社会的貢献性（３）多様性理解（６）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達をとらえる視点について理解する。 ②子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 ③子どもの学びの課程や特性について基礎的な知識を習得し、人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。 ④生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解する。				
19.教科書・教材	特に指定しない。				
20.参考文献	授業中に紹介する。				
21.成績評価	小テスト：20 点　〔学習目標①～④に対応〕 小課題（授業中に指示を出す）：30 点　〔学習目標②、③に対応〕 総括テスト：50 点　〔学習目標①～④に対応〕				
22.コメント	自分たちの発達の道筋も辿れます。難しい専門用語なども多いのですが、しっかりと理解しましょう。				
23.オフィスアワー	木曜日お昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	「発達心理学とは何か」近接領域との関係について	個人作業 復習：小テストのための準備 予習：配布したプリントの疑問点などの整理
2 回目	発達心理学の研究方法、発達課題	個人作業 復習：小テストのための準備 予習：配布したプリントの疑問点などの整理
3 回目	発達と教育	個人作業 復習：小テストのための準備 予習：配布したプリントの疑問点などの整理
4 回目	発達心理学の理論	個人作業 復習：小テストのための準備 予習：配布したプリントの疑問点などの整理

5 回目	胎生期の発達	個人作業 復習：小テストのための準備 予習：配布したプリントの疑問点などの整理
6 回目	乳児期の発達―運動の発達	個人作業 復習：小テストのための準備 予習：配布したプリントの疑問点などの整理
7 回目	乳児期の発達―人との関わりの中で育つもの①	個人作業 復習：小テストのための準備 予習：配布したプリントの疑問点などの整理
8 回目	乳児期の発達―人との関わりの中で育つもの②	個人作業 復習：小テストのための準備 予習：配布したプリントの疑問点などの整理 〇
9 回目	幼児期から児童期の認知発達①	個人作業 復習：小テストのための準備 予習：配布したプリントの疑問点などの整理
10 回目	幼児期から児童期の認知発達②	個人作業 復習：小テストのための準備 予習：配布したプリントの疑問点などの整理
11 回目	社会性の発達	個人作業 復習：小テストのための準備 予習：配布したプリントの疑問点などの整理
12 回目	青年期について	個人作業 復習：小テストのための準備 予習：配布したプリントの疑問点などの整理
13 回目	「子ども」について：児童労働について	個人作業 復習：小テストのための準備 予習：配布したプリントの疑問点などの整理
14 回目	成人期から老年期について	〇総括テストのための学習
15 回目	発達のつまずきと対応	〇総括テストのための学習

1.授業コード（ナンバリング）	PSY106-Y01	2.科目名	発達心理学	3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子				
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	【神戸山手キャンパス】 心理学部、人間科学部、国際コミュニケーション学部、社会学部			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	公認心理師 ※教員免許取得のための必修科目 学芸員高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語) 中学(社会)　認定心理士　保育士 幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【科目の概要】 この科目では、生涯発達心理学の立場（人間は生涯を通して成長し続けるという立場）から、胎児期、新生児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の過程において、各発達期の特徴と援助のあり方を理解することを目的とする。とくに乳幼児期における知能、気質、感情の心理学的理解を通して、子どもの発達支援に必要な知識の習得をねらいとする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【科目の到達目標】 ①各発達期における運動発達、言語発達、認知発達、社会性の発達について、具体的な内容を説明できる。 ②幼児、児童の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用と、発達に関する代表的理論を踏まえ、子どもの発達支援に必要な知識とその意義を説明できる。				
19.教科書・教材	「やさしく学べる乳幼児の発達心理学: 妊娠、出産から子育てまで」 田中亜裕子著　創元社				
20.参考文献	適宜、紹介する。				
21.成績評価	Webclass 課題・・・30% DVD 感想：20% 期末テスト・・・50%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜昼休み：センターオフィスアワー 火曜 4 限：研究室オフィスアワー 火、水は神戸山手、木、金は三木にいます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 授業の進め方と、学びの概要について説明する。	

第 2 回	胎生期の発達 1（胎児の発達と母体の変化（妊娠、出産）について学ぶ。） ＤＶＤ視聴:小さな生命の詩	Webclass 課題
第 3 回	胎児期の発達 2（胎児の発達と母体の変化（妊娠、出産）について学ぶ。） 胎生期、免疫寛容、胎児の発達、低出生体重児、体内環境、妊婦健診 グループワーク課題：胎児期の発達の基礎知識について説明する。	Webclass 課題
第 4 回	新生児期~乳児期の育ち 1（新生児期、乳児期の身体、心理、社会的発達について学ぶ） DVD 視聴：「赤ちゃんの不思議な世界」	Webclass 課題
第 5 回	新生児期~乳児期の育ち 2 新生児期、乳児期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。 生理的早産、ネオテニー、原始行動、赤ちゃんの気質、視覚的断崖の実験、認知発達、運動発達、共鳴動作、微笑、言語の発達、自己認知、共同注意 グループワーク課題：新生児期の発達の基礎知識について説明する。	Webclass 課題
第 6 回	新生児期~乳児期の育ち 3 新生児期、乳児期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。 愛着理論、内的作業モデル、ハーロウの代理母親の実験、社会的参照、母子相互作用、父親の存在 グループワーク課題：乳児期の発達の基礎知識について説明する。	Webclass 課題
第 7 回	幼児期の育ち 1 DVD「里っ子たち」視聴 幼児期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。	Webclass 課題
第 8 回	幼児期の育ち 2 幼児期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。 身体発育、発達課題、認知発達、心の理論、思考の特徴、言語発達、第一次反抗期、退行、仲間関係 グループワーク課題：幼児期の発達の基礎知識について説明する。	Webclass 課題
第 9 回	児童期の発達 1 児童期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。 DVD 視聴：「里山の学校」	Webclass 課題
第 10 回	児童期の発達 2 児童期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。	Webclass 課題

	運動機能・技能の発達、認知発達、思考の発達段階、人間関係、役割取得、自己意識と自己理解 グループワーク課題：児童期の発達の基礎知識について説明する。	
第 11 回	発達障害の理解と対応 知能検査について知り、発達障害の理解と対応を学ぶ。 知能分類、知能検査、知的障害、発達障害、発達支援 グループワーク課題：発達障害に関する心理学的支援の方法について説明する。	Webclass 課題
第 12 回	子ども臨床 子ども臨床の基礎事項について学ぶ。 援助に際して必要な情報、遊戯療法、８つの基本原理 グループワーク課題：メンタル面での問題を抱えた子どもと親への心理学的支援について説明する。	Webclass 課題
第 13 回	青年期 青年期の発達課題と、青年期の心理発達について学ぶ 性的発達、思考の発達、時間的展望、友人関係、自己意識、アイデンティティの確立 グループワーク課題：青年期の発達の基礎知識について説明し、自己分析を行う。	Webclass 課題
第 14 回	成人期、老年期 成人、高齢者の発達課題と、社会的問題について学ぶ。 知的能力の変化、中年期の危機、結婚・育児をめぐる問題、発達段階、退職生活への適応、老年期の人格的変化、死をみつめる グループワーク課題：成人期、老年期の発達の基礎知識について説明する。	Webclass 課題
第 15 回	総括試験とふりかえり	

1.授業コード（ナンバリング）	PSY108-Y01	2.科目名	教育心理学	3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子				
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	【三木キャンパス】 心理学科、人間心理学科、経営学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	※教員免許取得のための必修科目 ※教育の基礎的理解に関する科目 高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　公認心理師　認定心理士 保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	※三木キャンパスで受講する学生は、ノートパソコンとイヤホンを持参ください。				
17.授業の目的と概要	この科目は、教師として活動する際に必要な教育心理学の知識を身に着けることを目的としています。 具体的には、教育心理学の意義および課題について考察した上で、知識の獲得過程、学習の動機づけ、学習の転移、個性・個人差と授業、学習指導について学ぶ。そして、教育心理学的なものの見方・考え方を養った上で、発達を踏まえた学習支援について基本的な考え方を理解する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 【科目の到達目標】 ①教育心理学における基礎的知識を獲得する。 ②教育現場で起こる課題、問題について教育心理学の基礎知識を用いて考察することができる。				
19.教科書・教材	「やさしい教育心理学　第 5 版]」有斐閣アルマ 【 ISBN 】 9784641221468				
20.参考文献	適宜、紹介する。				
21.成績評価	Webclass 課題…50％ 期末試験…50％				
22.コメント	火、水は神戸山手、木、金は三木にいます。				
23.オフィスアワー	火曜昼休み　学修支援センターオフィスアワー 火曜 4 限　研究室オフィスアワー				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ・授業の目的と概要、評価 ・遠隔授業の進め方	
第 2 回	教育心理学とは何か	予習：第 1 章を熟読すること

	学校教育、教育基本法、生きる力、社会人基礎力、教育心理学で扱う領域	
第 3 回	記憶とは何か（第 1 章） 短期記憶、長期記憶と意味づけ、忘却	予習：第 2 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域①)
第 4 回	知識と思考（第 2 章） 表象、宣言的知識、手続き的知識、問題解決、メタ認知	予習：第 3 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域①)
第 5 回	子どもが「学ぶ」ために必要なこと（第 3 章） 古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、自己強化	予習：第 4 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域②)
第 6 回	「やる気」を出すには？（第 4 章） 期待 - 価値モデル、学習性無力感、自己効力感、動機づけ、原因帰属	予習：第 5 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域②)
第 7 回	学校という場で起きること（第 5 章） 教師の影響、仲間関係、教師 - 生徒関係	予習：第 5 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域③)
第 8 回	いじめはなぜおこるのか（第 5 章） いじめの発生原因、力とその資源、いじめの特徴、いじめを助長するもの	予習：第 6 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域③)
第 9 回	どのように教えるか（第 6 章） 行動主義心理学:プログラム学習、完全習得学習 認知心理学：発見学習、有意味受容学習	予習：第 7 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域④)
第 10 回	学校における「評価」とは何か（第 7 章） 評価の目的、基準、学力を測る、知能を測る、性格を測る	予習：第 8 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域④)
第 11 回	ヒトの発達について考える（第 8 章） 発達と成長、発達段階、成熟と学習、遺伝と環境、学習の臨界期。敏感期	予習：第 9 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑤)
第 12 回	知的発達のメカニズム（第 9 章） 知能指数、知能観、知能の発達	予習：第 11 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑤)
第 13 回	困難を抱える子どもたち（第 11 章） 知的障害、発達障害	予習：第 10 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑥)
第 14 回	人格発達の基礎（第 10 章） フロイトの発達段階、エリクソンの発達段階、愛着理論、自我同一性	復習：Webclass 課題(領域⑥)
第 15 回	最終試験	

1.授業コード（ナンバリング）	PSY109-M01	2.科目名	心理学基礎	3.単位数	1
4.授業担当教員	横川滋章、松井幸太				
5.授業科目の区分	臨床心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本講義では、心理学的な考え方を身につけ、人の行動や心について理解し、自己理解、および他者理解を深めることをねらいとする。具体的には、「感覚」「知覚」「学習」「発達」「記憶」「人格」について取り上げ学習する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①心理学がどのような学問かを説明することができる。（専門的知識・技能の活用） ②人間の行動を客観的・実証的に捉えるための研究法について説明できる。（専門的知識・技能の活用） ③心理学の専門用語・人名を理解し、説明することができる。（自律性） ④心理学が医療現場においてどのように役立つかを説明することができる。（専門的知識・技能の活用）				
19.教科書・教材	系統看護学講座　基礎分野　「心理学」山村豊・髙橋一公　2017 年　医学書院				
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。資料も授業中に配布する。				
21.成績評価	①毎回の小レポート 10%×8 回　80%（①②③に対応） ②総括試験（前半 10%、後半 10%）20%（①③④に対応）				
22.コメント					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー　　横川（三木Ｃ：木曜日・５時限）・松井（三木Ｃ：金曜日・昼休み） センターオフィスアワー　横川（遠隔　：月曜日・３時限）・松井（遠隔：火曜日・1 時限）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション～授業の説明 心理学とは	○予習：事前にテキスト第 1 章を読み、内容および疑問点を整理しておくこと。
第 2 回	感覚と知覚について学ぶ	○予習：事前にテキスト第 2 章を読み、内容および疑問点を整理しておくこと。
第 3 回	記憶について学ぶ	○予習：事前にテキスト第 3 章を読み、内容および疑問点を整理しておくこと。
第 4 回	学習について学ぶ。	○予習：事前にテキスト第 5 章を読み、内容および疑問点を整理しておくこと。
第 5 回	性格とパーソナリティについて学ぶ	○予習：事前にテキスト第 7 章を読み、内容および疑問点を整理しておくこと。
第 6 回	発達について学ぶ	○予習：事前にテキスト第 9 章を読み、内容および疑問点を整理しておくこと。
第 7 回	さまざまな心理療法・カウンセリングの基礎について学ぶ。	○予習：事前にテキスト第 10 章を読み、内容および疑問点を整理しておくこと。
第 8 回	まとめ、総括試験	○予習：これまでの内容をふりかえり、各授業での要点をまとめておくこと。

第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

1.授業コード（ナンバリング）	PSY111-Y01	2.科目名	心理学概論	3.単位数	4
4.授業担当教員	板山昂、沼田真美				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科、人間心理学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	心理学に相当する英語は psychology であり、「心（こころ）」についての学問という意味である。本講義は、心理学の概要について理解することを目的とするものである。そして、今後の心理学関連のさまざまな講義の理解・学習に必要な基礎知識を身につけるとともに、心理学の科目体系を理解することを目的とするものである。 　具体的には、1)心理学の歴史、2)実験心理学を起点とするさまざまな研究法、3)これらのアプローチ による心理学的人間理解の概要、などについて学ぶ。そして、心理学の領域としては、「知覚」、「パーソナリ				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 本科目の学習目標は以下のとおりである。 ①心理学がどのような学問かを説明することができる。 ②人間の行動を客観的・実証的に捉えるための研究法について説明できる。 ③心理学の専門用語を理解し、説明することができる。 ④心理学を体系的に理解し、全体像を説明することができる。 ⑤心理学が現実社会でどのように役立つかを説明することができる。				
19.教科書・教材	特になし 毎回資料を配付する				
20.参考文献	講義中に紹介する				
21.成績評価	成績評価は以下のとおりであり、上記の学習目標との関連を示しておく。 ・沼田： 各回の小課題　　20%　（①⑤に対応） 前半の中間試験　30%　（①②③④に対応） ・板山： 毎回のミニレポート　20%　（②③④⑤に対応） 後半の総括試験　30%　（①②③④に対応） 計 100%で評価する。				
22.コメント	※心理学科での学びを進めていくにために，最低限必要となる心理学の知識を習得します。 　この科目の理解が今後の学びに大きく影響します。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第１回　ガイダンス　講義概要、学習目標、成績評価の方法などについてシラバスを参照しながら理解する。また、授業外学修課題とその評価基準について、	

	説明を受ける。 第 2 回 ?心理学の始まり・心理学とは	
	第 3 回 ?学習心理学 1　レスポンデント条件づけとは 第 4 回 ?学習心理学 2　オペラント条件付けとは	
	第 5 回 ?認知心理学 1　認知心理学とは 第 6 回 ?認知心理学 2　記憶とは 1	
	第 7 回 認知心理学 3　記憶とは 2 第 8 回 専攻選択に向けて 1：臨床心理学,産業心理学について学ぶ	
	第 9 回 ?専攻選択に向けて 2：犯罪心理学、災害心理学について学ぶ 第 10 回 ?心理学は世の中でどのように役立つか 1	
	第 11 回 ?心理学は世の中でどのように役立つか 2 第 12 回 ?感情心理学	
	第 13 回　ストレスについて 1 第 14 回 ?ストレスについて 2 第 15 回　中間試験　第 1 回から第 14 回までの理解度を確認する	
】	第 16 回 ?後半のガイダンス　　あらためて心とは何か、心理学とは何か	
	第 17 回　知覚　錯視・錯覚「実在するものはあるがままに知覚されるのか」 第 18 回　パーソナリティ(1)　パーソナリティの類型論、特性論などについて学習する。	
	第 19 回　　パーソナリティ(2)ーパーソナリティの捉え方について、さまざまな検査法を理解する。 第 20 回　発達・教育(1)　発達とは何か、発達段階と発達課題、発達の諸相について学習する。	
	第 21 回　欲求・動機　人を動かす欲求について学ぶ 第 22 回　産業(1) 企業・組織活動でのモチベーションについて学ぶ（産業心理学専攻教員）	
	第 23 回　産業(2) 職務ストレスとマネジメントについて学ぶ 第 24 回　社会(1)　社会的ネットワークについて学ぶ	

	第 25 回　社会(2)　印象形成について学ぶ 第 26 回　社会(3)　恋愛に関わる心理について学ぶ	
	第 27 回　社会(4)　対人コミュニケーションについて学ぶ 第 28 回　社会(5)　集団/集合の心理学について学ぶ	
	第 29 回　災害・パニックの心理学について学ぶ 第 30 回　期末テストー第 16 回から第 29 回までの理解度を確認する。	

1.授業コード（ナンバリング）	PSY112-Y01	2.科目名	心理学入門　（2022 年度生以前）			3.単位数	4
4.授業担当教員	太田裕彦、堀尾強						
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士			11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	この科目は、人間が日常生活の中で展開する代表的な心理を題材としてとりあげ、多様な側面から人間をとらえます。人間行動を考えることは人間や社会とどのようなつながりがあり、どのような役に立つのかということを具体的に考える手掛かりにしたいと思います。 　個人的なテーマからはじまり、社会・文化的なテーマへと、幅広く対象として取り上げ、人間の行動や心理に関する現象、原因、機能、対処法などについていろんな角度から考えてみます。 　このように心理学入門では人間を理解する幅広い視点を養いながら、さらに深く「人間とは何か」							
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（2）多様性理解　の学修に関連しています。 　学修目標の基本は、人間の心理に関する基本的概念を理解し、さらに人間の行動を理解する多様な視点を身につけることです。 　学期の主題「多様性の理解」との関連：個人間・性別間・民族間・時代間等々、さまざまなレベルで人間の物の見方や考え方には、共通性と同時に差異性があります。初年次の心理学入門としては、常識や偏見に左右されずに人間心理を理解することを目指し、そのためにはとりわけ個人間や性別間での共通性と差異性を踏まえた上での多様性に改めて気づき、多様性のもつ意味を考えられるよう、学修を促します。							
19.教科書・教材	特に指定しない						
20.参考文献	授業の中で必要に応じて紹介する。また資料類は適宜配布する。						
21.成績評価	1）各回の振り返りミニレポートの提出（27 回分）　54 点 2）中間レポート　23 点 3）最終総括レポート　23 点 合計 100 点						
22.コメント	私たちがふだん何気なく感じたり思ったり考えたりすること、行動することが、かなり複雑であり，さまざまな意味や役割を持っていることに気づいて欲しいと思います。また、そこから人間の心理とはなにか、世のため人のために心理学が役立てられることは何か、といった問題をぜひ考えて下さい。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	オリエンテーション：講義のねらいや進め方など，シラバス内容に即して説明を行う。 心理学って何？　キーワード：人間、心、行動	○個人ワーク：次回の授業の課題「心理学って何？」に向けて≪キーワード：人間、心、行動≫の下調べをする＜120 分＞ ○個人ワーク：次回の授業の課題「やる気を

		起こすには？」に向けて≪キーワード：外発的動機、内発的動機、自己効力感≫の下調べをする＜120 分＞
第 3 回 第 4 回	やる気を起こすには？ キーワード：外発的動機、内発的動機、自己効力感 自分を好きになるには？ キーワード：自己肯定感、社会的比較	○個人ワーク：次回の授業の課題「自分を好きになるには？」に向けて≪キーワード：自己肯定感、社会的比較≫の下調べをする＜120 分＞ ○個人ワーク：次回の授業の課題「他者に好かれるには？」に向けて≪キーワード：好意の返報性、近接性、類似性、身体的魅力、相補性≫の下調べをする＜120 分＞
第 5 回 第 6 回	他者に好かれるには？ キーワード：好意の返報性、近接性、類似性、身体的魅力、相補性 他者との距離をどう保つ？ キーワード：心理的距離、パーソナル・スペース	○個人ワーク　：次回の授業の課題「他者との距離をどう保つ？」に向けて≪キーワード：心理的距離、パーソナル・スペース≫の下調べをする＜120 分＞ ○個人ワーク　：　次回の授業の課題「自己紹介のコツは？」に向けて≪キーワード：印象形成、確証バイアス、中心的特性、周辺特性≫の下調べをする＜120 分＞
第 7 回 第 8 回	自己紹介のコツは？ キーワード：印象形成、確証バイアス、中心的特性、周辺特性 問題の原因は？ キーワード：　内的帰属、外的帰属	○個人ワーク　：　次回の授業の課題「問題の原因は？」に向けて≪キーワード：　内的帰属、外的帰属≫の下調べをする＜120 分＞ ○個人ワーク　：　次回の授業の課題「困ったときには？」に向けて≪問題対処、認知の歪み≫の下調べをする＜120 分＞
第 9 回 第 10 回	困ったときには？ キーワード：問題対処、認知の歪み 他者を助けるとは？ キーワード：愛他的行動、向社会的行動	○個人ワーク　：　次回の授業の課題「他者を助けるとは？」に向けて≪キーワード：愛他的行動、向社会的行動≫の下調べをする＜120 分＞ ○個人ワーク　：　次回の授業の課題「性格とは？」に向けて≪キーワード：性格テスト、ビッグファイブ理論≫の下調べをする＜120 分＞
第 11 回 第 12 回	性格とは？ キーワード：性格テスト、ビッグファイブ理論 ストレスとは？ キーワード：ストレス、ストレスコーピング	○個人ワーク　：　次回の授業の課題「ストレスとは？」に向けて≪キーワード：ストレス、ストレスコーピング≫の下調べをする＜120 分＞ ○個人ワーク　：　次回の授業の課題「遊びとは？」に向けて≪キーワード：ホモ・ルーデンス、覚醒≫の下調べをする＜120 分＞
第 13 回	遊ぶとは？	○個人ワーク　：　次回の授業の課題「働くとは？」に向けて≪キーワード　：　働きが

第 14 回	キーワード：ホモ・ルーデンス、覚醒 働くとは？ キーワード：働きがい、シャドーワーク	い、シャドーワーク≫の下調べをする＜120 分＞ 〇個人ワーク　：　次回、中間振り返りに向けて第 2～14 回までの内容について復習しておく＜240 分＞
第 15 回 第 16 回	中間レポートに関する説明 感情とは？ キーワード：喜び、悲しみ、怒り、驚き、恐れ、嫌悪	〇個人ワーク：次回の授業の課題「感情とは？」に向けて≪キーワード：喜び、悲しみ、怒り、驚き、恐れ、嫌悪≫の下調べをする＜120 分＞ 〇個人ワーク：次回の授業の課題「錯覚とは？」に向けて≪キーワード：錯覚、錯視≫の下調べをする＜120 分＞
第 17 回 第 18 回	錯覚とは？ キーワード：錯覚、錯視 色彩とは？ キーワード：暖色系、寒色系、膨張色、収縮色	〇個人ワーク：次回の授業の課題「色彩とは？」に向けて≪キーワード：暖色系、寒色系、膨張色、収縮色≫の下調べをする＜120 分＞ 〇個人ワーク：次回の授業の課題「記憶とは？」に向けて≪キーワード：短期記憶、長期記憶、再生、再認≫の下調べをする＜120 分＞
第 19 回 第 20 回	記憶とは？ キーワード：短期記憶、長期記憶、再生、再認 練習すると？ キーワード：学習、練習効果	〇個人ワーク：次回の授業の課題「練習すると？」に向けて≪キーワード：学習、練習効果≫の下調べをする＜120 分＞ 〇個人ワーク：次回の授業の課題「左手から右手に？」に向けて≪キーワード：学習の転移、両側性転移≫の下調べをする＜120 分＞
第 21 回 第 22 回	左手から右手に？ キーワード：学習の転移、両側性転移 おいしいとは？ キーワード：官能評価、味覚嫌悪学習、味覚嗜好学習	〇個人ワーク：次回の授業の課題「おいしいとは？」に向けて≪キーワード：官能評価、味覚嫌悪学習、味覚嗜好学習≫の下調べをする＜120 分＞ 〇個人ワーク　：　次回の授業の課題「ながらスマホとは？」に向けて≪キーワード：パフォーマンス、処理資源≫の下調べをする＜120 分＞
第 23 回 第 24 回	ながらスマホとは？ キーワード：パフォーマンス、処理資源 迷うとは？ キーワード：欲求、コンフリクト、フラストレーション	〇個人ワーク：次回の授業の課題「迷うとは？」に向けて≪キーワード：欲求、コンフリクト、フラストレーション≫の下調べをする＜120 分＞ 〇個人ワーク　：　次回の授業の課題「流行とは？」に向けて≪キーワード：ファッション、クラッシック、同調行動≫の下調べをする＜120 分＞
		〇個人ワーク　：　次回の授業の課題「うわ

第 25 回 第 26 回	流行とは？ キーワード：ファッション、クラッシック、同調行動 うわさとは？ キーワード：うわさ、情報の変容	さとは？」に向けて≪キーワード：うわさ、情報の変容≫の下調べをする＜120 分＞ 〇個人ワーク　：　次回の授業の課題「ネット社会とは？」に向けて≪キーワード：匿名性、SNS≫の下調べをする＜120 分＞
第 27 回 第 28 回	ネット社会とは？ キーワード：匿名性、SNS 食と社会・文化？ キーワード：食のタブー、ファーストフード、スローフード	〇個人ワーク　：　次回の授業の課題「食と社会・文化？」に向けて≪キーワード：食のタブー、ファーストフード、スローフード≫の下調べをする＜120 分＞ 〇個人ワーク：次回の授業の課題「心理学とは何か？」に向けて≪キーワード：人間、心、行動≫の下調べをする＜120 分＞
第 29 回 第 30 回	心理学とは何か？：まとめと振り返り キーワード：人間、心、行動 最終総括レポート提出に関する説明	〇個人ワーク　：　次回、最終総括レポート作成に向けて第 2～29 回までの内容について振り返っておく＜240 分＞

1.授業コード（ナンバリング）	PSY113-Y01	2.科目名	心理学研究法Ⅰ　(2023 年度生・2024 年度生)	3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	公認心理師 認定心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	心理学は、心の働きを科学的に探求する学問である。目に見えない「心」を測定する、人の心を科学的、客観的にとらえるということはどういうことか、そのプロセスの理解は非常に重要である。本授業では、各研究法に関する知識およびスキルを身につけることを目的とする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 心理学における実証的研究法について概説できる。 【関連するディプロマポリシー】 (1)自律性 (4)問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル				
19.教科書・教材					
20.参考文献	『公認心理師スタンダードテキストシリーズ 4　心理学研究法』 監修　下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 編著　三浦麻子・小島康生・平井啓 ミネルヴァ書房				
21.成績評価	・各回小課題　　50% ・中間レポート　25% ・期末レポート　25%				
22.コメント	※心理学研究法は必修科目であるため、卒業するためには必ず単位を取得する必要がある。※				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜昼休み ＊メールで事前に連絡をしてください。上記時間以外も対応可です。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション	授業内容の復習
【第 2 回】	実験法（1）	授業内容の復習
【第 3 回】	実験法（2）	授業内容の復習
【第 4 回】	実験法（3）	授業内容の復習
【第 5 回】	調査法（1）	授業内容の復習
【第 6 回】	調査法（2）	授業内容の復習
【第 7 回】	調査法（3）	授業内容の復習
【第 8 回】	中間レポート記入	中間レポートの作成
【第 9 回】	観察法（1）	授業内容の復習
【第 10 回】	観察法（2）	授業内容の復習
【第 11 回】	観察法（3）	授業内容の復習
【第 12 回】	面接法（1）	授業内容の復習
【第 13 回】	面接法（2）	授業内容の復習
【第 14 回】	面接法（3）	授業内容の復習
【第 15 回】	期末レポート記入	期末レポートの作成

1.授業コード（ナンバリング）	PSY202-Y02	2.科目名	心理学研究法　（2022 年度生以前　春秋通年）		3.単位数	4	
4.授業担当教員	沼田真美、斎藤元幸						
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期		
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～		
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師	11.先修条件					
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※				
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態					
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	心理学は、心の働きを科学的に探求する学問である。目に見えない「心」を測定する、人の心を科学的、客観的にとらえるということはどういうことか、そのプロセスの理解は非常に重要である。本授業では、各研究法に関する知識およびスキルを身につけることを目的とする。特に後半では、実験法と調査法に焦点をあてて学ぶ。また、統計的仮説検定や研究論文作成など、今後の心理学の学習および研究に必要なスキルの獲得も目指す。						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 与えられた課題に対し、先行研究を収集し、特定の科学的データ収集を設計・実施できる。 後半では、実験法および質問紙調査法の手法に対する理解を深め、仮説の設定やデータ分析を通して、卒業論文に向けて実践的な学びを身に着けることを目標とする。						
19.教科書・教材							
20.参考文献	『公認心理師スタンダードテキストシリーズ 4　心理学研究法』 監修　下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 編著　三浦麻子・小島康生・平井啓 ミネルヴァ書房						
21.成績評価	【第 1～15 回：前半】 ・各回小課題　　50% ・中間レポート　25% ・期末レポート　25% 【第 16～30 回：後半】 ・各回小課題　　60% ・最終レポート　40%						
22.コメント	○春学期・心理学研究法 1○ 斎藤の担当するセンターオフィスアワーには、心理学研究法 I の不明点等があれば、適宜回答する。 ○秋学期・心理学研究法 2○ 沼田の担当するセンターオフィスアワーには、心理学研究法 II の不明点等があれば、適宜回答する。 ※心理学研究法は必修科目であるため、卒業するためには必ず単位を取得する必要がある。※						
23.オフィスアワー	初回授業内でお伝えします						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	【第 1 回】オリエンテーション 【第 2 回】実験法 1	

	【第 3 回】実験法 2 【第 4 回】実験法 3	
	【第 5 回】調査法 1 【第 6 回】調査法 2	
	【第 7 回】調査法 3 【第 8 回】中間レポート記入	
	【第 9 回】観察法 1 【第 10 回】観察法 2	
	【第 11 回】観察法 3 【第 12 回】面接法 1	
	【第 13 回】面接法 2 【第 14 回】面接法 3	
	【第 15 回】期末レポート記入 【第 16 回】ガイダンス、心理学研究法 I の振り返り	
	【第 17 回】実験法①：実験を体験してみよう 【第 18 回】実験法②：実験を振り返ってみよう	
	【第 19 回】実験法③：方法の確認と記述 【第 20 回】実験法④：結果の確認と分析・記述	
	【第 21 回】実験法⑤：問題と目的の確認と記述 【第 22 回】実験法⑥：考察と引用文献の確認と記述	
	【第 23 回】調査法①：調査法の確認と個人テーマ決め 【第 24 回】調査法②：質問紙の作成	
	【第 25 回】調査法③：グループ分けとグーグルフォームへの入力 【第 26 回】調査法④：調査実施前の確認・データ取得	
	【第 27 回】調査法⑤：データ処理と入力 【第 28 回】調査法⑥：分析の実施	
	【第 29 回】調査法⑦：結果のまとめ 【第 30 回】最終レポートについて	

1.授業コード（ナンバリング）	PSY213-Y01	2.科目名	教育・学校心理学	3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子				
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	【神戸山手キャンパス】 心理学部、人間科学部、社会学部			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	※教員免許取得のための必修科目 ※教育の基礎的理解に関する科目 高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　公認心理師　認定心理士 保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	この科目は、教師として活動する際に必要な教育心理学の知識を身に着けることを目的としています。 具体的には、教育心理学の意義および課題について考察した上で、知識の獲得過程、学習の動機づけ、学習の転移、個性・個人差と授業、学習指導について学ぶ。そして、教育心理学的なものの見方・考え方を養った上で、発達を踏まえた学習支援について基本的な考え方を理解する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 【科目の到達目標】 ①教育心理学における基礎的知識を獲得する。 ②教育現場で起こる課題、問題について教育心理学の基礎知識を用いて考察することができる。				
19.教科書・教材	「やさしい教育心理学　第 5 版]」有斐閣アルマ 【 ISBN 】 9784641221468				
20.参考文献	適宜、紹介する。				
21.成績評価	Webclass 課題…50％ 期末試験…50％				
22.コメント	火、水は神戸山手、木、金は三木にいます。				
23.オフィスアワー	火曜昼休み　学修支援センターオフィスアワー 火曜 4 限　研究室オフィスアワー				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ・授業の目的と概要、評価 ・遠隔授業の進め方	
第 2 回	教育心理学とは何か	予習：第 1 章を熟読すること

	学校教育、教育基本法、生きる力、社会人基礎力、教育心理学で扱う領域	
第 3 回	記憶とは何か（第 1 章） 短期記憶、長期記憶と意味づけ、忘却	予習：第 2 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域①)
第 4 回	知識と思考（第 2 章） 表象、宣言的知識、手続き的知識、問題解決、メタ認知	予習：第 3 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域①)
第 5 回	子どもが「学ぶ」ために必要なこと（第 3 章） 古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、自己強化	予習：第 4 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域②)
第 6 回	「やる気」を出すには？（第 4 章） 期待 - 価値モデル、学習性無力感、自己効力感、動機づけ、原因帰属	予習：第 5 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域②)
第 7 回	学校という場で起きること（第 5 章） 教師の影響、仲間関係、教師 - 生徒関係	予習：第 5 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域③)
第 8 回	いじめはなぜおこるのか（第 5 章） いじめの発生原因、力とその資源、いじめの特徴、いじめを助長するもの	予習：第 6 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域③)
第 9 回	どのように教えるか（第 6 章） 行動主義心理学:プログラム学習、完全習得学習 認知心理学：発見学習、有意味受容学習	予習：第 7 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域④)
第 10 回	学校における「評価」とは何か（第 7 章） 評価の目的、基準、学力を測る、知能を測る、性格を測る	予習：第 8 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域④)
第 11 回	ヒトの発達について考える（第 8 章） 発達と成長、発達段階、成熟と学習、遺伝と環境、学習の臨界期。敏感期	予習：第 9 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑤)
第 12 回	知的発達のメカニズム（第 9 章） 知能指数、知能観、知能の発達	予習：第 11 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑤)
第 13 回	困難を抱える子どもたち（第 11 章） 知的障害、発達障害	予習：第 10 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑥)
第 14 回	人格発達の基礎（第 10 章） フロイトの発達段階、エリクソンの発達段階、愛着理論、自我同一性	復習：Webclass 課題(領域⑥)
第 15 回	最終試験	

1.授業コード（ナンバリング）	PSY213-m01	2.科目名	教育・学校心理学	3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子				
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	【神戸山手キャンパス】 心理学部、人間科学部、社会学部			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	※教員免許取得のための必修科目 ※教育の基礎的理解に関する科目 高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　公認心理師　認定心理士 保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	この科目は、教師として活動する際に必要な教育心理学の知識を身に着けることを目的としています。 具体的には、教育心理学の意義および課題について考察した上で、知識の獲得過程、学習の動機づけ、学習の転移、個性・個人差と授業、学習指導について学ぶ。そして、教育心理学的なものの見方・考え方を養った上で、発達を踏まえた学習支援について基本的な考え方を理解する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 【科目の到達目標】 ①教育心理学における基礎的知識を獲得する。 ②教育現場で起こる課題、問題について教育心理学の基礎知識を用いて考察することができる。				
19.教科書・教材	「やさしい教育心理学　第 5 版]」有斐閣アルマ 【 ISBN 】 9784641221468				
20.参考文献	適宜、紹介する。				
21.成績評価	Webclass 課題…50％ 期末試験…50％				
22.コメント	火、水は神戸山手、木、金は三木にいます。				
23.オフィスアワー	火曜昼休み　学修支援センターオフィスアワー 火曜 4 限　研究室オフィスアワー				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ・授業の目的と概要、評価 ・遠隔授業の進め方	
第 2 回	教育心理学とは何か	予習：第 1 章を熟読すること

	学校教育、教育基本法、生きる力、社会人基礎力、教育心理学で扱う領域	
第 3 回	記憶とは何か（第 1 章） 短期記憶、長期記憶と意味づけ、忘却	予習：第 2 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域①)
第 4 回	知識と思考（第 2 章） 表象、宣言的知識、手続き的知識、問題解決、メタ認知	予習：第 3 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域①)
第 5 回	子どもが「学ぶ」ために必要なこと（第 3 章） 古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、自己強化	予習：第 4 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域②)
第 6 回	「やる気」を出すには？（第 4 章） 期待 - 価値モデル、学習性無力感、自己効力感、動機づけ、原因帰属	予習：第 5 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域②)
第 7 回	学校という場で起きること（第 5 章） 教師の影響、仲間関係、教師 - 生徒関係	予習：第 5 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域③)
第 8 回	いじめはなぜおこるのか（第 5 章） いじめの発生原因、力とその資源、いじめの特徴、いじめを助長するもの	予習：第 6 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域③)
第 9 回	どのように教えるか（第 6 章） 行動主義心理学:プログラム学習、完全習得学習 認知心理学：発見学習、有意味受容学習	予習：第 7 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域④)
第 10 回	学校における「評価」とは何か（第 7 章） 評価の目的、基準、学力を測る、知能を測る、性格を測る	予習：第 8 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域④)
第 11 回	ヒトの発達について考える（第 8 章） 発達と成長、発達段階、成熟と学習、遺伝と環境、学習の臨界期。敏感期	予習：第 9 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑤)
第 12 回	知的発達のメカニズム（第 9 章） 知能指数、知能観、知能の発達	予習：第 11 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑤)
第 13 回	困難を抱える子どもたち（第 11 章） 知的障害、発達障害	予習：第 10 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑥)
第 14 回	人格発達の基礎（第 10 章） フロイトの発達段階、エリクソンの発達段階、愛着理論、自我同一性	復習：Webclass 課題(領域⑥)
第 15 回	最終試験	

1.授業コード（ナンバリング）	PSY214-Y01	2.科目名	災害心理学　(2020～2022 年度生　春秋通年)	3.単位数	4
4.授業担当教員	道免逸子、太田裕彦				
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：被災者、被害者、及び援助者の心理的諸問題についての専門的理解を深め、こうした問題への対処法を身につけること。 概要：まず災害心理学で扱う問題について全体像を掴み、、災害発生時の心理、発生後の心理について学ぶ。また、災害の種類と特徴について学び、これまで社会はどのように災害と向き合ってきたかについても考察する。これらの知識、理解をもとに、被災者、被害者、及び援助者の心理的問題への対処法を身につける。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技能の活用の学修に関連します。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①災害にはどのようなものがあるか説明できる ②災害時の心理について基礎的な事項を説明できる ③災害後の心理的問題について、基礎的な事項を説明できる ④災害時の支援のあり方の基本について説明できる ⑤被災時の自己や他者との関わり方について、我が身に引きつけて理解している				
19.教科書・教材	特に指定しない				
20.参考文献	適宜紹介する				
21.成績評価	各授業における小レポート 13 回　　52% 中間振り返り　17～22 回の内容　24% 総括振り返り　24～29 回の内容　　24%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：木曜日 2 限 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 2 回	災害の種類による被災者の心理の特徴	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 3 回	過去の災害とそこから始まったもの	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 4 回	災害が直接心身に及ぼす影響１　トラウマ、解離、記	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニ

	憶	ケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 5 回	災害が直接心身に及ぼす影響 2　グリーフ　遺族の苦しみ	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 6 回	災害が直接心身に及ぼす影響 3　うつと自殺	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 7 回	災害が間接的に心身に及ぼす影響 1　災害関連死　支援者のストレス	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 8 回	中間振り返りと講評	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 9 回	災害の中・長期的影響 1　複雑性 PTSD　複雑性悲嘆　ハサミ状格差	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 10 回	災害の中・長期的影響 2　ビルディングブロックエフェクト	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 11 回	災害の多角的視点　自助・共助・公助　難民問題	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 12 回	サイコロジカル・ファーストエイド 1	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 13 回	サイコロジカル・ファーストエイド 2	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 14 回	心的外傷後成長（PTG）	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 15 回	総括振り返りと講評	

1.授業コード（ナンバリング）	PSY215-Y01	2.科目名	災害心理学 II （2023 年度生）	3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子				
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：被災者、被害者、及び援助者の心理的諸問題についての専門的理解を深め、こうした問題への対処法を身につけること。 概要：まず災害心理学で扱う問題について全体像を掴み、、災害発生時の心理、発生後の心理について学ぶ。また、災害の種類と特徴について学び、これまで社会はどのように災害と向き合ってきたかについても考察する。これらの知識、理解をもとに、被災者、被害者、及び援助者の心理的問題への対処法を身につける。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技能の活用の学修に関連します。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①災害にはどのようなものがあるか説明できる ②災害時の心理について基礎的な事項を説明できる ③災害後の心理的問題について、基礎的な事項を説明できる ④災害時の支援のあり方の基本について説明できる ⑤被災時の自己や他者との関わり方について、我が身に引きつけて理解している				
19.教科書・教材	特に指定しない				
20.参考文献	適宜紹介する				
21.成績評価	各授業における小レポート 13 回　　52% 中間振り返り　17～22 回の内容　24% 総括振り返り　24～29 回の内容　　24%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：木曜日 2 限 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 2 回	災害の種類による被災者の心理の特徴	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 3 回	過去の災害とそこから始まったもの	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 4 回	災害が直接心身に及ぼす影響１　トラウマ、解離、記	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニ

	憶	ケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 5 回	災害が直接心身に及ぼす影響 2　グリーフ　遺族の苦しみ	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 6 回	災害が直接心身に及ぼす影響 3　うつと自殺	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 7 回	災害が間接的に心身に及ぼす影響 1　災害関連死　支援者のストレス	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 8 回	中間振り返りと講評	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 9 回	災害の中・長期的影響 1　複雑性 PTSD　複雑性悲嘆　ハサミ状格差	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 10 回	災害の中・長期的影響 2　ビルディングブロックエフェクト	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 11 回	災害の多角的視点　自助・共助・公助　難民問題	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 12 回	サイコロジカル・ファーストエイド 1	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 13 回	サイコロジカル・ファーストエイド 2	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 14 回	心的外傷後成長（PTG）	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 15 回	総括振り返りと講評	

1.授業コード（ナンバリング）	PSY215-Y02	2.科目名	知覚・認知心理学　（2023 年度生のみ）	3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生～
10.取得資格の要件	公認心理師 認定心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 知覚心理学および認知心理学に関する基礎知識を学ぶ。 認知に関する知識は臨床心理学、犯罪心理学、災害心理学、産業・消費者心理学とも関連しており、 人間を科学的に理解するためには必須である。 【概要】 知覚・注意・記憶・思考といった代表的な認知機能について解説する。 また、知覚や認知の個人差や障害についても理解を深める。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 (1)人の感覚・知覚等の機序及びその障害について概説できる。 (2)人の認知・思考等の機序及びその障害について概説できる。 【関連するディプロマポリシー】 (3)多様性理解 (4)問題発見・解決力 (6)専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	講義資料を適宜配布する。				
20.参考文献	萱村 俊哉・郷式 徹（2021）. 知覚・認知心理学――「心」の仕組みの基礎を理解する――　川畑 直人・大島 剛・郷式 徹（監修）公認心理師の基本を学ぶテキスト　ミネルヴァ書房 箱田 裕司（編）（2020）. 知覚・認知心理学　野島 一彦・繁桝 算男（監修）公認心理師の基礎と実践　遠見書房				
21.成績評価	(1)各回課題　50% (2)総括試験　50%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜昼休み ＊メールで事前に連絡をしてください。上記時間以外も対応可です。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション	授業内容の復習
【第 2 回】	知覚（1）――視覚・聴覚――	授業内容の復習
【第 3 回】	知覚（2）――体性感覚・味覚・嗅覚――	授業内容の復習
【第 4 回】	知覚の障害	授業内容の復習
【第 5 回】	注意	授業内容の復習
【第 6 回】	記憶（1）――ワーキングメモリ――	授業内容の復習
【第 7 回】	記憶（2）――長期記憶――	授業内容の復習
【第 8 回】	記憶（3）――日常記憶――	授業内容の復習
【第 9 回】	思考（1）――推論――	授業内容の復習
【第 10 回】	思考（2）――問題解決――	授業内容の復習

【第 11 回】	思考（３）――意思決定――	授業内容の復習
【第 12 回】	認知の個人差	授業内容の復習
【第 13 回】	認知の障害	授業内容の復習
【第 14 回】	総復習	授業内容の復習
【第 15 回】	総括試験	授業内容の復習

1.授業コード（ナンバリング）	PSY312-Y01	2.科目名	災害心理学　（2019 年度生以前）	3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子				
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：被災者、被害者、及び援助者の心理的諸問題についての専門的理解を深め、こうした問題への対処法を身につけること。 概要：まず災害心理学で扱う問題について全体像を掴み、、災害発生時の心理、発生後の心理について学ぶ。また、災害の種類と特徴について学び、これまで社会はどのように災害と向き合ってきたかについても考察する。これらの知識、理解をもとに、被災者、被害者、及び援助者の心理的問題への対処法を身につける。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技能の活用の学修に関連します。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①災害にはどのようなものがあるか説明できる ②災害時の心理について基礎的な事項を説明できる ③災害後の心理的問題について、基礎的な事項を説明できる ④災害時の支援のあり方の基本について説明できる ⑤被災時の自己や他者との関わり方について、我が身に引きつけて理解している				
19.教科書・教材	特に指定しない				
20.参考文献	適宜紹介する				
21.成績評価	各授業における小レポート 13 回　　52% 中間振り返り　17～22 回の内容　24% 総括振り返り　24～29 回の内容　　24%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：木曜日 2 限 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 2 回	災害の種類による被災者の心理の特徴	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 3 回	過去の災害とそこから始まったもの	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 4 回	災害が直接心身に及ぼす影響１　トラウマ、解離、記	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニ

	憶	ケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 5 回	災害が直接心身に及ぼす影響 2　グリーフ　遺族の苦しみ	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 6 回	災害が直接心身に及ぼす影響 3　うつと自殺	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 7 回	災害が間接的に心身に及ぼす影響 1　災害関連死　支援者のストレス	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 8 回	中間振り返りと講評	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 9 回	災害の中・長期的影響 1　複雑性 PTSD　複雑性悲嘆　ハサミ状格差	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 10 回	災害の中・長期的影響 2　ビルディングブロックエフェクト	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 11 回	災害の多角的視点　自助・共助・公助　難民問題	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 12 回	サイコロジカル・ファーストエイド 1	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 13 回	サイコロジカル・ファーストエイド 2	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 14 回	心的外傷後成長（PTG）	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 15 回	総括振り返りと講評	

1.授業コード（ナンバリング）	PSY315-Y02	2.科目名	知覚・認知心理学　（2022 年度生以前）	3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年生～
10.取得資格の要件	公認心理師 認定心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 知覚心理学および認知心理学に関する基礎知識を学ぶ。 認知に関する知識は臨床心理学、犯罪心理学、災害心理学、産業・消費者心理学とも関連しており、 人間を科学的に理解するためには必須である。 【概要】 知覚・注意・記憶・思考といった代表的な認知機能について解説する。 また、知覚や認知の個人差や障害についても理解を深める。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 (1)人の感覚・知覚等の機序及びその障害について概説できる。 (2)人の認知・思考等の機序及びその障害について概説できる。 【関連するディプロマポリシー】 (3)多様性理解 (4)問題発見・解決力 (6)専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	講義資料を適宜配布する。				
20.参考文献	萱村 俊哉・郷式 徹（2021）. 知覚・認知心理学――「心」の仕組みの基礎を理解する――　川畑 直人・大島 剛・郷式 徹（監修）公認心理師の基本を学ぶテキスト　ミネルヴァ書房 箱田 裕司（編）（2020）. 知覚・認知心理学　野島 一彦・繁桝 算男（監修）公認心理師の基礎と実践　遠見書房				
21.成績評価	(1)各回課題　50% (2)総括試験　50%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜昼休み ＊メールで事前に連絡をしてください。上記時間以外も対応可です。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション	授業内容の復習
【第 2 回】	知覚（1）――視覚・聴覚――	授業内容の復習
【第 3 回】	知覚（2）――体性感覚・味覚・嗅覚――	授業内容の復習
【第 4 回】	知覚の障害	授業内容の復習
【第 5 回】	注意	授業内容の復習
【第 6 回】	記憶（1）――ワーキングメモリ――	授業内容の復習
【第 7 回】	記憶（2）――長期記憶――	授業内容の復習
【第 8 回】	記憶（3）――日常記憶――	授業内容の復習
【第 9 回】	思考（1）――推論――	授業内容の復習
【第 10 回】	思考（2）――問題解決――	授業内容の復習

【第 11 回】	思考（３）――意思決定――	授業内容の復習
【第 12 回】	認知の個人差	授業内容の復習
【第 13 回】	認知の障害	授業内容の復習
【第 14 回】	総復習	授業内容の復習
【第 15 回】	総括試験	授業内容の復習

1.授業コード（ナンバリング）	PSY317-Y01	2.科目名	神経・生理心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山誠					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	1-2 年生で学んだ心理学の概念の具体的な裏付けが生理心理学によって証明される。夢を見たり金縛りに遭ったときの睡眠段階と脳波による判定、ストレスを受けるとヒトの体はどのように対処するのか、記憶、知能、快中枢・不快中枢、情動と合理的判断をする脳の部位の違い、ウソ発見と心電図、認知症の原因など、脳の働きとこころの世界の関連性を明らかにする					
18.学習目標とＤＰとの関連	学期の課題：未来に向けた持続可能性 kuis 学習ベンチマーク ①情報収集・活用力 レベル３：多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を収集して、要点を整理・保存しながら、自分の主張やアイデアを裏づけることができる ②論理的思考/判断力 レベル３：論証に基づいて論理的な意見や結論を導き出すことができる。 ③問題発見力 レベル３：現状を確認し、今後生じうる問題を積極的に見つけ、解決のための課題を提示することができる 学科の教育目標 人間の心理の客観的理解 レベル３：人間の心理的諸現象に対し個別の理論を適用して説明できる					
19.教科書・教材						
20.参考文献	資料を配付する					
21.成績評価	・ワーク（ポリグラフ検査の回に実施予定）　20% ・レポート 20% ・期末試験　持ち込み不可の筆記試験　60%					
22.コメント	(1)　レポート作成に当たって a. レポートに引用する文献は、図書館にある専門書や学術雑誌を利用し、その際、出典を明確にしておくこと b.　ネットは一次検索として用いるのはかまわないが、なるべく公的機関のホームページなどの情報に基づくこと　出所が不明確、無責任で根拠のない匿名記事は決して引用しないこと c.専門知識＋自分の考え 　前提となる理論を明らかにした上で自分の考えについても述べること　理論に基づかない、自分の単なる思いつきや身勝手な意見を最初から書くと高得点は望めない (2) 試験問題について 　試験は毎回の講義で配付する資料から出題するので、試験前には配付資料をきちんと復習してから受験すること 　記述式の場合には、必ず最初に、講義で習ったことをきちんと書くこと 　その上で、自分の考えを述べるのは良いが、きちんとした理論について触れることなく、勝手な意見を書いても、得点にはならない					

	また、制限字数を大幅に下回るような状態で提出された答案は、60 点に満たないと心得ておくこと 文字が読みにくい、日本語の文章になっていない場合は、内容にかかわらず、単位を取得する権利を放棄したものと見なすので、その点を留意しておくこと (3) 生理心理学の実験に参加 実験参加は生理心理学の理解にひじょうに役に立つので,実験参加者になって実験を体験してほしい
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	ガイダンス	予習：脳の活動を測定する装置や指標について調べておく(150 分)
	生理心理学とはどのような学問か 脳の構造 生理心理学の指標（ERP　PET　fMRI　NIRS）について解説する	
	大脳新皮質の 4 つの葉と連合野の役割について解説する	
	記憶と脳 海馬の役割について DVD を見ながら学ぶ	
	睡眠と脳波 睡眠の深さや夢を見ている状態を脳波で推定し、金縛りが起きる原因を明らかにする 試験前の徹夜の勉強は意味がなく、レム期の主な役割は記憶の定着を促すことについて解説する	
	睡眠と日常生活 睡眠不足と肌荒れ、時差ぼけ、アインシュタインはロングスリーパ、サーカディアンリズムについて解説する	
	認知症のアセスメントを学ぶ	
	認知症の支援を学ぶ	
	脳内自己刺激（快、不快）と情動の生理心理学について学ぶ	
	ストレスと生理心理学 ストレスに起因する精神疾患など、生理心理学的影響について解説する	
	ストレスへの対応 ストレスが生じた際の対応について解説する	
	ポリグラフ検査 生理指標を用いたウソ発見について、我が国と北米の検査方法の違いを具体的に解説する(group work ポリグラフ検査の質問紙を作成する　評価の 20%に相当する課題の実施)	
	犯罪と精神鑑定 1	

	パーソナリティ障害（DSMⅤ ）と犯罪 池田小学校事件（無差別大量殺人）	
	犯罪と精神鑑定 2 自閉スペクトラム症 神戸連続児童殺傷事件、佐世保女子高校生殺人、奈良の高校生自宅放火事件	
	ふりかえりと最終試験（webclass による試験資料持ち込み可能）	

1.授業コード（ナンバリング）	RED113-Y01	2.科目名	リーディング１　L1（1/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	實川眞理子				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度　春学期
8.履修可能な専攻	グローバル・コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	英語を学ぶ習慣を身に着け基礎を習得する				
18.学習目標とＤＰとの関連	①世界が直面している問題について書かれたテキストや関連した文章をよみ国際的視野を広める。 ②国際問題を理解し、問題の解決について自分なりに考えをまとめることができる。 ③自ら積極的に英語で書かれた記事を読み、関連語彙を増やす。 本科目の学習目標は DP の（１）「自律性」、（３）「多様性理解」（４）「問題発見・解決力」（５）「コミュニケーション・スキル」の学修に関連しています。				
19.教科書・教材	The Future We Face 新たな未来に向かって　－英語で考える私たちの世界ー」三修社　電子版 その他、必要に応じて授業内または WebClass で配布する				
20.参考文献	必要に応じて教員が用意し配布する。				
21.成績評価	授業内クイズ　70% 総括試験　30%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Class Orientation and Students' Self-introduction 品詞（名詞、形容詞、動詞、副詞） 派生語（derivative) Unit 1　Building from Above -1	教科書全体を通して内容を確認し、読解や練習問題に取り組むのに必要な時間を予測して、予習・復習のイメージをもっておく。
Week 2	Unit 1　Building from Above -2 Unit 2　Food Loss -1	WebClass に掲載の課題を締め切りまでに提出すること
Week 3	Unit 2　Food Loss -2 Unit 6　Community Kitchens -1	WebClass に掲載の課題を締め切りまでに提出すること
Week 4	Unit 6　Community Kitchens -2	WebClass に掲載の課題を締め切りまでに提出すること
Week 5	Unit 3　Identifying False Information Unit 11　Digital vs. Paper -1	WebClass に掲載の課題を締め切りまでに提出すること
Week 6	Unit 11 Digital vs. Paper - 2	WebClass に掲載の課題を締め切りまでに提出すること
Week 7	Unit 4　Water Footprint Unit 13　Farms without Fields -1	WebClass に掲載の課題を締め切りまでに提出すること
Week 8	Unit 13　Farms without Fields -2	WebClass に掲載の課題を締め切りまでに提出すること
Week 9	Unit 12　Where Does Nuclear Waste Go?	WebClass に掲載の課題を締め切りまでに提出すること

Week 10	Unit 15　The Appeal of Japan’s Pop Culture	WebClass に掲載の課題を締め切りまでに提出すること
Week 11	Unit 5　Data in Sports	WebClass に掲載の課題を締め切りまでに提出すること
Week 12	Unit 7　Studying Abroad	WebClass に掲載の課題を締め切りまでに提出すること
Week 13	Unit 8　Enough Sleep	WebClass に掲載の課題を締め切りまでに提出すること
Week 14	Unit 14　School Starting Age	WebClass に掲載の課題を締め切りまでに提出すること
Week 15	復習 総括試験	学期全体の復習を通して、残っている疑問などを明らかにしておくこと。

1.授業コード（ナンバリング）	RED113-Y02	2.科目名	リーディング 1　L1（2/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	横山雅彦				
5.授業科目の区分	英語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度　春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	高度な英語の 4 技能習得のための基礎（OS）となる英文法の体系的・構造的理解を図り、それを英文読解で実践する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、記述文法を学び、1 文単位の英文を正しく読解できるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	『基礎からのジャンプアップノート英文法演習ドリル』旺文社 https://www.obunsha.co.jp/product/detail/034569 ＊購入の方法については、第 1 回の授業で指示する。				
20.参考文献					
21.成績評価	各講の確認テスト（×36 回）　50% 期末テスト　50%				
22.コメント	予習を怠っている学生、居眠りしたり雑談したりする学生には、退席を求め、単位は与えない。また、原則として欠席・途中参加は認めない。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回・第 2 回	第 1 回　CHAPER 1 UNIT 1 第 2 回　CHAPRER 1 UNIT 2/ UNIT 3	
第 3 回・第 4 回	第 3 回　CHAPTER 2 UNIT 1/ UNIT 2 第 4 回　CHAPTER 2 UNIT 3/ UNIT 4	
第 5 回・第 6 回	第 5 回　CHAPTER 2 UNIT 5/ UNIT 6 第 6 回　CHAPTER 3 UNIT 1/ UNIT 2	
第 7 回・第 8 回	第 7 回　CHAPTER 3 UNIT 3/ UNIT 4 第 8 回　CHAPTER 3 UNIT 5	
第 9 回・第 10 回	第 9 回　CHAPTER 4 UNIT 1/ UNIT 2 第 10 回　CHAPTER 4 UNIT 3/ UNIT 4	
第 11 回・第 12 回	第 11 回　CHAPTER 4 UNIT 5/ UNIT 6 第 12 回　CHAPTER 4 UNIT 7	
第 13 回・第	第 13 回　CHAPTER 5 UNIT 1/ UNIT 2	

14 回	第 14 回　CHAPTER 5 UNIT 3/ UNIT 4	
第 15 回・第 16 回	第 15 回　CHAPTER 5 UNIT 5/ UNIT 6 第 16 回　中間テスト	
第 17 回・第 18 回	第 17 回　CHAPTER 6 UNIT 1/ UNIT 2 第 18 回　CHAPTER 6 UNIT 3/ UNIT 4	
第 19 回・第 20 回	第 19 回　CHAPTER 6 UNIT 5/ UNIT 6 第 20 回　CHAPTER 7 UNIT 1	
第 21 回・第 22 回	第 21 回　CHAPTER 7 UNIT 2 第 22 回　CHAPTER 7 UNIT 3/ UNIT 4	
第 23 回・第 24 回	第 23 回　CHAPTER 8 UNIT 1/ UNIT 2 第 24 回　CHAPTER 8 UNIT 3/ UNIT 4	
第 25 回・第 26 回	第 25 回　CHAPTER 8 UNIT 5/ CHAPTER 9 UNIT 1 第 26 回　CHAPTER 9 UNIT 2/ UNIT 3	
第 27 回・第 28 回	第 27 回　CHAPTER 10 UNIT 1 第 28 回　CHAPTER 10 UNIT 2	
第 29 回・第 30 回	第 29 回　CHAPTER 10 UNIT 3/ UNIT 4 第 30 回　期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	RED114-Y01	2.科目名	リーディング２ L2	3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本由紀子				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習＆講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	(目的) By the end of the semester, students are expected to develop their reading ability by talking about themselves confidently and to achieve a good A 2 level in the Common European Framework for References (CEFR) （概要） 1. Can understand frequently used				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解（５）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 1. Understand the main ideas and details in reading materials 2.Understand reading skills (scanning, inferences, topics) 3. Build vocabulary 4. improve reading speed				
19.教科書・教材	Global Leadership?2nd Revised Edition Case Studies of Business Leaders in Japan 中谷安男 / Ryan Smithers				
20.参考文献	to be announced in class				
21.成績評価	・Quiz & Mid-term test　40% ・Final Test　20% ・assignment & task　40%				
22.コメント	Bring your computer and the textbook.				
23.オフィスアワー	月・木の授業の前後で教室や講師控室で対応する				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Orientation (Syllabus) Web Class	語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）
Week 2	Group Work: reading activity: Act 1 Global Marketing　グローバル・マーケティング Case 1 Initiating World’s Biggest Joint Marketing Project	語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）
Week 3	Group Work: reading activity: Act 1 Global Marketing　グローバル・マーケティング Case 2: Creating Value and Making a Difference	語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）
Week 4	Group Work: reading activity: Act 1 Global Marketing　グローバル・マーケティング Case 3:Enhancing Luxury Brand Identity	語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）
Week 5	Group Work: reading activity	語彙の予習（各 45 分）

	Act 2 Business Strategies Case 4: Changing a Big Company with Management of Technology.	表現の復習（45 分）
Week 6	Group Work: reading activity Act 2 Business Strategies Case　5: Reviving a Leading Brand	語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）
Week 7	Group Work: reading activity Act 2 Business Strategies Case 6: Negotiating with Headquarters	語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）
Week 8	Group Work: reading activity Act 2 Business Strategies Case 7: Making a Challenging Business Profitable	語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）
Week 9	Group Work: reading activity Act 3 Localization Case 8:Becoming a Representative Corporate Citizen in China	語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）
Week 10	Group Work: reading activity Act 3 Localization Case 9: Developing New Business in Emerging Markets	語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）
Week 11	Group Work: reading activity Act 3 Localization Case 10 De-centralizing Marketing Strategies	語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）
Week 12	Group Work: reading activity Act 3 Localization Case 11: Competing with Big Companies by Establishing a Regional Brand	語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）
Week 13	Group Work: reading activity Act 4 Globalization Case 12 Sustaining Brand Identity and Global Business Strategies	語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）
Week 14	Group Work: reading activity Act 4 Globalization Case 13 Enhancing Global Brand Communication.	語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）
Week 15	Review and Final examination	

1.授業コード（ナンバリング）	RED115-Y01	2.科目名	リーディング総合１ L3	3.単位数	2
4.授業担当教員	Jonathan Aliponga				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	１年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　中学(英語)		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	At the end of the semester, L3 students are expected acquire both business and everyday conversational English skills. Specifically, they: 1) learn how English is used naturally in a variety of work environments through dialogues between clients, employer				
18.学習目標とＤＰとの関連	At the end of the semester, students are expected to successfully achieve the following abilities set by the Department: 1）自律的で主体的な態度（自律性） Autonomous and independent attitude (autonomy) 2）問題発見・解決力 Problem finding and solving ability 3）コミュニケーションスキル Communication skills 4)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（Understanding Diversity）				
19.教科書・教材	Work Advantage 2 by K.A. Wright ISBN 9789865840631 Online articles including but not limited to newspapers Japan Today https://japantoday.com Asahi Shimbun https://www.asahi.com/ajw/				
20.参考文献					
21.成績評価	タスク Tasks （Reading, Writing, Speaking, Listening) = 30% , ケーススタディプレゼンテーション（PBL) = 20, 最終テスト Final Test (TOEIC reading) = 40%, 英語使用 English Only = 10%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Meeting 1: Course Orientation: Syllabus, Dropbox Meeting 2: UNIT 1: TEAM SPIRIT Reading: Joining a team Listening: Chatting with a newbie, An interview Case Study: Communication: Irving Motors is Changing Gears Speaking: Changing for the Better Writing: E	Listening, Reading 1, Writing 1, Pages 6-8
Week 2	Meeting 3: UNIT 2: FORMING A TEAM Reading: Finding team members Listening: Cross-departmental Project, Market Demands Case Study: Project Execution: Aurubis AG's Past Problems, Reshaped Its Core Principles Meeting 4: UNIT 2: FORMING A TEAM	Listening, Reading 1, Writing 1, Pages 14-16

	Speaking: The I	
Week 3	Meeting 5: UNIT 3: WORKING WITH THE WORLD Reading: Outsourcing Listening: Outsourcing Production, Working Globally Case Study: Global Partnerships: Meeting 6: UNIT 3: WORKING WITH THE WORLD Nike: Working with Others Across the Globe Speaking: Values of G	Listening, Reading 1, Writing 1, Pages 22-24
Week 4	Meeting 7: UNIT 4:BUSINESS STRATEGIES Reading: Cost-Effective Solutions Listening: Discussing Proposal, Marketing Strategies Case Study: Getting Your Brand Out There: Vanguard Brewing Co. Newsletter Meeting 8: UNIT 4: BUSINESS STRATEGIES Speaking: Busines	Listening, Reading 1, Writing 1, Pages 34-36
Week 5	Meeting 9: UNIT 5: UNDERSTANDING YOUR CUSTOMERS Reading: Customer Complaints Listening: Inquire about an Issue, Discussing Complaint Case Study: Customers' Complaints Meeting 10: UNIT 5: UNDERSTANDING YOUR CUSTOMERS Speaking: Customer Service Writing: Rep	Listening, Reading 1, Writing 1, Pages 42-44
Week 6	Meeting 11: UNIT 6: WORK SMART Reading: Collaborating with Others Listening: Check Stock Items, Working with Cloud Services Case Study: Cloud Technology: Apple Puts Itself in the Cloud Meeting 12: UNIT 6: WORK SMART Speaking: The Impact of Cloud Technolog	Listening, Reading 1, Writing 1, Pages 54-56
Week 7	Meeting 13: UNIT 7: CORPORATE IMAGE Reading: Corporate Culture Listening: Making Changes to Products, Corporate Donation Case Study: Corporate Donations: Microsoft Founder's Heart of Gold Meeting 14: UNIT 7: CORPORATE IMAGE Speaking: The Importance of Cor	Listening, Reading 1, Writing 1, Pages 62-64
Week 8	Meeting 15: UNIT 8: COMPANY PROFITS Reading: Stocks and Shares Listening: Reading an Annual Report, Going Bankruptcy Case Study: General Motors Survives Bankruptcy Meeting 16: UNIT 8: COMPANY PROFITS Speaking: Restructuring a Business	Listening, Reading 1, Writing 1, Pages 70-72

	Writing: Investment	
Week 9	Meeting 17: UNIT 9: TACTICAL DECISIONS Reading: Mergers and Acquisitions Listening: Acquiring Other Companies, Teaming Up for Success Case Study: Forming Alliances: Nukan and Volksfone Merger Meeting 18: UNIT 9: TACTICAL DECISIONS Speaking: Forming Allian	Listening, Reading 1, Writing 1, Pages 78-80
Week 10	Meeting 19: UNIT 10: HUMAN RESOURCES Reading: Retaining Employees Listening: Retaining Employees with Incentives, Filtering Talents for Hire Case Study: Headhunting: Target Nova Headhunting Services Meeting 20: UNIT 10: HUMAN RESOURCES Speaking: Benefits	Listening, Reading 1, Writing 1, Pages 90-92
Week 11	Meeting 21: UNIT 11: ENTREPRENEURSHIP Reading: Workin g for Yourself Listening: Being Your Own Boss, Funding Your Ideas Case Study: Crowdfunding: Make Your Dreams Come True with Kickstarter Meeting 22: UNIT 11: ENTREPRENEURSHIP Speaking: Benefits and Risk	Listening, Reading 1, Writing 1, Pages 98-100
Week 12	Meeting 23: UNIT 12: THE FUTURE OF BUSINESS Reading: What is the Future? Listening: Predicting the Future of Business, Following the E-commerce Trend Case Study: E-Commerce: Rakuten Takes a Lead in E-Commerce Meeting 24: UNIT 12: THE FUTURE OF BUSINESS Sp	Listening, Reading 1, Writing 1, Pages 106-108
Week 13	Case Study Group Presentation Preparation	Case Study Group Presentation Preparation
Week 14	Meeting 1: Case Study Group Presentation Preparation Meeting 2: Case Study Group Presentation: First Groups	Case Study Group Presentation Preparation
Week 15	Meeting 1: Case Study Group Presentation: Second Groups Meeting 2: Class questionnaire, Consultation	Send feedback through e-mail

1.授業コード（ナンバリング）	RED115-Y02	2.科目名	リーディング総合１ L3（1/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	Stelen E.Siagto				
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部			9.履修学年	2 学年
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	Discussion based, Student Presentation, Group/Pair Work, On-demand Lessons		
16.履修制限	L3				
17.授業の目的と概要	This course aims to help practice and enrich communication skills by using English in specific business settings and situations; thus, preparing students to use English in a present or future work situation.				
18.学習目標とＤＰとの関連	By the end of the course, students will be able to: 1. Develop basic skills to deal with people in business situations. 2. Write and read basic business reports, faxes, and memos. 3. Expand their knowledge of business terminology. 4. Increase their knowledge of key business concepts worldwide.				
19.教科書・教材	Title: Go Global (English for Global Business) Author(s): Garry Pearson / Graham Skerritt/Hiroshi Yoshizuka ISBN: 9784791971848				
20.参考文献	Additional references will be provided during the class.				
21.成績評価	Worksheets/Quizzes: 25% Class Participation: 15% Homework: 10% Midterm test: 20% Final Test: 30%				
22.コメント	1. This course is conducted in English. 2. Always bring your textbooks to class. 3. The use of smartphones in class is prohibited unless directed by the teacher. 3. If you have any questions or problems, it is important to see me as soon as possible so we can appropriately address the situation.				
23.オフィスアワー	The instructor is on campus from Mondays to Fridays and can also be contacted via email.				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	Day 1: Introduction Syllabus Unit 1 Day 2: Unit 1	
	Day 3 & 4: Unit 2 Introducing Companies	
	Day 5 & 6: Unit 3 Explaining Your Role	
	Day 7 & 8: Introducing Products	
	Day 9 &10: Checking information	
	Day 11 & 12: Giving Your Opinion	
	Day 13 & 14: Making Requests & Asking Permission	

	Day 15: Activity/Project/Review Day 16: Midterm Test	
	Day 17 & 18: Making Invitations and Making Appointments	
	Day 19 & 20: Cancelling and Rescheduling	
	Day 21 & 22: Describing Locations	
	Day 23 & 24: Looking after a Visitor	
	Day 25 & 26: Making a Phone Call	
	Day 27 & 28: Taking Mesages	
	Day 29: Final Test Part 1 Day 30: Final Test Part 2	

1.授業コード（ナンバリング）	RED115-Y03	2.科目名	リーディング総合１ L3（2/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　中学(英語)		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限	クラス指定により、本クラスを指定されたグローバルコミュニケーション学科の学生に限定します。他学科履修等を希望する場合は、事前に片山まで相談し、了承を得てから登録してください。				
17.授業の目的と概要	Objective: This course is for improving English proficiency through reading or other activities. Abstract: Students will improve academic reading skills such as skimming, scanning, fact-finding, and paraphrasing.　To improve reading skills, students n				
18.学習目標とＤＰとの関連	Students can 1. improve comprehension of global themes, topics and SDGs 2. develop reading skills such as scanning, skimming, fact-finding, and paraphrasing 3. increase reading speed and fluency 4. strengthen critical thinking skills 5. build vocabulary and use them in speaking and writing DP:　自律性　　問題発見、解決力				
19.教科書・教材	インターネット教材「総合英語コース　初級リーディング」(￥3,080)を用います。購入・支払い方法について、初回授業で説明します。そのほかの教材や課題は授業中に配布します。				
20.参考文献	to be announced in class				
21.成績評価	総合英語リーディング:　40 lessons　　40% Vocabulary notebook:　　20% Reading Presentation：　　40% You pass this course over 60% in total.				
22.コメント	・オンラインプログラムは必ず購入(￥3,080)すること ・辞書を持ってくること				
23.オフィスアワー	月曜 3 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Day 1 Orientation (Explanation of the course and its assignment, etc.) Day 2 Diagnostic test Practice how to use Practical 8 Vocabulary	Day 2 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.)

Week 2	Day 1 Reading & Review of grammar rules Vocabulary Day 2 Reading & Review of grammar rules Vocabulary	Day 1 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.) Day 2 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.)
Week 3	Day 1 Reading & Review of grammar rules Vocabulary Day 2 Reading & Review of grammar rules Vocabulary	Day 1 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.) Day 2 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.)
Week 4	Day 1 Reading & Review of grammar rules Vocabulary Day 2 Reading & Review of grammar rules Vocabulary	Day 1 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.) Day 2 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.)
Week 5	Day 1 Reading & Review of grammar rules Vocabulary Day 2 Reading & Review of grammar rules Vocabulary	Day 1 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.) Day 2 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.) Preparation for Presentation (60min.)
Week 6	Day 1 Reading & Review of grammar rules Vocabulary Day 2 Reading presentation Vocabulary	Day 1 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.) Preparation for Presentation (60min.) Day 2 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.)
Week 7	Day 1 Reading & Review of grammar rules Vocabulary Day 2 Reading & Review of grammar rules Vocabulary	Day 1 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.) Day 2 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.)
Week 8	Day 1 Reading & Review of grammar rules Vocabulary Day 2 Reading & Review of grammar rules Vocabulary	Day 1 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.) Day 2 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.)
Week 9	Day 1 Reading & Review of grammar rules Vocabulary Day 2 Reading & Review of grammar rules	Day 1 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.) Day 2 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.)

	Vocabulary	
Week 10	Day 1 Reading & Review of grammar rules Vocabulary Day 2 Reading & Review of grammar rules Vocabulary	Day 1　Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.) Day 2 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.)
Week 11	Day 1 Reading & Review of grammar rules Vocabulary Day 2 Reading & Review of grammar rules Vocabulary	Day 1　Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.) Day 2 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.)
Week 12	Day 1 Reading & Review of grammar rules Vocabulary Day 2 Reading & Review of grammar rules Vocabulary	Day 1　Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.) Day 2 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.)
Week 13	Day 1 Reading & Review of grammar rules Vocabulary Day 2 Reading & Review of grammar rules Vocabulary	Day 1　Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.) Day 2 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.)
Week 14	Day 1 Reading & Review of grammar rules Vocabulary Day 2 Reading & Review of grammar rules Vocabulary	Day 1　Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.) Day 2 Practical 8 (60min.) Vocabulary notebook (30min.) Preparation for Presentation (60min.)
Week 15	Day 1 Practical 8 Review of Reading skills Final day Final Presentation	Day1　Practical 8 (60min.) Vocabulary (30min.) Preparation for Presentation (60min.)

1.授業コード（ナンバリング）	RED116-Y01	2.科目名	リーディング総合２ L4	3.単位数	2
4.授業担当教員	フィゴーニ啓子				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　中学(英語)		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	Objective: This course is for improving reading , vocabulary, grammar, and note-taking skills through a business-focused textbook. Abstract: Students will read passages about 12 Kansai-based companies, learning the histories, corporate cultures, prod				
18.学習目標と ＤＰとの関連	Students can 1. improve comprehension of business related passages and learn about business matters 2. develop reading skills such as scanning, skimming, grasping main ideas 3. increase reading speed and fluency 4. strengthen grammar skills 5. improve note-taking skills 6. build vocabulary words to use in speaking and writing 7. give a presentation on one company they conduct research on DP:　自律性				
19.教科書・教材	A Visit to Amazing Kansai-based Companies,　松柏社、井上治、他、￥2000				
20.参考文献	to be announced in class				
21.成績評価	In-class report=40%　　Quizzes = 40%　　Presentation= 20% ＊毎授業、課題レポート(in-class report)を提出すること。未提出の場合、－５％減点となる。 ＊毎週一回、テキストの各ユニットの小テストを行う。 ＊テキストを購入しない者は単位認定をしない。				
22.コメント	1. 毎授業、B5 サイズのルーズリーフ、単語カード、コンピュータを持参すること。 2. 天候等の諸事情により急遽オンラインクラスになった場合は、WebClass で連絡事項を確認して、Zoom ミーティングに参加すること。 3.体調不良により出席停止になった場合は、速やかにメールで連絡を入れること。				
23.オフィスアワー	授業の前後、合間に教室または講師控室にて対応する。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Day 1 Orientation (Syllabus),　Self-introduction Vocabulary practice Day 2 Chapter 1　Suntory (1) *Vocabulary practice, reading, discussion	Day 2 Homework Vocabulary
Week 2	Day 1	Day 1　Homework

	Chapter 1 Suntory (2) *Vocabulary, reading, writing, grammar Quiz Day 2 Chapter 2　Nabel (1) *Reading, writing , Vocabulary *pair/group work	Reading Day 2 Homework Vocabulary
Week 3	Day 1 Chapter 2　Nabel　(2) Vocabulary, reading, writing, grammar, vocabulary Quiz Day 2 Chapter 3　Zojirushi　(1) reading, writing, vocabulary pair/group work	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 4	Day 1 Chapter 3　Zojirushi　(2) Vocabulary, reading, writing, grammar Quiz Day 2 Chapter 4　Takenaka (1) Reading,　writing, vocabulary pair/group work	 Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 5	Day 1 Chapter 4　Takenaka (2) reading, writing, grammar, vocabulary Quiz Day 2 Chapter 5　Suntory　special edition reading, writing, vocabulary pair/group work	 Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 6	Day 1 Chapter 6　Kokuyo (1) Vocabulary, reading, writing, vocabulary pair/group work Day 2 Chapter 6　Kokuyo (2) reading, writing, grammar, vocabulary Quiz	 Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 7	Day 1 Chapter 7　KGK (1) Vocabulary, reading, writing pair/group work	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework

	Day 2 Chapter 7　KGK (2) Reading, writing, grammar, vocabulary Quiz	Vocabulary Review the unit
Week 8	Day 1 Chapter 8　Kohnan (1) Vocabulary, reading, writing pair/group work Day 2 Chapter 8　Kohnan (2) Reading, writing, grammar, vocabulary Quiz	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 9	Day 1 Chapter 9　Montbell　(1) Vocabulary, reading, writing, vocabulary pair/group work Day 2 Chapter 9　Montbell　(2) Reading, writing, grammar, vocabulary Quiz	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 10	Day 1 Chapter 10　Takenaka, Zojirushi, Nabel　special edition Vocabulary, reading, writing Day 2 Chapter 11　Totani　(1) *Reading, writing, vocabulary *pair/group work	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 11	Day 1 Chapter 11　Totani (2) Vocabulary, reading, writing, grammar Quiz Day 2 Chapter 12　Sunstar　(1) *Reading, writing, vocabulary *pair/group work	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 12	Day 1 Chapter 12　Sunstar (2) vocabulary, reading, writing, grammar Quiz Day 2 Chapter 13　Takeda　(1)	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit

	*Reading, writing, vocabulary *pair/group work	
Week 13	Day 1 Chapter 13　Takeda (2) Vocabulary, reading, writing, grammar Quiz Day 2 Chapter 14　Glico　(1) Reading, writing, vocabulary *pair/group work	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 14	Day 1 Glico (2) vocabulary, reading, writing, grammar Quiz Day 2 Research a company on your own prepare for a presentation group work	Day 1　Homework Preparation for the final exam
Week 15	Day 1 group presentation 1 Final day group presentation 2 consolidation	

1.授業コード（ナンバリング）	RED116-Y03	2.科目名	リーディング総合２ L4	3.単位数	2
4.授業担当教員	フィゴーニ啓子				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	高校(英語)　中学(英語)		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	Objective: This course is for improving reading , vocabulary, grammar, and note-taking skills through a business-focused textbook. Abstract: Students will read passages about 12 Kansai-based companies, learning the histories, corporate cultures, prod				
18.学習目標と ＤＰとの関連	Students can 1. improve comprehension of business related passages and learn about business matters 2. develop reading skills such as scanning, skimming, grasping main ideas 3. increase reading speed and fluency 4. strengthen grammar skills 5. improve note-taking skills 6. build vocabulary words to use in speaking and writing 7. give a presentation on one company they conduct research on DP:　自律性				
19.教科書・教材	A Visit to Amazing Kansai-based Companies,　松柏社、井上治、他、￥2000				
20.参考文献	to be announced in class				
21.成績評価	In-class report=40%　　Quizzes = 40%　　Presentation= 20% ＊毎授業、課題レポート(in-class report)を提出すること。未提出の場合、－５％減点となる。 ＊毎週一回、テキストの各ユニットの小テストを行う。 ＊テキストを購入しない者は単位認定をしない。				
22.コメント	1. 毎授業、B5 サイズのルーズリーフ、単語カード、コンピュータを持参すること。 2. 天候等の諸事情により急遽オンラインクラスになった場合は、WebClass で連絡事項を確認して、Zoom ミーティングに参加すること。 3.体調不良により出席停止になった場合は、速やかにメールで連絡を入れること。				
23.オフィスアワー	授業の前後、合間に教室または講師控室にて対応する。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Day 1 Orientation (Syllabus),　Self-introduction Vocabulary practice Day 2 Chapter 1　Suntory (1) *Vocabulary practice, reading, discussion	Day 2 Homework Vocabulary
Week 2	Day 1	Day 1　Homework

	Chapter 1 Suntory (2) *Vocabulary, reading, writing, grammar Quiz Day 2 Chapter 2　Nabel (1) *Reading, writing , Vocabulary *pair/group work	Reading Day 2 Homework Vocabulary
Week 3	Day 1 Chapter 2　Nabel　(2) Vocabulary, reading, writing, grammar, vocabulary Quiz Day 2 Chapter 3　Zojirushi　(1) reading, writing, vocabulary pair/group work	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 4	Day 1 Chapter 3　Zojirushi　(2) Vocabulary, reading, writing, grammar Quiz Day 2 Chapter 4　Takenaka (1) Reading,　writing, vocabulary pair/group work	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 5	Day 1 Chapter 4　Takenaka (2) reading, writing, grammar, vocabulary Quiz Day 2 Chapter 5　Suntory　special edition reading, writing, vocabulary pair/group work	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 6	Day 1 Chapter 6　Kokuyo (1) Vocabulary, reading, writing, vocabulary pair/group work Day 2 Chapter 6　Kokuyo (2) reading, writing, grammar, vocabulary Quiz	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 7	Day 1 Chapter 7　KGK (1) Vocabulary, reading, writing pair/group work	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework

	Day 2 Chapter 7　KGK (2) Reading, writing, grammar, vocabulary Quiz	Vocabulary Review the unit
Week 8	Day 1 Chapter 8　Kohnan (1) Vocabulary, reading, writing pair/group work Day 2 Chapter 8　Kohnan (2) Reading, writing, grammar, vocabulary Quiz	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 9	Day 1 Chapter 9　Montbell　(1) Vocabulary, reading, writing, vocabulary pair/group work Day 2 Chapter 9　Montbell　(2) Reading, writing, grammar, vocabulary Quiz	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 10	Day 1 Chapter 10　Takenaka, Zojirushi, Nabel　special edition Vocabulary, reading, writing Day 2 Chapter 11　Totani　(1) *Reading, writing, vocabulary *pair/group work	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 11	Day 1 Chapter 11　Totani (2) Vocabulary, reading, writing, grammar Quiz Day 2 Chapter 12　Sunstar　(1) *Reading, writing, vocabulary *pair/group work	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 12	Day 1 Chapter 12　Sunstar (2) vocabulary, reading, writing, grammar Quiz Day 2 Chapter 13　Takeda　(1)	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit

	*Reading, writing, vocabulary *pair/group work	
Week 13	Day 1 Chapter 13　Takeda (2) Vocabulary, reading, writing, grammar Quiz Day 2 Chapter 14　Glico　(1) Reading, writing, vocabulary *pair/group work	Day 1　Homework Vocabulary Reading Day 2　Homework Vocabulary Review the unit
Week 14	Day 1 Glico (2) vocabulary, reading, writing, grammar Quiz Day 2 Research a company on your own prepare for a presentation group work	Day 1　Homework Preparation for the final exam
Week 15	Day 1 group presentation 1 Final day group presentation 2 consolidation	

1.授業コード（ナンバリング）	REG301-M01	2.科目名	公共サービス特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	公共サービスは、市民の日々の生活を支えているが、政府・自治体の厳しい財政状況の中で見直され始めている。しかしながら、一方で少子高齢化、格差の拡大、甚大な災害等でその重要性が再認識されている。 誰もが安心して暮らせる公平・公正な社会を作るため、公共サービスのあり方について考える。				
18.学習目標とＤＰとの関連	その社会問題は税金を使って解決しないといけないのかについて、公共経済学の観点も踏まえて考えます。 「心豊かな世界市民になる」　社会問題について関心を持ち、社会的弱者について配慮できる人間になる。 「問題解決能力を身につける」　社会問題について、その背後にある原因となるものを探求し、解決策を立てる。 DP の（１）自律性、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル、（６）専門的知識・技能の活用力に関連する。				
19.教科書・教材	授業内に適宜プリントを配布				
20.参考文献	授業内に適宜紹介				
21.成績評価	ワークシート：４０％ 中間レポート：３０％ 最終レポート：３０％				
22.コメント	政府・自治体の厳しい財政状況から、小さな政府、民間にできることは民間に、中央集権から地方分権へなど既存の体制を変える必要が生じています。そして、新しい公共サービスのあり方が叫ばれ、既存のシステムが見直されはじめています。 基礎から公共サービスを学んで、一緒に今後の公共サービスのあり方について考えましょう。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	公共サービス特論について	授業の予習・復習
第２回	市場の失敗と政府の介入について	授業の予習・復習
第３回	独立行政法人の現状と課題	授業の予習・復習
第４回	PFI の現状と課題	授業の予習・復習
第５回	PPP の現状と課題	授業の予習・復習
第６回	公共サービスの民営化と課題	授業の予習・復習
第７回	前半の振り返り	中間レポート
第８回	事例研究	授業の予習・復習
第９回	事例研究	授業の予習・復習
第１０回	事例研究	授業の予習・復習
第１１回	事例研究	授業の予習・復習
第１２回	事例研究	授業の予習・復習
第１３回	事例研究	授業の予習・復習

第１４回	最終レポート	最終レポート
第１５回	総括	最終レポート

1.授業コード（ナンバリング）	REG305-M01	2.科目名	コミュニティ防災	3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦				
5.授業科目の区分	展開科目「防災・減災分野における実務経験のある教員による授業科目」	6.必修・選択の区分	選択（防災･危機ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻・災害心理学専攻　ｺｱ科目）	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学部、心理学部			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件	人間学 II 、地域防災減災論を履修済みか履修中であることが望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	大災害に際してきわめて重要となる自助・共助について、実際の災害事例などを通じて理解し、地域コミュニティの一員として災害に事前に備え、災害発生時には迅速的確な対応を、自ら率先して行える力を身につける。				
18.学習目標とＤＰとの関連	災害発生時に自ら考えて、最善の行動を自らとれる自律性を養う。 地域社会において、平時には大災害への備え、災害発生時には、必要な課題を的確に判断して、先頭に立って、必要なコミュニケーションをとりながらリーダーシップを発揮した防災活動をするなど、社会に貢献できる能力を養う				
19.教科書・教材	授業資料は WebClass で電子配布します。毎回、PC かタブレットを持参のこと(スマホでも可)				
20.参考文献					
21.成績評価	各回提出物、中間評価：50% 総括レポート(到達確認ｼﾃｽﾄ含)：50%				
22.コメント	地域防災減災論、セーフティマネジメント論履修者は、より防災・減災の知見を深めるのに不可欠な科目です				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【金曜 4 限】 第 1 回 (4/12)	＜講師名はすべて 2022 年度のもの。現在調整中＞ ---主に三木 C から発信して山手 C は遠隔で教室受講になります--- コミュニティ防災・防犯の意義 ＜自主防災組織や消防団など、平時からのコミュニティレベルでの防災・減災への取り組みや、コミュニティぐるみの防犯活動などが、災害時にも有効に機能することを学ぶ＞ 講師：関西国際大学教授　村田昌彦（三木）	☆講師指定のリフレクション課題レポートの提出(WebClass 使用：各回共通)
第 2 回 (4/19)	防災法制度（地区防災計画） ＜地域固有の具体的な防災・減災に向けた地区防災計画の策定などについて、具体例を交えて学ぶ＞ 講師：関西国際大学教授　川脇康生（山手） 村田昌彦(コメント：三木)	☆講師指定のリフレクション課題レポートの提出(WebClass 使用：各回共通)
第 3 回	市民における安全･安心についての心理	☆講師指定のリフレクション課題レポートの

(4/26)	<日常生活における犯罪、事故の防止について、また、災害発生時の避難対応についての心理を学び、効果的な防犯や避難行動について考える> 講師：関西国際大学　経営学科准教授　田中綾子 関西国際大学　心理学科教授　村田昌彦(コメント)	提出(WebClass 使用：各回共通)
第 4 回 (5/10)	被災者の健康管理(医療・看護) ＜被災者、特に高齢者、障害者などの要援護者や女性、子供たちの避難生活における健康管理について学ぶ＞ 講師：関西国際大学 看護学科教授　畑 吉節未 村田昌彦(コメント：三木)	
第 5 回 (5/17)	過去災害における自助・共助 ＜平常時には行政主導の公助のシステムが機能するが、大災害発生時には行政のキャパシティを超えるため、自分たちの命や生活は自分で、あるいは地域で守ることの必要性と具体例を学ぶ＞ 講師：関西国際大学客員教授　斉藤容子(山手) 村田昌彦(コメント：三木)	
第 6 回 (5/24)	地域レベルにおける犯罪と防犯 <高齢者等は災害時のみならず、平時においても犯罪の標的として狙われやすい。地域の安全安心を脅かす高齢者等に対する犯罪事例とその防止策について学ぶ> 講師：関西国際大学心理学科教授　大松 光寿(山手)	
第 7 回 (5/31)	防災訓練の実践 ＜コミュニティレベルで地区防災計画の立案に参画し、訓練で実践することは、災害に備える重要なステップであることから、実践的な訓練の先進事例について学ぶ＞ 講師：龍谷大学政策学部　准教授　石原凌河（遠隔） 村田昌彦(コメント：三木)	
第 8 回 (6/7)	避難所の開設と運営 <災害発生時の地域と連携した安全安心な避難所の開設手順、運営手法、福祉避難所の開設、ボランティアグループとの連携などについて考える> 講師：NPO ｽﾏｲﾙﾎﾞｹｯﾄ代表理事　中村 伸一郎　（三木） 村田昌彦(コメント：三木)	
第 9 回 (6/14)	地域レベルでの災害時避難要支援者対策＜高齢者や障害者など、災害時の避難に支援を要する人々の避難対策について、行政と連携しながら、コミュニティ主体で支援体制を構築する先進的な取り組みについて学ぶ＞ 講師：兵庫県立大学減災復興政策研究科究所 松川 杏寧（山手） 村田昌彦(コメント：三木)	

第 10 回 (6/21)	NPO/NGO、ボランティアの役割 ＜災害ボランティアのニーズ把握とコーディネーションが可能な受援体制の整備、大規模 NPO,NGO の災害対応における行政との効果的連携について学ぶ＞ 講師：プラスアーツ代表　永田宏和（山手） 　　村田昌彦(コメント：三木)	
第 11 回 (6/28)	地域の安全･安心確保への女性と子供の参画 ＜仙台防災枠組(2015)においてはオールインクルーシブ防災が提唱され、女性、子供も防災計画策定段階から参加することの重要性が確認されたことから、その先進的な実践的取組みについて学ぶ＞ 講師：関西国際大学客員教授　斉藤容子（山手） 　　村田昌彦(コメント：三木)	
第 12 回 (7/5)	環境と防災 ＜災害発生の態様が変わり巨大化する一因は、地球温暖化などの気候変動であるとされることから、生活と密着した環境問題と災害との関連性について学び、今後の防災対策を考える＞ 講師：兵庫県環境部長 菅 範昭（山手） 　　村田昌彦(コメント：三木)	
第 13 回 (7/12)	災害廃棄物対策 ＜災害発生後に大量に発生する災害廃棄物対策は、地域の復旧・復興の初期の段階で顕在化する問題であることから、行政と連携しながら、地域においてどのように対処するかについて考える＞ 講師：大栄環境株式会社　関西営業部　福田　輔 村田昌彦(コメント：三木)	
第 14 回 (7/19)	食の安全、家畜伝染病対策 <日常生活で当然確保されると考えられている食の安全が、人為的に、あるいは家畜伝染病などによっても往々にして脅かされることについて実例を交えて学び、その対策について考える> 講師：関西国際大学教授　村田 昌彦　（三木）	
第 15 回 (7/26)	コミュニティ防災総論～レポート提出～ ＜自助、共助の重要性、災害へのコミュニティレベルでの備え、災害発生時のｺﾐｭﾆﾃｨが団結した対応などを総括し、総括レポートを作成する＞ 講師：関西国際大学教授　村田昌彦　（三木）	

1.授業コード（ナンバリング）	REG305-Y01	2.科目名	コミュニティ防災 ※外部学生用	3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦				
5.授業科目の区分	展開科目「防災・減災分野における実務経験のある教員による授業科目」	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	外部学生			9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	大災害に際してきわめて重要となる自助・共助について、実際の災害事例などを通じて理解し、地域コミュニティの一員として災害に事前に備え、災害発生時には迅速的確な対応を、自ら率先して行える力を身につける。				
18.学習目標とＤＰとの関連	災害発生時に自ら考えて、最善の行動を自らとれる自律性を養う。 地域社会において、平時には大災害への備え、災害発生時には、必要な課題を的確に判断して、先頭に立って、必要なコミュニケーションをとりながらリーダーシップを発揮した防災活動をするなど、社会に貢献できる能力を養う				
19.教科書・教材	授業資料は WebClass で電子配布します。毎回、PC かタブレットを持参のこと(スマホでも可)				
20.参考文献					
21.成績評価	各回提出物：60% 総括レポート(確認テスト含む)：40%				
22.コメント	地域防災減災論、セーフティマネジメント論履修者は、より防災・減災の知見を深めるのに不可欠な科目です				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【金曜 4 限】 第 1 回 (4/14)	＜講師名はすべて 2022 年度のもの。現在調整中＞ ---主に三木 C から発信して山手 C は遠隔で教室受講になります--- コミュニティ防災・防犯の意義 ＜自主防災組織や消防団など、平時からのコミュニティレベルでの防災・減災への取り組みや、コミュニティぐるみの防犯活動などが、災害時にも有効に機能することを学ぶ＞ 講師：関西国際大学教授　村田昌彦（三木）	☆講師指定のリフレクション課題レポートの提出(WebClass 使用：各回共通)
第 2 回 (4/21)	防災法制度（地区防災計画） ＜地域固有の具体的な防災・減災に向けた地区防災計画の策定などについて、具体例を交えて学ぶ＞ 講師：関西国際大学教授　川脇康生（山手） 村田昌彦(コメント：三木)	☆講師指定のリフレクション課題レポートの提出(WebClass 使用：各回共通)
第 3 回 (4/28)	市民における安全･安心についての心理 <日常生活における犯罪、事故の防止について、また、災害発生時の避難対応についての心理を学び、効果的	☆講師指定のリフレクション課題レポートの提出(WebClass 使用：各回共通)

	な防犯や避難行動について考える> 講師：関西国際大学　経営学科准教授　田中綾子 　　関西国際大学　心理学科教授　　村田昌彦(コメント)	
第 4 回 (5/12)	被災者の健康管理(医療・看護) ＜被災者、特に高齢者、障害者などの要援護者や女性、子供たちの避難生活における健康管理について学ぶ＞ 講師：関西国際大学 看護学科教授(2023 年度)　松田宜子（三木） 　　村田昌彦(コメント：三木)	
第 5 回 (5/19)	過去災害における自助・共助 ＜平常時には行政主導の公助のシステムが機能するが、大災害発生時には行政のキャパシティを超えるため、自分たちの命や生活は自分で、あるいは地域で守ることの必要性と具体例を学ぶ＞ 講師：関西国際大学客員教授　斉藤容子(山手) 　　村田昌彦(コメント：三木)	
第 6 回 (5/26)	避難所の開設と運営 <災害発生時の地域と連携した安全安心な避難所の開設手順、運営手法、福祉避難所の開設、ボランティアグループとの連携などについて考える> 講師：丹波市社会福祉協議会次長(2023 年度)　松浪豊　（三木） 　　村田昌彦(コメント：三木)	
第 7 回 (6/2)	防災訓練の実践 ＜コミュニティレベルで地区防災計画の立案に参画し、訓練で実践することは、災害に備える重要なステップであることから、実践的な訓練の先進事例について学ぶ＞ 講師：龍谷大学政策学部　准教授　石原凌河（遠隔） 　　村田昌彦(コメント：三木)	
第 8 回 (6/9)	地域レベルにおける犯罪と防犯 <高齢者等は災害時のみならず、平時においても犯罪の標的として狙われやすい。地域の安全安心を脅かす高齢者等に対する犯罪事例とその防止策について学ぶ> 講師：関西国際大学心理学科教授　髙橋浩樹(山手)	
第 9 回 (6/16)	NPO/NGO、ボランティアの役割 ＜災害ボランティアのニーズ把握とコーディネーションが可能な受援体制の整備、大規模 NPO,NGO の災害対応における行政との効果的連携について学ぶ＞ 講師：プラスアーツ代表　永田宏和（山手） 　　村田昌彦(コメント：三木)	
第 10 回 (6/23)	地域レベルでの災害時避難要支援者対策＜高齢者や障害者など、災害時の避難に支援を要する人々の避難対	

	策について、行政と連携しながら、コミュニティ主体で支援体制を構築する先進的な取り組みについて学ぶ＞ 講師：兵庫県立大学減災復興政策研究科究所 松川 杏寧（山手） 村田昌彦(コメント：三木)	
第 11 回 (6/30)	地域の安全･安心確保への女性と子供の参画 ＜仙台防災枠組(2015)においてはオールインクルーシブ防災が提唱され、女性、子供も防災計画策定段階から参加することの重要性が確認されたことから、その先進的な実践的取組みについて学ぶ＞ 講師：関西国際大学客員教授　斉藤容子（山手） 村田昌彦(コメント：三木)	
第 12 回 (7/7)	環境と防災 ＜災害発生の態様が変わり巨大化する一因は、地球温暖化などの気候変動であるとされることから、生活と密着した環境問題と災害との関連性について学び、今後の防災対策を考える＞ 講師：兵庫県環境部長 菅 範昭（山手） 村田昌彦(コメント：三木)	
第 13 回 (7/14)	災害廃棄物対策 ＜災害発生後に大量に発生する災害廃棄物対策は、地域の復旧・復興の初期の段階で顕在化する問題であることから、行政と連携しながら、地域においてどのように対処するかについて考える＞ 講師：大栄環境株式会社 中部営業部次長(2023 年度)　早川 宏明　（三木） 村田昌彦(コメント：三木)	
第 14 回 (7/21)	食の安全、家畜伝染病対策 <日常生活で当然確保されると考えられている食の安全が、人為的に、あるいは家畜伝染病などによっても往々にして脅かされることについて実例を交えて学び、その対策について考える> 講師：関西国際大学教授　村田 昌彦　（三木）	
第 15 回 (7/28)	コミュニティ防災総論～レポート提出～ ＜自助、共助の重要性、災害へのコミュニティレベルでの備え、災害発生時のｺﾐｭﾆﾃｨが団結した対応などを総括し、総括レポートを作成する＞ 講師：関西国際大学教授　村田昌彦　（三木）	

1.授業コード（ナンバリング）	REG305-y01	2.科目名	コミュニティ防災		3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦					
5.授業科目の区分	展開科目「防災・減災分野における実務経験のある教員による授業科目」	6.必修・選択の区分	選択（防災･危機ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻・災害心理学専攻　ｺｱ科目）	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学部、心理学部			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件	人間学 II 、地域防災減災論を履修済みか履修中であることが望ましい			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	大災害に際してきわめて重要となる自助・共助について、実際の災害事例などを通じて理解し、地域コミュニティの一員として災害に事前に備え、災害発生時には迅速的確な対応を、自ら率先して行える力を身につける。					
18.学習目標とＤＰとの関連	災害発生時に自ら考えて、最善の行動を自らとれる自律性を養う。 地域社会において、平時には大災害への備え、災害発生時には、必要な課題を的確に判断して、先頭に立って、必要なコミュニケーションをとりながらリーダーシップを発揮した防災活動をするなど、社会に貢献できる能力を養う					
19.教科書・教材	授業資料は WebClass で電子配布します。毎回、PC かタブレットを持参のこと(スマホでも可)					
20.参考文献						
21.成績評価	各回提出物、中間評価：50% 総括レポート(到達確認ｼﾃｽﾄ含)：50%					
22.コメント	地域防災減災論、セーフティマネジメント論履修者は、より防災・減災の知見を深めるのに不可欠な科目です					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【金曜 4 限】 第 1 回 (4/12)	＜講師名はすべて 2022 年度のもの。現在調整中＞ ---主に三木 C から発信して山手 C は遠隔で教室受講になります--- コミュニティ防災・防犯の意義 ＜自主防災組織や消防団など、平時からのコミュニティレベルでの防災・減災への取り組みや、コミュニティぐるみの防犯活動などが、災害時にも有効に機能することを学ぶ＞ 講師：関西国際大学教授　村田昌彦（三木）	☆講師指定のリフレクション課題レポートの提出(WebClass 使用：各回共通)
第 2 回 (4/19)	防災法制度（地区防災計画） ＜地域固有の具体的な防災・減災に向けた地区防災計画の策定などについて、具体例を交えて学ぶ＞ 講師：関西国際大学教授　川脇康生（山手） 村田昌彦(コメント：三木)	☆講師指定のリフレクション課題レポートの提出(WebClass 使用：各回共通)
第 3 回	市民における安全･安心についての心理	☆講師指定のリフレクション課題レポートの

(4/26)	<日常生活における犯罪、事故の防止について、また、災害発生時の避難対応についての心理を学び、効果的な防犯や避難行動について考える> 講師：関西国際大学　経営学科准教授　田中綾子 関西国際大学　心理学科教授　村田昌彦(コメント)	提出(WebClass 使用：各回共通)
第 4 回 (5/10)	被災者の健康管理(医療・看護) ＜被災者、特に高齢者、障害者などの要援護者や女性、子供たちの避難生活における健康管理について学ぶ＞ 講師：関西国際大学 看護学科教授　畑 吉節未 村田昌彦(コメント：三木)	
第 5 回 (5/17)	過去災害における自助・共助 ＜平常時には行政主導の公助のシステムが機能するが、大災害発生時には行政のキャパシティを超えるため、自分たちの命や生活は自分で、あるいは地域で守ることの必要性と具体例を学ぶ＞ 講師：関西国際大学客員教授　斉藤容子(山手) 村田昌彦(コメント：三木)	
第 6 回 (5/24)	地域レベルにおける犯罪と防犯 <高齢者等は災害時のみならず、平時においても犯罪の標的として狙われやすい。地域の安全安心を脅かす高齢者等に対する犯罪事例とその防止策について学ぶ> 講師：関西国際大学心理学科教授　大松 光寿(山手)	
第 7 回 (5/31)	防災訓練の実践 ＜コミュニティレベルで地区防災計画の立案に参画し、訓練で実践することは、災害に備える重要なステップであることから、実践的な訓練の先進事例について学ぶ＞ 講師：龍谷大学政策学部　准教授　石原凌河（遠隔） 村田昌彦(コメント：三木)	
第 8 回 (6/7)	避難所の開設と運営 <災害発生時の地域と連携した安全安心な避難所の開設手順、運営手法、福祉避難所の開設、ボランティアグループとの連携などについて考える> 講師：NPO ｽﾏｲﾙﾎﾞｹｯﾄ代表理事　中村 伸一郎　（三木） 村田昌彦(コメント：三木)	
第 9 回 (6/14)	地域レベルでの災害時避難要支援者対策＜高齢者や障害者など、災害時の避難に支援を要する人々の避難対策について、行政と連携しながら、コミュニティ主体で支援体制を構築する先進的な取り組みについて学ぶ＞ 講師：兵庫県立大学減災復興政策研究科究所 松川 杏寧（山手） 村田昌彦(コメント：三木)	

第 10 回 (6/21)	NPO/NGO、ボランティアの役割 ＜災害ボランティアのニーズ把握とコーディネーションが可能な受援体制の整備、大規模 NPO,NGO の災害対応における行政との効果的連携について学ぶ＞ 講師：プラスアーツ代表　永田宏和（山手） 　　村田昌彦(コメント：三木)	
第 11 回 (6/28)	地域の安全･安心確保への女性と子供の参画 ＜仙台防災枠組(2015)においてはオールインクルーシブ防災が提唱され、女性、子供も防災計画策定段階から参加することの重要性が確認されたことから、その先進的な実践的取組みについて学ぶ＞ 講師：関西国際大学客員教授　斉藤容子（山手） 　　村田昌彦(コメント：三木)	
第 12 回 (7/5)	環境と防災 ＜災害発生の態様が変わり巨大化する一因は、地球温暖化などの気候変動であるとされることから、生活と密着した環境問題と災害との関連性について学び、今後の防災対策を考える＞ 講師：兵庫県環境部長 菅 範昭（山手） 　　村田昌彦(コメント：三木)	
第 13 回 (7/12)	災害廃棄物対策 ＜災害発生後に大量に発生する災害廃棄物対策は、地域の復旧・復興の初期の段階で顕在化する問題であることから、行政と連携しながら、地域においてどのように対処するかについて考える＞ 講師：大栄環境株式会社　関西営業部　福田　輔 村田昌彦(コメント：三木)	
第 14 回 (7/19)	食の安全、家畜伝染病対策 <日常生活で当然確保されると考えられている食の安全が、人為的に、あるいは家畜伝染病などによっても往々にして脅かされることについて実例を交えて学び、その対策について考える> 講師：関西国際大学教授　村田 昌彦　（三木）	
第 15 回 (7/26)	コミュニティ防災総論～レポート提出～ ＜自助、共助の重要性、災害へのコミュニティレベルでの備え、災害発生時のｺﾐｭﾆﾃｨが団結した対応などを総括し、総括レポートを作成する＞ 講師：関西国際大学教授　村田昌彦　（三木）	

1.授業コード（ナンバリング）	REG307-M01	2.科目名	地域マネジメント特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	林万平				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	３年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	少子高齢化、人口減少、大災害、感染症といった諸問題の発生が続く中、地域社会の持続可能性の向上に向けた政策の重要性が高まっている。本講義では、特色のある地域作りとその政策課題について、様々な実例を元に学ぶ。合わせて、近隣地域の「まちづくり」のあり方について、調査を元に学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	・「まちづくり」にまつわる政策的議論について包括的に理解できる。　（専門的知識・技能の活用力） ・他の都市再生における事例も紹介し、地域づくりについて理解を深める。　（専門的知識・技能の活用力） ・今後の地域社会のあり方について、自らの考え方に基づいて議論できる。　（問題発見・解決力）				
19.教科書・教材	教員から適宜指示する				
20.参考文献	吹田良平「Green Neighborhood　グリーンネイバーフッドー米国ポートランドにみる環境先進都市のつくりかたとつかいかた」繊研新聞社 畢 滔滔「なんの変哲もない取り立てて魅力もない地方都市 それがポートランドだった: 「みんなが住みたい町」をつくった市民の選択」白桃書房 宮副謙司・内海里香「米国ポートランドの地域活性化戦略ー日本の先を行く生活スタイルとその充実」同友館 山崎満広「ポートランドー世界で一番住みたい街をつくる」学芸出版社 岡田知弘「地域づくりの経済学入門ー地域内再投資力論」自治体研究				
21.成績評価	授業中の提出物　３０％ 中間レポート　３０％ 最終レポート　４０％				
22.コメント	自分の住む街や地域に関心を持って調査できる人の履修を勧めます。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回 第２回	第１回　地域づくりと災害復興 第２回 阪神淡路大震災が目指したもの	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノー ト
第３回 第４回	第３回 東日本大震災から１０年。復興における課題。 第４回　世界の都市再生ービルバオ	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノー ト
第５回 第６回	第５回 世界の都市再生ーポートランド（１） 第６回 世界の都市再生ーポートランド（２）	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノー ト
第７回 第８回	第７回 世界の都市再生ーポートランド（3） 第８回 世界の都市再生ーポートランド（4）	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノー ト

第 9 回 第１０回	第 9 回　最終報告に向けたレポート課題の設定 第 10 回　世界の都市再生ーポートランド（5）	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノー ト
第１１回 第１２回	第１１回　世界の都市再生ーポートランド（6） 第１２回　阪神淡路大震災・復興計画の幻	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノー ト
第１３回 第１４回	第１３回　地域コミュニティの復興 第１４回　三宮駅前再整備構想	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノー ト
第１５回	第 15 回　最終課題についての発表会	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノー ト

1.授業コード（ナンバリング）	RFB303-Y01	2.科目名	外書講読	3.単位数	2
4.授業担当教員	堀尾強				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義及び演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本講義の目的と概要は以下の通りである。 ①　心理学系大学院への進学を希望する人、英語文献の読解力を高めたい人を対象とする ②　まずは英文の意味を大づかみに理解する視点を養う ③　心理学のテーマを扱った英語論文に触れることにより、心理学の基礎的知識も養う ④　大学院入学試験および大学院での英語文献読解に必要となる英語力を育てる				
18.学習目標とＤＰとの関連	・英語の基礎的事項（基礎文法、基礎構造）を理解できる ・心理学の基礎的知識、専門用語を修得できる ・英語論文を適切な日本語で和訳することができる 関連する DP コミュニケーション力、専門的知識・技能の活用力 授業の性格上、中辞典以上の英和辞典が必要である。したがって授業には毎回必ず持参することを受講ルールとしたい。電子辞書の使用は不可とする。遠隔授業の際にも必ず辞典を使用すること。				
19.教科書・教材	教科書は指定しない。 毎回の授業で扱うテクストは、Webclass 上にて配布する。				
20.参考文献	英語の基本構造の理解のためには、英語の文法書が必携である。各自かならず手元に準備すること。 その他として Atkinson & Hilgard's Introduction to Psychology(15th),2009. ⇒心理学の代表的教科書。入試問題に頻出している。 『ヒルガードの心理学』内田一成監訳，金剛出版，2012 年. ⇒上記図書の翻訳書				
21.成績評価	・アサインメントの提出 40% ・中間試験 30% ・総括試験 30% 合計 100%				
22.コメント	だれでも英文和訳はにがてです。でもなんとかなります。 英文の意味をまずは大づかみにしてから、順次細かい部分もつかむように、トレーニングしていきましょう。 授業で扱うテーマや進め方は、受講生のニーズと理解度によって柔軟に対応します。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション	◆持参物◆

	・授業概要と受講の注意点を説明しますので、各自シラバスをかならず持参してください。 ・授業では英和中辞典（電子辞書の使用は認めません）を使って課題に取り組みます。初回からかならず持参すること。 ・アサインメントを出しますので次回までに自分で和訳して提出してもらいます。	・英和中辞典（電子辞書不可） ・シラバス
【第 2 回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	・前回出されたアサインメントを提出する ・英和中辞典を持参する
【第 3 回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	同上
【第 4 回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	同上
【第 5 回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	同上
【第 6 回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	次回の中間試験に備えてこれまでの授業中課題やアサインメントを振り返っておく
【第 7 回】	中間試験 　これまでの学修をもとに、大学院入試を想定した英文問題を和訳する	
【第 8 回】	中間試験問題の解説を中心とする 再びアサインメントを課していく	・英和中辞典を持参する
【第 9 回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	・前回出されたアサインメントを提出する ・英和中辞典を用意する
【第 10 回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	同上
【第 11 回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	同上
【第 12 回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	同上
【第 13 回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	次回の総括試験に向けてこれまでのアサインメントを中心に振り返りをしておきましょう
【第 14 回】	・総括試験（70 分）	◆持参物◆ ・英和中辞典（電子辞書不可）
【第 15 回】	総括試験に関する解説を中心とする	◆持参物◆ ・英和中辞典（電子辞書不可）

1.授業コード（ナンバリング）	RSM102-M01	2.科目名	地域防災減災論		3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦、田中綾子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目「防災・減災分野における実務経験のある教員による授業科目」	6.必修・選択の区分	選択（経営学科防災・危機ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻ｺｱ科目）	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学部 <春学期は三木開講> <冬学期は山手、三木で開講>			9.履修学年	2 年～ <春学期は全学科 2 年生以上>	
10.取得資格の要件	履修登録は春学期開始時までに行うこと。 防災士試験受験者は、普通救命士講習(本学あるいは近隣消防署等によるもの）を別途受講（３時間程度）する必要がある。なお、センタープログラムの一環として春学期に三木キャンパスにおいて講習を実施予定。	11.先修条件	人間学 II を履修済みか履修中。 セーフティマネジメント論が履修済みか同時受講が望ましい。			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義中心			
16.履修制限	80 人程度（可能な範囲で受け入れる）					
17.授業の目的と概要	本授業では、今後ますます頻発し巨大化する各種災害をたくましく生き抜くために必要となる災害に対する基礎的な知識、災害への備え、災害発生時の対応などについて体系的に学習する。 さらに、履修者には、全国的に認知されている「防災士」の資格試験の受験機会を提供し、履修者全員が「防災士」の資格取得を目指す <防災士教本、防災士試験受験料、防災士登録料（合計 12,000 円）の一部は、協力企業からの寄付金により補填され、自己負担金は 4,000 円。自己負担金は、指定する期日(授業開始前)に必要書類に添えて納入すること					
18.学習目標とＤＰとの関連	将来各方面で活躍するなかで、地域や組織における防災リーダーとして安全・安心をけん引していける人材を育成することを目標とする。					
19.教科書・教材	防災士教本、各講師作成資料 授業資料は WebClass で電子配布します。毎回、PC かタブレットを持参のこと(最終日以外はスマホでも可)					
20.参考文献	防災リテラシー（森北出版）					
21.成績評価	各授業の予習・復習、防災士試験対策練習問題などの WebClass の取り組み：50% 総括試験：40% 防災士試験の合否：10% <防災士試験受験は、WebClass の練習問題等を行い、総括試験 70%程度以上の成績を有する者に、原則受験資格を与える予定> WebClass にアクセスできる PC かタブレット等（授業はスマホでも可。総括テストはスマホ不可)、防災士教本を毎回持参のこと					
22.コメント	毎回の授業に加えて、授業前の練習問題、授業期間中の確認問題などをキッチリこなして、防災士資格の取得を目指してください。 救命士講習は、極力春学期期間中に最寄りの消防署で受講すること。					

	キャンパスでの救命士講習受講希望者は、Outlook Mail からの連絡などに速やかに対応してください。 連絡は Outlook Mail を主に使用するので、メールのチェック(携帯への自動転送)を必ず行ってください。 【講師名、設定日時は予定です。変更の場合があります】
23.オフィスアワー	センタープログラムの一環として、普通救命講座を春学期中に 3 時間程度実施予定（三木キャンパスで消防署に講師依頼)。その他、学内講師でも実施予定。 受講できない者は、自宅所在地の消防署、三木消防、尼崎消防、神戸市消防が毎月実施する普通救命士講習を、防災士試験日までに受講しておくこと。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【金曜 2 限】 第 1 回 (4 月 12 日)	ハザードと災害(防災と減災) 関西国際大学　教授　村田昌彦	毎回、WebClass を活用した事前学習、復習をします。 ノートＰＣ，タブレット（スマホでも可)、防災士教本を持参のこと。 ＜全回共通＞
第 2 回 (4 月 19 日)	行政対応と災害法制度 <地域防災計画、災害対策基本法、災害救助法> 講師：関西国際大学　教授　村田昌彦	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 3 回 (4 月 26 日)	災害発生の歴史と仕組みと被害 <台風、風水害､強風･竜巻、土砂災害> 講師：関西国際大学　教授　　村田 昌彦	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 4 回 (5 月 10 日)	災害発生の歴史と仕組みと被害<地盤災害等：地震・津波> 講師：関西国際大学 教授　　村田 昌彦	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 5 回 (5 月 17 日)	災害発生の歴史と仕組みと被害<火山・火災> 講師：経営学部　准教授　田中綾子	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 6 回 (5 月 24 日)	ライフラインの被害と復旧＜ライフライン・交通インフラ＞ 講師：関西国際大学 教授　村田 昌彦	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 7 回 (5 月 31 日)	防災情報 <予警報、緊急地震速報､被害･避難者情報> 講師：関西国際大学客員教授　斉藤容子	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 8 回 (6 月 7 日)	企業・都市における防災総論 ＜都市経営と災害、BCP＞ 講師：経営学部　准教授　田中綾子	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 9 回 (6 月 14 日)	災害医療・看護 <応急救急･救命､トリアージ、避難所と仮設住宅> 講師：関西国際大学保健医療学部教授　畑 吉節未	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 10 回 (6 月 21 日)	企業防災の実践と CSR <企業活動における防災・危機管理、災害発生時の社会的責任等> 講師：TOA（株）	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 11 回 (6 月 28 日)	被災者の心理<避難と避難行動、災害と流言・風評> 講師：関西国際大学 人間心理学科 教授　道免逸子	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 12 回	防災まちづくり ＜ﾊｻﾞｰﾄﾞﾏｯﾌﾟ・地域の復旧と復興＞	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが

(7 月 5 日)	講師：関西国際大学客員教授　斉藤容子	平常点になります。
第 13 回 (7 月 12 日) 第 14 回 (7 月 19 日)	＜演　　習＞ 自助・共助・公助　<耐震診断と補強、身近でできる防災対策> 講師：関西国際大学教授　川脇康生 防災訓練の実践・避難所運営・危機管理 ＜防災訓練・図上訓練、避難所運営＞	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 15 回 (7 月 26 日)	期末総括テスト 防災士試験対策	総括テストは WebClass を活用するので、ノートＰＣ，タブレットを持参のこと（スマホは不可）
第 16 回（予定） (7 月 27 日)土曜日	第 16 回目に、履修者のうち受験資格が確認できた者は全員（原則)、日本防災士機構による防災士試験を受験	日本防災士機構による防災士試験を実施します。 受験には授業で案内した、申し込み書提出が事前に必要になります。

1.授業コード（ナンバリング）	RSM304-M01	2.科目名	危機管理リーダーシップ論	3.単位数	2
4.授業担当教員	田中綾子				
5.授業科目の区分	展開科目（防災・危機マネジメント専攻コア科目）	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学部、人間科学部			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件	「地域防災減災論」「セーフティマネジメント論」「危機管理入門」の単位取得が望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	平時と危機では求められるリーダーシップ像も異なる。組織の存続をかけた決断、社会的影響の大きな事項の発表、限られた時間の中での情報収集、メンバーや外部との協力・連携など、危機において求められるリーダーシップや行動について学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	さまざまなリーダーシップのあり方について危機事例から学び、決断のために必要な体制や情報などの条件を説明できる。また、自分の考え方の癖を知り、平時からの人間関係の構築に必要なコミュニケーションスキルを身に付ける。 ＜特に関連性の高い DP 項目＞ （4）問題発見・解決力 組織や集団において情報の収集・分析を行い、問題を発見したり、解決へのアイデアを提案したりできる。 （5）コミュニケーションスキル 組織や集団の内外で、他者と意見を交わし調整することができる。				
19.教科書・教材	授業資料を web クラスで毎回データ配布します。また、ワークに必要な様式等は随時配布します。				
20.参考文献	◇『危機管理とリーダーシップ』亀井利明　亀井克之　同文館出版　2013 年 ◇「自治体の地域防災・危機管理のしくみ（図解よくわかるシリーズ）」鍵屋 一　学陽書房 2019 年 ◇『しんがりの思想　反リーダーシップ論』鷲田清一　角川新書　2015 年				
21.成績評価	各回提出物：50% 総括レポート：50%				
22.コメント	リーダーシップへの考察を通じて、多様な気質・性格・能力のあるそれぞれの人が活躍できる組織のあり方について考えます。活発な意見交換を期待します。				
23.オフィスアワー	火曜日昼休み　研究室（4 号館 5 階）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回（4/9）	＜オリエンテーション＞ リスクマネジメントとクライシスマネジメントについて理解する。	☆リフレクション課題の提出(WebClass 使用：第 1 回から 14 回まで各回共通)
第 2 回（4/16）	＜ソーシャルリスクマネジメント＞ 地域と企業のリスク管理の違いについて学ぶ。	
第 3 回（4/23）	＜チームワークとフォロワーシップ＞ 危機管理の場面においてリーダーシップが求められる理由を理解する。	

第 4 回 （4/30）	＜危機における情報管理＞ 危機における情報収集と情報発信の重要性について学ぶ。	
第 5 回（5/7）	＜危機におけるリーダーの実像①＞ 実際の危機においてリーダーがどのように行動したか、事例から学ぶ。	
第 6 回 （5/14）	＜決断のシミュレーション①＞ 危機事例のタイムラインに沿って、どのような決断が求められるのかを疑似体験する。	
第 7 回 （5/21）	＜決断のシミュレーション②＞ 危機事例で求められる決断について、クロスロードゲームを通じて学ぶ。	
第 8 回 （5/28）	＜危機におけるリーダーの実像②＞ 実際の危機においてリーダーがどのように行動したか、事例から学ぶ。	
第 9 回（6/4）	＜歴史に学ぶ危機管理＞ 国内外の有名な危機事例について、リーダーシップの観点から読み解く。	
第 10 回 （6/11）	＜経営危機からの逆転事例＞ 企業における危機の発生から復旧・発展まで、リーダーの決断がターニングポイントになった事例を読み解く。	
第 11 回 （6/18）	＜経営危機への失敗事例＞ リーダーの決断によって危機を拡大してしまった事例について、実例やシ映画シナリオから学ぶ。	
第 12 回 （6/25）	＜コンピテンシーと共生＞ リーダーとしてチーム力を最大化するためには、どのように能力を認め合い、フォローしあう必要があるかについて考える。	
第 13 回 （7/2）	＜平時の危機管理とリーダーシップ＞ 平時から危機に備える必要性をリーダーシップの視点で考える。	
第 14 回 （7/9）	＜多様なリーダー像＞ 組織の目的やメンバー構成が様々であるように、リーダーのあり方もひとつではない。多様なリーダー像について、意見交換を行う。	
第 15 回 （7/16）	＜総括レポート／テスト＞ web クラス上で 60 分の総括テストを行う。 ◆重要語句に関するテスト（語句入力） ◆提示された危機案件から 1 つを選び、求められるリーダーシップと取るべき行動について記述する。（自由記述）	web クラスを使用するため、ノート PC を持参すること。

1.授業コード（ナンバリング）	RSM306-M71	2.科目名	フードセキュリティ	3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦、川久通隆				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	経営学部			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	食料品の生産から消費までの過程、いわゆるフードシステムにおける、現行の制度と管理手法について認識し、食にまつわる事故や事件が発生することによる社会的な混乱を回避するため、必要な知識を身に着けると共に、正しい食生活のあり方について学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	安全・安心な生活の要である「食」を取り巻く様々なリスクとその対策について実践事例を通じて理解する。				
19.教科書・教材	各講師作成資料、適宜授業のなかで、配信・配布				
20.参考文献	食品の安全性評価と確認　サイエンスフォーラム　他				
21.成績評価	各単元講座ごとに、講義内容の理解度を評価する平常テスト（５割評価）を行うとともに、講座終了時に総括テスト（５割評価）を行う。				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回 ７月 30 日 （火） 9:00～10:30	フードセキュリティ講座について これから開催する、フードセキュリティ講座について、進め方、学習のポイント、学生の認識度等について、講義を行い、また、確認する。さらに食品安全に係る関係法令について説明する。。 講師：エスフーズ㈱　執行役員 関西国際大学客員教授　川久　通隆	・WebClass に資料を掲示するので、ﾉｰﾄ PC かタブレットを持参。 ・毎回理解度テストを実施する ＜各回共通＞
第２回 ７月 30 日 （火） 10:45～12:15	食品の魅力と安全安心 着物ブッチャーマリカとして活躍する渡邊　茉莉夏が、神戸ビーフの安全・安心と魅力について解説する。 講師：和牛マスター　プロモーションチーフ　渡邊麻莉夏	今後の講師との調整により、内容などに変更があります
第３回 ７月 30 日 （火） 13:15～14:45	食品管理：食品による健康危害の発生防止について 食中毒のうち、微生物（細菌性）・生物毒（動物性・植物性）を原因とするものについて講義する。 講師　兵庫食品科学研究所　所長　小林　典章	
第４回 ７月 30 日 （火） 15:00～16:30	食フードシステム（生産・流通） SDGｓの目標の一つでる「つくる責任・つかう責任」としてのフードロスの現状とコープこうべの取り組みについて講義する。 講師：生活協同組合コープこうべ　環境推進　　田畑翔一朗	
第５回	フードシステム（食品管理）	

7 月 31 日 （水） 9:00～10:30	国際的な基準である HACCP や FSSC22000 について講義する。 講師：エスフーズ㈱　品質保証室　王　奕翔	
第 6 回 7 月 31 日 （水） 10:45～12:15	フードシステム（生産・流通）：生産段階での安全対策について 生産段階（畜産）の現況・課題・対応策等について、わが国の制度と併せて講義する。 講師：神戸畜産株式会社　技術顧問　大川　浩一	
第 7 回 7 月 31 日 （水） 13:15～14:45	フードシステム（生産・流通）：食の歴史と飲食店における料理の提供技術について 日本料理店主人から、食の歴史と実際の調理技術や料理提供のポイントについて講義する。 講師：段屋鈴江　店主　鈴江　延嘉	
第 8 回 7 月 31 日 （水） 15:00～16:30	フードシステム（生産・流通）：企業における品質保証の取組 ヤマサ蒲鉾㈱が取り組む　製造現場の安全管理対策について講義する 講師：ヤマサ蒲鉾㈱　品質管理　常務　黒田　信行	
第 9 回 8 月 1 日 （火） 9:00～10:30	フードシステム（生産・流通）：畜産食品の海外への輸出について 我が国の重要な政策としての、農畜産物（神戸ビーフを代表とする和牛）の輸出について講義する。 講師：エスフーズ㈱　海外事業部 主任　佐藤　理香	
第 10 回 8 月 1 日 （火） 10:45～12:15	フードシステム（生産・流通）：食品表示全般について 消費者の正しい食品の選択には、食品表示を正確に理解することが必要である。アレルギー表示など健康を守る観点からも食品表示への正しい理解は欠かせないことである。 講師：兵庫食品科学研究所　中川　佐和子	
第 11 回 8 月 1 日 （火） 13:15～14:45	食品管理：健康食品について解説する。 健康食品（サプリメント）の法的規制と流通の実態について 講師：エスフーズ㈱　品質保証室長　田中　恭子	
第 12 回 8 月 1 日 （火） 15:00～16:30	食品管理：食品による健康危害の発生防止について 兵庫県の食品衛生行政の取組と食品による重大事故・事件を解説し、食の安全安心をめざした取組について講義する。 講師：元兵庫県生活衛生課長　都倉　敏明	
第 13 回 8 月 2 日 （金） 9:00～10:30	食品管理：食品による健康危害の発生防止について 食中毒を未然に防止するため、食品製造現場（飲食店含む）の具体的な管理手法について学ぶ 講師：ティーズフードコンサルタント　代表取締役 高柳　竜雄	
第 14 回 8 月 2 日 （金） 10:45～12:15	フードセキュリティ（危機管理）：食品企業防災 企業におけるフードセキュリティについて 講師：長井　直士（元 ｻﾝﾄﾘｰﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ 執行役員）	

第 15 回 8 月 2 日 （金） 13:15～14:45	フードセキュリティ（危機管理）：食の危機管理について 食品事故・事件を教訓とした対応について講義する。 総括テストの実施 講師：エスフーズ㈱　執行役員 　　関西国際大学客員教授　川久　通隆	

1.授業コード（ナンバリング）	RSM307-Y01	2.科目名	サイバーセキュリティ論Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	髙橋浩樹				
5.授業科目の区分	警察分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	サイバーセキュリティ論Ⅰ Ⅱの両講義を履修することを前提としています。 Ⅰにおいては、基本的事項、犯罪の実例、警察を中心としたサイバーセキュリティ対策について学びます。講義への出席が原則です。				
17.授業の目的と概要	目的：情巣収集、分析力を身に付け、データに基づく論理的思考力を養うことを目標とします。 現代社会において必要とされるサイバーセキュリティに関する知識を習得し、サイバーリスクマネジメント力を養成すること目的としています。 概要：現代社会がおかれている「サイバー空間の脅威」を正しく認識し、そのリスク軽減を図るため、サイバー犯罪の手口やその対策、法制度に関する知識を習得します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	ＤＰの(4)問題発見・解決力(6)専門的知識・技能の学修に関連しています。 ①サイバー犯罪等が社会の中で問題となっている論点を述べることができる ②問題発生時の事実と意見を区別することができる ③犯罪に関連する専門的知識を獲得することができる				
19.教科書・教材	適宜資料を配布します（教科書は使いません）。				
20.参考文献	警察白書、青林出版　概説サイバー犯罪　法令解説と捜査・公判の実際 授業中に適宜紹介します。				
21.成績評価	・第 8 回講義終了後レポート「サイバー空間の現状、サイバー犯罪に関する法制度について」の提出　　40% 学習目標①に対応 ・総括効果測定　　「違法有害情報、虚偽情報等に対する対策に関するレポート」の提出　60% 学習目標②、③に対応 ※最終レポートに加えて、中間レポートも提出することが単位認定の前提となるので注意すること				
22.コメント	・レポート作成に当たっては ①書籍、学術雑誌を利用し、出典を明示すること ②ネット検索によるものは、公共機関の HP に基づき URL 等を明示すること				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日昼休み 研究室オフィスアワー：金曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・オリエンテーション 授業の目標、内容、進め方、レポート作成等に関する説明	ノートパソコン等を持参して下さい。
第 2 回	サイバー空間の脅威	予習：WebClass で資料を事前提示

	現状、傾向	復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 3 回	サイバー攻撃、サイバー犯罪 定義、対策	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 4 回	サイバー空間の歴史	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 5 回	国際的な秩序形成 サイバー犯罪条約	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 6 回	サイバー犯罪等に関する法制度 刑法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 7 回	サイバー犯罪等に関する法制度 不正アクセス法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 8 回	サイバー犯罪等に関する法制度 サイバーセキュリティ基本法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 9 回	違法有害情報に対する対策 フィルタリング、青少年インターネット環境整備法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 10 回	違法有害情報に対する対策 被害防止教室	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 11 回	ネットワーク上の虚偽情報 フェイクウェブ、フィッシング	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 12 回	サイバー犯罪の各種手口 実例	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 13 回	サイバー犯罪の各種手口 実例、事件例	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。

第 14 回	サイバーインテリジェンス、テロ 　実情	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 15 回	総括、振り返り	ノートパソコン等を持参して下さい。

1.授業コード（ナンバリング）	SE2205-Y01	2.科目名	ブランド論	3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎				
5.授業科目の区分	ＵＳＪのマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	専攻必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義 アクティブ・ラーニング導入科目（グループディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	目的：ブランドの強さによって、企業の業績は大きく左右されます。ブランドとは何か？特に、観光産業などサービス業におけるブランドの役割と重要性を理解します。 概要：「ブランド」という言葉は誰でも知っていますが、その意味を説明できますか？この授業では、テーマパークやコンビニエンスストアといった身近なサービスを題材としてブランドの意味やその効果を学びます。加えて、観光産業において重要な要素である「地域のブランド」を設計する方法について、グループワークを通じて学習します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連しています。普段何気なく使っている「ブランド」という言葉の本質や、商品ブランドとサービスブランドの違いを深く理解したうえで、強いブランドがどのように作られるかについて、「地域のブランド」に関する実践的ワークを通じて身に付けます。				
19.教科書・教材	資料は webclass で配布				
20.参考文献	適宜紹介				
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 25 点（各回 2 点×10 回、15 回目のみ 5 点） ?グループワークのプレゼンテーション 25 点 （各回 8 点×2 回、9 点×1 回） グループ得点（4～5 点満点）、グループ MVP（4 点） グループワークのディスカッションを欠席した場合は 0 点となります。 ?総括試験 50 点 ＊総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。				
22.コメント	・遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。（厳守）				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	講義：サービスブランドの事例 セブンイレブン、ローソン、ファミマが隣同士で並んでいるとします。あなたは、どのお店に入りますか？コンビニ、ミネラルウォーター、携帯電話会社など、身近なサービスブランドを消費者側から見て、ブランドが果たす役割を概観します。	予習：知っているミネラルウォーターのブランドを書き出し、その中でいちばん好きなブランドを選ぶ 授業のまとめシート：提出 復習：あなたが好きなミネラルウォーターのブランドから、あなたが得られる価値を書き出す
第 2 回	講義：ブランドとは ＵＳＪのＶ字回復においても、「ブランド」が重要な役割を果たしました。ユニバのブランディングの事例を通じて、ブランドとは何かを学習します。 グループワークを始めます。あなたが好きなブランド	予習：ＵＳＪのキャッチコピー（スローガン）の、開業から今までの変遷をまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行

	を一つ選んで、そのブランドのターゲットと、ブランドがターゲットに提供する価値を推測してください。	
第 3 回	グループワーク：あなたが好きなブランドの、ターゲットと提供する価値 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 4 回	プレゼンテーション：グループワークの成果発表 講義： ブランドの設計図 ターゲットや提供する価値の他にも、ブランドを設計するために必要な要素があります。これらの要素を含めたブランドの設計図（フレームワーク）について解説します。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 5 回	講義： 強いブランドとその効果 ブランドが強くなると、どんな良いことがあるでしょうか？また、強いと言われているブランドには、どのような特徴があるでしょうか。ファッションのブランドや身近な商品・サービスの実例を通じて、強いブランドの効果と秘訣を学習します。	予習：あなたが強いと思うブランドを一つ選んで、そのブランドのターゲットと提供する価値を書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 6 回	講義： 商品ブランドとサービスブランド 消費者がお金を使う対象は、大きく「商品」と「サービス」に分かれます。その違いを解説するとともに、それぞれにおけるブランドの特徴を、身近な事例で対比しながら学習します。また、ブランドがターゲットに提供する価値の分類として、「機能的価値」と「情緒的価値」について学習します。	予習： 今までの講義で取り上げたブランドのターゲットと提供価値を、商品ブランドとサービスブランドに分類してまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 7 回	講義：地域のブランド あなたは、「沖縄県」と聞いて、何を思い浮かべますか？また、「栃木県」と聞いて、何を思い浮かべますか？近年、観光産業においては「地域のブランド」が重視されています。地域のブランドにはどのようなものがあるか、その意義と効果について、具体的な事例をもとに学習します。 ２回目のグループワークを始めます。ここまでの議論・講義を受けて、「神戸」のブランドの設計図を書いていただきます。まずは、ターゲットを決め、ターゲットに対しどのような価値を提供できるか、考えましょう。(グループワークのテーマは変	予習：旅行で行ってみたいと思う都道府県を一つ挙げて、その都道府県に対するあなたのイメージを書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 8 回	講義：地域のブランド実践例 長年にわたって地域のブランド作りに取り組まれているプロフェッショナルの方にゲスト講師としてお越しいただき、地域のブランドについて実践例を中心に講義いただきます。地域振興に重要な概念である「交流人口」「関係人口」「定住人口」についても学びます。	予習：「地方の過疎化問題」について調べてまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 9 回	グループワーク：「神戸」のブランドの設計図を書こう前半 グループでのディスカッションに充てます。神戸ブランドのターゲット、届ける価値を考察します。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、グループで次回プレゼンテーションの準備をする

第 10 回	プレゼンテーション：ターゲット、ターゲットに届ける価値の仮説 ここまでのグループで話し合って決めた内容をまとめて発表していただきます。「神戸」のブランドの設計図を書くにあたり、ターゲット、ターゲットに届ける価値の仮説を発表します。	予習：プレゼンテーションができる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：授業でのアドバイスを加味し、仮説をブラッシュアップする
第 11 回	グループワーク：「神戸」のブランドの設計図を書こう後半 グループでのディスカッションに充てます。神戸ブランドをターゲットに届けるための具体的手法を検討します。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、グループで次回プレゼンテーションの準備をする
第 12 回	プレゼンテーション：神戸ブランドの設計図 ここまでのグループで話し合って決めた内容をまとめて発表していただきます。神戸のブランドをターゲットに届けるための具体的手法を発表します。	予習：プレゼンテーションができる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 13 回	講義：ブランド論 まとめ ブランドとは何か、ブランディングを地域活性化に生かす思考方法や実例など、これまでの学びをまとめます。	予習：ブランドとは何かを改めて振り返って書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：総括試験へ向けて、全体の学びの整理
第 14 回	まとめと総括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	総括試験結果返却 全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	予習：講義全体および総括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード（ナンバリング）	SE2206-Y01	2.科目名	マーケティング論	3.単位数	2
4.授業担当教員	上瀬昭司				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目では、マーケティングが世の中でどのような役割を果たしているのか、そしてマーケティングをうまくやるために理論がどのように役立つのかを学びます。そのようなことを学ぶことは、さらに深くマーケティングを学ぶきっかけとなり、うまくマーケティングを行うための手がかりを得ることになるはずです。 【概要】 １回の授業で、テキストの１章分を進みます。初回は 2 つの章を進み、第 15 回に総括試験を行います。 授業の最初に、各回のテーマに沿った企業のマーケティング活動（事例）を説明しながら、そのマーケティングを				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプローマ・ポリシー）の(1)自律性(2)問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①マーケティングについての基本的概念を理解できる。 ②新聞報道等で目にした企業のマーケティング行動について、理論的に整理できる。 ③企業のマーケティング行動について自分の考えを論理的に組み立て、他人に説明できる。				
19.教科書・教材	石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『１からのマーケティング〈第４版〉』2020 年、碩学舎				
20.参考文献	授業で使用した資料については、授業中に適宜指示する。 テキストの各章末に「参考文献」と「次に読んで欲しい本」が掲載されているので、授業内容に興味を持ち、もっと深く学びたいと思う学生は、それらの文献に当たってほしい。				
21.成績評価	成績評価の方法と配点は以下の通りです。 ・ディスカッションへの参加 ・・・30 点 〔学習目標③に対応〕 ・レポート ・・・30 点 〔学習目標②に対応〕 ・総括試験 ・・・40 点 〔学習目標①に対応〕				
22.コメント	ディスカッションのテーマについては、以下のことに注意して、あらかじめ自分の意見をまとめておくとよい。 ディスカッションのテーマは、当該章の内容に沿ったものであることに注意すると、的外れな発言をすることがない。 あらかじめ考えてきた意見であっても、先に述べた人とまったく同じものならば、述べてはいけない。似たような意見の場合は、違いを明らかにすることで、別の意見とみなされる。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	マーケティング発想の経営 ・アサヒビールのスーパードライ開発のケースを通して、マーケティング発想の第一は、消費者志向であることを理解する。	テキスト第１章および第２章についてあらかじめ読んでおき、ディスカッションのテーマについて自分なりの考えをまとめておく。

	・４分の１インチのドリルのケースを通して、消費者の本当のニーズは製品そのものではなく製品が果たす機能にあることを理解する。 ・ハーレーダビッドソンとコカ・コーラ「ニューコーク」のケースを通して、消費者が本当に欲しいものは何かについて考える。 テキスト第１章 ディスカッションのテーマ ・幾つかの製品を取り上げ、その製品が果たす機能とその製品を購入する目的について考えて	
第２回	マーケティングの基本概念 ・サントリー食品の「クラフトボス」のケースを通じて、マーケティングの基本概念（STP と４P）について学ぶ。 テキスト第３章 ディスカッションのテーマ ・特定の製品市場を想定し、そこがどのようなセグメントに分けられるのか、考えてみよう。 ・それらの製品市場における幾つかの具体的な製品を取り上げて、それぞれで組み合わされている４P の共通点や相違点について、考えてみよう。 ・それらの製品が４P の統合として何を目指していると思われるか、考えてみよう。	テキスト第３章をあらかじめ読んでおく
第３回	製品のマネジメント ・日清食品の「カレーメシ」の開発のケースを通して、マーケティングの４P の１つである製品のマネジメントについて学ぶ。 テキストの第４章 ディスカッションのテーマ ・特定の製品の製品コンセプトについて調べてみよう。 ・カップ飯のライン拡張の方向について考えてみよう。 ・特定の製品のヒットの理由について、製品のマネい面との観点から考えてみよう。	テキスト第４章をあらかじめ読んでおく
第４回	価格のマネジメント ・明治　ザ・チョコレートのケースを通じて、価格設定のマネジメントにおいて、需要とその価格弾力性、代替品（競合製品）との関係性、マーケティング・ミックスとの一貫性を考慮しなければならないことを学ぶ。 テキスト第５章 ディスカッションのテーマ ・競合製品よりも高い価格設定を行った高付加価値のヒット商品の事例を見つけ、どうしてそのような価格設定が妥当であるのかを「需要」と「競合製品」との関係から考える。 ・バンドリング製品の具体的な事例を見つけ、どのよ	テキスト第５章をあらかじめ読んでおく

	うな価格設定がなされているのか、売手に	
第5回	広告のマネジメント ファブリーズの事例を通して広告表現における3つの対応（消費者対応、競争対応、ブランド対応)、そして、プロモーション・ミックスの中で広告の役割と他との連携、さらには、広告媒体それぞれの特性とその組み合わせに6ついて学ぶ。 テキスト第6章 ディスカッションのテーマ ・今現在、携帯電話事業に参入しているすべての企業の主要な製品を挙げ、それらの具体的な広告表現の要素（ヘッドライン、キャッチコピー、タレント）を比較し、それぞれの広告マネジメント（消費者対応、競争対応、ブランド対応）を考えてみよ	テキスト第6章をあらかじめ読んでおく ※レポート課題を出します。提出は3週間後のこの授業の前日までに、UNIVERSAL PASSPORT上にアップすること。
第6回	チャネルのマネジメント ・資生堂が創り上げてきたチャネル別ブランド戦略を取り上げ、チャネル・マネジメント（チャネル選択とチャネル管理）という内容を中心に学ぶ。 テキスト第7章 ディスカッションのテーマ ・アネッサの主なチャネルとして、ドラッグストアを選択した理由を考えてみよう。 ・化粧品メーカーは、大きく精度品メーカーと一般品メーカーと訪販品メーカーに分けられる。チャネルの違いを中心に両者の違いを考えてみよう。 ・インターネットやスマートフォンなどの活用が当たり前となった現代における、化粧品メーカーのチ	テキスト第7章をあらかじめ読んでおく
第7回	サプライチェーンのマネジメント ・赤城乳業の事例を手がかりに、マーケティングとSCMのかかわりを学ぶ。 テキスト第8章 ディスカッションのテーマ ・企業が在庫を削減することのメリットとデメリットを整理してみよう。その上で、企業がSCMを導入すると、どのような効果が出るのかを考えてみよう。 ・SCMを導入している企業であっても、欠品を起こしたり、製品を販売中止にしたりすることがある。どういう原因でそうなるのかを考えてみよう。	テキスト第8章をあらかじめ読んでおく
第8回	営業のマネジメント ・サントリーのウイスキー事業の事例を取り上げ、営業部門がどのようにして人気商品を支えているのかを学ぶ。 テキスト第9章 ディスカッションのテーマ ・サントリーのウイスキー事業と同じように、製品ジャンルそのものを普及させなければならないような製品ジャンルを挙げてみよう。 ・上記で挙げた業界では、どんな営業活動が必要か考	テキスト第9章をあらかじめ読んでおく

	えてみよう。 ※３週間前に出したレポートの内容について幾人かに報告してもらう。	
第 9 回	顧客関係のマネジメント ・アウトドアブランド「スノーピーク」の事例を通して、この企業と顧客との良好な関係づくりについて学ぶ。 テキスト第 10 章 ディスカッションのテーマ ・１回ごとの交換を中心とした取引と、継続的な関係の構築を中心とした取引の具体例を挙げ、それぞれにどのような特徴があるか考えてみよう。 ・顧客をロイヤルカスタマーにするための取り組みについて具体例を挙げてみよう。 ・顧客との価値共創について、顧客が商品を使うことで新しい価値を創り出す事例と、顧客参加型の商品開発で新しい価値を創り出す事例を	テキスト第 10 章をあらかじめ読んでおく
第 10 回	ビジネスモデルのマネジメント ・谷田の製品開発の事例を通して、このビジネスモデルについて考える。 テキスト第 11 章 ディスカッションのテーマ ・ヒット商品を出しながら、最近はあまり業績がよくない企業を一つ取り上げ、その原因を調べよう。 ・何か一つ、製品とサービスを組み合わせたビジネスモデルの例を挙げてみよう。 ・ビジネスモデルを考えるとき、消費者向け（BtoC）と企業向け（CtoC）で異なる点は何かを考えてみよう。	テキスト第 11 章をあらかじめ読んでおく
第 11 回	顧客理解のマネジメント マツダの CX シリーズの事例を通して、企業の多岐にわたる顧客理解の手法とそれらのよう点について学ぶ。 テキスト第 12 章 ディスカッションのテーマ ・商品の改善点をグループにアンケートを取りまとめるのと、インタビューを通じて意見を聴くのとでは、得られるデータにどういった違いがあるのだろうか。比較して違いをまとめて見よう。 ・徹底した顧客理解を元に開発されたと思われる商品を挙げてみよう。その商品が顧客を理解していると実感できるのは、一体どの部分だろうか。	テキスト第 12 章をあらかじめ読んでおく
第 12 回	ブランド構築のマネジメント ・キットカットの事例を通して、ブランド構築のマネジメントについて学ぶ。 テキスト第 13 章 ディスカッションのテーマ ・ブランドの機能や効能について考えてみよう。 ・特定の商品のブランド連想イメージを考えてみよ	テキスト第 13 章をあらかじめ読んでおく

	う。 ・ブランドの連想イメージと企業によるコミュニケーション活動の関係について考えてみよう。	
第 13 回	ブランド組織のマネジメント コカ・コーラの事例を通して、ブランドを成長させるための組織の仕組みについて、ブランド・ポジショニング、ブランド拡張の観点から考える。 テキスト第 14 章 ディスカッションのテーマ ・コーラ市場において展開されるブランドにはそれぞれあなたのどのような体験が関与し、どのような印象を持っているのかを考えてみよう。 ・コーラ市場において展開される個々のブランドは、誰のどのような場面で飲用することをターゲットにしているのか。	テキスト第 14 章をあらかじめ読んでおく
第 14 回	社会的責任のマネジメント キリン CSV の取り組みから社会的責任のマネジメントについて学ぶ。 テキスト第 15 章 ディスカッションのテーマ ・キリンの公式サイトで CSV の取り組みを調べ、CSR と事業がどのように結びついているのかを考えてみよう。 ・企業の公共性とはどのような考えか、どのような問題があるのかを考えてみよう。 ・知っている企業のウェブサイトでベンチャー型 CSR の取り組みが紹介されているかを調べ、取り組んでいる場合、どのような公共性を保つ工夫をしているのかを考えてみよう。	テキスト第 15 章をあらかじめ読んでおく
第 15 回	総括試験	筆記用具以外の持ち込みを禁止する。

1.授業コード（ナンバリング）	SE2207-Y71	2.科目名	ファイナンシャルプランニング（1）		3.単位数	2	
4.授業担当教員	飯嶋香織						
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期		
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	2 年次～		
10.取得資格の要件		11.先修条件					
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※				
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義				
16.履修制限	なし						
17.授業の目的と概要	大学卒業後の長い人生で必ず必要となる、パーソナル・ファイナンスの基礎知識を修得し、さらに今後の人生設計を考えることが目的である。特にファイナンシャルプランニング（1）ではライフプランニングと資金計画、年金、人生のリスクに備えるための生命保険や損害保険などについて学ぶ。 ファイナンシャル・プランニング技能検定 3 級の試験合格をめざす。 授業中もファイナンシャル・プランニング技能検定 3 級の試験問題を解き、試験に向けての実践力を高めるようにしている。						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は 総合社会学科の DP の「S1.修得した知識技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力」「2.主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力」の学修に関連している。 ①現在及び卒業後の長期の人生設計をお金の面から総合的に考え、今後の人生設計について具体的なプランを立てることができる。 ②ライフプランニングの基礎知識、年金などの社会保障、保険、金融商品などの生活に密着した知識を理解し、説明できる。 ③各国の経済指標や金融政策、個別の金融商品の内容や損益計算、各種金融商品の税制などを理解し説明できる。 ④上記の 1～3 についての、ファイナンシャル・プランニング技能検定 3 級の試験問題を解くことができる。						
19.教科書・教材	必要な資料は授業で配布します						
20.参考文献	一発合格! FP 技能士 3 級完全攻略テキスト　23-24 年版　前田信弘　ナツメ社 金融審議会 市場ワーキング・グループ報告書「高齢社会における資産形成・管理」金融庁						
21.成績評価	第 9 回に確認テストを実施：　第 1 回から第 8 回までのまとめと振り返りの確認テスト 40% 学習目標①と②と④に対応 第 15 回に確認テストを実施： 第 1 回から第 14 回までのまとめと振り返りの確認テスト 60% 学習目標②と③と④に対応 確認テストはファイナンシャル・プランニング 技能検定 3 級の問題と同程度の難易度 ※日本語の難易度が高いため自宅学習が必須。 授業時間内だけの学習では中間テスト、最終テストで得点をとる						
22.コメント	原則、対面授業で実施。 ただし、天候不良など登学禁止となり、対面で授業が実施できない場合は、遠隔での対応となることもある。その場合、授業を ZOOM などで録画して授業内の WEB　CLASS で公開することがある。 ファイナンシャル・プランニング 技能検定 3 級 の資格取得を目指す ファイナンシャル　プランニング試験の対象分野は、①ライフプランニングと資金計画　②リスク管理　③金融資産設計　④タックスプランニング　⑤不動産　⑥相続・事業継承の 6 分野で　前期に①～③まで後期に④～⑥までの分野を学習する。						
23.オフィスアワー	授業後に教室または非常勤講師室						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ファイナンシャルプランニングの資格取得を目指して：資格の説明 1） ライフプランニングと資金計画 ①ライフプランニングとはなにか	【復習】P6-18 【次週の予習】P32-39 ※テキストは毎回の授業に持参は必須
【第 2 回】	1） ライフプランニングと資金計画 ②医療、 介護、 年金など、 公的制度のしくみ（1）	【復習】P32-39 【次週の予習】P40-45
【第 3 回】	1） ライフプランニングと資金計画 ③医療、 介護、 年金など、 公的制度のしくみ（2）	【復習】P40-45 【次週の予習】46-69
【第 4 回】	1） ライフプランニングと資金計画 ④ライフイベント表作成を通して自分の人生を考える	【復習】P30-69 ライフプランニングと資金計画の個所の全体の復習 【次週の予習】P75-83
【第 5 回】	2） リスク管理 ①生命保険の分類､保険料の仕組みと構成、 商品の基本類型	【復習】P75-83 【次週の予習】P84-97
【第 6 回】	2） リスク管理 ②生命保険と税金	【復習】P84-97 【次週の予習】P98-103
【第 7 回】	2） リスク管理 ③損害保険の分類､保険料の仕組みと構成、 商品の基本類型	【復習】P98-103 【次週の予習】P104-112
【第 8 回】	2） リスク管理 ④損害保険と税金	【復習】P75-P120 リスク管理の個所を全体の復習 【次週の予習】P30-120
【第 9 回】	第 1 回から第 8 回までのまとめと振り返りの確認テスト（中間テスト）	【確認テスト範囲】P30-120 【次週の予習】 P121-131
【第 10 回】	3） 金融資産運用設計 ①マーケットの理解	【復習】P121-131 【次週の予習】P133-136
【第 11 回】	3） 金融資産運用設計 ②各種金融商品の特徴（1）利回りの計算	【復習】P121-131 【次週の予習】P132-136
【第 12 回】	3） 金融資産運用設計 ③各種金融商品の特徴（2）リスクとリターン・分散投資	【復習】P132-136 【次週の予習】P137-P151
【第 13 回】	3） 金融資産運用設計 ⑤金融資産運用設計（1）投資信託 株式投資	【復習】P137-151 【次週の予習】P152-161
【第 14 回】	3） 金融資産運用設計 ⑤金融資産運用設計（2）外貨建て商品 金融商品と税金	【復習】P121-P166 （金融資産運用設計） 【次週の確認テスト範囲】P30-166
【第 15 回】	第 1 回から第 14 回までのまとめ リスクとライフプランニングを考える 振り返りの確認テスト（最終テスト）	【確認テスト範囲】P30-166

1.授業コード（ナンバリング）	SE2209-Y01	2.科目名	中小企業論（※遠隔 尼崎 C 発信）	3.単位数	2
4.授業担当教員	北村正仁				
5.授業科目の区分	専門科目（実務経験のある教員による授業）	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	無し（経営学概論の履修済が望ましい）	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 （尼崎 C と神戸山手 C の合同授業） （尼崎は対面、神戸山手は遠隔授業）	
16.履修制限	無し				
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、日本の中小企業の経営をマネジメントの視点から捉えることを目的とします。 【概要】 皆さんは「中小企業」と聞いて、どのようなイメージを持ちますか？ 実は、日本の企業数の 99.7%が中小企業で、66.0%の人が中小企業で働いています。つまり、中小企業は日本経済にとってとても大きな役割を果たしています。その中小企業の経営を、経営学（マネジメント）の視点から考えながら学修します。 ・中小企業とは ・中小企業の環境適応マネジメント ・中小企業の資源統合マネジメント 日本の中小企業の概況を理解し				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の次の 3 つに関連しています。 （1）自律性 （4）問題発見・解決力 （6）専門的知識・技能の活用力、 本科目の学習目標は次の通りです。 ① 日本の中小企業の概況を説明できる。 ② 中小企業経営における社外環境適応マネジメントについて説明できる。 ③ 中小企業経営における社内資源統合マネジメントについて説明できる。 ④ 日本の中小企業の特徴・課題・可能性を説明できる。				
19.教科書・教材	『中小企業経営入門』（第 2 版）井上善海・木村弘・瀬戸正則（編著）中央経済社 2022 年				
20.参考文献	無し（授業の中で、必要に応じて紹介します）				
21.成績評価	・毎回の授業後の課題（39 点）（毎回 3 点×13 回）〈学習目標①～④に対応〉 ・各部ごとの小テストによる理解度（30 点）（小テスト 1 回 10 点× 3 回）〈学習目標①～③に対応〉 ・総括試験（40 点）〈学習目標①～④に対応〉				
22.コメント	・「経営学概論」の内容を再度確認しておくこと。 ・教科書を使用するので、毎回予習をしっかり行い授業に臨むこと。 ・予習で感じた疑問や興味を、授業を通じて積極的にディスカッションして理解につなげる。 ・授業に積極的に参加することで自らの考えをまとめていくこと。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日 3 限 研究室オフィスアワー：火曜日 4 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)

【第 1 回】	・オリエンテーション ・「マネジメント」とは？ ・「経営学概論」の振り返り	準備学習：「経営学概論」で学んだことを振り返り、「マネジメント」とはどのようなものなのか、自分なりの考え方をノートに書いてくる。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 2 回】	第Ⅰ部：中小企業とは 第 1 章：中小企業の特性	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 3 回】	第Ⅰ部：中小企業とは 第 2 章：中小企業の歴史	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 4 回】	第Ⅰ部：中小企業とは 第 4 章：中小企業問題と中小企業政策	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 5 回】	第Ⅱ部：中小企業の環境適応マネジメント 第 5 章：経営環境の変容と戦略マネジメント ◆小テスト（第Ⅰ部：中小企業とは）	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 ◆授業後半に小テストを実施 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 6 回】	第Ⅱ部：中小企業の環境適応マネジメント 第 6 章：分業構造の変容と下請マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 7 回】	第Ⅱ部：中小企業の環境適応マネジメント 第 7 章：企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を

		解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 8 回】	第 II 部：中小企業の環境適応マネジメント 第 8 章：産業構造の変容と地域産業マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 9 回】	第 II 部：中小企業の環境適応マネジメント 第 9 章：世界市場の変容とグローバル・マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 10 回】	第III部：中小企業の資源統合マネジメント 第 10 章：人材難と組織・人材マネジメント ◆小テスト（第 II 部：中小企業の環境適応マネジメント）	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 ◆授業後半に小テストを実施 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 11 回】	第III部：中小企業の資源統合マネジメント 第 11 章：後継者難と事業継承マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 12 回】	第III部：中小企業の資源統合マネジメント 第 12 章：研究開発力不足と製品開発マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 13 回】	第III部：中小企業の資源統合マネジメント 第 13 章：既存事業の衰退と事業開発マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 14 回】	第III部：中小企業の資源統合マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授

	第 14 章：資金難と財務マネジメント ◆小テスト（第Ⅲ部：中小企業の資源統合マネジメント）	業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 ◆授業後半に小テストを実施 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた課題を解く。
【第 15 回】	・総括試験（教科書・手書きノートのみ持ち込みを認める） ・まとめと振り返り	準備学習：自作ノートを利用して 14 回の授業内容を再確認する。 総括試験では、教科書・各自が作成した手書きノート等の持ち込みを認める。

1.授業コード（ナンバリング）	SE2308-Y71	2.科目名	環境マネジメント論	3.単位数	2
4.授業担当教員	井上尚之				
5.授業科目の区分	専門科目／ＪＡＢ認定ＩＳＯ１４００１元審査員による授業	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	3 年次
10.取得資格の要件	冬学期の「環境マネジメント演習」とこの科目を履修合格することにより内部環境監査員の資格が得られる。	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	概要：2009 年度に神戸山手大学は、ISO14001 を阪神間で初めて認証取得した。授業担当者が作成した『神戸山手大学環境マニュアル』を基に、2015 改訂の ISO14001 の規格（最新規格）を理解する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、ＤＰの「２．主体的かつ柔軟に行動し問題解決を図る力。」と「Ｓ２．社会や文化について科学的に理解する力。」の学修に関連しています。 （１）ISO14001 の歴史を理解できる。 （２）ISO14001 の構成を理解できる。 （３）ISO14001 の箇条４～６をプレゼンできる。				
19.教科書・教材	井上尚之著『サステナビリティ経営』（大阪公立大学出版会、2022）				
20.参考文献	なし				
21.成績評価	積極的授業参加度・授業中の課題（45%）（目標（３）に対応） 試験又はレポート（55%）による総合評価（目標（１）（２）に対応）				
22.コメント	少人数の授業であるので、授業中のディスカッションによって疑問点を解決すること。 毎回の課題の理解は、授業中のディスカッションによって確認して理解するまで授業中に説明する。 私語厳禁。私語をする者は受講させない。 指定席以外での受講は認めない。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	ISO14001 の歴史	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第２回】	ISO14001 の構成	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第３回】	ISO14001 ブーム ISO14001 ブーム	準備学習：教科書を利用するので、各回の授

		業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第 4 回】	箇条 4　組織の状況　4.1 組織及びその状況の理解	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第 5 回】	4.2　利害関係者のニーズ及び期待の理解	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第 6 回】	4.3 環境マネジメントシステムの適用範囲の決定	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第 7 回】	4.4　環境マネジメントシステム	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第 8 回】	箇条 5　5.1　リーダーシップ及びコミットメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第 9 回】	5.2　環境方針	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第 10 回】	5.3　組織の役割　、責任及び権限	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第 11 回】	箇条 6　計画　6.1　リスク及び機会への取り組み	準備学習：教科書を利用するので、各回の授

	6.1.1　一般	業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第 12 回】	6.1.2　環境側面　6.1.3　順守義務	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第 13 回】	6.1.4　取組の計画策定	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第 14 回】	6.2.1　環境目標 総括試験（55 点）	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第 15 回】	総まとめと試験返却	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。

1.授業コード（ナンバリング）	SED204-A01	2.科目名	肢体不自由教育総論		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	展開 特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	特支		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	<概要>肢体不自由児（者）の正しい理解と認識を深めるとともに、肢体不自由教育の歴史や学習指導要領の変遷をたどりながら、主に肢体不自由教育の全般的な理解について学習する。肢体不自由を主とした特別支援学校及び特別支援学級での指導の実際を学習する中で、特別な教育内容、領域教科を合わせた指導（遊びの指導、生活単元学習、作業学習、日常生活の指導）の授業、自立活動、教科の授業等について理解する。さらに「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」について、その基本的考え方や策定方法も理解する。 (目的)以上の学習によっ						
18.学習目標とＤＰとの関連	学習目標 教育・社会事象に関して、教育学や社会福祉学の概念から、体系的な知識を使って理論的に説明することができる。 ・肢体不自由児の教育について、特別支援教育や社会福祉学の概念や理論を用いて説明することができる。 DP ＜問題発見・解決力＞新しい知識や技能を学ぶことに関心や意欲をもつことができる。 ・肢体不自由教育に関して興味、関心を持って調べることができる。 ＜多様性理解＞自分とは異なる社会的文化的背景を持つ人たちがいることを理解することができる。 ・肢体不自由児・者を理解し、個のニーズにあった指導計画の概略を知る事ができる。						
19.教科書・教材	特に指定せず、適宜資料等を配布する。					
20.参考文献	筑波大学付属霧が丘特別支援学校編　肢体不自由教育の理念と実践　ジアース教育新社 文部科学省　特別支援学校学習指導要領解説（幼稚部・小学部・中学部・高等部・自立活動編）					
21.成績評価	小テストおよび自由課題（２０％） 授業への参加・協力態度、ワークシート及び発表（２０％） レポート課題（２０％） 最終テスト（４０％）					
22.コメント						
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 授業シラバスの説明および、最初の導入としての肢体不自由者理解の説明を行う。	○次回の予習として、肢体不自由関連の書籍を探し、目を通しておく。(120 分)

第 2 回	肢体不自由とは何か 肢体不自由に関する基礎的な理解をする。	○次回の予習として、特別支援教育関連の書籍を読み、歴史についての質問を考えておく。(120 分
第 3 回	肢体不自由教育の歴史 肢体不自由教育の歴史と変遷を知る。	○次回までに知的障害特別支援学校の学習指導要領（総則）を読んでおく。(120 分)
第 4 回	学習指導要領の変遷と教育課程 特別支援学校学習指導要領の変遷と教育課程の理解	○次回までに特別支援学校の学習指導要領（領域教科を合わせた指導）を読んでおく。(120 分) ○肢体不自由教育の変遷についてまとめておく（120 分）
第 5 回	肢体不自由児の遊びの指導及び日常生活の指導の実際 ワークシート① 遊びの指導、日常生活の指導に関しての基礎的理解と指導の実際。　発表	○次回までに特別支援学校の学習指導要領（領域教科を合わせた指導）を読んでおく。(120 分) ○次回小テスのために 1～5 回の授業のまとめをしておく。(240 分) ○遊びの指導に関する略案作成（180 分）次回提出
第 6 回	肢体不自由児の生活単元学習及び作業学習の指導の実際　小テスト①　ワークシート② 生活単元学習と作業学習に関しての基礎的理解と指導の実際。グループワーク発表①	○次回までに肢体不自由特別支援学校の学習指導要領（各教科の指導）を読んでおく。(120 分) ○中間レポート作成のための構成とまとめ(360 分) ○領域教科を合わせた指導に関するまとめ(180 分)
第 7 回	肢体不自由児の各教科の指導の実際 特別支援学校における教科の指導の実際を知る。	○次回までに特別支援学校の学習指導要領（自立活動）を読んでおく。(120 分) ○各教科に関するまとめ（120 分）
第 8 回	肢体不自由児の自立活動の指導の実際①　ワークシート③ 特別支援学校における自立活動の実際を知る（健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成)。	○次回までに障害特別支援学校の学習指導要領（自立活動）を読んでおく。(120 分)
第 9 回	肢体不自由児の自立活動の指導の実際②　ワークシート④ 特別支援学校における自立活動の実際を知る（身体の動き、環境の把握、コミュニケーション)。	○次回までに障害特別支援学校の学習指導要領（自立活動）をのまとめをしておく。(120 分) ○次回までに重複障害に関する文献を読んでおく。(120 分)
第 10 回	重度重複障害の発達と指導の実際 重度重複障害の基礎的理解と指導の実際を知る。	○次回までに訓練法に関する文献を読んでおく。(120 分)

		○次回小テスのために 6～10 回の授業のまとめをしておく。(240 分)
第 11 回	肢体不自由児の訓練と指導の実際　　小テスト② 　肢体不自由児に関しての訓練法の種類と指導の実際を理解する。	○次回までに心の発達と最近の障害児に関する課題を調べておく。(120 分) ○最終レポートのための構成とまとめ。(240 分)
第 12 回	肢体不自由障害児の認知と心の問題 レポート提出 　肢体不自由に見られる認知機能のシステムを理解する。	○次回までにてんかんに関する文献を読んでおく。(120 分)
第 13 回	肢体不自由児の生理と病理の背景を知る。 　てんかん発作を中心に脳機能の障害と染色体や遺伝に関する問題を理解する。	○まとめのテストのための授業の振り返りをしておく。(360 分)
第 14 回 7/26 実施	まとめのテストと抗議のまとめ	○まとめのテストのための授業の振り返りをしておく。(120 分)
第 15 回 補講期間中実施	肢体不自由教育の今日的課題と就学前の療育	

1.授業コード（ナンバリング）	SED208-M01	2.科目名	特別支援教育基礎　（4 月 15 日～6 月 17 日）	3.単位数	1
4.授業担当教員	梶正義				
5.授業科目の区分	・自由科目 ・特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択 （＊教員免許取得希望者は必修）	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生～
10.取得資格の要件	・中学校１種教員免許 ・高等学校１種教員免許 （上記教員免許取得希望者は必修）	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	教職課程の履修登録を行う必要がある。				
17.授業の目的と概要	この講義では、特別支援教育の対象となる各種の障害の主な特性（定義・発達特性や認知特性、及びそれに伴う学習上または生活上の困難、そして、必要とする教育的ニーズなど）と共に、インクルーシブ教育の推進について解説し、学校の組織や教員等が必要とする知識やスキルを理解する。 　また、最近の教育的課題となっている通常の学級に在籍する発達障害（LD=学習障害、ADHD=注意欠如多動性障害、高機能自閉症など）や障害はないが特別な支援や配慮を要する児童生徒（来日・帰国した子ども・LGBT の子ども・経済的貧困状態にある子ど				
18.学習目標と　ＤＰとの関連	・各種障害の定義・特性等の知識を習得する。 ・特別な教育的支援を要する児童生徒の教育的ニーズを理解する。 ・学校での指導体制・支援方法などについて理解し、インクルーシブ教育を推進するための知識を習得する。 上記の目標を達成することで教員として必要をされる専門的知識・技能を身につけて学校現場で活用ですることができる。				
19.教科書・教材	特に教科書は使用しない。毎回授業資料を配付する。				
20.参考文献	特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）文部科学省（2018） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）文部科学省（2018） 特別支援学校　高等部学習指導要領　文部科学省（2019） 特別支援教育の基礎基本（新訂版）国立特別支援教育総合研究所（2018）ジアース教育新社				
21.成績評価	①中間レポート　50% ②総括レポート　50%				
22.コメント	この講義の内容は、各校種（幼小中高特別支援学校）における特別支援教育の指導場面では必ず必要とされるものです。望ましい子どもの支援や配慮の在り方について、その基本を学んでください。				
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	特別支援教育の基本的理念・制度・仕組みなど 特別支援学校・幼小中高等学校における特別支援教育（組織と指導体制など） インクルーシブ教育の推進	○次回講義の予習 ＝キーワード調べなど
【第 2 回】	特別支援教育の基礎知識①	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復

	＜視覚障害・聴覚障害＞ 定義・発達特性や認知特性、及びそれに伴う教育的ニーズなど	習 〇次回講義の予習 キーワード調べなど
【第 3 回】	特別支援教育の基礎知識② ＜知的障害・肢体不自由＞ 定義・発達特性や認知特性、及びそれに伴う教育的ニーズなど	〇配付資料を基に講義内容の理解を深める復習 〇次回講義の予習 キーワード調べなど
【第 4 回】	特別支援教育の基礎知識③ ＜病弱・身体虚弱・情緒障害・言語障害＞ 定義・発達特性や認知特性、及びそれに伴う教育的ニーズなど	〇配付資料を基に講義内容の理解を深める復習 〇次回講義の予習 キーワード調べなど
【第 5 回】	特別支援教育の基礎知識④ ＜発達障害（学習障害（LD）・注意欠如多動性障害（ADHD）・高機能自閉症）＞ 定義・発達特性や認知特性、及びそれに伴う教育的ニーズなど	〇配付資料を基に講義内容の理解を深める復習 〇次回講義の予習 キーワード調べなど
【第 6 回】	特別支援教育の基礎知識⑤ ＜来日外国人の児童生徒・帰国した児童生徒・LGBT の児童生徒・貧困による教育的ニーズを有する児童生徒の現状＞ 母語や日本語の指導体制および必要とする支援の在り方・LGBT の理解とその支援・貧困により生じる教育的課題の理解とその支援	〇配付資料を基に講義内容の理解を深める復習 〇次回講義の予習 キーワード調べなど
【第 7 回】	個別の教育支援計画と個別の指導計画 ＜意義とその作成＞ 個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成 米国の教育における IEP との相違	〇配付資料を基に講義内容の理解を深める復習 〇学修内容の総復習
【第 8 回】	これまでの総括	総括レポートの作成

1.授業コード（ナンバリング）	SED208-y01	2.科目名	特別支援教育基礎　（4 月 15 日～6 月 17 日）	3.単位数	1
4.授業担当教員	梶正義				
5.授業科目の区分	・自由科目 ・特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択 （＊教員免許取得希望者は必修）	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生～
10.取得資格の要件	・中学校１種教員免許 ・高等学校１種教員免許 （上記教員免許取得希望者は必修）	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	教職課程の履修登録を行う必要がある。				
17.授業の目的と概要	この講義では、特別支援教育の対象となる各種の障害の主な特性（定義・発達特性や認知特性、及びそれに伴う学習上または生活上の困難、そして、必要とする教育的ニーズなど）と共に、インクルーシブ教育の推進について解説し、学校の組織や教員等が必要とする知識やスキルを理解する。 　また、最近の教育的課題となっている通常の学級に在籍する発達障害（LD=学習障害、ADHD=注意欠如多動性障害、高機能自閉症など）や障害はないが特別な支援や配慮を要する児童生徒（来日・帰国した子ども・LGBT の子ども・経済的貧困状態にある子ど				
18.学習目標と　ＤＰとの関連	・各種障害の定義・特性等の知識を習得する。 ・特別な教育的支援を要する児童生徒の教育的ニーズを理解する。 ・学校での指導体制・支援方法などについて理解し、インクルーシブ教育を推進するための知識を習得する。 上記の目標を達成することで教員として必要をされる専門的知識・技能を身につけて学校現場で活用ですることができる。				
19.教科書・教材	特に教科書は使用しない。毎回授業資料を配付する。				
20.参考文献	特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）文部科学省（2018） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）文部科学省（2018） 特別支援学校　高等部学習指導要領　文部科学省（2019） 特別支援教育の基礎基本（新訂版）国立特別支援教育総合研究所（2018）ジアース教育新社				
21.成績評価	①中間レポート　50% ②総括レポート　50%				
22.コメント	この講義の内容は、各校種（幼小中高特別支援学校）における特別支援教育の指導場面では必ず必要とされるものです。望ましい子どもの支援や配慮の在り方について、その基本を学んでください。				
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	特別支援教育の基本的理念・制度・仕組みなど 特別支援学校・幼小中高等学校における特別支援教育（組織と指導体制など） インクルーシブ教育の推進	○次回講義の予習 ＝キーワード調べなど
【第 2 回】	特別支援教育の基礎知識①	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復

	＜視覚障害・聴覚障害＞ 定義・発達特性や認知特性、及びそれに伴う教育的ニーズなど	習 〇次回講義の予習 キーワード調べなど
【第 3 回】	特別支援教育の基礎知識② ＜知的障害・肢体不自由＞ 定義・発達特性や認知特性、及びそれに伴う教育的ニーズなど	〇配付資料を基に講義内容の理解を深める復習 〇次回講義の予習 キーワード調べなど
【第 4 回】	特別支援教育の基礎知識③ ＜病弱・身体虚弱・情緒障害・言語障害＞ 定義・発達特性や認知特性、及びそれに伴う教育的ニーズなど	〇配付資料を基に講義内容の理解を深める復習 〇次回講義の予習 キーワード調べなど
【第 5 回】	特別支援教育の基礎知識④ ＜発達障害（学習障害（LD）・注意欠如多動性障害（ADHD）・高機能自閉症）＞ 定義・発達特性や認知特性、及びそれに伴う教育的ニーズなど	〇配付資料を基に講義内容の理解を深める復習 〇次回講義の予習 キーワード調べなど
【第 6 回】	特別支援教育の基礎知識⑤ ＜来日外国人の児童生徒・帰国した児童生徒・LGBT の児童生徒・貧困による教育的ニーズを有する児童生徒の現状＞ 母語や日本語の指導体制および必要とする支援の在り方・LGBT の理解とその支援・貧困により生じる教育的課題の理解とその支援	〇配付資料を基に講義内容の理解を深める復習 〇次回講義の予習 キーワード調べなど
【第 7 回】	個別の教育支援計画と個別の指導計画 ＜意義とその作成＞ 個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成 米国の教育における IEP との相違	〇配付資料を基に講義内容の理解を深める復習 〇学修内容の総復習
【第 8 回】	これまでの総括	総括まとめを行う。

1.授業コード（ナンバリング）	SED302-A71	2.科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理	3.単位数	2
4.授業担当教員	梶正義、高田哲				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	特支	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	脳原生疾患、脊髄疾患、末梢神経疾患に起因する肢体不自由児の心理・生理・病理についての基礎理解を深める。肢体不自由児の病理学、生理学を中心に大脳の働き、中枢神経系の障害、認知神経心理学的な障害などについて最近の考え方を踏まえながら医療、教育からの支援について述べる。 肢体不自由児の心理及び発達と実態把握について概説すると共に、社会参加等の動向に関しても分かりやすく紹介し、肢体不自由教育に携わるための基礎的知識を理解する。肢体不自由児に対する様々な心理学的アプローチによって得られた知見や人に関する心理モデルを				
18.学習目標とＤＰとの関連	(1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 (2)　問題発見・解決力 根拠にもとづいて、問題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができる。 (3) 専門的知識・技能 の活用力 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際を想定した場面で活用することができる。 本科目の学習目標は以下の通りである。 ・肢体不自由児の起因疾患（脳原性、脊髄性、末梢神経性）となる病理と心理面・生理面の特徴及びそれらの相互作用について理解する。 ・脳性まひを中心とした肢体不自由児の認知面・心理面等の発達、生理・病理を理解し、児童生徒一人一人に応じた関わり方を実践することができる。 ・様々な肢体不自由に関する研究等の知見から課題を発見し、医療機関や家庭と連携しながら解決の手立てを導き出すことができる。				
19.教科書・教材	授業中に資料を配布する。				
20.参考文献	授業中に随時紹介する。				
21.成績評価	・発表及びワークシート　20% ・毎回の小テスト　40% ・最終テスト　　40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回~第 8 回	1.小児の成長と発達 2.先天異常と染色体異常 3.先天代謝異常 4.代謝異常と内分泌疾患 5.免疫・アレルギー性疾患	毎回のテストを提出する。

	6.感染症及び呼吸器疾患 7.血液・腫瘍性疾患 8.消化器、（腎泌尿器疾患） 9.循環器疾患 10.神経疾患（けいれん性疾患） 11.神経疾患（脳性マヒ、発達障害） 12.筋疾患 13.小児保健 14.新生児の生理と適応 15.低出生体重児	
第 9 回	・肢体不自由とは・肢体不自由の理解	○肢体不自由の定義について調べてまとめる。 ◎ボランティア、インターンシップ等への参加経験をまとめる。（240 分）
第 10 回	・肢体不自由児の発達　　・肢体不自由児の発達について - 早期療育の必要性の観点から -　　・医療機関との連携	
第 11 回	・肢体不自由への 3 つのアプローチ（整形外科的アプローチ・神経生理学的アプローチ・心理教育的アプローチ）の基礎について	
第 12 回	・自立活動の観点からの肢体不自由への心理教育的アプローチについて	
第 13 回	・肢体不自由者の認知面の課題と指導・支援の基礎について	
第 14 回	・肢体不自由者のコミュニケーション面の課題と指導・支援の基礎について	
第 15 回	肢体不自由者の心理的課題と保護者支援・保護者との連携、授業のまとめ	

1.授業コード（ナンバリング）	SED306-A71	2.科目名	病弱教育	3.単位数	2
4.授業担当教員	平賀健太郎				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	特支	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	医療を継続的に必要とする病弱児・者への実態と適切な教育的支援について理解できる。小児医療や病弱教育の歴史的変遷をたどりながら、病弱教育の現代的課題を理解する。また、病院にある学校等における教育課程と指導法について理解する。具体的事例を通じて、病弱者に共通する、あるいは代表的な疾患における固有の配慮を理解し、関係者との連携を行いながらの適切な教育的支援を考えられるようになる。				
18.学習目標とＤＰとの関連	医療を継続的に必要とする病弱児・者への実態と適切な教育的支援について理解できるように学習します。小児医療や病弱教育の歴史的変遷をたどりながら、病弱教育の現代的課題を理解します。また、病院にある学校等における教育課程と指導法について理解します。具体的事例を通じて、病弱者に共通する、あるいは代表的な疾患における固有の配慮を理解し、関係者との連携を行いながらの適切な教育的支援を考えられるようになります。				
19.教科書・教材	教科書は特に指定しません。 必要に応じてレジュメを配布します。				
20.参考文献	講義中に紹介します。				
21.成績評価	定期的な小レポート（30%） 授業への参加態度（20%） 最終試験（50%）				
22.コメント	講義では、病気が理由で、学校に通うことが制限される子どもたちの教育について説明しますが、その中で、病気の子どもだけでなく、すべての子どもにとっての教育の意義や役割について皆さんと一緒に考えていきたいと思います。				
23.オフィスアワー	授業の前後にメール等で質問等に対応します。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	講義全体を通じて、講義実施時の状況によってはオンライン授業となる可能性もあるため、講義形態、学習目標および成績評価方法などについて柔軟に対応・変更できるよう準備を進めます。 病弱教育の定義と多様な教育の場	
	特別支援教育における病弱教育	
	病弱教育と教育課程	
	病弱児に対する自立活動の実際	
	病弱児が有する共通の教育・心理的課題	
	病弱児の教科指導	
	糖尿病への教育的支援	
	アレルギー性疾患への教育的支援	
	病弱児の復学支援における前籍校の役割	
	病弱児の復学支援における多職種連携の重要性	
	病弱者と心理的ストレス	
	病弱者の家族の心理とその支援	

	病弱者の自尊感情	
	義務教育以外の病弱教育の現状と課題	
	授業のまとめ	

1.授業コード（ナンバリング）	SED401-A09	2.科目名	聴覚障害・視覚障害教育総論　（4 月 11 日～5 月 30 日、9 月 27 日・28 日）	3.単位数	2
4.授業担当教員	西田和子、正井隆晶				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	聴覚障害教育に関する基本的な内容を講義する。聴覚障害に対する心理・生理・病理面からの理解を基盤として、わが国の聴覚障害教育の全体像を把握し、聴覚に障害のある幼児・児童・生徒のニーズに対応した教育と支援を進めるための基本的な方法を学ぶ。 視覚障害教育に関する基本的な内容を講義する。視覚障害の生理，病理及び心理について解説し，理解が深まるようにシミュレーションも取り入れた授業を行う。視覚障害教育の指導内容や方法では，視覚特別支援学校での指導経験で培った知見を取り入れた指導を行う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	１．聴覚障害教育の基本的な知識を身につける。 ２．聴覚障害教育の実際について、各発達段階において展開される具体的な教育内容と方法を理解す る。 ３．聴覚障害教育の望ましい教育のあり方について自ら考える姿勢を身につける。 ４．視覚障害教育の現在の制度及び教育課程等を含めて基本的な知識を身につける。 ５．視覚障害の生理，病理及び心理の基本的な知識を身につける。 ６．盲，弱視，視覚障害と他の障害との重複障害，中途視覚障害など，それぞれへの指導内容や方法 等の違いを含めて、視覚障害教育の望ましい教育のあり方について自ら考える姿勢を身につけ る。				
19.教科書・教材	視覚障害：毎時間、テキストは書き込み式のプリントを配布する。				
20.参考文献	視覚障害：参考図書については、テキストの資料に記載するとともに適宜、紹介する。				
21.成績評価	聴覚障害５０％　（5 回の小テスト２５％　レポート２５％） 視覚障害５０％　（まとめプリント２８％　小テスト２２％）				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【聴覚障害①　西田】 聴覚障害とは ・小テスト	
第 2 回	【聴覚障害②　西田】 聴覚の機能（耳の構造） ・小テスト	
第 3 回	【聴覚障害③　西田】 聴覚検査 補聴器　人工内耳 ・小テスト	
第 4 回	【聴覚障害④　西田】 言語とコミュニケーション	各自持参するもの 紙コップ・ストロー・手鏡

	・小テスト	
第 5 回	【聴覚障害⑤　西田】 聴覚障害教育の歴史 ・小テスト	
第 6 回	【聴覚障害⑥　西田】 聴覚障害児の早期教育	
第 7 回	【聴覚障害⑦　西田】 聴覚障害児の教育①	
第 8 回	【聴覚障害⑦　西田】 聴覚障害児の教育② レポート	
第 9 回	【視覚障害①　正井】 視覚障がいがある児童生徒の学びの場と教育課程 （視覚支援学校(盲学校)の概要／特別支援学級・通級による指導の概要 ／教育課程／カリキュラムマネジメント／個別の指導計画） ・まとめプリント	
第 10 回	【視覚障害②　正井】 眼の生理と視機能評価の基礎知識 （眼の構造と視機能／視覚の発達／視力検査／視野検査） ・まとめプリント	
第 11 回	【視覚障害③　正井】 眼の病理と視覚障害 （視覚障害の病理／弱視体験と注意点／シミュレーション／視覚障害 とは／盲と弱視の定義） ・まとめプリント　・小テスト	
第 12 回	【視覚障害④　正井】 アセスメントと弱視への指導 （教育的視機能評価／弱視への教育的配慮の基本／教科での教材・教 具の工夫） ・まとめプリント	
第 13 回	【視覚障害⑤　正井】 アセスメントと盲への指導 （盲への教育的配慮の基本／点字の学び／教科での教材・教具の工 夫） ・まとめプリント	
第 14 回	【視覚障害⑥　正井】	

	自立活動の指導 （弱視：弱視レンズ指導／盲：墨字指導・触察の指導／共通：・PC・ 歩行指導） ・まとめプリント	
第 15 回	【視覚障害⑦　正井】 重複障害への指導 （盲聾重複障害と視覚・知的重複障害への指導の実際） ・まとめプリント　・小テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	SED402-A01	2.科目名	重複障害教育総論	3.単位数	2
4.授業担当教員	梶正義				
5.授業科目の区分	展開 特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	特支	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	重複障害のある幼児児童生徒の障害の状態や特性及び発達の基礎・基本を学び、重複障害教育の実践に関する指導・支援の基本的知識と教育課程編成についての力を身につける。特に、自立活動を中心とした重複障害教育についての理解を深める。 この科目では、肢体不自由、知的障害等の重度重複障害、自閉症等の重度行動障害について学ぶ。特に、重複障害のある子どもの心と行動を理解するために、発達的観点と心理学的観点を基本に置き、心理・生理・病理を解説し、教育的支援の実践的基礎を学ぶ。また、具体的なアセスメントの方策や実践的な援助の仕				
18.学習目標とＤＰとの関連	ディプロマポリシーの多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力と問題発見・解決力に関連しています。 教員・社会福祉従事者として、その人がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見･理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 本科目の学習目標は以下の通りである。 ①重複障害のある幼児児童生徒の障害の状態や特性及び発達の基礎・基本を理解する。 ②重複障害教育に関する指導・支援の基本的知識と教育課程編成の方法を力を身につける。特に、自立活動を中心とした教育課程についての理解を深める。 ③重複障害を理解し、個のニーズに合った指導計画の概略が作成でき、指導上の問題解決を図る能力を身につける。 ④重複障害への対応体系の全体像と特別支援教育の基本的知識を身につける。 ⑤重複障害の特性（心理、生理、病理）についての基本的理解をする。 　これらの学習によって基本的な知識及び技能の習得を目指し、重複障害のある子ども一人ひとりへの具体的な指導・支援の手立てを考えていく。指導現場での様々な事象や現象について触れながら重複障害の心理、生理及び指導法を理解し、将来の進路に向けた資質向上につながるようにする。				
19.教科書・教材	必要に応じてプリントを配布する。				
20.参考文献	中尾繁樹/「特別」ではない特別支援教育②　みんなの「自立活動」　特別学校編/明治図書 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編　文部科学省				
21.成績評価	レポート課題　　３０％　学習目標 グループワーク・演習　３０％ 総括試験　４０％				

22.コメント	
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション・シラバスの説明・授業の内容について	重複障害について調べておく
第 2 回	重複障害の概念 　重複障害とはなにか	強度行動障害について調べておく。（１２０分）
第 3 回	重複障害の生理と病理について 　中枢神経の障害と二次障害	中枢神経の機能ついて調べておく。（１２０分）
第 4 回	重複障害に関する教育課程について 　教育課程の基本的枠組みと特例について	教育課程編成における重複障害の特例について予習しておく。（１２０分）
第 5 回	重複障害児の実態把握 　重複障害児の心理教育的アセスメント	教育現場で活用できる発達検査について調べておく。　（２４０分）
第 6 回	重度重複障害児の指導内容と方法① 　様々の指導支援方法と特別支援学校での指導の実際	特別支援学校における実践例を調べておく。（１２０分）
第 7 回	重度重複障害児の指導内容と方法② 　様々の指導支援方法と特別支援学校での指導の実際	特別支援学校における実践例を調べておく。（１２０分）
第 8 回	医療的ケアの実際 　医療的ケアを必要とする幼児児童生徒への対応	医療的ケアについて調べておく。（１２０分）
第 9 回	重度重複障害の指導の実際① 　感覚運動・認知の指導	重度重複障害児への指導について調べておく。（１２０分）
第 10 回	重度重複障害の指導の実際② 　動作学習 による指導	重度重複障害児への指導について調べておく。（１２０分）
第 11 回	重度重複障害の指導の実際③ 　コミュニケーションの指導	重度重複障害児への指導について調べておく。（１２０分）
第 12 回	重度重複障害の指導の実際④ 　授業づくり	重度重複障害児への指導について調べておく。（１２０分）
第 13 回	重度重複障害と医療 　薬物療法と医療的ケア	医療的ケアについて復習しておく。（１２０分）
第 14 回	学校卒業後への移行支援	重度重複障害児への指導・支援についてまとめておく。（１２０分）
第 15 回	授業のまとめと総括試験	授業のまとめを行う。

1.授業コード （ナンバリング）	SED403-A01	2.科目名	教育実習(特別支援学校)	3.単位数	3
4.授業担当教員	中尾繁樹、梶正義、吉田裕彦				
5.授業科目の区分	展開科目 特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 春学期 ～秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	教育実習は、教職資格を取得するための必須の専門科目であり、教育の実際場面での研究と指導力を高めることがねらいである。 　そのため、教育実習にあたっては、その意義や目的、教育指導上基本となる事項等について正しく、深く理解しておかねばならない。 　実習事前事後指導は、教育実習で学ばなければならない事項の学習のみでなく、教師としてのあり方、姿勢も含め、きわめて重要な学習であるといえる。 　教育実習は広い領域に渡って教員としての全てを学び取ろうとするものであるので、事前事後指導の学習が実習だけでなく、今後の進路に				
18.学習目標と ＤＰとの関連	学科目標 知り得た知識、経験を総合化し、まとめることができる。 ・特別支援学校の実習に向けて、教室内外で学習した知識と、自らの経験とその振り返りの成果を総合化し、卒業研究、教育実習等に体系的にまとめることができる。 学習ベンチマーク ＜自律性＞　自分の行動や発言、役割や立場に責任があることを自覚し、ものごとを最後まで遂行できる。 ・特別支援学校での実習に必要な協働的な活動で、自分の役割を理解し、最後までやり遂げたことについて改善点を整理することができる。 ＜思考／判断力＞よりよい問題解決のために、偏った判断をしない公正さを保ち、その時・その場の状況（TPO）に応じて、判断したり、アプローチの仕方を変えたりしながら、道筋を立てて論理的に考えることができる。 ・特別支援学校における教育活動の仕組み、専門領域の知識を理解し活用できる。				
19.教科書・教材	・関西国際大学特別支援学校教育実習ハンドブック				
20.参考文献	文部科学省特別支援学校学習指導要領 文部科学省特別支援学校学習指導要領自立活動解説書				

21.成績評価	①実習のための知識や技能を習得するための教材研究。 ②実習で学んだことを振り返りまとめる。 ③指導案の作成と検討会 ④事前調査（実習予定校に関して調べまとめる。） 指導案の作成・教材作成　　２０％ 特別支援学校実習　　６０％ 発表・レポート・検討会　２０％
22.コメント	
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目 4/9	オリエンテーション 科目のねらい・学習の進め方・ルール・評価について 昨年度の教育実習から 連絡事項 プロローグ　特別支援学校教育の概要・役割　特別支援学校教師に期待されるもの　特別支援学校教育実習の意義と目的　児童生徒理解	○実習校の調査（120 分）
第 2 回目 4/16	特別支援学校学習指導の実際①　授業参観（CD を見て） 授業参観記録の書き方（参観の視点・ポイント） 教育実習全体の流れ 教育実習の心得・心構え・・・積極的に教育現場に学ぶための心構え、規範意識、服装、挨拶、言葉づかい	○指導案作成に関して、文献及び昨年度までのものを参考に研究（120 分）
第 3 回目 4/23	特別支援学校の１日・教員の１日（神戸市 S 校の場合） 特別支援学校の教育実習の内容①　A 学校経営・教育課程・学校行事　B　学校安全・安全管理・学校保健　F　職員研修・職員会・各委員会 指導案検討①	○次回までに指導案作成①（240 分）
第 4 回目 4/30	特別支援学校教育実習の内容②　C　学年経営・学級経営・集団づくり　D 移動介助、給食介助 E　学校給食・食育教育 特別支援学校学習指導の実際②　指導略案　形式と内容（学習活動・留意点・支援・評価・発問と板書・・・）　指導案検討②	○次回までに指導案作成②（240 分）
第 5 回目 5/7	特別支援学校学習指導の実際③　学習指導案　形式と内容（単元目標・指導にあたっ	○次回までに指導案作成③（240 分）

	て・趣旨・指導計画・評価・ 教材観・児童観・指導観・・・本時の学習・・・・・) 指導案検討③	
第 6 回目 5/14	実習日誌・各記録の書き方　　資料整理のし方　　挨拶文作成（はじめと終わり・お礼の手紙）　　連絡事項 指導案検討④	○次回までに指導案作成④（240 分）
第 7 回目 5/21	指導案検討⑤。 指導案等作成、教材準備も、事前打ち合わせを含む	○次回までに指導案作成⑤（240 分）
第 8 回目 5/28	特別支援学校教育実習報告会　　振り返り討議 実習日誌、指導案、各種記録の提出	○次回までに指導案作成⑥（240 分）
第 9,10,11,12,15　回目 6/4,11,18, 25,7/16	特別支援学校教育実習　　実習日誌、指導案、各種記録の提出	○次回までに指導案作成⑦（240 分） ○記録のまとめ
第 13 回目 7/2	特別支援学校教育実習報告会。 実習日誌、指導案、各種記録の提出	○次回までに指導案作成⑧（240 分） ○記録のまとめ
第 14 回目 7/9	特別支援学校教育実習報告会　　振り返り討議 実習日誌、指導案、各種記録の提出 指導案検討	○次回までに指導案作成⑨（240 分） ○記録のまとめ
第 16,17 回目 10/3, 10/10	特別支援学校教育実習報告会　　振り返り討議 実習日誌、指導案、各種記録の提出 指導案検討	○次回までに指導案作成⑩（240 分） ○記録のまとめ
第 18,19,20,22,23,24,27,29,30 回目 10/17,10/24,10/31,11/14,11/21,11/28, 12/19,1/16,1/23	特別支援学校教育実習。 （実習時間　90 時間　実時間と指導案等作成、教材準備も、事前打ち合わせを含む）	○次回までに指導案作成⑪（240 分） ○記録のまとめ
第 21,26,27 回目 11/7,12/5,12/12	特別支援学校教育実習報告会　　振り返り討議 実習日誌、指導案、各種記録の提出 指導案検討⑦⑧	記録整理
第 29 回目 1/9	特別支援学校教育実習報告会　　振り返り討議 実習日誌、指導案、各種記録の提出 特別支援学校教育実習全体のまとめ 教育実習の成績評価について	実習のまとめをワークシートで行う。

1.授業コード（ナンバリング）	SMN102-Y01	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部観光学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	『授業の目的』 　授業では、企業や自治体、地域社会と連携しながら、地域に根ざした課題を学びのテーマとして取り上げる。そして、それら課題の解決に向けて、「Team（チーム）」あるいは「Learning Community（主体的な学びの共同体）」を形成し、これまで学んだ知識や技能を統合的に活用しながら企業や自治体、地域住民等と協働して取り組む。 　課題解決に向けての協働的な取組み過程において、「ものごとの見方や考え方」、「資料・データの収集と分析手法」、「議論の進め方」、「柔軟な発想力」、「深く考える力」					
18.学習目標とＤＰとの関連	『学習目標』 (1)学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 (2)課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 (3)他者貢献の意味を理解し、チームビルディングに主体的に参加しチームに貢献することができる。 (4)ビジネスマナーや知識を身につけ、プロジェクトに取り組むモチベーションを備えることができる。 『学習目標と DP との関連』 　授業では、企業や地域社会との連携によるプロジェクトマネジメントへのグループワークとしての取り組みを通じて、チーム内でのコミュニケーション能力、多様性の理解、課題発見・対応力、専門知識とスキルの活用力、ビジネスマナーなどの修得を目指すことになる。 ・授業の学習目標は、DP1（自立的で主体的な態度）、DP2（社会に能動的に貢献する姿勢）、DP4（問題発見・解決力）、DP6（専門的知識・技能の活用力「マーケティングの知識・手法に基づき、企業で求められる知識・技能を活用して、課題の解決と新たな企画・提案ができる」）に関連している。					
19.教科書・教材	特になし。適宜、教員が PPT や資料を配付・提示する。					
20.参考文献	指定する参考文献はないが、当該自治体や観光協会、DMO 等の発信している情報を Web 等を通じて収集し、分析することになる。必要に応じて、自らこのような情報にアクセスし、情報蓄積やスキルアップを図る努力すること。					
21.成績評価	成績はルーブリックに基づき評価する。 ①外部講師等の講義・説明会におけるワークシート作成や発表、レポート作成：30% ②連携先との取り組み（グループワーク）に関するワークシート作成や発表：50% ③上記項目での活動や学びの振り返り（e ポートフォリオにアップロードする）：20%					
22.コメント	当該授業は、演習科目であるため単に教室で聞く姿勢のみでは不十分であり、自らの積極的な取組みが、プロジェクト遂行には不可欠である。学生はその点をよく理解しチームとしての力を発揮するように努める。PC は毎回利用するので、必ず持参する必要がある。スマートフォンではファイルのレイアウトが崩れるケースや Office の機能が異なるため、スマートフォンのみでの参加は認めない。					

	企業や地域など連携先との取り組みに関わるため、ビジネスマナーを身につける必要がある。
23.オフィスアワー	山手キャンパス 3-306 研究室。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回 4/11	＜オリエンテーション＞ ■ 授業の目的と進め方 ■ プロジェクトマネジメントとは ■2 回生の学修の流れ	合同ゼミ実施 ノート P C 持参
第 02 回 4/18	＜キャリアワーク①＞ マイナビ説明会 就職活動の動向、キャリア形成等	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 03 回 4/25	＜キャリアワーク②＞ キャリアサポート室　藤井部長 就職ガイダンス 就職について・エントリーシート・SPI とは？ 2 年生での G/S/IS/SL の説明会（ウィークリーアワーを利用して）	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 04 回 5/02	＜外部講師講義①＞ 神戸税関 税関行政と国際観光について	合同ゼミ実施 質問など準備 ノート PC 持参 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 05 回 5/09	<外部講師講②> 関西エアポートオペレーションサービス株式会社 石川浩司　取締役社長（予定） 関西空港とインバウンド観光について	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 06 回 5/16	＜外部講師③＞神戸観光局 ・神戸市観光の現状と課題について ・インバウンド観光の対策や今後 ・課題解決に向けての取組等	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 講義内容を各自でまとめる
第 07 回 5/23	＜PBL 型学習＞事前学習① グループに分かれ、 ・神戸市地域の観光素材の分析。 ・テーマ別に素材の分類。 ・神戸市の観光政策について、課題の抽出・ ・課題解決に向けて、グループディスカッション	合同ゼミ実施 ノート PC 持参
第 08 回	＜外部講師講義④＞	合同ゼミ実施

5/30	東京 OAKWOOD　HOTEL 田口健　総支配人（元 Marriott Hotel Group Moxy Hotel 総支配人） ホテル産業について、（魅力あるホテル業） 神戸地域のホテル事情等について	ノート PC 持参
第 09 回 6/06	〈PBL 型学習〉事前学習③ グループに分かれ、 ・神戸市地域の観光素材の分析。 ・テーマ別に素材の分類。 ・神戸市の観光政策について、課題の抽出・ ・課題解決に向けて、グループディスカッション	合同ゼミ実施 ノート PC 持参
第 10 回 6/13	＜PBL 型学習〉フィールドワーク等、現場学習① 各グループごとに、インバウンド教育旅行のテーマに沿ったフィールドワークの実施。 ①テーマに沿った旅行素材の確認 ②現場での聞き取り調査 ③行程、時間配分等確認	合同ゼミ実施 ノート PC 持参
第 11 回 6/20	＜PBL 型学習〉フィールドワーク等、現場学習② 各グループごとに、インバウンド教育旅行のテーマに沿ったフィールドワークの実施。 ①テーマに沿った旅行素材の確認 ②現場での聞き取り調査 ③行程、時間配分等確認	合同ゼミ実施 ノート PC 持参
第 12 回 6/27	＜PBL 型学習〉フィールドワーク等、現場学習③ 各グループごとに、インバウンド教育旅行のテーマに沿ったフィールドワークの実施。 ①テーマに沿った旅行素材の確認 ②現場での聞き取り調査 ③行程、時間配分等確認	合同ゼミ実施 ノート PC 持参
第 13 回 7/04	＜PBL 型学習〉事後学習（まとめ）① ・各グループごとに企画案の作成 ・発表に向けての PPT 等プレゼンテーションの準備 ・発表での役割分担等	合同ゼミ実施 ノート PC 持参
第 14 回 7/11	＜PBL 型学習〉事後学習（まとめ）② ・各グループごとに企画案の作成 ・発表に向けての PPT 等プレゼンテーションの準備 ・発表での役割分担等	合同ゼミ実施 ノート PC 持参
第 15 回 7/18	＜PBL 型学習〉事後学習（まとめ） 神戸市観光局担当者を迎えて、 ・各グループごとにアジア地域訪日インバウンド教育旅行案の発表 ・各グループ 10 分発表。	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 ※これまでの課題を持参すること

	・企画作品の評価等	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN102-Y02	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部観光学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	『授業の目的』 授業では、企業や自治体、地域社会と連携しながら、地域に根ざした課題を学びのテーマとして取り上げる。そして、それら課題の解決に向けて、「Team（チーム）」あるいは「Learning Community（主体的な学びの共同体）」を形成し、これまで学んだ知識や技能を統合的に活用しながら企業や自治体、地域住民等と協働して取り組む。 課題解決に向けての協働的な取組み過程において、「ものごとの見方や考え方」、「資料・データの収集と分析手法」、「議論の進め方」、「柔軟な発想力」、「深く考える力」					
18.学習目標とＤＰとの関連	『学習目標』 (1)学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 (2)課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 (3)他者貢献の意味を理解し、チームビルディングに主体的に参加しチームに貢献することができる。 (4)ビジネスマナーや知識を身につけ、プロジェクトに取り組むモチベーションを備えることができる。 『学習目標と DP との関連』 授業では、企業や地域社会との連携によるプロジェクトマネジメントへのグループワークとしての取り組みを通じて、チーム内でのコミュニケーション能力、多様性の理解、課題発見・対応力、専門知識とスキルの活用力、ビジネスマナーなどの修得を目指すことになる。 ・授業の学習目標は、DP1（自立的で主体的な態度）、DP2（社会に能動的に貢献する姿勢）、DP4（問題発見・解決力）、DP6（専門的知識・技能の活用力「マーケティングの知識・手法に基づき、企業で求められる知識・技能を活用して、課題の解決と新たな企画・提案ができる」）に関連している。					
19.教科書・教材	特になし。適宜、教員が PPT や資料を配付・提示する。					
20.参考文献	指定する参考文献はないが、当該自治体や観光協会、DMO 等の発信している情報を Web 等を通じて収集し、分析することになる。必要に応じて、自らこのような情報にアクセスし、情報蓄積やスキルアップを図る努力すること。					
21.成績評価	成績はルーブリックに基づき評価する。 ①外部講師等の講義・説明会におけるワークシート作成や発表、レポート作成：30% ②連携先との取り組み（グループワーク）に関するワークシート作成や発表：50% ③上記項目での活動や学びの振り返り（e ポートフォリオにアップロードする）：20%					
22.コメント	当該授業は、演習科目であるため単に教室で聞く姿勢のみでは不十分であり、自らの積極的な取組みが、プロジェクト遂行には不可欠である。学生はその点をよく理解しチームとしての力を発揮するように努める。PC は毎回利用するので、必ず持参する必要がある。スマートフォンではファイルのレイアウトが崩れるケースや Office の機能が異なるため、スマートフォンのみでの参加は認めない。					

	企業や地域など連携先との取り組みに関わるため、ビジネスマナーを身につける必要がある。
23.オフィスアワー	山手キャンパス 3-306 研究室。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回 4/11	＜オリエンテーション＞ ■ 授業の目的と進め方 ■ プロジェクトマネジメントとは ■2 回生の学修の流れ	合同ゼミ実施 ノートＰＣ持参
第 02 回 4/18	＜キャリアワーク①＞ キャリア支援センター 就職ガイダンス マイナビ専門からの就職サイト設定、ガイダン	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 03 回 4/25	＜キャリアワーク②＞ キャリア支援センター 就職ガイダンス　藤井部長 就職の状況、準備、キャリア支援センターからの情報求め方法など	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 04 回 5/02	＜外部講師講義①＞ 神戸税関 税関行政と国際観光について	合同ゼミ実施 質問など準備 ノート PC 持参 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 05 回 5/09	＜外部講師講義②＞ 関西エアホ?ート オペレーションサーヒ?ス株式会社 石 川 浩 司 ISHIKAWA KOJI　取締役 社長（予定） 関西空港とインバウンド観光について	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 06 回 5/16	＜外部講師③＞神戸観光局 ・神戸観光の現状と課題について ・インバウンド観光の対策や将来 ・課題解決に向けての取組等	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 講義内容を各自でまとめる
第 07 回 5/23	＜PBL 型学習＞事前学習① グループに分かれ、 ・神戸市地域の観光素材の分析。 ・テーマ別に素材の分類。 ・神戸市の観光政策について、課題の抽出・ ・課題解決に向けて、グループディスカッション	合同ゼミ実施 ノート PC 持参
第 08 回 5/30	＜外部講師講義④＞ 東京 OAKWOOD HOTEL	合同ゼミ実施 ノート PC 持参

	田口総支配人　（元 Marriott Hotel Group Moxy Hotel 総支配人） ホテル産業について（魅力あるホテル業）	
第 09 回 6/06	〈PBL 型学習〉事前学習③ グループに分かれ、 ・神戸市地域の観光素材の分析。 ・テーマ別に素材の分類。 ・神戸市の観光政策について、課題の抽出・ ・課題解決に向けて、グループディスカッション	合同ゼミ実施 ノート PC 持参
第 10 回 6/13	＜PBL 型学習〉フィールドワーク等、現場学習① 各グループごとに、インバウンド教育旅行のテーマに沿ったフィールドワークの実施。 ①テーマに沿った旅行素材の確認 ②現場での聞き取り調査 ③行程、時間配分等確認	合同ゼミ実施 ノート PC 持参
第 11 回 6/20	＜PBL 型学習〉フィールドワーク等、現場学習② 各グループごとに、インバウンド教育旅行のテーマに沿ったフィールドワークの実施。 ①テーマに沿った旅行素材の確認 ②現場での聞き取り調査 ③行程、時間配分等確認	合同ゼミ実施 ノート PC 持参
第 12 回 6/27	＜PBL 型学習〉フィールドワーク等、現場学習③ 各グループごとに、インバウンド教育旅行のテーマに沿ったフィールドワークの実施。 ①テーマに沿った旅行素材の確認 ②現場での聞き取り調査 ③行程、時間配分等確認	合同ゼミ実施 ノート PC 持参
第 13 回 7/04	＜PBL 型学習〉事後学習（まとめ）① ・各グループごとに企画案の作成 ・発表に向けての PPT 等プレゼンテーションの準備 ・発表での役割分担等	合同ゼミ実施 ノート PC 持参
第 14 回 7/11	＜PBL 型学習〉事後学習（まとめ）② ・各グループごとに企画案の作成 ・発表に向けての PPT 等プレゼンテーションの準備 ・発表での役割分担等	合同ゼミ実施 ノート PC 持参
第 15 回 7/18	＜PBL 型学習〉事後学習（まとめ） 神戸市観光局担当者を迎えて、 ・各グループごとにアジア地域訪日インバウンド教育旅行案の発表 ・各グループ 15 分発表。 ・企画作品の評価等	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 ※これまでの課題を持参すること

1.授業コード（ナンバリング）	SMN201-A01	2.科目名	専門演習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	百瀬和夫				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 専門演習Ⅰ・Ⅱでは１年次に履修した「学習技術」や「初年次セミナー」・「基礎演習」を発展させ、研究テーマの探索、研究方法の基礎の習得、論文作成に必要なライティングスキルの向上などに自発的に取り組むことをねらいとします。 【概要】 専門演習Ⅰ・Ⅱを通して課題解決学習（PBL）に取り組みます。「地域や実践現場の多様な課題に基づいた保育･教育・福祉の『安全･安心』とは？」をメインテーマに、各実践現場の喫緊の課題である「安全･安心」を脅かす要因にについて調査･研究し、具体的な解決策を提案します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP①自律的で主体的な態度（自律性）　②社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）④問題発見・解決力　⑤コミュニケーションスキルに関連しています。 ①経験学習を基に、現場で「安全･安心」の脅威となる事案を捉えることができる。 ②テーマに沿って、課題解決のための情報収集をすることができる。 ③課題解決に向けて収集した情報を分析し、適切に文章表現することができる。 ④自身の課題を明確にし、テーマに関連する文献や資料を整理することができる。 ⑤自身の課題を明確にし、テーマに関連する文献や資料から自分の考えを論述できる。				
19.教科書・教材	特に指定せず、適宜資料を配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	■課題１：文献の要約　10%　学習目標①・②に対応 ・１つの文献を収集し、要約・発表する（10%） ■課題２：文献リストと基礎的文章の作成　20%　学習目標③・④に対応 ・テーマの理解に基づき基礎的文章を作成する（10%＋5%） ・テーマに関連した文献・資料リストを作成する（5%） ■課題３：ポスター　作成＆発信　20%　学習目標①･⑤に対応 ポスター　作成（10%）発信（10%） ■課題４：最終レポート　30%　学習目標⑤に対応 ・レポート課題「(仮)保育所・幼稚園・小学校の子どもを取り巻く今日的				
22.コメント	○毎回パソコン・イヤフォン（ヘッドフォン）を持参してください。 ２回生は教育・保育分野における進路を決定していくための重要な時期となります。また、教育・保育分野に関する専門的な授業も増えます。この演習においては、これから始める授業や体験学習などからヒントを得て、今日的な課題を見つけ出し、さまざまな情報を集め、卒論の作成に向けて適切な準備が出来るようにしていきましょう。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2024/04/11	オリエンテーション	○履修内容の点検を行う。特に実習や、資格取得について注意する。(120 分)

	■ 新しい学年を迎えるにあたっての心構えと具体的方策 ■ 履修ガイダンス　資格・進路に関わる履修登録の確認 ■ ゼミ内における係の選出 ■これまでの経験学習で学んだことをゼミで話し合う	○基礎的文章作成(30 分)
2024/04/18	プロジェクト「実践現場での多様な課題に基づいた保育･教育･福祉の『安全･安心』とは？」について ○経験学習の振り返りと課題の表出 ・これまでの経験学習で学んだことをゼミで話し合う ・経験学習における自身の課題を見付ける	○経験学習から捉えた現場での「安全･安心」を脅かす事例についてまとめる(60 分) ○基礎的文章作成(30 分)
2024/04/25	情報検索学習 論文検索のための図書館の利用方法や文献検索について 学修する	○基礎的文章作成(30 分)
2024/05/02	課題解決に向けて ○「安全･安心」を脅かす課題をどのように解決するか考える ○グループ内で話し合い、調査する ・情報収集 ・情報整理	○課題解決に向けての情報収集の方法についてのまとめ(60 分) ○基礎的文章作成(30 分)
2024/05/09	課題解決に向けて ○自主的な情報収集 ・文献調査	○【課題 1】自身で選択した文献を要約する ○基礎的文章作成(30 分)
2024/05/16	課題解決に向けて ○自主的な情報収集 ・文献調査 ・インタビュー等	○【課題 2】文献リストの作成(60 分) ○基礎的文章作成(30 分)
2024/05/23	課題解決に向けて ○自主的な情報収集 ・文献調査 ・インタビュー等	○文献を入手し、概要を把握していく(60) ○基礎的文章作成(30 分)
2024/05/30	課題解決に向けて ○テーマに関する客観的データの整理 ・集めた資料を整理する。	○文献を入手し、概要を把握していく(60) ★【課題 2】の提出 ○基礎的文章作成(30 分)
2024/06/06	課題解決に向けて ○テーマに関する客観的データの整理 ・集めた資料を整理する。	○【課題 5】講話内容のキーワードを挙げ、要約文を作成し、WebClass に提出する。(60 分) ○基礎的文章作成(30 分)

2024/06/13	課題解決に向けて 〇客観的データから自分の考えを外化する① 発信：次のいずれかの方法で発信する 〇ポスター作成 ・これまで収集したデータとその整理から、自分たちの課題とその解決法についてまとめる ・発信の方法について話し合う	〇発信の手法に応じた準備 ・ポスター作成 ・模擬授業･模擬保育準備 ・【課題 3】の作成　（90 分） 〇基礎的文章作成(30 分)
2024/06/20	教育保育現場の実情と課題 ■ 保育園(所)、幼稚園、 施設、特別支援についての具体的講話	〇発信の手法に応じた準備 ・ポスター作成 ・模擬授業･模擬保育準備 ・【課題 3】の作成　（90 分） 〇kuis ドリル(30 分)
2024/06/27	発信：次のいずれかの方法で発信する 〇ポスター発表 ・グループのこれまでの成果物をポスターにまとめてプレゼンテーションを行う	【課題 4】の作成　（90） 〇kuis ドリル(30 分)
2024/07/04	客観的データから自分の考えを再内化する 〇ポスター発表での他者からの評価及び自らの気づきをふまえ、最終的なレポート完成を進める。	〇【課題 4】の提出 〇kuis ドリル(30 分)
2024/07/11	客観的データから自分の考えを再内化する 〇ポスター発表での他者からの評価及び自らの気づきをふまえ、最終的なレポート完成を進める。	【課題 5】講話内容のキーワードを挙げ、要約文を作成し、　WebClass に提出する。（60 分） 〇kuis ドリル(30 分)
2024/07/18	ゼミアワー ■ 春学期のまとめ ■ 秋学期に向けての課題	〇学習内容についての成果(evidence)を整理し、e-portfolio 等に記録する。(150 分) 〇夏休みの行動計画の策定。(90 分) 〇kuis ドリル(30 分)

1.授業コード（ナンバリング）	SMN201-A02	2.科目名	専門演習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	島川香織				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 専門演習Ⅰ・Ⅱでは１年次に履修した「学習技術」や「初年次セミナー」・「基礎演習」を発展させ、研究テーマの探索、研究方法の基礎の習得、論文作成に必要なライティングスキルの向上などに自発的に取り組むことをねらいとします。 【概要】 専門演習Ⅰ・Ⅱを通して課題解決学習（PBL）に取り組みます。「地域や実践現場の多様な課題に基づいた保育･教育・福祉の『安全･安心』とは？」をメインテーマに、各実践現場の喫緊の課題である「安全･安心」を脅かす要因にについて調査･研究し、具体的な解決策を提案します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP①自律的で主体的な態度（自律性）　②社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）④問題発見・解決力　⑤コミュニケーションスキルに関連しています。 ①経験学習を基に、現場で「安全･安心」の脅威となる事案を捉えることができる。 ②テーマに沿って、課題解決のための情報収集をすることができる。 ③課題解決に向けて収集した情報を分析し、適切に文章表現することができる。 ④自身の課題を明確にし、テーマに関連する文献や資料を整理することができる。 ⑤自身の課題を明確にし、テーマに関連する文献や資料から自分の考えを論述できる。				
19.教科書・教材	特に指定せず、適宜資料を配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	■課題１：文献の要約　10%　学習目標①・②に対応 ・１つの文献を収集し、要約・発表する（10%） ■課題２：文献リストと基礎的文章の作成　20%　学習目標③・④に対応 ・テーマの理解に基づき基礎的文章を作成する（10%＋5%） ・テーマに関連した文献・資料リストを作成する（5%） ■課題３：ポスター　作成＆発信　20%　学習目標①･⑤に対応 ポスター　作成（10%）発信（10%） ■課題４：最終レポート　30%　学習目標⑤に対応 ・レポート課題「(仮)保育所・幼稚園・小学校の子どもを取り巻く今日的				
22.コメント	○毎回パソコン・イヤフォン（ヘッドフォン）を持参してください。 ２回生は教育・保育分野における進路を決定していくための重要な時期となります。また、教育・保育分野に関する専門的な授業も増えます。この演習においては、これから始める授業や体験学習などからヒントを得て、今日的な課題を見つけ出し、さまざまな情報を集め、卒論の作成に向けて適切な準備が出来るようにしていきましょう。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2024/04/11	オリエンテーション	○履修内容の点検を行う。特に実習や、資格取得について注意する。(120 分)

	■ 新しい学年を迎えるにあたっての心構えと具体的方策 ■ 履修ガイダンス　資格・進路に関わる履修登録の確認 ■ ゼミ内における係の選出 ■これまでの経験学習で学んだことをゼミで話し合う	○基礎的文章作成(30 分)
2024/04/18	プロジェクト「実践現場での多様な課題に基づいた保育･教育･福祉の『安全･安心』とは？」について ○経験学習の振り返りと課題の表出 ・これまでの経験学習で学んだことをゼミで話し合う ・経験学習における自身の課題を見付ける	○経験学習から捉えた現場での「安全･安心」を脅かす事例についてまとめる(60 分) ○基礎的文章作成(30 分)
2024/04/25	情報検索学習 論文検索のための図書館の利用方法や文献検索について 学修する	○基礎的文章作成(30 分)
2024/05/02	課題解決に向けて ○「安全･安心」を脅かす課題をどのように解決するか考える ○グループ内で話し合い、調査する ・情報収集 ・情報整理	○課題解決に向けての情報収集の方法についてのまとめ(60 分) ○基礎的文章作成(30 分)
2024/05/09	課題解決に向けて ○自主的な情報収集 ・文献調査	○【課題 1】自身で選択した文献を要約する ○基礎的文章作成(30 分)
2024/05/16	課題解決に向けて ○自主的な情報収集 ・文献調査 ・インタビュー等	○【課題 2】文献リストの作成(60 分) ○基礎的文章作成(30 分)
2024/05/23	課題解決に向けて ○自主的な情報収集 ・文献調査 ・インタビュー等	○文献を入手し、概要を把握していく(60) ○基礎的文章作成(30 分)
2024/05/30	課題解決に向けて ○テーマに関する客観的データの整理 ・集めた資料を整理する。	○文献を入手し、概要を把握していく(60) ★【課題 2】の提出 ○基礎的文章作成(30 分)
2024/06/06	課題解決に向けて ○テーマに関する客観的データの整理 ・集めた資料を整理する。	○【課題 5】講話内容のキーワードを挙げ、要約文を作成し、WebClass に提出する。(60 分) ○基礎的文章作成(30 分)

2024/06/13	課題解決に向けて 〇客観的データから自分の考えを外化する① 発信：次のいずれかの方法で発信する 〇ポスター作成 ・これまで収集したデータとその整理から、自分たちの課題とその解決法についてまとめる ・発信の方法について話し合う	〇発信の手法に応じた準備 ・ポスター作成 ・模擬授業･模擬保育準備 ・【課題 3】の作成　（90 分） 〇基礎的文章作成(30 分)
2024/06/20	教育保育現場の実情と課題 ■ 保育園(所)、幼稚園、 施設、特別支援についての具体的講話	〇発信の手法に応じた準備 ・ポスター作成 ・模擬授業･模擬保育準備 ・【課題 3】の作成　（90 分） 〇kuis ドリル(30 分)
2024/06/27	発信：次のいずれかの方法で発信する 〇ポスター発表 ・グループのこれまでの成果物をポスターにまとめてプレゼンテーションを行う	【課題 4】の作成　（90） 〇kuis ドリル(30 分)
2024/07/04	客観的データから自分の考えを再内化する 〇ポスター発表での他者からの評価及び自らの気づきをふまえ、最終的なレポート完成を進める。	〇【課題 4】の提出 〇kuis ドリル(30 分)
2024/07/11	客観的データから自分の考えを再内化する 〇ポスター発表での他者からの評価及び自らの気づきをふまえ、最終的なレポート完成を進める。	【課題 5】講話内容のキーワードを挙げ、要約文を作成し、　WebClass に提出する。（60 分） 〇kuis ドリル(30 分)
2024/07/18	ゼミアワー ■ 春学期のまとめ ■ 秋学期に向けての課題	〇学習内容についての成果(evidence)を整理し、e-portfolio 等に記録する。(150 分) 〇夏休みの行動計画の策定。(90 分) 〇kuis ドリル(30 分)

1.授業コード（ナンバリング）	SMN201-A03	2.科目名	専門演習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 専門演習Ⅰ・Ⅱでは１年次に履修した「学習技術」や「初年次セミナー」・「基礎演習」を発展させ、研究テーマの探索、研究方法の基礎の習得、論文作成に必要なライティングスキルの向上などに自発的に取り組むことをねらいとします。 【概要】 専門演習Ⅰ・Ⅱを通して課題解決学習（PBL）に取り組みます。「地域や実践現場の多様な課題に基づいた保育･教育・福祉の『安全･安心』とは？」をメインテーマに、各実践現場の喫緊の課題である「安全･安心」を脅かす要因にについて調査･研究し、具体的な解決策を提案します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP①自律的で主体的な態度（自律性）　②社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）④問題発見・解決力　⑤コミュニケーションスキルに関連しています。 ①経験学習を基に、現場で「安全･安心」の脅威となる事案を捉えることができる。 ②テーマに沿って、課題解決のための情報収集をすることができる。 ③課題解決に向けて収集した情報を分析し、適切に文章表現することができる。 ④自身の課題を明確にし、テーマに関連する文献や資料を整理することができる。 ⑤自身の課題を明確にし、テーマに関連する文献や資料から自分の考えを論述できる。				
19.教科書・教材	特に指定せず、適宜資料を配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	■課題１：文献の要約　10%　学習目標①・②に対応 ・１つの文献を収集し、要約・発表する（10%） ■課題２：文献リストと基礎的文章の作成　20%　学習目標③・④に対応 ・テーマの理解に基づき基礎的文章を作成する（10%＋5%） ・テーマに関連した文献・資料リストを作成する（5%） ■課題３：ポスター　作成＆発信　20%　学習目標①･⑤に対応 ポスター　作成（10%）発信（10%） ■課題４：最終レポート　30%　学習目標⑤に対応 ・レポート課題「(仮)保育所・幼稚園・小学校の子どもを取り巻く今日的				
22.コメント	○毎回パソコン・イヤフォン（ヘッドフォン）を持参してください。 ２回生は教育・保育分野における進路を決定していくための重要な時期となります。また、教育・保育分野に関する専門的な授業も増えます。この演習においては、これから始める授業や体験学習などからヒントを得て、今日的な課題を見つけ出し、さまざまな情報を集め、卒論の作成に向けて適切な準備が出来るようにしていきましょう。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2024/04/11	オリエンテーション	○履修内容の点検を行う。特に実習や、資格取得について注意する。(120 分)

	■ 新しい学年を迎えるにあたっての心構えと具体的方策 ■ 履修ガイダンス　資格・進路に関わる履修登録の確認 ■ ゼミ内における係の選出 ■これまでの経験学習で学んだことをゼミで話し合う	○基礎的文章作成(30 分)
2024/04/18	プロジェクト「実践現場での多様な課題に基づいた保育･教育･福祉の『安全･安心』とは？」について ○経験学習の振り返りと課題の表出 ・これまでの経験学習で学んだことをゼミで話し合う ・経験学習における自身の課題を見付ける	○経験学習から捉えた現場での「安全･安心」を脅かす事例についてまとめる(60 分) ○基礎的文章作成(30 分)
2024/04/25	情報検索学習 論文検索のための図書館の利用方法や文献検索について 学修する	○基礎的文章作成(30 分)
2024/05/02	課題解決に向けて ○「安全･安心」を脅かす課題をどのように解決するか考える ○グループ内で話し合い、調査する ・情報収集 ・情報整理	○課題解決に向けての情報収集の方法についてのまとめ(60 分) ○基礎的文章作成(30 分)
2024/05/09	課題解決に向けて ○自主的な情報収集 ・文献調査	○【課題 1】自身で選択した文献を要約する ○基礎的文章作成(30 分)
2024/05/16	課題解決に向けて ○自主的な情報収集 ・文献調査 ・インタビュー等	○【課題 2】文献リストの作成(60 分) ○基礎的文章作成(30 分)
2024/05/23	課題解決に向けて ○自主的な情報収集 ・文献調査 ・インタビュー等	○文献を入手し、概要を把握していく(60) ○基礎的文章作成(30 分)
2024/05/30	課題解決に向けて ○テーマに関する客観的データの整理 ・集めた資料を整理する。	○文献を入手し、概要を把握していく(60) ★【課題 2】の提出 ○基礎的文章作成(30 分)
2024/06/06	課題解決に向けて ○テーマに関する客観的データの整理 ・集めた資料を整理する。	○【課題 5】講話内容のキーワードを挙げ、要約文を作成し、WebClass に提出する。(60 分) ○基礎的文章作成(30 分)

2024/06/13	課題解決に向けて 〇客観的データから自分の考えを外化する① 発信：次のいずれかの方法で発信する 〇ポスター作成 ・これまで収集したデータとその整理から、自分たちの課題とその解決法についてまとめる ・発信の方法について話し合う	〇発信の手法に応じた準備 ・ポスター作成 ・模擬授業･模擬保育準備 ・【課題 3】の作成　（90 分） 〇基礎的文章作成(30 分)
2024/06/20	教育保育現場の実情と課題 ■ 保育園(所)、幼稚園、 施設、特別支援についての具体的講話	〇発信の手法に応じた準備 ・ポスター作成 ・模擬授業･模擬保育準備 ・【課題 3】の作成　（90 分） 〇kuis ドリル(30 分)
2024/06/27	発信：次のいずれかの方法で発信する 〇ポスター発表 ・グループのこれまでの成果物をポスターにまとめてプレゼンテーションを行う	【課題 4】の作成　（90） 〇kuis ドリル(30 分)
2024/07/04	客観的データから自分の考えを再内化する 〇ポスター発表での他者からの評価及び自らの気づきをふまえ、最終的なレポート完成を進める。	〇【課題 4】の提出 〇kuis ドリル(30 分)
2024/07/11	客観的データから自分の考えを再内化する 〇ポスター発表での他者からの評価及び自らの気づきをふまえ、最終的なレポート完成を進める。	【課題 5】講話内容のキーワードを挙げ、要約文を作成し、　WebClass に提出する。（60 分） 〇kuis ドリル(30 分)
2024/07/18	ゼミアワー ■ 春学期のまとめ ■ 秋学期に向けての課題	〇学習内容についての成果(evidence)を整理し、e-portfolio 等に記録する。(150 分) 〇夏休みの行動計画の策定。(90 分) 〇kuis ドリル(30 分)

1.授業コード（ナンバリング）	SMN201-A04	2.科目名	専門演習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	2 年生で履修する専門演習Ⅰ・Ⅱでは 1 年次に履修した「学習技術」や「初年次セミナー」「基礎演習」を発展させ、研究テーマの探索、研究方法の基礎の習得、論文作成に必要なライティングスキルの向上をねらいとします。 2 年生ゼミでは、1 年間の共通テーマを「地域で安心した生活ができるまちづくり」に設定しています。地域住民の暮らしに着目し、フィールドワークを通して、その人たちの声/語りをもとに、人々にとっての well-being や安全・安心について検討していきます。具体的には、尼崎市から委託を受けて、本学学生と尼崎市				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は、以下の学習目標を設定します。 ①テーマに関連する文献や資料を収集できる ②収集した文献や資料から、テーマに関連する客観的データ（統計データや事例）を整理できる ③質的調査の基礎を説明できる ④質的調査で得られたデータを整理できる ⑤④を用いて、地域住民の生活課題を抽出できる 本授業は、学位授与方針（DP）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（6）専門知識・技能の活用力と関連しています。				
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。				
20.参考文献	河野哲也(2002)「レポート・論文の書き方入門(第 3 版)」慶應義塾大学出版 白井利明・高橋一郎(2008)「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房※Ⅱ「ゼミでの学び方」に文献講読の方法がのっています 笠原千絵・永田祐編著(2013)「地域の＜実践＞を変える社会福祉調査入門」春秋社				
21.成績評価	■課題 1：文献リストの作成　10%　学習目標①②に対応 ・テーマに関連した文献リストの作成※指定フォーマット ■課題 2：質的分析シート　20%　学習目標③と④に対応 ・地域住民の見守り活動やつながりづくりの活動に参加し、フィールド調査を行ったデータを研究手法に基づいて整理する ■課題 3：パワーポイントを使った発表　30%　学習目標③と④に対応 ・地域住民の見守り活動やつながりづくりの活動に参加し、フィールド調査を行った結果をまとめて報告する。 ■課題 4：最終レポート　30%　学習目標⑤に対応 ・レポ				
22.コメント	1．「インターンシップⅡ」科目との関連で進めるため、「インターンシップⅡ」（春学期集中 尾崎慶太）を必ず履修してください。 2．地域住民の見守り活動やつながりづくりの支援活動の日程は、尼崎市や町会との調整が必要なため授業開始後に皆さんの予定も聞きながら調整していきます。 ※新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバス内容を修正することがあります。その場合は、適宜授業内で指示します。				

23.オフィスアワー	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	導入:専門演習 I のねらいと進め方	○前学期のふりかえりを e ポートフォリオに記録してくる(60)
第 2 回	テーマのブレーンストーミングと KJ 法での分類 ・テーマ「地域で暮らす高齢者・障害者」「地域での子育て」に関連するキーワードをブレーンストーミングする ・KJ 法を用いて分類し、発表する	○文献リストの作成(60)
第 3 回	文献リサーチ 「地域で暮らす高齢者への見守り活動」、「障害者、子育て世帯の孤立を防ぐための活動」についての文献を検索する。 ・対象者はどのような人たちか ・どのような人や機関が見守りをしているのか ・見守り活動の目的や内容	○文献リストに基づく文献入手と要約(90) ★課題 1 の提出
第 4 回	文献をまとめて発表する① ・グループワーク「地域で暮らす高齢者への見守り活動」「障害者、子育て世帯の孤立を防ぐ・つながりを作るための活動」についての文献を発表、ディスカッションする。 ・グループで 1 つの発表資料を作り上げる。	○グループ発表の準備をする(90)
第 5 回	1．文献をまとめて発表する② ・グループ発表 ・全体ディスカッション 2．活動地区の「地域で暮らす高齢者の見守り活動」「障害者、子育て世帯の孤立を防ぐ・つながりを作るための活動」について調べる	○リサーチ入門テキストの質的研究法に該当する部分を復習してくる(60) ★課題 2 の提出
第 6 回	フィールドワークの手法を学ぶ ・フィールドワークとは ・研究倫理 ・活動する地区の特徴を調べる	◎課題 3 に取り組む(90)
第 7 回	ゲストスピーチとゲストへのインタビュー ・潮江地区での見守り活動や地域防災の取り組みについて知る ・インタビューをする	◎課題 3 に取り組む(90)
第 8 回	得られたデータの整理 グループワーク ・インタビュー調査で得られたデータを KJ 法などを用いて整理する	◎課題 3 に取り組む(90)
第 9 回	フィールドワーク① ・各活動に参加する ・各活動の内容について体験を通して理解を深める	◎課題 3 に取り組む(90)
第 10 回	フィールドワークの振り返り	◎課題 3 に取り組む(90)

	・活動に参加した振り返りをする ・次回の活動に向けて、さらに、どのようなことを明らかにしたいのか目的をもつ（テーマの設定）	
第 11 回	フィールドワーク② ・各活動に参加する ・各活動や地域の高齢者、障害者、子育ての現状について、観察や聞き取りを行う。	◎課題 3 に取り組む(90)
第 12 回	1．フィールドワークの振り返り ・見守り活動に参加した振り返りをする 2．最終レポート執筆に向けた準備 ・これまで収集したデータとその整理から、自分の主張したいことをまとめる	○ポスター作成(90)
第 13 回	プレゼンテーション ・各自のこれまでの成果物をポスターにまとめてプレゼンテーションを行う	○課題 4：最終レポートの執筆(90)
第 14 回	自分の考えを再内化する ・プレゼンテーションでの気づきをふまえ、最終的なレポート完成を進める。	○課題 4：最終レポートの執筆(90)
第 15 回	授業のふりかえり	★課題 4、課題 5 の提出

1.授業コード（ナンバリング）	SMN201-Y01	2.科目名	専門演習 I	3.単位数	2
4.授業担当教員	Jonathan Aliponga				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目では、「グローバルリサーチ」のための準備を行う。 具体的には、特に以下の SDGs の目標を主要テーマに、現地社会・文化に関連した課題に取り組み、国際コミュニケーションについての知識や理解を深めるために、その基盤となる知識やスキルを学ぶ。 1. 貧困をなくそう あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ 4. 質の高い教育をみんなに すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する 5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワ				
18.学習目標とＤＰとの関連	◎グローバルな活動に必要となる実践的な英語コミュニケーション力を身につける ◎リサーチ対象の国の文化、歴史、日本との関係などについて、基本的な情報を自分の言葉で語ることができる ◎自分とは異なる価値観を理解し、尊重するために、様々な事項をグローバルな視点から考えることができる (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材					
20.参考文献	必要に応じて資料を随時配布する				
21.成績評価	留学国やリサーチテーマ設定に関するプレゼンテーション（グループ）30% 自らのリサーチテーマに関するプレゼンテーション（個人）30% リサーチの計画書(最終レポートに相当)40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	月曜 3 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	オリエンテーション	
	リサーチテーマの設定・方法論 1 （SDGs4 つの領域の導入）	
	リサーチテーマの設定・方法論 2 （mind map 作成　関連領域の情報収集）	
	リサーチテーマの設定・方法論 3	

	（リサーチテーマの絞り込み、適切な主題の設定）	
	中間プレゼンテーション準備	
	中間プレゼンテーション準備	
	文献検索＋危機管理講習* ＊日程調整の可能性あり。	
	中間プレゼンテーション　1	
	中間プレゼンテーション　2	
	各個人の留学先大学についての情報収集　（各ゼミ）	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など　1	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など　2	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など　3	
	リサーチ計画についてのプレゼンテーション/ディスカッション 1	
	リサーチ計画についてのプレゼンテーション/ディスカッション 2	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN201-Y02	2.科目名	専門演習 I	3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目では、「グローバルリサーチ」のための準備を行う。 具体的には、特に以下の SDGs の目標を主要テーマに、現地社会・文化に関連した課題に取り組み、国際コミュニケーションについての知識や理解を深めるために、その基盤となる知識やスキルを学ぶ。 1. 貧困をなくそう あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ 4. 質の高い教育をみんなに すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する 5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワ				
18.学習目標とＤＰとの関連	◎グローバルな活動に必要となる実践的な英語コミュニケーション力を身につける ◎リサーチ対象の国の文化、歴史、日本との関係などについて、基本的な情報を自分の言葉で語ることができる ◎自分とは異なる価値観を理解し、尊重するために、様々な事項をグローバルな視点から考えることができる (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材					
20.参考文献	必要に応じて資料を随時配布する				
21.成績評価	留学国やリサーチテーマ設定に関するプレゼンテーション（グループ）30% 自らのリサーチテーマに関するプレゼンテーション（個人）30% リサーチの計画書(最終レポートに相当)40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	月曜 3 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	オリエンテーション	
	リサーチテーマの設定・方法論 1 （SDGs4 つの領域の導入）	
	リサーチテーマの設定・方法論 2 （mind map 作成　関連領域の情報収集）	
	リサーチテーマの設定・方法論 3	

	（リサーチテーマの絞り込み、適切な主題の設定）	
	中間プレゼンテーション準備	
	中間プレゼンテーション準備	
	文献検索＋危機管理講習* ＊日程調整の可能性あり。	
	中間プレゼンテーション　1	
	中間プレゼンテーション　2	
	各個人の留学先大学についての情報収集　（各ゼミ）	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など　1	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など　2	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など　3	
	リサーチ計画についてのプレゼンテーション/ディスカッション 1	
	リサーチ計画についてのプレゼンテーション/ディスカッション 2	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN201-Y03	2.科目名	専門演習 I	3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤創				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目では、「グローバルリサーチ」のための準備を行う。 具体的には、特に以下の SDGs の目標を主要テーマに、現地社会・文化に関連した課題に取り組み、国際コミュニケーションについての知識や理解を深めるために、その基盤となる知識やスキルを学ぶ。 1. 貧困をなくそう あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ 4. 質の高い教育をみんなに すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する 5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワ				
18.学習目標とＤＰとの関連	◎グローバルな活動に必要となる実践的な英語コミュニケーション力を身につける ◎リサーチ対象の国の文化、歴史、日本との関係などについて、基本的な情報を自分の言葉で語ることができる ◎自分とは異なる価値観を理解し、尊重するために、様々な事項をグローバルな視点から考えることができる (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材					
20.参考文献	必要に応じて資料を随時配布する				
21.成績評価	留学国やリサーチテーマ設定に関するプレゼンテーション（グループ）30% 自らのリサーチテーマに関するプレゼンテーション（個人）30% リサーチの計画書(最終レポートに相当)40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	月曜 3 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	オリエンテーション	
	リサーチテーマの設定・方法論 1 （SDGs4 つの領域の導入）	
	リサーチテーマの設定・方法論 2 （mind map 作成　関連領域の情報収集）	
	リサーチテーマの設定・方法論 3	

	（リサーチテーマの絞り込み、適切な主題の設定）	
	中間プレゼンテーション準備	
	中間プレゼンテーション準備	
	文献検索＋危機管理講習* ＊日程調整の可能性あり。	
	中間プレゼンテーション　1	
	中間プレゼンテーション　2	
	各個人の留学先大学についての情報収集　（各ゼミ）	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など　1	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など　2	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など　3	
	リサーチ計画についてのプレゼンテーション/ディスカッション 1	
	リサーチ計画についてのプレゼンテーション/ディスカッション 2	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN201-Y06	2.科目名	専門演習Ⅰ（社会）	3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	文化・メディア専攻			9.履修学年	2 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 2 年生が履修する専門演習Ⅰ・Ⅱでの 1 年間は、4 年生で履修登録する卒業研究までの準備工程に当たります。ゼミの共通テーマ「新神戸駅周辺地域のリサーチ」にもとづいて、問題発見・解決のための調査を行ったり、その成果を文書に記述する作業を通して、卒業研究に必要な知識とスキルを身に付けると同時に、自分の将来の「研究テーマ」を模索します。 【概要】 授業では、教室での学び（情報の収集・整理・考察、ディスカッションなど）と、現場での学び（フィールドワーク）を往還しながら進めていきます。 特に文化・メディア系ゼ				
18.学習目標とＤＰとの関連	① 神戸の様々な文化やその特徴を学び、幅広い知識や教養を身につける ② 画像や映像、サウンドなどの編集、コンテンツ制作の基礎力を身につける ③ 調査結果を整理しまとめ、各種メディア・コンテンツ制作による情報提供が行える 【関連する DP】1．自律性　2．社会的貢献性　3．多様性理解　4．問題発見・解決力　5．コミュニケーションスキル　6．専門的知識・技術の活用力				
19.教科書・教材	適宜資料を紹介・配布します				
20.参考文献					
21.成績評価	以下の各課題を実施したうえで、合計 60 点以上となった場合に合格となります。 （1）　フィールドワーク・レポートを含む各回の学習日誌の提出　15% （関連する学習目標①②③） （2）　調査文献・資料等の提出　１５％　（学習目標①） （3）　企画書／制作コンテンツ等の提出　４０％　（学習目標②③） （4）　リフレクションシートの提出　３０％　（学習目標①②③）				
22.コメント	22.コメント　・フィールドワークでは、神戸まちづくり会館（まちラボ）の施設や所蔵図書を適宜利用します。（https://kobe-machi-kaikan.city.kobe.lg.jp/machilabo/） ・ゼミ間交流も行います。 ・取りまとめた成果が、先々の卒業研究テーマに展開できそうか、想像してみる作業を行います。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センタオフィスアワー：水曜日・昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	シラバスの解説 ゼミ活動の考え方について	・毎回の学習日誌提出 ・進捗状況の投稿 （WebClass）
【第 2～１２	ゼミで行うフィールドワークのスケジュールを現在調	・フィールドワーク・レポートの提出

回】	整中のため、各回の予定は、調整ができ次第、案内します。 主な活動は以下のとおりとなります。 4 月　イントロダクション（3 ゼミ合同） 5 月　神戸まちラボ見学 5・6 月　新神戸駅周辺フィールドワーク（まちあるき） 7 月　本調査の企画案まとめ ※上記以外にも学期中に合同ゼミを行う場合があります。	・文献リストの提出 ・企画案シートの提出 （WebClass）
【第 13・14 回】	学習成果（企画案）発表	発表相互レビューの投稿（WebClass）
【第 15 回】	リフレクションのためのディスカッション	リフレクションシートの提出（WebClass）

1.授業コード（ナンバリング）	SMN201-Y07	2.科目名	専門演習Ⅰ（社会）	3.単位数	2
4.授業担当教員	中嶌康二				
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	データサイエンス専攻			9.履修学年	2 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 2 年生が履修する専門演習Ⅰ・Ⅱでの 1 年間は、4 年生で履修登録する卒業研究までの準備工程に当たります。ゼミの共通テーマ「新神戸駅周辺地域のリサーチ」にもとづいて、問題発見・解決のための調査を行ったり、その成果を文書に記述する作業を通して、卒業研究に必要な知識とスキルを身に付けると同時に、自分の将来の「研究テーマ」を模索します。 【概要】 授業では、教室での学び（情報の収集・整理・考察、ディスカッションなど）と、現場での学び（フィールドワーク）を往還しながら進めていきます。 本ゼミでは特に、デー				
18.学習目標とＤＰとの関連	①　神戸の街の活性化の障壁となっている要因について自分の意見を書き出せる ②　テーマに関連する文献を探して要旨を説明できる ③　テーマに関連する過去の取組みを踏まえて、自分の企画提案ができる ④　企画提案を、「ビジネス力」の要件を満たしてドキュメントにまとめられる 【関連する DP】１．自律性　２．社会的貢献性　３．多様性理解　４．問題発見・解決力　５．コミュニケーションスキル　６．専門的知識・技術の活用力				
19.教科書・教材	必要に応じて適宜配付します。				
20.参考文献					
21.成績評価	以下の各課題を実施したうえで、合計 60 点以上となった場合に合格となります。 （1）フィールドワーク・レポートを含む各回の学習日誌の提出　15% （関連する学習目標①②③） （2）調査文献リストの提出　１５％　（学習目標②） （3）企画案シートの提出　４０％　（学習目標①②③④） （4）リフレクションシートの提出　３０％　（学習目標①②③④）				
22.コメント	・フィールドワークでは、神戸まちづくり会館（まちラボ）の施設や所蔵図書を適宜利用します。（https://kobe-machi-kaikan.city.kobe.lg.jp/machilabo/） ・ゼミ間交流も行います。 ・取りまとめた成果が、先々の卒業研究テーマに展開できそうか、想像してみる作業を行います。				
23.オフィスアワー	別途説明します。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	シラバスの解説 ゼミ活動の考え方について	・毎回の学習日誌提出 ・ゼミ活動でやりたいこと投稿（WebClass）
【第２～１２回】	ゼミで行うフィールドワークのスケジュールを現在調整中のため、各回の予定は、調整ができ次第、案内します。 主な活動は以下のとおりとなります。	・フィールドワーク・レポートの提出 ・文献リストの提出 ・企画案シートの提出 （WebClass）

	4 月　イントロダクション（3 ゼミ合同） 5 月　神戸まちラボ見学 5・6 月　新神戸駅周辺フィールドワーク（まちあるき） 7 月　本調査の企画案まとめ ※上記以外にも学期中に合同ゼミを行う場合があります。	
【第 13・14 回】	学習成果（企画案）発表	発表相互レビューの投稿（WebClass）
【第１５回】	リフレクションのためのディスカッション	リフレクションシートの提出（WebClass）

1.授業コード（ナンバリング）	SMN201-Y08	2.科目名	専門演習Ⅰ（社会）	3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之				
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科共生社会専攻			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 2 年生が履修する専門演習Ⅰ・Ⅱでの 1 年間は、4 年生で履修登録する卒業研究までの準備工程に当たります。 まず、社会学の入門書を購読し、共生社会に関する基本的な知識を身に着けます。そのうえで、「観察法」にもとづいた社会調査を実施し、社会調査に関する基礎的なスキルを身に着けます。さらに、ゼミの共通テーマ「新神戸駅周辺地域のリサーチ」にもとづいて、問題発見・解決のための調査を行ったり、その成果を文書に記述します。 以上の作業を通して、卒業研究に必要な知識とスキルを身に付けると同時に、自分の将来の「研究テ				
18.学習目標とＤＰとの関連	①現代における共生社会に関する社会学的な視点と自分の考えを書き出すことができる。 ②社会調査（観察法）にもとづいた調査を企画し、実施することができる。 ③調査結果を議論し、自分自身でまとめることができる。 【関連する DP】1．自律性　2．社会的貢献性　3．多様性理解　4．問題発見・解決力　5．コミュニケーションスキル　6．専門的知識・技術の活用力				
19.教科書・教材	必要に応じて適宜配付します。				
20.参考文献	適宜授業内で紹介します。				
21.成績評価	以下の各課題を実施したうえで、合計 60 点以上となった場合に合格となります。 （1）フィールドワーク・レポートを含む各回の学習日誌の提出　15%（関連する学習目標①②③） （2）文献・資料をまとめたレジュメの提出 15%（学習目標①） （3）調査企画書の提出 40%（学習目標②③） （4）調査報告書（リフレクションシート）の提出 30%（学習目標①②③）				
22.コメント	・フィールドワークでは、神戸まちづくり会館（まちラボ）の施設や所蔵図書を適宜利用します。（https://kobe-machi-kaikan.city.kobe.lg.jp/machilabo/） ・ゼミ間交流も行います。 ・取りまとめた成果が、先々の卒業研究テーマに展開できそうか、想像してみる作業を行います。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：未定 研究室オフィスアワー：未定				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	シラバスの解説 ゼミ活動の考え方について	・毎回の学習日誌提出 ・ゼミ活動でやりたいこと投稿（WebClass）

第 2〜12 回	ゼミで行うフィールドワークのスケジュールを現在調整中のため、各回の予定は、調整ができ次第、案内します。 主な活動は以下のとおりとなります。 ■共生社会に関する文献購読（4 ・ 5 月ごろを予定） ・共生社会に関する社会学の入門書を読みます ・毎回発表者を決め、議論をおこないます。 ■公共空間、まちの観察（6・7 月ごろを予定） ・観察法についてのレクチャー ・観察対象、方法の決定 ・観察 ・観察結果の発表 ■3 ゼミ合同企画（新神戸駅周辺地域のリサーチ） 4 月　イントロダクション（3 ゼミ合同） 5 月　神戸まち	・フィールドワーク・レポートの提出 ・文献リストの提出 ・企画案シートの提出 （WebClass）
第 13・14 回	学習成果（企画案）発表	発表相互レビューの投稿（WebClass）
第 15 回	リフレクションのためのディスカッション	リフレクションシートの提出（WebClass）

1.授業コード（ナンバリング）	SMN201-Y09	2.科目名	専門演習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科(クラス分けの通り)			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：これまでの災害から得られた教訓をベースにした災害への様々な備えを学び、その中でも兵庫県庁が現在懸案としている事項(ex.能登半島地震復興支援、フェニックス共済など)を題材として抽出します。それについて、学外活動を踏まえた事前調査、関係者からの説明、インタビューを行い、課題発見･解決のグループワークにより提案を取りまとめて、関係者に対してプレゼンテーションを行い、評価を受けます。 これらを通じて、課題発見・解決に向けた自己の主張を他者に正しく伝えるスキルを身に付けることを目的とします。 概要：各班に				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 科目の学習目標は以下の通りです。 ① 多様な情報源から必要かつ信頼できる情報を収集し、分類することができる ② 必要な情報を自分の主張の裏付けとして活用することができる ③ 決められた条件の中で知見や考えを表現することができる ④ 他者の発言の論点を理解したうえで自己の意見を示すことができる ⑤ 防災・減災に関連する専門的知識を獲得することができる				
19.教科書・教材	なし。ノートパソコンを毎回持参すること。				
20.参考文献	適宜紹介します。				
21.成績評価	・テーマレポート　40%　学習目標①、②、⑤に対応 対 ・プレゼンテーション　40%　学習目標③に対				

	応 ・ディスカッションにおける質疑・発言　20%　学習目標④に対応
22.コメント	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 (4/10)	・オリエンテーション：演習の内容と進め方に関する説明 ・メンバー紹介：自己紹介、習得目標等 ・班編成 ・ゼミの内容について意見を出し合う。 ・情報共有方法の確認	★毎回持参：ノートパソコン 自己アピールポイントをまとめておくこと
第 2 回 (4/17)	お互いを知り合う～自己紹介のワーク～ 【事例研究・発表（1）】 全国的に反響の大きい災害事案について学ぶ ①2023 年 2 月 トルコ地震 ②2024 年 1 月 能登半島地震 ③2024 年 4 月 台湾地震 ・被災地の現状について、国、被災自治体、メディアの資料を調査して把握する 能登半島地震については、 ・これまでの能登地方の災害の歴史 ・被災地の被害状況、被災者が置かれた状況を調べる。 ・被災地支援の在り方を考え、自分たちにできることをまとめる。	各自が発表テーマ候補を選定し、班内での討議に備えて考えをまとめておくこと
第 3 回 (4/24)	・メディアライブラリーによるガイダンス(記事検索、文献検索) ①ﾃｰﾏ研究に必要となる記事検索、文献検索のやり方をﾒﾃﾞｨｱﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ職員から学ぶ ②検索機能を使って、能登半島地震についての基礎的情報について班に分かれて情報収集を行う。	テーマに関して、班内での討議に備え、情報収集・分析、考察のまとめを行うこと
第 4 回 (5/1)	・能登半島地震被災地で支援活動を継続している兵庫県職員からの情報提供 能登半島地震での被災地支援を地震発生後 60 日間にわたり実施している兵庫県職員から、能登半島地震の特徴、被害状況、被災者のニーズの変遷、被災地復興に向けた今後の課題　などについて情報提供いただき、これまで調べてきた被災地についてより深く状況を把握する。	テーマに関して、班内での討議に備え、情報収集・分析、考察のまとめを行うこと
第 5 回 (5/8)	研究発表　その 1 ・プレゼンテーション：各班ごとの発表 ・ディスカッション：他班からの質疑に応答し、各班ごとの良かった点、要検討事項を互いに討議する。	発表班はプレゼンテーションの準備を行っておくこと 発表班以外のゼミ員は、各自質問事項をまとめておくこと
第 6 回 (5/15)	○研究発表　その 2 ・能登半島被災地ボランティア活動の実施企画案を策定す	○発表班はプレゼンテーションの準備を行っておくこと

次回は5/18	る 　これまで集めてきた被災地の情報をベースに、学生として被災地でどのようなボランティア支援活動ができるかを考え、その実施に向けた企画案を策定する。 〇学外学習（人と防災未来センター）の準備	発表班以外のゼミ員は、各自質問事項をまとめておくこと〇各自が学外研究のテーマ候補を選定し、班内での調査質問項目について考えをまとめておくこと
第7回 <5/18(土)> →次回は5/24	《学外学習（土曜日の9時30分～12時30分に実施：現地集合現地解散)》 →5月22日(水)の専門演習はありません。 ・人と防災未来センター見学 　日本、兵庫の防災減災を見直す契機となった1995阪神･淡路大震災の地震博物館を訪問し、施設の設立目的、展示･活動内容の説明、語り部講話などを通じ、震災の概観を把握する。	
第8回 (5/24(金)) 次回は6/5	キャリア合同ガイダンス 5月24日（金）のｳｨｰｸﾘｰｱﾜｰで実施します。 →5月29日の専門演習Ⅰはありません。	各自が発表テーマ候補を選定し、班内での調査質問項目について考えをまとめておくこと
第9回 (6/5)	【事例研究・発表（２)】 〇兵庫県庁が現在懸案としている事項(ex.フェニックス共済など)を題材として、県庁の担当部局から説明を受け、関係者ヒアリングを行い、課題発見･解決のグループワークにより提案を取りまとめて、関係者に対してプレゼンテーションを行う。 ＜ｾｰﾌﾃｨﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論「兵庫県の防災危機管理」と連動＞ ・兵庫県庁の職員からフェニックス共済についての説明を受ける ・第12-13回授業において各班ごとに発表	
第10回 (6/12)	ディスカッション、グループワーク-1 　研究課題について発表に向けた作業（各班）　役割分担の付与	各自が発表テーマ候補を選定し、班内での討議に備えて考えをまとめておくこと
第11回 (6/19)	・ディスカッション、グループワーク-2 　研究課題について発表に向けた作業（各班）	発表テーマに関して、班内での討議に備え、情報収集・分析、考察のまとめを行うこと
第12回 (6/26)	・ディスカッション、グループワーク 　各班からの成果発表-1	各自が討議内容をまとめ班内に置いて討議できる準備を行うこと 各班代表者は終了時、資料をWebClassに搭載すること
第13回 (7/3)	研究発表 ・プレゼンテーション　各班ごとの発表-2 ・ディスカッション　次週、兵庫県で発表する班を２つ選び、全員で発表内容を推敲する。	発表班はプレゼンテーションの準備を行っておくこと 発表班以外のゼミ員は、各自質問事項をまとめておくこと
第14回 (7/10)	成果発表会（兵庫県災害対策センター<予定>） 兵庫県担当者に、後半の調査研究成果を発表し、フィードバックを受ける。 その後、災害対策センター見学	各自プレゼンテーション資料の再考を行うこと
第15回 (7/17)	まとめとふりかえり 各自から発表し、質疑応答を踏まえて全体成果をWCに投	各自が自らの総括を行い、反省点・改良点等をまとめておくこと

	稿する。	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN201-Y10	2.科目名	専門演習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	大松光寿				
5.授業科目の区分	警察分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年~
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】事件・事故を題材としたグループ討議やプレゼンテーション通じて、専門分野の情報収集力やコミュニケーション能力を身につけることを目的とします。 【概要】具体的には、班別に指定されたテーマ（事件・事故）について、事実関係や背景事情、内在する問題点等について調査・検討したのちにプレゼンを行い、討議することにより専門的知識を学修します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門的知識・技能、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①　情報を収集・整理して自己主張する。 ②　他者の主張を理解して自己主張する。 ③　犯罪の発生と対処について理解する。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	評価の方法は次のとおりです。 ・テーマ研究（プレゼン・質疑応答を含む）　２５×２　５０％ ・レポート(テーマ１．２）　１５×２　３０％ ・キャリア授業（提出物及び取組み姿勢）　１０％ ・振り返りレポート（感想書）　１０％				
22.コメント	毎回ノートパソコンを持参してください。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜昼休み 研究室ーオフィスアワー：月曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	○　オリエンテーション:　講義の内容と進め方に関する説明 ○　お互いを知り合う：　自己紹介 ○　班編制の実施 ○　論文検索方法	毎回、ノートパソコンを持参願います
第２回	研究発表① ？　事件・事故を中心として班ごとに事実関係を確認のうえ、背景事 情や内在する問題点、対策などについて調査研究し、資料作成の うえプレゼンを行う。 ・　テーマの指定（例：JR 福知山線における死傷者多数の脱線	各自、研究テーマを考えて授業に臨むこと

	事故） ・　班内での役割分担を決め、調査・研究 ・　プレゼン発表準備 ＊　第５～６回授業において、班ごとにプレゼン	
第３回	研究発表① 班ごとのテーマを調査・研究 ＊　第５～６回授業において、班ごとにプレゼン	自身の役割分担について整理して、班別討議に臨むこと
第４回	研究発表① 班ごとのテーマを調査・研究 ＊　第５～６回授業において、班ごとにプレゼン	各自が前回の討議内容を理解・整理して、班別最終討議に臨むこと
第５回	研究発表① ？　班ごとにプレゼンテーション ？　相互評価 各グループ発表について、疑問点等を質疑検討等すること により、議論を深める。	各班の代表者は、プレゼン資料をウェブクラスに提出する
第６回	研究発表① ？　班ごとにプレゼンテーション ？　相互評価 各グループ発表について、疑問点等を質疑検討等すること により、議論を深める。	・　各班の代表者は、プレゼン資料をウェブクラスに提出する ・　研究発表１についてのレポート提出
第７回	キャリア合同ガイダンス(予定) 5月24日（金）2限（ウィークリーアワー）で実施予定 ?当該週のゼミは、振替休講となる予定。	
第８回	研究発表② ？　事件・事故を中心として班ごとに事実関係を確認のうえ、背景事 情や内在する問題点、対策などについて調査研究し、資料作成の うえプレゼンを行う。 ・　テーマの指定（例：尼崎市における被害者多数の殺人事件 （通称「角田事件」）） ・　班内での役割分担を決め、調査・研究 ・　プレゼン発表準備 ＊　第１３～１４回授業において、班ごとにプレゼン	自身の役割分担について整理して、班別討議に臨むこと
第９回	研究発表② 班ごとのテーマを調査・研究 ＊　第１３～１４回授業において、班ごとにプ	各自が前回の討議内容を理解・整理して、班別最終討議に臨むこと

	レゼン	
第１０回	研究発表② 班ごとのテーマを調査・研究 ＊　第１３～１４回授業において、班ごとにプレゼン	各班の代表者は、プレゼン資料をウェブクラスに搭載する
第１１回	文書検索研修 １号館２階西端の部屋(クラボレーションルーム)　6／24 ＊ノートパソコン必需	
第１２回	研究発表② 班ごとのテーマを調査・研究 ＊　第１３～１４回授業において、班ごとにプレゼン	レポート課題について、必要な資料収集を行うなど準備をして臨むこと
第１３回	研究発表② ？　班ごとにプレゼンテーション ？　相互評価 各グループ発表について、疑問点等を質疑検討等すること により、議論を深める。	各班の代表者は、プレゼン資料をウェブクラスに搭載する
第１４回	研究発表② ？　班ごとにプレゼンテーション ？　相互評価 各グループ発表について、疑問点等を質疑検討等すること により、議論を深める。	・　各班の代表者は、プレゼン資料をウェブクラスに提出する ・　研究発表２についてのレポート提出
第１５回	振り返りとまとめ ・　本演習を振り返り、疑問点や課題について討議を行い、課題 を解決する。 ・　春学期の振り返りレポート(800 字程度)を作成し、WebClass へ提出する。 ・　秋学期は、各人で事例研究しプレゼンを行うので、夏休みに テーマ選定等の準備をしておく。	各自、春学期の総括を行って授業に臨むこと

1.授業コード（ナンバリング）	SMN201-Y11	2.科目名	専門演習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	髙橋浩樹				
5.授業科目の区分	警察分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：社会的耳目を集めた事件や事故、ネット空間における問題点等を題材として、情報の収集と分析、グループ討議、プレゼンテーションを通して、物事、自己の主張を他者に正しく伝えるスキルを身に付けることを目的とします。 概要：各班においてテーマを選定し、情報検索、グループ討議（問題点、再発防止策等）、発表案（プレゼン資料、読み原稿等）の作成及び発表を行います。 ※各回ノートパソコンを持参して下さい。 初回にグループ分けを実施しますので、必ず出席して下さい。				
18.学習目標とＤＰとの関連	ＤＰの(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門的知識・技能の学修に関連しています。 ① 多様な情報源から必要かつ信頼できる情報を収集し、分類することができる ② 必要な情報を自分の主張の裏付けとして活用することができる ③ 決められた条件の中で知見や考えを表現することができる ④ 他者の発言の論点を理解したうえで自己の意見を示すことができる ⑤ 犯罪に関連する専門的知識を獲得することができる				
19.教科書・教材	特にありません				
20.参考文献	適宜紹介します。				
21.成績評価	・テーマレポート　40%　学習目標①、②、⑤に対応 ・プレゼンテーション　40%　学習目標③に対				

	応 ・ディスカッションにおける質疑・発言　20%　学習目標④に対応
22.コメント	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日昼休み 研究室オフィスアワー：金曜日昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・オリエンテーション：演習の内容と進め方に関する説明 ・メンバー紹介：自己紹介、習得目標等 ・班編成 ・意見聴取、要望・質疑等	自己アピールポイントをまとめておくこと
第 2 回	研究発表 ・ディスカッション、グループワーク 社会的反響の大きい事件を中心に各班ごとにテーマを選定し事実認定、対策の検討、資料の作成、発表を行う。 ・第 5 回授業において各班ごとに発表	各自が発表テーマ候補を選定し、班内での討議に備えて考えをまとめておくこと
第 3 回	・ディスカッション、グループワーク 研究課題について発表に向けた作業（各班）　役割分担の付与	発表テーマに関して、班内での討議に備え、情報収集・分析、考察のまとめを行うこと
第 4 回	・ディスカッション、グループワーク 研究課題について発表に向けた作業（各班）	各自が討議内容をまとめ班内に置いて討議できる準備を行う こと 各班代表者は終了時、資料を WebClass に搭載すること
第 5 回	研究発表 ・プレゼンテーション　各班ごとの発表 ・ディスカッション　他班からの質疑応答にこたえ、各班ごとの良好点、欠点をお互い討議する。	発表班はプレゼンテーションの準備を行っておくこと 発表班以外のゼミ員は、各自質問事項をまとめておくこと
第 6 回	研究発表 ・ディスカッション、グループワーク 社会的反響の大きい事件を中心に各班ごとにテーマを選定し事実認定、対策の検討、資料の作成、発表を行う。 ・第 9 回授業において各班ごとに発表	各自が発表テーマ候補を選定し、班内での討議に備えて考えをまとめておくこと
第 7 回	・キャリア教育 5 月 24 日ウィークリーアワー（評価と実践　金曜日 1 限）の時間にゼミの振替として実施	発表テーマに関して、班内での討議に備え、情報収集・分析、考察のまとめを行うこと
第 8 回	・ディスカッション、グループワーク 研究課題について発表に向けた作業（各班）	各自が討議内容をまとめ班内に置いて討議できる準備を行うこと

		各班代表者は終了時、資料を WebClass に搭載すること
第 9 回	研究発表 ・プレゼンテーション　各班ごとの発表 ・ディスカッション　同一テーマにおいて班毎の分析の相違等の要因等について討議する。	発表班はプレゼンテーションの準備を行っておくこと 発表班以外のゼミ員は、各自質問事項をまとめておくこと
第 10 回	研究発表 ・ディスカッション、グループワーク 　社会的反響の大きい事件を中心に各班ごとにテーマを選定し事実認定、対策の検討、資料の作成、発表を行う。 ・第 13 回授業において各班ごとに発表	各自が発表テーマ候補を選定し、班内での討議に備えて考えをまとめておくこと
第 11 回	・ディスカッション、グループワーク 　研究課題について発表に向けた作業（各班）　役割分担の付与	発表テーマに関して、班内での討議に備え、情報収集・分析、考察のまとめを行うこと
第 12 回	・ディスカッション、グループワーク 　研究課題について発表に向けた作業（各班）	各自が討議内容をまとめ班内に置いて討議できる準備を行うこ と 各班代表者は終了時、資料を WebClass に搭載すること
第 13 回	研究発表 ・プレゼンテーション　各班ごとの発表 ・ディスカッション　同一テーマにおいて班毎の分析の相違等の要因等について討議する。	発表班はプレゼンテーションの準備を行っておくこと 発表班以外のゼミ員は、各自質問事項をまとめておくこと
第 14 回	○　統括、本演習を振り返り、各プレゼンテーションに関して補正すべき事項を考察する。（ディスカッション）	各自プレゼンテーション資料の再考を行うこと
第 15 回	○　統括、まとめ　本演習を通して疑問点や課題について討議を行い、問題・課題解決をはかる。（ディスカッション）	各自自らの総括を行い、反省点・改良点等をまとめておくこと

1.授業コード（ナンバリング）	SMN201-Y12	2.科目名	専門演習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科(クラス分けの通り)			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本授業では、卒業論文執筆につながる基礎的スキルを身に着けることを目的とする。 具体的には心理学的視点で社会問題について考察し、専門書を読み解き、レジュメを作成すること、心理検査を行い、報告書を作成することを通してレポート・ライティングのスキルを身に着ける。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 科目の学習目標は以下の通りです。 ①自分の興味にそった社会問題をみつけ、心理学的視点で考察することができる。 ②専門書を読み解くことができる。 ③課題ごとに出されるレポートを執筆し、推敲することができる。				
19.教科書・教材	なし。ノートパソコンを毎回持参すること。				
20.参考文献	適宜、紹介する。				
21.成績評価	①興味ある領域のプレゼンテーション・・・30 点（学習目標①に対応） ②指定された専門書担当部分のレジュメ作成と発表・・・30 点（学習目標②に対応） ③レポート・・・40 点（学習目標③に対応）				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス 自己紹介のワーク	★毎回持参：ノートパソコン 宿題：ブックレポートの選書
第 2 回	社会的問題の考察に取り組む チームで社会的問題を取り上げ、問題発見→仮説立案→考察　を行う。 ①テーマを決める	宿題：ブックレポートのための書籍決定 提出：e ポートフォリオのふり返りと目標設定
第 3 回	社会的問題の考察に取り組む チームで社会的問題を取り上げ、問題発見→仮説立案→考察　を行う。 ②問題を発見する	宿題：ブックレポートの作成
第 4 回	社会的問題に取り組む 社会的問題の考察に取り組む チームで社会的問題を取り上げ、問題発見→仮説立案→考察　を行う。 ②仮説を立てる	宿題：ブックレポートの作成
第 5 回	社会的問題に取り組む	提出：ブックレポート

	チームで社会的問題を取り上げ、問題発見→仮説立案→考察　を行う。 ①考察する	
第 6 回	プレゼン チーム内でメンバー全員が成果を発表する。	
第 7 回	キャリア合同ガイダンス　※ウィークリーアワーで実施	
第 8 回	プレゼン ゼミ内で優秀者のプレゼンを行う	宿題：社会問題レポート
第 9 回	心理検査(知能検査）① 理論について学び、検査を実施する。	
第 10 回	心理検査（知能検査）② 検査を実施する。	
第 11 回	心理検査（知能検査）③ 得点化する。	宿題：得点化 提出：社会問題レポート
第 12 回	知能検査④ 所見の書き方を学ぶ。	宿題：所見
第 13 回	心理検査(人格検査）① 理論について学び、検査を実施する。	提出：知能検査所見 宿題：心理検査結果をまとめる
第 14 回	心理検査(人格検査）② 理論について学び、検査を実施する。	持参：前回の宿題 宿題：所見を書く
第 15 回	まとめとふりかえり	持参：前回の宿題、パソコン

1.授業コード（ナンバリング）	SMN201-Y13	2.科目名	専門演習 I	3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子				
5.授業科目の区分	【基幹科目】臨床心理分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科(クラス分けの通り)			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：本演習の目的は、興味あるテーマについて探求する楽しさを知ることです。 概要：興味関心のあるテーマについて学期の終わりまでにパワポを作成し、プレゼンを実施します。そのプロセスにおいて、以下のことを学びます。論文やサイトの検索、論文を読むこと、論文を要約すること、テーマのまとめ方、jamboard や mindmeister 等オンラインツールの使用等。また、教員によるミニ講義を聞いて行うディスカッション等、ゼミ生の希望を取り入れて授業を進めて行きます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の 1.自律性、4.問題発見・解決力、5.コミュニケーションスキルの学修に関連している。 本科目の学習目標は次の通りである。 ①心理学領域の中に、興味ひかれるテーマをみつけている ②心理学の専門書を読み、内容をまとめることができる ③探求する楽しさを知り、自ら進んで学ぶ姿勢を身につけている ④研究のための多様なアプローチを考えることができる ⑤仲間と協働する楽しさを知っている				
19.教科書・教材	特に指定しない				
20.参考文献	適宜、紹介する。				
21.成績評価	①興味ある領域のプレゼンテーション・・・30 点（学習目標①②③④に対応） ②mindmeister を用いた専門書の要約・・・30 点（学習目標②④に対応） ③　アサインメント提出・・・３０点（学習目標③④に対応） ④　総括レポート・・・１０点（学習目標③④⑤に対応）				
22.コメント	毎回ノートパソコンを持参してください。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：木曜日 2 限 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 進め方の説明　　自己紹介　jamboard に触れる	パソコンを持参すること。
第 2 回	mindmeister の使い方　自己紹介 map 作成	mindmeister で自己紹介 map の作成
第 3 回	最終プレゼンの課題と様式を考える	次回、最終プレゼンの課題と様式の発表の準備
第 4 回	最終プレゼンの課題と様式の発表	次回輪読の下読み 最終プレゼンに向けた自主的調査研究
第 5 回	論文の輪読(専門書) 1	内容要約　次回の分の下読み

第 6 回	論文の輪読(専門書)2	内容の要約
第 7 回	キャリア合同ガイダンス　　詳細未定	最終プレゼンに向けた自主的調査研究　　次回中間発表の準備
第 8 回	最終プレゼンの中間発表	
第 9 回	希望によるミニ講義とディスカッション 1	最終プレゼンに向けた自主的調査研究
第 10 回	希望によるミニ講義とディスカッション 2	最終プレゼンに向けた自主的調査研究
第 11 回	希望によるミニ講義とディスカッション 3	最終プレゼンに向けた自主的調査研究 次週発表者は発表前日までにパワポの提出
第 12 回	最終プレゼン 6 名	最終プレゼンに向けた自主的調査研究 次週発表者は発表前日までにパワポの提出
第 13 回	最終プレゼン 6 名	最終プレゼンに向けた自主的調査研究 次週発表者は発表前日までにパワポの提出
第 14 回	最終プレゼン 6 名	
第 15 回	まとめとふりかえり	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN201-Y15	2.科目名	専門演習 I	3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	卒業論文執筆につながる基礎的スキルを身に着けることを目的とする。 この演習では，心理学の研究が世の中でどのような役割を持っており，学ぶことで何が得られるのか理解し，説明するできるようになることを目指す。また，ディスカッションや専門書の輪読，プレゼンテーション，ライティング等を通して科学的な思考法の基盤を作る。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル，の学修に関連しています。 科目の学習目標は以下の通りです。 ①自分の興味にそった心理学の領域を見つけることができる。 ②理解した内容を発表し，他者に伝えることができる。 ③グループ内で円滑にコミュニケーションができる。 ③レポートを執筆し、推敲することができる。				
19.教科書・教材	なし。ノートパソコンを毎回持参すること。				
20.参考文献	適宜、紹介する。				
21.成績評価	①各回の振り返りシート・・・1 点×15 回=15 点（学習目標③に対応） ②各回の OneMinutePaper・・・1 点×15 回=15 点（学習目標①に対応） ③中間発表および最終発表へのピア評価・・・25×2 回=50 点（学習目標②に対応） ④最終レポート・・・20 点×1 回=20 点（学習目標④に対応）				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス 昨年度のふりかえりと今年度の目標設定 ベンチマーク，e ポートフォリオの作成 演習の目的の説明	★毎回持参：ノートパソコン 提出①：ブックレポートを Weclass に提出すること。 提出②：e ポートフォリオのふり返りと目標設定
第 2 回	課題設定とグループ分け	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper
第 3 回	グループワーク 1 －① 注意事項の説明	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper
第 4 回	グループワーク 1 －②	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper
第 5 回	グループワーク 1 －③	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper
第 6 回	中間発表資料の作り方	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper

第 7 回	キャリア合同ガイダンス　5 月 31 日（金）2 限（ウィークリーアワー）で実施	
第 8 回	中間評価	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper 提出③ピア評価シート 提出④中間発表資料
第 9 回	グループワーク 2 －①	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper
第 10 回	グループワーク 2 －②	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper
第 11 回	グループワーク 2 －③	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper
第 12 回	最終発表準備	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper
第 13 回	最終発表	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper 提出③ピア評価シート 提出④最終発表資料
第 14 回	最終発表への学生間フィードバック レポートのまとめ方	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper 提出③改稿最終発表資料
第 15 回	まとめとふりかえり	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper 提出③レポート

1.授業コード（ナンバリング）	SMN201-Y16	2.科目名	専門演習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科（エントリーシートに基づく配置）			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本授業では、卒業論文執筆につながる基礎的スキルを身につけることを目的とする。 具体的には①心理学的視点で社会問題について考察し、②それぞれの関心に基づいてキーワードを考え、③図書、論文を検索し、読み、④Hand out を作成し、⑤発表し、⑥話合うこと、⑦レポート・ライティングのスキル、⑧プレゼンテーション法を磨くことの 2 点を目的とする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 科目の学習目標は以下の通りです。 ①心理学的問題に関する図書を読み解くことができる。 ②自分の興味にそった社会問題をみつけ、心理学的視点で考察することができる。 ③課題についてレポートを作成し、発表できる。				
19.教科書・教材	特に指定しない。ノートパソコンを毎回持参すること。				
20.参考文献	適宜、紹介します。Bran Nicol 著　Stalking				
21.成績評価	①テーマへのレポート・・・30 点（学習目標①に対応） ②関心のあるテーマの図書・論文の hand out 作成と発表・・・30 点（学習目標②に対応） ③レポート(中間と総括)・・・40 点（学習目標③に対応）				
22.コメント	自分の力を信じて、進みましょう。わからないことは、いろいろな人に助けてもらいましょう。				
23.オフィスアワー	水曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	ガイダンス	PC,　シラバス
2	ストーキングとは何か	PC,　Web Class にレポート報告
3	現代文化におけるストーキング	PC,　Web Class にレポート報告
4	ストーカーになる	PC,　Web Class にレポート報告
5	ストーキングと愛	PC,　Web Class にレポート報告
6	ストーキングと道徳	PC,　Web Class にレポート報告
7	前半のまとめ	PC,　Web Class にレポート報告
8	関心のある心理学的テーマの探し方	PC
9	キーワードから検索した図書や論文の報告	PC,　Web Class にレポート報告
10	図書や論文のまとめ方、Hand out の作り方	PC,　Web Class にレポート報告
11	Hand out の報告と話合い	PC,　Web Class にレポート報告
12	Hand out の報告と話合い	PC,　Web Class にレポート報告
13	Hand out の報告と話合い	PC,　Web Class にレポート報告
14	Hand out の報告と話合い	PC,　Web Class にレポート報告
15	まとめ	PC,　Web Class にレポート報告

1.授業コード（ナンバリング）	SMN202-Y01	2.科目名	専門演習 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	横山雅彦				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	4 年次の卒業論文執筆に向けて、担当者の専門である地域研究、比較文明学の方法論を学び、問題の背景に迫るための知識を身につける。同時に、進路選択の準備を行う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 資料の収集、読解、わかりやすい発表、レジュメ作成、論文作成、という一連の作業の達成を最終目標とする。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、4)の問題発見・解決力、(5)のコミュニケーションスキル、(6)の専門的知識・技量の応用力と連関するものである。				
19.教科書・教材	エドウィン・O・ライシャワー『ザ・ジャパニーズ』（角川ソフィア文庫） https://www.kadokawa.co.jp/product/321810000917/ 伊東俊太郎『比較文明学を学ぶ人のために』（世界思想社） https://sekaishisosha.jp/book/b354713.html ＊購入方法については、第 1 回の講義で説明する。				
20.参考文献					
21.成績評価	発表　30 点 討議への参加、貢献度　20 点 レポート　50 点				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 自己紹介	
第 2 回	各回担当を決め、以下の教科書を輪読、講義、討論する。 『ザ・ジャパニーズ』 『比較文明学を学ぶ人のために』	
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		

第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		
第 15 回		

1.授業コード（ナンバリング）	SMN202-Y02	2.科目名	専門演習 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	Patrick Shorb				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語教育学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	Students Determined by Department before Semester				
17.授業の目的と概要	This seminar's theme focuses on the topic of "Japan and the World." By looking at the history of Japan and how it interacted with the larger world, this course will provide students with a foundation to generate research questions for their future senior				
18.学習目標とＤＰとの関連	Course Objectives This course is designed to start the research processes necessary for graduation thesis. By the time students have completed this course they should be able to: 1. Have a Comprehensive Understanding of Japanese Historical Development and How it Relates to the Wider World. 2. Identify Different Ways to Evaluate the Credibility and Reliability of a Source 3. Show Understanding of Existing Research Literature by Formulating a Research Question that Builds on It. 4. Perform Effectively in Group Work Settings by Collaboratively Completing an In-class Presentation and a Research Project. 5. Differentiate between Different Types of Research Data and Explain which Methods are Best to gather it. 6. Demonstrate Ability to Analyze Data and Communicate Research Results through an Individual Presentation and Final Project.				
19.教科書・教材	Textbooks are required. They can be purchased online through the UNIPA Kinokuniya link: 1. Brett Walker, A Concise History of Japan, paperback, (Cambridge, UK: Cambridge University, 2015); ISBN: 976-0-521-17872-3. 2. 渡辺晃弘，山本博文，日本史探究:Advanced Japanese H				
20.参考文献					
21.成績評価	Class Participation:　40% Assignment 1 (Short Essay): 10% Assignment 2 (Group Project --Primary Source-Data Analysis Report): 20% Final Individual Project: 30%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Course Introduction: Course Content and assessments Student Interest Inventory	Getting Started: What is a Textbook?
Week 2	Becoming a Skeptic: Thinking Critically	Thinking About Japanese History: Walker, pp. 2-9 Watanabe & Yamamoto, pp. 2-3
Week 3	Becoming a Researcher: From Interesting Topic to Research Problem	Thinking About Japanese History: Why does Ancient History Matter?

Week 4	Becoming a Scholar: Literature Review Workshop	Thinking About Japanese History: Placing Medieval Japan in World History
Week 5	Becoming a Research Collaborator: Group Presentations	Thinking About Japanese History: Establishing the Tokugawa State
Week 6	Becoming a Problem Maker: Formulating Research Questions	Thinking About Japanese History: The Fall of the Tokugawa State
Week 7	Becoming a Problem Solver I: Considering Research Methods and Designs	Thinking About Japanese History: Creation of the Modern Japanese State
Week 8	Becoming a Problem Solver II: Research Methods and Designs Continued	Thinking About Japanese History: The Japanese Empire in Global History
Week 9	Becoming a Data Collector: Issues of Collecting and Using Data Group Projects Due	Thinking About Japanese History: Imperial Democracy I
Week 10	Becoming an Analyst: Data Processing and Analysis	Thinking About Japanese History: Imperial Democracy (II) and World History
Week 11	Becoming a Communicator: Issues in Presenting and Communicating Research Results	Thinking About Japanese History: Road to War (I)
Week 12	Becoming an `Expert:` Pulling Together Literature, Research Question, Research Design and Data Analysis Indiviudal Literature Review Due	Thinking About Japanese History: Road to War (II)
Week 13	Presentations 1	Individual Presentation Preparation
Week 14	Presentations 2	Final Project Preparation
Week 15	Becoming a Self-Reflective Learner - Thoughts on the Semester	Final Project Preparation

1.授業コード（ナンバリング）	SMN202-Y04	2.科目名	専門演習 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	遠藤泰生				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	無し	11.先修条件	無し		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	無し				
17.授業の目的と概要	【目的】 卒業論文のテーマ設定と卒業後の進路選択の準備を行う。大学での学びは公共の空間に自分を位置づけるための準備であることを知る。 【概要】 さまざまの研究を学ぶ。共通のテクストを輪読すると同時に、学生は各人の問題関心を深める読書を平行して行う。それらの読書やクラスでの報告、討議から得られる知見を、自分の言葉で整理し、最終レポートにまとめる。				
18.学習目標とＤＰとの関連	(4)　問題発見・解決力 卒論のテーマを絞りこむ過程において、先行研究を参考に問題発見や解決のための方法を学ぶ。 (5)　コミュニケーションスキル 報告、討議、レポートの執筆を通して、公共の空間に向けて己の見解を論理的に表明する言葉を身に付ける。 (6) 専門的知識・技量の応用力 研究テーマを探す際に専門図書・論文の検索を行い、それらから得られる知見を己の問題関心を磨き出すのに役立てる。				
19.教科書・教材	1．Florian Coulmas, Identity: A Very Short Introduction (Oxford University Press) 2．有吉佐和子『非色』(河出文庫) 3．　レベッカ・ソルニット『説教したがる男たち』(左右社) 4．ジョン・オカダ『ノーノー―ボーイ』(旬報社)				
20.参考文献	１．本田勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫、2015) ２．佐藤望・横山千晶・湯川武・近藤明彦『アカデミック・スキルズ（第 3 版）――大学生のための知的技法入門』(慶応義塾大学出版会、2020)				
21.成績評価	クラス報告 30%、討議への貢献 20 パーセント、最終レポート 50%。 合算で 60%以上の得点を合格とする。				
22.コメント	このゼミでは学生は何をテーマに学んでもよい。輪読するテクストは現代世界を考えるのに必要な視野を育てるのに役立つものを選んでいる。日本語翻訳、英語版、学生はどちらの版で読んでも構わない。You can read textbooks in English.				
23.オフィスアワー	水曜昼休み、もしくは、事前に予約した時間。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	導入：１．論文執筆の社会的意義と責任の確認 ＝論文を書くことは公の行為であることを自覚する ２．論文執筆への学びのステップ確認	シラバスをよく読んでくる

	3．一年の学習ルートの確認	
第２回	Ice Breaking: ゼミ生自己紹介（ゼミ生全員、２年次における GR 学習の成果紹介、今年度の抱負）	自己紹介は PPT 使用せず、対面対話を念頭に行うこと。わかりにくい用語、図表などは参考資料として配布。
第３回	Coulmas, Identity Introduction	テクスト精読の予習
第４回	Coulmas, Identity Chapter 3	テクスト精読の予習
第５回	Coulmas, Identity Chapter 4	テクスト精読の予習
第６回	Coulmas, Identity Chapter 5	テクスト精読の予習
第７回	Coulmas, Identity Chapter 7	テクスト精読の予習
第８回	Coulmas, Identity Chapter 10	テクスト精読の予習
第９回	有吉佐和子『非色』①	『非色』精読と批評の予習
第１０回	有吉佐和子『非色』②	『非色』精読と批評の予習
第１１回	有吉佐和子『非色』③	『非色』精読と批評の予習
第１２回	有吉佐和子『非色』④	PPT 使用可
第１３回	映画『ウェストサイド・ストーリー』鑑賞	20 世紀半ばのニューヨークについてネットで事前学習。
第１４回	学期の学びをレビュー	学期末レポートのレジュメ作成
第１５回	学期末レポート（本文約 3000 字。形式にとくに注意。）	レポートの草稿提出

1.授業コード（ナンバリング）	SMN204-A01	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習 II		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村正仁					
5.授業科目の区分	総合演習科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	経営学科		11.先修条件	プロジェクトマネジメント演習 I の履修が望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	グループワークと学外施設の見学による実習型授業のため、原則として「オンライン受講」は許可しない。					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会では企業体や組織の中で人と関わりながら、グループやチームで仕事をすることが多くなる。 また、有期で（期限が決められていて）、特定のミッション（特別な目的や目標）を与えられた「プロジェクト」に取り組むことが多くある。 そういったことを踏まえてこの授業では、「プロジェクトマネジメント」に必要な基本的スキルを身につける。 さらに、経営学の実践事例となる「企業家」の研究を通じて、経営学の基礎を再確認し理解を深める。 【概要】 ・文献等の調査や検索の基礎知識を身につける。 ・複数名によるグループワー					
18.学習目標とＤＰとの関連	■本科目の学習目標 ①互いにコミュニケーションを取りながら、グループワークに積極的に取り組むことができる。 ②文献検索や実際の活動記録などを調査・分析し、課題発見力と解決力を身につける。 ③実在する企業経営者の活動や業績の分析を通じて、経営学の実践面を学ぶ。 ④計画的に行動し、活動を記録・報告する能力を身につける。 ■本科目の学習目標は以下の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 （１）自律性 （４）問題発見・解決力 （５）コミュニケーションスキル （６）専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	指定しない。必要に応じて適宜提示する。					
20.参考文献	必要に応じて適宜提示する。					
21.成績評価	・グループワーク（１）（企業家研究１：事前学習）：10% ・グループワーク（２）（企業家研究１：事後学習）：10% ・グループワーク（３）（企業家研究２：事前学習）：10% ・グループワーク（４）（企業家研究２：事後学習）：20% ・企業家研究１レポート：10% ・企業家研究２レポート：10% ・総括レポート：20% ・修学カルテ（e ポートフォリオ）：10%					
22.コメント	・各回ともノートパソコンを必ず持参すること。 ・企業家研究では学外での活動を予定している。したがって通常の授業コマとは異なる曜日･時					

	間に授業を実施する可能性がある。
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜日４限 センターオフィスアワー：火曜日３限

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回	ガイダンス ■ 授業の目的と進め方	ノートＰＣ持参
第 02 回	■メディア・ライブラリー実習 本学のメディア・ライブラリー活用のための実習をおこないます。	ノート PC 持参
第 03 回	■企業家研究１（事前学習①） グループ編成を行い、企業家研究の進め方を学びます。	ノート PC 持参
第 04 回	■企業家研究１（事前学習②） 大阪企業家ミュージアムの見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 05 回	■企業家研究１（大阪企業家ミュージアム見学） 大阪企業家ミュージアムを実際に見学し、関西出身の企業家の活動や実績を学びます。(実際の見学日はグループで決定します)	・別途指示
第 06 回	■企業家研究１（事後学習①） 大阪企業家ミュージアムの見学での学びをまとめます。	・ノート PC 持参
第 07 回	■企業家研究２（企業家研究１発表会） 企業家研究１のまとめを発表します。	・ノート PC 持参
第 08 回	■企業家研究２（事前学習①） 特定の企業家（経営者）を選定し、調査分析を行います。	・ノート PC 持参
第 09 回	■企業家研究２（事前学習②） その企業家に関連する企業博物館の見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 10 回	■企業家研究２（企業博物館見学） その企業家の企業博物館を実際に見学します。(実際の見学日はグループで決定します)	ノート PC 持参
第 11 回	■企業家研究２（事後学習①） その企業家の調査研究結果をまとめます。	・ノート PC 持参
第 12 回	■企業家研究２（事後学習②） その企業家の調査研究結果をまとめます。(つづき)	・別途指示
第 13 回	■企業家研究２（企業家研究２発表会） 企業家研究２のまとめを発表します。	ノート PC 持参
第 14 回	■インターンシップガイダンス 夏学期に実施するインターンシップⅠのガイダンスを実施します。	ノート PC 持参
第 15 回	■総括と振り返り 科目全体の総括と振り返りを行います。また、最終課題と評価方法について説明します。	ノート PC 持参

1.授業コード（ナンバリング）	SMN204-A02	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習 II		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中智子					
5.授業科目の区分	総合演習科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	経営学科		11.先修条件	プロジェクトマネジメント演習 I の履修が望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	グループワークと学外施設の見学による実習型授業のため、原則として「オンライン受講」は許可しない。					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会では企業体や組織の中で人と関わりながら、グループやチームで仕事をすることが多くなる。 また、有期で（期限が決められていて）、特定のミッション（特別な目的や目標）を与えられた「プロジェクト」に取り組むことが多くある。 そういったことを踏まえてこの授業では、「プロジェクトマネジメント」に必要な基本的スキルを身につける。 さらに、経営学の実践事例となる「企業家」の研究を通じて、経営学の基礎を再確認し理解を深める。 【概要】 ・文献等の調査や検索の基礎知識を身につける。 ・複数名によるグループワー					
18.学習目標とＤＰとの関連	■本科目の学習目標 ①互いにコミュニケーションを取りながら、グループワークに積極的に取り組むことができる。 ②文献検索や実際の活動記録などを調査・分析し、課題発見力と解決力を身につける。 ③実在する企業経営者の活動や業績の分析を通じて、経営学の実践面を学ぶ。 ④計画的に行動し、活動を記録・報告する能力を身につける。 ■本科目の学習目標は以下の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 （１）自律性 （４）問題発見・解決力 （５）コミュニケーションスキル （６）専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	指定しない。必要に応じて適宜提示する。					
20.参考文献	必要に応じて適宜提示する。					
21.成績評価	・グループワーク（１）（企業家研究１：事前学習）：10% ・グループワーク（２）（企業家研究１：事後学習）：10% ・グループワーク（３）（企業家研究２：事前学習）：10% ・グループワーク（４）（企業家研究２：事後学習）：20% ・企業家研究１レポート：10% ・企業家研究２レポート：10% ・総括レポート：20% ・修学カルテ（e ポートフォリオ）：10%					
22.コメント	・各回ともノートパソコンを必ず持参すること。 ・企業家研究では学外での活動を予定している。したがって通常の授業コマとは異なる曜日･時					

	間に授業を実施する可能性がある。
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜日４限 センターオフィスアワー：火曜日３限

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回	ガイダンス ■ 授業の目的と進め方	ノートＰＣ持参
第 02 回	■メディア・ライブラリー実習 本学のメディア・ライブラリー活用のための実習をおこないます。	ノート PC 持参
第 03 回	■企業家研究１（事前学習①） グループ編成を行い、企業家研究の進め方を学びます。	ノート PC 持参
第 04 回	■企業家研究１（事前学習②） 大阪企業家ミュージアムの見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 05 回	■企業家研究１（大阪企業家ミュージアム見学） 大阪企業家ミュージアムを実際に見学し、関西出身の企業家の活動や実績を学びます。(実際の見学日はグループで決定します)	・別途指示
第 06 回	■企業家研究１（事後学習①） 大阪企業家ミュージアムの見学での学びをまとめます。	・ノート PC 持参
第 07 回	■企業家研究２（企業家研究１発表会） 企業家研究１のまとめを発表します。	・ノート PC 持参
第 08 回	■企業家研究２（事前学習①） 特定の企業家（経営者）を選定し、調査分析を行います。	・ノート PC 持参
第 09 回	■企業家研究２（事前学習②） その企業家に関連する企業博物館の見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 10 回	■企業家研究２（企業博物館見学） その企業家の企業博物館を実際に見学します。(実際の見学日はグループで決定します)	ノート PC 持参
第 11 回	■企業家研究２（事後学習①） その企業家の調査研究結果をまとめます。	・ノート PC 持参
第 12 回	■企業家研究２（事後学習②） その企業家の調査研究結果をまとめます。(つづき)	・別途指示
第 13 回	■企業家研究２（企業家研究２発表会） 企業家研究２のまとめを発表します。	ノート PC 持参
第 14 回	■インターンシップガイダンス 夏学期に実施するインターンシップⅠのガイダンスを実施します。	ノート PC 持参
第 15 回	■総括と振り返り 科目全体の総括と振り返りを行います。また、最終課題と評価方法について説明します。	ノート PC 持参

1.授業コード（ナンバリング）	SMN204-A03	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	越山泰子				
5.授業科目の区分	総合演習科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生
10.取得資格の要件	経営学科	11.先修条件	プロジェクトマネジメント演習 I の履修が望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	グループワークと学外施設の見学による実習型授業のため、原則として「オンライン受講」は許可しない。				
17.授業の目的と概要	【目的】 社会では企業体や組織の中で人と関わりながら、グループやチームで仕事をすることが多くなる。 また、有期で（期限が決められていて）、特定のミッション（特別な目的や目標）を与えられた「プロジェクト」に取り組むことが多くある。 そういったことを踏まえてこの授業では、「プロジェクトマネジメント」に必要な基本的スキルを身につける。 さらに、経営学の実践事例となる「企業家」の研究を通じて、経営学の基礎を再確認し理解を深める。 【概要】 ・文献等の調査や検索の基礎知識を身につける。 ・複数名によるグループワー				
18.学習目標とＤＰとの関連	■本科目の学習目標 ①互いにコミュニケーションを取りながら、グループワークに積極的に取り組むことができる。 ②文献検索や実際の活動記録などを調査・分析し、課題発見力と解決力を身につける。 ③実在する企業経営者の活動や業績の分析を通じて、経営学の実践面を学ぶ。 ④計画的に行動し、活動を記録・報告する能力を身につける。 ■本科目の学習目標は以下の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 （１）自律性 （４）問題発見・解決力 （５）コミュニケーションスキル （６）専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	指定しない。必要に応じて適宜提示する。				
20.参考文献	必要に応じて適宜提示する。				
21.成績評価	・グループワーク（１）（企業家研究１：事前学習）：10% ・グループワーク（２）（企業家研究１：事後学習）：10% ・グループワーク（３）（企業家研究２：事前学習）：10% ・グループワーク（４）（企業家研究２：事後学習）：20% ・企業家研究１レポート：10% ・企業家研究２レポート：10% ・総括レポート：20% ・修学カルテ（e ポートフォリオ）：10%				
22.コメント	・各回ともノートパソコンを必ず持参すること。 ・企業家研究では学外での活動を予定している。したがって通常の授業コマとは異なる曜日･時				

	間に授業を実施する可能性がある。
23.オフィスアワー	研究室ーオフィスアワー：　木曜日３限

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回	ガイダンス ■ 授業の目的と進め方	ノートＰＣ持参
第 02 回	■メディア・ライブラリー実習 本学のメディア・ライブラリー活用のための実習をおこないます。	ノート PC 持参
第 03 回	■企業家研究１（事前学習①） グループ編成を行い、企業家研究の進め方を学びます。	ノート PC 持参
第 04 回	■企業家研究１（事前学習②） 大阪企業家ミュージアムの見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 05 回	■企業家研究１（大阪企業家ミュージアム見学） 大阪企業家ミュージアムを実際に見学し、関西出身の企業家の活動や実績を学びます。(実際の見学日はグループで決定します)	・別途指示
第 06 回	■企業家研究１（事後学習①） 大阪企業家ミュージアムの見学での学びをまとめます。	・ノート PC 持参
第 07 回	■企業家研究２（企業家研究１発表会） 企業家研究１のまとめを発表します。	・ノート PC 持参
第 08 回	■企業家研究２（事前学習①） 特定の企業家（経営者）を選定し、調査分析を行います。	・ノート PC 持参
第 09 回	■企業家研究２（事前学習②） その企業家に関連する企業博物館の見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 10 回	■企業家研究２（企業博物館見学） その企業家の企業博物館を実際に見学します。(実際の見学日はグループで決定します)	ノート PC 持参
第 11 回	■企業家研究２（事後学習①） その企業家の調査研究結果をまとめます。	・ノート PC 持参
第 12 回	■企業家研究２（事後学習②） その企業家の調査研究結果をまとめます。(つづき)	・別途指示
第 13 回	■企業家研究２（企業家研究２発表会） 企業家研究２のまとめを発表します。	ノート PC 持参
第 14 回	■インターンシップガイダンス 夏学期に実施するインターンシップⅠのガイダンスを実施します。	ノート PC 持参
第 15 回	■総括と振り返り 科目全体の総括と振り返りを行います。また、最終課題と評価方法について説明します。	ノート PC 持参

1.授業コード（ナンバリング）	SMN204-M01	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	佐藤広志				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	地域防災減災論の受講を推奨		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	指定されたクラスにて履修すること				
17.授業の目的と概要	この授業では、実際のプロジェクトマネジメントに取り組む。 社会においてはチームで仕事をする機会も多く、与えられた条件の中で、決められた期限に、一定の成果を出していくことが求めらる。このような「プロジェクト」をマネジメントするために必要なスキルを身につける。 ①プロジェクトマネジメントの基礎知識と、成果をあげるための計画立案と実施・評価・改善のための基本的なスキルを身につける。 ②地域で実施するプロジェクトの企画 地域の課題を踏まえたイベントを企画する。 ③インターンシップ等準備 インターンシップ先の各団体				
18.学習目標とＤＰとの関連	学習目標① プロジェクトマネジメントに関する知識と技術を身につける 学習目標② プロジェクトの企画立案ができる 学習目標③ インターンシップ参加への準備が整う（マナー、受け入れ先業務への理解等） 学修目標④ 探究に必要な文献を選び読み、条件を満たした文章作成ができる				
19.教科書・教材	教科書の指定はしない。				
20.参考文献	『コンテナ物語』世界を変えたのは「箱」の発明だった，マルク・レビンソン 著，2019，日経BP ISBN:978-4822289935 その他、適宜指示。				
21.成績評価	成績は、WebClas、e ポートフォリオなどの提出データで評価します。 学習目標①ゼミとしてのチーム・プロジェクトを実施し、最後は報告書としてまとめる 20% 学習目標②地域の課題を探り、プロジェクトの企画として提案する 20% 学習目標③インターンシップに行く準備を整える 20% 学習目標④指定したテーマで 2000 字のレポートを作成できる　40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 4/8	◆オリエンテーション　授業の目的と進め方 ・ゼミ長等の決定 ・授業内容の説明（テーマ、資料） ・一部、面談の実施	ノートパソコン必携（全回共通）
第 2 回 4/15	◆課題図書 ・「まえがき」を読む ◆プロジェクト ・ゼミとして取り組めるプロジェクトを考える。	課題成果物の web クラスへの提出

第 3 回 4/22	◆プロジェクト ・ゼミ・プロジェクトの練り込みと準備 ◆テキスト講読	役割に応じた準備
第 4 回 5/13	＜共通プログラム＞ 2 年生の学びやキャリア形成に関する諸説明 ・到達確認試験について ・経験学習について（インターンシップ、グローバルスタディ、サービスラーニング） ・たかはしさんちのプロジェクト、秋学期のゼミ活動（予告）	ワークシートの提出
第 5 回 5/20	◆プロジェクト ・プロジェクト計画の立案 ◆講読つづき	課題成果物の web クラスへの提出
第 6 回 5/27	◆プロジェクト ・プロジェクトの準備 ◆課題図書の講読	課題成果物の web クラスへの提出
第 7 回 6/3	＜共通プログラム＞ 2 年生の学びやキャリア形成に関する諸説明 ・たかはしさんちのプロジェクト計画（ゼミ企画の全体調整） ・避難所運営サポーターについて	web クラスに計画書を提出
第 8 回 6/10	◆プロジェクト ・プロジェクトの遂行等 ◆課題図書の講読つづき	課題成果物の web クラスへの提出
第 9 回 6/17	◆プロジェクト ・プロジェクトの遂行等 ◆課題図書の講読つづき	課題成果物の web クラスへの提出
第 10 回 6/24	◆プロジェクト ・プロジェクトの遂行等 ◆課題図書の講読つづき	インターンシップエントリーシートの記入 課題成果物の web クラスへの提出
第 11 回 7/1	◆プロジェクト ・プロジェクトの遂行等 ◆課題図書の講読つづき	インターンシップエントリーシートの記入・修正 課題成果物の web クラスへの提出
第 12 回 7/8	◆プロジェクト ・プロジェクトの遂行等 ◆課題図書の講読つづき	課題成果物の web クラスへの提出
第 13 回 7/15【平常授業】	◆プロジェクト ・プロジェクトの遂行等 ◆課題図書の講読つづき	課題成果物の web クラスへの提出

第 14 回 7/22	◆プロジェクト ・プロジェクトの遂行等 ◆課題図書の講読つづき	課題成果物の web クラスへの提出
第 15 回 7/29	◆課題図書 ・最終課題の確認 ◆ふりかえりと夏・秋学期の学びについて	E ポートフォリオへの記事投稿

1.授業コード（ナンバリング）	SMN204-M02	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	百濟正和				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	地域防災減災論、セーフティマネジメント論の、２年春学期の同時受講を推奨		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	指定されたクラスにて履修すること				
17.授業の目的と概要	この授業では、実際のプロジェクトマネジメントに取り組む。 社会においてはチームで仕事をする機会も多く、与えられた条件の中で、決められた期限に、一定の成果を出していくことが求められる。このような「プロジェクト」をマネジメントするために必要なスキルを身につける。 ①プロジェクトマネジメントの基礎知識と、成果をあげるための計画立案と実施・評価・改善のための基本的なスキルを身につける。 ②三木市避難所運営サポーターに必要な以下の資質を身につけ、三木市長の委嘱を受ける準備を行う ・防災士資格の取得（別途地域防災減災論				
18.学習目標とＤＰとの関連	学習目標① プロジェクトマネジメントに関する知識と技術を身につける 学習目標② 避難所運営に必要な知識と技術を修得する（定義、役割、応急手当手法） 学習目標③　学園祭の企画立案ができる 学習目標④　インターンシップ参加への準備が整う（マナー、受け入れ先業務への理解等）				
19.教科書・教材	授業時に指定する				
20.参考文献					
21.成績評価	成績は、WebClas、e ポートフォリオなどの提出データで評価します。 学習目標①プロジェクトの個人レポート 40% 学習目標②リフレクションペーパー20% 学習目標②地域マネージメント関連論文リビュー 20% 学習目標③インターンシップのための準備 20%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	学習支援センターからの案内を参照ください				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 4/10	＜両専攻共通プログラム＞ オリエンテーション　授業の目的と進め方 ・「プロジェクト」とは	ノートパソコン必携（全回共通）
第 2 回 4/17	＜ゼミプログラム＞ チームビルディングとゼミ目標の設定 ・チーム分けの方法 ・チーム内コンピテンシー ・専攻にかかわる地域課題 ・「三木市」について知る	ワークシート提出 （ゼミとチームの目標）
第 3 回 4/24	＜両専攻共通プログラム＞ プロジェクトの基礎（目標設定と情報収集） 全体説明→ゼミごとのワーク	ワークシートの提出
第 4 回	＜両専攻共通プログラム＞	ワークシートの提出

5/1	プロジェクトの基礎（立案） 全体説明→ゼミごとのワーク	
第 5 回 5/8	＜両専攻共通プログラム＞ プロジェクトの基礎（計画） 全体説明→ゼミごとのワーク	ワークシートの提出
第 6 回 5/15	＜両専攻共通プログラム＞ プロジェクトの基礎（評価指標の設定と計画の修正） 全体説明→ゼミごとのワーク	ワークシートの提出
第 7 回 5/22	＜専攻別プログラム＞ 避難所運営プロジェクト ①災害時の避難所	web クラスにふりかえりを提出
第 8 回 5/29	＜専攻別プログラム＞ 避難所運営プロジェクト ②避難所運営の課題	web クラスにふりかえりを提出
第 9 回 6/5	＜専攻別プログラム＞ 避難所運営プロジェクト ③地域防災における市民の役割	web クラスにふりかえりを提出
第 10 回 6/12	＜両専攻共通プログラム＞ インターンシップ事前学習 ①目的とマナー	インターンシップエントリーシートの記入
第 11 回 6/19	＜両専攻共通プログラム＞ インターンシップ事前学習 ②目標設定	インターンシップエントリーシートの記入・修正
第 12 回 6/26	＜ゼミプログラム＞ プロジェクトの企画 あじあん祭①	プロジェクト企画書案の提出（チーム）
第 13 回 7/3	＜ゼミプログラム＞ プロジェクトの企画 あじあん祭②	プロジェクト企画書案の提出（チーム）
第 14 回 7/10	＜両専攻共通プログラム＞ インターンシップ事前学習 ③参加前学習と成果報告	インターンシップ参加先情報 PPT の作成
第 15 回 7/24	＜専攻別プログラム＞ 総括と振り返り ・あじあん祭企画発表 ・夏休みプロジェクトの作成（個人） ・インターンシップ準備状況の確認 ・秋学期に実施する地域プロジェクトの情報共有	E ポートフォリオへの記事投稿

1.授業コード（ナンバリング）	SMN204-M03	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会にでると会社や組織で人と関わりながら仕事をしますが、特にチームで仕事をすることが多くなります。また、ルーティンワークとは別に、有期で（期限が決められていて）、ミッション（特別な目的）を与えられたプロジェクトに取り組むこともあります。この授業では、プロジェクトマネジメントに必要な基本的スキルを身につけます。 【概要】 以下の 3 つのプロジェクトを推進する。 ・あじあん祭をマネジメントする「カンパニープロジェクト（物産展）」として参画する。 ・地元企業について知り、将来のキャリアプランを立てる。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 次の 3 つです。 学習目標①イベントの企画立案および準備、運営ができる。 学習目標②自身の将来のキャリアプランを明確にする。 学習目標③ プロジェクトの目標を達成する。 【DP：.卒業の認定に関する方針】 〇問題発見・解決力 組織や集団において情報の収集・分析を行い、問題を発見したり、解決へのアイデアを提案したりできる。 〇コミュニケーションスキル 組織や集団の内外で、他者と意見を交わし調整することができる。 〇専門的知識・技能の活用力 組織や集団の構成員として、マネジメントの知識・技能を、状況に応じて適切に活用することができる。				
19.教科書・教材	授業中に資料を配付します。				
20.参考文献	授業中に紹介します。				
21.成績評価	成績は、WebClas、e ポートフォリオなどの提出データで評価します。 ・学習目標①イベントの企画立案および準備、運営ができる。 30% ・学習目標②自身の将来のキャリアプランを明確にする。20% ・学習目標③ プロジェクトの目標を達成する。30% ・総括レポート：秋学期の学びを統合化する 20%				
22.コメント	プロジェクトマネジメントは、チームワークとスケジュール管理が重要です。遊んでいる学生がいないように全員が前向きに参加することを前提とします。 地域と連携する機会に積極的に参加し、実践的な教育活動の成果とします。 なお、外部講師、学外活動のスケジュールにより、内容を変更することがあります。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー 木曜日 3 限 学修支援センターオフィスアワー（センタープログラム） 木曜日昼休み				
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)		

1回2回 (10/3)	Ⅰ　ガイダンス 、履修登録等 Ⅱ　プロジェクトマネジメント演習Ⅲ（地域マネジメント専攻）の構成とコンセプト	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
3回4回 (10/10)	大学祭の意義、大学祭での地域マネジメントの学びを理解し、10 月 28 日 29 日のあじあん祭に向けて、準備を始める。	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
5回6回 (10/17)	あじあん祭準備	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
7回8回 (10/24)	あじあん祭準備	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
9回10回 (10/28・29)	あじあん祭を運営する。【代休：10/31】	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
11回12回 (11/7)	あじあん祭ふりかえり	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
13回14回 (11/14)	Ⅰ　企業説明会事前学習 Ⅱ　大和ハウス工業　講話	授業で実施したこと、学んだことなど（授業中に提示）を WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
15回16回 (11/21)	企業説明会	授業で実施したこと、学んだことなど（授業中に提示）を WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：以下、各回共通＞
17回18回 (11/28)	Ⅰ　企業説明会ふりかえり Ⅱ　三木市危機管理課　講話	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
19回20回 (12/5)	Ⅰ　到達確認試験の準備① Ⅱ　ナリス化粧品事前学習	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
21回22回 (12/12)	ナリス化粧品企業資料館　見学	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞

23 回 24 回 (12/19)	ナリス化粧品　ふりかえり	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
25 回 26 回 (1/16)	アスリートのセカンドキャリア	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
27 回 28 回 (1/23)	到達確認試験の準備②③　模擬試験	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
29 回 30 回 (1/30)	Ⅰ　到達確認試験の準備④ Ⅱ　２年生のふりかえり～３年生に向けて	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞

1.授業コード（ナンバリング）	SMN204-M04	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	田中綾子				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	地域防災減災論の受講を推奨		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	指定されたクラスにて履修すること				
17.授業の目的と概要	この授業では、実際のプロジェクトマネジメントに取り組む。 社会においてはチームで仕事をする機会も多く、与えられた条件の中で、決められた期限に、一定の成果を出していくことが求めらる。このような「プロジェクト」をマネジメントするために必要なスキルを身につける。 ①プロジェクトマネジメントの基礎知識と、成果をあげるための計画立案と実施・評価・改善のための基本的なスキルを身につける。 ②三木市避難所運営サポーターに必要な以下の資質を身につけ、三木市長の委嘱を受ける準備を行う ・防災士資格の取得（別途地域防災減災論				
18.学習目標とＤＰとの関連	学習目標① プロジェクトマネジメントに関する知識と技術を身につける 学習目標② 避難所運営に必要な知識と技術を修得する（定義、役割、応急手当手法） 学習目標③ 学園祭の企画立案ができる 学習目標④ インターンシップ参加への準備が整う（マナー、受け入れ先業務への理解等） 学修目標⑤ 探究に必要な文献を選び読み、条件を満たした文章作成ができる				
19.教科書・教材	『コンテナ物語』世界を変えたのは「箱」の発明だった，マルク・レビンソン 著，2019，日経BP ISBN:978-4822289935 ＊グループごとに担当章を決め、読み込んで発表します。図書はゼミとして準備します。				
20.参考文献					
21.成績評価	成績は、WebClas、e ポートフォリオなどの提出データで評価します。 学習目標①チームでプロジェクトを実施するために必要な条件を説明できる 20% 学習目標②避難所運営に必要な知識、スキルを身についている　10% 学習目標③地域で実施するプロジェクトの企画立案ができる 20% 学習目標④インターンシップに行く準備が整う 10% 学習目標⑤指定したテーマで 2000 字のレポートを作成できる　40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	月曜日昼休み　@研究室 セータープログラム「公務員試験対策支援」　月曜日昼休み　@水棹館 2 階				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 4/8	◆オリエンテーション　授業の目的と進め方 ・ゼミ長、副ゼミ長とゼミルールの決定 ・授業内容の説明（テーマ、資料） ◆ゼミ活動 ・グループ分け（5 名以内） ・4/22 炊き出し訓練の役割分担 ・発表スケジュールの作成 ・面談スケジュールの作成	ノートパソコン必携（全回共通）

第 2 回 4/15	◆課題図書 ・「まえがき」を読む ・第 1 章の解説 ・担当章の決定 ◆プロジェクト ・炊き出し訓練計画の作成	課題成果物の web クラスへの提出
第 3 回 4/22	◆プロジェクト ・炊き出し訓練の実施 ・ふりかえり	役割に応じた準備
第 4 回 5/13	＜共通プログラム＞ 2 年生の学びやキャリア形成に関する諸説明 ・到達確認試験について ・経験学習について（インターンシップ、グローバルスタディ、サービスラーニング） ・たかはしさんちのプロジェクト、秋学期のゼミ活動（予告）	ワークシートの提出
第 5 回 5/20	◆プロジェクト ・たかはしさんちのプロジェクト計画の立案 ◆課題図書 ・第 2 章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆各自 10 分講義の計画と調整	課題成果物の web クラスへの提出
第 6 回 5/27	◆プロジェクト ・たかはしさんちのプロジェクト計画書の提出 ◆課題図書 ・第 3 章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆10 分講義 ・①②の実施 ・相互コメント	課題成果物の web クラスへの提出
第 7 回 6/3	＜共通プログラム＞ 2 年生の学びやキャリア形成に関する諸説明 ・たかはしさんちのプロジェクト計画（ゼミ企画の全体調整） ・避難所運営サポーターについて	web クラスに計画書を提出
第 8 回 6/10	◆課題図書 ・第 4、5 章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆10 分講義 ・③④⑤の実施 ・相互コメント	課題成果物の web クラスへの提出
第 9 回 6/17	◆課題図書 ・第 6、7 章の発表 ・意見交換 ・小レポート	課題成果物の web クラスへの提出

	◆10 分講義 ・⑥⑦⑧の実施 ・相互コメント	
第 10 回 6/24	◆課題図書 ・第 8、9 章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆10 分講義 ・⑨⑩⑪の実施 ・相互コメント	インターンシップエントリーシートの記入 課題成果物の web クラスへの提出
第 11 回 7/1	◆課題図書 ・第 10、11 章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆10 分講義 ・⑫⑬⑭の実施 ・相互コメント	インターンシップエントリーシートの記入・修正 課題成果物の web クラスへの提出
第 12 回 7/8	◆課題図書 ・経営基礎科目との関連についての考察 ・課題に関する説明 ◆10 分講義 ・⑮⑯⑰の実施 ・相互コメント	課題成果物の web クラスへの提出
第 13 回 7/15【平常授業】	◆DX① ・ドローンと地域資源の活用（広報、地域産業・地域課題、防災） ・航空法 ◆10 分講義 ・⑱⑲⑳の実施 ・相互コメント	課題成果物の web クラスへの提出
第 14 回 7/22	◆DX② ・ドローン操作体験 ・その他の DX（多言語翻訳ツール等） ◆10 分講義 ・??の実施 ・相互コメント	課題成果物の web クラスへの提出
第 15 回 7/29	◆課題図書 ・課題の確認 ◆ふりかえりと夏・秋学期の学びについて	E ポートフォリオへの記事投稿

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-A01	2.科目名	専門演習Ⅲ	3.単位数	2
4.授業担当教員	椋田善之				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において、設定した課題を様々な角度から分析する力や、考察する力を身につけ、それを正確かつ効果的に他者に伝えることのできる力を養うために、教育・保育における内容や問題について、データ、資料、学術論文、文献を検索、収集、整理し、教育・保育についての理解を深める。 【概要】論文を作成するための基本的な事項を学び、文献収集や情報の整理に取り組む中でその方法を身につける。ラーニングコミュニティー（LC）を効果的に活				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標（DP に基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。				
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。				
20.参考文献	『図書館の達人』(映像)				
21.成績評価	・e ポートフォリオへの記入内容 …10% ・プレゼンテーション　　…30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・中間レポート(15%×2 回) …30% ・最終レポート　　…30%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる				
22.コメント	○いよいよ本格的なゼミ活動のスタートです。「志」を共有するゼミの仲間と親交を深めながら、これまでの学びをベースに、誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭に、自らの CS やボランティア活動などの現場体験を振り返りつつ、興味・関心を持つ分野の研究に深く切り込んでいきましょう。研究することの「面白さ」に開眼してくれることを願っています。 ○コロナウィルスの影響等によって、ZOOM による遠隔で実施する場合があります。webclass 等の情報を常に確認するよう気をつけましょう！				
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション ・本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入 ・ゼミスタート活動 ・ゼミ方針策定 ・アドバイザーの指導方針の説明 ・ゼミ長の選出とゼミ内役割分担等	◆ノートパソコン◆ ○e ポートフォリオの点検と整理(180 分)
【第 2 回】	論文の書き方オリエンテーション(合同)	○本時で学んだ学習スキルを活用して、資料

	・論文の書き方について(DVD 視聴)	を集める(180 分)
【第 3 回】	研究テーマの設定 ・現場体験（CS/ボランティア活動等）からの気づきの掘り起こし ・資料やデータの収集・整理の方法 ・文献購読の方法 レジュメの作成方法等	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 4 回】	文献収集・情報整理① ・ゼミ内発表を通した体験や課題の共有化 ・ テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 5 回】	就職ガイダンス(合同)	〇ガイダンスのまとめとしてｅポートフォリオに感想や考えを入れる(180 分)
【第 6 回】	文献収集・情報整理② ・ テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇中間レポートその①の作成（270 分）
【第 7 回】	文献収集・情報整理③ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ★中間レポートその① 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 8 回】	文献収集・情報整理④ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 9 回】	文献収集・情報整理⑤ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇中間レポートその②の作成(270 分)
【第 10 回】	文献収集・情報整理⑥ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン持参◆ ★中間レポートその② 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇最終レポートの作成（270 分）
【第 11 回】	プレゼンテーション準備① ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 12 回】	プレゼンテーション準備② ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 13 回】	ゼミ内発表① ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 14 回】	ゼミ内発表② ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ 〇研究発表の質疑を踏まえて、最終レポートの仕上げ（270 分）
【第 15 回】	ゼミ内発表③ ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ★最終レポート 〇振り返り(180 分)

	春学期まとめと秋学期に向けて	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-A02	2.科目名	専門演習Ⅲ	3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田裕彦				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において、設定した課題を様々な角度から分析する力や、考察する力を身につけ、それを正確かつ効果的に他者に伝えることのできる力を養うために、教育・保育における内容や問題について、データ、資料、学術論文、文献を検索、収集、整理し、教育・保育についての理解を深める。 【概要】論文を作成するための基本的な事項を学び、文献収集や情報の整理に取り組む中でその方法を身につける。ラーニングコミュニティー（LC）を効果的に活				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標（DP に基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。				
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。				
20.参考文献	『図書館の達人』(映像)				
21.成績評価	・e ポートフォリオへの記入内容 …10% ・プレゼンテーション　　…30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・中間レポート(15%×2 回) …30% ・最終レポート　　…30%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる				
22.コメント	○いよいよ本格的なゼミ活動のスタートです。「志」を共有するゼミの仲間と親交を深めながら、これまでの学びをベースに、誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭に、自らの CS やボランティア活動などの現場体験を振り返りつつ、興味・関心を持つ分野の研究に深く切り込んでいきましょう。研究することの「面白さ」に開眼してくれることを願っています。 ○コロナウィルスの影響等によって、ZOOM による遠隔で実施する場合があります。webclass 等の情報を常に確認するよう気をつけましょう！				
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション ・本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入 ・ゼミスタート活動 ・ゼミ方針策定 ・アドバイザーの指導方針の説明 ・ゼミ長の選出とゼミ内役割分担等	◆ノートパソコン◆ ○e ポートフォリオの点検と整理(180 分)
【第 2 回】	論文の書き方オリエンテーション(合同)	○本時で学んだ学習スキルを活用して、資料

	・論文の書き方について(DVD 視聴)	を集める(180 分)
【第 3 回】	研究テーマの設定 ・現場体験（CS/ボランティア活動等）からの気づきの掘り起こし ・資料やデータの収集・整理の方法 ・文献購読の方法 レジュメの作成方法等	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 4 回】	文献収集・情報整理① ・ゼミ内発表を通した体験や課題の共有化 ・ テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 5 回】	就職ガイダンス(合同)	〇ガイダンスのまとめとしてｅポートフォリオに感想や考えを入れる(180 分)
【第 6 回】	文献収集・情報整理② ・ テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇中間レポートその①の作成（270 分）
【第 7 回】	文献収集・情報整理③ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ★中間レポートその① 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 8 回】	文献収集・情報整理④ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 9 回】	文献収集・情報整理⑤ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇中間レポートその②の作成(270 分)
【第 10 回】	文献収集・情報整理⑥ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン持参◆ ★中間レポートその② 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇最終レポートの作成（270 分）
【第 11 回】	プレゼンテーション準備① ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 12 回】	プレゼンテーション準備② ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 13 回】	ゼミ内発表① ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 14 回】	ゼミ内発表② ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ 〇研究発表の質疑を踏まえて、最終レポートの仕上げ（270 分）
【第 15 回】	ゼミ内発表③ ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ★最終レポート 〇振り返り(180 分)

	春学期まとめと秋学期に向けて	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-A03	2.科目名	専門演習Ⅲ	3.単位数	2
4.授業担当教員	大平誠也				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において、設定した課題を様々な角度から分析する力や、考察する力を身につけ、それを正確かつ効果的に他者に伝えることのできる力を養うために、教育・保育における内容や問題について、データ、資料、学術論文、文献を検索、収集、整理し、教育・保育についての理解を深める。 【概要】論文を作成するための基本的な事項を学び、文献収集や情報の整理に取り組む中でその方法を身につける。ラーニングコミュニティー（LC）を効果的に活				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標（DP に基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。				
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。				
20.参考文献	『図書館の達人』(映像)				
21.成績評価	・e ポートフォリオへの記入内容 …10% ・プレゼンテーション　　…30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・中間レポート(15%×2 回) …30% ・最終レポート　　…30%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる				
22.コメント	○いよいよ本格的なゼミ活動のスタートです。「志」を共有するゼミの仲間と親交を深めながら、これまでの学びをベースに、誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭に、自らの CS やボランティア活動などの現場体験を振り返りつつ、興味・関心を持つ分野の研究に深く切り込んでいきましょう。研究することの「面白さ」に開眼してくれることを願っています。 ○コロナウィルスの影響等によって、ZOOM による遠隔で実施する場合があります。webclass 等の情報を常に確認するよう気をつけましょう！				
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション ・本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入 ・ゼミスタート活動 ・ゼミ方針策定 ・アドバイザーの指導方針の説明 ・ゼミ長の選出とゼミ内役割分担等	◆ノートパソコン◆ ○e ポートフォリオの点検と整理(180 分)
【第 2 回】	論文の書き方オリエンテーション(合同)	○本時で学んだ学習スキルを活用して、資料

	・論文の書き方について(DVD 視聴)	を集める(180 分)
【第 3 回】	研究テーマの設定 ・現場体験（CS/ボランティア活動等）からの気づきの掘り起こし ・資料やデータの収集・整理の方法 ・文献購読の方法 レジュメの作成方法等	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 4 回】	文献収集・情報整理① ・ゼミ内発表を通した体験や課題の共有化 ・ テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 5 回】	就職ガイダンス(合同)	〇ガイダンスのまとめとしてｅポートフォリオに感想や考えを入れる(180 分)
【第 6 回】	文献収集・情報整理② ・ テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇中間レポートその①の作成（270 分）
【第 7 回】	文献収集・情報整理③ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ★中間レポートその① 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 8 回】	文献収集・情報整理④ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 9 回】	文献収集・情報整理⑤ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇中間レポートその②の作成(270 分)
【第 10 回】	文献収集・情報整理⑥ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン持参◆ ★中間レポートその② 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇最終レポートの作成（270 分）
【第 11 回】	プレゼンテーション準備① ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 12 回】	プレゼンテーション準備② ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 13 回】	ゼミ内発表① ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 14 回】	ゼミ内発表② ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ 〇研究発表の質疑を踏まえて、最終レポートの仕上げ（270 分）
【第 15 回】	ゼミ内発表③ ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ★最終レポート 〇振り返り(180 分)

	春学期まとめと秋学期に向けて	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-A04	2.科目名	専門演習Ⅲ	3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において、設定した課題を様々な角度から分析する力や、考察する力を身につけ、それを正確かつ効果的に他者に伝えることのできる力を養うために、教育・保育における内容や問題について、データ、資料、学術論文、文献を検索、収集、整理し、教育・保育についての理解を深める。 【概要】論文を作成するための基本的な事項を学び、文献収集や情報の整理に取り組む中でその方法を身につける。ラーニングコミュニティー（LC）を効果的に活				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標（DP に基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。				
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。				
20.参考文献	『図書館の達人』(映像)				
21.成績評価	・e ポートフォリオへの記入内容 ...10% ・プレゼンテーション ...30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・中間レポート(15%×2 回) ...30% ・最終レポート ...30%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる				
22.コメント	○いよいよ本格的なゼミ活動のスタートです。「志」を共有するゼミの仲間と親交を深めながら、これまでの学びをベースに、誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭に、自らの CS やボランティア活動などの現場体験を振り返りつつ、興味・関心を持つ分野の研究に深く切り込んでいきましょう。研究することの「面白さ」に開眼してくれることを願っています。 ○コロナウィルスの影響等によって、ZOOM による遠隔で実施する場合があります。webclass 等の情報を常に確認するよう気をつけましょう！				
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション ・本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入 ・ゼミスタート活動 ・ゼミ方針策定 ・アドバイザーの指導方針の説明 ・ゼミ長の選出とゼミ内役割分担等	◆ノートパソコン◆ ○e ポートフォリオの点検と整理(180 分)
【第 2 回】	論文の書き方オリエンテーション(合同)	○本時で学んだ学習スキルを活用して、資料

	・論文の書き方について(DVD 視聴)	を集める(180 分)
【第 3 回】	研究テーマの設定 ・現場体験（CS/ボランティア活動等）からの気づきの掘り起こし ・資料やデータの収集・整理の方法 ・文献購読の方法 レジュメの作成方法等	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 4 回】	文献収集・情報整理① ・ゼミ内発表を通した体験や課題の共有化 ・ テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 5 回】	就職ガイダンス(合同)	〇ガイダンスのまとめとしてｅポートフォリオに感想や考えを入れる(180 分)
【第 6 回】	文献収集・情報整理② ・ テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇中間レポートその①の作成（270 分）
【第 7 回】	文献収集・情報整理③ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ★中間レポートその① 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 8 回】	文献収集・情報整理④ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 9 回】	文献収集・情報整理⑤ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇中間レポートその②の作成(270 分)
【第 10 回】	文献収集・情報整理⑥ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン持参◆ ★中間レポートその② 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇最終レポートの作成（270 分）
【第 11 回】	プレゼンテーション準備① ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 12 回】	プレゼンテーション準備② ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 13 回】	ゼミ内発表① ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 14 回】	ゼミ内発表② ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ 〇研究発表の質疑を踏まえて、最終レポートの仕上げ（270 分）
【第 15 回】	ゼミ内発表③ ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ★最終レポート 〇振り返り(180 分)

	春学期まとめと秋学期に向けて	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-A05	2.科目名	専門演習Ⅲ	3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において、設定した課題を様々な角度から分析する力や、考察する力を身につけ、それを正確かつ効果的に他者に伝えることのできる力を養うために、教育・保育における内容や問題について、データ、資料、学術論文、文献を検索、収集、整理し、教育・保育についての理解を深める。 【概要】論文を作成するための基本的な事項を学び、文献収集や情報の整理に取り組む中でその方法を身につける。ラーニングコミュニティー（LC）を効果的に活				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標（DP に基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。				
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。				
20.参考文献	『図書館の達人』(映像)				
21.成績評価	・e ポートフォリオへの記入内容 …10% ・プレゼンテーション　　…30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・中間レポート(15%×2 回) …30% ・最終レポート　　…30%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる				
22.コメント	○いよいよ本格的なゼミ活動のスタートです。「志」を共有するゼミの仲間と親交を深めながら、これまでの学びをベースに、誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭に、自らの CS やボランティア活動などの現場体験を振り返りつつ、興味・関心を持つ分野の研究に深く切り込んでいきましょう。研究することの「面白さ」に開眼してくれることを願っています。 ○コロナウィルスの影響等によって、ZOOM による遠隔で実施する場合があります。webclass 等の情報を常に確認するよう気をつけましょう！				
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション ・本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入 ・ゼミスタート活動 ・ゼミ方針策定 ・アドバイザーの指導方針の説明 ・ゼミ長の選出とゼミ内役割分担等	◆ノートパソコン◆ ○e ポートフォリオの点検と整理(180 分)
【第 2 回】	論文の書き方オリエンテーション(合同)	○本時で学んだ学習スキルを活用して、資料

	・論文の書き方について(DVD 視聴)	を集める(180 分)
【第 3 回】	研究テーマの設定 ・現場体験（CS/ボランティア活動等）からの気づきの掘り起こし ・資料やデータの収集・整理の方法 ・文献購読の方法 レジュメの作成方法等	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 4 回】	文献収集・情報整理① ・ゼミ内発表を通した体験や課題の共有化 ・ テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 5 回】	就職ガイダンス(合同)	〇ガイダンスのまとめとしてｅポートフォリオに感想や考えを入れる(180 分)
【第 6 回】	文献収集・情報整理② ・ テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇中間レポートその①の作成（270 分）
【第 7 回】	文献収集・情報整理③ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ★中間レポートその① 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 8 回】	文献収集・情報整理④ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 9 回】	文献収集・情報整理⑤ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇中間レポートその②の作成(270 分)
【第 10 回】	文献収集・情報整理⑥ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン持参◆ ★中間レポートその② 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇最終レポートの作成（270 分）
【第 11 回】	プレゼンテーション準備① ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 12 回】	プレゼンテーション準備② ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 13 回】	ゼミ内発表① ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 14 回】	ゼミ内発表② ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ 〇研究発表の質疑を踏まえて、最終レポートの仕上げ（270 分）
【第 15 回】	ゼミ内発表③ ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ★最終レポート 〇振り返り(180 分)

	春学期まとめと秋学期に向けて	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-A06	2.科目名	専門演習Ⅲ	3.単位数	2
4.授業担当教員	長瀬慶來				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において、設定した課題を様々な角度から分析する力や、考察する力を身につけ、それを正確かつ効果的に他者に伝えることのできる力を養うために、教育・保育における内容や問題について、データ、資料、学術論文、文献を検索、収集、整理し、教育・保育についての理解を深める。 【概要】論文を作成するための基本的な事項を学び、文献収集や情報の整理に取り組む中でその方法を身につける。ラーニングコミュニティー（LC）を効果的に活				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標（DP に基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。				
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。				
20.参考文献	『図書館の達人』(映像)				
21.成績評価	・e ポートフォリオへの記入内容 …10% ・プレゼンテーション　　…30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・中間レポート(15%×2 回) …30% ・最終レポート　　…30%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる				
22.コメント	○いよいよ本格的なゼミ活動のスタートです。「志」を共有するゼミの仲間と親交を深めながら、これまでの学びをベースに、誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭に、自らの CS やボランティア活動などの現場体験を振り返りつつ、興味・関心を持つ分野の研究に深く切り込んでいきましょう。研究することの「面白さ」に開眼してくれることを願っています。 ○コロナウィルスの影響等によって、ZOOM による遠隔で実施する場合があります。webclass 等の情報を常に確認するよう気をつけましょう！				
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション ・本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入 ・ゼミスタート活動 ・ゼミ方針策定 ・アドバイザーの指導方針の説明 ・ゼミ長の選出とゼミ内役割分担等	◆ノートパソコン◆ ○e ポートフォリオの点検と整理(180 分)
【第 2 回】	論文の書き方オリエンテーション(合同)	○本時で学んだ学習スキルを活用して、資料

	・論文の書き方について(DVD 視聴)	を集める(180 分)
【第 3 回】	研究テーマの設定 ・現場体験（CS/ボランティア活動等）からの気づきの掘り起こし ・資料やデータの収集・整理の方法 ・文献購読の方法 レジュメの作成方法等	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 4 回】	文献収集・情報整理① ・ゼミ内発表を通した体験や課題の共有化 ・ テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 5 回】	就職ガイダンス(合同)	〇ガイダンスのまとめとしてｅポートフォリオに感想や考えを入れる(180 分)
【第 6 回】	文献収集・情報整理② ・ テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇中間レポートその①の作成（270 分）
【第 7 回】	文献収集・情報整理③ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ★中間レポートその① 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 8 回】	文献収集・情報整理④ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 9 回】	文献収集・情報整理⑤ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇中間レポートその②の作成(270 分)
【第 10 回】	文献収集・情報整理⑥ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン持参◆ ★中間レポートその② 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇最終レポートの作成（270 分）
【第 11 回】	プレゼンテーション準備① ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 12 回】	プレゼンテーション準備② ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 13 回】	ゼミ内発表① ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 14 回】	ゼミ内発表② ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ 〇研究発表の質疑を踏まえて、最終レポートの仕上げ（270 分）
【第 15 回】	ゼミ内発表③ ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ★最終レポート 〇振り返り(180 分)

	春学期まとめと秋学期に向けて	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-A07	2.科目名	専門演習Ⅲ	3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武大				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において、設定した課題を様々な角度から分析する力や、考察する力を身につけ、それを正確かつ効果的に他者に伝えることのできる力を養うために、教育・保育における内容や問題について、データ、資料、学術論文、文献を検索、収集、整理し、教育・保育についての理解を深める。 【概要】論文を作成するための基本的な事項を学び、文献収集や情報の整理に取り組む中でその方法を身につける。ラーニングコミュニティー（LC）を効果的に活				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標（DP に基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。				
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。				
20.参考文献	『図書館の達人』(映像)				
21.成績評価	・e ポートフォリオへの記入内容 ...10% ・プレゼンテーション ...30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・中間レポート(15%×2 回) ...30% ・最終レポート ...30%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる				
22.コメント	○いよいよ本格的なゼミ活動のスタートです。「志」を共有するゼミの仲間と親交を深めながら、これまでの学びをベースに、誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭に、自らの CS やボランティア活動などの現場体験を振り返りつつ、興味・関心を持つ分野の研究に深く切り込んでいきましょう。研究することの「面白さ」に開眼してくれることを願っています。 ○コロナウィルスの影響等によって、ZOOM による遠隔で実施する場合があります。webclass 等の情報を常に確認するよう気をつけましょう！				
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション ・本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入 ・ゼミスタート活動 ・ゼミ方針策定 ・アドバイザーの指導方針の説明 ・ゼミ長の選出とゼミ内役割分担等	◆ノートパソコン◆ ○e ポートフォリオの点検と整理(180 分)
【第 2 回】	論文の書き方オリエンテーション(合同)	○本時で学んだ学習スキルを活用して、資料

	・論文の書き方について(DVD 視聴)	を集める(180 分)
【第 3 回】	研究テーマの設定 ・現場体験（CS/ボランティア活動等）からの気づきの掘り起こし ・資料やデータの収集・整理の方法 ・文献購読の方法 レジュメの作成方法等	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 4 回】	文献収集・情報整理① ・ゼミ内発表を通した体験や課題の共有化 ・ テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 5 回】	就職ガイダンス(合同)	〇ガイダンスのまとめとしてｅポートフォリオに感想や考えを入れる(180 分)
【第 6 回】	文献収集・情報整理② ・ テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇中間レポートその①の作成（270 分）
【第 7 回】	文献収集・情報整理③ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ★中間レポートその① 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 8 回】	文献収集・情報整理④ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第 9 回】	文献収集・情報整理⑤ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇中間レポートその②の作成(270 分)
【第 10 回】	文献収集・情報整理⑥ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン持参◆ ★中間レポートその② 〇討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) 〇最終レポートの作成（270 分）
【第 11 回】	プレゼンテーション準備① ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 12 回】	プレゼンテーション準備② ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 13 回】	ゼミ内発表① ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ 〇最終レポートの作成（180 分）
【第 14 回】	ゼミ内発表② ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ 〇研究発表の質疑を踏まえて、最終レポートの仕上げ（270 分）
【第 15 回】	ゼミ内発表③ ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ★最終レポート 〇振り返り(180 分)

	春学期まとめと秋学期に向けて	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-A08	2.科目名	専門演習III	3.単位数	2
4.授業担当教員	春木裕美				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この演習では、卒業研究に向けた準備として、「災害時でも誰ひとり取り残さない安心できるコミュニティづくり」をテーマに、卒業論文作成に発展できるよう、各自が研究上の問いの探索、研究方法、論文作成などに自発的に取り組むことをねらいとします。 【概要】 人々の安全・安心な暮らしを阻害する可能性のある格差、貧困、排除、孤立など現代の社会問題とそれを生み出すメカニズムに問題意識をもちながら、尼崎市と協働して地域の安全安心に関連する活動に参加します。そこで得られた具体的な体験を起点として、共通テーマをもとに、				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力の学修に関連しています。 ①テーマに関連する先行研究を収集し要約できる ②学外の具体的体験からテーマに関連する具体的事象を抽出できる ③学外の具体的体験から研究上の問いを設定できる ④問いに対する最適な研究方法を選択できる				
19.教科書・教材	資料を適宜配付します。				
20.参考文献	■テーマの設定方法、研究の進め方 小笠原喜康(2002)「大学生のためのレポート・論文術」、講談社現代新書 河野哲也(2002)「レポート・論文の書き方入門第 3 版」、慶應義塾大学出版 ■作文技術、文章の書き方 白井利明 ・高橋一郎(2013)「よくわかる卒論の書き方第 2 版」ミネルヴァ書房 木暮太一(2011)「学校で教えてくれない『分かりやすい説明』のルール」、光文社新書 木下是雄(1981)「理科系の作文技術」中公新書				
21.成績評価	課題 a「地域住民のニーズを明らかにする」30% （学習目標①②③に関連） 課題 b「ニーズに基づいた活動展開に取組む」30% （学習目標①②③に関連） 課題 c「取組みのふりかえり」40% （学習目標①②③④に関連）				
22.コメント	夏休み期間中に自治会や民生児童委員と連携した活動に取り組みます。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	授業の進め方、成績評価、概要の説明 ・授業の進め方や内容、評価の方法について説明を行う。 ・授業シラバスを持参すること（このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファ	※本授業はノートパソコン持参を原則とします。 〇課題について情報収集しておく（180）

	イルに添付していつでも参照できるようにしておくこと)。	
【第 2 回】	課題 a に関するリサーチとブレーンストーミング① ・課題 a を検討するための情報収集と検討 ・個別ワークとグループワークで深める	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 3 回】	課題 a に関するリサーチとブレーンストーミング② ・課題 a を検討するための情報収集と検討 ・個別ワークとグループワークで深める	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 4 回】	課題 a に関するリサーチとブレーンストーミング③ ・課題 a を検討するための情報収集と検討 ・個別ワークとグループワークで深める	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 5 回】	課題 a に関するプレゼンテーション ・オンラインで関係者に公開予定	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 6 回】	課題 b「ニーズに基づいた活動展開に取組む」 ・課題 b に関するブレーンストーミング①	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 7 回】	課題 b「ニーズに基づいた活動展開に取組む」 ・課題 b に関するブレーンストーミング②	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 8 回】	課題 b「ニーズに基づいた活動展開に取組む」 ・課題 b に関するブレーンストーミング③	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 9 回】	課題 b に関するプレゼンテーション ・オンラインで関係者に公開予定	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 10 回】	課題 b に関する実践① ・各チームで実践活動に取組む ・活動記録を整理する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 11 回】	課題 b に関する実践② ・各チームで実践活動に取組む ・活動記録を整理する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 12 回】	課題 b に関する実践③ ・各チームで実践活動に取組む ・活動記録を整理する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 13 回】	課題 b に関する実践④ ・各チームで実践活動に取組む ・活動記録を整理する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 14 回】	課題 b に関する実践⑤ ・各チームで実践活動に取組む ・活動記録を整理する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 15 回】	活動報告会 ・オンラインで関係者に公開予定	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90） ＊課題 c を提出する

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-A09	2.科目名	専門演習III	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本秀樹				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この演習では、卒業研究に向けた準備として、「災害時でも誰ひとり取り残さない安心できるコミュニティづくり」をテーマに、卒業論文作成に発展できるよう、各自が研究上の問いの探索、研究方法、論文作成などに自発的に取り組むことをねらいとします。 【概要】 人々の安全・安心な暮らしを阻害する可能性のある格差、貧困、排除、孤立など現代の社会問題とそれを生み出すメカニズムに問題意識をもちながら、尼崎市と協働して地域の安全安心に関連する活動に参加します。そこで得られた具体的な体験を起点として、共通テーマをもとに、				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力の学修に関連しています。 ①テーマに関連する先行研究を収集し要約できる ②学外の具体的体験からテーマに関連する具体的事象を抽出できる ③学外の具体的体験から研究上の問いを設定できる ④問いに対する最適な研究方法を選択できる				
19.教科書・教材	資料を適宜配付します。				
20.参考文献	■テーマの設定方法、研究の進め方 小笠原喜康(2002)「大学生のためのレポート・論文術」、講談社現代新書 河野哲也(2002)「レポート・論文の書き方入門第 3 版」、慶應義塾大学出版 ■作文技術、文章の書き方 白井利明 ・高橋一郎(2013)「よくわかる卒論の書き方第 2 版」ミネルヴァ書房 木暮太一(2011)「学校で教えてくれない『分かりやすい説明』のルール」、光文社新書 木下是雄(1981)「理科系の作文技術」中公新書				
21.成績評価	課題 a「地域住民のニーズを明らかにする」30% （学習目標①②③に関連） 課題 b「ニーズに基づいた活動展開に取組む」30% （学習目標①②③に関連） 課題 c「取組みのふりかえり」40% （学習目標①②③④に関連）				
22.コメント	夏休み期間中に自治会や民生児童委員と連携した活動に取り組みます。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	授業の進め方、成績評価、概要の説明 ・授業の進め方や内容、評価の方法について説明を行う。 ・授業シラバスを持参すること（このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファ	※本授業はノートパソコン持参を原則とします。 〇課題について情報収集しておく（180）

	イルに添付していつでも参照できるようにしておくこと)。	
【第 2 回】	課題 a に関するリサーチとブレーンストーミング① ・課題 a を検討するための情報収集と検討 ・個別ワークとグループワークで深める	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 3 回】	課題 a に関するリサーチとブレーンストーミング② ・課題 a を検討するための情報収集と検討 ・個別ワークとグループワークで深める	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 4 回】	課題 a に関するリサーチとブレーンストーミング③ ・課題 a を検討するための情報収集と検討 ・個別ワークとグループワークで深める	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 5 回】	課題 a に関するプレゼンテーション ・オンラインで関係者に公開予定	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 6 回】	課題 b「ニーズに基づいた活動展開に取組む」 ・課題 b に関するブレーンストーミング①	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 7 回】	課題 b「ニーズに基づいた活動展開に取組む」 ・課題 b に関するブレーンストーミング②	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 8 回】	課題 b「ニーズに基づいた活動展開に取組む」 ・課題 b に関するブレーンストーミング③	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 9 回】	課題 b に関するプレゼンテーション ・オンラインで関係者に公開予定	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 10 回】	課題 b に関する実践① ・各チームで実践活動に取組む ・活動記録を整理する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 11 回】	課題 b に関する実践② ・各チームで実践活動に取組む ・活動記録を整理する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 12 回】	課題 b に関する実践③ ・各チームで実践活動に取組む ・活動記録を整理する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 13 回】	課題 b に関する実践④ ・各チームで実践活動に取組む ・活動記録を整理する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 14 回】	課題 b に関する実践⑤ ・各チームで実践活動に取組む ・活動記録を整理する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 15 回】	活動報告会 ・オンラインで関係者に公開予定	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90） ＊課題 c を提出する

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-Y02	2.科目名	専門演習III	3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	この演習は、卒業研究に向けて研究テーマ・研究方法・論文作成などについて受講者自身が自発的に取り組むことを主なねらいとしている。各受講者の興味・関心に基づいて、行いたい研究領域・内容・対象・方法などを焦点化する。具体的には、春学期に設定したテーマに関する論文や情報を収集し、その読解を進める。そして、それらを集約し、ゼミ内でプレゼンテーションを行うことにより論文作成に必要な技術を学修しながら、卒業研究へとつなげていく。 卒業研究に向けて、研究テーマの設定，研究方法，論文作成などについて主体的に取り組んでいく				
18.学習目標とＤＰとの関連	①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ③これまでに学習した知識や経験をまとめて、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。 [関連するディプロマポリシー] （1）自律性（4）問題発見・解決力（6）専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	適宜配布します。				
20.参考文献	必要に応じて授業時に紹介します。				
21.成績評価	個人テーマに関する発表・質疑応答：20% [学習目標①②]に対応 小レポート（10 本レポート）：30% [学習目標①②]に対応 学期末レポート：40% [学習目標①②]に対応 e-ポートフォリオへのふりかえり：10% [学習目標③に対応]				
22.コメント					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜お昼休み 研究室オフィスアワー：水曜お昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 4/10	オリエンテーション ブックレポート図書の紹介と興味を持っている領域の共有	ブックレポートの提出（WebClass） 発表者は課題図書を持参すること！
第 2 回 4/17	ブックレポート図書の紹介と興味をもっている領域の共有	発表者は課題図書を持参すること！
第 3 回 4/24	文献検索と研究計画の作成の流れ 卒論、研究計画書を作成する過程を学ぶ	興味ある領域の文献検索 発表準備
第 4 回 5/1	研究テーマに関する情報収集 興味あるテーマについて調べ、発表する。	興味ある領域の文献検索 発表準備
第 5 回 5/8	研究テーマに関する情報収集	興味ある領域の文献検索

	興味あるテーマについて調べ、発表する。	発表準備
第 6 回 5/15 （休み）	5 月 14 日 2 限、2-213、　就職活動に向けて（リクナビ）	興味ある領域の文献検索 発表準備
第 7 回 5/22	研究テーマに関する情報収集 興味あるテーマについて調べ、発表する。	興味ある領域の文献検索 発表準備
第 8 回 5/29	研究テーマに関する情報収集 興味あるテーマについて調べ、発表する。	卒論に向けての文献検索 発表準備
第 9 回 6/5	研究テーマの検討 これまでのテーマ検索を踏まえ、 もっとも関心のある領域について発表する。	卒論に向けての文献検索 発表準備
第 10 回 6/12	研究テーマの検討 これまでのテーマ検索を踏まえ、 もっとも関心のある領域について発表する。	卒論に向けての文献検索 発表準備
第 11 回 6/19	研究テーマの検討 これまでのテーマ検索を踏まえ、 もっとも関心のある領域について発表する。	卒論に向けての文献検索 発表準備
第 12 回 6/26	研究テーマに関する先行研究の収集と報告 研究テーマに的を絞って先行研究の報告を行う。	卒論に向けての文献検索 発表準備
題 13 回 7/3	研究テーマに関する先行研究の収集と報告 研究テーマに的を絞って先行研究の報告を行う。	卒論に向けての文献検索 発表準備
第 14 回 7/10	研究テーマに関する先行研究の収集と報告 研究テーマに的を絞って先行研究の報告を行う。	卒論に向けての文献検索 発表準備
第 15 回 7/17	まとめ これまでの文献検索をもとにレポートにまとめる。	レポートの提出（WebClass）

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-Y03	2.科目名	専門演習III	3.単位数	2
4.授業担当教員	川脇康生				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】卒業研究にむけた準備として研究テーマの探索，研究方法，論文作成などについて自発的に取り組んでいくことをねらいとする。 【概要】具体的には，春学期において受講生各自の興味や関心を意識化し整理した後に，複数のテーマについて文献検索などの情報収集や研究方法などの検討を行い，受講生は最終的に一つの研究テーマを決定する。その上で具体的なデータ収集とその整理・分析の方法を決定し、試行していく。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目は DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性，問題発見解決力，専門的知識技能の活用力の学修と関連しています。 ①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ③興味関心と先行研究の知見をもとに、新たな研究を考えることができるようになる。 ④研究に必要な情報を得るための方法や研究に必要な知識を身につけることができる。 ⑤これまでに学習した知識や経験をもとに、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。また、それをもとに自己 PR を作成できるようになる。				
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。				
20.参考文献	随時配布する				
21.成績評価	・各自の興味と関連する論文の要約と紹介：10% 【学習目標①②に対応】 ・分析方法に関する発表：20% 【学習目標④に対応】 ・個人の研究テーマに関する発表：20% 【学習目標①②③④に対応】 ・卒業研究構想発表：30% 【学習目標①②③④に対応】 ・各発表における質疑応答：10% 【学習目標②に対応】 ・その他（ｅポートフォリオへの記入・自己 PR 文の作成等）：10% 【学習目標⑤に対応】				
22.コメント	この演習は秋の専門演習IVと合わせて 1 年間かけて個人個人の興味関心を次第に掘り下げ、卒業研究につながるテーマの発見と追求を具体的に進めるとても重要なものです。				
23.オフィスアワー	学修支援センターオフィスアワー（神戸山手 1 号館 2 階ラーニングコモンズ）：月、4 限 研究室オフィスアワー（神戸山手 3 号館 2 階 207 室）：火、昼休み ※質問等はメールで問い合わせてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	オリエンテーション：専門演習IIIのねらいや内容，進め方について説明する。	持参物：ノートパソコン 課題：自己紹介，ゼミ気に対することを 400 字ｅポートフォリオにアップする。(120 分)

2	論文の読み方，探し方 論文とは何なのかについて学び，論文を探すスキルを身につける。	持参物：ノートパソコン 課題：論文を検索し，その内容の要約を書く
3	合同ゼミ：キャリア教育「就職準備講座」	課題：自身のキャリアに関するレポート
4	論文の要約と内容の検討 自分が関心の持てる論文を探し，その内容についてしっかりと検討し，要約し蓄積することができるようになる。 ◎論文要約発表	持参物：ノートパソコン 学習：各自で興味のある分野の論文を検索し要約し蓄積する。
5	テーマ決め，鍵概念 テーマの決め方について理解し，各自の興味や関心を抱く問題について探索・発見を進め、発表準備を行う。 ◎論文要約発表	学習：次回までにどのような研究ができそうか、候補テーマについて情報を収集する。（240 分）
6	仮説の立て方と検証 複数候補の問題の内容や重要性、探求可能性、方法などさまざまな観点から検討し、最終的に取り組むべきテーマを絞り込む。 ◎論文要約発表	学習：各自のテーマ候補について紹介準備をする。(240 分)
7	テーマ発表と質疑応答 このテーマを選んだ理由，仮説，検証方法についての構想について各自発表する。それに対して質疑応答を行う。 ◎テーマ発表	持参物：ノートパソコン 課題：テーマ発表に対する感想レポート 課題：今後の計画について
8	分析方法の検討 統計，分析の方法について分担して調査を行う ◎論文要約発表	学習：統計に関する発表の準備をグループで行う。
9	研究計画について 研究計画の立て方，立てる意味について考える。 ◎論文要約発表	学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
10	研究テーマ，研究計画の検討 　リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究について検討する ◎論文要約発表	学習：担当する分析方法について調べてまとめる
11	分析方法の発表 各グループで分析方法について発表する。 ◎分析方法発表	学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
12	研究の構想 研究の構想に必要な情報について各自で検討する。 ◎論文要約発表	学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
13	構想発表１ 　各自で研究の構想を発表し，それに対して質疑応答を行う。	持参物：ノートパソコン 学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
14	構想発表１	持参物：ノートパソコン

	各自で研究の構想を発表し，それに対して質疑応答を行う。	学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
15	今学期のまとめと振り返り これまでの経過を振り返り，現時点での研究の目的や計画，見通し等についてレポートを作成し提出する。 また、e ポートフォリオに今学期の振り返りを提出する。	持参物：ノートパソコン 課題：今学期を振り返り、自己 PR を e-ポートフォリオに記載する。 課題：現時点での卒論の構想をレポートとしてまとめる。

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-Y04	2.科目名	専門演習III	3.単位数	2
4.授業担当教員	中山誠				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	2 年~
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	卒業研究に向けた問題発見				
18.学習目標とＤＰとの関連	①社会心理学および犯罪心理学の観点から事象を説明できる基本的姿勢を身につける。 ②情報の収集・データの解釈・プレゼンテーション・ディスカッションのスキルを身につける。				
19.教科書・教材	適宜資料を配布する				
20.参考文献	適宜紹介する				
21.成績評価	①レジメ形式の発表資料作成　30% ②口頭発表　30% ③ディスカッション　20% ④最終レポート（webclass）　20%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜昼休み センター：木曜 2 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ゼミガイダンス ・発表順序の決定	ノート PC 持参
第 2 回	文献検索の方法(メディアライブラリで実施)	提出：振り返りシート 教室外学習：発表資料の作成(120 分)
第 3 回	第 3 回目はキャリア教育（学科合同)「就職準備講座」にふりかえます アサインメント：自身のキャリアに関するレポート	提出：振り返りシート 教室外学習：発表資料の作成(120 分)
第 4 回	文献発表・グループディスカッション① 各自で選んだ学術雑誌の論文のレジメを作成し，powerpoint による発表	提出：ワークシート 教室外学習：発表資料の作成(120 分)
第 5 回	文献発表・グループディスカッション② 文献内容を紹介するとともにディスカッションを行う	提出：ワークシート 教室外学習：発表資料の作成(120 分)
第 6 回	文献発表・グループディスカッション③ 文献内容を紹介するとともにディスカッションを行う	提出：ワークシート 教室外学習：発表資料の作成(120 分)
第 7 回	文献発表・グループディスカッション④	教室外学習：発表資料の作成(120 分)

	文献内容を紹介するとともにディスカッションを行う	
第 8 回	文献発表・グループディスカッション⑤ 文献内容を紹介するとともにディスカッションを行う	提出：ワークシート 教室外学習：発表資料の作成(120 分)
第 9 回	文献発表・グループディスカッション⑥ 文献内容を紹介するとともにディスカッションを行う	提出：ワークシート 教室外学習：発表資料の作成(120 分)
第 10 回	文献発表・グループディスカッション⑦ 文献内容を紹介するとともにディスカッションを行う	アサイメント「自分でもやれそうなこと、やってみたいこと、就きたい仕事について、現段階での思い・夢を、800 字程度（A4 用紙 1 枚）にまとめなさい。」
第 11 回	文献発表・グループディスカッション⑨ 文献内容を紹介するとともにディスカッションを行う	提出：ワークシート 教室外学習：発表資料の作成(120 分)
第 12 回	文献発表・グループディスカッション⑧ 文献内容を紹介するとともにディスカッションを行う	提出：ワークシート 教室外学習：発表資料の作成(120 分)
第 13 回	文献発表・グループディスカッション⑨ 文献内容を紹介するとともにディスカッションを行う	提出：ワークシート 教室外学習：発表資料の作成(120 分)
第 14 回	文献発表・グループディスカッション⑩ 文献内容を紹介するとともにディスカッションを行う	提出：振り返りシート 教室外学習：最終課題の作成(120 分)
第 15 回	まとめ 春学期についてふりかえりを行う	ノート PC 持参 提出：最終課題

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-Y06	2.科目名	専門演習III	3.単位数	2
4.授業担当教員	板山昂				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	卒業研究にむけた準備として研究テーマの探索，研究方法，論文作成などについて自発的に取り組んでいくことをねらいとする。具体的には，春学期において受講生各自の興味や関心を意識化し整理した後に，複数のテーマについて文献検索などの情報収集や研究方法などの検討を行い，受講生は最終的に一つの研究テーマを決定する。その上で具体的なデータ収集とその整理・分析の方法を決定し、試行していく。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ?興味関心と先行研究の知見をもとに、新たな研究を考えることができるようになる。 ④これまでに学習した知識や経験をもとに、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。また、それをもとに自己 PR を作成できるようになる。				
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。				
20.参考文献	随時配布する				
21.成績評価	・個人の研究テーマに関する発表：30% 【学習目標①②③に対応】 ・学期末　卒業研究構想レポート：40% 【学習目標①②③に対応】 ・各発表における質疑応答：20% 【学習目標②に対応】 ・ｅポートフォリオへの記入・自己 PR 文の作成：10% （キャリアデザイン 5%＋学期・科目の振り返り 5%） 【学習目標④に対応】				
22.コメント	この演習は秋の専門演習IVと合わせて 1 年間かけて個人個人の興味関心を次第に掘り下げ、卒業研究につながるテーマの発見と追求を具体的に進めるとても重要なものです。				
23.オフィスアワー	水曜　昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	オリエンテーション：専門演習IIIのねらいや内容，進め方について説明する。	◆ノートパソコン◆ 〇課題　自己紹介（エピソードを含むこと）400 字ｅポートフォリオにアップする。(120 分) 〇課題　次回までに各人が興味・関心を持てる問題について書き出す。(120 分)
2	問題の探索 各自の興味や関心を抱く問題について探索・発見を進め、整理統合の上で複数候補を挙げる。	◎課題　どのような研究ができそうか、候補テーマについて情報収集の仕方について調べておく。(240 分)

3	合同ゼミ：キャリア教育「就職準備講座」	アサインメント：自身のキャリアに関するレポート
4	問題の探索（続き） 各自の興味や関心を抱く問題について探索・発見を進め、発表準備を行う	◎課題　どのような研究ができそうか、候補テーマについて情報収集の仕方について調べておく。(240 分)
5	問題の探索（続き） 各自の興味や関心を抱く問題について探索・発見を進め、発表準備を行う。	◎課題　次回までにどのような研究ができそうか、候補テーマについて情報を収集する。（240 分）
6	問題の絞り込み 複数候補の問題の内容や重要性、探求可能性、方法などさまざまな観点から検討し、最終的に取り組むべきテーマを絞り込む。	◎課題　各自の候補テーマについて紹介準備をする。(240 分)
7	各自の興味と関連する論文の紹介（1） 　リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究を紹介する。	◎課題　各自の候補テーマに関連する論文収集と論文紹介準備をする。(240 分)
8	各自の興味と関連する論文の紹介（2） 　リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究を紹介する。	◎課題　各自の候補テーマに関連する論文収集と論文紹介準備をする。(240 分)
9	各自の興味と関連する論文の紹介（3） 　リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究を紹介する。	◎課題　各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
10	各自の興味と関連する論文の紹介（4） 　リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究を紹介する。	◎課題　各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
11	各自の興味と関連する論文の紹介（5） 　リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究を紹介する。	◎課題　各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
12	各自の興味と関連する論文の紹介（6） 　リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究を紹介する。	◎課題　各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
13	各自の興味と関連する論文の紹介（7） 　リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究を紹介する。	◎課題　各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
14	レポート作成の説明 　これまでの経過を振り返り，現時点での研究の目的や計画，見通し等についてレポートを作成する	◎課題　各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)

15	今学期のまとめと振り返り これまでの経過を振り返り，現時点での研究の目的や計画，見通し等についてレポートを作成し提出する。また、e ポートフォリオに今学期の振り返りを提出する。	◆ノートパソコン利用◆ ◎課題　今学期を振り返り、卒業研究の見通しについて考える。(240 分)

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-Y07	2.科目名	専門演習III	3.単位数	2
4.授業担当教員	松井幸太				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年~
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本ゼミでは、卒業論文を書くための基礎的能力を身につけることを目的とし、文献講読を行う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	各自が関心のある文献を読み、書かれている内容を理解し、まとめる力を身につけるとともに、批判的な視点から独自の考えを主張する力を養うことを目指す。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜紹介する				
21.成績評価	1. 授業への貢献度　15% 2. 毎回の授業における小レポート　15% 3. プレゼン発表　40% 4. 最終レポート　30%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火週 1 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション、講読文献、担当・発表順の決定	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 2 回	研究のテーマ設定とアウトライン	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 3 回	研究進行の諸注意?	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 4 回	研究進行の諸注意?	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 5 回	文献講読①	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 6 回	文献講読②	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 7 回	文献講読③	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 8 回	文献講読④	課題：小レポートの提出

		復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 9 回	文献講読⑤	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 10 回	文献講読②	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 11 回	研究構想発表①	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 12 回	研究構想発表②	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 13 回	研究構想発表③	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 14 回	研究構想発表④	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 15 回	まとめ	最終レポート

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-Y08	2.科目名	専門演習III	3.単位数	2
4.授業担当教員	髙橋浩樹				
5.授業科目の区分	警察分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：卒業研究に向けて、テーマ設定のための必要な基礎知識と技能を身に付けることを目的とします。また就職活動に向けて具体的な準備を進めます。 概要：研究テーマの選び方と資料の探し方を会得し、テーマに沿った先行論文等を要約します。 また就職活動に向けて基本となる自己 PR 文のモデルを作成します。面接練習を行うとともに本番に向けた想定問答を作成します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ①研究テーマに関する文献・情報収集力を高め、要約する力をつける。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ③研究に必要な専門的知識を身に付けることができるようになる。 ④就職活のの準備をすることで質疑に対する応答力を醸成し、コミュニケーションスキルを高めるこができるようになる。 ⑤自らプランを立て、検討を加えながら実践する力を身に付ける。				
19.教科書・教材	特にありません。				
20.参考文献	随時配布します。				
21.成績評価	・卒業研究の研究テーマに関するレポート：20% 【学習目標①②③に対応】 ・先行論文の要約：15% 【学習目標①②③に対応】 ・キャリア教育に関する課題（レポート）：15% 【学習目標④⑤に対応】 ・自己 PR 文の作成：20% 【学習目標④に対応】 ・面接想定問答：20% 【学習目標④に対応】 ・学習ポートフォリオへの記入：10% 【学習目標⑤に対応】				
22.コメント	卒業研究のテーマ設定と就職活動に向け、計画的に進めましょう。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日昼休み 研究室オフィスアワー：金曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション：専門演習IIIのねらいや内容，進め方についての説明 自己紹介（エピソードを含める）	毎回ノートパソコンを持参すること

第 2 回	論文作成の知識を持つ① ・論文の型とテーマづくり ・情報検索	関心・興味がありテーマとなりそうな事項（事件等）を考える
第 3 回	論文作成の知識を持つ② ・論文の型とテーマづくり ・情報検索	関心・興味がありテーマとなりそうな事項（事件等）を考える
第 4 回	論文作成の知識を持つ③ ・組立、執筆、点検	課題テーマに沿った資料を考える
第 5 回	リクルートによるキャリアガイダンス 5 月 14 日評価と実践（火曜日 2 限）にゼミの振替として実施	将来の職業について具体的に考えるをまとめる
第 6 回	面接練習（就活に向けて） ・模擬面接 ・想定問答の作成（30 問）	想定問答を作成する
第 7 回	研究テーマに関する調査① ・各自の関心や興味を抱く問題・課題について探求し、研究テーマを設定する ※　テーマについては、文献、先行論文の調査結果に基づき順次絞り込む ・調査した文献、先行論文について文献リストを更新する	文献リストの順次作成
第 8 回	研究テーマに関する調査? ・各自の関心や興味を抱く問題・課題について探求し、研究テーマを設定する ※　テーマについては、文献、先行論文の調査結果に基づき順次絞り込む ・調査した文献、先行論文について文献リストを更新する	文献リストの順次作成
第 9 回	文献・先行論文の読み込み① ・要約	要約の作成
第 10 回	文献・先行論文の読み込み② ・要約	要約の作成
第 11 回	文献・先行論文の読み込み③ ・要約	要約の作成
第 12 回	自己 PR 文の作成 ・複数パターンの文章作成（400 文字・800 文字）	2 パターンの文章作成
第 13 回	研究テーマに関する発表 ・ワード、パワーポイント等により各自発表を行う	資料及び質疑の作成
第 14 回	研究テーマに関する発表 ・ワード、パワーポイント等により各自発表を行う	資料及び質疑の作成
第 15 回	研究テーマに関するレポート作成 ・現時点での研究テーマ、文献リストをレポートにまとめる ・今学期の振り返り ・学修ポートフォリオの点検・作成	課題レポートの作成・提出

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-Y09	2.科目名	専門演習III	3.単位数	2
4.授業担当教員	沼田真美				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】卒業研究にむけた準備として研究テーマの探索，研究方法，論文作成などについて自発的に取り組んでいくことをねらいとする。 【概要】具体的には，春学期において受講生各自の興味や関心を意識化し整理した後に，複数のテーマについて文献検索などの情報収集や研究方法などの検討を行い，受講生は最終的に一つの研究テーマを決定する。その上で具体的なデータ収集とその整理・分析の方法を決定し、試行していく。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目は DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性，問題発見解決力，専門的知識技能の活用力の学修と関連しています。 ①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ③興味関心と先行研究の知見をもとに、新たな研究を考えることができるようになる。 ④研究に必要な情報を得るための方法や研究に必要な知識を身につけることができる。 ⑤これまでに学習した知識や経験をもとに、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。また、それをもとに自己 PR を作成できるようになる。				
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。				
20.参考文献	随時配布する				
21.成績評価	・各自の興味と関連する論文の要約と紹介（分析方法含む）：40%【学習目標①②に対応】 ・個人の研究テーマに関する発表：40%【学習目標①②③④に対応】 ・各発表における質疑応答：10%【学習目標②に対応】 ・その他（ｅポートフォリオへの記入・自己 PR 文の作成等）：10%　【学習目標⑤に対応】 ※上記の観点から総合的に判断する				
22.コメント	この演習は秋の専門演習IVと合わせて 1 年間かけて個人個人の興味関心を次第に掘り下げ、卒業研究につながるテーマの発見と追求を具体的に進めるとても重要なものです。				
23.オフィスアワー	初回授業内でお伝えします				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	オリエンテーション：専門演習IIIのねらいや内容，進め方について説明する。	持参物：ノートパソコン 課題：自己紹介，ゼミに対する意欲について提出する
2	論文の読み方，探し方 論文とは何なのかについて学び，論文を探すスキルを身につける。	持参物：ノートパソコン 課題：論文を検索し，その内容の要約を書く
3	合同ゼミ：キャリア教育「就職準備講座」	課題：自身のキャリアに関するレポート
4	論文の要約と内容の検討 自分が関心の持てる論文を探し，その内容についてしっかりと検討し，要約し蓄積することができるようになる。	持参物：ノートパソコン 学習：各自で興味のある分野の論文を検索し要約し蓄積する。

	◎論文要約発表	
5	テーマ決め，鍵概念 テーマの決め方について理解し，各自の興味や関心を抱く問題について探索・発見を進め、発表準備を行う。 ◎論文要約発表	学習：次回までにどのような研究ができそうか、候補テーマについて情報を収集する。
6	仮説の立て方と検証 複数候補の問題の内容や重要性、探求可能性、方法などさまざまな観点から検討し、最終的に取り組むべきテーマを絞り込む。 ◎論文要約発表	学習：各自のテーマ候補について紹介準備をする。
7	テーマ発表と質疑応答 このテーマを選んだ理由，仮説，検証方法についての構想について各自発表する。それに対して質疑応答を行う。 ◎テーマ発表	持参物：ノートパソコン 課題：テーマ発表に対する感想レポート 課題：今後の計画について
8	分析方法の検討 統計，分析の方法について分担して調査を行う ◎論文要約発表	学習：統計に関する発表の準備をグループで行う。
9	研究計画について 研究計画の立て方，立てる意味について考える。 ◎論文要約発表	学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。
10	研究テーマ，研究計画の検討 　リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究について検討する ◎論文要約発表	学習：担当する分析方法について調べてまとめる
11	分析方法の発表 各グループで分析方法について発表する。 ◎分析方法発表	学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。
12	研究の構想 研究の構想に必要な情報について各自で検討する。 ◎論文要約発表	学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。
13	構想発表１ 　各自で研究の構想を発表し，それに対して質疑応答を行う。	持参物：ノートパソコン 学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。
14	構想発表１ 　各自で研究の構想を発表し，それに対して質疑応答を行う。	持参物：ノートパソコン 学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。
15	今学期のまとめと振り返り これまでの経過を振り返り，現時点での研究の目的や計画，見通し等についてレポートを作成し提出する。また、e ポートフォリオに今学期の振り返りを提出する。	持参物：ノートパソコン 課題：今学期を振り返り、自己 PR を e-ポートフォリオに記載する。 課題：現時点での卒論の構想をレポートとしてまとめる。

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-Y11	2.科目名	専門演習III（社会）	3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	3 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	※現在３年生ゼミで調整中です ３年生ゼミにおける「文化・メディア」と「データサイエンス」の履修生のためのゼミです。神戸の身近な文化などの調査研究とともに、様々なコンテンツ制作とともに情報発信やプログラミングなどの学習も行っていきます。状況によりますが地域イベントの実施や、メディア作品制作なども行っていきたいと考えています。これらの活動は４年生のゼミにおける卒業論文、卒業制作のための礎となります。				
18.学習目標とＤＰとの関連	学習目標は DP の（1）社会や文化についての科学的理解力および 新たな文化創造、(2)主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力（3）コミュニケーション力に関連しています。 ①地域の地理や歴史、文化芸術などについて調査活動が行える ②基本的なコンテンツ制作やプログラム作成が行える ③調査に基づくプレゼンテーションや情報発信、コンテンツ／プログラム作品などの制作・発表が行える				
19.教科書・教材	適宜、資料を配付または提示します				
20.参考文献	適宜、資料を配付または提示します				
21.成績評価	取組姿勢（40%）　[学習目標①②に対応] 提出物（レポート、コンテンツなど）（40%）　[学習目標③に対応] プレゼンテーション（20%）　[学習目標①②③に対応]				
22.コメント	４年次の卒業制作または卒業論文に向けて、調査・研究・制作のスキルを身に着けるための実践的な演習です。個人活動として自ら積極的に取り組むことが求められます。 ★リクルートの就活講座が下記日程で入る予定です。 ・第３回（4/25） ・第６回（5/16） ・第８回（5/30）				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センタオフィスアワー：水曜日・昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定方法・受講上の留意点）	復習：学習内容の確認、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第２回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第３回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第４回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習な	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整

	ど ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	理 予習：次回テーマの予習
【第 5 回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 6 回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 7 回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 8 回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 9 回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 10 回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 11 回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 12 回】	期末課題の制作	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 13 回】	期末課題の制作	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 14 回】	期末課題の制作	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 15 回】	プレゼンテーション、まとめ	復習：学習内容の総括、授業ノートの整理

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-Y12	2.科目名	専門演習III（社会）	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本敏幸				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	データサイエンス専攻の専門科目 全学（神戸山手 C）			9.履修学年	社会学科 DS 3 年春
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義(従)＋BYOD による演習（主）		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的： 基礎的統計学をベースにしたデータ解析・機械学習の基本技法・分析ツールの活用法などの習得に重きを置き、ビッグデータや高次元データなどの情報を処理・分析するデータアナリストや地域社会・ビジネス現場の実課題を、データセットをもって解決する基本素養を養うことを目的とする。 概要： 「専門演習III」では、プログラミングをせず、データアナリティクスツールの使い方を学習するとともに，データアクセス、データ加工、機械学習のアルゴリズム、データ可視化、ダッシュボードや要約レポートの作成法など、データサイエンスを専門				
18.学習目標と ＤＰとの関連	1．　データアクセスの基本を理解し、データ分析ツールの基本的な使いかたを習得する。また、ツールを用いたデータ加工や可視化方法の活用ができる。 2．　地域社会・ビジネス現場の擬似課題に対し、データに基づいた意思決定や問題解決につながるデータアナリティクス（統計・機械学習）の手法を理解し、活用できる。 3．　ゼミワークを通して、４年時の卒論研究の方向、切り口、プランを考えることができる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発見・解決力（5)コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	教科書：自作 PDF テキスト 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する				
20.参考文献	参考書：必要に応じて紹介する。				
21.成績評価	課題(48%)、リフレクションシート(30%)、期末応用レポート(22%)、 課題は、６回 X８＝48 点【学習?標①②③④⑤に対応】 リフレクションシート：5 回 X6＝30 点 【学習?標①②③④⑤に対応】 期末応用レポートは、１X22＝22 点 【学習?標①②③④⑤に対応】				
22.コメント	講義では、ほぼ毎回でノート PC を利?した演習があるので，BYOD 必携すること				
23.オフィスアワー	第１回目の授業でアナウンスします。 センタオフィスアワー __曜__限（神戸山手） 研究室オフィスアワー __曜お昼時間（神戸山手）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第１回　受講ガイダンス ・概説、AI・BI，DS ツール ・ノンプログラミングアナリティクスとは ・アナリティクス環境構築・分析ツールのインストール	本講義では PC を利用する。 自作資料
	第２回　ツール機能の理解（１） ・データ表現形式と構造化データ	配布資料 課題①

	・データファイルの読み込み ・データ（変数）のタイプとデータサマリーの見方	
	第３回　ツール機能の理解（２） ・データ分析プロセス理解 ・データグラフの種類とデータ可視化 ・クロス集計とピポットテーブル	配付資料 リグレクションシート①
	第４回　ツール機能の理解（３） ・バーチャートについて ・ラインチャートについて ・エリアチャートについて	配付資料 課題②
	第５回　ツール機能の理解（４） ・ヒストグラムについて ・散布図 について ・箱ヒゲ図について	配付資料 リグレクションシート②
	第６回　ツール機能の理解（５） ・地図 - エリア ・地図 - 経度/緯度 ・ヒートマップ ・ワードクラウド	トピック動画 配付資料 課題③
	第７回　データラングリング演習（１） ・計算を作成 ・データタイプ ・ステップ ・集計	配付資料 小テスト①
	第８回　データラングリング演習（２） ・集計 ・ピボット ・行を選択 ・フィルタ	配付資料 リグレクションシート③
	第９回　データラングリング演習（３） ・グループ化 ・ブランチ ・列結合 ・行結合	配付資料 課題④
	第１０回　データラングリング演習（４） ・複数の列をつなげる ・列を分割 ・ワイド型からロング型へ変換 ・ロング型からワイド型へ変換	配付資料 リグレクションシート④
	第１１回　データラングリング演習（５） ・既存の値を新しい値に置き換える ・条件によって異なる値を返す ・条件によって既存の値を置き換える ・欠損値を扱う	配付資料 課題⑤
	第 12 回　機能理解総合演習	配付資料

	・欠損値を扱う ・ビン(カテゴリー)を作成 ・テキストデータの加工	リグレクションシート⑤
	第 13 回　アナリティクス実践（1） ・ばらつきと相関の可視化について	配付資料 課題⑥
	第 14 回　アナリティクス実践（2） ・時系列の可視化	配付資料 課題提出
	第１５回　総括および期末応用課題	総括 アピールシート

1.授業コード（ナンバリング）	SMN301-Y13	2.科目名	専門演習Ⅲ（社会）	3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬				
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年次
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 多文化共生を視野に入れた取材と記事執筆、文献講読、資料作成 【概要】 多文化共生を「小さな文化」を「理解する」ことから考えていこうと思っています。 国籍や宗教など「大きな文化」から始めると、誰かが用意した物語を聞くだけで終わってしまいがちです。このゼミでは、〇〇町の住民しか知らない文化、〇〇のファンしか知らない文化など、もっと小さく、もっと身近な文化を、自分で考えた取材を通じてウェブマガジンの記事にしていってもらいます。［対象の内部からの取材］＋［その外部への発信］、それこそが「ある文化を				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業の学習目標は DP の（S2）社会や文化についての科学的理解力、（S3）新たな文化創造、（2）問題解決力、（3）コミュニケーション力の学修に関連しています。 ①地域文化や地域活性化について、基本的な知識や論点を説明できる ②自分の考えを説得力のあるデータを示しながら伝えることができる ③イベント運営やコンテンツ作成などに、自主的に、かつ他のゼミ生と協調しながら取り組むことができる				
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）				
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・記事の完成度（企画力、取材力、文章力、レイアウトや画像処理の能力）……50 点（学習目標①②に対応） ・イベントや共同作業、討論などにおける積極性（ゼミの一員としての取り組み）……50 点（学習目標③に対応）				
22.コメント					
23.オフィスアワー	金曜 4 限（学修支援センター）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	［前半］ガイダンス ［後半］自己紹介用ワークシート記入	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 2 回】	［前半］ウェブマガジン過去の記事の紹介 ［後半］ウェブマガジン過去の記事の紹介	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 3 回】	［前半］文献講読 1 冊目の配布と順番決定 ［後半］むりすじレビュー準備	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 4 回】	［前半］むりすじレビュー発表 ［後半］むりすじレビュー発表	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 5 回】	［前半］文献講読 発表 1 周目① ［後半］ウェブマガジン第 5 号企画会議	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 6 回】	［前半］文献講読 発表 1 周目② ［後半］教材作成 1　説明と役割分担	終わらなかった作業の持ち帰り

【第 7 回】	［前半］文献講読 発表 1 周目③ ［後半］教材作成 1　作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 8 回】	［前半］文献講読 発表 1 周目④ ［後半］教材作成 1　作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 9 回】	［前半］ウェブマガジン進捗報告 ［後半］ウェブマガジン進捗報告	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 10 回】	［前半］文献講読 発表 2 周目① ［後半］教材作成 1　作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 11 回】	［前半］文献講読 発表 2 周目② ［後半］教材作成 1　作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 12 回】	［前半］文献講読 発表 2 周目③ ［後半］教材作成 1　作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 13 回】	［前半］文献講読 発表 2 周目④ ［後半］教材作成 1　作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 14 回】	［前半］ウェブマガジン進捗報告 ［後半］ウェブマガジン進捗報告	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 15 回】	［前半］総括 ［後半］ウェブマガジン第 6 号企画会議	終わらなかった作業の持ち帰り

1.授業コード（ナンバリング）	SMN307-A01	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習IV	3.単位数	4
4.授業担当教員	杉林弘仁				
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	●目的 これまで経営学概論，そして「プロジェクトマネジメント演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を勉強してきた皆さんにとって，この演習のⅣは経営学基礎の総仕上げになります。その成果を「マネジメント検定試験 3 級」の検定試験に合格することで確認します。この試験は，日本経営協会が実施する資格認定試験で，この 3 級に合格することは，経営学部の大学生が習得しておくべき経営学に関する基礎知識を習得していることを示すものです。さらに将来に中小企業診断士試験を受験しようとする方はその基礎となります。この演習では，グループ学習によって全員の合格				
18.学習目標とＤＰとの関連	科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学習に関連しています。 (1)自律的で主体的な態度 　自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができます。 (5) コミュニケーションスキル 　国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。 (6) 専門的知識・技能 の活用力 　自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際を想定した場面で活用することができます。				
19.教科書・教材	・ 日本経営協会(2023)『マネジメント検定試験公式テキスト(Ⅲ級）－経営学の基本』中央経済社。ISBN：978-4-502-43511－9				
20.参考文献	・加護野忠男･吉村典久(2021)『1 からの経営学(第 3 版)』碩学舎/中央経済。 ISBN：978-4-502-37521-7 ・伊丹敬之･加護野忠男(2022)『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版。 ISBN-978-4-532-13526-3（中古で多く出回っている「ゼミナール経営学入門第 3 版」でも内容は同じです） ・遠藤功(2020)『ビジネス新･教養講座　企業経営の教科書』日本経済新聞出版。				
21.成績評価	・小テスト 5 回：30%(授業への貢献度として評価します) ・グループワークによるプレゼンテーション：60% ・総括のレポート：10% －学習目標の(1)と(5)と(6)に対応します。				
22.コメント	・経営学の総復習です。授業内でできることはわずかです。授業外での学習が非常に多くなります。グループで力を合わせて乗り切ってください。 ・毎回テキストを読んでくる箇所を指定します。決して多くありませんので，必ず「読む」という習慣をつけましょう。そして毎日のなかに「考える」という時間をとってください。 ・他のメンバーにしっかりと説明することで，自分の理解が不十分なところがわかってきます。				

23.オフィスアワー	・センターオフィスアワー：(前期)水曜日第 2 限 10:45～12:15 ・研究室オフィスアワー：(前期)月曜日第 3 限 15:00～16:15(研究室 805)

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回/第 2 回	●第 1 回：「オリエンテーション」 ・内容：授業の進め方を説明します。皆さんの「学び」の意識をはっきりさせます。その上で， 15 回をかけて何をするのか。その概要を説明します。 ●第 2 回：「学修グループの編成」 これから学修するグループを作ります。テキストの担当する分担を決めます。担当するグループはその経営学テーマのエキスパートとなり，他のグループメンバーにわかりやすく説明をしていきます。	学習ノートを作ります。あとで数枚のカードにそのエッセッスを集約するようにしてください。担当グループは，次週にむけてパワーポイントで資料を作成してください。
第 3 回/第 4 回	●第 3 回「経営とは，企業とは①」 第 1 部は企業論です。「第 1 章：経営学から何を学ぶか」の担当グループによるテキスト･プレゼンテーション。企業の役割や経営学を学ぶ意義を確認します。 ●第 4 回「経営とは，企業とは②」 ・「第 2 章：企業のかたち」の担当グループによるテキスト･プレゼンテーションから，企業にはどんな形態があるかを確認します。	学習ノートに今回の内容を追記していきましょう。あとで数枚のカードにそのエッセッスを集約するようにしてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。担当グループは，次週にむけてパワーポイントで資料を作成してください。
第 5 回/第 6 回	●第 5 回「経営とは，企業とは③」 ・「第 3 章：大規模な株式会社におけるガバナンス」の担当グループによるテキスト･プレゼンテーションから，コーポレート･ガバナンスについて理解します。 ●第 6 回「経営とは，企業とは④」 「第 4 章：日本型企業システム」の担当グループによるテキスト･プレゼンテーションから，日本的な雇用慣行や経営制度について理解します。	学習ノートに今回の内容を追記していきましょう。あとで数枚のカードにそのエッセッスを集約するようにしてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。担当グループは，次週にむけてパワーポイントで資料を作成してください。第一部が終わりましたので，確認テストをしますので，総復習をしてください。
第 7 回/第 8 回	●第 7 回　第 1 部　企業論のテスト ・テスト終了後，皆さんの状況を確認し，すぐに解説に入ります。間違えたところはその場で覚えて下さい。 ●第 8 回「どうすれば企業は，目標を達成できるか①」 ここからは第 2 部で経営戦略論が中心となります「第 1 章：戦略とは何か」の担当グループによるテキスト･プレゼンテーションを通して，企業経営と戦略との関係，戦略の多様性や戦略策定のプロセスを学びます。	学習ノートに今回の内容を追記していきましょう。あとで数枚のカードにそのエッセッスを集約するようにしてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。担当グループは，次週にむけてパワーポイントで資料を作成してください。
第 9 回/第 10 回	●第 9 回「どうすれば企業は，目標を達成できるか②」 ・「第 2 章：全社戦略としての成長戦略」の担当グループによるテキスト･プレゼンテーションを通して，全社レベルでみた成長戦略の基礎的な理論を学びます。 ●第 10 回「どうすれば企業は，目標を達成できるか③」	学習ノートに今回の内容を追記していきましょう。あとで数枚のカードにそのエッセッスを集約するようにしてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。担当グループは，次週にむけてパワーポイントで資料を作成してください。

	「第 3 章：全社的な経営資源の配分」は，製品ライフサイクル理論をベースとする PPM 戦略です。担当グループによるテキスト･プレゼンテーションから学びます。	
第 11 回/第 12 回	●第 11 回「どうすれば企業は，目標を達成できるか④」 これまでは全社的な位置づけから戦略論をみてきましたが，ここからは他社との競争という次元を加えた戦略論に入ります。「第 4 章：事業ごとの競争戦略」の担当グループによるテキスト･プレゼンテーシから学習します。 ●第 12 回「どうすれば企業は，目標を達成できるか⑤」 第 5 章：「経営戦略論の時代的変遷」の担当グループによるテキスト･プレゼンテーシから，戦略論を振り返って，戦略論がその時代によってどのように変わっていったのかを確認します。	学習ノートに今回の内容を追記していきましょう。あとで数枚のカードにそのエッセッスを集約するようにしてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。担当グループは，次週にむけてパワーポイントで資料を作成してください。第二部が終わりましたので，確認テストをしますので，総復習をしてください。
第 13 回/第 14 回	●第 13 回　第 2 部　経営戦略論のテスト ・テスト終了後，皆さんの状況を確認し，すぐに解説に入ります。間違えたところはその場で覚えて下さい。 ●第 14 回「どのように戦略を実行に移すか①」 ・第 2 部までは全社的な戦略を扱いましたが，第 3 部はマーケティングや R&D(研究開発)の機能別の戦略に入っていきます。「第 1 章：マーケティング戦略の基礎」の担当グループによるテキスト･プレゼンテーションから学習します。	学習ノートに今回の内容を追記していきましょう。あとで数枚のカードにそのエッセッスを集約するようにしてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。担当グループは，次週にむけてパワーポイントで資料を作成してください。
第 15 回/第 16 回	●第 15 回「どのように戦略を実行に移すか②」 「第 2 章：研究開発戦略と生産戦略の基礎」の担当グループによるテキスト･プレゼンテーションから，企業の研究開発(R&D)及び生産管理について学習します。 ●第 16 回「どのように戦略を実行に移すか③」 ・この回は企業経営を数値から捉える会計を学習します。「第 3 章：財務戦略の基礎」の担当グループによるテキスト･プレゼンテーションから，損益計算書，貸借対照表など決算書の読み方を学習します。	学習ノートに今回の内容を追記していきましょう。あとで数枚のカードにそのエッセッスを集約するようにしてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。担当グループは，次週にむけてパワーポイントで資料を作成してください。第二部が終わりましたので，確認テストをしますので，総復習をしてください。
第 17 回/第 18 回	●第 17 回　第 3 部　機能別戦略のテスト テスト終了後，皆さんの状況を確認し，すぐに解説に入ります。間違えたところはその場で覚えて下さい。 ●第 18 回「人と組織をいかにマネジメントするか①」 ・ここからは第 4 部で，人的資源管理，組織構造論になります。「第 1 章：人と組織のマネジメント」の担当グループによるテキスト･プレゼンテーションから，人的資源管理について学習します。	学習ノートに今回の内容を追記していきましょう。あとで数枚のカードにそのエッセッスを集約するようにしてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。担当グループは，次週にむけてパワーポイントで資料を作成してください。

第 19 回/第 20 回	●第 19 回「人と組織をいかにマネジメントするか②」 ・「第 2 章：経営組織の形態」の担当グループによるテキスト･プレゼンテーションから，次の組織構造論に入る前の基礎を確認します。 ●第 20 回　第 4 部　人的資源管理のテスト テスト終了後，皆さんの状況を確認し，すぐに解説に入ります。間違えたところはその場で覚えて下さい。	学習ノートに今回の内容を追記していきましょう。あとで数枚のカードにそのエッセッスを集約するようにしてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。担当グループは，次週にむけてパワーポイントで資料を作成してください。第 4 部が終わりましたので，確認テストをしますので，総復習をしてください。
第 21 回/第 22 回	●第 21 回「マネジメント理論はどう発展してきたか①」 ・最後の第 5 部は，経営管理論の重要な部分です。歴史的な発展から経営管理をみていくことで，これまで学習してきた内容を再確認できます。「第 1 章：伝統的な管理論」担当グループによるテキスト･プレゼンテーションから，テイラーとファヨールの経営管理を学びます。 ●第 22 回「マネジメント理論はどう発展してきたか②」 「第 2 章：ホーソン実験と人間関係論」担当グループによるテキスト･プレゼンテーションから，「人間関係論」を学習します。	学習ノートに今回の内容を追記していきましょう。あとで数枚のカードにそのエッセッスを集約するようにしてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。担当グループは，次週にむけてパワーポイントで資料を作成してください。
第 23 階/第 24 回	●第 23 回「マネジメント理論はどう発展してきたか③」 「第 3 章：近代的な管理論」の担当グループによるテキスト･プレゼンテーションから，「近代組織論」を学習します。 ●第 24 回「マネジメント理論はどう発展してきたか④」 「第 4 章　行動科学にもとづく動機づけとリーダーシップの理論」の担当グループによるテキスト･プレゼンテーションから，「モチベーション論」「リーダーシップ論」を学習します。	学習ノートに今回の内容を追記していきましょう。あとで数枚のカードにそのエッセッスを集約するようにしてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。担当グループは，次週にむけてパワーポイントで資料を作成してください。
第 25 回/第 26 回	●第 25 回「マネジメント理論はどう発展してきたか⑤」 「第 5 章　比較的新しい組織論の分野」の担当グループによるテキスト･プレゼンテーションから，「コンティンジェンシー理論」「組織文化論」を学習します。 ●第 26 回「テキスト学習を終えたディスカッション」 一通りの学習を終えたところで，全員でテキストの内容，各グループが学習した方法はどのようなものであったか，また成果について議論します。	今日のディスカッションをもとにして，学習ノートに追記していきましょう。あとで数枚のカードにそのエッセッスを集約するようにしてください。第 5 部が終わりましたので，確認テストをしますので，総復習をしてください。
第 27 回/第 28 回	●第 27 回　第 5 部　経営管理論･経営組織論のテスト テスト終了後，皆さんの状況を確認し，すぐに解説に	最初からノートの振り返り，修正していきます。時間にすきまをみつけ何度も復習する習

	入ります。間違えたところはその場で覚えて下さい。 ●第 28 回「総復習テスト①」 皆さんが比較的苦手な分野から過去問題を出題し，解答を全員でディスカッションして解答を確認します。皆さんの状況を確認します。	慣をつけていきます。
第 29 回/第 30 回	●第 29 回「総復習テスト②」 過去問題のなかからテストします。各グループでディスカッションして，皆さんの状況を確認し，グループからの解説に入ります。 ●第 30 回「後期に備えて，休暇中の論文課題説明」 これで，皆さんは経営学の基本知識を身につけることができました。この演習は後期から「プロジェクト専門演習」となります。これからは，一人ひとりが個別の論文を仕上げていくことになります。論文を書くのは簡単なことではありません。1 年半をかけて仕上げます。学生時間の 4 割を「論文」に割くということです。常に頭のなかで論	・最初からノートの振り返り，修正していきます。時間にすきまを見つけて，何度も復習する習慣をつけていきます。 ・「プロジェクト専門演習」が始まるまでの論文課題に取り組んでください。

1.授業コード（ナンバリング）	SMN307-A02	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習IV	3.単位数	4
4.授業担当教員	福本哲也				
5.授業科目の区分	総合演習科目 マーケティング、プランニング分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年
10.取得資格の要件		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	[目的] 本演習では、マーケティングの基礎理論を再び学び、特にマーケティングの視点を改めて体得することを目的としている。マーケティングは、様々な製品やサービス、そして企業戦略の重要な指針であり、活動であ り、今後の自身のキャリア育成に大きく影響する。本演習では特に自身の興味のある業界、領域を発見し、深く情報収集、観察し分析する機会としたい。 [概要」 本演習では、マーケティング理論を実感できる事例紹介を交えながら、できるだけ分かり易く説明を行う。また、演習ではマーケティングを実際に使える技術にまで高めるた				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は次のとおりです。 ①マーケティングの理論や専門用語が理解でき、その意味を説明できる=知的好奇心 ②社会やビジネスの課題について情報収集ができ、マーケティング視点で分析できる=情報収集/分析力 ③マーケティング技術を高め、自身のキャリア育成のツールとして活用できる＝思考/構想 [関連するディプロマポリシー] （１）自立性 （2）社会的貢献 (4)問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6)専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	石井 淳蔵・ 廣田 章光 『1 からのマーケティング(第 4 版)』碩学舎 ,2019 年 ISBN:978-4-502-32771-1 定価:本体 2,400 円+税				
20.参考文献	都度、紹介する				
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1)授業中の課題、小テスト:15 点 (2)授業中のワーク:15 点 (3)中間レポート「課題テーマは別途発表」:20 点 (4)総括試験「「課題テーマは別途発表」:40 点 (5)e-ポートフォリオ「プロジェクトマネージメント演習IVで学んだことを自分の言葉と考え方で表現できる」：10 点				
22.コメント	マーケティングは、生活者や街・お店を観察すること、また、私達の身近な様々な製品やサービス、情報に興味を持つことから始まります。少し注意をすればその微妙な変化や違い、またその理由が見えてきます。その視点と行動がマーケティングの技術獲得の一歩となります。人や街、企業活動や製品、サービスに関心を持って受講することを期待しています。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	第 1 回 〇オリエンテーション ・講義の概要、講義の流れ 〇教員自己紹介 〇学生を知る ・各自の興味、関心を語る 〇マーケティングとは ・マーケティングの意味、マーケティングとは何か 継続的に「価値」を生み出すこと ・マーケティングはプランニングの為のツール	[予習] ・自己紹介を考えてくる 5 分で、興味ある業界、領域を語れるように ・事前に提示された講義資料を読んでくる （60 分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 2 回	第 2 回 〇 マーケティング事例を学ぶ①ロフト ・プランニングの意味、コンセプトのカタチ（触媒型と射抜き型） 〇マーケティング事例を学ぶ②ZARA とユニクロ ・ビジネスモデルとファッションビジネスの現場	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 3 回	第 3 回 〇マーケティング事例を学ぶ③ファションビジネスの課題と古着の可能性 ・SDGs、PEST 分析 〇マーケティング事例を学ぶ④キーアイテム ・4P とは ・Product の意味	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 4 回	第 4 回 〇マーケティング事例を学ぶ⑤シャネル研究 ・ブランドビジネス 〇注目される直近のマーケティング領域：　マーケティングの教科書、業界地図 ・どんな課題、業界に興味があるか	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 5 回	第 5 回 〇フィールドワーク① ・インターネットで興味のある領域・業界の情報収集を行う ・研究テーマおよび次回のフィールドワーク先を決める	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 6 回	第 6 回 〇フィールドワーク② ・前回に決めた所に行き、研究テーマの情報種集をする	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 7 回	第 7 回 〇フィールドワーク③ ・フィールドワークの成果を踏まえ、研究をまとめる ・中間レポートとして提出する	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] グループワークを見直し完成させる [中間レポート] 作成と提出

第 8 回	第 7 回 〇フィールドワーク④ ・作成した中間レポートを発表する	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 9 回	第 9 回 〇自分をマーケティングする ・福本式就活法　→ 自己分析　→ 勝ち筋の発見 ・自己の価値の発見し、目標化する	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 10 回	第 10 回 〇コミュニケーションデザイン ・コミュニケーション戦略、時代の主役の変遷 ・What to Say × How to Say ・コミュニケーションアイデア、プロダクトアイデア 4 象限別対応	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 11 回	第 11 回 〇今注目されるメディア ・マスコミから WEB マーケティングへ ・注目されているアドテクノロジー SEO SEM リスティング広告　KPI	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 1 2 回	第 12 回 〇SNS とインフルエンサー ・Z 世代と SNS ・インフルエンサー事例 ・AIDMA → AISAS モデルへ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 13 回	第 13 回 〇クリエイティブワーク ・What to Say × How to Say プロダクト「アイデア」　× コミュニケーション「アイデア」 〇ロジカル　× エモーショナル ・媒体の選択 ・キャッチコピー　ボディコピー ・ショート動画	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 14 回	第 14 回 〇アントレプレナーシップ ・自分マーケティングからのキャリア育成に向けて ・どのプラットフォームで戦うのか	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 15 回	第 1 5 回 〇総括試験 〇総括試験の振り返り	[復習] 総括試験の振り返り

1.授業コード（ナンバリング）	SMN307-A03	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習IV	3.単位数	4
4.授業担当教員	河内山潔				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義及び演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	これまで経営学概論、経済学概論、マーケティング、ファイナンスなどの専門基礎科目、サービス企画論、発想法、などの専門基幹科目を学習してきたと思います。またコース別専門科目の学習も進めてきていると思います。そうした科目ごとの学習を総合化し、卒業研究に向けてさらに学習を深化させていくために、本授業はあると思います。 「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」について、もう一度、考えていこうと思います。前半では共通の基礎知識を整理し、後半で卒業研究の研究テーマを探す事を目的とします。 また就職活動についても指導して				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律的で主体的な態度、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキル、（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。 経営学全般の基本に対する理解を深めること。 卒業論文作成に向けて準備を行うこと。（テーマを探す） 個人ワーク、グループワークに取組むこと。 プレゼンテーション・スキルの向上。 自己?の作成。 就活試験対策。				
19.教科書・教材	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。				
20.参考文献	・日経文庫 1915　武藤泰明著『ビジュアル　経営の基本　第 3 版』日本経済新聞社 ・高橋伸夫著『大学 4 年間の経営学が 10 時間でざっと学べる』株式会社 KADOKAWA ・PHP ビジネス新書ビジュアル 005 小宮一慶著『「60 分」図解トレーニング　経営戦略』株式会社 PHP 研究所 その他、必要に応じて適宜提示する。				
21.成績評価	課題レポート×5 回　25% プレゼンテーション　20% SPI 対策　20% 最終レポート　25% e-ポートフォリオ　10%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日 2 限 センターオフィスアワー：金曜日 3 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1/2 回	オリエンテーション ・プロジェクトマネジメント演習IVの内容、授業の進め方確認 ・履修登録の確認	◆PC 〇テキストの復習（経営学概論）
第 3/4 回	振り返り、目標設定、個人面談実施	◆PC

	・振り返りと目標を e ポートフォリオに入力する ・個人面談を実施する	○e ポートフォリオの入力が終わらなかった場合は、次回までに入力を終えておくこと ○テキストの復習(経済学概論)
第 5/6 回	テーマⅠ「ヒトと組織」について① ・会社の仕組み ・コーポレートガバナンス ・マネジメントの階層 ・組織内の人間関係 レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ○テキストの復習（マーケティング）
第 7/8 回	テーマⅠ「ヒトと組織」について② ・会社の仕組み ・コーポレートガバナンス ・マネジメントの階層 ・組織内の人間関係 レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ○テキストの復習(ファイナンス) ○プレゼン用 PPT 作成
第 9/10 回	テーマⅠ「ヒトと組織」について③ ・会社の仕組み ・コーポレートガバナンス ・マネジメントの階層 ・組織内の人間関係 グループワークとプレゼンを行う	◆PC テーマⅠについてプレゼン資料をブラッシュアップし、課題レポート①として提出準備する
第 11/12 回	テーマⅡ「カネ」について① ・会計とは？ ・BS について ・PL について ・CF について レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ●課題レポート①を提出する○就活の準備（自己?）
第 13/14 回	テーマⅡ「カネ」について② ・会計とは？ ・BS について ・PL について ・CF について レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ○プレゼン用 PPT 作成
第 15/16 回	テーマⅡ「カネ」について③ ・会計とは？ ・BS について	◆PC テーマⅡについてプレゼン資料をブラッシュアップし、課題レポート②として提出準備す

	・PL について ・CF について グループワークとプレゼンを行う	る
第 17/18 回	テーマⅢ「モノ」について① ・品質について ・競争マーケティング ・流通について ・現代マーケティング レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ●課題レポート②を提出する○就活の準備（SPII 対策）
第 19/20 回	テーマⅢ「モノ」について② ・品質について ・競争マーケティング ・流通について ・現代マーケティング レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ○プレゼン用 PPT の作成
第 21/22 回	テーマⅢ「モノ」について③ ・品質について ・競争マーケティング ・流通について ・現代マーケティング グループワークとプレゼンを行う	◆PC テーマⅢについてプレゼン資料をブラッシュアップし、課題レポート①として提出準備する
第 23/24 回	テーマⅣ「情報」について ・IT の活用 ・データと情報 ・ICT ･法規制 レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ●課題レポート③を提出する○就活の準備（一般常識）
第 25/26 回	テーマⅣ「情報」について② ・IT の活用 ・データと情報 ・ICT ･法規制 レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ○プレゼン用 PPT 作成
第 27/28 回	テーマⅣ「情報」について ・IT の活用 ・データと情報 ・ICT ･法規制 グループワークとプレゼンを行う 最終レポート課題の発表	◆PC テーマⅣについてプレゼン資料をブラッシュアップし、課題レポート①として提出準備する ○最終課題に取り組む
第 29/30 回	最終課題の中間報告 振り返り ・e-ポートフォリオに入力する。	◆PC ●課題レポートⅣを提出する ○最終レポートを仕上げて提出する

	・授業アンケート	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN307-A04	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習IV			3.単位数	4
4.授業担当教員	陳那森						
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科				9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義及び演習		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	これまでの専門科目や展開科目、経験学習プログラム等で獲得した専門知と現場で学んできた経験知を総動員しつつ、データ駆動型社会と言われるこれからのビジネス社会におけるさまざまな事象について、その背景や課題および解決方法等に関する議論を深めながら、後続科目のマネジメント専門演習や卒業研究へと繋げていくべく環境整備を行う。 そのために、5 千字以上のレポートを執筆する訓練（内容＋レイアウト）を行うと共に、これからのビジネスパーソンに共通して必要とされるデータ分析のスキルおよび分析結果を読み解く力について、ビジネ						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用力に関連しています。 ①経営学全般の基本に対する理解を深めることができる。 ②課題を発見し、原因と結果の関係を他者に説明できる。 ③課題解決のための計画を立てることができる。 ④卒業研究に向けてテーマを絞ることができる。						
19.教科書・教材	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。						
20.参考文献	・高橋伸夫著『大学 4 年間の経営学が 10 時間でざっと学べる』株式会社 KADOKAWA ・日経文庫 1915　武藤泰明著『ビジュアル　経営の基本　第 3 版』日本経済新聞社 ・統計学の基礎から学ぶ Excel データ分析の全知識（できるビジネス）　できるビジネスシリーズ ・WebClass に掲載の自習教材「働く意義と会社のしくみ 2.0-0」、（株）日本事業出版が発行の書籍「イラスト図解　会社のしくみ」をもとに、日本データパシフィックが制作 その他、必要に応じて適宜提示する。						
21.成績評価	小課題 10 回　X　3　　30% プレゼンテーション　　20% 最終レポート　　50%						
22.コメント							
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　（水曜）昼休み 研究室オフィスアワー　（金曜）4 限						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1/2 回	オリエンテーション ・プロジェクトマネジメント演習IVの内容、授業の進め方確認 ・履修登録の確認	予習： 朝日新聞時事ワークシート　図表の読み解き①② 履修登録科目のチェック
第 3/4 回	朝日新聞時事ワークシート　図表の読み解き① 朝日新聞時事ワークシート　図表の読み解き②	小課題① 予習： 朝日新聞時事ワークシート　図表の読み解き

		③④
第 5/6 回	朝日新聞時事ワークシート　図表の読み解き③ 朝日新聞時事ワークシート　図表の読み解き④	小課題② 復習： Excel の基本について各自で復習してくること①
第 7/8 回	概要編―実務データを「見える化」するビジネスデータ分析① 概要編―実務データを「見える化」するビジネスデータ分析②	Excel の基本について各自で復習してくること②
第 9/10 回	操作編―Ｅｘｃｅｌでのビジネスデータ分析の基本操作① 操作編―Ｅｘｃｅｌでのビジネスデータ分析の基本操作②	小課題③ 授業中に提出
第 11/12 回	操作編―Ｅｘｃｅｌでのビジネスデータ分析の基本操作③ 分析編―Ｅｘｃｅｌでのビジネスデータ分析の活用と操作①	小課題④ 授業中に提出
第 13/14 回	分析編―Ｅｘｃｅｌでのビジネスデータ分析の活用と操作② 分析編―Ｅｘｃｅｌでのビジネスデータ分析の活用と操作③	小課題⑤ 授業中に提出
第 15/16 回	分析編―Ｅｘｃｅｌでのビジネスデータ分析の活用と操作④ 最終課題の提示	小課題⑥ 授業中に提出 最終課題に取り組む
第 17/18 回	分析応用編―Ｅｘｃｅｌでのビジネスデータ分析の応用と操作① 分析応用編―Ｅｘｃｅｌでのビジネスデータ分析の応用と操作②	小課題⑦ 授業中に提出 最終課題に取り組む
第 19/20 回	分析応用編―Ｅｘｃｅｌでのビジネスデータ分析の応用と操作③ グラフ編―グラフの読み方、使い方をマスターする①	小課題⑧ 授業中に提出 最終課題に取り組む
第 21/22 回	グラフ編―グラフの読み方、使い方をマスターする② グラフ編―グラフの読み方、使い方をマスターする③	小課題⑨ 授業中に提出
第 23/24 回	グラフ活用編―グラフ分析の実践テクニックをマスターする① グラフ活用編―グラフ分析の実践テクニックをマスターする②	小課題⑩ 授業中に提出 最終課題に取り組む
第 25/26 回	長文編集の作法 レポートでのデータの活用方法について	最終課題に取り組む
第 27/28 回	プレゼンテーションの作法 プレゼンテーション資料でのマルチメディアデータのかつようについて	プレゼンテーションの練習に取り組む
第 29/30 回	最終課題のプレゼンテーション 振り返り ・e-ポートフォリオに入力する	○最終レポートを仕上げて提出する

1.授業コード（ナンバリング）	SMN307-A05	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習IV	3.単位数	4
4.授業担当教員	林万平				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本演習では、地域経済、災害復興、都市再生を主なトピックとしながら、統計や資料調査を通じて現代社会の現状を分析する力を養う。例えば、国内の大規模災害による被災地の経済状況を分析する場合には、神戸市、東北三県、熊本県、新潟県といった地域が対象となり得る。 演習講義を通じて基礎的な研究プロジェクトの推進管理能力を培うことも重要な目的である。 履修者には、報告やプレゼンテーション、レポートの作成、ディスカッションへの積極的な参加が求められる。また、基礎的なビジネススキルである PC や IT を活用した情報共有の手法、ノ				
18.学習目標とＤＰとの関連	本セ?ミての学習目標は以下の 3 点である。 （1）被災地の経済・社会的特徴、復興過程、政府の対応、市民社会の行動等、幅広いテーマについて、報道記事や出版物を通して情報収集し、初歩的な報告書を作成できるようになる。（問題発見・解決力） （2）報告書の作成にあたって、自身の研究プロジェクトを立案・推進していくための基礎的な知識・技能を身につける。研究プロジェクトの全体像の理解、調査手法や文献の調査、基礎的な情報管理に必要な IT・PC スキル（含 excel, PPT, word, cloud service、タイピング等)、プレゼンテーションスキルの向上等が含まれる。(専門的知識・技能の活用力） (3)卒業研究に向けたテーマ発掘を行い、タイトルの素案を複数提出する。(自律性)				
19.教科書・教材	特になし				
20.参考文献	授業中に適宜紹介する				
21.成績評価	-e ホ?ートフォリオ 10%　（学習目標①、 ②、③） -各種レポートや発表に基づく評価 20%　（学習目標①） -中間報告 20%　（学習目標①、 ②） -最終報告 20%　（学習目標①、 ②） -最終レホ?ート(各自) 30%　（学習目標①、 ②）				
22.コメント	ゼミ運営は学生の主体性によるものとします。ゼミナール形式で実施するので、積極的に各種活動に関わろうとする人を希望します。欠席はやむを得ない場合を除いて避けてください。 また教室の中で同じ大学の学生のみの議論に終始しないためにも、課外学習、ヒアリング等のフィールドワーク等の学外活動を実施します。ゼミの時間以外（夏休み含む）にも活動を行うことを了解したうえで参加すること。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	第 1 回　自己紹介・授業のガイダンス 第 2 回　就活インターンシップ申し込み、自己 PR 執筆支援	基礎的 PC スキルのトレーニング
第 3 回 第 4 回	第 3 回　Notion を使ってみよう 第 4 回　Google calender を使ってみよう	基礎的 PC スキルのトレーニング
第 5 回 第 6 回	第 5 回　Cloud サービスを使ってみよう 第 6 回　PC、スマートフォン、(タブレット端末）でド	基礎的 PC スキルのトレーニング レポート執筆

	キュメント・ファイル管理をしてみよう	
第７回 第８回	第７回　都市再生の事例について＜ポートランド市＞ 第８回　　都市再生の事例について＜ポートランド市＞	基礎的 PC スキルのトレーニング レポート執筆
第９回 第１０回	第９回　　都市再生の事例について＜ビルバオ市＞ 第１０回　　都市再生の事例について＜ビルバオ市＞	基礎的 PC スキルのトレーニング 文献調査
第１１回 第１２回	第１１回　　都市再生の事例について＜神戸市＞ 第１２回　都市再生の事例について＜神戸市＞	基礎的 PC スキルのトレーニング 文献調査報告作成
第１３回 第１４回	第１３回　都市再生の事例について＜東北三県＞ 第１４回　都市再生の事例について＜東北三県＞	基礎的 PC スキルのトレーニング 文献調査報告作成
第１５回 第１６回	第１５回　中間レポートの発表 第１６回　最終レポートに向けたテーマ設定	基礎的 PC スキルのトレーニング 文献調査 研究プロジェクトの立案
第１７回 第１８回	第１７回　地域経済統計の収集方法 第１８回　地域経済統計の分析方法	基礎的 PC スキルのトレーニング 文献調査 研究プロジェクトの立案
第１９回 第２０回	第１９回　フィールド調査の方法 第２０回　　フィールド調査の方法	基礎的 PC スキルのトレーニング 文献調査 研究プロジェクトの推進
第２１回 第２２回	第２１回　文献収集の方法 第２２回　文献収集の演習	基礎的 PC スキルのトレーニング 文献調査 研究プロジェクトの推進
第２３回 第２４回	第２３回　論文の読解 第２４回　論文の読解と資料の整理	基礎的 PC スキルのトレーニング 文献調査 中間報告発表作成
第２５回 第２６回	第２５回　プレゼンテーション演習 第２６回　プレゼンテーション演習	基礎的 PC スキルのトレーニング 文献調査 中間報告発表作成
第２７回 第２８回	第２７回　フィールド調査の設計と統計収集の計画 第２８回　フィールド調査の設計と統計収集の計画	基礎的 PC スキルのトレーニング 文献調査 最終レポート・報告発表作成
第２９回 第３０回	第２９回　報告書の執筆に向けたプレゼンテーション 第３０回　報告書の執筆に向けたプレゼンテーション	基礎的 PC スキルのトレーニング 文献調査 最終レポート・報告発表作成

1.授業コード（ナンバリング）	SMN307-M01	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅳ	3.単位数	4
4.授業担当教員	田中綾子				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	セーフティマネジメン関連科目の単位取得と防災士資格取得が望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	この演習ではこれまでの専門科目、展開科目、オフキャンパスプログラム、課外活動等から得た知見を総動員し、セーフティマネジメントに関わる様々な事象についての議論を深め、問題意識の涵養を図る。学習の手法としては、ゼミ生相互による説明・質疑のほか、ディベート等も用いる。 また、地域において学習成果等を発信するため、活動企画・調査・準備・実施結果の検証を行う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	地域や組織内での災害やトラブルについて、①現状把握、②対策提案、③効果測定ができることを目標とします。具体的には、さまざまなセーフティマネジメント関連事象について １．課題を発見し、原因と結果の関係を他者に説明できる ２．客観的事実に基づいて、特徴等を他者に説明できる ３．課題解決のための計画を作成できる ４．要点を押さえて概要をまとめることができる ５．発信にあたり、対象者や目的に応じて内容を工夫することができる ことを目指す。				
19.教科書・教材	授業中に適宜指定・配布する				
20.参考文献	新聞記事、専門誌、論文等、適宜紹介する				
21.成績評価	演習における発表内容：30% 演習への貢献：20% 学外活動への貢献：20% 学外活動成果のまとめと発信：20% 卒業研究計画案：10%				
22.コメント	卒論執筆に向けた、論理的思考を重点的にトレーニングします。演習や学外活動への貢献度を重視しますので、積極的に発言してください。				
23.オフィスアワー	火曜日昼休み(4 号館 5 階研究室)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１・２回	・自己紹介等 ・セーフティマネジメント関連事案への関心等についての議論 ・スケジュール共有	＜持参するもの＞全回ノートパソコン
第３・４回	炊き出し訓練	
第５・６回	ディベートを活用した論理的思考法①	
第７・８回	ディベートを活用した論理的思考法②	
第９・10 回	【2 限】キャリア教育プログラム（暫定） 【3 限】セーフティマネジメント分野における課題分析とデータの活用 研究計画について①	

第 11・12 回	課題調査①	
第 13･14 回	課題調査②	
第 15・16 回	セーフティマネジメントプロジェクトの企画① 研究計画について②	
第 17・18 回	セーフティマネジメントプロジェクトの企画②	
第 19・20 回	セーフティマネジメントプロジェクトの準備①	
第 21・22 回	セーフティマネジメントプロジェクトの準備②	
第 23・24 回	セーフティマネジメントプロジェクトの実施①	
第 25・26 回	セーフティマネジメントプロジェクトの実施②	
第 27・28 回	セーフティマネジメントプロジェクトのまとめ 研究計画について③	
第 29・30 回	セーフティマネジメントプロジェクトの評価 研究計画案の提出	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN307-M02	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習IV	3.単位数	4
4.授業担当教員	高見彰				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本学経営学部経営学科ではビジネスの現場、地域社会がかかえる課題を解決して活躍できる「現場力」を身につけることが求められています。スポーツやレクリエーション活動は地域を元気にしていくチカラ（価値）を持っています。スポーツで地域づくりを担っていく（マネジメントする）ためには、スポーツの基礎的知識、地域をささえるスポーツの仕組み、スポーツが抱える諸問題（日本、世界）、これからの日本はスポーツでどちらの方向へ向かっていこうとしているのか、それらを解決するための実際の取り組みを理解していくことが必要です。 勝ち負け				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】これから地域スポーツマネジメントを学んでいく学生にとって、スポーツを幅広く考える視点は絶対に必要である。授業を通して以下のことを理解し、スポーツによる地域づくりに役立てるようにする。 １．スポーツとはなにかについて説明できる ２．スポーツに関わる組織や仕組みについて理解し説明できる ３．地域をマネジメントしていくためのスポーツの役割を実践できる ４．スポーツに関わる諸問題について興味をもち、社会とのつながりを考え、説明できる ５．スポーツイベントの成り立ちやスポンサード、マネジメントについて理解し、説明できる。 【KUIS 学修ベンチマーク】 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的 貢献性）：集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができるこれからスポーツについて学んでいく学生にとって、スポーツを幅広く考える視点は絶対に必要である。授業を通して以下のことができるようにする。 １．さまざまなスポーツ知識を得るため、新聞やテレビ、web ニュースに毎日目を通すことができる。 ２．「スポーツ文化」「地域スポーツ振興」「スポーツ基本法」「障がい者スポーツ」「女性とスポーツの関わり」について説明できる。				
19.教科書・教材	プリントを web クラスにアップする				
20.参考文献	参考書は授業中に提示する。				
21.成績評価	1 授業内容の理解度テスト=30%(学びのキーワードを説明する小テスト) 2 グループワークのワークシート(10 回分)=50%(グループワークを行った翌週の授業時に提出する。) 3 指導技術習熟度=20% ・授業理解度テストおよびグループワークのワークシートの評価は、配付するルーブリックに基づいて行う ・1、3 は学科の学習目標達成、2 は KUIS 学習ベンチマーク達成の評価に用いる				
22.コメント	■履修条件・他の科目との関連 ・10 回の欠席で期末試験の受験資格を失います。				

	・忌引き、法定伝染病罹患による公欠、ならびに教授会で認められた「欠席」以外はすべて欠席となります。 ・地域スポーツイベント普及理解を深めるためにグループワークや視聴覚教材を多く用います。 ・授業を真剣に聴き、記録、ノートしないと授業を理解することができません。 ゼミ内一致団結。スポーツを学ぶ姿勢を忘れず 10 月 28 日あじあん祭自主企画 11 月 11，12 日：マスターズ甲子園ボランティア 12 月神戸マラソンボランティア
23.オフィスアワー	木曜日 3 限：センターオフィスアワー 木曜日 4 限：研究室オフィスアワー

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
■第 1 回・第 2 回（4 月 9 日）	「プロジェクトマネジメント」における学びを俯瞰する オリエンテーション（シラバス用いて）／アイスブレイク・チームビルディングの実際 ゼミ内チームビルディングの実践	事前学修課題：シラバスに目を通して授業全体を把握する。 事後学修課題：スポーツに関する新聞記事、web ニュースに必ず目を通し、理解度テストに関連する事柄をおさえる。 アイスブレイク・チームビルディング指導に関するノートの作成
■第 3 回・第 4 回（4 月 16 日）	「スポーツと社会」における学びを俯瞰する／アイスブレイク・チームビルディングの実際 「スポーツ」と「社会のつながり」をどのようにとらえ、解答解説から「(地域）スポーツマネジメントの学びをイメージする」 小テスト：最近のスポーツ界でのできごと（最新ニュース）の知識を三択問題で問う。時間内に答え合わせをし、その問題から見える背景について解説をする。その中からスポーツと社会の関係について関心をもつ。	事前学修課題：シラバスに目を通して授業全体を把握する。 事後学修課題：スポーツに関する新聞記事、web ニュースに必ず目を通し、理解度テストに関連する事柄をおさえる。 アイスブレイク・チームビルディング指導に関するノートの作成
■第 5 回・第 6 回（4 月 23 日）	スポーツの概念と歴史を振り返る／地域スポーツイベント研究 「『スポーツ』つて本来どんな意味？？」「野球、サッカー、テニスだけがスポーツじゃない」「スポーツ＝体育なの？？」「スポーツと体育とはどう違うのか」「なぜ国民体育大会が国民スポーツ大会に名称変更したのか」ドイツ（ヨーロッパ）にはなぜ体育がないのか。そこから地域とスポーツの関係性をひもといていく。 「地域スポーツイベントで用いられるスポーツ素材研究」	◯事前学修課題：スポーツとは本来どういう意味なのかを考えてくる ◯事後学修課題：スポーツの起源と世界のスポーツの捉え方を理解しておく 宿題：終了後に配布した「体育からスポーツへの変化」を読み込んでくる 地域スポーツイベントで用いられるニュースポーツ素材研究のノート作成
■第 7 回・第 8 回（4 月 30 日）	スポーツのもっている価値を考えてみよう／地域スポーツイベント研究 「スポーツは勝つことが大事？それホント？負けるが価値って言葉知ってる？？」「スポーツと防災、スポーツと婚活／どんな関係？？」日本のスポーツ推進の課題	◯事前学修課題：スポーツの社会でどんな風に役立っているのか事例を調べる ◯事後学修課題：ワークシートにまとめる 地域スポーツイベントで用いられるニュースポーツ素材研究のノート作成

	課題解決策としてのスポーツの可能性 内容・方法等「今、地域社会でおきている問題、課題は何か」「スポーツってどんなチカラをもってるんだ」	
■第 9 回・第 10 回（5 月 7 日）	スポーツと法律・行政のしくみ①　／地域スポーツイベント研究 スポーツ振興法からスポーツ基本法、スポーツ基本計画策定まで 「スポーツに関わる法律があるの知ってる？」「スポーツ基本計画では地域創生をどのように捉えているのか」	○事前学修課題：スポーツ基本法とはどんな法律なのかについて web などで調べてくる ○事後学修課題：第 3 期スポーツ基本計画の柱を整理し理解を深めておく 地域スポーツイベントで用いられるニュースポーツ素材研究のノート作成
■第 11 回・第 12 回（5 月 14 日）	スポーツと法律・行政のしくみ②／地域スポーツイベント研究 日本のスポーツ界ではどんな組織がどんな仕事をしているのか 「日本のスポーツ、体育をコントロールしているのはどんな組織、機関？」「皆さんのスポーツの活動場所、機会は、日本のスポーツ行政の中ではどの当たりに位置するのか？」「兵庫県や三木市ではどんな機関、組織がスポーツを動かしているのか」	○事前学修課題：文部科学省の外局スポーツ庁を中心にした組織団体の名前を覚えてくる ○事後学修課題：主要な組織団体の名前と役割を確実に覚える 地域スポーツイベントで用いられるニュースポーツ素材研究のノート作成
■第 13 回・第 14 回（5 月 21 日）	日本のスポーツ推進の課題／地域スポーツイベント研究 地域にねざすスポーツ文化を考える①　ヨーロッパの人たちはどんな風にスポーツを楽しんでいるの ヨーロッパのスポーツ事情を紹介するビデオを見てヨーロッパのスポーツクラブのイメージ作ろう	○事前学修課題：ヨーロッパのスポーツクラブについて調べてくる ○事後学修課題：ヨーロッパのスポーツクラブについて理解を深めておく 地域スポーツイベントで用いられるニュースポーツ素材研究のノート作成
■第 15 回・第 16 回（5 月 28 日）	日本のスポーツ推進の課題／地域スポーツイベント研究 地域にねざすスポーツ文化を考える② 日本では総合型地域スポーツクラブはどれくらい普及しているのか 日本国内の総合型スポーツクラブの実際、三木市の総合型地域スポーツクラブの実際、	○事前学修課題：総合型地域スポーツクラブとは何かについてネットなどで調べておく ○事後学修課題：日本にはどんな地域クラブがあるのか、特に自分の住んでいる地域に焦点をあて調べておく 地域スポーツイベントで用いられるニュースポーツ素材研究のノート作成
■第 17 回・第 18 回（6 月 4 日）	ボランティアが支えるスポーツ文化／地域スポーツイベント研究 「スポーツボランティアは特別なこと？」スポーツイベントの成否はボランティアマネジメントから。	○事前学修課題：スポーツボランティアとはどういうことなのか調べてくる ○事後学修課題：スポーツボランティアの参加予定をたててみる 地域スポーツイベントで用いられるニュースポーツ素材研究のノート作成
■第 19 回・第 20 回（6 月 11 日）	障がい者スポーツを考える／地域スポーツイベント研究 パラリンピック、デフリンピック、スペシャルオリンピックスなど	○事前学修課題：障がい者スポーツについてトピックを見つけ事例を説明できるようにしておく ○事後学修課題：パラリンピックやデフリン

	「その歴史とノーマライゼーションへ向けて私たちが考え取り組まなければならないこと」	ピック、スペシャルオリンピックスについて説明できるようにしておく。 地域スポーツイベントで用いられるニュースポーツ素材研究のノート作成
■第 21 回・第 22 回（6 月 18 日）	スポーツと人権ジェンダーフリーのスポーツを考える／地域スポーツイベント研究 「なぜビーチバレーの女性選手だけが水着を着なければならないのか」「ウオーターボーイズはなぜオリンピックに出られないのか」	○事前学修課題：ジェンダーとは何かについて説明できるようにしてくる ○事後学修課題：自分の体験を通してスポーツとジェンダーの関係を説明できるようにしておく 地域スポーツイベントで用いられるニュースポーツ素材研究のノート作成
■第 23 回・第 24 回（6 月 25 日）	スポーツイベント計画（地域スポーツイベントの企画）	○企画の記録を提出
■第 25 回・第 26 回（7 月 2 日）	スポーツイベント計画（地域スポーツイベントの企画）	○企画の記録を提出
■第 27 回・第 28 回（7 月 9 日）	スポーツイベント計画（地域スポーツイベントの企画）	○企画の記録を提出
■第 29 回・第 30 回（7 月 16 日）	今期のまとめと成果確認・総括試験	ポートフォリオの整理

1.授業コード（ナンバリング）	SMN307-M03	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習IV	3.単位数	4
4.授業担当教員	肖威				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	特になし	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし。				
17.授業の目的と概要	【目的】 本演習では、これまでの様々な経験学習と専門科目で勉強してきた知識の統合を図ることを目的とする。 【概要】 それぞれの経験学習や専門科目の勉強において、興味関心の持つテーマを明確にし、関連学習を深め、各自のテーマに沿った研究を進めていく。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連している。 具体的には、 ・これまで学習した専門知識に対する理解を深める ・インターンシップやサービスラーニングなどのオフキャンパスでの経験を振り返り、特に関心を持つ課題について深堀し、専門知識や理論を用いて、問題の解明や課題解決の提案をすることができる ・個人学習やグループワークの内容をまとめ、他者に説明することができる				
19.教科書・教材	指定しない				
20.参考文献	指定しない				
21.成績評価	レジュメ＆個人ワーク　　30% 個人発表　　30% グループワーク　　30% e-ポートフォリオ　10%				
22.コメント	進路や卒論の作成を意識して研究対象業界＆企業を選定し、計画的な学習が望ましい。				
23.オフィスアワー	春学期： 水曜日昼休み　センターオフィスアワー 水曜日３限　研究室オフィスアワー				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2024/01/02	オリエンテーション ・総合マネジメント演習IIIの内容、授業の進め方確認 ・履修登録の確認	経営学概論の復習(１２０分)
2024/03/04	・自己紹介 PPT&文献リスト用 Excel ファイルの作成 ・自己紹介	・配布した参考資料の予習(第１講)
2024/05/06	・これまでの学習の振り返り＆テーマ選定・選書	○読書＆レジュメまとめ（120 分）
2024/07/08	・企業にとって成長とは何か（２） ・「成長」と「成熟」の違い ・レジュメの作り方	○経営戦略１のレジュメ-01 の作成(継続) ○研究対象企業のＤＮＡについて調べる（120 分）

2024/09/10	・キャリアガイダンス(暫定)	※リクナビ、マイナビへの登録は Web から各自で行うので、書類は提出しないこと ※次回までのリクナビやマイナビ等の就職サイトに新規登録を行っておくこと
2024/11/12	・工場見学（予定日）	○e-ポートフォリオに見学の感想文を登録する（120 分）
13-14	・工場見学の感想＆R キャップテスト結果で考える自分の職業選択 ==>e-ポートフォリオに ・第１章のレジュメ確認 「高品質+低価格」戦略 ・マイケル・ポーターの三つの基本戦略の有効性と限界 ・「スマート＊リーン」とは何か	
15-16	「スマート＊リーン」の事例学習　/　外部講師による講演会（暫定） ・ユニクロ、ゲーム業界、コンビニ業界 ◎ＧW1：各業界内企業別戦略の考察（120 分）	
17-18	GW1 のまとめと発表 ○コメントや意見、質問を整理して次回までに中間レポートを作成する（120 分）	
19-20	バリューチェーンのデザイン ・体験価値ショッピング、資産のコラボレーション ・個人ワーク：図表 1 作成	○レジュメ-02 の作成（継続)、図表 1 を完成（120 分）
21-22	スマート＊リーンの実現(1) ・東芝だけがＴＶ事業で黒字の理由 ・事業開発を成功させるカギ	○研究対象企業の弱点分析（120 分）→次回グループ内発表
23-24	スマート＊リーンの実現(2) ・社内をつなぐ「ワイガヤ」 ・パナソニックの「ideas for life」 ・デジカメ一眼レフ成功の軌跡	○経営戦略 3 のレジュメ-03 の作成（120 分）
25-26	グローバル勝者への道（1） ・アジアのパワーを取り込むには ・資生堂の中国進出 ・MUJI の「わけあって高い」から売れた ・ユニクロは失敗から学んだこと	○個人レポートを作成する（120 分） ◎GW2 最終発表の準備をする（120 分）
27-28	グローバル勝者への道（2） ・韓国や中国にはまねできない日本の匠 ・シマノのマーケティングは華僑が担う ・拡大の学習がグローバル化の最終段階	○個人レポートを作成する（120 分） ◎GW2 最終発表の準備をする（120 分）
29-30	最終発表、振り返り ・GW2 の発表 ・e-ポートフォリオに入力する。 ・授業アンケート	

	○発表後、レポートを完成し、Web class にて提出する（240 分）	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN307-M04	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習IV	3.単位数	4
4.授業担当教員	樋田大二郎				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義形式及び実習形式		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	1）かつての村（村落共同体）にはひとびとのつながりがあり地域課題の解決力があった。都市でも、商店街や工場街には関係者のつながりがあり地域課題の解決力があった。2）また、個人レベルで見ると、村には自給自足の技術（いわゆる「百姓」）や、自給自足を補う手間替え（お互いの得意なことで助け合う）の仕組みがあった。3）その後、日本社会の産業化・近代化、分業化、あるいは効率化や大規模化に伴い、地域の解決力、個人の自給自足の技術に陰りが生じた。例えば身近なところでは家事、大工仕事の外注化、ケアの外注化、祭りの外注化、関係				
18.学習目標とＤＰとの関連	●自律的で主体的な態度（自律性）：自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる ●社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる ●専門的知識・技能の活用力：地域マネジメントの概念を理解し、地域マネジメントに関心を持ち、地域マネジメントの主体として地域に関わることができるようになる。コミュニティビジネスを中心にしつつ包括的に地域活性化の方法を理解する。				
19.教科書・教材	授業内で紹介する				
20.参考文献	授業の中で紹介する。				
21.成績評価	毎回の小レポート（10%）、中間レポート（40%）、最終レポート（50%）				
22.コメント	主体的・創造的に授業づくりに参加してください。楽しいこと、面白いことが大事だと考えています。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1－2	・アイスブレイキング：授業の目的のシェア ・人と係わるとは：ホリスティックな係わり方	毎回、授業前に授業に関連する身の回りの出来事、記事やウエッブのコンテンツ等に目を通しておく。毎回の授業後に小レポートを提出する。
2024/03/04	・元気な地域の地域とは：北海道浦幌町、徳島県神山町、岡山県西粟倉村 ・元気な地域の特徴をあげてみよう	
2024/05/06	・私の大学生活、 ・私の地域生活	
2024/07/08	・「地域」による解決の時代：地域マネジメントの目的／産業主義から地域主義／スモールビジネス、コミュニティビジネス ・地域に根付いた企業：「地方不動産の超地域密着経営術」「滋賀の和菓子屋」「スタバ」 ・（宿題）自分の地域の地域に根付いた企業	

9－10	宿題発表	中間レポート（1）
2024/11/12	・産業主義の生き方から地域主義の生き方へ ・産業主義の生き方から地域主義の生き方へ　（事例）	
13－14	【この回以降の課題は企業活動・社会活動の変化】 ・消費者参加の潮流　共創（co－creation)、　生産消費　prosume（トインビー『第 3 の波』） 　SNS の活用：「イノベーション東北」、 　つばめの食器の転機（デパートでの実演)、ワークマン公式アンバサダー、道の駅、昔の釣り道具屋さん ・生産者育成（フェアトレード）の潮流 　カカオ、茶葉、蟹に 1000 万、地域を耕すレストラン、 （実習）フェアトレードを調べる	
15－16	・CSR（ボランティア）から CSV（共通価値の創造）：共通価値の創造 CSV（ポーター『戦略と競争優位』） ・CSV の可能性（事例)： （実習）CSV を調べよう（ボーダレスジャパン他）	
17－18	・クライエントや対象者のどことつながるか：.マズローの欲求段階のどこでつながるか・・・ ・生存基盤（第 1 段階)、便利さ／経済的裕福さ（第 2 段階)、所属（第 3 段階)、社会的評価（第 4 段階)、自己実現（地域への思いの実現、家族への思いの実現。これらの場合、自己と地域、自己と家族が一体であることが前提条件）（第 5 段階)、自己超越 ・就活について	企業活動・社会活動の変化についての中間レポート
19－20	【この回以降の課題：地域人材】 ・人的資本から社会関係資本　cf.「風の人」 ・産業主義的人材＝産業界と一緒に（一心同体の）自己実現／地域主義的人材＝地域と一緒に（一心同体の）自己実現 ・目的と目標、方法を問う人材 　実習「江ノ島に行こう」＝方法は目標ではなく、目的で決まる	
21－22	・地域を巻き込むビジネス ・welfare から workfare へ ・町を耕すレストラン(価値協創) ・地元オーナーシップ・輪（移）入代替主義 LOIS＝世界市場に巻き込まれない、信頼関係を使える(取引コストの低減にもなる) ・ＬＯＩＳ（地元オーナーシップ・輪（移）入代替）主義	

	・マイケル＝シューマン,『スモールマート革命』	
23－24	兵庫の地域人材に会う 1	
25－26	兵庫の地域人材に会う 2	
27－28	兵庫の地域人材に会う 3	
29－30	発表と授業のまとめ	最終レポート

1.授業コード（ナンバリング）	SMN307-M05	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習IV	3.単位数	4
4.授業担当教員	齋藤勝洋				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	この演習はこれまでのプロジェクトマネジメント演習を受けた、最終段階となる。ここでは様々な業界・業種の現場からのリアルで困難な課題を設定し、これまでに教室で学んできた専門知と現場で学んできた経験知を総動員しながら課題解決に取り組んでいく。 専門知と経験知の統合をこれまで以上に強く求められ、学生自身の力で学びを深化させると共にグループワークによる一連の作業を通じ、学修の総仕上げとする。 特定の業界や企業に関する情報を収集すると共に新聞記事を題材にして幅広い知識を得ると共に、理解し説明や議論ができるようにな				
18.学習目標とＤＰとの関連	①大項目「問題解決能力を身につける」 中項目「問題発見力　レベル３　（現状を確認し、今後生じうる問題を積極的に見つけ、解決のための課題を提示することができる）」 様々な企業の事業展開をサービスマーケティングの視点を活かして現状を把握し、何が問題であるか、どのような特徴があるかを発見することができるようになることを目指す。 ②大項目「問題解決能力を身につける」 中項目「計画・実行力　レベル３（見通しを持った計画を自ら立てて取り組み、計画の進行状況や課題の達成状況を確認し、必要に応じて修正しながら実行することができる）」 資格取得やキャリア形成に向け、計画的に実行できることを目指す。 ③大項目「コミュニケーション能力を身につける」 中項目「自己表現力　レベル３（言語的・非言語的な表現方法を活用して、内容の構成を工夫しながら自分の思いや考えをわかりやすく表現することができる）」 研究成果を論理的なレポートにまとめ、自己分析を行って自己 PR を行うことを目指す。 ④大項目「「コミュニケーション能力を身につける」 中項目「意見交換・調整力　レベル３（他者の主張を理解して、自分の意見や考えと他者の意見を調整して、互いに納得できる結論を得ることができる）」 自分自身の学びの成果を資源に、グループワークを通じて課題解決を図ることを目指す。				
19.教科書・教材	石原武政・竹村正明・細井謙一　編『1 からの流通論（第 2 版）』 ISBN：978-4-502-28361-1 価格：2,640 円 出版社：碩学舎				
20.参考文献	別途、配布する				
21.成績評価	授業中の提出物：４０％ 中間発表（ゼミ内報告会等）：１０％ 最終発表（最終レポート）：４０％ Ｅポートフォリオ：１０％				
22.コメント	①毎回、ノートパソコンの持参を求める。②新聞、ニュース、話題書等に目を向けておくこと。時事問題に関するワークも行う。③就職等のキャリア形成についても重視する。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)

第 01/02 回 （04/09）	＜第 01 回＞ ・PMIVイントロダクション ・諸注意 ＜第 02 回＞ ・就職活動について ・各種ワーク	＜第 01 回＞ ◆パソコン ◆履修要項 ◆成績表 ○担当学生はレジメ準備 ＜第 02 回＞ ○第 1 章読み込み（60 分） ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 03/04 回 （04/16）	＜第 03 回＞ ・第 1 章　流通とは（前半） ・新聞発表とディベート ＜第 04 回＞ ・自己分析（自己 PR 作成） ・就職対策（SPI） ・新聞発表とディベート	◆パソコン ＜第 03 回＞ ○新聞読み込み ＜第 04 回＞ ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 05/06 回 （04/23）	＜第 05 回＞ ・第 1 章　　流通とは（後半） ・新聞発表＆ディベート ＜第 06 回＞ ・自己分析（自己 PR 作成） ・就職対策（SPI） ・新聞発表＆ディベート	◆パソコン ＜第 05 回＞ ○新聞読み込み ＜第 06 回＞ ○第 2 章読み込み（60 分） ○新聞読み込み
第 07/08 回 （04/30）	＜第 07 回＞ ・第 2 章　百貨店と総合スーパー（前半） ・新聞発表＆ディベート ＜第 08 回＞ ・自己分析（自己 PR 作成） ・就職対策（SPI） ・新聞発表＆ディベート	◆パソコン ＜第 07 回＞ ○新聞読み込み ＜第 08 回＞ ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 09/10 回 （05/07）	＜第 09 回＞ ・第 2 章　百貨店と総合スーパー（後半） ・新聞発表＆ディベート ＜第 10 回＞ ・就職対策（SPI） ・業界研究 ・新聞発表＆ディベート	◆パソコン ＜第 09 回＞ ○新聞読み込み ＜第 10 回＞ ○第 3 章読み込み（60 分） ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 11/12 回 （05/14）	＜第 11 回＞ ・第 3 章　食品スーパーとコンビニエンス・ストア（前半） ・新聞発表＆ディベート ＜第 12 回＞ ・就職対策（SPI） ・業界研究 ・新聞発表＆ディベート	◆パソコン ＜第 11 回＞ ○新聞読み込み ＜第 12 回＞ ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 13/14 回 （05/21）	＜第 13 回＞ ・第 3 章　食品スーパーとコンビニエンス・ストア（後半）	◆パソコン ＜第 13 回＞ ○新聞読み込み

	・新聞発表＆ディベート ＜第 14 回＞ ・就職対策（SPI） ・企業研究 ・新聞発表＆ディベート	＜第 14 回＞ ○第 4 章読み込み（60 分） ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 15/16 回 （05/28）	＜第 15 回＞ ・第 4 章 ディスカウント・ストアと SPA（前半） ・新聞発表＆ディベート ＜第 16 回＞ ・就活対策（SPI） ・エントリー＆志望動機作成 ・新聞発表＆ディベート	◆パソコン ＜第 15 回＞ ○新聞読み込み ＜第 16 回＞ ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 17/18 回 （06/04）	＜第 17 回＞ ・第 4 章　第 4 章 ディスカウント・ストアと SPA（後半） ・新聞発表＆ディベート ＜第 18 回＞ ・就活対策（SPI） ・エントリー＆志望動機作成 ・新聞発表＆ディベート	◆パソコン ＜第 17 回＞ ○新聞読み込み ＜第 18 回＞ ○第 5 章読み込み（60 分） ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 19/20 回 （06/11）	＜第 19 回＞ ・第 5 章　商店街とショッピングセンター（前半） ・新聞発表＆ディベート ＜第 20 回＞ ・就職対策（SPI） ・エントリー＆志望動機作成 ・新聞発表＆ディベート	◆パソコン ＜第 19 回＞ ○新聞読み込み ＜第 20 回＞ ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 21/22 回 （06/18）	＜第 21 回＞ ・第 5 章　商店街とショッピングセンター（後半） ・新聞発表＆ディベート ＜第 22 回＞ ・就職対策（SPI） ・エントリー＆志望動機作成 ・新聞発表＆ディベート	◆パソコン ＜第 21 回＞ ○新聞読み込み ＜第 22 回＞ ○第 6 章読み込み（60 分） ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 23/24 回 （06/25）	＜第 23 回＞ ・第 6 章 小売業態とは何か（前半） ・新聞発表＆ディベート ＜第 24 回＞ ・就職対策（SPI） ・エントリー＆面接稽古 ・新聞発表＆ディベート	◆パソコン ＜第 23 回＞ ○新聞読み込み ＜第 24 回＞ ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 25/26 回 （07/02）	＜第 25 回＞ ・第 6 章 小売業態とは何か（後半） ・新聞発表＆ディベート ＜第 26 回＞ ・就職対策（SPI） ・エントリー＆面接稽古 ・新聞発表＆ディベート	◆パソコン ＜第 25 回＞ ○新聞読み込み ＜第 26 回＞ ○第 7 章読み込み（60 分） ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み

第 27/28 回 （07/09）	＜第 27 回＞ ・第 7 章　小売を支えるロジスティクス（前半） ・新聞発表＆ディベート ＜第 28 回＞ ・就職対策（SPI） ・エントリー＆面接稽古 ・新聞発表＆ディベート	◆パソコン ＜第 27 回＞ 〇新聞読み込み ＜第 28 回＞ 〇担当学生はレジメ準備 〇新聞読み込み
第 29/30 回 （07/16）	＜第 29 回＞ ・第 7 章　小売を支えるロジスティクス（後半） ・新聞発表＆ディベート ＜第 30 回＞ ・サービスマーケティングのまとめ	〇各自の研究成果を E ポートフォリオに入力（120 分）

1.授業コード（ナンバリング）	SMN309-Y01	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習III		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門教育　総合演習科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	各専攻（エアライン・ホテルブライダル・旅行・観光ビジネス専攻（地域コース）など			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	①先に単位取得が必須の科目：基礎演習または課題研究Ⅰ・Ⅱのいずれか ②履修を推奨する科目：マーケティング関連科目、エアラインビジネス論、現代航空事情			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限	ゼミ振り分けの人数					
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目（PM 演習Ⅰ・Ⅱ）の目的は、連携先の企業・団体の提示する問題の解決に他者と協働して取り組むことで、これまで学んできた知識や技術を統合的に活用する力を強化することにあります。具体的には、ものごとの見方や考え方、資料・データの収集と分析の方法、議論の進め方、柔軟な発想力、深く考える力、他者への理解や共感、不足する知識や技術への気づきと自己能動的学習による知識や技術の修得、プレゼンテーション力を強化します。 【概要】 今年度の課題は「関西圏における 3 空港を比較する中で、神戸空港の魅力を向上させる					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目（PM 演習Ⅰ・Ⅱ）の学習目標はＤＰ（ディプロマ・ポリシー）の(6)「専門的知識・技能の活用力…マーケティングの知識・手法に基づき、観光産業で求められる知識・技能を活用して、既存の課題の解決と新たな企画・提案ができる」に関連しています。 【本科目の学習目標】 ①学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 ② 課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 ③他者貢献の意味を理解し、コミュニケーションを図り、チームビルディングに主体的に参加しチームに貢献することができる。 ④目標達成に向かって組織、工程、資源のマネジメントを効率的に行うことができる。 ⑤学外の関係者と積極的かつ効率的にコミュニケーションを図り、ビジネスマナーを適切に行動化することができる。 ⑥創り上げたアイデアをわかりやすくまとめ、的確かつ効果的に相手に伝えるプレゼンテーションができる。					
19.教科書・教材	適宜、資料を配信します。					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	ＰＭ演習Ⅰ　個人調査の成果物：50%　・・・学習目標①② 行程表（個人課題で提出したもの）：30%　・・・学習目標④ 専攻課題文献のまとめ（2 本）：20%　・・・学習目標② ＰＭ演習Ⅱ　調査計画表：20%　・・・学習目標②④ 発表 PPT（個人課題で提出したもの）：30%　・・・学習目標③⑤⑥ 調査研究報告書（6000 字以上）：50%　・・・学習目標①② ※成果物の評価にはルーブリック評価表を使用します。					

	※本授業は主体的な学習活動を中心として運営されますので、特別
22.コメント	エアライン専攻ゼミでは、最終ゴールはもちろんのこと、以下についても取り組みます。 ①調査研究レポートの作成、就活に向けて文章力を鍛える。⇒毎回、PC を持参し、課題のテーマについて文章を作成します。また課題図書も設けます。 ②データの収集および分析力を高める。⇒アンケートの作成やデータ化、データの分析から表やグラフの作成をできるようにＩＴリテラシーを身につけます。 ③就活に向けた情報力を高める。⇒具体的な業界や企業について担当者を決めて発表します。（キャリアプランニングでも同じ課題が出されます。同じ内容でかまいません。）
23.オフィスアワー	金曜日　昼休み　神戸山手キャンパス 3 号館　3302 号室

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	第 1 回：オリエンテーション（進め方全体やゼミで目指す方向を確認） 第 2 回：2 年次の研究内容の発表　グループ決定	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 3 回 第 4 回	第 3 回：研究テーマについての検討（前年度の取り組みについて発表を確認） 第 4 回：フィールドワークに向けてテーマから確認すべき事項を取りまとめる。フィールドワークは空港見学を予定しており、開催は 5 月から 6 月の土曜日の予定。	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 5 回 第 6 回 第 7 回	第 5 回：フィールドワーク後のテーマに関する部分をまとめ、更なる調査項目をピックアップ 第 6 回＆第 7 回：フィールドワーク実施により休講	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 8 回 第 9 回	第 8 回：成果計画表の作成 第 9 回：工程表の作成	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 10 回 第 11 回	第 10 回：　合同発表会に向けて準備 第 11 回：テーマ発表会　ANA 総研によるアドバイス	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 12 回～第 14 回 第 15 回	第 12 回～第 14 回：企業からのアドバイスや他大学の発表から最終発表に向けて新たに追加すべき活動や見直すべき活動を再検討 第 15 回：夏休みに向けての課題	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 16 回 第 17 回～第 22 回	第 16 回：研究テーマの確認 第 17 回～第 22 回：中間報告に向けて発表準備（毎回発表を行います）	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 23 回 第 24 回～第 28 回	第 23 回：中間報告会 第 23 回～第 28 回：個人研究作業およびグループ発表作業	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 29 回 第 30 回	第 29 回：合同研究発表会　　ANA 総研による採点 第 30 回：個人課題研究提出	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。

1.授業コード（ナンバリング）	SMN309-Y02	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習III	3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均				
5.授業科目の区分	専門教育　総合演習科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	指定なし			9.履修学年	3 年生以上
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	マーケティング関連科目、および思考法の履修を推奨する。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	20 名				
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目の目的は、連携先の企業・団体の提示する問題の解決に他者と協働して取り組むことで、これまで学んできた知識や技術を統合的に活用する力を強化することにあります。具体的には、ものごとの見方や考え方、資料・データの収集と分析の方法、議論の進め方、柔軟な発想力、深く考える力、他者への理解や共感、不足する知識や技術への気づきと自己能動的学習による知識や技術の修得、プレゼンテーション力を強化します。 【概要】 3 年次では、「ウェルビーイング社会を実現する観光ビジネスを考える」というテーマで、グローバルに変				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標はＤＰ（ディプロマ・ポリシー）の(6)「専門的知識・技能の活用力…マーケティングの知識・手法に基づき、観光産業で求められる知識・技能を活用して、既存の課題の解決と新たな企画・提案ができる」に関連しています。 【本科目の学習目標】 ①学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 ② 課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 ③他者貢献の意味を理解し、コミュニケーションを図り、チームビルディングに主体的に参加しチームに貢献することができる。 ④目標達成に向かって組織、工程、資源のマネジメントを効率的に行うことができる。 ⑤学外の関係者と積極的かつ効率的にコミュニケーションを図り、ビジネスマナーを適切に行動化することができる。 ⑥創り上げたアイディアをわかりやすくまとめ、的確かつ効果的に相手に伝えるプレゼンテーションができる。				
19.教科書・教材	適宜、資料を WEB 配信します。				
20.参考文献	適宜、授業中に指示します。				
21.成績評価	個人調査の成果物：50%　・・・学習目標①② 工程表（個人課題で提出したもの）：30%　　・・・学習目標④ 専攻課題文献のまとめ（2 本）：20%　・・・学習目標② ※成果物の評価にはルーブリック評価表を使用します。授業初回の説明でよく確認してください。 ※本授業は主体的な学習活動を中心として運営されますので、特別な事情の無い欠席については、基本的には認められませんので留意して下さい。				
22.コメント	コロナ禍によって人々の価値観は大きく変動し、観光に求めることもますます多様化しています。これからの観光にとって、ターゲットとなる客層のニーズを把握し、そのニーズに応える				

	観光プロダクトを創り出す力を身につけることが大切です。ゼミでは、連携企業や団体から提示された観光の現場の課題について調査・分析し、その解決に取り組みます。 【注意点】 ※１　ホスピタリティ産業はマナーが第一です。連携先との打ち合わせやインタビューなどの際には常に身なりや行動に注意すること。 ※２　フィールドワークは原則必ず参加してください（実費です)。正当な理由がなく欠席した場合には、評価がマイナスされます。 ※　チームワークを大事にしてください。観光の仕事は相手の気持ちを考えることが大切です。お互いに高めうことができるように、相手を受け止め、働きかけてください。
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 5 限（春） 学修支援センター：金曜昼休み（春）

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	《イントロダクション》 授業の目的、学習目標、成績評価の方法、卒業研究、就活との関係について理解しましょう。 《ブロック１》プロジェクトマネジメントを理解する。 ①講義：「プロジェクトマネジメントとは？」 プロジェクトマネジメントとは何かについて理解し、今後の調査研究活動全体の流れと、求められる主な知識・スキルを理解します。 ②講義：「チーム・ビルディングのマインドセットとスキル」 チームとは何か、チームビルディングに必要なマインド・セットとスキルを学びます。 ③講義：「Learning Communit	【課題１－１】 企画提案書について調べて、PPT にまとめて提出してください（担当割り当て個人ワーク)。
第 2 回	《ブロック１》プロジェクトマネジメントを理解する。 ①ミニ講義+質疑応答+ディスカッション： 課題１についてのミニ講義を行い、質疑応答の後、ディスカッションを行い、企画提案書についての理解を深めます。 ②講義： 発想法、思考法の基本とデザイン思考のスキルについて実践的トレーニングを繰り返し、身につけます。	【課題２】 与えられたテーマについて、たくさんのアイデア出しを行 い、レポートにまとめ、4/26 までに提出して下さい。(全員個人ワーク)
第 3 回	《ブロック２》ミッションを理解するための下準備 ①講義：「連携先企業の分野について」 今回の連携先の企業・団体の事業分野について概説し、基本的な知識を理解します。 ②グループワーク：「連携先の事業分野の現状と課題」 2 人一組に分かれて調べるテーマを分担し、現状と課題について調べる。	【課題３】 各自の担当するテーマについて発表 PPT をまとめ、次週までに提出する（全員個人ワーク）
第 4 回	《ブロック２》ミッションを理解するための下準備 ①発表と質疑 各自で調べてきた連携先の事業分野の現状と課題について報告し、質疑応答をしながら全員で状況の理解を深める。	【課題４】 コロナ以降の観光業界の再生の取り組みについて調べ、レポートにまとめて提出する（全員個人ワーク）

第 5 回	《ブロック 2》目標達成のための課題を発見する。 ①説明会： ミッション（到達目標）及び制約条件について連携先団体から説明して頂き、質疑応答を行います。 ②ディスカッション： ミッションを達成するための課題について話し合い、調査課題を抽出します。（仮説を立てる。）調査担当の役割分担、課題の調査方法について話し合い決定します。	【課題４－１】 整理された課題についての解決策（仮説）を考え、レポートを作成し、次回授業で提出して下さい。（全員個人ワーク） 【課題１－３】 追加調査項目について調査し、レポートを作成、次回授業で提出して下さい。（担当割り当て個人ワーク） 【課題５－１】 工程表を作成し、次回授業で発表します。（グループワーク）
第 6 回	《ブロック 3》計画立案 ①発表とディスカッション：追加調査項目 追加調査項目について発表し、ディスカッションを行い、課題の理解を深めます。 ②発表とディスカッション：課題解決策（仮説） グループに分かれ、個人ワークを基に課題の解決策について検討し、グループ代表が発表、全体で協議し、解決策（仮説）をまとめます。 ③発表とディスカッション：工程表 工程表を発表し、全体協議し、共有化を図ります	【課題１－４】 計画（企画）書の作り方について調べ、資料を作成し、次回授業で発表します。（担当割り当て個人ワーク）
第 7 回	《ブロック 3》計画立案 ①ミニ講義：現地調査計画の立案 現地での調査計画の作り方についての理解を深めます。 ②ディスカッション：調査計画の立案 現地調査で確認すべき事項を洗い出し、各事項について仮説をたて、確認検証するポイント（どのようなデータを収集すべきか）を整理します。	【課題１－５】 調査方法について調べ、資料を作成し、次回授業で発表して下さい。（担当割り当て個人ワーク）
第 8 回	《ブロック 3》計画立案 ①ミニ講義：調査方法 調査方法についての理解を深めます。 ②ミニ講義：行程表の作り方 行 程表の作り方についての理解を深めます。 ②ディスカッション：調査計画（行程と調査方法、役割分担） 現地調査計画を立案します。連携先と十分な協議を行い、実施可能な調査計画を立てることが重要です。 調査計画ができたら、準備段階から実施段階、報告段階までの役割分担を話し合いながら決めていきます。	【課題５－２】 現地調査計画（調査項目、調査方法、調査先、行程表、経費、役割分担）を作成し、次回授業で発表して下さい。（グループワーク）
第 9 回	《ブロック 3》計画立案 ①発表：現地調査計画 調査計画を説明、質疑応答の上、共有します。 ②講義：調査活動における留意点 ビジネスマナー、コミュニケーション、記録・報告、情報収集と情報共有など、調査活動において重要なス	【課題５－３】 予約、確認などアレンジメント活動を行い、次回授業でその結果と留意点等の情報を共有して下さい。（担当割り当てグループワーク） 【課題１－７】 調査報告書の書き方について調べ、資料を作

	キル、考え方を理解します。	成し、次回授業で発表・共有して下さい。(担当割り当て個人ワーク)
第 10 回	《ブロック３》計画立案 ①ミニ講義：調査報告書の書き方 調査報告書の書き方について理解します。 ②報告+ディスカッション：アレンジメント結果 アレンジメント結果を報告共有します。行程表等に修正が必要な場合は、変更をします。 ③ディスカッション：準備 準備・持参すべきもの、連絡先に連絡・確認すべきことなどの最終チェックを行います。	【課題５－４】 前回の検討結果を踏まえて、アレンジメント活動の修正を行い、次回授業でその結果と留意点等の情報を共有して下さい。(担当割り当てグループワーク)
第 11 回	《ブロック４》現地調査活動 調査計画に基づき、現地調査を行います。 ※日程等は調査先との協議により決まります。	【フィールドワーク課題】 フィールドワークで調査メモを作成し、まとめる（全員個人ワーク）
第 12 回	《ブッロック４》現地調査活動	【課題６－１】 調査報告書を作成し、次々回の授業で発表して下さい。(全員個人ワーク)
第 13 回	《ブッロック４》現地調査活動 ①発表：調査報告 各自が調査報告を行い、質疑応答を行い、調査結果の共有を図ります。 ②ディスカッション：調査結果分析 調査結果についてとりまとめを行い、分析手法について協議します。 ③講義：調査結果の分析手法 調査結果の分析手法について理解します。	PC を各自持参して下さい。 【課題６－２】 調査結果について、分析を行 い、資料を作成し、次回の授業で発表して下さい。 （担当割り当て個人ワーク
第 14 回	《ブッロク４》現地調査活動 ・ディスカッション+制作：グループに別れ分析結果を個々に発表しディスカッションした上で、分析資料を作成します。	・持参 PC を各自持参して下さい。
第 15 回	《ブロック４》まとめと振り返り ①調査結果発表+講評 連携先の方に来て頂き、調査結果を報告し、講評して頂きます。 ②ふりかえり ＰＢＬ基本ルーブリックに基づき自己評価を行います。	【課題７】 秋学期に向けて、興味のあるテーマについて、先行論文を 3 本読み、情報をまとめておくこと。

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-A01	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	大西洋史					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 「卒業研究」では、各自の興味関心に基づいて教育に関する卒業論文を作成することを目的とする。 【概要】 卒業論文の作成にあたっては、論文作成に必要な手続きや書き方を学び、関心を持つ問題を絞り込む。また、これまでの専門演習において培ってきた知識や技能をベースにテーマ設定を行い、自ら研究計画を立て、先行研究や文献、データの収集・整理・まとめを行い、それらに基づいて説得力のある結論や提案を導く。					
18.学習目標とＤＰとの関連	○本科目の学習目標は、教育福祉学科の DP のうち、(1) 自律的で主体的な態度（自律性)、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力、と関連します。 ①卒業論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ②自らの興味関心に基づき、研究するに相応しいテーマを設定する。 ③卒業論文完成までの研究計画を立て、研究完遂の見通しを得る。 ④先行研究を収集し、その内容をまとめ、整理した上で、自らの論立てに活用する。 ⑤卒業論文を完成させ、発表する。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	・井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法　[第 3 版]』慶應義塾大学出版会、2019 年 ・古郡延治『論文レポートのまとめ方』ちくま書房、1997 年 ・戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK ブックス、2002 年					
21.成績評価	・途中経過報告書Ⅰ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈春学期中盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・中間発表〈春学期終盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・途中経過報告書Ⅱ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈秋学期当初〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・中間発表〈秋学期中盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・ゼミ内での最終発表〈秋学期終盤〉：10%【学習目標⑤に対応】 ・卒業論文：50%（「卒業論文ルーブリック」参照）【学習目標⑤に対応】					
22.コメント	ゼミの仲間たちと共に励まし合い、切磋琢磨しながら、4 年間の総まとめとして、各自のテーマに基づいた卒業研究を遂行しましょう。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日 4 限 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・春学期オリエンテーション （本授業の概要と授業の進め方、評価方法のガイダン	◆ノートパソコン持参◆ ※以降、毎回必要！ ○e ポートフォリオへの前学期のリフレクショ

	ス） ・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入 【第 2 回】 ・研究テーマの確定と発表① 〇研究テーマ確定への準備と発表準備 or 発表まとめ（240 分）	ン及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） 〇研究テーマ確定への準備と発表準備（120 分）
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・研究テーマの確定と発表② 【第 4 回】（1 限目：評価と実践） ・卒業論文作成ガイダンス〈全体会〉	◆ノートパソコン持参◆ 〇研究テーマ確定への準備 or 発表まとめ（240 分） 〇卒業論文作成ガイダンスの復習（120 分） 〇テーマにした分野の基本概念、用語の整理（120 分）
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理① 【第 6 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理②	◆ノートパソコン持参◆ 〇テーマにした分野の基本概念、用語の整理（240 分） 〇テーマにした分野の基本概念、用語の整理（240 分）
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集① 【第 8 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集②	◆ノートパソコン持参◆ 〇仮アウトラインの作成（120 分） 〇関連文献の調査と収集（120 分） ◆ノートパソコン持参◆ 〇仮アウトラインの作成（120 分） 〇関連文献の調査と収集（120 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・関連文献の調査と収集③ ・文献の読解と整理① 【第 10 回】 ・関連文献の調査と収集④ ・文献の読解と整理②	◆ノートパソコン持参◆ 〇関連文献の調査と収集（120 分） 〇文献の読解と整理（120 分） 〇関連文献の調査と収集（120 分） 〇文献の読解と整理（120 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・ポスターセッションのあり方と流れについて （発表と意見交換＆まとめ⇒卒論完成へ） ・ポスターの作成① 【第 12 回】 ・ポスターの作成②	◆ノートパソコン持参◆ ・文献の読解と整理（120 分） 〇ポスター作成準備（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議①〔ゼミ内〕 【第 14 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議②〔学年全体〕※評価と実践の時間も活用	◆ノートパソコン持参◆ 〇ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分） 〇ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分）

【第 15 回】 ＜秋学期＞ 【第 16 回】	【第 15 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめと討議 ・卒論完成に向けて、春学期の成果と秋学期の計画の確認 ◇◇◇秋学期◇◇◇ 【第 16 回】 ・秋学期オリエンテーション （これまでの振り返りと今学期の見通し確認） ・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入	◆ノートパソコン持参◆ 〇春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめ（240 分） ＜秋学期＞ ◆ノートパソコン持参◆ 〇e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） 〇途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・最終アウトラインの作成 ・論文執筆と個別相談① 【第 18 回】 ・論文執筆と個別相談②	◆ノートパソコン持参◆ ●途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の提出 〇最終アウトラインの作成（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇論文執筆（240 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・論文執筆と個別相談③ 【第 20 回】 ・論文執筆と個別相談④	◆ノートパソコン持参◆ 〇論文執筆（240 分） ●論文題目変更届け提出（10/31 まで：該当者のみ） 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・秋学期中間発表と討議① ・論文執筆と個別相談⑤ 【第 22 回】 ・秋学期中間発表と討議② ・論文執筆と個別相談⑥	◆ノートパソコン持参◆ 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・秋学期中間発表と討議③ ・論文執筆と個別相談⑦ 【第 24 回】 ・論文執筆と個別相談⑧	◆ノートパソコン持参◆ 〇秋学期中間発表の討議のまとめ（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇論文執筆（240 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・論文執筆と個別相談⑨ 【第 26 回】 ・論文執筆と個別相談⑩	〇論文執筆（240 分） 〇ゼミ内最終発表会準備（120 分） 〇論文執筆（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ゼミ内最終発表会①（ゼミ内にて発表と質疑、講	◆ノートパソコン持参◆ 〇ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120

	評） 【第 28 回】 ・ゼミ内最終発表会②（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	分） 〇論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） 〇ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） 〇論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ゼミ内最終発表会③（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 30 回】 ・卒業論文発表会〈全体会〉 （各ゼミ代表者による発表と質疑応答、講評）	◆ノートパソコン持参（発表者）◆ 〇ゼミ内最終発表会まとめ（120 分） 〇論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） 〇卒業論文発表会のまとめ（240 分） ●卒業論文の提出

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-A02	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	梶正義				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	各自の興味関心を持った教育に関するテーマにそって、卒業論文を作成する。論文作成に必要な手続きや書き方を学び、関心を持つ問題を絞り込みむ。さらに、これまでの専門演習において培ってきた知識や技能をベースにテーマ設定を行い、自ら研究計画を立て、先行研究や文献、データの収集・整理・まとめを行い、それらに基づいて説得力のある結論や提案を導く。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①卒業論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ②自らの興味関心に基づき、研究するに相応しいテーマを設定する。 ③卒業論文完成までの研究計画を立て、研究完遂の見通しを得る。 ④先行研究を収集し、その内容をまとめ、整理した上で、自らの論立てに活用する。 ⑤卒業論文を完成させ、発表する。 以上を通して、問題解決に必要な論理的・実践的知識及び資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択し行動できるようになる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	・井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法　［第３版］』慶應義塾大学出版会、2019 年 ・古郡延治『論文レポートのまとめ方』ちくま書房、1997 年 ・戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK ブックス、2002 年				
21.成績評価	・途中経過報告書Ⅰ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈春学期中盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・中間発表〈春学期終盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・途中経過報告書Ⅱ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈秋学期当初〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・中間発表〈秋学期中盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・ゼミ内での最終発表〈秋学期終盤〉：10%【学習目標⑤に対応】 ・卒業論文：50%（「卒業論文ルーブリック」参照）【学習目標⑤に対応】				
22.コメント	ゼミの仲間たちと共に励まし合い、切磋琢磨しながら、4 年間の総まとめとして、各自のテーマに基づいた卒業研究を遂行しましょう。				
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】 【第２回】	【第１回】 ・春学期オリエンテーション （本授業の概要と授業の進め方、評価方法のガイダンス） ・ｅポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入 【第２回】 ・研究テーマの確定と発表①	◆ノートパソコン持参◆ ※以降、毎回必要！ 〇e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） 〇研究テーマ確定への準備と発表準備（120 分）

	○研究テーマ確定への準備と発表準備 or 発表まとめ（240 分）	
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・研究テーマの確定と発表② 【第 4 回】（1 限目：評価と実践） ・卒業論文作成ガイダンス〈全体会〉	◆ノートパソコン持参◆ ○研究テーマ確定への準備 or 発表まとめ（240 分） ○卒業論文作成ガイダンスの復習（120 分） ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（120 分）
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理① 【第 6 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（240 分） ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（240 分）
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集① 【第 8 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集②	◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分） ◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・関連文献の調査と収集③ ・文献の読解と整理① 【第 10 回】 ・関連文献の調査と収集④ ・文献の読解と整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○関連文献の調査と収集（120 分） ○文献の読解と整理（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分） ○文献の読解と整理（120 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・ポスターセッションのあり方と流れについて （発表と意見交換＆まとめ⇒卒論完成へ） ・ポスターの作成① 【第 12 回】 ・ポスターの作成②	◆ノートパソコン持参◆ ・文献の読解と整理（120 分） ○ポスター作成準備（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議①〔ゼミ内〕 【第 14 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議②〔学年全体〕※評価と実践の時間も活用	◆ノートパソコン持参◆ ○ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分） ○ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分）
【第 15 回】 ＜秋学期＞ 【第 16 回】	【第 15 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめと討議 ・卒論完成に向けて、春学期の成果と秋学期の計画の	◆ノートパソコン持参◆ ○春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめ（240 分） ＜秋学期＞

	確認 ◇◇◇秋学期◇◇◇ 【第 16 回】 ・秋学期オリエンテーション （これまでの振り返りと今学期の見通し確認） ・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入	◆ノートパソコン持参◆ 〇e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） 〇途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・最終アウトラインの作成 ・論文執筆と個別相談① 【第 18 回】 ・論文執筆と個別相談②	◆ノートパソコン持参◆ ●途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の提出 〇最終アウトラインの作成（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇論文執筆（240 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・論文執筆と個別相談③ 【第 20 回】 ・論文執筆と個別相談④	◆ノートパソコン持参◆ 〇論文執筆（240 分） ●論文題目変更届け提出（10/31 まで：該当者のみ） 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・秋学期中間発表と討議① ・論文執筆と個別相談⑤ 【第 22 回】 ・秋学期中間発表と討議② ・論文執筆と個別相談⑥	◆ノートパソコン持参◆ 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・秋学期中間発表と討議③ ・論文執筆と個別相談⑦ 【第 24 回】 ・論文執筆と個別相談⑧	◆ノートパソコン持参◆ 〇秋学期中間発表の討議のまとめ（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇論文執筆（240 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・論文執筆と個別相談⑨ 【第 26 回】 ・論文執筆と個別相談⑩	〇論文執筆（240 分） 〇ゼミ内最終発表会準備（120 分） 〇論文執筆（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ゼミ内最終発表会①（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 28 回】 ・ゼミ内最終発表会②（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	◆ノートパソコン持参◆ 〇ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） 〇論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） 〇ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分）

		○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む） （120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ゼミ内最終発表会③（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 30 回】 ・卒業論文発表会〈全体会〉 （各ゼミ代表者による発表と質疑応答、講評）	◆ノートパソコン持参（発表者）◆ ○ゼミ内最終発表会まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む） （120 分） ○卒業論文発表会のまとめ（240 分） ●卒業論文の提出

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-A03	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	川村光					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 「卒業研究」では、各自の興味関心に基づいて教育に関する卒業論文を作成することを目的とする。 【概要】 卒業論文の作成にあたっては、論文作成に必要な手続きや書き方を学び、関心を持つ問題を絞り込む。また、これまでの専門演習において培ってきた知識や技能をベースにテーマ設定を行い、自ら研究計画を立て、先行研究や文献、データの収集・整理・まとめを行い、それらに基づいて説得力のある結論や提案を導く。					
18.学習目標とＤＰとの関連	○本科目の学習目標は、教育福祉学科の DP のうち、(1) 自律的で主体的な態度（自律性)、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力、と関連します。 ①卒業論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ②自らの興味関心に基づき、研究するに相応しいテーマを設定する。 ③卒業論文完成までの研究計画を立て、研究完遂の見通しを得る。 ④先行研究を収集し、その内容をまとめ、整理した上で、自らの論立てに活用する。 ⑤卒業論文を完成させ、発表する。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	・井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法　[第 3 版]』慶應義塾大学出版会、2019 年 ・古郡延治『論文レポートのまとめ方』ちくま書房、1997 年 ・戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK ブックス、2002 年					
21.成績評価	・途中経過報告書Ⅰ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈春学期中盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・中間発表〈春学期終盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・途中経過報告書Ⅱ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈秋学期当初〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・中間発表〈秋学期中盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・ゼミ内での最終発表〈秋学期終盤〉：10%【学習目標⑤に対応】 ・卒業論文：50%（「卒業論文ルーブリック」参照）【学習目標⑤に対応】					
22.コメント	ゼミの仲間たちと共に励まし合い、切磋琢磨しながら、4 年間の総まとめとして、各自のテーマに基づいた卒業研究を遂行しましょう。					
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・春学期オリエンテーション （本授業の概要と授業の進め方、評価方法のガイダンス）	◆ノートパソコン持参◆ ※以降、毎回必要！ ○e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120

	・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入 【第 2 回】 ・研究テーマの確定と発表① ○研究テーマ確定への準備と発表準備 or 発表まとめ（240 分）	分） ○研究テーマ確定への準備と発表準備（120 分）
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・研究テーマの確定と発表② 【第 4 回】（1 限目：評価と実践） ・卒業論文作成ガイダンス〈全体会〉	◆ノートパソコン持参◆ ○研究テーマ確定への準備 or 発表まとめ（240 分） ○卒業論文作成ガイダンスの復習（120 分） ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（120 分）
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理① 【第 6 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（240 分） ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（240 分）
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集① 【第 8 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集②	◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分） ◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・関連文献の調査と収集③ ・文献の読解と整理① 【第 10 回】 ・関連文献の調査と収集④ ・文献の読解と整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○関連文献の調査と収集（120 分） ○文献の読解と整理（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分） ○文献の読解と整理（120 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・ポスターセッションのあり方と流れについて（発表と意見交換＆まとめ⇒卒論完成へ） ・ポスターの作成① 【第 12 回】 ・ポスターの作成②	◆ノートパソコン持参◆ ・文献の読解と整理（120 分） ○ポスター作成準備（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議①〔ゼミ内〕 【第 14 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議②〔学年全体〕※評価と実践の時間も活用	◆ノートパソコン持参◆ ○ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分） ○ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分）

【第 15 回】 ＜秋学期＞ 【第 16 回】	【第 15 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめと討議 ・卒論完成に向けて、春学期の成果と秋学期の計画の確認 ◇◇◇秋学期◇◇◇ 【第 16 回】 ・秋学期オリエンテーション （これまでの振り返りと今学期の見通し確認） ・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入	◆ノートパソコン持参◆ 〇春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめ（240 分） ＜秋学期＞ ◆ノートパソコン持参◆ 〇e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） 〇途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・最終アウトラインの作成 ・論文執筆と個別相談① 【第 18 回】 ・論文執筆と個別相談②	◆ノートパソコン持参◆ ●途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の提出 〇最終アウトラインの作成（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇論文執筆（240 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・論文執筆と個別相談③ 【第 20 回】 ・論文執筆と個別相談④	◆ノートパソコン持参◆ 〇論文執筆（240 分） ●論文題目変更届け提出（10/31 まで：該当者のみ） 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・秋学期中間発表と討議① ・論文執筆と個別相談⑤ 【第 22 回】 ・秋学期中間発表と討議② ・論文執筆と個別相談⑥	◆ノートパソコン持参◆ 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・秋学期中間発表と討議③ ・論文執筆と個別相談⑦ 【第 24 回】 ・論文執筆と個別相談⑧	◆ノートパソコン持参◆ 〇秋学期中間発表の討議のまとめ（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇論文執筆（240 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・論文執筆と個別相談⑨ 【第 26 回】 ・論文執筆と個別相談⑩	〇論文執筆（240 分） 〇ゼミ内最終発表会準備（120 分） 〇論文執筆（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ゼミ内最終発表会①（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	◆ノートパソコン持参◆ 〇ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分）

	【第 28 回】 ・ゼミ内最終発表会②（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ゼミ内最終発表会③（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 30 回】 ・卒業論文発表会〈全体会〉 （各ゼミ代表者による発表と質疑応答、講評）	◆ノートパソコン持参（発表者）◆ ○ゼミ内最終発表会まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○卒業論文発表会のまとめ（240 分） ●卒業論文の提出

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-A04	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 「卒業研究」では、各自の興味関心に基づいて教育に関する卒業論文を作成することを目的とする。 【概要】 卒業論文の作成にあたっては、論文作成に必要な手続きや書き方を学び、関心を持つ問題を絞り込む。また、これまでの専門演習において培ってきた知識や技能をベースにテーマ設定を行い、自ら研究計画を立て、先行研究や文献、データの収集・整理・まとめを行い、それらに基づいて説得力のある結論や提案を導く。					
18.学習目標とＤＰとの関連	○本科目の学習目標は、教育福祉学科の DP のうち、(1) 自律的で主体的な態度（自律性)、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力、と関連します。 ①卒業論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ②自らの興味関心に基づき、研究するに相応しいテーマを設定する。 ③卒業論文完成までの研究計画を立て、研究完遂の見通しを得る。 ④先行研究を収集し、その内容をまとめ、整理した上で、自らの論立てに活用する。 ⑤卒業論文を完成させ、発表する。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	・井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法　[第 3 版]』慶應義塾大学出版会、2019 年 ・古郡延治『論文レポートのまとめ方』ちくま書房、1997 年 ・戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK ブックス、2002 年					
21.成績評価	・途中経過報告書Ⅰ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈春学期中盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・中間発表〈春学期終盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・途中経過報告書Ⅱ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈秋学期当初〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・中間発表〈秋学期中盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・ゼミ内での最終発表〈秋学期終盤〉：10%【学習目標⑤に対応】 ・卒業論文：50%（「卒業論文ルーブリック」参照）【学習目標⑤に対応】					
22.コメント	ゼミの仲間たちと共に励まし合い、切磋琢磨しながら、4 年間の総まとめとして、各自のテーマに基づいた卒業研究を遂行しましょう。					
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・春学期オリエンテーション （本授業の概要と授業の進め方、評価方法のガイダンス）	◆ノートパソコン持参◆ ※以降、毎回必要！ ○e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120

	・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入 【第 2 回】 ・研究テーマの確定と発表① ○研究テーマ確定への準備と発表準備 or 発表まとめ（240 分）	分） ○研究テーマ確定への準備と発表準備（120 分）
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・研究テーマの確定と発表② 【第 4 回】（1 限目：評価と実践） ・卒業論文作成ガイダンス〈全体会〉	◆ノートパソコン持参◆ ○研究テーマ確定への準備 or 発表まとめ（240 分） ○卒業論文作成ガイダンスの復習（120 分） ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（120 分）
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理① 【第 6 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（240 分） ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（240 分）
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集① 【第 8 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集②	◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分） ◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・関連文献の調査と収集③ ・文献の読解と整理① 【第 10 回】 ・関連文献の調査と収集④ ・文献の読解と整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○関連文献の調査と収集（120 分） ○文献の読解と整理（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分） ○文献の読解と整理（120 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・ポスターセッションのあり方と流れについて（発表と意見交換＆まとめ⇒卒論完成へ） ・ポスターの作成① 【第 12 回】 ・ポスターの作成②	◆ノートパソコン持参◆ ・文献の読解と整理（120 分） ○ポスター作成準備（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議①〔ゼミ内〕 【第 14 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議②〔学年全体〕※評価と実践の時間も活用	◆ノートパソコン持参◆ ○ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分） ○ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分）

【第 15 回】 ＜秋学期＞ 【第 16 回】	【第 15 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめと討議 ・卒論完成に向けて、春学期の成果と秋学期の計画の確認 ◇◇◇秋学期◇◇◇ 【第 16 回】 ・秋学期オリエンテーション （これまでの振り返りと今学期の見通し確認） ・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入	◆ノートパソコン持参◆ 〇春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめ（240 分） ＜秋学期＞ ◆ノートパソコン持参◆ 〇e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） 〇途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・最終アウトラインの作成 ・論文執筆と個別相談① 【第 18 回】 ・論文執筆と個別相談②	◆ノートパソコン持参◆ ●途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の提出 〇最終アウトラインの作成（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇論文執筆（240 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・論文執筆と個別相談③ 【第 20 回】 ・論文執筆と個別相談④	◆ノートパソコン持参◆ 〇論文執筆（240 分） ●論文題目変更届け提出（10/31 まで：該当者のみ） 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・秋学期中間発表と討議① ・論文執筆と個別相談⑤ 【第 22 回】 ・秋学期中間発表と討議② ・論文執筆と個別相談⑥	◆ノートパソコン持参◆ 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・秋学期中間発表と討議③ ・論文執筆と個別相談⑦ 【第 24 回】 ・論文執筆と個別相談⑧	◆ノートパソコン持参◆ 〇秋学期中間発表の討議のまとめ（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇論文執筆（240 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・論文執筆と個別相談⑨ 【第 26 回】 ・論文執筆と個別相談⑩	〇論文執筆（240 分） 〇ゼミ内最終発表会準備（120 分） 〇論文執筆（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ゼミ内最終発表会①（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	◆ノートパソコン持参◆ 〇ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分）

	【第 28 回】 ・ゼミ内最終発表会②（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ゼミ内最終発表会③（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 30 回】 ・卒業論文発表会〈全体会〉 （各ゼミ代表者による発表と質疑応答、講評）	◆ノートパソコン持参（発表者）◆ ○ゼミ内最終発表会まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○卒業論文発表会のまとめ（240 分） ●卒業論文の提出

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-A05	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	吉田武大					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 「卒業研究」では、各自の興味関心に基づいて教育に関する卒業論文を作成することを目的とする。 【概要】 卒業論文の作成にあたっては、論文作成に必要な手続きや書き方を学び、関心を持つ問題を絞り込む。また、これまでの専門演習において培ってきた知識や技能をベースにテーマ設定を行い、自ら研究計画を立て、先行研究や文献、データの収集・整理・まとめを行い、それらに基づいて説得力のある結論や提案を導く。					
18.学習目標とＤＰとの関連	○本科目の学習目標は、教育福祉学科の DP のうち、(1) 自律的で主体的な態度（自律性)、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力、と関連します。 ①卒業論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ②自らの興味関心に基づき、研究するに相応しいテーマを設定する。 ③卒業論文完成までの研究計画を立て、研究完遂の見通しを得る。 ④先行研究を収集し、その内容をまとめ、整理した上で、自らの論立てに活用する。 ⑤卒業論文を完成させ、発表する。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	・井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法　[第 3 版]』慶應義塾大学出版会、2019 年 ・古郡延治『論文レポートのまとめ方』ちくま書房、1997 年 ・戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK ブックス、2002 年					
21.成績評価	・途中経過報告書Ⅰ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈春学期中盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・中間発表〈春学期終盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・途中経過報告書Ⅱ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈秋学期当初〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・中間発表〈秋学期中盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・ゼミ内での最終発表〈秋学期終盤〉：10%【学習目標⑤に対応】 ・卒業論文：50%（「卒業論文ルーブリック」参照）【学習目標⑤に対応】					
22.コメント	ゼミの仲間たちと共に励まし合い、切磋琢磨しながら、4 年間の総まとめとして、各自のテーマに基づいた卒業研究を遂行しましょう。					
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・春学期オリエンテーション （本授業の概要と授業の進め方、評価方法のガイダンス）	◆ノートパソコン持参◆ ※以降、毎回必要！ ○e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120

	・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入 【第 2 回】 ・研究テーマの確定と発表① ○研究テーマ確定への準備と発表準備 or 発表まとめ（240 分）	分） ○研究テーマ確定への準備と発表準備（120 分）
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・研究テーマの確定と発表② 【第 4 回】（1 限目：評価と実践） ・卒業論文作成ガイダンス〈全体会〉	◆ノートパソコン持参◆ ○研究テーマ確定への準備 or 発表まとめ（240 分） ○卒業論文作成ガイダンスの復習（120 分） ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（120 分）
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理① 【第 6 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（240 分） ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（240 分）
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集① 【第 8 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集②	◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分） ◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・関連文献の調査と収集③ ・文献の読解と整理① 【第 10 回】 ・関連文献の調査と収集④ ・文献の読解と整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○関連文献の調査と収集（120 分） ○文献の読解と整理（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分） ○文献の読解と整理（120 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・ポスターセッションのあり方と流れについて（発表と意見交換＆まとめ⇒卒論完成へ） ・ポスターの作成① 【第 12 回】 ・ポスターの作成②	◆ノートパソコン持参◆ ・文献の読解と整理（120 分） ○ポスター作成準備（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議①〔ゼミ内〕 【第 14 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議②〔学年全体〕※評価と実践の時間も活用	◆ノートパソコン持参◆ ○ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分） ○ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分）

【第 15 回】 ＜秋学期＞ 【第 16 回】	【第 15 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめと討議 ・卒論完成に向けて、春学期の成果と秋学期の計画の確認 ◇◇◇秋学期◇◇◇ 【第 16 回】 ・秋学期オリエンテーション （これまでの振り返りと今学期の見通し確認） ・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入	◆ノートパソコン持参◆ 〇春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめ（240 分） ＜秋学期＞ ◆ノートパソコン持参◆ 〇e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） 〇途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・最終アウトラインの作成 ・論文執筆と個別相談① 【第 18 回】 ・論文執筆と個別相談②	◆ノートパソコン持参◆ ●途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の提出 〇最終アウトラインの作成（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇論文執筆（240 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・論文執筆と個別相談③ 【第 20 回】 ・論文執筆と個別相談④	◆ノートパソコン持参◆ 〇論文執筆（240 分） ●論文題目変更届け提出（10/31 まで：該当者のみ） 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・秋学期中間発表と討議① ・論文執筆と個別相談⑤ 【第 22 回】 ・秋学期中間発表と討議② ・論文執筆と個別相談⑥	◆ノートパソコン持参◆ 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・秋学期中間発表と討議③ ・論文執筆と個別相談⑦ 【第 24 回】 ・論文執筆と個別相談⑧	◆ノートパソコン持参◆ 〇秋学期中間発表の討議のまとめ（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇論文執筆（240 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・論文執筆と個別相談⑨ 【第 26 回】 ・論文執筆と個別相談⑩	〇論文執筆（240 分） 〇ゼミ内最終発表会準備（120 分） 〇論文執筆（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ゼミ内最終発表会①（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	◆ノートパソコン持参◆ 〇ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分）

	【第 28 回】 ・ゼミ内最終発表会②（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ゼミ内最終発表会③（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 30 回】 ・卒業論文発表会〈全体会〉 （各ゼミ代表者による発表と質疑応答、講評）	◆ノートパソコン持参（発表者）◆ ○ゼミ内最終発表会まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○卒業論文発表会のまとめ（240 分） ●卒業論文の提出

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-A07	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	中西一彦					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 「卒業研究」では、各自の興味関心に基づいて教育に関する卒業論文を作成することを目的とする。 【概要】 卒業論文の作成にあたっては、論文作成に必要な手続きや書き方を学び、関心を持つ問題を絞り込む。また、これまでの専門演習において培ってきた知識や技能をベースにテーマ設定を行い、自ら研究計画を立て、先行研究や文献、データの収集・整理・まとめを行い、それらに基づいて説得力のある結論や提案を導く。					
18.学習目標とＤＰとの関連	○本科目の学習目標は、教育福祉学科の DP のうち、(1) 自律的で主体的な態度（自律性)、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力、と関連します。 ①卒業論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ②自らの興味関心に基づき、研究するに相応しいテーマを設定する。 ③卒業論文完成までの研究計画を立て、研究完遂の見通しを得る。 ④先行研究を収集し、その内容をまとめ、整理した上で、自らの論立てに活用する。 ⑤卒業論文を完成させ、発表する。					
19.教科書・教材	適宜個別テーマに対応して指示。					
20.参考文献	・井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法　[第 3 版]』慶應義塾大学出版会、2019 年 ・古郡延治『論文レポートのまとめ方』ちくま書房、1997 年 ・戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK ブックス、2002 年					
21.成績評価	・途中経過報告書Ⅰ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈春学期中盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・中間発表〈春学期終盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・途中経過報告書Ⅱ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈秋学期当初〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・中間発表〈秋学期中盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・ゼミ内での最終発表〈秋学期終盤〉：10%【学習目標⑤に対応】 ・卒業論文：50%（「卒業論文ルーブリック」参照）【学習目標⑤に対応】					
22.コメント	ゼミの仲間たちと共に励まし合い、切磋琢磨しながら、4 年間の総まとめとして、各自のテーマに基づいた卒業研究を遂行しましょう。					
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・春学期オリエンテーション （本授業の概要と授業の進め方、評価方法のガイダンス）	◆ノートパソコン持参◆ ※以降、毎回必要！ ○e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120

	・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入 【第 2 回】 ・研究テーマの確定と発表① ○研究テーマ確定への準備と発表準備 or 発表まとめ（240 分）	分） ○研究テーマ確定への準備と発表準備（120 分）
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・研究テーマの確定と発表② 【第 4 回】（1 限目：評価と実践） ・卒業論文作成ガイダンス〈全体会〉	◆ノートパソコン持参◆ ○研究テーマ確定への準備 or 発表まとめ（240 分） ○卒業論文作成ガイダンスの復習（120 分） ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（120 分）
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理① 【第 6 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（240 分） ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（240 分）
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集① 【第 8 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集②	◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分） ◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・関連文献の調査と収集③ ・文献の読解と整理① 【第 10 回】 ・関連文献の調査と収集④ ・文献の読解と整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○関連文献の調査と収集（120 分） ○文献の読解と整理（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分） ○文献の読解と整理（120 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・ポスターセッションのあり方と流れについて（発表と意見交換＆まとめ⇒卒論完成へ） ・ポスターの作成① 【第 12 回】 ・ポスターの作成②	◆ノートパソコン持参◆ ・文献の読解と整理（120 分） ○ポスター作成準備（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議①〔ゼミ内〕 【第 14 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議②〔学年全体〕※評価と実践の時間も活用	◆ノートパソコン持参◆ ○ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分） ○ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分）

【第 15 回】 ＜秋学期＞ 【第 16 回】	【第 15 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめと討議 ・卒論完成に向けて、春学期の成果と秋学期の計画の確認 ◇◇◇秋学期◇◇◇ 【第 16 回】 ・秋学期オリエンテーション （これまでの振り返りと今学期の見通し確認） ・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入	◆ノートパソコン持参◆ 〇春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめ（240 分） ＜秋学期＞ ◆ノートパソコン持参◆ 〇e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） 〇途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・最終アウトラインの作成 ・論文執筆と個別相談① 【第 18 回】 ・論文執筆と個別相談②	◆ノートパソコン持参◆ ●途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の提出 〇最終アウトラインの作成（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇論文執筆（240 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・論文執筆と個別相談③ 【第 20 回】 ・論文執筆と個別相談④	◆ノートパソコン持参◆ 〇論文執筆（240 分） ●論文題目変更届け提出（10/31 まで：該当者のみ） 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・秋学期中間発表と討議① ・論文執筆と個別相談⑤ 【第 22 回】 ・秋学期中間発表と討議② ・論文執筆と個別相談⑥	◆ノートパソコン持参◆ 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・秋学期中間発表と討議③ ・論文執筆と個別相談⑦ 【第 24 回】 ・論文執筆と個別相談⑧	◆ノートパソコン持参◆ 〇秋学期中間発表の討議のまとめ（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇論文執筆（240 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・論文執筆と個別相談⑨ 【第 26 回】 ・論文執筆と個別相談⑩	〇論文執筆（240 分） 〇ゼミ内最終発表会準備（120 分） 〇論文執筆（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ゼミ内最終発表会①（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	◆ノートパソコン持参◆ 〇ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分）

	【第 28 回】 ・ゼミ内最終発表会②（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ゼミ内最終発表会③（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 30 回】 ・卒業論文発表会〈全体会〉 （各ゼミ代表者による発表と質疑応答、講評）	◆ノートパソコン持参（発表者）◆ ○ゼミ内最終発表会まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○卒業論文発表会のまとめ（240 分） ●卒業論文の提出

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-A08	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	長瀬慶來					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 「卒業研究」では、各自の興味関心に基づいて教育に関する卒業論文を作成することを目的とする。 【概要】 卒業論文の作成にあたっては、論文作成に必要な手続きや書き方を学び、関心を持つ問題を絞り込む。また、これまでの専門演習において培ってきた知識や技能をベースにテーマ設定を行い、自ら研究計画を立て、先行研究や文献、データの収集・整理・まとめを行い、それらに基づいて説得力のある結論や提案を導く。					
18.学習目標とＤＰとの関連	○本科目の学習目標は、教育福祉学科の DP のうち、(1) 自律的で主体的な態度（自律性)、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力、と関連します。 ①卒業論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ②自らの興味関心に基づき、研究するに相応しいテーマを設定する。 ③卒業論文完成までの研究計画を立て、研究完遂の見通しを得る。 ④先行研究を収集し、その内容をまとめ、整理した上で、自らの論立てに活用する。 ⑤卒業論文を完成させ、発表する。					
19.教科書・教材	適宜、個別テーマに応じて指示する。					
20.参考文献	・井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法　[第 3 版]』慶應義塾大学出版会、2019 年 ・古郡延治『論文レポートのまとめ方』ちくま書房、1997 年 ・戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK ブックス、2002 年					
21.成績評価	・途中経過報告書Ⅰ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈春学期中盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・中間発表〈春学期終盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・途中経過報告書Ⅱ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈秋学期当初〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・中間発表〈秋学期中盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・ゼミ内での最終発表〈秋学期終盤〉：10%【学習目標⑤に対応】 ・卒業論文：50%（「卒業論文ルーブリック」参照）【学習目標⑤に対応】					
22.コメント	ゼミの仲間たちと共に励まし合い、切磋琢磨しながら、4 年間の総まとめとして、各自のテーマに基づいた卒業研究を遂行しましょう。					
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・春学期オリエンテーション （本授業の概要と授業の進め方、評価方法のガイダンス）	◆ノートパソコン持参◆ ※以降、毎回必要！ ○e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120

	・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入 【第 2 回】 ・研究テーマの確定と発表① ○研究テーマ確定への準備と発表準備 or 発表まとめ（240 分）	分） ○研究テーマ確定への準備と発表準備（120 分）
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・研究テーマの確定と発表② 【第 4 回】（1 限目：評価と実践） ・卒業論文作成ガイダンス〈全体会〉	◆ノートパソコン持参◆ ○研究テーマ確定への準備 or 発表まとめ（240 分） ○卒業論文作成ガイダンスの復習（120 分） ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（120 分）
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理① 【第 6 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（240 分） ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理（240 分）
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集① 【第 8 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集②	◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分） ◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・関連文献の調査と収集③ ・文献の読解と整理① 【第 10 回】 ・関連文献の調査と収集④ ・文献の読解と整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○関連文献の調査と収集（120 分） ○文献の読解と整理（120 分） ○関連文献の調査と収集（120 分） ○文献の読解と整理（120 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・ポスターセッションのあり方と流れについて（発表と意見交換＆まとめ⇒卒論完成へ） ・ポスターの作成① 【第 12 回】 ・ポスターの作成②	◆ノートパソコン持参◆ ・文献の読解と整理（120 分） ○ポスター作成準備（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議①〔ゼミ内〕 【第 14 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議②〔学年全体〕※評価と実践の時間も活用	◆ノートパソコン持参◆ ○ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分） ○ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分）

【第 15 回】 ＜秋学期＞ 【第 16 回】	【第 15 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめと討議 ・卒論完成に向けて、春学期の成果と秋学期の計画の確認 ◇◇◇秋学期◇◇◇ 【第 16 回】 ・秋学期オリエンテーション （これまでの振り返りと今学期の見通し確認） ・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入	◆ノートパソコン持参◆ 〇春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめ（240 分） ＜秋学期＞ ◆ノートパソコン持参◆ 〇e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） 〇途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・最終アウトラインの作成 ・論文執筆と個別相談① 【第 18 回】 ・論文執筆と個別相談②	◆ノートパソコン持参◆ ●途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の提出 〇最終アウトラインの作成（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇論文執筆（240 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・論文執筆と個別相談③ 【第 20 回】 ・論文執筆と個別相談④	◆ノートパソコン持参◆ 〇論文執筆（240 分） ●論文題目変更届け提出（10/31 まで：該当者のみ） 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・秋学期中間発表と討議① ・論文執筆と個別相談⑤ 【第 22 回】 ・秋学期中間発表と討議② ・論文執筆と個別相談⑥	◆ノートパソコン持参◆ 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・秋学期中間発表と討議③ ・論文執筆と個別相談⑦ 【第 24 回】 ・論文執筆と個別相談⑧	◆ノートパソコン持参◆ 〇秋学期中間発表の討議のまとめ（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇論文執筆（240 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・論文執筆と個別相談⑨ 【第 26 回】 ・論文執筆と個別相談⑩	〇論文執筆（240 分） 〇ゼミ内最終発表会準備（120 分） 〇論文執筆（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ゼミ内最終発表会①（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	◆ノートパソコン持参◆ 〇ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分）

	【第 28 回】 ・ゼミ内最終発表会②（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ゼミ内最終発表会③（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 30 回】 ・卒業論文発表会〈全体会〉 （各ゼミ代表者による発表と質疑応答、講評）	◆ノートパソコン持参（発表者）◆ ○ゼミ内最終発表会まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○卒業論文発表会のまとめ（240 分） ●卒業論文の提出

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-A09	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	山本秀樹				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	4 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 「卒業研究」では、各自の興味関心に基づいて教育に関する卒業論文を作成することを目的とする。 【概要】 卒業論文の作成にあたっては、論文作成に必要な手続きや書き方を学び、関心を持つ問題を絞り込む。また、これまでの専門演習において培ってきた知識や技能をベースにテーマ設定を行い、自ら研究計画を立て、先行研究や文献、データの収集・整理・まとめを行い、それらに基づいて説得力のある結論や提案を導く。				
18.学習目標とＤＰとの関連	○本科目の学習目標は、教育福祉学科の DP のうち、(1) 自律的で主体的な態度（自律性)、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力、と関連します。 ①卒業論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ②自らの興味関心に基づき、研究するに相応しいテーマを設定する。 ③卒業論文完成までの研究計画を立て、研究完遂の見通しを得る。 ④先行研究を収集し、その内容をまとめ、整理した上で、自らの論立てに活用する。 ⑤卒業論文を完成させ、発表する。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	・井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法　[第 3 版]』慶應義塾大学出版会、2019 年 ・古郡延治『論文レポートのまとめ方』ちくま書房、1997 年 ・戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK ブックス、2002 年				
21.成績評価	春学期 ・経過報告Ⅰ30％ ・経過報告Ⅱ30％ ・全体の構成 40％ 秋学期 ・経過報告Ⅲ30％ ・経過報告Ⅳ30％ ・卒業論文 40％				
22.コメント	ゼミの仲間たちと共に励まし合い、切磋琢磨しながら、4 年間の総まとめとして、各自のテーマに基づいた卒業研究を遂行しましょう。 特に社会福祉士国家試験を受験する学生は、受験対策のため、提示スケジュールより前倒しで卒論完成が必須となります。夏学期終了時点（秋学期当初時点）での完成を目指します。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】 【第２回】	【第１回】 ・春学期オリエンテーション	◆ノートパソコン持参◆ ※以降、毎回必要！

	（本授業の概要と授業の進め方、評価方法のガイダンス） ・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入 【第 2 回】 ・研究テーマの確定と発表① 〇研究テーマ確定への準備と発表準備 or 発表まとめ（240 分）	〇e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） 〇研究テーマ確定への準備と発表準備（120 分）
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・研究テーマの確定と発表② 【第 4 回】（1 限目：評価と実践） ・卒業論文作成ガイダンス〈全体会〉	◆ノートパソコン持参◆ 〇研究テーマ確定への準備 or 発表まとめ（240 分） 〇卒業論文作成ガイダンスの復習（120 分） 〇テーマにした分野の基本概念、用語の整理（120 分）
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理① 【第 6 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理②	◆ノートパソコン持参◆ 〇テーマにした分野の基本概念、用語の整理（240 分） 〇テーマにした分野の基本概念、用語の整理（240 分）
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集① 【第 8 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集②	◆ノートパソコン持参◆ 〇仮アウトラインの作成（120 分） 〇関連文献の調査と収集（120 分） ◆ノートパソコン持参◆ 〇仮アウトラインの作成（120 分） 〇関連文献の調査と収集（120 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・関連文献の調査と収集③ ・文献の読解と整理① 【第 10 回】 ・関連文献の調査と収集④ ・文献の読解と整理②	◆ノートパソコン持参◆ 〇関連文献の調査と収集（120 分） 〇文献の読解と整理（120 分） 〇関連文献の調査と収集（120 分） 〇文献の読解と整理（120 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・ポスターセッションのあり方と流れについて （発表と意見交換＆まとめ⇒卒論完成へ） ・ポスターの作成① 【第 12 回】 ・ポスターの作成②	◆ノートパソコン持参◆ ・文献の読解と整理（120 分） 〇ポスター作成準備（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議①〔ゼミ内〕 【第 14 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議②	◆ノートパソコン持参◆ 〇ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分） 〇ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分）

	〔学年全体〕※評価と実践の時間も活用	
【第 15 回】 ＜秋学期＞ 【第 16 回】	【第 15 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめと討議 ・卒論完成に向けて、春学期の成果と秋学期の計画の確認 ◇◇◇秋学期◇◇◇ 【第 16 回】 ・秋学期オリエンテーション （これまでの振り返りと今学期の見通し確認） ・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入	◆ノートパソコン持参◆ 〇春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめ（240 分） ＜秋学期＞ ◆ノートパソコン持参◆ 〇e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） 〇途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・最終アウトラインの作成 ・論文執筆と個別相談① 【第 18 回】 ・論文執筆と個別相談②	◆ノートパソコン持参◆ ●途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の提出 〇最終アウトラインの作成（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇論文執筆（240 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・論文執筆と個別相談③ 【第 20 回】 ・論文執筆と個別相談④	◆ノートパソコン持参◆ 〇論文執筆（240 分） ●論文題目変更届け提出（10/31 まで：該当者のみ） 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・秋学期中間発表と討議① ・論文執筆と個別相談⑤ 【第 22 回】 ・秋学期中間発表と討議② ・論文執筆と個別相談⑥	◆ノートパソコン持参◆ 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・秋学期中間発表と討議③ ・論文執筆と個別相談⑦ 【第 24 回】 ・論文執筆と個別相談⑧	◆ノートパソコン持参◆ 〇秋学期中間発表の討議のまとめ（120 分） 〇論文執筆（120 分） 〇論文執筆（240 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・論文執筆と個別相談⑨ 【第 26 回】 ・論文執筆と個別相談⑩	〇論文執筆（240 分） 〇ゼミ内最終発表会準備（120 分） 〇論文執筆（120 分）
【第 27 回】	【第 27 回】	◆ノートパソコン持参◆

【第 28 回】	・ゼミ内最終発表会①（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 28 回】 ・ゼミ内最終発表会②（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ゼミ内最終発表会③（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 30 回】 ・卒業論文発表会〈全体会〉 （各ゼミ代表者による発表と質疑応答、講評）	◆ノートパソコン持参（発表者）◆ ○ゼミ内最終発表会まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○卒業論文発表会のまとめ（240 分） ●卒業論文の提出

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-A11	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	齋藤勝洋				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	マネジメント専門演習を履修		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	各自のコース関連領域をテーマとした卒業研究を行う。ゼミ生同士の連携やコメント、議論を図りながら、4 年間の集大成である卒業論文作成を行う。そのため、論文テーマ検証から最終提出まで、計画的な卒論製作指導を行う必要がある。テーマは特に限定はしないがサービスマーケティングの視点を活かしながら作成することになる。そのため、より一層の専門的知識を学生は自ら積極的に得るようにして欲しい。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 組織経営の仕組みを理解できる ≪レベル３≫組織経営の具体的なケースについて問題点を指摘し、改善策を提案できる。 学習目標に従ってテーマを設定し、卒業論文としてまとめる。 ①卒業研究のテーマを設定し、研究計画に基づいた推進ができる。 ②資料や情報の収集力ならびに分析力の向上 ③4 年間学んだ専門知識を駆使してテーマに対する結論を導き出す ③卒業論文を期日通りに仕上げる 【ベンチマーク】この科目で重視するＫＵＩＳ学習ベンチマーク 卒業論文の制作を通じて自律性を養う（自分自身の力で完成させる）　【自律性　レベル★★★】 卒業論文を完成させるために情報収集力や情報発見力を高める。 【情報収集力／発見力　レベル★★★】 卒業論文の指導や中間発表、成果発表等を通じてプレゼンテーション能力、表現力を鍛える 【プレゼンテーション能力／表現力　レベル★★★】				
19.教科書・教材	特になし				
20.参考文献	特になし				
21.成績評価	e ポートフォリオ：10% 中間発表：15% 計画書：10% 最終報告：15% 卒業論文評価：50%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回（04/11）	・履修確認 ・卒業研究の進め方ガイダンス ・e-ポートフォリオ入力	ＰＣ持参
第 02 回（04/18）	・卒業論文執筆要領説明 ・書き方、まとめ方　過去の論文紹介 ・スケジュール説明	ＰＣ持参
第 03 回	・論文テーマの検討と研究計画書の作成指導	ＰＣ持参

（04/25）		
第 04 回 （05/02）	・論文テーマの検討と研究計画書の作成指導	ＰＣ持参
第 05 回 （05/09）	・論文テーマの検討と研究計画書の作成指導	ＰＣ持参
第 06 回 （05/16）	・卒業論文研究計画書の発表	○研究計画書提出（WebClass） ＰＣ持参
第 07 回 （05/23）	・卒業論文執筆指導（プロット作成） 順番で研究テーマに沿ったプロットを作成し、それを発表する。発表物はＷｏｒｄで作成し、WebClass にアップロードする。	ＰＣ持参
第 08 回 （05/30）	・卒業論文執筆指導（プロット作成） 順番で研究テーマに沿ったプロットを作成し、それを発表する。発表物はＷｏｒｄで作成し、WebClass にアップロードする。	ＰＣ持参
第 09 回 （06/06）	・卒業論文執筆指導（プロット作成） 順番で研究テーマに沿ったプロットを作成し、それを発表する。発表物はＷｏｒｄで作成し、WebClass にアップロードする。	ＰＣ持参
第 10 回 （06/13）	・卒業論文執筆指導（プロット作成） 順番で研究テーマに沿ったプロットを作成し、それを発表する。発表物はＷｏｒｄで作成し、WebClass にアップロードする。	ＰＣ持参
第 11 回 （06/20）	・卒業論文執筆指導（プロット作成） 順番で研究テーマに沿ったプロットを作成し、それを発表する。発表物はＷｏｒｄで作成し、WebClass にアップロードする。	ＰＣ持参
第 12 回 （06/27）	・中間報告会準備 プロットに沿って、研究概要を PowerPoint にまとめる。	ＰＣ持参
第 13 回 （07/04）	・中間報告会準備 プロットに沿って、研究概要を PowerPoint にまとめる。	ＰＣ持参
第 14 回 （07/11）	・中間報告会準備 プロットに沿って、研究概要を PowerPoint にまとめる。	ＰＣ持参
第 15 回 （07/18）	中間報告会	○卒業論文研究計画書と中間報告プレゼンを WebClass にアップロードする。 ○卒業論文研究計画書と中間報告プレゼンを WebClass を e-ポートフォリオに投稿し、今後の研究計画を記載する。 PC 持参

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-A12	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	陳那森				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	4 年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマで卒業論文を完成させる（通年）。前半は、論文作成の基礎となる文献研究と資料収集を中心となるが、授業では発表・討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。 ①適切なテーマを設定し、テーマに関する文献・資料を収集できる。 ②テーマに関する研究計画書を作成することができる。 ③論文作成過程で、ゼミ内での討論や報告ができる。 ④学びの集大成として、卒業論文を完成させる。				
19.教科書・教材	使用しない				
20.参考文献	適宜指示				
21.成績評価	文献研究・資料収集など課題への取り組み：　２０％　【目標①に対応】 研究計画書：　２０％　【目標②に対応】 中間報告会・最終報告会：　１０％　【目標③に対応】 卒業論文　：　５０％　【目標④に対応】				
22.コメント					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　（水曜）昼休み 研究室オフィスアワー　（金曜）4 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2022 年度春学期 第 1 回・第 2 回	ガイダンス、ｅポートフォリオ、卒論執筆要領 ・前学期の振り返り、春学期の目標設定をｅポートフォリオに入力する。 ・授業の進め方、卒論提出までのスケジュールを確認する。 研究計画（1） ・卒論執筆要領を説明する。 ・テーマのねらい、研究方法を検討する。	○ベンチマークチェックを行い、ｅポートフォリオに入力する。(60 分) ◆パソコン◆ ○テーマを見直す。(180 分)
第 3 回・第 4 回	研究計画（2） ・論文の目的、概要を整理する。 研究計画（3） ・資料、参考文献リストを作成する。	○目的、概要を 1,000 字程度にまとめる。（180 分） ○資料、参考文献リストを完成させる。(180 分)
第 5 回・第 6 回	中間発表（1） ・テーマ、研究方法、資料等について報告する。 中間発表（2） ・　テーマ、研究方法、資料等について報告する。	○研究を進める。(180 分) ○研究を進める。(180 分)
第 7 回・第 8 回	論文構成の検討 ・研究計画書（目的・研究方法）を見直す。	○研究を進める。(180 分) ★研究計画書を提出する。研究計画書提出期

	研究計画書の作成 ・資料、参考文献を再検討する。	限（　月　　日（　　）） ○研究を進める。（180 分）
第 9 回・第 10 回	個別研究報告（１） 個別研究報告（２）	○研究を進める。（180 分） ○研究を進める。（180 分）
第 11 回・第 12 回	個別研究報告（３） 個別研究報告（４）	○研究を進める。（180 分） ○研究を進める。（180 分）
第 13 回・第 14 回	報告会準備 中間報告会（１） ・合同で中間報告会を実施する。	○中間報告会資料を作成する。（300 分） ○研究を進める。（180 分） ○研究を進める。（180 分）
第 15 回 2022 年度秋学期 第 16 回	中間報告会（２） ・合同で中間報告会を実施する。 ・春学期の振り返り ガイダンス、ｅポートフォリオ、卒論執筆要領 ・前学期の振り返り、秋学期の目標設定をｅポートフォリオに入力する。 ・今後のスケジュール、卒論執筆要領を確認する。	★（テーマ変更の場合）研究計画書変更届提出(提出期限　月　日（　）） ○冬期休暇中に、5,000 字以上を執筆する。（1440 分） 【春学期】 ◆パソコン◆ ★論文提出（5000 字以上） ○ベンチマークチェックを行い、ｅポートフォリオに入力する。（60 分） ○研究を進める。（300 分）
第 17 回・第 18 回	中間研究報告（１） 中間研究報告（２）	○研究を進める。（300 分） ○研究を進める。（300 分）
第 19 回・第 20 回	中間研究報告（３） 中間研究報告（４）	○研究を進める。（300 分） ○研究を進める。（300 分）
第 21 回・第 22 回	個別研究報告（５） ・章ごとに報告する。 個別研究報告（６） ・章ごとに報告する。	○研究を進める。（300 分） ○研究を進める。（300 分）
第 23 回・第 24 回	個別研究報告（７） ・章ごとに報告する。 個別研究報告（８） ・章ごとに報告する。	○研究を進める。（600 分） ○研究を進める。（600 分）
第 25 回・第 26 回	論文要旨 ・論文の要旨をまとめる。 原稿修正	○研究を進める。（600 分） ★原稿提出 ○原稿を修正する。（300 分）
第 27 回・第 28 回	卒論提出 報告会準備	○原稿を修正する。（300 分） ★卒論提出期間内に提出する ○卒論報告会資料を作成する。（240 分）
第 29 回・第 30 回	ゼミ内卒論報告会 最終報告会	○卒論報告会資料を修正する。（120 分）

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-A13	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	林万平				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	4 年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマで卒業論文を完成させる(通年)。春学期は、論文作成の基礎となる文献研究と資料収集を中心となるか、授業では発表・討論を通して他の学生のテーマについても理解する。 最終提出物 ・卒業論文の概要、文献リスト ・研究計画書 ・卒業論文ドラフト ・各章の報告 ・12000 字以上の論文(前期終了時に 6000 字の中間作成物を提出のこと） ・中間および最終報告（PPT を用いたプレゼンテーション）				
18.学習目標とＤＰとの関連	卒業論文を自らの手で執筆し、完成させる。				
19.教科書・教材	特になし				
20.参考文献	授業中に適宜指示する				
21.成績評価	-e ポートフォリオの作成 10% -研究計画書 10% -中間作成物　20% -プレゼンテーション 10% -卒業論文 50%				
22.コメント	これまで学んだことの集大成として、各自で選んだテーマに関する卒業研究を作成し、自ら選んだテーマについて、的確な情報収集と分析を行い、それらを適切な言葉で、表現することができるようにすることを目指します。 ゼミ履修者はゼミ担当教員と相談の上、学生ごとに卒業研究のテーマを決め、参考文献などを読み、何度も推敲を重ねて卒業研究を書き、ゼミ担当教員に添削と指導を受けつつ、卒業研究にふさわしい成果物に仕上げる努力が必要になります。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第１回　ガイダンス 第２回　問題関心及び問題意識の整理 第３回　問題関心および問題意識の具体化 第４回　問題関心および問題意識から具体的テーマの設定 第５回　研究目的・研究動機の妥当性 第６回　研究方法の確認	いずれも同様：自主研究、持参物 各種資料、ハ?ソコン、メ モリー、ノート

	第７回　研究計画書の作成 第８回　目次の作成 第９回　先行研究・事例の探し方 第１０回　先行事例に関する報告 第１１回　先行研究に関する報告 第１２回　先行研究の内容に関する議論 第１３回　研究計画書の見直し 第１４回　先行研究への批判的分析 第１５回　先行研究の取りまと	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-A14	2.科目名	卒業研究			3.単位数	4
4.授業担当教員	北村正仁						
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科				9.履修学年	4 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	【目的】 4 年間の大学での学修成果を、各自の問題意識に応じたテーマで論文の形にまとめ上げることを目的とする。 【概要】 必要に応じて、研究や論文作成のための指導を行うが、この科目は他の科目以上に各自の自発性が期待される科目である。個人指導を中心としたクラス運営を行う。 ●春学期 1. 卒業論文のテーマを決定し、研究計画を立案する。 2. 卒業後の進路が明確化しており、そのための具体的な行動を行っている。 ●秋学期 3. 卒業論文を完成させる。 4. 進路が決定している。						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の （１）自律的で主体的な態度（自律性） （４）問題発見・解決力 （６）専門的知識・技能の活用力 の学修に関連しています。 ●春学期 1. 卒業論文のテーマを決定し、研究計画を立案する。 2. 卒業後の進路が明確化しており、そのための具体的な行動を行っている。 ●秋学期 3. 卒業論文を完成させる。 4. 進路が決定している。						
19.教科書・教材	特に指定しない。 卒論のテーマに応じて、学生ごとに文献を紹介する。 また、必要に応じて教材を配布する予定である。						
20.参考文献							
21.成績評価	研究計画書 20% 中間・最終報告会 20% 卒業論文 50% e-ポートフォリオ 10%						
22.コメント							
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
春学期 第 1/2 回	第 1 回 ●授業ガイダンス、e-ポートフォリオ、卒論スケジュ	第 1 回 ○e-ポートフォリオの入力を行う

	ール確認 ・シラバスに基づいた授業のガイダンス ・前学期の振り返り、春学期の目標設定を e-ポートフォリオに入力する。 ・授業の進め方と卒論提出までのスケジュールを確認する。 第 2 回 ●研究計画の立案① ・卒業論文執筆要領の説明 ・テーマ、先行研究と目的、参考文献などを確認する。	○研究計画書の下書きの準備 第 2 回 ○研究計画書の準備 ★毎回 PC 持参
第 3/4 回	第 3 回 ●研究計画の立案② ・研究方法、論文構成を作成する。 第 4 回 ●研究計画の立案③ ・研究計画書の作成 ・研究計画書の発表の準備	第 3 回 ○研究計画書の準備 第 4 回 ○研究計画書の作成・仕上げ ★毎回 PC 持参
第 5/6 回	第 5 回 ●研究計画の報告① ・研究計画について、クラス内で報告する。 ・フィードバックを受け、さらに計画を練る 第 6 回 ●研究計画の報告② ・修正した研究計画を再度報告する。 （研究計画書の提出の準備を行う。）	第 5 回 ○フィードバックを受け、計画を練る 第 6 回 ○研究計画書の完成させる ★毎回 PC 持参
第 7/8 回	第 7 回 ●研究計画書の完成 ・研究計画書の様式を完成させる。 第 8 回 ●個別研究報告① ・担当学生による研究報告を行う。	第 7 回 ○研究計画書の作成・仕上げ ○次回担当者は報告の準備を行う 第 8 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 9/10 回	第 9 回 ●個別研究報告② ・担当学生による研究報告を行う。 第 10 回 ●個別研究報告③ ・担当学生による研究報告を行う。	第 9 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 10 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 11/12 回	第 11 回 ●個別研究報告④ ・担当学生による研究報告を行う。	第 11 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 12 回

	第 12 回 ●個別研究報告⑤ ・担当学生による研究報告を行う。	○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 13/14 回	第 13 回 ●個別研究報告⑥ ・担当学生による研究報告を行う。 第 14 回 ●個別研究報告⑦ ・担当学生による研究報告を行う。	第 13 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 14 回 ○フィードバックを受け、修正作業を行う ★毎回 PC 持参
第 15 回 秋学期 第 16 回	第 15 回 ●春学期のまとめと授業アンケート ・卒論執筆の進捗状況の確認。 秋学期 第 16 回 ●卒論執筆の進捗状況の確認と秋学期のスケジュール確認。 ●前学期の振り返り、秋学期の目標設定を e-ポートフォリオに入力する。	 第 15 回 ○夏季休業中の卒論執筆の推進。 秋学期 第 16 回 ○卒論執筆の推進 ★PC 持参
第 17/18 回	第 17 回 ●個別研究報告⑧ ・担当学生による研究報告を行う。 第 18 回 ●個別研究報告⑨ ・担当学生による研究報告を行う。	第 17 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 18 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 19/20 回	第 19 回 ●個別研究報告⑩ ・担当学生による研究報告を行う。 第 20 回 ●個別研究報告⑪ ・担当学生による研究報告を行う。	第 19 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 20 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 21/22 回	第 21 回 ●個別研究報告⑫ ・担当学生による研究報告を行う。 第 22 回 ●個別研究報告⑬ ・担当学生による研究報告を行う。	第 21 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 22 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 23/24 回	第 23 回 ●個別研究報告⑭ ・担当学生による研究報告を行う。 第 24 回	第 23 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 24 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参

	●個別研究報告⑮ ・担当学生による研究報告を行う。	
第 25/26 回	第 25 回 ●個別研究報告⑯ ・担当学生による研究報告を行う。 第 26 回 ●個別研究報告⑰ ・担当学生による研究報告を行う。	第 25 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 26 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 27/28 回	第 27 回 ●卒論提出の準備① ・論文を推敲し、提出期日までに提出する。 第 28 回 ●卒論提出の準備① ・論文を推敲し、提出期日までに提出する。	第 27 回 ○卒論提出の準備 第 28 回 ○卒論提出の準備 ★PC 持参
第 29/30 回	第 29 回 ●卒論報告会の準備 ・卒論報告会に向けて、クラス内での報告会を行う。 第 30 回 ●秋学期のまとめと授業アンケート ●卒業に向けた振り返り	第 29 回 ○報告会に向けた準備 ★PC 持参

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-A15	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	河内山潔				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年生以上
10.取得資格の要件	認定心理士			11.先修条件	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 4 年間の大学での学修成果を、各自の問題意識に応じたテーマで論文の形にまとめ上げることを目的とする。 【概要】 必要に応じて、研究や論文作成のための指導を行うが、この科目は他の科目以上に各自の自発性が期待される科目である。個人指導を中心としたクラス運営を行う。 ●春学期 1. 卒業論文のテーマを決定し、研究計画を立案する。 2. 卒業後の進路が明確化しており、そのための具体的な行動を行っている。 ●秋学期 3. 卒業論文を完成させる。 4. 進路が決定している。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ●春学期 1. 卒業論文のテーマを決定し、研究計画を立案する。 2. 卒業後の進路が明確化しており、そのための具体的な行動を行っている。 ●秋学期 3. 卒業論文を完成させる。 4. 進路が決定している。				
19.教科書・教材	特に指定しない。卒論のテーマに応じて、学生ごとに文献を紹介する。 また、必要に応じて教材を配布する予定である。				
20.参考文献					
21.成績評価	研究計画書　20%　（学習目標①） 中間・最終報告会　20%（学習目標①） 卒業論文　50%　（学習目標③） e-ポートフォリオ　10%　（学習目標②）				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
春学期 第 1/2 回	第 1 回 ●授業ガイダンス、e-ポートフォリオ、卒論スケジュール確認 ・シラバスに基づいた授業のガイダンス ・前学期の振り返り、春学期の目標設定を e-ポートフォリオに入力する。　・授業の進め方と卒論提出ま	第 1 回 ○e-ポートフォリオの入力を行う ○研究計画書の下書きの準備 第 2 回 ○研究計画書の準備

	でのスケジュールを確認する。 第 2 回 ●研究計画の立案① ・卒業論文執筆要領の説明 ・テーマ、先行研究と目的、参考文献などを確認する。	★毎回 PC 持参
第 3/4 回	第 3 回 ●研究計画の立案② ・研究方法、論文構成を作成する。 第 4 回 ●研究計画の立案③ ・研究計画書の作成 ・研究計画書の発表の準備	第 3 回 ○研究計画書の準備 第 4 回 ○研究計画書の作成・仕上げ ★毎回 PC 持参
第 5/6 回	第 5 回 ●研究計画の報告① ・研究計画について、クラス内で報告する。 ・フィードバックを受け、さらに計画を練る 第 6 回 ●研究計画の報告② ・修正した研究計画を再度報告する。 （研究計画書の提出の準備を行う。）	第 5 回 ○フィードバックを受け、計画を練る 第 6 回 ○研究計画書の完成させる ★毎回 PC 持参
第 7/8 回	第 7 回 ●研究計画書の完成 ・研究計画書の様式を完成させる。 第 8 回 ●個別研究報告① ・担当学生による研究報告を行う。	第 7 回 ○研究計画書の作成・仕上げ ○次回担当者は報告の準備を行う 第 8 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 9/10 回	第 9 回 ●個別研究報告② ・担当学生による研究報告を行う。 第 10 回 ●個別研究報告③ ・担当学生による研究報告を行う。	第 9 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 10 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 11/12 回	第 11 回 ●個別研究報告④ ・担当学生による研究報告を行う。 第 12 回 ●個別研究報告⑤ ・担当学生による研究報告を行う。	第 11 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 12 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 13/14 回	第 13 回	第 13 回

	●個別研究報告⑥ ・担当学生による研究報告を行う。 第 14 回 ●個別研究報告⑦ ・担当学生による研究報告を行う。	○次回担当者は報告の準備を行う 第 14 回 ○フィードバックを受け、修正作業を行う ★毎回 PC 持参
第 15 回 秋学期 第 16 回	第 15 回 ●春学期のまとめと授業アンケート ・卒論執筆の進捗状況の確認。 秋学期 第 16 回 ●卒論執筆の進捗状況の確認と秋学期のスケジュール確認。 ●前学期の振り返り、秋学期の目標設定を e-ポートフォリオに入力する。	第 15 回 ○夏季休業中の卒論執筆の推進。 秋学期 第 16 回 ○卒論執筆の推進 ★PC 持参
第 17/18 回	第 17 回 ●個別研究報告⑧ ・担当学生による研究報告を行う。 第 18 回 ●個別研究報告⑨ ・担当学生による研究報告を行う。	第 17 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 18 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 19/20 回	第 19 回 ●個別研究報告⑩ ・担当学生による研究報告を行う。 第 20 回 ●個別研究報告⑪ ・担当学生による研究報告を行う。	第 19 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 20 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 21/22 回	第 21 回 ●個別研究報告⑫ ・担当学生による研究報告を行う。 第 22 回 ●個別研究報告⑬ ・担当学生による研究報告を行う。	第 21 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 22 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 23/24 回	第 23 回 ●個別研究報告⑭ ・担当学生による研究報告を行う。 第 24 回 ●個別研究報告⑮ ・担当学生による研究報告を行う。	 第 23 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 24 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 25/26 回	第 25 回 ●個別研究報告⑯	第 25 回 ○次回担当者は報告の準備を行う

	・担当学生による研究報告を行う。 第 26 回 ●個別研究報告⑰ ・担当学生による研究報告を行う。	第 26 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 27/28 回	第 27 回 ●卒論提出の準備① ・論文を推敲し、提出期日までに提出する。 第 28 回 ●卒論提出の準備① ・論文を推敲し、提出期日までに提出する。	第 27 回 ○卒論提出の準備 第 28 回 ○卒論提出の準備 ★PC 持参
第 29/30 回	第 29 回 ●卒論報告会の準備 ・卒論報告会に向けて、クラス内での報告会を行う。 第 30 回 ●秋学期のまとめと授業アンケート ●卒業に向けた振り返り	第 29 回 ○報告会に向けた準備 ★PC 持参

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M01	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	高見彰				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	4 年間の大学での学修成果を、各自の問題意識に応じたテーマで論文の形にまとめ上げることを目的とする。必要に応じて、研究や論文作成のための指導を行うが、この科目は他の科目以上に各自の自発性が期待される科目である。個人指導を中心としたクラス運営を行う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	●春学期 3 年次に設定した卒業論文のテーマについてデータを収集する。 ●秋学期 3. 卒業論文を完成させる。 4. 春学期の視察時に発見した課題に対し、提案書を作成する。 【特に次の DP との関連が強い】 （4）問題発見・解決力 組織や集団において情報の収集・分析を行い、問題を発見したり、解決へのアイデアを提案したりできる。 （6）専門的知識・技能の活用力 組織や集団の構成員として、マネジメントの知識・技能を、状況に応じて適切に活用することができる。				
19.教科書・教材	特に指定しない。卒論のテーマに応じて、学生ごとに文献を紹介する。 また、必要に応じて教材を配布する予定である。				
20.参考文献					
21.成績評価	議論への貢献度 20% 視察報告書の内容 10% 中間・最終報告会 20% 卒業論文 40% 課題解決提案内容 10%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
春学期 第 1/2 回	第 1 回 ●授業ガイダンス、卒論スケジュール確認 ・シラバスに基づいた授業のガイダンス ・授業の進め方と卒論提出までのスケジュールを確認する。 第 2 回 ●研究計画の立案 ・卒業論文執筆要領の説明 ・テーマ、先行研究と目的、参考文献などを確認する。	★毎回 PC 持参

第 3/4 回	第 3 回 ●研究① ・研究方法、論文構成を作成する。 第 4 回 ●研究② ・仮説あるいは社会課題を 800 字でまとめる。	
第 5/6 回	第 5 回 ●研究③ ・仮説、課題について、ゼミで議論する。 ・立証、提案に必要なデータをリストアップする。 第 6 回 ●研究④ ・立証、提案に必要なデータについて、ゼミで議論する。 ●視察計画 ・現場視察計画案を作成し、各自仮テーマを設定する。	卒業論文の目次案を作成する
第 7/8 回	第 7 回 ●研究⑤ ・研究計画を各自 5 分で発表する。 第 8 回 ●視察計画② ・視察スケジュールを確定する。	ゼミメンバーの研究計画に良い点と改善点を 1 つ以上コメントする。（web クラス）
第 9/10 回	第 9 回・第 10 回 ●現場視察① ・視察計画書に基づき、視察を行う。	報告書用の写真を 2 点以上撮影する（要現場許可）
第 11/12 回	第 11 回・第 12 回 ●現場視察② ・視察計画書に基づき、視察を行う。	視察報告書を作成する
第 13/14 回	第 13 回・第 14 回 ●個別研究指導	個別に卒論を書き進め、章ごとに web クラスにアップする。
第 15 回 秋学期 第 16 回	第 15 回 ●春学期のまとめと授業アンケート ・卒論執筆の進捗状況の確認。 秋学期 第 16 回 ●卒論執筆の進捗状況の確認と秋学期のスケジュール確認。 ●前学期の振り返り、秋学期の目標設定を e-ポートフォリオに入力する。	○夏季休業中を含め、卒論執筆の推進。

第 17/18 回	第 17 回・第 18 回 ●個別研究報告 ・担当学生による研究報告を行う。	担当者は報告の準備を行う
第 19/20 回	第 19 回・第 20 回 ●個別研究報告 ・担当学生による研究報告を行う。	担当者は報告の準備を行う
第 21/22 回	第 21 回・第 22 回 ●視察を踏まえだ課題への提案と議論	視察報告書を仕上げてくる。 他者の報告にコメントする。（web クラス）
第 23/24 回	第 23 回・第 24 回 ●3-4 年合同ゼミ 3 年生の卒論について、意見交換を行う。 実施日程は調整します。	
第 25/26 回	第 25 回・第 26 回 ●個別研究指導	第 25 回 〇次回担当者は報告の準備を行う 第 26 回 〇次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 27/28 回	第 27 回・第 28 回 ●卒論提出の準備 ・論文を推敲し、提出期日までに提出する。	卒論提出の準備
第 29/30 回	第 29 回 ●卒論報告会の準備 ・卒論報告会に向けて、ゼミ報告会を行う。 第 30 回 ●秋学期のまとめと授業アンケート ●卒業に向けた振り返り	報告会に向けた準備

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M02	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	浮田泉				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】４年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマで卒業論文を完成させる（通年）ことが目的である。 【概要】春学期は、論文作成の基礎となる文献研究と資料収集を中心となるが、授業では発表・討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。秋学期は論文作成が中心であり、最終的に研究成果を発表する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	○適切なテーマを設定し、テーマに関する文献・資料を収集できる。 ○論文作成過程で、ゼミ内での討論や報告ができる。 ○学びの集大成として、卒業論文を完成させることができる。				
19.教科書・教材	指定しない				
20.参考文献	指定しない				
21.成績評価	e-ポートフォリオの作成状況　：　１０％ 課題　：　２０％ 研究計画書（5 月 30 日提出期限）：１０％ 中間報告会・最終報告会（日程別途指示）：１０％ 卒業論文（提出期限別途指示）　：　５０％ ※研究計画書の提出、中間報告会、報告会での報告が、単位認定の前提となります。				
22.コメント	①　授業時間外の学習・指導も必要になる。 ②　自主的な学習・研究を求める。				
23.オフィスアワー	（春学期）研究室オフィスアワー：木曜昼休み 学修支援センターオフィスアワー（センタープログラム）：月曜日 4 限 （秋学期）研究室オフィスアワー：月曜日 3 限 学修支援センターオフィスアワー（センタープログラム）：月曜日 4 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回・第 2 回 （4/10・4/17）	ガイダンス、ｅポートフォリオ、卒論執筆要領 ・前学期の振り返り、春学期の目標設定をｅポートフォリオに入力する。 ・授業の進め方、卒論提出までのスケジュールを確認する。 研究計画（１） ・卒論執筆要領を説明する。 ・テーマのねらい、研究方法を検討する。	○ベンチマークチェックを行い、ｅポートフォリオに入力する。(60 分) ◆パソコン◆ ○テーマを見直す。(180 分)
第 3 回・第 4 回 （4/24・5/1）	研究計画（２） ・論文の目的、概要を整理する。 研究計画（３） ・資料、参考文献リストを作成する。	○目的、概要を 1,000 字程度にまとめる。（180 分） ○資料、参考文献リストを完成させる。(180 分)
第 5 回・第 6 回	中間発表（１） ・テーマ、研究方法、資料等について報告する。	○研究を進める。(180 分) ○研究を進める。(180 分)

（5/8・5/15）	中間発表（２） ・ テーマ、研究方法、資料等について報告する。	
第 7 回・第 8 回 （5/22・5/29）	論文構成の検討 ・研究計画書（目的・研究方法）を見直す。 研究計画書の作成 ・資料、参考文献を再検討する。	○研究を進める。（180 分） ★研究計画書を提出する。研究計画書提出期限（5 月 30 日（土）） ○研究を進める。（180 分）
第 9 回・第 10 回 （6/5・6/12）	個別研究報告（１） 個別研究報告（２）	○研究を進める。（180 分） ○研究を進める。（180 分）
第 11 回・第 12 回 （6/19・6/26）	個別研究報告（３） 個別研究報告（４）	○研究を進める。（180 分） ○研究を進める。（180 分）
第 13 回・第 14 回 （7/3・7/10）	報告会準備 中間報告会（１） ・合同で中間報告会を実施する。	○中間報告会資料を作成する。（300 分） ○研究を進める。（180 分） ○研究を進める。（180 分）
第 15 回・第 16 回 （7/17・10/3）	中間報告会（２） ・合同で中間報告会を実施する。 ・春学期の振り返り ガイダンス、 e ポートフォリオ、卒論執筆要領 ・前学期の振り返り、秋学期の目標設定を e ポートフォリオに入力する。 ・今後のスケジュール、卒論執筆要領を確認する。	★（テーマ変更の場合）研究計画書変更届提出(提出期限 7 月 31 日（金）) ○冬期休暇中に、5,000 字以上を執筆する。（1440 分） 【春学期】 ◆パソコン◆ ★論文提出（5000 字以上） ○ベンチマークチェックを行い、e ポートフォリオに入力する。（60 分） ○研究を進める。（300 分）
第 17 回・第 18 回 （10/10・10/17）	中間研究報告（１） 中間研究報告（２）	○研究を進める。（300 分） ○研究を進める。（300 分）
第 19 回・第 20 回 （10/24・10/31）	中間研究報告（３） 中間研究報告（４）	○研究を進める。（300 分） ○研究を進める。（300 分）
第 21 回・第 22 回 （11/7・11/14）	個別研究報告（５） ・章ごとに報告する。 個別研究報告（６） ・章ごとに報告する。	○研究を進める。（300 分） ○研究を進める。（300 分）
第 23 回・第 24 回 （11/21・11/28）	個別研究報告（７） ・章ごとに報告する。 個別研究報告（８） ・章ごとに報告する。	○研究を進める。（600 分） ○研究を進める。（600 分）
第 25 回・第 26 回 （12/5・12/12）	論文要旨 ・論文の要旨をまとめる。 原稿修正	○研究を進める。（600 分） ★原稿提出 ○原稿を修正する。（300 分）
第 27 回・第	卒論提出	○原稿を修正する。（300 分）

28 回 （12/19・ 1/9）	報告会準備	★卒論提出期間内に提出する ○卒論報告会資料を作成する。（240 分）
第 29 回・第 30 回 （1/16・ 1/23）	ゼミ内卒論報告会 最終報告会	○卒論報告会資料を修正する。（120 分）

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M03	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	肖威				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 知識の統合と卒業論文の作成 【授業概要】 これまでの専門科目やゼミでの学修、インターンシップなどオフキャンパスの実践学修に基づき、各自の興味・関心を持つテーマに関し、骨子となるべき文献・著作についての更なる考察と分析を行い、必要に応じてフィールド調査やアンケート調査などを実施し、さまざまの学習の集大成として卒論の作成を行う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連している。 具体的には、様々な知識の統合を図り、業界や企業あるいは地域社会の組織経営の具体的ケースについて状況分析し、問題点を指摘し、改善策を提案できる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	・e-ポートフォリオ　10% ・研究計画書　20% ・中間発表　10% ・期末発表　10% ・卒業論文　50%				
22.コメント	通算授業回数 30 回です。 春学期は 1 回目から 15 回目の内容で進みます。				
23.オフィスアワー	春学期： 水曜日昼休み　センターオフィスアワー（図書館） 水曜日Ｉ限　研究室オフィスアワー 秋学期： 木曜日昼休み　センターオフィスアワー 木曜日 4 限　研究室オフィスアワー				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	ガイダンス、ｅポートフォリオ、卒論スケジュール ・前学期の振り返り、春学期の目標設定をｅポートフォリオに入力する。 ・授業の進め方、卒論提出までのスケジュールを確認する。	○ベンチマークチェックを行い、ｅポートフォリオに入力する。(60 分) ○テーマを見直す。(180 分)
2	研究計画（１）	○テーマを見直す。(180 分)

	・卒論執筆要領を説明する。 ・テーマのねらい、研究方法を検討する。	
3	論文の書式 ・論文の書式について学ぶ。	○研究を進める。(180 分)
4	研究計画（2） ・論文の目的、概要を整理する。 ・資料、参考文献リストを作成する。	○目的、概要を 1,000 字程度にまとめる。（180 分） ○資料、参考文献リストを完成させる。(180 分)
5	中間発表（１） ・テーマ、研究方法、資料等について報告する。	○研究を進める。(180 分)
6	中間発表（２） ・ テーマ、研究方法、資料等について報告する。	○研究を進める。(180 分)
7	論文構成の検討（１） ・研究計画書（目的・研究方法）を見直す。	○研究を進める。(180 分)
8	論文構成の検討（２） ・資料、参考文献を再検討する。	○研究を進める。(180 分)
9	研究計画書の作成（１） ・研究計画書を修正する。	○研究を進める。(180 分)
10	個別指導	○研究を進める。(180 分)
11	個別指導	○研究を進める。(180 分)
12	個別指導	○研究を進める。(180 分)
13	中間報告会準備	○中間報告会資料を作成する。(300 分)
14	中間報告会準備	○中間報告会資料を作成する。(300 分)
15	中間発表（３） ・現状、研究スケジュールを報告する。	○研究を進める。(180 分)

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M04	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	北村浩二				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 知識の統合と卒業論文の作成 【授業概要】 これまでの専門科目やゼミでの学修、インターンシップなどオフキャンパスの実践学修に基づき、各自の興味・関心を持つテーマに関し、骨子となるべき文献・著作についての更なる考察と分析を行い、必要に応じてフィールド調査やアンケート調査などを実施し、さまざまの学習の集大成として卒論の作成を行う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連している。 具体的には、様々な知識の統合を図り、業界や企業あるいは地域社会の組織経営の具体的ケースについて状況分析し、問題点を指摘し、改善策を提案できる。				
19.教科書・教材	特になし				
20.参考文献					
21.成績評価	・e-ポートフォリオ　10% ・研究計画書　20% ・中間発表　10% ・期末発表　10% ・卒業論文　50%				
22.コメント	通算授業回数 30 回です。 春学期は 1 回目から 15 回目の内容で進みます。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	ガイダンス、ｅポートフォリオ、卒論スケジュール ・前学期の振り返り、春学期の目標設定をｅポートフォリオに入力する。 ・授業の進め方、卒論提出までのスケジュールを確認する。	○ベンチマークチェックを行い、ｅポートフォリオに入力する。(60 分) ○テーマを見直す。(180 分)
2	研究計画（１） ・卒論執筆要領を説明する。 ・テーマのねらい、研究方法を検討する。	○テーマを見直す。(180 分)
3	論文の書式 ・論文の書式について学ぶ。	○研究を進める。(180 分)

4	研究計画（2） ・論文の目的、概要を整理する。 ・資料、参考文献リストを作成する。	○目的、概要を 1,000 字程度にまとめる。（180 分） ○資料、参考文献リストを完成させる。（180 分）
5	中間発表（１） ・テーマ、研究方法、資料等について報告する。	○研究を進める。（180 分）
6	中間発表（２） ・ テーマ、研究方法、資料等について報告する。	○研究を進める。（180 分）
7	論文構成の検討（１） ・研究計画書（目的・研究方法）を見直す。	○研究を進める。（180 分）
8	論文構成の検討（２） ・資料、参考文献を再検討する。	○研究を進める。（180 分）
9	研究計画書の作成（１） ・研究計画書を修正する。	○研究を進める。（180 分）
10	個別指導	○研究を進める。（180 分）
11	個別指導	○研究を進める。（180 分）
12	個別指導	○研究を進める。（180 分）
13	中間報告会準備	○中間報告会資料を作成する。（300 分）
14	中間報告会準備	○中間報告会資料を作成する。（300 分）
15	中間発表（３） ・現状、研究スケジュールを報告する。	○研究を進める。（180 分）

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M05	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	佐藤広志				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 知識の統合と卒業論文の作成 【授業概要】 これまでの専門科目やゼミでの学修、インターンシップなどオフキャンパスの実践学修に基づき、各自の興味・関心を持つテーマに関し、骨子となるべき文献・著作についての更なる考察と分析を行い、必要に応じてフィールド調査やアンケート調査などを実施し、さまざまの学習の集大成として卒論の作成を行う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連している。 具体的には、様々な知識の統合を図り、業界や企業あるいは地域社会の組織経営の具体的ケースについて状況分析し、問題点を指摘し、改善策を提案できる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	・e-ポートフォリオ　10% ・研究計画書　20% ・中間発表　10% ・期末発表　10% ・卒業論文　50%				
22.コメント	通算授業回数 30 回です。 春学期は 1 回目から 15 回目の内容で進みます。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	ガイダンス、ｅポートフォリオ、卒論スケジュール ・前学期の振り返り、春学期の目標設定をｅポートフォリオに入力する。 ・授業の進め方、卒論提出までのスケジュールを確認する。	○ベンチマークチェックを行い、ｅポートフォリオに入力する。(60 分) ○テーマを見直す。(180 分)
2	研究計画（１） ・卒論執筆要領を説明する。 ・テーマのねらい、研究方法を検討する。	○テーマを見直す。(180 分)
3	論文の書式 ・論文の書式について学ぶ。	○研究を進める。(180 分)

4	研究計画（2） ・論文の目的、概要を整理する。 ・資料、参考文献リストを作成する。	○目的、概要を 1,000 字程度にまとめる。（180 分） ○資料、参考文献リストを完成させる。（180 分）
5	中間発表（１） ・テーマ、研究方法、資料等について報告する。	○研究を進める。（180 分）
6	中間発表（２） ・ テーマ、研究方法、資料等について報告する。	○研究を進める。（180 分）
7	論文構成の検討（１） ・研究計画書（目的・研究方法）を見直す。	○研究を進める。（180 分）
8	論文構成の検討（２） ・資料、参考文献を再検討する。	○研究を進める。（180 分）
9	研究計画書の作成（１） ・研究計画書を修正する。	○研究を進める。（180 分）
10	個別指導	○研究を進める。（180 分）
11	個別指導	○研究を進める。（180 分）
12	個別指導	○研究を進める。（180 分）
13	中間報告会準備	○中間報告会資料を作成する。（300 分）
14	中間報告会準備	○中間報告会資料を作成する。（300 分）
15	中間発表（３） ・現状、研究スケジュールを報告する。	○研究を進める。（180 分）

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M06	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	上村和美				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】4 年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマで卒業論文を完成させる（通年）ことが目的である。 【概要】春学期は、論文作成の基礎となる文献研究と資料収集を中心となるが、授業では発表・討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。秋学期は論文作成が中心であり、最終的に研究成果を発表する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	○適切なテーマを設定し、テーマに関する文献・資料を収集できる。 ○論文作成過程で、ゼミ内での討論や報告ができる。 ○学びの集大成として、卒業論文を完成させることができる。				
19.教科書・教材	指定しない				
20.参考文献	指定しない				
21.成績評価	○e-ポートフォリオの作成状況　：　１０％ ○課題　：　１０％ ◎研究計画書（5 月 30 日提出期限）：１０％ ◎中間報告会・最終報告会（日程別途指示）：１０％ ◎卒業論文（提出期限別途指示）　：　５０％ ○各種活動：１０％ ※研究計画書の提出、中間報告会、報告会での報告が、単位認定の前提となります。				
22.コメント	①　授業時間外の学習・指導も必要になる。 ②　自主的な学習・研究を求める。				
23.オフィスアワー	（春学期）研究室オフィスアワー：火曜日昼休み 学修支援センターオフィスアワー：火曜日 4 限 （秋学期）研究室オフィスアワー：木曜日 4 限 学修支援センターオフィスアワー：火曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回・第 2 回（4/11・4/18）	ガイダンス、ｅポートフォリオ、卒論執筆要領 ・前学期の振り返り、春学期の目標設定をｅポートフォリオに入力する。 ・授業の進め方、卒論提出までのスケジュールを確認する。 研究計画（１） ・卒論執筆要領を説明する。 ・テーマのねらい、研究方法を検討する。	○ベンチマークチェックを行い、ｅポートフォリオに入力する。(60 分) ◆パソコン◆ ○テーマを見直す。(180 分)
第 3 回・第 4 回（4/25・5/2）	研究計画（２） ・論文の目的、概要を整理する。 研究計画（３） ・資料、参考文献リストを作成する。	○目的、概要を 1,000 字程度にまとめる。（180 分） ○資料、参考文献リストを完成させる。(180 分)
第 5 回・第 6	中間発表（１）	○研究を進める。(180 分)

回 （5/9・5/16）	・テーマ、研究方法、資料等について報告する。 中間発表（２） ・ テーマ、研究方法、資料等について報告する。	○研究を進める。（180 分）
第 7 回・第 8 回 （5/23・5/30）	論文構成の検討 ・研究計画書（目的・研究方法）を見直す。 研究計画書の作成 ・資料、参考文献を再検討する。	○研究を進める。（180 分） ★研究計画書を提出する。研究計画書提出期限（5 月 30 日（土）） ○研究を進める。（180 分）
第 9 回・第 10 回 （6/6・6/13）	個別研究報告（１） 個別研究報告（２）	○研究を進める。（180 分） ○研究を進める。（180 分）
第 11 回・第 12 回 （6/20・6/27）	個別研究報告（３） 個別研究報告（４）	○研究を進める。（180 分） ○研究を進める。（180 分）
第 13 回・第 14 回 （7/4・7/11）	報告会準備 中間報告会（１） ・合同で中間報告会を実施する。	○中間報告会資料を作成する。（300 分） ○研究を進める。（180 分） ○研究を進める。（180 分）
第 15 回・第 16 回 （7/18・10/3）	中間報告会（２） ・合同で中間報告会を実施する。 ・春学期の振り返り ガイダンス、ｅポートフォリオ、卒論執筆要領 ・前学期の振り返り、秋学期の目標設定をｅポートフォリオに入力する。 ・今後のスケジュール、卒論執筆要領を確認する。	★（テーマ変更の場合）研究計画書変更届提出(提出期限 7 月 31 日（金）) ○休暇中に、5,000 字以上を執筆する。（1440 分） 【春学期】 ◆パソコン◆ ★論文提出（5000 字以上） ○ベンチマークチェックを行い、ｅポートフォリオに入力する。（60 分） ○研究を進める。（300 分）
第 17 回・第 18 回 （10/10・10/17）	中間研究報告（１） 中間研究報告（２）	○研究を進める。（300 分） ○研究を進める。（300 分）
第 19 回・第 20 回 （10/24・10/31）	中間研究報告（３） 中間研究報告（４）	○研究を進める。（300 分） ○研究を進める。（300 分）
第 21 回・第 22 回 （11/7・11/14）	個別研究報告（５） ・章ごとに報告する。 個別研究報告（６） ・章ごとに報告する。	○研究を進める。（300 分） ○研究を進める。（300 分）
第 23 回・第 24 回 （11/21・11/28）	個別研究報告（７） ・章ごとに報告する。 個別研究報告（８） ・章ごとに報告する。	○研究を進める。（600 分） ○研究を進める。（600 分）
第 25 回・第 26 回 （12/5・12/12）	論文要旨 ・論文の要旨をまとめる。 原稿修正	○研究を進める。（600 分） ★原稿提出 ○原稿を修正する。（300 分）

第 27 回・第 28 回 （12/19・1/9）	卒論提出 報告会準備	○原稿を修正する。（300 分） ★卒論提出期間内に提出する ○卒論報告会資料を作成する。（240 分）
第 29 回・第 30 回 （1/16・1/23）	ゼミ内卒論報告会 最終報告会	○卒論報告会資料を修正する。（120 分）

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M09	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	高見沢恵美子				
5.授業科目の区分	統合看護 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件	卒業研究登録許可者 （履修規程参照）		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【概要】 看護研究の目的と必要性を理解し、研究に関する基礎的な知識・方法を習得する。看護研究の意義、文献検索方法、研究計画書の作成方法、調査方法について学修する。 学修目標】 1.看護研究の意義、プロセスを説明できる。 2.基礎的な文献検索方法がわかり、実施できる。 3 看護研究で用いられる方法を凡そ理解できる。 4.研究計画書の作成の意義と方法を説明できる。 5.研究疑問を文章化し、研究目的、研究課題(仮）作成を試みる。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)自律性、(2)社会的貢献性、(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門知識・技術の活用力と関連しています。 １．看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ２．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 ３．卒業論文としてまとめることができる。 ※卒業論文を提出することが単位認定の前提となるので注意してください。				
19.教科書・教材	坂下玲子,宮芝智子,小野博史.(2020)系統看護学講座別巻　看護研究(第 1 版、8 刷).医学書院				
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する				
21.成績評価	課題への取り組み　50% 研究課題レポート　　50%　研究計画書・卒業論文の提出 ※　ルーブリック評価表に基づいて評価します				
22.コメント	実習等これまでの学修で疑問に思ったことや興味を持ったことについて、文献を調べ研究的に探究していきましょう。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。	【最終提出物】 研究論文 1 部

	4)研究は、担当教員の指導のもとに行う。 5)研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて計画的に行う。 6)人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業研究倫理的配慮に関する申告書（卒業研究の手引き【別添 2】)』を作成し担当教員に提出する。 7)倫理的配慮に関連したインシデント・アクシデント発生時は、担当教員に速やかに報告し、対応する。卒業研究の手引	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M11	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	蛭子真澄				
5.授業科目の区分	看護分野における実務経験のある教員による専門科目	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件	卒業研究登録許可者（履修規程参照）	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は８実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は１領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を図ること				
18.学習目標とＤＰとの関連	本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性)、(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解)、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技術の活用力 に対応しています。 １．看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ２．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 ３．卒業論文としてまとめることができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する				
21.成績評価	課題への取り組み　50%　提出物 研究課題レポート　50%　研究計画書の提出 ※　別紙 資料１　ルーブリック評価表(自己評価、教員評価)				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。 4)研究は、担当教員の指導のもとに行う。 5)研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて計画的に行う。 6)人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業	【最終提出物】 研究論文１部

	研究倫理的配慮に関する申告書（卒業研究の手引き【別添 2】)』を作成し担当教員に提出する。 7)倫理的配慮に関連したインシデント・アクシデント発生時は、担当教員に速やかに報告し、対応する。卒業研究の手引	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M14	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	伊藤尚子				
5.授業科目の区分	専門教育科目 専門科目 統合看護	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件	卒業研究登録許可者 （履修規程参照）		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を図ることをねらいとする。疑問から研究テーマを導き、一連の研究プロセスを学ぶ。 主に、国内外の国際看護に関するテーマを扱う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	DP1　自律的で主体的な態度 DP4　問題発見・解決力 １．看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ２．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 ３．卒業論文としてまとめることができる。				
19.教科書・教材	坂下玲子他：看護研究 第 2 版（系統看護学講座別巻）、医学書院、2022				
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する				
21.成績評価	評価基準に従って、ゼミでの取り組みの状況、卒業研究計画書、卒業論文などにより卒業論文ルーブリックにて評価する。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー　水曜日昼休み センターオフィスアワー　火曜日昼休み（図書館）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回～30 回	１．ブレインストーミング ２．文献検討 ３．リサーチクエスチョン ４．研究テーマの決定（仮） ５．「はじめに」 ６．倫理的配慮について ７．「研究計画書」	【最終提出物】 「卒業研究」１部

	8．依頼文作成 9．データ収集 10. データ分析 11.「結果」・「考察」・「結論」 12. 論文執筆 ゼミおよび個人面談を併用して進めます。	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M15	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	櫻井信人				
5.授業科目の区分	統合看護	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件	卒業研究登録許可者（履修規程参照）		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につける。 【概要】 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は 8 実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は 1 領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を図るこ				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 【卒業研究の学修目標】 １．看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ２．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 ３．卒業論文としてまとめることができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する				
21.成績評価	評価基準に従って、ゼミでの取り組みの状況、卒業研究計画書、卒業論文などにより担当教員が卒業論文ルーブリックにより評価する。 ルーブリックの配点は以下の通りである。 研究課題の設定 20% 科学的研究方法の選択と分析 30% 関連研究の活用 20% 論証と帰結 30%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。 4)研究は、担当教員の指導のもとに行う。 5)研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて計	研究論文 1 部

	画的に行う。 6)人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業研究倫理的配慮に関する申告書（卒業研究の手引き【別添 2】)』を作成し担当教員に提出する。 7)倫理的配慮に関連したインシデント・アクシデント発生時は、担当教員に速やかに報告し、対応する。卒業研究の手引	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M17	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	原本久美子				
5.授業科目の区分	看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件	卒業研究登録許可者(履修規定参照)		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 【概要】　学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は 8 実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は 1 領域を選択する。 　本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用い				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 １．看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ２．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 ３．卒業論文としてまとめることができる。 【DP との関連】 DP1 自律的で主体的な態度 DP4 問題発見・解決能力 DP6 専門的知識・技術の活用力				
19.教科書・教材	坂下玲子、宮芝智子、小野博史(2020)系統看護学講座別巻　看護研究(第 1 版、8 刷),医学書院				
20.参考文献	必要時、適宜、参考資料を紹介する。				
21.成績評価	ゼミでの取り組み　50%、提出物①②③④⑤ 研究課題レポート　50%、研究計画書の提出 ※　別紙資料 1　　ルーブリック評価表(自己評価、教員評価)				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜日 9:30～10:30(メディア・ライブラリー)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	１）担当分野は、希望調査に基づき決定する。 ２）担当教員は 4 選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。 ３）研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。 ４）研究は、担当教員の指導のもとに行う。 ５）研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて	【最終提出物】研究論文 1 部

	計画的に行う。 ６）人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業研究倫理的配慮に関する申告書(卒業研究の手引き【別添２】)』を作成し担当教員に提出する。 ７）倫理的配慮に関連したインシデント・アクシデント発生時は、担当教員に速やかに報告し、対応する。 卒業研究の手	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M19	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	中世古恵美				
5.授業科目の区分	公衆衛生看護分野の実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師			11.先修条件	卒業研究登録許可者（履修規定参照）
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すとともに、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は 8 実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は 1 領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を図ることをねら				
18.学習目標とＤＰとの関連	DP1　自律的で主体的な態度 DP4　問題発見・解決力 １．看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ２．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 ３．卒業論文としてまとめることができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜参考資料を紹介する。				
21.成績評価	評価基準に従って、ゼミでの取り組み状況、卒業研究計画書、卒業論文などにより、担当教員が卒業論文ルーブリックにより成績評価する。				
22.コメント	公衆衛生看護学実習と並行して行うことが必要です。積極的かつ計画的に取り組んでいきましょう。				
23.オフィスアワー	研究室　水曜日　昼休み センターオフィスアワー　火曜日　昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	１）　選択分野は希望調査に基づき決定する。但し、公衆衛生看護学選択分野(保健師課程）の学生は公衆衛生看護学選択分野に配置となる。 ２）　担当教員は選択分野内で 4 月上旬頃に発表する。 ３）　研究は個人研究とし、グループ研究は認めない。 ４）　研究は担当教員の指導のもとに行う。 ５）　研究は研究課題に応じて担当教員と相談の上、計画的に行う。 ６）　人を対象とする研究を立案し実施する場合は、	【最終提出物】 卒業論文 1 部

	『卒業研究倫理的配慮に関する申告書（卒業の手引き【別添２】)』を作成し担当教員へ提出する。 7）　倫理的配慮に関連したイン	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M20	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	吉沢豊子				
5.授業科目の区分	専門科目総合科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	看護学科学生			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件	新 3 年生到達確認試験に合格し、卒業研究登録許可が出た者		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【概要】 看護研究の目的と必要性を理解し、研究に関する基礎的な知識・方法を習得する。看護研究の意義、文献検索方法、研究計画書の作成方法、調査方法について学修する。 学修目標】 1.看護研究の意義、プロセスを説明できる。 2.基礎的な文献検索方法がわかり、実施できる。 3 看護研究で用いられる方法を凡そ理解できる。 4.研究計画書の作成の意義と方法を説明できる。 5.研究疑問を文章化し、研究目的、研究課題(仮）作成を試みる。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)自律性、(2)社会的貢献性、(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門知識・技術の活用力と関連しています。 １．看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ２．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 ３．卒業論文としてまとめることができる。 ※卒業論文を提出することが単位認定の前提となるので注意してください。				
19.教科書・教材	坂下玲子,宮芝智子,小野博史.(2020)系統看護学講座別巻　看護研究(第 1 版、8 刷).医学書院				
20.参考文献	適宜　参考資料を紹介する。				
21.成績評価	課題への取り組み　50% 研究課題レポート　　50%　研究計画書・卒業論文の提出 ※　ルーブリック評価表に基づいて評価します				
22.コメント	卒業研究は単位を取るためのものというよりは、皆さん自身が一人一人、リサーチマンドをもっての研究し、卒業研究が楽しかったと思えるようにしたいですね。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。 4)研究は、担当教員の指導のもとに行う。 5)研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて計画的に行う。 6)人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業	

	研究倫理的配慮に関する申告書（卒業研究の手引き【別添 2】)』を作成し担当教員に提出する。 7)倫理的配慮に関連したインシデント・アクシデント発生時は、担当教員に速やかに報告し、対応する。卒業研究の手引	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M21	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	久井志保				
5.授業科目の区分	統合看護	6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	保健師、助産師、看護師	11.先修条件	卒業研究登録許可者（履修規程参照）		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につける。 【概要】学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は 8 実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は 1 領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を図ることをねらいとする				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連している。 【卒業研究の学習目標】 1.看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2.研究を通して、一連の研究プロセスを知ることができる。 3.卒業論文としてまとめることができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する。				
21.成績評価	評価基準に従って、ゼミでの取り組みの状況、卒業研究計画書、卒業論文などにより担当教員が卒業論文ルーブリックにより評価する。 ルーブリックの配点は以下の通りである。 研究課題の設定 20% 科学的研究方法の選択と分析 30% 関連研究の活用 20% 論証と帰結 30%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。	研究論文 1 部

	3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。 4)研究は、担当教員の指導のもとに行う。 5)研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて計画的に行う。 6)人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業研究倫理的配慮に関する申告書（卒業研究の手引き【別添 2】)』を作成し担当教員に提出する。 7)倫理的配慮に関連したインシデント・	
2～30 回	研究課題の明確化	
	先行研究のクリティーク	
	研究計画書の作成	
	データ収集	
	データ分析	
	論文の作成	
	研究発表	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M22	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	岩下真由美				
5.授業科目の区分	統合看護 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件	卒業研究登録許可者（履修規程参照）		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につけること。 【概要】 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は 8 実践看護学選択（基礎、急性、慢性･がん、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は 1 領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を				
18.学習目標とＤＰとの関連	1．看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3．卒業論文としてまとめることができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する				
21.成績評価	評価基準に従って、ゼミでの取り組みの状況、卒業研究計画書、卒業論文などにより担当教員が卒業論文ルーブリックにより評価する。				
22.コメント	実習等これまでの学修で疑問に思ったことや興味を持ったことについて、文献を調べ研究的に探究していきましょう。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。 4)研究は、担当教員の指導のもとに行う。 5)研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて計画的に行う。 6)人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業研究倫理的配慮に関する申告書（卒業研究の手引き	【最終提出物】 研究論文 1 部

	【別添 2】)』を作成し担当教員に提出する。 7)倫理的配慮に関連したインシデント・アクシデント発生時は、担当教員に速やかに報告し、対応する。卒業研究の手引	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M23	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	楳田恵子				
5.授業科目の区分	専門科目 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【概要】 看護研究の目的と必要性を理解し、研究に関する基礎的な知識・方法を習得する。看護研究の意義、文献検索方法、研究計画書の作成方法、調査方法について学修する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学修目標】 DP1 自律的で主体的な態度 DP4 問題発見・解決力 1.看護研究の意義、プロセスを説明できる。 2.基礎的な文献検索方法がわかり、実施できる。 3 看護研究で用いられる方法を凡そ理解できる。 4.研究計画書の作成の意義と方法を説明できる。 5.研究疑問を文章化し、研究目的、研究課題(仮）作成を試みる。				
19.教科書・教材	坂下玲子,宮芝智子,小野博史.(2020)系統看護学講座別巻　看護研究(第 1 版、8 刷).医学書院				
20.参考文献	講義中に適宜紹介する。				
21.成績評価	課題への取り組み　50%　提出物①②③④⑤ 研究課題レポート　50%　研究計画書の提出 ※　別紙 資料１　ルーブリック評価表(自己評価、教員評価)				
22.コメント	自己の研究課題を先行研究の文献検索、批判的読み方、要約について取り組みましょう。この後に続く卒論の「研究の背景」や「目的」につながる第 1 歩です。また、その目的を明らかにするための最適な研究方法については講義で学び、研究計画の要である研究疑問を明らかにしましょう。				
23.オフィスアワー	中島登美子：研究室;水曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 4 月　日(　) 限	看護研究方法の授業のオリエンテーション 看護における研究の役割、研究のプロセス（担当：　　）	教科書の該当する章を読んで参加すること(毎回) 提出物の詳細は初回に説明する。提出物は 18 時迄に web class に提出すること <1-2 章>
第 2 回 4 月　日(　) 限	文献検討の意義と方法（担当：　　）	<3, 12 章> 提出物①

第３回 ４月　日(　) 限	提出物①取り組みたい研究課題の検討／担当教員毎	
第４回 ４月　日(　) 限	A グループ：文献検索(1-201) (担当：藪本), B グループ：文献講読① (担当：　　)	<3 章>
第５回 ４月　日(木) 限	A グループ：文献講読① (担当：中島登美子)　B グループ：文献検索(1-201) (担当：藪本)	<3 章> 提出物②文献検索の結果
第６回 ４月　日(　) 限	研究デザイン ＆ 研究方法の選択 (担当：　　)	<5 章> 提出物③
第７回 ４月　日(　) 限	看護研究の方法 ～ 事例研究 (担当：　　)	<10 章> 提出物④
第８回 ４月　日(　) 限	論文講読②（小河原）	
第９回 ４月　日(　) 限	データ収集方法・分析① (担当：　　)	<6-7 章>
第１０回 ４月　日(　) 限	データ収集・分析② (担当：　　)	<6-7 章>
第１１回 ４月　日(　) 限	研究における倫理 (担当：中島登美子)	<4 章>
第１２回 ４月　日(　) 限	研究計画書 (担当：　　)	<8 章> 提出物⑤
第１３回 ４月　日(　) 限	文献講読③　研究計画書作成（小河原）	
第１４回 ４月　日(　) 限	文献講読④　研究計画書作成（小河原）	
第１５回 ４月　日(　) 限	文献講読⑤　研究計画書作成（小河原）	5 月 9 日(月)13 時迄に研究計画書を web class に提出すること

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M24	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	野村浩				
5.授業科目の区分	統合看護	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件	卒業研究登録許可者（履修規程参照）		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【概要】 看護研究の目的と必要性を理解し、研究に関する基礎的な知識・方法を習得する。看護研究の意義、文献検索方法、研究計画書の作成方法、調査方法について学修する。 【学修目標】 1.看護研究の意義、プロセスを説明できる。 2.基礎的な文献検索方法がわかり、実施できる。 3 看護研究で用いられる方法を凡そ理解できる。 4.研究計画書の作成の意義と方法を説明できる。 5.研究疑問を文章化し、研究目的、研究課題(仮）作成を試みる。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)自律性、(2)社会的貢献性、(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門知識・技術の活用力と関連しています。 １．看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ２．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 ３．卒業論文としてまとめることができる。 ※卒業論文を提出することが単位認定の前提となるので注意してください。				
19.教科書・教材	坂下玲子,宮芝智子,小野博史.(2020)系統看護学講座別巻　看護研究(第 1 版、8 刷).医学書院				
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する				
21.成績評価	課題への取り組み　50％ 研究課題レポート　　50％　研究計画書・卒業論文の提出 ※　ルーブリック評価表に基づいて評価します				
22.コメント	興味・関心のある課題について一緒に取り組み探求しましょう。				
23.オフィスアワー	火曜 2 限 火曜昼休み（センターオフィスアワー）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	教室外学習（予習、復習)、教室外グループ学修、提出物、持参物など 1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。	卒業研究の手引き

	4)研究は、担当教員の指導のもとに行う。 5)研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて計画的に行う。 6)人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業研究倫理的配慮に関する申告書（卒業研究の手引き【別添 2】)』を作成し担当教員に提出する。 7)倫理的配慮に関連したインシデント・アクシ	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M26	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	西村美登里				
5.授業科目の区分	統合看護	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件	卒業研究登録許可者（履修規程参照）		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は 8 実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は 1 領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を図ること				
18.学習目標とＤＰとの関連	1．看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3．卒業論文としてまとめることができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する				
21.成績評価	評価基準に従って、ゼミでの取り組みの状況、卒業研究計画書、卒業論文などにより担当教員が卒業論文ルーブリックにより評価する。				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。 4)研究は、担当教員の指導のもとに行う。 5)研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて計画的に行う。 6)人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業研究倫理的配慮に関する申告書（卒業研究の手引き【別添 2】)』を作成し担当教員に提出する。 7)倫理的配慮に関連したインシデント・アクシデント発生時は、担当教員に速やかに報告し、対応する。卒業研究の手引	研究論文 1 部

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M27	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	有本梨花				
5.授業科目の区分	看護分野の実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件	保健師、助産師、看護師	11.先修条件	卒業研究登録許可者(履修規程参照)		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すとともに、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、国際看護分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は 8 実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は 1 領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目は DP の（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技術の活用に該当する科目です。 1．看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3．卒業論文としてまとめることができる。				
19.教科書・教材	授業内に適宜提示する				
20.参考文献	適宜参考資料を提示する				
21.成績評価	卒業研究のルーブリック評価に従って評価する。 課題への取り組み　50%（研究課題の設定：20 点　研究方法の選択と分析方法：30 点） 卒業論文　50%　（関連研究の活用：20 点　卒業論文の内容：30 点）				
22.コメント	自ら課題に興味を持ち、自主的に研究を進めていくことが必要です。探求心を持ち、計画的に取り組んでいきましょう。				
23.オフィスアワー	月曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1）　選択分野は希望調査に基づき決定する。 2）　担当教員は選択分野内で 4 月上旬頃に発表する。 3）　研究は個人研究とし、グループ研究は認めない。 4）　研究は担当教員の指導のもとに行う。 5）　研究は研究課題に応じて担当教員と相談の上、計画的に行う。 6）　人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業研究倫理的配慮に関する申告書（卒業の手引き【別添 2 】)』を作成し担当教員へ提出する。 7）　倫理的配慮に関連したインシデント・アクシデント発生時は、担当教員に速やかに報告し、対応する。卒業研究の手引き【	（最終提出物） 卒業論文一部

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M28	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	白石夕起子				
5.授業科目の区分	統合看護 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保険医療学部看護学科			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件	看護師・保健師・助産師	11.先修条件	卒業研究履修登録可能者		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につけること。 【概要】 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は８実践看護学選択（基礎、急性、慢性･がん、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は１領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を				
18.学習目標とＤＰとの関連	１．看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ２．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 ３．卒業論文としてまとめることができる。				
19.教科書・教材	指定はないが適宜紹介する				
20.参考文献	適宜紹介する				
21.成績評価	課題への取り組み　50% 研究課題レポート　50%　研究計画書の提出 ※　別紙 資料１　ルーブリック評価表(自己評価、教員評価）評価基準に従って、ゼミでの取り組みの状況、卒業研究計画書、卒業論文などにより担当教員が卒業論文ルーブリックにより評価する。				
22.コメント	慢性疾患を持つ患者さんのより良い看護支援について一緒に探求していきましょう				
23.オフィスアワー	毎週水曜日 12:15~13:15				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。 4)研究は、担当教員の指導のもとに行う。 5)研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて計画的に行う。 6)人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業研究倫理的配慮に関する申告書（卒業研究の手引き【別添 2】)』を作成し担当教員に提出する。 7)倫理的配慮に関連したインシデント・アクシデント	【最終提出物】 研究論文１部

	発生時は、担当教員に速やかに報告し、対応する。卒業研究の手引	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M29	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	八木良子				
5.授業科目の区分	専門科目 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【概要】 看護研究の目的と必要性を理解し、研究に関する基礎的な知識・方法を習得する。看護研究の意義、文献検索方法、研究計画書の作成方法、調査方法について学修する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学修目標】 DP1 自律的で主体的な態度 DP4 問題発見・解決力 1.看護研究の意義、プロセスを説明できる。 2.基礎的な文献検索方法がわかり、実施できる。 3 看護研究で用いられる方法を凡そ理解できる。 4.研究計画書の作成の意義と方法を説明できる。 5.研究疑問を文章化し、研究目的、研究課題(仮）作成を試みる。				
19.教科書・教材	坂下玲子,宮芝智子,小野博史.(2020)系統看護学講座別巻　看護研究(第 1 版、8 刷).医学書院				
20.参考文献	講義中に適宜紹介する				
21.成績評価	卒業研究のルーブリック評価に従って評価する。 課題への取り組み　50%（研究課題の設定：20 点　研究方法の選択と分析方法：30 点） 卒業論文　50%　（関連研究の活用：20 点　卒業論文の内容：30 点）				
22.コメント	自主的に研究を進めていくことが必要です。計画的に取り組んでいきましょう。				
23.オフィスアワー	水曜日 1 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1）　選択分野は希望調査に基づき決定する。 2）　担当教員は選択分野内で 4 月上旬頃に発表する。 3）　研究は個人研究とし、グループ研究は認めない。 4）　研究は担当教員の指導のもとに行う。 5）　研究は研究課題に応じて担当教員と相談の上、計画的に行う。 6）　人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業研究倫理的配慮に関する申告書（卒業の手引き【別添２】)』を作成し担当教員へ提出する。 7）　倫理的配慮に関連したインシデント・アクシデント発生時は、担当教員に速やかに報告し、対応する。卒業研究の手引き【	

第 8 回	論文講読②（八木）	
第 9 回		
第 13 回	文献講読③　研究計画書作成（八木）	
第 14 回	文献講読④　研究計画書作成（八木）	
第 15 回	文献講読⑤　研究計画書作成（八木）	（最終提出物） 卒業論文一部

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M30	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	志保田幸子				
5.授業科目の区分	看護分野における実務経験のある教員による専門科目	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件	卒業研究登録許可者（履修規程参照）		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は８実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は１領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を図ること				
18.学習目標とＤＰとの関連	本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技術の活用力 に対応しています。 １．看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ２．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 ３．卒業論文としてまとめることができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する				
21.成績評価	課題への取り組み　50％　提出物 研究課題レポート　50％　研究計画書の提出 ※　別紙 資料１　ルーブリック評価表(自己評価、教員評価)				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。 4)研究は、担当教員の指導のもとに行う。 5)研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて計画的に行う。 6)人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業	【最終提出物】 研究論文１部

	研究倫理的配慮に関する申告書（卒業研究の手引き【別添 2】)』を作成し担当教員に提出する。 7)倫理的配慮に関連したインシデント・アクシデント発生時は、担当教員に速やかに報告し、対応する。卒業研究の手引	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M32	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	畑吉節未				
5.授業科目の区分	統合看護 看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師	11.先修条件	卒業研究登録許可者（履修規程参照）		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 【概要】 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は 9 実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅、国際）で構成され、学生は 1 領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を				
18.学習目標とＤＰとの関連	【本授業の学修目標】 １．看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ２．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 ３．卒業論文としてまとめることができる。 本科目の学習目標は、以下のディプロマプリシーに関連する。 ①自律的で主体的な態度（自律性）、②社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）、③多様な文化やその背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）、④問題発見・解決力、⑥専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	看護研究方法の授業で使用した教科書				
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する。				
21.成績評価	評価基準に従って、ゼミでの取り組みの状況、卒業研究計画書、卒業論文などにより担当教員が卒業論文ルーブリックにより評価する。 専門知識・技能の活用に関するルーブリック；研究課題の設定 20%、科学的研究方法の選択と分析 30%、関連研究の活用 20%、論証と帰結 30%				
22.コメント	研究対象となる看護の現象やそれらをとらえる研究方法は様々です。看護研究方法で研究についての基本的事項を学んだ知識とともに、臨床実習の経験もいかして研究課題の発見につなげていきましょう。将来、発表された研究の賢明な利用者、看護知識の蓄積に寄与する看護者になるための基本を理解しましょう。同時に、研究の楽しさを感じてください。 地域の人々の、その人らしい暮らしに伴走できる看護研究者をめざして取り組みましょう。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー；木曜日昼休み オフィスアワー；水曜日昼休み				
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)		

	1）選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2）担当教員は、選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。 3）研究は個人研究とし、グループ研究は認めない。 4）研究は、担当教員の指導の基に行う。 5）研究は担当教員と相談の上、研究課題に応じて計画的に行う。 6） 人を対象とする研究を立案し実施する場合は「卒業研究倫理的配 慮に関する申請書（卒業研究の手引き【別添 2】）」を作成し担当 教員に提出する。 7）倫理的配慮に関連したインシデント、アクシデント発生時は、担 当教員に速やかに報	【最終提出物】 研究論文 1 部

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M34	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	梅田智子				
5.授業科目の区分	看護分野における実務経験のある教員による専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部　看護学科			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件	看護師　保健師　助産師		11.先修条件	卒業研究登録許可者（履修規程参照）	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は８実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は１領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を図ること				
18.学習目標とＤＰとの関連	本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技術の活用力 に対応しています。 １．看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ２．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 ３．卒業論文としてまとめることができる。				
19.教科書・教材	「看護研究方法」授業で用いた書籍・教科書				
20.参考文献	適宜参考資料を紹介します。				
21.成績評価	評価基準に従って、ゼミでの取り組みの状況、卒業研究計画書、卒業論文などにより担当教員が卒業論文ルーブリックにより評価する。				
22.コメント	看護実践を行う上で看護研究（研究的思考）はより質の高い看護を提供するために必要なプロセスです。研究方法の基本的事項を学び、「今まで学んだ知識や経験」「過去の文献・歴史」「実践」の中から研究課題を探求し、新たな知見を知る・創出する楽しさを感じてください。研究の過程や結果が、個人の実践のみならず看護全体への提案や変革、そして意味付けに活きることを体験し、これを積み重ねて研究結果に基づいた根拠ある科学的実践に寄与できる医療専門職者を目指しましょう。				
23.オフィスアワー	月曜日　１２：１５～１３：１５ その他随時、調整対応します。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。 4)研究は、担当教員の指導のもとに行う。	【最終提出物】 研究論文 1 部

	5)研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて計画的に行う。 6)人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業研究倫理的配慮に関する申告書（卒業研究の手引き【別添 2】)』を作成し担当教員に提出する。 7)倫理的配慮に関連したインシデント・アクシデント発生時は、担当教員に速やかに報告し、対応する。卒業研究の手引	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M35	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	黒川麻里				
5.授業科目の区分	看護分野の実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件	卒業研究登録許可者(履修規程参照)		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は 8 実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は 1 領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を図ることを				
18.学習目標とＤＰとの関連	1．看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3．卒業論文としてまとめることができる。 ［関連するディプロマポリシー］ （4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	授業内に適宜提示する。				
20.参考文献	適宜提示する。				
21.成績評価	卒業論文ルーブリックにより評価する。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	毎週火曜日昼休み：研究室 毎週水曜日昼休み：ラーニングコモンズ				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。 4)研究は、担当教員の指導のもとに行う。 5)研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて計画的に行う。 6)人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業研究倫理的配慮に関する申告書（卒業研究の手引き【別添 2】)』を作成し担当教員に提出する。 7)倫理的配慮に関連したインシデント・アクシデント発生時は、担当教員に速やかに報告し、対応する。卒業研究の手引	研究論文 1 部

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-M37	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	吉田明莉				
5.授業科目の区分	看護分野の実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件	保健師、助産師、看護師	11.先修条件	卒業研究登録許可者（履修規定参照）		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	看護の課題に研究的に取り組み、科学的思考・第度の育成を目指すとともに、看護研究に必要な基礎的能力を身につける。 看護の学習の中からの疑問に基づいて文献検討をもとに研究テーマを設定し、研究計画の立案、調査、分析、卒業研究執筆までの一連の研究プロセスを学習する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	DP の（4）問題発見・解決力（6）専門的知識・技術の活用に該当する科目である。 １．看護の学習の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ２．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 ３．論文の基本的構造に従って卒業研究としてまとめることができる。				
19.教科書・教材	授業内で適宜提示する				
20.参考文献	授業内で適宜提示する				
21.成績評価	卒業研究のルーブリック評価に従って評価する。 課題への取り組み　50%　（研究課題の設定：20 点　研究方法の選択と分析方法：30 点） 卒業論文　50%　（関連研究の活用：20 点　卒業論文の内容：30 点）				
22.コメント	自ら設定した課題に興味を持ち、計画的に自律して研究を進めていきましょう。				
23.オフィスアワー	月曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	１）　選択分野は希望調査に基づき決定する。 ２）　担当教員は選択分野内で 4 月上旬頃に発表する。 ３）　研究は個人研究とし、グループ研究は認めない。 ４）　研究は担当教員の指導のもとに行う。 ５）　研究は研究課題に応じて担当教員と相談の上、計画的に行う。 ６）　人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業研究倫理的配慮に関する申告書（卒業の手引き資料 4)』を作成し担当教員へ提出する。 ７）　倫理的配慮に関連したインシデント・アクシデント発生時は、担当教員に速やかに報告し、対応する。卒業研究の手引き資料 3	卒業研究（一部）

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-Y01	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	斎藤元幸				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	4 年～
10.取得資格の要件	認定心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】専門演習Ⅲ・Ⅳにて行った研究テーマを基盤として、それをより幅広くかつ深く追求することがこの卒業研究の目的である。 【概要】各自のテーマ設定の確認の後、個別のテーマに沿った研究の進行とまとめを指導していく。また，絶えず進行経過の報告を求めると共に、情報の収集や結果の整理、報告書作成の技術などについても随時指導する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目は DP のうち自律性，問題発見・解決力，コミュニケーションスキル，専門技術・技能の活用力と特に関連する。 【学習目標】 科学的手法に基づいた心理学的視点を踏まえた卒業研究を執筆できる。				
19.教科書・教材	必要に応じて資料を配布する。				
20.参考文献	必要に応じて資料を配布する。				
21.成績評価	卒業研究の成績評価については、下記の項目をもとに総合的に行う。 ●卒業研究への取組（50%） ・前半発表（春学期発表）：10% ・卒業研究計画書（春学期中盤）：10% ・中間報告書（秋学期中盤）：10% ・後半発表（秋学期発表）：10% ・卒業論文作成提出後のふりかえり（ｅ－ポートフォリオへの記入）：10% ●卒業論文（50%） ・「卒業論文」（卒業研究ルーブリック評価）および「卒業論文要旨」：50%				
22.コメント	4 年間の集大成として納得のいく取り組みを期待しています。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜昼休み ＊メールで事前に連絡をしてください。上記時間以外も対応可です。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	研究テーマの確認・研究計画書の作成 進捗状況の確認と研究計画書を作成する。 卒業研究ガイダンス（合同）	○専門演習Ⅳで収集した資料をまとめる。
第 3 回 第 4 回	先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら研究デザインをつくる。	○目的と方法、結果の処理についての概要をまとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 5 回 第 6 回	研究デザインの検討 先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら研究デザインをつくる。	○目的と方法、結果の処理についての概要をまとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 7 回 第 8 回	研究デザインの検討 先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら研究デザインをつくる。	○目的と方法、結果の処理についての概要をまとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 9 回	研究の実施と報告	○研究結果データの処理とまとめを行う。

第 10 回	計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	○先行研究、資料をまとめる。
第 11 回 第 12 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 13 回 第 14 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 15 回 第 16 回	・前半（春学期）発表 これまでの研究をまとめ、中間発表会（合同）をおこなう。 発表会を受け、必要な修正を行う。	○これまでの研究成果をまとめて資料を作成する。
第 17 回 第 18 回	研究の実施と報告 中間発表による課題を解決する。 研究経過を報告する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 19 回 第 20 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 21 回 第 22 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 23 回 第 24 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 25 回 第 26 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 27 回 第 28 回	卒業論文提出 ゼミ内発表会	○研究の概要を資料にまとめる。 ○ｅ-ポートフォリオへ記入する。
第 29 回 第 30 回	ゼミ内発表会 卒業研究発表会（全ゼミ合同）	○プレゼンテーションルーブリックを参考にプレゼンの練習を行う。 ○ｅ-ポートフォリオへ振り返りを記入する。

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-Y03	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	神垣一規				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	4 年～
10.取得資格の要件	認定心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】専門演習Ⅲ・Ⅳにて行った研究テーマを基盤として、それをより幅広くかつ深く追求することがこの卒業研究の目的である。 【概要】各自のテーマ設定の確認の後、個別のテーマに沿った研究の進行とまとめを指導していく。また，絶えず進行経過の報告を求めると共に、情報の収集や結果の整理、報告書作成の技術などについても随時指導する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目は DP のうち自律性，問題発見・解決力，コミュニケーションスキル，専門技術・技能の活用力と特に関連する。 【学習目標】 科学的手法に基づいた心理学的視点を踏まえた卒業研究を執筆できる。				
19.教科書・教材	必要に応じて資料を配布する。				
20.参考文献	必要に応じて資料を配布する。				
21.成績評価	卒業研究の成績評価については、下記の項目をもとに総合的に行う。 ●卒業研究への取組（50%） ・前半発表（春学期発表）：10% ・卒業研究計画書（春学期中盤）：10% ・中間報告書（秋学期中盤）：10% ・後半発表（秋学期発表）：10% ・卒業論文作成提出後のふりかえり（ｅ－ポートフォリオへの記入）：10% ●卒業論文（50%） ・「卒業論文」（卒業研究ルーブリック評価）および「卒業論文要旨」：50%				
22.コメント	4 年間の集大成として納得のいく取り組みを期待しています。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	研究テーマの確認・研究計画書の作成 進捗状況の確認と研究計画書を作成する。 卒業研究ガイダンス（合同）	○専門演習Ⅳで収集した資料をまとめる。
第 3 回 第 4 回	先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら研究デザインをつくる。	○目的と方法、結果の処理についての概要をまとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 5 回 第 6 回	研究デザインの検討 先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら研究デザインをつくる。	○目的と方法、結果の処理についての概要をまとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 7 回 第 8 回	研究デザインの検討 先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら研究デザインをつくる。	○目的と方法、結果の処理についての概要をまとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 9 回 第 10 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。

	研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	
第 11 回 第 12 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 13 回 第 14 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 15 回 第 16 回	・前半（春学期）発表 これまでの研究をまとめ、中間発表会（合同）をおこなう。 発表会を受け、必要な修正を行う。	○これまでの研究成果をまとめて資料を作成する。
第 17 回 第 18 回	研究の実施と報告 中間発表による課題を解決する。 研究経過を報告する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 19 回 第 20 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 21 回 第 22 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 23 回 第 24 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 25 回 第 26 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 27 回 第 28 回	卒業論文提出 ゼミ内発表会	○研究の概要を資料にまとめる。 ○ｅ-ポートフォリオへ記入する。
第 29 回 第 30 回	ゼミ内発表会 卒業研究発表会（全ゼミ合同）	○プレゼンテーションルーブリックを参考にプレゼンの練習を行う。 ○ｅ-ポートフォリオへ振り返りを記入する。

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-Y04	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	板山昂				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	認定心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】専門演習III・IVにて行った研究テーマを基盤として、それをより幅広くかつ深く追求することがこの卒業研究の目的である。したがって各自のテーマ設定の確認の後、個別のテーマに沿った研究の進行とまとめを指導していく。また，絶えず進行経過の報告を求めると共に、情報の収集や結果の整理、報告書作成の技術などについても随時指導する。 【概要】 ① 論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ② 完成までの研究計画を立て、スケジュールに従って研究を進める。 ③ 先行研究を収集し、それらを整理した				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・　自ら研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ・　計画に沿って、自律的に研究を進めることができる。 ・　学術論文を作成するための基本的な作法を修得する。				
19.教科書・教材	なし 必要に応じて適宜提示する。				
20.参考文献	なし 必要に応じて適宜提示する。				
21.成績評価	卒業研究の成績評価については、下記の項目をもとに総合的に行う。 ●卒業研究への取組（50%） ・前半発表（春学期発表・報告状況）：10% ・卒業研究計画書（春学期中盤）：10% ・後半発表（秋学期発表・報告状況）：10% ・卒業論文作成提出後のふりかえり：10% ・卒論発表：10% ●卒業論文:50%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	＊オフィスアワー以外でも相談・質問を受けますので Slack メール等でご連絡ください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	【01】　オリエンテーション 【02】　「問題」部分検討	
2019.4.24	【03】　卒業研究合同ガイダンス 【04】　方法検討・調査等	
	【05】　方法検討・調査等 【06】　方法検討・調査等	
	【07】　方法検討・調査等	

	【08】　調査等	
	【09】　調査等 【10】　調査等	
	【11】　調査等 【12】　調査等	
	【13】　調査等 【14】　調査等	
	【15】　調査等 ――――― 秋学期 ――――― 【16】　調査等	【15】中間提出
	【17】　調査等 【18】　調査等	
	【19】　調査等、分析・考察 【20】　調査等、分析・考察	
	【21】　分析・考察 【22】　分析・考察	
	【23】　分析・考察 【24】　分析・考察	
	【25】　分析・考察 【26】　要旨・文献整理・校正	
	【27】　卒業研究提出（担当教員あて） 【28】　卒業研究ゼミ内発表会①	
	【29】　卒業研究ゼミ内発表会② 【30】　合同卒業研究発表会	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-Y05	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	中山誠				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	認定心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	O　犯罪心理学・生理心理学に関連した卒業論文を作成する。 O　心理学の方法論に基づき、調査ないし実験を通じて、科学的な論文の完成を目指す。 O　ポリグラフ検査、ストレスの生理心理、犯罪不安、防犯などが具体的な研究テーマとなる。				
18.学習目標とＤＰとの関連	学科の目標 人間の心理的・社会的問題の実証的把握 レベル３：人間の心理的・社会的諸問題を適切な方法で実証的に把握し、分析できる 知識と経験の総合化 レベル３教室内外で学修した知識と、自らの経験とその振り返りの成果を総合化し、体系的にまとめることができる ベンチマーク 自律性 レベル３：自らの責任を自覚しつつ設定した目標の実現に向けて継続的に取り組むことができる 情報収集・活用力 レベル３：多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を収集して、要点を整理・保存しながら、自分の主張やアイデアを裏づけることができる 問題発見力 レベル３：現状を確認し、今後生じうる問題を積極的に見つけ、解決のための課題を提示することができる 論理的思考／判断力 レベル３：論証に基づいて論理的な意見や結論を導き出すことができる				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	卒業研究計画書（春学期中盤）　〈10%〉 中間発表（春学期終盤）　〈10%〉 途中経過報告書（秋学期中盤）　〈10%〉 最終発表（秋学期終盤）　〈10%〉 「卒業論文」および「卒業論文要旨」〈50%〉 e ポートフォリオへの記入　〈10%〉				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	ガイダンス	
	研究テーマの設定に関する講義	
	卒業研究ガイダンス（合同授業）	

	各自のテーマに関連した論文の発表(2 名程度)	
	各自のテーマに関連した論文の発表(2 名程度)	
	各自のテーマに関連した論文の発表(2 名程度)	
	各自のテーマに関連した論文の発表(2 名程度)	
	各自のテーマに関連した論文の発表(2 名程度)	
	研究結果の分析について	
	研究結果のまとめと考察の仕方	
	方法の記述について	
	序論の記述について	
	目次、引用文献、脚注の記述について	
	ふり返りと総まとめ　卒論発表会の準備	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-Y06	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	Patrick Shorb				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	英語教育学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	Students will be selected by department. Most students will continue from 3rd year seminar.				
17.授業の目的と概要	At the end of the semester, students are expected to utilize research in order to gather and analyze data on research topics related to the themes related to their future graduation essay. Students will be expected to present and discuss the results in pr				
18.学習目標とＤＰとの関連	Course Objectives This course is designed to start the research processes necessary for graduation thesis. By the time students have completed this course they should be able to: 1. Identify Different Ways to Evaluate the Credibility and Reliability of a Source 2. Distinguish between an Academic Topic and a Research Question 3. Show Understanding of Existing Research Literature by Formulating a Research Question that Builds on It. 4. Differentiate between Different Types of Research Data and Explain which Methods are Best to gather it. 5. Perform Need Research Methods and Data Analysis. 6. Demonstrate Ability to Communicate Research Results through an Individual Presentation and Final Project.				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	Reports　30%、 Presentations 20% Graduation Thesis 50%（*Due in the Fall Term）				
22.コメント					
23.オフィスアワー	Fridays 12:120-13:10				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Course Introduction: Course Content and assessments Research Proposal Feedback Session	Check-in Report #1: Review Research Proposal
Week 2	Designing the Research Question #1	Check-in Report #2
Week 3	Designing the Research Question #2	Check-in Report #3
Week 4	Designing the Research Question #3	Check-in Report #4
Week 5	Thinking About Methods #1	Check-in Report #5
Week 6	Thinking About Methods #2	Check-in Report #6
Week 7	Thinking About Methods #3	Presentation Preparation #1
Week 8	Presentations #1	Presentation Preparation #2
Week 9	Presentations #2	Check-in Report #7
Week 10	Polishing the Research Project #1	Check-in Report #8
Week 11	Polishing the Research Project #2	Check-in Report #9
Week 12	Polishing the Research Project #3	Check-in Report #10

Week 13	Polishing the Research Project #4	Final Project Preparation
Week 14	Research Project Presentations	Final Project Preparation
Week 15	Becoming a Self-Reflective Learner - Thoughts on the Semester	Final Project Preparation

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-Y07	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	清水拓野				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・発表		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	卒論作成に向けて準備をしてく授業です。春秋学期にまたがる通年科目です。最終目標は、卒論の完成です。 レポート１（４月当初） 5%（第１章：研究の背景・目的・リサーチクエスチョンを明記し１頁分） レポート２（７月末）10%（卒論下書き：第１章はじめに～第２章まで（日本語の場合 4,500 字程度） 複数の先行研究の要約とそれに対する自分の意見＝引用の意図を明記 レポート３（９月末）15%（第１章から本論の半ばまで（卒論下書き：日本語の場合 12,000 字程度） レポート２に加え、データ分析や論証部分				
18.学習目標とＤＰとの関連					
19.教科書・教材	特になし				
20.参考文献	授業時に配布予定				
21.成績評価	レポート 30%、発表 20%、卒業論文 50%(詳細は授業目的と概要を参照)				
22.コメント	注意点：寝坊などで無断欠席しないように気をつけてください。また、就活で休んでも公欠にはならないので、気をつけてください。欠席して授業から遅れても、自己責任で授業に追いついてください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	授業概要の説明、今後の予定・発表順の決定、春休み宿題の提出	
	先行研究調査の仕方のおさらい、卒論形式・ルーブリックの確認	
	春休み宿題の返却、問題所在の設定おさらい	
	先行研究・導入部分の発表（２人）、日欧要旨の確認	
	先行研究・導入部分の発表（３人）、目次ページの確認	
	先行研究・導入部分の発表（３人）、参考文献ページの確認	
	引用・注の仕方の確認	
	調査法（インタビュー・アンケート・フィールドワーク）の復習	
	卒論フォーマットの確認（改行、語句の乱れ、左右前後の余白）	
	卒論の論展開についての確認	
	卒論本論の前半部分の発表（２人）	
	卒論本論の前半部分の発表（３人）	

	卒論本論の前半部分の発表（３人）	
	最終確認（論展開、フォーマット等）	
	期末レポート（レポート２）の提出	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-Y09	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	遠藤泰生				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	4 年～
10.取得資格の要件	無し		11.先修条件	専門演習 II & III	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限	無し				
17.授業の目的と概要	【目的】 卒業論文執筆と卒業後の進路選択の準備を行う。大学での学びは公共の空間に自分を位置づけるための準備であることを知る。 【概要】 さまざまの研究を学ぶ。共通のテクストを輪読すると同時に、学生は各人の問題関心を深める読書を平行して行う。それらの読書やクラスでの報告、討議から得られる知見を、自分の言葉で整理し、最終卒業論文にまとめる。				
18.学習目標とＤＰとの関連	(4) 問題発見・解決力 卒論のテーマを絞りこむ過程において、先行研究を参考に問題発見や解決のための方法を学ぶ。 (5) コミュニケーションスキル 報告、討議、ペーパーの執筆を通して、公共の空間に向けて己の見解を論理的に表明する言葉を身に付ける。 (6) 専門的知識・技量の応用力 研究テーマを探す際に専門図書・論文の検索を行い、それらから得られる知見を己の問題関心を磨き出すのに役立てる。				
19.教科書・教材	1. 小泉悠『ウクライナ戦争』（ちくま新書） 2. 池内恵・宇山智彦他『ウクライナ戦争と世界のゆくえ』（東京大学出版会） 3. レベッカ・ソルニット『説教したがる男たち』（左右社） 4. 佐藤望・横山千晶・湯川武・近藤明彦『アカデミック・スキルズ（第 3 版）――大学生のための知的技法入門』（慶応義塾大学出版会、2020） その他は授業で配付する。				
20.参考文献	１．本田勝一『日本語の作文技術』（朝日文庫、2015）				
21.成績評価	クラス報告 30%、討議への貢献 20%、最終レポート 50%。 合算で 60%以上の得点を合格とする。				
22.コメント	基本的には卒論提出に向けて各自が準備を進める授業にあたる。卒論の評価は以下の基準に照らして合否が判定される。 1)有用性のある実現可能な課題、2)研究方法の選択と分析、3)関連研究の活用、4)論証と帰結、および 5)形式と文体				
23.オフィスアワー	水曜昼休み、もしくは、事前に予約した時間。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	導入：Ice Breaking -- 自己紹介 授業の概要説明・年間計画 授業形式に対する希望聴取	シラバスを呼んでくる 自己紹介（各学生 5 分）の準備
第２回	【卒業論文とは何か】	『アカデミック・スキルズ（第 3 版)』を持参

	論文執筆は公けの行為であることを確認 論文のかたちと種類・文献検索の仕方・ルーブリックの確認	する
第３回	小泉『ウクライナ戦争』「はじめに」「第一章」	当該章の精読 卒論個人面談
第４回	小泉『ウクライナ戦争』「第二章」	当該章の精読 卒論個人面談
第５回	小泉『ウクライナ戦争』「第三章」	当該章の精読 卒論個人面談
第６回	小泉『ウクライナ戦争』「第四章」	当該章の精読 卒論個人面談
第７回	小泉『ウクライナ戦争』「第五章」	当該章の精読 卒論個人面談
第８回	『ウクライナ戦争と世界のゆくえ』①	読み上げ原稿 レジュメ（A4・２枚まで） PPT の使用可
第９回	『ウクライナ戦争と世界のゆくえ』②	読み上げ原稿 レジュメ（A4・２枚まで） PPT の使用可
第１０回	『ウクライナ戦争と世界のゆくえ』③	読み上げ原稿 レジュメ（A4・２枚まで） PPT の使用可
第１１回	卒業論文　進捗報告　①	卒業論文「第一章」草稿提出（3000 字以上）
第１２回	卒業論文　進捗報告　②	卒業論文「第一章」草稿提出（3000 字以上）
第１３回	卒業論文　進捗報告　③	卒業論文「第一章」草稿提出（3000 字以上）
第１４回	卒業論文　進捗報告　④	卒業論文「第一章」草稿提出（3000 字以上）
第１５回	学期末における学習の振り返り	期末ペーパー（卒論の序論相当＋目次＋文献表） 締め切り：授業最終日

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-Y11	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	安藤正裕				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門研究を修得済みであること。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの学修の集大成として、秋学期末に提出する調査研究成果報告書／企画提案書の準備をすることを目的とする。 これまで学修、修得した知識とスキルを統合的に活用し、調査研究活動を行い、その成果を、報告書／企画提案書としてまとめるための指導を行う。 とくに、研究及び執筆過程において深く思考するという体験をすることに重点を置く。 【概要】各自が設定する研究テーマについての現状調査、先行研究の収集、考察・分析など、秋学期に提出する調査研究成果報告書／企画提案書の執筆の準備作業を進める。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 K1：歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる K2：グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ K4：異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①　国際ビジネスに関わる幅広い分野において批判的視点から課題を発見し研究テーマを設定することができる ②　先行研究を論理的に分析することができる。 ③　研究課題に関する情報の収集・分析を行い、仮説を客観的データに基づき論証することができる。 ④　研究及び論文執筆の計画を作成し、実施することができる。 ⑤　研究成果を既定の書式にそって論文としてまとめることができる。 ⑥　研究成果について論理的に説明でき、意見を交換することができる。				
19.教科書・教材	特に指定しない。適宜資料を配布する。				
20.参考文献	論文 ・明石芳彦（2018）『社会科学系論文の書き方』ミネルバ書房. ・西村克己（2011）『論理的な文章の書き方が面白いほど身につく本 ：「わかりやすい 文章」を書くための基本ポイント 35』 KADOKAWA. ・二通 信子 他（2009）『留学生と日本人学生のためのレポート・論 文表現ハンドブック』東京大学出版会. 報告書 ザ・アール（2018）『これだけは知っておきたい「レポート・報告書」の基本と常識　改訂版』フォレスト出版. ・学研パブリッシング（2012）『【実例 110】レポー				
21.成績評価	【課題１～9】：計 40%（ルーブリックにより評価）				

	【課題 10】研究計画書〔調査の趣旨・目的、調査方法、見込まれる調査結果〕：60%（ルーブリックにより評価） ⇒ 第 15 回目までに提出することが、本科目の単位取得の絶対条件。未提出の場合は再履修、卒業研究 II の履修不可＝本年度の卒業不可。
22.コメント	? 自分の取り上げたテーマについて「なぜだろう？」「本当だろうか？」と批判的に問い続け、検証し、文章で論理的に説明することが大切です。 調査研究成果報告書／企画提案書の作成は、大変な時間と労力を必要とします。行き詰った時には、指導教官だけではなく、友人たちとも議論してみましょう。お互いに気が付かない点が見えてくることもあります。大学での学びの総決算として、「やり切った」といえるモノを書きあげてください。 ・毎回ＰＣを持参使用します。ワード、エクセルのスキルが必要となります。 ・毎回、ノート+筆記用具、または PC を持参して下さい。 ・授業計画に沿って段階を踏みながら取り組むことが重要です。
23.オフィスアワー	金曜日　昼休み　神戸山手キャンパス 3 号館　3302 号室

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション　（本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス） ・調査研究成果報告書／企画提案書のためのガイダンスとスケジュールの確認。	・調査研究、報告書作成に関する規則やルールの復習。 ・卒業論文作成に関する規則やルールの復習。 【課題 1】仮テーマ案を 3 つ程度考え提出する。 【課題 2】先輩の卒業論文を 1 つ読み、概要（テーマ、課題、課題解決方法、結論）についてレポートを提出する。
第 2・3 回	? 【課題 1、2】の提出、発表及び質疑応答 ? 卒論の客観的評価。	【課題 3】テーマについての先行研究を 20 点あげ、年代順に並べるなどして傾向・現状をまとめる。記述方法は執筆要領に従うこと。
第 4・5 回	? 【課題 3】の提出、発表及び質疑応答 ? これまで、また現在どのようなことが議論され課題となっているかを確認する。 ? テーマを徐々に固め、テーマが固まったら仮説を立ててみる。	【課題 4】テーマについて仮説を立て、レポートを提出する。
第 6・7 回	? 【課題 4】の提出、発表及び質疑応答 ? 仮説を検証するために必要な調査課題とその方法を検討。	【課題 5】調査課題と調査方法についてレポートを提出する。
第 8・9 回	? 【課題 5】の提出、発表及び質疑応答。 ? 改めてテーマの課題を整理し、現状と展望について考察する。	【課題 6】調査課題を整理した上で、目次案を作成し提出する。
第 10・11 回	? 【課題 6】の提出、発表及び質疑応答。 ? アンケート、インタビュー、現地踏査などの諸注意。	【課題 7】アンケート、インタビューの質問リストを提出する。
第 12・13 回	? 【課題 7】の提出、発表及び質疑応答。 ? 研究計画書〔調査の趣旨・目的、調査方法、見込まれる調査結果〕の準備。	【課題 8】アンケート、インタビューの質問リストの校正 文献・資料調査の補足。 【課題 9】夏休み中の作業計画書の提出＝第

		15 回目までに提出
第 14・15 回	? 【課題 8、9、10】の提出、発表及び質疑応答。 ? 夏休み中の作業の確認。	【課題１１】夏休み中の進行状況の確認１＝8 月末までに提出 【課題 12】夏休み中の進行状況の確認 2＝秋学期開始前に提出
【第 16 回】	? 【課題 10、11、12】の発表 ? 夏休み中の調査研究成果報告書／企画提案書の進行状況報告と初稿提出までのスケジュール確認。	【課題 11、12】夏休み中に提出
【第 17～18 回】	? 10 月中旬：調査研究成果報告書／企画提案書の中間発表会。 ? 執筆状況の報告と助言・指導	【課題１３】プレンゼンテーションの中間発表会の実施
【第 19～26 回】	★執筆活動 ? 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導 ? 11 月上旬：最終原稿案の提出	【課題１4】最終原稿案の提出 10 月中旬 プレンゼンテーションの準備・練習。
【第 27～28 回】	★調査研究成果報告書／企画提案書の提出＝12 月下旬予定	【課題 15】最終原稿 2 部提出（紙媒体） ? プレンゼンテーションの準備・練習。 ★プレンゼンテーション＝1 月下旬までにゼミごとに実施
【第 29～30 回】	? 調査研究成果報告書／企画提案書の校正作業。 ? 口頭試問の準備・練習。 ★口頭試問＝1 月下旬（ゼミごとに実施）	【課題１６】プレンゼンテーションもしくは口頭試問

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-Y12	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	4 年次	
10.取得資格の要件		11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門演習を修得済みであること			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【科目の目的】 本科目は、大学での学びと経験の総仕上げである卒業論文を執筆することが目的です。 【科目の概要】 ゼミ形式で進める授業のなかで、論文作成の手順や手続きを学び、自らの関心に基づいて専門分野を探求して課題を設定し、先行研究の精査と多様なデータの分析による客観的な論証を通じて、各自が説得力のある結論を導き出すことを目指す。					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 （１）自立的で主体的な態度 （４）問題発見・解決力 （６）専門知識・技能の活用力 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①既存の概念や定説にとらわれず、観光に関わる幅広い分野において批判的思考に基づき課題を見出すことができる。 ②先行研究を論理的に分析することができる。 ③自らの仮説を客観的なデータで論証できる。 ④自らの考えを論理的に説明できる。 ⑤自らの論考を論理的な文章にまとめることができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	戸田山和久『新版　論文の教室　　レポートから卒論まで』NHK ブックス、 2012 年 石黒圭『論文・レポートの基本 ： この 1 冊できちんと書ける!』　日本実業出版社、2012 年 西村克己『論理的な文章の書き方が面白いほど身につく本 ：「わかりやすい 文章」を書くための基本ポイント 35』 KADOKAWA/中経出版　2011 年					
21.成績評価	・ゼミ内での発表〈春学期〉：10%　【学習目標①④に対応】 ・論文構成報告〈春学期終盤〉：20%　【学習目標①②④⑤に対応】 ・中間発表〈10 月中旬〉：20%　【学習目標②③④⑤に対応】 ・ゼミ内での発表〈秋学期〉：10%　【学習目標②③④に対応】 ・論文原稿＋口頭試問〈1 月下旬〉：40%　【学習目標①②③④⑤に対応】 ※論文原稿についてはルーブリック評価を用いて評価する。					
22.コメント	自分の取り上げたテーマについて「なぜだろう？」「本当だろうか？」と批判的に問い続け、検証し、文章で論理的に説明する卒業論文の作成は、大変な時間と労力を必要とします。行き詰った時には、指導教官だけではなく、友人たちとも議論してみましょう。お互いに気が付かない点が見えてくることもあります。大学での学びの総決算として、「やり切った」といえる卒論を書きあげてください。					
23.オフィスアワー	春学期 個人研究室：木曜 5 限					

	学修支援センター：金曜昼休み 秋学期 個人研究室：木曜 5 限 学修支援センター：火曜昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1～2 回】	・春学期オリエンテーション （本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス） ・卒業論文作成のためのガイダンスとスケジュールの確認	○卒業論文作成に関する規則やルールの復習（120 分） ○先行研究の収集・精読と発表準備（120 分）
【第 3～4 回】	・各自の課題意識と研究テーマの発表、および質疑応答①	○先行研究の収集・精読と発表準備（240 分）
【第 5～6 回】	・各自の課題意識と研究テーマの発表、および質疑応答②	○先行研究の収集・精読と発表準備（240 分）
【第 7～8 回】	・各自の論文章立ての発表、および質疑応答①	○先行研究の収集・精読と発表準備（240 分）
【第 9～10 回】	・各自の論文章立ての発表、および質疑応答②	○先行研究の収集・精読と発表準備（240 分）
【第 11～12 回】	・調査手法の検討と準備について、各自の報告と質疑応答①	○調査手法の準備と発表準備（240 分）
【第 13～14 回】	・調査手法の検討と準備について、各自の報告と質疑応答②	○調査手法の準備と発表準備（120 分） ○夏休み中の作業計画の作成（120 分）
【第 15～16 回】	第 15 回：夏休み中の作業計画の提出 論文構成の報告（副査に提出）・・・春学期終了 第 16 回：夏休み中の論文の進行状況報告と初稿提出までのスケジュール確認	○論文構成報告書の作成（120 分） ☆夏休み：本文の執筆・調査の実施 ○夏休み中の論文進行状況報告の準備（120 分）
【第 17～18 回】	☆10 月中旬：論文の中間発表 ・各自の論考の報告と質疑応答①	○中間報告に向けた発表の準備（120 分） ○文献・フィールド調査・データ分析（120 分）
【第 19～20 回】	・各自の論考の報告と質疑応答②	○文献・フィールド調査・データ分析（120 分） ○本文の執筆(120 分)
【第 21～22 回】	・各自の論考の報告と質疑応答③	○文献・フィールド調査・データ分析（120 分） ○本文の執筆(120 分)
【第 23～24 回】	・各自の論考の報告と質疑応答④	○本文の執筆(240 分)
【第 25～26 回】	☆12 月上旬：論文初稿提出（期日は後日指定） ・提出後、副査のコメントをもとに論文の修正について指示	○論文の修正（240 分）
【第 27～28 回】	・論文の修正の確認と口頭試問の準備	○論文の修正（120 分） ○口頭試問の準備（120 分）
【第 29～30 回】	☆1 月中・下旬：口頭試問（2 コマ使用）（各ゼミごとに実施）	○口頭試問の準備（240 分）

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-Y13	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	山本喜晴				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	4 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	これまでの研究テーマをもとに、より幅広く深く追求する。各自のテーマ設定を確認し、個別のテーマに沿った研究を進行させ、まとめる。学生は進行経過の報告し、情報の収集や結果の整理、報告書作成の技術などについて指導する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①人間の心理的・社会的問題を適切な方法で実証的に把握し、分析できる（レベル３）。 ②教室内外で学修した知識と、自らの経験との振り返りの成果を統合化し、体系的にまとめることができる　（レベル３）。				
19.教科書・教材	必要に応じて資料を配布する。				
20.参考文献	必要に応じて授業時に紹介する。				
21.成績評価	卒業研究の成績評価については、下記の項目をもとに総合的に行う。 ●卒業研究への取組（50%） ・前半発表（春学期発表）：10% ・卒業研究計画書（春学期中盤）：10% ・中間報告書（秋学期中盤）：10% ・後半発表（秋学期発表）：10% ・卒業論文作成提出後のふりかえり（ｅ－ポートフォリオへの記入）：10% ●卒業論文（50%） ・「卒業論文」および「卒業論文要旨」：50%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回 第２回	・研究テーマの確認・研究計画書の作成 ・進捗状況の確認と研究計画書を作成する。	◆ノートパソコン利用◆ ◎課題　各自のテーマと方法論について発表準備をする。(240 分)
第３回 第４回	・合同ゼミ 卒業論文の書き方に関する説明会 ・研究デザインの検討 先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら研究デザインをつくる。	進路希望、業界研究をする。(240 分)
第５回 第６回	・研究デザインの検討 先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら研究デザインをつくる。	進路希望、業界研究をする。(240 分)
第７回 第８回	・研究デザインの検討	自己ＰＲを作成する。(240 分)

	先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら研究デザインをつくる。	
第 9 回 第 10 回	・研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する	エントリーシートの作成する。(240 分)
第 11 回 第 12 回	・研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する	◎課題　各自のテーマと方法論について発表準備をする。(240 分)
第 13 回 第 14 回	・研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する	◎課題　各自の方法論について、さらに必要な情報を収集とその整理・分析を進め、発表の準備を行う。(240 分)
第 15 回 第 16 回	・前半（春学期）発表 これまでの研究をまとめ中間発表をおこなう。 必要に応じて修正を行う。	◎課題　各自の方法論について、さらに必要な情報を収集とその整理・分析を進め、発表の準備を行う。(240 分)
第 17 回 第 18 回	・研究の実施と報告（中間発表） 中間発表による課題を解決する。 研究経過を報告する。	◎課題　各自の方法論について、さらに必要な情報を収集とその整理・分析を進め、発表の準備を行う。(240 分)
第 19 回 第 20 回	・卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	◎課題　各自の方法論について、さらに必要な情報を収集とその整理・分析を進め、発表の準備を行う。(240 分)
第 21 回 第 22 回	・卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	◎課題　各自の方法論について、さらに必要な情報を収集とその整理・分析を進め、発表の準備を行う。(240 分)
第 23 回 第 24 回	・卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	◎課題　卒業研究の問題（序論）の報告準備を行う。(240 分)
第 25 回 第 26 回	・卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。 ＊第 27 回卒業論文提出	◎課題　卒業研究の問題（序論）の報告準備を行う。(240 分)
第 27 回 第 28 回	ゼミ内発表会 全体発表会に向けて発表内容の検討・修正をはかる	◆ノートパソコン利用◆◎課題　今学期を振り返り、卒業研究の見通しについて考える。(240 分)
第 29 回 第 30 回	・卒業研究発表会の準備 なお 1 月●日（）は卒業論文の提出締切 ・卒業研究発表会	◎課題　今学期を振り返り、卒業研究の見通しについて考える。(240 分)

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-Y14	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	山本真由美				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	4 年～
10.取得資格の要件	認定心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】専門演習Ⅲ・Ⅳにて行ったことを基盤として、卒業論文を作成ことが目的である。 【概要】各自のテーマ設定の確認の後、個別のテーマに沿った研究の進行とまとめを指導していく。また，絶えず進行経過の報告を求めると共に、情報の収集や結果の整理、報告書作成の技術などについても随時指導する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目は DP のうち自律性，問題発見・解決力，コミュニケーションスキル，専門技術・技能の活用力に関連する。 【学習目標】 心理学研究手法に基づいて卒業研究を執筆する。				
19.教科書・教材	必要に応じて資料を教示する。				
20.参考文献	必要に応じて資料を教示する。				
21.成績評価	卒業研究の成績評価については、下記の項目をもとに総合的に行う。 ●卒業研究への取組（50%） ・前半発表（春学期発表）：10% ・卒業研究計画書（春学期中盤）：10% ・中間報告書（秋学期中盤）：10% ・後半発表（秋学期発表）：10% ・卒業論文作成提出後のふりかえり（ｅ－ポートフォリオへの記入）：10% ●卒業論文（50%） ・「卒業論文」（卒業研究ルーブリック評価）および「卒業論文要旨」：50%				
22.コメント	4 年間の集大成として卒業論文を作成するために自分の持てる力を発揮しましょう。				
23.オフィスアワー	水曜日の昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	卒業研究ガイダンス（合同） 研究テーマの確認・研究計画書の作成 進捗状況の確認と研究計画書を作成する。	○専門演習Ⅳで収集した資料、研究方法をまとめる。
第 3 回 第 4 回	先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら研究方法を作成し、実施する。	○目的と方法、結果の処理についての概要をまとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 5 回 第 6 回	先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら研究方法を作成し、実施する。	○目的と方法、結果の処理についての概要をまとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 7 回 第 8 回	先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら研究方法を作成し、実施する。	○目的と方法、結果の処理についての概要をまとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 9 回 第 10 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。

	研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	
第 11 回 第 12 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 13 回 第 14 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 15 回 第 16 回	・前半（春学期）発表 これまでの研究をまとめ、中間発表会（合同）をおこなう。 発表会を受け、必要な修正を行う。	○これまでの研究成果をまとめて資料を作成する。
第 17 回 第 18 回	研究の実施と報告 中間発表による課題を解決する。 研究経過を報告する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 19 回 第 20 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 21 回 第 22 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 23 回 第 24 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 25 回 第 26 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 27 回 第 28 回	卒業論文提出 ゼミ内発表会	○研究の概要を資料にまとめる。 ○ｅ-ポートフォリオへ記入する。
第 29 回 第 30 回	ゼミ内発表会 卒業研究発表会（全ゼミ合同）	○プレゼンテーションルーブリックを参考にプレゼンの練習を行う。 ○ｅ-ポートフォリオへ振り返りを記入する。

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-Y17	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	川脇康生				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	4 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	4 年間の大学での学修成果を、各自の問題意識に応じたテーマで論文の形にまとめ上げることを目的とする。必要に応じて、研究や論文作成のための指導を行うが、この科目は他の科目以上に各自の自発性が期待される科目である。個人指導を中心としたクラス運営を行う。				
18.学習目標とＤＰとの関連	●春学期 1. 卒業論文のテーマを決定し、研究計画を立案する。 2. 卒業後の進路が明確化しており、そのための具体的な行動を行っている。 ●秋学期 3. 卒業論文を完成させる。 4. 進路が決定している。				
19.教科書・教材	特に指定しない。卒論のテーマに応じて、学生ごとに文献を紹介する。 また、必要に応じて教材を配布する予定である。				
20.参考文献					
21.成績評価	研究計画書　20% 中間・最終報告会　20% 卒業論文　50% e-ポートフォリオ　10%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	学修支援センターオフィスアワー（神戸山手 1 号館 2 階ラーニングコモンズ）：月、4 限 研究室オフィスアワー（神戸山手 3 号館 2 階 207 室）：火、昼休み ※質問等はメールで問い合わせてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
春学期 第 1/2 回	第 1 回 ●授業ガイダンス、e-ポートフォリオ、卒論スケジュール確認 ・シラバスに基づいた授業のガイダンス ・前学期の振り返り、春学期の目標設定を e-ポートフォリオに入力する。　・授業の進め方と卒論提出までのスケジュールを確認する。 第 2 回 ●研究計画の立案① ・卒業論文執筆要領の説明 ・テーマ、先行研究と目的、参考文献などを確認する。	第 1 回 ○e-ポートフォリオの入力を行う ○研究計画書の下書きの準備 第 2 回 ○研究計画書の準備 ★毎回 PC 持参
第 3/4 回	第 3 回 ●研究計画の立案②	第 3 回 ○研究計画書の準備

	・研究方法、論文構成を作成する。 第 4 回 ●研究計画の立案③ ・研究計画書の作成 ・研究計画書の発表の準備	 第 4 回 ○研究計画書の作成・仕上げ ★毎回 PC 持参
第 5/6 回	第 5 回 ●研究計画の報告① ・研究計画について、クラス内で報告する。 ・フィードバックを受け、さらに計画を練る 第 6 回 ●研究計画の報告② ・修正した研究計画を再度報告する。 （研究計画書の提出の準備を行う。）	 第 5 回 ○フィードバックを受け、計画を練る 第 6 回 ○研究計画書の完成させる ★毎回 PC 持参
第 7/8 回	第 7 回 ●研究計画書の完成 ・研究計画書の様式を完成させる。 第 8 回 ●個別研究報告① ・担当学生による研究報告を行う。	第 7 回 ○研究計画書の作成・仕上げ ○次回担当者は報告の準備を行う 第 8 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 9/10 回	第 9 回 ●個別研究報告② ・担当学生による研究報告を行う。 第 10 回 ●個別研究報告③ ・担当学生による研究報告を行う。	第 9 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 10 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 11/12 回	第 11 回 ●個別研究報告④ ・担当学生による研究報告を行う。 第 12 回 ●個別研究報告⑤ ・担当学生による研究報告を行う。	第 11 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 12 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 13/14 回	第 13 回 ●個別研究報告⑥ ・担当学生による研究報告を行う。 第 14 回 ●個別研究報告⑦ ・担当学生による研究報告を行う。	第 13 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 14 回 ○フィードバックを受け、修正作業を行う ★毎回 PC 持参
第 15 回 秋学期 第 16 回	第 15 回 ●春学期のまとめと授業アンケート ・卒論執筆の進捗状況の確認。	第 15 回 ○夏季休業中の卒論執筆の推進。

	秋学期 第 16 回 ●卒論執筆の進捗状況の確認と秋学期のスケジュール確認。 ●前学期の振り返り、秋学期の目標設定を e-ポートフォリオに入力する。	秋学期 第 16 回 ○卒論執筆の推進 ★PC 持参
第 17/18 回	第 17 回 ●個別研究報告⑧ ・担当学生による研究報告を行う。 第 18 回 ●個別研究報告⑨ ・担当学生による研究報告を行う。	第 17 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 18 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 19/20 回	第 19 回 ●個別研究報告⑩ ・担当学生による研究報告を行う。 第 20 回 ●個別研究報告⑪ ・担当学生による研究報告を行う。	第 19 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 20 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 21/22 回	第 21 回 ●個別研究報告⑫ ・担当学生による研究報告を行う。 第 22 回 ●個別研究報告⑬ ・担当学生による研究報告を行う。	第 21 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 22 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 23/24 回	第 23 回 ●個別研究報告⑭ ・担当学生による研究報告を行う。 第 24 回 ●個別研究報告⑮ ・担当学生による研究報告を行う。	 第 23 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 24 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 25/26 回	第 25 回 ●個別研究報告⑯ ・担当学生による研究報告を行う。 第 26 回 ●個別研究報告⑰ ・担当学生による研究報告を行う。	 第 25 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 26 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 27/28 回	第 27 回 ●卒論提出の準備① ・論文を推敲し、提出期日までに提出する。	第 27 回 ○卒論提出の準備 第 28 回 ○卒論提出の準備

	第 28 回 ●卒論提出の準備① ・論文を推敲し、提出期日までに提出する。	★PC 持参
第 29/30 回	第 29 回 ●卒論報告会の準備 ・卒論報告会に向けて、クラス内での報告会を行う。 第 30 回 ●秋学期のまとめと授業アンケート ●卒業に向けた振り返り	第 29 回 〇報告会に向けた準備 ★PC 持参

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-Y18	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	有吉美恵				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	4 年～
10.取得資格の要件	認定心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】専門演習Ⅲ・Ⅳにて行った研究テーマを基盤として、それをより幅広くかつ深く追求することがこの卒業研究の目的である。 【概要】各自のテーマ設定の確認の後、個別のテーマに沿った研究の進行とまとめを指導していく。また，絶えず進行経過の報告を求めると共に、情報の収集や結果の整理、報告書作成の技術などについても随時指導する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目は DP のうち自律性，問題発見・解決力，コミュニケーションスキル，専門技術・技能の活用力と特に関連する。 【学習目標】 科学的手法に基づいた心理学的視点を踏まえた卒業研究を執筆できる。				
19.教科書・教材	必要に応じて資料を配布する。				
20.参考文献	必要に応じて資料を配布する。				
21.成績評価	卒業研究の成績評価については、下記の項目をもとに総合的に行う。 ●卒業研究への取組（50%） ・前半発表（春学期発表）：10% ・卒業研究計画書（春学期中盤）：10% ・中間報告書（秋学期中盤）：10% ・後半発表（秋学期発表）：10% ・卒業論文作成提出後のふりかえり（ｅ－ポートフォリオへの記入）：10% ●卒業論文（50%） ・「卒業論文」（卒業研究ルーブリック評価）および「卒業論文要旨」：50%				
22.コメント	4 年間の集大成として納得のいく取り組みを期待しています。				
23.オフィスアワー	＊オフィスアワー以外でも相談・質問を受けますのでメール等でご連絡ください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	研究テーマの確認・研究計画書の作成 進捗状況の確認と研究計画書を作成する。 卒業研究ガイダンス（合同）	○専門演習Ⅳで収集した資料をまとめる。
第 3 回 第 4 回	先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら研究デザインをつくる。	○目的と方法、結果の処理についての概要をまとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 5 回 第 6 回	研究デザインの検討 先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら研究デザインをつくる。	○目的と方法、結果の処理についての概要をまとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 7 回 第 8 回	研究デザインの検討 先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら研究デザインをつくる。	○目的と方法、結果の処理についての概要をまとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 9 回 第 10 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。

	研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	
第 11 回 第 12 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 13 回 第 14 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 15 回 第 16 回	・前半（春学期）発表 これまでの研究をまとめ、中間発表会（合同）をおこなう。 発表会を受け、必要な修正を行う。	○これまでの研究成果をまとめて資料を作成する。
第 17 回 第 18 回	研究の実施と報告 中間発表による課題を解決する。 研究経過を報告する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 19 回 第 20 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 21 回 第 22 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 23 回 第 24 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 25 回 第 26 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 27 回 第 28 回	卒業論文提出 ゼミ内発表会	○研究の概要を資料にまとめる。 ○ｅ-ポートフォリオへ記入する。
第 29 回 第 30 回	ゼミ内発表会 卒業研究発表会（全ゼミ合同）	○プレゼンテーションルーブリックを参考にプレゼンの練習を行う。 ○ｅ-ポートフォリオへ振り返りを記入する。

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-Y19	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	劉争				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	4 年次
10.取得資格の要件		11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門演習を修得していること		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目は、大学での学びと経験の総仕上げである卒業論文を執筆することが目的である。ゼミ形式で進める授業のなかで、論文作成の手順や手続きを学び、自らの関心に基づいて専門分野を探求して課題を設定し、先行研究の精査と多様なデータの分析による客観的な論証を通じて、各自が説得力のある結論を導き出すことを目指す。 なお、この授業は SDG s の以下の目標を目指します。 ９．強くしなやかなインフラ構築，包摂的かつ持続可能な産業化の促進およびイノベーションの促進を図る				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 K1：歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる K2：グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ K4：異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①既存の概念や定説にとらわれず、観光に関わる幅広い分野において批判的思考に基づき課題を見出すことができる。 ②先行研究を論理的に分析することができる。 ③自らの仮説を客観的なデータで論証できる。 ④自らの考えを論理的に説明できる。 ⑤自らの論考を論理的な文章にまとめることができる。				
19.教科書・教材	特に指定しない。				
20.参考文献	戸田山和久『新版　論文の教室　　レポートから卒論まで』NHK ブックス、 2012 年 石黒圭『論文・レポートの基本 ： この 1 冊できちんと書ける!』　日本実業出版社、2012 年 西村克己『論理的な文章の書き方が面白いほど身につく本 ：「わかりやすい 文章」を書くための基本ポイント 35』 KADOKAWA/中経出版　2011 年				
21.成績評価	・ゼミ内での発表〈春学期〉：10%　【学習目標①④に対応】 ・論文構成報告〈春学期終盤〉：20%　【学習目標①②④⑤に対応】 ・中間発表〈10 月中旬〉：20%　【学習目標②③④⑤に対応】 ・ゼミ内での発表〈秋学期〉：10%　【学習目標②③④に対応】 ・口頭試問〈1 月下旬〉：40%　【学習目標②③④に対応】 ※成果物としての卒業論文については、「卒業論文」科目においてルーブリック評価を用いて評価する（100%） 【学習目標①②③⑤に対応】				
22.コメント	自分の取り上げたテーマについて「なぜだろう？」「本当だろうか？」と批判的に問い続け、検証し、文章で論理的に説明する卒業論文の作成は、大変な時間と労力を必要とします。行き詰				

	った時には、指導教官だけではなく、友人たちとも議論してみましょう。お互いに気が付かない点が見えてくることもあります。大学での学びの総決算として、「やり切った」といえる卒論を書きあげてください。
23.オフィスアワー	個人研究室：月曜昼休み 学修支援センター：月曜 4 限目

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1〜2 回】	・春学期オリエンテーション （本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス） ・卒業論文作成のためのガイダンスとスケジュールの確認	○卒業論文作成に関する規則やルールの復習 ○先行研究の収集・精読と発表準備
【第 3〜4 回】	・各自の課題意識と研究テーマの発表、および質疑応答①	○先行研究の収集・精読と発表準備
【第 5〜6 回】	・各自の課題意識と研究テーマの発表、および質疑応答②	○先行研究の収集・精読と発表準備
【第 7〜8 回】	・各自の論文章立ての発表、および質疑応答①	○先行研究の収集・精読と発表準備
【第 9〜10 回】	・各自の論文章立ての発表、および質疑応答②	○先行研究の収集・精読と発表準備
【第 11〜12 回】	・調査手法の検討と準備について、各自の報告と質疑応答①	○調査手法の準備と発表準備
【第 13〜14 回】	・調査手法の検討と準備について、各自の報告と質疑応答②	○調査手法の準備と発表準備 ○夏休み中の作業計画の作成
【第 15〜16 回】	第 15 回：夏休み中の作業計画の提出 論文構成の報告（副査に提出）・・・春学期終了 第 16 回：夏休み中の論文の進行状況報告と初稿提出までのスケジュール確認	○論文構成報告書の作成 ☆夏休み：本文の執筆・調査の実施 ○夏休み中の論文進行状況報告の準備
【第 17〜18 回】	☆10 月中旬：論文の中間発表 ・各自の論考の報告と質疑応答①	○中間報告に向けた発表の準備 ○文献・フィールド調査・データ分析
【第 19〜20 回】	・各自の論考の報告と質疑応答②	○文献・フィールド調査・データ分析 ○本文の執筆
【第 21〜22 回】	・各自の論考の報告と質疑応答③	○文献・フィールド調査・データ分析 ○本文の執筆
【第 23〜24 回】	・各自の論考の報告と質疑応答④	○本文の執筆
【第 25〜26 回】	☆12 月上旬：論文初稿提出（期日は後日指定） ・提出後、副査のコメントをもとに論文の修正について指示	○論文の修正
【第 27〜28 回】	・論文の修正の確認と口頭試問の準備	○論文の修正 ○口頭試問の準備
【第 29〜30 回】	☆1 月中・下旬：口頭試問（2 コマ使用）（各ゼミごとに実施）	○口頭試問の準備

1.授業コード（ナンバリング）	SMN401-YH2	2.科目名	卒業研究　（春）	3.単位数	4
4.授業担当教員	板山昂				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	認定心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】専門演習III・IVにて行った研究テーマを基盤として、それをより幅広くかつ深く追求することがこの卒業研究の目的である。したがって各自のテーマ設定の確認の後、個別のテーマに沿った研究の進行とまとめを指導していく。また，絶えず進行経過の報告を求めると共に、情報の収集や結果の整理、報告書作成の技術などについても随時指導する。 【概要】 ① 論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ② 完成までの研究計画を立て、スケジュールに従って研究を進める。 ③ 先行研究を収集し、それらを整理した				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・　自ら研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ・　計画に沿って、自律的に研究を進めることができる。 ・　学術論文を作成するための基本的な作法を修得する。				
19.教科書・教材	なし 必要に応じて適宜提示する。				
20.参考文献	なし 必要に応じて適宜提示する。				
21.成績評価	卒業研究の成績評価については、下記の項目をもとに総合的に行う。 ●卒業研究への取組（50%） ・前半発表（春学期発表・報告状況）：10% ・卒業研究計画書（春学期中盤）：10% ・後半発表（秋学期発表・報告状況）：10% ・卒業論文作成提出後のふりかえり：10% ・卒論発表：10% ●卒業論文:50%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	＊オフィスアワー以外でも相談・質問を受けますので Slack メール等でご連絡ください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	【01】　オリエンテーション 【02】　「問題」部分検討	
2019.4.24	【03】　卒業研究合同ガイダンス 【04】　方法検討・調査等	
	【05】　方法検討・調査等 【06】　方法検討・調査等	
	【07】　方法検討・調査等	

	【08】　調査等	
	【09】　調査等 【10】　調査等	
	【11】　調査等 【12】　調査等	
	【13】　調査等 【14】　調査等	
	【15】　調査等 ――――― 秋学期 ――――― 【16】　調査等	【15】中間提出
	【17】　調査等 【18】　調査等	
	【19】　調査等、分析・考察 【20】　調査等、分析・考察	
	【21】　分析・考察 【22】　分析・考察	
	【23】　分析・考察 【24】　分析・考察	
	【25】　分析・考察 【26】　要旨・文献整理・校正	
	【27】　卒業研究提出（担当教員あて） 【28】　卒業研究ゼミ内発表会①	
	【29】　卒業研究ゼミ内発表会② 【30】　合同卒業研究発表会	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN404-Y01	2.科目名	卒業研究Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科 データサイエンス専攻			9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件	専門演習Ⅰ～Ⅳを履修済み		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的： 卒業研究を通じて調査・研究のプロセスを習得し、客観的なデータ収集と探索的なデータ分析を行うことで、データに基づく意思決定や問題解決に必要な能力を育成することを目的とする。 概要： 専門演習Ⅲ・Ⅳで学習した知識・技術と分析ツールのスキルを総合的に活用し、社会学的な観点に基づいて学生自身がテーマ設定からデータ収集・分析、結果の解釈までを一貫して行う。この過程を通して、卒業研究としての成果をまとめる。 「卒業研究Ⅰ」では、研究プロセスにおける論理的な思考と研究遂行の体験に重点を置き、学生の卒業研究・制作				
18.学習目標とＤＰとの関連	①．データサイエンスの基礎知識と応用技術の基本を理解する ②．社会・地域課題のデータ分析に必要なスキルを習得する ③．問題解決に必要なデータ収集、分析、可視化、提案の能力を理解する ④．論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力の基礎を養う [関連するディプロマポリシー] （1）自律性（4）問題発見・解決力（5)コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	必要に応じてプリント（PDF 版）を配布する。				
20.参考文献	1．明石芳彦,「社会科学系論文の書き方」, ミネルヴァ書房； 2．白井利明, 高橋一郎,「よくわかる卒論の書き方[第 2 版] (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)」, ミネルヴァ書房； 3．別府 俊幸, 渡辺 賢治,「まちがいだらけの文書から卒業しよう 基本はここだ! 工学系卒論の書き方」, コロナ社；				
21.成績評価	・研究計画書　20%　【対応目標①～④】 ・中間報告（1）　20%【対応目標①～④】 ・中間報告（2）　20%【対応目標①～④】 ・期末発表　40%【対応目標①～④】				
22.コメント					
23.オフィスアワー	学習支援センターオフィスアワー 木曜 3 限（神戸山手） 研究室オフィスアワー　1 号館 4 階（403 室） 木曜昼休み（神戸山手）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス - 本授業の概要と進め方、評価方法などの説明 - 専門演習Ⅳの振り返り - 卒論スケジュールおよび進め方	☆PC 持参（以降同様）☆ ・研究計画書の準備
第 2 回	研究計画の立案（1）	・研究計画書の準備

	・卒論研究テーマの決め方 ・研究の背景と目的、先行研究、参考文献などを確認する	
第 3 回	研究計画の立案（2） ・研究方法、使用ツール、論文の構成などを考える ・研究計画書を作成する	・研究計画書の準備
第 4 回	研究計画の立案（3） ・研究計画書の確認 ・個別指導、研究計画書を検討する	・フィードバックを受け、研究計画書のバージョンアップを行う
第 5 回	研究計画の報告（1） ・ゼミ内で個別による研究計画書を報告する ・フィードバックを受け、研究計画を改善する	・フィードバックを受け、研究計画書を完成する
第 6 回	研究計画の報告（2） ・ゼミ内で個別による研究計画書を報告する ・フィードバックを受け、研究計画を改善する	・フィードバックを受け、研究計画書を完成する
第 7 回	研究計画の遂行（1） ・研究計画にしたがって、各自で研究を遂行する ・必要に応じて個別指導を行う	・研究を遂行する
第 8 回	研究計画の遂行（2） ・研究計画にしたがって、各自で研究を遂行する ・必要に応じて個別指導を行う	・研究を遂行する
第 9 回	中間報告（1） ・学生による研究報告を行う ・フィードバックによる修正を行う	・フィードバックを受け、研究内容を練る
第 10 回	研究計画の遂行（3） ・研究計画にしたがって、各自で研究を遂行する ・必要に応じて個別指導を行う	・研究を遂行する
第 11 回	研究計画の遂行（4） ・研究計画にしたがって、各自で研究を遂行する ・必要に応じて個別指導を行う	・研究を遂行する
第 12 回	中間報告（2） ・学生による研究報告を行う ・フィードバックによる修正を行う	・フィードバックを受け、研究内容を練る
第 13 回	研究計画の遂行（5） ・研究計画にしたがって、各自で研究を遂行する ・必要に応じて個別指導を行う	・研究を遂行する
第 14 回	研究計画の遂行（6） ・研究計画にしたがって、各自で研究を遂行する ・必要に応じて個別指導を行う	・研究を遂行する ・期末発表の準備
第 15 回	期末発表 ・ゼミ前半の発表 ・ゼミ後半の発表	・指摘を受け、研究内容を修正する ・夏季休業中に卒論執筆の準備をする

1.授業コード（ナンバリング）	SMN404-Y02	2.科目名	卒業研究Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	4 年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマ設定・独創的な仮説設定により、卒業研究（論文または制作）を完成させる（通年）。授業では発表・討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	情報技術と社会に関する研究テーマを設定する。 ■　そのテーマに関する先行研究（文献・資料）をレビューし、必要なフィールド調査や分析を行う。 ■　これらを通して、研究テーマについて独創的な仮説を設定する。 ■　卒業研究作成のプロセスで、ゼミ内での討議や発表を行う。 ■　4 年間の学びの集大成として、卒業研究を完成させる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	ゼミノート（毎回の内容記録・コメント等）：20% 研究計画：20% 中間報告会・最終報告会発表：10% 卒業研究：50%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	＜ガイダンス、ｅポートフォリオ、卒業研究作成要領＞ ・前学期の振り返り、春学期の目標設定をｅポートフォリオに入力する。 ・授業の進め方、卒研提出までのスケジュールを確認する。	
	＜研究計画（１）＞ ・卒業研究作成要領を説明する。 ・テーマのねらい、研究方法を検討する。	○目的、概要を 1,000 字程度にまとめる。 ○資料、参考文献リストを完成させる
	＜研究計画（２）＞ ・研究の目的、概要を整理し、テーマを設定する。	
	＜研究計画（３）＞ ・資料、参考文献リストを作成する	
	＜研究計画の中間発表（１）＞ ・テーマ、研究方法、資料等について報告する。	★中間発表資料を作成する。 ○研究を進める。
	＜研究計画の中間発表（２）＞ ・テーマ、研究方法、資料等について報告する。	
	＜構成の検討＞ ・研究計画書（目的・研究方法）を見直す。	

	＜研究計画書の作成＞ ・資料、参考文献を再検討する	★研究計画書を指定する期限までに提出する。
	＜個別研究報告（１）＞ ・研究テーマについて独創的な仮説を設定する。	
	＜個別研究報告（２）＞	
	＜個別研究報告（３）＞	
	＜個別研究報告（４）＞	
	＜中間報告会準備＞	○研究を進める。 ★中間報告会資料を作成する
	＜中間報告会（１）＞ ・合同で中間報告会を実施する。	
	＜中間報告会（２）＞ ・合同で中間報告会を実施する。	★（テーマ変更の場合）研究計画書変更届を指定された期限までに提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	SMN404-Y03	2.科目名	卒業研究 I	3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	4 年次
10.取得資格の要件		11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門演習を修得していること		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	テーマを決める?問題設定?調査を経て、卒業論文を執筆する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の(S1)修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、(S2)社会や文化について科学的に理解する力（S3）新たな文化創造のための豊かな感性を涵養し、社会発展に貢献する力。 健やかで゛調和のとれた人格と、しなやかなで゛豊かな知性を自ら形成で゛きる人間性の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①問題意識を具体化し、テーマを設定しその研究目的を説明できる。 ②調査を計画・実施し、収集したデータの分析ができる。 ③収集したデータをもとに考察し論文にまとめることができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	課題１：卒論計画書…20 点[学習目標①に対応] 課題２：卒業論文…70 点[学習目標②③に対応] 課題３：口頭試問…10 点[学習目標①③に対応]				
22.コメント					
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 3 限、ラーニングコモンズ：木曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
	研究計画の設計	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
	研究計画の設計	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
	文献リストの作成	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100

		分）
	文献調査	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	文献調査	準備学習：報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分） 課題 1 提出
	文献調査	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	インターネットサーベイ	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	インターネットサーベイ	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	インターネットサーベイ	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	研究計画の見直し	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	研究計画の見直し	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	研究計画の見直し	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	研究計画の見直し	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100

		分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	研究計画の見直し	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）

1.授業コード（ナンバリング）	SMN404-Y04	2.科目名	卒業研究Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学部			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件	専門演習 3,4		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本授業では卒業論文にむけて、全員に現場での取材やフィールドワークを行ってもらいます。また、関連する文献を読みます。取材を通じて得たデータから文章を軸にした成果物を作成します。 このゼミを通じて、調査計画書や取材、文章作成、成果物の刊行などを行います。こうした取り組みは就活に直結します。なぜなら企画書作成、下調べ、営業、文章制作、学外との連絡・調整といった社会人の基本を学ぶからです。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自身の「共生」をキーワードとするテーマをみつけることができる。（自律性・問題発見・解決力） ②自身のテーマに関連して調査、取材を行う。（コミュニケーションスキル） ③調査、取材から成果物をつくる。（自律性・問題発見・解決力）				
19.教科書・教材	別途指定します。				
20.参考文献	別途指定します。				
21.成績評価	・進捗レポート（全 15 回）・・・30% ・ミニレポート・・・30% ・アウトプットワーク・・・40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 授業の全体像を説明する。	進捗レポートを作成する
第 2 回	本調査を実施する（1） 本調査を実施し、経過を報告する。	進捗レポートを作成する
第 3 回	本調査を実施する（2） 本調査を実施し、経過を報告する。	進捗レポートを作成する
第 4 回	本調査を実施する（3） 本調査を実施し、経過を報告する。	進捗レポートを作成する
第 5 回	調査のまとめを行う（1） 調査をまとめるため整理する。	進捗レポートを作成する
第 6 回	調査のまとめを行う（2） 調査をまとめるため整理する。	進捗レポートを作成する
第 7 回	調査のアウトプットを作成する（1） 調査のアウトプットを作成する。	進捗レポートを作成する
第 8 回	調査のアウトプットを作成する（2）	進捗レポートを作成する

	調査のアウトプットを作成する。	
第９回	調査のアウトプットを作成する（３） 調査のアウトプットを作成する。	進捗レポートを作成する
第１０回	調査のアウトプットを作成する（４） 調査のアウトプットを作成する。	進捗レポートを作成する
第１１回	卒論に向けての中間報告をする（１） 調査の最終報告をする。	進捗レポートを作成する
第１２回	卒論に向けての中間報告をする（２） 調査の最終報告をする。	進捗レポートを作成する
第１３回	卒論に向けての中間報告をする（３） 調査の最終報告をする。	進捗レポートを作成する
第１４回	卒論に向けての中間報告をする（４） 調査の最終報告をする。	進捗レポートを作成する
第１５回	まとめ 夏秋冬学期にむけての計画をたてる	まとめのアウトプットを提出する。

1.授業コード（ナンバリング）	SMN404-Y05	2.科目名	卒業研究Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門演習を修得していること		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	専門演習での議論や調査研究をふまえつつ、受講者各自が、卒業論文執筆のための発表と議論をおこなう。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の S2、S3 の学修に関連しています。 ①研究計画書にもとづいた先行研究のレヴューができている ②研究計画書にもとづいた調査（文献調査を含む）を実施する				
19.教科書・教材	なし				
20.参考文献	適宜紹介する				
21.成績評価	受講態度、参加姿勢（30 点）：学習目標①②に対応 授業内での発表内容（70 点）：学習目標①②に対応				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第１回】	［活動］オリエンテーション	【予習・復習】卒業論文執筆のための年間計画を考えること
【第２回】	［活動］研究計画書の作成	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】卒業論文提出までの具体的な研究計画を立てること。
【第３回】	［活動］研究計画書の作成	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って先行研究のまとめ・整理をおこなうこと。
【第４回】	［活動］研究計画書の作成	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って調査を進めること。
【第５回】	［活動］先行研究のレビュー	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って調査を進めること。
【第６回】	［活動］先行研究のレビュー	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第７回】	［活動］先行研究のレビュー	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第８回】	［活動］調査（フィールドワーク/文献調査）の実施	前期のゼミでの議論および調査をふまえたうえで、卒業論文の執筆を進めること
【第９回】	［活動］調査（フィールドワーク/文献調査）の実施	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。

		【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 10 回】	［活動］調査（フィールドワーク/文献調査）の実施	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 11 回】	［活動］調査（フィールドワーク/文献調査）の実施	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 12 回】	［活動］調査（フィールドワーク/文献調査）の実施	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 13 回】	［活動］調査（フィールドワーク/文献調査）の実施	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 14 回】	［活動］調査結果の報告・議論	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 15 回】	［活動］調査結果の報告・議論／まとめ	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。

1.授業コード（ナンバリング）	SMN404-Y06	2.科目名	卒業研究 I	3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	対面のみ		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 (1) 特定の分野の知識の深化：社会学やデータサイエンスの知識や理論を深く理解し、その分野の専門家としての基礎を築く。 (2) 有益な評価・新しい発見・方法・理論の提案：実験を行い、実社会に役立つ評価や結果を提案したり、新しい発見・方法・理論を発見することで社会に貢献する。 (3) 実践的スキルの獲得と応用：今まで習ってきた知識をを用いて研究を実施する。また、足りない部分については自分で獲得する。 (4) 批判的思考能力の養成：様々な情報源から得られる情報を評価し、分析することで、問題解決				
18.学習目標とＤＰとの関連	【目標】 卒業研究の過程で、目的の(1)～(6)を身に着け、さまざまな情報を正確に評価し分析する能力も養うことで、卒業研究を完成させ、問題解決や適切な意思決定ができるようになる事が目標です。 DP の 1-6 のすべてに関係しています。				
19.教科書・教材	指定なし				
20.参考文献	理科系の作文技術,木下是雄,中公新書,1981				
21.成績評価	卒業研究の進捗状況の報告 ：60% 中間評価 ：40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	金曜日の昼休みに学習支援室にいます。 3 限が研究室で質問を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	【第 1 回】 ・テーマについて相談 【第 2 回 - 14 回】 ・毎週、ゼミの発表者を決めて、進捗状況を把握する。 【第 15 回】 中間報告会	

1.授業コード（ナンバリング）	SMN406-Y53	2.科目名	卒業論文・制作	3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	4 年次
10.取得資格の要件		11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門演習を修得していること		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	テーマを決める?問題設定?調査を経て、卒業論文を執筆する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の(S1)修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、(S2)社会や文化について科学的に理解する力（S3）新たな文化創造のための豊かな感性を涵養し、社会発展に貢献する力。 健やかで゛調和のとれた人格と、しなやかなで゛豊かな知性を自ら形成で゛きる人間性の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①問題意識を具体化し、テーマを設定しその研究目的を説明できる。 ②調査を計画・実施し、収集したデータの分析ができる。 ③収集したデータをもとに考察し論文にまとめることができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	課題１：卒論計画書…20 点[学習目標①に対応] 課題２：卒業論文…70 点[学習目標②③に対応] 課題３：口頭試問…10 点[学習目標①③に対応]				
22.コメント					
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 3 限、ラーニングコモンズ：木曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 2 回】?【第 6 回】	研究計画の設計	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 7 回】?【第 8 回】	インターネットによるサーベイ	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 9 回】?【第 10 回】	文献リストの作成	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100

		分）
【第 11 回】？ 【第 13 回】	文献調査	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 14 回】？ 【第 15 回】	研究計画の見直し	準備学習：報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分） 課題 1 提出
【第 16 回】？ 【第 17 回】	中間報告 1	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 18 回】？ 【第 19 回】	中間報告 2	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 20 回】？ 【第 21 回】	中間報告 3	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 22 回】？ 【第 23 回】	中間報告 4	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 24 回】	中間報告 5	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 25 回】	中間報告 6	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 26 回】	中間報告 7	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 27 回】	中間報告 8	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100

		分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
【第 28 回】？ 【第 30 回】	口頭試問	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）

1.授業コード（ナンバリング）	SMN406-Y54	2.科目名	卒業論文・制作	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	社会学部			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	山本ゼミでは「共生」をテーマに調査を行います。「共生」や「ダイバーシティ（多様性）」は重要な社会課題となりました。いかにもややこしそうです。ですが難しく考えることはありません。社会のあり方が変化するなかで、過去から守られてきたルールや規範だけでは社会を維持できなくなったからです。とはいえ、多くの学生は高校から大学までストレートに進学してきたのだから「共生」なり「ダイバーシティー」と縁があったわけではないでしょう。 本授業では「共生」をテーマとし卒業論文を執筆します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自身の「共生」をキーワードとするテーマをみつけることができる。（自律性・問題発見・解決力） ②自身のテーマに関連して調査、取材を行う。（コミュニケーションスキル） ③調査、取材から成果物をつくる。（自律性・問題発見・解決力）				
19.教科書・教材	別途指定します。				
20.参考文献	別途指定します。				
21.成績評価	・進捗レポート（全 15 回）・・・30% ・卒業論文・・・70%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回～第 5 回	調査の概要・スケジュールを策定する	進捗レポートを作成する
第 6 回～第 10 回	本調査を実施し、週報・月報を作成する。	進捗レポートを作成する
第 11 回～第 20 回	データを作成し、ディスカッションをする。	進捗レポートを作成する
第 21 回～第 30 回	卒業論文を執筆する。	進捗レポートを作成する

1.授業コード（ナンバリング）	SMN406-Y56	2.科目名	卒業論文・制作	3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 (1) 特定の分野の知識の深化：社会学やデータサイエンスの知識や理論を深く理解し、その分野の専門家としての基礎を築く。 (2) 有益な評価・新しい発見・方法・理論の提案：実験を行い、実社会に役立つ評価や結果を提案したり、新しい発見・方法・理論を発見することで社会に貢献する。 (3) 実践的スキルの獲得と応用：今まで習ってきた知識をを用いて研究を実施する。また、足りない部分については自分で獲得する。 (4) 批判的思考能力の養成：様々な情報源から得られる情報を評価し、分析することで、問題解決				
18.学習目標とＤＰとの関連	【目標】 卒業研究の過程で、目的の(1)～(6)を身に着け、さまざまな情報を正確に評価し分析する能力も養うことで、卒業研究を完成させ、問題解決や適切な意思決定ができるようになる事が目標です。 DP の 1-6 のすべてに関係しています。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	理科系の作文技術,木下是雄,中公新書,1981				
21.成績評価	卒業論文・制作 ：100%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	卒業研究Ⅰ・Ⅱと連携して授業を行う。	

1.授業コード（ナンバリング）	SOC103-A01	2.科目名	社会学概論（1/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本秀樹				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(公民)　社会福祉士受験資格 小学校一種中学(社会)　保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	教育・保育・福祉問題の背景にある、私たちの社会生活に関連するトピック（「地域社会」「文化と比較社会」「社会階層」「エスニシティ」「ジェンダー」「家族」）をとりあげていきます。現代社会の持つ特質と課題について、他者との意見交換や議論を重ねながら、客観的且つ多面的に考察を深めていきます。将来の変化を予測することが困難な時代を生き抜くための、多様で柔軟な視点をもった、持続可能な社会の担い手としての思考形成をめざします。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、社会的貢献性の学修に関連しています。 ①現代社会を概観するキーワードを説明することができる。 ②グローバルな社会問題の具体的な現象とその背景について、根拠をもとに説明することができる。 ③社会的に弱い立場に置かれている人々に対して、わたしたちはどうあるべきかを実現可能なレベルで説明することができる。				
19.教科書・教材	・教科書の購入は不要です。				
20.参考文献	・授業内で適宜紹介します。 ・図書館で社会学の基礎的なテキストが複数あります。予習の際に参照することをすすめます。				
21.成績評価	■小課題：6 回・60%（学習目標①②） ■学びのまとめのレポート：1 回・40%（学習目標①②③）				
22.コメント	・必ず指定されたクラスで受講してください。 ・わからないことがあれば授業中もしくは授業終了後に質問してください。 ・資料の掲示や課題の提出は webclass を使います。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 4/8	社会学とは何か ・教育や福祉と社会学の関連性について説明する。 ・授業シラバスを持参する（このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファイルに添付していつでも参照できるようにすること）。	【今回の復習】 ・シラバスとノートを用いて、科目の内容を再確認しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分)
【第 2 回】 4/15	地域社会① ・地域社会の概念について整理する。変遷する地域社会のあり方に関する社会学上の捉え方について学ぶ。 ・地域社会が求める学校や福祉施設、それらに勤務する教員や専門職のあり方について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「地域社会①」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分)
【第 3 回】	地域社会②	【今回の復習】

4/22	・地域に関する諸問題を概観する。地域社会やグローバル化と教育や福祉の課題について学ぶ。 ・グローバル化におけるわが国の教育や福祉に関する制度や施策、実践上の課題について考察する。	・ノートに「地域社会②」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分) 【次回までの提出物】 ・小課題①
【第 4 回】 5/13	文化と比較社会① ・規範や逸脱の背景や働きを学ぶ。 ・学校や学級経営、福祉施設運営上の規範や逸脱に関する捉え方について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「文化と比較社会①」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分)
【第 5 回】 5/20	文化と比較社会② ・社会生活における地位や役割、準拠集団の機能について学ぶ。 ・集団活動における地位や役割とグループ・ダイナミクス、教育や自立生活支援における準拠集団について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「文化と比較社会②」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分) 【次回までの提出物】 ・小課題②
【第 6 回】 5/27	社会階層① ・社会階層の例について、アメリカ社会、インド社会、および近世以降の日本社会を比較する。 ・グローバリゼーションの進展と拡大する貧富の格差、教育や福祉資源の偏在について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「社会階層①」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分)
【第 7 回】 6/3	社会階層② ・共産主義の理論的背景となったマルクスの階級理論を概観する。 ・社会格差と貧困による教育や福祉における影響と課題を考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「社会階層②」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分) 【次回までの提出物】 ・小課題③
【第 8 回】 6/10	エスニシティ① ・人種と民族の相違や民族間の緊張関係について学ぶ。 ・戦争等と教育や福祉の関連について近代史に沿って概観していく。	【今回の復習】 ・ノートに「エスニシティ①」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分)
【第 9 回】 6/17	エスニシティ② ・日本社会におけるエスニシティと教育や福祉に関連する課題を理解する。 ・教育や福祉について、在留邦人や日系人、ニューカマーやオールドカマーといった観点から捉えていく。 ・教育現場での共生教育や、国際的な福祉実践のあり方を考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「エスニシティ②」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分) 【次回までの提出物】

		・小課題④
【第 10 回】 6/24	ジェンダー① ・性に関する 3 つの構成要素とセクシズムの現状と課題について学ぶ。 ・教育や福祉の実践現場におけるジェンダーの捉え方について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「ジェンダー①」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分)
【第 11 回】 7/1	ジェンダー② ・日本における女性の就労問題と、教育や福祉との関連について学ぶ。 ・ジェンダーの観点から見た家庭教育、保育や介護、家事労働について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「ジェンダー②」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分)
【第 12 回】 7/8	ジェンダー③ ・ジェンダーについて well-being と多様性理解の観点で当事者との対話を試みる。	【今回の復習】 ・ノートに「ジェンダー③」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。 【次回までの提出物】 ・小課題⑤
【第 13 回】 7/15	家族① ・家族に関する概念について学ぶ ・家族機能の変遷と公教育や社会保障制度のあり方について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「家族①」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分)
【第 14 回】 7/22	家族② ・ライフサイクルとライフコースについて学ぶ ・「人生 85 年時代」に向けたリ・デザインと教育や福祉の役割と可能性について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「家族②」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分) 【次回までの提出物】 ・小課題⑥
【第 15 回】 7/29	教育や福祉と社会学の関連② ・学びのまとめとして、私たちの社会が抱える喫緊の課題について、これまでに学んだ社会学上の重要語句を用いて、教育・福祉の立場から客観的で論理的に説明する。	【今回の復習】 ・学びのまとめをする（90 分） 【提出物】 ・学びのまとめのレポート

1.授業コード（ナンバリング）	SOC103-A02	2.科目名	社会学概論（2/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本秀樹				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(公民)　社会福祉士受験資格 小学校一種中学(社会)　保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	教育・保育・福祉問題の背景にある、私たちの社会生活に関連するトピック（「地域社会」「文化と比較社会」「社会階層」「エスニシティ」「ジェンダー」「家族」）をとりあげていきます。現代社会の持つ特質と課題について、他者との意見交換や議論を重ねながら、客観的且つ多面的に考察を深めていきます。将来の変化を予測することが困難な時代を生き抜くための、多様で柔軟な視点をもった、持続可能な社会の担い手としての思考形成をめざします。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、社会的貢献性の学修に関連しています。 ①現代社会を概観するキーワードを説明することができる。 ②グローバルな社会問題の具体的な現象とその背景について、根拠をもとに説明することができる。 ③社会的に弱い立場に置かれている人々に対して、わたしたちはどうあるべきかを実現可能なレベルで説明することができる。				
19.教科書・教材	・教科書の購入は不要です。				
20.参考文献	・授業内で適宜紹介します。 ・図書館で社会学の基礎的なテキストが複数あります。予習の際に参照することをすすめます。				
21.成績評価	■小課題：6 回・60%（学習目標①②） ■学びのまとめのレポート：1 回・40%（学習目標①②③）				
22.コメント	・必ず指定されたクラスで受講してください。 ・わからないことがあれば授業中もしくは授業終了後に質問してください。 ・資料の掲示や課題の提出は webclass を使います。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 4/8	社会学とは何か ・教育や福祉と社会学の関連性について説明する。 ・授業シラバスを持参する（このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファイルに添付していつでも参照できるようにすること）。	【今回の復習】 ・シラバスとノートを用いて、科目の内容を再確認しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分)
【第 2 回】 4/15	地域社会① ・地域社会の概念について整理する。変遷する地域社会のあり方に関する社会学上の捉え方について学ぶ。 ・地域社会が求める学校や福祉施設、それらに勤務する教員や専門職のあり方について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「地域社会①」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分)
【第 3 回】	地域社会②	【今回の復習】

4/22	・地域に関する諸問題を概観する。地域社会やグローバル化と教育や福祉の課題について学ぶ。 ・グローバル化におけるわが国の教育や福祉に関する制度や施策、実践上の課題について考察する。	・ノートに「地域社会②」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分) 【次回までの提出物】 ・小課題①
【第 4 回】 5/13	文化と比較社会① ・規範や逸脱の背景や働きを学ぶ。 ・学校や学級経営、福祉施設運営上の規範や逸脱に関する捉え方について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「文化と比較社会①」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分)
【第 5 回】 5/20	文化と比較社会② ・社会生活における地位や役割、準拠集団の機能について学ぶ。 ・集団活動における地位や役割とグループ・ダイナミクス、教育や自立生活支援における準拠集団について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「文化と比較社会②」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分) 【次回までの提出物】 ・小課題②
【第 6 回】 5/27	社会階層① ・社会階層の例について、アメリカ社会、インド社会、および近世以降の日本社会を比較する。 ・グローバリゼーションの進展と拡大する貧富の格差、教育や福祉資源の偏在について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「社会階層①」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分)
【第 7 回】 6/3	社会階層② ・共産主義の理論的背景となったマルクスの階級理論を概観する。 ・社会格差と貧困による教育や福祉における影響と課題を考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「社会階層②」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分) 【次回までの提出物】 ・小課題③
【第 8 回】 6/10	エスニシティ① ・人種と民族の相違や民族間の緊張関係について学ぶ。 ・戦争等と教育や福祉の関連について近代史に沿って概観していく。	【今回の復習】 ・ノートに「エスニシティ①」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分)
【第 9 回】 6/17	エスニシティ② ・日本社会におけるエスニシティと教育や福祉に関連する課題を理解する。 ・教育や福祉について、在留邦人や日系人、ニューカマーやオールドカマーといった観点から捉えていく。 ・教育現場での共生教育や、国際的な福祉実践のあり方を考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「エスニシティ②」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分) 【次回までの提出物】

		・小課題④
【第 10 回】 6/24	ジェンダー① ・性に関する 3 つの構成要素とセクシズムの現状と課題について学ぶ。 ・教育や福祉の実践現場におけるジェンダーの捉え方について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「ジェンダー①」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分)
【第 11 回】 7/1	ジェンダー② ・日本における女性の就労問題と、教育や福祉との関連について学ぶ。 ・ジェンダーの観点から見た家庭教育、保育や介護、家事労働について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「ジェンダー②」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分)
【第 12 回】 7/8	ジェンダー③ ・ジェンダーについて well-being と多様性理解の観点で当事者との対話を試みる。	【今回の復習】 ・ノートに「ジェンダー③」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。 【次回までの提出物】 ・小課題⑤
【第 13 回】 7/15	家族① ・家族に関する概念について学ぶ ・家族機能の変遷と公教育や社会保障制度のあり方について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「家族①」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分)
【第 14 回】 7/22	家族② ・ライフサイクルとライフコースについて学ぶ ・「人生 85 年時代」に向けたリ・デザインと教育や福祉の役割と可能性について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「家族②」のまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90 分) 【次回までの提出物】 ・小課題⑥
【第 15 回】 7/29	教育や福祉と社会学の関連② ・学びのまとめとして、私たちの社会が抱える喫緊の課題について、これまでに学んだ社会学上の重要語句を用いて、教育・福祉の立場から客観的で論理的に説明する。	【今回の復習】 ・学びのまとめをする（90 分） 【提出物】 ・学びのまとめのレポート

1.授業コード（ナンバリング）	SOC104-Y01	2.科目名	社会階層と文化	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔				
5.授業科目の区分	基盤教育科目/人間学総合教育科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・グループワーク		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	＊授業の概要 わたしたちの社会は多様な人々で構成されている。「ひとそれぞれ」という表現を日常的に使うこともしばしばである。こうした多様性を生きる一方で、「上流」「下流」「勝ち組」「負け組」といった社会集団をまとめる表現も使用する。 あるいはそれを大枠で「文化」と表現することもある。そしてそうした表現にはなんらかの「差」が前提とされる。この「差」は純粋なちがいともいえるが、格差や不平等と結びついている場合も多い。本授業では、社会における集団を「階層」として捉え、そこにある「文化」に注目しながら「格差」につい				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は DP の「社会的貢献性」「多様性理解」「問題発見・解決力」と関連しています。 （１）社会階層という枠組みについて理解する。（問題発見・解決力） （２）社会階層と文化のちがいについて、自らの考えを提示することができる。（多様性理解） （３）社会階層が生みだす格差について、自ら問題点を示すことがきでる。（社会的貢献性）（問題発見・解決力）				
19.教科書・教材	毎回の授業でワークシート等の教材を配布する。				
20.参考文献	授業中に指示する。				
21.成績評価	（１）ディスカッション・ペーパーの作成（3 回）　30% （２）毎回のリアクション・ペーパーの作成　30% （３）最終レポートの作成　40%				
22.コメント	本授業では、社会階層と文化という日常的だけれど悩ましい課題について考えていく。わたしたちの社会は多様な人々で構成されているが、そこにはただの違いに収まらない格差や不平等が存在している。無関心を装うならば「ひとそれぞれでしょ」というだけでよい。しかし、そうした「ひとそれぞれでしょ」という言葉がもつ暴力的な側面について、わたしたちは知っている。社会学はそうした格差や不平等に向きあう学問である。本授業を通じて、「ひとそれぞれ」だけではなく、わたしたちの問題として社会について考えてもらいたいと思います。				
23.オフィスアワー	後日追記します。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 イントロ	・授業の内容についての確認 ・社会階層とわたし、について考える	復習とアサインメント 「わたしと社会階層」についてのワークシートを作成する（所要時間 90 分）
第 2 回 社会階層とはなにか	・社会階層の具体例として教育における格差について学ぶ ・社会階層と教育についてディスカッションをする	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 3 回 文化とはなにか	・文化という概念について学ぶ ・文化の違いについて考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 4 回 ちがいと不平	・社会階層と文化の違いが生みだす不平等について知る	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる

等	・これまでの自らの経験を振り返る	（所要時間 90 分）
第 5 回 不平等を具体的に考える	・グループワークを通じて、周囲と自身の社会階層と不平等について考える	復習とアサインメント ★小レポートを作成する（所要時間 90 分）
第 6 回 社会階層と文化を考える（家族）	・家族を事例とし、とくに教育場面における社会階層と文化の違いについて考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 7 回 社会階層と文化を考える（障害）	・障害を事例とし、社会生活における不平等を考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 8 回 社会階層と文化を考える（エスニシティ 1）	・日本における外国人問題から、社会階層と文化について考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 9 回 社会階層と文化を考える（エスニシティ 2）	・日本における外国人問題から、社会階層と文化について考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 1 0 回 社会階層と文化を考える（ジェンダー 1）	・ジェンダー平等について、具体的事例から考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 1 1 回 社会階層と文化を考える（ジェンダー 2）	・SOGI について具体的な事例から考える	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）
第 1 2 回 わたしたちの社会の不平等	・レポートの書き方を学ぶ ・ディスカッション・ペーパーを交換し、指定の社会問題についてディスカッションする	復習とアサインメント ★小レポートを作成する（所要時間 90 分）
第 13 回 不平等とどのように向き合うか（1）	・社会問題に対峙する活動を知り、ディスカッションをする	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）
第 14 回 不平等とどのように向き合うか	・グループで社会問題解決に向けた実践を考案する	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 15 回 まとめ	・社会階層と文化について、ふりかえる ・社会階層と文化について、社会問題解決にむけた実践についてふりかえる	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）

1.授業コード（ナンバリング）	SOC105-Y01	2.科目名	社会学基礎Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久、阿部忍、清水美知子、章志華、中嶌康二、永井純一、行木敬、疋田浩一、南畑淳史、山本晃輔、八木寛之、山本敏幸、渡辺卓也				
5.授業科目の区分	社会学部社会学科	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	社会学科教員 13 名によるオムニバス形式で進めます。 詳細は、初回の授業で説明します。		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会学科１年次では、社会学のものの見方・考え方の基本、および、社会調査とデータサイエンスの基礎などについて、「基礎科目」を中心に学びます。本科目は、これら基礎科目の学習に必要な社会学およびデータサイエンスの概要について理解することを目的とします。さらに本科目をつうじて、関西国際大学社会学部社会学科で学ぶことの意味をみなさん自身に考えてもらいます。 【概要】 本科目では、社会学部社会学科に所属する 13 名の教員が、それぞれの専門性にもとづいた講義をおこないます。15 回の講義を 3 部構成とし、１．「サ				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は以下のとおりです。 （１）社会学およびデータサイエンスと社会の関係についての概要を理解することができる。 （２）関西国際大学社会学部社会学科における経験学習の概要を理解することができる。 （３）関西国際大学社会学部社会学科で学ぶことの意味を理解することができる。 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 (1) 自律的で主体的な態度(自律性) (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力(多様性理解) (4) 問題発見・解決力				
19.教科書・教材	友枝敏雄･山田真茂留･平野孝典編『社会学で描く現代社会のスケッチ』、みらい、2019 年 （第３回、５回、14 回で使用します。秋学期の「社会学基礎Ⅱ」の教科書でもあるので、春学期のうちに必ず購入してください）				
20.参考文献	授業のなかで必要に応じて紹介します。				
21.成績評価	１．毎回の小レポート（各回でキーワードを設定。キーワードに関して 200 字以内で感想を書く）13 回（65%）【学習目標（１）（２）に対応】 ２．期末レポート（各自で興味関心を持ったテーマ・課題に関するレポート。第 1 回で説明）（35%）【学習目標（３）に対応】 ※授業資料・課題は原則 webclass で提示→提出				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	イントロダクション	最終レポートの課題内容および作成方法について説明する。
第 2 回	社会に出て〇〇を知る「経験学習」の学び方とその価値を学ぶ【担当：中嶌】	事後学習：授業内容の復習・小課題の実施 【小課題】自分の「経験学習」を WebClass から投稿する"

第 3 回	「オタク」は孤独か？【担当：永井】	事前学習：テキスト『社会学で描く現代社会のスケッチ』第 8 章を読む。 事後学習：授業内容の復習・小課題を webclass に提出する
第 4 回	日常生活の中にある「音」と「社会」についての考察【担当：岡本】	事後学習：授業内容の復習・小課題を webclass に提出する
第 5 回	現代の若者について。地域で活動するための基本的なことを学ぶ【担当：山本晃輔】	事前学習：テキスト『社会学で描く現代社会のスケッチ』第 5 章を読む。 事後学習：授業内容の復習・小課題を webclass に提出する
第 6 回	地域と社会（サービスラーニング：過疎地問題） 【担当：山本敏幸】	事後学習：授業内容の復習・小課題を webclass に提出する
第 7 回	ICT と社会【担当：渡辺】	事後学習：授業内容の復習・小課題を webclass に提出する
第 8 回	データ可視化はなぜ重要か【担当：章】	事後学習：授業内容の復習・小課題を webclass に提出する
第 9 回	データサイエンスを使って社会を考えよう【担当：南畑】	事後学習：授業内容の復習・小課題を webclass に提出する
第 10 回	先入観にとらわれずデータを読み解こう【担当：疋田】	事後学習：授業内容の復習・小課題を webclass に提出する
第 11 回	ジェンダーと社会：性別をめぐる常識について考える【担当：清水】	事後学習：授業内容の復習・小課題を webclass に提出する
第 12 回	異文化理解とフィールドワーク【担当：行木】	事後学習：授業内容の復習・小課題を webclass に提出する
第 13 回	言語と社会【担当：阿部】	事後学習：授業内容の復習・小課題を webclass に提出する
第 14 回	都市における人間関係を社会学的に考える【担当：八木】	事後学習：授業内容の復習・小課題を webclass に提出する
第 15 回	まとめ/期末レポートの完成	最終レポートを webclass に提出する

1.授業コード（ナンバリング）	SOC108-Y01	2.科目名	神戸の社会と文化	3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学部の科目ですが、他学科からの履修も歓迎します。 履修登録画面を「一覧表示」にして、科目コードにANT102-Y01 と入力してください。			9.履修学年	1 年次～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 地域文化について、特に神戸を中心とした事例を紹介していくと同時に、その成り立ちを説明する各種の文化理論を紹介する 【概要】 郷土料理や方言など伝統的なものから、マクドナルドの略称やトランプのローカルルールなど新しいものまで、日本には多くの地域文化が存在しています。ネットやテレビの人気コンテンツとして、また地域活性化事業にからんで、近年ますます注目を集めている地域文化について、この授業では、特に神戸を中心とした事例を紹介していくと同時に、その成り立ちを説明する各種の文化理論を紹介していきます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業の学習目標は DP の（S2）社会や文化についての科学的理解力、（3）多様性の理解、（2）問題解決力の学修に関連しています。 ①日本の地域文化について、その概況を説明することができる。 ②地域文化の成立にかかわる各種の文化理論を説明することができる。 ③それらの理論を使い、様々な地域文化を分析することができる。				
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）				
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト（15 回） … 45%（学習目標①②に対応） ・期末レポート … 55%（学習目標①②③に対応）				
22.コメント	二人の担当者が、神戸の社会、あるいは文化に焦点を当てた講義を 1 年おきにおこないます。2023 年度は行木が、神戸の文化に焦点を当てた講義をおこないます。				
23.オフィスアワー	金曜 4 限（学修支援センター）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	神戸の?化をとらえるために ― 地域文化論について （地域文化論の基礎、授業ガイダンス）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 2 回】	明?海峡とタコ飯 ― 伝統編 1 ??然環境が作り出した地域?化 （伝統的な?業や??住にみる環境適応や環境利?、「??」概念）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 3 回】	さまよえるアホ／ダボ境界線 ― 伝統編 2 ?江戸時代が作り出した地域?化（１） （?本の??状況、??が?まれる仕組み、住吉川テヤハル境界線とその移動、現代社会と??）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

【第 4 回】	神?にはなぜ?中さんと?本さんが多いのか ― 伝統編２?封建制が作り出した地域?化（２） （??と藩境界、近世の封建制と地域?化、世界史的にみた江?時代の特殊性、名字分布）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 5 回】	京都から?が来て神?で神になった ― 伝統編３?ムラ社会が作り出した地域?化（１） （祭事の伝播と地域的変化、解釈とコミュニティをめぐる理論）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 6 回】	尼崎の砂かけばばあと神?平野の隠ればばあ ― 伝統編３?ムラ社会が作り出した地域?化（２） （解釈とコミュニティをめぐる理論（続き）、?話の地域的変化）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 7 回】	グーパーと神?の「うらおもて」 ― 現代編１??供社会が作り出す地域?化 （遊びのローカルルール、数え歌や替え歌の地域差、替え歌「ジャスコで万引き」をめぐる考察）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 8 回】	ジェームス?といかなごのくぎ煮 ― 現代編２?他地域との接触が作り出す地域?化（１） （異?化の解釈と地域?化、諏訪神社と華僑、メロンパンかサンライズか）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 9 回】	謎の調味料「ソース」と関西粉モノ文化 ― 現代編３?地域経済が作り出す地域?化（２） （神戸港のメリケン粉輸入と食文化の変化、外国には存在しない「ソース」という調味料の発明）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	とくれんと神?ノート ― 現代編３?地域経済が作り出す地域?化（１） （ローカル商品や新??、給?メニュー、ローカルスクールアイテム）	・今回のキーワード、コメント送信（復習）
【第 11 回】	サンテレビとタイガース ― 現代編３?地域経済が作り出す地域?化（２） （ローカル CM と地域?化、関?における「準キー局」の集中と関??化の再?産）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	女子高生のスカート丈と六甲?の?なしライダー ― 現代編４?局地的流?としての地域?化 （地域的な略称やファッション、うわさや都市伝説、流行をめぐる理論、うわさをめぐる理論）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	創られた南京町 ― 復興編１?活性化事業の中で作り直される地域?化（１） （地域活性化政策の背景にあるもの、歴史の再解釈と地域?化、郷?料理や祭事の復興）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	神?には存在しない「神?」― 復興編１?活性化事業の中で作り直される地域?化（２） （オミヤゲの戦略性、ローカル商品のブランド化、発明される伝統）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	??の?学校は「ハイカラ」で「モダン」……なのか? ― 復興編２?郊外化の中で作り直される地域?化 （地域の語り方とアイデンティティ、ご当地ネタブー	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

	ムとその背景、若者と地域）	

1.授業コード（ナンバリング）	SOC202-A01	2.科目名	社会調査論Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	春木裕美				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	社会福祉士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会福祉援助活動全般を科学的根拠に基づいて進める上では、社会福祉現場での的確な調査が求められる。 　本講義では、社会福祉分野における調査の意義や役割を理解し、調査の方法について学び、社会福祉の実践現場に役立てていくことを目的とする。 【概要】 社会調査の意義や役割、基本的な調査方法の種類、データ収集から分析方法までの過程を習得していく。社会で起きている現象や問題を科学的に把握し、解決方法を見出すことや仮設を立て、検証を行うための知識を身につける。さらに、リサーチクエスチョンの立て方、社会				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の、(4)問題発見・解決力、(6)専門的知識・技能の活用力　の学修に関連しています。 本科目の目標は次のとおりです ①社会調査の意義と役割について理解する ②社会調査の方法について理解する ③統計的手法による量的データ、質的調査の質的データの基礎的な分析ができる ④社会調査における倫理や個人情報保護について理解する				
19.教科書・教材	適宜、資料を配布する。				
20.参考文献	一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟（2021）「最新・社会福祉士養成講座　社会調査の基礎」中央法規 笠原千絵・永田祐編著（2013）「地域の<実践＞を変える　社会福祉調査入門」				
21.成績評価	・量的調査の報告書　20%（学習目標①②③に対応） ・質的調査の分析結果図（KJ 法）20%（学習目標②③に対応） ・質的調査のグループ発表　10%（学習目標①に対応） ・授業内のワークシート等の課題　10%　（学習目標①②に対応） ・調査計画書（レポート）　40%　（学習目標①②③④に対応）				
22.コメント	社会調査は、社会福祉の実践をよりよくしていく上で大きな役割を果たします。そして社会には、多くの調査があります。この授業で、実践に役立つ調査方法を獲得しましょう。 ※毎回、必ず、ノートパソコンを持参してください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	１．社会調査の概要と歴史、社会調査の意義と目的 ・社会調査とそこから見えてくるものを学ぶ ２．マスメディアと調査、統計法、国勢調査等の公的統計	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備

	・様々な社会調査を知る ・公的統計データの活用方法を知る	（以下、14 回まで同様）
第 2 回	1．リサーチクエスチョンをたてて育てる ・目的・課題の明確化、仮説 2．社会調査における倫理と個人情報の保護を理解する 社会調査のデザイン ・考え方、プロセス ・データの収集・分析	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 3 回	量的調査① 1．特徴と種類、調査票の作成・配布・回収 2．データの整理と分析 ・各自既存の調査票（質問紙)、依頼文等を探してくる。 ・それらを比較し、作成時の留意点を検討する	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 4 回	量的調査② 既存の統計データを分析する ・SSJ データアーカイブ（Social Science Japan Data Archive）の社会調査データを用いる。 ・単純集計とグラフ作成	○事前に SSJ データアーカイブについて調べておく ○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 5 回	量的調査③ 既存の統計データを分析する ・有意差検定とは ・クロス集計、$\chi 2$ 検定の実施	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 6 回	量的調査④ 既存の統計データを分析する ・t 検定の実施	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 7 回	量的調査⑤ 各自のテーマで分析したものを調査報告書としてまとめる	○調査報告書を仕上げて、次回までに提出する
第 8 回	質的調査① 概要と方法 ・サンプリング、データの整理と分析	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 9 回	質的調査② 参与観察法　※ゲスト	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 10 回	質的調査③ ・サンプリング ・文字起こし（逐語録作成）	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備

第 11 回	質的調査④ データの整理と分析 ・KJ 法	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 12 回	質的調査⑤ データの分析結果をまとめる ・グループ発表準備	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 13 回	質的調査⑥　グループ発表	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 14 回	調査計画書の作成（レポート準備）	課題レポートの提出
第 15 回	学習まとめ	

1.授業コード（ナンバリング）	SOC203-Y01	2.科目名	社会調査論 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年生～
10.取得資格の要件	社会調査士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	データを収集し、それを分析可能な形に加工していくスキルを身につける。実際に調査票を作成し、それをもとにデータのコーディング、クリーニングの手法を習得する。質的調査については文献購読によってフォローする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の（S1）修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、（S2）社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①社会調査に必要な考え方を身につけ、調査企画書を作成することができる。 ②調査企画書にもとづいた調査票の作成と適切なサンプリングができる。 ③社会調査の実査の方法を身につけ、収集したデータを整理しまとめることができる。				
19.教科書・教材	毎回、テキストまたは資料を配布します。				
20.参考文献	伊達平和・高田聖治『社会調査法』学術図書出版社、2020 年 轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法[第 4 版]』、2021 年 盛山和夫『社会調査入門』有斐閣、2004 年 佐藤郁哉『社会調査の考え方[上]』東京大学出版会、2015 年				
21.成績評価	社会調査の企画書の作成…30 点［学習目標①に対応］ 量的調査の調査票の作成…30 点［学習目標②に対応］ 量的調査のサンプリングに関する課題…20 点［学習目標②に対応］ データセットの作成…20 点［学習目標③に対応］				
22.コメント	第 2 回の授業までに「社会調査論」で学習した内容を復習しておくこと。 授業では適宜グループワークを実施します。				
23.オフィスアワー	個人研究室： 学修支援センター：水曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	イントロダクション：何のための社会調査か（前編）	復習：与えられた課題をする
【第 2 回】	何のための社会調査か（後編）	準備学習：「社会調査論」のテキストを読む 復習：与えられた課題をする
【第 3 回】	調査企画書の作成①：「よい問い」とは何か	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 4 回】	調査企画書の作成②：リサーチ・クエスチョン	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 5 回】	調査企画書の作成③：仮説を考える[グループワーク]	準備学習および宿題：「調査企画書」を完成させる
【第 6 回】	実査の方法：データを集める方法を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく

		復習：与えられた課題をする
【第 7 回】	調査票の作成①：質問の形式を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 8 回】	調査票の作成②：質問文と選択肢を考える[グループワーク]	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 9 回】	調査票の作成③：質問文の配置を考える[グループワーク]	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 10 回】	調査票の作成④：調査票の完成	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：調査票を完成させる
【第 11 回】	社会調査とサンプリング①：標本抽出とその歴史	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 12 回】	社会調査とサンプリング②：無作為抽出法／インターネット調査	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 13 回】	データの入力（コーディング）[グループワーク]	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 14 回】	「みんなでつくる」調査データ	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 15 回】	まとめ	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする

1.授業コード（ナンバリング）	SOC206-Y01	2.科目名	データ解析 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	板山昂				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	社会調査士	11.先修条件	心理学統計法等を履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	教室のサイズ、教育効果を踏まえ、履修者を 30 名ほどに制限します。 人数が多い場合、初回出席者の履修登録者の中から抽選を行います。 なお、社会調査士資格取得希望者、産業心理学専攻生を優先します。				
17.授業の目的と概要	・心理学統計法（心理統計学）の内容を前提としている。 つまり、変数と仮説についての考え方ができ、かつ、二変量解析（クロス集計・平均値の比較・相関分析）の考え方と SPSS 等の統計ソフトの操作と記述ができることを前提としている。 ・本講義では、実際の社会調査データを用いて、多変量解析（因子分析・重回帰分析）の考え方と SPSS 等の統計ソフトの操作と記述の仕方を習得する。 ・多変量解析を用いたレポート作成を指導する。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 与えられた課題に対し、特定の科学的データ収集を設計・実施できるようになる。 統計ソフトを活用して、３種類の多変量解析（具体的には、因子分析、重回帰分析，分散分析）を行い、分析結果からどういうことがいえるのかをエクセル、ワードなどを駆使して表現できるようになる。 社会調査データを多変量解析し、その結果をもとにレポートを作成ができるようになる。				
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。				
20.参考文献	小塩真司　SPSS と Amos による心理･調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで　東京図書				
21.成績評価	・平常課題：50%（5%×10）・・・・・・授業で学習した内容に関する演習問題を課す。 ・最終レポート 50%・・・実際の社会調査データを多変量解析により分析してレポートを作成。				
22.コメント	★注意★ ・心理学統計法（心理統計学）（春学期）を履修していることが望まれます。 ・毎回課題が出されますし、欠席するとついてこれなくなります。				
23.オフィスアワー	水曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
○第 1 回	オリエンテーション 授業概要の説明を行う	心理学研究法、心理統計学で学んだことを復習しておく
○第 2 回	心理学統計法・データ解析 1 の復習を行う。 平均値の差の検定、相関分析	授業課題を進める。
○第 3 回	平均値の比較、相関分析から因子分析へ 因子分析とはどのような分析法か説明し、実践する。	授業課題を進める
○第 4 回	因子分析の基本①	因子分析とは何か、用語を復習する。

	考え方、用語、操作を説明する	課題を進める。
○第 5 回	因子分析の基本②―結果の読み方、解釈 因子数の決め方を理解し、実践する。	課題をすすめる。
○第 6 回	因子分析の応用―因子得点、合成変数 因子分析→因子の得点を算出し、その後の分析をする。	因子分析の結果の記述を復習する。 課題をすすめる。
○第 7 回	重回帰分析の基本①－考え方、用語、操作 重回帰分析とは何か、キーワードを理解し、重回帰分析を実施する。	重回帰分析とは何か、キーワードを復習し、重回帰分析を実施する。
○第 8 回	重回帰分析の基本②－結果の読み方、記述 結果の解釈をし、結果を文章化する	結果を文章化する課題をすすめる。
○第 9 回	重回帰分析の応用①―重回帰モデルと説明力 様々な形で、重回帰分析を活用する。	分析課題をすすめる。
○第 10 回	重回帰分析の応用②―ファイルの分割による比較 様々な形で、重回帰分析を活用する。	重回帰分析の概念、方法を復習する。
○第 11 回	重回帰分析と分散分析① 分散分析を説明し、と重回帰分析との違いを学ぶ。	分散分析について復習する。
○第 12 回	重回帰分析と分散分析② 分散分析を実施する。	分析課題を進める。
○第 13 回	最終課題①：課題の説明 学んだ多変量解析を駆使してレポートを作成する。	最終課題をすすめる
○第 14 回	最終課題②：分析と結果の記述 学んだ多変量解析を駆使してレポートを作成する。	最終課題をすすめる
○第 15 回	最終課題③：提出 これまでのふりかえりと授業アンケートの実施	これまでの分析を復習し、卒業研究での分析を想定する。

1.授業コード（ナンバリング）	SOC208-M01	2.科目名	家族社会学	3.単位数	1
4.授業担当教員	清水美知子				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義（一部演習を含む）		
16.履修制限	原則として、第 1 回目の授業に出席した者に限ります。無断欠席の場合は、履修を取り消すことがあります。				
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、家族をめぐる基礎的概念や近年の動向を理解するとともに、家族の過去・現在・未来について、自分の生き方と社会のあり方とを関連づけながら考える姿勢を養うことを目的とします。 【概要】 日本の「家族」および「家庭」は、急激な社会の変化にともない、この半世紀ほどの間に大きく変わったと言われています。日本人のライフスタイルにも変化が見られ、夫婦とは、親子とは、そして家族・家庭とは、いったい何なのかが改めて問われています。家族はどのように変わりつつあり、家庭はどのような方向に進もうとしているので				
18.学習目標と ＤＰとの関連	【目標】 この科目は、DP（ディプロマ・ポリシー）の「多様性理解」「コミュニケーションスキル」の学修に関連しています。 【概要】 ①自分の育った家族や家族イメージについて他人に語ることができる。（レポート課題１） ②自分の結婚観について論理的に説明することができる。（レポート課題２） ③家族の基礎的概念や近年の動向について説明することができる。（ワークシート/アンケート） ④看護師国家試験の出題される家族社会学に関わる問題について知る。（小テスト）				
19.教科書・教材	教科書は使用しません。資料は適宜、WebClass 等で配付します。				
20.参考文献	山田昌弘『結婚不要社会』朝日新聞出版、2019 年（朝日新書 717）				
21.成績評価	4 項目をもとに総合的に行います。 ○レポート（課題１）：25％（目標①） ○レポート（課題２）：25％（目標②） ○ワークシート・アンケート・オークション：35％（計 7 回を予定）（目標③） ○小テスト：15％（3 回を予定）（目標④）				
22.コメント	①～⑨を了解できる人のみ履修してください。 ①土曜日Ⅲ限・Ⅳ限（4 月 20 日、5 月 11 日、5 月 25 日、6 月 8 日）に出席できる ⇒8 回しかありませんので、3 回休むと資格喪失になります。 ②自分の家族・家庭や結婚観について語ることができる ⇒自己開示が苦手な人には不向きです。 ③正解がない課題に正面から向き合うことができる ⇒深く考えることが嫌いな人には不向きです。 ④出欠は原則として「ワークシート」「小テスト」で確認する ⇒　課題を提出しなければ欠席になることがありますので、ご注意ください。 受講生数が少なければ口頭で出席をとることもあります。 ⑤何らかの事情で休講になった場合は補講をおこなうことがあります				

	⇒日程や進め方は追ってご連絡します。 ⑥8 回を通して ZOOM を使い授業を行います。 ⑦WebClass を使って授業を行います。パソコンとスマートフォン両方を使います。 ノートＰＣのみならずスマホにも Zoom をインストールしておいてください。 ⑧教室で受講する場合は、PC、スマホをフル充電し、イヤホンもしくはヘッドセットを持参してください。
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ○研究室オフィスアワー⇒水曜 II 限（1320 研究室） ○センターオフィスアワー⇒：水曜昼休み（1 号館 2 階ラーニングコモンズ） ※遠隔授業ですので、WebClass、Outlook メール、ZOOM（予約制）で質問等を受けつけます。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 4/20　III限	○オリエンテーション（授業の内容・進め方・評価等） ○講義：看護師国家試験出題基準にみる「家族」 ○第 1 回レポート課題告知：「家族へのメッセージ――今だから言えること」 ○ワーク：家族のイメージ	提出物：ワークシート
第 2 回 4/20　IV限	○ワーク：疑似家族の編成（グループ分け） 家族構成やファミリーコンセプトを設定する。 ○ワーク：ファミリー紹介	提出物：小テスト ワークシート
第 3 回 5/11　III限	○ワーク：第 1 回レポートの発表	提出物：第 1 回レポート
第 4 回 5/11　IV限	○ワーク：第 1 回レポートの発表（続） ○講義：データでみる家族① ○ワーク：家族の範囲に関するアンケート	提出物：ワークシート 小テスト
第 5 回 5/25　III限	○講義：日本における結婚の変遷 ○ワーク：結婚観に関するアンケート	提出物：アンケート 復習：今回の復習
第 6 回 5/25　IV限	○ワーク：結婚相手はどんな人？（オークションの実施） ○講義：データでみる家族② ○第 2 回レポート課題告知「結婚する？ しない？ ：わたしの結婚観」	提出物：オークション 小テスト 復習：今回の復習
第 7 回 6/8　III限	○講義：オークション／アンケート結果の発表。 ○ワーク：結果をもとに現代の結婚観について考える。	提出物： ワークシート
第 8 回 6/8 IV限	○講義：授業のふりかえり ○ワーク：授業アンケート	提出物：ワークシート

1.授業コード（ナンバリング）	SOC210-Y01	2.科目名	データ解析	3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	社会調査士	11.先修条件	心理統計学（心理学統計法）を履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	教室のサイズ、教育効果を踏まえ、履修者を 30 名ほどに制限します。 人数が多い場合、初回出席者の履修登録者の中から抽選を行います。 なお、社会調査士資格取得希望者、産業心理学専攻生を優先します。				
17.授業の目的と概要	・心理学統計法（心理統計学）の内容を前提としている。 つまり、変数と仮説についての考え方ができ、かつ、二変量解析（クロス集計・平均値の比較・相関分析）の考え方と HAD,SPSS 等の統計ソフトの操作と記述ができることを前提としている。 ・本講義では、実際の社会調査データを用いて、多変量解析（因子分析・重回帰分析）の考え方と HAD,SPSS 等の統計ソフトの操作と記述の仕方を習得する。 ・多変量解析を用いたレポート作成を指導する。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	与えられた課題に対し、特定の科学的データ収集を設計・実施できるようになる。 統計ソフトを活用して、2 種類の多変量解析（具体的には、因子分析、重回帰分析）を行い、分析結果からどういうことがいえるのかをエクセル、ワードなどを駆使して表現できるようになる。 社会調査データを多変量解析し、その結果をもとにレポートを作成ができるようになる。				
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。				
20.参考文献	小宮あすか　Excel で今すぐはじめる心理統計 簡単ツール HAD で基本を身につける　講談社 小塩真司　SPSS と Amos による心理･調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで　東京図書				
21.成績評価	・平常課題：50%（5%×10）・・・・・・授業で学習した内容に関する演習問題を課す。 ・最終レポート 50%・・・実際の社会調査データを多変量解析により分析してレポートを作成。				
22.コメント	★注意★ ・心理学統計法（心理統計学）を履修していることが望まれます。 ・毎回課題が出されますし、欠席するとついてこれなくなります。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 　授業概要の説明を行う	心理学研究法、心理統計学で学んだことを復習しておく
第 2 回	心理統計学（データ解析Ⅰ）の復習を行う。 　平均値の差の検定、相関分析	授業課題を進める。
第 3 回	平均値の比較、相関分析から因子分析へ 　因子分析とはどのような分析法か説明し、実践する。	授業課題を進める
第 4 回	因子分析の基本① 　考え方、用語、操作を説明する	因子分析とは何か、用語を復習する。 課題を進める。

第 5 回	因子分析の基本②―結果の読み方、解釈 　因子数の決め方を理解し、実践する。	課題をすすめる。
第 6 回	因子分析の応用―因子得点、合成変数 　因子分析→因子の得点を算出し、その後の分析をする。	因子分析の結果の記述を復習する。 課題をすすめる。
第 7 回	重回帰分析の基本①－考え方、用語、操作 　重回帰分析とは何か、キーワードを理解し、重回帰分析を実施する。	重回帰分析とは何か、キーワードを復習し、重回帰分析を実施する。
第 8 回	重回帰分析の基本②－結果の読み方、記述 　結果の解釈をし、結果を文章化する	結果を文章化する課題をすすめる。
第 9 回	重回帰分析の応用①―重回帰モデルと説明力 　様々な形で、重回帰分析を活用する。	分析課題をすすめる。
第 10 回	重回帰分析の応用②―ファイルの分割による比較 　様々な形で、重回帰分析を活用する。	重回帰分析の概念、方法を復習する。
第 11 回	重回帰分析と分散分析① 分散分析を説明し、と重回帰分析との違いを学ぶ。	分散分析について復習する。
第 12 回	重回帰分析と分散分析② 分散分析を実施する。	分析課題を進める。
第 13 回	最終課題①：課題の説明 　学んだ多変量解析を駆使してレポートを作成する。	最終課題をすすめる
第 14 回	最終課題②：分析と結果の記述 　学んだ多変量解析を駆使してレポートを作成する。	最終課題をすすめる
第 15 回	最終課題③：提出 　これまでのふりかえりと授業アンケートの実施	これまでの分析を復習し、卒業研究での分析を想定する。

1.授業コード（ナンバリング）	SOC210-Y02	2.科目名	データ解析	3.単位数	2
4.授業担当教員	板山昂				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件	心理学統計法を履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	教室のサイズ、教育効果を踏まえ、履修者を 30 名ほどに制限します。 人数が多い場合、初回出席者の履修登録者の中から抽選を行います。 なお、社会調査士資格取得希望者、産業心理学専攻生を優先します。				
17.授業の目的と概要	・心理学統計法（心理統計学）の内容を前提としている。 つまり、変数と仮説についての考え方ができ、かつ、二変量解析（クロス集計・平均値の比較・相関分析）の考え方と SPSS 等の統計ソフトの操作と記述ができることを前提としている。 ・本講義では、実際の社会調査データを用いて、多変量解析（因子分析・重回帰分析）の考え方と SPSS 等の統計ソフトの操作と記述の仕方を習得する。 ・多変量解析を用いたレポート作成を指導する。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 与えられた課題に対し、特定の科学的データ収集を設計・実施できるようになる。 統計ソフトを活用して、2 種類の多変量解析（具体的には、因子分析、重回帰分析）を行い、分析結果からどういうことがいえるのかをエクセル、ワードなどを駆使して表現できるようになる。 社会調査データを多変量解析し、その結果をもとにレポートを作成ができるようになる。				
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。				
20.参考文献	小塩真司　SPSS と Amos による心理･調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで　東京図書				
21.成績評価	・平常課題：50%（5%×10）・・・・・・授業で学習した内容に関する演習問題を課す。 ・最終レポート 50%・・・実際の社会調査データを多変量解析により分析してレポートを作成。				
22.コメント	★注意★ ・心理学統計法（心理統計学）（春学期）を履修していることが望まれます。 ・毎回課題が出されますし、欠席するとついてこれなくなります。				
23.オフィスアワー	水曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
○第 1 回	オリエンテーション 授業概要の説明を行う	心理学研究法、心理統計学で学んだことを復習しておく
○第 2 回	心理統計学（データ解析Ⅰ）の復習を行う。 平均値の差の検定、相関分析	授業課題を進める。
○第 3 回	平均値の比較、相関分析から因子分析へ 因子分析とはどのような分析法か説明し、実践する。	授業課題を進める
○第 4 回	因子分析の基本①	因子分析とは何か、用語を復習する。

	考え方、用語、操作を説明する	課題を進める。
○第 5 回	因子分析の基本②―結果の読み方、解釈 因子数の決め方を理解し、実践する。	課題をすすめる。
○第 6 回	因子分析の応用―因子得点、合成変数 因子分析→因子の得点を算出し、その後の分析をする。	因子分析の結果の記述を復習する。 課題をすすめる。
○第 7 回	重回帰分析の基本①－考え方、用語、操作 重回帰分析とは何か、キーワードを理解し、重回帰分析を実施する。	重回帰分析とは何か、キーワードを復習し、重回帰分析を実施する。
○第 8 回	重回帰分析の基本②－結果の読み方、記述 結果の解釈をし、結果を文章化する	結果を文章化する課題をすすめる。
○第 9 回	重回帰分析の応用①―重回帰モデルと説明力 様々な形で、重回帰分析を活用する。	分析課題をすすめる。
○第 10 回	重回帰分析の応用②―ファイルの分割による比較 様々な形で、重回帰分析を活用する。	重回帰分析の概念、方法を復習する。
○第 11 回	重回帰分析と分散分析① 分散分析を説明し、と重回帰分析との違いを学ぶ。	分散分析について復習する。
○第 12 回	重回帰分析と分散分析② 分散分析を実施する。	分析課題を進める。
○第 13 回	最終課題①：課題の説明 学んだ多変量解析を駆使してレポートを作成する。	最終課題をすすめる
○第 14 回	最終課題②：分析と結果の記述 学んだ多変量解析を駆使してレポートを作成する。	最終課題をすすめる
○第 15 回	最終課題③：提出 これまでのふりかえりと授業アンケートの実施	これまでの分析を復習し、卒業研究での分析を想定する。

1.授業コード（ナンバリング）	SOC213-Y01	2.科目名	社会調査法	3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年生～
10.取得資格の要件	社会調査士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	データを収集し、それを分析可能な形に加工していくスキルを身につける。実際に調査票を作成し、それをもとにデータのコーディング、クリーニングの手法を習得する。質的調査については文献購読によってフォローする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の（S1）修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、（S2）社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①社会調査に必要な考え方を身につけ、調査企画書を作成することができる。 ②調査企画書にもとづいた調査票の作成と適切なサンプリングができる。 ③社会調査の実査の方法を身につけ、収集したデータを整理しまとめることができる。				
19.教科書・教材	毎回、テキストまたは資料を配布します。				
20.参考文献	伊達平和・高田聖治『社会調査法』学術図書出版社、2020 年 轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法[第 4 版]』、2021 年 盛山和夫『社会調査入門』有斐閣、2004 年 佐藤郁哉『社会調査の考え方[上]』東京大学出版会、2015 年				
21.成績評価	社会調査の企画書の作成…30 点［学習目標①に対応］ 量的調査の調査票の作成…30 点［学習目標②に対応］ 量的調査のサンプリングに関する課題…20 点［学習目標②に対応］ データセットの作成…20 点［学習目標③に対応］				
22.コメント	第 2 回の授業までに「社会調査論」で学習した内容を復習しておくこと。 授業では適宜グループワークを実施します。				
23.オフィスアワー	個人研究室： 学修支援センター：水曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	イントロダクション：何のための社会調査か（前編）	復習：与えられた課題をする
【第 2 回】	何のための社会調査か（後編）	準備学習：「社会調査論」のテキストを読む 復習：与えられた課題をする
【第 3 回】	調査企画書の作成①：「よい問い」とは何か	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 4 回】	調査企画書の作成②：リサーチ・クエスチョン	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 5 回】	調査企画書の作成③：仮説を考える[グループワーク]	準備学習および宿題：「調査企画書」を完成させる
【第 6 回】	実査の方法：データを集める方法を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく

		復習：与えられた課題をする
【第 7 回】	調査票の作成①：質問の形式を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 8 回】	調査票の作成②：質問文と選択肢を考える[グループワーク]	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 9 回】	調査票の作成③：質問文の配置を考える[グループワーク]	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 10 回】	調査票の作成④：調査票の完成	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：調査票を完成させる
【第 11 回】	社会調査とサンプリング①：標本抽出とその歴史	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 12 回】	社会調査とサンプリング②：無作為抽出法／インターネット調査	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 13 回】	データの入力（コーディング）[グループワーク]	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 14 回】	「みんなでつくる」調査データ	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 15 回】	まとめ	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする

1.授業コード（ナンバリング）	SOC216-Y01	2.科目名	文化社会学			3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一						
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期		
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	2 年生～		
10.取得資格の要件		11.先修条件					
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※				
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習				
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	本講義はメディアを研究し、批評するために必要な知識と視点の獲得を目指します。 テキスト購読とグループワーク（ディスカッション）を通じて、メディアの特性と歴史的背景を理解し、適切な「問い」を立て、考察を深めるための力を身につけます。						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキルの学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①ワークシートを利用して、自分の経験や考えを整理することができる。 ②グループワークを通じて、考察を深めることができる。 ③メディア文化を読み解く視点を持ち、「問い」を立て、答えを導くことができる。						
19.教科書・教材	『基礎ゼミ　メディアスタディーズ』石田佐恵子・岡井崇之編、2020、世界思想社						
20.参考文献							
21.成績評価	ワークシートの記入、授業の振り返り　　40 点［学習目標①に対応］ グループワークの成果報告　　20 点［学習目標②に対応］ 期末レポート　　40 点［学習目標③に対応］						
22.コメント							
23.オフィスアワー	個人研究室：火曜 4 限、学修支援センター：木曜 4 限						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	ネットは「みんなの声」を伝えているか？	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
2	なぜフェイクニュースが生まれるのか？	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	スマートフォンは写真をどう変えたのか？	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	美容整形は個人的なことか？	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	CM のジェンダー表現はなぜ炎上しがち？	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	障害者は「がんばる人」なのか？	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	女性被害者は本当に多いのか？	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	健康の不安はメディアで解消されるのか？	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	「外国人」選手はなぜ特別視されるのか？	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	クールジャパンって本当にクールなの？	復習:今回の復習及びワークシートの整理

		予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	K-POP は誰のものか？	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	グーグルマップは世界を描いているか？	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	メディア経験から何がわかるのか？	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	地域の記憶は誰のものか？	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	まとめ	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく

1.授業コード（ナンバリング）	SOC219-Y71	2.科目名	ソーシャルデザイン実践演習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔				
5.授業科目の区分	演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	社会学部			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件	サービスラーニングを履修しておくことが望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	どこかで「社会は決まりきったもの」というイメージをもってしまうことがある。意見を言う場もなければ、決められた仕事をに就くことがどこか目的のように感じられてしまう。しかし社会は私たちが主体となって形作る、デザインものでもある。 そこで本演習では、実際に「社会デザイン」に取り組む方々をお招きしてワークショップを行う。彼らの問題意識を知るなかで、私たちの問題意識を深め、社会デザインに向けてどのようなことができるかを考える。 開講にあたっては、事前にチラシを配布するのでそれを参考に受講するようにしてください。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は DP のうち「社会的貢献性」「問題発見・解決力」「コミュニケーション力」と結びついている。 学修目標は以下の通りである。 （１）社会デザインについて説明することができる（問題発見・解決力） （２）社会デザインについてワークショップをすることができる（コミュニケーション力） （３）ワークショップにおいてファシリテーションができる（コミュニケーション力） （４）具体的な社会課題を設定し、問題発見・解決を探ることができる（社会的貢献性・問題発見・解決力）				
19.教科書・教材	別途指定します				
20.参考文献	別途指定します				
21.成績評価	事前ワークシートの提出・・・10% ワークシートの提出全３回・・・30% ファシリテーションの実施・・・30% 事後ワークシートの提出・・・30%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回～第 2 回	オリエンテーション 社会デザインを学ぶ	事前ワークシートの作成提出
第 3 回～第 5 回	（計画中）：過疎の町をデザインする：大学卒業後就職せずに起業する？	ワークシートの提出
第 6 回～第 8 回	（計画中）：生活困窮の町をデザインする：誰もが学びやすい教育環境をつくる。	ワークシートの提出
第 9 回～第 12 回	（計画中）：被災地をデザインする：すべてがなくなった町を、ふたたび価値ある町にする。	ワークシートの提出
第 13 回～第 15 回	自分のテーマをみつけ、それの社会デザインを考える	事後ワークシートの提出

1.授業コード（ナンバリング）	SOC223-Y01	2.科目名	ソーシャルメディア論	3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学専攻、データサイエンス専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習
16.履修制限	履修人数を制限することがあります。必ず初回の授業に出席してください				
17.授業の目的と概要	【目的】ウェブメディア／ソーシャルメディアを介した投稿、記事作成、情報発信、コミュニケーションを通じて、リサーチ力（取力）とプレゼンテーション能力（記事執筆）を高めることである。 【概要】ウェブメディア／ソーシャルメディアを通じた情報発信のページ企画、取材と記事執筆を行う。これらを通じて、情報社会に適したコミュニケーションスキルを磨く。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①テーマを発見し、アイデアを企画書にまとめることができる。 ②適切な手法で取材することができる。 ③記事作成を経て、適切な文章・映像によるプレゼンテーションができる。				
19.教科書・教材	授業内で資料を配布します				
20.参考文献	授業内で適宜紹介します				
21.成績評価	調査のまとめ　20% 企画書の提出　20% 制作物の提出　40% 試写・発表会でのコメント　10%×2				
22.コメント	授業外での作業が多いので、積極的に取り組むようにしてください				
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 3 限　　学修支援センター：木曜昼休み（永井）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	はじめに 授業の流れについて	授業内容の復習
2	ソーシャルメディアとは何か	ソーシャルメディアに関する資料集め
3	ソーシャルメディアとは何か：SNS	ソーシャルメディアに関する資料集め
4	ソーシャルメディアとは何か：ローカルメディア①	ソーシャルメディアに関する資料集め
5	ソーシャルメディアとは何か：ローカルメディア②	ソーシャルメディアに関する資料集め
6	企画	企画書を作成する
7	企画	企画書を作成する
8	企画：プレゼン資料作成	企画書を作成する
9	企画：取材先選定	取材先にアポイントメントをとる
10	取材・記事作成	取材をする 記事を作成する
11	取材・記事作成	取材をする 記事を作成する
12	取材・記事作成	取材をする 記事を作成する
13	取材・記事作成	取材をする

		記事を作成する
14	取材・記事作成	取材をする 記事を作成する
15	講評	振り返りシートを提出する

1.授業コード（ナンバリング）	SOC307-Y01	2.科目名	現代家族論		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科・人間心理学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	教員免許状　高校（公民）、中学（社会）		11.先修条件	「社会学概論」を履修済が望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	原則として、第１回目の授業に出席した者に限ります。無断欠席の場合は、履修を取り消す場合もあるので、注意してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、家族の過去、現在、未来について、自分の生き方と社会のあり方とを関連づけながら考えるようになることを目指します。 【概要】 日本の「家族」および「家庭」は、急激な社会の変化にともない、この半世紀ほどの間に大きく変わったと言われています。日本人のライフスタイルにも変化が見られ、夫婦とは、親子とは、そして家族・家庭とは、いったい何なのかが改めて問われています。家族はどのように変わりつつあり、家庭はどのような方向に進もうとしているのでしょうか。					
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「多様性理解」の学修に関連しています。 ①自分の育った家族について他人に語ることができる。 ②自分の結婚観について論理的に説明することができる。 ③ワークファミリーバランスの現状について、問題点を指摘することができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。毎回の配布資料は WebClass 等に挙げます。					
20.参考文献	○山田昌弘『結婚不要社会』朝日新聞出版,2019 年（朝日新書 717） 他については適宜、紹介していきます。					
21.成績評価	・第１回レポート（テーマⅠ）⇒20%¨（目標①） ・第２回レポート（テーマⅡ）⇒20%（目標②） ・第３回レポート（テーマⅢ）⇒20%（目標③） ・授業中の課題（アサイメント含む）⇒40%（目標①～③）					
22.コメント	●原則対面で授業を行います（体調不良等により出席停止の場合のみ遠隔受講を認めます） ●原則として、資料は WebClass にあげ、課題（レポート等）も WebClass で提出します。 ●PC、スマホをフル充電し、必ず、イヤホンもしくはヘッドセットを持参してください。 ●天候・気候、社会情勢により、急きょ、オンライン授業に切り替えることがあるかもしれません。 ●ノートＰＣのみならずスマホにも Zoom をインストールしておいてください。					
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ○センタオフィスアワー⇒水曜昼休み（1 号館 2 階ラーニングコモンズ） ○研究室オフィスアワー⇒水曜Ⅱ限（1320 研究室）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回 ４月 11 日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？① ○オリエンテーション（授業の内容・進め方・評価等）	提出物：ワークシート 復習：今回の復習

	○ワーク：「家族」という言葉から何を連想するか？	
第２回 ４月 18 日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？② ○ワーク：疑似家族の編成（グループ分け） ○ワーク：家族構成やファミリーコンセプトを設定し、発表する。 ○ワーク：「家族の範囲」についてのミニアンケート ●第１回レポート告知	提出物：ワークシート ：アンケート 復習：今回の復習
第３回 ４月 25 日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？③ ワーク：「家族の範囲」についてのミニアンケートの結果をもとに、家族の多様性について考える。	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第４回 ５月２日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？④ ○ワーク：第１回レポート、ファミリー内発表 ○ワーク：第１回レポート、ファミリー代表の発表 ○テーマのふりかえり	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第５回 ５月９日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？⑤ ○ワーク：第１回レポート、ファミリー代表の発表（続き） ○テーマのふりかえり	提出：アンケート 復習：今回の復習
第６回 5 月 16 日	テーマⅡ：「結婚」について考える① ○講義：日本における結婚の変遷 ○ワーク：結婚観に関するアンケート	提出物：オークション 復習：今回の復習
第７回 5 月 23 日	テーマⅡ：「結婚」について考える② ○ワーク：結婚相手はどんな人？（オークションの実施） ○第２回レポート課題告知 「結婚する／しない？：わたしの結婚観」	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第８回 5 月 30 日	テーマⅡ：「結婚」について考える③ ○講義：オークション結果の発表 ○ワーク：アンケート結果をもとに結婚観について考える ○講義：データからみた日本の結婚（続）	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第９回 6 月６日	テーマⅡ：「結婚」について考える④ ○ワーク：第２回レポート、ファミリー内発表 ○ワーク：第２回レポート、ファミリー代表の発表 ○テーマのふりかえり	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第１０回 6 月 13 日	テーマⅢ：家事と就労について考える① ○ワーク：第２回レポートの発表（続） ○第３回レポート課題告知 「ウィズコロナ、アフターコロナ時代の働き方と家族：私たちはこう考える」 ○ワーク：テーマに関するディスカッション（ファミ	提出物：ワークシート 予習：資料収集

	リー単位）	
第１１回 6 月 20 日	テーマⅢ：家事と就労について考える② 〇講義：新聞記事の検索：『聞蔵』を中心に 〇ワーク：テーマに関する記事検索 〇ワーク：テーマに関するディスカッション（2 回目）	提出物：ワークシート 予習：資料収集
第１２回 6 月 27 日	テーマⅢ：家事と就労について考える③ 〇ワーク：テーマに関するグループディスカッション（3 回目） テーマと方向性、役割分担を決める。	〇予習：資料の収集
第１３回 7 月 4 日	テーマⅢ：家事と就労について考える④ 〇ワーク：テーマに関するグループディスカッション（4 回目） 持ち寄ったデータを整理しまとめる。プレゼン資料の作成	持参するもの：ノートＰＣ、調べてきた記事 授業外グループ学習：テーマについて分担して調査
第１４回 7 月 11 日	テーマⅢ：家事と就労について考える⑤ 〇ワーク：第３回レポートの発表（ファミリー単位）	提出物：ワークシート
第１５回 7 月 18 日	テーマⅢ：家事と就労について考える⑥ 〇ワーク：第３回レポートの発表（ファミリー単位）（続） 〇講義：テーマのふりかえり 〇授業アンケートの実施	提出物：ワークシート 第 3 回レポート

1.授業コード（ナンバリング）	SOC309-Y02	2.科目名	社会調査演習	3.単位数	4
4.授業担当教員	永井純一、八木寛之				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件	社会調査士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	調査の設計から実査、分析までを手がけることによって、他の科目で習得した知識の定着をはかり、社会調査に必要なスキルを身につける。質的調査と量的調査を組み合わせることによって、それぞれの特徴を学び、ひとつのテーマに対して多角的なアプローチをおこなう。調査票を用いた調査が軸だが、その前後に観察調査、聞き取り調査を配置し、それぞれのデータを補完する形で報告書をまとめる。また、報告書の作成以外にも、口頭発表の場を設けるなどして高いプレゼンテーション能力の習得も目指す。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の（S1）修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、（S2）社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①社会調査に必要なスキルを身につけ、調査を行うことができる。 ②調査結果をまとめ、プレゼンテーションできる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜紹介する。				
21.成績評価	期末レポート 量的調査の調査票及び質問文を作ることができる…30 点　［学習目標①に対応］ 質的調査の技術やテクニックを身につけることができる…20 点　［学習目標①に対応］ データを適切に加工することができる。20 点　［学習目標①に対応］ ワードやエクセルを使って適切な資料を作成できる…20 点　［学習目標②に対応］ SPSS の基本的な操作ができる…10 点［学習目標②に対応］				
22.コメント	適宜質問を受け付けるので、積極的に発言するように。				
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 3 限（永井）　火曜 5 限目（春）・水曜昼休み（秋）（八木） 学修支援センター：木曜昼休み（永井）　金曜 3 限目（八木）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	［活動］イントロダクション ［活動］調査の企画・設計	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 2 回】	［活動］予備調査（１）先行研究・資料の収集 ［活動］予備調査（２）観察調査	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 3 回】	［活動］予備調査（３）聞き取り調査 ［活動］予備調査の整理、まとめ	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 4 回】	［活動］仮説の設定 ［活動］調査対象、抽出方法の決定	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 5 回】	［活動］調査項目の決定 ［活動］調査票の設計・作成（１）	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 6 回】	［活動］調査票の設計・作成（２）	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 7 回】	［活動］サンプリング（１）	準備学習：テキストを読むこと

	［活動］サンプリング（2）	復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 8 回】	［活動］データ処理・クリーニング（1） ［活動］データ処理・クリーニング（2）	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 9 回】	［活動］調査票分析・基礎集計（1） ［活動］調査票分析・基礎集計（2）	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 10 回】	［活動］調査票分析・クロス集計（1） ［活動］調査票分析・クロス集計（2）	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 11 回】	［活動］調査票分析・相関係数（1） ［活動］調査票分析・相関係数（2）	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 12 回】	［活動］調査票分析まとめ ［活動］インタビュー調査・企画（1）	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 13 回】	［活動］インタビュー調査・実習（2） ［活動］報告書の書き方・作成	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 14 回】	［活動］発表	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 15 回】	［活動］発表 ［活動］まとめ	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと

1.授業コード（ナンバリング）	SOC312-Y01	2.科目名	社会階層論	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学部			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・グループワーク		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	＊授業の概要 私たちは自らの力でのみ、人生を選べるわけではない。私たちが社会的な存在である限り、文字通り「社会」の影響を受ける。それは最小単位である「家族」を出発点に、人生を左右する「学校」や「会社」、所属している「社会」「国」等、多様な集団や組織と私たちは無関係でいられないからである。社会階層論では、社会のありようを「階層」という集団を捉える観点から検討する。 ＊授業の目的 社会階層論では、多様な社会階層を析出し、分析してきた先行研究の知見を学ぶ。そして量的なデータを自ら分析する。社会階層という観点は				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は DP の「社会的貢献性」「多様性理解」「問題発見・解決力」と関連しています。 （１）社会階層という枠組みについて理解する。（問題発見・解決力） （２）社会階層に関わるデータを読み解き、自らの考えを提示することができる。（多様性理解） （３）社会階層に関わるデータを分析し、自ら問題点を示すことがきでる。（社会的貢献性）（問題発見・解決力）				
19.教科書・教材	毎回の授業でワークシート等の教材を配布する。				
20.参考文献	授業中に指示する。				
21.成績評価	（１）毎回のリアクション・ペーパーの作成　60% （２）最終課題　40%				
22.コメント	社会階層に関わるデータを読み解きます。これまで学習してきた「統計」の知識がおおいに役に立つはずです。「社会階層と文化」という授業と内容が重複しているところもありますのでご注意ください。				
23.オフィスアワー	後日追記します。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 イントロ	・授業の内容についての確認	復習とアサインメント ワークシートを作成する（所要時間 90 分）
第 2 回 社会階層と社会階級	・社会階層と社会階級について学ぶ	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 3 回 社会移動と教育	・社会移動と教育について学ぶ ・関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 4 回 教育から仕事への移行	・教育から仕事への移行について学ぶ ・関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）
第 5 回 若者の生活	・若者の生活について、社会階層という観点から学ぶ ・関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ★小レポートを作成する（所要時間 90 分）

第 6 回 若者の自立	・若者の自立について、社会階層という観点から学ぶ ・関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 7 回 職業と社会階層	・職業について、社会階層という観点から学ぶ ・関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 8 回 雇用形態と社会階層	・雇用形態と社会階層について学ぶ ・関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 9 回 恋愛と社会階層	・恋愛と社会階層について学ぶ ・関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第１０回 結婚と社会階層	・結婚と社会階層について学ぶ ・関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第１１回 夫婦関係と社会階層	・夫婦関係と社会階層について学ぶ ・関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）
第１２回 家族と社会階層	・家族と社会階層について学ぶ ・関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ★小レポートを作成する（所要時間 90 分）
第 13 回 高齢化と社会階層	・高齢化と社会階層について学ぶ ・関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）
第 14 回 社会意識と社会階層	・社会意識と社会階層について学ぶ ・関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 15 回 まとめ	・社会階層について、ふりかえる	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）

1.授業コード（ナンバリング）	SOC313-Y01	2.科目名	ジェンダー論	3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子				
5.授業科目の区分	基幹	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件	「家族社会学」を履修済であることが望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	おおむね 30 名以内。原則として、第 1 回の授業に出席した者に限ります。履修希望者が多い場合は、選抜を行います（社会学科生優先）。				
17.授業の目的と概要	【目的】 社会のさまざまな場面に潜むジェンダーの課題に気づき、各人の問題意識が広がることをめざします。 【概要】 私たちは、ありとあらゆるものを〈分類〉しながら生活しています。そのなかで、「性別」は最も“自然”で“当たり前”な分類と思われがちです。本科目では、性別が社会によって規定されてきたことを知り、性別に関する私たちの常識がいかに“不思議なこと”なのか、具体的なトピックを通して考えます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目の DP（ディプロマ・ポリシー）は、「多様性理解」「問題発見・解決力」の学修に関連しています。 ①ジェンダーに関する問題がいかに社会的な問題とつながっているのかを説明することができる。 ②ジェンダー平等な社会を実現するために私たちがすべきことを提案できる。				
19.教科書・教材	●堀内かおる『10 代のうちに考えておきたいジェンダーの話』岩波書店（岩波ジュニア新書 979），2023 年． ISBN-978-4-00-500979-4				
20.参考文献	●瀬地山角・中村圭『図解ポケット　ジェンダーがよくわかる本』秀和システム、2022 年 ●内閣府『令和 5 年版　男女共同参画白書』2023 年 ●森田晶子・森脇健介・矢内琴江・弓削尚子『ジェンダーの扉を開こう～自分らしく生きるために～』 大和書房、2022 年 ※他の参考文献については、適宜、紹介します				
21.成績評価	○授業中のワークシート、アンケート（10 回）⇒計 40%‥目標①② ○グループ発表（各章の紹介）⇒計 30%（15%× 2 回）‥目標① ○最終課題の作成・発表（レポート・発表）⇒計 30%‥目標②				
22.コメント	●教科書を指定しています。必ず入手（購入）してください。 ●対面受講を原則とします（体調不良等により出席停止の場合のみ遠隔受講を認めます）。 ●原則として、資料は WebClass にあげ、課題（レポート等）も WebClass で提出します。 ●PC、スマホをフル充電し、必ず、イヤホンもしくはヘッドセットを持参してください。 ●天候・気候、社会情勢により、急きょ、オンライン授業に切り替えることがあるかもしれま				

	せん。 ●ノートＰＣのみならずスマホにも Zoom をインストールしておいてください。
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ○センタオフィスアワーー⇒水曜昼休み（1 号館 2 階ラーニングコモンズ） ○研究室オフィスアワー⇒水曜 II 限（1320 研究室）

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回　4 月 11 日	○オリエンテーション（授業の内容・進め方・評価等） ○教科書「はじめに」の輪読 ○ジェンダーに関するアンケート(WebClass) ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノート PC ○コメントシート（WebClass 提出、4/13〆切）
第 2 回　4 月 18 日	○講義：ジェンダー入門 1.ジェンダーは現代の必修科目 2..ジェンダーって何？ 3.性別から自由になろう 4.世界標準のジェンダー常識 5.鍵はアンコンシャス・バイアス ○グループ編成と担当章の決定 ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノート PC ○コメントシート（WebClass 提出、4/20〆切）
第 3 回　4 月 25 日	I　10 代のうちに考えておきたいジェンダーの話 ○発表準備 ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノート PC ○コメントシート（WebClass 提出、4/27〆切）
第 4 回　5 月 2 日	I　10 代のうちに考えておきたいジェンダーの話 1　ジェンダーってなんだ？ ○グループ発表 ○講義（ふりかえり+補足） ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノート PC ○コメントシート（WebClass 提出、5/4〆切）
第 5 回　5 月 9 日	I　10 代のうちに考えておきたいジェンダーの話 2　つくられる「女の子」「男の子」 ○グループ発表 ○講義（ふり返りと補足） ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノート PC ○コメントシート（WebClass 提出、5/11〆切）
第 6 回　5 月 16 日	I　10 代のうちに考えておきたいジェンダーの話 3　ジェンダー化の装置＝学校？ ○グループ発表 ○講義（ふりかえり+補足） ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノート PC ○コメントシート（WebClass 提出、5/18〆切）
第 7 回　5 月 23 日	I　10 代のうちに考えておきたいジェンダーの話 4　他者のまなざしの中の自分 ○グループ発表 ○講義（ふりかえり+補足） ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノート PC ○コメントシート（WebClass 提出、5/25〆切）
第 8 回　5 月	I　10 代のうちに考えておきたいジェンダーの話	○持参するもの：教科書、ノート PC

30 日	5　大人になっていく過程で出会うジェンダー 〇グループ発表 〇講義（ふりかえり+補足） 〇コメントシートの作成・提出	〇コメントシート（WebClass 提出、6/1〆切）
第 9 回　6 月 6 日	〇Ⅰ　10 代のうちに考えておきたいジェンダーの話 6　ライフキャリアの実現に必要なこと 〇グループ発表 〇講義（ふりかえり+補足） 〇コメントシートの作成・提出	〇持参するもの：教科書、ノート PC 〇コメントシート（WebClass 提出、6/8〆切）
第 10 回　6 月 13 日	Ⅱ　ジェンダー平等な社会の実現に向けて 〇グループ課題の説明 〇ワーク：問題の整理、課題の設定	〇持参するもの：教科書、ノート PC 〇アサイメント：テーマについて調べてくる
第 11 回　6 月 20 日	Ⅱ　ジェンダー平等な社会の実現に向けて 〇ワーク：グループ課題の決定 〇ワーく：企画書案の作成・提出 〇ワーク：資料の収集	〇持参するもの：教科書、ノート PC 〇企画書案（WebClass 提出、6/22〆切） 〇アサイメント：テーマに関する資料を収集しておく
第 12 回　6 月 27 日	Ⅱ　ジェンダー平等な社会の実現に向けて 〇ワーク：資料の整理、切り口の検討	〇持参するもの：教科書、ノート PC 〇アサイメント：収集した資料を整理して切り口を決めておく 〇アサイメント：分析・考察を完成させておく
第 13 回　7 月 4 日	Ⅱ　ジェンダー平等な社会の実現に向けて 〇ワーク：発表資料の作成 〇発表順の決定	〇持参するもの：教科書、ノート PC 〇アサイメント：発表資料を完成させておく（WebClass 提出、7/10〆切）
第 14 回　7 月 11 日	Ⅱ　ジェンダー平等な社会の実現に向けて 〇グループ設定課題の発表 〇コメントシートの作成・提出	〇持参するもの：教科書、ノート PC 〇コメントシート（WebClass 提出、7/13〆切）
第 15 回　7 月 18 日	Ⅱ　ジェンダー平等な社会の実現に向けて 〇「当たり前」を見直す：だれもが活躍できる社会へ 〇期末アンケートの実施 〇コメントシートの作成・提出	〇持参するもの：教科書、ノート PC 〇コメントシート（WebClass 提出、7/20〆切）

1.授業コード（ナンバリング）	SOC314-Y01	2.科目名	NPO・NGO 論	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本授業の目的は非営利組織・市民活動（NPO・NGO）について社会学的に検討することにある。非営利組織は、日本においては大変微妙な位置づけにある。それはボランティアなどが「善意」や「心がけ」のように捉えられており、非営利組織もまた、そのような観点から捉えられがちだからである。 非営利組織や市民活動とは「非営利」でなければならない理由がある。そしてそれゆえにできることもある。ただし、組織という観点では営利組織とあまり変わりがない。「無利益」というわけでもない。 以上のような観点を踏まえつつ、本授業で				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は DP のうち「社会的貢献性」「多様性理解」「問題発見・解決力」と結びついている。 学修目標は以下の通りである。 （１）NPO・NGO の社会課題を具体的に提示することができる（問題発見・解決力） （２）NPO・NGO における多様なアクターについて説明することができる（多様性理解） （３）NPO・NGO の社会課題を社会学的に説明することができる（問題発見・解決力）				
19.教科書・教材	適時提示する				
20.参考文献	適時提示する				
21.成績評価	（１）ディスカッションペーパー（毎回）・・・30% （２）問題発見ペーパー（５回）・・・30% （３）課題レポート・・・40%				
22.コメント	NPO・NGO はみなさんにとって将来関わりをもつ場合が少なくありません。就職先、としても選択肢になるはずです。				
23.オフィスアワー	後日追記します。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	NPO・NGO とはなにか NPO・NGO と社会の関係について学ぶ	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（１）を記入する。
第 2 回	「公共」を考える 社会学における「公共」について知る。	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 3 回	なぜ NPO・NGO なのか（１） 教育と福祉における NPO	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 4 回	なぜ NPO・NGO なのか（２） 国際協力と NPO	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（２）を記入する。
第 5 回	非営利活動の歴史（国内編）	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 6 回	非営利活動の歴史（国外編）	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 7 回	企業と NPO の違い 企業における CSR と NPO	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（３）を記入する。

第 8 回	ソーシャルデザインとソーシャルビジネス	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 9 回	NPO の課題／社会への貢献と問題	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（4）を記入する。
第 10 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（問題設定編） 発表に向けてグループワークをする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 11 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（定款編） 発表に向けてグループワークをする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 12 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（資金計画編） 発表に向けてグループワークをする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（5）を記入する。
第 13 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（活動スタッフ編） 発表に向けてグループワークをする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 14 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（まとめ） 発表をする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。
第 15 回	まとめー社会と NPO の関係を考える	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。

1.授業コード（ナンバリング）	SOC317-Y01	2.科目名	相互行為・社会関係論			3.単位数	2
4.授業担当教員	友枝敏雄						
5.授業科目の区分	社会学部社会学科	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期		
8.履修可能な専攻				9.履修学年			
10.取得資格の要件		11.先修条件					
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※				
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	1 回目と 2 回目は対面とオンラインで行います。 3 回目以降はオンラインとなります。 講義中心に進めますが、授業の後半で、20 分程度のグループワーク（4，5 名での議論）を行うこともあります。				
16.履修制限	ありません。						
17.授業の目的と概要	目的： 社会学の研究対象は、ミクロレベル、メゾレベル、マクロレベルの 3 つのレベルに分かれている。 この講義では、ミクロレベル、メゾレベルに焦点をあてて、行為、社会関係、集団、組織について学習し、社会学的な分析方法を習得する。 概要： つぎの 3 つのテーマについて、１５回の授業で学習する。 各回の授業テーマについては、各回の授業内容のところに記しているので、そこを参照すること。 Ⅰ　社会学の方法 Ⅱ　行為理論 Ⅲ　集団と組織の分析						
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目を学習すると、以下のような知識が身につきます。 １．大学で学ぶことの意味。 ２．私のアイデンティティとは何か。私と他者との関係はどのようなものであるのか。 ３．逸脱、レイベリング（ラベリング）、予言の自己成就。 ４．正常と異常、規範と制度。 ５．現代社会がかかえる問題。						
19.教科書・教材	友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂瑠編『社会学の力　改訂版』2023 年、有斐閣						
20.参考文献	授業のなかで必要に応じて紹介します。						
21.成績評価	授業後半でのグループワーク（20%） 授業終了後メールで提出する「本日の授業内容についての感想とコメント」（20%） 中間レポート（30%） 期末レポート（30%）						
22.コメント	授業での質疑応答では、大きな声で答えて下さい。 皆さんの前で、自分の考えをまとめた上で、きちんと発表し説明する訓練の場としたいと思います。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	Ⅰ社会学の方法 1．イントロダクション、この授業の進め方	授業の感想・コメントの提出
第 2 回	2．「社会」の発見と社会学の誕生	授業の感想・コメントの提出

第３回	３．社会的事実	授業の感想・コメントの提出
第４回	４．存在と当為	
第５回	５．方法論的個人主義と方法論的集合主義	授業の感想・コメントの提出
第６回	II　行為理論 ６．社会的行為、行為類型	授業の感想・コメントの提出
第７回	７．言語行為（発話行為)、儀礼的無関心	授業の感想・コメントの提出
第８回	８．地位と役割	中間レポートの提出 授業の感想・コメントの提出
第９回	９．逸脱行動と社会、正常と異常	授業の感想・コメントの提出
第 10 回	１０．レイベリング（ラベリング）理論	授業の感想・コメントの提出
第 11 回	III集団と組織 １１．基礎集団と機能集団	授業の感想・コメントの提出
第 12 回	１２．フォーマル・グループとインフォーマル・グループ　日本的雇用	授業の感想・コメントの提出
第 13 回	１３．近代組織と官僚制	授業の感想・コメントの提出
第 14 回	１４．規範と制度（１）	授業の感想・コメントの提出
第 15 回	１５．規範と制度（２）	期末レポートの提出 授業の感想・コメントの提出

1.授業コード（ナンバリング）	SP1101-Y01	2.科目名	心理学概論　【総合社会学科：5 月 30 日～】	3.単位数	2
4.授業担当教員	板山昂				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	現代社会学部			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	心理学に相当する英語は psychology であり、「心（こころ）」についての学問という意味である。本講義は、心理学の概要について理解することを目的とするものである。そして、今後の心理学関連のさまざまな講義の理解・学習に必要な基礎知識を身につけるとともに、心理学の科目体系を理解することを目的とするものである。 　心理学の領域としては、「知覚」、「パーソナリティ」、「発達」、「社会」、「臨床」、「知覚」、「ストレス」、などを取り上げ、心理学の基礎について学ぶ。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 本科目の学習目標は以下のとおりである。 ①心理学がどのような学問かを説明することができる。 ②人間の行動を客観的・実証的に捉えるための研究法について説明できる。 ③心理学の専門用語を理解し、説明することができる。 ④心理学を体系的に理解し、全体像を説明することができる。 ⑤心理学が現実社会でどのように役立つかを説明することができる。				
19.教科書・教材	特になし 毎回資料を配付する				
20.参考文献	講義中に紹介する				
21.成績評価	成績評価は以下のとおりであり、上記の学習目標との関連を示しておく。 毎回のミニレポート　40%　（②③④⑤に対応） 総括試験　60%　（①②③④に対応） 　計 100%で評価する。				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 1 回　ガイダンス　心とは何か、心理学とは何か	
	第 2 回　知覚　錯視・錯覚「実在するものはあるがままに知覚されるのか」	
	第 3 回　パーソナリティ(1)　パーソナリティの類型論、特性論などについて学習する	
	第 4 回　パーソナリティ(2)　パーソナリティの文化差	
	第 5 回　発達　発達とは何か、発達段階と発達課題、発達の諸相について学習する。	
	第 6 回　欲求・動機　人を動かす欲求について学ぶ	

	第 7 回　産業(1) 企業・組織活動でのモチベーションについて学ぶ	
	第 8 回　産業(2) 職務ストレスとマネジメントについて学ぶ	
	第 9 回　社会(1)社会的ネットワーク	
	第 10 回　社会(2)人の印象はどのようにつくられるのか、印象形成について	
	第 11 回　社会(3)　恋愛関係における心理学について学ぶ	
	第 12 回　社会(4)対人コミュニケーションについて学ぶ	
	第 13 回　社会(5)集団・集合の心理学について学ぶ	
	第 14 回　災害・パニックの心理学を学ぶ	
	第 15 回　期末テストー 理解度を確認する。	

1.授業コード（ナンバリング）	SP2205-Y01	2.科目名	認知心理学	3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年生～
10.取得資格の要件	公認心理師 認定心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 知覚心理学および認知心理学に関する基礎知識を学ぶ。 認知に関する知識は臨床心理学、犯罪心理学、災害心理学、産業・消費者心理学とも関連しており、 人間を科学的に理解するためには必須である。 【概要】 知覚・注意・記憶・思考といった代表的な認知機能について解説する。 また、知覚や認知の個人差や障害についても理解を深める。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 (1)人の感覚・知覚等の機序及びその障害について概説できる。 (2)人の認知・思考等の機序及びその障害について概説できる。 【関連するディプロマポリシー】 (3)多様性理解 (4)問題発見・解決力 (6)専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	講義資料を適宜配布する。				
20.参考文献	萱村 俊哉・郷式 徹（2021）. 知覚・認知心理学――「心」の仕組みの基礎を理解する―― 川畑 直人・大島 剛・郷式 徹（監修）公認心理師の基本を学ぶテキスト ミネルヴァ書房 箱田 裕司（編）（2020）. 知覚・認知心理学 野島 一彦・繁桝 算男（監修）公認心理師の基礎と実践 遠見書房				
21.成績評価	(1)各回課題 50% (2)総括試験 50%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜昼休み ＊メールで事前に連絡をしてください。上記時間以外も対応可です。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション	授業内容の復習
【第 2 回】	知覚（１）――視覚・聴覚――	授業内容の復習
【第 3 回】	知覚（２）――体性感覚・味覚・嗅覚――	授業内容の復習
【第 4 回】	知覚の障害	授業内容の復習
【第 5 回】	注意	授業内容の復習
【第 6 回】	記憶（１）――ワーキングメモリ――	授業内容の復習
【第 7 回】	記憶（２）――長期記憶――	授業内容の復習
【第 8 回】	記憶（３）――日常記憶――	授業内容の復習
【第 9 回】	思考（１）――推論――	授業内容の復習
【第 10 回】	思考（２）――問題解決――	授業内容の復習

【第 11 回】	思考（３）――意思決定――	授業内容の復習
【第 12 回】	認知の個人差	授業内容の復習
【第 13 回】	認知の障害	授業内容の復習
【第 14 回】	総復習	授業内容の復習
【第 15 回】	総括試験	授業内容の復習

1.授業コード（ナンバリング）	SP2206-Y01	2.科目名	教育心理学　（総合社会）	3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子				
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	※教員免許取得のための必修科目 ※教育の基礎的理解に関する科目 高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語)　中学(社会)　公認心理師　認定心理士 保育士　幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	この科目は、教師として活動する際に必要な教育心理学の知識を身に着けることを目的としています。 具体的には、教育心理学の意義および課題について考察した上で、知識の獲得過程、学習の動機づけ、学習の転移、個性・個人差と授業、学習指導について学ぶ。そして、教育心理学的なものの見方・考え方を養った上で、発達を踏まえた学習支援について基本的な考え方を理解する。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 【科目の到達目標】 ①教育心理学における基礎的知識を獲得する。 ②教育現場で起こる課題、問題について教育心理学の基礎知識を用いて考察することができる。				
19.教科書・教材	「やさしい教育心理学　第 5 版]」有斐閣アルマ 【 ISBN 】 9784641221468				
20.参考文献	適宜、紹介する。				
21.成績評価	Webclass 課題…50％ 期末試験…50％				
22.コメント	火、水は神戸山手、木、金は三木にいます。三木キャンパス所属の学生からの質問は、メールあるいは木金に予約制で受け付けます。質問、予約はメールで問い合わせてください。				
23.オフィスアワー	火曜昼休み　学修支援センターオフィスアワー 火曜 4 限　研究室オフィスアワー				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ・授業の目的と概要、評価 ・遠隔授業の進め方	
第 2 回	教育心理学とは何か	予習：第 1 章を熟読すること

	学校教育、教育基本法、生きる力、社会人基礎力、教育心理学で扱う領域	
第 3 回	記憶とは何か（第 1 章） 短期記憶、長期記憶と意味づけ、忘却	予習：第 2 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域①)
第 4 回	知識と思考（第 2 章） 表象、宣言的知識、手続き的知識、問題解決、メタ認知	予習：第 3 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域①)
第 5 回	子どもが「学ぶ」ために必要なこと（第 3 章） 古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、自己強化	予習：第 4 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域②)
第 6 回	「やる気」を出すには？（第 4 章） 期待 - 価値モデル、学習性無力感、自己効力感、動機づけ、原因帰属	予習：第 5 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域②)
第 7 回	学校という場で起きること（第 5 章） 教師の影響、仲間関係、教師 - 生徒関係	予習：第 5 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域③)
第 8 回	いじめはなぜおこるのか（第 5 章） いじめの発生原因、力とその資源、いじめの特徴、いじめを助長するもの	予習：第 6 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域③)
第 9 回	どのように教えるか（第 6 章） 行動主義心理学:プログラム学習、完全習得学習 認知心理学：発見学習、有意味受容学習	予習：第 7 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域④)
第 10 回	学校における「評価」とは何か（第 7 章） 評価の目的、基準、学力を測る、知能を測る、性格を測る	予習：第 8 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域④)
第 11 回	ヒトの発達について考える（第 8 章） 発達と成長、発達段階、成熟と学習、遺伝と環境、学習の臨界期。敏感期	予習：第 9 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑤)
第 12 回	知的発達のメカニズム（第 9 章） 知能指数、知能観、知能の発達	予習：第 11 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑤)
第 13 回	困難を抱える子どもたち（第 11 章） 知的障害、発達障害	予習：第 10 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑥)
第 14 回	人格発達の基礎（第 10 章） フロイトの発達段階、エリクソンの発達段階、愛着理論、自我同一性	復習：Webclass 課題(領域⑥)
第 15 回	最終試験	

1.授業コード（ナンバリング）	SP2207-Y01	2.科目名	発達心理学	3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子				
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	【神戸山手キャンパス】 心理学部、人間科学部、国際コミュニケーション学部、社会学部			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	公認心理師 ※教員免許取得のための必修科目 学芸員高校(英語)　高校(公民)　高校(福祉)　小学校一種中学(英語) 中学(社会)　認定心理士　保育士 幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【科目の概要】 この科目では、生涯発達心理学の立場（人間は生涯を通して成長し続けるという立場）から、胎児期、新生児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の過程において、各発達期の特徴と援助のあり方を理解することを目的とする。とくに乳幼児期における知能、気質、感情の心理学的理解を通して、子どもの発達支援に必要な知識の習得をねらいとする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【科目の到達目標】 ①各発達期における運動発達、言語発達、認知発達、社会性の発達について、具体的な内容を説明できる。 ②幼児、児童の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用と、発達に関する代表的理論を踏まえ、子どもの発達支援に必要な知識とその意義を説明できる。				
19.教科書・教材	「やさしく学べる乳幼児の発達心理学: 妊娠、出産から子育てまで」 田中亜裕子著　創元社				
20.参考文献	適宜、紹介する。				
21.成績評価	Webclass 課題・・・30% DVD 感想：20% 期末テスト・・・50%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜昼休み：センターオフィスアワー 火曜 4 限：研究室オフィスアワー 火、水は神戸山手、木、金は三木にいます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 授業の進め方と、学びの概要について説明する。	

第 2 回	胎生期の発達 1（胎児の発達と母体の変化（妊娠、出産）について学ぶ。） ＤＶＤ視聴:小さな生命の詩	Webclass 課題
第 3 回	胎児期の発達 2（胎児の発達と母体の変化（妊娠、出産）について学ぶ。） 胎生期、免疫寛容、胎児の発達、低出生体重児、体内環境、妊婦健診 グループワーク課題：胎児期の発達の基礎知識について説明する。	Webclass 課題
第 4 回	新生児期~乳児期の育ち 1（新生児期、乳児期の身体、心理、社会的発達について学ぶ） DVD 視聴：「赤ちゃんの不思議な世界」	Webclass 課題
第 5 回	新生児期~乳児期の育ち 2 新生児期、乳児期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。 生理的早産、ネオテニー、原始行動、赤ちゃんの気質、視覚的断崖の実験、認知発達、運動発達、共鳴動作、微笑、言語の発達、自己認知、共同注意 グループワーク課題：新生児期の発達の基礎知識について説明する。	Webclass 課題
第 6 回	新生児期~乳児期の育ち 3 新生児期、乳児期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。 愛着理論、内的作業モデル、ハーロウの代理母親の実験、社会的参照、母子相互作用、父親の存在 グループワーク課題：乳児期の発達の基礎知識について説明する。	Webclass 課題
第 7 回	幼児期の育ち 1 DVD「里っ子たち」視聴 幼児期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。	Webclass 課題
第 8 回	幼児期の育ち 2 幼児期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。 身体発育、発達課題、認知発達、心の理論、思考の特徴、言語発達、第一次反抗期、退行、仲間関係 グループワーク課題：幼児期の発達の基礎知識について説明する。	Webclass 課題
第 9 回	児童期の発達 1 児童期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。 DVD 視聴：「里山の学校」	Webclass 課題
第 10 回	児童期の発達 2 児童期の身体、心理、社会的発達について学ぶ。	Webclass 課題

	運動機能・技能の発達、認知発達、思考の発達段階、人間関係、役割取得、自己意識と自己理解 グループワーク課題：児童期の発達の基礎知識について説明する。	
第 11 回	発達障害の理解と対応 知能検査について知り、発達障害の理解と対応を学ぶ。 知能分類、知能検査、知的障害、発達障害、発達支援 グループワーク課題：発達障害に関する心理学的支援の方法について説明する。	Webclass 課題
第 12 回	子ども臨床 子ども臨床の基礎事項について学ぶ。 援助に際して必要な情報、遊戯療法、８つの基本原理 グループワーク課題：メンタル面での問題を抱えた子どもと親への心理学的支援について説明する。	Webclass 課題
第 13 回	青年期 青年期の発達課題と、青年期の心理発達について学ぶ 性的発達、思考の発達、時間的展望、友人関係、自己意識、アイデンティティの確立 グループワーク課題：青年期の発達の基礎知識について説明し、自己分析を行う。	Webclass 課題
第 14 回	成人期、老年期 成人、高齢者の発達課題と、社会的問題について学ぶ。 知的能力の変化、中年期の危機、結婚・育児をめぐる問題、発達段階、退職生活への適応、老年期の人格的変化、死をみつめる グループワーク課題：成人期、老年期の発達の基礎知識について説明する。	Webclass 課題
第 15 回	総括試験とふりかえり	

1.授業コード（ナンバリング）	SP2212-Y01	2.科目名	心理データ解析法	3.単位数	2
4.授業担当教員	板山昂				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	社会調査士	11.先修条件	2 変量の分析を理解していること。 心理学統計法を履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	教室のサイズ、教育効果を踏まえ、履修者を 30 名ほどに制限します。 人数が多い場合、初回出席者の履修登録者の中から抽選を行います。 なお、社会調査士資格取得希望者、産業心理学専攻生を優先します。				
17.授業の目的と概要	・心理学統計法（心理統計学）の内容を前提としている。 つまり、変数と仮説についての考え方ができ、かつ、二変量解析（クロス集計・平均値の比較・相関分析）の考え方と SPSS 等の統計ソフトの操作と記述ができることを前提としている。 ・本講義では、実際の社会調査データを用いて、多変量解析（因子分析・重回帰分析）の考え方と SPSS 等の統計ソフトの操作と記述の仕方を習得する。 ・多変量解析を用いたレポート作成を指導する。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 与えられた課題に対し、特定の科学的データ収集を設計・実施できるようになる。 統計ソフトを活用して、2 種類の多変量解析（具体的には、因子分析、重回帰分析）を行い、分析結果からどういうことがいえるのかをエクセル、ワードなどを駆使して表現できるようになる。 社会調査データを多変量解析し、その結果をもとにレポートを作成ができるようになる。				
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。				
20.参考文献	小塩真司　SPSS と Amos による心理･調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで　東京図書				
21.成績評価	・平常課題：50%（5%×10）・・・・・・授業で学習した内容に関する演習問題を課す。 ・最終レポート 50%・・・実際の社会調査データを多変量解析により分析してレポートを作成。				
22.コメント	★注意★ ・心理学統計法（心理統計学）（春学期）を履修していることが望まれます。 ・毎回課題が出されますし、欠席するとついてこれなくなります。				
23.オフィスアワー	水曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
○第 1 回	オリエンテーション 　授業概要の説明を行う	心理学研究法、心理統計学で学んだことを復習しておく
○第 2 回	心理統計学（データ解析Ⅰ）の復習を行う。 　平均値の差の検定、相関分析	授業課題を進める。
○第 3 回	平均値の比較、相関分析から因子分析へ 　因子分析とはどのような分析法か説明し、実践する。	授業課題を進める
○第 4 回	因子分析の基本①	因子分析とは何か、用語を復習する。

	考え方、用語、操作を説明する	課題を進める。
○第 5 回	因子分析の基本②―結果の読み方、解釈 因子数の決め方を理解し、実践する。	課題をすすめる。
○第 6 回	因子分析の応用―因子得点、合成変数 因子分析→因子の得点を算出し、その後の分析をする。	因子分析の結果の記述を復習する。 課題をすすめる。
○第 7 回	重回帰分析の基本①－考え方、用語、操作 重回帰分析とは何か、キーワードを理解し、重回帰分析を実施する。	重回帰分析とは何か、キーワードを復習し、重回帰分析を実施する。
○第 8 回	重回帰分析の基本②－結果の読み方、記述 結果の解釈をし、結果を文章化する	結果を文章化する課題をすすめる。
○第 9 回	重回帰分析の応用①―重回帰モデルと説明力 様々な形で、重回帰分析を活用する。	分析課題をすすめる。
○第 10 回	重回帰分析の応用②―ファイルの分割による比較 様々な形で、重回帰分析を活用する。	重回帰分析の概念、方法を復習する。
○第 11 回	重回帰分析と分散分析① 分散分析を説明し、と重回帰分析との違いを学ぶ。	分散分析について復習する。
○第 12 回	重回帰分析と分散分析② 分散分析を実施する。	分析課題を進める。
○第 13 回	最終課題①：課題の説明 学んだ多変量解析を駆使してレポートを作成する。	最終課題をすすめる
○第 14 回	最終課題②：分析と結果の記述 学んだ多変量解析を駆使してレポートを作成する。	最終課題をすすめる
○第 15 回	最終課題③：提出 これまでのふりかえりと授業アンケートの実施	これまでの分析を復習し、卒業研究での分析を想定する。

1.授業コード（ナンバリング）	SP2304-Y01	2.科目名	消費者の心理	3.単位数	2
4.授業担当教員	沼田真美				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	認定心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	職業選択からはじまり、職業、会社組織での役割などの社会と個人との関係は生涯にわたって続き、絶えず変化していく。自らの人生およびキャリアを考え、それをデザインしていくうえにおいて必要な心理学的知識を習得するとともに、自らの内面を捉える論理的思考力を身につける。 また、消費者の心理やビジネスコミュニケーションを学ぶとともに、職場環境の中で生じる様々な問題とそれに対処するための知識を身につける。本授業では、このような観点からキャリアにまつわる心理学的な知見を学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①産業・組織心理学が扱う、諸領域の基礎的な理論について説明できる。 ②組織の中で生じる人の行動や、様々な問題とそれに必要な支援について具体的に理解し、説明できる。 ③消費者の購買行動の規定因に関わる心理について理解し、説明できる。 ④産業・組織心理学の知見を自分自身の就業・キャリア発展に活かすことができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜紹介する				
21.成績評価	1．各回小課題：50%（学習目標の②③④に対応） 2．総括試験　：50%（学習目標の①②③④に対応）				
22.コメント					
23.オフィスアワー	初回授業内でお伝えします				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	ガイダンス	
第 2 回	説得における態度とは何か、説得の影響力	
第 3 回	社会的証明とネットレビューの心理学	
第 4 回	ネガティブポイントをポジティブに見せる方法	
第 5 回	承諾を得やすくするためのユニットアスキング	
第 6 回	説得時における数字の効果	
第 7 回	従業員のモチベーションを高める心理学	
第 8 回	職場のコミュニケーション	
第 9 回	特典付加の心理学	
第 10 回	広告・マーケティング①	
第 11 回	広告・マーケティング②	
第 12 回	心理的財布と支払い	

第 13 回	苦情行動・クレーマー	
第 14 回	ラストシーンの心理学	
第 15 回	到達度確認テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	SPB203-M01	2.科目名	スポーツマネジメント		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見彰					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本学経営学部経営学科ではビジネスの現場、地域社会がかかえる課題を解決して活躍できる「現場力」を身につけることが求められています。スポーツやレクリエーション活動は地域を元気にしていくチカラ（価値）を持っています。スポーツで地域づくりを担っていく（マネジメントする）ためには、スポーツの基礎的知識、地域をささえるスポーツの仕組み、スポーツが抱える諸問題（日本、世界)、これからの日本はスポーツでどちらの方向へ向かっていこうとしているのか、それらを解決するための実際の取り組みを理解していくことが必要です。 勝ち負け					
18.学習目標とＤＰとの関連	これから地域スポーツマネジメントを学んでいく学生にとって、スポーツを幅広く考える視点は絶対に必要である。授業を通して以下のことを理解し、スポーツによる地域づくりに役立てるようにする。 １．スポーツとはなにか、スポーツをマネジメントすることについて説明できる ２．スポーツに関わる組織や仕組みについて理解し説明できる ３．地域をマネジメントしていくためのスポーツの役割を実践できる ４．スポーツに関わる諸問題について興味をもち、社会とのつながりを考え、説明できる ５．スポーツイベントの成り立ちやスポンサード、マネジメントについて理解し、説明できる。 【KUIS 学修ベンチマーク】 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的 貢献性)：集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができるこれからスポーツについて学んでいく学生にとって、スポーツを幅広く考える視点は絶対に必要である。授業を通して以下のことができるようにする。 １．さまざまなスポーツ知識を得るため、新聞やテレビ、web ニュースに毎日目を通すことができる。 ２．「スポーツ文化」「地域スポーツ振興」「スポーツ基本法」「オリンピック」について説明できる。					
19.教科書・教材	特に指定はしない。webclass を通じて資料は配布する					
20.参考文献	参考書は授業中に提示します。					
21.成績評価	1 授業中の理解度テスト=20%(前回の学びのキーワードを説明する小テスト) 2 ワークシート(3 回分)=30%(グループワークを行った翌週の授業時に提出する。) 3 総括試験=50% ・授業理解度テストおよびグループワークのワークシートの評価は、配付するルーブリックに基づいて行う ・1、3 は学科の学習目標達成、2 は KUIS 学習ベンチマーク達成の評価に用いる					
22.コメント	■履修条件・他の科目との関連 ・５回の欠席で期末試験の受験資格を失います。 ・忌引き、法定伝染病罹患による公欠、ならびに教授会で認められた「欠席」以外はすべて欠					

	席となります。 ・理解を深めるためにグループワークや視聴覚教材を多く用います。 ・授業を真剣に聴き、ノートしないと授業を理解することができません。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	「スポーツマネジメント総論」における学びを俯瞰する 「スポーツ」と「社会のつながり」をどのようにとらえ、解答解説から「(地域) スポーツマネジメントの学びをイメージする」 小テスト：最近のスポーツ界でのできごと（最新ニュース）の知識を三択問題で問う。時間内に答え合わせをし、その問題から見える背景について解説をする。その中からスポーツと社会の関係について関心をもつ。	事前学修課題：シラバスに目を通して授業全体を把握する。 ◯事後学修課題：スポーツに関する新聞記事、web ニュースに必ず目を通し、理解度テストに関連する事柄をおさえる。 宿題：終了後に配布した「体育からスポーツへの変化」を読み込んでくる
第 2 回	スポーツの概念と歴史を振り返る 「『スポーツ』つて本来どんな意味？？」「野球、サッカー、テニスだけがスポーツじゃない」 「スポーツ＝体育なの？？」「スポーツと体育とはどう違うのか」「なぜ国民体育大会が国民スポーツ大会に名称変更したのか」ドイツ（ヨーロッパ）にはなぜ体育がないのか。そこから地域とスポーツの関係性をひもといていく。	◯事前学修課題：スポーツとは本来どういう意味なのかを考えてくる ◯事後学修課題：スポーツと体育の違いについて説明できるようにしておく
第 3 回	スポーツマネジメントとは スポーツマネジメントの発展 スポーツマネジメントの目的、捉え方 スポーツマネジメントの実践領域	◯事前学修課題：スポーツマネジメントについてあらかじめ情報を得ておく ◯事後学修課題： 今日の学びについてまとめておくこと
第 4 回	参加型スポーツのマネジメント 学校体育を巡るマネジメント 学校スポーツ団体を巡るマネジメント 大学スポーツを巡るマネジメント	◯事前学修課題：部活動のあり方について最近のトピックを調べてくる ◯事後学修課題：学校で起きている事態をまとめておき、自分であればどのように関われるかをまとめておく
第 5 回	地域スポーツのマネジメント 「する」「みる」「ささえる」のスポーツとの関わり方	◯事前学修課題：スポーツ基本法とはどんな法律なのかについて web などで調べてくる ◯事後学修課題：第 3 期スポーツ基本計画の柱を整理し理解を深めておく
第 6 回	スポーツと法律・行政のしくみ 地域スポーツ推進の財源スポーツと法律・行政のしくみ スポーツ振興法からスポーツ基本法、スポーツ基本計画策定まで 「スポーツに関わる法律があるの知ってる？」「スポーツ基本計画では地域創生をどのように捉えているの	◯事前学修課題：文部科学省の外局スポーツ庁を中心にした組織団体の名前を覚えてくる ◯事後学修課題：主要な組織団体の名前と役割を確実に覚える

	か」日本のスポーツ界ではどんな組織がどんな仕事をしているのか 「日本のスポーツ、体育をコントロールしているのはどんな組織、機関？」「皆さんのスポーツの活動場所、機会は、日本のスポーツ行政の中ではどの当たりに位置するのか？」「兵庫県や三木市ではどんな機関、組織がスポーツを動	
第 7 回	ゲストスピーカー　稲田豊大氏　（株式会社コーベヤ代表取締役） 「スポーツで地域を豊かにするために考える事」（仮題） 地域スポーツとコミュニティ	◯事前学修課題：今、日本（地域）の中ではどんなことが問題になっているのか。あなたの身のまわりにおきている社会課題を考えてくる。 ◯事後学修課題：日本の社会課題にスポーツ団体が取り組んでいる事例を調べる
第 8 回	地域にねざすスポーツ文化を考える①　ヨーロッパの人たちはどんな風にスポーツを楽しんでいるの ヨーロッパのスポーツ事情を紹介するビデオを見てヨーロッパのスポーツクラブのイメージ作ろう	◯事前学修課題：ヨーロッパのスポーツクラブについて調べてくる ◯事後学修課題：ヨーロッパのスポーツクラブについて理解を深めておく
第 9 回	スポーツ関連業界にはどのような仕事があるのだろう	◯事前学修課題：自分は将来スポーツとどんな関わりを持ちたいのか ◯事後学修課題：スポーツ業界について今後興味をもって調べていくこと
第 10 回	ゲストスピーカー　水野利昭氏　（スポーツ産業学会理事、本学客員教授） スポーツブランドとスポーツビジネス 「スポーツブランドのビジネス」～スポーツブランドからのメッセージに気付こう 将来の就職にスポーツ関連企業を希望する学生やブランドの活動にも多い。スポーツブランドがどのように世界各国で活動しているか理解をすることでスポーツビジネスの面白さを認識する。 Key Word :ブランドマーケティング、生産・流通、社会貢献 １．スポーツ品はどこで生産され、どうやって私たちに届けられるのか ２．グローバルスポーツ	◎小レポート②
第 11 回	オリンピックのトピックから時代を見る 「オリンピックの歴史を探る中で、ジェンダー、テロ、ボイコット、政治利用、商業化などの事例を押さえていこう」 内容・方法等　特にロサンジェルス大会が以降のビッグスポーツイベントに及ぼした影響について触れる	◯事前学修課題：発表に向け資料づくりとグループ内で発表練習をする ◯事後学修課題：審査員や会場からの質問や意見を整理してレポートにまとめる
第 12 回	ゲストスピーカー　水野利昭氏　（スポーツ産業学会、本学客員教員） 「オリンピックとスポーツビジネス」～2024 パリ大会を新しい視点で見てみよう	小レポート③

	オリンピックは世界トップの競技会として行われている訳ではない。オリンピックイヤーだからこそ、その意義を理解し異なった視点で大会を視聴してもらいたい。 Key Word :スポーツマーケティング、オリンピックの理念、スポーツイベント、商業主義 １．　　オリンピックとそれ以外の大会の違いとは ２．　　オリンピックの理念 ３．スポーツブランドとスポーツイベント ４．これか	
第 13 回	NPO 法人と指定管理者制度	◯事前学修課題：NPO とは何か、指定管理者制度について説明できるようにしてくる ◯事後学修課題：身近な視点管理者施設を調べてみよう。
第 14 回	スポーツボランティアの存在 スポーツボランティアとは何か ボランティアが支えるスポーツ文化 「スポーツボランティアは特別なこと？」スポーツイベントの成否はボランティアマネジメントから。	◯事前学修課題：スポーツボランティアとは何か調べてくる ◯事後学修課題：今後スポーツボランティアとしてどんな役割を担えるのか考える
第 15 回	総括試験：今期のまとめと成果確認	◯事前学修課題：今期配布のプリント、小テストなどすべてに目を通して 14 回分の授業を振り返っておく ◯事後学修課題：試験でわからなかった事項について確実に復習すること

1.授業コード（ナンバリング）	SPS902-Y01	2.科目名	特別研究 II （キャリア教育演習）	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本敏幸、疋田浩一				
5.授業科目の区分	キャリア教育演習科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学部			9.履修学年	3 年～（これからインターンシップ・就職活動を始める学生が対象）
10.取得資格の要件	（要件ではありませんが、、、、） 社会学・情報関連の資格を取得していることが就職時には有利になることが多いため、自身のキャリアスキルレベルを上げるためにも今年度中にチャレンジしてください。	11.先修条件	２年時に仕事とキャリア形成 I&II の単位を取得済みでり、真剣にインターンシップ・就職活動に取り組む準備ができていることが望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義 及び 演習（個人ワーク・グループワーク）		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	■概要 本授業では、実際に社会人として企業や団体等で業務を遂行する上で、当然必要とされるであろう社会人の常識、社会人基礎力の礎となる実用的な能力を身につける。 既に仕事とキャリア形成 I&II でほぼ基礎的な領域はカバーしているので、そこでの学びをふりかえりながら、これからの就職活動で当たり前として必要となる社会人としての素養を身に着けていく。 言い換えると、本授業では、インターンシップや就職活動で困ったり戸惑ったりしないための準備をシミュレーションを交えておこなっていく。 １.自己分析と自己 PR 「仕事と				
18.学習目標と ＤＰとの関連	■科目の学習目標 ・コミュニケーション力、文章力、基礎的学力を確認し、社会人として業務を遂行する上で必要となるレベルに強化する。（自律性、コミュニケーションスキルの向上） ・就職活動を開始する前に、自身のアセットの現状分析、社会人基礎力のチューンアッププランを作成し、実践する。 ・自身の人財資産（アセット）を評価・可視化し、企業分析に基づいた志望企業のリストとのマッチング分析をおこない、俯瞰的な視点からのキャリア実践能力を向上させる。 DP との関連 １－２年次の基礎科目群と専門科目での学びを通して、総合的３C スキル（コミュニケーション、コンシダレーション、コミットメント）の集大成となる「学びと成長」から「実践応用」への「かけはし」となる科目である。				
19.教科書・教材	特に指定しない。必要に応じて資料等を配布する。				
20.参考文献	関西国際大学「就職ガイド 2023」 その他、適宜指示する				
21.成績評価	課題レポート（毎回の授業）　50% ピッチ・プレゼンテーション　25%				

	社会人基礎力評価・試験　　25% 総合的に 60%以上が合格となるが、いずれかの項目が 0%の場合は 60%以上でも不合格とする。
22.コメント	演習中心の活動とその成果物が評価の対象となる。全力で授業にのぞんでください。 基礎学力対策の授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに完成するようにしてください。 オフィスアワー等で個人レベルの学びと成長についてサポートする。
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー　（山手 C：金曜日・2 時限）（山本敏幸） センターオフィスアワー（山手 C：火曜日・昼休み）（山本敏幸）

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業ガイダンス・就職活動の説明。 自分が希望する業界や気になる企業について調査・分析	○自己分析に必要な「振り返り」を各自行う。その際に必ず e-ポートフォリオを利用すること。(60 分) ○企業分析をする(60 分) ○過去の経験から自己分析する(60 分)
第 2 回	自己分析と文章作成(1) ○「過去・現在・未来」について自己分析の振り返りをする。e-ポートフォリオを活用して、自身の経験・体験をまとめて文章化する。また、ペアワークで他己分析もおこなう。 ○気になる企業リストの作成、その企業分析をおこなう。 （課題レポート①）	◆課題レポート①を提出する。 ○「強みと弱み」を考える。(60 分)
第 3 回	自己 PR 自分の「強みと弱み」について e-ポートフォリオを活用してまとめ、文章化したものをプレゼンテーションする。 （課題レポート②）	◆課題レポート②を提出する。 ○希望する業種・業界・職種・企業などを想定してくる（60 分）
第 4 回	履歴書・エントリーシートの作成(1) 履歴書及び「志望動機・職業観」について文章化する。e-ポートフォリオを活用して、自身の経験・体験と関連付けて文章化する。 （課題レポート③）	◆課題レポート③を提出する。 ○「将来展望」を考える（60 分）
第 5 回	エントリーシートの作成(2) 「将来展望」について文章化する。自身の考えをまとめて文章化する。 （課題レポート④）	◆課題レポート④を提出する。 ○フリープレゼンテーションについて考える（60 分）
第 6 回	エントリーシートの作成(3) 「フリープレゼンテーション」対策の文章化。まとめて文章化し、中間レポートにつながるように準備をす	○中間レポートの準備を行う（120 分）

	る。 エントリーシートに基づくプレゼンテーションを行う。	
第 7 回	基礎学力対策(1) 試験の種類と概要 kuis ドリルについて	○中間レポート　テーマ「(仮) あなた自身を自由に表現してください」(提出は次回授業時) (120 分)
第 8 回	基礎学力対策(2) ◆言語領域：二語の対応関係」　非言語領域：「割合」・「文字式」 kuis ドリルの問題に取り組む。	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 9 回	基礎学力対策(3) ◆言語領域：「語句の用法」　非言語領域：「割合」「精算」「割引」「分割払い」 kuis ドリルの問題に取り組む。	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 10 回	基礎学力対策(4) ◆言語領域：「熟語の意味」　非言語領域：「損益算」「速さ」「グラフと領域」「集合」 kuis ドリルの問題に取り組む。	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 11 回	基礎学力対策(5) ◆言語領域「熟語の成り立ち」　非言語領域「表の読み取り」「入出力装置」「経路図」 kuis ドリルの問題に取り組む。	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 12 回	基礎学力対策(6) ◆模擬テスト　マークシート形式　言語･非言語	★ノート pc 持参 ○授業時に完全解等できていない場合は宿題とする
第 13 回	基礎学力対策(7) ◆模擬テスト　WEB テスティング形式・テストセンター形式　　言語･非言語	★ノート pc 持参 ○授業時に完成できていない場合は宿題とする
第 14 回	基礎学力対策(8) 社会人として身につけておくべき時事問題や一般常識 DX 時代の働き方、キャリア人生、Wellness について、再確認してみよう。	○授業時に完成できない場合は宿題とする ○総括試験の準備を行う。(120 分)
第 15 回	総括試験 ふりかえりセッション まとめ	

1.授業コード（ナンバリング）	SPS902-Y02	2.科目名	特別研究 II （魅力心理学）	3.単位数	2
4.授業担当教員	沼田真美				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年以上
10.取得資格の要件		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	他者に与える印象はコミュニケーション場面において大きな影響を与える。本科目では、就職活動や職場で使える印象形成のしくみや魅力の伝え方について体系的に概観する。さらに、他者に良い印象を与え魅力を伝える手法を学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①印象形成と魅力づくりに関する理論を理解する。 ②他者に良い印象を与え自身の魅力を伝えることができる。				
19.教科書・教材	授業内でウェブクラスを通して適宜配布する				
20.参考文献	授業内で適宜紹介する				
21.成績評価	①各回小課題：40%（学習目標①②を問う） ②総括試験　：60%（学習目標①②を問う）				
22.コメント	対人魅力に関する要因など、一緒に学んでいきましょう ※受講生の理解度等により、授業内容が前後する場合がある				
23.オフィスアワー	初回授業内でお伝えします				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 1 回　対人魅力とは	
	第 2 回　対人魅力の理論・対人認知とは	
	第 3 回　相互作用モデル	
	第 4 回　対人情報処理過程 1	
	第 5 回　対人情報処理過程 2	
	第 6 回　人についての知識構造	
	第 7 回　外見的魅力について	
	第 8 回　前半内容振り返り＋補足	
	第 9 回　対称性と魅力	
	第 10 回　幼型化と魅力	
	第 11 回　他者からの好意と対人認知 1	
	第 12 回　他者からの好意と対人認知 2	
	第 13 回　態度の類似性と魅力	
	第 14 回　対人行動と魅力	
	第 15 回　授業全体の振り返り（総括試験）	

1.授業コード（ナンバリング）	SPS902-Y71	2.科目名	特別研究Ⅰ（インドネシア語Ⅱ）	3.単位数	1
4.授業担当教員	富永泰代				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件	インドネシア語		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 インドネシア語の学習を通じて、多民族国家の人々の暮らしと歴史文化を理解する。 【概要】 留学すなわちインドネシアで暮らす。そのために「インドネシア語 II」では、インドネシアの文化・歴史を学び、「インドネシアのこころ」を理解し、人々との交流を深めることができるコミュニケーション・スキルを磨きます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 ①日常生活における基本的な文章が読解できる。 ②実用会話が出来るようになる。 ③外国語学習を通じて文化の多様性を学ぶ。 【関連するディプロマシー】 インドネシア語の学習を通じてコミュニケーション・スキルを高め、学習言語圏の多様性を理解し、知識・情報を深めるとともに、問題に気づき自律的に解決に取り組み、社会に貢献する姿勢を身に付けます。				
19.教科書・教材	ドミニクス・バタオネ『バタオネのインドネシア語講座初級』めこん,2022 年				
20.参考文献	授業の進度に合わせて適宜紹介します。				
21.成績評価	・授業中の翻訳発表、練習問題解答発表、確認シート、授業への貢献等平常点 50% ・夏学期到達度アセスメント 50%				
22.コメント	・「継続は力なり」、毎回の講義で知識を積み増し励みましょう！ ・授業に関する質問や相談等がある場合は授業終了後に受けつけます。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	春学期学習フィードバック①	春学期「インドネシア語」講義内容をまとめたノートを見直し不明点がないか確認します。
2	春学期学習フィードバック②	講義内容をまとめたノートを見直し不明点がないか確認します。
3	接頭辞 me-と接尾辞-kan を伴う動詞の学習①： Ibu saya membangunkan saya pada 6 jam pagi. （母は私を朝 6 時に起こす。）	授業で学習した動詞をすべて覚え、日常の行動をインドネシア語で表現します。
4	接頭辞 me-と接尾辞-kan を伴う動詞の学習②：Saya membelikan Ali buku.（ 私はアリに本を買ってあげる。）	授業で学習した動詞をすべて覚え、日常の行動をインドネシア語で表現します。
5	接頭辞 me-と接尾辞-i を伴う動詞の学習①： Saya mengunjungi pulau Bali. （私はバリ島を訪れる。）	授業で学習した動詞をすべて覚え、日常の行動をインドネシア語で表現します。
6	接頭辞 me-と接尾辞-i を伴う動詞の学習②：Saya bisa	授業で学習した動詞をすべて覚え、日常の行

	mengikuti pelajaran bahasa Indonesia di kelas ini. （ 私はこのクラスのインドネシア語の授業についていくことが出来る。）	動をインドネシア語で表現します。
7	第３回－第６回講義フィードバック	講義内容をまとめたノートを見直し不明点がないか確認します。
8	丁寧表現の学習第３回－第６回講義フィードバック ①：受動態を学習し、丁寧な表現と社会生活で多用される標記の読解を習得する。	受動態を作る接頭辞 di-の用法を確認します。
9	丁寧表現の学習①：受動態を学習し、丁寧な表現と社会生活で多用される標記の読解を習得する。	受動態を作る接頭辞 di-の用法を確認します。
10	丁寧表現の学習③：受動態を学習し、丁寧な表現と社会生活で多用される標記の読解を習得する。	講義内容をまとめたノートを見直し不明点がないか確認します。
11	読解①：CANDI BOROBUDUR　（世界文化遺産「ﾎﾞﾛﾌﾞﾄﾞｩｰﾙ遺跡」について）	テキストを日本語に翻訳します。
12	読解②：CANDI BOROBUDUR　（世界文化遺産「ﾎﾞﾛﾌﾞﾄﾞｩｰﾙ遺跡」について）	テキストの要旨をインドネシア語でまとめます。
13	読解③：BATIK（インドネシアを代表する伝統工芸、いわゆるジャワ更紗について）	テキストを日本語に訳し、要旨をインドネシア語でまとめます
14	夏学期総括	夏学期到達度アセスメントに備えます。
15	夏学期到達度アセスメント	集中講義の学習内容を定着させます。

1.授業コード（ナンバリング）	SPS904-Y01	2.科目名	特別研究Ⅳ（留学生のための社会学・ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ入門）			3.単位数	4
4.授業担当教員	中嶌康二、阿部忍、杉本泰子、永井純一、南畑淳史、山本晃輔						
5.授業科目の区分	特別研究	6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科				9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義		
16.履修制限	留学生を対象とする。						
17.授業の目的と概要	【目的】　留学生 1 年生は、春学期では日本語学習を重点的に行うため、その間に学ぶ、専門教育への導入科目として本科目を開設する。この科目では、「日本の社会」について学ぶほか、社会学基礎、サービスラーニング、社会調査論、データサイエンス入門、情報倫理、の導入学習として、それぞれの科目内容が学習可能となるように日本語能力及び専門用語修得を目指す。 【概要】　「日本の社会」について学ぶほか、社会学基礎、サービスラーニング、社会調査論、データサイエンス入門、情報倫理の 5 科目で必要な用語・知識およびその周辺の用語・知						
18.学習目標とＤＰとの関連	この科目で学ぶと、次のような知識・スキルが身につきます。 ■第 1 部：情報倫理について、これまで学んだことを発表できる。また、これから学ぶべきことを説明できるようになる。 ■第 2 部：日本の社会のいくつかの特徴について説明できる。また、日本と自分の国の社会を比べた結果について説明できる。 ■第 3 部：サービスラーニングなど学外学習に取り組むための基本的なスキルを習得する。また社会学を学ぶために、日本の基本的な情報・単語を把握する。 ■第 4 部：質的調査に必要なスキルを身につける。調査結果をまとめ、プレゼンテーションする能力を身につける。 ■第 5 部：「留学生のためのＩＴリテラシー」テキストや講義プリントの学習を通して、データ処理道具としてのコンピュータやＩＴリテラシー、そしてデータサイエンスに係る基本概念や専門用語（日本語）について理解し説明できること。						
19.教科書・教材	■第 1 部：必要に応じて資料を配付します。 ■第 2 部：必要に応じて資料を配付します。 ■第 3 部：友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典編『社会学で描く現代社会のスケッチ』みらい（2019 年）　＊他の授業でも使用します。 ■第 4 部：伊達平和・高田聖治『社会調査法』学術図書出版社（2020 年） ※このテキストは「社会調査論」でも使用予定です。 ■第 5 部：秋山崇編『留学生のための IT リテラシー』第 2 版, インフォテック・サーブ（2020 年）						
20.参考文献	必要に応じて紹介・配付します。						
21.成績評価	下記のとおり、第 1～5 部までそれぞれ成績評価の対象が決まっています。 もれのないように実施し、合計 60 点以上獲得したら合格となります。 ■第 1 部：(1) 情報倫理についてこれまで学んだことの発表・スライドの提出、(2) これから学ぶべきことの発表・スライドの提出　※評価の基準は授業中に説明します。　20% ■第 2 部：授業中のワークシートを評価対象とします。　20% ■第 3 部：授業中のワークシートを評価対象とします。　20% ■第 4 部：ワークシート、課題（聞き取り調査）を評価対象とする。　20% ■第 5 部：受講						
22.コメント	・この科目では、日本語教育の杉本泰子先生が授業支援担当として授業に参加し、留学生の皆						

	さんの学習を支援します。
23.オフィスアワー	授業の中でお知らせします。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1・2 回	（1）科目オリエンテーション／情報倫理で学ぶべきこと （2）情報倫理について、これまでどんなことを学んできた？（調べる・まとめる＝グループワーク）	事前：シラバスを読んでくる 事後：「情報倫理で学んだこと」について発表をまとめる。
第 3・4 回	（1）情報倫理について、これまでどんなことを学んできた？（発表する＝グループワーク） （2）情報倫理について、これまでどんなことを学んできた？（意見を交わす＝グループディスカッション）	事後：「情報倫理について、何を学ぶとよいか」について発表をまとめる。 ◆提出：発表スライド（1）
第 5・6 回	（1）情報倫理について、これからどんなことを学ぶとよい？（発表する＝グループワーク） （2）情報倫理について、これからどんなことを学ぶとよい？（e ポートフォリオに成果を残す）	事後：発表スライドを e ポートフォリオに登録（操作練習も兼ねて） ◆提出：発表スライド（2）
第 7・8 回	（1）日本の家族の「かたち」 （2）ジェンダーと日本の社会	ワークシートを完成させ、期日までに提出
第 9・10 回	（1）日本の経済と仕事 （2）日本の政治とメディア	ワークシートを完成させ、期日までに提出
第 11・12 回	（1）日本の宗教 （2）日本社会の中の格差	ワークシートを完成させ、期日までに提出
第 13・14 回	（1）経験学習をするとは？社会に出て学ぼう①相談 （2）日本社会のトレンド（高齢化/高学歴化）	事前学習：テキスト『社会学で描く現代社会のスケッチ』序章を読む。 事後学習：ワークシートを提出する。
第 15・16 回	（1）経験学習をするとは？社会に出て学ぼう②連絡 （2）世界社会のトレンド（グローバル化/個人化）	事前学習：テキスト『社会学で描く現代社会のスケッチ』序章を読む。 事後学習：ワークシートを提出する。
第 17・18 回	（1）経験学習をするとは？社会に出て学ぼう③報告 （2）大学で学ぶことの意味（スキル/アイデンティティ）	事前学習：テキスト『社会学で描く現代社会のスケッチ』序章を読む。 事後学習：ワークシートを提出する。
第 19・20 回	（1）社会調査とは （2）質的調査と量的調査	ワークシートを完成させ、翌週までに提出
第 21・22 回	（1）質的調査① （2）報告書の読み方②	聞き取り調査を実施し、ワークシートにまとめ、翌週までに提出する。
第 23・24 回	（1）質的調査② （2）調査結果のまとめ方	調査結果をレポートにまとめ、翌週までに提出する。
第 25・26 回	（1）コンピュータの基本構成とソフトウェアの利用 （2）ネットワークの構成とインタネット技術の基本	◆提出：リフレクションシート
第 27・28 回	（1）情報システムとマルティメディア技術 （2）データ構造アルゴリズムとプログラミング技術	◆提出：リフレクションシート
第 29・30 回	（1）業務把握・業務改善とシステム戦略 （2）ビッグデータ・人工知能（AI）技術とデータサイエンス	◆提出：リフレクションシート

1.授業コード（ナンバリング）	SS2104-Y01	2.科目名	メディア文化論	3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一				
5.授業科目の区分	総合社会学科	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1年～
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	履修人数を制限することがあります。必ず初回の授業に出席してください				
17.授業の目的と概要	【目的】ウェブメディア／ソーシャルメディアを介した投稿、記事作成、情報発信、コミュニケーションを通じて、リサーチ力（取力）とプレゼンテーション能力（記事執筆）を高めることである。 【概要】ウェブメディア／ソーシャルメディアを通じた情報発信のページ企画、取材と記事執筆を行う。これらを通じて、情報社会に適したコミュニケーションスキルを磨く。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①テーマを発見し、アイデアを企画書にまとめることができる。 ②適切な手法で取材することができる。 ③記事作成を経て、適切な文章・映像によるプレゼンテーションができる。				
19.教科書・教材	授業内で資料を配布します				
20.参考文献	授業内で適宜紹介します				
21.成績評価	調査のまとめ　20% 企画書の提出　20% 制作物の提出　40% 試写・発表会でのコメント　10%×2				
22.コメント	授業外での作業が多いので、積極的に取り組むようにしてください				
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 3 限　　学修支援センター：木曜昼休み（永井）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	はじめに 授業の流れについて	授業内容の復習
2	ソーシャルメディアとは何か	ソーシャルメディアに関する資料集め
3	ソーシャルメディアとは何か：SNS	ソーシャルメディアに関する資料集め
4	ソーシャルメディアとは何か：ローカルメディア①	ソーシャルメディアに関する資料集め
5	ソーシャルメディアとは何か：ローカルメディア②	ソーシャルメディアに関する資料集め
6	企画	企画書を作成する
7	企画	企画書を作成する
8	企画：プレゼン資料作成	企画書を作成する
9	企画：取材先選定	取材先にアポイントメントをとる
10	取材・記事作成	取材をする 記事を作成する
11	取材・記事作成	取材をする 記事を作成する
12	取材・記事作成	取材をする 記事を作成する

13	取材・記事作成	取材をする 記事を作成する
14	取材・記事作成	取材をする 記事を作成する
15	講評	振り返りシートを提出する

1.授業コード（ナンバリング）	SS2208-Y02	2.科目名	地域文化論	3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年次～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 前半では異文化理解の基礎となる文化相対主義の視点を、後半では現代における文化や民族、宗教の解読や共生に不可欠な構築主義の視点を学びます。 【概要】 授業にあたっては、私自身のニューギニア調査など遠い異文化の事例と、ポップカルチャーなどみなさんに身近な自文化の事例を同等に取り上げ、同じ理論で分析していくことで、それらが地続きの世界の事象であることを示したいと考えています。				
18.学習目標とＤＰとの関連	この授業の学習目標は DP の（S2）社会や文化についての科学的理解力、(3）多様性の理解、（2）問題解決力の学修に関連しています。 ①日本の地域文化について、その概況を説明することができる。 ②地域文化の成立にかかわる各種の文化理論を説明することができる。 ③それらの理論を使い、様々な地域文化を分析することができる。				
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）				
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト（15 回） … 45%（学習目標①②に対応） ・期末レポート … 55%（学習目標①②③に対応）				
22.コメント	二人の担当者が、神戸の社会、あるいは文化に焦点を当てた講義を 1 年おきにおこないます。 2023 年度は行木が、神戸の文化に焦点を当てた講義をおこないます。				
23.オフィスアワー	金曜 4 限（学修支援センター）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	神戸の?化をとらえるために ― 地域文化論について （地域文化論の基礎、授業ガイダンス）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 2 回】	明?海峡とタコ飯 ― 伝統編 1 ??然環境が作り出した地域?化 （伝統的な?業や??住にみる環境適応や環境利?、「??」概念）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 3 回】	さまよえるアホ／ダボ境界線 ― 伝統編 2 ?江戸時代が作り出した地域?化（１） （?本の??状況、??が?まれる仕組み、住吉川テヤハル境界線とその移動、現代社会と??）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 4 回】	神?にはなぜ?中さんと?本さんが多いのか ― 伝統編 2 ?封建制が作り出した地域?化（２） （??と藩境界、近世の封建制と地域?化、世界史的にみた江?時代の特殊性、名字分布）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 5 回】	京都から?が来て神?で神になった ― 伝統編 3 ?ムラ社会が作り出した地域?化（１）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

	（祭事の伝播と地域的変化、解釈とコミュニティをめぐる理論）	
【第 6 回】	尼崎の砂かけばばあと神?平野の隠ればばあ ― 伝統編３?ムラ社会が作り出した地域?化（２） （解釈とコミュニティをめぐる理論（続き）、?話の地域的変化）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 7 回】	グーパーと神?の「うらおもて」 ― 現代編１??供社会が作り出す地域?化 （遊びのローカルルール、数え歌や替え歌の地域差、替え歌「ジャスコで万引き」をめぐる考察）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 8 回】	ジェームス?といかなごのくぎ煮 ― 現代編２?他地域との接触が作り出す地域?化（１） （異?化の解釈と地域?化、諏訪神社と華僑、メロンパンかサンライズか）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 9 回】	謎の調味料「ソース」と関西粉モノ文化 ― 現代編３?地域経済が作り出す地域?化（２） （神戸港のメリケン粉輸入と食文化の変化、外国には存在しない「ソース」という調味料の発明）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	とくれんと神?ノート ― 現代編３?地域経済が作り出す地域?化（１） （ローカル商品や新??、給?メニュー、ローカルスクールアイテム）	・今回のキーワード、コメント送信（復習）
【第 11 回】	サンテレビとタイガース ― 現代編３?地域経済が作り出す地域?化（２） （ローカル CM と地域?化、関?における「準キー局」の集中と関??化の再?産）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	女子高生のスカート丈と六甲?の?なしライダー ― 現代編４?局地的流?としての地域?化 （地域的な略称やファッション、うわさや都市伝説、流行をめぐる理論、うわさをめぐる理論）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	創られた南京町 ― 復興編１?活性化事業の中で作り直される地域?化（１） （地域活性化政策の背景にあるもの、歴史の再解釈と地域?化、郷?料理や祭事の復興）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	神?には存在しない「神?」― 復興編１?活性化事業の中で作り直される地域?化（２） （オミヤゲの戦略性、ローカル商品のブランド化、発明される伝統）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	??の?学校は「ハイカラ」で「モダン」……なのか? ― 復興編２?郊外化の中で作り直される地域?化 （地域の語り方とアイデンティティ、ご当地ネタブームとその背景、若者と地域）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード（ナンバリング）	SS2215-Y01	2.科目名	社会調査法（２）	3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	2 年生～
10.取得資格の要件	社会調査士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	データを収集し、それを分析可能な形に加工していくスキルを身につける。実際に調査票を作成し、それをもとにデータのコーディング、クリーニングの手法を習得する。質的調査については文献購読によってフォローする。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の（S1）修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、（S2）社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①社会調査に必要な考え方を身につけ、調査企画書を作成することができる。 ②調査企画書にもとづいた調査票の作成と適切なサンプリングができる。 ③社会調査の実査の方法を身につけ、収集したデータを整理しまとめることができる。				
19.教科書・教材	毎回、テキストまたは資料を配布します。				
20.参考文献	伊達平和・高田聖治『社会調査法』学術図書出版社、2020 年 轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法[第 4 版]』、2021 年 盛山和夫『社会調査入門』有斐閣、2004 年 佐藤郁哉『社会調査の考え方[上]』東京大学出版会、2015 年				
21.成績評価	社会調査の企画書の作成…30 点［学習目標①に対応］ 量的調査の調査票の作成…30 点［学習目標②に対応］ 量的調査のサンプリングに関する課題…20 点［学習目標②に対応］ データセットの作成…20 点［学習目標③に対応］				
22.コメント	第 2 回の授業までに「社会調査論」で学習した内容を復習しておくこと。 授業では適宜グループワークを実施します。				
23.オフィスアワー	個人研究室： 学修支援センター：水曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	イントロダクション：何のための社会調査か（前編）	復習：与えられた課題をする
【第 2 回】	何のための社会調査か（後編）	準備学習：「社会調査論」のテキストを読む 復習：与えられた課題をする
【第 3 回】	調査企画書の作成①：「よい問い」とは何か	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 4 回】	調査企画書の作成②：リサーチ・クエスチョン	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 5 回】	調査企画書の作成③：仮説を考える[グループワーク]	準備学習および宿題：「調査企画書」を完成させる
【第 6 回】	実査の方法：データを集める方法を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく

		復習：与えられた課題をする
【第 7 回】	調査票の作成①：質問の形式を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 8 回】	調査票の作成②：質問文と選択肢を考える[グループワーク]	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 9 回】	調査票の作成③：質問文の配置を考える[グループワーク]	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 10 回】	調査票の作成④：調査票の完成	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：調査票を完成させる
【第 11 回】	社会調査とサンプリング①：標本抽出とその歴史	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 12 回】	社会調査とサンプリング②：無作為抽出法／インターネット調査	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 13 回】	データの入力（コーディング）[グループワーク]	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 14 回】	「みんなでつくる」調査データ	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第 15 回】	まとめ	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする

1.授業コード（ナンバリング）	SS2216-Y01	2.科目名	社会調査実習（１）	3.単位数	1
4.授業担当教員	永井純一、八木寛之				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件	社会調査士	11.先修条件	社会調査実習（２）を同時に履修すること		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限	PC 演習室の収容人数及び良好な活動環境を確保するため、履修者数を最大 10 名とする。				
17.授業の目的と概要	調査の設計から実査、分析までを手がけることによって、他の科目で習得した知識の定着をはかり、社会調査に必要なスキルを身につける。質的調査と量的調査を組み合わせることによって、それぞれの特徴を学び、ひとつのテーマに対して多角的なアプローチをおこなう。調査票を用いた調査が軸だが、その前後に観察調査、聞き取り調査を配置し、それぞれのデータを補完する形で報告書をまとめる。また、報告書の作成以外にも、口頭発表の場を設けるなどして高いプレゼンテーション能力の習得も目指す。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の（S1）修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、（S2）社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①社会調査に必要なスキルを身につけ、調査を行うことができる。 ②調査結果をまとめ、プレゼンテーションできる。				
19.教科書・教材	テキストと資料を配布する				
20.参考文献	適宜紹介する。				
21.成績評価	期末レポート 量的調査の調査票及び質問文を作ることができる…30 点　［学習目標①に対応］ 質的調査の技術やテクニックを身につけることができる…20 点　［学習目標①に対応］ データを適切に加工することができる。20 点　［学習目標①に対応］ ワードやエクセルを使って適切な資料を作成できる…20 点　［学習目標②に対応］ SPSS の基本的な操作ができる…10 点［学習目標②に対応］				
22.コメント	適宜質問を受け付けるので、積極的に発言するように。				
23.オフィスアワー	個人研究室： 学修支援センター：水曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	［活動］イントロダクション	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 2 回】	［活動］調査の企画・設計	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 3 回】	［活動］予備調査（１）先行研究・資料の収集	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 4 回】	［活動］予備調査（２）観察調査	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 5 回】	［活動］予備調査（３）聞き取り調査	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 6 回】	［活動］予備調査の整理、まとめ	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 7 回】	［活動］仮説の設定	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと

【第 8 回】	［活動］調査項目の決定	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 9 回】	［活動］調査対象、抽出方法の決定	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 10 回】	［活動］調査票の設計・作成（1）	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 11 回】	［活動］調査票の設計・作成（2）	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 12 回】	［活動］サンプリング（1）	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 13 回】	［活動］サンプリング（2）	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 14 回】	［活動］調査の実施と回収	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 15 回】	［活動］まとめ	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと

1.授業コード（ナンバリング）	SS2302-Y01	2.科目名	社会的企業論	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本授業の目的は非営利組織・市民活動（NPO・NGO）について社会学的に検討することにある。非営利組織は、日本においては大変微妙な位置づけにある。それはボランティアなどが「善意」や「心がけ」のように捉えられており、非営利組織もまた、そのような観点から捉えられがちである。しかし、非営利組織や市民活動とは「非営利」でなければならない理由がある。そしてそれゆえにできることもある。また、組織という観点では営利組織とあまり変わりがない。 以上のような観点を踏まえつつ、本授業では NPO・NGO について受講者にとって				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は DP のうち「社会的貢献性」「多様性理解」「問題発見・解決力」と結びついている。 学修目標は以下の通りである。 （１）NPO・NGO の社会課題を具体的に提示することができる（問題発見・解決力） （２）NPO・NGO における多様なアクターについて説明することができる（多様性理解） （３）NPO・NGO の社会課題を社会学的に説明することができる（問題発見・解決力）				
19.教科書・教材	適時提示する				
20.参考文献	適時提示する				
21.成績評価	（１）ディスカッションペーパー（毎回）・・・30% （２）問題発見ペーパー（５回）・・・30% （３）課題レポート・・・40%				
22.コメント	NPO・NGO はみなさんにとって将来関わりをもつ場合が少なくありません。就職先、としても選択肢になるはずです。				
23.オフィスアワー	後日追記します。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	NPO・NGO とはなにか NPO・NGO と社会の関係について学ぶ	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（１）を記入する。
第 2 回	「公共」を考える 社会学における「公共」について知る。	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 3 回	なぜ NPO・NGO なのか（１） 教育と福祉における NPO	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 4 回	なぜ NPO・NGO なのか（２） 国際協力と NPO	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（２）を記入する。
第 5 回	非営利活動の歴史（国内編）	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 6 回	非営利活動の歴史（国外編）	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 7 回	企業と NPO の違い 企業における CSR と NPO	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（３）を記入する。
第 8 回	ソーシャルデザインとソーシャルビジネス	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。

		予習：配布資料の予習。
第 9 回	NPO の課題／社会への貢献と問題	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（4）を記入する。
第 10 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（問題設定編） 発表に向けてグループワークをする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 11 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（定款編） 発表に向けてグループワークをする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 12 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（資金計画編） 発表に向けてグループワークをする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（5）を記入する。
第 13 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（活動スタッフ編） 発表に向けてグループワークをする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 14 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（まとめ） 発表をする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。
第 15 回	まとめー社会と NPO の関係を考える	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。

1.授業コード（ナンバリング）	STA101-Y01	2.科目名	統計学Ⅰ　(1/4)	3.単位数	2
4.授業担当教員	沼田真美				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 人間科学、社会科学の分野において問題発見をして、論理的思考・判断力に基づいて問題解決に取り組むためには、情報を収集し活用する力が不可欠です。この授業では、情報を収集し活用するために必要なデータ分析（記述統計分析）の基礎的な方法を身に付けます。データ分析は心理学科での学びと、社会人として判断が求められるあらゆる場面で役立てることができます。 【概要】 この科目では、データ分析（記述統計）の基礎、すなわちデータから社会的知識を得る技法や、データで事実や意見を伝える技法を基礎から学びます。まずは変				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 具体的な学修目標は以下の通りです。 ①記述統計的分析手法の基礎概念や専門用語を説明できる。 ②表やグラフを作成でき、また、それらから事実を正しく読み取ることができる。 ③記述統計的分析手法を使用して分析できる。 ④記述統計的分析に Excel を使用することができる。				
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清　『ゼロからの統計学―使えるシーンが見える―』　くろしお出版				
20.参考文献					
21.成績評価	中間試験 20% 学修目標①②③ 平常課題 30%（ワークシート・練習問題）学修目標②③④ 総括試験 50% 学修目標①②③ ※この科目の単位を修得する目安として、平常の提出物の 6 割以上の提出、Excel 課題作業後の提出、 中間試験及び総括試験の 6 割以上の成績が必要です。				
22.コメント	①授業参加においては各自ノートパソコンを持参してください。パソコンの基本的な操作スキルとして、文字入力やファイルの保存と呼び出し、インターネットへの接続などは前もってできるようになっておきましょう。 ②毎回の授業の後、復習として授業内容のポイントをノート 1 枚程度に自分でまとめてみましょう。中間テストや総括テストの資料になります。わからないところがあれば教科書で確認したり、科目担当者に質問しましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー（神戸山手 2 号館 2 階 210 室）：火 昼休み 学修支援センターオフィスアワー（神戸山手 1 号館 2 階ラーニングコモンズ）：水 昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ・授業の進め方 ・表とグラフの基本と書き方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 2 回	変数と尺度 ・変数と尺度の種類を知る ・アンケートに回答してみる ・質問項目を考えてみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 3 回	質的データの集計（1） ・単純集計、クロス集計の方法 ・集計された表の読み方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 4 回	量的データの集計（1） ・階級別度数分布表を作成する ・ヒストグラムを作成して分布の特徴をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 5 回	量的データの集計（2） ・代表値 ・散布度でテータの散らばりを表す	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 6 回	・中間試験【第 1 回から第 5 回の内容】 ・2 つの量的変数の関係（1）	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 7 回	・中間試験の解説 ・2 つの量的変数の関係（2） 散布図と相関係数を使って 2 つの量的変数の相関関係をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 8 回	質的データの集計（2） ピボットテーブルによる単純集計とクロス集計	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 9 回	量的データの集計（3） 分析ツールによる階級別度数分布表とヒストグラムの作成	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 10 回	量的データの集計（4） 分析ツールによる基本統計量の比較	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 11 回	2 つの量的変数の関係（3） 散布図の作成と分析ツールによる相関分析	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 12 回	質的データの集計（3） 複数回答の場合のクロス集計（関数の利用）	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 13 回	総合課題 学んだことを生かして課題に取り組む	課題に取り組む ?PC
第 14 回	総合練習 学んだ内容について総復習を行う。	総括試験にむけて全範囲を総復習する ?PC
第 15 回	総括試験 第 1 回から第 14 回までの全範囲。PC の持込不可。電卓持込可。	この科目で学んだことを振り返る

1.授業コード（ナンバリング）	STA101-Y02	2.科目名	統計学Ⅰ　(2/4)			3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵						
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件				
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義			
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	【目的】 人間科学、社会科学の分野において問題発見をして、論理的思考・判断力に基づいて問題解決に取り組むためには、情報を収集し活用する力が不可欠です。この授業では、情報を収集し活用するために必要なデータ分析（記述統計分析）の基礎的な方法を身に付けます。データ分析は心理学科での学びと、社会人として判断が求められるあらゆる場面で役立てることができます。 【概要】 この科目では、データ分析（記述統計）の基礎、すなわちデータから社会的知識を得る技法や、データで事実や意見を伝える技法を基礎から学びます。まずは変						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 具体的な学修目標は以下の通りです。 ①記述統計的分析手法の基礎概念や専門用語を説明できる。 ②表やグラフを作成でき、また、それらから事実を正しく読み取ることができる。 ③記述統計的分析手法を使用して分析できる。 ④記述統計的分析に Excel を使用することができる。						
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清　『ゼロからの統計学―使えるシーンが見える―』　くろしお出版						
20.参考文献							
21.成績評価	中間試験 20% 学修目標①②③ 平常課題 30%（ワークシート・練習問題）学修目標②③④ 総括試験 50% 学修目標①②③ ※この科目の単位を修得する目安として、平常の提出物の 6 割以上の提出、Excel 課題作業後の提出、 中間試験及び総括試験の 6 割以上の成績が必要です。						
22.コメント	①授業参加においては各自ノートパソコンを持参してください。パソコンの基本的な操作スキルとして、文字入力やファイルの保存と呼び出し、インターネットへの接続などは前もってできるようになっておきましょう。 ②毎回の授業の後、復習として授業内容のポイントをノート 1 枚程度に自分でまとめてみましょう。中間テストや総括テストの資料になります。わからないところがあれば教科書で確認したり、科目担当者に質問しましょう。						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー（神戸山手 2 号館 2 階 210 室）：火 昼休み 学修支援センターオフィスアワー（神戸山手 1 号館 2 階ラーニングコモンズ）：水 昼休み						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ・授業の進め方 ・表とグラフの基本と書き方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 2 回	変数と尺度 ・変数と尺度の種類を知る ・アンケートに回答してみる ・質問項目を考えてみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 3 回	質的データの集計（1） ・単純集計、クロス集計の方法 ・集計された表の読み方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 4 回	量的データの集計（1） ・階級別度数分布表を作成する ・ヒストグラムを作成して分布の特徴をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 5 回	量的データの集計（2） ・代表値 ・散布度でテータの散らばりを表す	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 6 回	・中間試験【第 1 回から第 5 回の内容】 ・2 つの量的変数の関係（1）	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 7 回	・中間試験の解説 ・2 つの量的変数の関係（2） 散布図と相関係数を使って 2 つの量的変数の相関関係をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 8 回	質的データの集計（2） ピボットテーブルによる単純集計とクロス集計	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 9 回	量的データの集計（3） 分析ツールによる階級別度数分布表とヒストグラムの作成	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 10 回	量的データの集計（4） 分析ツールによる基本統計量の比較	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 11 回	2 つの量的変数の関係（3） 散布図の作成と分析ツールによる相関分析	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 12 回	質的データの集計（3） 複数回答の場合のクロス集計（関数の利用）	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 13 回	総合課題 学んだことを生かして課題に取り組む	課題に取り組む ?PC
第 14 回	総合練習 学んだ内容について総復習を行う。	総括試験にむけて全範囲を総復習する ?PC
第 15 回	総括試験 第 1 回から第 14 回までの全範囲。PC の持込不可。電卓持込可。	この科目で学んだことを振り返る

1.授業コード（ナンバリング）	STA101-Y03	2.科目名	統計学Ⅰ　(3/4)	3.単位数	2
4.授業担当教員	川脇康生				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 人間科学、社会科学の分野において問題発見をして、論理的思考・判断力に基づいて問題解決に取り組むためには、情報を収集し活用する力が不可欠です。この授業では、情報を収集し活用するために必要なデータ分析（記述統計分析）の基礎的な方法を身に付けます。データ分析は心理学科での学びと、社会人として判断が求められるあらゆる場面で役立てることができます。 【概要】 この科目では、データ分析（記述統計）の基礎、すなわちデータから社会的知識を得る技法や、データで事実や意見を伝える技法を基礎から学びます。まずは変				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 具体的な学修目標は以下の通りです。 ①記述統計的分析手法の基礎概念や専門用語を説明できる。 ②表やグラフを作成でき、また、それらから事実を正しく読み取ることができる。 ③記述統計的分析手法を使用して分析できる。 ④記述統計的分析に Excel を使用することができる。				
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清　『ゼロからの統計学―使えるシーンが見える―』　くろしお出版				
20.参考文献					
21.成績評価	中間試験 20% 学修目標①②③ 平常課題 30%（ワークシート・練習問題）学修目標②③④ 総括試験 50% 学修目標①②③ ※この科目の単位を修得する目安として、平常の提出物の 6 割以上の提出、Excel 課題作業後の提出、 中間試験及び総括試験の 6 割以上の成績が必要です。				
22.コメント	①授業参加においては各自ノートパソコンを持参してください。パソコンの基本的な操作スキルとして、文字入力やファイルの保存と呼び出し、インターネットへの接続などは前もってできるようになっておきましょう。 ②毎回の授業の後、復習として授業内容のポイントをノート 1 枚程度に自分でまとめてみましょう。中間テストや総括テストの資料になります。わからないところがあれば教科書で確認したり、科目担当者に質問しましょう。				
23.オフィスアワー	学修支援センターオフィスアワー（神戸山手 1 号館 2 階ラーニングコモンズ）：月、4 限 研究室オフィスアワー（神戸山手 3 号館 2 階 207 室）：火、昼休み ※質問等はメールで問い合わせてください。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	オリエンテーション ・授業の進め方 ・表とグラフの基本と書き方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	変数と尺度 ・変数と尺度の種類を知る ・アンケートに回答してみる ・質問項目を考えてみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	質的データの集計（1） ・単純集計、クロス集計の方法 ・集計された表の読み方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	変数と尺度 ・変数と尺度の種類を知る ・アンケートに回答してみる ・質問項目を考えてみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	量的データの集計（2） ・代表値 ・散布度でテータの散らばりを表す	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	・中間試験【第 1 回から第 5 回の内容】 ・2 つの量的変数の関係（1）	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	・中間試験の解説 ・2 つの量的変数の関係（2） 散布図と相関係数を使って 2 つの量的変数の相関関係をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	データの収集と入力 実際にアンケートに答えて、回収したデータを入力する。	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	表とグラフの表現（2） 回収したデータを表とグラフで表現する。	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	質的データの集計（2） 収集したデータの度数分布、クロス集計（カイ 2 乗検定）をまなぶ。	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	量的データの集計（3） 記述統計量の算出、ヒストグラムの作成	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	2 変量の関係をみる（2） 散布図を作成し、相関係数を求める。	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	練習課題 学んだ内容についての練習課題を行う。	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	総合課題	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	総括試験 第 1 回から第 14 回までの全範囲。PC の持込不可。電卓持込可。	総括試験にむけて全範囲を総復習する。

1.授業コード（ナンバリング）	STA101-Y04	2.科目名	統計学Ⅰ　(4/4)		3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 人間科学、社会科学の分野において問題発見をして、論理的思考・判断力に基づいて問題解決に取り組むためには、情報を収集し活用する力が不可欠です。この授業では、情報を収集し活用するために必要なデータ分析（記述統計分析）の基礎的な方法を身に付けます。データ分析は心理学科での学びと、社会人として判断が求められるあらゆる場面で役立てることができます。 【概要】 この科目では、データ分析（記述統計）の基礎、すなわちデータから社会的知識を得る技法や、データで事実や意見を伝える技法を基礎から学びます。まずは変					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 具体的な学修目標は以下の通りです。 ①記述統計的分析手法の基礎概念や専門用語を説明できる。 ②表やグラフを作成でき、また、それらから事実を正しく読み取ることができる。 ③記述統計的分析手法を使用して分析できる。 ④記述統計的分析に Excel を使用することができる。					
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清　『ゼロからの統計学―使えるシーンが見える―』　くろしお出版					
20.参考文献						
21.成績評価	中間試験 20% 学修目標①②③ 平常課題 30%（ワークシート・練習問題）学修目標②③④ 総括試験 50% 学修目標①②③ ※この科目の単位を修得する目安として、平常の提出物の 6 割以上の提出、Excel 課題作業後の提出、 中間試験及び総括試験の 6 割以上の成績が必要です。					
22.コメント	①授業参加においては各自ノートパソコンを持参してください。パソコンの基本的な操作スキルとして、文字入力やファイルの保存と呼び出し、インターネットへの接続などは前もってできるようになっておきましょう。 ②毎回の授業の後、復習として授業内容のポイントをノート 1 枚程度に自分でまとめてみましょう。中間テストや総括テストの資料になります。わからないところがあれば教科書で確認したり、科目担当者に質問しましょう。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：木曜日 2 限 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

	オリエンテーション ・授業の進め方 ・表とグラフの基本と書き方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	変数と尺度 ・変数と尺度の種類を知る ・アンケートに回答してみる ・質問項目を考えてみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	質的データの集計（1） ・単純集計、クロス集計の方法 ・集計された表の読み方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	変数と尺度 ・変数と尺度の種類を知る ・アンケートに回答してみる ・質問項目を考えてみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	量的データの集計（2） ・代表値 ・散布度でテータの散らばりを表す	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	・中間試験【第 1 回から第 5 回の内容】 ・2 つの量的変数の関係（1）	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	・中間試験の解説 ・2 つの量的変数の関係（2） 散布図と相関係数を使って 2 つの量的変数の相関関係をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	データの収集と入力 実際にアンケートに答えて、回収したデータを入力する。	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	表とグラフの表現（2） 回収したデータを表とグラフで表現する。	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	質的データの集計（2） 収集したデータの度数分布、クロス集計（カイ 2 乗検定）をまなぶ。	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	量的データの集計（3） 記述統計量の算出、ヒストグラムの作成	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	2 変量の関係をみる（2） 散布図を作成し、相関係数を求める。	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	練習課題 学んだ内容についての練習課題を行う。	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	総合課題	授業で学んだ内容を復習する ?PC
	総括試験 第 1 回から第 14 回までの全範囲。PC の持込不可。電卓持込可。	総括試験にむけて全範囲を総復習する。

1.授業コード（ナンバリング）	STA101-Y05	2.科目名	統計学Ⅰ　（留）	3.単位数	2
4.授業担当教員	藤木清				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 人間科学、社会科学の分野において問題発見をして、論理的思考・判断力に基づいて問題解決に取り組むためには、情報を収集し活用する力が不可欠です。この授業では、情報を収集し活用するために必要なデータ分析（記述統計分析）の基礎的な方法を身に付けます。データ分析は心理学科での学びと、社会人として判断が求められるあらゆる場面で役立てることができます。 【概要】 この科目では、データ分析（記述統計）の基礎、すなわちデータから社会的知識を得る技法や、データで事実や意見を伝える技法を基礎から学びます。まずは変				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 具体的な学修目標は以下の通りです。 ①記述統計的分析手法の基礎概念や専門用語を説明できる。 ②表やグラフを作成でき、また、それらから事実を正しく読み取ることができる。 ③記述統計的分析手法を使用して分析できる。 ④記述統計的分析に Excel を使用することができる。				
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清　『ゼロからの統計学―使えるシーンが見える―』　くろしお出版				
20.参考文献					
21.成績評価	中間試験 20% 学修目標①②③ 平常課題 30%（ワークシート・練習問題）学修目標②③④ 総括試験 50% 学修目標①②③ ※この科目の単位を修得する目安として、平常の提出物の 6 割以上の提出、Excel 課題作業後の提出、 中間試験及び総括試験の 6 割以上の成績が必要です。				
22.コメント	①授業参加においては各自ノートパソコンを持参してください。パソコンの基本的な操作スキルとして、文字入力やファイルの保存と呼び出し、インターネットへの接続などは前もってできるようになっておきましょう。 ②毎回の授業の後、復習として授業内容のポイントをノート 1 枚程度に自分でまとめてみましょう。中間テストや総括テストの資料になります。わからないところがあれば教科書で確認したり、科目担当者に質問しましょう。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー（神戸山手 2 号館 2 階 210 室）：火 昼休み 学修支援センターオフィスアワー（神戸山手 1 号館 2 階ラーニングコモンズ）：水 昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ・授業の進め方 ・表とグラフの基本と書き方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 2 回	変数と尺度 ・変数と尺度の種類を知る ・アンケートに回答してみる ・質問項目を考えてみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 3 回	質的データの集計（1） ・単純集計、クロス集計の方法 ・集計された表の読み方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 4 回	量的データの集計（1） ・階級別度数分布表を作成する ・ヒストグラムを作成して分布の特徴をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 5 回	量的データの集計（2） ・代表値 ・散布度でテータの散らばりを表す	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 6 回	・中間試験【第 1 回から第 5 回の内容】 ・2 つの量的変数の関係（1）	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 7 回	・中間試験の解説 ・2 つの量的変数の関係（2） 散布図と相関係数を使って 2 つの量的変数の相関関係をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 8 回	質的データの集計（2） ピボットテーブルによる単純集計とクロス集計	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 9 回	量的データの集計（3） 分析ツールによる階級別度数分布表とヒストグラムの作成	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 10 回	量的データの集計（4） 分析ツールによる基本統計量の比較	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 11 回	2 つの量的変数の関係（3） 散布図の作成と分析ツールによる相関分析	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 12 回	質的データの集計（3） 複数回答の場合のクロス集計（関数の利用）	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 13 回	総合課題 学んだことを生かして課題に取り組む	課題に取り組む ?PC
第 14 回	総合練習 学んだ内容について総復習を行う。	総括試験にむけて全範囲を総復習する ?PC
第 15 回	総括試験 第 1 回から第 14 回までの全範囲。PC の持込不可。電卓持込可。	この科目で学んだことを振り返る

1.授業コード（ナンバリング）	STA103-Y01	2.科目名	統計学 【国コミ観光】	3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	社会調査士 D 科目			11.先修条件	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、データを定量的に分析するための統計学の基礎知識を修得することを目的とします。具体的には、データの集計と可視化のための基本的手法、代表値や散らばりを表す量、確率の基本定理、集団の推定や検定についての基本的な考え方、などを例題を通して理解し、基本問題を独力で解けるようになることを目指します。 【概要】 出来るだけ実際のデータにふれ、処理をすることで、社会における統計の役割について理解を深めることも目指します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(4)問題発見・解決力、(6)専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①統計学の基本事項を理解し、説明できる。 ②統計学の問題を独力で解くことができる。 ③実際のデータを使った基本的な分析ができる。				
19.教科書・教材	授業内で資料を配布します。				
20.参考文献	授業内に適宜紹介します。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・ワークシート　25 点　　[学習目標①に対応] ・計算課題　30 点　　[学習目標②に対応] ・小テスト　45 点　　[学習目標③に対応]				
22.コメント	授業初回時に、より詳しいスケジュール等を説明しますので、必ず出席してください。				
23.オフィスアワー	毎週木曜日 3 限目：個人研究室 毎週金曜日 3 限目：学修支援室				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション・確率の計算	復習：授業ノートの整理 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 2 回】	ランダム・サンプリングの意義	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 3 回】	確率分布	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 4 回】	確率論の振り返り・小テスト①	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 5 回】	推定の考え方：点推定と区間推定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 6 回】	母集団の推定：中心極限定理	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)

【第 7 回】	母比率の推定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 8 回】	推定の振り返り・小テスト②	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 9 回】	相関係数の区間推定 検定の考え方・無相関の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 10 回】	平均値の差の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 11 回】	母比率の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 12 回】	クロス表の統計量・独立性の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 13 回】	検定の振り返り・小テスト③	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 14 回】	変数の統制と偏相関係数	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 15 回】	データの予測と回帰分析	復習：授業ノートの整理、課題作成

1.授業コード（ナンバリング）	STA201-A01	2.科目名	ビジネス統計学	3.単位数	4
4.授業担当教員	陳那森				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 統計学は、データを利用して事実を把握したり、推測したりする方法を体系的に学ぶ学問であり、様々な分野で活用されている。本授業では、特にビジネスに関連するデータを取り扱いながら、統計学の基本的な概念を理解するとともに、統計的なものの見方、データの整理の仕方、基礎的な分析手法を身につけることを目的とする。 【概要】 この授業の前半では、記述統計的分析手法について学習し、データのまとめ方、読み取り方を習得する。後半では、推計統計的分析手法を扱い、身近な統計データを用いながら、推定問題と統計的仮説検定の				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキルと関連します。 ①多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を集めることができる ②データの処理（加工）・分析ができる ③客観的データを用いて自らの主張を行うことができる				
19.教科書・教材	経営・商学のための統計学入門 直感的な例題で学ぶ、竹内 広宜（著）、講談社（2021/9/24） ISBN-10：4065251613				
20.参考文献	書名：「ゼロからの統計学　－使えるシーンが見える－」　著者：竹田茂生・藤木清 発行：くろしお出版　　発行年：2010 年 4 月				
21.成績評価	１．ワークシートと Excel 作業ファイルの提出：24％（学習目標②） ※合格基準：すべての提出物の提出 ２．基礎的な統計分析の理解：ワークシート 12 回　36％（学習目標②） ※合格基準：正答率 70%以上 ３．最終課題：40％（学習目標①＋③） ※合格基準：データに基づくオリジナル案の提出				
22.コメント	★授業時間外学修 授業 1 コマ当たり、2 時間の時間外学修（復習、予習）を行うことが求められます。 メディアライブラリー等を活用しながら充実した時間を持ちましょう。 ★　全ての回で PC を持参する必要があります。				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　（水曜）昼休み 研究室オフィスアワー　（金曜）4 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	本科?の概要と?的，到達?標，全体の流れなどの説明 はじめに――統計学の役割と本書の構成 データ分析に使うソフト Excel の設定の確認	☆提出：授業中操作結果ファイル 〇テキスト 0 章の復習と 1 章の予習
【第 3 回】 【第 4 回】	第 I 部　データの全体像をつかむ 第 1 章　データの可視化――数字の羅列をグラフにしよう	授業中操作結果ファイル 〇テキスト 1 章の復習と 2 章の予習 〇宿題：ワークシート 1（4 時間）

	1.1 グラフの描画 1.2 グラフ作成の注意点と対数目盛	
【第 5 回】 【第 6 回】	第 I 部　データの全体像をつかむ 第 2 章 度数分布表・ヒストグラム――データの分布を可視化しよう 2.1 集計 2.2 度数分布表とヒストグラムのつくり方	☆提出：ワークシート 1 授業中操作結果ファイル 〇テキスト 2 章の復習と 3 章の予習 〇宿題：ワークシート 2（4 時間）
【第 7 回】 【第 8 回】	第 I 部　データの全体像をつかむ 第 3 章　代表値・分散――データ全体の特徴を数字で表そう 3.1 代表値 3.2 分散	☆提出：ワークシート 2 授業中操作結果ファイル 〇テキスト 3 章の復習と 4 章の予習 〇宿題：ワークシート 3（4 時間）
【第 9 回】 【第 10 回】	第 I 部　データの全体像をつかむ 第 4 章 散布図・相関係数――2 つの変数を同時に扱おう 4.1 2 次元データ 4.2 散布図 4.3 相関係数 4.4 相関係数の解釈	☆提出：ワークシート 3 授業中操作結果ファイル 〇テキスト 4 章の復習と 5 章の予習 〇宿題：ワークシート 4（4 時間）
【第 11 回】 【第 12 回】	第 I 部　データの全体像をつかむ 第 5 章 単回帰分析――2 変数の関係を定式化しよう 5.1 最小 2 乗法と単回帰分析 5.2 回帰直線にもとづく予測	☆提出：ワークシート 4 授業中操作結果ファイル 〇テキスト 5 章の復習と 6 章の予習 〇宿題：ワークシート 5（4 時間）
【第 13 回】 【第 14 回】	第 I 部　データの全体像をつかむ 第 6 章 重回帰分析――複数の説明変数で目的変数を表そう 6.1 重回帰分析 6.2 重相関係数と決定係数 6.3 多重共線性	☆提出：ワークシート 5 授業中操作結果ファイル 〇テキスト 6 章の復習と 7 章の予習 〇宿題：ワークシート 6（4 時間）
【第 15 回】 【第 16 回】	第 II 部　観測されたデータの起こりやすさを測る 第 7 章　確率の定義と場合の数――確率的な現象を 3 種類の場合の数で表そう 7.1 確率の定義 7.2 場合の数 7.3 場合の数を用いた確率の計算	☆提出：ワークシート 6 授業中操作結果ファイル 〇テキスト 7 章の復習と 8 章の予習 〇宿題：ワークシート 7（4 時間）
【第 17 回】 【第 18 回】	第 II 部　観測されたデータの起こりやすさを測る 第 8 章　事象の関係と確率の計算――計算を楽ちんにする事象のとらえ方を知ろう 8.1 事象の関係 8.2 確率の基本的性質 8.3 余事象の関係を用いた確率の計算	☆提出：ワークシート 6 授業中操作結果ファイル 〇テキスト 8 章の復習と 10 章の予習 〇宿題：ワークシート 7（4 時間）
【第 19 回】 【第 20 回】	第 III 部　観測されたデータの背景を知る 第 10 章 確率変数、確率分布、期待値 10.1 確率変数 10.2 確率分布 10.3 期待値	☆提出：ワークシート 7 授業中操作結果ファイル 〇テキスト 10 章の復習と 11,12 章の予習 〇宿題：ワークシート 8（4 時間）

	10.4 分散	
【第 21 回】 【第 22 回】	第 III 部　観測されたデータの背景を知る 第 11 章 代表的な離散分布：二項分布 11.1 二項分布 11.2 二項分布の期待値・分散 第 12 章 代表的な連続分布①：正規分布 12.1 正規分布 12.2 任意の正規分布の確率を求める	☆提出：ワークシート 8 授業中操作結果ファイル 〇テキスト 11,12 章の復習と 13,14 章の予習 〇宿題：ワークシート 9（4 時間）
【第 23 回】 【第 24 回】	第 III 部　観測されたデータの背景を知る 第 13 章 代表的な連続分布②：カイ 2 乗分布と t 分布 13.1 カイ 2 乗分布(1)――カイ 2 乗統計量とは 13.2 カイ 2 乗分布(2)――分割表を使う考え方 13.3 t 分布 第 IV 部　データの背後にある確率分布を推測する 第 14 章 標本調査と標本からの推定 14.1 標本調査とは 14.2 大数の法則・中心極限定理	☆提出：ワークシート 9 授業中操作結果ファイル 〇テキスト 13,14 章の復習と 15 章の予習 〇宿題：ワークシート 10（4 時間）
【第 25 回】 【第 26 回】	第 IV 部　データの背後にある確率分布を推測する 第 15 章 区間推定 15.1 区間推定の考え方(1)――分散が既知の正規分布の平均を推定する 15.2 区間推定の考え方(2)――分散が未知の正規分布の平均を推定する	☆提出：ワークシート 10 授業中操作結果ファイル 〇テキスト 15 章の復習と 16 章の予習 〇宿題：ワークシート 11（4 時間）
【第 27 回】 【第 28 回】	第 IV 部　データの背後にある確率分布を推測する 第 16 章 仮説検定 16.1 仮説検定の考え方 16.2 t 検定 16.3 カイ 2 乗検定（適合度検定）	☆提出：ワークシート 11 授業中操作結果ファイル 〇テキスト 1-16 章の復習 〇宿題：ワークシート 12（4 時間）
【第 29 回】 【第 30 回】	・総括試験 ・学習振り返りアピールシートの作成	☆提出：ワークシート 12 授業中操作結果ファイル 〇総括試験 ・学習振り返りアピールシートの提出

1.授業コード（ナンバリング）	STA201-M01	2.科目名	ビジネス統計学	3.単位数	4
4.授業担当教員	広沢俊宗				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	昨今、ビジネスの現場では、統計の読み方、および統計から事実を読み取ることが求められる。この授業では記述統計的分析手法を中心に学習したのち、実際に EXCEL などを用いて、データのまとめ方、読み取り方を習得する。さらに、実際に経済・経営に関連する統計データを用いて分析する方法を習得する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を集め、要点を整理し保存することができる ②データの収集方法を理解し、収集したデータの処理（加工）・分析ができる ③客観的データを用いて自らの主張を行なうことができる ④「統計で嘘をつく」、「統計に騙される」というリスクを低減させることができる				
19.教科書・教材	書名：「ゼロからの統計学　－使えるシーンが見える－」　著者：竹田茂生・藤木清 発行：くろしお出版　　発行年：2010 年 4 月				
20.参考文献					
21.成績評価	１．ワークシート：３０％　→学習目標①②③④に対応 ２．中間テスト　：３０％　→学習目標①②③④に対応 ３．最終レポート　：４０％　→学習目標①②④に対応				
22.コメント					
23.オフィスアワー	講師控室（火曜日・昼休み）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】SA 【第 2 回】SA	オリエンテーション 表とグラフの表現 1 ・基本的な表・グラフのマナー	☆提出：ワークシート 1 〇テキスト 1 章の復習と 3 章の予習 〇宿題：ワークシート 2　（2 時間）
【第 3 回】SA 【第 4 回】SA	変数と尺度 ・質的変数と量的変数 ・4 つの尺度を知る ・「生活やイベントに関するアンケート」に答える 質的データの集計 1 ・単純集計・クロス集計の方法を知る	☆提出：ワークシート 2、3－1 〇テキスト 3、4、5 章の復習と 6、7 章の予習 〇宿題：ワークシート 4（手集計）　（4 時間）
【第 5 回】SA 【第 6 回】SA	量的データの集計 1 ・ヒストグラムの作成 ・代表値の話	☆提出：ワークシート 4 〇テキスト 6，7 章の復習と 8，9 章の予習（4.5 時間）
【第 7 回】SA 【第 8 回】SA	量的データの集計 2 ・散布度の話 2 変数の関係をみる 1 ・散布図と相関係数	〇テキスト 1～9 章の復習と１０章の予習（4.5 時間）

【第 9 回】SA 【第 10 回】 SA	2 変数の関係をみる 2 ・相関から回帰へ 確認試験 1	○テキスト 9，１０章の復習　（4.5 時間）
【第 11 回】 SA 【第 12 回】 SA	表とグラフの表現 2 ・Excel による表・グラフの表現 質的データの集計 3 ・データダウンロード ・ピボットテーブルを使った集計	○テキスト 1，2，3，4，5 章の復習 ○宿題：ワークシート 5　（4.5 時間） ◆ノート PC◆
【第 13 回】 SA 【第 14 回】 SA	質的データの集計 4 ・ピボットテーブルによる集計とグラフ表現 量的データの集計 3 ・Excel で基本統計量を算出する ・Excel でヒストグラムを作成する	☆提出：ワークシート 5 ○テキスト第 5，6，7，8 章の復習 ○宿題：ワークシート 6、7、8　（4.5 時間） ◆ノート PC◆
【第 15 回】 SA 【第 16 回】 SA	量的データの集計 4 ・2 群のデータを比較する 2 変数の関係をみる 3 ・Excel による散布図の作成と相関行列の算出 ・散布図に回帰直線をひく	☆提出：ワークシート 6，7，8 ○宿題：ワークシート 9、１０ ○テキスト 1～１０章の復習　（4.5 時間） ◆ノート PC◆
【第 17 回】 SA 【第 18 回】 SA	2 変数の関係をみる ・分析ツールによる回帰分析 ・確認テスト 2	☆提出：ワークシート 9、１０ ○宿題：ワークシート１１ ○テキスト１１章の復習とブランディングに関する事例検索　（4.5 時間） ◆ノート PC◆
【第 19 回】 SA 【第 20 回】 SA	企業ブランディング調査 1 ・調査票の作成 ・調査の実施	☆提出：ワークシート１１ ○データ入力　（4.5 時間） ◆ノート PC◆
【第 21 回】 SA 【第 22 回】 SA	企業ブランディング調査 2 ・データの基礎的な集計	○データの集計　（4.5 時間） ◆ノート PC◆
【第 23 回】 SA 【第 24 回】 SA	企業ブランディング調査 3 ・分析と結果のまとめ	○レポート 1　（4.5 時間） ◆ノート PC◆
【第 25 回】 SA 【第 26 回】 SA	模擬店プランの作成 1 ・データにもとづいて、ターゲット、コンセプト、マーケティングミックス（4P）を考える	☆提出：レポート 1 ○データの探索と企画案を考える　（4.5 時間） ◆ノート PC◆
【第 27 回】 SA 【第 28 回】 SA	模擬店プランの作成 2 ・データ分析の結果から企画案をブラッシュアップする	○レポート 2　（4.5 時間） ◆ノート PC◆
【第 29 回】 SA 【第 30 回】	模擬店プランの作成 ・企画案を報告する 総括	☆提出：レポート 2 ◆ノート PC◆

SA		

1.授業コード（ナンバリング）	STA201-Y51	2.科目名	ビジネス統計学 （英コミ）	3.単位数	4
4.授業担当教員	宗田好史				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択科目	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3 回生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件	観光政策論を受講していること		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	観光に関する統計を知り、経営・経済データに加えて経済統計を適切に理解し、正しく読み取る力を養います。統計学の基礎知識を学び、統計を正しく利用できること原始めます。統計学の基礎となる概念を知ります。この基礎理論の理解に加えて、理論に沿った分析手法を実際に使いこなせるようになることに重点を置いて授業を行ないます。そこで基礎理論のレクチャーの後、実際に練習問題に取り組んでもらいます。 この授業では、観光統計を中心に扱い、観光地の宿泊、飲食、小売等の関連事業所に関わる事業所統計を中心に学びます。経年変化を追い				
18.学習目標とＤＰとの関連	学習目標と ＤＰとの関連　　【身につく力】:「知識・理解」「論理的思考力・分析力」「問題解決力」				
19.教科書・教材	別途指示します。				
20.参考文献	宗田好史『にぎわいを呼ぶイタリアのまちづくり 歴史的景観の再生と商業政策』学芸出版社 2000 宗田好史『創造都市のための観光振興 小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社 2009 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか 市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社 2012 宗田好史『インバウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社 2020				
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話ししたこと、配付したスライドをよく理解していること。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜 3 コース（研究室/3-308)、水曜 1 コース(学修支援センター)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	
【第 2 回】	観光統計の国際比較(1)：国連統計と各国統計、WTO の予測、関連する統計の見方	
【第 3 回】	観光統計の国際比較(2)：WTO の予測を地域別、出発地別に読む	
【第 4 回】	日本の観光統計：観光統計の蓄積と欠陥、問題点を探る	
【第 5 回】	日本の観光統計(2)：観光庁の統計政策、新しい統計で何が見えてきたか？	
【第 6 回】	日本の観光統計：都道府県の統計、市町村の統計、観光施設に依存する統計と交通機関から得られるデータの比較	
【第 7 回】	観光統計、変動の特性：分析を進め、増減だけでなく質的な転換を知る	
【第 8 回】	異集団データの比較(1)：標準化	

【第 9 回】	異集団データの比較(2)：標準化と異集団データの比較	
【第 10 回】	異集団データの比較(3)：定率・定量変化	
【第 11 回】	観光の経済効果の分析(1)：成長率、物価上昇率	
【第 12 回】	観光の経済効果の分析(2)：交通統計との比較	
【第 13 回】	観光の経済効果の分析(3)：統計による政策立案、マーケットの変化を読む	
【第 14 回】	観光ビジネスで生きる統計分析とデータの利用	
【第 15 回】	まとめ ※上記は目安としての標準的な授業計画です。実際はクラスの進展度等により変更されます。	

1.授業コード（ナンバリング）	STA201-Y52	2.科目名	ビジネス統計学 （観光）	3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択科目	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3 回生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件	観光政策論を受講していること		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	観光に関する統計を知り、経営・経済データに加えて経済統計を適切に理解し、正しく読み取る力を養います。統計学の基礎知識を学び、統計を正しく利用できること原始めます。統計学の基礎となる概念を知ります。この基礎理論の理解に加えて、理論に沿った分析手法を実際に使いこなせるようになることに重点を置いて授業を行ないます。そこで基礎理論のレクチャーの後、実際に練習問題に取り組んでもらいます。 この授業では、観光統計を中心に扱い、観光地の宿泊、飲食、小売等の関連事業所に関わる事業所統計を中心に学びます。経年変化を追い				
18.学習目標とＤＰとの関連	学習目標と ＤＰとの関連　　【身につく力】:「知識・理解」「論理的思考力・分析力」「問題解決力」				
19.教科書・教材	別途指示します。				
20.参考文献	宗田好史『にぎわいを呼ぶイタリアのまちづくり 歴史的景観の再生と商業政策』学芸出版社 2000 宗田好史『創造都市のための観光振興 小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社 2009 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか 市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社 2012 宗田好史『インバウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社 2020				
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話ししたこと、配付したスライドをよく理解していること。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜 3 コース（研究室/3-308)、水曜 1 コース(学修支援センター)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	
【第 2 回】	観光統計の国際比較(1)：国連統計と各国統計、WTO の予測、関連する統計の見方	
【第 3 回】	観光統計の国際比較(2)：WTO の予測を地域別、出発地別に読む	
【第 4 回】	日本の観光統計：観光統計の蓄積と欠陥、問題点を探る	
【第 5 回】	日本の観光統計(2)：観光庁の統計政策、新しい統計で何が見えてきたか？	
【第 6 回】	日本の観光統計：都道府県の統計、市町村の統計、観光施設に依存する統計と交通機関から得られるデータの比較	
【第 7 回】	観光統計、変動の特性：分析を進め、増減だけでなく質的な転換を知る	
【第 8 回】	異集団データの比較(1)：標準化	

【第 9 回】	異集団データの比較(2)：標準化と異集団データの比較	
【第 10 回】	異集団データの比較(3)：定率・定量変化	
【第 11 回】	観光の経済効果の分析(1)：成長率、物価上昇率	
【第 12 回】	観光の経済効果の分析(2)：交通統計との比較	
【第 13 回】	観光の経済効果の分析(3)：統計による政策立案、マーケットの変化を読む	
【第 14 回】	観光ビジネスで生きる統計分析とデータの利用	
【第 15 回】	まとめ ※上記は目安としての標準的な授業計画です。実際はクラスの進展度等により変更されます。	

1.授業コード（ナンバリング）	STA202-Y02	2.科目名	統計学 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	藤木清				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	社会調査士（2021 年度以前生）	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 統計及び統計的分析手法は、心理学をはじめ、社会学、保健衛生、経営学など、さまざまな学問分野で活用されています。また、社会においてもさまざまな職業で広く活用されています。統計学の基本的な考え方を理解し、統計的手法を習得することは、学習や研究のみならず、仕事においても大いに役立ちます。本講義では、特に推測統計的分析の基礎を理解し、習得することを目的とします。 【概要】 本講義では、統計学 I で学んだ基礎を活かして、推測統計的分析の理解に必要な背景知識を学びます。具体的には、確率、確率変数、確率分布				
18.学習目標と ＤＰとの関連	この科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の「問題発見・解決力」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 ①推測統計的分析手法を使用するための基礎的知識を活用できる。主な項目は以下の通り。 ・確率変数と確率分布 ・標準化 ・正規分布および正規分布表の活用 ②推測統計的分析手法の理論的背景を理解し説明できる。主な項目は以下の通り。 ・中心極限定理 ・不偏性と一致性（大数の法則） ・統計的仮説検定の 2 種類の誤り ③推測統計的分析手法（母平均の区間推定、平均に関する仮説検定）を利用することができる。				
19.教科書・教材	プリントを配付する。				
20.参考文献	★山田 剛史, 村井 潤一郎 著『よくわかる心理統計（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』ミネルヴァ書房(2004/09) ISBN 4623039994 ★鳥居泰彦 著『はじめての統計学』日本経済新聞社（1994/11) ISBN4532130743				
21.成績評価	確認問題(ほぼ毎回） 30 点（学習目標①） 課題(前半と後半の 2 回） 20 点（学習目標①＋③の一部） 総括試験(第 15 回目） 50 点（学習目標②と③） ※この科目の単位修得の目安として、確認問題の 6 割以上の提出、課題を 2 回とも提出、総括試験の 6 割以上の成績が必要です。				
22.コメント	1)この科目は社会調査士の資格に対応した科目です。 2)すべての授業でノート PC を使用するので、必ず、充電のうえ持参すること。 3）この科目は「統計学 I 」の発展科目です。受講する前に統計学 I の内容を復習しましょう。 4）この科目の関連科目として、実際にデータを収集して SPSS や EXCEL などでデータ分析を行うような科目を受講すると理解が深まるでしょう。 5）推測統計的分析を習得するためには、知識を一つ一つ積み上げていくことが必要です。わか				

	らないまま放っておかないようにしましょう。 ※復習の仕方の一例として、毎回の授業で資料として提示されたものを自分で咀嚼（そしゃく）し、ポイントになることを A4 用紙 1 枚程度にまとめましょう。資料で分からないことは、教科書や参考書も参照しましょう。　→総括試験での資料として役立ちます。
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー（神戸山手 2 号館 2 階 210 室）：火 昼休み 学修支援センターオフィスアワー（神戸山手 1 号館 2 階ラーニングコモンズ）：水 昼休み

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	統計学の基礎 ・記述統計的分析のおさらい ・推測統計的分析の全体像 事象	○記述統計的分析との違いに注意しながら、推測統計的分析手法の全体像を復習する。 （目安：2 時間）
第 2 回	確率 ・基本的な確率の概念及び性質を学ぶ	○確率の概念を復習する ○確認問題 1 ＝確率を求める　（目安：2 時間）
第 3 回	確率変数と確率分布（1） ・離散型確率変数と離散型確率分布の概念を理解する ・標準化の概念を理解する	○離散型確率変数と確率分布、および標準化について復習する。 ○確認問題 2 ＝標準化の事例 （目安：2 時間）
第 4 回	確率変数と確率分布（2） ・連続型確率変数と連続型確率分布の概念を学ぶ ・代表的な連続型確率分布である正規分布を知る	○連続型の確率変数と確率分布、特に正規分布について復習する。 ○確認問題 3 ＝正規分布の特徴 （目安：2 時間）
第 5 回	正規分布の活用（1） ・正規分布に従う確率変数の確率の求め方を知る	○正規分布表を用いて、確率を求める方法を復習する。 ○確認問題 4 ＝正規分布表の活用法 （目安：2 時間）
第 6 回	正規分布表の活用（2） ・確率からパーセント点を求める方法を知る	○正規分布表を用いてパーセント点を求める復習 （目安：2 時間） ○課題 1 ：正規分布表を用いて確率やパーセント点を求める課題 （目安：3 時間）
第 7 回	標本分布（1） ・母集団と標本の違いを理解する ・標本平均の性質を理解する	○母集団と標本の概念、標本平均に関する性質について復習する。 ○確認問題 5 ＝標本平均の性質 （目安：2 時間）
第 8 回	標本分布（2） ・大数の法則の概要を知る ・中心極限定理の性質を知る ・ t 分布の性質と読み方を知る	☆提出：課題 1 ○大数の法則及び中心極限定理の概念及び、t 分布表の見方を復習する。 ○確認問題 6 ＝ t 分布表の活用法

		（目安：2 時間）
第 9 回	推定（１） ・推定の種類を理解する ・点推定の方法を理解する ・母平均に関する区間推定の方法（母分散が既知の場合）を理解する	○母平均、母分散の点推定、および母平均の区間推定の方法を復習する。 ○確認問題７＝点推定と母平均に関する区間推定 （目安：2 時間）
第 10 回	推定（２） ・母平均に関する区間推定の方法（母分散が未知の場合）を理解する	○母平均に関する区間推定の復習 （目安：2 時間） ○課題２：母平均に関する区間推定を行う課題 （目安：3 時間）
第 11 回	統計的仮説検定（１） ・母平均の検定（母分散が既知の場合）の方法を知る	○統計的仮説検定の概要と母平均の検定について復習する。 ○確認問題８＝母平均の検定に関する問題（母分散が既知） （目安：2 時間）
第 12 回	統計的仮説検定（２） ・２種類の過誤を理解する ・母平均の検定（母分散が未知の場合）を理解する	☆提出：課題２ ○統計的仮説検定における２種類の過誤、および母平均の検定について復習する。 ○確認問題９＝母平均の検定に関する問題（母分散が未知） （目安：2 時間）
第 13 回	検定の応用 ・母比率に関する検定の方法を知る	○母比率の検定の概要と方法を復習する。 ○確認問題１０＝母比率の検定に関する問題 （目安 2 時間）
第 14 回	ふりかえり ・この授業で学んだことをおさらいする	○全体を通して復習する。　（目安：4 時間）
第 15 回	総括試験（対面試験） ※感染症の状況によっては、レポートに変更することがあります。	

1.授業コード（ナンバリング）	STA205-Y01	2.科目名	社会統計学			3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也						
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学科				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	社会調査士 D 科目			11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、データを定量的に分析するための統計学の基礎知識を修得することを目的とします。具体的には、データの集計と可視化のための基本的手法、代表値や散らばりを表す量、確率の基本定理、集団の推定や検定についての基本的な考え方、などを例題を通して理解し、基本問題を独力で解けるようになることを目指します。 【概要】 出来るだけ実際のデータにふれ、処理をすることで、社会における統計の役割について理解を深めることも目指します。						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(4)問題発見・解決力、(6)専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①統計学の基本事項を理解し、説明できる。 ②統計学の問題を独力で解くことができる。 ③実際のデータを使った基本的な分析ができる。						
19.教科書・教材	授業内で資料を配布します。						
20.参考文献	授業内に適宜紹介します。						
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・ワークシート　25 点　　[学習目標①に対応] ・計算課題　30 点　　[学習目標②に対応] ・小テスト　45 点　　[学習目標③に対応]						
22.コメント	授業初回時に、より詳しいスケジュール等を説明しますので、必ず出席してください。						
23.オフィスアワー	毎週木曜日 3 限目：個人研究室 毎週金曜日 3 限目：学修支援室						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション・確率の計算	復習：授業ノートの整理 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 2 回】	ランダム・サンプリングの意義	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 3 回】	確率分布	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 4 回】	確率論の振り返り・小テスト①	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 5 回】	推定の考え方：点推定と区間推定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 6 回】	母集団の推定：中心極限定理	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)

【第 7 回】	母比率の推定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 8 回】	推定の振り返り・小テスト②	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 9 回】	相関係数の区間推定 検定の考え方・無相関の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 10 回】	平均値の差の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 11 回】	母比率の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 12 回】	クロス表の統計量・独立性の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 13 回】	検定の振り返り・小テスト③	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 14 回】	変数の統制と偏相関係数	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 15 回】	データの予測と回帰分析	復習：授業ノートの整理、課題作成

1.授業コード（ナンバリング）	STM101-A01	2.科目名	データサイエンス	3.単位数	2
4.授業担当教員	陳那森				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年春
10.取得資格の要件		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的： 近年、IoT・AI・機械学習などの新しい情報技術の発達により，データ駆動を特徴とするディジタル時代が到来し，経済、社会、および日常生活のより多くの側面がデータに依存するようになっている。そのため、データサイエンスは、科学と産業に同様に革命を起こす分野として浮上しており、今後のビッグデータ社会において，職業人にとって欠かせない基礎的素養となる。この科目はデータ思考の涵養（かんよう）として，社会におけるデータ・AI 利活用，データリテラシー、データ・AI 利活用における留意事項などを学習する。 概要：				
18.学習目標とＤＰとの関連	1．データ・AI によって起きている、社会および日常生活の中の変化について説明できる。 2．データ・AI 活用領域の広がりに関連づけて、データサイエンスの役割を説明できる。 3．データ・AI 利活用の現場、および利活用のための技術、最新動向について説明できる。 4．「データを読む、説明する、扱う」に関する基本的な概念と方法について理解している。 5．データ・AI を扱う上での留意事項とデータを守る上での留意事項について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発見・解決力（6）専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	教科書：『教養としてのデータサイエンス』（北川源四郎／竹村彰通・編　内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之 ／丸山宏・著， 講談社サイエンティフィク） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。				
20.参考文献	参考書：『データサイエンス入門　第 2 版』（竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編，学術図書出版社） AI データサイエンスリテラシー入門、吉岡剛志，森倉悠介，小林領，照屋健作　著、技術評論社、ISBN 978-4-297-13042-8				
21.成績評価	小テスト：10 回 X4＝40 点　【学習?標①～⑤に対応】 課　題：　10 回 X5＝50 点　【学習?標①～⑤に対応】 アピールシート：1 回 X10＝10 点　【学習?標①～⑤に対応】				
22.コメント					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー　（水曜）昼休み 研究室オフィスアワー　（金曜）4 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	イントロダクション ・科?の概要と?的，到達?標，全体の流れなどの説明 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 ・事前アンケート	
第 2 回	社会でおきている変化（1） 1.1.1 ビッグデータ	配付資料・トピック動画

	1.1.2 検索エンジンと SNS	小テスト① 課題①
第 3 回	1.1 社会でおきている変化（2） 1.1.3 第 4 次産業革命 1.1.4 AI の驚異的発達 1.1.5 人間の知的活動と AI	配付資料・トピック動画 小テスト② 課題②
第 4 回	社会で活用されているデータ 1.2.1 データの種類 1.2.2 データの所有者 1.2.3 構造化データと非構造化データ 1.2.4 自動翻訳	配付資料・トピック動画 小テスト③ 課題③
第 5 回	データと AI の活用領域 1.3.1 事業活動におけるデータ・AI 活用の広がり 1.3.2 活用目的ごとのデータ・AI 活用の広がり	配付資料・トピック動画 小テスト④ 課題④
第 6 回	1.4 データ・AI 利活用のための技術(1) 1.4.1 誰もが無意識にデータを解析して生きている 1.4.2 さまざまなデータ解析　―予測 1.4.3 さまざまなデータ解析　―グルーピングとクラスタリング 1.4.4 さまざまなデータ解析　―発見 1.4.5 データ解析の関連話題	配付資料・トピック動画 小テスト⑤ 課題⑤
第 7 回	1.4 データ・AI 利活用のための技術(2) 1.4.6 非構造化データ処理 1.4.7 データ可視化 1.4.8 パターン認識技術 1.4.9 人工知能	配付資料・トピック動画 前半（2～7）の振り返り KPT シート① Q＆A：掲示板：相互レビュー
第 8 回	1.5 データ・AI 活用の現場 1.5.1 データ分析による意思決定 1.5.2 情報技術による自動化 1.5.3 データ分析・自動化の実際 1.5.4 組織的考慮点	配付資料・トピック動画 小テスト⑥ 課題⑥
第 9 回	1.6 データ・AI 利活用の最新動向 1.6.1 AI 等を活用した新しいビジネスモデル 1.6.2 AI 最新技術の活用例	配付資料・トピック動画 小テスト⑦ 課題⑦
第 10 回	2.1 データを読む 2.1.1 データの種類 2.1.2 データの分布と代表値 2.1.3 代表値の性質の違い 2.1.4 データのばらつき 2.1.5 観測データに含まれる誤差の扱い 2.1.6 打ち切りや脱落を含むデータ，層別の必要なデータ 2.1.7 相関と因果性	配付資料・トピック動画 小テスト⑧ 課題⑧

	2.1.8 母集団と標本抽出 2.1.9 クロス集計表，相関係数行列，散布図行列 2.1.10 統計情報の正しい理解	
第 11 回	2.2 データを説明する 2.2.1 データの表現 2.2.2 データの図解表現 2.2.3 データの比較 2.2.4 不適切なグラフ表現 2.2.5 優れた可視化の例 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑨ 課題⑨
第 12 回	2.3 データを扱う 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑩ 課題⑩
第 13 回	3.1 データ・AI を扱う上での留意事項 3.1.1 ELSI 3.1.2 一般データ保護規則：GDPR 3.1.3 十分性認定 3.1.4 AI 倫理 3.1.5 AI 脅威論 3.1.6 ブラックボックス化 3.1.7 説明可能性 3.1.8 アカウンタビリティ，透明性，トラスト 3.1.9 公平性 3.1.10 データ・AI 活用における負の事例紹介--データの悪用・目的外利用 3.1.11 データ・AI 活用における負の事例紹介--フラッシュクラッシュ	配付資料・トピック動画 後半（8～12）の振り返り KPT シート② Q＆A：掲示板：相互レビュー
第 14 回	3.2 データを守る上での留意事項 3.2.1 データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシー 3.2.2 データサイエンスと情報セキュリティ 3.2.3 データサイエンスとプライバシー	配付資料・トピック動画 13，14 回の「心得」部の学習内容に関する感想
第 15 回	学習振り返りアピールシート作成 学習成果と今後の DS 活用の可能性についてアピールする文書を作成	総括 アピールシート

1.授業コード（ナンバリング）	STM102-Y01	2.科目名	データサイエンス入門	3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年春
10.取得資格の要件	DS 教育プログラムの必修科目 学科必修科目	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的： 近年のビッグデータや AI 技術の発展により、データ駆動型社会が到来しています。データへの依存度が高まる中、データサイエンスはビジネス、政策、社会サービスなど様々な分野で重要な役割を果たしています。データサイエンスは、科学と産業に革新をもたらす分野として注目されており、ビッグデータ社会においては職業人に不可欠なスキルとなっています。この科目は、データ思考を育むことを目的としており、社会におけるデータと AI の活用、データリテラシー、そしてデータと AI の活用における注意点などを学びます。 概要： カリキュ				
18.学習目標と ＤＰとの関連	1．データと AI が社会や生活に与える影響を説明できる。 2．データサイエンスの役割と重要性が高まっていることを説明できる。 3．データと AI の実際の利活用事例と最新動向を説明できる。 4．データを読み解く基礎的な概念と方法を理解している。 5．データ・AI 利活用における留意点とデータ保護の重要性を説明できる。 [関連するディプロマポリシー] （4）問題発見・解決力（6）専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	教科書：『教養としてのデータサイエンス』（北川源四郎／竹村彰通・編　内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之 ／丸山宏・著，講談社サイエンティフィク） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。				
20.参考文献	参考書：『データサイエンス入門　第 2 版』（竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編，学術図書出版社）				
21.成績評価	小テスト：10 回 X5＝50 点　【学習?標①～⑤に対応】 課　題：　10 回 X4＝40 点　【学習?標①～⑤に対応】 アピールシート：1 回 X10＝10 点　【学習?標①～⑤に対応】				
22.コメント	授業前日にノート PC の動作確認とバッテリー充電を確実に行ってください。				
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 木曜曜 3 限（神戸山手） 研究室オフィスアワー 木曜日曜昼休み（神戸山手）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 1 回 イントロダクション ・科?の概要と?的，到達?標，全体の流れなどの説明 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 ・事前アンケート	
	第 2 回 社会でおきている変化（1） 1.1.1 ビッグデータ 1.1.2 検索エンジンと SNS	配付資料・トピック動画 小テスト①

		課題①
	第 3 回 社会でおきている変化（２） 1.1.3 第 4 次産業革命 1.1.4 AI の驚異的発達 1.1.5 人間の知的活動と AI	配付資料・トピック動画 小テスト② 課題②
	第 4 回 社会で活用されているデータ 1.2.1 データの種類 1.2.2 データの所有者 1.2.3 構造化データと非構造化データ 1.2.4 自動翻訳	配付資料・トピック動画 小テスト③ 課題③
	第 5 回 データと AI の活用領域 1.3.1 事業活動におけるデータ・AI 活用の広がり 1.3.2 活用目的ごとのデータ・AI 活用の広がり	配付資料・トピック動画 小テスト④ 課題④
	第 6 回　データ・AI 利活用のための技術(1) 1.4.1 誰もが無意識にデータを解析して生きている 1.4.2 さまざまなデータ解析　―予測 1.4.3 さまざまなデータ解析　―グルーピングとクラスタリング 1.4.4 さまざまなデータ解析　―発見 1.4.5 データ解析の関連話題	配付資料・トピック動画 小テスト⑤ 課題⑤
	第 7 回 データ・AI 利活用のための技術(2) 1.4.6 非構造化データ処理 1.4.7 データ可視化 1.4.8 パターン認識技術 1.4.9 人工知能	配付資料・トピック動画 小テスト⑥ 課題⑥
	第 8 回　データ・AI 活用の現場 1.5.1 データ分析による意思決定 1.5.2 情報技術による自動化 1.5.3 データ分析・自動化の実際 1.5.4 組織的考慮点	配付資料・トピック動画 前半（２～7）の振り返り 中間テスト（復習） KPT シート① Q＆A：掲示板：相互レビュー
	第 9 回 データ・AI 利活用の最新動向 1.6.1 AI 等を活用した新しいビジネスモデル 1.6.2 AI 最新技術の活用例	配付資料・トピック動画 小テスト⑦ 課題⑦
	第 10 回　データを読む 2.1.1 データの種類 2.1.2 データの分布と代表値 2.1.3 代表値の性質の違い 2.1.4 データのばらつき 2.1.5 観測データに含まれる誤差の扱い 2.1.6 打ち切りや脱落を含むデータ，層別の必要なデータ 2.1.7 相関と因果性 2.1.8 母集団と標本抽出	配付資料・トピック動画 小テスト⑧ 課題⑧

	2.1.9 クロス集計表，相関係数行列，散布図行列 2.1.10 統計情報の正しい理解	
	第 11 回　データを説明する 2.2.1 データの表現 2.2.2 データの図解表現 2.2.3 データの比較 2.2.4 不適切なグラフ表現 2.2.5 優れた可視化の例 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑨ 課題⑨
	第 12 回 データを扱う 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 課題⑩
	第 13 回 データ・AI を扱う上での留意事項 3.1.1 ELSI と GDPR 3.1.2 AI 倫理と AI 脅威論 3.1.3 ブラックボックス化と説明可能性 3.1.4 アカウンタビリティ，透明性，トラスト、公平性 3.1.5 負の事例学習--データの悪用・目的外利用 3.1.6 負の事例学習--フラッシュクラッシュ	配付資料・トピック動画 後半（8〜12）の振り返り 小テスト⑩
	第 14 回 データを守る上での留意事項 3.2.1 データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシー 3.2.2 データサイエンスと情報セキュリティ 3.2.3 データサイエンスとプライバシー	配付資料・トピック動画 13，14 回の「心得」部の学習内容に関する感想
	第 15 回 学習振り返りアピールシート作成 学習成果と今後の DS 活用の可能性についてアピールする文書を作成	総括 アピールシート

1.授業コード（ナンバリング）	SVL101-Y01	2.科目名	サービスラーニング B（子どもと学ぶ）			3.単位数	2
4.授業担当教員	松井幸太						
5.授業科目の区分	共通教育科目	6.必修・選択の区分	選択必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	全学部・全学科				9.履修学年	全学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件				
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習			
16.履修制限	前向きな姿勢で意欲的に参加できる者 欠席・遅刻連絡ができる者						
17.授業の目的と概要	小学生を対象とした野外活動プログラムに参画し、サポートスタッフとしての経験を積んだ後、最後は自らプログラムを企画・立案し、実施・運営します。具体的な活動内容は、以下の通りです。 経験学修①「ウォーターバトル！」in　ホースランドパーク（エオの森キャンプ場） →ホースランドパーク主催の活動にサポートスタッフとして参加します。参加者の子ども達との関わりを通して、子どもの身体的・心理的・社会的な現状とその背景について学びます。 経験学修②サマースクール「デイキャンプ」in　ホースランドパーク（エオの森キャンプ						
18.学習目標とＤＰとの関連	①子どもの心の動きを感じ取り、子どもの心の揺れ動きに合わせたコミュニケーション能力を身につけることができる。 ②プログラムを円滑に進行していくファシリテーション能力を身につけることができる。 ③自らプログラムを企画し、計画的に進めながら、実践できる主体的な行動力とマネジメント能力を身につけることができる。 ④地域の子ども達における身体的・心理的・社会的問題を発見し、心理学の知恵を活用し、対応策を提案することができる。						
19.教科書・教材	授業内で適宜、紹介する 資料は授業時に配布する						
20.参考文献							
21.成績評価	1. 経験学修①への取り組み　20%　学習目標①②に対応 2. 経験学修①レポート　10%　学習目標①②に対応 3. 体験学習②実施計画書　10%　学習目標③に対応 4. 体験学習②への取り組み　30%　学習目標①②③に対応 5. 体験学習②レポート　10%　学習目標①②③に対応 6. 最終レポート　10%　学習目標④に対応 7. 最終プレゼン　10%　学習目標①②③④に対応						
22.コメント							
23.オフィスアワー	毎週金曜日 12:20-13:10（研究室）						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス・諸注意 事前学習 1 - 1　経験学修①について	
第 2 回－第 3 回	事前学習 1 - 2、1－3 自主企画プログラムの検討	体験学習 1 レポート
第 4 回	事前学習 1－4 自主企画プログラムの検討 現地合同打合せについて	
第 5 - 6 回	現地合同打ち合わせ（ホースランドパーク）	

第 7 回 - 第 10 回	経験学修①　ホースランドぷれいパーク「ウォーターバトル」	
第 11 回 ＿＿＿＿＿ 第 12 回	経験学修①　事後学習 1 ふりかえり ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 事前学習 2 - 1	経験学修①ふりかえりレポート
第 13 回 ＿＿＿＿＿ 第 14 回	事前学習 2 - 2 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 事前学習 2 - 3	
第 15 回 ＿＿＿＿＿ 第 16 回	事前学習 2 - 4 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 事前学習 2 - 5	
第 17 回 ＿＿＿＿＿ 第 18 回	事前学習 2 - 6 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ プレキャンプ	デイキャンプ実施計画書
第 19 回 ＿＿＿＿＿ 第 20 回	プレキャンプ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ プレキャンプ	
第 21 回 ＿＿＿＿＿ 第 22 回	事前学習 2 - 7 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 事前学習 2 - 8	
第 23 回 ＿＿＿＿＿ 第 24 回	経験学修②サマースクール「デイキャンプ」 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 経験学修②サマースクール「デイキャンプ」	
第 25 回 ＿＿＿＿＿ 第 26 回	経験学修②サマースクール「デイキャンプ」 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 経験学修②サマースクール「デイキャンプ」	
第 27 回 ＿＿＿＿＿ 第 28 回	事後学習 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 事後学習	経験学修②ふりかえりレポート
第 29 回 ＿＿＿＿＿ 第 30 回	事後学習 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 事後学習	最終レポート 活動報告プレゼン

1.授業コード（ナンバリング）	SVL101-Y05	2.科目名	サービスラーニング A（幼稚園行事サポート）		3.単位数	1	
4.授業担当教員	田中亜裕子						
5.授業科目の区分	選択	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期～2025 年度 春学期		
8.履修可能な専攻	人間心理学科、心理学科			9.履修学年	全学年		
10.取得資格の要件		11.先修条件					
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※				
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習				
16.履修制限	1．「発達心理学」を受講済あるいは受講中であること。 2．10 月第 1 週～第 3 週と 2 月第 1 週～第 3 週の月～金の 9:30～14:30 の活動時間のうち、1 日 3 時間以上、延 30 時間以上（15 時間以上×2、10 月と 2 月）参加できること。						
17.授業の目的と概要	近年、幼児の育ちと子育てを取り巻く環境については、さまざまな課題が指摘されています。この SL では、幼稚園行事をサポートし子どもと触れ合う体験と文献精読を通して、幼児期の発達段階について学びます。また調べ学習を通して乳幼児期の子育てに関する課題を整理します。そして活動を通して得た経験と知識を統合して、この地域の子育てに大学生が貢献できることについて検討します。						
18.学習目標と ＤＰとの関連	【学習目標】※（　）は関連する DP ①子どもとのかかわりを通して、乳幼児期の発達段階について理解する。 ②乳幼児期の子育てに関する課題を整理することで、この地域の子育て環境の課題を発見する。（課題発見・解決力） ③課題改善のために大学生が貢献しうる活動を提案する。（課題発見・解決力）						
19.教科書・教材							
20.参考文献							
21.成績評価	活動記録①②…20 点× 2（学習目標①） 課題図書レポート…20 点（学習目標①） 林創著「子どもの社会的な心の発達」の各章を読んで新たに知ったことをまとめなさい。また、そこから子どもとの関わりについて考えたことを述べなさい。 最終レポート…20 点（学習目標①②③） 活動報告会準備と発表…20 点（学習目標①②③）						
22.コメント							
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	10 月初旬　活動のご挨拶と日程相談（山手幼稚園)、ガイダンス	
第 2 回~12 回	運動会準備 ※10 月第 1 週～第 3 週で延 15 時間以上 期中学習：10 月中旬	
第 13 回	運動会サポート 10 月末の土日	
第 14,15 回	事後学習 10 月末：活動のふりかえり 11 月初旬：活動のふりかえり	活動記録①（運動会）の提出
第 16 回	事前学習：活動計画	課題図書レポートの提出

	1 月末	
第 17 回～25 回	発表会準備 ※2 月第 1 週～第 3 週で延 15 時間以上	
第 26 回	発表会サポート 2 月中旬	
第 27～30 回	事後学習 ２月末 ３月初旬	活動記録②（発表会）の提出
	活動報告会への参加	プレゼン準備 最終レポートの提出

1.授業コード（ナンバリング）	SVL101-Y09	2.科目名	サービスラーニング A（高齢者特殊詐欺）	3.単位数	1
4.授業担当教員	大松光寿				
5.授業科目の区分	警察分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択必修	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期～秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	心理学科　１年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	サービスラーニングの意義と実施内容等に関する事前学習、県警担当官による特殊詐欺被害の現状、傾向、対策等の講義を受けた後、実態調査を実施して、効果的な対策を検討する。その上で特殊詐欺防止に資する寸劇等を制作し、高齢者に披露して防犯啓発を行う。活動はグループ単位で実施する。 ○　グループ編成　１個班５名程度 ○　形態 ①講義、②実態調査活動、 ③シナリオ・小道具類の作成 ④実演		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】社会問題化している特殊詐欺被害者の大半を占める高齢者に焦点を当て、防犯寸劇を披露して被害防止に資することを目的とします。 【概要】実際の被害事例を学び、専門家の指導を受けて、防犯寸劇を制作・実演し、防犯啓発に役立てる活動を行います。 ①特殊詐欺の発生実態等を各種情報検索により把握する ②県警担当官を招致して実態調査を行う ③高齢者の心に届く寸劇・紙芝居等の制作を行う ④神戸市内の高齢者向け防犯教室において、寸劇等の実演を行う ⑤振り返りの実施 ⑥経験学習発表会への参加				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ)の(1)自律性(2)社会貢献性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています 本科目の学習目標は次のとおりです ?　社会問題化している特殊詐欺の実態を知ることができる・・・・①、④ ?　特殊詐欺の発生実態から様々な問題点を発見の上、主たる被害者である高齢者に対する防犯啓発を行うことができる・・・・④、⑤ ?　高齢者の被害防止という社会貢献を担うことができる・・・・② ?　規範意識を醸成することができる・・・・①				
19.教科書・教材	なし				
20.参考文献	なし				
21.成績評価	①　事前学習及び活動時の取り組み姿勢態度　２０％ ②　寸劇・紙芝居等の制作（共同作成）に当たっての姿態度　３０％ ③　発表にあたっての姿勢態度　３０％ ④　総括振り返りレポート（総括はｅポートフォリオに搭載）　２０％				
22.コメント	真摯に取り組むとともに、ステークホルダー（県警関係部局）や参加メンバーに迷惑をかけな				

	いよう安易に欠席することなく、責任を持って意欲的に参加できる人を求めます。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回～２回	【９月２日　２限】 ○　ガイダンス ・　サービスラーニングについての共通認識ついて ・　班編成とリーダー・サブリーダー等の選出 ・　その他	パソコン持参
第３回	【９月２日　３限,4 限】 ○　グループ討議 ・　発生実態を踏まえ、各グループ毎に情報の整理・分析 ・　発表内容の選定とグループ間の調整 ○　県警担当官による被害実態に関する研修・・・予定	各グループの討議内容に従ってシナリオ案を作成する
第４回～５回	【９月３日　１、２時限】 ○　グルー毎に発表内容（シナリオ）の原案作成 ・配役の決定 ・台本読み合わせ	パソコン持参
第６回～７回	【９月４日　１限、２限】 ○　小道具の作成、寸劇の予行演習等舞台準備	シナリオの熟読、小道具の資材調達
第８回～９回	【９月５日　１限、２限】 ○　寸劇の予行演習等舞台準備	
第 10 回	【９月６日　２時限】 ○　予行演習最終確認	
第 11 回～14 回	・９月１３日頃（未定）　午後２時間程度　兵庫署管内中道婦人会　中道地域福祉センター（中道通４丁目２－８）未定 ・９月 20 日頃（未定）　午後２時間程度　生田署管内北野地域福祉センター（中山手通２丁目 17－18）未定	小道具等の運搬
第 15 回	【９月下旬　実演後】 ○　今回のサービスラーニングを通じての「総括の振り返り」を行い、 ｅポートフォリオに実施結果を搭載する ○　最終報告会の発表資料作成	パソコン、各種記録を持参すること
	【注意事項】 ①　最終日の報告会までに各種作業を完了させる必要	

	があり、進捗状 　況によっては時間延長もあることから、期間中のアルバイト等の個 　人予定は、可能な限り事前調整しておくこと。 ②　短期間に集中したプログラムであることから、健康管理に努め、 　やむを得ない事情がある場合を除いては、欠席しないこと。 ④　より良い「作品」を作るため、各人が考えて知恵を出し、前向 　きな議論を実施すること。	

1.授業コード（ナンバリング）	SVL101-Y10	2.科目名	サービスラーニング A（心・商店街活性化 I ）	3.単位数	1
4.授業担当教員	有吉美恵				
5.授業科目の区分	産業分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～夏学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	心理学科
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	サービスラーニングの意義と実施内容等に関する事前学習、SNS 含む ICT 利用の有用性と危険性に関する講義を受けた後、実態調査を実施して、効果的な方策を検討する。その上で SNS による商店街情報を発信し客足の増加を狙う。 ①講義、②実態調査活動、③情報収集、④実践		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】近年，商店街の若者離れが進んでおり大きな社会問題として認識されている。人が商業施設に惹かれるしくみを産業・消費者心理学の観点から捉え改善案の手がかりをつかむことを目的とする。 【概要】SNS の有用性を用いて商店街の魅力を発信し若者にアピール可能な商店街の在り方を考察する。（商店街への自転車乗り入れ行為の抑制も含む） ①SNS 含む ICT 利用の有用性と危険性について学習する ②元町商店街に訪問し実態調査を行う ③元町商店街に関する情報（魅力を感じる画像など）の収集 ？ ④				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ)の(1)自律性(2)社会貢献性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ？　SNS 利活用について実践し、知識を知ることができる・・・・①、④ ？　様々な問題点を発見し、産業消費者の観点から実践的提案を行うことができる・・・・②、④ ？　現場調査を行うことにより、対話能力を醸成することができる・・・・⑤ ？　地域商店街の集客向上に資する社会貢献を担うことができる・・・・②				
19.教科書・教材	なし				
20.参考文献	なし				
21.成績評価	①　事前学習及び活動時の取組姿勢態度　２０％ ②　情報収集、SNS コンテンツ作成の取組姿勢、態度　３０％ ③　発信実践にあたっての姿勢態度　３０％ ④　総括振り返りレポート（総括は学修ポートフォリオに搭載）　２０％				
22.コメント	真摯に取り組むとともに、ステークホルダー（商店街の商店主や組合）や参加メンバーに迷惑をかけないよう安易に欠席することなく、責任を持って意欲的に参加できる人を求めます。途中で投げ出しそうな人は申し込まないでください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【5 月下旬】 ○　ガイダンス ・　サービスラーニングについての共通認識 ・　課題選定理由の説明と理解促進 ・　班編制とリーダー・サブリーダーの選出 ・　その他	スマートフォン、パソコン、ノート等持参
第 2 ～ 3 回	【6 月初旬】 ○　SNS の効果的な活用に関する調査（情報検索） ○　各人調査内容の発表	スマートフォン、パソコン、ノート等持参
第 4 ～ 5 回	【6 月初旬～中旬】　予定 ○　ICT 利活用に関する講義、指導	スマートフォン、パソコン、ノート等持参
第 6 ～ 8 回	【6 月中旬～ 8 月下旬】 ○　情報収集と発信	スマートフォン、パソコン、ノート等持参
第 9 ～10 回	【8 月下旬】 ○　SNS 発信の効果測定	スマートフォン、パソコン、ノート等持参
第 11～12 回	【9 月上旬】 ○　反省会と振り返り	スマートフォン、パソコン、ノート等持参
第 13～15 回	【経験学習報告会の数日前】 ○　「経験学習報告会」のプレゼン準備 ○　全体総括	パソコン持参 経験学習報告会でのプレゼン資料の作成 統括レポート（学修ポートフォリオ）
報告会	経験学習報告会・・詳細は後日示達	
	①　責任を持って参加し、途中で投げ出さないこと。 ②　ICT 利活用のモラル・マナーを順守すること。 ③　商店街の利用者側・商店主側の視点を持ち、来訪したくなる商店街について日々考え情報収集に励むこ	

	と。	

1.授業コード（ナンバリング）	SVL103-A01	2.科目名	サービスラーニング B(孤食と貧困問題)	3.単位数	2
4.授業担当教員	岩本裕子				
5.授業科目の区分	経験学習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	尼崎市内の民間団体が実施している子どもの居場所支援、とりわけ子どもの学習支援や子ども食堂に参画します。具体的には、以下のとおりです。 ・居場所に来る子どもと関わりをとおして、子ども・家庭の問題とその背景について考えていきます。。 ・居場所の運営に関わるあらゆる業務に携わることを通して、居場所を推進する団体の理念や思想について考えます。 ・大学生として貢献できることを考え、提案し、実行します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	DP との関連：自律性、社会貢献性、問題発見解決力 本授業では、以下の学習目標を設定します。 ・わが国における子どもの社会的な問題（貧困、虐待、ひとり親、非行、不登校、いじめなど）を理解することができる (1)居場所支援についての貢献活動を通して子どもの社会的な問題を客観的に説明することができる。 (2)子どもの社会的な問題と自身の専門分野/学問/事前学習から得られた知識とを関連させることができる。 (3)子どもの社会的な問題を自分事として捉え、解決に向けた意見を出すことができる。				
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。				
20.参考文献	"・阿部彩（2011）『弱者の居場所がない社会-貧困・格差と社会的包摂』講談社現代新書 ・湯浅誠（2017）『「なんとかする」子どもの貧困』角川新書 ・朝山あつこ（2018）『ふつうの主婦が見つけたやる気のエンジンのかけ方』高陵社書店"				
21.成績評価	"■事前学習レポート 20％×2 回・・・・主に目標（１）に対応 ①現代の子どもの社会的問題（貧困、虐待、ひとり親家庭、非行、不登校、いじめ）から１つ取り上げて、実態を整理すること ②子どもの居場所の確保が必要となっている背景と、2000 年代以降の政策動向とを関連付けて整理すること ■ふりかえりシート（日報）：20％・・・主に目標（２）に対応 毎回の活動後に日報を提出する ■事後学習レポート 40％・・・主に目標（３）に対応 事前学習レポート①・②、子どもの居場所支援での活動で得られた体験を踏まえ、以下の点				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	・オリエンテーション（授業の概要）	○授業内容の整理（60）
	・学校現場で生じている子どもの問題①（いじめ）	○授業内容の整理（60）
	・学校現場で生じている子どもの問題②（不登校）	○授業内容の整理（60）
	・地域社会で生じている子どもの問題①（貧困、ひとり親）	○授業内容の整理（60）

	・地域社会で生じている子どもの問題②（非行）	○授業内容の整理（60）
	・子どもの居場所支援に関する学習	○授業内容の整理（60） ○ミニレポートの執筆（120）
	・活動先とのマッチング	★ミニレポート①の提出 6 月末 ○ミニレポートの執筆（120）
	・チームビルディング、活動目標の設定	★ミニレポート②の提出 7 月末
	・現地活動①	○活動日報（90）
	・現地活動②	○活動日報（90）
	・現地活動③	○活動日報（90）
	・現地活動④	○活動日報（90）
	・プレゼンテーション準備	○プレゼンテーション準備（120）
	・プレゼンテーション	○プレゼンのふりかえり（60） ○事後レポートの執筆（120）
	・ふりかえり	

1.授業コード（ナンバリング）	SVL103-A02	2.科目名	サービスラーニング B(社会的孤立問題)	3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太				
5.授業科目の区分	経験学習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	わが国の社会的な問題として、社会的孤立があげられます。困ったときに相談できない、相談する相手がいないといったように、つながりが十分でない状況にある人がいます。とりわけ、家族のつながりも失ったホームレス状態にある人は、路上生活を余儀なくされ、十分な支援も受けられない状況が続いています。大阪市西成区のあいりん地域でフィールドワークを実施し、社会的孤立にどう立ち向かうのかを考えていきます。 ・文献を通して、ホームレス状態にある人の抱える問題とその背景について考えます。 ・大阪市西成区あいりん地域のフィールドワー				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業では、以下の学習目標を設定します。 「わが国における社会的孤立問題の実態を理解し、大学生として貢献できる活動を提案する」 ①ホームレス状態にある人の実態について説明できる ②ホームレス状態にある人が抱える問題について説明できる ③ホームレス状態にある人への支援活動をとおして、社会問題に対する自己の気づきを記述できる ④ホームレス支援の現場で大学生が実践可能な活動を提案できる ⑤ホームレス状態にある人への支援活動をふまえ、教育・福祉の専門的学習を進めるための自己の課題を見出すことができる 本授業は、学位授与方針（DP）の（2）社会的貢献性と（4）問題発見・解決力に関連しています。				
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。				
20.参考文献	適宜資料を配布します				
21.成績評価	■事前学習レポート 30%・・・学習目標①②に対応 ・ホームレス状態にある人の実態および問題について整理する ※1,600 字以上 ■ふりかえりシート（活動日報）：20%・・・学習目標③に対応 ・毎回の活動後に日報を提出する ・ふりかえりシートの記入方法については別途指示する ■事後学習レポート 40%・・・学習目標④⑤に対応 事前学習レポート、ホームレス状態にある人への支援活動をふまえ、以下の点について論じること ①ホームレス状態にある人が安全・安心に地域生活するための課題は何か ②ホームレス支援の現場で				
22.コメント	・活動先は、大阪市西成区あいりん地域になります。コロナ感染症の影響により、活動地域や日程は流動的になります。 ・活動時期は、おおむね 8 月から 9 月を予定しています。現地のフィールドワークにくわえ、炊き出し支援団体の活動に参加します。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	

	・オリエンテーション（授業の概要）	
	・ホームレス状態にある人の実態を理解する	○授業内容の整理（60）
	・活動地域におけるホームレス状態にある人の実態を理解する	○授業内容の整理（60）
	・ホームレス状態にある人が抱える問題について議論する①	○授業内容の整理（60）
	・ホームレス状態にある人が抱える問題について議論する②	○授業内容の整理（60）
	・活動先とのマッチング	○事前学習レポートの執筆（120）
	・チームビルディング、活動目標の設定①	○事前学習レポートの執筆（120）
	・チームビルディング、活動目標の設定②	★事前学習レポートの提出
	・現地活動①	○活動日報（90）
	・現地活動②	○活動日報（90）
	・現地活動③	○活動日報（90）
	・現地活動④	○活動日報（90）
	・現地活動のふりかえり ・プレゼンテーション準備	○プレゼンテーション準備（120）
	・プレゼンテーション	○プレゼンのふりかえり（60） ○事後レポートの執筆（120）
	・ふりかえり	★事後レポートの提出

1.授業コード（ナンバリング）	SVL103-A03	2.科目名	サービスラーニング B(地域子育て支援)			3.単位数	2
4.授業担当教員	馬場住子						
5.授業科目の区分	経験学習	6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件				
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習			
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	【授業の目的と概要】 現代社会においては、少子化・核家族化・都市化が進み、地域における人間関係の希薄化、家庭の教育力の低下などの課題が見受けられる。特に乳幼児の子育てにおいては両親が乳幼児にかかわった経験が少ないことから子育てに悩みをもつことも少なくない。そのため、地域においてはさまざまな子育て支援が行われている。そのような課題や子育て支援の現状を知り、実際の子育て支援の場に参加することを通してどのような子育て支援が望ましいかを考えることを本授業の目的とする。 １．書物や文献を通して、乳幼児をもつ家庭の						
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業では、以下の学習目標を設定します。 「わが国における乳幼児の子育ての課題および地域における子育て支援の現状を理解し、大学生として貢献できる活動を提案する」 ①わが国における乳幼児の子育ての課題について説明できる ②地域における子育て支援の現状について説明できる ③子育て支援における大学生として貢献できる活動を考えることができる。 ④子育て支援における大学生として貢献できる活動を実践することができる ⑤子育て支援における活動を通して、教育・保育の専門的学習を進めるための自己の課題を見出すことができる。 本授業は、学位授与方針（DP）の（2）社会的貢献性と（4）問題発見・解決力に関連しています。						
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。						
20.参考文献	適宜資料を配布します						
21.成績評価	■事前学習レポート 30%・・・学習目標①②に対応 ・わが国における乳幼児の子育ての課題および地域における子育て支援の現状についてまとめる。 ※1,600 字以上 ■ふりかえりシート（活動日報）：20%・・・学習目標③に対応 ・毎回の活動後に日報を提出する。 ・ふりかえりシートの記入方法については別途指示する。 ■事後学習レポート 40%・・・学習目標④⑤に対応 事前学習レポート、以下の点について論じること。 ①子育て支援における大学生として貢献できる活動はどのようなものか。 ②子育て支援において大学生とし						
22.コメント	・活動先は、主に水曜日の大学における子育て支援「どーなっつ」になります。実施日時、実施内容、は附属園の先生とのによって検討します。活動においては常に保育者を目指す学生としてふさわしい身なりが求められることをご承知おきください。 ・活動時期は、おおむね 6 月から 10 月を予定しています。子育て支援の活動に参加します。						
23.オフィスアワー	金曜日　昼休み						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	・オリエンテーション（授業の概要）	
	・乳幼児の子育て家庭の実態を調べて理解する。	子育て家庭の現状と課題について調べる。(60分)
	・地域における子育て支援の実態を調べて理解する。	地域の子育て支援の現状と課題について調べる。(60 分)
	・乳幼児を育てる家庭の抱える問題について各自が調べたことをもとに話し合う。	子育て家庭の現状と課題について調べたことをまとめておく。(60 分)
	・地域の子育て支援の現状について各自が調べたことをもとに話し合う。	地域の子育て支援の現状と課題について調べたことをまとめておく。(60 分)
	・活動先とのマッチング	事前学習レポートの作成(1)（60 分）
	・活動目標の設定①	事前学習レポートの作成(2)（60 分）
	・活動の準備	活動に必要な教材づくりなどの準備をする。
	・現地活動①	○活動日報（60 分）
	・現地活動②	○活動日報（60 分）
	・現地活動③	○活動日報（60 分）
	・現地活動④	○活動日報（60 分）
	・現地活動のふりかえり ・プレゼンテーション準備	○プレゼンテーションの準備をする。(120分)
	・プレゼンテーション	○プレゼンのふりかえりと事後レポートの作成をする。(120 分)
	・ふりかえり	ふりかえりと事後レポートの提出をする。

1.授業コード（ナンバリング）	SVL103-A04	2.科目名	サービスラーニング B(障害児との関わり)	3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武大				
5.授業科目の区分	経験学習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、障害のある子供やその保護者が抱える問題、放課後等デイサービスの役割を理解し、これらの関係者・機関に対する貢献活動を提案することを目的としています。 【概要】 この授業では、障害のある子どもを対象とした放課後等児童デイサービスの現場を訪問し、その子どもとや運営団体の職員との関わります。この活動を通して、障害のある子どもやその家族が抱える問題について理解するとともに、大学生として放課後等デイサービスにどのようにかかわることが可能かを検討していきます。具体的には、以下のとおりです。 ・				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の(2)社会的貢献性、(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本授業では、以下の学習目標を設定します。 「わが国における障害のある子どもとその家族が抱える地域生活上の課題と、大学生としての貢献活動を提案できる」 ?障害のある子どもとその保護者が抱える問題を説明できる ?放課後等デイサービスの法体系とその役割を説明できる ?放課後等デイサービスを利用する子どもとその保護者の安全・安心な地域生活を妨げる問題を抽出できる ?放課後等デイサービスの現場で大学生が実践可能なプログラムを提案できる				
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。				
20.参考文献	適宜資料を配布します				
21.成績評価	■事前学習ミニレポート 20%×2 回・・・学習目標?、?に対応 ①障害のある子どもとその保護者が抱える問題について ②放課後等デイサービスの法体系とその役割について ※各レポートとも 1,000 字以上 ■ふりかえりシート（日報）：20%・・・学習目標?に対応 ・毎回の活動後に日報を提出する ・学習目標?に記した内容に関連する場面を抽出して記述する ・ふりかえりシートの記入方法については別途指示する ■事後学習レポート 40%・・・学習目標④に対応 事前学習レポート①・②、放課後等デイサービスの活動で得られた				
22.コメント	活動先は、尼崎市内にある、ケアスタッフサービスが運営する放課後等デイサービス事業所になります。				
23.オフィスアワー	月曜 5 限				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	・オリエンテーション（授業の概要）	○授業内容の整理（60）
	・障害のある子どもの実態を理解する	○授業内容の整理（60）

	・障害のある子どもの保護者の実態について理解する	○授業内容の整理（60）
	・放課後等デイサービス事業の法的根拠、サービス内容、実態について理解する?	○授業内容の整理（60）
	・放課後等デイサービス事業の法的根拠、サービス内容、実態について理解する?	○授業内容の整理（60）
	・活動先とのマッチング	○ミニレポートの執筆（120）
	・チームビルディング、活動目標の設定?	★ミニレポート①の提出 ○ミニレポートの執筆（120）
	・チームビルディング、活動目標の設定?	★ミニレポート②の提出
	・現地活動①	○活動日報（90）
	・現地活動②	○活動日報（90）
	・現地活動③	○活動日報（90）
	・現地活動④	○活動日報（90）
	・プレゼンテーション準備	○プレゼンテーション準備（120）
	・プレゼンテーション	○プレゼンのふりかえり（60） ○事後レポートの執筆（120）
	・ふりかえり	

1.授業コード（ナンバリング）	SVL103-A05	2.科目名	サービスラーニング B(環境教育)	3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也				
5.授業科目の区分	体験学習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限	地域活性化や小学校教育に興味があり、宿泊を伴う活動に参加可能な者。また、前向きな姿勢で意欲を持って参加できる者。				
17.授業の目的と概要	地域活性化と開かれた小学校教育についての理解を深め、地域のために活動を行う。 これらの活動を通して、地域の良さや課題の理解、児童理解を深め、教育実践を行っていくことにより、社会的貢献性や問題発見・解決力、さらにはコミュニケーション能力を身につけていく。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①都市部と農村地域の違いや地域課題について考えることができる。 ②小学校の教育活動に参加し、児童への理解を深める。 ③地域（児童、環境）に合った教材研究を行い、グループごとに授業を計画できる。 ④グループで協力して、授業実践ができる。 ⑤活動ごとにふりかえりを行い、その内容をまとめて発表し、その後の学修に活かすことができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	①事前学修のワークシート及び課題（30%） ②地域活動の製作物及びレポート（40%） ③事後学修の発表スライド及び考察レポート（30%）				
22.コメント	・地域活性化や小学校教育に関心のある方の履修を歓迎します。 ・事前・事後学修は尼崎キャンパスで行います。教育支援は、尼崎キャンパス周辺の学校、丹波市への研修も検討しています。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
授業時に説明	1．事前学修(4 回) ・サービスラーニングとは ・尼崎、青垣、能勢の地域について ・地域活性化の現状 ・都市部、農村地、山間地の課題 ・コミュニティースクール ・学習支援の指導案の作成 ・模擬授業 2．現地活動（計 4 日、8 回相当） ①尼崎市が行う環境イベントへの参加とブースの運営 ②大阪市内の小学校が行う林間学校にスタッフとして参加するとともに、生態系の授業を現地で行う。 ③能勢町での農村地域の理解と農業体験 ④他大学の学生との意見交換 3．事後学修（5 回） ・活動の振り返	①事前学修のワークシート及び課題 ②地域活動の製作物及びレポート ③事後学修の発表スライド及び考察レポート

1.授業コード（ナンバリング）	SVL103-A06	2.科目名	サービスラーニング B(障害・協働)	3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹				
5.授業科目の区分	体験学習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限	障害福祉や特別支援教育、地域活性化に興味があり、宿泊を伴う活動(年間 3 回)に参加可能な者。また、前向きな姿勢で意欲を持って参加できる者。参加に関しては交通費、宿泊費等の実費を伴う。受け入れ先の状況から 15 名程度を募集する。				
17.授業の目的と概要	地域活性化と発達障害・精神疾患等についての理解を深めるのための活動を行う。 農業を通しての活動支援や発達障害のキャンプ等の活動を通して、地域の中で活動する社会福祉法人の良さや課題の理解、発達障害や精神疾患等の理解を深め、教育・福祉実践を行っていくことにより、社会的貢献性や問題発見・解決力、さらにはコミュニケーション能力を身につけていく。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律的で主体的な態度（自律性）（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）（3）多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）（4）問題発見・解決力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は ①山口県社会福祉法人 EGF の地域活動に参加し、農業を通じて発達障害や精神疾患等の成人に対しての支援や地域課題について考えることができる。 ②発達障害児のキャンプ活動に参加し、発達障害への理解を深める。 ③発達障害児に合ったキャンプ活動を企画し、グループごとに指導内容を計画できる。 ④活動ごとにふりかえりを行い、その内容をまとめて発表し、その後の学修に活かすことができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	①事前学修のワークシート及び課題（20%）学習目標①② ②地域活動 i における実践（60%）①②③ ③事後学修の発表スライド及び考察レポート（20%）④				
22.コメント	・地域活性化や小学校教育に関心のある方の履修を歓迎します。 ・事前・事後学修は尼崎キャンパスで行います。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
授業時に説明	1．事前学修(3 回) ・サービスラーニングとは ・萩市・益田市の地域について ・地域福祉の現状 ・発達障害や精神疾患等の成人の課題 ・放課後児童デイサービス ・キャンプ内容の計画 2．現地活動（計 5 日 2 泊 3 日(8/31~9/1 予定)、1 泊 2 日 1 回(10/26~10/27 予定)　10 回相当） ①EGF のイベントに参加し、意見交換会を行う。 ・収穫祭への参加、通常の農業体験に参加、それぞ	①事前学修のワークシート及び課題 ②地域活動の製作物及びレポート ③事後学修の発表スライド及び考察レポート

	れの機会に意見交換会を実施 ②・放課後児童デイ「タッチ」と連携した発達障害児キャンプへの参加、実施	

1.授業コード（ナンバリング）	SVL103-Y05	2.科目名	サービスラーニング B（社・商店街活性化 1）		3.単位数	2	
4.授業担当教員	行木敬、渡辺卓也						
5.授業科目の区分	コミュニティスタディ（基礎教育科目）	6.必修・選択の区分	選択必修		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通				9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件				
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習			
16.履修制限	・10 名程度を予定しています。希望者が多い場合は志望理由を元に選考をおこないます。 ・6?末の商店街の縁日、8?初旬の地区の夏祭り、10?6?の?楽祭に参加できない?は履修できません。 ・ブースの企画会議や準備を金曜 4 限におこないます。金曜 4 限にすでに他の授業が入っている人は履修できません。						
17.授業の目的と概要	宇治川商店街で 6 ?末におこなわれる縁日、また 10?におこなわれる?楽祭に、商店街の活性化を意図したブースを企画・出展します。8?の地区の夏祭りにもボランティアとして参加し、町の?たちと関係を深めつつ、現場をより詳しく知り、活性化の?がかりを探ります。 現代?本の?きな課題である地域の活性化について、現場にある課題や?々の思いを、?分の?と?で調べ、理解し、発信できる（社会に還元できる）ようになることを、この授業では?指します。						
18.学習目標と ＤＰとの関連	本プログラムの学習?標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の 1「?律的で主体的な態度（?律性)」、2「社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性)」の学修に関連しています。 ①　ボランティア活動や、ブースの企画・準備、現地調査などに主体的に参画することができる。 ②　ブース出展の準備を?律的に進めることができる。 ③　地域活性化の意義や現場の困難について、具体的に理解し説明することができる。 ④　活動や気づきをわかりやすいウェブコンテンツにまとめ、地元社会に還元することができる。						
19.教科書・教材	・{過去の宇治川商店街のサービスラーニングで作成したウェブサイト,https://kei-nam.com/s_learning/} ・その他の教材や資料も、授業進行に合わせて配布していきます。						
20.参考文献							
21.成績評価	1．メルカロード縁?（7?）のブース出展、および当?の調査への主体的参加とその報告［学習?標①、②］?成績の 30％ 2．下??地区の夏祭り（8?）のボランティア参加とその報告［学習?標①、②］?成績の 20％ 3．宇治川?楽祭（10?）のブース出展への主体的参加とその報告［学習?標①、②］?成績の 30％ 4．ふりかえりの座談会への主体的参加、また活動や座談会をまとめたサイトの作成［学習?標③、④］?成績の 20％						
22.コメント							
23.オフィスアワー	金曜 4 限（学修支援センター） （科目代表者：行木）						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1〜9 回 【メルカロード縁日編】	第 1 回?授業ガイダンス 第 2 回?訪問準備 第 3 回?小学校を訪問、宣伝をおこなう（木曜 4 限） 第 4 回?縁日の準備 第 5 回?縁日の準備（機材搬入） 第 6〜9 回?縁日本番。6 時間ほどの活動（授業 4 回分に数える）	・昨年のウェブサイトはよく読んできてください。 ・?分の仕事で必要なことがあれば?宅で準備をしておいてください ・活動後、感想をウェブクラスに記事投稿
第 10〜13 回 【音楽祭ブース準備編】	第 10 回?縁日のふりかえりと音楽祭ブースの企画会議 第 11 回?ブースの準備 第 12 回?ブースの準備 第 13 回?ブースの準備	・自分の仕事で必要なことがあれば自宅で準備をしておいてください
第 14〜17 回 【地区の夏祭り編】	第 14〜17 回?下??地区の夏祭りの屋台を手伝う。6 時間ほどの活動（授業 4 回分に数える）	・活動後、感想をウェブクラスに記事投稿
第 18〜26 回 【音楽祭ブース本番編】	第 18 回?ブースの準備 第 19 回?ブースの準備（機材搬入） 第 20〜26 回?音楽祭本番。朝 9 時から夜 8 時まで活動（授業 7 回分に数える）	・活動後、感想をウェブクラスに記事投稿
第 27〜30 回 【ふりかえりと報告編】	第 27 回?ふりかえりの座談会 第 28 回：座談会の文字起こしなど、各人に割りあてられたウェブサイト関連の作業。自宅でやってもよい。 第 29 回：同じくウェブサイト関連の作業。自宅でやってもよい。 第 30 回?サービスラーニング報告会の準備	・必要なら自宅で作業を進めてください。

1.授業コード（ナンバリング）	SVL103-Y07	2.科目名	サービスラーニング B（ブランドデザイン）	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本敏幸、章志華、中嶌康二				
5.授業科目の区分	サービスラーニング	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	全学部対象			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件		11.先修条件	●リサーチ入門あるいは同等の科目（社会調査論）が履修済みであること。 ●グローバルな学びに関連する科目、コミュニケーション基礎科目が履修済みであると学びが倍増します。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義形式と実習演習を組み合わせたハンズオン・ヘッズオン形式 プラス 学外でのフィールドワーク（主に週末で学期中に数回実施する）		
16.履修制限	人数が多い場合は履修制限をします。 10－20 名程度。 履修希望者が多い場合は面接で選考します。				
17.授業の目的と概要	サービスラーニングでの学びを大学から離れた遠隔地での学びと結びつけた授業です。 日本人の学生だけではなく、本学で学ぶ留学生たちにも利益が生まれるようにグローカルなサービスラーニングでの経験学習を意識してプログラムを企画してみました。 本授業のテーマは、「田舎と都会が相互依存する未来社会の実現」です。 本授業は、年間を通して、2 部構成でおこないます。どちらも 2 単位です。 （1）春学期・夏学期の部 兵庫県丹波市市島地区の有機野菜の栽培から販売までを 40 年以上行なっている NPO「いちじま丹波太郎」、奥丹地区				
18.学習目標と ＤＰとの関連	(1)学習目標 以下の 3 点が必須学習目標です。 ①地域/社会問題の発見：活動を通して地域/社会の問題を説明できる 　SDGs の概念・視点から、地域の未来への持続可能性について、経済・社会・環境の領域で、今そこに行きている人たちの営みのウェルネスを叶えるために解決・克服しなければならない課題を、大学生と地域住民が協働で考えていきます。そこでは、本学のミッション：３C の実践による経験学習を通して、未来社会を生きるフューチャースキルを慣用していきます。 ②知識との関連：地域/社会の問題と自身の専門分野/学問/事前学習から得られた知識とを関連させることができる 　本科目では、特に、大学生と地域住民の間のコミュニケーションを通した信頼関係の構築と継続を大切に考えていきます。大学で学んだウェルネスに溢れた未来社会についての知識・経験を地域住民のリーダーたちと共有し、協働で理想の未来社会実現に向けて「自分ごと」として考えていきます。 ③市民としての行動：地域/社会の問題を自分事として捉え、解決に向けた意見を提案できる 　未来社会を共に生きる人たちと協働で、自分たちが将来住みたくなるような未来社会の創造のために解決しなければならない課題について協働で考え、実現に向けての解決策についていっしょに考えていくマインドセットを養っていきます。つまり、異なる世代が一つのチームとなって、よりよい未来社会のために問題発見・問題解決をしていく姿勢を身につけていきます。 ※参照：KUIS 学修ベンチマーク_DP2 社会的貢献性、DP4 問題発見・解決力				

	AAC＆U「Civic Engagement VALUE Rubric 【フィールドワーク参加について】 フィールドワークでは地域の営みについて体験学習の一環で生活に関わる作業体験も計画しています。例えば、稲作体験、畑作業、獣害設備設置作業、菅の刈り入れ作業、菅の植え付け作業などです。こうした作業を地域の人たちといっしょにすることで、心の境界線がなくなり本音でのコミュニケーションができるようになります。 作業着や作業靴等は多少負担になりますが、自己責任でお願いします。 汚れてもいいような服装、靴を準備してフィールドワークに参加してください。 フィールドワークは授業中の扱いとなりますので、怪我や事故については「学生教育研究災害傷害保険（学研災)」の適用を受けます。 また、賠償責任事故については「学研災付帯賠償責任保険（学研賠)」により保険の適用を受けます。 但し、授業担当者の方で、あらかじめ「(教-22 号）学外教育活動の実施について（申請)」を提出しておきます。
19.教科書・教材	随時、資料を WebClass で配布する。
20.参考文献	授業の進行に合わせて、紹介していく。
21.成績評価	教室内の学び、フィールドワークでの活動を通した経験学習を含むので、授業態度、活動への取り組みの姿勢、地域の人たちとの協働活動の姿勢等と合わせて総合的に評価する。 〇事前学習時　ーー　30% 〇期中学習・チーム活動・取り組みの姿勢　＆　フィールドワーク　ーー　40% 〇事後学習　（チームプレゼン、活動報告資料、ポスター、報告書等）　ーー　30% ◆別軸での評価としての目安 個人レベルでの学びの成長　　－－50% チームワーク・チーム貢献　　－－50%
22.コメント	【重要】 ・事前・事後学習、ならびに学内、学外に向けた活動報告会参加することが単位取得の必須条件となる。
23.オフィスアワー	【時間】火曜日２時限目及び昼休み　（秋学期） 【場所】神戸山手キャンパス１号館２F　学習支援センター ＊他キャンパス受講生は Zoom で対応（事前に連絡のこと）

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	【オリエンテーション】 プログラム概要、学習目標などについて説明 チーム分け、チームビルディング、チームワーク等 活動地域、人々、営みについて 授業運営にあたってのハウスルール	PC,パッド、スマホを持参すること
第２・３・４回	【事前学習】 チームベースのアクティブラーニング ・SDGs 概念 ・ウェルネスとは？ ・ディスラプティブ・イノベーション ・田舎と都会が相互依存する未来社会の創造 チーム間での学びの共有 フィールドワーク（１）(現地調査)	PC,パッド、スマホを持参すること チーム活動の記録資料
第５・６・７・８・９回	【期中学習１】 チームベースのアクティブラーニング	PC,パッド、スマホを持参すること チーム活動の記録資料

	・フィールドワークによる現地調査の分析 ・ディスカッション ・クリティカルシンキング ・分析結果のまとめ チーム間での学びの共有 ・フィールドワーク（2）（ステークホルダーへのヒアリング）準備 ・ヒアリングでの調査項目の洗い出し ・フィールドワークシミュレーション ・ヒアリング調査項目の精査 フィールドワーク（2）（ヒアリングによる現地調査）	
第 10・11・12・13・回	【期中学習 2】 チームベースのアクティブラーニング ・フィールドワーク（2）ヒアリング調査の分析 ・ディスカッション ・クリティカルシンキング（SWOT 分析） ・分析結果のまとめ ・チーム間での学びの共有 ・フィールドワーク（3）（未来社会に向けての課題点のあぶり出し調査）準備 ・課題案の提案 ・フィールドワークシミュレーション ・課題案の精査 ・課題の合意形成から解決策策定のためのディスカッションの進め方について段取りーー＞シミュレーション フィールドワーク（3）（未来社会に向け	PC,パッド、スマホを持参すること チーム活動の記録資料
第 14・15 回	【事後学習】 チームごとに活動成果のまとめ 学びの共有： ピッチプレゼン・プレゼン動画作成・ポスター・報告書作成 学びのふりかえり 本授業での学びからその先へ 註：発表の場にはお世話になった地域のステークホルダーの方々も招待しましょう。 【大事】 サービスラーニング参加学生の学びを可視化する取り組みとして、以下 2 点に取り組みます。 (1)本授業の質向上のために、webclass の各コース内で、学生アンケートを活動の事前・事後でおこないます (2)e ポートフォリオの活用 事後学習期間を利用して、	PC,パッド、スマホを持参すること チーム活動の記録資料 チーム成果物、すべてをチーム共有フォルダに提出すること

1.授業コード（ナンバリング）	SVL103-Y16	2.科目名	サービスラーニング B（高齢者特殊詐欺 E）	3.単位数	2
4.授業担当教員	大松光寿				
5.授業科目の区分	警察分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択必修	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期～秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	心理学科　１年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	サービスラーニングの意義と実施内容等に関する事前学習、県警担当官による特殊詐欺被害の現状、傾向、対策等の講義を受けた後、実態調査を実施して、効果的な対策を検討する。その上で特殊詐欺防止に資する寸劇等を制作し、高齢者に披露して防犯啓発を行う。活動はグループ単位で実施する。 ○　グループ編成　１個班５名程度 ○　形態 ①講義、②実態調査活動、 ③シナリオ・小道具類の作成 ④実演		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】社会問題化している特殊詐欺被害者の大半を占める高齢者に焦点を当て、防犯寸劇を披露して被害防止に資することを目的とします。 【概要】実際の被害事例を学び、専門家の指導を受けて、防犯寸劇を制作・実演し、防犯啓発に役立てる活動を行います。 ①特殊詐欺の発生実態等を各種情報検索により把握する ②県警担当官を招致して実態調査を行う ③高齢者の心に届く寸劇・紙芝居等の制作を行う ④神戸市内の高齢者向け防犯教室において、寸劇等の実演を行う ⑤振り返りの実施 ⑥経験学習発表会への参加				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ)の(1)自律性(2)社会貢献性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています 本科目の学習目標は次のとおりです ?　社会問題化している特殊詐欺の実態を知ることができる・・・・①、④ ?　特殊詐欺の発生実態から様々な問題点を発見の上、主たる被害者である高齢者に対する防犯啓発を行うことができる・・・・④、⑤ ?　高齢者の被害防止という社会貢献を担うことができる・・・・② ?　規範意識を醸成することができる・・・・①				
19.教科書・教材	なし				
20.参考文献	なし				
21.成績評価	①　事前学習及び活動時の取り組み姿勢態度　２０％ ②　寸劇・紙芝居等の制作（共同作成）に当たっての姿態度　３０％ ③　発表にあたっての姿勢態度　３０％ ④　総括振り返りレポート（総括はｅポートフォリオに搭載）　２０％				
22.コメント	真摯に取り組むとともに、ステークホルダー（県警関係部局）や参加メンバーに迷惑をかけな				

	いよう安易に欠席することなく、責任を持って意欲的に参加できる人を求めます。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回～２回	【９月２日　２限】 ○　ガイダンス ・　サービスラーニングについての共通認識ついて ・　班編成とリーダー・サブリーダー等の選出 ・　その他	パソコン持参
第３回	【９月２日　３限,4 限】 ○　グループ討議 ・　発生実態を踏まえ、各グループ毎に情報の整理・分析 ・　発表内容の選定とグループ間の調整 ○　県警担当官による被害実態に関する研修・・・予定	各グループの討議内容に従ってシナリオ案を作成する
第４回～５回	【９月３日　１、２時限】 ○　グルー毎に発表内容（シナリオ）の原案作成 ・配役の決定 ・台本読み合わせ	パソコン持参
第６回～７回	【９月４日　１限、２限】 ○　小道具の作成、寸劇の予行演習等舞台準備	シナリオの熟読、小道具の資材調達
第８回～９回	【９月５日　１限、２限】 ○　寸劇の予行演習等舞台準備	
第 10 回	【９月６日　２時限】 ○　予行演習最終確認	
第 11 回～14 回	・９月１３日頃（未定）　午後２時間程度　兵庫署管内中道婦人会　中道地域福祉センター（中道通４丁目２－８）未定 ・９月 20 日頃（未定）　午後２時間程度　生田署管内北野地域福祉センター（中山手通２丁目 17－18）未定	小道具等の運搬
第 15 回	【９月下旬　実演後】 ○　今回のサービスラーニングを通じての「総括の振り返り」を行い、 ｅポートフォリオに実施結果を搭載する ○　最終報告会の発表資料作成	パソコン、各種記録を持参すること
	【注意事項】 ①　最終日の報告会までに各種作業を完了させる必要	

	があり、進捗状 　況によっては時間延長もあることから、期間中のアルバイト等の個 　人予定は、可能な限り事前調整しておくこと。 ②　短期間に集中したプログラムであることから、健康管理に努め、 　やむを得ない事情がある場合を除いては、欠席しないこと。 ④　より良い「作品」を作るため、各人が考えて知恵を出し、前向 　きな議論を実施すること。	

1.授業コード（ナンバリング）	SVL104-A01	2.科目名	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ論	3.単位数	2
4.授業担当教員	村井琢哉				
5.授業科目の区分	基礎教育科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学部生が対象			9.履修学年	1 年から
10.取得資格の要件	高校(英語、公民、福祉）小学校一種 中学(英語、社会）幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、ボランティアの基礎的理解と理念及びボランティアの現状や課題について理解を深めることを目的とします。 【概要】 複雑化した社会において、主体的に考え動くことができる市民によるボランティア活動について学び、ボランティアの視点から社会や社会問題を見つめ、何ができるかを自ら考えることができるようになること目指します。また福祉に限らず国際協力、環境保護等多岐にわたる実践に触れつつ、どのように主体的な活動が生まれるのかについても学び、ボランティア活動への契機になることを目指す。				
18.学習目標とＤＰとの関連	学習目標 ①ボランティアの理念や目的、歴史的背景を理解し、ボランティア活動についての基本的な知識や活動に参加する上での準備やマナーを身につけ、自らアクションすることができる。 ②社会問題や差別、格差、排除、不平等を生みだす背景を理解し、原因を見極めることができる。 ③自分とは異なる価値観や考え方を持つ人々への背景を理解し、根拠のある意見を示し解決するために行動することができる。 ④言語的・非言語的な表現を活用して、考えを相手にわかりやすく伝えることができる。 ⑤自分の果たすべき役割や責任を考えながら、社会に貢献できるように行動することができる。				
19.教科書・教材	授業内で適宜テキストを提示します。				
20.参考文献					
21.成績評価	評価については以下の課題を中心に総合的に行います。 ①毎回の小課題（10 回）：30 点（3 点×10 回） ②中間レポート：20 点 ③まとめレポート：50 点				
22.コメント	講義とあわせてグループ（ペア）ワークを行うため、積極的に取り組んでください。（遅刻などはワークの妨げになるので気をつけてください。）				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ボランティアとは何か（個人の関心・目指す姿を捉える）	予習：自身のボランティア体験を振り返っておく 復習：提示した課題に取り組む
第 2 回	ボランティアの基本的考え方（問題への気づき）（個人ワーク：課題の設定）	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 3 回	主体性・自発性が発揮できる領域	予習：提示されたテキストを読んでおく。

		復習：提示した課題に取り組む
第 4 回	自身の存在を捉えなおす（ワーク：be の肩書きを考える）	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 5 回	マイプロジェクトを考える（ワーク）	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 6 回	ボランティアの歴史的背景・意義	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 7 回	ボランティアのコーディネート	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 8 回	災害ボランティアについて考える 中間レポート提出	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 9 回	ボランティアの自発性が発揮できる環境	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 10 回	ボランティアとまちづくり	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 11 回	活動事例から考えるボランティア①：事例は学生の興味・関心分野を紹介する。	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 12 回	活動事例から考えるボランティア②：事例は学生の興味・関心分野を紹介する。	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 13 回	活動事例から考えるボランティア③：事例は学生の興味・関心分野を紹介する。	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 14 回	活動事例から考えるボランティア④：事例は学生の興味・関心分野を紹介する。	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 15 回	授業のまとめ：ボランティアとマイプロジェクトと社会問題 最終レポート提出	復習：提示した課題に取り組む

1.授業コード（ナンバリング）	SVL105-Y01	2.科目名	サービスラーニング I	3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理、Jonathan Aliponga				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科、			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	The purpose of this class is to do service learning in the local community. After learning the basic philosophy of service learning, students work as helpers supporting in NPO and other organizations.				
18.学習目標とＤＰとの関連	Through the experience of working as helpers off campus, students are given the chance to think about　the reasons why people join volunteer works, which lead them to understand the benefits of participating in volunteer works and understand the differences between volunteer works and service learning. DP: (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができます。 (3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	Activities 40%　(including planning and preparation) Diary　30%　(including e-portfolio) Reflective report　30%　(evaluated by Report rubric)				
22.コメント	This class is open to all students. As this class is conducted in English, students are expected to speak in English				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【1】	Guidance Explanation of the programs and objectives. Checking schedule	Review (60min.)
【2】	Volunteer organizations	Check the organizations on the Internet and make a report (90min.)
【3】	Group Discussion: Volunteer ‘My volunteer experience.’ ‘Why do people join volunteer works?’ Benefits and Problems	Summarize your group discussion (60min.)
【4】	What is Service learning Examples of service learning programs	Review and summarize the contents (60min.)

【5】	Introduction of service learnng project. Grouping	Plan what you can do with group memebers (60min.)
【6】	Background study	Review and summarize the contents (60min.)
【7】	Background study ②	Review and summarize the contents (60min.)
【8】	Schedule arrangement: decide the date to observe Manners	Preparation for the work
【9】	Exchanging information : reflect your activities or performance Plan and prepare for the next work	Report of the activities
【10】	Exchanging information : reflect your activities or performance Plan and prepare for the next work	Review and summarize the contents (60min.)
【12】	Exchanging information : reflect your activities or performance Plan and prepare for the next work	Review and summarize the contents (60min.)
【13】	Exchanging information : reflect your activities or performance Plan and prepare for the next work	Review and summarize the contents (60min.)
【14-28】	Volunteer activities Group meeting (prepartion. action and reflection) Diary and Reports	Review and summarize the contents (60min.)
【29】	Volunteer activities Group meeting (prepartion. action and reflection) Diary and Reports	Review and summarize the contents (60min.)
【30】	Preparation for final report. Present at the Meeting of Service Learning in the end of the semester.	Final Report (120min.)

1.授業コード（ナンバリング）	SVL106-M01	2.科目名	サービスラーニング A（学習支援） 春・夏学期		3.単位数	1	
4.授業担当教員	百濟正和						
5.授業科目の区分	リベラルアーツ	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～夏学期		
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1~2 年		
10.取得資格の要件		11.先修条件					
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※				
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習				
16.履修制限	８～１０名 子どもの心理・発達・教育・福祉・養育などに興味関心のある者 活動日である水曜日の 15 時～16 時に参加できる者						
17.授業の目的と概要	（目的） 社会的貢献である学習支援活動で体験した児童の発達や学習に関する知識やスキルを、大学で学ぶ心理学の授業でのより深い学びにつなげる。 （概要） 三木市立緑が丘小学校の 3～6 年生の児童（各学年 10 名）に対して、水曜日の放課後 15 時～16 時に学習支援を行う 具体的には、「基礎学力の向上」を目指すことを目的とし、「算数科」「国語科」の自習プリントを活用した学習の個別支援を行う。 児童への支援は、緑が丘小学校の担当指導者の指示のもとに支援を行う。 支援活動の回数は通算 10 回程度である。						
18.学習目標とＤＰとの関連	大学での授業で学修する心理学的な知識を活用しながら、自らの自動機の経験を活かして、発達途上にある小学生の学びの実態を把握する。 算数科・国語かへの学習支援を通して、児童がどこで何に困難を示しているのを知り、どのような支援の手立て有効であるかを磁土の視点に立って考える。 児童と共に学修課題へ取り組むことにより、より望ましい子どもへの関わり方を学ぶ。 DP(ディプロマポリシー）の（２）社会的貢献性、の学修に関連しています。						
19.教科書・教材	特に指定なし						
20.参考文献	特に指定なし						
21.成績評価	ステークホールダー（緑が丘小学校）の評価　40% 支援活動記録　20% 振り返りレポート　20% プレゼンテーション　20%						
22.コメント	この活動は、大学の授業で学修した心理学的知識を児童支援で活用する。あるいは、児童支援の体験を心理学に関する授業でより確かな知識とスキルへと高める絶好の機会です。そして、学生の皆さんが有する力で社会貢献することが可能尾です。 ぜひ、このサービスラーニングへ参画してください。						
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション（シラバス概要説明・サービスラーニングの意義・支援活動の目標と内容・活動スケジュール） 学習支援活動における諸注意と留意事項（安心安全の確保・個人情報保護・守秘義務など）	サービスラーニングの冊子に記述されている内容の理解と把握
第 2 回	小学校算数科における各学年の目標と指導内容	授業内容の復習

	小学校国語科における学年別配当漢字 学習支援活動のスケジュールの作成と確認	発達障害について調べる
第 3 回	発達障害についての理解（定義・行動特性・指導上の配慮事項など）	学習支援活動における配慮事項と留意点についての再確認
第 4 回	学習支援活動①（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 5 回	学習支援活動②（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 6 回	学習支援活動③（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 7 回	学習支援活動④（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 8 回	学習支援活動⑤（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 9 回	学習支援活動⑥（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 10 回	学習支援活動⑦（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 11 回	学習支援活動⑧（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 12 回	学習支援活動⑨（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 13 回	学習支援活動⑩（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 14 回	学習支援活動の振り返り（総括） 記録の整理と集約 プレゼンテーション資料作成	プレゼンテーション資料作成準備

	サービスラーニング報告会の準備	
第 15 回	サービスラーニング報告会での発表	プレゼンテーション資料提出

1.授業コード（ナンバリング）	SVL107-M01	2.科目名	サービスラーニング A（地域防災と共助）	3.単位数	1
4.授業担当教員	佐藤広志				
5.授業科目の区分	サービスラーニング	6.必修・選択の区分	選択必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	制限なし			9.履修学年	1 年～4 年
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態		
16.履修制限	制限なし				
17.授業の目的と概要	目的　防災に関する知識を習得することと、その知識を他者に発信し、防災活動については地域住民と協力して行動すること 概要　三木市総合防災訓練(2024 年 9 月 29 日実施予定)に参加して、大学生に期待されている役割を果たす。また併せて開催される防災フェスティバルにおいて、防災体制に関する研究成果を参加住民向けに発表する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	地域防災訓練活動に参加することで、地域住民との共同事業に協力し、期待された役割を果たすことができる。 防災フェスティバルでのプレゼンテーションを通じて、自らが学習・研究した成果を地域住民に向けてわかりやすく説明することができる。				
19.教科書・教材	特に指定なし				
20.参考文献	授業内で指示				
21.成績評価	事前学習活動への参加　20% プレゼンテーション用ポスター作成　20% 防災訓練および防災フェスティバルへの参加と役割遂行　40% 事後の振り返りレポートとプレゼンテーション　20%				
22.コメント	9 月 29 日のイベント参加必須です。参加できない人は単位取得できません。				
23.オフィスアワー	春学期 月 4(センターオフィスアワー) 木 4(研究室オフィスアワー)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	Ｉ日目の前半 オリエンテーション プログラム概要の説明 グループ決め	
	Ｉ日目の後半 メンバーシップを確認するためのグループワーク	
	2 日目前半 プレゼン用ポスター作成のための資料収集	
	2 日目後半 プレゼン用ポスター作成のための資料収集	
	3 日目前半 ポスターづくり	
	3 日目後半 ポスターづくり	
	4 日目前半	

	ポスターづくり 9 月 29 日活動内容の確認、現地交通案内、役割分担の確認	
	4 日目後半 ポスターづくり	
	5 日目 I コマ目 ポスター仕上げとリハーサル	
	5 日目 2 コマ目 ポスター仕上げとリハーサル	
	5 日目 3 コマ目 活動当日までの最終確認	
	活動当日(6 日目) 防災訓練班は与えられた役割を遂行	
	活動当日(6 日目) 防災フェスティバルの出店班はプレゼン(ポスターセッション)のための設営、発表およびフェスティバルへの適宜参加	
	7 日目 事後の振り返り活動 個人の振り返りは e-ポートフォリオへの記事投稿 チーム全体としては、合同発表会に向けての準備	
	8 日目 合同発表会	

1.授業コード（ナンバリング）	SVL109-M71	2.科目名	サービスラーニング A（ゴルフのまち）	3.単位数	1
4.授業担当教員	高見彰				
5.授業科目の区分	経験学修	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期～秋学期
8.履修可能な専攻	経営学部・三木キャンパス			9.履修学年	1 年から
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習 フィールド実践		
16.履修制限	10 名				
17.授業の目的と概要	【目的】 ■三木市の三大産業のひとつであるゴルフについて学び、ゴルフが重要産業として理解する。 ■三木市ゴルフ関係者からレクチャーを受け、課題を整理し、ゴルフを三木市に定着させるためのプランを策定したあと提案する。 ■大会スタッフとして大会に参加（調整中）し、運営マネジメント知る。 ■スナッグゴルフ体験や市内ゴルフ場見学（三木ゴルフ倶楽部を予定)、ゴルフミュージアム見学（廣野ゴルフ?楽部併設）を通してゴルフの基本事項を学ぶ。 ■冬学期開講予定の「生涯スポーツⅠ（ゴルフ実技)」へ繋げる。 【概要】 授業は、				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ)の(1)自律性(2)社会貢献性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ? SNS 利活用について実践し、知識を知ることができる・・・・①、④ ? 様々な問題点を発見し、産業消費者の観点から実践的提案を行うことができる・・・・②、④ ? フィールド実習を行うことにより、対話能力を醸成することができる・・・・⑤ ? 市内ゴルフ場の集客向上に資する社会貢献を担うことができる・・・・②				
19.教科書・教材	活動時に WebClass を通じて配付する。				
20.参考文献					
21.成績評価	①ゴルフのまち三木活性化提案：40% ②一連の成果を基にした報告書作成（フィールド実習含む)：50% ③全活動終了後に e ポートフォリオへ個人の総括レポートを投稿する：10%				
22.コメント	フィールド実習の全日程に参加できることが履修条件となります。				
23.オフィスアワー	木曜 3 限　　学習支援センター 木曜昼休み　　研究室				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス：授業の進行について説明する。 基礎講座：ゴルフとは，ゴルフ場の基礎知識、ゴルフのルール	パソコン、ノート持参
【第 2 回】	ガイダンス：授業の進行について説明する。 基礎講座：ゴルフとは，ゴルフ場の基礎知識、ゴルフのルール	パソコン、ノート持参

【第 3 回】	スナッグゴルフ体験（大学サッカーグラウンド）道具の名称、基本的な打ち方	
【第 4 】	スナッグゴルフ体験（大学サッカーグラウンド）コンペ	
【第 5 回】	現地活動 ゴルフミュージアム見学（廣野ゴルフ場併設） 知識の確認	
【第 6 回】	事前学習① 三木市ゴルフのまち推進課・三木ゴルフ倶楽部をむかえてのレクチャー ゴルフのまち三木の概要をつかむ ゴルフのまち三木推進課の活動を見る	パソコン、ノート持参
【第 7 回】	学外学習 ゴルフ場見学（三木ゴルフ倶楽部） 支配人からのレクチャーおよびインタビュー	スマホ、ノート持参
【第 8 回】	プロゴルファーの視点から見たゴルフ場、ゴルフ産業、ゴルフプレイヤーの現状と課題　プロゴルファーによりレクチャー	パソコン、ノート持参
【第 9 回】	教室学習 課題の洗い出しと整理（KJ 法による）	パソコン、ノート持参
【第 10 回】	ゴルフのまち三木活性化に向けた提案準備	パソコン、ノート持参
【第 11 回】	ゴルフのまち三木活性化に向けた提案準備	パソコン、ノート持参
【第 12 回】	関係者（三木市、三木ゴルフ倶楽部　など）への提案発表	パソコン、ノート持参
【第 1 3 回】	ゴルフ場におけるイベント支援	記録をとる 写真を撮る
【第 14 回】	ゴルフ場におけるイベント支援	記録をとる 写真を撮る
【第 15 回】	これまでの振り返りと報告書作成にむけて	パソコン持参

1.授業コード（ナンバリング）	SVL203-Y01	2.科目名	サービスラーニングⅡ	3.単位数	2
4.授業担当教員	越山泰子				
5.授業科目の区分	日本語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限	担当者の許可がある場合のみ				
17.授業の目的と概要	（目的）このクラスでは、日本語を外国語として教える知識や教え方について学ぶ。 （概要）地域で日本語を学ぶ外国人の日本語学習支援を行う。授業や活動を通して、異文化への理解や地域社会への貢献についての学びを深める。				
18.学習目標とＤＰとの関連	サービスラーニングを実施するにあたり、教室で学んだ学問的な知識・技能を社会活動の中で最大限に活かすことができる。それらの実践を通して様々な文化の人たちと交流することによって文化的・言語的多様性を理解し、また他のメンバーと協力し合いながら行動することによって、新たな学びへの気づきにつなげていくことができる。 DP: (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができます。 (4) 問題発見・解決力 根拠にもとづいて、問題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができます。				
19.教科書・教材	特になし				
20.参考文献					
21.成績評価	活動記録日誌 40% 中間発表　10% 最終報告 20% 最終レポート　20% 受け入れ先からの評価（A, B, C,D,F 評価）10% 詳細、評価基準は授業で説明				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜日 3 時間目（研究室）、木曜日 4 時間目（学習支援センター）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
事前学習 第 1 回～第 6 回	オリエンテーション（サービスラーニングの目的、理解など） 日本国内の日本語支援事情 サービスラーニング実践先について、マナー講習 日本語支援活動の方法① 日本語支援活動の方法② 実際の活動の準備	
活動	地域の日本語教室や大学内での日本語支援	活動記録日誌 中間レポート
期中の活動報告と振り返り	活動の反省、課題の確認、目標の設定 必要であれば、ステークホルダーとの調整	

事後学習 ４コマ	活動のまとめ 　発表の準備 　最終レポートの準備 　ステークホルダーからの評価、コメント 　事後アンケート 以上合計９０時間	最終レポート

1.授業コード（ナンバリング）	SWK101-A01	2.科目名	社会福祉概論Ⅰ（1/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本秀樹				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	こども学：選択 福祉学：必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格　保育士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	現代社会における福祉のありようを理解するために、私たちの今日的課題について分野横断的に概観していきます。具体的には「ケア」「貧困と格差」「ジェンダーギャップ」「コミュニティ」を取り上げます。資料から見えてくる構造やメカニズムを実際の事例にあてはめることで、より具体的な理解につなげていきます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、多様性理解、問題発見・解決力の学修に関連しています。 ①現代社会における生活課題・福祉課題を根拠をもとに説明することができる。 ②地域社会における多様な課題とその背景について具体的な事例を用いて説明することができる。 ③誰一人取り残さない社会のために何が必要なのかを分野横断的に説明することができる。				
19.教科書・教材	教科書の購入は不要です。				
20.参考文献	武川正吾、森川美絵、井口高志、菊地英明編著（2020）「よくわかる福祉社会学」ミネルヴァ書房				
21.成績評価	全て webclass に提出 ■小課題：3 回・60%（学習目標①②） ■学びのまとめのレポート：40%×1 回（学習目標①②③）				
22.コメント	資料の掲示や課題の提出は全て webclass を使います。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【1 回目】 4/9	オリエンテーション ・福祉とは何か	【今回の復習】 ・シラバスとノートを用いて、科目の内容を再確認しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分)
【2 回目】 4/16	リスク社会① ・リスク社会とは何か ・伝統的なリスクと新しい社会的リスク	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分)
【3 回目】 4/23	リスク社会② ・具体的事例を通してリスク社会を福祉的観点で考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分)

【4 回目】 4/30	ケア① ・ケアとは何か ・ケアの実態について統計資料から概要をつかむ	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分)
【5 回目】 5/7	ケア② ・障がい、合理的配慮、自助・自立、自己決定について考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分)
【6 回目】 5/14	ケア③ ・具体的事例を通してケアのあり方を福祉的観点で考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分) 【次回までの提出物】 ・小課題①
【7 回目】 5/21	貧困と格差① ・貧困とは何か ・貧困と格差の実態について統計資料から概要をつかむ	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分)
【8 回目】 5/28	貧困と格差② ・社会的排除、女性・子供の貧困、貧困の再生産について考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分)
【9 回目】 6/4	貧困と格差③ ・具体的事例を通して貧困と格差を福祉的観点で考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分) 【次回までの提出物】 ・小課題②
【10 回目】 6/11	ジェンダーギャップ① ・ジェンダーとは何か ・ジェンダーギャップの実態について統計資料から概要をつかむ	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分)
【11 回目】 6/18	ジェンダーギャップ② ・アンペイドワーク、ジェンダーバイアス、セクシュ	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しお

	アリティについて考える	く。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。 (90 分)
【12 回目】 6/25	ジェンダーギャップ③ ・具体的事例を通してジェンダーギャップを福祉的観点で考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。 (90 分) 【次回までの提出物】 ・小課題③
【13 回目】 7/2	コミュニティ① ・コミュニティとは何か ・コミュニティの実態について統計資料から概要をつかむ	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。 (90 分)
【14 回目】 7/9	コミュニティ② ・まちづくり、社会的包摂について考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。 (90 分)
【15 回目】 7/16	コミュニティ③ ・具体的事例を通して誰一人取り残さないコミュニティを福祉的観点で考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。 (90 分) 【提出物】 ・小課題④ ・学びのまとめのレポート

1.授業コード（ナンバリング）	SWK101-A02	2.科目名	社会福祉概論Ⅰ（2/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本秀樹				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	こども学：選択 福祉学：必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格　保育士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	現代社会における福祉のありようを理解するために、私たちの今日的課題について分野横断的に概観していきます。具体的には「ケア」「貧困と格差」「ジェンダーギャップ」「コミュニティ」を取り上げます。資料から見えてくる構造やメカニズムを実際の事例にあてはめることで、より具体的な理解につなげていきます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、多様性理解、問題発見・解決力の学修に関連しています。 ①現代社会における生活課題・福祉課題を根拠をもとに説明することができる。 ②地域社会における多様な課題とその背景について具体的な事例を用いて説明することができる。 ③誰一人取り残さない社会のために何が必要なのかを分野横断的に説明することができる。				
19.教科書・教材	教科書の購入は不要です。				
20.参考文献	武川正吾、森川美絵、井口高志、菊地英明編著（2020）「よくわかる福祉社会学」ミネルヴァ書房				
21.成績評価	全て webclass に提出 ■小課題：3 回・60%（学習目標①②） ■学びのまとめのレポート：40%×1 回（学習目標①②③）				
22.コメント	資料の掲示や課題の提出は全て webclass を使います。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【1 回目】 4/9	オリエンテーション ・福祉とは何か	【今回の復習】 ・シラバスとノートを用いて、科目の内容を再確認しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分)
【2 回目】 4/16	リスク社会① ・リスク社会とは何か ・伝統的なリスクと新しい社会的リスク	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分)
【3 回目】 4/23	リスク社会② ・具体的事例を通してリスク社会を福祉的観点で考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分)

【4 回目】 4/30	ケア① ・ケアとは何か ・ケアの実態について統計資料から概要をつかむ	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分)
【5 回目】 5/7	ケア② ・障がい、合理的配慮、自助・自立、自己決定について考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分)
【6 回目】 5/14	ケア③ ・具体的事例を通してケアのあり方を福祉的観点で考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分) 【次回までの提出物】 ・小課題①
【7 回目】 5/21	貧困と格差① ・貧困とは何か ・貧困と格差の実態について統計資料から概要をつかむ	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分)
【8 回目】 5/28	貧困と格差② ・社会的排除、女性・子供の貧困、貧困の再生産について考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分)
【9 回目】 6/4	貧困と格差③ ・具体的事例を通して貧困と格差を福祉的観点で考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分) 【次回までの提出物】 ・小課題②
【10 回目】 6/11	ジェンダーギャップ① ・ジェンダーとは何か ・ジェンダーギャップの実態について統計資料から概要をつかむ	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90 分)
【11 回目】 6/18	ジェンダーギャップ② ・アンペイドワーク、ジェンダーバイアス、セクシュ	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しお

	アリティについて考える	く。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。 (90 分)
【12 回目】 6/25	ジェンダーギャップ③ ・具体的事例を通してジェンダーギャップを福祉的観点で考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。 (90 分) 【次回までの提出物】 ・小課題③
【13 回目】 7/2	コミュニティ① ・コミュニティとは何か ・コミュニティの実態について統計資料から概要をつかむ	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。 (90 分)
【14 回目】 7/9	コミュニティ② ・まちづくり、社会的包摂について考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。 (90 分)
【15 回目】 7/16	コミュニティ③ ・具体的事例を通して誰一人取り残さないコミュニティを福祉的観点で考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90 分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。 (90 分) 【提出物】 ・小課題④ ・学びのまとめのレポート

1.授業コード（ナンバリング）	SWK102-A01	2.科目名	障害者福祉論	3.単位数	2
4.授業担当教員	春木裕美				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	高校（福祉）社会福祉士受験資格	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義と演習（うち 1 回分はオンデマンドで実施）		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】障害の概念や特性、障害者の生活実態、障害福祉関連の施策を理解するとともに、障害者の権利に基づいた援助の知識を学ぶ。 【概要】講義形式を主とするがグループワークを通じて意見交換を行い、自分の意見だけでなく客観的な見方ができるようになること目指す。さらに、ICT を活用し、授業内で示す課題に応じて、ノートパソコン等のツールを用いて主体的に学び、実践に役立てる方法を獲得していく。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の目的をを達成するために、以下の学習目標を設定する。 ①障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。 ③障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉専門職としての適切な支援のあり方を理解する。 本科目は DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性、(3)多様性理解に関連している。				
19.教科書・教材	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『障害者福祉』8　中央法規				
20.参考文献	二本柳覚　編（2022）『図解でわかる障害福祉サービス』中央法規				
21.成績評価	①ワークシート（14 回分）=60%：学習目標①②③ ②期末レポート=30%：学習目標④ 「重度障害のある人たちの尊厳と権利を守るための援助とは」1600 字以上 ③ふりかえりシート=10%				
22.コメント	・資料の配布や成果物の提出は webclass を使います。 ・毎回ノートパソコンを持ってきてください。 ・オンデマンド回分の学習の確認は、WebClass に課題のワークシートを提出します（出欠確認に相当します）。 ※施設見学やゲストスピーチは先方との日程調整によって、実施日が多少変動することもありますが、事前に必ずアナウンスします。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	1.障害者福祉の理念：教科書 pp25-47 ・差別や偏見と障害者観、優性思想と障害者について学ぶ ・ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンを学ぶ。 2.障害の概念と構造的な理解：教科書 pp16-24 ■個人ワーク：ワークシート①「障害とは？」 ・医学モデルと社会モデルを理解する ・国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類	○予習 教科書を読んでおくこと 【提出】 ワークシート①

	（ICF）を学ぶ。 ・障害の定義を学ぶ	
第２回	障害者福祉制度の歴史：教科書 pp50-83 ・障害者処遇の変遷、障害者福祉制度と展開過程を学ぶ ・当事者運動を理解する ・障害者権利条約の経緯と障害者基本法の変遷を学ぶ。 ●グループワーク：ワークシート②「自立生活運動」	○予習 教科書を読んでおくこと（120 分） 【次回までに提出】 ワークシート②
第３回	1.障害者の生活実態：教科書 pp86-93 ・障害者数、地域移行、居住、就学、就労などの概要を知る。身体 2.障害の理解と支援：教科書 pp4-8 ・身体障害者福祉法を学ぶ ・身体障害の特徴を理解する ・身体障害者の生活を知る ■個人ワーク：ワークシート③	○予習 教科書を読んでおくこと（120 分） 【次回までに提出】 ワークシート③
第４回	知的障害の理解と支援：教科書 pp8-9、pp122-126 ・知的障害者福祉法を学ぶ ・知的障害の特徴を理解する ・知的障害者の生活を知る ■個人ワーク：ワークシート④	○予習 教科書を読んでおくこと（120 分） 【次回までに提出】 ワークシート④
第５回	精神障害の理解と支援：教科書 pp9-12、pp127-132 ・精神保健福祉法を学ぶ ・障害の特徴を理解する ・精神障害者の生活を知る ■個人ワーク：ワークシート⑤	○予習 教科書を読んでおくこと（120 分） 【次回までに提出】 ワークシート⑤
第６回	発達障害の理解と支援①：教科書 pp13-14、pp139-143 ・発達障害者支援法を学ぶ ・自閉スペクトラム症(ASD)の特徴を理解する ・自閉スペクトラム症(ASD)のある人の生活を知る ■個人ワーク：ワークシート⑥	○予習 教科書を読んでおくこと（120 分） 【次回までに提出】 ワークシート⑥
第７回 オンデマンド授業	発達障害の理解と支援②：教科書 pp13-14、pp139-144 ・LD、ADHD の特徴を理解する ・LD、ADHD のある人の生活を知る ■個人ワーク：ワークシート⑦	○予習 重症心身障害について調べておくこと（120 分） 【次回までに提出】 ワークシート⑦
第８回	重症心身障害の理解と支援 ※施設訪問（重症心身障害者の日中の生活を知る） ■個人ワーク：ワークシート⑧	○予習 教科書を読んでおくこと（120 分） 【次回までに提出】 ワークシート⑧
第９回	障害者に対する法制度①：教科書 pp144-154 ・障害者総合支援法、障害福祉計画を学ぶ。 ●グループワーク：ワークシート⑨「事例をもとに福祉サービスをコーディネートする」をグループで意見交換し、まとめる	○予習 教科書を読んでおくこと（120 分） 【次回までに提出】 ワークシート⑨
第１０回	障害者に対する法制度② ※　障害福祉サービス実施事業所からのゲストスピー	○予習 教科書を読んでおくこと（120 分）

	チ ■個人ワーク：ワークシート⑩	【次回までに提出】 ワークシート⑩
第１１回	1.障害児に対する法制度③：教科書 pp133-138、pp236-239 ・児童福祉法における障害児支援を学ぶ ・医療的ケア児支援法を学ぶ 2.障害者を取り巻く社会環境①：教科書 pp94-108 ・障害者と暮らす家族を理解する ●グループワーク：ワークシート⑪	○予習 教科書を読んでおくこと（120 分） 【次回までに提出】 ワークシート⑪
第１２回	障害者に対する法制度④教科書 pp155-159 ・障害者虐待防止法を学ぶ。 ●グループワーク：ワークシート⑫「障害者虐待の事例検討」をグループで意見交換し、まとめる。	○予習 教科書を読んでおくこと（120 分） 【提出】 ワークシート⑫
第１３回	障害者に対する法制度⑤：教科書 pp160-178 ・障害者差別解消法、障害者雇用促進法、バリアフリー法を学ぶ。 ●グループワーク： ワークシート⑬ 「合理的配慮についての事例検討」をグループで意見交換し、まとめる。	○予習 教科書を読んでおくこと（120 分） 【次回までに提出】 ワークシート⑬
第１４回	障害者を取り巻く社会環境② ・障害者と性について理解する ※ゲストスピーチ ■個人ワーク：ワークシート⑭	◎復習 これまで学んだところ（教科書、配布資料、ワークシート）を見直しておく。 【次回までに提出】 ワークシート⑭
第１５回	・全体のまとめ ・期末レポート提出「重度障害のある人たちの尊厳と権利を守るための援助とは」	【提出】 ・ふりかえりシート ・期末レポート

1.授業コード（ナンバリング）	SWK104-A01	2.科目名	社会保障論		3.単位数	4
4.授業担当教員	道中　隆					
5.授業科目の区分	基幹科目 保健と福祉、行政分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 　グローバル化した循環型市場経済の中の雇用の劣化とセーフティネットの綻び、人口減少と同時進行する高齢者の増加は、年金・医療・介護などのニーズを高め、社会保障制度の根幹を揺るがすものとなっている。この超高齢社会での日本の社会保障制度、各国の社会保障制度を鳥瞰し、セーフティネットとしての社会保障のしくみとその在り方について理解する。 【概要】 　日本の社会保障は大きな転換期を迎え、著しい人口減少、家族、雇用といった激動の波を受けようとしている。近代から現代へ社会保障制度がなぜ生まれ、どのよう					
18.学習目標とＤＰとの関連	①自律的で主体的な態度(自律性) ②社会に能動的に貢献する姿勢(社会的貢献性) ③多様な文化やその背景を理解し受け入れる能力(多様性の理解):　自分とは異なる価値観や考え方を持つ人々の社会的・文化的背景を理解し受け入れることができる ④問題発見・解決力 ⑤コミュニケーションスキル：　多様な方法で情報収集と自己表現ができ意見交換ができる ⑥専門的知識・技能の活用力：　教育福祉の専門性に関して社会事象を専門知識を使って説明することができる ⑦安全・安心な社会保障：　近年、想定外の自然災害や生活を脅かす犯罪などが発生する中、人間が社会生活を送る上での「安全・安心」の視点から理解することができる					
19.教科書・教材	①新・社会福祉士養成講座編集委員会(2019)『12 社会保障』 第 6 版 中央法規					
20.参考文献	・道中隆(2012)『生活保護と日本型ワーキングプア』 ミネルヴァ書房 ・道中隆(2016)『第 2 版 貧困の世代間継承ー社会的不利益の連鎖を断つ』晃洋書房 ・山崎史郎(2017)『人口減少と社会保障ー孤立と縮小を乗り越える』 中公新書					
21.成績評価	①ワーク・小課題：5 点 × 6 回 ＝ 30%【学習目標①②③に対応】 ②小テスト 4 回：　5 点 × 4 回 ＝ 20%【学習目標①③④⑤に対応】 ③レポート：2 回 × 10 点 ＝ 20%【学習目標③④⑥に対応】 ④総括試験：30%【学習目標①②③④⑤⑥⑦に対応】 評価は上記①～④の積算方式による総括評価とする					
22.コメント	厳しいリスク社会の中では、さなざまな生活課題に直面することがあります。社会保障制度は、その困難な社会経済的な課題に対処するためのリスクヘッジとして機能するものです。 　この科目では、耳慣れない用語や難解なことばも多くでてきますが、これらは社会そのものが複雑なシステムとして成り立っていることからやむを得ないことなのです。社会の共通言語として理解しておく必要があります。社会保障制度の全体像をつかみ理解しておけば、社会にでてから必ず役に立つ、あなたの強い味方となります。					

23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室で、受講生からの質問等への対応を可能な限り行います。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1-2 回】	【第 1 回】(4/12) オリエンテーション 〇第 1 章 現代社会と社会保障 第 1 節　人口動態の変化 1 人口減少と少子高齢化 2 人口減少と少子高齢化が社会に与える影響 3 少子化対策と社会保障の課題 ・私たちの生活と社会保障 ・考えてみよう、卒業後のあなたの就労収入 ・計算してみよう、あなたの生活費シュミレーション ・社会が変われば社会保障も変わる ①.　②ワーク 【第 2 回】(4/12) 第 2 節　経済環境の変化 1 経済の動向 2 低成長経済の影響 3 経済政策と社会保障の課題 ③.	・シラバスと教科書 を必携 〇次回 4/19 「出生数 72 万人 6000 人、少子化加速」について何が問題なのかか、現状と課題について調べてくる。(120 分) 合計特殊出生率:1.26(2023.11.24 日経新聞)
【第 3-4 回】	【第 3 回】(4/19) 第 3 節　労働環境の変化 pp.14-22 1 雇用・労働の動向 2 雇用・労働の変化がもたらす影響 3 雇用・労働政策と社会保障の課題 ・考えてみよう、卒業後のあなたの就労収入 ・計算してみよう、あなたの生活費シュミレーション ・なぜ社会保障制度が必要か? ・社会保障の制度設計、何が問題でどのような課題があるのか? ・セーフティネットとは何か、あなたのライフサイクル ⑤ワーク ⑥ワーク 【第 4 回】(4/19) 〇第 2 章社会保障の概念や対象およびその理念	〇次回までに『特別養護老人ホーム入所待機者 52 万 4 千人』の問題および課題を調べてくる。 〇次回までに社会保険にはどんな種類があるのか調べてくる。(120 分)
【第 5-6 回】	【第 5 回】(4/26) 第 3 節　社会保障の理念 基本的人権とは 1 生存権 2 社会連帯 ⑦ワークー人権問題を考えるー 第 4 節　社会保障の対象 1 カバーする社会的リスクの範囲 2 人的適用範囲 《小課題 》	〇次回までに『小野市福祉給付制度適正化条例の社会的背景、課題について調べてくる。(120 分) 《小課題 》 『特別養護老人ホーム入所待機者 52 万 4 千人』の問題および課題 ?小テストⅠ?　実施

	『特別養護老人ホーム入所待機者 52 万 4 千人』の問題および課題 【第 6 回】(4/26) 第 5 節社会保障制度の展開 1 社会保障前史 2 社会保険、社会手当、公的扶助の展開 3 第二次世界大戦後の社会保障の拡充と福祉国家体制の確立 4 福祉国家体制の再編と社会保障の変容 5 日本の社会保	
【第 7-8 回】	【第 7 回】(5/10) 〇第 2 章 第 5 節社会保障の展開 社会保障と貧困問題ー事例 大阪市西成区あいりんの貧困の縮図ー ⑧ワークー医療保険 ⑨ワークー医療費膨張 ?ワークーお金はどこから? 第 3 章社会保障の財政 p60- 第 1 節 社会保障の財政 1 社会保障財政を支える財源 2 社会保障の主な財源 3 社会保障制度における財政調整 ・日本における社会保障の誕生・発展 ・社会保障の構造① ・社会保障制度の体系 ・社会保険の構造 『小野市福祉給付制度適正化条例』の論点(社会的背景	〇次回までに国民健康保険制度について調べてくる。(120 分) ■■■レポート課題 I ■■■ 授業時間内提出
【第 9-10 回】	【第 9 回】(5/17) 〇第 4 章 社会保険・社会扶助・民間保険の関係 pp.86-111 第 1 節 保険と扶助の考え方 1 保険と扶助の概念 2 保険の理論 3 扶助の理論 ・社会保障制度と人間の尊厳 男女雇用機会均等法の考え方 1 社会保険と民間保険の種類 2 社会保険と民間保険の違い ?小テスト II ? ・労働保険のしくみ(労災保険と雇用保険) 【第 10 回】(5/17) ・国民健康保険制度の現状と課題 PW1-25 第 2 節 社会保険と社会扶助の考え方 1 社会保険と社会扶助の考え方 /	〇次回までに労災保険の保険料について調べてくる。(120 分) ?小テスト II ? 実施
【第 11-12 回】	【第 11 回】(5/24) 〇第 5 章 社会保障制度の体系 pp.114-239	〇改正された最低賃金制度のポイントを調べ

	第 1 節医療保険制度、第 2 節介護保険制度、第 3 節年金制度、第 4 節労災保険制度と雇用保険、第 5 節生活保護制度、社会手当制度、社会福祉制度 第 1 節　医療保険制度の概要 1　公的医療保険の体系 2 公的医療保険の種類 3 保険給付の種類と内容 4　医療保険の各制度の財源と保険財政 【第 12 回】(5/24) 5　日本の医療保険制度の特徴 6　そのほかの医療に関する助成制度 ・社会	てくる(90 分) ○労働保険制度について調べてくる。(60 分)
【第 13-14 回】	【第 13 回】(5/31) 最低賃金制度の概要 ⑬ワークー最低賃金 7 項目 第 2 節　介護保険制度の概要 1 介護保険制度の沿革 2 介護保険制度の概要 ・ 介護保険制度のしくみ ・介護保険制度をめぐる最近の動向 第 3 節　年金制度の概要 【第 14 回】(5/31) 労働保険制度の概要 ⑭ワーク 応能二課、応益負担の具体事例 ⑮ワーク 労働関係法規 第 3 節　年金制度の概要 1 年金制度の概要と沿革 2 年金の加入と負担 3 年金の給付	○これまでの授業の復習、授業ノートを整理しておく。(90 分) ○生活保護制度について調べてくる(60 分)
【第 15-16 回】	【第 15 回】(6/07) 公的扶助生活保護制度のしくみの理解 生活困窮者対策①.②.③ 制度のしくみ PW Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ ・社保審生活保護専門部会報告(2013.1.18)に基づく基準額 ・引 き下げの影響 VTR 関西熱視線 NHK　ナショナルミニマム ⑯ワーク 生活保護の削減 4 年金財政 5 企業年金と個人年金 6 最近の改正と課題 「勤労者皆保険」の制度創設に向けて 【第 16 回】(6/07) ⑰ワーク 業態別保険加入の状況 第 4 節　労災保険制度と雇用保険制度の概要 1 労	○これまでの授業の復習、授業ノートを整理しておく(90 分) ○生活保護基準額の削減による影響について調べてくる。(120 分)
【第 17-18	【第 17 回】(6/14)	○生活保護の「補足性の原理」について調べ

回】	2 労働者災害補償保険制度 生活保護基準額の削減による影響とは ⑱ワークーブラック会社ー 生活困窮者自立支援制度の概要 【第 18 回】(6/14) 契約法とは何か(社会人として知っていなければならない知識) ⑲ワーク ー労災の保障給付の特徴 3 雇用保険制度 ・雇用保険制度の遠隔 ・雇用失業情勢の悪化	てくる(90 分) ○貧困ビジネスについて調べてくる。(120 分)
【第 19-20】	【第 19 回】(6/21) ・第 5 節 生活保護制度の概要Ⅰ　しくみの理解 ・セーフティネットとしての救済的機能 ・ ナショナルミニマムの綻びと課題 ・DVD 貧困ビジネスを考える ・生活保護制度の概要Ⅱ ー補足性 ⑳ワークー介護保険料加算に制度創設ー 21 ワークー保護の補足性ー 【第 20 回】(6/21) ・生活困窮者自立支援制度Ⅰ ・生活困窮者自立支援制度Ⅱ ・福祉サービスから保険原理 ?小テストⅢ?	?小テストⅢ? 実施
【第 21-22 回】	【第 21 回】(6/28) 第 5 章第 2 節 介護保険制度Ⅰ　pp.140-157 1 制度の沿革、2 制度の概要 ■■■レポート課題Ⅱ■■■ 『ヤングケアラーと子どもの貧困について』 3,000 字 【第 22 回】(6/28) 第 5 章第 民間保険制度の概要 2 生活保護制度の概要 ・生活保護制度、公的扶助制度のしくみ ・対象、給付、財源の概要制度の沿革と概要 ・生活保護基準について VTR 関西熱視線 NHK　ナショナル・ミニマム 生活困窮者自立支援制度Ⅱ	■■■レポート課題Ⅱ■■■ 授業時間内に提出(厳守)
【第 23-24 回】	【第 23 回】(7/05) 生活困窮者自立支援制度Ⅲ ・社会保障の制度設計と早期介入政策とは ー子育て支援をめぐる政策課題 Wー 【第 24 回】(7/05) 第 6 節　社会手当制度の概要 1 社会手当制度の概要 2 児童手当	○これまでの授業の復習、授業ノートを整理しておく(180 分) ・小テストⅣ 実施

	3 児童扶養手当制度 地域包括ケアと高齢者の住まい PW 最低居住水準と住居のナショナル・ミニマムとは 地域包括ケアと医療 PW 地域で高齢者を支えていくために PW ?小テストⅣ?	
【第 25-26 回】	【第 25 回】(7/12) 第 7 節　社会福祉制度の概要 1 社会福祉制度の概要 2 社会福祉制度の基本法 ・貧困問題 ・ 「こどもの貧困」の不利益と世代間継承 【第 26 回】(7/12) 3 高齢者福祉 4 児童福祉 5 障害者福祉 6 ひとり親家庭の支援、高齢者福祉	○これまでの授業の復習、授業ノートを整理しておく(180 分)
【第 27-28 回】	【第 27 回】(7/19) 第 6 章諸外国における社会保障制度 第 1 節　諸外国の社会保障 【第 28 回】(7/19) 第 2 節　社会保障の国際比較 第 3 節　社会保障の国際化	○これまでの授業の復習、授業ノートを整理しておく(180 分)
【第 29-30 回】	【第 29 回】(7/26) ■■■総括試験■■■ 【第 30 回】(7/26)《《 最終授業 》》 社会保障制度のあり方と国民の合意形成を目指して 振り返りと全体のまとめ	■■■総括試験■■■実施

1.授業コード（ナンバリング）	SWK105-A01	2.科目名	権利擁護と成年後見制度	3.単位数	2
4.授業担当教員	竹元志保				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	こども学専攻、福祉学専攻			9.履修学年	
10.取得資格の要件	高校(福祉)　社会福祉士受験資格	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	誰もが安心して生活できる社会を目指すためには、私たち一人一人の「人としての権利」が守られていることが不可欠です。そのため、各分野に様々な法律が制定されており、その内容も時代に応じて改正されています。 「人権が守られる社会」「権利侵害を許さない社会」を目指すべきだというのは当然として、全ての人の人権が守られるためには、どのような制度が必要なのでしょうか。また、福祉サービス等を必要とする方の人権侵害を防ぐためには、どのような取り組みが必要でしょうか。 この科目では、まず、基本的人権をはじめとした基礎的				
18.学習目標とＤＰとの関連	①憲法（特に基本的人権）や民法、行政法に関する基礎的な知識を習得する ②憲法や法律の条文を自分で読み、理解できるようになる ③社会福祉領域で特に必要となる「権利擁護」や「成年後見制度」の仕組みについて、説明できるようになる。 ④社会福祉領域での法律的なトラブルに対し、具体的に解決する方法を検討したり、必要な相談機関等につなぐことができる実践的な力を養う。				
19.教科書・教材	最新社会福祉士養成講座　「権利擁護を支える法制度」　中央法規				
20.参考文献					
21.成績評価	①課題シート 30 点（3 点×10 回分） ②小テスト 20 点 ③総括試験 50 点				
22.コメント	法律の知識は「ソーシャルワーカーに絶対的に必要なもの」ですが、ソーシャルワーカーでない人にとっても必要です。なぜなら、法律の知識は私たちの生活を安心できるものにしてくれますし、皆さん自身のことも助けてくれるからです。勉強させられているという感覚を捨て、自分自身のために知識を習得しましょう。				
23.オフィスアワー	金曜日のお昼休み講師控室等で対応します。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション ・権利擁護と成年後見制度の概要 ・社会福祉基礎構造改革と社会福祉制度	復習として授業ノートを整理し、予習として次回範囲の教科書を読んでおく
【第 2 回】	講義「権利擁護に必要な法制度」 ・ソーシャルワークにおいて想定される法律問題を学ぶ ・日本国憲法（特に基本的人権）を理解する	復習として授業ノートを整理し、予習として次回範囲の教科書を読んでおく

【第 3 回】	講義「民法?」 ・民法の概要及び契約 ・不法行為と損害賠償責任等について学ぶ。	復習として授業ノートを整理し、予習として次回範囲の教科書を読んでおく
【第 4 回】	講義「民法②」 ・家族に関する法	復習として授業ノートを整理し、予習として次回範囲の教科書を読んでおく
【第 5 回】	講義「行政法」 ・行政処分 ・行政不服申立て ・行政事件訴訟	復習として授業ノートを整理し、小テストを準備をする
【第 6 回】	小テスト? 憲法・民法・行政法の内容について小テストを実施しその後解説をしながら知識を整理する	小テストの見直しをして後半の講義に備える
【第 7 回】	講義「権利擁護の意義と支える仕組み」 ・権利擁護の意義 ・虐待や暴力から守る仕組み	復習として授業ノートを整理し、予習として次回範囲の教科書を読んでおく
【第 8 回】	講義「成年後見制度?」 ・成年後見が必要になった背景 ・成年後見制度の概要	復習として授業ノートを整理し、予習として次回範囲の教科書を読んでおく
【第 9 回】	講義「成年後見制度②」 ・任意後見の概要や成年後見人等の義務と責任、成年後見制度の動向について学ぶ。 ・成年後見事件の最近の動向を理解する。	復習として授業ノートを整理する。事例検討に備えて、成年後見制度について見直す。
【第 10 回】	講義「成年後見制度③」 ・事例検討	復習として事例検討内容を整理し、予習として次回範囲の教科書を読んでおく
【第 11 回】	講義「成年後見制度と消費者契約?」 ・民法 ・消費者契約法 ・クーリングオフ	復習として授業ノートを整理すし、小テストの備える。
【第 12 回】	講義「成年後見制度と消費者契約②」 事例検討 小テスト② 成年後見制度に関する小テスト	復習として事例検討の内容を整理し、予習として次回範囲の教科書を読んでおく
【第 13 回】	講義「日常生活自立支援事業と成年後見制度利用支援事業」 ・日常生活自立支援事業と成年後見制度 ・成年後見制度利用支援事業	復習として授業ノートを整理し、予習として次回範囲の教科書を読んでおく
【第 14 回】	講義「権利擁護にかかる組織・団体、専門職の役割」 ・裁判所の役割 ・児童相談所・婦人相談所等の専門機関 ・社会福祉協議会など	復習として授業ノートを整理し、テストに備える。
【第 15 回】	総括試験	総括試験の復習 授業ノートの整理

1.授業コード（ナンバリング）	SWK106-A01	2.科目名	老人福祉論	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本秀樹				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本講義では「加齢」に伴う様々な変化について幅広い視点で理解を進め、超少子高齢社会における諸課題に対し、どのような取組みが行われているのかを具体的に学んでいく。高齢者保健福祉領域における福祉・保健・医療の各種制度や施策、多元的なサービス供給システムのあり方、未来の高齢者福祉等について体系的に学んでいく。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、社会的貢献性、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①高齢者の特性が説明できる。 ②高齢者を支えるための各種制度がわかる。 ③地域社会におけるこれからの高齢者福祉のあり方を検討できる。				
19.教科書・教材	適宜提示します。				
20.参考文献	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）「最新社会福祉士養成講座 2　高齢者福祉」中央法規出版、ISBN9784805882450				
21.成績評価	■小課題：30%（学習目標①②） ・webclass に提出する ■最終レポート：40%（学習目標①②③） ・webclass に提出する ■ふりかえり：30%（学習目標①②③） ・学習目標の 3 つの観点に照らし合わせて学びのふりかえりを行う ・webclass に提出する				
22.コメント	・老人福祉論は介護概論と同時期に履修することを推奨します。 ・資料の配付や成果物の提出は webclass を使います。 ・毎回グループワークを実施します。 ・パソコン必携です。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 4/8	高齢者と少子高齢社会 ・高齢者の定義と特性 ・少子高齢社会の到来	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 2 回】 4/15	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ・高齢者の生活実態 ・高齢者を取り巻く社会環境	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題

【第 3 回】 4/22	高齢者福祉の歴史と理念 ・高齢者観の変遷 ・高齢者福祉の発展過程 ・高齢者福祉の理念	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 4 回】 5/13	介護保険制度① ・介護保険制度の概要	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 5 回】 5/20	介護保険制度② ・地域支援事業	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分）【提出物】 ・小課題
【第 6 回】 5/27	介護保険制度③ ・介護保険サービスの体系	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 7 回】 6/3	高齢者に対する関連諸制度① ・高齢者保健福祉の体系 ・老人福祉法 ・高齢者医療確保法	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 8 回】 6/10	高齢者に対する関連諸制度② ・高齢者虐待防止法	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 9 回】 6/17	高齢者に対する関連諸制度③ ・バリアフリー法 ・高齢者住まい法	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 10 回】 6/24	高齢者に対する関連諸制度④ ・高齢者雇用安定法 ・育児・介護休業法 ・市町村独自の高齢者支援	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 11 回】	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役	【今回の復習】

7/1	割 ・関係機関の役割 ・関連する専門職等の役割	授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 12 回】 7/8	高齢者と家族等に対する支援の実際① ・高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 13 回】 7/15	高齢者と家族等に対する支援の実際② ・高齢者と家族等に対する支援の実際	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 14 回】 7/22	未来の高齢者福祉 ・介護ロボット ・高齢者福祉のデジタルトランスフォーメーション（DX）	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 15 回】 7/29	学びのまとめ ・高齢者の特性 ・高齢者を支えるための各種制度 ・地域社会におけるこれからの高齢者福祉のあり方	【提出物】 ・最終レポート ・ふりかえり 【今回の復習】 ・学びのまとめをする（180 分）

1.授業コード（ナンバリング）	SWK201-A01	2.科目名	児童家庭福祉（福祉･保育コース)(社会福祉専修コース）		3.単位数	2	
4.授業担当教員	尾崎慶太						
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期		
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	2 年～		
10.取得資格の要件	社会福祉士		11.先修条件				
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義			
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	子どもの権利条約によって、子どもの権利は保障されているが、実生活において、子ども自身が社会に意思を主張したり、権利を守ったりすることは困難である。その状況について理解し、保護者とともに社会全体が子どもの権利や主体性の尊重、成長・発達の促進、自己実現を支える仕組み（児童家庭福祉）を学習することが、本講義の概要である。「児童家庭福祉」の理念、それに基づいた法制度、具体的なフォーマル・インフォーマルの支援（実践）内容について、体系的に学んでいくことになる。 具体的には ・児童家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情							
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業の目的を達成するために、以下の学習目標を設定しています ①わが国の子どもを取り巻く問題とその背景を説明できる ②子どもの問題に対応する児童家庭福祉の法制度の概要を説明できる ③児童家庭福祉に携わる専門職の役割を説明できる ④子どもの権利や児童家庭福祉の理念を説明できる ⑤子どもの権利保障の観点から、児童家庭福祉制度の問題点を指摘できる ⑥⑤で指摘した問題点の改善案を提案できる 本授業は、学位授与方針（DP）の（2）社会的貢献性と（5）問題発見・解決力に関連しています。							
19.教科書・教材	授業中に適宜資料等を提示する。						
20.参考文献							
21.成績評価	【課題 1】児童虐待検討ワークシート①-③_30%：学習目標①-③に対応 ・児童虐待の実態と問題が発生する背景、法制度、専門職について学習するワークシートの作成 【課題 2】子どもの権利検討ワークシート_20%：学習目標④に対応 ・子どもの権利について学習するワークシートの作成 【課題 3】最終レポート_40%：学習目標⑤-⑥に対応 ・具体的なテーマは、自身の関心のある子どもの問題を設定し、授業時のディスカッションを通して検討する ・文字数は 2000 字以上とする ・参考文献等は 5 つ以上とする※web サイト等							
22.コメント							
23.オフィスアワー							

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	オリエンテーション　※シラバスを持参すること ・授業の進め方や評価に関する説明	◆できるだけノート PC を持参すること◆
	■子どもを取り巻く問題の理解 児童虐待事例をもとに、児童虐待の定義やその実態について理解する	○【課題 1】ワークシート①（90）

	■児童家庭福祉の法制度 児童虐待事例をもとに、法制度／既存の公的サービスによる支援内容について理解する	○【課題 1】ワークシート②（90） ★【課題 1】ワークシート①提出
	■児童家庭福祉の専門職 児童虐待事例をもとに、児童家庭福祉の専門職について理解する	○【課題 1】ワークシート③（90） ★【課題 1】ワークシート②提出
	■子どもの権利保障の歴史的背景 文献をもとに、歴史的な側面から子どもの権利について理解する	○【課題 2】ワークシート（90） ★【課題 1】ワークシート③提出
	■子どもの権利条約① 子どもの権利条約の概要理解と、国内における実態を把握する	○【課題 2】ワークシート（90）
	■子どもの権利条約② 子どもの権利条約の概要理解と、国内における実態を把握する	○【課題 2】ワークシート（90） ★【課題 2】ワークシート提出
	■児童家庭福祉に関するソーシャルアクション① 児童虐待防止運動 or 社会を明るくする運動に参画する	◎児童家庭福祉のソーシャルアクションプランの検討（90）
	■児童家庭福祉に関するソーシャルアクション② 児童虐待防止運動 or 社会を明るくする運動に参画する	◎児童家庭福祉のソーシャルアクションプランの検討（90）
	■児童家庭福祉に関するソーシャルアクション③ 児童虐待防止運動 or 社会を明るくする運動に参画する	◎児童家庭福祉のソーシャルアクションプランの検討（90）
	■児童家庭福祉が対象とする問題の理解① ・子育て支援、ひとり親家庭、障害児支援、少年非行、子どもの貧困から関心のあるキーワードを選択してグルーピングし、各グループで学習をすすめる ・各グループでそのテーマに関連する実態を把握する	○【課題 3】最終レポートの執筆準備（60） ◎グループで次週までの課題に取り組む（60）
	■児童家庭福祉が対象とする問題の理解② 各グループで、設定したテーマに関連する法制度の概要を理解し、問題点を抽出する	○【課題 3】最終レポートの執筆準備（60） ◎グループで次週までの課題に取り組む（60）
	■児童家庭福祉が対象とする問題の理解③ 各グループで、設定したテーマに関連する法制度上の問題点とそれの改善案について検討する	○【課題 3】最終レポートの執筆（60） ◎グループで次週までの課題に取り組む（60）
	■グループ内討議 最終レポート内容をもとにしたグループディスカッション(学びの外化)を行い、そのことを通した気づきを最終レポートに反映(再内化)する	○【課題 3】最終レポートの執筆（120）
	■授業のまとめ ・授業のふりかえり ★【課題 3】の提出 ★【課題 4】の作成と提出	○【課題 4】ふりかえりシートの作成（60）

1.授業コード（ナンバリング）	SWK302-A01	2.科目名	福祉サービスの組織と経営	3.単位数	2
4.授業担当教員	竹元志保				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	従来の福祉サービスは、主に篤志家の寄付と篤志家及び家族の献身的な労働力に支えられ、公的な助成と行政の規制のもと、画一的に提供されていました。画一的という表現は、ややマイナスな印象を与えるかもしれませんが、我が国の社会福祉の発展過程において、その時代に最適な方法をとった結果であると表現することもできるでしょう。 しかし、医療の発展や少子高齢社会の到来により、福祉サービスのニーズは増加し、それは単なる量の変化ではなく質の変化を伴うものでした。その結果、社会福祉制度を根幹から改革しなければならない時代が到来				
18.学習目標とＤＰとの関連	?時代の変化に応じた「社会福祉」の役割の変化、それに伴う社会福祉サービスの提供主体に求められる役割の変化を理解できる ②福祉サービスにかかわる組織や団体について理解できる ③組織における戦略、管理運営、集団力学の作用、リーダーシップ論について理解できる ④福祉サービスの質を向上させる仕組みを理解できる ⑤これまでの学修で得た知識や価値観を通して、組織の中で働く自分をイメージし、仕事が円滑に進むために必要な能力や、自分自身で伸ばしたいスキルなどを具体的にイメージできるようになる ⑥?～⑤の学びを通して、社会福祉サービスの提供主体のあり方や、その中で働く人に求められるものについて考えることができる				
19.教科書・教材	一般社団法人日本ソーシャルワーク学校連盟『福祉サービスの組織と経営』中央法規				
20.参考文献	講義内で適宜指示する				
21.成績評価	①課題シート 30 点（3 点×10 回分） ②小テスト 20 点 ③総括試験 50 点				
22.コメント	・検討・考察時には、他の人と積極的に意見交換をするように努めてください。 ・最新のニュース等をご覧になると、理解が深まります。関連するニュースなどは講義内でも紹介しますが、日ごろからニュース等にも関心を持ちましょう。				
23.オフィスアワー	金曜日のお昼休みに講師控室等で対応します				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンスー講義全体の流れと授業の方法ー 福祉サービスにおける組織・経営 福祉サービスと制度	シラバスをみて、どのようなことを扱う科目なのか確認し、テキストに目を通す 基礎構造改革以前と以後の福祉サービスの変化について調べる
第 2 回	福祉サービスにかかわる組織や団体 社会福祉法人 NPO 法人 その他の団体	前回の講義の復習・見直し 福祉サービスにおける市場原理と社会福祉法人の意義について考えをまとめる
第 3 回	市場原理（競争の原理）と社会福祉サービス	前回の講義の復習・見直し

	社会福祉法人の意義	経営における戦略や事業計画についてテキストや文献を調べ、整理する
第４回	福祉サービス提供主体における経営戦略と事業計画 目標達成と成果	前回の講義の復習・見直し ピラミッド式と逆ピラミッド式と呼ばれる組織の特徴について、テキストを参考にしなら整理する
第５回	組織構造と組織原則 管理運営の基礎理論	前回の講義の復習・見直し モチベーションを維持するために必要なことは何か、テキストや文献を参考にしてまとめる
第６回	集団の力学に関する基礎理論 集団とモチベーション 集団の負の側面	前回の講義の復習・見直し どのようなリーダーのもとで働きたいか、どのようなリーダーになりたいか、具体的にイメージして考え、要点を整理する
第７回	リーダーシップに関する基礎理論 福祉サービス組織におけるリーダーシップのあり方についてグループで討議する（その際、そのようなリーダーを組織で育てていくためにはどのような視点が不可欠化も広く考えること)。	前回の講義の復習・見直し 福祉サービス提供主体における人材育成に必要な視点は何か整理する.
第８回	福祉サービスの管理運営の方法 福祉とサービス サービスの価値 品質のマネジメント	前回の講義の復習・見直し（60 分） サービスの質の向上を目指してどのような制度が導入されているか、テキストや文献を調べてまとめる（60 分）
	サービスの質の向上 なぜ質の評価システムが導入されたのか 福祉サービスの第三者評価制度 自己評価・第三者評価の実際	前回の講義の復習・見直し ?社会福祉サービスを利用するにあたり（皆さん自身あるいは家族、友人も含めて)、皆さんがサービス提供事業者に対して不満を感じたことはないか②実習先などで利用者や家族等からあがった苦情等について見聞きしたことはなかったか　を思い返し、苦情に対しどのような対応が必要か考えをまとめる。
	苦情対応とリスクマネジメント リスクマネジメントとは何か リスクマネジメントの方法	前回の講義の復習・見直し 自身のキャリアについて考え、どれくらいの年齢でどのような仕事ができるようになっていたいか（あるいはどのような立場で仕事をしたいか）などを具体的にイメージしてまとめ)。
	福祉サービスにおける人事・労務管理	前回の講義の復習・見直し バーンアウトを防ぎ、やりがいを感じながら仕事を続けるために、福祉サービスの提供者における人材育成のあり方について考えをまとめる
	福祉サービスにおける人材育成	前回の講義の復習・見直し 社会福祉法人に関する会計管理と財務管理に該当するテキストを読む

	福祉サービスの管理運営の方法 社会福祉法人の経営と財務管理・資金の流れ 社会福祉法人の財務管理の目的 社会福祉法人における会計制度	前回の講義の復習・見直し 介護サービスの情報の公表制度について調べ、第三者評価制度との違いを整理する
	情報化社会と福祉サービス 情報の活用 個人情報の保護と情報開示	前回の講義の復習・見直し 福祉サービス提供事業所における「質の向上」と「職員のモチベーションの維持」の両立について検討する。
テスト実施	テスト実施後総括 今後の社会福祉サービス提供事業所のあり方 福祉サービス提供事業所における人材育成のあり方 今後の展望と課題	講義ノートのまとめ

1.授業コード（ナンバリング）	SWK306-M01	2.科目名	保健医療福祉行政論		3.単位数	2
4.授業担当教員	道中　隆					
5.授業科目の区分	専門基礎科目 保健と福祉、行政分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、現在の医療体制が「入院から在宅」への方向が進む中、保健・医療・福祉の分野で人々の健康生活を守り、より向上させていくため領域横断的に相互の密接な連携が不可欠です。 保健医療分野において多様なニーズを抱える人々の生活が、社会福祉や社会保障の制度やサービスに繋がっていかなければなりません。そのため具体的な施策を通して保健医療福祉の連携のあり方と看護の役割を認識し実践力を身につけることを目的とします。 【概要】 看護師や保健師は住民の生活視点にたち、暮らしやすい地域づくりを具					
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の(2)社会的貢献性(4)問題発見・解決力(6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①保健医療福祉行政の理念と仕組みの基本的な考え方を説明できるようになる。 ②歴史的背景を理解し、最近の施策の動向をふまえ専門職として責任ある行動を取ることができる。 ③看護専門職としての実践や社会資源の活用ができるようになる。 ④専門分野について修得した知識、技能を、問題解決に向けて状況に応じて活用することができる。					
19.教科書・教材	標準保健師講座・別巻 1『保健医療福祉行政論』(2023) 第 5 版 医学書院					
20.参考文献	健康支援と社会保障制度③『社会福祉』(2023),メヂカルフレンド社、他授業内で論文等適宜紹介					
21.成績評価	評価・評定については、下記①②の項目が提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出されることが基本となり、③④と合わせて総合的に行います。 ①ワークシート　……....25 点（5 回×5 点）　【学習目標②に対応】 ②ふり返りシートⅠ・Ⅱ　……..... 10 点（2 回×5 点）　【学習目標①に対応】 ③中間テスト（第 09 回）　…… 25 点　【学習目標③に対応】 ④総括試験　（第 15 回）　…..					
22.コメント	保健医療福祉の分野で求められていることの理解に努め、「入院から在宅」への流れが進んでいる中、課題となっている医療と介護の連携について向き合い、支援力のある専門職を目指してほしい。					

23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室で、受講生からの質問等への対応を行う。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 4/09 (火)	・オリエンテーション、授業目標、内容、評価方法、受講上の留意点 〇第 1 章 保健医療福祉行政の基本　教科書 pp.2～20 A 保健医療福祉行政の基本となるもの ・保健医療福祉行政の理念や公衆衛生の定義を理解する ・世界の公衆衛生のトレンドについて理解する ・保健医療福祉行政の目指すものを理解する 《①ワークー支援する者の適性とは》	予習 『出生数 72 万 6000 人、予想以上に悪化する少子化,過去最少 日本総合研究所,藤波(2023)、 少子化加速について何が問題なのか調べる 合計特殊出生率(2022) 1.26 (2023.11.24 日経新聞)
【第 2 回】 4/09 (火)	〇第 2 章 保健医療福祉制度の変遷　教科書 p.22～58 A.公衆衛生の基盤形成 ・英国の近代公衆衛生の歴史を通して公衆衛生の本質を考える ・日本の近代公衆衛生の歴史、健康課題対応、その理念を理解する ・専門職と専門性 《②ワークーさまざまな人権問題》 B 保健医療福祉行政の動向 ・地域保健の基盤となる法律、制度を理解する ・日本の保健・医療・福祉に関する政策 ・少子高齢化社会における保健。医療・福祉政策との相互の関連性	復習…今回の復習 授業ノートの整理 予習 保健福祉行政の実施機関について調べる
【第 3 回】 4/10 (水)	「保健医療福祉行政の仕組みと役割」 〇第 3 章 保健医療福祉行政・財政の理念としくみⅠ 教科書 p.60～78 ・保健医療福祉行政の体系と役割について学ぶ ・行政における保健師の役割と活動を理解する ・福祉事務所、身障者・知的障者更生相談所、民生委員のしごと ・女性相談支援センターのしごと 《③ワークー保健福祉法制の理解ー》 DVD 視聴「保健室からの SOS」 《④.⑤ワークー子どもの貧困ー》	復習…今回の復習 授業ノートの整理 予習…教科書を読んでおく
【第 4 回】 4/10 (水)	「保健医療福祉行政の財政」 〇第 3 章 保健医療福祉行政・財政の理念としくみⅡ 教科書 p.79～94 ・児童相談所のしごと ・財政の役割・機能と国及び地方公共団体の仕組みを理解する ・公衆衛生に関する国際的な活動を理解する DVD 視聴 関テレ「報道ランナー」15 分、【摂津市の三歳児虐待事案】 《⑥ワークー摂津市の三歳児虐待事案を考える－》 ??「ふり返りシートⅠ」?? は授業中に配布します」	復習…今回の復習 授業ノートの整理 予習…教科書を読んでおく ◆◆「ふり返りシート」◆◆

【第 5 回】 4/11 (木)	○第 4 章 地域保健に関する公的機関　教科書 pp.96.～121 A 地域保健に関する公的機関 ・地域保健の体系における都道府県と市町村の役割分担 ・地域保健法に基づく保健所の機能強化等 B 関係機関との連携 ○第 5 章 社会保障制度と政策　pp.124.～153 《⑦グループワークーコウノトリゆりかご Matrix一》 A 社会保障制度の理念としくみ 「社会保障制度①」 ・最低限度の生活を保障する社会保障制度を総論的に学ぶ ・日本の社会保障制度のしくみ及び医療提供体制を学ぶ ・約 130 兆円に社会保	復習…今回の復習 授業ノートの整理 Web Class 資料を読んでおく
【第 6 回】 4/11 (木)	「社会保障制度②」 ○第 5 章 社会保障制度と政策　教科書 p.154～188 C 介護保険制度の概要について学ぶ 保健医療福祉行政の関係機関連携 【事例研究】 《⑨ワークー「社会的養護遺棄事例」関係機関連携ー》 《?ワークー「母現れる.親子再統合」関係機関連携ー》	予習 『特別養護老人ホーム入所待機者 52 万 4 千人』の問題および課題について調べる(60 分)
【第 7 回】 4/16 (火)	「社会保障制度③」 ○第 5 章 社会保障制度と政策　教科書 p.168～177 D 社会保障・社会福祉の制度 ・公的年金制度、労働保険(雇用保険・労災保険) ・児童福祉・高齢者福祉・障害者福祉の概要	復習…今回の復習 授業ノートの整理 予習…中間テストに備え今回までの整理
【第 8 回】 4/16 (火)	これまでに学んだ内容について確認する。 ○公的扶助(生活保護)制度のしくみ 《⑪ワークーDVD 視聴「かば」あいりん》 ○DVD 視聴 NHK　生活保護基準の引下げー何が問題なのか	復習…試験内容の復習 授業ノートの整理 予習…教科書を読んでおく
【第 9 回】 4/17 (水)	「社会保障制度④」　教科書 p.178～186 ○第 5 章 社会保障制度と政策 ・社会保障と国民健康保険制度の課題　pw.1-25 ・社会福祉の制度（高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉）の現状と方向性について 《⑫ワークー超高齢社会の課題とは》 ??中間テスト??	復習…今回の復習 授業ノートの整理 予習…教科書を読んでおく ??中間テスト??実施
【第 10 回】 4/17 (水)	「社会保障制度⑤」　教科書 p.187～188 ○第 5 章 社会保障制度と政策 ・子どもの貧困とウェルビーイング ・成年後見制度と日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事	◆「ふり返りシート II」◆

	業）について学ぶ。 テストの内容について解説する。 ??「ふり返りシートⅡ」?? は授業中に配布します	
【第 11 回】 4/18 (木)	○第 6 章 保健医療福祉の計画と評価 A「地方公共団体の保健医療福祉計画」 教科書 p.190～200 ・各種保健医療福祉計画と国・都道府県・市町村の役割り ・地方公共団体では、地方自治法に基づく市町村総合計画を柱とし てさまざまな分野の計画を策定していることを理解する ・各計画の整合性と指針に当たっての連携の重要性を学ぶ	予習 配布資料:「ヤングケアラーと子どもの貧困」(道中 2024)を読んでおく
【第 12 回】 4/18 (木)	「保健医療福祉計画の策定プロセス・推進と評価」 教科書 p201～248 ○第 6 章 保健計画の策定プロセス ・計画の策定プロセス・評価の進め方について学ぶ 《⑬ワークー 》	宿題…課題シートの作成 復習…今回の復習 授業ノートの整理 予習…教科書を読んでおく
【第 13 回】 4/23 (火)	「地域保健行政と保健師活動」 教科書 p.96～121 ○第 4 章 地域保健行政と保健師活動 A 地域保健に関する公的機関 ・地域保健の体系について理解する ・保健所と市町村保健センターの役割分担と相違点を学ぶ ・市町村保健センターと関係機関連携 B 関係機関との連携 ・地域保健と職域保健との連携 ・地域保健と学校保健の連携の課題 ・NPO・ボランティアの概要、行政との協働 ・ヤングケアラーと子どもの時間的貧困 《⑭ワークー子どもの時間貧困の対策》	課題シートの提出 復習…今回の復習 授業ノートの整理 予習…教科書を読んでおく
【第 14 回】 4/23 (火)	「保健医療福祉行政論のまとめ」 プリント ・保健医療福祉行政の基礎的なことの理解を深める ・これまでの学びのまとめなど試験アナウンス	復習…今回の復習 授業ノートの整理 予習…今回までの総まとめ
【第 15 回】 4/24 (水)	4 月 2 4 日（水） ??総括試験??	??総括試験?? 実施

1.授業コード（ナンバリング）	SWS203-Y71	2.科目名	コミュニケーション演習（1/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	板山昂				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	認定心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	※教育効果を高めるために受講者を 15 名程（× 2 クラス）に制限する。 ※春学期の履修登録期間に履修登録を行うこと。 ※履修者が多い場合には抽選を行う。 　その際、産業・消費者心理学専攻。学生メンター、COC、あじあん祭実行委員などの学内業務経験のある学生、志望している学生を優先する。 ※※夏学期期間に 2 クラスを別ゾーンで開講するが，このどちらのゾーンになるかの希望は受けつけません。				
17.授業の目的と概要	コミュニケーション力およびプレゼンテーション力は、社会人にとって必要不可欠な能力である。 コミュニケーションでは、言語によるものだけでなく、非言語的な要素もメッセージとなる。メッセージの送り手だけでなく、受け手にはそれを読み取る力が求められる。それに加え、コミュニケーション場面で生じる様々な心理学的問題を理解し、その知識を活かした効果的なコミュニケーションスキルが必要である。 本科目では「コミュニケーションのスキル」を身につけるため様々な演習を実施する。 また、コミュニケーションとともにプレゼンテーション				
18.学習目標と　ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、(5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①コミュニケーションに必要な力・技能を理解し、会話時、プレゼンテーションにおいて適切に自己表現をすることができるようになる。 ②コミュニケーションに必要な力・技能を身につけ、積極的に他者と交流することができるようになる。				
19.教科書・教材	適宜資料を配布する				
20.参考文献	橋本　剛著（2008）.『大学生のためのソーシャルスキル』　サイエンス社.				
21.成績評価	①プレゼンテーション・グループワーク：40% ②プレゼンテーション・グループワークの振り返り：40% ③レポート：20%				
22.コメント	※科目名のとおり、コミュニケーションの授業であり、課されるワークに積極的に参加することが求められる。 ※プレゼン、ディスカッション、などとにかく話すことが前提である。 ※ワークの中には恥ずかしさを感じるものが多々あるので十分に注意されたい。				
23.オフィスアワー	水曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス 　授業内容・学習目標・授業の進め方などを説明する。 　コミュニケーション・プレゼンテーションにおける	授業で出された課題について調べる。

	自身の能力について理解する	
第 2 回	コミュニケーションとは？ 　コミュニケーションに必要なものについて議論し、発表する。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 3 回	コミュニケーションの基礎スキル 　コミュニケーションスキルの基礎について解説する。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 4 回	自己主張のスキル① 　自分の考えを主張するｽｷﾙを高めるワークを行う。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 5 回	自己主張のスキル② 　自分の考えを主張するｽｷﾙを高めるワークを行う。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 6 回	意見交換のスキル① 　主張・聴く、ディスカッションについて学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 7 回	非言語コミュニケーション：感情表現と読解① 　非言語コミュニケーションの重要性、表情からの「感情の解読」スキルについて学ぶ。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 8 回	プレゼンテーションのスキル① 　プレゼンテーションスキルを実践する	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 9 回	意見交換のスキル② 　主張・聴く、ディスカッションについて学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 10 回	プレゼンテーションのスキル② 　プレゼンテーションにおける非言語情報の重要性について学ぶ。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 11 回	対人信頼感とコミュニケーション 　他者を信頼することの大切さを学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 12 回	共同作業のスキル① 　チームビルディングのためのスキルを学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 13 回	共同作業のスキル② 　チームビルディングのためのスキルを学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 14 回	非言語コミュニケーション：感情表現と読解② 　非言語によるコミュニケーションスキルを高める	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 15 回	まとめ：よりよいコミュニケーションを目指して 　振り返りをおこなう。	自分のコミュニケーションを振り返る。 最終レポートに取り組む。

1.授業コード（ナンバリング）	SWS203-Y72	2.科目名	コミュニケーション演習（2/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	板山昂				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	認定心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	※教育効果を高めるために受講者を 15 名程（× 2 クラス）に制限する。 ※春学期の履修登録期間に履修登録を行うこと。 ※履修者が多い場合には抽選を行う。 　その際、産業・消費者心理学専攻。学生メンター、COC、あじあん祭実行委員などの学内業務経験のある学生、志望している学生を優先する。 ※※夏学期期間に 2 クラスを別ゾーンで開講するが，このどちらのゾーンになるかの希望は受けつけません。				
17.授業の目的と概要	コミュニケーション力およびプレゼンテーション力は、社会人にとって必要不可欠な能力である。 コミュニケーションでは、言語によるものだけでなく、非言語的な要素もメッセージとなる。メッセージの送り手だけでなく、受け手にはそれを読み取る力が求められる。それに加え、コミュニケーション場面で生じる様々な心理学的問題を理解し、その知識を活かした効果的なコミュニケーションスキルが必要である。 本科目では「コミュニケーションのスキル」を身につけるため様々な演習を実施する。 また、コミュニケーションとともにプレゼンテーション				
18.学習目標と　ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、(5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①コミュニケーションに必要な力・技能を理解し、会話時、プレゼンテーションにおいて適切に自己表現をすることができるようになる。 ②コミュニケーションに必要な力・技能を身につけ、積極的に他者と交流することができるようになる。				
19.教科書・教材	適宜資料を配布する				
20.参考文献	橋本　剛著（2008）.『大学生のためのソーシャルスキル』　サイエンス社.				
21.成績評価	①プレゼンテーション・グループワーク：40% ②プレゼンテーション・グループワークの振り返り：40% ③レポート：20%				
22.コメント	※科目名のとおり、コミュニケーションの授業であり、課されるワークに積極的に参加することが求められる。 ※プレゼン、ディスカッション、などとにかく話すことが前提である。 ※ワークの中には恥ずかしさを感じるものが多々あるので十分に注意されたい。				
23.オフィスアワー	水曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス 　授業内容・学習目標・授業の進め方などを説明する。 　コミュニケーション・プレゼンテーションにおける	授業で出された課題について調べる。

	自身の能力について理解する	
第 2 回	コミュニケーションとは？ 　コミュニケーションに必要なものについて議論し、発表する。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 3 回	コミュニケーションの基礎スキル 　コミュニケーションスキルの基礎について解説する。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 4 回	自己主張のスキル① 　自分の考えを主張するｽｷﾙを高めるワークを行う。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 5 回	自己主張のスキル② 　自分の考えを主張するｽｷﾙを高めるワークを行う。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 6 回	意見交換のスキル① 　主張・聴く、ディスカッションについて学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 7 回	非言語コミュニケーション：感情表現と読解① 　非言語コミュニケーションの重要性、表情からの「感情の解読」スキルについて学ぶ。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 8 回	プレゼンテーションのスキル① 　プレゼンテーションスキルを実践する	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 9 回	意見交換のスキル② 　主張・聴く、ディスカッションについて学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 10 回	プレゼンテーションのスキル② 　プレゼンテーションにおける非言語情報の重要性について学ぶ。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 11 回	対人信頼感とコミュニケーション 　他者を信頼することの大切さを学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 12 回	共同作業のスキル① 　チームビルディングのためのスキルを学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 13 回	共同作業のスキル② 　チームビルディングのためのスキルを学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 14 回	非言語コミュニケーション：感情表現と読解② 　非言語によるコミュニケーションスキルを高める	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 15 回	まとめ：よりよいコミュニケーションを目指して 　振り返りをおこなう。	自分のコミュニケーションを振り返る。 最終レポートに取り組む。

1.授業コード（ナンバリング）	SWS206-Y01	2.科目名	産業・組織心理学　（2022 年度生以前　春秋通年）		3.単位数	4	
4.授業担当教員	沼田真美、有吉美恵						
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件				
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義			
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	職業選択からはじまり、職業、会社組織での役割などの社会と個人との関係は生涯にわたって続き、絶えず変化していく。自らの人生およびキャリアを考え、それをデザインしていくうえにおいて必要な心理学的知識を習得するとともに、自らの内面を捉える論理的思考力を身につける。 また、消費者の心理やビジネスコミュニケーションを学ぶとともに、職場環境の中で生じる様々な問題とそれに対処するための知識を身につける。本授業では、このような観点からキャリアにまつわる心理学的な知見を学ぶ。						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①産業・組織心理学が扱う、諸領域の基礎的な理論について説明できる。 ②組織の中で生じる人の行動や、様々な問題とそれに必要な支援について具体的に理解し、説明できる。 ③消費者の購買行動の規定因に関わる心理について理解し、説明できる。 ④産業・組織心理学の知見を自分自身の就業・キャリア発展に活かすことができる。						
19.教科書・教材							
20.参考文献	適宜紹介する						
21.成績評価	成績評価は、各担当者 50%ずつ合わせて 100%です。 ・有吉（主に組織心理学を担当） 1. 各回の 1minutepaper：1%×14 回=14%（学習目標の②③④に対応） 2. グループワーク時の相互評価：3%×4 回=12%（学習目標の①②③④に対応） 2, 到達度確認テスト：24%×1 回=24%（学習目標の①②③④に対応） ・沼田（主に消費者心理学を担当） 1. 各回の小課題 25%（学習目標の②③④に対応） 2. 到達度確認テスト 25%（学習目標の①②③④に対応）						
22.コメント							
23.オフィスアワー	授業中に説明する						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	【第 1 回】ガイダンス：産業・組織心理学の歴史 【第 2 回】ガイダンス：産業・組織心理学とは	
第 2 回	【第 3 回】産業・組織心理学の研究領域 【第 4 回】説得における態度とは何か、説得の影響力	
第 3 回	【第 5 回】採用と就職Ⅰ：採用計画 【第 6 回】社会的証明とネットレビューの心理学	

第 4 回	【第 7 回】採用と就職Ⅱ　募集活動 【第 8 回】ネガティブポイントをポジティブに見せる方法	
第 5 回	【第 9 回】モチベーションⅠ　モチベーションとは何か 【第 10 回】承諾を得やすくするためのユニットアスキング	
第 6 回	【第 11 回】モチベーションⅡ　内容理論 【第 12 回】説得時における数字の効果	
第 7 回	【第 13 回】モチベーションⅢ　過程理論 【第 14 回】従業員のモチベーションを高める心理学	
第 8 回	【第 15 回】リーダーシップⅠ　リーダーシップの特性論 【第 16 回】職場のコミュニケーション	
第 9 回	【第 17 回】リーダーシップⅡ　リーダーシップの行動論 【第 18 回】特典付加の心理学	
第 10 回	【第 19 回】リーダーシップⅢ　現代のリーダーシップ論 【第 20 回】広告・マーケティング①	
第 11 回	【第 21 回】ストレスⅠ　ストレスとは何か 【第 22 回】広告・マーケティング②	
第 12 回	【第 23 回】ストレスⅡ　職業性ストレス 【第 24 回】心理的財布と支払い	
第 13 回	【第 25 回】ストレスⅢ　メンタルヘルスとストレスコーピング 【第 26 回】苦情行動・クレーマー	
第 14 回	【第 27 回】キャリアとキャリア発達 【第 28 回】ラストシーンの心理学	
第 15 回	【第 29 回】到達度確認テスト 【第 30 回】到達度確認テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	SWS207-A01	2.科目名	ソーシャルワーク論Ⅰ	3.単位数	4
4.授業担当教員	岩本裕子				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	社会福祉士国家試験受験資格	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】本講義ではソーシャルワーカーに求められる、ソーシャルワークの基本的な価値と知識の修得を目指します。 【概要】ソーシャルワークの基盤となる価値や倫理、概念・歴史・理論と実際と、社会福祉士（ソーシャルワーカー）専門職についてなど多岐に渡ります。具体的な事例を紹介しながら理解を進めていきます。くらしの安全・安心のために、実社会でソーシャルワークがどのように必要で、どのように用いられるのか、考えを深めていきましょう。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、問題発見・解決力の学修に関連しています。 ①ソーシャルワークの歴史的発展過程と社会的背景の関連を説明することができる。 ②ソーシャルワークの基本的な特質をあげることができる。 ③社会福祉の価値に基づいた倫理的なソーシャルワークのあり方を考えることができる。				
19.教科書・教材	適宜配付します。				
20.参考文献	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）「ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）」中央法規出版 ISBN:9784805882412				
21.成績評価	■ワークシート：30%　学習目標①②③ ■確認テスト：40%　学習目標①②③ ■ふりかえりレポート：30%　学習目標①②③ ・学習目標の 3 つの観点に照らし合わせて学びのふりかえりを行います。				
22.コメント	・対人援助の専門職に求められる態度特性を身につけるために、授業の中にグループワークやペアワークを取り入れます。 ・資料や成果物の提出は webclass を使います。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】 4/11	■社会福祉士の役割と意義 ・授業の進め方や内容、評価方法の説明 ・授業シラバスを持参 ・シラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料です。ノートやファイルに添付していつでも参照できるようにしておきましょう。 ■現代社会と地域生活	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 3 回】 【第 4 回】 4/18	■福祉の仕事を考える 福祉の呼吸を極めよう ■社会福祉士とは	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 5 回】	■ソーシャルワークを事例から読み解く	【今回の復習】

【第 6 回】 4/25		・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 7 回】 【第 8 回】 5/2	■ソーシャルワークの概念 ・ソーシャルワークの定義 ・ソーシャルワークの構成要素	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 9 回】 【第 10 回】 5/9	■ソーシャルワークの基盤となる考え方 ・ソーシャルワークの原理 ・ソーシャルワークの理念	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 11 回】 【第 12 回】 5/16	■　ソーシャルワーカーの倫理① ・専門職倫理の必要性 ・倫理綱領 ・倫理的ジレンマ	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 13 回】 【第 14 回】 5/23	■　ソーシャルワーカーの倫理② ・専門職倫理の必要性 ・倫理綱領 ・倫理的ジレンマ	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 15 回】 【第 16 回】 5/30	■シャルワークの形成過程① ・ソーシャルワークの基礎確立期（～1930 年代） ・ソーシャルワークの発展期（1940 代～50 年代半ば） ・ソーシャルワークの展開期（1950 年代半ば～1960 年代以降	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 17 回】 【第 18 回】 6/6	■ソーシャルワークの形成過程② ・ソーシャルワークの基礎確立期（～1930 年代） ・ソーシャルワークの発展期（1940 代～50 年代半ば） ・ソーシャルワークの展開期（1950 年代半ば～1960 年代以降）	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 19 回】 【第 20 回】 6/13	■ソーシャルワーカーの概念と範囲① ・ソーシャルワーカーの職域 ・ソーシャルワーカーの職場・職種	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）

【第 21 回】 【第 22 回】 6/20	■ソーシャルワーカーの概念と範囲② ・ソーシャルワーカーの職域 ・ソーシャルワーカーの職場・職種	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 23 回】 【第 24 回】 6/27	■ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 25 回】 【第 26 回】 7/4	■　ジェネラリストの視点と総合的かつ包括的なソーシャルワーク①	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 27 回】 【第 28 回】 7/11	■ジェネラリストの視点と総合的かつ包括的なソーシャルワーク②	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 29 回】 【第 30 回】 7/18	■学びのまとめ ・これまでの学びを総括する。	【提出物】 ・学びのまとめのレポート ・ふりかえりレポート 【今回の復習】 ・学びのまとめをする（180 分） ・確認テストでできなかったところを復習する（180 分）

1.授業コード（ナンバリング）	SWS210-Y01	2.科目名	消費者心理学	3.単位数	2
4.授業担当教員	沼田真美				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	認定心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	職業選択からはじまり、職業、会社組織での役割などの社会と個人との関係は生涯にわたって続き、絶えず変化していく。自らの人生およびキャリアを考え、それをデザインしていくうえにおいて必要な心理学的知識を習得するとともに、自らの内面を捉える論理的思考力を身につける。 また、消費者の心理やビジネスコミュニケーションを学ぶとともに、職場環境の中で生じる様々な問題とそれに対処するための知識を身につける。本授業では、このような観点からキャリアにまつわる心理学的な知見を学ぶ。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①産業・組織心理学が扱う、諸領域の基礎的な理論について説明できる。 ②組織の中で生じる人の行動や、様々な問題とそれに必要な支援について具体的に理解し、説明できる。 ③消費者の購買行動の規定因に関わる心理について理解し、説明できる。 ④産業・組織心理学の知見を自分自身の就業・キャリア発展に活かすことができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜紹介する				
21.成績評価	1. 各回の小課題：50%（学習目標の②③④に対応） 2. 到達度確認テスト：50%（学習目標の①②③④に対応）				
22.コメント					
23.オフィスアワー	オフィスアワー：火曜昼休み（春学期） センターオフィスアワー：金曜昼休み（春学期）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	ガイダンス	
第 2 回	説得における態度とは何か、説得の影響力	
第 3 回	社会的証明とネットレビューの心理学	
第 4 回	ネガティブポイントをポジティブに見せる方法	
第 5 回	承諾を得やすくするためのユニットアスキング	
第 6 回	説得時における数字の効果	
第 7 回	従業員のモチベーションを高める心理学	
第 8 回	職場のコミュニケーション	
第 9 回	特典付加の心理学	
第 10 回	広告・マーケティング①	
第 11 回	広告・マーケティング②	

第 12 回	心理的財布と支払い	
第 13 回	苦情行動・クレーマー	
第 14 回	ラストシーンの心理学	
第 15 回	到達度確認テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	SWS302-A01	2.科目名	相談援助演習Ⅰ　（2020 年度生以前）	3.単位数	2
4.授業担当教員	春木裕美				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	社会福祉士国家試験受験資格		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】ソーシャルワーカーに求められる相談援助に係る知識と技術について、自己覚知をはじめ、基本的なコミュニケーション技術や面接技術の習得を目指します。 【概要】他の科目との関連性も視野に入れつつ、個別ワークとグループワークを通し、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習を行います。学びを通して、社会福祉士の専門職としての持続可能性について理解を深めていきます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、多様性理解、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①基本的なコミュニケーション技法を用いることができる。 ②自己覚知に基づいた行動修正ができる。 ③社会福祉の実践的価値に基づいた考察を深めることができる。				
19.教科書・教材	・適宜配付します。				
20.参考文献					
21.成績評価	■授業ごとの学びのふりかえり 50%　学習目標①② ・webclass ■最終レポート 30%　学習目標③ テーマ：「ひきこもり高齢者へのアウトリーチに効果的な相談援助技術を論じなさい。」 ・授業での学びとその他の科目を横断的に結びつける。 ・webclass ■ふりかえりシート：20%　学習目標①②③ ・学習目標の 3 つの観点で学びのふりかえりを行う ・webclass				
22.コメント	・資料の配布や成果物の提出は webclass を使います。 ・毎回ノートパソコンを持ってきてください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	ガイダンスとクラスメンバーの理解 ・授業の進め方や内容、評価の方法について説明を行う ・授業シラバス必携。このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファイルに添付していつでも参照できるようにしておくこと	【今回の復習】 ・クラスのメンバーでシラバスの内容を確認して授業の全体像を理解しておく（90 分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 3 回】 【第 4 回】	自己覚知①② ・自己を客観的に理解する	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分）

		・webclass で学びのふりかえりに取組む（90分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 5 回】 【第 6 回】	自己覚知③④ ・自己と自己に影響を与えた背景について理解する	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 7 回】 【第 8 回】	価値観の相違①② ・自他の価値観とその相違について学ぶ	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	個人の価値観と専門職の価値③④ ・個人の価値観と専門職の価値（社会福祉士の倫理綱領）について学ぶ	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	社会福祉士の行動規範①② ・社会福祉士の倫理綱領と行動規範について考える	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	基本的なコミュニケーション①② ・クライエントに対する姿勢や距離の取り方について学ぶ	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90分） 【次回の予習】

		・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 15 回】 【第 16 回】	基本的なコミュニケーション技術③④ ・ボイスメッセージの点検を行う	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90 分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	基本的な面接技術①② ・相談援助における面接の目的と特性について学ぶ	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90 分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	基本的な面接技術③④ ・面接における基本的応答技法を学ぶ	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90 分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	マッピング技法①② ・エコマップ、ジェノグラムの書き方を学ぶ	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90 分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分） 【最終レポートに向けて】 ・最終レポートの執筆をすすめる
【第 23 回】 【第 24 回】	記録の方法①② ・観察記録の方法について学ぶ	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90 分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べて

		おく（90 分） 【最終レポートに向けて】 ・最終レポートの執筆をすすめる
【第 25 回】 【第 26 回】	記録の方法③④ ・宿題の観察記録をもとに記録した内容の点検と改善を行う	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90 分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分） 【最終レポートに向けて】 ・最終レポートの執筆をすすめる
【第 27 回】 【第 28 回】	ソーシャルワーカーとしての自己課題 ・これまでの学びを踏まえて、ソーシャルワーカーとしての自己課題を検討する。 ・課題解決のための方策を具体的に設定する。	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） 【次回の予習】 ・最終レポートの内容をクラスのメンバーで共有する（180 分） ・最終レポートの共有をふまえて内容を精査し完成させる（180 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	学びのまとめ ・学びのまとめと成果物の相互点検と修正を行う ・最終レポート提出 ・ふりかえりレポート提出	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） 【復習】 ・相談演習で気付いた自己課題について行動修正に向けた計画を立てる（180 分） 【宿題】 ・最終レポート ・ふりかえりレポート

1.授業コード（ナンバリング）	SWS311-A71	2.科目名	ソーシャルワーク実習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	岩本裕子、尾崎慶太、春木裕美、山本秀樹				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	社会福祉士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	社会福祉士受験資格に必要なソーシャルワーク実習は、ソーシャルワーク実習Ⅰ60 時間、ソーシャルワーク実習Ⅱ180 時間の合計 240 時間実習になる。実習内容については、実習ⅠとⅡあわせて、以下の 10 項目を実践的に理解することになる。 ソーシャルワーク実習Ⅰは、ソーシャルワーク実習Ⅱとは機能が異なる施設/機関で実習を行うことになり、実習中に取り組む 10 項目の内容を調整しつつ、実習に取り組むことになる。 ＜ソーシャルワーク実習のねらい＞ ・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と知識と技術を統合し、社会福祉士				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ①実習目標の達成に向けた具体的な取り組みができる。 ②実習日誌の項目に沿って観察と考察を書き分けることができる。 ③スペシフィックな場面からソーシャルワークのジェネリックな側面を見出すことができる。				
19.教科書・教材	・実習配置先の専門科目のテキスト（例：特別養護老人ホーム→「高齢者に対する支援と介護保険制度」）を再度熟読しておきましょう。				
20.参考文献	・図書館に福祉実習関連の書籍が複数あります。自己課題に照らし合わせて実習前には必ず目を通しておきましょう。				
21.成績評価	・実習先施設・機関による評価　50% ・教員による評価 50%（実習ノート、巡回指導）				
22.コメント	ソーシャルワーク実習Ⅰは、厚生労働省が指定し、つソーシャルワーク実習Ⅱとは機能が異なる施設/機関で必要がある。ソーシャルワーク実習Ⅰの実習期間は 60 時間である。実習中、教員が巡回もしくは帰校日を設定し、個別指導を行う。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	・実習は厚生労働大臣が定める「指定施設」で行う。 ・実習期間は 60 時間（8 日間） ・実習時期 ・実習判定会議の結果と受け入れ先との調整により a、b、c のパターンがある。 ・多くは a パターンの実習となる。 a：3 年生の夏学期期間中（8 月から 9 月） b：3 年生の冬学期期間中（2 月から 3 月） c：3 年生の秋学期期間中（週 2～3 回） ・実習期間中の指導 ・実習先の実習指導者（毎日） ・教員の巡回指導もしくは帰校日（期間中に 1 回） ・その他、メールや電話による随時指導	・実習先施設への礼状：実習終了後 1 週間以内 ・事後レポート「実習を終えて」：実習後終了後 1 週間以内に作成し、科目担当者へメール添付で提出 ・実習ファイル：実習ノートが実習先から返却され次第、科目担当者に提出

	・実習スケジュール	

1.授業コード（ナンバリング）	SWS312-A01	2.科目名	ソーシャルワーク論III	3.単位数	4
4.授業担当教員	田嶋香苗				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	社会福祉士国家試験受験資格	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】対人援助の専門職になりゆくためには、ソーシャルワークの価値を基盤に、理論的な裏づけのある技術を身につけ、実践できることが求められます。本科目は、相談援助実践を行う上で必要な相談援助の理論と方法について、ソーシャルワークの価値・知識・技術と、具体的な実践場面を関連づけながら理解することを目的とします。 【概要】講義と演習を通じて相談援助の実践を支える理論と方法を学びます。一人ひとりのクライエントへの支援だけでなく、クライエントを取り巻く周囲のシステムへの働きかけについても理解を深めましょう。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の 4（問題発見・解決力）、5（コミュニケーションスキル）、6（専門知識・技術の活用力）の学修に関連しています。 ①価値・倫理、知識に基づいた相談援助の技術について説明できる。 ②相談援助の理論と方法を活用しながら、クライエントの抱える生活課題への対応や解決方法を考えることができる。 ③実際の援助場面と関連づけながら、相談援助の理論と方法について説明できる。				
19.教科書・教材	適宜資料を配付します。				
20.参考文献	・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（2021）『ソーシャルワークの理論と方法［共通科目］』中央法規出版 ・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（2021）『ソーシャルワークの理論と方法［社会専門］』中央法規出版 ・岩間伸之（2014）『支援困難事例と向き合う　18 事例から学ぶ援助の視点と方法』中央法規出版 ・田中英樹・中野信彦編（2013）『ソーシャルワーク演習のための 88 事例　実践につなぐ理論と技法を学ぶ』中央法規出版				
21.成績評価	【小テスト】20% ・ソーシャルワークの実践モデル/アプローチに関する基礎知識を問う問題を出題します。 ・講義時間内に実施します。 【ワークシート】30% 授業中に扱う事例等について各自で作成し、次回授業時までに提出していただきます。 【最終レポート】40% ・テーマ：ソーシャルワーカーが直面する問題に対する解決方法の提案 ・指定する事例に対して、これまでに学習した理論・方法を用いて問題を分析し、具体的な解決方法を提案していただきます。 ・文字数は 2,400 字以上とします。 ・提出締切：別途指示します。				
22.コメント	・講義に加え、グループワークの時間を多く設けます。 ・ワークシート等は授業内に回収するほか、webclass 等へ投稿していただくこともあります（その都度指示します）。				

	・授業は極力欠席しないようにしましょう。小テストや最終レポートに取り組むことも難しくなりますので、成績に大きな影響があります。
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等へ対応します

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1・2 回 4/8	・授業の進め方、内容、シラバスの説明 ・ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ・対人援助が依拠する価値へのアプローチ	★シラバスを手元に準備しておいてください 【今回の復習】 ・配付資料をもとに要点を授業ノートにまとめておく 【次回の予習】 ・次回の学習内容に関連するキーワードを調べる
第 3・4 回 4/15	・実践モデルやアプローチを学ぶ意義・全体像 ・治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル ・事例シートを用いたグループディスカッション	【今回の復習】 ・配付資料をもとに要点を授業ノートにまとめておく 【次回の予習】 ・次回の学習内容に関連するキーワードを調べる
第 5・6 回 4/22	・心理社会的アプローチ ・事例検討シートを用いたグループディスカッション	【今回の復習】 ・配付資料をもとに要点を授業ノートにまとめておく 【次回の予習】 ・次回の学習内容に関連するキーワードを調べる
第 7・8 回 5/13	・問題解決アプローチ ・事例検討シートを用いたグループディスカッション	【今回の復習】 ・配付資料をもとに要点を授業ノートにまとめておく 【次回の予習】 ・次回の学習内容に関連するキーワードを調べる
第 9・10 回 5/20	・課題中心アプローチ ・事例検討シートを用いたグループディスカッション	【今回の復習】 ・配付資料をもとに要点を授業ノートにまとめておく 【次回の予習】 ・次回の学習内容に関連するキーワードを調べる
第 11・12 回 5/27	・危機介入アプローチ ・事例検討シートを用いたグループディスカッション	【今回の復習】 ・配付資料をもとに要点を授業ノートにまとめておく 【次回の予習】 ・次回の学習内容に関連するキーワードを調べる
第 13・14 回 6/3	・行動変容アプローチ ・事例検討シートを用いたグループディスカッション	【今回の復習】 ・配付資料をもとに要点を授業ノートにまとめておく 【次回の予習】 ・次回の学習内容に関連するキーワードを調べる

第 15・16 回 6/10	・解決志向アプローチ ・事例検討シートを用いたグループディスカッション	【今回の復習】 ・配付資料をもとに要点を授業ノートにまとめておく 【次回の予習】 ・次回の学習内容に関連するキーワードを調べる
第 17・18 回 6/17	・エンパワメントアプローチ ・事例検討シートを用いたグループディスカッション	【今回の復習】 ・配付資料をもとに要点を授業ノートにまとめておく 【次回の予習】 ・次回の学習内容に関連するキーワードを調べる
第 19・20 回 6/24	・ナラティブアプローチ ・事例検討シートを用いたグループディスカッション	【今回の復習】 ・配付資料をもとに要点を授業ノートにまとめておく 【次回の予習】 ・次回の学習内容に関連するキーワードを調べる ★次回の小テストに備えて、配布資料や授業ノートを再確認しておきましょう
第 21・22 回 7/1	・システム理論とソーシャルワーク ・ソーシャルワークの様々なアプローチと実践 ・小テスト	【今回の復習】 ・配付資料をもとに要点を授業ノートにまとめておく 【次回の予習】 ・次回の学習内容に関連するキーワードを調べる
第 23・24 回 7/8	・ネットワーキングとコーディネーション ・地域支援の特徴・プロセスとスキル	【今回の復習】 ・配付資料をもとに要点を授業ノートにまとめておく 【次回の予習】 ・次回の学習内容に関連するキーワードを調べる
第 25・26 回 7/15	・社会資源の活用・調整・開発 ・ソーシャルワーク実践と社会資源	【今回の復習】 ・配付資料をもとに要点を授業ノートにまとめておく 【次回の予習】 ・次回の学習内容に関連するキーワードを調べる
第 27・28 回 7/22	ソーシャルワークに関連する技法 ・ネゴシエーション ・ファシリテーション ・プレゼンテーション ・ソーシャル・マーケティング	【今回の復習】 ・配付資料をもとに要点を授業ノートにまとめておく
第 29・30 回 7/29	・授業のふりかえり ・ふりかえり表の作成と提出	★授業内で配付された資料、授業ノートを持参してください

1.授業コード（ナンバリング）	SWS313-A01	2.科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	春木裕美				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	社会福祉士国家試験受験資格		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】ソーシャルワーカーに求められる相談援助に係る知識と技術について、自己覚知をはじめ、基本的なコミュニケーション技術や面接技術の習得を目指します。 【概要】他の科目との関連性も視野に入れつつ、個別ワークとグループワークを通し、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習を行います。学びを通して、社会福祉士の専門職としての持続可能性について理解を深めていきます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、多様性理解、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①基本的なコミュニケーション技法を用いることができる。 ②自己覚知に基づいた行動修正ができる。 ③社会福祉の実践的価値に基づいた考察を深めることができる。				
19.教科書・教材	・適宜配付します。				
20.参考文献					
21.成績評価	■授業ごとの学びのふりかえり 50%　学習目標①② ・webclass ■最終レポート 30%　学習目標③ テーマ：「ひきこもり高齢者へのアウトリーチに効果的な相談援助技術を論じなさい。」 ・授業での学びとその他の科目を横断的に結びつける。 ・webclass ■ふりかえりシート：20%　学習目標①②③ ・学習目標の 3 つの観点で学びのふりかえりを行う ・webclass				
22.コメント	・資料の配布や成果物の提出は webclass を使います。 ・毎回ノートパソコンを持ってきてください。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	ガイダンスとクラスメンバーの理解 ・授業の進め方や内容、評価の方法について説明を行う ・授業シラバス必携。このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファイルに添付していつでも参照できるようにしておくこと	【今回の復習】 ・クラスのメンバーでシラバスの内容を確認して授業の全体像を理解しておく（90 分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 3 回】 【第 4 回】	自己覚知①② ・自己を客観的に理解する	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分）

		・webclass で学びのふりかえりに取組む（90分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 5 回】 【第 6 回】	自己覚知③④ ・自己と自己に影響を与えた背景について理解する	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 7 回】 【第 8 回】	価値観の相違①② ・自他の価値観とその相違について学ぶ	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	個人の価値観と専門職の価値③④ ・個人の価値観と専門職の価値（社会福祉士の倫理綱領）について学ぶ	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	社会福祉士の行動規範①② ・社会福祉士の倫理綱領と行動規範について考える	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	基本的なコミュニケーション①② ・クライエントに対する姿勢や距離の取り方について学ぶ	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90分） 【次回の予習】

		・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 15 回】 【第 16 回】	基本的なコミュニケーション技術③④ ・ボイスメッセージの点検を行う	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90 分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	基本的な面接技術①② ・相談援助における面接の目的と特性について学ぶ	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90 分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	基本的な面接技術③④ ・面接における基本的応答技法を学ぶ	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90 分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	マッピング技法①② ・エコマップ、ジェノグラムの書き方を学ぶ	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90 分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分） 【最終レポートに向けて】 ・最終レポートの執筆をすすめる
【第 23 回】 【第 24 回】	記録の方法①② ・観察記録の方法について学ぶ	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90 分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べて

		おく（90 分） 【最終レポートに向けて】 ・最終レポートの執筆をすすめる
【第 25 回】 【第 26 回】	記録の方法③④ ・宿題の観察記録をもとに記録した内容の点検と改善を行う	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90 分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分） 【最終レポートに向けて】 ・最終レポートの執筆をすすめる
【第 27 回】 【第 28 回】	ソーシャルワーカーとしての自己課題 ・これまでの学びを踏まえて、ソーシャルワーカーとしての自己課題を検討する。 ・課題解決のための方策を具体的に設定する。	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） 【次回の予習】 ・最終レポートの内容をクラスのメンバーで共有する（180 分） ・最終レポートの共有をふまえて内容を精査し完成させる（180 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	学びのまとめ ・学びのまとめと成果物の相互点検と修正を行う ・最終レポート提出 ・ふりかえりレポート提出	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） 【復習】 ・相談演習で気付いた自己課題について行動修正に向けた計画を立てる（180 分） 【宿題】 ・最終レポート ・ふりかえりレポート

1.授業コード（ナンバリング）	SWS315-A01	2.科目名	ソーシャルワーク実習指導 II	3.単位数	1
4.授業担当教員	岩本裕子				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格			11.先修条件	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 ソーシャルワークの目的と意義、実習分野についての基本的理解を図ります。 【概要】 授業では、個別および集団指導を通し、社会福祉士養成課程におけるソーシャルワーク実習の役割、実習分野と施設・利用者等について学習します。 　また特に 3 年生夏学期のソーシャルワーク実習 I に向けて、モチベーションを高めるとともに、実習先の理解や、記録等の必要なスキルについても学習します。				
18.学習目標と ＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の(1)自律性、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能の活用　の学修に関連しています。 本授業は、以下の学習目標を設定しています。 ①ソーシャルワーク実習 I で想定される実習施設・機関の概要、その地域の特性について説明できる ②ソーシャルワーク実習 I の実習目標（実習計画）が記述できる 　「ソーシャルワーク実習の意義・目的」、「目指すソーシャルワーカー像」を意識した実習動機を踏まえた実習目標（実習計画） ③実習で想定される社会福祉士の倫理や行動規範について説明できる。 ④ソーシャルワーク実習で求められる様式で、適切な記録を書くことができる。				
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。				
20.参考文献	・白澤政和・米本秀仁編（2009）日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士　相談援助実習』中央法規 ・社会福祉実習研究会（2000）『社会福祉実習サブノート―初めて実習生となるあなたへ』中央法規 ・小木曽宏、柏木美和子、宮本秀樹（2005）『よくわかる社会福祉現場実習』明石書店 ・栗山直子、與那嶺司（2006）『福祉実習に行くあなたのための準備本―こんなときどうする?』相川書房 ・社会福祉実習研究会（2001）『社会福祉の実習事例から学ぶ 実習生のための対人援助技術』中央法規出版 ・対人援助実践研究会（2				
21.成績評価	■ワークシート　20%【学習目標①に対応】 ・想定される実習施設・機関の概要 ・想定される実習施設・機関の地域特性 ■実習で想定される倫理や行動規範について、グループワーク、プレゼンを踏まえてのレポート　20%【学習目標③に対応】 ■実習目標（実習計画）の作成とプレゼンテーション　30%【学習目標②に対応】 ■実習記録（仮）の作成　20%　【学習目標④に対応】 ■ふりかえりシート　10% ・授業の全体のふりかえりシートを提出する				

22.コメント	本授業は、3 年夏学期に実施されるソーシャルワーク実習Ⅰの事前学習となります。実習に向けて履修学生の積極的で主体的な学習を期待します。
23.オフィスアワー	

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回　4/10	授業ガイダンス ・授業の進め方、評価方法について ・相談援助実習の概要について	ワークシート①（120）
第 2 回　4/17	実習で求められる力　～実習に向けて～ 　コンピテンスチェック	○ワークシート②（120）
第 3 回　4/24	実習先の理解①実習分野について ・実習を行う様々な分野（児童、障害、老人等）について理解する 　動画等で実習先イメージを具体化する。 　違う分野、施設種別のオススメ動画を見つけ、共有する	○ワークシート③（120）
第 4 回　5/1	実習先の理解② 　自分が興味のある分野・施設種別について考える（３つ） 実習経験者への質問作成	○ワークシート④
第 5 回　5/8	実習経験者の話を聞く	○ワークシート⑤（120）
第 6 回　5/15	実習先での倫理① 実習中に想定されることを考えてみる。 実習先についての個別相談①	○ワークシート⑥（120）
第 7 回　5/22	実習先での倫理② 実習中に想定されることを考えてみる 実習先についての個別相談②	○実習経験者の話を整理する（60）
第 8 回　5/29	実習先での倫理③ 　発表	○実習経験者の話を整理する（60）
第 9 回　6/5	記録の書き方	○実習動機について、300 字レポートを作成する（120）
第 10 回 6/12	実習先ワークシートの記入①	○社会に求められる社会福祉士について調べてくる（120）
第 11 回 6/19	実習先ワークシートの記入②	○プレゼンテーションの準備をする（120）
第 12 回 6/26	実習計画書の記入① 個人票の作成①	○実習動機を踏まえた実習先候補を検討する（120）
第 13 回　7/3	実習計画書の記入② 個人票の作成②	○実習動機を踏まえた実習先候補を検討する（120）
第 14 回 7/10	実習計画書の発表	
第 15 回 7/17	授業のふりかえり 実習に行くにあたっての留意点	◇

1.授業コード（ナンバリング）	SWS401-A01	2.科目名	相談援助演習Ⅲ （2020 年度生以前）	3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	選択	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	相談援助に係る知識と技術について、個別的な体験を一般化し、実践的なものとして習得できることが本科目のねらいである。相談援助実習における学生の個別的な体験をベースに、集団指導並びに個別指導によって、知識と技術の定着を図っていく。具体的な授業の進め方は、学生が相談援助実習で体験した、特に困難事例に着目し、個別指導とグループディスカッションを行っていく。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は以下の学習目標を設定します。 ①実習経験の中から倫理的ジレンマに関する事例を記述できる ②社会福祉士の倫理綱領を用いて倫理的判断を説明できる ③事例内容に対する支援方法を、相談援助の実践モデルに関連付けて記述できる 本授業は、学位授与方針（DP）の（1）自律性と（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。				
19.教科書・教材	各自の実習日誌				
20.参考文献					
21.成績評価	■事例発表 20%【学習目標①に対応】 相談援助実習で経験した体験の中から、倫理的ジレンマや支援困難を感じた事例を抽出し、各自報告する。 ※実習を終えていない学生は、これまでの現場経験（インターンシップやサービスラーニング、ボランティアなど）をもとにすること。 ■ワークシート 30%【学習目標②に対応】 ■小テスト 20%【学習目標③に対応】 社会福祉士国家試験の過去問題から出題する ■最終レポート 30%【学習目標③に対応】 テーマ：支援困難ケースに対するソーシャルワーカーの関わり 字数：2000 字以上				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1・2 回	・オリエンテーション（授業の目的、進め方、評価方法など） ・実習経験から、相談援助の実際と課題についてグループで共有し、報告する	○相談援助実習における個別的な体験（困難を感じたもの）を事例として整理し、ワークシートに記入する（120 分）
第 3・4 回	個別指導 ・ワークシートにまとめてきた事例をもとに担当教員と個別面談を行う	○事例内容を再検討する（90 分）
第 5・6 回	個別指導 ・ワークシートにまとめてきた事例をもとに担当教員と個別面談を行う	○事例内容を再検討する（90 分）

第 7・8 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分）
第 9・10 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分）
第 11・12 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分）
第 13・14 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分）
第 15・16 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分）
第 17・18 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分）
第 19・20 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分）
第 21・22 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分） ○最終レポート執筆（90 分）
第 23・24 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分） ○最終レポート執筆（90 分）
第 25・26 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分） ○最終レポート執筆（90 分）
第 27・28 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	★最終レポート提出 ○小テストの学習（120 分）
第 29・30 回	・授業のふりかえり ・小テスト	○ふりかえりを e ポートフォリオに記事投稿する（60 分）

1.授業コード（ナンバリング）	SWS403-A01	2.科目名	スクールソーシャルワーク実習指導	3.単位数	1
4.授業担当教員	西野緑				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期～秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件	SSW 論、SSW 演習受講済み		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義･演習・実習計画作成		
16.履修制限	5 名				
17.授業の目的と概要	[目的] この授業は、自ら課題を設定し、実習計画を作成することで、目的を持って実習に望むことができるような意識を身につけることを目的とする。 【概要】 この授業は、学校での実習に向けて、学校や学校組織についての理解を深め、実習校や地域の特徴を調べ、実習計画を作成する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	（2）社会的貢献性、（4）問題発見・解決力 ①　実習校のある地域や学校の特徴を調べる。 ②　子どもや学校に関する自分の関心を深め、実習における自分の目的が発見できる。 ③　①や②を踏まえて、実習計画を作成する。 ④　自分の実習計画を授業で説明できる。				
19.教科書・教材	担当者が適宜、資料を用意する。				
20.参考文献	大塚美和子・西野緑・峯本耕治（2020）『「チーム学校」を実現するスクールソーシャルワーク』, 明石書店. 西野緑（2018）『子ども虐待とスクールソーシャルワーク　チーム学校を基盤とする「育む環境」の 創造』, 明石書店. 門田光司・奥村賢一(2009 年)『スクールソーシャルワーカーの仕事　学校ソーシャルワーク実践ガイ ド』中央法規 米川和雄(2010)『スクールソーシャルワーク実習・演習テキスト』北大路書房				
21.成績評価	○授業のまとめシート 20%（当日の学びのポイントと自分の考えたことをまとめ、担当教員は毎回フィードバックする） ○実習計画書＝40% ○総括試験＝40%				
22.コメント	スクールソーシャルワーク論やスクールソーシャルワーク演習を受講し、学校へ実習に行く人を対象とする。具体的な実習校を決め、目的を持って実習を行うための準備を行い、実りの多い実習となることをめざす。				
23.オフィスアワー	授業の前後				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	「スクールソーシャルワーク実習について」 授業の説明、評価方法 スクールソーシャルワーク実習の意義	実習の意義について確認する。

第 2 回	「スクールソーシャルワーカーの一日」 ○「スクールソーシャルワーカーの一日」を知って、自分の実習の 1 日の流れを考える。 ④グループワーク ・自分の小学生時代を語る。	実習の 1 日の流れを確認する。
第 3 回	グループワーク ・自分の中学時代を語る。 「実習計画についての説明」 ○実習計画の内容 6 項目について、自分なりの考えをまとめてみる。	
第 4 回	「スクールソーシャルワークに関わる法律」「実習計画作成」① ◆ノートパソコン使用◆	ノートパソコン持参
第 5 回	実習で学びたいネットワーク 実習をする市のネットワークについて学ぶ。 「実習計画作成」②	ノートパソコン持参 自分が興味関心のあるネットワークについて調べる。
第 6 回	「スクールソーシャルワークに関わる理論」「実習計画作成」③	ノートパソコン持参 自分の興味関心のある理論について調べる。
第 7 回	「実習で学びたい SSW の倫理と葛藤」 「実習計画作成」④	ノートパソコン持参
第 8 回	実習計画発表会 ⑤プレゼンテーション ・グループワーク 自分の小中学校時代の先生について語る。	ノートパソコン持参
第 9 回	「実習記録の方法についての理解」 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務についての理解	実習記録の書き方を確認する
第 10 回	実習を振り返って 実習記録の書き方を確認し、必要な場合は実習日誌の書き方を修正する。 ④グループワーク 自分の子ども時代の家族について語る	自分の実習記録の書き方を再度確認する。
第 11 回	実習を振り返って 「学級環境のアセスメント」	自分が関わっているクラスのアセスメントをする。
第 12 回	SSW 実習の振り返りと学校環境・地域環境のアセスメント	自分の学校環境、中学校区環境をアセスメントする。
第 13 回	「実習の振り返りと個別事例への注目」 一人の子どもに焦点を当て、アセスメント・シートに記述する方法を学ぶ。	個別事例をどのケースにするか、考える。

第 14 回	「SSW 実習を振り返って」 プレゼンテーション ・SSW 実習前半を振り返って、SSW 実習で得たことや課題を考え、報告し合う。 ・実習を振り返って ・SSW の活動について理解する。	自分の実習と SSW 論・SSW 演習で学んだこと、参考書に書かれていることの共通点と相違点を分析し、学校と SSW の活動をアセスメントする。
第 15 回	総括試験	

1.授業コード（ナンバリング）	SWS404-A01	2.科目名	スクールソーシャルワーク実習	3.単位数	2
4.授業担当教員	西野緑				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期～秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件		11.先修条件	SSW 論、SSW 演習、SSW 実習指導受講済み		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・実習		
16.履修制限	5 人				
17.授業の目的と概要	【目的】この授業は、自ら課題設定した実習計画に従って、学校でスクールソーシャルワーク実践することを目的とする。 【概要】この授業は、実際に学校に配置されているスクールソーシャルワーカーの指導を受けながら、学校での実習を行う。週 1 回、同じ曜日に SSW の配置されている中学校区の小学校および中学校で実施する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP の（2）社会的貢献性、(5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ・実際のクラスに入って、子どもの行動や関係性をアセスメントしながら子どもや学級全体への支援を行う。 ・学校で行われるケース会議や支援会議に SSW と共に参加し、ケースや学校組織および SSW の仕事への理解を深め、説明できる。 ・関係機関が参加する連携ケース会議に参加し、学校と関係機関との繋がりや課題を整理する。				
19.教科書・教材	特になし				
20.参考文献	適宜、紹介する				
21.成績評価	①実習日誌（10 日分）40% ②実習校での評価　40% ③実習報告書の発表と総括レポート＝20%				
22.コメント	3 年のスクールソーシャルワーク論、スクールソーシャルワーク演習、夏学期スクールソーシャルワーク実習指導をすでに受講し、学校へ実習に行く人が受講する。週 1 回の実習で、実際に学校に入り、子どもや教職員と関わりながら、SSW について活動をすることは、貴重な経験となる。実習中の巡回指導や大学の授業での振り返り等で、実習中の葛藤を乗り越え、自分と向き合う良い機会となり、大きな達成感を味わうことができると考える。				
23.オフィスアワー	授業の前後				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業「SSW 実習について」実習の諸注意や確認事項など ③ディスカッション	SSW 実習について習ったことを整理し、わからないことは質問できるようにする。
第 2 回	巡回指導　「学校になじむ」(規律遵守：状況に応じて必要なマナーやルールを考え、協調的に行動する)	学校をアセスメントする。
第 3 回	巡回指導　「好奇心を持つ」(知的好奇心：習得した知識・技能と学校の現象を関連づけて、新たな疑問や関	学校の特徴や地域の課題など、実習計画との差異をまとめる。

	心について積極的に学ぼうとする）	
第 4 回	巡回指導「多様性理解：多様な子どもたちに関わる際に、客観的・理性的に受け入れ、柔軟な思考や行動ができる」	学校の多様な子ども（課題を抱える子ども）に対する理解と対応をまとめる。
第 5 回	巡回指導「共感的態度：子どもの感情や思考や行動、教職員の感情などを理解し、共感を示すことができる」	子どもや教職員に対して、共感的に関われているか、自分自身を振り返る。
第 6 回	授業（帰校）グループワーク① 実習で上手くいっていることと課題の整理	グループワークで他の人の意見を聞き、自分の上手くいっていることと課題を整理し、課題に対する方策や対応をまとめ、次回提出する。
第 7 回	巡回指導　「情報収集・活用力：教職員や SSW から収集した情報を分析・解釈し、子どもの行動のアセスメントに活用することができる」	観察や聞き取りや記録などから積極的に情報を収集し、気になる子どもの行動の背景をまとめる
第 8 回	巡回指導「論理的思考力、判断力：客観的な事実や理論に基づいて状況を判断し、自分なりの仮説を組み立てることができる」	気になる子どもの背景から自分なりの仮説と手立てをまとめる。
第 9 回	巡回指導「計画・実行力：自ら立てた計画の進行状況を検証およひ修正しながら活動することができる」	自分の立てた実習計画を見直し、修正する。
第 10 回	巡回指導「自己表現力：自分の思いや考えをわかりやすく効果的に表現するために、状況に応じて様々な方法を使うことができる」	
第 11 回	授業（帰校）グループワーク②　自分の設定した課題についての発見や葛藤 ③ディスカッション	グループワークを踏まえて、自分の考えをまとめる。次回提出する。
第 12 回	巡回指導「調整力：他者の発言や文章の内容を理解した上で、自分と他者の主張の接点を見い出し、意見交換を重ね、合意に向けて調整ができる」	
第 13 回	巡回指導「自律性：自分で設定した目標の実現に向けて積極的に取り組み、やり遂げられるまで継続することができる」	
第 14 回	授業　実習報告書作成 〇実習報告書を完成し、プレゼンテーションの練習をする。 ⑤プレゼンテーション	実習報告会のプレゼンテーションの練習をする。
第 15 回	授業　実習成果報告会 ⑤プレゼンテーション	SSW 実習に行って、自分が変化したことをレポートにまとめる。

1.授業コード（ナンバリング）	SWS405-A01	2.科目名	ソーシャルワーク演習III	3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	選択		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	相談援助に係る知識と技術について、個別的な体験を一般化し、実践的なものとして習得できることが本科目のねらいである。相談援助実習における学生の個別的な体験をベースに、集団指導並びに個別指導によって、知識と技術の定着を図っていく。具体的な授業の進め方は、学生が相談援助実習で体験した、特に困難事例に着目し、個別指導とグループディスカッションを行っていく。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業は以下の学習目標を設定します。 ①実習経験の中から倫理的ジレンマに関する事例を記述できる ②社会福祉士の倫理綱領を用いて倫理的判断を説明できる ③事例内容に対する支援方法を、相談援助の実践モデルに関連付けて記述できる 本授業は、学位授与方針（DP）の（1）自律性と（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。				
19.教科書・教材	各自の実習日誌				
20.参考文献					
21.成績評価	■事例発表 20%【学習目標①に対応】 相談援助実習で経験した体験の中から、倫理的ジレンマや支援困難を感じた事例を抽出し、各自報告する。 ※実習を終えていない学生は、これまでの現場経験（インターンシップやサービスラーニング、ボランティアなど）をもとにすること。 ■ワークシート 30%【学習目標②に対応】 ■小テスト 20%【学習目標③に対応】 社会福祉士国家試験の過去問題から出題する ■最終レポート 30%【学習目標③に対応】 テーマ：支援困難ケースに対するソーシャルワーカーの関わり 字数：2000 字以上				
22.コメント					
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1・2 回	・オリエンテーション（授業の目的、進め方、評価方法など） ・実習経験から、相談援助の実際と課題についてグループで共有し、報告する	○相談援助実習における個別的な体験（困難を感じたもの）を事例として整理し、ワークシートに記入する（120 分）
第 3・4 回	個別指導 ・ワークシートにまとめてきた事例をもとに担当教員と個別面談を行う	○事例内容を再検討する（90 分）
第 5・6 回	個別指導 ・ワークシートにまとめてきた事例をもとに担当教員と個別面談を行う	○事例内容を再検討する（90 分）

第 7・8 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分）
第 9・10 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分）
第 11・12 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分）
第 13・14 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分）
第 15・16 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分）
第 17・18 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分）
第 19・20 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分）
第 21・22 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分） ○最終レポート執筆（90 分）
第 23・24 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分） ○最終レポート執筆（90 分）
第 25・26 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告のあった事例をワークシートにまとめ整理してくる（90 分） ○最終レポート執筆（90 分）
第 27・28 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	★最終レポート提出 ○小テストの学習（120 分）
第 29・30 回	・授業のふりかえり ・小テスト	○ふりかえりを e ポートフォリオに記事投稿する（60 分）

1.授業コード（ナンバリング）	TB2102-Y01	2.科目名	ブライダルビジネス	3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争				
5.授業科目の区分	専門教育科目/展開科目	6.必修・選択の区分	選択科目	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科の専門教育科目ですが、他学部他学科からの履修を歓迎します。			9.履修学年	2～4 回生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	この科目は、ブライダル業界の事情を専門的に学習します。 まず、ブライダルビジネスの現状と課題を学び、挙式までのプランニング、ドレス選び、そしてマーケティングに関する基本的な知識を身につけます。特にブライダル業界を目指す学生さんに特化して、就活に有利になるように、ビジネス能力を身につけることを目指します。 もちろん、サービス業に関わる人材が持つべきホスピタリティマインドの形成を目的とします。 〇学習目標 【目的】本講義ではブライダル業界の現状を理解し、課題に対してどのように取り組むべきかを考えることができ				
18.学習目標とＤＰとの関連	ホスピタリティ産業 ×サステナビリティについて議論し、社会・環境課題の解決にも取り組む大切さを知る機会とする。				
19.教科書・教材	教材はプリントして配布します。また、ウェブクラスに PDF で掲載しますので、各自プリントアウトするなりして授業に備えて下さい。				
20.参考文献	参考文献はその都度紹介します。またウェブクラスにも掲載します。				
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話ししたこと、配付したスライドをよく理解していること。				
22.コメント	https://dress.tagaya.co.jp/ 授業内容は変更する場合があります。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
オリエンテーション /コロナ前後で業界の何が変わったか	最初の回はオリエンテーション です。ブライダル業界とは何か説明し、具体的にはどんな仕事をしているのかをお話しします。結婚式、人生でも大切な場面に立ち会い演出する仕事です。今年はコロナが終わった最初の年、コロナの前と後で、ブライダル業界の何が、どう変わったか、今後のことを考えていきます。	アサイメントはその都度直接お伝えします。主に授業の理解度を尋ねる簡単な課題を出します。
ブライダル業界概況	2020 年はコロナ禍で大幅に減少した売上は、2022 年すでにコロナ前の 9 割の水準まで回復しました。とはいえ、国内の婚姻件数は減少していますから、競争の激化が進むブライダル業界では事業の多角化と海外展開を進めています。	資料などを見るために、毎回パソコンを持参してください。
マーケティング（集客）/市場を知る	まず、この業界のマーケティングをお話しします。市場を知り、ポイントを押さえ、集客につなげます。	毎回とは言いませんが、式場見学や衣装合わせに立ち会うなど、実地研修をしますので、日頃から服装に配慮をお願いします。
マーケティン	集客の次がプラン作成です。皆さんが目指すウェディ	

グ（集客）/プラン作成実践	ング・プランナーの出番です。この仕事は結婚式を総合的にプランニングし、準備から当日までの管理業務を行う専門的な仕事です。顧客のニーズに合う結婚式になるように提案し、必要な備品や人材の手配等を含めて総合的にサポートします。	
	さまざまな業態と取り組みを知るための学びです	
マーケティング（集客）/フェア作成実践	ブライダル・フェアの実行計画の作成と、その実践です。	
ブライダル業界の収益構造	ここからは、ブライダル業界の実態を知るために、ブライダル企業の収益構造をお話しします。皆さんの多くはまだ未婚、結婚式の費用も考えたことはないと思います。その費用、コスト、どうしてブライダル会社が収益を上げているのかを見ていきます。	
衣装（ドレス・和装）レンタルビジネスについて	収益構造の重要な要素が、衣装（ドレス・和装）レンタルビジネスです。タガヤ・ブライダルもそうですが、貸衣装業界からブライダルに転じた会社が多いのです。	
	ドレスショップの見学です。そして、そこで接客体験をしてもらいます。（仮日程です。前後する場合があります。）	
挙式スタイルについて /海外・国内リゾート・フォト wedding など	最後に、挙式スタイルについてお話しします。この中に、海外挙式・国内リゾート挙式、そしてフォト wedding などがあります。様々なスタイルを知り、仕事内容を学びます。	
業界の課題と未来について	ブライダル業界はコロナ禍からの急速な回復基調です。とはいえ、婚姻件数は減少の一歩、少子化の影響です。その中で、ブライダル・サービスの質を上げ、ブライダル文化を磨き、より多様なお客様のニーズに応えようという課題をどうとらえるかのお話しです。	
ブライダル業界におけるサステナビリティ	皆さんも大学生活でも、また授業でも SDGs の取組みを知っていますが、ブライダル業界でもサステナビリティの取組みを進めています。オーガニックな食材、環境配慮型で着心地のいいウェディングドレス、エシカルファッション、サステナブル。ジュエリーやフェアトレードのギフトなどです。	
ホスピタリティ産業とは	さて、最後の話は「ホスピタリティ」についてです。ブライダルはお客様の一生の中でも最も大切な一日を演出するビジネス、ホスピタリティを尽くしても尽くしきれない仕事です。そのためサービス業の中で最も丁寧な仕事が求められるホスピタリティ産業です。ブライダルのホスピタリティを学びます。	
ホスピタリティ業界への就	この業界を目指す皆さんのために、ホスピタリティ業界への就活では、どんな人材が求められているか、そ	

活のために	んな人財を探すために面接では何が聞かれ、どう答えればいいかを考える時間です。ご自分を上手にアピールするためのコツをお話します。	
振り返り/課題提出	最後は振り返り、この授業で学んだこと、習ったことを一通り復習して、秋学期の「プライダル実務」に備えます。また、課題のレポートいついて説明します。	

1.授業コード（ナンバリング）	TB2103-Y01	2.科目名	旅行ビジネス	3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二				
5.授業科目の区分	専門科目 旅行業分野での実務経験がある教員の授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【概要】 授業では、まず、旅行事業を取り巻く環境を左右する国の役割（観光政策）、地域の観光振興を担う自治体の役割についての理解を深めるところから始める。そして、国や自治体による観光事業の基盤整備を踏まえ、観光集客事業を担うそれぞれの事業の役割、機能、集客への取組み等について学ぶことになる。具体的には、旅行業、宿泊業、航空事業、テーマパーク等の観光施設について、個別にその事業特性や課題の抽出、課題解決に向けた取組み等について学ぶ。 【目的】 この授業では、国の観光政策や地域の観光振興を担う自治体の役割等を踏				
18.学習目標とＤＰとの関連	①　国や自治体、DMO をはじめ、様々な組織や団体の旅行事業について概略を理解し、社会との関わ 　りの中でどのような役割を果たして いるのかを説明できるようになる。 ②　観光現象を手がかりとして、現代社会の諸課題について幅広く思考を展開し観光ビジネスの可能 　性を理解できるようになる。 ・本科目の学習目標は以下の DP（ディプロマポリシー）に対応している (2)　社会に能動的に貢献する姿勢 （社会的貢献性） (4) 問題発見・解決力 (6)　専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	使用しない　適宜、資料等配布				
20.参考文献	小林弘二他(2021)編著『改訂版変化する旅行ビジネス』（文理閣）ISBN978-4-89259-3 小林弘二(2007)著『旅行ビジネスの本質』（晃洋書房）ISBN978-4-7710-1843-3 髙橋一夫・柏木千春『1 からの観光事業論』（碩学舎） ISBN978-4-502-17281-6				
21.成績評価	課題レポート（毎授業）　60%　【学習目標の①②に対応】 確認テスト　　30%　【学習目標の 1②に対応】 平常点　　10%　【学習目標の①②に対応】 ルーブリックを用いて評価します。 ・課題レポートのコピペ・剽窃・テストの不正行為・出欠に関する不正は 0 点ではなくマイナス評価となり疑義が生じた時点で教務課に報告する。このため単位認定に大きな影響を与えることを予め理解しておくこと。 ・課題提出は Web クラスを利用する。Wifi 状況を含め、いかなる理由でもメールでの提出および締切後の提出は認めな				
22.コメント	・事前配布の講義ノート（MS ワードで作成した用紙）を持参して、空所補充等を完成させ毎授業後に提出する。（パソコンを持参して空所補充等を行う）				

	・各講義の内容は講義方法、履修人数、進捗状況、理解度及び外部講師等の状況により適宜変更の場合がある。 ・ノートテイキングを推奨する。
23.オフィスアワー	山手キャンパス 3－306 研究室で実施する。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	ガイダンス 国の成長産業としての観光事業、集客に向けて国の役割について　①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
2 回目	国の成長産業としての観光事業、集客に向けて国の役割について　②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
3 回目	国の成長産業としての観光事業、集客に向けて国の役割について　③	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
4 回目	観光集客による地域の活性化に向けて、地方自治体などの役割について①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
5 回目	観光集客による地域の活性化に向けて、地方自治体などの役割について②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
6 回目	観光（旅行）事業の事業特性について①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
7 回目	観光（旅行）事業の事業特性について②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
8 回目	観光関連産業の基幹事業　旅行業①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
9 回目	観光関連産業の基幹事業　旅行業②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
10 回目	観光関連産業の基幹事業　旅行業③	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
11 回目	観光関連産業の基幹事業　旅行業④	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
12 回目	観光関連産業の基幹事業　宿泊施設の事業マネジメント①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
13 回目	観光関連産業の基幹事業　宿泊施設の事業マネジメント②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
14 回目	テーマパーク等観光関連施設のサービスマネジメント	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
15 回目	全体の振り返り。 確認テストの実施。	レポート作成 パソコン持参

1.授業コード（ナンバリング）	TB2201-Y01	2.科目名	エアラインビジネス	3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕				
5.授業科目の区分	専門教育科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生または 3 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件	観光学概論、経営学概論を履修していることが望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】観光学概論、経営学概論を基盤として、航空産業の歴史からその特性について学習する。 【概要】具体的には以下のとおり。 （1）航空産業の歴史、特に第 2 次世界大戦以降の航空産業の歴史を通して、その成り立ち並びに政策について学習する。 （2）国際的な取り決めや運送約款などネットワークキャリアの基盤となる考え方を学習する。 （3）また特に運輸産業において重要となる安全に関する基本を学習する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の【(1)自律性】【(3)多様性理解】【(4)問題発見・解決力】【(5)コミュニケーションスキル】【(6)専門的知識・技能の活用力】に関連しています。 航空産業論の講義の学習目標は、以下のとおりです。 ①航空産業の発展の過程と航空会社の存在意義について述べることができる。 ②航空会社の経営の基盤となる条約や運送約款などについて正確に理解し、その特徴を述べることができる。				
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。				
20.参考文献	航空産業入門（第 2 版）　発行：東洋経済新報社				
21.成績評価	①授業理解度（講義内容の理解）・・・40 点　（講義に出席し、配布する資料に要点を記入し、内容の理解を深める。そして毎回設定する課題に対して自分の考えを記述し、提出する。）※学習目標①、②、③に対応 ②個人ワーク＆グループワーク・・・15 点　（講義の中での設問やグループワークにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する。）※学習目標①、②、③に対応 ③確認テスト・・・45 点　（講義全体を通して航空会社のオペレーションのポイントを理解し、考察することができる）※学習目標①、②、③に対応				
22.コメント	エアラインビジネスでは、航空業界の基礎となるビジネスの仕組みを学びます。尚、航空実務では航空会社の経営戦略を、空港業務では空港などにおける航空会社のオペレーションを学びます。履修する学生の皆さんの質問を歓迎します。日頃より観光や航空関係の報道を興味をもって履修してください。				
23.オフィスアワー	金曜日　昼休み　神戸山手キャンパス 3 号館　3302 号室				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	講義【オリエンテーション】 担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習

	出の方法、受講上の留意点について説明する。	
【第２回】	講義【企業の仕組みとマネジメント】 ビジネスの基本となるマネジメントについて学習する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第３回】	講義【航空産業の歴史と政策】 航空機の発達による航空運輸業の発展および産業の発展に伴う政策について講義する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第４回】	講義【航空産業の課題】 航空の他の運輸業との比較における優位性や課題について講義する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習　第１回確認テストに備えてここまでの振り返り
第５回	講義【航空の自由化政策】 航空の自由化と規制の関連について解説し、自由化の功罪も検証する。 第１回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
第６回	講義【航空運輸業の特徴】 エアラインの座席という商品の持つ特徴と課題について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第７回】	講義【ＩＡＴＡの歴史と役割】 ICAO や IATA といった国際機関の設立と役割について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第８回】	講義【インターライン契約と運送約款】 エアライン間の様々な契約（インターライン契約）および運送約款について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第９回】	講義【日本の航空政策とエアライン】 45/47 体制　JAL 破綻　羽田発着枠調整などの日本の航空政策と課題について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習　第１回確認テストに備えてここまでの振り返り
【第１０回】	講義【空港の役割と整備計画】 航空産業における空港の役割（管制業務など）と空港整備について解説する。第２回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１１回】	講義【航空会社の安全への取り組み①】 航空機や空港における事故防止に向けた設備等について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１２回】	講義【航空会社の安全への取り組み②】 エアラインが取り組む従業員を対象とした安全推進活動について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１３回】	講義【企業の社会的責任（ＣＳＲ）とリスクマネジメント】 企業リスクに対する企業の取り組みを解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１４回】	講義【サービス品質の改善】 「お客様の声をどのように活かすか？」その仕組みを解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習　第１回確認テストに備えてここまでの振り返り
【第１５回】	講義【エアラインのビジネスと経営】 エアラインのビジネス環境やグループ経営について講義する。 第３回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

1.授業コード（ナンバリング）	TB2202-Y01	2.科目名	観光ビジネスモデル論	3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎				
5.授業科目の区分	ＵＳＪのマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	専攻必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義 アクティブ・ラーニング導入科目（グループディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	目的：ビジネスモデルとは何か？その意味を理解し、フレームワークを活用してビジネスモデルを読み解き、改善し、新たに構築する力を身に付けます 概要：ビジネスモデルは、大きく「コンセプト」「事業戦略」「スキーム」「収支」によって語られます。それぞれの要素について、皆さんの身近なビジネス・サービス・商品の実例を用いながら、グループワークなどの演習を交えて具体的に理解を深めます。また、世の中の主なビジネスモデルについて、その内容を具体例を交えて解説していきます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連しています。ビジネスモデルに関して、新規ビジネスの構築・運営や、既存ビジネスの分析・改善に広く活用できる汎用的なフレームワークを習得し、さまざまな場面で活用できるようになります。				
19.教科書・教材	資料は webclass で配布				
20.参考文献	適宜紹介				
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 23 点（各回 2 点×9 回、15 回目のみ 5 点） ?グループワークのプレゼンテーション 27 点 （各回 9 点×3 回） グループ得点（5 点満点）、グループ MVP（4 点） グループワークのディスカッションを欠席した場合は 0 点となります。 ?総括試験 50 点 ＊総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。				
22.コメント	遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。（厳守）				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	講義：ビジネスモデルとは ビジネスモデルは、大きく「コンセプト」「事業戦略」「スキーム」「収支計画」によって語られます。（もっと細かい要素に分けたり、違う切り口で分析されることもあります） 皆さんは、Youtube を見たことがありますよね？例えば Youtube のビジネスモデルを例にとって、ビジネスモデルとはどのようなものかを体感します。	予習：Youtube の収益源は何かを調べて書き出してくる。 授業のまとめシート：提出 復習：Youtube のコンセプトが他にないか考えてみる。
第 2 回	講義：コンセプトとは ビジネスモデルの基本的な構成要素を一つ一つ理解していきます。まずは「コンセプト」について解説します。	予習：「コンセプトとは何か」を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行

	グループワークを始めます。皆さんがよくご存知の商品やサービスを題材として、そのコンセプトを読み解いていただきます。	
第 3 回	グループワーク：コンセプトを読み解こう グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 4 回	プレゼンテーション：コンセプトを読み解こう 講義： コンセプトの具体例 世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸なコンセプトの例を紹介し、理解を深めます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 5 回	講義： 戦略とは もっとも重要な要素である「戦略」について、解説します。 ２回目のグループワークを始めます。皆さんがよくご存知の商品やサービスを題材として、その事業戦略を読み解いていただきます。	予習：「戦略とは何か」を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 6 回	グループワーク：事業戦略を読み解こう グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 7 回	プレゼンテーション：事業戦略を読み解こう 講義： 戦略の具体例 世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸な戦略の例を紹介し、理解を深めます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 8 回	講義： スキームとは ビジネスモデルの構成要素の一つである「スキーム」について、解説します。 ３回目のグループワークを始めます。皆さんがよくご存知の商品やサービスを題材として、その売上を増やすための戦略を構築していただきます。	予習：「ビジネススキームとは何か」を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 9 回	グループワーク：売上を増やそう　前半 事業環境分析から、ターゲットの設定、届ける価値の仮説まで。グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 10 回	グループワーク：売上を増やそう　後半 売上を増やすための具体的手法の検討。グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 11 回	講義： プラットフォームビジネス 長年プラットフォームビジネスに携わって来た方から、ビジネスモデルの現場と実践についてお話いただきます。	予習：プラットフォームビジネスについて、調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 12 回	プレゼンテーション：売上を増やそう　後半	予習：グループで課題を発表できる状態にす

	講義： 収支計画の具体例 世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸な収支計画の例を紹介し、理解を深めます。	る 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 13 回	講義： ビジネスモデルデザイン まとめ ビジネスモデルとは何かを振り返り、世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸なビジネスモデルの例を紹介し、理解を深めます。	予習：ビジネスモデルとは何かを改めて振り返って書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：総括試験へ向けて、全体の学びの整理
第 14 回	まとめと総括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	総括試験結果返却 全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	予習：講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード（ナンバリング）	TB2203-Y01	2.科目名	観光交通産業論	3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二				
5.授業科目の区分	専門科目 旅行業分野での実務経験がある教員の授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【概要】 観光は、観光客（観光主体）が観光地や施設（観光客体）を訪問する行動であり、その行動を助長、促進する交通や観光情報（観光媒体）によって構成されている。また、観光地は観光客の移動にそって演出される。見る場所や位置によってその観光素材は変化し、同じ景色でもバスと電車の車窓からでは結果的に違う景観を見せる「場を提供する」という役割も持っている。 さらに、交通は、乗り物自体が観光資源としての役割を演じるケースも多くみられる。 このように観光における交通には、単に移動手段としての役割のほか、観光地の魅				
18.学習目標とＤＰとの関連	①　観光交通の基礎を理解し、問題と課題について説明出来るようになる。 ②　交通ビジネスの役割や重要性を理解し、地域での観光価値創造の観点で説明出来るようになる。 ③　交通ビジネスが社会との関わりの中でどのような役割を果たして、社会的価値を与えるかを 提案出来るようになる。 本科目の学習目標は以下の DP（ディプロマポリシー）に対応している。 (1)　自律的で主体的な態度　（自律性） (4) 問題発見・解決力 (6)　専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	使用しない　適宜、資料等配布				
20.参考文献	観光交通ビジネス　塩見英治編著　成山堂出版　ISBN978-4-425-92881-1 旅行ビジネスの本質　小林弘二著　晃洋書房版　ISBN978-4-7710-1843-3 改訂版　変化する旅行ビジネス　小林弘二他編著　文理閣版　ISBN978-4-89259-891-3				
21.成績評価	理解度確認レポート（毎授業）　60%　【学修目標の①、②に対応】 授業理解度確認テスト　30%　【学習目標の①②に対応】 授業参加姿勢　10%　【学習目標の③に対応】 ルーブリックを用いて評価する。 課題レポートのコピペ・剽窃・テストの不正行為・出欠に関する不正は 0 点ではなくマイナス評価となり疑義が生じた時点で教務課に報告する。このため単位認定に大きな影響を与えることを予め理解しておくこと。 課題提出は Web クラスを利用する。Wifi 状況を含め、いかなる理由でもメールでの提出および				
22.コメント	交通機関は観光のための単なる移動手段としてではなく、近年では過疎化、高齢化や観光公害などの社会問題の解決としても期待が寄せられている。このような時代背景において観光という産業と社会課題の双方から交通という概念にアプローチすることで、交通機関の意義の理				

	解を深める。 講義中にディスカッションを予定しているので、旅行ビジネスついての発言が出来るように積極的な姿勢で授業に参加するように。 　講義の内容は、履修人数、進捗状況、理解度の状況により適宜変更の場合がある。 　ノートテイキングを推奨する。
23.オフィスアワー	水曜日 3 限目　3-306

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目	・オリエンテーション -講義概要　授業の進め方 観光交通産業論① 　観光とは	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
2 回目	観光交通産業論② 観光における交通の位置づけについて	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
3 回目	観光交通産業論③ 観光旅行の変遷について	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
4 回目	観光交通産業論④ 　観光旅行の変遷について②	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
5 回目	観光交通産業論⑤ 「交通サービス」と「観光」について	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
6 回目	観光交通産業論⑥ JR 西日本の観光開発についてその①	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
7 回目	観光交通産業論⑦ JR 西日本の観光開発について　その②	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
8 回目	観光交通産業論⑧ JR 西日本　京都での取組事例 授業前半の振り返り等	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。

		・パソコンを持参すること。
9 回目	観光交通産業論⑨ 航空事業・空港事業・JR 事業との比較について　その① 航空政策（政府規制と自由化について）	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
10 回目	観光交通産業論⑩ 航空事業・空港事業・JR 事業との比較について　その② ・Legacy Carrier(Full Service Carrier)の経営戦略（パブ＆スポーク、グローバルアライアンス等）	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
11 回目	観光交通産業論⑪ 航空事業・空港事業・JR 事業との比較について　その③ ・LCC ビジネスの登場、FSC(Full Service Carrier)とLCC、JR 事業との競合等	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
12 回目	観光交通産業論⑫ FSC(Full Service Carrier)の運賃制作（イールドマネジメント）	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
13 回目	観光交通産業論⑬ 航空事業運営における顧客満足の重要性について	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
14 回目	観光交通産業論⑭ 航空会社の運営における顧客満足の重要性について② DVD 教材による事例研究	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
15 回目	観光交通産業論⑮ 　全体振り返り 　確認テストの実施	全体振り返り 確認テストの実施 パソコンを持参すること。

1.授業コード（ナンバリング）	TB2302-Y01	2.科目名	テーマパーク･リゾートビジネス	3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎				
5.授業科目の区分	ＵＳＪのマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年次～
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義 アクティブ・ラーニング導入科目（グループディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	目的：ディズニーやＵＳＪなどのテーマパークを、経営学的観点から理解し、テーマパーク経営における問題発見と解決策を見出す能力を身につけます。 概要：テーマパークの収入は、おもに①入場料、②飲食、③お土産などの物販、で構成されます。どうやってそれぞれの収入を最大化するかについて、例えば「ユニバでいちばん人気のお土産やレストランメニューを企画してみよう！」といった実践的なワークを通じて、深く考察していきます。履修後には、テーマパークの収入・コスト・リスクなどについて、経営的な視点から批判し解決策を提案できるよう				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(4)問題発見・解決力と最も深く関連しています。テーマパーク経営において、ゲスト目線だけではなく経営者目線で問題点を発見し、それを解決できる能力を獲得します。その能力の裏付けとして、DP の(6)専門的知識・技能の活用力を、テーマパークの現場で起こっていることをベースに、テーマパーク事業の専門的知識を習得します				
19.教科書・教材	資料は webclass で配布				
20.参考文献	適宜紹介				
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 25 点（各回 2 点×10 回、15 回目のみ 5 点） ?グループワークのプレゼンテーション 25 点 （各回 8 点×2 回、9 点×1 回） グループ得点（4～5 点満点)、グループ MVP（4 点） グループワークのディスカッションを欠席した場合は 0 点となります。 ?総括試験 50 点 ＊総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。				
22.コメント	遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。(厳守)				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	講義：テーマパークの経営は、面白い！① 今やディズニーを超える人気のユニバ。しかし、過去にはゲストが集まらず、何度も何度も倒産の危機があったのです。つぶれかけのテーマパークが、どうやって大復活したのか？経営側の視点から講義します。	予習：ＵＳＪの入場者数の推移をまとめ、その変化の原因を考える 授業のまとめシート：提出 復習：ＵＳＪの入場者数の変化の原因をまとめる
第 2 回	講義：テーマパークの経営は、面白い！② ユニバの大復活の秘訣は、「マーケティング」です。テーマパーク経営において、マーケティングの果たす役割とは？ グループワークを始めます。ユニバでいちばん人気の	予習：ディズニーリゾートとＵＳＪのお土産とレストランメニュー（メニュー、値段）をまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行

	お土産、または、いちばん人気のレストランメニューを企画します。	
第 3 回	グループワーク：ユニバでいちばん人気のお土産 or レストランメニューを作ろう！ グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 4 回	プレゼンテーション：グループワークの成果発表 講義：テーマパークの現場 では実際にテーマパークの中では、何を考え、どんなことが起こっているか？	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 5 回	講義： テーマパークビジネスの全体像①　日本国内 主に国内において、アミューズメントパークの経営主体は誰か？歴史的背景と現状、将来について。ひらパーなど、比較的小規模な「遊園地」の経営についても一緒に考えてみましょう。	予習：国内の遊園地やテーマパークを経営しているのはどんな企業かをまとめる。 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 6 回	講義： テーマパークビジネスの全体像② グローバル テーマパーク先進国であるアメリカや海外も含めて、テーマパークの経営主体は誰か？テーマパークビジネスの収入源は何か？収入を伸ばすために、テーマパークが実践している戦略とは？	予習：　海外のテーマパークの入場料金設定をまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 7 回	講義：テーマパークビジネスの全体像③ テーマパークの経営の基本は「来場者数 x 客単価」です。客単価を上げることの重要性について、学びます。 ２回目のグループワークを始めます。「赤字のテーマパークを救え！」。ここまでの議論・講義を受けて、テーマパークをもっと盛り上げるための具体的な施策を、ご提案ください。	予習：国内のテーマパークの入場料金設定をまとめる。 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 8 回	グループワーク：赤字のテーマパークを救え！前半 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとコメントさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 9 回	プレゼンテーション：グループワークの成果発表 講義：テーマパークの現場 では実際にテーマパークの中では、何を考え、どんなことが起こっているか？	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 10 回	グループワーク：赤字のテーマパークを救え！後半 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとコメントさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 11 回	プレゼンテーション：グループワークの成果発表 講義：テーマパークの現場 では実際にテーマパークの中では、何を考え、どんなことが起こっているか？	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する

第 12 回	講義：テーマパーク経営のリスク テーマパークは、とてもリスクが高いビジネスです。日曜日の天気予報が雨。それだけで何割も収入が減ってしまいます。どのようなリスクがあるのか？そのリスクに対して、テーマパークが実践している戦略とは？	予習：過去のテーマパークで発生した事故についてまとめる。 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 13 回	講義：テーマパークビジネスの全体像④ まとめ 企業経営の使命は、顧客満足度を上げながら利益を確保し、次の拡大投資につなげることです。ここまで勉強してきた、テーマパーク事業における収支、リスクなどについて、すべてをまとめて整理します。	予習：これまでの学びを受けて、国内のテーマパークの、主な収入項目と支出項目を書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：総括試験へ向けて、全体の学びの整理
第 14 回	まとめと総括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	総括試験結果返却 全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	予習：講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード（ナンバリング）	TC2102-Y01	2.科目名	観光地理学	3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 授業では、毎回テーマを決め、観光についての日本地理について学習します。観光地の現状、課題について、日本の主要な観光地域を事例として学びます。歴史、産業、文化、自然環境などが関わることで観光地域、地域の創意工夫による開発が観光地の発展につながることを理解します。 【概要】 はじめの 4 回の授業では、日本全体を視野に入れてその多様な地理的特徴と区分について学習します。 5 回から 13 回目までは、日本の諸地域にクローズアップして、自然環境・産業・人口などの特徴や観光資源について学習します。授業は、講義の部				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）・KUISs 学修ベンチマークの以下の項目と関連しています (1)自律的で主体的な態度（自律性） (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 本科目の学習目標は以下の通りです。 １．受講生は、日本についての基本的な地理的知識を理解して、説明することができる。 ２．受講生は、授業で身につけた日本地理の知識に基づいた、日本をめぐるオリジナルの観光プランを企画して、授業で発表することができる。				
19.教科書・教材	教材を Web Class にて配布します				
20.参考文献	地図帳。授業中に紹介します。				
21.成績評価	日本の都道府県クイズ作成・日本の都道府県カルタ作成・毎回提出する授業内レポート(25%)…（学習目標 1 に対応） 発表（日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表）(25%)…（学習目標 1 に対応） 中間テストと期末テスト(５０%)…（学習目標 2 に対応） 記述問題と発表については、ルーブリック評価により採点します。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	個人研究室：月曜昼休み 学修支援センター：金曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション：地球儀で地球の姿をみよう	
【第 2 回】	世界の国々と地域区分：地図をみよう 日本の位置を調べよう：自然環境からみた日本 日本の都道府県クイズ	グループあるいは個人で、日本の都道府県クイズを作ってもらいグループごとに発表しますので、準備学習をしてください。
【第 3 回】	色々な見方で都道府県を探ろう 日本の都道府県かるた	グループあるいは個人で、日本の都道府県かるたを作ってもらいます。グループごとに発表しますので、準備学習をしてください。
【第 4 回】	日本をいくつかの地域に分けよう：自然や文化をもと	グループで、日本の都道府県クイズとかるた

	に区分しよう 日本の地形：山地・海岸・河川・平地	大会をします。大会の後には振り返りシートを授業中に提出してください。
【第 5 回】	日本の諸地域：九州・沖縄地方	グループあるいは個人で、九州・沖縄地方の観光地を一つ選んで発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をまとめて授業中に提出してください。
【第 6 回】	日本の諸地域：中国地方	グループあるいは個人で中国地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 7 回】	日本の諸地域：四国地方	グループあるいは個人で四国地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 8 回】	日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その１） 中間テスト	中間テストの準備学習をしてください。ツアープランのアイデア発表の後には発表内容をまとめて授業中に提出してください。
【第 9 回】	日本の諸地域：近畿地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その２）	グループあるいは個人で、近畿地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 10 回】	日本の諸地域：中部地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その３）	グループあるいは個人で、中部地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容を授業中にレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 11 回】	日本の諸地域：関東地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その４）	グループあるいは個人で、関東地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をまとめて授業中に提出してください。
【第 12 回】	日本の諸地域：東北地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その５）	グループあるいは個人で、東北地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 13 回】	日本の諸地域：北海道地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その６）	グループあるいは個人で北海道地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をまとめて授業中に提出してください。
【第 14 回】	期末テスト 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その７）	期末テストの準備学習をしてください。ツアープランについて発表の準備をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 15 回】	まとめ	期末テストのふりかえり、発表のふりかえり

1.授業コード（ナンバリング）	TG2102-Y01	2.科目名	観光地理	3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 授業では、毎回テーマを決め、観光についての日本地理について学習します。観光地の現状、課題について、日本の主要な観光地域を事例として学びます。歴史、産業、文化、自然環境などが関わることで観光地域、地域の創意工夫による開発が観光地の発展につながることを理解します。 【概要】 はじめの 4 回の授業では、日本全体を視野に入れてその多様な地理的特徴と区分について学習します。 5 回から 13 回目までは、日本の諸地域にクローズアップして、自然環境・産業・人口などの特徴や観光資源について学習します。授業は、講義の部				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）・KUISs 学修ベンチマークの以下の項目と関連しています (1)自律的で主体的な態度（自律性） (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 本科目の学習目標は以下の通りです。 １．受講生は、日本についての基本的な地理的知識を理解して、説明することができる。 ２．受講生は、授業で身につけた日本地理の知識に基づいた、日本をめぐるオリジナルの観光プランを企画して、授業で発表することができる。				
19.教科書・教材	教材を Web Class にて配布します				
20.参考文献	地図帳。授業中に紹介します。				
21.成績評価	日本の都道府県クイズ作成・日本の都道府県カルタ作成・毎回提出する授業内レポート(25%)…（学習目標 1 に対応） 発表（日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表）(25%)…（学習目標 1 に対応） 中間テストと期末テスト(５０%)…（学習目標 2 に対応） 記述問題と発表については、ルーブリック評価により採点します。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	個人研究室：月曜昼休み 学修支援センター：金曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション：地球儀で地球の姿をみよう	
【第 2 回】	世界の国々と地域区分：地図をみよう 日本の位置を調べよう：自然環境からみた日本 日本の都道府県クイズ	グループあるいは個人で、日本の都道府県クイズを作ってもらいグループごとに発表しますので、準備学習をしてください。
【第 3 回】	色々な見方で都道府県を探ろう 日本の都道府県かるた	グループあるいは個人で、日本の都道府県かるたを作ってもらいます。グループごとに発表しますので、準備学習をしてください。
【第 4 回】	日本をいくつかの地域に分けよう：自然や文化をもと	グループで、日本の都道府県クイズとかるた

	に区分しよう 日本の地形：山地・海岸・河川・平地	大会をします。大会の後には振り返りシートを授業中に提出してください。
【第 5 回】	日本の諸地域：九州・沖縄地方	グループあるいは個人で、九州・沖縄地方の観光地を一つ選んで発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をまとめて授業中に提出してください。
【第 6 回】	日本の諸地域：中国地方	グループあるいは個人で中国地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 7 回】	日本の諸地域：四国地方	グループあるいは個人で四国地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 8 回】	日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その１） 中間テスト	中間テストの準備学習をしてください。ツアープランのアイデア発表の後には発表内容をまとめて授業中に提出してください。
【第 9 回】	日本の諸地域：近畿地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その２）	グループあるいは個人で、近畿地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 10 回】	日本の諸地域：中部地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その３）	グループあるいは個人で、中部地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容を授業中にレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 11 回】	日本の諸地域：関東地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その４）	グループあるいは個人で、関東地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をまとめて授業中に提出してください。
【第 12 回】	日本の諸地域：東北地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その５）	グループあるいは個人で、東北地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 13 回】	日本の諸地域：北海道地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その６）	グループあるいは個人で北海道地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をまとめて授業中に提出してください。
【第 14 回】	期末テスト 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その７）	期末テストの準備学習をしてください。ツアープランについて発表の準備をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 15 回】	まとめ	期末テストのふりかえり、発表のふりかえり

1.授業コード（ナンバリング）	TG2104-Y01	2.科目名	日本地域研究	3.単位数	2
4.授業担当教員	小磯学				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件		11.先修条件	とくになし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義（人数によっては演習方式も取り入れる）		
16.履修制限	とくになし				
17.授業の目的と概要	本授業の目的と概要 ・和食がユネスコ無形文化世界遺産となり、伝統建築や着物、茶道、アニメや映画など、日本のあらゆる文化は「クール・ジャパン」と総称され今世紀に入りさらに注目度を増しており、2010 年には経済産業省に「クール・ジャパン室」が設けられてもいる。海外の人々を魅了するこうした文化を維持し継承していくためにも、まずは各々についてその歴史的背景とともにしっかりと理解しておく必要がある。 　それは日本人にとっては自分をより深く知り、また他国の人々にとっても日本をより深く知る作業にほかならず、真の国際人と				
18.学習目標と　ＤＰとの関連	本授業の学習目標は、観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）のうちとくに下記に関連しています。 ・自律的で主体的な態度（自律性） ・多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） ・問題発見･解決力 本授業の学習目標＝以下を説明できるようになること。 ?日本の文化を担う「日本人」 ?日本の文化（全般的な）の特色 ?日本の歴史の概略 ?アジアの中の日本の位置づけと関係性、そして将来的な展望				
19.教科書・教材	特定の教科書は使わない。WebClass 上の授業資料の確認・復習を怠らないこと。				
20.参考文献	石毛直道（2015）『日本の食文化史――旧石器時代から現代まで』岩波書店 トーマス、ロックリー（2019）『英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史』東京書籍 森田正康、カン・アンドリュー・ハシモト（2018）『外国人から日本についてよく聞かれる質問200』クロスメディア・ランゲージ 山本 素子 （2019）『日本文化 ビジュアル解体新書』SB クリエイティブ 　　など				
21.成績評価	課題の提出：30%（上記学習目標?～?） 中間試験：30%（学習目標?～?） 期末試験：40%（上記学習目標?～?）				
22.コメント	・最重要事項＝やる気、本気、根気、好奇心と情熱。 ・自分自身で調べ、考えること。				
23.オフィスアワー	春学期				

	個人研究室：金曜 3 限 学習支援センター：水曜昼休み 秋学期 個人研究室：金曜 3 限 学習支援センター：水曜 1 限

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	イントロダクション：文化とは？ 日本人とは？	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 2 回】	世界とアジアの中での日本の位置づけ：地理・歴史	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 3 回】	歴史的背景（1）：先史～古代	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 4 回】	歴史的背景（2）：中世～近世	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 5 回】	歴史的背景（3）：近世～現代	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 6 回】	宗教：神道と仏教	今日の人類の 99.999%を支える歴史的分岐点。
【第 7 回】	衣食住	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 8 回】	中間試験	前半の振返り
【第 9 回】	和食	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 10 回】	茶道、華道	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 11 回】	武士道	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 12 回】	ポップカルチャー：マンガ、アニメ、コスプレ、ゲーム、ライトノベル、アイドル…	WebClass 上の授業資料の確認・復習。
【第 13 回】	工業製品：車、バイク、電気製品…	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 14 回】	国策としてのクール・ジャパンと観光促進	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 15 回】	総括試験	総括

1.授業コード（ナンバリング）	TG2207-Y01	2.科目名	北米地域研究	3.単位数	2
4.授業担当教員	遠藤泰生				
5.授業科目の区分	基盤科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全専攻			9.履修学年	指定無し
10.取得資格の要件		11.先修条件	無し		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、アクティブ・ラーニング		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 植民地時代から現代までのアメリカ合衆国の歴史と文化を概観し、現代アメリカ社会を形づくる社会規範の生成と変成を学ぶ。2023 年度は、とくに、アメリカ社会を今なお強く規定する人種規範の歴史に注意を払いながら、アメリカの近代史を学ぶ。 【概要】 2020 年以来アメリカ社会を揺るがし世界の注目を集めた BLM(Black Lives Matter)運動の起源を、18、19 世紀の歴史に学ぶ。政治文書にとどまらず、文学表象、絵画、映画など多様なメディアに刻まれた時代の息吹に触れることで、立体的で奥行きの				
18.学習目標とＤＰとの関連	人種をめぐる問題が切迫した問題として意識されにくい日本社会に私たちは生きている。そのため、アメリカ合衆国の問題をともすれば遠い国の問題として捉えがちになる。しかし、グローバル化が進む 21 世紀を生きるには、そのような意識をあらため、異なる文化を持つ異なる民族と共生する姿勢を積極的に学ぶ必要がある。その意味で、学術上の知識を単なる書物の中の知識としてでなく、私たちが世界の人々と共に生きる実践的な知に繋げることが授業の学習目標となる。より具体的な目標は以下となる。 ①　18 世紀、19 世紀における合衆国の歴史と文化を学び、問題を発見する能力を培う。 ②　異なる文化を持つ多くの民族が共生するうえでの困難や問題点を理解し、問題を解決する視野をひろげる。 ③　黒人奴隷制度が合衆国に根付いた歴史とその遺産を学ぶ。 ④　①から③を学ぶことで、異文化と共生するのに必要な多様性の理解を深める。				
19.教科書・教材	遠藤泰生・小田悠生編『はじめて学ぶ　アメリカの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2023）				
20.参考文献	1　フレデリック・ダグラス著/専修大学文学部歴史学科南北アメリカ史研究会訳『アメリカの奴隷制を生きるーーフレデリック・ダグラス自伝』（彩流社、2016） 2　その他、授業のテーマを理解するのに助けとなる資料を事前に Webclass で指示、配布する。				
21.成績評価	学期中に複数回求める歴史地図の提出　　ーー　30 点（目標①に対応） 教科書の指定箇所を対象とする小テストとリアクション・ペーパー　ーー　20 点（目標②③に対応） 学期中に鑑賞する映画の感想文　　ーー　10 点（目標②③に対応） 総括試験　　ーー　40 点　（目標④に対応） すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計 60％以上の評価で合格となる。				
22.コメント	授業中に疑問に思ったこと、驚いたことなど、積極的に質問、発言してくれて構わない。講義の間に課題読書を素材にさまざまの問いかけをするので、ためらわずに答えること。 映画感想等は、自分の言葉で必ず綴ること。ネットからの無断引用が見つかった場合、理由の如何によらず、履修単位は取得できない。日本語の正しい表記が、評価の重要な基準となる。				
23.オフィスアワー	授業直後の昼休み、または事前に予約した時間。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	講義　「導入：アメリカ合衆国の歴史と文化を学ぶ視点」	予習：教科書『歴史と文化』「歴史の扉 1 」 復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 2 回	講義　「先住民社会とアメリカ：First Nation の多様性」	予習：教科書『歴史と文化』「第 1 章」 復習：今回の復習および授業ノートの整理 提出：「アメリカ 50 州の州名記入図」（白地図データは Webclass で配布）
第 3 回	講義　「ピューリタニズムの神話」	予習：教科書『歴史と文化』「第 2 章」「歴史の扉 2 」 復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 4 回	講義　「近代アメリカにおける寛容の発生：政教分離」	予習：教科書『歴史と文化』「歴史の扉 6」 復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 5 回	講義　「独立戦争の神話：独立と相互承認」	予習：教科書『歴史と文化』「第 3 章」 復習：今回の復習および授業ノートの整理 提出：「独立 13 植民地図」（白地図データは Webclass で配布）
第 6 回	講義　「合衆国連邦憲法の成立：三権分立と大共和国論」	予習：教科書『歴史と文化』「第 4 章」 復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 7 回	講義　「南北アメリカにおける黒人奴隷制社会の誕生」	予習：教科書『歴史と文化』「歴史の扉 3 」 復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 8 回	講義　「近代アメリカにおける黒人奴隷制社会の発展」	予習：トマス・ジェファソン『ヴァージニア覚え書き』指定箇所。資料は Webclass で配布。 復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 9 回	映画鑑賞　「アメリカ南部社会論の系譜ーー映画『それでも夜は明ける』鑑賞」	予習：なし 復習：今回の復習および授業ノートの整理 提出：『それでも夜は明ける』の感想文を次週までに Webclass で提出。日本語で 1200 字以内。(Within 500 Words in English.)
第 10 回	講義　「アメリカ女権運動の黎明」	予習：教科書『歴史と文化』「第 5 章」「歴史の扉 9 」 復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 11 回	講義　「セクショナリズムの時代」	予習：教科書『歴史と文化』 「第 5 章」「歴史の扉 7」 復習：今回の復習および授業ノートの整理 提出：「歴史地図ー1850 年における奴隷州と自由州の色別図示」（白地図データは Webclass で配布）
第 12 回	講義　「南北戦争の勃発と新しい国民の誕生」	予習：教科書『歴史と文化』 「第 6 章」 復習：今回の復習および授業ノートの整理

第 13 回	講義　「占領と再建：人種正義の試練」	予習：教科書『歴史と文化』「第 7 章」 復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 14 回	講義　「二つのゲティスバーグ演説：BLM の淵源」	予習：教科書『歴史と文化』「第 8 章」 復習：総括試験に備え、今学期のノート全体をあらためて読み返す。
第 15 回	総括と理解の確認　「総括テスト」	予習：教科書『歴史と文化』の内容確認。今学期指定された箇所を読み直す。

1.授業コード（ナンバリング）	TOU101-Y01	2.科目名	観光学概論	3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【科目の目的】 この科目は、大学で『観光』について学ぶ上で必要となる基礎的な知識とさまざまな視点を学ぶことを目的としています。 【科目の概要】 グローバル化の進展は国際的な観光産業の成長を促進し、日本も「観光立国」を掲げて訪日インバウンド観光の発展に取り組み、観光を通じた地域創生を目指してきました。その結果、過剰な観光客の増加によるオーバーツーリズムの問題が注目されるまでになったところで、2020年にコロナ禍が発生し、状況が急変したのは皆さんもご存知の通りです。このように、社会や人々の行動様式と観光は密				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP と関連しています。 （１）自立的で主体的な態度 （４）問題発見・解決力 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①観光に関する基本的知識を説明できる。 ②現代社会と観光の幅広い関係性について説明できる ③観光の機能と効果を説明できる。 ④基本的な観光産業の仕組みとその特徴について説明できる。 ⑤観光が引き起こす問題とその仕組みについて説明できる。				
19.教科書・教材	特に指定しない。				
20.参考文献	メラニー・スミス(原著）小槻文洋ほか（翻訳）『観光研究のキーコンセプト』現代図書、2014年 谷口知司・福井 弘幸（編著）『これからの観光を考える』晃洋書房、2017 年				
21.成績評価	本科目の成績評価は以下の観点で行います。 小テスト・・・・20%　　【学習目標①②③④⑤に対応】 前半確認テスト・・・・30%　　【学習目標①②③に対応】 総括試験・・・・50%　　【学習目標①②③④⑤に対応】				
22.コメント	観光を学ぶ上での基本的知識を身に付ける必修科目です。授業内で実施する、観光や観光産業についての意見交換・ディスカッションにも積極的に取り組むよう、心がけて下さい。 ＊私語厳禁。授業中の PC、携帯電話の使用、飲食は禁止。				
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 5 限（春） 学修支援センター：金曜昼休み（春）				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて） ・ディスカッション：観光に対するイメージ	シラバスをよく読んでおくこと
【第 2 回】	講義：現代社会と観光	予習：観光に関するニュースに目を通してお

	ディスカッション：観光とは？	く 復習：観光と社会の関係を概念図にまとめる
【第 3 回】	講義：観光の仕組み グループワーク：観光の構造を考える	予習：観光現象の構造について調べておく 復習：観光のさまざまなステークホルダーについてまとめる
【第 4 回】	講義：観光と旅行の歴史 ディスカッション：観光と旅行のちがい	予習：観光の起源について調べておく 復習：観光の変遷の背景について関連文献を読む
【第 5 回】	講義：観光資源・観光対象①『文化』 ディスカッション：文化の商品化	予習：文化を対象とする観光の類型について調べておく 復習：文化観光の課題をまとめる
【第 6 回】	講義：観光資源・観光対象②『自然』 ディスカッション：生物を「観光」することの意味	予習：自然を対象とする観光の類型について調べておく 復習：自然観光の課題をまとめる
【第 7 回】	講義：観光と社会学 ディスカッション：観光客はなにを求めている？	予習：観光社会学について調べておく 復習：文化の真正性についてまとめる
【第 8 回】	前半部確認テスト	予習：これまでの授業内容を振り返ってノートをまとめておく
【第 9 回】	講義：観光産業の概要①『旅行業』 ディスカッション：オンラインツアーは今後も生き残るか？	予習：旅行業について調べておく 復習：旅行業就職に必要な能力について整理する
【第 10 回】	講義：観光産業の概要②『運輸・交通産業』 グループワーク：運輸交通業界の課題を考える	予習：運輸・交通産業について調べておく 復習：運輸・交通産業就職に必要な能力について整理する
【第 11 回】	講義：観光産業の概要③『宿泊業』 グループワーク：宿泊業界の課題を考える	予習：宿泊業について調べておく 復習：宿泊業就職に必要な能力について整理する
【第 12 回】	講義：多様化するツーリズム ディスカッション：観光産業の可能性	予習：観光の多様化について調べておく 復習：現代の観光産業の課題を整理する
【第 13 回】	講義：インバウンド観光と日本 ディスカッション：外国人観光客が求めるもの	予習：インバウンド観光の現状について調べておく 復習：インバウンド関連産業への就職に必要な能力について調べておく
【第 14 回】	講義：オーバーツーリズムと観光 グループワーク：迷惑とならない観光とは？	予習：オーバーツーリズムについて調べておく 復習：観光マネジメントの原則を整理する
【第 15 回】	総括試験	予習：これまでの授業内容を振り返り、ノートをまとめておく

1.授業コード（ナンバリング）	TOU202-Y01	2.科目名	ホテル実務	3.単位数	4
4.授業担当教員	越知昌賜、宗田好史				
5.授業科目の区分	講義と演習、数回は見学と調査	6.必修・選択の区分	選択科目	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	観光学科及びグローバル・コミュニケーション学科			9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：この科目の目的は、外資系ホテルの進出や DX の進展、顧客のニーズの変化などにより、大きな変革期にあるホテルビジネスのトレンドを捉えるとともに、直近の経営形態やセールス＆マーケティング、宿泊、料飲等の実務を学習しさらに今後の在り方を考察することにある。 概要：講義の前半は最近のホテル等宿泊施設のトレンドについて学ぶとともに、この 10 年で大きく変化した所有と運営の在り方について学習する。特に「所有と運営の分離」という大きなトレンドにより生まれた「アセットマネジメント」と「プロパティマネジメント」について				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、学科の DP の（１）自立性、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力に該当し、主眼はホテル実務への理解深化と応用力の醸成にある。 ①ホテルビジネスの基礎である経営・組織収益構造の学習と、事例研究を通じ各ホテルの経営戦略など経営の実務を学ぶ→（４）問題発見・解決力、(6）専門的知識・技能の活用力 ②ホテル実務の基本となるセールス＆マーケティング、宿泊、料飲、管理の学習を通じてその応用と課題解決を習得する→（４）問題発見・解決力、(6）専門的知識・技能の活用力 ③受講生が自ら顧客側の立場に立ち、OTA の登録・仮定利用を行うなど講義内で様々な課題を実施する。またフィールドワークの実施により地域市場の把握と競合や競争力について考察を行う→（１）自立性、（４）問題発見・解決力、(6）専門的知識・技能の活用力 ④講義内で上記③記載の提案型課題を課し、その成果について発表するとともに小グループで協議・評価を行う→（１）自立性、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル				
19.教科書・教材	中央経済社　仲谷秀一、テイラー雅子、中村光信?共著「ホテル・ビジネス・ブック」 ＊購入の必要はない。適宜資料を提供します。				
20.参考文献	オータパブリケーション　福永健司　著　「総支配人の教科書（ホテルマネジメントの要諦)」 嵯峨野書院　杉原淳子　「新ホテル運営戦略論」				
21.成績評価	１．課題レポート及び期中での学習成果チェック　40% ２．講義及びワークの参加態度・発表内容　30% ３．最終課題レポートとプレゼンテーション　30% 定期試験は行わず、上記最終課題レポート及びプレゼンテーションが定期試験同等の評価となる。 また単位認定には最終課題だけではなく講義内で課す課題レポートの期限内提出が要件となる。				
22.コメント	PC 持参が必須				
23.オフィスアワー	講義後および適宜オンラインで対応します				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	イントロダクション ホテルの業態とカテゴリー①	・講義内課題 ビジネスホテルの予約検索等
第２回	ホテルの業態とカテゴリー②	・講義の復習と次回への予習 ・講義内課題

		リゾートホテルの顧客満足度
第３回	ホテルの経営形態① ホテルの所有と運営形態	・講義の復習と次回への予習 ・講義内課題及び次回への課題 ホテルの運携帯を調べる
第４回	ホテルの経営形態② ホテルの組織と構造	・講義の復習と次回への予習 ・講義内および次回への課題 講義名に告知
第５回	ホテル実務　事業部門別の業務① 宿泊部門	・講義の復習と次回への予習 ・講義内および次回への課題 講義内に告知
第６回	ホテル実務　事業部門別の業務② 料飲部門	・講義の復習と次回への予習 ・講義内および次回への課題 講義内で告知
第７回	ホテル実務　事業部門別の業務③ セールス＆マーケティング	・講義の復習と次回への予習 ・講義内および次回への課題 講義内告知
第８回	ホテル実務　事業部門別の業務④ 管理部門（総務、経理・財務、施設）	・講義の復習と次回への予習 ・講義内および時価への課題 講義内で告知
第９回	人事システムとキャリアデザイン	・講義の復習と次回への予習 ・講義内課題 ・学習成果レビュー
第１０回	学習成果の確認	学習成果見直し
第１１回	フィールドトリップ 神戸市中心部のホテル業態および施設調査	調査のレビュー・まとめ
第１２回	フィールドトリップ 神戸市中心部のホテル業態および施設調査	調査のレビュー・まとめ
第１３回	フィールドトリップ 神戸市中心部のホテル業態および施設調査	調査レポートの作成と提出
第１４回	最終課題の説明と作業	最終課題の作成とプレゼン準備
第１５回	最終課題の提出および発表（プレゼンテーション） 振り返り	講義の振り返り

1.授業コード（ナンバリング）	TOU207-A01	2.科目名	観光産業論	3.単位数	2
4.授業担当教員	李容淑				
5.授業科目の区分	講義科目	6.必修・選択の区分	選択科目	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生
10.取得資格の要件	経営学科	11.先修条件	経営 2 年		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	「観光」は UN WTO から「平和のパスポート』というスローガンを定められた。観光産業は裾野が広く、多くの業種・業界に渡って経済波及の効果を持つ産業であり、特に現代社会における観光産業は、無公害産業、世界最大の雇用産業として脚光を浴び、観光が国際経済に与える影響力が大きくなっている。 世界各国は観光産業を国家戦略産業として育成し、競争優位性を先取りするために熾烈な競争を繰り広げている。他方、近年世界経済は、長年新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け苦しんでいましたが、2023 年度からは本学的に戻りつづであ				
18.学習目標と ＤＰとの関連	この講義では観光産業が日本の未来を支える重要国家産業として専門家育成を目指し、観光関連企業への進出することを目標とする。 ①　自分で観光専門分野を説明できるようにする。 ②　多様なビジネスに関連する知識とスキルを発揮することができる ③　留学生との授業やグループワークでコミュニケーションスキルを高める。 ④　国際的な観光エキスパートの専門性を身につけることができる。				
19.教科書・教材	インバウンド実務主任者認定試験　公式テキスト 観光検定公式テキスト 著者：安田亘宏				
20.参考文献	インバウンドビジネス 1 インバウンドビジネス 2 著者：村山慶輔 インバウンド実務主任者認定試験　公式過去問題集 編：全日本情報学習振興協会 発行：全日本情報学習振興協会 観光サービス論　　安田亘宏　著 基礎から学ぶ観光プランニング　　小塩稲之・安田亘宏　著				
21.成績評価	毎回のワークシート（OPEN BOOK） Web Class 模擬テストとグループレポート 授業態度・テキスト持参も含む」　→　６０％ 期末テスト→　本テスト・e ポートフォリオ　→　40％				
22.コメント	毎回の授業に積極的な姿勢で準備物や復習をしっかりすることを求めている。				
23.オフィスアワー	毎週金曜日お昼、先に予約が必要。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回 4 月 8 日 金	オリエンテーション 授業紹介、PDCA	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
2 回　4 月 15 日金	観光とは 観光の効果	毎回 Web Class にある資料を準備して持参

	観光マーケットの分類	
3 回 4 月 22 日 金	日本の観光の歴史 江戸時代の旅、昭和時代、明治ー旅行会社の誕生、 昭和時代、平成時代、観光立国、大阪万博 外国の観光の歴史 マスツーリズム	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
4 回 4 月 29 日 金	観光行政、旅行業法 旅行業務取り扱い管理者 通訳案内士法	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
5 回 5 月 6 日 金	MICE IR 推進法	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
6 回 6 月 13 日 金	インバウンド ビザ 為替レート	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
7 回 6 月 20 日 金	インバウンドと 案内表記 ビクトグラム インバウンド課題	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
8 回 6 月 27 日 金	インバウンドの消費動向 買い物動向 飲食動向	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
	インバウンド 決済 免税制度 免税店 免税販売	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
	インバウンド ビジネス・旅行業	
	宿泊業について ホテル・旅館 ホテルの種類 Air bnb	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
	インバウンドビジネス 3 鉄道交通ビジネス 航空交通ビジネス 道路交通ビジネス	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
	インバウンドビジネス 4 観光土産ビジネス ショッピングビジネス 飲食ビジネス	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
	インバウンドビジネス 5 観光施設ビジネス エンタティンメント 歌舞伎、落語、文楽、お相撲、 競馬、ナイトタイムエコノミー	毎回 Web Class にある資料を準備して持参

	非言語劇、	
	期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	TOU210-Y01	2.科目名	旅行産業論	3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二				
5.授業科目の区分	専門科目 旅行業分野での実務経験がある教員の授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【概要】 授業では、まず、旅行事業を取り巻く環境を左右する国の役割（観光政策）、地域の観光振興を担う自治体の役割についての理解を深めるところから始める。そして、国や自治体による観光事業の基盤整備を踏まえ、観光集客事業を担うそれぞれの事業の役割、機能、集客への取組み等について学ぶことになる。具体的には、旅行業、宿泊業、航空事業、テーマパーク等の観光施設について、個別にその事業特性や課題の抽出、課題解決に向けた取組み等について学ぶ。 【目的】 この授業では、国の観光政策や地域の観光振興を担う自治体の役割等を踏				
18.学習目標とＤＰとの関連	①　国や自治体、DMO をはじめ、様々な組織や団体の旅行事業について概略を理解し、社会との関わ 　りの中でどのような役割を果たして いるのかを説明できるようになる。 ②　観光現象を手がかりとして、現代社会の諸課題について幅広く思考を展開し観光ビジネスの可能 　性を理解できるようになる。 ・本科目の学習目標は以下の DP（ディプロマポリシー）に対応している (2)　社会に能動的に貢献する姿勢 （社会的貢献性） (4) 問題発見・解決力 (6)　専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	使用しない　適宜、資料等配布				
20.参考文献	小林弘二他(2021)編著『改訂版変化する旅行ビジネス』（文理閣）ISBN978-4-89259-3 小林弘二(2007)著『旅行ビジネスの本質』（晃洋書房）ISBN978-4-7710-1843-3 髙橋一夫・柏木千春『1 からの観光事業論』（碩学舎） ISBN978-4-502-17281-6				
21.成績評価	課題レポート（毎授業）　60%　【学習目標の①②に対応】 確認テスト　　30%　【学習目標の 1②に対応】 平常点　　10%　【学習目標の①②に対応】 ルーブリックを用いて評価します。 ・課題レポートのコピペ・剽窃・テストの不正行為・出欠に関する不正は 0 点ではなくマイナス評価となり疑義が生じた時点で教務課に報告する。このため単位認定に大きな影響を与えることを予め理解しておくこと。 ・課題提出は Web クラスを利用する。Wifi 状況を含め、いかなる理由でもメールでの提出および締切後の提出は認めな				
22.コメント	・事前配布の講義ノート（MS ワードで作成した用紙）を持参して、空所補充等を完成させ毎授業後に提出する。（パソコンを持参して空所補充等を行う）				

	・各講義の内容は講義方法、履修人数、進捗状況、理解度及び外部講師等の状況により適宜変更の場合がある。 ・ノートテイキングを推奨する。
23.オフィスアワー	山手キャンパス 3－306 研究室で実施する。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	ガイダンス 国の成長産業としての観光事業、集客に向けて国の役割について　①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
2 回目	国の成長産業としての観光事業、集客に向けて国の役割について　②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
3 回目	国の成長産業としての観光事業、集客に向けて国の役割について　③	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
4 回目	観光集客による地域の活性化に向けて、地方自治体などの役割について①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
5 回目	観光集客による地域の活性化に向けて、地方自治体などの役割について②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
6 回目	観光（旅行）事業の事業特性について①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
7 回目	観光（旅行）事業の事業特性について②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
8 回目	観光関連産業の基幹事業　旅行業①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
9 回目	観光関連産業の基幹事業　旅行業②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
10 回目	観光関連産業の基幹事業　旅行業③	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
11 回目	観光関連産業の基幹事業　旅行業④	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
12 回目	観光関連産業の基幹事業　宿泊施設の事業マネジメント①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
13 回目	観光関連産業の基幹事業　宿泊施設の事業マネジメント②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
14 回目	テーマパーク等観光関連施設のサービスマネジメント	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
15 回目	全体の振り返り。 確認テストの実施。	レポート作成 パソコン持参

1.授業コード（ナンバリング）	TOU211-Y01	2.科目名	ホテル産業論	3.単位数	2
4.授業担当教員	越知昌賜				
5.授業科目の区分	専門教育科目/展開科目	6.必修・選択の区分	選択 ホテル・ブライダル専攻必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】ホテル旅館などの宿泊産業の事業環境や市場の動向を理解し、どの様なビジネスがあるのか、ホテルを中心に宿泊産業全体の概要を理解し、就活に活かすことを目的とします。 【概要】旅館やホテルは古くからあります。日本では旅館が江戸時代に発達し、明治維新早々に様式のホテルも生まれました。国内経済はもとより、国際経済の影響を強く受けます。そのためホテル事業も、常に変化への対応が求められ、時代とともに変化してきました。ホテル、宿泊産業はサービス産業です。その財を移動することなく、また在庫もできず、その土地で利益を上				
18.学習目標とＤＰとの関連	【DP(ディプロマポリシー)】 （２）社会に能動的に貢献する姿勢(社会的貢献性) （４）問題発見・解決力 （６）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 【学修目標】 この科目では、以下の目標を上げます。ポイントを押さえてレポートを書いて下さい。 ①旅の歴史を通して宿泊業のビジネスを説明できる。 ②ホテル・旅館のカテゴリーを理解しそれぞれの立地と特性を説明できる ③ホテル業のオペレーションが説明できる。 ④ホテルビジネスをマネジメント・マーケティング的側面から競争力分析ができる				
19.教科書・教材	資料は webclass で配布				
20.参考文献	大谷晃・鈴木はるみ『旅館ホテル・観光の教科書: 初心者にやさしい』2020 年、キクロス出版 大谷晃・鈴木はるみ『「旅館ホテル」のおもてなし: サービスを超える極意』2020 年、キクロス出版 徳江順一郎『宿泊産業論』2023 年、創成舎 この他、授業ではいろいろな参考書を案内します。				
21.成績評価	予定では、評価の方法と配点は次の通りです。 ①第 2 回～11 回　講義内課題・ワークの提出・発表、理解度　40%（学習目標①～④） ?ワーク・ディスカッションに対する意欲度・貢献度　20%（学習目標①～④） ③最終課題の提出・プレゼンテーションの評価　40%（学習目標④） 課題は演習時間を設けて実施します。場合によって次回講義の課題となることがあります。				
22.コメント	質問等はチャットやメール等で受け付けます。積極的に利用してください。 講義では必ずノートを取ってください。 ＊重要　遅刻 15 分を超える場合は欠席（早退は欠席）とします。				
23.オフィスアワー	メイルでの対応になりますので随時受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	講義：ガイダンス、授業の進め方をお話しします。	PC またはタブレット等は全回で必要

	①ホテルとは何かを知る。ホテルの歴史、ホテルの役割、ホテルの種類、現在のホテル、未来のホテル。?特に担当講師が実際に開発・運営に関わったホテルを事例としてホテルビジネスの実態について説明します③対話型で進める講義の内容と課外活動の進め方、④この授業の目標と評価の方法など	復習：今回の復習、授業ノートの整理
第 2 回	宿泊施設の分類と事業内容 宿泊施設はシティホテル、ビジネスホテル、リゾートホテル、旅館など様々なカテゴリーがあります。それぞれの分類・特徴について考察します。また講義内で幾つかの調査・研究課題を課します。	復習：授業の復習とノート整理 予習：ホテルの歴史について書籍・ネット等で事前学習しておく。
第 3 回	世界と日本の宿泊産業史 西洋の代表的な宿泊施設であるホテルの発展過程について学びます。近代ホテルがヨーロッパで成立した後、米国でチェーン展開される大規模ビジネスと発展していきます。またホテルはアジア・中東などでそれぞれ独自の発展を遂げていきます。 日本においても中世から大名や庶民の宿としてそれぞれの永代で進化を遂げてゆき、明治に入り西洋からホテルの形態が登場すした。それら変遷の歴史について学んでゆく。	復習：授業の復習とノート整理 予習：大規模ホテルチェーンについて各自予習しておく
第 4 回	世界のホテルチェーン 世界には様々なホテルチェーンが存在する。その中で主な「メガホテルチェーン」と「ラグジュアリーチェーン」を紹介し、それぞれの特色について考察する。	復習：復習とノート整理復習とノート整理 予習：次回講義のリゾートホテルについて事前に調査を行っておく。
第 5 回	リゾートホテルの立地と展開 アマンリゾート、星野リゾートなど世界や日本で展開するリゾートホテルチェーンの立地選択とホスピタリティマネジメントについて概説する。ホテルのホスピタリティサービスについての課題を課す。	復習：授業の復習とノート整理 予習：日本のホテルチェーンについて事前調査しておく
第 6 回	日本のホテルチェーンと旅館 日本には中世からある「旅館」に加え明治時代に始まった伝統的な「西洋型のホテル」やその後独自に進化・展開してきたホテルスタイルがある。その典型がビジネスホテルと呼ばれるものだ。日本にある様々な宿泊カテゴリーについて学ぶ。	復習：授業の復習とノート整理 予習：宿泊の法規について書籍・ネットで事前学習をしておく
第 7 回	宿泊と法規 ホテルを開業するにあたり、立地制約や宿泊事業のための規制や独自の建築規制があることを学ぶ。	復習：授業の復習とノート整理 予習：カテゴリーごとのホテルの経営方式について事前調査しておく
第 8 回	ホテル運営 ホテルには直営方式、リース方式、MC（マネジメントコントラクト）方式など様々な経営形態がある。それらについて概説するとともに宣伝販促やマーケティングについて学ぶ。 これまでの学習成果を確認するレポートを課す。	復習：授業の復習とノート整理 予習：事業再生したホテル・旅館事例を調べる
第 9 回	再生・リノベーションで生まれるホテル 事業が停滞又は破産・停止したホテル施設を買い取り	復習：授業の復習とノート整理 予習：MICE について事前学習しておく

	再生するビジネスが活発となっている。買取・再生を専門とする運営会社やコンサルティング会社などを紹介する	
第 10 回	MICE とインバウンド 海外からの観光客誘致は大きな可能性があり、国策としてもインバウンド誘致に力を入れてきている。それらの政策と効果について検証する。 最終課題に向けてのフィールドワーク 最終課題の説明とフィールドワークについての説明を行う 神戸市内（中心部）の既存ホテルを調べ、10 以上の施設を選択し施設概要の一覧表を作成する。	復習：授業の復習とノート整理 予習：最終課題の準備に入る。神戸市内（中心部）のホテルについて事前調査をしておく
第 11 回	フィールドワーク（神戸市内）	復習：授業の復習とノート整理 予習：最終課題の準備を始める
第 12 回	フィールドワーク（神戸市内）	復習：授業の復習とノート整理 予習：フィールドワークの準備
第 13 回	最終課題の準備（プレゼンテーションへ向けて）	復習：授業の復習とノート整理 予習：最終課題準備
第 14 回	プレゼンテーション（履修学生数で決定）	復習：授業の復習とノート整理 予習：最終課題発表準備
第 15 回	プレゼンテーションと振り返り	復習：授業の復習とノート整理

1.授業コード（ナンバリング）	TOU212-Y01	2.科目名	サービス・ブランディング	3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎				
5.授業科目の区分	ＵＳＪのマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	ホテル・ブライダル専攻必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義 アクティブ・ラーニング導入科目（グループディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	目的：ブランドの強さによって、企業の業績は大きく左右されます。ブランドとは何か？特に、観光産業などサービス業におけるブランドの役割と重要性を理解します。 概要：「ブランド」という言葉は誰でも知っていますが、その意味を説明できますか？この授業では、テーマパークやコンビニエンスストアといった身近なサービスを題材としてブランドの意味やその効果を学びます。加えて、観光産業において重要な要素である「地域のブランド」を設計する方法について、グループワークを通じて学習します。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連しています。普段何気なく使っている「ブランド」という言葉の本質や、商品ブランドとサービスブランドの違いを深く理解したうえで、強いブランドがどのように作られるかについて、「地域のブランド」に関する実践的ワークを通じて身に付けます。				
19.教科書・教材	資料は webclass で配布				
20.参考文献	適宜紹介				
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 25 点（各回 2 点×10 回、15 回目のみ 5 点） ?グループワークのプレゼンテーション 25 点 （各回 8 点×2 回、9 点×1 回） グループ得点（4～5 点満点）、グループ MVP（4 点） グループワークのディスカッションを欠席した場合は 0 点となります。 ?総括試験 50 点 ＊総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。				
22.コメント	・遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。（厳守）				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	講義：サービスブランドの事例 セブンイレブン、ローソン、ファミマが隣同士で並んでいるとします。あなたは、どのお店に入りますか？コンビニ、ミネラルウォーター、携帯電話会社など、身近なサービスブランドを消費者側から見て、ブランドが果たす役割を概観します。	予習：知っているミネラルウォーターのブランドを書き出し、その中でいちばん好きなブランドを選ぶ 授業のまとめシート：提出 復習：あなたが好きなミネラルウォーターのブランドから、あなたが得られる価値を書き出す
第 2 回	講義：ブランドとは ＵＳＪのＶ字回復においても、「ブランド」が重要な役割を果たしました。ユニバのブランディングの事例を通じて、ブランドとは何かを学習します。 グループワークを始めます。あなたが好きなブランド	予習：ＵＳＪのキャッチコピー（スローガン）の、開業から今までの変遷をまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行

	を一つ選んで、そのブランドのターゲットと、ブランドがターゲットに提供する価値を推測してください。	
第 3 回	グループワーク：あなたが好きなブランドの、ターゲットと提供する価値 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 4 回	プレゼンテーション：グループワークの成果発表 講義： ブランドの設計図 ターゲットや提供する価値の他にも、ブランドを設計するために必要な要素があります。これらの要素を含めたブランドの設計図（フレームワーク）について解説します。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 5 回	講義： 強いブランドとその効果 ブランドが強くなると、どんな良いことがあるでしょうか？また、強いと言われているブランドには、どのような特徴があるでしょうか。ファッションのブランドや身近な商品・サービスの実例を通じて、強いブランドの効果と秘訣を学習します。	予習：あなたが強いと思うブランドを一つ選んで、そのブランドのターゲットと提供する価値を書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 6 回	講義： 商品ブランドとサービスブランド 消費者がお金を使う対象は、大きく「商品」と「サービス」に分かれます。その違いを解説するとともに、それぞれにおけるブランドの特徴を、身近な事例で対比しながら学習します。また、ブランドがターゲットに提供する価値の分類として、「機能的価値」と「情緒的価値」について学習します。	予習： 今までの講義で取り上げたブランドのターゲットと提供価値を、商品ブランドとサービスブランドに分類してまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 7 回	講義：地域のブランド あなたは、「沖縄県」と聞いて、何を思い浮かべますか？また、「栃木県」と聞いて、何を思い浮かべますか？近年、観光産業においては「地域のブランド」が重視されています。地域のブランドにはどのようなものがあるか、その意義と効果について、具体的な事例をもとに学習します。 ２回目のグループワークを始めます。ここまでの議論・講義を受けて、「神戸」のブランドの設計図を書いていただきます。まずは、ターゲットを決め、ターゲットに対しどのような価値を提供できるか、考えましょう。(グループワークのテーマは変	予習：旅行で行ってみたいと思う都道府県を一つ挙げて、その都道府県に対するあなたのイメージを書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 8 回	講義：地域のブランド実践例 長年にわたって地域のブランド作りに取り組まれているプロフェッショナルの方にゲスト講師としてお越しいただき、地域のブランドについて実践例を中心に講義いただきます。地域振興に重要な概念である「交流人口」「関係人口」「定住人口」についても学びます。	予習：「地方の過疎化問題」について調べてまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 9 回	グループワーク：「神戸」のブランドの設計図を書こう前半 グループでのディスカッションに充てます。神戸ブランドのターゲット、届ける価値を考察します。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、グループで次回プレゼンテーションの準備をする

第 10 回	プレゼンテーション：ターゲット、ターゲットに届ける価値の仮説 ここまでのグループで話し合って決めた内容をまとめて発表していただきます。「神戸」のブランドの設計図を書くにあたり、ターゲット、ターゲットに届ける価値の仮説を発表します。	予習：プレゼンテーションができる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：授業でのアドバイスを加味し、仮説をブラッシュアップする
第 11 回	グループワーク：「神戸」のブランドの設計図を書こう後半 グループでのディスカッションに充てます。神戸ブランドをターゲットに届けるための具体的手法を検討します。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、グループで次回プレゼンテーションの準備をする
第 12 回	プレゼンテーション：神戸ブランドの設計図 ここまでのグループで話し合って決めた内容をまとめて発表していただきます。神戸のブランドをターゲットに届けるための具体的手法を発表します。	予習：プレゼンテーションができる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 13 回	講義：サービスブランディング まとめ ブランドとは何か、ブランディングを地域活性化に生かす思考方法や実例など、これまでの学びをまとめます。	予習：ブランドとは何かを改めて振り返って書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：総括試験へ向けて、全体の学びの整理
第 14 回	まとめと総括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	総括試験結果返却 全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	予習：講義全体および総括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード（ナンバリング）	TOU213-Y01	2.科目名	航空産業論	3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕				
5.授業科目の区分	専門教育科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生または 3 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件	観光学概論、経営学概論を履修していることが望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】観光学概論、経営学概論を基盤として、航空産業の歴史からその特性について学習する。 【概要】具体的には以下のとおり。 （1）航空産業の歴史、特に第 2 次世界大戦以降の航空産業の歴史を通して、その成り立ち並びに政策について学習する。 （2）国際的な取り決めや運送約款などネットワークキャリアの基盤となる考え方を学習する。 （3）また特に運輸産業において重要となる安全に関する基本を学習する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の【(1)自律性】【(3)多様性理解】【(4)問題発見・解決力】【(5)コミュニケーションスキル】【(6)専門的知識・技能の活用力】に関連しています。 航空産業論の講義の学習目標は、以下のとおりです。 ①航空産業の発展の過程と航空会社の存在意義について述べることができる。 ②航空会社の経営の基盤となる条約や運送約款などについて正確に理解し、その特徴を述べることができる。				
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。				
20.参考文献	航空産業入門（第 2 版）　発行：東洋経済新報社				
21.成績評価	①授業理解度（講義内容の理解）・・・40 点　（講義に出席し、配布する資料に要点を記入し、内容の理解を深める。そして毎回設定する課題に対して自分の考えを記述し、提出する。）※学習目標①、②に対応 ②個人ワーク＆グループワーク・・・15 点　（講義の中での設問やグループワークにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する。）※学習目標①、②に対応 ③確認テスト・・・45 点　（講義全体を通して航空会社のオペレーションのポイントを理解し、考察することができる）※学習目標①、②に対応				
22.コメント	エアラインビジネスでは、航空業界の基礎となるビジネスの仕組みを学びます。尚、航空実務では航空会社の経営戦略を、空港業務では空港などにおける航空会社のオペレーションを学びます。履修する学生の皆さんの質問を歓迎します。日頃より観光や航空関係の報道を興味をもって履修してください。				
23.オフィスアワー	金曜日　昼休み　神戸山手キャンパス 3 号館　3302 号室				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	講義【オリエンテーション】 担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習

	出の方法、受講上の留意点について説明する。	
【第２回】	講義【企業の仕組みとマネジメント】 ビジネスの基本となるマネジメントについて学習する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第３回】	講義【航空産業の歴史と政策】 航空機の発達による航空運輸業の発展および産業の発展に伴う政策について講義する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第４回】	講義【航空産業の課題】 航空の他の運輸業との比較における優位性や課題について講義する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習　第１回確認テストに備えてここまでの振り返り
第５回	講義【航空の自由化政策】 航空の自由化と規制の関連について解説し、自由化の功罪も検証する。 第１回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
第６回	講義【航空運輸業の特徴】 エアラインの座席という商品の持つ特徴と課題について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第７回】	講義【ＩＡＴＡの歴史と役割】 ICAO や IATA といった国際機関の設立と役割について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第８回】	講義【インターライン契約と運送約款】 エアライン間の様々な契約（インターライン契約）および運送約款について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第９回】	講義【日本の航空政策とエアライン】 45/47 体制　JAL 破綻　羽田発着枠調整などの日本の航空政策と課題について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習　第１回確認テストに備えてここまでの振り返り
【第１０回】	講義【空港の役割と整備計画】 航空産業における空港の役割（管制業務など）と空港整備について解説する。第２回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１１回】	講義【航空会社の安全への取り組み①】 航空機や空港における事故防止に向けた設備等について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１２回】	講義【航空会社の安全への取り組み②】 エアラインが取り組む従業員を対象とした安全推進活動について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１３回】	講義【企業の社会的責任（ＣＳＲ）とリスクマネジメント】 企業リスクに対する企業の取り組みを解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１４回】	講義【サービス品質の改善】 「お客様の声をどのように活かすか？」その仕組みを解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習　第１回確認テストに備えてここまでの振り返り
【第１５回】	講義【エアラインのビジネスと経営】 エアラインのビジネス環境やグループ経営について講義する。 第３回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

1.授業コード（ナンバリング）	TOU214-Y01	2.科目名	観光地理	3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ				
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 授業では、毎回テーマを決め、観光についての日本地理について学習します。観光地の現状、課題について、日本の主要な観光地域を事例として学びます。歴史、産業、文化、自然環境などが関わることで観光地域、地域の創意工夫による開発が観光地の発展につながることを理解します。 【概要】 はじめの 4 回の授業では、日本全体を視野に入れてその多様な地理的特徴と区分について学習します。 5 回から 13 回目までは、日本の諸地域にクローズアップして、自然環境・産業・人口などの特徴や観光資源について学習します。授業は、講義の部				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）・KUISs 学修ベンチマークの以下の項目と関連しています (1)自律的で主体的な態度（自律性） (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 本科目の学習目標は以下の通りです。 １．受講生は、日本についての基本的な地理的知識を理解して、説明することができる。 ２．受講生は、授業で身につけた日本地理の知識に基づいた、日本をめぐるオリジナルの観光プランを企画して、授業で発表することができる。				
19.教科書・教材	教材を Web Class にて配布します				
20.参考文献	地図帳。授業中に紹介します。				
21.成績評価	日本の都道府県クイズ作成・日本の都道府県カルタ作成・毎回提出する授業内レポート(25%)…（学習目標 1 に対応） 発表（日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表）(25%)…（学習目標 1 に対応） 中間テストと期末テスト(５０%)…（学習目標 2 に対応） 記述問題と発表については、ルーブリック評価により採点します。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	個人研究室：月曜昼休み 学修支援センター：金曜昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション：地球儀で地球の姿をみよう	
【第 2 回】	世界の国々と地域区分：地図をみよう 日本の位置を調べよう：自然環境からみた日本 日本の都道府県クイズ	グループあるいは個人で、日本の都道府県クイズを作ってもらいグループごとに発表しますので、準備学習をしてください。
【第 3 回】	色々な見方で都道府県を探ろう 日本の都道府県かるた	グループあるいは個人で、日本の都道府県かるたを作ってもらいます。グループごとに発表しますので、準備学習をしてください。
【第 4 回】	日本をいくつかの地域に分けよう：自然や文化をもと	グループで、日本の都道府県クイズとかるた

	に区分しよう 日本の地形：山地・海岸・河川・平地	大会をします。大会の後には振り返りシートを授業中に提出してください。
【第 5 回】	日本の諸地域：九州・沖縄地方	グループあるいは個人で、九州・沖縄地方の観光地を一つ選んで発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をまとめて授業中に提出してください。
【第 6 回】	日本の諸地域：中国地方	グループあるいは個人で中国地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 7 回】	日本の諸地域：四国地方	グループあるいは個人で四国地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 8 回】	日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その１） 中間テスト	中間テストの準備学習をしてください。ツアープランのアイデア発表の後には発表内容をまとめて授業中に提出してください。
【第 9 回】	日本の諸地域：近畿地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その２）	グループあるいは個人で、近畿地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 10 回】	日本の諸地域：中部地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その３）	グループあるいは個人で、中部地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容を授業中にレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 11 回】	日本の諸地域：関東地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その４）	グループあるいは個人で、関東地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をまとめて授業中に提出してください。
【第 12 回】	日本の諸地域：東北地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その５）	グループあるいは個人で、東北地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 13 回】	日本の諸地域：北海道地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その６）	グループあるいは個人で北海道地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をまとめて授業中に提出してください。
【第 14 回】	期末テスト 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表（その７）	期末テストの準備学習をしてください。ツアープランについて発表の準備をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 15 回】	まとめ	期末テストのふりかえり、発表のふりかえり

1.授業コード（ナンバリング）	TOU216-Y01	2.科目名	エアライン特別演習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	樫本則子				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件		11.先修条件	「航空産業論」を併せて履修することが望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義 グループワーク		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	ホスピたちティについて多角的な視点で捉えて学習していきます。 自信の感性を磨き、良好な人間関係の形成を目指します。 ホスピタリティの行動力を高め、自己成長を目指します。 航空業界を含め、優れたホスピタリティ産業の理念や行動の特徴について学ぶびます。 ホスピタリティ実践に必要なコミュニケーションスキルやマナーについて学びます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①ホスピタリティの歴史や文化について理解し、説明ができる。 ②ホスピタリティやサービスについての概念や定義を理解し、説明ができる。 ③ホスピタリティ産業の経営理念や行動を評価できる視点を身につける。 ④ホスピタリティマインドを実践するためのコミュニケーションスキルやマナーを身につける。 ⑤自身の生活においてホスピタリティマインドの実践ができるようになる。				
19.教科書・教材	テキストは理論編・実践編・企業研究参考資料などを配布します。 その他適宜、関連資料を配布します。 （特に教科書は使用しません）				
20.参考文献	ホスピタリティ学のすすめ　/ 服部勝人　/ 丸善株式会社				
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①学期末試験・・・・40 点【学習目標①～⑤に対応】 ②確認試験　・・・・20 点【学習目標①②に対応】 ③レポート　・・・・20 点【学習目標②③に対応】 ④グループワークおよび発表　・・・・20 点【学習目標④⑤に対応】				
22.コメント	ホスピタリティの目的は相手の立場を尊重し、愉快に、温かく、優しくもてなす心を行動に示すこと です。その基本となる挨拶・言葉遣い・態度・身だしなみなどのマナーを受講に際しても実践していきましょう。 また遅刻や欠席をせず、提出物の期限厳守んどの時間の管理も行いましょう。 個人で講義を受けるだけでなく、グループワーク等ではチームワークも発揮しましょう。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【オリエンテーション】 学習内容・講義の進め方・留意点・評価方法	ホスピタリティを受講する理由と将来の進路選択いついて

		考えをまとめておくこと。
第 2 回	ホスピタリティ理論 1 　　ホスピタリティの起源	テキストの「ホスピタリティの起源」について復習し、理解しておくこと。
第 3 回	ホスピタリティ理論 2 　　ホスピタリティの歴史と文化（西洋）	テキストの「キリスト教、イスラム教におけるホスピタリティ」について理解しておくこと。
第 4 回	ホスピタリティ理論 3 　　ホスピタリティの歴史と文化（東洋・日本）	テキストの「儒教におけるホスピタリティ」「日本のおもてなしについての歴史、各階層、時代においての特徴」について理解しておくこと。
第 5 回	ホスピタリティ理論 4 　　ホスピタリティとサービス	テキストの「ホスピタリティマインドの定義」について理解しておくこと。
第 6 回	ホスピタリティサービス編① 　　顧客心理　（お客様はなぜ買うのか）	テキストの「ホスピタリティとサービスの違い」について 理解し、課題を完成させること。
第 7 回	ホスピタリティサービス編② 　　ホスピタリティの提供 　　さまざまな応対　（応対の技術）	テキストの「顧客心理」について理解しておくこと。
第 8 回	ホスピタリティサービス編③ 　　トータルサービス　（お客様の区分）	接客場面で起きる様々な事例を考えておくこと。 自分自身が顧客となる場合の 心理を考えておくこと。
第 9 回	ホスピタリティ実践 1 　　接客の基本 　　グループワークと発表 　　実際のアルバイト体験から応対事例を考える	今までのアルバイトの体験を思い出し、成功事例と失敗例を挙げてみること。
第 10 回	ホスピタリティ実践 2 　　航空会社ＧＳにおけるホスピタリティ	ホスピタリティ実践いｎ必要な能力やスキルとはどのようなものかまとめておくこと。
第 11 回	ホスピタリティ実践 3 　　航空会社ＣＡにおけるホスピタリティ	航空会社のサービス職のホスピタリティを理解し、利用する側から体験を思い出す。
第 12 回	ホスピタリティ実践 4 　　世界の空港 　　空港運営に関するホスピタリティ	テキストの内容を理解し、空港に必要な要素を考えておくこと。
第 13 回	ホスピタリティ実践 5 　　コミュニケーションの 5 原則 　　　立居振舞・仕草・態度に関して	テキストの内容を理解しておくこと。
第 14 回	ホスピタリティ実践 6 　　言葉遣いと敬語	配布したワークシートを完成しておくこと。
第 15 回	期末試験	

1.授業コード（ナンバリング）	TOU222-Y01	2.科目名	観光交通システム論	3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二				
5.授業科目の区分	専門科目 旅行業分野での実務経験がある教員の授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【概要】 観光は、観光客（観光主体）が観光地や施設（観光客体）を訪問する行動であり、その行動を助長、促進する交通や観光情報（観光媒体）によって構成されている。また、観光地は観光客の移動にそって演出される。見る場所や位置によってその観光素材は変化し、同じ景色でもバスと電車の車窓からでは結果的に違う景観を見せる「場を提供する」という役割も持っている。 さらに、交通は、乗り物自体が観光資源としての役割を演じるケースも多くみられる。 このように観光における交通には、単に移動手段としての役割のほか、観光地の魅				
18.学習目標とＤＰとの関連	①　観光交通の基礎を理解し、問題と課題について説明出来るようになる。 ②　交通ビジネスの役割や重要性を理解し、地域での観光価値創造の観点で説明出来るようになる。 ③　交通ビジネスが社会との関わりの中でどのような役割を果たして、社会的価値を与えるかを 提案出来るようになる。 本科目の学習目標は以下の DP（ディプロマポリシー）に対応している。 (1)　自律的で主体的な態度　（自律性） (4) 問題発見・解決力 (6)　専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	使用しない　適宜、資料等配布				
20.参考文献	観光交通ビジネス　塩見英治編著　成山堂出版　ISBN978-4-425-92881-1 旅行ビジネスの本質　小林弘二著　晃洋書房版　ISBN978-4-7710-1843-3 改訂版　変化する旅行ビジネス　小林弘二他編著　文理閣版　ISBN978-4-89259-891-3				
21.成績評価	理解度確認レポート（毎授業）　60%　【学修目標の①、②に対応】 授業理解度確認テスト　30%　【学習目標の①②に対応】 授業参加姿勢　10%　【学習目標の③に対応】 ルーブリックを用いて評価する。 課題レポートのコピペ・剽窃・テストの不正行為・出欠に関する不正は 0 点ではなくマイナス評価となり疑義が生じた時点で教務課に報告する。このため単位認定に大きな影響を与えることを予め理解しておくこと。 課題提出は Web クラスを利用する。Wifi 状況を含め、いかなる理由でもメールでの提出および				
22.コメント	交通機関は観光のための単なる移動手段としてではなく、近年では過疎化、高齢化や観光公害などの社会問題の解決としても期待が寄せられている。このような時代背景において観光という産業と社会課題の双方から交通という概念にアプローチすることで、交通機関の意義の理				

	解を深める。 講義中にディスカッションを予定しているので、旅行ビジネスついての発言が出来るように積極的な姿勢で授業に参加するように。 　講義の内容は、履修人数、進捗状況、理解度の状況により適宜変更の場合がある。 　ノートテイキングを推奨する。
23.オフィスアワー	水曜日 3 限目　3-306

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目	・オリエンテーション -講義概要　授業の進め方 観光交通システム論① 　観光とは	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
2 回目	観光交通システム論② 観光における交通の位置づけについて	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
3 回目	観光交通システム論③ 観光旅行の変遷について	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
4 回目	観光交通システム論④ 　観光旅行の変遷について②	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
5 回目	観光交通システム論⑤ 「交通サービス」と「観光」について	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
6 回目	観光交通システム論⑥ JR 西日本の観光開発についてその①	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
7 回目	観光交通システム論⑦ JR 西日本の観光開発について　その②	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
8 回目	観光交通システム論⑧ JR 西日本　京都での取組事例 授業前半の振り返り等	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。

		・パソコンを持参すること。
9 回目	観光交通システム論⑨ 航空事業・空港事業・JR 事業との比較について　その① 航空政策（政府規制と自由化について）	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
10 回目	観光交通システム論⑩ 航空事業・空港事業・JR 事業との比較について　その② ・Legacy Carrier(Full Service Carrier)の経営戦略（パブ＆スポーク、グローバルアライアンス等）	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
11 回目	観光交通システム論⑪ 航空事業・空港事業・JR 事業との比較について　その③ ・LCC ビジネスの登場、FSC(Full Service Carrier)とLCC、JR 事業との競合等	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
12 回目	観光交通システム論⑫ FSC(Full Service Carrier)の運賃制作（イールドマネジメント）	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
13 回目	観光交通システム論⑬ 航空事業運営における顧客満足の重要性について	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
14 回目	観光交通システム論⑭ 航空会社の運営における顧客満足の重要性について② DVD 教材による事例研究	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
15 回目	観光交通システム論⑮ 　全体振り返り 　確認テストの実施	全体振り返り 確認テストの実施 パソコンを持参すること。

1.授業コード（ナンバリング）	TOU224-Y01	2.科目名	旅行業法・旅行業約款特別演習	3.単位数	2
4.授業担当教員	松村博之				
5.授業科目の区分	専門科目、旅行業分野の実務経験がある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	全学年
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	履修人数は、１５名までとします。				
17.授業の目的と概要	【目的】 「国内旅行業務取扱管理者」の国家資格取得とします。 この資格は、観光業界、公務員を目指すものにとって有利なものです。 国家試験は、毎年９月に実施されます。 旅行業約款は、旅行業者と旅行者との取り決めであり、ほとんどの旅行業者は標準運送約款を基本としています。 【概要】 この約款のポイントとなる「募集型企画旅行契約」「受注型企画旅行契約」「手配旅行契約」の旅行形態を確認し、取扱いの違いを理解することが重要です。 また、「国内旅客運送約款」では航空券・運賃及び料金・手荷物・責任など、「一般貸切旅客				
18.学習目標とＤＰとの関連	①国内旅行業務取扱管理者試験の合格基準である６０％以上の得点を確保すること。 ②約款と実務の関連について理解すること。 ③旅行業法との関連について理解すること。 関連する DP は、「専門知識・技術の活用力」です。				
19.教科書・教材	＊旅行実務シリーズ「旅行業約款　　運送・宿泊約款」　　（発行：JTB 総合研究所） ＊資料は、適宜配布します。				
20.参考文献	①観光白書 ②日本旅行業協会（JATA）の HP ③全国旅行業協会（ANTA）の HP ④標準旅行業約款				
21.成績評価	＊総括試験（筆記）　６０％（学習目標の①、②、③に対応） ＊理解度確認テスト（筆記/３回）　３０％（学習目標の①、②、③に対応） ＊練習問題（各授業）　１０％（学習目標の①、②、③に対応）				
22.コメント	①教科書、参考文献などで予習復習をしっかりと行ってください。 ②総括試験は、１５回目の授業で行います。 ③理解度確認テストは、授業中に行います。実施要領は、事前の授業で説明します。 ④出欠確認、資格喪失などは大学のルールどおりです。 ⑤授業中は、帽子の着用を禁止です。				
23.オフィスアワー	講義終了後、教室などで対応します。また、メールによる対応をします。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	オリエンテーション（授業の目的、計画、評価、資格取得などの説明）	
第２回	標準旅行業約款の概要	教科書：標準旅行業約款の部を熟読
第３回	標準旅行業約款・募集型企画旅行契約①	教科書：募集型企画旅行契約の部を熟読
第４回	標準旅行業約款・募集型企画旅行契約②	教科書：募集型企画旅行契約の部を熟読
第５回	標準旅行業約款・受注型企画旅行契約①	教科書：受注型企画旅行契約の部を熟読

	第１回理解度確認テスト	
第６回	標準旅行業約款：受注型企画旅行契約②	教科書：受注型企画旅行契約の部を熟読
第７回	標準旅行業約款：特別補償規定	教科書：特別補償規定の部を熟読
第８回	標準旅行業約款：手配旅行契約	教科書：手配旅行契約の部を熟読
第９回	国内旅客運送約款（日本航空例）	教科書：国内旅客運送約款の部を熟読
第１０回	一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款	教科書：一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款の部を熟読
第１１回	フェリー標準運送約款	教科書：フェリー標準運送約款の部を熟読
第１２回	宿泊約款	教科書：モデル宿泊約款の部を熟読
第１３回	国際運送約款（日本航空例）	国際運送約款の部を熟読
第１４回	第３回理解度確認テスト 重要チェックポイントの解説	教科書：一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款、フェリー標準運送約款、モデル宿泊約款の部を熟読
第１５回	まとめ、総括試験	教科書：約款全分野の復習

1.授業コード（ナンバリング）	TOU225-Y01	2.科目名	ツーリズムモデルⅠ			3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ						
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科				9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	【目的】 マスツーリズムは、観光地の自然環境や生活文化の破壊につながることがありました。1980年代から自然環境や生活文化などの資源を持続させていくようなエコツーリズムの実践が試みられてきています。授業では、エコツーリズムなどのオータナティブなツーリズム・モデルの歴史と事例を紹介して、これからの新しいツーリズムのあり方について考えます。 【概要】 本授業は、エコツーリズム論などのツーリズムモデルをみわたし、観光学科で取り扱う重要なテーマ「ウェルビーイング社会の実現につながる新たな観光価値をデザインする」							
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）・KUISs 学修ベンチマークの以下の項目と関連しています (1)自律的で主体的な態度（自律性） (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 本科目の学習目標 １．授業で紹介する個々のエコツーリズムなどのツーリズムモデルの事例において、そのツーリズムのどんな側面が自然環境や生活文化などの資源を持続させていっているのかについて考えをまとめて説明することができる。 ２．受講生の皆さんがエコツーリズムを実現するためにできることを考え、実践する。その過程や結果について、説明・発表することができる。							
19.教科書・教材	教材は、web class にて、配布します。						
20.参考文献	授業中にたくさん紹介します。						
21.成績評価	毎回実施する小テストまたは授業内レポート(２5%)…（学習目標１に対応） 授業中の発表（宿題や授業内レポートで扱ったテーマについて）(25%)…（学習目標２に対応） 中間テストと期末テスト(５０%)…（学習目標１と２に対応） 中間テストと期末テストの記述問題、授業内レポートの記述問題、授業中の発表は、ルーブリック評価で採点します。						
22.コメント	授業では、世界の様々な場所でのエコツーリズムなどのツーリズムモデルについて紹介します。これらの事例は自分の住む場所からは遠い場所の事例かもしれません。しかしながら、それらの事例から、受講生のみなさんは、想像力をふくらませてください。これらの事例をとおして、あなたは、どのように考えるのか、実践するのか、さらにはどのように生きるのかについて考える手がかりとしてください。 期末テストの記述問題のひとつとして「あなたの考える理想のエコツーリズムについて記述してください」という問題を出します。どのように解答するのか、15 回の授業を通して学習するキーワードをを使って、あなたの考えをまとめる準備をしてください。						
23.オフィスアワー	個人研究室：月曜昼休み 学修支援センター：金曜昼休み						
24.授業回数	25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回授業	イントロダクション：エコツーリズムの定義とエコツーリズム推進法	「エコツーリズム憲章」を検索して読んでみよう。
第 2 回授業	エコツーリズムの歴史：ガラパゴス諸島のような壮大な自然から里山まで	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 1
第 3 回授業	エコツーリズムの歴史：沖縄県の事例から離島とエコツーリズムについて考える：西表島・竹富島の事例紹介	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 2
第 4 回授業	エコツーリズムの歴史：沖縄県の事例から離島とエコツーリズムについて考える：石垣島の事例紹介	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 3
第 5 回授業	エコツーリズムとグリーンツーリズム、ルーラルツーリズム、アグリツーリズモ 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 1　）	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 4
第 6 回授業	ＥＵの主導する「LEADER＋事業」とその後継事業：ツーリズムと地域再生・イタリアとギリシャの事例 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 2　）	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 5
第 7 回授業	英国のルーラルツーリズムと農村再生の事例：英国の湖水地方の事例から 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 3）	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。中間テストの準備をしよう。
第 8 回授業	エコツーリズムのルール（1）：ツーリストの責任 授業の後半に、中間テスト	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。授業の後半に中間テスト。
第 9 回授業	コツーリズムのルール（2）：ツーリストを迎える人々の責任 授業の後半に、中間テストのふりかえり	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。授業の後半に中間テストのふりかえり。
第 10 回授業	エコツーリズムにおける交流 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 4）	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。中間テストのふりかえりを踏まえて、期末テストの準備をしよう。
第 11 回授業	英国の「カントリーサイド･コード」と教育プログラム 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 5）	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。期末テストの準備をしよう。
第 12 回授業	「カントリーサイド･コード」教育プログラムの活動を	WebClass で配布する文献を読んで討論してグ

	実践してみよう（その１） 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その６）	ループごとに発表しよう。期末テストの準備をしよう。
第１３回授業	「カントリーサイド･コード」教育プログラムの活動を実践してみよう（その２） 里山をめぐるツーリズム	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。期末テストの準備をしよう。
第１４回授業	期末テスト	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。期末テストの準備をしよう。
第１５回授業	まとめ	

1.授業コード（ナンバリング）	TOU311-A01	2.科目名	アジア文化論	3.単位数	2
4.授業担当教員	李容淑				
5.授業科目の区分	講義科目	6.必修・選択の区分	必修科目	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年生
10.取得資格の要件	経営学科	11.先修条件	経営 3 年生		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	文化は衣・食・住、言語、宗教、知識、芸術、制度など民族や社会の全体的な生活の様子を指す非常に包括的な概念である。文化は、世界の領域に拡張されて多様化と融合の過程に進んでいる。世界の文化と経済圏の区域を、米国圏、ヨーロッパ圏、アジア圏に分けて見るとアジア諸国の政治構造、経済とさらに文化の発展を遂げたことによる変化が注目されている。 したがって、近隣国家とは競争や対立関係ではなく、更に緊密なパートナーの役割を強化することができるよう、互いに良好な関係を形成することが重要である。特に、IT 情報産業が急速に発展し				
18.学習目標とＤＰとの関連	＜学習目標と DP との関連＞ この授業を通じて、関連企業や社会でより専門的な知識が活用できるようになる。 ①　アジア国家の人口、GDP、為替、新文化など専門的な内容の説明ができる。 ②　アジア国について知識とコミュニケーションスキルを鍛える。 ③　留学生との授業やグループワークで多様な理解を高める。 ④　アジアを学んで日本との違いと共通点を発見し、その点をより結び付けることができる。				
19.教科書・教材	WebClass に記載				
20.参考文献	配布する資料				
21.成績評価	授業中で実施するレポート 各自での資料作成とグループ発表　６０％ 期末レポート　40%				
22.コメント	異文化に関心がある学生として、グループワークの時、積極的に取り組むことを求めている				
23.オフィスアワー	毎週金曜日お昼、事前予約が必要　尼崎キャンパス 402 号室				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回 8 日金	1 回オリエンテーション　PDCA、授業内容説明	事前に WelClass の資料を確認して関連資料を準備する
2 回	文化の定義 文化と文明の差 文化の具体的な構成要素 文化の特徴 新文化論 アジア重要国家	
	中国文化について①講義	
	中国文化について② 中国人留学生らのグループ発表	発表用ノートパソコン
	韓国文化について①講義	
	韓国文化について　② 映画上映　白磁の人①	

	韓国文化について③ 映画上映　白磁の人②	
	ベトナム文化について①講義	
	ベトナム文化について② 留学生らの発表	発表用ノートパソコン
	台湾文化について⑩	
	香港・シンガポール文化について	
	インドネシア文化について講義 留学生の発表	発表用ノートパソコン
	日本文化について 日本人学生らの発表	発表用ノートパソコン
	アメリカ・文化や GS 経験を発表 世界のゲテモノ	
	期末テストとレポート	

1.授業コード（ナンバリング）	TOU312-Y01	2.科目名	航空実務	3.単位数	4
4.授業担当教員	小泉園栄				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科 グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件	T50		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	Students will learn how airline operates and the relationship between airline, travel agent and hotel. Focus will be placed on the language and professional skills required to perform effectively in the airline industry. Visit KIX for inspection (dependin				
18.学習目標とＤＰとの関連	Improve communicaiton skills, vocabulary, pronounciation and grammatical accuracy followed by real-time working routines of Cabin Attendant.				
19.教科書・教材	Ptints are distributed.				
20.参考文献	English for Cabin Crew] by Terence Gerighty　/　Shon Davis Published by　HEINLE CENGAGE Learning				
21.成績評価	The teacher consider each student's motivation, effort and manner during every lesson,A student's final score is based on: Enthusiasm and high motivation-30% Contents of presentation and role play-30% Assignments and　tests - 40%				
22.コメント	If you are interested in airline industries, you'll enjoy this course.　Please bring your laptop,				
23.オフィスアワー	If you have any questions, feel free to ask me before or after the class in classroom.				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1-1 2-1	(1-1) (1-2) Course introduction Self-Introduction (include your airline experiences) Unit 1　The　pre-flight briefing　Listening 1)　2)　3) Practice introducing yourself to someone you do not know Finding	Self-introduction ~ Introduce yourself to someone you do not know. Prepare the speech of your airline experiences. Check Airline code, City code Prepare for new vocabularies
3-2 4-2	(2-1)(2-2) Vocabulary Test　Unit 1 Unit 1　Speaking 5, 6 Finding out about the flight 1,2 2　Welcome on board P12-15 3. Case study P11 Unit 2　Vocabulary check P12~P15	Prepare for Unit 1 Vocabulary test Read case study Unit 2　New　Vocabulary　check

5-3 6-3	(3-1) (3-2) Unit 2　Welcome on board　P12-15 Vocabulary test Welcoming PassengersP12-13 Setting　passengers in their seats P14-15 New Vocabulary check for Demonstrating safety procedures	Prepare for new vocabularies Unit 2 Test Check new vocabularies of Demonstrating safety procedures and case study
7-4 8-4	(4-1)(4-2) Vocabulary test Unit 2 Unit 2　Demonstrating safety procedures and checking before take-off Case study 'Bags in Bins' Unit 3　After take-off and into the flight　P20-23 Vocabulary check	Prepare for new vocabularies Unit 2 Test Check new vocabulary for Unit 3　After take off and into the flight
9-5 10-5	(5-1)(5-2) Unit 3　Vocabulary test P20-23 Unit 3 P20　After take-off and into the flight P22 Getting started Vocabulary check for Unit 3 P24, 25 Helping to settle passengers Case study P26,27	Prepare for new vocabularies Unit 3 Test Check new vocabularies Unit 3 P24,25 and Case Study P26 & 27
11-6 12-6	(6-1)(6-2) Vocabulary test Unit 3 Helping to settle passengers　P24-25 Case Study P26-27 Vocabulary check for Unit 4　Food and drinks P28-31 Duty -free sales　P32-33 Case Study P34-35	Prepare for new vocabularies Unit　3 Test Check new vocabularies Unit 4
13-7 14-7	(7-1)(7-2) Unit 4 Food, Drinks, Duty Free Vocabulary test Check new vocabularies Unit　5 Minor passenger problems P36-39 Dealing with problem P38-39	Prepare for new vocabularies Unit 4 Test Check new vocabulary for　Unit 5

15-8 16-8	(8-1) (8-2) Unit 5 Minor passenger problem Dealing with problems Vocabulary test Saying sorry, Case study P40-43 Check new vocabularies.	Prepare for new vocabularies Unit 5 Test Check new vocabularies for Unit 5
17-9 18-9	(9-1) (9-2) Unit 5 Saying sorry, case study P40-41 Vocabulary test Unit 6 Is there a doctor on board? Dealing with an on-board accident P44-45 Dealing with a serious medical incident P46-47 Check new vocabularies.	Prepare for new vocabularies Unit 5 Test Check new vocabularies for Unit 6
19-10 20-10	(10-1) (10-2) Unit 6 Is there a doctor on board? P44-47 Dealing with an on-board accident Dealing with a serious medical incident Vocabulary test Unit 6 Reporting a medical incident.P48-49 Case study P50-51 Vocabu	Prepare for new vocabularies Unit 6 Test Check new vocabularies for Unit 6
21-11 22-11	(11-1)(11-2) Reporting a medical incident P48 Case study Vocabulary test Unit 7 In-flight emergencies P52 Vocabulary Check	Prepare for new vocabularies. Unit 6 Test Check new vocabularies for Unit 7
23-12 24-12	(12-1) (12-2) Unit 7 In-flight emergencies Taking charge in an emergency P52-53 Preparing for an emergency evacuation P54-55 Vocabulary test Vocabulary check Reporting an evacuations P56-59 Case study P58-59	Prepare for new vocabularies Unit 7 Test Check new vocabularies for Unit 7
25-13 26-13	(13-1) (13-2) Reporting an evacuation P56 Case study Vocabulary test Check new vocabulary Unit 8 Complaints and disruptive passengers Responding to passenger complaints P60-61	Prepare for new vocabularies Unit 7 Test Check new vocabularies for Unit 8

	Dealing with complaints about other passengers P	
27-14 28-14	(14-1)(14-2) Unit 8 Complaints and disruptive passengers Responding to passenger complaints P60-61 Dealing with complaints about other passengers P62-63 Managing disruptive passengers P64-65 Vocabulary test Read	Prepare for new vocabularies Unit 8 Test Check new vocabularies for Unit 8
29-14 30-15	(15-1) (15-2) Review and prepare the final exam through Unit1-Unit 8 Question & Answer	Review all assignments

1.授業コード（ナンバリング）	TOU313-Y01	2.科目名	空港業務			3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕						
5.授業科目の区分	専門教育科目　基幹科目　専攻コア	6.必修・選択の区分	選択		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科				9.履修学年	2 年生または 3 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件	エアラインビジネスまたは航空ビジネス論		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	【目的】航空産業論を基盤とし、エアラインにおける業務について、具体的なオペレーション上の内容とポイントについて学習し、またその意義について理解する。また、具体的な内容を踏まえ、どのような人材が求められるのか、エアラインを通してサービス・ホスピタリティ産業に求められる人材像を考察する。 【概要】具体的には、販売・予約部門から空港における旅客運送、貨物運送、運航とエアラインのオペレーションに沿って、具体的な業務を学習し、その上で各オペレーションにおいて共通して求められる点を整理して理解する。						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の【(3)多様性理解】【(4)問題発見・解決力】【(6)専門的知識・技能の活用力】に関連しています。 空港業務の学習目標は、以下のとおりです。 ①エアライン業界を全般的に理解し、一方でその多様性が特徴となるサービス部分に焦点をあわせ、エアラインの業務の構成やサービスに必要な要素について述べることが出来る。 ②エアラインを通じて、サービス・ホスピタリティ産業全体に亘る必要なポイントを理解し、その特徴を述べることが出来る。 ③講義の内容を踏まえ、自身の適正を見極める中、グローバル人財についての関心・意欲を高めキャリアプランを描くことが出来る。						
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。						
20.参考文献	エアラインオペレーション入門【改訂新版】（発行　イカロス出版）						
21.成績評価	①授業理解度（講義内容の理解）・・・40 点　（講義に出席し、配布する資料に要点を記入し、内容の理解を深める。そして毎回設定する課題に対して自分の考えを記述し、提出する。）※学習目標①、②、③に対応 ②個人ワーク＆グループワーク・・・15 点　（講義の中での設問やグループワークにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する。）※学習目標①、②、③に対応 ③確認テスト・・・45 点　（講義全体を通して航空会社のオペレーションのポイントを理解し、考察することができる）※学習目標①、②、③に対応						
22.コメント	空港業務では、エアラインビジネスにおいて学んだ航空業界のビジネスの仕組みを基盤として、空港などにおける航空会社のオペレーションを学びます。尚、航空実務では航空会社の経営戦略を学びます。履修する学生の皆さんの質問を歓迎します。日頃より観光や航空関係の報道を興味をもって履修してください。						
23.オフィスアワー	金曜日　昼休み　神戸山手キャンパス 3 号館　3302 号室						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	講義【オリエンテーション】 担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算出の方法、受講上の留意点について説明する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第 2 回】	講義【空港運送事業の特性】	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

	一機の航空機が飛ぶために様々な業務の役割と専門性が求められている。航空会社の様々な部署を知る	予習：次回の予習
【第３回】	講義【エアラインの提供するサービスⅠ　保安・安全】 公共交通機関であるエアラインは、安全運航のためにどのような取り組みをしているのかなど、保安と安全の重要性を認識する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第４回】	講義【エアラインの提供するサービスⅡ　定時・快適・利便の追求】 顧客が求めるサービス品質を理解し、専門的な業務により高い品質を提供することが求められている。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習　第１回確認テストに備えてここまでの振り返り
第５回	講義【エアラインの業務Ⅰ　販売・予約部門】 エアラインと顧客を結ぶ部門が提供しているサービスについて理解する。 第１回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
第６回	講義【運航①（運航業務）：運航乗務員の業務】 飛行機はどうして飛ぶのか？運航乗務員が顧客に行うサービスとは何かなどについて理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第７回】	講義【運航②（整備業務）：整備士の業務】 航空機の整備の種類や求められる安全上の役割などについて理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第８回】	講義【運航③（運航管理）：オペレーションサポー業務】 気象情報など航空機の運航に欠かせない情報の提供などの業務について理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第９回】	講義【運航④（客室サービス）：客室乗務員の業務】 客室乗務員の業務は多岐に渡り、顧客の目に触れるのはほんの一部分である。客室乗務員が航空機に搭乗する意義を捉えなおす。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習　第１回確認テストに備えてここまでの振り返り
【第１０回】	講義【機内サービスを支える様々な仕事】 ケータリング（機内食）など、快適なフライトを支える部署の役割について理解する。 第２回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１１回】	講義【空港サービス③　グランドスタッフの業務 】. 空港の様々な場面において、お客様の旅のお手伝いをするグランドスタッフの業務を理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１２回】	講義【空港サービス②　グランドハンドリングの業務】 空港で、お客様から見えない場面で業務を実施するオペレーションを支えるグランドハンドリング業務を理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１３回】	講義【空港サービス①　貨物部門】 貨物関連のサービスおよびオペレーションをとりあげる。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第１４回】	講義【エアラインのグローバル人財マネジメント戦	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

	略】 人財マネジメントの目的を理解し、グローバルに進化し続けるエアラインが求める人材像を探る。	予習：次回の予習　第１回確認テストに備えてここまでの振り返り
【第１５回】	講義【エアラインのオペレーション】 エアラインのオペレーション全体を振り返り、重要なポイントを整理する。 第３回小確認テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

1.授業コード（ナンバリング）	TOU316-Y01	2.科目名	観光政策論	3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史				
5.授業科目の区分	展開科目（専門科目）	6.必修・選択の区分		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に他学科他学部からも履修できます。			9.履修学年	2 回生～
10.取得資格の要件		11.先修条件	ありません。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	ありません。				
17.授業の目的と概要	【目的】観光産業がどのように発展してきたかを学び、その過程で国や自治体がどんな観光政策をとってきたかを理解します。今コロナ禍が終わり、その前に拡大していたインバウンドが戻っています。他方、国際観光の歴史的転換が進んでいると言われます。未来を予測し観光政策を立て、運営する専門家になるための授業です。 「様々な観光現象を分析する視点をもち、観光の未来を考える力をもつ」 【概要】「世界からみた日本観光とその未来－新しい文化観光の創造へ－」を 15 回に分けてお話しします。日本には、世界先進国に負けない長い観光の歴				
18.学習目標とＤＰとの関連	先入観に縛られず、客観的に異文化を理解できる幅広い視野を養うことで、国際コミュニケーションの基礎理解を深めます。				
19.教科書・教材	授業の主な内容を資料として配ります。それをもとに独自の教科書を作ってみて下さい。				
20.参考文献	宗田好史『にぎわいを呼ぶイタリアのまちづくり 歴史的景観の再生と商業政策』学芸出版社 2000 宗田好史『創造都市のための観光振興 小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社 2009 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか 市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社 2012 宗田好史『インバウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社 2020				
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話ししたこと、配付したスライドをよく理解していること。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜 3 コース（研究室/3-308）、火曜 2 コース(学修支援センター)				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 4 月 10 日：観光政策のススメ	観光学科で学ぶ皆さんの知識を活かして、観光産業を活かした地域づくり、観光政策を学びます。フランスやイタリア、日本でも京都のような世界で有名な都市には優れた観光政策があります。最近の国際観光旅客（インバウンド）の急増の様々な影響を抑えて、質の高い観光文化を発展させています。しかし、観光客の来ない普通の町が多く、どうすれば観光客に来てらえるか分からずにいます。観光政策には、こうした誘客策もありますが、ポロモーションだけでなく、その町や村を魅力的に演出するまちづくり策、そして観光公害対策があります。この授業では	アサインメント：観光政策にはどんな取り組みがあるか述べて下さい、 事前学習：観光公害と言われるものにはどんな現象があるか述べて下さい。
第 2 回 4 月 17 日：観光政策の歴史、明治日本を訪れた	観光の歴史を振り返ります。江戸時代から旅の習慣、文化が発達し観光関連産業が盛んだった日本では、明治維新後に、外貨を稼ぐために欧米先進国から観光客を集めようと様々な取組みをしました。19 世紀後半、	アサイメント：『ガリバー旅行記』とはどんな物語化調べて下さい。 事前学習：明治時代にできたホテルを二つ挙げて下さい。

外国人観光客	英国の小説『ガリバー旅行記』では、天空の城ラピュタの後、日本にも寄るほど人気の観光地でした。当時、世界旅行事情と開国されたばかりの日本に豊かな欧米人に来てもらい外貨を稼げるかが、日本の観光政策の始まりでした。	
第 3 回 4 月 24 日：戦後の占領軍と外国人観光客、国際観光旅館	明治以降外国人観光客は増えましたが、船の旅は長く、まだインバウンドが少なかったのですが、それでも日光や京都などは、国際的な観光地に成長しました。それが、20 世紀の後半、敗戦後に一気に拡大します。まず、占領軍として日本に滞在したアメリカ人が、日本国内を楽しみます。明治時代から発達した洋風のホテルに泊まり、鉄道やバス、それに専用のハイヤーで有名な観光地を楽しみました。その際、各地の旅館も外国人を泊めようと「国際観光ホテル整備法」ができました。でもホテルとは名ばかりの木造の旅館がまだ多く残っていました。	アサイメント：新幹線が開業する前に、JR（当時の国鉄）を走っていた特急列車の名前を調べて下さい。 事前学習：アメリカ人が好む日本の観光地はどこでしょう。調べてみて下さい。
第 4 回 5 月 1 日：高度経済成長期の観光政策	戦後、比較的早くに鉄道が復旧したため、生活に余裕ができた日本人は、平和な時代をよろこんで全国各地の温泉に出かけ、山や海を楽しみます。まだ貧しかったのですが、鉄道の団体旅行が盛んになりました。修学旅行も盛んでした。その後、各地に観光客用の道路が整備され、鉄道からバスに乗り換えて、団体で回る習慣が始まりました。その振興を進めたのが、昭和の観光政策です。	アサイメント：日本人の団体観光客が訪れたのはどこでしょう。 事前学習：団体旅行は今は減りました。なぜでしょう。
第 5 回 5 月 8 日：万博という観光政策	1964 年には東京で最初のオリンピックが開催され、同じ年に東海道新幹線が開業、その後 1970 年には大阪で万国博覧会が開かれました。ちょうど高度経済成長期で豊かになり始めた人々は盛んに観光に出ました。東京や京都、日光や各地の温泉に人が溢れ、今でもその当時の賑わいを思い出す人がいます。この時期に、カメラが普及し、マイカーが普及し、また観光ビジネスの形が確立し、パッケージツアーもでき、現在の観光産業の形が整いました。これも国を挙げての観光政策の成果です。	アサイメント：1970 年の大阪万博の会場はどこでしょう。その場所が今どうなっているか述べて下さい。 事前学習：1970 年代に発売されたカメラにはどんな機種があったか調べて下さい。
第 6 回 5 月 15 日：ディスカバー・ジャパン・キャンペーンの登場と成功	1970 年の万博が終わり、新幹線がガラガラになった当時の国鉄、今の JR が進めた観光政策が「ディスカバージャパン」というキャンペーンです。それまで田舎から都会に来ることが多かった観光が、都会から田舎に行くようになりました。その理由は、それまでは農村人口の方が、都市人口より多かったからです。それが逆転したのが 1970 年代、現在では 8 割以上が都市人口、農村は過疎高齢化です。当時は、まだ過疎化し始めたばかりの田舎に、古きよき日本を探しに出かけるのが観光となりました。	アサイメント：ディスカバージャパンキャンペーンには、コマーシャル・ソングがありました。その曲名前を調べて下さい。 事前学習：なぜ、当時の若者は田舎を好んだか考えてみて下さい。
第 7 回 5 月 22 日：アンノン族と町並み保存、1970 年代	もう一つの大きな変化が、若者が観光客の中心になったことです。この時代の若者は、女性一人で観光旅行に出かけた最初の世代です。観光地には若者が溢れ、特に女性が熱心でした。高齢者が多い今とは大違いで	アサイメント：今までに訪れたことのある歴史的な町並み保存地区を挙げて下さい。 事前学習：女性の一人旅がそれまでほとんど行われなかったのはなぜでしょう。

の観光政策	す。この女性たちが好んで訪れた先が歴史的な町並み保存地区です。1975 年の文化財保護法改正で、伝統的建造物群保存地区制度が生れ、京都や金沢、倉敷や妻籠、馬籠などの歴史地区が賑わいました。今も人気の観光地です。	
第 8 回 5 月 29 日：大規模開発と観光政策、リゾート法の時代	観光の拡大が一段落した後、バブル期には豊かで働き過ぎの日本人がもっと休むようにと、リゾート整備の観光政策が始まりました。その後、全国の府県がそれぞれに計画を発表し、中には相当に無理な計画があり、ほとんどの計画が失敗に終わりました。バブル経済が崩壊したからだと言われましたが、そもそも日本にはバカンスの習慣がなく、だからリゾートが根付かなかったと言われます。現在もまだバカンスはありません。一方、なかなか変わらないのが、お正月とお盆の休み、それにゴールデンウィークです。	アサイメント：欧米先進国には当時バカンスという長期休暇制度がありました。何日有給休暇があるでしょう。 事前学習：もしあなたが 1 ヵ月のバカンスがあれば、どこに行きますか。その予算はいくらですか応えて下さい。
第 9 回 6 月 5 日：バブル経済の崩壊と観光政策の失敗、夕張市の破綻	夕張市の財政破綻が起こったのが、2004 年です。北海道の夕張市は明治始めに北海道開拓が始まった時代から大きな炭鉱があり、全国から多くの労働者が集まり、豊かに賑わっていました。20 世紀後半のエネルギー革命で炭鉱は閉鎖され、町は衰退しました。地域経済の再生を観光産業でと考えた市長は、「石炭の歴史村」（1983 年）、ロボット大科学館（1988 年）、スキー場などを次々と建てましたが、客が集まらず大赤字、国に隠して公債を発行し、その返済ができなくなりました。大失敗した観光政策の例です。	アサイメント：夕張はその後、どんな再生策を練ったでしょうか。 事前学習：北海道の地図を見て夕張の位置を探して下さい。神戸から行くためにはどんなコースがあるか調べて下さい。
第 10 回 6 月 12 日：1990 年代の観光政策、ロスジェネは旅に出ない？オルターナティブツーリズム	2000 年代後半から少しずつ日本人の観光行動が減少を始めました。人口減少の影響もありますが、1990 年代に大学を卒業したロスジェネ（失われた）世代（1970～1984 年生れ）が観光に行かなくなった影響があります。バブル崩壊の後の不景気な時代で経済的余裕が亡くなったためです。とはいえ、若い内は地味でしたが、ホンモノ志向の賢い観光を楽しみました。こうして、もう一つの観光、オルターナティブツーリズムが生まれた時代です。エコツーリズムやボランティア活動などがこの中に含まれます。	アサイメント：オルターナティブツーリズムにはどんなものがあるか、少なくとも 10 通り書き出して下さい。 事前学習：バブル経済はなぜ崩壊したのか調べて下さい。
第 11 回 6 月 19 日：高齢社会の観光政策、観光はウェルビーイング？	日本の観光市場では高齢化が進んでいます。日本は世界一高齢化しているからです。特に、2020 年代現在、後期高齢者になる人たちは戦争直後に生れた団塊の世代、日本人で初めて若いころから観光を楽しみ、国内でも国外でも新しい観光地を開いてきた人達です。観光をよく知る世代が高齢化し、最後の観光を楽しんでいます。とはいえ、今の観光が本当に幸せなのか？ウェルビーイングになっているのか、議論されています。何か新しい行動をするのでしょうか？	アサイメント：ウェルビーイングについて述べて下さい。 事前学習：高齢者が好む観光にはどんな目的地があり、どんな乗り物（移動手段）を好むか、考えてみて下さい。
第 12 回 6 月 26 日：観光立国日本の推進、インバウ	2003 年「観光立国宣言」を契機に、「観光」は国家的な目標となり、2007 年「観光立国推進基本法」が制定、翌 2008 年に「観光庁」が国土交通省の外局として解説されました。2011 年東日本大震災があり、2019	アサイメント：テーマパークを作っただけでは観光客は来ません。それはなぜでしょう。 事前学習：成功した観光地と失敗した観光地を挙げて下さい。

ンドの登場	年コロナ禍が起こったものの、インバウンドが増え続けています。現在の日本の観光政策は、こうして本格的に始まりました。その背景に、これまで 150 年間の観光政策の積み重ねがあります。観光学を学ぶ皆さんは、その歴史の上に現在の観光政策があることを理解して下さい。素人の思いつきだけでは、政策は立案できません。	
第 13 回 7 月 3 日：京都市の観光政策、京都創生は文化・景観・観光で	京都市は世界的にみても先進的な観光政策を実現してきました。この回は京都を取り上げて、明治、戦前、戦後、1970 年代、バブル期、そしてその崩壊後から現在までの数々の観光政策を解説します。私自身が関わった観光政策です。他では聞けない様々な事情をお話しします。シニア化、女性化、アジア化、デジタル化等の変化を上手に捉えた政策づくりの秘密をお話しします。	アサイメント：今の京都では、どんあインバウンド対策をしているか調べて下さい。 事前学習：京都で訪れたことのある観光地を述べて下さい。
第 14 回 7 月 10 日：中国人観光客に対応する観光政策、インバウンドの制御はできるか？	新しい問題としてインバウンドの増加があります。中国からは膨大な数の観光旅行初心者が日本に押し寄せます。それも当面、おそらく数十年は続きそうです。1970 年代には、日本人が観光初心者として欧米先進国で嫌われていました。今は、その日本人が中国人を見下すような態度をとります。しかし、観光客の行動は直ぐ変容します。短期間で旅慣れ、上手に観光を楽しみ始めます。その変容を促進するのが、インバウンド対策です。	アサイメント：中国人が好む観光地はどこでしょう。 事前学習：訪日中国人観光客数を調べて下さい。
第 15 回 7 月 17 日：観光政策論の様々な手法、交通、土地利用、宿泊施設、飲食店、文化資源の管理	最後に、観光政策の手段として用意された数々の施策をお話しします。観光公害と呼ばれる交通混雑、ゴミ問題、地元住民との対立などの問題は一過性、直ぐに解決できる問題です。ただ、観光政策に慣れていない自治体、それも農村部の自治体にはその施策を知らないでいる場合もあります。観光政策は決して難しいことでなく、常識的なもの。誰もが気づき、実行できることです。細かな内容を整理して詳しく説明します。	アサイメント：授業で述べた施策を列記しなさい。 事前学習：観光公害とは何か述べて下さい。

1.授業コード（ナンバリング）	TOU317-Y01	2.科目名	エアライン特別演習Ⅲ	3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕				
5.授業科目の区分	専門教育科目　基幹科目　専攻コア	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3 年生
10.取得資格の要件		11.先修条件	航空産業論および航空実務を履修しておくことが望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】本講義では、航空産業論および航空実務を基盤としてマイレージやアライアンスなど大手エアラインの戦略に関する理解を深め、演習を通じてエアラインの要員として必要となる知識や技能について考察する。 【概要】空港におけるインターンシップで使われる教材をもとに、空港業務で必要となる３レターコードや手荷物受託などにおける注意事項など演習形式により理解する。具体的には、搭乗手続き、搭乗ゲート、特別旅客、マイレージサービスなどの各場面における知識を演習を通じて学ぶ。また航空で働くうえで欠かせない航空の現状を知る時事				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の【(3)多様性理解】【(4)問題発見・解決力】【(6)専門的知識・技能の活用力】に関連しています。 空港業務の学習目標は、以下のとおりです。 ①エアライン業界を全般的に理解し、一方でその多様性が特徴となるサービス部分に焦点をあわせ、エアラインの業務の構成やサービスに必要な要素について演習を通じて深く理解することが出来る。 ②エアラインを通じて、サービス・ホスピタリティのポイントを理解し、その特徴を述べることが出来る。また業務の具体的な内容を理解することで安全に寄与することの重要性を学ぶ。 ③演習を通して自身の適正を見極める中、グローバル人財についての関心・意欲を高めキャリアプランを描くことが出来る。				
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。				
20.参考文献	エアラインオペレーション入門【改訂新版】（発行　イカロス出版）				
21.成績評価	①演習を通じて空港業務に対する理解を深める（毎回の演習におけるレポートの作成）・・・３０点　※学習目標①、②、③に対応 ②空港で必要となる英語能力の習得・・・３０点　（演習で使用する英文資料の翻訳など）※学習目標①、②、③に対応 ③空港における業務内容に関わる理解度・・・４０点　（航空会社のオペレーションのポイントを理解し、考察する力について演習を通して評価する）※学習目標①、②、③に対応				
22.コメント	エアライン特別演習Ⅲでは夏学期におけるエアライン特別演習Ⅳまたは各空港において開催されるインターンシップに向けた準備を行います。各空港オペレーション業務を演習形式で学び、実業務に向けた知識をその背景も含めて学習します。また、各回において航空に関するニュースを学生が選び、そのニュースに関する考えやコメントを行い、航空における業務について深く理解していきます。更には各回において英文による航空に関する記事を取り上げ、その翻訳を通じて空港の現場で必要となる語学力の向上と空港で使われる特別な表現などの学修を目指します。				
23.オフィスアワー	金曜日　昼休み　神戸山手キャンパス 3 号館　3302 号室				
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)		

【第 1 回】	【オリエンテーション】 担当教員の紹介、15 回の演習の進め方および各回で取り上げる課題などについて説明する。	復習：演習内容の復習 予習：英文資料の翻訳 　　航空関連の記事の収集
【第 2 回～第 5 回】	搭乗旅客業務に関する理解 搭乗手続き（チェックイン）の目的や意義について理解し、具体的な確認項目などを演習を通じて深く理解する。 課題①：航空ニュースについての解説 課題②：英文資料の読解	復習：演習内容の復習 予習：英文資料の翻訳 　　航空関連の記事の収集
【第 6 回～第 8 回】	搭乗ゲートに関する理解 到着便および出発便の搭乗ゲートにおける業務の目的や意義について理解し、具体的な確認項目などを演習を通じて深く理解する。 課題①：航空ニュースについての解説 課題②：英文資料の読解	復習：演習内容の復習 予習：英文資料の翻訳 　　航空関連の記事の収集
【第 9 回～第 12 回】	ユニバーサルサービスと特別旅客に関する理解 搭乗手続きやゲート業務において特別な配慮が必要（障碍者に対するユニバーサルサービス、VIP やカードホルダーなどの特別なサービス）な旅客のハンドリングを演習を通じて深く理解する。 課題①：航空ニュースについての解説 課題②：英文資料の読解	復習：演習内容の復習 予習：英文資料の翻訳 　　航空関連の記事の収集
【第 13 回～第 14 回】	マイレージサービスに関する理解 多頻度旅客の囲い込み戦略や搭乗優先やラウンジサービスなど特典について解説し、演習を通じてその重要性を理解する。 課題①：航空ニュースについての解説 課題②：英文資料の読解	復習：演習内容の復習 予習：英文資料の翻訳 　　航空関連の記事の収集
【第 15 回】	最終回として 14 回までに取り組んだ航空に関するニュースについてのレポートの発表を行う。また具体的にインターンシップに向けたアドバイスを講師より行う。	復習　航空関連ニュースの取りまとめ

1.授業コード（ナンバリング）	TOU318-Y71	2.科目名	エアライン特別演習Ⅳ			3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕						
5.授業科目の区分	専門教育科目　基幹科目　専攻コア		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	観光学科				9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件	エアライン特別演習Ⅲを履修すること		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習		
16.履修制限	（１）空港における体験学習の研修費用として学費とは別に履修学生一人あたり 15,000 円を負担する。 （２）演習においては 2 日間を関西空港で行い、関西空港までの交通費は履修学生の負担とする。 （３）4 月末時点で登録者が 20 名に満たない場合には、開講しない。また 20 名以上の履修登録があった場合には、成績などを総合的に勘案して履修者を決定する。 詳細は、コメント欄を参照ください。						
17.授業の目的と概要	【目的】本講義では、エアラインの要員として必要となる知識や技能について空港における実業務による演習を通じてその本質を理解することを目的とする。 【概要】ANA 総合研究所および ANA 関西空港の協力を得て、カウンター業務やゲート業務を実際の施設を利用して行う。尚、空港における実業務に先立ち、空港で働く場合に必要となる保安意識やサービスに関する意識を高めるための座学を大学において行う。また空港における実業体験の終了後には、体験した内容をもとに空港で働く場合に欠かせないと感じたことについてレポートを作成し、航空に						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の【(3)多様性理解】【(4)問題発見・解決力】【(6)専門的知識・技能の活用力】に関連しています。 空港業務の学習目標は、以下のとおりです。 ①エアライン業界を全般的に理解し、一方でその多様性が特徴となるサービス部分に焦点をあわせ、エアラインの業務の構成やサービスに必要な要素について演習を通じて深く理解することが出来る。 ②エアラインを通じて、サービス・ホスピタリティのポイントを理解し、その特徴を述べることが出来る。また業務の具体的な内容を理解することで安全に寄与することの重要性を学ぶ。 ③演習を通して自身の適正を見極める中、グローバル人財についての関心・意欲を高めキャリアプランを描くことが出来る。						
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。						
20.参考文献	エアラインオペレーション入門【改訂新版】（発行　イカロス出版）						
21.成績評価	①空港における演習を通じて空港業務に対する理解を深める（毎回の演習におけるレポートの作成）・・・６０点　※学習目標①、②、③に対応 ②実業務体験に基づくキャリア形成に向けたレポートの作成・・・４０点　※学習目標①、②、③に対応						
22.コメント	エアライン特別演習Ⅳは、ANA 総合研究所および ANA 関西空港の協力のもと、関西国際大学だけの空港における実務体験による演習を行います。 尚、この講義においては以下の重要なポイントを理解して、履修登録を行ってください。 （１）空港における体験学習の研修費用として学費とは別に履修学生一人あたり 15,000 円を負担頂きます。これは研修に関わる諸経費に充当されます。 （２）演習においては 2 日間を関西空港で行います。関西空港までの交通費は履修学生の負担						

	となります。尚、空港における演習は 10 時から 17 時まで（1 時間の休憩あり）を予定しています。 （3）春学期の履修登録期限となる 4 月末時点で履修登録者が 20 名に満たない場合には、開講しません。また 20 名以上の履修登録があった場合には、成績などを総合的に勘案して履修者を決定します。
23.オフィスアワー	金曜日　昼休み　神戸山手キャンパス 3 号館　3302 号室

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	【オリエンテーション】 担当教員の紹介、15 回の演習の進め方について説明する。	復習：演習内容の復習 予習：空港関連の報道の確認
【第 2 回～第 4 回】	大学における座学 空港における業務体験において必要となる保安関連情報やサービス関連情報について事前に座学により修得する。	復習：演習内容の復習 予習：空港における演習に向けた準備
【第 5 回～第 8 回】	関西空港における実業務による演習 1 日目は、搭乗手続き業務について空港の施設などを利用して、そのポイントとその確認事項の重要性、更には陥りやすい間違いなどについて特別講師を交えて業務を体験しながら学ぶ。※空港の状況により演習内容は適宜、変更の可能性あり。	復習：演習内容の復習 予習：空港における演習に向けた準備
【第 9 回～第 1 2 回】	関西空港における実業務による演習 2 日目は、搭乗ゲート業務について空港の施設などを利用して、そのポイントとその確認事項の重要性、更には陥りやすい間違いなどについて特別講師を交えて業務を体験しながら学ぶ。※空港の状況により演習内容は適宜、変更の可能性あり。	復習：演習内容の復習 予習：空港における演習に向けた準備
【第 1 3 回～第 1 5 回】	大学における座学 空港における業務体験を通じて理解した業務遂行に必要となる知識や能力を踏まえ、今後のキャリア形成において必要となる資質についてレポートを作成する。	復習：演習内容の復習 予習：空港体験で得た知識に関するとりまとめ

1.授業コード（ナンバリング）	TOU322-Y01	2.科目名	ブライダルビジネス論	3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争				
5.授業科目の区分	専門教育科目/展開科目	6.必修・選択の区分	選択科目	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科の専門教育科目ですが、他学部他学科からの履修を歓迎します。			9.履修学年	2～4 回生
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	この科目は、ブライダル業界の事情を専門的に学習します。 まず、ブライダルビジネスの現状と課題を学び、挙式までのプランニング、ドレス選び、そしてマーケティングに関する基本的な知識を身につけます。特にブライダル業界を目指す学生さんに特化して、就活に有利になるように、ビジネス能力を身につけることを目指します。 もちろん、サービス業に関わる人材が持つべきホスピタリティマインドの形成を目的とします。 〇学習目標 【目的】本講義ではブライダル業界の現状を理解し、課題に対してどのように取り組むべきかを考えることができ				
18.学習目標とＤＰとの関連	ホスピタリティ産業 ×サステナビリティについて議論し、社会・環境課題の解決にも取り組む大切さを知る機会とする。				
19.教科書・教材	教材はプリントして配布します。また、ウェブクラスに PDF で掲載しますので、各自プリントアウトするなりして授業に備えて下さい。				
20.参考文献	参考文献はその都度紹介します。またウェブクラスにも掲載します。				
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話ししたこと、配付したスライドをよく理解していること。				
22.コメント	https://dress.tagaya.co.jp/ 授業内容は変更する場合があります。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
オリエンテーション /コロナ前後で業界の何が変わったか	最初の回はオリエンテーション です。ブライダル業界とは何か説明し、具体的にはどんな仕事をしているのかをお話しします。結婚式、人生でも大切な場面に立ち会い演出する仕事です。今年はコロナが終わった最初の年、コロナの前と後で、ブライダル業界の何が、どう変わったか、今後のことを考えていきます。	アサイメントはその都度直接お伝えします。主に授業の理解度を尋ねる簡単な課題を出します。
ブライダル業界概況	2020 年はコロナ禍で大幅に減少した売上は、2022 年すでにコロナ前の 9 割の水準まで回復しました。とはいえ、国内の婚姻件数は減少していますから、競争の激化が進むブライダル業界では事業の多角化と海外展開を進めています。	資料などを見るために、毎回パソコンを持参してください。
マーケティング（集客）/市場を知る	まず、この業界のマーケティングをお話しします。市場を知り、ポイントを押さえ、集客につなげます。	毎回とは言いませんが、式場見学や衣装合わせに立ち会うなど、実地研修をしますので、日頃から服装に配慮をお願いします。
マーケティン	集客の次がプラン作成です。皆さんが目指すウェディ	

グ（集客）/プラン作成実践	ング・プランナーの出番です。この仕事は結婚式を総合的にプランニングし、準備から当日までの管理業務を行う専門的な仕事です。顧客のニーズに合う結婚式になるように提案し、必要な備品や人材の手配等を含めて総合的にサポートします。	
	さまざまな業態と取り組みを知るための学びです	
マーケティング（集客）/フェア作成実践	ブライダル・フェアの実行計画の作成と、その実践です。	
ブライダル業界の収益構造	ここからは、ブライダル業界の実態を知るために、ブライダル企業の収益構造をお話しします。皆さんの多くはまだ未婚、結婚式の費用も考えたことはないと思います。その費用、コスト、どうしてブライダル会社が収益を上げているのかを見ていきます。	
衣装（ドレス・和装）レンタルビジネスについて	収益構造の重要な要素が、衣装（ドレス・和装）レンタルビジネスです。タガヤ・ブライダルもそうですが、貸衣装業界からブライダルに転じた会社が多いのです。	
	ドレスショップの見学です。そして、そこで接客体験をしてもらいます。（仮日程です。前後する場合があります。）	
挙式スタイルについて /海外・国内リゾート・フォト wedding など	最後に、挙式スタイルについてお話しします。この中に、海外挙式・国内リゾート挙式、そしてフォト wedding などがあります。様々なスタイルを知り、仕事内容を学びます。	
業界の課題と未来について	ブライダル業界はコロナ禍からの急速な回復基調です。とはいえ、婚姻件数は減少の一歩、少子化の影響です。その中で、ブライダル・サービスの質を上げ、ブライダル文化を磨き、より多様なお客様のニーズに応えようという課題をどうとらえるかのお話しです。	
ブライダル業界におけるサステナビリティ	皆さんも大学生活でも、また授業でも SDGs の取組みを知っていますが、ブライダル業界でもサステナビリティの取組みを進めています。オーガニックな食材、環境配慮型で着心地のいいウェディングドレス、エシカルファッション、サステナブル。ジュエリーやフェアトレードのギフトなどです。	
ホスピタリティ産業とは	さて、最後の話は「ホスピタリティ」についてです。ブライダルはお客様の一生の中でも最も大切な一日を演出するビジネス、ホスピタリティを尽くしても尽くしきれない仕事です。そのためサービス業の中で最も丁寧な仕事が求められるホスピタリティ産業です。ブライダルのホスピタリティを学びます。	
ホスピタリティ業界への就	この業界を目指す皆さんのために、ホスピタリティ業界への就活では、どんな人材が求められているか、そ	

活のために	んな人財を探すために面接では何が聞かれ、どう答えればいいかを考える時間です。ご自分を上手にアピールするためのコツをお話します。	
振り返り/課題提出	最後は振り返り、この授業で学んだこと、習ったことを一通り復習して、秋学期の「プライダル実務」に備えます。また、課題のレポートいついて説明します。	

1.授業コード（ナンバリング）	TOU324-Y01	2.科目名	アミューズメントパーク論	3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎				
5.授業科目の区分	ＵＳＪのマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年次～
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義 アクティブ・ラーニング導入科目（グループディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	目的：ディズニーやＵＳＪなどのテーマパークを、経営学的観点から理解し、テーマパーク経営における問題発見と解決策を見出す能力を身につけます。 概要：テーマパークの収入は、おもに①入場料、②飲食、③お土産などの物販、で構成されます。どうやってそれぞれの収入を最大化するかについて、例えば「ユニバでいちばん人気のお土産やレストランメニューを企画してみよう！」といった実践的なワークを通じて、深く考察していきます。履修後には、テーマパークの収入・コスト・リスクなどについて、経営的な視点から批判し解決策を提案できるよう				
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(4)問題発見・解決力と最も深く関連しています。テーマパーク経営において、ゲスト目線だけではなく経営者目線で問題点を発見し、それを解決できる能力を獲得します。その能力の裏付けとして、DP の(6)専門的知識・技能の活用力を、テーマパークの現場で起こっていることをベースに、テーマパーク事業の専門的知識を習得します				
19.教科書・教材	資料は webclass で配布				
20.参考文献	適宜紹介				
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 25 点（各回 2 点×10 回、15 回目のみ 5 点） ?グループワークのプレゼンテーション 25 点 （各回 8 点×2 回、9 点×1 回） グループ得点（4～5 点満点)、グループ MVP（4 点） グループワークのディスカッションを欠席した場合は 0 点となります。 ?総括試験 50 点 ＊総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。				
22.コメント	遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。(厳守)				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	講義：テーマパークの経営は、面白い！① 今やディズニーを超える人気のユニバ。しかし、過去にはゲストが集まらず、何度も何度も倒産の危機があったのです。つぶれかけのテーマパークが、どうやって大復活したのか？経営側の視点から講義します。	予習：ＵＳＪの入場者数の推移をまとめ、その変化の原因を考える 授業のまとめシート：提出 復習：ＵＳＪの入場者数の変化の原因をまとめる
第 2 回	講義：テーマパークの経営は、面白い！② ユニバの大復活の秘訣は、「マーケティング」です。テーマパーク経営において、マーケティングの果たす役割とは？ グループワークを始めます。ユニバでいちばん人気の	予習：ディズニーリゾートとＵＳＪのお土産とレストランメニュー（メニュー、値段）をまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行

	お土産、または、いちばん人気のレストランメニューを企画します。	
第 3 回	グループワーク：ユニバでいちばん人気のお土産 or レストランメニューを作ろう！ グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 4 回	プレゼンテーション：グループワークの成果発表 講義：テーマパークの現場 では実際にテーマパークの中では、何を考え、どんなことが起こっているか？	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 5 回	講義： テーマパークビジネスの全体像①　日本国内 主に国内において、アミューズメントパークの経営主体は誰か？歴史的背景と現状、将来について。ひらパーなど、比較的小規模な「遊園地」の経営についても一緒に考えてみましょう。	予習：国内の遊園地やテーマパークを経営しているのはどんな企業かをまとめる。 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 6 回	講義： テーマパークビジネスの全体像② グローバル テーマパーク先進国であるアメリカや海外も含めて、テーマパークの経営主体は誰か？テーマパークビジネスの収入源は何か？収入を伸ばすために、テーマパークが実践している戦略とは？	予習：　海外のテーマパークの入場料金設定をまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 7 回	講義：テーマパークビジネスの全体像③ テーマパークの経営の基本は「来場者数 x 客単価」です。客単価を上げることの重要性について、学びます。 ２回目のグループワークを始めます。「赤字のテーマパークを救え！」。ここまでの議論・講義を受けて、テーマパークをもっと盛り上げるための具体的な施策を、ご提案ください。	予習：国内のテーマパークの入場料金設定をまとめる。 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 8 回	グループワーク：赤字のテーマパークを救え！前半 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとコメントさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 9 回	プレゼンテーション：グループワークの成果発表 講義：テーマパークの現場 では実際にテーマパークの中では、何を考え、どんなことが起こっているか？	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 10 回	グループワーク：赤字のテーマパークを救え！後半 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとコメントさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 11 回	プレゼンテーション：グループワークの成果発表 講義：テーマパークの現場 では実際にテーマパークの中では、何を考え、どんなことが起こっているか？	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する

第 12 回	講義：テーマパーク経営のリスク テーマパークは、とてもリスクが高いビジネスです。日曜日の天気予報が雨。それだけで何割も収入が減ってしまいます。どのようなリスクがあるのか？そのリスクに対して、テーマパークが実践している戦略とは？	予習：過去のテーマパークで発生した事故についてまとめる。 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 13 回	講義：テーマパークビジネスの全体像④ まとめ 企業経営の使命は、顧客満足度を上げながら利益を確保し、次の拡大投資につなげることです。ここまで勉強してきた、テーマパーク事業における収支、リスクなどについて、すべてをまとめて整理します。	予習：これまでの学びを受けて、国内のテーマパークの、主な収入項目と支出項目を書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：総括試験へ向けて、全体の学びの整理
第 14 回	まとめと総括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	総括試験結果返却 全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	予習：講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード（ナンバリング）	TOU325-Y51	2.科目名	観光施設デザイン論		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・選択の区分	選択科目	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に他学科他学部の受講を歓迎します。			9.履修学年	2 回生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	観光産業を支える様々な施設には、旅館業法と建築基準法や都市計画法、消防法や食品衛生法など様々な決まりがあります。遊園地には興業場法、空港や港湾、鉄道にも様々な法制度があります。また、長年の間に設計・デザインの工夫もなされ、様々な知見が積み重ねられています。そこでこの授業では、 【目的】観光施設全般の法制度を知り、その運営に関わるために必要な専門知識を身に付ける 【概要】そのため、まず観光施設全般を見通し、その概要を理解するとともに、施設の規模、構造、機能、安全性など基礎的な知識を習得し、法制度上求められる					
18.学習目標とＤＰとの関連	【本科目の学習目標】 下記を説明できること： ①観光施設の種類と役割 ②観光施設を定めた関連法規の主な内容と施設との関係 ③観光施設の安全のために配慮すべき事項 以下に挙げる観光学科の【DP（ディプロマ・ポリシー）に関連】しています。 K1?歴史・伝統・?化・?然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる。 K2?グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関?を持つ。 K4?異なる価値観を理解し、?分の考えや?本の魅?を的確に伝えるコミュニケーション?を備える。					
19.教科書・教材	授業中の資料を配布します					
20.参考文献	宗田好史『にぎわいを呼ぶイタリアのまちづくり 歴史的景観の再生と商業政策』学芸出版社 2000 宗田好史『中心市街地の創造力 暮らしの変化をとらえた再生への道』学芸出版社 2007 宗田好史『町家再生の論理 創造的まちづくりへの方途』学芸出版社 2009 宗田好史『創造都市のための観光振興 小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社 2009 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか 市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社 2012 宗田好史『インバウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリア					
21.成績評価	講義の後に簡単な課題のプリントを課すことがあります。その提出が出席の確認にもなります。期末は試験でなく、テーマを決めた最終レポートにする予定です。日程の都合で 16 回目の授業日（期末試験期間中）に 1 コマで書けるレポートに代える場合があります。 最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話ししたこと、配付したスライドをよく理解していること。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜 3 コース（研究室/3-308)、火曜 2 コース(学修支援センター)					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 10 月 3 日：観光施設	ガイダンス：“観光施設”とは何でしょう？いろいろな観光施設を紹介しながら、その種類を確かめて、半年の	事前学習：観光施設にはどんなものがあるか、書き出して下さい。

のデザインを学ぶ	間に何を学ぶかの全体像をお話しします。代表的なものはホテルや旅館などの宿泊施設、テーマパークや博物館、そして文化遺産（文化財）です。加えて、空港や港湾、鉄道も重要な観光施設です。その内容は様々ですが、一つ一つに決まりがあって、それは多くの法律で決められています。一見では無駄に見える決まりは、よく知るとなるほどと思えるものばかりです。快適さ、便利さ、美しさ、そして何よりも安全性などが決まりごとの意味です。長い	アサイメント：ホテルと旅館の危険性とは何か、調べてみて下さい。
第 2 回 10 月 10 日：観光施設の種類、建築上の問題、特に防災と衛生	前回に続いて、観光施設の種類を大きく分類して、その役割を述べていきます。この授業では、宿泊施設、交通機関と施設、道路施設、テーマバークと遊園地、博物館や文化施設、文化財、最後に観光客対応として混雑を避ける施設や安全を確保する施設を紹介します。次に、それぞれの施設の役割や機能、安全基準などを決めている法律を紹介します。建物や工作物には建築基準法があり、宿泊施設には旅館業法、飲食には食品衛生法があります。また、防災は消防法が決めています。その主な内容を述べ、次回以降の進め方を案内します。	事前学習：建築基準法について調べて下さい。 アサイメント：今日の授業で紹介した法律を上げ、一つ一つ概要を述べて下さい。
第 3 回 10 月 17 日：ホテルと旅館、どんな歴史があるか、またどんな事故が起きたか	この回は、ホテルと旅館のお話です。別の授業でホテル旅館の歴史を紹介していますので、観光施設デザイン論では、その構造と安全の詳しい話、つまり火災や自然災害などどんな事故が起こり、そのたびに基準が改められてきた点を紹介します。観光客が増えたので増築した旅館やホテルが多かった時代には、安全も十分に考えられませんでした。また、ホテルや旅館は多くの人が集まる建物です。コロナ禍で皆さんも経験した様に伝染病の危険もあります。その事故の様子も話します。	事前学習：「在郷軍人病」は 1976 年アメリカのフィラデルフィアで発見された病気です。調べてみて下さい。 アサイメント：火災予防はなぜ必要か述べて下さい。
第 4 回 10 月 24 日：ホテル火災と食中毒を知る	前回に続いて、ホテル火災と食中毒の話です。今回は飲食店に適応される食品衛生法のお話しです。火災時の避難路の確保、食品取扱業務で指摘される洗い場やトイレの配置、宿泊施設や飲食店では、施設の平面図を保健所や消防署に提出することが義務付けられています。その仕組を知り、自分で簡単な配置図を描いてみます。その原理は簡単です。危険の内容を十分に知り、徹底して安全性を確保することです。	事前学習：ホテルにはどんな避難路の案内があるか知っていることを述べて下さい、 アサイメント：飲食店の配置図を書いて提出して下さい。
第 5 回 10 月 31 日：空港の設計、世界の空港を見比べる	空港施設とは、航空機の発着陸と湯道路、駐機場や整備工場の他に、利用客だけでなく、空港と航空機の監理運営用の車の道路と駐車場、これら土木構築物と利用客と管理、運航に関わる人のための各種建築物があります。観光学科ですから、主に建築それも利用客用のスペースの話に限りますが、それだけでも十分複雑な内容です。空港建物の場合の安全は防災だけでなく治安、テロ対策です。皆さんも空港のセキュリティチェックはよく知っているはずです。その仕組みとデザインの話です。	事前学習：今まで利用したことのある空港を上げ、その建物の様子を調べて下さい。 アサイメント：セキュリティチェックにはどんな種類があるか述べて下さい。

第 6 回 11 月 7 日：空港から都市への交通施設	どの国、どの都市でも空港から都市への道のりは便利に造ります。とはいっても大勢の人が働き暮らす都心部や住宅密集地の近くに空港は造れません。成田空港や関西空港のように遠い場合が多いのですが、鉄道や高速道路を便利にし都心と結びます。その交通結節の仕組みを学びます。また空港への道沿いには、昔はホテルが、今では免税店やアウトレットモールが集まっていて、インバウンドがよく利用します。これは、都市計画で、住民と観光客を隔離する手段です。両者の動線を話し、インバウンドの増加による市民生活への影響を抑えるためです。	事前学習：三ノ宮から関西空港へのアクセスを 3 通り以上調べて、それぞれの所要時間を述べて下さい。 アサイメント：動線を分けることのメリットとデメリットを述べて下さい。
第 7 回 11 月 14 日：鉄道の旅、駅の設計と駅前広場	航空機ができるまでは、大型船で大きな港に着き、鉄道で都市に移動しました。神戸港に着けば鉄道で大阪や京都に、横浜港に着けば鉄道で東京（新橋）に移動しました。そのため、どの都市でも中央駅に賓客を迎える施設が整備されました。主要な駅前には大型ホテルが建ち、訪問客だけでなく、地元住民の大きなパーティも開かれました。観光施設はこうして駅周辺に集中していました。一方、今は車を使います。空港からリムジンバスで直接ホテルに移動しますから、大きな駅は通りません。駅は空港や港ではなく、国内の他都市に移動する新幹線のためのもの	事前学習：皆さんが知る最も大きな駅を挙げ、どのくらい大きいか述べてて下さい。 アサイメント：神戸港に船で着いた客が鉄道で移動する場合、どの駅を使うか考えて下さい。
第 8 回 11 月 21 日：もう一つの軌道、ケーブルカーとロープウェイ、山岳鉄道の旅	観光施設にはスイスなど山岳の観光開発に使われたケーブルカーやロープウェイがあり、日本各地でも数多く使われています。中でも黒部アルペンルートはその長さ、多様さで有名です。ただ値段がとても高く、最近では利用客も減っています。同様に海にも高速の水中翼船やフェリーなどが整備されましたが、利用客が減り困っています。老朽化しても新しくできないのです。老朽化した施設をどう再生し、観光地を維持していくかが今回のお話しです。	事前学習：皆さんが利用したことのあるロープウェイを紹介して下さい。 アサイメント：神戸市内のロープウェイの利用状況を調べて下さい。
第 9 回 11 月 28 日：船の旅、クルーズ船の設計と港湾、世 tt－ハーバー	神戸港には今もクルーズ船が寄港します。アメリカのカリブ海クルーズ、ヨーロッパの地中海クルーズと比べ、日本と中国韓国のクルーズは比較的最近になって導入されました。そのため港の施設整備も遅れ、港から観光地へのアクセスも良くありません。加えて、日本人自身があまり使ったことがないので、いかに不便かも感じていません。そこで、クルーズ船が寄港する世界の港湾都市を見て、今後の神戸や横浜のクルーズ船とその客への対応策、施設のデザインを考えます。	事前学習：クルーズ船の大きさ、乗船客数を調べて下さい。 アサイメント：神戸港をもっと便利にするアイデアを出して下さい。
第 10 回 12 月 5 日：博物館と美術館、そして博覧会と展示会	博物館や美術館は 19 世紀に発達しました。18 世紀の市民革命で王侯貴族が集めていた美術品が国民に解放されたからです。そのためルーブルやベルサイユなど昔の王宮が美術館に変わりました。アメリカでは王侯貴族がいなかったため、ヨーロッパを真似て国やお金持ちが新しく建てたものです。収蔵品は民間からの寄付で始まりました。その歴史も二百年になり、その存在自体が再検討されています。そこで、ユニークヴェ	事前学習：神戸市立美術館にはどんな美術品があるか調べて下さい。 アサイメント：美術館や博物館で展示を見る以外にどんなっ活動ができるか考えて下さい。

	ニューという従来の展示を回覧するのではない、新しい見せ方、使い方が登場しました。最近の事情をお話しします。	
第 11 回 12 月 12 日：文化遺産とその周辺の施設デザイン	関西には多くの世界文化遺産が集まっています。でも観光客が訪ねる遺産は京都と奈良、姫路城が多く、古墳群や紀伊山地は少なめです。世界遺産に登録されたからと言って観光客が増えるわけではないのです。京都市内には 14 の世界文化遺産がありますが（この他、宇治市に 2 つ、大津市に 1 つあり、古都京都で 17 あります)、その中にも訪問者数の多い少ないには差があります。その違いは文化遺産周辺の観光施設が原因です。魅力的な店が多い歴史的な町並みがあれば、多くの観光客が来るのです。周辺施設のデザインはとても大切です。	事前学習：関西にあるユネスコ世界文化遺産をすべて挙げて下さい。 アサイメント：世界遺産周辺の街で言ったことのある場所を教えて下さい。
第 12 回 12 月 19 日：マイカー観光と道の駅、リゾート地の設計	自動車で観光することが日本で流行ったのは 1960 年代～70 年代、今は逆に車を降りて公共交通で回ることが主流です。とはいえ、公共交通のない田舎には車でなければ行けません。欧米先進国では人の少ない田舎の観光地も人気で、レンタカーで回る外国人観光客が多くいます。日本人もハワイでは沖縄同様レンタカー利用が盛んです。その日本で台湾人を始めインバウンドのレンタカー利用が進み、丹波や淡路、瀬戸内海各地を回っています。そのための観光施設に”道の駅”がありとても賑わっています。その設計の様子を学びます。	事前学習：道の駅で知っているところを挙げて下さい。 アサイメント：道の駅を改善するとすれば、どんな点を考えますか？
第 13 回 1 月 9 日：テーマパークと遊園地、	テーマパークと遊園地のお話しです。オリエンタルランドのディズニーと大阪の USJ は成功例ですが、全国的には多くの遊園地が危機にあります。子供が大かった昔と違い、子供連れだけでは客が増えないのです。夕張市のテーマパークの失敗が有名ですが、北九州市スペースワールドや倉敷市のチボリ園なども廃止されました。大阪でもフェスティバルゲートは成功例でしたが、たった 10 年で廃止しました。成功と失敗、その違いは施設計画にあるのか、マーケティングの上手い下手なのか、観光施設デザイン論では、その違いを掘下げます。	事前学習：皆さんが知っているテーマパークで今はないものを挙げて下さい。 アサイメント：これからもっと少子化が進みますが、テーマパークの生き残る術を考えて下さい。
第 14 回 1 月 16 日：観光公害の克服、施設デザインで解決する観光混雑	観光公害としてあげられるのは、交通混雑、ゴミ問題、それに住宅地の民泊（B＆B）のインバウンドが周辺住民に迷惑をかけるというものです。これは、観光交通施設、観光地のごみ処理施設、市内宿泊施設管理と観光客と住民の動線分離の設計など、施設計画で解決できることが多くあります。交通混雑には道路渋滞と公共交通（バス・地下鉄）混雑があり、半世紀前に都市への人口集中で経験したほどの深刻さはないのが実情です。その割に住民が嫌がるのはなぜでしょう。まあ、慣れていないからどいうのが普通の説明ですが、マナーの問題など精神面も無視	事前学習：これまで経験したことのある観光混雑について紹介して下さい。 アサイメント：最終回に備えて、これまでの授業の内容を簡単にまとめて下さい。
第 15 回 1 月	最終回は観光施設デザインの未来を考えます。ホテル	事前学習：最終レポートの課題を述べますの

23 日：これからの観光施設のデザイン	旅館、空港港湾、鉄道、観光地の施設、文化遺産や博物館、遊園地それぞれに急速な変化に直面しています。ただ、それは日常のことです。観光施設には流行があり、直ぐ廃れるものなのです。今成功しているからと言って、永遠に続かない。変化に対応することが施設デザインの務めです。だから最後には観光マーケッとの変化をもう一度予測することに帰着します。近未来の確実な変化は高齢化です。だからウェルビーイングが語られます。この授業でも、ウェルビーイングから見た観光施設デザインを検討し	で、テーマを決めておいて下さい。 アサイメント：最終回なのでレポートはありません。

1.授業コード（ナンバリング）	TOU327-Y01	2.科目名	トラベルエージェント論		3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分	専門科目/旅行業分野の実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【概要】 旅行関連ビジネスには、一般的に宿泊ビジネス、旅行業ビジネス、交通ビジネス、娯楽ビジネス、料飲ビジネス、土産物ビジネス等があり、前の３つが基幹的旅行ビジネス、後の３つ等が付随的旅行ビジネスと呼ばれている。授業では、旅行ビジネスの中核的役割を担っている旅行業（トラベルエージェント）のビジネスについて、その仕組みや役割、ビジネスモデルについて、市場環境変化を踏まえて時系列に分析し学ぶ。 【目的】 観光立国実現に向けて、旅行需要の地域分散化（オーバーツーリズムの改善）、旅行サービスの品質管理という課					
18.学習目標とＤＰとの関連	①これまで、旅行業者（トラベルエージェント）が果たしてきた役割や機能、そして、今後、観光立国実現に向けての課題の発見、そして課題解決に向けて必要とされる役割や機能を、旅行業を取り巻く時系列な環境の変化の中で理解し、説明できるようになる。 ②旅行業のビジネスモデルの変化を手掛かりとして、現代社会の諸問題（特に規制緩和の進展と市場拡大等）について幅広く思考を展開し、旅行業ビジネスの可能性について理解し、説明できるようになる。 本科目の学習目標は、以下の DP（ディプロマポリシー）に対応している。 （2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） （4）問題発見・解決力 （6）専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	適宜、資料を配布します。					
20.参考文献	観光庁偏『観光白書』各年次版、 小林弘二共著（2023）『観光ビジネスの新展開』晃洋書房、ISBN978-4-7710-3793-9 小林弘二他編著（2021）『改訂版変化する旅行ビジネス』文理閣、ISBN978-4-89259-3 小林弘二共著（2020）『ひろがる観光のフィールド』晃洋書房、ISBN978-4-7710-3309-2 小林弘二著（2007）『旅行ビジネスの本質』晃洋書房、ISBN978-4-7710-1843-3					
21.成績評価	＊課題レポート(（毎授業）60%　（学習目標①、②に対応） ＊確認テスト　30%　　（学習目標①に対応） ＊平常点（授業への取組姿勢など）　10%　　（学習目標①、②に対応） ルーブリックを用いて評価する。 課題レポートのコピペ・剽窃・テストの不正行為・出欠に関する不					
22.コメント	・事前配布の講義ノート（MS ワードで作成した用紙）を持参して、空所補充等を完成させ毎授業後に提出する。（パソコンを持参して空所補充を行う） ・各講義の内容は講義方法、履修人数、進捗状況、理解度及び外部講師等の状況により適宜変更の場合がある。 ・ノートテイキングを推奨する。					
23.オフィスアワー	山手キャンパス 3-306 研究室で実施。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション 日本の旅行市場を取り巻く環境変化について	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
【第 2 回】	日本の観光・旅行市場の現状について	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
【第 3 回】	日本の旅行市場構造の分析	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
【第 4 回】	観光消費の経済波及効果について	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
【第 5 回】	旅行ビジネスの変化について	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
【第 6 回】	旅行ビジネス流通構造について	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
【第 7 回】	旅行ビジネスのグローバル展開について	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
【第 8 回】	旅行業の枠組みについて	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
【第 9 回】	国内旅行市場の発展過程と国内旅行ビジネスの変化について	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
【第 10 回】	海外旅行市場の発展過程と旅行ビジネスの変化①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
【第 11 回】	海外旅行市場の発展過程と旅行ビジネスの変化②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
【第 12 回】	ICT 化の進展と旅行ビジネスの変化①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
【第 13 回】	ICT 化の進展と旅行ビジネスの変化②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
【第 14 回】	インバウンドビジネスと国内旅行業	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
【第 15 回】	総括/　確認テスト実施	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参) 課題レポートの提出

1.授業コード（ナンバリング）	TOU328-Y01	2.科目名	旅行業演習 II	3.単位数	2
4.授業担当教員	松村博之				
5.授業科目の区分	専門科目、旅行業分野の実務経験がある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	全学年
10.取得資格の要件	なし	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	履修人数は、１５名までとします。				
17.授業の目的と概要	【目的】 「国内旅行業務取扱管理者」の国家資格取得とします。 この資格は、観光業界、公務員を目指すものにとって有利なものです。 国家試験は、毎年９月に実施されます。 旅行業務にかかわる取引の公正の維持、旅行の安全確保、旅行者の利便増進につながるものとして制定された法制度とそれらを遂行するための各ルールがどのようなものであるかを理解するものです。 【概要】 講義は,、教科書に添ってパワーポイントを使用して行います。また、毎回理解度チェックのための 練習問題をしてもらいます。 従って、予習復習は計画的・継続				
18.学習目標とＤＰとの関連	①国内旅行業務取扱管理者試験の合格基準である６０％以上の得点を確保すること。 ②法律と旅行業実務の関連について理解すること。 ③旅行業のルールを理解することで、観光関連産業の理解を深める。 関連する DP は、「専門的知識・技能の活用力」です。				
19.教科書・教材	＊旅行業実務シリーズ「旅行業法およびこれに基づく命令」（発行：JTB 総合研究） ＊資料は、適宜配布します。				
20.参考文献	＊観光白書 ＊日本旅行業協会（JATA)の HP ＊全国旅行業協会（ANTA)の HP				
21.成績評価	＊総括試験（筆記）　６０％（学習目標の①、②、③に対応） ＊理解度確認テスト（筆記/３回）　３０％（学習目標の①、②、③に対応） ＊練習問題（各授業）　１０％（学習目標の①、②、③に対応）				
22.コメント	①教科書、参考文献などで、予習復習をしっかりと行ってください。 ②総括試験は、１５回目の授業で行います。 ③理解度確認テストは、授業中に行います。実施要領は、事前の授業で説明します。 ④出欠確認、資格喪失などは大学のルールどおりです。 ⑤授業中は、帽子の着用は禁止です。				
23.オフィスアワー	授業終了後、教室などで対応します。また、メールによる対応をします。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	オリエンテーション（授業の目的、計画、評価、資格取得などの説明）	

第２回	旅行業法の概要（旅行業約款、各種運運賃・料金との関連）	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第３回	旅行業法（登録制度）	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第４回	旅行業法（営業保証金制度）　　第１回理解度確認テスト	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第５回	旅行業法（旅行業務取扱管理者、旅行業務取扱料金）	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第６回	旅行業法（外務員、広告表示など誇大広告の禁止）	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第７回	旅行業法（旅程管理）	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第８回	第２回理解度確認テスト	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第９回	旅行業法（受託契約、旅行業者代理業、禁止行為、登録の取消など）	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第１０回	旅行業法（旅行業協会、役割）	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第１１回	旅行業法（旅行業協会、取り決め）	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第１２回	旅行業法（雑則・罰則）	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第１３回	第３回理解度確認テスト	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第１４回	重要チェックポイントの解説（旅行業者と旅行業協会など）	教科書：旅行業法及びこれ基づく命令の熟読
第１５回	まとめ、総括試験	教科書：旅行業法全分野の復習

1.授業コード（ナンバリング）	TR2203-Y01	2.科目名	エコツーリズム論			3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ						
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期		
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～		
10.取得資格の要件		11.先修条件					
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※				
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義				
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	【目的】 マスツーリズムは、観光地の自然環境や生活文化の破壊につながることがありました。1980年代から自然環境や生活文化などの資源を持続させていくようなエコツーリズムの実践が試みられてきています。授業では、エコツーリズムなどのオータナティブなツーリズム・モデルの歴史と事例を紹介して、これからの新しいツーリズムのあり方について考えます。 【概要】 本授業は、エコツーリズム論などのツーリズムモデルをみわたし、観光学科で取り扱う重要なテーマ「ウェルビーイング社会の実現につながる新たな観光価値をデザインする」						
18.学習目標とＤＰとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）・KUISs 学修ベンチマークの以下の項目と関連しています (1)自律的で主体的な態度（自律性） (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 本科目の学習目標 １．授業で紹介する個々のエコツーリズムなどのツーリズムモデルの事例において、そのツーリズムのどんな側面が自然環境や生活文化などの資源を持続させていっているのかについて考えをまとめて説明することができる。 ２．受講生の皆さんがエコツーリズムを実現するためにできることを考え、実践する。その過程や結果について、説明・発表することができる。						
19.教科書・教材	教材は、web class にて、配布します。						
20.参考文献	授業中にたくさん紹介します。						
21.成績評価	毎回実施する小テストまたは授業内レポート(２5%)…（学習目標１に対応） 授業中の発表（宿題や授業内レポートで扱ったテーマについて）(25%)…（学習目標２に対応） 中間テストと期末テスト(５０%)…（学習目標１と２に対応） 中間テストと期末テストの記述問題、授業内レポートの記述問題、授業中の発表は、ルーブリック評価で採点します。						
22.コメント	授業では、世界の様々な場所でのエコツーリズムなどのツーリズムモデルについて紹介します。これらの事例は自分の住む場所からは遠い場所の事例かもしれません。しかしながら、それらの事例から、受講生のみなさんは、想像力をふくらませてください。これらの事例をとおして、あなたは、どのように考えるのか、実践するのか、さらにはどのように生きるのかについて考える手がかりとしてください。 期末テストの記述問題のひとつとして「あなたの考える理想のエコツーリズムについて記述してください」という問題を出します。どのように解答するのか、15 回の授業を通して学習するキーワードをを使って、あなたの考えをまとめる準備をしてください。						
23.オフィスアワー	個人研究室：月曜昼休み 学修支援センター：金曜昼休み						
24.授業回数	25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回授業	イントロダクション：エコツーリズムの定義とエコツーリズム推進法	「エコツーリズム憲章」を検索して読んでみよう。
第 2 回授業	エコツーリズムの歴史：ガラパゴス諸島のような壮大な自然から里山まで	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 1
第 3 回授業	エコツーリズムの歴史：沖縄県の事例から離島とエコツーリズムについて考える：西表島・竹富島の事例紹介	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 2
第 4 回授業	エコツーリズムの歴史：沖縄県の事例から離島とエコツーリズムについて考える：石垣島の事例紹介	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 3
第 5 回授業	エコツーリズムとグリーンツーリズム、ルーラルツーリズム、アグリツーリズモ 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 1　）	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 4
第 6 回授業	ＥＵの主導する「LEADER＋事業」とその後継事業：ツーリズムと地域再生・イタリアとギリシャの事例 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 2　）	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 5
第 7 回授業	英国のルーラルツーリズムと農村再生の事例：英国の湖水地方の事例から 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 3）	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。中間テストの準備をしよう。
第 8 回授業	エコツーリズムのルール（1）：ツーリストの責任 授業の後半に、中間テスト	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。授業の後半に中間テスト。
第 9 回授業	コツーリズムのルール（2）：ツーリストを迎える人々の責任 授業の後半に、中間テストのふりかえり	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。授業の後半に中間テストのふりかえり。
第 10 回授業	エコツーリズムにおける交流 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 4）	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。中間テストのふりかえりを踏まえて、期末テストの準備をしよう。
第 11 回授業	英国の「カントリーサイド･コード」と教育プログラム 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 5）	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。期末テストの準備をしよう。
第 12 回授業	「カントリーサイド･コード」教育プログラムの活動を	WebClass で配布する文献を読んで討論してグ

	実践してみよう（その１） 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その６）	ループごとに発表しよう。期末テストの準備をしよう。
第１３回授業	「カントリーサイド･コード」教育プログラムの活動を実践してみよう（その２） 里山をめぐるツーリズム	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。期末テストの準備をしよう。
第１４回授業	期末テスト	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。期末テストの準備をしよう。
第１５回授業	まとめ	

1.授業コード（ナンバリング）	TTC301-A01	2.科目名	教育実習Ⅰ （中学・教職）春・秋		3.単位数	5
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	教職課程科目 教育実践に関する科目	6.必修・選択の区分	教職必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科・心理学科の教職課程登録者のみ			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件	教職課程登録者			11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	教職課程を登録しており、累積 GPA2.0 を超えている者のみ					
17.授業の目的と概要	【目的】教育実習に必要な最終準備と、実習後の振り返りを行う。 【概要】教育実習に先立って実施する事前指導には、実習に向けての心構え、実習校との連絡事項、手続きに関する事項、教員採用試験への申し込みに関連する事項等についての講義、実習中の業務内容の理解を踏まえ、授業計画の立て方、指導案の書き方、授業の模擬練習の実施等を演習し、その相互評価を含む。本実習期間中は、各実習校の指導教諭の下、実際に教員の職務を体験する。事後指導では、各自の実習の成果を持ち寄り、体験から得たものを相互に報告しあう。					
18.学習目標と ＤＰとの関連	○目標に沿った 50 分の授業計画を立て、それを実践できる ○教員に必要な服装、話し方ができる ○教育者としての自覚ができる ＊DP との関連： （６）専門的知識・技能の活用力 教職課程や専門科目で学んだ知識を活かして、中学・高校の授業計画を作り、実施することができる					
19.教科書・教材	「2021 年度生教職の手引き」を使用することがある。					
20.参考文献	中学校・高等学校学習指導要領、総則編および各教科編 また、各教科の中学・高校用教科書、教師用指導書等					
21.成績評価	・実習校における本実習に対する成績評価・・・50% ・実習ノート・・・10% 毎日の記録が過不足なく記入されているか, 観察授業の記録は，教育者の視点から過不足なく記入されているか 指導案等の資料は記録されているか ・事前段階における模擬授業・・・20% 授業計画 2 回：計画内容等項目をきちんと書けているか、内容は適切か うち 1 回は模擬授業：計画通りに実行できたか、計画内容、準備等） 他の学生の模擬授業に対する評価シート（評価の観点、態度等） ・事後における報告・・・5% 総計 100%のうち 60%で					
22.コメント	・将来の指導者としての意識を持ち、それにふさわしい言動を心がけましょう。時間厳守、ルールを守ること ・教職カルテを使って振り返り等を実施するので、PC とファイルを指示のあった回には持参すること ・2023 年度秋学期～2024 年度春学期の科目のため、16 回～30 回は 2024 年度の予定です。 ＊実習日程は各自異なりますので、実習校からの実習承諾書で実習の日程と事前打ち合わせの					

	日程を確認しておくこと	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・事前・事後指導の趣旨と位置づけを説明します。 ・実習前後・実習中を通して、守らねばならない項目について確認し、「誓約書」を書き、提出します。 ・各自の実習期間を確認して、模擬授業の順番と日程を決めます。 ・事務的な手続きの最終確認をします。 ・実習先での行動等実習生としての心得について、常識に属する事柄も含めて解説します。 ・法定伝染病（麻疹等）への対策、事前説明会の日程確認と出席、教員採用試験への申し込み、出勤簿への押捺、実習後の挨拶・礼状作成等、様々あります。 ・実習期間中の記録のつけ方、担当する授	ノート PC またはタブレット ★学習指導案・細案の作成（次週提出）120 分
第 2 回	学習指導案と細案の修正 書式や内容を相互に確認し、改善すべき点を確認します。 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。 模擬授業の教員役担当の際は、前日までに該当箇所の教科書コピー・学習指導案・細案・ワークシートをファイルで提出すること	模擬授業の映像を katayama のシェアフォルダにアップロードするので、自分の話し方や動きなど、確認すること。 また、同様に過去の先輩の映像も参考に見ておくこと。 ★指導案・細案の修正（60 分）
第 3 回	ロールプレイ＆討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	ノート PC またはタブレット ★模擬授業のための教材選定・教材研究・教材作成（120 分）
第 4 回	ロールプレイ＆討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）
第 5~20 回	ロールプレイ＆討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）
第 21 回	ロールプレイ＆討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）

	役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。 なお、実習期間が早く始まる実習生は、順次実習に出ます。	
第 22 回	本実習	
第 23 回	本実習	
第 24 回	本実習	
第 25 回	本実習 なお、早い時期に実習が終わる実習生は、順次、担当教員に終了の報告をし、個別指導を受けることになります。	
第 26 回	プレゼンテーション 事後報告会（1） 相互に実習体験の報告会を実施します。	
第 27 回	プレゼンテーション 事後報告会（2） 相互に実習体験の報告会を実施します。	
第 28 回	プレゼンテーション 事後報告会（3） 相互に実習体験の報告会を実施します。	★教育実習を終えて(レポート)
第 29 回	プレゼンテーション 事後報告会（4） 実習体験の報告会を実施します。 実習後の各種手続き等(実習記録の提出、レポートの提出、礼状の送付等）について確認します。	
第 30 回	総括：実習体験を共有しふりかえりながら、学校や地域などによる差や、様々な教育現場の取り組みを考えます。	★教職カルテ

1.授業コード（ナンバリング）	WRT113-Y01	2.科目名	ライティング１ L1（1/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	有本純				
5.授業科目の区分	基礎	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	１年　Ｌ１
10.取得資格の要件	中高英語教員免許１種	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習、ペアワーク		
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	[目的] コンピュータを使用して、英語のパラグラフ・ライティング入門編を習得し、英文エッセイ（レポート）の基礎まで展開できる。 [概要] 英語のパラグラフ構造を学び、つながりのある英文によるパラグラフを作成します。様々な種類のパラグラフを書くことを通して、語彙力の増強、正確な文法の適用、形式の修得なども指導します。受講者同士の相互評価および担当者による添削を経て、１つ１つ課題を完成させます。				
18.学習目標とＤＰとの関連	[学習目標] 1.英語パラグラフ構造を理解し、作成できる。 ２．様々なタイプのパラグラフが作成できる。 時間順、過程、分類、比較対照、原因と結果、意見陳述 3. 客観的な英文が作成できる。 DP (4) Find & Solve Problems （問題発見・解決力）& (5) Communication Skill（コミュニケーション・スキル）				
19.教科書・教材	教科書： Working Up to Paragraph Writing (2023) 米田みたか他　朝日出版社 ¥1,800 ISBN978-4-255-15502-9 補助教材として資料を WebClass で配布する				
20.参考文献	英語の辞書を必ず授業に持参すること（紙または電子：英英・英和・和英など） ＊辞書なしに英文作成はできません。 ＊貧弱な web 辞書は役に立ちません。				
21.成績評価	1) HWK 1-3：各 2 点、HWK 4-18： 各 3 点　計 51 点　学習目標１・２・３に対応 2) Repot (6 回)　6, 6, 8, 9, 10, 10 点　計 49 点　学習目標１・２・３に対応 合格基準：宿題を半数以上、Report 5, 6 を含む 5 回以上				
22.コメント	1）毎回、辞書を持参すること（スマホ辞書や Web 辞書は使用を禁止する）。辞書なしでの受講は認めません。 ２）下書き(draft) を数回経て、レポートにまとめるので、欠席すると下書きが停滞し、相互評価を受けることもできず、 レポート作成に影響が出ます。 ３）授業は、原則として日本語で実施します。 ４）交通機関の障害、その他の災害などにより、対面授業が困難な場合は、可能な限り遠隔授業を実施します。 その場合は、Zoom の URL を WebClass のメッセージで早朝に送信するので、必ず確認してください。 本人の確認ミスで遠隔授業に参加できない場合は、欠席扱いになります。 ５）授業中のスマホ使用は禁止します。 ６）出席カードの裏には、必ず質問か感想を記入してください。未記入の場合は早退扱いにし				

	ます。
23.オフィスアワー	なし（火金のみ出講）

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 2	1 シラバス説明、受講上の注意事項、導入（PC による英文作成)、 パラグラフとは何か 2 Topic Sentence と Supporting Sentences (Unit 2)	1 HWK 1 2 HWK 2
3 4	3 Concluding Sentence, 展開の手法 4 時間順に語るパラグラフ１（Unit 3）	3 HWK 3
5 6	5 時間順に語るパラグラフ２　下書き１ 6 時間順に語るパラグラフ３　下書き２	5 HWK 4 6 HWK 5
7 8	7 時間順に語るパラグラフ４　下書き３ ＆ 修正 8 Report 1 相互評価、過程のパラグラフ１（Unit 6）	7　Report1 作成
9 １０	9 過程のパラグラフ２　下書き１ 10　過程のパラグラフ３　下書き２	9 HWK 6 10 HWK 7
11 12	11 過程のパラグラフ４　下書き３　＆　修正 12 Report 2 相互評価、分類のパラグラフ１（Unit 7）	11 Report 2 作成
13 14	13 分類のパラグラフ２　下書き１ 14 分類のパラグラフ３　下書き２	13 HWK 8 14 HWK 9
15 16	15 分類のパラグラフ４　下書き３＆修正 16 Report 3 相互評価、比較のパラグラフ１（Unit 8）	15 Report 3 作成
17 18	17 比較のパラグラフ２　下書き１、中間アンケート入力 18 比較のパラグラフ３　下書き２	17 HWK 10 18 HWK 11
19 20	19 比較のパラグラフ４　下書き３ ＆ 修正 20 Report 4 相互評価、原因と結果のパラグラフ１（Unit 10）	19 Report 4 作成 20 HWK 12
21 22	21 原因と結果のパラグラフ２　下書き１ 22 原因と結果のパラグラフ３　下書き２	21 HWK 13 22 HWK 14
23 24	23 原因と結果のパラグラフ４　下書き３ ＆　修正 24 Report 5 相互評価、意見文１（Unit 13）	23 Report 5 作成
25 26	25 意見文２　下書き１ 26 意見文３　下書き２	25 HWK 15 26 HWK 16
27 28	27 意見文４　下書き３ ＆ 修正、期末アンケート入力 28 意見文５　下書き４　＆　修正	27 HWK 17 28 HWK 18
29 30	29 意見文６　下書き５ ＆ 修正 30 Report 6 相互評価、ふりかえり	29 Report 6 作成

1.授業コード（ナンバリング）	WRT113-Y02	2.科目名	ライティング 1　L1（2/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	川部純巳				
5.授業科目の区分	専門基礎	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：以下のライティング技術を修得すること 1) Basic sentence structures 2) Paragraph structure 3) Planning & Outlining (Brainstorming) 4) Revising (self and peer evaluation) 概要：上記の目的達成の為に、ライティングを行い、添削と相互評価を通して、アカデミック・エッセイを修得する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	本授業では academic essay の基礎を学び、テーマに沿ったエッセイが書けるようになることを目標とする。 1) Sentence Combining and Modifiers 2) Develop better sentences, paragraphs, and essays through academic writing models and extensive practice. 3) Develop skills in brainstorming and planning an academic paragraph 4) Self & Peer Assessment				
19.教科書・教材	Ready to Write 1 (Karen Blanchard. C) Person ISBN 9780134400655				
20.参考文献	PC, Electric/Paper dictionary				
21.成績評価	平常点 50 点、中間試験(Mid-term test) 20 点、総括試験(Final test) 30 点				
22.コメント	＊授業中の携帯電話の使用を禁止します。 ＊テキスト忘れや、授業に参加していない(携帯を見ている/居眠り/私語など)、宿題をしていない等の場合には、欠席扱いとなることがあります。 ＊授業内での活動及び assignments を重視している為、欠席しないように十分に注意してください。 ＊提出期限が過ぎた assignments、エッセイなどは受理しないので点数はゼロである。 ＊翻訳機の使用や剽窃が疑われるエッセイの点数はゼロである。 ＊やむ終えず欠席してしまった場合、必ず次の授業までに担当教員より学習内容及び宿題を確認し、次の授業に臨んでください。 ＊授業は主に教科書に沿って進めていきますが、授業内活動としてペアやグループによるタスク等を行います。したがって、積極的な参加姿勢で授業に臨んでください。				
23.オフィスアワー	Questions are welcome via email or before/after the class.				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Day 1 Course introduction Day 2 Chapter 1 About Yourself	
Week 2		

	Day 3 Chapter 1 Day 4 Chapter 1	
Week 3	Day 5 Chapter 2 Family & Friends Day 6 Chapter 2	
Week 4	Day 7 Chapter 2 Day 8 Chapter 3 Activities	
Week 5	Day 9 Chapter 3 Day 10 Chapter 3	
Week 6	Day 11 Chapter 4 Giving Instructions Day 12 Chapter 4	
Week 7	Day 13 Chapter 4 Day 14 Chapter 5 Your Day、中間試験の準備	
Week 8	Day 15 中間試験 Mid-term test Day 16 Chapter 5	
Week 9	Day 17 Chapter 5 Day 18 Chapter 6 Descriptions	
Week 10	Day 19 Chapter 6 Day 20 Chapter 6	
Week 11	Day 21 Chapter 7 Places Day 22 Chapter 7	
Week 12	Day 23 Chapter 7 Day 24 Chapter 8 Narrative	
Week 13	Day 25 Chapter 8 Day 26 Chapter 8	

Week 14	Day 27 Chapter 9 Opinion Day 28 Chapter 9	
Week 15	Day 29 Chapter 9 Day 30 総括試験 Final Test	

1.授業コード（ナンバリング）	WRT114-Y01	2.科目名	ライティング２ L2	3.単位数	2
4.授業担当教員	横山雅彦				
5.授業科目の区分	英語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	高度な英語の 4 技能習得のための基礎（OS）となる英文法の体系的・構造的理解を図り、それを英文読解で実践する。				
18.学習目標とＤＰとの関連	【学習目標】 高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、記述文法を学び、1 文単位の英文を正しく読解できるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	『基礎からのジャンプアップノート英文法演習ドリル』旺文社 https://www.obunsha.co.jp/product/detail/034569 ＊購入の方法については、第 1 回の授業で指示する。				
20.参考文献					
21.成績評価	各講の確認テスト（×36 回）　50% 期末テスト　50%				
22.コメント	予習を怠っている学生、居眠りしたり雑談したりする学生には、退席を求め、単位は与えない。また、原則として欠席・途中参加は認めない。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回・第 2 回	第 1 回　CHAPER 1 UNIT 1 第 2 回　CHAPRER 1 UNIT 2/ UNIT 3	
第 3 回・第 4 回	第 3 回　CHAPTER 2 UNIT 1/ UNIT 2 第 4 回　CHAPTER 2 UNIT 3/ UNIT 4	
第 5 回・第 6 回	第 5 回　CHAPTER 2 UNIT 5/ UNIT 6 第 6 回　CHAPTER 3 UNIT 1/ UNIT 2	
第 7 回・第 8 回	第 7 回　CHAPTER 3 UNIT 3/ UNIT 4 第 8 回　CHAPTER 3 UNIT 5	
第 9 回・第 10 回	第 9 回　CHAPTER 4 UNIT 1/ UNIT 2 第 10 回　CHAPTER 4 UNIT 3/ UNIT 4	
第 11 回・第 12 回	第 11 回　CHAPTER 4 UNIT 5/ UNIT 6 第 12 回　CHAPTER 4 UNIT 7	
第 13 回・第	第 13 回　CHAPTER 5 UNIT 1/ UNIT 2	

14 回	第 14 回　CHAPTER 5 UNIT 3/ UNIT 4	
第 15 回・第 16 回	第 15 回　CHAPTER 5 UNIT 5/ UNIT 6 第 16 回　中間テスト	
第 17 回・第 18 回	第 17 回　CHAPTER 6 UNIT 1/ UNIT 2 第 18 回　CHAPTER 6 UNIT 3/ UNIT 4	
第 19 回・第 20 回	第 19 回　CHAPTER 6 UNIT 5/ UNIT 6 第 20 回　CHAPTER 7 UNIT 1	
第 21 回・第 22 回	第 21 回　CHAPTER 7 UNIT 2 第 22 回　CHAPTER 7 UNIT 3/ UNIT 4	
第 23 回・第 24 回	第 23 回　CHAPTER 8 UNIT 1/ UNIT 2 第 24 回　CHAPTER 8 UNIT 3/ UNIT 4	
第 25 回・第 26 回	第 25 回　CHAPTER 8 UNIT 5/ CHAPTER 9 UNIT 1 第 26 回　CHAPTER 9 UNIT 2/ UNIT 3	
第 27 回・第 28 回	第 27 回　CHAPTER 10 UNIT 1 第 28 回　CHAPTER 10 UNIT 2	
第 29 回・第 30 回	第 29 回　CHAPTER 10 UNIT 3/ UNIT 4 第 30 回　期末テスト	

1.授業コード（ナンバリング）	WRT115-A01	2.科目名	ライティング総合 1			3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明						
5.授業科目の区分		6.必修・選択の区分	選択 教職必修（中英語 1 種）		7.開講学期・年度	2024 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科等				9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	中学校英語 I 種、高等学校英語 I 種の免許取得希望者			11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	1. Build more complex sentence structures through sentence-combining　exercises 2. Learn to organize ideas logically into a cohesive and coherent paragraph 3. Learn formal writing for professional communication 4. Create a writing portfolio						
18.学習目標とＤＰとの関連	(1)Increase the variety and complexity of sentence structures. (2)Write paragraphs with a clear topic, supporting, and concluding sentences. (3)Write emails using formal writing conventions. (4)Develop a writing portfolio that demonstrates mastery. In accordance with the Kansai University of International Studies' Diploma Policy, this course will equip students with the following skills: (1)The ability to independently compose effective essays through the drafting and revision process, demonstrating intermediate-level self-initiative. (2)The ability to create essays that engage people from diverse cultures by utilizing various rhetorical approaches and argumentative strategies, demonstrating intermediate-level intercultural understanding. (3)The ability to express opinions effectively in English through paragraph-level writing, demonstrating intermediate-level communication skills.						
19.教科書・教材	Ready To Write 2: Perfecting Paragraphs (5th Edition) by Karen Blanchard and Christine Root. ISBN: 978-0-13-439932-4. Please purchase this as soon as possible. Available through Maruzen.						
20.参考文献	Eigo Raitingu no Genri Gensoku written by Taiki Yamaoka, published by T.S. Kikaku in 2018 (「英語ライティングの原理原則」山岡大基　テイエス企画 2018 年　) Mottomo Shimpuru Na Eigo Raitingu Kougi written by Ippei Inoue, published　by Keio Gijuku Shuppan-kai in 2022 (「もっともシンプルな英語ライテ						
21.成績評価	Final exam: 40% In-class/homework task (10% ×3 essays): 30% Quizzes: 30%						
22.コメント	(1)Please bring your laptop to class to complete some essay tasks. (2)If you are unable to attend due to illness or any other reason, please notify us as soon as possible by email.						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)

Week 1	Day1 Orientation : Introducing the syllabus, and class rules. Writing an email Day2 Chapter 1 Getting organized	About Me writing PC Homework Read 'Introduction' of the textbook, Ready to Write 2
Week 2	Day3 Chapter 1 Getting Organized Grammar: capitalization and punctuation Day4 Chapter 1 Vocabulary, idioms Peer/group work	About Me Reply PC Homework assignment Chapter 1: On your own
Week 3	Day5 Chapter 2 Understanding Paragraphs Paragraph form, topic sentence, unity Day6 Chapter 2 Grammar: Compound sentences Vocabulary, idioms Peer/group work	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week 4	Day7 Chapter 3 Organizing Information by Time Order Signal words, Writing titles for paragraphs Grammar: preposition of time Day8 Chapter 3 Vocabulary, idioms Peer/ group work	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week5	Day9 Chapter 4 Organizing Information by Order of Importance Write a paragraph listing the supporting ideas in order of importance Day10 Chapter 4 Grammar: gerunds, comma splices Voca	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week6	Day11 Chapter 5 Organizing Information by Spatial Order Write a paragraph describing a place using spatial order, Organizing details Day12 Chapter 5 Grammar: Prepositions of place V	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week7	Day13 Chapter 6 Understanding the Writing	Homework

	Process Write a paragraph using the three steps of the writing process Day14 Chapter 6 Grammar: Sentence fragments Vocabulary, idioms	Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week8	Day15 Chapter 7 Supporting the Main Idea Write a paragraph using charts, graphs, and quotes to support the main idea Day16 Chapter 7 Grammar: Introducing examples, punctuating quotes	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week9	Day17 Chapter 8 Explaining a Process Write a paragraph describing the steps in a process Day18 Chapter 8 Grammar: Imperative sentences Vocabulary, idioms Peer/group work	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week10	Day19 Chapter 9 Writing Descriptions Write a paragraph using descriptive details about a person, place or thing Day20 Chapter 9 Grammar: order of adjectives Vocabulary, idioms	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week11	Day21 Chapter 10 Expressing Your Opinion Write a paragraph that expresses your opinion on a number of topics Day22 Chapter 10 Grammar: run-on sentences Vocabulary, idioms	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week12	Day23 Chapter 11 Comparing and Contrasting Write a paragraph comparing or contrasting two people, experiences, or things Day24 Chapter 11 Grammar: sentence patterns of comparison	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.

Week13	Day25 Chapter 12 Analyzing Causes and Effects Write a paragraph describing the causes or effects of an event Day26 Chapter 12 Grammar: complex sentences with because and since	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week14	Day27 Chapter 13 Writing Summaries and Answering Test Questions Write a paragraph that summarizes an article of a story Day28 Chapter 13 Grammar: agreement of subjects and verbs Vocabulary,	Homework Review the chapter. Prepare for the final exam
Week15	Day29 Final exam Day30 Consolidation Final exam Q&A session reflection	Homework Review the chapter.

1.授業コード（ナンバリング）	WRT115-Y01	2.科目名	ライティング総合１ L3	3.単位数	2
4.授業担当教員	稲葉皐				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	Objective: In this class, students progress from paragraph development to essay writing. Abstract: The topics include personal episodes related to favorite activities and daily life as well as learning how to make arguments on social and cultural issu				
18.学習目標とＤＰとの関連	Students can 1. learn how to compose coherent paragraphs. 2. write three 400- word- essays. 3. learn how to write citations and references. 4. develop vocabulary, idioms and grammar. 5. Work both individually and cooperatively in pairs and groups. PD: 自律性、問題発見、解決力				
19.教科書・教材	Ready to Write 2 （K.Blanchard, C. Root) , Pearson				
20.参考文献	To be announced in class				
21.成績評価	総括試験（Final exam） : 40% 平常点（ In-class/homework assignments, quizzes , 3 essays) : 60% ＊第 29 回目の授業で総括試験(final exam)を行います。 ＊授業内課題や小テスト、3 本のエッセイは各平均点を合算し、その 60%を平常点とします。 ＊剽窃が疑われるエッセイの評価点は 0 点になります。				
22.コメント	シラバスの一部の側面は変更される可能性があります。 また、障がい等により、本講義の受講の際に特別な配慮が必要な場合は事前に担当教員に申し出てください。基本は対面授業を行いますが、新型コロナウイルスの感染等特別な事情がある場合には適宜 zoom によるオンラインでの受講も認めます。その場合は事前に担当教員に申し出てください。				
23.オフィスアワー	授業の前後、または上記の email アドレスにて質問等を受け付けます。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	(1) Orientation : Introducing the syllabus, class rules. Writing an email (2) Chapter 1 Getting organized	Homework Read 'Introduction' of the textbook, Ready to Write 2
Week 2	(1) Chapter 1 Getting Organized Grammar: capitalization and punctuation (2) Chapter 1 Vocabulary, idioms	Homework assignment Chapter 1: On your own

	Peer/group work	
Week 3	(1) Chapter 2 Understanding Paragraphs Paragraph form, topic sentence, unity (2) Chapter 2 Grammar : Compound sentences Vocabulary, idioms Peer/group work	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week 4	(1) Chapter 3 Organizing Information by Time Order Signal words, Writing titles for paragraphs Grammar: preposition of time (2) Chapter 3 Vocabulary, idioms Peer / group work	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week 5	(1) Chapter 4 Organizing Information by Order of Importance Write a paragraph listing the supporting ideas in order of importance (2) Chapter 4 Grammar: gerunds, comma splices Vocab	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week 6	(1) Chapter 5 Organizing Information by Spatial Order Write a paragraph describing a place using spatial order, Organizing details (2) Chapter 5 Grammar : Prepositions of place V	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week 7	(1) Chapter 6 Understanding the Writing Process Write a paragraph using the three steps of the writing process (2) Chapter 6 Grammar: Sentence fragments Vocabulary, idioms	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week 8	(1) Chapter 7 Supporting the Main Idea Write a paragraph using charts, graphs, and quotes to support the main idea (2) Chapter 7	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.

	Grammar : Introducing examples, punctuating quotes	
Week 9	(1) Chapter 8 Explaining a Process Write a paragraph describing the steps in a process (2) Chapter 8 Grammar: Imperative sentences Vocabulary, idioms Peer/group work	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week 10	(1) Chapter 9 Writing Descriptions Write a paragraph using descriptive details about a person, place or thing (2) Chapter 9 Grammar: order of adjectives Vocabulary, idioms	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week 11	(1) Chapter 10 Expressing Your Opinion Write a paragraph that expresses your opinion on a number of topics (2) Chapter 10 Grammar : run-on sentences Vocabulary, idioms	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week 12	(1) Chapter 11 Comparing and Contrasting Write a paragraph comparing or contrasting two people, experiences, or things (2) Chapter 11 Grammar: sentence patterns of comparison	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week 13	(1) Chapter 12 Analyzing Causes and Effects Write a paragraph describing the causes or effects of an event (2) Chapter 12 Grammar : complex sentences with because and since	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week 14	(1) Chapter 13 Writing Summaries and Answering Test Questions Write a paragraph that summarizes an article of a story (2) Chapter 13	Homework Review the chapter. Prepare for the final exam

	Grammar : agreement of subjects and verbs Vocabulary, id	
Week 15	(1) Final exam (2) Consolidation Final exam Q&A session reflection	Homework Review the chapter.

1.授業コード（ナンバリング）	WRT115-Y02	2.科目名	ライティング総合１ L3（2/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	有本純				
5.授業科目の区分	基礎	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	2 年　L 3
10.取得資格の要件	中・高英語１種教員免許	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習、ペアワーク		
16.履修制限	学科のクラス指定に従う				
17.授業の目的と概要	目的: Students learn the structure of a paragraph and its important elements, and then start writing various types of paragraphs, such as descriptions, explanations, and statements. These writing tasks will　develop their academic essay writing. 概要: Studen				
18.学習目標とＤＰとの関連	学習目標 1. Students can write various types of paragraphs and revise them with both peer and instructor review and correction. 2. Students can acquire skills of critical thinking and express their opinions through writing. DP (4) Find & Solve Problems （問題発見・解決力）& (5) Communication Skill（コミュニケーション・スキル）				
19.教科書・教材	教科書 「構造から学べるパラグラフ・ライティング入門：改訂版」 靜　哲人　松柏社　　ISBN978-4-88198-751-3　　¥1,900（税別） 配付資料 Web Class で配布				
20.参考文献	紙または電子辞書（英和または英英）を必ず、持参すること				
21.成績評価	HWK: 2 点×11 回(HWK 1-6 & draft 1)＋4 点×9 回（draft 2 & 3）＋5 点(HWK 20）＝53 点 学習目標１・２に対応 Report：　8 点×5 回＋7 点＝47 点　　学習目標１・２に対応 ＊合格基準：　HWK は 20 回中 3/4 以上、Report は 6 回中 5 回以上提出				
22.コメント	1）毎回、辞書を持参すること（スマホ辞書や Web 辞書は使用を禁止する)。辞書なしでの受講は認めません。 ２）下書き(draft）を数回経て、レポートにまとめるので、欠席すると下書きが停滞し、相互評価を受けることもできず、 レポート作成に影響が出ます。 ３）授業は、原則として日本語で実施します。 ４）交通機関の障害、その他の災害などにより、対面授業が困難な場合は、可能な限り遠隔授業を実施します。 その場合は、Zoom の URL を WebClass のメッセージで早朝に送信するので、必ず確認してください。 本人の確認ミスで遠隔授業に参加できない場合は、欠席扱いになります。 ５）授業中のスマホ使用は禁止します。				
23.オフィスアワー	なし				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)

	1　パラグラフと段落の違い、補足資料 1 2　Topic Sentence で要点を宣言、補足資料 2	1 HWK 1 2 HWK 2
	3　Supporting Sentences でサポート、補足資料 3・4 4　Concluding Sentence で念押し、補足資料 5	3 HWK 3 4 HWK 4
	5　The Process of Paragraph Writing、補足資料 6 6　The Process of Paragraph Writing、補足資料 7	5 HWK 5 6 HWK 6
	7　Explaining Your Character 1 8　Explaining Your Character 2	7 HWK 7 draft 1 8 HWK 8 draft 2
	9　Explaining Your Character 3 10 Draft　3 相互評価, Describing Your Daily Life 1	9 HWK 9 draft 3 10 Report 1 作成
	11 Report 1 相互評価, Describing Your Daily Life 2 12 Describing Your Daily Life 3	11 HWK 10 draft 1 12 HWK 11 draft 2
	13　draft 2 を 3 に修正 14 Draft 3 相互評価, Expressing an Opinion 1	 14 Report 2 作成
	15 Report 2 相互評価, Expressing an Opinion 2 16 Expressing an Opinion 3, draft 修正	15 HWK 12 draft 1 16 HWK 13 draft 2
	17 Expressing an Opinion 4, draft 修正 18 Draft 3 相互評価, Giving Advice and Instructions 1	17 HWK 14 draft 3 18 Report 3 作成
	19 Report 3 相互評価, Giving Advice and Instructions 2 20 Giving Advice and Instructions 3	19 HWK 15 draft 1 20 HWK 16 draft 2
	21 Giving Advice and Instructions 4, draft 修正 22 Draft 3 相互評価, Revising the draft	21 HWK 17 draft 3 22 Report 4 作成
	23 Report 4 相互評価, Comparing and Contrasting 1 24 Comparing and Contrasting 2	 24 HWK 18 draft 1
	25 Comparing and Contrasting 3 26 Comparing and Contrasting 4, draft 修正	25 HWK 19 draft 2 26 HWK 20 draft 3
	27 Draft 3 相互評価, Revising the draft 28 Report 5 相互評価, Describing Data Expressed in Graphs 1	27 Report 5 作成
	29 Describing Data Expressed in Graphs 2 30 Report 6 相互評価, ふりかえり	29 Report 6 作成

1.授業コード（ナンバリング）	WRT115-Y04	2.科目名	ライティング総合１ L3（1/2）	3.単位数	2
4.授業担当教員	Patrick Shorb				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	Selected by Department English Placement Test				
17.授業の目的と概要	1. Build more complex sentence structures through sentence-combining exercises 2. Learn to organize ideas logically into a cohesive and coherent paragraph 3. Learn formal writing for professional communication 4. Create a writing portfolio Teaching Appr				
18.学習目標とＤＰとの関連	1. Increase the variety and complexity of sentence structures 2. Write paragraphs with a topic, supporting, and concluding sentences 3. Write emails with formal writing conventions 4. Build a writing portfolio that demonstrates mastery In keeping with the Kansai University of International Studies' Diploma Policy, this course will enable students to do the following: 1. Can compose effective essays on one's own through the draft and revision process, thereby demonstrating intermediate-level self-initiative. 2. Can devise essays that engage people from other cultures by using diverse rhetorical approaches and argumentative strategies, thereby demonstrating intermediate-level intercultural understanding. 3. Can express opinions in English effectively through paragraph level writing, thereby demonstrating intermediate-level communication skills.				
19.教科書・教材	Ready To Write 2: Perfecting Paragraphs (5th Edition) by Karen Blanchard and Christine Root. ISBN: 978-0-13-439932-4. Please purchase this as soon as possible. Available through Kinokuniya Online				
20.参考文献					
21.成績評価	Class Activities =20% Textbook Work/Writing Portfolio= 30% Multi-Draft Essays = 50%				
22.コメント	This course will be a blended learning format. About 25% of classes will be based on individual consultations instead of formal classes. These can be accessed by Zoom. The teacher will explain this more fully in class.				
23.オフィスアワー	Fridays during lunch				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	Course syllabus, About Me, Microsoft Word	About Me writing PC
	Understanding Paragraphs	About Me Reply PC
	Organizing Information by Time order	Topic Sentence
	Organizing Information by Importance	Paragraph Outline PC

	Organizing Information by Spatial Order	Drafting PC
	Understanding the Writing Process	Paragraph Outline PC
	Supporting the Main Ideas	Paragraph Outline PC
	Explaining a Process	Paragraph (Explanation) PC
	Explaining a Process 2	Paragraph (Explanation) PC
	Writing Descriptions	Paragraph 2 (Descriptions) PC
	Writing Descriptions 2	Paragraph 2 (Descriptions) PC
	Expressing Opinions, Paragraph 3	Paragraph 3 (Opinions) PC
	Expressing Opinions 2	Paragraph 3 (Opinions) PC
	Comparing Contrasting Paragraph 4	Paragraph 4 (Comparing Contrasting) PC
	Comparing Contrasting 2	Comparing Contrasting essay PC

1.授業コード（ナンバリング）	WRT116-Y01	2.科目名	ライティング総合２ L4	3.単位数	2
4.授業担当教員	遠藤泰生				
5.授業科目の区分	専門基礎	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	無し			11.先修条件	無し
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習、グループワーク
16.履修制限	無し				
17.授業の目的と概要	【目的】 まとまった考えや意見を論理的に記述するための英語の約束事を基本から学ぶ。 【概要】 教科書に沿って英文の基本構造を確認し、そこから段落ごとに自分の考えをまとめ、やがて短いエッセイを記せるようになるまでを練習する。教科書の課題を授業および課外学習でこなし、教員との間のフィードバックを加えつつ、最終提出課題を完成させていく。				
18.学習目標とＤＰとの関連	①　自分の考えを自立的に表現するコミュニケーション能力を身に付ける。 ②　教員免許その他の英語資格を取得するための専門知識と技能を取得する。 ③　英語文化圏における文化の多様性を理解する。				
19.教科書・教材	Karen Blanchard / Christine Root, Ready to Write 3 (Pearson, 2017)				
20.参考文献	授業時に指示する。				
21.成績評価	Routine Regular Essays　(30%)　　学習目標①② In-class Activities (30%)　　学習目標①② Final Essay　(40%)　　学習目標①②③ 合算で 60%以上の得点を合格とする。				
22.コメント	英文の「かたち」を理解するための反復練習が必要になるので、教科書以外に練習問題を配布します。繰り返しが大切ですので、課外学習（宿題）を根気よくこなしてください。				
23.オフィスアワー	水曜昼休み、もしくは、事前の予約した時間。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	1. Getting Ready to Write: Identifying Purpose: to entertain, to inform, to persuade Narrowing a General Topic	In-class exercises and assigned tasks of the chapter 1
第 2 回	1. Getting Ready to Write: Recognizing and using the steps of the writing process	In-class exercises and assigned tasks of the chapter 1
第 3 回	1. Getting Ready to Write: Writing Your Own Recipe　（手続きや手順の説明）	In-class exercises and assigned tasks of the chapter 1.
第 4 回	2. Writing Paragraphs Understanding the parts of a paragraph Writing topic sentences	In-class exercises and assigned tasks of the chapter 2.
第 5 回	2. Writing Paragraphs Understanding paragraph organization	In-class exercises and assigned tasks of the chapter 2.
第 6 回	2. Writing Paragraphs Identifying irrelevant sentences Using transition signals	In-class exercises and assigned tasks of the chapter 2.
第 7 回	3. Revising and Editing	In-class exercises and assigned tasks of the

	Checking grammar for agreement of subjects and verbs, pronouns and nouns, possessive pronouns and adjectives Sentence fragments Run-on sentences	chapter 3.
第 8 回	3. Revising and Editing Pronoun reference Punctuation and Capitalization Gerunds and infinitives Parallel Structure Spelling Rules	In-class exercises and assigned tasks of the chapter 3.
第 9 回	3. Revising and Improve by Including a clear topic sentence, appropriate transitions, and enough supporting evidence Eliminating irrelevant sentences Adding new ideas Rearranging sentences	In-class exercises and assigned tasks of the chapter 3.
第 10 回	4. Writing essays Parts of essay Introductions	In-class exercises and assigned tasks of the chapter 4.
第 11 回	4. Writing essays Thesis statements	In-class exercises and assigned tasks of the chapter 4.
第 12 回	4. Writing essays Using revising check lists, editing check lists, peer revision worksheet	In-class exercises and assigned tasks of the chapter 4.
第 13 回	5. Final Essay Preparation　①	Review of each paper topic and aural presentation
第 14 回	5. Final Essay Preparation ②	Review of each paper topic and aural presentation
第 15 回	Review of the Semester	Paper Due: the last class.

1.授業コード（ナンバリング）	WRT116-Y02	2.科目名	ライティング総合２ L4	3.単位数	2
4.授業担当教員	Richard　Leckie				
5.授業科目の区分	専門基礎	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習、グループワーク		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 Students will learn how to organize and develop their ideas in writing beyond the sentence level. They will learn how to write in well-structured paragraphs with a clear main idea, supporting details and a conclusion. 【概要】 Using the textbook, stude				
18.学習目標とＤＰとの関連	1. Students will become able to plan, revise and edit their writing effectively. 2. Students will become aware of weaknesses in their writing, which will lead to improvement of their grammar, vocabulary, spelling and punctuation. 3. Students will become more comfortable writing in English and derive more enjoyment from it. 【関連する DP】 (1)自律性 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	Writing from Within 2 Second Edition (Curtis Kelly & Arlen Gargagliano) Cambridge University Press, ISBN: 978-0521188340				
20.参考文献	None				
21.成績評価	Students' scores will be calculated as follows. In addition to completing all assignments on time and attending at least 2/3 of classes, students must achieve a total of 60 or more in order to pass. (1) Classroom Participation 30% (2) Textbook Paragraph				
22.コメント	Students should bring their textbook and have access to a dictionary every class. Paragraphs and essays can be submitted on paper or digitally. However, students should always bring loose leaf paper to use for in-class activities.				
23.オフィスアワー	Speak to the instructor before or after class, or contact by email				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Meeting 1: Introductions and course explanation Meeting 2: Text Unit 1 (preparation & planning)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 2	Meeting 1: Text Unit 1 (writing & editing) Meeting 2: Text Unit 2 (preparation & planning)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 3	Meeting 1: Text Unit 2 (writing & editing) Meeting 2: Text Unit 3 (preparation & planning)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 4	Meeting 1: Text Unit 3 (writing & editing) Meeting 2: Text Unit 4 (preparation & planning)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 5	Meeting 1: Text Unit 4 (writing & editing) Meeting 2: Text Unit 5 (preparation & planning)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)

Week 6	Meeting 1: Text Unit 5 (writing & editing) Meeting 2: Text Unit 6 (preparation & planning)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 7	Meeting 1: Text Unit 6 (writing & editing) Meeting 2: Text Unit 7 (preparation & planning)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 8	Meeting 1: Text Unit 7 (writing & editing) Meeting 2: Text Unit 8 (preparation & planning)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 9	Meeting 1: Text Unit 8 (writing & editing) Meeting 2: Text Unit 9 (preparation & planning)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 10	Meeting 1: Text Unit 9 (writing & editing) Meeting 2: Text Unit 10 (preparation & planning)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 11	Meeting 1: Text Unit 10 (writing & editing) Meeting 2: Text Unit 11 (preparation & planning)	Assigned textbook tasks and paragraph writing (4hrs/week)
Week 12	Meeting 1: Text Unit 11 (writing & editing) Meeting 2: Essay Workshop 1	Assigned textbook tasks and essay writing (4hrs/week)
Week 13	Meeting 1: Essay Workshop 2 Meeting 2: Essay Workshop 3	Assigned textbook tasks and essay writing (4hrs/week)
Week 14	Meeting 1: Essay Workshop 4, submit essays Meeting 2: Text Unit 12 (preparation & planning)	Assigned textbook tasks and essay writing (4hrs/week)
Week 15	Meeting 1: Text Unit 12 (writing & editing) Meeting 2: Final feedback and sum-up of course	Assigned textbook tasks and review (4hrs/week)